ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

7

センタ－テハレ



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

7

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**
ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　**本見出し**
げんじものがたり　**【源氏物語】**
エヌエイチケー　〔NHK〕
インキ　〔ink〕

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　**【沼津】**　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　**【羅紗】**
らっぱ　**【喇叭】**

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　**【大阪(府)】**
おおさか　**【大阪(市)】**
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　**【河北省】**　ホーペイ省
ふざん　**【釜山】**　プサン
もうたくとう　**【毛沢東】**　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　**【上海】**
ペキン　**【北京】**
メイランファン　**【梅蘭芳】**

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　**【入れ墨】**　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　〔whisky〕

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　〔*Aloe*〕

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

しんくう　**【真空】**
しんぐう　**【新宮(市)】**
じんぐう　**【神宮】**

はい　**【肺】**
ばい　**【蛽】**
パイ　〔pie〕

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

じゅう　**【銃】**
じゆう　**【自由】**

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん　【阿片】
アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

あか　【赤】 ⇨色
あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

じゅんし　【殉死】
じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，(　)の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1976年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　【関西弁】 ⇨方言
しょせき　【書籍】 ⇨図書
サイン ⇨正弦
ジンフイズ ⇨カクテル

→ ➔　解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　【藍色】 ……(解説)……。➔色

＊　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　【安山岩】 中性の火山岩*。
いほうじん　【異邦人】 カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉　引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第９条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり， ……

《 》　書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( )　語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治５)

( )　読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第7巻

せんた

せんだい【仙台(市)】宮城県の中央部に位置する市で，県庁の所在地。人口63万6,000。奈良時代には北東郊に多賀城が築かれ，陸奥(むつ)の国府と蝦夷(えぞ)征伐のための鎮守府が置かれた際，現在の市域南東部の木ノ下に国分寺・国分尼寺が建立(こんりゅう)された。戦国時代までは青葉山丘陵の東方宮城野(みやぎの)から太平洋岸に至るまで荒涼とした原野で，千体観音があったために〈千代〉とよばれていたという。1600年(慶長5)，北方の岩出山から青葉山丘陵東端に居城を移した伊達政宗(だてまさむね)は地名を仙台と改め，広瀬川を隔てる東の段丘上に武士や町人を移住させた。江戸時代を通じて伊達氏六十二万石の城下町，陸羽街道の宿場町・市場町として栄え，18世紀初期には人口56,000に達し，金沢・名古屋・福岡と並ぶ大都市となった。明治以後は旧制第2高等学校・仙台医学専門学校(いずれもいまの東北大学)など，多数の学校施設をもつ学都となり，また陸軍第2師団司令部が置かれる軍都でもあった。1889年(明治22)市制施行，その後周辺部の町村を合併して，東北地方第1，全国第14位の都市となった。

市域は，南から西へかけて100～160mの平坦(へいたん)な青葉山丘陵が走り，それを切って南東流する広瀬川が東岸に数段の広い段丘を形成する。北部には北に傾く30～80mの七北田(ななきた)丘陵があり，梅田川が段丘群の北部を東流する。段丘群の東部には宮城野原があり，広瀬川が名取川と合流する海岸部は仙台平野の南部にあたる沖積地(ちゅうせきち)で，名取川・七北田川が自然堤防をつくる。仙台湾に臨む砂浜には低い浜堤列が連なり，その背後に伊達政宗がつくった内陸運河貞山堀(ていざんぼり)がある。中心市街は広瀬川流域の段丘上に発展し，第2次世界大戦の戦災によって大半が焼失したが，戦後の区画整理によって50m・35m幅の道路網が整備され，高層ビルの立ち並ぶ近代都市に生まれ変わった。戦災を受けなかった周辺部には古い町屋の形や武家屋敷の門などが残り，樹木も多く，〈杜(もり)の都〉とよばれた昔のおもかげを残している。産業三大別人口比は3：23：74で消費都市的な性格が強く，東一番丁付近に中心商店街がある。その周辺には県庁や中央官庁の出先機関が集まる官庁街があり，銀行や会社の支店も多い。東北大学・宮城教育大学・東北学院大学・東北工業大学などがあり，天文台・図書館・動物園・レジャーセンターなどの文化施設にも恵まれている。住宅地区は最近北部や南西部の丘陵に延び，東部の水田地帯や名取川沿岸には市営・県営の住宅地が飛び地状につくられている。近代工業は南部の長町地区や北東部の小田原地区に金属・ゴム・ビール・乳製品などの工場地区があるにすぎなかったが，1964年(昭和39)仙台湾新産業都市の指定以後，その中心地区となり，東部に仙台工業港が建設され，工業用地の造成や工場誘致が急速に進んでいる。また，江戸時代以来の伝統をもつ特産物に仙台平，西郊に産する亜炭を材料とする埋木(うもれぎ)細工，堆朱(ついしゅ)があるが，仙台平は袴地(はかまじ)の需要が減少してネクタイに代わっている。

東北本線・仙山線・仙石線が東京・青森・山形・石巻(いしのまき)の各地に通じ，国道4号線・同バイパス・45号線・47号線・48号線が集まる。青葉山丘陵は市の観光の中心地で，青葉城跡からは市街が一望に収められ，ここには伊達政宗の騎馬像や土井晩翠(ばんすい)の《荒城の月》の詩碑がある。北山丘陵には大崎八幡(はちまん)神社(国宝)，政宗を祭る青葉神社，東照宮(重要文化財)がある。そのほか榴ケ岡(つつじがおか)公園のサクラ，林子平・支倉(はせくら)常長や，歌舞伎(かぶき)《伽羅先代萩(めいぼくせんだいはぎ)》で知られる烈女政岡(まさおか)の墓所など，名所・旧跡が多い。また，松島・蔵王(ざおう)の観光基地となり，秋保(あきう)・作並などの温泉も近い。年中行事の〈七夕(たなばた)祭〉(8月6～8日)は豪華な催しとして知られる。特産に仙台みそがある。

〔浅井得一〕

せんだい【川内(市)】鹿児島県中西部の市。人口63,000。古くは薩摩(さつま)の国府が置かれ，江戸時代には島津氏の出城が置かれたが，明治以後は農業および農産加工の小工業が主体であった。第2次世界大戦中に戦災を受けて市域の大半を焼失したが戦後の復興はめざましく，最近では工業都市への転換が行なわれている。1940年(昭和15)市制施行。市域は川内平野の中心部を占め，川内川の下流流域一帯の沖積地(ちゅうせきち)を含む。産業三大別人口比は30：24：46。平野部の薩摩米をはじめ，サツマイモ・野菜類，山間部の木材・タケなどを集散し，しょうちゅう・げた・竹製品などの製造工業が行なわれ，タバコ・畳表の特産がある。また，最近は近代工業も盛んで，1954年に建設された中越パルプの大工場をはじめ，化学繊維・化学肥料・セメントなどの工場が集まり，川内川河口港の建設も進み，原子力発電所の誘致も決定している。鹿児島本線から宮之城(みやのじょう)線を分岐し，国道3号線・267号線が集まる。737年(天平9)建立(こんりゅう)の国分寺塔跡は史跡に指定されている。

せんだいがわ【川内川】宮崎県と熊本県との境付近の九州山地から発し，西南流して鹿児島県北部を通り天草灘(あまくさなだ)に注ぐ。流程137km。上流に大口盆地，中流に宮之城盆地，下流に川内平野が開け，流域は南九州における主要な農業地帯の一つとなっている。上流の鶴田(つるた)ダムは多目的ダムで，この川の治水に役だつとともに，最大出力12万kWの発電所が建設されている。下流は川魚の産地で，また水郷で舟を浮かべる行楽客が多い。〔長津一郎〕

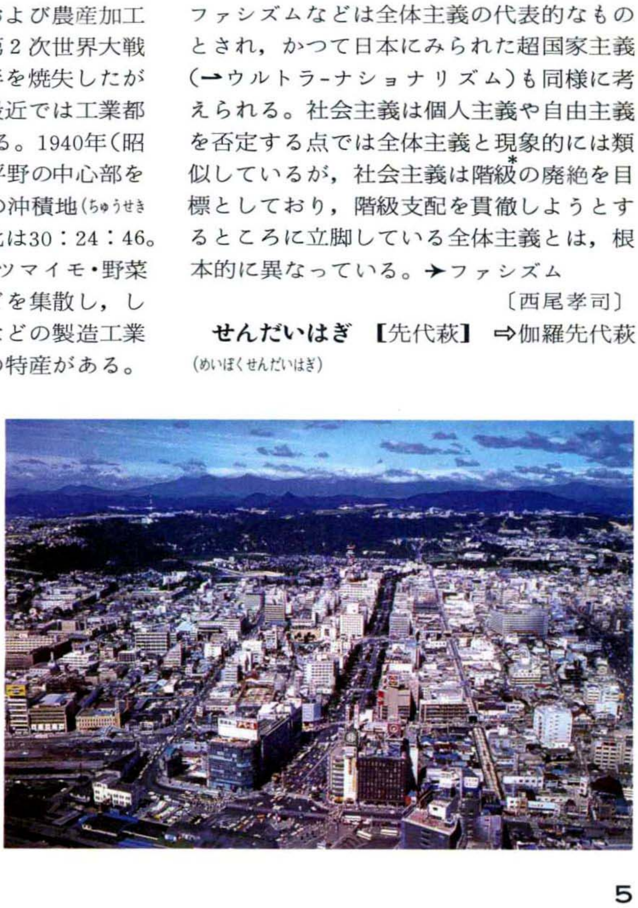
せんたいきん【銭大昕】⇨恵棟(けいとう)

せんだいくじほんぎ【先代旧事本紀】⇨旧事本紀

ぜんたいしゅぎ【全体主義】国家目的を実現するため国民を総動員しようとする思想ないしは体制。個人の自由や幸福よりも国家全体の目的や利益を優越させる考えがその基調となる。したがって，個人主義・自由主義・民主主義とはあいいれない。その特徴は，民族共同体などを唱えて国民の一体性を強調し，国民に国家への犠牲的献身を要求し，排外的な愛国心を鼓吹することにある。ドイツのナチズム，イタリアのファシズムなどは全体主義の代表的なものとされ，かつて日本にみられた超国家主義(⇀ウルトラ-ナショナリズム)も同様に考えられる。社会主義は個人主義や自由主義を否定する点では全体主義と現象的には類似しているが，社会主義は階級の廃絶を目標としており，階級支配を貫徹しようとするところに立脚している全体主義とは，根本的に異なっている。➔ファシズム

〔西尾孝司〕

せんだいはぎ【先代萩】⇨伽羅先代萩(めいぼくせんだいはぎ)



仙台市　仙台駅の上空から西を望んだ市の中心街。中景の緑の森は青葉山丘陵で，ここに青葉城や東北大学などがある

せんだいはぎ　【千代萩】　双子葉植物・マメ科。寒地の海岸に自生する多年草。茎は直立し高さ60～70cmに達する。葉は３小葉からなる複葉で，各小葉は卵円形で裏面に毛がある。葉とほぼ同形の托葉(たくよう)がある。春，茎の先に黄色の蝶形花(ちょうけいか)を多数穂状につける。豆果は扁平(へんぺい)な線形で，中にかっ色の種子がある。

せんだいはん　【仙台藩】　江戸時代に陸奥(むつ)(宮城県)仙台地方を領有した伊達(だて)氏の藩。伊達藩ともいう。外様(とざま)大名の雄で，居城は仙台城(青葉城)。伊達氏は藤原氏の出といい，朝宗(ともむね)が源頼朝(よりとも)の奥州征伐に功を立て陸奥国伊達郡を与えられ，以後伊達氏を称した。藩祖政宗(まさむね)のとき領国を拡大し，豊臣秀吉(とよとみひでよし)に従い，次いで徳川氏に属し，仙台城を築き，1603年(慶長８)これに移って仙台藩を確立し，以後継承して幕末まで続いた。政宗の代に支倉(はせくら)常長がローマに派遣されたことは有名。３代綱宗の代には伊達騒動が起こったが，その危機を乗り越えて藩制は整備され，加賀・薩摩(さつま)藩に次ぐ大藩として，表高は六十二万石であったが内高は百万石を越えていた。戊辰(ぼしん)戦争のとき奥羽越列藩同盟に加わり官軍に対抗したため，二十八万石に削封された。1871年(明治４)廃藩置県により仙台県となり，翌年宮城県と改称された。
〔岡山泰四〕

せんだいひら　【仙台平】　宮城県仙台地方に産出される高級袴地(はかまじ)。1711年(正徳１)，仙台に招かれた西陣の織工小松弥右衛門(やえもん)の織り出した袴地が起源とされている。仙台平は，正しくは精好仙台平または精好平というところから，女房装束の緋(ひ)の袴に用いられる精好織の系統を引くものであろう。経(たて)を密にし，太めの無撚(よ)りの緯糸(ぬきいと)をぬらして強く打ち込み，緻密(ちみつ)に織り上げる。経緯とも練糸(ねりいと)を用いたもの，経に練糸と生糸を，緯に生糸を用いたものなどがある。地合いは塩瀬に似たやや厚地の織物で，袴に仕立てると独特な張りがある。〔勝呂小枝〕

せんだいへいや　【仙台平野】　宮城県の北部から南部にかけて広がる東北地方最大の平野。陸前平野ともいう。南は阿武隈(あぶくま)山地，西は奥羽山脈，北は一関(いちのせき)丘陵で境され，北東は北上山地南部の山々で限られ，南東は仙台湾に面する。平野は中央部の松島・富谷丘陵を境にして，北部を仙北平野，南部を仙南平野とよんでいる。仙南平野は狭義の仙台平野で，阿武隈山地北端の角田盆地をはじめ白石盆地や村田盆地などの小盆地と，阿武隈川およびその北の名取川・七北田(ななきた)川などがつくる扇状地や三角州，それに仙台湾岸沿いに発達する浜堤列や後背湿地からなり，後背湿地には阿武隈川河口から松島湾まで貞山堀(ていざんぼり)が海岸に沿ってつくられている。仙北



センダイハギ

平野は北上川の本流や迫(はさま)川・江合川などの支流および鳴瀬川などがつくる沖積(ちゅうせき)平野で，南半には篦岳(ののだけ)山(232m)をはじめ丘陵が点在し，北半には西に奥羽山脈から続く築館(つきだて)台地があるのみで広い低地が続き，川は蛇行(だこう)して，自然堤防が形成され，後背湿地には伊豆沼(いずぬま)・長沼など多くの沼沢がみられる。この平野には鹹水(かんすい)性の貝がみられ，かつて海岸線が平野の奥まではいりこんでいたことを物語っている。平野では江戸時代から沼の干拓や河川の改修が行なわれて水田の拡張が図られ，現在では東北地方の主要な穀倉地帯となっている。平野には宮城県の大部分の市が集まり，南部には東北地方最大の仙台市がある。〔味沢成吉〕

せんだいわん　【仙台湾】　宮城県中央以南の大湾で，牡鹿(おじか)半島先端から福島県相馬(そうま)市の鵜ノ尾崎(うのおざき)に至る線の内側の海域をいう。全体としては湾入は浅く，北部のリアス式沈水海岸に対して平滑なゆるい弧状海岸線をなす。北東部の牡鹿半島と松島諸島との間に石巻(いしのまき)湾，松島諸島と七ヶ浜半島との間に湾入した松島湾の両支湾がある。

せんたく　【洗濯】　繊維製品に付着した異物(汚れ)を除去する操作をいう。水を媒体とする湿式洗たく(ランドリー)と，有機溶剤を用いる乾式洗たく(ドライクリーニング)に二大別される。汚れには，油性汚れ(人体から分泌される油脂など)と，固形汚れ(煤煙・粘土・有機性のチリなど)がある。また，水溶性・溶剤可溶性でも分類する。固形汚れ中にはこのいずれにも不溶のものが多い。

洗い方には，洗たく機を用いるものと手によるものとがあり，手洗いの方法にはさらに，手もみ・板もみ・はけ・たたき・つかみ・押しつけなどがある。

〔洗たくの条件〕①温度：高温ほど洗浄効果は大きいが，わが国の給湯設備，洗たく機の耐熱性などの現状では40℃が理想的である。特に羊毛製品・ナイロン・アセテートや濃色の染色物は高温洗浄を避ける。②洗浄の濃度：市販洗剤に共通して，0.1～0.2％(１～２g/l)とする。たとえば容量30lの洗たく機には30～60g。これより高濃度にすると，洗浄効果はかえって低下する。③時間：洗たく機(パルセーター形・攪拌(かくはん)形・回転形)の機種により異なる。長時間ほど効果は高いが，20分以上になると，効果の上昇率は横ばいになる。④洗剤の種類：主たる界面活性剤の種類によって，その他の条件との関係が異なる。たとえば石油系洗剤は，温度効果は小さいが濃度効果が大きく，低濃度での洗浄効果が劣る。非イオン系洗剤は，さらに低濃度で高い洗浄効果をあげる。⑤その他の条件：水の硬度が高いと，洗浄効果は低下する。汚れの種類と繊維の種類の組み合わせも洗浄性に影響があり，特に疎水性合成繊維(ポリエステルなど)は再汚染性が大きいので，長時間の洗たくは不利となる。繊維のいたみが少ない場合は，アルカリ浴での洗浄ほど汚れの除去効率が高い。これら，洗浄の諸条件のうち，温度・濃度の影響は特に著しい。

〔洗たくの理論〕汚れ除去の機構は次の三つに分けて考えられている。①界面活性：界面活性分の働きによるぬれ・乳化・懸濁・再汚染防止・油の可溶化など。これらはすべて活性剤分子の吸着に基づく。②界面電気：繊維・汚れの帯電による反発が，汚れの離脱を助け，再付着を防止する。無機配合剤の役割が大きいとされている。③機械作用：終局的には外部から加わる機械的な仕事が必要で，繊維をいためない効率的な機械作用により汚れが除去される。布面に直角にあたる衝撃力が有効である。
〔矢部章彦〕

せんたくきゅうしゅう　【選択吸収】　植物が生活に必要な無機塩類を水溶液の形で吸収するときに，外界の水溶液の組成をそのまま吸収するのではなく，溶解塩類を選択的に吸収することをいう。たとえば海藻(かいそう)には，海水中に多量に存在する塩化ナトリウムがきわめて少量しか認められないが，海水中に少ない臭素やヨウ素が海藻中にかなり多量に存在する。このような現象は体各部の細胞が物質を吸収するときに選択することを示しており，原形質膜などの選択透過性や，膜の能動的吸収がこれに関係している。〔吉田精一〕

せんだこれや　【千田是也】　(1904～　)俳優・演出家。本名伊藤圀夫(いとうくにお)。東京生まれ。舞踊家伊藤道郎，舞台美術家伊藤熹朔(きさく)の弟。夫人は女優の岸輝子(てるこ)。早稲田(わせだ)大学独文科中退後，築地(つきじ)小劇場の第１回研究生となる。1927年(昭和２)にドイツに留学して，表現主義演劇を研究，帰国後は新築地劇団・新協劇団で俳優兼演出家として活躍した。1944年青山杉作(すぎさく)らと劇団俳優座を結成，同劇団の指導者として尽くすかたわら，ブレヒトの紹介などにすぐれた仕事を残している。著書に《近代俳優術》など。〔西尾邦夫〕

せんたん　【選炭】　炭鉱で採掘された原炭に選別などの処理または加工を施して，

需要家の要求にかなった石炭(精炭)あるいは加工炭を生産する操作。原炭の中には石炭のほかに岩石(ぼた)が含まれているため，これを選別・除去することが多くの場合に必要である。この操作は選炭の最も重要な部分で，選別は主として石炭とぼたの比重差を利用して行なわれ，浮選*その他の方法を併用する場合もある。石炭を適当に破砕し，ふるい分けして使用目的に適した粒度のものにすることも選炭の一つの重要な役割である。精炭を混合(混炭)したり，あるいはさらに加工し，練炭としたりして出荷する場合もある。〔井上外志雄〕

せんだん 【楝】 双子葉植物・センダン科。暖地の海岸に自生するが，広く庭木としても栽培されている落葉高木。高さ10m，太さ60cmに達する。若い枝や葉に細かい星状毛があるが，のちに脱落する。葉は枝の先に集まってつき，2～3回羽状複葉で托葉(たくよう)はなく，互生する。小葉は1cm以下の柄で対生につき，長さ3～7cm，幅1～3cmの卵状楕円形(だえんけい)で，表面には光沢がある。5～6月，若枝の葉腋(ようえき)に淡紫色の五弁花が円錐(えんすい)状に集まって咲く。果実は楕円形で，長さ10～17mm，10～12月に黄熟する。樹皮を苦楝皮(くれんぴ)といい，漢方では虫くだしとして用いる。また，果実を苦楝子といい，整腸・鎮痛薬とされる。なお，〈栴檀(せんだん)は双葉よりかんばし〉のセンダンはビャクダン*のことで，本種のことではない。〔加藤僖重〕

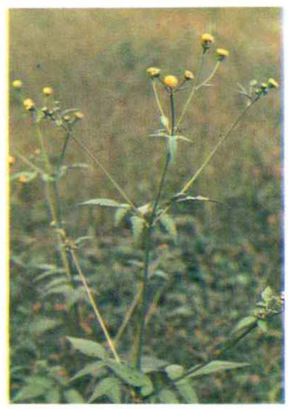
せんだんぐさ 【栴檀草】 双子葉植物・キク科。野山に普通にみられる一年草。茎は四角く，細毛がある。茎の下部の葉は対生し，上部の葉は互生する羽状複葉で，各裂片がさらに卵状に裂けることがある。この葉の形がセンダンに似ることからこの名がある。9～11月，黄色の頭状花をつけるが，ほとんど筒状花で舌状花は少なく，あっても結実しない。果実は痩果(そうか)で長さ1～2cm，線形で角張っており，3～4mmの冠毛の変化したとげがある。

本種によく似たアメリカセンダングサは，北アメリカ原産の帰化植物で，高さ1m以上になり，葉は3～5小葉からなる複葉で，頭状花には舌状花があり，平たい果実をつける。また，コセンダングサは，センダングサに似るが，舌状花はまったくない。タウコギは田や小川の縁などにはえ，3小葉からなる複葉で，舌状花はない。〔加藤僖重〕

ぜんちくやごろう 【善竹弥五郎】 (1883～1965) 能楽師。大蔵流狂言方。茂山忠三郎良豊(よしとよ)の子。旧姓，茂山。前名，久治。主として関西で活躍，独自の解釈を加えた写実的演技が高く評価された。芸術院賞・朝日文化賞受賞，重要無形文化財個人指定。現大蔵流家元大蔵弥太郎は次男。
➔大蔵流



センダン



センダングサ



センチコガネ

せんちこがね 【雪隠金亀子】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体長14～20mm。黒色で，紫色の光沢があるものが普通であるが，個体によっては藍色(あいいろ)・青銅色・緑紫色・銅色などの光沢のものもあって変異に富む。前胸背板は表面がなめらかで，中央後半に細い縦溝(じゅうこう)がある。鞘翅には規則的な小点刻列からなる縦溝がある。体の腹面と脚は通常は青藍(せいらん)色をおびるが，緑藍色や紫色のものもあり，かっ色の長毛がはえている。雄の後脚の腿節(たいせつ)後縁に1個の棘状(きょくじょう)突起がある。また，前脚の脛節(けいせつ)の外側には数個の鋸歯(きょし)状突起があって土を掘るのに適している。日本全土のほか千島列島・サハリン(樺太(からふと))・東シベリア・朝鮮・中国などに広く分布する普通種で，おもに低山帯に多い。成虫は獣糞(じゅうふん)・人糞や腐敗したキノコ類などに好んで集まり，直径1cm内外，深さ10～15cmのほとんど垂直の穴を掘って，その中に糞塊を詰め，それに産卵して幼虫の食物とする。

センチコガネ類は全世界から約500種が知られ，形態的によくまとまった特徴をもつ群で，触角が11節からなり，その先端の葉状部が3節からなる点で他のコガネムシ類から明瞭(めいりょう)に区別され，そのためこの類をセンチコガネ科とする研究者もある。日本には，センチコガネのほか，同属で体の幅が広いオオセンチコガネが日本全土および朝鮮・東シベリアなどに，オオシマセンチコガネが，奄美(あまみ)大島に分布する。さらにこれら3種とは異なる属のムネアカセンチコガネが日本全土・朝鮮・台湾に分布している。これは体長9～14mmで，体は黄赤かっ色，鞘翅の後半部が黒色。〔鈴木邦雄〕

ぜんちし 【前置詞】 字義どおりには，名詞・代名詞の前に置いて他の語に対するその名詞・代名詞の関係のしかたを示す品詞。アレクサンドリアの文法家の用語pró-thesis〈前に置くこと〉(英語preposition)がその語源。印欧諸語におけるほとんどすべての前置詞は，元来，副詞ないしは副詞的な機能をもつものに由来し，動詞を修飾するものとして名詞と動詞との間に置かれたが，しだいにその前の名詞につくようになって，〈後置詞的〉の機能へと発展し，さらに，名詞の格を明確化するため名詞の前にも立つことが一般的となった。現在，名詞に格変化を残す言語(ドイツ語*・ロシア語*など)においては，前置詞に対してこれに続く名詞が一定の格変化を要求される。〔崎山 理〕

ぜんちしき 【善知識】 梵語kalyāṇa-mitra(カルヤーナミトラ)の訳。よき友，すぐれた友の意味で，特に仏教でブッダの正しい教えを説き，正しい道に教え導いてくれる人をさす。その反対は悪知識である。浄土真宗では念仏の教えを勧める者，すなわち法主(ほっす)をさし，禅宗では師僧を尊んでよぶときに用いられる。

ぜんちたいばん 【前置胎盤】 胎盤*の全部または一部が，子宮の下部についている胎盤着床異常の一。ふつう妊娠10か月では，胎盤の下端が内子宮口の上方4～5cmにあるが，前置胎盤の場合は胎盤が内子宮口をおおっている。多くは分娩(ぶんべん)が始まると同時に出血する。妊娠中に出血の起こることもまれではなく，この場合はなんの前ぶれもなく突然に出血するのが特徴で，大出血することもまれでない。前置胎盤が疑われるときには，設備のよく整った病院で治療を受けることが必要である。〔木川源則〕

センチメートル ⇨メートル

センチメンタル-ジャーニー スターン*の紀行文的な小説(1768)。フランス紀行の体裁を取りながら，もっぱらそで触れ合う人々との人情の機微を洒脱(しゃだつ)に語り，恋のため狂った美少女や行き倒れのロバに涙し，作者の多感さをいかんなく発揮した作品。形式にとらわれない奔放な構成となめらかな文体は，さわやかな感傷性とともに特異な魅力をかもし出している。

せんちゃ【煎茶】 葉茶を煎じて飲むもの。中国では明(みん)代に流行した。日本においては江戸初期に黄檗宗(おうばくしゅう)とともに隠元禅師が伝えたといわれているが，実際に急須(きゅうす)を用いる方法となったのは，黄檗の僧であった売茶翁(1675～1763)のころからである。また，生産については元文年間(1736～1740)に山城(やましろ)(京都府)の永谷三之丞(ながたにさんのじょう)(宇園)によるといわれる。湯を注いで茶を入れて飲む方法を淹茶(だしちゃ)といっていたが，民間に広まるにつれてこれをも煎茶というようになった。淹茶の呼称は玉露のようにやや低温で浸出するものに残っている。

〔飲茶〕煎茶は現代の製茶を代表するもので総生産の80％を占める。煎茶には伸び茶と玉緑茶の区別があるが，一般には日おおいをかけずに栽培した茶葉を製茶した伸び茶をいう。茶園では植え付け後２～３年めから摘みはじめる。採取時期は４月下旬からで，最初に出た芽を摘んだのが一番茶，そのあとの芽を摘んだのが二番茶，さらに三番茶の別があり，地方によっては四番茶まで摘採する。一番茶の品質が良好で二～四番茶はやや劣る。〔大石貞男〕

せんちゃくしゅう【選択集】 浄土宗の開祖，法然の著。１巻。くわしくは《選択本願念仏集》という。書名は阿弥陀仏(あみだぶつ)が往生業として選びとった本願念仏の要文を集めたものという意味である。1198年(建久９)，法然が関白九条兼実(かねざね)の要望にこたえて著わしたものといわれる。内容は浄土宗の根本要義を16章に分け，各章ごとに多くの経論を引き，これにみずから解釈を加えたものである。その要点は末世の衆生にとっては阿弥陀仏の本願に即した称名念仏の実践こそ，釈迦(しゃか)，阿弥陀，諸仏の選びとられた唯一最勝の解脱の道であることを説いたものである。この書は法然の生前には限られた弟子(でし)にのみ書写を許されたが，没後，まもなく出版されて多くの反響をよんだ。〔大谷旭雄〕

せんちゅうるい【蘚虫類】 ⇨コケムシ

せんちゅうるい【線虫類】 袋形動物・線虫綱に属する動物の総称で，ネマトーダともいう。雌雄異体で，体軸を縦走する消化器系を備え，複雑な生殖器系を有する。体腔(たいこう)は偽体腔である。環節・脚をもたず一般に糸状ないし円柱状で，外表は角皮でおおわれる。体長は成虫で１㎜前後から２ｍに達する長いものもある。線虫類には自由生活性と寄生性のものがあり，人畜の寄生虫として重要なものも多いが，農業害虫として知られるものも多い。寄生生活をする線虫のうち，人畜寄生の線虫では，全生涯(しょうがい)を寄生生活で送るもの(中間宿主を必要とするものの多くはこれに含まれる)や生活環の一部で寄生生活を営む鉤虫(こうちゅう)・糞(ふん)線虫など種々のものがある。また，各種糸状虫類のように，中間宿主を１回必要とするものや顎口虫(がくこうちゅう)のように２回以上必要とするものや肝毛細虫や施毛虫のように卵や幼虫が終宿主の体内にとどまり，その宿主が次の宿主に食われて感染するという特殊な経路をとるものもある。寄生線虫類の宿主への侵入は経皮・経口感染に大別されるが，経皮感染の場合，中間宿主の吸血吸虫の刺咬(しこう)の際感染する糸状虫類のようなものや外界で感染幼虫となったものが感染する鉤虫類のようなものがある。経口感染では，回虫・蟯虫(ぎょうちゅう)・鞭虫(べんちゅう)などのように卵が取り込まれるものや，顎口虫・施毛虫などのように食肉を通して感染するものがある。また，鉤虫類のように経皮・経口いずれでも感染可能なものもある。〔山本　久〕

ぜんちゅうるい【蠕虫類】 蠕形動物ともいう。体形が細長く，体節構造・脚のない扁形(へんけい)動物・線形動物を一括したよび名で，系統分類学上の用語ではない。場合によっては環形動物を含めることもあり，また，内部寄生虫のことをいうこともある。

せんちょう【船長】 特定の船舶乗組員であって，首長として指揮し，船舶および積み荷を合わせた財産を管理し，運航に当たる者。歴史的にみれば，海上企業の共同経営者としての地位をもっていた時代もあったが，現在では船主船長の場合を除いて，船舶所有者の雇用人としての職業になっている。しかし，海上においては船舶は船舶所有者のもとを離れて存在し，かつ危険が伴うので，公法上・私法上広範な職務権限を与えられ，海商法上では船主の代理人として航海に必要ないっさいの権限を認められている。また，公法上では船員法・船舶法などによってその権限が規定されている。職制としての船長は船舶職員法による海技免状を取得し資格を得た者が，船主から任命されるのであるが，船員法の上では，船舶乗組員の中で船長と船員は完全に区別された存在となっている。〔飯島幸人〕

ぜんちょう【前趙】 中国，五胡(ごこ)十六国中の一国。最初国号を漢とし，のち趙に改めた。山西省に移住していた南匈奴(きょうど)の劉(りゅう)氏が建てた王朝(304～318)。族長の劉淵(りゅうえん)は西晋(せいしん)末期の八王の乱に乗じて諸部族を統合し，大単于(だいぜんう)となって平陽(山西省臨汾(りんぷん)県)に都した。その子劉聡(りゅうそう)は一族の劉曜らを将として洛陽(らくよう)を攻略させ，さらに長安にいた愍帝(びんてい)を下して西晋を滅ぼしたが，劉聡の死後，趙は西の劉曜と東の石勒(せきろく)とに分裂して滅んだ。〔川勝義雄〕

せんちょうがん【閃長岩】 中性岩の中の深成岩で３分の２以上がカリおよびソーダを主とするチョウ石で構成されている岩石。セキエイはあっても10％以下であるが，その量がしだいにふえてカコウ岩に移り変わっていくこともまれではない。有色鉱物としてはカクセン石とクロウンモが最も普通である。中でアルカリセンチョウ岩とよばれる種類はアルカリ岩の一種であって，種々の珍しい鉱物を含むことがある。

せんつう【疝痛】 胃腸管・胆嚢(たんのう)・胆管・尿管・膀胱(ぼうこう)などの中空臓器(管腔(かんこう)を有する臓器)が強く痙攣(けいれん)性に収縮するため起こる，きりきりしぼるような痛みをいう。疝痛は，①中空臓器の内腔が機械的に閉塞(へいそく)された場合(幽門狭窄(きょうさく)，大腸癌(がん)，ヘルニアの嵌頓(かんとん)，腹膜の癒着(ゆちゃく)など)，②他の部位からの反射的な刺激によるもの(急性の胃炎・腸炎，消化性潰瘍(かいよう)，胆石症，尿管結石症，腎(じん)結石症など)，③内臓を形成する平滑筋の神経刺激が過剰となった場合(鉛中毒，ニコチン中毒，梅毒による脊髄癆(せきずいろう)など)，④腸管の内容の通過が局所的に妨げられる場合(腸閉塞，腸間膜の血栓(けっせん)や栓塞など)などにみられる。〔佐野隆志〕

ぜんつうじ【善通寺(市)】 香川県北西部の市。人口37,000。806年(大同１)唐から帰った空海がその生誕の地に真言宗総本山善通寺を創建して以来，その門前町として発達した。1896年(明治29)陸軍第11師団司令部が置かれて軍都となり，第２次世界大戦後は陸上自衛隊が駐屯(ちゅうとん)している。1954年(昭和29)善通寺町と周辺４村が合併して市制施行。市域は西高東低の地形で，西部はカコウ岩を基盤とする断続した山地で，東部には丸亀(まるがめ)平野が広がる。市街は整然とした街路をもち，かわらぶき２階建て平入りの連続した民家などに昔のおもかげを残す。北半部は住宅地域，南半部には官公庁などの公共施設や自衛隊施設などがある。産業三大別人口比は16：28：56。平野部では米・麦・野菜の生産が多く，山麓部(さんろくぶ)ではミカン・タバコの栽培が行なわれる。古くから溜池(ためいけ)が多く，また地下水の出る出水(ですい)による灌漑(かんがい)がみられる。土讃(どさん)本線・国道32号線が平行して市域を南北に走り，国鉄バスが高松市・観音寺市・琴平町など周辺都市と連絡する。

ぜんつうじ【善通寺】 香川県善通寺市にある真言宗の総本山。山号は五岳山誕生院。空海(弘法(こうぼう)大師)の誕生の地として知られ，東寺(教王護国寺)・金剛峯寺(こんごうぶじ)とともに三大霊跡と称される。四国霊場八十八ケ所の第75番札所。９世紀はじめ，空海が唐から帰国して真言宗布教の勅許を得て道場を建立(こんりゅう)し，父の名をとって寺名としたという。歴代天皇の信仰あつく，13世紀末後宇多天皇の修営を得た。その後火災にあったが再建を重ね，1941年(昭和16)総本山に昇格した。〔杉坂靖子〕

せんてい【剪定】 広義には果樹の樹体を栽培の目的に添わせるように木自体に施す作業。狭義には枝を切ること。枝を切る

手法には枝を分岐点から切る間引き(間截(かんせつ))と枝を途中で切る切り詰め(短截)があり，適宜組み合わせて用いられる。広義の剪定にはこの剪枝のほかに次のような手法が含まれる。剪根：苗木を植えるときなど根を切り詰めたり，いたんだ根を健全部まで切ること。誘引：枝を欲する方向に引っ張り，あるいは支柱に縛りつけること。除芽：発芽前または発芽と同時に不要の芽を除去すること。摘心：新梢(しんしょう)が木質化するまえにその先端を摘むこと。撚梢(ねんしょう)：新梢を切らずに撚転させること。環状剝皮(はくひ)：養分の下降を妨げるために枝の周囲の皮を一部環状にはぎ取ること。縦傷：外皮が緊縮して内部組織が圧迫され生長が弱まった枝梢などに縦に傷をつけ樹勢を増進させること。摘果：他の果実の発育を助けるために密生部を除去すること。剪定は先々の枝の動きを見通し，樹形を整え，結果習性を考えて，葉によく陽光があたるように大枝から小枝へ，木の上部から下部へと行なうのが順序である。剪定によりむだの少ない枝の伸びと，開花・結実との均衡，均産，品質向上，盛果期の維持，管理作業の便などが得られる。〔岩垣駛夫〕

ぜんてい【全逓】 ⇨全逓信従業員組合

ぜんていきかん【前庭器官】 ⇨平衡器官

せんていこう【選帝侯】 選挙侯ともいう。中世ドイツで皇帝を選ぶ権利を有する有力諸侯。カロリング朝断絶後は，全諸侯が皇帝の選出に参加していたが，13世紀中葉以降は有力な僧俗諸侯がその指導権を握るようになり，特にカール4世*が発布した金印勅書*(1356)によって，彼らの地位と権利が確認されるようになった。金印勅書当時の選帝侯はマインツ・トリール・ケルンの各大司教，ファルツ伯・ザクセン公・ブランデンブルク辺境伯・ベーメン王の7人であった。〔松　俊夫〕

ぜんていしんじゅうぎょういんくみあい【全逓信従業員組合】 略称は全逓。1946年(昭和21)結成され，組合員数19万9,000。第2次世界大戦後，全日本産業別労働組合会議(産別)の最も戦闘的な組合の一つとして指導的役割を果たしたが，1949年以降，民同派の力が強まり，現在は反共路線をとっている。国際自由労働組合連盟*に加盟。1957年全逓信労働組合と改称，今日に至る。

せんてつ【銑鉄】 鉄鉱石を還元してつくられた鉄の一種で，炭素を2.5～4.5％含むものをいう。ずく・なまこともよばれる。炭素含有量が高いために鉄本来の靭性(じんせい)，可鍛性はないが，融点が低く鋳造性がよい。銑鉄製造法としては，溶鉱炉によりコークスを用いて鉄鉱石を還元する方法が最も広く採用されており，ほかに小形溶鉱炉により木炭を使用して製造する木炭銑，電熱を利用する電気銑などがある。銑鉄の用途の大部分は製鋼用原料としてであり，塩基性転炉銑(トーマス銑)，酸性転炉銑(ベッセマー銑)，上吹転炉銑などに分類される。一部は鋳物用原料として普通鋳物銑・高ケイ素銑・球状黒鉛鋳鉄用銑などとして使われる。〔草川隆次〕

せんでん【宣伝】

1 ➔ 広告

2 ➔ プロパガンダ

せんでんしょう【仙伝抄】 最古の生け花の秘伝書。奥書によると1445年(文安2)に富阿弥(ふうあみ)から7人の相伝者を経て，1536年(天文5)に池坊*(いけのぼう)専慈に伝えられたものである。内容は元服の花，出陣の花，三つ具足の花など53条にわたる口伝(くでん)をしるした本文と谷川流と奥輝之別紙の3部分からなる。体裁は90年間に集められた約束事を箇条書きに大成したもので，序文も結論もなく体系化されていない。全体的に仏教の教理の影響が強いが，四季の景観に沿って自然に立てることを重視しているのが注目される。猿楽(さるがく)，和歌，連歌，書などとの関連がみられ，けいこ・修練・執心などを強調し中世芸能としての生け花を特色づけている重要な文献である。➔生け花〔大井ミノブ〕

せんてんせいきょだいけっちょうしょう【先天性巨大結腸症】 結腸，特にS字状部に拡張・肥大・延長などが先天性にみられる疾病(しっぺい)。ヒルシュスプルング病ともいう。原因は先天性奇形による拡張や，結腸下部および直腸部を支配する神経節細胞の欠損，腰椎(ようつい)神経支配下の自律神経失調などのために蠕動(ぜんどう)不全があったりして起こる。病児の腹部ははなはだしい膨隆を示し，打診すると鼓音を呈し，便は著しく多量に貯留して，がんこな便秘をみる。腹部のX線撮影によると，拡大・膨隆した結腸が見られる。治療としては便秘予防のための食事を与えるが，この食事療法で効果がなければ主として拡張したS状結腸部を切除する。〔宇留野勝正〕

せんてんせいこかんせつだっきゅう【先天性股関節脱臼】 股関節*の構造に先天的な欠陥があるため起こる股関節の脱臼。女児に多い。胚芽(はいが)(➔胚)欠損，子宮内での機械的脱臼説などがあり，遺伝性のあることも報告されているが，真の原因は不明。亜脱臼型から大腿(だいたい)骨頭の骨盤後方移動まで，ふつう第4型まで分類されているが，最近では保健所・小児科医による乳児検診が行き渡って早期に発見されるため，重症の第4型は減少した。以前は牽引(けんいん)療法をしてからギプス固定で治療した例が多かったが，現在では早期(生後1～3か月)発見の場合，スダレ固定，リーメンビューゲル固定(バンドで足をつっておく)などで治療するため，医者も患児も母親もギプス固定による苦しみから解放された。股関節が開きにくい，足の一方が短い，脊柱*(せきちゅう)が左右のどちらかに曲がっているなどの異常を認めたら，すぐ整形外科医に受診することがたいせつである。なお，正常と思われても生後3か月めぐらいにいちおうレントゲン検査を受けるのが安全である。〔山中英夫〕

せんてんせいじゃくしつ【先天性弱質】 新生児の身体各器官の機能が発達不十分で，子宮外生活を完全に営みえない状態をいう。いわゆる未熟である場合が大部分であるが，過熟であっても胎盤機能不全症候群などの特殊な場合には同様に弱質状態のことがある。原因としては先天性ならびに周生期の疾病(しっぺい)(先天性梅毒・頭蓋(とうがい)内出血・先天性奇形・血液型不適合など)もあるが，最も多いのは早産であり，その大部分が未熟児である。そして新生児死亡原因の大部分を占めている。〔宇留野勝正〕

せんてんせいしんぞうびょう【先天性心臓病】 ほとんどのものが先天性心臓奇形で，主として胎児期初期の心臓の形成期の障害(妊娠中毒症，風疹(ふうしん)その他のウイルス感染症，放射線，ホルモンなどの影響)によって奇形を生じたものである。心室中隔欠損症・心房中隔欠損症・肺動脈弁口狭窄(きょうさく)・大血管転位・動脈管開存・ファロー四徴症などの種類がある。症状は，重症型ではチアノーゼ・肝臓腫大(しゅだい)・浮腫・呼吸困難などを呈するが，軽いものではまったく自覚症がない場合もある。聴診による心臓雑音，X線撮影による心臓の異常形態，心電図・心音図などの異常によって診断する。軽い型のものは放置しておいてもよいが，重症なもので手術によって治癒(ちゆ)するものは，年齢的に適当な時期に手術を施す。〔宇留野勝正〕

せんてんせいちょうへいそくしょう【先天性腸閉塞症】 先天性腸管奇形の一つで，腸管の一部が閉塞している場合をいう。胎児期の腸管形成時の障害が原因となる。閉塞は十二指腸以下全腸管にみられるが，特に十二指腸部に最も多い。生後1～2日で腹部は膨満し，嘔吐(おうと)が起こり，吐物には胆汁(たんじゅう)が混じることが多い。腹部のX線撮影を行なうと診断がつく。治療はできるだけ早く手術を行なう。もし3～4日も放置すれば，閉塞部より上部が著しく拡張し，ついには破れて腹膜炎を起こし，死亡する。〔宇留野勝正〕

せんてんせいばいどく【先天性梅毒】 胎児が子宮内で，胎盤を通して母の梅毒に感染した場合をいう。多くは子宮内で胎児梅毒として死亡し，流産や死産をするが，残ったものも7～9か月で早産をすることが多い。胎内血行性感染であるから，第2期梅毒の症状を呈し，乳児期では皮膚症状(顔面・手掌・足底その他の浸潤，落屑(らくせつ)・頭髪脱落など)・慢性鼻炎(しばしば鼻出血)・骨軟骨炎(上下肢の運動麻痺(まひ))・臓器梅毒(肝および脾腫大(ひしゅだい))などを示す。以上のほか，幼児期後半以後に症状を呈する晩発性の遅発梅毒もあり，切歯異

常・実質性角膜炎・内耳性聾(ろう)などを示す。診断にはすべて血清反応を行なう。治療はヒ素剤・蒼鉛(そうえん)剤やペニシリンその他の抗生物質による駆梅療法を行なう。
→梅毒　〔宇留野勝正〕

せんてんてき【先天的】⇒アープリオーリ・アーポステリオーリ

セントー［CENTO］⇒中央条約機構

せんとう【船燈】夜間，船の種類や行動を他船に知らせて，衝突を防止するために掲げる燈火。船燈の掲示は海上衝突予防法に規定されている。作業中・漁労中・引き船などによって異なりその種類は多いが，一例をあげると，航海中の大形船は，前部マストと後部マストおよび船尾に白燈を，船橋の左舷(さげん)に赤燈，右舷に青燈を掲げなければならない。

せんとう【仙洞】仙院・緑洞・藐姑射山(はこやのやま)ともいう。上皇の御所。のちには上皇その人をさすようになり，居所は仙洞御所*といわれた。古くからこの名称はあったらしいが，皇居と別に設けられたのは平城(へいぜい)上皇の平城宮*が初めという。院政時代には重要な御所となり，洛中(らくちゅう)・洛外の諸所に設けられた。

ぜんどう【蠕動】筋運動の特別な一形式をいうもので，うごめき運動ともいう。蠕虫類*の皮膚にある筋肉や，いろいろな動物の腸や胃が行なう運動で，動物の移動や穿掘(せんくつ)の運動，また器官の内容物を送ったりかき回したりするのに役だっている。

ぜんどう【善導】(613～681) 中国，唐代の僧。善道とも書く。山東省青州または安徽(あんき)省泗州(ししゅう)の人。姓は朱氏。幼少にして出家し，《観無量寿経》に注目して浄土門にはいる。のち道綽*(どうしゃく)の教えを受けた。長安を中心に教化活動をし，念仏によって末法世の凡夫が阿弥陀仏(あみだぶつ)の浄土に往生できるとする信仰を広め，中国浄土教の極盛期を築いた。光明寺・実際寺・悟真寺などに住し，その間《阿弥陀経》の書写10万巻，浄土変相図300を残したという。現存する著書に《観無量寿経疏(しょ)》《往生礼讃(らいさん)》《観念法門》《法事讃》《般舟讃(はんじゅさん)》がある。日本浄土宗の開祖法然*への思想的影響が大きい。〔佐藤成順〕

せんとうき【戦闘機】敵の航空機を攻撃または迎撃することを任務とする軍用機。第1次世界大戦の初期，偵察(ていさつ)に出た飛行機が敵の偵察機を妨害するために小銃や機関銃を積むようになったのが最初で，まもなく空中戦専門の戦闘機がつくられるようになった。敵機とわたり合うために単座で軽快な機体のものが大部分で，第1次世界大戦末期には西部戦線(ドイツとフランスの国境地帯)上空でドイツとフランス・イギリス双方の戦闘機がはなばなしい空中戦を展開した。このころは複葉機時代であったが，空戦の性能を向上させるためにドイツのDr-1のような三葉機も使われた。



飛燕(日本)



ホーカーハリケーン(イギリス)



メッサーシュミット262(ドイツ)



ハインケル162(ドイツ)

第2次世界大戦ごろの戦闘機



ノースアメリカンF-100　スーパーセイバー(アメリカ)音速を突破した世界最初の超音速戦闘機

戦闘機

以後，第2次世界大戦までの間に戦闘機の構造は金属製・単葉・引き込み脚となり，戦法も単機による巴戦(ともえせん)から編隊中心の高速一撃戦法に変わり，爆撃機護衛のために長距離を飛ぶ双発の大形戦闘機も現われた。第2次世界大戦にはいると，陸上・海上ともに航空機の重要性は増大し，制空権の把握(はあく)が要請されるようになったため，戦闘機は飛躍的な発展を遂げた。このころから制空用・防空用・夜間用などの専門分化が明確となり，戦後のジェット機時代にはいってさらに複雑化している。

第1次世界大戦初期の戦闘機が全備重量600kg，最大速度150km/時，7.7mm機銃1といった性能であったのに，わずか50年後の今日，F-4ファントム*のように27t，マッハ2.4(2,800km/時)，ミサイル搭載(とうさい)数8という驚異的な性能をもつまでに発達を遂げている。　〔藤井冬木〕

せんとうこう【銭塘江】チエンタン川　中国東部，浙江(せっこう)省にある川で浙江ともいう。全長380km。同省西部の仙霞嶺(せんかれい)に源を発し，北東に流れて杭州(こうしゅう)平野を潤して杭州湾に注ぐ。流域は浙江省のおよそ半ばを占め，重要な農産地帯を形成している。河口で満潮のときに起きる海嘯(かいしょう)は有名で，1960年に支流の新安江にダムが完成した。

せんどうこうた【船頭小唄】大正時代の流行歌。〈枯れすすき〉ともいわれる。野口雨情作詞，中山晋平(しんぺい)作曲になり，1921年(大正10)に発表され，映画化もされた。

せんとうごしょ【仙洞御所】天皇が位を譲り，上皇(太上(だじょう)天皇)と称してからすまう所。院の御所ともよばれた。したがって，歴史上多数の仙洞御所が営まれた。現存する唯一の遺構である京都御苑(ぎょえん)内の旧仙洞御所は，後水尾(ごみずのお)上皇のために徳川幕府が造営したもので，現在は大宮御所とともに，京都御所*の東南部に広大な一郭を占めている。ここには平安時代，藤原氏の土御門殿(つちみかどでん)や京極殿があり，歌人紀貫之(きのつらゆき)の邸宅跡ともいわれる。1629年(寛永6)後水尾天皇は退位したが，仙洞の造営工事は，天皇在位中の1627年から始められ，まる3年を要して竣工(しゅんこう)した。作事奉行(ぶぎょう)は小堀(こぼり)遠州*である。遠州はさらに1634年から1636年にかけて泉水作事奉行をつとめ，仙洞ならびに女院御所の書院や数寄屋(すきや)を新造し，庭園の大改造を行なった。ここは後水尾院以来，霊元院・中御門院・桜町院・後桜町院・光格院の仙洞御所となったが，1661年(万治4)の炎上をはじめとして，1673年(寛文13)・1676年(延宝4)・1684年(貞享1)・1708年(宝永5)・1788年(天明8)とたびたびの火災にあっている。そのたびに幕府の造進により復興したが，1854年(嘉永7)4月の焼失後は上皇の在位がなかったので造営が行なわれず，現在，御殿はなに一つ残っていない。しかし庭園はよく保存され，寛永の創設以来，大きく変容しながらも，その美しい姿を今日に伝えている。

庭園は築地塀(ついじべい)で囲まれた敷地の東側に寄って大きな池が二つ，南北に連なっている。北の池はもと女院御所の庭園にあったものであるが，遠州の作庭当初に比べて拡張され，1747年(延享4)桜町上皇がここに移るに際し，南の池(本来の仙洞庭園)と堀割でつなげられて一つの庭となった。北池の北西隅(ぐう)には阿古瀬(あこせ)とよばれるふちがあり，ヤマブキの名所となってい

る。北岸には鎮守の社のある丘があり，さらにその北部一帯の平地は稲田の跡で御田社(おたのしゃ)が祭られている。池の東寄りに大きい中島が1個あり，西岸からながめた池に奥行きを感じさせる。南池には中央に二つの中島(もとは一つの島)があり，現在は藤だなでおおわれた八つ橋と，平橋および反橋の，意匠を異にした三つの自然石の橋で東西両岸をつないでいる。そのため池が2分されているように見えるが，その北側の池には滝が落とされ，滝の背後の築山から池に向かって芝草のみの美しい出島が伸びやかに南に突き出ている。この出島と東側の切り石をたたんだ直線の護岸，それに続く大ぶりの自然石を並べた岩石様の護岸は，遠州作庭当初の意匠と認められる部分で，長年月に多少変化したとしても，遠州の作風を知る上で貴重なものである。南池の南半分では西岸から南岸に至る広大な州浜が目を引く。州浜に敷きつめられた粒ぞろいの長円形の玉石は小田原藩主大久保侯の献上と伝え，小田原の海岸で石一つに米1升を与えて集めさせたというところから俗に小田原一升石といわれている。庭の南部には桜町上皇時代に醒花亭(せいかてい)と命名された茶亭があり，北池西岸には1884年(明治17)に近衛邸(このえてい)から移築した茶室又新亭(ゆうしんてい)がある。かつてはこのほか修学院離宮*上御茶屋(かみのおちゃや)から移した止々斎があり，南池の中島には滝殿や釣殿(つりどの)，その東岸には鑑水亭などの庭園建築が整えられていた。〔村岡　正〕

ぜんとうし　【全唐詩】中国，唐代の詩をすべて集めたもの。900巻。1707年(清(しん)の康熙(こうき)46)，勅を奉じて彭定求(ほうていきゅう)らが編纂(へんさん)した。集録した作者は2,200余人，詩の数は48,900余首。はじめに帝王后妃の作，次に楽章楽府，その次に諸臣の詩・聯句(れんく)・造句・名媛(めいえん)・僧道・外国・神仙・鬼怪・諧謔(かいぎゃく)諸雑体という順序に分類してある。

ぜんとうしいつ　【全唐詩逸】《全唐詩*》にもれた詩を集めたもの。3巻。日本，江戸時代の儒者市川世寧(寛斎)の編。遣唐使や入唐(にっとう)した僧侶(そうりょ)が持ち帰り，日本にだけ伝えられていた詩100余編を収録，むすこの市河米庵(べいあん)らにより，1804年(文化1)，京都で刊行された。のち中国に伝わり，珍重された。

せんとうてい　【宣統帝】⇨溥儀(ふぎ)

セント-エルモのひ　【セント-エルモの火】雷を伴うような天気のときに，電場の強さが大きくなり，塔の頂，柱の尖頭(せんとう)，避雷針の先などから放電現象として紅色や青色の炎が見える現象。山頂などでは毛髪の先や指先，山小屋の屋根の角などに現われることがあり，また海上では船のマストの尖端などで起こる。

セントキッツ(島)　［Saint Kitts］別名セントクリストファー島。西インド諸島，



セントポーリア

レーワード諸島にある島で，面積175km²。ミゼリイ山(1,149m)があり，海岸の平野ではサトウキビ・ワタ・カカオ・コーヒー・タバコ・ココナッツ・果樹をつくる。バステレは港市で行政の中心地。イギリス領。

せんどきぶんか　【先土器文化】⇨無土器文化

セントさんぽう　【セント算法】音程を数的に表わすために，エリス*によって考案された単位。平均律の半音を100セント，すなわち1オクターブを1,200セントとする。ある二つの音の音程をセントで表わすためには，振動数の比Aを求め，$1,200\log_2 A$を計算すればよい。セントは種々の音程の比較や，平均律にない音程(たとえば微小音程)を把握(はあく)するのに便利である。

セント-ジェルジ　［Albert Szent-Györgyi］(1893～　)ハンガリー生まれの生化学者。ブダペストに出生し，現在はアメリカのウッズホール臨海実験所で研究している。彼の業績としては，ビタミンCの発見，細胞内呼吸におけるジカルボン酸の役割の発見，さらに筋収縮のタンパク質アクトミオシンがアクチンとミオシンからなり，ATP*(アデノシンミリン酸)の存在下で収縮する事実を発見したことがあげられる。エッセイストとしても知られる。

セントジョン　［Saint John］カナダ，ニューブランズウィック州のファンジー湾北岸にある港湾都市。州第1の都市で，人口112,000(1974)。港はセントジョン川の河口にある天然の良港で，カナダではモントリオール・バンクーバーに次ぐ小麦の輸出港である。冬も凍結しない。

セントジョンズ　［Saint John's］カナダ，ニューファンドランド州の州都。大セントジョンズの人口は13万2,000(1974)。ニューファンドランド島南東岸にある北アメリカ最東端の港市で，島の南東沖合にグランドバンクなどの好漁場を控えクジラ・アザラシ・タラ漁業の基地となっている。北アメリカ最古の町で，1583年に創設され，その後，イギリス・フランス両国が争奪をくり返したが，1762年イギリスの支配下にはいった。市街は港の背後にある丘の傾斜地に発達しており，古めかしい景観はイギリスの都市を思わせる。カナダ-ナショナル鉄道会社のニューファンドランド横断鉄道の東の起点で，第2次世界大戦後はフィルム・機械などの工業が発達している。〔相村大彬〕

セントバーナード　［Saint Bernard］イヌの一品種。雪深いアルプス山中で道に迷った旅人を救助するイヌとして，世界的に知られている。1816年オオカミと誤認されて射殺されたバーリー号は，それまでに42人の遭難者を救助したという。体高は65～70cm，体重は73～95kgくらい。

セント-ビンセントおよびグレナディーン(諸島)⇨ウィンドワード(諸島)

セントヘレナ(島)　［Saint Helena］失脚したナポレオン1世*が流されて生涯(しょうがい)を終わったところとして知られる南大西洋の孤島。面積121km²。アフリカ大陸南部，アンゴラの西方約1,900kmにありイギリス領である。火山島で，1502年にポルトガルの航海者J.ノバが発見したときには，森林におおわれた無人島だった。セントヘレナとは，1633年にオランダがここにつくった東方航路のための港につけられた名である。アマ・ユリ根などの産物がある。ジェームスタウンは，島のたった一つの町で行政の中心地である。〔大崎　晃〕

セントポーリア　［saintpaulia］双子葉植物・イワタバコ科。アフリカスミレともいい，東アフリカの森林の樹陰に自生する多年草。はち植えとして温室で栽培される。短い地下茎から多数の葉が根出し，ロゼット*状になる。葉は5～8cmの葉柄をもち，広卵形で長さ5～8cm，両面に短毛がある。ふつう夏から秋にかけて4～6花が総状花房に6cm前後の柄の先につく。花は径2～4cmの漏斗状で，スミレに似る。近年アメリカで改良が進み，種々の品種が作出された。花色は最初単純な青色であったが，白・桃・赤・紫などの色ができ，さらに一重から半八重・八重のものまで現われた。繁殖は葉柄をつけて葉ざしすれば，容易に発根する。生育適温は20℃で，直射光線を避けて，多湿に保つ。用土はバーミキュライト(ヒル石*)と砂を等量に混ぜたものがよい。〔小杉　清〕

セントポール　［Saint Paul］アメリカ合衆国中北部，ミネソタ州の州都で，ミネアポリスに次ぐ州第2の都市。人口28万(1975)。州の中部東端に位置していてミシシッピ川とミネソタ川の合流点にあって，すぐ西にあるミネアポリスとは双子(ふたご)都市といわれ，両市を含む大セントポールの人口は172万1,000(1966)。ミシシッピ川遡航(そこう)の終点で，同州の工業・運輸・商業・教育の中心地。出版印刷業は合衆国第4位，化粧品製造は第5位，精油産額は中西部で第1位である。また大セントポールは電子工業の一中心にもなっている。〔相村大彬〕

➔次ページ(写真)

セント-ポールだいせいどう　【セント-ポール大聖堂】ロンドンにあるイギリス-



セントポール　ミシシッピ川に臨むセントポールの中心部。市街は美しい緑でいろどられ，立体交差の道路網が流れるように走っている

ルネサンスを代表するイギリス国教会の聖堂。レン*の建築になるもので，1675～1710年に建立(こんりゅう)された。2段になった正面ファサード西側の二つの塔，地上約98mの大きなドームをもつ堂々たる外形である。寺院の地下は，レン自身やウェリントン*・ネルソン*をはじめとするイギリス歴代の要人の墓所となっている。

セントルイス　[Saint Louis, St. Louis]　アメリカ合衆国，ミズーリ州東縁のイリノイ州境にある商工業都市。人口52万5,000，大セントルイス236万3,000(1975)で同州最大の都市。ミシシッピ川とミズーリ川の合流点に位置し，かつて河港として栄え，現在も合衆国中央部の交通の中心地である。西部への入り口で毛皮取引の中心として発展し，農業地域を背景として穀物・綿花・羊毛・木材・家畜・タバコ・毛皮の取引が盛んである。主要工業は鉄鋼業を中心に食肉加工・はきもの・薬品・金物・製粉業などで，自動車組み立て工業はデトロイトに次ぎ合衆国第2位。1832年創立のセントルイス大学と1853年創立のワシントン大学の二つの総合大学，神学・内科・外科・薬学の単科大学があり，中でも外科大学は有名な付属病院をもつ。市は1674年にフランスによって建設され，フランス国王ルイ9世にちなんで名づけられた。　〔相村大彬〕

セント-ルシア⇨ウィンドワード(諸島)

セントレックス　[centrex]　一つのビル内に自動交換機を設け，これに1企業または数企業の500個以上の本電話機を接続し，自動的に内部の相互通話や外部との直接発着信通話ができるようにした電話。集団電話の一種で電電公社が設計・設備し，大企業または企業集団におけるビジネス用に使われる。交換手を経由せず，社外からの着信がビル内個々の電話機で受けられるダイヤルイン，0プラス相手番号を回して社外に直接発信できるダイヤルアウト，度数料を要しない社内相互通話などが可能であり，その他自動転送・集中応答・不在通知・会議電話・短縮ダイヤルや市外への発信規制，社内案内その他の機能を設備することもできる。日本では1967年(昭和42)集合自動電話の名称で試行され，従来のPBX*にないすぐれた性能が多いことやビルの大形化・過密化などで需要は急増している。



セント-ポール大聖堂



セントローレンス川　モントリオール市北東部の工業地区付近を流れるセントローレンス川。埠頭には船が接岸し，カナダにおける輸送の大動脈となっている



セ ン ナ　(左)モクセンナ　(右)ハナセンナ

セントローレンス(川)　[Saint Lawrence]　北アメリカ東部の川。上流はカナダとアメリカ合衆国の国境をなす。オンタリオ湖の東端からセントローレンス湾に注ぎ，その間の長さ約1,190km。川幅はケベック付近で10km，河口付近では150kmある。セントローレンス海路*の完成によって五大湖と大西洋とを結ぶ重要な交通路となり，大形船が航行できる。流域はカナダでも最も重要な産業地帯をなし，カナダの人口の半数以上がオンタリオ湖北岸を含めたこの地域に集中している。　〔大石堪山〕

セントローレンス(海路)　[Saint Lawrence]　北アメリカ東部，セントローレンス川*のオンタリオ湖北東岸にあるカナダのキングストンから，下流のモントリオールまでの水路。全長約300km。セントローレンス川の流路を航行ができるように運河として造営したもので，1954年，カナダとアメリカ合衆国の共同事業で進められ，1959年4月に完成した。七つの閘門(こうもん)によって途中の急流を克服し，大西洋から五大湖まで1万トン級の船舶の航行が可能になった。　〔大石堪山〕

センナ　[senna]　双子葉植物・マメ科。暖帯から熱帯に約500種分布しているカワラケツメイ属のうち，木本種のいくつかをいう。モクセンナは西インド原産の高木で，高さ10～15cm。葉は偶数羽状複葉で長さ18～20cm。小葉は8～10対あり，楕円(だえん)形で下面は灰白色。8～9月，枝の上部の葉腋(ようえき)に，12～15cmの花梗(かこう)を出す。花は直径2cmの黄色五弁花で平開し，他のマメ科植物と異なる。豆果は長さ12～15cmで，10～12個の種子がはいる。ハナセンナはアフリカ原産の高さ1～4mの落葉低木で，多数枝分かれし，緑色で軟毛がある。葉は偶数羽状複葉で8～14対の小葉からなる。小葉は長楕円形で長さ6～18cm。8～11月，枝の上部の葉腋に黄色五弁花を総状につける。葉や花にクリソファン酸を含み，峻下剤(しゅんげざい)として用いられることがある。チンネベリーセンナはアラビアからインドに分布する常緑小高木で，高さ4mに達する。葉は偶数羽状複葉で5～7対の小葉からなる。小葉は長さ2～5cm，幅0.6～1.5cmの披針(ひしん)形で全縁，下面に少毛がある。花は大形の黄色五弁花で，数個が穂状につく。果実は暗かっ色で，わずかに湾曲し，8～9個の平たい倒卵形の種子を入れる。アレキサンドリアセンナはアフリカ東部からアラビアに分布する高さ1mほどの小低木で，枝が長い。葉は偶数羽状複葉で，4～6対の小葉からなる。小葉は長さ1.5～3cm，幅0.5～1cm。6～7月，前種よりも小さい黄色花をつける。果実は

長さ4.5cmほどの平たい球形で，6個の種子がある。チンネベリーセンナとアレキサンドリアセンナの小葉を局方ではセンナといい，センノシド・クリソファン酸・アロエエモジン・レインを含み下剤に用いられる。〔加藤僖重〕

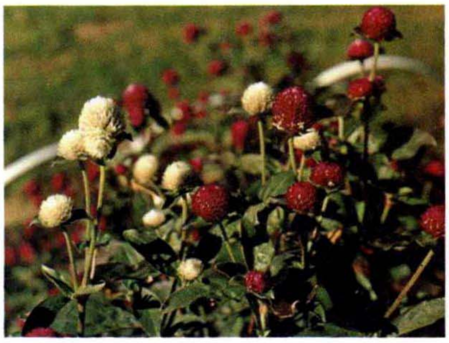
ぜんな　【善阿】　連歌師。生没年未詳。鎌倉末期に流行した花下連歌(はなのもとれんが)(寺院の桜花の下の連歌会を主導したところからいう)の宗匠。《連歌本式》の編者とも推定されている。二条良基*(よしもと)の《筑波(つくば)問答*》に〈善阿といひし者，ならびなき上手(じょうず)にて，門弟ども今に此の道の堪能にて侍(はべ)る〉とあるように，良基の協力者であった救済*(ぐさい)をはじめ，十仏・順覚・信照ら有力な地下派*(じげは)連歌師を育てた。《菟玖波集*(つくばしゅう)》に33句が収められている。〔奥野純一〕

センナケリブ　［Sennacherib］（？～BC681）　アッシリア王。在位BC705～BC681年。サルゴン2世*の子で後継者。即位とともに国内の大反乱にあい，これを平定したのち，バビロニア・エラムを従えた。BC701年以後はパレスチナ・フェニキアに軍を向け，シドン・アルワドなどを征服したが，疫病のためエルサレム攻略には失敗した。BC691年からBC689年にかけて反乱を起こしたバビロン市を攻略し，これを徹底的に破壊した。以後ニネベを首都にふさわしい都市とすることに専念した。〔屋形禎亮〕

せんなりほおずき　【千成酸漿・苦蘵】　双子葉植物・ナス科。熱帯アメリカ原産の一年草で，帰化植物の一。茎の高さ30～40cmでよく分枝する。葉は長さ3～7cmの広卵形で先はとがる。8～10月，葉腋(ようえき)に1個ずつ緑白色の五弁花をつける。果実は直径1cmの球形，長さ2.5cmほどの小さな卵形のがく片に包まれる。熟しても紅変せず，緑色のままである。

せんなん　【泉南(市)】　大阪府南西部の市。人口53,000。江戸時代の錦(にしき)の伝統を受け継いだ紡織工業が盛んで，明治以後はれんが製造などの窯業も興った。1970年(昭和45)7月市制施行。市域は大阪湾岸の平野部から和歌山県境を走る和泉(いずみ)山脈北斜面へかけてほぼ南北に広がる。産業三大別人口比は7：50：43。平野部には溜池(ためいけ)が広く分布し，米・麦のほか泉州タマネギの特産がある。紡織工業は紋羽(もんぱ)の製造技術によるたびの裏地・厚司地の生産を主とし，全国の約70％を生産する。窯業は最近では石綿工業に転換しつつある。海岸線を南海電鉄南海線・国道26号線が平行して走り，その東方に阪和線が通じる。

せんにちこう　【千日紅】　双子葉植物・ヒユ科。センニチソウともいう。庭に栽培される一年草。茎の高さ30～40cmで，よく分枝する。葉は対生し，長楕円(だえん)形で長さ3～10cm。8～10月，紅色まれに白色の



センニチコウ

小さな包をもつ小花を頭状につける。がく片は5枚で，上面に毛が密生する。おしべは5本が癒合(ゆごう)している。めしべは1本。和名は花がいつまでも色を失わないことによる。

ぜんにちじろう　【全日自労】　⇨全日本自由労働組合

ぜんにちのう　【全日農】　⇨全日本農業組合連合会

せんにちまえ　【千日前】　大阪市南区にある大阪の代表的歓楽街。戎橋筋(えびすばしすじ)の東を南北に並行して走り，北は道頓堀(どうとんぼり)とT字形に交わり，南は金刀比羅(ことひら)神社に至る約600mの通りで，もと法善寺境内の一部にあたり，この寺は千日念仏の回向(えこう)が行なわれたため，千日寺ともよばれ，地名はこれにちなむ。江戸時代には市街地の南端にあたり，刑場や墓地や火葬場のある寂しい所だったが，1871年(明治4)墓地の移転に伴って土地が整理・開発され，一転して劇場・映画館・飲食店の立ち並ぶ娯楽街に発展した。〈食い倒れ〉の大阪を代表する法善寺横町の飲食店街は特に名高く，水かけ不動には芸人や水商売の人の参詣客(さんけいきゃく)が多い。〔浅井得一〕

ぜんにほんかいいんくみあい　【全日本海員組合】　1945年(昭和20)10月結成された船舶乗務員の職業別単一組合。全国繊維産業労働組合同盟*とともに全日本労働総同盟*の中心メンバーであり，国際自由労働組合連盟*に加盟。組合員15万4,000(1977)。

ぜんにほんがくせいじちかいそうれんごう　【全日本学生自治会総連合】⇨学生運動

ぜんにほんかんこうしょくいんろうどうくみあいきょうぎかい　【全日本官公職員労働組合協議会】　略称全官公。1959年(昭和34)全日本労働総同盟*(同盟)系の指導のもとに結成。日本労働組合総評議会*(総評)傘下(さんか)の公務員労組の共同闘争会議に対抗する。現在国鉄・郵政・国税・電気通信・国有林・社会保険支払基金など6組合13万人の同盟加盟を含む約19万人の組合員をもつ。

ぜんにほんくうゆ　【全日本空輸(株)】　略称は全日空。国内幹線中心の航空会社。日本航空が国家援助を受けているのに対し，全日本空輸は純民間資本による自主独立経営が特色。ヘリコプター事業ではトップにある。1952年(昭和27)日本ヘリコプター輸送(株)として発足，1958年極東航空と合併，全日本空輸となる。その後，藤田航空を合併(1963)，中日本航空(1965)と長崎航空(1967)両社の定期航空部門を統合し，さらに1970年から国際線への進出が許可されて，日本航空と国内を2分する航空会社に発展した。なお，NHK・朝日新聞・共同通信などと年間契約を結んで報道取材に活躍し，また空からの農薬散布も行なっている。本社，東京。営業所は東京・羽田・札幌・大阪・伊丹(いたみ)・福岡。資本金427億7,900万円，年間営業収入3,078億6,500万円，従業員数10,924(1980年9月)。

ぜんにほんさんぎょうべつろうどうくみあいかいぎ　【全日本産業別労働組合会議】　略称は産別会議・産別。1946年(昭和21)21の産業別労働組合(163万)を結集して組織され，第2次世界大戦後の労働戦線を日本労働組合総同盟*と二分した。傘下(さんか)には戦闘的な労働組合が数多く参加し，組合による生産管理など政治的色彩の強い闘争を展開した。しかし翌年の2・1スト*以後，組合内部の批判勢力が反共ののろしをあげ，1948年民主化同盟*を結成したが，以来脱退があいつぎ，1958年解散。〔木元錦哉〕

ぜんにほんじゆうろうどうくみあい　【全日本自由労働組合】　略称は全日自労。1947年(昭和22)6月に結成された日雇労働者の全国組織。組合員8万5,000人。世界労働組合連盟*に加盟している。

ぜんにほんのうみんくみあいれんごうかい　【全日本農民組合連合会】　農民の経済的要求の実現を中心とした反独占農民闘争を進めている大衆団体で，労働組合に対照される農民の階級的組織。結成は1958年(昭和33)3月24日。それまで分裂していた農民組合の統一・合同体として誕生した。組織対象は，専業下層と兼業上層を中心に全農民としており，組合員は30,000人。

日本で全国的な農民組合がつくられたのは，1922年(大正11)で，日本農民組合が結成されている。当時の農民組合は，地主に対して団結し，耕作条件の維持・改善，耕作権の確立などに目的を置いた小作農民を中心とした組織であった。1925年当時は組合員50,000名を数え，さらに単独組合を加えると30万名の農民が組織されていた。しかし，指導者間の方針上・思想上の対立や政党の介入もあって，1925年に分裂。以来，1931年に全国農民組合と日本農民組合に整理・統合されるまでの間，組織的指導を欠く状態にさえ陥り離合集散を続けた。第2次世界大戦後，1946年に統一体としての日本農民組合が結成され，農地改革を推進，最盛期には130万名の組合員を擁した。しかし，政党間の方針の違いや派閥争いが組合内に持ち込まれ，1947年には最右派が脱退，反共を旗印の一つとした全国農民組合を結成

したのに続き，1949年には，日本社会党左派系を中心とした主体性派と日本共産党・労働者農民党系の統一派に分裂した。その後労働者農民党系が主体性派に合同したが，1951年の日本社会党の分裂に伴い，主体性派から右派社会党系が分裂して日農新農村建設派を結成，他方統一派内でも離脱があって，農民戦線は四分五裂となった。これらの分裂は，内外独占資本主義や農地改革と残存封建勢力の評価と農民闘争・農民組織方針上の対立によるものとされているが，大衆団体に対する政党の介入と，農地改革後の反独占農民闘争展開へのたちおくれに深いかかわりがあってのことであった。

その後，反独占農民闘争を旗印に，1957年に日農主体性派と統一派が合同，日本農民組合全国連合会を結成，翌1958年3月に同連合会と全農・日農新農村建設派が合同，全日本農民組合連合会を結成した。この統一・合同にあたっては，政党の組合介入の排除，政党支持の自由が確認された。しかし，1960年民主社会党の結成に伴って，その系列が離脱し，同年8月に全国農民同盟を結成した。〔谷本たかし〕

ぜんにほんろうどうくみあいかいぎ【全日本労働組合会議】 略称は全労会議・全労。日本労働組合総評議会*(総評)の提唱した平和4原則(全面講和・中立堅持・軍事基地反対・再軍備反対)，およびその政治・経済闘争の方針をめぐって，かねてから対立していた全日本海員組合*・全国繊維産業労働組合同盟*(全繊同盟)などが総評を脱退して1954年(昭和29)結成。反共・労使協調主義を旗印とした。1962年日本労働総同盟*(総同盟)・全日本官公職員労働組合協議会*(全官公)とともに全日本労働総同盟組合会議(同盟会議)を結成したが，1964年全日本労働総同盟*(同盟)結成に参加して発展的に解散。〔木元美代子〕

ぜんにほんろうどうそうどうめい【全日本労働総同盟】

1略称は全総。1936年(昭和11)1月，全国労働組合同盟と日本労働総同盟とが合同してつくった社会民主主義系の連合会。1940年7月解散。

2略称は同盟。第2次世界大戦後の1964年11月，右派系単産組合を集めて結成された連合体で，全労・総同盟・全官公の3団体で構成する全日本労働総同盟組合会議(同盟会議)の発展したもの。加盟人員は当時146万。生産性向上に協力し，民主社会党支持，日韓(にっかん)条約賛成を方針としている。1977年現在加盟人員221万。〔安達淑子〕

せんにゅう【仙入】 鳥類・ヒタキ科・ウグイス亜科のロクステラ属の総称。川辺の草むらや灌木(かんぼく)林・アシ原・乾草原・ササ原などに生息し，茂みに潜入していることが多く，あまり姿を見せない。しかし，草むらから飛びたってさえずり，また草むらにはいる習性をもつものもある。こん虫食。一般に下面は灰白・黄かっ色，上面は黄かっ色で，濃色の縦斑(じゅうはん)のあるものもある。草の茎に止まるので，脚は長めで強い。わが国にはエゾセンニュウ・シマセンニュウ・シベリアセンニュウ・マキノセンニュウの4種が夏鳥として渡来する。〔安部直哉〕



センニュウ　マキノセンニュウ

せんにゅうかん【先入観】 人や事物に対して，実際の経験に先だってもってしまう誤った態度や考え。その後，訂正する機会があっても，はじめにもった見方を容易に変えることができない。また，このような現象が，個人のもつ態度として合理化され，情緒的・感情的レベルで固定化された場合に偏見とよばれる。明確な根拠がないにもかかわらず，ある人種に対して非好意的な態度を示すなどは，その例。

せんにゅうじ【泉涌寺】 京都市東山区今熊野泉山町にある真言宗泉涌寺派の寺。平安時代のはじめ左大臣藤原緒嗣(おつぐ)の山荘の地に建てられた法輪寺(のちに仙遊(せんゆう)寺と号した)が前身，鎌倉時代1225年(嘉禄1)俊芿(しゅんじょう)国師を開山に創建された。当初は律・天台・真言・禅の4宗兼学の寺で，宋(そう)から帰国後まのない国師は，宋の伽藍(がらん)を模して建て，現在の建築は江戸時代の再建であるが，創建当時のおもかげを伝えている。舎利殿の韋駄天(いだてん)像，観音堂の楊貴妃(ようきひ)観音像は国師の法弟湛海(たんかい)が入宋(にっそう)して持ち帰ったもの。寺域には後水尾(ごみずのお)天皇をはじめとする天皇・皇后・皇族の陵墓が多く，御陵寺としても知られている。〔永井信一〕

せんにん【仙人】 超現実的な秘術を使い，不老長生することのできる人間。特に老荘思想*の影響を受けて，人間存在の真実を追究し，人間の完全な姿を発見して世に示そうと努めた中国の魏晋(ぎしん)南北朝時代の人々に，理想的な人間像とされた。仙人は修養によってのみなりうるのであり，そのためには名山に住んで穀食を避け，独自の養生法・呼吸法などを修得し，金丹・玉などの仙薬をつくってそれを服用し，宇宙の真理を悟る必要があるという。仙人の種類には普通天仙・地仙・尸解仙(しかいせん)の3種と玉女があげられる。晋の葛洪(かっこう)の《抱朴子*(ほうぼくし)》が仙人の世界あるいは神仙思想を最もよく描いている。〔勝村哲也〕

せんにんとうげ【仙人峠】 岩手県釜石(かまいし)市と遠野市の境にある峠。標高887m。北上山地南部で，北上川支流の猿ケ石(さるがいし)川上流と太平洋側とを分けるところにあり，古くから交通の難所であった。釜石と花巻を結ぶ釜石線は峠の南を土倉トンネルで越え，道路は峠の北を迂回(うかい)し，仙人トンネル(長さ2,500m)の有料道路で越えている。

せんにんばり【千人針】 戦場に出かける出征兵の護身用の呪術(じゅじゅつ)的なお守りで，多くはもめんの腹巻きとして身につけた。家族や知人が千人の女性から布に1針ずつ赤糸で結びをつくってもらうので，千結び・千人結びともよばれた。日清(にっしん)戦争当時すでに一部で行なわれていたが，第2次世界大戦当時は全国的な流行となった。布の色も白・黄色の2種があり，また〈死線を越え苦戦を免れる〉といった縁起かつぎの語呂(ごろ)合わせから，5銭・10銭の穴あき硬貨を縫いつけたり〈トラは千里行って千里帰る〉といわれる故事から，寅(とら)年生まれの女性だけを捜してその歳の数だけ縫ってもらう風もあった。あらかじめ墨で点を千個つけた布を用意しておいて，それに1針ずつただ縫ってもらうことが流行してから千人針というようになった。またもとはただ四角い布を懐中するものだったのが，のちに腹巻用になり，さらに男性千人に力という文字を書いてもらって千人力を身につけるといった形式が行なわれたのは第2次世界大戦からの新しいくふうであった。〔今野圓助〕

せんねつ【潜熱】 物質の状態変化に費やされる熱量。水は1気圧のもとでは100℃で沸騰するが，沸騰している水をさらに熱しても温度はそれ以上のぼらず，水がどんどん水蒸気に変わっていく。このとき，水に加えられた熱量は，温度の上昇という効果を生まず，水を水蒸気に変えるのに費やされる。液体が気化*して気体に変わるときの潜熱を気化熱，固体が融解*して液体に変わるときの潜熱を融解熱，固体が昇華*して気体に変わるときの潜熱を昇華熱という。これらの逆の変化においては潜熱に相当する熱量が放出される。たとえば，気体が液化*するときには気化熱に等しい熱量が放出される。〔中野藤生〕

せんねつ【腺熱】 ウイルス性全身感染症で，伝染性単核症ともいう。病原ウイルスはまだはっきりしていない。潜伏期は約11日で，春に多く，年長児に多い。症状は全身倦怠感(けんたいかん)・発熱・咽頭痛(いんとうつう)が主訴で，そのほかリンパ腺(せん)腫脹(しゅちょう)・脾腫(ひしゅ)・発疹(ほっしん)や軽度の黄疸(おうだん)などをみることもあり，また，頭痛・項部硬直・意識障害などを伴うものもある。熱は1〜3週間続き，朝は低温のことが多

い。特有なのは末梢(まっしょう)血液像で，単核球増加のみられることである。単核球の増加は4～5病日から始まり，7～10病日には全白血球の60～90％に達する。また，血清反応のポール-バンネル反応が陽性を示す。治療は対症的に行なう。〔高橋悦二郎〕

せんねんぼく【千年木】 単子葉植物・ユリ科。東ヒマラヤ・中国・マラッカ・北オーストラリア原産の小低木で，観葉植物として栽培される。幹は90cm～3mで，単一または分枝する。葉は斜上し，披針(ひしん)形で先がとがり，長さ30～50cmで明瞭(めいりょう)な中肋(ちゅうろく)と密生した側脈があり，緑色または斑(ふ)入り。花は三角形の円錐(えんすい)花序につき，小花は径1～1.5cmで，帯黄色・白色・藤色(ふじいろ)・帯赤色などがある。園芸上はドラセナという。

せんのう【仙翁】 双子葉植物・ナデシコ科。中国原産で，まれに栽培される珍しい多年草。茎の高さ40～60cmで，全草に細毛がある。葉は卵状披針(ひしん)形で先はとがり，柄はなく対生する。花は紅色または白色(シロバナセンノウという)で，花弁は深く裂け，おしべ10本，花柱5本。和名は京都嵯峨(さが)の仙翁寺に植栽されたのでこの名がついたといわれる。山の陽地によく見られるフシグロセンノウは，節が黒かっ色をおびるのでこの名がある。これは高さ0.5～1mになり，ほとんど無毛で，紅色の五弁花を7～10月に咲かせる。古くから観賞用に植えられているマツモトセンノウ(マツモトともいう)は，高さ40～70cmで，葉は卵形で基部は広く，6～7月ごろに赤または白の五弁花をつけ，花弁の先が二つに切れ込む。本州中部や北海道にまれに自生するが，普通は庭園に栽培されるエンビセンノウは，高さ50cmほどで，8月ごろに紅色の五弁花をつけるが，花弁の先は深く切れ込んで数個のとがった裂片となる。〔加藤僖重〕

ぜんのうちゅう【全農中】 ⇨農業協同組合

せんのき 双子葉植物・ウコギ科。ハリギリともいう。山野に普通にある高さ20mに達する落葉高木。枝は太く，多数の大きなとげがある。葉は5～9深裂し，枝先に集まって互生につく。7～8月，その年に出た枝の先に5弁の小花が傘状(さんじょう)に集まって咲く。果実は直径4～5mmの球形で，10月に黒熟する。材はげたや器具材に用いられる。

せんのしょうあん【千少庵】 (1546～1614) 安土桃山時代の茶匠。千利休の二男。宗旦の父。利休の後妻宗恩の連れ子だといわれる。義兄の道安と同年である。幼名を猪之助(いのすけ)，通称を吉兵衛(きちべえ)という。初名は宗淳(そうじゅん)。茶の湯を父の利休に学び，道安が力強い茶風を持したのに対して，柔らかな好みを特徴とした。1591年(天正19)の2月，利休が処罰されたとき，会津(福島県)の黒川にのがれ，蒲生氏郷(がもううじさと)に



フシグロセンノウ



マツモトセンノウ



エンビセンノウ

センノウ



千利休

かくまわれたが，文禄(ぶんろく)年中(1592～1595)，氏郷らの取りなしによって，父の罪を許され，千家を再興して，不審庵2世を称した。好みの茶席に会津若松の麟閣(りんかく)，京都嵯峨(さが)の西芳寺の湘南亭(しょうなんてい)などがある。〔桑田忠親〕

せんのそうさ【千宗左】 (1901～1979) 現代の茶匠。表千家13世の家元。12世惺斎宗左(せいさいそうさ)の二男。1937年(昭和12)宗左という茶名を継いで13世の家元となる。即中斎と号し，《即中茶記》などの著述がある。千家同門会の会長もつとめた。

せんのそうしつ【千宗室】 (1923～) 現代の茶匠。裏千家15世の家元。14世淡々斎宗室の長男で，名は政興，鵬雲斎(ほううんさい)と号する。同志社大学法学部卒業，ハワイ大学大学院修了。今日庵理事長・淡交会理事長。裏千家流茶道の結社である淡交会を地盤として，同流茶道の普及に専念している。ハワイに支部を設けるなどして，日本の茶道を海外に宣伝した功績ははなはだ大きい。

せんのそうしゅ【千宗守】 (1916～) 現代の茶匠。武者小路(むしゃのこうじ)千家10世の家元。有隣斎と号する。京都大学国史学科卒業。9世愈好斎(ゆこうさい)宗守の女婿(じょせい)。格式ぶらぬ茶人として，親しみをもたれている。

せんのそうたん【千宗旦】 (1578～1658) 江戸時期の茶匠。千利休の二男少庵(しょうあん)の長男。字(あざな)は元伯，号は咄々斎(とつとつさい)。幼少時代大徳寺にはいり喝食(かつじき)(有髪の侍童のこと)となったが，文禄(ぶんろく)年間(1592～1595)に千家が再興されたとき，父の少庵とともに本法寺前の不審庵にもどり，長じて家を継いだ。しかし，祖父利休の末路にかんがみて，生涯(しょうがい)仕官せず，わび茶事に徹し，茶禅一味を提唱した。乞食(こじき)宗旦の異名がある。1648年(正保5)，71歳をもって隠居し，屋敷の北裏に一畳台目の茶室今日庵をつくり，悠々自適の余生を送った。〔桑田忠親〕

せんのどうあん【千道安】 (1546～1607) 安土桃山時代の茶匠。千利休の長男。初名は紹安(じょうあん)。可休斎，のちに眠翁と号した。茶の湯を利休に学び，父を感嘆させるほどの技量をもっていたが，先妻の子であったせいか，晩年は不遇に終わった。1591年(天正19)2月，利休が処罰されたとき，これに連座することをきらって，飛驒(ひだ)(岐阜県)にのがれたが，文禄(ぶんろく)年間(1592～1595)に千家が再興され，弟の少庵が利休の跡を継いだので，豊前(ぶぜん)(福岡県)細川忠興(ただおき)の御茶頭(おさどう)となり，三百石余を与えられた。ちんばであったともいうが，これを否定する説も有力である。また，阿波(あわ)(徳島県)にのがれたともいうが，明らかでない。好みの茶席に道安囲いがある。〔桑田忠親〕

せんのりきゅう【千利休】 (1522～1591) 安土桃山時代の茶匠。利休流茶道の開祖で，三千家の流祖。珠光・鳥居引拙，武野紹鷗(じょうおう)に次ぐ茶の湯の名人といわれた。姓は田中。遠祖は安房(あわ)(千葉県)の里見義俊(よしとし)の二男田中五郎と伝える。祖父は田中千阿弥(せんあみ)。父与兵衛(よへえ)は和泉(いずみ)(大阪府)の堺(さかい)に移住し，魚屋(ととや)を家業とし，納屋衆に列した。千阿弥の1字を取って千氏を称したという。与兵衛の長男として堺の今市町に生まれ，与四郎と称し，初め能阿弥流の茶儀を北向道陳(きたむきどうちん)に学んだが，のちに武野紹鷗について珠光流のわび茶の湯を修めた。大徳寺の笑嶺宗訢(しょうれいしゅうきん)に参禅し，抛筌斎宗易(ほうせんさいそうえき)と改めた。織田信長(のぶなが)に仕えて御茶頭(おさどう)となり，次いで豊臣秀吉(とよとみひでよし)の御茶頭八人衆の筆頭となった。1585年(天正13)10月7日，秀

吉が宮中の小御所(こごしょ)で黄金の御茶会を開いたとき，はじめて利休居士(りきゅうこじ)と号して，茶事の後見役を勤めた。そこで，世に天下一の茶匠とよばれたのである。小田原征伐ののち，大徳寺の山門上に彼が寄進した金毛閣に自像を安置したことなどで，僭上(せんじょう)の罪を問われ，1591年2月28日，自刃して果てた。阿弥陀堂釜(あみだどうがま)，竹の花筒，今焼茶碗(ちゃわん)，釣瓶水指(つりがめみずさし)など新儀の茶道具を発案したほか，草庵(そうあん)の数寄屋・露地を完成し，茶道の理論，茶人の規格をも定め，茶道文化の大成に貢献した功績は偉大である。また，古田織部*(おりべ)以下，利休七哲などの門弟を育成している。➔茶道　〔桑田忠親〕

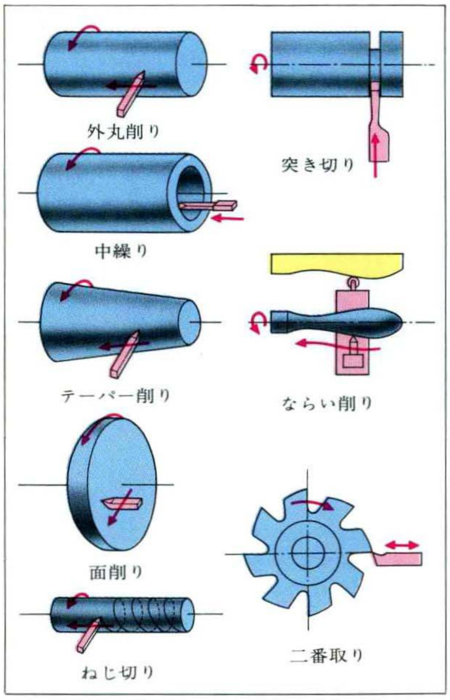
せんば　**【船場】**　大阪市の中央部，東区西部から南区の一部にわたる商業地区。近世初期，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が大阪の城下町を経営するにあたり，この地に運河を掘り南北を筋，東西を通りとよぶ碁盤目状の町割りを形成して以来，〈町人の町〉大阪の中心部となった。船場という地名は船着き場からきているものと思われる。北は土佐堀(とさぼり)川，東は東横堀川，西は西横堀川(埋め立て)，南は長堀川(埋め立て)に囲まれ，南北に長い長方形の区域で，東西の横堀川の上を阪神(はんしん)高速道路が通じている。本町通りを境として北船場と南船場に分かれ，北船場は北浜の証券街，今橋の銀行街をはじめ，道修町(どしょうまち)の薬屋街，本町・丼池筋(どぶいけすじ)の繊維問屋街，南船場は南および北久宝寺町の化粧品・袋物，安堂寺橋通りの金物などの問屋街などを含み，いまも間口5間，奥行20間のウナギの寝床のような商家が残っているのが見られる。また，心斎橋筋には商店街が発達し，御堂筋(みどうすじ)や堺筋(さかいすじ)には会社・事務所が集中する。阪神高速道路と交差して築港・深江橋間の再開発道路が4階建ての問屋ビル〈船場ビル〉の高さ29mの屋上を東西に走っている。　〔浅井得一〕

せんぱくあんぜんほう　**【船舶安全法】**　日本の船舶が安全航海できるために必要な性能(堪航性)をもち，また人命の安全のために必要な施設を設置するよう義務づけた法律。その内容は大略次のようなものである。①居住設備，電気設備，航海上の設備などの規定，②人や積み荷などの積量に関する規定，③航行できる地域の規定，④船体・機関の安全のための規定，⑤航海上の危険を防止し，非常の場合の処置に関する規定，などである。これらのことを強制させるための付属規則として，船舶安全法施行規則・船舶設備規程・船舶満載喫水線規程・船舶区画規程・船舶防火構造規程・船舶機関規則・漁船特殊規則などのほか，多数の規則が設けられている。　〔飯島幸人〕

せんぱくしょくいん　**【船舶職員】**　船舶の乗組員には，いわゆる士官と部員とがあるが，士官のことを船舶職員法では船舶職



千歯こき　府中市立郷土館蔵



旋　盤　旋盤におけるいろいろな作業

員とよび，船長・1等航海士・2等航海士・3等航海士・機関長・1等機関士・2等機関士・3等機関士・通信長・2等船舶通信士，および3等船舶通信士の職務をとる者と定めている。船舶職員になるためには，所定の履歴を経た上で海技従事者国家試験を受け，これに合格して免許を受けなければならない。　〔飯島幸人〕

せんぱくつうしん　**【船舶通信】**　船舶における通信・信号は船内用と対外用とに分けることができる。船内用としては運航に必要な各部の連絡や非常召集用であって，有線放送・電話・ベル・サイレン・汽笛・伝声管・エンジンテレグラフなどが用いられる。また，対外用としては手旗・セマホア・旗旒(きりゅう)・発光・音響・無線電話・無線電信などが用いられ，これらの多くは国際信号法によって規定されている。これらの通信・信号設備については，船舶安全法・同施行規則・船舶設備規程などの適用を受け，また運用については国際電気通信条約付属電気通信規則・電波法・無線局運用規則が適用される。　〔飯島幸人〕

せんぱくほけん　**【船舶保険】**　船舶が航海に関する偶然の事故によってこうむる損害を塡補(てんぽ)する保険。船舶保険は積み荷保険*とともに海上保険*を形成し，海上運送その他の海上活動に不可欠の制度である。ここでいう船舶とは客船・貨物船・漁船・浚渫船(しゅんせつせん)・起重機船などであり，また建造中・修繕中のものも含まれ，さらに船舶の属具・機械類・食料・燃料，その他の消耗品もこの保険の対象とされる。

せんばこき　**【千歯扱き】**　江戸中期，従来のこきはし*(扱箸)に代わって出現した脱穀用農具。鉄製の歯をくし状に並べ，これにイネをはさんでこき落とした。これによって脱穀の能率があがり，人手が省けるようになり，江戸期における農村の経済的・社会的変化を生む一つの機会を与えた。明治以後にも受け継がれ，足踏み脱穀機ができるまで脱穀の主役をになった。ムギ用のものも用いられた。

せんはっぴゃくじゅうにねんせんそう　**【1812年戦争】**　1812〜1814年にアメリカ・イギリス間に展開された戦争。アメリカ独立戦争に続く〈第2次独立戦争〉ともいう。19世紀初頭ヨーロッパのナポレオン戦争*に対してジェファソン*・マディソン*両大統領は中立維持に努めたが，イギリスによる海上封鎖の中立権侵害や，たまたまカナダ・フロリダからインディアンがイギリスから武器を得て襲撃したので，西部議員らの対イギリス強硬論などにより1812年6月18日宣戦布告した。陸・海軍の優勢なイギリス軍は首都ワシントンを1814年8月占領し，アメリカは，12月ガン条約*で講和した。しかし以後国家的感情が高揚し，西部インディアン勢力も弱まり国内的には西部の開拓が促進し，対外的には孤立主義外交を強化し，また，1816年の産業資本育成策のため，国内諸産業の発展を促した。〔折井一彦〕

せんばん　**【旋盤】**　旋削作業，すなわち工作物を回転させておき，これに工具をあてて加工する方式の工作機械*。各種の加工をすることができるから応用範囲が広く，工作機械*の中では最も多く用いられている。なお，最近は数値制御旋盤もつくられている。旋盤で用いる工具としてはバイト*が最も普通であるが，ドリルを取り付けて穴あけをしたり，ナール工具を取り付けて円筒面に筋目をつけたりすることも行なわれる。

旋盤にもいろいろの種類があるが，そのおもなものをあげると，①普通旋盤：名称のとおり最も普通のもので，工作物は左側の主軸台のセンターと右側の心押し台のセンターとで支えるか，または主軸に取り付けたチャック*でくわえて回転させ，これに中央の往復台上に取り付けたバイトをあてて切削する。普通旋盤の大きさは，その旋盤に取り付けることのできる工作物の最大直径(振り，スイング)と，両センター間の

最大距離をもって表わすことが多い。普通旋盤の中で特に高速回転のできるものを高速旋盤，ならい装置のあるものをならい旋盤という。②工具旋盤：普通旋盤と同様のものであるが，各種の工具類をつくるための小形で精度の高い旋盤で，フライス*やホブの逃げ面を削るための二番取り装置をそなえていることが多い。③正面旋盤：直径の大きな工作物の端面を削るのに便利なようにした旋盤。④立て旋盤：直径の大きな重量物を加工するためのもので，工作物は垂直軸のまわりを回転するテーブルの上に取り付けて加工される。⑤タレット旋盤：普通旋盤の心押し台の代わりにタレット台を置き，これにその工作物の加工に必要な工具を加工順序に従って配置しておいて，連続的に加工できるようにした旋盤。⑥自動旋盤：タレット旋盤を自動化したもので，工作物の取り付け，取りはずしを手で行なう半自動旋盤と，それも自動的に行なう全自動旋盤とがある。また，放射状に配置された工具をカム*で順次に進めて加工するようにしたスイス型自動旋盤もある。⑦多軸自動旋盤：タレット型自動旋盤をさらに高能率化したもので，工作物を取り付ける主軸を4～8個そなえ，同時に加工することができる。横型のものと立て型のものとがある。⑧多刃旋盤：多数のバイトを並べて取り付け，加工能率をあげるようにしたもの。⑨特殊旋盤：特別な品物を加工するための旋盤で，たとえば鉄道車両の車輪の輪周を切削するための車輪旋盤，圧延用のロールを切削するためのロール旋盤，ねじを切ることを専門とするねじ切り旋盤など。その他クランク軸旋盤・クランクピン旋盤・カム軸旋盤などもある。〔稲田重男〕

せんぱん【戦犯】⇨戦争犯罪

ぜんはんしゃ【全反射】媒質の境界面で，入射した光線が全部反射してしまう現象。絶対屈折率n_1の媒質から，これがn_2である媒質に向かって光が進むとき，$n_1>n_2$であれば，入射角がある角度より大きくなると，光は境界面を通過することができず，全部反射されてしまう。この現象が全反射である。全反射が生じはじめる角度i_0を臨界角といい，$\sin i_0=n_2/n_1$で与えられる。全反射の場合でもわずかの光波が第2媒質に侵入するが，これは通常の光波でなく，この媒質中へはエネルギーの流れを伴わない。〔吉原邦夫〕

ぜんぱんてききき【全般的危機】資本主義的世界体制の全般的危機をいう。1917年にソビエト-ロシア革命が起こって，世界にはじめて資本主義とは異質の社会主義国ソビエト連邦が誕生した。このことは，資本主義的世界体制の一環が破れ，資本主義的世界が体制として崩壊しはじめたことを意味することから，資本主義の全般的危機（または一般的危機）とよばれる。第2次世界大戦後，東欧・中国などにも革命が波及して社会主義陣営が拡大してきたため，第2次世界大戦後を全般的危機の第2段階とよび，それまでの第1段階と区別している。さらにその後，全般的危機の第3段階を提唱する見解も現われたが，これはその時期を画すべき指標が明確でないため定説とはなっていない。〔常盤政治〕

ぜんはんれん【全販連】⇨農業協同組合

せんぴ【鮮卑】モンゴルの遊牧民族。モンゴル系ともトルコ系ともいわれる。主として牧畜・狩猟を業とした。はじめ匈奴*(きょうど)に服属してシラムレン川流域にいたが，2世紀中ごろ，檀石塊(だんせきかい)にいったん諸部族を統一し，後漢に侵入したが，やがて分裂，3世紀中ごろ慕容部と拓跋(たくばつ)部が最も有力となり，内モンゴルに勢力を張って，華北に侵入した。五胡(ごこ)十六国時代には燕(えん)・秦(しん)・涼が華北に建国され，まもなく拓抜部の北魏(ほくぎ)が華北全土を統一して北朝を開いた。〔若松　寛〕

せんびきこぎって【線引小切手】表面に2本の平行線が引かれている小切手*。単に2本の平行線が引かれただけの一般線引小切手と，平行線の中にある特定の銀行名を記載した特定線引小切手の二つがある。一般線引小切手では，支払い銀行は，他の銀行か，自分の取引先から支払いを求められた場合にだけ支払いができる（小切手法38条）。そのため小切手の所持人は，支払い銀行と取引がなければ，小切手金の支払いを求められないことになる。

特定線引小切手では，支払い銀行は，指定された特定の銀行に対してだけ，また指定された特定の銀行が支払い銀行自身であるときは，自分の取引先に対してだけ支払いをすることができる（小切手法38条）。したがってこれらの銀行と取引がない者は，その小切手金の支払いを求められないので，盗難・紛失などによる小切手の不正な所持人に支払う危険を防止することができる。〔松本治雄〕

せんひめ【千姫】(1597～1666) 2代将軍徳川秀忠(ひでただ)の娘。母は浅井長政(ながまさ)の娘。1603年（慶長8）7歳で豊臣秀頼(とよとみひでより)に嫁した。1615年（元和1）大阪落城のとき城中からのがれ，秀頼らの助命を祖父家康(いえやす)に請うたが許されなかった。大阪城脱出に功のあった坂崎出羽守(でわのかみ)（？～1616）の妻に内定していたが，変更されて桑名城主本多忠政の子忠刻(ただとき)に嫁すことになったため，憤慨した坂崎は千姫を奪おうとして果たさず家臣に殺された。1626年（寛永3）忠刻は没したので，千姫は天樹院と称し竹橋御殿に移り，次いで吉田大膳(よしだだいぜん)の邸跡に新邸を築いて住んだ。30歳の若さから後家を通したため乱行の伝説を生み，〈吉田通れば二階から招く〉の俗謡がつくられ，講談・歌舞伎(かぶき)などに脚色された。〔岡山泰四〕

せんびょうしつ【腺病質】小児にみられるひ弱な体質の俗称。腺病の呼称は，もともと小児が結核に罹患(りかん)したときにみられる状態で，元気がなくなって，顔色が蒼白(そうはく)となり，貧血に傾き，栄養状態も不良となってやせが目だち，頸部(けいぶ)のリンパ節がはれるような状態をいった。それから転じて，一般には体格がひ弱で，胸郭扁平(へんぺい)・貧血・頸腺腫脹(しゅちょう)などを呈する無力性の体質，あるいは神経質のものを腺病質という。乳児期滲出(しんしゅつ)性体質であったもの，幼児期胸腺リンパ体質などを呈したものが，学童期になって，腺病質や神経関節炎体質などになりやすいともいわれる。医学的・科学的に明確な概念を示すことはむずかしいが，古くから通俗的に用いられている名称である。〔高橋悦二郎〕

せんぶ【先負】⇨六曜

せんぷう【旋風】大気中で起こる鉛直軸のまわりの強い回転を伴ったうずの一種。漏斗雲ができている場合にはたつまきという。旋風の強いものがたつまきになるといってよい。

せんぷうき【扇風機】モーターの軸に取り付けた3～4枚のファン（羽根）を回転させて風を得る装置。日本の家庭電化製品の草分けともいうべきもので，はじめはモーターに羽根をとりつけただけであったが，1895年（明治28）には，すでに国産品がつくられていた。現在では形・色・大きさの多種多様のものがある。種類は卓上扇のほかに，壁かけ兼用卓上型，大べや用の天井扇，洋間用のスタンド扇，車中用のサイクルファンなどがある。一般家庭用の卓上扇は風速が2～3段に調節でき，首振り装置がついている。〔山本喜男〕

せんぷくき【潜伏期】病原体*が体内に侵入してから発病するまでの期間。病原体によってほぼ一定している。これは病原体が，生体側の感染防御機構を打ち破って発病までに発育・増殖する期間，あるいは病原体毒素（たとえば破傷風菌毒素）が一定量となり，病変部位に作用するまでの期間を意味する。伝染病の場合，潜伏期の長さから，病原体接触の時点を推定して疫学調査を行なうことができる。➜次ページ（表）

せんぶり【千振】双子葉植物・リンドウ科。日あたりのよい丘陵地の草原にはえる二年草。茎の高さ20～25cm，根出葉は線形で長さ1.5～3.5cm，幅1～3mmで，対生する。8～10月，花は枝先の近くに集まり，円錐(えんすい)花序状につく。がくは5裂し，裂片の長さは花冠の$\frac{1}{2}$～$\frac{2}{3}$。花冠は5深裂し，裂片は長さ1.2～1.7cm，白色で紫色の脈があり，基部に2個の腺(せん)および毛がある。全草に強い苦味があり，千回振り出してもなお苦味があるといわれ，この名がついた。局方では，開花期の全草を乾燥したものをセンブリ，漢方では当薬といい，苦

潜　伏　期

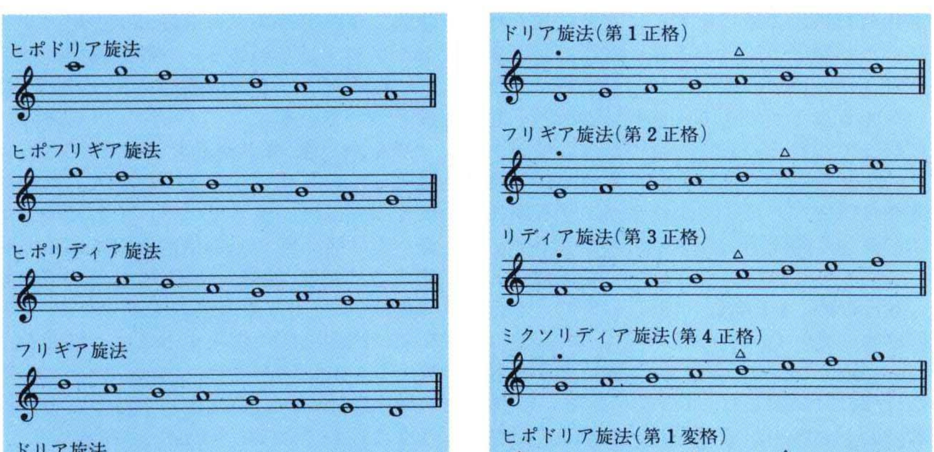
病　名	潜　伏　期	病　名	潜　伏　期
腸チフス	7～14日	麻疹	約10日
パラチフス	1～10日	百日咳	7～14日
細菌性赤痢	2～7日(通常1～3日)	流行性感冒	1～3日
アメーバ赤痢	1日～数か月(通常3～4週)	急性肺炎	1～3日
疫痢	1日前後	脊髄前角炎	7～14日
コレラ	数時間～5日(通常1～2日)	狂犬病	2週～2か月
ジフテリア	2～5日	破傷風	4～14日
猩紅熱	2～7日(通常7日)	マラリア	三日熱：10～14日，四日熱：12～21日，熱帯熱：5～15日
流行性髄膜炎	2～10日(通常7日)		
天然痘	10～14日(平均12日)	流行性耳下腺炎	16～26日(通常18日)
発疹チフス	6～15日(通常12日)	水痘	2～3週
ペスト	3～6日	丹毒	1～10日
日本脳炎	だいたい7日	ワイル病	4～10日

味健胃薬とする。近縁種のムラサキセンブリは紫色花で大形である。イヌセンブリは葉の幅3～10mmと広く，花は白色で根は苦味がなく薬とならない。〔加藤僖重〕

せんぷろん　【潜夫論】　中国，後漢の王符(2世紀中期)の政治・風俗批判書，36編。王符は甘粛省の人。清廉のために出世できず，当時の官界・政界の汚濁を批判した。この書には，門閥富豪をおさえて権力を天子の手におさめるべきこと，政治の根本を道徳におき学徳者を登用すべきこと，宿命論を打破すべきことが説かれている。法家の説を交えた儒教の書である。なお，同時代には，ほかにも崔寔(さいしょく)の《政論》，仲長統の《昌言(しょうげん)》など同趣旨の批判書が出た。〔西　順蔵〕



センブリ



旋　法　(左)ギリシア旋法　(右)教会旋法

せんぶん　【線分】　⇨直線

せんぶんひ　【千分比】　⇨歩合

せんべい　【煎餅】　干菓子*の一種で，焼いてかわかす系統(焼き種)に属する。主原料はうるち米粉・もち米粉・小麦粉などで，種類に応じて砂糖・卵・水あめ・みそなどの副原料を加えて種をつくり，せんべい型に入れるか金網に載せて，薄く焼き上げる。種類はきわめて多く，地方の名物せんべいも多い。

奈良・平安時代に輸入された唐(から)菓子の中に煎餅の名称があるが，これは〈いりもち〉と読み，小麦麵(めん)を油でいったもので，現在のせんべいとはまったく異なる。現在のせんべいは，804年(延暦23)空海が唐に渡ったおり，亀甲(きっこう)形せんべいの製法を持ち帰り，山城(京都府)小倉の里の住人和三郎に伝授したという伝説があり，和三郎はクズの根と米粉に果実の糖液を混和してこれを焼き，亀(かめ)の甲せんべいと名づけたという。貞享(じょうきょう)年間(1684～1687)には京都の六条せんべいが評判になった。《和漢三才図会(わかんさんさいずえ)》には〈1枚1枚鉄のかたなべ(皿範)で両面をあぶり，ややかわいたとき取り出し，端を巻く〉巻きせんべいの製法の記録がある。文化文政時代(1804～1829)になるとせんべいの技術が著しく向上し，小麦粉・砂糖・卵を混ぜ，薄めて亀甲形のついた鉄のかたなべへ流し込み，炭火で両面を焼く新しい方法ができた。この亀の甲せんべいの影響を受けて製法が改良され，特色のあるせんべいが各種売り出された。一般に普及したのは，天明年間(1781～1788)のころからといわれる。

なお，塩せんべい(草加せんべいが有名)は，関東の農家で残り飯をいって蒸し，塩を混ぜ，天日で干してから炭火で焼いたことに始まるもので，かたなべに入れて焼くのとは別形式である。文化文政時代にしょうゆ*の普及とともに，現在の味・形式になって普及した。〔塩川ふみ〕

せんぽう　【旋法】　音階*や旋律型の意味で使われることも多いが，狭義には音階よりも，現実の音の使われ方に忠実で，旋律型よりも抽象的な音列をさす。譜例の七つの古代ギリシアの音階は使われる音は共通でも，それぞれでの音の重要度や結びつき方が違うため，旋法として区別される。これはまた教会旋法にもあてはまる。ここでも使われる音はすべてピアノの白鍵(はっけん)の音なのであるが，それぞれの旋法が固有の終止音と保持音をもっていて，それらを中心とする構成音相互の関係が，各旋法による楽曲に違いをもたらしている。西洋音楽で旋法という場合は教会旋法をさすことが多く，その動き方を旋法性とよんで，のちの長調・短調による調性と区別している。たとえばイオニア旋法とエオリア旋法は，それぞれ機能和声*を前提にした長調・短調

の音階に一致する。しかし，実際の音の動かし方は，長調・短調が機能和声法によるのに対して，これは旋法独自の旋律法によっているので，両者の区別は不可欠である。なお，旋法は音高についてだけでなく，音の長短・強弱などについても使われるが，この場合は旋法の原語である〈モード〉でよばれることが多い。

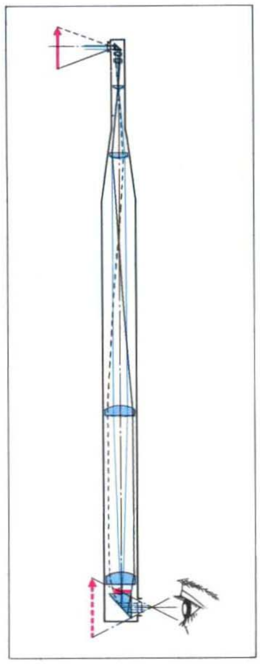
東洋の場合も，アラビアのマカーム，インドのラーガ，ガムラン音楽のパテットのように，旋律型との間に区別のつきにくいものが多い。日本の雅楽は中国の影響で律旋・呂旋（りょせん）の区別を設けている。これは五音音階*としたときの第1音と第3音が，前者で完全4度，後者で長3度になるものである。ここでも，共通の音はあっても，各音の動き方や機能が相互に異なっている。〔吉田泰輔・徳丸吉彦〕

せんぼうきょう　【潜望鏡】　潜水艦が潜航中に，海面上にその先端を出して外況を探るための一種の望遠鏡。ペリスコープともいう。長さ10～20mの筒状で，内部は上・下のプリズムと途中のレンズ系よりなる。レーダーが広く普及した今日でも，なお，航海・偵察（ていさつ）のためにすべての潜水艦に装備されている。

ぜんぽうこうえんふん　【前方後円墳】　古墳時代，前方後円の形式で築造された古墳*。前方後円とは，円形の主丘に長い方形の墳丘が続いた外形を表現し，その名は蒲生（がもう）君平が《山陵志》の中で前方後円と形容したことにはじまる。わが国独特の形式で，近畿（きんき）地方を中心に発達して全国に波及し，4世紀末から5世紀にかけて特に大規模な築造が行なわれた。その外観から，各地で二子山・瓢塚（ひさごづか）・車塚・茶臼（ちゃうす）山などの名称でよばれている。前期に属するものは丘陵山腹上にあり，前方部は細長く低い。中期になると平地が選ばれ，形も前方部が大きくなり，高さも幅も後円部をしのぎ，濠（ごう）を巡らしてそこから掘り起こした土砂を盛って築造されている。応神天皇陵・仁徳（にんとく）天皇陵はその代表的なものである。

後期には前方部がさらに大きくなり，その内部には大陸系の横穴式石室（→石室）を有する。それは巨石を架構した堂々たるものが多い。しかし，古墳丘全体の規模は縮小している。前期・中期には後円部の頂に竪穴（たてあな）を掘り，その郭の中に棺（かん）が安置されたが，後期には前方部の石室が墓室となった。前方後円墳が発達したのは，大和（やまと）朝廷*が国土統一を進めた時期で，その各地への波及は，大和朝廷の政治的発展と密接な関係があるとみられている。帝陵では崇神（すじん）天皇*から欽明（きんめい）天皇までが前方後円墳で，各地の前方後円墳も被葬者は国造*（くにのみやつこ）層の豪族であろう。副葬品ははじめ鏡・剣・玉などが多分に呪術（じゅじゅつ）的な意味で用いられたが，しだいに馬具・武器・装飾品など実用的なものが多くなった。その中には大陸文化を反映して工芸度の高いものが多く，材質からみてもわが国が鉄器時代*の段階にはいったことを示している。近畿地方では前方後円墳の終期は6世紀末で，横穴式石室にふさわしい円墳・方墳へと墓形は移向するが，関東地方では7世紀にはいってもなお前方後円墳が築造された。〔高崎徳次〕

潜望鏡

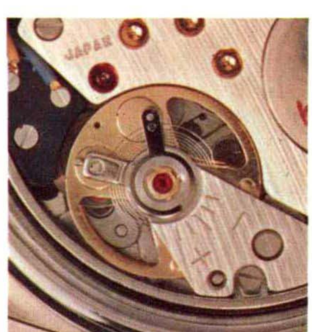




センボンヤリ　春型



ゼンマイ
中央の茶色の葉は胞子葉



ぜんまい
時計のひげぜんまい

せんぼうちょうりつ　【線膨張率】　⇨膨張

ぜんほくく　【全北区】　動物地理区*の一。ユーラシア大陸の東南アジアを除いた部分，北アメリカ大陸，アフリカ大陸のサハラ砂漠（さばく）以北およびそれぞれの大陸の周辺の諸島を含む広大な地域をさす。この中はさらに旧北亜区・北極亜区・カリブ亜区・新北亜区の4亜区に分けられる。ユーラシア大陸と北アメリカ大陸は，古くはベーリング海峡付近でつながっていて，動物の移動が自由であったため，両大陸には共通種や近似種が多い。温帯・亜寒帯・寒帯を主要気候帯とし，動物相は比較的貧弱である。代表的な動物としては，ヤギュウ・シカ・トナカイ・オオカミ・クマ・イタチ・キツネなどがある。〔松本忠夫〕

せんぼんざくら　【千本桜】　⇨義経（よしつね）千本桜

せんぼんやり　【千本槍】　双子葉植物・キク科。ムラサキタンポポという別名もある。山地の日あたりのよい場所に自生する多年草。根出葉はタンポポに似て長さ5～16cm，羽状に分裂し，裏面にクモの糸状の毛がある。花は4～6月および10～11月の2回咲く。春型は花茎が5～15cmで，径1.5cmほどの頭花をつけるが，頭花には少数の舌状花があり，表面は白色で裏面は淡紫色。秋型は花茎が30cm以上で，管状花のみからなる。総包は秋型のほうが春型より大きく，長さ1.5cmほど。

ぜんまい　【薇】　シダ植物・ゼンマイ科。各地の山地にはえる多年草で，特に水辺に多い。根茎は太い塊状。葉は50cm～1mで何枚も集まって出る。葉柄は淡かっ色，葉身は卵形，2回羽状複葉，小羽片は卵形である。春の初め，胞子葉が裸葉とは別に生じる。胞子葉の小羽片は非常に小さく縮み，その脈のまわりに大形の胞子嚢（ほうしのう）が雑然とつき，穂状となる。白い綿毛に包まれた若葉は食用にされる。干しぜんまいは，若葉をあくでゆで，手でもんで柔らかくしながら乾燥したもので，手でもむのを省略すると煮てもかたい。これを食べるときには一晩ぬるま湯に浸してもどし，静かにゆでて用いる。〔加藤僖重〕

ぜんまい　【発条】　リボン状の薄い鋼板をうずまき形に巻いた小形のばね。巻き締めたとき大きな弾性エネルギーをたくわえることができるので，そのほどける力を利用して時計・撮影機・おもちゃなどの動力源として用いる。材料としては普通は炭素

１％程度の高炭素鋼を熱処理したものを用いる。なお時計の調速機に用いられるひげぜんまいは動力用ではなく，一定の周期で振動するばね振り子として用いられ，これには特殊の合金のものもある。

せんまいがん 【千枚岩】 粘板岩*よりも変晶ウンモが大きく成長して，割れ目に平行に並び，そのため割れ目の面が絹糸光沢を呈するようになった変成岩*。くずれやすい岩石なので土木工事のときなどは注意が必要である。

せんまいづけ 【千枚漬け】 カブを薄く切って塩づけしたもの。京都名産の大形で柔らかな聖護院(しょうごいん)カブまたは近江(おうみ)カブを用いる。保存用のつけものではなく，つけ込み時期は11～２月ごろ。カブを２～３mmの厚さに薄切りし，塩で下づけしたものとコンブを交互に敷き並べ，トウガラシをはさみ，おもしをかけて15～20日間つけ込んでつくる。特製はみりんを加えて味をよくする。塩づけしたカブを２～３日酢づけし，酢・みりん・砂糖・塩などを入れて仕上げづけする酢づけ法もあるが，京都のは酢を用いない。〔塩川ふみ〕

せんみょう 【宣命】 天皇の命令を伝える文書の一形式で，詔勅のうち，特に国文でしるしたものをいう。漢文体のものを詔・勅というのと対照的である。元来，天皇の命令を口頭で読み述べた形式をそのまま伝えているもので，文章の冒頭と末尾の部分に差し出し書が二重に表記されるのと，〈テニヲハ〉など助字の部分を小書き・割り注・万葉がなで表記する特殊な和様文体をとっているのとが特色である。《続日本紀(しょくにほんぎ)》にはその実例が豊富に引載されている。〔黛　弘道〕

せんみょうれき 【宣明暦】 長慶宣明暦ともいう。822年，唐(中国)の徐昂(じょこう)が作成した暦*。日本では861年(貞観３)，従来の五紀暦・大衍暦(だいえんれき)を廃して採用・制定した。以後1684年(貞享１)貞享暦*(じょうきょうれき)に改められるまで，823年間なんらの改良・修正も加えられぬまま用いられていた。そのため改暦前には約２日の誤差を生じていたという。

せんみん 【賤民】 人格を認められず，所有・売買・譲渡の対象ともなる不自由民のこと。大化改新(645)以前には奴(やっこ)とよばれる賤民がいたが，それ以後もそのまま賤民身分にとどめられ，律令(りつりょう)制度の整備に伴い，これが陵戸(天皇・皇族の陵墓の守衛・管理にあたる者)・官戸(官有賤民で公奴婢(くぬひ)より身分が高い)・家人(けにん)(私有賤民で私奴婢より身分が高い)・公奴婢・私奴婢の５種類に分けられ，この順序で身分の高下が定められた。陵戸の待遇は良民とあまり変わらず，官戸・家人は家族生活が認められ，また家族全員を駆使されることはなかった。公私の奴婢は家庭をもつことを許されず，賤民の最末端に位する



扇面古写経　東京国立博物館蔵

存在であった。以上５種の賤民を総称して五色の賤という。これら賤民はそれぞれ同種のものとの間でだけ結婚を認められ，身分を異にする賤民の通婚は許されなかった。賤民は人間と認められず，家畜同然にみなされたので，賤民の子は良民の子と違って，必ずその母につけられたし，奈良仏教では賤民を救済の対象とさえ考えなかった。賤民に関する制度は多く唐にならったものだが，わが国における賤民の数は当時全人口の１割以下と考えられ，賤民の存在意義は他の国々に比べてかなり低いとしなければならない。事実当時から良賤間の通婚の事例は多く，良賤混合の勢いを抑止し，賤民階級を固定・保存させることは困難で，10世紀初めには賤民廃止令が出された。これは良賤混血の事実を認めざるをえなかったためと，良民の数をふやして租税収入の増大を図ろうとした政策の帰結であった。なお，古代には良民の最末端にある品部(ともべ)・雑戸(ぞうこ)も賤蔑視(せんべつし)されたが，８世紀半ば以降これもしだいに解放された。中世の奴婢・下人には従者の意味もあって，古代のそれと同一ではない。近世の穢多*(えた)・非人*は極端に賤視されたが，1871年(明治４)に至り法律上は平民と同等の待遇を受けることとなった。しかし現実には，社会のいたるところで彼らに対する差別が根強く残り，今日なおさまざまな問題を投げかけている。〔黛　弘道〕

ゼンメリング ［Samuel Thomas von Sömmering］ (1755～1830) ドイツの解剖学者。トルンに医師の子として生まれ，ゲッチンゲン大学で医学を学んだ。1784年マインツ大学解剖学・生理学教授となり，1797年フランクフルト-アム-マイン，1805年ミュンヘンでそれぞれ医業を開いた。医者としての彼は牛痘の接種に貢献し，また脳神経などを研究して，《人体の構造について》を著わした。神経・骨などの部分には彼の名が冠せられているものがいくつかある。1809年にはバイエルン政府から依頼されて電信機を発明した。それは受信側の水を分解して水泡(すいほう)を発生させる世界最初の電気化学的電信機であった。化石動物・太陽黒点などの研究もある。〔山崎俊雄〕

ゼンメルワイス ［Ignaz philipp Semmelweiss］ (1818～1865) ハンガリーの産科学者。オーフェンに生まれる。はじめブダペスト大学にはいり法律を学んだが，1840年ウィーン大学で医学を学んだ。1844年同大学を卒業，1846年同大学産科第一教室にはいる。産褥熱(さんじょくねつ)，ことにその病気の原因について研究。その結果，診療に従う医師の手や使用器具の不潔であることが原因となると力説した。この説は二，三の医学者の賞賛・激励を受けたが，まだ真の細菌学が起こらなかった当時にあってはついに一般に承認されなかった。1854年ブダペスト大学産科学教授となり，1861年《産褥熱の原因，概念および予防》という論文を公表した。〔大鳥蘭三郎〕

せんめんが 【扇面画】 扇面に描かれた絵。平安時代の遺品には四天王寺ほか諸家に伝わる《扇面古写経*》などがある。また，室町時代には南禅寺などにかなりの遺品が伝わっている。江戸時代の俵屋宗達*は，扇面の特殊な画面を巧みに生かした画家として有名である。

せんめんこしゃきょう 【扇面古写経】 平安時代に流行した装飾経の一つで，扇面法華経(ほけきょう)冊子(さっし)。扇面に下絵を施して経典を書写し，何面かを重ねて粘葉綴(でっちょうとじ)に仕立てている。平安末期の制作で，もとは《法華経》８巻と《歓普賢経》《無量義経》２巻を加えた10巻からなっていたと思われ，大阪四天王寺に５帖(ちょう)，東京国立博物館に１帖，その他諸家に何面かが現存する。料紙の下絵は，経典の内容に関係なく一般の世俗的な題材が用いられている。下図に木版を使い，また金銀の切箔(きりはく)，砂子をまくなど技巧を凝らし，〈作り絵〉による美しい彩色とともにきわめて装飾的につくられ，当時の貴族趣味がよく現われている。〔村重　寧〕

せんめんびょうぶ 【扇面屏風】 室町後期に盛んに行なわれた扇を並べてはりつけた屏風。特に，扇を不規則にはり交ぜて装飾的に意匠したものを扇面散(ちらし)屏風といい，実物の扇をはったものと屏風に扇形を描いたものとがある。

せんもう 【譫妄】 ⇨意識障害

せんもう 【繊毛】 原生動物の繊毛虫類*と繊毛上皮をつくる細胞にある非常に細い毛のような構造で，運動に役だつ。基部には基粒があり，中心の軸糸(数本の原繊維からなる)という弾性のある糸と，それを包む原形質の薄い膜からなる。ゾウリムシでは，体表面に多数の繊毛が規則正しく配列しているが，動物の種類によっては形態と配列がからだの部分によって違うものもある。

せんもう 【腺毛】 植物の毛で，単細胞または多細胞からなり，棒状をなして先端は球状にふくらみ，その中に分泌液を含むもの。葉面の毛や花の蜜腺(みつせん)の毛，食虫植物の葉の毛などがそれで，揮発性油・樹脂・粘液・ゴム質液などを分泌する。ホップの包にある黄色の腺毛から出るフムロ

ン・ルプロンはビールに苦味とかおりをつける。

せんもう　【染毛】　毛髪の自然の色を，整髪上の色彩美を求めるために染め変えること。用いる染料を染毛剤またはヘアーダイという。染毛剤には植物性・鉱物性・合成有機質のものがある。植物性のヘンナは，すでにBC2500年ごろエジプトの女王が使っていたものであるが，非常に明るいかっ色であるため，いまでは用途が少ない。鉱物性では銀・銅・鉛などの金属化合物の水溶液がある。現在多く用いられるのはパラフェニレンジアミンによる合成有機染毛剤で，オキシドールと混合させて用いる。使用には注意が必要で，頭皮に傷がある場合などは避け，あらかじめかぶれのテストをし，パーマネント-ウエーブ*と１週間の間をおいて行なう。普通は全体をむらなく染めるが，部分的にしま目を入れたり，メーシュ-コロレといって少量ずつの毛束に染めたりする特殊な染め方もある。また，脱色・漂白剤または漂白することをブリーチといい，染毛に先だって使うが，黒い髪に用いると明るい色になるので，単独でも使用する。このほか一時的な染毛法としてチックやスプレー式のものがあり，白髪を美しく見せるのに効果のあるカラー-リンスもある。
〔新藤千恵〕

せんもううんどう　【繊毛運動】　繊毛が行なう自動的・律動的運動とその力によって起こる運動。繊毛を構成している収縮性をもった原繊維または糸状の分子が一方の側に短縮することを動力源としている。ゾウリムシやオパリナなど小形の動物は体表にある繊毛の運動によってかなりの速さで移動することができ，ゾウリムシやツリガネムシなどの口の周囲にある繊毛は外部の物質の流動を起こして摂食に用いている。カエルの口腔(こうこう)粘膜，哺乳(ほにゅう)類の呼吸道上皮にある繊毛は清掃作用をもち，脊椎(せきつい)動物の腎管(じんかん)・細尿管・生殖輸管などは，繊毛運動によって排出物や生殖産物の輸送を行なっている。たとえば，イモリ・カエルなどの卵巣でつくりだされた卵は，腹壁の上皮細胞にある繊毛の運動によって腹腔内を移動して輸卵管の入り口まで達することができる。〔蒲原春一〕

せんもうちゅうるい　【繊毛虫類】　原生動物・繊毛虫綱の動物をいう。原生動物中で最も進化の進んだものと考えられ，体表に運動器官として繊毛をもつ。核には大核と小核があり，大核は生活機能を管理し，小核は生殖に関係する。横分裂や出芽による無性生殖のほか，接合*して有性生殖を行なう。海や淡水に広く分布し，ゾウリムシなどのように自由生活をするものが多いが，ラッパムシ・ツリガネムシのように着生生活をするものもあり，またバランチジウムのように寄生生活をするものも知られる。ジュラ紀以降に化石が出る。

せんもうほんせん　【釧網本線】　根室本線東釧路(ひがしくしろ)と石北本線網走(あばしり)を結ぶ国鉄路線。営業キロ数166.2。1924年(大正13)網走～北浜間が開通し，1931年(昭和６)に全線が開業した。北海道東部の南北横断線の一つで，沿線には摩周湖(ましゅうこ)・屈斜路湖(くっしゃろこ)・弟子屈(てしかが)温泉などの観光地がある。

せんもじ　【線文字】　青銅期晩期のエーゲ文明*で用いられた，筆画の簡略な数の一定した音節記号。神聖文字(象形文字)とともにクノッソスから出土したミノア線文字Aは，ミノア晩期に象形文字と並行して用いられ，左横書き，75字で，合字・連字もあった。続くミノア線文字Bは，クノッソスからギリシア本土のピュロスやミケーネなどに行なわれ，ギリシア語をしるしている。1952年ベントリス*が解読したので有名。かなと同じ原則に立つ開音節記号87字と補助記号がある。これらに似たキプロス線文字58字が紀元前15～紀元前12世紀のエンコミやウガリットにあったが，それが紀元前８～紀元前７世紀のキプロス音節文字を生んだのではないかと想像されている。➜ミノア文字　〔日下部文夫〕

せんもん　【泉門】　乳児の頭蓋骨(とうがいこつ)の間隙(かんげき)をいう。乳児期の頭蓋骨は４個のおもな骨で構成され，胎児時代はもちろん生後まもない間は各骨は完全に接合しておらず，その間にすきまができている。前頭骨と左右の頭頂骨との間の菱形(ひしがた)の泉門を大泉門，左右の頭頂骨と後頭骨との間の三角形の泉門を小泉門という。小泉門は生後３～４か月で閉じ，大泉門は１歳半で約85％，２歳でほとんど全部が閉じる。

せんもんがっこう　【専門学校】　第２次世界大戦前の学制の実際的な高等教育機関。明治前期に，〈外国教師にて教授する高尚(こうしょう)な学校〉とか〈専門一科の学術を授くる所〉というように規定され，医学・法律・語学などの専門学校の設立が進められたが，1903年(明治36)の専門学校令によってこれらが制度的に統一された。この規定によれば，専門学校は〈高等の学術技芸を教授する学校〉で，予科・研究科・別科の別があり，修業年限は３年以上，入学資格は中学校および修業年限４年以上の高等女学校の卒業者，あるいはこれと同等以上の学力を有する者であった。また，実業学校で高等教育を行なうものは実業専門学校として専門学校に包括された。これらの専門学校は，近代社会の発展に伴って急速に発達したが，第２次世界大戦後の新学制によって，その多くは新制大学あるいは短期大学の母体として転換し，専門学校そのものは廃止された。　〔赤司政雄〕

せんやいちやものがたり　【千夜一夜物語】　アラビア語の説話集。《アラビアン-ナイト》ともよばれる。180ほどのかなり長い物語からなり，そのほかに多数の短い話が含まれている。ササン朝時代のペルシアで成立した《ハザール-アフサーナ》(千物語)が母体で，おそくとも９世紀までにアラビア語に訳され，さらにバグダッドやシリア各地の物語を入れ，最後にエジプトのカイロに移り，その地方の物語をも加えたのち15世紀末ごろまでに現在のものになったという説が有力である。全体がわく物語の形をとっていて，そのわくは，妻に裏切られたため女性を憎むようになり，妃を迎えては翌朝に殺すようになったペルシアの大王に，大臣の娘シャハラザードがとつぎ，一千一夜にわたっておもしろい話を聞かせ，ついにその心を解くという大筋で，インド起源の物語と認められている。18世紀初めフランスの東洋学者ガランがはじめて紹介してから，広く世界各国で読まれるようになった。イスラム文明の縮図といわれ，中世のイスラム社会研究の貴重な資料である。収められている物語を大別すると，恋物語・犯罪物語・旅行談・おとぎ話(神仙談(しんせんだん))・歴史物語・教訓談・寓話(ぐうわ)などで，《船乗りシンドバッドの物語》のように独立した読み物として広く読まれているものも多い。なお，《アラジンと不思議なランプ》《アリババと40人の盗賊》などの物語は，ガランが別のものから取り入れたとされていて，ヨーロッパではガランの紹介したもののほか，19世紀末にバートンが紹介した原典完訳のいわゆる〈バートン版〉が著名。
〔前嶋信次〕

せんゆう　【占有】　物に対する事実上の支配をいう。人が物を支配するには所有権*や賃借権*のように，占有すべき権利(本権)に基づいてなされる場合もあれば，泥棒(どろぼう)のように本権に基づかないでなされる場合もある。しかし，占有の制度はこのような物の支配を正当化する本権の有無とは無関係に，物を支配しているというその事実状態を占有とし，これに法律効果*として種々の内容をもつ占有権*を与えて保護しようとするものである。このような制度を設けた根拠は，物に対する事実上の支配は多くの場合真実の権利を伴うものであるから，占有の保護は本権の保護になり，また，本権の主張によってひき起こされる物の事実上の支配の攪乱(かくらん)を防止することが，社会秩序を維持し，取引の安全を保護するとする見方にある。占有が成立するためには，自己のためにする意思(心素)と物を所持すること，すなわち現実の支配(体素)の２要素を要するとするが(民法180条)，通説は自己のためにする意思を要せず，現実の支配のみによって成立するとしている。占有はその主要な態様として次の三つに分けられる。①自己占有と代理占有：自己占有とは占有者みずからが物を直接に占有している場合であり，代理占有とは他人に物を直接に占有させ，本人がそれに基づいて占有を成立させる場合である(民法181条)。

②善意占有と悪意占有：善意占有とは，本権がないにもかかわらず，本権があるものと誤信して占有している場合であり，悪意占有とは，本権がないことを知りつつ，または本権の有無に疑いをもちつつ占有している場合である。③自主占有と他主占有：自主占有とは，所有の意思をもってする所有であるが，所有者だと信じる必要はない。したがって，所有権や賃借権を有していると誤信して占有している者はもちろん，泥棒もまた自主占有者である。他主占有とは自主占有以外の占有で，地上権者・賃借人・質権者らの占有である。〔黒木三郎〕

せんゆうけん【占有権】占有*という事実状態を要件として当然に成立する権利をいう。占有権は物権*であるが，他の物権とは異なり，物を現に支配している状態の保護を目的とするものであって，物の利用を目的とするものではない。占有権の取得には，原始取得と承継取得の二つがある。占有権の原始取得とは，占有の原始取得によって認められる場合である。占有の原始取得とは，社会観念上，ある物がその人の事実的な支配にはいったと認められる客観的事実をもって成立する。たとえば，土地を耕作したり，囲屛(いへい)した場合，家屋に居住したり，標札を掲示した場合，カメラを所持したり，保管した場合などはいずれも占有の原始取得とみなされ，これによって，占有権の原始取得も成立する。占有権の承継取得とは，占有権の譲渡（これには現実の引き渡し，簡易の引き渡し，占有改定，さしずによる占有移転の4方法がある）と相続*による場合である。占有権の効力としては，①物の支配を正当化する権利（本権）の推定（民法188条），②善意占有者の果実取得権と悪意占有者の果実返還義務（民法189・190条），③占有権の回復者（占有物の返還を請求する者）に対する損害賠償を義務づけた費用償還請求権（民法191・196条），④占有の一定期間の継続による取得時効*の成立（民法162条），動産の即時取得（民法192条）および動産物件変動の対抗要件となる表象（民法178条），⑤占有訴権*の発生などがある。占有権は物権一般の消滅原因によって消滅するが，特殊な消滅原因として，占有の意思の放棄と占有物の所持を失うことの二つがある（民法203条）。➔時効　〔黒木三郎〕

せんゆうそけん【占有訴権】占有*の侵害を排除することを請求する権利。占有権*固有の権利で，法的根拠（本権）がなくともその物*を事実上支配していれば認められる。占有に対する侵害の態様によって，占有保持・占有保全・占有回収の3種の訴えがある。①占有保持の訴え：占有が全面的に奪われるのではなく，妨害された場合，たとえば隣家の樹木が自分の庭に倒れたときなど，その妨害の停止および損害賠償を請求する訴えである（民法198条）。この訴えは妨害のある間に提起し，損害賠償請求も妨害のやんだのち1年以内に提起しなければならない（民法201条1項）。②占有保全の訴え：占有を妨害されるおそれがある場合，たとえば隣家の石がきがいまにも自分の庭にくずれてきそうなとき，その妨害の予防または将来事故が生じた際の損害賠償の担保を請求する訴えである（民法199条）。この訴えは，妨害の危険があるときはいつでも提起できるが，工事によって占有物に損害を生ずるおそれのある場合については，その工事の着手より1年を経過したとき，またはその工事が竣成(しゅんせい)したときは提起できない（民法201条2項）。③占有回収の訴え：占有している物を奪われた場合，その返還および損害賠償を請求する訴えである（民法200条）。たとえ侵奪者がその物に対して本権をもっていたとしても，この侵奪者に対する訴えは成立する。この場合は侵奪のときから1年以内に提起しなければならない（民法201条3項）。〔黒木三郎〕

ぜんようたい【前葉体】シダ植物の有性世代の配偶体。われわれが普通に見るシダ植物体の葉の胞子嚢(ほうしのう)に生じた無性胞子が湿った所で発芽して1～2か月すると，2～3mmの大きさになり，1層の細胞からなる扁平(へんぺい)なハート形をした緑色の葉状体となる。前葉体の裏面には，ハート形の尾部にあたるところに仮根が密生し，それに混じって球形の造精器がある。ハート形の上部には造卵器ができ，そこで有性生殖が行なわれて，受精卵から胚(はい)となって造胞体を生ずる。なお，前葉体には糸状または塊状のものもある。〔高島文三〕

せんようちゅう【潜葉虫】⇨エカキムシ

せんようてつどう【専用鉄道】私人または公共団体が専用に供するため敷設する鉄道をいう。国鉄・地方鉄道などの営業線と直通もしくは連絡し，いわゆる引き込み線の形で大量貨物を輸送するためのものである。専用鉄道を敷設するには，専用鉄道規程に基づき陸運局長の免許を受けなければならないが，実際には，国鉄の専用側線の形で，特定荷主の負担で線路が敷設されているものが多い。専用鉄道と専用側線との差異は，私有線であるか，運送営業者の営業線の一部であるか，という点にあるが，一般公衆の用に供しないのは同様である。〔宍塚正幸〕

せんりがん【千里眼】千里の遠くをいながらに知る能力で，現在透視といわれるものに相当する。わが国では1910年（明治43）ごろ，心理学者福来友吉により念写*と並んで研究され，社会的に大きな反響をよんだことがある。➔透視

せんりつ【旋律】音が同時に垂直的に鳴るものではなく，一つずつ継続的に響くものをいう。継続的に響く音は，適当な長さで切られてひとまとまりに感じられることが多く，そのまとまりは主として音の高さと長さによって決定される。一般には高さも長さも相対的な関係にあればよく，したがって別の高さに移調しても，テンポを速くしたりおそくしたりしても，同じ旋律と判断される。西洋ではギリシアや中世の単旋律の時代ののち，ルネサンスにポリフォニーが盛んになった。これは二つ以上の旋律線を組み合わせる音楽で，ここでは同時に鳴る和音も，線の組み合わせの結果である。バロック以後，旋律を和声的に伴奏することが多くなったが，これは今日でもポピュラー音楽でよく使われている。日本やインド・トルコなど東洋諸国では，旋律を型としてまとめることが行なわれ，その型をさまざまな曲や演奏に使っている。ここでは音高だけでなく，リズムもパターン化されることが多く，西洋の旋律観と対照的といえる。〔徳丸吉彦〕

ぜんりつせん【前立腺】男性生殖器官*の付属腺の一。摂護腺・前位腺ともいう。膀胱(ぼうこう)底の前下部に下方より接し，後部尿道を取り巻くようにして存在する腺臓器。精嚢(せいのう)腺とともに精液*をつくる。精子*そのものはつくらないが，精子の運動を助ける分泌液を生産する。形も大きさもクリの実に似て，中央から前方に寄ったところを上下の方向に尿道が貫いている。この部分の尿道後壁に精丘がある。射精管は左右1対あって，精丘の両側で尿道に開いている。精子の運動を促進させる乳白色の液を射精にあたって分泌する。前立腺の腺房は胞体の腺細胞（単層）におおわれ，外側の結合組織は平滑筋*に富む。〔藤井和明〕

ぜんりつせんえん【前立腺炎】前立腺*の急性または慢性の炎症。前立腺の前立腺管は無数の小孔となって後部尿道に開口しているので，後部尿道から細菌が侵入し，前立腺炎を発生させる。また膣(ちつ)に寄生するトリコモナス*の侵入を受けて生ずることもある。起床時に外尿道口から分泌液が漏出したり，性機能の異常を訴えることが多い。治療は前立腺のマッサージなどが有効である。

ぜんりつせんがん【前立腺癌】前立腺*に発生した癌*で，前立腺の外側部にある分泌腺上皮細胞が増殖し，悪性化したもの。無症候性に発展することもあるが，前立腺組織は酸性フォスファターゼを大量に含むので，癌のために組織が破壊されると血中酸性フォスファターゼが異常に高くなる。精巣*（睾丸）(こうがん)を除去し，女性ホルモンを大量に投与すると，その発育は阻止される。

ぜんりつせんひだいしょう【前立腺肥大症】前立腺*の内腺の良性腫瘍(しゅよう)。60歳以上の男性に多い。癌*(がん)のように他臓器へ侵襲したり，転移はしないが，内尿道口が圧迫されるため，排尿障害・残尿感・尿意頻応(ひんおう)などがあり，尿失禁などを生じる。治療は，尿閉には導尿を行ない，

重症の場合は手術による腫瘍摘出を行なう。

せんりゃくくうぐん 【戦略空軍】 ⇨空軍 ⇨爆撃

せんりゃくさんぎょう 【戦略産業】 経済成長の主導部門としての機能をになう産業部門。技術・生産規模などに関して他産業への波及効果の大きいことや輸出の拡大をもたらすようなものであることがその条件となる。池田内閣の所得倍増計画で，各種の機械工業を戦略産業として重点的に育成・強化し，高度経済成長を遂げたことから使われはじめたことばである。

せんりゃく・せんじゅつ 【戦略・戦術】 兵力を準備し運用する方術をいい，戦略・戦術を合わせて兵術という。戦略は総合的な軍事力の計画・準備・運用をいい，特に戦争指導における国家戦略を大戦略と称する。戦術は戦闘場面における兵力運用の術である。一般には総合的・広範囲・長期的な計画・運用を戦略，局部的・短期的なものを戦術と称する場合がある。一方は外交戦略・経済戦略などといい，他方は戦術転換などと使われる。また，軍事的と同義語で戦略的という場合があり，一方また非軍事目標に対する，遠距離からの大破壊力攻撃を戦略攻撃，それに適する兵器を戦略兵器といい，軍事目標に対する攻撃ないしそれに用いる兵器を戦術攻撃・戦術兵器という。

戦略・戦術の実施を作戦というが，ソ連では戦略・戦術の中間的なものを作戦というようで，戦略ロケットと戦術ロケットの中間距離のものを作戦ロケットという。わが国の旧陸軍では師団以上を運用するのが戦略で，それ以下の単位で運用するのが戦術であった。また，旧海軍は接敵期までの兵力の運用が戦略で，それ以後が戦術であった。

軍事戦略の目的は，軍事力の運用によって戦争目的の達成に寄与することにあり，戦術の目的は敵兵力の破壊・無力化によって戦略目的の達成に寄与することにある。したがって戦術的勝利が戦略目的の達成に結びつかない場合もある。戦略攻撃はもともと政略攻撃ともいうべきもので，国際法上は厳に禁止されている非軍事目標（主として都市）の破壊と非戦闘員の殺傷を目的としており，それによって敵の戦力の根源を絶とうとするものである。兵術の根本原理は，与えられた条件のもとで，いかにして優勝劣敗の原理を適用して勝利を得るかにある。先制・集中・機動・攻撃・防御，地形・地物の利用など，みな優者たらんとする努力にほかならない。軍備の計画において，たえず兵器の研究・開発を行ない，所要の兵力量を整備し，精到な訓練を行ない，軍紀を厳正にし，士気を振作するのもこれがためである。抑止戦略においても，軍事的効果をあげる可能性がなければ，その効果はゼロとなる。

最近兵器の進歩や戦争様相の変化から，



センリョウ

優勝劣敗の兵理が適用されにくい戦争形態が生じつつある。戦略ミサイル戦・潜水艦戦・ゲリラ戦などがこれである。それは兵力対兵力の単純な戦闘形式でないこと，兵力が非脆弱(ひぜいじゃく)性・隠密(おんみつ)性・機動性などを有すること，その目的が軍事的であるというよりも政治的であることなどに起因している。 〔関野英夫〕

せんりゃくばくげき 【戦略爆撃】 ⇨空軍 ⇨爆撃 ⇨航空作戦

せんりゅう 【川柳】 江戸中期に起こった17音の滑稽詩(こっけいし)。前句付*から派生したもので，柄井(からい)川柳*が選句した前句付の句が人々に〈川柳点(てん)〉の句とよばれてもてはやされ，やがてジャンルの名となった。人間や社会生活をおもな題材として，奇抜で目新しい角度からこっけいを中心とする17音詩にまとめたもので，季語や切れ字にとらわれず，多く連用形止めを使用する。明治以前のものを古川柳，以後を新川柳とよぶ。

前句付はもと連句*の付合*のけいこの手段として，前句を題に与え種々の付け方を試みさせたものだが，17世紀末（元禄(げんろく)前後）ごろからその本来の意味を失い，宗匠が前句を出題して広く一般から付句を募集し，そのすぐれたものに賞品を与えるという一種の懸賞文芸としての形が，教養の低い庶民階級の間に盛行するようになった。付句の評点の高下を競い合う風潮の中で，前句はしだいに意味が薄くなり，付句1句としてのおもしろさが尊ばれるようになって，《武玉川*(むたまがわ)》のように前句を省いた高点の付句だけを集めたものも出たが，その中には〈ほれたとは短いことの言ひにくさ〉など，川柳と変わらぬものも見える。前句付の募集方法として万句合という形がとられたが，柄井川柳の《川柳評万句合》では〈にぎやかなことにぎやかなこと〉など，ごく付けやすい前句を出題し，付句1句としておもしろく時流にかなったものを選んで人気を博した。さらに，門人呉陵軒可有(ごりょうけんあるべし)が川柳評中付句1句で意味の通ずるものを精選し，《誹風柳多留*(はいふうやなぎだる)》を刊行したので，1句立ての形が大いに普及し，ついに俳諧(はいかい)から独立した地位を獲得したのである。

川柳の特色は，俳諧の閑寂な自然諷詠(ふうえい)に対して，人間生活の諸断面を鋭くとらえた小説性にある。〈泣き泣きもよいほうを取る形見分け〉〈役人の子はにぎにぎをよくおぼえ〉など，人間の弱点や社会の矛盾をあばく〈うがち〉は川柳の独壇場といえる。しかし，その笑いは瞬間的な笑いに終わり，真の風刺精神を生み出すまでには至らなかった。

古川柳の黄金時代は《誹風柳多留》中の初代川柳評による24編（1790）までで，しだいに類型的発想や地口（ことばの同音異義によるしゃれ）中心の〈狂句〉に堕し，1903年（明治36）ごろからの井上剣花坊らの新川柳の革新を迎え，今日に及んでいる。 〔小池正胤〕

せんりょう 【千両】 双子葉植物・センリョウ科。本州中部以南の暖地の樹林に自生する常緑小低木。高さ50～80cmで，茎は群生し，緑色でやや草質。葉は長楕円(ちょうだえん)形で長さ6～15cm，革質で光沢があり，縁にあらい鋸歯(きょし)がある。6～7月ごろ，茎の先端に淡緑色小花を穂状につける。花には花弁がなく，1本のおしべが子房につく。果実は球形で，赤色まれに黄色（キミノセンリョウ）に熟し，美しい。《立華正道集》（1684）に記されて以来，いけ花用として栽培され，果実の美しさが観賞されている。

センリョウ科は草本または低木で，葉は単葉で対生または輪生し，葉柄は茎との接合部で癒合(ゆごう)してさやをつくり，小さい托葉(たくよう)がつく。花は両性花で花被はない。おしべは1～3本あり，互いに癒合して子房の下部につく。めしべは1心皮よりなり，子房は上位で1室である。花柱はない。果実は核果である。世界に約40種が知られるが，おもなものには，山地・林野に自生するヒトリシズカ・フタリシズカ・センリョウや中国原産で江戸時代に渡来したチャランなどがある。

せんりょう 【占領】 軍事力によって他国の領土を事実上の支配下に置くこと。ふつう戦争中に交戦国が敵国に対して行なう占領（戦時占領）をいうが，平時においても条約*履行のため，または復仇(ふっきゅう)として行なわれる場合がある（平時占領）。戦時占領は戦闘継続中のものと休戦後のものに区別され，休戦後占領の場合は休戦規約によって条件を定めるのが普通である（混合占領）。条約履行のための占領（保障占領）とは，特に講和条約*の条項（賠償条項の実施）を強制して実現を保障するためのものである。戦時占領に関しての〈陸戦の法規慣例に関する規則〉（1907）はそれを成文化したもので，それは占領国の占領地支配の権限を認めると同時に，主として占領地住民の利益を考慮して，占領国の権限に一定の制限を設けたものである。占領は領土権の変更をもた

らす効果をもつものではないが，占領の間，占領国は秩序維持の必要から，特別の禁止規定がないかぎり，占領地を自由に統治できる。軍法を敷いて軍政を行ない，被占領国の法令施行の停止などを行なうこともできる。ただし，敵国民を強制的に作戦行動に参加させることなどはできない。

〔広部和也〕

せんりょう　**【染料】**　繊維に親和性を示し，かつ日常生活上遭遇する種々な条件(日光・洗たく・摩擦・汗・アイロン・廃ガスなど)に耐える安定性をもつ色素*をいう。多くは水にとけるが，不溶性のものもある。本来，各種繊維を多彩な色に染める目的で開発されたが，現在ではゴム・プラスチック・紙・皮革・油脂・毛髪・セメント・金属・医薬品・化粧品・食品・インキ・塗料・カラー写真・文具用品などに応用され，われわれの生活文化に不可欠な広範な役割を果たしている。

染料には天然染料と合成染料があり，天然染料はさらに植物・動物・鉱物性に分けられる。数多く用いられたのは植物性染料で，アカネ(主成分はアリザリン)・アイ(主成分はインジゴ)を中心にムラサキ・ウコン・スオウ・ベニバナなどがある。動物性染料にはコチニール・セピアなど，鉱物性染料にはクロム化合物・鉄化合物などがあるが数は少ない。これら天然染料の使用は紀元前数千年の昔にさかのぼると考えられており，その後合成染料が開発されるまで広く使用された。一方，染色技術は古くインド・中国に興り，のちエジプト・小アジアを経てヨーロッパに伝えられたとみられている。古代エジプトのミイラのまとった麻布が植物染料インジゴで染めたものであり，またローマ皇帝のトーガ(外衣)がムレックス(ホネガイの分泌物)という動物性染料で染色されたものであることが知られている。しかし現在では，天然染料は実用的価値をほとんどもたず，工業的に大量に製造される合成染料がもっぱら使用されている。

最初の合成染料は1856年イギリスの化学者パーキンの発明になるモーブであり，翌年には工業的規模で生産を開始している。しかし第1次世界大戦前はドイツが世界の染料工業界に君臨しており，イギリス・スイス・フランス・アメリカにおける本格的発展は第1次大戦後のことである。日本にこれら西欧の知識が導入されたのは明治前期,先覚者として長井長義(ながよし)・杉浦重剛・平賀義美(よしみ)・高松豊吉(とよきち)らの名をあげることができる。しかし工業的には1914年(大正3)，三井鉱山(株)の三池炭鉱焦媒工場で，合成アリザリンを製造したのがはじまりで，以来発展を重ね第2次世界大戦直前にはドイツ・イギリス・アメリカに次ぐ染料生産国となっていた。しかし戦後壊滅に近い状態となり，あわせて合成繊維のあいつぐ発明に伴い，イギリス・スイス・アメリカなどで続々と新しい染料が開発され，わが国の染料工業は著しく立ちおくれた。その後徐々に回復に向かい，1966年(昭和41)には,生産量ではアメリカ・西ドイツに次ぎ世界第3位を占め，かつての隆盛を取りもどしたともいえるが，内容的には平均単価が第6位で比較的安価な染料の製造に集中している状況にある。ちなみにスイスではわが国とは対照的に生産量は第5位であるが，高級染料の生産に技術を集中，ために平均単価は世界第1位でその大部分を世界各国に輸出している。

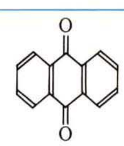
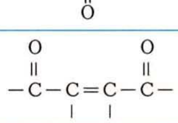
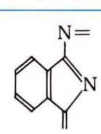
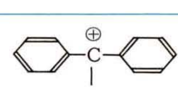
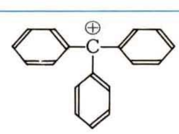
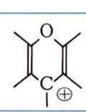
表-1　吸収光と染料の色との関係

吸収波長(mμ)	吸収光の色	染料の色	深浅
400〜435	紫	緑青	浅い
435〜480	青	黄	↑
480〜490	緑青	オレンジ	
490〜500	青緑	赤	
500〜560	緑	赤紫	
560〜580	黄緑	紫	
580〜595	黄	青	
595〜605	オレンジ	緑青	↓
605〜705	赤	青緑	深い

【染料の色と化学構造】　染料は可視光線(400〜700mμ)の一部を選択的に吸収し，残余の光を反射あるいは透過する。この反射光・透過光の色(余色)をわれわれは染料の色として見るわけである。この際,吸収される光の波長が短いものほど色が浅いといい,逆に長いものほど色が深いという(色の深浅)。また同じ色の染料(吸収波長が同じ)の場合，吸収の強さの大きいものを色が濃いといい，逆の場合を淡いという(色の濃淡)。

染料によって吸収される光と化学構造との間には密接な関係がある。化合物は，光を吸収してその電子が高いエネルギー状態(励起状態)になるが，電子状態が安定な場合には，電子は紫外線のような高エネルギーの光によってのみ励起される。この場合は，紫外線の一部を吸収するだけであり無色であるが，染料のように，分子内にいわゆるπ電子(1か所に局在しない,比較的自由に分子内を動き回れる電子)が多くなると，可視光線のような低エネルギーの光によっても励起されるようになり，可視光線の一部を吸収して色をもつ。励起状態に到達するのに必要なエネルギー(励起エネルギー)は，染料のそれぞれの化学構造によって異なるが，励起エネルギーの小さい，つまり長波長側の光を吸収するのみで励起される物質は深い色を呈し，逆に比較的大きな励起エネルギーを要するものは，エネルギーのより大きな短波長側の光を必要とし，これを吸収する。浅い色の染料がこれ

表-2　化学構造による染料の分類

部　　属	化学構造上の特徴	染色法による分類
アゾ染料	−N=N−	直接・酸性・塩基性・媒染・酸性媒染・アゾイック・分散・反応・食品用・油溶各染料
アントラキノン染料		酸性・塩基性・媒染・酸性媒染・建て染め・分散・反応・油溶各染料
インジゴイド染料		建て染め染料
フタロシアニン染料		直接・塩基性・硫化・建て染め・アゾイック・反応各染料
ジフェニルメタン染料		塩基性染料
トリフェニルメタン染料		酸性・塩基性・食品用・油溶各染料
キサンテン染料		酸性・塩基性・食品用・油溶各染料
そ　の　他	アクリジン・アジン・オキサジン・チアジン・メチン・キノリン・ニトロ・ニトロソ・ベンゾおよびナフトキノン・ナフタルイミド・ペリノン・螢光各染料	

である。一般に励起エネルギーEと吸収光の波長λの間には次の関係がなりたつ。

$E=hc/\lambda$（h:プランク定数 c：光速度）

この式から，Eが算出できれば，その化合物（染料）によって吸収される光の波長，すなわち色が求められるわけである。現在の量子論に基づけば，原理的にはこの計算は可能であるとされている。しかし,実際には算出の基となる波動方程式を正確に解く方法がなく，現在でも構造の比較的簡単な化合物（たとえばエチレン）について，しかも近似解を試算するにとどまっており，現実の複雑な構造の染料に直ちに適用することはできない。一方，量子論以前にも有機化合物の発色について種々の学説があり，中でもO.N.ウィットの発色団説(1876)は，それぞれの時代に若干の訂正・補足を加えられてはいるが，現在でも色と化学構造の関係を定性的に説明する経験則として有力である。

【染料の分類】①化学構造による分類と，②染色法による分類が重要である。①は染料の発色団または色原体に基づく分類で，染料を化学構造と関連させて取り扱う場合に便利である（表-2）。このうち種類と色調が，豊富で市販染料の半数以上を占めるアゾ染料と，高価ではあるが色調が多彩で堅牢(けんろう)性の高いアントラキノン染料が特に重要である。②は染料の各種繊維に対する応用上の性質（染色性）に基づくもので，次のように分類される。㋑直接染料：もめん・ビスコース・麻などセルロース繊維を直接染める。一部を除いて光や洗たくに対しあまり安定でない。㋺酸性染料：酸性染浴から羊毛・絹などの動物繊維やナイロンを染める。㋩塩基性染料：動物繊維やナイロンを直接染める。セルロースは媒染剤で処理すれば染まる。鮮明で色濃度は高いが光や洗たくには不安定。特殊用途が多い。ただしアクリル繊維用のカチオン染料は安定で鮮明。㊁媒染染料・酸性媒染染料：クロム・鉄・アルミニウムなど金属イオンと安定な錯塩をつくり，羊毛・絹に染着。光や洗たくに安定。前者は染色法がめんどうで実用性に乏しい。㋭硫化染料：安価。光や洗たくに対し比較的安定。色のくすんだものが多い。㋬建て染め染料：製造法も染色法もわりあいにめんどうであるが，染料としての性質はすぐれ,高級染料の代表。染色法を簡易化した可溶性建て染め染料がある。㋣アゾイック染料：主としてもめんに応用する。安価で堅牢。色調もわりあい豊かである。㋠分散染料：水との親和性の小さい合性繊維の染色に不可欠な染料。水に微粒子状態に分散させて用いる。㋷反応染料：染料と繊維とが，化学反応によって共有結合をつくり，強固に染まる新しい型の染料。鮮明で洗たくに安定。㋦酸化染料：酸化されやすいアミン類，アミノフェノール類などを繊維に吸収させてから酸化発色させる。アニリン黒染め・白髪染めなど。㋸螢光(けいこう)増白剤：紫外線のもとで青い螢光を発し，白い繊維をいっそう白く見せる。

【染料の名称】染料の商品名は一般に冠称・色名・記号からなる。たとえばシバクロン（冠称）・ブリリアント-レッド（色名）・BD（記号）。冠称は各メーカーの登録商標で，染色上の分類を表わす場合が多い。上の例では，シバ社（スイス）製造のもめん用反応染料を意味する。色名はその染料で染色した場合の色調を表わすが，ブリリアント（鮮明な），ファスト（堅牢な）などの修飾語をつける場合もある。最後の記号は各社それぞれに意味をもたせており解釈はむずかしいが，たとえば，Bは青みとかもめん用，Dは捺染(なっせん)用，Lは光に堅牢など，色相・染色法・適用繊維・堅牢性を示すことが多い。〔岡崎光雄〕

せんりょう【線量】 放射線のエネルギーに関する量。すなわち，放射線の強さ。照射線量と吸収線量がある。照射線量は，エネルギーが3メガエレクトロンボルト以下のX線・γ線の強度を，空気を電離する能力で表わす。空気0.001293g（0℃，1気圧の空気1cm³）あたり，1静電単位の電気量に相当する正または負のイオンを生じさせるX線やγ線の量を1レントゲンという。吸収量は，照射されている物質の単位質量に各種の放射線が与えるエネルギーの量で，ラドという単位（1ラド＝100エルグ/g）で表わす。

線量は，電離箱・ガイガー-ミュラー計数管・シンチレーションカウンター，写真フィルム・化学的線量計などで測定される。放射線は人体に傷害を与えるので，健康管理上，放射線の種類，被照射部位，作業内容により，それぞれ許容線量が定められている。〔福井崇時〕

ぜんりょう【前涼】 中国，五胡(ごこ)十六国の一。漢族の張軌が302年甘粛省の姑蔵(こぞう)で建てた国。国号を涼としたのは孫の張駿(ちょうしゅん)のときであり,377年前秦(ぜんしん)に滅ぼされた。

せんりょうさくもつ【染料作物】 工芸作物の一。植物体から得られる色素を利用する。1856年パーキンがアニリンからモーブ（最初の人造色素）を得て以来，コールタールを原料とする合成染料が出回って，天然染料はだんだんと減少し，今日では天然色素のほうが少ないと思われる。植物体からの色素は大別すると,カロチノイド類・ジケトン類・ベンゾフェノン類・フラボン類・アントシアン類などで，黄・赤・緑・青・だいだい色などと多数に上る。材から色素をとるものや葉・樹皮・花を利用するものなどいろいろである。①材を利用するもの：スオウ（赤色）・シタン（赤色）など，②葉を利用するもの：アイ（藍色(あいいろ)）・葉緑素（緑色），③根や塊茎を利用するもの：セイヨウアカネ（紅色）・ウコン（黄色），④樹皮を利用するもの：カシ属（黄色）など，⑤花を利用するもの：ベニバナ（赤色）・サフラン（黄色）。そのほかリトマスゴケ（地衣類）などを利用して得られるリトマスも染料である。〔金木良三〕

せんりょくがん【閃緑岩】 中性岩の深成岩で大部分がソーダに富むシャチョウ石とカクセン石とで構成されている岩石。その他セキエイ・カリチョウ石・クロウンモなどが種々の割合で含まれる。セキエイが10％以上含まれるものはセキエイセンリョク岩とよばれ，酸性岩の領域にはいるものが多い。日本では第三紀の中ごろに貫入したセンリョク岩やセキエイセンリョク岩が各地に分布していて，清水(しみず)トンネルはその岩体の中を掘り抜いたものである。〔片山信夫〕

ぜんりんがいこう【善隣外交】 1920年代以降アメリカ合衆国のラテンアメリカ諸国に対する友好的外交政策。20世紀初頭の強圧的外交の修正として，F.ルーズベルトが1933年就任演説で〈よき隣人〉と言ったことから，ラテンアメリカ外交をさしていう。ラテンアメリカ諸国の政情不安がヨーロッパ諸国の干渉を招き，特に大恐慌以後アメリカがこの地域を市場として必要としたため，1933年第7回米州会議で国務長官ハルが，ラテンアメリカに対する武力介入を否定し，ルーズベルトもこれを確認した。具体的には1934年キューバ革命へ干渉せずとし，同国を保護国化していたプラット修正を撤廃した。1936年にはパナマとの不平等条約を撤廃し，また，同年のブエノスアイレス協定ではモンロー主義を多数国間主義とし，ナチス-ドイツの浸透が深まるにつれて，経済・文化・教育面で援助を増大した。1942年リオデジャネイロの米州外相会議で〈汎(はん)アメリカ戦線〉を結成し，第2次世界大戦に対処した。米州諸国の共同防衛を定めた1945年のチャプルテペック条約，1947年のリオ条約，1948年の米州機構結成は善隣外交の発展と考えられる。〔折井一彦〕

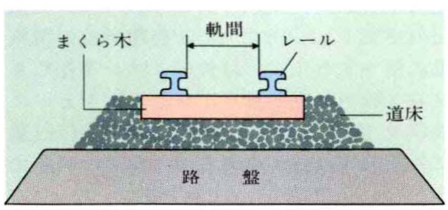
ぜんりんじ【禅林寺】 京都市左京区南禅寺永観堂町にある浄土宗西山派の総本山。空海の弟子(でし)真紹の建立(こんりゅう)，承暦年間（1077～1080）永観が入住，中興したので永観堂と通称されている。本堂の本尊は俗に見返りの阿弥陀(あみだ)として有名。寺宝に仏画・工芸品のすぐれたものが多く，特に国宝の鎌倉時代の《絹本著色山越阿弥陀図》，平安時代の《金銅蓮花文磬(れんげもんけい)》は名高い。

せんるい【鮮類】 コケ植物の一綱。コケ植物では最も体制が進んでおり，地下部は仮根であるが地上部は茎と葉に分化する。茎には原始的通道組織の道束をもち，葉には中央脈がある。仮根は多細胞で，ふつう分岐する。原糸体は発達し，長命である。

胞子嚢(ほうしのう)(蒴(さく))内に柱軸があり，苔類(たいるい)にみられる弾糸はない。次のように大別される。①ミズゴケ類：胞子嚢は柱軸不完全でふたで開く。ミズゴケが含まれる。②クロゴケ類：クロゴケが含まれ，胞子嚢は柱軸不完全で4～8に裂開する。③マゴケ類：胞子嚢は放射相称。ヒョウタンゴケ・ヒカリゴケ・チョウチンゴケなどがある。④キセルゴケ類：胞子嚢には背腹性がある。キセルゴケ・クマノゴケなどがある。⑤スギゴケ類：胞子嚢は放射相称で，内縁歯はない。スギゴケ・ニワスギゴケ・タチゴケなどがある。

せんれい　【洗礼】　キリスト教徒になるために教会が行なう儀礼。〈浸す〉を意味するギリシア語バプテスマの訳。水で人を清めて新生を与える例は，東西の秘儀宗教でしばしばみられるが，古代ユダヤ教においても浸水が教団入門の儀礼として確立していた。しかし，洗礼者ヨハネがイエスにバプテスマを施したことによってキリスト教にとって重大な儀礼となり，〈水のバプテスマ〉は〈霊のバプテスマ〉となった。イエス自身は生存中に洗礼を施さなかったが，その復活後弟子(でし)たちにこれを命じたことが，教会が洗礼を執行する根拠となり，聖別するため司教などの授礼者が頭上に手を置く按手(あんしゅ)と結合して，授礼者の権威を主張させることにもなった。12世紀までは全身の浸水が普通であったが，今日はほとんど滴水によって行なわれ，カトリック教会の小児洗礼では，生後2～8日の間に，原則として按手礼を受けた教職者が施すと規定されている。　〔堀越知巳〕

せんろ　【線路】　鉄道車両を走行させるための軌道施設。普通はレール・まくら木・道床および路盤の4要素からなりたっている。これらのうち上部構造であるレール・まくら木および道床の部分を総称して一般に軌道という。線路を建設するには，天然地形を切り取り，盛り土して軌道を支持する路盤を造成する。現在最も一般的な軌道の構造は図に示すように路盤の上に道床を敷き，まくら木を並べ，2本のレールを一定の間隔(2本のレールの内面距離で，軌間という)に置き，犬釘(いぬくぎ)などでまくら木に締結したものである。レールは直接車輪をささえてこれを円滑に走行させるもので，レールの種類はふつう単位長あたりの重量で区別する。現在国鉄で使用している最も軽いレールは30Kレール(1mあたり30.1kg)で，最も重いのは60Kレールである。レールの標準長は30Kレールは20mで，その他のものは25mである。最近は標準長のレールを溶接して継ぎ目をなくした長大レール(200m以上)が多く使用されるようになった。まくら木はレールを支持し，レールからの圧力を下部に伝えるもので，通常その間隔は60～80cm程度であるが，高級な軌道ほど密に配置されている。まくら木も最近主要幹線に，PCまくら木(ピアノ線に張力を加えたままコンクリートで固めたまくら木)が多く用いられ，従来の木材のものに比べると寿命が大幅に延びた。道床はまくら木からの圧力を広く均等に路盤に分散させ，排水をよくし，また，まくら木のまわりを囲んでその移動，軌道の狂いを防ぐものである。軌間は1.435mのものを標準軌間(俗に広軌といっている)，それ未満のものを狭軌という。東海道新幹線は標準軌間で，国鉄の在来線は1.067mの狭軌である。世界の鉄道の多くは標準軌間であるが，ソ連の国鉄，スペイン・インドの鉄道はおおむねこれより広い広軌を採用している。線路はその輸送量および重要度に応じて1級線から4級線の4等級に区分される。その等級によって曲線半径，勾配(こうばい)などの制限が異なり，上級線ほど制限がきびしくなっている。たとえば，本線路の曲線半径は，1級線は800m，4級線では300m以上と定められている。　〔三宅　良〕

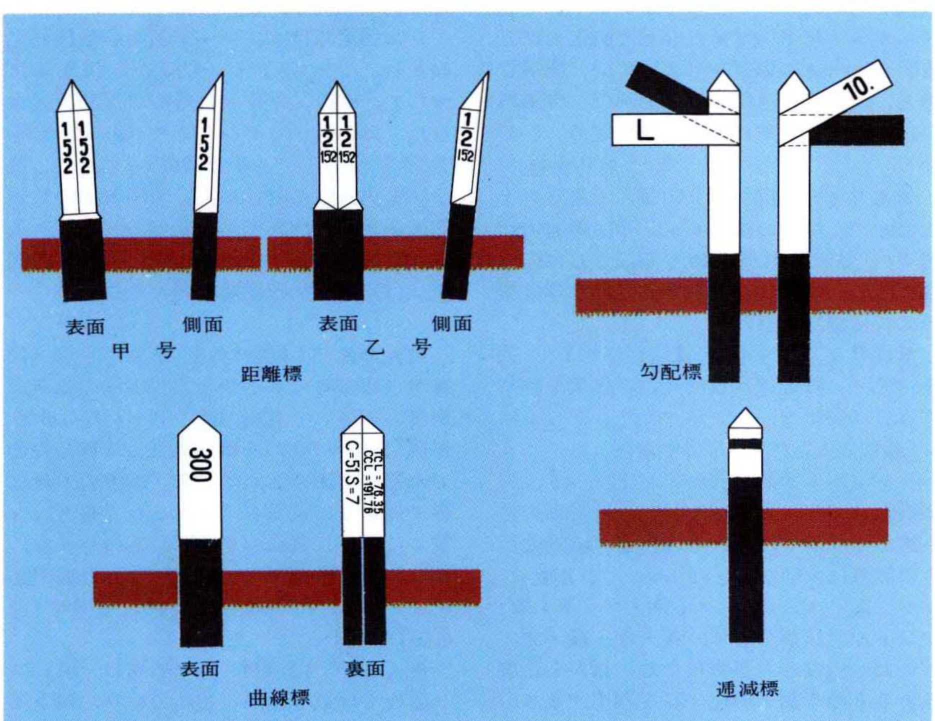


線　路

ぜんろうかいぎ　【全労会議】　⇨全日本労働組合会議

ぜんろうれん　【全労連】　⇨全国労働組合連絡協議会

せんろひょうしき　【線路標識】　列車・電車などの運転および保線・電力の作業の便を図るなどの目的で，線路上の必要な箇所に設けられる標識。国鉄の〈線路諸標設備基準規定〉によると次のものがある。①距離標：線路の起点からの距離を示し，1kmごとに立てる甲号と500mごとに立てる乙号がある。②勾配標(こうばいひょう)：線路の勾配を示すもので勾配の変更点に立てる。水平はLで示し，他の場合は勾配千分比の数字で示す。③曲線標：線路の曲率を示すもので，カント(外側のレールを内側より高くする)・スラック(曲がりやすいように軌間をわずかに広げる)などを記入し曲線の始終点に立てる。④逓減標：直線から曲線に移る際の緩和曲線の始終点に立てる。このほか量雪標，保線区・支区・検査班の各境界標，除雪車警標の各種がある。また〈運転取扱基準規定〉では，汽笛吹鳴標識(運転士・助士に汽笛の吹鳴を指示する)・列車速度制限標識(線路の状態などによる速度制限を指示する)・車両接触限界標識(線路の分岐点で，隣接線相互の車両が接触するのを防ぐためのもので，線路の中心より4mの点に立てる)が定められている。このほかに線路下の埋設物を示すもの，踏切道での事故防止のためなどの各種の警標がある。　〔望月利一〕



線路標識　距離標　起点から152km，152.5kmを示す。勾配標　(右)水平距離1,000mにつき10mの上り勾配　(左)これより水平。曲線標　曲線の半径300m，カント(C)51mm，スラック(S)7mm

そ

そ【租】 ⇨租・庸・調

そ【楚】

1中国，周代の芈(び)姓の諸侯国。周初に熊繹(ゆうえき)が丹陽に封ぜられ，湖北省に国を建てたのに始まるとされるが，実際に勢力を伸ばすのは春秋時代に郢(えい)(湖北省江陵)に遷都を行なった文王から荘王の時代である。戦国時代には七雄の一に数えられ，BC223年に滅ぼされるまで秦(しん)と対抗した。中原とは異なる独自の文化をもったことは，《楚辞*》の中心をなす楚の文学作品からもわかる。

2中国，五代十国*の一王朝(907～951)。唐末，河南の軍閥秦宗権(しんそうけん)の部下であった馬殷(ばいん)は，896年潭州(たんしゅう)長沙(ちょうさ)で節度使となり，907年湖南・湖北20州を率いて独立した。中原と茶貿易を行ない，一時富強を誇ったが，南唐に滅ぼされた。

3中国，秦末のBC209年7月，陳勝が呉広とともに秦に対して反乱を起こして建てた国。この反乱が契機となって，劉邦(りゅうほう)(→高祖)・項羽*らの挙兵となる。

4中国，秦末に項羽が西楚の覇王(はおう)と称して彭城(ほうじょう)(江蘇(こうそ)省銅山県)に都した国。支配地域は梁(りょう)・楚の9郡であったが，関中を支配していた劉邦との抗争のすえ，ついに項羽は垓下(がいか)で自殺し，漢の天下統一となる。

5中国，漢の高祖の天下統一の立て役者のひとり韓信*(かんしん)が建てた国。下邳(かひ)(江蘇省邳県の東)に都した。漢の6年(BC201)，国を除かれ，次いで謀反(むほん)をもって誅(ちゅう)せられた。

6中国，隋(ずい)末の群雄のひとり林士弘(りんしこう)が虔州(けんしゅう)(江西省)に拠(よ)って建てた国。支配地域はほぼ江西省全域に及び，南は広州をも勢力下に置いた。しかし，周辺の群雄および唐軍の攻撃によって部下は離散し，622年彼の死で消滅した。

ソー［Thor］ アメリカ空軍が開発した固体燃料ロケットによるIRBM*。アジーナーロケットなどと組み合わせて各種の人工衛星の打ち上げに使われ，高い信頼性をもっている。現在はNASA*や空軍の小形衛星用ブースターとして活躍している。

ソアラー ⇨グライダー

ゾイデル(海) ⇨アイセル湖

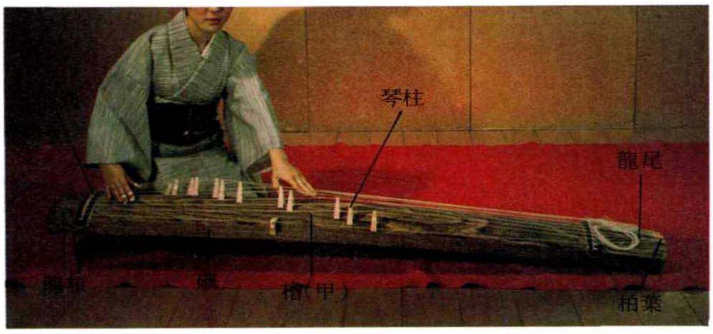
そいん【素因】 特定の疾患に対する個人の抵抗力が，機能的にも器質的にも減弱している状態。同じ病原体に冒されながら，発病する者と発病しない者，また発病してもその症状に軽重があるなどがその例である。生理的なものと病的なものがあり，前者には年齢・性別・人種や各臓器による素因が含まれ，たとえば若年者には結核，女性には低色素性貧血，日本人には胃癌(いがん)が多いなどである。後者には先天性の特異体質や肥満，その他後天的に獲得した全身的・局所的な素因が含まれる。たとえば肥満は心疾患・糖尿病・痛風にかかりやすいなどである。 〔佐野隆志〕

そいん【訴因】 裁判所に対する検察官の起訴*原因の主張のこと。検察官は，起訴の際裁判所に対し，裁判の対象はなんであるかを主張しなければならない，と同時に被告人に対し検察官の主張を明らかにする必要がある。すなわち，起訴状に訴因として示さなければならない(刑事訴訟法256条3項)。訴因には犯罪の日時・場所・方法などをできるかぎり明らかにするとともに，一定の構成要件にあてはめたものでなければならない。訴因は，公訴*事実が同じ範囲内であるかぎり，追加・撤回・変更することができる(刑事訴訟法312条1項)し，裁判所の訴因変更命令権を認めている(同条2項)。訴因という概念は，英米法に由来したもので，現行刑事訴訟法ではじめて採用された。 〔井上公耳〕

そう【僧】 集会・自治体を意味する梵語(ぼんご)saṅgha(サンガ)の音写語，僧伽(そうぎゃ)の略。衆ともいい，仏弟子(ぶつでし)の集団をさす。仏・法・僧の三宝*の一つで，仏の法を信受し，その道を実践して悟り*を得た者が僧宝である。原始仏教では出家剃髪(ていはつ)して戒・定・慧(え)の三学を具足し，四向四果に住する賢聖僧のことをいい，ほかに，その域に達しない凡夫僧や破戒僧・羺羊僧(どうようそう)(知恵なく鈍根の僧)も存在した。しかし，のちに大乗仏教が発展すると，出家*と在家*の区別ができ，大乗の寺院・教団が発生して菩薩僧(ぼさつそう)が成立した。これに対して在来の小乗僧を声聞僧(しょうもんそう)とよぶ。僧はもと比丘*(びく)・比丘尼に通じて用いられたが，中国・日本では比丘を僧，比丘尼を尼*(あま)と称した。のちには比丘・比丘尼だけでなく，沙弥*(しゃみ)・沙弥尼をも僧または尼と称し，比丘などを大僧，沙弥などを小僧とよんだ。また当初インドでは僧は4人以上の修行僧をさしたが，中国ではひとりでも僧とよばれ，出家・沙門と同義に用いられるようになった。

〔原始僧伽〕 原始仏教の僧伽は，当時存在した種族的な共和政体の組織・機能を模倣したものであり，比丘僧伽の組織者はそれを宗教的実践の形で保存しようとしたといわれる。すなわち比丘の共同生活と一般行事は僧伽の構成員の合議と賛成によって取り決められた。たとえば具足戒*(入団に際し戒律の遵守を誓って許可を受けること)，依止(比丘の訓練)，布薩(ふさつ)(戒律に関する審問会)，自恣(じし)(安居の修了式)，法に関する討議，または共同施設や共有物の管理，日常品の配分，人事などの諸規定がそれである。入団僧は親族・財産を捨て，俗世間とのかかわりを断ち，僧伽においては三衣一鉢*(いっぱち)の簡素な生活が理想とされ，食事は早朝と正午前の托鉢(たくはつ)によってまかなわれた。こうして地域的に発達した個々の僧伽を現前僧伽といい，さらにこのわくを空間的・時間的に越えて法の普遍化を図るものとして四方僧伽の理念が形成された。のちに小乗仏教の発展と同時に僧院が形成されると，現前僧が居住する寺院の土地・建物は四方僧の財産とされ，現前僧はそれを管理・修繕する責任を負わせられた。現在のセイロン・ビルマ・タイなどの南方仏教は，このような形式の僧伽を継承している。

〔日本の僧〕 日本の教団や僧尼ははじめから国家の統制下に置かれた。〈養老令(りょう)〉の僧尼令27条では，僧正・僧都(そうず)・律師の三綱が任命されて僧尼を監督し，武家時代には寺社奉行(ぶぎょう)が管理した。しかし1872年(明治5)，この僧官による制度は廃



箏

止され，以後各宗団は管長制をとり，僧位・僧*階の秩序を設けた。その職分・機能の立て方や名称は宗派によって異なっている。〔山折哲雄〕

そう【箏】 日本の代表的な撥弦(はつげん)楽器。発生は中国の秦(しん)代とされ，最初5弦のものが12弦になり，唐代にはすでに13弦であった。わが国にはこの型が奈良時代に輸入され，雅楽で用いられている(→楽箏)。以後の箏は基本的な構造に関してはこの楽箏を受け継いでいる。箏は龍(りゅう)の形にたとえられ，弦の張ってある面を甲，裏側を腹とよび，奏者のすわる側を龍額，反対側を龍尾という。通常用いられる箏は，長さが1.5～2mで，1.8～1.9m程度のものが最も多い。13本の弦の太さは楽箏では異なるが，近世のいわゆる俗箏では同じで，材質は絹をより合わせたものであったが，切れやすいため最近は化学繊維も用いられる。右手の親指・食指・中指に，竹や象牙(ぞうげ)でできた爪(つめ)(琴爪)をはめて龍角に近いほうで弦をはじいて奏する。調弦は，柱(じ)とよばれる駒(こま)を立てて，高さを好みに合わせる。なお，バイオリンのf字孔にあたる穴は音穴とよばれ裏側にある。→十七弦〔徳丸吉彦〕

そう【惣】 南北朝時代から室町時代にかけて成立した農民の自治組織。畿内(きない)では鎌倉末期にみられる。農民の自立化と打ち続く戦乱のため，名*主層が中心となって共同利害のために村民が結合し，形成された。入会地・灌漑(かんがい)施設の管理，村の自衛などを行ない，諸事は村民の寄*合によって衆議決定され，おきてが定められた。名主層の中から年寄・乙名(おとな)・沙汰(さた)人などとよばれる指導者が選ばれ，惣を代表した。〔鈴木英雄〕

そう【相】 ある系内で，巨視的にみて同一の物理的性質をもつ部分。たとえば，水・氷・水蒸気が共存する場合，水が一つの相であり，氷・水蒸気もそれぞれ一つの相であり，この系は，三相からなる系である。すなわち，相には，固相・液相・気相がある。すべての気体は完全に混合可能であるため，多くの気体が混合した気体は，一つの相(気相)よりなる。このような，一相よりなる系を均一系とよぶ。しかしながら，多種の液体，または固体が混合している状態は，水とアルコールのように均一系になる場合と，水と油のように不均一系になる場合とがある(→界面)。一つの相は，数種の〈成分〉からなる。この成分とは化学的成分ではなくて，その系を実現するために必要な物質である。たとえば均一系である空気は，窒素・酸素・二酸化炭素などの成分からなる。これは，系内の構成物質間に化学平衡がない系であるため，構成物質の数と成分の数とが等しくなるが，化学平衡が成立する系では構成物質の数と成分の数は異なる。たとえば，$C+CO_2 \rightleftarrows CO$なる平衡が成立する二相系では，物質の数はCとCOとCO_2の3種であるが，3番めの物質は平衡により，他の二つの物質からつくることができ，成分の数は2である。また，水・氷・水蒸気の三相系では，二つの物質は他からつくることができ，1成分(水)からなっている。成分の数が1，2，3……からなる系をそれぞれ1成分系，2成分系……という。また系は温度・圧力が変化することにより，その状態が変化する。このように系の状態を変化することのできる方法の数を〈自由度〉という。系が一つの相しか存在しないならば，温度・圧力の両方ともに変化させることができる(自由度2)が，水と水蒸気のように二つの相が存在すると，たとえば温度を100℃に決めれば，二つの相が存在しうる圧力は自動的に1気圧と決まる(自由度1)。水と氷と水蒸気が共存する状態では，圧力も温度も固定される(自由度0)(→状態図)。このように平衡にある系では，相の数と自由度と成分の数の間にある関係があり，これを相*律とよぶ。〔三輪誠・海津洋行〕

そう【宋】

1 中国，周代の子姓の諸侯国。殷(いん)の滅亡後，紂王(ちゅうおう)の兄の微子啓が商邱(しょうきゅう)に封ぜられ，河南省から安徽(あんき)省にまたがる地域を領有。春秋時代の初めまで，経済力と殷のあとを継いだ伝統によって，文化的な中心地をなし，のちの墨子の思想もここで形成された。襄公(じょうこう)が中原に覇(は)を立てたあとは国力がふるわず，BC286年，斉(せい)・楚(そ)・魏(ぎ)に国土を分割されて滅んだ。

2 中国，南朝(六朝(りくちょう))の一王朝(420～487)。8代。劉*裕(りゅうゆう)が建てたので劉宋ともいう。劉裕は東晋(とうしん)末期の混乱を平定したのち恭帝から禅譲を受け，在位3年で没した。3代の文帝劉義隆(在位424～453)は，文治策に徹して元嘉(げんか)の治と称される30年の平和を築き，文化の興隆，貨幣経済の建て直しに成功し，対外的には日本と国交を開いたことが注目されるが，北魏対策に失敗して国勢を傾けた。

3 中国，隋(ずい)末の群雄のひとり輔公祏(ほこうせき)が湖北・江蘇(こうそ)・安徽地方に拠(よ)って建てた国。輔公祏は同郷の呉王杜伏威(とふくい)の部将として活躍したがのち不和となり，杜伏威の唐入朝のるすに自立して宋と号し，唐に反抗したが，624年唐軍に捕えられて滅んだ。

4 中国，趙匡*胤(ちょうきょういん)(太祖)が建てた王朝(960～1279)。1126年の靖康(せいこう)の*変以後は異民族の圧迫を受けて領土を淮水(わいすい)以南に縮小されたため，それ以前を北宋，それ以後を南宋とよぶ。都は開封(汴京(べんきょう))，のち杭州(こうしゅう)(臨安)。後周の世宗のもとで軍隊を握っていた趙匡胤は，世宗の没後帝位について宋朝を建て，五代地方王朝の併合に努めた。977年，彼の弟趙匡義(太宗)の時代になって全国統一が成就された。宋以後清朝(しんちょう)に至る政治体制である君主独裁・中央集権・文官官僚制は，太祖と太宗時代に基礎が固められた。科挙の全面的実施により，地方末端まで皇帝の直接任命する官僚支配を貫徹し，一方，五代の軍閥勢力は解体された。軍閥兵力のうち優秀なものは禁*軍として国都に集められて宋皇帝に直属し，他は員数だけ廂軍(しょうぐん)として残して実際の軍事力を剝奪(はくだつ)した。官僚と軍隊を養うために，唐中期に始まる塩と茶に酒などを加えた専売法が全国的に行なわれ，専売と商税による貨幣歳入が，従来の両税収入(地租)より以上に重い比重をもちはじめた。北宋前期の官制は唐代と異なり，中央では中書省(内閣)・枢密院(軍事)・三司(大蔵)が最高権力をもち，また軍の指揮権と統帥権が分離され，財政機構が拡大・重視されている特色がある。ただし，1080年以後は形式的には伝統的な三省六*部(りくぶ)制にもどされた。地方では州(府・郡)県制の上に監督区分として17～24の路(のちの省に相当)が設けられ，路には監司が置かれた。宋は五代後晋が割譲した燕雲(えんうん)十六州の奪還をめざし，契丹(きったん)(遼(りょう))と争ったが，1004年の澶淵(せんえん)の盟約で相対的和平を結んだ。しかし，防衛費は少なくなく，特に1038年西*夏と戦端を開くに及び，140万を越える軍隊をかかえて財政は危機にひんした。気鋭の5代皇帝神宗は，1070年王安*石を宰相に抜擢(ばってき)し，大地主や豪商の利益を削除し，小農・小商を擁護しつつ財政危機を打開する画期的な新法を断行した。新法はいちおう成功したが，官僚間の勢力争いは激化し，政治は乱れ，やがて北方の新興国女

*真(金)に追われて江南に移った。南宋初期は対金防衛のため，軍閥勢力が揚子江沿いに割拠したが，*秦檜(しんかい)が出て彼らをおさえ，金と和約を結んで独裁権を確立した。しかし，こののちも対金抗争による軍事費の増加，苛酷(かこく)な税制による農民の搾取は進行し，反乱が頻発(ひんぱつ)した。また，中央でも韓侂冑(かんたくちゅう)・史弥遠(しびえん)・*賈似道(かじどう)ら有力者の専横が目だち，金に代わって北方に大帝国を築いたモンゴルによって滅ぼされた。ふつう，唐宋の変革とよばれるように，唐から宋へは大きな時代の転換期にあたる。宋にはいると揚子江デルタ地帯の米穀は全国の需要を満たし，各地で絹織物・茶・陶器をはじめとする産業が発達し，特産物商品の生産が行なわれた。政府の銅銭増鋳をはじめとする通貨政策によって大都市内はほぼ貨幣経済化した。商業の殷賑(いんしん)とともに交通の要衝に鎮・市などの小都市が発生し，農村内にも草市・墟(きょ)という市場集落ができた。他方農村では，地主佃戸(でんこ)制とよばれる小作制が普及した。国家は人民を両税負担戸(主戸)と不課税戸(客戸)に分け，農村の主戸には5段階の戸等を設けて徭役(ようえき)労働を課した。宋代の主要生産者である佃戸を農奴とみなすか否かは現在論争中である。宋の文化は士大夫文化・都市文化で，趣味のよさと洗練さを特色とする。唐までの*訓詁学(くんこがく)的儒学を否定し，体系的・実践的な新しい儒学が台頭した。周濂渓(しゅうれんけい)に始まり，程明道・*程伊川(ていいせん)から朱子へと継承・大成された宋学(理学)がそれである。また，史学では《資治通鑑(しじつがん)》を書いた*司馬光が出，詩文では*蘇軾(そしょく)・*黄庭堅・*陸游(りくゆう)らが活躍したが，特にこの時代叙情的な韻文の詞(詩余)の流行が目だつ。南宋には，都市における庶民文化の勃興(ぼっこう)もみられる。絵画の面では，五代以来の山水花鳥画は北宋末の*徽宗の画院でその頂点に達し，洗練された高雅な逸品が生まれた。書も*米芾(べいふつ)ら北宋四大家のほか徽宗の痩金体(そうきんたい)が有名である。また，宋を代表する白磁・青磁などの陶磁器は現在でもまねのできない高度の芸術性を備えている。宋は文治主義を標榜(ひょうぼう)し終始外民族に圧迫されたが，文化は高度に発達し，またそれ以後の中国の政治・社会機構の土台を築いた重要な時代といえる。　〔梅原　郁〕

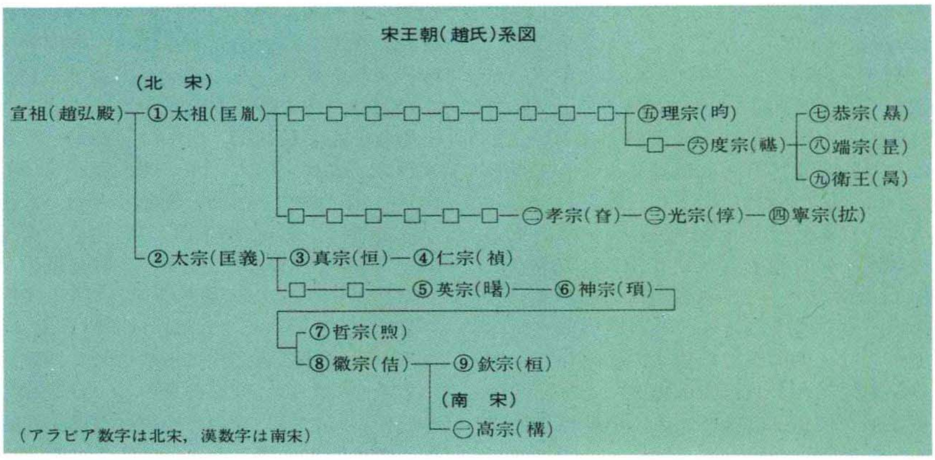
5 中国，元末の一国。紅巾(こうきん)の*乱の指導者韓林児(かんりんじ)が安徽省亳州(はくしゅう)で建てた国。

ぞう【象】 哺乳(ほにゅう)類・長鼻目・ゾウ科。現生の陸上哺乳類中最大で，記録は肩高3.95m，体重12tほどのアフリカゾウ。長鼻類は大昔には非常に栄え，多くの種があったが，現在ではアフリカに2種，アジアに1種産するのみである。長い鼻は他の獣でいう鼻と上唇(じょうしん)が延びたもので，内部には軟骨も骨もなく，約40,000本の筋肉よりなる。鼻の先端には小さな突起があり，これで小さな物をも巧みにつかむ。四肢(しし)は太く，前肢の上腕骨と後肢の大腿骨(だいたいこつ)が長く，ひじとひざの関節は下のほうにある。手足はごく短く，手のひらと足の裏を地につけているようでも，実際は5本の指先だけで体をささえている。上顎(じょうがく)の1対の門歯はしばしば長く延びてきばとなり，終生成長する。門歯以外には臼歯(きゅうし)しかなく，犬歯を欠く。臼歯は上下6対あり，摩滅して小さくなるとはえ替わり，インドゾウでは第2前臼歯で4～5本，第3臼歯で20～24本もはえ替わる。乳頭は胸の前肢の間に1対あり，胸膜腔(きょうまくこう)がなく，子宮が双角性で胎盤が帯状のことなどは*海牛目と同じで，手根骨の配列はイワダヌキ目と同じ。上顎門歯が1対で終生延び続けることも長鼻目・海牛目・イワダヌキ目に共通で，これら3目はまとめて，近蹄(きんてい)上目とされ，他の有蹄獣から区別される。

現在アジアに産するゾウはインドゾウ1種だけで，次の9亜種に分けられる。①セイロンゾウ：いわゆるインドゾウで，雄の93%にきばがなく，セイロンの大部分に分布，②オオセイロンゾウ：前種に似るが大形で，セイロン東部の湿地にだけすむ，③ミナミインドゾウ：雄の98%にきばがあり，南インドのマイソールからオリッサに分布，④ベンガルゾウ：雄の50%に長いきばがあり，ネパール・アッサム・ベンガル北部などに分布，⑤ビルマゾウ：雄の90%に長いきばがあり，ビルマ中部に分布，⑥マライゾウ：雄の99%に長いきばがあり，マライ半島に分布，⑦シャムゾウ：雄に長いきばがなく，タイに分布，⑧スマトラゾウ：雄の98%に長いきばがあり，スマトラに分布，⑨ボルネオゾウ：雄にはたいていきばがあり，ボルネオ北部に分布。

アフリカゾウは次の5亜種に分けられ，亜種によって耳の形が異なる。①ケープゾウ：普通のアフリカゾウで，きばは長太，耳は比較的小形で長さ1.3mほど。ケープからアンゴラ東部まで分布，②アンゴラゾウ：きばは細くあまり長くなく，前種よりも耳が大きく長さ1.5mほど。アンゴラ南部と南西アフリカ北部に分布，③モザンビークゾウ：ケープゾウによく似るがきばが小さく，モザンビーク特産，④マサイゾウ：ケープゾウよりも体と耳がやや小さく，タンガニーカ・ケニア・ウガンダに分布，⑤スーダンゾウ：マサイゾウによく似るが耳が非常に大きく長さ1.9mに達し，スーダンとチャドに分布。

マルミミゾウはシンリンゾウ・コビトゾウともよばれ，2亜種に分けられる。①カメルーンマルミミゾウ：普通のマルミミゾウで，カメルーンからアンゴラ北部まで分布，②コビトマルミミゾウ：ゾウ類中最小





ゾ　ウ　(上)アフリカゾウ　(下)インドゾウ

で，肩の高さ1.5～2 m。コンゴ南・西部に分布。〔今泉吉典〕

ぞう【像】 ある点Aから出た多くの光線が，光学系を通過したあと再び1点B(またはほぼ1点)に集まる光線群となるか，またはそれらを逆方向に延長したとき1点B′(またはほぼ1点)に集まる光線群となるならば，BまたはB′をA(物点という)のその光学系で生じた像点という。Bは実像点で，B′は虚像点である。ある物体の上のすべての点が像点をもつとき，これらの像点すべてからなる図形をこの物体の像という。像点が実像点であれば像は実像であり，虚像点であれば像は虚像である。実像は，その生ずる位置に白紙などを置いてその存在を確かめられるが，虚像では確かめられない。しかし，適当な光学系で虚像を実像に変換することができる。〔吉原邦夫〕

ぞうあざらし【象海豹・海象】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・アザラシ科。アザラシ類中最大で，雄は全長6.5m，3.6tに達する。雌は雄より小さく3.5mほど。体は灰茶色で斑点(はんてん)はない。雄は親になるにしたがい鼻が伸び，長さ30cmにもなる。カリフォルニア沖に分布するキタゾウアザラシと，南極周辺にすむミナミゾウアザラシの2種がある。

そうあみ【相阿弥】 (？～1525) 室町後期の画家。名は真相。真芸(芸阿弥*)の子。祖父・父に次いで，将軍家同朋衆(どうぼうしゅう)として連歌・茶の湯など芸道一般にひいでたが，作庭も行なったという。また，唐物(からもの)(唐絵*)への案内役として，狩野派(かのうは)など同時代の画家に対して指導的な役割を果たした《君台観左右帳記(くんだいかんそうちょうき)》《東山殿御飾記》を著わした。画は，阿弥派*のうちで最も伝承作品が多い。周文*以来の中央画壇が，南宋(なんそう)画院に伝わる北宗画的作風を摂取したのに対し，相阿弥は南宗画的な滋潤な描法を摂取し，柔軟な山水画を描いた。八景図や観瀑図(かんばくず)などを得意としたが花鳥画も手がけ，《山水図襖絵(ふすまえ)》などがある。〔中島純司〕

そうい【僧位】 ⇨僧階

そうい【層位】 堆積(たいせき)岩の時代的な関係をいう。岩石の諸性質や岩石中に含まれる化石・鉱物の新旧を調べ，堆積岩の時代を決めたり，その重なり方などを調べて地層の占める時代的位置を決める。

そういん【宗因】 (1605～1682) 江戸初期の連歌師・俳人。本名西山豊一(とよかず)，俳号一幽・梅翁・西翁・野梅子など。宗因は連歌*の号。肥後(熊本県)八代(やつしろ)の人。城主加藤正方(まさかた)に仕え，京都に遊学して里村昌琢(しょうたく)に連歌を学んだが，主家の改易により浪人して上京，1647年(正保4)大阪天満宮連歌所宗匠に推挙されて連歌界に重きをなした。彼の俳諧(はいかい)は連歌の余技であったが，その自由軽妙な風調が貞門俳諧*の旧風に飽きた人々の人気に投じて新風運動の棟梁(とうりょう)と仰がれ，1670年代(延宝年間)に談林俳諧*の時代を現出したが，門人間の抗争と乱脈な俳風をみるに及んで俳壇を離れ，連歌師として終わった。おもな著書は《西翁十百韻》《満千句》など。〔尾形仂・奥野純一〕

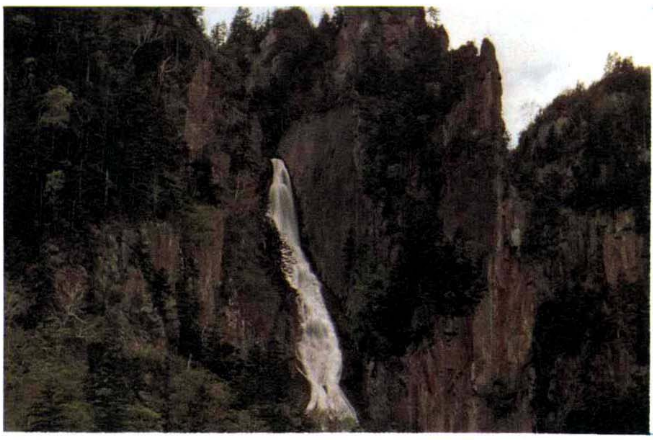
そううつびょう【躁鬱病】 生命感情の障害を主症状とする精神病。精神分裂病*とともに二大内因性精神病*をなしている。感情が高まり胸がおどるような爽快(そうかい)な気分を主調とする躁病期と悲観と不安の感情が支配的な鬱病期とが交互に現われるのが定型であるが，躁病期あるいは鬱病期だけをくり返す場合もある。また，正常状態→病的状態→正常状態というような周期性を示すのが一つの特徴であるが，正常に復するときはまったく欠陥・障害を残すことなく完全に回復する。予後は良好で痴呆(ちほう)に陥ることはない。主として躁病は青年期に，鬱病は中年以後に発病しやすく，病前の性格は循環気質，体型は肥満型と親和性がある。原因はまだわかっていないが，遺伝的要因が重要な役割ももっていると推定される。一般人口に対する出現頻度(ひんど)は，0.44%であるが，本病者の家系ではこの数倍ないし数十倍の頻度で現われ，しかも血縁の近いほどその比率が大きいことが統計的に示されている。〔松田健身〕


ゾウアザラシ　ミナミゾウアザラシ

そううん【層雲】 十種雲形*の一。秋や冬の夜などに地面が冷えたり，また湖や河川など水蒸気の多いところが夜間に冷えると，地面付近の水蒸気が凝結して霧状の雲となるが，このようにしてできる雲が層雲である。高さ2,000m以下，ときには地面すれすれに発生し，雲の中ではいちばん低い。霧状の層雲は高空からは雲海として見え，日射が強くなると消える。積乱雲や台風の下層に飛びかうちぎれ雲は層雲の一種で，また，夏季北太平洋上の寒流・暖流の潮目*付近に発生する濃霧も層雲の一種といえる。〔曲田光夫〕

そううん【層雲】 俳句雑誌。1911年(明治44)，新傾向俳句*の機関誌として河東碧梧桐*(かわひがしへきごとう)主宰，荻原井泉水*(おぎわらせいせんすい)経営・編集で創刊。1915年(大正4)以降は井泉水が主宰し〈自由律〉の俳句を実践した。俳誌としては《ホトトギス*》に次ぐ歴史をもち，尾崎放哉*(ほうさい)・小沢武治(たけじ)・橋本夢道ら多くの俳人を出し，主宰者井泉水の唱える〈芸術以上のもの〉をめざして，特異な短律を生み出しながら現在に至る。

そううんきょう【層雲峡】 北海道のほぼ中央部，石狩川上流部の延長24kmに及ぶ大峡谷。上川支庁上川町に属する。大雪山北側の溶結凝灰岩が石狩川の侵食作用を受けて柱状節理の大岩壁をつくったもので，大函(おおばこ)・小函の景勝地は特に名高い。針葉樹と広葉樹が混在する周辺の大原生林とともに，大雪山国立公園に含まれる。層雲峡温泉・愛山渓(あいざんけい)温泉は大雪山や石狩山地への登山基地で，層雲峡温泉から黒岳(1,994m)5合めまで長さ1,650mのロープウエーが通ずる。旭川(あさひかわ)と網走(あばしり)を結ぶ国道39号線が峡谷沿いを走って産業観光道路となっている。〔浅井得一〕


層雲峡 まわりを原生林におおわれ，凝灰岩の柱状節理をなす奇峰・絶壁にはみごとな滝がかかる。写真は〈銀河の滝〉

そううんざん【早雲山】 箱根火山の中央火口丘の一峰。神山の北東方に位置する鐘状の火山で，標高1,137m。北側の早川の谷に面する斜面には強羅(ごうら)温泉がある。ここから北西のふもとの大涌谷(おおわくだに)を通って芦ノ湖(あしのこ)へ出るケーブルカーやロープウエーがあり，箱根遊覧の主要コースの一つとなっている。早雲山の南西部は1952年(昭和27)に大きな山くずれがあり，犠牲者を出した。富士箱根伊豆(いず)国立公園に属する。〔高野　繁〕

そうえん【蒼鉛】 ⇨ビスマス

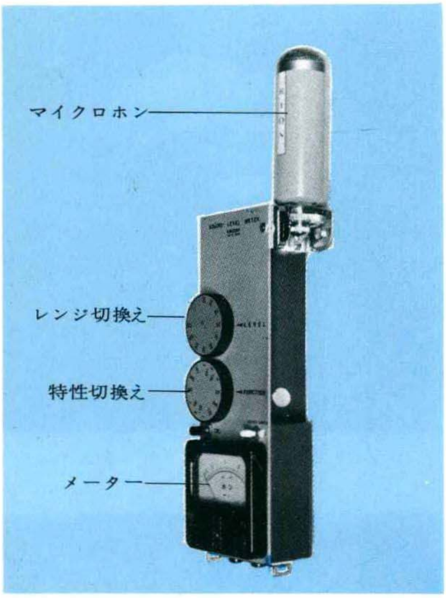
そうおん　【騒音】　ないほうがよい音，不必要な音，好ましくない音などの総称。実際には，①きわめて大きい音，②音色の不快な音，③必要な音や声を聞くのにじゃまになる音，④事務能率や作業能率を低下させる原因になる音などで，各種工場の出す音，建設工事の音，電車・自動車や航空機の音，事務機械の音，街頭宣伝放送などがこれにあたる。騒音は人間の生理や心理に悪い影響を与え，生活環境を悪化させる。すなわち，①睡眠の妨害，②会話や通話に対する妨害，③注意力の低下，④事務能率や作業能率の低下，⑤不快感や焦燥感の発生，⑥聴力障害（難聴），⑦新陳代謝機能の喪失，などが騒音による悪影響の例である。

騒音発生の原因は爆発や内燃機関の排気，機械部品要素の往復運動や回転のふつりあい，衝撃や接触，流体の流れの不連続，うずの発生などがおもなものであり，特に機械的振動の共振現象が起こっていることが多い。したがって騒音を防止するにはこれらの原因を取り除くことが第一である。騒音を測定するには日本工業規格（JIS）で規定されている指示騒音計・簡易騒音計を用い，その指示値を騒音レベルとして単位ホンで表わす。測定に際して，騒音計の指示変動が少ないときにはそのまま指示値を読む。指示が周期的に変動しその最大の振れがほぼ一定のときには，変動ごとの最大値を数回読んでその平均値をとる。また指示が大幅かつ不規則に変動するときには，ある時間ごと（たとえば5秒ごと）に指示値を50回読み，このデータをもとに変動の90%範囲の上限値をとる。

騒音を評価するのにNR数が用いられる。これは騒音をオクターブ分析した結果を周波数によって決められた尺度で換算したものである。NR数は聴力保護の基準や通話妨害評価のめやすになる。　〔池谷和夫〕

そうおんけい　【騒音計】　⇨騒音

そうおんしゅぎ　【騒音主義】　20世紀音楽の傾向の一つで，通常の楽器による音でなく，音高の定まらないブザーやサイレンの音などを使おうとするもの。先駆的なものは，イタリア未来主義のルッソロの《首都のめざめ》（1914）などがあるが，現在でも聞かれる作品は，バレーズ*が通常の楽器とともに，サイレンや各種の打楽器を組み合わせてつくった《アンテグラル》（1926）や《イオニザシオン》（1931）である。騒音主義は，昔風の楽音と騒音の区別をなくしたため，不確定な音高をもつ楽器を使用し，傾向としての音の上下運動，大小の変化が音楽の中に取り入れられ，現代のクラスター（音塊）の先駆ともなった。また，打楽器の使用を拡大し，打楽器のみのアンサンブルをも生むことになった。第2次世界大戦後のミュージック-コンクレート*と電子音楽*の出現は，事実上騒音・楽音の区別をなくして，過去の騒音主義の考え方を実践したものといえる。　〔徳丸吉彦〕



騒　音　指示騒音計



掃海艇　海上自衛隊　あただ　基準排水量240トン　速力14ノット

そうか　【早歌】　鎌倉中期から室町期にかけて行なわれた中・長編の歌謡で，儀式・祝宴の席などに歌われた。宴曲ともいう。作者は，鎌倉幕府に関係した武士・僧侶(そうりょ)が多く，明空・月江が代表的である。七五調が基本で，《源氏物語*》などの古典によるものや，道行き物，もの尽くしなどがある。のち，さわり的なものを抄出して歌うことも行なわれ，江戸期の小唄(こうた)に影響を与えた。歌集に明空選の《宴曲集*》《宴曲抄》などがある。

そうか　【草加（市）】　埼玉県南東端に位置し，東京都足立(あだち)区に接する市。人口18万3,000。江戸時代は日光街道の宿場町・市場町で，芭蕉(ばしょう)の《奥の細道》の最初の宿泊地として知られる。1958年（昭和33）市制施行。荒川の支流綾瀬(あやせ)川と古利根(ふるとね)川にはさまれた沖積地(ちゅうせきち)に位置しており，産業三大別人口比は3：43：54。古くから東京日本橋の手ぬぐい・ゆかた地問屋からの委託加工によって染色業が発達し，1937年以後は東京三河島(みかわしま)方面から皮革業者が移住して，なめし皮の産地となった。第2次世界大戦後は水田を埋め立てて，パルプ・製紙・金属・化学・機械・繊維などの工場が集まり，工業団地も造成されている。南部の瀬崎地区には，1962年に天然ガスが試掘され，帝国石油会社によって開発されている。国道4号線・草加バイパスが通じ，東武鉄道伊勢崎(いせざき)線には帝都高速度交通営団の地下鉄が乗り入れている。交通の便に恵まれて松原団地などの大規模な住宅団地が造成され，近年衛星住宅都市化の傾向が著しい。江戸末期以来の特産に草加せんべいがある。

ぞうか　【造花】　自然の花に似せて，布・紙・糸・皮革などでつくった人工の花。古代エジプト・ギリシアの時代にすでにつくられていた。ヨーロッパでは，18世紀末に布製の豪華な造花が庶民の間にも流行し，帽子や胸飾りに用いられ，技術も著しく進歩した。わが国では古くから金銀・べっこうの細工やつまみ細工で精巧な花かんざしがつくられていたが，明治時代にヨーロッパふうの造花が輸入され，上流婦人に用いられてから普及した。1960年（昭和35）に香港(ホンコン)製のビニル造花が室内装飾用に大流行し，近年は幅広のリボンや特殊な被膜用液体など新素材も市販されている。用布にはオーガンジー・サテンなどの絹地やビロードなどが使われる。　〔田村彰三〕

ぞうか　【雑歌】　歌集の部立*。中国の《文選*(もんぜん)》の雑歌や雑詩の編集様式を参照・借用して，古くは《万葉集*》に，相聞*(そうもん)や挽歌*(ばんか)に属さない種々な歌の意で立てられている。その歌は，行幸，王臣の遊宴など公の本格的なものが多く，《文選》における雑の編集意識と著しく異なる。《古今和歌集》以下の勅撰集の雑歌は，《万葉集》よりも《文選》に近く，他のどの部にも属さぬ歌の集まりとなっている。

そうかい　【僧階】　僧に与えられる位階。760年（天平宝字4）良弁*(ろうべん)の奏請により，はじめて四位十三階の僧位が定まった。さらに光仁(こうにん)天皇のとき，僧位を官位にあて，僧正を従四位，僧都(そうず)を正五位，律師を従五位に配した。また桓武(かんむ)天皇のとき，大法師位(だいほっしい)・法師位・満位・住位・入位・無位の六位を定め，師位を勅授，他は奏授とした。864年（貞観6），従来の僧位の上に法印大和尚位(だいかしょうい)・法眼(ほうげん)和尚位・法橋上人位(ほっきょうしょうにんい)の三階が設けられて律師以上の位とされた。これを僧綱*(そうごう)という。1285年（弘安8），法印は四位の殿上人，法眼は五位，法橋は地下四位の諸大夫に準ずるとして，僧位があっても官のないものを散位の僧綱とよんだ。平安末期になると，僧侶(そうりょ)だけではなく，仏師定朝に法橋位が与えられてからのち，武士・儒者・医師にも及んだ。しかし1873年（明治6）になり，この制度は廃止された。　〔玉山成元〕

そうかいてい　【掃海艇】　機雷を爆破したり処分する艦艇。各種の機雷に対処するためにいろいろな装備や掃海具をもつ。任

務上，港湾や近海の限られた海域で行動するので船体は小形，磁気機雷に備えて木造のものが多い。

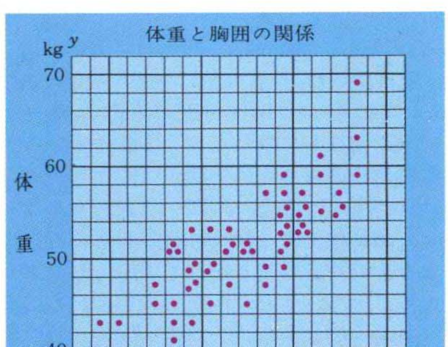
そうかいや　【総会屋】　少額の株式*を所有(→株主)して株主総会*に出席し，その発言権を利用して議事の進行を妨害することにより，会社側から金銭を受け取る者。会社荒らしともよばれる。場合によっては金銭を受け取って会社側につき，会社役員の不利になるような株主の発言を封じ，議事の促進を図ることもある。会社の経営内容や総会の運営方法に問題があるため，総会屋がはびこるとされている。

そうかがっかい　【創価学会】　新興宗教の一。小学校教員であった牧口常三郎(1871～1944)が1930年(昭和5)に創立した創価教育学会を前身とする。第2次世界大戦後，急速に発展した。日蓮*(にちれん)を宗祖，日興を派祖とし，大石寺*(静岡県)を本山とする日蓮宗の一派，日蓮正宗*の在家法華講(ほっけこう)で，人生の目的を価値(利・善・美)の創造に置き，〈新社会主義国家〉〈第三文明の開花する最高度の文化国家〉の理想社会の実現をめざす。本尊は大石寺に伝わる日蓮染筆の板曼荼羅(いたまんだら)で，これを信仰すれば病も苦悩もたちどころに消え，逆に否定・誹謗(ひぼう)すれば仏罰が下ると説く。信仰の実践は，自行として題目を唱え，化他行として折伏(しゃくぶく)を行なって人間革命を成し遂げ，一方，社会革命のためには，王仏冥合(みょうごう)にのっとり，本尊を国会における国民の総意で国立戒壇に祭り，信仰と政治とが合致したところに築かれるとして，その実現を1964年に結成した公明党*に託した。組織は会長のもとに支部と地域ブロックとからなる。《大白蓮華》《聖教新聞》など多くの定期・単行の刊行物を出し，また末端の班・組で座談会を行ない，大石寺参りを勧める。1943年牧口は伊勢(いせ)神宮の神札の配布を拒否して入獄し，翌年獄死した。戦後創価学会として復興し，1951年に戸田城聖*が会長となり，現在は池田大作会長に引き継がれている。公称信者702万世帯，千数百万人。　〔藤井正雄〕

そうがく　【宋学】　中国，宋代に興った新儒学をいう。中国史上，宋代は新しい政治・社会を形成した。それに伴って，思想・学術上にも同じ儒教思想ではあるが〈新儒教〉とよばれるものが形成された。それは必ずしも一様なものではなかったが，基調は，政治と道徳を〈性〉(人間の道徳的本性)と〈理〉(性の宇宙論的根拠)とから説き起こそうとする哲学的考察にあった。その主流をなしたのが朱子学*である。傍流には〈性〉〈理〉を〈情〉〈気〉との関係から検討しなおし，現実の〈心〉を重視する陸象山*があり，また明(みん)の王陽明*の学もこの方向から生まれたが，これを特に〈心性の学〉ともいう。このため，宋学を広義にとって〈宋明学〉ともいう。　〔西　順蔵〕


ゾウガメ　ガラパゴスゾウガメ


象　嵌　銀平象嵌の金山寺香炉部分　長谷寺蔵



相関関係

そうかちゅうしゅつほう　【層化抽出法】　同じ大きさの標本で精度の高いサンプリング調査*をするために，母集団をいくつかの部分(層という)に分類し，各部分ごとに比率で定めた標本を割り当てて標本を選ぶ方法。これに対し，母集団をまず多くの部分集団に分け，次にその部分集団からいくつかを選び，その選ばれた部分から所定の数の標本を選ぶ方法を2段層化抽出法という。

そうかびょう　【瘡痂病】　植物体にかさぶた状の病斑(びょうはん)ができる病気。ミカンでは果実・葉・若枝などにいぼを生じ，表面がコルク化してざらざらになる。病菌は枝・葉に菌糸の形で越冬するので，被害枝を切り除くとともに，発芽前にボルドー液を散布する。ジャガイモではいもの表面にコルク状のあばたを生じ，その表面に割れ目を多数生ずる。病原は放線菌といわれる一種の細菌で，土壌(どじょう)伝染・種いも伝染をするので，予防には健全な種いもを選び，また，根菜類を輪作する。〔渡辺　実〕

そうかへいきん　【相加平均】⇨算術平均

ぞうがめ　【象亀】　爬虫(はちゅう)類・イシガメ科。最大の陸生ガメで，皮膚の感じがゾウに似ているのでこの名がある。ガラパゴスゾウガメ・アルダブラゾウガメなどがあり，ガラパゴス諸島*に産するガラパゴスゾウガメは，寄港した船員たちに捕食されて数が減り，現在では政府や国際機関により，厳重に保護されている。これは甲長120cm，体重180kgに達し，草地にすんで多肉植物やイネ科植物を食べている。アフリカ東岸にはアルダブラゾウガメが分布しており，飼育されるゾウガメの大半は本種。寿命は200年近いといわれる。　〔松井孝爾〕

ぞうがん　【象嵌】　金属・木材・陶土などでつくられた工芸品の表面に，他の材料をはめこんで文様を表わす装飾技法。象眼ともいう。一般には，金工品や陶磁器の技法名として使用されるが，木漆工芸における木画*・螺鈿(らでん)・鎗金(そうきん)(→沈金)などは広い意味での象嵌である。陶磁の象嵌では高麗(こうらい)青磁が名高いが，金工の場合は銅・鉄などの地金に金・銀をはめこむのが通例で，中国の戦国時代のものにすでにこの技法による遺品が数多く見られる。わが国では古墳時代後期の刀剣類や馬具に，鏨(たがね)で金属の表面に文様を線彫し，その凹部(おうぶ)に細い針金状の金・銀をはめこむ糸象嵌の技法が見られるのがそのはじめである。そのほか，凹部が平面になるように彫り込み，その部分に他金属を嵌入したのち，象嵌面と地金面が同一平面になるように仕上げる平象嵌，象嵌する金属を高肉に彫金し，高肉の部分が地金より高くなるようにはめこむ高肉象嵌，地金に文様を透かし，くり抜いた部分に他金属を嵌入して表裏に同文様が現われるようにした切嵌(きりばめ)象嵌など多彩な技法がある。特に桃山期以降は，刀の鐔(つば)に種々の象嵌法を駆使した優品が多い。　〔河田　貞〕

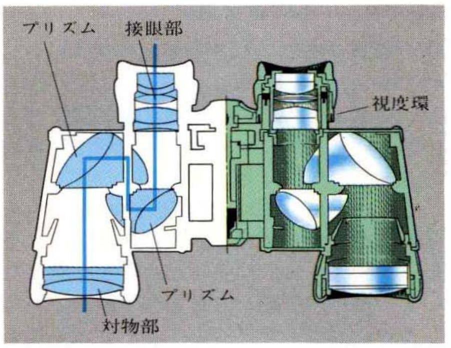
そうかんかんけい　【相関関係】　多くの人について，胸囲 x cmと体重 y kgを測定し，結果を(x_1, y_1)，(x_2, y_2)，……を座標とする点で図示すると，点の並び方から胸囲が大きい人は一般的に体重も重いことがわかる。このように，二つの数量x，yを組みにして調べ，一方の増減が他方の増減に関係があるとみられるとき，xとyの間に相関関係があるという。胸囲と体重の関係のように，一方が増すと他方も増す傾向のある

場合を順相関(正の相関関係)といい，増減が逆になる傾向がある場合を逆相関(負の相関関係)という。また，相関関係を調べるのに用いる図のような図表を相関図という。相関図で，点が斜めの線に沿って集中して並ぶときには強い相関があるという。また，点が上下または左右にほぼ対称に分布しているときは，相関関係がないとみられる。xとyの相関関係を調べるのに，xの値とyの値を，それぞれ階級X_1, X_2, とY_1, Y_2, …に分け，各階級の組み(X_i, Y_j)に属する資料の数fijを表に書いて用いることが多い。このような表を相関表という。〔小西勇雄〕

そうかんきしょうがく【総観気象学】気象現象を気象観測の資料に基づいて解析し，その構造を明らかにし発生・発達・移動などの機構を解明する気象学の分野。主要な対象は大気大循環・前線・高低気圧・降雨雪現象などである。

そうがんきょう【双眼鏡】双眼で遠方の物体を拡大してみるために，地上望遠鏡を2個組み合わせたもの。望遠鏡には，接眼レンズに凸(とつ)レンズを用い，対物レンズと接眼レンズの間に正立光学系(プリズムなど)を入れたもの，あるいは接眼レンズに凹(おう)レンズを用いたガリレイ式などがある。対物レンズの焦点距離をf_1，接眼レンズの焦点距離をf_2とすると，倍率は$m=f_1/f_2$で示される。mは物体を直接見たときの視角と望遠鏡で見たときの視角の比で，遠方の物体を$1/m$だけ近距離に引き寄せて見ていることになる。対物レンズの有効径いっぱいに光を入れて接眼側から観測すると，接眼レンズの後方に明るい円状の像を生ずる(射出瞳(しゃしゅつどう))が，双眼鏡をのぞくときにこの位置に目を置くと明るい全視野を見ることができる。ところが，ガリレイ式では射出瞳が接眼レンズより前側，すなわち対物レンズ側にできるので，その位置に目を置くことができず，視野は前者プリズム式と等倍率であってもずっと狭い。このため，ガリレオ式は小形軽量にできる特徴を生かして観劇などに用いるオペラグラスなどに使われ，倍率も2～3倍程度のものが多い。双眼鏡の標記に8×24などと書いてあるのは，倍率が8倍，対物の有効径が24m/mという意味である。〔加藤定雄〕

ぞうがんこうぶつ【造岩鉱物】地殻(ちかく)中の岩石は，主として次の6種のケイ酸塩鉱物のいくつかが組み合わさってできている。すなわち，セキエイ・チョウ石・ウンモ・キ石・カクセン石・カンラン石などで，これらを主造岩鉱物という。このほかのケイ酸塩鉱物・酸化鉱物・炭酸塩鉱物などにも，岩石の主構成成分となりうる鉱物があり，これらを含めて一般に造岩鉱物とよぶ。主造岩鉱物以外のおもなものは次のとおり。準チョウ石類・リョクレン石・リョクデイ石・ザクロ石・フッ石類・キンセイ石・ランショウ石・コウチュウ石・ケイセン石・ジュウジ石・スピネル・ホウカイ石・ドロマイト・マグネサイト。〔加藤敏郎〕



双眼鏡

そうかんじょうもとちょう【総勘定元帳】企業の経営活動における記録・計算にとって必要なすべての勘定口座を設けた帳簿。そこから資産・負債・資本の有高(財政状態)および費用・収益の発生額(経営成績)を知ることができるので，貸借対照表と損益計算書の作成の基礎となる。

ぞうがんぶっしつ【造癌物質】⇨発癌物質

そうぎ【宗祇】(1421～1502) 連歌師。種玉庵(しゅぎょくあん)・自然斎などとも号した。姓は飯尾(いいお)氏と伝える。生国は不明で，低い身分の出身であったという。30歳を過ぎて連歌に志し，宗砌(そうぜい)・心敬・専順らの指導を受けるとともに，東常縁(とうのつねより)・一条兼良(かねら)などに古典を学んだ。のち1488年(長享2)北野会所連歌宗匠の栄職につき，1495年(明応4)には《新撰菟玖波集(しんせんつくばしゅう)》を選進した。また，諸大名に招かれて関東・北陸・西国などにひんぱんに旅し，箱根湯本に客死するに至る。多くの作品のうち《河越(かわごえ)千句》《美濃(みの)千句》などの千句，《萱草(わすれぐさ)》《老葉(わくらば)》《下草》などの句集のほか，《長六文(ちょうろくぶみ)》《吾妻(あづま)問答》《淀(よど)の渡(わたり)》以下の連歌論書や紀行文《筑紫道記(つくしのみちのき)》，先輩七賢の選集《竹林抄》などが著名。さらに，古典の知識も当代の最高水準にあって，《古今集両度聞書》《伊勢(いせ)物語肖聞抄》《弄花抄(ろうかしょう)》などの聞書を残し，代表的な中世文化人としての面目を示した。門弟に肖柏(しょうはく)・宗長・宗碩(そうせき)や三条西実隆(さねたか)らがいる。〔奥野純一〕

ぞうきいしょく【臓器移植】⇨次ページ

そうぎけん【争議権】労働者が団結して争議行為をする権利。憲法28条は，団体交渉その他の団体行動をする権利として争議権を保障している。争議権は，労働者にとって自己の生活を守り高めていくうえに欠くことのできない権利であって，憲法25条の生存権を具体的に保障したものである。労働組合法は，争議権の内容について次の三つを定めている。①正当な争議行為は，正当な行為として刑事上処罰されない(同法1条2項)。②正当な争議行為に対して，損害賠償を請求できない(同法8条)。③正当な争議行為をした理由で，解雇その他不利益な取り扱いを受けない(同法7条1・3号)。しかし他方，国家公務員や地方公務員は争議行為を行なうこと，またそれを共謀し，あおりそそのかすことが刑罰と処分をもって禁止され，争議権を剝奪(はくだつ)されている。公共企業体などの職員は刑罰は科せられないが，解雇されることが定められている。さらに，公益事業やその他の理由で争議行為を制限する規定がある。また労働協約や規約でも争議権が実質的に制限される場合もある。〔木元錦哉〕

そうぎこうい【争議行為】労働関係の当事者が主張を貫徹することを目的として，業務の正常な運営を阻害する行為をいう。労働関係調整法は，争議行為として同盟罷業・サボタージュ・作業所閉鎖をあげているが，このほかにピケッティング・ボイコット・生産管理・同情スト・政治ストなどがある。争議行為に対する取り扱いは，その時代，その社会によってさまざまな形をとる。争議権の歴史は，一般には，①絶対的な禁止の時代，②自由化の時代，③積極的承認の時代の三つの階階を経てきたといえる。労働者はそれぞれの歴史の過程で，争議行為を認めさせ，刑事免責・民事免責をかち取ってきた。現在の世界各国の労働法は，争議行為を労働者に等しく認め，刑事免責・民事免責をうたっている。第2次世界大戦後わが国の労働法は正当な争議行為を保障し，憲法は，労働者の基本的権利として確認し，保障している(労働組合法1条2項・7・8条，憲法28条)。しかし，その後政令201号を契機として，公務員・公共企業体などの職員の争議行為を禁止するようになり，民間労働者・公務員・公共企業体などの職員に対して，それぞれ異なった取り扱いをするようになった。〔木元錦哉〕

そうきさいばい【早期栽培】稲作において，その地方の慣行稲作期に比べて少なくとも1か月以上早く，播種(はしゅ)・田植え・稲刈りが行なわれる栽培の方法。したがって品種は早生ないし中生の感温性の高いものを選ぶ必要がある。早期栽培のそもそもの成立は台風などの常襲する地帯の防災農法にあったが，今日では作期の繰り上げが日照の有利な利用法であることが理解され，慣行より1か月以内早く播種される準早期栽培も普及して，早期ならびに準早期栽培の面積は全水田面積の半ばにも及んでいる。〔金木良三〕

そうきゅうきん【双球菌】2個ずつ対をなして存在することが多い球状の細菌。肺炎双球菌が代表的なもので，大葉性肺炎の原因菌である。また，髄膜炎菌は脳脊髄液(のうせきずいえき)中の白血球中に対をなして見いだされることが多い。

臓器移植

ある組織または臓器のそこなわれた機能を償う目的で，他の場所から組織または臓器を移植すること。臓器の提供者と移植を受ける者との関係から，自家移植・同系移植・同種移植・異種多植に分けられる。自家移植は，たとえば手に大傷を受けて皮膚がなくなったところへ，患者自身の大腿部(だいたいぶ)の皮膚を切り取って移植するような場合をいう。同系移植は，臓器提供者と患者は別の個体であるが，両者の組織適合性がある場合，たとえばヒトでは一卵性双生児，動物では純系の同系・同性の2者間の場合をいう。同種移植は，同じ種属に属する2者の間で行なわれる場合をいい，ヒトでは親子・兄弟の間でも血縁関係がない他人どうしの間でも，一卵性双生児以外はすべてこれに属する。異種移植は，種属の異なる2者の間で行なわれる移植で，チンパンジーの腎臓(じんぞう)をヒトに移植するような場合をいう。また，移植部位を示すのに同所性・異所性という語が用いられる。同所性とは，移植される臓器が本来あるべき場所に移植組織を植えることで，たとえば腎臓を本来の解剖学的位置に移植して血管・尿管を患者の腎動静脈・尿管と吻合(ふんごう)する場合をいう。異所性とは，移植される臓器を本来あるべき位置以外の場所に植えることで，腎移植の際に手技が容易であることから，腸骨窩(ちょうこつか)に移植して動脈を患者の内腸骨動脈，静脈を総腸骨静脈，尿管を膀胱(ぼうこう)内に植え込む場合などがある。

組織・臓器の移植に関する実験的研究は19世紀末ごろから行なわれているが，自家移植以外は免疫反応のために結局は生着不可能とされ，免疫反応の抑制がさしあたっての主題となっていた。ところが，1960年ごろから免疫反応抑制にある程度有効な薬剤が開発され，その結果臓器移植は臨床的に脚光を浴びるようになってきた。

〔歴史〕 文献的には，すでに1804年バロニオが皮膚の移植実験を行なっており，臓器に関してはウルマンが1902年に胃移植の実験を報告している。以後，血管・腎臓・副腎・心臓・心肺・腸・卵巣・四肢(しし)と，広範囲にわたる移植実験がみられるが，いずれも特殊な場合を除いて長期生着例は得られていない。一方臨床面では，腎臓が古くから移植の対象として注目されてきた。それは，腎臓は両側にあり，一方だけで十分生存できるが，両側が不全となれば生命を維持しえないという特殊な状況にあるためである。1936年に死体腎移植がはじめて行なわれ，以後数人によって試みられたが，免疫抑制が行なわれなかった当時ではいずれも48時間ないし3週ぐらいで移植された腎の機能が廃絶されるため，成功例はみられなかった。1955年マレーによって一卵性双生児間の腎移植が成功し，臓器移植成功の第1例となった。以後一卵性双生児における腎移植は次々と成功した。

このように，免疫反応抑制を行なわなかった時代には，一卵性双生児あるいは同系以外の動物では，移植された臓器は数日ないし数週以内にほとんどすべて破壊されてしまい，動物実験でその生着日数は平均3～5日とされていた。また臨床例でも，比較的長期にわたって機能を維持する例が報告されているが，十分な生着を期待することはできなかった。免疫反応を阻止する方法としては，X線照射が比較的古くから効果を認められており，X線照射のみによって同種腎移植に成功した例も報告されているが，これのみで免疫反応を抑制するには相当量を要し，かえって移植を受けた患者が危険にさらされることが多い。また，内分泌的な方法として副腎皮質ホルモンの使用がある程度有効であるとされているが，単独使用では十分とはいえない。近年，ある種の抗癌(こうがん)製剤，特に代謝拮抗(きっこう)剤のうちに免疫反応を抑制するもののあることが注目され，シュワルツは動物で異種タンパクに対する免疫反応の抑制に成功し，マレーらは同種腎移植の臨床例でよい成績をあげるようになった。

〔免疫反応〕 自家移植・同系移植などの特殊な条件のもとで移植を行なう場合は別として一般に同種あるいは異種の間で臓器移植を行なうと，同所性であっても異所性であってもいちおう生着した後，やがて移植を受けた個体に移植臓器を抗原とする抗体が産生されて抗原抗体反応*が起こり，いわゆる拒絶反応によって移植臓器は漸次破壊され，ついには機能を停止する。たとえば，成熟した2羽のウサギの間で皮膚移植を行なうと，4～5日以内に炎症の徴候が始まり，その後急速に進展して皮膚移植片の端の部分に厚い白血球の浸潤した層が生じ，9日以内に移植片は完全な壊死(えし)に陥る。同種移植における移植片拒絶の反応過程は，免疫機序によって始まり，免疫機序によって進展していくことは今日異論がない。そして同一個体間で同種移植をくり返すと，2度目めは初回の移植片よりはるかにすみやかに，かつ激しく拒絶反応が起こる。このように同種移植に免疫が関与すること，そしてこれが抗原抗体反応であることはもはや議論するまでもないが，この特殊な反応の細かい機序についてはなお定説がない。

〈免疫反応の発想と移植部位〉 同種移植においては，移植臓器を抗原として移植を受けた個体にある反応中心に抗体が産生され，これが移植片に達して拒絶反応が起こる。その反応の中心となるのは，移植された部位の所属リンパ節，次いで全身のリンパ節および細網内皮系とされている。ところが移植片が特殊な部位に移植されると免疫反応の発現が弱く，移植片が異常に長く生着することが知られている。前眼房・角膜・脳・睾丸(こうがん)などがその部位であり，その場合には抗体産生がなんらかの原因で阻害されているものと考えられる。このうち角膜移植*は，臨床にも広く応用されている。

〈異種移植〉 異種移植の場合には，各個体に特有な抗原があるうえに，さらに種属の違いによる抗原因子も加わるので，免疫反応は同種移植の場合よりいっそう短時間内に起こり，しかも反応の強さが激しい。

〔移植免疫反応の抑制〕 同種移植・異種移植に際して最もたいせつなことは免疫反応の抑制であり，臨床的には以下の対策がなされている。①脾(ひ)摘除：リンパ系組織のおもなものの一つを除去し，抗体産生の中心を弱めようとするものである。②胸腺(きょうせん)摘除：従来，成熟動物の胸腺摘除は免疫反応にはほとんど影響がないとされていたが，最近，特殊な環境のもとでは成熟動物の胸腺も免疫反応に重要な役割を果たすことがわかってきた。たとえば，胸腺摘除を行なった成熟動物にX線照射を行なったり，抗リンパ球血清を投与した場合，胸腺摘除を受けていないものとは明らかに免疫反応の差異が認められる。③全身的・局所的X線照射：X線による全身照射は，免疫反応に対して大きな影響力をもっている。全身X線照射後48時間以内に抗原が投与されたとき，抗体産生が最も強く抑制されることがわかっており，腎移植臨床例でも，移植部位への局所的X線照射がしばしば行なわれている。しかし，X線全身照射のみによって免疫反応を完全に抑制しようとすれば，多くの場合致死量照射を要する。④抗リンパ抗体：異種動物でつくった抗リンパ球血清を投与すると，その個体の免疫能力が低下し，胸腺摘除と併用すると移植片の生着期間が著明に延長する。⑤胸管瘻(きょうかんろう)：リンパ球をできるだけ除去しようという目的で，胸管にカテーテルを挿入(そうにゅう)して胸管内容を体外へ誘導する。⑥抗免疫剤：副腎皮質ホルモン・抗癌剤などがおもに用いられ，特に後者のうちの代謝拮抗剤は従来の方法に比して画期的な成績を示しつつある。

〔臨床〕 内分泌組織・皮膚・骨髄・肺・肝臓・脾臓・心臓・腎臓などについて，すでに臨床例が報告されており，皮膚・腎臓の移植が臨床的に最も進んでいる。ことに腎移植はすでに2,000例に近くを数え，長期生存者も知られている。臓器移植が今後外科の臨床面で，どこまで実用化されるかは未知数であるが，移植の道は限りない可能性を内蔵している。〔三島好雄〕

そうぎょ【草魚】硬骨魚類・コイ科。全長1mに及ぶ淡水魚。体はほぼ円筒形でコイに似るが，背びれの基部がはなはだ短いこと，口ひげがないことなどで区別される。うろこは大きく，体色は背面が灰かっ色，側面・腹面が銀白色。黒龍江(こくりゅうこう)から，ベトナム北部の河川に分布するが，日本・タイ・マレーシアなどに移植され，放流または養殖されている。わが国には，1877年(明治10)にはじめて渡来した。1943(昭和18)〜1945年に利根(とね)川水系へ移植されて自然繁殖が続いている。わが国での現在の分布は，利根川・江戸川水系で，6月上旬〜7月中旬に熊谷(くまがや)・羽生(はにゅう)付近で産卵が行なわれ，卵は水中を漂い約100km流下しながら孵化(ふか)する。江戸川に産卵されたものは，孵化前に卵が東京湾にはいってしまうので死滅してしまう。川・池のいずれにもすみ，雑食性だが特に植物質を好み，水草はもちろん，アシ・マコモなど水べの草をも食べる。成長が早く，1年で約60cmに達し，東南アジア各地では重要な食用魚となっている。かつて，皇居の堀(ほり)に繁茂しすぎた水草を除く目的で放たれ，効果をあげたことがある。

ソウギョとほぼ同形・同大で，外見が似たものにアオウオ(青魚，チンヒー)がある。中国原産で，わが国には1943〜1945年にソウギョに混じて移植され，利根川水系で自然繁殖が続いているが，数は少ない。食餌(しょくじ)はおもに水底の小動物。ソウギョよりやや体色が暗い。食用になり，アジア大陸東部各地では重要魚である。〔菅野　徹〕

そうきょう【曾鞏】(1019〜1083) 中国，宋(そう)代の文人。唐宋八大家のひとり。江西省南豊県の人。欧陽修の影響を強く受け，古文という文体ですぐれた散文を書いた。文集《元豊類稿》がある。

そうきょういく【早教育】才能の早期発見と開発をめざして，ふつう適齢とされる年齢より早期に，多くの場合は学齢前から実施される教育。おもに家庭で行なわれ，文字・数・英語の学習など知的な方面の教育と，音楽・絵・スポーツなど芸術・運動方面のものとがある。早教育は，すべての才能の発見と開発は，子どもが幼いうちのほうが(ことばがわかり必要な身体の発達があれば)有効であり，ある年齢以上になれば困難あるいは不可能になるという見解と，どんな子どもでも早くから訓練を重ねれば，たとえ平凡な素質でもかなりのレベルにまで達するという見解との，2説に基づいている。実際にJ.S.ミルは父親の早教育のもとにその天才が開花したし，ベートーベンその他の著名な音楽家にも早教育を受けた例は少なくない。わが国でも，多数の子どもを対象に，バイオリンの早教育でかなりの成果をあげている例があり，水泳などでも効果が認められている。しかし，前者の著名人の場合は，おそらくはその天才的な


ソ ウ ギ ョ

素質のゆえに早教育が特に有効だったのであろうし，後者の成功例も，反復練習によるいわば条件反射づくりが特に有効な運動学習的領域であることに注意する必要がある。すべての面の才能について，あるいは，平凡な素質も含めてすべての者に，早教育が有効であるという証拠はない。子どもの心身の成熟度と興味を考慮し，才能の萌芽(ほうが)を客観的に確かめる慎重さが必要であって，それらの配慮を欠いた早教育はかえって子どもの健全な発達を妨げるおそれがある。〔石原静子〕

そうぎょうしゃりとく【創業者利得】企業の創業者がはじめに投下した資本額(株式額面)の株式を，事業開始後，額面を上回って形成される株式価格で売った場合にその差額として得られる利得をいう。たとえば，投下資本額1億円で創業し，利潤率20%であれば2,000万円の利潤を得る。これをすべて配当に回す(配当率100%という)として，一般的利子率を5%とすれば，この配当の資本還元額としての株価は4億円ということになる。この4億円と額面1億円との差額3億円が創業者利得である。こうした創業者利得は，下記のような公式が示しているように，企業者利得の利子率による資本還元額にほかならず，これを利子生み資本として機能させれば，年々企業者利得と等しい金額を利子として入手できるという関係を意味している。

$$\text{創業者利得}=\text{株価}-\text{額面}=\frac{\text{額面}\times\text{配当率}}{\text{利　子　率}}$$
$$\frac{\text{額面}\times\text{利子率}}{\text{利　子　率}}=\frac{\text{額面}\times(\text{配当率}-\text{利子率})}{\text{利　子　率}}$$
$$=\frac{\text{額面}\times\text{企業者利得率}}{\text{利　子　率}}=\frac{\text{企業者利得}}{\text{利子率}}$$

〔常盤政治〕

そうきょうじん【宋教仁】(1882〜1913) 中国，清(しん)末の革命家。湖南省出身。字(あざな)は遯初(とんしょ)，号は漁父。1904年黄興らと華興会を組織し，清朝打倒の蜂起(ほうき)失敗後日本に亡命，早稲田(わせだ)大学に入学。1905年の中国同盟会結成に尽力した。1911年武昌(ぶしょう)蜂起成功後は臨時政府の組織に力を注いだが，その計画を実現することはできなかった。南北交渉の際には妥協的路線をとり，のち同盟会を国民党に改組して事実上の党首となり，政党内閣の実現をめざしたが，袁世凱(えんせいがい)に憎まれて上海(シャンハイ)で暗殺された。〔大谷敏夫〕

そうぎょうたんしゅく【操業短縮】生産過剰・不況で物価が下落した際，生産量を制限すること。労働時間短縮，機械の一部運転中止などが行なわれ，その結果労働者側に一時帰休制・一時解雇・減給などの形でつねにしわ寄せされる。

そうぎょうど【操業度】経営の生産活動である操業の程度で，生産諸設備を完全に稼働(かどう)させた場合の生産量を100として，その生産量に対する現実の生産量の比率をいう。また，生産設備の利用の程度をいうこともある。最適操業度とは平均生産費を最小とする操業度のことであり，最大の利潤をもたらすのは限界生産費と限界収益が等しくなるときの生産量であり，このときが最有利操業度である。操業度は価格政策，最小費用を求めるため，さらに最大利潤を実現するために使われる。〔清水　晶〕

そうきょく【箏曲】箏を中心とした独奏(歌を含めて)や合奏の曲。室町時代の末期に成立した筑紫箏(つくしごと)に始まる。これは今日なお筑紫流として伝承されているものと，楽箏の《越天楽(えてんらく)》を詩の朗唱に変形して用いたもので，また，朗詠・催馬楽(さいばら)・漢詩と深い関係にあって，歴史的には楽箏といわゆる俗箏との橋渡しをしたと考えられる。江戸時代にはいり，八橋検校(けんぎょう)が箏の組歌と器楽曲の段物を整え，その後の流れを決定した。その後のおもな傾向をあげれば，まず元禄(げんろく)時代の生田検校による地歌三味線(しゃみせん)との合奏とそれにふさわしい奏法の開拓がある。文化・文政期(1804〜1829)に八重崎検校が既存の地歌に箏のパートを加え，また手事とよばれる間奏の役割を大きくした。同じころ江戸で山田検校が浄瑠璃(じょうるり)の影響を受けて，歌の役割の大きいジャンルを開拓した。明治以後，現代に至るまで，箏曲は邦楽の中で最も大きな変革の試みが行なわれたジャンルであるが，江戸時代くろうととしては盲人の専業であったため，比較的変化がなく，よく保存されていた。また，しろうとの教授がきわめて盛んであったところから，楽譜の出版も江戸時代から行なわれている。様式的には，他の近世邦楽に共通する点が多いが，拍節的リズムの多さ，右手の運動に由来するパターンの豊富な点が目だつ。左手の奏法による一音ずつのニュアンスの細かさに比べ，唄(うた)は比較的平坦(へいたん)に通していく傾向がある。➔三曲　➔地歌　〔徳丸吉彦〕

そうぎょく【宋玉】(BC290？〜BC222？) 中国，戦国時代の人。屈原より少しあとの人か。楚王(そおう)に仕えたというが，確かなことは不明。《楚辞》《文選》などに，その作と伝えられる辞賦がある。《楚辞》所収の《九弁》《招魂》を見ても屈原の影響は明らかだが，宋玉は，賦の性格を叙情から叙事に変化させたという。

そうきょくせん【双曲線】 2定点からの距離の差が一定である点の軌跡。2定点をその焦点という。直交座標で2定点をF$(c, 0)$，F'$(-c, 0)$とし，F，F'からの距離の差を示す一定の長さを$2a$とするとき，これによって定まる双曲線の方程式は，

$$\frac{x^2}{a^2}-\frac{y^2}{b^2}=1 \quad (ただし，b=\sqrt{c^2-a^2})$$

と表わされる。このとき，2点$(a, 0)$，$(-a, 0)$をこの双曲線の頂点という。また，この双曲線の2本の漸近線*の方程式は，次のようになる。

$$\frac{x}{a}+\frac{y}{b}=0，\frac{x}{a}-\frac{y}{b}=0$$

〔菊池兵一〕

そうきょくせんこうほう【双曲線航法】電波航法の一。図のように2定点A・Bからの距離の差の一定である点の軌跡は双曲線となる。そこで陸上の2定点に電波の発信局を置き，ここから発射された電波の到達時間差を測定することによって，船・航空機などの移動体から，両局までの距離の差を求めることができれば，移動体はその距離差をもった一つの双曲線上のどこかにいることがわかる。それで海図上に両局を焦点として一定の距離差ごとの双曲線をあらかじめ何本も描いておけば，この中から測定した距離差に対応する双曲線を求めることができる。このような発信局を別にもう1組みつくっておけば，同様にしてもう1本の双曲線が求められ，移動体の位置は二つの双曲線，すなわち2本の位置線の交点として求められる。このような方法によって船または航空機などの位置を求める方法を双曲線航法という。これを用いるものとしてロラン・デッカナビゲータ・オメガなどのシステムがある。〔飯島幸人〕

そうきょくほうぶつめん【双曲放物面】方程式 $\frac{x^2}{a^2}-\frac{y^2}{b^2}=z$ で表わされる曲面。yz平面，xz平面に平行な平面による切り口はいずれも放物線であり，xy平面に平行な平面による切り口は双曲線*である。

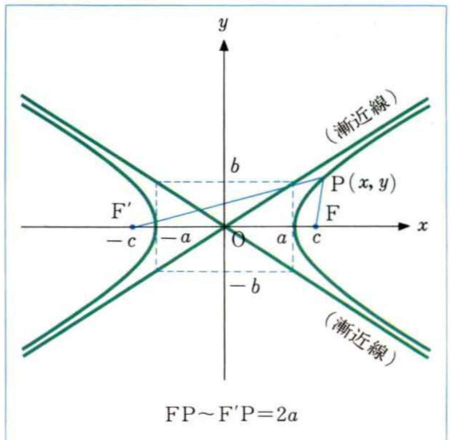
そうきょくめん【双曲面】

方程式 $\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}-\frac{z^2}{c^2}=1$，$\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}-\frac{z^2}{c^2}=-1$

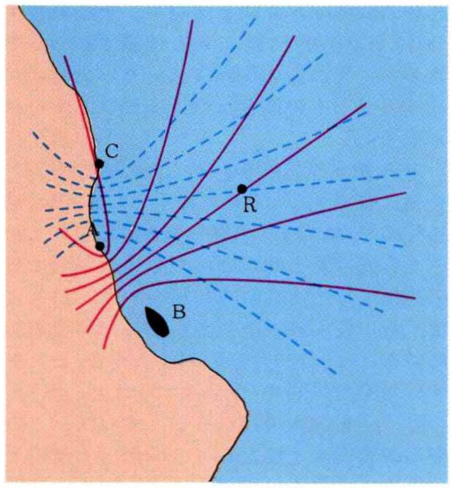
で表わされる曲面で，前者を一葉双曲面，後者を二葉双曲面という。いずれも，yz平面，xz平面に平行な平面による切り口は双曲線*であり，xy平面に平行な平面による切り口は楕円*(だえん)である。

そうきんかわせ【送金為替】並為替・売為替ともいう。必要金額に手数料を添えて銀行に払い込み，受取人の居住地にあるその銀行の本店・支店または取引銀行あてに送金小切手を振り出してもらう為替取引の方法。受取人は郵送された小切手を現金化する。普通送金為替・電信送金為替・当座振込の3種がある。➔為替

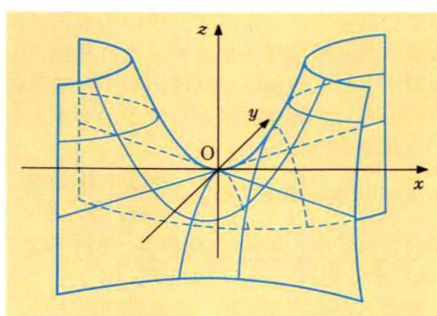
そうきんるい【藻菌類】真正菌類*の一群で，体制・生殖法などが藻類*と似る。分類上単毛類・二毛類・不動類に分けられる。単毛類は運動性の細胞が1本のべん毛をもち，単細胞で全実性(栄養体全体が生殖体になる性質)と糸状で分実性(栄養体とは別に生殖体ができる性質)のものがあり，カワリミズカビ・シンキトリウムなどがある。二毛類は運動性の細胞が2本のべん毛をもち，単細胞で分実性と糸状で分実性のものがあり，ミズカビ・ワタカビ・ピチウムなどが含まれる。不動類は運動性の細胞はなく，無性胞子が胞子囊(ほうしのう)中にできるか，分生胞子をつくる。有性生殖は二つの運動性のある配偶子が接合する配偶子接合，卵子と精子が接合する卵子接合，配偶子囊が接合して接合胞子をつくる配偶子囊接合がある。ケカビ・クモノスカビ・ヒビカビなどが含まれる。〔曾根田正己〕



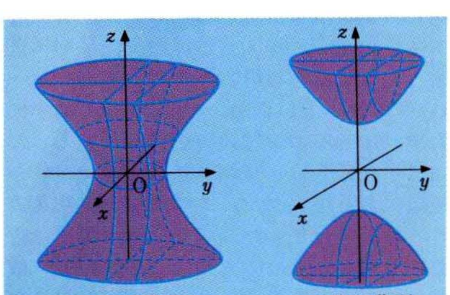
双 曲 線



双曲線航法



双曲放物面



双 曲 面

そうぐう【曹禺】ツァオユィ (1910〜) 中国現代の劇作家。本名は万家宝。湖北出身。北京(ペキン)の清華大学でヨーロッパ文学と演劇を学んだ。1934年12月，雑誌に戯曲《雷雨》4幕を発表，暗黒の世界に潜む生命力への憧憬(どうけい)を基調とするこの処女作は，中国の本格的な近代劇の最初の作品として認められ，一躍，劇作家としての地歩を確立した。続いて，戯曲《日の出》4幕を雑誌に発表，《大公報*》の文芸賞を獲得した。その後，日中戦争にかけて，《原野》3幕，《北京人》3幕，《蛻変(ぜいへん)》4幕を書き，戦後，《橋》を発表した。新中国になってからも演劇界の要職にあった。なお，オニールやシェークスピアの作品の中国訳がある。〔今村与志雄〕

ぞうくらげ【象海月】軟体動物・腹足綱・ゾウクラゲ科。体は細長く，透明で寒天質状。伸縮性のある吻(ふん)の先端に，歯舌を備えた口がある。背部に1対の眼と1対の触角があり，触角のうち，右側のものはきわめて小さい。体央部に内臓が収められ，それをおおってえぼし状の薄い殻(から)がある。足は体央部の腹側にあり，うちわ状で薄く，この足を上に背を下にして泳ぐ。足の後縁には吸盤を備える。全体50cmほどに達する。体背縁は黒かっ色だが，そのほかはほぼ無色。インド・太平洋熱帯水域に広く分布し，ときにわが国の黒潮流域沿岸に漂着する。外観は名のようにクラゲによく似るが巻き貝の一種であり，透明で柔らかなナメクジといった観もある。日本近海に近似種が数種知られる。〔菅野 徹〕

そうけ【宗家】末家に対する本家の意であるが，ふつう，芸道などを伝える中心の家がらをいう。特に能・歌舞伎(かぶき)・邦楽・日本舞踊などの芸能界で，ある流派において ゆいしょ正しく権威と格式をもっている家をさしていう称号である。たとえば，能の観世宗家，歌舞伎の市川宗家のごときもの。また家元*と同意義に使われる場合，家元を統率する家をいう場合もある。また，

家元の称はあっても宗家の称のない分野もある。

そうけいれい【宋慶齢】ソンチンリン (1890～1981) 中国革命を指導した孫文*の未亡人。海南島出身。宋家三姉妹の次女。姉妹とともにアメリカのウィルズリー大学に留学。1911年，辛亥(しんがい)革命の年に帰国，孫文が臨時大総統に就任するとその秘書となり，1914年孫文に従って日本に亡命，1914年10月東京で結婚した。孫文の死後，終始蔣介石*(しょうかいせき)独裁を批判し，中華人民共和国成立とともに副主席となった。

ぞうげいろ【象牙色】色名。象牙のような色，すなわちごくわずかに黄赤みのある白色で，アイボリー色と同じ色をさす。日本工業規格(JIS)慣用色名〈ゾウゲ色〉は，色相2.5Y，明度8.0，彩度1.5の色と規定されている。➔色

ぞうげかいがん【象牙海岸】⇨コートジボアール

ぞうげしつ【象牙質】歯冠の表面をおおうエナメル質，歯根の表面をおおうセメント質とともに歯牙(しが)を構成する硬組織の主成分。エナメル質・セメント質の下層に存在し，中に歯髄腔(しずいこう)・歯根管を含む。動物によってはエナメル質・セメント質を欠く歯はあるが，象牙質を欠くものはない。象牙質には多くの哺乳(ほにゅう)類にみられる真性象牙質とおもに魚類にみられる皺襞(しゅうへき)象牙質，有血管象牙質，骨象牙質などがあり，真性象牙質には基質中を象牙細管が走る。➔歯　〔幡井勉・橋本長〕

ぞうけつそしき【造血組織】細網繊維(細網細胞をつくる細い繊維)と原始細網細胞(細網組織をつくる細胞)とからなる網工でできている組織で，赤血球*や白血球*をつくる。造血はその網眼内で行なわれる。共通の基幹細胞からすべての血球ができるとする一元説と，それぞれの血球が固有の基幹細胞をもっているという多元説があるが，今日では多元説をとる学者が多い。成人では，骨髄*・リンパ節*・リンパ*組織・脾臓*(ひぞう)小節などは造血組織で構成されているが，胎生期では肝臓や脾臓がおもな造血臓器で，胸腺(きょうせん)も生後しばらくの間はリンパ球をつくる。また，骨髄のない下等脊椎(せきつい)動物では，腎(じん)・肝・脾で，軟骨魚ではらせん弁のある腸壁でそれぞれ造血が行なわれる。〔幡井　勉〕

ぞうけつやく【造血薬】赤血球産生を促進する貧血の薬。ヘモグロビンの材料としての鉄，産生を助けるコバルト・銅などの金属，およびビタミンB_{12}・葉酸などがあり，肝臓製剤が有効とされる。

そうげつりゅう【草月流】生け花流派の一。1926年(昭和1)勅使河原蒼風(てしがわらそうふう)の創始。当初は草月流と称したが，1953年改組して会員制をとり，家元を廃止し，それ以後草月会を称している。蒼風が会長。生け花の伝統の打破，床の間からの解放を主張して素材や花器に制約されない新しい造形美の創造に努め，〈前衛生け花*〉の先端を切った。特に第2次世界大戦後の解放的機運に乗って，鉄・石膏(せっこう)・ガラス・枯木などの異質な素材を生け花に持ち込み自由に駆使した造形的作品は人々の注目をひき，前衛生け花というと草月流の代名詞のような観を呈し，池坊*(いけのぼう)・小原流*に並ぶ一大勢力に伸展した。展覧会，デパートのショーウインドー，舞台の装飾などにも進出して新しい活動分野を開拓し，また海外での活躍により生け花を国際的に普及させるなど，戦後における生け花界の発展に尽くした。➔生け花　〔大井ミノブ〕

ぞうげやし【象牙椰子】単子葉植物・ヤシ科。コロンビア・ベネズエラ・エクアドル原産の低木。幹は高さ1.8mほどで，しばしば横ばいになり，地面と接したところから発根する。葉は直立して4.5～6m，羽状複葉で裂片は約80対あり，上部は弓形に曲がる。雌雄異株。葉腋(ようえき)から2～3mの肉穂花序を横出する。雌花序は直立し，雌花は大きくて5～7cm。雄花序は下垂し，雄花は小さく，花被はない。花穂は革質の2枚の仏炎包に包まれる。果実は4～6個の核果の集まった黒かっ色の人頭大の連合果で，重さは11kgほど。胚乳(はいにゅう)は白色革質でかたく，植物象牙といわれ，着色も容易なので打ち抜いてボタンその他の細工物にする。オオゾウゲヤシは大形で，高さ10mに達し，前種と同様に植物象牙を採取する。〔横井朝子〕

そうげん【草原】降雨が少ないために多少の樹木は混じるが，主として草本・低木からなる植生をいう。地表面積の約20%を占めており，ステップ気候*のところに生じた大草原と，狭い範囲に生じた局地的草地とがある。大草原は，低緯度の熱帯雨林と中緯度の砂漠(さばく)との間を占めるサバナ(熱帯草原)，中緯度乾燥地のステップ(温帯草原)，やや雨の多いプレーリー(温帯草原)，亜寒帯のツンドラ(寒帯草原)に分けられる。ステップとプレーリーとは，前者がたけの短い草地をなすのに対し，後者はたけの高い草地をなすことなどに違いがある。ステップという名称は中央アジアの内陸草原のよび名で，これとほぼ同じ自然景観のものに南アメリカのパンパ，オーストラリアのダウニランド，南アフリカのベルトなどがある。草原は，近世まで焼き畑・遊牧といった粗放な土地利用がなされていたが，近年は開拓が進み，プレーリーは農業地帯となり，ステップは大牧場として利用されている。サバナは焼き畑がまだ行なわれているところも多いが，農業地域となっているところもある。ツンドラは開発が遅れ，トナカイの遊牧地となっている。局地的な草原では，アルプス山麓(さんろく)などにある高山草地，火山の裾野(すその)にある裾野草地，山地や低湿地に多い湿原などがある。草原の土壌(どじょう)は，一般に気温が高いため母材の分解も腐植の生成も十分に行なわれるため肥沃(ひよく)であり，黒色草原土や栗色(りっしょく)草原土が発達している。しかし，サバナの一部にはラテライト*化作用が行なわれることもある。〔桑原正見〕

そうげんどうぶつ【草原動物】ステップ・サバナ・プレーリーなどの大草原に生息している動物。草原は乾燥し，温度変化や空気の流動が大きいので，それに耐えるためにいろいろ適応して，地中に穴を掘ってすむ小形哺乳(ほにゅう)類，夜行動物，移動力の大きい大形動物が多い。特にアフリカの草原には大形哺乳類が発達しており，シマウマ・キリン・ゾウ・ヤギュウ・カモシカなどの草食動物，ライオン・トラ・ヒョウ・ジャッカル・ハイエナなどの肉食動物がいる。こん虫では直翅(ちょくし)目が多く，各種のワタリバッタはときどき大発生して群飛するので有名である。日本では大規模な草原は存在しないので，ウシ・ウマなどの家畜を除いては草原性の大形動物は生息していない。〔松本忠夫〕

そうこ【倉庫】商品を保管する施設をいい，他人の荷物を保管してその対価として保管料を受け取ることを専業とするものを倉庫業という。倉庫は，保管する商品の大きさ・重量・鮮度など，おのおのの商品の内容によって内部の構成も変えられるべきだが，問題は，そのスペースを最大限に活用できるような設計が，荷物置き場，搬入・搬出の通路，運搬車，荷物用リスト，さらには，そこで働く人間のことなども十分考慮に入れてなされなければならない。倉庫における保管は，通常，商品の生産と消費の間に存在する時間的食い違いを調整する行為といわれる。場所的距離の調整行為である交通としばしば対比されるが，保管も交通と同様に生産的行為であって，それによって時間的効用が生み出されると解されている。今日では，生産方法の進歩によって，消費に対して量的・時間的に調整することを可能にしており，商品の流通の過程において運送ないし流通の技術的理由から生ずる一時的な滞留を処理することに代わってきている。〔清水　晶〕

そうこ【巣湖】チャオ湖　中国，安徽(あんき)省中部の大湖。焦湖ともいう。揚子江北部の巣県の西に広がり，周囲約200km。四方から多くの河川が流入し，湖の南東部から運漕河(うんそうが)として流出し，東流して裕溪口(ゆうけいこう)で揚子江にはいる。沿岸は米作地帯で知られ，また湖上には風光美をもって知られる孤山・姥山(ぼさん)などの島島が点在する。湖の北岸を淮南(わいなん)鉄道が通過している。

そうごインダクタンス【相互インダクタンス】⇨相互誘導

そうこう【霜降】二十四気*の一。陽暦

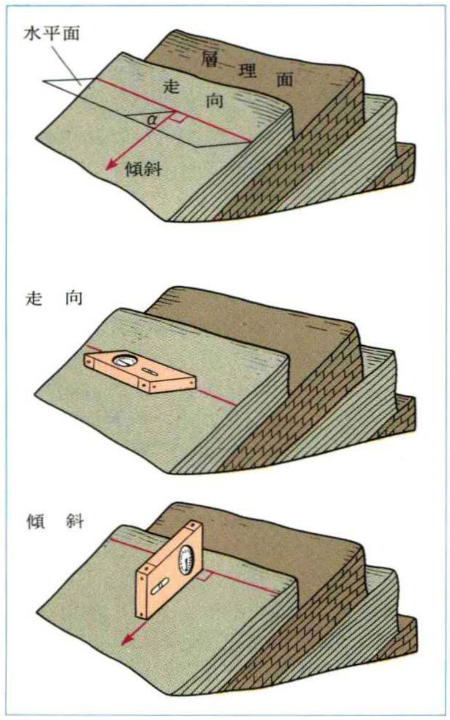
の10月23日ごろにあたる。太陽黄経は210°。このころ，北関東の平野部などでは文字どおり初霜がおりる。

そうこう【綜絖】織機の部品。たて糸を交互に上下させてよこ糸を通す杼道(ひどう)を開口させるための用具。たて糸1本ずつを通すひも・針金などを1本の棒またはわくに取り付けたもので，一度に必要なたて糸だけを引き上げる。あやとり具ともいう。

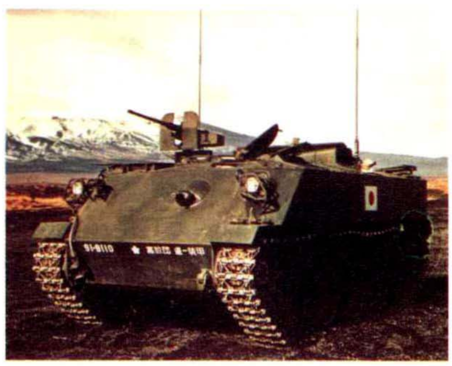
そうごう【僧綱】全国の僧尼を統轄してその規律をつかさどり，諸大寺を管理するために設けられた官職。僧官ともいう。中国では後秦(こうしん)の姚興(ようこう)が僧䂮(そうりゃく)を僧正に任じ，北魏(ほくぎ)の武帝が法果を沙門(しゃもん)に任じたのが最初で，わが国でもこれをまねた。最初に設置されたのは624年(推古32)で，僧正・僧都(そうず)・法頭が設けられたが，そののち僧正・僧都・律師の3官を設けて僧尼を統轄させた。819年(弘仁10)には僧正・大僧都・小僧都がそれぞれ1人，律師4人が定められた。864年(貞観6)，法印・法眼・法橋の僧位ができたが，これらをも僧綱とよんだ。僧正には大僧正・正僧正・権僧正の3階，僧都には大僧都・権大僧都・僧都・少僧都・権少僧都の5階，律師には大律師・正律師・権律師の3階があり，各宗によって多少の異同はあるが，だいたい一定している。このほか，無位とか伝燈入位・伝燈住位・伝燈満位・伝燈法印位・大法師位などの僧階のほか，法橋上人(しょうにん)位とか法眼和尚(かしょう)位・法師大和尚位などがある。〔玉山成元〕

そうごうかぜい【総合課税】一定期間内において，各人に帰属した所得または収益の総合を課税標準として課税する方法。所得税*や法人税*などに適用されている。特に所得税では，諸控除および累進税率の適用とともに，この総合課税をたてまえとすることにより各種所得を合算した総合所得の担税力に応じた適切な課税が，可能となる。しかし，現行所得税制のもとでも，その例外として，退職所得・山林所得・利子所得・配当所得などについては，分離課税*が認められている。〔西野義彦〕

そうこう・けいしゃ【走向・傾斜】ある地層・断層などの示す成層面や断層面と水平面との交線をその面の走向といい，成層面・断層面が水平面となす角度を下向きにはかったものをその面の傾斜という。したがって，走向を示す線と傾斜の方向の含まれる垂直面とは直交する。走向と傾斜をはかるにはいろいろな方法があるが，いちばん普通に用いられるのは，クリノメーター*を使う方法である。



走向・傾斜


装甲車　陸上自衛隊　60式装甲車(国産)　乗員10人　最高速度45km/時


曾国藩

そうこうしゃ【装甲車】車体のまわりに装甲を施した車両で，戦車のような強力な火器をもたない輸送運搬用の自動車両。第1次世界大戦中に実用化されたもので，歩兵の機動力を増し，物資を最前線に運搬する。近代の陸戦には重要な兵器。また内戦や植民地用に，小火器や放水銃を装備したものもある。

そうこうせい【走光性】⇒走性

そうこうてんぼく【双鉤塡墨】文字を写す方法の一種。文字の上に薄い紙を載せ，文字の輪郭を細い線で籠字*(かごじ)に写し，その中に墨を埋めて塗る。王羲之(おうぎし)の《喪乱帖*(そうらんじょう)》や《孔侍中帖》などの精巧な双鉤塡墨本は肉筆のように見える。

そうこうはくせん【爪甲白癬】爪白癬ともいう。つめに白癬菌が寄生したために起こる皮膚科疾患。汗疱*(かんぽう)状白癬に続発することが多い。つめは灰白色に濁って光沢を失い，厚くなる。また表面がでこぼこしてもろくなり，先端から欠けてくる。乾癬*やつめの周囲の湿疹(しっしん)などでも似た症状を呈することがあるので，白癬菌が証明されれば診断が確実になる。抗白癬剤の外用だけではなおりにくく，グリセオフルビン*などの内服が有効であるが，医師の指示を受ける必要がある。〔田嶋公子〕

そうごがいしゃ【相互会社】社員の相互保険*を行なうことを目的として保険業法に基づいて設立される特殊な社団法人*。会社と名がつくが，商法上の会社ではなく，もちろん商人でもない。相互会社の設立・運営などは保険業法に定められている。なお相互会社は，その名称中に必ず保険の種類と相互会社の文字を用いなければならないことになっている。

そうごぎんこう【相互銀行】1951年(昭和26)の相互銀行法に基づき設立された中小企業金融機関。戦前の庶民の金融機関であった無尽会社が改組されたもので，無尽*および相互掛け金業務を営む。無尽は一定の掛け金の払い込み者に対し抽選または入札の方法で，また相互掛け金はそれらの方法なしに希望者に対し融資(給付金)を行ない，以後分割返済させるものである。いずれも融資限度額などに法的規制が設けられているが，普通銀行と同様の預金・貸し出し業務も認められている。1971年末現在全国で71行ある。〔速水　保〕

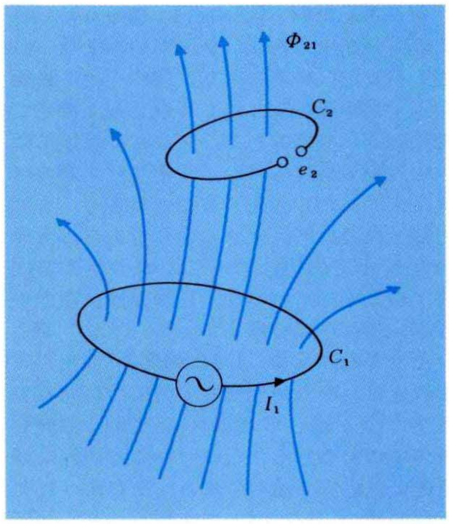
そうこくはん【曾国藩】(1811～1872)中国，清(しん)末の政治家・学者。湖南省の人。字(あざな)は伯涵(はくかん)，号は滌生(てきせい)，おくり名は文正。1838年の進士。1852年，太平天国*の進攻を受け，故郷で湘軍(しょうぐん)を編成し抗戦した。1860年両江総督に任ぜられ，太平軍政略に全力を注ぎ，1864年ついに南京(ナンキン)をおとしいれ，清朝の危機を救った。両江総督にとどまること10年，江南地方に確固たる地盤を築いた。李鴻章*(りこうしょう)とともに漢人官僚の代表であり，洋務運動*を推進した。学者としては桐城派(とうじょうは)古文・朱子学を学んだ。〔大谷敏夫〕

そうこしょうけん【倉庫証券】倉庫業者が，寄託者の請求により，寄託中の物品について発行する有価証券(倉荷証券・預証券・質入証券)の総称。倉庫業者は，寄託者の請求により，預証券および質入証券の2券を交付するのが原則である(商法598条)。しかし実際取引では，これら2券の発行に代えて倉荷証券*を発行するのが通例である。寄託者は，寄託物を移動させなくとも，この倉荷証券に裏書きすることによって，これを譲渡し，あるいは質入れすることがで

きる（商法603・627条）。〔松本治雄〕

そうごほけん【相互保険】2人以上の人が相互に保険を掛け合う保険。保険経営が収益を目的として行なう営利保険に対する非営利保険。現代では，相互保険は相互会社の形態においてはじめて実施が可能とされるが，この保険では保険に加入した者は同時に相互会社を構成する社員となって，会社の経営に参加しかつ経営に剰余が生ずれば配当を得ることになっている。逆に欠損が生じた場合には追加保険料の払い込みを請求される。〔庭田範秋〕

そうごゆうどう【相互誘導】二つの回路 C_1，C_2 があり，その一方 C_1 に I_1 なる電流が流れていて I_1 が時間によって変化するとき，C_1 から発生し C_2 を貫く磁束数も変化する。この磁束変化に伴って，C_2 に起電力の発生する現象を相互誘導という。C_1 に流れる電流 I_1 によって発生した磁束のうち，C_2 を貫く磁束数 ϕ_{21} は，$\phi_{21}=MI$（ウエーバー）である。電磁誘導*の法則によれば，C_2 を貫く磁束数が変化するとき，その回路に発生する誘導起電力は，$e_2=-d\phi_{21}/dt$（V）である。したがって，回路 C_2 に誘導起電力 $e_2=-MdI_1/dt$（V）が発生する。ここに M は，相互インダクタンス*または相互誘導係数といわれる定数で，回路 C_1 および C_2 の大きさ・寸法・形のみならず，両者の位置関係にも左右される値をもつ。〔堀内和夫〕



相互誘導

そうさ【捜査】起訴*手続きのまえに行なわれる犯人および証拠の発見・収集などを目的とする捜査機関の行為・活動。刑事訴訟法に規定される捜査機関とは，司法警察職員*・検察官*・検察事務官の三者である。捜査機関は現行犯・挙動不審者の発見，告訴*・告発*，請求，自首，被害届け出などを契機として捜査を開始する。捜査には任意捜査（被疑者などの取り調べなど）と強制捜査（逮捕・差し押え・捜索・検証など）があり，人権擁護の立場から前者が原則とされているが，特別の規定がある場合は後者も認められている（刑事訴訟法197条）。強制捜査が行なわれるためには，裁判官の発する令状が必要とされるが，現行犯逮捕およびその際の捜査は令状を必要としない。一定の手続きを経て捜査が終結すると，当該事件について検察官は起訴・不起訴を決定する。〔井上公耳〕

そうさい【相殺】債務者がその債権*者に対して自分もまた同種の債権を有する場合に，その相手方に対する意思表示により，債権と債務を対当額において相互に消滅させることをいう（民法505条）。たとえば，甲に対して50,000円の債務を負っている乙が，同時に甲に対して30,000円の債権を有する場合，乙より甲に対する意思表示によって，乙の債権30,000円を消滅させるとともに，差し引き甲の債権を20,000円に減ずることなどである。また，このような制度の認められている理由は，双方から別々に債権を取り立て，債務を弁済するという不便を省くとともに，一方の資産状態が悪化した場合に，双方が別々に履行することから生ずる不公平を除去しようとする点にあり，経済取引上重要な意義を有する。相殺の成立要件は，第1に双方の債権が相殺適状にあることである。相殺適状にあるとは，相殺する側の債権（自働債権）と相殺される側の債権（受働債権）が対立して存すること（自働債権が時効*で消滅しても，それ以前に両債権が同時に存在していればさしつかえない），両債権が同種の内容を有すること，両債権が弁済期にあること（受働債権は弁済期に達していなくとも，相殺する者が弁済期以前に支払う意思があればさしつかえない），債権の性質が相殺を許すものであること等々の要件を満たしていることをいう。第2に当事者の意思表示，または法律による相殺の禁止がないことである。ただし，当事者の意思表示による相殺の禁止は，これをもって善意の第三者（たとえば，債権の譲受人）に対抗することができない。また，法律により相殺禁止となる債権とは，受働債権については不法行為*による損害賠償請求権，差し押え禁止の債権であり，自働債権については支払いの差し止めを受けた第三債務者が，その後取得した債権・抗弁権の付着した債権などである。相殺の方法は相手方に対する意思表示によって決まるが，裁判上であっても裁判外であってもこれをなすことができる。ただし，相殺の意思表示には条件または期限をつけることができない（民法506条1項）。相殺の効果としては，両当事者の債権はその対当額において消滅することであるが，その効力は相殺適状のときにさかのぼって生ずる（民法506条2項）。また両債権の履行地が異なる場合になした相殺については，相殺をなした当事者の一方から相手方へ履行地において履行されなかったことから生じた損害について賠償しなければならない（民法507条）。なお，相殺の相手方が数個の債権をもつ場合，どの債権からさきに充当するかの問題も生ずるが，これには弁済の充当に関する規定（民法488～491条）が準用される（民法512条）。〔黒木三郎〕

そうさいせいふ【総裁政府】フランス革命末期（1795～1799）の共和制の政府。五人の総裁からなる政府，制限選挙による五百人会と元老会との二院制の立法府をその中核とする。テルミドールの反動*のあとを受けて，有産市民の社会的安定の実現をめざした。しかし，王党派・共産主義者の反乱など，左右両派からの攻勢を受けて動揺し，しかも，1798年のヨーロッパ列国の第2回対フランス大同盟に対処する力がなかった。このため，1799年，エジプト遠征から帰国したナポレオンが，ブリュメール18日*のクーデターでこれを倒し，10年に及んだフランス革命もここに終わった。〔大野慎一郎〕

そうさく【捜索】裁判所（ときには裁判官）または捜査機関（検察官・警察官）が，押収すべき物や，逮捕・勾留（こうりゅう）・勾引すべき者を発見するため，人の身体・物・建造物そのほか一定の場所について，強制的に行なわれる処分のこと（刑事訴訟法102条）。原則として，捜索状が必要（逮捕の現場において行なう捜索には不要）である（憲法35条，刑事訴訟法106条）。家宅捜索については立会人を要し，女子の身体捜索には成人の女子の立ち会いを要するなどの制限がある。〔井上公耳〕

そうさしゅぎ【操作主義】科学上の概念は，それに対応する具体的な操作によって定義づけられるとする科学方法論。アメリカの物理学者ブリッジマンが主唱した。たとえば〈長さ〉という概念は，実際にものさしをあててはかるという操作（器具的操作）と同じ意味であり，このような操作を離れては概念は意味をもたないとするものである。この考えは，経験的操作によって決定できない抽象的概念を科学から排斥するもので，それだけに厳密な経験論の立場に立つといえるが，多くの抽象的・理論的なものをその中に含む科学を全体として説明できないとされている。なお，この操作主義の考えは，心理学において発展し，客観的に観察・記述できるもののみを研究の対象としようとする行動主義の立場と結びついて，一つの方法論上の立場となっている。〔寺中平治〕

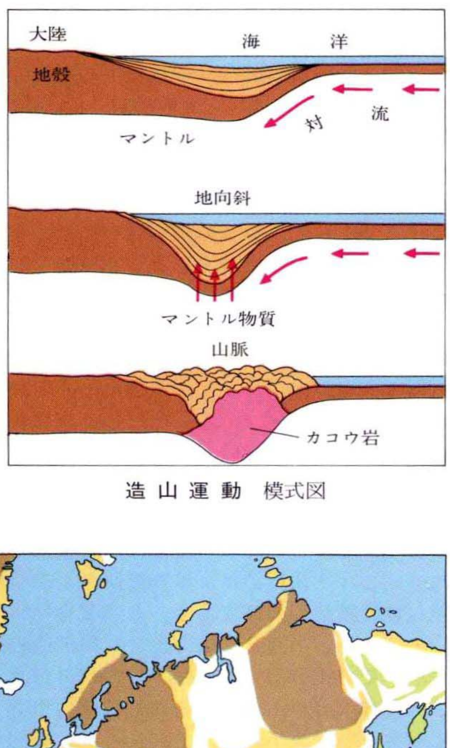
そうざん【早産】妊娠第29週から第38週までの間に妊娠が中絶する場合をいう。すなわち，妊娠8か月初めから10か月半ばまでの分娩（ぶんべん）である。生まれた子は早産児で，妊娠時期の早いほど未熟児となる。原因としては胎児の発育障害や奇形・前置胎盤・双胎・妊娠中毒症・子宮奇形・子宮筋腫（きんしゅ）・子宮頸管（けいかん）裂傷・子宮頸管無力症・梅毒・母児血液型不適合などが

ある。ほかに妊娠末期の過重な労働や過激な運動も原因となる。早産の徴候としては，子宮出血および下腹痛・腰痛があり，出産の経過は正常分娩とほぼ同様である。何度もくり返して起こる早産を習慣性早産という。〔木川源則〕

ぞうざんうんどう 【造山運動】 もともとは，褶曲(しゅうきょく)・断層により山をつくるような地殻(ちかく)の運動を意味していた。しかし，このような地殻の運動は，先行する諸現象の結果であることがわかってきた。現在では，最終的に山脈を形成するに至る一連の過程をさす。マントルの対流により，マントル上部や地殻が引っ張られ，大陸の前面の海の部分にくぼみができる。大陸から運ばれた物質がこのくぼみを埋めていくが，堆積(たいせき)が進む一方から，くぼみが深くなっていくため，ついには10,000mを越える厚い堆積物ができる。このような地域が地向斜*である。引っ張りが続くと，地向斜堆積物の底はマントルの中へはいりこみ，堆積物は激しく褶曲し，断層を生じる。一方，マントルからいろいろな物質が上昇して堆積物中にはいり，堆積物は変成作用*を受け，カコウ岩も形成される。こうしてカコウ岩と変成岩からなる厚い地殻ができる。これが造山運動の最盛期である。カコウ岩や変成岩はマントルの物質より密度が小さいので，自然に浮き上がる傾向をもつ。対流がやみ，引っ張る力がなくなると，地向斜はこんどは浮き上がりはじめる。ある程度浮き上がると，つりあって隆起が止まる。この隆起の結果，地向斜の表面は高まり，山になる。造山運動はこのような一連の大陸地殻形成過程で，地質時代を通じて幾度もくり返し起こっている。アルプス・ヒマラヤ・コルディリェラ・アンデスなど，現在見られる大山脈は，中生代から第三紀にかけての造山運動により形成されたものである。〔堀福太郎〕

ぞうざんたい 【造山帯】 褶曲(しゅうきょく)山脈*の分布する地域。造山帯は地殻(ちかく)の最も不安定な場所であり，褶曲作用・断層作用・地塊運動などがくり返し強く働いて地質構造は複雑である。またこの地帯には火山活動や地震も多い。安定した大陸のへりに大洋に面して生ずることが多く，また大陸と大陸の間に生ずる場合もある。世界の大きな造山帯はアルプス-ヒマラヤ造山帯・環太平洋造山帯*で，日本列島は環太平洋造山帯の中に位置する。〔平山 健〕

ぞうざんりんね 【造山輪廻】 地向斜*が形成され，それが発展して造山帯*が完成するまでの一続きの地殻(ちかく)変動。地層やその中に含まれる化石についての研究は19世紀にはいって著しく進み，それにつれて地質時代の研究も進んで山脈をつくる地域の年代的調査も始められた。19世紀末にベルトランはヨーロッパ大陸で先カンブリア時代・古生代前半・古生代後半・中生代-新生代の四つの時代に生じた褶曲(しゅうきょく)山脈地域のあることを発表し，20世紀前半にシュテイレが，それらの地殻変動のおのおのを造山輪廻という名で表わした。〔平山 健〕



造山運動 模式図

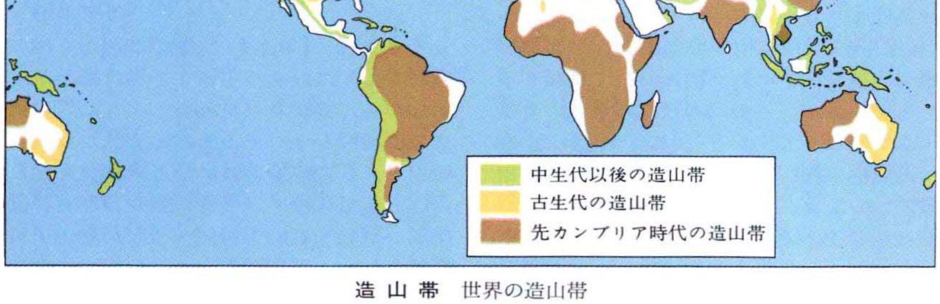
そうし 【繰糸】 ⇨製糸

そうし 【草紙】 手習い用の半紙をとじたもの。江戸時代以来，昭和の初期までは学童に用いられたが，現在は用いられなくなった。紙が少なくて貴重で高価なものであった時代には，一度書いた上に重ねて書き，一面まっ黒になるまで用いたこともある。

そうし 【壮士】 自由民権運動*に伴って発生した青年運動家。彼らは志を立てて政治運動に身を投じ，つねに政党政治家のもとに出入りしたり書生として寄食して，その身辺の護衛にあたった。また，党の遊説活動や示威運動には官憲の弾圧に対する闘士となった。筒袖姿(つつそですがた)で袴(はかま)をつけ，太いステッキを携えて高吟闊歩(かっぽ)して，世に壮士と称された。国会開設後はもっぱら院外活動に従った(→院外団)。なお，自由党員角藤定憲(すどうさだのり)らが興した壮士芝居*はのちの新派となった。〔高橋徳次〕

そうし 【曾子】 (BC505～?) 〈孔門の十哲*〉のひとり。名は参(しん)，字(あざな)は子輿(しよ)。中国山東省の生まれ。孔子の〈仁〉の教えを心情の方向に強調し，(それは孔子の孫の子思*から孟子*(もうし)へと継承発展されたが)彼はそれを〈孝*〉の1字に集約したといわれる。彼の名のもとに《孝経*》のほかに《大戴礼記(だたいらいき)》中のいわゆる《曾子》10編が残っているが，家族主義道徳の基本心情である孝を，社会秩序だけでなく宇宙秩序の本体論的原理にまで観念化した思想をもっている。なお，曾子の名のもとに《大学*》が伝えられている。〔西 順蔵〕

そうし 【荘子】 紀元前4世紀後半老子*とともに道家を代表する中国古代の思想家。中国，戦国時代，孟子(もうし)にやや遅れるころの人といわれ，老子の流れをくむものとして〈老荘〉と並称される。名は周。宋(そう)(河南省)の人で，そこの蒙(もう)という町の役人であったというが，隠者のこととて経歴は不明。彼および彼の影響下に生まれた思想論集が《荘子(そうじ)》で，現本は33編。内・外・雑の3編に編成されており，最初の《逍遥遊(しょうようゆう)》《斉物論(せいぶつろん)》の2編は有名でもあり，またこの書全体の思想の基調をなしてもいる。全編に奇語・寓言(ぐうげん)が満ちて警抜であり，後世愛読されたが，その思想はある意味で沈痛なものがある。すなわち荘子は，一般に社会とか文明の発展といわれるものを人間の自然破壊としてとらえ，これを自然的人間の名において告発し，〈人が天を損傷する〉とする。そしてさらに，その〈人〉つまり社会・文明の発展とは，私有制の発展から起こる権力秩序支配の深化のことであり，その根源は人間の欲(私有欲)とそれの主張の手段としての知，まとめていえば〈是非〉の争いである，とする。しかし彼によれば，是非は個



造山帯 世界の造山帯

人または個別集団の自己主張にほかならず，そして個は存在しているが，その自己主張は虚妄(きょもう)であるにすぎない。この虚妄が主張されるから，個の苦悩，集団の混乱が起こる，というのである。〔西　順蔵〕

そうし　【宗氏】 鎌倉時代以来，対馬*(つしま)を統治した豪族。少弐氏の守護代として渡島した。文永・弘安(こうあん)の役*のとき助国(すけくに)・盛明(もりあき)父子が戦死したが，このときを契機として島に勢力を扶植した。室町時代には朝鮮との貿易を独占し，一時筑前(ちくぜん)(福岡県)の守護代として応永の外寇*(がいこう)を退けるなどに活躍した。1592年(文禄1)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の朝鮮出兵にも参加。江戸時代には朝鮮使節の接待役として十万石の格式をもつ待遇を受けた。明治維新後伯爵に列せられた。

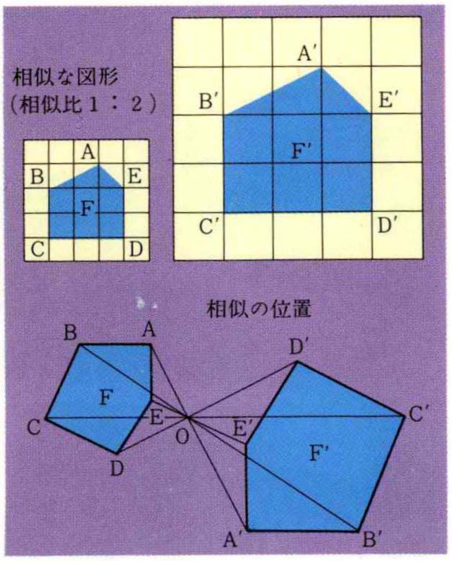
〔鹿野賀代子〕

そうじ　【相似】 異種の動物・植物で，もとはまったく別なものであるが，同じ機能をもつために形態的に類似の構造をとるようになったものをいい，相同*に対する。たとえば，鳥の翼とこん虫の翅(はね)は同様に飛ぶ目的をもつため，よく似た形をしているが，その根源は違う。また，サツマイモとジャガイモは同様ないもをもつが，サツマイモのいもは塊根といわれる根が変わったもので，ジャガイモでは塊茎といわれる地下茎の一部が肥大生長したものである。

そうじ　【相似】 ある図形Ｆを，どの向きにも同じ割合で拡大または縮小してできる図形Ｆ′を，Ｆと相似な図形といい，Ｆ′∽Ｆと表わす。相似な二つの図形では対応する線分の長さの比はつねに一定で，これを相似比という。図形Ｆ，Ｆ′が相似なとき，その一方を適当に移動すれば，対応する２点Ｐ，Ｐ′を結ぶ直線がすべて１点Ｏで交わり，線分ＰＰ′がすべてＯによって同じ比(相似比)に分けられるようになる。Ｆ，Ｆ′がこのような位置に置かれたとき，それらは相似の位置にあるといい，Ｏを相似の中心という。相似比が $m：n$ である二つの図形では面積の比は $m^2：n^2$(平面図形の場合)であり，体積の比は $m^3：n^3$ である(立体図形の場合)。また，相似比が１であるとき，二つの図形は合同*になる。〔菊池兵一〕

ぞうし　【増資】 企業設立後の追加的自己資本調達のこと。おもに経営規模の拡張のために行なう。株式会社の場合には，増資は新株式の発行により行なわれる。株式会社は今日いわゆる授権資本制度*が採用されているため，授権資本のわく内であれば，取締役会の決定によりいつでも新株式の発行ができる。増資の方法には，①株主割り当て，②第三者(役員・従業員・他企業など)割り当て，③公募の三つがある。➔新株引受権　〔森川八洲男〕

そうしあらいこまち　【草子洗小町】 能の曲名。作者不明。三番目物。単に《草子洗》ともいう。六歌仙*(ろっかせん)に関する伝説をもとにつくられた。内裏の御歌合(おうたあわせ)の前夜，大伴黒主*(おおとものくろぬし)は小野小町*(おののこまち)の家に忍び入り，小町のつくる歌を盗み聞く。翌日，歌合*の席に，黒主はあらかじめ墨で昨夜の歌を書き込んだ万葉集の草紙をもって出て，小町が古歌を盗んだと申し立てて，歌合に勝とうとする。小町はこの草紙を見て驚くが，帝(みかど)に願ってこれを水で洗うと，書き入れの部分はすべて流れ落ちて黒主の悪計が現われる。黒主はこれを恥じて死のうとするが，小町がとりなして帝のおことばがあり，黒主は許される。小町は和解を祝って中之舞(ちゅうのまい)を舞う。シテは小町，ワキは黒主，ほかに歌合の席では，帝を子方が，紀貫之(きのつらゆき)以下の男女歌人をシテツレがつとめる。また黒主の従者を狂言方がつとめる。



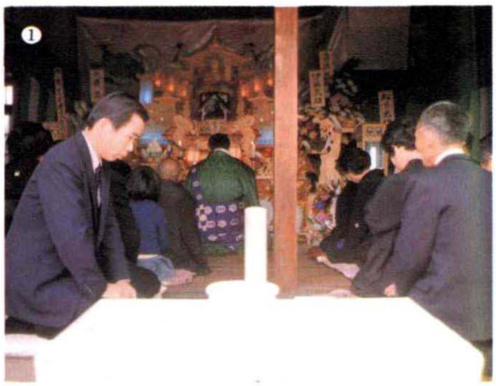
相　似

ぞうしかん　【造士館】 江戸時代の藩校*。同名の藩校が３藩にあるが，特に薩摩(さつま)藩*のものが有名。1773年(安永２)藩主島津重豪(しげひで)が士風振興のため昌平黌(しょうへいこう)になぞらえて聖堂を創設し，1786年(天明６)造士館と名づけた。また，隣に武芸習練のための演武館を設けた。生徒は士卒の子弟にかぎり，儒学*を中心として和学・習字を教えた。1855年(安政２)藩主斉彬(なりあきら)は詩文偏重を改め，国学・洋学*を取り入れて教育の刷新を行なった。1864年(元治１)陸海軍の兵術を教える開成所を設け，1868年(明治１)造士館に合併し，さらに和学局を置き，館内を和学(のち国学)・漢学・洋学の３局に分けた。1871年本学校を改称。学制改革後，県立中学校造士館・第七高等学校造士館とその名を伝承し，1950年(昭和25)鹿児島大学に統合された。なお同名の藩校は，上野(こうずけ)(群馬県)安中藩(文化年間，藩主板倉勝尚(かつなお)創建)・摂津三田藩(1694年藩主九鬼副隆(そえたか)創建)にもあった。〔岡山泰四〕

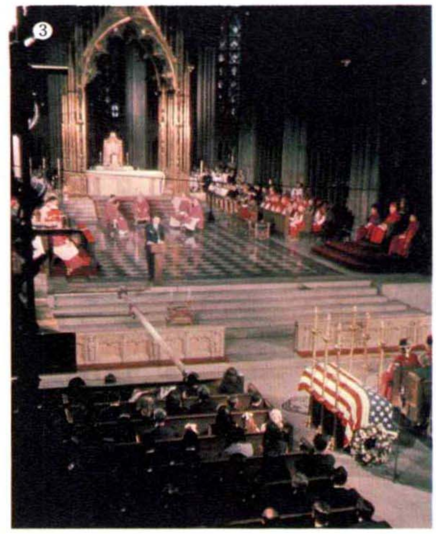
そうしき　【葬式】 死者を葬る儀式。人間の一生において行なわれる通過儀礼*の最終段階の儀式であり，宗教的観念にささえられている面が強く，各宗教ごとにそのやり方は相違する。また民族によっても，葬制*とともに儀式は異なる。今日日本で行なわれている葬式のおもなものに仏式・神式・キリスト教式があるが，最近では宗教にとらわれない葬儀も行なわれはじめている。

【仏式葬】 遺体は両手を胸の上に組ませて北向き(北枕(きたまくら))に寝かせ，その上に薄いふとんを掛ける。顔は白布でおおい，魔よけの小刀を胸の上に置き，枕もとにはろうそく・線香を立て(枕飾り)，屏風(びょうぶ)を逆にした〈さかさ屏風〉を巡らし，水や山盛りの一ぜん飯にはしを立てたもの(枕飯)も供えたりする。晩に僧侶(そうりょ)が来て枕経をあげ，戒名をつける。納棺は翌日行なわれることが多いが，そのまえにたらいの湯で遺体を洗い清める儀式(湯灌(ゆかん))がある。これは，今日では形式的となり，湯やアルコールで死体の一部を形ばかりぬぐうことですます例が多い。古くは，死者の装束として経帷子*(きょうかたびら)をまとわせ，髪をそって僧尼の旅姿に似せることが行なわれていたが，現在では生前に故人が好んだ衣服を着せることが多い。遺体を納める棺は寝棺と座棺があり，近年は手足を曲げた屈身体の座棺より寝棺のほうが多くなってきている。納棺後の夜は通夜*で，僧侶が読経(どきょう)し，参会者が焼香して死者の冥福(めいふく)を祈る。通夜は遺族が静かに喪に服し，夜を明かすのが本来であったが，現在では親族・知人・近隣を招いての一種の酒宴の席と化し，１晩じゅう行なうこともなくなってきた。また，死者を出した家には穢(けが)れがあるとし，そこの火で煮たきしたものを忌む風習があり，通夜や葬儀の料理は臨時の台所設備をこしらえたり，近隣で調理したりして別火にする土地もみられる。仏式葬の料理はもとは精進料理*に限られていたが，これもしだいにくずれてきた。葬儀はふつう通夜の翌日に行なう。葬儀をあげる場所は自宅・寺院・斎場のいずれかである。僧侶の読経，会葬者の弔詞朗読のあと，僧侶・喪主・近親者・一般会葬者の順で焼香する。その後棺は祭壇からおろされ，棺のふたをとって遺族と最後の対面をする。それがすむと，近親者や知人は棺のふたの釘(くぎ)を小石で２回ずつ打つ(釘打ち)。葬場での儀式が終わると，土葬の場合はすぐ墓へ運び，埋葬を行なう。土葬は火葬よりも全国的に広く行なわれていたが，現代では火葬のほうが普及している。火葬の場合，近親者は火葬場まで柩(ひつぎ)を送って焼き，遺骨を骨壺(こつつぼ)に納めて帰宅する。遺骨はいったん自宅の仏檀や寺院に安置し，墓地には49日の〈中陰*明け〉を待って埋葬する。

【神式葬】 源流は仏教伝来以前の葬法にさかのぼることができるが，今日では仏式葬と影響し合い，類似な点も多い。神式葬は











葬　式　①仏式：僧侶によって読経・引導が渡される　②神式：喪主以下の玉串奉奠　③キリスト教式：故人の略歴を紹介し，式辞を述べる(故ケネディ大統領葬)　④棺を入れた輿をかついで墓地に向かう葬列(韓国)　⑤故人に最後の別れをする遺族(チェコスロバキア)

明治初期の廃仏毀釈*(きしゃく)の動きに乗って流行のきざしをみせたが，神道(しんとう)は死の穢れを忌む観念が強いところから1882年(明治15)に神官が葬儀に携わることを禁止する通達が出された。しかし，その後しだいに神式葬の執行は神道各派に任されるようになった。神式葬では遺体を東首南面させ，神棚(かみだな)に死亡を奉告し，死者の霊を御霊代(みたましろ)に移す遷霊祭を行なう。戒名はつけず，神となるための命(みこと)の号を与える。通夜のあと葬儀が行なわれるが，葬祭場には忌み竹を立て，祭壇にはサカキを供える。神官は祓(はら)えに始まって献饌(けんせん)・奉幣して祭詞を奉ずる。喪主・近親者・一般参列者は玉串*(たまぐし)をささげる。供物は神祭りと同じように山海の産物をささげ，仏教とは異なり生臭物は必ずしも禁じない。また神道では死の穢れを忌む風習が強く，この観念は仏式葬にもかなり影響を与えており，日本の葬式の根本的性格をなすものといってよい。葬法は仏式同様に土葬と火葬がある。

〔キリスト教式葬〕棺は寝棺を用い，死者の手を十字に組ませる。棺は教会に運ばれ，普通は牧師・司祭の司会のもとで行なう。プロテスタントでは，聖書朗読・祈り・賛美歌合唱ののちに故人の経歴が紹介され，式辞が述べられる。その後賛美歌合唱・弔詞朗読と遺族代表のあいさつがあって葬儀が終わり，告別式に移る。土葬もあるが，火葬も認められている。カトリックでは復活の思想に基づいて行なわれ，一般に火葬は認められていない。

〔葬礼の民俗〕民間の信仰では死の状態になってからも死後の世界への移行は長い時間を経過するものと考えられていた。日本各地で，臨終に際して枕もとや屋根の上などで大きな叫び声をあげる魂呼び*の風習があるが，これは肉体が息絶えたため遊離した魂を呼びもどそうとする手段にほかならない。魂は肉体から遊離しやすいもので，死はその魂が身体から遊離して再び肉体に返ることがないとわかってはじめて確認されたのである。死者の枕もとに〈枕飯〉〈枕だんご〉などを供える風習は一般的である。また，枕もとや遺体の上に小刀を置いて悪霊を防ごうとすることも行なわれる。部落・近親者への死亡通知の方法は習慣的に定まっていて，ふたり一組みで行くのが多く，また昼でもちょうちんをさげて行く習慣もある。死とは穢れを伴うもので，近親者は穢れの状態に陥ると考えられてきた。それを〈ぶく〉〈黒不浄〉〈しいみ〉などといい，葬家は世間との交換を一定期間控え，神社に参拝することも忌み，自家の神棚を白紙でおおうことが全国的に行なわれている。穢れの中心となるのはとりわけ火と食物である。葬家の火は穢れているため，近親者以外は平常のかまどとは別に屋外に臨時のかまどをつくり，それで調理する土地も多い。通夜は，地方によって夜伽(よとぎ)・仏まぶり・添い寝などとよばれ，死者と最後の夜を送り，共食するのが本義と考えられていた。出棺に際して，地方によっては門口でわら火をたいたり，茶わんを割るなどの風習があり，また，前庭で棺を3回かついで回ってから出ていくこともみられるが，これらは死霊がもどるのを防ぐための呪法(じゅほう)であろう。葬儀で最も重用な行事は〈野べ送り*〉といわれる墓場まで死体を運ぶ葬列である。埋葬地では読経ののち，土饅頭(どまんじゅう)の上に青竹を組んだり，目籠(めかご)を伏せることが行なわれる。埋葬後の帰路では後ろを見ることが禁忌とされ，帰宅すると塩で身を清めることが一般的に行なわれている。地方によっては埋葬の翌日に願もどし*の行事が行なわれる。古代の文献には埋葬後の一定期間は喪屋・霊屋(たまや)・殯宮(もがりのみや)などとよばれる特別な建物で遺体とともに忌籠(いごもり)する風俗が記されているが，現在ではほとんどがすたれ，奄美(あまみ)諸島・伊豆(いず)諸島の霊屋・喪屋の名でよばれる墓をおおって建てられた屋形にわずかに古い習慣をしのばせている。〔山路勝彦〕

そうしき【雑色】　律令(りつりょう)制官僚組織で末端に位する階層。白丁すなわち一般人民よりは上位，官人よりは下位の者。ただし，狭義には，①品部(ともべ)・雑戸(ざっこ)，②伴部(とものみやつこ・ともべ)・使部(つかいべ・しぶ)，③院・御所に仕え雑役に従う者，④地方国郡の下級役人，⑤蔵人所(くろうどどころ)の下級職，⑥鎌倉・室町両幕府の番衆の下役人，⑦江戸時代の京都所司代の下級役人，⑧工匠，⑨地方豪族で中央の王臣家に仕える者，などをさす場合があり，特に中世以降は，⑨の用例から転じて私的な従者の意味に多く用いられた。〔黛　弘道〕

そうじきょくせん【走時曲線】　震央からの距離と地震波の到着時刻との関係をグラフにしたもの。地震波は地球の内部を通って遠隔地に達するので，その記録を分析すれば地球内部の構造がわかる。遠い地震

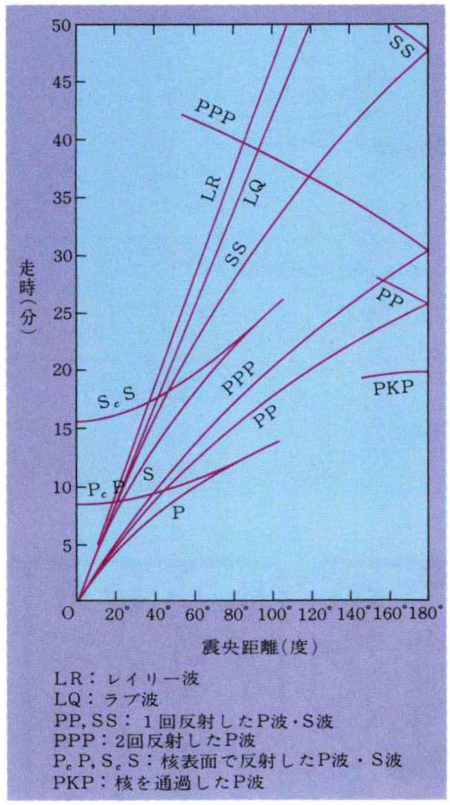
の地震波の記録を見ると振動のようすがときどき急変化するが，これは異なった経路を進んできた地震波が到達したことを示すものであり，震源から直接に到着したＰ波・Ｓ波のほかに地球表面で反射してきたと思われる波も認められる。地球の表面で１回反射したＰ波・Ｓ波を，それぞれPP波・SS波という。２回反射したものはPPP・SSSと書く。走時曲線は，Ｐ波・Ｓ波のほかにPP・PPP・……の地震波についてもつくることができる。〔相原正彦〕

そうじじ【総持寺】横浜市鶴見(つるみ)区にある曹洞宗(そうとうしゅう)大本山。山号は諸岳山。天平(てんぴょう)年間(729～748)行基(ぎょうき)の開基と伝える。はじめ諸岳寺観音堂といったが，1321年(元亨１)住持定賢(じょうけん)が瑩山紹瑾(けいざんじょうきん)に帰依し，同寺を紹瑾に譲って以後，曹洞宗総持寺とした。瑩山の弟子(でし)峨山韶碩(がざんじょうせき)により寺基が固められ，さらに韶碩門下の五哲(大源・通幻・無端・大徹・実峰)がそれぞれ本山中に５支院を開き寺運盛んとなった。1898年(明治31)焼失するに及んで1911年石川県鳳至(ふげし)郡門前町から現在地に移され，旧地には別院が置かれた。1540年(天文９)以来越前(えちぜん)(福井県)の永平寺と本寺・末寺についての紛争がくり返されたので，徳川家康(いえやす)は1615年(元和１)両寺をともに本山とした。〔杉坂靖子〕

そうししばい【壮士芝居】日本演劇*の一。書生芝居にほぼ同じ。明治初年以来の自由民権運動*が保安条例(1887)によって禁圧されると，自由党壮士たちは思想鼓吹の場を演劇や演(艶)歌に見いだした。まず《東雲(しののめ)新聞》記者角藤定憲*(すどうさだのり)は中江兆民*の勧めにより，1888年(明治21)12月大阪新町座で大日本壮士改良演劇会の旗をあげ，自作の政治小説を脚色した素人(しろうと)芝居によって大評判を得た。これに刺激を受けた同じ自由党壮士の川上音二郎*は，1891年２月堺(さかい)で書生芝居の旗をあげ，６月には東京に進出，幕あいに歌われる《オッペケペ節*》とともに一世を風靡(ふうび)した。ともに歌舞伎(かぶき)に対抗する改良演劇の旗じるしを掲げていたが，その後政治性が薄れて演劇的に完備されて，今日の新派劇となった。➔新派〔大島　勉〕

そうしじゅ【相思樹】双子葉植物・マメ科。タイワンアカシアともよばれるフィリピン原産の常緑高木。高さ10ｍほどになる。葉は，単葉のように見える扁平(へんぺい)な葉柄があり，長さ10cm余りで，５本の脈がある。花は黄色で５月ごろ，直径１cm前後の球状に咲き，長さ10cmほどの豆果が実る。並み木やいけがきに用いられる。樹皮はタンニンを多く含み，タンニン原料とされる。➔アカシア

そうしちょう【相思鳥】鳥類・チメドリ科。中国西南部からインド方面にかけて分布する鳥で，イギリス名をペキン-ナイチンゲールとよぶが，ナイチンゲール*の仲間ではない。ソウシチョウの和名は，雌雄の仲がよく，他鳥と争うことがないおとなしい性質から名づけられた。翼長７cmほど。背面は暗緑色，胸腹部は黄色をおび，尾は黒色，くちばしは紅色。飼育は竹かご・庭箱でもよいが，観賞には禽舎(きんしゃ)が最適。多数輸入されるため巣引きを試みる人は少ないが，飼いこんだものは繁殖可能といわれる。以前はすり餌(え)でないと飼えないといわれたが，最近アワを主体とする粒餌で飼えることが確かめられた。〔石島芳郎〕



走時曲線　浅い地震の走時曲線



総持寺　本堂

そうしぶん【宋子文】ソンツーウェン(1891～1971)中国の政治家。上海(シャンハイ)出身。宋慶齢(そうけいれい)の弟，宋美齢の兄にあたる。アメリカのハーバード大学卒業。1928年，南京(ナンキン)の国民政府行政院副院長と財政部長を兼ね，1930年には中国中央銀行総裁に就任したのをはじめ，蔣介石(しょうかいせき)政権の下で政・財界の実力者の地位にあった。蔣介石の台湾移動には同行せず，アメリカに渡った。

そうしもん【宋之問】(？～710？)中国，唐代の詩人。沈佺期(しんぜんき)とともに沈宋と並び称せられた。宮廷詩人で，権臣にこび，賄賂(わいろ)をとるなどの行為があった。詩の形式上，六朝(りくちょう)以来の経験を継承して律詩を完成させた。《宋之問集》がある。

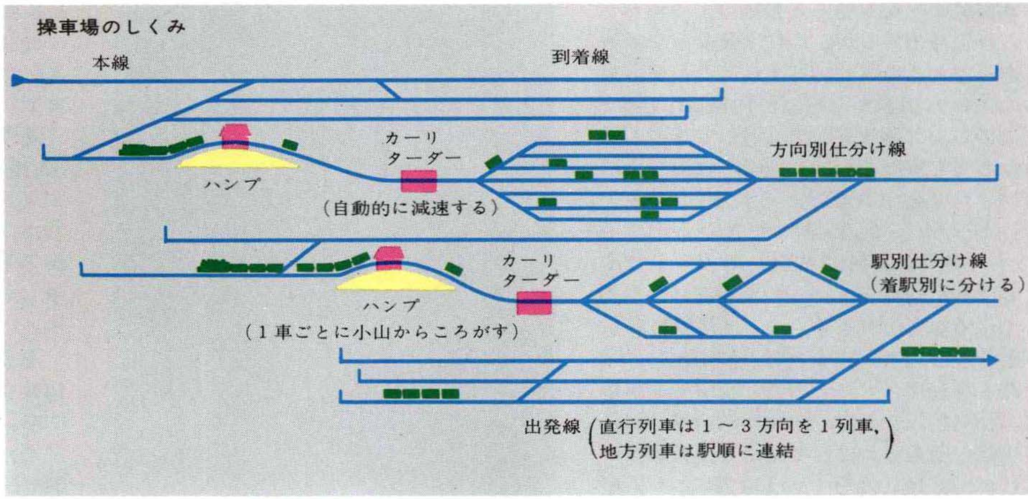
そうしゃ【総社】惣社とも書く。各所に散在する神社の祭神の分霊をある１か所に招いて祭った神社をさす。一般には，たとえば武蔵(むさし)(東京都)では府中の大国魂神社というように一国の総社をさしていうが，一郡・一郷の総社，寺院の総社，私人宅の総社などの例もある。諸国の総社の起源に関しては諸説があるが，国司が管内の諸社巡拝に便宜を得るため，国庁に近い場所を選び総社を建立(こんりゅう)したという説が有力である。〔土岐昌訓〕

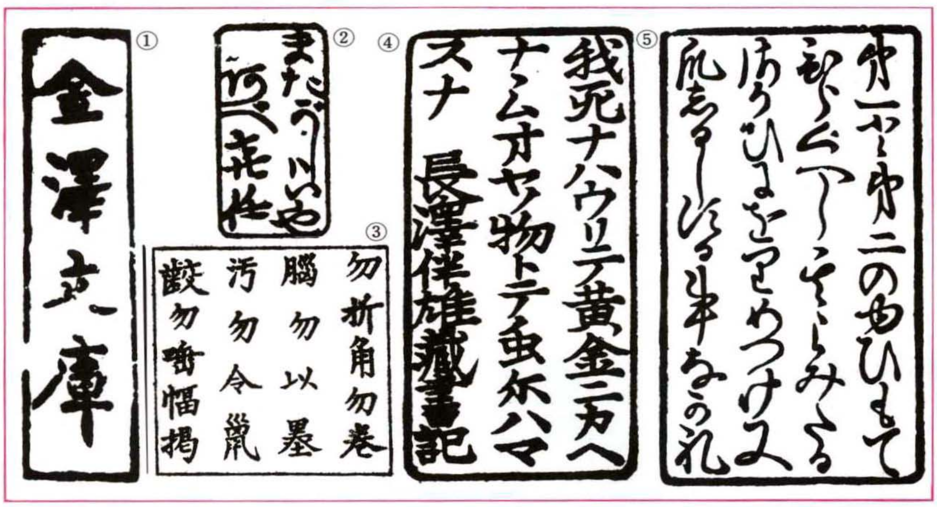
そうじゃ【総社】群馬県前橋市の西部地区。もと群馬郡の総社町・元総社村を含む地域で，1954年(昭和29)前橋市に編入された。利根(とね)川西岸に沿い，榛名(はるな)山の東のすそ野に位置する細長い集落で，古くから東山道に沿う上代文化の中心地として開け，中世末から江戸初期まで総社城があった。二子山古墳・上野(こうづけ)国分寺跡は史跡に指定されている。農業が主業で，農家の副業として発達したこけしづくりは，最近は工場で大量生産され，全国の観光地へ移出される。上越線の群馬総社駅がある。

そうじゃ【総社(市)】岡山県中南部の市。人口49,000。古くは備中(びっちゅう)の国府・国分寺が置かれて吉備(きび)文化の発祥地となり，備中の総社の門前町として発達し，江戸時代には〈備中売薬〉と阿曾(あそ)鋳物の産地として知られた。1954年(昭和29)市制施行。北半部はカコウ岩からなる吉備高原に属し，高梁(たかはし)川が蛇行(だこう)しながら南流する。南半部には平坦(へいたん)な沖積(ちゅうせき)平野が開ける。産業三大別人口比は20：39：41。岡山平野の主要農業地帯で，水田の裏作にイグサをつくり，近郊野菜の栽培や養鶏も盛んで，丘陵部ではカキ(富有)・ブドウ・モモなど，高原部ではタバコ・マツタケが栽培される。岡山県南新産業都市に編入され，ユニチカなどの紡績・織物の大工場があり，最近自動車部品を製造する三菱(みつびし)重工の水島機械工業団地が進出した。伝統的な製薬業・鋳物業も盛んである。伯備線・吉備線の分岐点にあたり，また西方の井原市を経て広島県神辺(かんなべ)町へ通ずる井原線が建設中である。国道180号線をはじめとする道路交通も発達して，岡山市・倉敷市など周辺各都市へバス路線が通ずる。



操 車 場　新鶴見操車場(神奈川県)編成作業が自動化された代表的な大操車場





蔵 書 印　①金沢文庫　②阿部櫟斎〈またかしハいや　阿べ喜任〉　③青柳文庫〈角を折る勿れ，脳を巻く勿れ，墨を以て汚す勿れ，鼠にかます勿れ，唾にて紙をめくる勿れ〉　④長沢伴雄〈我死ナハウリテ黄金ニカヘナナム，オヤノ物トテ虫ニハマスナ　長沢伴雄蔵書記〉　⑤堤　朝風〈第一と第二のゆびもてひらくへし，其よみたるさかひにをりめつけ，又爪しるしする事なかれ〉

そうしゃじょう　【操車場】　停車場の一種で，車両を組み替えて列車を仕立てるところ。ヤードともいう。旅客車を扱うのが客車操車場で，旅客列車の編成，客車の検修・清掃などを行なう。貨車操車場はおもに貨物列車の仕分けならびに編成作業をするところである。すなわち，貨車は客車と異なり，1車ごとに発駅・着駅が違うのが普通なので，輸送の効率をよくするため，全国各地の方面別に仕分け整理し，一定の順序に編成する。この作業に，ハンプと称する小丘の下り勾配(こうばい)を利用して操車するハンプ操車場と，入れ換え機関車の突き放しで操車する平面操車場があり，1日に1,000～3,000の貨車を扱う。もっともよく自動化された郡山(こおりやま)操車場(福島県)では，編成作業にコンピューターを用いるなど，近代化が進んでいる。〔宍塚正幸〕

そうしゃばん　【奏者番】　奏者ともいう。江戸幕府の職名。大名・旗本(はたもと)などの拝謁の取り次ぎ，献上物の披露(ひろう)，下賜品の伝達などにあたるほか，殿中での元服式の習礼の指導，三家・大名への上使などもつとめた。一万石以上の譜代大名から20～30人任命され，当番・助番・非番に分かれて交替で勤務した。1658年(万治1)から寺社奉行(ぶぎょう)はこの職の者が兼務となった。なお室町時代にも申し次ぎの役を奏者と称したことがあり，織田・豊臣(とよとみ)両氏のときにもこの制があった。さらに，江戸城西丸(将軍の隠居所)にも置かれていた。〔岡山泰四〕

そうしゅう　【滄州】　ツァンチョウ　中国，河北省中部の都市。天津(てんしん)の南東90kmにあり，滄州専区の専轄市で，専署の所在地。大運河に沿い，また津浦(しんぽ)鉄道(天津～浦口)や南北幹線道路も通じて，華北平野東部における水陸交通の要衝である。東方の渤海(ぼっかい)沿岸で産する長盧塩(ちょうろえん)の集散地として知られ，古来北京(ペキン)へ送る租米輸送の要地であったため，軍事・経済上きわめて重要視された。

そうしゅこく　【宗主国】　国際法上，従属国に対してその外交・内政の管理権(宗主権)を有する国。宗主権の内容は宗主国の国内法に基づいて定められる。従属国は宗主権の一部ではないが，完全に独立しているものでもなく，通常は外交能力を制限される形になっている。従属国は不完全な国際法主体で一部主権国であり，付庸国ともいう。1908年までのブルガリア，第1次世界大戦までのエジプトは，いずれもトルコが宗主国であった。〔広部和也〕

そうしょ　【草書】　⇨書体

ぞうしょいん　【蔵書印】　愛書家が自己の所有する書籍や資料のはじめの見返し，巻頭などに押印して，その所有と愛護を表示するために使用する印で，西洋の蔵書票*に相当する。中国に始まったものであるが，わが国では天平年間(729～748)から用いられたといわれ，正倉院御物《杜家(とか)立成》に〈積善藤家〉の朱印がある。江戸時代にはいって最も盛んに使用された。

そうしょう　【創傷】　皮膚・粘膜または臓器表面が離断すること。一般には傷といわれる。皮膚・粘膜は本来，個体の外界に対する障壁であって，わずかな傷でも重篤な感染をひき起こす。鋭器によって生ずるものに切創・割創・刺創などがあり，鈍器によるものは挫創(ざそう)・裂創などがある。形状からみて線状・弁状を呈するものや，物質欠損を伴うものがある。創傷に伴う症状として，疼痛(とうつう)と出血などがみられる。疼痛はまずその極度に達して，それからしだいに軽減する。持続的に疼痛が存在する場合，あるいは一時鎮静した疼痛が再び現われる場合には，創傷感染が考えられる。出血は鋭器によるもののほうが鈍器によるものに比して多量であるが，一般には特別の止血操作を行なわなくても，ある程度までは自然に止血する。自然的止血はいろいろな原因によって起こるが，血管の収縮および血液の凝固がおもな要因である。創傷は，感染が起こらなければ自然に治癒(ちゆ)するが，感染が起こると複雑な経過を

とる。　　　　　　　　　〔三島好雄〕

そうしょう　【双晶】　同種の結晶が二つ以上，結晶学的に規則正しく結合しているもの。スイショウ・チョウ石・ホウカイ石など重要な造岩鉱物には双晶が少なくない。次のような種類がある。①接触双晶：二つの結晶がある一定の平面で接合しているもの。②貫入双晶：結晶がお互いに貫き合っているもの。ジュウジ石などにみられる。③くり返し双晶(集片双晶)：数多くの同形の接触双晶がくり返されているもの。シャチョウ石などでは顕微鏡でも見えない程度の大きさのものがくり返し双晶をなしている。双晶の二つの個体の間の対称面は双晶面，二つの個体を関係づける対称軸は双晶軸とよばれる。　　　　　〔加藤敏郎〕

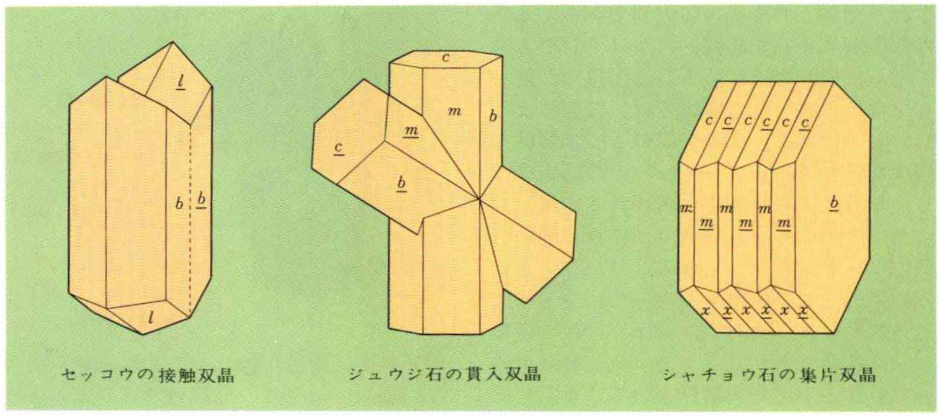
そうじょう　【双城】　シュアンチョン　中国東北部，黒龍江(こくりゅうこう)省南部の町。ハルビンの南，松花江の支流拉林河(ラーリン川)に近く，中長鉄道に沿い，農産物・雑貨などを集散する。付近に女真文字による〈大金得勝陀頌碑(だいきんとくしょうだしょうひ)〉があることによって有名である。

そうじょうざい　【騒擾罪】　一般には騒乱罪ともいわれる。狭義には，多数の人が集合して暴行・脅迫する罪。暴行・脅迫は，一地方における公共の平和を害する程度であることを要する。首魁(しゅかい)その他の指揮者によって組織化されていることも，事前の謀議・計画，共同暴行・脅迫の意思があることも必要としない。首魁は1年以上10年以下の懲役または禁錮(きんこ)，他人を指揮または他人に率先して勢を助けた者は6月以上7年以下の懲役または禁錮，付和随行した者は2,500円以下の罰金に処せられる(刑法106条)。本来は，内乱罪*などと異なり，国家存立の基礎の侵害に対することを目的としたものではなかったが，最近は治安関係の事件に適用されることが多くなった。広義には，不解散罪*を含んで騒擾罪という。　　　　　〔井上公耳〕

ぞうしょうさんご　【造礁珊瑚】　⇨イシサンゴ

ぞうじょうじ　【増上寺】　東京都港区芝公園内にある浄土宗鎮西派の大本山。関東十八檀林(だんりん)の首位。山号は三縁山広渡院。空海の弟子(でし)宗叡(しゅうえい)の創建といわれる。はじめ光明寺といって，武蔵貝塚(むさしかいづか)(東京都千代田区)にあったが，1598年(慶長3)徳川家康(いえやす)が関東に入封後，徳川家の菩提所(ぼだいしょ)と定めて現在地に移した。東叡山寛永寺とその勢力を二分する勢威を誇った。家康をはじめ秀忠(ひでただ)・家宣(いえのぶ)・家継・家重(いえしげ)・家慶(いえよし)・家茂(いえもち)らの霊廟(れいびょう)があり，現在の芝公園はその境内であった。現在もなお，1605年の三解脱門(重要文化財)，1809年(文化6)の五重塔を残している。
〔杉坂靖子〕

そうしようしょくぶつ　【双子葉植物】



双　晶



増上寺　山門

被子植物*(亜門)のうちで，種子の発芽の際に2枚の子葉が出る型をいう。さらに主として花の形から離弁花植物・合弁花植物(亜綱)に分けられる。双子葉植物は茎の維管束*の木部と篩部(しぶ)の間に形成層*があり，また，各維管束間の皮層中にも形成層ができ，形成層が輪状となって二次肥大生長をする。木本に年輪*があるのはこのためである。葉は網状葉脈で，一対の托葉*(たくよう)をもつことがある。花はがく片・花弁・おしべ・めしべよりなり，おのおの，同心円状に並び4または5を基本数とするのが普通であるが，3を基本数とするもの(例，アケビ科)や，花の各部がらせん状に配列されるもの(例，モクレン科)もある。➜単子葉植物　➜子葉　　　　　〔加藤僖重〕

そうじょうへいきん　【相乗平均】　⇨幾何平均

そうしょく　【曹植】　(192～232)　中国，三国時代の魏(ぎ)の詩人。曹操*の子，曹丕*(そうひ)の弟である。幼少のときから詩文の才があり，父の寵愛(ちょうあい)を受け，後継者と見立てられたが，父の死後，兄曹丕が即位，兄弟疎遠になり，政治的には兄に抑圧されていた。抱負と野望を実現できぬ鬱屈(うっくつ)した感情が詩文に流露し，後漢末のいわゆる建安時代を通じて第一の詩人といわれる。漢代の五言詩，楽府(がふ)などの影響を受けつつ，それを発展させて，新詩風を創造した。また，〈楊徳祖(ようとくそ)に与える書〉〈呉季重に与える書〉などの書簡に見られるとおり，散文にもすぐれ，《洛神賦(らくしんふ)》のように，辞賦にも傑作が少なくない。《曹子建集》がある。　　　　　〔今村与志雄〕

そうしょくおん　【装飾音】　音または旋律に，なんらかのリズム的・旋律的変更をもたらすように付加された音，またはその音群。即興的なものと，記号によって指示



装飾音
譜例②中段の譜は，上段の譜を実際に演奏した際の一例

されるものとの２系統に大別できる。本来は演奏者によって即興的につけられるものであり，民謡をはじめとして記譜の伝統をもたない音楽文化の領域では，即興による装飾音の付加は，その音楽のもつ本質的な構成要素である。ヨーロッパの芸術音楽でも，記号による装飾音が現われるのは，およそ1600年ごろからであり，それ以前の音楽では，ディミヌツィオとかゴルジアという即興的なものが主体であった。記号による装飾音がよく使われたのは18世紀の鍵盤(けんばん)音楽であり，ここでは装飾音はその様式自体と不可分に結びついている。装飾音は同じ内容をもつものに対してさまざまな表記法がある。譜例①は作曲者がすべての装飾音を定めて，それ以外の追加を許さないフランスの場合，譜例②は作曲者が旋律の骨組みのみを提供して装飾による肉付けを演奏者に任せるイタリア流の場合を示している。　〔吉田泰輔・徳丸吉彦〕

そうしょくどうぶつ　【草食動物】　おもに草を食べて生活する動物で，こん虫類・哺乳(ほにゅう)類に特に発達している。こん虫類では，草の茎・葉を直接咀嚼(そしゃく)するもの，吻(ふん)をさしてしるを吸うもの，葉の中にもぐりこむものなどがあり，口器がその摂食様式に応じて変化している。草食哺乳類は，盲腸などの消化器官が草を分解しやすいように特に発達しており，ウシなどでは反芻(はんすう)を行なう。家畜にはウシ・ウマ・ヒツジ・ウサギ・ラクダなど草食動物が多い。　〔松本忠夫〕

ぞうしょくろ　【増殖炉】　⇨原子炉

ぞうしょひょう　【蔵書票】　愛書家が自己の所有する図書や資料のはじめの見返し，または巻頭に貼付(てんぷ)してその所有を表示するための紙片。わが国で古くから使用している蔵書印*に相当する。15世紀にドイツの出版業者エルハルト-ラートドルト(1447～1527？)が木版印刷で作成したのが始まりとされる。現存する世界最古の蔵書票は，バックスハイム(ドイツ)の僧院のヒルデプラント-ブランデンブルクのもので，1480年ごろのものといわれる。形は使用者の好みにより，円形・正方形・長方形などで，３～12cmの大きさのものが多く，銅版・木版・写真版・石版などによる標語などの文字や図版を印刷した美麗なものが多い。　〔北島武彦〕

そうしるい　【総翅類】　こん虫綱の１目。アザミウマの類をいい，スリップスともよばれる。➔スリップス

そうしるい　【双翅類】　こん虫綱の１目で，カ・ハエ・アブなどが代表的である。非常に大きい群で，全世界から少なくとも80,000種以上が発見され，しかも年々多数の種類が追加されている。体の大きさは変化に富み，体長0.5mm，翅(はね)を広げた長さ１mm内外の微小種から，体長50mm，翅を広げた長さ100mmに達する大形種まである。



蔵書票
H. ブランデンブルクの蔵書票。K. ホルツシュニット作(1482)

いずれも，後翅が退化して太鼓のばち状の平均棍(こん)となり，飛翔(ひしょう)の際の体の平衡を保つ感覚器官となっている。前翅はよく発達し，少数の翅脈があるが，まれに短翅の種類や無翅の種類もある。口器は吸収あるいはなめて食べるのに適している。完全変態を行なう。幼虫は，ふつう円筒形または紡錘形で無脚，うじとよばれる。幼虫の生活場所はきわめて変化に富み，塵芥(じんかい)・汚物・朽ち木・植物組織などの中のほか，土中で植物の根部を食害するもの，水中に生活するものなどがあり，また種々の動物体に寄生する種類も多い。成虫の食性も変化に富み，汚物・樹液・きのこ・獣糞(じゅうふん)や腐った果実などに集まるもののほか，吸血性の種類も多く，種々の疾病(しっぺい)の病原菌の媒介者として重要な衛生害虫も多い。双翅目の分類は，研究者によってかなり著しい差異がある。以下に，最近用いられる方式にしたがっておもな群をあげる。①糸角亜目：㋑原カ群(カバエ科・キノコバエ科・タマバエ科)，㋺カ群(チョウバエ科・ガガンボ科・カ科・ユスリカ科・ヌカカ科・ブユ科)。②短角亜目：㋑アブ群(ミズアブ科・シギアブ科・アブ科・ムシヒキアブ科・ツリアブ科)，㋺ハエ群(オドリバエ科・ノミバエ科・ハナアブ科・ミバエ科・ハモグリバエ科・ショウジョウバエ科・ミギワバエ科・フンバエ科・ウマバエ科・イエバエ科・ハナバエ科・クロバエ科・ニクバエ科・ヤドリバエ科・クモバエ科・コウモリバエ科・シラミバエ科)。➔アブ　➔カ　➔ハエ　〔鈴木邦雄〕

そうしんき　【送信機】　通信路に電気信号としてメッセージを送り出す装置。搬送波を発生する発振回路*，信号を搬送波に乗せる変調回路*，変調された信号を所要のエネルギーレベルまで増幅*する電力増幅回路，信号を通信路に結合する装置，などからなりたっている。最後の装置は無線通信の場合にはアンテナ*がこれに相当する。

そうしんき　【捜神記】　中国，六朝(りくちょう)時代の説話集。４世紀ごろの晋(しん)の文人干宝(かんぽう)の作というが，現存するもの(20巻本と８巻本と２種ある)は，すべて干宝の原本ではない。古今の神祇(じんぎ)・霊異・人物・変化(へんげ)に関するもののほか，神仙(しんせん)・五行の事がらをも述べ，仏教の因果応報説を交える。説話集として文章もよく，《聊斎志異(りょうさいしい)》などの源流をなす。なお，《捜神後記》10巻があり，陶淵明*(とうえんめい)の作というが，疑問がある。しかし六朝時代にできた説話集であることにはまちがいない。　〔今村与志雄〕

ぞうすい　【雑炊】　野菜や魚貝類を混ぜ，味をつけてたいたかゆ。おじやともいう。元来は増水と書き，鎌倉時代にはみそ味にして味噌水(みそうず)ともいった。《貞丈雑記》によれば，室町時代に足利(あしかが)将軍家では正月の七種(ななくさ)がゆを雑炊にしたと記されている。宮中で歴代の大嘗会(だいじょうえ)に夜食として供せられたかも雑炊は，塩またはしょうゆで味つけし，セリを添えて食したという。現在はおもに冷や飯の始末につくられるが，病弱者・老人の食事や冬の保温食などにも適し，なべ料理の残りじるで食べても美味である。　〔塩川ふみ〕

ぞうずさん　【象頭山】　琴平山あるいは金比羅(こんぴら)山ともいう。香川県西部，琴平町の西にある山。標高521ｍ。大麻(おおさ)山塊(617ｍ)の南部に位置し，山の形がゾウの頭に似ているのでこの名がある。東面に金刀比羅宮(ことひらぐう)があり，そのふもとに門前町琴平が開ける。

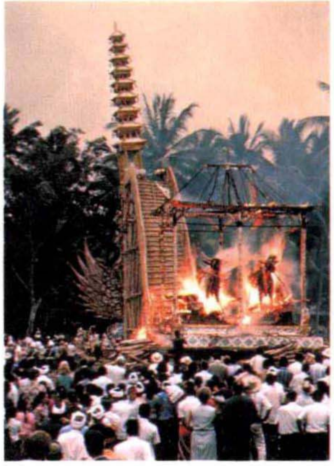
そうせい　【葬制】　死者を葬る制度および様式。具体的には，葬法(死体の安置法・処理法)，生者の死者に対する態度，他界観*，その他の習俗などをいう。葬制のはじまりがはっきり跡づけられるのは，中期旧石器時代以後である。ヨーロッパ・ローデシア・ジャワなどで，埋葬された頭蓋骨(とうがいこつ)，洞窟葬(どうくつそう)の跡，副葬品などが発見されている。世界各地にさまざまに異なった葬法がみられ，分布上からみた葬法の形式上の一致には，原則性があまりみられない。同一の民族の中に多くの異なった葬制が見いだされることもあり，サン-クリストバル島では20種類以上の葬法が存在するといわれている。また，文化の高低，時代の推移なども，葬法の形式上の一致あるいは相違に，それほど大きな役割をもたない。

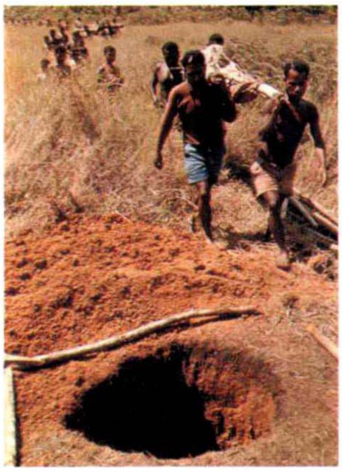
乾燥した砂漠(さばく)地帯にはミイラ葬が多く，水べでは水葬が多いという地理的条件による葬法の類似，あるいは農耕民と土葬，遊牧民と死体放棄の結びつきという生活形態による葬法の一致が指摘されることもある。しかし，それ以上に葬法に影響を及ぼすものは，生者の死者に対する態度，他界観である。死者への強い愛着は死体の保存と結びつき，ミイラ葬を生む。また，死者への恐怖は死体破壊・放棄となって現われ，死者がもどってこないように死体を縛ったり，くぎを打ちつけたり，四肢(しし)を切断する行為とも結びつく。しかし多くの場合，死者への愛着と恐怖は並存しており，徹底的な死体破壊である火葬の場合も，遺骨が保存されることがその現われである。

〔伸展葬と屈葬〕　主として土葬の場合の死体の安置法である。伸展葬は，旧石器時代

葬　制
(左)鳥葬　死体を刻んで鳥に与えるネパールの鳥葬　読売映画社提供　(中)火葬　ヒンズー教徒の手によって行なわれる，バリ島最後の土侯の葬儀　(右)土葬　ニューギニア原住民の原始的な土葬







以来現代に至るまで広く多くみられる。死者に睡眠時と同じ姿勢，いわば安息の姿勢をとらせる方法である。この場合の死体の頭の方位は，死者の国と考えられている方向，民族の故郷の方角をとる。屈葬は座葬ともよばれ，ひざを折り曲げ，蹲踞(そんきょ)の姿勢をとらせる。死者への恐れのため，生まれるまえの母親の胎内での姿勢をとらせるため，埋葬の手間を省くため，などがその理由としてあげられる。棺には大きな甕(かめ)・籠(かご)などが多く用いられる。アフリカにことに広くみられ，オーストラリア・南米原住民の間にも見いだされる。日本でも古代には多くみられた。

〔遺棄葬〕死体を荒れ地・草原・洞窟に放棄し，動物などが食べるのに任せる。鳥葬ともよばれる。アジアやアフリカの草原地帯などで，未開な採集狩猟民や遊牧民の間に多く見いだされる。ゾロアスター教徒であるイランのパルシー族は〈沈黙の塔〉とよばれる塔に死体を放置し，ハゲタカに食べさせる。

〔火葬〕高文化地域に多い。インドを中心として，東南アジア・メラネシア・日本・北アメリカ・中部アメリカ・南アメリカ北部などにみられ，アフリカではほとんど見いだされない。チベット・インドネシア・メラネシアのように，特権階級のみが火葬にされる地域もある。土葬よりも新しい葬法と考えられる。

〔土葬〕土中に穴を掘って死体を埋葬するもので，中期旧石器時代にすでに行なわれた。現在では生活形態を問わず，さまざまな形式のものが分布している。ティエラデルフエゴ島民やタスマニア土人など最も未開な民族にも見いだされるし，キリスト教やイスラム教が土葬を採用しているために，その普及とともに世界各地に広く行なわれるようになった。日本・中国・朝鮮でも行なわれている。特殊な形には，メラネシアの一部，オーストラリアの南部にみられる，墓穴を掘って死体を安置するだけで土をかけないもの，アフリカ，南アメリカのアマゾン地方，東南アジアの一部などでみられる，屋内あるいは家屋に近く死体を埋葬するものなどがある。

〔水葬〕死体を水中に投棄するだけの，一種の潰索葬(かいさくそう)の形をとるものが多いが，舟あるいは舟形の棺に死体を入れて流す舟葬がポリネシア・ミクロネシアとメラネシアの一部などに見いだされる。海底あるいは水中の小島に他界があるという観念，死者を民族の故郷へ帰したいという希求，サモア島，ミクロネシアの一部にあるように，太陽の沈む西方へ流す，つまり太陽信仰，これらが水葬と関連があるとみられる。

〔風葬〕死体を高い台の上に載せたり，木の上に置く葬法。オーストラリア・メラネシア・アメリカ・東南アジアの一部にみられ，北アジア・高地アジアでは非常に広く分布している。古くから行なわれている葬法であり，他界が天にあるという観念が支配的な地域に多くみられる。樹上葬の場合は，複葬(いったん葬られた死体の骨を再び葬ること)が行なわれる。

〔日本の葬制〕日本では火葬と土葬が最も多く行なわれ，水葬と風葬の例も若干みられる。土葬が最も古い葬法とみられるが，仏教の伝来とともに火葬が導入され，急速に広まった。現代では都市およびその周辺に火葬が多く，土葬との割合はおよそ7対3といわれる。日本の葬制の特徴の一つに〈詣(まい)り墓〉がある。死者を埋めた墓と別な場所にもう一つ墓を設ける制度で，関東・近畿(きんき)・四国の一部を中心に分布している。沖縄の洗骨は複葬と詣り墓が結びついた独特な形式である。　〔神谷美保子〕

そうせい　【走性】　趨性(すうせい)ともいう。自由に運動することのできる生物が，外部からの刺激に反応して，刺激の方向と一定の関係をもつ運動をすること。刺激のくる方向に向かって進むときは正の走性，刺激源と反対方向に進む場合は負の走性とよばれる。走性を起こす刺激の種類には光・重力・熱・電流・水流(気流)・接触・湿度・化学物質などがあり，これらの刺激に対する走性をそれぞれ走光性・走地性・走熱性・走電性・走流性・走触性・走湿性・走化性などとよぶ。ミドリムシやこん虫が光に集まるのは正の走光性であり，カタツムリやヤスデが光から逃げるのは負の走光性である。また細菌は肉汁(にくじゅう)に対して正の走化性を示すが，肉汁を酸性にすると負の走化性に変わる。一般に下等な微小生物に多くみられる性質で，下等生物の行動においてきわめて重要な意義をもつ。〔吉田精一〕

そうぜい　【宗砌】　(？～1455)　連歌師。俗名は高山民部少輔時重(しょうゆうときしげ)。山名氏の家臣で正徹*に和歌，朝山梵灯(ぼんとう)に連歌を学び，出家して高野山に住した。1433年(永享5)ごろ京都に帰り，1448年(文安5)北野会所奉行(ぶぎょう)宗匠に任ぜられた。《初心求詠集》《古今連談集》《花能万賀喜(はなのまがき)》などの論書と《宗砌句集》がある。宗祇*(そうぎ)の《竹林抄*》に連歌七賢中の第一と評価され，《新撰菟玖波集*(しんせんつくばしゅう)》にも115句が入集している。

そうせいき　【創世記】　《旧約聖書》の第1書。〈モーゼ五書〉の一。神による天地創造に始まり，イスラエルの民の祖がエジプトへ行くまでの民族初期の歴史を記述したもの。創世時代は人の堕罪と神の恵みが主題となっており，エデン*の園を追われるアダム*は皮衣を与えられ，弟殺しのカイン*は殺されず，洪水(こうずい)で全滅する人類の中からノアが救われることなどにその主題がみられる。次いで，各地に散った諸民族の中からアブラハム*の一族が選ばれて，歴史は族長時代にはいり，続いでイサク・ヤコブ・ヨセフの生涯(しょうがい)が語られて，この物語は終わる。この時代は神との約束の時代であり，民はその約束の成就を信じて生きている。律法をもたぬ彼らの生活はのどかで，後世のような苦難はみられない。なお，本書は3～4種類の資料に基づいて統一的に編集されたと思われる。〔松田　治〕

ぞうせいき　【造精器・蔵精器】　雄性生殖細胞を形成する器官。下等植物の菌類・藻類(そうるい)・コケ植物・シダ植物の有性世代に生じ，植物によって形もつくりの複雑さもいろいろである。

そうせいさいばい　【草生栽培】　果樹園



宗　雪《草花図屏風》東京国立博物館蔵

の土壌(どじょう)管理の一方法。果樹園にイネ科・マメ科などの牧草類を栽培し，傾斜地などの土壌流失を防止したり，土壌構造の改良を図ったりするもの。ただし，果樹と草との間には養分・水分の競合があるので，草生の草は適期に刈らなければならない。刈った草は有機原料として腐植質の増加に役だつ。最初は草の分も施肥するが，数年たつと施肥は少量でよくなる。全面草生・畦状(けいじょう)草生・樹列間草生などあるが，いずれも草生の管理を怠ると雑草がはびこるので，落葉の清掃，害虫の潜伏，野ネズミの害に注意を要する。〔岩垣駛夫〕

そうせいじ【双生児】⇨ふたご

そうせつ【宗雪】生没年不詳。江戸初期の絵師。俵屋宗達の子，弟，弟子(でし)などといわれるが確かではない。宗達と同じく俵屋を称し，やはり〈伊年(いねん)〉印を用いていた。遺品に《草花図屏風(びょうぶ)》水墨の《龍虎図(りゅうこず)》などがあるが，画値は宗達に比べてはるかに劣る。しかし，宗達の最も有力な後継者であったとみられ，1642年(寛永19)には法橋(ほっきょう)となっている。

ぞうせん【造船】船体を組み立て，機関部その他の艤装*(ぎそう)をして船をつくること。自動車やテレビなどの市場商品と異なり，船主が造船所に1隻ずつ個別注文し，個別生産するのが特色。造船に必要な材料・技術は造船固有のもの以外に，建築・機械・冶金(やきん)をはじめあらゆる分野に及び，総合工業といえる。わが国の造船技術の優秀性は世界的に認められている。

〔新造船の計画〕船を建造する際には，船主はおもに経済性の面から，載貨重量または載貨容積，積み荷の種類，航路と航続距離，速力，主機関の種類，荷役設備，自動化の程度などの項目を決定し，これに基づいて造船所で基本設計を行なう。機関については，近年は機関室の夜間当直無人化が大きな課題とされる。

〔造船所〕船の新造・修理・改造を行なう工場。つくった船が進水*しやすいように海や川に面した場所に設けられ，次の各種工場と付属施設(事務所・研究所など)が併設されている。①船殻(せんこく)工場：現図場・罫(け)書き*場・溶接工場・組み立て場・ブロック工場・船台など，②機関工場：機械工場・ボイラー工場・ディーゼル工場など，③艤装工場：艤装岸壁・板金工場・機械工場・船具工場など，④修理工場(ドック)。

〔基本設計〕次の順序で行なう。①船型*の決定：水面下・水面上・甲板上の形などを決める。これらは客船*と貨物船*では大きく異なり，貨物船でも種類によって違うが，最近は経済性からほとんど後部船橋型が用いられる。②主要寸法の決定：長さ・幅・深さ・喫水*などを決める。これらは類似の既成船の資料を参考にして決めるが，資料がない場合は与えられた載貨重量から適当な満載排水量を算出し，それに基づいて経験的に主要寸法を定める。③推進機関の決定：タービン*とディーゼル機関*があるが，大部分は後者が用いられる。

〔仕様書の作成〕初期設計がすむと，船体強度の基本をなす中央横断面図・鋼材配置図などの構造設計が始まり，仕様書を作成する。仕様書には，①船体関係：船型・寸法・資格・構造・材料・設備・速力・試運転・監督権限・諸費用，②機関関係：機関の形式・馬力数・材料，補助機関・推進器，試運転などが詳細に記録される。仕様書と船型や船全体の配置を示した一般配置図に基づいて，船主と造船所で造船契約が結ばれる。そこで造船所は強度・復原力・操縦性・安全性を考慮しながら，船体・造機・電気などの部門ごとに詳細に設計し，工事用図面を作成する。一方詳しい工程を決め，材料を手配し，ここから具体的な造船が始まる。

〔工作順序〕従来は船殻と艤装とに分けていたが，最近では，両方をほぼ同時に進める方式を採用している。船殻は船体の構造をつくりあげ，艤装は機関・荷役その他の諸設備のすえつけとその性能の確認を行なうものである。①鋼材の下地処理と加工：鋼板や型鋼を下地処理(さび止めの下塗り)して，加工工場に送る。そこで裁断・曲げなどの加工を行なうが，以前は設計図に基づいて製作した実物大原図の型による罫書き切断をしたが，近年はコンピューター*の数値制御によって，型や罫書きなしにガス切断機で直接鋼板を切断する。②組み立てと搭載(とうさい)：現在はブロック式工法を用いる。これは船体を船首・中央部・船尾など数個の大ブロックに分け，さらに各部を小ブロックに分けて，船台に搭載するまえにあらかじめ組み立てた小ブロックを数個継ぎ合わせて200～500 tの大ブロックをつくり，それを船台や建造ドックで一つの船体に組み立てる方法である(図-2)。鋼材の接合箇所の精度は建造の速さやできばえに大きく影響するが，これは電気溶接で接合し，以前のリベットによる方法に比べて船の重量も15％程度軽くなった。④進水*：船殻作業が終わると，船の外側に仕上げ塗装をして進水させる。⑤艤装：艤装岸壁に係留され，主機関・各主補助機関や荷役・航海・居住のための設備をすえつけ，いちおう船が完成する。以前は進水後に艤装工事のほとんどを行なったが，現在はブロック組み立て段階で艤装を並行するいわゆる早期艤装やユニット艤装が行なわれている。船の命名は進水または完成時にする。

〔船の検査・登録〕造船所の自主的検査と船主・海運局・船級協会による検査があり，鋼材や購入機械部品の材料検査に始まり，船殻部材の加工精度・溶接品質・成形精度の検査，水密・気密試験，艤装品の諸検査などを経て，各装置の機能確認検査があり，最後に航海性能確認のための海上試運転となる。海上試運転は予行運転と公試運転があり，後者には船主・海運局・船級協会・造船所の関係者が立ち会い，速力・旋回・操舵(そうだ)・後進・惰力その他について試験する。また，完成時に海運局によって，船の純トン数・総トン数が決定される。このあと法務局で登記をし，海運局へ登記すると船舶国籍証書が交付され，法的に船が誕生し，船主に引き渡される。

〔建造期間と船価〕建造期間は造船所の施設や船の種類・大きさなどで異なるが，一例をあげれば，10,000総トンの貨物船で約5か月，20万トン(載貨重量トン)のオイルタンカー*で8.5か月(起工～進水4.5か月，進水～完成4か月)であり，世界的にみてわが国の建造期間は最も短い。また，船価(建造費)はふつう総トン数1トンあたりの金額で表わす。時期や船の種類・大きさによってかなり変動がある。➤造船業

〔飯島幸人〕

ぞうせんぎごくじけん【造船疑獄事件】1953年(昭和28)海運会社・造船会社のリベート問題をめぐって発生した戦後最大の政財界の贈収賄事件。同年金融業者森脇将光(もりわきまさみつ)の告訴に端を発して，リベート問題を中心とする特別背任罪の容疑が深まり，業界の社長・重役が続々と検挙された。一方，計画造船の割り当てをめぐる業者と

造船

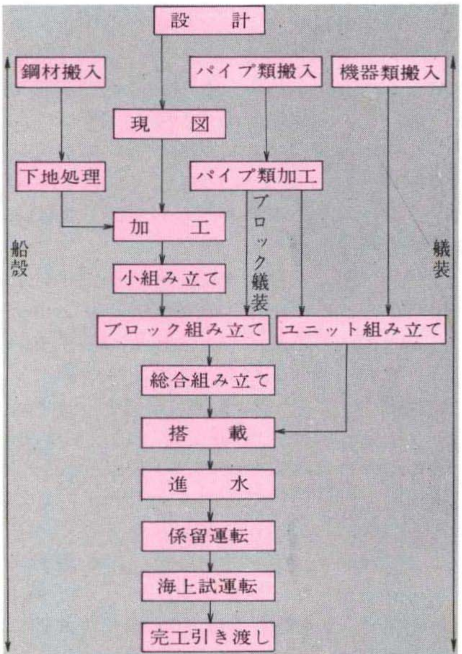


図-1 船の工作順序


造船所(三井造船千葉造船所) 建造能力50万重量トンのドックをもつ

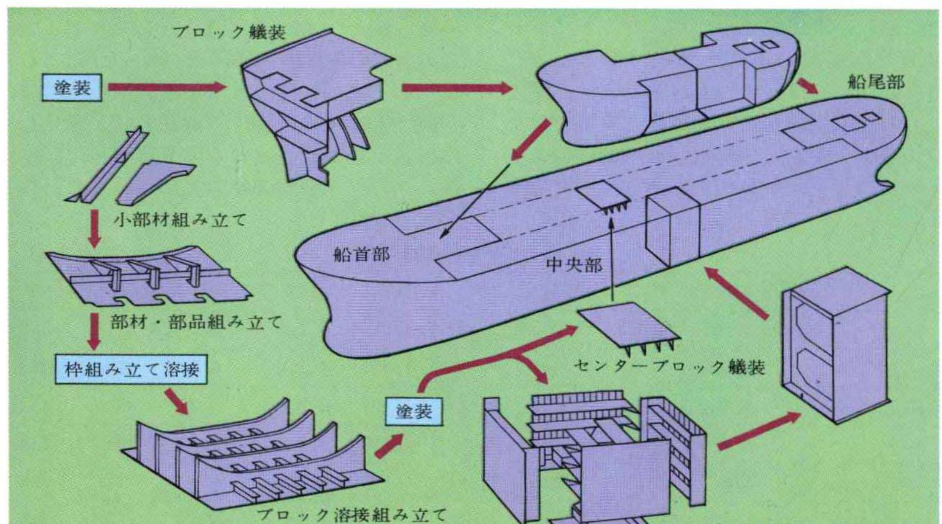
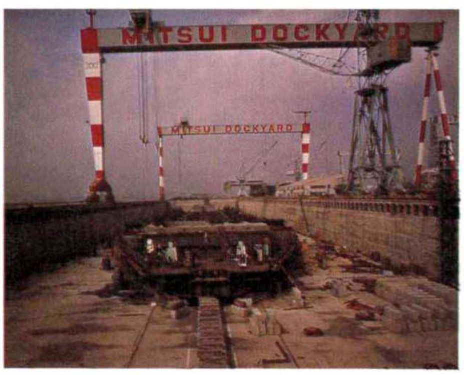
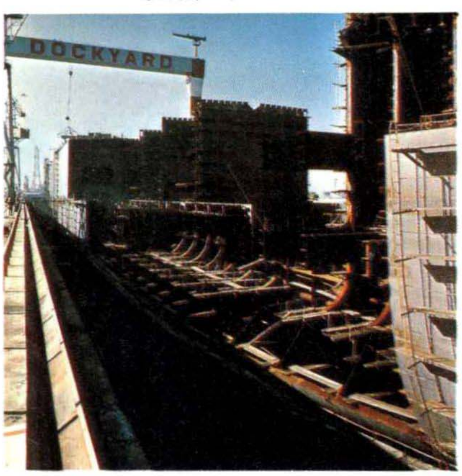


図-2 ブロック式工法



船底部の組み立て



船体中央部の組み立て



組み立てられた船首部と船尾部


艤装岸壁での艤装

運輸官僚との贈収賄関係も浮かび出て，政界からもあいついで検挙者を出した。さらに事件は〈外航船建造融資利子補給及び国家補償法〉の修正案をめぐる3派(自由党・改進党・日本自由党)の贈収賄に発展し，検察庁の手入れは政財界の有力者に及んだ。1954年4月検察庁は開会中の国会に対し，自由党幹事長佐藤栄作*の逮捕許諾の請求を決めたが，法相犬養健は第5次吉田(よしだ)内閣の方針にしたがい，検事総長に指揮権を発動して逮捕請求を押えた(→指揮権発動)。このため6月捜査は打ち切られ，国民に多くの疑惑と政治不信をいだかせた。犬養法相は指揮権発動直後辞任。吉田内閣倒閣の原因となった。〔高崎徳次〕

そうせんきょ　【総選挙】　衆議院*議員を選ぶための選挙*をさす。すなわち衆議院議員の任期満了(4年)または衆議院の解散により新議員を選出する。地方議員を選出する選挙は，一般選挙とよばれている。なお参議院*には解散はなく，したがって総選挙はない。

ぞうせんぎょう　【造船*業】　主材料である鋼材をはじめ各種素材や舶用機械などの製品を組み立てる大規模な総合組立業であり，約200種に及ぶ関連産業をもつ総合重工業である。

〔わが国の造船業〕1853年(嘉永6)の黒船の来航で鎖国の夢をさまされた徳川幕府，あるいは水戸(みと)・金沢・薩摩(さつま)の諸藩は，浦賀・横須賀(よこすか)・横浜・長崎・石川島・兵庫など各地にイギリス・フランス・オランダの技術指導を受けて造船所を建設した。明治政府はこれらを引き継いだあと順次これを民営に移し，その後日清(にっしん)戦争・日露戦争・第1次世界大戦を通じて強力な国の指導・育成策が推し進められ，造船業の基礎が固められた。こうして，わが国の造船業は第2次世界大戦前および戦後の10年間は海軍や海運業の従属産業としての地位に甘んじてきたが，最近ではこの性格を一変し，1956年(昭和31)にはイギリス・西ドイツをおさえて進水量は世界第1位となり，その後現在まで第1位を確保し続けている。これは，建造能力の拡大と同時に性能のよい船を安く，しかも短期間に建造するというわが国造船界の技術革新のもたらした結果であり，国際競争力の強化に伴って輸出産業としても日本経済に大きく貢献している。

〔溶接工作法の採用と設備の近代化〕戦後わが国の造船業は溶接構造を広い範囲にわたって採用し，ブロック建造方式により船舶建造技術を飛躍的に改善した。溶接構造の範囲の拡大は船体の重量を軽くし，しかも建造工期を短くしたため，船舶の大形化とともに船舶の経済性，建造過程における生産能率を著しく向上させた。これを実現させた裏には設計・工作技術・生産管理方式，それに設備などの広い範囲にわたっての大きな技術革新がある。溶接船の建造を効果的に進めるために新しい設計の開発，ブロック建造方式の採用，鋼材加工の自動化，運搬設備の強化などが行なわれ，鋲接(びょうせつ)時代とは建造法・工場配置などその姿を一変した。従来の造船所では鋼材加工のため多くの種類の大形機械があったが，これに代わって高性能のガス切断機や電気溶接が続々と導入され，新しい建造方式に適応した溶接工場が新設されるようになった。また，クレーンの能力が大幅に増強され，作業の中心が船台から地上に移され，工事がしやすくなった。このような設備の近代化は造機部門についてもいえる。舶用推進機関として戦後ディーゼル機関の分野は大幅に拡大する傾向にあったため，これに即応できるように老朽化した機械設備の更新に努め，その生産能力の増強を図った。

このようにして，わが国の造船業は近代的造船所としての国際水準に達するとともに，世界の造船界にさきがけて時代に即する技術開発を進めている。

〔超大形船の建造〕溶接船の建造で大いに自信をもったわが国の造船業は，タンカーの大形化や専用船の需要増加に対しても，いちはやく技術的態勢を整え，すぐれた建造技術を示した。特に10万重量トン以上のマンモス-タンカーの建造にあたっては，解決しなければならない構造・運航性能・主機関・自動化関係など多くの技術的問題があったが，1957年から業界・学界を一体とした共同研究が進められ，その結果，世界最大のタンカーエッソアトランティック(50.8万重量トン)を誕生させ，超大形船の建造でも世界のパイオニアの地位を確保した。

〔超自動化船〕わが国における自動化船の生い立ちは，昭和36年に竣工した「金華山丸」における主機関のブリッジ・リモートコントロールと独立機関制御室の採用による船内労働の軽減と作業環境の改善をはかった定期貨物船9,800重量トンで乗組員37名とした船舶の自動化第一世代として脚光を浴びた。第二世代としては，外国船における機関室夜間当直の廃止をきっかけとする機関室無人化時代(昭和40年)鉱石運搬船(56,000重量トン)の乗組員27名を経て，第三世代として，陸上コンピュータ利用技術の発達による船舶への航海・機関・荷役の各部門への適用を考えた超自動化船の登場となった。コンテナ船(43,000重量トン)の乗組員25名(昭和51年)に次いで乗組員18名(昭和54年)と船舶の自動化により乗組員が大幅に減少した。

〔輸出産業としての造船業〕わが国の造船業は，大量の船舶を輸出して外貨獲得に貢献し，また総合重工業として，各種産業機械の製作やプラント類の建設を通じ広く日本経済の発展に寄与してきた。オイルショック以後の昭和52年頃から，造船不況は，深刻さを増し，世界的な船舶過剰は膨大な量にのぼり，船舶手持ち工事量の減少に対処すべく，わが国の造船業は脱船舶への取り組み，多船型・中小型化に対応できる生産システムの見直しと，短納期で建造ができる体質作りの推進が主要造船国に先がけて行なわれた。現在わが国は，世界の全建造量の約半分を供給する造船工業国として，高付加価値船の増加，エネルギー源の多様化，少人数運搬船の一般化，省エネルギー船，燃料油の粗悪化対策等の研究・開発を進め，急速に変化・発達する世界の海運界のニーズ

表-1　主要造船国進水量

単位：1,000総トン

国名＼年	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
日本	12,865	15,673	17,609	17,987	14,310	9,943	4,921	4,317	7,288
イギリス	1,233	1,017	1,281	1,304	1,341	1,119	813	610	243
西ドイツ	1,606	1,979	2 151	2,549	1,792	1,390	600	384	462
スウェーデン	1,814	2,517	2,205	2,460	2,377	2,131	1,314	451	338
フランス	1,129	1,133	1,348	1,301	1,195	887	639	717	328
ノルウェー	974	1,071	1,012	1,028	756	523	349	255	319
デンマーク	904	920	1,125	960	957	635	360	229	226
スペイン	1,141	1,568	1,427	1,637	1,617	1,582	661	519	508
フィンランド	206	208	205	257	389	325	297	230	198
ポーランド	574	550	656	608	533	492	683	490	394
アメリカ	611	889	800	1,004	1,068	1,021	902	771	557
韓国	15	44	562	441	688	455	424	478	629
台湾	140	167	105	141	102	259	450	190	290
世界合計	26,714	31,520	34,624	35,897	31,046	24,167	15,406	11,787	13,934

《ロイド統計》(1980)

表-2　全輸出における船舶の地位

単位：100万ドル

摘要＼暦年		47	48	49	50	51	52	53	54	55
総計		28,591	36,930	55,536	55,753	67,225	80,495	97,543	103,031	129,807
船舶		2,399	3,819	5,600	5,998	7,049	8,129	7,172	3,869	4,682
比率(%)		8	10	10	11	10	10	7	4	4
品目別順位	1位	鉄鋼	鉄鋼	鉄鋼	鉄鋼	鉄鋼	自動車	自動車	自動車	自動車
	2位	自動車	船舶	船舶	自動車	自動車	鉄鋼	鉄鋼	鉄鋼	鉄鋼
	3位	船舶	自動車	自動車	船舶	船舶	船舶	船舶	船舶	船舶

(注. 通関実績による)

に多大の貢献をしている。　〔伊藤剛平〕

そうせんじょ　【造船所】　船の建造・修理などを行なうところ。➔造船

そうそう　【曹操】　(155〜220)　中国，後漢末の軍人・政治家。字(あざな)は孟徳(もうとく)。黄巾(こうきん)の乱*の平定に力があり，献帝を擁して専政を行なう董卓(とうたく)を討伐するための，各地の勢力を集めた連合軍に加わった。連合軍が内部の不和から分解して群雄割拠の情勢となると，兗州(えんしゅう)を根拠地に，長安から逃げてきた献帝を許都に迎え，才能ある人物を集めて屯田(とんでん)を起こし，勢力の充実に努めた。202年官渡に袁紹(えんしょう)の軍を破って華北を統一し，進んで呉の討伐におもむいたが，208年赤壁の戦い*で呉と蜀(しょく)の連合軍に敗れたため，三国分立の大勢が定まった。漢の丞相(じょうしょう)として実権を握り，魏王(ぎおう)に封ぜられ，魏王朝の事実上の創始者となった。死後に追尊されて，魏の武帝とよばれる。　〔小南一郎〕

そうぞう　【想像】　過去の経験内容を新しく構成しなおし，現実に存在するものとは違ったものを心の中につくりあげる精神作用。想起される心像の素材となるものは自分自身の経験のほかに，文章やことばを通して得られた他人の経験についての記憶も参加しうるので，非常に範囲の広い展開ができる。想像の内容が現実にはありえないとっぴなものである場合空想という。空想は意識されない現実逃避の一つの形である場合がある。特定の目的に達するために，展開の方向を規制し，志向された心像にまとめあげられていく過程は生産的想像とか創造的想像とよばれる。ある課題を解決するために，いろいろ考えをめぐらすのは生産的想像であり，行きあたりばったりの行動を避けて，効率的行動をさせるという役割をもつものである。生産的想像には主として論理的な型と情緒的な型がある。前者は発明・発見など哲学的・科学的創造過程に，後者は文学・造形美術のような芸術的創造過程にみられる。また，想像の型は性格を構成する重要な因子とみられている。　〔太田垣瑞一郎〕

ぞうぞうき　【造像記】　道教・仏教の造像の縁起をしるした銘文。中国では六朝(りくちょう)の仏教興隆に伴って，多くの金銅仏や像がつくられた。中でも石像の光背または台座に文字を刻して造像供養のいわれをしるしている。そして，その書の素朴(そぼく)な美しさが，北魏(ほくぎ)の碑文を好む人々に観賞されてきた。中でも，5世紀末〜6世紀初め(太和・景明年間)の龍門(りゅうもん)造像記が最も名高い。銘文はまた，画像や泥像(でいぞう)・木像などにも記された。　〔中田勇次郎〕

そうぞうてきしんか　【創造的進化】　ベルグソン*の主著の一。1907年に公刊され，彼の名声を不動のものにした。ベルグソンによれば，われわれの思惟(しい)は生命の一つの側面にすぎないから，その思惟が逆に進化の運動全体をとらえられるとは考えられない。その点で進化論哲学は，物質において成功した方法を生命にまで適用するという誤りを犯した。生命は不断の創造的活動，つねに生成する過程であり，諸要素の累積によって機械的に進化するのでなく，エラン-ビタール*(生命の躍動)による内的衝動によって創造的進化を遂げるのである。こうした生命の本質をとらえるには直観のほかにないという。　〔飯塚勝久〕

そうぞうにんしん　【想像妊娠】　子どもを熱望しているか，妊娠を嫌悪(けんお)している婦人が，妊娠していないのに妊娠していると誤信している状態。普通は子どもを熱望する不妊婦人に多くみられ，無月経，乳房の増大，乳汁(にゅうじゅう)分泌，腹部膨隆(ぼうりゅう)などの妊娠所見に相似の所見がみられ，ときには胎動自覚を訴える婦人もいる。他覚的所見では，妊娠に特有の子宮増大はなく，尿の妊娠反応も陰性である。精神的要因によって起こる視床下部性無月経の異常例と考えられている。精神療法およびホルモン療法が必要。　〔木川源則〕

そうぞく　【相続】　人が死亡したあと，その人に属していた財産関係を，その人と一定の親族関係にある者が承継すること。相続制度が発生したのは私有財産制度*が認められるようになってからであるが，その当初においては，財産は個人とは結びつかず，氏族や家に属していたため，相続形態はおのずから祭祀(さいし)相続・身分相続としての性格を有し，その裏づけとして単独相続*を必要としていた。氏族が各家族に分かれるようになると，祭祀相続・身分相続の性格も薄くなり，遺産についての共同相続*がおもな形態になってくる。しかも，各個人が広範囲に社会経済的生産に参加するようになると，財産は家よりも個人と強く結びつくようになり，相続形態はしだいに身分相続から財産相続へと進展する。それとともに，他方において財産を処分するための遺言*の自由も認められてきたのである。旧民法においては，戸主の身分相続を伴う家督相続*と，家族の純粋な財産相続である遺産相続の2形態が認められていたが，新憲法によって家制度が廃止されたのに伴って新民法も家督相続制度を廃止し，今日では財産相続のみが認められ，しかもすべて共同相続になった。

〔相続の順位〕相続開始の原因は，人の死亡のみに限られ，その対象となる財産を相続財産といい，相続する者を相続人，相続される者を被相続人という。相続財産には被相続人の有していたプラスの財産だけでなく，借財などマイナスの財産も含まれる。ただし，一身専属権*は含まれない。相続人となりうる者は法律に定められており，子が一順位となる(民法887条)。胎児も相続についてはすでに生まれたものとみなされる(民法886条)。子がないときは直系尊属(親・祖父母)が第2順位として相続人になる。直系尊属が数人いるときには親等*の近い者をさきにする。直系尊属もいないときには兄弟姉妹が第3順位として相続人になる(民法889条)。配偶者*はつねにこれらの者と同時に相続人となる(民法890条)。なお，一定の相続人には代襲相続*が認められている(民法889条2項)。すなわち，孫は死亡した子を，おい・めいは死亡した兄弟姉妹を，それぞれ代襲する。相続人が明らかでないときは，相続人の不存在の問題を生ずる(民法951〜959条)。この場合には相続財産を法人*とし，家庭裁判所は管理人を選任して相続財産の管理・清算にあたらせるとともに，相続人捜索の公告をしなければならない。一定期間内に相続人が現われれば，法人は存在しなかったものとみなされる。相続人が現われなければ，被相続人と生計を同じくしていた者，被相続人の療養看護に努めた者，その他被相続人と特別の縁故があった者からの請求によって，家庭裁判所はこれらの者にも財産の分与を認めることができる。これらの者もないときには，相続財産は国庫に帰属する。

〔相続分〕同順位の相続人数人が共同相続した場合，各相続人がその共同相続財産上に有する分けまえを相続分という。相続分は，被相続人が遺言で直接指定するか，または第三者に委託したときには，それによって定まる。ただし，遺留分*を害することはできない(民法902条)。このように，被相続人の特別の意思表示*による相続分を指定相続分という。指定相続分の定めがないときには民法に規定する相続分，すなわち法定相続分によって定まる(民法900条)。法定相続分は，子と配偶者が相続人であるときは，子の相続分は3分の2，配偶者の相続分は3分の1。配偶者と直系尊属が相続人であるときは，それぞれ2分の1。配偶者と兄弟姉妹が相続人であるときは，配偶者の相続分は3分の2，兄弟姉妹の相続分は3分の1。配偶者を除く同一順位の共同相続人の間における相続分は等しく頭割りとする。ただし，嫡出でない子の相続分は嫡出である子の相続分の2分の1，父母の一方のみを同じくする兄弟姉妹は父母の双方を同じくする兄弟姉妹の相続分の2分の1である。相続の効果は，相続分に応じて相続財産のいっさいの権利義務を承継することになるが，相続財産が分割されない間は相続財産は相続人の共有*(合有)となっており，分割することによって，各相続人の相続効果は相続開始のときにさかのぼって効力を生ずることになる(民法909条)。もっとも，系譜・祭具および墳墓の所有権は相続財産から切り離し，祖先の祭祀を主宰すべき者を慣習によって決め，この者に承継

させる(民法897条)。しかしこれには家族制度の旧慣を温存するものだという非難もある。〔黒木三郎〕

そうぞくぜい【相続税】 相続*により移転する財産を対象として課される税。相続税には，遺産税と遺産取得税との2種がある。前者は被相続人の遺産を一括して課税するもの，後者は相続人が相続した財産部分について個別に課税するものである。わが国の相続税は，1950年(昭和25)のシャウプ勧告*による改正までは，遺産税制度をとり，その補完税として財産の贈与者に贈与税*を課するという形態をとっていたが，シャウプ勧告以降，遺産取得税制度が採用されて，贈与税も受贈者課税に改められた。さらに1958年には，遺産取得税制度をとりながら，遺産の総額と法定相続人の数により，相続税の総額が確定するような方式に改められ現在に至っている。相続税については，申告納税制度がとられているほか，10年以内の年賦延納および物納の制度が認められている。〔西野義彦〕

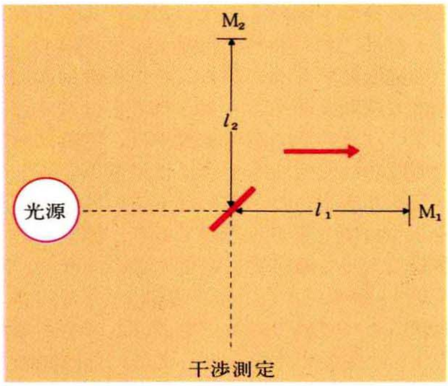
そうぞくほうき【相続放棄】 相続*開始後に，相続人が相続財産の承認を拒絶する意思表示*をいう。旧民法における家督相続*は，〈家〉の永続を目的としていたため，法定推定家督相続人のかってな相続放棄を許さなかった。しかし，新民法は家督相続を廃止し，純粋な財産相続一本としたため，相続放棄は相続人各自に自由に認められている。相続放棄は，一般には被相続人の相続財産が債務超過の場合に，その効果を生ずるけれども，実際には農村などで均分相続*による農地その他の農業資産の分散を防ぐため，長男以外の者に相続放棄をさせ，長男ひとりに農業経営を承継させるという目的のために利用されている例が多い。相続放棄をしようとしている者は，相続開始を知ったのち3か月以内にその旨を家庭裁判所に申述しなければならない(民法938条)。相続を放棄した者は，はじめから相続人でなかったものとみなされるため(民法939条)，その者の相続分は他の共同相続人に，また共同相続人がいないときには，次の順位の相続人に承継される。〔黒木三郎〕

そうたいしつど【相対湿度】 単位体積中に現在ある水蒸気の張力 e と，その温度での飽和水蒸気の張力 E との比を百分率で表わしたもの。

$$相対湿度=\frac{e}{E}\times 100(\%)$$

相対湿度は，同じ水蒸気量でも温度によって異なるのが大きな特徴である。これは温度によって含みうる最大の水蒸気量が異なるためで，相対湿度は温度のいかんにかかわりなく湿潤の度合いを示すものと考えてよい。➔湿度

そうたいしゅぎ【相対主義】 絶対主義に対しての哲学上の立場の一。①われわれの認識はすべて相対的であって，絶対的真理はとらえられないという説。〈人間は万物の尺度である〉というプロタゴラス*のことばは，それを端的に言い表わしている。近代の経験論哲学では，感覚による相対的・一時的認識以外には，いかなる認識もありえないとする。カントの批判主義は，知的直観を認めず，感性的直観と悟性の統一によって認識が成立すると考え，物自体の認識を断念したので，相対主義ということができる。②道徳において，善悪の観念は時代とともに，また社会が異なるにしたがって変化するので，道徳の一定の進歩や絶対的規範などを認められないことになる。〔飯塚勝久〕



相対性理論 マイケルソン-モーリーの実験

そうたいせいりろん【相対性理論】 略して相対論という。物理現象は空間と時間の座標の関数として表わされるが，座標系の選び方は任意で，物理現象はどんな座標系でも同様になりたつ。つまり座標系は物理現象を数量的に表現するためのもので，相対的な意味しかもたない。この考え方に基づいて組み立てられた理論体系が相対論である。

相対論には，特殊相対論と一般相対論の別がある。前者は加速度のない場合になりたつもので，広く普及しており，単に相対論というときにはこれをさすことが多い。後者は天体現象のように重力がきく場合に適用される。

〔ローレンツ変換〕 相対性の概念は古くからあった。x 方向に速さ u で運動する座標系では，もとの座標系における空間と時間の座標 x と t は

$$x'=x-ut,\quad t'=t \qquad ①$$

と変換した座標でこの現象を表わせばよい。この変換をガリレイ変換という。ニュートンの運動方程式はこれに対して不変である。

ところが電磁気を表わすマックスウェルの方程式はガリレイ変換に対して不変ではない。ガリレイ変換を基礎とする相対性は，電磁気の関与する諸現象，特に光の伝播(でんぱ)においてはなりたたないことが19世紀の末ごろに認識され始めた。

ガリレイ変換①の第1式から，速度の加法性 $v'+u=v$ がなりたつ。しかし，二重星*について星の運動と光の速度の加法性はなりたたず，星の運動にかかわらず光の速さは一定であった。この矛盾はマイケルソン-モーリーの実験*によって数量的に示された。

図に示すように，鏡 M_1 と M_2 で反射されてもどってくる光の伝播時間の差を，二つの光波の干渉を利用して精密に測定した。光は媒体エーテル*の中を速度 c で伝わり，測定器は地球の運動に従って動くから，測定器からみればエーテルが速度 v で動いていることになる。速度の加法性がなりたてば，二つの光路を往復するに要する時間は

$$\left.\begin{aligned} t_1&=\frac{l_1}{c+v}+\frac{l_1}{c-v}=\frac{2l_1}{c(1-\beta^2)},\\ t_2&=\frac{2l_2}{c\sqrt{1-\beta^2}},\ \beta\equiv\frac{v}{c}\end{aligned}\right\}②$$

で求められる。$l_1=l_2$ としておけば $t_1>t_2$ のはずであるが，実験の結果は $t_1=t_2$ であった。これによってエーテルの存在が否定されるだけでなく，$t_1=t_2$ をなりたたせるために

$$l_1\to\sqrt{1-\beta^2}\,l_1 \qquad ③$$

と置くことが必要になる。つまり運動方向に長さが縮むことが必要で，これをローレンツ収縮という。

③の関係をなりたたせるためには，ガリレイ変換の代わりに，ローレンツ変換

$$\left.\begin{aligned} x'&=(1-\beta^2)^{-1/2}(x-vt),\\ ct'&=(1-\beta^2)^{-1/2}(ct-\beta x)\end{aligned}\right\}④$$

を用いなければならない。

〔特殊相対論〕 1904年にローレンツ*が導いた結果を，1905年アインシュタイン*は特殊相対論に一般化した。これによれば，相対性はローレンツ変換に対してなりたつ。マックスウェル方程式はこの変換に対して不変で，光速度はどの座標系でも一定である。力学については，エネルギー E，運動量 p，質量 m の関係を

$$E=\sqrt{p^2c^2+m^2c^4} \qquad ⑤$$

と修正する。速度は $v=pc^2/E$ となり，静止している場合にも有限の静止エネルギー mc^2 が残る。また，運動エネルギーは $E-mc^2$ になる。

$\beta^2\ll 1$ の場合を非相対論的，$p>mc$ の場合を相対論的という。相対論の特徴は高エネルギーで現われ，特殊相対論は原子核の諸現象で験証された。素粒子をはじめ物理学の基礎方程式は，相対論を満足させるようにつくられている。

〔一般相対論〕 加速度のある場合には，速度が時間と空間によって変化するから，速度一定の場合を扱う特殊相対論はなりたたない。重力を受けて自由に落下する箱の中では重力は感じられないから，箱の中と外とから見た場合を適当な変換で結び，同一の物理現象を表わすことができればよい。これを手がかりにして，1916年アインシュタインは加速度のある場合にもなりたつ一般相対論をつくりあげた。

一般相対論は，重力の下にある運動とそれと同等な加速運動とを区別せず，重力質量と慣性質量とは同じという同等性原理を基礎に置いている。それゆえ，エネルギーEの光子は重力質量E/c^2の粒子と同じ運動をし，重力場の中で経路が曲がるし，重力ポテンシャルの差に比例して周波数が変化する。前者をアインシュタイン効果，後者を重力シフトといい，実験的に確かめられている。水星軌道の近日点のずれ，重力の強い場所での電波の速度にもこの効果が現われ，いずれも理論と一致する観測結果が得られる。

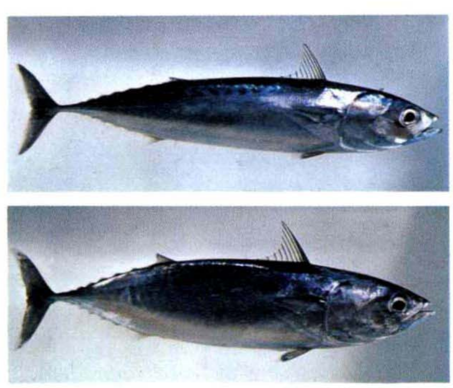
光の経路の曲がりは空間の曲がりと解釈される。曲がりの度合い，すなわち重力場の変化は時間・空間の関数(場)となり，四次元のテンソル量で表わされ，これに対してもアインシュタインの方程式がなりたつ。物質の分布が与えられれば，この方程式の解として重力の時空分布が得られ，さらに物質や光の運動が求められる。物質と重力場のふるまいを一つの方程式で表わすのが，アインシュタインの一般相対論の特色である。この理論によれば，4重極より高い次数の変形があれば重力波が発生する。事実，重力波が観測されたという報告が1969年にあった。

アインシュタインの一般相対論が重力のある場合の唯一の理論であるかどうかについては，異論もある。最近の実験物理学の発達，また重力の強い高密度星の存在，宇宙論に関係する諸観測の進歩等によって，一般相対論が物理学の理論として確立されるかどうか，遠からず判明するであろう。〔早川幸男〕

そうだがつお【惣太鰹】硬骨魚類・サバ科。全長40cmほどになる海産魚。ヒラソウダ・マルソウダの2種があり，いずれも紡錘形で，外見はカツオによく似る。背部は濃青色で，流紋状の明色体が10数条，体前方に下傾して流れ，腹部は白い。胸びれ付近の胴体はかたい胸甲におおわれ，他の部分は無鱗(むりん)。ヒラソウダは，体がやや側扁(そくへん)する。北海道から，フィリピン・太平洋東部・地中海・大西洋に分布する。マルソウダは体の横断面が円形に近く，ヒラソウダよりほっそりしている。北海道から，フィリピン・東インド諸島・オーストラリア近海に分布する。ヒラソウダはかなり美味で生食もされるが，両種とも血合い肉が多く，生食は中毒を起こしやすい。主としてかつおぶしの代用品として，大量に消費されている。〔菅野　徹〕

そうたつ【宗達】江戸初期の画家。生没年・伝記は不詳。京都の富裕な商家の出身とみられ，はじめは町絵師であったが，およそ1600年ごろから1631年代にかけて活躍。同時代の本阿弥(ほんあみ)*光悦とは深い関係にあり，書画巻の合作が何点か残り，縁戚(えんせき)関係を示す系図も伝わっている。また，茶人の*千少庵(しょうあん)，公卿(くげ)の烏丸光広(からすまるみつひろ)らとの親交もあり，宮廷へ出入りしたともうかがえる。画業も，新興の町絵と大和絵(やまとえ)の伝統を基盤として，新しい近代装飾画の一大様式をつくりあげ，*宗達光琳派(こうりんは)の祖としてわが国美術史上最大の画家のひとりにあげられている。その作品の種類は多く，1602年(慶長7)の《*平家納経》の修理をはじめ，下絵・扇面画などの小品類，水墨画，絵巻，障壁画など多岐にわたっている。斬新(ざんしん)な構図による独特の画面構成，すぐれた色彩感覚，またたらし込み*・没骨*(もっこつ)・彫り塗りなどさまざまな技法を駆使して独自の画境を開いた。代表作には《風神雷神図》，《源氏物語》に取材した《関屋・澪標(みおつくし)図》，《無楽図》などの屏風絵(びょうぶえ)をはじめ，京都，養源院の障壁画，水墨画では《蓮池水禽(れんちすいきん)図》《牛図》などがあり，1630年(寛永7)に描写した《西行物語絵巻*》なども有名である。〔村重　寧〕

そうたつこうりんは【宗達光琳派】江戸時代に行なわれた装飾画派。初期の俵屋*宗達を祖とし，元禄(げんろく)ごろ(1688～1703)の尾形*光琳が大成した。宗達は，京都の町絵師として活躍しながら，大和絵(やまとえ)の古典にふれて，その伝統を新しい近世的感覚をもって再興した。後継者に宗雪*・相説らがいるが，宗達の築いた高い芸術性を守るには至らなかった。光琳は，はじめ



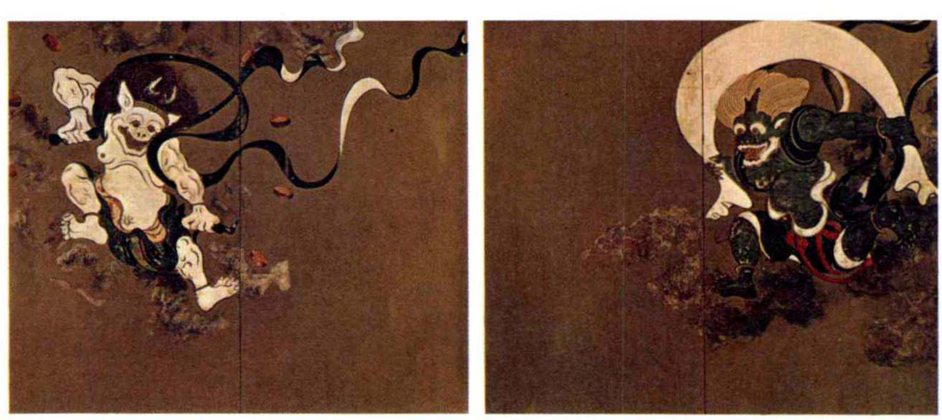
ソウダガツオ（上）マルソウダ（下）ヒラソウダ

狩野派(かのうは)を学び宗達の作品に接してみずからの芸術の境地を開き，絵画における装飾性をきびしく追求した。その弟尾形乾山*(けんざん)は陶芸家として名高いが，絵付けを思わせる装飾画の傑作を残している。その後も立林何帠(かげい)・深江蘆舟(ろしゅう)・渡辺(わたなべ)始興らが出て，それぞれ宗達ふう・光琳ふうの作画を試みているが画値は低く，独創性にも乏しい。後期に現われた酒井抱一*は，諸派を学んだのち光琳に濃く傾倒し独自の態度でこれを再興し，衰退しかけたこの派の流れに光明を与えた。〔村重　寧〕

そうたん【宗湛】(1413～？) 室町中期の画家。俗姓小栗(おぐり)氏。出家後のいみ名を宗湛といい，一説に号を天翁，常陸(ひたち)(茨城県)の武士出身ともいう。また，牧谿*(もっけい)の筆意を体得していたところから自牧という別号を与えられてもいる。1463年(寛正4)以前に周文*のあとを継いで室町幕府の御用画師となり，京都の諸寺院・殿舎に襖絵(ふすまえ)を描いた記録があるが，確実な遺作は現存しない。その子宗継の描いた《山水図》《琴棋(きんき)書画図》などから推測すれば，宗湛の作風は謹直で正統的である。周文の後継者として，禅林中心の絵画を武人，一般俗衆の享受の対象とした役割を果たしたかとみられ，狩野派*(かのうは)の作風にも影響を及ぼしている。〔中島純司〕

そうちさんぎょう【装置産業】大規模な設備・装置を要する産業部門をいう。石油精製・石油化学工業はこの代表的なものであり，そのほか，鉄鋼・セメント・パルプ・合成繊維などの部門がこれに含まれる。人間の労働は機械と装置とを使って対象に働きかけ生産を行なうのであるが，化学工業では装置のほうが本質的に重要で，労働は装置を操作する補助的な役割にすぎない。その意味で機械工業と対比して特に化学工業を装置産業とよぶ。装置産業では生産費に占める労務費の割合がきわめて低く，大規模生産によって大きな利益が得られるのが特色である。〔加藤　寛〕

そうちょう【宗長】(1448～1532) 連歌師。別号に宗歓・長阿(ちょうあ)など。駿河



宗　達《紙本金地著色風神雷神図屏風》(二曲一双) 建仁寺蔵

(するが)国(静岡県)島田の鍛冶職(かじしょく)の子に生まれ，今川義忠に仕えたのち一休の門にはいった。宗祇(そうぎ)に師事して諸方に同行し，《新撰菟玖波集(しんせんつくばしゅう)》の編集に協力したが晩年は宇津山麓(さんろく)の柴屋軒(さいおくけん)に隠棲(いんせい)している。句集に《壁草》《那智籠(なちごもり)》など，論書に《三河(みかわ)下り》《連歌比況集》などがあるほか，《宗祇終焉記(しゅうえんき)》《宗長手記》などの日記・紀行を残した。〔奥野純一〕

そうちょうるい【走鳥類】翼が退化して飛ぶことができず，翼の筋肉の付着点である胸骨の龍骨(りゅうこつ)突起がなく，全身の羽毛も退化しており，口蓋(こうがい)の骨が特殊な形をしているなどの性質をもつ鳥の総称。ダチョウ科・レア科・ヒクイドリ科・エミュー科・キーウィ科，および化石鳥のモア科とエピオルニス科が含まれる。これらはすべて飛翔(ひしょう)性の鳥から進化したものであるが，すべてが同一の祖先から生じたものであるかどうかは不明である。〔浦本昌紀〕

そうてい【漕艇】⇨ボートレース

そうていいんほう【総定員法】1969年(昭和44)，第61通常国会で成立した〈行政機関の職員に関する法律〉のこと。行政機関の定員管理を弾力的・合理的にするため，従来各機関の設置法に個別に規定されていた職員の定員を政令で定めることにし，その総定員(50万6,571人—自衛官と五現業職員などを除く)だけを定めた。この法律の制定を，行政改革の前進への足がかりとして高く評価するむきもあったが，他方野党や労働組合は，不当配転・首切りのおそれがあり,各省庁の力関係による不合理な定員配分の危険性もあるとして強く反対した。〔木元錦哉〕

そうでん【送電】発電所間または変電所間，さらにこれら相互間で電力を伝送すること。変電所と需要家の間の電力伝送は含まれない。伝送には送電線に交流あるいは直流電圧を加えて行なう。《送電線》送電線は架空線式と地中線式との2種に大別される。前者は絶縁体に空気を利用し，電線を空中に，電柱・鉄塔などで支持するものであるが，後者はポリエチレンなどを被覆した地下ケーブルを埋設して送電する。地中線式は架空線式に比べ，風水害・雷害を受けにくいので電力供給の信頼度が高く，都市の美観をそこねず，しかも感電その他の危険が少ない利点があるが，その反面建設費が高く，事故時における修理に難点がある。送電線の材料には，①電気抵抗が小さいこと，②機械的強度および伸びが大きいこと，③空気中で腐食しにくいこと，④比重の小さいこと，⑤接続法が容易なこと，⑥架線の容易なこと，⑦価格が安いこと，などの条件から，現在は銅・アルミニウムが用いられている。《送電電圧》送電線路の線間電圧のこと。一定の距離に一定の電力を送るとき電圧が高いほど電力損失が少なくなり，送電効率がよくなることが知られている。反面，電圧が高くなるほど，絶縁が問題となり碍子(がいし),変電設備は高価になる。現在は数種の標準電圧を決めて，機器の規格化，送電線相互の結合の簡単化を行ない，経済性を高めている。わが国では，標準電圧のことを公称電圧とよび,現在3.3，6.6，11，22，33，66，77，110，154，184，220，275，500 kVなどがある。電気設備技術基準によれば，保安上から電圧を，①低圧(直流では700V以下，交流では600V以下)，②高圧(低圧以上で，交流・直流ともに7,000V以下)，③特別高圧(高圧の限度をこえるもの)の3種類に分類している。最近では俗に200 kV以上を超高圧，5,000 kV以上を超々高圧とよんでいる。《送電方式》伝送電流の種類によって，交流方式と直流方式に分けられる。交流方式はまた単相式・多相式に分けられ，現在では三相交流方式が圧倒的に採用されている。これは，①電圧の昇降が変圧によって容易に，かつ効率よく行なわれること，②同じ電力を伝送するとき単相式と比べて電線材料が半分でよいということ，③回転磁界が容易に得られること，などの理由によるものである。一方，最近になって直流方式の利点が注目されてきており，アメリカ・ソ連・スウェーデンなどの一部や英仏間などで採用されている。直流方式は交流方式に比べ，長距離の送電を行なう場合にも安定な送電が行なわれるが，交流→直流，直流→交流とする変換器が必要となる。

最近では，人口の都市集中化，用地獲得が困難,交通障害,美観をそこなうことなどの善処策として，管路気中方式・無線送電方式・レーザー光線方式・メーザー光線方式・超電導方式などの送電方式が開発されている。〔田村康男〕

そうてんい【相転移】均質な物質が一つの相から他の相へ移行すること。温度や圧力など物質の熱平衡状態を指定する変数を変えていくと，これらの変数がある値になるとき，物質の熱平衡状態はある相から異なる相へ転移したり，また一つの相からなっていたものがいくつかの相に分かれたりすることがある。相転移が起こるとき，熱力学的な量(あるいはこの量を温度や圧力で何回か微分した量)は不連続的に変わる。たとえば1気圧のもとでは，水は0℃で氷になり100℃では水蒸気になるが，これらの相転移のもとでは融解熱や気化熱(これらを総称して潜熱という)が必要であって，エントロピーが不連続に変わっていることを示している。またエントロピーは連続的に変わるけれどもそれを温度で微分した比熱が不連続に変わる場合もある。強磁性体などでよく現われるが，高温では磁化しなかったのが，ある温度で磁化が現われはじめるのは，この温度で比熱が不連続に変わる場合である。このように比熱が不連続的に変わる相転移を第2種の相転移といい，前に述べた場合のようにエントロピーが不連続的に変わって潜熱が必要になるものを第1種の相転移という。〔中野藤生〕

そうどう【相同】相似に対する語で，形も働きも違っているが，進化のもとをたどれば同じ起源と考えられるようなものをいい，その器官を相同器官という。たとえば，哺乳(ほにゅう)類の前肢(ぜんし)と鳥類の翼は働きも形も異なるが，解剖学的に骨の構造などをみると相同器官であり，また発生上からみても同一起源のものである。同様のことが，両生類以上の動物の前肢と魚類の胸びれ，コウモリの膜翼，クジラの前びれなどにもいえる。なお，同一個体の部分の比較についても相同という語が用いられることがあるが，一般には異種間についての関係をいうことが多い。〔蒲原春一〕

そうどう【僧堂】禅堂・雲堂・坐堂(ざどう)ともいう。禅宗で僧が坐禅を行なうための堂。堂の内部周辺に長い廊が設けられており，そこで坐禅を行なう。寺院により大小があり，その規模は一定していない。寺がせまい場合は，経典を講じ，法を説くための法堂(はっとう)で坐禅をすることもあり，また衆僧の居寮を禅堂とする場合もある。また坐禅し，悟りを開く人を選びとるところから選仏堂・選仏場ともいう。

そうとうしゅう【曹洞宗】禅宗の一派。禅宗は中国の唐代半ばに成立し，唐代末から宋(そう)代に隆盛をきわめた。中国の曹洞宗は，南宗禅の祖，6祖慧能(えのう)のもとに青原行思と南岳懐譲(なんがくえじょう)の2系統を生じ，青原系から石頭・薬山・雲巌(うんげん)を経て洞山良价(とうざんりょうかい)が出，その弟子(でし)曹山本寂とともに〈五位説〉という独特の禅風を鼓吹したところに成立した。すなわち，洞山・曹山の師資相承による禅風をいう。同じく南宗禅の発展によって成立した青原系の法眼宗・雲門宗，南岳系の臨済宗・潙仰宗(いぎょうしゅう)とともに，五家七宗の一つとされている。曹洞宗の名称については，先述の洞山の〈洞〉と曹山の〈曹〉とによるものとする立場がある。これに対して，禅宗の正系とされる6祖の曹溪(そうけい)慧能と，慧能下青原系5世の法孫洞山良价の法統に基づくもので，すなわち曹溪の〈曹〉と洞山の〈洞〉とによって名づけられたと主張する立場がある。これは，同じく洞山の弟子ではあるが，曹山本寂ではなくて，雲居道膺(うんごどうよう)の系統を引く天童如浄(てんどうにょじょう)から法を伝えて帰朝した道元による日本の曹洞宗の立場である。道元自身は，禅宗・仏心宗・曹洞宗などの宗名をきびしく排したが，これはみずから伝えたものは〈正伝の仏法なり〉という信念に基づいている。すなわち，中国における五家七宗の一つとしての，いわゆる五位説を中心とした洞山・曹山の系統の継承でないことを明ら

かにしたものである。道元は，中国において4年にわたる求法の旅を終えて1227年(安貞1)帰朝，宇治の興聖寺で開法し，のち越前(えちぜん)(福井県)に永平寺を開いて真の求道者の養成に心血を注いだ。この道元の法は，孤雲懐奘(こうんえじょう)・徹通義介(てっつうぎかい)を経て瑩山紹瑾(けいざんじょうきん)に受け継がれ，紹瑾は能登(のと)(石川県)に総持寺を開き，多くのすぐれた人材を輩出して全国各地に教線を拡大する基をなした。道元は帰朝早々《普勧坐禅儀(ふかんざぜんぎ)》を著わして，ひたすら坐禅に徹するところに真理が具現される(只管打坐(しかんたざ))ことを強調し，また《永平大清規(えいへいだいしんぎ)》によって学道者の心構え・作法などを詳細に示したが，この精神は瑩山紹瑾においてもその著《坐禅用心記》や《瑩山清規》に受け継がれている。曹洞宗の宗風が〈威儀即仏法，作法是宗旨〉といわれ，綿密な修行態度にその宗教的生命があるというのは，この両祖の精神に由来するものである。永平寺，および1898年(明治31)現在地(神奈川県横浜市鶴見区)に移された総持寺は，両大本山とよばれ，今日全国におおよそ15,000寺を有する日本最大の宗団を形成している。➔禅宗

〔田中良昭〕

そうどうせん【双胴船】⇨カタマラン船

そうどうせんしょくたい【相同染色体】同形・同大で，含まれる遺伝子が同一順序で並んでいる染色体。減数分裂の前期から中期にかけて2個の染色体が対合して2価染色体が形成されるが，これらが相同染色体であり，一方は父方から，他方は母方から由来する。

そうどうめい【総同盟】⇨日本労働組合総同盟

そうとく【総督】中国，明(みん)・清(しん)代の地方長官。1441年に始まるとされる。最初必要に応じて文官を派遣し，地方軍隊を統帥させたが，しだいに常駐的なものになり，軍政と民政をつかさどるようになった。清は明制をさらに拡充して総督を1～3省に1人任命し，巡撫(じゅんぶ)と並んで地方行政を総覧した。総督はまた対外交渉権ももっていたが，清末に直隷・両江の2総督は北洋大臣・南洋大臣を兼任し，とりわけ大きな権力をもった。〔大谷敏夫〕

そうどしゃ【草土社】大正時代の洋画団体。1915年(大正4)10月現代之美術社主催美術展が岸田劉生(りゅうせい)を中心とした洋画家により開かれ，同展が草土社の創立展覧会となる。1916年・1917年に春・秋2回，以後毎年12月に展覧会を開き，1922年11月の第9回展をもって終わる。劉生のほか木村荘八・清宮彬(あきら)・横堀(よこぼり)角次郎・中川一政(かずまさ)・椿貞雄(つばきさだお)・中島正貴(まさたか)・高須(たかす)光治・河野(こうの)通勢らを同人として，武者小路実篤(むしゃのこうじさねあつ)ら白樺(しらかば)派の影響を受けたが，その主要同人は同年1月創立の春陽会に参加した。

〔匠 秀夫〕

そうトンすう【総トン数】船の総容積を，100立方フィート(1,000/353m^3)を1トンとする単位で表わしたもの。ただし，上甲板上にあって船の安全・衛生・航海に必要な場所(たとえば操舵室(そうだしつ)・便所・調理室・出入り口など)や二重底のタンクなどは総トン数から除外される。総トン数は船の大きさを表わす基本的なもので，租税・各種手数料・港湾関係使用料・保険料を定める基準となるほか，海運力を比べる場合などに用いられる。一般に商船でトン数というのはこれをさす。略号GT。

〔飯島幸人〕

ぞうに【雑煮】もちを主とし，野菜・鳥肉・魚などを入れたしるもの。元日から3日間これを食べて新年を祝う習慣は古く，今日でも全国で行なわれている。この前身とも思われる〈歯固めの祝い〉は《源氏物語》にしるされているが，これは年を延ばし，齢(よわい)を固めるの意で，正月1～3日に長寿を祝って食するもので，ダイコン・味ひしおづけうり・押しあゆ・煮あゆ・いのしし肉・しか肉に鏡もちを加えて供した。歯固めは《土佐日記》や《延喜式巻39》にも見られるが，やがて野菜・肉・魚をいっしょに煮てしるを入れるようになり，これが雑煮になったと思われる。《浪合記》に〈永享(えいきょう)8年(1436)正月元日の雑煮〉とあり，室町時代には民間にも広く行なわれていたようである。《庖丁(ほうちょう)聞書》に〈雑煮上置の事，串(くし)あわび・串なまこ・ダイコン・青菜・花かつおを上置にし，下盛にサトイモ，その上にもちを置く〉とあり，《守貞漫稿(もりさだまんこう)》にもしるされている。江戸時代から関東では澄ましじる仕立てで切りもちを焼き，関西ではみそ仕立てで丸もちをゆでてつくることは今日まで変わらない。入れる具はその地方の産物を用い，各家によってもしきたりがあったが，今日では地方の特色も薄れつつある。なお，正月にあずき雑煮またはぜんざいを食べる地方があり，元旦に雑煮を食べない地方もある。

〔塩川ふみ〕

そうねんき【壮年期】成人期ともいう。青年期が終わり，老年期にはいるまでの期間で，だいたい25～30歳以後から50～60歳ごろまでをさす。人生における最も長期にまたがる発達段階で，この時期は，別名社会生活時代とも名づけられているように，職業生活や家庭生活を中心として，社会と密接な関連をもちながら社会と調和しつつ生き，精神的にも安定した生活を営む時代である。これまでの研究によれば，25歳から40歳ごろまでが最もすぐれた業績を生み出すとされている。

そうは【掻爬】診断あるいは治療の目的で，キューレットを用いて組織の採取，破壊あるいは除去を行なう手術。俗には人工妊娠中絶術の意に用いられている。人工妊娠中絶術はまず頸管(けいかん)拡張を行ない，次いで内容除去，最後に掻爬という順序で手術が行なわれる。したがって掻爬は術式の一部をなしているにすぎない。

そうはちがれい【宗八鰈】硬骨魚類・カレイ科。ソウハチともいう。全長40cmに及ぶ海産魚。体は長楕円(ちょうだえん)形でかなり細長く，目と口が大きい。有眼側は黄色みをおびた暗かっ色，無眼側は白色。日本海全域および福島県以北の太平洋岸，黄海・千島・サハリン(樺太(からふと))方面に分布し，底引き網で多量に漁獲される。

そうはつ【総髪】江戸後期から幕末にかけての男子の髪型の一。月代(さかやき)をそらずに伸ばし，現代のオールバックのように後ろになでつける。兵法・砲術・医学など西洋の学問をする者に多い。これはその学問の教師が外人であることが多いので，その影響を受けたものと思われる。ただし学者だけでなく，浪人者や山伏も月代の手入れが不要なこの髪形を用いた。

そうはつせいちほう【早発性痴呆】⇨精神分裂病

ぞうはていこう【造波抵抗】船の船首・船尾から生ずる波が，船の進行を妨げる現象。船首尾で起こる両波は波頂が斜め後方に広がる八字形の波と，船の横方向に平行に並ぶ横波からなっている。この中で横波は船首波と船尾波とが互いに干渉して船の抵抗に大きな影響を及ぼす。すなわち，両波の山と山とが重なると造波抵抗は著しく増加する。これをハンプという。また山と谷とが重なると抵抗が減少する。これをホローという。造波抵抗を減らすには航海速力と船の長さを適当に選んで，ホローの状態にすることが必要である。〔飯島幸人〕

そうはん【宋版】中国の宋代に刊行された書物の総称。北宋版・南宋版に分けることもある。造本・校勘ともにすぐれ，用紙の優良なこと，印刷の鮮明なこと，誤字のきわめて少ないことなどの点で珍重されるが，現存するものは多くはない。中には日本にのみ伝わって中国にないものもある。彼我ともに宋版愛好癖が強く，中国には一宋版と愛妾(あいしょう)を交換した話もある。宋版に用いた文字を宋朝体という。

そうひ【曹丕】(187～226) 中国，三国魏(ぎ)の初代皇帝。世祖・文帝。字(あざな)は子桓(しかん)。在位220～226年。220年父曹操の死後，後漢の丞相(じょうしょう)，魏王となり，九品官人法を実施して豪族対策に成功した。同年10月後漢の献帝から禅譲を受け，帝位につく。彼の豪族擁護策は魏晋(ぎしん)南北朝時代の貴族制成立に決定的な役割を果たしたが，逆に宗室を抑圧したため魏王朝の崩壊を早めた。詩・文章にすぐれ，《典論》5巻を著わす。〔勝村哲也〕

ぞうひびょう【象皮病】リンパ管や静脈の局所性慢性停滞により，周囲の結合組織が増殖しかたく肥厚して，ゾウの皮膚の

ようになる病気。バンクロフト糸状虫の血液寄生によりリンパ管やリンパ節が閉塞(へいそく)されて生ずるものを，原発性または熱帯性象皮病とよぶ。熱帯地方，特に中央アメリカ・アラビア・インド・ハワイなどに多く，わが国では九州・伊豆(いず)などの風土病として存在する。悪寒(おかん)，発熱，局所の発赤・腫脹(しゅちょう)，疼痛(とうつう)の発作をくり返すうちに皮膚の肥厚が増してくる。

　これに対し局所リンパ液の停滞をきたす種々の病気で起こるものを，続発性象皮病という。反復性の丹毒，リンパ管炎，静脈炎，腫瘍(しゅよう)による静脈やリンパ管の圧迫，手術後の四肢(しし)の慢性の炎症，潰瘍(かいよう)などに続いて発生する。部位的には下肢・陰嚢(いんのう)・陰唇(いんしん)に最も多く，ときには乳房・上肢にも起こる。この場合，原因疾患の治療が先決である。ごく軽いものは弾性包帯やマッサージを行なうが，難治なものは整形手術を要する。〔田嶋公子〕

そうひょう 【総評】 ⇨日本労働組合総評議会

そうびょう 【躁病】 ⇨躁鬱病(そううつびょう)

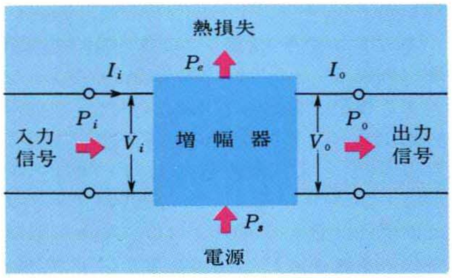
そうびれい 【宋美齢】 ソンメイリン (1901～　) 中華民国総統蔣介石*(しょうかいせき)の夫人。上海(シャンハイ)出身。宋家三姉妹の三女。姉とアメリカのウィルズリー大学に留学。1927年，蔣介石と結婚した。蔣介石が政治・軍事の面でアメリカの援助を受けるにあたり，夫に代わってワシントン各界に働きかけた。台湾に移動後は，中国婦女反共抗ソ連合会会長として活躍し，その他の婦人団体の指導にもあたっている。

そうびん 【僧旻】 (467～527) 中国，南北朝時代の僧。智蔵(ちぞう)・法雲とともに梁(りょう)の三大法師のひとりに数えられる。呉郡富春(浙江(せっこう)省)の出身。姓は孫氏，呉王の末裔(まつえい)といわれ，建康(南京(ナンキン))の荘厳寺に住していたので荘厳僧旻とよばれる。広く仏典に精通していたが，特に僧柔(そうにゅう)・慧次(えじ)に《成実論(じょうじつろん)》を学び，当代の代表的な成実学者であった。斉(せい)・梁の王に重んじられ，勅命により《衆経要抄》88巻の選述に参加した。

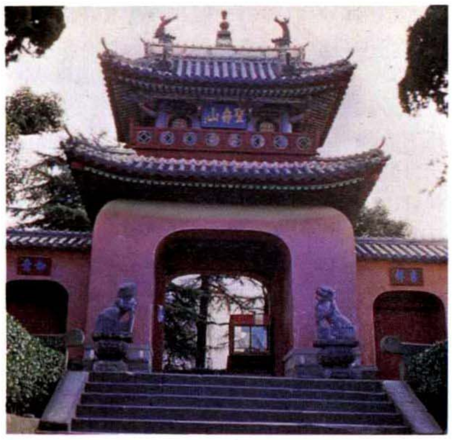
そうびん 【僧旻】 (？～653あるいは654) 飛鳥(あすか)時代の僧。608年(推古16)に，遣隋使(けんずいし)小野妹子(いもこ)に従って隋に留学し，632年(舒明4)帰朝して中国の文化を日本に紹介した。孝徳天皇にその才能を認められ，645年(大化1)には高向玄理*(たかむこのくろまろ)とともに国博士に任ぜられ，大化改新に功労があった。のちに十師のひとりに列せられ，649年には勅命によって八省百官の制度を高向玄理とともに定めた。

そうふ 【総譜】 ⇨スコア

ぞうふく 【増幅】 電気信号や光・音響など，物理的な信号の振幅を増大すること。特に電気信号についていう場合が多い。増幅する装置を増幅器またはアンプリファイアという。増幅作用が行なわれていると



増　幅　増幅のエネルギー関係



崇福寺　1849年に成った三門　長崎市

きの電力の授受は図のように$P_i + P_s = P_0 + P_e$であるが，多くの場合入力信号電力P_iは微弱であって，$P_i \ll P_s$であるから$P_s = P_0 + P_e$となる。すなわち，増幅とは電源から与えられる電力P_sを微弱な入力信号P_iによって制御して，大きな出力信号P_0にエネルギー変換を行なうことである。増幅の度合いを表現するには出力信号が入力信号に比べて何倍になっているかをめやすとし，それを利得または増幅率という。すなわち，信号の電力を比較したものは電力利得$G = P_0/P_i$といい，電圧・電流についてもそれぞれ電圧利得$G_v = V_0/V_i$，電流利得$G_i = I_0/I_i$がある。利得は倍率で表わすほかにその対数を取ったものでその大小を表現することが多い。その単位はデシベル(db)で，電力利得の場合は$10\log_{10}G$，電圧および電流利得は$20\log_{10}G_v$および$20\log_{10}G_i$を1dbとする。〔小原啓義〕

ぞうふくき 【増幅器】 ⇨前項

そうふくじ 【崇福寺】 福岡市堅粕(かたかす)日ノ出町にある臨済宗の寺。山号は横岳山(おうがくさん)。1240年(仁治1)湛慧(たんえ)が太宰府(だざいふ)の横岳に創建。翌年宋(そう)から帰朝した円爾(えんに)弁円を迎え開山とする。1243年(寛元1)官寺*に列す。1586年(天正14)兵火にかかり焼亡。1600年(慶長5)黒田長政(ながまさ)入国とともに現在地に再興し，黒田家の菩提所(ぼだいしょ)としたため栄えた。墓域には，歴代黒田藩主の墓がある。

そうふくじ 【崇福寺】 長崎県長崎市今籠(いまかご)町にある黄檗宗(おうばくしゅう)の寺。福州寺または唐寺ともよばれる。1629年(寛永6)長崎に移住した明人(みんじん)が，福州(中国)から超然を招いて開山として創建した。1654年(承応3)隠元が来朝して黄檗宗を伝えるや，その弟子(でし)即非に命じて堂宇を改築させた。第一峰門・大雄宝殿は中でもすぐれ，明末清(しん)初の中国建築の遺風をよく伝えている。

ぞうぶつざい 【贓物罪】 贓物をそれと知って収受・運搬・故買(有償取得)・寄蔵(委託保管)・牙保(がほ)(法律上の処分の周旋)する罪。贓物とは，財産罪にあたる窃盗罪・強盗罪・詐欺罪・恐喝(きょうかつ)罪・横領罪などによって領得された財物をさし，被害者がその返還請求権を有する必要がある。未成年者および責任無能力者(→責任能力)が領得した財物も贓物とみなされる。贓物を収受した者は3年以下の懲役，運搬・故買・寄蔵・牙保した者は10年以下の懲役と50,000円以下の罰金を併科される(刑法256条)。なお，これらの行為が一定の親族間で行なわれたときは，刑は免除される(刑法257条)。〔井上公耳〕

そうぶほんせん 【総武本線】 御茶ノ水～銚子(ちょうし)間の国鉄路線。営業キロ数120，ほかに貨物支線13.1キロがある。1894(明治27)に錦糸町(きんしちょう)～佐倉間がまず開通し，次いで1897年に佐倉～銚子間，1904年に両国～錦糸町間，1932年(昭和7)に御茶ノ水～両国間が開通した。千葉県北部を東西に縦貫する幹線鉄道で御茶ノ水～佐倉間が直流で電化されている。沿線には市川・船橋・千葉・佐倉・八日市場などの都市がある。

そうへい 【僧兵】 寺院がその所領である荘園*(しょうえん)や多くの権利を守るためにたくわえた武装僧侶(そうりょ)のこと。中世以前には悪僧といい，また裹頭(かとう)ともいった。すでに奈良時代以前，壬申(じんしん)の乱*，藤原仲麻呂*(なかまろ)(恵美押勝(えみのおしかつ)の乱)などにおいて，戦闘に従う者があった。10世紀にはいると，政府の荘園整理政策に対抗するため諸大寺は競って僧兵を養ったが，これはまた互いに争いをも招いた。院政時代の寺院は，院や朝廷の厚い保護を受け，少しでも気に入らないことがあればすぐに強訴*(ごうそ)して目的を遂げたが，その結果政治が曲げられ，無理・非法がまかり通るなどの弊害を生んだ。奈良法師(興福寺〔奈良県〕)・山法師(延暦(えんりゃく)寺〔滋賀県〕)・寺法師(園城(おんじょう)寺〔滋賀県〕)は特に有名である。また南都(興福寺)・北嶺(ほくれい)(延暦寺)と併称された両寺は，それぞれ春日(かすが)大社*(奈良県)の神木，日吉(ひえ)大社(滋賀県)の神輿(しんよ)を奉じて強訴し，神仏の威をもって朝廷・貴族を屈服させた。朝廷は僧兵の横暴をおさえるために武士を起用したが，これがやがて武士の政治的台頭の一因となった。僧兵は源平の争乱，承久の乱，南北朝の内乱にも参加しているし，戦国時代には戦国大名と争う者も多かった。しかし，1571年(元亀2)織田信

長(のぶなが)が比叡(ひえい)山(延暦寺)の焼き打ちを決行し，興福寺には所領の差し出しを命じ，また豊臣秀吉(とよとみひでよし)は根来(ねごろ)寺(和歌山県)を焼き，高野山(和歌山県)・多武峰(とうのみね)(奈良県)の武器を没収したことなどにより，僧兵はついにそのよりどころを失って消滅した。〔黛　弘道〕

ぞうへいきょく【造幣局】 大蔵省の付属機関。貨幣の鋳造，地金銀の精製分析，章牌(しょうはい)・記章の製造などを行なう。1869年(明治2)2月太政官(だじょうかん)内に創設され，同年8月大蔵省が設置されると，1870年同省所属の造幣寮となり，1877年造幣局と改称して現在に至る。所在地は大阪市北区。水運の便がよく商業の中心であった現在地を選んで開設された。1871年鋳造を開始し，そのほか，イオウ・ソーダ・ガス・コークスの製造も行ない近代工場のさきがけとなった。〔寺尾方孝〕

そうへいしゅん【宋秉畯】(1858～1925) 朝鮮，李朝(りちょう)末期の親日家で，日韓(にっかん)併合*を推進した。政治的に対立関係にあった閔泳煥(びんえいかん)・金玉均両派の間を巧みに遊泳し，10年の日本流寓(りゅうぐう)生活のあと，李容九らと一進会を組織し，1905年(明治38)日本の保護により朝鮮の政治を改革する宣言を発した。日韓併合後子爵となり，のち伯爵に進められた。

ぞうへいしょう【造兵廠】 官営の兵器生産機構。各国とも封建制が崩壊し絶対主義的権力が確立されると，富国強兵，領土拡大競争のため，兵器工業の官営化を図った。しかし産業革命後は民間企業によって兵器生産が行なわれるようになったので，造兵廠は，兵器関係の行政官庁的機構に変化し，特に機密保持を必要とする兵器の設計・生産・貯蔵などを担当するようになった。なお，〈兵器廠〉では兵器製造のほか，購買・補給・貯蔵などさらに広範な業務を行なう。〔森田　哲〕

そうほう【総包】 たくさんの花が集まっている花軸の基部を多数の鱗片(りんぺん)状包葉(総包片)が取り巻いて花を保護しているもの。キク科の頭状花序に見られる。ブナ科の穂状花序では包葉が癒合(ゆごう)して木化しており，殻斗(かくと)とよばれる。クリのいがは殻斗からできたものである。

そうぼうきん【僧帽筋】 後頸(こうけい)部，体幹の脊(せき)にある浅層の筋(→筋肉)に属し，後頭部および頸部・胸部の背面正中線から起こり，肩甲骨*(肩甲棘(けんこうきょく)・肩峰)および鎖骨*の外側半につく不等辺四角形の筋。修道僧の僧帽に似ているところから名づけられた。肩甲骨を上げ下げしたり，胸をそらせる働きがある。

ぞうほうたい【造胞体】 胞子体ともいう。世代交代*をする植物において，胞子をつくって生殖を行なう世代(造胞世代)の植物体で，無性世代にあたるものである。核相は2n。胞子形成のときに減数分裂を行ない，胞子が発芽すれば核相nの配偶体を生ずる。シダ植物では，われわれが普通に見かける植物体が造胞体である。

そうぼうべん【僧帽弁】 ⇨心臓

そうぼうべんへいさふぜんしょう【僧帽弁閉鎖不全症】 心臓弁膜症*の一。僧帽弁(心臓の四つの弁のうち，左心房より左心室へ血流が流れ込む入り口，すなわち左房室弁口の弁)の弁膜が，リウマチ性の心内膜炎・大動脈硬化などによって肥厚し，閉鎖時にも間隙(かんげき)を生じて，収縮期に左心室より左心房に血液が逆流する疾患をいう。この血液の逆流のため，左心房の拡張，肥大，肺静脈の鬱血(うっけつ)，したがって肺循環の圧が亢進(こうしん)して，血流を左心房に送り込むため，右心室も肥大してくる。さらに病状が進展すると，心不全に陥り，肺の鬱血のため，呼吸促迫が現われ，大循環系の鬱血によっては下肢(かし)のむくみなどがみられる。〔佐藤恒久〕

そうぼく【曾樸】(1870～1935) 中国，清(しん)代末期の小説家・翻訳家。江蘇(こうそ)省の生まれ。筆名は東亜病夫。一時官界に身を置いたが，その腐敗に絶望して文筆生活にはいり，義和団事件前後の中国社会を描いた政治小説《孽海花(げっかいか)》(1905年，20回まで刊行，未完)を出して世に知られた。フランス語を学び，ユーゴー*の翻訳をはじめ，フランス文学の紹介に努めた。しかし，あくまでも戯作者的旧派の小説家で，文学革命後の新文学との交渉はなかった。〔今村与志雄〕

そうほせい【相補性】 粒子性と波動性という古典的には矛盾する概念の上に立てられた量子力学の論理構造に対する解釈上の概念。量子力学では観測によって対象の状態が乱されるために，原子的過程の時間空間的な記述と因果性が古典物理学のように矛盾なく統一されず，それぞれが自然の一側面を表わしているという意味で，一定の妥当性を有しながらも相互に矛盾し合う。1927年にボーア*はそれを時間空間的な記述と因果性との相補性(complementarity)ということばで表現した。これはその後，たとえば座標と運動量のように，一方を測定するようにつくられた実験が他方を測定するどんな実験をも不可能にしてしまうような二つの古典的概念は相補的であるというふうに再解釈され，現在でも相補性はこの意味に用いられる場合も多い。相補性は量子力学の理論の展開そのものに寄与するものではなかったが，その後の量子力学の解釈についての主流となったいわゆるコペンハーゲン解釈の核心をなすものであった。今日，量子力学そのものの有効性を疑う者はいないが，量子力学のこのような解釈についてはなお多くの異論が存在しており，物理学者の間で完全な意見の一致をみるに至ってはいない。→古典物理学　→量子力学〔荒牧正也〕

ぞうほももやまものがたり【増補桃山譚】 歌舞伎(かぶき)脚本。5幕9場。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。通称《地震加藤》。新歌舞伎十八番*の一。1869年(明治2)東京市村座で《桃山譚》が上演され，そののち増補されて1873年東京村山座で初演された。加藤清正(きよまさ)が石田三成らの讒言(ざんげん)で謹慎中，大地震が起こる。清正は主君秀吉(ひでよし)の身を案じて一番に伏見へ駆けつけ，政所(まんどころ)幸蔵主らのとりなしで秀吉の前に無実の罪を申し開き，許されて再び朝鮮へ出陣する，という筋。この地震の場の前半に秀吉の跡継ぎをめぐる秀吉乱行の場面を加筆したのが《増補桃山譚》である。〔西尾邦夫〕

そうま【相馬(市)】 福島県北東部の市。人口39,000。1954年(昭和29)江戸時代に相馬氏六万石の城下町であった相馬郡中村町を中心に市制施行。東は太平洋に面し，海岸部にある潟湖(せきこ)松川浦に注ぐ宇多川，小泉川下流の沖積地(ちゅうせきち)に広がり，西は阿武隈(あぶくま)山地北部にある霊山(りょうぜん)山頂までを含む。産業三大別人口比は34：26：40。東部には水田が広がり，製糸・製紙などの工業のほかはめぼしい近代工業はない。原釜(はらがま)地区に相馬港の港湾施設が建設中で，臨海工業地帯の造成が行なわれている。松川浦は県立自然公園で，ノリ・カキの養殖が盛んである。常磐(じょうばん)線・国道6号線が通じ，仙台(せんだい)市と国鉄バスで結ばれる。付近は古くから馬産地として知られ，市街西方の台地上には中村城(馬陵城)跡があり，北西隅(ぐう)にある中村神社の〈相馬野馬追い〉(7月23～25日)は，原町市や周辺町村と共同で，雲雀ケ原(ひばりがはら)に数百の騎馬武者が集まって神旗を争奪する雄壮な行事である。民謡《相馬盆唄(ぼんうた)》《新相馬節》の本場として知られ，特産に相馬焼がある。

そうまぎょふう【相馬御風】(1883～1950) 歌人・詩人・評論家。新潟県の生まれ。本名昌治(しょうじ)。早稲田(わせだ)大学英文科を卒業。島村抱月*主宰の《早稲田文学*》の編集に携わり，自然主義*に基づく強力な論陣を張った。一方，野口雨情*・三木露風*らと《早稲田詩社》を結成，1908年(明治41)には詩集《御風詩集》を刊行した。評論集に《黎明(れいめい)期の文学》《自我生活と文学》《個人主義思想》などがある。晩年は良寛の研究に力を注ぎ，多数の著作を発表した。〔金子　博〕

そうまし【相馬氏】 桓武(かんむ)平氏の千葉氏の流れをくむ。千葉常胤(つねたね)の子師常(もろつね)が下総(しもうさ)(茨城県)相馬御厨(みくりや)の所領に住してから相馬氏を称した。胤村は所領のうち子の胤氏に相馬郡を，師胤に陸奥(むつ)行方(なめかた)郡(現在の福島県相馬郡)を分配した。胤氏系は戦国の争乱で滅びたが，師胤の子重胤(しげたね)は行方郡太田に居を移し，南北朝時代足利尊氏(あしかがた

かうじ)に属して奥州海道守護職に任ぜられた。戦国時代には伊達(だて)氏と抗争し，のち徳川幕府に仕えた。維新後子爵。相馬藩の祭例としての相馬野馬追い祭は有名である。〔村尾元忠〕

そうまだいさく【相馬大作】(1798〜1822) 江戸後期に起こった檜山(ひやま)騒動*の首謀者。南部藩士で，本名下斗米秀之進(ひでのしん)。もと南部氏に臣従していた津軽氏は，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の小田原征伐のときの功績で独立し，その後文化年間(1804〜1817)には十万石になって南部氏十万石と並ぶ勢力になったため，南部藩の津軽藩への憎悪(ぞうお)感情が爆発し，秀之進は主家の恨みを晴らそうと江戸に出て相馬大作と称して機会をねらった。1821年(文政4)同志とともに津軽藩主寧親(やすちか)の帰国の途中を，矢立峠(秋田・青森県境)で襲撃しようと，地雷を埋め大筒を備えたが，計画が漏れて失敗した。大作は江戸へ逃げたがそこで捕えられ，小塚原(こづかっぱら)で処刑された。講談や劇などに数多く取り上げられている。〔岡山泰四〕

そうまながれやま【相馬流山】 福島県相馬地方の民謡で踊り歌。相馬藩主の旧領地が下総(しもうさ)(千葉県)流山であったためこの名があるといわれる。本来は7月中旬の野馬追いのときに歌われるが，現在ではお座敷でも歌われている。

そうまにへんがえし【相馬二遍返し】 福島県相馬地方の民謡。元来は《羽黒節》とよばれ，相馬市の羽黒神社の祭りの夜に歌われたものをいう。最後の句を2度くり返して歌うので，この名がある。北方節と南方節の2種類がある。

そうまぼんうた【相馬盆唄】 福島県相馬地方の盆踊り唄。いわゆる甚句*型の旋律をもち，《秋田甚句》《日光和楽踊》《秩父音頭(ちちぶおんど)》の系列に入る。相馬出身の鈴木正夫(まさお)の歌唱で有名になった。なお，《相馬昔盆唄》は別曲。

そうみん【僧旻】 ⇨そうびん

ぞうむし【象鼻虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科の総称。ヒゲナガゾウムシ科・オトシブミ科・ミツギリゾウムシ科・ホソクチゾウムシ科・オサゾウムシ科・キクイムシ科・ナガキクイムシ科とともにゾウムシ上科を構成し，広義のゾウムシにはゾウムシ上科全体が含まれる。

ゾウムシ科は，鞘翅目中の最大の科で，全世界から40,000種以上発見され，日本からは現在約800種が知られるが，まだ調査が十分になされておらず，将来は1,000種以上に達するものと考えられる。口器が吻状(ふんじょう)に突出した種類が多いためこの名があり，鞘翅目中最も特殊化の進んだ群と考えられている。体の大きさは2㎜内外の微小種から40㎜を越える大形種まで変化に富み，全体堅牢(けんろう)で，黒色・かっ色・黄かっ色などの種類が多いが，美しい金属光沢のある青色・緑色・紫色・赤銅色などの種類も多い。頭部の先端部が種々の程度に突出し，先端部に口器がある。幼虫は無脚のうじ形で，著しく肥大し，発達した頭部をもつ。成虫・幼虫ともに食植物性で，植物体の種々の部分を食害する。雌成虫は，植物組織内に口吻を用いて管状の穴や割れ目をつくり，その中に産卵する。単性生殖を行なう種類もかなり知られる。幼虫は，葉・茎・枝幹・果実・種子・根などを外部からあるいは内部に潜入して食害し，水生植物の根部を食害する種類も多数知られる。成虫には昼間活動性の種類と夜間活動性の種類があり，動作は一般に鈍いが，活発に飛翔(ひしょう)する種類もある。また，後翅が完全に退化していて飛翔しない種類も多い。いずれも食植物性であるため，農林業上および園芸上大害を与えるこん虫として知られる種類が多い。主要な害虫および加害植物は表のとおりである。



ゾウムシ (上)アズキゾウムシ (中)オオゾウムシ (下)シロコブゾウムシ

ゾウムシ科の主要な害虫と加害植物

カシワクチブトゾウムシ	カシワ・ナラの葉
カキゾウムシ	カキの新芽
オオアオゾウムシ	ヤナギ類の葉
マツトビゾウムシ	マツ類の新梢
マツキボシゾウムシ	衰弱したマツの樹皮下
ヤサイゾウムシ	野菜類
マツアナアキゾウムシ	マツ・モミ類の樹皮下
クスアナアキゾウムシ	クス
イモゾウムシ	サツマイモ
マツシラホシゾウムシ	マツの樹皮下
イチゴハナゾウムシ	イチゴ・バラなどの新芽
クリシギゾウムシ	クリの実
ツバキシギゾウムシ	ツバキの実
イネゾウムシ	イネの葉
クワヒョウタンゾウムシ	クワの葉
サビヒョウタンゾウムシ	ウリの葉

オサゾウムシ科では，オオゾウムシ(マツ類・ヒノキ・スギ・ナラ・カシ類)・コクゾウムシ(米穀)・グラナリアコクゾウムシ(米穀)などが代表的かつ重要な害虫である。キクイムシ科・ナガキクイムシ科は大きな群で，日本からも100種以上が知られている。いずれも体は円筒形で，体長は3㎜内外の微小種が多く，6㎜を越す種類はあまりない。黒かっ色またはかっ色の種類が多い。成虫・幼虫ともに樹皮下あるいは材部に細い穴をあけ，種類によってそれぞれ特有の植物に加害する。多くの種類は，衰弱した樹木に寄生して枯死させる。また，しばしば大発生し，生活力の盛んな木にまで寄生して大害を与えることがある。最も代表的なものは，マツノキクイムシ・マツノコキクイムシ・マツノスジキクイムシ・ヒバノコキクイムシ・ヤツバキクイムシ・キイロコキクイムシなどマツ類を加害する種類で，それらはマツクイムシと総称される。そのほか，クワノキクイムシ(クワ)・トドマツキクイムシ(トドマツ)・ルイスザイノキクイムシ(サクラ・カシ・シイ・クワ・クスなど)・ヒノキキクイムシ(ヒノキ・ヒバなど)・ニホンキクイムシ(ウメ・サクラ・ケヤキ・ニレなど)などが最も代表的な種類である。➔ヒゲナガゾウムシ ➔オトシブミ ➔ミツギリゾウムシ 〔鈴木邦雄〕

そうめん【素麺・索麺】 小麦粉を原料とした極細のめん製品。《延喜式》に索餌(むぎなわ)とあるのがこれで，奈良時代に唐から伝来したものといわれる。大和(やまと)(奈良県)の三輪が発生地といわれ，いまも三輪そうめんは著名である。現在手延べそうめんといわれているのが原型で，これは小麦粉を塩水でこねたものを薄く伸ばし，円筒状に巻いたのち細く切り，ごま油か綿実油を塗ってさらに引き伸ばし，架(はざ)にかけて乾燥させる。乾燥の間にそれ自体の重みでさらに伸びて細くなる。製造はもっぱら農閑期の1〜3月に限られ，梅雨期過ぎに市場に出す。この間に独特の風味が生成される。最近ではこのような複雑な方法を避け，機械を使って，ただ細くするだけの機械そうめんが多く，この場合は季節を問わず製造されている。なお手延べそうめんには自然に線条の中心に細孔ができるので区別することができる。三輪そうめんのほか，兵庫県の播州(ばんしゅう)(いぼそうめんの名がある)，香川県の小豆島などの製品が有名である。夏季，冷やそうめんとしても食べる

が，暖かく煮込んで食べることもある。揚げ物・吸い物などのたねにも用いられる。〔佐藤友太郎〕

そうもくばい【草木灰】わらや野草などを焼いてつくった肥料。古くから有名なカリ成分の供給源として利用されているが，自給肥料であるためその消費量は不明。成分は通常カリ4～10％，リン酸3～5％，石灰1～6％であるが，原料により著しく異なり，たとえばタバコの茎の灰はカリ18％，木灰は石灰20％を含むこともある。ほかにケイ酸や微量要素を含み，アルカリ性で，肥効は高い。

そうもん【相聞】雑歌(ぞうか)・挽歌(ばんか)とともに《万葉集》における三大部立(ぶだて)の一。相聞の語は，交渉・報告・消息・訪問・あいさつなど広い意味に用いられるが，《万葉集》の部立としては，ほとんど恋歌と同様である。なお，《古今和歌集》以降の部立では〈恋歌〉がこれに代わっている。

そうや【宗谷(支庁)】北海道14支庁の一。北海道北端部に位置し，北は宗谷海峡に臨む。オホーツク海に面する頓別(とんべつ)平野，日本海に面する天塩(てしお)平野の一部，礼文(れぶん)島・利尻(りしり)島を含み，5郡(8町1村)に分かれ，面積3,308.45km²。人口53,000。庁舎所在地は稚内(わっかない)市。宗谷岬(みさき)と野寒布(のしゃっぷ)岬にいだかれる宗谷湾内には重要港湾の稚内港のほか，宗谷西・富磯(とみいそ)などの漁港がある。内陸部には泥炭(でいたん)低湿地と湖沼群が多く，大半は米作限界外の地域で，農業はふるわない。天塩山地の北の延長上には天北炭田があり，北西部には油田も開発されている。利尻島・礼文島を中心とする利尻礼文国定公園は，観光客を集めている。〔浅井得一〕

そうやかいきょう【宗谷海峡】北海道とサハリン(樺太(からふと))との間の海峡で，日本海とオホーツク海とをつなぐ。1787年フランスの探検家ラ-ペルーズが通航したので外国ではラ-ペルーズ海峡とよばれる。北海道宗谷岬(みさき)，サハリンのクリリオン岬間はほぼ43km，水深30～70m。対馬(つしま)暖流の分流である宗谷暖流が日本海からオホーツク海へ流れ，6～8月にかけてはオホーツク寒流と交会して濃霧が発生し，冬には流氷と風雪で航行が妨げられる。カニ・タラなどの好漁場である。〔山口恵一郎〕

そうやほんせん【宗谷本線】函館(はこだて)本線旭川(あさひかわ)から幌延(ほろのべ)を経て稚内(わっかない)に至る国鉄路線。営業キロ数259.4。1898年(明治31)に旭川～永山間の開通に始まり1928年(昭和3)に全線が開通した。天塩(てしお)川の流域に沿って北海道北部を縦貫する幹線鉄道で，第2次世界大戦中まではサハリン(樺太(からふと))への連絡ルートとして重要であった。沿線には名寄(なよろ)・音威子府(おといねっぷ)などの都市がある。

そうやみさき【宗谷岬】北海道の北端，宗谷湾の東を扼(やく)して宗谷海峡に突出する岬で，稚内(わっかない)市に属する。北緯45°31，東経141°51′に位置し，約45km隔ててサハリン(樺太(からふと))のクリリオン岬と相対する。背後の北見山地から続くゆるやかな山地が海に接するところは高さ約30mの海岸段丘をなし，段丘上に宗谷燈台や〈日本最北端の地〉と刻んだ碑がある。近海は，日本の最北端にあたる弁天島をはじめ岩礁が多く，夏の海霧，冬の荒天とあいまって航海の難所となっており，霧信号所や無線方向探知局も建設されている。〔味沢成吉〕

そうゆう【総有】多数の者が一つの団体をつくって，物を共同所有するにあたり，その物の使用・収益の権限は各構成員に属するが，その物の管理・処分の権限は団体自体に属するという共同所有形態。すなわち，各構成員は持ち分の分割請求権をもたず，また団体の資格を得れば物の使用・収益権を取得するが，資格を失えばその権利も喪失するというもので，共同所有形態(共有・合有・総有)のうちでは最も団体的結合関係の強いものである。団体としての管理・処分の方法，構成員としての使用・収益の方法，構成員の資格の得失などは，いずれも団体の規約によって定められている。民法に規定する入会権がこの総有関係の法的性質を最もよく表わしている。→合有・共有〔黒木三郎〕

ぞうよ【贈与】当事者の一方(贈与者)が自己の財産を無償で相手方(受贈者)に与える旨の意思表示を行ない，相手方がこれを受託することによって成立する契約(民法549条)。単独行為である遺贈と異なり，双方の意思の合致によって成立する契約であるから，受贈者が断われば契約は成立しない。受贈者が対価を支払わないから無償契約であり，贈与者はなんの義務も負わないから片務契約である。贈与には多少の義務を負担させることもできるが(これを負担付贈与という)，この場合は双務契約(当事者の双方がお互いに対価的な義務を有する債務を負担する契約で，売買・賃貸借などがそうである)の規定を適用する。贈与は書面による贈与と書面によらない贈与があるが，書面によらない贈与は，各当事者はいつでもこれを取り消すことができるという弱い効力しかもっていない(民法550条)。ただし，動産を引き渡してしまった場合，不動産の引き渡しや登記をしてしまった場合は，もはや取り消すことはできない(民法550条)。贈与は無償でなされるため，贈与者はその目的物または権利に不完全な点があっても，その担保責任を負わない。ただ，贈与者がこれを知っていて告げないときには責任が生ずる(民法451条)。〔黒木三郎〕

ぞうよう【雑徭】律令(りつりょう)時代に正規の賦役のほかに，国司によって課せられた労役。令では最長60日と定めたが，国司はこれを利用して60日いっぱい使役するのが普通であった。本来は地方における池溝(ちこう)・道橋の修理などの公用にあてるべきものであったが，国司はこれを私用にも使って私腹を肥やした。757年(天平宝字1)藤原仲麻呂(なかまろ)は雑徭の日数を半減したが，まもなくもとに改められた。795年(延暦14)再度30日と定められ，862年(貞観4)には京・畿内(きない)の雑徭は10日，864年には諸国を20日と定められ，次いで京・畿内も20日と定められたが，いずれも長続きはしなかったらしい。《延喜式》(→延喜格式)では京・畿内20日，地方30日と定められたが，それもまもなく律令制度の崩壊に伴って自然に消滅した。〔黛　弘道〕

そうようしょう【瘙痒症】⇨皮膚瘙痒症

そうよしとも【宗義智】(1568～1615)安土桃山・江戸初期の武将。対馬(つしま)国主。豊臣秀吉(とよとみひでよし)の朝鮮出兵を回避させようとして朝鮮王を説得したが失敗した。文禄(ぶんろく)・慶長の役には小西行長の軍に従って奮戦し，講和のときには行長とともに奔走した。1599年(慶長4)徳川家康(いえやす)の命により朝鮮との和好を図った。関ケ原の役では豊臣方にくみしたが深くとがめられず，以後も，朝鮮との修交に努力した結果，1607年和睦(わぼく)がなった。〔岡山泰四〕

ぞうよぜい【贈与税】贈与により財産を取得した個人に課される税。贈与税は，相続税の補完税としての性格をもつもので，1958年(昭和33)相続税から分離し，新設された。死因贈与は，遺贈と同様に相続税の対象となり，贈与税の対象には含まれない。贈与税の基礎控除は40万円である。ただし，3年以内に同一人から各年20万円以上の贈与があった場合には，累積課税を行ない，分割贈与による負担軽減を避ける措置がとられている。また配偶者控除も認められ，25年以上の婚姻期間をもつ配偶者が居住用不動産の贈与を受けたときは，40万円の基礎控除のほかに，160万円を限度とする控除が認められている。〔西野義彦〕

ぞうらんき【造卵器・蔵卵器】シャジクモ・コケ植物・シダ植物の有性世代の雌性生殖器官。卵細胞を保護するための特別な構造があり，たとえばシダの前葉体では造卵器はとっくり型で，1層の細胞層が1箇の卵細胞を取り囲んでいる。

そうらんじょう【喪乱帖】中国，東晋(とうしん)の王羲之(おうぎし)の尺牘(せきとく)(書簡)の法帖。唐またはそれ以前に王羲之の真跡から双鉤填墨(そうこうてんぼく)の方法でつくったもの。白麻紙を用い，行草の体で17行，131字あって，紙端と行間に梁(りょう)の鑑定家，徐僧権と姚懐珍(ようかいちん)の押署の一部分が見える。奈良時代に日本に伝えられ，正倉院に宝蔵されていた。〈延歴勅定〉の合縫切があるので，平安初期，桓武(かんむ)天皇の御府にあったことがわかる。のち民間に散落し，いまは御物となっている。現存する王羲之の模本のうち最も信頼すべきもので，

中国でもこれほどすぐれたものは見られない。〔中田勇次郎〕

そうり　【層理】　堆積(たいせき)岩*にふつう見られる平行なしま模様。層理ができる理由にはいろいろあるが，重要なのは，堆積物を運ぶ風や水流などの方向や速さの変化である。たとえば，河川の流速が変化すると，運搬できる堆積物の粒の大きさが変化して，下の地層との間に境ができる。これを層理面という。層理面は，粒の大きさの違いだけでなく，堆積物の成分・色・組織などの違いによってもできる。



層　　理　千葉県鴨川市付近。第三系，砂岩とデイ岩の互層

ぞうり　【草履】　はき物の一種。草履の歴史は古く，すでに《後漢書 東夷伝(とういでん)》に草履の語が見られ，平安時代になって被甲履物の分化に伴い，発達したものである。〈おもて〉とよぶ台部と鼻緒の２部からなり，鼻緒の構造の違いによって芯緒(しんお)草履とすげ緒草履とに分けられる。芯緒草履は台部を構成する芯緒を引き出し，これを横緒に掛けて鼻緒をたてるもので，芯緒を結んでたてる結緒(むすびお)草履と，結ばずに芯緒を台裏にない込んでしまう綯込(ないこみ)草履の別がある。また台部の長さによって，長草履・足半(あしなか)草履などの種類がある。すげ緒草履のほうは，芯緒を利用せずに別の材料で前緒をつくり，これを台部にすげて台裏で結んで鼻緒とするのが特徴である。これにも台部の材料と構造によって，裏無(うらなし)草履・編み草履・麻裏草履・板裏草履・雪駄*(せった)・重ね草履・麦打草履・皮草履など多くの種類がある。草履の材料には稲藁(わら)を用いるのが普通であったが，藁の乏しい山村ではフジの枝・竹皮・アサ・スゲ・イなども用いた。草履つくりは男の手仕事で，労働用または日常用のはき物として広く着用されまたしばしば求愛のための贈り物としても用いられた。しかし，近年労働用の地下足袋(じかたび)やゴム草履の普及に圧倒されて，在来の草履の製作・着用は急速にすたれつつある。〔直江広治〕

ぞうりくうんどう　【造陸運動】　広大な地域が長期間にわたって徐々に隆起・沈降する運動。比較的短期に激しく起こる造山運動*と区別する。このような地殻(ちかく)変動は，安定した剛塊*上に広く平らに分布する海成・陸成の地層や汀線(ていせん)の移動，海岸段丘・河成段丘などの存在によって知られる。

そうりつ　【相律】　平衡にある系の成分の数(Ｃ)，相の数(Ｐ)と自由度(Ｆ)の間の関係を相律といい，Ｐ＋Ｆ＝Ｃ＋２の関係にある。すなわち，相の数と自由度との和は，独立した成分の数より２だけ大きい。この法則は，ギブス*によって発見され，相変化・潮解・分留などの基礎理論となっている。➜相

そうりふ　【総理府】　内閣*に置かれ，内閣総理大臣を長とする国の行政機関。おもな業務は恩給・栄典・統計などの事務，人事行政，各行政機関の施策と行政の総合的調整，他の行政機関に属さない職掌事務などである。内部部局として官房のほか賞勲・人事・恩給・統計・特別地域連絡の５局，付属機関に日本学術会議，地方制度調査会など多数があり，外局として国家公安委員会・公正取引委員会・経済企画庁・宮内庁・防衛庁など10の機関がある。内閣官房長官・政務次官などの補佐機関を置く。〔寺尾方孝〕

ぞうりむし　【草履虫】　原生動物・繊毛虫類・ゾウリムシ科。体は紡錘形をなすが，前端やや丸みをおび，後端はいくぶんとがる。全長170～290μ。腹面に体長の２分の１に及ぶみぞ(口溝(こうこう))があり，その下端に口がある。全体に繊毛が密生し，これで運動する。バクテリアを食べる。池や停滞水中に普通に見られる。

そうりゅう　【層流】　流体の各部分が規則正しく流れて，相となり合う層が互いにすべり合って流れているような運動。これに対して，流体の各部分が不規則に混合しながら流れている状態を乱流*という。管の中の流れでは速度の小さい間は層流状態を保ち，速度がある値を越すと乱流状態に移ることは古くから知られていた。これを量的に表現したのがレイノルズ*である。すなわち彼は，流れの状態が層流から乱流に移るのは，レイノルズ数がある値を越すときであることを見いだした。たとえば，管の中を流れる水の場合，レイノルズ数の臨界値は1,200である。自然界では乱流の場合が多く，層流はまれにしか見られない。〔相原正彦〕

そうりょう　【双遼】　ショワンリャオ　中国東北部，吉林(きつりん)省西部の県。古くは鄭家屯(ていかとん)といい，遼河上流一帯の農畜産物の集散地で，東北地方屈指の馬市で名高い。平斉鉄道(四平～チチハル)・大鄭鉄道(大虎山(だいこざん)～鄭家屯)の連絡点にあたる交通の要地である。

そうりょうせい　【惣領制】　主として鎌倉時代における武士階級の一族結合の形態およびそれを基礎とした鎌倉幕府の御家人*統制の方式。武家社会では一族庶子の間で所領の分割相続が行なわれ，一族の長である家督が一族庶子の統制にあたると同時に一族の所領を総轄し，惣領と称した。幕府はこのような武士の族的結合を法的に確認し，幕府成立の基盤とした。一般に所領の安堵(あんど)も惣領に対して行なわれ，惣領は一族庶子を率いて戦闘に従事し，平時には大番役*や公事*(くじ)などを一族庶子に割り当て，代表してこれを勤仕した。鎌倉中期以降，新恩所領の獲得などによってしだいに庶子家の独立化が進み，惣領と庶子の対立が多くなった。また，分割相続による所領の細分化や貨幣経済の進展，軍役負担の増大などによって御家人の窮乏化がはなはだしくなり，御家人の中には分割相続から単独相続に移行するものも現われた。そのため，惣領・庶子の共和的結合関係に基づく惣領制はくずれ，新しい地縁的武士団結合の形態に転換していった。〔鈴木英雄〕

そうりん　【相輪】　仏塔の最上部の屋根の上につく装飾。日本では，青銅または鉄でつくられる。一定の形式をもち，いちばん下に〈露盤〉とよばれる方形の台を置き，その上に半球状の〈伏鉢〉(ふくばち)と〈請花〉(うけばな)(受花)とよばれる花弁状のものを載せ，その中から〈擦〉(さつ)とよばれる柱が立ち，この柱が〈九輪〉とよばれる９個の宝輪を貫いて，その先に〈水煙〉とよばれる４枚の透彫(すかしぼり)の羽根をつけ，先端には下から〈龍車(りゅうしゃ)〉(龍舎)〈宝珠〉とよばれる２個の珠(たま)をつける。この形式は日本では一般に厳密に守られているが，当麻(たいま)寺三重塔(さんじゅうのとう)のように〈九輪〉が８輪しかない例もあり，中国ではさらに形式に自由度がある。祖形はインドで仏舎利を収めたストゥーパ*の構造要素にさかのぼり，本来は礼拝対象としての釈迦(しゃか)の墳墓を象徴するもので，仏塔における最も重要な部分であるといえる。➜五重塔(図)〔渡辺保忠〕

ぞうりん　【造林】　森林を人工的につくること。林地林木の保護・手入れまでを含めることがある。世界の既往の文化はしだいに森林を退化させたが，現在はさらに産業・交通の発達により，世界的に緑が失われようとしており，一方，木材資源の不足は世界経済に大きな影響を及ぼしつつある。それゆえ，人類文化を守るためには造林によって緑を回復せねばならず，また，資源確保のためには，伐採跡地の樹種・林種を土地生産性の高いものに代える必要もある。また，樹木が空気中の炭酸ガスを固定してできる炭水化物が人類にとって必要なだけでなく，炭酸ガスを空気中に大量に放出している公害を軽減するためにも，造林は重要な意味をもつ。わが国の森林の乾物生産量は１年あたり７～20ｔといわれるが，熱帯降雨林になるとこれよりもはるかに大きい値となる。

造林の目的は，狭義には木材生産にある。しかし，土地保全・地力維持を図らなければ，この目的も十分には達成できない。したがって，自然法則に沿って立地・森林の保護を確実にする管理と，経済的に有利な材質を多く生産する管理とを両立させなければならない。

わが国では森林計画に基づいて造林の拡充が重視され，国有林・民有林ともに造林を行なっているが，民有林に奨励のための造林補助金・造林資金の低利長期金融，森林保険・林業種苗などの諸制度が設けられ，また森林開発公団・都道府県・造林公社による造林も行なわれている。一方水源涵養(かんよう)・水害防備・海岸砂防など国土保全の造林も国公営で行なわれている。

造林には無立木地に森林をつくることのほかに，既存の森林に対する天然更新と人工更新とがある。前者は現存する樹種を用い，後者は自由に樹種・品種を選ぶものであるが，後者はその選択を誤ると不成績造林地をつくることになる。日本のおもな造林樹種はスギ・ヒノキ・アカマツ・クロマツ・カラマツ・トドマツ・エゾマツで，外来樹種のテータマツ・ストローブマツなども用いられることがある。耕地周辺または跡地などにはキリ・ポプラなども植えられる。樹種により適地を異にするので，その選択は重要であり，わが国では林野庁営林局で林野土壌(どじょう)調査を行ない，適地適木を示している。

造林に関する研究としては造林学があるが，なおこれに関連して，林木学・樹木学・林木育種学・林木生理学・森林土壌学・林業肥料学・森林生態学・森林気象学・樹病学・森林害虫学・森林化学調節学などさまざまな専門分野がある。〔川名　明〕

ソウル　【京城】　京城(けいじょう)ともいう。大韓(だいかん)民国の首都。朝鮮半島の中部西岸，漢江の下流右岸に位置する。市名は朝鮮語で〈都〉の意。面積613km^2，人口688万(1976)。特別市制をしき，鐘路・東大門・中・城東・城北・西大門・龍山(りゅうざん)・永登浦・麻浦の9区があり，1963年に隣接の楊州(ようしゅう)・広州・金浦(きんぽ)・富川(ふせん)の4郡の一部を編入した。盆地内に位置する市街を取り巻いて周囲の山々が自然の城壁を二重に形成している。外側は，北に北漢山(836m)をはじめとする700m前後の山並みが，南に冠岳(かんがく)山(629m)や南漢山(495m)がある。内側は北漢山の手前に北岳山・仁王(におう)山さらに東の駱駝(らくだ)山へと続き，西には鞍山(くらやま)，南には南山(265m)がある。このため寒暑の差が大きく，1月の平均気温は－4.9℃，8月は25.5℃になる。



ソウル　四方を山に囲まれた市街の概観。旧市街は商店街であるが，光化門路や南大門路には諸官庁や銀行・会社が並び，高層ビルが立つ

古くからの要地で，10世紀の高麗(こうらい)時代にはすでに開城に次ぐ都市となり，南京とよばれていた。1393年，李朝(りちょう)太祖は王都を開城からこの地に移し，漢陽，次いで漢城と称して，北岳山のふもとに景福宮を造営した。それ以来約500年の間，李朝の政治・経済・文化の中心地として栄えたが，1910年の日本の韓国併合後は植民地統治の中枢となり，景福宮の前には朝鮮総督府庁舎が建てられた。1945年第2次世界大戦終了後，現市名に改め，1963年隣接4郡の一部を編入して現在の市域となった。

最高会議ビルなど政府諸機関，特別市庁舎・市民館・新聞社などが世宗路・太平路に立ち並び，朝鮮戦争で破壊されたかつての総督府庁舎も再建されて中央庁舎として偉容を回復している。南北の幹線道路に対して東西に鐘路・乙支路(おっしろ)・忠武路が走って商業区を形成し，南大門～鐘路の南大門通りは市内随一の繁華街になっており，韓国銀行・産業奨励館・中央郵便局・デパートなどが並んでいる。北東部にはソウル大学・昌徳宮(しょうとくきゅう)・昌慶苑(えん)・博物館・動物園・パゴダ公園があり，東部は住宅地区となっている。また東郊に高麗大学，西部には延世大学・梨花(りか)女子大学などがある。

工業区は龍山・永登浦2区を中心に，仁川(じんせん)とともに紡績・軽工業・日用品工業などの京仁工業地帯を形成するが，日本統治時代に全鮮の工業生産高で占めていた圧倒的地位は低下し，現在は化学・機械・繊維・食品・印刷などの軽工業地域になっている。龍山区には韓国軍・アメリカ軍の諸施設が置かれ，郊外の金浦には空港がある。〔矢守一彦〕

そうるい　【藻類】　慣用的に使用される人為的分類群で，水中生活をし，光合成による独立栄養を行なう葉状植物の総称で，かつては鞭毛(べんもう)形態を主とするものを鞭毛類として原生動物などへ分離していたが現在はそれをも含めていう。単細胞から多細胞まであるが，組織分化は低い。車軸藻植物・緑藻植物・ミドリムシ植物・褐藻(かっそう)植物・炎色植物・黄色植物・紅藻植物・藍藻(らんそう)植物などの8部門を含む。海水(海藻)・淡水(淡水藻)のほか，土壌(どじょう)(土壌藻)・温泉(温泉藻)・氷雪(氷雪藻)中に生育し，また寄生性のものも知られる。

ソウルだいがく　【ソウル大学】　大韓(だいかん)民国の最大の国立大学。1948年創立。ソウル市鐘路区にそのキャンパスの大部分がある。教養部と12の学部(文理学部・教育学部・法学部・商学部・工学部・医学部・歯学部・薬学部・農学部・家政学部・音楽学部・芸術学部)，六つの大学院および付属機関としての図書館・法律研究所・経済研究所などをもつ。大学院生を含む学生数約10,000名余り，教授約2,000名。

そうろう　【早漏】　陰茎の勃起(ぼっき)が不十分のうち，あるいは勃起してから短時間のうちに射精されてしまう状態。しかし，性的興奮，陰茎の勃起，膣(ちつ)への挿入(そうにゅう)，射精までの時間は年齢差，個人差，精神または肉体的条件によって差があり，厳密な正常時間範囲を決めることはできない。勃起してから少なくとも数分は保持されるのが一般的といえよう。勃起不全を伴う早漏には専門医による指導・治療が必要となる。〔大田黒和生〕

そうろうぶん　【候文】　文語文の一種。おもに書簡に用いられた。〈大慶至極(しごく)に奉存(ぞんじたてまつり)候〉というように，〈候〉という*敬語の表現を多く用いるのが特色。平安時代後期から鎌倉時代にかけて成立し，室町時代初期につくられた《庭訓往来(ていきんおうらい)》は，候文の模範とされた。江戸時代には候文が公文書にも用いられ，明治以後も長く，公用文書・書簡の文体として用いられた。

そうろく　【僧録】　総録・惣録とも書く。禅宗寺院を管轄し，その人事をつかさどった室町時代および江戸時代の僧職。足利義満(あしかがよしみつ)が中国の〈左衛僧録の制〉にならって*春屋妙葩(しゅんおくみょうは)を任じたのがはじまりである。1701年(元禄14)徳川綱吉(つなよし)は護国寺の*隆光を新義真言宗の僧録に任じたため，以後は真言宗にも置かれるようになった。

ぞうわいざい　【贈賄罪】　*収賄罪(刑法197条)に規定される賄賂(わいろ)を公務員および仲裁人に供与・申し込み・約束する罪。供与とは不正の利益を収得させることである。必ずしも賄賂を現実に交付しなくとも，収受を促すことを申し込み，また相手方の要求を承諾するか交付を約束することによっても本罪は成立する。刑は3年以下の懲役または25万円以下の罰金(刑法198条)。斡旋(あっせん)収賄罪(刑法197条ノ4)に規定される賄賂を供与し，申し込み，または約束をした者は，2年以下の懲役または15万円以下の罰金(198条2項)。なお，公務員・仲裁人以外の者への贈賄は，そのほかに商法その他の特別法によって処罰される。

〔井上公耳〕



曾我直庵
《龍虎図屏風》六曲一双
のうち左隻〈虎図〉
東京国立博物館蔵

ゾエア　[zoea]　節足動物・甲殻(こうかく)類・十脚目，すなわちエビ・カニ・ヤドカリ類が変態発生中に経過するいくつかの幼生期のうちの一型。１対の有柄複眼を有し，広い楯甲(じゅんこう)が胸部の一部をおおい，腹部に体節を現わす。ほぼ無色透明で全長数ミリ内外，顎脚(がくきゃく)・腹部の屈伸で遊泳し，プランクトンとしての生活を送る。カニ類のゾエアは，大きな目と，楯甲上の目の後方と前方に長く突き出た突起ですぐ識別することができる。ヤドカリ類のゾエア幼生は，楯甲前端と後端に１本ずつあるとげ状の突起が，それぞれ体長の数倍に及ぶほど長く針状に突き出ているのが特徴。また，エビ類ではカニ類・ヤドカリ類のゾエアと異なり，腹部が前方腹側に折れ曲がっていない。

そえじまたねおみ　【副島種臣】　(1828〜1905)　明治時代の政治家。佐賀藩出身。早くから尊王攘夷(じょうい)運動に投じ，長崎に藩の英学研究機関致遠館が設立されるとその学監となり，みずからもヨーロッパの法制・経済を研究した。1868年(明治１)参与となり，政体書を起草，次いで参議・外務卿(がいむきょう)となった。1873年征韓論(せいかんろん)に敗れて西郷隆盛(たかもり)・板垣(いたがき)退助らと下野。1874年民選議院設立建白書に名を連ね，愛国公党の創立に参画したが，その後は自由民権運動には加わらず，侍講・枢密顧問官などを歴任した。1892年第１次松方内閣の内務大臣。〔高崎徳次〕

そえだ　【添田(町)】　福岡県田川郡の町で，遠賀川上流域にある。人口17,000。英彦山(ひこさん)の門前町である彦山(ひこさん)，旧宿場町の添田，北部の大峰などの炭鉱町からなるが，近年石炭産業の不況のため打撃を受けている。日田彦山線と添田線との分岐点。

そかい　【租界】　中国において外国人の居住・営業のために，条約に基づいて設けられた開港場の一定地域。居留地ともいう。租界の特徴は外国行政権と土地制度にある。態様は各租界によって異なるが，外国人は居住権・営業権があるうえに，警察権・課税権を含む一般行政権，道路・橋・堤防などに対する管理権，一定範囲の司法管轄権などを行使する。ただし，中国の行政権が全然及ばないわけではない。かつて，中国で日本・イギリス・アメリカ・フランスなどの諸国が上海(シャンハイ)・天津(てんしん)・漢口などに有していたが，現在は消滅。〔広部和也〕

そがい　【疎外】　⇨次ページ

そがきょうだい　【曾我兄弟】　兄曾我十郎祐成(すけなり)(1172〜1193)と弟曾我五郎時致(ときむね)(1174〜1193)。伊豆(いず)(静岡県)の豪族であった父の河津祐泰(かわづすけやす)は，1176年(安元２)一族の工藤祐経(すけつね)に討たれ，そのとき十郎は５歳，五郎は３歳であった。のち母が曾我祐信(すけのぶ)に再嫁したので曾我氏を称し，1193年(建久４)５月28日源頼朝(よりとも)が催した富士野の巻狩で，頼朝に近侍していた祐経を殺したが，十郎は宿衛の仁田(にった)忠常(ただつね)に殺され，五郎は捕えられて切られた。兄弟の敵討(かたきうち)は孝子の義挙として世人の共感をよび，《曾我物語》となって世に広まり，また能・歌舞伎(かぶき)などに取材されて，〈曾我物〉の外題で後世長く民衆に親しまれている。〔高崎徳次〕

そがし　【蘇我氏】　孝元天皇の曾孫(そうそん)武内宿禰(たけのうちのすくね)の子蘇我石川宿禰を祖とする古代豪族。稲目(いなめ)のとき欽明(きんめい)天皇の外戚(がいせき)として大臣(おおおみ)に就任。その子馬子は物部(もののべ)氏を滅ぼして政権を独占。その子蝦夷(えみし)も父祖のあとをうけて大臣となり，舒明(じょめい)天皇を擁立して山背大兄王(やましろのおおえのおう)を押えるなど威をふるったが，645年(大化１)蝦夷・入鹿(いるか)父子が中大兄皇子(→天智(てんぢ)天皇)らに討たれて衰えた。その後は一族の後裔(こうえい)が石川氏を称したが，もはや昔日のおもかげはなかった。蘇我氏が朝廷の財政権を掌握して大きくなったことは事実と認めてよかろうし，またそれゆえに帰化人とも結んで開明的性格をもったのであろう。〔黛　弘道〕

そがだそく　【曾我蛇足】　生没年・伝歴不詳。室町末期の画家。大徳寺真珠庵(しんじゅあん)の《山水図花鳥図》襖絵(ふすまえ)の作者として知られる。蛇足は号。曾我式部入道，法名夫泉宗丈のことであろうといわれる。曾我式部入道はもと越前(えちぜん)(福井県)朝倉家の武士で，上京後一休和尚(おしょう)について参禅し，一休没後1491年(延徳３)真珠庵創建の際にその襖絵を書いたと考えられ，1493〜1512年(明応２〜永正９)の間に没した。周文あるいは宗湛(そうたん)に画を学んだと思われるが，真珠庵襖絵にはいわゆる周文様式には見られないすぐれた趣がある。〔中島純司〕

そがちょくあん　【曾我直庵】　桃山期の漢画家。慶長ごろ(17世紀初め)まで生存したと思われるが伝歴は不明。平直庵・包胤(ほういん)の印を用いているが，二直庵は子，三直庵は孫である。晩年は堺(さかい)に住まい，比較的古様な割りに強い誇張と習癖をもつ花鳥画を残している。明(みん)代花鳥画に習い，また，室町の花鳥画の伝統を強く引くものであろう。狩野(かのう)派・長谷川(はせがわ)派・海北(かいほう)派・雲谷派と並び称される曾我派の祖であるが，室町期の曾我派との関係は明らかではない。〔中島純司〕

そがのいしかわまろ　【蘇我石川麻呂】　(？〜649)　倉山田石川麻呂・山田石川麻呂ともいう。倉麻呂の子。中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)(→天智(てんぢ)天皇)の蝦夷(えみし)・入鹿(いるか)誅滅(ちゅうめつ)計画に加わり，大化改新後，新政府の右大臣にあげられたが，649年(大化５)異母弟日向の讒言(ざんげん)により中大兄皇子に疑われ，大和(やまと)(奈良県)の山田寺で父子もろとも攻め殺された。その娘造媛(みやつこひめ)・姪娘(めいのいらつめ)は中大兄皇子の妃となり，それぞれ持統天皇・元明天皇を生んだ。〔黛　弘道〕

そがのいなめ　【蘇我稲目】　(？〜570)　宣化・欽明(きんめい)朝の大臣(おおおみ)。高麗(こま)の子，馬子の父。大連(おおむらじ)物部尾輿(もののべのおこし)と対立し，いちはやく仏教を信仰し，その興隆に努めた。二女を欽明天皇の妃として外戚(がいせき)の地位を固め，蘇我氏繁栄の基礎を築いた。一方，屯倉(みやけ)支配に新方式を導入するなどその政治手腕にもみるべきものがあった。

そがのいるか　【蘇我入鹿】　(？〜645)　大臣(おおおみ)蝦夷(えみし)の子。父に代わって国政をとり，その威力は父にまさるといわれた。643年いとこにあたる山背大兄王(やましろのおおえのおう)を斑鳩(いかるが)宮に襲殺したが，以後反対勢力であった中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)(→天智(てんぢ)天皇)らにねらわれることとなり，645年(大化１)三韓(さんかん)朝貢の日に飛鳥板蓋(あすかのいたぶき)宮で殺された。《家伝》に，学問の上でもすぐれていたことがみえる。〔黛　弘道〕

そがのうまこ　【蘇我馬子】　(？〜626)　敏達(びたつ)・用明・崇峻(すしゅん)・推古朝の大臣(おおおみ)。稲目(いなめ)の子。蝦夷(えみし)の父。世に嶋(しま)大臣という。587年物部尾輿(もののべのおこし)の子守屋を滅ぼし政権を掌握したが，やがて崇峻天皇と対立し，592年これを暗殺して推古天皇を擁立。翌年皇太子となった。聖徳太子在世中はこれと協調したが，その没後はまた権力をもっぱらにした。飛鳥(あすか)の石舞台古墳をその墓とする説がある。

そがのえみし　【蘇我蝦夷】　(？〜645)　推古・舒明(じょめい)・皇極朝の大臣(おおおみ)。馬子の子，入鹿(いるか)の父。世に豊浦(とゆら)

→64ページ

疎　　外

〔疎外とはなにか〕今日広く行き渡った疎外ということばは，もともと哲学的な概念であった。そのような哲学的な概念が日常的な用語として普及した背景には，現代社会の動向が人々の日常的生活において，疎外の問題を哲学的なものとしてではなく，切実な実感的なものとして提起しているという事実がある。

近代社会は，人々を封建的な諸拘束から解放して〈人は生まれながらにして自由であり平等である〉という理念をうちたてた。この理念にもかかわらず，近代資本主義社会の発展は実質的にはさまざまな不平等をつくり出してきた。自由と平等という人間にとっての普遍的な権利の実現を，人々は当然の権利として日常的生活において強く主張しているにもかかわらず，現実の社会生活においては，この権利の実現をはばむ力が存在していて，人間は人間的であることを拒否され，非人間化と自己喪失の危機に直面している。このような状況に置かれた場合，人は強く人間疎外を意識するのである。したがって，人々が人間らしく生きる権利を理念として，たとえば憲法のうえで保障されており，かつみずからもその権利を実現すべく努力しようとしても，現実の社会生活では人間的であることを実現できない状況が，人間疎外の状況であるといえよう。そのことは，また次のようにもいうことができる。すなわち疎外とは，結局は人間ひとりひとりの力の総和であるにすぎない社会が，その総和の結果，そのひとりひとりから独立した力として社会を構成している個人に立ち向かい，一つの客観的な力として個人に対立しながら動いている現象である。もともと，ひとりひとりの力の総和である社会が，個人の意図や目的とは関係なく存在し，それ自身の法則にしたがってひとり歩きをしている状況に対して，個人は逆らって行動することはできず，社会の客観的な動きの方向に流されざるをえない状態にあるとき，人は強い疎外感をいだくのである。

以上の論点を整理してみれば，疎外は次のような状況で生ずる。①人間の客観的な存在と人間の主観的な意識との間に分裂があるときである。人が〈そうしたい〉〈そうありたい〉という意識をもっているにもかかわらず，彼の現実の社会生活はその意識とはまったく異なって存在している場合に，人間疎外が生ずる。人間がつくっている社会をみずから抑制したり，修正したりすることができないとき，人は社会に対して無力感をいだくのである。②疎外という状況は部分と全体との分裂を反映している。このような状況は，社会の中で個々人に割り当てられている仕事が，社会全体に対していかなる意味があるかがわからないようなときに生ずる。そのようなとき，社会の目標と個人の目標とが分離し，仕事や労働は個人にとってはなんらの意味ももちえないのである。労働しているときは自分自身であることを感ずることはできず，労働の外にあるときに自分であることを感ずるという状況が生ずる。この状況では，社会的生活と個人的私的生活とが分離している。③社会的活動としての労働は，人々の協同的な関係を前提としているにもかかわらず，そこでは人間的結合や連帯性を感ずることができず，人はひとりで孤独であると感ずるとき，疎外状況が生ずる。そのとき，人は社会の一員であるという感情ではなく，その社会からはみ出した孤立した存在であるという感情が支配的となる。

以上のような疎外状況があるとき，人は精神的不安感にみまわれる。現代における精神的疾患の多くは疎外の問題と多分に関連しているのである。さて，このような現代における疎外状況をつくり出す原因を資本主義社会の中に求め，疎外を克服するためには資本主義そのものを変革することの必要性を唱えたのが，マルクス*である。

〔マルクスの疎外論〕現代における疎外論の源泉となったのは，マルクスの《経済学・哲学草稿》である。これはマルクスが1844年に書いたものであるが，それが発見されて出版され，多くの人々の注目をひくようになったのは1930年代以降であった。この書物で，マルクスは〈疎外〉という概念をヘーゲル*の《精神現象学》から批判的に継承して，それを社会科学の概念にくみかえる作業を行なった。もともとドイツ語の疎外(Entfremdung)ということばは，英語の〈alienation〉に対する訳語であった。〈alienation〉とは，〈alienate〉という動詞の名詞形で，それは〈譲渡する〉(他人のものにする)とか〈よそよそしくする〉とか，さらに〈心が離反する〉〈精神が錯乱する〉ということを示す日常語であった。このような日常語である〈alienation〉という英語にEntfremdungというドイツ語をあてて，それを哲学的な概念として普遍化したのがヘーゲルであった。

マルクスは人間疎外の源泉を，生産手段の私的所有制度のもとでの〈労働〉にあると考えた。すなわち，労働者は生産手段の私的所有から疎外されることによって，労働者のひとりひとりの力の総和である生産物が，労働者から独立した存在として，労働者にはよそよそしいものとして現われる。〈労働が生産する対象，つまり労働の生産物が一つの疎遠な存在として，生産者から独立した力として，労働に対立する〉という事実を，マルクスは〈疎外された労働〉と名づけたのである。生産手段の私的所有制度のもとでは，労働者がみずからつくり出した生産物が彼のものではなく，資本家のものであり，それが商品として資本家の〈利潤の源泉〉となる。このような状況で，労働者はみずからつくり出した商品に隷属し支配される。それゆえに，マルクスは，こうした状況を克服するためには，資本主義社会そのものを変えなければならないと考えたのである。マルクスにとっては，疎外は資本主義社会が経過すれば，人間は疎外から解放されるという意味で，それは一時的な疾患であった。すなわち，マルクスは，疎外の源泉を生産手段の私有制に求め，したがって，私有財産制度*の廃止こそ疎外された人間を人間として回復できる条件であると考えたのである。

〔現代社会における疎外〕マルクスの疎外論には，もう一つの重要な論点がある。それは，労働者はみずからつくり出した商品から疎外されるのみならず，生産過程そのものからも疎外されるという論点である。現代における労働は，高度に発展した機械体系の中で細分化された単純反復的な労働である。このような状況で，労働者は機械の付属物として機械に支配されることによって，自分自身を失うのである。細分化された仕事においては，人々は自己を発揮できない非人間化された存在である。こうした状況は労働者のみならず，現代の官僚化した巨大な組織の中に組み込まれたすべての人々の状態である。巨大な組織の中に組み込まれた人間は，個性の発揮を許されず個性を喪失した歯車のような存在でしかない。個性を発揮して歯車であることに反抗すれば，組織から抹殺(まっさつ)されてしまう。

もともと人々の協同的な社会である組織において，自己を発現できないとすれば，人は組織の外で，たとえばレジャーなどの消費生活で自己をとりもどそうとする。しかし，そこでも人々は高度に発達したマスコミュニケーションによって操作される存在でしかない。現代資本主義経済は，一方では商品を過剰なほどつくり出し，他方ではさまざまな社会的ひずみ(公害・交通地獄・物価上昇・住宅問題など)をつくり出している。一見して豊かに見える物質的繁栄の中で，人々は個性を奪われ，人間らしい生活を妨げられて全面的な人間疎外の状況に直面している。〈豊かさの中の貧困〉という状況が進みつつある。われわれ自身がつくり出している社会が，われわれひとりひとりの力ではどうしようもない巨獣として，われわれの前に立ちはだかっている。このような人間疎外の状況を克服して，人間自身をとりもどすためには，真の社会的連帯が必要である。　〔佐藤慶幸〕



曾我の対面　はなやかな幕切れ　左から朝日奈(坂東三津五郎)，五郎(尾上松緑)，十郎(中村勘三郎)



曾我綉侠御所染　御所五郎蔵(左，守田勘弥)と土右衛門の出会い

大臣という。推古天皇なきあと舒明天皇を推して山背大兄王(やましろのおおえのおう)を排し，舒明天皇没後は皇后(皇極天皇)をたてて再度山背を押えた。645年(大化1)子の入鹿が中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)(→天智(てんち)天皇)らに討たれると応戦準備をしたが，部下が逃走したためついに自邸に火を放って自殺した。このとき邸にあった《国記》はわずかにその一部が取り出され，のちの国史編纂(へんさん)の材料となった。〔黛　弘道〕

そがのたいめん【曾我の対面】歌舞伎(かぶき)の題名。1幕。江戸の歌舞伎では毎年正月，曾我兄弟のあだ討ちに取材した〈曾我物〉を上演することが慣例になっていたが，その中で兄弟と工藤祐経(すけつね)がはじめて対面する場面のこと。最初につくられたのは1676年(延宝4)といわれ，以後長い年月のうちに様式が洗練されて今日に至った。ふつう《寿曾我対面(ことぶきそがのたいめん)》の名題で上演されることが多いが，略して単に《対面》ともいう。

そがのやげき【曾我廼家劇】1904年(明治37)大阪の歌舞伎(かぶき)俳優中村時代(ときよ)・中村珊之助(さんのすけ)のふたりが一座を結成し，創始した喜劇。曾我兄弟にちなんで曾我廼家十郎・五郎と改名して始めたため，このよび名がある。身ぶりや会話で観客を笑わせていた大阪俄(にわか)の演技を基盤にして脚本をつくり，笑いのくふうを加えたもの。時流に乗って全国的な人気を集め，新派調の涙ものを加えたりして発展したが，1915年(大正4)ふたりは意見を異にして別れた。ふたりの死後，その芸は曾我廼家十吾(とうご)・渋谷天外に継承され，現在の〈松竹新喜劇〉に続いている。〔西尾邦夫〕

そがのやごろう【曾我廼家五郎】(1877～1948)　喜劇俳優。堺(さかい)の出身。はじめ歌舞伎(かぶき)俳優だったが，大阪俄(にわか)にヒントを得て喜劇団創立を志し，1904年(明治37)曾我廼家十郎とともに一座を結成，のち十郎と別れて〈五郎劇〉を組織した。油っこい芸風で人気があり，一堺漁人(いっかいぎょじん)の筆名で自演の脚本を多く書いた。

そがもの【曾我物】《曾我物語》にみえる曾我兄弟のあだ討ちに取材した一連の芸能作品の総称。能に《元服曾我》《小袖曾我(こそでそが)》《夜討曾我》があり，幸若舞に《和田宴》《一満箱王》ほかがあって，浄瑠璃(じょうるり)や歌舞伎(かぶき)に大きな影響を与えた。浄瑠璃では古浄瑠璃の近松門左衛門(もんざえもん)《世継曾我》が中でも著名である。歌舞伎では特に江戸において，その宗教性・祭儀性を代表する重要な演目となり，《対面(曾我の対面)》《矢の根》《勘当場》《草摺引(くさずりびき)》などを類型として，おびただしい作品を生んだ。五郎を荒事，十郎を和事の様式で演ずる形式もすでに1682年(天和2)ごろには定まり，享保以後，江戸の各座の正月狂言は必ず曾我物と決まった。この習慣は毎年新作しながら明治まで続き，興行が大入りをとると，楽屋で〈曾我祭〉を行なうのが例であった。〔服部幸雄〕

そがものがたり【曾我物語】鎌倉末期から室町前期にかけて成立した英雄伝奇物語。作者・成立年は未詳。曾我十郎・五郎兄弟が1193年(建久4)5月，富士の狩り場で父のかたき工藤祐経(すけつね)を討った史実を中心に，兄弟のおいたちからその悲惨な最期(さいご)までをつづっている。箱根山の僧が兄弟の霊を慰めるために語りだし，それが筆録されて広く普及したという。幸若舞・謡曲など後代の文芸に与えた影響は大きい。〔信太　周〕

そがもようたてしのごしょぞめ【曾我綉侠御所染】歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《御所五郎蔵(ごしょのごろぞう)》。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)作。1864年(元治1)市村座初演。柳亭種彦(りゅうていたねひこ)の小説《浅間嶽(あさまがたけ)》の脚色で，浅間家のお家騒動に取材した長編の時代世話物。ふつう侠客(きょうかく)御所五郎蔵と妻の傾城皐月(けいせいさつき)，恋敵(こいがたき)の星影土右衛門(つちえもん)などを中心にした後半だけが上演される。皐月が夫の旧主浅間家に必要な金をつくるため，心ならずも土右衛門に従うのを，女の本心を知らずに怒った五郎蔵が，皐月を討とうとして誤って主君の愛人逢州(おうしゅう)を殺すのがその筋である。〔松井俊諭〕

そきゅうこう【遡及効】法律行為その他の法律要件の効力が，その成立以前にさかのぼって生ずることをいう。特に法令に遡及効の規定のある場合に限られる。遡及効が認められるのは，たとえば，法律行為の取消(民法121条)，時効(民法144条)，解除権の効果(民法545条)，遺産分割(民法909条)などである。

そく【束】集合 L において2通りの演算 $\vee$ と $\wedge$ が定められていて，次の3法則がなりたつとき，L を束といい，$x \vee y$ を x と y の結び，$x \wedge y$ を x と y の交わりという。

(交換法則) $x \vee y = y \wedge x$，$x \wedge y = y \wedge x$

(結合法則) $x \vee (y \vee z) = (x \vee y) \vee z$，
$x \wedge (y \wedge z) = (x \wedge y) \wedge z$

(吸収法則) $x \vee (y \wedge x) = (x \vee y) \wedge x$

たとえば，自然数 x，y の最小公倍数を $x \vee y$，最大公約数を $x \wedge y$ と定めると自然数の全体は束となる。また，集合 A の部分集合 x，y に対し，それらの合併集合を結び，共通部分を交わりと定めると A の部分集合の全体は束となる。

束のうち(分配法則) $x \vee (y \wedge z) = (x \vee y) \wedge (x \vee z)$，$x \wedge (y \vee z) = (x \wedge y) \vee (x \wedge z)$ がなりたつものを分配束という。$x \vee y = x$ のとき，x は y より大きいという。束が最大元 I と最小元 O をもち，どの元 x も $x \vee x' = I$，$x \wedge x' = O$ となる x' (x の補元という)をもつときにこれをブール束という。〔小西勇雄〕

ぞく【属】動植物の分類をする際の基本的単位の一つで種の一つ上の単位で科の下に位する。ある属にはいる種類の間には一定の系統的に一元的と考えられる共通の

形態的特徴を有し，生態学的・生理学的共通の性質を有している。マツ(*Pinus*)・ヤナギ(*Salix*)・カエデ(*Acer*)などの一般的区別は属にあたる。リンネが考えだした二命名法においては，最初の単語が属を示しており，ラテン語またはラテン語化した名詞を用い，かしら文字を大文字とする。たとえばネコでは*Felis cats*と表わす。なお，最も短い属名はラン科の*Aa*である。

そくい【即位】天皇が位につくこと。古くは〈しょくい〉といった。令制(りょうせい)では新帝が先帝から神璽の鏡剣を受けることを践祚(せんそ)とし，このことを天神地祇(ちぎ)に告げ，天下に布告する儀式を即位として分けて規定したが，両者は本来同一の行事で奈良時代にはまだ完全に分離するに至らなかった。のち，桓武(かんむ)天皇のときから践祚は皇位の象徴である三種の神器*を新帝が東宮御所で先帝から受ける儀式，即位は大極殿で登極のことを天下万民に布告する儀式ということになり，両者はまったく別の儀式と考えられるに至った。1177年(治承1)の火災以後，ついに大極殿は再建されなかったので，後鳥羽(ごとば)天皇以後は太政官(だじょうかん)正庁で，応仁(おうにん)の乱以後，後柏原(ごかしわばら)天皇からは内裏の正殿である紫宸殿(ししんでん)で即位の式がとり行なわれることとなった。皇室典範では天皇崩御のときは直ちに皇嗣が践祚して天皇となり，先帝の諒闇(りょうあん)が明けてから即位の大礼を挙行する定めであった(大正・今上のときに適用)が，第2次世界大戦後の新皇室典範では〈天皇が崩じた時は，皇嗣が直ちに即位する〉と定められ，践祚と即位の別はまったくなくなった。〔黛 弘道〕

そくおん【促音】〈つまる音〉ともいう。日本語の音素の一つで，〈かっぱ〉〈きって〉などの〈っ〉で書き表わされる音。母音のあとに，無声音*の子音がくるときに現われる。ただし，外来語では〈ベッド〉(英語bed)のように有声音の前にくることがあり，感動詞では〈あっ〉のように語末にくることがある。次にくる子音の構えをして前の母音を急に断ち切り，そのまま1拍の長さを保つことによって発音する。したがって次にくる子音に引きずられて発音する位置が変わる。ローマ字でkappa(かっぱ)，kitte(切手)，nikki(日記)，besso(別荘)のように，次にくる子音の文字を重ねて書き表わすのはこのためである。〔上村幸雄〕

ぞくご【俗語】広い意味では，一般社会で行なわれている日常語。狭い意味では，日常語のうちで〈ちんぴら〉〈けつ〉〈ぶんなぐる〉のように卑俗な感じを伴うもの。後者の意味の俗語は，普通は書きことばでは使われない。元来，雅語に対立する概念であって，歴史的には中央語に対する方言，典拠ある語に対する当世の語，文章語に対する口頭語，などの意味に用いられた。俗語は卑俗である一方では，生活に根ざした親しみの深い語だともいえよう。〔西尾寅弥〕

そくこん【側根】主根から側方に出る根で，支根ともいう。➔根

そくじしゅとく【即時取得】動産の処分権限のない者を権利者であると誤信して取引し，善意・無過失かつ平穏・公然と取引してその動産の占有*を引き継いだ者は即時にその動産の権利を取得する(民法192条)。たとえば，他人のカメラを借りるか，預かって保管している者を所有権者と誤信し，これと売買取引した者は，カメラの所有権*を取得する。即時取得の制度は，権利の外観を信頼して取引した者を保護するという公信の原則*によって，動産取引の安全を確保しようとするところに重要な意義がある。即時取得の成立要件の第1は，目的物となりうるものは動産に限られることである。ただし，登記*や登録によって権利が表象される船舶や自動車，あるいは農業動産信用法に基づく一定範囲内の農業用動産などは除かれる。立ち木も不動産*とみなされるから除かれるが，伐採された樹木は動産であるから対象となる。また無記名債権は動産とみなされるため，即時取得の目的物となりうるが(民法86条)，その大部分を占める有価証券は商法によって要件が緩和され，取引の安全が確保されている。第2は，取引によって占有を承継したことである。即時取得は取引の安全を確保する制度であるから，他人の遺失物*を自分の所有物であると誤信して拾得した場合などのように，取引に基づかないで権利を独立に取得する原始取得*は含まれない。第3は，処分権限のない者から占有を承継したことである。処分権限のない者とは賃借人・受寄者・質権者などをいい，無能力者や無権代理人などは含まれない。これらの者についてはそれぞれ無能力者制度，代理*の制度が存するからである。第4は，善意・無過失かつ平穏・公然と占有を始めることである。ただし，占有者は善意にしてかつ平穏・公然と占有をなすものと推定されるから(民法186条)，即時取得を主張する者は無過失のみを立証すればよいとされる。即時取得の効果はその取引が所有権移転や質権設定を目的とするものであれば，譲受人はそれぞれ所有権または質権*を取得することである。もっとも，取引によって取得した占有物が盗品または遺失物であるときは，被害者または遺失主は2年間に限って，その占有物の返還請求ができる(民法193条)。被害者または遺失主による占有物の返還請求は無償を原則とするが，占有者が競売・市場または同種の品物を販売する者から買った場合には代価を弁償しなければならない(民法194条)。ただし，占有者が古物商・質屋の営業者であればこの規定は適用されず，各法令に基づいて重要な制限を受け，被害者または遺失主から返還請求があれば1年間は無償で返還しなければならない。〔黒木三郎〕

そくしゃほう【速射砲】弾丸を短い間隔で連続発射できる砲。大口径砲が構造や重量の関係で発射の間隔が長いのに対して，口径を小さくして速射を可能にしている。ドイツのクルップ砲，イギリスのアームストロング砲などが有名で，19世紀の末期から第1次世界大戦にかけて陸上や軍艦で広く使われたが，これから発達した高角砲や対戦車砲などの普及によって，速射砲とその名称とは発展的に消滅した。

ぞくしゅう【属州】プロビンキア(Provincia)の訳。古代ローマがポエニ戦争*以後に獲得したイタリア半島以外の植民地をさす。半島統治とは異なって自治を許さず，総督(プロコンスル・プロプラエトル)を派遣して統治し，ローマ市に対する租税を徴収したので，搾取の対象，政治家の権力の源となった。属州はローマ文化の恩恵に浴したが，激しい搾取で疲弊し反乱などが起こった。

ぞくしん【俗信】伝承的な民間知識・言いならわし・生活技術による心意現象で，あらゆる生活事象に行き渡っている。俗信の中で，社会生活上実害のはなはだしいものが迷信*だが，俗信か迷信かを決める有害性の価値判断はまちまちで，生活慣習における俗信と迷信との区別はきわめてあいまいである。お告げ・前知らせ・占い・禁忌*・信心・まじないなどによる民間療法に関する民間の知識ややり方，ばけもの・幽霊・憑(つ)き物などが俗信の大部分を占め，縁起かつぎその他の非科学的で不合理な多くの知識・暮らし方が含まれている。俗信の中には現代一般の合理性・科学性から判断すると，明らかに不合理で非科学的だと思われるものが多く含まれているが，それは前代論理・前代科学によった知識・技術だったものが現代にまでさまざまな変遷段階をみせながら残留しているからである。俗信の内容は自然に少しずつ新陳代謝していくが，俗信がまったくなくなる時代は考えられない。さらに，俗信のすべてが民間信仰ではないが，民間信仰を基盤としたものが俗信には非常に多く含まれており，狭義の俗信は信仰慣行だともいえるくらいであるから，迷信とみられるような俗信でも，人為的に一掃することのできない性質をもっている。

俗信は前兆・卜占(ぼくせん)・禁忌・呪術(じゅじゅつ)・霊怪・憑き物・縁起かつぎ・干支(えと)や数などに関する知識，祈願やたたり*の供養など民間信仰によるもの，運命観関係などの心意伝承に分類することができる。古くは〈しるまし〉といい，〈きざし〉〈前知らせ〉などとよばれる前兆・予兆に関する知識は非常に古く，吉凶・善悪，幸・不幸などの2種に分けられる。なにかのきざしによって将来を予測する場合と，結果が現われてからその原因もしくはきざしをさかのぼって過去に求める二様があり，またふだ

んの暮らしの中で前知らせを知る場合と，夢のようにふだんと違った状態で知る場合とにも分けられる。夢知らせを気にする一方で夢占いもするが，占いは積極的に将来をあて試みようとする技術であって，単なる知識ではなくなってくる。前兆によって不安が事前に予想されると神託・託宣を求め，卜占によってより的確に知ろうとし，必要があれば特別な禁忌を守ったり，積極的に呪術を試みもするわけで〈兆占禁呪〉は密接にからみあっている。いずれにしても前兆予知の俗信は根強い神信仰を基盤としており，神の啓示によるのだという解釈があった。前兆予知の知識は，①天体・気象上の現象，動植物の異常，②人間の生理・行動，③信仰関係などに分けられるが，特に超能力者による予言や，勘・予感・胸騒ぎなど平凡人の予知能力も重要視される。

卜占はもちろん将来の吉凶や事の成否を占う生活技術だが，もとは血縁・地縁など共同の吉凶を占うほうが古く，個人卜占が盛んになったのはのちである。共同卜占には年頭に1年間の吉凶を占う恒例の*年占(としうら)と臨時の必要による2種があり，また古くは宮廷に卜占をつかさどる役所があって一国の運命・政治を占っていた。また社寺でも神事占の結果を信者に知らせており，御*神籤(おみくじ)も神託による占いである。

*相撲(すもう)・*競馬(くらべうま)・綱引きなどのもとの目的は共同の年占だったので競技卜占に属し，個人卜占には人相・手相などの身体の特徴による方法から干支占い・星占い・影占い・石占い・姓名判断・トランプ占い・コンピューター占いまで種類が多く，易占・運勢判断など街頭の売卜業が盛んになったのは近世以後である。禁忌は俗信の大部分を占めている観があり行為を制限・禁止する知識が広く知られている。呪術・呪法は古くまじないとよばれていたもので事前・事後両対策の技術に分けられる。年頭に豊作・招福除災のために行なう予祝的呪術は事前対策で，雨乞(あまごい)・虫送り・疫病送りなどは事後対策である。呪言・呪文もまた呪法の一種だが，まじないもまた共同目的からしだいに個人の利害を目的とするものが多くなり，民間医療法にも非常に多くの呪術が使われている。妖怪(ようかい)や人の霊魂現象などはいずれも民間信仰による幻覚を主とした俗信で，ことに事故死した無縁仏にまつわる心意伝承には，民間信仰と俗信との中間段階および妖怪と霊異両現象にまたがるものが少なくない。憑き物もまた古くは神霊もしくはその代理と見なされるものの憑霊伝承の零落化とみられ，動植物ばかりか器物のたたりまで恐れて供養するような現象も古風で根強い霊魂信仰によるものといえよう。*十干十二支など*陰陽道(おんみょうどう)などから出た吉凶に関する俗信も多く，聖数・忌数など数量関係の俗信も少なくない。生活の合理化・科学化が叫ばれる現代でも，無意味なことばの語呂(ごろ)合わせ，番号数字の奇数・偶数を気にしたり，つきが落ちたとか回ったとかいう一種の運命観などは，俗信をささえる根本的な心意現象といえよう。〔今野圓助〕

そくしんじょうぶつ【即身成仏】 自分の肉体そのままで仏となること。真言宗の教理では〈父母所生身，速証大覚位〉といい，生まれたこの身で*大日如来の境地に至ることをいう。これには3種の見方がある。①理具成仏は，われわれにはこの身のうちに仏となる資質のあること，②加持成仏は，理念としての成仏を修行によって現実のものとすること，③顕得成仏は，結果としての即身成仏，自己のうちに体現された仏の境地をいう。〔金岡秀友〕

そくしんたい【側心体】 *アラタ体の近くに存在する神経性細胞からなる小体。カイコなどではアラタ体と明らかに区別されるが，ニカメイチュウではアラタ体と合体して一つの複合体を形成している。側心体については生理作用が十分明らかにされていないが，ある種のホルモンを直接あるいは二次的に放出すると考えられている。

そくしんほう【測深法】 海面から海底までの深さの測定法。索測法・水圧測深法・温度測深法・*音響測深法などがある。

ぞくじんほうしゅぎ【属人法主義】 国際私法上，原則として当事者がどの国にいても，その*国籍所属国の法を適用する主義。イタリアのマンチーニ(1817～1887)によって提唱された理論で，元来は*ローマ法の〈条例は服従する者だけを拘束する〉という原則に由来し，法が人に追随することを認めたものである。特定の事項に限って属人法主義を認める場合もあり，日本では人事・親族・相続についてはこの主義をとっている。なお，国籍にかかわらず，当事者の現在地あるいは物件所在地の法を適用すべきであるとする主義を属地法主義という。日本の刑法は原則としてこの主義をとる。〔広部和也〕

ぞくせい【属性】 哲学で，それがなければ，そのものではなくなるような本質的性質をいう。偶然的性質としての〈様態〉〈偶有性〉と区別される。アリストテレスによって概念化され，スコラ哲学では神の本性，デカルトでは〈実体〉の本質的性質と考えられ，〈思惟(しい)〉を〈精神〉，〈延長〉を〈物体〉の属性とした。スピノザは，〈神〉の無限の属性のうち，人間に知られうるのは〈思惟〉と〈延長〉のみとする。→実体

そくせいさいばい【促成栽培】 野菜類は一般に露地でつくると春から秋にかけて収穫することになるが，温室とかビニルハウスなどの施設を利用すると，室内の温度を高めることにより，冬から初春にかけて収穫することができる。このような栽培法を促成栽培という。この場合，早く収穫するためにはもちろん種子まきも早くする必要がある。また促成栽培よりおそく，しかも露地栽培より早く，だいたい初春から初夏にかけて収穫する栽培法を半促成栽培とよぶ。いずれもハウスなどの施設を利用する。近年特に促成栽培や半促成栽培が盛んになり，キュウリ・トマト・ピーマン・イチゴなどは1～4月ごろの出荷が多くなり，春の端境期というものがなくなった。また，露地栽培の場合でも，苗のうちだけ保温や加温して育苗し，おそ霜の心配がなくなると直ちに畑に植え付ける方法があり，これを特に早熟栽培といっている。〔松本正雄〕

そくせいどうぶつ【側生動物】 海綿動物のこと。原生動物から真の後生動物に進化する間に，側道にそれて分化した動物群という意味の命名である。発生中に内外2層の細胞群が入れ換わるので，内胚葉(ないはいよう)・外胚葉などの胚葉をもたぬこと，神経系・感覚細胞を欠いて個体としての統一性が不十分なことなどから，他の後生動物と明らかに区別される。なお，系統学上は，必ずしも側道にそれた群とはいえないという説もある。

そくせん【側線】 魚類の体側に並ぶ感覚器の一種で，水流を感じたり音を聞く役割を果たすといわれる。側線を形づくる側線有孔鱗(ゆうこうりん)(側線鱗)は，うろこごとに一つの小孔があき，その下の感覚細胞をもつ側線管と通じている。普通はえらぶたの上方から体側に沿って尾びれ基部まで1本の線となって達するが，背びれの後縁下で終わるものや，ダイナンギンポのように体側に網目状にあるもの，アイナメ類のように体側に数本あるものなどがある。なお，魚類以外にも，オタマジャクシのような両生類の幼生などにもみられる。

そくせんしょう【塞栓症】 血中の異物および*血栓が，血液やリンパの流れにしたがって末梢(まっしょう)の細い血管やリンパ管につまり，内腔(ないこう)を閉塞すること，ならびにそのために起こる局所の変化をいう。閉塞を起こすものを塞栓あるいは栓子とよぶ。その発生経路によって静脈性・動脈性・逆行性・交叉(こうさ)性に分類され，栓子の種類によって，血栓性・ガス性・脂肪性・細胞性・細菌性・寄生虫性などに分類されている。終末動脈の塞栓症は腎臓(じんぞう)や脾臓(ひぞう)によくみられるような梗塞(こうそく)を形成し，大脳に塞栓したときには*脳軟化症や*脳卒中を起こすことがある。〔小坂井守〕

そくたい【束帯】 平安初期以後用いられた宮廷文武官の正装。束帯という語は《論語公冶長(こうやちょう)》に〈束帯立於朝〉とある。718年(養老2)の衣服令によれば，当時の服制は*礼服(らいふく)・朝服・制服の3種だったが，この中の通常礼装である朝服が発達したもの。平安時代には天皇・文武百官が朝廷の重要な儀式に着用し，職務によってはつねに宮廷で奉仕する服としている者もあ

った。武家時代には将軍をはじめ上級の武家も大礼のときにはこれを着用し，明治時代には天皇の即位礼や特別な儀式などに用いられた。現在でも宮廷の祭儀・神事などに用いられる。束帯の構成は袍*(ほう)・半臂*(はんぴ)・下襲*(したがさね)・衵*(あこめ)（夏は引倍木(ひへぎ)）・単衣*(ひとえぎぬ)・表袴(うえのはかま)・大口(おおくち)とからなり，頭に冠*，足に襪(しとうず)（履(くつ)の下にはくもの）をつけ，履*（靴・浅沓・深沓・半靴(ほうか)）をはき，石帯（儀式によっては魚袋*）を締めて，笏*(しゃく)をもち，檜扇*(ひおうぎ)と帖紙(たとうがみ)を懐中する。なお武官は帯剣し，文官も中務(なかつかさ)省の人と勅授の人は帯剣した。〔河鰭実英〕

そくたつゆうびん　【速達郵便】　郵便物の特殊取扱の一。郵便物の送達にあたって，同一種類に属する他の郵便物に優先して運送し，配達する。1911年(明治44) 2月，当時の京浜地区に施行されたのがはじまりでその後京阪神(けいはんしん)地区，名古屋地区，1937年(昭和12) 8月，全国に及び今日に至っている。

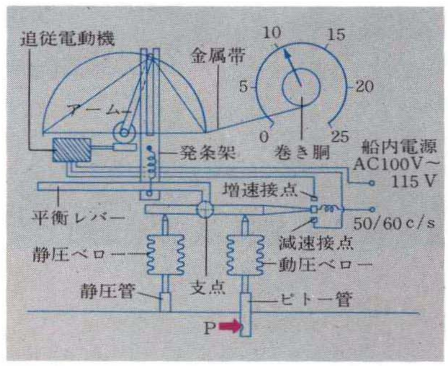
ぞくちほうしゅぎ　【属地法主義】　⇨属人法主義

そくてい　【測定】　計器や装置を用いてある性質を数量的に表わす操作。得られた値（数値に単位を併示）を測定値という。測定値が計器によって直接読み取られる場合（たとえばものさしによる長さ測定，秤(はかり)による質量測定，寒暖計による温度測定）と計器の読みを換算表・定義式・実験式・理論式などにあてはめて求める場合（2本の温度計による湿度測定，電流計と電圧計による抵抗測定，単振り子の周期と糸の長さの測定による重力の加速度の測定）とがある。測定には装置・方法・測定者などの測定条件による誤差を伴うので，測定値の精度つまり信頼度を明らかにする要がある。測定は特定の量の大きさを知ることを目的とする場合のほか，現象に関与する諸量の間の関係・法則性を求める実験や観測におけるプロセスとしても行なわれる。測定は精密科学の基礎となる操作である。〔荒川泰二〕

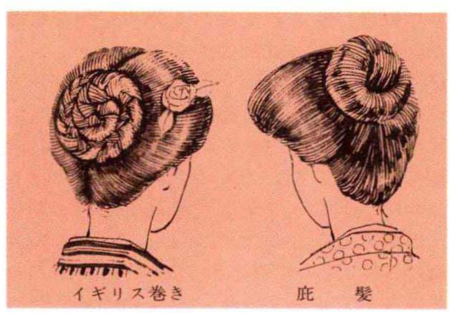
そくていぎ　【測程儀】　船の速さをはかる装置の総称。ログともいう。船位は針路と速力がわかれば決定できるので，昔からこの両者は航海術上最も重要な要素とされた。古代には丸太を海中に投じ，これが船首から船尾まで通過する時間を測定して速度を算出したので，丸太の英語logから転じて測程儀のことをログという。また航海日誌のことをログブックというのも，毎時間船の速さを測定して記録したことに語源がある。この流木による方法から少し進歩したログは手用測程儀であった（→ノット）。さらに船が速くなると，スクリューの一種を細綱で船尾から引き，その回転が速度に比例することを利用して船速を知る曳航(えいこう)測程儀が現われた。現在ではピトー管*の原理を応用した流圧ログ，ファラデーの

束　帯





測程儀　流圧式ログの速度計算機構　船底から突出したピトー管に作用する動圧から航速・航程を算出する



束　髪

電磁誘導の法則を応用した電磁ログなど精巧な方式が用いられている。〔飯島幸人〕

そくてんぶこう　【則天武后】（623～705）中国，唐の3代高宗の皇后，周朝の女帝（在位690～705）。姓は武。山西省の材木商あがりの荆州(けいしゅう)都督武士彠(かく)の娘で，14歳のとき後宮に入り，太宗の死後出家したが，やがて高宗に召されて寵愛(ちょうあい)を受けた。のち王氏に代わって皇后となり，反対派の貴族・官僚を排除し，皇太子忠を廃して実子をすえるなど，あらゆる奸策(かんさく)をめぐらし，病弱の高宗に代わって政務を独裁することに成功した。660年にはみずから天后と称し，さらに高宗の死後あいついで立った中宗・睿宗(えいそう)を廃し，690年ついに革命を行なって周朝を開いた。血の粛清や告密の門を設けるなど暗い面が多く，男妾(だんしょう)を置くなど私生活に乱脈さが認められるが，人才を重んじて門閥にとらわれない新風を吹き込んだ点は高く評価される。その病死後は中宗が返り咲き，唐が再興された。〔藤善真澄〕

そくど　【速度】　⇨運動

そくどきごう　【速度記号】　楽曲のテンポを規定したり，目安を伝える記号。今日では，メトロノーム*があるので，1分間に何拍奏されるかを示す。18世紀までは，アレグロ*などの発想を含めたことばによる表現や，速い・おそいなどの簡単な表現が使われた。

そくどけい　【速度計】　車両・航空機・船舶などの対地面速度および対流体速度を測定する計器。車両用計器のほとんどは，車輪の回転数と周長の関係から指示される。自動車用は，車輪の回転をケーブルで計器に導き，永久磁石を回転させ，近接したアルミ円板に生ずるうず電流*で円板が回転することを利用している。航空機では，ふつうピトー管*式が用いられる。すなわち，動圧と静圧の差から速度を求める。この場合，あらかじめ風速をはかって補正する必要がある。また，対地速度を直接知りたい場合には，電波・超音波の反射波のドップラー効果*を利用して求めている。船舶では，周囲の海水に対する速度を測定するのが普通であるが，天体観測や無線測定による補正が必要である。曳航(えいこう)スクリュー式のウォーカー式測程儀，ピトー管式などがある。→測程儀　〔船越　泉〕

ソグドじん　【ソグド人】　サマルカンドを中心とするゼラフシャン川流域のソグド地方に定住した民族。その言語は東イラン語群に属するが，今日では失われた言語となっている。ソグド人は現代タジク人の先祖であり，部分的にはゼラフシャン川流域に住むウズベク人の先祖でもある。ギリシア人はトランスオキジアナとよび，中国では主として粟特と書く。歴史的にはソグド人は古くから国際的商業貿易に従事し，東トルキスタン，中国の甘粛省西部，天山北方地方，蒙古(もうこ)高原に植民地をつくり，唐の長安には多数住んでいた。特に匈奴(きょうど)・突厥(とっくつ)・ウイグルなど遊牧国家内部では商業に従うとともに，政治・文化の指導者となり，その発展につれてマニ教やソグド文字などが東方に広がった。中国では南北朝時代以後，胡人(こじん)とよばれた。〔若松　寛〕

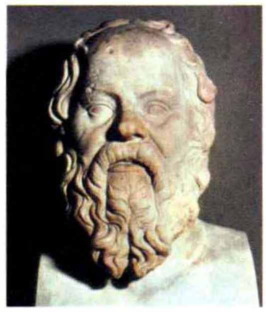
そくどへんちょうかん　【速度変調管】　⇨クライストロン

そくはつ　【束髪】　髪をたばねる西洋ふうの髪形*。1885年(明治18)に従来の日本髪に代わる清潔・簡便な髪形として，婦人結髪改良束髪会が提唱し，上流知識階層からしだいに普及した。水油を用いて結髪するもので，はじめは西洋上げ巻き・西洋下げ巻き・イギリス巻きなどの引きつめた形であった。その後ふくらみやゆるみを加えて，

明治30年代に庇髪(ひさしがみ)・花月巻き・二百三高地，40年代に夜会巻きなどが流行した。➔髪形　〔新藤千恵〕

ソクラテス［Sokrates］(BC469または468～BC399)　古代ギリシアの哲学者。アテナイの生まれ。父ソプロニコスは彫刻師，母パイナレテは良家の出で産婆であった。父の職業にしばらく従事したらしい。少青年期はアテナイがデロス同盟の主導権を握って帝国主義の道を歩み出し，やがてペリクレス*の独裁による民主政治が栄えるころにあたる。学問・思想の領域でもアナクサゴラス*がアテナイに来て，ペリクレスの親友として自然研究を行ない，以後アルケラオスやアポロニアのディオゲネスなどイオニア系の自然学説が流行した。また，天文学者メトンや数学者テオドロスや音楽家ダモンやコンノス，さらにプロタゴラスやゴルギアス，プロディコスやヒッピアスらのソフィスト*たちが続々とアテナイを訪れ，学問好きや政界進出を望む上層富裕の子弟を刺激した。ソクラテスも幾何学・音楽・天文学や弁証法などを学ぼうとした。17歳ごろから10数年アルケラオスに師事し，その死後は〈科学の学校(プロンティステーリオン)〉の長になったらしい(これについてはアリストパネスが《雲》で戯画化している)。しかし，彼の心は自然学よりも西方イタリアのピタゴラス派やエレア派にひかれ，若いころからパルメニデス*やゼノン*とも対談した。また彼は自然・風物などの外界よりも人間関係に関心をもち，壮年に及んでその傾向は強まった。出無精な彼は出征のほか国外に出たことはなく，いつもアテナイの市場や体育場で市民，特に若者たちと対話するのを好んだ。当時アテナイはペロポネソス戦争下にあり，BC430年には疫病が流行し，ペリクレスもこれによってたおれた。弟子(でし)カイレポンがデルフォイから〈彼以外に知者なし〉の神託をもち帰って(BC435年ごろ)以来は，アテナイの将来を憂え，アポロンの使徒として人間吟味の哲学活動に乗り出した。外来のソフィストたちとの対談はもとより，アテナイの著名な政治家・将軍・悲劇詩人・職人たちを歴訪し，相手の気づかない無知をあばき，自分はわずかに無知を知る者と公言した。これが誤解を招き，後年(BC399)不敬罪の名で訴えられ，毒杯を仰ぐもとになった。

ソクラテスの独自な言動を促したものに，上述の神託のほか，幼時からの神霊のしるし(ト-ダイモニオン)がある。これは交友や政治活動に対して禁止的に働き，世人一般の不正や不敬から離れてひとり毅然(きぜん)と生きることをさせるものであった。これに対して対人関係を積極的に促したのがエロス(➔愛)であった。このエロスは稚児愛と見誤られて若者たちをまどわした(アルキビアデス*の場合など)が，実はソクラテスと交わり問答する若者の魂のうちに知と徳を生み出す働きをするもの，つまりみずから懐妊しないで相手の男たちの思考の出産を助け，生まれた子の真偽を調べいっしょに育てる母譲りの〈産婆術〉となった。ソクラテスの〈無知の知〉のアイロニーもこのエロスに裏打ちされて単なる非生産的なものでなかったことは，偉大な弟子プラトン*の誕生そのものが物語っている。アリストテレス*がソクラテスは倫理的事がらにおいて普遍的なものを求め，〈定義〉に注目した最初の人としたが，このエロスによってプラトンの超越的なイデアの弁証法的な道が開けたといえる。ソクラテスはなにも書き残さなかった。その哲学活動の証言はプラトン・アリストテレス・クセノポン*に求められるが，その対話の姿と精神はプラトンの対話編に如実に示されている。　〔村治能就〕



ソクラテス



ソ　ケ　イ　キソケイ

ソクラテスのべんめい【ソクラテスの弁明】　ギリシアの哲学者プラトン*の初期の著作。内容はBC399年，〈国家の認める神々を認めずに新奇な鬼神(ダイモン)を祭り，かつ青年に害悪を及ぼす〉という理由で告訴されたソクラテス*が，アテナイの法廷でこれまでの自分の思想や生活を中心として行なった弁明を記録したものである。ソクラテスのことばがこの作品どおりであったかどうかは疑問であるが，少なくともソクラテス自身，〈無知の知〉を出発点として正しく生きた，その生涯(しょうがい)や人間像が如実に示されていることはまちがいない。　〔本橋正義〕

ぞくりゅうけっかく【粟粒結核】　結核菌*による重症感染症の一。大量の結核菌が一時に体に侵入したり，抵抗力が極端に低下している場合などに結核菌の感染を受けると，結核菌は血行を介して全身の臓器に播種(はしゅ)され，多数のアワ粒大の結核結節*を生ずることがある。これを粟粒結核という。臨床的な経過から急性・亜急性・慢性・潜在性に分けられるが，本質的な差はない。大量の結核菌が一時に血行中に侵入した場合は急性の経過をとり，少量ずつ間歇(かんけつ)的に侵入した場合は亜急性ないしは慢性の経過をとる。急性粟粒結核の症状は，突然高熱をもって発病し，しだいに進行して重篤となる。高熱・咳嗽(がいそう)・喀痰(かくたん)・胸痛などの呼吸器症状が強い肺尖(はいせん)型，高熱および皮膚の発疹(はっしん)を主とする腸チフス型，高熱・意識障害・頸部(けいぶ)強直などを主とする髄膜炎型などがある。いずれも高熱・食欲不振・貧血が著明で，そのほか各臓器の障害された症状が出現し，しだいに全身衰弱に陥る。経過は一定しない。以前はほとんど死に至ったが，最近は強力な化学療法剤の長期使用によって治癒(ちゆ)する例が多くなっている。➔結核　〔佐野隆志〕

そけい【素馨】　双子葉植物・モクセイ科・オウバイ(ジャスミン)属の一種。インド原産の常緑低木で，高さ1mほど。観賞用として植えられている。葉は5～9小葉からなる羽状複葉で対生する。花は先が5裂する白色の合弁花で強い芳香があり，長い花梗(かこう)で，7～8月，枝先に多数つく。観賞用として，また，香料(ジャスミン)の原料として植栽される。近縁種のキソケイも同様に用いられる。

そけいヘルニア【鼠径ヘルニア】　鼠径靭帯(じんたい)の上方で鼠径部に脱出するヘルニア*(脱腸)。ヘルニアの起こる部位により次のように分けられる。①外鼠径ヘルニア：外側鼠径窩(か)から鼠径管を経て皮下鼠径輪に出る。大部分の鼠径ヘルニアはこれである。ほとんどが先天性で，男子に多く，幼児に発生する場合が多い。②内鼠径ヘルニア：内側鼠径窩から鼠径三角を経て皮下鼠径輪に出る。鼠径ヘルニアの約1％にしかあたらない。40歳以上の男性に多い。③膀胱(ぼうこう)上ヘルニア：膀胱上窩から皮下鼠径輪に出る。最も少ない。鼠径ヘルニアは鼠径部の腫瘤(しゅりゅう)として発見されるが，陰嚢(いんのう)や陰唇(いんしん)に膨出するものもある。ヘルニアの内容が小腸*で，鼠径窩で締めつけられ，腹腔(ふくこう)内に還納しえなくなった状態をヘルニア嵌頓(かんとん)といい，腸閉塞*(ちょうへいそく)の状態となる。治療法はヘルニアバンドなどによる一時押え的な療法，注射療法および手術療法があるが，手術療法が原則である。　〔玉城　巌〕

そけいリンパせんにくがしゅ【鼠径リンパ腺肉芽腫】　性病*の一。淋病(りんびょう)・梅毒・軟性下疳(げかん)に次いでその病原体が確認されたので，第四性病といわれる。病原体は宮川小体といわれるクラミディア*である。

そご【祖語】⇨語族

そこうけん【租鉱権】他人の鉱区*または鉱床*から鉱物を採掘し，所有する権利。鉱業法に基づいてその鉱区の授掘権*者と契約し，通商産業局長の認可・登録を経て成立する。物権とみなされるので，鉱業法による規定のほかに不動産に関する規定も準用される。ほぼ鉱業権*に類する取り扱いを受け，存続期間は5年以内であるが，1回に限り更新できる。他人への譲渡や抵当権は禁止されている。

そこさしあみ【底刺し網】海底に接してまたは海底からやや離して敷設される刺し網。浮力よりも沈降力を大きく設計してある。展開した網は，いかりや天然石を用いて海底付近に固定されるので，海面上には目じるしとしてたるやボンデンなどを浮かべておく。カニ・サザエ・イセエビ・カレイ・ヒラメなどの底生生物を漁獲対象とする。➔刺し網漁業

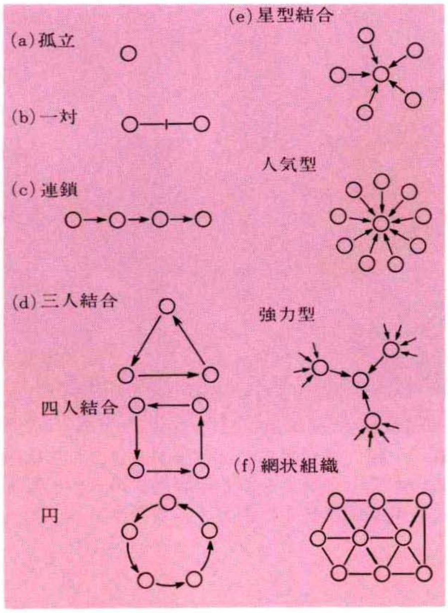
ソコトラ(島)［Socotra，Soqotra］インド洋，アラビア半島の南方，アフリカ大陸東端のガルダフィ岬(みさき)東方にある島。面積3,612km²，人口12,000(1958年推)。アジア・アフリカ両大陸の自然や文化の関係を知るのに貴重なかぎをもつとされる。住民はおもに農牧業を営み，〈龍(りゅう)の血〉とよばれる赤い色をした彫刻用の木材や，香料・ワタ・タバコ・キビなどを産する。古くからアラビア人やインド人の商人に知られ，1507年ポルトガル領となったが，1886年からイギリスの保護領となり，1967年南イエメン共和国の独立とともにその領地に編入された。〔大崎　晃〕

そこはえなわ【底延縄】海底付近に生息するレンコダイ・タラ・アナゴなどの水産生物を漁獲対象として，海底かその直上付近に敷設される延べ縄。いかりや石を用いて，延べ縄の両端を固定させて流動を防ぐ。操業に便利なように，たるやボンデンを浮かせて目じるしとする。

そこひ【底翳】外眼部や前眼部に変化はないのに，視力の弱っている疾患を総称する俗称。瞳孔(どうこう)の色から，白そこひ(白内障*)，青そこひ(緑内障*)，黒そこひ(黒内障*)などの呼称がある。

そこびきあみ【底引き網】海底付近を曳航(えいこう)して，漁獲を行なう網具。底引き網を用いる漁法には，引き寄せ漁法と引き回し漁法の2種類がある。いずれも円錐(えんすい)形か円筒形の袋網の網口の両側に，袖網(そであみ)(翼網)があって，この袖網に曳航ロープをつけて海底を水平方向に引き，対象物を袋網の中に集めて漁獲する。底引き網といった場合は小形の手繰り網をいい，大規模なものは，機船底引き網類といって区別する。〔石野　誠〕

そこびきあみぎょぎょう【底引き網漁業】海底もしくは海底付近に生息しているタイ・タラ・エビなどの底生生物を漁獲対象として，底引き網を引いて行なう漁業の総称。広範囲にわたって海底が平坦(へいたん)で，障害物が少なく生物の多い浅い場所がよい漁場となる。大陸だなや浅いバンクの上などがそのよい例であるが，近年ではもっと深い所にすむ生物も，この漁法で漁獲できるようになってきた。底引き網漁業はもっとも効率のよい漁業の一つで，北欧諸国をはじめ世界の各国でも盛んに行なわれている。トロール漁業とよばれるものも，この中に含まれる。日本では官制上次のような類別がなされている。①北洋底引き網漁業(母船式底引き網漁業と北方トロール漁業に分けられる)，②南方トロール漁業，③エビトロール漁業，④以西機船底引き網漁業(以西とは北緯25°以北，東経130°以西の東シナ海および黄海漁場をいう)，⑤以西トロール漁業，⑥沖合い機船底引き網漁業(東経130°以東の日本沿岸沖合いで操業，以東底引き網漁業ともよばれる)。このほかに，他の業態から行政措置によって，北洋での底引き網漁業に転換した船(北転船)による操業もある。〔石野　誠〕



ソシオメトリー　ソシオグラムの単位概念

そじ【楚辞】中国，戦国時代の楚の国の文学作品集。劉向*(りゅうきょう)の編という説があるが否定説もある。屈原*・宋玉*(そうぎょく)ら先秦(せんしん)の楚の詩人の作品を収録するほか，賈誼*(かぎ)・淮南小山(わいなんしょうざん)・東方朔(とうぼうさく)・厳忌・王褒(おうほう)および劉向の作品を収録。のち後漢の王逸は，自作の《九思》の文と班固の二序とを付録し，これに注を加えて《楚辞章句》17巻をつくった。これが現存最古の注釈書で，その他，《楚辞》の注釈書は《詩経》と並び枚挙にいとまがないほど多い。《楚辞》の冒頭に屈原の《離騒*》があるので《離騒経》ともいう。楚民族は，現在の湖北・湖南にあたる地域に住み，山沢や森林の多い古代の自然環境の影響を受けたせいか，巫鬼(ふき)の信仰が盛んで，屈原の作という《九歌》11編は，それら民間の祭りの歌か，またはそれの改作であろう。それが屈原・宋玉らによって文学的に完成されたもので，漢代文学の賦は《楚辞》から発展したものである。《詩経》が温和な調べが多いのに対し，《楚辞》の作品は，激越な調べのものが多く，ロマン主義的である。〔今村与志雄〕

ソシアル-ケースワーク⇨ケースワーク

ソシエテ(諸島)［Society，Société］南太平洋，ポリネシアにある，火山とサンゴ礁からなる諸島で，総面積1,677km²。諸島は大きく，東のウインドワード諸島(タヒチ島・モーレア島など)と，西のリーワード諸島(ライアテア島など)に分かれる。住民はポリネシア人で，コプラ・ラム酒・サトウキビ・真珠母貝・バニラ(香料)を産する。1607年にポルトガル人が発見したが，1769年にクック*が訪れた際，王立協会(ロイヤル-ソサエティ)の会員が同行したので，その名誉を記念して島の名とした。1843年フランス保護領となり，1880年からはその植民地となった。〔大崎　晃〕

ソシオメトリー［Sociometry］アメリカの精神医学者モレノとその学派によって体系づけられた，人間関係や集団の構造・動態などを測定する理論と方法の総称。社会測定法とも訳される。人間関係や集団の生態を個人間の〈牽引(けんいん)〉と〈反発〉の力学的緊張関係として数量的にとらえ，集団内の成員の地位(指導者・被指導者・人気者・孤立者など)や，集団の結束力の強さ(凝集性)などをとらえようとするもの。主としてソシオメトリック-テストによって，集団の成員に交渉をもちたいと思う他人，拒絶したいと思う他人をあげさせ，各人が全成員のうちの何人から交渉を希望されているか拒否されているかを調べ，個々人の被選択状態，被拒否状態などから〈牽引〉や〈反発〉の頻度(ひんど)・強度をとらえ，指数として示す。この集団の関係を空間的に図に描いたものがソシオグラムである。ソシオグラムは個人(社会的原子)の型や集団構造を視覚的に明らかにする効用をもつ。〔太田垣瑞一郎〕

そしき【組織】多細胞生物のからだは，多数の細胞が単に機械的に集まってできているのではなく，細胞の間には，形態的・機能的に一定方向に分化をするものがあり，このような細胞とその生産物(たとえば細胞間質など)が多数集合して互いに有機的連絡をとっている。これが組織である。このような組織が数種集まって一定の形，働きをもったものが器官である。動物の組織は，上皮組織*・結合組織*・筋肉組織*・神経*組織の四つに大別される。植物組織はその構成細胞の発達段階によって，分裂組織と永久組織に分けられる。分裂組織は組織をつくり出すもとになるもので，細胞分裂が活発

に行なわれている。さらに，一次分裂組織(幼胚(ようはい)や茎・根の先端にある生長点)と二次分裂組織(形成層・コルク形成層)に分けられる。永久組織の細胞では分裂は行なわれず，それを構成する細胞の形と働きによって，表皮組織・柔細胞・通導組織・機械組織などに分けることができる。〔蒲原春一〕

そしきえき 【組織液】 動物の体内にあって細胞外に流動している液体。脊椎(せきつい)動物では血液・リンパ液とともに体液*の一種で，細胞に栄養を与え，細胞からの排出物を受け入れる働きがある。毛細血管から血漿(けっしょう)が生理的に出たもので，その大部分はリンパ管にはいってリンパ液となり，一部分は毛細血管にはいる。なお，開放血管系の動物では，組織液と血液とは区別できにくいこともある。

そしきこうがく 【組織工学】 ⇨システムズ-エンジニアリング

そしきこきゅう 【組織呼吸】 ⇨呼吸

ゾーシチェンコ ［Mikhail Mikhailovich Zoshchenko］ (1895〜1958) ソビエトの小説家。ロシア革命後，さまざまな職業につき，放浪生活を送った。やがて文学グループ〈セラピオン兄弟*〉の一員となり，《ナザール-イリイチ-シネブリューホフ物語》を初めとする諷刺的物語で名声を得た。第2次世界大戦後，短編《猿(さる)の冒険》がソビエト人の知性を悪(あ)しざまに描いたとしてジュダーノフに批判され，一時期沈黙を余儀なくされた。

そしつ 【素質】 遺伝的に個体にそなわる身体的・精神的(知的・情緒的・意志的)傾向。〈個人差〉の研究に，先天説は生まれながらにそなわる素質を重視したが，素質は固定的にただ一つのあり方で実現するものではなく，環境諸条件との相互作用により実現の様相はさまざまである。素質と環境のいずれが人間の発達段階に強い影響を与えるかは長い間の問題であるが，この解明には素質を等しくする一卵性双生児が異なる環境に成育したケースがしばしば注目されている。〔金子秀彬〕

そしゃく 【咀嚼】 咬合(こうごう)運動によって食物をかみ砕き，消化器のほうへ送ること。その運動を咀嚼運動という。咀嚼運動を行なうには咀嚼筋と口のまわりの筋の総合的な働きで行なわれる。咀嚼筋は顎関節(がくかんせつ)をはさんで頭蓋骨(とうがいこつ)から起こって下顎骨に付く筋肉で，咬筋・側頭筋・内側翼突筋・外側翼突筋の4対の筋がある。よく咀嚼をすることによって次のような効果がある。①食物を十分細かく砕き，唾液*(だえき)とよく混ぜて消化しやすいようにする。②顎・歯・歯肉，その他の口の周囲の筋などの発育を助ける。③口腔(こうこう)内が自然に清掃される。〔菊池 進〕

そしゃくち 【租借地】 一国の領域の一部が外国の使用にゆだねられる場合，この



蘇　州　蘇州郊外には名勝が多い。ここは西郊の虎丘山で呉王を祭る七層塔がある。子どもたちや家族連れの行楽客でにぎわう

地域をいう。日清(にっしん)戦争の結果，ヨーロッパ列強が，清国の体面を維持させつつ，事実上領土割譲の効果をあげるためにとった。ドイツ・ロシア・日本・イギリス・フランスなどに貸与された膠州(こうしゅう)湾・旅順・大連・威海衛・九龍(きゅうりゅう)などがある。租借国は租借地内で自由かつ排他的に統治を行なう権利をもつため，領土の偽装的割譲といわれるが，一定制限や期限があるなど，法的には割譲とは異なる。〔広部和也〕

そしゅう 【蘇州】 スーチョウ 中国東部，江蘇(こうそ)省の都市。推定人口80万。太湖東岸にある商工業都市で，米・綿花の集散地として名高く，綿紡織や伝統工業としての絹織物工業も盛んである。付近には寒山寺・獅子林(ししりん)・双塔寺・虎丘(こきゅう)などの古跡も多く，風光明媚(めいび)な地としても知られる。春秋時代には呉の都であり，マルコ-ポーロの旅行記にも記載された。明(みん)末から清(しん)にかけては，経済都市として繁栄し，今日に至っている。〔船越昭生〕

ソシュール ［Horace Bénédict de Saussure］ (1740〜1799) スイスの地質学者で，アルプス地質学の開拓者。ジュネーブ大学教授をつとめた。当時近寄る人もなかったアルプスに登路を開発するため，モンブラン登頂者に賞金を出し，近代登山の開拓に貢献した。モンブランは1776年フランス人ビルマーが初登頂に成功したが，彼自身も1778年に登頂，以後たびたびアルプスを横断した。

ソシュール ［Nicolas Théodore de Saussure］ (1767〜1845) スイスの植物生理学者。ジュネーブに生まれる。植物の栄養について定量的研究法を導入し，植物の生存と生長には二酸化炭素が必要であり，その際に植物は酸素を放出する事実，および植物が根から水のほか無機塩を吸収する事実を実証した。

ソシュール ［Ferdinand de Saussure］ (1857〜1913) スイスの言語学者。ライプチヒ・ベルリン両大学で比較言語学を修め，パリの高等学術研究院講師を経て，1891年以降ジュネーブ大学教授。著書に《印欧語母音の原始的体系覚え書き》(1879)のほか，死後，門弟たちによって整理・出版された講義録《一般言語学講義》(初版1916年，再版1926年)が有名。後者は，近代言語学(構造主義言語学)の理論的・方法的基礎となった書物。そこで示された，言語活動におけるラング(言語の社会的面)とパロール(言語の個人的面)，言語記号における能記(表わすもの)と所記(表わされるもの)，言語研究における通時的(言語の歴史的発展の面)と共時的(言語の体系的構造の面)，などの区別は，構造主義的概念を表わす峻別法(しゅんべつほう)として特に重要。彼を始祖とする学派は，その後，ジュネーブ・コペンハーゲン・プラーグ・パリに興ったが，20世紀の言語学は，その立場を問わず，彼なしに論じることはできない。〔崎山 理〕

そじゅん 【蘇洵】 (1009〜1066) 中国，宋(そう)代の政論家。号は老泉。蘇軾*(そしょく)・蘇轍*(そてつ)兄弟の父。子どもたちと区別して老蘇ともいう。欧陽修*に文才を認められ，世に知られる。古文(中国散文の一体)のすぐれた作者で，唐宋八大家のひとり。文集に《蘇老泉集》がある。

そしょう 【訴訟】 対立する利害関係人を当事者として関与させ，紛争や利害の衝突を法律的に裁判機関が解決する制度または手続き。対象となる事件の性質から，民事訴訟・刑事訴訟・行政訴訟に分けられる。訴訟は，訴訟法の規定にしたがって，裁判所・当事者・利害関係人などの一連の訴訟行為によって進行する。ふつう民事訴訟は，原告の訴え*提起から裁判所の終局判決までの手続きをさし，刑事訴訟は，検察官の公訴*の提起から終局裁判までをその内容とする。➔裁判 ➔行政訴訟 ➔民事裁判 ➔刑事裁判 ➔民事訴訟法 ➔刑事訴訟法〔井上公耳〕

そじょう 【訴状】 民事訴訟において，裁判所に対する訴え*の趣旨を記載した書面。簡易裁判所に対しては，訴えの提起は口頭でできるが，その他の場合には，訴えは訴状を裁判所に提出して行なう(民事訴訟法223・253条)。訴状には，当事者の氏名といかなる裁判を求めるかを記載し，定められた金額の印紙を貼用(てんよう)する。なお，訴状は正本および副本を提出することが必要で，後者は裁判所から相手方に送達される。

そしょく 【蘇軾】 (1036〜1101) 中国，宋(そう)代の政治家・文人。字(あざな)は子瞻(しせん)。東坡(とうば)と号した。蘇洵*(そじゅん)の子。眉州(びしゅう)眉山(四川省)の人。1057年進士及第。1065年直史館に任ぜられたが，王安石の新法党と司馬光の旧法党の対立による政治紛争に巻き込まれ，王安石の迫害を受

けて黄州団練副使に落とされた。1092年礼部尚書(しょうしょ)兼端明殿・翰林侍読(かんりんじとく)両学士に至ったが，再び瓊州(けいしゅう)別駕(べつが)に流謫(るたく)された。のち赦免され，北に帰る途上で没した。おくり名は文忠。文章・詩・詞*をよくし，文は韓愈(かんゆ)の古文をうけ，詩・詞は題材が豊かで形式の自由な新傾向を出した。書においても人間性をとうとび，因襲を離脱した清新な書風をつくりだして，広く世人に愛好された。いま，真跡では《黄州寒食詩巻》，法帖(ほうじょう)では《西楼帖》などが伝わっている。〔中田勇次郎〕

そしりょう【粗飼料】 ⇨飼料

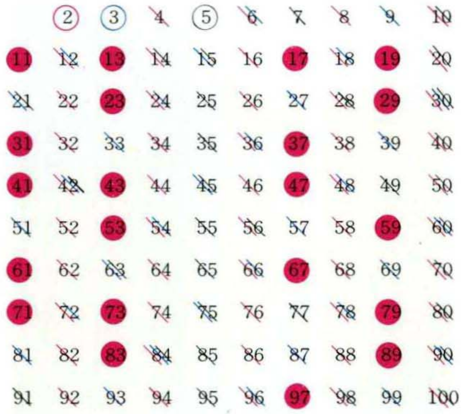
そしん【蘇秦】 生没年不詳。中国，戦国時代の説客。斉(せい)の鬼谷子に学び，合従(がっしょう)の策を立てて燕(えん)の文侯，趙(ちょう)の粛侯，韓(かん)の宣恵王，魏(ぎ)の襄王(じょうおう)，斉の宣王，楚(そ)の威王に遊説した。その結果みずから縦役の長として6国の相(しょう)となり，6国が連合して秦に対抗する状態を15年間維持した。しかし，蘇秦の策は，秦との平和共存を図る張儀*の連衡策に敗れ，斉に逃げたが刺客に殺された。なお，今日では蘇秦の遊説期をもう少しのちに下げ，斉の湣王(びんおう)のころとする考えが有力である。➔合従連衡〔勝村哲也〕

ソース［sauce］ 語源はラテン語のサル(塩)で，塩を基本とした味つけじるの意。西洋料理において料理を美味にし，その色彩を美しくするための重要な調味料。フランス料理の優秀さもソースによるところが大きいといわれ，その種類も非常に多く400～500種といわれる。それは魚・肉・卵・野菜などを原料とした各種料理の，それぞれに合ったものがつくられるためである。ソースは大別して料理用・食卓用に分けられる。

〔料理用ソース〕料理によってそのつど料理人がつくるソース。基礎となるソース(グランソース)は，フォン(鳥獣肉・魚肉・野菜などからとる煮出しじる)・ルー(いり小麦粉)・リエーゾン(つなぎ)の3者でつくる。そのまま料理に添えられるほか，これを土台として種々のソースがつくられる。おもな基礎ソースは次のとおりである。①ベシャメルソース：いわゆるホワイトソースで，ルイ14世の司厨長(しちゅうちょう)ベシャメルが考案したもの。白色のルウを牛乳で伸ばす。応用ソースとしてモルネー・カーディナル・クレームソースなどがある。②ベルーテソース：ベルーテはビロードの意。白色のルウをフォンで伸ばしたもので，白いソースの基礎となる。応用ソースにはノルマンド・バンブラン・ベーシェーヌ・マルテーズなどがある。③トマトソース：トマトを土台とした赤色のソース。応用ソースはポルチュゲーズ・ナポリテーヌなど。④エスパニョールソース：スペインふうの意で，茶色のルウを用いて茶色に仕上げる。ブラウンソースともいう。応用ソースはドミグラス・ディアブル・ピカント・マデールなど。⑤シュプレームソース：最高のソースという意味で，鶏肉料理に用いる。⑥パリジェンヌソース：特に野菜料理に適する。⑦フロワードソース：冷たいソースで，ふつう冷製料理に用いる。マヨネーズ・ビネグレット・ショーフロワー，その他の種類がある。

〔食卓用ソース〕①ウスターソース：イギリスのウスターシャーではじめてつくられたのでこの名がある。わが国でソースといえばこれをさすが，西洋料理特にフランス料理ではほとんど用いられない。野菜・香辛料・調味料・着色料など，20種以上の原料が使われ，酸味が強いので腐敗の心配はなく，保存がきく。②トンカツソース：ウスターに似ているが，濃度の高い，どろどろしたソース。煮たリンゴやトマトピューレを多量に用い，フルーツソースの名がある。フルーツソースには，ほかにアップルソース・グランベリーソースなどがある。果実を多く使用しているので腐敗しやすく，ウスターより保存性はない。③アンチョビーソース：アンチョビー*を裏ごしして調味し，すり伸ばしてつくる。④トマトソース：トマトケチャップ。⑤チリソース：トマトの種子とトウガラシ入りの辛いソース。⑥タバスコソース：赤トウガラシでつくり，非常に辛い。以上のほかに，マヨネーズソース・ドレッシングなどあり，これらはいずれもびんづめにして市販されている。

なお，最近市販されているバーベキューソースは，しょうゆにサラダ油や各種香辛料を加えてつくったもので，わが国独得のソースである。〔佐藤友太郎・泉敬子〕



素　数

そすう【素数】 1より大きい整数で1とその数自身のほかに約数をもたない数。2，3，5，7などは素数である。これに対して，1とその数自身のほかにもまだ約数をもっている正の整数を合成数という。4，6，8，9などは合成数である。1は素数でも合成数でもない。素数が無限に多く存在することは，ギリシア時代から知られ，ユークリッド*の《ストイケイア*》にその証明が出ている。

〔エラトステネスのふるい〕ある数より小さいすべての素数を見いだす方法としてエラトステネス*が始めたもので，例として表に100までの素数を知る方法を示す。2から始めて二つめごとの数は2の倍数であり素数ではないから消す。次に3の倍数を消す。残った最初の数は5であるから，5から始めて五つめごとの5の倍数を消す。次は7，残った最初の数は11であるが $11^2>100$ なので，残りの数はすべて素数である。

〔素因数分解〕正の整数を素数の積として表わすことをいい，その場合のおのおのの素数を素因数という。たとえば，$1170=2\times3^2\times5\times13$ 素因数を小さいものから順に並べることにすれば，一つの正の整数の素因数分解のしかたはただ1通りに決まる。〔青柳雅計〕

ソスノウィツ［Sosnowiec］ ソスノビェツともいう。ポーランド南部，カトーウィツェの東北東9kmにある工業都市。人口19万7,000(1976)。鉄道の分岐点で，金属・機械工業が盛ん。19世紀末に近郊で鉱山が開発されてから，急速に発展した。

そせい【塑性】 可塑性ともいう。物体に外力を加えたとき，連続的に形が変わり力を取り除いても変形が永久に残る性質。普通の物体は外力によって変形するが，変形の程度が小さいときはもとの形あるいは大きさにもどろうとする弾性*を示す。この変形の程度が大きいときは外力を取り去っても，物体はもとの形または大きさにはもどらない。変形を与えたとき，もとにもどるかもどらないかの境をその物質の弾性限度という。弾性の大きい金属でも弾性限度*以上の力を加えると塑性を示す。金・銀・銅・アルミニウムなどは容易に塑性変形するので，薄い板や箔(はく)あるいは細い線とすることができる。この性質を特に展性あるいは延性という。プラスチックは特に塑性変形をしやすい高分子有機化合物の総称で，簡単にいろいろな形に加工することができるので，家庭用品・電気器具・建築材料などに利用されている。〔今淳治郎〕

そぜい【租税】 ⇨税

そせいかこう【塑性加工】 物体の塑性*を利用する成形手段で，鍛造・圧延・押し出し・伸線・プレス・曲げ・切断などの諸作業がこれに属する。塑性は結晶のすべり現象と双晶形成によって起こるが，金・銀・鉛などでこの性状が著しく，鉄鋼なども高温においてかなりの塑性をもつ。またプラスチック類も大きな塑性をもつ。このため，元来金属中心であった塑性加工が，最近では高分子材料にも応用される。塑性加工には大別して熱間方式と冷間方式があるが，両方式の作業を組み合わせる場合も多い。一般に熱間方式では速い加工が行なわれるが，仕上げがあらいうえに，耐熱性の工具を必要とする。冷間方式は，素材の硬化，正確な寸法精度，美しい仕上げ面などを目

的として行なわれる。　〔秋枝哲児〕

そせいじゅつ　【蘇生術】　臨床的には死んだ人を生き返らせようとすることだが，実際には呼吸や循環が障害されている場合などに対する救急処置をいう。前者の場合には人工呼吸*が必要であり，後者の場合人工呼吸のみならず，心臓マッサージを行なう必要がある。心蘇生法には非開胸心臓マッサージと開胸心臓マッサージがある。非開胸心臓マッサージは２名で行なう場合には，１人が呼気吹き込み法による人工呼吸を行ない，他の１名は両手を重ねて胸骨の下３分の１のところにあて，１分間約60回の割で圧迫する。１人で行なう場合にはまず息を数回吹き込み，次いで４～５回胸骨を圧迫し，息を１回吹き込み，これをくり返す。開胸心臓マッサージは開胸下胸腔(きょうこう)内に手を挿入(そうにゅう)し，右手の平で心臓を胸骨に向かって１分間60～80回心尖(しんせん)部から心基底部に圧迫し，左手で胸郭をはさむようにする。人工呼吸と心臓マッサージを行なっている間に５％ブドウ糖やその他の輸液を静脈から点滴し，これを利用して昇圧剤や大量の副腎(ふくじん)皮質ホルモンなど各種薬剤を投与する。その他心室細動時には除細動器が用いられる。

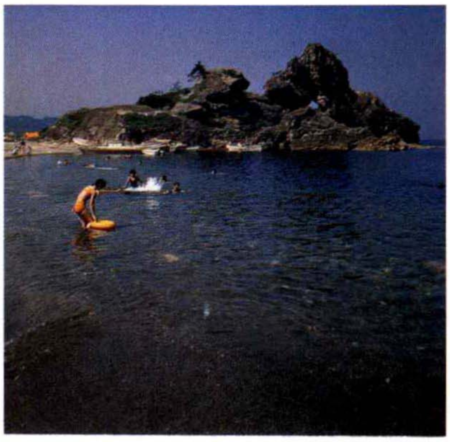
〔玉城　巌〕

そぜいとくべつそち　【租税特別措置】　特定の政策目的から，その誘因手段として租税の軽減・免除を行なうこと。その大部分は租税特別措置法によって定められている。わが国において租税特別措置が多く設けられるようになったのは，シャウプ勧告*に基づく根本的な税制改正が行なわれた1950年(昭和25)以降である。現在，資本構成の是正，内部留保の充実，貯蓄の奨励，社会資本の充実，住宅対策，科学技術の振興，設備の近代化，輸出の促進等，各種の政策目的から，およそ100項目以上の特別措置が講ぜられている。そのおもなものをあげれば次のとおりである。

①貯蓄の奨励：少額貯蓄利子の非課税，少額国債利子の非課税，利子所得の分離課税および税率軽減，配当所得の源泉選択課税。②輸出の振興：輸出割り増し償却，技術等海外取引所得の特別控除，海外市場開拓準備金・海外投資損失準備金の損金算入。③技術の振興，設備の近代化：試験研究費の税額控除，新技術企業化用機械設備等の特別償却，鉱工業技術研究組合に対する支出金の必要経費算入，合理化機械等の特別償却，中小企業機械等の割り増し償却，スクラップ化促進のための課税の特例。④内部留保の充実，企業の体質強化：価格変動準備金・異常危険準備金・証券取引等の責任準備金・違約損失補償準備金・中小企業貸し倒れ引当金・渇水準備金の損金算入，資本構成是正のための課税の特例，配当軽課措置。⑤社会開発の促進：新築貸し家住宅の割り増し償却，住宅貯蓄控除，日本住宅公団等に住宅建設用地を譲渡した場合の譲渡所得の特別控除，収用換地等の場合の所得の特別控除，代替資産を取得した場合の課税の特例，居住用財産の譲渡所得の特別控除，公害防止施設の特別償却。⑥その他：社会保険診療報酬の所得計算の特例，山林所得の概算経費控除，低開発地域等における工業用機械等の特別償却。

元来この租税特別措置は，租税負担の公平を犠牲にし，ある特定部門を特に優遇することで，所期の効果をあげようとするものである。したがって，すでに所期の目的が達成された場合，あるいは特別措置による所期の効果が必ずしも明確でない場合には，適宜整理されるべき性質のものである。

〔西野義彦〕



曾々木海岸　海食作用を受けた石英粗面岩の海崖が断続し，岩穴や洞穴が多い。右手の奇岩は窓岩で，穴の底部は海面から約10mある

ソーセージ　［sausage］　豚肉または牛肉，あるいはその両者を細かいひき肉にして食塩・香料を加え，十分混和したのち，ケーシング(包装材料)に詰めたもの。1805年，ドイツ人によって発明されたとの説があり，ハム・ベーコンをとったあとの残り肉利用法として発達した。ケーシングには，ヒツジ・ウシ・ブタなどの腸を使い分けているが，近年はプラスチック製品が多く使用されるようになった。原料，包装材料，調味・加工の差異，あるいは発達した地名などによってその種類・名称はきわめて多く，したがって同一内容・包装のものでも，その名を異にすることがある。一般には，ドライソーセージとドメスチックソーセージに大別される。

〈ドライソーセージ〉長期間の貯蔵を目的としてつくられるソーセージ。セルベラート(サマーソーセージともいう)・サラミ(イタリア語で塩肉の意のサラメからきている)・モータデラ(ボロニア産の大形ソーセージ)・ドライブラッド(牛血入り)などの種類がある。材料をケーシングに詰めて薫煙してから乾燥する。**〈ドメスチックソーセージ〉**長期間の保存を目的とせず，副食用とするもの。その種類は非常に多いが，製法の差異により，さらにフレッシュ・スモークド・クックドソーセージに分類される。フレッシュソーセージは，調味した生の細切れ肉をケーシングに詰めただけのもので，わが国ではほとんど製造されていないが，ヨーロッパやアメリカでは消費量が多い。スモークドソーセージは，代表的なもので，塩づけした細切れ肉をケーシングに詰め，薫煙してから湯煮(クッキング)したもの。正確にはスモークド-クッキングソーセージとよぶべきものである。これにはポーク(豚肉のみ)・フランクフルト(牛肉と豚肉。豚の小腸またはこれに準じたケーシング)・ウインナー(牛肉と豚肉。羊腸またはこれに準じたケーシング)・ボロニア(ケーシングは牛小腸またはこれに準ずるもの)・レバー(豚の肝臓がはいっている)などのソーセージがある。クックドソーセージの製造法は前者と似ているが，薫煙を行なわずすぐにクッキングする点が違う。ブラッドソーセージ・ヘッドチーズソーセージなどがある。なお，最近盛んに使用されている通気性のないプラスチック系のケーシングを使った場合は，薫煙ができないので，製品はすべて，クックドソーセージに属する。

また近年原料として獣肉のみでなく，魚肉を用いたフィッシュソーセージが多量に生産されている。これは合成ケーシングに詰められており，またその水煮温度も高いので，普通のドメスチックソーセージより貯蔵性は高い。　〔佐藤友太郎〕

そぞう　【塑像】　粘土でつくった彫刻像。木や石の素材に乏しい中央アジアに起源を有するといわれ，わが国には７世紀中葉に伝わった。中国・日本では埝(てん)・墻(しょう)・塑・素・泥(でい)などともよばれ，奈良時代の仏像制作に盛んに用いられ，すぐれた遺品も多い。現存最古のものは当麻(たいま)寺の《弥勒坐像(みろくざぞう)》で，次いで法隆寺五重塔初層の塑像群，東大寺三月堂の《塑像日光仏月光(がっこう)仏立像》《塑像執金剛神立像》，同戒壇院の《塑像四天王立像》などの名品がある。技法は像の大きさによって多少異なるが，台板に心木を立て，心木にわらやなわを巻き，粘土をつけ，表面は粒子の細かいものを用いて彩色する。粘土の腰(粘着力)を強くするために〈にかわ〉や〈すさ〉を混ぜ，細部は針金に布や麻糸を巻いた上に粘土をかぶせる。塑像は，平安時代以降はすたれたが，鎌倉時代末期から室町時代にかけて《永源寺寂室和尚(おしょう)像》のように頂相*(ちんぞう)に用いられた例がある。

〔永井信一〕

そそぎかいがん　【曾々木海岸】　能登(のと)半島北部，石川県輪島市と珠洲(すず)市にまたがる海岸。背後の岩倉山から続く山地が日本海に迫り，断崖(だんがい)絶壁の岩石海岸をなしている。垂水滝(たるみのたき)や海食によってできた天然記念物の窓岩をはじめ，茸岩(きのこいわ)・福ケ穴などの奇岩が多い。旧

道はこの断崖の下を縫うようにして通っていたが，いまは高倉山の下にトンネルをうがって新道がつくられている。能登半島国定公園の代表的な景勝地である。

〔味沢成吉〕

ソーダサイホン ［soda siphon］ 家庭用の炭酸水をつくる器具。ボデーに規定量の水を入れ，頭部に炭酸ガスのバルブをつけ，ねじを回すとガスが放出して炭酸水ができる。

ソーダすい ［ソーダ水］ 炭酸飲料の一種。天然鉱泉の炭酸水と，冷却水に炭酸ガスだけを人工的に吸収させたものとがある。ソーダ水の名称は炭酸ガスを含むアルカリ性の水の意味で，18世紀の終わりごろから使われ，食欲の増進や消化不良の治療に効果があるとして，各国で薬局法に取り入れられていた。

ソーダせっかいガラス ［ソーダ石灰ガラス］ ⇨ガラス

ソーダばい ［ソーダ灰］ 無水炭酸ナトリウムの工業上の名称。炭酸ナトリウムの無水塩は比重2.533，融点851℃の無色の粉末で，ほかに1水塩・7水塩・10水塩がある。100ｇの水には20℃で21.6ｇ，100℃で45.5ｇとけ，水溶液は強いアルカリ性を示す。ソーダ灰をつくるのは，アンモニアソーダ法が最も一般的であるが，わが国では最近塩安ソーダ法が盛んになっている。

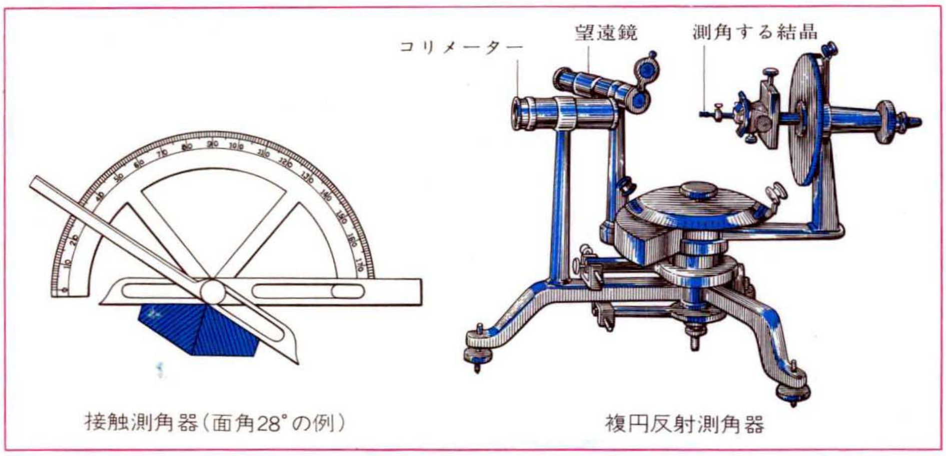
アンモニアソーダ法は，ソルベー法ともいう。まず食塩を水にとかし，これにアンモニアを吸収させてアンモニアかん水とし，これをソルベー塔という塔の上から落とし，下から炭酸ガスを吹き込むと炭酸水素ナトリウムの結晶が析出し，溶液は塩化アンモニウムの溶液となる。析出した炭酸水素ナトリウムを濾過(ろか)して焼成すればソーダ灰が得られる。一方に得られる塩化アンモニウム溶液からは石灰乳を使ってアンモニアを回収し，再びアンモニアかん水をつくるのに用いる。

塩安ソーダ法は，食塩水にアンモニアを吸収させ，さらに食塩を加え，冷却して塩化アンモニウム(塩安)を析出させ，さらに炭酸ガスを吹き込んで炭酸水素ナトリウムを析出させて，この液に再びアンモニアを吸収させるという循環をくり返す。析出した炭酸水素ナトリウムを焼いてソーダ灰とする一方，前記のように肥料用または工業用の塩化アンモニウムを得る方法で，わが国で最近発達した方法である。

ソーダ灰の用途はカセイソーダの製造，ガラスの原料，水ガラスおよびナトリウム化合物の製造，食料品，化学工業，パルプ，試薬，医薬など多方面にわたる。〔鈴木　篁〕

ソーダパルプ ⇨化学パルプ

そたんしゅう ［曾丹集］ 10世紀後半の特異な歌人曾禰好忠*(そねのよしただ)の家集。1日に1首をあて1年360首を歌日記ふうに記した〈毎月集〉と，春・夏・秋・冬・恋の各10首のほかに沓冠歌(くつかむりうた)・物名歌(もののなうた)などの遊戯的な形式の歌を含む〈百首歌〉とがそのおもな部分を占める。身の不遇を訴え嘆く歌が多いが，特に時流にとらわれぬ新鮮・奇警な用語が注目される。



測角器

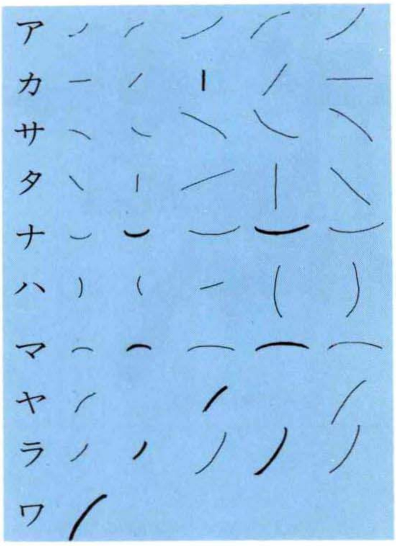
そちゅうし ［祖沖之］ (429～500) 中国の暦学者・数学者。宋(そう)の孝武帝に仕え，南徐州の従事史となる。主著の《綴術(ていじゅつ)》はいまに伝わってはいないが，《隋書(ずいしょ)》の律暦志に紹介されている。円周を計算し，3.1415926＜π＜3.1415927とし，密率355/113，粗率22/7を与えている。ただし，《綴術》は難解で一般に理解されなかったという。子の恒之も暦算にすぐれていた。

そっかくき ［測角器］ 結晶の角度をはかる装置。次の3種がある。①接触測角器：径約1㎝以上の大きな結晶を測定するのに用いる。図のように半円形の分度器と，その円の中心のまわりに回転する柄からなる。半円の直線部に平行なふちと柄のふちの間に結晶をはさんで面角を測定する。結晶の面角は結晶面の法線のなす角で示すから，図の場合は28°である。②反射測角器：度目盛りした円盤の中心に小さな結晶を載せる台を付けて回転できるようにし，円盤の外わくにコリメーターと望遠鏡を中心に合わせて固定する。結晶面角は，結晶を回転させて二つの結晶面の反射光がちょうど望遠鏡の方向に向かったときのそれぞれの円盤の目盛りの読みの差として求められる。径数ミリメートル以下の良好な平滑面をもつ結晶に適している。結晶面のいわば経度だけを測定する単円反射測角器と，緯度・経度を同時に測定できる複円反射測角器の2種がある。③X線測角器：結晶からのX線の反射を記録するのに用いられる。ワイゼンベルグカメラともよばれる。

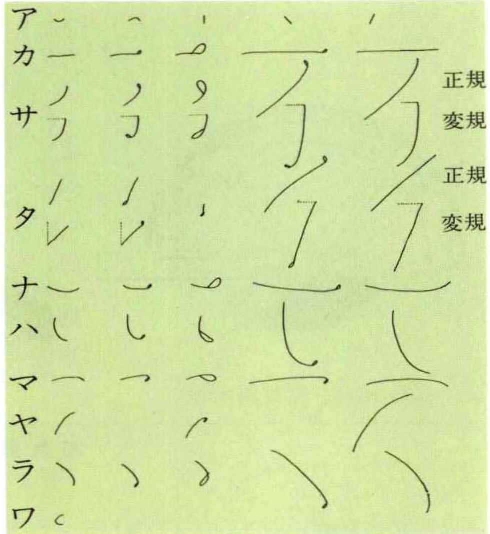
〔加藤敏郎〕

そっき ［速記］ 講演・談話・会議での発言などを記録すること，またその術。その歴史は古くギリシア・ローマ時代にさかのぼるが，中でもキケロの解放奴隷だったティロが，主人の勧めで速記を学び，その演説を書き取ったことは有名である。この時代には裁判・会議の記録はもとより，個人的な著述・通信・メモなどにも速記が使われ，上は皇帝から下は奴隷に至るまで争って速記の研究をしたという速記全盛の時代があったが，やがてローマ帝国の滅亡とともに速記も衰滅した。1588年，イギリス人ティモジー-ブライトが考古学の研究中，偶然のことからティロの速記法を発見し，これに自分の考案を加えて《記号論》を著わしてから再び速記が脚光を浴びるようになった。これは，現在行なわれている速記法のような完全な記録方式にはなっておらず，ローマ字の草書化，略体化の段階を出なかったため，実用には適しなかったが，この発見によって，彼は近代速記術の始祖とみなされている。1838年，アイザック-ピットマンによって，ローマ字の線と全然関係のない，簡単な幾何学的な直線や曲線ですべての音を表わす符号が創案され，発表された。その後，グラハム(アメリカ)・デュプロワイエ(フランス)・ファウルマン(ドイツ)・グレック(アメリカ)などの諸方式が次々と発表されたが，現在世界各国で行なわれている速記法は多かれ少なかれピットマン式の影響を受けている。

日本で完全な逐語記録をつくりうる近代的な速記術の研究が始まったのは，明治維新以後，西欧文明が紹介されてからである。盛岡の人田鎖綱紀は，ピットマン系のグラハム式を翻案して日本語に適合した新しい速記法を創案し，〈日本傍聴記録法〉と名づけて1882年(明治15)9月19日付の《時事新報》に発表した。次いで，11月1日から開かれたわが国最初の速記法講習会は，時流に投じたせいもあって爆発的な人気をよんだが，田鎖の発表した速記符号そのものは，まだ実用に供しうるほどのものではなかった。それが有効な記録の手段として認められ，この世界に定着するまでには，田鎖のこの第1回の講習生の中から出てその研究を継承した若林玵蔵(かんぞう)・林茂淳(しげあつ)・



中根式五十音図



早稲田式五十音図

ソクタイプ




日本の速記の創案者　田鎖綱紀

速　記

酒井昇造らの努力にまたなければならなかった。1883年7月，若林が《郵便報知新聞》に頼まれ，記者に同行して反対派の《自由新聞》との記事取り消し要求の談判の経過を書いたのが，最初の速記実務だといわれる。その縁で若林は，同紙の記者矢野文雄(龍渓(りゅうけい))の《経国美談》後編の口述速記を依頼され，速記の真価を世に問う機会を得た。〈速記〉の呼称は，同書のあとがきに速記称賛の弁を書いた矢野文雄の命名による。1884年，若林・酒井の2人が組んで，三遊亭円朝の《怪異談牡丹燈籠(ぼたんどうろう)》を速記し，この速記本によってさらに速記は一般庶民の中に浸透した。その文体が，二葉亭四迷(ふたばていしめい)や山田美妙の言文一致体小説に影響を及ぼしたことは，文学史の通説になっている。1890年には第1回帝国議会に速記者が採用され，ここに逐語記録の手段としての速記の権威が確立された。〈議事は，速記法によってこれを速記する〉(衆議院規則第201条)，〈会議録には，速記法によって，すべての議事を記載しなければならない〉(参議院規則第156条)とあるのは，第1回帝国議会以来の規定が継承されたものであり，近代国家で第1議会から速記法による記録をとどめているのは日本のみだといわれている。

速記の符号体系としては，田鎖綱紀の系統を引く田鎖式のほか，熊崎(くまざき)健一郎・中根正親・毛利高範らの発表した方式がある。特に中根式は，すべての音を1線1画で表わすことに成功し，速記方式発達史の上で一時期を画したが，簡略すぎて，普通文への翻訳の段階での誤読の危険を含むため，新旧両系統の折衷をねらった早稲田(わせだ)式(川口渉，1930年)に取って代わられつつあるのが現状である。なお，注目すべきものとして，中根式の1音1線をさらに進め，1語1線主義を貫こうとする森卓明(たくみょう)の研究(現代国語表象速記法)がある。

以上の記線式に対し，印字式速記方式としてソクタイプがある。1944年(昭和19)川上晃(あきら)がアメリカのアイアランドのステノタイプ方式を日本語に翻案・適用し，特許を得たもので，現在日本の裁判所ではこの方式を全面的に採用している。道具は小形のタイプライター一つで，打つときに音はしない。22個のボタンを，ピアノのキーをたたくように打つと，あらかじめ機械の下に入れておいた紙が自動的に送り出され，字が写ると折りたたまれて箱の中に納まる。印字式の最大の利点は，打ち出されたアルファベットの組み合わせがだれにでも楽に読めることと，記線式の場合に起こりがちな線の乱れによる誤読を防止できることである。

現在，会議の記録はもとより，ジャーナリズムの全般にわたって速記の利用分野はいっそう広がる傾向にあるが，反面，テープレコーダーとコンピューターとの結合の可能性を考えるとき，現在速記が記録の最も有効な手段として占めている地位はやがて崩れ去るおそれもある。　〔竹島　茂〕

そっきょうえんそう　【即興演奏】　楽譜や記憶によらないで，自分で曲をつくりながら演奏すること。既製の曲の旋律や和声に新しいものをつけ加えることも即興と考えられるが，これはグレゴリオ聖歌の旋律にメリスマ*的な動きの声部を加えたり，ルネサンス期に行なわれたように，旋律を細かい音符に分割しながら装飾したり，バロック時代のイタリア式装飾法などをはじめとして，西洋音楽でも多くの実例がのこされている。バロック時代や古典派の変奏曲や幻想曲の多くは既製の旋律(民謡やコラール)を一定の方法で即興的に変形したものである。一方，古代ギリシアのノモスやインドのラーガのような旋律形がある場合は，演奏と作曲が即興という形になってくる。日本では，長唄(ながうた)で〈タマ〉とよばれる替手(かえで)の即興や箏曲(そうきょく)のしゃれひきなどが即興演奏の例である。なお，現代音楽では，1人の即興だけでなく，集団による即興が盛んになってきており，即興演奏は自分たちの音楽について強い問題提起の役割を果たしている。

ジャズでは一般にアドリブという。初期のジャズではブラスバンドふうの演奏が行なわれ，ほとんど即興演奏の余地がなかったが，しだいに即興演奏が主体になり，今日ではジャズの本質は即興演奏にあるといってもまちがいではない。しかし，その内容自体はジャズの発展とともに変化している。1950年代中期までのジャズではコード(和音)進行に基づくものが主であったが，1958年ごろにM. デービス*がモード(旋法)手法をジャズにもち込み，ジャズの即興演奏はいっそう自由になった。今日では調性から脱したものやまったく自由な即興演奏までみられるようになった。

〔徳丸吉彦・岩浪洋三〕

そっきょうきょく　【即興曲】　⇒アンプロンプチュ

そっきょうしじん　【即興詩人】　アンデルセン*の小説(1835)。1833年から翌年にかけてのイタリア旅行の感銘深い印象に基づいて創作されたもの。イタリアの貧しい少年アントニオが幾多の変転を経て即興詩人の名声を確立するに至るまでの物語。主人公のモデルは作者自身で，小説の中には《アンデルセン自伝*》と重なる場面が少なくない。また，アントニオが恋する歌姫が零落していくという物語は，作者が，幼少のときあこがれた歌姫と，のちに養老院で出会った体験から発想されたといわれる。イタリアの風物の美しい描写と全編に流れる

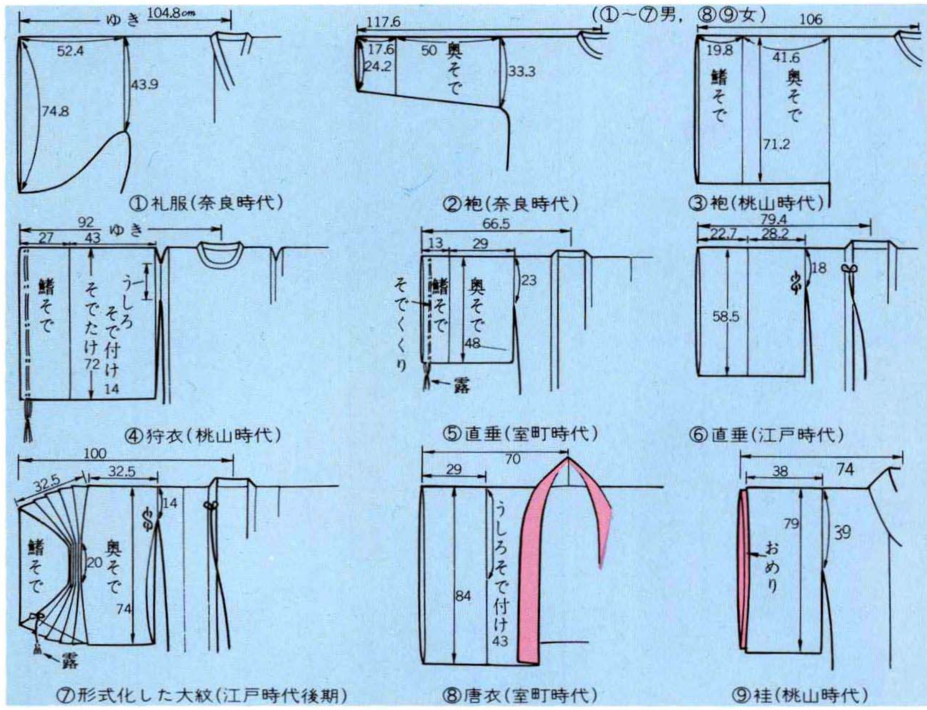
女性憧憬(どうけい)のロマンチシズムが，読者の感動をよんで，ベストセラーとなり，作者の名声を全ヨーロッパに確立した。日本では森鷗外*(おうがい)の翻訳が有名で，明治中期の新しい文章であった和漢洋折衷文の模範とされている。〔鈴木徹郎〕

ぞっきょく【俗曲】 狭義には，近世の三味線(しゃみせん)小曲のうち，うた沢*や小唄*のように家元のはっきりしたジャンル以外をさし，したがって，〈都々逸*(どどいつ)〉〈二上がり新内*〉などのジャンル，あるいは《奴(やっこ)さん》《深川》などの曲目がその代表となる。しかし最近は，端唄*(はうた)・うた沢・小唄なども含めて広く使うことも多い。それは，歌詞や音楽様式のうえでも互いに関係が深いからである。それらが共通にもっている特徴は，規模が小さく，しばしば有節歌曲の形をとり，三味線を使うことである。小唄が清元節を母体にしたのにもかかわらず，旋律線が明確にまとまっているが，これは他の俗曲にも共通する。三味線の手はパターン化が強く，その役割はうた沢と小唄を両端に，俗曲の中でも程度の差がある。《かっぽれ》のように大道芸の流れを引くものでも，俗曲は，地方の民謡としてではなく，都会の芸になっており，しかも比較的歴史の浅いもの(江戸後期〜明治・大正時代)が多いのが特徴である。〔徳丸吉彦〕

ソックス［socks］ くるぶしの上までの短いくつした。現在その多くはガーター*なしで使用できるように，最上部にゴム糸やスパンデックス(→ポリウレタン)糸が織り込まれている。材質は絹・綿・毛・レーヨン・ナイロンなどのメリヤスで，がらものも多い。

そっこう【測光】 光の目に感ずる強さを測定すること。測光ではかられるものは光のエネルギーに目の感度を乗じたものである。測光はその方式により，独立(絶対)測光法と比較測光法とがある。前者はたとえば光を黒体に吸収させ，熱エネルギーに変えて測定する方法であるが，実験がむずかしいので特別の場合にしか用いられない。後者は二つの光の強さの比だけを求める方法で，実際にはこれで十分な場合が多い。それには，一方の光をある割合で弱め，他方と同じ強さにするか，または，光電管*のような出力が光の強さに比例する受光器を用い，その出力の比をとればよい。測光はまた，受光器(検出器)により視感測光と物理測光とに分ける。前者は肉眼を用いるもので，直接強度比は求められないから一方の光を弱めて他と同じ強さにして比較測光をする。後者は，光電管・光電導セル・熱電対などを用いるもので，客観性があるとともに，その出力が光の強さに比例する場合が多いので便利であり，最近急速に発達した。

測光は，光度*・輝度*・照度*などのいわゆる光の量そのものの測定のみならず，物質の透過率・反射率・放射能を測定してその性質や構造を研究する手段として用いられる点においてもはなはだ重要である。〔吉原邦夫〕



そ　で　古代〜近世のそで

そっこうじょ【測候所】 一般には気象・地震などの観測・調査を行ない，予報・警報などを出すところをいうが，現在わが国の気象庁では，比較的規模の小さいものを測候所といい，各府県に一つずつある大きなものは地方気象台とよんでいる。第2次世界大戦以前はこれら地方気象台の大部分も測候所とよばれていた。

そっこうせいひりょう【速効性肥料】 施肥をしてから比較的早くその効果が現われる肥料。緩効性肥料の対語。一般に化学肥料には速効性肥料が多く，特にカリ肥料・窒素肥料は大部分が速効性である。また，その他の種類の肥料でも，その成分が水溶性の場合は速効性と考えてもよい。速効性・緩効性という語は，現在まだ主観的に使われるだけで，時間的な定義もなく，厳密な区分けではない。➔緩効性肥料

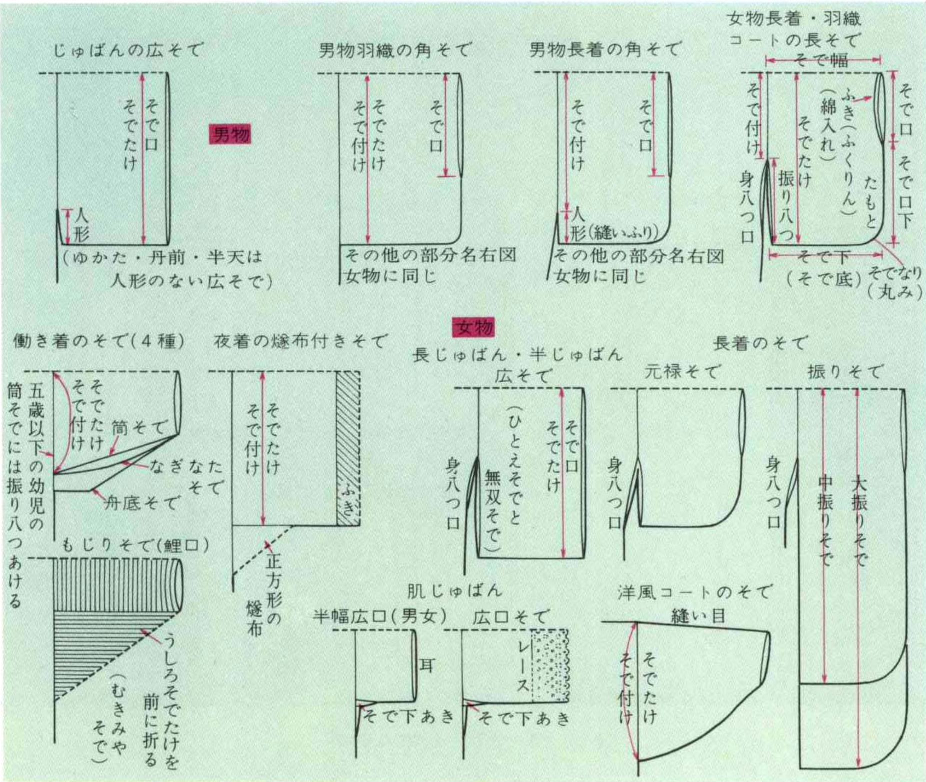
そっちゅう【卒中】 出血・塞栓(そくせん)・血栓などの血管障害によって起こる急激な意識障害麻痺(まひ)発作。卒中とは本来急激にうちのめされた状態を意味し，原因がなにであるかにかかわらず，これと似た症状を呈するものをいう。脳血管の障害によって起きたものを脳卒中*とよび，普通には脳出血を意味する。障害が高度になると昏睡(こんすい)状態に陥り，死亡することもあるが，中には回復して半身不随などの脱落症状を残すものも多い。脳以外の器官，たとえば腹部・腎(じん)・肺・脾(ひ)・網膜・卵巣・肝などにおいても，血管障害による急激かつ重篤な症状が発現する場合にはこの語が使われる。〔丸山　晋〕

ソテー［sauté］ 西洋料理の調理法の一種で，バターまたはサラダオイルで鳥獣肉・野菜などをいため焼きにする料理。油を用いるのでカロリーも高く，比較的短時間で仕上がり，栄養素の損失も少ない。ことに緑黄野菜は油とともに食べるのでカロチンの吸収がよい。

そで【袖】 衣服の腕をおおう部分。衣手(そで)の意。ここでは和服のそでをさす。洋服ではスリーブ*という。2種の形があり，各様式は性別・時代・地域・気候・職業などによって異なる。①外傷・寒さを防ぎ，労働に適するもので，腕に密着した細い筒形。②温帯形で装飾的要素が多く，ゆるやかに大きく，あきも大きい。礼装・晴れ着や富裕階級の衣服。

〈特徴〉 古来和服のそではすべて布のたけを腕に縦にかけて裁縫するので，そでたけは布のたけ，そで幅は布の幅になっていて，洋服のスリーブと反対である。そでは直線で身ごろに縫いつけ，そでつけが密着することは少なく，ゆとりが多い。身ごろの後ろ身幅と肩幅とが同じで，そでつけ線は体の肩先から10cmぐらい下がった位置にある。

〈変遷〉 ①埴輪*(はにわ)のそで：原始時代の南方系の衣服にはそでがないが，これは北方系であり，男女とも手首まである細い筒袖形で，おくみ*のない短衣を着ている。民衆の労働着のそでとして近代までも長く着用されている。②礼服*(らいふく)：大袖ともいい，そでつけの下が丸くそいである。③朝服(後世は束帯*)：筒袖形で，そで幅が広く，手から余る長さで，そで口に布幅を足すの



そ　で　現代男女のそでの種類と各部名称

を鰭袖(はたそで)とよぶ。平安時代からそでたけが長くなり，近代まで続く公家(くげ)の正装のそでとなった。④狩衣*(かりぎぬ)：他のそでと異なり，身幅が狭く体の肩先に肩幅があり，そでつけは肩山・前身ごろにつかず，後ろ身ごろだけにわずかにつくのが特色。平安時代以後そでたけが長くなり，活動にはそでくくりという太いひもでそで口を引き縮めて着た。⑤直垂*(ひたたれ)・素襖*(すおう)・大紋*：直垂は埴輪の筒袖形が拡大し，そでくくりがつくが，後世は形式化してそで口下にくくりひもをわずかにつける(つゆという)だけとなった。⑥袿*(うちき)：広袖でそで口におめりといってふきが出る。そで幅は一布幅。⑦唐衣*(からぎぬ)：そで幅が特に細い。⑧小袖*：おくみのついた長着のそでで，古代・中世前期には筒袖形であったが，やがてそでたけが長くそで口下に丸みをつけ，江戸時代には丸袖とよばれた。そで口を小さくするために，そで口下が縫われているのが特徴。近世初期の高級武士のそでたけは50cm内外で，男女ともそでたけ全部をそでつけとした。そで幅が狭く，ゆきがひじの下ぐらいのものもあったが，のちにすべて手首まであるそで幅となった。元禄(げんろく)時代(1688～1703)にはそでたけが58cm内外となり，江戸末期には男物には人形ができ，女物には振りがあき，身八つ口もあくようになり，今日まで続いている。明治以降，男物の丸みの小さいそでは⑨角袖ともよぶ。⑩振袖*：そでたけが長くそでつけが短く，その下の振りのあくもの。古代末期・中世から男女児の長着にこのそでをつけ，近世以後未婚の女子の特徴となり，そでたけ110cmにも及んだ。⑪留袖：女性が結婚すると振袖たけを詰め，そでたけ58cmぐらいにしたのをいい，詰袖ともよぶ。1950年(昭和25)以後はそでたけが短くなり，50cmが標準。⑫筒袖・もじり袖・むきみや袖・舟底袖・なぎなた袖：これらは労働着である。⑬元禄袖：明治年間に元禄ふうが流行し，江戸時代の丸袖の形を少女のそでに使って名づけられた。⑭広袖：江戸時代以後のたんぜん*・どてら・半天・じゅばん*などのそでで，そでたけ全部をそで口にあける。防寒に不便で，1960年ごろからじゅばん以外は小袖のそでに変わる傾向がある。⑮ゆかた*：江戸時代から広袖であったが，そで口を固定するためにそで口下をあらく縫い閉じて着るようになった。近代からは小袖のそでに変わった。　〔堀越すみ〕





ソテツ
(上)雌花
(下)雄花

そでいか【袖烏賊】　軟体動物・頭足類・ソディカ科。巨大なイカで，胴長は70cm近くなり，円筒形で後端で狭くなる。ひれは左右両側に全長にわたってあり，低い三角形状で，広げると菱形(ひしがた)になる。頭部は短いが左右の目は大きく，漏斗も大きい。腕は短く胴長の½以下で，ほかに1対の長い触腕がある。体色は淡赤かっ色。日本の暖流域でときどき捕獲され，中国や地中海などにも分布する。肉はさしみにして食べる。

そてつ【蘇鉄】　裸子植物・ソテツ科。九州南部・沖縄に自生するが，庭木として栽培されている常緑樹で，高さ4m前後になる。茎は太い円柱状であまり分枝せず，全体に葉の落ちた跡がある。葉は表面に光沢があり，長さ1～1.5mの羽状葉で各裂片はかたく，基部に近い裂片はとげ状になっている。雌雄異株で茎の先端に花をつける。雄花は長さ50～60cm，直径10～13cmの円柱状で，多数のおしべをつける。雌花は多数のめしべが球状に集まり，胚珠(はいしゅ)をむき出しのままつける。種子は長さ4cmくらいの赤色球形でかたい。1896年(明治29)，池野成一郎が花粉管中に精子を発見したが，これは本種の分類・系統学上の位置を考える上で重要な発見であった。

観葉のほか，種子を食べたり，髄からデンプンをとったりする。　〔加藤僖重〕

そてつ【蘇轍】　(1039～1112)　中国，宋(そう)代の文章家。唐宋八大家のひとり。蘇洵*(そじゅん)の子，蘇軾*(そしょく)の弟。詩文共にすぐれていたが，詩は，兄蘇軾に及ばなかったという。《欒城集(らんじょうしゅう)》などがある。

そではぎさいもん【袖萩祭文】　⇨奥州安達原(おうしゅうあだちがはら)

そでろう【袖廊】　⇨トランセプト

そどう【素堂】　(1642～1716)　江戸前期の俳人。本名山口信章。別号来雪・蓮池翁(れんちおう)・其日庵(きじつあん)など。甲斐(かい)(山梨県)の人。江戸の林家に漢学を，京の堂上家に和歌・書道を学び，38歳以後上野不忍池(しのばずのいけ)のほとりに住み晩年には葛飾(かつしか)に隠栖(いんせい)。芭蕉*(ばしょう)と交わり蕉風俳諧*(はいかい)の形成に参与，和漢の学殖と高潔な人格を敬慕されて文人的生涯(しょうがい)を送った。葛飾派*の祖。著書は《素堂家集》など。　〔尾形仂・奥野純一〕

そとうば【蘇東坡】⇨蘇軾(そしょく)

そとかいふかいがん【外海府海岸】新潟県佐渡島，大佐渡山地が日本海に迫る海岸部で，相川町から北の鷲(わし)崎まで延長60kmに及ぶ。南部海岸は尖閣(せんかく)湾を中心として高さ50mに及ぶ海岸段丘をなし，段丘崖(だんきゅうがい)には海食による小さな入り江や岬(みさき)が入り組んで奇岩怪石が多い。北部は大野亀島や二つ亀島，洞窟(どうくつ)・甌穴(おうけつ)など，変化に富む海岸線が続く。佐渡弥彦(やひこ)国定公園の代表的な景勝地である。〔味沢成吉〕

ソードテール［swordtail］硬骨魚類・メダカ目・カダヤシ科。雄は8cm，雌は12cmほどになる淡水魚。雄の尾びれ下葉が長く剣状に伸びているのでこの名がある。この〈剣〉は，ときに体長とほぼ同じほどの長さになる。メキシコ南部・グアテマラの大西洋に面する地方の原産で，原種は緑がかった体色にオレンジ色の剣をもっている。最もポピュラーな観賞用熱帯魚。古くから改良が進み，全身緋色(ひいろ)のもの，体央を境にして前半部が赤く後半部が黒いものなど，色彩の変化が多い。卵胎生で，一時に最も多いときで，200尾の稚魚を産む。適温は22～25℃。ソードテールは性転換で名高く，経産雌が時間の経過とともに雄性に変化し，他の雌を受精させることがしばしばある。若魚には雌雄両性の能力があり，なにかのきっかけである個体は雌に，ある個体は雄になるのだといわれる。雌になった個体では，卵巣から分泌されるホルモンにより精巣の発育がおさえられるが，やがて卵巣からのホルモン分泌が減少し，停止して，雌がしだいに雄に変化するのだといわれている。雄から雌に変化した例は知られていない。〔菅野 徹〕

そとば【卒塔婆】梵語(ぼんご)stūpa(ストゥーパ)の音写で，墳墓の意味。一切万法の五つの要素である地・水・火・風・空を五重にかたどったのが五重塔*で，それを簡略にして，上部を塔の形にかたどって刻んだ細長い板に，経文の一句を書き，死者の冥福(めいふく)を祈って墓地に立てるのを俗に卒塔婆，略して塔婆(とうば)という。また，四角柱に梵字・経文を書いて堂宇落慶供養の際などに堂前に立てるのを角塔婆といい，建造物のほうを単に塔とよんで区別する。➜ストゥーパ ➜塔〔藤井正雄〕

そとばこまち【卒都婆小町】能の曲名。観阿弥*(かんあみ)作。四番目物。小野小町(おののこまち)に関する伝説に基づいてつくられた。旅の僧がふたりで都近くやって来ると，卒塔婆に腰かけている老女がある。僧がこれをとがめると，老女はさまざまに僧のことばをあしらって，ついに言い負かしてしまい，勢いに乗ってざれ歌までよむので，僧は驚いて名を問うと，小野小町の老いた姿だという。それから昔のはなやかさに引きくらべてみすぼらしい今の身を恥じ，乞食(こじき)の身の上を述べるうち，小町のもとに百夜通ってしかも会えなかった深草少将(ふかくさのしょうしょう)の霊が小町の身にとりついて，苦しかった百夜通(ももよがよい)のありさまを演じる。しかし最後に，小町の姿は仏の道を教える人の姿となって曲を終わる。シテは小町，ワキは僧，ワキツレがもうひとりの僧をつとめる。〔長尾一郎〕

ソドマ［Giovanni Antonio Bazzi Sodoma］(1477～1549) 16世紀イタリアの画家。ソドマは通称で，ソドナ(Sodona)が正しいとする説もある。シエナ派*の指導的な画家として，おもにトスカナ地方で制作した。盛期ルネサンス様式の折衷ともいわれるが，表現の優美さは特異性がある。多くの作品を残したが，代表作にローマのファルネジーナ宮のフレスコ壁画，シエナの聖ベルナルディーノ寺の壁画，ウフッツィ美術館の板絵《聖セバスティアーノ》などがある。〔井関正昭〕

ソドム［Sodom］《旧約聖書》に現われる町の名。住民が神にそむき，人倫にもとる生活を送ったので，ゴモラとともに，神の降らせるイオウの火で破壊されたという(創世記19章24～28)。これは神罰の例としてよく引用される。現在死海南部の水中に没している地域にあたると考えられる。

そとも【蘇洞門】福井県小浜市北部，内外海(うちとみ)半島の外海側にあり，北西卓越風と日本海の荒波による海食によって，奇岩怪石や大小の洞門(どうもん)が形成されている。海上からのながめが有名である。若狭(わかさ)湾国定公園に属する。



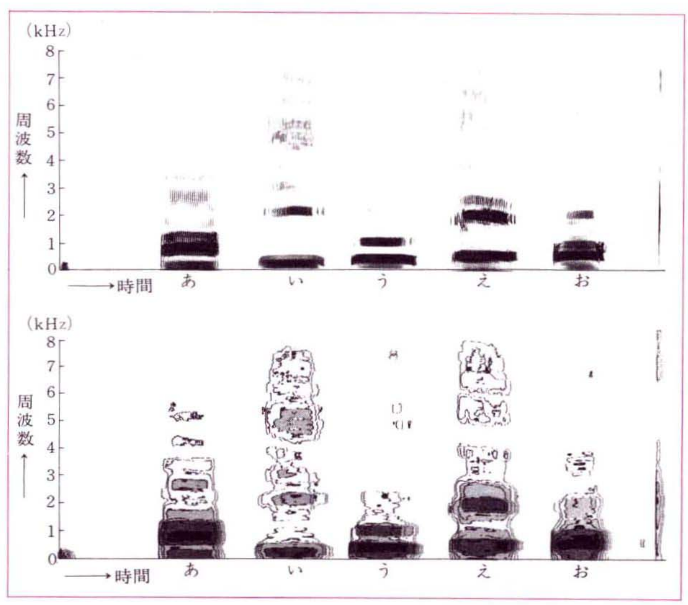
ソードテール 雄

ソナー ⇨超音波測深 ⇨超音波

ソナグラフ［sonagraph］音の周波数成分の時間的変動を記録する装置。もと音声分析装置としてアメリカのベル電話研究所で開発されたものである。円筒表面の円周上に磁気記録部分をつくっておき，その1回転分にだけ目的の音をあらかじめ記録しておく。次にこれをくり返し再生しながら分析周波数を変化させて，円筒表面に巻きつけた記録紙上にヘテロダイン分析の結果を濃淡で記録する。この記録紙には横軸に時間，縦軸に周波数をとってあり，各周波数成分の大きさが明暗の濃さとなって表わされる。録音時間2.4秒，分析周波数範囲35～80,000ヘルツ(Hz)，分析帯域幅45Hzまたは300Hzで，分析所要時間は約5分である。周波数成分の大きさを示す濃淡のほかに，さらに等レベル線を描くようにしたものもあり，これで音声を分析・記録したものは声紋とよばれ，音声の特徴をよく表わしている。〔池谷和夫〕

ソナタ［sonata］最も普通の意味では，交響曲や弦楽四重奏曲と違って，ピアノあるいはピアノの伴奏によるバイオリンやフルートなどのための楽曲をさす。楽章の数や配列法，楽曲の構成法などについては，交響曲や室内楽と共通する点が多く，それらとともに新しい音楽語法や構成法を発展させてきた。

しかし，ソナタということばはイタリア語で〈奏する〉を意味するソナーレから生まれたものであるように，最初は単に器楽曲であることを指示するにすぎなかった。それが統一的な構成法と結びついたのは，バロック時代中期(17世紀後半)の教会ソナタ*



ソナグラフ ヘテロダイン分析(上)音声パターン(録音時間2.4秒) (下)5デシベルステップの等レベル線によるパターン。声紋ともいう

と室内ソナタ*からである。そこでは，以前からあった楽章(あるいは部分)の間の対照性が，テンポ・拍子・書法などによって明確に図式化されている。18世紀にはいり，上の二つの区別があいまいになり，急〜緩〜急の３楽章，メヌエットを加えた４楽章，あるいは１楽章によるものなどが現われた。古典派音楽以降は，ソナタ形式*がソナタの重要な方法になるとともに，二つの旋律楽器と通奏低音*のためのトリオ-ソナタがなくなり，楽器編成もピアノ独奏やバイオリンとピアノなどの組み合わせが圧倒的に多くなった。ベートーベンはその一つの頂点である。20世紀の今日もなお重要な器楽のジャンルである。　〔徳丸吉彦〕

ソナタけいしき　**【ソナタ形式】**　古典派音楽以降の西洋音楽でソナタ・室内楽・交響曲などの器楽の楽章を構成する最も代表的な形式。速い第１楽章に使われることが多いが，ゆっくりした楽章にも，速い終楽章にも使われる。バロック舞曲の２部分形式から生じたもので，したがって舞曲と同様に各部分に反復記号がついていることが多い。２部分のうち，あとの部分がしだいに拡大されてきたため，もとの第１部が提示部，第２部が展開部と再現部に分かれた。提示部はその楽曲の中心となるべき主題(一般には性格の異なる二つの主題)を提示し，展開部はそれらをより小さな部分に分けて操作し，調的にも音量変化的にも大きな緊張をつくり，再現部は提示部をほとんど忠実に再現させるものである。この形式の出現は機能和声*法の確立を前提にしており，協奏曲を含めて広く活用されている。　〔徳丸吉彦〕

ソナチネ　［Sonatine］〈小さなソナタ〉の意味で，古典派音楽やロマン派音楽で使われる場合は，ソナタの小規模なもの(楽章数も少なく，１楽章も短い)をさす。ピアノ練習用として名高い《ソナチネ》はクレメンティ・ディアベリ・クーラウらのこの種の作品を集めたものである。20世紀では，規模だけの問題ではなく，古典的な形態をめざした作品によくこの名が用いられる。ブゾーニ・ラベルらがその例で，ピアノ以外の楽器にも使われる。　〔徳丸吉彦〕

ソニー　**【ソニー(株)】**　トランジスターラジオ・テレビ・テープレコーダーなどの電気通信機器メーカー。世界にSONYの名を売り，トランジスター時代の先鞭(せんべん)をつけ，国際市場においても超一流の定評がある。1946年(昭和21)，井深大を中心に東京通信工業を創立したのがはじまりで，1958年に現社名に改称。1950年には国産初のテープレコーダーの販売，1955年にはトランジスターラジオを売り出して注目され，さらに1968年他社のカラーテレビの方式とまったく違った独創的なトリニトロン方式を発表し，量産している。その他，ICの民生用機器への応用には最先端の技術をもっている。海外への知名度は高く，輸出比率は全生産の58％で，米国預託証券(ADR*)を発行している。さらに，CBS・IBMなどの外国企業と提携し，合弁会社をつくっている。本社東京，工場は厚木(神奈川県)・仙台(宮城県)・横浜(神奈川県)などにある。資本金107億8,100万円，年間売上高4,690億円，従業員数10,697(1980年４月)。



曾根崎心中　〈天満屋〉の段のお初(吉田文雀)と徳兵衛(豊松清十郎)。文楽の舞台から

ソーヌ(川)　［Saône］　フランス東部を流れるローヌ川の支流。全長444km。ドイツとの国境に近いボージュ山脈に発し，南西流してリヨンでローヌ川に合流する。リヨンから300kmぐらいまで航行可能である。ローヌ-ライン運河をはじめとする運河網が発達し，それぞれロワール・ヨンヌ・ドー-ライン・マルヌ・ムーズ・モーゼルなどの河川と結ばれて重要な内陸水路を形成している。

そねざき　**【曾根崎】**　大阪市北区の北端，大阪駅の南東扇橋通から南一帯へかけての歓楽街。江戸時代には大阪の市街地北端にあたり，1704年(宝永１)に蜆(しじみ)川が浚渫(しゅんせつ)されて新地が開発されると，それまで堂島新地にあった茶屋がここに移され，蔵屋敷の留守居役(るすいやく)や米仲買人などの利用によって大いににぎわった。当時の繁盛ぶりはここを舞台とした近松門左衛門(もんざえもん)の浄瑠璃(じょうるり)《心中天網島*(しんじゅうてんのあみじま)》《曾根崎心中*》でうかがわれ，曾根崎心中にゆかりの露ノ天神社が残っている。曾根崎上・中・新地の町名や曾根崎警察署がある。　〔浅井得一〕

そねざきしんじゅう　**【曾根崎心中】**　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。１段または３場の世話物。近松門左衛門*(もんざえもん)作。1703年(元禄16)竹本座初演。当時世間を騒がせた大阪内本町平野屋の手代徳兵衛(とくべえ)と北の新地天満屋のお初との心中事件を脚色したもの。最初の心中物として日本戯曲史上に画期的な意義をもつ傑作である。ことに〈残る一つが今生の鐘の響きの聞きおさめ〉を含む道行の詞章は名文として知られる。歌舞伎(かぶき)ではそれほど人気が出なかったが，1953年(昭和28)東京新橋演舞場でこれを上演して好評を得た。　〔前田慎一〕

ソネット　［sonnet］　詩型の一。定型詩の最も代表的なもので，小曲，14行詩と訳される。１編が14行からなり，４・４・３・３行の構成で押韻をもち，内容的には起承転結の形をとり，恋愛詩が多く，しばしば連作される。起源は13世紀イタリアの民謡にあり，ヤコポ-ダ-レンティーニが創始者とされ，ダンテ*・ペトラルカ*によって完成。その後ルネサンス期にヨーロッパ諸国に伝わり，フランスのロンサール*，イギリスのシェークスピア*らがすぐれた作品を残した。ほかにもゲーテ*・リルケ*・ワーズワース*・ロセッティ*，日本では薄田泣菫*(すすきだきゅうきん)・蒲原有明*(かんばらありあけ)らが，ソネットの作者として知られる。　〔田島　修〕

そねのよしただ　**【曾禰好忠】**　平安中期の歌人。生没年未詳。長く丹後(京都府の一部)の掾(じょう)(三等官)という卑官にとどまり，〈曾丹〉と称された。その不遇を嘆く歌が多いが，一方〈百首歌〉などの定数歌を創始したり，斬新(ざんしん)・珍奇な語を大胆に用いたり，革新的な歌人でもあった。家集に《曾丹集*》がある。

そのう　**【嗉嚢】**　ふつう，食道に続く部分で，その薄い壁がふくれたところをいう。食物を一時貯蔵しておく場所であり，ここでは消化は行なわれない。鳥類のハトでは，その内面がふくらんで嗉嚢腺(そのうせん)を形成し，ここでできた嗉嚢乳を雛(ひな)に与える。環形動物の貧毛類では，食道腺という炭酸カルシウムを分泌する腺ができているものがある。こん虫の嗉嚢は吸胃*とよばれるものに変形することがあり，これは急速に食物をたくわえるのに役だつ。軟体動物腹足類の嗉嚢には中腸腺から分泌された液が満たされており，後鰓(こうさい)類の嗉嚢には胃歯*(いし)または胃板とよばれるかたい構造がある。　〔蒲原春一〕

そのだたかひろ　**【園田高広】**　(1928〜　)　ピアニスト。東京の生まれ。レオ-シロタ・豊増昇(とよますのぼる)らに師事し，1948年(昭和23)に東京音楽学校(いまの東京芸術大学)を卒業。1952〜1953年にかけてフランス・ドイツに留学した。1954年に毎日音楽賞を受け，またカラヤン*からその才能を認められた。1957年以降はドイツに住み，ヨーロッパの各地で演奏活動を行ない，またしばしば帰国して演奏会を開いている。

そのはちぶし　**【薗八節】**　⇨宮薗節

そのべ　**【園部(町)】**　京都府の南西部，船井郡の町。人口15,000。大堰(おおい)川流域にあり，山陰本線・国道９号線が通る。中心地区園部は小出(こいで)氏三万石の城下町として発達した。近年は電気・機械関係の工場が進出し，住宅もふえている。

そば　**【蕎麦】**　双子葉植物・タデ科，畑に栽培される一年草。茎は中空で柔らかく

赤色をおび，高さ30～90cm，分枝をよくする。葉は長さ3～10cmの卵状三角形で長い柄があり，互生する。7～9月，枝の先に白ないし淡紅色のよいかおりのする総状花をつける。がくは5深裂し，花弁はない。おしべ8本，3花柱。果実は長さ5～6mmの卵状三角形ではじめ白色であるがのちに黒熟する。

子実の主体がデンプンであるため，禾穀(かこく)類中の雑穀として取り扱われる。子実を粉にして，麺(めん)をつくる。ソバの原産地は明らかでないが，野生種がシベリアのバイカル湖畔や黒龍江(こくりゅうこう)流域で発見されているところから，その地方と考えられている。ソバの作付面積は大正初期には15万ヘクタール余もあったが，年々漸減し，1967年(昭和42)には24,400ヘクタール，26,800tの生産を示すにすぎない。主産地は鹿児島・北海道・茨城である。夏ソバと秋ソバがあり，夏ソバは春まいて夏に収穫，秋ソバは8月下旬～9月上旬にまいて11月下旬に収穫する。冷涼でやや湿潤な気候に適するが寒さには弱い。土性を選ぶことも少なく酸性にも強い。吸肥力も強いので新開墾地にも適する。カリの多用は充実をよくする。〔金木良三〕

そば粉を主原料とした麺(めん)。わが国では奈良朝以前に栽培されたことが知られ，救荒食糧として役だってきた。ソバのはじめての栽培地は，近江(おうみ)(滋賀県)の伊吹(いぶき)山下と伝えられ，それが気候の関係から東に移り，甲斐(かい)(山梨県)・信濃(しなの)(長野県)に広がったらしい。現在はほとんど全土に栽培され，寒地に産するものが香気に富み，味もすぐれている。昔からの名産地信濃では，更科(さらしな)・戸隠のそばが著名で，木曾(きそ)(岐阜県)の寝覚(ねざめ)そばや甲斐の御嶽(みたけ)そばも名物となっている。東京のいわゆる〈更科そば〉は，必ずしも信州産ではなく，種実を製粉機にかけて粗粉を除いた中心部の一番粉でつくったもので，色は白いが香気に乏しい。更科に対して藪(やぶ)と称されるものは，江戸時代から明治にかけて〈藪〉という屋号のそば屋が広大な庭園をもっていて，モウソウチクを植え，そば道具いっさいを竹細工によって，そばつゆも竹筒に入れたのがはじまりである。一般に更科が比較的色白なのに対し，藪では薄い青色に着色しているところが多い。

そば粉を熱湯でこねたのを〈そばがき〉といい，つけじるをかけるだけの最も簡単な食べ方である。しかし大部分は〈そばきり〉(そば粉をこねて伸ばしたものを細く切ってゆでる。いわゆるそば)として食される。現在東京のそばはほとんどが機械製麺によるもので，つなぎとしての小麦粉の混入率がかなり多い。昔からいう〈二八そば〉は，そば粉8，小麦粉2の割合をさすが，現在では，4：6，5：5などという配合も普通になっている。


ソ バ


ソ バ ナ

なお，昔金銀細工をするところでは，そばを打ち，金銀粉の散ったものをそれに吸い込ませて寄せたといわれる。この縁起から晦日(みそか)そばの祝いが起こり，また旧年の汚れを去る意味で年越しそばの風習が始まったという。また引っ越しの際にそばを配る風習は，〈おそばに長く〉の縁語からきたものといわれる。製品には，干しそば・ゆでそばのほか，ひき茶を入れた茶そばがあり，上新粉に混ぜてあんを包んで蒸すそばまんじゅう，のり巻きにするそばずしなどの食べ方もある。〔佐藤友太郎〕

そばかす【蕎麦滓】 医学的には雀卵斑(じゃくらんはん)・夏日斑という。主として目のまわりからほおにできる半米粒大までのかっ色の色素斑。肩や上膊(じょうはく)に生ずることもあり，概して色白の日焼けしやすい人に多い。思春期以後に生じ，夏の強い紫外線を直接受けると，数も多くなり色も濃くなる。遺伝性のもので，親子・兄弟に出ることが少なくない。完全になおすことはできないが，目だたなくするには，直射日光を避け，日焼け止めクリームの塗布，ビタミンCの内服・外用，過酸化水素等の外用などを励行する。〔田嶋公子〕

そばな【蕎麦菜】 双子葉植物・キキョウ科。山地の日あたりのよい場所に自生する多年草。高さ40～80cm。葉は互生し，倒卵形で長さ12～15cm，長さ5cmほどの葉柄がある。6～8月，茎の上部に淡紅色の花を下向きにまばらにつける。花冠は鐘状で，5浅裂し直径1～1.5cm。根は解毒・去痰(きょたん)薬に用いられる。また，若苗は山菜として食用になる。

そばようにん【側用人】 江戸幕府の職名。つねに将軍に侍し，将軍の命を老中*に伝え，老中の上申などを将軍に伝えた。幕府の初期秋元泰朝(やすとも)・松平正綱(まさつな)・板倉重昌(しげまさ)が任ぜられたことがあるが，必ずしも常置の役ではない。定員1人，譜代大名のうちから任ぜられ，待遇は老中に準じ，老中と若年寄の中間に位した。職務がら自然に勢力をもつようになるが，特に1684年(貞享1)大老堀田正俊(ほったまさとし)が江戸城内で刺殺されてから，老中らの御用部屋(ごようべや)が将軍の居室から遠ざけられたため，側用人の権勢が一段と高まったといわれる。5代将軍綱吉(つなよし)のときの牧野成貞(なりさだ)・柳沢吉保(よしやす)，6代家宣(いえのぶ)・7代家継のときの間部詮房(まなべあきふさ)，10代家治(いえはる)のときの田沼意次(おきつぐ)，11代家斉(いえなり)のときの水野忠成(ただなり)らが特に権勢をふるった例である。〔岡山泰四〕

ソビエト［Soviet］ ロシア語で〈会議〉の意。元来，政治的な意味はなかったが，1905年の第1革命以来，労働者の闘争機関として各都市に組織された。レーニン*は，この経験とパリ-コミューン*の経験とを結合して，ソビエトをプロレタリアートの権力機関と評価した。1917年の二月革命*以後，ソビエトは臨時政府に対して二重権力状態を創出し，十月革命*によってボリシェビキ*の指導のもとにブルジョアジーと地主の権力を打倒した。その後ソビエトは人民委員会議を選出し，革命の諸方策を実施に移した。ブルジョア議会に対して，ソビエトはプロレタリアートの独裁すなわち10分の9を代表する民主主義と革命を遂行する機関として形成された。1930年代に社会主義が発展し，搾取-被搾取の関係が基本的に消滅したとして，1936年，スターリン憲法*によってソビエトはソ連邦の市民権をもつ全市民を平等に代表する機関となった。ソビエトは全社会構成員を正当に代表しているかぎり，ブルジョア議会のように立法権のみに限定されることなく，すべての権力を集中する。それが人民に権力が存在することを表わしている。現在のソ連邦では最小単位として村ソビエト，地区ソビエトなど，州や地方の行政単位ごとにそれぞれソビエトが組織され，それらの上に全国的な組織としてソ連邦最高会議*が構成される。〔山県弘志〕

ソビエト(社会主義共和国連邦)［Union of Soviet Socialist Republics, Soyuz Sovetskikh Sotsialisticheskikh Respublik］ ユーラシア大陸の北部一帯，ヨーロッパとアジアにまたがる広大な地域を占める社会主義国家。略称はS.S.S.R(ロシ

ア文字ではC.C.C.P)，英語略はU.S.S.Rで，日本ではソビエト連邦あるいはソ連とよんでいる。15の連邦構成共和国からなり，その中にさらに20の自治共和国，8の自治州，10の民族管区を含み，約200の民族からなる多民族連合国家である。1917年の革命によって世界最初の社会主義国となった。面積2,240万2,200km²は，世界第1の広さで地球の陸地面積の約6分の1に及び，東端と西端との時差は9時間ある。人口2億6,554万(1978年推)。首都モスクワ。

〔地形〕南部から東部にかけては全般に険しい山地で縁どられ，北部ないし西部に低くなって北極海とバルト海に面する。北部と西部を中心に広がる平地は国土の65%を占め，南部と東部の山地ではさまざまな山系が交錯している。領内の最高所はパミール高原のコムニズム峰(7,495 m)，最低所はカスピ海東岸のマンギシラク半島(－132 m)である。このようなソ連の平地と山地は，さらにいくつかに分けられる。

まず，地質構造から二つの楯状地(たてじょうち)ないし準平原として，東ヨーロッパ平原とシベリア台地が他と区別される。東ヨーロッパ平原は，ソ連の心臓部で，ヨーロッパ部とよばれる地域にあたり，東はウラル山脈，西南はカルパート山脈，南はカスピ海・カフカス山脈・黒海に囲まれ，ヨーロッパ大陸の約半分を占めている。この平原は先カンブリア系の褶曲(しゅうきょく)した岩石からなり，北西のバルト楯状地および南東のウクライナ楯状地を除く大半は，その上に古生代・中生代・新生代の地層がおおっている。モスクワ北西のバルダイ丘陵(321 m)，その南東の中央ロシア台地(310m)，ボルガ川左岸のボルガ台地(400m)などがあるが，この平原で150mをこえる部分はごく少ない。平原の大部分はかつて第四紀の氷河におおわれていたもので，北西部には氷食湖や氷堆石丘(ひょうたいせききゅう)が多くみられ，北極海方面の海成堆積物，バルト海・カスピ海の湖成堆積物，ウクライナ地方のレス(黄土)などが表面をおおっている。水系は，カスピ海に注ぐヨーロッパ第1の大河ボルガ川，黒海に注ぐドニエプル川・ドン川などで，いずれも水量が豊かで，地形の影響から，一般に緩流である。

シベリア台地は，中央シベリアのエニセイ川とレナ川の間を占める地域で，西部のアナバル楯状地と東部のアルダン楯状地とに分かれる。古い地層が長期にわたる侵食によって準平原化し，平均高度は300～750 mであるが，一部には2,000mに達する部分もある。

これら古い地層からなる地域を核として，その周縁により新しい地層からなる地形が形成されている。東ヨーロッパ平原の東端を南北に縦断しているウラル山脈は，古生代の地層が第三紀に褶曲したものである。この山脈がヨーロッパ-ロシアとシベリアとの境とされるが，平均高度は660 mと低く，特に南部は多数の谷が刻まれて低い峠が多く，それほど交通上の障害とはならない。また，古い地層が侵食されて豊富な鉱物資源が露出している。



ソビエト連邦の国旗　1917年制定。かまは農民，ハンマーは労働者を表わし，それを組み合わせて両者の団結を示している。また黄色で縁どられた赤い星は世界の労働者の団結を表わし，社会主義国家のシンボルである

ウラル山脈の東からシベリア台地までの間は西シベリア低地で，第四紀の堆積物におおわれた最高所180mという低平な地域である。排水の悪い北向きの緩傾斜面をオビ川・エニセイ川などの大河が流れて北極海に注ぐ。この低地は，オビ川支流のイルチシ川の狭い谷を通じてソ連領中央アジア(西トルキスタン)の低地に続く。ここは第三紀中新世まで存在したテーチス海のあとで，カスピ海・アラル海・バルハシ湖などはそのなごりで，カスピ海沿岸はソ連で最も低い部分である。また，中央アジア一帯は外洋への出口をもたない内陸水域で，小河川は砂漠(さばく)に消失し，アムダリア川・シルダリア川などの大河が内陸湖であるアラル海に注いでいる。

ソ連の国境をなす外縁部の地形は，おもに中生代・新生代の複雑な山系からなる。西のカルパート山脈からクリミア半島，カフカス山脈は，アルプス-ヒマラヤ褶曲帯の一部にあたり，その山容は険しい。特にカフカス山脈は，大・小カフカス山脈を中心に火山を含む5,000m級の高山とその間に多数の盆地をもつ複雑な地形をなし，高所には氷河も残る。

西シベリア低地の南はカザフ高原で，古生層が隆起と侵食をくり返したため平均高度450～900mの多数の台地や丘陵からなり，古い地層が露出したところは鉱物資源の豊庫となっている。カザフ高原の南はカフカス山脈から続く新しい褶曲山地で，イラン国境のコペト山脈からパミール高原を経て天山山脈に続き，タジク・キルギス両共和国付近では5,000～7,000m級の高山を連ねている。この付近もフェルガナ盆地，イシク湖をはじめとする大小の盆地や湖を含む複雑な地形をなしている。

さらに東は南シベリア・極東の山地で，西はイルチシ川から東はバイカル湖の間に，古い地層からなるアルタイ・サヤン両山脈が連なり，高度は4,500 mに達する。バイカル湖はシベリア台地の南にあたり，第三紀の断層運動によってできたもので，最深点は1,523 mもある世界で最も深い湖であり，また透明度も高い湖(40.5m)として知られる。バイカル湖の東には北極海と太平洋の分水嶺(ぶんすいれい)をなすヤブロノイ山脈，その北東のスタノボイ山脈など2,000m級の山地が北東に続き，ベルホヤンスク・チェルスク・コリマ・チュコトの各山脈を経てベーリング海峡に達する。日本海・オホーツク海岸ではヤブロノイ山脈からアムール川(黒龍江(こくりゅうこう))が東流し，ウスリー川と合流して低地帯をつくる。この低地と日本海の間にはシホテアリン山脈が介在し，その東にサハリン(樺太(からふと))島がある。カムチャツカ半島は環太平洋造山帯の一部で火山や地震が多く，その延長には千島列島がある。

〔気候〕緯度の上では36°N～75°Nまでにわたり，国土の4分の3は50°N以北にある。一般に大陸性気候の特徴を示し，海岸線の長い北極海が半年余りも凍結する寒冷な海であること，太平洋からは沿岸の一部を除き山地によってその影響を断たれていること，さらに国土が広く，海洋から遠い部分が広い範囲にわたることなどから，微弱ながら大西洋の影響がエニセイ川流域まで及ぶ以外には海洋の影響は小さい。

気圧と気温をみると，冬季はバイカル湖付近で強力なシベリア高気圧が発達して乾燥した寒冷な気団を形成し，その影響は広く，極東全域はもちろん西方へも遠く大西洋の低圧部へ向かって寒冷な空気を送ってくる。しかし西部では，大西洋からの偏西風の影響があり，ヨーロッパ-ロシアでは東西の気温差が大きい。1月の平均気温はレニングラードで－3℃，モスクワ－10℃，トムスク－20℃と東へ行くほど下り，北東部のベルホヤンスクでは－50℃にも達し，南極大陸を除く人間の常住地では世界で最も寒冷な地域となっている。ソ連で最寒月の平均気温が0℃以下にならない地域は，西南部のクリミア半島などの黒海沿岸，カフカス山脈南部および南部国境沿いなどごく限られている。夏季には内陸で低圧部が生じ，気温の南北差が明瞭(めいりょう)となり，最低気温地域は北極海沿岸の5～7℃，最高気温地域は中央アジアの25～28℃である。ただ，バルト海沿岸と東部沿岸では海岸部が温和で内陸へ向かって暑くなるという海洋の影響がみられる。この国の気候は一般に気温の年較差が大きい大陸性気候で，シベリアや中央アジアでは特に著しく，無霜期間は北極海沿岸で70日，シベリア南部180日，ヨーロッパ部170～300日，クリミア半島340日となっている。

降水量は，内陸性のため全般に少なく，国土平均の年降水量は400～500㎜で，降水時期は大陸性気候の特徴である夏に大部分の降雨を記録する。しかし地域差も大きく，ヨーロッパ部で600㎜前後，中央アジアの盆地では400㎜以下，高山では1,500㎜以上となり，東部の沿岸部はモンスーンの影響で500～800㎜程度を記録する。最多雨地域は黒海沿岸で，カフカス山脈の中腹では2,500㎜を越える。

〔土壌(どじょう)・生物〕 土壌と植生の分布によって，東西に長い帯状に自然帯を分けることができ，北から南へ，ツンドラ・森林帯・ステップ・砂漠・湿潤亜熱帯・山岳と区分される。

①ツンドラ帯：国土の約15％の面積を占め，最暖月の平均気温が10℃以下の北極海沿岸から東端のチュコト半島の部分にあたる。永久凍土が夏に表面だけとけて沼沢地となり，土壌は強い酸性をおびる。谷沿いに小さなヤナギの灌木(かんぼく)がはえる以外に樹木は育たないが，地衣類がよく繁茂する。夏はこん虫の大発生地となり，鳥類の繁殖も多く，北極ギツネやトナカイなどが生息する。②森林帯：ツンドラの南部はしだいに樹木が多くなり，森林帯となる。この中で，ヨーロッパ部の北東部からシベリアの大部分をおおう針葉樹林帯はタイガ*とよばれ，モミやマツの類が多い。森林帯でもヨーロッパ部の南西部一帯は混合樹林で，東部のアムール川流域は広葉樹林となっている。タイガの土壌は樹葉が堆積したポドソル*とよばれる灰白色の酸性土で，その分布は国土の半分を占め，低湿地では泥炭(でいたん)となっている。また，タイガの地下にも永久凍土が存在する。森林にはヤマドリ・ライチョウ・テン・キツネ・シカ・リス・クマなどが生息し，毛皮獣の宝庫である。③ステップ帯：タイガの南部は気温は高いが降水量が少ないため，樹林のまばらな森林ステップから樹林を欠くステップへと移行し，ウクライナ・南シベリアからカザフにかけて分布する。土壌は腐植質に富む肥沃(ひよく)なチェルノーゼム(黒土)で，現在ではステップはほとんど農耕地に変わっている。ここでの動物は齧歯(げっし)類やカモシカが多い。④砂漠：カザフ南部から中央アジアにかけては植生がまばらになり，ヨモギ・ハネガヤなどがはえる半砂漠から，サクサウールなど特異な植物がわずかにはえるだけの砂漠へと移行する。土壌は腐植質の乏しい栗色土(くりいろど)ないし塩基性の強いソロンチャック・ソロネッツとなり，母岩の性質が直接土壌に反映する。動物では，野生のラクダやウマ・カモシカ・ウサギ・サソリなどがすむ。また山岳地帯では，高所から山麓(さんろく)へ向かって氷雪・ツンドラ・森林といった垂直的な移行がみられる。

〔住民と言語・宗教〕 ソ連の人口は革命以前には約1億5,900万であったが，現在は2億5,667万(1976年推)を数え，最近は毎年約300万近く増加している。また，革命以前は都市人口が18％を占めるにすぎなかったのに対し，現在は55％で，これは革命後の工業建設などによる都市の増加と膨張などに起因している。1972年現在での100万都市は9市あり，モスクワ(715万)・レニングラード(362万)・キエフ(176万)・タシケント(146万)・ハリコフ(122万)・ゴーリキー(117万)・ノボシビルスク(119万)・クイビシェフ(104万)・スベルドロフスク(102万)である。人口増加を地域的にみると，増加率の高いのはカザフ・中央アジア・カフカス地方などで，特にカザフでは1936～1966年間に2倍の増加をみた。これは，生活環境の改善による自然増加にもよるが，経済建設に伴うロシア人・ウクライナ人などの流入人口の増加によるところが大きい。




ソ ビ エ ト (左)国営農場で働く人たち。大規模な機械化農業も進んでいるが，一方写真のような手労働による農作業も見られる (右)町かどに立つ新聞スタンド。雑誌や絵はがきなども並び，軍人やOLたちも足を止めている(モスクワ)

この国の平均人口密度は1㎢あたり11人(1975年推)だが，地域差が大きく，ヨーロッパ部の中心地域では55人で，特にモスクワ州では251人を示す。ほかに密度の高い地方には北オセチア(64人)，アルメニア(74人)，フェルガナ盆地(150人)，その他の中央アジアのオアシスなどがある。反対に人口密度の低い地域にはヨーロッパ部の北部，カザフと中央アジアの大部分，大河流域と鉄道沿線を除くシベリア・極東などで，1㎢あたり5人未満である。

住民は人種上，オイロピーデ(白人)とモンゴリーデ(黄色人)に大別でき，人口数では前者が多数を占めるが，地域差があって東シベリア・極東では後者が多く居住し，中央アジア・カザフ・ヨーロッパ部北部・西シベリアは両者の漸移帯で混血型とされる。民族構成では，1959年のセンサスで108の民族に区別されている。このうち人口50万以上のもの24族，10万～50万が22族，1万～10万が28族，10,000以下が34族となる。人口100万以上の民族の内訳は次のようになる。ロシア(1億2,200万)・ウクライナ(4,000万)・白ロシア(850万)・ウズベク(750万)・タタール(550万)・カザフ(450万)・アゼルバイジャン(360万)・アルメニア(340万)・グルジヤ(300万)・リトアニア(250万)・ユダヤ(250万)・モルダビア(250万)・ドイツ(180万)・タジク(170万)・ツワ(160万)・ラトビア(150万)・ポーランド(150万)・モルドバ(140万)・トルクメン(120万)・キルギス(120万)・バシキール(110万)・エストニア(105万)。このうちロシア・ウクライナ・白ロシアの3民族はインド-ヨーロッパ語族のスラブ系で，相互に関係が深い。特にロシア人(大ロシア人)はロシア帝国発展のにない手で，現在もこの国で主導的な役割を果たしている。その分布は国土全域にわたり，特にヨーロッパ部から黒海東部・北カフカス・カザフ・南シベリア・極東に至るまで多数定住し，その他一般に都市に多く居住する。ウクライナ人も18世紀末からロシア人と同じくヨーロッパ部からカフカス・シベリアに農民として多数移住した。白ロシア人(小ロシア人)は西のカレリア・バルト海沿岸地方へ進出した。

以上のほかの民族は帝政ロシア時代からあまり移動がみられず，一般に分布範囲が限られている。ポーランド人は西部国境近くに多く，ラトビア人・リトアニア人はヨーロッパ部の非スラブ系民族で，インド-ヨーロッパ語族とは別系統に属し，バルト海沿岸に居住する。エストニア人はウラル語族フィン系で，バルト海沿岸の北部にいる。南西のルーマニア国境付近にはロマンス系のモルダビア人，ボルガ川中流域には，トルコ系のタタール人・ツワ人・バシキール人，フィン系のモルドバ人などが住む。なお，ドイツ人は第2次世界大戦前はモスクワ南東のサラトフ付近に集中していたが，戦時中に国内各地に分散させられた。ユダヤ人はウラル以西のヨーロッパ部に多いが，カフカス・中央アジアにも古くからの集中地域があり，極東のハバロフスク地方のユダヤ自治州にも多く居住する。カフカス地方は多種類の民族の混住地域として知られるが，トルコ系のアゼルバイジャン人，インド-ヨーロッパ語族のアルメニア人，カフ



ソビエト(連邦)

カス語族のグルジヤ人も多数を占めている。カザフ地方はトルコ系のカザフ人がもともと多く，中央アジアはトルコ系のウズベク人・キルギス人・トルクメン人，イラン系のタジク人などが多く居住している。なお，人口100万未満の民族が総数720万人ほどあり，そのおもなものは東シベリアに住むツングース系諸族，トルコ系のヤクート人，バイカル湖南部付近に住むモンゴル系のブリヤート人，北東シベリアから極東北部に住む古アジア諸族などである。

言語は，約130種類が使われているといわれるが，その中には話しことばだけあって文字(記述語)をもたないものもある。全国的な共通語はロシア語であるが，それぞれの民族語の使用は自由で，学校教育でも制限されていない。

〈宗教〉かつてロシア正教会が特権的地位をもっていたが，現在ではすべての宗教が平等な立場にある。ソ連にも信教の自由はあるが，反宗教宣伝活動も公に認められている。宗教活動では，宗派にかかわらず，18歳以上の者が20名以上集まって宗教団体をつくれば，教会などの建物を国から無償



で提供をうける権利が得られる。もっとも，その維持には信者だけの力によらなければならない。現在の主要な宗教は，まず，モスクワ総主教の下にあるロシア正教会に300万の信者があり，革命前の3分の1に減ったが，全国に約20,000の礼拝所をもっている。正教会は国外にも勢力をもっており，ニューヨークに中心を置く正教会とその正統を競う形になっている。キリスト教では，アルメニア・グルジヤにそれぞれ古い歴史をもつ宗派があり，アルメニアの宗派は国外にも広く信者をもっている。ウクライナ西部からバルト海沿岸地方には，ローマカトリックやプロテスタントの信仰が行なわれている。キリスト教以外の宗教では，ボルガ川中流域からカザフ地方・中央アジア・南シベリア・カフカスに住むトルコ系民族を中心に回教が信仰されており，特に中央アジアではかつて強い勢力をもっていた。また，中央アジア・シベリアの一部には仏教徒がおり，シベリア諸民族の間には原始宗教やシャーマニズムがなお残存している。

〔産業・経済〕ソ連は社会主義経済をとっている。社会主義的生産は，利潤の獲得ではなく，社会およびその各成員の物質的ないし文化的欲望を満たすことを目的としている。いっさいの生産手段は国有または協同組合の所有で，経済の計画化が可能となっている。1966年から1970年にかけての計画は，通算第8回めの五か年計画である。8回の計画の間には七か年計画も行なわれているが，別に長期の展望のもとに10～20年の計画もたてられている。この計画の立案・監督はソ連閣僚会議のもとにある国家計画委員会(ゴスプラン)が行なう。計画経済を施行するため，行政区画も経済建設の一環としての役割を果たせるように設定され，州・自治州は農業・工業・交通など経済活動の面で一つの単位となり，州都はその地域の中心工業都市である。ロシア連邦共和国内の六つの地方も機能的には州に類似する。また，面積が広く人口希薄地か新しい開発地では，中央の管轄権がより強く及ぶ。同じく10の民族管区は州か地方に従属する少数民族地域で経済発展の低いシベリア北東部に多く設けられている。こうした経済地域の単位の上に大経済地域が形成される。革命以来，各時期における最も合理的な生産の配置を考えて，何回か区分の変更が行なわれた。最近では1963年に再編成が行なわれ，全国を18の大経済地域に分けている。また，コンビナートによって原料と工業生産地を有機的に結合しているのも，計画経済による地域編成の一部をなすものである。

ソ連経済は短期間に大きな発展を遂げ，1966年の国民所得は1913年の34倍となり，特に工業生産は66倍となった。革命前には先進国より35年から50年ぐらい遅れているといわれ，人口の80％余は農民であった。そして，小麦の世界一の輸出国であり，そのほか亜麻・羊毛・木材・鉱石などを輸出し，工業製品を輸入していた。当時，ロシアの工業は多く外国資本に依存し，東ウクライナの重工業，ウラルの製鉄，バクーの油田，モスクワの金属加工・織物などが知られる程度であった。革命後，重工業が共産主義社会実現のための物質的・技術的基礎とされ，その発展に特に力が注がれることになった。第2次世界大戦による大きな損害も戦後2年半で回復したといわれ，1965年にはアメリカ合衆国の65％の工業生産高をあげ，世界第2位の工業国となっている。1929～1966年の年平均工業生産成長率は11.1％で世界一とされたが，近年7～8％に下ったことが指摘され，また消費物資





ソ ビ エ ト (左)モスクワの赤い広場。レーニン廟へもうでる人々の列が蜿蜒と続いている。正面の建物は歴史博物館，左手にクレムリンの一部が見える(右)レニングラードのスモーリヌイの建物。十月革命当時，最初のソビエト政府がここに置かれた。正面にレーニン像が立っている

の生産はかなり遅れており，労働生産性もアメリカ合衆国の50%未満であるといった問題がある。最近，新しい生産設備への切り換え，自動化，消費物資の増産，農業生産の強化，シベリア開発などに努力が払われているが，それには1966年以来の経済改革が大きな意味をもっている。これは，従来の中央からの指令に全面的にしたがっていた生産方式から，国営であることは変わりないが企業の自主性を重んじ，利潤指標などによって生産活動の効率を測るほか，各種の報奨金を出して労働意欲を高めるという制度を採用したからである。

ソ連の産業人口は8,600万(1968)で，ソビエト労組中央評議会の下に労働組合が組織されている。労働は週5.5～6日，1日7時間というのが多くなっている。**〈鉱工業〉** 地下資源は種類・質・量とも豊富で，世界の総埋蔵量中に占める割合は，石炭58%，石油41%，鉄76.7%などであり，将来とも自給はほぼ可能といわれる。石炭は年産5億9,500万t(1967)に達しており，ドネツ・クズネック・カラガンダ・ペチョラの4炭田でその60%を産出する。石油は，年産2億8,800万t(1967)で，バクー・北カフカス・トルクメンと第2のバクーといわれるボルガ-ウラルの3地区が中心であるが，埋蔵量は不確実で，未発見の油田のある可能性も大きい。全国に総延長約30,000kmのパイプラインが敷設され，国内の主要工業地帯はもちろん，東ヨーロッパ諸国へも石油を供給している。中でもボルガ-ウラルの油田からイルクーツクに達するパイプラインは延長4,000kmに及び，さらに東へ延ばす計画である。鉄鉱は1億6,800万t(1967)を産し，クリボイログとウラルで全体の85%を産出する。その他，非鉄金属はウラル・カザフ・カフカス・東シベリアなどで多く産出する。重工業はウクライナとウラルが中心である。ウクライナは革命前からの工業の中心地で，ドネツ炭田・クリボイログ鉄山を基礎にしている。ウラルは，古くは木炭による製鉄で知られていたが，ウラル-クズネック-コンビナートにより，一大工業地域が形成された。第2次世界大戦中，ウクライナをドイツ軍に占領された時期は，ここがソ連第1の重工業地域となり，その地位は戦後にウクライナが復興した後も不動である。最近，バイカル湖南部などの東シベリアに第3の重工業の地域が生まれている。工業の基幹である製鉄業では，最新の技術・設備による生産が進められ，生産の成長率はアメリカ合衆国を上回り，1967年の生産高は銑鉄7,480万t，鋼鉄1億220万tとなっている。機械工業は，古い伝統と熟練労働力の豊富なレニングラード・モスクワ・ゴーリキーなどで電器機械・精密機械・車両，ボルガ川沿岸からウクライナでは農業用機械などの生産が盛んである。木材工業は，豊かな資源と交通に恵まれたヨーロッパ部北東部から西シベリアが中心である。綿・羊毛工業は，革命前からモスクワが中心で，現在も生産額の3分の2は同市周辺またはヨーロッパ部で占めるが，近年原料産地のカザフや中央アジアでの生産も伸びている。電力は，レーニンの〈共産主義はソビエト権力プラス電化である〉ということばに表わされているようにソ連経済の基礎とされ，ゴエルロ計画が1920年にたてられて，電化国家委員会(ゴエルロ)による強力な政策が行なわれた。1967年の発電量は5,890億kWhで世界第2位，その80%は火力発電である。火力発電所はヨーロッパ部や，ウラルなどの都市や工業地域に集中している。水力発電所はブラック発電所(出力450万kW)のような大形のものがシベリア・中央アジア・カフカスの河川急流部やヨーロッパ部の大河に建設されている。いずれも工業地域から比較的遠距離にあるため，国土を横断する50万～80万Vの高圧送電線網が建設され，その総延長は30万kmに達する。原子力発電は，1954年にカルガ地区で世界最初の実用規模の発電(出力5,000kW)が行なわれ，ベロヤルスク(100万kW)・ノボボロネジ(21万kW)などが活動中である。

〈農業〉 高緯度にあり，さらに降水量が乏しいという自然条件から，農業に必ずしも好適とはいえない地域が広く存在しており，このような悪条件の克服が，ソ連における農業発展の一つのかぎともいえる。しかし，ウクライナから南シベリアにかけての黒土地帯などは自然条件に恵まれ，耕地率が50～60%に達する穀倉として知られる。農耕地は全国で2億2,430万ヘクタール(1968)で，僻地(へきち)などに散在する数万戸の個人農業を除いては，生産はコルホーズ*とソフホーズ*によって行なわれている。全国における1968年度の主要農畜産物は，米106万t，小麦9,339万t，トウモロコシ1,412万t，ジャガイモ1億218万t，綿花203万t，粗糖1,012万tなどで，家畜飼育頭数は牛9,716万頭(うち乳牛4,120万頭)，ブタ5,867万頭，ヒツジ1億3,846万頭などである。工業に比べて立ち遅れの目だつ農業を発展させるため，1953年以来カザフ地方などの処女地開拓，農産物の買付価格の引き上げ，機械・トラクターステーション(MTS)を廃止して農業機械をコルホーズの所有にすること，経営上もコルホーズの自主性を高めることなどの処置がとられ，工業と同じく農業でも利潤指標の採用による独立採算制の強化などがはかられている。

〔貿易・交通・通信〕 ソ連の外国貿易は，政府の承認した計画にしたがい，外国貿易省を通じて行なわれる。貿易額は，1966年には革命前の1913年の4倍になり，輸出79億5,700万ルーブル，輸入71億2,200万ルーブルで，輸出入とも社会主義国圏内が約70%を占める。1913年当時のロシアからの輸出は，70%が農産物，30%が原料品であったが，1966年には農産物の割合は15%に下がり，代わって機械・鉄鋼・石油・電力(東ヨーロッパ向け)などが多く輸出されている。輸入では，カナダからの小麦を含む食糧その他の消費物資の36%，機械設備の32%などがおもなものである。国内の商業は国営・協同組合・コルホーズの三者で行なわれ，総取引高のうち国営68.1%，協同組合28.5%，コルホーズ3.4%となっている(1965)。商業取引高は経済活動の発展に伴って増大し，ソ連全体で1940～1965年の間に4.3倍になったが，地域的にみるとカザフ共和国の8.9倍をはじめとして国内の後進地域における増加が目だっている。

これらの経済発展には，国内の交通網の整備・充実が大きな役割を果たしている。国内の物資輸送をみると，特に重要なのは鉄道で21億6,000万トンキロに達し，全体の72%にあたり(1967)，旅客輸送でも58%を占める。鉄道の延長は13万2,500km(1967)でアメリカに次いで世界第2位であり，鉄道網はヨーロッパ部，特にボルガ川以西において密で，モスクワとドネツ盆地付近の集中度が高い。シベリア鉄道・トルリンプ鉄道・トランスカスピ鉄道・ボルクタ鉄道などはソ連の大動脈となっている。鉄道の近代化も進み，1967年現在の電化(29,100km)

とディーゼル化(66,900km)を合わせると全体の90%に近く，複線化も進んでいる。水運は，6億6,800万トンキロ(1967)で貨物輸送の22%を占め，国内海運(貨物輸送の8%)は黒海とアゾフ海をはじめとし，カスピ海，極東海域，シベリアの大河河口の港づたいにヨーロッパ部と極東を結ぶ北極海航路などが中心である。地形が低平なため，世界一の内陸水運網をもち，可航河川の延長は14万2,200kmに達し，貨物輸送の約5.3%がこれによっている。自然の水路であるため方向が限られ，冬の凍結などの欠点をもつが，大量の物資を低コストで輸送できることから，木材・建設資材・石油・鉱石などの輸送に利用されている。河川を相互に結ぶ運河も多く，延長約15,000kmもあり，内陸水路ではボルガ・カマ・北ドビナ・ドニエプル・オビ・イルチシ・レナ・アムールなどの河川が重要である。ヨーロッパ部では河川と運河によってバルト海・白海・黒海・カスピ海が相互に結ばれており，モスクワ-ボルガ運河(130km)，バルト-白海運河(235km)，ボルガ-ドン運河(101km)などがある。またシベリアでは，古くから河川は重要な交通路であったが，今日でも鉄道や道路に代わる輸送路である。道路交通は，貨物輸送に占める割合は5%強にすぎないが，旅客輸送では近距離を中心に40%近くを占める(1967)。自動車道路の延長は140万kmで，24万1,000kmが舗装されている。幹線自動車路はヨーロッパ部に密で，モスクワから放射状に延びており，次いで，シベリア・極東・中央アジアなどの鉄道や水路を欠く地域で重要な交通手段となっている。ソ連の国内航空路の総延長は約47万5,000kmで，モスクワと国内の主要都市の間は12時間以内で結ばれている。特に重要な路線は，モスクワ～南シベリア～ウラジオストク，モスクワ～トビリシ，モスクワ～タシケントのほか，ヨーロッパ部の主要都市を結ぶ線である。北極海沿岸に沿うモスクワ～アナジル線や，東シベリアの辺地，中央アジアの砂漠や山岳地を飛ぶ線は，空路がほとんど唯一の交通手段である地域を結んでいる。

電話は公共電話が510万台で，都市では80%が自動化している。写真電送装置はモスクワから200の都市に通じて新聞の電送を行なっており，各地で首都と同一の記事が読める。また，首都からのテレビ中継所も全国で118か所(1966)あるほか，1965年からは人工衛星による電話・電報・写真電送・テレビ中継も始まった。陸上の電話通信ケーブルとしては，世界最長のモスクワ～ウラジオストク線やモスクワからリボフ・タシケント・トビリシなどへの各ケーブルが幹線通信線であり，ラジオ放送は約300の中継局によって中央からの2種類の番組が国内のどこででも聞くことができる。テレビの保有は2,680万台(1968)に達し，電波の届く範囲には1億1,500万人が住んでいる。モスクワとレニングラードが3チャンネル，八つの共和国の首都とその他5都市では2チャンネルを放送している。郵便ルートは総延長280万kmに達し，トラックと飛行機によっている。航空機による郵便物は26万3,100t(1965)で，遠隔地でも迅速に配達できるようになり，モスクワ発行の雑誌も翌日には極東の都市で入手できるようになった。

【文化】広大な面積と多種の民族をもち，ヨーロッパ部の都市生活者から南ロシアの農民，中央アジアの牧畜民，極北の狩猟民までを含んで，その伝統的な文化はきわめて多様である。19世紀のロシアの文学・芸術が世界に与えた影響も大きいが，さらに古くシルクロードや回教によって栄えた中央アジアのオアシス文化も，人類の貴重な遺産である。革命後は，各民族のもつ固有の文化を尊重し，さらに発展させることをすすめているが，形式は民族的，内容は社会主義的という立場が貫かれることになった。文化面における基本方針は，社会主義および共産主義の建設のために，精神生活の多面的かつ根本的な変革を行なう文化革命といわれるものである。具体的には，旧来のインテリゲンチアの改造と，新しい社会主義的インテリゲンチアの形成，社会主義的文学・芸術などの創造，科学の全面的な発展，都市と農村あるいは精神労働と肉体労働の差の解消などを内容とし，それぞれにかなりの成果を上げつつあるが，特に科学・技術の水準の高まりは特筆される。また，革命直後，緊急を要する問題の一つとして文盲の一掃が取り上げられた。当時のロシアの文盲率は70%余りで，ヨーロッパで最も教育・文化水準の低い国とされ，中央アジアなどの文盲率は78%余にもなり，シベリアの諸民族には文字がなかった。このような状態を義務教育の実施によって改善した結果，最近の文盲率は1.5%(9～49歳)で，世界で最も低い国に属するまでになり，新聞・定期刊行物の普及度は100人あたり78部となっている。新聞が60種の言語で発行されていることからもわかるように，民族語による教育が積極的に進められているが，高等教育を受けて各分野の指導的地位につく者にはロシア語の完全な習得が不可欠の条件とされるように，全国のロシア語化が進行していることもまた事実である。社会生活は画一的でうるおいを欠くと評されるが，社会保障制度がととのい，たとえば医療費・教育費が無料であり，住居費は収入の数パーセントであり，どこの職場にも図書室などの文化施設があり，博物館・劇場・サナトリウムなどがだれにでも利用できるといった恵まれた面も無視できない。しかし，人々の都市生活や高級消費物資へのあこがれ，西欧文化との格差の意識など，解決を迫られている問題も多い。

【政治・外交・軍事】憲法により労働者と農民からなる社会主義国家と規定され，選出された議員で構成される会議(ソビエト*)によって政治が行なわれる。また，国内に多種の民族を含むため，各民族の平等の権利を保障する方法として，共和国・自治共和国・自治州・民族管区がつくられており，それぞれの代表が政治に参加するようになっている。

国家機構は15の構成共和国からなる連邦国家で，その構成共和国のうちロシア共和国だけは16の自治共和国を含む連邦共和国である。各共和国によって構成されるソ連邦の最高の国家権力機構は，ソ連最高会議である。ここから最高会議幹部会と閣僚会議(政府)が選ばれ，ソ連全体としての政治・軍事・外交その他の行政を行なう。最高会議は立法権をもち，国民経済計画の立案，国家予算の確認，対外的には条約の締結・批准・破棄などの権限をもつ。最高会議の任期は4年。二院制で，連邦会議と民族会議からなり，連邦会議は人口30万につき1名の割合で代表が選出され(1966年の選挙では計767名)，民族会議は各構成共和国から32名，各自治共和国から11名，各自治州から5名，各民族管区から1名の代表が選出される(1966年の選挙では計750名)。また，各構成共和国も独自の憲法・国章・国歌・国旗をもち，それぞれ最高会議・幹部会・閣僚会議を選出し，独自の，外交・軍事・貿易・経済・教育などの行政権をもっている。ロシア・ウクライナ・白ロシアは，ソ連とは別に，国連の同盟国としてそれぞれ国連に代表を送っている。構成共和国はいずれもソ連以外の国と国境を接しており，連邦憲法上，自由意志によって連邦から脱退できることになっている。自治共和国も最高会議・同幹部会・閣僚会議をもち，自国内の政治を行なう。地方行政組織は，地方・州・自治州・管区・地区・市・村などに分かれ，それぞれの勤労者代議員会議があり，任期2年でそれぞれの単位から選出され，行政を担当する。

ソ連の政治で重要な役割をもつのは，唯一の政党である共産党である。1967年の党員数は1,260万余で，ソ連の労働者・農民・インテリゲンチアの前衛とされ，社会主義から共産主義への移行を目標に，政治をはじめ経済・文化などあらゆる分野での中核となっている。各職場や行政組織の末端にまで存在する党組織は33万にのぼる。党は，少なくとも4年に1回大会を開いて中央委員会を選び，この中からさらに中央委員会書記局がつくられ，日常活動の指導部としての役割をもつ。その書記長は事実上の党の最高指導者である。近年では，1956年の第20回党大会でのスターリン批判は，その後のソ連の政治・経済に大きな影響を与えた。

司法制度は，任期5年のソ連最高裁判所がソ連最高会議によって選ばれ，全構成共



ソビエト モスクワのクレムリン宮殿前。広場には見物・見学の内外人や，行楽の親子連れなどが行きかい，なごやかなふんい気が流れている

和国を管轄する。下級裁判所もすべて選出制で，裁判には勤労者代表が加わることになっている。検察機構は，検事総長以下がソ連最高会議にすべて直接従属する形をとっており，各構成共和国などからは独立している。

外交の基調は，全世界のプロレタリアート，被圧迫民族との連帯という点に置かれている。しかし，現実の政策はきわめて変化に富んでおり，従来から一見矛盾した外交関係を結ぶなどの例がしばしばみられた。これは，強力な資本主義国の包囲の中で社会主義社会を発展・強化させるという一国社会主義理論の実践のためであり，また帝国主義勢力にいかにして有効な打撃を与えるかという観点から資本主義諸国間の矛盾をとらえて突くためであると説明される。近年の平和共存政策は，核戦争を引き起こしては，ソ連自国の発展はもとより世界の被圧迫民族の解放もあり得ないとする考えに基づいている。しかし，ブルジョア-イデオロギーと妥協したものでも，階級闘争を放棄したものでもないことが強調されている。

軍事面などは，ワルシャワ機構の中心となって強力な軍備をもっている。ソ連最高会議の指導下にあるソ連軍は，国防省の下に統轄される陸軍(総兵力約200万人，157個師団)・海軍(総兵力47万5,000人で，海軍40万，海軍航空隊7万5,000。主力は潜水艦で，原子力潜水艦も含めて約300隻)・空軍(総兵力48万人。戦闘用航空機1万200機)・戦略ロケット軍(総兵力35万人)・国土防空軍からなる。最高統帥権は，ソ連最高会議に属し，軍隊には共産党中央委員会の指導・活動が国防省を通じて行なわれ，将校の90%は党員ないしコムソモール(全ソ連レーニン共産主義青年同盟)である。兵役は18歳から，陸軍と空軍(ともに2年)または海軍(3年)への入隊が課せられ，学生は除外される。予備役は適性・家族状況などによって最高50歳までである。 〔斎藤晨二〕

〔歴史〕 広義のソ連史はロシア革命以前の全ロシア史を含む。しかし，いわゆる狭義のソ連史は一般に1917年のソビエト政権成立期をもってはじまりとされる。➔ロシア十月革命*によって臨時政府が倒され，全権力がソビエトに移り，1917年11月にはレーニン*を議長とする人民委員会議が選出された。人民委員会議は交戦国との講和を呼びかけるとともに，土地の国有化，重要産業の国有化など，〈旧国家機構の破壊と新ソビエト体制の確立〉をめざす一連の革命的措置をとった。1918年1月，第3回ソビエト大会が開かれ，〈勤労・被搾取人民の権利宣言〉が採択され，ロシア-ソビエト連邦社会主義共和国が成立した。➔ロシア革命

〈ロシア革命後のソ連〉 ①干渉戦争・戦時共産主義の時期：ロシア革命によって，プロレタリアート独裁の体制のもとに労働者と農民の社会主義国家として新生したロシアは，〈ソビエト政権の勝利の行進〉のために，1918年3月にはドイツとの屈辱的な単独講和(ブレスト-リトフスク条約)を結んで戦争から離脱した。しかし，新政権は息つくひまもなく列強の対ソ干渉の危機に直面した。この年4月には，日米両国軍が，ロシア領内のチェコスロバキア軍団を救出するという名目でウラジオストクに上陸し(➔シベリア出兵)，以後イギリス・フランス・イタリアなど総計14か国の武装兵力が四方から侵入し，国内の反革命将軍たちと呼応してモスクワに迫った。国土の20分の1に追い込められたソビエト政権は，まさに〈反ソビエト海中の孤島〉の状態となった。この危機の間に開催された第8回共産党大会の決定に基づいて赤衛軍が組織され，防衛力はしだいに強化された。一方，第1次世界大戦終了前後の世界的な革命的気運の上昇を背景に，諸国の革命運動を援助すると同時に，列強の武力攻撃からソビエト政権を守るためにコミンテルン(➔インターナショナル)が結成された。また国内的にはチェカ(➔ゲーペーウー)を中心に厳重な統制を敷き，食糧の徴収制，強制労働制，自由商業の禁止，全工業の国有化を断行した。これらの諸政策を戦時共産主義という。こうして，ようやく3年間にわたる干渉戦争と国内戦を勝ち抜き，干渉軍も70,000にのぼるシベリア出兵の日本軍を最後に(1922年10月)すべて引き揚げた。

②ネップ*の時期：こうした非常手段の結果，干渉戦争の危機は乗り越えたものの，生産力は極度に低下し(農業生産は戦前の半分，工業生産は7分の1となる)，国民経済は崩壊の危機に瀕(ひん)し，労働者・農民・兵士の不満が高まった。そこで，1921年3月の第10回共産党大会は，戦時共産主義の行き過ぎを是正し，資本主義的要素をある程度認めながら，社会主義経済建設のための基礎を固める新経済政策(ネップ)を採択した。これによって外資も導入されるようになり，生産力は高まり，1927年ごろまでには農業・工業ともに戦前の水準に回復，政治的にも安定し，次の社会主義建設五か年計画への道が開かれた。国際的にも，1922年のドイツをはじめとして，1924年にはイギリス・フランス・イタリアと，1925年には日本とそれぞれ国交を結んだ(アメリカとは1933年)。また，この間激しい党内闘争も起こり，前後してトロツキー・カーメネフ・ジノビエフ・ブハーリンらの左右の反対派が一掃され，スターリンの一国社会主義方針が貫かれる。1923年には，ウクライナ・白ロシア・トランス-コーカサス・シベリアなどのソビエト*制国家が合流して，ソビエト社会主義共和国連邦となり，1924年にはソ連邦憲法が公布された。この年，レーニンが死去した。

③社会主義建設の時期：1928年から重工業の優先的発展を中心とする社会主義工業化政策と，小農経営からコルホーズ*の発展を中心とする農業集団化政策を積極的に推進する第1次五か年計画にはいった(この翌年世界恐慌が起こる)。これによって，1932年には工業生産高は革命前の水準の2倍以上となり，全農家の6割，全耕作面積の8割近くがコルホーズ化され，この基礎の上に第2次五か年計画(1933〜1937)が進行する。同計画終了の1937年には，工業生産は革命前の6倍近く増大して，アメリカに次いで世界第2の工業国となり，農業面では全農家の93%，耕作面積の99%がコルホーズ化された。ここに社会主義建設を基本的に完了したとして，1936年12月には新憲法(スターリン憲法)が採択された。

〈第2次世界大戦の時期〉 ①第2次世界大戦前：第2次五か年計画終了後，資本主義包囲のもとで，より高度な社会主義社会(狭義の共産主義社会)への移行を目標として，第3次五か年計画(1938〜1942)に着手した。しかし，これは1939年9月の第2次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)と，1941年6月の独ソ戦の開始によって中断される。この間の国際的状況をみると，世界恐慌後の資本主義世界もこの広大な市場を無視できず，特にファシズム国家の進出とともに，それと対立する民主主義国家との接近がみられる。もともと社会主義建設のために国際平和を不可欠の条件とするソ連は，この状況の中で各

国との衝突を避ける協調外交を展開した(1934年に国際連盟に加入)。しかし,スペイン内乱では共和国政府に対する援助を行ない,フランス・チェコスロバキアと相互援助条約を結び(1935),さらに同年モスクワで開かれた第7回コミンテルン大会では,いわゆる人民戦線(反ファシズム共同統一戦線)戦術を決定し,ファシズムの進出を阻止することに努めた。

②第2次世界大戦初期の段階:1938年9月のミュンヘン会談で除外されたソ連は,フィンランドとの国境紛争の頻発,張鼓峰事件(1938),ノモンハン事件(1939)など,東西からファシズムの脅威が迫る中で,1939年8月突如として独ソ不可侵条約を結び,世界に衝撃を与えた。このような情勢の中で第2次世界大戦の勃発を迎える。1939年9月1日早暁,ドイツのポーランド侵入によって大戦は開始されたが,ソ連はこれに呼応して9月17日に予告なしにポーランドに侵入し,2日後には東半分を占領,ドイツとの秘密協定によってポーランドを分割した。次いでエストニア・リトアニア・ラトビアのバルト3国に軍事基地を譲渡させ,同じ要求を拒否したフィンランドに侵入,ソ連-フィンランド戦争となった(これを理由に国際連盟から除名される)。その結果海軍基地などを獲得し,またルーマニアにはベッサラビアを割譲させるなど,しきりと西部防衛線の強化をはかった。

③独ソ戦争(大祖国戦争)の段階:ソ連はドイツの攻撃を予想し,日ソ中立条約(1941年4月)によっ背後の極東の安全を保障し,国内では重要工場を東方に移転させて軍事生産に力を注ぎ,またスターリンが党書記長と首相を兼ねるなど,戦時体制の強化をはかった。こうして1941年6月22日未明のドイツの奇襲攻撃となる。独ソ開戦によって,連合国側は反ファシズム戦争という大義名分を明確にし,民衆の戦意を高揚させた。アメリカはまだ非交戦国ではあったが,〈民主主義の兵器廠(へいきしょう)〉として積極的に活躍できることとなった。

ドイツ軍の大規模な侵略も,ソ連軍の抵抗によってレニングラード-モスクワ-スターリングラードの線を抜くことはできず,1942年暮れからのスターリングラード攻防戦で,ソ連軍は逆にドイツ軍30万を包囲全滅させた。1944年半ばごろにはドイツ軍をソ連領から一掃し,さらに東欧諸国を次々に解放,1945年4月ベルリン市内に突入し,他の連合諸国と協力してついにナチス-ドイツを無条件降伏させた。次いで,アメリカの日本への原爆投下と前後して,同年2月のヤルタ協定に基づいて対日宣戦布告を行ない,第2次世界大戦の終結までに中国の東北地方(満州)と朝鮮北部まで進出した。第2次世界大戦によるソ連の損害はきわめて大きく,1940年の生産の60%を受け持った多数の工場と,コルホーズの40%以上が破壊され,国民の8分の1が戦争の犠牲になっている。

〈第2次世界大戦後〉 ①冷たい戦争:ソ連は戦争の打撃から立ちなおるために,ただちに第4次五か年計画(1946~1950)に着手し,工業生産は1948年に,農業生産は1952年に,第2次世界大戦前の水準を回復した。その後,アメリカに追いつき追い越し,共産主義社会の物質的・技術的基礎をつくり出すことを目標に,第5次(1951~1955),第6次(1956~1960年,1958年に打ち切って,1959~1965年の七か年計画に変更)とあいついで五か年計画が実施された。また,第2次世界大戦末期の段階から現われていたソ連と他の連合諸国家との対立は,社会主義圏の飛躍的な増大とともに世界を2分する深刻な対立に発展した。この二つの世界の間の冷戦が激化したのは,1947年のトルーマン-ドクトリン(アメリカの対ソ封じ込め政策)の声明からであった。同年マーシャル-プラン*が実行に移されると,ソ連も対抗してコミンフォルムを結成し,ベルリン封鎖・原水爆競争(1949年9月,ソ連の原爆保有声明)などを経てしだいに緊張は高まり,ついに1950年朝鮮戦争の〈熱い戦争〉となって爆発した。

②平和共存政策:1953年7月朝鮮戦争は休戦となったが,そのイニシアチブをとったソ連は,その後いわゆる平和攻勢を強化する。この年3月スターリンは死去し,マレンコフに代わったが,その後発展する防衛力(1957年,ICBM試射と続いて人類最初の人工衛星スプートニク1号打ち上げに成功)と経済力を背景に,ブルガーニン・フルシチョフ・コスイギンへと,平和共存政策を受け継いでいった。その具体的な現われとしては,1954年極東問題解決のためのジュネーブ会議*の開催(インドシナ休戦),ジュネーブ巨頭会議,キャンプ-デービッド巨頭会談(1959),その後いわゆるキューバ危機で世界は衝撃を受けたが(1962),その翌年の部分的核実験停止条約の調印などがあげられる。

③スターリン批判と中ソ対立:30年間ソ連の最高指導者であったスターリンの死後,共産党と政府首脳は集団指導制の採用,官僚主義の除去,中央集権的機構の地方分散化などの一連の非スターリン化を行なっていった。特に世界に大きな波紋を与えたのは,1956年2月の共産党第20回大会最終日のフルシチョフ書記長による激しいスターリン批判の報告であった。この大会で,同時に〈社会主義と資本主義両体制の平和的共存〉〈戦争の宿命的不可避性の否定〉〈社会主義への平和的移行の可能性〉などの新しい方針が打ち出され,中国・アルバニアとの対立もこのころから表面化した。特に中国とは,金門島攻撃事件・中印国境紛争などをめぐってことごとに対立し,1960年にはソ連は中国援助をいっさい中止し,キューバ危機では中国はソ連を冒険主義・降伏主義と非難し,部分的核実験停止条約は人民を愚弄(ぐろう)するぺてんであるとさえ攻撃した。この中ソ対立は,他の社会主義諸国家や国際共産主義運動にさまざまな影響を及ぼした。これは東ヨーロッパ諸国でのポズナニ事件・ハンガリー事件(いずれも1956年),あるいは1968年のチェコスロバキア事件などとともに,戦後の社会主義世界における過度のソ連中心主義にその理由を求めることができる。社会主義諸国の発展とともに必然的に高まってきた各国共産党のこの自主独立路線を,これからいかにとりまとめていくかが,ソ連の今後の課題であろう。〔喜多迅鷹〕

ソビエトえいが 【ソビエト映画】 ロシア映画の歴史は古く,1907年に映画製作が開始され,その後1917年までの10年間に約2,000本もの映画がつくられた。しかし,ソビエト映画の真の黎明(れいめい)は,1917年のロシア革命に続く国内戦の時代である。レーニン*が新しい映画づくりはフロニカから始まると語ったように,革命後ソビエト映画のにない手となったのは,国内戦に革命軍として参加して戦場を駆け巡ったしろうとカメラマンたち,すなわち,〈フロニカ〉(ニュース映画)と〈アギトカ〉(アジテーション映画)に従事した作家たちであった。そして1919年,新政権は映画産業の国有化を宣言した。

〈フロニカ〉出身のベルトフ*は,記録映画の優位を唱え,グループ〈キノ-グループ(映画眼)〉を結成して,ニュース映画を集大成した《キノ-プラウダ(映画真実)》を発表。また《これがロシアだ(カメラを持った男)》によって,記録の目が同時に作家の目であることを示した。一方,〈アギトカ〉出身のクレショフ*は,一場面の記録性よりもモンタージュ*によって創造される虚構性に着目した独自のモンタージュ論を提示した。この理論は,弟子(でし)プドフキン*に継承され,《母》などの劇映画に結実した。エイゼンシュテイン*は《戦艦ポチョムキン*》や《十月》などによってこの二つの潮流を総合しながら,プドフキンのモンタージュ論を越える新たな理論を展開,映画技法を方法論にまで高めた。そのほか,コージンツェフ・ユーケービッチらによって表現主義*的な実験が続けられ,ドブジェンコの《武器庫》などによって,民族的な伝統が歌い上げられた。このように,1920年代のソビエト映画は,エイゼンシュテインを筆頭とする多くのすぐれた映画作家の輩出によって,映画の表現思想が追究され,世界の映画史に大きな影響を与えた。

1932年,社会主義建設に参加する芸術家の統一組織〈ソビエト作家同盟*〉の結成が決定され,1934年の第1回大会で社会主義リアリズム*を基本路線とするという決議を採択。ワシリーエフ兄弟の《チャパーエフ》,

ジガンの《われらクロンシュタットより》，ロンムの《10月のレーニン》などは，この路線に呼応してつくられたすぐれた映画である。しかし，これらの作品に英雄譚(えいゆうたん)や単純な友情美談への傾斜のみられることはいなめない。〈社会主義的人間像の描出〉という名のもとに，1930年代の多くの映画は，類型的なパターンを描く教条主義へと陥りつつあった。特にナチス-ドイツの台頭以来，政治的緊張が映画のテーマを規定しはじめ，スターリン*によるスタニスラフスキー*の演劇論の過保護とあいまって，映画は演劇の複製化へと追いやられて衰退した。さらに1946年の〈ジダーノフ批判〉による文化引き締め政策によって，エイゼンシュテインをはじめ多くの作家が批判され，逆にチャウレリの《ベルリン陥落》のような硬直した個人崇拝映画が推賞されたりした。

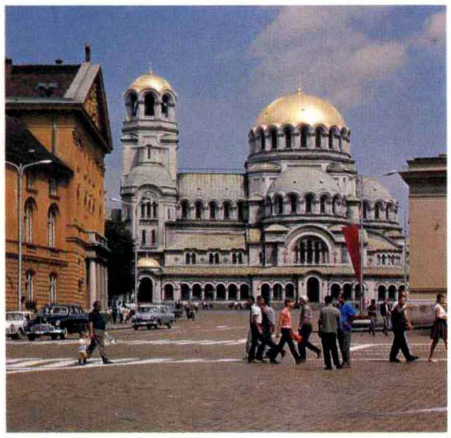
しかし，1956年から本格化した〈スターリン批判〉以来，いわゆる〈雪どけ映画〉とよばれる傾向の映画が登場。カラトーゾフの《戦争と貞操》やチュフライの《誓いの休暇》などには，英雄や類型でないいきいきとした社会主義国の人間像がはじめて形象化されようとしている。また，タルコフスキーの《ぼくの村は戦場だった》やゴンチャロフスキーの《最初の教師》など，新しい世代の思想を描き出そうとする作品もある。しかしながら，現代ソビエト映画はいまだ画期的な作品を生み出していず，ボンダルチュクの《戦争と平和》に代表されるように半ば風俗的な国際化が進む一方，ソビエト映画の真の栄光はいまだに1920年代の遺産にたよらざるをえないというのが現状である。〔波多野哲朗〕

ソビエトえんげき 【ソビエト演劇】 ⇨ロシア-ソビエト演劇

ソビエトおんがく 【ソビエト音楽】 ⇨ロシア-ソビエト音楽

ソビエトさっかどうめい 【ソビエト作家同盟】 1934年ゴーリキー*の指導のもとに設立されたソビエトの文学団体。それまで最大の文学グループであった〈ラップ*〉が，1930年代末には〈同盟者か敵か〉というスローガンのもとに，反対派の作家を圧迫するなど弊害をきたしたため，共産党は，全文学団体の解散を決定，社会主義建設に参加するすべての作家を集めた組織として〈ソビエト作家同盟〉を設立し，今日に至っている。社会主義リアリズム*をその指導原理とする。〔川端香男里〕

ソビエト-フィンランドせんそう 【ソビエト-フィンランド戦争】 1939～1940年，第2次世界大戦の開始に際して，ソ連とフィンランドの間に行なわれた戦争。1939年，ソ連はドイツ帝国主義の侵略に備えるため，フィンランドに相互援助条約を提議したが拒否され，さらに領土交換の提案をも拒絶された。一方，フィンランド政府はいわゆるマンネルハイム-ラインを強化し国境に軍隊を動員した。一連の小衝突ののち，両国は1939年11月30日開戦。12月末までにソ連軍はマンネルハイム-ラインに迫った。欧米諸国はソ連を侵略者として非難し，フィンランドに飛行機・武器をはじめ多数の資材を提供し，イギリス・フランスは遠征軍を準備した。翌年戦闘は再開され，ソ連軍がマンネルハイム-ラインを突破したため，フィンランド政府は交渉に応じ，1940年3月12日モスクワで休戦条約が結ばれた。この結果ソ連は北方の安全を強化し，戦略的地位を有利にした。〔山県弘志〕



ソフィア　市の中心部に立つアレクサンドルネフスキー教会。この付近には議事堂や大学などが集まっている

ソビエトぶんがく 【ソビエト文学】 ⇨ロシア-ソビエト文学

そぶ 【蘇武】 (？～BC60) 中国，漢の忠臣。武帝のとき匈奴(きょうど)への使者となり，単于(ぜんう)に降伏するよう説かれたが，説を屈せず抑留生活19年に及んだ。昭帝のとき，漢の使者が偽って，上林苑(じょうりんえん)(長安西方の庭園)で射落としたガンの足に結ばれた帛書(はくしょ)によって蘇武の生存を知ったので，ようよう帰還を許された。

ソファ [sofa] 休息やくつろぎに用いる長いす。安楽いす2個と組み合わせて，洋間の応接セットとすることが多い。形は座面だけのもの，背もたれのあるもの，左右にひじかけのあるものなどに分かれ，大きさは一般に2～3人掛け用が多く，幅は183～230cm，奥行き70～80cm，座面までの高さ40～50cm，ひじかけの高さ75cm前後である。また片ひじかけいす2個とひじかけのない安楽いすに分解できるユニット式のもの，背もたれを倒してベッドとするもの(ソファベッド)などもある。〔館古都子〕

ソフィア [Sofia] ブルガリアの首都。人口96万2,500(1974)。同国西部，ユーゴスラビアとの国境近く，イスキル川に沿う，海抜550mの地に位置する。この国の政治・経済の中心地であるとともにバルカン半島の交通の中心をなし，ユーゴスラビアのベオグラードやトルコのイスタンブールと鉄道で結ばれ，二つの空港もある。金属・機械器具の重工業や繊維・皮革の軽工業が盛んである。29年ローマ領となってセルジカとよばれて栄えたが，447年のフン族の侵入で破壊された。その後，809～1018年を除いて東ローマ帝国領となり，1386年から19世紀末まではトルコの支配下にあった。1879年ベリコチルノボから当時人口20,000にすぎなかったここに，この国の首都が移されてから発展した。ソフィア大学・工芸大学などがあり，聖ソフィア会堂などの古い建造物も残されている。〔梶川勇作〕

ソフィスト [sophist] ギリシア語で〈知者〉〈学者〉〈教師〉の意味であるが，一般には紀元前5世紀の後半アテナイを中心に活動した職業的教師たちをさす語として用いられている。彼らは当時アテナイを中心に発展してきたポリス*的社会を背景に，有能な市民としての徳や知識，特に弁論・修辞の術を報酬を取って教えながら，各地のポリスを巡歴した。代表的なソフィストとしては，はじめてこの名を自称したといわれるプロタゴラス*のほか，ゴルギアス*・プロディコス・ヒッピアスなどがいる。プロタゴラスの有名な命題〈人間は万物の尺度である〉が示すように，ソフィストは個々の人間の主観的・感覚的認識をそのまま真理とし，客観的・普遍的真理を否定する相対主義の思想を主張した。中にはゴルギアスのような懐疑主義的傾向を示すものも現われ，のちには弁論・修辞に励むよりもむしろ，言論をもてあそぶ論争をするものも出るようになり，ソフィストは〈詭弁(きべん)家〉などの蔑称(べっしょう)でよばれる。〔本橋正義〕

そぶえ 【祖父江(町)】 愛知県中島郡の町で，木曾(きそ)川に沿う。人口21,000。名古屋鉄道尾西(びさい)線の沿線にあり，一宮市・津島市とともに毛織物工業地帯の一部で，中小機業工業が多い。蔬菜(そさい)園芸・苗木・サボテン栽培など近郊農業も盛ん。

ソフォクレス ⇨ソポクレス

ソフトウェア [software] 機械や装置を利用する技術。特にコンピューターシステムの利用技術をいう。コンピューターの演算速度や大容量の記憶力など，機械的性能を最大限に利用するため，コンピューターに与える自動プログラミング用の各種の言語体系とその解釈または運転などの，プログラム技術のことである。また，コンピューターは大きなシステム(たとえば経営情報システム〔MIS〕)の中に織り込まれて使用されることが多いので，システムとコンピューターとの結びつき方のいかんがシステムの良否を大きく左右する。したがって，コンピューターの性能を比較するとき，ソフトウェアに重点を置いて考える必要がある。➔コンピューター〔小原啓義〕

ソフトクリーム ソフトアイスクリーム(soft ice cream)の略。原料を配合し，凍結機にかけるまでの製造工程は普通のアイスクリーム*と同じで，その後－4℃まで

温度を下げて半凍結の状態にしたもの。半凍結の形であるから乳製品中のビタミンを破壊することもなく，また過冷による乳たんぱく質の分解縮合も避けられる。過冷しないので甘味などが快く舌に感じられ，消化吸収もよい。

ソフトボール ［softball］ 野球*から生まれた球技。1900年ごろ，アメリカのシカゴではじめて行なわれたといわれる。野球を冬の間にも行なえるように工夫した，室内で行なうインドア-ベースボールであったがのちに野外でも行なわれた。ボールは，大きくて柔らかく，バットは細めのもので，野球とは違って球のスピードがおそく遠くまで飛びにくく，危険が少ないので狭い場所でもできるため，女子や子どもに愛好された。第2次世界大戦で世界各国に駐留したアメリカ軍によって急激に広まった。わが国には1920年(大正9)ごろ，はじめて紹介され，1926年には文部省が小・中学校の教授要目に採用し，全国で盛んに行なわれるようになった。1949年(昭和24)日本ソフトボール協会が設立されて日本体育協会に加盟し，1951年には国際ソフトボール協会に加盟した。1970年には日本で第2回世界女子ソフトボール選手権大会が行なわれ，日本チームが優勝した。

競技方法は野球とほとんど同じであるが，次のようにいくらかルールの異なる点がある。①試合回数は7回まで，②投手は投げる手を腰から上にあげてはならない，③走者は投手がボールを手から離すまで塁に触れていなければならないなど。〔鈴木美嶺〕

ソフホーズ ［sovkhoz］ ソ連における社会主義国営農場をいう。社会主義国家では土地その他の生産手段はすべて国家の所有であり，生産物もまた当然国有となる。従業員の賃金は国営の工業企業と同じく，すべて国家から支給される。歴史的には社会主義革命で没収した大地主の農場を国営化し，大規模な機械と高度の技術を駆使する大規模農業経営がいかに合理的であるかを農民に示して農業の集団化を推し進めるための模範農場として設置された。集団農場としてコルホーズ*が形成され，進展したのちも模範的農場としてコルホーズを指導し，援助する役割を果たしている。ソフホーズは自然的・地理的・経済的条件によって穀物・綿花・畜産・工業作物，その他の専門別に成立していることもあって，コルホーズに比較して機械の装備率，1人あたり収穫量ともにはるかに高いといわれている。〔常盤政治〕

ソプラノ ［soprano］ 声の最高音域でおもに女声のものをいう。標準的な音域はB—a′。その声の質により，ドラマチック-ソプラノ，リリック-ソプラノ，コロラトゥラ-ソプラノというように区別することがある。また変声前の少年の声の最も高いものをボーイ-ソプラノという。なお，楽器や声部の名称として用いることもある。


ソポクレス

ソープレスソープ ［soapless soap］ 広義には油脂を原料とせずに合成される合成洗剤全体をさすが，狭義にはアルキルベンゼンスルホン酸塩をさす。➔界面活性剤 ➔合成洗剤

ソブレーロ ［Ascanio Sobrero］ (1812〜1888) イタリアの化学者。トリノ工科大学教授。1847年グリセリンに硝酸を作用させ，爆発性物質のニトログリセリン*を得た。この物質はまもなくノーベル*によって工業的に製造されるに至り，ダイナマイトとして利用された。

そぼうき **【粗紡機】** 紡績工程において梳綿(そめん)・練篠(れんじょう)を経たものをあらかじめ太い糸に紡ぐ機械。繊維はほぼ平行に並び精紡しやすい形となっている。

そほうのうぎょう **【粗放農業】** 土地に投下される資本と労働力が低く，単位面積あたりの収穫が少ない農業経営をいい，集約農業*に対する。熱帯における焼き畑などの原始的農法や新大陸の半乾燥地域における大形機械による大規模な穀作農業はこの例である。

そぼかたむきこくていこうえん **【祖母傾国定公園】** 大分・宮崎県境にある祖母山*(1,758 m)と傾山(1,605 m)を中心とする山地と，五ケ瀬川上流部の高千穂峡とを含む面積220km^2の地域で，1965年(昭和40)に指定された。前記2山のほかに本谷山(1,643 m)・夏木山(1,386 m)・鬼ノ目山(1,491m)などの高峰が連なり，雄大峻嶮(しゅんけん)の山岳美で名高い。高千穂峡は五ケ瀬川が九州山地を刻んだもので，峡谷は深く水が清い。付近には天岩戸(あまのいわと)の洞窟(どうくつ)やくしふるの峰など，高天原(たかまがはら)や天孫降臨の伝説にまつわる多くの史跡がある。日豊本線延岡(宮崎県)，豊肥本線竹田(大分県)が観光の基地となる。〔木村東一郎〕

ソポクレス ［Sophokles］ (BC496ごろ〜BC406) 古代ギリシアの三大悲劇詩人の一人。アイスキュロス*のあとを受けて悲劇の古典的な完成を果たした。ギリシア古典文化の黄金時代を具現した最もギリシア的な人物といえる。アテナイの郊外コロノスの富裕階級に生まれた。天賦の美貌(びぼう)と才能の芽ばえは幼少時代からすばらしく，BC480年のサラミスの海戦勝利の祝賀祭では，少年舞踊団の長をつとめたといわれる。BC468年の悲劇競演の際，先輩アイスキュロスを破って初優勝を飾って以来，123編の悲劇を書き，24回優勝したといわれる。政治家としての活躍もはなばなしく，BC442年にデロス同盟の財務官に，BC440年にはペリクレス*とともに指揮官職についた。またペロポネソス戦争末期のアテナイ内政の激動期においても最高委員に選ばれた。悲劇の大部分は散佚(さんいつ)したが，《アイアス》《アンチゴネー》《オイディプス王》《エレクトラ》《トラキスの女たち》《ピロクテテス》《コロノスのオイディプス》の7編，および不完全ながらほぼ復元されたサチュロス劇《追跡者》と多くの断片が残っている。現存する7編はいずれも50歳を過ぎた円熟期の作品といわれる。初期にはアイスキュロスふうの壮大な作風であったらしいが，円熟期には誇張したことばづかいを避け，登場人物の性格と文体を一致させた。その性格は互いに対立抗争するもので，破滅に至る必然的な過程を巧みな対話で導き，さらに要所に伏線を張り巡らして悲劇的効果を高めている。人間は単なる立場の奴隷ではなく，個々の人間の中には取り去ることも分かち合うこともできない中核的な力があり，それが運命的な力として人々に行為を迫り，また破滅に導いていくという人間観がそこにみられる。彼はまた上演形式にもくふうを凝らし，合唱隊の人数を12人から15人に増加し，俳優を2人から3人に増し，背景画を採用したと伝えられる。〔久保正彰〕

そぼさん **【祖母山】** 大分・宮崎・熊本の3県にまたがってそびえる山。標高1,758 m。大分・宮崎の県境をなしてほぼ東西に連なる祖母・傾両山地の西端に位置する九州山地の最高峰である。山腹は樹林におおわれ，クマ・カモシカ・ヤマネ・ムササビなどが生息する。祖母傾国定公園*に属する。

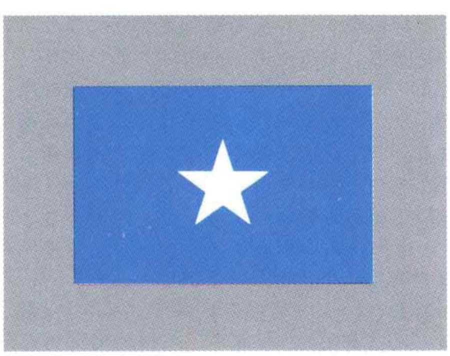
そぼろ おぼろ*のやや荒いもの。タラ・タイ・ヒラメ・ホウボウなど白身の魚を用い，たいでんぶ・たいみそなどの主原料となる。ゆでた魚の身をほぐして水にさらして圧搾し，熱したかまの中で攪拌(かくはん)・粉砕しながら乾燥してつくる。牛肉やウズラ・小ガモのひき肉をみりん・しょうゆ・酒で煮上げた鳥獣肉のそぼろもある。

そまくしゃ **【蘇莫者】** 雅楽の曲名。《蘇幕遮》《蘇莫遮》とも書く。中国由来の左方(唐楽)の系統に属し，盤渉(ばんしき)調，中曲，早只(はやただ)八拍子。舞人1人の舞がつく。舞台の端で龍笛(りゅうてき)奏者が乱声(らんじょう)を独奏し，合奏を導いて，山の神の舞の伴奏をする。

ソマリア(民主共和国) ［Democratic Republic of Somalia］ アフリカ大陸東端に位置する共和国。北はアデン湾，東はインド洋に面し，西はエチオピア東部に接する。面積63万7,657km^2，人口365万(1978年推)。首都モガジシオ。



ソマリア



ソマリアの国旗　1954年，当時この地の信託統治にあたっていたイタリアによって承認された。白い五稜星は五つの地方を示すといわれ，青は国連旗からとったものである



ソマリア　首都モガジシオ付近の海岸に残るアラビア人の使っていた建物の廃墟。かつてはここへ武器や兵員が運ばれた

【自然・住民】国土の大部分が砂漠（さばく）であるが，インド洋岸に延びる平野の河川地域では農業が営まれる。住民の80％をエチオピア系の黒人ソマリ族*が占め，回教を信仰し，公用語はソマリ語，アラビア語を併用。

【産業・経済】ソマリ族はラクダ・ヒツジ・ヤギを飼育する遊牧を生業とし，わずかに北部海岸地域で塩・コーヒー・皮革などを，1,000mを越える山地からなる南部ではプランテーション*などによって，樹脂・ゴム・綿・果実類を生産している。

【歴史・政治】古くは強大な勢力を誇ったソマリ族の王国として栄え，首都モガジシオは，アラビア人によって建設された港である。15世紀初めに，中国の明（みん）の鄭和*（ていわ）の遠征隊が別動隊をここに派遣したことが中国の記録にも記されている。北部は1886年以来イギリスの植民地となり，南部は1889年以後イタリアの保護領となっていた。第2次世界大戦後，1949年に南部はイタリアの信託統治領となり，1960年に両者は合併して独立しソマリア共和国となった。

さらにエチオピア領内に住むソマリ族を合わせて大ソマリアを樹立しようという民族主義運動も起こっているが，独立後恒常的な赤字を続ける財政の建てなおしと，国民の経済的貧困の解消が目前の問題とされている。〔小栗　宏〕

ソマリぞく　【ソマリ族】北東アフリカのインド洋に面した砂漠（さばく）地帯に住む遊牧民で，おもにラクダとウシを飼育し一部では農耕も行なう。人口100万～数十万。高身長・かっ色・縮毛のエチオピア人種でハム語族に属し，クシ語を用いる。また発達した氏族組織と首長制をもつ回教徒でもあり，大ソマリア主義を唱え，エチオピアやケニアとは緊張した関係が続いている。

そまんじゅ　【蘇曼殊】（1884～1918）中国，清（しん）代末期から民国初年にかけて活躍した詩人。曼殊は号，本名は玄瑛（げんえい）。広州の人というが，日本人と中国婦人との混血児として横浜に生まれたという説が有力。詩に巧みで，バイロン・シェリーらの紹介に努め，絵もよくした。さらに僧となって梵文（ぼんぶん）を学び，日本にいては中国の革命家と交際，また東南アジア各地を放浪するなど，数奇な生涯（しょうがい）を送った。《曼殊全集》があるが，代表作は小説《断鴻零雁記（だんこうれいがんき）》。〔今村与志雄〕

そみつは　【疎密波】⇨波動

そみんしょうらい　【蘇民将来】護符*の一種。《釈日本紀》所引の《備後風土記（びんごふどき）》に，金持ちの巨旦（きょたん）将来は旅に飢えた神に宿を貸さなかったために滅び，貧しい兄の蘇民将来は神に宿を貸し礼として〈蘇民将来子孫〉と記した茅（ち）の輪（チガヤを束ねて紙で包み輪としたもの）を贈られて栄えたと記されている。この茅の輪が蘇民



蘇民将来　門戸や家内に置いて，除災開運を祈願する信濃国分寺の六角柱の蘇民将来

将来の起源とされ，後世に〈蘇民将来子孫〉と記した木製の6角ないし8角形の短い棒を小正月に社寺で分与したり，〈蘇民将来子孫の宿〉と書いた守札を門口にはって疫病よけとしたり，この守札を田畑に立てて作物の害虫よけのまじないとすることが行なわれている。京都の八坂神社*や長野県上田市の信濃(しなの)国分寺などは，蘇民将来の護符を出すので有名である。〔直江広治〕

そめいよしの【染井吉野】 双子葉植物・バラ科。サクラ*の一種で，江戸時代の末に，東京の染井の植木屋によって広められた。並み木や庭木に利用されている落葉高木。高さ10mに達する。葉は緑色の倒卵形で，長さ10cm，幅5cm，側脈は10～17対。葉の裏面や葉柄に毛があり，葉身の基部には2個の蜜腺(みつせん)がある。花期は3～4月で葉の出るまえに開花する。花は白桃色で，花柄・がく・花柱に毛がある。果実は直径7～8mmで黒紫色に熟する。エドヒガンとオオシマザクラの雑種と考えられている。➔サクラ

そめつけ【染付】 白磁*の釉(うわぐすり)の下にコバルト顔料で下絵付した磁器。白色の胎土を成形して呉須(ごす)(コバルトを主成分とする鉱物)絵の具で文様を描き，その上に透明性の白釉(はくゆう)をかけて高火度(1,200～1,350℃)の還元炎で焼成すると，白地に鮮明な青の文様が浮かび上がる。この染付磁は代表的な釉裏彩磁で，銅を顔料とする釉裏紅磁とともに元時代に，中国江西省の景徳鎮窯*で創始され，明(みん)時代に開発された赤絵とともに明・清(しん)時代に大いに隆盛し，主流を占めた。また，景徳鎮窯も両技法と官窯の設立とがあいまって，中国のこの時期の優品の大部分を生産し，他の諸窯は陰に隠れた感がある。染付磁はすでに元時代に長足の進歩を遂げ，末期には完成された技法をみせ，その鋭く重厚な作品は近年になって特に声価が高い。その後，明代初期の宣徳年間には白玉のような白磁に雅味の深い青の文様が浮かんで，いっそう洗練され，技術の熟練と表現内容の深さが合致している。

朝鮮では，李(り)朝時代世宗朝(15世紀中葉)に京畿(けいき)道広州郡に官窯が設けられ，中国から技術を導入して染付を焼成しはじめた。特に，文様絵付には専門絵師が加わったと伝えられ，顔料の不足もあってか，簡略な草花・魚などの文様が描かれ，静寂で瀟洒(しょうしゃ)なすぐれた染付磁となっている。

わが国では，江戸初期の1616年(元和2)に朝鮮からの帰化陶工李参平(➔有田焼)によってはじめて肥前(佐賀県)有田で白磁が焼かれ，染付焼造も始まった。また，安南では元染付ふうの様式をうつした作品を焼いており，14世紀にはすでに始まっていたらしい。特に，太和8年銘の元風の《染付牡丹唐草文瓶(ぼたんからくさもんへい)》は当時の中国染付磁を考えるうえでも重要な資料となっている。〔矢部良明〕



染　付《染付山水文大鉢》(伊万里) 江戸時代 東京国立博物館蔵

そもうおりもの【梳毛織物】 梳毛糸を用いた織物。➔毛織物

そもん【素問】 現存する中国最古の医書。普通は《黄帝内経素問》とよばれている。《漢書》に《黄帝内経》の名が記されており，これが前漢の作であるのに対し，《素問》には，六朝(りくちょう)前期と思われるものも含まれているので，《黄帝内経》と《素問》は別本と考えられる。本書の内容は人体の生理・病理・診断・治療・養生などにわたった当時の医学全書の観があるが，その治療法は鍼灸(しんきゅう)と瀉血(しゃけつ)がおもで，薬についての記述はきわめて少ない。〔丸山昌朗〕

ソユーズ［Soyuz］ ソ連の宇宙ステーション。アメリカのアポロ船に匹敵するもの。写真から推定すると長さ10m，直径3m，重さは5.3t。作業室と休養室のある球形の軌道船，3人分の座席のある円錐(えんすい)形の司令船，機械船の3部分からなり，司令船だけが回収される。内部は1気圧の空気で満たされ，ゆったりした生活ができる。食料・水・空気は30日分が積める。ソユーズ1号は1967年4月コマロフ大佐だけを乗せて打ち上げられたが，回収の際パラシュートの故障のため不幸にも大佐は墜死した。翌1968年10月には無人の2，3号がランデブーに，1969年1月には有人の4号と5号がドッキングに成功した。宇宙ステーションどうしのドッキングはこれが最初である。ソユーズは〈連邦〉の意。〔原田三夫〕

そ・よう・ちょう【租・庸・調】 律令(りつりょう)制における主要な3種の税をいい，また律令時代の租税の代名詞のようにも使われる。租は土地で口分田*1段(約9.9アール)につき稲2束2把(わ)を定められた。706年(慶雲3)これを1束5把と改定したが，はかりが異なるだけで実量に差はなかった。いずれにしても租は収穫量(前者の場合73束，後者の場合50束)の3％にすぎないから，さして重い負担とはいえない(1段の標準収穫量140kg，租は4.2kg)。庸は年間10日中央へ出かけていって政府諸官衙(かんが)の雑役に奉仕する義務(歳役の代わりに布を代納する税)で正丁*(21～60歳の身体健全な男子)に主として課せられた人頭税である。地方の正丁は1人につき布2丈6尺(約79m)を納めさせ，これを調とともに都へ運ばせ，中央ではこの庸布を賃金として周辺の農民を強制雇用した。これを雇役という。調とは各地の特産品を一定量納めさせるもので，庸と同様正丁を中心に賦課された。それは絹・絁(あしぎぬ)・布(麻布が主)・糸(絹糸)・綿(真綿)をはじめとし各種海産物に及ぶ広範囲なもので，別に付加税として副物(そえもの)がいろいろと課せられた。このうち，人頭税である庸・調は中央政府に送られて，その主要な財源となったから，その運搬も庸・調を出す家の義務であったが，これも人民にとっては大きな負担となった(《延喜式》の規では陸奥(むつ)〔東北地方〕と京都との往復に75日を要した)。なお，租は各国にたくわえられて地方の財源にあてられた。〔黛　弘道〕

そら【曾良】 (1649～1710) 江戸前期の俳人。本名岩波庄右衛門正字(しょうえもんまさたか)，のち河合惣五郎(かわいそうごろう)。信州(長野県)上諏訪(かみすわ)の生まれ。伊勢(いせ)(三重県)長島藩に仕えたが，浪人として江戸に出，1685年(貞享2)ごろ芭蕉*(ばしょう)に入門。芭蕉の《鹿島(かしま)紀行》の旅，《奥の細道*》の旅に同行。《奥の細道》の研究に貴重な資料《曾良随行日記》を残した。後年，幕府の巡国使に加わり，壱岐(いき)(長崎県)に客死。

ゾラ［Emile Zola］ (1840～1902) フランスの小説家。イタリア系の土木技師を父に，北フランスの貧しいガラス職人の娘を母としてパリに生まれた。早くから社会の暗黒面になじみ，貧しい者や弱い者への共感の目を備えた。苦学しつつ文学に志して，長編叙事詩《愛劇》を書いたが，そのロマン主義は世人に顧みられず，出版社に勤務，多くの文学者と交わり，自然主義の台頭を知った。その後，コント*の実証主義，クロード-ベルナールやダーウィン*の科学思想，テーヌ*の文学論などに強い影響を受け，自己の文学理論を形成。1867年最初の自然主義的作品《テレーズ-ラカン》を発表，自信を深め，バルザック*の《人間喜劇*》に比すべき大作品の構想をいだいた。これが《ルーゴン-マッカール叢書(そうしょ)》である。《居酒屋*》《ナナ*》をはじめ，《ジェルミナール》《大地》《獣人》などの作品はすべてこの叢書に属し，下層庶民への愛情・共感に満ちた一大叙事詩的な社会小説群をなしモーパッサン*らも含め自然主義の黄金期を築いた。ゾラの文学論《実験小説論*》は，彼自身の小説の意図を明瞭(めいりょう)に伝えている。政治・社会面での活躍としては，ドレフュス事件*に際し，ドレフュスの無罪を信じて大統領にあてたパンフレット《私は弾劾する》が，ドレフュス再審への道を切り開いたことがあげられる。ほかに《三都市叢書》《四福音書》

などがある。〔池田公麿〕

そらいろ【空色】色名。晴れた空のような色，すなわち，淡い青色をさす。空の色は場所・季節・時間・天候などによって相違するから，一定の色をあてるのはむずかしいが，ふつう，いわゆる晴れた空の色として，淡い青色としても誤りではないであろう。空色と同じような〈空の色〉としては，スカイ-ブルー(sky blue)・セルリアン-ブルー(cerulean blue)がある。スカイ-ブルーは日本工業規格(JIS)で空色の代わりに用いてもよいとしており，セルリアン-ブルーは絵の具(顔料)の名称として人人に親しまれている。日本工業規格慣用色名〈空色(スカイ-ブルー)〉は，色相9.5B，明度7.0，彩度5.5の色と規定されている。➔色〔武井邦彦〕

ソラタ(山)［Sorata］南アメリカ，ボリビアの西部，アンデス山脈中のオリエンタル山脈の最高峰。イヤンプー山ともいう。チチカカ湖の東方，首都ラパスの北西約100kmにあり，南北2峰よりなる。北峰をアンコウマ(標高6,428m)，南峰をイヤンプー(標高6,362m)といい，ともに万年雪におおわれ，雄大な山容で知られる。

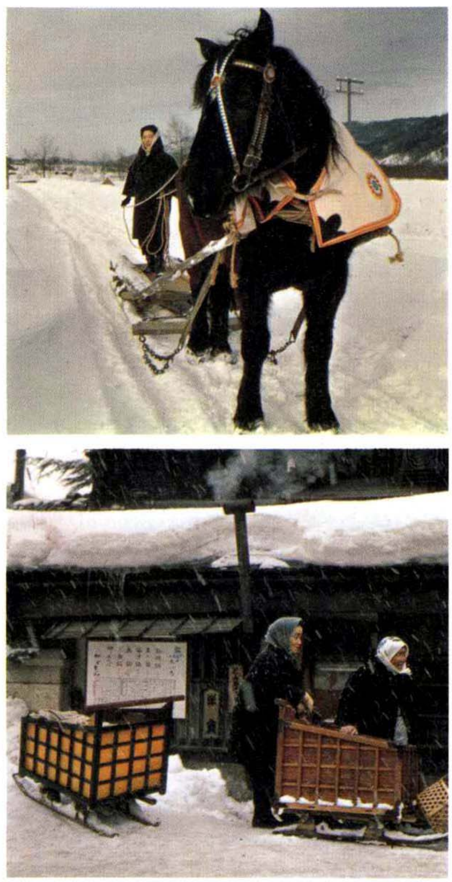
そらち【空知(支庁)】北海道14支庁の一。石狩川の中流流域にあたる石狩平野の大半と，その周辺山地を含む。4郡(16町1村)に分かれ，面積6,586km²，人口**13万0,000**。北海道の中枢地帯の一角を占め，庁舎所在地は岩見沢市。主産業は農業と鉱業で，岩見沢市・美唄(びばい)市・深川市などの周辺部に水田が広がり，東隣の上川支庁管内の盆地とともに穀倉地帯を形成する。畑作物としてはジャガイモ・ナタネのほかアスパラガス・ユリ根・メロンの特産があり，また，リンゴも栽培される。市部の多くは石狩炭田の主要炭鉱地帯に含まれ，近年は石炭産業の斜陽化のために，人口の減少が目だっている。〔浅井得一〕

そらとぶえんばん【空飛ぶ円盤】未確認飛行物体(Unidentified Flying Objects略してUFO)あるいは空飛ぶ受けざらなどともよばれる。最初の報告は1947年アメリカの実業家アーノルドが，レーニア山国立公園近くの上空でコップの受けざら状物体を見たというもの。以後報告は増加し，多数の写真も写された。国防上の見地もあって，アメリカ空軍その他の調査団が綿密な調査・検討を行なったが，大部分は気球・飛行機・鳥群・流星，あるいは光の反射や大気中の光学的現象であった。

ソラニン［solanine］ジャガイモの発芽のとき生成するアルカロイド配糖体の一種。毒性が強いため貯蔵したジャガイモ中のソラニンによって食中毒を起こすことがある。ソラニンの塩酸塩はぜんそくやてんかんなどの医薬品として，また殺虫用の農薬として利用されることがある。近年ジャガイモの発芽を防ぐため放射線を照射してソラニンの生成を阻止する研究が行なわれ，実用化の段階にはいっている。



ソラマメ



そ　り　(上)馬そり　畜力による木材・石材など重量物の運搬用　北海道　(下)箱ぞり　人力による軽量物の運搬用　秋田県

そらまめ【蚕豆】双子葉植物・マメ科の越年草。茎は直立して，高さ60～200cm，断面は四角状。葉は互生し，2～6対の小葉からなる羽状複葉で，小葉は長さ5～10cmの長楕円(ちょうだえん)形。春，葉腋(ようえき)に長さ2～3cmの白ないし白紫色の蝶形花(ちょうがたか)を総状花序につける。開花結実すると緑色で扁円筒(へんえんとう)形のさやをつくり，腎臓(じんぞう)形の扁平な種子を2～8個含む。さやは長さ5cmくらいで大きな種子を少数含むものから15cmくらいの細長いものに小さい種子を多数含むものまで品種が多い。種子は未熟のうちは淡緑であるが，成熟すると緑かっ色ないし赤かっ色となる。原産は北アフリカで，わが国へは中国から17世紀に導入されているが，明治になってからは欧米の品種がはいった。適度に降雨のある温暖地帯に適し，ふつう秋種子をまいて，翌春収穫する。未熟な種子は野菜として，ゆでて調理するが，完熟した種子は他の乾燥豆類と同様に扱われ，特に菓子あんの原料や，いり豆に加工される。また，茎葉は青刈り緑肥や飼料に用いる。〔松本正雄〕

そらまめぞうむし【蚕豆象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・マメゾウムシ科。体長4.5～5.0mm。体はほぼ楕円(だえん)形で黒色，触角の基部4節と前脚の大部分は赤かっ色。頭部は灰白色ないし灰黄色毛を密に装う。前胸背板は全面に灰黄色ないし灰かっ色毛を装う。鞘翅には各10条の縦溝(じゅうこう)があり，灰かっ色ないし黒かっ色毛を装う。ほとんど全世界に分布し，ソラマメの子実を食害する害虫。日本には，大正の末ごろ種子とともに侵入したと考えられており，現在では日本のソラマメ栽培地帯のほとんどすべてに発生している。卵は乳白色で光沢のある紡錘形で，5月ごろ若いさやの表面に産下される。約12日で孵化(ふか)し，さやを通って子実に侵入する。幼虫は，腹部が著しく肥大して腹側に曲がっている。発生は年1回，成虫は7月下旬から9月下旬にかけて出現し，成虫態で越冬する。〔鈴木邦雄〕

ソーランぶし【ソーラン節】北海道の民謡。ニシン漁のときに網にかかった魚をすくい上げながら歌う歌で，《沖揚音頭(おきあげおんど)》といわれていたが，その掛け声から現在のよび名が生まれた。元来は労働歌であるが，第2次世界大戦後，三味線(しゃみせん)伴奏つきでお座敷で歌われるようになり，流行歌となった。

そり【橇】氷雪・泥土(でいど)・傾斜面などを滑走するための用具。滑走履物具(はきもの)と滑走運搬具とに大別できる。滑走履物具は，人間が足におおって滑走するもので，スキー伝来以前の伝統的な滑走具である。山ぞり(先端をそり曲げた木沓(きぐつ)状の1対の滑走具)や板ぞり(長さ1mほどの1片の滑走具で，両足をこれに乗せて滑走する)などがこれに属する。滑走運搬具は，人間や物資を積み，人力・畜力を利用して滑走するもので，氷雪上を引く雪ぞり，泥土上を引く土ぞり，丸太を敷き並べた上を引く木ぞりなどがこれに属するが，形状などによって箱ぞり・腰掛けぞり・馬ぞりなどがある。そりは日本では東北・北海道のような積雪地に，また世界各地の積雪寒冷地域において冬季の交通・運搬具として各種のものが使用されている。なお，そりがもとになって生まれたボブスレー*やリュージュ*はスピード感あふれる冬のスポーツとして人気がある。〔直江広治〕

そりはししぎ 【石嘴鷸】 鳥類・シギ科。全長23cm前後で，体はキアシシギよりやや小形であるが，くちばしは4～5cmと少し長く，上にそり返っている。上背面は灰かっ色で，飛ぶと翼に白帯が出る。下面は白色。春・秋に渡来し，干潟(ひがた)や川原に数は多くないが普通にみられ，活発に採食する。〈ピリピリピリ〉と美しい声で鳴く。



ソリハシシギ

そりゅうし 【素粒子】 自然界をつくっている，最も基本的な粒子。原子の中にあって原子核の周囲を回っている電子，原子核をつくっている陽子および中性子，また光をつくっている光子，湯川秀樹(ひでき)によって予言されたπ中間子などは素粒子の代表例である。しかし，第2次世界大戦後の実験技術の進歩に伴い，続々と新しい素粒子が発見され，その結果現在は非常に多種類の素粒子の存在が確認されている。

【素粒子の崩壊と素粒子反応】これらの素粒子は，それぞれ固有の質量・スピン・荷電をもっており，また，その大部分はきわめて不安定で，短時間のうちに，より質量の軽いいくつかの素粒子に変化する。これを素粒子の崩壊とよんでいる。素粒子を単独に取り出したとき，崩壊しない安定な素粒子は，陽子・電子・光子・ニュートリノ，および，それらの反粒子のみである。素粒子どうしが衝突すると一般にそれらの間に散乱が生ずるが，この際，入射した素粒子が別の素粒子に変化したり，また特に，高エネルギーの衝突においては多数の素粒子が新たに生成する現象が起こる。衝突に伴うこのような現象は素粒子反応とよばれ，最近発見された多くの素粒子は，そのほとんどが，加速器によって高エネルギーを得た素粒子を，物質内の他の素粒子に衝突させた結果新たにつくり出されたものである。

【相互作用】素粒子反応および素粒子の崩壊現象は素粒子間に相互作用とよばれるものが存在することによって生じると考えられ，相互作用の強弱は，素粒子反応の強弱に，また素粒子の崩壊時間の短い，長いに対応している。このような相互作用は，その強さの程度に応じて，強い相互作用，弱い相互作用，電磁相互作用，重力相互作用の4種類に分類される。ただし重力相互作用は，きわめて微弱であるため，実際上は無視されうるものである。電磁相互作用は，荷電をもった素粒子と光子の間に存在し，その強さは，強弱二つの相互作用の中間に位する。この相互作用によって，光子は荷電粒子から放出，または荷電粒子へ吸収されるという現象を起こす。一方，弱い相互作用は，光子を除くすべての素粒子間に存在する普遍的な相互作用と考えられている。中性子のβ崩壊や，μ中間子(単にμ粒子ともいう)の崩壊などは弱い相互作用の例である。しかし，強い相互作用にはこのような普遍性は存在せず，その有無によって，粒子を除くすべての素粒子は二つの族に分類される。

【レプトン族の素粒子】軽粒子族または，レプトン族といわれるものは，強い相互作用をしない素粒子の一群であって，表-1に掲げたような2種類のニュートリノ，電子・μ中間子，およびそれらの反粒子である。ここで質量は，相対性理論に基づいてエネルギーに換算した，10^6電子ボルト(MeV)を単位とする値であって，1MeVは電子の静止質量9.1083×10^{-28}gの約1.96倍にあたる。また±記号は荷電の正負を示し，その絶対値は1.60206×10^{-19}クーロンである。通常，レプトン族に属する素粒子を総称して軽粒子またはレプトンとよび，これらの粒子に関しては，(e^-の個数＋ν_eの個数)－(e^+の個数＋$\tilde{\nu}_e$の個数)，および(μ^-の個数＋ν_μの個数)－(μ^+の個数＋$\tilde{\nu}_\mu$の個数)がそれぞれ崩壊および素粒子反応の前後で変わらないことが知られている。

【ハドロン族の素粒子】光子およびレプトンを除くすべての素粒子はハドロンとよばれ，これらは相互に強い相互作用を行なうものであって，その全体はハドロン族を形成する。現在まできわめて多種類のハドロンがすでに発見されているが，それらはさらに，スピンの整数・半整数に応じて，中間子族・重粒子族に分類される。重粒子族には重粒子および反重粒子が属し，崩壊および素粒子反応の前後で，N_B≡(重粒子数)

表-1 レプトン族の素粒子

	記号 粒子	記号 反粒子	スピン	質量 (MeV)	平均寿命 (秒)
e-ニュートリノ	ν_e	$\tilde{\nu}_e$	½	0	安定
μ-ニュートリノ	ν_μ	$\tilde{\nu}_\mu$	½	0	安定
電子	e^-	e^+	½	0.511	安定
μ中間子	μ^-	μ^+	½	105.66	$(2.1983\pm0.0008)\times10^{-6}$

表-2 ハドロン族の素粒子の例

		記号 粒子	記号 反粒子	スピン	質量 (MeV)	I	N_B 粒子	N_B 反粒子	Y 粒子	Y 反粒子	平均寿命 (秒)
中間子	π中間子	π^0	π^0	0	135.0	1	0	0	0	0	$(0.89\pm0.18)\times10^{-16}$
		π^+	π^-		139.6		0	0	0	0	$(2.604\pm0.007)\times10^{-8}$
	K中間子	K^+	K^-	0	493.8	½	0	0	1	−1	$(1.234\pm0.004)\times10^{-8}$
		K^0	$\tilde{K}^0$		497.8		0	0	1	−1	K_S^0;$(0.862\pm0.06)\times10^{-10}$ K_L^0;$(5.29\pm0.15)\times10^{-8}$
重粒子	陽子	p	$\tilde{p}$	½	938.3	½	1	−1	1	−1	安定
	中性子	n	$\tilde{n}$		939.6		1	−1	1	−1	$(0.96\pm0.04)\times10^3$
	Λ粒子	Λ	$\tilde{\Lambda}$	½	1115.6	0	1	−1	0	0	2.52×10^{-10}
	Σ粒子	Σ^+	$\tilde{\Sigma}^+$	½	1189.4	1	1	−1	0	0	$(0.810\pm0.013)\times10^{-10}$
		Σ^0	$\tilde{\Sigma}^0$		1192.5		1	−1	0	0	$<1.0\times10^{-14}$
		Σ^-	$\tilde{\Sigma}^-$		1197.4		1	−1	0	0	$(1.64\pm0.06)\times10^{-10}$
	Ξ粒子	Ξ^0	$\tilde{\Xi}^0$	½	1314.7	½	1	−1	−1	1	$(3.03\pm0.18)\times10^{-10}$
		Ξ^-	$\tilde{\Xi}^-$		1321.3		1	−1	−1	1	$(1.66\pm0.04)\times10^{-10}$
	Ω粒子	Ω^-	$\tilde{\Omega}^-$	3/2	1672	0	1	−1	−2	2	$1.3^{+0.4}_{-0.3}\times10^{-10}$

ー(反重粒子数)が不変であることが知られている。これを重粒子の保存則という。表-2には比較的質量の軽いハドロンの例が掲げてある。ハドロン族ではこの表にみられるように，質量の近いところにいくつかの素粒子が組みをなして存在する。このような組みをアイソ多重項とよび，アイソスピンIの値によって特徴づけられる。アイソスピンは，アイソ空間とよぶ仮想的三次元空間内での回転角運動量に相当するもので，０，½，１，3/2，……などの値をとり，一つのアイソ多重項に属するそれぞれのハドロンは，その第３成分I_3の固有状態にある。たとえば，π^+，π^0，π^-のそれぞれのI_3の値は１，０，－１，である。さらに，ハドロンは固有のハイパー-チャージＹをもっており，電磁相互作用および強い相互作用のみを媒介とする素粒子反応の前後では，各ハドロンのＹの総和は不変であることが知られている。この不変性は，弱い相互作用では破られ，そのときの変化量は$\triangle Y=0$，± 1によって特徴づけられる。ハドロンの荷電を電子荷電の絶対値を単位としてはかり，これをＱとするとき，$Q=I_3+Y/2$がなりたつ。またハドロン間の弱い相互作用，電磁相互作用を無視した強い相互作用のみの世界では，荷電独立性なる性質が存在することが知られており，これらハドロンの現象論は，中野・西島・ゲル-マンの法則(1954)によって統一的に記述することができる。

〔光子〕素粒子の世界にあっては，光子のみはきわめて特異な地位にあって，これと類似の性質を示す素粒子は他に存在しない。光子は通常，γをもって記され，その質量は０，スピン１の安定な粒子である。光子・電子間の電磁相互作用の理論に関しては，量子電気力学*に基づいて，いちおうの完成をみるに至ったが，素粒子間の全般的な相互作用，特にハドロン間の相互作用の理論的な解明は，今後の課題として残されている。なお，現在素粒子といわれているものが，はたして自然界を構成する究極の要素であるかどうかは，必ずしも明らかではなく，これら多種類の素粒子は，少数のより基本的な粒子の適当な結合によって構成されているという考えも提唱されている。〔大貫義郎〕

ソリュートレぶんか【ソリュートレ文化】南フランス，ソリュートレの遺跡に代表される後期旧石器時代中葉の文化。押圧剝離(はくり)のゲッケイジュの葉形石やりが有名である。この時期に動物を捕えるための落とし穴やわなが考案されており，遺物にはマンモス・トナカイ・クマなどの骨を伴う。この文化はその分布がフランス南西部・北スペイン・オーストリア・ポーランド・ハンガリーに限定されている。



ソリュートレ文化　ソリュートレ遺跡出土，月桂樹葉形石槍　サン-ジェルマン美術館蔵



ソールズベリ　市街中心部の概観。整然と区画された近代的都市で，広い道路が従横に走り，高層建築も目だつ

ゾリンゲン　［Solingen］西ドイツ西部，ノルトライン-ウェストファーレン州にある工業都市。人口17万2,000(1975)。ジュッセルドルフの東南東23kmにあたる。ルール炭田に近く，中世から刀剣の生産で知られ，〈ドイツのシェフィールド〉とよばれてナイフ・はさみ・かみそりなど刃物の生産で名高い。その他，機械工業も盛んである。1600年までベルク公領に属したが，1815年プロシア領となり，1929年に周辺の３町を合併して市域が拡大した。〔梶川勇作〕

ゾル　［sol］一般にはコロイド粒子が液体中に分布している状態をいい，懸濁質と乳濁質の総称。広義には，コロイド粒子が気体を分散媒とするエーロゾル，コロイド粒子が固体中に分散した固体ゾルもゾルとして取り扱われる。分散媒が水のときはヒドロゾル，有機溶媒であるときはオルガノゾルという。ゾルの生成法には，機械的粉砕などのような分散法と，小分子の溶液を原料としてこれらを凝縮する凝縮法がよく用いられる。➔コロイド

ゾルゲじけん【ゾルゲ事件】1941年(昭和16)10月太平洋戦争直前に発覚した国際スパイ事件。駐日ドイツ大使館顧問リヒアルト-ゾルゲと尾崎秀実*(ほつみ)ら多数がスパイ容疑で検挙され，国防保安法・治安維持法・軍機保護法違反で起訴された。尾崎は朝日新聞社上海(シャンハイ)特派員時代，コミンテルン(➔インターナショナル)の極東代表ゾルゲと連絡して，日本帝国主義の活動に関する情報を集め，国際共産党諜報(ちょうほう)機関に提供していた。1943年傍聴禁止のまま裁判に付され，翌年11月ゾルゲと尾崎は死刑に処された。〔高崎徳次〕

ソルジェニツィン　［Aleksandr Isaevich Solzhenitsin］(1918～　)ソ連の小説家。第２次世界大戦に従軍中，政治的告発を受けて強制収容所に投じられたが，その後名誉回復。その体験をもとに，ロシアの農民イワンの強制収容所での生活を描いた《イワン-デニソビッチの一日》を発表，一躍注目された。その後《ガン病棟(びょうとう)》が現体制へ対する批判性のため発表を禁じられ，1970年ノーベル文学賞に決定したがその受賞が認められないなど，多くの問題を現代ソビエト文学に投げかけている。ほかに長編《煉獄(れんごく)にて》や戯曲《鹿(しか)とラーゲリの女》など。1974年ソ連を脱出，国外で活躍している。〔川端香男里〕

ソールズベリ　［Salisbury］アフリカ南部，ローデシアの首都。人口51万(1976)。海抜1,600ｍの高原にあり，気候は年じゅう温和である。1890年イギリス人によって建設され，当時のイギリス首相の名をとって市名とした。その後独立宣言まではイギリス植民地南ローデシアの政治経済の中心として発展し，ローデシア大学をはじめとする文化施設も多い。世界的なタバコの取引所があり，また肥料・製糖などの工業も興りつつある。近年周囲の衛星都市を含む大ソールズベリ市の建設が進んでいる。住民の約３分の１は白人である。ケープタウン(南アフリカ共和国)・ベイラ(モザンビーク)へ鉄道が通じており，空港もある。

ソールズベリ　［Robert Arthur Talbot Gascoyne-Cecil, 3rd Marquis of Salisbury］(1830～1903)　イギリスの政治家。オックスフォード大学卒業後，保守党のもとで，1854年から下院議員，1868年以後上院議員となる。インド事務相，外相を経て，1885年首相となった。貴族的保守主義者として〈光栄ある孤立〉の政策をとったが，19世紀末に国際情勢が深刻となるに及んで，エジプトや中国・アフリカへの進出を図り，平和的帝国主義者とよばれた。1902年日英同盟*を結んでその政策に終止符を打つとともに政界から引退した。〔松下京子〕

ソールズベリだいせいどう【ソールズベリ大聖堂】イギリス南部ソールズベリにある，イギリスの初期教会建築の代表作の一。最も顕著なことは，その内部・外部にわたる様式的な統一感である。塔の部分を除いては1220～1260年に建築され，アーチなど随所にフランスの影響がみられる。しかし，全体としては，真にイギリス的なゴシック建築*といえる。

ソルトレークシチー　［Salt Lake City］アメリカ合衆国ユタ州州都。人口17万(1975)。グレートソルト湖の南東約30kmにあ

る同州第1の都市。モルモン教の本山があり，教徒の一夫多妻制のため合衆国への加入が遅れ，1896年になって加盟が認められた。ユタ州全域からアイダホ州南部・ワイオミング州南西部・ネバダ州東部へかけての経済の中心地であり，また，鉄道・航空路・ハイウエーの集中する交通の要地となっている。市街は40m幅の街路が格子(こうし)状に通った計画都市であり，製粉・製糖・食品・織物・石油精製・鉄鋼業が行なわれている。〔相村大彬〕

ソルフェージュ　［solfège］　17世紀から盛んに行なわれた音楽の訓練の一つで，楽譜を見て，それを母音(歌詞を伴わないでアー・エーなどと発声する)または音名(ドレミ)ですぐ歌えるようにすることを目的としている。今日では，ことばの意味を拡大して，音楽に関する視覚的な情報を聴覚的な刺激になおしたり，あるいはその逆の過程のための訓練を含むものとなった。したがって，視唱や移調して歌うこと，旋律や和音の書き取りなどが中心となり，音楽学習の基礎として重視されている。〔徳丸吉彦〕

ソルベー　［Ernest Solvay］　(1838～1922)　ベルギーの化学工業家。食塩から炭酸ナトリウムと塩化アンモニウムをつくる方法として，アンモニアと炭酸ガスを食塩に作用させるアンモニアソーダ法(ソルベー法)を発明した。1861年に着手して完成まで10年を費やしたが，そのコストが従来のルブラン法の4分の1となりこれを圧倒した。わが国では1917年(大正6)，第1次世界大戦中に同法による生産が開始された。

ソルベーほう　【ソルベー法】　アンモニアソーダ法ともいう。ソーダ灰(無水炭酸ナトリウム)をつくる方法で，E.ソルベー*の発明したのにちなんでこの名がある。飽和食塩水にアンモニアを飽和させ，次いで炭酸ガスをとかしこむ。するとアンモニアと炭酸ガスからできた炭酸水素アンモニウムNH_4HCO_3と食塩とが反応して，炭酸水素ナトリウム$NaHCO_3$が沈殿する。

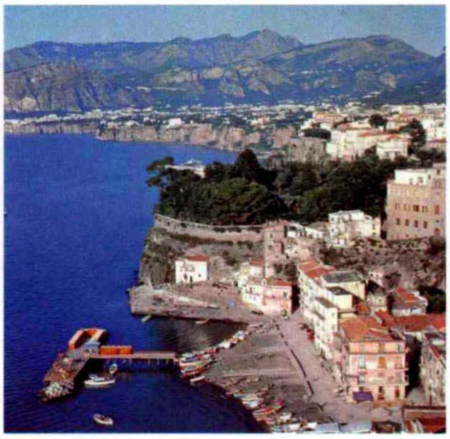
$NaCl+NH_4HCO_3 \rightleftarrows NaHCO_3+NH_4Cl$…①

これをこし分けて焼くとソーダ灰ができる。

$2NaHCO_3 \longrightarrow Na_2CO_3+CO_2+H_2O$……②

①の反応は$NaCl$の75%以下しか$NaHCO_3$に変化しないので，$NaCl$がむだになる。わが国では工業塩は全部輸入している状態なので，この未反応の$NaCl$を有効に炭酸水素ナトリウムに変化させるために塩安ソーダ法が研究され実用化されるようになった。この方法では$NaCl$は完全に利用されてソーダ灰になる。なお，苛性(かせい)ソーダ(水酸化ナトリウム)は，いままではソーダ灰と石灰(CaO)との反応でつくられたが，最近は食塩の電解によってつくられている。〔久保輝一郎〕

ソルボンヌだいがく　【ソルボンヌ大学】　パリ，ソルボンヌ地区にあるパリ大学*の人



ソレント　ナポリ湾の青く澄んだ海，切り立ったがけとその上に立つ美しい建物。ここから約1時間でカプリ島に渡れる

文学部・理学部の通称。当初の設立は，1252年サン-ルイ寺院の僧ソルボンによって，貧しい神学生のために始められた神学校に由来し，1257年ラテン区の中心に国王から与えられた土地にソルボンを寮長とする学寮を建てたため，以後はソルボンヌといわれた。おもに神学を研究し，多くの神学上の論争や神学書の刊行で知られたが，フランス革命により閉鎖，パリ大学復興とともにパリ大学に所属した。〔武井正弘〕

それから　夏目漱石*(そうせき)の長編小説で，《三四郎》《門》とともに三部作をなす。1909年(明治42)《朝日新聞》に連載された。なんの職業にもつかぬ〈高等遊民〉で，明治の社会・人間を冷笑している主人公が，かつての恋人で友人の妻との愛を〈自然〉として貫くことで，はじめて主体的に社会と向き合う苦悩を描いた。日本近代を代表する恋愛小説の一。

ソレル　［Georges Sorel］　(1847～1922)　フランスの哲学者。サンジカリズム*の主唱者。長く政府の土木局技師をつとめ，その間に労働者の生活を知り，社会問題を研究した。彼は労働者階級が反議会主義的直接行動によって権力を奪取すべきことを主張し，改良主義を批判した。主著《暴力に関する考察(暴力論)》(1908)は，既成秩序を破壊する力としての暴力のたえざる使用を勧め，また，革命行動にはつねに神話が必要であることを説いて，労働者や知識人に多くの影響を与えたが，同時にそれはファシズムの精神的土壌(どじょう)の役割をも演じた。〔飯塚勝久〕

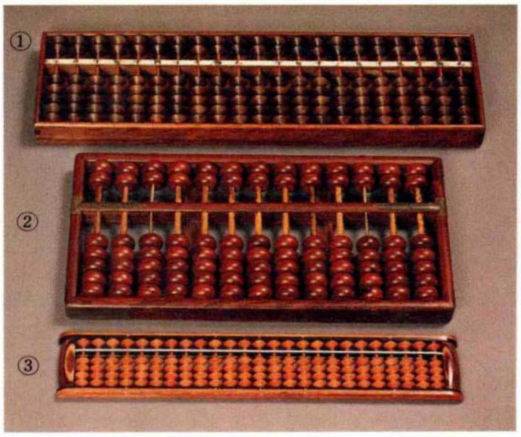
ソレルス　［Philippe Sollers］　(1936～　)　フランスの小説家。透徹した文体で青春を描いた《奇妙な孤独》で絶賛を浴びたが，《公園》《ドラマ》などの作品ではその心理分析的手法を脱し，アンチ-ロマン*の先鋭的作家として，新しい文学性をめざす実験を模索している。文学雑誌《テル-ケル》の指導者でもある。

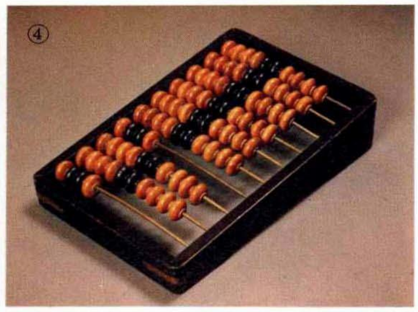
ソレント　［Sorrento］　イタリア南部，ナポリの南方25kmにある観光地。人口13,200(1965)。サレルノ湾とナポリ湾とを隔てるソレント半島の北岸にあり，オレンジやレモンの畑に囲まれた美しい町で，ぶどう酒の生産で知られる。民謡《帰れソレントへ》に歌われ，また半島先端の沖には景勝地カプリ島がある。

ソれんぽうきょうさんとう　【ソ連邦共産党】　ロシア社会民主労働党(ボリシェビキ*)以来のソ連のマルクス主義政党。19世紀後半のロシアの革命運動は，ナロードニキ運動が主流であったが，1875年，オデッサに労働者の組織〈南ロシア労働者同盟〉が生まれた。一方，マルクス主義的グループとしては，1883年プレハーノフらの〈労働解放団〉が生まれた。1895年，レーニン*はサンクト-ペテルブルグに〈労働者階級解放闘争同盟〉を結成し，1880年代の社会民主主義的な諸グループを合流させた。このような発展をふまえて，1898年3月，ミンスクでロシア社会民主労働党が結成されたが，事実上の創立大会は，1903年の第2回大会である。この大会で党は，レーニンによって創刊された政治新聞《イスクラ》を中心とする多数派(ボリシェビキ)と，マルトフらの少数派(メンシェビキ*)とに分裂した。大会はボリシェビキに従って，中央集権的な単一の党組織，民族自決，労働者階級の独裁，農奴制の遺物を一掃することの革命的意義などを承認し，最大限綱領〈社会主義革命〉と最小限綱領〈当面のブルジョア民主主義革命〉とを採択した。第1次ロシア革命(1905～1907)に際して，ボリシェビキは，労働者階級だけが民主主義の真のにない手であるという認識に立ち，ツァーリズム*打倒，地主所有制度廃止など，ブルジョア民主主義革命から社会主義革命への成長転化を提起した。1912年1月，プラハにおけるロシア社会民主労働党第6回全国協議会で，ボリシェビキとメンシェビキは完全に分離し別個の党となった。

第1次世界大戦に際して，西欧のほとんどの社会民主主義政党が戦時公債に賛成し，排外主義に転換していったのに対し，ボリシェビキは戦争の帝国主義的性格を見失わず〈労働者に祖国なし〉の立場から戦争に反対した。この大戦で，ツァーリ政府に対する人民大衆の不満は極限にまで高まり，1917年の2月革命*で帝制は廃された。新たに発足した臨時政府が帝国主義戦争を継続し，すべての改革を引き延ばしたため，これに対する民衆の不満が高まり，平和を求める民主主義運動や，農民による地主からの土地収奪運動，被抑圧民族の解放運動などが合流して，ボルシェビキによる十月社会主義革命は成功した。党は，1918年の第7回大会で〈ロシア共産党(ボリシェビキ)〉と改称した。

一連の保守政党，エス-エル，メンシェビキは国内戦の過程で消滅し，そのほかの左





そろばん ①江戸時代のそろばん ②中国のそろばん ③現在わが国で使用しているそろばん ④ロシアそろばん

翼政党は共産党に吸収されて，事実上共産党の一党独裁が実現した。共産党は，国内戦と外国の干渉によって壊滅に瀕(ひん)した国民経済を復興し，農業国を工業国に転換し，その中で社会主義への方向づけを行なおうとした。1920年代には，トロツキー派の永続革命論と，スターリンら党主流派の一国社会主義論との対立が起こった。論争の結果，スターリン派が支持され，1927年トロツキーは党を除名された。その後，社会主義的工業化や第1次五か年計画と農業集団化をめぐって反対派が結成されたがいずれも駆逐され，スターリンへの権力集中が進行した。1925年の第14回党大会以後党は全連邦共産党(ボリシェビキ)と改称した。

1934年の第17回党大会は，社会主義的工業化，第1次五か年計画，農業集団化の成果を確認し，新憲法(スターリン憲法*)を定めた。その後，スターリンの〈個人崇拝〉と関連して，社会主義建設の個々の失敗を反対派の妨害に安易に結びつける傾向，〈帝国主義の手先〉〈人民の敵〉など実証性の薄い罪状による粛清，テロによる大衆の疑問の圧殺などの現象が起こった。1952年の第19回党大会で，党はソ連邦共産党と改称した。

1956年，第20回党大会におけるフルシチョフ*秘密報告において，スターリン批判がはじめて公然と行なわれた。それはスターリンの功績を評価しながらも，個人崇拝を批判し，彼とその追従者による民主主義と法秩序の侵害を非難するものであった。その後もソ連におけるスターリン批判は完全には徹底せず，1968年のチェコ事件にみられるように大国主義の限界をもってはいるが，スターリンを客観化したという点で20回大会以後，ソ連共産党は新しい時代にはいったといえる。1961年の第22回大会で新しい党綱領が採択され，1966年現在党員は1,247万人を数える。〔山県弘志〕

ソれんぽうさいこうかいぎ　【ソ連邦最高会議】　ソ連の最高国家機関で，唯一の立法機関である。連邦内に約60の民族が存在するため，連邦会議と民族会議の二院で構成される。前者は，30万人に1名の割合で選んだ代議員によって構成され，後者は，各連邦構成共和国から32名ずつ，各自治共和国から11名ずつ，各自治州から5名ずつ，各民族管区から1名ずつの代議員によって構成される。職業的な国会議員は存在しない。両院とも任期は4年で，通常，会期は年2回，最高会議幹部会が召集する。両院は審議権・法律発議権を平等に有し，会期は並行して行なわれる。第1会期のおもな任務は，最高会議幹部会の選挙，ソ連邦閣僚会議の組織，ソ連邦検事総長の任命，ソ連邦最高裁判所裁判官の選挙などである。立法権は，1936年の憲法(スターリン憲法*)によって，最高会議に一本化された共和国の段階では，一院制の最高会議が当該共和国の最高権力機関である。最初のソ連邦最高会議の選挙は1937年12月。第7次(1966年6月)の選挙では，1,517名の代議員が選出されたが，そのうち労働者とコルホーズ員とでほぼ半数，婦人がおよそ30%を占めた。第8回1・2会期(1970年7～12月)は首相にコスイギンを，最高会議幹部会議長にポドゴルヌイをそれぞれ再任。最高会議幹部会の会員はそれまでの33人から37人にふえ，構成は議長1，副議長15，書記1，その他の幹部会員20人となった。〔山県弘志〕

ソロ　⇨独奏

ソロ(川)　［Solo］　インドネシア，ジャワ島東部にある川。ブンガワン-ソロともいう。同島最大の河川で，全長約850km。スラカルタ州の中央山地に発し，北東に流れてジャワ海に注ぐ。流域一帯は肥沃(ひよく)な農業地帯で，米やサトウキビの産が多い。1891年に中流部で直立類人猿(るいじんえん)(ジャワ原人*)の骨が発見され，また1930年代にはソロ猿人の骨や新石器時代の遺物が発見されて，世界的に有名になった。

ソロー　［Henry David Thoreau］　(1817～1862)　アメリカのエッセイスト・詩人・博物学者。エマソン*の影響を受けた超絶主義者で，極度の個人主義のもとに自然研究に没頭して簡素な生活を送った。奴隷制度を支持する政府に反抗した記録《市民の反抗》はガンジーなどに影響を与えた。代表作は，マサチュセッツ州コンコードにある小湖における自給自足の生活記録《ウォールデン》。ほかに旅行記《コンコード川とメリマック川の一週間》，14巻にのぼる日記がある。➔コンコード-グループ

〔絆川　恙〕

ゾロアスターきょう　【ゾロアスター教】　古代イランの宗教。経典はアベスタ。開祖ゾロアスターは紀元前7～6世紀の東方イランの人といわれ，それまでの土俗的な古代イラン宗教を改革して新しい思想を取り入れた。ゾロアスターの世界観によると，現在は主神アフラ-マズダ*が善神を率いて，悪神アーリマン*の軍勢と闘争しており，やがてアフラ-マズダの光明の世界が訪れる。人々は善思・善語・善行を守って天上の主アフラ-マズダに仕えねばならない，という。ゾロアスター教徒は拝火壇を設けて火をあがめる(拝火教)。火や大地を汚すのを恐れ，火葬や土葬をせず，死体は塔内にさらして鳥葬にする。この宗教はササン朝時代には国教とされたが，のちイスラム教に圧迫され，現在ではイラン・インドの一部に残るのみである。中国には5世紀ごろ伝わり，祆教(けんきょう)とよばれた。〔小谷仲男〕

ソログープ　［Fyodor Kuzmich Sologub］　(1863～1927)　ロシアの詩人・小説家。本名テテールニコフ。ペテルブルグの職人の子に生まれ，はじめ中学校の教師をつとめていた。メレシコフスキー*やギッピウス*とともに象徴主義の代表的詩人。デカダンスとリアリズムの交錯した特独な作風で，現世の否定と死の賛美を核とする幻想世界の美を描いた。代表作は詩集《真紅のけし》，長編小説《悪夢》《小悪魔》など。

そろばん　【算盤】　十露盤とも書く。おもに日本・中国・朝鮮などアジア諸国で使われている計算器具。そろばんということばは，算盤の中国音ソワンパンがなまったものである。現在日本で使われているのは上の玉(五玉)が一つ，下の玉(一玉)が四つで，1938年(昭和13)，小学校で採用されて以来広く普及した。中国では五玉二つ，一玉が五つのものが使われており，この型のものは日本でも江戸時代から明治の中ごろまで五玉一つ，一玉五つのものと併用されていた。

そろばんは日本・中国・朝鮮以外にも用いられている。たとえば，3,000～4,000年前に古代西アジアのメソポタミア地方で行なわれていたものは，土砂そろばんといわれ，砂の上に線を引き，記号を用いて計算するものであった。また，古代ギリシアやローマで用いられたものは線そろばんとよばれ，線の上に小石を置いて計算するものであった。紀元前後のローマのものはみぞそろばんといい，金属板の上と下に数本のみぞを掘り，その上に計算玉をはめこんだものであった。

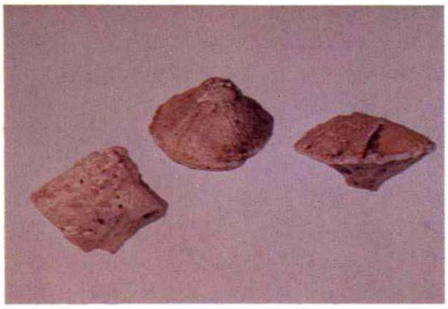
中国では漢の時代に珠算とよばれるものがあった。徐岳の《数術記遺》はそろばんについての最古の文献で，6世紀の甄鸞(けんら

ん)の注釈によると，その形はみぞそろばんに似ていたと思われる。また，ローマで行なわれていた計算法が，明(みん)時代の算盤書にもしるされており，当時の交易状態から考えて，両者に密接な関係のあったことが考えられる。14世紀にはそろばんの図やそろばんの語が文献に現われるが，そのそろばんは五玉二つ，一玉五つのものである。漢時代の珠算がいつごろそろばんに変わったのかは明らかでない。

中国で盛況をみたそろばんは16世紀の中ごろ以降日本に伝えられた。前田利家(としいえ)が文禄(ぶんろく)の役のときに陣中で使用したそろばんが現存し，狩野吉信(かのうよしのぶ)の《職人尽絵(しょくにんづくしえ)屏風》にはそろばんが載っている。1595年(文禄4)に日本にいた宣教師が天草で出版したラテン・ポルトガル・日本語の対訳辞典にも〈soroban〉としてしるされており，中国で出版された1592～1593年ごろの《日本考》にもそろばんの語のあることは渡来の時期を示す有力な証拠となる。

コンピューターや電子式卓上計算機など多くの計算機器の発達した現在でも，持ち運びが便利で簡単，値段が安く，電源を要しない計算器としてその地位はゆるがず，最近ではヨーロッパ諸国・アメリカへも輸出されている。〔鈴木久男〕

そろばんだまいし【算盤珠石】玉髄またはオパールのうち，そろばんの玉に似た形をしているものをいう。灰白色で，ふつう直径は1～2cmであるが，まれには4cm余りのものがあり，しばしば中空のものがある。安山岩や黒曜岩中に産し，わが国では福島県宝坂・新潟県新発田(しばた)市などに産する。

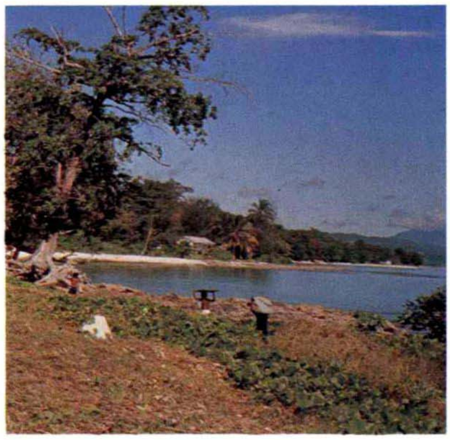


算盤珠石 新潟県新発田市上赤谷産

ソロビヨフ [Vladimir Sergeevich Solov'yov] (1853～1900) ロシアの哲学者・批評家・詩人。歴史家S.M.ソロビヨフの子。1874年《西洋哲学の危機，実証主義者に抗して》を出版，以来神秘主義的観念論を深め，1881年《神人論》，1889年《ロシアと世界教会》においては一種の教会を拡大した形のユートピアを唱えた。晩年はユートピア実現に絶望して，《三つの対話》で厭世(えんせい)的終末論的世界観を示し，ベルジャーエフらに影響を与えた。

ソロモン(諸島) [Solomon] 南西太平洋，ニューギニア島の東方に点在する火山諸島。イギリスの保護領で，諸島中最大のブーゲンビル島とブカ島は，オーストラリア信託統治地となっていた。1978年，イギリス連邦内の立憲君主国として独立。総面積28,446km²，人口22万(1978年推)。首都ホニアラ。環太平洋造山帯の一部をなす火山島とサンゴ礁からなり，ガダルカナル島にはポポマナシュ火山(2,440m)がある。レンネル島は典型的なサンゴ環礁で，深度120mもある内湖をいだく。年じゅう高温多雨で，密林におおわれ，オウム・タカ・尾長バトをはじめ各種の鳥類が生息する。1568年ペルーから航海してきたスペインの航海者A.メンダニャがサンタイサベル島を発見したが，島々の大部分はF.カートレットの1767年の航海のときに発見された。1893年イギリスは南ソロモンを保護領にし，北ソロモンは1900年にドイツが領有したが，ドイツはその後一部の島を除いてイギリスに譲渡した。第2次世界大戦中は，ガダルカナル島をはじめソロモンの全域が，日本・アメリカ合衆国間の激戦地となった。

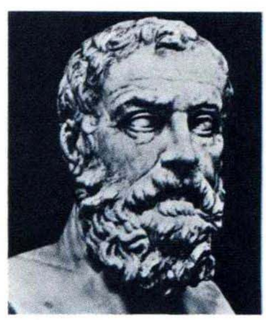
おもな産物は，バナナ・ココナツ・サツマイモ・タロイモ・ヤマイモ・コプラなどで，近年はカカオ・コーヒー・米なども産する。住民はメラネシア人で，ほかに少数のヨーロッパ人・中国人・インド人もいる。〔大崎　晃〕



ソロモン諸島 写真はガダルカナル島の海岸風景。島の地形は山岳性で，2,000mを越える山もあり，降水量はきわめて多い

ソロモン [Solomon] (？～BC922ごろ) イスラエル統一王国の第3代の王。在位BC962ごろ～BC922年ごろ。ダビデの子。その業績は《旧約聖書》の〈列王記第1〉〈歴代誌第2〉などにしるされている。賢者として名高く，ために《旧約聖書》の〈箴言(しんげん)〉〈伝道者の書〉などの作者とされたが確証はない。すぐれた経済的手腕で，いわゆるソロモンの栄華を築き，神殿を建設したが，そのため国民に重い負担をかけ，王国の南北分裂を招いたと考えられる。彼はまた，外国から多くの妻妾(さいしょう)を求め，その異神礼拝を許してヤーウェの怒りに触れたという。〔松田　治〕

そろりしんざえもん【曾呂利新左衛門】生没年不詳。本姓は杉本ともいわれ，剃髪(ていはつ)して坂内という。豊臣秀吉(とよとみひでよし)の寵臣(ちょうしん)といわれる。泉州(大阪府)堺(さかい)の寺にいた鞘師(さやし)で，つくった鞘に刀身がそろりとよくはいったので〈曾呂利〉の異名を得た。はじめ細工師として仕えたが，話術の巧妙さによって御伽衆(おとぎしゅう)に抜擢(ばってき)された。茶の湯を千利休に，香道を志野宗心に学び，機知に富む諧謔(かいぎゃく)で30年も秀吉を飽きさせなかったという。しかし，実在に疑問がもたれている。〔稲垣史生〕



ソロン

ソロン [Solon] (BC640ごろ～BC560ごろ) アテナイの政治家・立法者。またアテナイ最古の詩人，七賢人のひとりにも数えられている。BC594年に執政官ならびに調停者の役に任ぜられ，政治の全権をゆだねられて，当時のアテナイ社会の危機の打開に努めた。アテナイは，富者はますます富み，平民は負債のために所有地や身体を抵当に入れる者も少なくなく，そのため奴隷に売られる者などもあって，貧富の差が著しかった。そのためソロンは，借財全額の帳消し，身体を抵当にしての金の貸借の禁止をして，没落寸前の中小農民を救った。また国制の上では在来の貴族支配をあらためて土地財産の大小に応じて4等級に分け，財産評価に基づく政体を樹立し，参政権と兵役とはこの等級に応じて定められた。執政官や財務官のような重職は第1級の独占とし，そのほかの役は軽重により第2級・第3級のものとしたが，第4級は単に民会と裁判にしか参与できなかった。また財産評価には貨幣財産は算定されていないので，土地所有者に有利で，商工業者に不利であった。このような限界はあったが，この改革によってアテナイの民主政を一歩進めたことは確かである。しかしこの改革も在来の特権や債権を失った貴族・富者と土地の再分配まで期待した民衆の双方の不満を招いた。彼は海外の旅に出た。帰国後，彼はペイシストラトスが僭主(せんしゅ)になろうとしているのを市民に警告したが効果がなかった。ソロンの叙情詩は断片しか伝わらないが，政治改革の精神を表わす格言詩の中で，富者の貪欲(どんよく)を強く非難する反面，民衆の過度の要求をも戒めており，

中道を重んじた立場が明らかにされている。〔秀村欣二〕

そんえきけいさんしょ【損益計算書】 1期間(会計年度といわれ通常半年1期)に企業があげた損益(利益または損失)を，利益をあげることに直接貢献をする売上高などの収益と，その収益を得るために失った売り上げ原価や諸経費などの費用とを対応表示して，一つの表に示したもの。損益計算書は，1期間の経営活動の経過と結果とを一覧表示するから，そこには企業行動の良否が端的にうかがわれる。そのため経営者にとっては反省の資料および将来の計画樹立のための基礎資料として，投資家にとっては投資態度の決定のために，債権者にとっては融資の可否を判定する資料として，また，納税額算定のための資料として，非常に重要なものであり，財務諸表の中では最も重視される。様式には，勘定式と報告式とがある。前者は，複式簿記の勘定形式と同様に借り方(左側)と貸し方(右側)とに分け，借り方に費用を，貸し方に収益を記載し，左右が均衡するように金額の少ない側に差額分を加え，それをもって純損益とする。後者の様式では，売上高から売り上げ原価を引いて売り上げ総損益を求め，それを受け継いで販売費および一般管理費を記載して営業損益を求め，その下に営業外収益と営業外費用とを表示して当期の純損益を求める。一般には後者の報告式が多く用いられる。〔山桝忠恕〕

そんえきぶんきてん【損益分岐点】 売上高に対する総費用は，売上高の増減につれて変化する変動費と，売上高の増減にかかわらず一定にとどまる固定費とに分析されるが，これらの総費用が総収益と等しくなる売上高を損益分岐点という。この点以上の売上高の場合は，収益が生まれ，逆に，この点以下の売上高の場合は損失が生まれる。損益分岐点を求める式は，

$$\text{損益分岐点}=\text{固定費}\div\left(1-\frac{\text{変動費}}{\text{売上高}}\right)$$

そんえんしんのう【尊円親王】(1298〜1356) 書道で有名な鎌倉末期の皇族。伏見天皇*の第6皇子。14歳で仏門に入り，17世青蓮院*(しょうれんいん)門跡となり，以後4度にわたり天台座主(ざす)をつとめた。書道に長じ，はじめ世尊寺流*の書法を学び，のち上代の書風を参照して一派を開き，青蓮院流*の祖となった。この書法は代々青蓮院門跡を通じて広く世に行なわれ，後世〈御家流(おいえりゅう)〉と称された。作品に《鷹巣帖(たかのすちょう)》などがある。〔高崎徳次〕

そんがいばいしょう【損害賠償】 他人の受けた損害を塡補(てんぽ)すること。損害賠償の発生原因は，債務者がその債務の本旨に従った履行をしない場合(債務不履行*)，故意または過失によって他人の権利を侵害した場合(不法行為*)が主要なものであるが，その他隣地立ち入り権に基づく立ち入りによる損害賠償のように民法上規定されている場合，当事者間の契約により，一定事項について生じた損害を賠償することを取り決めた場合(損害担保契約)，さらには故意・過失がなくても社会の公平の観念上賠償責任ありと認められる場合(無過失責任)などがある(民法117・209・212・415・442・415条)。損害賠償の範囲は，賠償の原因から通常生ずべき(相当因果関係にある)全損害に限られる(民法416条1項)。さらに，相当因果関係に属さない特別の事情による損害であっても，当事者がその事情を予見できた場合，または予見できなかった場合でも賠償額の範囲に含ませることができる(民法416条2項)。また，損害賠償は財産的損害について認められるのが通常であるが，精神的損害についても認められる(民法710条)。賠償の方法に対する考え方は，損害発生以前の状態に回復させようとするもの(原状回復主義)と，損害を金銭に評価して，その金額を給付させることによって損害を賠償するもの(金銭賠償主義)とがあり，わが国では原則として後者をとっているが，例外として前者の方法を認めることもある(民法417・722・723条)。〔黒木三郎〕

そんがいほけん【損害保険】 偶然な事故によって生ずる財産上の損害を塡補(てんぽ)する保険。これはまた生命保険*以外の保険をさし，火災保険・運送保険・海上保険およびもろもろの新種保険*を総称する。生命保険が偶然の事故が発生した場合に，つねにあらかじめ約束して定められた一定の金額を支払うことを原則とする定額保険*であるのに対し，損害保険は，実際に発生した損害の塡補を目的とする点で特色が認められる。すなわち事件によってひき起こされた影響を評価し，それに従った量額の保険給付を行なう保険であるとされる。各種の私営の損害保険のほかに，公営の輸出保険・漁船保険・農業保険などがあり，また社会保険としての健康保険・労働者災害補償保険などもまた損害保険である。わが国では商法で保険を生命保険と損害保険とに分類して規定しているが，これは法律制定の歴史的な経過に基づく分類であって，一般社会人の通念としては，損害保険は物または財の保険とされている。これは生命保険が人の保険とされるのに対する概念である。〔庭田範秋〕

そんけん【孫権】(182〜252) 中国，三国時代の呉の初代皇帝(在位222〜252)。字(あざな)は仲謀。後漢末の群雄割拠のとき，兄の孫策の跡を継いで，揚子江下流の異民族の平定に努めた。208年，北方から曹操*(そうそう)の軍が侵入すると，劉備(りゅうび)と連合して赤壁の戦い*にこれを破り，さらに劉備と争って荊州(けいしゅう)を手中にした。220年魏(ぎ)の文帝曹丕(そうひ)が後漢の政権を奪って帝位につくと，222年に自立し，229年にはみずからも帝を称した。蜀(しょく)と手を結んで魏と対抗しつつ，嶺南(れいなん)の経営にも力を注いで，王朝の基礎を固めた。〔小南一郎〕

ソンコイ(川)［Songkoi］ 東南アジア，インドシナ半島北東部の川。全長1,200km。名はベトナム語で〈赤い川〉の意で，中国語名では紅河。中国の雲南省中部に発し，南東に流れて北ベトナムの首都ハノイを経てトンキン湾に注ぐ。中国との国境に近いラオカイまで，河口から約350kmが航行可能である。下流のトンキン-デルタは世界的な米の産地となっている。デルタで川は分流し，互いに無数の運河で結ばれて交通上重要な役割を果たしている。〔大石堪山〕

そんごうじけん【尊号事件】 江戸中期，老中松平定信*(さだのぶ)の執政中に起きた朝廷・幕府間の事件。光格天皇は生父閑院宮典仁(すけひと)親王に太上(だじょう)天皇(→上皇)の尊号を奉呈しようとしてその意を幕府に伝えたが，定信はこれに反対した。朝廷はこの要求をくり返したので，1793年(寛政5)幕府は議奏*中山愛親(よしちか)・武家伝奏*正親町(おうぎまち)公明を処罰して，天皇に尊号の議を断念させた。この事件は朝廷・幕府関係を悪化させるとともに，一橋派ら幕府内部の反対勢力を硬化させ，定信退任の有力な原因となった。〔高崎徳次〕

そんごくう【孫悟空】 中国，明(みん)代の小説《西遊記*》で活躍するサル。大神通力を有し，天上界で大あばれしたり，三蔵法師を助けて妖怪(ようかい)たちを退治したりする。その話はインドの古代の叙事詩《ラーマーヤナ*》に出てくるサルの王ハヌマンの物語の影響を受けたという説がある。また，宋(そう)代，淮水(わいすい)地域に無支祁(むしき)というサルに似た小神の伝説があり，当時の話本に斉天(せいてん)大聖というサルの妖怪が出てくるものがあるので，中国固有の伝説から形成されたという説もある。〔今村与志雄〕

そんざい【存在】 哲学用語。論理学では二つの概念を一つの判断に結合し，論理的に関係づける繫辞(けいじ)〈ある〉を意味する。存在論では存在者，現存在，個々の事物の本質存在と区別された〈存在そのもの〉をさす。ハルトマンによれば，存在とは〈存在者の存在〉であり，〈多様な存在者における同一のもの〉をさす。存在に対立する概念はある面では生成であり，別の面では意識である。→存在論

そんざいとじかん【存在と時間】 ハイデッガー*の主著。1927年公刊。当時認識論が隆盛であったドイツ哲学界に存在論的傾向を復活させた画期的な労作である。彼は本書で〈存在者〉と〈存在〉とをはっきり区別し，〈ある〉ということの意味を新たに問いなおそうとする。その際，自分にとって自分の存在が問題となるのは現存在*(人間存在)だけであるから，まずこの現存在の分析からはじめて，存在一般の意味が追究されなければならないとした。こうして明らか

にされるのが，現存在の存在の意味としての時間である，というのがその立論の大要である。〔飯塚勝久〕

そんざいとむ【存在と無】 サルトル*の主著。1943年占領下のパリで公刊され，フランス実存主義の記念碑的労作となった。〈現象学的存在論の試み〉という副題が示すように，フッサール・ヘーゲル・ハイデッガーの影響を強く受けているが，全編を貫く即自と対自，存在と無の弁証法は，透徹した論理と具体的例証というフランス的精神とあいまって独自の体系を樹立している。広範な哲学史的知識を駆使しつつ，他人の問題，身体の問題，自由の問題などに独創的見解を示し，哲学者としてのサルトルの名声を不動のものにした。〔飯塚勝久〕

そんざいろん【存在論】 個々の事物の特殊的研究ではなく，あらゆる事物に共通な〈存在〉一般を研究する哲学の一分野。アリストテレスはこれを第一哲学とよび，自然学と区別されたいわゆる形而上(けいじじょう)学*をさした。また，現象や属性の研究とは違って，実体としての事物そのものを研究する。理性認識の対象となる〈本体〉を問うものなので，本体論ともいわれ，近代の理性論哲学の中心部分を占める。存在論(ontologia)という名は17世紀ドイツの哲学者クラウベルクに由来するといわれるが，それを広めたのはC.ウォルフである。

哲学の一部門としての存在論は，われわれの知識がいかにして成立するかを問う認識論*と対立する。しかしそこには，まず存在の諸領域を解明する存在論があって認識の条件が求められるのか，それとも認識の本性を明らかにしなければ存在を問うことができないのかという根本的な問題がある。カントは後者の立場に立って哲学の課題を第1に認識論に置き，従来の形而上学が人間的認識の限界を検討しないで独断的な体系をつくりあげたことを非難して，批判主義を唱えた。その結果，存在論は認識論に従属することになり，ひいては存在論そのものを断念し，認識批判だけが哲学の仕事とされる傾向が生まれた。新カント派から論理実証主義に至る流れはそれにあたる。しかし，存在論を形而上学と同じ意味にとるならば，それはギリシア哲学，中世スコラ哲学，近代の理性論哲学，ドイツ観念論哲学，現代の実存哲学に至るまで，つねにヨーロッパ哲学の主流であったし，カントの批判以後もその企てはけっして放棄されなかった。たとえばフッサールは，純粋意識の本質学を基礎として，対象一般の本質の形式的関係を問題とする形式的存在論と，特定領域の可能的対象を論ずる領域的存在論をあげており，またハルトマンは哲学的思惟(しい)の最も根本的な問題は存在論的なものであるとしながら，同時に古い形而上学的体系の誤りを指摘して，批判的存在論を説いている。しかし，存在の意味を問う存在論をもって哲学の根本的課題とみなし，認識論優先の風潮に転機をもたらしたのはハイデッガーである。彼は，〈存在者〉と〈存在〉とをはっきり区別し，存在のあらゆる定義にすでに含まれる〈ある〉ということの意味をデカルト以来の形而上学が十分に問いつめなかったと述べ，むしろヨーロッパの存在論史を解体することによって，真の存在論を開拓できると考えている。サルトルもまた新たな存在論を企てているが，しかし彼の場合には存在は即自存在と対自存在とに分裂し，包括的な存在の観念は放棄されている。しかし，存在ということばにまつわる神聖なイメージを容赦なく取り除いてしまったという点で，彼の存在論は特異な位置を占めるものである。

〔飯塚勝久〕

そんし【孫子】 中国の代表的兵法書。13編。道・天・地・将・法の5事に分けて，戦争・戦略・戦術の論を展開している。それは，政治・人情から自然的条件まで考慮しつつ，これらを老子流の権謀術数の哲学によって戦術に結びつけようとする，流動的でスケールの大きいものである。古来，兵法書としてのほかに，処世哲学書としても愛読されてきた。著者は春秋時代の呉の孫武と伝えられてきたが近年疑問が出され，現在では戦国時代の斉(せい)の孫臏(そんぴん)(孫武の子孫)の考えを伝えたものとされる。➔諸子百家 ➔六韜(りくとう)三略

〔西　順蔵〕

ぞんせい【存星】 存清ともいい，漆芸技法の一。色漆をもって高く文様を描き，文様の色漆がよくかわいたのちに，輪郭や細部を毛彫り*の手法で線彫りする。したがって色と線とが微妙に調和し，独特の明快な意匠を表出する。漆面に文様を線刻することで蒟醤*塗(きんまぬり)と技法が類似するが，線はあくまでも彫り放しで刻線の中にはなにも充填(じゅうてん)しない。名称の由来は明らかでないが，中国明(みん)時代の名工存清の名にちなむとも，その表出効果が星のようであるために称したとも伝えられる。古くから珍重されたらしく，中国の画人や座敷飾りの品などを記した相阿弥*(そうあみ)の《君台観左右帳記(くんだいかんそうちょうき)》にも，中国彫漆漆器の記載の中に存星の名がみえる。わが国では，江戸時代に玉楮(たまかじ)象谷*が中国漆器を参考にして新たに創案したと伝えられ，現在も象谷の居住した香川県高松市が主産地である。同類の技法はタイの籃胎(らんたい)漆器などにもみられる。

〔河田　貞〕

そんぞくさつじんざい【尊属殺人罪】 自己または配偶者の直系尊属(父母・祖父母など)を殺す罪。刑は一般殺人罪と区別して死刑または無期懲役，未遂も罰せられる(刑法200・203条)。この加重規定は憲法14条の〈法の下の平等の原則〉に違反するとする違憲論もあるが，最高裁判所は合憲とし(1950)，多くの学説もこれにならっている。➔殺人罪

そんぞく・ひぞく【尊属・卑属】 ⇨親族

ソーンダイク［Edward Lee Thorndike］(1874～1949) アメリカの心理学・教育学者。〈問題箱〉などを考案して動物(ネコ・イヌなど)実験を行ない，学習*の基礎が試行錯誤*と偶然的成功の反復にあることを示し，学習を促進する基本条件として〈練習の法則〉のほかに〈効果の法則〉を提唱した。動物心理学の開祖といわれる。また教育心理学を教育学から独立させた開拓者でもある。

そんのうしそう【尊王思想】 天皇*に最高の権威を置き，政治的にも文化的にも日本の中枢として尊崇する思想。古代以来の尊王思想は，中世にはいるころからしだいに武家勢力に対する天皇擁護の色彩を強め，江戸前期には儒教*思想に基づく名分論と結びついて，天皇・将軍・諸侯・藩士の封建的身分制保持のイデオロギーとなった。中期以降には，国学*の発達によってその思想的役割は反体制化し，幕藩体制*の動揺の中で幕府批判の重要な論理となり，宝暦事件*・明和事件*などはその政治事件として現われた。後期には，後期水戸(みと)学派(➔水戸学)や平田篤胤*(あつたね)らによって，天皇の権威はいっそう強調され，やがて列強のアジア進出につれて攘夷論*(じょういろん)と結合し，反幕運動の政治思想となった。〔松尾　涼〕

そんのうじょういうんどう【尊王攘夷運動】 略して尊攘運動ともいう。幕末の反幕的政治運動。尊王論と攘夷論*はともに儒教の名分論を共通基盤としつつも別個の思想であった。しかし幕末における外国勢力の圧迫や，幕府の和親開国策により，尊王論と攘夷論は民族危機意識を背景に結合して政治運動となった。特に条約勅許問題*において朝廷は攘夷の意向を示したが，幕府がこれを無視したため，攘夷派は結集して，反幕的傾向の攘夷運動を起こすに至った。また開港による物価騰貴は下級武士を中心とする過激な排外運動を招いた。尊攘運動は文久年間(1861～1863)には長州藩士らを中心に京都を拠点として激化し，1863年長州藩の外国船砲撃事件，奈良県の天誅組(てんちゅうぐみ)の乱*，平野国臣(くにおみ)らによる生野(いくの)の変*，さらに翌年，水戸(みと)藩の天狗(てんぐ)党の乱*など多くの事件が起こっている。しかし尊攘派は文久3年8月18日の政変*で薩摩(さつま)藩・会津藩など公武合体派によって京都を追われ，さらに薩英戦争*や四か国艦隊下関(しものせき)砲撃事件などで攘夷の不可能なことが認識され，尊攘運動はしだいに討幕運動*に転換した。〔松尾　涼〕

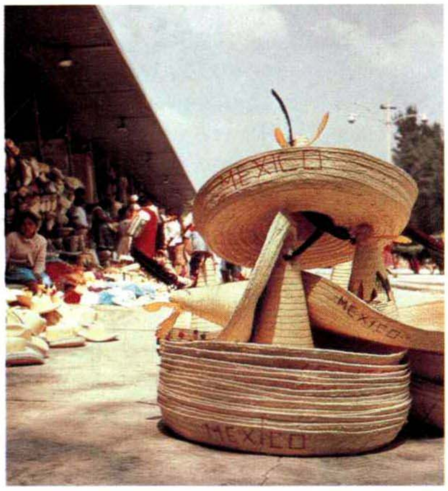
ゾンバ［Zomba］ アフリカ大陸南東部，内陸にあるニアサ湖を中心とする独立国マラウィの元首都。人口20,000(1974)。1885年イギリス保護領ニアサランドの首都として建設されたが，1964年マラウィの独立とと

もにその首都となった。緯度の上では熱帯に位置するが，海抜1,000mの高原にあるのでしのぎやすい。市の周辺ではタバコが栽培され，その取引の中心地でもある。

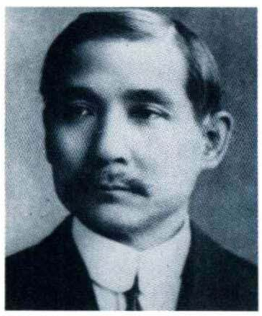
ゾンバルト ［Werner Sombart］（1863～1941） ドイツの経済学者・経済史学者。ベルリン大学・ピサ大学に学ぶ。マルクス主義に共鳴していたためベルリン大学に職を得ることができず，ブレスラウ大学でブレンターノ*の後継者として地位を得，ここに16年間とどまった。この間に，《19世紀における社会主義と社会運動》(1896)，《近代資本主義》(1902・1927)を公刊。1906年ベルリン商科大学に移り，1917年ワグナー*の後任としてベルリン大学の教授となった。しだいにマルクス主義に批判的になり，第1次世界大戦・革命・インフレーションなどの社会的激動の中で転向し，プロイセン軍国主義を賛美した《商人と英雄》(1915)，マルクス主義批判の《プロレタリア社会主義》(1924)を著わした。その後《資本主義の将来》(1932)，《ドイツ社会主義》(1934)などによって民族主義的傾向を示すことになった。〔林　達〕

そんぴぶんみゃく 【尊卑文脈】 南北朝末期，左大臣洞院公定(とういんきみさだ)(1340～1399)が編集し，後人が増補した諸氏の系図*。源氏・平氏・藤原氏・橘(たちばな)氏をはじめとする主要な諸氏の系図が集成され，諸氏系図中最も信頼されている。流布本により巻数が一定しないが，宮内庁書陵部所蔵の14巻本が比較的信頼されている。《故実叢書(そうしょ)》《新訂増補国史大系》に収められ，活字本となって日本史研究の基礎的資料として役だっている。〔高崎徳次〕

ソンブレロ ［sombrero］ スペイン語で帽子の意。一般にスペイン・メキシコ・南アメリカで用いられる，クラウン*が高くブリム(つば)幅の広い帽子をさす。フェルト製・麦わら製などがあり，前者はおもに紳士用，後者は農民用とされている。男性ばかりでなく女性も用いる。北アメリカのカウボーイがかぶるテンガロン-ハットは，これの変形したものである。



ソンブレロ　メキシコの麦わら製ソンブレロ



孫　文

そんぶん 【孫文】 スンウェン（1866～1925）〈中国革命の父〉といわれる。広東(カントン)省の人。字(あざな)は逸仙(ヤットセン)，号は仲山。農民の子として生まれ，若くしてハワイに渡り，また香港(ホンコン)でキリスト教者となり医学を学ぶなどした。その民主主義的国民国家の観念に基づいて革命運動にはいってからは，会党の武力と華僑(かきょう)の財力によって1895年・1900年などの革命武装蜂起(ほうき)を企て，失敗しては海外に亡命しつつ学んだ。その前，1894年ハワイで興中会*を創立したが，1905年，光復会*・華興会*と興中会を合わせて中国同盟会*を日本で設立し，その総裁となり，三民主義*を唱えた。その後いくたびかの武装蜂起，特に黄花崗(こうかこう)事件の失敗挫折(ざせつ)があったが，1911年の武昌(ぶしょう)蜂起による清朝(しんちょう)転覆・民国革命の成功があり，海外にいた孫文は帰国して臨時大総統となるが，やがて軍閥・買弁勢力の代表者袁世凱*(えんせいがい)が大総統となるに及んで，その反動的弾圧政治と戦った第2・第3革命を試みたが失敗した。1918年に《建国方略》を書き，中国国民党*を主宰した。1919年の五・四運動*以後，彼は中国革命は労農人民の力によるべきことを知り，1924年にはコミンテルン*の指導のもとに〈連ソ・容共・労農援助〉を政策として中国共産党と国民党との国共合作*を行ない，反帝・反封建の社会・政治革命の路線に立った。三民主義も〈耕す者に田を〉のスローガンを含む新三民主義に改まり，国民党も大衆団体をめざした。そして1923年以来固めてきた広東革命政権によって北伐*(北方軍閥政権の打倒)を企てたが，〈革命いまだ成らず〉の語を残して死んだ。孫文の革命事業は，その後歴史的発展を遂げながら中国共産党に引き継がれた。〔西　順蔵〕

ゾンマーフェルト ［Arnold Johannes Wilhelm Sommerfeld］（1868～1951） ドイツの物理学者。ミュンヘン大学理論物理学教授。ボーアの原子構造論を発展させ，量子化法則を一般化して，原子内電子の軌道を計算するなど，前期量子論の完成に貢献した。そのほか，金属電子論についての研究も著名である。

ソンムのたたかい 【ソンムの戦い】 第1次世界大戦中，西部戦線で展開された激戦。1916年6月連合軍のイギリス・フランス両軍は膠着(こうちゃく)した戦線の打開を図り，東部戦線のロシア軍と呼応して，北フランスのソンム川から北海に至る約40kmの戦線でドイツ軍を攻撃した。しかし，この大規模な作戦は失敗のまま雨季にはいり，再度戦線は膠着して，戦闘は11月まで続いた。この戦闘でイギリス軍は，はじめて戦車を使用した。兵員の損害は連合軍60万，ドイツ軍45万といわれるが，西部戦線における連合軍の最初の反撃戦としてドイツ軍に与えた影響は大きかった。〔折井一彦〕

そんらく 【村落】 集落*の一類型で，都市*に対する。主として第1次産業*によって成立する地域社会をいう。水利を中心として地縁的に結合する。農村・漁村・山村などに分類され，共同体*意識が強く，それぞれ特有の生活様式や生産活動を保持する。日本での起源は，古代の条里集落*に求められる。なお，人工的に設定された村落としては，北海道の屯田兵*(とんでんへい)村がある。

そんらくきょうどうたい 【村落共同体】 血縁的に構成される原始共同体*から発展し，地縁的に結ばれるようになった最初の社会形態。一般には前近代的な村落*形態をさす。厳密には，原始共同体から直接生まれた最初の地縁的共同体としての農業共同体とは区別される。すなわち農業共同体の段階では，家屋と庭地は私的所有になるが，耕地についてはまだ共有財産として共同体所有のもとに置かれた。これに対して村落共同体では，耕地については耕作者の私的所有に属するが，牧地・森林などはまだ共同体所有のもとに置かれた。村落共同体は，中世の独立自営農民(→ヨーマン)が広範に成立した段階で純粋な形として現われるが，一方，自給的農業から商業的農業が発展する中で農民層の分解が進み，村落共同体は解体に向かう。

た

た　【田】　⇨水田

たあそび　【田遊】　稲の豊作を予祝する民族芸能の一。年の初めに先年の豊作を神に感謝し，神を招いての饗宴(きょうえん)ののち，餅(もち)を鍬(くわ)に，太鼓を田の面に見立て，歌を歌いながら田打ち・種まき・苗取り・田植え・穂ばらみ・刈り上げ・倉入れなど一連の稲作のさまを演ずる。稲作の実際を模擬的に演ずることによって，豊作を念ずる呪術(じゅじゅつ)的行事である。田楽*もこれに発するといわれる。

たい　【体】　⇨群

たい　【堆】　海底の隆起した部分で，航海に危険は生じないが，比較的浅いものをいう。成因別にみると，火山性のもの，地殻(ちかく)変動の結果できたもの，サンゴ礁がその生成速度よりも速く沈降したことによるものなどに大別される。魚が集まるので，漁業面からいって重要である。

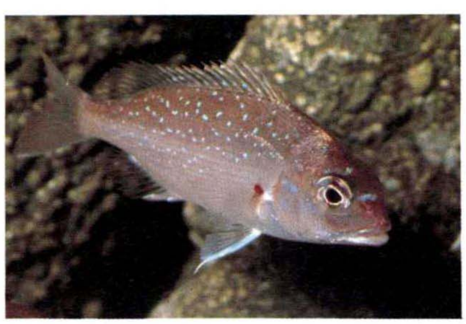
たい　【鯛】　硬骨魚類・タイ科の海産魚。ふつう狭い意味からはマダイをさすが，広い意味ではタイ科の魚の総称にも使われる。また，キダイ(別名レンコ)もタイとよばれているが，まったく別科のメイチダイ科の魚である。タイは日本で古来から広く親しまれている魚であるため，魚の表現にもタイのような魚とか，タイ科の魚ではなくともアコウダイ*(カサゴ科)・イシダイ*(イシダイ科)・コショウダイ*(イサキ科)・キントキダイ*(キントキダイ科)のように名まえの末尾に〈タイ〉のつくものが多い。

マダイは大きさにより，マコ・大マコ・中タイ・大ダイ・特大ダイとよばれ，体長は普通は数十センチであるが，120cmの大形魚が釣獲(ちょうかく)されたこともある。幼魚には体側に濃紅色の横帯が数条あるが，成長するにつれて消失する。北海道以南，台湾・中国の沿岸に分布する。わが国の重要水産物の一つで，産額も多く，高価である。産卵期は春。マダイによく似たものにチダイ*があり，東京ではときとしてマダイと区別しないこともあるが，マダイと違って背びれの第3棘(きょく)と第4棘がやや柔らかく延長していること，尾びれの後縁が黒色でないことなどで区別できる。かつてはマダイの代用品とされていたが，近年ではほとんど同じに扱われている。しかし，同じタイ科の魚であるとはいえまったく違う属の魚である。

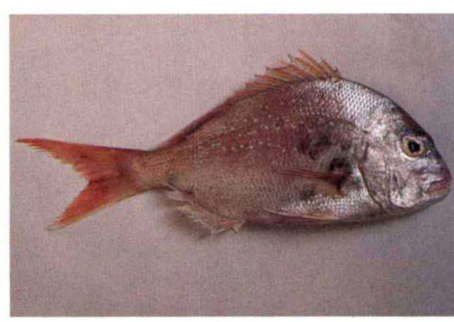
マダイ属と同属の魚には近年冷凍食品として輸入されているゴウシュウマダイがあるが，これは老成するにつれて頭部が突出してくるので見分けることができる。このほか，タイの仲間には体色の黒灰色の一群があり，わが国からはヘダイ・クロダイ・キビレなどが知られている。いずれにしても食用としての価値は高い。〔安田富士郎〕

タイ(王国)　[Kingdom of Thailand]　インドシナ半島中央部に位置する王国。東側は北から南へかけてラオス・カンボジアの両国と西側はビルマと国境を接し，南はシャム湾に面し，西南はマライ半島に伸びて，マレーシア連邦に接する。東南アジアでは古くから独立を維持してきた唯一の国で，政情も比較的安定し，開発の進みつつある国。面積51万4,000km²。人口4,614万(1979年推)。首都はバンコク(タイ語名，クルンテプ)。言語はタイ語。旧称はシャム。

〔地理・住民〕チベットに源を発し，インドシナ半島中央を貫流するメコン川を東に擁し，国内の山脈はヒマラヤ山脈から連なって北から南へ走り，マライ半島部の山岳に続く。北西部の山岳地帯から発する4支流を合わせて南流するメナム川は，下流域に大平野を形成し，米を主作物とする穀倉地帯となっている。北部は無数の山間盆地を形成し，高地は山岳少数民族が住む。最高峰はインタノン山(2,576 m)。東北部はコラート高原とよばれるなだらかな疎林の丘陵が続き，土壌(どじょう)はやせている。全土が熱帯に属し，北東季節風の強い乾季(11～4月)と南西季節風の強い雨季(5～10月)に分かれ，雨量は平野部では年3,000mm以上に及ぶが，全国平均では1,600mm前後である。気温は平均して高く，28～30℃である。住民の80%強を占めるタイ族のほかに，華僑(かきょう)・マライ人・クメール人・インド人・



マダイ



ゴウシュウマダイ



キダイ



キビレ

タ　イ

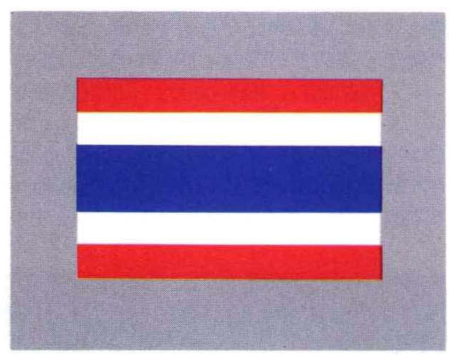
ベトナム人およびカレン族などの山岳少数民族が住む。歴史的に混血の度合いは大きく，純粋なタイ人を見分けることはきわめてむずかしくなった。

〔歴史・政治〕稲作文化をもつタイ族は，中国西南部から徐々に河谷に沿って南下し，13世紀にはすでに平野部に勢力をもっていたクメール王国を破り，中北部のスコータイを都に王国を形成，1350年，さらに南のアユタヤに王国を建てた。16～17世紀には，ポルトガル人・日本人・イギリス人・フランス人・オランダ人が渡来し，外国文化がはいってきた。山田長政*(ながまさ)らが渡り，日本町をつくって活躍したのもこのころである。18世紀中ごろビルマの攻撃でアユタヤは陥落した。その後バンコクの対岸のトンブリを都に新王朝を建てたが，15年後の1782年，バンコクに現ラタナコーシン王朝が成立した。ラーマ4世(1851～1868)時代には西欧列強の植民地政策の危機にさらされたが，ラーマ5世(1868～1910)の行政制度，兵制などの近代化と列強の緩衝地帯となったことから，独立を保ちえた。1932年人民党革命により立憲君主国となったが，文官派が支配した一時期(1944～1947)を除いては，陸軍・警察を中心とした軍部が今日まで政権を握っている。軍人政治家としては，ピブーンやサリットが著名である。1968年には10年ぶりに新憲法を制定，総選挙を行なって民政移管のきざしをみせたが，1971年11月〈革命評議会〉と称する軍部エリート集団により憲法は廃止された。高度に中央集権化された中央政府をもち，特に近年内務省に権限が集中している。全国は72県に分かれるが，地方行政府は中央政府の政策執行機関にすぎない。戦後は反共・国連中心主義を外交基本政策とし，ASEAN(東南アジア諸国連合)の一員として，近隣諸国との友好増進も推進している。なお，旧国名のシャムはタイ系諸族のシャン族からきたというもの，メナム川流域をさすシャーマ(暗かっ色の意)というパーリ語に由来するという説などがあるが，定説はない。日本では江戸初期には〈しゃむろ〉とよんでいた。1939年以来シャムはタイ(タイ族の国の意)と改められたが，第2次世界大戦後一時シャムに復したこともあり，文化的用語としては現在も用いられる場合がある。

〔文化・社会〕タイ族がインドシナ半島に南下したとき，先住民のモーン族やクメール族の間には，すでに仏教が伝えられていて，多量のインド文化を吸収した。13世紀ごろに，セイロンから伝えられた小乗仏教の勢いが強くなり，今日では国王から一般民衆まで熱心な信徒となっている。しかし，イスラム教徒やキリスト教徒も少数ながら居住しているため，仏教は国教とはされず，信教の自由は保障されている。現在，全国に約20,000の寺院と僧約16万が宗教活動を続け，一般大衆の心のささえとなっている。



300万人以上の都市 100～300万人の都市 50～100万人の都市 10～50万人の都市 5～10万人の都市 5万人未満の都市 首府 油田



タイの国旗 1935年制定。トライランガ(三色旗)とよばれ，赤は国民，白は仏教，青は王朝を表わす。また一説に，青はメナム川を表わすともいわれている



タ　イ 首都バンコクを流れるメナム川から望んだワット－ルアン(暁の寺)の塔。塔の高さは74mで，中腹まで登れる

年中行事も多くは仏教の祭事が中心となり，儀礼などにも僧の祝福を受ける。仏教はまた，彫刻・絵画・建築・文学にも多大の影響を与え，特に仏像・寺院建築にはタイ独特の様式を生み出した。タイ社会では長幼の順が厳格で，伝統的なものに価値を置く。

〔産業・経済〕農業国で，農業生産は国内総生産の30％を占め，就業人口の81％が農業に従事している。耕地面積は全土の19.6％で，主産物は米・トウモロコシなどである。半島部でゴム，東南部でタピオカを産する。北部山地でチーク材を産するが，鉱物資源は南部のスズ鉱以外は乏しく，現在シャム湾で油田の探掘が試みられている。エビの捕獲量の伸びが著しく，近年日本向け輸出の首位を占めている。家畜としてスイギュウ・ウシ・ブタ・ニワトリを多く飼う。経済開発計画(1961～1966，1967～1971)や産業投資奨励法により，工業化への努力がなされている。外資導入による合弁企業も増加しつつあり，日本の進出企業は200社を越え，在留邦人も約6,000人に達する。輸出主要品は米・ゴム・トウモロコシなどで，また輸入主要品は繊維製品・鉄鋼製品・自動車などであり，毎年の入超が問題となっている。商品の流通過程のほとんどを華僑が握っている。交通は，幹線道路が全国的に整備され，近年は鉄道・運河の利用に代わって，自動車が運輸における重要性を増しつつある。ドンムアン空港は，世界航空幹線路上に位置し，重要飛行場となっている。　〔別技篤彦・富田竹二郎〕

だい　【代】 地質時代の区分単位の一。紀*をいくつか集めたもの。たとえば，中生代は三畳紀・ジュラ紀・白亜紀に分けられる。代は地質系統区分の界*に対応する。

ダイアー　［Henry Dyer］ (1848～1918) イギリスの工学者。工学寮お雇い外人教師。グラスゴー大学を卒業し，1873年わずか25歳で工学寮教頭兼土木工学および機械工学教師として招かれ，8人の助教とともに来日。師ランキンの教育思想を礎として新日本の近代工学の教育機関の確立に努め，1882年まで工部大学校の創立と運営に尽力した。帰国後も日本留学生を懇切に指導し，また《大日本》《東洋の大英帝国日本》などの著書を残した。

たいあざみ　双子葉植物・キク科。関東地方および中部地方南部の平地ないし山地の陽地にはえる多年草。茎の高さ1～2m。下部の葉は長さ25～35cmで羽状に中裂し，羽片は5～7対。茎や葉に5～10mmの太い針がある。9～11月，枝先に紫紅色の頭花をつける。

だいアジアしゅぎ　【大アジア主義】 19世紀後半欧米諸国の帝国主義*思想がアジアに侵入してきた際に起こった，アジア人の手で新しいアジアを独立させようとする民族運動をいう。日本が脱亜的帝国主義を志向したため，この思想と運動はたえず歪曲

(わいきょく)された。中国では孫文の《大亜州主義》《東亜連盟論》，日本では政治家の樽井(たるい)藤吉(1850～1922)の《大東合邦論》，玄洋社*の《大陸経綸》が典型であり，八紘(はっこう)一宇の大東亜共栄圏*論において最高潮に達した。この正統は第2次世界大戦後，アジア・アフリカ諸国の独立となって拡大前進されたとみることもできる。〔安達利夫〕

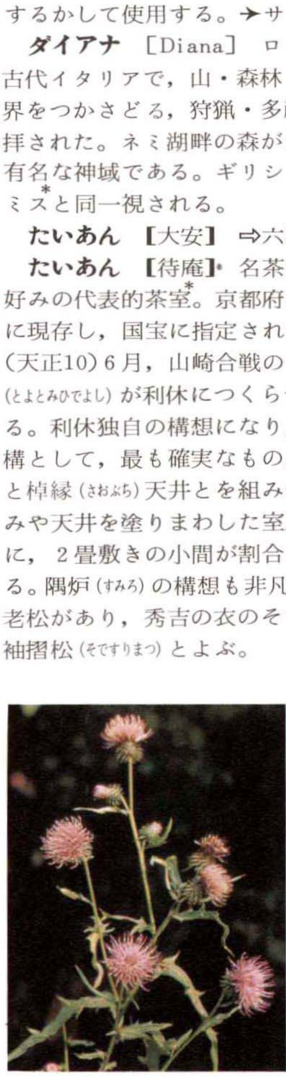
ダイアジノン ［diazinon］ 比較的毒性の低い有機リン剤で適用害虫の範囲も広い。メイチュウ類，ウンカ・ヨコバイ類，クロカメムシ・シンクイムシ・コカクモンハマキなどによくきき，またその粒剤(有効成分3％含有)を水田に施用するとニカメイチュウ・ウンカ・ヨコバイ類に著しい効果のあることがわかった。有機リン剤としては比較的早くわが国に導入されたものであるが，そのすぐれた効果が見なおされている。

ダイアジン ［diazine］ サルファ剤の一種で，日本薬局方名スルファジアジンの商品名。1940年ロブリンによって合成され，肺炎の特効薬としてアメリカで用いられた。わが国でも第2次世界大戦後まもなく，種種の細菌性疾患の治療に用いられた。白色の結晶で水にとけにくい。内服するか，水にとけやすいナトリウム塩を用い注射剤とするかして使用する。➔サルファ剤

ダイアナ ［Diana］ ローマ神話の女神。古代イタリアで，山・森林・川などの自然界をつかさどる，狩猟・多産の神として崇拝された。ネミ湖畔の森がダイアナの最も有名な神域である。ギリシア神話のアルテミス*と同一視される。

たいあん 【大安】 ⇨六曜

たいあん 【待庵】 名茶席の一。千利休*好みの代表的茶室*。京都府山崎の妙喜庵内に現存し，国宝に指定されている。1582年(天正10)6月，山崎合戦のとき，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が利休につくらせたと伝えられる。利休独自の構想になり，利休茶席の遺構として，最も確実なもの。掛け込み天井と棹縁(さおぶち)天井とを組み合わせ，床のすみや天井を塗りまわした室床の構造のために，2畳敷きの小間が割合に広く感じられる。隅炉(すみろ)の構想も非凡である。庭前に老松があり，秀吉の衣のそでが触れたので，袖摺松(そですりまつ)とよぶ。〔桑田忠親〕

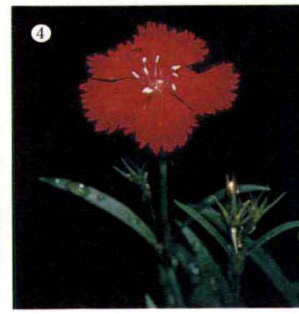


タイアザミ









ダイアンサス ①ダイアンサス-アコーリス ②ヒメハマナデシコ(ダイアンサス-キウシアヌス) ③アメリカナデシコ(ダイアンサス-バルバツス) ④トコナツ

ダイアンサス ［*Dianthus*］ 双子葉植物・ナデシコ科のナデシコ属のこと。70種以上の種が含まれ，ヨーロッパから日本まで広く分布している。観賞用に植えられるものが多く，ヨーロッパ産のものは岩石園や花壇用に，日本産のものははち植え用に多く用いられる。カーネーションをはじめとして，トコナツ(中国のセキチクから改良)・イセナデシコ(セキチクから改良)・タツタナデシコ(ヨーロッパ・南ヨーロッパ・シベリアに分布)などがある。繁殖はさし芽・実生など。〔小杉　清〕

だいあんじ 【大安寺】 奈良市大安寺町にある真言宗山階(やましな)派の寺。創建は聖徳(しょうとく)太子が建てた熊凝精舎(くまごりしょうじゃ)にさかのぼる。その後，所在地が転々と移り，百済(くだら)大寺・高市(たけち)大寺・大官大寺と号した。平城遷都とともに現在の地に移転，大安寺と改めた。唐の西明寺にならって建てられ，東大寺が建てられるまでは南都で最大の伽藍(がらん)の規模を誇っていた。現在，楊柳(ようりゅう)観音など天平期の一木造りの仏像が9体残っている。また，近くには東西両塔の跡があり，往時の大安寺式伽藍配置をしのばせる。〔永井信一〕

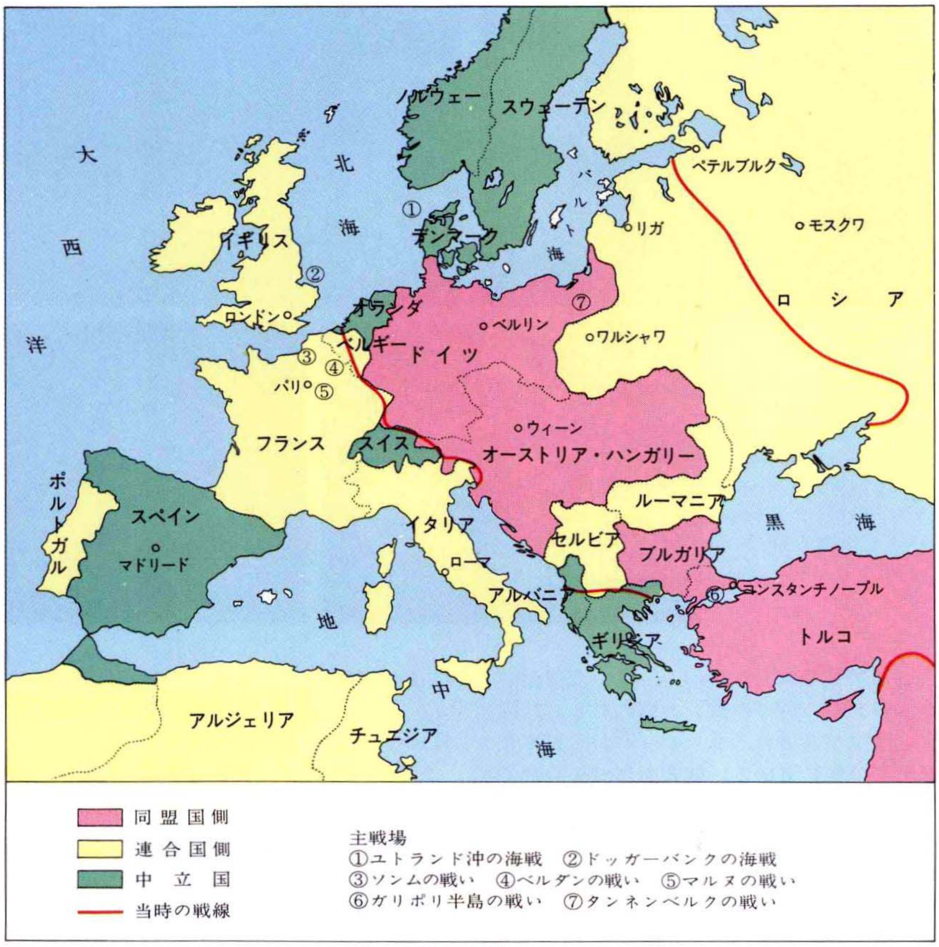
だいアンチルしょとう 【大アンチル諸島】 Greater Antilles 西インド諸島中の一諸島。小アンチル諸島*に対して名づけられ，キューバ・ジャマイカ・ヒスパニオラ・プエルトリコの諸島を含む。地体構造上はアメリカ大陸のロッキー-アンデス山系の一部で，カリブ海と大西洋とを分ける。17～18世紀にスペインの植民地が建設され，サトウキビ・タバコその他の熱帯性作物のプランテーションが営まれてから経済的に重要となり，労働者としてアフリカ大陸から黒人が移入された。〔大崎　晃〕

たいいくのひ 【体育の日】 国民の祝日*の一。10月10日。スポーツに親しみ，健康な心身をつちかう日とされ，1966年(昭和41)オリンピック東京大会開会式の日(1964年10月10日)を記念して定められた。

だいいちインターナショナル 【第1インターナショナル】 ⇨インターナショナル

だいいちかんぎょうぎんこう 【第一勧業銀行】 1971年(昭和46)第一銀行と日本勧業銀行の合併によって成立したわが国最大の都市銀行。第一銀行は1873年(明治6)第一国立銀行として設立され，わが国最古の歴史をもつ。1896年株式組織になり，大正年間に三十銀行・京都商工銀行などを合併。昭和にはいって古河(ふるかわ)銀行・渡辺(わたなべ)銀行を合併，1943年には当時の三井銀行を合併，第一銀行から帝国銀行に行名を変更した。第2次世界大戦後三井系を分割し，1948年第一銀行として再発足。川崎・古河系グループの中心に立つ。日本勧業銀行は1897年日本勧業銀行法によって設立され，不動産担保による農業金融を主としていたが，しだいに一般金融を主たる業務とするようになった。1950年日本勧業銀行法の廃止で普通銀行に転換，1952年には長期銀行法の施行に伴い勧業債の発行を停止し，一般銀行業務に移行した。宝くじ受託銀行。支店数321。資本金960億円，預金残高12兆6,475億円，従業員数24,233(1980年9月)。

だいいちきょうわせい 【第一共和政】 1792～1804年のフランス最初の共和政。フランス革命当初は立憲君主政(1791年憲法)であったが，1792年8月10日に王権が停止され，1791年憲法に基づいた立法議会も解散した。新しく普通選挙によって召集された国民公会*(1792～1795)は，9月21日王権廃止を宣言し，共和政を敷いた(ルイ16世処刑は翌1793年1月)。これから3年間，国民公会は立法権・行政権を行使することとなる。この間，革命に干渉しようとする外国軍との戦争や反革命内乱および経済的危機



第一次世界大戦

に対処するため，ロベスピエール*を中心とする山岳党の独裁政治・恐怖政治も行なわれたが，戦局の好転とともに議会はテルミドールの反動*によってロベスピエール派を倒し(1794年7月)，ブルジョア的安定をめざして新しく憲法を制定し，1795年政権を総裁政府*に引き継いだ。その後ナポレオンが帝位につくまで続いた。〔喜多迅鷹〕

だいいちじさんぎょう【第1次産業】 クラーク*による産業分類*のうち，農業・牧畜業・林業・水産業・狩猟業などの採取産業をいう。第1次産業の特色はその生産物に対する需要が概して非弾力的なこと，他産業に比して収穫逓減の法則*が作用すること，技術進歩は比較的緩慢なことである。クラークの産業分類法はわが国の総理府統計局の産業別人口統計解析にも用いられている。➔産業構造

だいいちじしゅうだん・だいにじしゅうだん【第1次集団・第2次集団】 第1次集団は，アメリカの社会学者C.H.クーリー(1864～1929)が，その著《社会組織論》(1909)の中で創唱した集団の実体概念である。それは，①成員間に直接的な方面接触による親密な結合があり，②そこから成員の連帯感・一体感が生じて，③そのことが個々の成員の人間性や理想の形成に第1次的(基本的)に影響を及ぼすことになる，という特徴をもつ。その典型的なものとして，家族・近隣集団・遊戯集団があげられる。これらはいずれも親密な結合と相互的同一視に基づいて，パーソナリティー*形成の核心をなす共感・情操を付与する点で基本的な役割を果たすとするところに，彼の強調点がある。クーリーの示したこの概念は，心理学的・経験主義的傾向の強いアメリカ社会学に広く受け入れられ，その後ヤング*らによってそれと対置される第2次集団の概念が提唱された。

第2次集団は，〈機能集団〉〈特殊利害関係集団〉ともよばれるように，特殊な利害関心に基づいて多少とも意識的に組織され，成員は間接的接触を通じて結合している点に特徴がある。それは第1次集団に比べて，範囲も大きく専門化され，そこに生じる形式的・非人格的性質が学校・組合・政党・国家などの制度や組織を構成する傾向をもつ。なお，近代以降の社会の一つの特色は，第2次集団が第1次集団を凌駕(りょうが)し，増大していく点に求められるが，そうした状況にあって第1次集団の機能的側面に着目したクーリーの功績は大きく，最近盛んに行なわれている小集団研究もそれをさらに展開したものといえる。〔藤見純子〕

だいいちじせいちょう【第1次性徴】 ⇨性徴

だいいちじせかいたいせん【第1次世界大戦】 1914年7月28日オーストリアのセルビアに対する宣戦布告に始まり，1918年11月11日ドイツの無条件降伏によって終結した戦争。世界諸国が協商(連合)国側と同盟国側とに分かれて交戦し，人類が最初に経験した世界的規模の戦争となった。

【列強の世界政策】19世紀の後半，ヨーロッパの資本主義国家は国家を背景とした資本の国外進出を積極化し，帝国主義*のもとに海外市場と植民地獲得を争う国際間の激しい競争をひき起こした。ヨーロッパ諸国のこの〈世界分割〉は19世紀末にいちおう完了したが，20世紀にはいると，新興国や既得の海外権益をさらに拡大しようとする列強が〈世界の再分割〉を企て，そのために国際間の勢力対立をいっそう激化した。中でも資本主義国家としてたちおくれていたドイツは統一後国内産業の発展がめざましく，重工業生産はイギリスに対抗するほどに成長し，海外市場の拡大を不可欠とするようになった。ビスマルク*に代わってウィルヘルム2世*が親政するに及び，ドイツは強力な海外進出を企てた。

【イギリス・ドイツの対立とバルカン半島】ドイツの海外進出は，多数の民族が分立している上に，トルコの衰退で列国の勢力が競合しているバルカン半島に向けられ，ベルリン・ビザンチウム(イスタンブール)・バグダッドを結びつけようとする3B政策*がとられた。イギリスはドイツに最も脅威を感じ，これはイギリス・ドイツの建艦競争を誘い，ますますその対立を深めた。日英同盟*でその〈光栄ある孤立〉政策を放棄したイギリスは，1904年にはイギリス-フランス協商*を，1907年にはイギリス-ロシア協商*を結んで三国協商*を形成し，ドイツ・オーストリア・イタリアの三国同盟*に対抗した。三国同盟は1882年以来結ばれていたが，イタリアは国境問題でオーストリアと間隙(かんげき)を生じ，1902年にはイタリア-フランス協商*を結んで協商側に接近を示しており，またオーストリアは国内の民族問題で苦慮していたので，同盟の結束力は弱かった。結局ドイツは協商3国に包囲されて，国際的に孤立化する傾向にあった。このような情勢のうちに，1908年トルコ革命が起こり，バルカン半島ではトルコの領土からブルガリアが独立を宣言し，オーストリアはドイツの支持を得てボスニア・ヘルツェゴビナ2州を併合した。同地方の住民はスラブ系セルビア人で，従来から汎(はん)スラブ主義*のもとにスラブ族への併合を望んでいたため，オーストリア・セルビア両国間の関係が険悪となった。ロシアは18世紀以来汎スラブ主義を唱えてバルカン諸国の統合を志していたが，1912年反オーストリア諸民族を組織し，バルカン同盟*をつくった。その結果第1次・第2次バルカン戦争*が誘発され，ロシアを中心とする汎スラブ主義とド





第1次世界大戦
(左)ソンムの戦いに参加した南アフリカ旅団 (中)1918年8月ソンム川上流を進撃するイギリス軍と戦車マークV (右)1919年のパリ平和会議

イツ・オーストリアの汎ゲルマン主義*とがきびしく対立し，さらにドイツの半島進出を阻止しようとするイギリス・フランスの策動が加わって，バルカン半島はまさに〈ヨーロッパの火薬庫〉となった。

〔開戦〕1914年6月28日ボスニアの首都サラエボで，陸軍大演習統監途中のオーストリア皇太子がセルビア秘密結社党員に暗殺される事件が起こった(→サラエボ事件)。オーストリアは同盟国ドイツの支持を得て7月28日セルビアに宣戦し，それに対してセルビアのうしろだてとなっていたロシアは軍の動員を開始した。ドイツはオーストリア・ロシア間の直接交渉で事態を解決しようとしていたが，ロシアの動員をみて8月1日対ロシア宣戦を行ない，3日フランスにもフランス軍のベルギー領侵入を理由に宣戦を布告した。イギリスはドイツ軍のベルギー中立侵犯を理由に4日ドイツに宣戦布告し，のち戦局の拡大とともに世界の多くの国家が時を追って参戦し，ここに世界大戦が勃発(ぼっぱつ)した。かねてから各国では反戦運動が広く行なわれていたが，その運動の多くは戦争の勃発とともに自国の戦争を防衛戦争と認めて戦時協力の体制にはいり，第2インターナショナル(→インターナショナル)は消滅した。

〔初期の戦況〕ドイツ軍はその主力戦場の西部戦線で，1914年8月4日中立国ベルギーに侵入して，20日首都ブリュッセルを占領し，ただちにフランス領土に侵入，首都パリに肉薄する勢いを示した。しかし，戦勝に乗じて一部兵力を東部戦線に転用したため，マルヌの戦い*でフランス軍の反撃に敗れ，ドイツの短期決戦計画は挫折(ざせつ)し，戦線は膠着(こうちゃく)した。東部戦線では予期された以上にロシア軍の動員が進み，優勢のうちにドイツの東プロイセン，オーストリアのガリシアに侵入したが，ドイツ軍はヒンデンブルク*を司令官に起用して，8月28・29日の両日タンネンベルクでロシア軍を包囲し，これを大破して優位に立った。

〔戦線の拡大〕日本は，1914年(大正3)8月23日日英同盟を理由に連合国側に参戦し，11月7日中国におけるドイツの租借地*青島(チンタオ)を陥落，一方ドイツ東洋艦隊を追って，9月にはドイツ領南洋群島の北半を占領した。トルコは従前からドイツの経済的・軍事的指導下にあり，戦争勃発時にドイツ－トルコ同盟を結んでいたので，1914年11月同盟国側に参戦し，カフカズ戦線でロシアと，スエズ運河・メソポタミア戦線でイギリスと一進一退の戦闘をくり返した。イギリスはアラブ勢力と戦後の密約を結んでその支援を得，戦局の好転に努めた。バルカン諸国家群に対しては両陣営の外交戦が展開されたが，結局ブルガリアが同盟国側に，セルビア・ルーマニア・ギリシアが連合国側に立ち，セルビア・ルーマニアは参戦とともにドイツ・オーストリア軍に攻略された。イタリアは開戦とともに三国同盟廃棄・厳正中立を宣言し，その後両陣営の外交戦の的となったが，戦後の領土割譲を約したロンドン条約*をイギリス・フランスと結び，1915年5月23日連合国側に参戦し，新しくイタリア戦線が形成された。

〔アメリカの参戦とロシア革命〕ドイツは東部戦線で優勢であったが，海上ではイギリス海軍に制海権を握られた。ドイツの積年の大建艦計画にもかかわらず，開戦時にはイギリス・フランス艦隊に比して劣勢であったため，その主力艦隊は北海に封鎖されていた。またその東洋艦隊がアルゼンチンのフォークランド沖の海戦でイギリス海軍に撃滅され，ドイツは世界各海域の海上権およびいっさいの海外植民地を失った。さらにイギリス海軍の海上封鎖はドイツ国内の食糧事情をしだいに悪化させ，それは国民生活にきびしい重圧となって国民の戦意を喪失させた。ドイツはこの事態を打開するために決定的な戦勝を必要とし，1916年2月から6月にかけて4回にわたり西部戦線に大攻勢に出て，凄惨(せいさん)なベルダン要塞(ようさい)の攻防戦を展開したが，フランスのペタン*の善戦にはばまれて失敗した。満を持していたイギリス・フランス連合軍はソンム川方面からはじめて戦車を使用した攻撃に転じたが，両軍ともいたずらにばくだいな戦死傷者を出しただけで勝敗は決せず，持久戦となった。海上封鎖で窮境に置かれたドイツは，ついに1917年2月無制限潜水艦戦を宣言した。ドイツ潜水艦によ

第1次世界大戦における動員数および人員の損傷

	国名	動員総数	死者数	負傷者数	捕虜および行方不明数	損傷数合計	動員数に対する比率(%)
連合国側	ロシア	12 000 000	1 700 000	4 950 000	2 500 000	9 150 000	76.3
	フランス	8 410 000	1 363 000	4 266 000	537 000	6 166 000	73.3
	イギリス	8 904 467	908 371	2 090 212	191 652	3 190 235	35.8
	イタリア	5 615 000	650 000	947 000	600 000	2 197 000	39.1
	アメリカ	4 355 000	126 000	234 300	4 500	364 800	8.0
	日本	800 000	300	907	3	1 210	0.2
	ルーマニア	750 000	335 706	120 000	80 000	535 706	71.4
	セルビア	707 343	45 000	133 148	152 958	331 106	46.8
	ベルギー	267 000	13 716	44 686	34 659	93 061	34.9
	ギリシア	230 000	5 000	21 000	1 000	27 000	11.7
	ポルトガル	100 000	7 222	13 751	12 318	33 291	33.3
	モンテネグロ	50 000	3 000	10 000	7 000	20 000	40.0
	小計	42 188 810	5 157 315	12 831 004	4 121 090	22 109 409	52.3
ドイツ－オーストリア側	ドイツ	11 000 000	1 773 700	4 216 058	1 152 800	7 142 558	64.9
	オーストリア	7 800 000	1 200 000	3 620 000	2 200 000	7 020 000	90.0
	トルコ	2 850 000	325 000	400 000	250 000	975 000	34.2
	ブルガリア	1 200 000	87 500	152 390	27 029	266 919	22.2
	小計	22 850 000	3 386 200	8 388 448	3 629 829	15 404 477	67.4
	総計	65 038 810	8 543 515	21 219 452	7 750 919	37 513 886	57.6

注）1924年2月，アメリカ合衆国陸軍省発表の数字による

るイギリス船ルシタニア号の撃沈(→ルシタニア号事件)はアメリカの世論を憤激させ，1917年4月6日アメリカ大統領ウィルソン*はついにドイツに宣戦した。

これと前後してロシア革命*が起こった。ロシアは，前線でドイツ軍にしばしば敗退し，国内では生活物資の不足に伴って国民の不満がつのった。1917年3月首都ペトログラードで労働者の大規模な暴動が起こって帝政は崩壊し(→三月革命)，さらに11月レーニン*の指導のもとに十一月革命*が達成された。革命政府はドイツと単独講和交渉を進め，1918年3月ブレスト-リトフスク条約*が成立し，東部戦線は休戦を告げた。

【大戦の終結】アメリカの参戦によって，大戦の様相は最終段階にはいった。ドイツは最後の勝機を開くため，休戦をみた東部軍を西部戦線に投入し，1918年3月から7月にかけて，5回にわたって全戦力をあげて大攻勢を試みた。連合軍総司令官となったフランスのフォッシュ将軍はよくこれをささえ，7月から反攻に転じた。ドイツ軍の敗勢が明らかになって，同盟側諸国はあいついで戦列から脱落した。ブルガリアは9月30日，トルコは10月30日に連合国側と休戦し，オーストリアも皇帝を廃して11月3日休戦した。すでにドイツもオーストリアとともに，アメリカ大統領ウィルソンが発表した大戦終結のための〈14か条平和原則〉に基づいて休戦を申し出ていたが，11月3日キール軍港における水兵の反乱に端を発して，革命はドイツ国内各地に波及した。9日皇帝ウィルヘルム2世は退位を宣言してオランダに亡命し，ドイツは社会民主党のもとに共和国となった。共和政府は11月11日コンピエーニュの森で連合国に対して無条件降伏の休戦条約に調印し，4年半にわたる大戦はここに終結した。

【戦後の情勢】第1次世界大戦はばくだいな人命の損傷とヨーロッパ交戦国国土の深刻な戦禍を招いて終結したが，これらは従来の戦争経験を越えたものであった。休戦後，ドイツを除いた27か国の代表が1919年1月からパリに集まって講和条約を議し，6月ドイツ代表とベルサイユ宮殿において条約に調印し(→ベルサイユ条約)，次いでオーストリア・ブルガリア・トルコと講和条約を結んだ。会議は〈14か条平和原則〉を方針として進められることとした。しかし実際の会議では，大戦中イギリス・フランスが戦略上諸国・諸民族と結んだ秘密条約の実行や既得権益の確保が強く要求されたので，ウィルソンの主張した民族自決主義や秘密条約廃止の原則は無実化した。ドイツは本土の一部と植民地の全部を失い，1,320億金マルクという巨額な賠償金を課せられた。その他の敗戦国に対する講和条約も過酷なものとなった。この会議で8新興国の独立と国際連盟*の成立をみたが，フィウメ問題*でイタリア代表が退場したのちは，イギリス・フランス・アメリカの3巨頭が会議の牛耳をとり，また国際連盟には提唱国のアメリカが参加せず，会議本来の理想は著しく後退した。講和会議では条約によってヨーロッパの国境が改められ，新しい国際関係が成立した。しかし，このベルサイユ体制*はなお帝国主義的性格をとどめ，将来国際間の対立を生ずる素地をつくった。

大戦を通じて，アメリカと日本の躍進が特に目だち，両国はイギリス・フランス・イタリアと並んで五大強国と称されるようになった。両国はいずれも直接戦禍を本土にこうむることなく，戦地需要の供給国となって経済は異常に繁栄した。中でもアメリカはその参戦が連合軍の勝機を早めたことばかりではなく，その国力からしてもヨーロッパに対する発言力を増大した。日本は国際的地位の向上に伴い，その動向が列国に注視されるようになったが，戦後中国の市場に強い関心を向けるようになったアメリカとは太平洋をはさんでしだいに対立関係を生ずるに至った。日本は大戦中対華二十一か条要求*を行なって，帝国主義的性格を露呈したが，講和会議で山東省の旧ドイツ租借地を日本に割譲することが決められたので，中国民衆は憤激してベルサイユ条約反対を叫び，中国全土に五・四運動*が波及した。革命後ロシアには社会主義国家が建設され，革命政府は民族自決・無賠償・無併合の平和原則を唱え，列強の帝国主義を攻撃した。それは後進諸国や植民地諸民族に深い影響を及ぼし，民族主義・社会主義の風潮や独立運動が盛んとなり，ベルサイユ体制は多くの問題をその将来に課せられた。　〔相良俊輔・高崎徳次〕

だいいとくみょうおう　**【大威徳明王】**　仏教の明王*。五大明王・八大明王の一。梵語(ぼんご)Yamāntaka(ヤマーンタカ)の訳。その名は〈ヤマ(閻魔*(えんま))を打ち砕く神〉の意で，その意をとって降焔魔(ごうえんま)尊とも訳される。忿怒相(ふんぬそう)をした恐ろしい神で，剣・鋒(ほう)・輪・杵(しょ)などをもち，印を結び，瑟々座(ひつひつざ)という座あるいは白い水牛の上にすわる。すべての毒蛇(どくじゃ)・悪龍(あくりゅう)を破るとされ，また男女離愛の法も説く。無量寿仏または文殊菩薩(ぼさつ)の化身とされ，わが国ではその秘法が盛んであった。　〔金岡秀友〕

だいいべんさい　**【代位弁済】**　第三者または共同債務者(連帯債務者・不可分債務者・保証人)のひとりが債務者に代わって弁済した場合，これらの弁済をした者は債務者に対して求償権を取得するのが普通であるが，この求償権の効力を確保するため，その求償権の範囲内において，債権者の債務者に有していた債権に関する権利が弁済者に移転するものとすることを弁済者の代位または代位弁済という。代位弁済が生ずるためには，債権者の承諾があること(民法499条)，または弁済をなすにつき正当の利益を有することが必要であり(民法500条)，前者による場合を任意代位，後者による場合を法定代位という。代位弁済の効果として，代位者は債権の効力および担保としてその債権者が有していたいっさいの権利(たとえば，履行請求権・損害賠償請求権・債権者代位権*・債権者取消権*などや債権を担保するための担保物権*，保証人に対する権利など)を行使することができる。債権の一部のみを弁済した場合には，その代位者は弁済した価額に応じて債権者とともにその権利を行なう(民法502条)。同一債権について法定代位をなしうる者が数人ある場合には，その相互間における法律関係の混乱を避けるため，民法はそれぞれの関係につき代位の順序や方法を詳細に規定している(民法501・503・504条)。　〔黒木三郎〕

たいいほう　**【対位法】**　多声の楽曲で使用される音楽技法または様式の一。各声部の独立性を重視し，和声は各声部の同時的な音の積み重ねの結果として二次的なものとして扱う。フーガ*は対位法技法の中で最も代表的なものである。時代的には，17世紀以降のいわゆる和声的な技法または様式に対するものとして使われる場合が多く，パレストリーナ以前の対位法的技法または様式には，多くはポリフォニー*の概念を用いる。歴史的にみれば，ヨーロッパ音楽では，多声楽の始まりとその起源を一にし，対位法の語源であるプンクトゥス-コントラ-プンクトゥム(音対音)から発して，ノートルダム楽派の音楽やマショー・デュファイらの手を経て，ジョスカン-デ-プレの時代に一つの頂点を迎える。総合者としてのパレストリーナの業績は，後代の理論家たちの手によって古典対位法として整理された。一方，バロック時代においては，不協和音の幅広い使用などを含むより自由な方法がとられ，これらはバッハの対位法に集約されている。古典派以降では，作曲技法および音楽様式としてのこれまでの重要性を失い，多くの音楽語法の中でその一部を占めるにとどまっている。　〔吉田泰輔〕

たいいんくん　**【大院君】**　(1820〜1898)名は李昰応(りしおう)。朝鮮，李朝(りちょう)の李太王高宗の父。宮廷の内紛に乗じて1864年子の李太王を立てて即位させ実権を掌握し，事大党*・独立党*の対立する渦中(かちゅう)に政治的地盤を築いて，鎖国政策を強行したが，王妃の閔(びん)氏一族との争いに敗れ，京城事件*で失脚した。

たいいんたいようれき　**【太陰太陽暦】**　月の運行(月の満ち欠け)をもとにする太陰暦*の一種で，閏月*(じゅんげつ)を適当に配置し1年の平均の長さが1太陽年*の長さに等しくなるようにして，暦と季節がずれないようにした暦法。バビロニア暦*・ギリシア暦*・ユダヤ暦*・中国暦*，日本で1872年(明治5)まで用いられていた旧暦などは太陰太陽暦の一種である。

たいいんれき　【太陰暦】　月の運行(月の満ち欠け)をもとにしてつくられている暦。陰暦ともいう。エジプトを除き古代の暦はだいたい太陰暦であった。満月から満月までの時間(朔望月*(さくぼうげつ))は29日12時間44分28.2秒でおよそ29.5日である。そこで29日または30日を1月とし，これを適当に組み合わせて1月の平均の長さが上記の朔望月に等しくなるようにしたものが太陰暦である。初期の太陰暦では29日の月と30日の月を交互に配した。そうすると1年の長さは354日となり1太陽年*より約11日少なくなり，毎年11日だけ暦の上で季節が遅れていくことになる。したがってある時に，1月が冬であっても18年たつと7月が冬になってしまう。これでは不便なので余分の月(閏月(じゅんげつ))を適当に配置して季節とのずれを防ぐようになった。閏月の配置のしかたは種々あるが，19年に7回閏月を置く方法が有名である。このようにすると19年＋7閏月＝6939.6882日，一方19太陽年＝6939.6018日となり両者の差は19年で約2時間である。この19年に7回の閏月を置く方法は中国では春秋時代の半ばに発明され，ギリシアではこれとは別に紀元前433年にメトンが発明した。太陰暦のうち1年の長さを太陽年の長さと関連づけて暦と季節がずれないようにしたものを太陰太陽暦*という。全然太陽のことを考慮していないものを純太陰暦といい，マホメット暦が唯一のものである。〔木下　宙〕

だいうんが　【大運河】　中国で華北に国都を置いた諸王朝が，米穀その他の物資を南方から輸送するためにつくった運河。黄河沿岸から淮河(わいが)を経て揚子江方面に達する水路は，すでに紀元前から部分的に開かれていたが，系統的に整備されたのは5～6世紀の隋(ずい)代からである。洛陽(らくよう)東北の黄河の岸から淮河・揚子江を渡って浙江(せっこう)の杭州(こうしゅう)に至る幹線のほか，洛陽付近から今日の北京(ペキン)地方に通ずる支線も開かれ，のち唐・宋(そう)時代を通じて盛んに利用された。13世紀，元代になると淮河以北は，江蘇(こうそ)省北部から山東省西部を経て河北省に入り，天津(てんしん)方面から北京に達するコースに変更された。のち部分的な移動はあったが，明(みん)・清(しん)2代にわたり国都を養うための大動脈として重要な役割を果たした。19世紀末から海上交通が発達するにつれてその重要度は減じ，地方的な水運に利用されるだけとなって今日に及んでいる。〔日比野丈夫〕

だいえい　【題詠】　あらかじめ題を設定して歌をよむ，和歌詠作の方法。早く万葉期にその萌芽(ほうが)は認められるが，平安期にはいり，歌合*(うたあわせ)・屏風歌(びょうぶうた)などが盛んになるにつれて広く普及した。さらに中世以降になると，題詠に始まり題詠に終わることが歌の本道であるとまで考えられるようになり，そのため，類題集や名所歌集が歌人必携の書として数多くつくられた。

だいえいはくぶつかん　【大英博物館】　ロンドンにある世界屈指の国立の歴史・美術博物館。1753年H.スローン卿(きょう)の提言により，その所蔵品を国が購入して，それを基礎に博物館を設立する条令が成立，1759年に開館した。所蔵品は，当初は博物学標本類が主であったが，現在では，時代・地域ともに幅広い世界の文化史資料の宝庫となっている。中でもギリシアのパルテノン神殿の大理石像(エルギン-マーブル)，エジプト象形文字解読の糸口となったロゼッタ-ストーンやエジプト・アッシリア・バビロン・中央アジアのオクサスなどの遺品，中国，特に唐時代の美術作品は有名である。また，世界最大の完備した図書館をもち，ギリシア聖書・パピルスなど学術上貴重な文献資料も多数収蔵している。現在の建物は1847年に建造された。〔藤井久栄〕

たいえき　【体液】　動物のからだには多量の液体が含まれているが，そのうちで細胞の外にあって細胞・組織の間を流動している液体をいう。体液は存在する場所によって，組織液・血液・リンパ液と区別しているが，本質的には同じもので，互いに連続している。脊椎(せきつい)動物ではこの三つが分化しているが，無脊椎動物では血液とリンパ液の区別がなく，組織液と血液の区別もはっきりしないものがある。体液は，体内環境を形成することと，物質の運搬に役だっている。〔蒲原春一〕

だいえつ　【大越】　李朝(りちょう)時代(1010～1225)以降のベトナムの国号。太祖李公蘊(りこううん)が中国の支配から脱し，都をハノイに移してから用いられた。その後，安南と改めたが，陳朝の仁宗に至り再び大越と号し(1285)，19世紀初頭から越南となった。

だいえん　【大円】　⇒球

たいおう　【対応】　三角形の合同を考えるとき，互いに重なり合う点を対応する点という。また，点の運動を調べるとき，各時刻とそのときの点の位置を組みにして考える。このように，集合Xの要素xと集合Y(X＝Yでもよい)の要素yとの組み(x, y)の集合Gを考えるとき，これをXからYへの対応といい，(x, y)がGに属するとき，Gによって元xに元yが対応するという。XからYへの対応のうち，Xの元xに対応するYの元が2個以上ないものをXからYへの一意対応または写像*という。そのうち数の集合から数の集合への写像が関数である。XからYへ対応GでXの元xにYの元yが対応するとき，このyにxを対応させるとYからXへの対応が定まる。これをGの逆対応という。対応Gとその逆対応がともに一意対応であるときGを1対1対応という。〔小西勇雄〕

だいおう　【大黄】　双子葉植物・タデ科。学名はレウム-オフィキナーレで，中国西北部原産の多年草。高さ2mに達する。根茎は黄色の肥大した円柱形。根出葉は長さ40cm以上の掌状葉で，太い柄がある。茎頂に大きな円錐(えんすい)花序を出し，白い小さな花が集まって咲く。本種および近縁のレウム-パルマツム・レウム-タングチクムの根茎を乾燥させたものを大黄といい，緩下剤・健胃剤として家庭薬に配合される。また漢方では重要な漢薬の一つとされている。また，カラダイオウはバイカル地方原産で，葉は大形卵形または卵状披針(ひしん)形，根茎は和大黄といわれて薬用に供されるが，大黄に劣るといわれる。マルバダイオウはシベリア原産の大形多年草で，ルバーブ・ショクヨウダイオウともいい，ヨーロッパでは古くから葉柄を食用にし，また，根茎は薬用にされるが，大黄に劣りかつ腹痛を伴うという。

だいおういか　【大王烏賊】　軟体動物・頭足類・ダイオウイカ科。胴長110cm，胴幅25.5cmに達する世界最大のイカ。胴長186cmで，触腕を伸ばすと6.5mに達する個体もある。吸盤も直径2cmになる。胴は長い円錐(えんすい)形で，後方背面のひれは左右に広がって卵形となる。腕は細く長く，触腕は胴長の3.5倍に及ぶ。軟甲は槍(やり)形。日本沿岸でもときどき採集される。この類は世界に約10種があり，北太平洋・北大西洋に分布し，マッコウクジラの胃中から発見されることがある。

たいおうげんり　【対応原理】　元素から射出されるスペクトル線の性質を理論的に説明するためにN.ボーアによって最初に用いられ，のちにハイゼンベルクらによる量子力学の形成において指導的な役割を演じた原理。古典物理学が元素の線スペクトルの説明に失敗し，それに代わる量子論がまだ確立されていなかった1910年代に，ボーアは原子の十分外部あるいは量子数の十分大きな極限では量子的現象に特有な不連続性は重要でなくなり古典物理学がなりたつことに注目して，古典論と量子論との間にある対応関係を樹立し，さらにこの対応関係を理論の基礎におくことによって量子数の小さなところでも正しい量子法則が発見できると考えた。実際，ボーアは1913年にはじめてこの原理をスペクトル線の振動数の計算に，続いて1918年にはそのかたよりや強度の決定に適用して大きな成功を収めた。また1925年にハイゼンベルクによって建設された量子力学はまさに対応原理の具体化であり，その正しい数学的表現にほかならなかった。〔荒牧正也〕

だいおうざき　【大王崎】　三重県，志摩(しま)半島南東端の岬(みさき)。志摩郡大王町に属する。岬は砂岩・粘板岩の海食崖(かいしょくがい)を巡らして太平洋に突出し，岩礁が多い。断崖には大王崎燈台がある。伊勢(いせ)志摩国立公園に含まれる。➔次ページ(写真)

だいおうまつ　【大王松】　裸子植物・マツ科。北アメリカ原産の常緑高木。高さ30

～40m，直径1m前後に達する。葉は短枝の上に3枚ずつ集まり枝先に密生する。葉の長さは20～30cmもあり，マツの仲間で最も長い。球果は長楕円(ちょうだえん)形で長さ15～25cm。種子は卵形で長さ3.5～4.5cm，6.5cmほどの長さの翼がある。

たいおきんざん　**【鯛生金山】**　大分県日田郡中津江村にある金・銀の鉱山。明治の中ごろから採鉱され，第2次世界大戦中一時閉山したが，戦後再開した。第三紀の安山岩・凝灰岩中に10条の鉱脈が走り，おもな鉱石は自然金・輝銀鉱・角銀鉱・濃紅銀鉱で，石英・方解石・硫化鉱なども産出する。現在，鯛生鉱業が経営している。

ダイオード　[diode]　一般に，2端子の半導体*素子をいい，代表的なものとして，整流用ダイオードをさす。第2次世界大戦中，アメリカにおいて実用化されたレーダー用の検波器として，鉱石検波器の研究が進められ，ケイ素の結晶にタングステンの針を立てた点接触ダイオードがつくられた。その後，ケイ素やゲルマニウムの精製，単結晶化の技術が進み，PN接合ダイオードがつくられるようになった。1948年，ショックレーにより，PN接合の整流作用が理論的に解明され，キャリアの注入現象，空乏層容量の電圧依存性などが明らかにされ，これらの応用素子が開発される糸口となった。

〔PN接合〕半導体単結晶中にP形とN形の領域をつくると，その境界にPN接合が形成される。PN接合に電極をつけて，P形領域が正電位になるように電圧を加えると，P形中の正孔は接合部を通ってN形領域に流れ込む。この現象を，正孔の注入現象とよぶ。N形領域に注入された正孔は，電子と再結合してしだいに減少していく。いいかえると正孔の注入による電流は，N形領域にはいるにしたがって，しだいに電子による電流に変わっていくことになる。同様にして，N形領域からP形領域への電子の注入が，PN接合を通って起きる。P形領域に注入された電子は，正孔との再結合によってしだいに減少し，正孔による電流と入れ替わる。すなわち，P形領域での正孔による電流は，接合部に近づくにしたがって，電子による電流に入れ替わっていき，接合部を離れたN形領域では電子による電流となる。このように，P形領域を正電位にした場合に流れる電流を順方向あるいは正方向電流とよぶ。

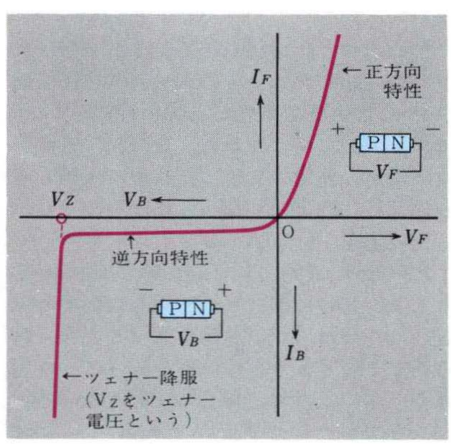
これとは反対に，P形領域が負電位になるように電圧を加えた場合に流れる電流を逆方向電流といい，順方向電流に比べると，この値は非常に少ない。この場合には，P形領域中の正孔およびN形領域中の電子は，接合部から遠のく方向に移動し，接合部にはキャリアがほとんどなくなり，空乏層が形成される。このため，接合部は等価的にコンデンサーとして作用する。これを空乏層容量あるいは接合容量とよぶ。空乏層の厚さは，印加電圧を大きくすると増加するため，接合容量は印加電圧により変化する。しかし，P形およびN形領域中には，真性半導体中で発生するキャリアに相当する，少数の電子および正孔が含まれているため，これらの電子および正孔は接合部を通過して流れ，逆方向電流となる。



大王崎　岬突端の崖上に立つ大王崎燈台。岬は太平洋に突出して風が強く，付近の民家には防風のための石がきやコンクリート塀が目だつ



ダイオウマツ



ダイオード

〔金属-半導体接触〕N形半導体に金・モリブデンなどの金属を接触させると，整流作用を示す。このような整流作用はショットキーによって理論的に解明されたため，金属-半導体接触ダイオードをショットキーダイオードとよぶ。

実際には，N形半導体との間には整流作用をもった接触が，P形半導体との間には整流作用をもたない，いわゆるオーム性の接触が形成される場合が多い。ショットキーダイオードは周波数に対する応答が速く，スイッチングダイオードとして用いられる。

〔太陽電池〕太陽光線を電力に変換するための，大面積を有する一種のPN接合ダイオードを太陽電池という。太陽からの光エネルギーを能率よく電力に変換できるような構造につくられている。半導体材料としては，一般にケイ素が用いられ，能率の向上をはかるため，表面に特殊な透明被膜がつくられている。

〔フォトダイオード〕接合部に光が集中するような光学系を取りつけた，一種のPN接合ダイオードで，これに逆方向電圧を加えて用いる。太陽電池で代用することもできる。

〔ツェナーダイオード〕逆方向電圧を加えた場合に起きるツェナー降伏特性を利用してつくった，定電圧用ダイオードである。一般には，ケイ素のPN接合ダイオードが用いられ，加える不純物量を変えることにより，必要な降伏電圧がえられる。

〔伊藤糾次〕

たいおん　**【体温】**　動物のからだの温度。動物は体温によって，定温動物（恒温動物）と変温動物とに分けられる。前者は，外界の温度の変化や自己の運動によっても，体温がほぼ一定に保たれているもので，哺乳(ほにゅう)類と鳥類が含まれる。一方後者は，体温が内外の条件によって左右されて著しく変化するもので，爬虫(はちゅう)類以下のすべての動物が属する。定温動物は，それぞれの種に固有の体温をもっているが，その温度はからだの部位によって異なる。たとえばヒトの場合，安静時にわきの下で36～37℃であるが，直腸内ではそれよりも高く，肝臓が最も高い。それに比べて皮膚の表面の温度は低い。ことに鼻や耳殻(じかく)などの外方に突き出ている部分では著しく低く，22～24℃といわれる。また，定温動物でも1日じゅう体温が同じわけではなく，活動時と休息時とでは多少異なる。特に，筋肉活動をしたときや食後などには，やや高くなる。ヒトでは，1日の体温の変化は1℃以内であるが，午前0～5時が最低，午後1～6時が最高となる。一般に昼行性の動物ではこのような型をとり，夜行性の動物はその逆の型を示す。

体温の源は，体内での物質交代の結果生じる熱エネルギーで，主として基礎代謝や筋肉の運動による。筋肉では，遊離エネルギーの4分の3が熱となり，機械的な仕事に費やされるのは4分の1にすぎない。熱の放散は，皮膚面からの熱伝導・放射，汗

の蒸発，呼吸の際の呼気への伝導，尿や大便などによって行なわれるが，皮膚を介するものが最も大きい。体温は体温調節*中枢(視床下部)によって発汗や代謝促進などが統御され，一定に保たれているが，病的な種々の原因によって機能に変調をきたすと発熱する。たとえば，細菌が感染すると，その産生毒素などが体温調節中枢を刺激し，脳出血などでは機械的に刺激して発熱するという。〔平野修助〕

タイおんがく【タイ音楽】タイの民俗音楽は中央部・北部・西部・南部の四つの地域に分けられる。タイ人の多くは仏教徒であるが，土俗宗教と結びついた儀礼音楽や，行列の音楽，恋歌などがあり，声楽が中心である。ゴング・弦楽器・管楽器も使われる。芸術(古典)音楽は器楽合奏が中心となっている。その楽器編成には3通りあり，ピーパット編成(木琴を主要楽器とし，ほかにオーボエ・ドラムが加わる)・クルアンサイ編成(擦弦楽器を主要楽器とし，ドラム・竹笛が加わる)・マホリ編成(上の二つを合わせたもの)とよばれる。主要楽器の名称は，ラナート(舟型の木琴)・コオン(ゴング)・チャケー(チター属)・ピーナィ(オーボエ)・ソー(擦弦楽器)・クルイ(フルート)・クロン(組み太鼓)・トーン(両面太鼓)などである。音組織の基本は七等分音階(1オクターブをほぼ等しい間隔で七つに分ける)であり，実際の音楽ではその七つの音のうちの全部を使うとは限らず，タイ様式では5，モーン様式では6～7が曲ごとに選ばれて旋律法を構成している。旋律輪郭はなだらかで，ポルタメントが多く，隣接音への音進行が圧倒的である。拍節法は2拍子系統のみに基づき，テンポの変化は複雑である。レパートリーの種目が多様であるのは，中国・クメール(カンボジア)・インド・インドネシアなどの周辺の文化から影響を受けているためである。大部分は舞踊・演劇・儀礼に付随した音楽である。仮面劇コーンはインドの《ラーマーヤナ》を題材とし，舞踊劇ラコーンはジャワの影響を受けた日常生活に関連の深い叙情的なものやこっけいなものを含んでいる。こうしたレパートリーを様式的にささえているのは，音色変化の豊かな発声のテクニックと，身体の各部分を長い訓練で得られた技術で優雅にあるいは軽妙に動かす舞踊の視覚的な力である。〔山口　修〕

たいおんちょうせつ【体温調節】身体内外の温度の変化に対して，体温*を一定に保つように働くしくみ。体外に熱を放散させる機構と，体内で熱を発生させる機構との協調によって行なわれる。多くの汗腺(かんせん)をもつ哺乳(ほにゅう)類では，汗の分泌が体温の調節に重要な役割をもつが，種々のホルモンもこの調節に関係している。たとえば外界の暑さに対しては，おもに皮膚の血管を拡張して血流を増加させ，発汗を促進して熱を放散することや，筋肉活動を低下させて熱発生をおさえることなどがあり，寒さに対しては，血管縮小による血流の減少によって放熱をおさえ，筋肉活動を亢進(こうしん)させて熱を発生させる。ヒト以外の動物では，冬季に皮下脂肪層が肥厚したり，鳥類では換羽によって冬毛を生じたりして保温性を保つ。体温調節の中枢は間脳に存在するが，外界の条件がある範囲を越えて悪化すると，体温調節は不完全・不可能になり，発熱・体温低下・中枢神経麻痺(まひ)などが起こって，ついには死に至る。〔平野修助〕

たいか【大夏】⇨バクトリア

たいか【退化】生物の個体発生または系統発生の過程においてみられる形態の単純化，小形化，機能の減退などの退行的変化をいう。発達または進化*に対する語で，個体・器官・細胞または細胞内の構造，さらに群体や生物社会など個体以上の単位においても退化の現象がみられる。時間的にみて短時間で退化現象のみられるものもあり，病気などで長く寝ていたりすると手足が細くなり，筋肉の力も弱くなるが，これも広い意味では退化といえよう。しかし，ふつう退化とは非常に長時間の間に起こることをいう場合が多い。系統発生の過程でみられるものがその例で，寄生性の動物では消化器・呼吸器が退化し，ウマの足指は長い間に1本指で立つようになり，洞穴(どうけつ)動物の目はほとんどなくなったような状態になっている。痕跡(こんせき)器官*もこのよい例であり，これらは環境に対する一種の適応であって，退化的進化ともよばれる。個体発生に際しての退化というのは，変態のとき幼生器官が退化するように生理的な現象としてもみられるし，病的な現象としてもみられる。たとえば，傷口が治癒(ちゆ)するようなときや再生*が行なわれるときなど，一度でき上がっていた細胞が未分化の細胞に変わる(脱分化ともいう)のも一種の退化といえよう。〔蒲原春一〕

タイガ［taiga］ユーラシア大陸および北アメリカ大陸に発達している冷帯針葉樹林帯。樹種は比較的少なく，おもにハリモミ・モミ・カラマツ・エゾマツなどの針葉樹と，他にウラジロハコヤナギ・カンバ・カエデ・ヤナギなどの闊葉樹(かつようじゅ)を交えていて，前者が優勢な場合を黒タイガ，後者が優勢な場合を白タイガという。土壌(どじょう)は一般にポドゾル(灰白土)で，地表から数十センチの深さのところには永久凍土層が発達し，根の侵入を妨げている。そのため倒木が多く，かなりの降雨があっても寒冷なため空気は乾燥していて，しばしば山火事を起こす。ここに住む動物の種類はきわめて多いが，テン類・オオカミ・クマ類・トナカイ・トラ・キツネ・イノシシ・ウサギ・リスなどの毛皮獣や鳥類などが主である。この地域はかつては原住民による狩猟のほかみるべき産業がなかったが，近年は農業開発が進められ，林業・パルプ工業・地下資源の開発も著しい。〔桑原正見〕

たいがいえんじょ【対外援助】経済援助ないし援助ともいわれ，発展途上国に対する経済協力*の中で，特に資金の流れを対象とする。具体的に対外援助とはなにかについて，必ずしも意見の一致は存在しないが，ＯＥＣＤ*(経済協力開発機構)の開発援助委員会*(ＤＡＣ)が便宜的に定めた内容が一般的に用いられている。それは，短期資本移動(1年以内)を除く政府・民間ベースの発展途上国への資金の流れのすべてを含んでおり，政府ベース援助は政府開発援助とその他の政府資金の流れ(日本の場合，政府金融機関による延べ払い輸出信用)に分かれ，民間ベース援助は民間投資(直接投資と証券投資)と輸出信用とからなる。国際連合が1960年代を〈開発の10年〉と決議して南側発展途上国の発展，南北格差是正に重点を置くに伴い，国際的に貿易とともに援助の重要性が再認識され，先進国側は国民総生産(ＧＮＰ)の1％を援助に振り向け，しかもその70％を政府開発援助で実施することが1970年代の目標として設定されている。さらに，ひもつき援助の廃止，援助条件の緩和(利率・返済期間・平均すえ置き期間)が要請されている。〔深海博明〕

だいかいてんきょうぎ【大回転競技】アルペン競技*の中で最も新しい種目。滑降競技*と回転競技*の中間的な性格をもち，1952年の第6回オリンピック冬季大会(オスロ)からオリンピック正式種目となった。関門によって定められたコースをすべる競技で，コースは標高差男子400m以上，女子300m以上，幅は30m以上と決められ，コース内には少なくとも30個以上の関門が設置される。関門は赤および青で示され，関門の幅は4～8m，関門の間隔は5m以上となっている。ふつうコース上のスピードは男子では時速65km，女子では45km以上であってはならないとされ，滑降競技と同様にヘルメットを使用しないと失格とされる。〔中出水勲〕

たいかきんゆう【滞貨金融】適正な在庫水準を越えた場合に，その滞貨保有のための金融のこと。予期しない需要の減退などから，適正な量を越えて在庫が生じると，在庫品の投げ売りが起こり，不況が軟化し，市場がいっそう混乱する場合がある。この経済混乱を防止するために在庫保有に必要な新たな資金借り入れを必要とすることが多く，滞貨を担保とする融資が行なわれる。しかし，滞貨融資を過大に行なうと貸し倒れの危険が大きく，金融機関では，警戒すべき貸し出しの一つとしている。〔池内得二〕

だいがく【大学】⇨次ページ

だいがく【大学】儒教の経典で，四書*の一。曾子*(そうし)の著作といわれ，もと《礼

大　学

ヨーロッパの中世に発生したところの，高度な学問の教授・研究を行ない，かつ専門的な職業人を養成する高等教育機関。

〔中世大学の起源〕大学は，司教座聖堂・議会と並んで，ヨーロッパ中世の一産物であるといわれている。その興起のきっかけをなしたのが，12世紀における学問の復活である。12世紀以前のヨーロッパにおける知識は，いわゆる7自由科(文法・修辞学・弁証法の3学と数学・幾何・天文学・音楽の4科)に限られていた。ところが，12世紀から13世紀へかけての間に十字軍遠征や東方貿易を契機とし，主としてスペインのアラブ人学者の手を経て，哲学・医学・法学などに関する新しい知識が，滔々(とうとう)とヨーロッパ世界に流入してきた。いくつかの都市は，新しい知識の中心地となり，そこに高度な学問を教える教師が出現した。こうして，ヨーロッパ各地の向学心に燃えた若者たちが，険しい山河をものともせず，高名な教師のいる都市に集まった。これらの教師や学生が，学問あるいは生活上の利益を守るために，商工業ギルドにならって，教師と学生の組合(ウニフェルシタス)をつくった。この組合が，ユニバーシティ(大学)の起源である。当時，学生町として最も栄えていたのは，イタリアのボローニャ，フランスのパリなどであった。11世紀の後半から12世紀の初めにかけて，ボローニャは法学復活の中心地として，イルネリウス(1050？～1130？)やグラチアヌス(？～1158)を迎え，その周囲に数百人に及ぶ多数の学生を集めた。またパリは，ノートルダム司教座聖堂を母体にして，シャンポーやアベラール*の盛名とともに発展し，神学を志す学生をひきつけ，いずれも学生町として急速に発展しつつあった。12世紀の後半に至り，これらの学生町につくられた〈学生組合〉(ボローニャ)，〈教師・学生組合〉(パリ)に対し，国王・皇帝や法王から，組合を保護し学生や教師の特権を認める特許状が下り，ここにはじめて学生あるいは教師・学生の組合，すなわち大学が公認され，成立することになる。ボローニャの学生組合が，1158年にはじめてフリードリヒ1世*によって公認されたことから，現在ではボローニャが世界最古の大学と目されている。これに次いで，パリ大学が12世紀末に公認されている。その後，13世紀から14世紀にかけて，ヨーロッパではボローニャ大学あるいはパリ大学を模して諸都市に大学が成立し，ルネサンス直前におよそ80に達した。

学生あるいは教師・学生の組合は，大学の管理権を握り，みずからの管理者を選挙し，学科課程を決定し，さらにバッカラウレウス(大学入学資格)をはじめ，マギステル(修士)，ドクトル(博士)およびリケンティア(教授資格)などの学位を授与した。また，大学はその内部の裁判の権利を含む自治権，講義の停止権などを行使し，都市に対して一種の治外法権を確保し，独立を勝ちとることに努めた。組織は，はじめは学生の出身国別の〈ナチオン〉を単位としていたが，しだいに学部制をしくに至る。すでに12世紀末パリに存在していた学寮〈カレッジ〉は他大学にも置かれ,時を経て生活と教授の場として制度化された。その後学寮制度は，イギリスその他に普及した。

〔大学の近代化〕14世紀以降，ヨーロッパ各地に多数の大学が建てられていった。それらは自然発生的に成立したのではなく，国王・諸侯・都市によって建設されたのである。したがって，大学は土地・建物をもち，教授の生活も安定していた。その反面，大学の学則や諸規程は外部から与えられ，建設者に対する大学の依存が強まることになる。その結果，中世大学の特徴である国際的色彩は薄れ，組合中心の行き方が後退するのである。さらに宗教改革後，ヨーロッパ世界がカトリック地域とプロテスタント地域に分離するにつれ，大学は宗派性を鮮明にせざるをえず，ますます国際性を失っていく。それと同時に，一国または一地域の宗教的対立は必然的に政治的対立を招いたために，大学は国家機関化し，支配階級への奉仕を第一義とし，官僚養成に意を用い，学問上の使命を見失いがちであった。また，大学が神学部に重きを置いたのも自然のなりゆきであった。

18世紀から19世紀にかけて，市民革命の勃発(ぼっぱつ)，科学技術の発展，産業革命の進展を背景にして，ヨーロッパ各国に啓蒙(けいもう)時代が到来し，政治的自由が拡大する中で，大学の近代化が急速に進行する。ドイツにおいてその先駆をなしたのは，ハレ大学(1694年設立)・ゲッチンゲン大学(1737年設立)である。両大学は，学問・教育の自由の実現を期し，あるいは研究・教育機関としての体制確立に努めた。これらの伝統のうえに，ナポレオン侵略後の1809年に設立されたベルリン大学は，フンボルト*とシュライエルマッハー*の指導のもとで，神学部に代わって哲学部を中心とする諸学部の総合化を図り，学問の自由と大学の自治を大幅に認めた。イギリスにおいても，資本主義の発展に伴い，新しい知識人や専門家の育成という社会的・産業的要請が，教養主義を固守するオックスフォード大学*・ケンブリッジ大学*とは別に，近代的な学問体系に対応する学部・学科組織を備える大学の創設を促した。その例としてロンドン大学*(1826年設立)，マンチェスター大学(1851年設立)をあげることができる。これらの動向に刺激され，他の欧米諸国でも総合化ないし専門主義をねらいとして，19世紀後半から20世紀には近代化が遂行される。

〔日本の大学〕日本においても，奈良時代に大学寮*が設立され，下って江戸時代に昌平黌*(しょうへいこう)が置かれ，ともに支配階級の子弟を収容して高度な学問の教授，官吏の養成という大学にふさわしい役割を果たしたが，その発生要因や性格などの点で，いずれもヨーロッパの大学と同一視することはできない。近代的な大学の成立は明治以降のことである。明治政府は，1870年(明治3)に文部省直轄の大学校の設置を定め，

記*(らいき)》中の1編。大学とは〈大人の学〉の意。本書は，〈明徳を明らかにする〉〈民を新たにする〉〈至善にとどまる〉の3綱領と，平天下・治国・斉家(せいか)・修身・正心・誠意・致知・格物の8条目を述べ，儒教の根幹である修己治人の道を詳しく示している。ことに政教の基本として〈格物致知*〉が取り上げられている点などに朱子学*が注目し，本文に補正を加えて，これを四書の一つとした。しかし，朱子の校訂以前の《古本大学》があり，王陽明*はこれに基づいて朱子学批判を行なった。　〔西　順蔵〕

だいがくいん　【大学院】　学校教育法第65条には，〈学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究(きわ)める〉ことを目的としているとあり，大学の学部の卒業者を対象に設置された教育・研究機関で，修士課程(2年以上)および博士課程の2段階からなっている。修士課程は2年以上20単位の教育を受け，その研究を修士論文として提出し，卒業試験に合格したものには修士の学位を，博士課程は3年以上30単位の課程を修了して論文を提出し，卒業試験に合格したものに博士の学位を授けるとしている。ただし，医学の大学院は修業年限4年の博士課程があるのみである。　〔山崎昌甫〕

だいかくじ　【大覚寺】　京都市右京区嵯峨(さが)大沢町にある真言宗大覚寺派の大本山。9世紀初めこの地に嵯峨天皇の離宮があり，嵯峨御所といった。のち876年(貞観18)清和天皇がこれを寺に改め，淳和(じゅんな)天皇の皇子，恒寂(こうじゃく)法親王が開山となった。鎌倉後期の嵯峨・亀山(かめやま)・後宇多の諸天皇も当寺を御所とした。国宝の後宇多天皇宸翰(しんかん)《御手印遺告(ごていんゆいごう)》，同じく《弘法(こうぼう)大師伝》を蔵し，本堂・客殿・宸殿・心経堂などには狩野(かのう)山楽の襖絵(ふすまえ)が多い。東隣に大沢池(名勝)がある。　〔杉坂靖子〕

だいかくじとう　【大覚寺統】　鎌倉時代から南北朝時代にかけて，皇位継承をめぐって二分した皇統の一つで，亀山(かめやま)・

また1872年の〈学制〉によって大学の設置を予定したが，いずれも果たしえなかった。ようやく1877年に至って，1873年から法・理・工・鉱山の専門教育を施していた開成学校(→開成所)が東京医学校を合併して，法・理・文・医の4学部と大学予備門を擁する東京大学となった。ここにわが国で最初の近代的な大学が成立したといえよう。その後，1886年に学校制度改革の一環として公布された〈帝国大学令〉により，東京大学はさらにヨーロッパ型の大学としての組織を備え，帝国大学と改称した。帝国大学は，〈国家ノ須要(しゅよう)ニ応ズル学術技芸ヲ教授シオヨビソノ蘊奥(うんおう)ヲ攻究スルヲモッテ目的〉とし，法・医・工・文・理の五つの分科大学制をしき，そのうえに大学院を置いた。帝国大学の全体を総轄・指揮するために総長職があり，それぞれの分科大学には分科大学長・教授・助教授が任命された。1890年代にはいって，社会的・経済的な要請により，中等教育が著しく発達するに伴い，ようやく高等教育の需要が高まり，1897年には，京都にも帝国大学が設置された。その後，明治末期から昭和10年代にかけて帝国大学の増設が行なわれた。

第1次世界大戦直後の1918年(大正7)，臨時教育会議の答申の線に沿って〈大学令〉が公布され，大学制度全体の改革がはかられることになった。同令は，従来の分科大学を学部と改め，数個の学部をもって大学を構成することを原則とし，特別に必要あるときには1個の学部を置くことができるとした。また同令により，官立以外に公立・私立の大学が設立されることになり，それまで久しく専門学校に甘んじていた多数の私立専門学校が，大学へ昇格していった。こうして大学は，質・量ともに目ざましい発展を遂げた。この間，大学は，みずからの自治，学問の自由の体制の基礎を固めたが，〈15年戦争〉(満州事変〜太平洋戦争)を契機に急速に国家主義への傾斜を強め，軍の支配下に置かれるに至った。

第2次世界大戦後，1947年(昭和22)3月の学校教育法の制定により，〈学制〉以降の学校制度を全面的に改め，6・3・3・4の学校制度が立てられた。このうち大学は，4年制をしき，〈学術の中心として広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し，知的，道徳的及び応用的能力を発展させること〉を目的として，1949年4月から発足することになった。新たに発足した大学の数は，前年一足先に開校した私立大学52校を含めて，180校にのぼった。旧制度下の大学が48校であったから，約4倍増ということになる。その内訳は国立70校，公立18校，私立92校であり，それらの大部分は旧制の大学・高等学校・専門学校の吸収・合併および単独昇格によって成立している。1950年には，短期の専門的職業教育を施す高等教育機関として，2年制ないし3年制の短期大学が開設された。また同年大学院が開設された。大学および学生の数は，発足以来急速に増加していった。10年後の1959年には，大学数は国・公・私立合わせて239校となり，学生数は57万人を数えた。その後，大学の新設や既設大学の学部・学科の増設が行なわれ，1969年には大学数379校，学生数132万人に達した。しかも同年の私立の大学数・学生数の占める比率は，それぞれ82%，75%と圧倒的に高い。

通例，大学には数個の学部が置かれるが，特別の場合には1個の学部しか置かない大学も認められている。また，大学には夜間学部・通信教育学部・専攻科・別科を置くことができる。修業年限は原則として4年とし，医学部・歯学部については6年と定められている。大学には学長・教授・助教授・講師・助手および事務職員などが置かれ，教授会が重要な事項を審議し，運営する。内部組織としては学科目制または講座制をしき，これらに必要な教員を置いている。大学では，一般教育科目・外国語科目・保健体育科目(この三つを合わせて教養課程とよばれる)および専門教育科目などの授業科目を開設し，単位制を採用している。卒業の要件としては，大学に4年以上在学し，一般教育科目36単位，外国語科目8単位，保健体育科目4単位，専門教育科目76単位，計124単位以上の履習が要求される。

大学の管理運営の側面では，発足当初から明確な規定がなく，わずかに学校教育法が教職員の職務，教授会の設置や組織を，また教育公務員特例法が国立大学の学長・教員その他の任免を定めているにすぎない。大学は，教授会の自治に基礎を置く大学の自治のもとに，人事をはじめ管理運営を行なうことを慣例としてきた。これに対して，文部省は大学の管理強化を図るために，1951年この大学管理法案，1962年の国立大学管理運営法案など，これまでいくたびか大学の管理運営に関する法律の制定をもくろんだが，それらの意図が大学の自治，学問の自由を侵し，国家統制を強めることにあるとして広範な反対運動が起こった。しかし，いずれも不成立に終わっている。その後1965年以降，大学の管理運営問題・学園民主化問題をめぐって，各地の大学で紛争が多発した。政府・自民党は，紛争収拾を理由にして1969年大学の運営に関する臨時措置法案を国会に提出し，強行採決を行なった。この法律は，文部省の大学への介入，学長の権限や管理機関の強化をおもなねらいとしている。1971年6月の中央教育審議会の最終答申も，大学の種別化，研究と教育の分離などと並んで，管理機関への学外者の導入とその強化を意図している。

この管理運営の問題以外に，大学をめぐって，大学のマンモス化による師弟関係の希薄化と疎外感をいだく学生の急増，一般教育に対する批判の高まり，私学経営の財源難とすし詰め教育に起因する教育水準の低下，新左翼による学生運動の過激化など，重大な問題が山積している。これらの問題を根本的かつ総合的に解決していくことが今後の課題であり，そのためには大学の組織・制度や内容・方法など全般にわたる大学の自主的な再検討の推進と長期展望に立つ民主的な大学改革構想の樹立とその実施が望まれるのである。〔佐藤英一郎〕

後宇多両天皇の皇統。後宇多天皇が譲位後，嵯峨(さが)大覚寺に住んだのでこの名がある。鎌倉幕府の政策により，持明院統とともに両皇統が交替で皇位についた(→両統迭立)。この皇統から後醍醐(ごだいご)天皇が出て南朝を立て，後村上・長慶・後亀山の各天皇が皇位を継ぎ，1392年(元中9・明徳3)持明院統の北朝と合体した。〔西ケ谷恭弘〕

たいかくせん【対角線】⇨多角形

だいがくなんこう【大学南校】東京大学の前身。1855年(安政2)徳川幕府の設立した洋学所が，1868年(明治1)明治政府に受け継がれ，欧米諸科学輸入による日本近代化推進の重要機関となった。1869年昌平学校(しょうへいがっこう)・医学校・開成学校(開成所を改称)が合体し，それぞれ大学本校・大学東校・大学南校となった。学科は講習・伝習・数学に分かれ，生徒定員1,000名，16歳以上の各藩から貢進生制度で採用した。海外留学生派遣や洋書翻訳刊行などの事業も行なった。1877年東京大学と改称。〔安達利夫〕

だいがくやきゅう【大学野球】各地に結成されている大学の野球連盟，またそのリーグ戦のこと。大学野球は地域ごとに結成された大学野球連盟の活動を軸に，その歴史が築かれてきた。そして，これら連盟の中で最も大きな存在であり，大学野球の発達に顕著な功績を残したのは東京六大学野球連盟である。明治30年代に早稲田(わせだ)・慶応義塾(ぎじゅく)両大学の野球部が台頭したが，1910年(明治43)に明治大学に野球部ができ，1914年(大正3)早慶明3大学がリーグを結成した。その後法政大学もチームを編成して1916年から加盟，1921年には立教大学も加わった。さらに1925年秋には東大が参加し，ここに六大学リーグとして発足した。この間古い歴史を誇る早慶戦は，両校応援団の問題から絶縁状態が続き，リーグ戦でも早慶は対戦しないという変則的な形がとられたこともあったが，明大などの提唱で六大学リーグ発足の年の秋から和解が成立した。

1926年10月に明治神宮外苑(がいえん)野球場が竣工(しゅんこう),六大学リーグはここを舞台に春秋2期のリーグ戦をくり広げるようになり，一般の野球への関心もとみに高くなっていった。東京六大学野球の黄金時代とされているのは1929年(昭和4)，早大の小川正太郎投手，慶大の宮武(みやたけ)三郎投手の名投手対立時代からで，日本全国のファンが早慶戦に注目するようになった。1937〜1938年の春秋には，明大が4シーズン連続優勝の偉業を成し遂げるなど，早慶の優勝争いを中心に，各校が力を競いながらはなやかなリーグ戦が続いた。しかし第2次世界大戦の拡大で，1942年秋のリーグ戦のあと同連盟は解散した。戦後1946年春，六大学連盟は再建され，上井草球場でリーグ戦が復活，1951年神宮球場が在日アメリカ軍の接収から解除されたのちは晴れて古巣にもどり今日に至っている。

東京六大学野球連盟のほかに，東都大学野球連盟が中央・日本・国学院・専修・農業の五大学で1931年春に結成され，また近畿(きんき)地方でも同年秋，立命館・同志社・京都・神戸(こうべ)商大・関西・関西学院の六校で関西六大学野球連盟が生まれた。東都大学野球連盟は,1929年ごろ日本・国学院・専修の3校が東京六大学へ加盟を希望していれられず，この3校の提唱で六大学とは別個の連盟が結成されることになったものである。最初は東京五大学野球連盟とよんでいたが，1935年現在の名に改称，新たに東京商大が加盟した。その後は加盟校も増加し，現在では1部・2部・3部・4部と等級を分け，各部入れ替え戦が春秋のリーグ戦後に行なわれている。関西六大学も，今日では等級別がとられている。1952年の学制改革に伴い，前記3連盟のほかに全国各地に新しい大学野球連盟が結成され，同年これらの統轄機関として全日本大学野球連盟が生まれた。以後毎年6月，同連盟の主催で全日本大学野球選手権大会が主として東京(神宮球場)で行なわれている。〔鈴木美嶺〕

だいかぐら【太神楽】 〈大神楽〉〈代神楽〉とも書く。曲芸の一種で，獅子舞(ししまい)の末流の芸。元来，伊勢(いせ)神宮の下級神官が諸国を巡って獅子頭(ししがしら)による祓(はらえ)をしたのに始まるとされる。のちに獅子舞だけが江戸と熱田とに分かれて独立し，それが大道芸化して曲まり・さら回し・曲ばちなどの余興的曲芸が主体となるが，江戸時代末期丸一派が寄席(よせ)に出演するようになると，曲芸のほかにこっけいな掛け合いも行なわれるようになった。現在は，丸一・鏡味(かがみ)・海老一(えびいち)の各派が寄席でこれを演じている。〔興津 要〕

だいがくりょう【大学寮】 律令(りつりょう)制で中央の官吏養成機関として設けられた官庁。地方の国学*に対していう。近江(おうみ)朝に創設され，大宝令(→大宝律令)で整備された。式部省の管轄下に置かれ，頭(かみ)・助(すけ)・允(じょう)・属(さかん)の四等官が事務をとり，博士・助博士(のち助教)が本科の教官，音・書・算の博士(はかせ)が各科の教官として教育にあたり，学生(本科生)・書生・算生がそれぞれ諸道を学んだ。ただし音は各学生の共通必修科目で，特に専攻学生はない。大学入学資格は五位以上の貴族の子弟，六位〜八位の子弟で特に志望する者で，いずれも13〜16歳の聡明(そうめい)な者に限られた。学生は10日ごとに旬試，1年ごとに年終試を受け，最長在学年数は9年とされた。大学の最終試験である寮試に及第・卒業すると国家試験があり，その結果，秀才・明経(みょうぎょう)・進士・明法(みょうほう)の4科に分かれ，成績と科目に応じて位階を与えられ，官途につくことができた。しかし，その位は蔭位(おんい)(五位以上の家の子孫が21歳になって賜わる位階)よりは一般に低かったので，有力貴族で大学に学ぶ者はほとんどなく，そのため大学寮の勢いは一般にふるわなかった。奈良末期・平安初期，政府の奨励策によって一時盛んとなり，学者・文人・能吏を輩出したこともあるが，やがて学閥を生じて瑣末(さまつ)なことに争い，平安末期からは家学が成立して学問が特定の家に固定するようになると大学寮は実質的には消滅した。〔黛 弘道〕

たいかこうぞう【耐火構造】 通常の火災に十分耐え，火災後においてもわずかな修理によって再使用が可能な構造をいうが，建築基準法施行令107条によれば,〈耐火構造は，壁・柱・床・梁(はり)・屋根について建物階数に従って所要時間以上耐える性能を有すると認めて指定するもの〉となっている。屋根については30分以上，帳壁についても30分以上，柱・梁については階数により異なるが1〜3時間，床については1〜2時間耐えることを要求される。一般には，鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・コンクリートブロック造のほか，鉄材補強れんが造，あるいはれんがでおおった軸組鉄骨造などがあるが，最近高層建築の出現に伴って純鉄骨造の建築が建ちはじめ，これに耐火被覆する構造が多くなった。耐火被覆材には石綿・岩綿・パーライト・ヒル石・石膏(せっこう)などが板状あるいは塗り仕上げとして用いられる。階段についてはコンクリート・鉄骨などの無機質の材料で構成すれば耐火構造として認められる。〔神山幸弘〕

たいかこく【大夏国】 中国，元末に明玉珍が重慶に建てた国。2主10年，1371年に明朝(みんちょう)に滅ぼされた。

ダイカスト[die cast] 精密な金型に圧力を加えながら溶金を注入して，鋳物をつくる方法。使用される金型は，特殊の耐熱鋼でつくり，精密に仕上げなければならないから，高価であるが，1時間に数百個の鋳物をつくり，また1個の金型で数万個・数十万個の鋳物をつくることができる。その特長は①複雑な形状の鋳物ができる，②薄肉鋳物ができる，③寸法精度の正確な鋳物ができる，④多量生産ができる，などであるが，一方ダイカスト機械の能力によって，鋳物の寸法・重量などに制限があり，現在日本でできるアルミ合金のダイカスト製品は最大約5kg，アメリカでは約30kgである。またダイカストで鋳造される合金は，アルミニウム・亜鉛・スズ・銅・マグネシウムなどの非鉄合金に限られ，鉄合金の鋳造は困難である。カメラのボディー，電気器具部品，エスカレーターの踏み板などの製造に広く用いられる。〔加山延太郎〕

タイ-カップ[Ty Cobb](1886〜1961) 1905年から1928年まで，アメリカの職業野球で活躍した打撃王。大リーグ在籍24年間に，アメリカン-リーグ首位打者通算12回(うち1907〜1915年は連続)のほか生涯(しょうがい)打率0.367(大リーグ史上最高)，生涯安打数4,191本，三塁打297本，シーズン盗塁96(いずれもアメリカン-リーグ史上最多)などの記録を残した。闘争心の権化で，そのプレーぶりは激しく，〈生か死か〉が彼のモットーだった。そのため，チームの仲間や相手チームの選手たちに恐れられ，憎まれもした。1936年〈野球の殿堂*〉入りを果たしている。〔鈴木美嶺〕

たいかにじゅういっかじょうようきゅう【対華二十一か条要求】 第1次世界大戦中，中国に提出した日本の権益拡大要求。第1次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)により，中国に対する欧米列強の圧力が一時的に後退したのに乗じて，日本は日英同盟*を名目に大戦に参加し，ドイツの膠州(こうしゅう)湾租借地を侵し，山東省を占領した。占領後もかえって兵力を増強し，その威嚇のもとに，1915年(大正4)1月18日，大隈重信*(しげのぶ)内閣の加藤高明*外相から訓令を受けた駐華大使日置益は，正規の外交手続きによらず，直接に中華民国総統袁世凱*(えんせいがい)に対し，5号，21か条の要求を提出した。その内容は，①山東省の旧ドイツ権益の継承と新鉄道敷設権，同省の他国への不割譲など4か条，②旅順・大連地区，および南満州・安奉両鉄道租借期限を99か年に延長すること，南満州・東部内モンゴルにおける新鉄道敷設権・鉱山採掘権など7か条，③漢冶萍(かんやひょう)公司(コンス)(漢陽の製鉄所・大冶の鉄山，萍郷の炭鉱)の利権要求2か条，④中国の沿岸・島嶼(とうしょ)の他国への不割譲要求1か条，⑤中央政府に政治・財政・軍事上の日本人顧問を置くこと，警察の日華合同，日本による兵器供給または日中合弁の兵器廠(しょう)の設置，武昌(ぶしょう)・南昌を中心とする鉄道敷設権要求など7か条であった。特に第5号は，中国だけでなくイギリス，アメリカの厳重抗議にあい，日本はこれを〈要求〉ではなく〈希望〉だと弁解しながらも貫徹しようとした。しかし修正案を提出せざるをえなくなり，5月7日，48時

間の猶予つき最後通牒を交付，９日中国は第５号の大部分を除く諸要求のほとんどを承認し，25日に調印した。その後，中国はたびたび条約廃棄を図ったが，1922年のワシントン会議で日本に山東省の返還，満蒙投資優先権を放棄させるにとどまった。この要求は，中国人民の対日感情を悪化させ，５月９日を国恥記念日とした。〔原田政洸〕

たいかねんど　【耐火粘土】　カオリン*などの粘土鉱物を主体とした鉱石で，高温でもなかなか軟化しないものをいう。日本の鉱業法では耐火度がＳＫ31番以上，すなわち1,690℃以下では軟化しないものに限定しているが，実際にはそれより耐火度が低くても耐火粘土として扱われるものがある。耐火粘土の中で可塑性のすぐれたものは，耐火物を成形するときに少量使用される。岐阜・愛知の県境地方に産する木節(きぶし)粘土*はその代表的な例である。それ以外の耐火粘土は，一般に1,300～1,400℃で焼成して水分を除きかつ焼き締めてシャモットにする。このシャモットを粉砕し，前述の木節粘土などを混ぜて，用途に応じた形に成形したのち，再び1,300～1,400℃で焼き上げて，耐火物として使用する。日本のシャモット用耐火粘土のおもなものは，岩手県・福島県・福岡県などの古第三系の夾炭層(きょうたんそう)に産する。〔片山信夫〕

たいかのかいしん　【大化改新】　645年(大化１)，蘇我大臣(そがのおおおみ)家の打倒を契機に開始された政治改革。舒明(じょめい)・皇極両天皇の皇子中大兄(なかのおおえ)(→天智(てんち)天皇)が中臣鎌足(なかとみのかまたり)・蘇我石川麻呂(いしかわまろ)らと図って，蘇我蝦夷(えみし)・入鹿(いるか)を殺したあと，孝徳天皇が即位し，阿倍倉梯麻呂(あべのくらはしまろ)が左大臣に，蘇我石川麻呂が右大臣に，鎌足が内臣(うちつおみ)に，僧旻(そうびん)・高向玄理(たかむこのくろまろ)が国博士*に任じられて，新政府の首脳が決定した。次いで年号を大化と定め，都を難波(大阪市)に移すことが決せられた。なお，同年のうちに東国国司の任命，大和六県(やまとのむつのあがた)の調査などが行なわれ，翌年正月を期して新政の大方針を宣示するため，いわゆる改新の詔が発せられた。これは，①従来の私地私民を全廃して公地公民*とし，貴族・官僚には代償として食封(じきふ)や布帛(ふはく)を与える，②地方の行政制度を詳細に定め，行政区画を明確にする，③戸籍・計帳をつくり班田収授法*を施行する，④旧来の税制を大幅に改めて新税制を行なう，というものであった。この改新の詔には後世の令文によく似た文章が数多くみられるので，疑問がもたれているが，一方のちの令*(りょう)制にはまったくみられない制度も認められるので，一概にのちの作文とのみもいえない。おそらく，のちの令制は当時の史料を骨子とし，これを令文で修飾したものであろう。ともかく，改新の詔によって従来の氏姓制度下の皇族・貴族らの個別的支配権は全面的に否定され，天皇による統一的支配権の確立が標榜(ひょうぼう)された。そのため新政府の首脳は留学生の知見に基づき，中国の律令制度を導入すべく決意し，以後その実現に努力したが，それは容易ではなかった。戸籍の作成一つをとってみてもその実現は670年(天智９)であり(→庚午年籍(こうごねんじゃく))，旧勢力の抵抗も少なくなかったことがうかがわれる。それでも大化年間(645～649)の５年ほどの間に冠位の改定をはじめ各種の改革が行なわれた。大化改新は狭義にはこの５年間をさす。しかし，改新の大目標の達成は，のちに持ち越された。672年(弘文１)壬申(じんしん)の乱*に勝利して即位した天武天皇は，天皇権力を大幅に伸長し，これに基づいて強力な政治路線を敷いた。かくて以後の改革は順調に進み，次の持統天皇のときまでにおおむね律令体制の根幹は完成した。次いで701年(大宝１)，文武天皇は大宝律令*の撰定(せんてい)事業を終了し，ここに至って律令国家建設という改新当初の大目標は，名実ともに達成された。大化改新を広義にはこのときまでとする。→律令制〔黛　弘道〕



代　官　大場家の代官屋敷 東京世田谷に遺存

たいかはくしょ　【対華白書】　1949年８月５日，アメリカ国務省より公表された〈アメリカ・中国関係〉という文書。中国の国民政府*の崩壊が必至となった時点で，アメリカ国務省が，政界・実業界・学界の各有力者に依頼してアメリカの中国関係の過去・現在を調査し，将来への方針を打ち出すためにつくられたものである。1,000ページに及ぶ白書の後半600余ページは資料集にあてられ，前半で国民政府の敗北はアメリカの対華援助の不足が原因ではなく，国民党の政治的腐敗と軍事的能力の不足によるものであること，また過去の米中関係の概観などにあてており，1949年４月の〈これ以上国民党政権を援助しない〉という国務長官アチソン(1893～　)の政策の合理性と必然性を証明した。また，当時のアメリカの極東軍事政策を示すものでもあるが，その後，朝鮮戦争*を経て変わった。〔広部和也〕

たいかぶつ　【耐火物】　高温での使用を目的とする無機材料製品の総称。耐火れんが・耐火モルタル，工業窯炉の内張り，るつぼなどがこれにあたる。科学技術の進歩に伴って耐火物に対する要求は量・質ともに高まり，発展してきた。

【性質・分類】耐火物として具備すべき特性は，必要とする高い温度でも機械的強度を維持すること，すなわち融解・軟化せず，温度の急変にも耐え，化学的に安定であるなどとなる。これらの要求をすべて満足する材質は必ずしも求められないから，使用条件に適合するものを選択して使用するが，そのために多くの種類が開発された。したがって分類もいろいろな観点からなされている。《化学的性質による分類》①酸性耐火物：ケイ石れんが・シャモットれんがなど。②中性耐火物：高アルミナ質耐火物など。③塩基性耐火物：マグネシア質・クロム-マグネシア質・ドロマイト質など。《原料あるいは製品の鉱物組成による分類》ケイ石質耐火物・蠟石(ろうせき)質耐火物・シャモット質耐火物・粘土質耐火物・マグネシア質耐火物・クロム質耐火物・炭素質耐火物・高アルミナ質耐火物・ホルステライト質耐火物など。《製造段階の加熱処理による分類》①焼成耐火物：粉末原料を成形し焼成するもの。ケイ石れんが・シャモットれんがなど。②溶融耐火物：電鋳耐火物ともいう。電気炉で酸化アルミニウムをとかし鋳型に流し出してつくったものを商品名モノフラックスといい，原料にさらに粘土が加えられて同様に製造されるものを商品名コルハルトブラックという。酸化ジルコニウム・酸化マグネシウム・酸化クロムを加えたものもある。③不焼成耐火物：耐火物として使用する際の高温で焼成されるもの。キャスタブル耐火物・プラスチック耐火物といわれるのはこれにあたる。前者は耐火物粉末にアルミナセメントを，後者は少量の粘土や水ガラスを混ぜたもので，ともに少量の水を加えて使用箇所に施工する。

【用途】現在では鉄鋼業が最大であって，日本では全生産量の70％余を使用する。それ以外は窯業・機械工業・化学工業・非鉄金属工業の順である。また耐火物の種類のうちでは，粘土質あるいはシャモット質とよばれるものが最も一般的で，全生産量の60％余を占める。〔川久保正一郎〕

だいかん　【大寒】　二十四気*の一。陽暦の１月20日ごろにあたる。太陽黄経は300°。寒さの絶頂期で，太平洋側の地方では空気の乾燥も最高となり，火災が発生しやすい。関東以西ではウメが咲き始める。大寒の終わりを寒明けという。

だいかん　【代官】　本来，主君の代理として事にあたる者をいうが，鎌倉時代では平氏討伐にあたった源範頼(のりより)・義経(よしつね)は頼朝(よりとも)の代官であり，鎌倉幕府の執権*や探題*も代官とよばれたことがある。諸国では守護*の代官を守護代，地頭*の代官を地頭代といった。知行国*では目代*(もくだい)

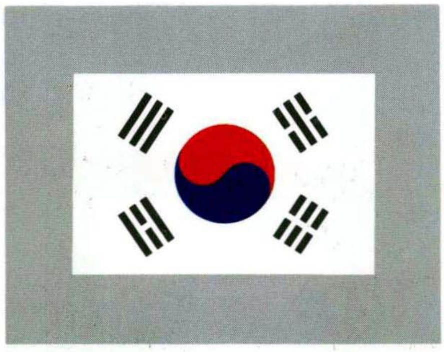
が知行主の代官であり，*荘園(しょうえん)では*預所(あずかりどころ)以下の荘官が荘園領主の代官であった。室町・戦国時代では*大名のもとで農政を分担する*地方(じかた)役人のことをいい，安土桃山時代では料所の広いところに置いた年貢(ねんぐ)の収納をつかさどる者をいった。江戸時代では*天領を支配する地方官の職名となった。勘定奉行(ぶぎょう)に属し，旗本(はたもと)の中から任ぜられ，三万石～十万石前後の地を支配し，下役に手付・手代などがいた。その職務は地方と*公事方(くじかた)とに分かれた。*郡代とは職務上の違いはなく，代官は支配地が小さいというだけである。管轄地の中心には*陣屋を置いて支配した。なお諸藩でも，郡(こおり)*奉行のもとに代官を置いて農政や治安にあたらせた。〔岡山泰四〕

だいかんこく　【大漢国】　中国，元末の群雄のひとり，陳友諒(ちんゆうりょう)が建国した国(1360～1364)。徐寿輝の天完国を倒し，江州(江西省九江県)に都して，現在の江西・湖南・湖北および安徽(あんき)省西部を支配したが，江蘇(こうそ)省に本拠を置く朱元璋(しゅげんしょう)の呉国に滅ぼされた。

だいかんみんこく　【大韓民国】　朝鮮半島南部の共和国。一般に韓国と略称される。面積98,484km²。人口3,761万(1979年推)。首都はソウル。単一の朝鮮族よりなる。

第2次世界大戦終了時の1945年，36年に及ぶ日本の統治が終わると，朝鮮は38°Nに近いいわゆる38度線を境として，南はアメリカ合衆国軍，北はソ連軍に占領され，その軍政下に置かれることとなった。朝鮮の独立は，第2次世界大戦中の〈カイロ宣言〉によって連合国側の合意に達しており，さらに1945年12月モスクワにおける外相会議で，4大国による5年以内の信託統治ののちに独立することが決められていた。しかし，朝鮮臨時政府樹立のためのアメリカ・ソ連合同委員会は冷戦のあおりを受けて行きづまり，アメリカは問題の解決を国際連合に持ち込んだ。1948年5月，南朝鮮では国連決定にしたがって国連監視下の単独選挙を行ない，国会を構成して，同年8月15日に大韓民国が成立した。北朝鮮では，同年9月9日に最高人民会議の選挙を行ない，*朝鮮民主主義人民共和国が発足した。アメリカ・ソ連両国は1949年6月末までに占領軍の撤退を完了し，以後朝鮮は政治的・経済的にまったく異なる2国家を形成することとなった。1950年6月，*朝鮮戦争が勃発すると，北朝鮮軍の南下，国連軍の仁川(じんせん)作戦，中国義勇軍の参戦により38度線を中心に攻防をくり返したが，1951年7月に休戦会談が開始され，1953年7月*板門店で軍事境界線を境とする休戦協定が成立した。

建国とともに，*李承晩(りしょうばん)が大統領となったが，1950年代の後半から独裁化したため国民の抵抗を惹起(じゃっき)し，1960年4月学生を先頭にした反政府運動の結果辞任した。次いで尹潽善(いんふぜん)を大統領とする第2共和国が生まれたが，1961年5月朴正煕(ぼくせいき)の軍事クーデターに倒され，軍事政権と交替した。朴正煕は1963年12月の選挙で大統領に就任し，新憲法を発効させて第3共和国が成立，民政が復活した。朴政権は日韓条約の妥結，対米関係の強化，経済の再建・自立化を重点施策としており，1965年には日本との国交を実現した。1971年，野党の金大中をおさえて3選を果たした朴大統領は高まる政権批判を封ずるため国家非常事態を宣言，72年に維新憲法を公布した。しかし，1979年，朴大統領は暗殺され，全斗煥が軍の実権を握り，80年の大統領選で第11代大統領に選ばれた。その後，新憲法の発効と同時に第5共和国が発足，81年，全斗煥は任期7年の第12代大統領となった。軍隊は総兵力60万，2年半～3年の徴兵制。➔朝鮮　〔船越昭生〕



大韓民国の国旗　1882年制定。太極旗とよばれる。赤と青の巴は，男女・親子・太陽と月などのような宇宙の二つに相対立しながらの調和，周囲の卦は乾・坤・坎・離で，天地水火・東西南北・老若男女などのような，宇宙の四つに相対立しながらの調和を表わしている

たいき　【大気】　地球を取り巻いて存在する気体。重力の作用によって地表に引きつけられているもので，その中で起きる現象は生活に直接的な関係があり，最近ではロケット・人工衛星などによる観測技術の進歩によって，高層大気中の諸現象もしだいに明らかになってきている。

乾燥大気の約90kmまでの成分

成　分		容積比(%)	重量比(%)
乾燥空気		100	100
窒素	N_2	78.088	75.527
酸素	O_2	20.949	23.143
アルゴン	A	0.93	1.282
炭酸ガス	CO_2	0.03	4.56×10^{-2}
ネオン	Ne	1.8×10^{-3}	1.25×10^{-3}
ヘリウム	He	5.24×10^{-4}	7.24×10^{-5}
メタン	CH_4	1.4×10^{-4}	7.25×10^{-5}
クリプトン	Kr	1.14×10^{-4}	3.30×10^{-4}
水素	H_2	5×10^{-5}	3.48×10^{-6}
酸化窒素	N_2O	5×10^{-5}	7.6×10^{-5}
キセノン	Xe	8.6×10^{-6}	3.90×10^{-5}
オゾン	O_3	1.0×10^{-6}	1.7×10^{-6}

〔大気の組成〕大気中には水蒸気や液体・固体の夾雑物(きょうざつぶつ)を除けば，窒素・酸素・アルゴン・炭酸ガス，その他の気体が一定の割合で混じっており，その組成は地上から高さ80kmぐらいまでは一定である。それより上では大気の組成は高さとともに変わり，酸素や窒素は原子状態のものが現われるようになる。大気中の水蒸気は，主として地表(海面など)からの蒸発によって補給され，大部分は大気下層に存在する。その含有量は0～4%程度で時と場所によって異なり，雲・雨・雪のように状態も変わり，それに伴って熱を放出し，天気現象に対して重要な役割を演ずる。また，大気中には，水蒸気の凝結や昇華によってできる霧や雲のほかに，流星塵(りゅうせいじん)・イオン，また煤煙(ばいえん)や火山爆発物などに含まれる固形物質，その他の夾雑物が存在する。もう一つ特異な存在はオゾンで，高さによりかなり異なり，高さ10～40kmの間に分布し，25km付近が最も多く，250kmを越えるとわずかになってしまう。

〔大気の成層〕大気は高さとともに気温・オゾン・電子密度などの分布が変化しているために，高さによって起こる現象も異なり，したがって，大気をいくつかの層に分けて考えるほうが便利である。それぞれの層には次のような名称がつけられている。

①対流圏：地面に最も近い層。気温は高度が100m増すごとに0.5～0.6℃ぐらい下がり，上下の気流の対流が盛んで，雲や雨などの普通の天気現象はおもにここで起こる。対流圏の上面を圏界面といい，その高さは6～18kmで，赤道で高く極で低い。②成層圏：対流圏のすぐ上の層。この層にはいると，上昇しても気温は下がらず，等温層がある。しかし，20km以上になると，オゾン層の紫外線吸収の影響で気温は上昇しはじめ，約50km付近で極大に達し，等温層と気温極大の高さまでを成層圏という。このように，成層圏では気温の垂直分布が対流圏と異なり，両者での大気の運動の様相が違う。③中間圏：成層圏の上面の気温極大のところから上の層。対流圏と同じく気温は高さとともに下がり，80～90kmの高さで気温極小となる。ここが成層圏のだいたいの上限である。その気温極小域での気温は約−90℃で，中間圏での気温の下がる率は1kmにつき3°C程度である。中間圏は，太陽からの紫外線による光化学反応が盛んなところから化学圏ともよばれる。④熱圏：中間圏の上面の気温極小域の上では，気温は再び高さとともに上昇し，熱圏とよばれる。この気温の上昇は，太陽からの紫外線放射の吸収によって行なわれ，300～400kmの高さで1,500～2,000℃に達する。この層では，酸素や窒素の分子は*解離して原子となり，さらにそれが帯電していくつかの電離層を形成しているので，電離圏ともいう。

〔大気中の諸現象〕対流圏では天気を支配

する高気圧・低気圧などの現象が起こり，高層大気中には高さによって種々特有の現象が現われる。〈天気を支配する運動〉対流圏ならびに下部成層圏の大気の運動は，水蒸気の凝結，雲・雨雪・蒸発などの現象と相まって，地球上の天気を支配する。大気の運動をひき起こす基本的な原因は太陽熱で，地表が受ける日射の強さが場所によって異なり，それに地球の自転の影響が加わることにある。地球上には，平均的に周極風・偏西風・貿易風・赤道無風帯などの大規模な風系が存在し，この中を高気圧・低気圧がひんぱんに往来するわけである。さらに大気中にはいろいろの規模の擾乱(じょうらん)があり，雷雲のように10km程度のもの，台風のように1,000 km程度のもの，数千キロメートルに達する高気圧・低気圧などがある。また，水蒸気の凝結，海水からの蒸発，降雨雪，それに伴う熱の放出など，水蒸気収支に関する現象も天気を支配する重要な要素である。このように，熱・水蒸気・運動の過程を通して，大気全体の平衡状態が保たれ，その中で天気現象が起こる。

〈真珠母雲〉成層圏の下部，高さ23～26kmの所で観測されるレンズ状の赤や青の色彩を伴った雲である。ノルウェーで西風の強いときによく見られるが，その成因はよくわかっていない。〈オゾン層〉成層圏の下部では，日射中の紫外線を酸素が吸収してオゾンが多く存在する。垂直分布では25km付近がいちばん多くその上下で減っている。下層の気象現象とオゾン量とは相関関係にあり，高気圧の上では少なく，低気圧の上では多い。〈音波の異常伝播(でんぱ)〉気温は高さ50km付近で極大になり，その上では下がって80～90km付近で極小になっている。このような気温分布が音波の屈折に関係して，異常伝播を起こす。対流圏内では気温は高さとともに減少するので，音速はしだいに減少し，再び地面にはもどってこないから，普通の音源から直進してくる音波以外は聞こえない。しかも，音波の勢力も距離の自乗に反比例して減衰するから，音源からある距離以上離れると聞こえない。しかし，火山爆発などの特別大きな勢力をもった音では，200kmおよび400kmなどの付近でも聞こえることがある。これは高度50kmぐらいの高温層のところで屈折して到達するためと考えられる。〈電離層〉高さ60km付近にD層，100km付近にE層，200km付近にF_1層，300km付近にF_2層があって，それぞれ特有の波長の電波を反射する。F_1層は160～280kmに広がって昼のみ現われ，F_2層は昼は300～350km，夜は280～300kmの範囲に存在する。〈夜光雲〉高緯度地方で日の出前あるいは日没後数時間以内に観測される絹雲に似た銀色の雲で，その成因はよくわかっていない。70kmから90kmぐらいの範囲に限って現われる。〈オーロラ*〉極地方の夜空に現われる発光現象で，太陽表面から飛来する荷電粒子がそこの空気を刺激するために発生する。磁極から20°～25°の帯域が最も良く現われ，これを極光帯という。極光の現われる高度は90～130kmが多い。

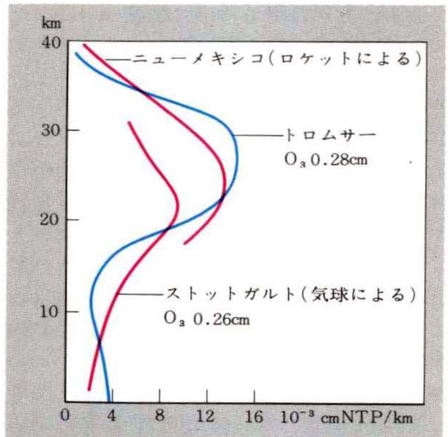


図-1　オゾンの高度分布(ドブソンらによる)

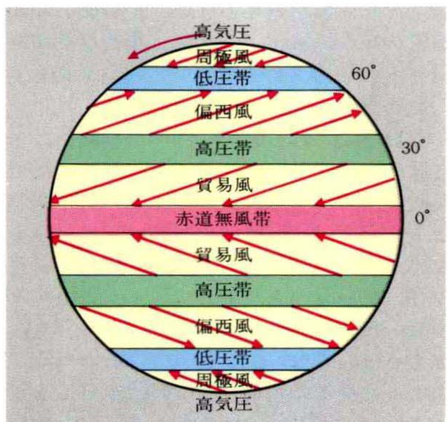


図-2　風　系

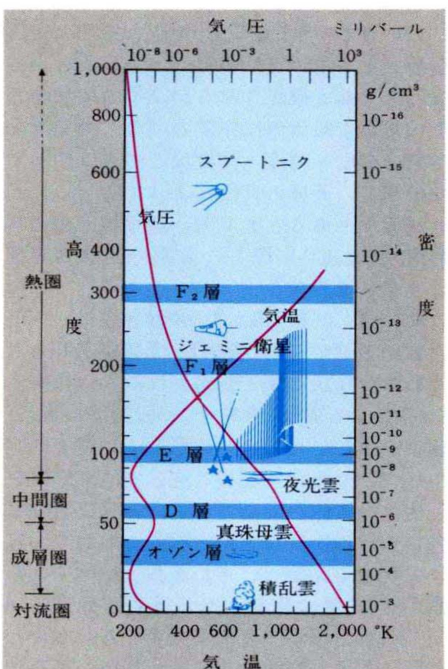


図-3　地球大気の成層状況

大　気

〔大気の観測〕ロケットや科学衛星などの打ち上げ，その他の観測技術の進歩に伴って，地上付近の観測から超高層の観測まで行なわれるようになった。地上付近の気圧・気温・湿度・風などの観測は古くからあるが，気球につけた小形送信機からの電波の方向を方向探知機で追跡して，気球の位置を求め，高層風の観測を行なうレーウィン，同じく，気圧・気温・湿度などの気象要素を気球に取り付けた送信機からの電波を地上で受信するラジオゾンデなどが対流圏から下部成層圏の観測に用いられている。さらに，高層の観測は気象ロケットを打ち上げ，パラシュートをつけたゾンデを落下させ，そこから発信する電波を受信して観測を行なう。また人工衛星による雲の写真，気温や放射の測定も可能になっている。

〔曲田光夫〕

たいぎ【太祇】(1709～1771) 江戸中期の俳人。炭氏。江戸の人。一時期法体になったが，のち京都の島原に居を構え，娼家(しょうか)を中心とする不夜城のちまたの俳諧(はいかい)宗匠となり，不夜庵(ふやあん)と号した。1766年(明和3)蕪村*(ぶそん)の結社三菓社に参加，以後積極的に俳諧に取り組んだ。江戸座*ふうの人事句にすぐれている。

たいきおせん【大気汚染】大気中へ人工的に放出される汚染物質によって空気がよごされること。近代工業の発展に伴い，最近広く問題にされてきたが，大気汚染が問題視されたのは，けっして新しいことではない。たとえば産業革命のころ，詩人シェリーは煙に包まれたロンドンの町を地獄のような場所だとうたいあげ，またわが国においても1941年(昭和16)すでに大阪府で煤煙(ばいえん)の規制が行なわれている。

大気汚染によって大規模な障害が発生したいくつかの事例のうち，歴史的に特に有名な事件を次にあげれば，まずベルギーのミューズ渓谷(けいこく)事件がある。これはコークス炉・溶鉱炉などの工場が建ち並び，ふだんから煤煙の多いミューズ川の渓谷に1930年12月に起こった事件で，気温の逆転のため大気が流通せず，亜硫酸ガス・硫酸微粒子などで汚染された空気が停留し，そのため4～5日の間に約60名の人々が呼吸器系や心臓障害で死亡した。次いで1948年アメリカのモノンガヘラ川の渓谷に沿う工業都市ドノラでも同様の事件が発生した。数日間にわたって亜硫酸ガス・硫酸微粒子・硫酸アンモニウム塩などで汚染された深い霧が立ちこめ，14,000人の人口のうち約43%の人々がせきを主症状とする咽頭痛(いんとうつう)，胸部の圧迫感，頭痛，呼吸困難，目の痛みなどの症状を訴え，4日間に17名が死亡した。さらに，大規模な被害を出した大気汚染がその後ロンドンで起きた。1952年12月5日から9日にわたってロンドン一帯に濃霧が立ちこめ，呼吸困難・チアノーゼ・発熱・せきなどの呼吸器症状を訴える

者が続出し，その5日間を含めた1週間の死亡者は，前年の1週間の死亡者数よりも4,000人も多かったという。死亡者は，そのほとんどが以前より慢性呼吸器疾患をもっていた45歳以上の高齢者であったが，次いで乳児に多く慢性気管支炎・喘息(ぜんそく)様気管支炎・肺炎・心臓疾患などが死因であった。当時ロンドンでは家庭の暖房に石炭を使用しており，それから発生する煙と亜硫酸ガスが原因であったと考えられている。

以前は大気汚染といえば木材や石炭の燃焼によって出る煤煙が重視されていたが，20世紀後半にはいり，石炭から石油へと燃料が切り換えられ，そのため煤煙の発生は少なくなった。しかし他方では，火力発電所・化学工場・石油コンビナートが増加し，またビルの冷暖房用ボイラー，さらには自動車の異常なまでの普及によって，多くの汚染物質が大気中に放出されるようになった。おもな汚染物としては，イオウ酸化物(亜硫酸ガス・無水硫酸・硫酸ミスト)・窒素酸化物(二酸化窒素が代表的)・炭化水素・一酸化炭素・微粒子粉塵(ふんじん)，さらに光化学反応によって生ずるオキシダント*などがあげられる。これらは主として化学的な汚染物質であるので，目では見ることができない。したがって最近の大気汚染の特徴は，空気はあたかもきれいになったように見えても，実は有毒な汚染物質が大気に混入しているという点にある。化学的汚染物質中，ごく最近では肺組織に対する障害作用において亜硫酸ガス以上にオゾンや窒素酸化物がより有害であることが明らかにされ，注目を浴びている。大気汚染は大きく二つの型に分けられ，煤煙を主とするものをロンドン型，化学物質による汚染をロサンゼルス型とよんでいる。わが国の大気汚染は，ロンドン型からロサンゼルス型へと変わってきつつあるといわれているが，つい最近の調査ではロサンゼルス型との相違も報告されている。大気の汚染度の高い地域に居住している人々に対し，せき・たん，のどの刺激感・息切れ・肺機能などについて調べた調査結果によれば，これらの症状は汚染地域に長年住んでいる人々に多く，肺機能の低下もそれらの人々に多く認められている。また，喘息患者や慢性気管支炎患者の症状の増悪が，大気汚染の増悪とある程度関係をもっているらしいことも明らかにされている。これらのことを考え合わせると，大気汚染は呼吸器に明らかに悪い影響を与えていると結論される。さらに，アレルギー性体質の者が大気汚染による影響をより受けやすいことも明らかにされている。また乳幼児や学童は成人に比べて気管が狭く，呼吸器も未発達であるので，おとなよりも大気汚染の影響を受けやすいと考えられ，乳幼児の健康という点からも重要視されなければならない。

近年，世界各国において肺癌(はいがん)が増加しているが，その原因の一つとして大気汚染が注目されている。事実，大気汚染性物質の中には発癌性が認められているものがある。中でも発癌性物質として有名な3，4ベンツピレンは，石炭の燃焼物，自動車の排気ガスなどに含まれ，その作用を無視することはできない。日本では行政対策として，1962年(昭和37)〈ばい煙の排出の規制等に関する法律〉が制定され，全国にわたって規制地域の指定，煤煙発生施設の種類および排出規準が設けられた。また，1964年東京都において〈自動車の排煙に関する条例〉を制定，さらに1968年大気汚染防止法が施行され，ガスの排出基準が設けられるに至った。しかし住民の健康を第一として行政対策を考えるには，企業側の利潤追求がからみあい，いまだに複雑な問題をはらんでいるといえる。〔宮本昭正〕

たいきけん　【大気圏】 ⇨気圏

たいぎご　【対義語】 同一の言語の，ある同一の意味分野に属し，しかもその中で反対的な意味を表わす単語。反対語・対語ともいう。形容詞(長い↔短い，多い↔少ない，明るい↔暗い)，親族関係の名詞(親↔子，姉↔妹，夫↔妻)，方向に関係する名詞・動詞(上↔下，左↔右，行く↔来る，出る↔はいる)などに多い。〈高い↔安い〉のように種々の程度や中間領域(高くも安くもない)の考えられるものと，〈男↔女〉のように程度の差や中間領域はふつう考えられないものとがある。〔西尾寅弥〕

たいきさ　【大気差】 地球大気内の光の屈折によって，天体の見かけの高度*は真の高度より高く観測されるが，この両者の差を大気差または単に気差という。大気差は，空気の密度・温度・湿度などの高さに対する分布と，天体の高度によって変化し，天体が天頂*にあるとき0で，地平線上にある時最大で約35′に達し，太陽や月の視半径よりも大きくなる。

だいぎし　【代議士】 ⇨国会議員

だいぎせい　【代議制】 間接民主制ともいわれ直接民主制*と対比される。いわゆる〈合意による支配〉であって一般国民が投票・選挙を通じて自分たちの意志と利益を特定の代表，つまり代議員に託して国家権力を行使させる政治形態である。本来は有権者各自が，理性的な説得と討論を重ねてお互いの利益を調節し，それを代表機関である議会の討議に反映させ，多数決原理*を通して実現を図るべきものであった。しかし近年，産業の発展などにより利益が多方向に分化する傾向にあるため，そこに種々の圧力団体*が生まれて，直接政策決定の過程に作用し，また近代官僚群は，いわばしろうとの代議員より専門知識とその操作に長じていて，議会での議論を実質的にリードするなど，必ずしも有権者と代表との意志が一致しない傾向が見られる。〔溝口　潔〕

たいぎめいぶんろん　【大義名分論】 儒教の春秋学(→春秋)における，身分的道徳(名分)の基本的規範を明確にしようとする議論のこと。〈大義〉とは，もと国君に対する臣下の道義，すなわち〈君臣の分〉のことであった。宋(そう)の春秋学では，これに加えて，当時の国情から，〈華夷(かい)の弁〉すなわち中華の尊厳を外敵から守ることが大義とされ，この二つを道徳意識に刻みつけるための議論が多かった。朱子*の《資治通鑑*(しじつがん)綱目》は，これを歴史叙述の中で強調したものである。〔西　順蔵〕

たいぎゃくじけん　【大逆事件】 1910年(明治43)第2次桂(かつら)内閣が幸徳秋水*ら多数を検挙し，12名を大逆罪で死刑とした事件。日露戦争後赤旗事件*など社会主義運動がようやく顕著となり政界上層部に不安が募った。その取り締まり不十分を元老*に批判された第1次西園寺(さいおんじ)内閣のあとを継いで，桂内閣は徹底的な思想弾圧を行なった。事件の首謀者とされた幸徳は，無政府主義者として活躍していたが，実際に天皇暗殺を企て爆弾を密造していたのは幸徳ではなく管野(かんの)スガ*ら4名であった。長野県下で密造中の爆弾を実験したのが検挙の端緒となり，幸徳ら数百名の社会主義者が各地で検挙され26名が起訴された。翌年24名に大逆罪による死刑の判決が下り，直ちに幸徳・管野ら12名は死刑に処せられた。他の12名は恩赦で減刑されて無期。大審院での裁判はまったく秘密にされ，審理内容について桂内閣はいっさいの報道を封じて国民の目からこれを隠蔽(いんぺい)した。このため一般国民はただ恐るべく憎むべき不祥事件と考え，社会主義を危険思想とみるようになった。また，桂内閣は事件後さらにきびしい思想弾圧を行なったので，社会主義運動はしばらく停頓(ていとん)状態に陥った。〔高崎徳次〕

たいきゅう　【大邱】 テーク 朝鮮の南東部，慶尚(けいしょう)北道の道庁所在地。京釜(けいふ)線の主要駅で，ソウル・釜山に次ぐ南朝鮮(大韓民国(だいかんみんこく))第3の都市。人口113万3,000(1973)。三方を丘陵に囲まれ，北方は琴湖江(きんここう)に臨む。新羅(しらぎ)のころは大丘とよばれ，以来この地方の中心であった。米・繭・タバコ・生糸の集散市場であり，ことに李朝(りちょう)孝宗(在位1649～1659年)の時代に起源をもつ薬令市は有名である。製糸・織物・紡績・製紙・ゴム・精米などの工場があり，郊外一帯は大邱リンゴの産地となっている。大邱大学・慶北大学・青邱大学がある。〔矢守一彦〕

たいきゅうきょうぎ　【耐久競技】 スキーの距離競技をいい，雪の野山の自然の地形を利用したコースをスキーをつけて走り抜く競技。北欧諸国で発達した競技で，〈雪のクロスカントリーレース〉といわれる。国際スキー連盟(FIS)の規定では，男子では15km・30km・40kmリレー・50km，女子で

は5km・10km・15kmリレーの7種目がある。30km以上の参加年齢は19歳以上で，コースの途中に少なくとも2か所の公式休息所を設け，コースの標高差は350mと決められている。スタートは，定められた時間をおいてスタートする隔時スタート法といわれる独特な出発法を採用している。〔中出水勲〕

たいきゅうざい　【耐久財】 ある一定の期間その使用に耐える財貨をいう。耐久財には生産耐久施設と耐久消費財の2種類がある。生産耐久施設は工場建物や機械のように主として生産に使用される固定資本設備をさす。この資本設備はある一定の期間使用され，その間に損耗した分を減価償却費として経費に計上し補塡(ほてん)することが許されている。この期間を耐久期間という。一方，耐久消費財はテレビや電気冷蔵庫のように長期にわたってその使用に耐えるものをいう。〔藤枝省人〕

たいきょう　【体協】 ⇨日本体育協会

だいきょうきん　【大胸筋】 胸部を広くおおっている筋肉。体表には乳房が存在する。鎖骨・胸骨および肋(ろく)軟骨に始まり，上腕骨の上部に終わる。この筋の収縮によって，腕は内方に引かれ，内転と回転を行なう。大胸筋は前胸神経によって支配される。普通は呼吸運動には関係しないが，呼吸困難時，人工呼吸時または妊娠後半期では，さらに下層にある小胸筋とともに呼吸筋としての役目をもつ場合がある。また，体操のときに行なう深呼吸にも，補助的に用いられる。〔高野一雄〕

たいきょうさんけんゆしゅつとうせいいいんかい　【対共産圏輸出統制委員会】 ⇨ココム

だいきょうじむかしごよみ　【大経師昔暦】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。3段の世話物。近松門左衛門(もんざえもん)作。1715年(正徳5)竹本座(たけもとざ)初演。実説に基づく姦通物(かんつうもの)の一。偶然のことから姦通してしまった経師屋の女房おさんと手代茂兵衛(もへえ)は丹波に隠れるが，密告によってとらわれ，処刑場に連れ出される。しかし，東岸和尚(おしょう)の嘆願によって助命されるという筋で，社会悲劇の傑作とされる。

たいきょうせんぷ　【大教宣布】 明治初期，政府が祭政一致の思想に基づいて神道(しんとう)による国民思想の統一，国家意識の高揚を図った教化政策。復古神道の主張により，1869年(明治2)新政府は古代官制の神祇官(じんぎかん)を再興して祭政一致の方針を掲げ，1870年1月〈大教宣布の詔〉を発布。神道を国教化し，神祇官に置かれた宣教使が全国民に対して神道を宣布することとなった。宣教使には神職・国学者・漢学者が任命され，神社を中心に全国各地で神道の宣布に努めたが，廃藩置県で集権的基礎を固めた政府は，旧習一洗・文明開化の政策をとるようになったため，復古神道との間に矛盾を深めた。1872年政府は神祇省(神祇官の後身)を廃して教部省を設置した際，宣教使も廃止して新たに教導職を設け，神道国教主義のもとに神仏合同の布教を行なった。また1873年には，大教宣布運動の教育機関として東京の増上寺に大教院を設置したが，神道国教主義は仏教側の強い反対にあって1875年大教院を廃止，さらに1877年には教部省も廃止して，大教宣布運動は急速に解体した。〔高崎徳次〕



耐久競技　雪におおわれた山野のコースを，耐久力・スピード・スキー技術を競う。1971年度札幌国際冬季スポーツ大会



太極拳　鶴の姿を表わした〈単鞭の形〉

たいきょくけん　【太極拳】 中国武術の一種。太極の名は《易経》に由来し，無限に広い宇宙の意。北宋(ほくそう)に創出され，清(しん)初頭陳家溝(ちんかこう)(河南省温県)で一派を興した陳長興によって一般化した。この流れをくみ，さらに改良を加えたのが楊露禅(ようろぜん)を筆頭とする一派で，〈楊家太極拳〉とよばれている。1956年，中華人民共和国体育運動委員会がこれをもとに〈簡化太極拳〉を制定した。これは従来繁雑をきわめた型を24に整理統合したものである。太極拳の動きは円運動で，柔らかく，しかも経絡にのっとっているため，全身を無理なく適度に動かす。老若男女だれにでもできるのが特長で，現在中国では医療体術，あるいは予防医学として盛んに行なわれている。太極拳は無極であるから，生あるかぎり行なえるものであって，一武術にとどまらず，中国の文化遺産であり，また人生哲学でもある。その心は〈流水不争先〉とされている。〔楊　名時〕

たいきょくずせつ　【太極図説】 中国，北宋(ほくそう)の周濂溪(しゅうれんけい)作の儒教哲学書。1ページにも足らぬ短編の中に，新しい宇宙論と人間論の骨組みを示した。これは太極図とその説明文とからなり，図は太極(これは同時にまた無極である)→陰陽(おんよう)→五行→男女→万物という展開の図であるが，実はこの全展開が太極そのものにほかならない。だから太極は，動であり静である。また多であり一である。そして，聖人は太極を体得して人極を立て，その動静・多一の統制を仁義中正の実践によって実現できるという新しい天人合一説を説いた。この書は朱子の注によって中国思想史に登場し，朱子学の出発点となった。したがって，朱子学の反対者からは，これと異なる解釈だけでなく，周濂溪の作であることを疑う説も出されている。〔西　順蔵〕

だいきんこく　【大金国】 中国，元末の群雄のひとり，朱光卿(しゅこうけい)が建てた国(1337〜1338)。広東(カントン)省増城県がその中心で，白蓮教(びゃくれんきょう)の影響が強い。元朝に反抗して自立した諸王朝の最初期に属する。

だいく　【大工】 木工事を専門とする技能者。律令(りつりょう)時代では，建築・営繕を担当する官司(木工寮(むくりょう)・修理職(しゅりしき)・造寺司など)の技術系官人の最高地位で，次席を少工(しょうく)とよび，大納言・少納言と同様に大工・少工が対になる官職名であった。その役割は，建築に結集される各職種の技能を統轄して設計監督にあたるもので，今日の建築家的性格をもっていた。古代末になると，官司とは関係なく，建築工事ごとに編成される労働組織の技術者の長の役名となり，中世にはいると，この肩書きへのあこがれから，番上大工(木工)・鋳物大工・瓦(かわら)大工などのように，各職種の親方層の身分を表わす名称となった。近世初頭に，親方層の中世的な特権が停止され，一人まえの技能をもつ者はすべて大工を名のることを許されるようになったが，木工の大工が他の職種に比べ多いため，いつしか今日の意味に転じた。〔渡辺保忠〕

たいぐう　【対偶】 ⇨逆

だいくういじだい　【大空位時代】 中世のドイツで，1254〜1273年の間，神聖ローマ皇帝の位が空位であった時代。ドイツでは，皇帝がイタリア政策に熱中していたため諸侯の勢力が強く，そのうえ諸侯は，みずからの勢力を伸ばすために弱体な皇帝を選ぶ傾向が強くなった。その結果，シュタウフェン王家のコンラート4世(在位1250〜1254年)の死後，名義上の皇帝こそあったが事実上皇帝が選ばれないままに大空位時代にはいった。大空位時代は1273年，ハプスブルク家のルドルフ1世が即位するまで続き，ドイツの分裂を決定的なものとした。〔松　俊夫〕

だいくこうきょうきょく 【第9交響曲】 ベートーベン*作曲の交響曲第9番ニ短調。作品番号125。1824年に発表された大作で，プロイセン国王フリードリヒ-ウィルヘルム3世にささげられている。特に終楽章にシラーの頌歌(しょうか)《歓喜に寄す》からとった歌詞が独唱と合唱によって歌われるので，〈合唱つき〉ともいわれる。欧米では記念式典用の作品としてふだんはめったに取り上げられないが，日本では年末になると多くのオーケストラによって演奏される。

だいくんい 【大勲位】 わが国最高位の勲章*。1875年(明治8)太政官(だじょうかん)布告により勲章制度が定められ，大勲位に対しては1876年菊花章，1877年菊花大綬章(たいじゅしょう)，1888年頸飾(けいしょく)を設けた。皇族・外国元首らが多く授与され，最初の受章者は有栖川宮熾仁(ありすがわのみやたるひと)親王，民間では大山巌(いわお)，外国元首ではドイツ皇帝ウィルヘルム2世。第2次世界大戦後，大勲位の授与は事実上停止されていたが，1963年(昭和38)の閣議で生存者叙勲が決定され，1964年戦没者叙勲とともに復活した。最近の民間受章者は，吉田(よしだ)茂*(1964)である。 〔安達利夫〕

たいげ 【帯下】 俗におりもの，こしけともいう。女性性器から排泄(はいせつ)される分泌物の総称。膣(ちつ)・外陰の分泌物のみならず，子宮・卵管などの分泌物も加わっているが，臨床上問題となるのは，膣および頸管(けいかん)からの分泌物である。正常時にはなんら自覚されないが，炎症があるとはなはだしく多量で，かつ悪臭を発するようになる。これらは婦人科疾患のおもな徴候である。健康な婦人の膣には多少の分泌物が認められるが，自覚するほど多量にはない。健康な分泌物中には膣壁の脱落上皮とともに非病原性の乳酸菌に属するデーデルライン膣桿(ちつかん)菌が多数生存し，分泌物は酸性を示す。これは，成熟期になると卵胞ホルモンの作用で膣上皮は多量のグリコゲンを含むようになり，膣桿菌は剝脱(はくだつ)した上皮のグリコゲンを分解して乳酸をつくるためで，これによって淋菌(りんきん)・連鎖状球菌・ブドウ状球菌・大腸菌などの病菌やトリコモナス・カンジダ・蟯虫(ぎょうちゅう)などの病原体が内性器へ侵入することを防止する。これを膣の自浄作用という。しかし，手淫(しゅいん)・性交・異物挿入(そうにゅう)などにより感染が誘発されると，膣分泌物の性状が変化する。分泌物は正常では透明粘液性であるが，炎症が起こると白色混濁し，さらに進むと膿様(のうよう)となり，悪臭を放つ。このような病的帯下が認められるときは専門医の診断・治療を必要とする。 〔木川源則〕

たいけい 【体型】 体格を外見上の特徴で分類した型。たとえば身体全体としての大小とか，骨格系や筋肉系の発育度などで，体質とは異なる。身体の発達には部位によって遅速があり，また一定の順序があって，年齢に応じて体型も変化する。ヒトにおける体型の変化は，幼児体型から学童体型に移る5～7歳ごろと，学童体型から成人の体型に変わる13～15歳ごろとの2回ある。この時期には精神的動揺が著しく，主観的傾向が強く現われる。チラーは，年齢に応ずる体型の変化を，幼児体型・学童体型・移行体型に3区分し，その移行の早いものが精神的な発達も早いという体型と精神発達との関係を明らかにしている。 〔平野修助〕

だいけい 【台形】 ⇨四角形

だいけい 【大慶】 ターチン 中国，東北地方にある油田で，黒龍江(こくりゅうこう)省安達を中心に広がり，世界有数の埋蔵量をもつといわれる。1950年代末に発見され，技師・労働者の一体となった努力により，1960年に採油が可能となった。このときの科学精神と革命精神の結合は当時大いに賞賛され，〈大慶精神〉の語を生んだ。

たいけいどうぶつ 【袋形動物】 動物分類学上の一門。輪虫類・腹毛類・線虫類・線形虫類・動吻(どうふん)類・プリアプルス類・鉤頭虫(こうとうちゅう)類・オットイアなどの動物群を含む大きい門で，昔から動物学者を困らせてきたグループである。現在ではだいたい上記のように意見が統一されつつあるが，各類をそれぞれ独立の門として扱う者もある。体は一般に円筒状をなし，左右相称で，体表はクチクラ*でおおわれてかたくなっている。真の体腔(たいこう)をもたず，上皮組織で裏付けされていない擬体腔である。線虫類がリネットという独特の排泄器(はいせつき)をもつ以外には，一般に原始排泄器をもっている。生活形は多様で，自由生活のものも寄生性のものもあり，寄生性のものでは消化系が一部あるいは全部退化することが多い。自由生活のものは，海の砂泥間隙水(さでいかんげきすい)や海藻(かいそう)の表面，淡水の一時的たまり水，土壌(どじょう)中などにみられる。寄生性のものは，節足動物や脊椎(せきつい)動物などを宿主とする。カマキリの類に寄生するハリガネムシ(線形虫)や，魚類に寄生するアニサキス(線虫類)，ヒトに寄生するカイチュウ(線虫類)などは有名。植物に寄生するものもあり，土壌線虫類では有害なものも多い。扁形(へんけい)動物や環形動物と近縁であり，トロコフォラ幼生形の進化したグループとみる者もいる。 〔向井 宏〕

だいげっし 【大月氏】 中国，秦(しん)・漢時代に中央アジアで活躍した民族。紀元前3世紀の末ごろまで，モンゴル高原の西半を支配し，月氏または禺(ぐ)氏とよばれた。その後，匈奴*(きょうど)の冒頓単于*(ぼくとつぜんう)に圧迫されて，イリ川流域に移り，BC139～BC129年ごろオグズ川河北に移動してバクトリア*を支配し，大月氏国を建てた。漢の武帝*が張騫*(ちょうけん)をここに使者として派遣したのは有名。そののち45年ごろバクトリアの一諸侯であったクシャン*が大月氏の後継者となった。 〔勝村哲也〕

たいげん 【体言】 単語を文法上の性質から分類したうちの一種。各品詞よりは上位の分類。用言*に対する語で，その性質は，自立語で，活用がなく，主語になりうることである。名詞・代名詞が体言とされるが，代名詞を名詞の一種とする立場からは，体言すなわち名詞となる。学説によっては，形容詞や形容動詞の語幹，接頭語・接尾語なども，体言に入れることがある。なお，〈するがよい〉〈本を買いに行く〉などを準体言として扱うことがある。 〔市川 孝〕

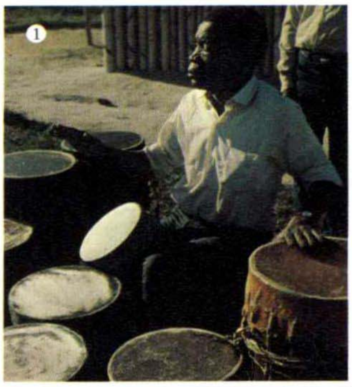
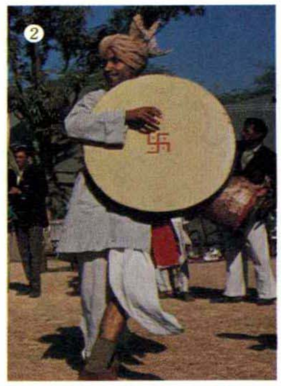
たいげん 【太原】 タイユワン 中国，山西省の省都。人口約100万。汾河(ふんが)上流，太原盆地の中心にあり，同蒲(どうほ)鉄道によって北方は河北省西北部・内モンゴル自治区南部と，南方は風陵渡・潼関(どうかん)を経て河南・陝西(せんせい)両省と，また石太鉄道によって河北省中部と結んでいる。付近は石炭・石灰岩・耐水粘土など地下資源に恵まれ，近年鉄鋼工場や炭鉱が拡充され，また大規模な火力発電所や鉱山機械工場も建設されて，重工業都市として発展しつつある。国民政府時代，軍閥閻錫山*(えんしゃくざん)が山西モンロー主義を唱えてここを拠点に産業を興し，軍備を整えて半独立の政権を置いた。春秋時代から晋陽(しんよう)として知られ，唐の高祖はここで独立の兵を起こした。古跡が多く，郊外には山西大学がある。 〔船越昭生〕

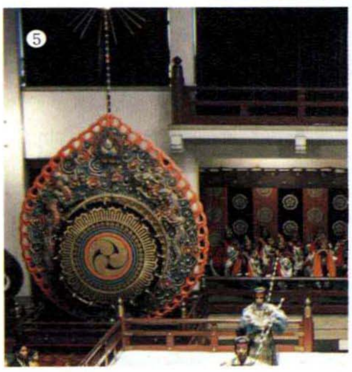
だいげんかい 【大言海】 国語辞典。大槻文彦*(おおつきふみひこ)著。著者没後に出版(1932～1937)。4冊，索引1冊。《言海*》を訂正増補したもので，約80,000語が採録されている。各時代の国語を収録し，発音・かなづかいを示し，語性を解説し，初出の出典例をあげ，さらに語源の解釈を試みるなど，近代辞書としての体裁を備えている。

だいけんしょう 【大憲章】 ⇨マグナ-カルタ

たいこ 【太鼓】 ドラムともいう。ふつう楽器の科学的分類による膜鳴楽器*と同義語あるいはその俗称として使われる。すなわち，容器や枠(わく)に張った膜に衝撃を与えて振動を起こさせるものである。衝撃の与え方は手(掌・指)や桴(ばち)で打つのが大部分であるが，まれに摩擦や気流を利用することもある。また，体鳴楽器*に分類される割れ目太鼓は膜をもたないが，奏法が一般の太鼓と類似するので，ここに含める考え方もある。問題なく普通に太鼓とよばれるものは，胴体や膜の材質・形状・構造・奏法・用途などによって細かく区分できるし，音楽的機能の観点からピッチ(音高)の明確なものとそうでないものとに分けることもできる。胴体の材料は木製が圧倒的に多く，匏(ふくべ)，果実の殻(から)(ヤシなど)や竹・土・金属・合成樹脂などがある。膜

太　鼓




民族音楽の太鼓 ①タンザニア ②インド ③韓国 ④南太平洋ニューヘブリジーズ **日本の太鼓** ⑤雅楽の大太鼓 ⑥角太鼓 ⑦石川県輪島市の御陣乗太鼓 ⑧青森県青森市のねぶたの太鼓

の材料は動物の皮革が一般的で，それぞれの地域で手に入れやすいウシ・ウマ・ヒツジ・シカ・ヘビ・サメ・合成樹脂などが使われる。胴体の形状は枠状(うちわ太鼓・タンバリンやエスキモーの太鼓)・容器状(ティンパニ)・筒状がある。筒状のものはさらに円筒形・たる形・円錐(えんすい)形・砂時計形(鼓)に分かれる。膜の数によって片面太鼓・両面太鼓の区別をすることもある。膜は胴体にぴんと張りつめなければならず，その固定のしかたは，接着剤・くぎ・びょう・二重枠・ひもなどを使う。中でもひもで締めるものは膜の緊張度の調節が容易であるので，その効果が小鼓などの場合に最大限利用され，演奏中に握力の加減で音高や音色を変えることができる。太鼓はまた演奏のときに，どのような位置に置かれるかによっても細分類できる。床や台の上や枠の中に固定させる場合やひざ・腰・胸にのせたりつるす場合，柄つきのものを手で持つ場合などがある。中にはタンバリンやジャズのドラムセットのように膜鳴以外のシンバルなどと組み合わせるものもある。

太鼓の演奏効果は，持続音ではなく単発音の連続であるために，リズム楽器として本領を発揮する。オセアニアやアフリカの社会ではいくつかの複雑なリズム型に意味をもたせて信号・合い図を送る伝達手段として使われるし，世界じゅうたいていの合奏音楽ではリズムやテンポをささえる主導的役割を果たすことが多い。また，東アフリカでは旋律的な特徴をもつ音調言語を擬音的に太鼓の演奏に移すトーキング-ドラムという特殊な例もみられる。〔山口　修〕

たいこ　【太湖】　タイ湖　中国，江蘇(こうそ)省南部から浙江(せっこう)省にまたがる湖。古くは具区・震沢などともよばれた。面積約2,000km²。東岸から東洞庭(ひがしどうてい)山が突出するほか，湖上には約70の島があって風景も美しく，水位は年じゅう一定していて舟運の便も多い。周囲から無数の河川が流入し，婁江(ろうこう)・呉淞江(ウースンこう)・黄浦江(こうほこう)の3河が東部から流出して上海(シャンハイ)方面へ向かい，揚子江に注ぐ。豊富な水量は灌漑(かんがい)に利用され，周辺の平野は中国第一の米作地帯をなし，その間に蘇州・湖州・無錫(むしゃく)などの大都市が発達している。〔日比野丈夫〕

タイご　【タイ語】　シナ-チベット語族*の中のタイ語群に属するとされ，狭義にはタイ国の公用語。使用人口3,000万。広義にはラオスのラオス語(300万)，ビルマのシャン語(500万)，中国の広西省・雲南省・貴州省で用いられている僮(チワン)語(800万)・布依(プイ)語(320万)・倖(タイ)語(50万)，北ベトナムの黒タイ語・白タイ語などもタイ語に含め，中国南部からインドシナ半島中央部にかけて話される言語を総称する。中国語*と酷似した性質をもち，語彙(ごい)は単音節的で5種の高低アクセントである声調*を有し，主語・目的語・述語などは語順によって決まり，人称・時相・態・法などの違いは語形変化によらず語の具体的な意味によって示す。中国語と最も異なる点は，形容詞や限定する語が名詞のあとにくることである。タイ国のタイ語はインド文化圏の中で育ち，1292年に南インド系の表音文字を用いて作成された碑文が最古の文献。今日も同じ系統の文字を用い，サンスクリット*・パーリ語*・カンボジア語*からの借用語が多い。〔吉川利治〕

だいご　【大子(町)】　茨城県の北西端，久慈郡の町。人口30,000。西は八溝(やみぞ)山地，東は久慈山地に囲まれた久慈川上流の盆地を中心に周辺山地を含む。盆地部には田畑がよく開け，畑にはタバコ・コンニャク・茶などの換金作物をつくり，山地にはワサビ・コウゾ・ミツマタ・ウルシの特産がある。日本三大瀑布(ばくふ)の一つといわれる袋田ノ滝や袋田温泉があり，観光客も多い。水郡線が通じ，5駅がある。1955年(昭和30)に大子町のほか7村が合併し，面積325km²は茨城県の市町村中最大である。

たいこう　【退行】　現実の生活にうまく適応できなかったり，欲求の満足が得られなかったりする場合，発達水準の上で原始的で未発達な状態に逆もどりすること。よくみられる退行現象に，弟(妹)の出生によって起こる子どもの夜尿症や指しゃぶりがある。それまで自分ひとりに注がれていた周囲の関心が十分得られなくなった結果，愛情の欲求不満から，すでに経過した発達段階の行為を再現するのである。成人でも，追いつめられて泣き出したりするのは退行の一種と考えられる。〔菊地　藍〕

たいこう　【体腔】　動物のからだの内部で，体壁と内臓の間にある空所のこと。原生動物・中生動物・海綿動物には存在せず，腔腸動物では真の体腔ではないがそれに似た腔腸がある。扁形(へんけい)動物以上の動物に体腔がみられ，このため扁形動物以上の動物を体腔動物とよぶことがある。体腔のでき方から，胞胚(ほうはい)のときの内腔(割腔)が体腔となる原体腔(一次体腔)，嚢胚(のうはい)期以後にできる真体腔(二次体腔)と

に区別される。原体腔の腔壁は中胚葉でおおわれず，これをもつ動物は扁形動物・紐形(ひもがた)動物・線形動物・輪形動物・内肛(ないこう)動物である。真体腔は腔壁が中胚葉起源の体腔上覆によっておおわれ，環形動物・節足動物・軟体動物・擬軟体動物・毛顎(もうがく)動物・棘皮(きょくひ)動物・原索動物・脊椎(せきつい)動物が真体腔をもつ仲間である。〔蒲原春一〕

たいこう【退紅】 紅花を染料として淡紅色に染めた麻布衣，またはそれを着用する仕丁*(じちょう)。狩衣*(かりぎぬ)の一種で，平安時代から鎌倉時代にかけて，履(くつ)・笠(かさ)などを持って公家(くげ)や将軍家などに供する下級の者が着用した。退紅を着用するときは，黒の布の袴(はかま)をはき，立烏帽子(たてえぼし)をつけた。

だいこうあんれい【大興安嶺】⇨興安嶺

だいこうかいじだい【大航海時代】⇨122ページ

たいこうき【太閤記】 豊臣秀吉*(とよとみひでよし)の伝記。狭義には1625年(寛永2)開板の小瀬甫庵(ほあん)の《甫庵太閤記》をさし，広義にはそのほか慶長年間(1596～1614)の太田牛一の《太閤軍記》，元和(1615～1623)末年の《川角(かわすみ)太閤記》，およびこれらを底本とした読物・演劇・映画作品を総称する。これらのうち江戸期の読本では《真書太閤記》，人形劇では《絵本太功記》が最も名高く，現代の大衆文学にも矢田挿雲*(そううん)の《太閤記》，吉川(よしかわ)英治*の《新書太閤記》，司馬遼太郎*(りょうたろう)の《新史太閤記》その他がある。〔真鍋元之〕

たいこうけんち【太閤検地】 豊臣秀吉*(とよとみひでよし)が全国的に統一した基準で行なった検地*。土地調査は古代から行なわれており，戦国時代には各大名がその領国を形成していく過程で土地・人民の調査を行ない，織田信長*(のぶなが)は諸大名を征服していく段階において，これまで各大名がまちまちの形で行なっていた調査を統一的に行なったが，中途で倒れた。秀吉はこれを受け継ぎ，1582年(天正10)山城(京都府)の検地を行ない，全国統一の進むにつれて逐次これを諸国に及ぼし，1594年(文禄3)からは新基準を定めて全国に行なった。これによって文禄(ぶんろく)検地ともいう。この検地では，6尺3寸を1間，1間四方を1歩，300歩を1反とし，田畑宅地につき一区切りごとの測量を行なった。田畑には上・中・下・下々の等級をつけ，基準の枡(ます)を京枡*と定め，反あたりの玄米収量の見積もり高(→石盛)を定め，村ごとの石高*を決定して近世の石高制の基を築いた。これによって土地の直接耕作者である農民が名請け人(貢租負担者)として掌握されることとなり，中世的な土地農民支配が否定されて荘園*(しょうえん)制度はまったく解体した。太閤検地は江戸時代にも引き継がれて近世封建社会の基礎となり，幕藩体制*が確立していった。なお太閤検地帳は各地に現存する。〔岡山泰四〕



退　紅《法然上人行状図絵》(部分)



タイコウチ　小魚を捕える

たいこうさんみゃく【太行山脈】 タイハン山脈 中国，山西省南部の太行山を中心に，北東から南西に約400kmにわたって延びる山脈。平均標高1,000m。山西省と河北・河南両省の境界をなし，北は万里の長城付近で大興安嶺(だいこうあんれい)に連なる。東側は大規模な断層崖(だんそうがい)をなし，山麓(さんろく)に多くの扇状地をつくって華北平原に臨み，西側はゆるやかな高原状をなして黄土高原地帯に連なる。この山脈の方向は一般にシナ方向とよばれ，中国の地質構造線上最も重要なものとされる。〔船越昭生〕

たいこうせつ【待降節】 降臨節ともいう。〈来臨〉を意味するラテン語アドベントゥスの訳。キリストの降誕(この世への来臨)を準備する4週間で，クリスマス前の4番めの日曜日からクリスマス前日までの期間をいう。教会暦では待降節第1日曜日から新年となる。

たいこうたいごう【太皇太后】 皇太后*・皇后*とともに三后の一。令(りょう)制では天皇の祖母で，かつて皇后の地位にあった人をいう。文武天皇の后宮子が最初の例。実際には，皇后にならなかった人でも，天皇の祖母にあたる人を皇太后とよんだ。

たいこうち【太鼓打虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・タイコウチ科。体長30～38mmで，一様に灰かっ色ないし黒かっ色。頭部は小さく，短く鋭い口吻(こうふん)がある。前胸背は大きく，後方が幅広い。小楯(しょうじゅん)板は大きく，不規則な菱形(ひしがた)。上翅は腹部全面をおおい，膜質部には網目状の脈がある。前脚は顕著な捕獲脚となり，腿節(たいせつ)の基部近い内方に突出した強いとげがあり，中・後脚は遊泳に用いられる。腹端には体と等長な1対の呼吸管がある。池沼や水田の浅所に生活し，水底に静止して呼吸管の先端を水面に出している。強い刺激を与えると，口吻の基部の両側から悪臭のある乳液を分泌する。成虫・幼虫ともに肉食性で，オタマジャクシ・小魚その他の小形水生動物を捕食する。成虫は夜間に生活水域を離れ，かなり遠方まで飛翔(ひしょう)することがあり，燈火にもよく飛来する。本州以南，台湾・中国に分布する。

タイコウチ科は全世界から約200種が知られ，いずれも水生で，腹端に呼吸管がある。日本にはほかにヒメタイコウチ・ミズカマキリ・ヒメミズカマキリの3種が分布する。ヒメタイコウチは体長18～22mmで，呼吸管は短く2.5～3.0mm。兵庫県から愛知県にかけて局地的に発見され，湧水(ゆうすい)付近のコケの間などに見いだされる。朝鮮・中国にも分布する。〔鈴木邦雄〕

たいこうぼう【太公望】 周王朝建国の功臣。姓は姜(きょう)。名は呂尚(りょしょう)。渭水(いすい)に魚つりしているところを周の文王に見いだされ，文王の祖の太公が望んでいた人物だというので太公望とよばれたという。この伝説は，姫姓(きしょう)の周王朝と代代通婚関係にあった姜姓氏族との関係を説明するために後世つくられたものであろう。文王の死後，武王の軍師として殷(いん)の討伐に従う。殷を滅ぼしたあと，営邱(えいきゅう)(山東省)に封ぜられて斉(せい)の国を興す。現存の兵法書《六韜(りくとう)》は，彼の作と仮託されている。〔小南一郎〕

だいこうほう【大公報】 中国の天津(てんしん)で1902年創刊され，民間紙として長い伝統をもつ日刊新聞。国民党時代には，政局批判の論調を行なったために，しばしば圧迫を受けた。現在は北京(ペキン)に本社を置き，天津・上海(シャンハイ)・香港版(ホンコンばん)を発行している。財政・経済の分析と，国際ニュースの報道には特徴がある。

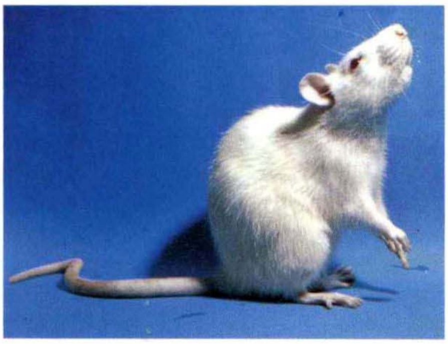
たいこうようけん【対抗要件】 当事者間においてすでに成立した権利関係を他人に対して主張するための要件をいう。不動産物権の変動における登記*(民法177条)，動産物権の譲渡における引き渡し(民法178条)，債権の譲渡における通知・承認(民法467条)，などがその主要なものである。対抗要件を欠くと第三者に対しては権利の主張ができない。たとえば，甲からある土地を買った乙がまだ登記していない間に，甲がその土地をさらに丙に売り，丙が登記をすませてしまった場合，乙は丙に対して，その土地の所有権を主張することはできない。もっとも，第三者の側から権利関係の変更を認め，対抗要件を備えていない権利者を正当な権利者と認めることはさしつかえない。対抗しえない第三者とは当事者以外の者をさすが，不法行為者や詐欺または強迫によ

って，登記の申請を妨げた者および他人のために登記を申請する義務のある者(不登法4・5条)ならびに信義誠実・公序良俗に反する背信的害意者などはこれに含まれない。〔黒木三郎〕

だいごきょうわせい【第五共和政】1958年にド-ゴールが政権を獲得して以降のフランスの政体。第四共和政は議会中心主義をとったため，小党分立による不安定な政権が続き，対外的にはインドシナ戦争・アルジェリア戦争などの失敗が重なった。この中で右翼や軍部にかつぎ出されて政権についたド-ゴール将軍は，6か月の全権を要求し，1958年10月新憲法を制定して国民投票に付し，84％の支持を得て第五共和政を樹立，大統領に選出された。議会の権限を大幅に制限し，大統領の地位を強化した第五共和国憲法によって安定政権をつくったド-ゴールは，アルジェリアの独立を認めて紛争を解決し，〈大欧州〉建設をめざしフランスの栄光を追求した。そして10年めの1968年の〈5月危機〉を奇跡的に切り抜けたものの翌1969年の国民投票に敗れてポンピドーに譲った。しかしその後もド-ゴール路線と第五共和政の原則は維持されている。〔喜多迅鷹〕

だいこくこがね【大黒金亀子】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体長20～28mm。全体黒色で光沢がある。頭部は扁平(へんぺい)でほぼ扇状，雄では先端が後方に鋭く湾曲する強大な角状突起が中央にあり，雌では扁平な横突起と両端に小突起をもつ。前胸背板は，雄では中央に2個の三角稜(さんかくりょう)状の大きい突起とその両側に各1個の犬歯状突起があり，雌では中央前方に横隆起がある。鞘翅には細い縦溝(じゅうこう)がある。成虫は山地の牧場などの獣糞(じゅうふん)に集来し，その下に深い縦穴を掘って糞塊を運び込み，それに産卵する。幼虫は糞を食べて成長し，そのまま越冬して翌年の夏に成虫となる。成虫は夕方活発に飛翔(ひしょう)し，燈火にも集まる。北海道・本州・九州のほか，朝鮮・中国・モンゴルなどに分布する。近似のミヤマダイコクコガネは，やや小形で体長17～24mm，後胸の中央部に毛がないことで本種と区別され，本州と四国の山地帯に分布する。また，ゴホンダイコクコガネは，小形で体長10～16mm，体がやや細く，後胸に毛がない。日本全土のほか台湾・朝鮮・中国に分布する。〔鈴木邦雄〕

だいこくじょうぜ【大黒常是】(？～1633) 近世初期の銀貨鋳造家。南鐐座(なんりょうざ)(16世紀末の銀貨鋳造所)の一員であった湯浅常是は，1598年(慶長3)徳川家康(いえやす)に招かれ，伏見で銀貨鋳造にあたり，銀吹役・銀改役の特権を得，銀貨に大黒天像の極印を打ち，姓を大黒と改めた。常是の長男作右衛門(さくえもん)は京都に，次男長左衛門は江戸に大黒常是役所を置き，銀吹所(銀座で鋳造された銀貨に大黒天像などの極印を打ち，幕府金蔵に上納する銀を500目包みに包封するところ)を独占していた。〔松尾　涼〕



ダイコクネズミ



醍醐寺　1124年落慶供養の薬師堂。1907年解体修理，1935年屋根替えが行なわれた

だいこくてん【大黒天】梵語(ぼんご)Mahākāla(マハーカーラ)の漢訳。元来古代インドの神マヘーシュバラ(摩醯首羅)の化身で戦闘の神，黒闇の神とされる。仏教では〈毘盧遮那仏(びるしゃなぶつ)〉の権化として荼枳尼天(だきにてん)を降伏(ごうぶく)する忿怒尊(ふんぬそん)として黒色・三面六臂(さんめんろっぴ)の姿で現わされる。わが国では厨房(ちゅうぼう)の神とする《南海寄帰伝》の説に基づき，諸寺の庫厨に二臂の大黒天像を安置した。のちに大国主神(おおくにぬしのかみ)と混同され，また農神として米俵に立つ姿で表わされてから，一般に富貴増益の福神として七福神の一つともされ，今日まで信仰が盛んである。〔北条賢三〕

だいこくねずみ【大黒鼠】哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。ドブネズミの白変種で，眼は赤く，全身白色。ラッテともいい，医学・生物学などの実験用に飼育される。自然状態においてもしばしば出現し，普通の毛色のドブネズミとともに見られる。

だいこくやこうだゆう【大黒屋幸太夫】(1751～1828) 光太夫とも書く。江戸後期の船頭。伊勢(いせ)(三重県)若松村の人。1782年(天明2)回米のため伊勢白子村より江戸に航行中台風にあい，漂流8か月ののちアリューシャンに漂着した。1791年(寛政3)帰国を願うためロシアの首都ペテルスブルク(今のレニングラード)へおもむき，エカテリナ2世に謁見，翌年許されて遣日使節ラックスマンに伴われ根室に帰着した。のち幕府の監視の下で生活し，桂川甫周(かつらがわほしゅう)らと交流があった。漂泊記録に桂川甫周著《北槎聞略(ほくさぶんりゃく)》や《漂民御覧記》がある。〔松尾　涼〕

だいごじ【醍醐寺】京都市伏見区醍醐伽藍(がらん)町にある真言宗醍醐派の総本山。876年(貞観18)理源大師聖宝の開基。このときは上醍醐に伽藍が建てられただけであるが，926年(延長4)下醍醐が開かれ，多くの塔頭(たっちゅう)が建てられた。応仁(おうにん)の兵火により伽藍の大部分を失ったが，951年(天暦5)に完成した五重塔(国宝)は焼失を免かれ，現在京都では最古の建造物となっている。藤原初期の《木造薬師如来及両脇(わきじ)像》(国宝)を安置する上醍醐の薬師堂(国宝)は藤原建築の遺構，下醍醐の金堂(国宝)は桃山時代に紀伊(きい)(和歌山県)の満願寺から移建したものである。また，三宝院の庭園は豊臣秀吉(とよとみひでよし)がみずからさしずしたところの名園である。なお，宝物館には，当寺に伝わる仏画や仏教画像の巻き物，古文書・仏教彫刻・工芸品ならびに俵屋宗達の描いた屏風(びょうぶ)類が収蔵されている。〔永井信一〕

たいこだい【太古代】⇨先カンブリア代

だいごてんのう【醍醐天皇】(885～930) 宇多天皇の第1皇子。母は藤原胤子(いんし)。名は敦仁(あつひと)。897年(寛平9)即位。藤原時平・菅原道真(すがわらみちざね)を左・右大臣に任じて，院政から脱皮した本格的な天皇親政を行なった。譲位にあたって，宇多上皇が天皇に残した寛平御遺誡(ごゆいかい)は知られている。その善政は後世〈延喜・天暦の治〉とたたえられ，公家(くげ)の理想時代とされた。《三代実録》の撰修(せんしゅう)をはじめ，《類聚国史(るいじゅうこくし)》《古今和歌集》の勅撰，《延喜格式》の編纂(へんさん)などが行なわれたのもこの時期である。なお，《醍醐天皇御記》(《延喜御記》)は天皇の日記として貴重な史料となっている。陵墓は京都市伏見区の後山科(ごやましな)陵。〔西ケ谷恭弘〕

だいごふくりゅうまるじけん【第五福龍丸事件】1954年(昭和29)3月1日，ビキニ環礁でアメリカの水爆実験が行なわれ，このため近くにいた静岡県焼津(やいづ)のマグロ漁船第五福龍丸が，実験で生じた死の灰をかぶり，乗組員全員が急性放射能症にかかった事件。同月14日に帰国し，東京大学病院と国立第一病院にわかれて収容されたが，久保山愛吉無線長は半年後に死亡した。日本としては，広島・長崎に次ぐ3度めの核爆弾による被害であった。その後，原水爆禁止運動関係者・被爆者・文化人・学者などが中心となって船の保存委員会がつくられ，第五福龍丸は保存されている。〔広部和也〕

大航海時代

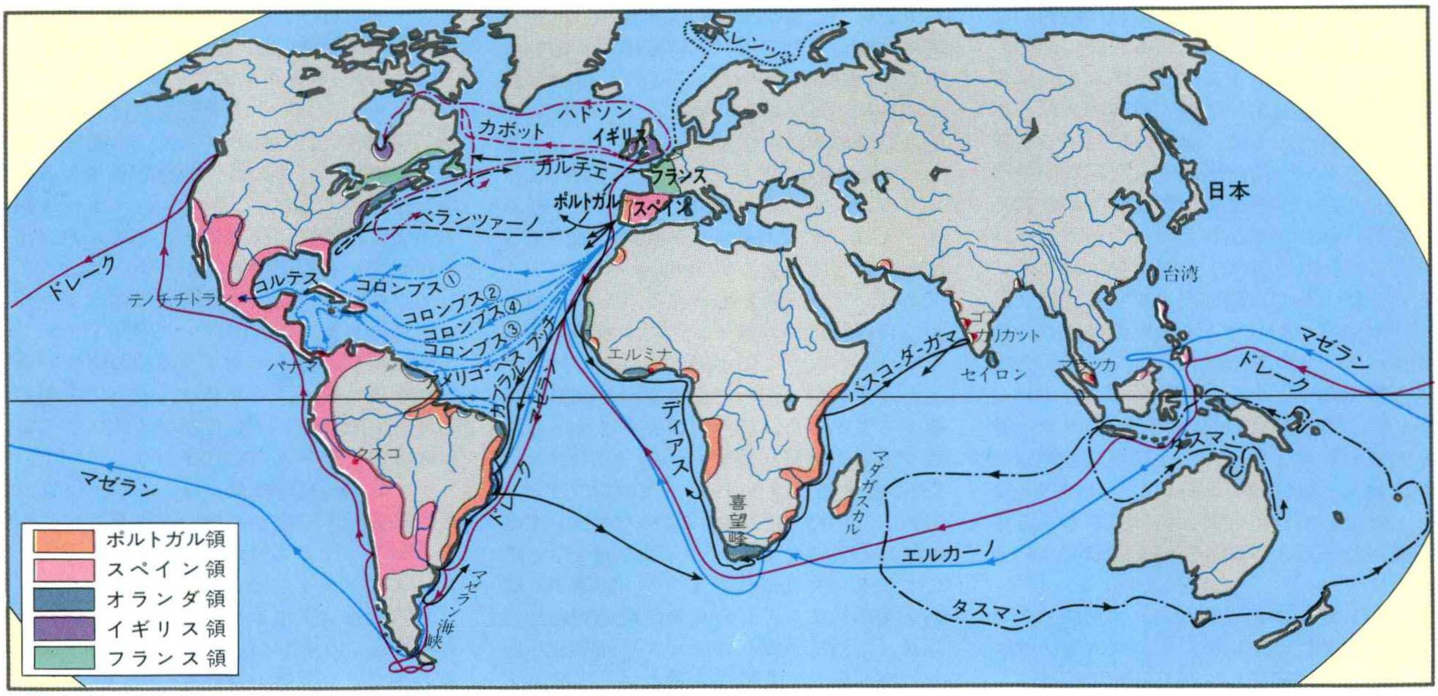
ヨーロッパ人が大西洋・インド洋・太平洋などの大洋を越える探検・航海によって新しい地域を発見し，新大陸（アメリカ）やアジア各地へ進出していった15世紀後半から16世紀の時代をいう。西洋史の上では一般に〈地理上の発見〉といわれている時代である。

中世盛期以来，ヨーロッパでは生産力が高まって経済活動が活発となり，遠隔地貿易の発展とともに新しい貿易路の開拓が進められた。また，それは東方への好奇心とアフリカのかなたにあると考えられていた未知のキリスト教国への関心とに結びついて，探検航海を活発にした。そして当時の天文学・航海術・造船術の発達，特に羅針盤(らしんばん)の利用による大洋航海の技術の発展がこのような大航海を可能にした。しかし，現実の大洋航海はきわめて大きな危険にさらされる冒険航海であった。大洋にすむ怪物や恐るべき自然の異変を恐れる無知の船員たちを指揮して，現実に襲ってくる壊血病や種々の疫病，暴風雨や海賊，原住民の敵意や同じ乗組員同士の争いなどを克服して航海を行なっていくのは超人的な忍耐と勇気を要することであった。それは知力・意力・体力ともにすぐれた航海者の生命をかけた指揮によって開かれていく海の道であった。有名なバスコ-ダ-ガマ*の東インド新航路発見航海は，往路リスボンからカリカットまで10か月あまりを要し，無事帰国した乗組員はわずか3分の1ほどの人数であった。この時代にポルトガルが東インド航路に用いた船は〈ナウ〉といわれる数百トンの帆船であり，その航海は往復に1年半から2年の年月を要し，航海を全うする船は3分の2か半分ぐらいという危険な冒険航海であった。このことはポルトガルに関してだけのことではない。かのマゼラン*の世界一周航海ともなれば，5隻の船と265人の乗組員をもって出航したが，本国に帰ったのは1隻の船に18人だけであった。このような航海の危険性は大航海時代を通じて克服されなかった。16世紀末のオランダの第1回東インド船隊は，総員249名の乗組員で出発したが，ジャワのバンタムに東洋貿易の門を開いて2年4か月めに帰国したときには，人数はわずかに89名になっていた。

【ポルトガル】この大航海時代のトップを切ったのはヨーロッパ西端のイベリア半島の国々である。ここではイスラム教徒のムーア人を征服して，キリスト教徒の手に半島を取りもどす戦いであるレコンキスタ（国土回復運動*の十字軍）がすすみ，14世紀にはムーア人を半島南部のグラナダに圧迫して，カスチリア・アラゴン・ポルトガルなどの諸国が戦闘的キリスト教国として，農業・牧畜を経済の基礎とし，商業貿易を財政的ささえとして国力を高めてきた。そして15世紀後半にはポルトガルとスペイン（1479年カスチリア・アラゴンが合同して成立）の2王国の膨張力が，大洋を越えて東と西へ押し出していくのである。ポルトガルは，1415年大船隊をもってジブラルタルの対岸，北アフリカのイスラム教徒の東方物産集散地セウタを攻略し，貿易の新しい拠点をつかんだ。そして，このセウタ攻略に功をたてた王子エンリケ*は，ヨーロッパ最西端の岬(みさき)サンビセンテのサグレスに居を定め，ここに天文台・航海学校などを設け，有能な航海者のアフリカ西海岸探検航海を指導した。1460年にエンリケは没し，探検航海は一時停滞したが，ギニア海岸との交易などが行なわれるようになり，1480年代にはエンリケの遺業はその実を結びはじめた。探検航海はそのテンポを速め，1482年にエルミナの要塞(ようさい)が建設され，この年6月にリスボンを出航したカウンは赤道よりかなり南下して西海岸を探検し，次の1485年の航海ではコンゴ王国に達している。続いてディアス*は，アフリカ南端をきわめるべく航海を続け，暴風雨に流されて，幸運にも南端の海岸線を回ってアルゴア湾に達し，グレート-フィッシュ河口まで船を進め，1488年，帰途くっきり浮かぶテーブル-マウンテンとそれに連なるアフリカ最南端の岬を発見した。ディアスはこれを〈嵐(あらし)の岬〉とよんだが，帰国後，これを聞いた国王ジョアン2世は，ポルトガルが長年にわたって発見しようと努めてきた新しい土地への期待をこめて，この岬を〈喜望峰〉と名づけた。そして長年にわたって計画的実行を積み重ねてきたポルトガルの探検航海は，バスコ-ダ-ガマが1498年，この喜望峰を迂回(うかい)してインドのカリカットに到達することによって完成された。しかし，このインド新航路完成の数年前に，探検航海事業でポルトガルと競争の立場にあったスペインは，コロンブス*によって大西洋を西航する探検航海をすでに成功させていたのである。

【スペイン】コロンブスはイタリアのジェノバ生まれの航海者であるが，若いときポルトガルに移住し，地球球体説を信じ，西に航海してインドに至る探検航海を行なおうとした。ポルトガル王室にその計画を説いたがいれられず，ポルトガルを去ってスペインに移り，スペイン女王イサベラ*の援助を得て，1492年パロス港を出航して大西洋を横断し，72日間の航海を続けてサンサルバドル島に達した。さらに翌年，この航路により船舶20隻，乗員1,500名の多数を乗せて第2回航海が行なわれ，1498年，すなわちポルトガルのバスコ-ダ-ガマが喜望峰を回ってインドへ到着した年には，コロンブスは第3回の航海に出帆しており，この航海でトリニダード，オリノコ河口などが探検されている。コロンブスはこれらの発見地をアジアのインド近くと信じていたが，期待していたようなアジアの諸物産はなく，また新しい土地の富を十分つかむことができず，第4回航海から帰ってからは人に忘れられ，1506年バリャドリードの町で寂しく死んだ。やがてこの大陸はインドではなく未知の巨大な新大陸であることがわかった。スペインの探検家バルボア*は1513年，パナマ地峡の山脈を越えて西海岸に至り，茫洋(ぼうよう)として果てしなく広がる太平洋を発見し，インドはこの大洋のはるかかなたにあることが明確となった。そして，この新大陸は南アメリカを探検したフィレンツェの商人で探検家，アメリゴ-ベスプッチの名にちなんでアメリカとよばれた。この新大陸にはエンコミエンダ*制度といわれる土着人（インディアン）の賦役の上に立つ植民地所領経営が行なわれ，また黄金・財貨を求めて精力的な活動をするコンキスタドレス*（新大陸征服者）たちの中南米への侵入・征服が激しく行なわれ，16世紀末までには，その巨大な富はヨーロッパ世界に流出していった。

【東インド帝国】このころ東インド新航路によってアジアの物産を独占的に握ることができたポルトガルは，1500年にカブラル*が指揮する13隻よりなる第1回東インド船隊（この船隊は途中ブラジルを発見）をインドに送って以来，この新ルートを通じて，インド洋を囲んだいわばポルトガルの〈東インド帝国〉を形成しようとしていた。しかし，さきにコロンブスの航海成功により，これから引き続いて行なわれるであろう新しい土地の発見に伴って，スペインとポルトガルとの両国の間に生じる紛争を避けるために，ローマ教皇は1494年，トルデシラス条約でベルデ岬西方370リーグの地点を南北に貫く線をもって東西分割線（教皇境界線）とし，東の発見地はポルトガルに，西の発見地はスペインの支配下にはいることとした。いまやアジアの地はポルトガルの独占的活動圏となり，1505年にインド総督に就任したアルメイダ，続いて1509年に同じくインド総督となったアルブケルケ*によってインドのゴアを中心とするポルトガルの東インド支配の体制化は進んだ。アルブケルケは陸路東方遠征を行なって大帝国を建てた古代のアレクサンドロス大王と同じような大計画をインド洋を中心とする東インド帝国の形成に求めた。オルムズを占領してペルシア湾口をおさえ，インドとエジプトを結ぶ貿易路を確保し，東はマラッカを占領して東西交通の要衝マラッカ海峡を制



17世紀半ばまでの主要な地理上の発見およびヨーロッパ諸国の植民地

(左)16世紀のリスボン港　当時ヨーロッパで最も繁栄を示していた　(右)インドの織物に描かれたヨーロッパの商人　ビクトリア・アンド・アルバート美術館蔵





し，海岸の重要地点に要塞＝商館を設け，インド洋を制圧する大艦隊の力とあいまって東洋貿易を独占した。こうしてインド各地へはポルトガル人官吏が着任し，毎年1回，数隻または10数隻からなる東インド船隊がリスボンを出航してゴアその他のアジアの地へ向かい，胡椒(こしょう)・肉桂(にっけい)・丁子などの香辛料や絹製品などの珍しい東洋の特産物を持ち帰り，リスボンは東洋貿易の中心地として急速な繁栄を示し，フッガー家*やウェルザー家*はじめ南ドイツの大資本家やイタリアの大商人などが，ここに支店や代理店をおいて，この新しい東洋貿易に参加して利益を分かちとろうとした。重要な東洋物産である香辛料を求めての貿易路獲得競争では，ポルトガルは完全に勝利者であった。その目的地ともいうべき香料諸島(モルッカ諸島)には1512年にポルトガル船が達していた。

〔大洋と大陸の征服〕一方，スペインは再び他国の天才的大航海者の手によって西航ルートを完成した。それはポルトガルの小貴族に生まれながら，スペインに移ってスペイン王カルロス1世(カール5世*)の保護のもとに西航し，人類最初の世界一周航海を行なったマゼランの偉業であった。マゼランは1519年9月，5隻の船と265人の乗組員をもって大西洋を横断南下して，翌年南アメリカ南端の海峡(いまのマゼラン海峡)を通り抜けて南太平洋に出て，この大洋を横断して1521年にフィリピンに達した。マゼラン自身は土人に殺されたが，生き残った部下は1隻の船でさらに航海を続け，喜望峰を回って，1522年9月，セビリアに帰航した。この3か年の大航海で生きて帰った者は18人であった。

このマゼランの航海によって香料諸島を中心とする東インド諸島におけるポルトガルとスペインの勢力圏・支配圏の問題が生じた。しかし，結局この方面ではスペインはフィリピン群島をその支配下に置くのみで，ポルトガルの東洋経営の主導権はゆるがず，スペインはようやくその巨大な姿を現実に示しはじめてきたアメリカ新大陸の支配・経営にその力を向けていった。この新大陸にはマヤ文明・アステカ文明(メキシコ)およびインカ文明(ペルー)という古代オリエントの文明に匹敵する文明を展開している社会があったが，コルテス*は1521年にこのアステカ人の首都テノチチトランを占領してこの国を征服し，またピサロ*はパナマからペルーに遠征してインカの王位継承紛争に乗じて王を処刑し，インカ帝国を征服した。これらのコンキスタドレスたちの征服によってばくだいな金銀・財宝が獲得され，スペイン人たちは黄金を求めてこの大陸を荒らし回った。しかし征服による暴力的な富の略奪は永続せず，原住民の賦役と貢納による農業・牧畜の植民地経営が進んだ。そして，ペルーのポトシ銀山の開発(1545)に続いて埋蔵量の豊富な鉱山が低廉な労働力で開発されて，新大陸の金銀産出量は急激に増大し，年2回，艦隊に護衛された大船団が，これらの富をスペインに運んだ。

〔キリスト教宣教〕大航海時代のヨーロッ

パ人の活動のエネルギーを強めた精神的支柱として，ルネサンスによる人間の能力の自覚と主体的意欲をもって冷酷なまでに客観的に物事を追求していく精神があげられるが，これとともに，異教徒に対する宣教を行なうという使命感に立った宗教的動機も強かった。大航海時代には多くの宣教師たちが，新しく開かれた海外の新天地へ向かって万里の波濤(はとう)を越えて宣教していった。新大陸では原住民に対する宣教活動が活発に行なわれた。その宣教は，この新天地へアフリカから運ばれてくる多くの黒人奴隷の問題とからんで容易なことではなかった。大航海時代は新大陸へ〈キリスト教と大量の奴隷とを運んだ〉。結局宣教師は奴隷の輸入と奴隷制を承認したうえでのキリスト教宣教に努め，新大陸はこれから3世紀間に数千万人の黒人奴隷を吸収していった。

ポルトガルの支配するアジア地域でのキリスト教宣教は1542年，イエズス会*のザビエル*がゴアに着任してから急速に広まった。ザビエルはローマ教皇とポルトガル国王とから布教に関する最高の権限を授けられており，インドおよび東インド諸島各地に宣教し，1549年には鹿児島に上陸して2年3か月間日本各地に宣教を行ない，次いで中国宣教をめざして，広東(カントン)港外の島に没するまで，その活動はまさに〈キリスト教宣教の大航海者〉というべきであった。

【経済的社会的影響】大航海時代にヨーロッパの力はアフリカ・アジア・アメリカの各地に伸びていき，ヨーロッパの貿易路は地中海とバルト海を中心とする交易から大西洋を中心とする世界商業に飛躍し，地中海東方貿易の衰退とともにベネチアをはじめとするイタリア海港諸都市は発展の活力が弱まり，いわゆる〈経済的繁栄の北漸〉の傾向が進んでいった。ポルトガルのもたらす東洋の物産はヨーロッパの経済生活・消費生活を多様化し，スペインにはいる新大陸の金銀のばくだいな量は，ヨーロッパの物価騰貴に拍車をかけ，この〈価格革命〉は各国の経済に多様な影響を与えた。しかし，このアジアや新大陸の植民地支配とそこからのばくだいな富の獲得によるポルトガル・スペインの繁栄は永続しなかった。自国のもつ産業を近代的に発展させていく条件を欠き，国民的規模で自国の生産力を高めていく基盤を欠いている国が，外から植民地的富をもち運んできても，結局それは王室や支配貴族層などの外観的威容を増すにとどまり，その富は国外へ流出して，よりすぐれた経済的発展の条件を成長させつつある国の経済的発展に寄与していくのであった。ポルトガルは16世紀後半には〈その植民地支配の網を広げすぎて〉衰退し(1580年スペインに合併さる)，スペインもまた〈その領土に太陽の没することなき〉世界帝国の偉容を誇るにもかかわらず，16世紀末には国勢は下り坂に向かっていた。そしていまや世界が東西相互に影響し合って，一つの世界史的な視圏の中に歴史が動いていこうとするこの大航海時代に，そのトップを切ったポルトガル・スペインは衰えていき，フランス・オランダ・イギリスが強大な植民地支配国家として発展してくる。

【オランダの活躍】ネーデルラント北部7州は16世紀後半スペインに対する独立戦争を続けていた。この小国オランダの民は北海の荒波を乗り切って海上運送や漁業に従事する者が多く，彼らの航海者としての勇敢な行動力は独立戦争中にも，ゼーゴイセン(海の乞食団(こじきだん))のマース河口ブリール占領(1572)などにみられるようなオランダの戦闘力の強力なエネルギー源であった。そしてオランダ人は直接アジアへ到達する航路を開拓しようとして北東航路の開拓を試みた。これはスカンジナビア半島を北へ回り，東へ進んで北極洋を乗り切ってアジアへ南下していこうとするものであるが，ベーリング海峡はまだ知られておらず，北極洋探検の域を脱することはできなかった。オランダの航海者バレンツはこの探検航海を3回行なったが，極寒のノバヤゼムリヤ島で氷に閉じ込められて越年し，1597年部下とともに悲劇的な最期を遂げた。北東航路は開拓できなかったが，しかしこのバレンツの死の年に喜望峰迂回の航路によってジャワのバンタムに到着して，東洋貿易の端を開いたオランダの第1回東インド船団がアムステルダムへ帰着した(船長ハウトマン，1595年4月出航)。そしてこの成功をきっかけとして，オランダはアムステルダム商人たちの巨額な資本力をバックに1602年合同東インド会社を設立し，この会社が国家の全面的な援助を受けて，植民地支配と貿易独占に強い行政・裁判・軍事権を行使して東インドはじめアジア各地に進出していった。➔東インド会社

【イギリスの進出】イギリスもまた16世紀後半はエリザベス一世*の時代で，多くの海の英雄たちが活躍し，やがて世界の海に雄飛するこの国の海外発展の基礎が築かれていった。イギリスはポルトガル・スペインが独占する東西の航路のほかにアジアへ達する航路を求めて前世紀の末からその探検航海に手をつけていた。イタリアから移住したジョン-カボット*はヘンリー7世の援助を得て北大西洋を横断し，ニューファンドランドの発見などの成果をあげ，その子セバスチアン-カボットは北東航路開拓を指導した。そしてエリザベス時代には北西航路探検も行なわれるが，アジアへ通じる北の海峡は発見されず，イギリスの海の強者たちの多くは，無敵艦隊の強力な海上権力によって守られているスペインの富に対して，海賊的略奪企業(私拿捕(しだほ))をもっていどんでいった。ホーキンズ父子やウォルターーローリー・ドレークらの航海者はこの私拿捕の実行者であった。スペインの船団や植民地を襲撃してその財貨を奪取するのは危険な企業であるが，スペインとイギリスが戦争または冷戦の状態にあるとき，それは敵国を弱める愛国的行為でもあった。こうしてドレークは新大陸の各地にスペインの富を略奪しつつ，大西洋・太平洋・インド洋を横断して，イギリス人最初の世界一周航海を成し遂げ，エリザベス女王に多額の略奪財を献じた。そして1580年代はこの私拿捕事業のブームの時代であり，1588年のスペイン無敵艦隊撃滅には，ドレークをはじめ私拿捕に活躍した海の英雄たちが，提督としてイギリス艦隊を指揮して功をたてた。またローリーは大西洋を越えて北アメリカ大陸を女王にささげるためバージニアを開拓しようとし(1584～1585)，南アメリカのオリノコ河畔の探検も行ない(1595)，デービスは北西航路探検を3回行ない，彼の名にちなむデービス海峡の探検を行なっている。また17世紀にはいるとハドソンは北西航路や北東航路の探検に成果をあげ，ハドソン川・ハドソン湾の地域をイギリスの支配圏とする基礎をつくった。

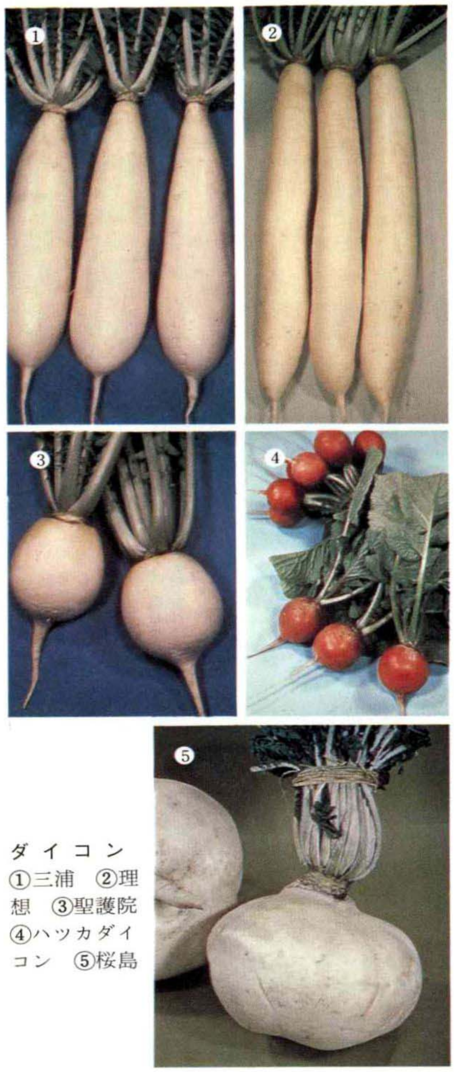
【17世紀へ】17世紀にはいるとヨーロッパ諸国の海外発展・植民地支配はいよいよ本格的となっていく。フランスは，すでに16世紀に，カナダを探検した航海者ジャック-カルチエによってセント-ローレンス川を発見し，17世紀はじめにはケベック市を建設，ルイ14世の時代にはミシシッピ川流域の広大な地にルイジアナを経営していく。そしてインドにおいてはポンディシェリやシャンデルナゴルに拠点をおいてイギリスと抗争した。イギリスは17世紀には清教徒の新大陸移住によるニュー-イングランド建設など，北米の東部地域に植民地建設を進め，東洋へは東インド会社が中心となってマドラス・ボンベイ・カルカッタを建設してインド経営を行ない，東洋各地へ進出の歩を進めた。オランダは北アメリカにニュー-ネーデルラント植民地を興し，東洋方面では東インド会社がバタビアを中心に，東洋貿易と植民地支配において〈東洋の女王〉の地位を確立し，黄金時代を築いていった。いまや大西洋を，インド洋を，東インドから中国・日本へかけての広い海域を航海する船隊が，大航海時代にまかれた果実を摘みとっていき，さらにヨーロッパ各国の強力な国家的支援のもとに，より科学的な準備をもって行なわれる探検航海が，大航海時代の余栄を示していく。18世紀のキャプテン-クックの大探検航海はその最も輝かしいものである。　〔保坂栄一〕

だいこん　【大根】　双子葉植物・アブラナ科の越年草。茎はきわめて短いが，主根は肥大して長円錐(ちょうえんすい)から球形まで，いろいろな形状を示し，表皮の色も白・紅・緑など多様である。肥大した根の肉質は水分多く緊密であり，若干のデンプンを含むこともあり，ジアスターゼ*を含有することが多い。根出茎は葉柄があり，葉身は鋸歯(きょし)を有したものが多く，大きい頂裂片と小さい1～12対ぐらいの小裂片を備えるものまで，品種による変異が大きい。花は白・淡紫色の花弁を4枚もち，総状花序で，春に抽薹(ちゅうだい)開花する。子房上位の花が結実すると，2胎座をもつ先のとがったトウガラシ状の莢(さや)ができ，中に2～8個の種子を含む。種子は扁球(へんきゅう)形で赤かっ色，大きさには変異があり，品種によりかなり違うが，一般にナタネなどより大きい。

中央アジアおよび地中海沿岸地方が原産地といわれており，栽培の歴史も非常に古く，エジプトや中国では紀元前から利用したと伝えられる。その後，ヨーロッパ・中国で特に発達した。ダイコンは，全体が比較的小形でデンプンが蓄積されないハツカダイコン，中国北部に分布する肉質かたくデンプンを含む北支ダイコン，ヨーロッパ・アジアに広く分布する西洋ダイコン，南ヨーロッパに分布し根の表皮が黒かっ色になる黒ダイコンおよび南アジアに分布し肉質の柔らかい南支ダイコンに大別することができる。わが国にダイコンが導入されたのも古く，10世紀ごろの記録に見られる。現在われわれが利用している日本ダイコンは世界で最も大形の部類に属する。おそらく，南支ダイコンを起源にして，古くからあった野生ダイコンと混雑し，改良されてできたものと想像される。

日本ダイコンの品種はきわめて多く，秋ダイコンの理想(練馬)・宮重・聖護院，冬ダイコンの三浦・桜島，春ダイコンの二年子・時無しや夏ダイコンの美濃早生(みのわせ)などが全国的に有名である。これらの品種が適期に適地で栽培され，現在ダイコンは周年供給されている。そのほか，ハツカダイコンもサラダ用として出回っており，守口(もりぐち)や信州地のように地方品種も多数あって，それぞれ，つけ物などの特殊な用途に向けられている。　〔松本正雄〕

だいこんあぶらむし　【大根蚜虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・アブラムシ科。有翅の胎生雌虫は体長約1.8mm，体の地色は緑色であるが全体白粉でおおわれ，翅(はね)は透明で幅広く，少数の翅脈がある。無翅の胎生雌虫は体長約3mm，卵形で肥大しており，体の地色は黄緑色であるが同様に全体白粉におおわれる。腹部の各節に1対の淡黒色の斑紋(はんもん)がある。子虫・成虫ともにダイコン・ナタネ・カブ・ハクサイ・キャベツなどの害虫で，茎や葉から吸汁(きゅうじゅう)し，そのため葉は巻いて縮み，



ダイコン　①三浦　②理想　③聖護院　④ハッカダイコン　⑤桜島



ダイコンソウ　(左)ダイコンソウ　(右)ミヤマダイコンソウ

生育は阻害され，キャベツでは結球不能となったり，ナタネでは開花結実しても子実が完熟しなくなったりする。北海道では冬は卵態で越すが，暖地では周年胎生生殖を続け，発生も年10回に及ぶ。別名をタマナアブラムシ・タマナコフキアブラという。　〔鈴木邦雄〕

だいこんさるはむし　【大根猿金花虫・蘿蔔猿金花虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体は卵形で，体長4mm内外。背面は強く膨隆し，腹面は扁平(へんぺい)。体の背面は光沢のある黒藍(こくらん)色であるが，腹面・触角・脚は黒色。前胸背板は幅が長さの2倍以上，鞘翅は前胸よりも幅広く，規則的な点刻列がある。1年に2～3回発生し，雑草や落葉中や石の下などで成虫態で越冬し，多くは晩夏から初秋に越冬場所から現われるが一部の成虫は4月ごろにも現われる。卵は寄主植物の葉裏の葉脈に沿った部分や葉柄などに点々と産付される。幼虫・成虫ともにダイコン・カブなどアブラナ科植物の葉を葉脈を残して食害する。このため，幼作物の成長が阻害され，加害の著しいときには枯死する。本州以南，台湾・中国に分布する。　〔鈴木邦雄〕

だいこんじま　【大根島】　島根県の東部，中海の中央の北寄りにある島。東方の江島とともに，八束(やつか)郡八束町をつくる。面積6km²，八束町の人口4,500。低平な火山島で，最高点の大塚(おおつか)山も42mしかない。全島が畑として開かれ，薬用のチョウセンニンジン・ボタン(石材用の玄武岩)の特産があり，経済的に豊かである。風穴とよばれる全長93mの溶岩トンネルがあり，特別天然記念物に指定されている。

だいこんそう　【大根草】　双子葉植物・バラ科。林の道沿いや野原にごく普通にみられる多年草で，根出葉がダイコンの葉に似るところからこの名がある。長さ10～20cmの羽状複葉である。側小葉は互生する。茎の高さは30～70cmで，全草に柔らかい毛がある。茎葉は卵形で，三つに切れ込む。6～8月，茎頂に直径1～2cmの黄色五弁花をつける。果実は長さ2mmほどの瘦果(そうか)で球状に集まり，毛におおわれるが，柱頭は落ちてかぎ状花柱が残り，細かい腺毛(せんもう)がある。近縁種のオオダイコンソウは全体に毛が多く，側小葉が対生する。ミヤマダイコンソウは高山生で，高さ20cmほど，根出葉は径10cmぐらいの円形で，径2cmほどの黄色花をつける。

たいざ　【胎座】　植物の子房中で，胚珠(はいしゅ)が心皮に付着している場所。子房は何枚かの心皮からできており，その縁につくのが普通である。子房を横断したとき胎座がどこにあるかによって，子房の側壁にある側膜胎座，子房の中軸についている中軸胎座，子房の中央部に突出した部分につく中央胎座に三大別できる。

だいさい　【大寨】　ターチャイ　中国，山西省の一地方で，生産活動の盛んな模範的な人民公社*の所在地として知られる。国家の援助にたよらず，住民の力を結集して荒廃した山野を開いて耕地に変えるなど，中ソ関係断絶後の自力更生期に，自力更生・刻苦奮励の模範として大いに賞賛され，〈大寨精神〉の語を生んだ。

だいさぎ　【大鷺】　鳥類・サギ科。全長90～100cmの大形のシラサギで，ほとんど世界じゅうに広く分布している。主食は魚類。チュウダイサギはダイサギの一亜種で，

やや小形。日本各地で夏鳥として普通に繁殖し，少数は越冬している。

たいざん【泰山】タイ山 中国，山東省北方にある山で，別名を岱(たい)山・岱宗・東嶽などともいう。標高1,532m。泰安の北にあり，平地にそびえて偉容を誇る。中国第1の名山といわれ，〈五岳〉の筆頭として，古くは即位した皇帝が天と地の神を祭る封禅(ほうぜん)の儀式が行なわれた。山中には寺廟(じびょう)が多く，ことにこの山の神とされる碧霞元君(へきかげんくん)をまつる廟の壮麗さは有名である。

だいさんインターナショナル【第三インターナショナル】⇨インターナショナル

だいさんかいきゅう【第三階級】フランス革命*以前の平民層をさす。第三身分ともいい，狭義では都市ブルジョアジーを意味する。三部会*のうち第一部の僧侶(そうりょ)，第二部の貴族に比して，身分の低い非特権階級が第三部を構成したことから用いられた。フランス革命の成功により解体。

だいさんき【第三紀】地質時代のうちの新生代を2分した前半の時代。中生代白亜紀のあと，第四紀のまえ。約200万年前から約6,500万年前までの約6,300万年の期間を代表する。第三紀の名称は，地質系統を4分した第3番めの地層に由来し，1759年アルドイノによって提唱された。古いほうから古第三紀*・新第三紀*に二大別され，さらに前者は暁新・始新・漸新世に，後者は中新・鮮新世に分けられる。第三紀には現代型の哺乳(ほにゅう)動物が出現し，植物や無脊椎(むせきつい)動物はしだいに現代のタイプに向かって進化した。第三紀の地層中には石炭や石油が多い。〔田中啓策〕

だいさんきじょう【第三軌条】地下鉄道で採用している架空電車線の代わりをするレール。地下の鉄道では，限られた空間，保安面から低電圧でしかも大電流を必要とする，などの理由から，軌道の外側に沿って，導電率の大きいT形状のレールを碍子(がいし)の上に敷設している。電車の特殊な集電装置が，この上面をすって集電する。

だいさんきょうわせい【第三共和政】1870〜1940年のフランスの政体。プロイセン-フランス戦争の際,1870年9月2日フランス軍がセダンで敗れ，ナポレオン3世が捕われたとの報を受けたパリ市民は，9月4日ガンベッタなどの指揮のもとに市庁舎を占領し，共和政樹立を宣言，ここに第二帝政は崩壊して第三共和政が成立した。しかし,その直後にパリ-コミューンや王党派の進出などがあり，1875年になってから第三共和国憲法が制定された。〈統治もしなければ支配もしない〉〈任期7年の立憲君主〉といわれた大統領をいただき，元老院が代議院とほぼ同等の権限をもつ保守的な二院制で，議会の力が万能で，また，小党が分立したため,第三共和政70年間に100回の政変をみた。第2次世界大戦におけるフラン



ダイサギ　チュウダイサギ



タイザンボク

スの敗北に伴い，1940年7月10日ドイツに協力するビシー政府がペタン国家首席のもとに成立し，第三共和政は終わった。〔喜多迅鷹〕

だいさんじさんぎょう【第3次産業】商業・金融保険業・運輸通信業・公務・家事サービスその他あらゆる非物質的生産活動を含む広義のサービス業をいう。技術の進歩はほとんどみられない。➔産業構造

だいさんせいぼんち【大鑽井盆地】オーストラリア東部，クインズランド州南西部からニューサウスウェルズ州北西部，およびサウスオーストラリア州北東部にわたって広がる大盆地。地下深所に多量の被圧地下水を包蔵し，鑽井(掘り抜き井戸)によって自噴する。ここは乾燥地であるが，鑽井の開発によって牧羊が盛んとなり，また水は飼料作物の灌漑(かんがい)にも使われている。

だいさんていこく【第三帝国】1934〜1945年の間，ナチス*の政権下にあったドイツをいう。1934年，ヒトラー*が総統に就任して以来，ドイツは周辺諸国を侵略したが，ナチスは，これを神聖ローマ帝国，ドイツ帝国に次ぐ第3番めのドイツ民族の発展期にあたるとして，この名称を用いた。しかし1945年,ヒトラーの自殺とナチス-ドイツの敗北とで崩壊した。

たいざんぼく【泰山木・大山木】双子葉植物・モクレン科。北アメリカ原産の常緑高木で庭木に用いられ，高さ20mに達する。若枝・芽・葉の裏などに茶かっ色の毛が密生する。葉は濃緑色，長楕円(ちょうだえん)形で長さ13〜23cm，幅5〜10cm，表面にはつやがある。花は直径12〜15cmで，5〜6月，枝の先に上向きに咲く。色は白色で花弁は6〜12枚あり，おしべは多数で花糸は紫色，葯(やく)は黄色，めしべは多数で円錐(えんすい)状に集まる。果実は多くの袋果の集まった灰緑色円柱形で，長さ7〜10cmあり，9〜10月熟す。袋の中に赤色の種子が1〜2個ずつはいっている。

だいさんみぶん【第三身分】フランスのアンシャン-レジーム(旧制度)時代の三部会*の構成貴族を第一身分，僧侶(そうりょ)を第二身分というのに対し，市民を第三身分と定められた。一般には上層の商工業者・地主から下層の貧農その他まで含む一般平民をさした。革命初期には封建勢力に対抗する革命のにない手として一体となったが，のち,しだいに分裂した。シェイエスは《第三身分とは何か》の中で，第三身分とは〈いっさい〉であり,いままでの政治秩序の中では〈無〉であったと述べている。〔喜多迅鷹〕

たいし【大使】国家を代表して他の国家と外交交渉を行なう外交使節のうちの第1階級。正式には特命全権大使という。国の元首から接受国の元首に派遣される。名誉と席次において公使*に優先し，大使相互間の席次は着任日付の前後にしたがう。ただし，特権免除と職務は他の外交使節(公使，代理公使)と同じである。従来は一般に大国や重要な関係をもつ国に対して派遣されたが，現在では小国との間でも大使の交換が一般化されている。大使が駐在国において公務を執行する場所(公館)を大使館といい，外交使節団で構成される。➔外交官〔広部和也〕

たいし【太子(町)】兵庫県揖保(いぼ)郡の町。人口27,000。県の南西部にあり，江戸時代は西国街道の宿場町であった。1955年(昭和30)斑鳩(いかるが)町と付近の2村が合併して成立した。斑鳩(鵤)には聖徳(しょうとく)太子が法隆寺の別院として建てた斑鳩寺があったが，1541年(天文10)に焼失し，のち豊臣秀吉(とよとみひでよし)によって再建された。近年，播磨(はりま)臨海工業地区の発展に伴ってトランジスターその他の工場の建設が多い。

たいじ【胎児】1カモノハシ・ハリモグラなどの単孔類を除く哺乳(ほにゅう)類の胚(はい)をいう。ヒトの場合，妊娠2か月ごろ以後，四肢(しし)の隆起が現われてヒトの形が明らかになってきたものをいっている。受精卵は細胞分裂をしながら子宮内膜に着床し，その後も細胞分裂をくり返し増殖発育する。着床したころの受精卵は胞胚とよばれ，この一部に隆起した部分ができる。これは胎芽とよばれ，将来胎児となる。胎芽以外の区分は臍帯(さいたい)，胎盤などができる。妊娠2か月の終わりになると胎芽の長さは4cm以内，体重10g以内で，このころから胎児ということができる。妊娠4か月の終わりには胎児身長約15cm，体重約120

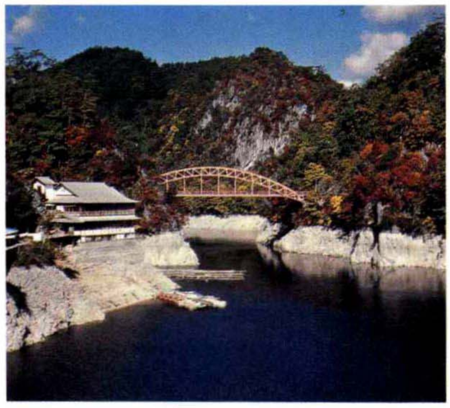
g,男女の区別が明らかで，全身にはうぶ毛がはえ始める。四肢の運動が活発になり，胎動として自覚できるのは妊娠5か月の終わりである。妊娠10か月の終わりでは胎児身長約50cm，体重約3,000gとなり成熟児としての特徴を備える。胎児は生活のための物質の供給・排泄(はいせつ)のほとんどすべてを胎盤を介して母体との間で行なっている。胎児では頭部の身長に対する比率が大きい。妊娠初期ほどこの比率が大きく，妊娠月数とともに小さくなるが，成人に比べればなおはるかに大きい。これは胎児の血液循環では，酸素含有量の最も高い動脈性の血液が，肝臓，上半身(特に頭部)，下半身の順序で多く供給されるため，肝臓・頭部・上半身が下半身に比べて発育がよくなるからである。〔木川源則〕

2 母の胎内にあって，まだ出生していない子をいう。胎児は権利能力を持たないから，財産を所有したり，養子となったりすることはあり得ないし，母が胎児のためにそのような代理行為をすることもあり得ない。ただし，民法は特定の場合に限って出生後の利益を図るために，胎児をすでに生まれたものとみなして権利能力を与える。相続がその代表的な場合であるが，遺贈や不正行為の損害賠償請求においても同様である(民法721・965・886条)。ただし，これらの場合でも，胎児である間に権利を取得するのではなく，生きて生まれたのちに，胎児であった時期にさかのぼってすでに生まれていたと同一の法的取り扱いがなされるものと解されている。なお，父は母の承諾を得て胎児を認知することができる(民法783条)。〔黒木三郎〕

だいし【大師】 大導師ともいい，偉大な師の意味。またブッダの尊称，ときにブッダの説いた法をもいう。中国・日本では威徳ある高僧の敬称として用いられ，特に朝廷から諡号(しごう)として賜わるのを〈大師号〉といい，わが国では866年(貞観8)最澄の〈伝教(でんぎょう)大師〉が最初である。多くの大師号の中で空海の〈弘法(こうぼう)大師〉は広く知られ，〈お大師さま〉といえば空海をさすほどになっている。

タイシェト［Taishet］ ソ連，東シベリアのイルクーツク州の都市。人口35,000(1963)。シベリア鉄道に沿い，同鉄道からブラック方面などへの支線の分岐点にあたる交通の要衝である。木材加工・製鉄を中心とする新しい工業都市として，イルクーツク工業地帯の一翼をになっている。さらに近い将来には，ブラック発電所の電力を利用したブラック-タイシェト総合工業地帯の中核都市としての発展が期待されている。〔斎藤晨二〕

たいじかし【胎児仮死】 胎児切迫仮死ともいう。胎児が子宮あるいは産道内で著しい酸素欠乏症になり，心音の変化，胎糞(たいふん)の漏出などの特異な臨床所見を示す



帝釈峡　神龍湖近くの帝釈峡。紅葉が美しく，峡谷を上下する遊覧船からのながめは格別。湖ではボート遊びも楽しめる。正面の橋は紅葉橋

状態。新生児仮死に先行することが多く，臍帯(せいたい)の脱出・圧迫，胎盤機能不全，過強陣痛，母体ショック，貧血，低血圧，血液型不適合妊娠，妊娠中毒症，麻酔剤投与などにより胎児血液の酸素が著しく不足したときに起こる。予防と早期発見とが必要であり，このために分娩(ぶんべん)監視装置が考案されている。〔木川源則〕

だいしきょうわせい【第四共和政】 1946～1958年のフランスの政体。第三共和政ののち，ド-ゴールのいう〈合法的であるが正統性がない〉ビシー政府の時期(1940～1944)を経て第四共和政となる。第2次世界大戦におけるフランス解放(1944)とともに，ド-ゴール臨時政府首班は共和政の存続を宣言したが，憲法制定議会が1946年に作成した新憲法は国民投票の結果否決された。そのため新たに議会を選んで同年9月ようやく第四共和国憲法が成立した。基本的には第三共和政の延長であるが，議会の権限を強化し，平和・平等，社会国家の理念を明確にしている。はじめ共産党も政府に参加していたが，冷たい戦争の激化の中で1947年に閣外に追放された。その後植民地における独立運動が契機となって政情不安・経済不安が続き，ついに1958年，ド-ゴールが憲法を改正して第五共和政を発足させ，第四共和政は消滅した。〔喜多迅鷹〕

だいしせいびょう【第四性病】 ⇒鼠径(そけい)リンパ肉芽腫(にくがしゅ)

たいじせきがさいぼうしょう【胎児赤芽細胞症】 胎児水腫(すいしゅ)・重症黄疸(おうだん)・溶血性貧血の3症状群の全部あるいは一部を有し，血液中に赤芽細胞(未熟な有核赤血球)が著増する胎児および新生児の疾患。血液型不適合妊娠(主としてRh式血液型およびABO式血液型)の胎児に起こる。水腫・黄疸・貧血は母児血液不適合により胎児の赤血球が破壊されること(溶血)が原因であるため，最近は胎児・新生児溶血性疾患とよばれる。

だいじそう【台児荘】 タイアルチョワン　中国，山東省南部，江蘇(こうそ)省との境近くにある都市。徐州北東にある要衝で，大運河に臨み，津浦(しんぽ)鉄道の支線に沿う。日中戦争の際の徐州大会戦(1938)の激戦地で，中国軍の激しい抵抗によって日本軍の進攻が阻止されたところとして知られている。

だいしっこう【代執行】 行政法上の強制執行の一。行政法上定められた義務の履行がない場合，行政代執行法に基づいて当該行政官庁または第三者が代わってその義務を履行すること。義務とは，法令・行政処分により課された他人が代替しうる作為(→作為・不作為)義務のことである。相当の履行期限を定めて戒告し，その期限内に義務の履行がない場合には代執行令書を発し執行される。なお，そのために要した費用を義務者から徴収する手続きが必要とされる。〔原田政洸〕

たいしゃ【代謝】 ⇒物質代謝

たいしゃ【大社(町)】 島根県簸川(ひかわ)郡の町。人口19,000。島根半島の西端に位置する。出雲(いずも)大社の鳥居前町を中心とし，大山隠岐(だいせんおき)国立公園に属する日御碕(ひのみさき)海岸，島根ブドウの産地である稲佐浜(いなさのはま)砂丘を含む。大社線・一畑(いちばた)電鉄が通ずる。

だいしゃ【台車】 鋼製のわく組み中に2軸以上の輪軸を備え，車体の重量をささえながら車輪の引張力を車体に伝える装置。旧形式の市街電車に使われた単台車または2軸台車は，車体の長さが10m程度に制限され，走行性能も悪いので現在ではほとんどの車両がボギー台車を用いている。〈ボギー台車〉ふつう2個のボギーで車体をささえ，各ボギーは心皿(しんざら)だけで車体重量をささえるから，車体の方向に束縛されずに軌道に沿って独立した位置をとることができる。そのため2軸台車よりも車体を長くでき，小半径の曲線路も円滑に走行できる。客車・電車・気動車には揺れまくら式ボギーが用いられ，まくらバネで動輪を台わくにつり下げてある。また電気機関車の台車は，通常2組みの主台車と先台車に分かれている。〔三宅　良〕

たいしゃいろ【代赭色】 色名。代赭のような色。やや赤みをおびた，鈍い黄赤色。茶色より赤みが強く，明度・彩度がやや高い色と考えてよい。代赭は顔料の一。赭土は酸化鉄を主成分とする土で，中国山東省代州産が有名であったため，のちに代赭と称するようになったという。顔料としての代赭は上古から用いられ，近年でも日本画の岩絵の具として使用されている。なお，テラコッタという色名は，ほぼこの代赭色と同じ色か，やや彩度の低い色と考えてよい。日本工業規格(JIS)慣用色名〈タイシャ色〉は，色相2.5YR，明度5.0，彩度8.5の色と規定されている。〔武井邦彦〕

たいしゃくきょう【帝釈峡】 広島県の北東部，比婆・神石両郡にわたる峡谷。東城川の支流帝釈川が吉備(きび)高原北部の石

灰岩台地を侵食してできたもので，延長約20km，石灰洞(せっかいどう)・奇岩・深淵(しんえん)に富み，雄大な渓谷美(けいこくび)を展開する。沿岸の猿ケ丘(さるがおか)には野猿が遊び，水力発電所の貯水湖としてつくられた神龍湖(しんりゅうこ)には遊覧船が通ずる。旅館・バンガロー・テント村などの設備も整い，観光客を集める。比婆道後帝釈国定公園の代表的な景勝地である。〔味沢成吉〕

たいしゃくさんち【帝釈山地】栃木県北西部，福島・群馬県と接する地点を西南西から東北東へかけて走る山地。帝釈山(2,060 m)・黒岩山(2,163 m)・四郎岳(2,156 m)など2,000 m級の山々が連なり，支脈には燧ケ岳(ひうちがだけ)(2,346 m)などの高山がある。東北東に向かってしだいに高さが減じ，1,500～2,000 mの平坦面(へいたんめん)には田代湿原をはじめとする多くの湿原がある。交通が不便で，関東の秘境とよばれ，周辺山村には古い風習が残存している。主峰の帝釈山は，只見(ただみ)川支流の檜枝岐(ひのえまた)川と鬼怒(きぬ)川との分水界をなし，西方に尾瀬沼がある。〔高野　繁〕

だいしゃくしぎ【大杓鷸】鳥類・シギ科。全長60cm前後で，ホウロクシギとともにわが国に生息するシギ類中最大級のもの。全体にかっ色で，腰部は白色。くちばしは長く，上に凸(とつ)に湾曲し，長さ20cmに達するものもある。雌は雄より大形。春秋に干潟(ひがた)や川原に少数が渡来し，越冬するものもある。長いくちばしでカニや小魚をほじりだして食べる。その動作や飛ぶ姿，さらによく通ってふぜいのある〈ホーイン〉という鳴きもよく，みごとな鳥である。

たいしゃくたいしょうひょう【貸借対照表】一定時点(通常は年2回の決算日)における企業の財政状態を示す表で，損益計算書*と並び最も重要な財務諸表*の一。バランスシートともいう。企業活動は不断に行なわれ，したがって，企業の資産・負債および資本もつねに変動しているが，それらを決算日現在において人為的に停止させ，その時点における企業資本の調達源泉と運用形態とを対照させて表示したもの。もともと，貸借対照表は，資産と負債・資本との平均表であって，実地棚卸(たなおろし)に基づく財産目録を基礎に作成されたものであるが，企業活動の複雑化や永続化に伴って，帳簿残高に基づく勘定残高の集計表という考え方に変わり，現在では決算貸借対照表というよび名を与えられている。

貸借対照表の形式には，勘定式と報告式とがある。前者は，簿記における元帳勘定と同様に，借り方(左側)に資産を，貸し方(右側)に負債・資本をそれぞれ記載して左右均衡式に表示する。これに対し，後者の場合には，資産の部，負債の部，資本の部を順次に読みやすい形で記載していく。いずれの場合にも，資産の部は，流動資産*・固定資産*・繰り延べ勘定*に，負債の部および資本の部は，流動負債・固定負債・引当金・資本金・剰余金に分けられる。そして，項目の配列は，流動性の大きいもの(すなわち資産は現金になりやすいもの，負債は支払い期日が短いもの)から配列する流動性配列法と，その逆の固定性配列法とがある。〔山桝忠恕〕



帝釈天
乾漆造　8世紀半ば　東大寺法華堂蔵

たいしゃくてん【帝釈天】梵語(ぼんご) Śakra-devānām-indra(シャクラ-デーバーナーム-インドラ)の漢訳。釈提桓因(しゃくだいかんいん)・天帝釈・天王などとも記される。元来《ベーダ*》の代表的な神で雷(いかずち)の神格とされ，金剛杵(こんごうしょ)をふるって悪魔を退治する英雄神インドラをさした。のち仏教守護の武神として須弥山*(しゅみせん)の頂上の忉利天(とうりてん)に住し，十二天の一として東方の守護神とみなされた。胎蔵界曼荼羅(まんだら)外金剛部院に二尊置かれ，うち東門に武将姿で立つのはそのためである。東大寺法華堂(ほっけどう)・法隆寺・秋篠寺(あきしのでら)などの彫像，東寺の画像，室生寺(むろうじ)の板絵曼荼羅は有名。〔北条賢三〕

たいしゃちょうせつ【代謝調節】代謝は個々の酵素作用が統合されたものであり，その一つ一つを調節し各代謝経路の酵素を適当な濃度に保つことを代謝調節という。細胞が成長し維持されるためには，同化作用と異化作用が完全な調和を保たなければならないから，調節は生体にとって非常に重要である。代謝調節は，①酵素反応に影響を与える因子，②低分子化合物によって行なわれる。①に関しては，酵素・基質・補酵素など，間接的には酵素・補酵素の生成される速度やホルモンなどによって行なわれる。②の例には，フィードバックによる酵素作用の阻止とか，基質による酵素活性の誘導などがある。〔大森和子〕

たいしゃづくり【大社造り】⇨神社建築

たいしゅう【大衆】近代デモクラシーの展開により，1930年代ごろから顕著となった民衆の存在態様。ふつう，支配するものとしてのエリート*に対置される。民衆の政治参加をたてまえとして標榜(ひょうぼう)する議会制民主主義が形骸(けいがい)化する中で，社会の圧倒的多数派である民衆は，アメリカの社会学者D.リースマン(1909～　)のいう〈孤独な群集〉として社会的・政治的に不安定な勢力となり，社会統合ないし社会変動における重要な要素となる。これが大衆である。日常生活を営む大衆は，固有の組織に帰属していないという点で非組織的であり，多様な階層成員で構成されているという意味で異質的である。しかし，大衆はヒエラルキー*を重視し，社会心理学的にみて一様にサディズム*的・マゾヒズム*的傾向を示す社会的性格を保持しているのであり，フロム*はこれを〈権威主義的性格〉とよんだ。このような社会的性格をもつ大衆を大衆として組織し，顕在化させた典型的な例が，1930年代におけるファシズム*運動であった。しかし一方で，市民運動や消費者運動にみられるような大衆の自律的契機の存在することも見のがしてはならない。〔小林宏一〕

たいしゅう【体臭】わきの下から出る臭気。原因は汗腺(かんせん)・皮脂腺から分泌される揮発性脂肪酸によるものと考えられているが，どのような物質であるかはまだ明らかでない。人により，また性別によって，それぞれ特有の臭気があるが，これが病的に悪臭を放つようになったものがわきがである。

たいじゅう【太十】⇨絵本太功記

たいしゅうかぜい【大衆課税】担税能力の低い大衆にまで広範囲に税を課することをいう。間接税*，特に消費税*は，その負担が消費者一般に帰着するので，大衆課税の典型とされる。直接税ことに所得税*は，各種控除や累進税率の適用によって，負担能力に応じた課税であるとされ，一般に大衆課税とはいわないが，課税最低限が低く，所得のある国民の大部分が所得税を負担するという意味で，所得税も大衆課税とよばれることがある。したがって，所得税とリンクしている住民税*も，その意味では大衆課税と考えられる。〔西野義彦〕

たいしゅうしほんしゅぎ【大衆資本主義】現代の資本主義は，資本家の利益のみを追求するものでなく，経営者も労働者も含めて大衆がともに栄える資本主義であると考える資本主義論をいう。この考えは，第2次世界大戦後のアメリカ資本主義の繁栄を背景にして，そこにみられる所得分配の平等化，中産階級の台頭，資本と経営の分離，株式所有の大衆化，国家の経済に占める役割の増大などを根拠としている。ピープルズ-キャピタリズム・人民資本主義ともいわれる。〔加藤　寛〕

たいしゅうしゃかい【大衆社会】⇨130ページ

たいしゅうせいとう【大衆政党】普通選挙制(→選挙)の確立後新たに登場した一般選挙民を組織化した政党。制限選挙制における特定の階層と結びついた名望家の政党に代わるもので，多くの場合数十万，数百万の党員をかかえる組織政党で，強力な中

央機構と巨大な地方組織を整備した全国的な組織体を有するのを特徴とする。そして単一の利害でなくさまざまな利害を調整しながら，あらゆる大衆の利害を代表しようとするから国民政党*ともいわれる。

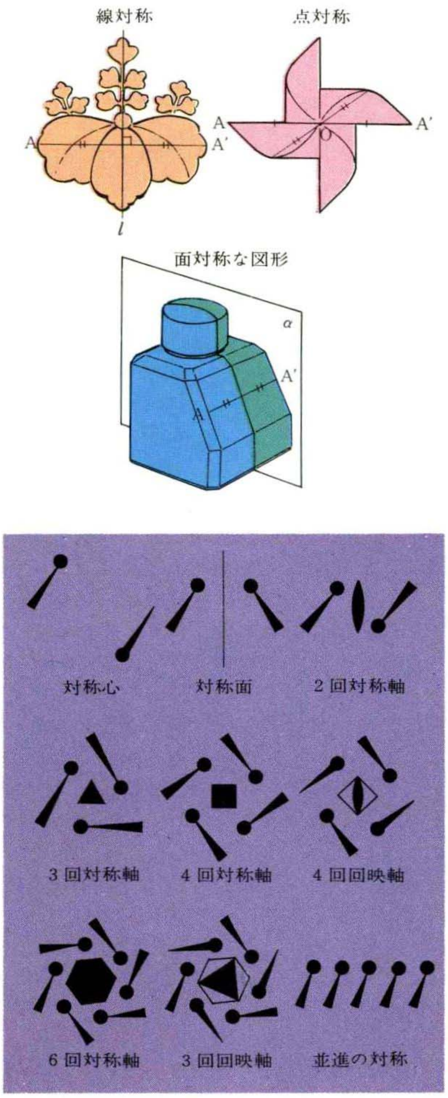
だいしゅうそうぞく 【代襲相続】 被相続人の子(直系卑属にかぎる)または兄弟姉妹が相続*の開始前に死亡し，または相続権を失った場合，もしそれらの者に子があれば，その子がそれらの者と同順位で相続することをいう(民法887条2項・889条2項)。代襲者が相続開始前に死亡・欠格・廃除によって代襲相続権を失った場合も同様である(民法887条3項)。たとえば，被相続人甲に相続人たる二人の子乙・丙があり，乙にはさらに子がある場合，乙が甲より先に死亡した場合には，乙の子は丙と同順位で相続することになる。胎児*にも代襲相続権が認められているが(民法886条)，直系尊属と配偶者*には認められていない。しかし，配偶者に相続権を認めないことは特に農家において，夫たる長男がその父より先に死亡した場合，取り残された嫁に不公平な結果を招くことが少なくないため，配偶者にも代襲相続権を認めるべきだという有力な意見がある。また，1962年(昭和37)の民法改正によって子以外の直系卑属は本位相続でなく代襲相続することとなったため，相続分は頭割りでなく子の株分けによることとなった。また，甥(おい)姪(めい)には兄弟姉妹の代襲相続権だけ認められるが，兄弟姉妹が1人もいない場合にも代襲相続ができることとなった。〔黒木三郎〕

たいじゅんかん 【体循環】 肺循環*を小循環というのに対して，大循環ともいう。ヒトでは，心臓の左心室から送り出された血液は大動脈，中程度の太さの動脈，小動脈としだいに分枝する血管を通って全身の器官や組織に向かい，毛細血管*となってそこで栄養物や酸素を栄養として与え，不用物や炭酸ガスを得て静脈にはいる。各部からの静脈は集合して血管は徐々に太くなり，心臓にはいるときには上・下の大静脈となって右心房にもどってくる。血液が左心室から出て右心房にもどるまでに要する時間は，およそ1分間ぐらいである。このような血液の流れを体循環という。

高等動物と下等動物では，循環系の走行に大きな差異がある。魚類の循環は鰓(えら)に送られてきた血液が大動脈を経て体毛細血管となり，静脈洞(じょうみゃくどう)を通って心臓にもどるだけの簡単なものである。ナメクジウオでは腸管の背部と腹部におのおの1本の血管があって，背部の血管の血液は体の後方に向かい，腹部のものは体の前方に流れるようになっているだけの循環系しか認められない。〔高野一雄〕

だいじゅんかん 【大循環】 ⇨体循環

たいしょ 【大暑】 二十四気*の一。陽暦の7月23日ごろにあたる。太陽黄経は120°。このころから立秋までが暑さの絶頂期。サルスベリが咲く。



対　称

たいしょう 【対象】 オブジェクトの訳語で，主観*に対する。客観*とほぼ同義であるが，一般に広く意識されるものをいう。対象論としては，認識論の立場から，①現実に意識される事実(心理学・現象学など)，②観念的対象(数学・倫理学・美学など)，③意識*とは独立に存在するもの(自然科学)に分けられる。

たいしょう 【隊商】 砂漠(さばく)に強いラクダを利用し，隊を組んで貨物を運搬する。ペルシア語に由来するキャラバンの名が示すように，主として乾燥地帯に盛んで，海上交通が発達するまでは，隊商が東西文物の交流に重要な役割を果たした。

たいしょう 【対称】

1 直線(または平面)や点をはさんで向かい合った図形の特別な対応関係。線対称・面対称・点対称の三つの場合がある。

〔線対称〕 2点A，A′がそれらと同じ平面内にある直線 l を折り目にして折り重ねられるとき，その2点は l を対称軸として線対称であるという。ふつう対称というときは，この線対称を意味する。一般に，同じ平面内にある二つの図形F，F′が直線 l を軸として線対称になっているとき，この二つの図形は線対称の位置にあるといい，折り重ねたときに重なる点を対称点または対応点という。この場合，対応点を結ぶ線分は対称軸 l によって垂直に2等分される。

〔点対称〕 2点A，A′が点Oを中心に180°回転して，互いに他の上に重ねられるとき，この2点はOを中心として点対称であるという。一般に，同じ平面上にある二つの図形F，F′が点Oを中心として点対称になっているとき，この二つの図形は点対称の位置にあるという。この場合，対応点を結ぶ線分は中心Oを通り，Oによって2等分される。

〔面対称〕 空間にある点Aを鏡に写したときの像をA′とすれば，線分AA′は鏡の平面 α によって垂直に2等分される。このとき，2点A，A′は平面 α に関して面対称であるといい，α を対称面という。一般に，空間にある二つの図形F，F′が平面 α に関して面対称になっているとき，この二つの図形は面対称の位置にあるという。

一つの図形が自分自身と線対称(点対称・面対称)の位置にあるときは，その図形は線対称(点対称・面対称)な図形であるという。〔菊池兵一〕

2 一般に図形や物体などが一定の幾何学的な規則の正しさをもってくり返されていることをいい，いろいろな鉱物の結晶はこの対称をよく示す。結晶における対称の要素として対称面・対称軸・対称心・回映軸などがある。結晶をある平面で切ったとき結晶の両半分がこの面に対し物体と映像の関係にあるときこの面を対称面とよぶ。また，結晶をある軸を中心として回転するとき結晶の最初の形にもどるならばこの軸を対称軸とよぶ。2回・3回・4回・6回対称軸があり，それぞれ180°，120°，90°，60°回したときもとにもどる。結晶中に1点を考えて面・稜(りょう)などがこの点をはさんでおのおの対立かつ平行するとき，これを対称心という。また結晶をある軸のまわりに回転させ，次にそれをもとの軸に垂直な鏡面に移すともとの形になるものを回映軸という。このほか直線に沿って等間隔にくり返させる並進という対称操作がある。自然界には対称の実例が無数に存在する。人間の身体や多くの動植物は対称面をもっていて左右相称とよばれる。その他雪片，ミツバチの巣，ヒトデ，いろいろな花とか葉なども美しい対称を示す。対称はまたいろいろな分子の構造や原子殻外(かくがい)の電子雲分布を決めるのにも重要な役割を果たす。対称はまた美的感覚とも結びつき，万物の美の根源として芸術においても重要な概念となっている。〔加藤敏郎〕

大衆社会

〔定義〕大衆社会は常識的にはばく然と国民の中の多数者としての大衆が，その勢力を伸張して実質的に重要な意義を獲得している社会と受け取られており，ときとしてそれは事実上近代社会そのものとほとんど同義的なものとも解されている。しかし学問的にはそれはもっと狭義的に近代社会そのものではなく，その歴史的展開の中で20世紀以後に出現した比較的新しい状況を全体として特徴づけた名称と考えられている。わが国でこれが一般に大衆社会とよばれているのは，その内部に広範な大衆が成立し，これを基盤として社会生活の全面にわたって画一化的かつ平準化的な大衆化的現象が進行している事態が注目されたからにほかならないが，その原語をなしているマスソサエティーのマスは必ずしも大衆だけを意味しているものでなく，むしろ大量生産のマスプロダクションの場合と同様に数量的に大きいことを意味しているとみてよい。現にかつてウォルラスがこれを巨大社会とよんだ先例もある。しかしマスソサエティーが本来第一義的には規模的に巨大な社会を意味していたとしても，その中に民衆とほぼ同義的な広範な大衆が成立し，これを基盤として発生したいわゆる大衆化的現象がその最も顕著な特徴をなしていることは事実であって，この点からみるとマスソサエティーを大衆社会とよぶのは決して不適当ではなく，かえってそれは常識的な通念とも合致しうる利点をもっている。そしてこれはまた近代社会の20世紀以後の状況を特に大衆社会として把握(はあく)する考え方が有力化するようになった一因をもなしていたのである。率直にいって，こうした大衆社会の考え方，したがってその概念は必ずしも学界から一般的に承認されているわけでなく，中には強くこれに反対するものも存している。たとえば，マルクス主義*のごときはその代表的なものであって，この立場では一応近代社会の歴史的過程が1870～1880年代を境として２段構えで産業的競争資本主義と金融的独占資本主義の時期とに区分されているものの，この後期を大衆社会とよぼうとする考え方はきびしく退けられ，これはイデオロギー的誤謬(ごびゅう)を含むものとさえ批判されている。しかしこうした反対はあっても，大衆社会の考え方が常識的に普及するに伴って，学問的にもそれがかなり広く支持されてきていることは否定できない。最近ではこうした考え方を中心としたいわゆる大衆社会理論が成立しており，これは，最近の社会理論の中でマルクス主義に次いで有力なものと評価されているほどである。

〔理論〕近代社会の中に20世紀以後大衆社会が新しい状況として成立したことは，種種の兆候によって19世紀の前半からすでに予見されていたところであって，ヨーロッパでつとに将来における大衆の台頭に注意を促していたミル*やトックビル，群集または公衆の支配的な意義の増大を強調したルーボン*やタルド*などはいずれもこの意味において大衆社会理論の先駆をなした学者とみなされている。しかし20世紀以後の近代社会の状況を初期のそれから区別し，これを大衆社会として把握しようとする試みが本格的に現われたのは20世紀にはいってからのことであって，まず前述のウォルラスが最初これを巨大社会として把握したが，1930年代になると，オルテガやマンハイムが出て，進んで大衆社会的発想を大衆社会の概念と結びつけて積極的に理論化するに至り，ここにはじめて大衆社会理論は具体的に建設される運びになったものである。

この両者の中でも大衆社会理論の発展にとってはマンハイムの業績が内容的に最も重要であったとともに影響力もまた強かったものであって，やがて彼の感化のもとにこの考え方はヤング*やワースによってアメリカにも導入され，アメリカ社会学の中にもまたこの理論の発展する基礎が築き上げられた。その後この理論は，日本その他の諸国にもしだいに普及され，今日ではそれは社会学だけでなく，政治学その他の領域でも多数の共鳴者を生み出しているが，大衆社会理論がこのように有力化してきたことは，一面において20世紀以後近代社会の中に，この理論が指示したような大衆化的現象が現に具体的な事実としても顕著にされてきているとともに，その学問的な検討が時代的に不可避かつ不可欠とされていることを物語るものである。

〔条件〕大衆社会をもって20世紀以後近代社会の中に出現した新しい状況と考えた場合，まず問題となるのはこれがいかにして成立するに至ったかということであるが，一言をもってすると，これは近代社会が物質的生産・交通・伝達手段の発展によって資本主義の基礎の上に形成されてから，その内部の経済的・政治的・文化的な諸領域を通じてさらに新しい発明と技術の蓄積が生じ，その結果これを媒介としてしだいに社会的接触が増大し，ますます多数の人々が積極的に広く社会的活動に参加するようになったこと，そしてこれに伴って社会の中の集団構成にも著しい変化が生ずるとともに，ひいてはこれが社会の中の個人の性格形成にも画一化的・平準化的に作用し，いわゆる大衆化的現象を現出するに至らしめたことによるものである。経済的に資本主義を基調として成立した近代社会は，機械的工場制の導入によって画期的な生産の増大を可能とし，産業革命*後ますますこの傾向は促進されてきたが，19世紀も後半になると，蒸気力に代わって電気が新しい動力源として利用されるようになり，さらに内燃機関の発明に加えて，大量生産方式が案出されたところから，生産は近代社会の初期における予想を越えて飛躍的に増大し，文字どおり大量生産の時代が招来されるようになった。そしてこれと相並んで資本主義そのものも金融資本の産業資本に対する優勢化，ひいては両者の癒着(ゆちゃく)によって資本の構成に変化を生じ，この関連から企業の規模が拡大され，その集中化が促進されるにしたがって，企業組織も高度に合理化され，官僚制*が極度に昂進(こうしん)せしめられるに至った。この間資本主義は初期における自由競争の段階からこれを排除した独占の段階に移行し，資本家階級はこれによって最大利潤を確保することを可能とされるようになったが，その反面，労働者階級もまた不利な条件下にありながら，社会政策の実施や自力的な労働組合*の団結によって自己の生活水準を相対的に向上させることを可能とされ，やがて大量生産に対応して大量消費にも均霑(きんてん)することができる状態に接近したものであった。しかしこれに比較してもっと大きな変化が生じたのは政治の領域であった。近代社会では，その初期から一般に政治において民主主義が原理として採用されていたが，いちはやく革命を成就していたイギリスでさえも選挙権は極度に制限されていて，一部の市民*階級を除くと一般大衆の多くはまったく国政に参加してはいなかった。しかし19世紀の後半から20世紀の初頭にかけて，イギリスをはじめとして先進諸国ではしだいに選挙権が拡張されてきて，ついには普通選挙の実施によって国民の多数は有権者として選挙を通じて国政に参加することができるようになった。マンハイムはこれを徹底的民主化とよんでいるが，これによって政治がこれまでの制限的な市民的民主主義から開放的な大衆的民主主義に前進したことは確かであって，これによって国民の多数が大衆として政治の舞台に登場し，積極的に政治的活動を遂行しうる可能性を与えられたことは，これまた初期とは異なるこの時期の新しい特徴をなすものであった。これと並行した変化はまた文化的活動の領域にも看取されるところであって，印刷技術・ラジオ・テレビなどの伝達手段の発達は，大量生産方式とあいまって多種大量のコミュニケーションの発展をもたらし，さらに義務教育の普及によって国民の多数の知識水準が向上された結果，この領域でもまた彼らが新たに文化の享受者ないし支持者として重要な意義をもつようになってきた。そしてこれまで文化が少数の特権者の占有物

に等しかったのに対して，この時期にはもっと広い大衆を基盤とした大衆文化が発生し，これがまた事実上,文化全体の基調を左右することのできる大きな比重をもつようになってきたものであった。

〔特徴〕近代社会の中で社会活動の側面にこのような大きな変化が生じた以上，これに対応して社会の集団構成にも大きな変化が生ずることは当然すぎることであって，ここにおのずから大衆社会の新しい特徴が現われることになるが，その主要なものとしては，組織集団の中でまず基礎集団(家族や近隣社会など)そのものについては都市化の傾向，一般的には基礎集団に対する派生集団の優越化の傾向，非組織集団については公衆に代わる大衆の優越化の傾向，これに伴った階級的区画の不明確化の傾向を指摘することができる。

組織集団について第1に顕著にされたことは，農村が衰退しこれに代わって都市が興隆したことであって，産業化の進行に伴って促進された都市化は，それ自体大衆社会の段階をそれ以前のものから区別する重要な標識をなしているが，組織集団全体についてみた場合，都市の発展はあっても基礎集団はむしろしだいに派生集団に取って代わられ，社会的比重を失ってきたものであった。これに反して派生集団は前者の犠牲において，続々と形成され，その結果いわゆる集団噴出の現象が発生したが，こうした派生集団の中では組織の合理化が進み，その高度的な発達による官僚制の強化は，またこの時期における大衆社会の重要な特徴をなすに至ったものである。しかしこの時期において最も注目すべきことは，非組織集団の中で直接的接触に基づく群集の発生する機会が異常に増加してきたこと，さらに間接的接触に基づく公衆の形成される機会もマスメディア(媒体)の飛躍的な発達によって著しく増大されるとともに，その交錯によって公衆の規模が著しく拡大され，その結果無定形的な巨大な大衆の成立が可能とされてきたことであった。近代社会の初期にあっては，市民階級を基盤として比較的狭い範囲に公衆が成立していたものであるが，この時期になるとマスメディアを通じて公衆が巨大な規模で形成されると同時に，また徹底的民主化によって政治的に動態化され，巨大な大衆として大衆行動を展開する傾向を示すに至った。こうした事態が出現したのは，一面，基礎集団の圧力が減退し，派生集団そのものもまたその多元化によってその拘束力を相殺されてきたせいでもあるが，他面それは，また旧中間層が残存しているうえに新中間層がしだいに数的に肥大化してきて，資本家階級と労働者階級との両極性が不鮮明化されるに至ったせいでもある。

これを要約すると，20世紀以後の近代社会の中では，基礎集団の側面で都市の発達によって都市化の傾向が進行したものの，家族や近隣集団の社会的意義は減退を余儀なくされ，これに代わって派生集団が優勢化したところから，集団生活は一面流動化し，自由的かつ多彩的なものになってきたにもかかわらず，他面，派生集団の側面においては機能的合理化によって，特に国家や企業体を中心として高度の官僚制が成立し，これが事実上集団生活の中枢を形成するに至ったところから，集団生活の自由的・多彩的な流動性が，これによって多分に阻害される可能性も生じてきたものである。この中にあって徹底的民主化によって行動的積極性を獲得した多数者にとって，この矛盾を解決する道がおのずから大衆の形成とその運動に見いだされるようになったのは自然であって，大衆社会の集団的構成において集合的集団としての大衆が特に象徴的な意義を与えられてきたゆえんもまたここにあったのである。

生活条件や集団的構成がこのように変化してきた以上，内部の個人がこれに準じてその性格を規定されることになるのは必然的であって，ここにいわゆる大衆的な人格が成立することになる。大衆社会では基礎集団が衰退すると同時に派生社会が多元的に分生し，その生活が流動化されたところから，その内部で一見個人は多分に自由を享受し，その性格形成も多彩化する可能性を与えられているようであるが，経済的・政治的・文化的活動において画一化と平準化が推進されたところから，むしろその性格は一般に画一化され，かつ平準化される傾向を示すに至っている。しかもこれらの活動を規制する集団的構成において，その中枢をなす国家・企業体が組織上機械的に合理化されても，これが全体的にみてエリート*の機関として定着し，実質的に国民多数の目的と合致しなくなる危険性も介在しているので，エリートと大衆との間には断絶を生じ，これを契機として大衆の側に無関心と疎外*感，場合によっては不安や不満のきざす可能性もある。この点からみると，大衆社会は表面的に自由であるようにみえても，本質的に自由かつ積極的な自覚的人格を生み出すものと断定することはできない。フロムが自由からの逃走を大衆社会の心理とみなし，リースマンが他人指向型をもって最近時の大衆社会を支配する性格的典型とみなしたのも，究極においてこうした洞察(どうさつ)から由来したものである。しかし大衆社会の中で大衆化的現象の進行に伴って個人がこのようにその性格を規定される可能性は多分にあるにせよ，これをもってその不可避の傾向をなすものと決定するのはこれまた一方的である。平均的にはむしろ大衆社会において個人は画一化と平準化のわく内において，その性格をプラスとマイナスのいずれの方向へも決定しうる流動的なものとして基調づけられているとみておくのが妥当である。

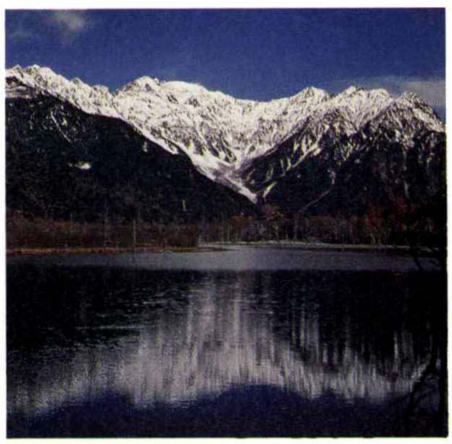
〔類型〕これまで考察してきた大衆社会の社会的活動・集団的構成および人格形成におけるもろもろの特徴は，イギリス・アメリカ・ドイツなどすべての先進諸国の20世紀以後における状況を通観した場合，ほぼ共通的に確認することができるものであって，この意味においてこれらは大衆社会を一般的に規定するものとみなしてよいものである。しかし実際において大衆社会の具体的な現われ方は，これらの諸国を通じて必ずしも同一でなく，その中にいちおうドイツ型とイギリス・アメリカ型を区別することが可能である。そしてこうした類型的な相違はまたおのずからこれを代表する大衆社会理論にも反映されているところである。大衆社会的状況は20世紀の初頭イギリス・アメリカ・ドイツのいずれにおいても，大なり小なり看取されたが，大衆社会の成立がはじめて問題化された1920〜1930年代のドイツでは資本主義の発達そのものがイギリス・アメリカに比べてなお多少遅れていたうえに，徹底的民主化の推進された歴史もきわめて短かったため，徹底的民主化によって動態化された大衆は，大衆民主主義に習熟するまでになっておらず，第1次世界大戦後における彼らの非合理的な不満の感情は，ついにヒトラーの巧妙な操縦によって，彼らをして民主政治を否定してファシズム*を支持する方向に走らせたものであった。このドイツにおける大衆社会の実情はマンハイムの理論に如実に反映されているところであって，彼はこのドイツに展開された大衆社会の悲劇をみずから体験するとともに，これを一般化し大衆社会をもって産業の機能的合理性の支配のもとで大衆を感情的に非合理化し，彼らをして民主主義を通して民主政治そのものを葬り去る方向に導く危険性を内蔵するものとみる，きわめて悲観的な診断を下したものであった。そしてこれと類似した見解は，フロム・レーデラー，その他同じくこの当時のドイツを大衆社会のモデルとみたアメリカのドイツ系の学者によっても支持されている。ドイツとは対照的に，イギリスは世界にさきがけて近代社会の形成に着手し，最も早く産業革命を成就して世界における資本主義の発展の先頭をきるとともに，これに対応して徹底的民主化をも並行的に実現してきたところから，20世紀にはいって大衆社会の段階に移行した際には，すでに大衆は大衆民主主義の本領を体得しており，一般に大衆の性格に潜んでいる欠陥もまた事実上大衆社会の発展過程の中でもかなり自動

的に調整されていたものであった。カーは，この見地から20世紀以後イギリスに展開された大衆社会を新しい社会として賛美し，大衆民主主義の前途を明るい肯定的態度をもって楽観しているが，この場合彼にとってその生国のイギリスが大衆社会のモデルになっていたことはもちろんである。そしてこれと同一の事情はアメリカについてもまた指摘することができるのである。アメリカは近代社会の建設において若干イギリスに遅れていたものの，独立後アメリカにおける資本主義や民主主義の発展はきわめてめざましく，やがてそれは20世紀にはいるとまもなく産業的に大衆社会の段階に到達するに至ったが，アメリカの場合もまたイギリスのそれと同じく徹底的民主化が順調に進行してきたところから，大衆社会もおのずから明るい肯定的気分をもって迎え入れられている観がある。マンハイムの感化を受けてアメリカで大衆社会理論を提示したヤングやワースは，大衆社会の中に非合理的要素が介在していることを認めながらも，最後的にはこれが矛盾を越えて調和を実現しうるものと待望する楽観主義的結論を導き出しているが，この考え方の中には，まさしくアメリカにおける大衆社会の現実が反映されているとみてよいのである。ここで対置された大衆社会のドイツ型とイギリス・アメリカ型はいずれも体制的には資本主義を基盤として出現したものであるが，学者の中にはこれに加えてさらにソ連型の成立を説くものもある。この考え方は大衆化的現象をもって体制的な相違を別とした高度の産業化と合理化から由来したものとみた場合，一応不可能ではないが，ソ連にはイギリス・アメリカ・ドイツにおいて大衆化的現象のもう一つの要因をなしている徹底的民主化の条件が欠如している。ソ連はいちおうプロレタリア的民主主義を実現したたてまえにはなっているが，共産党独裁のもとにあって，国民の多数は西欧的意味において積極的に政治に参加するまでになっておらず，したがってこの意味における大衆の成立やその運動も不可能とされている。この状況下では，よかれあしかれソ連では西欧並みの大衆社会の成立する条件は欠如しているとみるほかはないのである。〔新明正道〕

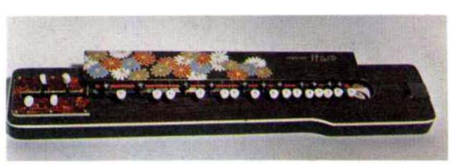
たいしょういけ　【大正池】 長野県，北アルプスの上高地にある湖。湖面は海抜1,500m。1915年(大正4)の焼岳(やけだけ)の噴火で，梓(あずさ)川がせき止められてできたもので，枯死したシラカバなどの林が湖中に立つ独特の風景で知られたが，いまはほとんど見られない。流入する土砂によって湖面はしだいに縮小し，湖の生成当時は面積0.39km^2，水深4.5mであったが，現在は水深も減じ，面積も当時の3分の1に縮小した。流出部の池尻(いけじり)には東京電力のダムがある。〔長津一郎〕

たいしょうえび　【大正蝦】 甲殻(こうかく)類・十脚目・クルマエビ科。コウライエビの俗称。クルマエビ科では最大になり，30cm近くにも達する。生時は淡灰色の地に灰青色の斑点(はんてん)がみられ，尾は赤みをおび，先端は暗かっ色。黄海・渤海(ぼっかい)・東シナ海など大陸沿岸に多数生息し，日本沿岸にはみられない。冬季は沖合いの深所で越冬し，春季，大陸沿岸に産卵のための回遊を始める。産卵期は6～7月で，渤海湾などの浅海で産卵を行なう。秋季には，稚エビが沖合いへ越冬のための回遊を始める。成長は速く，秋にはまず雄が成熟し，未成熟の雌と交尾を行ない，雌は翌年春に成熟して受精するという報告がある。寿命は1年で，夏の産卵後は死亡すると考えられている。トロール漁で漁獲され，食用に供せられる。昭和の初期，大正丸という船がはじめて漁獲したため，この名でよばれる。〔向井　宏〕

だいじょうきしんろん　【大乗起信論】 古代インドの詩人アシュバゴーシャの著書とされる。1巻。真諦(しんだい)の訳と伝わる。唐のシクシャーナンダ(実叉難陀)が再訳。古来インド選述か中国選述かをめぐって論争がある。内容はわれわれの本来性は如来であると説き，一心二門三大四信五行といわれる体系的説明によって，如来蔵思想を説く。曇延(どんえん)・慧遠(えおん)・元暁(がんぎょう)・法蔵などをはじめとする数多くの注釈書があり，特に法蔵の《起信論義記》は有名で，中国仏教史の上に大きな影響を及ぼした。〔吉津宜英〕



大正池　白雪の穂高連峰の影を映す大正池。穂高は中央の岳沢を囲んで，左から西穂高・奥穂高・前穂高・明神岳と連なる



大正琴

だいしょうこうどう　【代償行動】 ある目標に向けられた行動がなんらかの理由で阻止された場合，もとの目標に近似した別の目標(代償的目標)に行動を向け変えることによって代償的満足を得，もとの欲求から生じた緊張が軽減されること。レビンの言葉。精神分析でいう防衛機制のうちの，置き換え・昇華なども代償行動の性質をもつものである。

たいしょうごと　【大正琴】 大正時代に生まれて流行した卓上形の簡易旋律楽器。箏(そう)のように，弦(金属製)を右手の義甲ではじいて音を出すが，音高は西洋流に名づけられたキーを押して弦の長さを変えることによって得られる。今日では時代色を出すための効果音として用いられているにすぎない。

だいじょうさい　【大嘗祭】 〈おおにえのまつり〉〈おおむべのまつり〉とも読み，践祚(せんそ)大嘗祭ともいう。天皇即位ののち，はじめて新穀をアマテラスオオミカミをはじめ天神地祇(てんしんちぎ)に奉り，みずからもそれを食する天皇一世に一度の新嘗祭(にいなめさい)。元来は天皇即位の儀式を兼ねていたが，奈良時代には両者が完全に分離した。7月以前に即位したときにはその年，8月以降のときには翌年行なわれる。前天皇が崩御されたときには即位の儀式だけを年内に行ない，大嘗祭は翌年行なわれる。一時中絶の時期もあったが，明治になって再興された。祭儀は紫宸殿(ししんでん)の前庭(古くは大極殿の龍尾道(りゅうびどう)の前)に設けられた大嘗宮で行なわれる。大嘗宮には悠紀(ゆき)・主基(すき)の両殿があり，11月中の卯(う)の日に身体を清められた次期天皇がまず悠紀殿で新穀を神に奉り，またみずからも神饌(しんせん)を食す。次に主基殿で同様の祭儀を行なう。また，同時にこの両殿で，天孫降臨を擬したと思われる秘儀が行なわれる。大嘗祭の意義についての定説はないが，秘儀が神話の天孫降臨を思わせるので，次期天皇が天皇霊を身につけ，古くて新しい天皇として再生するとみてよかろう。〔田上光治〕

だいしょうじ　【大聖寺】 ⇨加賀(市)

たいしょうしき　【対称式】 n個の文字を含む多項式$F(x_1, x_2, x_3, \cdots\cdots, x_n)$が，その中のどの二つの文字を交換しても変わらないとき，この式を$x_1, x_2, x_3, \cdots\cdots, x_n$についての対称式という。たとえば，$x^3+y^3+z^3-3xyz$は，$x, y, z$のどの二つを交換しても変わらないから，$x, y, z$についての対称式である。対称式のうちで，特に$\sigma_1=$

$x_1+x_2+x_3+\cdots\cdots+x_n$, $\sigma_2=x_1x_2+x_1x_3+\cdots\cdots+x_{n-1}x_n$, ……, $\sigma_n=x_1\cdot x_2\cdot x_3\cdots\cdots x_n$を基本対称式という。$F$と$G$とが対称式であるならば，$F\pm G$, $F\times G$, F/Gも対称式であり，対称式は基本対称式だけを用いて表わすことができる。たとえば，$x^3+y^3+z^3-3xyz=(x+y+z)\{(x+y+z)^2-3(xy+yz+zx)\}$。

また，$(x-y)(y-z)(z-x)$は，x, y, zのどの二つを交換しても，もとの式と符号だけが異なった式になる。一般に，多項式$F(x_1, x_2, x_3, \cdots\cdots, x_n)$で，二つの文字を交換すると符号だけが異なった式になるとき，この式をこれらの文字についての交代式という。ある式が対称式または交代式であることに着目すれば，因数分解や式の計算が手ぎわよくできる。〔菊池兵一〕



大正時代《大正博覧会の図》日比谷図書館蔵

たいしょうじだい【大正時代】 大正天皇が在位した1912年(大正1)7月30日から1926年12月25日に至る期間で，明治時代と昭和時代にはさまれた近代日本の一時代。

世界史的にはすでに帝国主義の時代であった。大正時代にはいってまもなく1914年7月に第1次世界大戦が始まり，1918年11月まで続いた。日本は日露戦争に勝利を収め，1910年(明治43)の日韓(にっかん)併合など対外膨張政策を進めていたが，大戦開始を機にさらにそれを前進させた。1914年8月日英同盟の名においてドイツに宣戦を布告し，中国山東省のドイツ租借地を占領，ドイツ領南洋諸島北部にも進駐した。また1915年1月には対華二十一か条要求を突きつけ，英・米両国がヨーロッパに力を注いでいる間に中国で勢力を伸ばそうとする意図を露骨に示した。中国・朝鮮で反日運動が高まり，1919年には三・一独立運動や五・四運動の形での激化をみている。他方1918年8月には新生の社会主義ソビエトに対する干渉戦争に加わり，シベリア出兵を行なった。大戦後日本は極東におけるドイツの諸権益を引き継ぎ，また1920年には国際連盟に正式加入して常任理事国となり，国際政治への発言力を強めたが，1921年のワシントン会議ごろから孤立化の傾向を示した。大戦中，日本は主要交戦国の背後にあって経済的に巨利を得た。輸出は急増し貿易外収支も好調で，1914年当時11億円の債務国であったものから，1920年には28億円近くの債権国に一転している。これは国内産業の急激な発展と結びついている。工業生産は全体として1914～1919年の間にほぼ5倍となり，他方工場労働者数も同期間にほぼ倍増して，日本資本主義はまさに飛躍的な発展を遂げた。1920年には戦後の恐慌，1923年には関東大震災を経験した。これは，資本集中の好機をなし，戦中・戦後を通じて日本資本主義は独占資本主義としての明確な確立を示した。しかし，世界的にみて資本主義は全般的危機の段階を迎えていた。その一環として日本資本主義も構造的矛盾を露呈し，1918年8月に富山県の一漁村に始まった米騒動は，反体制的な大衆的諸運動展開の口火を切るものであった。ロシア革命の影響を受けながら，労働運動は本格的な展開を示した。1919年8月友愛会が発展して大日本労働総同盟友愛会と改称し，他方寄生地主制のもとで抑圧されていた農民のエネルギーも噴出し，各地で小作争議の激発をみた。1922年4月には日本農民組合が設立され，さらに社会主義・共産主義の思想が前面に現われ，運動として展開された。1922年7月に日本共産党が結成された。

国内政治の面では藩閥官僚勢力はなお強力であったが，資本主義の成長とともに形成されてきた産業ブルジョアジー・都市中間層は，日露戦争を経過するころからようやく政治的地歩を固め，藩閥政治に対抗し始めた。1912年末には政党内閣制の要求を中心とする第1次護憲運動(→憲政擁護運動)が始められ，また同年末から1913年初めにかけて軍拡問題をめぐって生じた大正政変は，新旧勢力の攻防を表現するものであった。1914年1月には海軍汚職のジーメンス事件をめぐって世論は沸騰した。新勢力のイデオロギー的基盤は西欧流の民主主義であった。政治理論としては美濃部(みのべ)達吉の天皇機関説や吉野(よしの)作造の民本主義が現われ，また津田左右吉(そうきち)の合理主義的神代史研究，阿部(あべ)次郎の人格主義哲学，白樺派の文学なども登場した。これらは全体として，世界的な平和・民主主義重視の気運を反映しつつ，前期大正デモクラシー運動を形づくった。やがて米騒動を契機として，1918年9月原敬(たかし)によるはじめての本格的政党内閣が誕生し，続いて普通選挙運動が各地で起こって，労働者・農民がこれに参加した。他方では，地位向上・政治参加を求める婦人運動，身分的差別撤廃を要求する水平社を中心とする部落解放運動が展開された。しかし，1921年11月原首相が東京駅頭で刺殺されてから反動が生じ，1922年6月からおよそ2年間軍部・官僚を基盤とする非政党内閣が続いた。これに対して1924年にはいると第2次護憲運動が開始され，同年6月加藤高明を首班とする護憲三派(憲政会・政友会・革新倶楽部(クラブ))内閣が成立し，以後満州事変に至るまで政党内閣の時代を迎えた。1925年3月には普通選挙法が成立したが，ブルジョアジーや都市中間層の民主主義はもともと不徹底なものであり，彼らは労働者・農民の運動の高揚には恐れをいだいた。政党内閣は軍部・官僚勢力との妥協に終始した。普通選挙法が成立したというものの，1925年春には他方で悪名高い治安維持法が制定されている。1927年(昭和2)に金融恐慌，1929年には世界恐慌が起こり，激化した構造的矛盾打開の道は戦争に求められていった。藩閥政治の明治時代，軍部支配の全盛期となった昭和時代に比べれば，大正時代はそれなりに自由主義・民主主義の盛り上がりがみられた時代であった。高等専門教育の拡充や各種消費文化の進展が特徴的であったが，その底は浅く，天皇制の基調はなお強固だったのである。〔応和邦昭〕

たいしょうせいへん【大正政変】 大正初期の，第2次西園寺公望(きんもち)内閣の崩壊からそれに続く第3次桂(かつら)太郎内閣の成立・崩壊に至るまでの政変をさす。1912年(大正1)12月西園寺内閣が財政困難を理由に，朝鮮2個師団増設の軍部の要求を拒否したのに対し，陸相上原勇作が天皇に直接上奏したいわゆる帷幄(いあく)上奏事件が起こり，西園寺内閣は倒れた。後継首相に内大臣兼侍従長の桂太郎が就任したが，軍部のこの横暴に激怒した新聞記者・弁護士らが中心となって憲政擁護運動を起こした。立憲政友会をはじめ代議士および一般大衆も加わって全国的な運動となり，1913年2月桂内閣は総辞職した。〔応和邦昭〕

たいしょうデモクラシー【大正デモクラシー】 大正後期に起こった民主主義的改革を要求する動向をいう。大正時代にはいると，資本主義の成長とともに産業ブルジョアジー・都市中間層が勢力を伸ばし，それを反映して政治・文化の各面で西欧的民主主義を唱える動きが強まった。美濃部(みのべ)達吉の天皇機関説，吉野(よしの)作造

の民本主義*などの政治理論が提唱され，1912年(大正1)から翌年にかけては第1次護憲運動(→憲政擁護運動)が盛り上がった。合理主義的学問・人格主義哲学・自然主義文学なども現われ，1918年に起こった米騒動*以後は，労働者・農民の階級的運動が展開され，民主主義の徹底が求められた。しかしブルジョアジー・都市中間層はそれを恐れて官僚・軍部との妥協を強めた。1924年の第2次護憲運動の実態がそれを示している。〔応和邦昭〕

たいしょうてんのう 【大正天皇】(1879～1926) 明治天皇の第3皇子。母は典侍柳原愛子(なるこ)。称号は明宮(はるのみや)。名は嘉仁(よしひと)。1889年(明治22)立太子。1900年九条節子と結婚。1912年明治天皇死去により大正と改元し，1915年(大正4)京都で即位式をあげた。生来病弱のうえ持病が悪化したため，1921年第1皇子裕仁(ひろひと)親王(現天皇)が摂政に就任した。在位15年間は日本の資本主義の繁栄期にあたった。

だいじょうぶっきょう 【大乗仏教】 部派仏教(小乗仏教)の発展は，ブッダ*の教法に対する理論的研究を発達させたが，その反面，かれらは修道僧として僧院の中で生活し，みずから阿羅漢*(あらかん)の位に達することのみを目的として，人々の救済という仏教本来の立場を忘れがちであった。このような上座系教団の消極的な傾向に不満をもち，いっさいの人々の救済を理想として起こったのが大乗仏教である。かれらは人間の理想をブッダの位において，それに達することを実践の目標とした。そして，その目標である菩提(ぼだい)(悟り)を得ようと努力する人を菩薩(ぼさつ)と名づけて，阿羅漢を最高の目的とする声聞*(しょうもん)(仏弟子(ぶつでし)・上座教団)から区別している。西暦紀元前後ごろ，かれらは自己の立場を自覚して大乗(マハーヤーナ)とよんだ。大乗とは大きな乗り物の意味で，人々を理想の彼岸へ運ぶ教法にたとえたものである。そして，かれらは伝統的な上座仏教を小乗と貶称(へんしょう)した。➔南方仏教 〔塚本啓祥〕

たいじょうほうしん 【帯状疱疹】 帯状に小水疱が群生する皮膚病の一種。水疱瘡*(みずぼうそう)のウイルスと同じ帯状疱疹ウイルスの感染によって起こる。前駆症状として，発熱・全身違和感などを呈することもあり，神経系路に沿って片側性・散発性にアズキ大の紅斑(こうはん)や水疱を生じる。発疹部位に神経痛を起こすことが多く，蟻走感(ぎそうかん)・瘙痒感(そうようかん)・知覚過敏あるいは鈍麻，まれには運動麻痺(まひ)を起こすこともある。数日後に痂皮(かひ)をつくり，それが剝脱(はくだつ)すると治癒(ちゆ)するが，治癒後もしばしば瘢痕(はんこん)が残る。チンク油塗布，湿布，赤外線・紫外線の照射，サリチル酸製剤の内服などによって治療する。

〔北西憲二〕

だいじょうみゃく 【大静脈】 ⇨静脈

たいしょうりょうほう 【対症療法】 患者の苦痛を取り去る目的で，患者の症状に応じて随時行なう治療法。発熱に対する解熱薬，疼痛(とうつう)に対する鎮痛薬，咳(せき)に対する鎮咳(ちんがい)薬，不安不眠に対する鎮静薬の投与などがその例である。これに対して抗結核剤(パス・イソニアジドなど)を投与して真の原因となっている結核を治療することを原因治療法という。

たいしょく 【大食】 アラビア人に対する中国人の呼称。イラン人がアラビア人をタージー・タージークとよんだのを，唐代の中国人が大食あるいは大石・多氏・大寔などと写した。のちにはイラン人を含めたイスラム教徒全体に対する呼称となった。またウマイヤ朝を白衣大食，アッバス朝を黒衣大食とよんでいる。

たいしょく 【体色】 動物のからだの表面にあるいろいろの色彩。そのもとになるのは，色素があるための体色すなわち化学色(色素色)と，体表の物理的構造によって起こる構造色に大別できる。色素としては，メラニン・グアニン・ヘモグロビン・カロチノイド系色素・リポクロムなどがあり，色素胞とよばれる特定の細胞の中に含まれることもあり，生理的状態による体色変化の原因となる。構造色はおもに反射光線の干渉によるもので，干渉色ともよばれる。単独に色を呈することもあるが，色素色といっしょになって，いろいろな色を出すことが多い。甲虫類の鞘翅(しょうし)(タマムシ・コガネムシなど)，二枚貝の殻(から)の内面にある虹色(にじいろ)，鳥類の羽(オウム・カワセミなど)の青い色などがある。体色はその意義から，隠蔽(いんぺい)色・標識色・婚姻色などに分けることができる。

たいしょくきん 【退職金】 労働者が離職の際に経営者から受け取る一時金。日本特有のもので，年金(→退職年金)の場合もある。明治中期からみられ，第1次世界大戦後の不況期に労務政策として普及し，1936年(昭和11)退職積立金及退職手当法が制定されて以後一般化した。第2次世界大戦後は，中小企業退職金共済法(1959)などによって法制化されたが，一般的には労使の自主交渉に任されている。金額の算定は，勤続年数・退職理由などによって異なるのが通例である。退職金の性格については，功労報償金説や労働組合のとる賃金あと払い説などがあるが，いずれも老齢年金などの社会保障*制度の不備がその要因となっている。〔黒瀬信子〕

たいしょくごうきん 【耐食合金】 酸その他の腐食性環境において耐食性を有する合金の総称。その種類は非常に多いが，鉄系・銅系・アルミニウム系などが知られている。鉄系の代表的耐食合金にはステンレス鋼*がある。銅は元来，多くの溶媒・有機酸・海水などに対する耐食性にすぐれており，水中・海水中用などの用途に広く使用されているが，ニッケル・亜鉛・アルミニウムなどを合金させることにより強度を改善することができるため，種々のタンク・管などに銅合金が用いられる。純アルミニウムは酸化皮膜を生じて耐食性良好となるが，強さが低いので，この性質を合金として改良し，耐食合金として利用される。4.5％マグネシウムを含むヒドロナリウムなどが著名である。このほか，高度の耐食性を要する化学工業用装置などには，ニッケル合金・チタン合金などが使用される。

〔大岡二郎〕

たいしょくねんきん 【退職年金】 企業における従業員の退職後の生活を保障することを目的とする年金。企業が事業発展のための一施策として行なう福利厚生制度に属し，従業員の退職後の生活を保障することによって，その定着率を高め，労働意欲を増大させて，企業への帰属意識を強化する効果があり，税制上も特典が付与されている。近来退職一時金制度に代わるものとして発展の著しいものであるが，インフレによって年金の実質的価値が低落する危険の存する点に問題がある。〔庭田範秋〕

たいしょくへんか 【体色変化】 動物の体色*が変わること。普通は特に保護色*や婚姻色*などと関連をもち，特別な生物学的意義があって，しかも規則的で能動的な変化をいう。色素胞の変化によって起こるものがおもで，外部からの刺激やときには内部の刺激に対する反応として変化する。色素顆粒(かりゅう)の移動などの色素胞の単純な変化によるときは変化がすみやかで(頭足類・カメレオンなど)，色素胞または色素そのものの増減による変化のときは時間のかかるのが普通である。変化を起こす刺激として考えられるものの第1は光で，光が直接色素胞に作用したり，目以外の光受容器を通して起こったり，目を通して反射的に反応したりする。目を通すときには，神経またはホルモンの作用，あるいはその両者の働きで反応が起こる。〔蒲原春一〕

たいしょてん 【対蹠点】 ⇨対称

だいしょにん 【代書人】 代書人規則(1920)に基づき，他人の委嘱を受けて官公署に提出する書類などの作成を業とする者。行政書士法(1951)の制定により，現在では行政書士*とよばれている。なお今日では，手紙・履歴書などを代筆する，法律の規定によらないサービス業者を代書人といっている。

だいしりゅう 【大師流】 空海*を始祖とする書道の流派といわれているが，空海以来伝えられていたのではなく，中世の末以後に起こった。空海の書風を尊び，そのくせを型どおりに書くものである。

たいしん 【大秦】 ローマ帝国に対する中国の古名で，西方の大国ローマを秦にたとえたよび名。東西交渉にしたがい，イラン(安息)・シリア(条支)とともに，ローマのことが中国に知られ始め，《後漢書 西域伝》

には，その地理・風俗・制度についてひととおりの説明がある。なお，同書には，166年に大秦王安敦(アントニウス)の使節が海路で中国に来たことを伝えている。

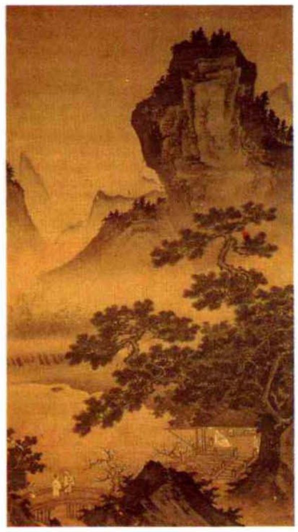
たいしん【戴進】 中国，明(みん)の宣宗帝ごろの画家。生没年不詳。字(あざな)は文進。李唐(りとう)・夏珪(かけい)・馬遠らの模写から出発し，あらゆる画題をこなしたが，特に蘭葉描を用いた山水・人物画が有名で，宣宗画院にはいると画院の画家であった倪端(げいたん)・石鋭・李在(りざい)らから嫉妬(しっと)をかい，巧みではあっても品位がないと批判された。しかし，その画風は弟子(でし)の呉偉らによって発展し，その出身にちなんで浙派(せっぱ)とよばれる独特の画風に発展した。代表作に《春冬山水図》《春遊晩帰図》などがある。〔中島純司〕

たいしん【戴震】(1723～1777) 清朝(しんちょう)の儒学者。安徽(あんき)省の人。字(あざな)は東原。経学としての考証学の方法論を確立し，さらに古代の音韻・算学などの解明に進んだ。弟子(でし)に段玉裁・王念孫がいる。また，《孟子字義疏証(もうしじぎそしょう)》の著書がある。〈儒教の道徳は天理であり人性だ〉と説いた朱子学の理気説に対し，〈人間の本質は情欲で，そのような人間の集合の規律が聖人の教えた道徳だ〉とする気の哲学を展開した。〔西　順蔵〕

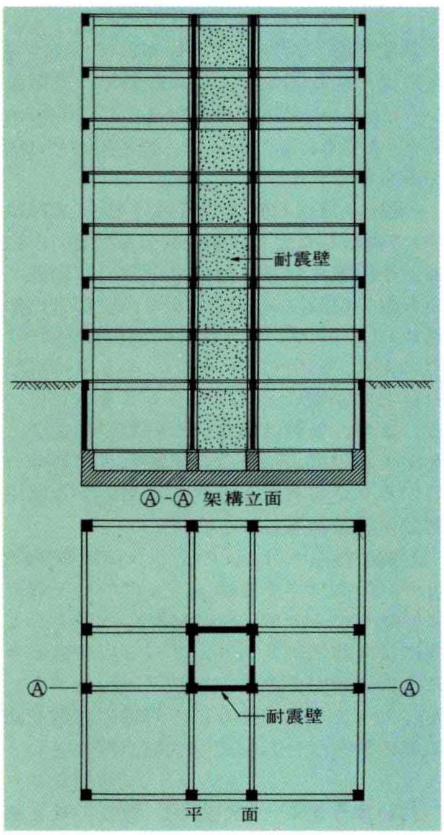
だいしんいん【大審院】 旧司法制度における最高の裁判所で，今日の最高裁判所にあたるもの。1875年(明治8)創設され，1890年旧憲法施行に伴い整備・確立された。民事部・刑事部があり，5人の判事からなる合議体で裁判が行なわれたが，違憲立法審査権をはじめ，下級裁判所に対する司法行政監督権・規則制定権をもたなかったため，真の司法権の独立はなかった。1947年(昭和22)新憲法施行に伴い廃止。

たいしんこうぞう【耐震構造】 地震に耐えることができるように設計された構造物。日本においては1920年代から佐野利器によって定義された〈地震の最大加速度と重力の加速度との比〉，すなわち震度をもととして建築の骨組みの設計を行なってきている。現在の建築基準法によれば，標準の震度を0.2としている。建物の重量に震度を乗じて求められる水平力に抵抗するように骨組みの設計が行なわれるのである。また，1920年代に内藤多仲によって提唱された鉄筋コンクリート造の耐震壁は剪断(せんだん)に対する抵抗力が大きく，関東大震災の際にその効果が実証された。なお，鉄骨鉄筋コンクリート構造も内藤多仲によって耐震構造として推奨されてきた日本独自の骨組みである。

最近，特に高層建築に対しては地震動とその構造物との動的な関係によって，構造物に作用する剪断力を求めて骨組みを設計する，いわゆる動的設計法によって耐震構造が計画されてきている。これに対して，



戴　進
《山水図》



耐震構造　構造例(耐震壁を有する架構)

従来の震度を用いて耐震設計をする方法を静的設計法という。〔谷　資信〕

たいしんじ【大秦寺】 中国，唐代における景教の寺院の名。アラボンが638年長安に寺院を建ててこれを波斯(はし)寺と称した。のち景教発生の地が波斯(ペルシア)でなく，大秦(ローマ)であることを知り，玄宗の命によって745年大秦寺と改めた。同名の寺は各地に多いが，最も著名なのは長安大秦寺で，781年境内に〈大秦景教流行中国碑〉が建てられた。

ダイス［dice］ さいあるいはさいを用いた西欧の遊技。さいはわが国のそれと変わりはないが，遊び方は種類が多く，変化に富む。皮製または木製のカップに2個から10個のさいを入れ，それを下に伏せて振り出し，出た目の数や種々の役などによって勝ち負けを決める。代表的な遊び方をあげると一般的で，カジノで大流行しているものに〈クラップ〉がある。これは，まず親と子に分かれ，親が2個のさいを投げ，出た目の数の合計で勝ち負けを決める。出た目が7か11なら親の勝ちで，かけ金を取る。出た目が2・3・12の場合は親の負け。出た目が4・5・6・8・9・10の場合は親のポイントといい，親はポイントが出るまでさいを振り続ける。ポイントが出たら親の勝ち，ポイントが出るまえに7が出たら子の勝ちである。このほか，やはりカジノで盛んなものに〈チャック-アーラック〉などがある。〔福田生雄〕

だいず【大豆】 双子葉植物・マメ科の一年草。茎はほぼ丸く直立し，50～100cmぐらいの草たけになり，褐毛(かつもう)がある。茎は蔓生(まんせい)になるものもあり，一般に分枝を出すことが多い。葉は長い葉柄があり，細卵形の小葉3枚からなる複葉で，互生する。花は蝶(ちょう)形で5枚の花弁からなり，めしべの基部に毛茸(もうじょう)があり，おしべは10本ある。花色は白ないし淡紫で品種によって異なる。結実すると，かっ色の毛茸がある扁平(へんぺい)なさやをつくり，さやの中には2～5粒の種子を含む。種子は球ないし扁円球で，未熟のうちは淡黄緑である。成熟すると黄・緑・褐(かつ)・黒色と品種によって特性がでる。ダイズ種子はタンパク質や脂肪に富むため，その利用は各国で盛んである。また根は細根が広く分布して養分を吸収するのみならず，根粒細菌が寄生して根粒ができ，空中窒素を固定することが知られ，土地の肥沃度(ひよくど)を増すのに有効な作物の一つとなっている。

中国東北を含むアジア東部が原産地だといわれ，中国はもちろん，わが国でも紀元前から栽培されていたらしい。したがって，わが国には地方品種が全国的にあり，また野生種も存在している。太平洋戦争前は中国を含むアジア諸地域で世界のダイズの80%以上を生産していたが，現在は40%ぐらいに低下し，近年アメリカの生産が急激に伸びている。わが国においても1900年(明治33)ごろは40万ヘクタールの作付けがあったが，年々減少して，現在は北海道と東北地方の一部にわずかに作付けされている程度で，消費の大部分を輸入している。

消費の目的によって，乾燥種実用，枝豆として利用する未熟種実用，緑肥または飼料にする青刈り用に大別することができ，それぞれ利用の特性に応じて適切な品種が使われている。乾燥種実用の品種は各地方に古くから栽培された品種をもとにして農業試験場が交配し，多くの改良品種を作り出している。枝豆にする未熟種実用として

は袖振(そでふり)・八重成(やえなり)・東京早生(わせ)などが有名である。

ダイズは温暖・乾燥した気候を好むが，低温や暑さにも比較的強いので，真冬を除いて一年じゅう栽培することができる。しかし，日長の感じ方により，品種を夏ダイズ・秋ダイズおよび中間形ダイズに分ける。わが国ではみそ・しょうゆおよび食用油の原料として多量に利用しているが，枝豆としての利用も多い。〔松本正雄〕

たいすう【対数】 正の数 x に対応して定まる数で，x に関する乗除の計算を加減に置き換えるために用いられるもの。ヨーロッパにおいては，16世紀初頭から天文学が大いに発達し，天体の運行に関する資料を処理するのに，簡便な数値計算の方法を望む声が高まってきた。この欲求にこたえたのがイギリスのネーピア*が発見した対数である。しかしネーピアの対数は計算に不便な点があったので，その後継者であるブリッグス(1556〜1630)は，それを計算に便利なように改良して今日普通に用いられる対数すなわち常用対数を考えだし，実際計算に必要な常用対数表を1624年に完成した。

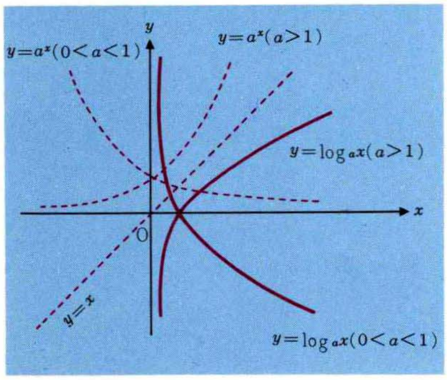
今日では，対数は累乗の逆として，次のように説明する。$x=a^y$(ただし，$a\neq1$，$a>0$)のとき，x のどんな正の値に対しても，y の値が一つだけ対応する。この y を〈a を底とする x の対数(ロガリズム)〉といい，$y=\log_a x$ と書いて表わす。このとき，x を y の真数という。たとえば，$32=2^5$，$0.1=10^{-1}$ であるから，$5=\log_2 32$，$-1=\log_{10}0.1$ となる。このような関係から，指数の法則に対応して対数の法則が導かれる。たとえば，$x=a^m$，$y=a^n$ とすれば，$m=\log_a x$，$n=\log_a y$ で，$x\cdot y=a^{m+n}$ であるから $m+n=\log_a xy$，すなわち $\log_a xy=\log_a x+\log_a y$

同様にして，次の諸法則がなりたつ。

$$\log_a(x/y)=\log_a x-\log_a y$$
$$\log_a x^b=b\log_a x$$
$$\log_a\sqrt[b]{x}=(1/b)\log_a x$$
$$\log_a x=(\log_b x)/(\log_b a)$$

以上の法則を用いると，乗除計算は対数をとることによって加減計算に置き換えることができるから，正数 x とその対数 $\log_a x$ との対照表をつくっておけば便利である。この表のことを対数表という。十進法による記数法では，10を底とする対数を用いると便利なので，初等的には底10を省略して $\log x$ と表わすことが多い。これが常用対数である。しかし，微積分などの理論的な計算ではネーピアの数 e を底に用いる($e=\lim_{n\to\infty}(1+1/n)^n\fallingdotseq2.7183$)。この対数を自然対数という。自然対数は，常用対数と混同するおそれのないときは，底 e を省略して $\log x$ と表わす。

次に，常用対数を利用した計算のひな型を示しておこう。$20\times300=6{,}000$ であるが，常用対数表を利用して次のように計算される。



対　数

$$\log(20\times300)=\log20+\log300$$
$$=(1+\log2)+(2+\log3)$$
$$=1.301+2.477=3.778$$

常用対数 $3.778=3+0.778$ に対応する真数は，整数部分が4けたの数で，対数表から $\log6=0.778$ であるから，$3.778=\log6{,}000$ となる。したがって，$20\times300=6{,}000$ が得られる。

一般に，常用対数の小数部分を正(または0)で表わしたとき，整数部分を指標，小数部分を仮数という。指標は真数の有効数字の首位の位取りを判定するのに役だち，指標が $n(\geqq0)$ のときは真数の首位は第 $n+1$ 位にあり，指標が $\bar{n}(\bar{n}<0)$ のときは真数の首位は小数第 n 位にあることを示している。また，仮数は真数の有効数字の並び方を示すもので，小数点の位置だけが異なっている二つの真数にそれぞれ対応する常用対数の仮数は等しい。

対数関数 $y=\log_a x$ のグラフは指数関数 $y=a^x$ のグラフを直線 $y=x$ について対称に移動したもので(→逆関数)，$a>1$ のときには単調増加であり，$0<a<1$ のときには単調減少である。また，$\log_2 x^3=3$，$\log_x 8=3$ などのように，対数の真数や底に未知数を含む方程式を対数方程式という。〔菊池兵一〕

だいすうがく【代数学】 数学の最も基礎的な部門の一。数や，それを代表する文字・式，さらには，それから発展した抽象的な事項について研究する。中学校や高等学校で方程式を解いたり，それに必要な式の計算を学んだりする分野を代数というように，代数学は方程式を解くことから始まった。特に，文字を用いる代数学は16世紀にフランス人ビエタによってはじめて系統立てられた。そのころまでに，三次や四次の方程式の一般的な解き方はわかっていたが，五次以上の方程式が一般に代数的に(四則計算と累乗根を求める方法で)解けないことは，19世紀の中ごろにN.H.アーベル*やガロア*によってはじめて証明された。そのときに用いた群*の考えはのちの代数学の中心となり，20世紀の抽象代数学*へと発展した。また，実数*の範囲内では，二次方程式でも根をもつとは限らないが，複素数*で考えると何次方程式でも必ず根をもつことをガウス*が発見した。これを代数学の基本定理という。今日の代数学の重要な部門で応用も広いものに，ベクトル*や行列*を扱う線形代数がある(→線形)。また，代数方程式で表わされる曲線や曲面を研究する代数幾何学は，代数学と幾何学が結びつく部門であるといえる。〔小西勇雄〕

たいすうのほうそく【大数の法則】 銅貨を多数回(n)投げて，表の出た数(r)の割合(r/n)を調べると，0.5に近い値になり，大きく異なることはほとんどない。ある条件の下で，n 回の試行のうちある事象 A の起こった回数が r であるとき，n を十分に大きくすれば，r/n の値は A が起こる確率 p にいくらでも近づくことが経験的に認められる。このような性質を一般化して数学的に述べると，次のようになる。X_1，X_2，…，X_n は同じ確率分布(平均 m)をもち，互いに独立な確率変数であるとすると，それらの相加平均と m との差が，正の定数 ε 以上となる確率 $P\left(\left|\frac{X_1+X_2+\cdots\cdots+X_n}{n}-m\right|\geqq\varepsilon\right)$ は，n を大きくしさえすれば，いくらでも0に近い値となる。これを大数の法則という。事象 A を多数回観察して求めた相対度数を用いて，A の起こる確率を推定したり検定したりするのは，この法則を利用しているのである。〔小西勇雄〕

だいずくきたまばえ【大豆茎瘻蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・タマバエ科。体長2mmほどの小形のハエで，体形はカに似て繊細で弱々しい。体は淡黄かっ色，翅(はね)は灰色でかっ色の斑紋(はんもん)がある。卵はダイズの小葉の葉柄の基部に産下される。孵化(ふか)した幼虫は葉柄中に食入し，ときに茎中にも食入する。ダイズの大害虫として知られ，マメウジともよばれる。本種の害を受けたダイズは葉や茎が枯れ，被害のはなはだしいときには株全体が枯死する。北海道・本州に分布する。

だいずさやたまばえ【大豆莢瘻蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・タマバエ科。体長3mmほどの小形のハエで，体形はカに似て繊細で弱々しい。体は灰かっ色，翅(はね)は淡灰色で広げた長さは7mm内外。卵は6〜7月ごろに落花直後のマメ科植物の若いさや中の豆粒付近に1粒ずつ産みつけられる。4〜5日で孵化(ふか)し，幼虫は乳熟粒の外部から吸汁(きゅうじゅう)して，約20日で黄かっ色で体表に多くの突起があるさなぎとなる。約1週間で羽化してさやから脱出する。本州・四国・九州に分布し，ダイズのほかハギ・クララなど各種のマメ科植物を加害する。

だいずねもぐりばえ【大豆根潜蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・ハモグリバエ科。小形のハエで，体長2mm内外。全体光沢のある黒色。卵ははじめ白色でのちにかっ色を

おび，地ぎわの茎の皮下に産み込まれる。孵化(ふか)した幼虫は皮下を根部まで下降し，そのままか土中に出てさなぎとなって越冬する。幼虫はダイズの害虫で，害を受けたダイズは生長が阻害され，葉が黄変したりさやの着生も悪くなり，枯死することもある。日本全国に分布し，成虫は5月ごろから出現する。

だいスンダれっとう　【大スンダ列島】　インドネシア，スンダ列島中のスマトラ*・ジャワ*・ボルネオ*・セレベス*の各島と，その周辺の島々の総称。アジア大陸南部に張り出したスンダ陸棚(りくだな)上の古い褶曲(しゅうきょく)山脈を骨格とし，陸棚の外縁部にあたるインド洋沿いに新しい造山帯が走り，その上に活火山が並んで火山活動が激しい。また，ここの地域は侵食が進んで準平原化した古い陸地が沈水してできたものといわれ，ジャワ海をはじめとするこの付近の海は一般に浅く，水深は約40mと一定しており，大陸棚外縁部の造山帯を除くと島々の海岸部は低平で，湿地が奥深く入り込んでいる。このため〈失われた大陸〉ともいわれる。マレー文化圏とよばれる海洋文化の舞台であり，現在ボルネオ北部以外はインドネシア領である。　〔大崎　晃〕

たいせい　【胎生】　動物の卵が受精してから自由生活をするようになるまでの場所が母体内であるものをいい，卵として産み出される卵生に対する語。胎生の動物の胚(はい)は，母体の生殖器官，中でもおもに輸卵管内にあって，母体から栄養の補給を受け，排出物は母体を通して排出する。単孔類を除いた哺乳(ほにゅう)類で見られるのは真の意味での胎生で，胚が付着している場所は輸卵管の変化した子宮である。母体と胚すなわち胎児の連絡は胎盤によっている。母体内で発生を続けて幼生として産まれるが，真の胎生のように母体と連絡しておらず，卵に卵黄が含まれ，これを栄養源とするものを卵胎生という。すなわち，単に母体内で発育・孵化(ふか)するような場合である。鳥類・魚類などにみられるほか，タニシ・マムシなども卵胎生を行なう。　〔蒲原春一〕

たいせい　【対生】　対生葉序ともいう。茎または枝の一つの節に，1対の葉が向き合ってついていること。アジサイなどのように，節ごとにその1対が次の節の葉と直角をなしているときは，十字対生という。

たいせいきん　【耐性菌】　一般に薬剤に対して抵抗性をもつようになった細菌をいう。人体に感染した病原菌の増殖を防ぐためには，人体の組織細胞を害しない範囲の濃度で，病原菌を殺すか増殖を押える化学薬品が使用されるが，化学療法*薬に対しては耐性菌が生じてくる。普通は細菌染色体DNA上の突然変異として生ずるが，近年まったく新しいタイプの薬剤耐性因子が見つかってきた。これは細胞質性DNA因子で，感染性薬剤抵抗性因子またはR因子とよばれるが，これはわが国で赤痢菌について発見されたものである。R因子は腸内細菌(大腸菌・サルモネラ菌・赤痢菌)の間では菌と菌の接触によって自由に伝達され，いくつかの薬剤に対する耐性を同時に発現する。初めは，サルファ剤・ストレプトマイシン・クロラムフェニコール・テトラサイクリンの4剤に同時に耐性のものがみつかり，さらにカナマイシン・アンピシリン(アミノベンジルペニシリンでペニシリン誘導体)などに対しても耐性を示すものが見つかってきて，今日では世界じゅうで種々の型のR因子がみつけられている。R因子をもつ大腸菌を腸内にもつ人が赤痢菌の感染を受けると，腸内でR因子が大腸菌から赤痢菌に移され，治療上大きな問題となる。また伝達性はないが，同じような細胞質性のDNA因子が黄色ブドウ状球菌(化膿(かのう)菌の一種)のペニシリン耐性を支配していることもわかっている。以上はほんの一例であるが，いずれにせよいかなる化学治療剤に対しても耐性菌が必ずできるので，つねに新しいタイプの薬剤の開発が必要とされている。　〔西岡泰三〕

たいせいけんせつ　【大成建設(株)】　わが国五大建設会社の一。1873年(明治6)に大倉喜八郎*の始めた大倉組商会が前身で，同年に(株)大倉土木組を設立，1876年に日本土木，1880年に大倉土木と改称，1945年(昭和20)に太平工業を合併して現在の社名になった。わが国ではじめて会社組織として建築請負を行なった会社で，第2次世界大戦後は建設業界では経営近代化にいちはやく踏み切り，1956年には株式を公開している。事業面では超高層ビルの建設や海外工事に意欲を燃やし，完工高は鹿島(かしま)建設に次いでわが国第2位。本社東京。資本金386億1,900万円，年間完工高6,527億円，従業員数12,579(1980年9月)。

たいせいほうかん　【大政奉還】　1867年(慶応3)10月14日，徳川15代将軍慶喜*(よしのぶ)が朝廷に対して政権返上を申し出たことに基づき，翌15日，朝廷がそれを受け入れた政治事件。これより先第2次長州征伐の幕府軍の敗退などにより幕府の無力が暴露され，薩長(さっちょう)同盟*による討幕運動が進展した。この情勢の中で土佐藩の坂本龍馬*(りょうま)らは公議政体論を説き，後藤象二郎*は前土佐藩主山内豊信(とよしげ)(容堂)を動かし，慶喜に政権返上を建白した。慶喜は武力討幕の動きをくじくため政権返上を決意し，これにより265年間続いた江戸幕府は滅亡した。しかし同14日，西郷隆盛*(たかもり)・木戸孝允*(たかよし)・岩倉具視*(ともみ)ら急進派は武力討幕のため討幕の密勅を得，12月9日王政復古*を宣言し，慶喜の辞官納地を要求し旧幕臣を挑発(ちょうはつ)して戊辰(ぼしん)戦争*へ向かわせた。　〔松尾　涼〕

たいせいよう　【大西洋】　ユーラシア大陸とアフリカ大陸，および両アメリカ大陸の間に広がる海洋。北は北極海，南は南極海に接し，太平洋・インド洋とともに世界の3大洋を形成する。面積は太平洋に次いで世界第2位で，主海域だけで8,244万km^2，平均深度は3,926mで，最深部はプエルトリコ海溝(かいこう)西方にあるミルウォーキー海淵(かいえん)で9,219m。おもな付属海には北海・バルト海・メキシコ湾・カリブ海などがある。赤道を境として，北大西洋と南大西洋に分けることもある。海底の地形は，アイスランドから55°Sにあるブーベ島まで，南北に長い海嶺(かいれい)が走る。アゾレス諸島やアセンション島はこの海嶺上にある。

海流は，赤道をはさんで暖流の北赤道海流と南赤道海流が西流し，それぞれメキシコ海流とブラジル海流となって北上，南下している。寒流は，北半球ではグリーンランド西方バフィン湾からのラブラドル海流，北極海からの東グリーンランド海流があって，それぞれ北アメリカ東岸のニューファンドランド島付近と北海で暖流のメキシコ海流と交会して，好漁場をつくっている。南半球では，西風漂流*が環流して生ずるアフリカ大陸西岸沿いのベンゲラ海流と南アメリカ東岸沿いのフォークランド海流が，それぞれ北上している。

大西洋は，古来交通量の多い海洋で，すでに10世紀ごろノルマン人が北大西洋を横断して北アメリカ大陸に達したと伝えられているが，本格的な航海は1486年にバーソロミュー-ディアスによるアフリカ大陸南端の喜望峰発見と，1492年コロンブスによる西インド諸島の発見以後のことである。　〔長津一郎〕

たいせいようけんしょう　【大西洋憲章】　1941年8月14日，第2次世界大戦の戦争目的と戦後処理に関して，イギリス首相チャーチル*とアメリカ大統領ルーズベルト*が会談のあと発表した共同宣言。当時アメリカは参戦していなかったが，連合国を支持していた。この憲章は全8か条からなり，①領土不拡大，②民族自決によらない領土変更の否定，③政体選択の自由の尊重，被侵略国の領土回復，④自由な通商と資源の公平な配分，⑤労働基準・経済生活・社会保障改善のための国際協力，⑥恐怖・欠乏からの自由の保証，⑦公海自由の原則，⑧国際紛争の解決手段としての武力放棄，侵略国の武装解除，一般的安全保障機構設立，軍備の縮小などである。これらの諸原則は，第1次世界大戦におけるウィルソン*大統領の〈14カ条宣言*〉や〈四つの自由〉を再確認したもので，1942年1月1日，連合国共同宣言でも支持された。中でも，集団安全保障機構は大戦後国際連合として具体化されている。　〔折井一彦〕

たいせいよくさんかい　【大政翼賛会】　1940年(昭和15)10月12日，第2次近衛文麿(このえふみまろ)内閣によって国防国家体制確立の

一環として組織された官製的な国民統合団体。国民的政治力結集のための国民組織をつくる意図で，同年8月準備会が設置され，国民的運動である大政翼賛運動を推進する機関として組織された。内閣総理大臣を総裁とする全国組織で，〈臣道実践〉を唱え，上意下達・下意上通を目的とした。組織後，政府・軍部などの内部対立にからんで数度改組され，ついに政府に協力する公事結社となった。大日本産業報国会*・大日本婦人会*などを支配下に置いたが，その活動は国民生活の統制という戦時行政の補助的役割にとどまった。1945年6月13日，国民義勇隊が結成されるとともに解散。〔応和邦昭〕

たいせき　【堆石】　⇨モレーン

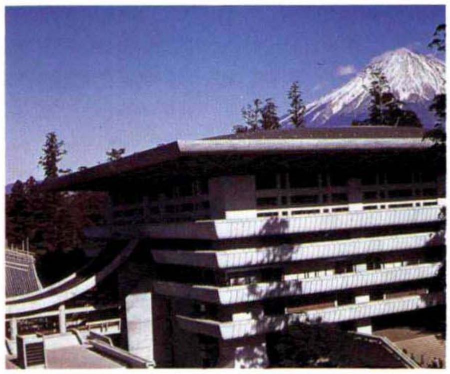
たいせき　【体積】　すべて立体は空間の一部分を占めているとみられる。その大きさをその立体の体積という。体積も，他の量と同様に，単位の体積を決めてその何倍にあたるかを数値によって客観的に表示できる。体積の計量単位として，1辺が1 mの立方体の体積すなわち立方メートルが定められており，そのほかに補助計量単位として立方ミリメートル・立方センチメートル・リットル・デシリットル・キロリットルなどがある。また，容器などの大きさを表わす場合に，中に入れることのできる最大限の体積をとって，これをその容器の容積という。簡単な二，三の立体の体積 V は，次の公式で求められる。

直方体(縦 a，横 b，高さ c)　$V=abc$
角柱・円柱(底面積 S，高さ h)　$V=Sh$
角錐(かくすい)・円錐(底面積 S，高さ h)
$V=\frac{1}{3}Sh$
球(半径 r)　$V=\frac{4}{3}\pi r^3$　〔富田芳秀〕

たいせきがん　【堆積岩】　水流や風などで運搬されてきた物質が水底または地上に降下して積もってできた岩石*であるが，固化するまでには堆積後に続成作用*を受けている。積成岩ともいう。運搬の条件や堆積の環境が変われば，でき上がる堆積岩の性質も変わるので，一般の堆積岩は性質が少しずつ違う層が重なり合って層理*を示す。

〔堆積岩の分類〕堆積岩はそのでき方によって，砕屑(さいせつ)岩*と沈殿岩*に大別される。砕屑岩は，岩石および造岩鉱物の破片や粘土鉱物などの風化生成物が機械的に運搬されてきて堆積したものであり，沈殿岩は水溶液になって水流とともに流れてきた物質が，化学変化または生物の働きによって沈殿し堆積したものである。砕屑岩は主として粒度により，礫岩*(れきがん)・砂岩*・泥岩*(でいがん)などに分類される。沈殿岩には，石灰岩*・チャート*などのほかに，鉄鉱層やリン鉱層などの特殊なもの，海水が蒸発してできる蒸発岩，生物の遺体が集積した生物岩*などがある。

〔堆積岩の化学組成〕堆積岩は，それができるまえに風化作用と運搬作用の影響を受けているので，火成岩*に比べて化学組成の


大 石 寺　大客殿

範囲が広くなり，極端に二酸化ケイ素 SiO_2 の多いもの(チャートやセキエイ砂岩)，極端に酸化カルシウム CaO の多いもの(石灰岩)，極端に酸化アルミニウム Al_2O_3 や酸化鉄(Ⅲ) Fe_2O_3 の多いもの(ラテライト)などまである。三角図を見れば，火成岩との比較が一見して明らかである。

〔堆積岩の鉱物組成〕堆積岩を構成している鉱物は，砕屑源の鉱物，堆積当時に晶出した自生鉱物，続成作用でできた鉱物などに分類できる。砕屑源の鉱物は，風化作用に抵抗して残留したセキエイなどと，風化作用で生まれた粘土鉱物などとが主体であるが，後者の一部は自生鉱物としても生成される。沈殿岩の主成分鉱物はみな自生鉱物である。続成作用による鉱物は，砕屑源あるいは自生の鉱物の粒子の間のすきまを埋める形で産するセキエイ・ホウカイ石・カッテツ鉱などが主であるが，火山ガラスが変質してフッ石*になるような例もある。

〔堆積岩のすきま〕堆積岩のできはじめには，粒子と粒子は軽く接している程度であるから，すきまがかなり多い。全体の容積の中ですきまが占めている割合を孔隙率(こうげきりつ)というが，孔隙率は25～50％に及んでいる。上に新しい堆積層が重なっていくにつれて，その圧力のために圧縮され，孔隙率はしだいに小さくなる。また海底堆積層の場合は，これらのすきまが海水で満たされており，それは周囲の鉱物とたえず反応を続けて続成作用を行なう結果，すきまが埋められていく。

堆積岩のすきまの中で，お互いに連絡があって流体の通路になり得るものは，地下水や石油の貯留される場所として重要である。地熱発電*に利用される熱水*が貯留されているのも，そのような場所である。

〔堆積岩の利用〕堆積岩の中で，化学組成が極端に分化したものは，資源として重要である。世界の鉄鉱・リン鉱・カリ鉱・ボーキサイトなどは，その大部分あるいは全部が堆積岩である。またセキエイ砂岩はガラス原料などとして，石灰岩はセメントその他種々の化学工業原料として大量に利用されている。石炭・石油についてはいうまでもない。〔片山信夫〕

たいせきさよう　【堆積作用】　堆積岩*のできる経過は風化・侵食・運搬・堆積・続成作用の5段階に分けて考えられる。この中で堆積作用は運搬作用と深く関係しながら，空中から陸上へ，水中から水底へ行なわれるのが普通である。空中でも水中でも堆積する速度は，空気や水の流れの速さ，物体の種類・大きさ・形・比重に深く関係するが，多くの場合は規則正しい沈殿・堆積が起こり，水流の速度，物体の種類・大きさ・形・比重による分級が明瞭(めいりょう)に行なわれる。このような堆積作用は主として力学的な作用によって行なわれ，その仲立ちをするものには空気(風)・水(地下水・湖沼・河川・海水など)のほか，氷河・火山作用・がけくずれなどがある。堆積は分級だけでなく，水流や風の力・量・方向，局部的な差にも大いに影響されてその状況を変える。

以上の力学的作用による堆積のほかに，水にとけた物質が化学的な作用で沈殿・堆積する場合もあり，有機的な生物の作用で沈殿・堆積する場合もある。前者は干あがった塩湖に生じる岩塩，コウセッコウ*などであり，後者にはサンゴ・ケイソウ・有孔虫などの生物が集積した石灰岩・白雲岩・チャート・含鉄層などがある。堆積の場所が違うと，それぞれに特徴ある堆積作用が行なわれる。堆積の場所は陸上では一般にいう陸地のほかに特徴ある地域としては，火山地方・砂漠(さばく)・氷河などがあり，陸水のある場所では河川・湖沼・地下水によって生じた洞穴(どうけつ)などがある。沿岸の淡水と塩水のある場所は海岸・三角州・潟(かた)・河口などであり，海域では浅海・半深海・深海などである。堆積は地域の条件以外に，気候・雨量，海陸の形態によっても左右され，それぞれに特徴をもつ。

〔平山　健〕

たいせきじ　【大石寺】　静岡県富士宮市にある日蓮正宗*(にちれんしょうしゅう)総本山。山号は大日蓮華山。日蓮の高弟日興は，日蓮没後身延山にあったが周囲と折り合わず，1289年(正応2)同山を去り，1290年南条時光の請いにより当寺を創建したという。富士門流の祖。江戸時代は寺領六十七石。徳川家宣(いえのぶ)の室天英院の寄進を受け，伽藍(がらん)も完備し栄えた。1900年(明治33)日蓮宗富士派と称していたのを，1912年日蓮正宗と公称。昭和初期創価学会*の出現とともに宗門が発展した。日蓮の直書，日興の遺墨，今川・武田(たけだ)両氏，徳川家康(いえやす)などの文書が残っている。〔杉坂靖子〕

たいせきせいこうしょう　【堆積成鉱床】　有用元素の堆積によって生成した鉱床。一般に，堆積岩にはさまれて層状をなす。ある種の鉄鉱床は含鉄溶液の化学作用に基づく沈殿によって生じたもので，ヨーロッパ中央部の鉄の鉱層はこの種の鉱床であり，イタリアのシチリア島のイオウ，東ドイツ

のマンスフェルド銅鉱床も化学作用によって沈殿した堆積成鉱床である。また，地表の岩石中の重くて風化に強い鉱石鉱物が，流水の作用によって淘汰(とうた)されてできた砂鉱床も堆積成鉱床の一種。〔今井秀喜〕

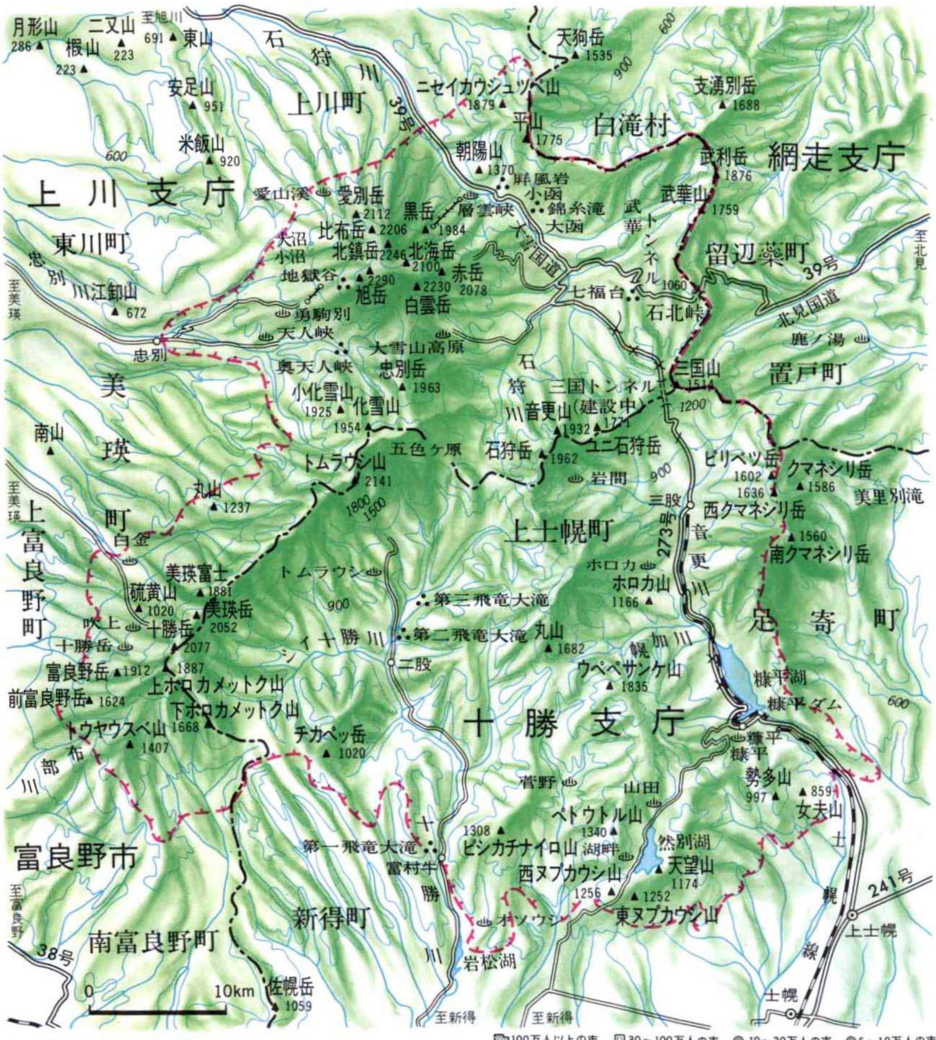
たいせきへいや　【堆積平野】　⇨平野

たいせつ　【大雪】　二十四気*の一。陽暦の12月7日ごろにあたる。太陽黄経は255°。気圧配置は西高東低となることが多くなり，中部地方の平野部に初雪を見，南国でも霜が降りるようになる。

たいせつ　【体節】　環形動物・節足動物などに見られるようなからだの前後軸に沿って周期的にくり返されているような立体的な構造のこと。たとえば，ゴカイやミミズでは外部からもいくつかの輪状の構造が見られるが，これと一致して各節ごとに同じように腎管(じんかん)・神経節・横行血管などがある。このように体節がほとんど同じような形態をもつときを等体節制という。エビやカニなどでは頭胸部・腹部に分かれ，こん虫では頭部・胸部・腹部の区別があるので，これらは不等体節制とよばれる。
〔蒲原春一〕

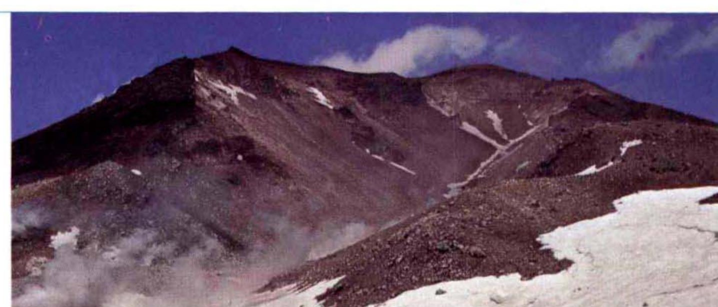
たいせつき　【体節器】　⇨腎管(じんかん)

だいせつざん　【大雪山】　北海道中央部の大雪山国立公園*北部に集まる火山群の総称。径約2kmの中央火口(御鉢平(おはちだいら))を取り巻いて標高2,000m前後の火山が噴出して形成され，最高峰の旭岳*(あさひだけ)(2,290m)のほか北鎮岳・黒岳・白雲岳などがそびえる。旭岳は東北地方南部の燧ケ岳(ひうちがたけ)(2,346m)以北の最高峰である。大雪山の東側では石狩川の源流が層雲峡を，南側では忠別川が天人峡をうがっている。



大雪山国立公園

だいせつざんこくりつこうえん　【大雪山国立公園】　北海道の中央高地をなす大雪山*一帯の地域で，1934年(昭和9)，国立公園に指定された。面積2,319km²。日本最大の山岳公園で，北海道最高峰の旭岳(あさひだけ)(2,290m)をはじめ，十勝岳(2,077m)・石狩岳(1,962m)・ニペソツ山(2,013m)・ウペペサンケ山(1,835m)などの高山が連なり，雄大な山岳風景を展開する。原生林が広がり，雲ノ平・高根ケ原・五色ケ原などの花畑，糠平湖(ぬかびらこ)や然別湖(しかりべつこ)などのカルデラ湖もあり，糠平温泉がある。北部の石狩川の上流は柱状節理の火山岩が並立する渓谷美(けいこくび)に恵まれ，特に層雲峡が名高い。国道39号線が上川町から層雲峡を経て石北峠へ通ずる。〔木村東一郎〕



大雪山国立公園
大雪山の主峰旭岳。西側山腹の地獄谷から望む。硫気孔からの噴煙で山はだは荒れている。このやや下手に姿見ノ池がある

だいせつさんみゃく　【大雪山脈】　ターシュエ山脈　中国，四川省西部の山脈。揚子江上流部の支流，大渡河と雅礱江(がろうこう)の間を南北に走る。崑崙(こんろん)山系が南へ屈曲してインドシナ山系に連なる部分にあたり，チベット高原の東縁をなす。主峰はミンヤコンカ(貢嘎(こうかつ)山)で標高7,590m。地形は高峻(こうしゅん)で，6,000mを越える山山が氷河をいただいて連なり，東はしだいに低くなって岷江(みんこう)に達し，有名な峨眉(がび)山(3,035m)はその東端の断層崖(だんそうがい)上にそびえている。南端では小相嶺(しょうそうれい)・大涼山脈となって分岐しつつ雲貴高原に連なる。〔船越昭生〕

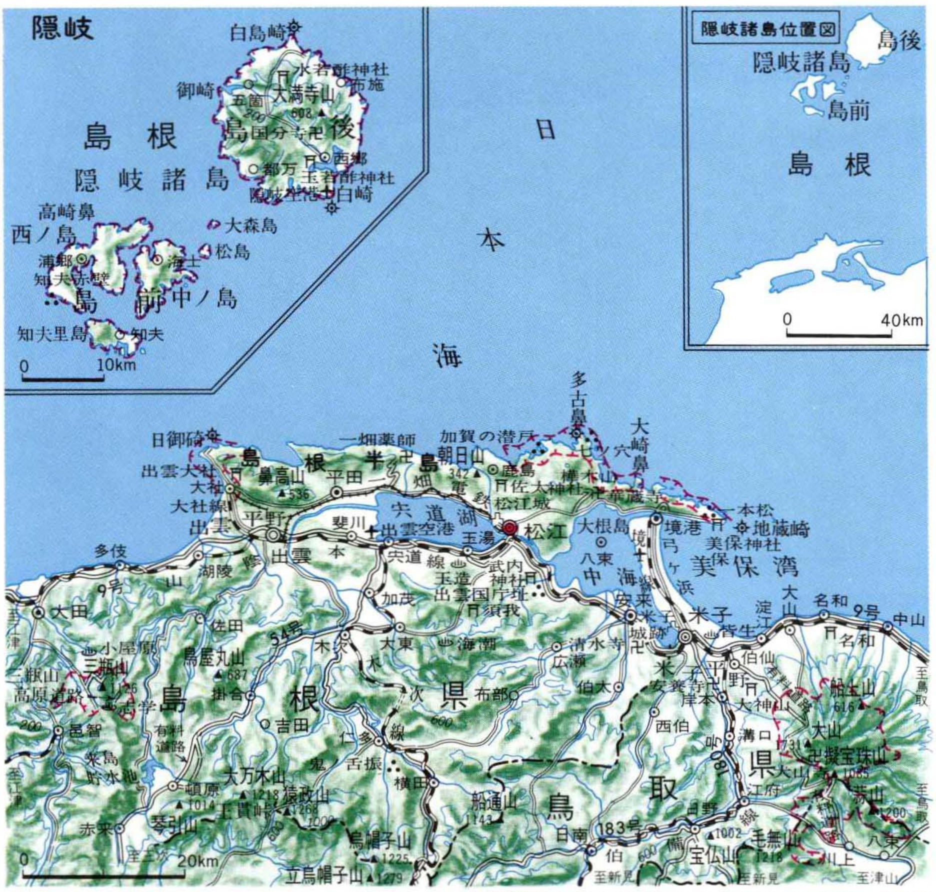
だいセルビアしゅぎ　【大セルビア主義】　セルビア人によって，南スラブ系諸民族を政治的に統一しようとする民族主義。19世紀半ばごろ，ロシアの汎(はん)スラブ主義*が広まり，オーストリア-ハンガリー帝国が成立するという情勢の中で唱えられ始めた。1908年の青年トルコ党*の革命を契機に，オーストリアがスラブ系民族の住むボスニア・ヘルツェゴビナ両州を併合すると，オーストリアとセルビアとの対立は決定的となり，第1次世界大戦の遠因となった。1912年・1913年の両次バルカン戦争*を経て，セルビア民族主義は1914年6月のサラエボ事件*

で，極端な形で爆発した。この事件は，セルビアとオーストリアとの対立から各ブロック間の対立，さらには最初の世界戦争へと発展した。戦後の1918年，セルブ・クロアト・スロベーヌの各国が成立して，大セルビア主義はいちおう実現した。しかし，なんらの社会変革をも伴わなかったため，各民族主義の間の矛盾は解決されず，南スラブ諸民族の統一は，ユーゴスラビア人民共和国の成立まで持ち越された。〔山県弘志〕

たいせん【苔癬】 丘疹(きゅうしん)が無数にできて，その状態が長く続くものの総称。個々の発疹が，水疱(すいほう)になったり，化膿(かのう)・破壊したりすることはない。苔癬とよばれる病気のおもなものには，ウィダール苔癬*，半米粒大の丘疹ができてかゆみが強いアミロイド苔癬，紅色苔癬(→扁平(へんぺい)紅色苔癬)，光沢ある丘疹を生ずる光沢苔癬，丘疹内に粘液様物質がたまる粘液水腫(すいしゅ)性苔癬，毛孔に一致して丘疹を生ずる毛孔性苔癬などがある。〔田嶋公子〕



ダイゼン



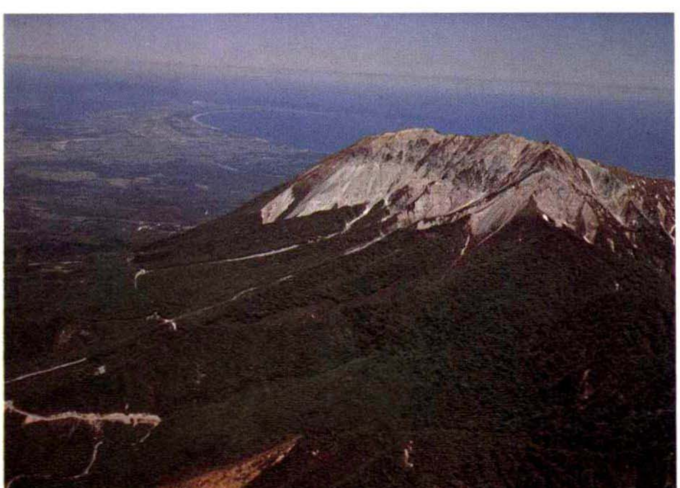
大山隠岐国立公園

だいせん【大山】 鳥取県西部，中国山地上にそびえる火山。標高1,713mで，中国地方の最高峰をなす。南北と東の山頂部は崩壊・侵食が激しく峻峰をつくるが，西面は伯耆富士(ほうきふじ)といわれる秀麗・雄大な山容をもつ。中腹以下はゆるやかな傾斜をもつ長いすそ野が広がり，日本海に達する。古くから信仰の山として知られ，北麓(ほくろく)の780mの高地に大山寺・大神山神社とその門前集落の大山寺部落がある。低木・草木帯のダイセンキャラボクの純林は特別天然記念物に指定されている。大山隠岐(おき)国立公園*の主要部をなす。〔高野 繁〕

だいぜん【大膳】 鳥類・チドリ科。全長30cm前後の丸みのあるからだつきの鳥。冬羽は全体に灰かっ色であるが，夏羽は顔から胸腹部にかけて純黒色，上背面は白と黒かっ色のまだら状になり，美しい。北極海周辺で繁殖し，日本には春秋に干潟(ひがた)や川原などに渡来し，少数は越冬する。

だいせんいん【大仙院】 ⇨大徳寺

だいせんおきこくりつこうえん【大山隠岐国立公園】 鳥取・岡山・島根の3県にまたがり，大山*，隠岐諸島の沿岸，島根半島の一部，三瓶(さんべ)山を含む地域。面積319km²。1936年(昭和11)にまず大山が国立公園に指定され，1963年にその他の地域が追加された。大山北方の船上山(616m)は1333年(元弘3・正慶2)に名和長年が後醍醐(ごだいご)天皇を擁して挙兵したことで知られる。上蒜山(かみひるぜん)(1,200m)は雄大な山容で，南麓(なんろく)一帯に広がる蒜山原では乳牛の放牧が行なわれ，国民休暇村があって，スキー客でにぎわう。大山道路・大山環状道路・蒜山道路などの有料道路がある。島根半島は沈水海岸で加賀の潜戸(くけど)や多古の七ツ穴などの名勝地がある。隠岐には松江，境港から定期航路が通じ，島前(どうぜん)の国賀海岸は景勝地として知られ，島後の国分寺跡・黒木御所跡は史跡に指定されている。〔木村東一郎〕



大山隠岐国立公園
雄大な山容を誇る大山。中国地方の最高峰にふさわしく，頂上付近は開析を受けて山はだが鋭く刻まれている。遠景は日本海で，島根半島が細く延びている

だいせんじ【大山寺】 鳥取県西伯郡大山町にある天台宗の寺。弓ヶ浜を眺望(ちょうぼう)する風光明媚(めいび)の地に建つ。開創は奈良時代にさかのぼるという。古くから修験道場として知られたが，平安時代になって天台宗の寺院として伽藍(がらん)を構え，信仰の中心となった。阿弥陀堂(あみだどう)は現存する唯一の古建築で室町時代の再建，定朝様の丈六の《阿弥陀坐像(ざぞう)》を安置している。

たいそ【太祖】 中国・朝鮮・ベトナム各王朝の初代皇帝の廟号(びょうごう)。初代皇帝の中には高祖の廟号をもつ者もあり，三国・六朝(りくちょう)では，一王朝中に太祖と高祖が重なる場合がある。なお，劉知機(りゅうちき)の《史通》の解釈によれば，古代の天子の廟号は有功の者を〈祖〉，有徳の者を〈宗〉とつけたという。三国魏(ぎ)の曹操(そうそう)(武帝)，後涼の呂光(りょこう)，南斉(なんせい)の蕭道成(しょうどうせい)(高帝)，北魏の拓跋珪(たくばつけい)(道武帝)，北周の宇文泰(文帝)，後梁(こうりょう)の朱全忠，後唐の李克用(りこくよう)，後周の郭威，宋(そう)の趙匡胤(ちょうきょういん)，遼(りょう)の耶律阿保機(やりつあほき)，金の阿骨打(アクダ)，元のジンギス汗，明(みん)の朱元璋(しゅげんしょう)(洪武帝)，清(しん)のヌルハチ，高麗(こうらい)の王建，朝鮮の李成桂(りせいけい)，ベトナムの李公蘊(りこううん)・黎利(れいり)ら。〔勝村哲也〕

たいそう【体操】 身体の円満かつより完全な発育・発達を目標とする身体運動。身体各部は適度な使用によってその機能は強化され，使用を怠ることによって退化し，機能は失われる。このような原理にのっとり体操は，①筋骨の発育を助成するとともに内臓諸器官の機能を高め，健康を保持・増進させる。②身体各部の欠陥を矯正(きょうせい)し，均整のとれた身体を創造する。③身体の衰退を防止・抑制する。④基礎的な運動能力を培養し，柔軟性・敏捷(びんしょう)性などの特徴があり，具体的な目的と効果などの相違により，さまざまな種類があって，名称がつけられている。特定の目的をもって組み立てられた体操には準備体操・整理体操などがあり，特定の効果を意図して組み立てられた体操には療養体操・美容体操などがある。さらに体操に使用する器具，それを行なう主体によって分類する場合には，徒手体操・手具体操・器械体操・学校体操・青年体操などがあげられる。これらのほかに，国家的見地から開発され，改良が加えられてきたデンマーク体操・スウェーデン体操・ドイツ体操などもある。

〔沿革〕 古代ギリシアにおいては，走・跳・投・ボクシング・レスリングなどが裸で行なわれたが，これらは闘争用の身体づくりが主体であった。その後しだいに平和時の保健用の運動に変化していき，体操あるいは体操観がいちおうのまとまりをみせたのは18世紀になってからである。

器械体操は〈ドイツ体操の父〉とよばれるヤーン(1778～1852)によって考案され，その目的はドイツ復興の基礎づくりに置かれた。ヤーンは，身体強靭(きょうじん)で勇敢な青年が荒廃したドイツを復興しうると信じ，連邦統一のための共同体意識の高揚に努めた。これより少しまえ，デンマークでは，ナハテガルによって1799年にコペンハーゲンに私立体操学校が設立され，国民性に合致した独自の体操が考案されていたが，その目的はデンマークが列強諸国と隣接していたため，祖国防衛のための強健な身体を創造することにあった。スウェーデンにおいても同じころ，リング(1776～1839)が，近代体操の独自の運動形式のもとにおける理論体系を樹立し，健康で勇敢な国民の養成に力を注ぎ，独自の民族体操であるスウェーデン体操を考案した。彼の体操は，運動技術や意志鍛練は二次的なものとされ，健康体の創造，身体欠陥の除去が第一義と考えられた医学的根拠に基づく主知的な体操であって，彼はこの科学的な精神から体操を目的別に四つの部門に分類した。すなわち，教育体操・兵式体操・医療体操・美容体操がそれである。ヤーンの考案した器械体操もその後ドイツにおいて水平木棒・平行棒・鞍馬(あんば)などの種目に分けられ，ドイツ体操の重要な位置を占めていたが，スウェーデンにおいては，器械は，身体欠陥の矯正用として，肋木(ろくぼく)・横木・階梯(かいてい)などが使用され，その目的はあくまで運動の効果に主眼が置かれたものであり，技術練磨(れんま)などの目的を持ったものではなかった。

20世紀にはいると医学的合理主義に基づく主知的あるいは矯正的な体操を受け継いでそれを改善しようとする動きと，新たに人間の生命のリズムや情感を重視して，自然主義の立場から新しい体操を発見しようとする動きが生まれた。

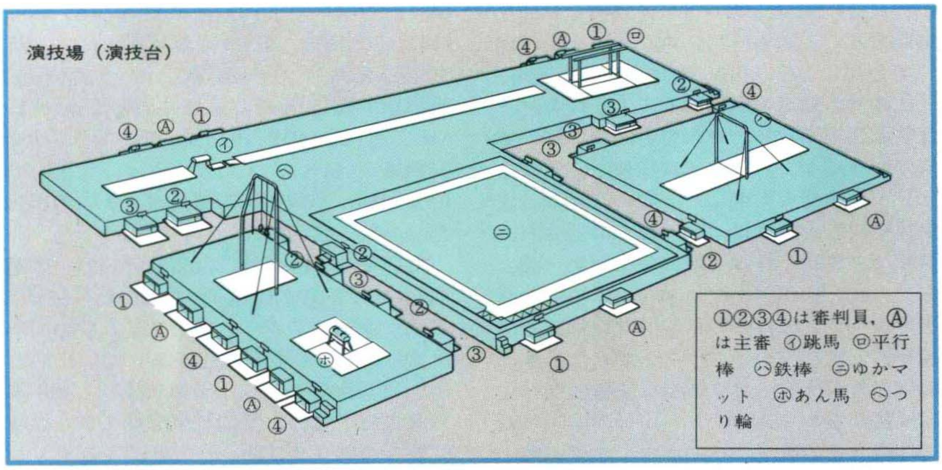
日本には1600年(慶長５)にオランダ人によって紹介されたが，天保(てんぽう)年間(1830～1843)に各藩に取り入れられ，洋式操練とよばれて実用化されたといわれる。明治になると一般に〈普通体操時代〉といわれ，その初期には幼稚ながら柔軟体操が主流であったが，富国強兵政策から強靭な身体創造の要請があり，兵式体操が採用された。1912年(大正１)にはスウェーデン体操が紹介され，大正の全年間を通してスウェーデン体操は全盛時代を築いた。昭和にはいると，1928年(昭和３)には，ラジオ体操の放送が開始され，翌年には全国体操大会も発足して，体操は気軽にできる親しみやすいものとなったが，一方ではしだいに軍事思想の普及が強調されるようになり，規律重視の理念のもとに体操は軍事色を深めていった。第２次世界大戦後体力増強・戦時訓練強化に塗りつぶされていた軍国主義的体操は一掃され，民主主義的・平和的な体操へと変容した。近代医学・生理学など科学的な根拠にたち，かつ心身の調和，全人格的な発達，生命の躍動に根ざす体操が各種の体操の長所を取り入れてつくられた。また，特定の目的をもつ医療体操・美容体操などがめざましい発展を遂げ，1957年にはマスコミを利用したテレビ体操なども誕生するところとなって現在に至っている。〔伊東春雄〕

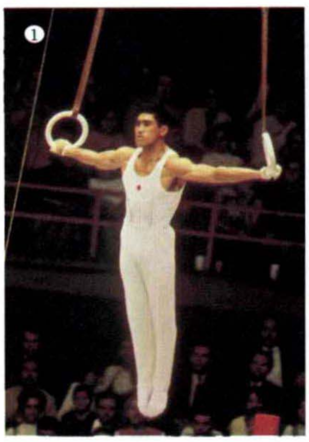
たいそう【太宗】 中国・朝鮮・ベトナムの皇帝の廟号(びょうごう)。初代皇帝太祖の事業を受け継いだ２代皇帝に多い。漢の劉恒(りゅうこう)(文帝)，梁(りょう)の蕭綱(しょうこう)(簡文帝)，北魏(ほくぎ)の拓跋嗣(たくばつし)(明元帝)，唐の李世民(りせいみん)，宋(そう)の趙光義(ちょうこうぎ)，遼(りょう)の耶律徳光(やりつとくこう)，金の完顔晟(わんやんせい)，元のオゴタイ汗，清(しん)の皇太極，朝鮮の李芳遠，ベトナムの李仏瑪(りふつま)・黎元龍(れいげんりょう)ら。

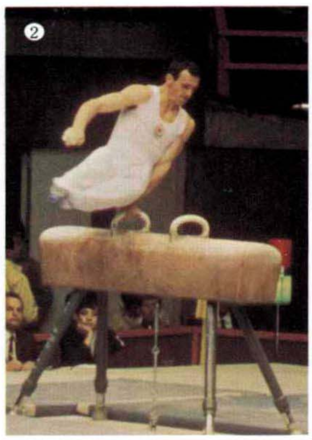
たいそう【太宗】 (1592～1643) 中国，清朝(しんちょう)第２代皇帝(在位1626～1643)。名は皇太極。ヌルハチの第８子。父の遺業を受け継いで清朝の基礎を築いた。1635年内モンゴルのチャハル部を滅ぼし，翌年国号を大清と改め，文物制度を整えた。以後，朝鮮を服属させ，明(みん)に圧迫を加えたが，中国本土進出の前年に没した。

たいぞうかい【胎蔵界】 密教の世界観で実在界を表わし，現象界を表わす金剛界に対する。梵語(ぼんご) garbhakośa-dhātu (ガルバコーシャ-ダートゥ)の訳で，実在世界はすべてを含みもつことにたとえる。その働きは，あたかも蓮華(れんげ)が花を開くように(蓮華胎蔵)，母が胎児を身ごもるように(胎体胎蔵)，すべてのものの原因(本有)であり，すべてのものの発展(大悲万行)である。この胎蔵界の理念と働きを具現化した仏が胎蔵界の大日如来であり，この尊を中心として描き出された曼荼羅(まんだら)が胎蔵界曼荼羅である。《大日経》の所説に従って展開され，その他多くの経疏(きょうしょ)がつくられた。〔金岡秀友〕

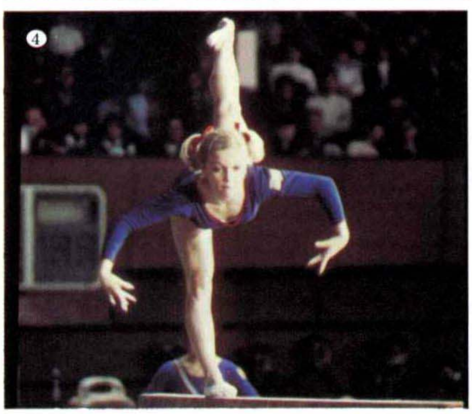
だいぞうきょう【大蔵経】 仏教の経典や論書などの典籍を集大成した叢書(そうしょ)。〈一切経(いっさいきょう)〉〈蔵経〉〈三蔵〉ともいう。現存の大蔵経は大別すると，パーリ語三蔵(南伝大蔵経)・チベット大蔵経・漢訳大蔵経の３種となる。①パーリ語三蔵：セイロン・ビルマなどの南方仏教徒が伝えたもので，経(ブッダの説法)・律(教団の規定)・論(経の注釈研究)の三蔵が完備している。上座部という小乗仏教の一部派の聖典であるから，大乗仏教の典籍はまったく含まれない。原典はパーリ語で書かれているが，日本では〈南伝大蔵経〉(65巻)の名で和訳出版された。②チベット大蔵経：チベット語に翻訳された仏教聖典。大乗・小乗にわたる経・律・論の三蔵が収録されており，カンギュル(甘殊爾)とテンギュル(丹殊爾)に大別される。７世紀ごろから翻訳が始まり，13世紀以後は数回の開板が行なわれた。それらにはナルタン版・デルゲ版・北京(ペキン)版・ラサ版などがあるが，日本では近年北京版に基づいて《影印北京版西蔵(チベット)大蔵経》(151巻)が出版された。③漢訳大蔵経：漢文に翻訳された仏教聖典の総称であるが，中国でつくられた著作をも含めてよばれる。宋(そう)代，971年に開板されて以後，中国・朝鮮・日本で20回余り開板された。最も完備したものは日本選述をも含めた《大正新脩(しんしゅう)大蔵経》(100巻)で











体操競技

①つり輪　②鞍馬　第19回オリンピック-メキシコ大会　③平行棒　④平均台　国際選抜体操競技大会　1970　国立代々木第二体育館

ある。なお，チベット訳や漢訳が依拠したサンスクリット原典の多くは散逸したが，一部がネパール・チベットその他で発見されている。上記の大蔵経のほかモンゴル語や満州語の大蔵経もあるらしい。

〔岡部和雄〕

たいそうきょうぎ　**【体操競技】**　徒手および器械を使用して行ない，演技の難度と構成を競うスポーツ。競技は一般種目と特殊種目に分かれる。一般種目は，男子ではゆか・鉄棒・平行棒・鞍馬(あんば)・つり輪・跳馬の6種目，女子ではゆか・段違い平行棒・平均台・跳馬の4種目である。特殊種目には，インディアンクラブ(棍棒(こんぼう))・タンブリング・クライミングロープ・トランポリン・団体徒手体操などがある。

〈ゆか〉 男女とも徒手体操・静止・平均・跳躍・倒立回転とび・宙返りなどのわざを組み合わせて，12m四方のマット上で50〜70秒以内(女子の場合は60〜90秒)に調和のとれたリズミカルな演技を構成する。女子の場合特に音楽の伴奏によって演技する。

〈鉄棒〉 高さ2.40〜2.50m，横2.40mの高鉄棒を用い，静止することなく，振動・足掛け上がり・前方回転・後方回転などのわざをもって構成する。

〈平行棒〉 男子は水平，女子は段違いの平行棒を用いる。男子は振動を中心としたわざ，両手を離して行なうわざ，力を示すわざ，静止わざなどを組み合わせて構成する。女子は懸垂と勢いをつけて行なう運動が主体で，上の棒，下の棒を自然の動きで結び合わせ，振動・回転・ひねりのわざをもって構成する。

〈鞍馬〉 長さ1.6m，幅36cm，高さ1.1mの皮張りの馬身で4脚をもち，馬背には12cmの取っ手が1対取りつけられた器具を用い，両足旋回をもって演技構成の中心とし，鞍馬の3部分(首部・鞍部・尾部)に左右の腕の重心を交互に移動させ，リズミカルに使うように構成しなければならない。

〈つり輪〉 天井からつりさげた二つのつり輪を振動させず，振動・力・静止などのわざを組み合わせて構成する。ほかに基本運動として，懸垂振動・腕立て懸垂・懸垂上がり・蹴(け)上がり・肩倒立などがある。

〈跳馬〉 規定および自由演技ともに男子は高さ1.35m，長さ1.60〜1.63m，幅35cm，女子は高さ1.10m，長さ1.60mの馬を縦に置き，片手または両手(女子は両手のみ)でとび越しを行なう。

〈平均台〉 10cm幅の細長い台上で行なわれる平均運動が主となっている競技。並み足・駆け足・跳躍・回転・ひねりなどのわざをもって構成する。

選手権競技は男女とも，団体総合・個人総合・個人種目別の3種類があり，いずれも各種目について規定・自由両問題が演技される。一般種目の場合，団体総合選手権は1チームは6人で編成され，各種目において各選手が規定問題，自由問題を演技した上で，上位5人の各問題，各種目の得点合計を総計し，チームごとの得点の多少によって覇(は)が競われる。個人総合選手権は，各選手の各種目の規定・自由問題の得点の合計が争われ，個人種目別選手権は，規定・自由両問題の得点合計が出場選手のうち6位までで，かつ全種目の平均得点が8点以上のものを選出し，さらにもう一度自由問題を演技させて，その平均得点を前の得点合計の平均に加えてその多少によって競われる。特殊種目の選手権は各種目ごとの規定・自由両問題の合計得点が競われるが，体操競技の中心はやはり一般種目であり，特殊種目の選手権が行なわれるチャンスはきわめて少ない。

採点は10点を満点とし国際体操連盟(FIG)の規定によれば，規定問題については，A部門(基礎部分)のほかにB部分(難度部分)を3〜4か所含み，価値は自由問題に比較して9.20〜9.40点を基準として構成されることになっており，比較的容易なものとなるが，問題作成にあたっては競技者全般のレベルに十分な配慮がなされ，各競技会ごとの問題は毎年新しくつくられて約1か年前に発表される。規定問題において，完璧(かんぺき)な演技の実施に与えられた得点は満点の10点であるのに対し，自由問題は実施のほかに難度と構成が重大な採点要素となる。オリンピック大会や世界選手権大会においてはA部分－6部分，B部分－4部分のほかにC部分(特別難度部分)－1部分をもたねばならず，最近はさらに独創性，あるいは危険に対する決断性を取り入れた

超C部分(ウルトラC)が満点の追求として実施されている。

審判は男子種目では4名の審判員と1名の主任審判，女子種目では5名の審判員，特殊種目は男女とも4名の審判員と1名の主任審判から構成される。また，団体徒手体操競技は男女とも7～9名の審判員から構成され，そのうち1名が主任審判員として選出される。各審判員の採点には独立性が重んじられ，例外を除いて，互いに協議することはない。

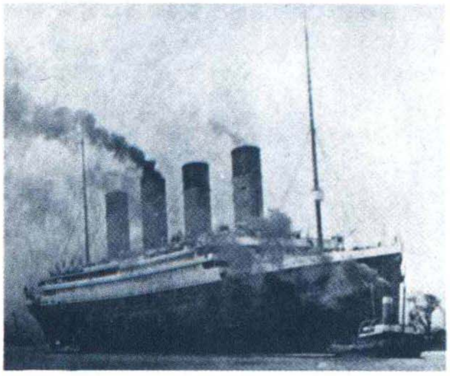
【体操競技の沿革】国際的な競技会においてはじめて体操競技が登場したのは1896年に開催された第1回オリンピック-アテネ大会である。またオリンピックとは別年に開催される世界体操選手権大会は，第1回がFIG主催のもとに1903年アントワープにおいて開催された。その後回を重ねるごとに参加国もふえ，今日の隆盛をみるに至った。現在FIG加盟国は63か国である。日本の国際的な体操競技会への初参加は1932年(昭和7)第10回オリンピック-ロサンゼルス大会であった。1946年には日本体操協会が結成され，1968年の第18回オリンピック東京大会において，男子チームが団体総合・個人総合ならびに個人種目別に優勝するという偉業を成し遂げるまでに成長した。また女子も団体総合3位を獲得し，現在では名実ともに世界の体操界をリードしているといえる。〔伊東春雄〕

だいそうこく【大宋国】⇨宋⑤

たいソかんしょうせんそう【対ソ干渉戦争】1918年から1920年にかけて，列強がソ連に出兵し干渉した戦争。その目的は，帝国主義的進出とソ連政権の転覆であったが，名目は各国によって異なった。ブレスト-リトフスク条約締結直後，ドイツがウクライナとバルト海沿岸に進出すると，イギリス・フランスは対ドイツ東部戦線を設定するため，1918年3月北ロシアに出兵，日本は居留民保護のため，4月ウラジオストクに派兵した。7月20日連合国は共同出兵を決定し，8～9月北ロシアとウラジオストクにそれぞれ上陸した(→シベリア出兵)。しかし，連合国間の利害の対立，ソ連赤軍の勢力回復，ドイツ降伏による対ソ干渉の名目喪失などにより，1920年夏までに連合国はソ連から撤兵した。日本だけはその後も駐兵したが，内外の批判の前に，1922年シベリアから撤兵した。〔折井一彦〕

だいだい【橙】双子葉植物・ミカン科。インド・ヒマラヤ地方原産で，樹勢強く，気候風土に対する適応性に富む。高さ4～5mに達する常緑小高木。果実は球ないし扁球(へんきゅう)形。果皮は熟すとだいだい色となり，香気が強くわずかに苦味がある。果肉は酸味が強く，生食されることは少ないが，ポン酢として利用される。日本では果実をウラジロ・ユズリハなどとともに正月の飾りに用いる。また，マーマレードの原料にする。


ダイダイ


タイタニック号　長さ259.08m　速力22ノット

乾燥した果皮は橙皮(とうひ)といわれ，芳香性苦味健胃薬に用いられる。さらに未熟な果実を乾燥したものは枳実(きじつ)といわれ，やはり芳香性苦味健胃薬に用いられる。

だいだいいそかいめん【橙磯海綿】海綿動物・尋常海綿綱・磯海綿目・イソカイメン科。体色がだいだい色の海綿で，日本各地の沿岸の潮間帯に普通にみられる。フジツボ類やカキ類などと同様，潮間帯下部の岩盤上に層状に分布するが，泥底(でいてい)上にみられることもある。体は不定形で変異に富むが，一般に殻層(かくそう)状で，ところどころに先に口を開いた突起をもつ。体内には，多数のケイ質一軸型の主大骨片をもち，桿状体(かんじょうたい)をなす。主として夏季に大きく成長し，冬季は目だたない。クロイソカイメン・ナミイソカイメンなどと混在することも多い。〔向井　宏〕

だいたいざい・ほかんざい【代替財・補完財】ある一定の効用水準のもとにおいて，互いに他の財貨と代替しても類似の効用をもたらす財貨を，代替しうる財貨を含めて代替財という。これに対して補完財とは，ある財貨の増大には必ずそれに伴って同様に増大しなければ，ある一定の効用をもたらすことができないものの関係をいう。

代替財の間には一定の代替率が存在する。これを代替効果という。ある特定の個人にとって一定の効用水準が与えられると，代替財相互の間にはその効用水準を維持する無差別曲線が描ける。その無差別曲線上のいろいろな点における接線の勾配(こうばい)を考えたとき，それはある財貨の犠牲を他の財貨によって償うにはどれだけの数量が必要であるかを示す。〔藤枝省人〕

だいだいり【大内裏】わが国の都城(平城京・平安京)における宮城をいう。都の北部中央を占め，その中に内裏(皇居)や官庁街があった。平安京についていえば，それは東西384丈(約1,164m)，南北460丈(約1,394m)で，約160万m²の長方形をなし，内裏・二官八省以下の官衙(かんが)，朝堂院・豊楽院(ぶらくいん)などの殿舎があった。鎌倉中期に炎上焼失してからは復興されず，内野とよばれていたが，応仁(おうにん)の乱以後は完全に消滅した。

タイタニックごう【タイタニック号】イギリスのホワイトスター会社が1911年に建造した豪華客船。総トン数46,328トン。処女航海でサザンプトンからニューヨークに向かう途中，1912年4月14日11時40分に北大西洋ニューファンドランド沖で氷山に衝突し，2時間40分後に沈没，乗組員・旅客2,208人中1,513人の犠牲者を出した。世界最大の海難事故といわれる。この事件がもとになって，船舶の安全についての認識が高まり，〈海上における人命の安全のための国際条約〉が制定され，これを受けて船舶安全法ができた。〔飯島幸人〕

ダイダロス［Daidalos］ギリシア神話の工匠。鍛冶神(かじしん)ヘパイストス*の子孫とされる。おいのタロスを弟子(でし)にしたが，そのすぐれた才能を恐れて殺したため死刑を宣告され，クレタ王ミノスのもとへ逃げた。彼はクレタ王妃パシパエが牡牛(おうし)を愛して生んだ怪物ミノタウロスを閉じ込めるため，迷宮ラビュリントス*をつくったが，迷宮からの脱出方法をアリアドネ*に教えたため，王の怒りに触れ，むすこのイカロス*とともに迷宮内に幽閉された。ダイダロスは自分と子どものために翼をつくり，空を飛んでシチリア島までのがれたが，イカロスは太陽に近づきすぎたため，翼の蠟(ろう)がとけ，海に落ちて死んだ。古代の遺物の中にはダイダロスの作とされるものが数多く伝わっている。〔松田　治〕

タイタン［Titan］アメリカのICBM用および宇宙探査用ロケット。液体燃料を使用し全慣性誘導装置をもつ。20Mtの水爆を積んで15,000kmを飛行するICBMとして配備されており，また人工衛星打ち上げのブースターとしてジェミニ計画に使われた。補助ロケット2基を両わきにつけたIIIC型は軍事用衛星の打ち上げに使われている。

だいち【台地】かなりの海抜高度をもつ平坦(へいたん)な地形をいう。平地がほぼ均等に隆起したもので，水平または水平に近い地層から構成され，形成の時期が新しい台地の表面では河川が発達していないが，古い台地の表面は河川によって侵食されていて開析台地とよばれる。また侵食が進んで平坦面が孤立している場合をメサとよん

でいる。外国ではアメリカ合衆国のコロンビア台地や中央平原，ソ連のロシア台地のように形成の時期が古くて広大なものが多いが，わが国では関東地方の武蔵野(むさしの)台地や常総台地，静岡県の三方原(みかたがはら)や牧野原，鹿児島県の笠野原(かさのはら)台地などのように洪積世(こうせきせい)に形成された新しくて小さなものが多く，その表面は火山灰におおわれていることもある。台地では地下水位が深いので，水を得る技術が未熟であった時代には集落の成立が困難であった。〔桑原正見〕

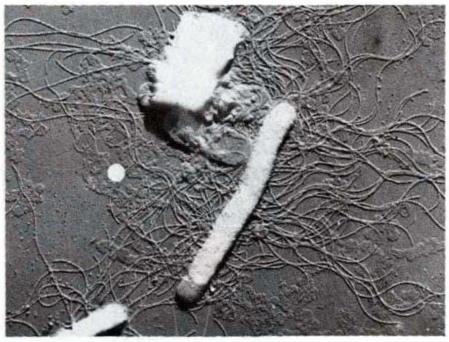
だいち【大地】パール-バック*の長編小説(1931)。貧しい農民から身を起こして大地主になる主人公一家を中心に，中国の民衆の姿と生活を描いたもので，ピュリッツァー賞を受賞して，一躍有名になった。続いて発表された《息子(むすこ)たち》《分裂した家》を合わせて三部作《大地の家》となった。

だいちどろん【大智度論】仏教書。ナーガールジュナ*(龍樹)の著作を，5世紀初めに鳩摩羅什*(くまらじゅう)が漢訳(抄訳)して100巻にまとめた。現存するのはこの羅什訳だけで，梵本(ぼんぽん)やチベット語訳は伝わらない。本書は《大品般若経(だいほんはんにゃぎょう)》の注釈を主眼としながらも，時の仏教内外の諸思想，歴史伝説，教団などについて言及・解説しており，さながら仏教百科事典の観がある。般若空観の立場から，菩薩(ぼさつ)思想や六波羅蜜(ろくはらみつ)の実践などが解明されている。後世の仏教教学に与えた影響は大きい。〔岡部和雄〕

たいちゅう【台中】タイチョン　台湾中西部の都市。人口44万8,000(1970年推)。1885年(明治18)，日本の統治開始以後にできた都市で，縦貫鉄道に沿い，台湾中部付近で産する米・タバコ・砂糖・樟脳(しょうのう)・果実などを集散する。南西岸の鹿港は，中国人の台湾移住時代の初期には対岸の福建省と連絡する重要な商港であった。南東の日月潭(じつげつたん)は観光地として知られ，また，台湾第一の水力発電が行なわれている。

たいちょう【泰澄】(682〜767)奈良時代の僧。越前(えちぜん)(福井県)の人。姓は三神氏。14歳のとき越知(おち)山に登って出家し，苦行を積む。702年(大宝2)鎮護国家法師(ほっし)となる。その後，加賀(石川県)の白山に登り，苦行して妙理大菩薩(だいぼさつ)を感得し，宮中における祈禱(きとう)の効験によって神融禅師の号を賜わる。758年(天平宝字2)越知山に帰り，67歳で寂。

だいちょう【大腸】消化管の終部で，ヒトでは長さ約1.5m，太さ約7.5cmの管。小腸*終部より腹腔(ふくこう)の右下すみから始まり，小腸の周囲を四角形に取り巻いて肛門(こうもん)で終わる。大腸に達した食物はすでにほとんど消化され，残滓(ざんし)的であるが，水分が多いかゆ状である。大腸では，主として水分をその粘膜を通して吸収し，



大腸菌　電子顕微鏡写真

振り子運動と蠕動(ぜんどう)によって消化運動を行なう。ヒトでは盲腸*・結腸*・直腸*に分けられる。〔高野一雄〕

だいちょうえん【大腸炎】大腸*粘膜の炎症。大腸カタルともいう。原因は伝染病菌またはその毒素によるもの，大腸菌*など腸間常在菌によるもの，インフルエンザなどのウイルスに伴うもの，化学的物質の摂取によるものなどに分けられる。特殊なものとして，虫垂炎*・クローン病・潰瘍(かいよう)性大腸炎*・腸結核*がある。症状は，腹痛・下痢(血液を混ずる場合もある)・腹鳴・悪寒(おかん)・発熱・悪心・嘔吐(おうと)など。治療はサルファ剤・抗生物質などの投与，さらに下剤を用いる場合や，逆に止痢剤を用いることもある。重症には輸液*も必要となる。小児および高齢者には生命を脅かすこともあるので注意を要する。➔腸炎

〔吉田　彰〕

たいちょうかく【対頂角】⇨角

だいちょうカタル【大腸カタル】⇨大腸炎

だいちょうきん【大腸菌】腸内細菌科・エッシャリキア属の細菌。普通は0.5×1〜3μのグラム陰性桿菌(かんきん)であるが，球菌に近い形態や非常に長い形態をとるものもある。胞子形成をせず，菌体周囲にべん毛を有する。通性嫌気(けんき)性菌で，好気的状態でよく発育し，最適温度は30〜37℃。ブドウ糖・乳糖を分解してガスと酸を生じ，クエン酸は炭素源として利用できない。主として動物の大腸内にみられ，非病原性であるが，一部の病原性大腸菌(O抗原によって分類されたO26，O55，O111など)による食中毒が知られ，また，尿路に侵入して尿路感染症を起こすこともある。大腸菌群(大腸菌および類似の細菌)は，食品や水の汚染の指標として用いられている。たとえば，水道水50mlには検出されてはならず，下水処理後の放流水は1ml中に3,000を越えてはならない。

タイツ［tights］ぴったりと膚に密着する下着をいう。体操服やバレエの舞台衣装のようにからだ全体を包むものもあるが，おもに腹部・腰部から続いて下肢(かし)全体を包むストッキング状のものをさす。素材は伸縮のよい布や編み物や合成繊維などが用いられる。幼児から成人に至るまで日常着・スポーツウエアに広く使用される。特にミニスカートの流行に伴って，くつしたやガードル不要のタイツが一部の女性に愛用されている。〔小池千枝〕

たいつりおうぎ【鯛釣黄耆】双子葉植物・マメ科。本州亜高山帯および北海道の低地の川岸にはえる多年草。地下に太い根があり，多数の茎を出し，高さ50〜60cm。葉は6〜9対からなる羽状複葉で，各小葉は長さ約1cmの卵状楕円(だえん)形で先端が少しへこむ。7〜8月，葉腋(ようえき)から花茎を伸ばし，2〜3個の黄色の蝶(ちょう)形の花をつける。果実は豆果で，長さ2〜3cmの広楕円形で扁平(へんぺい)，中に2個の種子を入れる。

たいでん【帯電】⇨電荷

たいでん【大田】テチョン　朝鮮南部，忠清南道の道庁所在地。人口31万5,800(1967)。かつては寒村であったが，1904年に鉄道京釜(けいふ)線が開通し，次いで1910年に湖南線の分岐点となってから急激に発展し，1932年には西方の公州より道庁が移された。米・ダイズ・綿・麻・皮革などを集散するとともに製糸・醸造・皮革・精米などの工場もある。北西8kmには儒林温泉があり，ソウルから訪れる人が多い。忠南大学がある。〔矢守一彦〕

だいでんきん【大臀筋】臀部にある強大な筋。骨盤上線の外面，仙骨(せんこつ)と尾骨の外線から始まり，大腿(だいたい)の外側面で広い靭帯*(じんたい)となって大腿骨の上部で終わる。ヒトでは，直立歩行を行なうようになってから発達したと考えられる。四足で歩行するものではそれほどの発達は認められない。この筋の内層には中臀筋・小臀筋があって，これらの筋と厚い皮下脂肪層などによって，ヒトの臀部にふくらみをつけている。この筋の作用は大腿を股関節*で曲げることである。〔高野一雄〕

たいでんぼうしかこう【帯電防止加工】合成繊維製品の静電気蓄積を防止する加工法。繊維製品は摩擦によって静電気を発生するが，天然繊維類やレーヨンなどの親水性繊維類は含有する水分によって除電される傾向があって帯電することが少ない。これに対し，アセテート・合成繊維類などの疎水性繊維類は，発生した静電気が蓄積して，電気量が大となり，布地が張りつく，空中の塵埃(じんあい)を付着してよごれる，火花を発するなどの障害を起こす。これを防除するために，繊維の表面に電気伝導度の大きい界面活性剤を付着させる。従来，これらの帯電防止剤は洗たくによって除去されるので，洗たく後に加工してそのまま乾燥する必要があったが，最近耐久的な帯電防止加工，除電効果をもつ繊維の混紡などによって静電気障害を防ぐ方式も開発されている。〔小川安朗〕

だいと【大都】⇨北京(ペキン)

だいドイツしゅぎ　【大ドイツ主義】 小ドイツ主義*に対立する立場で，1848年の革命の際にオーストリアを中心に旧神聖ローマ帝国の全領域を統合する大ドイツを建設しようとした主張。しかし，フランクフルト国民議会では小ドイツ主義が優位を占め，次いでプロシア-オーストリア戦争の結果，オーストリアがドイツ統一の主導権を失ったため，実現をみなかった。

たいとう　【台東(区)】 東京都中東部にある23特別区の一。北は荒川区，東は墨田区，南は千代田・中央の両区，西は文京区と接する。1947年(昭和22)下谷(したや)・浅草の両区が合併して成立。面積は10.0km²で23区中最小，人口は18万8,000。区域の大半は隅田(すみだ)川西岸の平坦(へいたん)な沖積地(ちゅうせきち)で，北西部に武蔵野(むさしの)台地の一部の本郷台がある。台地上には上野公園や谷中の寺院・墓地地区があり，平地部は主として商店の密集地域である。上野・浅草の両繁華街を中心として周辺に問屋街が広がり，東上野に神仏具，合羽橋(かっぱばし)周辺に台所器具，花川戸に履物(はきもの)，蔵前と浅草橋に玩具(がんぐ)・文具類，鳥越に洋がさなど，それぞれ同一業種の問屋街が集まる。東部には，もと浅草寺の境内であった浅草公園があり，映画館・劇場・飲食店などが集まり，東京で最も庶民的な盛り場となっている。浅草寺の門前にはみやげ物店が立ち並ぶ〈仲見世通り〉がある。浅草寺の北東にある浅草神社は，もと三社権現とよばれ，〈三社祭〉(５月17～18日)が昔から名高い。龍泉寺(りゅうせんじ)町の鷲(おおとり)神社はお酉様(とりさま)の通称で知られ，毎年11月に酉の市が立つ。鬼子母神を祭る入谷の真源寺の〈アサガオ市〉(７月６～８日)は一時中絶していたが，1958年に復活した。交通の中心は上野駅で，東日本各地と結ぶ国鉄の始発駅となるほか，国電山手線・京浜東北線・常磐線などが発着して活況を呈する。西方には京成電鉄と帝都高速度交通営団の地下鉄千代田線・同日比谷線・同銀座線，東方には東武電鉄・都営地下鉄１号線が通じ，南端には総武本線が東西に通ずる。道路交通では昭和通りが区域の中央を南北に走って，その延長は国道４号線(日光街道)となる。東部の隅田川沿いには国道６号線(水戸(みと)街道)が南北に走り，これらと交差して，春日(かすが)通り・浅草通り・言問(こととい)通りなどが東西に通じる。年中行事には〈鳥越夜祭〉(６月第２日曜日)があり，200人がかりでかつぐ東京一の大みこし(重さ４ｔ)が町内を練り歩くので知られる。〔浅井得一〕

たいとう　【台東】 タイトン　台湾，南東部の都市。人口約90,000。台東地溝帯(ちこうたい)の南端にあたる。東岸で最初にできた港で，北の花蓮(かれん)港との間に鉄道が通じ，また台湾西部とは楓港(ふうこう)道路によって結ばれている。農産物の集散地で，日本統治時代につくられた台東製糖工場は，東部における製糖の中心をなしている。北郊の馬蘭(ばらん)には飛行場があり，市街の南には温泉がある。

たいどう　【胎動】 胎児の運動。胎動の自覚は個人差があり，また初産と経産では違うので，時期は必ずしも一定でない。だいたい妊娠５か月末ごろより活発となり，自覚するようになる。➔妊娠

だいとう　【大東(市)】 大阪府中東部の市。人口114,000。江戸時代は通称野崎観音として知られる曹洞宗(そうとうしゅう)慈眼寺の門前町で，大阪商人が寝屋川を屋形船で通う〈野崎参り〉が盛んであった。1956年(昭和31)北河内(きたかわち)郡住道(すみのどう)町・四条町・南郷村が合併して市制を施行。市域は生駒(いこま)山地西斜面から河内平野へかけて東西に広がる。平野部は江戸中期まで深野(ふこうの)池・新開池のあった標高３～５ｍの低湿地で，市街地は寝屋川と旧大和(やまと)川の支流恩智(おんち)川の合流点周辺のやや高い自然堤防上に発達する。産業三大別人口比は１：51：48。深野池・新開池は元禄(げんろく)～宝永年間(1688～1710)の大和川のつけ換え工事以後干拓新田化されて，米・麦のほか，野菜類の栽培が行なわれる。最近は中心部の住道地区に鐘淵(かねがふち)紡績・三洋電機などの大工場が進出し，東部の生駒山のふもとにはメリヤス・金網・鉄線などの中小工場がある。国鉄片町線・国道170号線に沿い，1959年には東部の寺川地区から生駒山地西斜面の急崖(きゅうがい)を走って奈良市へ通ずる阪奈道路(有料道路)が通じた。東郊に古戦場で知られる飯盛(いいもり)山とそのふもとの四条畷(しじょうなわて)(➔四条畷の戦い)がある。

だいとう　【大東(町)】 島根県北東部，大原郡の町。人口17,000。1956年(昭和31)旧大東町と海潮(うしお)村が合併して発足した。養鶏が盛んで，鶏卵を京阪神(けいはんしん)方面に共同出荷している。木次(きすき)線に沿う。東部に海潮温泉，阿用(あよう)地区にモリブデン鉱山がある。

だいどう　【大同】 タートン　中国，山西省北部の都市。人口約50万。大同盆地の中心にあり，京包・同蒲(どうほ)両鉄道の交点で，交通・産業の要地である。古くから漢民族の北方に対する軍事拠点で，遊牧民族との係争地であった。４世紀末には鮮卑族の拓跋部(たくばつぶ)が，北魏(ほくぎ)王朝を建ててここに都を置き，10世紀からは契丹(きったん)族の領土になったことがある。従来は付近の農産物や内モンゴルの物産の集散地であったが，埋蔵量の豊富な大同炭鉱を控えているため，近年は華北における工業都市として著しく発展した。市の西部には，北魏時代の作とされる雲岡(うんこう)の石仏があるほか，市内には華厳(けごん)寺などがある。〔日比野丈夫〕

だいとうあきょうえいけん　【大東亜共栄圏】 太平洋戦争当時，日本が主張した西洋勢力からの解放と共存共栄をめざす，日本を盟主とする東アジア諸民族のブロック。1938年(昭和13)11月の第１次近衛(このえ)内閣による東亜新秩序建設構想をもとに，1940年第２次近衛内閣の外相松岡洋右*(ようすけ)が，日満華３国を軸とし南方諸国を加えた大東亜共栄圏の確立を提唱し，それ以後戦争の拡大する中で唱えられ続けた。実質的には中国・東南アジアへの侵略を合理化するものであった。〔応和邦昭〕

だいとうあしょう　【大東亜省】 1942年(昭和17)11月に拓務省対満事務局，興亜院，外務省の東亜・南洋両局を併合して新設された省。太平洋戦争中の大東亜共栄圏*における植民地行政の一元化をねらったもので，軍部の要求で設置された。1945年９月第２次世界大戦終了とともに廃止。

だいとうあせんそう　【大東亜戦争】 1941年(昭和16)12月から1945年８月までの太平洋戦争*を，当時日本では大東亜戦争とよんだ。中国および東南アジアへの侵略を合理化するためにかかげられた大東亜共栄圏*・東亜新秩序建設などのスローガンと関連させた呼称で，戦争美化の意味合いが強い。

たいとうかんけい　【対当関係】 論理学において主語も述語も同じで，全称か特称か(量)，あるいは肯定か否定か(質)で異なる二つの命題の真偽の関係をいう。これには４種ある。①矛盾対当：全称肯定命題Ａ(たとえば〈すべての人間は理性的である〉)と特称否定命題Ｏ(〈ある人間は理性的でない〉)，および全称否定命題Ｅ(〈すべての人間は理性的でない〉)と特称肯定命題Ｉ(〈ある人間は理性的である〉)との関係。一方が真であれば他方は必ず偽であり，一方が偽であれば他は真である。②反対対当：ＡとＥとの関係。一方が真であれば他は偽である。しかし，一方が偽であっても他が真であるとはかぎらない。③小反対対当：ＩとＯとの関係。一方が偽であれば他は真であるが，一方が真であっても他が偽であるとはかぎらない。④大小対当：ＡとＩ，ＩとＯとの関係。全称が真であれば特称は真，特称が偽であれば全称は偽であるが，全称が偽，特称が真の場合は，それぞれに対当する特称や全称の真偽は決定されない。〔石倉恒之〕

たいとうきんしれい　【帯刀禁止令】 1876年(明治９)３月28日に出された帯刀禁止に関する太政官(だじょうかん)布告。廃刀令ともよばれる。1872年の徴兵制度施行以来，陸軍卿(きょう)山県有朋(やまがたありとも)らは軍隊以外の武器携帯の禁止を強力に主張し，この布告となった。帯刀を禁止された士族は激怒し，同年10月に神風連の乱*を起こした。

だいどうげい　【大道芸】 町辻(まちつじ)や盛り場，祭礼や縁日の広場で，通りがかりの人に金銭をこい，または物を売る目的で演ずる卑俗な芸能の総称。その歴史は東洋・西洋を通じて古いが，その形態は共通

している。わが国の大道芸は，鎌倉・室町時代に，賤民(せんみん)芸能者の群が散*楽以来の芸能を行ない，勧進の名目で米や金をこうたことに始まる。それが江戸から明治と時代が進むにつれ，各地の祭礼の盛行に伴って，その種類や数が増加した。各時代を通じて大道芸には次のようなものがある。人形あやつり，歌舞伎(かぶき)や浄瑠璃(じょうるり)のまね，ひとりで8人分の芸をする八人芸，居合い抜き，曲ごま，声色(こわいろ)，五色の砂を握り指の間から砂を落として文字や絵をかく砂文字・砂絵，重いものを歯の力で持ったり引いたりする歯力，米俵などを持ち上げて曲芸をする力持ち，鳥獣の鳴きまね，ヘビ使いなど。最近ではギターやアコーディオンを持って花街(はなまち)や飲食店街を回ったり，数人で組をつくって街頭で軽音楽を演奏したりするものもある。今日のチンドン屋は一種の八人芸のなごりであろう。しかし，大道芸の盛んであったのは明治の末年までで，今日ではその種類も数も少なくなった。　〔佐藤　薫〕

だいどうこう　【大同江】　テトン川　朝鮮北西部の川。平安南道の北東狼林(ろうりん)山脈に発し，成川郡で沸流江(ふつりゅうこう)，平壌(へいじょう)東部で南江，河口近くで載寧川などの支流を合わせ南浦付近で黄海に注ぐ。長さ439km。平安南道のほとんど全域と黄海北道の西端を流域とし，その面積16,673km²。中・下流域は豊かな農業地帯で，水利開発も進んでおり，また順川(じゅんせん)・平壌・松林・南浦などの都市が連なる工業の盛んなところでもある。河口から260kmまでは舟運の便があり，約60kmまでは2,000トン級の外航船がさかのぼることができる。　〔矢守一彦〕

だいとうさいいきき　【大唐西域記】　中国，唐代の旅行記。12巻。《西域記》の略名でもよばれる。玄*奘(げんじょう)の口述をもとに，高弟の弁機が編集した。玄奘は17年にも及ぶ西域・インドの旅をしたが，本書はそのときの各地の見聞に基づいて，地誌を中心に人々の生活や風俗・習慣・伝説・仏教遺跡などを詳細に記録したもの。土地の方位・里程が正確にしるされ，地名その他の原語は忠実に漢字で音写されている。当時の歴史や文化の研究に不可欠の文献とされ，信頼すべき翻訳や研究が多い。〔岡部和雄〕

だいとうさいいきぐほうこうそうでん　【大唐西域求法高僧伝】　中国，7世紀唐代にインドへ旅行した56人の僧の伝記集。唐の僧義浄が691年に編纂(へんさん)した。最後に自伝を載せ，みずから見聞したインド・南海の仏教事情を伝えている。

たいとうざき　【太東崎】　太東岬とも書いて〈たいとうみさき〉ともいう。千葉県九十九里浜南端の岬(みさき)で，夷隅(いすみ)郡岬町に属する。太平洋の怒濤(どとう)に洗われるギョウカイ岩の海食崖(かいしょくがい)は雄大で，岬から南にかけては，天然記念物のトベラ・



大徳寺　塔頭の大仙院本堂部分

ハマヒルガオ・ハマボウフウ・ヤブニッケなどの海浜植物群落が見られる。岬には燈台があり，付近には和泉(いずみ)キャンプ村や海水浴場などがある。南房総国立公園に指定されている。

だいどうしそう　【大同思想】　〈大同〉はもと《礼*記(らいき)　礼運編》に基づいて，家本位の私的な天下に対し，公共平等な理想的状態をいったもの。その後の中国の私有制・専制権力支配の歴史を通じ，万民安楽の理想境を表わすことばとして用いられてきたが，時代により，用いる人によってその内容は異なった。すなわち反専制の農民闘争組織，清(しん)末の康有*為・孫*文，そして近年では毛沢*東らが，それぞれの意味でこのことばを用いた。　〔西　順蔵〕

だいとうしょとう　【大東諸島】　沖縄の一部で，沖縄本島の東南東約300kmの太平洋上に北から北大東島(面積16km²)・南大東島(面積26km²)・沖大東島(ラサ島)(面積4km²)の3島が並ぶ。隆起サンゴ礁の島で，1885年(明治18)に正式に日本領となった。大東はもとは〈おおあがり〉とよんだ。島尻(しまじり)郡に属し，北大東村(人口644)と南大東村(人口1,701)に分かれ，南大東村は沖大東島を含む。北および南大東島ではサトウキビがつくられ，製糖工場もあり，沖大東島はかつてリン鉱石を採掘していたが，現在は取り尽くして無人島となっている。那覇(なは)から不定期船および週3回の旅客機の便が南大東島に通じている。　〔浅井得一〕

だいどうだんけつうんどう　【大同団結運動】　1887年(明治20)から1889年までの自由民権派を中心とする反政府統一運動。後藤象二*郎らを指導者とし，地租軽減，言論・集会の自由，外交上の失地回復という三大事件建白運*動を中心として反政府運動を展開した。これに対して政府は分断・弾圧の政策をとり，1889年後藤が入閣するに及んで，運動は分裂・解体した。

だいとうのみや　【大塔宮】　⇨護良(もりなが)親王

だいどうみゃく　【大動脈】　⇨動脈

だいとうよちず　【大東輿地図】　朝鮮の古地図。1861年，金正浩(古山子)が編纂(へんさん)した。李氏(りし)朝鮮の純祖時代につくられた《青丘図》などを校訂し，《新増東国輿地勝覧》などの地誌によって古跡を書き入れ，約16,200分の1の図を22幅にまとめた。

だいとうりくてん　【大唐六典】　⇨唐六典

だいとうりょうせい　【大統領制】　ふつう，共和制の国家が採用している統治機構をいう。19世紀には少なかったが，第1次・第2次世界大戦の結果，君主*制が激減したのに伴って，共和制を採用する国が増加した。このため大統領制もふえて，現在では，国際連合加盟国の過半数を占めている。同じく大統領制といっても，その地位や権限は，国によってさまざまである。大統領の地位は，ふつうその国の元*首とみなされているが，その選任方式は，国民の直接選挙(アメリカ・フィリピン)もあれば，議会選出の例(フランス・イタリア)もある。任期も，7年(フランス・イタリア)，5年(西ドイツ)，4年(アメリカ・フィリピン)と異なる。大統領制の国は，ふつう議院内閣*制を採用しているため，大統領は形式的な権限(法律・条約の署名，高級公務員の任命など)をもつだけのことが多いが，アメリカやフィリピンなどは例外である。議院内閣制に対して，大統領制ということばが用いられる場合があるのは，このアメリカの例であって(これを狭義の大統領制という)，それは立法府(議会)による一元的支配の確立を図る議院内閣制に対して，権力分立(→三権分立)原理の上に立つ行政をめざすものとされる。アメリカにおける大統領の地位は，①国家の元首，②行政の長官，③政治上の首長という国家統治上の主要な機能を一身に兼ねた至上の存在である。その権限も，行政・公共の安寧および国防・立法・国際関係の各分野に及び，特に大統領を陸海軍司令長官とする国防上の権限は国際問題に関する権限と結びついて，大統領を事実上の独裁者に近いものにしている。現代のような一つの小さな錯誤が，人類を絶滅させる可能性をもついわゆる〈核時代〉にあって，巨大国アメリカにおける大統領へのこのような権力集中のもつ意味はきわめて重大である。そこには，事態に冷静に対処する政治的リアリズムが必須(ひっす)のものとして要請される。そのためには，他の諸機関との相互的な牽制(けんせい)・均衡のメカニズム(狭義の大統領制)を真に有効なものにしなければならない。→共和制　〔溝口　潔〕

だいとくじ　【大徳寺】　京都市上京区紫野大徳寺町にある臨済宗大徳寺派大本山。1315年(正和4)大燈国師宗峰妙超が現在の地に仏堂を建てたのがはじまりである。のちに花園上皇・後醍醐(ごだいご)天皇の帰依を受け，1334年(建武1)には京都五山に列し栄えた。1453年(享徳2)火災により堂宇の

大半を焼失，再建後応仁(おうにん)の乱の兵火により再び伽藍(がらん)を焼失。乱後これを再興した住持が一休宗純である。その後，室町・桃山・江戸の各時代にわたって塔頭(たっちゅう)が次々と建てられ，現在のような規模を有するようになった。本坊の方丈(国宝)は1636年(寛永13)の新築，各室の襖絵(ふすまえ)は狩野(かのう)探幽が描いている。庭園南側の唐門(からもん)(国宝)は聚楽第(じゅらくだい)から移建したものという。塔頭寺院のおもなものをあげると，真珠庵(しんじゅあん)は1638年の建立(こんりゅう)，客殿の襖絵は曾我蛇足(そがじゃそく)・長谷川等伯が描いている。大仙院は古岳宗亘(そうこう)が1513年(永正10)に建立，その枯れ山水の庭は有名で，真殿の襖絵は抎阿弥(たんあみ)・狩野元信(もとのぶ)・狩野之信(ゆきのぶ)の手になる。聚光院は三好義継(みよしよしつぐ)が1564年(永禄7)に亡父の菩提(ぼだい)を弔うために建て，客殿の襖絵は狩野松栄・永徳父子が描いた。高桐院(こうとういん)は細川忠興(ただおき)が1602年(慶長7)に建てた塔頭で，李唐(りとう)の《山水図》，銭舜挙(せんしゅんきょ)の《牡丹図(ぼたんず)》など宋画(そうが)の名品がある。龍光院(りゅうこういん)は黒田長政(ながまさ)が1606年に建立，茶室の密庵をはじめ牧谿(もっけい)の《柿栗図(かきくりず)》が有名である。孤篷庵(こほうあん)は小堀(こぼり)遠州の建立で，遠州好みの書院ふうの茶室忘筌席(ぼうせんせき)がある。〔永井信一〕

だいとくじなっとう 【大徳寺納豆】 ⇨浜納豆

たいとごめ 【大唐米】 双子葉植物・ベンケイソウ科。海岸のがけや岩のすきまなどに群生する多年草。茎の高さ5～10cmで，全草多肉質である。葉は長卵形で長さ3～6mm，幅2mm。5～7月，茎頂に直径5mmほどの黄色五弁花をつける。



タイトゴメ

タイドプール ［tide pool］ 潮間帯*の岩地にみられる底の平らな浅いくぼみにできた水たまり。満潮時に満たされた海水が，岩のくぼみに残されたもので，水温・塩分の変化が大きい。ケイ藻(そう)・イソギンチャク・フジツボ・カニ・コケムシ・ヒドロ虫・海綿などの生物がすむなど特異な生物相を示す。潮だまりともいう。

タイド-ローン ［tied loan］ 国際間の借款にあたって，貸し出し国がその使途を自国からの財貨の購入に限定する借款。一種のひもつき融資で，使途を規制されない借款をインパクト-ローン*とよぶのに対する語。タイド-ローンは先進国が後進国に与える借款に多くみられる。この場合，先進国・後進国ともに利点があるが，後進国にとっては経済的自主性がそこなわれる危険があり，使途を規制されないインパクト-ローンのほうが好まれる傾向にある。世界銀行はインパクト-ローン方式を用いているが，現在，タイド-ローンが後進国開発借款の主流となっている。アメリカ輸出入銀行や国際復興開発銀行の融資もタイド-ローン方式である。〔池内得二〕

たいないじゅせい 【体内受精】 雌の体内で受精が行なわれること。このために行なう性行動が交尾である。これに対して，水中で生活する魚類・貝類・棘皮(きょくひ)動物などでは精子と卵が水中に放出され，精子はその運動によって水中を移動して卵に到達し，受精が成立する体外受精を行なう。カエルは雌の背に雄が前腕で抱きつくので，一見交尾のように見えるが，水中に放出された卵に精子をかけて受精するので体外受精であり，この行為を抱接とよんでいる。

だいなごん 【大納言】 令(りょう)制で左右大臣に次ぐ重職。天皇に近侍して庶政を議し，奏上・宣下のことをつかさどった。大臣不在のときには代わって政務を総理したこともある。大宝令(→大宝律令)で定員4名としたが，人を得がたいという理由で半減し，別に中納言3名を置いたが，のちにはその数もふえ，権官も含めて8～10名を数え，明治に至った。1869年(明治2)太政官(だじょうかん)制の官職としてこれを再置したが，1871年廃止された。〔笹　弘道〕

ダイナマイト ［dynamite］ ニトログリセリン，またはこれとニトログリコールの混合物をコロイド化したニトロゲルを6％

ダイナマイトの種類

種類	特徴	威力比(%)	成				分	
			ニトログリセリン	ニトロセルロース	硝酸カリウムまたは硝酸ナトリウム	硝酸アンモニウム	ニトロ化合物	その他
松ダイナマイト	ニトログリセリンとニトロセルロースよりなる耐水・耐湿を特徴とする膠質状のもの，工業爆薬の威力の基準爆薬	100	92～93	7～8	——	——	——	——
桜ダイナマイト	ニトログリセリンとニトロセルロースを基剤とし，硝酸カリウムを含む耐水・耐湿を特徴とする膠質ダイナマイト	55～90	48～52		37～40	——	——	8～11
桐ダイナマイト	ニトログリセリンとニトロセルロースを基剤とし，主として硝酸アンモニウムを含む膠質ダイナマイト	55～90	29～37		——	53～59	0～10	6～9
榎ダイナマイト	ニトログリセリンとニトロセルロースを基剤とし，硝酸アンモニウムのほかに硝酸ナトリウムを含む後ガスを特に考慮した膠質ダイナマイト	55～85	28～33		18～22	36～40	2～6	6～11
桂ダイナマイト	ニトログリセリンとニトロセルロースを基剤とし，硝酸アンモニウムを含む粉状または半膠質ダイナマイト	75～85	13～17		——	70～80	0～6	3～7
梅ダイナマイト	ニトログリセリンとニトロセルロースを基剤とし，硝酸アンモニウムおよび減熱消炎剤を含む炭鉱用の膠質ダイナマイト	50～65	34～38		食塩 32～34	26～30	——	2～4
硝安ダイナマイト	ニトログリセリンとニトロセルロースを基剤とし，硝酸アンモニウムおよび減熱消炎剤を含む炭鉱用の粉状または半膠質ダイナマイト	50～65	7～10		食塩 18～33	40～66	——	5～9

以上含む爆破薬。はじめは商品名であったが，現在では普通名詞となっている。1886年ノーベル*はケイソウ土にニトログリセリンを吸収させた安全な爆薬を考えだし，これをダイナマイトと名づけた。しかし，ケイソウ土は不活性物質で爆発に際し威力を下げるばかりでなく，取り扱い中にニトログリセリンがしみだす危険性もあった。その後1875年になって彼はニトログリセリンがある種のニトロセルロースでコロイド化することを発見し，日本で〈松ダイナマイト〉とよぶ最強の爆薬を完成した。これはニトログリセリンを約7％のニトロセルロースでゼラチン状に膠化(こうか)したもので，爆速は7,800 m/秒に達する。しかし，この爆発力はあまりに大きいため，硝酸アンモニウム(硝安)・硝酸カリウム(硝石)などの酸化剤と木粉・デンプン可燃物を混合したのが桐(きり)・桜・榎(えのき)・桂(かつら)などのダイナマイトである。さらに食塩などの消炎剤を加えて爆発温度を下げ炭鉱用としたのが梅および硝安ダイナマイトである。これら市販されているダイナマイトの概略を表に示す。これらのニトロゲル系のダイナマイトに対し，前出のケイソウ土ダイナマイトのように，ニトログリセリンを吸収剤に吸収させたものを混合ダイナマイトというが，これには硝酸ナトリウムにニトログリセリンを抱含させたストレートダイナマイト，これに硝酸アンモニウムを加えたアンモニアダイナマイトがあり，アメリカなどで多量に市販されているが，保安上心配があるので日本では製造されていない。
〔大岡二郎〕

ダイナモ ⇨発電機

たいなん 【台南】 タイナン　台湾南西部の都市。人口47万5,000(1970年推)。台湾南部の文化・産業の中心で，サトウキビ・果実の集散をなし，製糖工業が隆盛。1650年オランダ人がプロビンキア城を築いたが，1661年鄭成功(ていせいこう)はこれをくだし，承天府と名づけた。清(しん)の領有後台湾府が置かれ，のち台南と改めた。孔子廟(びょう)をはじめ古跡が多く，西郊の安平には1627年に築かれたゼーランジア城の遺跡もある。

だいにきょうわせい 【第二共和政】 1848～1852年の間のフランスの政体。1848年二月革命*によって共和政宣言により成立した。七月王政*の制限選挙制は打破されて普通選挙制となり，貴族院制度も廃止された。しかし，同年新憲法に基づいて大統領となったルイ-ナポレオンは，1851年クーデターによって議会を解散し，翌年大統領権限強化の新憲法を発布，次いで人民投票で780万票対25万票という圧倒的支持を得て皇帝ナポレオン3世*となり，第二共和政は短命で終わった。
〔喜多迅鷹〕

だいにくみあい 【第二組合】 従来からある労働組合*の組合員が，その組合から集団的に脱退して新たに結成する組合，あるいは当初労働組合に加入していなかった労働者が，その組合に対抗して新たに結成した組合をいう。はじめからある第一組合に対する称。第二組合が結成される現象は，労働争議が長期化した場合，先鋭化した場合に多くみられる。これは企業組合組織をとるわが国独特の現象である。日本の労働組合法は，唯一交渉団体約款がある場合においても，第二組合の団体交渉を拒むことは不当労働行為*としている(7条2号)。また，多数組合員が集団的に離脱することによって組合が分裂し，ユニオン-ショップ*約款の前提となっている統一的基盤が失われたような事態においては，もはや同約款の効力は及ばないと解されている。もとより，使用者が第二組合に対して原理上の援助を与える場合には，不当労働行為であり(7条1号)，また，この組合は，労働組合法の組合であることの資格を失うおそれがある(同2条)。
〔黒瀬信子〕

だいにじさんぎょう 【第2次産業】 製造工業・建設業などの加工業を中心とし，鉱業や電気・水道・ガス供給業などを含めた称。他産業に比して第2次産業は技術進歩が最も急速であり，生産性も高い。一国経済の中心をになうものであり，先進国では第2次産業が発達している。➔産業構造

だいにじしゅうだん 【第2次集団】 ⇨第1次集団

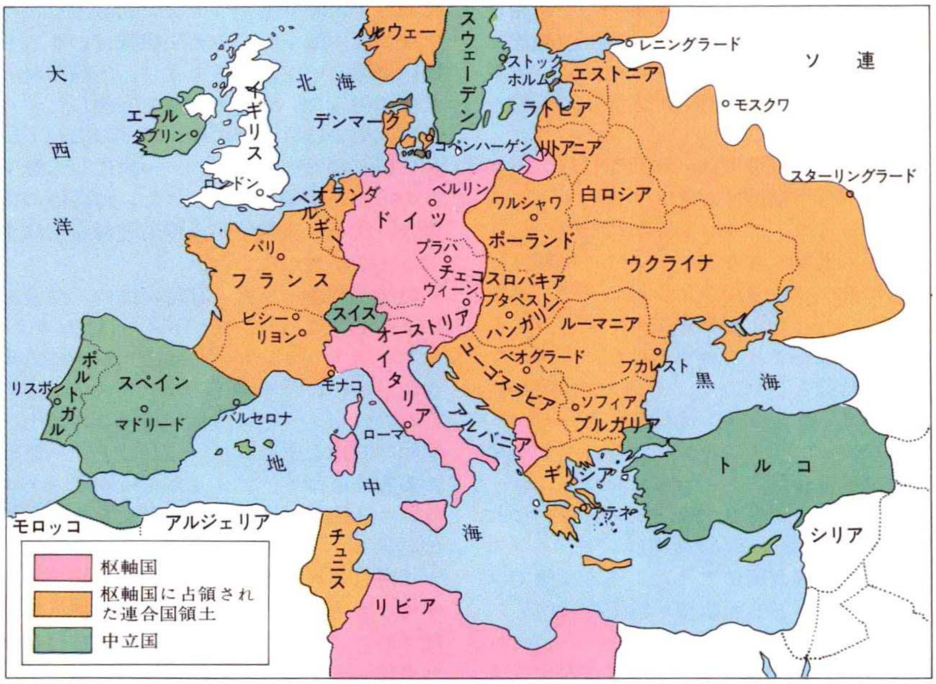
だいにじせかいたいせん 【第2次世界大戦】 1939年9月1日ドイツのポーランド侵入と，これに対してイギリス・フランスがドイツに宣戦してから，1945年(昭和20)8月14日日本がポツダム宣言*を受諾するまで，ヨーロッパ・アジア両域にわたって展開された世界戦争。第1次世界大戦*と異なり，ヨーロッパ世界とアジア世界とが独自の事態から開戦した。すなわち，アジアではすでに1937年日中戦争*が勃発(ぼっぱつ)してこれが第2次世界大戦に継続され，ヨーロッパでもエチオピア戦争*・スペイン内乱*など大戦の胎動を思わせる戦争が発生している。したがって本質的に第2次世界大戦の開始時期をとらえようとすると諸見解が生ずる。全世界にわたる交戦諸国は，世界新秩序を建設しようとする全体主義国家群(枢軸国)とそれを侵略行為として抑止しようとする自由主義国家群(連合国)とに分かれて徹底的に戦い，その間ドイツ・ソ連関係の変動が大戦の進展に複雑かつ有力な作用を及ぼしたのである。

【前史】第1次世界大戦後に調印されたベルサイユ条約*によって，ドイツは多くの植民地を失い，また巨額な賠償金の支払い，戦争による経済の破壊などで国民の生活は窮乏し，大きな社会不安をひき起こしたが，こうした情勢の中でフランスは，ドイツの賠償不払いの代償として，重工業の中心地ルール地方を占領し，ドイツの窮乏をいっそう深刻にした。その結果ドイツ国民の中に国粋主義*者や軍国主義*者などの右翼勢力が浸透する基盤がつくられた。国粋社会主義の旗印を掲げたヒトラー*のナチス党は，国内不平分子を糾合して急速に大きな政治勢力に発展し，また1929年以来の世界恐慌*はドイツの社会・経済を混乱におとしいれたため，共産主義*勢力の台頭を恐れた資本家や中産階級はナチス党を支持したため，1932年の選挙ではナチス党は第1党となった。翌年ヒトラーは政権を獲得すると，国内に独裁的な全体主義体制を築いた。1933年国際連盟*を脱退したドイツは，再軍備宣言・ラインラント進駐とやつぎばやにベルサイユ体制*を打破し，世界の現秩序に挑戦(ちょうせん)していった。

一方，1922年以来ムッソリーニ*のファッショ政権下にあったイタリアは，1935年エチオピアに侵入してこれを併合した。ヨーロッパ諸国の間では反全体主義の勢力を結集して人民戦線がつくられ，フランスとスペインとには人民戦線政府が成立した。スペインでは人民戦線政府に反対してフランコ*将軍の反乱が起こり，ドイツ・イタリアはこれを援助してフランコ政権樹立を成功させたが，その過程でドイツ・イタリア両国の枢軸が結成された。

また極東では満州事変*による日本の軍事行動が世界の列強から反発を買い，国際連盟は満州よりの撤兵を日本に勧告した。これを不服とする日本は1933年国際連盟を脱退，さらに1936年ロンドン海軍軍縮会議を脱退して国際的孤立を深めた。このような国際情勢のもとに，現秩序を打破して海外進出を企図する日本・ドイツ・イタリア3国は，同年日独伊(にちどくい)防共協定*を結び盟邦となった。

1938年3月ヒトラーはオーストリアを武力で併合。次いでチェコスロバキアのズデーテン地方を要求した。イギリス・フランスはさきのエチオピア戦争・スペイン内乱に対しても不干渉主義をとってきたが，この際もドイツ・イタリアとのミュンヘン会談*で妥協の道を選び，ズデーテン地方のドイツ併合を認めた。しかしヒトラーはなおも領土拡張を進め，1939年にはチェコスロバキアを解体させ，さらにグダニスク*(ダンチヒ)自由市と，その背後にあるポーランド回廊を要求するに及んで，戦争の危機はにわかに深まった。当時ポーランドはイギリス・フランスと相互援助条約を結んでいたので，イギリス・フランスの援助を頼みにしてヒトラーの要求を一蹴(いっしゅう)した。ポーランドとの一戦を決意したヒトラーは，1939年8月独ソ不可侵条約*を結んだ。ソ連はイギリス・フランスがドイツの東進を阻止する力がないことを知り，イデオロギーの相いれないヒトラーとの提携に踏み切った。この条約の背後には，ドイツがポーランドに進撃した際，ドイツ・ソ連がポーランドを分割する密約がかわされていた。



〔開戦〕1939年9月1日朝ドイツ軍機甲師団はポーランドに侵入し，たちまちこれを壊滅した。近代装備で機械化されたドイツ軍の快速ぶりは世に電撃作戦とよばれ，全世界を驚かせた。9月3日イギリス・フランスはドイツに宣戦したが，その援助のいとまもなく首都ワルシャワは陥落し，ポーランドはドイツに降伏した。9月17日ソ連軍は突如行動を起こし，ポーランドに進駐，ナレフ川・ビスラ川・サン川の線をドイツとの国境線としてポーランド国土の東半を占領した。続いてソ連はフィンランドに進撃して軍事基地を占拠し，エストニア・ラトビア・リトアニアも併合，さらにルーマニアからベッサラビアを奪った。西部戦線はしばらく鳴りを潜めていたが，1940年4月ドイツ軍はイギリス・フランスの不意をついてノルウェー・デンマークを占領，なおも5月10日には電撃作戦でオランダ・ベルギーに侵入した。ドイツ軍は戦車群団を中心とする陸・空一体の猛攻をかけてマジノ線*の要塞(ようさい)地帯を突破，各所でイギリス・フランス軍を撃破してこれをドーバー海峡に追いつめた。ダンケルクに集結したイギリス・フランス軍30万はおびただしい兵器・軍需資材を遺棄して，5月27日辛くもイギリス本土に渡った。フランス軍の中核軍団はこれによって壊滅し，ドイツ軍は6月14日パリを無血占領した。22日ペタン*元帥を首班とするフランス新政府が降伏したため，フランスの北部と中部，スペイン国境に至る全地域がドイツの占領地となり，南部残余の非占領区域のみを，ビシーを首都とするペタンの親独政権(→ビシー政府)が支配することとなった。それに対して，ド-ゴール*将軍はロンドンに自由フランス政府をつくり，放送をもってフランス国民に対ドイツ抗戦を呼びかけた。ヒトラーはイギリス上陸作戦を準備したが，イギリスから制海権*を奪うことの困難を知り，8月以降空軍をもって連日イギリス本土を空襲した。しかしイギリス首相チャーチル*は忍耐強い国民を激励してよくこれに対抗した。イギリス本土上陸を断念したヒトラーは近東・バルカン方面に戦線を拡大し，その間イタリアをはじめルーマニア・ハンガリー・ブルガリアが枢軸国側として参戦。1940年10月イタリアはエジプトのイギリス軍を攻撃し，またアルバニアからギリシアに侵入して地中海の制覇(せいは)を企てたがいずれも敗北した。その援助のためドイツは，1941年2月エジプトにロンメル*将軍の指揮する機械化部隊を派遣して，反撃を開始した。一方4月ユーゴスラビアとギリシアに同時に侵入して両国を占領した。ドイツのバルカン半島進出はソ連の利害と対立することとなり，ヒトラーはすでに対ソ連作戦を整えていた。





第2次世界大戦 ①スターリングラード(1943年2月) ②連合軍のノルマンジー上陸(1944年6月) ③ナチス党創立記念におけるヒトラー



〔独ソ戦争の開始〕1941年6月22日250万のドイツ軍はソ連の虚をついて，フィンランドから黒海に至る長大な戦線にわたりいっせいに進撃を開始した。ドイツ軍は白ロシア・バルト3国・ウクライナを席巻(せっけん)し，レニングラードを包囲，開戦3週間にしてモスクワまで200マイルの地点に迫り，ドイツ軍の勝利は確実と思われた。しかし例年より早い冬将軍の到来とソ連軍の抵抗とでドイツ軍の攻勢は停止され，短期の電撃戦でソ連の崩壊を期していたヒトラーの計画は挫折(ざせつ)した。ソ連とイギリスとはすでに7月イギリス・ソ連軍事協定を結び，民主主義陣営の統一戦線が樹立されはじめた。アメリカは長く中立*政策をとってきたが，1941年8月ルーズベルト大統領は大西洋上でチャーチルと会見し，大西洋憲章*を発表して広範な反ファシズム体制を打ち出した。12月，日本の真珠湾(→パールハーバー)奇襲に端を発して太平洋戦争が始まり，アメリカは日本・ドイツ・イタリアに宣戦した。ここに日中戦争を含めてヨーロッパとアジアの戦争は一本化した。1942年1月には連合国共同宣言*が発表されて，反ファシズム戦争の遂行，単独不講和などが約された。

〔戦局の転換〕1942年11月ソ連はスターリングラード(現ボルゴグラード)のドイツ軍

に大反撃を開始し，ドイツ軍30万を包囲して壊滅的打撃を与え，さらに東部全戦線にわたって総反攻に転じて完全にドイツ軍を敗勢に導き，大戦の戦局に決定的な転機を生じさせた。

北アフリカ戦線では，1942年11月アイゼンハワー*将軍指揮するアメリカ・イギリス軍はモロッコ・アルジェリアに上陸し，リビアから進撃するモントゴメリー*将軍と呼応して北アフリカのドイツ・イタリア軍を掃蕩(そうとう)した。1943年7月アメリカ・イギリス軍はシチリア島を占領し，イタリア上陸を目前としたので，イタリアは動揺し，王室・軍・ファシスト反対派がクーデターによりムッソリーニを失脚させ，バドリオ*政権が誕生した。ドイツ軍はただちにローマを占領，北イタリアを支配下に置いた上，監禁中のムッソリーニを救出して，北イタリアの社会共和国首班にすえた。連合国側ではイタリアのバドリオ政権が無条件降伏したのを機に，11月ルーズベルト・チャーチル・蔣介石(しょうかいせき)はカイロで日本に対する講和条件を協議し(→カイロ会談)，次いでルーズベルト・チャーチル・スターリン*はテヘランで第2戦線その他対ドイツ共同作戦を決定した(→テヘラン会談)。

【ヨーロッパ戦争の終結】1944年6月6日連合軍のノルマンジー上陸作戦が開始された。300万の連合軍は8月フランスを解放し，ライン川に迫った。一方東部戦線では400万のソ連軍がドイツ国境に迫り，ドイツは東西から挾撃(きょうげき)されることとなった。1945年2月ルーズベルト・チャーチル・スターリンはヤルタ会談*で，ドイツ処分の大綱とソ連の対日参戦の日時を定めた。同年4月22日ソ連軍はベルリン攻撃を開始し，25日ベルリンに突入。この日エルベ川で東西から進撃中のアメリカ・イギリスとソ連の両軍が劇的な握手をかわした。30日ヒトラーは総統官邸で自殺し，5月2日ベルリンが陥落した。そのまえに北イタリアのドイツ占領地はアメリカ・イギリス軍に解放された。4月28日ムッソリーニはイタリアのパルチザンに惨殺(ざんさつ)され，30日北イタリアのドイツ軍は降伏した。ヒトラーの後継者デーニッツ提督は5月8日無条件降伏文書に署名し，ここにヨーロッパにおけるすべての戦いは終わった。

太平洋海域では，1942年6月日本海軍の主力がミッドウェー海戦で大敗したのを境に戦場はしだいに本土に接近した。1945年7月ポツダムでトルーマン・チャーチル・スターリンの会談が行なわれ，ドイツ処理問題が協議されるとともに，日本に対するポツダム宣言が発表された。8月14日日本政府はポツダム宣言を受諾して降伏し，ここに第2次世界大戦は終結した。

【戦後処理と世界情勢】第2次世界大戦は連合国側51か国と枢軸国側9か国によって戦われ，その規模の大きさ，戦禍の深刻さにおいて，歴史上かつてない大戦となった。アメリカ本国を除く主要交戦国はいずれも国内に激しい空襲攻撃を受け，一般国民も前線に劣らない戦争の惨害を経験した。ことに大戦の最終段階には，日本の広島・長崎に原子爆弾が投下され，一瞬にして数十万の市民が殺戮(さつりく)された。核兵器の出現は，次の世界戦争が人類の破滅を意味することを明らかにした。

戦後処理はポツダム宣言に従い，連合国によって行なわれ，まずドイツはアメリカ・イギリス・フランス・ソ連の4か国に分割され，国内の非軍事化・非ナチス化が進められたほか，ナチス政権が獲得した領土は旧領有国に返還された。しかしドイツ処理の実施にあたり，アメリカ・イギリス・フランス3国とソ連との間に対立を生じ，その結果ドイツは東西に分割され，またドイツに併合されたオーストリアもアメリカ・イギリス・フランス・ソ連の4国に分割管理された。日本もポツダム宣言にしたがって戦後処理が進められ，領土の局限，国内の非軍事化・民主化が実施された。その結果，新憲法の制定，農地改革，財閥の解体，教育制度の改革などを通じて民主主義国家へのめざましい転換をみせた。イタリアをはじめ他の旧枢軸国家群には占領行政が行なわれず，連合国家との間に平和条約*が結ばれた。

大戦後の国際社会ではアメリカ・ソ連の2大国を中心として資本主義陣営と共産主義陣営とが併存することになり，1947年アメリカがトルーマン教書を発表して反共政策を宣言してから，両国のきびしい対立は冷戦とよばれ，ベルリン封鎖を機に表面化した。アメリカはマーシャル-プラン*により西ヨーロッパ諸国の経済援助を増強し，北大西洋条約(→北大西洋条約機構)を結んでその軍事援助も強化した。さらに西ドイツ・日本の復活を支援し，アジア地域などの未開発諸国への経済援助など，積極的な対外援助政策によって〈対ソ封じこめ〉政策を具体化していった。それに対して，ソ連はコミンフォルム(→インターナショナル)を結成して，東ヨーロッパ共産主義諸国の提携を強めた。1949年におけるソ連の原子爆弾所有の発表と中華人民共和国の成立は，共産主義勢力を強化し，アメリカ・ソ連両陣営の対立はいっそう鋭くなった。また戦後解放された被占領国や植民地には民族独立運動が活発化し，それに伴う紛争にはしばしばアメリカ・ソ連勢力が介入して，いっそう国際政治にきびしさを加えた。国際平和機構として，大戦終結直後正式に発足した国際連合*は，世界の平和と安全維持に必要な際には兵力の使用も認めることにし，その後の国際紛争には国連軍*が出動されることとなった。→太平洋戦争

〔相良俊輔・高崎徳次〕

だいにじひゃくねんせんそう　【第2次百年戦争】　アウグスブルク同盟戦争*からナポレオン戦争にいたるまでの100年以上の間，海上権・植民地支配をめぐってイギリスとフランスの間に戦われた一連の戦争を中世末の百年戦争にちなんで第2次百年戦争とよぶ。この戦争はアウグスブルク同盟戦争・スペイン継承戦争*・オーストリア継承戦争*・七年戦争・アメリカ独立戦争*・フランス革命戦争・ナポレオン戦争*を含み，17世紀末より19世紀初頭まで続いた。七年戦争後のパリ条約*(1763)でイギリスの勝利が決定的となり，イギリスは北アメリカ・インドを独占して植民地帝国の基礎を固めた。

〔大野真一郎〕

だいにせぎん　【第二世銀】　⇨国際開発協会

だいにちきょう　【大日経】　密教で最も重要な経典の一。正しくは《大毘盧遮那成仏(だいびるしゃなじょうぶつ)神変加持経》といい，毘盧遮那仏(大日如来)が秘密主の問いに答え，その悟りの内容を37品(章)にわたって詳述するもの。仏の一切智(いっさいち)は菩提心(ぼだいしん)(悟りを求める心)に発し，大悲によって育成され，現象界で完結すると説く。中国，唐代に善無畏(ぜんむい)と一行によって7巻に訳され，これによって胎蔵界*の教えが説かれた。

〔金岡秀友〕

たいにちこうわじょうやく　【対日講和条約】　正しくは〈日本国との平和条約〉。対日平和条約ともサンフランシスコ講和条約ともいわれる。1951年(昭和26)9月8日サンフランシスコで，48連合国と日本との間で調印された第2次世界大戦終結のための平和条約*。1952年4月28日発効。1947年ごろから，アメリカは対日講和予備会議を提唱したが，講和会議の方式についてアメリカの極東委員会*構成国方式とソ連のポツダム協定による外務大臣理事会方式とが対立して開かれず，冷戦の激化に伴って全面講和の望みはなくなった。1950年の朝鮮戦争*を経てアメリカ中心の多数講和・分離講和が決定的となり，アメリカ大統領トルーマン*は対日講和交渉を指示し，第5回国際連合総会を機に，国務省顧問ダレスが関係諸国に〈対日講和7原則〉を提示して，具体的な講和条約の作成が始められた。1951年7月アメリカ・イギリスが中心となって講和会議への招請状が出され，9月，52か国が参加してサンフランシスコ会議が開催された。中国は代表権に関してアメリカ・イギリスの意見が一致しないために招請されず，インド・ビルマ・ユーゴスラビアの3国は招請されたが参加せず，新たにベトナム・カンボジア・ラオスが招かれ，ソ連・チェコスロバキア・ポーランドの3国は参加したが調印せず，結局，日本を含む49か国が調印した。アメリカ・オーストラリア・カナダ・セイロン・フランス・インドネシア・オランダ・ニュージーランド・パキスタン・フィリピン・イギリスの11か国の対

日交戦国の過半数と日本の批准書寄託によって発効した。

条約は，前文と本文27か条で，〈平和〉〈領域〉〈安全〉〈政治および経済条項〉〈請求権および財産〉〈紛争の解決〉〈最終条項〉の7章からなり，このほか日本が加入していた多数国間条約の効力，および日本が今後加入すべき多数国間条約に関する宣言，連合国戦死者の墓地・記念碑および日本の戦死者の墓地に関する宣言，契約，時効時期，流通証券について協定した議定書が付属している。ダレスが〈和解と信頼の条約〉と述べたように，日本の主権・平等を認め，軍備の制限・禁止を規定せず，賠償を緩和し，条約の履行監視の制度などを設けていない点などは，降伏文書や対イタリア平和条約などに比して寛大であるが，領土や経済問題の措置一般などについては相当きびしくなっている。また，外国軍隊の駐留を予定し，これを受けて日米安全保障条約が同時に締結され，沖縄諸島・小笠原(おがさわら)諸島などにアメリカの信託統治を予定するなど，アメリカの戦略的考慮が多分に盛られ，政治的性格を強く打ち出している。対日講和条約を根幹とした日米安全保障条約・日米行政協定・MSA(アメリカの相互安全保障法)などをわく組みとする一連の協定によってつくられた体制が，サンフランシスコ体制といわれるのもこのためである。
〔広部和也〕

たいにちしょう【対日照】夜半，太陽とちょうど逆の方向の黄道上が，にぶく光る現象。大きさは東西20°，南北10°くらいの楕円(だえん)である。地球のまわりの空間に散在している細かなちりが太陽光を散乱するために生ずると考えられている。

たいにちせんりょうせいさく【対日占領政策】第2次世界大戦後における連合国の日本に対する占領政策。1945年(昭和20)8月14日日本はポツダム宣言を受諾，8月28日日本占領の連合軍第1陣が進駐，9月2日東京湾のミズーリ号上で降伏文書に調印，ここに日本の降伏が正式に成立した。

占領の機構についてアメリカ・イギリス・ソ連の意見が最終的にまとまったのは，1945年12月になってからであった。日本占領管理政策の最高決定機関として，ワシントンにアメリカ・イギリス・ソ連・中国，その他主要連合国からなる極東委員会を設け，東京には連合国最高司令官マッカーサーのもとにGHQ(連合国最高司令官総司令部)を設置して，唯一最高の対日占領管理実施機関とし，これにアメリカ・イギリス・ソ連・中国の4か国代表からなる諮問機関の対日理事会が付置された。アメリカ政府には，極東委員会と最高司令官の連絡機関としての独自の地位が認められ，特に中間指令発出権のような緊急措置の権限が与えられた。占領軍についてアメリカは，イギリス・ソ連・中国を招請したが，ソ連・中国は沙汰(さた)やみとなり，結局アメリカ・イギリスのみが占領軍を送った。形式的には連合国の占領であるが，実質的には，アメリカ政府がその政策についてほとんど決定したといってよい。

日本の占領・管理の基本方式は，連合国の統一的占領を背景とした最高司令官の統一的権限のもとに，統一的に管理が行なわれたこと，占領・管理が日本政府を通じて間接的に実施されたことである。当初の占領政策は，基本的にはポツダム宣言・降伏文書にみることができるが，歴史的には3期に分けられる。①1945～1948年：初期占領政策はアメリカ政府の1945年8月25日づけ〈降伏後における合衆国の初期対日政策〉，同11月3日づけ〈日本の占領および管理のための連合国最高司令官に対する降伏後初期の基本的指令〉に明らかにされており，日本の民主化と非軍事化にあった。②1948～1950年：経済安定九原則・ドッジ-ラインにみられるように日本経済の自立化の促進がなされ，第1期政策の再検討とレッド-パージが行なわれた。③1950～1952年：朝鮮戦争勃発(ぼっぱつ)による国際緊張を背景として，初期政策は根本的に変化し，日本の再軍備が認められ，追放解除によって保守勢力が増強され，日本が反共体制の一環として組み込まれることが決定的となった。最終的にこれが具体化されたのが対日講和条約である。
〔広部和也〕

だいにちだけ【大日岳】富山県東部，北アルプスの立山連峰の西にそびえる山。高さ2,498m。北側は東に並ぶ奥大日岳(2,606m)とともに早月川源流の谷に面し，南側は常願寺川上流の称名川の深い峡谷を隔てて弥陀ケ原(みだがはら)に対する。なお，大日岳と西の前大日岳(1,779m)，東の奥大日岳を総称して大日岳とよぶこともある。

だいにちにょらい【大日如来】密教の主尊。梵語(ぼんご)Mahāvairocana(マハー-バイローチャナ)の訳。摩訶毘盧遮那(まかびるしゃな)と音写することもある。大光明遍照・大日遍照・最高顕広眼など，さまざまな訳語ができたが，密教では大日如来が一般化した。インド教には古くからビローチャナ神あるいはバイローチャナ神といい，日神の子と称せられるものがあり，仏教におけるマハー-バイローチャナ仏，密教における大日如来も，それと関係あるものとみられる。大光明遍照・大日遍照というのは，いずれも日神の働きを表わすものとみられ，宇宙の真実相を太陽の働きによって表現しようとしたものであることはまちがいない。密教においては，大日如来には，除闇遍明(やみを除き照らす)・長物成就(ものを育てる)・光無生滅(限りない光)の三義があるとされ，真実の知恵，宇宙の実相を具現化したものとみられる。したがって，すべての仏・菩薩(ぼさつ)はここから出生し，宇宙の万象はこの仏の表現でないものはないとされる。この仏は，このように真実でありながらしかも現象自体であるから，真実(法身)のままでわれわれに認識される(法身説法)という。この仏のわれわれへの働きかけを修生(しゅしょう)の智(ち)といい，それを表わすのが金剛界の大日如来であり，真実自体を本有(ほんぬ)の理といい，胎蔵界の大日如来という。この2尊はもとより一つであり，ブッダもこの仏の趣旨を受けて世に現われた仏と考えられる。
〔金岡秀友〕

たいにちへいわじょうやく【対日平和条約】⇒対日講和条約

たいにちりじかい【対日理事会】正しくは連合国対日理事会。1945年(昭和20)12月モスクワで開かれたイギリス・アメリカ・ソ連の3か国の外相会議で設けられた連合国最高司令官の諮問機関で，イギリス・アメリカ・ソ連・中国の4か国代表で構成され，東京に設置。日本の占領管理・降伏条項の補足的指令の執行などについて最高司令官と協議し，これに助言を与える権限を有した。1946年4月5日第1回の会議が開かれ，原則として月2回開催された。1952年の対日講和条約発効に伴い解散。
〔広部和也〕

だいにっぽんいんさつ【大日本印刷(株)】印刷業界の最大手。アメリカのR. R. ダネリー-アンド-サン社に次いで世界第2位の規模を有する。1876年(明治9)，秀英舎として創業，1894年株式会社に組織変更，1935年(昭和10)大日本印刷と改称した。書籍・定期刊行物・商業印刷物から包装容器，建材などの特殊印刷や，カラーテレビのシャドウマスクなどの各種電子部品にまで進出している。売り上げの比率は紙器・特殊印刷物が40％を占め，商業印刷物41％，書籍・定期刊行物19％。〈情報革命〉の新しい動きに対応して，知識産業としての地盤を固めつつある。欧米の有力企業と技術提携を結び，新しい印刷技術の導入にも積極的である。本社東京。工場は東京・京都・大阪など8工場。翼下に40数社の子会社を擁している。資本金219億1,900万円，年間売上高4,240億円，従業員数9,897(1980年5月)。

だいにていせい【第二帝政】1852～1870年のフランスの政体。第二共和政下の大統領であったルイ-ナポレオンが，1852年人民投票によって皇帝になり第二帝政が始まった。政治組織は，皇帝即位前の1852年1月の憲法によるもので，普通選挙・直接選挙に基づく立法院は形式的には維持されたが，発議権も修正権ももたず，世襲の皇帝だけが立法発案権・行政権・軍事権・外交権をもった。また官僚・警察・軍隊なども皇帝が掌握して言論・集会・結社や労働運動を弾圧する独裁体制であった。この独裁権力は，保守的な小農民・小市民層とカトリック教会の支持を受け，ブルジョアジーとプロレタリアートの対立を含んだ均衡の上になりたっていた(ボナパルチズム)。この

時期はフランス産業革命の完成時代といわれ，産業資本は飛躍的に発展し，またインドシナ経営にも着手してイギリスに次ぐ第2の植民地帝国となった時代である。1860年ごろから帝政はリベラルな方向へ転換した(自由帝政)が，対外政策の失敗でその威信を失墜，プロイセン-フランス戦争に敗北してナポレオン3世が捕虜となったのを機に共和革命が起こり，第二帝政は倒れた。〔喜多迅鷹〕

だいにのせい【第二の性】ボーボワールの女性論(1949)。精神分析・史的唯物論・性科学などの成果を用いながら，男性優位の社会では女性は男性の目でもってしか自分を判断しえないとし，女性がその主体性を回復するにはどうしたらよいかを，サルトル的な実存主義の立場から論じたもの。発表当時から大きな反響をよんだ。

だいにほんこくごじてん【大日本国語辞典】上田万年(かずとし)・松井簡治共著(1915〜1919)。4冊，索引1冊。1952年(昭和27)にはこれを修訂縮刷1巻として出版された。各時代の国語のほか，専門語・外来語・俚諺(りげん)などまで約22万語を集めている。発音・かなづかい・語性を示し，初出の出典例をあげ，語源については，編者の判断を述べ，次に参考としてその他の説を掲げるという方法をとっている。《大言海》とともに現在最も権威のある国語辞典の一つ。

だいにほんこくすいかい【大日本国粋会】1919年(大正8)に創立された右翼団体。原内閣の内相床次(とこなみ)竹二郎が育成し，立憲政友会系の鈴木喜三郎が総裁となった。会員は約60万人といわれ，おもに関東・関西の侠客(きょうかく)が集められた。第1次世界大戦後の自由主義に反発し，反社会主義・反労働運動を唱えて，各地に暴力事件を起こした。第2次世界大戦後解散し，講和成立後，日本国粋会として再建された。

だいにほんこくぼうふじんかい【大日本国防婦人会】1932年(昭和7)大阪・東京を中心に結成された戦時における〈銃後〉の固めを目的とする婦人団体。その任務は軍人・軍属の遺家族の後援，慰問品募集，防空訓練などである。上層の婦人たちによる愛国婦人会に対し中産階級の家庭婦人を糾合した。会長武藤能婦子。1941年には会員数1,000万人に及んだが，1942年大日本婦人会に統合された。

だいにほんこもんじょ【大日本古文書】1901年(明治34)以来，東京大学史料編纂所(へんさんじょ)が編集・刊行している古文書集。3種に大別される。①正倉院文書を主体とした編年文書。②高野山(和歌山県)・金剛寺(大阪府)・東大寺(奈良県)などの社寺と浅野家・毛利家・吉川家・島津家などの諸家の家分け文書。③1849年(嘉永2)以降の対外関係を記した幕末外国関係文書。1971年(昭和46)現在153冊を刊行。

だいにほんさんぎょうほうこくかい【大日本産業報国会】第2次世界大戦中の労働者の統制組織。1938年(昭和13)労資一体・産業協力・産業報国をスローガンとして産業報国中央連盟が結成されたが，1940年の労働組合解散命令を機として，同年11月新たに大日本産業報国会が設立された。厚生大臣を総裁とし，会員数は400万人に及んだ。以後大政翼賛会に所属して戦争遂行に協力。1945年9月解散。

だいにほんし【大日本史】水戸(みと)藩で編纂(へんさん)された漢文・紀伝体の歴史書。本紀・列伝・志・表からなり，全397巻。徳川光圀(みつくに)の命により，1657年(明暦3)に編纂を開始し，1906年(明治39)に完成。神武天皇から後小松天皇までを対象とする。編纂にあたっては，広く史料を収集し，史料批判・史実考証に厳正の限りを尽くし，明治以後の実証主義史学にも大きな影響を与えた。神功(じんぐう)皇后を皇位から除き，また大友皇子を弘文(こうぶん)天皇として皇位に加え，さらに南朝を正統とした点が三大特筆といわれている。この史観は朱子学の大義名分論を日本的に解釈したものであり，それは尊王倒幕の道に通じ，幕末の尊王思想に与えた影響は大きい。この編纂事業を通して起こった学問が水戸学である。➔水戸学〔熊谷保孝〕

だいにほんしりょう【大日本史料】東京大学史料編纂所(へんさんじょ)が編集・刊行している日本史全般にわたる編年史料集。《大日本古文書》と並ぶ2大編集事業の一。奈良・平安時代の《六国史(りっこくし)》から明治維新まで約980年間の史料を原文のまま収録している。1971年(昭和46)現在264冊を刊行。

だいにほんていこくけんぽう【大日本帝国憲法】ふつう明治憲法といわれる。1889年(明治22)発布以来1947年(昭和22)5月3日の日本国憲法施行に至るまで，58年にわたるわが国の最高法規。特色は，最も君主主義的色彩の強い欽定(きんてい)憲法であったことで，この憲法が制定された背景には，1880年を頂点とする自由民権運動をはじめ全国的な専制政府反対，国会開設，憲法制定の要求があった。これに応じて政府は，ついに1881年向こう10年を期して国会を開設するという詔勅を発布，憲法制定の準備のため伊藤博文(いとうひろぶみ)らをドイツに派遣した。しかし草案の起草から公布に至るまで，民間の代表者はまったく参加させず，井上毅(こわし)・伊東巳代治(みよじ)・ドイツ人ロエスレルらが，伊藤博文を援助し秘密裡(ひみつり)に起草し，天皇から臣民に下賜するという形態をとった。天皇主権の原理の上に，立法・行政・司法・軍事の権力は，すべて天皇が掌握し，ただ立法は，国民代表の衆議院と皇族・華族を主とする貴族院との協賛の下に行ない，司法権は裁判所が天皇の名において行ない，行政権は，天皇の任命する内閣が行なうものであった。議会(帝国議会)の地位・権限は，今日の国会とは比較にならないほど弱く，天皇の権限がきわめて大きかった。さらに，女性には選挙権・被選挙権も認められず，また長い間，選挙権には財産制限があり，男性だけの普通選挙権は，1925年(大正14)にはじめて施行された。天皇は，主権者，国の元首として，場合によっては，国会の協賛を経ないで法律と同じ効力をもつ命令(➔緊急勅令)を出すこともできたし，またいっさいの軍事権(統帥権)も大元帥としての天皇の専行するところであり，天皇直属の軍部が，内閣や国会と独立してこれを行なった。条約の締結，宣戦や講和などの大事についても，国会はなんらこれに加われなかった。これらについては，天皇の諮問機関である枢密院の議に付せられ，内閣が助言するだけであった。今日の憲法で最も重要な原理とされている基本的人権の保障という観念は認められず，天皇が臣民の幸福のために，憲法および法律の範囲内で，一定の権利を認めるというたてまえで，言論・集会・出版・宗教などの自由が認められた。しかし，これらの権利を大きく制限する法令が存在した。また，天皇は戦時その他国家事変のときは，これらの権利を一時停止できる非常大権の権限も有していた。

内閣は，総理大臣はじめすべての大臣は天皇が任命し，天皇の内閣(帝室内閣・大権内閣)は，国会における政党政治の動向にはかかわりなく進退するものとされた。皇室に関することは憲法も直接定めることなく，国会の議にも付せられない皇室典範によって定められた(皇室自律主義)。財政についても，緊急の必要のあるときは，国会にはからずに政府が処分しうるものとされ，また国会で政府と野党が対立して予算が成立しないときは，前年度の予算にしたがって政府が財政を処理できるものとされた。

このように，すべての点で，今日の憲法とは原則をことにした。ただし資本主義の発達，政党の成長につれて，政党内閣・議院内閣制が大正時代から認められ，議会制民主主義も形成されつつあったが，1931年の満州事変前後から，軍部・右翼による独裁政治への動向が始まり，諸政党はあいついで解散して，ついに近代的な議会政治は完成されずに終わった。この憲法は東洋最初の憲法といわれたが，日本が真に民主的な憲法国家になるには，第2次世界大戦後の〈日本国憲法〉をまたねばならなかった。〔鈴木安蔵〕

だいにほんぶとくかい【大日本武徳会】明治維新後衰えた武道の再興を図って，1895年(明治28)に設立された武術団体。京都に本部を置き全国に支部があった。平安神宮内に武徳殿をつくって道場とし，毎年演武会を開いて剣道・柔道・弓道・銃剣術や居

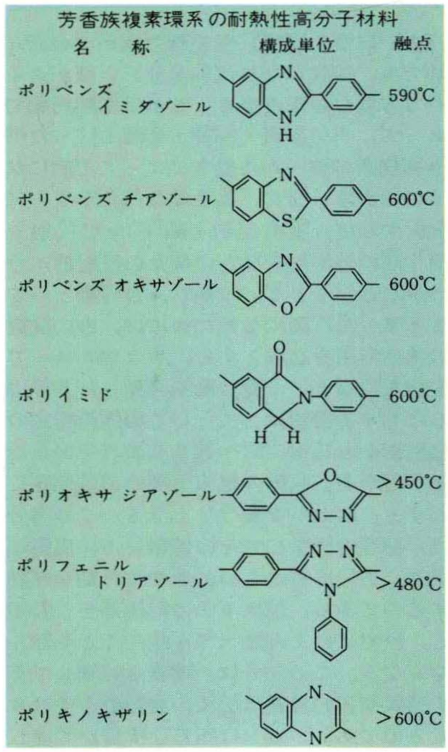
合い・なぎなたなど武道競技を開催した。また，範士・教士・錬士などの称号を設けて武道家を表彰し，武道教員を養成するなど，武道の奨励・普及に努めたが，1946年(昭和21)解散。1952年再建された。

たいねつガラス【耐熱ガラス】⇨硬質ガラス

たいねつこう【耐熱鋼】高温や高温高圧に耐え，クリープ強さが大きく，必要に応じて耐酸化性・耐食性などを備えている合金鋼の総称。種類は多いが大別して，鋼にクロムやモリブデンを添加したフェライト系耐熱鋼(13%クロムなど)と，クロム・ニッケルがかなり多いオーステナイト系耐熱鋼(25%クロム-20%ニッケルなど)に分類される。前者は一般に500℃以下でクリープ強さや降伏点が高く，後者は600℃以上で耐高温酸化と高温強度が大きく，前者に比べて靭性(じんせい)が高く，成形性・溶接性もすぐれている。〔長谷川正義〕

たいねつごうきん【耐熱合金】高温で使用される合金の総称。鉄を主体とする耐熱鋼およびその他の金属あるいはその酸化物を主体とする合金である。高温での強度・耐食性にすぐれ，熱膨張率が小さく，変態などがなく，熱伝導率が比較的大きいものがよい。1,000℃以上の高温度で使用するものに，鉄基耐熱合金(低クロム鋼・高クロム鋼・高クロム-ニッケルオーステナイト鋼・鉄-クロム-ニッケル-コバルト合金)，ニッケル基合金・コバルト基合金・クロム基合金，モリブデンおよびモリブデン基合金などがある。用途は高温高圧配管用・化学工業用鋼管，ジェットエンジンの翼車，タービンの動翼などがある。500℃程度の比較的低温で使用されるものにはY合金・マンガン青銅・シルジン青銅・ニッケル青銅などがあり，パイロメーター保護管・炉内部品・熱伝導板などに用いる。なお，耐熱材料の最も新しい分野としてサーメットが利用されている。これは一般の合金のように溶製せず，粉末冶金(やきん)法でつくられた金属と酸化物の合金である。〔草川隆次〕

たいねつとりょう【耐熱塗料】高温度にさらされても塗膜が軟化・変色・光沢減少・はがれなどの劣化を起こさない塗料。一般には100～600℃程度までの温度に耐えるものが多いが，無機質塗料で1,300℃の温度に耐えられるものもつくられている。塗料の耐熱性は使用する樹脂と顔料によって決まる。代表的な樹脂としてシリコーン樹脂があり，これに中温用としてアルキド樹脂やエポキシ樹脂，中高温用としてチタン酸ブチル・ケイ酸塩類などを合わせて用いる。顔料にはアルミニウム粉を代表とする金属粉や酸化チタン・酸化鉄などの酸化物が用いられ，特にアルミニウム粉は熱に安定で，また鱗片(りんぺん)状であるため高温でも素地金属の酸化を防止する。耐熱塗料



耐熱プラスチック



タイノエ　タイ類の口腔に普通に寄生する

は照明器具類・暖房器具類・煙突・ボイラーや化学工業の反応管，航空機などの塗装に用いられる。〔鈴木荘司〕

たいねつプラスチック【耐熱プラスチック】熱に対する高い安定性を目的としてつくられた合成樹脂*。耐熱性樹脂・耐熱性高分子ともいう。一般に低分子の有機化合物は熱に対して不安定で，300℃ぐらいに加熱するとたいてい溶融したり分解したりする。その欠点を是正したのが耐熱プラスチックで，耐熱性について特に規定はないが，最低限，溶融点300℃以上で，しかも長時間300℃に保っても変化しないことが必要である。中には400～500℃で数十時間，700～800℃で数十分ぐらい安定なものもある。従来知られているものでは，フッ素樹脂(またはフッ素ゴム)とシリコーン樹脂(またはシリコーンゴム)が，上記の最低限の条件を満足させる。最近では特に人工衛星やロケットの開発と関連してこの分野の研究は世界的に活発で，多くの耐熱性高分子材料が合成されている。高分子鎖をつくる結合様式による分類を表に示す。このうちポリベンズイミダゾールやポリイミドなどはすでに企業化もされている。おもな用途は成形品としてベアリングのわく，ピストンのバルブ，歯車などに，エナメルワニス・コイルワニスとして電気絶縁用に，繊維として防火服やフィルム・接着剤などである。〔伊藤　卓〕

だいのう【大脳】⇨次ページ

たいのうしょぶん【滞納処分】税が納期までに完納されないとき，これを滞納という。この場合には，原則としてまず督促をし，督促状を発した日から起算して10日を経過してもなお完納されないときは財産を差し押え，これを公売などに付し，その換価代金をもって税に充当する。税務官庁の行なうこの一連の強制手続きを滞納処分という。この場合，生活上必要な3か月間の食料および燃料，営業上必要な物，滞納者の受領すべき俸給(ほうきゅう)などの一定額，その他身分的なものなどは差し押え禁止物件となっている。また滞納処分の執行によって，滞納者の事業継続または生活維持を著しく困難にするおそれがある場合には，2か年を限度として換価ないし差し押えの猶予が認められる。滞納者が無財産であるなどの事由により，滞納租税の徴収が期待できない場合には滞納処分の執行が停止されることもある。〔西野義彦〕

たいのうら【鯛ノ浦】千葉県南部，安房(あわ)郡天津小湊(あまつこみなと)町の太平洋に面する内浦湾の前面約800m沖合いの海域。この付近は，海底や潮流がタイの生息に適しているため大群をなし，舟から泳ぐさまが見られる。湾岸には日蓮宗(にちれんしゅう)誕生寺があり，日蓮誕生のとき，この海面でタイがはね上がったという伝説から，長くタイの禁漁区になってきた。現在特別天然記念物に指定されており，一帯は南房総国定公園に含まれている。〔味沢成吉〕

たいのえ【鯛の餌】甲殻(こうかく)類・等脚目・ウオノエ科。マダイ・クロダイ・ムツなどの口腔(こうこう)に寄生し，タイが食べた餌(え)のように見えるため，この名がある。日本沿岸のタイ類に普通にみられ，1尾の魚に雌雄が同時に見いだされることも多い。雌雄の大きさは非常に異なり，雌は体長27～50mmで，雄の2倍以上となる。体はわずかに曲がり，左右不相称。背側は扁平(へんぺい)であるが，雌は保育嚢(ほいくのう)をもつため，腹側は非常にふくらむ。寄生定着性のため，色は黄白色で，複眼はやや退化的になり，触角も短小。一般に，雄性先熟の雌雄同体で，性転換を起こすと考えられ，小さい時期には全個体が雄として働き，成長に伴って生殖的に無能な状態になり，さらに成長すると卵巣・輸卵管が発達して雌として働くようになる。しかし，未確認の点も多く，異説を述べる学者もいる。〔向井　宏〕

大　脳

中枢神経系は大脳・脳幹・脊髄(せきずい)からなっており，そのうち，大脳は頭の先端に近く位置し，最も進化した部分である。厳密にいえば，大脳には脳幹の一部の間脳と視床下部を含ませるのが普通であり，その他の大脳の大部分を占める部分を終脳という。しかし，終脳を大脳の意に解することも一般に行なわれている。

終脳は左右の大脳半球からなっており，各半球の表面には〈しわ〉がある。しわとしわを境するのが〈溝(みぞ)〉である。しわは下等な動物では少なく，ヒトで最も顕著であるが，その多少でヒトの大脳機能の優劣を評価できるほどのものではない。しわができるのは，大脳の表面の部分，すなわち大脳皮質の面積を増し，しかも容積をあまり増さないための自然のしくみと考えられる。大脳皮質は神経細胞の密集している部分で，厚さは平均2.5mmあり，その面積は成人で約2,200cm²といわれ，新聞紙の１ページ大に相当する。そして，この大脳皮質に含まれる神経細胞数は約140億といわれる。大脳皮質の内側には神経繊維が集まっており，この部分は白く見えるので大脳白質または髄質とよばれる。これらの神経繊維は大脳皮質の各部間の連絡，中枢神経系の他の部との連絡，神経との連絡にあたるものである。

大脳皮質は古い皮質と新しい皮質に分類される。新しい皮質は大脳の表面を占める部分で，下等な動物では発達しておらず，ヒトでも胎児の初期には発達していない。つまり，新しいとは進化という意味から新しいわけである。古い皮質は外からは観察しにくい部分，つまり大脳の底面や内側面にある部分で，さらにこれを分類して古皮質と旧皮質に分けることもあるが，この分類はさほど重要ではない。古い皮質を辺縁系または辺縁皮質とよぶことがあることをつけ加えておこう。古い皮質は，脳幹と共働して，生命の保持という生物にとって最も基本的な働きを示す。したがって，下等な動物でもこの部分はよく発達しており，ヒトの乳児も生きている限り古い皮質の働きが必要である。新しい皮質は，日常的に脳の働きと解されている意識活動に関係する部分で，高等な動物でなければ発達しておらず，ヒトで最も発達している部分である。そして，考えることにとって重要な部分であり，ヒトの創造的行為はこの部分の発展によってのみ可能である。これに対して，古い皮質は生まれながらの動物が行ないうる本能行動や情動行動をつかさどるもので，意識や考えることと直接関係なく，個体保有や種族保存に関係するものである。

〔古い皮質の機能〕生まれたばかりの赤ん坊でも，空腹になれば乳を飲み，腹がふくれると飲むのを止める。これは本能行動であって，古い皮質・脳幹・脊髄といった中枢神経系の統一ある働きによって可能になるのである。また，乳を飲む行動をさらに分析すれば，吸引反射・嚥下(えんげ)反射や消化液の分泌反射などの個々の反射群に分けることができる。しかし，食行動としてまとまった行動になるためには，古い皮質の統合作用を必要とする。ネコやネズミで実験を行なうと，食行動を発動したり停止したりする情報は，主として脳幹の特定の細胞群から辺縁皮質へ送り込まれていることがわかる。脳幹の視床下部の外側部をこわすと，餌(えさ)を食べなくなる。この部分は，空腹を感受してその情報を古い皮質に送り，古い皮質からの命令で食行動を発動するのである。視床下部の内側部をこわすと，反対にいくら食べても飽くことを知らなくなる。この部分は，満腹を感受してその情報を古い皮質に伝え，食行動をやめさせるのである。以上は新しい皮質が発達していない動物やヒトの赤ん坊の話であるが，意志のよく発達した成人になると，以上の食本能を意志の力でコントロールすることができることはいうまでもない。これらのいわゆる意志の作用は，もちろん新しい皮質の作用である。水を飲んだり，飲むことをやめたりする行動も同様なしくみで行なわれる。水分が不足すると血液の浸透圧が高まり，このことが視床下部の細胞を刺激する。実験的にはこの細胞群に濃度の高い食塩水を注射して同様の効果を収めることができる。この刺激が古い皮質に伝わって，水を飲む行動を誘発するのである。また，水を飲みすぎて血液の浸透圧が低下すると，これが刺激となって飲むことをやめさせる。

性行動は性ホルモンの作用によって左右されることはいうまでもない。しかし，性行動を発動させるためには性ホルモンの作用だけでは不十分で，大脳辺縁系の働きが必要である。食欲の場合と同じように，視床下部にある性ホルモンを感受する細胞群から送り出される情報が，古い皮質で性欲をひき起こす。そこで下部の中枢(脊髄など)に指令して性行動を起こさせ，また分泌神経を通じて射精などを行なわせる。射精が起こったり，子宮や膣(ちつ)の収縮が起こると，それが視床下部の別の場所の細胞群を刺激し，これが古い皮質に伝えられて満足感を起こすのである。したがって，これらの細胞群を破壊すると満足感が起こらないから，いつまでも性行動を続けることになる。ヒトの場合でも，古い皮質に病変が起こると性行動が異常になる。新しい皮質が発達した人間では，古い皮質の作用を新しい皮質の力で修飾することができる。つまり，閉経期が過ぎて性ホルモンの分泌が不十分な婦人でも性行為をみずから進んで行なうことがあり，去勢された男性でも性生活を営むことができるのはこのためである。

古い皮質とその下にある脳幹の視床下部の間の連絡を断つと，動物の感情的表現が非常に不自然なものになる。たとえば，なんでもないことに非常に強い怒りの表情を表わし，攻撃的行動をする。しかし，その行動の目標はまとはずれなことが多い。このことから，古い皮質が情動を調節していることがわかる。しかし，新しい皮質から高度の調節があることはいうまでもない。

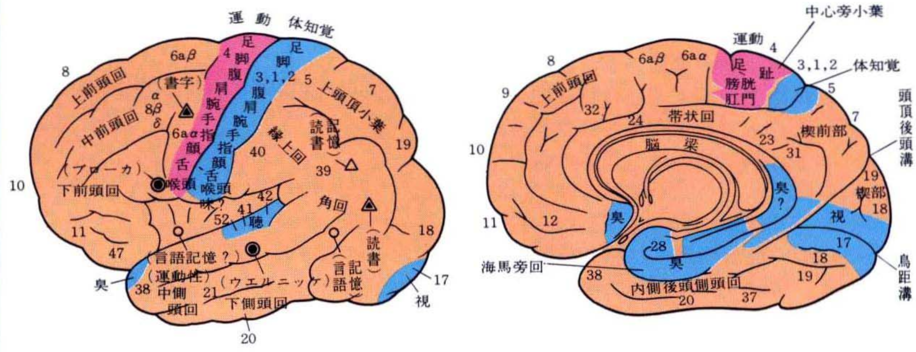
〔新しい皮質の機能〕新しい皮質は，生物が環境の変化に適した行動をとり，さらに創造的行動をするために必要な部分で，高等な動物でよく発達している部分である。環境に適応するためには，環境からの情報をよく取り入れなければならない。そのため，新しい皮質の大部分は，環境からの情報の取り入れとその処理のためにあてられている。まず，五官器といわれる視・聴・臭・味・触などの感覚器からくる情報を受け取る部分があるが，このうち臭覚は最も原始的な感覚で，その取り扱いのおもな部分は新しい皮質部ではなく古い皮質部にある。大脳半球の後頭部には視覚領があり，側頭部には聴覚領がある。触覚および関節や筋からくる運動に関する感覚は，頭頂部の中心溝(ちゅうしんこう)とよばれる溝の後ろ側に沿って存在する知覚領または体知覚領という部分で受け取られ，処理される。味覚に関する部分は体知覚領の下部に接して存在する。

次に，環境から得た情報に基づいていろいろな処理や判断などの機能が作用して行動となって発現するわけであるが，この行動を発動する場所を運動領といい，体知覚領の前方にやはり中心溝に沿って存在する。運動領の存在は最も早く気づかれたもので，1870年フリッチとヒッチヒによって大脳皮質のこの部分に電気刺激を与えると随意運動に似た運動を起こすことが発見され，これが大脳に関する実験のさきがけとなったのである。このような実験によると，大脳の右の半球の刺激では身体の左側の運動が起こり，逆に左半球の刺激では身体の右側の運動が起こる。もちろん，刺激を伝えるのは神経繊維であるから，左半球からの運動に関する神経繊維と右半球からのものとは，中枢神経系のどこかで交差していることが考えられる。そして，脳幹の延髄の部と脊髄の部とに交差する場所があることがわかり，この予想は的中した。脳出血で半身不随が起こることはよく知られているが，このような半身不随は運動領の出血でも起こり，その場合は不随になった身体の側とは

反対の大脳半球に出血があったわけである。また，運動領からの神経繊維が出血によって冒されても半身不随が起こり，脳出血で起こる半身不随はむしろこの場合が多い。ことに，運動領から少し下がったところの大脳髄質部に，運動領からの繊維が束になって通っている内包という部分があり，ここが出血の被害を受けやすく，完全な半身不随はまず内包の部分の出血によると考えれば大きな誤りはない。

いままで述べたのは意志に基づく運動で，これを伝える神経路を錐体路(すいたいろ)という。運動はただ意志によってばかり行なわれるのではない。たとえば歩行運動でも，ある目的をもって歩きだすときには意志によるものであるが，歩きだした以上は半ば機械的あるいは無意識的に歩行運動を続けるものである。こうした無意識的な運動に関係する神経系を錐体外路系という。錐体外路系に属する神経細胞は新しい皮質内にもたくさん存在するが，それが大きな集団をなして存在するのは大脳の髄質内であり，内包の付近に存在する大脳基底核はその代表的なものである。意志運動(随意運動)が円滑に行なわれ，目的ある行動が遂行されるのは，錐体路系の働きを錐体外路系が助けるからで，これが大脳基底核の病変などで妨げられると，なめらかな意志運動ができなくなってしまう。最もしばしばみられる障害はパーキンソン病といわれるもので，四肢(しし)がこわばって意志運動がしにくくなり，できても行動がのろくなる。また顔面もこわばり，能面を思わせる表情となり，運動の場合に手がふるえる。このような現象は脳内出血や脳炎の後遺症としてもみられるが，それとは反対に筋の緊張が低下して余分な運動が起こる病気もある。

次に知覚について述べる。どの知覚でも目とか耳といった感覚器と大脳皮質の知覚領とは直通していないということが特徴であり，必ず中継所がある。たとえば視覚の場合には，目の網膜と視覚領との間には外側膝状体(しつじょうたい)という中継所があり，視放線という神経繊維で視覚領と連絡している。外側膝状体は間脳にあり，広義の大脳に属している部分で，脳のいろいろの部分からの連絡があるが，ことに大脳皮質の視覚領からの神経連絡が密である。大脳視覚領から外側膝状体への連絡があるというのは，視放線による連絡を指すのではなく，皮質から外側膝状体へのいわゆるフィードバックの繊維をいうのである。どの知覚系でも，感覚器から大脳皮質へと一方向の情報伝達ではなく，必ずフィードバックの連絡がある。この連絡は，大脳皮質へ到達する情報を調節するためのものである。たとえば，情報が多過ぎて処理に困る場合には，この旨を外側膝状体に伝えて情報の流れを



1,2,3,4…などの数字はブロドマンの細胞構築学的分野名
は運動領，は知覚領，その他は総合作用に関する連合野である

図-1　大脳皮質の機能局在

制限してもらい，逆に情報が弱過ぎて受け取りにくい場合には，制限をゆるめて情報がよく通るようにしてもらうといった調節が適当に行なわれるのである。ここには視覚領以外の他の脳の部分からの連絡もある。われわれはよい音楽に聞き入る場合に目をつぶるが，これは視覚的刺激が脳に達して，音楽を聞くという脳の働きを妨げることを予防するためである。また，特別に目をつぶることをしなくとも，目にはいった情報が外側膝状体へ来ると，通過を制限されるという事実がみられる。

聴覚の場合の中継所は中脳や間脳の内側膝状体にある。中継所における聴覚情報の通過は，視覚の場合と同様に，環境の条件に応じて調節されているのである。たとえば次のような実験がなされている。聴覚の中継所における電気的活動を記録しながらネコにネズミを見せると，電気的活動の停止が起こる。電気活動がやむというのは聴覚の伝導がやむということを意味するから，以上の実験はネコがネズミを見た瞬間には外界の音は大脳の聴覚領に到達しないということになる。昔から〈心ここにあらざれば，見れども見えず，聞けども聞こえず〉ということがいわれているが，これを大脳生理学の立場から解すれば，注意していなければ外からの刺激が目や耳にはいっても，それは情報として大脳皮質に達しないということである。

〔連合野の機能〕 上述の知覚領(視・聴・臭・味・触)を除いても，大脳皮質には多くの余白がある。そして，その余白の広さは動物が高等になればなるほど広く，ヒトで最も広い。これらの領野は連合野とよばれ，情報の判断・くふうなどに使われる部分である。各知覚に関する連合野は，それぞれの知覚領に接した部分に存在する。たとえば，視覚領に接続して存在する連合野は，見たものの判断を行なう。もちろん，判断は過去の経験と照らし合わせて行なうのであるから，記憶にも関係がある。この部分が冒されると，見たものの意味がわからなくなる。はなはだしい場合には，自分の妻を見ても妻と認識できず，他人に応対すると同様にふるまう患者がある。動物に食物を与えても，見ただけでは食物と判断ができず，そのにおいをかいだり口に含んだりして，はじめて食物であることを悟るのである。聴覚に関する連合野は側頭部に，触覚や運動知覚に関する連合野は頭頂部に存在する。しかし，ヒトでは各知覚領に接続する連合野以外にも，広い余白がある。たとえば前頭葉の皮質がそれである。動物では前頭部の余白が非常に小さいかあるいは欠けており，この部分が発達していることが人類の特徴である。そこで，この部の連合野は人類に特有の働きをするのであろうと考えられるわけであるが，実際にもそのとおりである。言語というものは人類に特有で，人類が文化を建設できたのも言語のせいだともいえる。言語には話す語と書く語とがある。話す語はこれを聞いて意味を解しなければならず，書く語はこれを読んでその意味を悟る必要がある。これら言語に関する働きをする連合野を一般に言語中枢という。話すための言語中枢をその発見者の名にちなんでブローカの中枢といい，左半球の運動領の前でこれに接する部分にある。この部分が脳出血その他で冒されると，ことばをしゃべることができなくなる。左半球の出血は，右側の半身不随をきたすものであるから，右側の半身不随によくことばがしゃべれない状態が随伴する。言語を聞き分けるための言語中枢は側頭部にあり，これをウェルニッケの中枢という。ここを冒されると，相手のことばの意味を理解できなくなるので，やはりことばがしゃべれなくなり，前述の場合と合わせて失語症という。しゃべれない型を運動性失語症，

聞き分けられない型を感覚性失語症といって区別するが，はっきり区別できない場合もある。書くための言語中枢はブローカの中枢と同じく運動領の前にあり，読むための言語中枢は視覚に関する連合野に接して存在する。これら言語に関する連合野を除いても，ヒトの脳では前頭葉に広い余白がある。この部分は，ヒトの最も高等な精神作用に関係する部分であろうと考えられているが，この部分の働きはヒトに限られているので，研究することが困難である。理性とか道徳といったヒトに特有なものの発達は，この部分の発達と関係があると思われる。また，パーソナリティーといったものを決定することも考えられる。というのは，この部が交通事故等で損傷を受けると，がらりとパーソナリティーが変わることがある。最も著しい変化は，意志の力が薄弱となって主体性がなくなることである。ある患者では，見かけは非常におとなしくなる。これは，自分から進んでなにもしないからである。またある患者は人格が軽薄になり，周囲の状況や他人の言に左右されて動き回る。これも主体性がないことの現われである。創造性といった働きも前頭葉連合野の働きである。自主性と創造性こそ

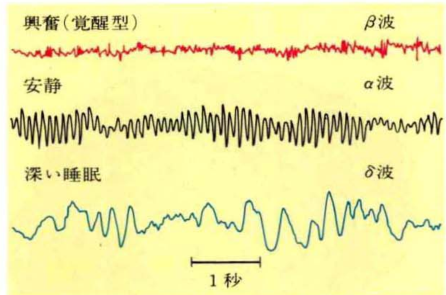


図-2　ヒトの脳波

は最も人間らしい働きであるといえる。

〔脳波〕大脳からはたえず電気が出ている。この電気は交流の性質をもっており，頭皮上においた電極でとらえて脳波計という記録装置で記録することができる。このように記録したものを脳波(図2)という。脳波は大脳の働き方によっていろいろに変わるので，脳の働き方の診断に役だつ。脳波はいろいろの周波数の交流が混合したものであり，正常人で精神安静時に出ているおもな脳波をα波といい，約10サイクルの波である。外から感覚的な刺激を加えてヒトがこれに感ずれば，α波が少なくなり，β波という波が多く出る。β波は13～30サイクルほどの小さな不規則な波である。外から刺激を別に加えなくとも，考えごとをしたり，興奮したりしてもα波が少なくなってβ波が多くなる。このように脳の働き方の大ざっぱな変化が脳波の変化として客観的にとらえられる。ヒトでも動物でも睡眠に陥ると，覚醒時(かくせいじ)とは一般に違った脳波を出す。熟睡の時にはδ波という1～3サイクルぐらいの大きな複雑な波が出る。脳の病気や麻酔のときにもδ波が出る。夢を見ているときの脳波は覚醒時のものに似ており，β波に富んだものである。このβ波に富んだ脳波を出している睡眠状態をパラ睡眠といい，熟睡しているときをオルト睡眠という。パラ睡眠のときには無意識的に眼球を動かすという特徴もある。ヒトはその顔がそれぞれ異なるように，その脳波も十人十色であり，個性的である。ただし，一卵性双生児の脳波は互いによく似ている。

脳波を利用すれば脳の外傷やてんかんの診断がつくが，いわゆる精神病はあまりわからない。ものの考え方や感情が正常より少しずれているくらいでは，脳波になにも異常が出てこない。ただし，精神薄弱や白痴は脳波で知ることができる。➔脳

〔本川弘一〕

だいば　【台場】　江戸時代にできた砲台。大筒台場ともいい，特に〈お台場〉というときは東京湾の品川沖にある砲台をさす。これは1853年(嘉永6)ペリー*来航以来，幕府が江戸防衛のために江川太郎左衛門*(たろうざえもん)を技師としてつくらせたもので，11か所造営の予定のところ，幕府の財政窮乏のため完成したのは5か所だけであった。実用にはされなかった。現在もその遺構が東京湾に残っている。

たいはくさんみゃく　【太白山脈】　テベク山脈　朝鮮中南部の東海岸沿いを南北に走る山脈。金剛山(1,638m)・雪岳山(1,708m)・五台山(1,563m)・咸白(かんはく)山(1,573m)・太白山(1,561m)など，1,000～1,500m前後の山々が約600kmにわたって連なり，半島の脊梁(せきりょう)を形成している。日本海側は急斜面をなし，分水界線から海岸まで10～20kmしかないが，西側は広州・車嶺(しゃれい)・益崗(えきこう)・小白の各山脈を派出し，漢江・錦江・洛東江(らくとうこう)など大河川の水源をなしている。東海岸へは大開嶺(866m)・大間嶺(641m)・楸地嶺(しゅうちれい)(645m)などの峠が通路となっている。太白山は山脈の主峰ではないが，雄大な山容から信仰を集め，金剛山は名勝として知られる。　〔矢守一彦〕

だいはさんみゃく　【大巴山脈】　ターパー山脈　中国，四川省と陝西(せんせい)省の境を北西から南東に走る高度2,000m前後の山脈。巴山山脈または巴嶺(はれい)山脈ともいわれ，主峰は大巴山(1,850m)・鴻心嶺(こうしんれい)(1,645m)。漢中盆地に臨む北側は急傾斜だが，南側はゆるやかである。

たいばん　【胎盤】　妊娠によって生じた子宮*の変化の一。受精卵が子宮の壁に着床すると，子宮の壁は肥厚を始め，その一部は脱落膜をつくり，さらにこの一部は胎盤を形成する。胎盤は円盤状で血液に富んでおり，胎児側は絨毛*(じゅうもう)膜，母体側は脱落膜となっている。絨毛はよく発達していて脱落膜に深く根を張り，絨毛間腔(こう)という腔所をつくる。胎盤は，母体側と胎児側との間の栄養物と老廃物との交換と，酸素と炭酸ガスとの交換が行なわれる場所で，絨毛の中にある毛細管は，胎児で不要になった物質や炭酸ガスを絨毛間腔にある母体側の血液に移し，酸素や栄養分と交換するようになっており，胎盤によって胎児を外界から完全に保護し，母体内に長時間とどまらせて発育を完全に行なうことができる。ヒトの胎盤は妊娠4～5か月には完成される。その後しだいに増大し，妊娠末期には直径15～20cm，重さ500gとなる。分娩(ぶんべん)時には全部はがれて胎児とともに体外に排出される。これを〈えな〉ともいう。

〔高野一雄〕

だいばん　【台盤】　食物を盛った盤を載せる台で，平安から鎌倉時代にかけて用いた食卓の一種。〈だいはん〉ともいい，小台盤(切台盤)・長台盤などがある。節会(せちえ)や大饗(だいきょう)などに貴人が用い，清涼殿*の殿上間や台盤所に常置されていた。寸法は長さ4～8尺(約121～242cm)，高さは約1尺5寸(約45cm)ぐらいで上面は朱塗りが多く，縁がいくらか高くなっており，脚は撥足(ばちあし)である。

たいひ　【対比】　二つの相対立する，あるいははなはだしく異なる性質の刺激が与えられたとき，両者の質あるいは強度の差がより強調されて知覚される現象。視覚において特に著しいが，味覚・臭覚・聴覚・皮膚感覚などにもみられる。視覚では，明るさ・色彩などに特に顕著に現われる。対比のうち，二つの刺激を同時に与えた場合に起こる対比を〈同時対比〉，時間的に前後して与えた場合に起こる対比を〈継時対比〉という。対比は喜びと悲しみなどのように感情にもみられ，これを〈感情対比〉という。

〔吉田俊郎〕

たいひ　【堆肥】　稲わら・麦わら・野草・落葉などを堆積(たいせき)・発酵させた肥料。厩肥(きゅうひ)と違い家畜は関係しない。堆積方法により水積み堆肥・速成堆肥・特殊堆肥などに分けられる。通常は速成堆肥を単に堆肥といい，材料に消石灰と窒素肥料を加え，水を注いで適当な大きさに堆積する。消石灰は材料をもろくし，酸性を中和し，微生物の活性を高める働きをする。窒素肥料の添加は主として材料中の豊富な炭素に対し窒素を増量し，微生物の増殖に役だつように調節するためである。堆肥は通常基肥に施用する。肥料成分として良質である

だけでなく，土壌(どじょう)を改良する効果も大きく，また作物に通常の化学肥料では補えない有効な作用を及ぼす。近年材料の不足，労力の不足から減少の一途をたどっている。 ➔厩肥 ➔自給肥料 〔早瀬達郎〕

だいひょうち 【代表値】 変量の分布の特徴をつかんだり，二つの数量の分布を比較したりするときのめやすとして用いられる数値。たとえば，成人の身長は，男女ともさまざまであるが，男と女を比較すると一般に男のほうが大きいと考えられる。このようなとき，さらに的確な比較をするために，変量の分布を一つの数値で代表させて処理することが多い。その代表値として最もよく用いられるのは平均値である。平均値は変量の値xiに，それをとる確率(または度数)を重みとしてつけた加重平均で，確率的な処理に適している。

その他の代表値として中央値と最頻値(さいひんち)が用いられる。中央値は，資料を大きさの順に並べたとき，ちょうど中央になるものの値である。確率でいえば，それより大きな値をとる確率と小さな値をとる確率の等しい位置，ヒストグラム*では面積を二等分する位置である。中央値は，中位数あるいはメジアンともいわれる。

最頻値は，分布曲線の最高となる点にあたる値で，モードあるいは並み数ともよばれる。ヒストグラムでは最高の柱のある階級の中央の値を代用する。山形のほぼ対称な分布では，平均値・中央値・最頻値はほぼ近い値となるが，最頻値は標本による安定度が最も劣る。 〔小西勇雄〕

だいひょうとりしまりやく 【代表取締役】 取締役会の業務執行の意思決定に基づき，会社の業務の執行にあたり，対外的に会社を代表する取締役。この権限は，一般の取締役にはない。取締役は取締役会の構成員として会社の業務執行の意思決定をするのみである。代表取締役は，定款に別段の定め(株主総会で選任するなど)がなければ，取締役会の決議により，取締役の中から選任される。代表取締役の人員は1人でも数人でもよく，定款で社長・副社長・専務取締役・常務取締役を置く旨を定め，これを代表取締役とすることも少なくない。代表取締役の住所・氏名は登記しなければならない(商法188条)。また数人で共同して代表権を行使する(共同代表)ことも時おり見受けられる。社長・副社長・専務取締役・常務取締役などふつう代表取締役と思われるような名称をもった取締役の行為については，その取締役が代表取締役でなかった場合でも，会社は善意*の第三者に対しては責任を負わなければならない(同262条)。 〔松本治雄〕

たいひょうめんせき 【体表面積】 身体表面の総面積。人体における基礎代謝量はこの体表面積に比例する(体表面積の法則)ので，基礎代謝量は単位体表面積1m²あたりの1時間の代謝熱量で表わされる。体表面積の算出には種々の計算式やそのための表・計算図表などがあるが，日本人ではふつう下のようなデュボア・高比良(たかひら)の改良式が用いられる。

$$A = W^{0.425} \times H^{0.725} \times 72.46$$

ただし，Aは体表面積(m²)，Wは体重(kg)，Hは身長(m)。 ➔基礎代謝 〔平野修助〕

ダイビング ⇨飛び込み競技

たいふ 【大夫】 ①大化改新*前後の議政官。〈まえつきみ〉といった。②令(りょう)制で職(しき)とよばれた官庁の長官。よみは〈だいぶ〉で大膳(だいぜん)大夫・中宮大夫・摂津大夫などがある。③令制で一位から五位までの貴族の称。④のちには五位の人の通称。⑤芸人・遊女の最上級のものを太夫(たゆう)といった。

たいふう 【台風】 ⇨次ページ

だいふくちょう 【大福帳】 江戸時代以降，明治にかけて主として商家で売買に用いられた会計帳簿の一種。本帳・大帳ともいい，商家では最も重要な帳簿として主人またはおもな使用人だけがこれを保管した。内容には一定の基準はなく，商品・金銭の出納，その他商売上の覚えを棒づけにしるしたもので，今日の御得意先元帳に相当するものである。表紙は板目の厚表紙に大福帳としるし，帳面は西之内(にしのうち)または美濃紙(みのがみ)の四つ折りを20枚1綴(つづ)りとして綴り合わせ，裏には板目に店名をしるした。明治年間洋式帳簿の普及によってしだいにすたれた。 〔渡辺欣雄〕

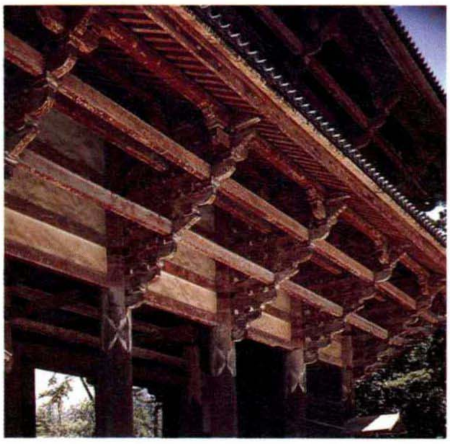
だいふくもち 【大福餅】 もち菓子の一種で，もち米を蒸してつき，小さくちぎってあんを包んだもの。江戸時代からある安価で庶民的な菓子。《寛政紀聞》に〈馬夫などの下賤(げせん)の者の食べ候(そうろう)，腹太もちを少していねいにこしらえたるまでの由なり〉と書かれている。腹太もちは塩を入れた赤アズキあんを詰めた大形のもちで，のちに形も小さく，砂糖入りのあんにして大福もちとよばれた。延宝年間(1673～1680)京都に〈うずらもち〉というもちがあり，これをまねたともいわれる。 〔塩川ふみ〕

だいぶつ 【大仏】 一般に，丈六像(1丈6尺，約4.8m，坐像(ざぞう)の場合はその半数をいう)以上の法量のある仏像をいう。古記録には，仏教発祥の地のインドをはじめ，仏教東漸の道筋にあたる場所に，仏教興隆時代のなごりを伝える大仏がつくられたとある。現存遺品には，アフガニスタンのバーミアンの摩崖(まがい)石仏2体(53m，35m)が最もよく知られ，中国の雲岡石窟*(うんこうせっくつ)・龍門(りゅうもん)石窟*などの石仏の中にも巨像が数多くみられる。わが国で，現在，一般に大仏とよばれているものは，奈良の大仏(東大寺金堂安置の《盧遮那仏坐像(るしゃなぶつざぞう)》，国宝14.9m)，鎌倉の大仏(高徳院の《阿弥陀(あみだ)如来坐像》，11.5m)，などである。 〔永井信一〕

だいぶつべんさい 【代物弁済】 債務者が債権者の承諾を得て，本来の給付に代えて他の給付をすることで債権を消滅させることをいう(民法482条)。たとえば，甲が乙に対して300万円の債務を有する場合，甲乙間の契約により，甲が乙に一定区域の土地を引き渡し，金銭債務を免れる場合などである。本来の給付と異なる他の給付によって債務が消滅する点においては更改*と類似しているが，代物弁済は，現実に他の給付をして債権を消滅させる点において，新債務を負担するにとどまる更改と異なる。したがって，金銭債権に代えて，単に土地という不動産物権の移転を約するだけでは更改であって，相手方に対する意思表示*のほかに登記*やその他引き渡し行為を完了しなければ代物弁済とはいえない。金銭債務を負う者が，金銭の代わりに小切手や手形を交付する場合，それが〈弁済のために〉なされたものであれば代物弁済とはならないが，〈弁済に代えて〉なされたものである趣旨が明示されていれば代物弁済だとされる。代物弁済は弁済と同一の効力を有するから，債権およびそれに付属する権利は消滅する

➔160ページ


大　仏 《銅造盧舎那仏坐像》 東大寺金堂安置


大仏様 東大寺南門　何段にも肘木を差して　深い軒先の出をささえているのがわかる

台　風

熱帯地方で発生する低気圧を熱帯性低気圧といい，その中で南洋で発生し，特に勢力が強く，中国や日本を襲うものを台風という。なお，インド洋で発生するものはサイクロン*，カリブ海で発生するものはハリケーン*，オーストラリア近海で発生するものはウィリー-ウィリーズ*とよばれている。

〔台風の発生〕台風の発生数は，多い年では40以上にもなり，少ない年で20程度であり，年によって相当異なる。もちろん，これは発生数であって，この中でわが国に襲来するものになるとずっと少なくなる。台風の多くは，南北両半球の亜熱帯高気圧から吹き出す両貿易風の間にできる赤道前線付近で発生する。この赤道前線の位置，勢力は季節によって異なり，したがって台風の発生数・発生場所も季節によって変化し，1～6月および10～12月には，台風の発生域は主として北緯15～20°以南に限られているが，7～9月の最多発期には，北緯5～35°の全海域に広がっている。以上のものとは別に7～8月には，年によって日本のすぐ南方の海域に多数の台風が発生することもある。

〔台風の経路〕南方洋上に発生した台風は，発達しながら北または北西に進み，そのままフィリピン・中国大陸などを襲うものと，

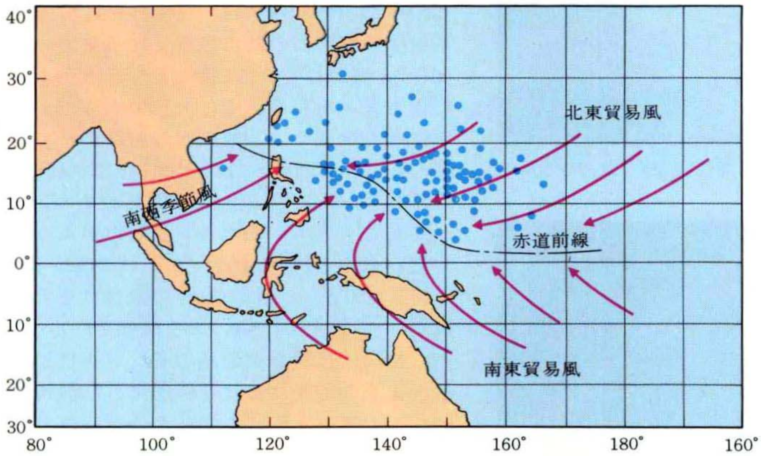


図-1　赤道前線と著しい台風の発生場所

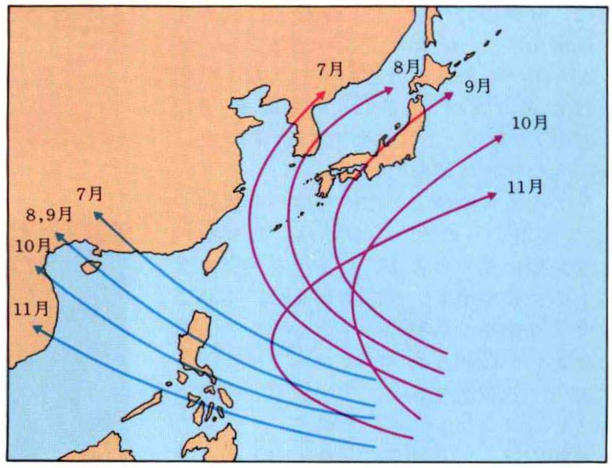


図-2　台風進路の季節変化

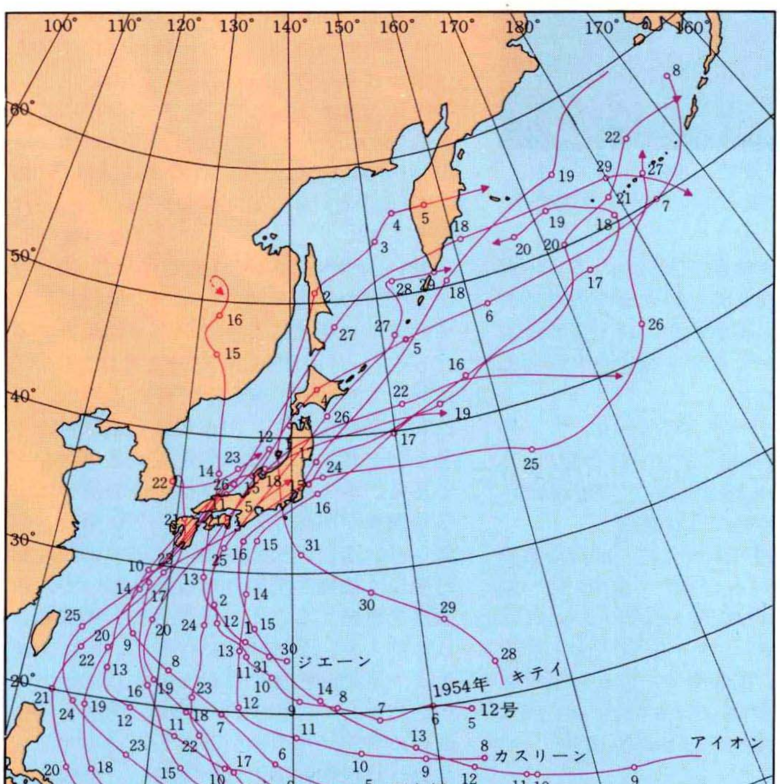


図-3　室戸台風および第2次世界大戦後のおもな台風の経路図

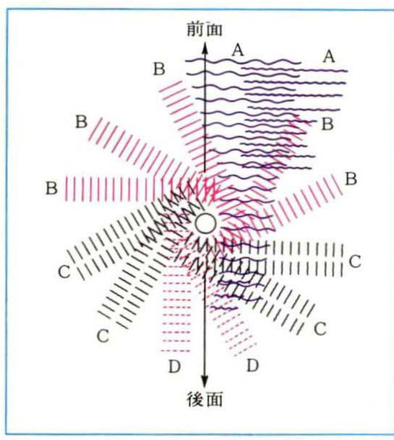


図-4
台風による波浪

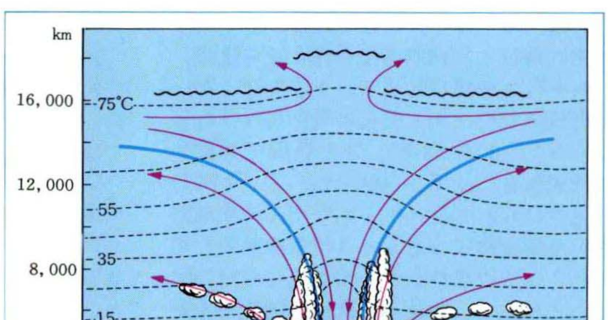


図-5　台風の断面図　波線は圏界面

西または北西の進路をさらに北に転じて，放物線状に向きを変え，大陸沿岸・日本付近・日本東方洋上などを北東進するものがある。一般に北西から北東に放物線状に向きを変えることを転向とよんでいる。このように放物線状に進むのは夏と秋の台風に多く，これは北太平洋高気圧の周辺に沿う一般流に流されるためと考えられている。北太平洋高気圧の動向は季節によって変動し，台風の経路も図-2に示すような季節別の傾向をもっている。なお，台風によっては，上に述べたのとは異なる複雑な経路をとるものがあり，迷走台風などとよばれる。また，一般に台風の経路は蛇行(だこう)する性質をもっているが，振幅は小さく，それほど顕著には現われない。一方台風の進行速度は，発生してから発達し，最盛期に達するころまでは，20〜30km/時のことが多く，それが北上して転向時には急に速度が落ち，転向後北東進するときに衰弱期にはいり，速度は一般に速くなり，ときには100km/時程度になることもある。

【台風の構造】台風の最大の特徴は，地上気圧分布はやや同心円形をなし，気圧の中心示度が低くて，強い風雨を伴うことである。普通の低気圧と異なる点は，大きさが小さいわりに気圧の示度が低く，前線を伴っていないことである。もっとも，台風が北上して温帯性低気圧に移行して前線を伴うようになることもある。台風の半径として最も外側にある閉じた等圧線の半径をとることにすると，200〜300kmぐらいのものが最も多く，800km以上のものはほとんどない。気圧の中心示度のいままでに最も低かったのは室戸台風が1934年(昭和9)9月21日5時10分に室戸岬(みさき)に上陸したときの911.9ミリバールである。

台風域内の風は中心付近で最も強いが，半径数キロメートルから数十キロメートルの範囲は風も弱く静穏で，〈台風の目〉とよばれている。台風の目の外側で風が最も強く，外側に向かって小さくなっているが，必ずしも目が顕著に現われるとは限らない。台風の風速は非常に強く，平均風速は60m/秒に達することがあり，瞬間風速はさらに強く，平均風速より5割も大きくなることがある。気圧分布は同心円をなしているが，台風は一般流のある場を移動しているために，風の分布は中心に対して対称な分布をしていない。台風の進路に向かって右半分(北半球で)は風が強く，一方左半分では比較的風が弱く，海上での船舶にとって大事な事がらであり，右半分(北半球で)を危険半円，左半分を可航半円とよんでいる。風向は，中心を左に見て等圧線に沿うより，若干中心寄りであり，この等圧線からの偏角は台風の運動状態・構造，緯度，表面摩擦などの状態によって異なる。

表-1　台風の年・月別発生数

年＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1941	0	1	0	0	0	4	7	9	4	3	0	2	30
1942	1	1	0	1	1	0	5	9	7	3	1	1	30
1943	1	0	0	3	1	3	8	6	5	4	2	2	35
1944	2	2	0	0	1	1	4	5	3	4	3	0	25
1945	0	0	0	1	0	3	4	6	4	2	1	0	21
1946	0	0	1	0	1	3	5	5	4	4	2	0	25
1947	0	0	0	0	2	1	3	2	4	6	3	1	22
1948	1	0	0	0	2	3	4	8	6	6	4	2	36
1949	1	0	0	0	0	1	6	3	5	3	3	2	24
1950	0	0	0	2	1	2	5	18	7	4	3	2	44
1951	0	2	0	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21
1952	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27
1953	0	1	0	0	1	2	2	6	4	4	3	1	24
1954	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21
1955	1	1	1	1	0	2	7	7	3	3	1	1	28
平均	0.5	0.5	0.2	0.7	0.8	2.0	4.2	6.5	4.4	4.0	2.2	1.4	27.4

表-2　戦後のおもな台風災害

年	月・日	台風名	被害地域	被害内訳
1945	9・17〜18	枕崎台風	関東・中部以西	死者2 473，ゆくえ不明1 283，田畑被害165 460ha，建物被害446 897戸
1947	9・14〜15	カスリン台風	関東・東北・北海道	死者1 077，ゆくえ不明853，田畑被害289 530ha，建物被害394 041戸
1948	9・15〜17	アイオン台風	近畿・甲信越・関東・東北	死者512，ゆくえ不明320，田畑被害112 293ha，船舶被害435隻
1950	10・13〜15	ルース台風	九州・四国・本州	死者572，ゆくえ不明371，船舶被害10 415隻，田畑被害127 232ha，建物被害359 380戸
1954	9・26〜27	洞爺丸台風	西日本・北陸・東北・北海道	死者1 361，ゆくえ不明400，船舶被害5 581隻，田畑被害82 132ha，建物被害311 071戸
1958	9・26〜27	狩野川台風	近畿・中部・東北・北海道	死者900，ゆくえ不明280，船舶被害567隻，田畑被害88 941ha，建物被害526 011戸
1959	9・26〜27	伊勢湾台風	四国・中国・近畿・中部・関東・東北・北海道	死者4 759，ゆくえ不明282，船舶被害13 725隻，田畑被害198 501ha，建物被害567 713戸
1961	9・15〜17	第2室戸台風	全国	死者194，ゆくえ不明8，船舶被害3 858隻，田畑被害82 850ha，建物被害980 340戸
1965	9・13〜17	台風第24号	全国，特に四国・近畿・中部・北陸	死者126，ゆくえ不明16，建物全半壊1 353戸，床上・床下浸水335 695戸，田畑被害109 378ha，道路損壊2 954か所，がけくずれ3 024か所
1966	9・24〜25	台風第26号	静岡・山梨・関東・東北	死者275，ゆくえ不明43，建物全半壊11 661戸，床上・床下浸水53 601戸，田畑被害34 159ha，道路損壊1 351か所，がけくずれ96か所
1968	8・15〜18	台風第7号	長崎・岐阜	死者112(うち飛騨川のバス転落死者104)，ゆくえ不明21，建物全半壊193戸，床上・床下浸水5 262戸，田畑被害1 946ha，道路損壊466か所，がけくずれ338か所

台風に伴う降雨は，風の収束分布に関係するわけであるが，一般に中心付近が強く半径が増すとともに減少する。台風には風の強いわりあいに雨量の少ない風台風とよばれるものと，風は弱いが雨量の多い雨台風とよばれるものとがある。これは台風内の風の収束分布の広さによるが，台風の移動にも関係する。台風に伴って起こる豪雨

は上に述べたように台風域内の強い風の収束によるものと，台風域外の周囲の気圧配置との関係特に日本の東方にある太平洋高気圧との間に南方からの湿潤な空気が収束して，その先端部にあたる日本内地に豪雨をもたらすものとがある。実際の降雨分布は地形の状態に大きく支配され，一般に風上側斜面に多く，風下側に少ない。

台風の地上における模様は以上述べたようになっているが，上層では気圧・風・雲の分布に特有の構造をもっている。低気圧性の気圧配置が顕著なのは10kmぐらいの高度までで，その上は高気圧性になっており，風も台風特有の風は弱くなって，一般流が顕著になっている。また，地上では風は中心部で収束しているが，上層では逆に発散している。台風の目の中で見ると雲の壁を成しており，台風の進行側は鉛直であるが反対側では傾斜がいくぶんゆるやかになっている。台風の目の中は乾燥しており，気温もまわりより2～3℃高いことが多く，下降気流になっている。目の外側では湿潤空気が収束して上昇気流になっているわけである。

〔台風に伴う風浪とうねり〕 風によって起こされた波のうちで波長の比較的短いものを風浪，波長が非常に長く，風の方向と無関係に遠くまで達するものをうねりという。風浪はその場所に吹く風によって直接起こされる波で，うねりも大きな風浪がもとで，そこから四方八方へ広がっていったものである。台風の域内は風浪とうねりが重なって図-4に示すようにかなり複雑になっている。Aは台風の進行方向に進むうねりで最も強く，進行方向に向かって右後の象限から出るので台風域内では風浪と重なっており，Bはこれより弱く，台風の前半の区域から左右に広がっている。Cは後半から左右に広がっていくさらに弱いものであり，Dは後面に出る最も弱いうねりである。このようなうねりは2,000km以上も遠方まで伝わるので，台風発見のめやすになる。

〔台風による災害〕 台風による災害に風害・水害・波浪害などがある。風害としては，まず建造物の破壊がある。その際重要な要素は建造物に働く風圧で，その形によって異なるが，一般に風速の自乗に比例すると考えられている。この場合，平均風速のみならず，風の息に伴う変動が大きな影響を与える。木造建築の多いところでは，風速20m/秒を越えると被害が出はじめ，30m/秒以上になると被害が著しく増加する。また，最近では高層建築物が多くなり，その周辺で吹く風が異常に強くなることがあり，このような高層建築物による風の吹き方が問題になっている。台風に伴う風害として，その他に船舶や農作物に対するもの，海岸地帯では塩風害などがある。水害も台風に伴う災害の一つで，豪雨によって洪水(こうずい)となり，家屋の流失・破壊・浸水やがけくずれなど重大な被害が多く，多数の死者を出すことも少なくない。このような水害に対しては，堤防の強化，がけくずれ防止には地質調査，豪雨予報の精度向上など，困難ではあるがなすべきことが多い。

最後に波浪害としては，船舶の遭難が主要なものであるが，その他に台風による高潮*の被害がある。高潮は風の吹き寄せと気圧降下に伴う水面の隆起が重なって起こることが多い。台風が上陸する場合に海岸に向かって右側のほうが高潮が大きくなる。室戸台風のときには15分に1m程度の割合で水深を増し，3～5mの高潮が起こって，大阪市内に大きな被害をもたらした。

〔曲田光夫〕

(民法482条)。また，代物弁済として給付したものに瑕疵(かし)があった場合には，売買の瑕疵担保*の規定を準用して，契約の解除または損害賠償*の請求ができる。

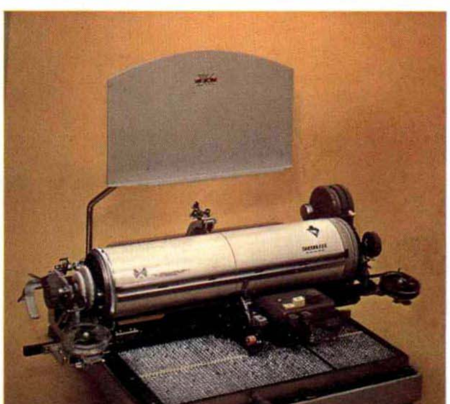
〔黒木三郎〕

だいぶつよう　**【大仏様】**　天竺様(てんじくよう)ともいう。鎌倉時代初頭，東大寺の再興にはじめて用いられた新様式で，僧重源(ちょうげん)によって中国からもたらされ，くふうされた。東大寺大仏殿は木造建築として限界に近い巨大な建築であったため，奈良時代に建設されて後まもなく軒がたれるなど，古代の一般的な構造では構造的に欠陥があり，また巨大な量の木材を必要とした。中世初頭の大仏殿再建では，建設費の不足の面からも材を節約し，かつ構造的にすぐれた構法の開発が必要となり，柱に何段にも肘木(ひじき)を差し通して手先を出し，深い軒の出をささえる構法がくふうされた。この新様式は，従来の様式(和様*)に比べ，豪快で巨大な建物には適するが，一般には向かないために普及せず，大仏殿のような巨大な建物の造営に限って用いられたので，大仏様の名がある。➔157ページ(写真)

たいぶつレンズ　**【対物レンズ】**　望遠鏡・顕微鏡などの光学機械の光学系において，見ようとする物体に面して最初に置かれるレンズ。物体の像をつくるために用いられ，接眼レンズでこの像を拡大して見る。対物レンズは望遠鏡では遠方の物体の，顕微鏡では非常に近くの物体の像をつくる働きをし，レンズ収差補正のために望遠鏡では2～3枚，顕微鏡では数多くのレンズを組み合わせて構成される。顕微鏡の対物レンズの焦点距離は望遠鏡のそれに比しきわめて短い。

〔加藤定雄〕





タイプライター(上)欧文タイプライター(下)和文タイプライター

たいぶてい　**【太武帝】**　(408～452)　中国，北魏(ほくぎ)の第3代皇帝。名は拓跋燾(たくばつとう)。宰相崔浩(さいこう)の方針に従い，南朝との修交に努め，北辺の諸民族を制圧し，華北を統一した。また，崔浩や道士寇謙之*(こうけんし)の影響によって仏教を弾圧した。これは三武一宗の法難*の一に数えられる。

タイプライター　［typewriter］　指でキーを打って紙に文字を印字する機械。手書きよりも読みやすく，しかも早く印字でき(欧文タイプライター)，複写も容易であることなどから，文書作成事務に用いる。

〔種類・特徴〕 3種類に大別できる。①欧文タイプライター・かなタイプライター：つける活字が違うだけで，原理的には両方まったく同じもの。欧文とかなに両用できる機械もある。機械の大きさによって，スタンダード・ポータブル，動力によって手動式・電動式・半電動式の各種がある。欧文のは熟達すれば手書きの3～10倍の速さで印字でき，商用・私用の文書に使うが，かなのは大半が伝票発行用である。②和文タイプライター：活字の索引方法によって活字直視式と見出し盤式に分かれ，ほかに文字盤がドラム状のものもある。印字速度は手書きよりおそいが，対外的文書の浄書用や謄写印刷のオリジナル(原紙原稿)，オフセット印刷のマスター作成に広く利用さ

れる。③計算タイプライター・穿孔(せんこう)タイプライター：前者は伝票発行と同時に計算処理もできるように，タイプライターに計算機の機能を付加したもの。後者はコンピューター入力用のテープパンチが同時にできるようにしたもの。ともに近年著しく普及した。ほかに主としてコンピューターとの連動を目的とした特殊タイプライターもある。

【機構・原理】①欧文タイプライター・かなタイプライター：主としてキーボード・キャリッジ・印字機構の3部分からなる。キーボード部分は機械の前面にあって文字・数字のキーが42～46個並び，キーを押し下げると印字機構が動き，活字がはね上がってキャリッジ部分のプラテン(ゴム製円筒)に取り付けた用紙に印字される。印字機構は，機械の内側のタイプバーの格納庫とリボン送り装置が主体である。②和文タイプライター：主として文字盤・プラテン・印字機構・送り機構の4部分からなる。キーは1個で，文字盤の約3,000字の活字から必要な文字を捜し出し，印字機構を操作してプラテン上の用紙に打ちつける。

【歴史】欧文タイプライターは1714年にイギリスで考案・製作されたのが最初で，1874年アメリカのレミントン会社によって商品化された。その後改良され，1900年代になって機構面でも現在の原形ができ，操作法もキーを見ないで打つタッチメソッドが浸透して，大量普及が進んだ。和文タイプライターは1915年(大正4)に杉本(すぎもと)京太が考案・製作し，翌年商品化された。かなタイプライターは1917年電報受信記録用に縦書きタイプが試用され，1923年山下芳太郎(よしたろう)の考案・試作で第1号機が完成，ドッドウェル商会から発売された。

【技能検定試験】英文・和文のタイプライターは日本商工会議所と各地商工会議所主催で，かなタイプライターは財団法人実務技能検定協会と各地商工会議所主催で，それぞれ年2回全国的に技能検定試験が実施されている。〔神出高吉〕

たいフランスだいどうめい【対フランス大同盟】 フランス革命中からナポレオン時代にかけて，フランスに対抗するためにヨーロッパ諸国間に結ばれた同盟。当時イギリスは，その資本主義の競争相手フランスを打倒するため，フランス革命の脅威をといて諸君主国を味方に引き入れ，オーストリア・プロイセン・ロシア・オランダ・スペイン・ポルトガルなどと同盟を結んだ。1792年フランス革命戦争が起こり，翌年1月ルイ16世が処刑されると，これを契機としてイギリス首相ピットの提唱により，第1次対フランス大同盟が結ばれた。以後第2次は1799年，第3次は1805年，第4次は1806年，第5次は1809年，第6次は1813年と相次いでいる。第7次はナポレオンのパリ復帰に対抗して結ばれたもので，ナポレオン打倒に成功した。〔大野真一郎〕



太平天国 南京における太平天国軍とイギリス艦隊との交戦 東洋文庫

たいへいき【太平記】 全40巻の軍記物語。南北朝の争乱(→南北朝時代)を描いたもの。小島法師(？～1374)の著と伝わるが不詳。1371年(建徳2・応安4)大成されたらしい。後醍醐(ごだいご)天皇の討幕計画から始まり，建武中興の完成と崩壊，南北朝の対立，細川頼之(よりゆき)の執事就任まで約50年間の変革の過程が格調高い和漢混淆文(こんこうぶん)で描かれている。《平家物語》に次ぐ軍記物語の代表作で，室町時代には物語僧によって朗読されていたが，江戸初期になると〈太平記読み〉という講釈師によって流布された。〔西ケ谷恭弘〕

たいへいぎょらん【太平御覧】 中国の類書(百科事典)。1,000巻。北宋(ほくそう)の李昉(りぼう)らが太宗の勅命を受けて977年に編集を始め，982～983年ごろに完成。太平興国年間につくられたため最初は《太平総類》といったが，太宗が日に3巻ずつ，1年で読み終わったので《太平御覧》の名を賜わった。内容は天・時序・地・皇王以下55部門。引用書は目録によれば1,690種であるが，実際は2,000を越え，その中には今日に伝わらない書物を含んでいるので宋以前の研究に有用である。〔勝村哲也〕

たいへいこうき【太平広記】 中国，宋(そう)代に編纂(へんさん)された説話物語集。500巻。977年，宋の李昉(りぼう)ら12人が勅命を受けて編纂に着手，翌年終了した。漢・晋(しん)から五代までの説話や小説を収録。内容によって神仙(しんせん)・道術以下92部に分類されている。引用書は475種に及び，宋以前の説話や小説の宝庫であるとともに後世の戯曲や小説に多くの題材を提供した。

たいへいてんごく【太平天国】 中国，清(しん)末1850～1864年の15年間，洪秀全(こうしゅうぜん)を首領に展開された反清農民運動。清朝側では長髪賊ともよぶ。洪秀全はキリスト教の影響を受け排外的な宗教結社上帝社を創始し，みずからエホバの次子と称した。1850年，広西省金田村で飢饉(ききん)に苦しむ炭焼き・貧農・客家(はっか)などの会員を擁して挙兵，太平天国と号し，1853年南京(ナンキン)をおとしいれ天京と称して都とした。さらに北征・西征を敢行するが成果があがらず，湘勇(しょうゆう)・淮勇(わいゆう)など反対組織や常勝軍のために攻撃され，1864年南京は落城，洪秀全は自殺した。太平天国は広範な農民の支持を得た革命運動で，纏足(てんそく)の禁止，あへん厳禁，儒教排斥，自主外交などを主張し，民族革命の先駆，近代への社会革命運動として評価されている。〔大谷敏夫〕

たいへいよう【太平洋】 アジア東部と両アメリカ大陸の間に広がる世界最大の海洋。北部はベーリング海峡によって北極海に通じ，南は南極海につながる。主海域の面積は1億6,524万km²に及び，地球上の陸地総面積より大きく，付属海を含めると海洋総面積の約2分の1に達する。平均深度は4,282mで，世界で最も深いマリアナ海溝(かいこう)のビチアス海淵(11,034m)もこの海域にある。赤道を境として北太平洋と南太平洋に分けることもある。おもな付属海には，ベーリング海・オホーツク海・日本海・東シナ海・南シナ海・セレベス海・カリフォルニア湾・サンゴ海・タスマン海などがある。北太平洋の北部から西部にかけて，アリューシャン列島・千島列島・日本列島・マリアナ諸島・フィリピン諸島などの火山列島が弧状に並び，この島弧に沿って日本海溝・マリアナ海溝・フィリピン海溝などの深い海溝が走っている。このほかに，火山島であるハワイ諸島・ガラパゴス諸島・マーシャル諸島・カロリン諸島・サモア諸島・フィジー諸島・ソシエテ諸島などが数えられ，そのうち熱帯にあるものの多くには周囲にサンゴ礁が発達している。

海流は，赤道をはさんで暖流の北赤道海流と南赤道海流が西流し，それぞれ日本海流と東オーストラリア海流となって北上，南下している。寒流は，ベーリング海から発した千島海流が日本列島中央部まで南下し，日本海流と交会して，日本近海はこの影響から好漁場となっている。南太平洋の偏西風帯には寒流の西風漂流が顕著で，その支流は南アメリカ西岸に沿って北上し，フンボルト(ペルー)海流となり，この一帯も好漁場となっている。

太平洋が世界史に登場するのは，極東と東南アジアを除いては比較的新しい。ヨーロッパ人で最初にこの海洋で活躍したのはポルトガル人で，インドを経て進出し，次いで1520年にマゼランが東方の南アメリカ南端を回ってこの海にはいった。このとき波が静かだったため，〈太平洋〉と命名したといわれる。〔長津一郎〕

たいへいようあんぜんほしょうじょうやく【太平洋安全保障条約】⇨アンザス条約

たいへいようがかい【太平洋画会】美術団体。1902年(明治35)1月創立。前年11月に解散した明治美術会の後身として，欧州から新帰朝の吉田博(よしだひろし)・満谷国四郎・中川八郎・丸山晩霞(ばんか)をはじめ，石川寅治(とらじ)・都鳥英喜・大下藤次郎・渡辺審也(わたなべしんや)・永地秀太らによって結成され，翌年1月に上野公園5号館で第1回展を開催した。以後は毎年春に公募展を開き，秋の白馬会に対抗して明治末期の二大展となった。1904年より研究所を開設，1929年(昭和4)太平洋美術学校と改称，多くの画人を育てた。1957年会名を太平洋美術会に改めて現在に至る。洋画・彫刻・染色の3部よりなる。〔匠 秀夫〕

たいへいようけいざいいいんかい【太平洋経済委員会】The Pacific Basin Economic Co-operation Committee 日本・アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの5か国の実業家によって構成される委員会で，1967年4月に設立。第1回会議は1968年5月シドニーで開催され，毎年1回総会が行なわれ，1970年3月の第3回総会は京都で開催された。本会の目的は，参加5か国相互間の貿易を中心とする経済交流の拡大と太平洋地域の発展途上国の経済発展への協力強化とに置かれており，5か国それぞれに国内委員会が設けられている。〔深海博明〕

たいへいようせんそう【太平洋戦争】太平洋戦争を大東亜戦争のこととして考えるならば，それは1941年(昭和16)12月8日(アメリカにおいては12月7日)に開戦し，1945年8月14日に日本が無条件降伏を受諾し(日本国民がそのことを天皇の録音放送で知ったのは8月15日)，9月2日にアメリカ戦艦ミズリー号上で降伏文書に調印して終わった。第2次世界大戦は，1939年9月1日のドイツ軍のポーランド侵略に始まっているが，このような世界情勢の大きな変化は，1931年9月18日に中国の東北で勃発(ぼっぱつ)した事変(→満州事変)以来のことである。この考えにたてば，〈十五年戦争〉ということができ，またこれらの考え方の違いは，それぞれこの戦争の意義を考える基本的な考え方の違いということができる。1941年12月8日の開戦説をとるとしても，その前史が考えられねばならず，一続きの軍事行動とその背景を考えるとすれば，それはこの十五年戦争説として考えることが戦争を正しく理解する道であるといえるであろう。太平洋戦争というときは，太平洋をはさんだ日本とアメリカとの戦争を主とする考え方となるし，第2次世界大戦として把握(はあく)するときには，ファシズム国家の枢軸国側と資本主義国家(自由主義国家)と社会主義国家の連合国側との対立という考え方となる。そして十五年戦争というときには，アジア特に中国に対する侵略的行為を中心に，日本がファシズム国家群の仲間にはいり，ついに第2次世界大戦の中に加わり，敗戦に至ったという考え方となる。したがって，太平洋戦争を十五年戦争の一段階，それも最終の敗戦への段階として把握することがほぼ戦争の全体像を把握し，正しく理解することになるといえるであろう。

【区分】第1の時期は1931年9月から1937年7月の日中戦争の開始に至るまでである。第2の時期は日中戦争の開始から1941年12月までの狭義の太平洋戦争の開始までであり，第3の時期は狭義の太平洋戦争の開戦から1945年8月の敗戦に至るまでの経過をさす。そしてその末期には，すでに戦後処理についての戦後史の基礎的条件がつくりだされはじめていたことを見のがすわけにはいかないであろう。しかもこのように考えるとき，第1・第2の時期は戦争の高揚・拡大の時期であるが，第3の時期は日本が没落・敗北へと転落する時期であるといえる。ここでは，この第3の時期としての太平洋戦争を取り扱うことになる。この時期はさらにおおまかに，次のように細分することができるであろう。

第1の区分は，開戦から翌1942年の4月18日の本土初空襲までと考えることができる。第2の区分は，それから6月のミッドウェー作戦，7～8月のガダルカナル島作戦以降の日本の後退，アメリカの生産力の向上と戦闘力の回復による反撃が開始された時期として，1943年2月7日のガダルカナル島撤退発表までということができる。第3の区分は，そのあと中部太平洋におけるアメリカの反撃作戦の展開，日本の苦戦(そして,この間のヨーロッパ戦線におけるイタリアの無条件降伏)という時期である。第4の区分は，1944年7月6日のサイパン島の陥落を頂点とする時期からフィリピン作戦の展開,本土空襲の開始の時期(ヨーロッパ戦線におけるフランスの解放に重なる時期)といえる。第5の区分は，1945年2月11日のヤルタ会談以後5月7日のドイツの無条件降伏を含む2月から6月にかけての硫黄(いおう)島・沖縄作戦における日本の敗北，そして特攻隊の死闘，本土空襲の激化，そして8月にはいっての広島・長崎への原子爆弾投下，ソ連の対日作戦への参加により，ついに8月14日のポツダム宣言の受諾，敗戦，そして9月2日の降伏文書調印の時期というように区分することができる。これに開戦に至る前史と，さらに戦後処理の時期とを加えて，太平洋戦争の大要とすることができる。

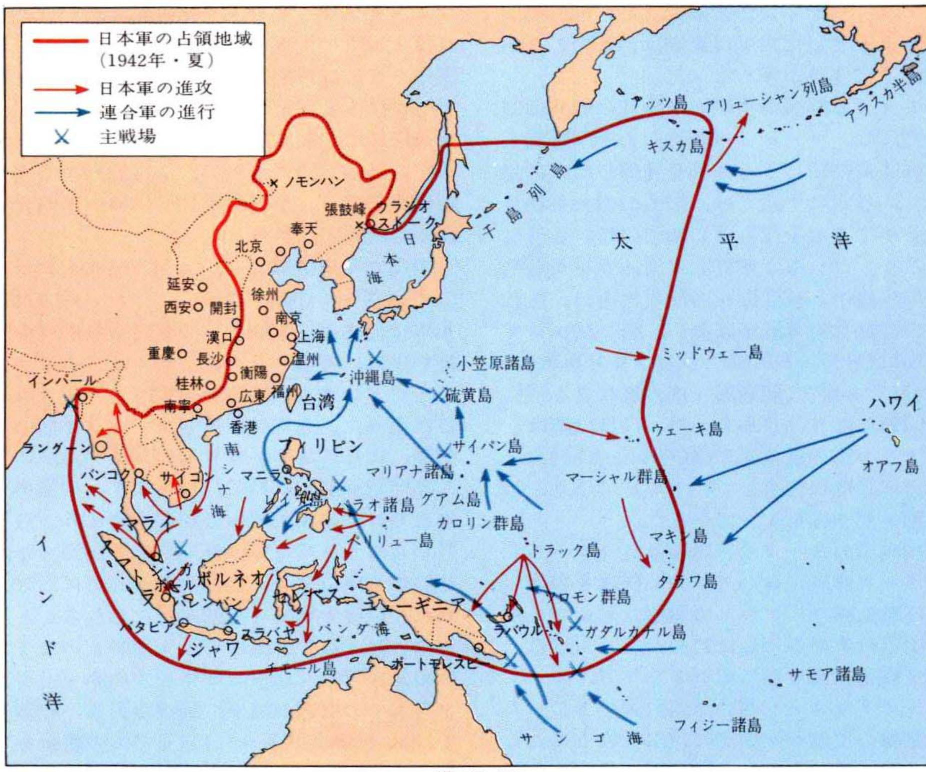
【前史】1937年11月の日独伊(にちどくい)防共協定は，1940年9月に軍事同盟としての意義をもつ日独伊三国同盟に発展して，この3国の関係を〈枢軸〉とよぶことになった。すでに1939年9月1日に始まったドイツのポーランド侵入による第2次世界大戦は，ドイツによってすでにフランスが敗れ，スカンジナビアが制圧されていた。イギリスもまたダンケルクの撤退を行なっていた。この1940年11月に，日本では皇紀2600年記念式典が行なわれていた。1941年にはいって，4月には松岡洋右(ようすけ)外相がシベリア経由で訪欧したとき日ソ中立条約を結んだが，6月22日ドイツはソ連に侵入した。ドイツはウクライナ・白ロシアを占領すべく，モスクワ・レニングラードに迫った。このドイツ・ソ連開戦によって，第2次近衛文麿(このえふみまろ)内閣は，ドイツとは軍事同盟を結び，ソ連とは中立条約を結んでいるという状態にあり，また閣内にはソ連と交戦すべきだという意見もあって，総辞職後第3次近衛内閣が組織され，準戦時体制から，国民総動員体制(戦時体制)へと決定的な歩みを進めていくこととなり，中でも，大東亜共栄圏への志向が語られ，南進論が強調されていった。新内閣のもとでは，内閣と大本営との連絡会議ももたれるようになり，日本軍の北部仏印(インドシナ)進駐に引き続いて，南部仏印進駐を基地獲得のために行ない，さらに7月下旬から関東軍特別大演習(関特演)を計画し，60万の兵力を満州に集結し，ソ連の弱味につけこんでシベリアへ侵入する姿勢をとった(日ソ中立条約の侵犯であるといわれる理由)。すでにアメリカとは，野村吉三郎大使を通じて日本の立場を説明する，いわゆる日米交渉で，アメリカ政府とくり返し交渉をしていた。在満兵力を南部仏印進駐に使用するに至って，アメリカ・イギリスは日本に対する経済封鎖を行なうこととなった(資産凍結・通商条約破棄など)。1941年8月1日には，アメリカは航空機用のガソリンを禁輸品とした。これを政府・軍部の世論指導は日本を絞めつけるABCD包囲陣といって，戦争意識を高揚することに努力した(Aはアメリカ，Bはイギリス〔ブリテン〕，Cは中国〔チャイナ〕，Dはオランダ〔ダッチ〕)。また大西洋上ではルーズベルトアメリカ大統領と，チャーチルイギリス首相が会談して大西洋憲章を決定した。この憲章は，のちにソ連をはじめすべての連合国で承認され，反ファシズム統一戦線の共同綱領といえるものになった。

7月以降内閣と大本営との連絡会議は，御前会議を重ねて戦争への方向を深めていった。陸海軍の間で戦争準備が討議され，

重臣層を加えて互いに責任を転嫁しつつ開戦への道を進んだ。10月16日近衛は辞職して，東条英機*(ひでき)に首相を譲った。東条は現役の軍人であり，重職につけば軽々しい行動はないであろうと考えられたが，このころには平和や反戦の声はほとんどなくなっていた。11月5日の御前会議で開戦が決定され，国民に知らされず，また日米交渉も(引き伸ばし的な目標で)引き続き行なわれ，11月26日には野村大使はアメリカのハル国務長官から，いわゆる〈ハル・ノート〉という仏印からの撤兵，三国同盟の廃棄を求める要求を渡されたが，これらは戦争への道をとどめることにはならなかった。すでに軍部の準備は完了していて，あとは開戦決定の通知を待つだけであった。最近，すでにアメリカでは，日本の暗号電報の解読ができており，日本はアメリカ・イギリスの開戦の挑発(ちょうはつ)にのった，という説もある。

【経過】1941年12月8日(アメリカでは前日の7日で日曜日)の朝のラジオでは，開戦の臨時ニュースが放送され，新聞は大きく開戦を告げる号外を出した。正午前にはアメリカ・イギリスに対する宣戦布告の詔勅が出て，東条首相の談話も発表され，国民ははじめて重大な事態を知らされた。この日，日本軍は真珠湾(→パールハーバー)を奇襲し，マライ半島に上陸し，また香港(ホンコン)・フィリピンに上陸作戦を展開した。日曜日の朝の真珠湾の奇襲は，その後，〈リメンバー-パールハーバー(真珠湾を忘れるな)〉という声となり，日本に対する復仇心(ふっきゅうしん)をあおった(戦艦は沈んだが，このとき軍港には航空母艦が一隻もいなかったことは，その後の全体の戦局の推移をみるとき，重大な焦点となった)。

この日の午後に，ヨーロッパ戦線において冬将軍に痛めつけられていたドイツ軍にヒトラーが，モスクワ・レニングラードのロシア戦線から退却するように命令していることは，日本の参戦に対する安心感が現われたといえるであろう(このことは，ドイツ・ソ連戦において，ソ連の防衛が成功したことを意味する)。しかし日本の戦争指導勢力は，この奇襲の成果を，〈赫々(かっかく)たる緒戦の戦果〉として，戦争の末期に至るまで，国民をごまかすことばとして用いることとなった(事態が，真実から遠のいていく戦争指導が始まったのである)。10日にはマライ沖海戦があり，イギリス戦艦2隻を航空機が沈めた。香港・グアム島は陥落し，さらにウェーク島・ボルネオ島を占領，1942年1月3日にはマニラ市を占領した(マニラ湾のコレヒドール島を占領したのは5月7日である)。マライ半島では，シンゴラ・コタバルから，シンガポールへ作戦を進め，1月31日には，ジョホールバールを占領，2月8日には，シンガポールへ上陸し，15日には完全に占領した(このシンガポールを昭南市と命名した)。2月までには，ビスマルク・チモール・アンボン・セレベス・タラカン諸島の占領を完了し，スマトラ島など，インドネシア(オランダ領東インド諸島)作戦も展開された。ジャワ沖海戦(2月4日)・バタビア沖海戦(3月1日)などで圧勝し，3月のはじめにはジャワ本島を制圧，2月から3月にかけては，ビルマ作戦を展開した。幻のごとく思われていた大東亜共栄圏は，こうして成功に近づいたかのように思われた。



戦況図


日本軍の真珠湾攻撃(1941年12月8日)


廃墟と化した東京(1945年8月15日)

太平洋戦争

戦時統制経済による日本の国民生活は，〈ほしがりません勝つまでは〉〈ぜいたくは敵だ〉の耐乏生活を中心としたものとなっていったが，他方官僚的な統制経済においては，〈世の中は星と錨(いかり)と闇と顔〉という句が示すように，すでに破綻(はたん)を示しはじめていたし，人的資源という人即物の考え方にも，不合理性が示されてきていた。また軍需工業中心の戦争遂行を第1とするものであった。教育も，小学校を国民学校と改めて国家体制の中に強く位置づけられた。

1942年4月18日には，アメリカ航空母艦ホーネットからの航空機(B25)が，土曜日の東京・名古屋・神戸(こうべ)などを空襲した。この4月，日本軍は南方作戦を展開しつつビスマルク諸島・ソロモン群島・ニューギニアの要地を占領し，5月3日にはツラギ島沖海戦，8月には珊瑚(さんご)海海戦が行なわれ，作戦が機動部隊中心の戦闘に変化しつつあった。これは，さきの本土空襲に刺激され，急遽(きゅうきょ)作戦を変更して実施した6月のミッドウェー作戦で，航空機作戦が決定的失敗をこうむり，航空母艦の中心的勢力および艦載機・操縦者の大部分を失ったことによる。4月から6月にかけての情勢は，緒戦の優位を日本が失いはじめた時期，すなわち戦争がようやく劣勢となりはじめてきていた時期といえる。ミッドウェー作戦の敗北を，並行して行なわれ

たアリューシャン作戦の成功で，ほおかぶりしようとした大本営発表は，このころから急速に作為が多くなった。

アメリカ経済の生産力は急速に戦時体制を完成し，ヨーロッパ戦線と太平洋戦線とを同時に補給しうる体制を完備したのに対して，日本の生産力は，被害の増大を補うことができなくなりはじめていた。8月になると，ソロモン群島のガダルカナル島飛行場建設中，連合国軍の反攻にあい，それ以来深刻な争奪戦が展開し，第1次ソロモン海戦(8月8日)，第2次ソロモン海戦(8月24日)を経て，駆逐艦・潜水艦による補給も困難になりはじめていた。10月以降は，アメリカ軍の電波探知機(→レーダー)などの近代兵器に苦戦していくことになり，制海権*・制空権*を失うに至った。

1942年のヨーロッパ戦線は，スターリングラード作戦においてソ連は防衛を貫徹して反撃に移り，アフリカ戦線においても枢軸国軍は劣勢を示しはじめた。8月には，第2戦線結成を巡ってモスクワで，アメリカ・イギリス・ソ連の三国会議がもたれて，反枢軸の反撃が全面的に行なわれることとなった。このことは，1943年2月のスターリングラードにおけるドイツ軍の降伏，5月のアフリカ戦線からの枢軸国軍の撤退となって現われた。そして7月には，シシリー(→シチリア)島への上陸作戦，9月のイタリアへの上陸，ムッソリーニ*政権の失脚，バドリオ政権*の成立，そしてイタリアの無条件降伏となり，3国の一つが脱落してファシズム枢軸国勢力の後退は，すでにおおうべくもなくなった。10月には，またモスクワで三国外相会議が開かれ，ヨーロッパの戦後処理方針の討議が行なわれはじめた。そして11月27日にはエジプトのカイロで，ルーズベルト・チャーチル・蔣介石*(しょうかいせき)の三大国会談で日本降伏後の諸問題，中国戦線の強化が討議された(→カイロ会談)。そしてその帰途(11月)テヘランにおいて，ルーズベルト・チャーチルにスターリン*を交えて，対ドイツ戦線の強化策において意見の一致をみた(この間，日本の連合艦隊司令長官山本五十六*(いそろく)は，4月18日ニューギニアにおいて航空機で移動中戦死した)。5月には，アリューシャン列島の奪回が行なわれ，10月から12月にはラバウルの攻防戦があり，アメリカのタラワ・マキン島への上陸作戦が展開され，12月23日占領された。1944年2月クエゼリン・ルオット島も1週間ほどで占領され，2月17日には南方前進根拠地のトラック島がアメリカ機動部隊の急襲を受け，4月1日に第2回めの空襲，30日に第3次攻撃とくり返して攻撃が続き，中部太平洋の制空権も失われた。6月11日から，サイパン・テニアン島へ攻撃が行なわれ，これに対する6月19日のマリアナ沖海戦の結果，航空母艦・航空機を失った。マリアナ諸島は7月，グアム・テニアン島は8月に占領された。これは大本営に大きな衝撃を与えた。なお，同年2月東条首相は陸相・参謀総長をひとりで兼任するに至り，嶋田海相も軍令部長を兼任して独裁体制を強化した。しかしサイパン島の玉砕によって，7月22日東条内閣は総辞職し，小磯国昭(こいそくにあき)・米内光政協力内閣と代わった。

中部太平洋戦線では，4月からのビルマのインパール作戦も失敗していた。内閣は大本営連絡会議を廃止して最高戦争指導会議を設け，戦争の行くえを考えはじめつつあったといえる。大東亜共栄圏も寸断されるに至った。9月にはヤップ・パラオ島の空襲，10月にはフィリピンのレイテ島への上陸作戦も展開されていた。また，中国奥地よりB29の北九州への空襲も始まり，11月からはサイパン島の基地整備も終わって，そこから東京方面への初空襲が24日に行なわれ，以後大規模な空襲が行なわれることとなった。連合艦隊はレイテ決戦を行なうため，10月23～24日にサマール島沖・セブヤン海での海戦の結果，制空権のない海戦で，ついに戦艦武蔵(むさし)以下多くの艦艇を失うに至った。1945年の1月にはアメリカ軍のフィリピン本島への上陸が行なわれた。

ヨーロッパ第2戦線は，1944年6月からノルマンジー上陸が始まり，8月25日にはパリを回復した。これはフランスの抵抗組織(→レジスタンス)など反ファッショ・パルチザン*の勇敢な活動の結果であった。そして東部からソ連軍の，西部からアメリカ・イギリス・フランス軍のドイツ包囲作戦が展開された。ヒトラーは，ポーランドその他のユダヤ人を弾圧し，また反ヒトラー運動を押えつつ，ようやく没落の時を迎えはじめた。1945年2月11日のヤルタ会談*で再びアメリカ・イギリス・ソ連の巨頭が顔を合わせた。ここでドイツ降伏後の2～3月のちに，ソ連の対日戦争への参加が討議され，サハリン(樺太(からふと))・千島列島に対するソ連の権利についても約された。またこの会談の結果，6月サンフランシスコにおいて，民主主義国家51か国によって国際連合*が結成されることとなった。ドイツ戦線においては，4月25日にエルベ河畔のトルゴウにおいてソ連軍とアメリカ軍とが握手をし，5月7日ついにドイツは無条件降伏をして，8日には連合軍はベルリンに入城，ヒトラーは自殺した(ムッソリーニは，北イタリアで殺されていた)。ここにファシズム独裁政治は終わりを告げた。

太平洋においては，2月には硫黄島上陸作戦が行なわれ，3月17日に占領され，3月23日には沖縄への艦砲攻撃が始まり，4月1日から上陸，6月24日には沖縄の全島は占領された。戦艦大和(やまと)以下の菊水作戦は，4月7日出撃してついに全滅した。航空機の散発的な特攻攻撃をもって戦ったが，アメリカ軍の攻撃をはばむすべもなく，また日本全土の都市に対する空襲や艦砲射撃は深刻さを加え，日本が焦土となる状況となった。このような中で，和平への期待が少しずつ動き，特に日ソ中立条約のたてまえをもって，ソ連また中立国であるスイスなどにも仲介を頼もうとしたが成功しなかった。この間沖縄作戦の責任をとって小磯内閣は総辞職し，代わって鈴木貫太郎内閣が誕生した。このころから本土決戦論が大きく強調され，疎開生活など国民の生活は破滅的となってきていた。7月17日から8月2日まで，ベルリン郊外のポツダムにおけるアメリカ・イギリス・中国の三巨頭会談を中心に，戦後処理の相談が進み，7月26日には対日無条件降伏の宣言(→ポツダム宣言)が発表された。この宣言は，さきの大西洋憲章以来の原則に基づくものであった(この間ルーズベルトは急死し，トルーマンに代わっていた)。この宣言に対するノーコメントが戦争継続と解されて，連合国はさらにはげしく攻撃をすることになった。8月6日と9日には，広島と長崎に原子爆弾が投下され，8月8日にはソ連は対日宣戦布告を行なって満州に侵入した。このような事態の中で最高戦争指導会議は，8月10日から14日まで連日御前会議をくり返し，ポツダム宣言の無条件受諾を告げ，翌日，国民にその降伏の詔勅を天皇が読みあげた録音が放送された。抗戦を叫ぶ一部の勢力もあったが平定された。

【結果】1945年8月27日アメリカ軍は厚木飛行場に進駐して日本の占領が始まり，東京都内の重要箇所が占拠され，さらに全国各地に基地がつくられることとなった。その正式の降伏文書は，9月2日にミズリー号上で調印が行なわれ，占領方式の決定もあった。こののち，軍隊解体，戦犯の追求，国際軍事法廷の設置など，旧政治体制の改廃をはじめ，新憲法の制定，農地改革など，戦後民主化の方策がマッカーサー*元帥を司令官とするGHQ*(連合国最高司令官総司令部)によって推し進められた。そして朝鮮戦争*の最中，1951年9月サンフランシスコ会議*によって対日講和条約*が結ばれた。しかし戦後，日本ではアメリカを中心とする自由主義国家群の一国を志向する勢力が強かったため，全面講和が行なわれず，特に中国本土とは，久しく法的に戦争状態が続いていた。1972年9月25日田中首相，大平外相ら日本政府代表団が訪中，周恩来首相，姫鵬飛外相らと首脳会談を行い，懸案の両国間の国交の正常化を友好的に確認，29日共同声明の調印によって〔不幸な断絶〕の終止符を打った。〔松島栄一〕

たいへいようもんだいちょうさかい
【太平洋問題調査会】 Institute of Pacific Relations 略称IPR。13か国(アメリカ・イギリス・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・フランス・オランダ・日本・インド・パキスタン・インドネシア・フィ

リピン・ソ連)の民間団体で構成され，太平洋地域の諸問題を研究・調査する機関。定期的に会議(太平洋会議)を開き，常時，調査活動を行なう。1925年(大正14)排日移民問題についてホノルルで開かれた国際会議を契機として設けられた。　〔広部和也〕

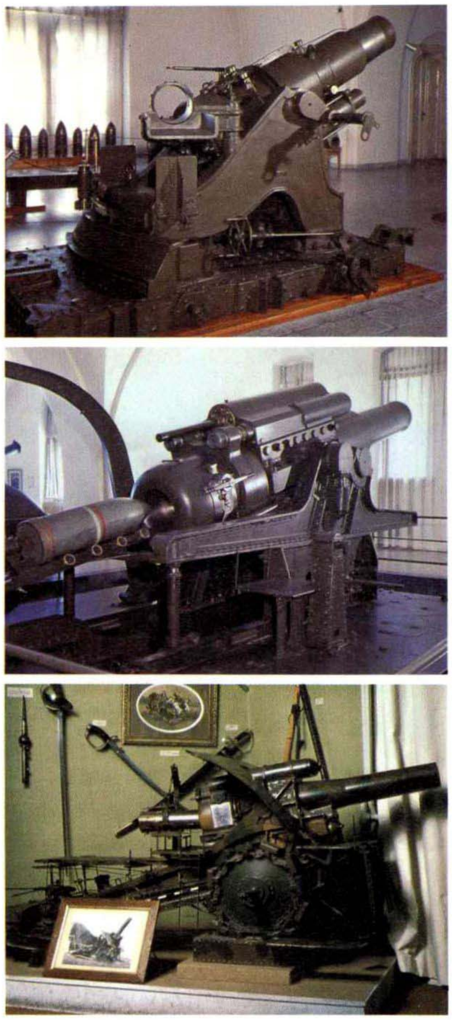
たいへいらく　【太平楽】　雅楽の曲名。中国由来の左方(唐楽)に属し，太食(たいしき)調，中曲。延四拍子の〈朝小子(ちょうこし)〉，延八拍子の〈武昌楽〉，早四拍子の〈合歓塩(がっかえん)〉の３曲で構成され，４人の舞がつく。天皇の即位式に演奏される。

たいべつさんみゃく　【大別山脈】　ターピエ山脈　中国中部，淮河(わいが)と揚子江の両流域を分け，北西から南西に連なる山脈。秦嶺(しんれい)・伏牛両山脈の東端の位置にあり，平均高度700〜800m。湖北省と河南・安徽(あんき)両省の境界をなし，秦嶺山脈とともに中国を南北に分かつ境界ともなっている。古くからの峠道が10数か所もあり，古来軍事上の要地であった。

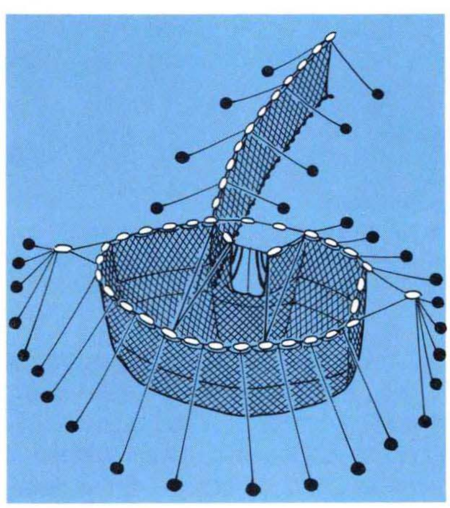
たいべん　【胎便】　新生児*期の最初のころに排出する便。これは胎児の時代に分泌された胆汁(たんじゅう)，膵(すい)・腸などの分泌物，腸粘膜上皮の脱落物，嚥下(えんげ)した羊水などが大腸に送られてたまっていたもので，出生後２〜３日にわたり排泄(はいせつ)される。黒かっ色の粘りの強い，においのほとんどない便で，全量60〜90g(乾燥すると３分の１〜５分の１の量)である。その後母乳や人工乳を飲むにしたがってしだいに普通の乳児便に移行する。　〔宇留野勝正〕

だいべん　【大便】　ヒトの糞(ふん)。消化吸収されなかった食物の残物のほか，消化液，腸壁などから落屑(らくせつ)した上皮細胞，腸内細菌やその分解産物などを含む。主として胆汁(たんじゅう)色素のために一般にかっ色を呈する。小腸では液体状であるが，大腸で水分が吸収され，排便されるときには水分は65%ぐらいになり，有形となっている。健康人では，食物摂取後24〜28時間で排出される。排便量は１日100〜250gほどである。大便および便通の状態は健康状態の指標となる。また消化器系伝染病では，大便が伝染経路となる。　〔平野修助〕

たいほ　【逮捕】　人の身がらを拘束すること。犯罪者の逃走，証拠湮滅(いんめつ)を防止するため捜査機関(司法警察*職員・検察官*)が行なうものをさす場合が多い。逮捕は，犯罪者に対する強制処分であるから，逮捕には原則として逮捕令状が必要である(憲法33条・刑事訴訟法199条)。つまり逮捕すべきかどうかは裁判所が判断するものとし，裁判所の許可があってはじめて捜査機関は，犯罪者を逮捕できるのである。この裁判所の判断を示したものを逮捕状という。逮捕状の発行を請求できるのは，検察官と司法警察員(警部以上の警察官)だけである(刑事訴訟法199条)。逮捕のときには，逮捕状を示さなければならないが，緊急の場合は，



大　砲　(上)240mm口径砲　モーゼルM98(ドイツ)　(中)380mm口径砲(ドイツ)　(下)クルップ曲射砲(ドイツ)　いずれも第１次世界大戦当時のもの



大 謀 網

犯罪事実のあらましと逮捕状の出ていることを告げて逮捕することができる。ただし例外として，現行犯逮捕と緊急逮捕の場合は逮捕状を必要としない。①現行犯逮捕：緊急に逮捕を要し，かつ人権侵害のおそれのないときは，逮捕状なしでも，また捜査機関ばかりでなく一般私人も犯人を逮捕することができる(刑事訴訟法212条・213条)。②緊急逮捕：犯罪が重大で，かつ犯罪容疑が十分にあり，しかも急を要する場合，逮捕状の発行を待たず，まず逮捕し，その後逮捕状の発行を請求するという方法も認められている(刑事訴訟法210条)。緊急逮捕ができるのは，検察官・検察事務官・司法警察員だけである。　〔井上公耳〕

たいほう　【大砲】　火薬の燃焼ガス圧で弾丸を発射する兵器のうち，取り扱いに２人以上を要し口径11mm以上のもの。1304年アラビアで使われたのが最初といわれるが，当時のものは鉄板を丸くして〈たが〉でたばねたもので，これは14世紀後半にヨーロッパに伝えられた。15世紀ごろから臼砲(きゅうほう)・カノン砲の区別ができ，俯仰(ふぎょう)や旋回も可能となった。その後弾丸も円弾から長弾になり，砲腔(ほうこう)に旋条も刻まれ，射程・命中率も大幅に向上した。種類もふえ，近世には小銃とともに重要な武器となった。分類は構造・大きさ・用途によって非常に多く，たとえば，砲身の長さから臼砲・榴弾砲(りゅうだんほう)・カノン砲などに，発射機構から重砲・速射砲・自動砲などに，弾丸の装填(そうてん)法から前装砲・後装砲などに分けられる。最も普通の分類は用途別のそれで，これによると古いほうから攻城砲・守城砲，野砲・山砲・騎兵砲・歩兵砲を含めた野戦砲，要塞砲(ようさいほう)・沿岸砲・海軍砲・迫撃砲・機関砲・原子砲などとなる。しかし第２次世界大戦における航空機の活躍と戦後のロケット兵器の進歩および兵器部隊の機械化によって，その用途もせばまり，同時に性格も変わってきている。現在でも使われるのは野砲・海軍砲・高射砲・戦車砲・機関砲ぐらいである。〔藤井冬木〕

だいぼうあみ　【大謀網】　台網*類の一種。網の構成は，垣網*(かきあみ)と袋網*からなり，袋網の側が四角・八角あるいは楕円(だえん)形をしていて，側面の一部に入網口があり，袋網の全容積に対して開口部が小さいのが特徴。大敷網*や角網とともに，かつては広く用いられたが，現在ではしだいにその数を減じている。宮城式(東北・北海道方面)・日高式(全国各地)・上野式(富山湾)の３種がある。魚ははいりにくいが，いったん入網したものは出にくいので漁獲に確実性がある。　〔石野　誠〕

だいほうおんじ　【大報恩寺】　京都市上京区五辻(ごつじ)通り六軒町西入ルにある新義真言宗智山(ちざん)派の寺。鎌倉時代の1221年(承久３)義空上人(しょうにん)の創建，千本釈迦堂(しゃかどう)と通称される。本堂(国宝)は棟札(むなふだ)の墨書銘によって1227年(安貞１)の建立(こんりゅう)であることが知られる。本堂の本尊釈迦如来坐像(ざぞう)は法眼行快



大報恩寺
本堂(千本釈迦堂)

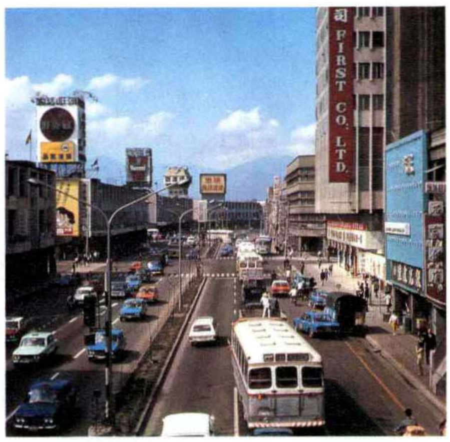
の作，十大弟子(でし)像には快慶作の銘があり，六観音像は肥後別当定慶の作である。

たいほうぐん　【帯方郡】　朝鮮に置かれた中国の古郡。後漢末遼東(りょうとう)から朝鮮に勢力をふるっていた公孫康が，朝鮮南部の韓(かん)・濊(わい)に対抗するため，楽浪郡の南半をさいて設置した。郡治は今日の黄海道鳳山(ほうざん)郡文井面唐土城と推定されている。313年まで存続した。

たいぼうちょうりつ　【体膨張率】　圧力一定のもとで微小温度変化に対する体積変化の割合。等方的な物質の体膨張率は線膨張率の3倍の値をもつ。また実験によれば熱膨張係数の大きさは気体・液体・固体の順になっている。ゴムなどのように体膨張率が負になるものもある。

たいほうりつりょう　【大宝律令】　701年(大宝1)完成奏上されたわが国最初の完備した基本法典。大化改新以来半世紀以上にわたる律令政治の体験をもとに，飛鳥浄御原律令(あすかのきよみはらりつりょう)に補正を加えてできあがったもの。律6巻。令11巻。700年(文武4)忍壁(おさかべ)親王・藤原不比等(ふひと)以下を編集員として編纂(へんさん)事業を開始し，翌年に至って完成。同年より702年にかけて，一部分ずつ施行されていった。この律・令は，大化改新以来の律令国家建設の目標が達成されたことを示す画期的な法典であったが，757年(天平宝字1)藤原仲麻呂(なかまろ)は，祖父不比等の名を後世に伝えるため，不比等総裁のもとにつくられた養老律令をもってこれに代えたので，大宝律令は半世紀余りで廃棄された。そのため本文はほとんど散逸して伝わらず，わずかに《続日本紀(しょくにほんぎ)》などの史書や，《令集解》などの法律書に逸文を伝えるのみである。制度の根幹は養老律令と大差はなく，近世まで養老律令を一般に大宝律令とよんでいたほどである。しかし，その歴史的意義については両者に大きな差があることはいうまでもない。　〔黛　弘道〕

たいほく　【台北】　タイペイ　台湾北部の都市。中華民国の臨時首都。人口177万(1970年推)。1875年に建設された都市で，1885年台湾省が設けられてからは台湾の政治の中心地として発達し，1895～1945年の日本統治時代には台湾総督府が置かれていた。1949年12月以来，国民政府の臨時首都となり，台湾の政治・文化・経済・交通の中心地として発展している。郊外には北投温泉・草山温泉があって保養・遊覧地となっている。また，台湾大学・故宮博物院・台北公園などが有名。　〔船越昭生〕



台　北　市の中心部の中華路。分離帯をもつ広い道路はよく整備されている。建物屋上の広告塔に，日本の企業進出が現われている



大菩薩峠　雪で化粧された頂上付近。ここから望む富士山・南アルプス・秩父山地などのながめはすばらしく，ハイカーたちでにぎわう

タイポグラフィ　[typography]　活字を主体にした活版術の意。活版術とは，文字原稿にしたがって1字1字を拾う文選工，拾った活字を組み込む植字工らの手を経て校正刷りが出され，誤字などが訂正・修整されて校了・下版となり，凸版(とっぱん)印刷機にかけられて印刷されることをいう。この活版方式は，グーテンベルクが15世紀初頭に創始して以来今日の新聞・雑誌などに受け継がれてマス-メディアの主流を堅持している。

現代デザインにおけるタイポグラフィは，このような文字の印刷を主体にしながら，凸版や写真版の要素を加えて形成されたものをいう。また印刷方式も活版以外にオフセット印刷・グラビア印刷が加わり，そのジャンルもエディトリアル-デザインから広告のデザインなどに至るまで拡大されている。なお，わが国におけるタイポグラフィは，現在なお未開発であるが，それだけにきわめて興味と関心をそそる分野に属する。　〔伊藤幸作〕

だいぼさつとうげ　【大菩薩峠】　山梨県北東部，塩山市の東境にある峠。高さ1,897m。大菩薩嶺(れい)(2,057m)の南側の鞍部(あんぶ)にあたり，多摩川流域と笛吹川流域の分水界となっている。江戸時代には甲州街道の裏街道である旧青梅(おうめ)街道に沿い，のち中里介山の小説《大菩薩峠》の主要舞台となった。秩父(ちちぶ)多摩国立公園の区域内にあり，春から秋へかけてハイカーでにぎわう。

だいほん　【台本】　演劇・映画・放送劇などの土台となる本。俳優が演ずるのに必要なせりふとト書きとからなる。本来は歌舞伎(かぶき)脚本の筆写本のことで，台帳・正本(しょうほん)・根本(ねほん)などといわれていた。

だいほんえい　【大本営】　戦時または事変の際，必要に応じて編成される天皇を長とする陸海軍最高統帥部。日本ではプロシアの制にならい，明治時代には日清(にっしん)・日露戦争当時，昭和においては日中戦争勃発(ぼっぱつ)に伴って編成された。平常は分離している陸海軍の統帥部を一体化して，作戦の指導，作戦に関係ある軍政事務(兵站(へいたん)・管理・報道など)に当たった。大本営は陸軍部と海軍部に分かれ，両部はおもに参謀本部・軍令部から要員を充当して編成した。しかし，大本営はイギリスの戦時内閣のように一体化された戦争指導機関ではなく，国務と統帥が，また陸軍部・海軍部が併立し，ときには対立した。この問題を解決するため，大本営政府連絡会議(のち最高戦争指導会議と改称)を設けて政治と戦略の調整を図ったが，その実は上がらなかった。➔国防会議　➔国家安全保障会議　〔森田　哲〕

たいま　【大麻】　⇨ おおぬさ

たいま　【大麻】　双子葉植物・クワ科のアサのことで，インドタイマソウ・カンナビス・マリファナともよばれる。繊維および種子をとるために栽培されるが，麻薬に類似した作用物質を含むため，大麻取締法によって大麻取扱者として許可された者以外はその栽培・製造・所持を許されない。幻覚作用があるところから，インドなどで

古代宗教にも利用されている。またインド・中国で薬用に用いられ，その樹脂はハシッシュとよばれ，エジプト・トルコなどの回教徒が鎮痛・麻酔薬として用い各地に伝えた。バルザック・ボードレールらの作家は大麻の作用による幻覚や幻想について作品を残している。医薬名としてインド大麻エキス・インド大麻チンキなどが一般に鎮痛・鎮静の作用を期待して用いられたが，現在では麻薬同様の作用があるため医療としての使用は禁止されている。煙として吸ったり，そのまま食べたり，水溶液として飲用したりされるが，幻覚的な快感を生み，時間・空間の感覚を失わせ，音などの知覚に敏感となる。このため一部の青年層や芸術家によりひそかに用いられる。ヘロインとは異なって使用を中止しても禁断症状を起こすことが少なく，常習者の治療は比較的容易である。幻覚作用成分はカンナビノール・カンナビジオール・デヒドロカンナビノールなどで，これらはその樹脂中の成分の15～20％に相当する。➔アサ〔鈴木郁生〕

たいまい【瑇瑁】爬虫(はちゅう)類・ウミガメ科。太平洋・インド洋・大西洋の熱帯・亜熱帯の海に分布する。甲長は最大80cm，体重は120kgを越えるものがある。吻部(ふんぶ)は側扁(そくへん)し，上顎(じょうがく)の先端は鉤状(かぎじょう)に曲がる。甲板はかわら状に重なり合うが，老熟した個体では平滑となる。甲はべっ甲とよび細工物の材料として珍重される。肉食性で軟体動物や甲殻(こうかく)類を好んで捕食する。他の海ガメのように産卵地に集中しないため，保護がむずかしく，数が減少している。

たいまでら【当麻寺】奈良県北葛城(きたかつらぎ)郡当麻町にある古義真言宗および浄土宗の寺。創建は，奈良時代前期にこの地方の豪族当麻氏の手によるといわれる。金堂の本尊《塑像弥勒(みろく)仏坐像》(国宝)は天武天皇の代につくられたものである。東塔・西塔(いずれも国宝)は奈良時代の三重塔。曼荼羅堂(まんだらどう)(国宝)は本堂とも称し，1161年(永暦2)の再建。中将姫の話を生んだ綴織(つづれおり)《当麻曼荼羅》(国宝)は縦・横各4mの大幅ではあるが，破損はなはだしく後補されている。中之坊の建築は江戸初期の書院造りの形式を伝え，中之坊庭園は片桐(かたぎり)石州の作と伝えられる。〔永井信一〕

たいまのけはや【当麻蹶速】古訓は〈たぎまのくえはや〉。《日本書紀》にしるされている古代説話中の人物。その名称からすると，大和(やまと)(奈良県)北葛城(きたかつらぎ)当麻郷の豪族のひとりであろう。剛力で，相撲(すもう)の技に長じ，世に並ぶ強者がいないことを誇った。垂仁(すいにん)天皇は群臣と図り，野見宿禰(のみのすくね)を出雲(いずも)(島根県)から招いて，7月7日(垂仁7)蹶速と相撲をさせたところ，蹶速はわき骨を折られて死んだという。後世七夕(たなばた)の際に行なわれた相撲節会(すまいのせちえ)(➔節会)の起源説話とみられている。〔高崎徳次〕



タイマイ



当麻寺　国宝の三間三重塔婆，本瓦葺の西塔

たいまゆ【大麻油】麻油または麻実油ともいい，大麻の種子を圧搾して得られる乾性油。乾燥性は亜麻仁油(あまにゆ)に比較して少し劣る。ボイル用・ワニス用・食用・燈用などのほか，せっけん・リノリウムなどの原料として用いられる。

だいまる【(株)大丸】わが国の代表的百貨店の一。三越に次いで売上高第2位。享保(きょうほう)年間(1716～1735)に京都伏見に呉服商として創業。1920年(大正9)資本金1,200万円で株式会社大丸呉服店となり，1928年(昭和3)6月現商号になる。東京には1954年10月進出。松坂屋との提携関係を強化したのをはじめ，売り上げは順調に伸びている。店舗は大阪・東京店のほか神戸(こうべ)・京都・東京都原町田・和歌山・高知・鳥取・下関(しものせき)・別子・福岡に傍系店をもつ。本社は大阪市南区心斎橋筋。資本金110億7,700万円，年間売上高4,128億円，従業員数8,156(1980年8月)。

だいみょう【大名】すでに平安末期から使われていたことばで，大きな名田(みょうでん)を経営する有力な名主(みょうしゅ)を大名田堵(たと)(➔田堵)とよび，鎌倉時代には大きな領地をもち，多数の家の子郎党を従えた勢力ある武士をさすようになった。南北朝時代以降は，在地の名主で有力な領主に成長した者を守護大名(守護)といった。さらに戦国時代には，在地の領主層のなかから新興豪族が台頭して，これら守護大名を倒して強固な領国体制を築くようになったが，これを戦国大名という。戦国大名は，いわば地域的な封建領主であったが，封建制の統一をめざした織田(おだ)氏および豊臣(とよとみ)氏は名主・荘官(➔荘園)の領地支配を否定し，領土と農民とを大名が直接支配できるようにするために石高(こくだか)制を採用した。この新しい土地制度のもとに行政単位としての村が成立し，そのうえに大名の新しい領国体制が確立されたのである。これを戦国大名と区別して近世大名という。しかし，この体制が大名知行制度として完成し，制度として法律的にも社会的にも広く確立されたのは江戸時代で，そこでは大名は，すなわち将軍の支配下にあって一万石以上の領地をもつ封建領主であった。単に大名という場合は，この江戸時代の大名をさしていう。

江戸時代の大名は，幕府の直轄領(天領)や旗本領(知行所)をのぞく一定の土地を知行地(領地)として給付され，その知行地に行政権・司法権・徴税権をもって支配を行なった(➔藩)。幕府は，関ケ原の役以後3代将軍家光(いえみつ)の代までは，大名に対してきびしい統制を加え，しきりに改易・減封・転封を行なった。徳川氏との親疎の関係によって親藩・譜代・外様(とざま)に分けられ，親藩は将軍家と血縁関係のある大名で，将軍となる資格のある三家，松平姓を与えられる特権をもつ家門(かもん)大名，親藩の本家から分れた別家である連枝(れんし)からなり，譜代大名は徳川氏が三河(愛知県)の一大名にすぎなかったころから家臣であった者の子孫，外様大名は関ケ原役の後に徳川氏に臣従した大名である。また，領主の格式として国主(国持)・准国主・城主(城持)・城主格・領主(無城)の別があり，江戸城中の詰所(つめしょ)による大廊下詰(おおろうかづめ)(上下に分かれる)・溜間(たまりのま)詰・大広間詰・帝鑑間(ていかんのま)詰・柳間詰・雁間(がんのま)詰・菊間詰・無席の八等級の席次があった。これらが大名の身分的序列で，その数は江戸末期にはおおよそ270余あったが，その大部分は五万石以下の譜代大名で，加賀前田家のように百二十万石余の大大名の数は少ない。大名は独立の権限は与えられていたが，武家諸法度(はっと)などにより統制を受け，その監視役には大目付が置かれていた。また参勤交代や城郭の修理，河川の工事などの助役を課せられてその経済力を弱めさせられた。なお，幕府の要職は原則として親藩・譜代から任用された。大名は明治維新後は知藩事となり，廃藩置県後は華族に列せられ，第2次世界大戦後に爵位を失うまで世襲した。〔岡山泰四〕

だいみょうがし【大名貸】江戸時代，金融業者が諸大名に金銀を貸し付けたこと

をいう。江戸初期から諸藩は財政窮乏に悩み，大阪などの豪商から多額の借金をしたが，元禄(げんろく)(1688～1703)以降はこれがいっそう盛んとなった。大阪の両替商は蔵米や特産品を抵当に高利をとって大名貸を行ない，藩財政に寄生して大きな利益を得た。諸藩はその商人に扶持米(ふちまい)を与えたりしたが，〈お断わり〉と称する一方的な借金踏み倒しを行なう大名もあり，これによって破産する業者も少なくなかった。代表的な大名貸には大阪の鴻池(こうのいけ)家がある。〔松尾　涼〕

だいみょうぎょうれつ【大名行列】 大名が参勤交代のときや公式に外出するときの行列。織田信長(おだのぶなが)のときにすでに行なわれたという。行列は軍旅の体裁をとり，石高・官職・家格によって，また時と場合によってその規模に差があった。1615年(元和1)の武家諸法度(しょはっと)では百万石以下二十万石以上の大名は馬上の侍20騎と定め，行装の華美を戒めたが，実際にははるかに大規模で，少ないときで100名，多いときには数千名に上り，威を張った。行列の順はおおよそ，髭奴(ひげやっこ)・金紋先箱・槍持(やりもち)・徒士(かち)を先に，駕籠脇(かごわき)・近習・刀番・簾番(すだればん)・六尺などが続いた。携帯品は，食料・飲み水・床几(しょうぎ)・娯楽道具から，ふろおけ・便器・鳥かごまで持ち歩いた。大名行列にはいろいろの特権が与えられ，行列の先払いが通行の庶民に土下座を命じ，供先を横切る者があれば殺してもかまわないとされた。しかし大名行列は失費が多く，江戸から遠い領国の大名はそれぞれ財政的負担が大で，藩財政を窮乏させる要因となった。その道筋は幕府によって決められ，宿泊は人数が多いため旅籠屋(はたごや)や民家に泊まることができず，そのため宿場には本陣が発達し，交通駅路をも発達させた。なお，現代でも毎年京都の時代祭や箱根の大名行列に再現されて，そのおもかげをしのぶことができる。〔岡山泰四〕

だいみょうせせり【大名挵蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・セセリチョウ科。翅(はね)を広げた長さ35mm内外。地色は黒かっ色で，前翅にはややY字形に近い大小10個の白紋列がある。後翅には白帯のある型とない型があり，前者は近畿(きんき)以西に多く，後者は関東以北に多い。しかし白帯にはならないで，1個または2個のみ白紋の現われる中間型も少なからず採集されている。成虫は林縁に多く，なわ張りをもっていて，他のチョウが近くに来ると追い払う習性がある。飛び方は活発で，花によく集まり，翅を水平に開いて止まる。母チョウはヤマノイモ科植物の葉に1個ずつ産卵し，卵のまわりに腹毛をなすりつける。幼虫は緑色で，頭部は黒色をしており，毛はない。葉を折り曲げて巣をつくり，10月ごろ終齢に達して地上の落ち葉の下で越冬する。きわめて



ダイミョウセセリ

普通にみられるセセリチョウで，5月ごろより出現し，暖地では年3回，寒地では年2回発生する。北海道北東部を除く日本全土に分布し，国外では東シベリアからビルマにかけて分布。〔多々内修〕

だいみょうばった【大名蝗】 ⇨トノサマバッタ

タイミル(半島)［Taimyr］ソ連，シベリア北部の北極海に突出する半島で，東にラプテフ海，西にカラ海を分ける。面積約40万km^2。ドルガン人・カネツ人などが住み，タイミル民族管区を形成する。北端のチェリュースキン岬(みさき)は北緯77°43′に位置し，ユーラシア大陸の最北端である。

だいみんりつ【大明律】 ⇨明律

タイム［thyme］主として地中海に臨んだ地域にみられる小低木で，日本名をタチジャコウ草という。芽や葉は芳香があるので乾燥して香辛料として，セージに次いで最も広く使用されている。ソース・ケチャップ・ハム・シチュー・ローストビーフ・七面鳥料理などによく用いられる。

タイムスイッチ［time switch］電気器具などに取り付けられ，指定された時刻に自動的にスイッチを入れたり切ったりする器具。タイマーともいう。構造的には，置き時計式とスライド式とに分けられる。置き時計式は，時計の指針を目ざまし時計のように希望の時刻に合わせておけば，その時刻にスイッチがはいったり切れたりするもので，普通の時計としても使用でき，扱いに便利で，その時刻になるとブザー・オルゴールの鳴るものもある。スライド式は，希望する時刻までの時間分だけぜんまいを巻いておけば，その時間にぜんまいが解け，スイッチがはいったり切れたりし，おもに洗たく機・扇風機などの電気器具に組み込まれている。動力方式にはぜんまい式とモーター式がある。〔田村康男〕

タイムズ-スクエア［Times Square］アメリカ合衆国，ニューヨーク市マンハッタン区のブロードウェーと42番街の交差点付近をいう。この交差点には，いまは本社はほかに移ったが，ニューヨーク-タイムズの三角形のビルが建っており，長く本社として使われていたことからこの名がある。劇場や映画館の集中した娯楽センターで，夜間のネオンサイン・電光ニュース，劇場の照明などから〈不夜街〉ともよばれている。世界的に有名なメトロポリタン-オペラハウスもこの付近にある。〔相村大彬〕

タイムズ-ニュースペーパーズ［The Times Newspapers］イギリスの代表的日刊新聞。1785年J.ウォルター(1739～1812)によって創刊された《デーリー-ユニバーサル-レジスター》がその前身。1788年タイムズと改称。《ニューヨーク-タイムズ》と区別するため〈ロンドン-タイムズ〉ともよばれる。バーンズ・ディレーンと名編集長が続き，19世紀初頭から中葉にかけて新聞界に独占的地位を築いた。近年は大衆紙の発展によって新聞界における指導的地位は低下しているが，なお保守的な高級紙としての性格を保持している。発行部数は29万4,000部(1980)にすぎないが，そのまじめな報道と品位は国際的にも高く評価されており，社説の政治的影響力は大きい。1966年経営不振に陥り，紙面の変更などの努力を試みたが，結局新興新聞財団ロイ-トムソン卿(きょう)の支配下にはいって現在に至っている。〔飯田良明〕

タイムマシン H.G.ウェルズの未来小説(1895)。未来のいかなる時点にも旅行可能な〈タイムマシン(航時機)〉に乗った主人公が80万年後の世界に着いてみると，人類は，地上に住んで暗やみを恐れる文明人と，地下と暗やみに住みあかりと火を恐れる野蛮人とに分かれている。また，数百万年後を旅行すると地球の回転は止まり，生物もほとんどいない。さらに3,000万年後の世界に行くと，太陽は消えかかり，生物はすべて死滅し，地球は氷におおわれはじめているという物語。文明論を含んだSFの先駆的傑作で，〈タイムマシン〉はその後多くのSFに登場する。〔奥山康治〕

ダイムラー［Gottlieb Daimler］(1834～1900) ドイツの機械技術者。マイバハと協力して1882年に自動車試験工場を設立，内燃機関を研究し，完成した。1890年にダイムラー-モーター会社を設立してメルセデス自動車を製造した。

ダイムラー-ベンツ［Daimler-Benz A.G.］西ドイツの大手自動車メーカー。1882年にダイムラーの個人商会として発足し，1926年にベンツの会社と合併して設立された。高級車やディーゼル乗用車では世界的に有名である。そのほかにバス・トラック・大形ディーゼルエンジンもつくる。特に輸出比率が高く，売上高の40%が海外向けで，ヨーロッパ・アルゼンチン・チリ・北アメリカなどに進出している。技術開発に重きを置いており，新車の開発もめざましい。日本での総販売元は梁瀬(やなせ)(株)である。本社シュツットガルト。年間生産台数38万7,000台，年間売上高30億2,000万ドル(1970)。〔氏家　尚〕

タイムレコーダー [time recorder] 時計の示す月・日・時刻などを所定の用紙に印字する装置。交通機関の発着時刻の記録にも用いられるが，おもに会社・学校などにおける出勤・退出の記録をとり，給与計算や時間の管理をするのに利用される。構造は，時計装置とこれに連動し回転する活字装置，インクリボン，カードをたたいて印字させるハンマーなどからなる。印字は，カードを差し入れ口に入れると印字されるものと，カードを入れレバーを押して印字されるものとがある。時計仕掛けには，ぜんまい式と電気式があり，また，停電時にも支障なく作動するものもある。そのほか，所定の時刻にブザー・サイレンを鳴らす時報装置付きもある。〔船越　泉〕

たいめいがっき【体鳴楽器】 楽器の科学的分類法による五大分類の一。基本的な発音原理として，楽器の主要部分そのもの(かなりの容積を伴う)が振動するものをさし，一般に打楽器*といわれるものが含まれる。➔楽器

だいめいし【代名詞】 品詞の一種。名詞*とともに体言*に含められる。文法機能のうえでは，名詞と異ならないので，名詞の一種として扱われることもあるが，人や事物を直接さし示す働きをもつ点に，代名詞の特色がみられ，指示語にも含められる。別表は，代名詞のおもなものを整理したものであるが，このほか，〈わし・おれ・あんた・この(その・あの・どの)ひと・こいつ・そいつ・あいつ・どいつ〉なども代名詞であり，人称代名詞に属する語の多いことが，日本語の特色の一つとなっている。➔指示語
〔市川　孝〕

代名詞一覧表

第一人称	第二人称	第三人称 近称	第三人称 中称	第三人称 遠称	第三人称 不定称		
わたくし わたし ぼく	あなた おまえ きみ	このかた	そのかた	あのかた かれ かのじょ	どのかた どなた だれ	人称代名詞	
		これ	それ	あれ	どこ	事物	指示代名詞
		そこ	そこ	あそこ	どこ	場所	指示代名詞
		(こちら こっち	(そちら そっち	(あちら あっち	(どちら どっち	方角	指示代名詞

だいめいちゅう【大螟虫】 イネヨトウ*の幼虫の俗称。イネ・ムギ・トウモロコシ・アワなどの害虫。

だいもく【題目】 経典の題名をいう。大乗の諸経典にはこれを受持して唱えれば大きな功徳をうると説かれており，題目を唱えること，すなわち唱題が中国や日本で古くから行なわれた。日蓮*(にちれん)は《法華経(ほけきょう)》の題号である〈妙法蓮華経〉の5字，または〈南無妙(なむみょう)法蓮華経〉の7字を題目と称して，これを唱えることをすすめた。日蓮によれば，題目は《法華経》の単なる題名ではなく，《法華経》に説かれた教法を表わすもので，本尊であると同時に行法を意味するという。〔塚本啓祥〕

だいもん【大紋】 ➔直垂(ひたたれ)

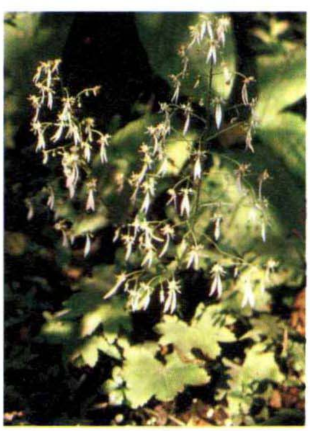
ダイモン [daimon] 古代ギリシアの神話・伝説に現われ，宗教的崇拝の対象となっていた精霊。大地・木・川・泉・山などに住みついて人間の営みを守り，恵みを与えると考えられていた。しかししだいにその意味は変化し，ホメロス*では人知を越えた異常な事件を引き起こす神的な力をばく然とさすようになっている。さらにのちには，人間の内部にあってその人の生を支配するなんらかの運命的な力を意味するようになり，ダイモンはなかば神的でなかば人間的な性格を与えられた。なお，ソクラテス*が内心の声として聞いたものもいわゆるダイモンの声である。ソクラテスはなんらかの行為を起こす際にその声を聞いたが，それはいつも禁止的な示唆を与えるものであったという。〔黒田杏子〕

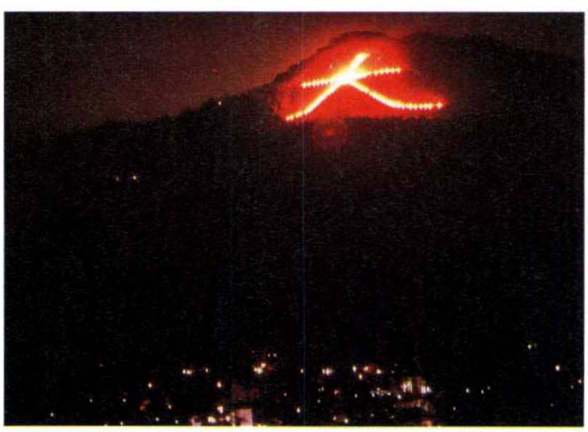
だいもんじそう【大文字草】 双子葉植物・ユキノシタ科。山の湿った斜面や岩上に自生する多年草。葉はユキノシタに似て長さ3～15cm，幅4～20cmの心形で，鈍い鋸歯(きょし)があり，表面は緑色，下面は緑白色が普通である。7～10月，5～30cmの花茎を出し，その頂に多数の白色の五弁花をつけるが，そのうち2枚の花弁が大きいので〈大〉の字に似ており，この名がある。

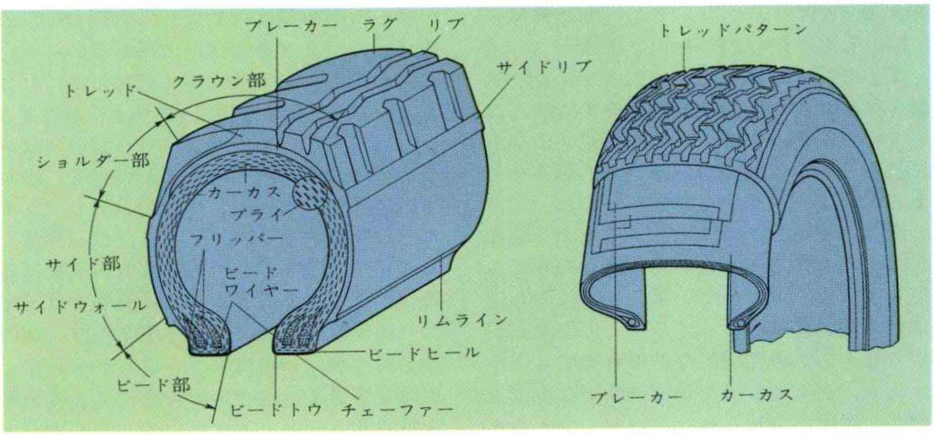
だいもんじやき【大文字焼】 京都市東山の如意ケ岳の一峰(通称大文字山)で毎年8月16日の夜に行なわれる盂蘭盆会*(うらぼんえ)の送り火行事。山の中腹部に〈大〉の字形に75か所の火床を設け，280束1,000貫(3,750kg)のマツのたきぎを井げたに組んでいっせいに点火する。古くは陰暦7月16日に行なわれていたらしく，行事の起源は不詳であるが，江戸時代初期に始まったらしい。なお，同日時に京都市内の西賀茂山に船形，松ガ崎山に妙法，水尾山に鳥居形の送り火がそれぞれたかれる。〔渡辺欣雄〕

タイヤ [tire] 自動車などの車輪に装着して接地部を形成するゴム製品。鉄道車両では車輪の外周にはめる耐摩耗性の鋼の輪をいうが，一般にはゴムタイヤをさす。車体をささえ，走行中の障害物による衝撃を吸収する一方，安全停止や方向変換をするのに役だつ。ゴムタイヤには空気を入れて使うニューマチックタイヤとゴムだけでつくられているソリッドタイヤがあるが，後者は特殊車両用で，普通は前者が広く用いられる。空気入りゴムタイヤは1888年イギリスのダンロップによって開発され，その後改良が重ねられて1915年ごろにはほぼ現在の形になった。

〈構造〉 最も一般的なニューマチックタイヤを例にとると，大別してトレッド・カーカス・ブレーカー・ビードの4部分から構成される。①トレッド：外側をおおうゴム層で，内部を保護すると同時に牽引力(けんいんりょく)・制動力・耐摩耗性・耐外傷性が大きくなるようにつくられている。表面模様をトレッドパターンといい路面把握(はあく)・横すべり防止，走行中に発する熱の放散などの点が考慮されている。これには写真に示すような基本形があるが，目的・用途によってさまざまに使い分けられている。ゴム質は，天然ゴム，SBRやBRなどの合成ゴムにカーボンブラックなどの補強剤を配合したものが一般に用いられる。②カーカス：タイヤの骨格で，荷重・衝撃・充塡(じゅうてん)空気圧に耐え，適当に変形しうるように幾枚もコードを重ね合わせたもの。コードはレーヨン・ナイロン・ポリエステルなどを〈すだれ織り〉にして接着剤処理したもので，最近ではスチールやグラスファイバーによるものも開発されている。なお〈すだれ織


ダイモンジソウ


大文字焼



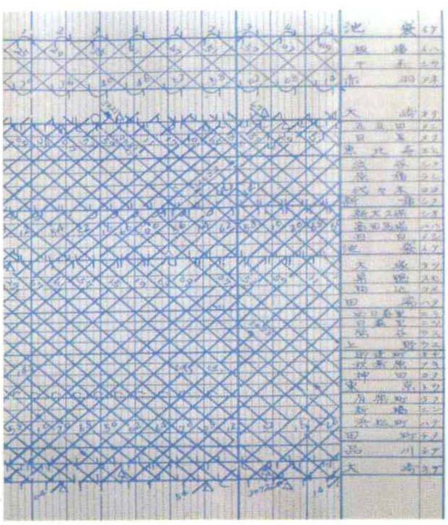
タイヤの構造



リブ　　ラグ　　リブ・ラグ併用　　フロック

トレッドパターン

タ イ ヤ



ダイヤグラム　赤羽線・山手線(東京)用の1分目ダイヤ



原石
(南アフリカ産)



加工石

ダイヤモンド

り〉の方向は，通常は斜めで，たて糸の方向が交互に重なるように配されている(バイアス構造)が，回転方向に対して直角になるようにしたもの(ラジアル構造)，普通のバイアス構造にラジアルタイヤの特徴である補強帯を配したもの(ベルテッドバイアス構造)などもある。③ブレーカー：カーカスとトレッドの中間にあって，外部からの衝撃緩和と同時に外傷が直接カーカスに達するのを防ぐ部分，あら目のコードに粘着力の強いゴムなどを配して数枚重ね合わせてある。④ビード：タイヤの形を維持し，リムにしっかりと装着するための部分で，ビードワイヤーにはさび防止のために黄銅めっきしたピアノ線(0.95mm前後)を用いている。〈種類〉車種によってトラック・バス用，乗用車用，二輪車用，産業車両用，建設機械用，農業機械用，航空機用などの種類があり，用途・材質などの面からはスノータイヤ・スパイクタイヤ・高速タイヤ・チューブレスタイヤ・ラジアルタイヤなどに分類される。〔穂藤英機〕

たいや【逮夜】 大夜・太夜・迨夜とも書き，宿夜・伴夜・贈別夜ともいう。人が死んだ次の夜は，明日の茶毘(だび)に逮(およ)ぶ夜であるという文字どおりの意味で，葬儀の前夜をいう。室町時代のころから年忌法要が営まれるにつれて，月忌(がっき)や年忌の前夜をさすようになり，逮夜参りなどと称して，僧の読経(どきょう)を請うのがならわしとなった。このときの僧を特に逮夜僧という。一説に，逮夜とは一昼夜を六時に分かつうちの日没(にちもつ)時のことであるともいう。〔藤井正雄〕

だいや【大冶】 ターイエ 中国，湖北省南東にある大産鉄地帯。清(しん)末，湖広総督の張之洞(ちょうしどう)によって開発され，民間の漢冶萍煤鉄公司(かんやひょうばいてつこうし)の経営下に置かれて，萍郷炭田の石炭とともに，漢陽(現在は武漢の一部)の製鉄所に送られていた。その後日本が資本を投じて鉄鉱石の支配に成功すると，1913年以後，第2次世界大戦中までは鉄鉱石を八幡(やわた)製鉄所へ積み出していた。戦後は国営となり，華中工業地区の一中心となっている。〔船越昭生〕

だいやがわ【大谷川】 栃木県中禅寺湖の東北隅(ぐう)に発し，日光市・今市市を通って鬼怒(きぬ)川に合流する。長さ29km。中禅寺湖から500mの地点に名瀑(めいばく)華厳滝(けごんのたき)があり，支流にも白糸滝・裏見滝・寂光滝などの滝が多い。日光市街へ流入する地点に神橋が架橋され，その北岸に日光東照宮・輪王寺・二荒山(ふたらさん)神社がある。

ダイヤグラム [diagram] 本来は図形・線図の意味であるが，一般には列車の運行状態を1枚の図表にしたもの。トレイン(train)-ダイヤグラムの略称。縦が時間線，横が停車場線(距離)を表わし，右下がりの線は下り，右上がりの線は上りの列車で，縦・横・斜めの3線の交差点が列車の位置と時刻を示す。列車の運行に不可欠のもので，列車が遅れた場合の運転整理，臨時列車の計画，列車編成における車両・運転士の配置などにも広く利用される。用途によって時間線の目盛りが異なり，1時間目ダイヤ(車両の運用計画用)・2分目ダイヤ(運転計画と整理用)・1分目ダイヤ(電車区間用)などの種類がある。なお市販の時刻表は，ダイヤグラムを一般にもわかりやすいように数字になおしたものである。〔宍塚正幸〕

ダイヤぞく【ダイヤ族】 ⇒ダヤク族

ダイヤモンド [diamond] 鉱物中最もかたく，宝石および工業材料として非常に重要な鉱物である。化学式C　等軸晶系，硬度10，比重3.52。劈開(へきかい)は(111)に完全。日光にてリン光を放つ。キンバライ

トとよばれる特殊な岩石中に産する。わが国にはこの岩石は存在せず，ダイヤモンドも産出しない。

ダイヤモンドヘッド ［Diamond Head］ アメリカ合衆国，ハワイ州のオアフ島にある死火山で，標高232m。ホノルルの南東方に位置し，ワイキキ海岸の東端に突出して岬(みさき)をなしている。海岸やホノルルに出入の船からよく望見されるが，アメリカ陸軍の砲台ルガー要塞(ようさい)が置かれ，一般人の立ち入りが禁じられている。

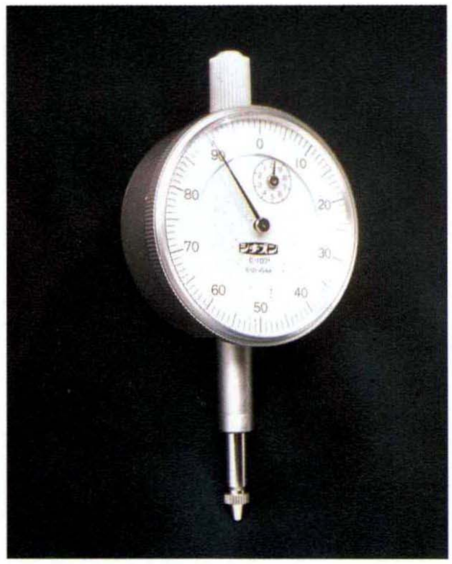
ダイヤルゲージ ［dial gauge］ 微小寸法差を測定する精密測定器。測定子(ダイヤルゲージの被測定物に接触する部分)の動きを歯車で拡大して指針を回し，目盛り板上で測定子の動いた長さを読む。1目盛りが0.01mmを表わすものと0.001mmを表わすものとがある。ダイヤルゲージは他の寸法との差を測定するいわゆる比較測定器なので，絶対寸法を測定するには被測定物とブロックゲージ*のような標準ゲージとの差を求め，ブロックゲージの寸法から絶対寸法を出す。 〔森田 鈞〕

タイヤルぞく 【タイヤル族】 高砂(たかさご)族の一つで，台湾北部山地に分布する。インドネシア語派に属する言語をもち人口39,000人(1942)。かつて首狩り*で名高く，清朝(しんちょう)には漢民族の侵入を退け，日本の領有時代初期にも果敢な反乱を行なった。他方社会的には小党分立の傾向が強い。

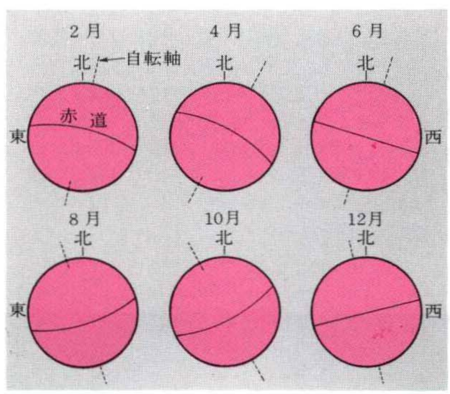
たいよう 【大洋】 ⇨海洋

たいよう 【太陽】 太陽系*の中心に位置し，地球をはじめ惑星や彗星(すいせい)などの運動，およびその光と熱によってこれらの天体の表面の温度や大気の状態を支配している恒星。人類にとって，太陽は時を決める基準であり，1日は太陽に対する地球の自転により，1年は地球の公転により決められる。さらに太陽の光と熱は，動物・植物の生命を維持するうえに直接必要であるだけでなく，いろいろの形となってわれわれの生活に必要なエネルギーを供給している。

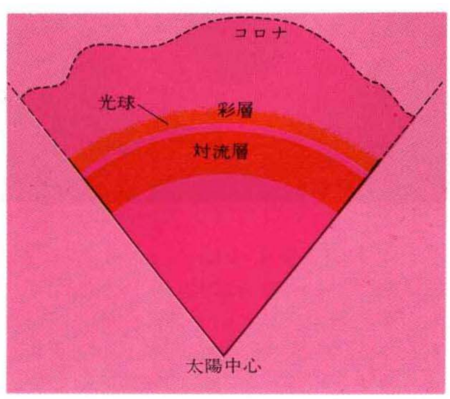
〔太陽までの距離・直径・質量・自転〕 地球は太陽を焦点の一つとする楕円(だえん)軌道を描いて公転している。この楕円の長軸の半分を太陽までの平均距離とよび1億4,960万kmである。光速でも到達するのに8分19秒かかる。太陽に最も近づくのは1月上旬，最も遠のくのは7月上旬であるが，平均距離からわずか約250万kmしかずれない。太陽の直径は139万2,000kmで地球の直径の109倍である。地球からは角度にして約32′の大きさ，すなわち直径1cmの球を1m離れたところから見る角度に相当する。したがって，レンズで太陽像をつくるとき像の直径は，レンズの焦点距離の約100分の1となる。太陽の質量は1.991×10^{33}gで地球の質量の約33万倍である。この値と太陽の直径とから平均の密度が求められる。これは水の約1.4倍で，地球の平均密度に比べて約4分の1である。太陽面上に現われるすべての黒点*は日がたつにつれて東から西へ移動する。これから太陽の自転していることがわかる。自転の軸が決まると，地球と同じように，太陽面上にも赤道や緯度を考えることができる。自転の速さは緯度によって異なり赤道がいちばん速い。



ダイヤルゲージ



太陽の自転軸の傾き

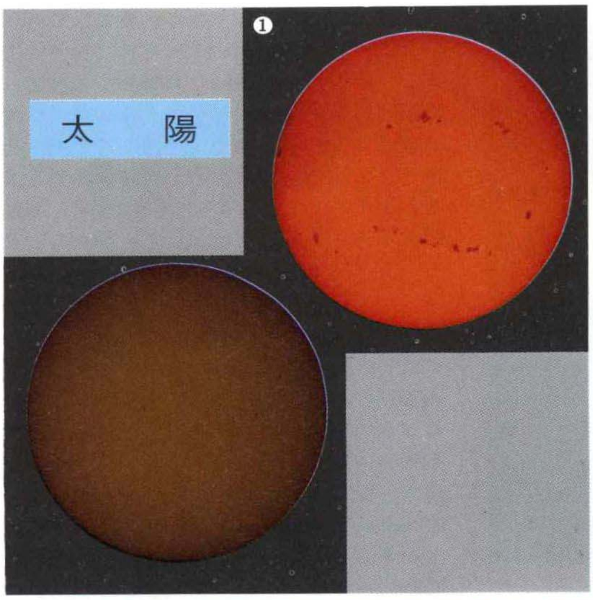


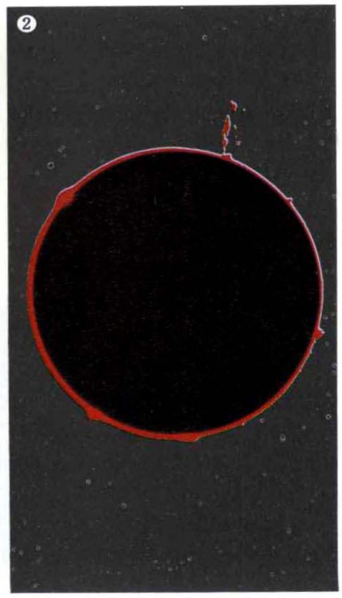
太陽の断面模式図

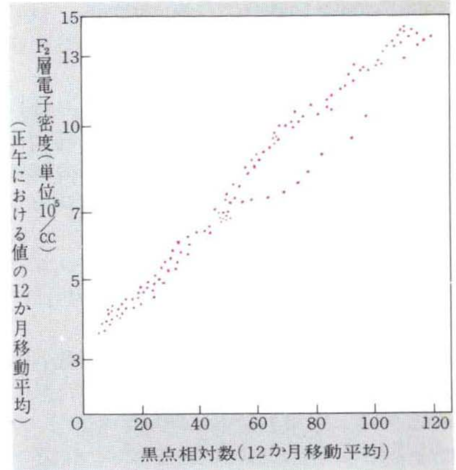
太　陽

〔構造〕 太陽は高温のガス球である。このガスが宇宙空間に散ってしまわないのは，太陽の質量が大きくて中心に向かう強い引力が働いているからであり，また，この引力によって球状を保っているのである。太陽の表面はやや不透明なガス層であって，われわれが見通すことができるのはせいぜい深さ300～400kmまでである。この層を光球とよぶ。中心部は，中心に集まろうとするガスをささえるために，約1,500万℃の超高温であると推定されている。また中心部の密度は水の約100倍で地上の金属より大きいが，超高温にあるのでガスの状態にある。中心部は一種の核融合*反応炉であり，ここで発生する多量のエネルギーが太陽の光と熱の源となっている。反応炉を包む大きなガス層はいわば断熱材の役目をし，炉を高温に保ちながらわずかなエネルギーを放射の形で表面に向かって伝える。しかし，光球に近づくと放射よりも対流によってエネルギーが運ばれる。この対流は太陽全面にわたってつぶつぶの模様として見えている。この模様を粒状斑(はん)という。光球はこの上昇する熱い気流により暖められ，6,000℃の高温を保っている。なんらかの原因で対流が起こらないとき，その上部にはわずかしかエネルギーが流れず，したがってまわりに比べて温度が低くなる。これが黒点で温度は約4,300℃である。黒点には強い磁場があり，ガスは磁力線に沿っては流れるがそれを横切ることができず，そのため対流が起こりにくくなる。光球を包んで外側には彩層とコロナがある。これらは希薄なガス層で皆既日食のときに見ることができる。彩層の上部は，光球からの高さ5,000～15,000kmに達する針構造がみられる。この針をスピキュールという。彩層ではコロナに近い部分ほど温度が高く4,500℃から数万度に及ぶ。彩層の上に，炎状の赤いガスが見える。これを紅炎という。紅炎にはいろいろの形があって，秒速数百キロメートルで飛び出したりコロナから彩層に落下したりなどその動きもさまざまである。これらを包んで大きく広がっているガスがコロナである。明るさは光球から$1\times R$(R は太陽半径)外では，光球に比べて約10万分の1，$2\times R$では約1億分の1，$5\times R$ では約10億分の1と外側ほど微弱になる。皆既日食のコロナは$(2\sim3)\times R$ までしか撮(と)れていないが，実際はもっと遠くの惑星間空間にまで広がっている。コロナの温度は約100万℃である。

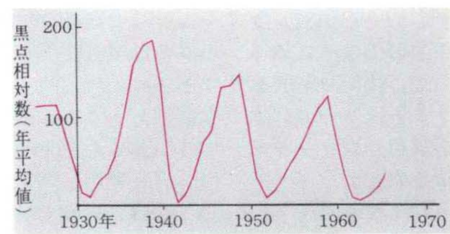
〔放射〕 太陽は放射エネルギーとしてγ線から電波までの電磁波を発している。太陽外層のガスは，波長により透過力の違うフィルターとなるので，γ線・X線・紫外線・赤外線・電波では，彩層やコロナからの便(たよ)りを，可視光線では光球・彩層・コロナの便りをもたらす。この便りをもとにして，太陽のガスの化学組成や，温度・密度などの物理的な状態を推定することができる。太陽が毎秒周囲の空間に放っている放射エネルギーは，(太陽定数)×(太陽を中心



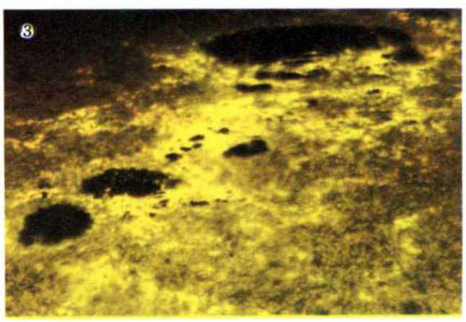




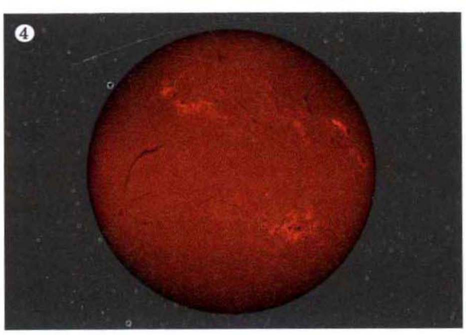
黒点相対数と電離層電子密度



黒点相対数の変化



①黒点の消長。極小(左)と極大(右)　②紅炎の活動のようす　③黒点(黒色の部分)・白斑(明るい黄色の部分)・粒状組織(灰色の部分)　④水素のHα線(波長6,563Å)で撮影した彩層。暗条(暗く細長い筋)・黒点(小さな黒色斑点)・プラージュ(明るい模様)　⑤コロナ　1971年，メキシコにおける皆既日食時のコロナ





にして半径1天文単位*の球の表面積)から求められる。1 calは4.185×10^7エルグ*であるので，これは毎秒3.85×10^{33}エルグとなる。太陽は電磁波のほかに，エネルギーの高い宇宙線や，速さ約500km/秒で流れるプラズマ*などの微粒子をも放出している。後者は太陽風*とよばれている。

【太陽の活動】太陽は約11年の周期で活動をくり返す。活動が盛んなときは，黒点相対数*が極大となり，静かなときは，この数が極小となる。それぞれを太陽活動の極大期・極小期とよぶ。太陽活動のにない手は活動領域である。活動領域は，出現してから成長し消滅するまで数週間から数か月を要し，大きさは太陽直径の5分の1〜10分の1に達するものもある。典型的な活動領域は，出現して約10日後に黒点が複雑な群をなし，紅炎も活発な運動を示し，フレアも起こす。成長し足りない活動領域にはフレアの発生数も少ない。さまざまな成長状態にある活動領域がいくつか重なったものが太陽の活動なのである。極大期には，大きく成長した活動領域が多く出現する。

【エネルギー源】中心部は超高温なので，水素の原子核は互いに激しく衝突し，原子核を包んでいる壁を突き抜けて核融合反応を起こす。その結果4個の水素原子核から1個のヘリウム原子核が生じるが，反応後の質量は反応前よりも0.7％だけ少ない。この不足した質量が，相対性理論から導かれる〈質量・エネルギーの等価原理〉により，多量のエネルギーに姿を変える。わずか1gの水素原子核は融合反応により6×10^{18}エルグつまり1kWの電熱器を20年間使うことができるエネルギー量を発生する。太陽の核融合反応炉では，1秒間に5億6,400万tの水素が5億6,000万tのヘリウムになり，このとき失われる400万tに相当する多量のエネルギーが発生している。太陽のガスは，融合反応を起こすための燃料でもあり，反応炉を包んで炉内を高温に保つ役目もしている。さらに炉内の温度が高くなりすぎると重力にさからって全体が膨張して炉を冷やし，温度が下がると収縮して重力のエネルギーが熱となって再び炉を暖める。この自動制御が行なわれるので，炉内に燃料があるかぎり一定の割合でエネルギーが供給され，太陽が長い間安定した状態にいられるのである。太陽が全部水素でできているとすると，これが核融合反応で全部ヘリウムになるまでには約1,000億年かかる。しかし太陽は全部水素でできているわけではなく，また核融合反応は温度の高い中心部だけで起こるので太陽の寿命はこの10分の1の約100億年と考えられている。中心部の水素がヘリウムに変わるにしたがい，反応炉が大きくなり，その結果太陽は明るくなり膨張する。地殻(ちかく)の年齢などから察して太陽はすでに約50億年を過ごしたと考えられている。50億年後には，現在の太陽より数千倍も明るくなり，また水星や金星の軌道はもちろん，地球の軌道をも含む大きさにふくれるであろうと推定されている。〔日江井栄二郎〕

たいよう【太陽】 博文館刊行の総合月刊雑誌。1895(明治28)〜1928年(昭和3)。当時同社発行の雑誌には，ほかに《少年世界》《文芸倶楽部(クラブ)》があったが，この雑誌には政治・経済・社会などの各欄(らん)が設けられ，新知識の紹介に努めたのが特色。文学欄もあり，初期には高山樗牛*(ちょぎゅう)の

《美的生活を論ず》をはじめ，これを受けた大町桂月(けいげつ)・長谷川天溪(はせがわてんけい)らの自然主義評論が掲載され，末期には平林初之輔(はつのすけ)がプロレタリア文学を論じたりした。〔金子　博〕

たいようかつどうきこくさいかんそくねん【太陽活動期国際観測年】International Active Sun Year(略称IASY)の訳語。太陽・地球間の物理的な関係を総合的に研究することを目的として，1969年から1971年までの太陽活動期に際し，国際学術連合に属する太陽地球物理学研究委員会(IVCSTP)が企画した国際的な協同観測事業をいう。日本もこの事業に参加し，電離層の構造や太陽フレアに関連した地球磁気圏現象の研究を行なった。

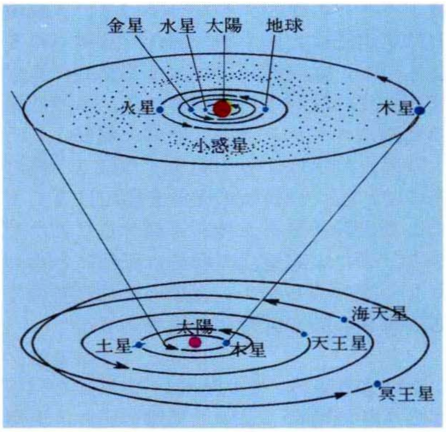
たいようかんそくえいせい【太陽観測衛星】太陽からの放射線を観測し，太陽の活動や構造を調べることを目的としたアメリカの科学衛星。英語のOrbiting Solar Observatory のかしら文字をとりOSOともいう。第1号は1962年3月7日に発射され，続いて第2号(1965)～第6号(1969)まで次次と軌道に乗った。重さはどれも約290kgで，地上からの高さほぼ550km前後の円軌道を描いている。

たいようぎょぎょう【大洋漁業(株)】業界一の規模の総合水産会社。捕鯨を中心とした水産部門，冷凍食品・加工食品・畜産飼料の陸上加工部門のほか，商事・海運部門など多角経営を行なっている。1880年(明治13)中部幾次郎が魚仲買い商に乗り出したのがはじまりで，その後林兼商店の名で漁業界に進出，1924年(大正13)株式会社に改組，1943年(昭和18)傍系の大洋捕鯨・遠洋捕鯨を合併して西大洋漁業統制となり，第2次世界大戦後現社名に改めた。林兼産業や塩水港精糖など60余の系列会社をもつ。本社東京，工場は東京・横須賀(よこすか)(神奈川県)・横浜(神奈川県)・下関(しものせき)(山口県)など20数か所にある。資本金150億円，年間売上高5,765億5,100万円，従業員数5,835(1980年7月)。

たいようけい【太陽系】太陽および太陽の引力の支配を受けて運動している天体と，それらが動きまわる空間をいう。

【太陽系の構成】太陽系を構成するおもな天体は，太陽とそれをめぐる水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星(めいおうせい)の9個の惑星であるが，その他にも火星と木星の間に分布している1,800個以上の小惑星，地球・火星・木星・土星・天王星・海王星のまわりを巡る総計32個の衛星，非常に希薄な天体である彗星(すいせい)，惑星間空間に漂っているちりくずのような流星物質なども太陽系に属している。

惑星のうち，地球より内側の軌道を巡るものを内惑星，地球の外側を運行するものを外惑星とよぶ。また惑星の大きさによって，火星より内側の4惑星と冥王星を地球



太陽系　惑星の配列と軌道

形惑星，木星から海王星までの4個を木星形惑星と分類することもある。

【太陽系の特徴】惑星が太陽を巡る軌道の形は円に近く，また軌道面はほぼ一致している。このため惑星の見かけの位置は黄道(地球の軌道面と天球が交わってできる大円)からあまり離れない。黄道に対して最も大きく傾いている軌道面は冥王星のそれで傾きは17°，次は水星の7°で，他の惑星はずっと少ない。惑星の公転方向はみな同じで，軌道の北側から見て反時計まわりに太陽を巡っている。そしてこの公転の方向は太陽の自転の方向にも一致し，惑星の自転の方向も金星を除いては公転と同じ向きである。さらに，惑星のまわりを巡る衛星の大部分も，惑星の公転と同じ方向に運動している。

【ボーデの法則】太陽にいちばん近い惑星(水星)の軌道半径は平均5,800万km，また最も外側を巡る冥王星は太陽から約60億km離れた距離にあるが，惑星と太陽との間の平均距離についてはボーデの法則とよばれる経験則がある。

太陽から惑星までの平均距離を天文単位で表わしa_nと書くと，

$$a_n = 0.4 + 2^n \times 0.3$$

ただしnは水星が$-\infty$，金星＝0，地球＝1，火星＝2，小惑星＝3，木星＝4，土星＝5，天王星＝6で与えられ，天王星まではかなりよく実測値を表わしているが，海王星・冥王星に対しては通用しない。ボーデの法則はまったく経験的に発見されたもので，理論的な裏付けはいまだ行なわれていないが，太陽系の起源と関連をもつものと想像されている。

【ケプラーの法則】惑星の運動に対してはケプラーの法則がなりたっている。〔守山史生〕

たいようこうてん【太陽向点】太陽が太陽系の天体を引き連れて進んでいる天球上の方向をいう。太陽はその近傍の恒星とともに銀河系中心のまわりを秒速約250kmの速度で公転しているが，この運動に重畳して太陽自身の固有な運動も行なっている。その方向が太陽向点で銀経57°，銀緯＋22°でヘルクレス座にあたり，近傍の星に対する太陽の相対速度は約20km/秒である。

たいようじ【太陽時】地球の自転運動をもとにして決まる自転時の一種。太陽の時角に12時間を加えたもので定義される。太陽が南中したときを太陽時の12時(正午)といい，その12時間前を1日の始めとする。真太陽を基準にした太陽時を真太陽時，平均太陽によった場合を平均太陽時といい，真太陽時と平均太陽時の差が均時差である。➔天文時

たいようじつ【太陽日】太陽が南中してから翌日再び南中するまでの時間。真太陽日と平均太陽日の総称である。➔平均太陽日　➔真太陽日　➔恒星日

たいようじば【太陽磁場】太陽の磁場。黒点に磁場があることはヘールが1908年に発見した。大きな黒点では磁場の強さが4,000ガウスにも達する。これは日本近辺における磁場の強さの約10,000倍である。小黒点では100ガウス以下のものもある。黒点だけでなく，黒点を取り巻く領域には数～数十ガウスの磁場があり，ここではフレアが起こるし，彩層やコロナも他のところに比べて明るくなる。これを活動領域とよび，さしわたしは太陽直径の約10分の1。太陽の南北両極には，地球と同じような磁場があって，その強さは数ガウスであるが，極付近のコロナの形を支配していると考えられている。太陽磁場の磁力線は太陽風によって引っ張り出されて惑星間空間に運ばれ，ここでの磁場を構成している。光学的に太陽磁場を検出するには，磁場によってスペクトル線が分離する現象(ゼーマン効果)を用いる。〔日江井栄二郎〕

たいようしゅう【大洋州】⇨オセアニア

たいようスペクトル【太陽スペクトル】太陽光をプリズムや回折格子(こうし)によって波長の順に分けたもの。全体として紫から赤まで色が続いて見える。これを連続スペクトルという。またこの中に見える多くの暗い線をフラウンホーファー線という。発光体の連続スペクトルについては，最も強く放射している波長(λcm)と，発光体の絶対温度との間に，$\lambda T = 0.289$(ウィーンの変位則)がなりたつ。太陽の連続スペクトルでは$\lambda = 5 \times 10^{-5}$cmの光が最も強い。これから温度を求めると約5,800℃となる。原子・イオン・分子はそれぞれ固有の波長の光を吸収するので，フラウンホーファー線を調べると，太陽大気に存在する元素の種類や量がわかる。広い意味の太陽スペクトルは，太陽の電磁波を波長の順に分けたもので，X線・紫外線をはじめ赤外線や電波も含む。➔太陽　〔日江井栄二郎〕

たいようちゅう【太陽虫】原生動物・根足虫綱・太陽虫亜綱・ハダカタイヨウチュウ科。体は球状で，100μ以下。多くの軸足を放射状に出している。軸足の中には針

状の軸があり，中心に達している。軸足は主としてえさをとったり，体を浮漂させるのに役だつ。原形質内にも空胞が多く，プランクトン生活に適応的であるが，空胞は収縮胞や食胞の働きもするといわれている。各地の池や沼に普通にみられる。一般的には，太陽虫亜綱に属するものをタイヨウチュウと総称することが多いが，そのほとんどが池沼など陸水プランクトンとして知られる。〔向井　宏〕

たいようちょう【太陽鳥】 鳥類・タイヨウチョウ科の総称。アフリカに最も多産し，南部アジアの温熱帯，オーストラリアにかけて106種が分布する。くちばしは細長く，上に凸形(とつがた)に湾曲し，舌は管状で，花の蜜(みつ)とこん虫類を主食とする小形の鳥。ちょうど新世界産のハチドリ類に相当する生態的地位を占めている鳥である。一般に，雄は金属光沢のある赤・緑・青色などの美しい羽毛をもち，雌はじみである。ハチドリ類のように停止飛行して蜜を吸うことはまれで，花に止まって吸う。巣は長い植物繊維を主材にし，上方側部に口がある細長い袋形のものを低い枝に掛ける。この科のうち，東洋区に産する9種のクモカリドリ類は，雄に美しい金属光沢の羽毛はなく，雌雄同色で，巣は広葉樹の葉の下に深い杯形のものを掛けるなど，他のタイヨウチョウ類と異なっている。〔浦本昌紀・安部直哉〕

たいようてい【大洋底】 海洋の主要部をなす水深4～6km，平均傾斜角1°未満の広くて平らな海底。大洋底の大部分には小起伏に富む火山性の海丘があるが，固結あるいは未固結の堆積物(たいせきぶつ)が埋め立てられた地域は平坦(へいたん)である。大洋底の地殻(ちかく)は，大陸の地殻よりはるかに薄く，たかだか数キロメートルの厚さしかない。この地殻は，中央海嶺(かいれい)からわき出したマントル物質が固結してできたもので，マントルの対流に乗って移動し，2～3億年の間に海溝(かいこう)地域で再びマントル内に沈み込んでいく。こうして大洋底は永久的なものではなく，2～3億年たつと全部変わってしまうと考えられる。〔堀福太郎〕

たいようていすう【太陽定数】 太陽と地球との平均距離において，太陽光線に垂直な1cm²の平面が，地球大気外で1分間に受ける放射量をいう。1.94cal/cm²・秒である。その値から，太陽が宇宙空間に放出している放射エネルギーは，毎秒3.85×10^{33}エルグと求められる。地表には，地球大気や雲に吸収されて太陽定数の半分，すなわち1m²あたり約700Wの放射エネルギーが到達する。

たいようでんち【太陽電池】 ⇨ダイオード

たいようでんぱ【太陽電波】 太陽から放射される電波。現在地球上で観測されている波長域は，波長数ミリメートルから10数メートルの範囲にわたっている。太陽電波は定常的に太陽上層大気から放射される熱放射と，太陽活動に伴って突発的に発生する強度の放射とに大別される。m波領域の電波はコロナ，cm波は彩層上層部というように，波長によって発生する高さが異なるので，広い波長域の電波を測定することにより太陽上気を立体的に調べることができる。また太陽電波の観測は天候にかかわりなく行なえるので，太陽の活動を監視するのにきわめて有効な手段である。〔守山史生〕

たいようとう【太陽燈】 紫外線を発生する水銀放電管。水銀石英燈の通称。天然の太陽光線とは異なって熱線をほとんど含まないが，広範囲にわたって強い紫外線を発生するので，医療用(→紫外線療法)のほか殺菌や物質の鑑識などの光源としても用いられる。

たいようねつ【太陽熱】 地上に達する太陽の放射エネルギー。太陽からの放射エネルギーは，地球大気中の水蒸気に吸収されたり，雲などによって反射・散乱されるので，直接地表に達するのは，太陽定数の約半分で，1cm²あたり毎分約1cal，または1m²あたり約700Wである。原子力と地熱を除くとわれわれの利用しているエネルギーは，ほとんど太陽熱の姿を変えたものである。海水などが太陽熱を吸収して蒸発し，雨となり川の流れとなるのもそのエネルギーは太陽熱によるといえる。動植物は太陽熱を受けて成長するし，石油・石炭は古代の動植物の変形したもので，やはり太陽熱によって形成されたといえる。地球上では火力・水力・風力・動植物などを通じて間接的な太陽熱の利用は盛んに行なわれている。しかし直接的な利用は，夜や曇天に妨げられて，わずかに太陽電池・太陽炉，屋根に置かれた温水器などの程度にとどまる。〔日江井栄二郎〕

たいようねん【太陽年】 太陽が春分点を出発して再び春分点にもどってくるのに要する時間。分点年または回帰年ともいう。1太陽年の平均の値は365.24219879平均太陽日である。正確にはこの数字は1,900.0年における値であって，1,900.0年から経過した時間をT(単位は100年)とするとその時の1太陽年の長さは$(365.24219879-0.614\times10^{-5}\times T)$平均太陽日となる。したがって1太陽年は1,000年で5.3秒短くなり約1,700万年で1日短くなる。春分点は歳差によって1年に50″ずつ黄道上を西へ移動しているため対恒星周期(恒星年)より約20分24秒短い。〔木下　宙〕

たいようねんすう【耐用年数】 機械・建物・設備などの固定資産を取得してから，それが使用不能の状態に陥るまでの年数をいう。本来は文字どおり物理的な耐用期間を意味していたが，技術革新などが激しくなるにつれ機能的に使用できなくなることもあるので，そういった経済的社会的要因も考慮して使用可能年数すなわち耐用年数が見積もられるようになった。耐用年数は固定資産の減価償却を行なう際の償却費計算の基礎となる。〔山桝忠恕〕

たいようのないまち【太陽のない街】 徳永直(とくながすなお)の長編小説。1929年(昭和4)6～11月，《戦旗》に連載。作者の体験した印刷工場のストライキに取材し，労働者と経営者の対決を細部の状況と社会的構図の両側から描き，労働者の敗北する姿の中に革命的意識を鋭く表現したもの。プロレタリア文学の記念碑的作品とされる。

たいようのみやこ【太陽の都】 イタリアの思想家カンパネラの著書。1623年《真正哲学》の付録として出版された。あるジェノバ人がセイロン島をさまよっていたときに体験したという形をとり，神秘的な占星術に通ずる賢人の神政政治のもとで私有財産制度の完全に撤廃された一種の理想社会を描き出した。トマス-モアの《ユートピア》，フランシス-ベーコンの《ニュー-アトランティス》と並んで近代初期の三大ユートピア物語の一つに数えられている。〔石井忠厚〕

たいようはつでん【太陽発電】 太陽の熱エネルギーを直接利用して発電する方式。一般には放物面鏡などの反射鏡を用いて太陽光を水タンクに集光させて水を加熱し，そのタンクから発生する蒸気で発電機に直結されたタービンを回して発電する。水力発電・火力発電は太陽熱を間接的に利用したものである。太陽から地球に到達する熱エネルギーは96×10^{22} kcalと多量ではあるが，晴天のとき直射する太陽エネルギーの密度は600～800kcal/m²程度なので，多量の水蒸気を得るには，そのエネルギーを効果的に集める必要がある。太陽熱は夜間には得られず，天候により大幅に変化するので，熱の貯蔵方法が問題である。また，太陽光は単色光でないので，材料および技術面で多くの問題が残っている。タンク内の伝熱媒体としては，水のほかに効率のよいモノクロルベンゼンや亜硫酸ガスなどが考えられ，研究中である。まだ実用化までは至らず，ソ連で年間220万kWhの太陽発電の計画がある。なお，太陽電池も太陽発電の一種と考えられる。〔田村康男〕

たいようふう【太陽風】 太陽から絶え間なく吹いてくるプラズマの流れ。陽子・ヘリウム・電子がおもな成分である。コロナは100万℃の高温なので粒子の運動が激しく，太陽の強い重力を振り切って惑星間空間に流れ出す。速さは平均500km/秒で，マッハ数は約7である。このような高速の流れは地球にもぶつかってくるが，磁気圏の境界面でその衝撃が受け止められ，地球半径の約10倍より内側には侵入しない。また太陽風は彗星(すいせい)の尾をも吹き流し，分子イオンを主体とする尾を太陽と反対の方向にまっすぐ，長く伸ばす。太陽風の性質

を調べるうえに，人工衛星や人工惑星での観測が大いに役だっている。〔日江井栄二郎〕

たいようれき【太陽暦】太陽の運行をもとにした暦。太陽暦では閏日(じゅんじつ)を適当な方法で配置し，1年の平均の長さを1太陽年*(365.2422日)に等しくなるようにしている。したがって太陽暦の一定の日付けは一定の季節を示す。太陽暦はエジプトで生まれてペルシア・ローマに伝わり，ローマ暦*・ユリウス暦*・グレゴリオ暦*と発達していった。現在，大部分の国は，グレゴリオ暦を用いている。日本でも1872年(明治5)に太陰太陽暦*(旧暦)が廃止され，グレゴリオ暦が採用されて現在に至っている。〔木下 宙〕

たいようろ【太陽炉】太陽熱*を熱源として利用する炉。地表に直接達する太陽熱は1㎠につき毎分約1calであり，直径1mのレンズで太陽熱を1㎠に集中させるとこれの7,500倍の熱量となる。したがってレンズや放物面鏡を使い，広い面積に入射する太陽熱を狭いところに集中させると多量の熱量が得られる。この原理を利用し数枚のレンズや鏡を使って有効な口径を数～数十メートルにすると，炉の温度は2,000～4,000℃の高温に達し，1時間に約70kgの鉄をとかすこともできる。清浄な環境で高温における物性を研究したり，合成加工を行なうのに利用される。〔日江井栄二郎〕

だいよんき【第四紀】地質時代のうちの新生代を2分した後半の時代。第三紀鮮新世のあとに続く地質時代の最後の紀。約200万年前以降現在に至る期間で，他の紀に比べてきわめて短い。第四紀の名称は，地質系統を4分した4番めの地層を意味し，1829年デスノイヤーズによって提唱された。新旧に2分され，古いほうを更新世(最新世)または洪積(こうせき)世とよび，新しいほうを現世(完新世)または沖積(ちゅうせき)世とよぶ。更新世または洪積世は氷河時代*と称せられる。現世は一般に最後の氷期が終わってから今日までの温暖な約10,000年とされている。更新世の名称は貝化石群の大部分が現生種であることを，完新世の名称は貝化石群の全部が現生種であることを意味する。

第四紀の地層は一般に未凝固で，平野とその周辺の丘陵地をつくっている。更新世では生物は大部分現生種で，それらの進化・移動が行なわれた。哺乳(ほにゅう)動物群は第四紀を通じて体が大きくなり，寒冷気候への適応を示したが，絶滅したものも多い。人類も更新世に出現し，第四紀は人類時代といえる。植物群の変遷は気温変化の大きい中緯度地方で特に著しい。第四紀にはいると海陸の分布は今日の状態に近くなったが，海水準は世界的規模で著しく変化した。気候は全般的に寒冷化し，氷河が高緯度地方にくり返し広く発達している。〔田中啓策〕

タイラギ



たいら【平】福島県南東部，いわき市の東部地区。1937年(昭和12)単独で市制施行，1966年周辺13市町村と合体して，いわき市の中心地区となり，市役所が置かれている。西は閼伽井岳(あかいだけ)(605m)から東は太平洋岸にわたる夏井川下流の地域で，江戸時代は安藤氏三万石の城下町，明治以降は常磐(じょうばん)炭田の開発に伴って，商業・サービス業を中心とした都市に発展した。最近は機械製造修理・ガラス・製糸などの工業が興っている。➔いわき市

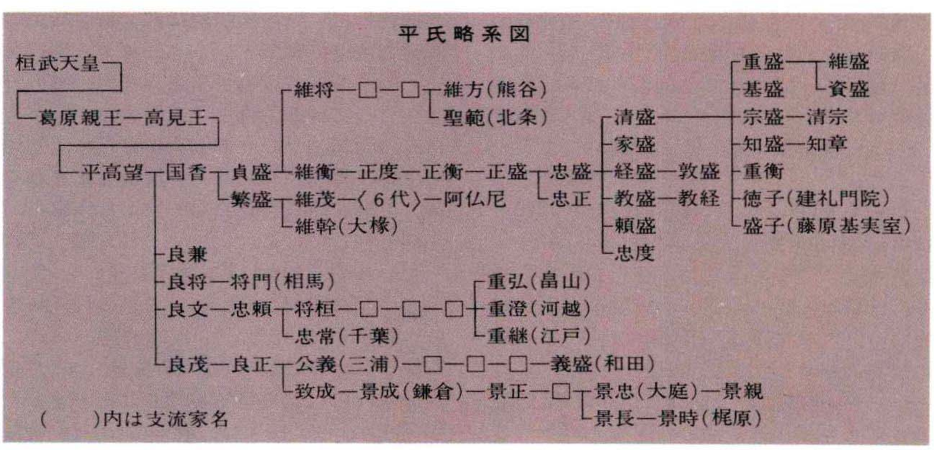
タイラー［John Tyler］(1790～1862) アメリカの政治家。第10代大統領。在任1841～1845年。1811年バージニア州議会議員に選出され，ナポレオン戦争に対するマディソン大統領の中立政策を支持した。州知事を経て，1827年，上院議員。州権論，憲法の厳格解釈論を提唱し，独立の行動をとっていたが，関税問題などをめぐってジャクソン大統領の諸政策に反対し，ホイッグ党*に入党した。1840年，ハリソン*の副大統領に当選，1841年，ハリソンの死で大統領に昇格した。しかし国立銀行再認可に反対して議会と対立し，また党内でも孤立してほとんどの閣僚に辞職され，任期中の成果はほとんどない。外交面では，1842年イギリス領カナダとの国境を画定し，1844年の大統領選挙に立候補を辞退した。1845年12月，テキサス併合に努力した。南北戦争に際しては，南部の分離を不可避とみてバージニア州の連邦脱退を急がせ，また，南部連合議会への代表を勤めた。〔折井一彦〕

タイラー［Sir Edward Burnett Tylor］(1832～1917) イギリスの人類学者。オックスフォード大学教授。進化主義的民族学の代表者のひとりで，宗教の起源をアニミズムに求めた。主著《原始文化》2巻(1871)。

たいらぎ【玉珧】軟体動物・二枚貝類・ハボウキガイ科。殻長(かくちょう)22cm，殻高14.5cm，殻幅10cmほどの三角形で，大きいものでは殻長35cmに達する。殻頂のほうへ狭くなり，背側はまっすぐで長く，後端もまっすぐで，両殻の間は開く。やや薄質でこわれやすく，暗黄緑色。殻表は平滑なこともあるが，殻頂から放射肋(ほうしゃろく)が出て，その上に鱗片(りんぺん)突起列を生じることもある。軟体は，中央に大きく丸い後閉殻筋(貝柱)があり，足に足糸があって，殻頂を下にして岩礫(がんれき)に付着する。東京湾・伊勢(いせ)湾・瀬戸内海・有明海などの内湾の浅海の泥底(でいてい)に多い。商品名をタイラガイといい，すしなどにして食用にする。産卵期は7～8月。漁期は12月から3月。〔波部忠重〕

たいらし【平氏】〈へいし〉ともいう。皇族賜姓の豪族。桓武(かんむ)平氏・仁明(にんみょう)平氏・文徳平氏・光孝平氏などがあるが，中でも桓武天皇の皇子葛原(かつらはら)親王の子高見王の子孫が最も栄え，清和源氏(➔源氏)とともに武家の棟梁(とうりょう)となった。高見王の子高望(たかもち)王は，889年(寛平1)平姓を賜わり，上総介(かずさのすけ)として東国におもむいてから勢力をふるったが，平将門(まさかど)の乱(➔承平(じょうへい)・天慶(てんぎょう)の乱)，平忠常(ただつね)の乱，前九年・後三年の両乱を経て，源氏が東国に地盤を築くに及んで衰え，貞盛(さだもり)の子維衡(これひら)以降は伊勢(いせ)・伊賀(ともに三重県)地方に本拠をもつ伊勢平氏が平氏の中心となった。伊勢平氏は，正盛のとき白河(しらかわ)法皇にはじめて登用され，以後海賊追捕(ついぶ)や西国の国守歴任を通して西国方面に地盤を形成し，東の源氏と並び称

平氏略系図



されるまでになった。正盛の子忠盛(ただもり)も父のあとをうけて勢力を伸ばし，保元(ほうげん)・平治の両乱を経ると忠盛の子清盛が太政(だじょう)大臣にまで昇り，一門の多くが公卿(くぎょう)・殿上人となり，国司の歴任や荘園(しょうえん)・海外貿易を経済的基盤にして栄華をきわめた。しかし，1180年(治承４)源頼朝(よりとも)以下諸国源氏の挙兵以後その勢力は急速に衰え，一族は壇ノ浦で全滅し(→壇ノ浦の戦い)，平頼盛の一流だけが源頼朝との縁故で生き残ったにすぎない。〔飯田悠紀子〕

たいらじけん【平事件】 1949年(昭和24)６月30日福島県平市で起こった炭鉱労働者と警官の衝突事件。共産党石城(いわき)地区委員会が矢郷炭鉱争議問題に関する掲示板を平駅前に立てたことに対し，市警察署が撤去命令を出したが，これに抗議する労働者・市民が押しかけて署長以下署員を署内に閉じ込め暴行を加えた。同様の騒ぎが郡山(こおりやま)市・福島市でも起こり，また警察署への救援の警官が出発をはばまれるという事件も起こった。仙台(せんだい)高等検察庁は，この事件に計画性ありとして騒擾罪(そうじょうざい)を適用し，158名を検挙した。この年は公務員の首切りが強行されたこともあり，他の一連の事件とともに左翼攻撃に利用された。〔応和邦昭〕

たいらのあつもり【平敦盛】（1169～1184） 平安末期の武将。参議経盛(つねもり)の子。従(じゅ)五位下，無官大夫とよばれ，笛の名手であった。1184年(寿永３)一の谷の戦い*の際，熊谷直実*(くまがいなおざね)と一騎打ちのすえ17歳の生涯(しょうがい)を閉じたが，この敦盛の最期は，諸行無常を思わせるものとして，能・物語などの題材となっている。

たいらのかげきよ【平景清】（？～1196） 平安末期・鎌倉初期の武将。父は忠清(ただきよ)で伊勢(いせ)(三重県)の出といわれる。1183年(寿永２)北陸道の大遠征には維盛(これもり)・知盛(とももり)らに従い侍大将として戦う。のち一門とともに西走し，屋島の戦い*・壇ノ浦の戦い*に奮戦。平氏滅亡後，平知忠の挙兵に加わり，また摂津(兵庫県)で伯父(おじ)大日坊を殺し，悪七兵衛(あくしちびょうえ)とよばれた。1195年(建久６)源頼朝(よりとも)が東大寺の大仏供養のため上洛(じょうらく)したとき降伏し，八田知家に預けられた。その後，食を断って死んだと伝えられる。その勇戦ぶりは《平家物語*》にみえ，能・浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)などの題材にもなっている。〔加藤文子〕

たいらのきよもり【平清盛】（1118～1181） 平安末期の武将。忠盛(ただもり)の長子。白河(しらかわ)法皇の落胤(らくいん)とも伝えられる。1129年(大治４)従(じゅ)五位下・左兵衛佐(さひょうえのすけ)に任じ，石清水(いわしみず)臨時祭には舞人をつとめる。肥後守(ひごのかみ)・安芸守(あきのかみ)を歴任し，1153年(仁平３)父忠盛の死により平氏武士団の棟梁(とうりょう)となる。



平　清盛
六波羅蜜寺蔵



平　重盛
伝藤原隆信筆
神護寺蔵

保元(ほうげん)の乱*には源義朝(よしとも)とともに後白河天皇側に立ち勝利を得て，播磨守(はりまのかみ)・大宰大弐(だざいのだいに)となり，次いで平治の乱*で義朝を破り，政界に不動の地位を確立し，1167年(仁安２)太政(だじょう)大臣・従一位に任じられた。またく一門の公卿(くぎょう)16人，殿上人30余人，諸国の受領(ずりょう)・衛府・諸司，都合60余人〉と誇称される律令官職の独占，〈日本秋津嶋はわずかに66か国，平家知行国30余か国〉といわれる受領の独占，〈平家没官領500余所〉といわれる荘園(しょうえん)領主化など平氏の全盛時代を出現させた。さらに1168年には妻時子の妹滋子(しげこ)の生んだ高倉天皇*の践祚(せんそ)をみ，1171年(承安１)には娘徳子を入内(じゅだい)させ，中宮として宮廷内部にその勢力を扶植した。こうした平氏の急激な栄華は一門の貴族化を進める一方，地盤である地方武士の支持を失い，さらに中央政界でも清盛排撃の気運が生じた。1177年(治承１)後白河法皇を含む院・近臣らの鹿ケ谷(ししがたに)の陰謀が発覚，以後，後白河法皇との関係が悪化した。1179年清盛は院・近臣39名の解官と法皇の幽閉というクーデターを行ない，徳子所生の安徳天皇*を立て，天皇の外祖父として独裁的権力をふるった。しかし，1180年源頼政(よりまさ)の挙兵をはじめ，各地の源氏*が蜂起(ほうき)し，その討伐もままならぬうち翌年病死した。なお1168年出家し，浄海と称している。〔加藤文子〕

たいらのくにか【平国香】（？～935） 平安中期の武将。桓武(かんむ)天皇の曾孫(そうそん)。高望(たかもち)王の子。初名良望(よしもち)。常陸(ひたち)(茨城県)の在地豪族として，常陸大掾(だいじょう)，のち鎮守府将軍に任ぜられた。平将門(まさかど)に殺され，承平(じょうへい)・天慶(てんぎょう)の乱*(平将門の乱)の発端となった。

たいらのこれもり【平維盛】（1158～？） 平安末期の武将。重盛(しげもり)の子。美濃権守(みのごんのかみ)・中宮権亮(ちゅうぐうごんのすけ)を経て従(じゅ)三位右近衛権中将・蔵人頭(くろうどのとう)となり，小松中将とよばれた。1179年(治承３)父重盛の死去により23歳で平氏嫡流を継ぎ，1180年源頼朝(よりとも)の挙兵に際し追捕(ついぶ)大将軍として東征し，富士川に対陣したが水鳥の音に驚いて敗走(→富士川の戦い)。翌年源行家を破ったが，1183年(寿永２)北陸道で義仲(よしなか)に破れ一門とともに西走。その後紀伊(和歌山県)で入水(じゅすい)したといわれる。〔加藤文子〕

たいらのしげひら【平重衡】（1156～1185） 平安末期の武将。清盛の第５子。尾張守(おわりのかみ)・左近衛(さこのえ)権中将・蔵人頭(くろうどのとう)を経て，1181年(養和１)従(じゅ)三位となり，本三位中将とよばれた。諸国の反平氏の反乱で形勢が悪化した1180年(治承４)12月，衆徒の反乱を根絶するため東大寺・興福寺を焼いた。翌年墨俣(すのまた)で源行家を破り，平氏武力の中核的存在として活躍したが，1183年(寿永２)一門とともに西走したのち，一の谷の戦い*で捕えられ京に送られた。1185年平氏滅亡後，頼朝(よりとも)によばれて鎌倉に下ったが，死の決意を変えず，のち奈良に送られる途中木津川で斬首(ざんしゅ)された。〔加藤文子〕

たいらのしげもり【平重盛】（1138～1179） 平安末期の武将。清盛の長子。小松内府とよばれる。保元(ほうげん)の乱*の功により左衛門佐(さえもんのすけ)・遠江守(とおとうみのかみ)，平治の乱*後は参議・左近衛(さこのえ)大将から内大臣となる。驕慢(きょうまん)・横暴な人物の多い平氏一門の中で，ひとり温厚で武勇に富み，教養豊かな人物といわれる。1177年(治承１)鹿ケ谷(ししがたに)事件*に関連して，父清盛が後白河(ごしらかわ)法皇を幽閉しようとした際，これをいさめた話はよく重盛の人物を物語っている。1179年出家して証空と称した。〔加藤文子〕

たいらのたかもち【平高望】 生没年不詳。桓武(かんむ)天皇の曾孫(そうそん)。葛原(くずはら)親王の皇子高見王の長男。889年(寛平１)平朝臣の姓を賜わり，のち従五位下，上総介(かずさのすけ)に任じられ，退官後も現地に土着し，現地で姻戚(いんせき)関係を結び，関東に広大な私営田領主として勢力を築き上げた。平将門(まさかど)・平忠常(ただつね)をはじめ，伊勢(いせ)平氏も彼の系統から出ている。

たいらのただつね【平忠常】（967～1031） 平安中期の武将。桓武(かんむ)平氏の祖高望(たかもち)王の曾孫(そうそん)。父祖の鎮守府将軍良文(よしぶみ)以来，東国を根拠地として威をふるい，上総介・武蔵(むさし)押領使となった。退官後，1028年(長元１)安房(あわ)(千葉県)国守・上総(千葉県)国守を殺害し安房を侵した。1030年源頼信(よりのぶ)の追討を受けて降服し，上洛(じょうらく)の途中美濃(みの)

(岐阜県)で病死した。千葉・上総両氏は彼の子孫である。〔加藤文子〕

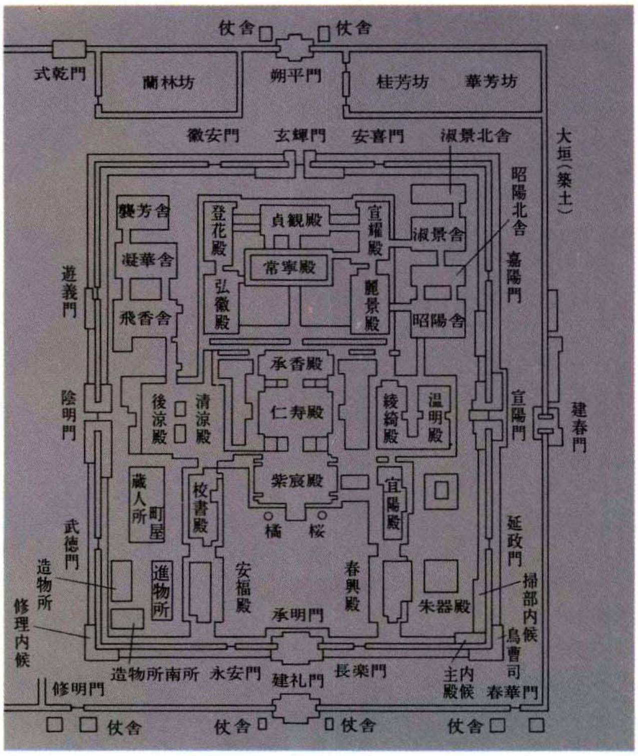
たいらのただのり【平忠度】(1144～1184) 平安末期の武将・歌人。忠盛の子。清盛の末弟にあたる。淡路守(あわじのかみ)・伯耆守(ほうきのかみ)を経て薩摩守(さつまのかみ)に任じられた。藤原俊成*を師として和歌に励む一方，1180年(治承４)富士川の戦い*をはじめ墨俣(すのまた)川の戦い，北陸道大遠征の大将軍として武勇にひいで，文武兼備の武将として名高い。1184年(寿永３)一の谷の戦い*で戦死。《千載和歌集》《新勅撰集(しんちょくせんしゅう)》などにその歌がみえる。〔加藤文子〕

たいらのただもり【平忠盛】(1096～1153) 平安末期の武将。正盛(まさもり)の子。父正盛に次いで白河(しらかわ)法皇・鳥羽(とば)法皇の寵(ちょう)を得，播磨(はりま)(兵庫県)・伊勢(いせ)(三重県)・備前(びぜん)(岡山県)の各国守を歴任。1129年(大治４)山陽・南海両道の海賊を追捕するなど武名をあげた。1132年(長承１)鳥羽法皇の命により得長寿院の創建に際して土木をつかさどり，その功で但馬守(たじまのかみ)となり，次いで刑部卿(ぎょうぶきょう)に任じられ昇殿を許された。1135年(保延１)再び海賊追討使となり首領を捕え武名をあげた。日宋(にっそう)貿易にも手を染めて財を得，〈数国の吏を経て富巨万を累(かさ)ぬ〉と評され，これが平氏発展の経済的基礎となった。〔加藤文子〕

たいらのときこ【平時子】(？～1185) 父は兵部権大輔(ひょうぶのごんのたゆう)平時信(ときのぶ)。清盛の妻で，重盛・宗盛(むねもり)・知盛(とももり)・重衡(しげひら)・徳子の生母。1181年(養和１)清盛の没後剃髪(ていはつ)し，二位尼と称せられた。1185年(文治１)壇ノ浦の戦い*に敗れたとき，安徳天皇*を抱いて海中に沈んだ。

たいらのときただ【平時忠】(1127～1186) 平安末期の公卿(くぎょう)。高棟(たかむね)流の平氏。父は兵部権大輔(ひょうぶのごんのたゆう)時信(ときのぶ)。清盛の室時子と後白河(ごしらかわ)院の妃滋子(しげこ)はともに妹にあたる。検非違使(けびいし)別当・左大弁・権大納言正二位と官位累進し，知力にすぐれ奇才に富み，平大納言と称せられて，平氏の中で重要な位置を占めていた。〈平氏にあらざる者は人にあらず〉という放言で有名。1185年(文治１)壇ノ浦の戦い*で源義経(よしつね)に捕えられ帰洛(きらく)し，その後，身の保全を図って娘を義経に進めたが，頼朝(よりとも)の命で能登(のと)(石川県)に流され，同地で没した。〔加藤文子〕

たいらのとくこ【平徳子】(1155～1213) 高倉天皇の皇后。清盛の娘。後白河(ごしらかわ)法皇の養女となり入内(じゅだい)して高倉天皇の女御，1172年(承安２)中宮となった。1178年(治承２)安徳天皇*を生み，建礼門院と称した。1182年(寿永１)平氏一門が都落ちする際，安徳天皇とともに西国にのがれた。壇ノ浦の戦い*で平氏が敗れるに及んで，天皇とともに入水(じゅすい)したが，徳子のみが救出された。その後帰洛(きらく)し平氏一門の菩提(ぼだい)を弔うため大原の寂光院*にあって余生を終えた。〔加藤文子〕



内　裏

たいらのとももり【平知盛】(1151～1185) 平安末期の武将。清盛の第４子。母は時子。従(じゅ)三位・権中納言。公家(くげ)化した平氏一門の中にあって，剛勇尚武(しょうぶ)の武将として，1179年(治承３)延暦(えんりゃく)寺堂衆事件，1180年以仁王(もちひとおう)挙兵の際活躍。また清盛没後は兄宗盛(むねもり)を助け，京都防衛の戦いから平氏滅亡に至るまでの間，軍事的統率者となった。壇ノ浦の戦い*では，勇戦のすえ，安徳天皇*をはじめ一門の女性などに入水(じゅすい)を勧め，それぞれの最期を見届けて自分も海に身を投じた。〔加藤文子〕

たいらのまさかど【平将門】(？～940) 平安時代，承平・天慶(てんぎょう)の乱*をひき起こした武将。桓武(かんむ)平氏の家がらで，鎮守府将軍良将(よしまさ)の子。一族は関東で栄えたが，将門は下総(しもうさ)(千葉県)に住み，935年(承平５)常陸(ひたち)(茨城県)の豪族源護(まもる)と争い，護を助ける叔父(おじ)の平国香*を殺した。939年(天慶２)常陸の国府を焼き打ちし，さらに下野(しもつけ)(栃木県)・上野(こうずけ)(群馬県)の国府を攻略，関東の大半をおさえて，みずから平新皇と称した。朝廷は藤原忠文(ただぶみ)を征東大将軍に任じて討伐に向かわせたが，それよりさきに国香の子貞盛(さだもり)が下野押領使藤原秀郷*(ひでさと)の支援を得て，940年将門の本拠地を奇襲し，これを倒した。後世律令(りつりょう)体制に反抗した英雄として民間の信仰を集め，江戸の神田明神などに祭られている。また多くの将門伝説や将門塚(づか)も残存している。〔高崎徳次〕

たいらのまさかどのらん【平将門の乱】⇨承平・天慶(てんぎょう)の乱

たいらのまさこ【平政子】⇨北条政子(ほうじょうまさこ)

たいらのむねもり【平宗盛】(1147～1185) 平安末期の武将。清盛の第３子。遠江守(とおとうみのかみ)・淡路守を歴任し，1182年(寿永１)内大臣。1181年諸国源氏の蜂起(ほうき)のさなかに清盛が病死すると，家督を継ぎ一門を率いて平氏政権の回復を図ったが成功せず，1182年安徳天皇*を奉じて一門とともに西走ののち，1184年一の谷の戦い*で源氏に敗れ，さらに壇ノ浦の戦い*にも敗れて捕えられ，鎌倉に送られた。のち京都への送還の途中，近江(おうみ)(滋賀県)篠原(しのはら)で切られた。〔加藤文子〕

たいらんちょう【太蘭鳥】鳥類・タイランチョウ科の総称。南北アメリカ大陸および西インド諸島に広く分布し，約360種からなる大きな科である。一般に口もとに剛毛があり，くちばしは基部が幅広く扁平(へんぺい)で，先はかぎ状。頭部はいくらか冠羽状のものが多い。北方で繁殖するものは渡りをする。小形のものは，ヒタキ類のように枝から飛び立って空中でこん虫を捕えて食べるものがあり，中形のものではモズ類のように小鳥・ヘビ・カエルなどを食べるものもある。習性・形態・生息環境の変異に富むことは，旧北区産のヒタキ科の鳥に比較しうる。〔安部直哉〕

だいり【内裏】皇居の古称。元来は大内裏*と同じ意味であったが，後世宮城と皇居を区分するため，前者を大内裏，後者を内裏とよぶようになった。平城京*では八省

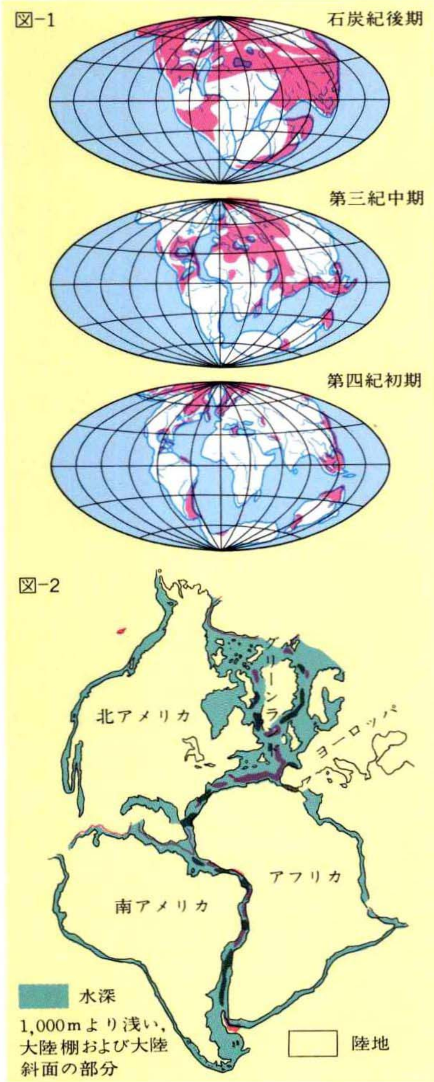
院の北にあって大極殿が正殿，平安京*では八省院の東北にあって紫宸殿(ししんでん)が正殿であった。794年(延暦13)桓武(かんむ)天皇が平安京を営んで以来，内裏は10数度焼失・荒廃したが，1227年(安貞1)焼失後は里大裏*があてられ，1854年(安政1)焼失後は西南角をとり広げて正方形として復興した。これが現在の京都御所*である。

だいり　【代理】 ある人(代理人)が行為の効果を直接他人(本人)に生じさせることを目的として，他人の名において第三者(相手方)へ意思表示*をしたり，またはこれを受けることをいう。意思表示の効果は，これをなした表意者自身について生ずるのが原則である。代理はこの原則の例外をなすものであるが，経済生活が発展し，個人の平等な権利能力*が認められている今日の社会において，企業の活動範囲の拡大と無能力者*の保護のため，代理制度は重要な社会的意義を有している。

代理は，本人のためにしようとする代理人の効果意思の効力を法律が承認するものであるから，その効力は意思表示についてのみ生ずる。すなわち，意思表示をすること(能動代理)，または意思表示を受けること(受動代理)に限られ，不法行為*や事実行為(行為者の精神的作用を必要とせずに法律効果*を発生させる行為で，たとえば，加工・弁済，遺失物の拾得など)については代理権は成立しない。意思表示においても，本人自身の意思表示で決定すべき行為(婚姻・認知・遺言など)については，代理は認められない。これらを代理に親しまない行為という。

代理においては，代理人と本人と相手方の3者それぞれの組み合わせから3面の関係を生ずることになるが，代理人と本人との関係では代理権の，代理人と相手方との関係では代理行為の，本人と相手方との関係では代理行為の効果の帰属についての問題が生じる。また，代理に類似した制度として，間接代理・使者・代表などがあるが，代理は本人のためにすることを示して取引する点において，他人の計算において，自己の名で取引する問屋や仲買い人などの間接代理とは区別され，代理人みずからが意思表示をそのまま伝達する使者とは区別される。本人とは，独立の人格者をいい，本人に代わって意思表示をする点で，法人*と有機的結合関係にあり，なした行為がそのまま法人の行為とみなされている代表とも区別される。代理の種類としては任意代理と法定代理(本人の意思に基づくか否かによる区別)，能動代理と受動代理(代理人が意思表示をするか，またはこれを受け取るかによる区別)，一般代理と特別代理(代理権の範囲による区別)などがある。そのほか，共同代理・復代理・双方代理・無権代理・表見代理などの特殊な形態もある。

代理権とは，本人のために意思表示をし，



大陸移動説　図-1　ウェゲナー説　図-2　コンピューターによって類推される大西洋のまわりの大陸の形の合い方。1,000mの等深線の形を大陸の形として合わせると，うまく合う

またはこれを受けることによって，直接本人について法律効果を生じさせることのできる法律上の地位または資格のことをいい，純粋の意味の権利ではない。代理権の発生原因は法定代理と任意代理では異なる。法定代理権は，その種類によって異なるが，法律上当然に生ずる場合，本人以外の私人の指定によって生ずる場合，家庭裁判所の選任によって生ずる場合がある。任意代理権は本人の代理人に対する授権行為によって生ずる。代理権の範囲は，法定代理権については各種の法定代理人に関する法律の規定によって定まり，任意代理権については授権行為の内容によって定まる。代理権の範囲が不明確な場合には，財産の現状を維持する保存行為および収益を図る利用・改良行為のみに限られる(民法103条)。

代理権の制限として自己契約および双方代理がある。前者は，当事者の一方が相手方の代理人として自己との間に契約を締結することであり，後者は，同一人が当事者双方の代理人として契約*を締結することである。いずれも代理人としての公正さを期待することができず，本人の利益を不当に侵害するおそれがあるため，原則として禁止されている(民法108条)。

代理人による代理行為がなりたつためには，その意思表示は本人のためにすることを示してなさなければならない(民法99条)。これを顕名主義という。本人のためにすることを示さないでなされた場合には，その意思表示は自己のためになされたものとみなされる(民法100条)。ただし，商行為については，本人のためにすることを示さないでも，その効果は直接本人に対して効力を生ずることになっている(商法504条)。代理行為の効果は直接本人に帰属するのであり，いったん代理人に帰属し，それからさらに本人に移転するのではない。したがって，代理人が代理行為によって自己の財産上の不利益を生ずることはないため，無能力者でも代理人になることができる(民法102条)。代理人は自己の責任において復代理人を選任することができる(民法104条)。なお，代理権の消滅原因となるのは本人または代理人の死亡，代理人の禁治産宣告(→禁治産者)または破産*であり，本人との契約による代理権については契約の終了である(民法111条)。➔無権代理　➔表見代理　➔復代理　➔法定代理人　〔黒木三郎〕

だいり　【大理】 中国，雲南省西部の都市。ビルマ・チベットに通じる内陸交通の中継地。南詔*の都であったが，937年シャム族の段思平が大理国を建国，一時高昇泰に国を奪われたが(1094～1096)，段氏が再興して後理国となり，1253年に元のフビライに滅ぼされた。

たいりく　【大陸】 海に囲まれた陸地のうち広大なものをいい，大陸と島との間に本質的な差はないが，面積がオーストラリア(763万km²)以上のものを大陸，グリーンランド(218万km²)以下のものを島とよんでいる。ふつうアジア・ヨーロッパ・アフリカ・北アメリカ・南アメリカ・オーストラリア・南極の七つを大陸という。また，アジアとヨーロッパは一続きになっているので，この二つを合わせてユーラシア大陸ともいう。一方，アジア・アフリカ・ヨーロッパの3大陸は，その歴史的な呼称から旧大陸といい，南・北アメリカとオーストラリアは合わせて新大陸とよばれる。オーストラリアだけを新々大陸ということもある。大陸にはこのほか，ゴンドワナ大陸*のように，古生代に南半球にあったと推定されるものや，アトランチス大陸*のような伝説的な大陸もある。　〔浅井得一〕

たいりくいどうせつ　【大陸移動説】 各大陸は，非常にゆっくりとではあるが，地球の表面を移動し続けているという説。最初は，1915年にウェゲナー*により提唱され

たが，当時の知識では，むしろそれを否定するほうが大勢を占めた。しかし，最近になって，古地磁気学や海洋地質学の進歩により明らかにされた事実と，マントル対流の学説の発展とに裏づけされて，姿を変えた形で注目されるようになった。

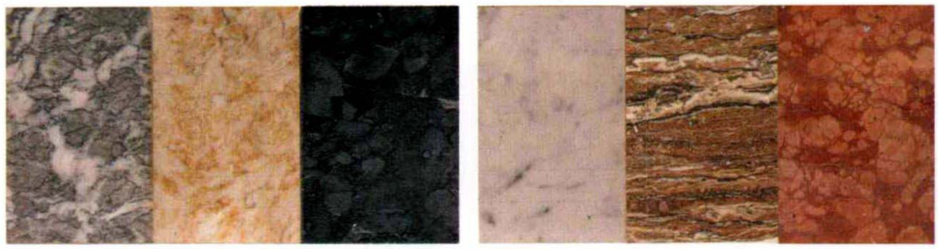
ウェゲナーが大陸移動の根拠としてあげたおもな点は次の三つである。①大西洋をはさんで向き合っている南北アメリカ大陸とヨーロッパ・アフリカ大陸との海岸線は，両方を引き寄せるとぴったり一致する。②さらに，両者を接合した場合，接続部での両大陸の地質構造や古生物分布は連続的になる。③古生代末には，いわゆるゴンドワナ大陸に広範囲に大陸氷河が分布していたことがわかっているが，その中心は現在のアフリカ東海岸のダーバン付近にあり，古生代末にはここが南極の位置にあったと考えられる。

最近の研究の結果によれば，各大陸はそれぞれ異なる移動の経過を示しており，オーストラリア大陸などは回転運動の要素が大きいのではないかと考えられている。そして，このような移動は，大陸地殻(ちかく)の下にあるマントルに，ゆっくりとした熱対流があるため，それに引きずられて起こすものと説明されている。〔片山信夫〕

たいりくかいぎ【大陸会議】アメリカ独立革命の際，13植民地(独立後は州)が共同でイギリス本国に抵抗するために組織した機関。植民地間の外交会議的性格をおび，その代表は植民地議会の訓令に従って行動した。ボストン茶会事件後マサチューセッツに課された強制諸法への対策会議をボストン市民が13植民地に呼びかけ，ジョージアを除く12植民地の代表56人が1774年9～10月フィラデルフィアで第1回会議を開き，植民地の自由と自治の回復を要求，〈権利および不満の宣言〉を発表して，本国との通商断絶を決議した。1775年レキシントン・コンコードで戦いが始まるや，5月第2回会議が開催され，6月ジョージ-ワシントンをアメリカ大陸連合軍総司令官に任命，7月〈武器を手にとる原因と必要についての宣言〉を採択する一方，本国との和解を求めたが，国王が8月〈反乱宣言〉を発表するに及んで，独立を決意，1776年7月4日〈アメリカ独立宣言〉(→独立宣言)を発表し，以後独立達成に努めた。1781年1月〈連合規約〉の発効とともに連合会議に発展的解消を遂げている。〔折井一彦〕

たいりくかんだんどうミサイル【大陸間弾道ミサイル】⇒ICBM

たいりくごうりろん【大陸合理論】17世紀にフランスを中心に発達した合理論哲学。経験論哲学がイギリスを中心に発達したので〈大陸〉の名を冠する。代表的哲学者にデカルト・ガッサンディ・マールブランシュ・ゲーリンクス・スピノザ・ライプニッツらがあげられる。主題は自然学の徹底



大理石 国産 左から淡雪(徳島県)・国華(山口県)・黒霞(山口県)，外国産(左からイタリア・イラン・イタリア産)

的数学化という〈普遍数学〉の構想と二元論の問題にある。前者は，彼らのすべてに多少とも一貫して流れる主題である。後者は，マールブランシュ・ゲーリンクスがほぼ忠実に受け継ぎ，スピノザはそれを汎神論的一元論に変え，ライプニッツはスピノザを継承しながらもその決定論的性格を合目的論的性格に和らげたといえる。→合理論〔石井忠厚〕

たいりくしゃめん【大陸斜面】陸棚(りくだな)斜面ともいう。大陸棚と深海底の間の部分で，大陸棚外縁から3～6°の比較的急な勾配(こうばい)で深海底に降りる斜面。幅20～100m，水深200～1,500m，所によっては3,200mの範囲にわたる。基盤からなることも，陸源の厚い浅海堆積物(たいせきぶつ)からなることもあり，海段や海底谷があって，かなり複雑な地形を示す。大陸とは一続きの内部構造をもち，地殻(ちかく)構造上は，大陸斜面が大陸と海洋との境に相当する。〔堀福太郎〕

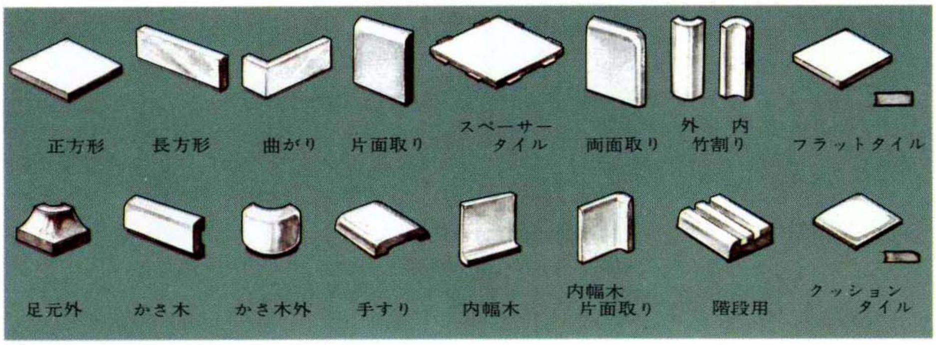
たいりくせいきこう【大陸性気候】海岸から遠く離れた大陸内部でみられる気候型。水に比べて熱容量および熱拡散係数が小さいため，熱しやすくさめやすい陸地表面の影響を強く受けて，気温の日変化・年変化が大きい。夏・冬の気温差も大きく，年間の最暖月および最寒月は，北半球では一般に7月および1月に現われるが，内陸では夏至(げし)と冬至のある6月と1月となる。また，海洋から隔たっているので水蒸気の供給が十分でないため晴天の日が多く，乾燥しているのも特徴で，この現象は特に冬季に著しい。一方，気圧は，海洋とは反対に冬季は高気圧におおわれ，夏季にはこの反対となる。このため，大陸と海洋との間で，夏と冬に風向きが周期的に変わる季節風(モンスーン)が吹く。同一緯度の場合には，大陸東岸が西岸よりも気温の年較差が大きくて大陸性気候の特徴が顕著である。これを大陸東岸気候または東岸大陸性気候とよんでいる。〔桑原正見〕

たいりくだな【大陸棚】海岸から深さ200mぐらいまでの海底は，傾斜がきわめてゆるやかで，平均傾斜角は7′程度にしかならない。大陸の周縁に広がるこのような浅海底を大陸棚という。大陸棚の範囲は海岸から数～300kmに及び，その全面積は地球表面積の約7.6%にあたる。日本では陸地面積の70%にも相当する。音響測深や地震探査によると，大陸棚の一部は海食を受けてできた台地であるが，多くはこのような台地の先端部に沈殿物が堆積(たいせき)したものや，海面下のデルタ地帯に浅海性堆積物が堆積したものなど，複雑な構造をもっている。浅海なので海水は鉛直方向によく混合され，また植物の光合成も十分行なわれる。しかも陸地に近いので，陸地から栄養塩類が豊富に供給される。その結果，大陸棚は好漁場となる。また地殻(ちかく)構造は陸地と同じなので，石油・石炭・天然ガスなどの燃料資源や，さまざまの有用鉱物資源も埋蔵され，開発が進められている。このように大陸棚は資源的にも重要な地域であるため，各国ともその区域を限るのに重大な関心をもっている。最初，1887年に，海岸から200mの等深線までの部分と規定されたが，現在の国際法では領海外から200mの等深線までの海床および海底と定義されている。このように領海の定義とも関連するので，大陸棚の範囲をどこに限るかは，国により一定していない。日本もこの国際法をまだ批准していない。〔堀福太郎〕

たいりくふうされい【大陸封鎖令】ナポレオン1世が行なった対イギリス経済封鎖令。1806年11月にベルリン勅令が，翌年12月にはそれを補うミラノ勅令が出された。内容はヨーロッパ大陸諸国に対しイギリスとの貿易を禁止し，イギリス製品の没収，イギリス商港に出入りする船舶の没収などを命じたもので，その意図はフランスの産業を育成するためイギリスを経済的に屈服させることにあった。しかし，これは大陸諸国にとっても大きな打撃であり，それを打開するために密貿易が絶えなかった。〔喜多迅鷹〕

たいりくほう【大陸法】ヨーロッパ大陸の法系統。イギリスおよびイギリスから派生した国々の法である英米法に対する。英米法が制定法を根幹としているのに対し，大陸法は成文法をその原則とし，おもにローマ法を基礎として成立した。ドイツ法系・フランス法系・ソ連法系に分類され，ドイツ法の影響の強い日本の法はおもに大陸法に属する。なお，1950年(昭和25)の改正商法などは部分的には英米法を採用している。

だいりせき【大理石】石灰岩が変成作用を受けて，その結晶粒が大きく再結晶し



タ イ ル　タイルの種類

たもの。しかし，一般には装飾用石材に用いられる石灰岩類を総称し，ときには石灰岩以外の装飾用石材をも大理石に含めることがある。大理石の王者はイタリアのカララマーブルで，結晶粒が比較的細かく，しかもそれらが互いに歯車状にかみ合っているために，きめの細かいはだあいになっている。大理石の語源になっている中国雲南省大理産のものは，結晶粒がややあらく美しい斑点(はんてん)をもっている。

大理石の純粋なものは純白色であるが，淡紅色や黒色のものもあり，またみがき上げると，サンゴ・ウミユリ・ユウコウチュウ・貝殻(かいがら)などの化石*が美しい地紋のようになって現われるものもある。オニックスとよばれる種類には，美しいしま模様が見られる。日本の大理石工業の中心地は岐阜県の赤坂町である。〔片山信夫〕

だいりせきようひはん　【大理石様皮斑】 皮膚に大理石の紋理に似た紅斑ができ，やがてこれに色素が沈着してかっ色をおびる症状。火だこ・こたつだこもこれに属し，前腕・下腿(かたい)・下腹部に多く発生する。温熱・寒冷・血管の病気などが原因となる。こたつ・火ばち・あんかなどの高温が持続的に作用する部位にできるものが多く，これは温熱性紅斑ともよばれ，原因を遠ざけるだけでなおる。思いあたる理由もなく生じた場合は皮膚科医の診察を受ける必要がある。〔田嶋公子〕

たいりつけいしつ　【対立形質】 エンドウの種子のなめらかで丸いものと，しわがあって角張っているものとの間の雑種第1代では，種子はすべてなめらかで丸いものになる。このような関係は子葉の色が黄色いものと緑色のもの，草たけが高いものと低いものなどの間にもみられ，これらの対をなす形質を対立形質という。対立形質はある染色体の一定の座位にある遺伝子の突然変異によって生じたもので，その遺伝子を対立遺伝子という。〔北川　修〕

たいりゅう　【対流】 熱伝達の形式。流体の一部を加熱(または冷却)すると，その部分の流体は膨張(または収縮)し，周囲に比べて密度が小(または大)となって，上昇(または下降)する。そのあとへ周囲の低温(または高温)の流体が流入し，この過程がくり返される。このように，物質の移動に伴って熱の移動が起こることを対流という。ふろのかまをふろおけの下につけ，冷蔵庫で冷却装置を上につけるのはこのためである。また，雨・風などの気象の変化は，太陽熱に起因する自然の対流によって生ずる。〔中野藤生〕

たいりゅうけん　【対流圏】 地表から約10kmまでの大気の層で，雲・雨・雪など天気現象の起こる部分のこと。対流圏の高さは低緯度で高く極で低い。対流圏の大きな特徴は，高度が100m上がるごとに気温が約0.6℃下がることである。成層圏にはいるとこのような気温の下降がなくなる。天気現象の主要部分は対流圏内の問題として説明できるが，最近では高層観測の発達に伴って，成層圏の影響もしだいに判明するようになってきた。〔曲田光夫〕

たいりょう　【大梁】 ⇨開封

タイル　[tile] 屋根・床・壁その他表面を被覆保護する小形の板の総称。しかし，一般にタイルといえば，壁・床用の陶磁器質タイルをさす。製法は，原料としてケイ石・ケイ砂・陶石・チョウ石などの粉末に木節粘土*を混ぜて水練りし，成形して焼成(素焼き)する。そのあと施釉(せゆう)して本焼きするが，施釉しないものもある。タイルを分類すると，最も堅硬で吸水率ほとんど0％で外装用の磁器質タイル，吸水率12～18％ぐらいで内装用の陶器質タイル，磁器質タイルと陶器質タイルの中間的性質をもち床用の炻器(せっき)質などに分けられる。また，他に施釉タイルと無釉タイルとにも分けられる。前者は陶器質タイルに多く，これはさらに光沢によりマット(つや消し)・セミマット(ややつや消し)・ブライト(つやあり)に分けられる。後者は磁器質タイルに多い。形状は正方形で，数枚のタイルを30cm角に裏打ち材料に張ったユニットタイルがあり，施工に便利である。また，外装用タイルでは剝落(はくらく)しにくいように突起させたようなものもある。〔難波蓮太郎〕

たいるい　【苔類】 コケ植物の一綱。蘚(せん)類*よりも原始的で，茎葉体のほかに葉状体のものがある。茎葉体は直立せず平伏し，背腹性を有する。茎には組織分化がなく，葉状体には中央脈のあることもあるが，葉にはない。胞子囊(ほうしのう)内に柱軸はなく(ツノゴケにはある)，弾糸がある(ダンゴゴケにはない)。次のように分類される。①ウロコゴケ類：気孔はなく，胞子囊は4裂。②ゼニゴケ類：気孔があり，仮根に細胞膜の平滑なものと内方に突起のあるものとの2種がある。③ダンゴゴケ類：気孔はなく，胞子囊は不規則に裂開する。④ツノゴケ類：気孔があり，平滑仮根のみで，柱軸がある。➔コケ類

たいれいふく　【大礼服】 もと宮中の重要な儀式・行事に際して着用された最高の男子の礼装の一種。大礼服には文官・宮内官・有爵者・非役有位者などの種別があった。1872年(明治5)にそれまで用いられていた衣冠*・束帯*・狩衣*(かりぎぬ)などの礼服を洋式の大礼服に改めたのがはじめ。文官大礼服の制式は位階・官等により差があったが，飾り毛つきの船形の大礼帽，金糸唐草(からくさ)模様のししゅうを施した燕尾服(えんびふく)型上衣，金線1条をつけたズボン，金銀色で装飾した剣を帯用した。また，女子の大礼服に相当するものとして袿袴*(けいこ)・マントードークール(洋式)があったが，第2次世界大戦後大礼服の制度は廃止された。〔小林亥助〕

ダイレクト-メール　[direct mail] 略称ＤＭ。見込み客に直接印刷物を配布する直接広告の一種。郵送による方法という点では通信販売広告と同じであるが，これが販売の最終的実現を意図するのに対し，ＤＭは他の広告や販売の補助的役割しかになっていない点で異なっている。

だいれん　【大連】 ⇨旅大

たいろう　【大老】 江戸幕府の最高の役職。豊臣秀吉(とよとみひでよし)のときの五奉行*(ぶぎょう)の上に五大老*が置かれたが，江戸時代では常置の職ではなく，必要に応じて置かれ，老中*の上にあって将軍を補佐し，政務を総攬(そうらん)した。1638年(寛永15)3代将軍家光(いえみつ)のとき，土井利勝*(としかつ)がこれにあたる職に補せられたのがはじめで，寛文年間(1661～1672)に酒井忠清*(ただきよ)が任ぜられて以来，大老とよぶようになった。幕末までに10人が任ぜられ，徳川氏に縁故の深い土井・酒井・井伊(いい)・堀田(ほった)氏らの譜代大名*から選ばれた。なお，5代将軍綱吉(つなよし)のときの側用人(そばようにん)柳沢吉保*(よしやす)は大老格というべきものである。〔岡山泰四〕

だいろんりがく　【大論理学】 ドイツの哲学者ヘーゲル*の第2の主著。1812～1816年刊。第2版への序文を書いた直後に急逝(きゅうせい)した。《エンチクロペディー*》の論理学を〈小論理学〉とよぶのに対し，本書を〈大論理学〉とよぶ。第1版では第1部精神現象学，第2部論理学，二つの実在哲学(自然哲学と精神哲学)であって，本書は《精神現象学*》の最初の続巻である。客観的論理学は形而上学(けいじじょうがく)に相当する。ヘー

ゲルの論理学は内容の自己反省が形式を産み出すという観点にたち，存在と概念を二つの契機とし，〈自然および有限な精神を創造する以前の，永遠な本質の中にある神の叙述である〉。《精神現象学》と《論理学》はヘーゲル哲学の礎石をなす。前者は後者を〈影の国〉として前提して歴史的世界を述べ，後者は前者の結果(絶対知＝意識のあらゆる形態の真理)を前提とする純粋知の展開の全領域である。両者が互いに前提し合うという構造は絶対精神の円環運動による。本書は述語論理の立場にたち，弁証法を体系的に展開した西欧の弁証法の典型。弁証法的唯物論はヘーゲルの絶対弁証法の批判から生まれた。〔中川　誠〕

たいわん【台湾】 タイワン　中国大陸南東方，台湾海峡*を隔てて福建省と相対する島。澎湖(ほうこ)諸島その他の属島を含めて，面積35,961km^2，人口1,680万(1976年推)。現在は中華民国国民政府の治下にあって，台北を臨時首都とする。面積はわが国の九州に相当し，島のほぼ中央を北回帰線が横断する。台湾の存在は古くから漢民族に知られていて大円・大宛(たいえん)などとしるされていたが，清(しん)代から台湾の名称でよばれるようになった。ヨーロッパ人はフォモサとよぶが，これは近世初頭にポルトガル人の航海者たちによってよばれていた呼称によるもので〈美しい島〉を意味する。

〔自然・住民〕台湾山脈*が南北に縦断して高峻(こうしゅん)な玉山(旧称新高(にいたか)山，3,950m)・雪山(3,884m)などがそびえ，東西の交通をはばんでいる。山脈は東側に急で，東方には卑南渓(ひなんけい)・茶蓮渓の流れる地溝帯(ちこうたい)を隔てて台東山脈が並行している。西側は比較的緩傾斜をなし，下流に沖積(ちゅうせき)平野をもつ大甲渓(だいこうけい)・濁水渓・下淡水渓などの河川が西流している。北西部は第三紀以後に形成された台地が発達し，火山は北部の大屯(だいとん)火山群のほか属島の蘭嶼(らんしょ)なども火山島で，澎湖諸島もまた玄武岩質の溶岩流よりなっている。気候は亜熱帯気候であるが，北回帰線上の他の地域と比較して，気温はいくぶん低い。これは，冬季に北東季節風の影響によって大陸の冷たい空気が流入するためで，北部では寒い雨の日が多い。一方，夏季は雨量が多く，しばしば台風に襲われる。植生は，台湾山脈の高度の変化に応じて亜熱帯植物(800m以下)，暖帯林(800～2,000m)，針葉樹(2,000m以上)の分化が明瞭(めいりょう)である。

住民の約80％は明(みん)・清代に中国大陸の福建・広東(カントン)両省などから移住した人々の子孫(本省人)で，その他の約20％は第2次世界大戦後の国民政府の移動とともに来島した外省人である。ほかに約20万の台湾原住民である高砂(たかさご)族(高山族)がいる。高砂族はプロトマレー族に属し，アタイヤル・サイセット・プヌン・ツオウ・ルカイ・




台　湾　(左)台湾の水田農村風景。二期作が行なわれ，手前の田では刈り入れがすんでいるが，その向こうの田はまだ青い　(右)台湾中部，嘉義市にある北回帰線の標塔(標誌)　手前に方位板と日時計があり，塔より右側(南)が熱帯圏となる

パイワン・パパヤナン・ヤミなどの各グループに分かれて氏族社会を形成している。漢民族が移住しはじめたころの高砂族の生活は半農半狩猟で，アワ・キビ・ヤムイモなどをおもに女性が栽培していた。

〔産業・経済〕近年，工業化が進められてはいるが基幹経済は依然として農業であり，主産物は米で，二期作も行なわれ，品種改良・灌漑(かんがい)などの技術面でも進んでいて，単位面積あたりの収量はかなり高い。日本統治時代に発展したサトウキビ栽培は，中部以南の平野部に盛んで，砂糖は茶・パイナップル・バナナとともに重要な輸出品となっている。また，樟脳(しょうのう)の生産は世界総生産額の大半を占めている。鉱産資源は，北部で石炭・石油の埋蔵があり，金の産出もある。エネルギー資源では，水力発電が豊富な水量に恵まれて積極的に開発が進められている。工業は，日本統治時代には製糖・アルミニウム・セメントだけであったが，近年は電気機器・綿織物・自転車など，また重化学工業も拡大されている。経済自立のため，農業の近代化と工業化をめざす4か年計画(第1次1953年開始)が3回にわたって推進された結果，かなりの成果を収めた。近年は，日本とアメリカ合衆国の資本進出がめだっている。交通は，北東の基隆(キールン)から南西の高雄間を縦貫する鉄道が走っており，主要な交通機関となっている。

〔歴史〕古くは原住民である高砂族の島であったが，17世紀初頭に漢民族の移住が始まり，南部を中心に開拓を行なった。やや遅れてヨーロッパ人が来島し，東アジア貿易の拠点となり，オランダ人は現在の台南の地にプロビンキア城，現在の安平の地にゼーランディア城を築いて，北部を拠点とするスペイン人と争ったが，結局オランダ人の支配が確立した。1661年鄭成功*(ていせいこう)は明朝の回復を企て，2万5,000の兵を率いて台湾を攻略，オランダ勢力を降して，清朝に対抗した。しかし，彼の死後，内紛が起こって清朝に属し，1683年清朝の版図にはいって福建省に属した。以後，福建・広東両省の住民で移住して来る者が多く，開拓は全島におよび原住民はしだいに山地へと追いやられた。東部と山地を除いて，19世紀末にはほぼ全島の開拓が終わったが，その途中では原住民と漢民族の衝突が絶えず，原住民は抗しきれずに同化するか山中に退いた。1895年(明治28)，日清戦争の賠償として日本へ割譲され，日本は台湾総督府をおいて統括した。日本は農業を中心とした経済開発を推進して，米・砂糖・茶・樟脳・バナナなどの食糧，農産加工製品の生産を拡大した。しかし一方では，漢民族の伝統や文化を無視した教育と日本への同化政策が住民の不満を買った。1945年，第2次世界大戦の終結によって中国の一省として復帰し，1949年12月，国共内戦に敗れた国民政府は本土からのがれ，台北を臨時首都とした。→中華民国　〔船越昭生〕

たいわんかいきょう【台湾海峡】 タイワン海峡　中国の福建省沿岸と台湾との間にあり，北の東シナ海と南の南シナ海とを結ぶ海峡。長さ約400km，幅約200km。深度は50～100m。潮汐(ちょうせき)の干満差が大きく，大陸沿岸での差は4mを越える。海峡のほぼ中央の北回帰線上に澎湖(ほうこ)諸島があり，台湾との間は澎湖水道とよぶ。海峡東部を黒潮の分流が北上している。

たいわんぎんこう【台湾銀行】 1899年(明治32)日本が資源開発・植民地金融支配のため，資本金500万円を投じて台湾に設立した銀行。第1次世界大戦を機とする日本の対外進出強化に伴い事業を拡張し，対中国借款，南方産業開発への投資，これに関連する本国の企業への金融を行なった。1927年(昭和2)政治問題化した鈴木商店*への不良融資を中心に経営が破綻(はたん)して4月に休業，金融恐慌*の目となった。やがて再建され，第2次世界大戦中も国策遂行に活躍したが，敗戦とともに解体された。

〔応和邦昭〕

たいわんざる　**【台湾猿】**　哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科・マカク属のサル。台湾の特産種で，毛色は明るい灰かっ色。森よりも灌木地(かんぼくち)や岩山にすむ。食性は雑食。近時乱獲により急速に減少した。体長や生態はアカゲザル*とほぼ同じであり，アカゲザルの亜種としている学者もある。

たいわんさんみゃく　**【台湾山脈】**　タイワン山脈　台湾の脊梁(せきりょう)山脈。北東端から南端の恒春半島に達する。3,000m級の高峰が連なり，西斜面は多くの支脈に分かれてしだいに低くなるが，東斜面は断崖(だんがい)をなして台東地溝帯(ちこうたい)に臨んでいる。最高峰は玉山(3,950m)で，日本統括時代には新高(にいたか)山とよばれ，当時のわが国第1の高山であった。山脈の北部には一部氷食地形が残り，山地一帯には高砂(たかさご)族(高山族)が居住している。
〔船越昭生〕

たいわんせいとう　**【台湾征討】**　⇨征台の役

たいわんそうとくふ　**【台湾総督府】**　1895年(明治28)台北(タイペイ)に設けられた台湾統治のための官庁。はじめ総督は陸軍の大・中将が任命され，民政・軍政・軍令の全権をもっていた。総督を武官と限る規定は1919年(大正8)廃止され，以後文官総督時代が続いたが，1936年(昭和11)以降事実上武官総督となった。統治の基本は，日本の法制・習俗を浸透させる同化政策に置かれていた。第2次世界大戦の敗戦により，1945年廃止された。　〔応和邦昭〕

たいわんぼうず　**【台湾坊主】**　冬から初春にかけて台湾付近に発生し，北東進して表日本に降雨をもたらす低気圧。これは大陸からの寒冷な気団と南からの暖気の間にできる温暖前線上に，大陸からトラフ*が進行してきたときに発生し，発達しながら速い速度で北東進する。これを等圧線で表わしたとき，ちょうど坊主が頭をもたげたように見えるのでこの名がある。

ダイン　⇨力

ダーウィン　［Darwin］　オーストラリア北岸，チモール海に面する港市で，連邦政府直轄地のノーザンテリトリーの州都。人口40,900(1974)。1872年，電信の中継基地として建設されて以来，港市，さらに内陸への鉄道の起点として発達し，大陸中央部縦断ハイウェーの起点ともなっている。シドニーからシンガポール・香港(ホンコン)やヨーロッパ各地への空路の中継地でもある。アラフラ海漁業の基地であり，シロチョウガイの採集で知られている。〔小栗　宏〕

ダーウィン　［Charles Robert Darwin］(1809～1882)　イギリスの博物学者。進化論を提唱・確立した。シュルスベリーの医家に生まれ，《ズーノミア》を著わしたエラズマス-ダーウィンを祖父にもつ。はじめエジンバラ大学で医学を学んだが，のちケンブリッジ大学神学部に転じる。ケンブリッ



タイワンザル　台湾の特産種で，尾は太く長い

ジ時代の末年にフンボルトの《南アメリカ旅行記》，ハーシェルの《物理学入門》を読んで感銘を受ける。1831～1836年，イギリス海軍の測量船ビーグル号に博物学者として乗船し，南アメリカ・オーストラリア・太平洋諸島を周航探検。航海中に読んだライエルの《地質学原理》が，踏査・観察したアンデスの自然をみごとに説明していることに驚嘆した。それと同時にこの間の動植物相や地質調査によって，ライエルの主張する種の不変の仮定を疑わしいものと考えるようになった。特にパンパの中の化石動物の発見，大陸を南下するにしたがって順次変化する近縁の動物のようすやガラパゴス諸島の生物の観察によって種が徐々に変化するものであるという考えをとるようになり，のちの進化論提唱の重大な要因となった。

帰国後，家畜や栽培植物の人為選択による品種改良の方法に注目し，自然界における種の変化の要因との関連を考察した。当時，自由競争を根本理念とする産業資本主義の時代を背景に，有利な変異の保存と不利な変異の滅亡を理解する上で，マルサスの《人口論》が大きな示唆を与えた。また，ラマルクの進化論との混同を恐れて，農業・園芸に関する多くの資料を整理し，新たに観察・実験を行なって理論の完全を期し，膨大な論文の作成に着手しはじめた。1858年6月，ウォレスから，ダーウィンの思想と同様に自然選択による進化の思想を述べた論文が手紙とともに送られてきた。また同年7月，ライエルとフーカーの配慮により，リンネ協会の例会でダーウィンの理論の概要とウォレスの論文が並べて発表された。これらを契機として1859年，作成中の膨大な論文を縮小し，《種の起源》(正式名称は《自然選択による種の起源について》)として出版した。これは発売と同時に売り尽くされるほどの反響をよび，こうして各国学界における進化論の勢力は1870年ころまでにゆるぎないものとなった。主著には《種の起源》のほか《ビーグル号航海中の諸地方の博物学及び地質学調査日誌》(1839)，《家畜及び栽培植物の変異》(1868)，《人間の由来，ならびに性に関する選択》(1871)などがある。

ダーウィンの進化論はその後の自然観・世界観の形成の画期となり，近代社会における人間の理想に大変革をもたらした。特に社会諸現象の本質解明に与えた影響も大きく，社会進化論や唯物弁証法などに進化思想が発展的に取り入れられている。
〔江上生子〕

たうえ　**【田植え】**　苗しろで育てたイネ苗を田に移し植えること。イネ苗の移植に限って使われることばである。苗しろにまかれた種籾(たねもみ)は，40～50日で移植に適した状態になる。早生(わせ)系統のイネは40日内外の苗しろ期間，晩生系統は50日内外で移植に適するよう，苗が育てられるわけである。移植に適した苗は，熟苗とよばれる。外見的には，光沢のある黄色みをおび，苗の腰が太くがっしりとし，葉は粗剛の感触を示すものがよい。この苗を抜きとり片手でつかめる程度にわらでまとめて一束とする。苗の大きさにもよるが，1束は100本から150本くらいの苗数となり，10アールあたり400束内外の苗束が本田に運ばれる(栽植の密度によって苗束数が異なってくる)。代掻(しろか)きして浅く水をたたえた田面のところどころに苗束が適宜配置され，田植えがなされる。

苗の移植には，正条植えと乱雑植えがある。生育後の管理の点から正条植えがいままでは普通であるが，これに正方形植え・長方形植え・片正条植え・並み木植えなどがある。片正条植えとは，あぜ幅だけそろえて株間は適宜な間隔にとる方法であり，能率はやや高い。正方形植えは，あぜ幅・株間を同一距離にとる。長方形植えは，あぜ幅と株間の間隔が違い，株間が狭い。並み木植えは長方形植えより，さらに極端にあぜ幅・株間の間隔が異なり，あぜ幅は株間の倍以上で，あたかも道の両側の並み木のような状態になるので，この呼び名が出た。晩生種・穂数形品種・早植えにも効果のある方法であり，おそくまで肥切れさせずに保つことができるから，秋落ち*地帯にも有利である。

田植えには，その間隔を正しくとれるよう，植え綱・田植え定木・田植えわくなどが用いられる。後退して植える方法と，前進して植える方法があるが，植え綱を用いる場合は後退の方法を，他は前進法をとる。田植えの労力は大きいので(10アールあたり2.3人)，最近は田植え機*が開発されている。田植えの省力化の別の方法として，直播(じきま)き栽培*がある。　〔金木良三〕

たうえき　**【田植え機】**　イネ苗を進行につれて水田に植えこんでいく機械。近時急速に脚光を浴びたものであるが，開発研究の歴史は比較的古く，その種類も多い。現在実用化されているものは，土付き稚苗用田植え機と根洗成苗用田植え機である。土付き稚苗用は新しい育苗技術で育てられた本葉2～3枚程度の小さい苗を，床土をつけたまま植える機械で，特に実用化が進んで

いる。現在のものは1度に2条ずつ植え，植え付け能率は10アールあたり2～3時間程度である。根洗成苗用は，従来手植えで行なわれた方法を機械化したものであるが，植えいたみがひどく，また苗取りの能率化が遅れているため，作業全体の能率向上の点から改良すべきことが多く，実用化は遅れている。〔田原虎次〕

ダウしきへいきんかぶか【ダウ式平均株価】旧称は修正株価平均。一般にダウ平均といわれ，市場全体の株価水準を示す指標である。ダウ式平均株価は，平均株価に採用されている銘柄の権利落ちや，採用銘柄の入れ替えなどがあったとき，株価の連続性をもたせるために修正されるが，その修正方法はアメリカのダウ-ジョーンズ社が用いた算式を応用している。1949年(昭和24)5月，取引所の再開以来，東京証券取引所第1部225銘柄，第2部50銘柄(1961年10月以来)を対象に，日々発表されていたが，時日がたつにつれて現実の株価の動きと遊離してきたため，東京証券取引所では1969年7月からこれに代わる東京証券取引所株価指数を採用し，ダウ式平均株価を廃止することを決めた。➔株価指数

〔日東証券調査部〕

タウト［Bruno Taut］(1880～1938) ドイツの建築家。ケーニヒスベルクに生まれてその地で学び，シュツットガルトの工業大学助手を経て，ベルリンに建築事務所をもつ。のち，マグデブルク市庁の建築部長となって都市計画にあたり，色彩建築を試みて注目を浴びた。1933年(昭和8)，ナチス政権確立とともに亡命して来日。日本の建築・工芸・文化一般に深い理解を示し，《ニッポン》などの著書を残した。1936年トルコにおもむき，イスタンブールで没した。〔吉田玲子〕

たうなぎ【田鰻】硬骨魚類・タウナギ科の淡水魚。この科は1属1種で，またタウナギ科が含まれるタウナギ目もたいへん小さい目である。東京付近でカワヘビといわれるように，細長い形や動きがヘビによく似ている。体色はやや赤みをおびた黄色で，かっ色の斑紋(はんもん)がある。背びれとしりびれには鰭条(きじょう)がなく，腹びれ・胸びれはともになく，うろこを欠く。東京以西，沖縄諸島・朝鮮・台湾・中国・ボルネオなどに分布するが，日本ではまれ。中国では食用にされる。

ダウニングストリート［Downing Street］イギリス，ロンドンのウェストミンスター地区にある通りで，官庁街として知られる。10番地に首相官邸，11番地に蔵相官邸，12番地に与党幹事会事務局がある。1681年にこの一帯を建設した聖ジョージ-ダウニングにちなんで名づけられた。

ダウポン［dowpon］一般にDPA剤とよばれ，1954年にアメリカのダウ-ケミカル社が開発した非ホルモン型の除草剤。イネ



ダウラギリ山　ダウラギリ1峰の威容。荒々しい山はだをもった巨大な岩峰が，天空を突き上げるようにそびえ立っている

科植物に対して選択的な殺草作用がある。サツマイモ・サトウダイコン・ナタネ・ジャガイモ・ダイコンなどの作物に対しては安全だが，イネ科植物やマメ類・ネギ類には使えない。広葉植物にはきかないので，2,4-D*やMCP*と混用するとその適用範囲が広くなる。

ダウラギリ(山)［Dhaulagiri］ネパール中部にあるヒマラヤ山脈中の高峰。5峰からなり第1峰は海抜8,172mで，世界第6位の高さをもつ。山容は険しくほとんど氷河と万年雪におおわれ，ヒマラヤの中でも登山が最も困難で，1953年以来，各国の遠征隊による数次にわたる登頂が試みられたが失敗に終わり，1960年スイスのM.アイゼリン隊によってようやく第1峰の初登頂がなされた。

タウルス(山脈)［Taurus］トロス山脈ともいう。トルコ南部の地中海岸に沿う山脈。全長約800km。ギリシアのピンドス山脈とイランのザグロス山脈の間に位置し，アルプス-ヒマラヤ山系の一部を形成する。同国の地中海岸の地域と内陸のアナトリア地方を分けており，シリアへの通路を除いては古来異民族の移動や外敵の進入に対する障壁の役割を果たしてきた。鉄鉱・銅・銀・鉛・亜鉛などの鉱産に富む。

ダウンしょうこうぐん【ダウン症候群】精神薄弱児のうち，目・鼻・口が小さく，眼裂が外上方につり上がっている特異な顔貌(がんぼう)を呈するものをいう。この顔貌がモンゴル人に似ているところから蒙古症(もうこしょう)・蒙古人様痴呆(ちほう)・モンゴリスムスといわれた。しばしば心臓・外耳などの先天性奇形を伴うことが多く，また感染に対して抵抗力がきわめて弱いため，死亡しやすい。原因は明らかでないが，体細胞の染色体が異常(第21番めの染色体が3本であることが多い)を呈していることが知られている。しかし，染色体が異常を呈するに至った理由は解明されていない。治療法はないが，幸いおとなしい性質の者が多いので，根気よく教育や生活訓練を行なう。

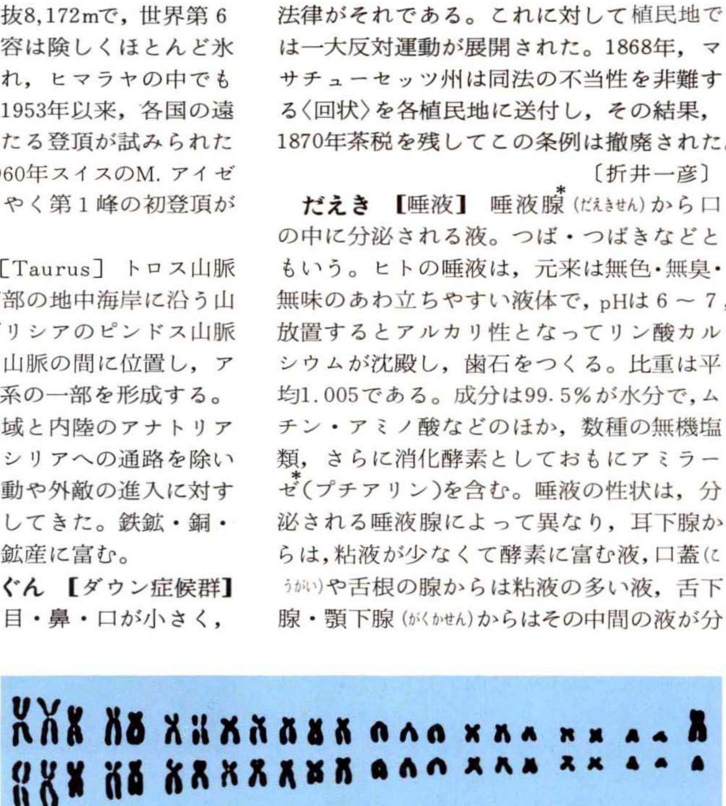
〔宇留野勝正〕

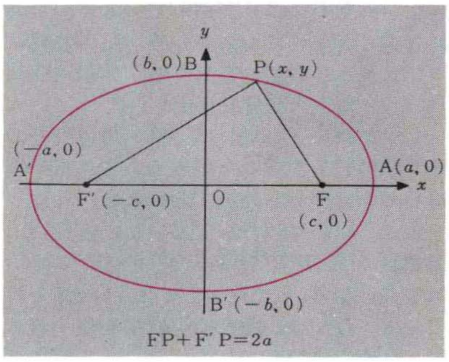
タウンゼンドしょじょうれい【タウンゼンド諸条例】印紙条例*撤廃後の1767年，イギリス蔵相チャールズ-タウンゼンドが，関税による歳入増と，地租の軽減，植民地支配の強化を目的に，北アメリカ植民地に課した四つの法律の総称。①ニューヨーク植民地議会の立法機能を停止する〈議会抑制法〉，②イギリス産の塗料・ガラス・紙・鉛・茶の植民地への輸出に新関税を賦課する〈収入法〉，③海関行政強化のためボストンにアメリカ税関監理局を新設する〈関税徴収法〉，④通商航海法の遵守と徴税の効率化のため海事裁判所機構の拡充を意図する法律がそれである。これに対して植民地では一大反対運動が展開された。1868年，マサチューセッツ州は同法の不当性を非難する〈回状〉を各植民地に送付し，その結果，1870年茶税を残してこの条例は撤廃された。

〔折井一彦〕

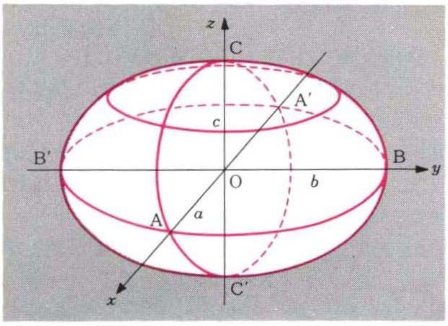
だえき【唾液】唾液腺*(だえきせん)から口の中に分泌される液。つば・つばきなどともいう。ヒトの唾液は，元来は無色・無臭・無味のあわ立ちやすい液体で，pHは6～7，放置するとアルカリ性となってリン酸カルシウムが沈殿し，歯石をつくる。比重は平均1.005である。成分は99.5%が水分で，ムチン・アミノ酸などのほか，数種の無機塩類，さらに消化酵素としておもにアミラーゼ*(プチアリン)を含む。唾液の性状は，分泌される唾液腺によって異なり，耳下腺からは，粘液が少なくて酵素に富む液，口蓋(こうがい)や舌根の腺からは粘液の多い液，舌下腺・顎下腺(がくかせん)からはその中間の液が分

ダウン症候群　ヒトの染色体。上は正常男子で，22対の常染色体およびXとYの性染色体，計46本の染色体からなる。下はダウン症候群男子の染色体で，正常男子に比べて21番めの矢印の染色体が1本多く，計47本である





楕　円



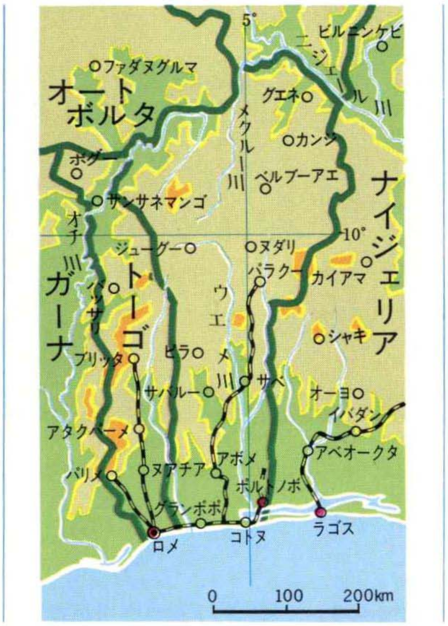
楕円面

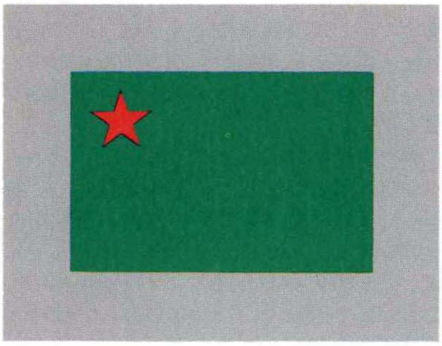
泌される。1日の分泌量は約1～1.5lである。唾液はアミラーゼの働きによって食物中のデンプンをとかし反射的に胃液の分泌を起こさせるなどの働きをもつ。さらに，唾液腺ホルモンのパロチンは，骨格が正常に発育するためには不可欠のものと考えられている。唾液の分泌中枢は延髄にあり，食物が口の中にはいると，それが刺激となって反射的に分泌が起こるが，精神的分泌といって，食物を見たり，においをかいだり，想像したりすることによって起こる分泌もある。➔条件反射　〔平野修助〕

だえきせん　【唾液腺】 口腔腺(こうこうせん)ともいう。耳下腺・顎下腺(がくかせん)・舌下腺などの大唾液腺と，口唇腺(こうしんせん)・舌腺・頰腺(きょうせん)・口蓋腺(こうがいせん)などが属する小唾液腺に区分される。唾液*はこれらの唾液腺によって産生され，条件に応じて導管(排出管)を通って口腔内に分泌される。産生される唾液は，粘りのあるものとないものとがあり，つくられる場所が決まっている。唾液の分泌は，自律神経の働きで行なわれているが，つねに口腔内を湿らす程度に分泌されている。　〔高野一雄〕

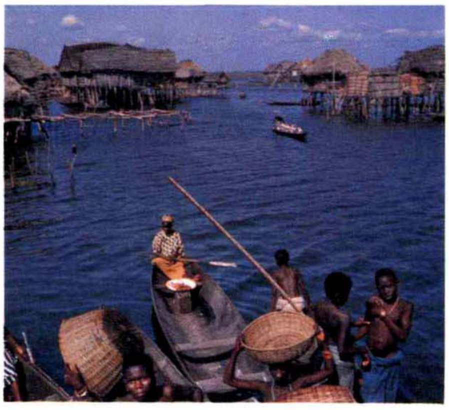
だえきせんホルモン　【唾液腺ホルモン】 ⇨パロチン

だえん　【楕円】 2定点からの距離の和が一定である平面上の点の軌跡。長円ともいう。2定点をその焦点という。焦点をF，F'，一定の長さを$2a$として，線分FF'の中点を原点，直線FF'をx軸とする，直交座標をとり，F(c，0)，F'($-c$，0)とするとき，これによって定まる楕円は，次の





ダオメーの国旗　1975年11月の社会主義統一記念に，国名をベナン共和国に変えるとともに国旗も新たに制定された。緑地の緑は農業を表わし，赤色は革命の色である。赤星は内外の敵を倒し，新しい革命的社会主義的国家ベナン国を建設するための革命勢力の結集と，それに基づいての国家統一を象徴する



ダ　オ　メ　南部のコトヌ付近の湖沼地帯にあるガンビエの湖上部落。日用品雑貨や食べ物を売る舟も往来している

方程式で表わされる。

$$\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}=1\ (ただし，\ b=\sqrt{a^2-c^2})$$

このとき，楕円と両座標軸との4交点A，A'，B，B'をこの楕円の頂点といい，AA'，BB'を主軸，長いほうを長軸，短いほうを短軸という。長軸，短軸の長さがそれぞれ$2a$，$2b$の楕円の面積はπabである。楕円は円を一定方向へ同じ割合で引き伸ばして得られる曲線としても定義することができる。また，定点Fからの距離とFを通らない定直線gからの距離の比が一定e($0<e<1$)である点の軌跡としても定義される。このとき，Fは焦点となり，gを準線，eを離心率という。　〔菊池兵一〕

だえんせいうん　【楕円星雲】 円盤状または楕円状の外観をもった銀河系外星雲。比較的一様な明るさに輝いていて，うず状星雲の中心部にみられるような核は存在していない。見かけの扁平度(へんぺいど)によってE0(円形)からE7(扁平度0.7)まで8段階に分類される。この星雲に含まれる明るい星は赤みをおびた低温の超巨星で，また星間物質が含まれていないのが著しい特徴である。➔銀河系外星雲

だえんめん　【楕円面】 方程式$\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}+\frac{z^2}{c^2}=1$で表わされる曲面。楕円面で囲まれた立体を楕円体という。この曲面のxy平面，yz平面，zx平面に平行な平面による切り口はいずれも楕円*である。

ダオメ(共和国)　[Republic of Dahomey, République du Dahomey]　アフリカ中西部，ギニア湾に臨む共和国。1975年11月30日，国名をベナン人民共和国と改称。東はナイジェリア，西はトーゴ，北西にオートボルタ，北はニジェールと接する。面積11万2,622km^2。人口357万(1978年推)。首都ポルトノボ。

【自然・住民】南部のギニア湾に面する海岸線は奴隷海岸とよばれる単調な砂浜海岸で，砂丘の背後には潟湖(せきこ)が連なっている。海岸から内陸へ約80km前後までは低平な土地が続き，ところどころに湿地や沼地がある。北部は高度500～600mの丘陵で，北方のニジェール川の広い谷へ傾斜している。南部の低地は高温多雨だが，北部では9月から1月に乾季がある。住民は中部アフリカ系黒人のダオミ族約85万を中心に，いくつかの少数部族からなり，伝統的な部族信仰を信じ，誇り高く，外国人にはいんぎんであるとともに商才にたけている。

【産業・経済】低地は肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)に恵まれて農耕地が開け，おもにアブラヤシとラッカセイを栽培し，ともに主要な輸出品となっている。ほかにトウモロコシ・ワタ・キャッサバ・ヤムイモ・サツマイモ・ミカン・コーヒー・パイナップルなどがある。丘陵地域では一般にウシとウマの飼育が行なわれ，ワタの産も多い。海岸の潟湖では漁業が盛んである。産業面では一般に後進的な農牧業から抜け出すには至らず，EEC(ヨーロッパ経済共同体)やフ

ランスから経済援助を受け，貿易面でもフランスへの依存が強く，輸出額の約90%はフランス向けである。

〔歴史・政治〕古くは黒人による王国が存在したが，16世紀にポルトガル人が，17世紀にはフランス人が侵入して，ここの海岸の名が示すように多くの奴隷がアメリカ大陸へ運び去られたが，1852年イギリスは奴隷貿易を禁止し，この海岸を封鎖した。しかし，奴隷貿易を認めていたフランスは，1894年武力で植民地にし，1899年にはフランス領西アフリカに編入した。第2次世界大戦後独立の気運が高まり，1960年フランス共同体内の共和国として独立したが，政情は不安定で，現在は軍政下にある。〔小栗　宏〕

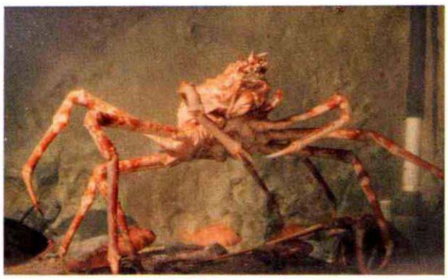
タオル［towel］ パイルクロス(添毛織物)の一種。主として綿糸を用い，地組織に別のたて糸で輪奈(わな)を織り込む。片面タオル・両面タオルの別がある。ふつう平織であるが，斜文織・ジャガード織もある。また，色糸を用いてしま・格子(こうし)を表わしたもの，輪奈で織り模様を出したものなどもある。よく水を含む性質があるため，おもに浴布・湯上がり布・浴衣・パジャマ・夏掛け毛布(タオルケット)などに用いられる。〔小川安朗〕

たか【鷹】 鳥類・ワシタカ目のうち一部のものの俗称。一般に大形のものをワシ，小形のものをタカとよぶが，鳥学上ははっきりした区別がない。→ワシタカ

たかあしがに【高足蟹】 甲殻(こうかく)類・十脚目・クモガニ科。カニ類中だけでなく，現生の節足動物全体の中で，最も大形の動物。甲は洋ナシ形で，雄では長さ300mm以上に達し，鉗脚(かんきゃく)が最も長く，広げると3mを越えるものもある。雌は雄よりもやや小さい。生時は淡赤かっ色で，脚は赤かっ色と淡黄色のしま状となる。相模(さがみ)湾から九州までの太平洋沿岸に分布しており，岩手県沖で採集された記録もある。日本海では未記録。日本沿岸の漸深海底帯の特産種であるが，個体数は多くなく，保護もされていないため，減少の傾向にあるといわれる。甲らを門口に飾って魔よけとする習慣をもつところもある。〔向井　宏〕

たかいかん【他界観】 他界とは死者の霊魂がすむ地をさす。〈あの世〉〈来世〉〈黄泉(よみ)の国〉などはこれにあたる。他界をどことするかは，民族によって異なるが，ほとんどすべての民族が一定の他界観をもっている。

天上他界観は，北アジアの諸族，東南アジアの一部などにみられ，台上葬・樹上葬と結びついていることが多い。西方あるいは東方他界観は，太陽崇拝*や民族の故郷への追慕と関連すると考えられる。海上他界観は，メラネシア・ポリネシアに広く分布しているほか，インドネシア・オーストラリアの一部，北アメリカの一部にみられる。


タカアシガニ

日本でも九州・四国の一部にある。これにはばく然と海上に他界があるとする場合と，一定の小島を死者の島と考える場合がある。舟葬と結びつき，複葬との関連性もみられる。舟葬はまた，西方他界観とも結びつくことがある。《古事記》の天鳥船の伝説や東南アジアのドンソン文化に現われる太陽舟は，舟自体が鳥の形をしており，死者が鳥舟で太陽へ向かうという観念を表わしている。一方山上他界観は，特に日本・朝鮮に特徴的で，中国南部・モンゴル・東南アジアなどにもみられ，焼き畑耕作と関連があるともいわれる。〔神谷美保子〕

たかいし【高石(市)】 大阪府中西部の市。人口66,000。1966年(昭和41)市制施行。西は大阪湾に面し，北・東・南の三方は堺(さかい)市・和泉(いずみ)市・泉大津市に囲まれる。産業三大別人口比は1：41：58。明治中期以来，大阪市南郊の海浜住宅地として開発され，浜寺公園(堺市)と接する羽衣付近には，高級住宅地がある。白砂青松の海浜高師浜(たかしのはま)は歌枕(うたまくら)として名高く，《万葉集》《古今和歌集》などに歌われている。最近は海岸一帯を埋め立てて，堺泉北臨海工業地帯が造成され，ゼネラル石油グループの工場群が立ち並ぶ。阪和(はんわ)線・南海電鉄南海本線・国道26号線が通ずる。

たかいしかつお【高石勝男】(1906～1966) 大阪市の生まれ。茨木(いばらき)中学から早稲田(わせだ)大学に進み，一貫して水泳に励んだ日本水泳界の草分け。第8回オリンピック-パリ大会(1924)で100m・1,500mの自由形で5位入賞，1928年アムステルダム大会では100m自由形で銅メダルを獲得して日本水泳史上初のメダリストに輝いた。1961年(昭和36)日本水泳連盟会長(1961～1965)となり，オリンピック東京大会の開催，選手強化に大きな功績を残している。〔中出水勲〕

たかお【高雄】 京都市西部，保津川支流の清滝川中流の地域。高尾とも書き，北方の槇尾(まきのお)・栂尾(とがのお)と総称して三尾(さんび)とよばれる。古来紅葉の名所として知られ，和気清麻呂(わけのきよまろ)が建立(こんりゅう)した神護寺*をはじめとする史跡と渓谷(けいこく)の美は，いまも昔と変わりない行楽地としてにぎわしている。保津峡と国道162号線を結ぶ有料道路嵐山(らんざん)高雄パークウェーに沿う。

たかお【高雄】 カオシュン 台湾，南西部の都市。人口82万8,000(1970年推)。北部の基隆(キールン)と並び称される港湾都市で，近年はセメント・鉄鋼・船舶・弱電機・繊維などの工業が発展しつつある。最近，港湾に接して保税工業地区が建設され，加工貿易が盛んである。また，漁港・軍港でもある。

たかおか【高岡(市)】 富山県北西部の市。人口17万6,000。越中の国府が置かれ，1609年(慶長14)前田利家(としいえ)の長子利長が居城を築いたが，城は利長の死後廃された。江戸時代には利長が奨励した鋳物業を基盤として商工業都市として繁栄した。1889年(明治22)市制施行。北は富山湾に面し，庄(しょう)川・小矢部川に東西を画される広い沖積地(ちゅうせきち)にあり，庄川扇状地末端に突出した台地上に中心市街が発達している。産業三大別人口比は8：42：50。東方の富山市とともに新産業都市に指定され，北陸工業地帯の中心地区となっている。小矢部川河口には日本海沿岸有数の貿易港である伏木港があり，ソ連船をはじめとする外国船の出入が多い。港の周辺には，日本曹達(ソーダ)・日本ゼオン・東亜合成化学工業がコンビナートをつくるほか，十条製紙・中越パルプ工業などの大工場を中心に金属・化学・薬品・塩化ビニル・パルプ・製紙・繊維などの近代工場が立ち並ぶ。また銅器・鉄器・漆器・捺染(なっせん)などの伝統的な家内工業も行なわれる。施設面でも，富山大学工学部・県工業試験場・国立総合職業訓練所など，近代工業都市の性格を特色づけるものが多い。北陸本線から氷見(ひみ)線・城端(じょうはな)線を分岐し，国道8号線・156号線・160号線が集まり，富山市とは富山地方鉄道やバスなどによって密接に連絡する。市街中心部にある城跡や射水(いずみ)神社一帯は古城公園として県立公園に指定され，付近には日本三大仏の一つ〈高岡大仏〉がある。北方の二上丘陵一帯は能登(のと)半島国定公園に属し，仏舎利塔・万葉植物園や大伴家持(おおとものやかもち)のいた国府跡や国分寺跡には観光客が集まる。海岸線は古来有磯海(ありそのうみ)とよばれて歌枕(うたまくら)となり，特に雨晴(あまはらし)付近は二上丘陵が海に迫る景勝地で，海水浴場として知られる。関野神社の〈高岡御車山(みくるまやま)祭〉(5月1日)が名高い。〔浅井得一〕

たかおかえで【高尾楓】 双子葉植物・カエデ科のイロハカエデの別名。京都の高雄山に多いのでこの名がある。→イロハカエデ

たかおかしんのう【高岳親王】 生没年不詳。平城(へいぜい)天皇の第3皇子。809年(大同4)嵯峨(さが)天皇の皇太子となったが，翌810年(弘仁1)薬子(くすこ)の変*に連座して廃され，仏門に入って真如法親王と称せられた。東大寺*で三論の宗義を道詮(どうせん)に，東寺*で真言の密教を空海*に学んだ。862年(貞観4)唐に渡り，865年さらに海路インド

に向かった。その後消息を絶ったが，881年(元慶５)在唐僧の中瓘(ちゅうかん)からの報告書は，親王がインド渡航の途中羅越(らえつ)国(マライ・スマトラの海峡地方)で死去した事実を伝えた。記録上，中国以西に旅行した最初の日本人。〔高崎徳次〕

たかおさん【高尾山】 東京都八王子市の西部，関東山地の南東部にある山。高さ600ｍ。山頂は眺望(ちょうぼう)がすぐれ，都民の行楽地として早くから知られる。山頂付近に開基の古い真言宗智山(ちざん)派の別格本山薬王院有喜寺があり，関東三大霊場の一つとして参拝客を集める。高尾陣馬都立自然公園として鳥獣保護区に指定され，また，その一部は明治の森高尾国定公園で，東海自然歩道の起点となっている。中央線高尾駅付近の東のふもとから山頂近くまでケーブルカーが通じ，最近はロープウエーも完成した。また，京王帝都電鉄も新宿から直通している。〔高野 繁〕

たかおさんげ【高尾懺悔】 日本舞踊・長唄(ながうた)・清元節・荻江節(おぎえぶし)などの曲名。傾城(けいせい)高尾の亡霊がかつての廓(くるわ)の辛苦を追憶し，現在の地獄の呵責(かしゃく)を物語るという凄艶(せいえん)な内容。1744年(延享１)初演の《七種牳曾我(ななくさわかやぎそが)》に含まれる長唄曲は現存曲中《鷺娘*(さぎむすめ)》と並ぶ古曲で，これを荻江節に移した作品とともに特に有名。

たかがかりもの【高掛物】 江戸時代，天領(幕府直轄領)・私領(大名・旗本(はたもと)などの領地)を問わず，農民に課せられた租税の一つで，村高に対して賦課される付加税の総称。したがってその種類は多く，天領における高掛物三役，すなわち本陣*の給米，宿場*入用にあてる伝馬宿入(てんましゅくにゅう)用，雑人夫の給米にあてる六尺給米，浅草御蔵の維持費としての蔵前入用はその代表的なものであった。諸藩では夫米(ぶまい)・夫金・糠藁代(ぬかわらだい)などがあった。〔岡山泰四〕

たかがり【鷹狩り】 タカを放って鳥獣を捕獲する猟法。鷹野・放鷹(ほうよう)ともいう。古くから東洋諸国をはじめ各地で行なわれてきた狩猟で，中国では4,000年も以前から，インド・アラビア・ペルシア・シリアなどでも古代から行なわれてきたことが，発掘物で証明されており，エジプト・モロッコ・アルジェリア・チュニスなどにも証跡が残っている。ヨーロッパでも中世以前には盛んに放鷹が行なわれ，ことにローマ人に好む者が多かった。

わが国には上代に百済(くだら)から伝えられたものらしい。公に鷹狩りの始まったのは仁徳(にんとく)天皇のころで，宮中に鷹甘部(たかかいべ)(鷹匠にあたる)という職が置かれた。その後歴代の天皇が鷹猟を行なったが，ことに雄略天皇のころには騎馬放鷹が開発され，兵部省の中に主鷹司が置かれ，タカとイヌ(お鷹犬)が調教された。そののち仏教が伝来すると，その影響で漸次衰退し，民部省に移されて放鷹司となったが1590年(天正18)10月廃された。平安朝にはいると再び興隆し，発達していった。室町・徳川時代には武士の間に流行し，一時将軍綱吉(つなよし)時代に中絶されたが，家康(いえやす)・家光(いえみつ)・吉宗(よしむね)らの盛大な鷹狩りは，広く知られる。明治にはいると，宮内省(宮内庁)が新浜猟場(千葉県)，越ケ谷(こしがや)猟場(埼玉県)などにタカを飼い，同猟場の周辺や富士山麓(さんろく)で古技保存のための鷹狩りを実施してきたが，第２次世界大戦後はほとんど行なわれなくなった。しかし民間の篤志家の間には，少数伝承されている。歴史的には鷹狩りは宮中および公卿(くぎょう)・将軍・大名，ならびにこれをめぐる一部人士の間に行なわれてきた狩猟である。

鷹狩りに使うタカは，オオタカとハヤブサを主とし，別にハイタカ・ツミらも使われ，まれにサシバも使役される。クマタカも使われるがこれはタカというもののワシの類である。タカの種類によってその使い方や獲物に差異がある。オオタカは樹林の点在する原野や水辺で，キジ・ノウサギ・ゴイサギ・バン・カモ・ガン・ツルなどを捕えるのに用いられた。ハヤブサは主として海浜・沼沢地・草原などでカモ・ガン・サギ・ハトなどを捕えるにあてられた。上記２種のタカが代表種であるが，わが国をはじめ東洋諸国ではオオタカをより重用し，西欧諸国ではハヤブサを主用する傾向があった。オオタカは森林棲(しんりんせい)のタカ，ハヤブサは水辺棲のタカである。ハイタカは小形なのでハトなど小鳥類を捕えるに主用され，昔はヒバリに向けられることが多かったが，中にはカモやサギを捕えるようなものもあった。ツミは最も小形のタカで，ウズラ・ツグミ・ヒヨドリ・ヒバリ・ホオジロ・スズメなどがその目的物にされた。サシバは夏鳥で，冬季の飼育が困難なため，あまり使役されなかったが，ときにハト・ウズラ・スズメなどを捕えるのに使われたことがある。鷹狩りに仕立てるタカは，オオタカなどの留鳥はひなから仕立て，ハヤブサなどの冬鳥は渡来期にいけどりして養い，訓練するのであって，訓練法や狩猟上の作法はきわめて複雑に発達している。なお，鷹狩りは他の狩猟方法に比べて鳥獣捕獲の能率が低いのと，一種の文化財的技術として保存する必要もあるので，狩猟期間中に，可猟地域で，狩猟鳥獣を一定の数量まで捕えるためには，何人も無許可無届けで行なうことができるが，鷹狩りの主役であるタカを捕えるにも，ひな・成鳥を問わず，都道府県知事を経由して，農林大臣の許可を得る必要がある。

今日わが国では，宮内庁の鴨場(かもば)に数羽のタカ(主としてオオタカ)が飼われているほか，民間では名古屋地方に，オオタカによる古式鷹狩りが技術保存の目的で残存しているにすぎない。それとは別に，山形・秋田の一部には，ワシの一種であるクマタカを用いて行なう狩猟(これも鷹狩りと称している)が残っており，主としてノウサギ・キジなどの狩猟が篤志家によって行なわれている。特に山形県真室川の，踏掛氏一派のクマタカ狩りが著名である。〔白井邦彦〕

たかがわかく【高川格】（1915～ ）囲碁棋士。和歌山県の生まれ。1924年(大正13)光原伊太郎(みつはらいたろう)名誉８段に入門。1928年(昭和３)入段，1945年７段。1952年第７期本因坊位を得て秀格と号す。以後15期まで，連続９期にわたって本因坊位を保持，名誉本因坊に推された。1954年８段，1960年９段に昇段。1968年には第７期名人位を得た。

たかぎていじ【高木貞治】（1875～1960） 数学者。岐阜県に生まれ，京都の第三高等学校で，河合十太郎の指導を受け，さらに東京大学で菊池大麓*(きくちだいろく)・藤沢利喜太郎*の指導を受けた。1898年ドイツへ留学，フロベニウス・クライン*・ヒルベルト*らの影響を受けて帰国した。クロネッカー*の〈青春の夢〉の解決により1903年理学博士。第１次世界大戦中に，類体論の構想をまとめ，1920年のストラスブールでの国際数学者会議(コングレス)で〈相対アーベル体の理論〉を発表。1940年(昭和15)文化勲章受賞。日本人では，イデアル論の園正造(1886～)とともに最初の世界的数学者として有名である。〔下平和夫〕

たかくけい【多角形】 三角形・四角形・五角形などの総称。すなわち，平面上にある３個以上の点を，それらの点以外では交わらない線分で結んで得られる閉じた図形。はじめの点を頂点，それらを結ぶ線分を辺といい，n個の頂点をもつ多角形をn角形またはn辺形という。隣合った２辺が多角形の内部につくる角を内角といい，１辺の延長と延長した側にある隣の辺とでつくる角を外角*という。n角形の内角の和は$(2n-4)$∠Ｒで，各頂点における外角を一つずつとってつくった和は４∠Ｒに等しい。

多角形の同じ辺上にない２頂点を結ぶ線分を対角線という。n角形の対角線は$\frac{1}{2}n(n-3)$本ある。また，多角形のどの辺の延長も多角形の外部にあるものを凸(とつ)多角形，そうでないものを凹(おう)多角形という。さらに，多角形のどの辺の長さも等しいものを等辺多角形，どの内角の大きさも等しいものを等角多角形という。そして，等辺多角形でありかつ等角多角形であるものを正多角形という。たとえば，菱形(ひしがた)は等辺四角形，長方形は等角四角形，正方形は正四角形である。〔菊池兵一〕

たかくすじゅんじろう【高楠順次郎】（1866～1945） 言語学者・インド学者・仏教学者。オックスフォード大学のマックス＝ミュラー教授の門にはいり，帰国後1899年

(明治32)に34歳で東京帝国大学教授となり博言学講座を担当した。のち東京外国語学校や東洋大学の学長を歴任。1923年(大正12)《大正新修大蔵経》の出版を企図し，1934年(昭和9)に100巻の刊行という世紀の大事業を完成した。また1941年にはその門弟60余名を糾合して，〈南伝大蔵経〉の和訳を刊行した。1944年，文化勲章を受賞。
〔山折哲雄〕

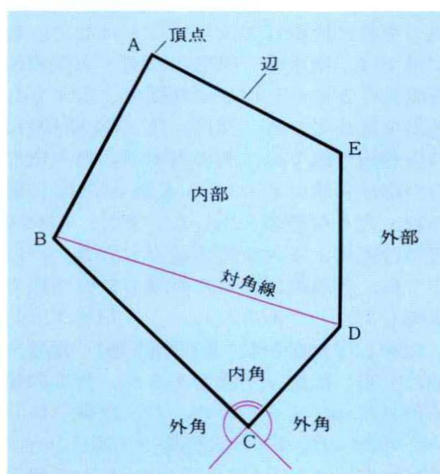
たかくぼうえき【多角貿易】 3か国以上の間で行なわれる貿易をいう。2国間の輸出と輸入とが不均衡なためにその間の貿易決済が十分に行なわれがたい場合，それを調整するため，関係の深い国々を貿易協定に参加させ，参加した各国間の協力によって貿易の不均衡を解消させようとする方式。特に3か国で行なうものを三角貿易*という。

たかくら【高倉】 高床の倉の略称。東南アジアをはじめ，ヨーロッパにも見られ，日本では，水稲農業を伴う弥生(やよい)式時代以降に現われ，実例としては紀元前後とされる香川県出土の銅鐸(どうたく)の絵が最も古い。2世紀ごろの静岡県山木遺跡や登呂(とろ)遺跡ではその部材が発見され，登呂遺跡のものは復元も行なわれている。古墳時代の家形埴輪(はにわ)には高倉が数多く見られ，4世紀の家屋文鏡にも描かれ，奈良の正倉院をはじめ類例が多く，最も重要な財貨を収納する倉の形式であった。中世以降は耐火的な土蔵にその地位を奪われて行なわれなくなり，今日でも倉としてこの形式を維持しているのは，沖縄諸島・西南諸島・八丈島などのみとなった。〔渡辺保忠〕

たかくらてんのう【高倉天皇】 (1161～1181) 在位1168～1180年。名は憲仁(のりひと)。後白河(ごしらかわ)天皇の第7皇子。母は建春門院滋子(しげこ)。六条天皇がわずか2歳で即位したとき6歳で東宮に立ち，即位後は平清盛*の娘徳子を中宮に迎え，やがてその所生の息子安徳天皇*に位を譲った。朝廷内部での勢力伸張を図る平清盛は，皇室と姻戚(いんせき)関係を結ぶのをその一方策としたが，高倉天皇の即位・退位の経過にもこの清盛の政治的工作がうかがわれる。陵墓は京都市東山区の後清閑寺陵。
〔飯田悠紀子〕

たかさき【高崎(市)】 群馬県中南部の市。人口22万1,000。古くは赤坂，中世には和田とよばれ，鎌倉街道や中山道(なかせんどう)の宿場町であった。1598年(慶長3)井伊(いい)氏の城下町となって高崎と改称し，中山道・三国街道の分岐する宿場町，商業活動の盛んな市場町としてにぎわい，幕末には大河内(おおこうち)氏八万二千石の所領であった。1900年(明治33)市制施行。関東平野の北西端に位置し，榛名(はるな)山のすそ野の末端から利根(とね)川支流の烏(からす)川流域にかけて広がる。産業三大別人口比は7:35:58。明治以後は小麦などの農産物を集散し，製糸・紡績などの工業が発達して〈高崎たび〉の特産で知られた。東部地区を中心に製粉・ハム・家具・電気器具・プラスチックなどの工場群が広く分布し，大工場の進出もめざましい。金属工業団地も完成し，卸し商業団地の造成計画が進んでいる。高崎線・上越線・信越本線・八高線・両毛線や上信電鉄が集まる鉄道交通の要地で，国道17号線・18号線をはじめとする道路網も整備され，西上州のバス交通の基点ともなっている。南西部の観音山に鉄筋コンクリート製の白衣観音像(高さ40mで東洋一)があり，北部の山名にある山上碑および古墳，金井沢碑は特別史跡に指定されている。近くに〈国立心身障害者コロニー〉がある。達磨(だるま)寺の〈だるま市〉(1月6～7日)が名高い。

たかさきせん【高崎線】 大宮～高崎間の国鉄路線。営業キロ数74.7。1883年(明治16)に一部が，翌1884年全線が開通した。東北本線と信越本線・上越線とを結び，東京と長野，裏日本方面を連結する幹線鉄道で，沿線には上尾・桶川(おけがわ)・北本・鴻巣(こうのす)・熊谷(くまがや)・深谷(ふかや)・本庄(ほんじょう)などの都市が連なる。全線が直流で電化されている。



多　角　形

たかさきまさかぜ【高崎正風】 (1836～1912) 歌人。薩摩(さつま)(鹿児島県)の生まれ。幕末維新の際に国事に尽くした。欧米を視察し税法・行政の調査などにあたった。歌は桂園(けいえん)派*の八田知紀*(とものり)に学び，1888年(明治21)御歌所(おうたどころ)の初代所長となり，天皇・皇太后の作歌を指導した。没後《たづがね集》が刊行されている。

たかさきやま【高崎山】 大分市の西端，別府湾に臨む鐘状火山。高さ628m。アカマツ・ヤマツツジ・タブノキ・アラカシなどにおおわれ，野生のニホンザルが生息して，天然記念物に指定されている。1952年(昭和27)秋，東のふもとにある万寿院別院境内にサルを呼び寄せることに成功し，当初200匹余のサルもその後1,000匹以上にふえて，観光客を集めている。かつて大友氏の拠点であった城跡があり，展望がよく，1953年瀬戸内海国立公園に追加編入された。
〔浅井得一〕

たかさご【高砂】 能の曲名。世阿弥*(ぜあみ)作。脇能物(わきのうもの)の代表曲。肥後(熊本県)の阿蘇(あそ)の宮の神主友成が，播磨(はりま)(兵庫県)の高砂の海岸で，松の落ち葉をはき清める老夫婦に会い，この高砂の松と，海を隔てた住吉(すみよし)の松とが相生(あいおい)(夫婦)であることのいわれを尋ねる。ふたりは夫婦の愛情の細やかなこと，松と和歌との関連などを友成に聞かせ，夫は住吉の松，妻は高砂の松の精と名のって消える。友成は所の者の舟に乗り，住吉まで来ると，住吉明神が現われて神舞を舞い，天下泰平をことほぐ。前ジテは老翁，後ジテは住吉明神。高砂の姥(うば)がツレで，友成はワキ，所の者は狂言方がつとめる。この曲の一部分はしばしば婚礼の席などで小謡*としてうたわれる。〔長尾一雄〕

たかさご【高砂(市)】 兵庫県中南部の市。人口84,000。平安時代後期から船舶の出入りの多い港として知られ，江戸時代は播州(ばんしゅう)米の積み出し港としてにぎわい，大正以後は近代工業が発達した。1954年(昭和29)高砂町・曾根(そね)町ほか2村が合併して市制施行。市域は姫路平野東部，


高崎市 空から見た市の中心部。眼下は国鉄高崎駅，その左(西)側が商業地区で，さらに川(烏川)寄りは官庁街となる

瀬戸内海へ注ぐ加古川の河口付近の沖積地(ちゅうせきち)にあり，最近は県営の埋立地造成が進んでいる。産業三大別人口比は2:53:45。豊富な工業用水と敷地に恵まれ，播磨(はりま)工業地域の一翼として三菱(みつびし)重工業・神戸(こうべ)製鋼所・旭硝子(あさひガラス)・鐘淵(かねがふち)紡績・鐘淵化学工業などの大工場が立地し，重化学工業が発達している。海岸部を山陽電鉄，北寄りを山陽本線・国道2号線が走り，高砂線が市街地と山陽本線を結ぶ。遠浅の海岸は海水浴や潮干狩りの適地であったが，近年工場用地の拡張によって公害禍が起こっている。高砂神社には能《高砂*》で知られる〈相生(あいおい)の松〉が，曾根天満宮には〈曾根の松〉があり，加古川対岸(加古川市)の〈尾上(おのえ)の松〉とともに名高い。

たかさごぞく　【高砂族】　台湾の原住諸種族で，高山族ともいう。漢族化したものと，そうでないものとに分け，前者を熟蕃，後者を生蕃とよんだこともあった。言語上はマライ‐ポリネシア(オーストロネシア)語族のうちのインドネシア語派に属する。言語および文化の異同をめやすに幾多の種族に分類され，狭義の高砂族(生蕃)は，タイヤル・サイシアト・ブヌン・ツォウ・ルカイ・パイワン・プユマ・アミおよび紅頭嶼(こうとうしょ)のヤミ族の9種族をさす。だいたい台湾の中央山脈の連峰高地帯に居住する。農耕は陸稲も多少栽培するが焼き畑によるアワ作が主である。水田耕作やウシ・スイギュウの飼育は行なわれなかった。北部と中部山地の高砂族は，漢民族と接触するまで，石器時代を十分に脱却していなかった。これらの特徴からして，高砂族の文化はインドネシア文化の相当古い姿を伝えるものと思われる。2～3の種族について触れると，タイヤル族では夫婦本位の小家族が多く，村落は密集的で村民の連帯性は強い。これに対してブヌン族は小家族の分立を好まず，かつ散在部落への傾向が強く，父系氏族組織で複雑な婚姻規定をもち，氏族間の通婚関係が網の目のようにからみあっている。ツォウ族では年齢階級および部族首長などの制度を通じて部族の政治的・軍事的・宗教的な結束が強い。アミ族は大きな密集村落をもちながら，村と村との対立反目が随所にみられ，数十の母系氏族が分散混在するが，その連帯性は弱い。ルカイ・パイワンおよびプユマ族は世襲首長制をとり，貴族層と平民層の分化が目だつ。1929年の調査で，熟蕃51,976人，生蕃139,080人。　〔牛島　巌〕

高砂族の音楽は主として声楽であり，楽器は口琴・弓琴・鼻笛・鈴・五弦琴が知られている。土俗宗教に関連した儀礼歌・祖先賛歌，呪術(じゅじゅつ)の歌，治療の歌，成年式の歌や生活と密着した狩猟の歌，収穫の歌，労作歌・恋歌・物語歌・酒盛り歌などがある。タイヤル・パイワン・アミ・ヤミなどの種族によって音楽的特徴は異なるが，主要な音楽形式としては，応答形式・平行歌唱・ヘテロフォニー・斉唱(せいしょう)(ユニゾン)などである。　〔山口　修〕

タカジアスターゼ　［Taka-diastase］　1890年(明治23)高峰譲吉がコウジカビから抽出した酵素の集合物。消化酵素を主として含み消化薬として商品化され，広く用いられている。その後の研究によって消化酵素以外にも種々の酵素が含まれていることがわかり，分別精製が行なわれている。

たかしお　【高潮】　台風や強い低気圧が原因となり，港湾の水位が異常に高まる現象。高潮の起こる原因は，気圧が低くなるために，海面が持ち上げられること，および台風や低気圧に伴って吹く強風により海水が吹き寄せられることが重なるためである。特に，内海の海岸や湾の奥など特別な地形の場所では，このために海面の水位が異常に高まる。特に，満潮時と重なると危険で，高潮は数時間から，数十時間に及ぶことがあり，海岸の堤防などが破壊し，浸水して陸地の建造物などに大きな被害を及ぼす。台風の強さ，進行方向や速度によっても高潮の被害は違う。台風の中心が，海岸や湾などの真上または西側を北上する場合は台風の右半分が危険半円にあたるので高潮被害がある。低気圧による高潮は，台風のそれに比較して大したことはない。わが国では，東京湾・伊勢(いせ)湾・大阪湾・有明海などは，しばしば高潮による大きな被害を受けている。特に，1959年(昭和34)の伊勢湾台風では，湾の内奥部の名古屋地方沿岸は平時よりも3.4mも高い高潮に襲われ，大きな被害を出した。また，1934年室戸台風による大阪湾の被害も大きい。近年では，各港湾における高潮の数値予報も成果をあげつつある。　〔相原正彦〕

たかしなたかかね　【高階隆兼】　鎌倉末期の画家。伝記は不詳であるが，宮廷の絵所預(えどころあずかり)をつとめ，右近将監(うこんしょうげん)であった。1309年(延慶2)春日(かすが)神社に奉納された《春日権現霊験記》の筆者として有名であるが，このほか《石山寺縁起絵巻》の第1～3巻，《法相宗秘事絵詞(えことば)》などもその作風から彼の筆と伝えられ，いずれも大和絵(やまとえ)の一典型をなしている。

たかしましゅうはん　【高島秋帆】　(1798～1866)　江戸末期の砲術家。通称四郎太夫，名は舜臣(きみおみ)，字(あざな)は茂敦(しげよし)，秋帆は号。父の職を継いで長崎町年寄・会所調役をつとめ，西洋の砲術を学び，多くの蘭書(らんしょ)や火器を輸入してこれを実地に試み，大砲を鋳造し，日本最初の西洋砲術高島流を開いた。阿片(あへん)戦争*の勃発(ぼっぱつ)を知って幕府に洋式砲術の採用を建議し，1841年(天保12)江戸に出て徳丸原(現在の東京都板橋区)で砲術の演習を行なって大いに名をあげ，江川太郎左衛門*(たろうざえもん)らに砲術の秘伝を伝えた。翌年，鳥居耀蔵*(ようぞう)の讒訴(ざんそ)により投獄されたが，1853年(嘉永6)ペリー*の来航とともに釈放され，江川のもとで大砲製造や品川の台場*の構築に従い，のち講武所砲術師範役・具足奉行(ぐそくぶぎょう)格に任ぜられた。幕末の砲術家はほとんどその指導下に生まれた。　〔岡山泰四〕

たかしまたんこうじけん　【高島炭鉱事件】　1878年(明治11)長崎県西彼杵(そのぎ)郡高島町にある高島炭鉱で起こった労働者の暴動事件。ここではおもに囚人の労働者を使用し，雇用労働者も納屋制度という劣悪な労働条件に苦しめられていた。加えて同年経営困難による首切り・減給が行なわれたため，労働者の暴動が起こり，100余人が逮捕された。言論界は重大な社会問題としてこの事件を取り上げて，世論をあおり，政府もついに会社側に対し待遇改善を勧告するに至った。　〔応和邦昭〕

たかしまや　【高島屋(株)】　三越と並ぶ百貨店業界の老舗(しにせ)。売上高は三越・大丸に次ぐ。1831年(天保2)京都烏丸(からすま)に呉服店として開業，1909年(明治42)合名会社高島屋飯田(いいだ)に改組，さらに1919年(大正8)資本金300万円で高島屋呉服店を名のり，1930年(昭和5)に現商号となる。店舗は大阪・東京・京都・堺(さかい)のほか横浜・米子(よなご)などに姉妹店をもつ。東京近郊に駐車場を完備したショッピングセンター玉川高島屋を開くなど，目新しい経営企画を積極的に打ち出している。資本金105億5,900万円，年間売上高3,750億1,400万円，従業員数8,396(1980年8月)。

たがじょう　【多賀城】　大和(やまと)朝廷の蝦夷*(えぞ)経営の本拠地となった古代の城柵(じょうさく)。宮城県宮城郡多賀城町に城跡(特別史跡)が現存する。外城は東西に900m，南北に1,100mを有する大城郭であった。多賀城碑には724年(神亀1)修築とあるが，確かではない。奈良時代にはここに陸奥*(むつ)国府と鎮守府が置かれ，秋田城*とともに蝦夷の中心地となった。802年(延暦21)坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)が胆沢(いざわ)城*に鎮守府を移してからは国府として栄え，前九年の役*・後三年の役*には源頼義(よりよし)の拠点となった。南北朝時代には北畠顕家*(きたばたけあきいえ)が義良(よしなが)親王を奉じて在城した。室町時代に至って足利(あしかが)氏の一族である奥州(おうしゅう)探題大崎氏の居城となったが，廃絶年代は不明である。　〔西ケ谷泰弘〕

たがじょう　【多賀城(市)】　宮城県中東部の市。人口49,000。南北を仙台(せんだい)・塩竈(しおがま)両市にはさまれて東西に細長く，七北田(ななきた)川北岸の沖積(ちゅうせき)平野と背後の丘陵部を占める。724年(神亀1)，鎮守府として築かれた多賀城*址(じょうし)が北部の市川にあり，礎石や布目瓦(がわら)が発掘されている。1971年(昭和46)11月，宮城

郡多賀城町が市制施行。産業三大別人口比は5：30：65。もと農村地帯であったが，最近は仙塩工業地帯の一郭として，旧海軍施設跡や国道45号線沿いに精密機器・金属などの工場が進出し，また南東の長浜（仙台市）には仙台湾新産業都市の仙台工業港も建設され，近代工業都市として発展している。東北本線・仙石線・国道4号線仙台バイパス・45号線が通じ，交通の便に恵まれ，仙台・塩竈方面への通勤者住宅も増加している。多賀城址のそばに日本三古碑の一つ〈壺(つぼ)の碑〉があり，南部には《古今集》で知られる〈末の松山〉の古跡がある。

たかすぎしんさく　【高杉晋作】　（1839～1867）　長州藩士で，幕末の尊攘派(そんじょうは)志士。名は春風。通称晋作，東一などといった。1857年（安政4）松下村塾(じゅく)にはいり吉田(よしだ)松陰に師事した。のち尊攘運動に投じて，1862年（文久2）久坂玄瑞(げんずい)らと品川御殿山のイギリス公使館を襲撃，翌年，下関(しものせき)における長州藩の外国船砲撃事件後，奇兵隊を編成して民兵に近代的軍事訓練を施し軍備を充実した。のち藩内保守派が藩政を掌握したため脱藩し，1865年（慶応1）奇兵隊ら諸隊を率いて下関に挙兵，藩内保守派を追い出して藩の主導権を掌握して藩政を改革し，藩論を討幕に向かわせた。1867年馬関で病死。〔松尾　涼〕

たかせがい　【高瀬貝】　軟体動物・腹足類・ニシキウズガイ科の大形種のサラサバテイラの商品名。殻高(かくこう)10cm，殻径12cmの円錐(えんすい)形で，殻底は平ら。老成すると体層の周縁が丸くふくらみ広がる。殻表には緑色から紫紅色の電光状の彩色がある。殻口内は強い真珠光沢がある。奄美(あまみ)諸島以南の太平洋・インド洋の熱帯海域の浅海の岩礁にすむ。貝殻は貝細工やボタンの材料となる。

たかせがわ　【高瀬川】　槍ケ岳(やりがたけ)の北面から発し，峡谷をつくって北流，松本盆地北部から南下して犀(さい)川に合流する。長さ80km。峡谷には発電所が設けられ，流れに臨んで葛(くず)温泉がある。

なお，森鷗外(おうがい)の小説《高瀬舟》で知られる高瀬川は1614年（慶長19）に角倉(すみのくら)了以によって開削された鴨(かも)川の分流で，二条に発して伏見の京橋で淀(よど)川にはいり，底の浅い高瀬舟を人が引いて京都～伏見の往来輸送に利用された。いまも部分的に残っている。〔長津一郎〕

たかだ　【高田】　上越市の南部地区。北国街道と奥州街道の分岐点として，中世から近世にかけては現在の直江津にあたる今町を外港として栄えた。戦国時代には上杉(うえすぎ)謙信が，北西部に春日(かすが)山の城下町を築き，江戸初期には徳川家康(いえやす)の六男松平忠輝(ただてる)の六十万石あるいは七十五万石といわれる大藩の城下となって高田城が築かれたが，1616年（元和2）の改



高杉晋作
日和山公園（下関市）にある立像



タカセガイ



高　田　雪どけを待つ高田の町。道路わきにかき上げられた雪はまだ背たけほどもある。雪国の人の春を待ち望む気持はひとしおである



多賀大社　本殿

易後は，たびたび城主が代わり，幕末には榊原(さかきばら)氏十五万石の城下町であった。明治以後は，第13師団が設置されて軍都として発展し，1911年（明治44）市制施行。旧高田市の市域は，高田平野の中央部を流れる荒川下流の沖積地(ちゅうせきち)にあり，旧本丸跡・内堀(うちぼり)・外堀・武家屋敷・町人町・寺町など，城下町の古い町並みが保存されている。全国有数の積雪地として知られ，雁木(がんぎ)づくりで，間口の狭い家々が立ち並ぶ独特の景観を呈する。高田平野の米その他の農産物を集散し，農機具・農産加工業が行なわれ，最近は頸城(くびき)天然ガス田の開発によって化学工業が興っている。信越本線・国道18号線が通ずる。南西方の金谷山(かなやさん)スキー場は，わが国のスキーの発祥地として知られる。高田城跡の夜桜は日本三夜景の一つといわれ，ここに新潟(にいがた)大学教育学部高田分校が置かれている。また県立盲学校は，1891年（明治24），目をわずらった眼科医大森隆硯(りゅうけん)の呼びかけで私立訓矇(くんもう)学校として発足した古い歴史をもつ。わが国の郵便制度の創始者前島密(ひそか)はこの地の出身で，その生誕地に前島記念池部(いけべ)郵便局・前島記念館がある。特産にはスキー・パテンレース・高田焼き・笹(ささ)あめなどがある。高田地区の人口は75,000。➔上越市〔浅井得一〕

たがたいしゃ　【多賀大社】　滋賀県犬上郡多賀町にある。祭神は伊弉諾尊(いざなぎのみこと)・伊弉冉尊(いざなみのみこと)。《古事記》その他の古記録に名がみえ，古代の創建にかかることを示している。古くから長寿の神として尊崇あつく，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の母大政所(おおまんどころ)の病気の際に一万石が奉納されるなど，皇室をはじめ武家・庶民の信仰にささえられて，室町時代には〈お伊勢(いせ)7度，熊野(くまの)へ3度，お多賀さまへは月参り〉の俗謡をはやらせたほどである。例祭は4月22日。〔佐野文哉〕

たかださなえ　【高田早苗】　（1860～1938）　教育家・政治家。東京都出身。1882年（明治15）東京大学文学部卒業後，大隈重信(おおくましげのぶ)の創設した東京専門学校（早稲田(わせだ)大学の前身）の設立に小野梓(あずさ)とともに参画し，その経営にあたった。1902年以降早稲田大学の学監・学長・総長をつとめ，同大学の発展に貢献した。また，1890年以来4期衆議院議員に当選し，大隈内閣のもとで外務省・文部省の要職につき，1915年（大正4）第2次大隈内閣の文部大臣をつとめた。〔安達淑子〕

たかだじけん　【高田事件】　明治初期の自由民権運動に対する弾圧事件。新潟県高田地方の頸城(くびき)自由党の党員，長谷川(はせがわ)三郎は，1883年（明治16）3月富山県高岡で開催された北陸七州自由党懇談会で，官憲とつながっていることを暴露されたため，頸城自由党員赤井景昭らに大臣暗殺，内乱の陰謀があると密告した。このため赤井ら30名余は逮捕され，赤井は〈天誅党(てんちゅうとう)主意書〉を証拠に，禁錮(きんこ)9年に処せられ，のち脱獄したため死刑となった。北陸地方の自由民権運動はこの事件により大きく挫折(ざせつ)した。〔応和邦昭〕

たかたたもつ 【高田保】(1895～1952) 劇作家・随筆家。茨城県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科を卒業，在学中から新劇運動に興味を寄せ，1924年(大正13)《天の岩戸》で劇作家として出発，新国劇の脚色・演出にもあたった。昭和初年新築地(しんつきじ)劇団に参加，小林多喜二*の《蟹工船*(かにこうせん)》の脚色をするなど，一時は左傾したが，まもなく新国劇にもどった。第2次世界大戦後はエッセイストとして活躍。著作に《ブラリひょうたん》がある。

たかだまさお 【高田雅夫】(1895～1930) 舞踊家。鹿児島県生まれ。帝劇歌劇部第2期生としてローシーの教えを受ける。1920年(大正9)〈根岸歌劇団〉に参加し，浅草オペラで活動。1922年アメリカに渡り，タラソフにクラシックバレエを学ぶ。1924年帰国後，妻せい子とともに《火焔(かえん)の舞》《月下の葬》《影》を創作・上演。石井漠*(ばく)とともにわが国洋舞の草分けとして活躍した。

たかだやかへえ 【高田屋嘉兵衛】(1769～1827) 江戸後期の海運業者・蝦夷(えぞ)地(北海道)開拓者。淡路(兵庫県)で回漕(かいそう)業を経営し，西国・北国・蝦夷地に回漕して巨利を得た。1799年(寛政11)択捉(えとろふ)島航路を開き同島に漁場を開設。1801年(享和1)蝦夷地定雇船頭，1806年(文化3)蝦夷地産物売捌方(うりさばきかた)，1810年択捉場所請負となった。箱館(はこだて)を本拠に大船で各地と取引を行ない，1812年ロシアの航海家ゴロブニン幽囚の報復として国後(くなしり)島沖でロシア兵に捕えられ，カムチャツカに連行されたが，翌年帰国しゴロブニン釈放に尽力して，日露間の紛争解決に貢献した。〔松尾　涼〕

たかちほ 【高千穂(町)】 宮崎県西臼杵(にしうすき)郡に属し，県の北部，五ヶ瀬川上流部にある町。人口20,000。国道218号線が通り，熊本・延岡からバスの便がある。わが国の建国にまつわる伝説の地で，天香具山(あまのかぐやま)・国見丘(くにみがおか)などの地名が残る。中心集落の三田井付近には阿蘇(あそ)溶結凝灰岩をうがつ高千穂峡*がある。年中行事の夜神楽(よかぐら)(12～1月)が名高い。

たかちほきょう 【高千穂峡】 宮崎県北西部，五ヶ瀬川上流の三田井付近の峡谷と，支流の岩戸川の峡谷とを含む約4kmの長さに及ぶ渓谷(けいこく)。西臼杵(にしうすき)郡高千穂町に属する。阿蘇(あそ)火山の溶岩を侵食してできた深い侵食谷で，両岸の絶壁には安山岩の美しい柱状節理がみられ，奇岩と滝と深淵(しんえん)などがあり風光にすぐれ，特に新緑や紅葉のころが美しく，祖母傾(そぼかたむき)国定公園の一中心をなしている。

たかちほのみね 【高千穂峰】 宮崎県の南西端，鹿児島県をまたがる霧島火山群の南東にそびえる円錐(えんすい)形の火山。高さ1,574m。主峰はピラミッド形の山容で，東・西両側に寄生火山をもち，西の御鉢(おはち)火山には直径約500m，深さ150mの噴火口がある。天孫降臨にまつわる建国伝説の地で，ふもとの南西部に霧島神社，東部に霧島東神社がある。



高千穂峡 安山岩の柱状節理でできたみごとな谷壁が続き，途中から地下水の吹き出した滝がかかって独特の峡谷美を見せる



高千穂峰 韓国岳より望んだ高千穂峰。丸い噴火口縁から白煙を上げているのは新燃岳で，その左手前は獅子戸岳

たかつかさけ 【鷹司家】 五摂家*の一。近衛(このえ)家から分かれ，近衛家実(いえざね)の4男兼平を祖とする。邸宅が鷹司室町にあったことから鷹司と称した。兼平は摂政・関白・太政(だじょう)大臣となり，以後，近衛・九条・一条・二条とともに五摂家の一つと称された。明治時代になって公爵を授けられた。

たかつき 【高坏】 皿(さら)・椀(わん)に足をつけたもの。弥生(やよい)時代の赤焼きの高坏，古墳時代の須恵(すえ)器*の高坏などもあるが，おもに平安時代から室町時代にかけて漆器が多く用いられ，蒔絵(まきえ)が施された。一般には中央に飯を盛り，その周囲に菜を添えて用いた。のち神仏の具となった。円高坏と角高坏の別があるが，角高坏が正式とされる。

たかつき 【高槻(市)】 大阪府北東部の市。人口33万6,000。江戸時代には永井(ながい)氏三万六千石の城下町高槻，西国街道の宿場町芥川(あくたがわ)が並び，現在も中心市街をなしている。明治末期，高槻城跡に工兵連隊が置かれて以来軍都として発展し，第2次世界大戦後は近代工業が興った。1942年(昭和17)市制施行，のち数次にわたって周辺の町村を編入したが，1958年に京都府樫田(かしだ)村を編入したのは全国最初の県外町村合併である。市域は北部の老ノ坂山地と南部の檜尾(ひお)川・芥川のつくる扇状地を含む。産業三大別人口比は1：42：57。大阪の北部工業地帯の一画を占め，産業道路沿いに製薬会社や専売公社などの大工場が立ち並ぶ。大阪・京都両市の衛星住宅都市としても発展し，また大阪医科大学や，京都大学化学研究所・同地震研究所など，学校や教育関係施設が多い。東海道本線・京阪神(けいはんしん)急行電鉄京都線が通じ，国道171号線をはじめとする道路も四通八達している。芥川の上流部の摂津峡，戦国時代のキリシタン大名高山右近が建てた天主教会遺跡などの名所史跡に富む。

だがっき 【打楽器】 打ったり，振ったりして鳴らす楽器の総称。日本の楽器では打物(うちもの)とよばれることもある。しかし，打弦のピアノのように打奏の楽器のすべてが打楽器とよばれるわけではない。科学的な楽器分類の体鳴楽器*・膜鳴楽器*の大部分は，慣例的な分類では打楽器に含まれる。打楽器を細分類する一つの方法は，音の性質によって，明確なピッチ(音高)をもつものと，不確定ピッチ(いわゆる騒音・雑音)をもつものに分けることである。ピッチの明確なものとしては，ティンパニのように少数の音しか区別できないものや，グロッケンシュピール(鉄琴)・木琴・チャイムやガムラン音楽の楽器の多くのものなどのように多数の音を奏することができて，旋律打楽器とよばれるものがある。ピッチの不明確なものとしては，小太鼓・大太鼓・タンバリン・トライアングル・シンバル・タム-タム(ゴング)などのオーケストラ楽器や，カスタネット・ガラガラ・ウッドブロック・鐘・銅鑼(どら)(ゴング)・祭太鼓・締太鼓(しめだいこ)・鉦(かね)・ささら・ムリダンガム・タブラ-バヤなどの民俗楽器や東洋の楽器などがある。これらの中には，旋律的とはいえないにしても，いくらかピッチの区別をしたり，音色・音量の多様性を求めたりすることが一つの楽器の中で行なわれるものもある。〔山口　修〕

だがっきしゅぎ 【打楽器主義】 現代音楽の傾向の一。バルトークやヒンデミットにおけるピアノの打楽器的使用，あるいはオネゲルやプロコフィエフの管弦楽における機械運動的な要素の導入を先駆として，さまざまな打楽器を中心的に用いるものが現われた。初期の代表作としてはアンセイルの《バレエ-メカニック》(1924)，バレーズの《イオニザシオン》(1931)，メキシコのチャベスの《トッカータ》(1942)などがあげられ，第2次世界大戦後は，音高の不確定

さ，音色・音量変化の多様性のために，打楽器のアンサンブルが見なおされ，新しい作品や専門の演奏団体も生まれている。
〔徳丸吉彦〕

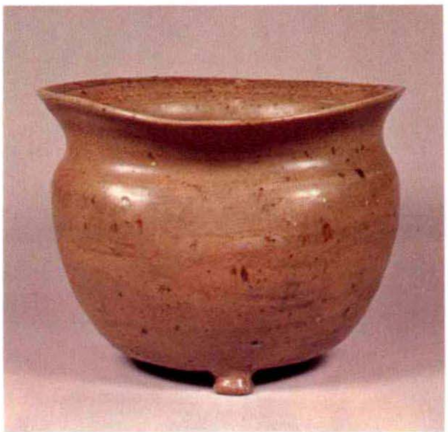
たかとお　**【高遠(町)】**　長野県の南東部，上伊那(かみいな)郡の町。人口9,100。伊那盆地の北東部，天龍(てんりゅう)川支流の三峰(みぶ)川の渓谷部(けいこくぶ)を占める。江戸時代には，元禄(げんろく)以後内藤氏三万三千石の城下町として繁栄し，大奥の年寄江島(絵島)の流刑地としても知られた。1912年(大正1)に開通した飯田(いいだ)線(旧伊那電鉄)がここを通らなかったため，発展が遅れ，近代工業はふるわないが，付近の農産物を集散して商業活動は活発である。杖突(つえつき)街道を走る国鉄バスで伊那・茅野(ちの)・上諏訪(かみすわ)の各市と結ばれる。

たかとり　**【高取(町)】**　奈良県高市郡，奈良盆地南端に位置する町。人口9,200。平地部では農業，山間部では林業が主産業をなす。中心地区土佐は国道169号線に沿い，江戸時代は植村氏二万五千石の城下町で，明治以後西隣の御所(ごせ)市とともに大和(やまと)売薬の中心地となっている。南部の高取山(583m)の山頂にある高取城は南北朝時代以来の歴史をもつ山城で，幕末には，天誅組*(てんちゅうぐみ)の攻撃を受けたが撃退した。また，山腹に浄瑠璃(じょうるり)《壺坂霊験記(つぼさかれいげんき)》で知られる壺坂寺*がある。近畿(きんき)日本鉄道吉野(よしの)線が通ずる。

たかとりやき　**【高取焼】**　筑前(ちくぜん)(福岡県)に桃山時代に興った陶芸。1600年(慶長5)ごろ，筑前の領主黒田長政(ながまさ)が朝鮮からの帰化陶工高取八山(のちに八蔵と称した)に命じて，鞍手(くらて)郡鷹取(たかとり)山のふもとに築窯させたのが始めという。高取焼は，中国・九州地方に始まった朝鮮系統の窯芸の一つで，焼造地はのちに内が磯(いそ)(直方(のおがた)市)・山田(山田市上山田)・白旗山(飯塚(いいづか)市)・小石原(こいしわら)(朝倉郡)と移った。桃山期の遺例はきわめて少なく，窯跡(かまあと)から発見された陶片によって，つぼ・はち・さら・水差しなどの日常用器を主とし，あわせて茶入れなどの茶陶も焼いたことが知られる。それらは白釉(はくゆう)・黒釉・褐釉(かつゆう)などが施されて，おおむね唐津陶(からつとう)に類した作風を示し，いわゆる遠州七窯*の一つにあげられて茶陶窯として有名である。
〔矢部良明〕

たかな　**【高菜】**　アブラナ科の一年生ないし二年生の野菜で，カラシナ*類の一種。カラシナ類と同じく茎葉に辛み成分をもっており，特に葉柄や葉身が長大になり，つけ物として利用することが多い。九州の高菜づけは古くから有名である。

たかなべ　**【高鍋(町)】**　宮崎県の中東部，児湯(こゆ)郡の町。人口22,000。日向灘(ひゅうがなだ)に注ぐ小丸(おまる)川の河口付近一帯を



高取焼《袋形水指》出光美術館蔵

占める。古くは財部(たからべ)とよばれ，江戸時代には秋月氏三万石の城下町として発展した。宮崎平野北部の物資集散地で，サツマイモ・茶・アルコール・蔬菜(そさい)などの産がある。日豊本線・国道10号線が通ずる。

たがね　**【鏨】**　彫金に用いる鋼鉄製の刃物。〈のみ〉のように柄に頭をつくり，この部分を鎚(つち)で打って金属に截文または刻彫する。用途により刃の形状は多種にわたるが，基本は平・角・丸の3種で，なめくり彫りに用いる刃の先が薄く平らな〈なめくり鏨〉，先が三角にとがった線彫用の〈しぶ鏨〉，魚々子(ななこ)文様をうつための〈魚々子地鏨〉などがある。

たかねざくら　**【高嶺桜】**　双子葉植物・バラ科のミネザクラの別名。➔ミネザクラ

たかねひかげ　**【高嶺日陰蝶】**　こん虫類・鱗翅(りんし)目・ジャノメチョウ科。翅(はね)を広げた長さ48mm内外。淡かっ色で，前翅と後翅の外縁沿いに淡い柿色(かきいろ)の帯があり，この中に数個の蛇(じゃ)の目紋がある。雄は前翅中央部に性標である黒かっ色の発香鱗(はっこうりん)をもつ。前翅は細くて先端がとがり，外縁はかなり丸く張り出す。成虫は北アルプス・八ケ岳の高山帯に生息し，山頂や鞍部(あんぶ)の礫(れき)地帯に多い。飛び方は弱々しく，止まるときには横倒しになる習性があり，花には飛来しない。日照に敏感で，日がかげるとすぐ活動をやめる。幼虫はヒメスゲ・イワスゲなどを食べ，2年越冬して3年めの7～8月に羽化する。日本特産種で，北海道大雪山には本種に近縁のダイセツタカネヒカゲを産する。
〔多々内修〕

たかのす　**【鷹巣(町)】**　秋田県の中北部，北秋田郡に属する町。人口25,000。米代(よねしろ)川中流流域の鷹巣盆地の中心集落で，上流山間部の木材を集散して製材業が盛んで，阿仁(あに)田沢総合開発の関門的位置を占めている。1950年(昭和25)に中心街の大部分が焼失したが，幅20～30mの整然とした街路をもつ都市計画を立てて復興した。奥羽本線と阿仁合線・国道7号線(羽州街道)と105号線(五城目街道)の分岐点にあたる。

たかのすじゅう　**【高野素十】**　(1893～1976)　俳人。茨城県生まれ。本名与巳(よしみ)。東京大学医学部卒，医学博士。新潟医大学長を経て奈良医大教授をつとめた。俳句は高浜虚子に師事し，東大俳句会で活躍，のち水原秋桜子*・山口誓子*・阿波野青畝*(あわのせいほ)とともに《ホトトギス*》の4Sと称せられた。師の最も信頼あつい弟子(でし)として〈客観写生〉を実践し，即物的で簡明な句風を示す。句集に《初鴉(はつがらす)》《雪片》《野花集》などがある。俳誌《芹(せり)》を主宰。
〔金子　博〕

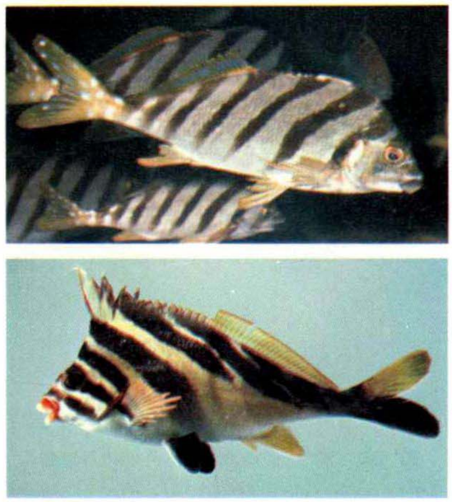
たかのちょうえい　**【高野長英】**　(1804～1850)　江戸後期の蘭学者(らんがくしゃ)・医者。陸奥(むつ)(岩手県)の人。17歳で江戸に遊学。蘭医杉田(すぎた)玄白，次いで吉田(よしだ)長叔の門にはいってオランダ内科を学ぶ。22歳のとき長崎に遊学し，2年間ドイツの医師シーボルト*の鳴滝塾(なるたきじゅく)に学んだ。1828年(文政11)シーボルト事件*が起こったが，薩摩(さつま)(鹿児島県)に逃げて連座を免れた。1830年(天保1)江戸麹(こうじ)町に移り，医療・翻訳に従事するかたわら，1833年ごろから渡辺崋山(わたなべかざん)・小関三英らと尚歯会(しょうしかい)を結成し，政治経済・西洋事情について研究，《二物考》《避疫要法》を著わして飢饉(ききん)・悪疫対策を論じた。1838年イギリス船モリソン号来航の風聞を聞き，《夢物語》を著わして幕府の攘夷論(じょういろん)を批判したため，翌年捕われて終身禁錮(きんこ)の判決を受けた。1844年(弘化1)獄の火災に乗じて逃亡。各地を転々として，1848年(嘉永1)には伊予(いよ)宇和島藩の訳官となり，さらに薬品によって顔貌(がんぼう)を変じ江戸に帰った。当時，西洋の兵式が盛んであったので兵書・砲術書を翻訳してその需要に応ずる一方，医療を業としたが，1850年ついに捕吏に襲われ自殺した。
〔大鳥蘭三郎・島田貫太郎〕

たかのつめ　**【鷹爪】**　双子葉植物・ウコギ科。イモノキともいう。山地性の落葉高木で，高さ10mに達する。葉は3小葉からなる掌状複葉で，小葉は長さ5～12cm，幅3～6cmの卵形で先端がとがり，細かい鋸歯(きょし)がある。小葉の柄はほとんどないが葉柄は5～10cmある。5～6月，葉腋(ようえき)から長い柄を出し，黄緑色の小花を多数散形につける。果実は黒色の石果で，頂に花柱が残っている。

なお，双子葉植物・ベンケイソウ科のオノマンネングサの別名もタカノツメという。これは山地の岩地に自生する肉質多汁(たじゅう)の多年生草本で高さ30cm，葉は長さ15～30cmで3～4輪生する。花は黄色5弁花で5～6月ごろ咲く。また，ナス科のトウガラシにもタカノツメという1品種がある。
〔加藤僖重〕

たかのはだい　**【鷹之羽鯛】**　硬骨魚類・

タカノハダイ科。全長40cmほどの海産魚。東京でタカノハ・タカッパ，高知県でヒダリマキ，宇和島でキコリ，下関(しものせき)でセンチフキなどとよばれる。わが国のタカノハダイ科のうちでは最も普通のもので，尾びれに白色円紋のあるのが著しい特徴。日本の本州中部以南，東シナ海・台湾に分布し，沿岸性で岩礁の間に生息する。幼魚は潮だまりにはいることもある。磯(いそ)臭いので食用としての価値は低い。この科の魚には，このほかミギマキ・ユウダチタカノハが知られるが，ともにタカノハダイよりやや南方系のものである。美しい体色をしているのでタカノハダイよりも珍重されるが，いずれも食用価値はない。〔安田富士郎〕



タカノハダイ(上)タカノハダイ(下)ミギマキ

たかのふさたろう【高野房太郎】(1868～1904) 日本の労働運動の先駆者。長崎県出身。横浜商業学校卒業。1886年(明治19)渡米してゴンパーズ*に啓発され，同地日本人と職工義友会を組織して労働問題を研究。1896年帰国して横浜の日刊英字新聞《ジャパン-アドバタイザー》の記者となり，翌年城常太郎・沢田半之助らの労働組合期成会*・鉄工組合*の結成に協力した。また1899年消費組合共営社を東京に設立した。のち中国に去り，青島(チンタオ)で死去。〔安達利夫〕

たかはぎ【高萩(市)】 茨城県北東部の市。人口33,000。明治中期以降，常磐(じょうばん)炭田の開発によって炭鉱都市として発展し，1954年(昭和29)市制施行。市域は西方の多賀山地の稜線(りょうせん)から丘陵地・台地・低地としだいに高度を減じ，東は太平洋に面する。産業三大別人口比は14：43：43。数十年にわたって石炭採掘が主産業であったが，最近の不況によってパルプその他の近代工業の振興を図っている。南部の花貫(はなぬき)川流域や北東部の大北川・関根川流域には水田があるが，市域の80%近くを山林が占めて製材業・木材加工業やシイタケの栽培が行なわれる。1968年には国際衛星通信機構の基地として茨城衛星通信所標準地球局が完成した。海岸付近を常磐線・国道6号線が南北に平行して走り，日立市・いわき市(福島県)と密接に結ばれる。白砂青松の海岸は海水浴場・キャンプ場としてにぎわい，大北・花貫の両渓谷(けいこく)は新緑・紅葉のながめがよい。江戸時代の地理学者長久保赤水の生家がある。

たかはし【高梁(市)】 岡山県中西部の市。人口28,000。もと松山とよばれたが，明治初年，愛媛県松山市との重複を避けるため現在の名に改称した。中世には守護が置かれ，江戸時代は安藤氏，のち板倉氏五万石の城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。市域の大半は吉備(きび)高原上に位置し，中心市街は高梁川*の谷に発達する。産業三大別人口比は27：30：43。周辺農業地域の物資を集散し，備中(びっちゅう)ウシの産地で，牛市が名高い。専売公社のたばこ工場をはじめ，経木・モール・バスケット類の中小工場がある。伯備線・国道180号線が通じる。北部の臥牛(がぎゅう)山上にある松山城は，現存する山城として希少なもので，天守閣・二重やぐらが重要文化財に指定されている。頼久寺庭園・薬師院本堂，天然記念物の野生ザル自然公園などの名所史跡に富む。

たかはしうじぶみ【高橋氏文】 平安初期，代々内膳奉膳(ないぜんのぶぜん)(内膳司の長官)として仕えた高橋氏(旧姓膳(かしわで)氏)が，同僚の安曇(あずみ)氏とその地位を争った際，自己の主張を貫くため自家の由緒(ゆいしょ)を書きしるして朝廷に提出したもの。《政事要略》《本朝月令》に逸文として伝わるが，これらによって全文がほぼ復元される。

たかはしがわ【高梁川】 岡山県北西部の中国山地明地峠付近に発し，南東に流れて高梁市南部で成羽(なりわ)川を合わせ，岡山平野の西部を南下して瀬戸内海の水島灘(みずしまなだ)に注ぐ。長さ120km。流域各地へ飲料水・工業用水・農業用水を供する。近世から明治時代にかけては川辺(かわべ)川とよばれ，高瀬舟水運が盛んであったが，伯備線の開通によって衰えた。

たかはしこれきよ【高橋是清】(1854～1936) 政治家で，金融財政の指導者。江戸の絵師の家に生まれ，1892年(明治25)日本銀行にはいるまで波乱に富んだ前半生を送る。1898年日本銀行副総裁となり，日露戦争のために8億円余の外債募集に成功。その後横浜正金銀行頭取・日本銀行総裁を経て，1913年(大正2)第1次山本内閣の蔵相となり，立憲政友会に入党。1921年原敬(たかし)首相暗殺により後継首相に任命され，政友会総裁を引き継いだが失敗した。これによって政党内閣を再び藩閥に奪われたため，1924年護憲運動の先頭に立たされ，加藤高明*の護憲三派内閣の農商務相に就任したが，1925年政友会総裁を田中義一に譲って政界を引退した。1927年(昭和2)再出馬して田中内閣の蔵相となり，金融恐慌にあたっては支払い猶予令*を採用しこれを鎮静した。以後犬養毅(いぬかいつよし)・斎藤実(まこと)・岡田啓介の3内閣の蔵相をつとめたが，軍部の急進政策と合わず，1936年二・二六事件*で暗殺された。〔安達利夫〕

たかはしさとみ【高橋里美】(1886～1964) 哲学者。山形県の生まれ。東京大学哲学科卒。1912年(明治45)西田幾多郎*の《善の研究》への最初の本格的批評である《意識現象の事実と其意味》を《哲学雑誌》に発表，一躍哲学界に名を知られた。その後第六高等学校・新潟高等学校教授を経て1915年(大正4)東北大学助教授。1925年から2年間フッサールらのもとに留学，帰国して教授となる。新カント派・現象学を研究，さらにヘーゲル・西田幾多郎・田辺元の哲学と対決して，愛を意志の包越的根源とする〈包弁証法的全体性〉の独創的哲学体系をつくりあげた。著書《全体の立場》《体験と存在》《歴史と弁証法》《包弁証法》は哲学体系への思想の深化を示す論文集である。ほかに《現代の哲学》《フッセルの現象学》《認識論》《哲学の本質》《私の哲学と人生観》《人生と宗教》がある。〔中川　誠〕

たかはししんきち【高橋新吉】(1901～) 詩人・美術評論家・仏教研究家。愛媛県の生まれ。八幡浜(やわたはま)商業学校中退。1922年(大正11)《ダダの詩三つ》を《改造*》に発表，翌年詩集《ダダイスト新吉の詩》を刊行して詩壇の注目を集め，萩原(はぎわら)恭次郎*とともにダダイズム詩人と目された。のち《戯言集》あたりから仏教に関心を示すようになり，第2次世界大戦後は結婚による生活の落ち着きの中で詩作を続けている。また半自伝的な短編小説集《猩猩(しょうじょう)》がある。〔池内輝雄〕

たかはしのむしまろ【高橋虫麻呂】 奈良期の歌人。生没年不詳。姓(かばね)は連(むらじ)。下級官吏で，東国に赴任したらしいが経歴不明。歌は732年(天平4)藤原宇合(うまかい)が西海道節度使として下るときに贈った長歌と反歌各1首が《万葉集*》巻6に確かな作で，他はすべて〈高橋虫麻呂歌集中にいづ〉とある歌が彼の作と考えられている。伝説や旅の歌が多い。

たかはしゆいち【高橋由一】(1828～1894) 洋画家。江戸の生まれ。初め狩野(かのう)派を学んだが，幕府蕃書(ばんしょ)調所の画学局にはいり，川上冬崖*(とうがい)に師事。また，ワーグマンの指導を受けた。維新後大学南校の画学教官を経て，1873年(明治6)天絵楼画塾(じゅく)を開き，多くの門人を養成。身近な魚貝・厨房(ちゅうぼう)道具類を徹底した写実で描いた。油絵らしい油絵をはじめて描いた明治初期の代表的洋画家。

たかはた【高畠(町)】 山形県の南東部，東置賜(ひがしおきたま)郡の町。人口28,000。米沢(よねざわ)盆地東部の物資集散地で，古くから屋代(やしろ)郷として知られた。中世後期に伊達(だて)氏の居城が築かれ，江戸時代には米

沢藩の城代が置かれたが，のち幕府の直轄領となって代官所があった。酪製品・製糸・製材業が行なわれ，付近は洋ナシの産地である。奥羽本線糠ノ目(ぬかのめ)駅から山形交通の電車が通じ，国道113号線に沿う。

たかばたけもとゆき 【高畠素之】(1886～1928) 社会思想家。群馬県前橋の出身。同志社大学中退。1911年(明治44)堺利彦(さかいとしひこ)らの売文社*に入社して，マルクス主義の紹介に努めた。1918年(大正7)国家社会主義に転向し，北一輝・大川周明らと老壮会，1922年上杉(うえすぎ)慎吉*と経綸(けいりん)学盟を結成。また大衆社を興し，関係雑誌を発刊した。1924年わが国ではじめてマルクスの《資本論*》の翻訳を完成した。

たかはま 【高浜(市)】 愛知県南西部の市。人口32,000。江戸時代には三州瓦(さんしゅうがわら)の特産で知られた。碧海(へきかい)郡高浜町が1970年(昭和45)に市制施行。市域は知多湾が北へ深く湾入した衣ケ浦湾東岸に広がり，北・東・南の三方はそれぞれ刈谷(かりや)・安城・碧南の3市と接する。産業三大別人口比は5：65：30。三州瓦の伝統を引き継いだ窯業が盛んで，養鶏専業農家も多い。近年は衣浦(きぬうら)臨海工業地帯の一環として近代工業が発展し，高浜港は半田・武豊(たけとよ)・亀崎(かめざき)・刈谷などの各港と統合されて衣浦港となり，重要港湾に指定されている。名古屋鉄道三河線に沿い，衣浦大橋が衣ケ浦湾をまたいで知多半島東岸の半田市と結ぶ。交通の便に恵まれ，最近は名古屋をはじめ近隣各都市への通勤者が急増し，住宅開発が進んでいる。

たかはま 【高浜(町)】 福井県大飯(おおい)郡の町で県の最西端に位置し，京都府の舞鶴(まいづる)市と接する。人口12,000。町域は若狭(わかさ)湾に臨み，高浜・和田の海岸は白砂青松の景勝地として知られ海水浴場となっている。小浜線・国道27号線(丹後街道)が通じている。西部の内浦地区には，関西電力の原子力発電所の建設が進められている。

たかはまきょし 【高浜虚子】(1874～1959) 俳人・小説家。愛媛県松山市の生まれ。本名清。伊予(いよ)中学時代に級友河東碧梧桐*(かわひがしへきごとう)を介して正岡子規*を知り，文通。のち碧梧桐とともに第二高等学校を中退，上京して子規に師事し，その俳句革新運動を助けた。また，松山で経営難に陥っていた《ホトトギス*》を東京に移し，発行を続けた。子規の没後は碧梧桐と対立。1904年(明治37)《連句論》で連句文芸の再認識を説いたりしたが，やがて《ホトトギス》誌上に連載された夏目漱石*(そうせき)の《吾輩(わがはい)は猫(ねこ)である*》の好評に刺激されて小説に移り，《鶏頭》などを発表。1913年(大正2)再び俳壇にもどり，碧梧桐の新傾向運動に反対して，定型・季題の伝統を守る立場を主張，以後大正期は主観の尊重を説いた。さらに，1927年(昭和2)に〈花鳥諷詠(ふうえい)〉を理念に，客観写生に基づく句作を主張，ここに至って《ホトトギス》は絶頂期を迎え，多くの新進作家が輩出した。しかし1931年以降は，反〈花鳥諷詠〉，〈新興俳句*〉，人間探究派などの運動が台頭し，その中で，一貫して花鳥諷詠を守った虚子は，保守・反動の役割をになわざるをえなかった。なお，第2次世界大戦中は日本俳句作家協会会長・日本文学報国会俳句部会会長を歴任。戦後は娘の星野立子の句誌《玉藻(たまも)》に力を注いだ。全句集はないが多数の句集を出しており，また，《俳諧師(はいかいし)》《続俳諧師》などの長編小説，新作能・戯曲の作品もある。 〔池内輝雄〕


高浜虚子


タ カ ベ

たかはらやま 【高原山】 栃木県北部にそびえる円錐(えんすい)形火山。火口跡をはさんで東西に釈迦ケ岳(しゃかがたけ)(1,795m)と鶏頂山(1,766m)があり，東と南に広いすそ野をもつ。北側の箒(ほうき)川の谷に塩原温泉郷，西側の鬼怒(きぬ)川の谷に川治・鬼怒川温泉郷がある。鬼怒川と塩原を結ぶ日塩道路が鶏頂山の西側に通じ，付近はキャンプ地やスキー場としてにぎわう。

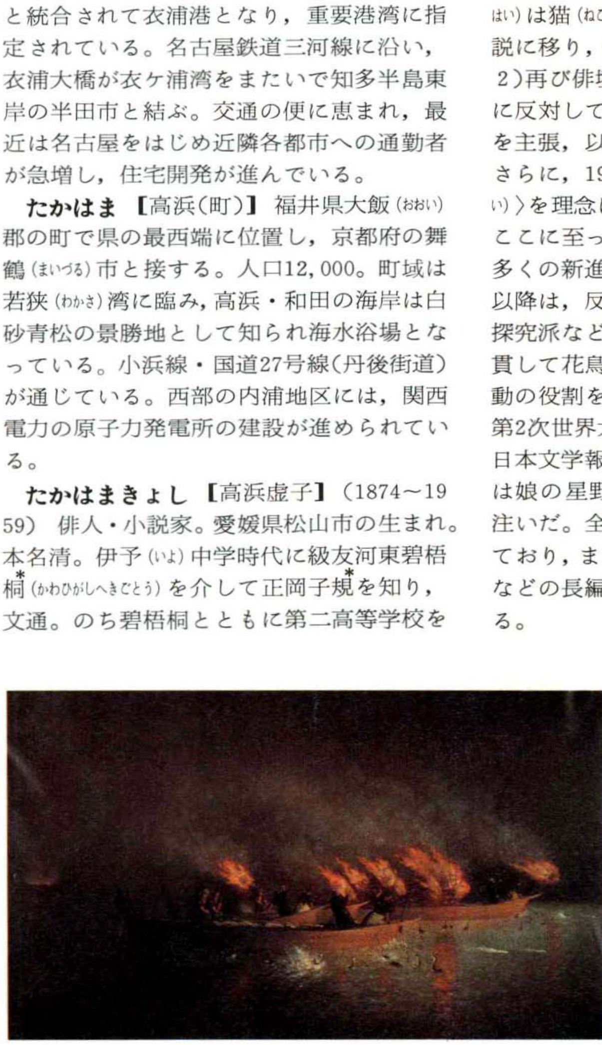
たかひら-ルートきょうてい 【高平-ルート協定】 1908年，日本・アメリカ間に締結された協定。日本側は高平小五郎駐米公使，アメリカ側はエリヒュー-ルート国務長官が調印した。その内容は，①太平洋における通商貿易の発展，②太平洋地域の領土の相互尊重，③中国における両国勢力の現状維持と，その門戸開放・領土保全の尊重，である。これは，太平洋および中国における両国の帝国主義的対立を調整するもので，1917年の石井-ランシング協定*に発展した。

たかぶしぎ 【鷹斑鷸】 鳥類・シギ科。全長20～23cmのシギ。上背面は黒かっ色と黄かっ色のまだら状で，下面は灰白色，腰部は白色。日本には春秋に多数渡来し，干潟(ひがた)にもみられるが，まわりに草の茂った湿地の水辺で採食することが多い。飛び立つときに，〈ピピピピ〉と鋭い声でよく鳴く。

たかべ 硬骨魚類・タカベ科。全長20cmほどの海産魚。串本(くしもと)でシャカ，高知県柏島(かしわじま)でベント，熊本でシマウオ，鹿児島でホタとよぶ。青色の体色に黄色縦帯のある美しい魚。8～10月に浮性卵を産む。本州中部以南のわが国太平洋岸から知られ，特に八丈島・大島周辺に多く，伊豆(いず)七島や伊豆半島では水産上重要種とされている。岩礁域の中層から下層にかけて群泳する。油気が多いが味がよく，食用としての価値も高い。

たかまがはら 【高天原】 〈たかまのはら〉ともいう。天上にある天神(あまつかみ)の御在所。古代人は，高天原と地上の葦原中国(あしはらのなかつくに)，地下の根の国の三界を区分した。神代において，イザナギノミコトとイザナミノミコトが生んだ神々の中で最もすぐれていたアマテラスオオミカミが高天原の主宰神となり，八百万(やおよろず)の神がここに住んだ。高天原がどこにあるかについては，古来多くの説がある。大和(やまと)(奈良県)・豊前(ぶぜん)(福岡県)・常陸(ひたち)(茨城県)・阿波(あわ)(徳島県)や中国・朝鮮・南洋など地上の具体的な土地を指摘したり，皇居であると説いたり，また各人の胸中や天理・虚空などの抽象的なものに求めたりしている。しかし，本居宣長(もとおりのりなが)らの〈天上にあって天神らの坐(いま)す所〉とする説が最も妥当であろう。 〔熊谷保孝〕

たかまがはらけいしんわ 【高天原系神話】 日本神話において出雲(いずも)系神話*に対するもの。《古事記》《日本書紀》の神代巻


高橋由一
《長良川鵜飼図》
東京国立博物館蔵

は天地開闢(かいびゃく)から説き，神世７代の神神が次々に現われ，イザナギノミコト・イザナミノミコトに至って，アマテラスオオミカミを高天原(たかまがはら)，スサノオノミコトを根の国しらす主と定めたという。アマテラスオオミカミの出現によって高天原の神話が現われてくる。聖井天真名井(あめのまない)をはさんでオオミカミはスサノオノミコトと誓約し，５男神・３女神を生む。スサノオノミコトの悪行が続き，オオミカミの天岩戸*(あめのいわと)隠れとなる。岩戸前の神事によってオオミカミは岩戸の外に出，スサノオノミコトは高天原を追放されて根の国におもむく。オオミカミは御子アメノオシホミミノミコトを豊葦原瑞穂(とよあしはらのみずほ)国に天くださんとし，タケミカヅチノカミとフツヌシノカミを出雲(島根県)のオオクニヌシノカミのもとにつかわして国譲り(→国譲り神話)させる。アメノオシホミミノミコトの御子ニニギノミコトがオオミカミの命をうけて日向(ひゅうが)国高千穂峰(たかちほのみね)に天くだる。以後３代は高千穂宮にとどまる。イワレヒコノミコト(神武天皇)に及んで東征して大和(やまと)(奈良県)に入り，皇位につく。ここで神代は終わる。高天原系神話は大和朝廷の政治組織を投影している。アマテラスオオミカミとスサノオノミコトの関係は姉なる神巫(みこ)と弟なる王の二重主権を示し，古琉球(りゅうきゅう)における聞得大君(きこえおおきみ)と国王の関係に等しい。天岩戸前の神事およびニニギノミコトの供奉(ぐぶ)は中臣(なかとみ)・忌部(いんべ)・猿女(さるめ)・鏡作・玉作の諸氏族の祖神の任であり，氏姓制度が反映しており，大和朝廷の中心をなす天皇の天津日嗣(あまつひつぎ)の由来が潜んでいると解釈すべきであろう。　〔宮井義雄〕

たかまつ【高松(市)】 香川県中北部，県庁のある市。人口31万2,000。1588年(天正16)，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の家臣，生駒親正(いこまちかまさ)が高松城*を築いて以来都市として発展した。1642年(寛永19)に，徳川光圀(みつくに)の兄松平頼重(よりしげ)が封ぜられてから，明治維新まで松平氏十二万石の城下町となり，親藩として中国・四国の守りを固める要地であった。明治以後は県政の中心となり，1910年(明治43)宇高連絡船の開通によって四国の表玄関口となった。1890年市制施行。市域は讃岐(さぬき)平野の北東部にあたる高松平野全域と周辺の山地や男木(おぎ)島・女木(めぎ)島などの島々を含む。第２次世界大戦中，中心市街の大半は戦災によって焼失したが，戦後の都市計画が順調に進み，クスノキのグリーンベルトをもつ中央道路を軸とする近代都市として復興した。産業三大別人口比は８：28：64。県庁をはじめ，四国を管轄する各官庁の出先機関・会社・銀行が集まり，商業地区丸亀(まるがめ)町付近にはデパート・商店街が多い。北東部には機械器具・紡績・パルプなどの工場群があり，紙・はかりの生産は日本有数であるが，大工場は少ない。漆器や竹製品などの輸出向き家内工業品の特産があり，周辺部には米・タバコ・ミカン・モモ・野菜類などをつくる農業地域が広がる。香川大学や美術館・図書館などの施設も整い，県の文化センターの役割を果たしている。高徳本線・予讃(よさん)本線・高松琴平電鉄の起点で，国道11号線・30号線・32号線・193号線が集まる。高松港と対岸の玉野(岡山県)との間には宇高連絡船が就航し，また，瀬戸内海各地へ定期船が通じ，大阪・神戸(こうべ)・姫路へは水中翼船，宇野へはフェリーボートが通ずる。高松空港からは大阪をはじめ東京・九州各地に定期航空便が発着する。旧藩主の別荘であった栗林(りつりん)公園は純日本式の代表的庭園として知られ，瀬戸内海国立公園に属する源平古戦場の屋島，旧高松城跡の玉藻(たまも)公園などの行楽地があり，屋島ドライブウエー(有料道路)が通じている。　〔浅井得一〕



高松市　屋島方面から望んだ高松市。眼下に塩田が広がり，遠くに連絡船の出入りする高松港が見える。左手の丘陵下あたりが栗林公園



高見　順

たかまつじょう【高松城】
①備中高松城：毛利氏の属将清水宗治*(しみずむねはる)の居城。岡山県吉備(きび)郡高松町に所在。1582年(天正10)毛利氏と交戦中，織田信長(のぶなが)の命を受けた羽柴(はしば)(豊臣(とよとみ))秀吉(ひでよし)は30,000余の兵で高松城を囲み，これを水攻めにした。城攻めの途中本能寺の変*を知った秀吉は，急ぎ高松城の開城と宗治の自害を条件に毛利氏と講和，明智光秀(あけちみつひで)の追討に向かった。周囲に堀を巡らした平城で，現在城跡・堤跡が残っている。
②讃州(さんしゅう)高松城：近世大名の居城。香川県高松市に所在。玉藻(たまも)城ともいう。1588年讃岐(さぬき)(香川県)領主生駒親正(いこまちかまさ)が築城。玉藻浦を背面に，南方を外郭で囲んだ平城。４代高俊のとき移封され，1642年(寛永19)徳川光圀(みつくに)の兄松平頼重(よりしげ)が入城。以来，11代にわたって親藩松平氏の居城として明治維新に至った。城跡は玉藻公園として残っている。　〔西ケ谷恭弘〕

たかみじゅん【高見順】(1907～1965) 小説家・詩人・評論家。本名高間芳雄(よしお)。福井県に生まれ，東京に育つ。父は永井(ながい)荷風*の叔父(おじ)だが幼時に離別。第一高等学校を経て東京大学英文科を卒業。在学中から左翼運動に参加したが1933年(昭和８)検挙され転向。この転向時代を描いた《故旧忘れ得(う)べき》は，第１回の芥川賞*(あくたがわしょう)候補作となり一躍文壇に認められた。翌年エッセイ《描写のうしろに寝てゐられない》で，《故旧忘れ得べき》の饒舌(じょうぜつ)体を従来の自然主義的リアリズムに対抗するものとして提唱，これが以後の彼の作風を決定した。1936年《人民文庫*》に参加，第２次世界大戦中は徴用されてビルマ・中国に派遣された。戦後も各方面で活躍。代表作に小説《如何(いか)なる星の下に》《いやな感じ》，詩集《樹木派》《死の淵(ふち)より》，評論《昭和文学盛衰史》，克明な《高見順日記》などがある。　〔池内輝雄〕

たかみせんせき【鷹見泉石】(1785～1858) 江戸末期の武士・蘭学者(らんがくしゃ)。名は忠常(ただつね)，通称十郎左衛門(じゅうろうざえもん)，泉石は号。下総(しもうさ)(茨城県)古河(こが)藩士で，用人から家老となる。藩主土井利位(としつら)の大阪城代在任中に大塩平八郎*の乱があったとき，大塩父子の召捕を指揮して功があり，利位が老中になってからは中央政界にも活躍した。他方，オランダ語を学び，江戸の蘭学者，江戸参府のオランダ人，長崎通詞らと交際し，みずからもヤン-ヘンドリック-ダッペルとオランダ名を称し，地図・地理書などの蘭書を収集し，海外地理・天文・兵学などを研究した。　〔岡山泰四〕

たかみつにっき【高光日記】 ⇨多武峰(とうのみね)少将物語

たかみねじょうきち【高峰譲吉】(1854～1922) 明治・大正時代の化学者。加賀藩典医の子として生まれる。十代で長崎・京都・大阪に学んだのち，工部大学校卒業。卒業後イギリスに留学し，帰国して農商務省に就職。1890年(明治23)以後はアメリカに移り，高峰発酵研究所・高峰化学研究所を経営・主宰，タカジアスターゼ*の単離(1897)，アドレナリンの結晶化(1901)など世界的な成果を収めた。1913年(大正２)学士院賞受賞のために帰日し，大規模な科学研究所の創立を政財学界に提唱。これがのちに

理化学研究所の設立(1917)のきっかけとなった。〔中村禎里〕

たかみむすびのかみ【高御産巣日神】 日本神話の神。高皇産霊神とも書く。天地創世のとき，アメノミナカヌシノカミ・カミムスビノカミとともに高天原(たかまがはら)に生成した。ムスビは生産の神を意味し，天地万物を生成する力を神格化したもの。カミムスビノカミが出雲(いずも)系の神であるのに対して高天原系の神であり，出雲系神話と高天原系神話を統合しようとする政治的意図がみられる。

たかむこのくろまろ【高向玄理】(?～654) 大化改新の政治顧問。帰化人の子孫で，もと姓(かばね)を高向漢人(あやひと)，名を黒麻呂(くろまろ)と称した。608年(推古16)第2回遣隋使(けんずいし)の留学生として派遣され，640年(舒明12)帰朝。645年(大化1)大化改新が成ると国博士(くにはかせ)に任ぜられ，改新政府の最高顧問となった。649年僧旻(びん)と八省百官(→律令制)を定めるなど治績を示した。654年(白雉5)第3回遣唐使として唐に渡ったが，同年長安で客死。〔高崎徳次〕

たかむらこうたろう【高村光太郎】(1883～1956) 詩人・彫刻家。東京の生まれ。明治期の木彫家光雲の子，豊周(とよちか)は光太郎の弟。東京美術学校卒。はじめ《明星》に短歌を寄稿。1906年(明治39)から4年間米・英・仏に留学した。特にパリではボードレール・ベルレーヌらの詩，セザンヌ・ゴッホ・ロダンらの絵画・彫刻にふれ，近代的精神に覚醒(かくせい)。ことにロダンの芸術と思想に強く影響された。帰国後〈パンの会〉に参加，唯美・頽唐(たいとう)の詩風をもって《スバル》に登場。やがて《白樺(しらかば)》に接近し，理想主義的傾向にたつ格調高い口語自由詩を発表。詩集《道程》にその詩風の推移と確立を示した。その後は美術関係の翻訳・著作が多く，また，妻智恵子(ちえこ)の発病があって，その愛と死に澄明哀切な表現を与えた《智恵子抄》の結果をみる。次いで太平洋戦争の勃発(ぼっぱつ)とともに積極的に戦争詩をつくり，終戦後は《暗愚小伝》や詩集《典型》にみずからの近代的自我の敗亡・挫折(ざせつ)を痛切に剔抉(てっけつ)。《智恵子抄その後》は，亡妻への恋愛無限の信仰の告白ともいえる。〔小泉浩一郎〕



高村光太郎《手》1919 東京国立近代美術館蔵



タガメ

たがめ【田亀】 こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・タガメ科。日本に産する異翅半翅類中最大の種で，体長48～65mm。体は灰かっ色ないしかっ色。頭部は比較的小さく，前胸背はほぼ半円形で，小楯板(しょうじゅんばん)はほぼ正三角形で大きい。半翅鞘(はんししょう)は強大で，膜質部の脈はやや平行に走るが不規則。前脚は強大な捕獲脚となり，先端に1個のつめがある。中・後脚はやや扁平(へんぺい)で，脛節(けいせつ)と跗節(ふせつ)に長毛がはえ，遊泳に適する。腹部末端には伸縮自在の短い呼吸管がある。本州以南，台湾・朝鮮・中国などに広く分布する。かつては池沼・水田などいたるところの静水域の水際近くに普通にみられたが，近年は農薬などの影響で著しく減少している。成虫は初夏のころに出現し，水面上の水草の茎に卵塊を産む。雄には大きな1対の臭腺(きゅうせん)が後胸部にあり，バナナ臭のある芳香を放つ。食肉性で，魚・カエル・イモリなどの水生動物を襲って吸血する。和名は田にすむカメムシの意味で，地方的な呼称がきわめて多い。タガメ科は小さい科で，全世界から約150種が発見されているが，すべて水生。南アメリカには体長90mmに達する大形種が知られている。日本には，タガメのほかにコオイムシ・オオコオイムシの2種が分布している。〔鈴木邦雄〕

たかもちびゃくしょう【高持百姓】 江戸時代，村内に家屋敷と田畑を所有し，村の中堅をなす本百姓。検地帳(→検地)に所持の耕地の面積・石高，自分の名が登録され，村に賦課された年貢(ねんぐ)の割賦を受け，諸役の負担を義務づけられた。組頭・百姓代などの村役人はすべて高持百姓から選ばれた。なお，石高を多く所有する者を高持とよぶ場合もあった。

たかもり【高森(町)】 熊本県の北東部，阿蘇(あそ)郡に属する町。人口9,400。阿蘇火山火口原の南郷谷の中心集落で，高森線の終点にあり，国道218号線が通ずる。中世の高森氏の城下町に起源をもち，阿蘇火山の原野を利用した牧畜が盛んで，高冷地蔬菜(そさい)・トウモロコシ・ナタネなどもつくられる。

たがやさん【鉄刀木】 [1]双子葉植物・マメ科。インド・マレーシアに分布する常緑高木。高さ15m以上に達する。葉は偶数羽状複葉で8～9対の小葉からなる。花は白または黄色で，若い枝の先に長さ25cmほどの円錐(えんすい)花序をなす。豆果は平らで長さ20～30cmあり，種子が10個以上はいっている。材は非常に緻密(ちみつ)で美しく，床柱・書棚(しょだな)・楽器材・つえなどに用いられる。

[2]双子葉植物・フトモモ科。東インド原産の常緑高木。茎は直立し，葉は披針(ひしん)形で厚ぼったく，光沢がある。花は枝先につき，大形白色の4弁花で強い芳香があり，多数のおしべをもつ。材はかたく，種々の細工物に用いられる。〔加藤僖重〕

たかやすげっこう【高安月郊】(1869～1944) 劇作家・詩人・評論家。本名三郎。大阪市の医家に生まれ，医学を修めるために上京したが，のち政治家志望に変わり，さらに文学に転じた。1893年(明治26)，わが国最初のイプセン紹介となった《社会の敵》の一部を訳出。ほかにイプセンの《人形の家》全訳，《大塩平八郎》《江戸城明渡》《桜時雨(さくらしぐれ)》など新しい歴史劇の創作がある。

たかやなぎけんじろう【高柳健次郎】(1899～) 電気工学者。日本のテレビジョン研究の先駆者。静岡県に生まれ，1921年(大正10)東京高等工業学校(現在の東京工業大学)を卒業。その後浜松高等工業学校に勤務しながらテレビジョン研究を開始。1939年(昭和14)NHK技術研究所の協力を得て無線によるテレビ中継に成功，高柳式受信機を創製した。第2次世界大戦中は研究を中断されたが，戦後日本ビクター社に所属して再び研究に着手，アメリカのテレビ技術を導入・消化する上で大きな役割を果たした。

たかやま【高山(市)】 岐阜県北東部の市。人口63,000。古くから飛驒(ひだ)地方の中心地で，1586年(天正14)金森氏の城下町となり，江戸時代には幕府の直轄地となって陣屋が置かれ，郡代が十一万四千石の天領を支配した。1936年(昭和11)に大野郡高山・大名田の2町が合併して市制施行。市域は高山盆地を北流する宮川の清流に臨み，碁盤目状に整った古い町並みに城下町のおもかげを残し，〈小京都〉とよばれる。産業三大別人口比は12：32：56。木材工業が盛んで，南部には製材・合板・家具・玩具(がんぐ)などの工場が多く，また一位細工・春慶塗りなどの伝統的な手工業が名高い。高山本線と国道41号線・158号線が通じ，北アルプスを中心とする中部山岳国立公園の観光基地となり，乗鞍岳(のりくらだけ)の山頂までバスが通じる。年中行事の〈高山祭〉は無形文

化財に指定されている。刑法学者牧野英一・小説家滝井孝作の出身地である。

たかやまうこん【高山右近】(1552～1614) 安土桃山時代のキリシタン大名・茶人。名は長房・重友または友祥(ともなが)といい，キリシタン洗礼名をジェストと称した。荒木村重(むらしげ)の臣であったが，織田信長(のぶなが)に招かれて明智光秀(あけちみつひで)に属した。1582年(天正10)本能寺の変で信長が死ぬと，豊臣秀吉(とよとみひでよし)に属して山崎の戦いに従軍。摂津(大阪府)高槻(たかつき)城主となり，1585年明石城主となる。1587年キリシタン禁令の発布されたとき，秀吉の怒りを受けて除封された。のち前田利家(としいえ)に寄食し，前田氏の部将として関ケ原の役にも従軍した。1614年(慶長19)幕府の禁教令により，内藤如安らとともにマニラに追放され，翌年彼地で没した。千利休(せんのりきゅう)の高弟のひとりでもある。〔松尾　涼〕

たかやまちょぎゅう【高山樗牛】(1871～1902) 評論家・思想家。山形県生まれ。本名林次郎。東京大学哲学科在学中に，〈読売新聞〉の懸賞小説に《滝口入道》が当選。卒業後は一時教職についたが，在学中から編集をしていた《太陽》によって評論活動を続けた。おもな著作に国家主義を唱えた《日本主義》，個人主義・ニーチェ主義に傾いて本能の満足を説いた《美的生活を論ず》，日蓮(にちれん)崇拝に基づいた《日蓮上人(しょうにん)と日本国》などがある。〔池内輝雄〕

たかやまひこくろう【高山彦九郎】(1747～1793) 江戸中期の尊王論者。名は正之(まさゆき)，彦九郎は通称。上野(こうずけ)新田郡細谷村(現在の群馬県太田(おおた)市)の郷士。1764年(明和1)京都に上って公卿(くぎょう)と交わり，特に中山愛親(なるちか)の知遇を受けた。時は田沼時代で，ようやく北方の危急(ロシア船が来航し,松前藩に通商要求をしたこと)が伝えられ,憂国の情があつかった彦九郎は，水戸(みと)の藤田幽谷らと交わり，北海道松前に渡った。さらに諸国を歴遊しつつ勤王を提唱したため，しだいに幕府に監視されるに至り，九州にのがれて久留米(くるめ)に逗留(とうりゅう)中，憂憤のあまり自刃した。京都三条大橋にぬかずいて皇居を拝したことや，足利尊氏(あしかがたかうじ)の墓をむちうつなどの奇行を重ね,蒲生(がもう)君平・林子平とともに〈寛政の三奇人〉と称された。〔岡山泰四〕

たかやまほんせん【高山本線】 岐阜～富山間の国鉄路線。営業キロ数225.8。中央日本横断鉄道の一つで，飛騨(ひだ)地方を縦貫して濃尾平野と富山平野を結ぶ。1920年(大正9)一部が開通し，1934年(昭和9)全線が開通した。沿線には，高山・美濃太田(みのおおた)などの都市や下呂(げろ)温泉があり，支線神岡線が神岡鉱山に通ずる。

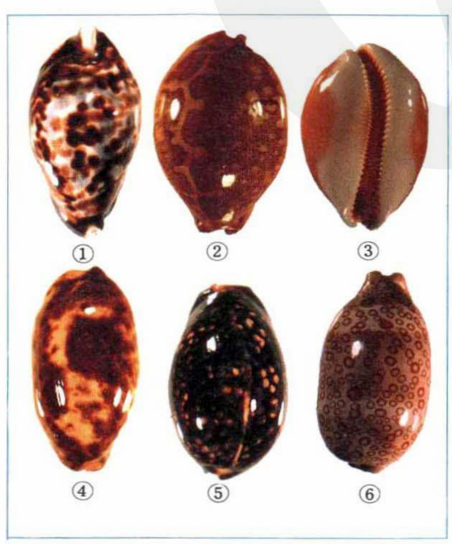
たかやままつり【高山祭】 日本三大祭の一つで，高山市の日枝(ひえ)神社および八幡(はちまん)神社の祭り。現在では日枝神社が



高山市　明治のおもかげを残す市内の旅館。民芸品や町の民家のたたずまいにも古い伝統を伝えている



高山祭　〈山車祭〉として有名な高山祭(秋の八幡祭)　岐阜県



タカラガイ　①ハチジョウダカラ　②ハラダカラ　③コガネダカラ　④ムラクモダカラ　⑤ジャノメダカラ　⑥クロガネダカラ

4月14～15日に，八幡神社が10月9～10日に行なわれる。この祭りの圧巻は山車(だし)の行列と広場に集まって見せる〈からくり〉にある。山車は3階づくりで,回りは〈飛騨匠(ひだのたくみ)〉の伝統に生きる工匠たちが精魂こめた彫刻術で飾られ，中段に安置した人形は精巧なからくりじかけで踊る。また祭りには，鳥毛を頭につけ，胸につるした太鼓を打ちながら踊る鶏頭楽(カンゼコカン)や獅子舞(ししまい)なども登場してにぎわう。〔直江広治〕

たかゆかしきじゅうきょ【高床式住居】 地上に杭(くい)を立て床を高くした家屋で，杭上(こうじょう)家屋ともいう。その原始形態は南方諸民族にみられる。この特徴は，雨季における湿気や強烈な日光反射を防ぎ，地上から襲来する毒虫・野獣などを避け，清潔で風通しがよく涼しいことなどである。水上に建てられた水上杭屋もある。日本では弥生(やよい)時代に現われて,奈良時代に進歩し，校倉(あぜくら)造り・神明造り・大社造りなどにみられる。〔牛島　巌〕

たからいきかく【宝井其角】 ⇨其角

たからいばきん【宝井馬琴】 講談師。2世までは東流斎馬琴といい，3世と現4世は宝井姓を名のる。初世東流斎馬琴は生没年不明。江戸中期，18世紀後半の大家で，戯作者滝沢馬琴を尊敬してその名を名のり，従来の棒読み式講談を改革して対話中心の演出を創始した。2世は江戸・大阪にひとりずつあった。3世(1852～1928)は東流斎琴凌(きんりょう)の子。父の得意芸《松浦の太鼓》に登場する俳人宝井其角の名にあやかって改姓。初世宝井馬琴となる。軍談を得意とし，明治末から大正期の第一人者として活躍。4世(1903～　)は2世宝井馬琴。明るくしかも重みのある芸風で，新作もよくする。現在講談協会会長。〔長尾一雄〕

たからがい【宝貝】 軟体動物・腹足類・タカラガイ科の総称。暖熱帯海域に分布し世界に約200種があり,インド洋・太平洋海域に多い。日本には約75種が知られ，メダカラガイ・ハナビラダカラガイ・キイロダカラガイ・ハナマルユキガイが普通にみられ,南日本ではさらにヤクシマダカラガイ・ホシダカラガイなどが加わる。多くは潮間帯や浅海にすむが，ニッポンダカラガイ・オトメダカラガイなどは水深100mに達する深海にもすむ。

幼貝のときは普通の巻き貝のように，螺層(らそう)が高くなって明らかである。しかし，成貝になると，広い殻口(かくこう)の外唇(がいしん)が内方に曲がり，殻口はせばめられて前後に細長くなり，その縁に歯状の刻みができ，殻(から)のふくらんだ背面は，左右から包む外套膜(がいとうまく)より石灰が分泌されて厚くなり，幼貝と異なる模様となる。また螺層は石灰におおわれて現われなくなり，全体が卵形のようになる。殻長1cmほどの小形から，15cmに達するハワイホシダカラガイのようなものまである。殻表は美しい光沢と彩色があるので珍重され，全体オレンジ色のナンヨウダカラガイはフィジー島

では酋長(しゅうちょう)だけがこれを装飾に用いて位を示し，また，ハチジョウダカラガイは子安貝*といって安産の守り神とされたこともある。また，古くは貨幣としてキイロダカラガイ・ハナビラダカラガイなどが用いられ，中国の殷墟(いんきょ)などに出土する。ニューギニアの山地族では現在もなお用いられているという。タカラガイは収集家が多く，トノサマダカラガイ・シンセイダカラガイや，日本の深海産のタカラガイなどは高価な種類が多い。〔波部忠重〕

たからがわおんせん【宝川温泉】群馬県利根(とね)郡水上(みなかみ)町にあり，泉温50～60℃，泉質は単純泉で，神経痛・湿疹(しっしん)などにきくといわれる。利根川の支流宝川の渓谷(けいこく)に沿い，川岸に大きな露天ぶろがある。付近には人造湖の藤原湖や洞元湖(どうげんこ)があり，近年観光地としてにぎわっている。上越線水上駅からバスが通ずる。

たからくじ【宝籤】1948年(昭和23)に制定された当籤金(とうせんきん)付き証票法に基づいて抽選により当選番号を定め，それに適合するくじに賞金を出す富くじの一種。政府・地方公共団体が公共事業費の財源にあてるため発行し，第一勧業銀行が事務・売りさばきを委託されている。現在発売されている宝くじは，地方公共団体の発行する全国自治・東京都・関東・中部・東北自治・近畿(きんき)・西日本宝くじの7種類。賞金にあてられる割合は，当籤金付き証票法第5条の規定では，発行金額の50％以下，実際は40～43％，各地方自治体に納付される発行収益は38％。なお，1等賞金に対しては金額制限があり，1枚金額の10万倍，現行100円くじで1,000万円を上限としている。〔池内得二〕

たがらし【田辛】双子葉植物・キンポウゲ科。水田または池などの湿地にはえる一年草。茎は中空で高さ20～50cm。葉は互生で3～5深裂し，無毛で表面に光沢がある。4～5月，直径6～8mmの黄色五弁花をつける。果実は長さ1mmほどの痩果(そうか)で，多数が集まって長さ8～12mmの楕円(だえん)状をなす。

たからじま【宝島】鹿児島県の南西部，吐噶喇(とから)列島の火山島で，大島郡十島(としま)村に属する。枕崎(まくらざき)の南南西250km，奄美(あまみ)大島の北90kmの地点にあり，最高点は289m，海岸にはサンゴ礁が発達している。面積6km^2。サツマイモの畑作を主とするが，水田もあり，また和牛を飼い，サワラ・カツオ・トビウオを漁獲する。人口400。鹿児島～名瀬間の定期船が週1回寄港する。

たからじま【宝島】スチーブンソン*の冒険小説(1883)。少年ジム-ホーキンズが，大海賊フリントの地図を手に入れて，帆船で宝島に出かけ，一本足の海賊ジョン-シルバーらとの争いやさまざまの冒険を経たのち，宝を手に入れる物語。すぐれた性格描写，巧みな場面転換により，冒険小説の古典として世界的に読まれている。

タガラシ



たからづか【宝塚(市)】兵庫県南東部の市。人口17.8万。古くから温泉の歴史をもち，奈良時代から小林(おばやし)温泉として，その名が古書に散見する。1910年(明治43)小林一三(いちぞう)が箕面有馬(みのおありま)電気軌道(京阪神(けいはんしん)急行電鉄の前身)の乗客誘致のために遊園地をつくり，1914年(大正3)に宝塚少女歌劇を創設してから全国にその名を知られた。1954年(昭和29)宝塚町と良元村が合併して市制施行。市域は武庫川中流の沖積地(ちゅうせきち)を中心に，西は六甲山地，北は北摂山系に属する周辺丘陵地帯に広がり，武庫川の河畔に宝塚温泉がある。産業三大別人口比は3：33：64。少女歌劇の宝塚大劇場をはじめ，遊園地・動物園・植物園・ゴルフ場など各種の観光施設に富み，阪神地方随一の娯楽センターとしてにぎわう。福知山線・国道176号線が通じ，京阪神急行電鉄宝塚線で大阪・神戸(こうべ)と連絡する。最近阪神の衛星住宅都市化が進み，市街地背後の丘陵地の宅地開発が行なわれている。日本で最初にダリアの球根を輸出した西谷地区の花卉(かき)類や長尾地区の植木類など，国内で有数の園芸栽培地で，安土桃山時代につぎ木法を創始した坂上善太夫の碑がある。〔浅井得一〕

たからぶね【宝船】縁起物の一。正月2日の晩，まくらの下に敷いて寝ると吉夢を見るという習俗。宝船の習俗は夢によって吉凶を知り，吉福を得ようとする一種の夢占いであり，室町時代から行なわれていたらしい。はじめは宝物や米俵を満載した船の絵で，帆に貘(ばく)(悪い夢を食うという想像上の動物)の文字を印したものなどもあったが，江戸時代には船に七福神*と宝物を載せ，帆に〈なかきよのとおのねふりのみなめさめ，なみのりふねのおとのよきかな〉という回文(逆に読んでも同じになる文)をしるした版画を売り歩く者が現われ，正月風物の一つとなった。江戸時代初期には節分の夜の行事であったが，中期から正月行事として行なわれるようになり，明治時代まで宝船売りがみられた。〔渡辺欣雄〕

ダカール［Dakar］アフリカ西部，セネガル共和国の首都。人口60万(1976推)。アフリカ最西端のベルデ岬(みさき)の南に位置する港市で，1857年にフランスの軍事基地として起こり，フランス領西アフリカの政治・経済の中心として発展し，1958年セネガルの独立によってその首都となった。大西洋航路および空路の要地であるとともに，ラッカセイ・アラビアゴム・サイザルアサ・カポックなどの輸出港で，食品加工・船舶修理の工場もある。ダカール大学(1949年創立)のほか，アフリカに関する各種の研究所がある。〔小栗　宏〕

タガログご【タガログ語】フィリピンの公用語として1937年に定められた。フィリピンにはビサヤ語・イロカノ語などの大きな言語もあるが，使用者が800万人しかいないタガログ語が公用語の地位を得たのは政治・文化の中心であるルソン島マニラ市でもとから話されていたこと，また，他の島々との交易語として広く用いられていたことによる。マライ-ポリネシア語族*インドネシア語派に属する。古くは固有の文字をもっていたが，現在は用いられない。語尾変化はないが，接辞*の用い方はかなり複雑。単語にはスペイン語からの借用語が多い。〔崎山　理〕

タガログぞく【タガログ族】フィリピン，ルソン島南部，マニラ市を中心に分布する一種族。人口約179万人(1916)で，フィリピン第2位。早くからヒンズー文化の影響を受けたが，3世紀以上スペインの支配下にあって，スペイン文化の浸透も著しく，フィリピン土着諸種族のうちで指導的な地位をもち，政治・文化面で優位に立つ。なお，1937年以来タガログ語*が公用語となった。

たがわ【田川(市)】福岡県中北部の市。人口60,000。1900年(明治33)以来三井鉱山の炭鉱開発によって発展し，筑豊(ちくほう)炭田南東部の中心都市となった。1943年(昭和18)伊田(いだ)・後藤寺両町が合併して市制施行。遠賀(おんが)川支流の彦山(ひこさん)川と中元寺川の流域に形成された田川盆地と周辺山地を含む。産業三大別人口比は4：40：56。筑豊最大の三井田川炭鉱をはじめとして中小炭鉱が多く，わが国最深の伊加利竪坑(いかりたてこう)(深さ658.4m)をもつ。最近は石炭不況の影響を受けて，わずかに3小炭鉱を残すのみとなり，人口も激減した。西部の船尾山には大規模な石灰岩の採石場とセメント工場があり，炭鉱に代わって活況を呈している。筑豊本線のほか，田川・伊田・後藤寺・糸田・添田の各線が複雑な交通系統をつくり，国道201号線が通じる。

たがわすいほう【田河水泡】(1899～　)漫画家。東京都の生まれ。本名高見沢仲太郎。昭和初期に少年むけ漫画《のらくろ》でデビュー，一躍人気漫画家となり，その後《蛸(たこ)の八ちゃん》《漫画の罐詰(かんづめ)》などを出した。第2次世界大戦後は版画でも活動している。

だかん【兌換】金本位制度*(あるいは銀本位制度)下においては中央銀行券は本位貨幣*である金貨(あるいは銀貨)と交換することが許される。これを兌換といい，そのような銀行券を兌換銀行券という。わが国では日本銀行券は金貨と兌換されていたが，1931年(昭和6)以降その兌換は停止された。その後金本位制度が廃止され，管理通貨制度*に移行するにしたがい中央銀行券は不換銀行券となった。

たかんしょう【多汗症】汗かきのことで，通常人に比べて汗の分泌が異常に増加するもの。全身に汗が多く出る全身性多汗症と，体の一部に限られる局所性多汗症とがある。①全身性多汗症：体質のほか，バセドウ病・糖尿病・下垂体機能高進などの内分泌障害や神経疾患で起こる。②局所性多汗症：顔面・腋窩(えきか)・外陰・手のひら・足の裏に精神的な原因で普通以上に汗をかくものをいう。原因となる病気があればその治療をするが体質的なものは根治する方法がない。精神安定薬や制汗薬(自律神経遮断(しゃだん)薬)を用いるときは医師の指示に従う。〔田嶋公子〕

タガンログ [Taganrog] ソ連，ロシア連邦共和国にあり，アゾフ海に臨む港市。人口28万2,000(1976)。鉄道・道路など交通の要衝で，冶金(やきん)・製鋼・農業機械・皮革・食品加工などの工業が盛んである。港からは石炭・小麦などを輸出している。1698年，ピョートル大帝の命で要塞(ようさい)としてつくられ，その後2回にわたってトルコ軍に占領されたが，19世紀にドネツ炭田の石炭輸出港として発展した。作家チェーホフの生地である。〔斎藤晨二〕

たき【滝】瀑布(ばくふ)ともいう。河水が垂直に落下する地点をいい，成因には，河床のかたい地層が河水の侵食から残されて急斜面を生じた場合や，本・支流の合流点で両河床間に落差が生じた場合，および溶岩流が川をせきとめて天然のダムを生じた場合などがある。滝の直下では，落水の渦流(かりゅう)と土砂の侵食で滝つぼが生じる。滝は落水の侵食と滝壁の崩壊によってしだいに後退し，やがて消滅する。後退速度は滝の状態によってまちまちであるが，ナイアガラ滝では最初の場所から現在位置まで11km，日光の華厳(けごん)滝では同じく2km後退している。滝の高さで世界一といわれるのはエンジェル滝(ベネズエラ)で970m，次いでヨセミテ滝(アメリカ合衆国)790m，グランド滝(カナダ)666m，スーザランド滝(ニュージーランド)580mなどがある。またナイアガラ滝(アメリカ合衆国・カナダ)，イグアス滝(ブラジル・アルゼンチン)，ビクトリア滝(ザンビア・ローデシア)などは，落下水量の大きさと幅の広さで知られる。なお日本では，富山県の称名滝が350mで日本一の高さをもつとされている。〔大崎 晃〕

たきいこうさく【滝井孝作】(1894〜) 小説家・俳人。岐阜県の生まれ。俳号折柴(せっし)。幼くして母を失い，のち種々の職を転々とし，かたわら日本派*の俳句に打ち込んだ。1920年(大正9)から志賀直哉*(なおや)に師事して小説を発表。俳句で学んだ客観主義的な手法や文体で身辺の素材を禁欲的に描く私小説*作家である。長編《無限抱擁》のほか，短編集や《折柴句集》《折柴随筆》などがある。

だきがえりけいこく【抱返溪谷】秋田県東部，雄物川の支流玉川が横手盆地にはいる途中，田沢湖南方の山地につくる溪谷。特に田沢湖町神代の抱返神社付近から上流約14kmの間をいう。北に大影山(637m)，南から白岩岳(1,230m)が迫り，安山岩の柱状節理をはじめ奇岩怪石が多く，大小の滝がかかる。紅葉が美しく，田沢湖抱返県立公園に指定されている。上流に夏瀬ダムの人造湖や夏瀬温泉がある。

たきかわ【滝川(市)】北海道中央よりやや西寄りの市。人口52,000。もと空知太(そらちぶと)(アイヌ語でソラプチベツ，〈滝を下る川〉の意)とよばれた。石狩川とその支流空知川の合流点にあり，石狩川をさかのぼる汽船の終点で，1889年(明治22)屯田(とんでん)の設置によって開発が始まり，1891年には北海道炭鉱鉄道が通じた。1958年(昭和33)市制施行。市域は空知平野の中心部に位置し，産業三大別人口比は14：22：64。河川の氾濫原(はんらんげん)は農業地帯として整備され，米をはじめジャガイモ・ダイズ・エンバク・タマネギ・リンゴなどを産する。東部の幌倉(ほろくら)には東洋一の規模をもつ種羊場と道立畜産試験場がある。根室本線・函館(はこだて)本線の分岐点となり，国道12号線・38号線・浜益(はまます)街道が通じ，赤平(あかびら)・芦別(あしべつ)の炭鉱地帯と空知農村地帯との結節点にあたる交通の要地である。

たきがわかずます【滝川一益】(1525〜1586) 安土桃山時代の武将。近江(おうみ)(滋賀県)の生まれ。織田信長(のぶなが)に仕え，1574年(天正2)伊勢(いせ)(三重県)長島の一向一揆*(いっこういっき)を平定し，その功により伊勢長島城主となり，1582年武田勝頼*との戦いに戦功を立てた。本能寺の変後，1583年賤ケ岳(しずがたけ)の戦い*で柴田(しばた)勝家らと連合して豊臣秀吉(とよとみひでよし)と戦ったが，敗れて降伏。1584年秀吉の命で小牧・長久手の戦い*に従軍したが，徳川勢に敗れ，その後出家して越前(えちぜん)(福井県)大野に隠退した。〔松尾 涼〕

たきがわじけん【滝川事件】⇨京大事件

たきぎのう【薪能】神事能の一。興福寺の修二月会に南大門前で大和猿楽(やまとさるがく)4座によって演ぜられた能。演能期間は2月6〜12日の7日間。このうち8〜11日の4日間は金春(こんぱる)・金剛・観世・宝生の順で，1日1座ずつ春日(かすが)大社の社頭に参勤し，演能するのがならわしでその間の南大門能は他の3座が演じた。広義の薪能にはこの春日社頭能をも含める。大和猿楽はこの神事能に必ず出勤することが義務づけられており，欠勤すると糾明を受けた。江戸時代末にいったん絶えたが，近年形式を簡略化して復活した。なお，現今，薪能と名づけて夜間の野外演能がしばしば行なわれるが，神事能としての性格をもつものはきわめて少なく，興行政策的演能が多い。〔片桐 登〕

たきぐち【滝口】清涼殿の東面北方にある御溝水(みかわみず)の落ち口。転じて，平安・鎌倉時代に滝口に詰めて禁中の警衛にあたった武士をいう。宇多天皇の寛平年間(889〜897)に創設されたもので，蔵人所*(くろうどどころ)に属し，定員10名。のち20名。30名のこともあった。雑役・宿直警備などをその任とした。

たきぐちしゅうぞう【滝口修造】(1903〜1979) 詩人・美術評論家。富山県生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学英文科卒。在学中からシュルレアリスム*の雑誌《衣裳(いしょう)の太陽》同人となり，《詩と詩論*》にシュルレアリスムの詩や芸術論などを紹介。その後も美術評論の分野で活躍した。翻訳にブルトン*の《超現実主義と絵画》，評論に《近代芸術》，詩集に《妖精(ようせい)の距離》などがある。

たきぐちにゅうどう【滝口入道】高山樗牛*(ちょぎゅう)の歴史小説。1894年(明治27)《読売新聞》に連載。前年同紙が募集した懸賞の歴史小説・脚本の2等に当選(1等なし)作で，《平家物語*》に取材した滝口入道と横笛の悲恋が，叙情的な美文調でつづられている。発表時には作者名はなく，樗牛は生涯(しょうがい)その作者であることを公言しなかったというが，現在では，逆にこの一編によって樗牛の名が一般に知られている。

たぎご【多義語】二つ以上の意味をもっている単語。口(口で食べる，びんの口，口を出す，口が重い，口をさがす)，見る(花をみる，味をみる，脈をみる，甘くみる，ばかをみる)，甘い(甘い菓子，甘いみそしる，甘いかおり，女に甘い，ハンドルが甘い)など，基本的な，歴史の長い語には多義語の多い傾向がある。われわれが読んだり聞いたりするとき，多義語に出会うと文脈の拘束によってどの意味であるかを理解する。〔西尾寅弥〕

たきざわおさむ【滝沢修】(1906〜) 新劇の俳優。本名脩(おさむ)。東京生まれ。1925年(大正14)劇団築地(つきじ)小劇場*にはいり，小山内薫*(おさないかおる)・青山杉作*(すぎさく)の指導を受ける。劇団解散後は第1次左翼劇場*に参加，さらに1934年(昭和9)新協劇団*を結成，《夜明け前》《どん底》《北東の風》などの舞台でリアリズムの演技を示した。第2次世界大戦後は久保栄*とともに東京芸術劇場をつくったが，まもなく解散，そのあとを引き継いで宇野重吉*らと民衆芸術劇場(略して民芸*)を創立，主宰して現在に至ってい

る。あたり役は《セールスマンの死》の主人公で，戦後新劇史上最高の名演技といわれる。〔西尾邦夫〕

たきざわばきん【滝沢馬琴】(1767～1848)　江戸後期の読本・草双紙作者。本名は興邦(おきくに)，のちに解(とくる)。号は曲亭(きょくてい)馬琴・著作堂主人・蓑笠(さりゅう)漁隠。上野(こうずけ)(群馬県)矢田の松平藩用人の子として江戸深川の藩邸に生まれ，一時松平家に仕えたが，14歳のとき出奔して放浪生活にはいる。1790年(寛政２)山東京伝に師事，翌年黄表紙《尽用而二分(つかいはたしてにぶ)狂言》を発表。以後精力的に著作を続け，その種類も多く，総数300余編にのぼる。類別すれば，まず初期に多い《三国一夜物語》５巻や《雲妙間雨夜月》のような敵討物(かたきうちもの)，《松染情史》６巻などのような巷談(こうだん)街説物，《勧善常世物語》のような伝説物，《椿説弓張月(ちんせつゆみはりづき)》《俊寛僧都島物語》８巻のような史伝物がある。史伝物に長編傑作が多く，中でも《南総里見八犬伝》全106冊は1814年(文化11)から1842年(天保13)まで実に28年間かかって書き上げられた代表的長編である。馬琴の作品は儒教思想に根ざす徹底した勧善懲悪主義に貫かれ，作中人物も善悪いずれかの典型として描かれ，作品の特色となっている。それが現実性に乏しいと批判されるゆえんであるが，構成力，規模の雄大さは読本の中でもきわだった存在といえる。〔田島　修〕

タキシード［tuxedo］　男子の夜の略式礼服。アメリカでの呼称で，イギリスではディナージャケットという。ニューヨークのタキシード公園のクラブ員が会合のときそろって着用したところから名づけられたもの。夜のパーティー・観劇などに燕尾服(えんびふく)よりも利用度が高い。背広型でダブルとシングル合わせがあり，えりは剣えりまたはショールカラーで，拝絹とよばれる別布をかぶせてある。また，チョッキはカマーバンドといわれる絹の服飾帯を用いる。布地は黒または濃紺のカシミア・ドスキン・バラシャなどで，夏は上着のみ白麻を使う。また上着やカマーバンドに，ブロケードなどの色ものを用いる場合もある。シャツは胸ひだのあるドレスシャツ，ネクタイは黒の蝶(ちょう)結び，帽子はシルクハットまたはホンブルグ(つばに黒の絹縁をとった中折れ帽)，くつは黒エナメルを着用する。〔小室正雄〕

タキシラ［Taxila］　パキスタン北部にある遺跡名。BC500～AD500年にわたる間の幾多の都市で，《大唐西域記》に詳しい記述があり，城壁のある３都市と周辺の仏教寺院跡からなる。イギリスのJ.マーシャル卿(きょう)が1913年以来22年間にわたり発掘したもので，多くの研究成果をあげるとともに，現地博物館やレスト-ハウスを完備して，研究に供している。

たきせいいち【滝精一】(1873～1945)　東洋美術史家。日本画家滝和亭(かてい)の長男として東京に生まれた。東京帝国大学文科大学卒業。わが国の美術史学の基礎を築き，1914年(大正３)東京大学教授，1925年帝国学士院会員となる。早く，古社寺保存会・国宝保存会の委員として重要美術品調査会の創設に尽くした。また，1901年以来は雑誌《国華》の編集に携わり，のち編集主幹となる。1940年(昭和15)その功績により朝日文化賞を受けた。〔匠　秀夫〕

たきせん【滝線】⇨瀑布線(ばくふせん)

タキトゥス［Cornelius Tacitus］(55ごろ～120ごろ)　ローマ帝政時代の歴史家。北イタリアの生まれ。ネロ帝の暴政時代には幼児であったが，ドミチアヌス帝のときにはその暴虐を証言している。77年にアグリコラの娘と結婚し，財政官・護民官・法務官を経て，97年には執政官(コンスル)となった。弁論家としても著名で，プリニウス(小)を助けてマリウス-プリスクスを告訴した。112～113年ごろ，属州アシアの総督となったが，115年以後については不明である。著書には，80年ごろ書かれた《対話編》，義父アグリコラをたたえた《アグリコラ伝》，古代ゲルマン社会について記した《ゲルマニア》，また14～66年間のローマについて書いた《歴史》，69～96年間を扱った《年代記》がある。文章は簡潔で，用語も厳密である。人物の性格や行動の描写にもすぐれ，事件の叙述は正確である。〔久保正彰〕

だきにてん【荼枳尼天】　仏教の鬼神。梵語(ぼんご)Ḍākinī(ダーキニー)の音写。大黒天に従属する鬼で，人の心・肝を食うとされる。毘盧遮那仏(びるしゃなぶつ)に教化されてのちは人を食うことをやめ，６か月前に人の死を知り，他の鬼に先だってその心を食うこととなったという。密教で尊崇され，特にわが国では稲荷(いなり)神と同一にみられる。

たきれんたろう【滝廉太郎】(1879～1903)　西洋音楽輸入後の最初の代表的な作曲家。東京の生まれ。東京音楽学校で学び，《荒城の月》《箱根八里》《四季》(この中に《花》が含まれている)などの歌曲，あるいは幼稚園用の《お正月》《鳩(はと)ぽっぽ》などを作曲した。1901年ドイツに留学したが，病気のため翌年帰国，大分市で療養中に没した。

たく【多久(市)】　佐賀県のほぼ中央部の市。人口26,000。律令(りつりょう)時代には駅路が通じ，江戸時代には鍋島(なべしま)家の一族多久氏の所領であった。明治以降は北部の唐津(からつ)炭田の発展とともに繁栄し，1954年(昭和29)市制施行。市域は筑紫(つくし)山地と筑紫平野の接点にある多久盆地一帯を占め，産業三大別人口比は26：32：42。北部にある炭鉱は石炭の需要減と地盤陥没などの鉱害によって多くが休閉山し，手袋・くつした・土建材料・漁網などの製造工場が誘致されている。東部の納所(のうそ)はビワの産地として知られ，最近はミカンの栽培も盛んである。唐津線・国道203号線が通じる。1708年(宝永５)に創建され，その後復元された多久聖廟(せいびょう)は重要文化財・史跡に指定されている。

タークー【大沽】　中国，河北省北東部，渤海(ぼっかい)湾に臨む港。海河の河口右岸を占め，塘沽(タンクー)と相対する。天津(てんしん)の外港として栄え，清(しん)代には水師営が置かれた。対外関係の紛争が多くなった清末には砲台が築かれ，外交・軍事上の要地として重視されたが，1858年のアロー号事件から1900年の北清事変までは，しばしば列強諸国による攻撃・占領を受けた。しかし，海河から流される土砂が堆積(たいせき)し港が浅くなったため，大型外航船の入港は不可能となり，さらに1952年に塘沽新港が建設された後は，貿易港としての役割をほとんど失い，現在では渤海湾の漁港となっている。〔船越昭生〕

たくあん【沢庵】(1573～1645)　桃山，江戸初期の臨済宗の僧。名を宗彭(そうほう)，号を東海・暮翁・冥子(めいし)という。但馬(たじま)(兵庫県)に生まれ，10歳で出家し，大徳寺宗弼(そうひつ)らに参じ，陽春寺古鏡の印可を受けた。1607年(慶長12)35歳で再び大徳寺に帰り，第一座に推され，徳禅寺・南宗寺に住した。1627年(寛永４)正隠の大徳寺住職就任に際し，幕府の寺院法度(はっと)適用による紫衣剥奪(はくだつ)に抗したため，羽前(山形県)上山(かみのやま)に流されたが，のち許されて宮中に講じた。1638年幕府が江戸品川に東海寺を開いた際，開山として迎えられた。1645年(正保２)12月，73歳で没した。《明暗双双集》をはじめ，著書が多数あり，《沢庵和尚(おしょう)全集》として編纂(へんさん)されている。〔田中良昭〕

たくあんづけ【沢庵漬け】　ぬかづけの一種で，干したダイコンを米ぬかと塩でつけ，重石を載せてつくる。江戸時代に沢庵が創始したといわれる。11～12月につけるが，食べる時期によって食塩とぬかの割合を３：７，５：５，７：３というように加減し，長期に保存する後口用は食塩を多くし，ぬかを少なくする。甘味の少ないダイコンでは人工甘味料・甘草(カンゾウ)末・きな粉やミカンの皮などを混ぜて甘味を補うこともある。なお，米こうじを入れる甘味たくあんづけや，美濃早生(みのわせ)ダイコンを乾燥しないで用いる新づけなどもつくられる。〔塩川ふみ〕

ターク-イ-ブスターン［Tāk-i-Bustān］　イラン，ケルマンシャーの東北５kmのところにあるササン朝時代の遺跡。美しい泉地に臨む岩山に，大小二つの洞窟(どうくつ)がほられており，もとは建造物もあったらしい。洞窟内外に見られる浮き彫りは，みな帝王を主題とする叙任式図や狩猟情景で，ササン朝後期の華麗な美術をよく伝えている。

だくおん【濁音】　日本語のかな文字で

濁点(゛)をつけて表わす音節。五十音図のガ・ザ・ダ・バの各行の音。たとえば,ガ・ジ・ヅなど。濁音は*有声音の子音で始まるが,それら有声音は口腔(こうこう)の同じ位置で発音する*無声音の子音と対応している。すなわち,ガ行(g):カ行(k),ザ行(z):サ行(s),ダ行(d,z):タ行(t,c),バ行(b):パ行(p)など。日本語では単語のはじめの*清音は複合語の第2成分になるとしばしばそれと対応する濁音に変わる。〈たな→本だな〉〈はた→小ばた〉などのように。→半濁音 〔上村幸雄〕

タクシー [taxi] 旅客を運送した距離に応じて,運賃を自動的に表示するメーターを備えた営業用乗用車。いわゆる〈流し営業〉のものをタクシー,〈車庫待ち営業〉のものをハイヤーとよぶ。両者とも法律的には道路運送法による一般乗用旅客自動車運送事業(1個の契約による乗車定員10人以下の自動車を貸し切って旅客を運送する事業)を経営する者が,その事業の用に供する自動車のことで,事業を経営する場合は陸運局長の免許を必要とする。現在タクシーとハイヤーを運賃適用上明確に区別しているのは,東京都特別区など数地区のみで,その他の地域では明確な区別はされていない。わが国にはじめて登場したのは,1907年(明治40)といわれる。1912年には東京にタクシー自動車株式会社が設立され,メーターを備えたフォード車6両で営業を開始したが,運賃は当時の相場としてはかなり高額であったといわれる。東京以外では,1914年(大正3)に京都,1915年に名古屋,1916年に大阪にタクシー会社ができ,今日の隆盛の基礎を築いた。その後数十年を経た今日では,鉄道・バスと並ぶ交通機関として,21万7,774両の車両で年間約42.9億人(国民1人あたり41回利用)の旅客を運び,6,663億円(1970年度,運輸省調べ)の営業収入をあげている。

現在,大都市における需要は,社会経済活動の活発化に伴って,著しい伸びを示している。特に,他の輸送機関との運賃格差が小さいことや,鉄道・バスが都市の発展に十分即応していないことなどから,従来これら他の輸送機関が担当していた旅客をも輸送するようになっている。しかし,労働力の著しい不足によって,必要な車両の増強ができないので,需要に追いつけない現状にある。この需給のアンバランスの一つの結果として,サービスの低下をきたし,特に夜間を中心として乗車拒否・不当運賃請求・接客態度不良などが社会問題として取り上げられている。またタクシー事業は,労働力の不足による人件費の急増,路面交通の混雑による輸送効率の低下などから,その経営が圧迫されている。〔加藤 弘〕

たくじしょ 【託児所】 ⇨保育所

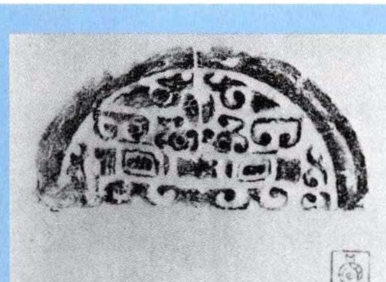
たくじょうけいさんき 【卓上計算機】 ディジタル*計算機の一種。加減乗除の四則計算を行なうことができ,卓上に置いて個人が手軽に扱える。計算機構に歯車を用いる手動式と,モーターによる電動式が古くから使用されていたが,現在では電子回路を用いた計算機構を使用する電子式が大部分を占める。また計算の手順は人間がそのつど押しボタンで操作するものが多いが,中には*プログラムを記憶できるものもあり,小形の電子計算機に近づいてきている。〔小原啓義〕



獣骨に刻まれた殷墟文字 殷代



李斯篆《泰山刻石》残碑 秦代



戦国時代の瓦当 漢代



王羲之集字《聖教序》 唐代

拓 本

だくすいけい 【濁水渓】 チオショイ川 台湾の中部を西流する川。全長約170km。台湾山脈奇莱主(きらいしゅ)山に発し,山脈の西斜面を流れる諸河川を合わせ,さらに西流して彰化(しょうか)・嘉義(かぎ)の間を通って台湾海峡に注いでいる。山脈から台湾平野に出るところに大扇状地を形成し,下流域では灌漑(かんがい)用水路が発達している。上流の粘板岩をとかして川水が黒く濁ることからこの名がある。

たくち 【宅地】 家屋の建築に供される土地で,不動産登記法の定める土地登記簿の表題部の地目欄へ宅地として登記されてあるものをいう。農地に家を建てるには,*農地法によって省令で定める手続きに従い,農業委員会を通じて都道府県知事あてに地目変更の申請を提出し,農地を宅地にする許可を受けなければならない(農地法4条)。

たぐちうきち 【田口卯吉】 (1855~1905) 経済学者・史論家・政治家。江戸の幕臣の家に生まれる。1869年(明治2)沼津兵学校にはいり,のち静岡病院で蘭医学を学ぶ。1872年大蔵省翻訳局にはいり,かたわら新聞に経済評論を投稿,1877年《日本開化小史》の一部を出版した(1882年完成)。また嚶鳴(おうめい)社を興して民権運動にも参加した。1878年官吏をやめ,1879年《東京経済雑誌》を創刊。雑誌《史海》で史学の普及を図り,《群書類従》の復刻,《国史大系》の編纂(へんさん)に着手した。また東京府会議員・市会議員などになり,1894年以降は衆議院議員として活躍した。〔安達淑子〕

タクト [Takt] 15~16世紀のラテン語タクトゥスに由来するドイツ語で,拍・拍子・小節などを意味する。また,指揮棒をタクトシュトックというため,日本ではそれをつづめてタクトといい,指揮棒を使わない場合も含めて指揮をすることをタクトをとるといったりする。

たくはつ 【托鉢】 仏教の修行の一。はちを持って食物を乞(こ)うことで,行乞(ぎょうこつ)・乞食(こつじき)ともいう。ブッダ当時の出家修行者たちは,戒律の規定によっていっさいの生業につくことが禁ぜられ,自分の身体を保持するために,在家人の各戸ごとに食物を乞うことが行なわれた。その方法については,きわめて厳密な規則が定められている。中国では,宋(そう)代に禅宗寺院で期日を定めて集団による托鉢修行を行ない,日本でも主として,禅宗がこの伝統を伝え,実践している。〔田中良昭〕

たくばつけい 【拓跋珪】 ⇨道武帝

たくほん 【拓本】 石碑や器物などに刻まれた文字または文様を紙に写し取ったもの。またその方法をいう。石本・碑本・墨本などともよぶ。中国で古くから行なわれ,文献の上からは六朝(りくちょう)のころにもあったと考えられるが,いま見られるのは唐代のものからである。宋(そう)代になって碑版法帖(ほうじょう)が流行するようになってから

多く使用されるようになった。はじめは紙の上に墨を毛氈(もうせん)のきれですりつけたので氈蠟(せんろう)とよばれていたが，しだいに精巧になってきた。その方法には蟬翼拓(せんよくたく)(淡墨拓)・烏金拓(うきんたく)(光沢のある濃墨拓で油蠟(ゆろう)を混ぜて行なう)・夾紗拓(きょうさたく)(紙間に布をあてて拓本に布目を出す。隔麻拓ともいう)の方法があり，特に淡墨のものが賞美される。現在，一般に金石に用いる方法は，原物に紙を水張りして半がわきのところへ墨をタンポで打ちつける湿拓と，拓本用の石花*墨を用いて紙面に文字を刷り出す乾拓の２法がある。日本では拓本のことを古く石摺(いしずり)とよんでいる。〔中田勇次郎〕

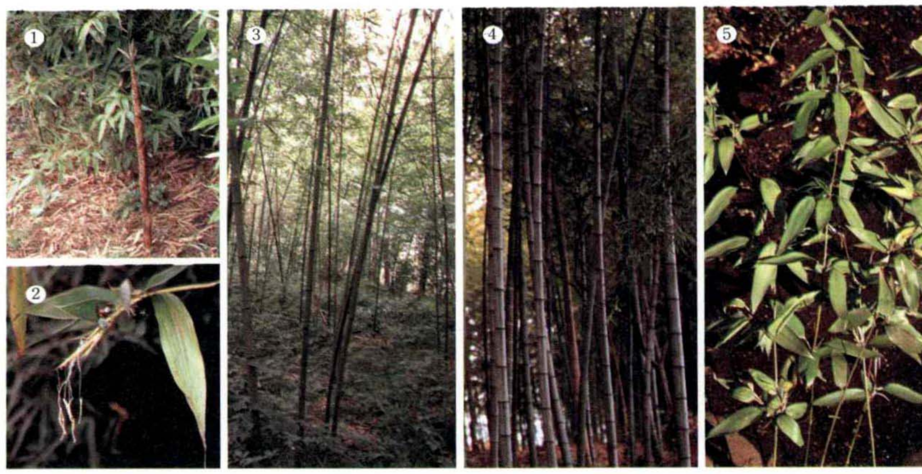
たくまつねきち【田熊常吉】(1872～1954) タクマ式ボイラーの発明者。鳥取県に生まれ，貿易会社などを経て32歳で製材業を経営。そのかたわらボイラーの発明を志し，資金不足に悩まされながら20有余年独学で研究を続けた。1913年(大正２)ボイラー水の循環系統に特徴をもつタクマ式ボイラーを発明，当時世界最高を誇るものとして，日・英・米３国の特許を得た。1930年(昭和５)本多光太郎らとともに第１回十大発明家に選ばれ，その功績が認められた。1938年田熊汽罐(きかん)製造を創立。

たくまは【宅磨派】 平安末期から鎌倉時代にかけて活躍した画派。宅磨為遠(ためとお)を祖とし，その長子勝賀が京都に開いた絵仏師の系統と，三男為久を祖とする鎌倉の俗人絵師との系統がある。勝賀は神護寺・東寺に関係して活躍，現在東寺に《十二天屛風(びょうぶ)》の遺品がある。その作風は，従来の仏画の伝統的形式を打破し，宋画(そうが)の要素を多分に取り入れた新しい仏画形式である。このほか神護寺・高山寺を中心に俊賀・恵日坊成忍(じょうにん)らが出，また鎌倉末期には栄賀が現われて活躍するが，以後はしだいに衰退した。〔村重 寧〕

たくむしょう【拓務省】 1929年(昭和4)設置された植民地統治・移植民行政を担当した政府の中央機関。１部３局からなり，朝鮮・台湾両総督府その他の植民地行政機関を統轄し，また移民の奨励や，東洋拓殖会社・南満州鉄道(株)などの業務指導を行なった。1942年11月大東亜*省の新設に伴って廃止，同省に編入された。

たくよう【托葉】 葉柄基部付近に普通は１対みられる付属体で，葉状・とげ状・突起状など，植物の種類によってさまざまである。主として双子葉植物にみられる。葉が生長すると脱落するものが多いが，エンドウのように残って葉と同様に光合成を行なうものもある。

ダグラス［Stephen Arnold Douglas］(1813～1861) アメリカの政治家。バーモント州に生まれた。イリノイ州で弁護士を開業，州検事・州議会議員・州最高裁判所判事を歴任して，1843年には下院議員，1847年には上院議員となり，民主党を指導した。1854年，カンザス-ネブラスカ*法を提出，奴隷制の可否を准州(じゅんしゅう)の住民投票で決する〈人民主権〉論を展開し，これにより南部の支持で大統領候補指名を得ようとしたが，失敗した。1858年の上院選挙で共和党のリンカーンと争い，奴隷制をめぐって論争した。この選挙には勝ったが，ドレッド-スコット判*決に対する彼の見解は民主党を分裂させた。1860年の大統領選挙には北部民主党から出馬し，リンカーンに敗北した。しかし，南部諸州離脱後は連邦維持のため，リンカーンを支持した。〔折井一彦〕



タ ケ ①マダケのたけのこ ②マダケの花 ③マダケ ④モウソウチク ⑤オカメザサ

ダグラス［Frederick Douglas］(1817～1895) アメリカの黒人奴隷廃止論者・ジャーナリスト。メリーランド州で奴隷女の子に生まれたが，やがて逃亡して姓をダグラスと変えた。独学で読み書きを覚え，1841年ギャリソンの奴隷制反対協会に加わった。1845年イギリスを講演旅行中に自由を買いもどし，帰国後ニューヨークで《北部の星》紙を発刊，急進的奴隷制廃止論を展開した。南北戦争中はリンカーンを支持する一方，黒人部隊を組織して従軍し，戦後も黒人の公民権保障に尽力した。のちコロンビア特別行政区の連邦裁判所長官となった。〔折井一彦〕

ダグラスこうくうきがいしゃ【ダグラス航空機会社】 ⇨マクダネル-ダグラス

タクラマカン(砂漠)［Takla Makan］ 中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区のタリム盆地中にある砂漠(さばく)。天山山脈と崑崙(こんろん)山脈に囲まれ，面積約40万km²。漂砂・粘土が露出し，ほとんど降水をみない。東流するタリム川がロブノール湖にはいり，砂漠周辺の山麓(さんろく)地帯では地下水が湧出(ゆうしゅつ)してオアシスを形成する。紀元前後より乾燥化に向かい，かつて繁栄したホータン・ニヤ・楼蘭(ろうらん)などの都市は廃墟(はいきょ)と化した。これらは20世紀初頭，スタイン*やヘディン*らの探検によって明らかにされた。〔船越昭生〕

たくらん【托卵】 鳥が他種の鳥の巣に卵を産み込んで，自分の雛(ひな)を他種に育てさせること。日本ではホトトギス類が行なうことで知られているが，世界的にみると，ホトトギス科の一部(約80種)，ミツオシエ科(15種すべて)，テンニンチョウ類(11種すべて)，ハタオリドリ科のうち１種，ムクドリモドキ科の一部，ガンカモ科のうち１種が托卵性を示している。

ダクロン［dacron］ アメリカのデュポン社がイギリスのテリレンの製法特許によって製造しているポリエステル系合成繊維につけた商標。わが国のテトロン・エステルなどの商標の合成繊維と同質のもの。

たけ【竹】 単子葉植物・イネ科・タケ亜科。広義にはササ*も含めていうが，たけのこ*のときのタケの皮が生長につれて早く落ちるものをタケといって，ササと区別する。タケ・ササとも，幹が木質でかたいこと，枝を出すこと，葉とその下に続く葉鞘(ようしょう)との間に関節があって，葉はそこから落ちることなどで，イネやススキなど一般のイネ科植物と異なる。そのため，イネ科を大きく２分してタケ亜科とイネ亜科とされる。また，学者によってはイネ科から切り離してタケ科として独立させている。

昔は植物を分類するのに，菌類・藻類(そうるい)のような下等植物は別として，一般の高等植物は木であるか草であるかということが最も重視された。その場合，タケは木か草かということで，その所属が大きな問題となり，ついには木でも草でもないとして，木と草のほかに竹という第３群が設けられたような時代が長く続いた。しかし，今日の学問の上では明らかに木とされる。それは植物の細胞壁はふつうセルロースからなり，そのような細胞からなる組織は柔らかいので柔組織とよばれる。ところが細胞壁にリグニンという物質が蓄積すると，細胞壁が厚く，かつかたくなる。そのような現象を木化といい，木化した細胞が集まったものは木化組織，すなわち材である。要するに茎や根の中に木化した細胞が多い

ものが木で，木化した細胞が少なく，柔組織が多いものが草である。タケでは木化組織が柔組織よりはるかに多い。

タケは他の植物よりも著しく生長が早いが，これは他の植物では茎の頂端の生長点で細胞分裂が起こって生長するが，タケではそのほかに節ごとに輪状に生長帯という組織があり，たくさんの節でいっせいに細胞分裂が起こるからである。このように節間で生長が起こるため，たけのこのときに枝になる芽がタケの皮で強く幹の面が圧迫されるので，生長に伴って跡が残り，それで枝が出ている上方の節間側面が平たくなるか，またはみぞ状にへこみ，切り口が正円にならない。また，幹は内部に大きな空洞(くうどう)があるが，たけのこの先端部では10節ぐらいの間は内部が充実している。ただ他の木とは異なり，節になる横隔壁の組織が幾段にも重なって，その間ごとに髄質が満たされている。しかし，たけのこの生長があまりにも早いので，髄質の増殖が節間の生長に追いつけず，そのため空洞ができ，髄質はやがてかわいて膜状になる。それが竹紙といわれるものである。

タケは30年(または60年，120年)に一度花が咲くといわれるが，いまのところはっきりした年数はわかっていない。花が咲くと枯れるのは，花時には葉がなくなるため栄養が不足して枯れるという説と，イネ・ムギのように一生に1度だけ開花する植物なので，花が咲けば枯れる性質のものであるという説があり，これもまた決定的な学説がない。

タケは植物学上，マダケ属・ナリヒラダケ属・ビゼンナリヒラ属・ホウライチク属・シホウチク(シカクダケ)属・オカメザサ属など，数個の系統に分類される。マダケ属はマダケを代表種として，ハチク・モウソウチク・ホテイチクなどがあり，日本ではタケといえば普通はそれらをさすことが多い。いずれも1節から2本の枝が出て，そのうち1本が太く，ほかの1本は細い。実は細いほうの枝は太い枝の枝，つまり孫枝なのである。太い枝の最下の節間が極度に短くなったため，太い枝の最下の枝(細いほうの枝)が幹の節から直接出ているように見えるのである。そのほかの属では1節から3本以上7～8本の枝が出る。オカメザサは幹の高さが1m内外で，世界で最も小さいタケである。1節から4～5本の短い枝が出て，その先にそれぞれ1枚の葉がつく。葉のもとにあるさやが肥厚して柄のようになっているのが，ほかのタケでは見られない大きな特徴である。シホウチク(四方竹)は幹の切り口が四角形であること，幹の表面にとげ状の毛が密生していること，節のまわりにいぼ状の突起が数個輪生すること，たけのこは秋に出ることなどが特徴である。

タケの語源については多くの説があるが，



竹内栖鳳《あれ夕立に》 東京国立博物館蔵

一般には《万葉集抄》にある説，すなわち〈タ〉は〈高い〉の意，〈ケ〉は木の古語，すなわち〈高い木〉から出たという説が採用されている。そのほか，生長が早いことから，〈痛快茎延(いたくきは)え〉，あるいは〈長(た)け生(お)うる〉などの語がつまってできたという説もある。タケは漢字で〈竹〉と書くのが現在は普通であるが，万葉がなでは多気・多計・多介・太計・陀気などである。竹の字は葉の姿からでた象形文字であるといわれている。〔鈴木貞雄〕

たけうちかつたろう【竹内勝太郎】(1894～1935) 詩人。京都市の生まれ。私立清和中学中退。1913年(大正2)上京して三木露風*に師事し，のち京都に移住，詩壇を離れて詩作した。また，フランス象徴主義，特にマラルメ*に関心をいだき，渡仏後はバレリー*に傾倒。晩年は芭蕉*(ばしょう)や杜甫(とほ)にも親しんだ。象徴的な，かつヒューマニスティックな詩風で，《素描》《光の献詞》《明日》《春の犠牲》《黒豹(くろひょう)》などの詩集がある。〔江種満子〕

たけうちせいほう【竹内栖鳳】(1864～1942) 日本画家。京都の生まれ。幸野楳嶺(ばいれい)に四条派*を学び，欧州に留学。西洋画風を摂取して，四条派の手法を近代化した軽妙な新画風を開く。文展開設とともに審査員にあげられ，帝室技芸員・帝国美術院会員を歴任した。1937年(昭和12)第1回の文化勲章を受ける。官展京都派の第一人者で流麗洒脱(しゃだつ)な筆技は抜群，代表作に《雨霽(うさい)》《あれ夕立に》《河口》《斑猫(はんみょう)》《宿鴨宿鴉(やどがもやどがらす)》などがある。〔匠　秀夫〕

たけうま【竹馬】 2本の竹棒にそれぞれ横木を結びつけ，それに足を掛け，竹の上部を持って歩行する遊び具。地方によって，高馬・高足・鷺足(さぎあし)などともよんでいる。日本では平安時代から竹を用いた遊びが行なわれていたが，それは1本の葉のついた生竹にまたがり，竹に結んだ綱を手綱(たづな)に擬したものであった。現在の高足系の竹馬に近い形となったのは室町時代からでこれは当時流行した田楽*に使用した高足というはきものから変化したものである。江戸時代になると練り物細工の馬の首に竹胴，その末端に車をつけた〈春駒(はるこま)〉が生まれ，これら春駒と高足系の2種の竹馬が子どもの玩具(がんぐ)として親しまれた。〔合田　濤〕

たけお【武雄(市)】 佐賀県西部の市。人口35,000。原始時代の遺跡や条里遺構があり，蓬萊山麓(ほうらいさんろく)にある温泉の起源は古く，江戸時代には長崎街道が通じて，温泉と宿場の町として繁栄した。1954年(昭和29)市制施行。武雄盆地の中心を占め，北西部に蓬萊山，南に御船(みふね)山などの山地がある。産業三大別人口比は27：26：47。平地には水田が開け，山麓部にはミカン・カキ・イチゴ・マツタケ・茶などの産が多い。佐世保線が通じ，長崎・佐世保に至る国道34号線・35号線も集まる。武雄温泉は泉温46～51℃の単純重曹泉(じゅうそうせん)で，付近一帯はサクラの名所桜山公園である。御船山は神功(じんぐう)皇后の伝説と梅林・ツツジで知られ，山麓にもと鍋島(なべしま)家の別邸であった萩野尾(はぎのお)公園がある。

だけおんせん【嶽温泉】 青森県中津軽郡岩木町にあり，泉温40～50℃，泉質は含土類酸性硫化水素泉で，神経痛・皮膚病・婦人病などにきくといわれる。岩木山麓(さんろく)の高さ450mの高原にある山林に囲まれた静かな温泉で，かつては近在の者の湯治場であったが近年は登山者や観光客でにぎわうようになった。奥羽本線弘前(ひろさき)駅からバスの便がある。

だけおんせん【岳温泉】 福島県二本松市永田にあり，泉温63～65℃，泉質は酸性リョクバン泉で，胃腸病・婦人病などにきくといわれる。安達太良山麓(あだたらさんろく)の標高580mのところにあり，約8kmほど離れた旧火口から引き湯している。冬はスキー客でにぎわい，夏は林間学校にも利用される。東北本線二本松駅からバスの便がある。

だけかんば【嶽樺】 双子葉植物・カバノキ科。シラカンバ*によく似た落葉高木。シラカンバより高い地域(高山帯)に分布する。幹は比較的屈曲し，樹皮はかっ色がかった白色で，シラカンバとは異なってこすっても白い粉がつかない。葉の裏には樹脂粒が多く，側脈は8～11対で両側に光沢があること，果穂が直立することなどによってシラカンバと区別することができる。

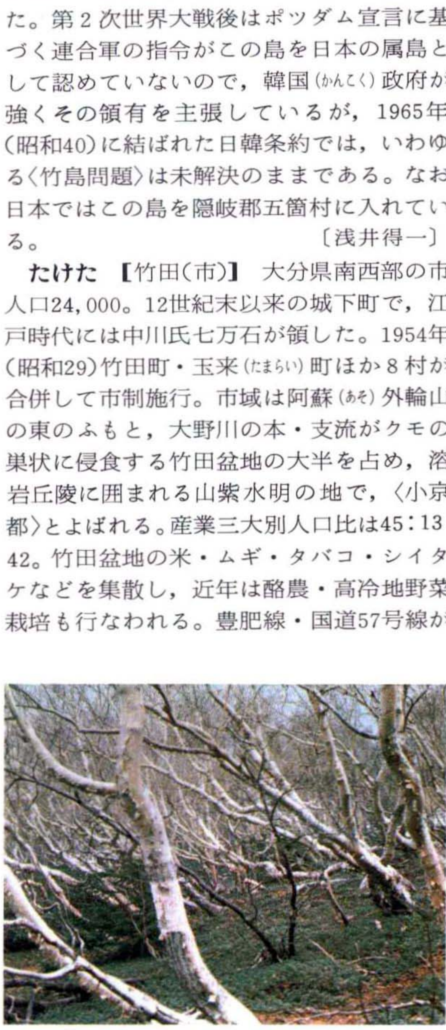
たけくらべ 樋口(ひぐち)一葉*の短編小説。1895年(明治28)1月～1896年1月《文学界*》に連載，1896年4月《文芸倶楽部(クラブ)》に補正再録。吉原(よしわら)遊郭に近い龍泉寺(り

ゅうせんじ)町大音寺前を舞台として，妓楼(ぎろう)大黒屋の養女美登里(みどり)，龍華(りゅうげ)寺のむすこ信如(のぶゆき)らを中心に，少年少女たちがそれぞれの境遇のうちに思春期を迎えて恋に目ざめゆく哀歓が，同情をこめて描かれている。

たけごしよさぶろう　【竹越与三郎】(1865～1950)　政治家・歴史家。号は三叉(さんしゃ)。埼玉県本庄市の出身。慶応義塾(ぎじゅく)卒業後，《時事新報》《国民新聞》の記者を経て，雑誌《世界之日本》を主宰した。著書に《新日本史》《二千五百年史》《日本経済史》などがある。立憲政友会に所属し，1902年(明治35)以来衆議院議員に5回当選。1923年(大正12)貴族院議員。

たけしま　【竹島】　島根県隠岐(おき)島の北西約160kmにある島。日本海海上の無人島で，男島(西島)と女島(東島)の二つの島と数十の岩礁からなる。面積0.23km²で，付近はアジ・サバの好漁場である。朝鮮では独島とよび，欧米人は1849年(嘉永2)にこの島を見たフランス船の名をとって，リアンクール礁とよんでいる。朝鮮では15世紀ごろから千山島という名でこの島を領土として意識し，これに対して日本は1905年(明治38)に島根県告示によって領有を宣言した。第2次世界大戦後はポツダム宣言に基づく連合軍の指令がこの島を日本の属島として認めていないので，韓国(かんこく)政府が強くその領有を主張しているが，1965年(昭和40)に結ばれた日韓条約では，いわゆる〈竹島問題〉は未解決のままである。なお，日本ではこの島を隠岐郡五箇村に入れている。〔浅井得一〕

たけた　【竹田(市)】　大分県南西部の市。人口24,000。12世紀末以来の城下町で，江戸時代には中川氏七万石が領した。1954年(昭和29)竹田町・玉来(たまらい)町ほか8村が合併して市制施行。市域は阿蘇(あそ)外輪山の東のふもと，大野川の本・支流がクモの巣状に侵食する竹田盆地の大半を占め，溶岩丘陵に囲まれる山紫水明の地で，〈小京都〉とよばれる。産業三大別人口比は45：13：42。竹田盆地の米・ムギ・タバコ・シイタケなどを集散し，近年は酪農・高冷地野菜栽培も行なわれる。豊肥線・国道57号線が



ダケカンバ





武田信玄　風林火山の旗　〈疾きこと風の如く，徐なること林の如く，侵掠すること火の如く，動かざること山の如し〉　雲峰寺蔵

通じ，九住山・祖母山の登山基地となる。江戸時代の南画家田能村(たのむら)竹田，日露戦争で軍神とよばれた広瀬武夫(たけお)の出身地で，天下の三険城の一つといわれる岡城跡は少年時代をこの地で過ごした滝廉太郎(れんたろう)の《荒城の月》のイメージを生んだといわれる。岡城跡および田能村竹田の旧居〈竹田荘〉とその墓は史跡に指定されている。

たげた　【田下駄】　湿田にはいって作業するときにからだが沈まぬようにはく，板製のげたふうのはき物。板にひもをつけ，それをあやつって作業する。土をならしたり，刈敷(かりしき)(低木の若枝を刈って肥料とするもの)や緑肥を田に踏み入れる際に使用した。これに類似した農具は登呂(とろ)遺跡などからも出土しており，古くから使われていた。これをオオアシとよび，現在も使用している地方がある。

たけだいずも　【竹田出雲】　浄瑠璃(じょうるり)作者。竹本座の座元。3世まであるが2世が最も有名。

1初世(？～1747)　俳号千前軒。劇場経営に才腕をふるい，舞台技巧をくふう・改良し，近松門左衛門(もんざえもん)の指導の下にみずから浄瑠璃の筆もとった。竹本座隆盛の基礎をかためた人。作者として《大内裏大友真鳥》など11編の単独作のほか，松田文耕堂らとの合作12編がある。

2　2世(1691～1756)　初世の子。前名小出雲。別号千前軒。座元としての親譲りの経営能力に加えて作家的天分に恵まれ，並木千柳・三好松洛(みよししょうらく)との合作で多くの名作を残し，人形浄瑠璃の全盛時代を招いた。《新薄雪物語》《菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかがみ)》《義経(よしつね)千本桜》《仮名手本忠臣蔵》《双蝶々曲輪日記(ふたつちょうちょうくるわのにっき)》などは浄瑠璃史上の傑作。〔前田慎一〕

たけだかつより　【武田勝頼】(1546～1582)　戦国末期の武将。信玄の二男。母は諏訪頼重(すわよりしげ)の娘。1573年(天正1)信玄病没後家督を継ぎ，1574年美濃(みの)(岐阜県)・遠江(とおとうみ)(静岡県)・三河(みかわ)(愛知県)に進攻したが，翌年長篠(ながしの)の戦いで織田・徳川の連合軍に敗れ勢力が衰退した。1582年織田信長(のぶなが)の攻撃を受け，甲斐(かい)(山梨県)天目山麓(さんろく)で自刃，ここに武田氏は滅亡した。

たけだこううんさい　【武田耕雲斎】(1803～1865)　江戸末期の尊王論者。名は正生，通称彦九郎，号は如雲，のち耕雲斎。伊賀守(いがのかみ)。水戸(みと)藩の改革派の重臣で，藩主徳川斉昭(なりあき)の擁立に力を尽くし，のち家老となった。1864年(元治1)天狗党(てんぐとう)の筑波(つくば)山挙兵に擁されて首領となった。戦略功を奏せず，一行800余人とともに西上し，雪中を転戦しつつ京都をめざしたが，途中力尽きて加賀藩(金沢藩)に降伏し，1865年(慶応1)幕命により敦賀(つるが)(福井県)で斬首(ざんしゅ)された。➔天狗党の乱〔岡山泰四〕

たけだし　【武田氏】　清和源氏。新羅三郎義光(しんらさぶろうよしみつ)の子義清が甲斐(かい)(山梨県)巨摩(こま)郡武田村に土着してより武田氏を称した。鎌倉時代には甲斐・安芸(あき)(広島県)の守護となり，南北朝時代には後醍醐(ごだいご)天皇の挙兵に際し北条(ほうじょう)氏に属して一時勢力を失ったが，室町時代には足利(あしかが)氏に従って安芸・若狭(わかさ)(福井県)をはじめ諸国の守護職を得た。安芸武田氏は戦国の争乱により滅亡，甲斐武田氏も一揆(いっき)にあって国人のために領国を追われて衰微した。戦国末期に晴信(はるのぶ)(信玄)が出て勢力を回復し，駿河(するが)(静岡県)・飛驒(ひだ)(岐阜県)・上野(こうずけ)(群馬県)に勢力を広げたが，1582年(天正10)その子勝頼(かつより)が織田・徳川連合軍と戦って敗れ滅亡した。〔村尾元忠〕

たけだしんげん　【武田信玄】(1521～1573)　戦国大名。名は晴信(はるのぶ)。甲斐(かい)(山梨県)の守護信虎(のぶとら)の子。1541年(天文10)信虎を駿河(するが)(静岡県)に追放してみずから守護となり，信濃(しなの)(長野県)の諏訪(すわ)・小笠原(おがさわら)・村上氏を攻略し，川中島で越後(えちご)(新潟県)の上杉(うえすぎ)謙信と衝突をくり返した。その後，飛驒(ひだ)(岐阜県)・上野(こうずけ)(群馬県)に勢力を広げ，1570年(元亀1)には駿河を手中に収めた。1572年遠江(とおとうみ)(静岡県)三方ケ原で徳川家康(いえやす)を破り，さらに三河(みかわ)(愛知県)に進軍したが，陣中で病死した。〈風林火山〉の旗標(はたじるし)は有名。➔川中島の戦い〔村尾元忠〕

たけだたいじゅん　【武田泰淳】(1912～1976)　小説家・中国文学研究家。東京生まれ。東京大学支那(しな)文学科中退。在学中は左翼運動に関係した。1937年(昭和12)応召，中国に派遣され，1939年に除隊帰国した。1944年上海(シャンハイ)に渡り中日文化

協会に勤務し，第２次世界大戦後までの２年間在留した。1943年には《司馬遷》(《史記の世界》)を刊行，作家として認められていたが，1946年帰国後は盛んな創作活動を展開，《蝮(まむし)のすゑ》から《ひかりごけ》に至る作品系列のすべては，自身の体験に根ざしているとされる。ほかに《森と湖のまつり》《貴族の階段》の長編小説，その資質を明瞭(めいりょう)に示す評論集などがある。〔江種満子〕

たけだもくらい　【竹田黙雷】(1854～1930)　臨済宗の僧。建仁寺(けんにんじ)派管長。壱岐(いき)(長崎県)の人。いみ名は宗淵(そうえん)。７歳で出家し，16歳で福岡に出，さらに17歳で京都建仁寺へ移って，五山文学を修めた。24歳で京を離れ，猷禅(ゆうぜん)に師事して修行に励み，1888年(明治21)猷禅の印可を得た。1892年，39歳で建仁寺住職となり，さらに管長に任ぜられ，350年間廃絶していた僧堂の再建を果たした。著書に《黙雷禅話》がある。〔田中良昭〕

たけだやくひんこうぎょう　【武田薬品工業(株)】　わが国最大の医薬品メーカー。1925年(大正14)に武田長兵衛(ちょうべえ)商店と武田製薬とが合併し，武田長兵衛商店(資本金530万円)を設立。1943年(昭和18)，現社名に改称した。190年ののれんの古さと技術力・販売力で製薬業界の王座を占める。事業内容は医薬品を中心に食品・農薬・化学品・化粧品などで，経営の総合多角化が特色である。薬品ではビタミン剤〈アリナミン〉が有名で，世界30数か国に輸出している。現在，鹿島(かしま)(茨城県)石油コンビナートに進出中で，化学品部門の大きな飛躍が期待されている。本社大阪。工場は大阪府神崎川・東京・山口県光など。資本金258億5,000万円，年間売上高4,203億1,600万円，従業員数11,007(1980年９月)。

たけだりんたろう　【武田麟太郎】(1904～1946)　小説家。大阪の生まれ。東京大学仏文科中退。在学中から創作活動と左翼運動に従事，1929年(昭和４)小説《暴力》により一躍左翼作家として有名になった。のち《日本三文オペラ》以下の市井事物で独特な話術文体を完成。一方，1936年に《人民文庫》を創刊，軍国主義へと傾く文学潮流に抵抗を示したが，第２次世界大戦中は徴用され，戦後まもなく病没した。

たけちずいざん　【武市瑞山】(1829～1865)　幕末の尊攘(そんじょう)派志士。土佐藩郷士。名は小楯(しょうじゅん)，通称半平太，瑞山は号。1856年(安政３)江戸に出て剣術家桃井(もものい)春蔵に師事し，春蔵門下の諸藩の志士と交わった。1861年(文久１)土佐に帰り，坂本龍馬(りょうま)らと土佐勤王党を組織。藩内の主流吉田(よしだ)東洋を中心とする公武合体派を退けて，一時藩論を尊攘に導いたが，文久３年８月18日の政変以後，藩論は保守に傾き，激しく弾圧されて切腹。〔西ケ谷恭弘〕

たけちのおうじ　【高市皇子】(654～696)　天武天皇の第１皇子。母は胸形君尼子娘(いらつめ)。壬申(じんしん)の乱には近江(おうみ)朝を脱出して父の挙兵に参加し，軍を統率して活躍した。689年(持統３)皇太子草壁皇子の死後太政大臣となり，持統朝(687～696)の政治を指導した。皇子の死をいたんだ柿本人麿(かきのもとのひとまろ)の挽歌(ばんか)は《万葉集》の秀作として有名。

たけちのくろひと　【高市黒人】　奈良前期の歌人。生没年不詳。姓(かばね)は連(むらじ)。《万葉集》に18首の短歌を残している。柿本人麿(かきのもとのひとまろ)・志貴皇子(しきのみこ)らとともに当時の代表的歌人。自然をよんだ作品が多く，叙景歌の創始者ともいわれる。歌調は平明・清澄で，格調の高い作品が多い。

ターゲット　［target］　X線や電子線の発生装置の放射線を受ける極板。数万ないし数十万電子ボルトのエネルギーの電子を金属板にあてるとX線が発生し，電子のエネルギーが100万電子ボルトを越せばγ線が発生する。γ線や数百万ないし数百億電子ボルトのエネルギーの陽子・重陽子・α粒子を物質にぶつけて，原子核反応を起こさせたり，中間子その他の素粒子を人工的につくったりするとき，これらの粒子がぶつかる物質をターゲットともいう。〔飼沼芳郎〕

たけとよ　【武豊(町)】　愛知県知多半島東岸にあり，知多郡に属する町。人口34,000。名古屋港の開港以前に，名古屋市の外港として発展し，近年は衣ケ浦臨海工業地帯の一環として，埋め立て地に機械金属関係の工場が建設されている。武豊線・名古屋鉄道河和線が通ずる。

たけとりものがたり　【竹取物語】　平安時代の物語の一。全１巻。《竹取の翁(おきな)》《かぐや姫の物語》ともよばれる。成立年代・作者は不明であるが，《源氏物語》の絵合の巻によれば，〈物語の出(い)で来はじめの祖(おや)〉とされる。仮名散文の伝奇的物語の嚆矢(こうし)。作者は漢籍の知識ある男性とされ，源順(したがう)・僧正遍昭らを推す人もいる。竹取の翁が野山で商売の竹を取っていて，その中に光り輝く美少女(かぐや姫)を発見，家で養育する。姫は長じて５人の貴公子の求婚を受けるが，それぞれに難題を課して退け，また，天皇からの要望にも従わず天に帰るというもの。〈羽衣伝説〉や〈妻争い〉の説話など民間の伝承説話から脈を引く部分が多い。また，仏典や漢籍，あるいは《万葉集》《今昔物語集》などにみられる同種の説話も素材を提供しているらしい。軽口やしゃれなどが随所に挿入(そうにゅう)されている一方では，かぐや姫あるいは老人の，いわば物のあわれを知る態度，あるいは純愛の様相などの表現に，新しい物語像へ移行する姿勢がみられる。そこに，現実では起こりそうもない事件を多く描きながらも，なお享受者に永遠の感傷を誘う要素があるのであろう。物語中の５人の貴公子のうち，石作皇子(いしづくりのみこ)を除く他の４人は，いずれも史上実在の人物に比定しうるもので，しかも壬申(じんしん)の乱を天武天皇側について戦った者の系統であることは注目される。文章は簡古であって，あるいはその原型は漢文体であったとも考えられている。〔中島　尚〕

たけなかこうむてん　【(株)竹中工務店】　建設大手五社の一。慶長年間(1596～1614)に名古屋で創業，当時は社寺建築を専門としていた。明治維新後洋風建築を手がけるようになって神戸(こうべ)に進出，1923年(大正12)に大阪に本店を移し，1937年(昭和12)株式会社組織となる。この間手がけた工事は名古屋鎮台(1873)・三井製糸所(1895)など。第２次世界大戦後は東京でも大形工事を担当，日活国際会館・リーダーズダイジェストビルなどを手がけた。支店は札幌(さっぽろ)・東京・名古屋・広島・九州。資本金426億円，1970年度完成工事高2,735億円，従業員数11,000(1971年11月)。なお株式は未公開。

たけなかはんべえ　【竹中半兵衛】(1544～1579)　戦国末期の武将。名は重治(しげはる)。半兵衛は通称。美濃(みの)(岐阜県)の人。斎藤龍興(たつおき)に仕えたが，斎藤氏滅亡後は織田信長(のぶなが)に仕え，さらに豊臣秀吉(とよとみひでよし)に属した。1570年(元亀１)長篠(ながしの)の戦いに功を立て，次いで1579年(天正７)秀吉の中国征伐に従い播磨(はりま)(兵庫県)三木城攻略に参加したが，陣中で病死した。知謀の将として著名。

タケニウス　［Otto Tachenius］(1620ころ～1690ころ)　ドイツの医化学者。塩類が酸とアルカリからなること，せっけんが脂肪酸の塩であることを認めていた。また，鉛を燃焼すると重さを増し，還元するともとにもどることを知っていた。しかし，その原因を炎の中の物質に帰していた。定性分析の進歩に寄与した功績は大きい。

たけにぐさ　【竹似草・博落回】　双子葉植物・ケシ科。ササヤキグサ・チャンパギクともいう。荒れ地や道沿いのがけなどにはえる多年草。茎は中空で高さ１～２mになり，全体に白い粉を吹き，切ると橙黄(とうおう)色のしるを出す。葉は互生し，心形で切れ込みは多く，裏面は白色の軟毛におおわれている。６～８月，茎の先端に白色の小花が集まって円錐(えんすい)状をなす。花は長さ１～1.5cmのがく片２枚，おしべ約20本，めしべ１本からなり，花弁はない。果実は長さ２～2.5cmの卵状の蒴果(さくか)で黄熟し，中に３～４粒の種子を入れる。全草にアルカロイドのプロトピンを含む有毒植物であるが，民間では橙黄色のしるを虫刺されに用いたりする。〔加藤僖重〕

たけのうちしきぶ　【竹内式部】(1712～1767)　江戸中期の国学者・神道家。尊王論者。名は敬持。羞庵(しゅうあん)・正庵・周斎などと号した。式部は通称。越後(えちご)(新潟

県)の生まれ。京都に出て儒学・神道を学び，徳大寺家に仕えた。のち家塾(かじゅく)を開いて多くの公家(くげ)を門人とし，尊王論的な思想を説いた。1759年(宝暦9)宝暦事件*に連座して京都を追放され，さらに1767年(明和4)明和事件*に関連して八丈島に流され，その途中三宅(みやけ)島で病死した。

たけのうちのすくね【武内宿禰】《古事記》《日本書紀》にみえる伝説的人物。〈たけしうちのすくね〉ともいう。孝元天皇の孫とも曾孫(そうそん)とも伝えられ，景行・成務・応神・仁徳(にんとく)の4朝に仕え，古代国家の最初の大臣(おおおみ)の任を勤めたという。その間神功(じんぐう)皇后の新羅(しらぎ)遠征を助け，応神天皇の即位を実現させたと伝えられるが，史実として確かではない。巨勢(こせ)・蘇我(そが)・平群(へぐり)・紀などの古代の有力豪族はみな武内宿禰を祖とする。

たけのこ【筍】竹の子とも書く。古くは笋(たかんな)とよばれた。春にタケの地下茎から出る若芽を食用にする。現在わが国のたけのこは大部分が太いモウソウチクで，次いでハチク・マダケのほぼ3種類に限られ，このほか東北地方に篠竹(スズダケ)がある。味が淡泊なので，広く料理に使われ，煮つけ・あえ物・吸い物などのほか，たけのこ飯・つけ物などにも用い，またかんづめにもする。➔タケ

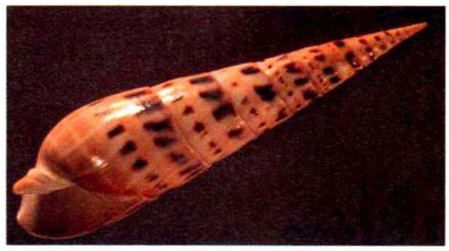
たけのこがい【筍貝・笋貝】軟体動物・腹足類・タケノコガイ科。殻高(かくこう)15cm，殻径2.5cmほどの細長い巻き貝。殻頂のほうへしだいに細くなり，螺層(らそう)の数は多く20階に達する。黄白色の地に各層に2列，体層に3列の黒色方形斑列(はんれつ)がある。紀伊(きい)半島以南，太平洋・インド洋海域の浅海の砂底にすむ。殻(から)は美しいので，貝細工や観賞用に用いられる。

たけのじょうおう【武野紹鷗】(1502～1555) 室町末期の茶匠。珠光(しゅこう)・引拙(いんせつ)に次ぐ茶の湯の名人。千利休*の師匠。和泉(いずみ)(大阪府)の堺(さかい)の皮革業者の家に生まれ，新五郎仲村といった。和歌を三条西実隆(さねたか)に学び，朝廷に献金し，従五位下因幡守(いなばのかみ)に叙任された。珠光流茶道を藤田宗理に学び，剃髪(ていはつ)して一閑紹鷗と号した。晩年，京都四条に大黒庵(だいこくあん)を開き，松永久秀(まつながひさひで)や京・堺の数寄者(すきもの)を招いて，茶事を催している。茶道を簡素な庶民生活に近づけ，晩年は，3畳・2畳半の草庵の茶室*をつくり，わび茶*に徹した。〔桑田忠親〕

たけばしそうどう【竹橋騒動】1878年(明治11)8月23日夜，東京麹町(こうじまち)の竹橋門内の近衛(このえ)砲兵第1大隊に属する下士官・兵約260名が，西南戦争の恩賞不足と給料減額を不満として暴動を起こした事件。大隊長宇都宮(うつのみや)少佐・週番士官深沢大尉を殺害し，大蔵卿(きょう)大隈重信(おおくましげのぶ)邸を襲撃，さらに天皇への直訴を企てたが，他の部隊によって鎮圧された。処罰者は431名にも及び，単なる偶発的暴動ではなく，ある程度計画的なものであったと思われる。以後軍部は軍人訓戒・軍人勅諭*を発し，軍紀の粛正に努めた。〔応和邦昭〕

タケニグサ





タケノコガイ　リュウキュウタケガイ。タケノコガイと同科の貝で，殻高20cmほどに達する



竹久夢二《黒猫》

たけはら【竹原(市)】広島県中南部の市。人口39,000。江戸時代には，瀬戸内海沿岸の塩田開発や阪神(はんしん)方面へ出かせぎに出る杜氏(とうじ)の出身地として知られ，また頼山陽らの学者を多く出している。1958年(昭和33)市制施行。瀬戸内海へ注ぐ賀茂(かも)川下流の沖積地(ちゅうせきち)を中心に，急傾斜して海へ迫る周辺山地と，阿波(あば)島・大久野島などの島々を含む。産業三大別人口比は15：40：45。かつての塩田地帯は製塩技術の変革によって1960年までに全廃され，市街地や工場敷地に変わった。銅・鉛などの製練や造船・紡績・赤れんがなどの製造工業が行なわれ，干拓地の一部は〈竹原ブドウ〉の特産で知られる。東部の忠海(ただのうみ)地区の大乗には中国一の竹原火力発電所(出力25万kW)があって中国・四国を結ぶ送電ルートが通じ，大久野島との間に架設された2,357mの送電線は世界最長である。南部の市街地には呉(くれ)線・国道185号線が通じ，北郊を国道2号線が走る。瀬戸内海国立公園に含まれる大久野島には，第2次世界大戦中は軍の毒ガス工場があったが，いまは国民休暇村に指定され，また，阿波島南端を中心とする海域は天然記念物スナメリの回遊海面として知られる。

たけひさゆめじ【竹久夢二】(1884～1934) さし絵画家・詩人。岡山県の生まれ。本名茂次郎。神戸(こうべ)一中に学び，上京して早稲田(わせだ)実業学校に学ぶ。画家を志して，少年少女雑誌にさし絵などを寄稿し，しだいに評判となる。また，油絵を藤島武二*(たけじ)に学び，師から夢二の画号を与えられた。藤島や鏑木(かぶらぎ)清方*の影響を受け，憂愁をたたえた叙情的な独自の夢二式の美人画は大正期を風靡(ふうび)し，日本画にもすぐれていた。その描くほとんどは美人画で近代的な歌麿(うたまろ)，叙情画家として多くの人々に愛惜された。商業美術の研究のため1931年(昭和6)に外遊したが，帰朝後結核にかかり，富士見高原療養所に没した。詩作もよくし，《宵待草(よいまちぐさ)》《山へよする》など詩画集は50余に及ぶ。〔匠　秀夫〕

たけふ【武生(市)】福井県中西部の市。人口66,000。古くは越前(えちぜん)の国府が置かれた県下最古の都市で，紫式部も父の国司藤原為時(ためとき)に従ってこの地に来住した。鎌倉時代から刃物業が興り，江戸時代には越前三日月鎌(みかづきがま)の産地として知られ，また，紡織業も発達して〈墨流し〉の伝統的手法が今日まで伝えられている。1948年(昭和23)市制施行。日野川が武生盆地へ流出してつくる扇状地状の沖積地(ちゅうせきち)に位置する。産業三大別人口比は14：43：43。盆地周辺の物資を集散し，商業活動が盛んである。北方の福井市・鯖江(さばえ)市とともに機業地帯を形成し，絹織物の大工場もある。伝統の刃物工業は包丁・鎌などの生産が多く，中小工場群が南部に集まる。大正期以降は九頭龍(くずりゅう)川上流の発電所設置によって電力の供給を受け，石灰窒素・合金鉄の電化工業が興り，最近は塩化ビニル・コンクリート・電線・コンデンサーなどの工場が建設され近代工業都市として発展している。南東郊の岡本(おかもと)地方では伝統的な越前和紙の生産が行なわれる。北陸本線が中央部を，国道8号線(北陸街道)が西部をそれぞれ南北に走り，武生駅から福井鉄道が近隣各地へ延びている。

たけべかたひろ【建部賢弘】(1664～1739) 江戸時代の数学者。幕臣建部直恒(な

おつね)の第３子。ふたりの兄とともに関孝和*に師事し，関の業績を拡張した。８代将軍吉宗(よしむね)の信任を得，暦学・算学の顧問格として活躍。300俵の扶持を受けた。いまに伝わらないが日本国総図の製作にあたった。特筆すべきは数学の方法論を打ち出したことで，二項定理・無限級数展開・不定方程式論など独創に富んだ研究を残しており，《綴術(ていじゅつ)算経》(1722年序)に詳しく述べられている。〔下平和夫〕

たけべじんじゃ【建部神社】滋賀県大津市瀬田神領町にある。主祭神日本武尊(やまとたけるのみこと)のほか天明玉命(あめのあきたまのみこと)・大己貴神(おおなむちのかみ)を祭る。《社記神縁年録》によれば景行天皇46年の創祀(そうし)と伝え，のち676年(天武４)に現在地に移祭したとされる。古来武神として尊崇され，《平治物語》に源頼朝(よりとも)が遠流(おんる)の途中，通夜で祈願したことが見えている。４月15日の例祭のほか，２月４日の弓取り神事，８月17日の船幸祭は人出でにぎわう。〔佐野文哉〕

たけべのあやたり【建部綾足】(1719～1774) 江戸後期の俳人・歌人・国学者・読本(よみほん)作者。本名喜多村久域(ひさむら)。俳号涼袋。弘前(ひろさき)藩家老の二男。郷里を出奔して，京の寺門にはいり，還俗(げんぞく)後俳人となって五・七・七の19音からなる古詩形の片歌を提唱，賀茂真淵*(かものまぶち)に入門して国学を修め，また画家を志し，読本にも筆を染めるなど，多彩な生涯(しょうがい)を送った。《南北新話》《片歌二夜問答》《西山物語》《本朝水滸伝*(すいこでん)》《寒葉斎画譜》などの著作がある。〔渡辺守邦〕

たけみつとおる【武満徹】(1930～) 現代日本の代表的な作曲家。清瀬保二に作曲を学び，1951年(昭和26)前衛的な作曲グループ〈実験工房〉を結成し，ピアノ曲《三つの遮(さえぎ)られない休息》やミュージック-コンクレート《ボーカリズムAI》などの作品を発表した。1957年，東京交響楽団によって初演された《弦楽のためのレクイエム》が出世作となり，武満の名は広く楽壇に知られるようになった。1959年〈20世紀音楽研究所〉に入所，以後前衛的な方法で，《リング》《サクリファイス》など室内楽の作品をいくつか作曲した。1960年代の後半から日本の伝統音楽に興味をもち，尺八と琵琶(びわ)のための《エクリプス》，尺八と琵琶とオーケストラのための《ノベンバー-ステップス》を作曲し，日本の伝統を現代に生かした作品として内外から高く評価された。オーケストラ曲も，《樹の曲》《テクスチュアズ》《アステリズム》《クロッシング》などがあり，その作品の鋭い音感覚と豊かな叙情には定評がある。〔船山 隆〕

たけもとあやのすけ【竹本綾之助】(1875～1942) 女義太夫(おんなぎだゆう)の太夫。美声と美貌(びぼう)で明治中期に人気を集め，女義太夫の全盛期を築いた。一時引退したが，まもなく復帰し，大正末年まで高座に出演した。1942年(昭和17)に没し，その年に佳照が２世を襲名した。



タ ゲ リ

たけもとぎだゆう【竹本義太夫】(1651～1714) 義太夫節*の創始者。農民の生まれであったが，今日では古浄瑠璃*(こじょうるり)として総称されている宇治加賀掾(かがのじょう)や井上播磨掾(はりまのじょう)らの流派の節を融合し，竹本義太夫と名のって1684年(貞享１)大阪に竹本座を開いた。この座のために近松門左衛門(もんざえもん)の書いた《出世景清(かげきよ)》以来，旋律の新しさだけでなく，劇作上の新しさをもって，新しい浄瑠璃への道を進めた。また1703年(元禄16)の《曾根崎(そねざき)心中》から，太夫が三味線(しゃみせん)弾きと並んで語る〈出語り〉や人形遣(つか)いが舞台上にはっきり姿を見せる〈出遣い〉をはじめ，今日に至るまでの上演方式を始めた功績は大きい。〔徳丸吉彦〕

たけもとざ【竹本座】人形浄瑠璃(じょうるり)劇場の名。1685年(貞享２)大阪道頓堀戎橋(どうとんぼりえびすばし)に設けられ，義太夫節*(ぎだゆうぶし)発生の場所となった。俗に〈西の芝居〉とよばれ，創設者は初世竹本義太夫。近松門左衛門*(もんざえもん)の《出世景清*(かげきよ)》の成功以来，近松・義太夫・辰松八郎兵衛(たつまつはちろうべえ)(人形つかい)の提携によって新鮮な座風を形成し，《曾根崎(そねざき)心中*》で大あたりをとったりしたが，やがて経営に行きづまり，義太夫が引退。その後，竹田出雲*(いずも)が座元*となって，〈東の芝居〉とよばれた豊竹座*(とよたけざ)と競い合い，《国性爺合戦*(こくせんやかっせん)》《菅原伝授手習鑑*(すがわらでんじゅてならいかがみ)》《義経(よしつね)千本桜*》などの名作をあいついで上演，人形浄瑠璃の黄金時代をつくりあげた。出雲の死後，名人吉田(よしだ)文三郎*の退座などもあってしだいに衰亡し，1767年(明和４)閉座した。〔前田慎一〕

だけもみ【嶽樅】⇨ウラジロモミ

たげり【田計里・田鳧】鳥類・チドリ科。ユーラシア大陸の中北部で繁殖し，わが国には少数が秋に渡来し，おもに刈り田・湿地・畑地などに生息し，越冬する。全長30cm余。頭上には長い金属光沢のある黒色の冠羽があり，夏羽ではのどから胸にかけて黒青色，冬羽ではのどは白くなる。腹部は白色，下面の後端は橙色(とうしょく)，背面は金属光沢のある黒緑色，翼はやはり金属光沢のある黒藍(こくらん)色で，姿がよく，美しい。翼の先は丸みをおび，ゆっくりと飛んで，〈ミューミュー〉と一風変わった声で鳴く。〔安部直哉〕

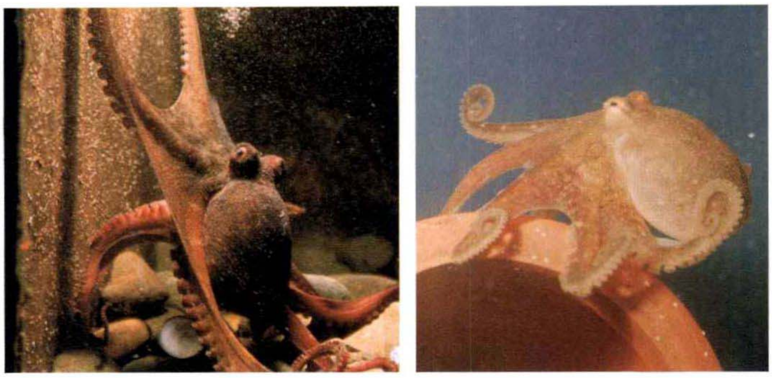
ダゲール［L. J. M. Daguerre］(1781～1851) フランスの画家・舞台装置家で，写真術の発明者。巨大な半透明のスクリーンに描いた風景や建造物の眺望(ちょうぼう)を，光と音響効果を加えてパノラマふうに見せる，ディオラマの共同発明者。カメラ-オブスキュラ(→カメラ)で得られる像を定着することに執心し，1829年末，N. ニエプスと提携，ニエプスの死後その技法をひとりで改善し，露光時間を８時間から20分に短縮，ダゲレオタイプと命名した。銀板写真法であるダゲレオタイプは1839年８月19日に世界に公表され，フランス政府は年金を贈ってこの技法を買い上げたが，印画が一枚しか得られなかったため，やがて複製可能なネガ-ポジ法にとって代わられるに至った。〔平野 久〕

たげんろん【多元論】実在を量的に多であるとする考え。ギリシアでは自然学派やデモクリトス・レウキッポスの原子論*があげられる。この原子論は実在の構成要素をそれぞれ異なった性質をもつ無数のアトムと考えるもので，近代において物の性質を実在と考えたヘルバルトの質的多元論と共通点をもつ。これに対して，ライプニッツはアトムを精神的なものと考え，モナドとよんだ。多元論の難点は一元論*とは逆に多くの現象をいかにして相互に関係づけ，統一するかにあるが，ライプニッツは予定調和の原理でその点を説明しようとした。ロッツェの霊魂単子の理論はこのライプニッツの思想を受け継いだもの。現代ではラッセル*の論理的原子論が多元論の一例とみられる。〔玉井 治〕

たこ【蛸・章魚】軟体動物・頭足類のうち８本の腕がある類の総称。体は胴・頭・腕の順に３部からなる。俗に頭といわれるのは内臓を入れた胴で，胃腸・肝臓・心臓・腎臓(じんぞう)・生殖器・墨汁嚢(ぼくじゅうのう)がはいった内臓嚢(のう)を肉質の外套(がいとう)でおおったもので，その間を外套腔(がいとうこう)といい，外套腔へはいった水は腹側の漏斗から吐き出され，えらで呼吸する。胴にひれがない点で，イカ類と異なる。頭には左右両側に大きい目があり，また軟骨に囲まれた脳がある。腕は８本あり，頭部から出，腕の内側には吸盤が１～２列並び，吸着して運動や捕食の役を果たし，また通常雄の第３腕の先端は生殖の働きをする交接腕となる。腕に囲まれて中央に口があり，口中の顎板(がくばん)は〈からすとんび〉といってキチン質で鋭く食物をかみ取る働きをし，歯舌でさらに咀嚼(そしゃく)される。泳ぐときに

は外套腔内に水を入れて，それを強く漏斗から吐き出して反動で移動するが，はうときは腕を伸ばして吸着しながら動く。体色は周囲の状態で変え，敵に襲われると漏斗から墨汁を吐き出して姿を隠す。夏は浅所に冬は深所に移り，穴居するときはその入り口に食べた貝類の殻(から)などを散らかすので，それが目印になって捕えられる。また，穴居性を利用した漁獲法として，素焼きの〈たこつぼ〉を沈め，そこへはいったタコを捕えることが全国各地で行なわれている。産卵期は夏で，ブドウのふさ状の卵塊を岩の間などに産み，親はその上で卵を保護する習性がある。

普通食用にするタコはマダコ・ミズダコ・イイダコ・テナガダコなどで，日本では重要な水産物となっている。生食のほか，乾物や薫製にするが，ヨーロッパでは悪魔の魚としてきらわれる傾向があり，イタリアなど地中海沿岸で食用にされるにすぎない。マダコは最も普通の種で，体長75cmほどになる。ミズダコは主として北太平洋にすみ，世界最大のタコで，休長３ｍに達する。イイダコは体長20cmぐらいの小形種で，内臓に卵が米飯状に詰まったものを賞味する。テナガダコは体長70cmほどになり，名のように腕が長い。〔波部忠重〕



タ　コ　(左)マダコ　(右)イイダコ



凧
①六角凧(新潟県三条)
②奴凧(東京都)
③巴凧(静岡県浜松)
④五つ輪(香川県高松)
⑤ハタ(長崎県長崎)

たこ【胼胝】　胼胝腫(べんちしゅ)ともいい比較的軽度の刺激が一局所に持続的に作用したために，表皮の角質がその部位に一致して限局的に厚くなったもの。古くなると真皮の結合組織も肥厚することがある。しばしばみられるのはペンだことすわりだこであるが，職業によって特定の部位に生ずる。力が加わらなくなると自然に消えていくのが普通で，炎症を起こして痛むときはその部位を圧迫しないようにして安静にする。

たこ【凧】　細く削ったタケや木などで骨を組み，紙・布などを張ったものに糸をつけ，風力を利用して空に揚げる玩具(がんぐ)。最初宗教上の占いや軍事上のあいずに用いられていたが，のちに遊び道具となった。

たこの最も古い記録はBC400年ギリシアのアルキタスがプラトンの肖像を描いて揚げたというものである。1752年アメリカのベンジャミン-フランクリンが，雷の電気を調べるためにたこを利用した有名な話もある。わが国には奈良朝のころから存在したと思われるが，性能のすぐれたものは平安朝のころ中国から伝えられたといわれ，当時たこ揚げは一種の技芸であった。記録によれば1572年(元亀３)の端午の節供に浜松城主松平頼母(とのも)が源五郎だこを揚げたこと，元和(げんな)(1615～1623)のころ長崎代官長谷佐兵衛(はせさへえ)が烏賊幟(いかのぼり)にろうそくをつけて夜空に揚げたことなどがある。江戸時代には正月の子どもの遊びとして流行するようになったが，各地方の季節風の違いにより３月・５月の節供に揚げるところもあった。一方年中行事としておとなの手によるたこ合戦を行ない，その年の農作の豊凶を占うところもあった。現在その風習が続いているものに４月の長崎，５月の埼玉県宝珠花，静岡県浜松，６月の新潟県白根などがある。

たこの形は角・長方形・五角・六角・変形などで字だこと絵だこがある。字だこは鶴(つる)・亀(かめ)・龍(りゅう)など子どもの健康や出世祈願の文字を用い，絵だこは勇ましい武者絵・芝居絵などが多い。また変形に合わせて描彩した唐人だこ(福島)，奴(やっこ)だこ(東京)，そでだこ(千葉)，とんがり(静岡)，福助・天神・蜂(はち)・扇(愛知)，百足(むかで)だこ(香川)，鬼だこ(長崎)などの細工だこがある。たこの呼び名も，たこ(関東)，とんび(千葉)，いか(新潟・山陰・四国)，いかのぼり(京阪)，ようず(山口)，はた(長崎)，たかはた・とうばた(九州)，てんばた(東北)とさまざまである。〔牧野玩太郎〕

たこうしき【多項式】　$5x^2y$，$-x^3z$などのように，数といくつかの文字の積で表わされた式を単項式という。また，いくつかの単項式や数の和として表わされた式を多項式といい，このときの個々の単項式や数を項という。このように，単項式と多項式とを区別して使うこともあるが，単項式を多項式の特別なものとみなすこともある。単項式と多項式とを合わせて整式という。一つの文字 x の累乗と x を含まない a_0，a_1，a_2，……，a_{n-1}，a_nによってつくられる多項式 $P=a_0x^n+a_1x^{n-1}+\cdots\cdots+a_{n-1}x+a_n$を x の多項式(整式)といい，$a_i\ (i=0,1,\cdots\cdots,n)$ を係数，$a_0\neq 0$ のとき n をPの次数という。多項式では，着目した文字因数の同じ項があるとき，それを同類項といい，同類項を一つの項にまとめることによって，多項式が整理される。また，二つ以上の多項式の積を一つの多項式の形にすることをその多項式を展開するといい，その逆の変形を因数分解*という。〔菊池兵一〕

たこうていり【多項定理】　多項式の累乗の展開を示す式。二項定理*における二項式を多項式に一般化してこの定理が得られる。たとえば，三項式の場合には，二項定理を用いて次のようになる。

$$(a+b+c)^n=\sum_{p=0}^{n}\frac{n!}{p!(n-p)!}a^p(b+c)^{n-p}$$

$$=\sum_{p=0}^{n}\frac{n!}{p!(n-p)!}a^{p}\left(\sum_{q=0}^{n}\frac{(n-p)!}{q!(n-p-q)!}\cdot b^{q}c^{n-p-q}\right)$$

$$=\sum_{p=0}^{n}\left(\sum_{q=0}^{n-p}\frac{n!}{p!q!(n-p-q)!}a^{p}b^{q}c^{n-p-q}\right.$$

一般のm項式の場合には，同じようにして次の多項定理になる。

$$(a_1+a_2+\cdots\cdots a_m)^n$$

$$=\sum\frac{n!}{p_1!p_2!\cdots\cdots p_m!}a_1^{p1}a_2^{p2}\cdots\cdots a_m^{pm}$$

ただし，$\sum$は$p_1+p_2+\cdots\cdots+p_m=n$, $0\leqq p_1, p_2, \cdots\cdots, p_m\leqq n$なる条件を満たす整数$p_1, p_2, \cdots\cdots, p_m$のすべてについての総和を示すものとする。〔菊池兵一〕

たごがえる　【田子蛙】　両生類・アカガエル科。本州・四国・九州の山地に分布する。屋久島には1亜種が分布している。体長4～4.5cm。繁殖期は，本州中部では1～2月ごろと5～6月ごろの2度で，この時季にはしきりに鳴く。産卵は伏流の岩の割れ目や穴の奥で行なわれ，1頭の雌に対し数頭の雄が集まる。このころの雄の体側の皮膚は伸びてたれる。卵は大きく直径3mmくらいで，数は50～80個くらいと少ない。卵塊は石に付着する。〔松井孝爾〕

たこくらげ　【蛸水母】　腔腸(こうちょう)動物・ハチクラゲ綱・タコクラゲ科。半球状で直径100～200mmのかさをもつクラゲ。寒天質内に共生藻類(そうるい)を宿すため濃かっ色を呈し，ところどころ軟骨様組織による黄白色の斑点(はんてん)があるが，色には多少の変異がみられる。共生藻の同化作用のため，日中水面近くにみられる。口腕は8本あり，3翼に分かれる。南日本・沖縄諸島・台湾などの太平洋岸に夏季見られる。エフィラ幼生はプランクトン中に出現し，中央部はかっ色を呈し，傘は大きく，5mmに達する。タコクラゲ科には他にムラサキクラゲが知られている。〔向井　宏〕

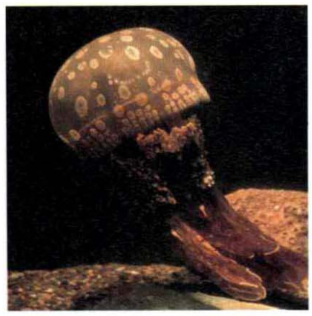
たごくらダム　【田子倉ダム】　福島県南会津郡只見(ただみ)町にあり，阿賀野(あがの)川水系の只見川につくられたコンクリート重力式ダム。高さ145m，総貯水量4億9,400万m³，有効貯水量3億7,000万m³で，1959年(昭和34)に水力発電を目的として電源開発(株)が建設した。発電所の最大出力は38万kW。

たこのあし　【蛸足】　双子葉植物・ベンケイソウ科。関東地方以西の湿地に自生する多年草で，サワシオンともいう。茎の高さ0.3～1m。葉は互生し，披針(ひしん)形で，縁に細鋸歯(さいきょし)がある。7～8月茎の先に黄白色の五弁花を穂状につける。和名は花穂が分岐してタコの足を思わせるところからつけられた。

たごのうら　【田子ノ浦】　静岡県東方，富士市南部の駿河(するが)湾に臨む海浜。北に秀峰富士を仰ぎ，山辺赤人(やまべのあかひと)の古歌で知られた景勝地で，いまは田子ノ浦湾付近をさすが，当時は西の薩埵(さった)峠から

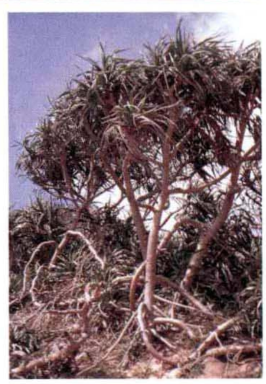


タゴガエル



タコクラゲ





タコノキ
(上)タコノキ
(下)アダン



タコノマクラ

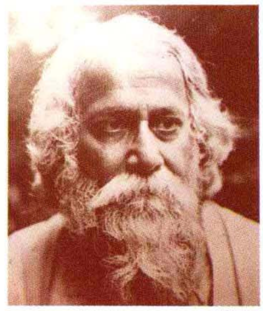
東の浮島ケ原までの広い範囲をさしていたと推定される。1889年(明治22)，富士川・沼川の間の海岸6か村が合併して田子ノ浦村となったが，1954年(昭和29)富士市に合併されて村名は消えた。背後に製紙などを主とする岳南工業地帯を控えて，1962年吉原(よしわら)駅西方の沼川河口に掘り込み式の人口港田子ノ浦港が開かれ，1966年に国際貿易港に指定された。1970年以来，ヘドロ公害による駿河湾汚染が沿岸漁民の生活を脅かし，大きな社会問題となっている。〔浅井得一〕

たこのき　【蛸木】　単子葉植物・タコノキ科。小笠原(おがさわら)諸島に固有の常緑高木で，幹は約10mに達し，まばらに分枝する。各枝の先に葉がらせん状に生じ，幹の下部から気根が地面まで下垂する。葉は長さ1～2m，幅約10cmの線型で，縁に長いとげがある。雌雄異株で，6～7月ごろ開花する。雄花序は葉腋(ようえき)に横出し，おしべのみの花が塊状になってつく。雌花序は松ぼっくり状で，のちに長柄を伸ばして下垂し，長さ30cmぐらいの大きな集合果となる。果実は橙赤(とうせき)色に熟し，分果が離れて落ちる。分果はくさび形で頂部に柱頭の突起を2～3個残存し，外皮の下に繊維質に富んだ中果皮があり，中央に2～3個の仁がある。仁はマツの実の味がして食べられる。気根はさらして繊維をとり，なわ・ぞうりなどに，葉は漂白し着色してかご・たばこ入れ・ぞうり表・敷き物などにする。奄美(あまみ)諸島・沖縄諸島にみられるアダンは近縁種である。〔横井朝子〕

たこのひ　【多胡碑】　群馬県多野郡吉井(よしい)町池にある古碑。711年(和銅4)上野(こうずけ)国片岡・緑野・甘良(かんら)3郡のうち300戸をさいて多胡郡を新設したことを記念するもの。文字も大きくすぐれており，上野三碑(他に山ノ上碑・金井沢碑)の白眉(はくび)で，陸奥(むつ)(宮城県)の多賀城碑，下野(しもつけ)(栃木県)の那須国造碑(なすのくにのみやつこのひ)とともに日本三碑といわれる。

たこのまくら　【蛸枕】　棘皮(きょくひ)動物・ウニ綱・タコノマクラ科。ウニの仲間であるが，殻(から)は扁平(へんぺい)で，丸みをおびた五角形。ウニ類が殻の頂上部に肛門(こうもん)をもち，放射相称形であるのに比し，タコノマクラ類は肛門が殻の縁辺部にあって，左右相称形になっている。かっ色の細く短い棘(とげ)が殻の全面をおおい，棘は乾燥すると緑色を呈するようになる。殻の長径11cm，短径9cm，高さ3.5cmほどで，きわめて堅固である。本州中部から九州までの浅い海の砂底にすむが，近縁のカシパン*類に比べると，礫(れき)などの多い海底を好み，磯(いそ)建て網などにかかることが多い。殻表に小石や海藻(かいそう)などを付着させる。海底の砂泥(さでい)といっしょに有機物を取り込んでえさとする。卵は透明で観察に便利なため，発生学の研究材料として用いられることもある。〔向井　宏〕

たこはいとう　【蛸配当】　株式会社などが，配当*すべき利益がないのに利益配当をすること。タコは空腹のとき自分の足を食


タゴール


太宰　治


大宰府　都府楼跡　背後に見えるのは大野山

うといわれることから，身をきって配当するのをタコになぞらえていうようになった。貸借対照表*上の資産の過大評価，負債の過小評価によって行なわれるのを通例とする。もちろんこれは違法で配当は無効である。会社は，株主に対して受領した配当金の返還を請求でき，また代表取締役は連帯して違法配当額を会社に弁済する責任がある。さらに，取締役も，取締役会でこの違法配当に賛成した者は，代表取締役と同じ責任があり(商法299条２項・266条，有限会社法30条１項)，また刑罰も受けることになる(商法489条，有限会社法78条)。〔松本治雄〕

たこぶね　⇨フネダコ

タコマ　［Tacoma］　アメリカ合衆国，ワシントン州ピュージェット湾奥にある港市。人口15万1,000(1975)。ピュアラップ川が湾に注ぐ地点にあり，港は深い。大陸を横断する北太平洋鉄道の終点でもある。製材・木材加工業が盛んで，北西部第１の電気冶金(やきん)・電気化学の中心地であり，銅の製錬業や製粉業も行なわれている。南東部にあるレーニア山国立公園の玄関口をなす。

タコメーター　⇨回転計

タゴール　［Rabīndranāth Tagore］(1861～1941)　インドの詩人・哲学者。カルカッタの貴族の生まれ。イギリスで法律を学んだのち，帰国して1901年シャーンチニケタンに私立の学園を創立した。1913年には詩集《ギーターンジャリ》などによってノーベル文学賞を受け，以後ヨーロッパ・日本・ロシア・アメリカを旅行し，各地で講演を行なった。彼の詩は叙情詩が主で，ベンガルの民話を織り混ぜて自然と人間の交感を神秘的に描写し，またインドの古典文学や日常生活に題材をとった劇作の面でも新生面を開いた。哲学的には，すべての存在物に外見上の有限性や多様性を越えた神の無限性と統一を認め，そこに神の力の美と調和が見いだせるとした。彼は同時代の民族主義・国家主義を利己主義として非難し，一方で科学や自由・正義などに関する西欧文明の価値を認めつつも，他方では物質的利害から生ずる戦争やヨーロッパ列強による植民地主義を激しく攻撃した。〔山折哲雄〕

だざいおさむ　【太宰治】(1909～1948)　小説家。本名津島修治。青森県の生まれ。東京大学仏文科中退。在学中は左翼運動に関係したり，青森の愛人を東京に住まわせたり，バーの女性と心中を図ってみたり，退廃的な生活を送った。一方，井伏鱒二*(ますじ)に会って，その後長く師事。1933年(昭和８)処女作《思ひ出》を発表後，翌年には同人雑誌《青い花》(１号で廃刊して，《日本浪曼派*(ろうまんは)》に合流)創刊に加わり，《ロマネスク》を発表。このころから薬物中毒に冒されるようになったが，さらに《逆行》《道化の華(はな)》《ダス・ゲマイネ》を発表，新進作家として認められた。1939年には過去を清算して石原美知子(みちこ)と結婚，安定した生活を送るようになった。第２次世界大戦後，《ヴィヨンの妻》《斜陽*》が絶賛を博し，〈斜陽族〉の新語まで生まれた。しかし，たび重なる飲酒と過労がたたり，1948年６月，山崎富栄(とみえ)とともに玉川上水で入水自殺。その文学は，つねに道化と笑いの内に潜む深い憂愁にささえられており，〈生まれて，すみません〉という彼のことばはまさに象徴的である。他に《晩年》《富嶽(ふがく)百景》《東京八景》《お伽(とぎ)草紙》《桜桃》《人間失格》など。〔小林敬子〕

だざいしゅんだい　【太宰春台】(1680～1747)　江戸中期の儒学者。信濃(しなの)(長野県)飯田(いいだ)の生まれ。名は純，春台は号。はじめ性理説を学んだが，のちに荻生徂徠*(おぎゅうそらい)の門下となり，古文辞学で一家をなした。直情径行で，師説を反駁(はんばく)してはばからなかった。神道(しんとう)に対しては批判的で，〈本朝に道という事いまだ有らず〉として，多くの国学者の反感を誘発した。著書は《聖学問答》など多数。

だざいのそち　【大宰帥】　大宰府*の長官。古くは筑紫(つくし)大宰率ともいったが，大宝令(たいほうりょう)(→大宝律令*)以後，帥の字を用いた。奈良時代には大伴旅人*(おおとものたびと)のように実際に現地におもむいて府務を総理する例もあったが，のちには次官である大弐・少弐のみが赴任し，帥は在京するようになり，一種の名誉職として皇族や上級貴族をこれに任じることが多かった。なお権官である権帥(ごんのそち)の中には罪人として現地に流され，大弐・少弐らの監視を受けた者もある。菅原道真(すがわらのみちざね)・源高明(たかあきら)らはその例。〔黛　弘道〕

だざいふ　【大宰府】　律令(りつりょう)制下に置かれた西海道*(九州地方)の統治と渉外・国防の機関で，現在の太宰府*(だざいふ)町に所在した。筑紫(つくし)は大陸との交通上最も重要な要地として早くから大和(やまと)朝廷*の渉外機関が置かれたようであるが，《日本書紀》609年(推古17)の条に〈筑紫太宰〉とあるのが名称の初見である。663年(天智２)白村江(はくすきのえ)の戦い*で唐軍に敗れた際に現在地に移され，水城*(みずき)を構築して，本土防衛の拠点とした。令制により特別行政府としての体制が整えられ，国防・外交の前線機関であるとともに，西海道を統轄して中央に結びつける行政機関となった。奈良時代には外敵に備えて防人*司(さきもりのつかさ)が置かれ，外国使臣の接待機関として鴻臚館*(こうろかん)も置かれた。職制としては長官の帥(そち)・次官の大弐・少弐以下が定められた。740年(天平12)大宰少弐藤原広嗣*(ひろつぐ)の反乱で廃止されたが，まもなく復活した。平安時代には対外関係が緩慢となったため渉外的機能を減じたが，外国商船の来航が多くなるにつれ，唐・宋(そう)私貿易の官営商業機関化し，外港博多(はかた)を繁栄させた。鎌倉時代になって幕府は新たに鎮西奉行*(ぶぎょう)を置き，武藤氏が少弐を兼ねてこの地に駐在し，大宰府守護所と称したが，文永・弘安(こうあん)の役*後，博多に鎮西探題(→探題)が置かれてから大宰府は有名無実となった。なお，大宰府の〈大〉の字は奈良時代の公印では〈大〉，中世以降〈太〉を書くようになった。〔高崎徳次〕

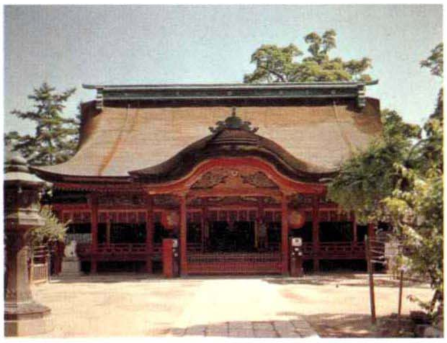
だざいふ　【太宰府(町)】　福岡県筑紫(ちくし)郡に属する町。人口47,000。７世紀後半に大宰府*が置かれ，条坊制の都市が建設されて，律令(りつりょう)時代の西日本の政治・軍事・外交・文化の中心地であった。正庁であった都府楼跡や水城(みずき)・大野城跡などの特別史跡と，観世音寺・筑前(ちくぜん)国分寺跡・筑前太宰府天満宮などの史跡・名所があり，全域が太宰府県立公園に含まれる。福岡市南東15kmの地点にあり，最近はその衛星住宅都市としての発展がめざましい。

だざいふてんまんぐう　【太宰府天満宮】　福岡県筑紫(ちくし)郡太宰府町にある。祭神は菅原道真*(すがわらのみちざね)。道真は903年(延喜３)に配所榎(えのき)寺で没し，安楽寺に葬ら

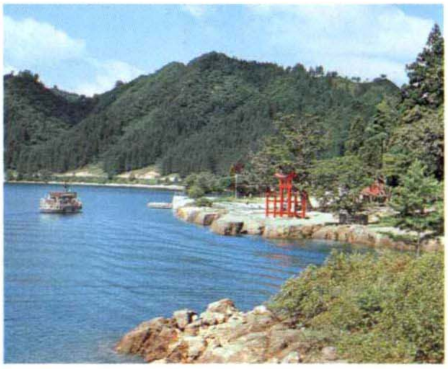
れたが，919年道真の侍臣味酒(みさけ)安行が勅命によってここに社殿を造営した。代々学問の神として尊崇され，京都の北野天満宮*とともに全国天満宮の総社として信仰されてきた。現社殿は1591年(天正19)に小早川隆景(たかかげ)の造営したものである。社宝の《翰苑(かんえん)》は国宝。9月25日の例祭のほか，1月7日の鷽替*(うそかえ)神事がよく知られる。境内はウメの名所で，大いににぎわう。〔佐野文哉〕

たざはいいし【多座配位子】一つの分子またはイオンに配位能力をもついくつかの原子またはイオンがあるとき，その数に応じて二座・三座・四座・六座配位子などといい，一つの配位能力しかもたない単座配位子に対してこれらを総称して多座配位子という。たとえば，エチレンジアミン $\underline{N}H_2 \cdot CH_2 \cdot CH_2 \cdot \underline{N}H_2$ は下線を施した二つのNで配位できるから二座配位子である。➔キーレート化合物

たざわこ【田沢湖】秋田県中東部，駒ケ岳(こまがたけ)の南西のふもとにある湖で，仙北(せんぼく)郡田沢湖町に属する。田沢火山の陥没によって生じたカルデラ湖で，ほぼ円形をなす。面積25.5km²，周囲20km，水面高度249mで，最深所423.4mは日本の湖沼中第1位，透明度30mは世界第1位の摩周湖(41.6m)に次ぎ世界第4位，日本第2位である。北東には国民休暇村をもつ田沢湖高原や乳頭温泉郷があり，付近一帯はキャンプ場・スキー場の適地で観光客を集める。田沢湖線・国道46号線に沿い，駒ケ岳8合めまで登山バスが通ずる。玉川の渓流(けいりゅう)に沿い，紅葉の名所として知られる抱返(だきがえり)峡谷とともに，田沢湖抱返県立公園に指定されている。〔長津一郎〕



太宰府天満宮　本殿



田沢湖　緑深い夏の田沢湖畔。北岸の御座石神社付近。湖岸にはドライブウエー田沢湖道路ができ，湖上には遊覧船もある



祇園祭の船形山車　京都

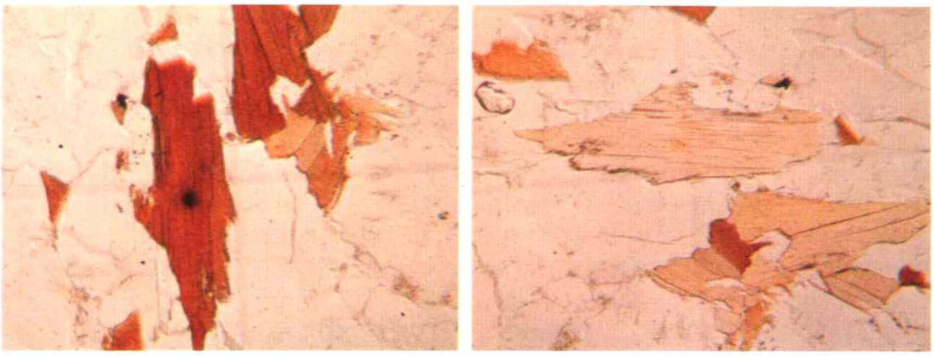


祇園祭の山鉾　京都



高山祭の屋形山車　高山

山　車



多色性　カコウ岩中のクロウンモ。クロウンモの薄片に直線偏光をあてると，薄片の向きにより，赤かっ色(写真左)から淡黄色(写真右)に変わる多色性を示す

ターザン［Tarzan］アメリカの小説家エドガー＝ライス＝バローズの小説の主人公。アフリカの密林で育った白人の野性の男で，野生の楽園を荒らす文明人と戦うなどの冒険を繰り広げる。1914年に第1作が発表されて一躍ベストセラーになるとともに，しばしば映画化され，エルモ＝リンカーンら多くの男優によって演じられた。中でも水泳選手ワイズミュラーのターザン役は有名。

だし【山車】祭礼にひく飾り物を施した屋台。台の上に山・鉾(ほこ)・人形などを飾ることが多いが，人が乗って鳴り物をはやすこともある。だんじり・屋台などとよぶ地方もある。だしということばは，山車の鉾の上に出た飾りの〈出し〉から起こったといわれ，これは神の依代*(よりしろ)を意味する。平安時代の大献に見える宮廷の神座の標山(しめやま)が山車の素型である。標山は移動神座で，神を奉じて祭場に練り込むものであった。これに中世の風流*(ふりゅう)が結びつき，山車の装飾が華美になり，はやしも加わって祭礼の中心となった。山車には山・鉾形式，屋形形式，船形式などいろいろある。〔中山和芳〕

だし【出し】山を越えたり，谷を吹き抜けたりして局地的に吹く強風のこと。わが国では各地方にだし風が起こり，農作物などに被害を与えている。山形県の清川だし，岡山県の広戸風がその例であるが，前者は谷間を吹き抜けて開けたところで，後者は那岐(なぎ)山を越えた下流でそれぞれ起こる強風である。

たしぎ【田鷸・田鴫】鳥類・シギ科。ユーラシア大陸の中北部で繁殖し，わが国へは秋季に沼沢地・水田・川原・干潟(ひがた)などに多数渡来し，越冬するものもある。全長25～30cmで，全体にかっ色。体に比べてくちばしは長く，6～7cmで，湿地中に深く差し込んで水生動物や地中の動物を探って食う。飛び立つとき，強くしわがれた声で〈ジェッ，ジェッ〉と鳴き，雷光形にジグザグに速く飛ぶ。シギ猟のおもな対象種になっている。

たしきせい【多色性】光学的に異方性の鉱物に偏光をあてると，方向によって色が違うことがある。これを鉱物の多色性という。これは鉱物を通過する光がその進む方向によって光波の選択吸収される程度が違うために起こる。多色性の性質は光学的弾性軸に平行に振動する光波の色，すなわち軸色で表わす。たとえば，キンセイ石*では，最大弾性軸(X)に平行の場合に黄白色，

中位弾性軸（Y）の場合に濃青色，最小弾性軸（Z）の場合に淡青色である。〔加藤敏郎〕

タジク（共和国）［Tadzhikskaya S. S. R.］　ソ連を構成する共和国の一。中央アジアのパミール高原とその西麓（せいろく）を領域とし，南はアフガニスタン，東は中国と接する。東部のパミール高原地域はホローグ市を中心にゴルノバダフシャン自治州になっている。首都はドシャンベ。面積14万3,100km²。人口338万5,000（1975）。

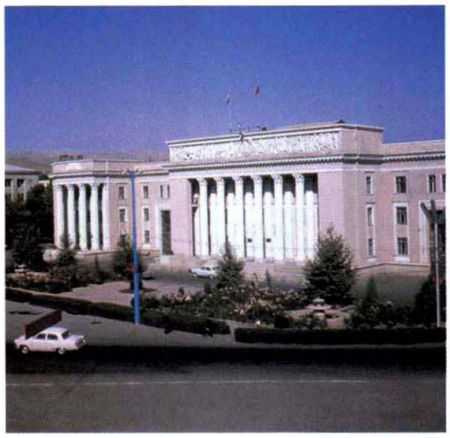
〔自然・住民〕南西部を除いてほとんどが山地で，東部にはパミール高原が広がり，ソ連最高の山コムニズム峰（7,495 m）がある。またその周辺は険しい褶曲（しゅうきょく）山地と深い河谷からなる。アム・シル・ゼラフシャンなどの氷河と万年雪から流れ出す河川は，発電や灌漑（かんがい）に利用されている。大陸性気候で，山間盆地では夏が長く中央アジアで最も高温乾燥の地となっている。住民はイラン系のタジク人が53%を占め，ほかにウズベク人23%，ロシア人13.3%，およびウクライナ人・キルギス人・カザフ人などである。

〔産業・経済〕耕地は全面積の6%ほどだが，灌漑によりワタ・柑橘（かんきつ）類・サトウキビ・ジュート・米その他の穀物を栽培し，またウシをはじめヒツジ・ヤギなどの牧畜も行なわれる。鉱業では石炭・石油・亜鉛・鉛・水晶・雲母（うんも）などの産出が豊富である。工業では電気・化学コンビナートがあり，セメント・綿・絹織物などの生産も盛んである。鉄道網は拡張の努力はなされているが，山がちのために困難が大きい。道路網はドシャンベを中心に整備されている。

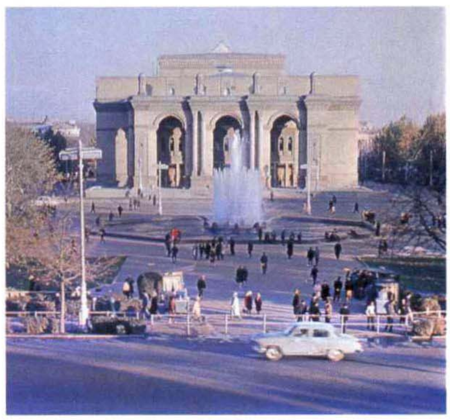
〔政治・歴史〕古代から東西交易の要点にあたり，アレクサンドル大王をはじめ，トルコ・アラブ・モンゴルなどの支配を受けた。ロシア革命後，1924年に自治共和国となり，1929年に共和国となった。

〔斎藤晨二〕

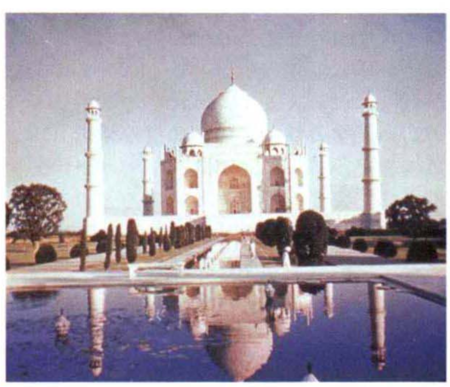
タシケント［Tashkent］　ソ連，中央アジアにあるウズベク共和国の首都。シルダリア川の支流チルチク川に臨み，中央アジア最大の都市。人口164万3,000（1976）。豊富な鉱産資源と，灌漑（かんがい）によるワタ・米・果実などの農業地帯を後背地とし，各種大形機械や紡績コンビナート，食品加工・電気機器などの工業が盛んである。鉄道はモスクワおよび中央アジアの諸共和国の首都と結び，航空路も開けている。文化面でも中央アジアの中心としてウズベク科学アカデミー・総合大学のほか各種の大学・専門学校・歴史博物館などがある。革命後は，回教文化の古い都市から一躍近代都市に生まれ変わり，ソ連の〈アジア・アフリカ向けのショーウインドー〉ともいわれ，各国から留学生や視察団が訪れたりする。古来，東西交通の要衝で，1865年ロシア軍に占領されてトルキスタン総督府が置かれ，トランスカスピ鉄道の開通で中央アジアの中心都市となった。回教寺院など多数の史跡が残っている。　〔斎藤晨二〕



タジク共和国　首都ドシャンベ市は標高約900mの高原上にある緑の街路樹の美しい町。写真はタジク共和国政府の建物



タシケント　タシケント市民の誇りとなっているナボイ-オペラバレエ劇場とその広場。建築自体もこの地方の伝統を伝えるもの



タージ-マハル

たしだか【足高】　1723年（享保8）享保（きょうほう）の改革の一施策として制定された幕府の制度。幕府は各役職ごとに基準家禄（かろく）を定め，役職に就任する者の家禄がその職の基準家禄に達しない場合，在職中に限って不足分を支給した。この支給分が足高である。この制度はそれまでの役料制度や1689年（元禄2）制定の制度の不備な点を修正し合理化したものである。足高の制の実施により小禄の有能者の登用が容易になり，人材登用に伴う増俸分（ぞうほうぶん）の世襲による幕府収入の減少もおさえられ，また財政緊縮にも効果があった。　〔松尾　涼〕

たじま【但馬（国）】　兵庫県北部の旧国名。但州（たんしゅう）。山陰道に属する。新羅（しらぎ）の王子天日槍（あめのひぼこ）が帰化して土着し，子孫代々多遅麻（たじま）を称した。もと城崎（きのさき）・気多（けた）・美含（みくみ）・出石（いずし）・二方（ふたかた）・七美（しつみ）・養父（やぶ）・朝来（あさご）の8郡があり，国府・国分寺はともに現在の城崎郡（もとの気多郡）に置かれた。鎌倉時代には安達（あだち）・太田の諸氏，室町時代には山名氏が守護を世襲したが，戦国末期には豊臣秀吉（とよとみひでよし）に滅ぼされ，江戸時代には豊岡・出石の2小藩が置かれたほか，生野の代官所を中心とする天領が設定された。廃藩置県により豊岡・出石・村岡の3藩をそれぞれ県とし，次いでこれを他の諸県と合わせて豊岡県，さらに1876年（明治9）これを廃して3県の旧域を兵庫県へ編入して今日に及んでいる。

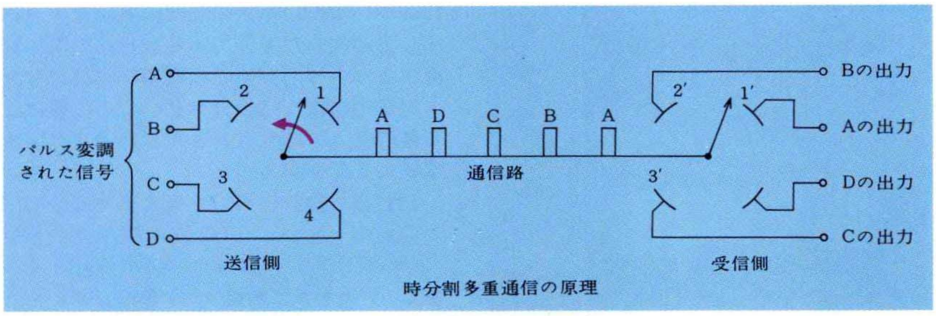
〔黛　弘道〕

たじま【田島（町）】　福島県南会津郡の町。1955年（昭和30）に檜沢（ひざわ）村・荒海村を合併。人口15,000。中心集落の田島は大川上流の田島盆地にあり，江戸時代に日光街道の宿駅として栄え，製材業・木工業が盛んである。会津若松で磐越西線と分岐する会津線が，会津田島駅を経て町域内の会津滝ノ原駅まで達する。

タージ-マハル［Tāj Mahal］　ムガール朝を代表する名建築の一。中央に大ドームを，その周囲には四つの小ドームを配し，さらにテラスの四すみに4基の塔がそびえる。建物の内外には，紅玉や碧玉（へきぎょく）などの象嵌（ぞうがん）を施した草花文の装飾がみられるほか，浮彫や透彫（すかしぼり）など技法も多彩で細緻（さいち）をきわめている。〈マハールの王冠〉という意味があるこの白亜の廟（びょう）は，ムガール朝のシャー-ジャハン帝が，愛妃の死をいたんで首都アグラに1631年から約20年の歳月と巨額の費用を投じて完成した。　〔河合正朝〕

たじまみほのうら【但馬御火浦】　兵庫県北西部，城崎（きのさき）郡香住（かすみ）町からその西の美方郡浜坂町にかけての日本海に臨む海岸。背後の但馬（たじま）山地の北縁が沈降してリアス式海岸を形成している。通天洞門（どうもん）・十字洞門などの海食洞や，海食によってできた大島・臥虎（がこ）島などの島が，岬（みさき）や小湾のあちこちに見られ，断崖（だんがい）や岩礁などが連なっている。山陰海岸国立公園に含まれる。

たじまもり【田道間守】　古代伝承上の人物。〈記紀〉によれば新羅（しらぎ）の王子天日槍（あめのひぼこ）の子孫，三宅連（みやけのむらじ）の始祖で，垂仁（すいにん）天皇90年，勅命を奉じて



多 重 通 信

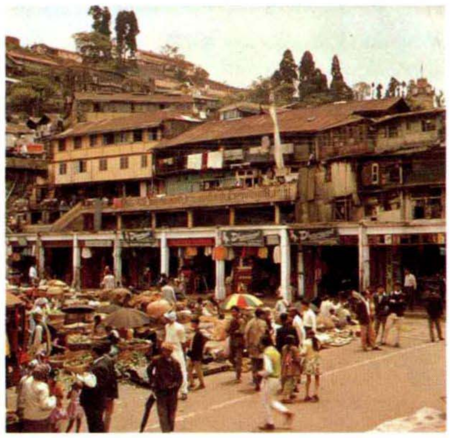
不老不死の霊果を得るため常世(とこよ)国に渡って非時香菓(ときじくのかぐのみ)(橘)を持ち帰ったが，すでに天皇は没しており，嘆き悲しみ殉死したと記されている。

たじみ 【多治見(市)】 岐阜県の南東端，愛知県境に接する市。人口73,000。古くから瀬戸(愛知県)と並んで多治見焼または美濃(みの)焼の名で知られるわが国の代表的な製陶業地で，安土桃山時代には志野・黄瀬戸・織部(おりべ)などの名器を産出した。1940年(昭和15)市制施行。市名は，中世の豪族土岐氏の一族，多治見氏の拠点であったことにちなむ。市域は土岐川中流に沿う多治見盆地と周辺山地を含む。産業三大別人口比は1：46：53。タイル類(70%)をはじめ，洋食器・耐火れんがなどをつくる陶磁器工場が多く，窯業製品の出荷額は工業製品出荷額の80%を占め，輸出も多い。周辺部では富有ガキを産し，北部は最近宅地化が進んでいる。中央本線から太多(おおた)線を分岐し，国道19号線・248号線，有料道路の愛岐道路が通じ，中央自動車道の建設も予定されている。国宝建造物の観音堂・開山堂をもち，庭園で知られる永保寺や景勝地古虎溪(ここけい)などがある。

たじゅうつうしん 【多重通信】 物理的には一つである母通信路(チャネル*)を使用して2個以上の通信ができるような通信方式。搬送波(→変調)の周波数・位相・時間またはこれらの組み合わせを変えて別個の通信を同一媒体上に互いに干渉することなく伝送させることができる。搬送波の周波数を違える方式を周波数分割多重通信，パルス変調のパルスを時間的に違える方式を時分割多重通信という。

周波数分割多重通信は，以前から搬送電話として使われており，通信目的に必要な周波数帯域(たとえば電話ならば約3,000ヘルツ，テレビジョン信号の場合は約6メガヘルツ)だけ離して各周波数を割り付ける。電話の場合は，現在同一線路上を12通話路とれる搬送電話から，同時に1,200通話送れる超々多重までが実用化されているが，ミリ波帯を使用すれば10万通話路以上の多重通話ができる。

時分割多重通信はパルス通信を多重化したものであって，近時データ通信*やPCMとともに発達してきた。その原理は図に示すように A の通信を送るときパルスとパルスの間に時間のすきまができる。このすきまに他の通信用のパルスを挿入(そうにゅう)するものである。その手段として送信側と受信側に同期している回転スイッチを考え，送信側が接点1にあるときは受信側も接点1′がつながっており，Aの通信が行なわれる。次の時刻には，接点は2 - 2′となりBの通信が行なわれる。このようにして回転スイッチが一巡する間に全部の通信がすみ，再びAにもどってくる。時間的なパルスの配列は図に示すとおりである。スイッチを1回転させる周期Tの最長値は標本化定理により信号に含まれる最高周波数成分をf_mとするとき $T \leqq \frac{1}{2f_m}$ であって，Tより短い時間でスイッチを回せば復元した信号は元の情報を失うことはない。〔小原啓義〕



ダージリン　市内の市場のにぎわい。インド人のほか，ネパール人やチベット人なども多く，国境の町の性格をよく表わしている

だじょうかん 【太政官】 律令(りつりょう)制における最高の行政機関。国務を総理し，八省以下の諸官庁を統轄する。太政大臣(常置の職ではない)・左大臣(長官)・右大臣(次官)と大納言によって構成され，国政の枢機にあずかった。事務機関として左弁官局(大・中・少の弁〔判官〕と大・少の史(ふひと)〔主典〕により構成される)と右弁官局が八省を四省ずつ監督し，少納言局(少納言〔判官〕と大・少の外記(げき)〔主典〕とからなる)が詔勅宣下・官印などのことをつかさどった。のちこれに中納言・参議・内大臣・権大納言などが加わり，太政官の定員は著しく増加した。明治政府はこれとは別に1868年(慶応4)の政体書*で三権を統轄する最高官庁として太政官を設け，1885年内閣制度の施行まで国政を担当させた。

〔黛　弘道〕

だじょうかんさつ 【太政官札】 1868年(慶応4)5月，明治政府が成立後最初に発行した不換紙幣。金札ともいう。10両・5両・1両・1分・1朱の5種類。1871年(明治4)の新貨条例*発布とともに新紙幣と代わった。

だじょうかんにっし 【太政官日誌】 1868年(慶応4)2月，明治政府が京都において最初に発刊した機関紙。当時は尊王論・佐幕論*で国内が騒然としていたので，明治新政府は国内安定策として，尊王の主意のもとに発行し，政府機関の組織・政策・内戦の情報などを掲載した。木版印刷で半紙二つ折りまたはポケット型7枚つづり，のちには色刷りの付録などもつけた。1877年(明治10)1月22日廃刊。

だじょうかんぷ 【太政官符】 律令(りつりょう)制下の太政官*からその管轄下の省・職・寮・司・諸国などに下付した公文書で，単に官符ともいう。詔勅に次いで重要な公文書で，太政官の事務局である弁官局の弁(判官)と史(ふひと)(主典)が責任者であり，その署名が日付の前行に加えられる。

だじょうだいじん 【太政大臣】

1 律令(りつりょう)官制で最高の地位。天智(てんち)天皇のとき創立されたが，このときは国政を総理し，皇太子に匹敵する官であった。大宝令(→大宝律令)に至ってこれを改め，天子の師範，陰陽(おんよう)を和らげ治め，邦を径し，道を論じるなどという，きわめて道徳的・抽象的な地位とした。そして人材の得られないときは空席であってもよいとし(〈其人なくんば則(すなわ)ち闕(か)けよ〉)，ために〈則闕(そっけつ)の官〉といわれた。平安中期以降は常置されたが，同時に摂政*・関白*も置かれたので，太政大臣必ずしも最高の地位とはいえなくなった。〔黛　弘道〕

2 明治の太政官制の最高官職。1868年(慶応4)政体書*に基づいて太政官制が敷かれたが，太政大臣が置かれるようになったのは，1871年の官制改革からである。正院の長。国政を総轄し，陸海軍を統帥した。1885年内閣制度が創設されるに及び廃止。その間終始三条実美(さねとみ)が任ぜられた。

たじょうたこん 【多情多恨】 尾崎紅葉*の長編小説，1896年(明治29)2～12月《読売新聞》に連載。愛妻をなくして悲嘆にくれていた鷲見(わしみ)柳之助が，親友葉山の家に同居，友人の妻お種に対する愛情がしだいに深まっていく。その心理の変化を心理描写中心に描いた作品。〈である〉調の言文一致体の文章が効果をあげ，近代口語文の基調となった。

だじょうてんのう 【太上天皇】 ⇨上皇

ダージリン ［Darjeeling］ インド北東部，西ベンガル州の北東端，シッキムに近接する都市。人口40,650(1961)。ヒマラヤ山脈南麓(なんろく)の避暑・観光地として知られる。海抜2,000mの高地にあり，ここからカンチェンジュンガ山などの雄大な景観を望むことができる。古くはネパール人・ブータン人が多く居住していたが，19世紀初頭以来イギリス人が進出し，軍の避暑地として発展させた。町の中央の市場は土・日曜日には近隣の山地住民でにぎわう。また，茶の栽培も盛んである。〔別技篤彦〕

タス ［TASS］ ソ連の閣僚会議付属の国営電報通信社。Telegrafnoe Agenstvo Sovetskovo Soyuzaのかしら文字をとった名称。1925年7月までのロスタ(ロシア電報通信社)を改組して創設。世界にソ連内外のニュースやプラウダ*の論説を定期的に送信している。1961年ノーボスチ通信社が設立されるまでは，ソ連唯一の通信社であった。

たすうけつげんり 【多数決原理】 現代社会において多く用いられる議決方法。多数が認めて賛同したことをもって，便宜的に全体の意志とみなすこと。近代国家が，封建的専制国家の諸矛盾を止揚して誕生する際に，不可欠の要素として成立したもので，少数者の専制を排し，多数者の権利の実現をめざすこの原理は，その後民主主義*社会における決議方法として広く社会一般に認められるようになった。しかし，新たな問題も生じている。すなわち，第1に多数者の主張がつねに正しいとは限らないこと，第2に少数者の権利が無視されがちで，多数決の方法が民主主義の形骸(けいがい)化をもたらしたことである。これらの問題を解決するためには，十分な討論，言論・思想の自由，少数者の権利などに関する完全な保障と少数者の意見を可能な限り採用する姿勢が必要である。〔溝口　潔〕

たすき 【襷】 仕事をするとき，着物のそでをからげて手の運動を便利にするために用いるひも。ふつうひもの両端を結んで輪とし，これをよじって8字形にし，その交差点を背部にあてて左右の輪をそれぞれ手に通して着装する。襷の歴史は古く，上代の埴輪(はにわ)の中に筒そでの上着に襷を掛けているのが見られるが，これは神事を行なう際に掛けるのが礼であるといわれ，本来は襷が実用よりも儀礼的なものとして用いられていたことを示している。襷が広く一般に利用されたのは江戸時代からで，商人・職人などが毎日の生活に用いるようになった。着装法にはほかに，背部で花結びにするもの，1本の襷を斜めに肩からわき下に掛けただけのもの，2本の襷をそれぞれ肩から斜めに掛けて交差させるものなどがある。〔合田　濤〕

たすきもん 【襷文】 主として染織品に表わされる文様で，有職文(ゆうそくもん)のうちの3本の直線を菱(ひし)形に配した中に，花菱などの花文をすえた三重襷文はその代表的なものである。なお，有職文の鳥襷は，前記のような幾何学的なものではなく，中央に菱形の花文をすえ，その周囲を七宝文(しっぽうもん)形に丸く8羽の鳥文を2羽ずつ向かい合わせに構成したものである。


襷　文　菱襷


タスマニアデビル


タスマン氷河　タスマン国立公園にはよく整備された山小屋が多く，登山客もわりあい軽い装備で氷河地域を訪れることができる

ダストシュート ［dust chute］ 中・高層建築で各階からでるごみ類を下階に導くために設ける落とし樋(とい)。各階にふたつきの投入口を設け，これにごみ類を投入すれば下階のごみ受けに集まるしくみ。

タスマニア(島) ［Tasmania］ オーストラリア大陸南東方，バス海峡を隔ててビクトリア州に対する島。面積67,635km²で，オーストラリアの一州をなす。人口39万5,600(1974)。主都ホバート。オーストラリア大陸の東部を走る大分水嶺(ぶんすいれい)山脈の延長である高原状の島で，最高点はオサ山の1,617m。カンガルー・フクログマの有袋類や，世界でここだけにみられるカモノハシ・タスマニアオオカミなどの野生動物が生息し，これらはオーストラリア大陸のものより進化が遅れているといわれる。気候は温和で，高原上はヒツジ・ウシの牧場とユーカリの森林が多く，河谷の平野部ではリンゴ・ホップ・アンズ・ジャガイモを産し，酪農も盛んである。高原のグレート湖には水力発電所があり，製紙・繊維などの工業が行なわれる。鉱産物は銅・亜鉛・スズを産する。1642年，オランダの探検家タスマン*が，アフリカ大陸南東方のモーリシャス島から偏西風に乗って航海中に発見した。最初の植民地建設は，1804年にイギリス人によってなされた。未開な原住民であったタスマニア人*は狩猟を主とし，かつては数千人を数えたが，1835年には200人に減少し，バス海峡中のフリンダーズ島に移され，1876年絶滅した。〔大崎　晃〕

タスマニアじん 【タスマニア人】 タスマニア島*の原住民。白人により1876年に絶滅した。かつては2,000人ないし5,000人はいたと伝えられる。短頭で，羊毛状の頭髪をもち，メラネシア人やピグミーに近い原始的原人体形質をもっていた。タスマニア語といわれる言語の系統は不明。文化は旧石器時代初期の段階にとどまっていて，幼児殺害・族外婚の風習をもち，遊動的な採集・狩猟生活を行なっていた。

タスマニアデビル ［Tasmania devil］ 哺乳(ほにゅう)類・有袋目・フクロネコ科。体形と色は子グマに似るが，尾が長い。頭胴長47〜82.5cm，尾長22〜30cm。オーストラリアのタスマニアにのみ分布し，岩石地や森林などに生息する。夜行性で日中は岩穴や樹洞(じゅどう)などに潜む。水泳がうまく，ザリガニ・魚類・鳥類などを食べる。育児嚢(のう)は繁殖期になると発達する。

タスマン(氷河) ［Tasman］ ニュージーランド南島にある同国最大の氷河。クック山(3,764m)とタスマン山(3,497m)の間にかかり，海抜718mの地点まで下降している。長さ29km，面積156km²。付近一帯はタスマン国立公園となっている。名は，南島の発見者タスマン*にちなむ。

タスマン ［Abel Janszoon Tasman］ (1603〜1659) オランダの航海探検家。オランダ東インド会社*にはいり，1634〜1644年にかけて数次にわたって太平洋諸海域を探検した。特に1642〜1643年にかけての探検航海では現在のタスマニア島を発見，次いでニュージーランド・フィジー諸島・トンガ諸島などを発見した。さらに1644年にはオーストラリア大陸の沿岸を調査し，同大陸が従来いわれていた南方大陸とは別のものであることを明らかにした。

だせい　［惰性］ ⇨慣性

たせいおんがく　［多声音楽］ ⇨ポリフォニー

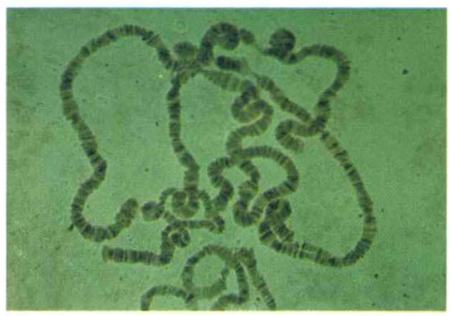
だせいけい　［惰性系］ ⇨慣性系

たせいせい　［多声性］　音楽理論用語。音楽の演奏に際して同時に異なる音が鳴らされれば，それは多声性の音楽であると定義される。本来ユニゾンで演奏(歌唱)されるはずのものが偶然に多声化されることも多いが，意図的に多声性をめざすものにはヘテロフォニー*・ポリフォニー*・ホモフォニー*がある。

だせき　［唾石］　唾液腺*(だえきせん)(耳下腺・顎下腺(がっかせん)・舌下腺)またはその排出管内にはいった小異物や細菌などが核となって生じる結石*。炭酸カルシウム・リン酸カルシウムなどの石灰が沈着して生成される。全体の80%以上は顎下腺およびウォートン管(排出管)に生じ，女性に多い。ほとんどが炎症を伴っている。症状としては，食事のたびに唾液腺部が腫脹(しゅちょう)し，発作性の激痛が起こる。口腔(こうこう)内にかたい結石を触れることもある。治療は，まず抗生物質で炎症をおさえる。石の小さいものは自然に排泄(はいせつ)されることもあり，また開口部に近い場合は押し出せるが，唾液腺とともに手術して除去しなければならないことのほうが多い。〔清水淑郎〕

だせん　［唾腺］ ⇨唾液腺

だせんせんしょくたい　［唾腺染色体］　唾液腺染色体ともいう。いくつかの種の双翅(そうし)類こん虫で，幼虫の唾腺細胞核にみられる巨大な染色体。1881年イタリアのバルビアニがユスリカの幼虫で発見した。相同染色体が分裂せずに永久核系として体細胞接合しているので，通常の卵原細胞の染色体の110～150倍ある。種によって一定の型の横じまがあり，小さな染色体異常も容易に観察できる利点がある。これらの横じまは染色体上の遺伝子の位置に対応している。構造上の変異として，逆位・欠失・転座・重複などがあり，それぞれ表現型に影響を与える。ショウジョウバエでは特に詳しく研究されている。逆位は自然集団で特にひんぱんに見いだされるが，何種類かの逆位が高い頻度(ひんど)で安定して維持される場合を染色体平衡多型という。標本は，終齢幼虫から唾液腺をとり出し，アセトオルセイン・アセトカーミンなどで固定・染色したのち，スライドグラスの上で押しつぶして作成する。〔北川　修〕



唾腺染色体

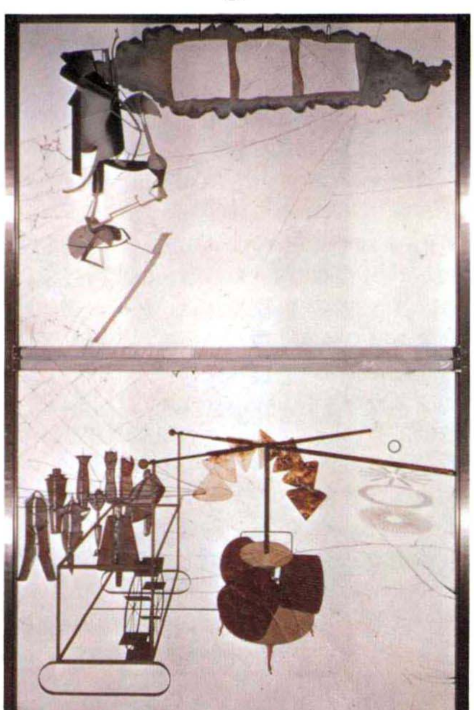
たそくるい　［多足類］　節足動物*のうち，陸上生活をして脚の数が多い動物を便宜上まとめた呼称。分類学上は唇脚(しんきゃく)綱(ムカデの仲間)・倍脚綱(ヤスデの仲間)・少脚綱(ヤスデモドキの仲間)・結合綱(コムカデの仲間)の4綱を含む。体は頭部と胴部に分かれる。頭部には1対の触角があり，目はいくつかの単眼が集まったものであるが，目を欠くものもある。胴は同じような構造の体節がいくつも連なってできている。口には大顎(おおあご)をもつ点で，蛛形(ちゅけい)類(クモ・ダニなど)よりもこん虫類に近縁なものとされている。森林内の暗く湿った場所に好んですむものが多く，植物の腐りかけのものを食べるものと，他の虫を捕食する肉食性のものとがある。〔青木淳一〕

ターター　［Tartar］　地対空ミサイルの一。艦載用のもの。アメリカ海軍の制式兵器でフランス・オーストラリア・イタリアなどのミサイル駆逐艦やわが国の海上自衛隊のミサイル護衛艦〈あまつかぜ〉が装備している。近距離用で固体燃料，レーダー-ホーミング式で射程18km，速度マッハ2。

ダダ　［Dada］　第1次世界大戦の戦前から戦後にかけて，ヨーロッパに興った文学および造形芸術上の反伝統・反合理に立脚

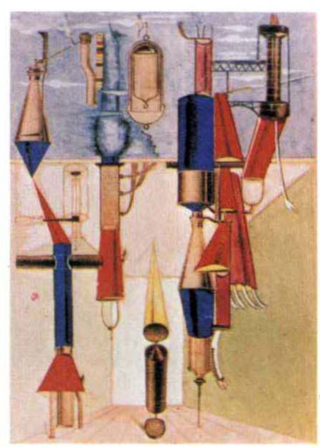
ダ　ダ

①

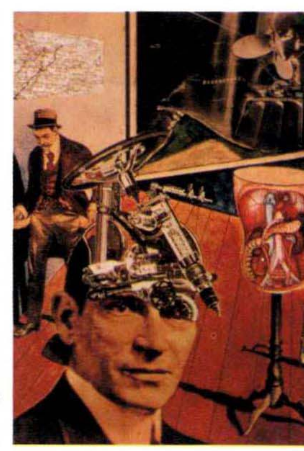




②



③



④



⑤

①デュシャン《大ガラス(彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁，さえも)》1915～1923 フィラデルフィア美術館蔵 ②アルプ《森》1916 ③エルンスト《証明》1917 ④ハウスマン《家庭におけるタートリン》1920 ⑤シュビッタース《春の絵(メルツ)》1920

した美学的創造活動。1916年スイスのチューリヒで，戦争を避けて中立国スイスに集まってきたツァラ*・マルセル-ジャンコ・ヒュールゼンベック・フーゴー-バル・アルプ*らによって，子どもっぽい響きをもつ〈ダダ〉という意味のないことばが採用されたことに始まる。ダダは一つの様式を示すというよりは，より精神的な状態を意味し，芸術運動としては短命に終わったが，ダダを母体として派出した芸術運動は非常に多い。キャバレー-ボルテールで，ヒュールゼンベックを中心にきわめて反伝統的・反美学的な歌や踊りを次々に創作するかたわら，ダダの画家・彫刻家は作品を展示した。ここに参加した芸術家は，ヒュールゼンベックら以外にクレー*・カンジンスキー*・モジリアニ*・キリコ*らがいた。しかし，ダダと名乗ったのがチューリヒにおけるこの運動であったとしても，その精神を早くから体現していたのは，ニューヨークにおけるデュシャン*・ピカビア*・マン-レイ*らの1910年代初めの活動であり，ことにデュシャンはダダの精神を生きた芸術家として，その代表者とみることもできる。大戦後，ハノーバーではシュビッターズ*，パリではブルトン*・アラゴン*・スーポー*ら，ベルリンではグロッス*，ケルンではエルンスト*がダダの運動に参加した。1920年代にはいるとダダの運動は世界的に広まり，1922年には国際ダダ展がパリで開かれた。しかし，運動の拡大につれて分裂が始まり，ブルトンが1924年にシュルレアリスムを創唱するようになってから，有力なダダの芸術家も多くブルトンに合流し，ダダは事実上運動としては消滅していった。〔吉田玲子〕

だたい【堕胎】 自然の分娩(ぶんべん)期に先だって薬物や手術などにより胎児を母体外に排出させること。俗に〈おろす〉といわれる。刑法では，堕胎罪とは自然の分娩期に先だって胎児を外に出す犯罪と規定されている。母体から出た胎児が生きていても，また母体内で胎児を殺す場合も堕胎である。妊娠1か月でも胎児であり，刑法上は母体の外に身体の一部が露出するまでをいう。妊婦がみずから実施するか，他人に実施させるかを問わないので，医師その他に嘱託して堕胎した妊婦にも堕胎罪が成立する。なお，優生保護法が適用される人工妊娠中絶の場合は処罰されない。〔木川源則〕

ダダイスム ⇨ダダ

たたいにんしん【多胎妊娠】 妊娠した子宮内に2個以上の胎児を有するもの。胎児が2個のときは双胎，3個を3胎(品胎)，4個を4胎(要胎)などとよぶ。双胎妊娠は比較的しばしばみられる(日本人では約150例の分娩(ぶんべん)に1例)が，品胎以上はまれである(品胎は17,710例の分娩に1例)。双胎は，1個の受精卵が二つの個体に分裂し，それぞれが胎児になった1卵性と，2個の卵子にそれぞれ受精が起こり二つの胎児になった2卵性がある。双胎妊娠では妊娠子宮が妊娠月数に比べて大きく，胎児の心音が2か所で聞かれる。レントゲン写真によれば診断は確実にできる。双胎妊娠では妊娠中毒症になりやすいから，妊娠中の保健に注意する必要がある。出生は法的には先に生まれたほうが兄(姉)になる。多胎妊娠には，遺伝因子，母親の年齢，分娩の回数などが関係するといわれている。〔木川源則〕

ただおか【忠岡(町)】 大阪府泉北郡の町。人口17,000。大阪湾沿岸にあり，泉大津市と岸和田市にはさまれる。泉州紡織工業地帯の一部をなし，東洋紡績などの紡績工場と中小の毛織物工場・染色工場・綿織物工場があり，女子人口が60%に達する。

たたき【叩き】 カツオの代表的料理で，高知県の郷土料理。調味料とかおりをしみ込ませるために手でたたくので，この名がある。半焼きにしたカツオを厚さ約1cmの平づくりにし，その上にかおりの強い野菜(アサツキ・ネギ・青ジソ・ミョウガなどを刻んだもの)とおろしだいこんをポン酢・しょうゆで調味してかけ，包丁の腹で軽くたたいてから食べる。なお，アジなどの沖なます(たたきなます)も略してたたきとよぶ。

たたき【叩き】 たたき土で仕上げられた床。敲・三和土とも書く。農家の土間や，茶席のまわり，泉水などに利用される。たたき土は可溶ケイ酸・アルミナに富み粘土や火山灰を用い，消石灰・砂を加えて水で練り，床に塗りつけて表面を突き固める。なお，コンクリートで仕上げられた床もこの名でよぶことがあり，これは玉石・じゃりなどを突き固めた上にコンクリートを厚さ5～7cmに打ち，表面を木ごてで仕上げる。〔神山幸弘〕

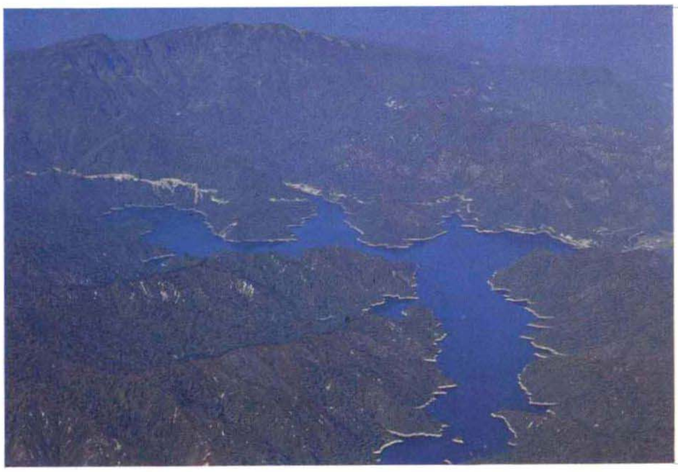
ただごとうた【ただごと歌】 自然の心情を平明な用語を用いてすなおにわかりやすく表現した歌をいう。《古今和歌集*》仮名序》において歌の六つのさま(六義(りくぎ))の一つとされ，江戸時代小沢蘆庵*(ろあん)が和歌の理想として自己の歌論の中心理念に置き，沈滞した旧派歌学に新風を吹き込んだ。

タタざいばつ【タタ財閥】 インド随一の財閥。ジャムセトジ-タタ(1839～1904)がインドの工業的自立をめざして，1877年からナグプール・ボンベイと次々に近代的経営の綿業工場を創立，台頭してきたナショナリズムの中で綿業界にゆるぎない地位を確保した。さらに鉄鋼・電力・金融などにも事業を拡大，2度にわたる世界大戦を契機にめざましい発展を遂げた。現在，タタ父子会社と経営代理にあたるタタ工業を中心として鉄鋼(タタ鉄鋼)，機械(タタ機械・機関車)，電力(タタ水力発電)を筆頭に綿業・航空業・化学・ホテル・保険などインド一流企業約125社を資本支配してその傘下(さんか)に収め，特に国の基幹産業である重工業部門での支配力は絶大で，インド工業を論ずることはタタ財閥を論ずることであるともいわれる。政界とも関係をもち国民会議派に財政的援助を続けてきた。また多くの研究所・財団を設立，社会事業・学術研究に多大の貢献をしている。〔片岡一郎〕

ダーダネルズ(海峡)［Dardanelles］ トルコの西端，エーゲ海とマルマラ海を結ぶ海峡で，北はバルカン半島東南部のゲリボル半島，南は小アジアである。幅約5km，長さ約60km。東はマルマラ海，ボスポラス海峡を経て黒海に通じ，西はエーゲ海を経て地中海に通ずる要衝となっている。またここは，陸上交通においてもアジアとヨーロッパの接点をなし，古くから民族の移動や軍隊の進入路となった。15世紀にトルコがバルカン半島側を領有してから，列強の間で海峡の航行権をめぐって，たびたび紛争が起こった。第1次世界大戦中にトルコが連合国軍をここで迎え撃った戦いは戦史に名高い。その後，国際海峡委員会の管理下に置かれたこともあるがいまは廃止され，軍艦の通過だけに制限を設けている。〔長津一郎〕

ただのうみ【忠海】 ⇨竹原市

たたみ【畳】 日本住宅特有の床材料で，わらでつくった畳床に，イ*またはシチトウイ*で織った畳表をつけて仕上げたもの。《古事記》や《万葉集》に，菅畳(すがだたみ)・皮畳・絹畳など各種材料の畳が出てくるが，これらはいくえにも重ねて使ったもので，今日の畳より薄い敷き物で，折りたたむことができるものだったらしく，〈たたみ〉の語源もそこから始まっていると考えられる。今日の畳のように，厚さが6cm程度になったのは平安時代で，寝殿造*では畳が敷きつめにならず，高貴の人の着座するところだけに置き，その大きさや縁(へり)の織り方などによって身分・格式を表現したが，これは畳を儀式や集会ごとに移動配置替えすることを原則としていたからである。鎌倉時代の武家住宅では，畳を配置替えせず，板床の一部に1列に敷くようになり，室町時代になると間仕切りが発達して小室がふえ，畳をへや全体に敷きつめるようになり，へやによって縁の色や織りを変えることはあっても，一室ではすべて同じ縁と同じ大きさの畳を用いるようになった。中世末の上流住宅の設計では，柱間心々6尺5寸(約1.97m)を1間としたものが多く，畳の大きさはへやによって異なるが，8畳程度のへやで6尺3寸(約1.91m)前後となる。これがのちに畳寸法を規格固定させ，内法(うちのり)制で設計する関西の京間*の畳割り(畳寸法を基準としてへやの大きさを決めていくこと)へ発展するが，江戸をはじめとした地方では，昔のままの柱間心々制で設計する田舎(いなか)間*が行なわれ，今日では，田舎間の伝統を引きついだ東京が中心となったため，全国的に田舎間(6尺×3尺〔1.8m×0.9m〕)の畳割りが多くなってきている。



只見川 上流の田子倉湖と田子倉ダム。ダムは湖の右上すみにある。遠景湖岸線の上手に小出町に通ずる六十里越(国道252号線)が白く見える

畳の品質は，床と畳表によって定まるが，床はわらを重ねて締め，麻糸で縫ったもので，1枚につき13～30kgあるが，わらの使用量が多いほど，すなわち重いほど上等品で，また機械縫いより手縫いがすぐれているが，今日ではほとんど機械縫いである。畳表は原料によって備後(びんご)表と琉球(りゅうきゅう)表に分けられる。備後表はイを用いたもので，広島・岡山産が上等とされ，そのほか石川・山口・熊本・静岡県にも産する。琉球表は，シチトウイを2本に裂いて織ったもので，外観はよくないが耐久力に富むので柔道場・仕事場などに用いられる。静岡・福岡・大分・熊本・鹿児島・沖縄の各県などに産する。縁は絹・麻・もめんなどの織り物で，今日では一般に黒・茶などの無地の縁を用いるが，高麗(こうらい)縁など模様ものもあり，上等品とされる。　〔渡辺保忠〕

たたみいわし【畳鰯】 しらす干し*ともいう。シラス(チリメンザコとよばれるカタクチイワシの稚魚)を真水で洗い，ノリをすくときのように，すのこの上にすき，日干しした網状のもの。火にあぶってしょうゆをつけて食べることが多い。

ただみがわ【只見川】 福島・群馬県境の尾瀬沼・尾瀬ヶ原の水を集め，福島・新潟県境を北流し，会津盆地西方で日橋(にっぱし)川と合流して阿賀(あが)川となる川。長さ約140km。上流部は日本有数の深雪地帯で包蔵水力が大きく，奥只見ダムや田子倉ダムがある。

たたら【踏鞴】 日本古来の製鉄法の名称，またそのときに用いる炉。砂鉄を原料とした木炭製鉄法で，通常炉の中に乾燥した砂鉄と木炭を交互に装入して鞴(ふいご)で風を送り，木炭の燃焼と還元作用によって砂鉄を還元して鉄を得る。使用する砂鉄の種類により製練法および製品が異なる。真砂小鉄(まさこがね)を原料として練鋼をつくる鉧押(けらおし)と赤目小鉄を原料として銑鉄をつくる銑押(ずくおし)があり，前者によってできた鋼は和鋼(わはがね)とよび刀剣類の製作に用い，後者によってできた銑は和銑(わずく)で主



多々良浜 海浜の疎林に建つ元寇防塁の史跡碑。海浜の向こうに青い博多湾が広がる

として鋳物をつくる。また2次製品の製法に2種類あり，和銑または鉧を原料とし脱炭して和鉄(包丁鉄)を製造する下げ吹きと，練鉄を浸炭させて卸し金をつくる卸し吹きとがある。なお，鋳物では昔の人力で踏む鞴のことをいう。　〔草川隆次〕

たたらはま【多々良浜】 多々羅浜とも書き，たたらがはまともよばれる。福岡市の北東部，博多(はかた)湾に注ぐ多々良川の河口左岸の海浜一帯をいう。河口には多々良潟(たたらがた)があり，葦ノ浦(あしのうら)ともよばれる。1281年(弘安4)の蒙古襲来には乱杭(らんぐい)を打って防塁が築かれ，また1336年(延元1・建武3)には足利尊氏(あしかがたかうじ)と弟の直義(ただよし)が菊池武敏(たけとし)・阿蘇惟直(あそこれなお)を破った古戦場で知られる。現在は埋め立てが進み住宅地化しつつある。

たたり【祟り】 神仏や人その他の怨霊(おんりょう)などによって災禍を受けると解釈される現象。神仏ばかりでなく霊力あるものの気にいらないことをすると，故意にした場合はもちろん，それとは知らずにやっても制裁や罰，おとがめを受けることがあるという考えが根本になっている民間信仰あるいは俗信*の一種である。偶然に悪い結果が起こったあとにその原因を求め，ある行為が原因でその結果たたられたというふうに因果関係を論理づけるわけで，祟りとその原因との因果関係が固定すると，それが生活知識となり，そうした知識が多くなればなるほど祟りと解釈される現象も増大するわけである。1950年(昭和25)の全国調査(文部省迷信調査協議会)によれば，祟りというものがあるという回答が47.52％で，否定の40.31％を上回っていた。現在でも思いがけない不幸が重なったりすると〈なにかの祟りではないか〉と不安がる人々が少なくなく，祟りの原因に思いあたることがないと祈禱師(きとうし)や呪(のろ)い師，占い者などにたよって原因にかなった対策をたてたり，神官・僧侶(そうりょ)を招いて祟りをはらってもらうことが多い。

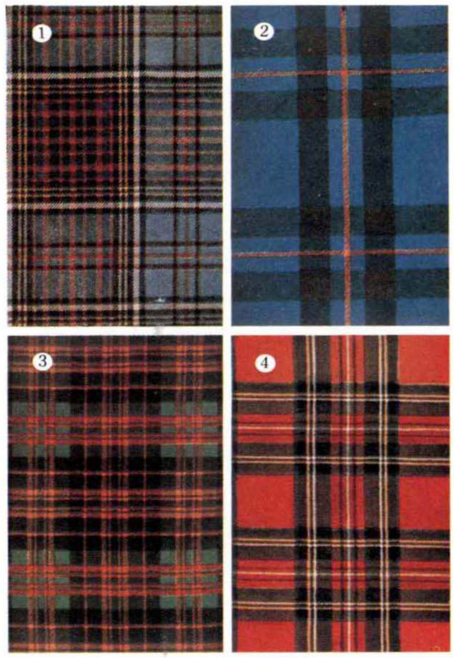
祟りを神禍の意味に用いた例は奈良時代からあるが，〈夢枕(ゆめまくら)にたつ〉〈春たつ〉〈面影にたつ〉などの用例もあって，〈たたる〉〈たたり〉の語源は〈たつ〉で，〈立つ〉の意味よりは出現・顕現が古く，神の〈たたり〉というのは神威が発揮される，あるいは神の機能が発揮される意味であった。すなわち，言動が適切でなかったために報復的な制裁を受け，神罰が下されるというほうにばかり祟りの内容が傾斜してきたのは，もとの姿ではなかった。〈触(さわ)らぬ神に祟りなし〉のことわざや，祟り神といえば金神・荒神などを連想するようになったのはのちの変遷で，古風な信仰が衰えくずれた結果である。職業的な呪術(じゅじゅつ)信仰者や陰陽師(おんようじ)などの関与や，人に災厄(さいやく)をもたらすことの多い御霊信仰*・怨霊思想などの影響で，人の執念・怨念ばかりでなく土地・石・器物から動植物までがやたらにたたるような考え方が多くなったものと思われる。人の恨みを買ったり，祖先の供養が足りないためにたたられるほか，聖地を冒し，禁忌を守らず，霊獣を殺傷し，神木を切ったり，祟り山，祟り田を冒した結果，不具になるとか病気・狂気その他の不幸に見舞われたというような例が多い。また祟りで子孫が絶え，家運が衰えたと解釈される例もあり，個人の祟りが家族や地域社会全体に及ぶと解釈されることもある。　〔今野圓助〕

タタール(自治共和国)［Tatarskaya S.S.R.］ ソ連，ロシア連邦共和国内の自治共和国。ボルガ川の中流域，支流カマ川との合流点付近を占める。首都カザン。面積68,000km^2。人口329万8,000(1975)。住民はトルコ系のタタール人*(49％)・ロシア人(43％)のほかモルドバ人・ウドムルト人・マリ人などで構成されている。ロシア平原東部に位置し，丘陵性の地形で，混合樹林帯が約16％を占めている。石油と天然ガスが豊富で，ソ連第1の産油量を誇るボルガ－ウラル油田(第2バクーともいう)の中心地域をなし，年間8,620万t(1966)の原油を産する。化学・合成ゴム・プラスチック・

機械・木材・皮革・食品加工などの工業も盛んである。南東部は黒土地帯で，農業はおもに小麦・ライ麦を栽培し，乳牛・肉牛の飼育も多い。鉄道・水運の便にも恵まれている。この付近には紀元前からタタール人が住んでおり，モンゴル・イル汗国などの支配を経て，16世紀イワン4世(雷帝)のときロシア領となり，1920年自治共和国となった。〔斎藤晨二〕

タタール ［Tatars］ ソ連内(西トルキスタンを除く)のトルコ系住民の総称。タタールの名の由来は，バツに率いられてヨーロッパに侵入したモンゴル帝国の軍隊を，ヨーロッパでタタール軍とよび，その支配下にあったトルコ人の子孫を，いまなおタタールと総称していることによる。モンゴル系の韃靼(だったん)とは別である。

タータン ［tartan］ タータンチェックともいう。スコットランド高地地方の血縁関係の社会集団(クラン)が，それぞれ所属を示すために使用した一定の色彩・形態の格子(こうし)模様(チェック*)。わが国の家紋のような標識用文様であったが，19世紀以後一般の服飾文様として利用され，さらに形・色ともに種々の変化が生じて，数多い種類ができた。綾織*(あやおり)の毛織物地に美しい色彩を組み合わせたやや大がらの格子がらが特色で，130種余りの基本がらがあった。スコットランドでは，男子のキルト*(短袴(みじかばかま))やプレード(肩かけ)などに使い，女子はスカートやドレスに用いる。一般には織物文様として広く利用され，毛織物・化学繊維織物などに応用されている。〔小川安朗〕



タータン ①アンダーソン ②エリオット ③マクドナルド ④スチュアート

たち ［太刀］ ⇨刀剣

たちあおい ［立葵］ 双子葉植物・アオイ科。《万葉集》の時代に移入された地中海原産の越年草で，庭に植えられる。茎の高さ2～3mになり，心形で3～7浅裂する葉が互生する。全体に毛があってざらざらする。6～8月，葉腋(ようえき)に紅・白・紫色の五弁花または重弁花をつける。



タチアオイ

たちいぬのふぐり ⇨イヌノフグリ

たちうお ［太刀魚］ 硬骨魚類・タチウオ科。全長150cmほどの海産魚。仙台(せんだい)でハクナギ・ハクウオ，小名浜でタチノヨ，東京でタチノウオ，鳥取でタチオ，神戸(こうべ)・福岡でタチなどという。成魚は体が長くて尾が細いが，幼魚はマグロやサバと同じような体形をしている。日本各地および東インド諸島・インド洋・オーストラリア・大西洋に広く分布し，多くは回遊*すると思われる。朝夕に海表近くに現われて釣獲(ちょうかく)される。肉は美味。体表の銀粉は模造真珠の材料にされる。〔安田富士郎〕

たちがれびょう ［立ち枯れ病］ 細菌やかびによって起こる植物の病気で，被害株は根・茎の地ぎわの部分が侵されて株全体がしおれ，やがて枯死する。ナスでは子葉が出るとまもなく発病し，茎の地ぎわが急速に軟化・腐敗し，かわくと細くくびれて倒れる。ムギでは草たけが伸びず分蘖(ぶんけつ)も少なく，下葉から黄化して枯れる。アマの発芽種子が土壌(どじょう)中で侵されると地表に出るまえから発病し，また，生長した株では下葉からしおれ，茎は焼けたようにかっ色となり，枯死する。いずれの作物でも病原菌は土壌中や刈り株に菌糸が生存して越年するので，被害株の除去，輪作，抵抗性品種の栽培をはじめ，苗床土の更新・消毒，種子の消毒，排水・通風を図ることなどで予防する。〔渡辺 実〕

たちかわ ［立川(市)］ 東京都中西部の市。人口14.2万。江戸時代は甲州街道の宿場町であった。1922年(大正11)北方の所沢(埼玉県)から飛行場が移転設置されて以来，陸軍の航空基地として発達した。1940年(昭和15)八王子に次いで都下で2番めに市制を施行，1963年に基地問題の焦点となった北部の北多摩郡砂川町を編入した。北半は武蔵野(むさしの)台地，南半は多摩川の沖積(ちゅうせき)低地に位置し，産業三大別人口比は2：32：66。南部には富士重工立川工場をはじめ，自動車関係の大小の工場が集まり，北西部には第2次世界大戦後アメリカ空軍基地となった飛行場がある。中央本線から青梅(おうめ)線・五日市線・南武線を分岐する交通の要地で，国道20号線(甲州街道)をはじめ，数本の幹線道路が市内を交差する。最近アメリカ空軍が撤退したため経済的に影響を受けているが，八王子市とともに東京都西部の商業中心地としての発展をめざしている。

たちかわぶんこ ［立川文庫］ 筆記講談の叢書(そうしょ)。大阪の立川文明堂刊行で，1911年(明治44)《諸国漫遊一休禅師》を皮切りに，大正末年までに200余冊を出版した。作者は講談師玉田玉秀斎を中心とするその家族一統で，内容的には大阪の土地がらを反映して，豊臣(とよとみ)びいきのものが多い。その中から《猿飛(さるとび)佐助》《霧隠才蔵》ら架空の英雄像もつくりだされ，当時の青少年に愛好されるとともに，今日の忍者物のはしりとなった。



立川文庫

たちつぼすみれ 双子葉植物・スミレ科。野原・土手などに普通に見られる多年草。茎は花時には目だたないこともあるが，花後には10～20cmになる。葉は心形で長柄があり，葉柄基部にくしの歯状の托葉(たくよう)がある。3～5月，淡紅紫色の花をつける。花弁の長さは12～15mmあり，側弁に毛がなく，唇弁(しんべん)の距は長さ6～8mm。花が白色のものをシロバナタチツボスミレという。



タチツボスミレ

たちぬすびと ［太刀盗人］ 日本舞踊・長唄(ながうた)の曲名。岡村柿紅作詞，杵屋巳太郎作曲。1917年(大正6)初演。狂言《太刀奪(たちばい)》による松羽目物*。すっぱ(すり)がいなか者の太刀を奪おうとして目代に見つかる。その尋問にいなか者のまねをして答えるが，ついに露顕して逃げる。すりが

いなか者に一間ずつ遅れて踊るくだりが興味深い。

たちばな【橘】 双子葉植物。暖地に栽培されている常緑小高木で，高さ3～5m。ニッポンタチバナ・ヤマトタチバナともいう。葉は卵形で細かい鋸歯(きょし)があり，互生する。花は白色五弁花で，葉腋(ようえき)につく。果実は球形の漿果(しょうか)で黄熟し，多少すっぱい。観賞用として栽培される。

たちばなあけみ【橘曙覧】(1812～1868) 近世末期の歌人。福井の橘諸兄(もろえ)の家系を継ぐ旧家の生まれ。早く家督を譲り，歌作一筋の生涯(しょうがい)を送った。田中大秀(おおひで)を通じて本居宣長(もとおりのりなが)の学を学び，古道を尊重，国と時代を憂える歌も多い。好んで〈しらみ〉や〈まんじゅう〉など身辺属目の題材をうたい，貧を楽しむ歌などに自由清新の風を発揮した。歌集を《志濃夫廼舎(しのぶのや)歌集》という。

たちばなこうざぶろう【橘孝三郎】(1893～1974) 国家主義者。茨城県生まれ。旧制第一高等学校中退後，マルクス主義次いでトルストイズム(→トルストイ)の影響を受け，1920年(大正9)郷里で義弟や妹らと兄弟村をつくり，農本主義・勤労主義を基調とする農民運動を始めた。1931年(昭和6)自覚的農村勤労学校である愛郷塾(あいごうじゅく)という私塾を開き，農村子弟の教育を茨城県下に広めた。はじめは農村運動であった愛郷運動が，深化する農業恐慌のあおりでしだいに急進的ファシズムと連携するようになり，五・一五事件の際は橘の指導で塾生の大部分が農民決死隊を組織し，変電所襲撃などを担当した。事件後無期懲役に処されたが，1940年出獄。第2次世界大戦後も農業経営のかたわら茨城農民党に関係している。〔安達淑子〕

たちばなし【橘氏】 古代の名族。敏達(びだつ)天皇の曾孫(そうそん)にあたる美努王(みぬのおう)の妻県犬養三千代(あがたのいぬかいのみちよ)が，708年(和銅1)橘宿禰(すくね)の姓(かばね)を賜わったのにはじまる(→橘三千代)。736年(天平8)その子葛城(かつらぎ)王は臣籍降下して，橘諸兄(もろえ)と称した。諸兄は奈良時代の盛時に長期間政権を担当して左大臣に進み，孝謙天皇から朝臣(あそん)の姓を賜わった。757年(天平宝字1)その子奈良麻呂(ならまろ)が反乱を起こしてから(→橘奈良麻呂の変)，橘氏は衰えたが，奈良麻呂の孫橘嘉智子(かちこ)が嵯峨(さが)天皇の皇后となって，仁明(にんみょう)天皇を生むに及んで再興し，橘氏の教育施設として学館院を設立した。のち，一族から橘逸勢(はやなり)・橘広相(ひろみ)らが出たが，いずれも藤原氏の権勢に排斥されて族勢は不振に向かった。しかし諸国にはその支流が多く，世に源氏・平氏・藤原氏と並んで四姓の一つに数えられた。〔高崎徳次〕

たちばなちかげ【橘千蔭】 ⇨加藤千蔭

たちばなでら【橘寺】 奈良県高市郡明日香(あすか)村橘にある天台宗に属する寺。正しくは仏頭山上宮院菩提(ぼだい)寺といい，聖徳(しょうとく)太子建立(こんりゅう)の七寺の一つといわれる。聖徳太子がこの地で誕生したと伝えられ，また推古天皇に太子が《勝鬘経(しょうまんぎょう)》を講じたときに奇瑞(きずい)があり，そのためここに仏堂を建立したともいわれ，いずれにしても太子にゆかりの深い寺として知られる。日羅(にちら)像と伝える一木造りの仏像は平安初期の傑作。

たちばなのかちこ【橘嘉智子】(786～850) 嵯峨(さが)天皇の皇后。橘清友の娘。容姿端麗で知られた。嵯峨天皇の夫人から，ついで皇后となる。仁明(にんみょう)天皇・正子内親王(淳和(じゅんな)天皇の皇后)を生み，衰えていた橘氏の勢いを再興させた。あつく仏法を信じ，京の嵯峨野に壮麗な檀林(だんりん)寺を造営したので，檀林皇后ともいう。また弟の右大臣橘氏公(うじきみ)とともに，橘氏の子弟教育のために学館院を設立した。

たちばなのならまろのへん【橘奈良麻呂の変】 757年(天平宝字1)7月，橘諸兄(もろえ)の長男奈良麻呂(?～757)が藤原仲麻呂を打倒しようとして失敗した事件。天平末年以来叔母(おば)光明皇后の信任を得て，しだいに勢力を伸ばした藤原仲麻呂は，756年(天平勝宝8)には左大臣橘諸兄を引退に追い込み，翌年皇太子道祖(ふなど)王を廃し，彼の亡児の未亡人(みぼうじん)を妻とする大炊(おおい)王を皇太子に立て，専権体制を固めた。これを恨んだ諸兄の子奈良麻呂は塩焼・安宿(あすかべ)・黄文(きぶみ)・道祖の四王，大伴古麻呂(おおとものこまろ)や佐伯(さえき)・多治比の諸氏らと仲麻呂打倒の陰謀を進めた。しかし，仲間に誘われた人々のうち，このことを仲麻呂側に通報する者があり，そのため一味はことごとく捕えられ，黄文・道祖の2王，大伴古麻呂らは杖下(じょうか)に死し，安宿王らは流罪となった。奈良麻呂については史料にみえないが，おそらく獄死したものであろう。仲麻呂の権勢はこれを契機にさらに強大となった。〔黛　弘道〕

たちばなのはやなり【橘逸勢】(?～842) 平安前期の書家。三筆のひとり。入居(いりすえ)の子。804年(延暦23)入唐し，806年(大同1)帰国した。但馬権頭(たじまのごんのかみ)になったが，842年(承和9)伴健岑(とものこわみね)の謀叛(むほん)に連座し，伊豆(いず)(静岡県)に流される途中，遠江(とおとうみ)(静岡県)で没した。筆跡は現存しない。

たちばなのひろみ【橘広相】(837～890) 平安前期の学者。菅原是善(すがわらのこれよし)に学んで博学の聞こえが高く，陽成・光孝・宇多の各天皇の侍読となった。蔵人頭(くろうどのとう)を経て参議に進み，特に宇多天皇の信任が厚かったが，887年(仁和3)藤原佐世(すけよ)の策謀により阿衡(あこう)事件を起こし，その草案の責を問われたが，恩詔により処分をまぬがれた。著書に《橘広相家集》《朝官当唐名略抄》などがある。

たちばなのみちよ【橘三千代】(?～733) 本姓は県犬養(あがたのいぬかい)氏。美努王(みぬのおう)に嫁して，葛城(かつらぎ)王(のち橘諸兄(もろえ))を生み，また軽皇子(文武天皇)・首(おびと)皇子(聖武(しょうむ)天皇)の養育にあたって，宮中で重んぜられ，708年(和銅1)橘宿禰(すくね)の姓(かばね)を賜わった。のち藤原不比等(ふひと)と再婚して，安宿媛(あすかひめ)(のち光明皇后)を生んだ。死後760年(天平宝字4)正一位，大夫人の称号を追贈されたので，世に橘夫人という。橘夫人念持仏厨子(ずし)は白鳳(はくほう)期の秀作として名高く，また法隆寺伝法堂はその住宅の遺構と伝えられている。〔高崎徳次〕

たちばなのもろえ【橘諸兄】(684～757) 奈良時代の官人。初名葛城(かつらぎ)王。美努王(みぬのおう)の子。母は橘三千代(みちよ)。731年(天平3)参議。736年上表して臣籍に降り，橘諸兄と改めた。翌737年藤原不比等(ふひと)の4子があいついで病没したあとをうけて政権を担当し，右大臣次いで左大臣となった。唐から帰朝した玄昉(げんぼう)・吉備真備(きびのまきび)と提携して新政権を築いたが，藤原広嗣(ひろつぐ)の乱，恭仁京(くにのみや)経営の失敗，大仏造営事業の困難に直面し，また藤原仲麻呂(なかまろ)が孝謙天皇の寵愛(ちょうあい)を得て台頭するに及び，756年(天平勝宝8)官を辞した。〔高崎徳次〕

たちばなふじんねんじぶつずし【橘夫人念持仏厨子】 橘夫人(→橘三千代(みちよ))の念持仏であったと伝える金銅阿弥陀(あみだ)三尊像を収める木造厨子。《法隆寺伽藍縁起並流記(がらんえんぎならびにるき)資財帳》に記す〈宮殿像弐具　一具金泥押出(きんでいおしだし)千仏像　一具金泥(きんでい)銅像〉の後者に相当するものと考えられ，古くは玉蟲(たまむし)厨子とともに法隆寺金堂内陣に安置されていた。天蓋(てんがい)形の屋蓋，阿弥陀三尊を安置する仏龕(ぶつがん)，さらにこれを置く台座の三部分からなるが，天蓋は金堂内陣につりおろされるものと形状・彩色文様ともに酷似し，当代天蓋の典型を伝える遺例として貴重である。仏龕内部は下面に金銅鋳造の波文様を陽鋳する座板から三茎の蓮花(はすはな)がはえ，蓮花上には金銅の阿弥陀三尊をいただく。後方には陽鋳した優麗な蓮華(れんげ)文の地に天人と化仏(けぶつ)を配した光屏(こうへい)に精緻(せいち)な金銅透彫(すかしぼり)光背を鋲(びょう)どめし，四周の扉(とびら)や台座にはそれぞれ仏・菩薩(ぼさつ)・天部・羅漢(らかん)の諸像を描いて美術・工芸技術の粋を尽くしているが，仏像の豊麗な相貌(そうぼう)や扉絵の流麗な線描には盛唐美術の影響が看取され，8世紀初頭の創作と考えられる。仏龕部の座板脇(わき)に八角形柱の痕跡(こんせき)があるところから，本来は扉のない吹き抜けの厨子であったとする説もある。法隆寺蔵。国宝。〔河田　貞〕

たちばなもりべ【橘守部】(1781～1849) 江戸後期の国学者・歌人。本姓は飯田

(いいだ)氏。池庵(ちあん)・椎本(しいがもと)と号す。伊勢(いせ)(三重県)の人。江戸に出て独学で国学を修め，本居宣長*(もとおりのりなが)に対立する一学派を樹立，国学四大家のひとりで，その学問は用例を計量学的に処理する態度と鋭い直感力とを特色とする。著書に《稜威道別(いつのちわき)》《稜威言別(ことわき)》《万葉集檜嬬手(ひのつまで)》《助辞本義一覧》など。

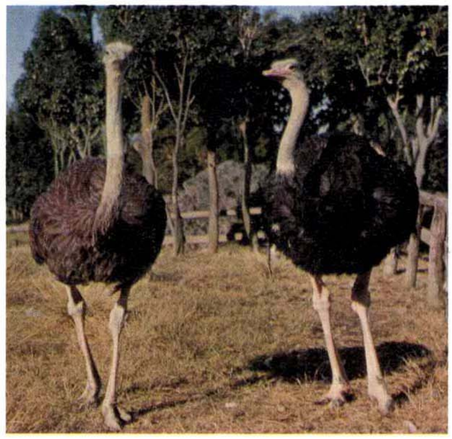
たちはらみちぞう　【立原道造】　(1914～1939)　詩人。東京の生まれ。東京大学建築科卒。堀辰雄*(ほりたつお)・室生犀星*(むろうさいせい)に師事し，《四季*》同人として活躍。詩集に《萱草(わすれぐさ)に寄す》《暁と夕の詩》のほか，死後刊行された《優しき歌》がある。作品のほとんどはソネット*形式で書かれ，知的な叙情が音楽的な美の中に描かれている。

たちふうろ　【立風露】　双子葉植物・フウロソウ科。山の草原にみられる多年草。高さ50～80cmで，茎や葉に毛が多数ある。葉は下部のものは5～7深裂，上部のものは3深裂し，先がとがる。8～9月，葉基部から花茎を出し，直径3cmほどの五弁花をつけ，花弁は淡桃色で濃色の条がある。花が済むと花柄は上に曲がり，先に細長い蒴果(さくか)をつける。

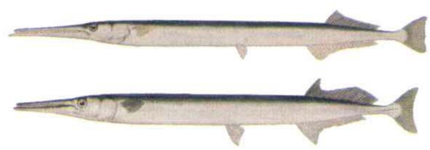
たちもの　【断ち物】　祈願の目的を成就するための一手段で，苦痛に耐えて誠意を示すために，願いがかなうまでとか，1年，2年という期限を定めて嗜好品(しこうひん)などをとらないこと，またそのために禁じてとらない物。普通の神信心ではかなえられそうもないか，願いが切実なときにいまも行なう人がいるが，村じゅう全部といった例は少なくなって，もっぱら個人的な願かけに限られるようになった。茶断ち・酒断ち・塩断ち・女断ちなどがあり，断食・穀断ちもまた断ち物の一方法である。火物断ちは祭日・命日など特別な日の日中だけ煮たきした食物を断つものである。長野県には夏物断ちとして，6月1日だけ青物野菜を食わない例があり，一生塗りばしを使わないなど珍しい例もある。　〔今野圓助〕

たちやく　【立ち役】　歌舞伎(かぶき)の役がらの一。登場人物の中心となる重要な役がら。初期歌舞伎にあっては，すわっている囃子方(はやしかた)に対し，立って演ずる俳優の総称であったが，その後女方*や若衆方を除いた男役をさすようになり，歌舞伎が演劇的に展開する元禄(げんろく)期以後，中心的な役がらの称となった。さらに，この中から，かたき役や二枚目*が独立して別の役がらになったため，立ち役は原則として常識の円満に発達した善人の役をさすようになる。立ち役は荒事*・武道物・実事に三分化され，実事はさらに，捌(さば)き役・辛抱立ち役・和実に分かれるなど細かい分類が生まれている。　〔服部幸雄〕

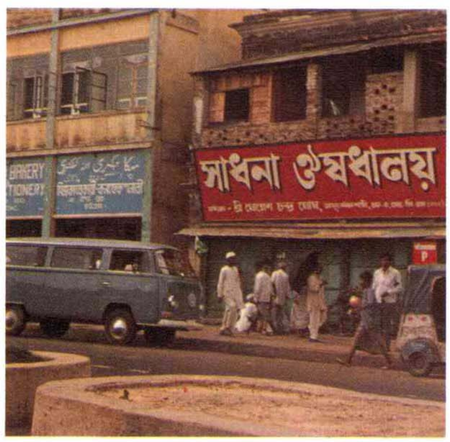
だちょう　【駝鳥】　鳥類・ダチョウ科。現生のものは1種。第2次世界大戦まではサウジアラビアにも生息していたが，現在



ダチョウ　左は雌，右は雄



ダツ　(上)ダツ　(下)テンジクダツ



ダッカ　市内の下町のスナップ。ことばや風俗などの違いが看板や服装などにも現われている

はアフリカの砂漠(さばく)とサバナにのみ生息する。アフリカ・南部ヨーロッパ・ゴビ砂漠から5種の化石が知られている。現生鳥類中最大で，体重150kg，背たけ2.5mにもなる。卵も最大で，長径15～20cm，重さ1.5kg。一夫多妻性で，一巣に数羽の雌が産卵し，25～30卵になることもある。おもに雄が抱卵する。3～4年で成鳥になり，飼育下のものは50年生きている記録がある。種種の小形動物や植物質のものを食う。翼は退化して飛べないが，走るのに適応した強く長い脚をもち，時速30kmぐらいで走り，難を避けるときには時速60kmも出すことができる。　〔安部直哉〕

たちょうせい　【多調性】　西洋音楽で二つ以上の調が同時に使われることをいい，その数が二つの場合が最も多いので，複調とよぶ。特殊な効果や皮肉を目的としての多調性はルネサンスからあるが，一般化したのは今世紀初頭からで，ブゾーニ・ストラビンスキー・プロコフィエフらがよく用い，〈6人組〉の中ではミヨーが大胆に用いている。具体的には，ピアノの右手と左手にそれぞれ変ロ短調と嬰(えい)ヘ短調，あるいは声部が別々の調をもったりする。〔徳丸吉彦〕

だつ　【鱵魛】　硬骨魚類・ダツ科。全長100cmほどの海産魚。神奈川県三崎ではマルダツ，九州ではダイガンジとよばれ，またダツ科の他種と混称してダツとよばれる。体は側扁(そくへん)して細長く，上下両顎(がく)は著しく突出する。北海道以南のわが国の各地沿岸から，朝鮮・南シナ海に分布する。近似種のテンジクダツ・ハマダツはやや南方系のもので，食用にはなるがダツほど美味ではない。

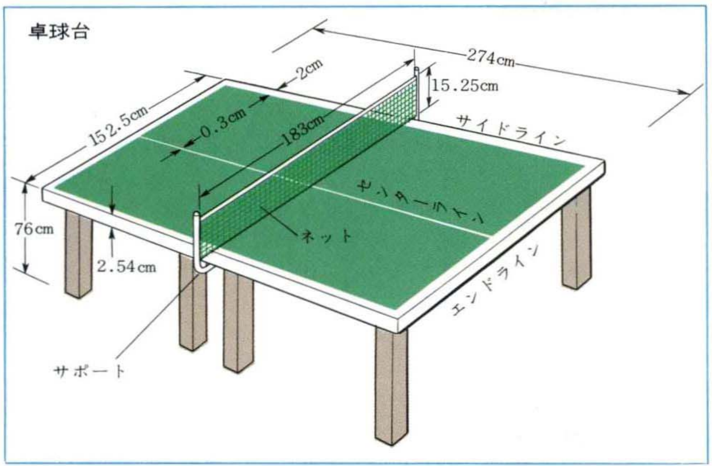
だつアミノはんのう　【脱アミノ反応】　アミノ基をもった化合物からアミノ基が脱離する反応。生体内における脱アミノ反応はアミノ酸*やプリン*・ピリミジンについてみられる。酸化的脱アミノ・加水分解的脱アミノ・不飽和化脱アミノ・アミノ基転移・スティックランド反応(アミノ酸相互の酸化還元による脱アミノ)などいろいろの反応様式があり，生体内での窒素化合物の代謝に重要な役割を果たしている。

ダッカ　［Dacca］　バングラデシュの首都。人口91万(1976推)。ガンジス川三角州の中央部にあり，ブラマプトラ川の支流に臨む。インド西ベンガル州の州都カルカッタの北東192kmに位置する。17世紀のはじめ，ムガール帝国領ベンガルの主都となり，その後イギリス東インド会社の商館も置かれた。当時からインドにおけるイスラム文化・芸術の中心として知られている。また20世紀になってからはジュート工業の原料集散地，米・皮革の取引地として栄え，1947年のインド・パキスタン分離独立後は，東パキスタンの商工業・政治・文化の中心地となった。しかし，西パキスタンからの宗教的・人種的差別などがあって，近年はダッカを中心としてベンガル人の独立を求める気運が強く，これが東・西両パキスタンの内戦にまで発展していたが，1971年12月，ついにインドの介入を誘引してインド-パキスタン戦争をひき起こし，ダッカはインド軍の手に落ちた。その後，成り行きが注目されたが，12月22日ラーマンを首相とするバングラデシュ(ベンガル人の国)がダッカを首都として建設され，その独立承認が国際的関心をよんだが，承認国が多く，日本も1972年2月これを認めた。　〔別技篤彦〕

だっき　【妲己】　中国，殷(いん)の紂王*(ちゅうおう)の寵妃(ちょうひ)。伝説によれば，有蘇(ゆうそ)氏の娘で，王は有蘇氏を討って得たという。淫楽(いんらく)・残忍をきわめ，王にすすめて〈酒池肉林〉〈長夜の宴〉にふけったという。周の武王が殷を滅ぼしたときに，紂王とともに殺された。中国史上，代表的な悪







卓　球　(上左)シングルス　男子の日本対韓国戦　(上右)ダブルス　女子の日本対中国戦　第31回世界卓球選手権大会　1971　愛知県体育館

女のひとりとされる。

たっきゅう　**【卓球】**　テーブル-テニスの訳語。俗にピンポンともいう。木製長方形の台の中央にネットを張って相対し，ラケットでセルロイド製のボールを打ち合い得点を競う屋内競技。

〔沿革〕 19世紀後半イギリスでテニスをまねて始められたともいわれる。もとは布切れをまるめたボールを用い，ネットも床の上に張ったといわれるが，1870年ごろにはコルク製のボールとなり，1898年にジェームス-ギブがセルロイド製のボールを考案してから急速に普及した。1902年ゴム張りのラケットが考案されてから国際的スポーツとしての形態を備えるに至り，1926年に国際卓球連盟(ITTF)が結成され，翌年にははじめての世界選手権大会が開かれた。わが国には20世紀の初頭に伝えられ，1923年(大正12)に第1回全日本選手権大会が行なわれた。ヨーロッパではおもに柄を握ったこぶしの親指側にラケット面が出るシェークハンド-グリップが行なわれたが，わが国ではペンを持つように握るペンホルダー-グリップが研究され，ショートバウンドでボールをとらえてドライブ(ボールに急速な回転を与え，複雑なバウンドをさせるもの)で打ち込む攻撃的なプレーが編み出されて，世界的に脅威の的となった。わが国が世界選手権大会に参加したのは1952年(昭和27)の第19回大会(ボンベイ)からであるが，このとき3人の男子チームと2人の女子チームが参加して，男子シングルス・男子ダブルス・女子団体・女子ダブルスの4種目に優勝した。そして1959年の第25回大会(ドルトムント)では，7種目中の6種目のタイトルを握った。しかし，その後は中国・北朝鮮がしだいに力を伸ばし，他を圧倒するに至っている。

〔競技の種目〕 世界卓球選手権大会では1人対1人の男子・女子のシングルス，2人対2人の男子・女子のダブルス(2人の選手が交互にボールを打ち合う)と男女の混合ダブルスがあり，男子・女子の団体戦を含めて7種目が行なわれる。男子団体戦は3人が3回ずつ出場してシングルスを9試合行ない5試合を先取したほうが勝ち，女子団体戦は2～4人が4シングルスと1ダブルスの5試合を行ない3点を先取したチームが勝者となる。

〔競技方法〕 競技者はトスまたは拳(けん)でエンド(場所)かサーブ・レシーブのいずれかを選ぶが，一方がエンドを選べば他はサーブかレシーブかの選択権をもつ。サーブのボールは，まず自陣のコートに1度バウンドさせてからネットを越えて相手コートに触れなければならない。レシーブは，自陣のコートにバウンドしたボールを自陣にはノーバウンドで相手コートに打ち返すことが必要。そして，ボールがネットにかかるか，相手コートに触れずにコート外に落ちたときは失点となる。なお，サーブは手のひらを開いてボールを載せ一方の手のラケットでそれを打つが，5本を単位として交替するのが原則である。しかし20オール以後は1本交替である。また，1セットのゲームは21点を先取して勝ちになり，20オールになると以後は2点の差をつけて勝ちとなる。さらに，5セット試合には3セット先取，3セット試合には2セット先取で勝ちとなる。また，1セットめのサーバーは2セットめはレシーバー，最終セットは一方の得点が10点になるとエンドを交替する。

〔用具〕 卓球台は縦274cm，横152.5cm，高さ76cmで，表面板の厚さは2.54cmを標準とし，表面には濃緑色の塗料を塗る。ネットは高さ15.25cm，網目は1.6cm以下。ラケットは本体が同じ厚さの木質でラバー(ゴム)でおおうか，または木質のままとされているが，材質・大きさ・形・重量は任意である。機敏な操作が必要なためかつては，ホオノキ・クロカキ・ヒノキ・キリなどの軽い木材が用いられたが，その後コルク板や，ラバーとコルクの張り合わせも用いられるようになり，いまではラバーとスポンジを張り合わせた(特殊ラバー)ラケットが考案されている。ボールは中空のセルロイド製で，完全な球形であることが要求され，重さは2.4～2.53gと規定されている。なお，わが国独自の軟式卓球は，高さ16.7cmのネット，2～2.13gのボールを用い，11点制をとっている。

〔岡田　瑛〕

だっきゅう　**【脱臼】**　関節*面が正常の運動範囲を越えて移動した場合をいう。外傷性脱臼が主であるが，病的脱臼もある。外傷以外の病的脱臼には先天性脱臼(先天性股関節(こかんせつ)脱臼*が多い)のほかに後天性脱臼がある。これは関節構成体の拡張・弛緩(しかん)・破壊などによって起こり，急性関節炎・結核性関節炎・ポリオ・脳性小児麻痺(まひ)などが原因となる。治療は，整復・固定，および原因となる病気の治療を行ない，程度によっては手術的治療を行なう。

〔山中英夫〕

タッキリけい　**【タッキリ渓】**　台湾東部の川。台湾山脈中部に発し，曲流しながら大沙渓(たいさけい)を合わせて大渓谷を形成し，東流して太平洋に注ぐ。流路の一部に水路式発電所が設けられており，天祥付近および河口では砂金の採取が行なわれている。

たつくし　**【竜串】**　高知県，土佐清水(しみず)市の西方，千尋岬(ちひろざき)西側の海岸。漣痕*(れんこん)とよばれる波の跡の残る化石で知られる。付近の奇景の見残とともに海食台地をなし，足摺(あしずり)国定公園の中心をなして，大竹岩・小竹岩や絞り幕・蛙(かえる)の千匹づれなど36景の奇景があり，すぐれた自然美を展開している。付近の海は海中公園にもなっており，遊覧船から造礁サンゴやいろいろの熱帯魚もみられる。

ダックスフント　**[Dachshund]**　イヌの一品種。ドイツ原産の胴が長くあしの短い，アナグマ猟犬。毛質によって，短毛(スムースヘアード)，長毛(ロングヘアード)，剛毛(ワイアヘアード)に分けられる。また体重により，スタンダード(6.5kg以上)とミニ

アチュア(4kg以下)に分けられる。➔イヌ

たづくり　【田作】　⇨ごまめ

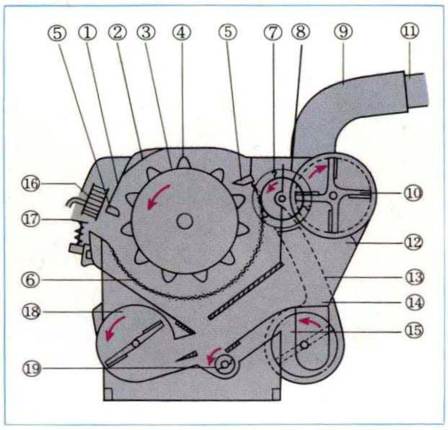
だっこう　【脱肛】　肛門を正常な位置に固定する筋肉や周囲の結合組織が脆弱(ぜいじゃく)になって,肛門部の一部(粘膜)が肛門輪の外へ脱出した状態。小児・老人および女性に多く,壮年男子には発生が少ない。多くは排便とともに脱出するが,強度になると起立・歩行・咳嗽(がいそう)などでも脱出が起こるようになる。軽度のものは押し込めばよく,重症のものには手術が行なわれる。

だっこく　【脱穀】　イネ・麦などの穀粒を茎から取りはずすこと。稲こき機・脱穀機などの機械器具が用いられる。昔,最も簡単なものとして,まず火で穂を焼き落とし,むしろなどの上で足で踏む方法がとられた。その後,穂を棒でたたいて脱粒する方法,さらには,穀打ち台などと称し,穂の部分を台に打ちあて,脱粒する方法がとられた。その後さらに回転脱穀機が発明されて能率が向上したが,今日では動力が用いられて脱稃(だっぷ)・精選なども同時に行なえるようになった。➔次項　〔金子良三〕

だっこくき　【脱穀機】　穀粒を脱粒するために使用する作業機械。主としてイネ・麦を対象にしてつくられた。欧米で発達したスレッシャー*と同一の目的に使用されるものであるが,作用原理は異なる。脱穀作業は脱粒・選別の二つの工程からなりたっており,昔は,それぞれ別個の作業として行なっていた。すなわち,脱粒作業には,こきはし・千歯・人力回転脱穀機などが使われ,これらでこき落としたものから穀粒をより出す作業,つまり選別はふるいや唐箕(とうみ)などで行なっていた。今日の脱穀機は脱粒から選別まで一貫して行なうので,自動脱穀機といわれる。したがって,その構造は脱穀部と選別部が主体となり,それに自動送り込み部が加わっている。

脱穀部は回転胴にこき歯を植え込んだこき胴と,その外周にある受け網からできている。穂先をこき胴と受け網の間に入れると,穀粒はこき歯でこき落とされ,受け網の目を通過して落下するが,このとき穂切れ,子梗(しこう)付き粒など,不完全脱粒が生ずる。これらはこき歯と受け網の間でもまれて脱粒され,受け網の下に落ちる。落ちた脱穀物には穀粒のほか,わら切れが混入しており,完全粒・しいな・わら切れなどを分離して選別する必要がある。この選別には原理的には古くから使用されていて唐箕の動力化されたものが採用されている。自動脱穀機は所要動力2～3馬力程度で,もみを毎時500～900kg処理する能力をもっている。　〔田原虎次〕

タッサー　[tussah]　野蚕(やさん)絹糸またはその織物地をいう。淡黄かっ色をおび,節があってやや粗な織物で,その野趣のある点が好まれる。シャンタン*・ポンジーなどの織物がある。服地用。



脱穀機　①こき胴カバー　②案内板　③こき胴　④こき歯　⑤わら切り歯　⑥クリンプ網　⑦排塵ごめ　⑧排塵胴　⑨排出筒　⑩吸引ファン　⑪三番口　⑫吸引ボックス　⑬ふるい線　⑭二番処理筒　⑮二番取り出し口　⑯チェーン　⑰挟扼桿　⑱とうみ　⑲らせん

だっさん　【脱酸】　鋼の精錬で,鋼浴中の過剰の酸素を除去する操作。一般にフェロマンガン・フェロシリコン・アルミニウムなどの脱酸剤を添加し,酸化物の形で除去する。脱酸方法には炉内脱酸,出鋼後行なう取鍋(とりべ)脱酸および鋳型内脱酸がある。脱酸の程度によって製造される鋼塊はキルド鋼塊・セミキルド鋼塊・リムド鋼塊に分類される。

だっしゅつそくど　【脱出速度】　物体が天体の引力をのがれて脱出するのに必要な速度。地球の表面からでは11.180km/秒である。引力は高度が増すにしたがって小さくなるから脱出速度もそれにつれて小さくてすむ。また脱出速度は方向に関係ない。脱出速度に等しい速さで飛び出したものはその後は放物線の経路をたどる。これより速度が小さい場合は軌道は長円となり,大きい場合は双曲線となる。➔人工衛星

各種天体表面での脱出速度

天　体	脱出速度 (km/秒)
地　球	11.18
水　星	4.17
金　星	10.73
火　星	5.09
木　星	61.5
土　星	36.3
天王星	22.8
海王星	25.0
太　陽	618
月	2.37

地球における高さと脱出速度

高さ (km)	脱出速度 (km/秒)
0	11.180
200	11.050
500	10.765
1,000	10.394
3,000	9.219

だっしょく　【脱色】　着色物の色素を取り去って,淡色または無色(白色)とすること。漂白がおもに化学的に色素を分解して行なわれるのに対し,脱色では色素の吸着など物理的方法がとられることが多い。食用油脂やデンプン糖シロップ(水あめ)の精製工程では,骨炭などを吸着剤として脱色を行なっている。

だっすい　【脱水】

[1]有機化合物の分子内または分子間で水の分子を脱離する反応。アルコールからオレフィンやエーテルの生成,グリコールから環状エーテルの生成,エステルの生成,ラクトンの生成,酸無水物の生成など非常に多くの形の反応が含まれる。脱水の方法としては混合するだけで反応が起こってオキシムやヒドラゾンを生成するものもあるが,通常は水と強い親和力ないし反応性をもつ化合物を脱水剤として用いる。硫酸・リン酸・五酸化リン・オキシ塩化リン・無水酢酸など多数の脱水剤が利用されている。たとえばエチルアルコールC_2H_5OHを硫酸と熱すると,次式のように脱水してエチルエーテル$(C_2H_5)_2O$が得られる。

$$2C_2H_5OH \rightarrow (C_2H_5)_2O + H_2O$$

[2]物質中に含有する水分を除去することも脱水という。これは[1]の場合と区別して除湿・吸湿ということもある。シリカゲル・活性アルミナなどは吸着による脱水剤として工業的に広く利用されている。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

だっすいそ　【脱水素】　有機化合物の分子内あるいは分子間から水素を脱離する反応で,酸化反応の一つである。炭化水素からオレフィンを生成,アルコールからアルデヒドまたはケトンを生成するなどの例がある。一般的にはオレフィン生成をいう場合が多い。適当な脱水素剤や脱水素触媒と加熱すると反応が起こる。脱水素剤にはイオウやセレンが多く使われるが,四酢酸鉛・酢酸第二水銀なども使われる。また,脱水素触媒としては白金やパラジウムが多く用いられる。副反応をおさえ選択的な脱水素反応を行なうために,複雑な混合触媒が開発され工業的に広く利用されている。

〔石戸良治・荒木洋之助〕

だっすいそこうそ　【脱水素酵素】　デヒドロゲナーゼともいう。化合物中の水素原子をとりさる酵素。生体内の代謝における酸化の多くは脱水素反応であり,これを触媒している一種の酸化酵素*。補酵素として,NAD*・NADP*・フラビン*類などを必要とするものに大別されるが,いずれのときも遊離した水素原子が補酵素と結合し,これを還元するのである。生牛乳や組織をぶつ切りにしたものに色素メチレンブルーを加えて空気を除くと,しだいに色素の色が退色していく。これは脱水素酵素によって除去された水素が最後に色素を還元した証拠

で，これに空気を入れると色はもとにもどる。これは還元された色素中の水素が空気中の酸素と結合したためである。〔井坂三郎〕

だつぜい【脱税】納税義務者が故意に不当な申告をしたり，またはまったく申告をしないで，税金を免れることをいう。脱税行為を広く解釈する場合には，このいわゆる脱税犯のほかに，源泉または特別徴収による納税義務者が納付すべき税額を納付しない不納付犯，酒類の無免許製造や外国貨物の無許可輸入など禁止規定違反行為の裏に当然納税義務の不履行が予想される間接的脱税犯などを含む。また悪意はないが申告期限内に申告を行なわなかった場合も租税を免れることになり，それ相当の処罰を受けることになる。処罰には，行政罰と刑事罰とがあり，前者は行政的な制裁で，納付遅滞に対する延滞税*，不当申告・申告怠慢に対する過少申告・無申告加算税などがあり，後者は司法上の制裁で，税法上重大な違反があった場合，行政罰のほかに刑事訴訟法に基づく手続きで裁判に付される。〔西野義彦〕

タッソ［Torquato Tasso］(1544～1595) イタリアの詩人。若いときから詩文にすぐれ，叙事詩《リナルド》で認められ，ファララのエステ家の廷臣になり公爵アルフォンソ2世に仕えた。以後，牧歌劇《アミンタ》などを書いたが，性来の過敏な資質に文学的な批判・非難などの圧迫が加わり，神経症に陥り逃亡・放浪・幽閉生活をくり返した。第1回十字軍遠征を扱った8行韻詩《解放されたエルサレム》(20歌)は爛熟(らんじゅく)に達したイタリア後期ルネサンス文学の集大成といわれる。〔小出知子〕

だっそ【脱疽】壊疽(えそ)

たつたたいしゃ【龍田大社】奈良県生駒(いこま)郡三郷町立野にある。祭神は天御柱命(あめのみはしらのみこと)と国御柱命(くにのみはしらのみこと)。崇神(すじん)天皇のとき，飢饉(ききん)が数年に及び，天皇の夢の中にこの神が現われて〈龍田の立野(たちぬ)の小野(おぬ)にわが宮を定め祭れば，五穀は豊穣(ほうじょう)であろう〉と宣したことから創祀(そうし)されたものという。以来，風をつかさどる神として，水をつかさどる広瀬神社*の水神とともに農耕神として尊崇されてきた。4月4日の例祭のほか，6月28日から7月4日にかけては風鎮祭(かざしずめのまつり)が，11月23日には新穀感謝祭が行なわれる。〔佐野文哉〕

たつたひめ【龍田姫】立田姫とも書く。かつては龍田大社*の摂社として祭られていた女神。《延喜格式》に〈大和(やまと)国平群(へぐり)郡龍田比古龍田比女神社二座〉とある。奈良の佐保(さお)山にあって春をつかさどる女神佐保姫に対し，紅葉で有名な龍田山にあって秋をつかさどる女神として，祭祀(さいし)的によりも文学的に人々に親しまれている。

だったん【韃靼】⇨タタール



タッチ-フットボール　スクリメージからセンターがバックにパス

だつたんさんこうそ【脱炭酸酵素】デカルボキシラーゼともいう。カルボキシル基をもつ有機化合物中の炭酸を除去する酵素の総称。広く生物体内に分布している。中でもアミノ酸を脱炭酸してアミンに変えるものが数種知られているが，ある種の病原菌がこれをもっており，肉などを腐敗させて毒性のあるアミンを生じさせる作用がある。基質特異性は高い。➔酵素

だつちっそはんのう【脱窒素反応】一部の土壌(どじょう)細菌(脱窒素細菌)によって，硝酸または亜硝酸が窒素ガスに変えられて放出される反応。N_2のほかにN_2O・NOなどのガスが副生成物として生成されることが多い。これらの細菌は呼吸における水素受容体として，酸素の代わりに硝酸を用いてエネルギーの獲得を行なっているものと考えられる。この働きは地球上での窒素の循環に重要な役割を果たしている。

ダッチハーバー［Dutch Harbour］アメリカ合衆国アラスカ州，アリューシャン列島東部のウナラスカ島北東岸にある漁港・軍事基地。古くはオットセイ漁が盛んであった。第2次世界大戦当時は合衆国軍港があり，1942年(昭和17)6月に日本軍の空襲を受けたことは有名。大戦後，軍港は同列島中部のエデック島のエデックに移った。

タッチ-フットボール［touch football］アメリカン-フットボール*を単純化したもので，中高校生向きの球技。第2次世界大戦中，おもにアメリカ軍人の駐留地のレクリエーションとして行なわれたのがはじまりで，日本には1946年(昭和21)に紹介され，中学・高校を合わせて40チームがある。アメリカン-フットボールのボールを使用するが，防具は使用せず，競技場・競技時間・競技人数なども簡易化されている。

〈競技〉 1チーム11名(ラインメン7名，バックフィールド4名)の2チームによって4クォーター(1クォーターは15分)の時間内で競技が行なわれ，第1クォーターと第3クォーターの終了後に互いに攻撃方向を変える。試合はキックオフによって開始され，ボールを持って走ったり，後パスをしたり，キックなどをして相手のエンドゾーンに持ち込んで得点する。ラグビー*と違ってボールを持っているほうと，守るほうがはっきりしていて，一度ボールを持てば，10ヤード以内に続いて4回の攻撃プレーが許され，10ヤード進めなければ相手に攻撃権が移る。

〈得点〉 ①タッチダウン(6点)：相手のエンドゾーンに反則しないでボールを持ち込んだ場合。②フィールドゴール(3点)：競技中，スクリメージ(攻撃体型と守備体型をそれぞれとりながら，ボールをはさんで向かい合う状態)からキックしてのゴール。③トライ-フォア-ポイント(1点)：キックしてゴールのバーをオーバーした場合。④タッチバック(2点)：ゴールを守っている側がエンドゾーンでボールを所有してデッド(球が競技線外にあること)としたとき，あるいは地面に着けたようなときに相手に与える。〔中出水勲〕

たっちゅう【塔頭】元来は禅宗寺院において，大寺院の高僧が入滅した際に，その門人たちが師の遺徳を慕い，師の遺骨を埋葬して建てた塔の頭(ほとり)に小さな坊を建てて住んだのに始まる。しかしのちには，檀家(だんか)の多い大寺院が，地域ごとに檀家の仏事を分担できるように，弟子(でし)らを派遣して住まわせた別坊をさすようになった。明治以後は，この別坊として建てられた塔頭寺院が，あいついで独立する傾向にある。

だっちょう【脱腸】⇨鼠径(そけい)ヘルニア

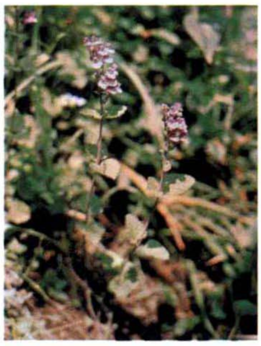
タッチング-レース［tatting lace］1本の細糸をしんにして，シャトル(シャッター)とよぶ小さな舟形の器具でリングやピコットの編み目をつくり，これを連続させて模様をつくる結びレースの一種。18世紀にヨーロッパで起こり，日本には明治初期に伝えられた。婦人服・子ども服のヨークや縁飾り，ハンカチーフの縁飾り，テーブルセンターなどに広く用いられる。シングルナッツ-ステッチ・ダブルナッツ-ステッチ・ピコット・リング-ステッチなどの技法がある。➔レース(図)〔山村あい子〕

ダッドリー［Dud Dudley］(1599～1684) イギリスの製鉄業者。ウースターシャーに生まれ，父の製鉄所を管理していたが，燃料の木材不足に当面し，石炭をコークス化して使用することを思いたち，研究に没頭，1621年石炭溶鉄法の特許を得て，スタッフォードシャーに製鉄所を建設した。その技術はまだ不完全なものではあったが，生産量が飛躍的に増大し，かつ製品は従来のものと比べても劣っていなかったので，同業者のねたみを買い，襲撃を受けて工場は破壊された。またたまたま勃発(ぼっぱつ)した清教徒革命に巻き込まれ王党派として投獄されるという不運が重なり，高炉燃料を木材から石炭に移行させた先覚者ではあったが，十分な成功を収めずに死亡した。高炉石炭使用の成功は100年後のダービーを待たねばならなかった。➔ダービー家〔片岡一郎〕

たつなみがい 【立浪貝】 軟体動物・腹足類・アメフラシ科。軟体は体長20cm以上になり，後方へ太くなった長卵形。ふくらんだ背面には大小多数の円錐(えんすい)状の突起があって波状を呈する。体後方に円形の面があり，体色はかっ色ないし緑かっ色で，暗色の雲紋などがある。腹面の足はかっ色。左右の側足葉は小さく背面で接し，水が通る背口は前後二つある。両側葉の間に外套(がいとう)で囲まれた貝がらがあり，その形が立浪形であるのでこの名がある。紫汁腺(しじゅうせん)があり，突っつくと紫汁を出す。房総半島以南・インド・太平洋海域の浅海底の海藻(かいそう)の間や砂礫(されき)に半ばうもれてすむ。産卵期は５～６月で，青緑色のひも状の卵塊を産む。 〔波部忠重〕


タツナミガイ

たつなみそう 【立浪草】 双子葉植物・シソ科。山野に自生する多年草。茎は直立して高さ10～40cm，全体に毛が密生する。葉は長さ0.5～２cmの心形であらい鋸歯(きょし)があり，対生する。５～６月，茎の先に10数個の紫色花が２個ずつ対になってつく。花冠の先端が一方向を向くのが特徴である。


タツナミソウ

たつの 【龍野(市)】 兵庫県南西部の市。人口41,000。江戸時代は脇坂(わきざか)氏五万一千石の城下町であった。1951年(昭和26)市制施行。姫路平野の北西端を占め，中国山地から流出する揖保(いぼ)川流域の沖積地(ちゅうせきち)と周辺丘陵地を含み，中心市街は古い城下町のおもかげをよく残している。産業三大別人口比は12：47：41。麦・ダイズ・塩など，周辺地区の産物を利用した淡口(うすくち)しょうゆの生産が盛んで，千葉県の銚子(ちょうし)・野田と並ぶしょうゆの大産地である。また，〈揖保の糸〉とよばれる特産の手延べそうめんは，全国のそうめん産額の約70％を占める。皮革製品の生産も多い。明治時代に山陽鉄道(現在の山陽本線)の通過を忌避したが，いま姫新(きしん)線・国道179号線が通じている。龍野公園・聚遠亭(しゅえんてい)・屏風岩(びょうぶいわ)などの行楽地がある。詩人三木露風，哲学者三木清の出身地である。

たつの 【辰野(町)】 長野県上伊那(かみいな)郡に属し，伊那盆地の北端にある町。人口24,000。中心地区辰野は天龍(てんりゅう)川上流に沿い，伊那盆地の北の玄関口として商業・交通の中心になっている。近年機械金属関係の工場が進出している。中央本線・飯田(いいだ)線の分岐点で，国道153号線が通じる。

たつのおとしご 【龍の落とし子】 硬骨魚類・ヨウジウオ科の海産魚。ヨウジウオ科は体が細長く，尾部でものに巻きつくことのできないヨウジウオ類で代表されるヨウジウオ亜科と，尾部でものに巻きつくことのできるタツノオトシゴ類で代表されるタツノオトシゴ亜科に分けられる。タツノオトシゴは和歌山県をはじめ多くの地方でウミウマ，三崎でリュウノコマ，串本(くしもと)でウマヒキなどといい，英語ではシー-ホースというように，ウマにちなんだ名が多い。これはこの魚の顔がウマに似ているためだといわれている。体長８cmぐらいの小形種で，わが国各地沿岸や朝鮮南部の内湾の静かなアマモ*帯に生息し，海藻(かいそう)に尾部でからみつき，直立した姿でじっとしている。プランクトンなどの小動物を食べる。雄の腹部には育児嚢(いくじのう)があり，雌がここに産んだ卵を孵化(ふか)するまで保護する。子魚は放出されるときにはわずか１cmほどであるが，親とまったく同じ体形をしている。体色に変異があり，赤・黄・緑の体色をしたものもあり，観賞価値は高い。また乾燥させて安産のお守りにするところもある。 〔安田富士郎〕


子を育児嚢から放出する雄


体色変異の個体

タツノオトシゴ

たつのきんご 【辰野金吾】 (1854～1919) 日本近代建築の祖。佐賀県の生まれ。工部大学校造家学科でコンドル*の教えを受け，1879年(明治12)に第１回生として卒業。ヨーロッパに留学し，帰朝後の1886年に帝国大学工科大学教授，1898年には同校学長となり，多数の門弟を育てた。明治・大正の主要な建築，ことに日本銀行(旧館)・東京駅(中央)の設計は著名である。

だっぴ 【脱皮】 こん虫をはじめとする節足動物の多くはかたい体壁でおおわれているため，成長期にはときどき旧皮を脱ぎ捨てるのを一般に脱皮という。こん虫の脱皮には少なくとも脱皮ホルモン*とアラタ体ホルモン*との協同作用を必要とするが，この両ホルモンは成長期の一定時期に中枢器官から放出され，おそらくは遺伝子に作用して，皮膚を構成する細胞その他の組織に大きな生理的変化を起こさせ，タンパク質の生合成を通じて旧皮の直下に新皮を形成させる。このとき真皮細胞は活性化して皮膚の構成に必要な物質を生成すると同時に，タンパク質分解酵素を分泌し旧皮の大部分を分解してしまう。こうして旧皮下に新しい皮膚が形成されると，ここに脱皮が起こるわけである。脱皮の前後を通じこん虫は静止状態を保つので，カイコなどではこれを眠りと称する。 〔深谷昌次〕

たっぴざき 【龍飛崎】 青森県北西部，津軽半島の最北端にある岬(みさき)で，津軽海峡の西の入り口をなし，海上約20km隔てて北海道の白神(しらかみ)岬と相対する。台地が海に迫り，岬付近は海抜100ｍに及ぶ断崖(だんがい)をなし，先端に龍飛崎燈台がある。崖下を急潮が洗う光景は壮観で，付近は岩礁が多く，沖合いに帯島がある。東津軽郡三厩(みんまや)村に属する。青函(せいかん)トンネルの本州側の基点にあたり，現在，その工事が進められている。 〔味沢成吉〕


龍 飛 崎 岬付近は日本海からの強風が年じゅう吹きつける。現在，ここは青函トンネルの工事のため活気を呈している

だっぴホルモン 【脱皮ホルモン】 こん虫の脱皮*を誘導するホルモンの総称。最初カイコのさなぎから抽出され，エクジゾンと命名されたが，これは前胸腺*(ぜんきょうせん)から分泌されるので前胸腺ホルモンともよば

れる。ところがその後偶然のことからいろいろな植物にこのホルモンとまったく同様の生理活性を示すホルモンの含まれていることが発見され，1969年(昭和44)3月末までに脱皮ホルモンは23種の多くを数えている。いずれもステロイドホルモンで化学構造は互いに類似している。〔深谷昌次〕

タップ [tap] 雌ねじを切るための工具。手回しタップは，荒・中・上げの3本が1組みとなっていて，これを順次に穴の中へねじ込んでいって雌ねじを仕上げる。機械タップは，ねじ立て盤に取り付けて用いるもので割合長く，主として貫通穴に雌ねじを切るのに用いられ，1度通すだけで仕上げることができる。

タップダンス [tap dance] タップは〈軽く打つ〉という意味で，すなわちくつ底にタップとよぶ金属板を取り付け，そのつまさきとかかとで床を打ちながら踊るダンスをいう。アイルランドの民族舞踊クロッグ-ダンスとアメリカニグロの踊りからヒントを得てつくられたといわれ，1920～1930年代にアメリカで最も流行した。下半身の動きと音のリズムを強調したダンスで，現在でもアメリカのミュージカルでは重要な構成要素の一つとなっている。日本には昭和の初年ごろ紹介された。〔高橋孝一〕

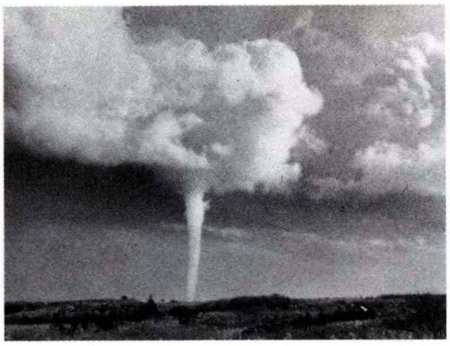
タップミンノー [top minnow] 硬骨魚類・タップミンノー科の淡水魚。カダヤシともいう。原産地はアメリカのテキサス州付近である。カの幼虫(ぼうふら)をよく食べることから，台湾でマラリア病撲滅(ぼくめつ)のためにハワイから移入したのち日本に移殖され，各地の淡水域に広く分布するようになった。形態はメダカに似るが，胎生で，雄魚のしりびれは剣状の交接器となっている。雄は3cm，雌は5cmほどになる。

ダッフルコート [duffle coat] フードつきで，たけの短いスポーティーなコート*。前はダブルでひもと留め木ボタンで留める。ダッフルとは毛羽を立てた粗(あら)織りの厚いラシャのことで，生産地であるベルギー北部の都市名から名づけられたもの。はじめこの布地でつくった漁夫用のコートがのちに軍隊で用いられるようになり，第2次世界大戦後は男女にかかわらず一般に愛用されている。現在布地にダッフルを用いることはほとんどなく，形だけが残っている。〔小室正雄〕

たつまき 【龍巻】 大気中において数十～数百メートルの大きさの強い風を伴ったうずまき。気象観測法では，漏斗(ろうと)雲を伴うものをいい，これを伴わないものを旋風*という。アメリカのトルネード*は日本のたつまきよりはるかに規模が大きい。たつまきによる最大風速は，規模が小さいので観測例が少ないが被害状況などから推定すると30～100m/秒の程度と考えられる。特に風の強い範囲は20～200mで，10m/秒程度の速度で移動する10分程度の短時間に



タップミンノー



たつまき 1963年2月1日，伊豆大島

起こる現象である。回転方向は低気圧性のものが多いが，高気圧性のものもあり，規模が小さいので，地球の回転の影響は受けない。たつまきは寒冷前線に伴って起こるものが最も多いが，温暖前線や高気圧内で起こるものもある。また，たつまきの発生の年変化・日変化は，雷雨のそれとかなりよく似ている。〔曲田光夫〕

たつみはっけい 【巽八景】 長唄(ながうた)・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。作詞2世立川焉馬(えんば)。作曲は10世杵屋六左衛門(きねやろくざえもん)(長唄)，5世岸沢式佐(常磐津)。内容は遊里深川を近江(おうみ)八景になぞらえたもの。長唄が成功し，下座音楽としても使われる。

だつもうざい 【脱毛剤】 美容上，手足やわきの下のむだ毛を取り除くための製剤。主成分はチオグリコール酸塩または硫化ストロンチウムで，毛の角質を軟化させる作用がある。現在は皮膚への刺激や臭気の弱いチオグリコール酸のカルシウム塩・マグネシウム塩・ストロンチウム塩が多く用いられる。形態はペースト状・クリーム状があり，つけて数分後にふき取るが，はじめて使う際は皮膚へのテストをするとよい。

だつもうしょう 【脱毛症】 俗に〈はげ〉といわれ，禿頭病(とくとうびょう)・禿髪症ともいう。頭部全体あるいは部分的に毛が抜けたために，毛髪が疎になったりなくなったりした状態。種々の原因で起こり，重い全身病の一症状の場合もあるから皮膚科医の診療を受ける必要がある。先天性脱毛症と後天性脱毛症に大別される。先天性脱毛症は出生時には毛がはえているが，生後2～3か月で抜ける場合が多く，皮膚の発生障害で汗腺(かんせん)を欠いたり，つめや歯を欠損したりすることもある。治療法はないから義髪を装用する。後天性脱毛症は次のように細分される。①壮年性脱毛症：男性型脱毛症ともいい，俗に〈若はげ〉といわれる。額のはえぎわが後退したり，頭頂部が薄くなるなどの特徴のあるはげ方をする。20～30歳代に始まるものをいい，40～50歳後に発病する老人性脱毛症とは区別される。②粃糠(ひこう)性脱毛症：ふけ症が続くうちにしだいに毛が薄くなるもの。ふけ症の手当てをする。③円形脱毛症*：俗に台湾坊主といわれるもので，限局した部分の毛髪が突然抜け，円形のはげを生じるが，多発・融合して不規則な形となることもある。④症候性脱毛症：腸チフス・肺炎などの熱性伝染病，結核・癩(らい)・梅毒・紅斑性狼瘡・皮膚筋炎・鞏皮(きょうひ)症・内分泌疾患・薬物中毒などの全身病や，抗癌(こうがん)剤服用，放射線照射，局所の外傷・熱傷・皮膚炎・化膿(かのう)・腫瘍(しゅよう)などで起こる。ほかに日本髪やポニーテイルなどの髪形のため，一定部位の毛髪がたえず牽引(けんいん)されたり，まくらなどで圧迫されたりして生ずるものも含まれる。原因となっている病気や状態の治療・改善を行なう必要がある。〔田嶋公子〕

だつりゅう 【脱硫】 物質中に含まれるイオウあるいはイオウ化合物を除去すること。

1石油製品の脱硫：石油精製における最も重要な操作の一。石油中のイオウ分は燃焼して二酸化イオウを生成し，大気汚染をひき起こすほか，金属材料の腐食，悪臭の原因となる。脱硫法として最も広く行なわれている方法は水素化精製で，ガソリン・燈油・軽油などはこの操作でほとんど完全に脱硫された製品となる。重油は最もイオウ分が多く，その完全脱硫は困難であるが，水素化精製によりイオウ分は約1.7％以下まで脱硫される。このほか軽油の接触分解法では，クラッキングと同時に脱硫反応も起こり，接触分解ガソリンはイオウ分がきわめて少ない。〔原 伸宜〕

2鉄鋼の脱硫：鉱石の焼結・団鉱段階で鉱石中のFeSの一部を燃焼，SO_2の形で追い出す。次に製銑段階で，鉱石やコークス中のイオウ分の一部はSO_2となるが，大部分は再び吸収されるため，炉内ではおもに

$$FeS + CaO + C \rightarrow CaS + Fe + CO$$

による滓化(さいか)・除去で脱硫する。したがって塩基度が高いほど脱硫率はよいが，1.7を越えるとスラグの流動性が悪くなり，脱硫率は低下する。取鍋(とりべ)内や混銑炉内では硫化物に富む液相は浮上して自然脱硫する。平炉・転炉・電気炉内でも脱硫剤(酸化カルシウムなど)や酸素吹きによりある程度の脱硫は行なわれるが，溶鉄中の炭素・ケイ素・リンが多いほどイオウの溶解度は小

さいので，製鋼以前にできるだけ脱硫しておくことが望ましい。そのため取鍋内にカルシウムカーバイドを窒素ガスで吹き込む方法，揺動取鍋などの方法で攪拌(かくはん)された溶湯の中にカルシウムカーバイドを反応させて脱硫する方法が行なわれている。〔秋枝哲児〕

だつろう　**【脱蠟】**　パラフィンロウを含有する重油*(いわゆる含ろう重油)の蒸留で得られる潤滑油原料には同時に留出するろう分が含まれており，潤滑油としての性質を低下させるので，これからろう分を取り去る操作をいう。方法としては－6～－10℃に冷却してろう分を凝固させ，これを圧搾して油分と分離する。

たて　**【立】**　日本伝統音楽の演奏慣習に関する用語。うた・楽器のそれぞれのパートが複数のメンバーで構成される場合に，主要奏者(首席)をさし，〈立て唄(うた)〉〈立て三味線(じゃみせん)〉〈立て太鼓〉などと用いられる。変則として2人を立てる場合には立て分かれ・両立てという。

たて　**【楯】**　敵の矢玉や刀・槍(やり)を防ぐ武器。各国とも古代からあり，日本では埴輪(はにわ)や出土品に見ることができる。古墳時代のものは長方形で，両側がやや湾曲し，上辺が山形になったものが多い。戦国時代には最も実戦に適するようつくられ，持楯(もちだて)と掻楯(かいだて)に分かれた。持楯は片手でさげるか，または楯持ちがかついで移動させるもの。幅は約30～60cm，高さ約90～150cmで，多くはエノキ・クス材で，歩兵による打ち物(刀・槍)の戦いに用いた。一方，掻楯は城や陣前，軍船の舷(げん)や櫓(やぐら)の周囲に立てて並べるもので，大形で，金属板を皮包みにしたのもあった。一般にかたい厚板を使い，鎌倉時代から表面に持ち主の標識を描いた。裏には横桟(よこさん)をあてて支柱をつけ，また両端に懸金(かけがね)を取り付けて隣の楯と掛け合わせ，板べいのように長くつくることができた。ほかに移動のための小車をつけた車楯があり，それには矢狭間(やざま)や，鉄砲狭間(はざま)のあいたものもあった。しかし鉄砲戦の時代になると，多くは弾丸をはじきやすい竹束を使用した。〔稲垣史生〕

たて　**【殺陣】**　歌舞伎(かぶき)の演出のうち，戦争・格闘・殺人・けんかなど，広く闘争の演技をさす。ふつう〈タテ〉と書き，〈立ち回り〉ともいう。現在では，一般芸能の用語になっているが，歌舞伎では総じて〈下座*〉の音楽を伴奏に使い，様式化された美しい動きを見せる。なお，殺陣の段どりをくふうし，俳優に教える人を〈殺陣師〉とよぶ。

たで　**【蓼】**　離弁花亜綱の一科で，世界に約800種，日本に80種ほどが分布する。葉は互生し，葉柄基部に茎を包む葉鞘(ようしょう)がある。花は小形の両性花で，花被は4～6裂し，果期になっても脱落しない。おしべは5～9本，めしべは1個で子房上位，花柱は2～3本に枝分かれする。果実は黒色で2～3面体。中心をなすのはタデ属で，ヤナギタデ・イヌタデ・アイ・オオケタデ・サナエタデ・ハルタデなどが含まれる。ヤナギタデは水べにはえる一年草で，マタデ・ホンタデまたは単にタデともいわれる。茎の高さ30～60cm。葉は披針(ひしん)形でヤナギに似る。9～10月，花穂をつけるが，花弁はなく，白色ないし淡紅色の長さ2～3mmの5深裂したがくをつける。おしべ6本，めしべは1個で花柱は2裂する。果実はレンズ状で光沢があり，宿存がくに包まれる。葉に辛味があり，さしみのつまや蓼酢(葉を細かくするかすりつぶして酢とあえたもので，アユの塩焼きなどに用いる)に用いられる。園芸品にホソバタデ・アザブタデ・イトタデ・サツマタデなどがあり，いずれも香辛料に用いられる。イヌタデはアカマンマともいい，平地の原野や路傍に普通に見られる。オオイヌタデは原野のいたるところに見られる一年草で，高さ1mに達し，節はふくれる。葉は広披針形で長さ10～23cm，幅1.5～4.5cm，長さ0.5～2cmの柄で互生する。花は紅色で，おしべ6本，花柱2本。ハルタデは湿地に自生する一年草で，高さ40～60cm。葉は披針形。4～5月に白色ないし紅色の花をつけるが，これはタデ属のうちで最も早い。オオケタデは東南アジア原産の大形一年草で，観賞用に植栽される。高さ1～2mになり，葉は長さ10～25cmの大形の卵形。花序は分岐する大きな穂で，7～10月に直径3～4mmの紅色花を密につける。ミゾソバ・ウナギツカミ・アキノウナギツカミ・イシミカワ・ママコノシリヌグイなどの茎は四角形で，小さなとげが無数にある。〔加藤僖重〕



タ　デ　①サナエタデ　②ハルタデ　③ボントクタデ　④イヌタデ　⑤オオイヌタデ

だて　**【伊達(市)】**　北海道南西部の市。人口35,000。1879年(明治12)紋鼈(もんべつ)村として設置され，のち伊達村と改称，1925年(大正14)町制，1972年(昭和47)市制施行。1869年陸前(宮城県)亘理(わたり)藩主伊達邦茂(くにしげ)が家臣とともに入植，洋式農法をとり入れて開拓した。北は有珠火山群，南は内浦湾に接し，気候温和である。産業三大別人口比は20：27：53。長流(おさる)川流域に水田とテンサイ・アマ・アスパラガスなどの畑作地が広がり，農機具製造・食品加工などの工場もある。室蘭(むろらん)本線から胆振線を分岐し，国道37号線(胆振国道)が走る。善光寺(浄土宗)は江戸幕府が1804年(文化1)に蝦夷(えぞ)の3官寺の一つに指定した古寺として名高く，付近に洞爺湖(とうやこ)・昭和新山などの観光資源がある。

たてあい　**【蓼藍】**　⇨アイ

たてあなしきせきしつ　**【竪穴式石室】**　⇨石室

たてあなじゅうきょ　**【竪穴住居】**　地面に30cm～1mぐらいの円形もしくは正方形・長方形の穴を掘り，それを床面として屋根をつけた住居。壁は地表面から床面までの深さとほぼ同一の低さで，中央からふきおろされた屋根は地表まで延びている。中石器時代*にはヨーロッパ，新石器時代*には世界各地にみられ，日本では旧石器時代後期から，縄文(じょうもん)時代・弥生(やよい)時代を

経て，古墳時代までの主要な住居形式であった。縄文時代初期ごろまでは比較的小規模で１家族が起居するだけであったが，しだいに大規模となり，炉も設けられるようになった。弥生時代になると周囲に濠(ごう)を巡らせることも行なわれた。古墳時代にはいると東北側のすみに竈(かまど)が設けられ，煙突もつけられた。➔縄文時代(写真)
〔高崎徳次〕

たてあみ【建て網】漁具の一種。潮汐(ちょうせき)の干満の差の大きい海岸の浅所で，帯状の網を張ったり，竹簀(たけす)を立てたりして設置する。潮の満ち干につれて動く魚が，この網具にはいるのを捕獲する。遊漁でいう簀立てとよく似ている。立ち回り網・江切り網・千倒網・出し網などともよばれる。ボラなどがおもな漁獲対象物である。

たてかわえんば【立川焉馬】⇨烏亭(うてい)焉馬

たてぐ【建具】戸・障子・ふすま・扉(とびら)など，建物の内と外，へやとへや，へやと縁側などをくぎるために設けられる開閉できるものの総称。和風建築においては夏季に高温多湿な気候的条件から開口部の大きい構造方式をとらざるをえず，壁面積に比して開口面積が大きいところから，ここにはめこまれる建具は室内空間の意匠を左右してきた。たとえば，ふすまに書あるいは絵を描くとか，模様のある布や紙を張るとか，障子では繊細な組み子で構成するなど，その種類も多種多様である。最近では，冷暖房諸設備の完備とあいまって，開口部も単に採光・換気などの性能ばかりでなく，洋風建築にみられるように防音・断熱などの気密性・遮断性が要求されるようになり，また和洋折衷様式によって１枚の建具の表裏を変えることによって和洋様式を兼ね備えなければならず，さらにはプラスチック・合板などの新建材の出現によって建具表面も変化に富んできた。
〔神山幸弘〕

たてけずりばん【立て削り盤】上下方向に往復運動をするラムの先端にバイトを取り付け，穴の内面を突いて加工する工作機械。工作物の外側を削ることもできる。ベルト車や歯車のボス穴にキーみぞを切るための簡単な構造のものはキースロッターとよばれている。

たてこう【立て坑】鉱山または地下の建設工事で地下深部へ垂直にはいっていく道。横坑と並んで広く行なわれる坑道である。特に鉱山においては，鉱床へ到達する道であるとともに，鉱石・資材の運搬路，空気や動力の供給路，あるいは排水路として重要な役目をもつ。なお，地表に坑口を開いていない立て坑を盲立て坑とよぶことがある。

だてし【伊達氏】鎌倉初期からの武将の一族。常陸(ひたち)(茨城県)伊佐荘(いさのしょう)中村に住む伊佐(中村ともいう)朝宗は，源頼朝(よりとも)の奥州征伐に功をたてて陸奥(むつ)(福島県)伊達郡を与えられ，伊達氏を称した。南北朝時代から室町時代にかけてしだいに発展し，戦国時代，稙宗(たねむね)のとき戦国大名*の実質を備え，分国法《塵芥集*(じんかいしゅう)》を制定して領内に施行した。政宗(まさむね)のとき，周囲の大名を圧して勢力を伸ばしたが，1590年(天正18)豊臣秀吉(とよとみひでよし)に降伏，関ケ原の役では東軍に属し，次いで仙台(せんだい)城を築いて1603年(慶長８)これに移った。江戸時代には外様(とざま)大名*の雄として松平の姓を許され，六十二万五千石を領した。政宗の長子秀宗は伊予(愛媛県)宇和島に，その分家は伊予吉田にあって，本家とともに世襲して明治に至り，ともに華族に列せられた。
〔岡山泰四〕

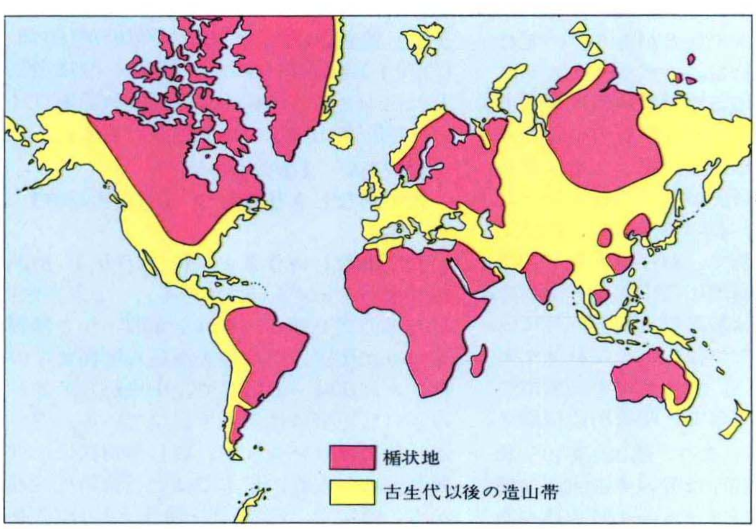


蓼科山　冬を迎える蓼科山。西の霧ケ峰から周辺の蓼科高原は夏の好適な避暑地で，近年は第２の軽井沢として開発が進んでいる

たてしなおんせんきょう【蓼科温泉郷】長野県茅野(ちの)市の北東部，蓼科山*(2,530m)の南のふもとに広がる蓼科高原にある温泉地。蓼科湖周辺の小斎湯(こさいのゆ)・瀧ノ湯などを中心に昭和初期から開発されたが，最近は南西方の渋川溪谷(けいこく)にある渋ノ湯・明治湯などの奥蓼科温泉郷も開発されている。泉温30～41℃，泉質は単純泉・放射能泉で，胃腸病・外傷・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。カラマツ林に富む蓼科高原から西方の白樺湖(しらかばこ)・霧ケ峰へかけては，八ケ岳中信高原国定公園の代表的な観光地で，キャンプ地や別荘地が広がり，冬はスケート客でにぎわう。中央本線茅野駅からバスが通じ，蓼科スカイラインなどの有料道路もある。〔木村東一郎〕

たてしなやま【蓼科山】立科山とも書く。長野県東部，佐久盆地と諏訪(すわ)盆地との間にそびえる火山。高さ2,530m。山頂部は急傾斜で，トロイデ状をなし，小さい噴火口跡をもつ。南は八ケ岳連峰に続き，東は大河原(おおかわら)峠，西は大門峠を隔てて，それぞれ横岳(北八ケ岳)・霧ケ峰に接する。裾野(すその)にはカラマツ林に富む原野が広がり，北の緩斜面は牧場に利用されている。周辺の高原は蓼科高原とよばれ，八ケ岳中信高原国定公園の代表的観光地となっている。
〔高野　繁〕

たてじょうち【楯状地】大陸の中核部の広大な範囲にわたって，先カンブリア時代の岩石が露出している地域。先カンブリア時代にくり返し造山運動*が行なわれ，地層は激しく変形・変成され，また大規模にマグマの貫入を受けている。その結果この地域は固化し安定した地塊となり，古生代以後はほとんど褶曲(しゅうきょく)作用を受けず，緩慢な昇降運動が認められるだけである。また，長期にわたる侵食により，造山帯の深部が露出し，楯(たて)を伏せたような形の緩傾斜の平原を形成している。古生代以後の造山運動は順次楯状地の周囲で起こり，これらの新しい造山帯は高い山脈となり，ついには固化して楯状地につけ加わり，現在の大陸を形成するに至っている。スカンジナビア半島東部からフィンランドに及ぶバルト楯状地，北アメリカ北東部からグリーンランドにわたるカナダ楯状地のほか，南アメリカ・アフリカ・オーストラリアなどにも分布しており，合わせて地球全表面の約５分の１を占める。
〔堀福太郎〕



楯状地　楯状地の分布。楯状地は先カンブリア代に造山運動を受け，安定な地塊となった地域である

だてそうどう【伊達騒動】 江戸初期，伊達氏*に起こったお家騒動*。1660年(万治3)3代伊達綱宗(つなむね)が不品行を理由に幕府から逼塞(ひっそく)を命ぜられ，当時2歳の亀千代丸(かめちよまる)(綱村)が家督を継いだが，政宗の十男伊達兵部(ひょうぶ)宗勝が実権を握り，進歩派の伊達右京宗良・奉行(ぶぎょう)原田甲斐(かい)宗輔(むねすけ)らと結んで，亀千代丸の元服後も藩政を独占した。たまたま同じ一門で保守派の伊達安芸(あき)宗重(むねしげ)は，伊達式部宗倫(むねみち)と所領について紛争を起こし，安芸はこれを機に1670年(寛文10)兵部らの不法を幕府に訴えた。1671年大老酒井忠清*(ただきよ)の屋敷で審問が行なわれ，兵部・甲斐らの所業がのがれがたいものとなったとき，甲斐は突然安芸を斬殺(ざんさつ)し，自分はその場できられた。幕府は兵部を流罪とし，右京に閉門を申し渡したが，綱村は特別の計らいで所領を安堵(あんど)された。この事件は歌舞伎(かぶき)《伽羅先代萩*(めいぼくせんだいはぎ)》や講談などに取り上げられて有名になった。〔岡山泰四〕

たてぞめせんりょう【建染染料】 色素の還元浴で繊維を処理したのち，空気酸化して色素を繊維上で再生させる染色法を行なう染料。水に不溶で，直接繊維を染めることはできないが，ハイドロサルファイトで還元すれば，可溶性の，かつ繊維に対して親和性を示すいわゆるロイコ化合物となるので，この染色法が可能になる。アントラキノン染料*とインジゴイド染料とが大半を占めるが，フタロシアニン染料や硫化染料の一部にもこの染色法をとるものがある。セルロース繊維(もめん・レーヨン)の染色が主であるが，インジゴイド染料は動物繊維(羊毛・絹)にも応用できる。一般に色調鮮明で，日光・洗たくに対する堅牢(けんろう)度が高いが，特にいろいろな点で最高級の堅牢度をもつ建染染料にはインダンスレン染料(スレン染料)の名が付されて重用されている。なお，染色を簡便にするため，あらかじめロイコ化合物を硫酸エステルのアルカリ塩にした可溶性建染染料もある。〔稲田正作〕

たてつぼ【建坪】 坪(約3.3 m^2)単位で表わされた，建築物の外壁またはこれに変わる柱の中心線で囲まれた部分の水平投影面積。一般の家屋では1階の床面積がこれに相当し，2階以上の階が1階よりも突き出している場合にはその部分を加え，軒の出は1mを越えた部分について面積に算入する。

たてなみ【縦波】 ⇨波動

たてはちょう【蛺蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科の総称。一般に中形であるが，オオムラサキ*の雌のように翅(はね)を広げた長さが110mmに達するものもある。前脚の先端にある跗節(ふせつ)は退化してつめはなく，普通は前脚は胸にたたまれて歩行には用いられない。退化した跗節には感覚器があり，甘味を感じる。翅脈の特徴として，前翅第2臀脈(でんみゃく)の根もとが独立していることがあげられる。翅はがんじょうで厚く，表面の色彩は派手なものが多く，南アメリカのアグリアスのように黒地に赤・青・緑などの原色の斑紋(はんもん)をもつ種類もある。しかし裏面はじみで，保護色的色彩をもつものが多く，木の葉に似たコノハチョウ*は有名。卵は球形・鶏卵形または背の低いビールだる形。幼虫は頭部に2本の大きな突起をもつナメクジ型のものと，全身に多くの棘状(きょくじょう)突起をもつ型などがある。アカタテハ*などの幼虫では食草の葉を巻いて巣をつくる習性がある。さなぎは尾端を枝につけてさかさにつり下がる垂蛹(すいよう)である。成虫は花にも飛来するが，樹液や排泄物(はいせつぶつ)を好むものが多い。翅を上下に動かして飛ぶ翻翔(はんしょう)のもの，滑空するように飛ぶ滑翔のもの，その両方を使い分けるものがある。越冬態はさまざまであるが，成虫越冬する種類ではヒオドシチョウ*のように9～11か月も生存するものがあり，ヒョウモンチョウ*類は夏に休眠して4～5か月生きる。季節によって著しく翅形や斑紋が異なる種類があり，日長と温度によって決定されるといわれている。世界で3,500種ほどが知られるが，日本には8亜科約55種が分布しており，代表種にオオムラサキ・コムラサキ・ゴマダラチョウ・スミナガシ・イチモンジチョウ・コミスジ・キタテハ・アカタテハ・ルリタテハ・ウラギンヒョウモンなどがある。特にオオムラサキは国蝶として切手の図案にもなっている。〔多々内修〕



タテハチョウ ①スミナガシ ②ヒメアカタテハ ③キタテハ ④サカハチチョウ ⑤ギンボシヒョウモン ⑥コミスジ ⑦タテハモドキ

たてはもどき【擬蛺蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ50mm内外。翅表は橙黄(とうおう)色で，外縁部は暗かっ色の帯で縁どられる。前翅・後翅とも大小2個ずつの眼状紋がある。後翅前方のものが最も大きく，周囲は黒色で，中央は栗色(くりいろ)，内部に2個の白紋をもつ。裏面は季節により著しく異なり，夏型では眼状紋があるが，秋型では消失し，翅形も凹凸(おうとつ)が激しい。この違いは日長と温度によって決定され，短日と低温では秋型となり，長日と高温では夏型となる。北上しつつある東洋熱帯系のチョウの一つで，鹿児島県・宮崎県南部では成虫で越冬していることが確かめられ，東京や千葉では偶然に発見される迷チョウとしての記録がある。幼虫はイワダレソウ(クマツヅラ科)を食べる。中国・台湾・フィリピン・マライ半島・インド・オーストラリア・南洋諸島に広く分布する。〔多々内修〕

たてばやし【館林(市)】 群馬県南東端，栃木県境に接する市。人口70,000。中世末期以来城下町・機業地として発展した。江戸時代には松平氏六万一千石が領し，5代将軍徳川綱吉(つなよし)の出身地で，幕末には秋元氏六万石が領していた。市域は北の渡良瀬(わたらせ)川と南の利根(とね)川にはさまれる洪積(こうせき)台地と沖積地(ちゅうせきち)を占め，市街地は中央部の台地上にあって，古い民家や町名に城下町のおもかげを残している。

産業三大別人口比は16：39：45。農村部は関東平野北部の穀倉地帯で，工業面では絹・人絹織物を産し，東武鉄道の館林駅周辺には近年各種工場が進出し，日清製粉や正田醤油(しょうゆ)の大工場がある。東武鉄道の伊勢崎(いせさき)線・佐野線・小泉線の分岐点で，国道122号線が通じ，将来は東北高速道路の館林インターチェンジが建設される予定である。ツツジの名所つつじケ岡県立自然公園や文福茶釜(ぶんぶくちゃがま)の伝説で知られる茂林寺があり，茂林寺沼付近には低地湿原があって天然記念物に指定されている。

だてまき【伊達巻き】 水産練り製品の一種。魚肉と卵の黄身をすり混ぜ，適当に甘味をつけて焼いたもの。平板状に焼いたものを厚焼き，うずまき状に巻いたものを伊達巻きという。口取り・折り詰め・正月料理などには高級品として用いられる。

だてまき【伊達巻き】 女性が長着*や長じゅばん*などの着くずれを防ぐために締めるひも。縮緬(ちりめん)・平絹・モスリンなどで幅10cm，たけ240cm内外の手ぐけのものを用いる。また博多(はかた)・二重朱子織など，単帯(ひとえおび)のように厚く堅く織ったものもある。素材はレーヨン・絹・合織など。はなやかな色や柄ものを使うので，だてという語が使われた。

だてまさむね【伊達政宗】 (1567〜1636) 安土桃山時代・江戸初期の武将。仙台(せんだい)藩*主。左京大夫。輝宗(てるむね)の長子。1584年(天正12)輝宗が二本松義継(よしつぐ)に謀殺されるや，家督を継いで二本松氏を討ち，以後，佐竹・蘆名(あしな)・岩城(いわき)・相馬・最上(もがみ)・大崎などの諸氏と争い，次いで陸奥(むつ)の信夫(しのぶ)(福島県)・刈田(かった)(宮城県)，出羽(山形県)置賜などの諸郡を制した。1590年豊臣秀吉(とよとみひでよし)に降伏して会津を没収されたが，まもなく旧領出羽米沢(よねざわ)を与えられ，葛西(かさい)・大崎地方(岩手県南部・宮城県北部)の一揆*(いっき)を討伐して陸奥岩出山(岩手沢)に移り，五十一万石余を与えられた。また文禄(ぶんろく)・慶長の役*に従って功をたてた。秀吉の死後は徳川家康(いえやす)に属し，関ケ原の役*で徳川方について上杉景勝(かげかつ)と戦い，戦後加封され，仙台城を築いて1603年(慶長8)移った。また松平の称号を許され，松平越前守(えちぜんのかみ)・松平陸奥守と称した。政宗はキリシタン*に関心をもち，イスパニアの宣教師を仙台に招き，洋式船を建造させ，1613年家臣支倉(はせくら)常長*をイスパニアとローマに派遣したことは有名。大阪の陣*にも徳川方に加わり，仙台藩六十二万石の基礎を築いた。隻眼の勇将(独眼龍(どくがんりゅう))として知られ，また茶道・和歌・書道にも通じた。〔岡山泰四〕

だてむねなり【伊達宗城】 (1818〜1892) 幕末の伊予(いよ)(愛媛県)宇和島藩主。号は藍山(らんざん)。旗本(はたもと)山口相模守(さがみのかみ)直勝の次男で，宇和島藩主伊達宗紀(むねのり)の養子となり，1844年(弘化1)家督を継ぐ。将軍継嗣問題*にあたって一橋派に属し，また安政の五か国条約*調印を非難したことから，安政の大獄*で譴責(けんせき)を受け，1858年(安政5)隠居した。しかし，その後も公武合体*派の諸侯のひとりとして国事に奔走した。大政奉還*後，1867年(慶応3)議定に任ぜられ，1868年鳥羽(とば)・伏見の戦い*が起きると軍事参謀兼務を命じられ，以後外国事務総督・大阪裁判所副総督などに任じられ，1869年(明治2)民部卿(きょう)兼大蔵卿となった。1871年全権大使として清(しん)国に使いして日清修好条規*の締結に功があり，1883年修史館(史料編纂所*(へんさんじょ)の前身)副総裁となった。〔岡山泰四〕



伊達政宗　銅像

たてやのじ【立てやの字】 女帯の結び方の一。立て結び・やの字結び・おはさみともいう。江戸時代の末から武家の娘や女中，庶民の娘など若い未婚女性の晴れ着用に広く行なわれた。後ろで結んだ形が矢を背負うのに似ているのでこの名がある。結び方は，右手のほうにたけの端(手)を60cmぐらい残して胴に2回巻き，後ろ中央で一つ結び，たけの長いほうを60cmぐらいにたたんで背の右肩に上端が出るように斜めに置き，その中央を前記の手で巻いて端をかげに押し込み，渡した手の間に帯じめを通して前で結ぶ。明治から大正の末まで若い女性の盛装，花嫁衣装に用いる厚地錦(あつじにしき)の帯はすべてこの結び方をしたが，近年ふくら雀(すずめ)が全盛となるにつれて減少した。〔堀越すみ〕

たてやま【館山(市)】 千葉県南部，房総半島南東岸の市。人口57,000。中世・近世には城下町で，江戸時代は稲葉氏一万石が領していた。1919年(大正8)に房総西線が延びて東京との連絡が便利になり，昭和にはいってからは海軍航空隊・海軍砲術学校などが置かれた軍事基地となった。1939年(昭和14)に，安房(あわ)郡館山北条(ほうじょう)町が那古(なこ)・船形の2町を合併して市制施行。市域は館山湾(鏡ケ浦)に臨み，館山平野の中心部に位置する。産業三大別人口比は21：19：60。促成野菜・草花・ビワ・牛乳を産する農業地域で，船形はカツオ遠洋漁業の基地となる。南端の富崎は半農半漁の集落で，山腹の段々畑は〈布良(めら)の千枚畑〉とよばれ，海女(あま)の潜水漁業とともに名高い。工業はあまりふるわないが，竹材を材料とした船形特産の房州うちわがある。旧海軍基地には海上自衛隊の館山航空隊が置かれている。総武本線やバスが東京から直通し，国道127号線・128号線によって木更津・千葉両市と結ばれる。有料道路の南房州第1道路(房総フラワーライン)が洲崎(すのさき)から安房郡白浜町へ通じ，沿道は岩礁海岸や草花の露地栽培などの風光がすぐれている。鏡ケ浦の海水浴場，那古と船形の観音寺，神戸(かんべ)の安房神社，平砂浦の砂丘など，南房総国定公園に属する名所・史跡に富み，東部の西岬(にしざき)には国民宿舎や国民休暇村がある。〔浅井得一〕

たてやま【立山(町)】 富山県中新川(なかにいかわ)郡にある町。人口28,000。県南部，常願寺川東岸の平野部から北アルプス山地を占める。1954年(昭和29)五百石を中心地区とする雄山町と周辺の5村が合併して発足した。五百石は市場町として，蘆峅寺(あしくらじ)は立山信仰で発達した集落である。富山地方鉄道五百石線と立山線が通じ，立山線は登山基地の千寿ケ原まで延びている。

たてやま【立山】 富山県南東部，北アルプスの北西端に連なる連峰。ふつう立山三山といわれる雄山(2,992m)・大汝(おおなんじ)山(3,015m)・浄土山(2,887m)をさすが，一般には西方の弥陀ケ原(みだがはら)も含めてかなり広い地域に及び，中部山岳国立公園に含まれる。連峰の東がわは黒部(くろべ)川上流の深い渓谷(けいこく)に臨み，黒部ダムの建設によって黒部湖がつくられている。西がわはミクリガ池・ミドリガ池などの火口湖や地獄谷温泉のある室堂平や弥陀ケ原などの溶岩台地が連なる。山頂付近には氷河の遺跡が多く，剣沢・御前沢などにはカール*が認められる。古くから富士山・白山とともに日本三霊山の一つとされ，雄山神社(峰本社)がある。富山から富山地方鉄道立山線が千寿ケ原に通じ，千寿ケ原から室堂平まではケーブルカーや立山有料登山道路を走るバスの便がある。また，大糸線大町駅からは大町有料道路で黒部ダムに至り，さらに地下ケーブル・ロープウエーで立山に達する新しい観光ルートも最近開発された。〔高野　繁〕

たてわくもん【立涌文】 〈たちわく〉〈たちわき〉ともいい，相対の曲線の中央がふくれ，両端が狭くなった形を前後左右に連続させた文様。建造物の一部に透かしの装飾に用いられることもあるが，この場合は他の要素を含めず曲線のみで構成される。しかし，一般に用いられるのは染織品で，この場合は曲線のふくれた部分に，花文や雲などが配されるのが通例で，この際そこに配される植物なり雲なりによって，それ

それ雲立涌文，藤(ふじ)立涌文などの名でよばれる。〔毛利　登〕

たと【田堵】〈たとう〉〈でんと〉とも読み，田頭・田刀・田都とも書く。もとは田頭(現地)を意味したが，9世紀末から12世紀にかけて，荘園(しょうえん)領主の散田(田地の割り当て)を受け，これを請作(うけさく)する農民をさすことばとなった。彼らは毎年春に領主と小作契約を結び，秋に年貢(ねんぐ)を納めたが，領主との間に隷属関係はなかった。年貢のほか公事(くじ)を課せられるようになった12世紀末ころからは田に自分の名を付して名田とし，田堵はその性格を変えて名主とよばれるようになった。〔高崎徳次〕

ダート［Raymond Arthur Dart］(1893〜　) オーストラリアの人類学者。トゥーウォングに生まれ，クイーンズランド大学・シドニー大学で学び，現ウィトウォーターランド大学教授。1924年，南アフリカのタウングスにおいて，オーストラロピテクスの頭骨を発見し，それがピテカントロプスと類人猿をつなぐ動物であることを示し，人類進化学に大きな貢献をした。

たどうし【他動詞】⇨動詞

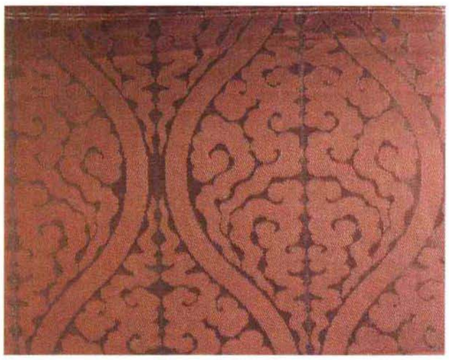
たとうるい【多糖類】少なくとも10個以上の単糖類がグリコシド結合した高分子の糖の総称。多糖類は，動植物の貯蔵物質として広く存在し，分解によってエネルギー源となる栄養多糖類と，生物体の構造をしっかりさせる構造性多糖類との二つに大別することができる。前者にはブドウ糖の重合体であるデンプン・グリコゲンや，果糖の重合体であるイヌリンが含まれる。後者はセルロース・ペクチン・ヘミセルロース・キチン，細菌の莢膜(きょうまく)多糖類などが代表的なものである。〔南川隆雄〕

たどころ【田荘】大化改新以前の豪族の私有地。〈なりところ〉ともいい，天皇・皇族の所有する屯倉(みやけ)に対する。田地経営に必要な建物や倉庫を置き，豪族私有の奴婢(ぬひ)・部曲(かきべ)の労働力によって耕作された。また付近の農民の賃租(田地を貸与し，その代価を徴収する)によるものもあった。世襲的に受け継がれたが，大化改新によって廃止された。➔荘園(しょうえん)

たどつ【多度津(町)】香川県仲多度郡の町。人口23,000。県の西部，丸亀(まるがめ)市の西に隣接する瀬戸内海の要港で，江戸中期以降，西日本各地からの金刀比羅宮(ことひらぐう)参拝客の船だまりとして栄えた。宇高連絡船の開通後はその機能を失ったが，国鉄多度津工場・火力発電所があり，近年は臨海工業地帯の造成が進んでいる。予讃(よさん)本線と土讃本線の分岐点で，福山へ定期船，鞆(とも)へフェリーボートが通ずる。

タートリン［Vladimir Evgraforitch Tatlin］(1885〜1956) ソビエトの彫刻家。キュビスムや未来派などの影響を受けて非具象的傾向に進み，種々の材料を用いた実験を行なって，ソビエトの構成主義に大きな役割を果たした。また，芸術における功利主義を主張し，社会における芸術家の生産的な役割を強調した。

たどん【炭団】固形燃料の一。木炭の粉末におがくず，製材の廃材，林内廃材などの炭化粉末を混ぜ，ソーダパルプ廃液・デンプン・水ガラスなどを結合剤に用いて，直径約6cmの球形に成形し乾燥したもの。一般に乾燥が十分で形がくずれず，粒子が細かく均質で，手に触れてもよごれないものが良質である。普通品は5,000cal以上の熱量を有する。火もちがよいので，古くからおもにこたつ，染物の乾燥などに用いられた。



立涌文　雲立涌



タートリン　1919年のプランに基づく《第三インターナショナル記念塔》 1967〜1968　スウェーデン近代美術館

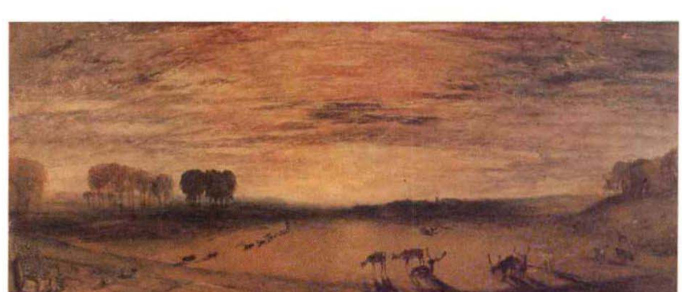
たな【店】棚とも書く。商品を販売する場所。平安時代から，商品を陳列して客に見せる所を見世といい，また棚に商品を並べて見せたことから〈たな〉ともいう。鎌倉末期には見世棚ともいい，室町時代には店の字を用いるようになった。江戸時代，都市の発達と商業の発展によって店舗は拡大・整備され，〈お店〉という呼称が普及した。また江戸では一般に借家のことも店といい，大阪では住居用の借家を店といった。店借・店子・店賃・店請人などの関連用語がある。〔松尾　涼〕

ターナー［Joseph Mallord William Turner］(1775〜1851) 19世紀のイギリスを代表する風景画家。ロンドンに生まれ，ロイヤル-アカデミーで学ぶ。はじめバン-デ-ベルデやプッサン，クロード-ロランらの影響を受けたが，のちイタリア旅行を経て，外光を輝かしい色彩でとらえる独自の風景画に到達した。ドラクロワ・モネら印象派の画家たちに与えた影響も少なくない。

ターナー［Frederick Jackson Turner］(1861〜1932) アメリカの歴史学者。1884年ウィスコンシン大学卒業後，ウィスコンシン大学教授，ハーバード大学教授としてアメリカ史を担当し，1910年には，アメリカ史学協会会長をつとめた。1893年の論文《アメリカ史におけるフロンティアの意義》で，従来のヨーロッパ中心のアメリカ史観を批判し，フロンティアの存在がアメリカ史の独自性に大きな意義をもつとする〈フロンティア学説〉を提唱した。さらに，1932年のピュリッツァー賞受賞論文集《アメリカ史におけるセクションの意義》などを発表し，セクションの研究にも新分野を開いた。また，歴史は時代ごとに新しく書きなおされねばならないとして，主観主義史学を提唱，のちのプラグマチズム史学の基礎を築いた。〔折井一彦〕

ダナエ［Danae］ギリシア神話でアルゴス王アクリシオスのひとり娘。ダナエが生んだ子は祖父を殺すであろうという神託がアクリシオスにあったので，彼は娘を幽閉したが，彼女を恋したゼウスは黄金の雨に身を変えて彼女のもとを訪れ，2人の間

ターナー　《ペットワース公園》 1830　テート-ギャラリー



にペルセウスが生まれた。アクリシオスは母子を箱に入れて海へ流した。箱はセリポス島へ漂着し，２人は島の王の弟ディクテュスに救われた。➔ペルセウス

ダナオス ［Danaos］ ギリシア神話でイオの子孫とされ，エジプト王ベロスの子。50人の娘をもち，50人のむすこをもつアイギュプトスとは兄弟。アイギュプトスと争い，エジプトを去ってアルゴスに渡り，そこで王となった。しかし，アイギュプトスの50人のむすこが追ってきて，彼に50人の娘との結婚を迫った。彼はやむをえず承諾するが，婚礼の夜，夫を殺すよう娘たちに命じ，ひとりの娘を除いてはみなこれに成功した。のち，彼は生き残った婿に殺される。一説では，ダナオスと夫殺しを犯した娘たちは地獄で穴のあいた器で水をくむ永遠の罰を課されているという。〔松田　治〕

たなおろし 【棚卸】 企業が決算期に，資産の数量および品質の実地調査をしその価格を決定すること。もとは，現に所有する商品をたなからおろしてその数量・品質・価格を実地調査によって確定することをさしたが，現在簿記会計において用いられる場合は，棚卸資産についてだけではなく，決算に際して数量および品質の実地調査を必要とするものすべて，および勘定残高の金額の修正をしなければならないものすべてについていわれる。〔山桝忠恕〕

たなおろししさん 【棚卸資産】 在庫品ともいう。これを構成するものは，①通常の営業過程において販売を目的として保有する財貨，②販売を目的として現に製造の過程にある財貨，③販売を目的とする財貨または用役を生産するために，短時日のうちに消費される財貨，④販売その他の営業活動において短時日のうちに消費される財貨の４種であり，①には商品・未着品および製品，②には仕掛品そのほか，③には工場消耗品・部品など，④には事務消耗品などがある。すなわち，棚卸資産とは，流動資産のうちから，現金・預金あるいは売掛債権などの資産（これらを当座資産という）を除いたものである。減価償却の対象となるような長期性資産などの固定資産はこれには含まれない。ただ，販売のために保有されるか，あるいは販売を目的とする製品だけをさす。なお，上記④について棚卸資産とすることには見解が分かれる。〔山桝忠恕〕

たなかあかまろ 【田中阿歌麿】 (1869～1944) 湖沼学者。東京の生まれ。1884年（明治17）父不二麿のイタリア駐在公使赴任(ふにん)とともに渡欧。ブリュッセル市立大学で人文地理学を学び，1895年帰国後東京の各大学の講師を経て，1926年（昭和１）中央大学教授となる。日本にはじめて湖沼学を紹介し，1899年山中湖の測深以来，日本各地の湖沼を調査，主として湖盆形態および水温などの研究を行なった。1931年日本陸水学会を創設し，初代会長に就任。主著に《日本北アルプス湖沼の研究》(1930)などがある。



田 中 訥 言 《柿本人麿像》

たなかおうどう 【田中王堂】 (1867～1932) 哲学者・評論家。本名は喜一。埼玉県の生まれ。同志社に学ぶ。1889年（明治22）渡米し，ケンタッキー大学・シカゴ大学に学び，デューイやW.ジェームズのプラグマチズムの影響を受けた。1898年帰国後早稲田(わせだ)大学講師，のち教授。理想主義的・自然主義的な思想家で，1906年桑木厳翼とプラグマチズムの論争をするなどプラグマチズムの紹介に努め，またプラグマチズムに立つ文明批評家として多方面にわたって論壇に活躍し，明治・大正時代のユニークな哲学者であった。《徹底個人主義》(1918)は民主主義の基礎としての個性の充実を説く。ほかに《書斎より街頭に》《哲人主義》《福沢諭吉》《象徴主義の文化》《現代文化の本質》など多数がある。〔中川　誠〕

たなかぎいち 【田中義一】 (1863～1929) 軍人・政治家。山口県出身。陸軍大学校卒業。1898年（明治31）ロシアへ留学。ロシア通として知られる。1909年陸軍省軍事課長となり，典範令の改正，帝国在郷軍人会の創立，青年団の組織化に努め，1911年軍務局長となり，２個師団増設を提案し大正政変の原因をつくった。1918年（大正７）原内閣の陸相となり，国防充実計画を樹立。1923年山本内閣の陸相。1925年予備役にはいり，高橋是清(これきよ)のあとを受けて立憲政友会総裁に就任。中国侵略政策をとって幣原(しではら)外交に反対，護憲三派の分裂をもたらした。若槻(わかつき)内閣崩壊後，1927年（昭和２）首相となり，治安維持法の改正や三・一五共産党弾圧を強行（➔三・一五事件）。1928年から翌年にかけて山東出兵を行ない抗日運動を激化させた。1928年３月の張作霖(ちょうさくりん)爆死事件により1929年７月総辞職。同年９月急死。〔安達利夫〕

たなかきぬよ 【田中絹代】 (1910～1977) 映画俳優。14歳で松竹に入社，以来平凡だが清純な容姿と個性によって長い間大衆に親しまれた。無声映画時代の代表作は《伊豆(いず)の踊子》。第２次世界大戦前のトーキー時代に《お琴と佐助》《愛染かつら》などでトップスターとなる。戦後は溝口(みぞぐち)健二の《西鶴(さいかく)一代女》や五所平之助の《煙突の見える場所》などに出演して，演技派スターとしての風格を備えた。なお1953年（昭和28）以後，監督としても活躍，《乳房(ちぶさ)よ永遠なれ》などがある。〔波多野哲朗〕

たなかしょうぞう 【田中正造】 (1841～1913) 政治家・社会運動家。栃木県佐野出身。1880年（明治13）栃木県会議員となり，1882年改進党に入党，1883年県令三島通庸(みちつね)の暴政に反対運動を起こし投獄された。1890年第１回衆議院議員総選挙以後，連続当選。足尾銅山鉱毒事件が起こると被害民側に立って院内外で奮闘し，1901年議員を辞職，同年12月足尾銅山操業停止を明治天皇に直訴(じきそ)した。1904年以後死ぬまで谷中村買収阻止運動の指導を続けた。

たなかだてあいきつ 【田中館愛橘】 (1856～1952) 物理学者。盛岡藩福岡の生まれで，東京大学理学部の第１回生として入学，菊池大麓(だいろく)・山川健次郎，外人教師のメンデンホール・ユーイングラに師事した。卒業後グラスゴー大学に学び，ケルビンの指導を受け，帰国後外人教師のノットと日本全国の地磁気の測定，また濃尾地震後の地磁気の変化の測定など，地球物理学の面から日本の物理学の開拓に努力した。帝国学士院・学術研究会議の主要メンバーとして活躍し，学士院選出貴族院議員としても科学・技術の振興に尽くした。度量衡問題の権威，ローマ字国字論者としても活躍した。1944年（昭和19）文化勲章を授与された。〔藤村　淳〕

たなかちかお 【田中千禾夫】 (1905～) 劇作家・演出家。長崎市の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学仏文科を卒業して，岸田国士(くにお)らの新劇研究所に入所。のち《劇作》の同人となり，処女作《おふくろ》を同誌に発表，これが築地座(つきじざ)で上演されて成功を収め，一躍劇作派の代表作家のひとりとなった。第２次世界大戦後の作品には，彼の評価を不動のものにした《雲の涯(はたて)》，カトリック信仰を主題にした《女猿(めざる)》，岸田演劇賞を受賞した《マリアの首》などがある。なお，夫人の田中澄江も劇作家として有名。〔瀬良垣宏明〕

たなかとつげん 【田中訥言】 (1767？～1823) 江戸後期の画家で復古大和絵(やまとえ)派の祖として知られる。名古屋の生まれ。名は敏，字(あざな)は虎頭(ことう)，痴翁などと号し，法橋(ほっきょう)に叙された。京都に出て土佐派を学んだが，その形式化した画風にあきたらず，平安・鎌倉期の古典大和

絵の模写に努めて，大和絵の伝統に復帰することを主唱した。晩年失明して自殺したが，門下に浮田一蕙(いっけい)・渡辺(わたなべ)清らを出した。代表作には《四季草花図屛風(びょうぶ)》《雨中蓮鷺(れんろ)図》など。〔小林　忠〕

たなかひさしげ　【田中久重】

[1](1799〜1881)　幕末から明治初期の技術者。筑後(ちくご)(福岡県)久留米(くるめ)に生まれ，幼少のころから機巧細工にすぐれ，家業のべっこう細工屋を継ぐかたわら〈からくり人形〉を製作，〈からくり儀右衛門(ぎえもん)〉とよばれた。1834年(天保５)大阪に移って各種の機械・器具を製作。1836年大塩平八郎の乱による火災にあい，伏見へ移った。このころ無尽燈とよばれるランプ，雲龍水(うんりゅうすい)と名づけた消火ポンプを発明。1849年(嘉永２)嵯峨(さが)御所から近江大掾(おうみだいじょう)の名を与えられた。1851年400日巻きの万年時計を製作，翌年には蒸気船の模型２種(車輪形とスクリュー形)を完成した。1855年(安政２)ごろ，佐賀藩の精錬方に招かれて銃砲・蒸気船をはじめとする各種の機械を製作。その後郷里に帰り工場を経営したが，1873年(明治６)上京して麻布(あざぶ)に日本最初の民間機械工場ともいえる田中製造所を開設した。

[2](1845〜1905)　明治期の産業技術者・実業家。芝浦製作所(東京芝浦電気の前身)創設者。久留米の金工の子として生まれ，もとの名は金子大吉。初代の養子となり，２代め久重を名のる。初代とともに上京，工部省の命によりおもに電信機を製造。1876年工場が工部省によって買収されるに伴い，工部省電信寮の技師となる。1882年海軍の水雷兵器を製作するため退職，芝浦に田中工場を設立した。工場は1893年三井家に譲渡され，芝浦製作所と改名。この間，1895年に東京車輌(りょう)製造所を設け，軍用車の製作に従事した。〔加藤邦興〕

たなかひでみつ　【田中英光】　(1913〜1949)　小説家。東京の生まれ。早稲田(わせだ)大学経済学部卒業。在学中，1932年(昭和７)オリンピックに出場，その経緯・体験は《端艇漕手(たんていそうしゅ)》《オリンポスの果実》に結実した。1935年以後は太宰(だざい)治*に師事。第２次世界大戦後は，《Ｎ機関区》《少女》《地下室から》など，日本共産党への入党・離党をめぐる作品がある。師太宰治の墓前で自殺した。

たなかふゆじ　【田中冬二】　(1894〜　)　詩人。福島市の生まれ。本名吉之助。立教中学校卒業後，長く安田銀行に勤めたが，その間に処女詩集《青い夜道》を発表して注目され，詩壇に登場した。以来今日まで《海の見える石段》《故園の歌》《山の祭》《春愁》など多くの詩集を刊行。四季*派の詩人として，平明で清新な叙情詩風を示している。

たなぎょう　【棚経】　盂蘭盆会*(うらぼんえ)のとき，家ごとに縁故ある死者の霊を迎えて精霊棚(しょうりょうだな)をつくり，仏壇から移した位牌(いはい)に団子やもち，またハスの葉を敷いた上にナスやキュウリでつくったウマや季節の果実などを供えて祭り，僧に読経を請い，先祖の回向(えこう)を行なう行事。棚経の行事そのものは古くからタママツリとして行なわれたが，檀那寺(だんなでら)の僧が檀徒の家々を読経して回る風習は，江戸幕府によるキリシタン禁制を機に檀家制度が成立してからのことである。〔藤井正雄〕

たなぐも　【棚蜘蛛】　⇨イエタナグモ

タナグラにんぎょう　【タナグラ人形】　紀元前４〜３世紀ごろにつくられたテラコッタ*の小形彫刻像。1870年に発見され，出土地のギリシア，アテナイの西北のアソポス河畔にあるタナグラにちなんでよばれている。これらの像は当時の婦人風俗を写したものが多く，作品の大部分はテーマの表現や彫刻手法ともにすぐれ，芸術的に高く評価されている。大きさは約20〜30cm，粘土でつくった像を素焼きしてその表面を白土で化粧し，被服類その他付属物などを赤・青などに彩色している。なお，この種の小像は，広くギリシア国内・イタリア・小アジア・シチリアなどからも出土している。

たなご　【鱮】　硬骨魚類・コイ科の淡水魚。狭い意味ではタナゴ属のタナゴをさすが，広い意味ではヤリタナゴ・バラタナゴなどのタナゴ類の総称に使われる。タナゴは琵琶湖(びわこ)でボテ，千葉県でニガタなど，方言の多い体長８cmほどの小魚で，わが国の湖沼・河川に広く生息している。産卵期は春で，このころの雌には長い輸卵管が現われ，雄には背側に青緑色，腹側に淡紅色の婚姻色が現われる。つくだ煮などにして食される。

たなし　【田無(市)】　東京都中北部の市。人口65,000。江戸時代に青梅(おうめ)街道の宿場町であった北多摩郡田無町が，1967年(昭和42)単独で市制施行。地名は，台地上のため，水に乏しく水田がなかったことにちなむ。武蔵野(むさしの)台地の中央に位置し，南北にやや長く，北をかなめに半開した扇状の地で，南部の低地に石神井(しゃくじい)川が流れる。産業三大別人口比は１：34：65。畑地が広がり，東京大学の農学部実習農場や同じく原子核研究所がある。輸送用機器などの機械工業や，時計・カメラ部品などの精密機器工業が発達している。西武鉄道新宿線が都心へ約40分で通じ，日本住宅公団の保谷(ほうや)・東久留米(ひがしくるめ)両市にもまたがるひばりが丘団地をはじめ，公団・都営の住宅団地が多い。

たなだ　【棚田】　⇨階段畑

タナナリブ　［Tananarive］　アフリカ大陸南東岸，マダガスカル民主共和国の首都。1976年にアンタナリボと改称。人口40万(1976推)。標高約1,400mの高地にあり，17世紀に原住民のホバ族によって創建され，ホバ王国の王城所在地であったが，1895年



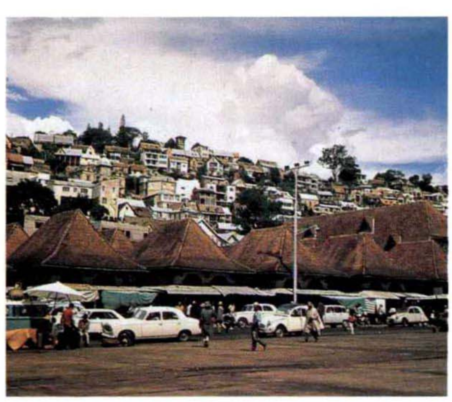
タナグラ人形







タナゴ
①タナゴ
②バラタナゴ
③ヤリタナゴ



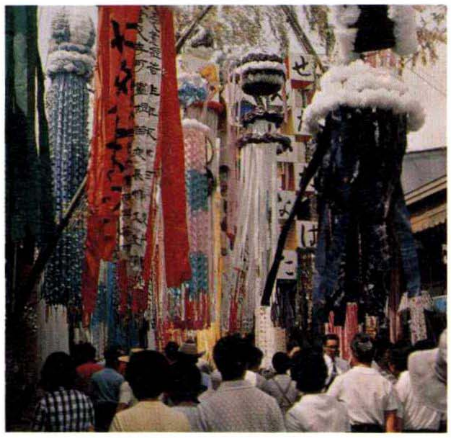
タナナリブ　茶色い屋根は町のマーケット。タナナリブはアフリカのどの町よりもアジア的ふんい気があり，インド人やアラビア人が多い

フランスの植民地になってからフランスふうの都市に改造され，1960年マダガスカルの独立とともに首都となった。政治・経済・交通の中心で，製粉・製材など各種の軽工業が発達している。北東方200kmのタマタブが外港になっている。〔小栗　宏〕

たなばた【七夕】五節供の一つで，7月7日に行なわれる行事。七夕の行事には二つの流れがあり，一つは中国伝来の星祭りと乞巧奠(きこうでん)である。星祭りは牽牛(けんぎゅう)星と織女(しょくじょ)星が年に1度天の川をはさんで相会するという説話で知られ，乞巧奠は織女星を祭ることによって，手芸・裁縫・習字などの上達を祈る行事である。もう一つの流れは，古くから日本にあった行事で，ムギの収穫祭である7月の祖霊祭の前提としての七夕行事である。この日には雨がたとえ3つぶでも降るものだとか，七夕雨といって短冊(たんざく)が流れるほど雨が降るとよいと伝える地方もあり，七夕は祖霊祭の前提として，清めの雨という意味での水の儀礼を営む日であったと考えられる。仏教の盂蘭盆会*(うらぼんえ)が魂(たま)祭りとしての性格を固めてくると，七夕と盆は独立した行事となり，七夕のほうは都市で星祭り・乞巧奠としての色彩を濃くしてきたということができよう。➜ねぶた　〔直江広治〕

たなぶ【田名部】青森県北東部，むつ市の東半地区。江戸時代には南部藩の代官所が置かれ，1959年(昭和34)大湊(おおみなと)町と合併して市制施行，大湊田名部と称したが，翌年むつと改称した。下北半島北部の経済・交通・文化の中心地で，大畑線が通じ，駅・学校その他各種の機関の名称に田名部の名がいまも使われている。恐山(874m)を中心とする下北国定公園の観光基地で，国鉄バス・下北バスが半島各地と連絡する。

たなべ【田辺(市)】和歌山県南西部の市。人口71,000。古くは牟婁津(むろのつ)とよばれ，熊野(くまの)地方の玄関口として発達した港町で，江戸時代には紀州徳川家の家老安藤(あんどう)氏三万八千石の城下町であった。1942年(昭和17)市制施行。田辺湾に臨み，紀伊(きい)山地の西端が海に迫って，平野に乏しく，市街地にはT字型に入り組んだ狭い道路が多い。産業三大別人口比は20: 21: 59。製材や木工業が主産業で，ブリ・サバなどの水揚げが多く，かまぼこ・かんづめ・貝ボタンなどの製造など，水産加工業も行なわれる。田辺港には沿海航路の船舶が出入りし，遠洋漁業の根拠地としてもにぎわう。田辺湾ではハマチ・真珠の養殖が行なわれ，周辺部ではキンカンが栽培される。紀勢本線・国道42号線が通じ，〈田辺祭〉で名高い闘鶏神社や扇ケ浜海水浴場があり，近郊には関西最大の行楽地白浜温泉や，約23万本のウメが植えられている南部(みなべ)の梅林，安珍清姫の物語で名高い道成寺がある。



七　夕　東北三大祭りの一つで，全国的に有名な仙台市の七夕



ダナン　南ベトナム時代の市郊外にあったアメリカ軍の空軍基地。当時(1970)南ベトナムにおける最大の規模の米軍補給基地であった。

たなべなんりゅう【田辺南龍】講談師。5世までであるが，現在は中絶している。

1 初世：生没年未詳。幕末の人で，初世田辺南鶴(なんかく)の門下。武士あがりといわれ，軍談を得意とした。

2 2世：(？～1884)　初世の門下。軍談の途中に〈ノンノンズイズイ〉という口癖があり，〈ノンノン南龍〉といわれて人気を集めた。

3 5世：(1878～1954)　3世宝井馬琴の門下。武勇物を得意とし，じみな芸風で識者の支持を集めた。〔長尾一雄〕

たなべはじめ【田辺元】(1885～1962)　哲学者。東京の生まれ。東京帝国大学哲学科卒。1913年(大正2)東北大学講師，1919年西田幾多郎*に招かれ京都大学助教授，のち教授(1927～1945)。科学と現実の世界を哲学の対象とした。厳密な論理的思考と厳格な倫理的態度がその哲学を性格づけ，現実に対する実践の自覚が生涯(しょうがい)を貫いた。〈場所〉以前の西田哲学を基礎として，新カント派的な数理哲学から出発したが，マルクス主義に触発されてヘーゲル弁証法を研究し，絶対弁証法の立場を得た。さらに，台頭しつつあった民族主義と対決して国家の構造を究明し，絶対弁証法は種の論理となり，絶対媒介の哲学としての田辺哲学が成立した。しかし戦争の非合理的現実は，1949年(昭和24)理性を七花八裂におとしいれ，懺悔道(ざんげどう)の宗教哲学へと転換・復活した。その宗教哲学は仏教・キリスト教に共通する宗教性に立つ。1951年以後宗教性は〈死の哲学〉へと深化され，西田哲学とほとんど同一の立場に至った。著書《カントの目的論》(1924)，《数理哲学研究》(1925)，《ヘーゲル哲学と弁証法》(1932)，《哲学通論》(1933)，《正法眼蔵(しょうぼうげんぞう)の哲学私観》(1939)，《懺悔道としての哲学》(1946)，《種の論理の弁証法》(1947)，《キリスト教の弁証》(1948)，《哲学入門》(1949～1952)，《数理の歴史主義展開》(1954)，《生の存在学か死の弁証法か》(1958)，《マラルメ覚書》(1961)ほか。遺稿《哲学と詩と宗教》。〔中川　誠〕

たなべひさお【田辺尚雄】(1883～　)　音楽学者。日本音楽・東洋音楽を音響学・歴史学などの科学的立場から理論づけた。主著《日本音楽講話》《東洋音楽史》《三味線(しゃみせん)音楽史》《日本の楽器》《南洋・台湾・沖縄音楽紀行》。

ダナン［Da Nang］ベトナム社会主義共和国の中部，南シナ海岸にある都市。人口49万2,000(1973)。18世紀後半以後のフランス植民地時代にはツーランとよばれ，海軍基地があった。ユエの南東120kmに位置し，古くから知られた良港で，1614年ポルトガル船の来航以来貿易港として栄え，16世紀末から17世紀前半にかけての御朱印船時代には日本人町もあった。市内には古代チャンパ*文化の遺物を集めた博物館がある。かつて南ベトナム最大のアメリカ軍補給基地があり，ベトナム戦争ではしばしば戦禍を受けた。

たに【谷】みぞ状の凹地(おうち)。成因によって侵食谷と構造谷とがある。①侵食谷：河川の侵食によるものが多く，発達の初期には谷底が深く高い谷壁をもつV字谷となるが，侵食が進むと谷幅が広がり氾濫原(はんらんげん)が形成される。また氷河侵食による氷食谷は谷壁は高いが谷底のかなり広いU字谷を形成する。②構造谷：断層や褶曲(しゅうきょく)によるもので，諏訪(すわ)盆地や伊那(いな)盆地のような断層によって生じた断層谷，吉野(よしの)川や木曾(きそ)川のような断層線に沿った侵食で生じた断層線谷，ヒンドスタン平原やハンガリー盆地のような褶曲運動による向斜部の凹地が谷を形成した向斜谷がある。また，山脈との位置関係から縦谷と横谷に分けられる。木曾川・富士川・天龍川などのように山脈の走向に平行している場合を縦谷，雄物川・最上川・阿賀野(あがの)川などのように山脈の走向に直交して山脈を横断している場合を横谷とよび，横谷が生じる場合は地盤の緩慢な隆起運動が働いている。〔大崎　晃〕

だに【壁蝨】節足動物・蛛形(ちゅけい)綱・ダニ目の微小な動物。体は顔・胸・腹が融

合しており，クモやこん虫のようなくびれがない。脚は８本で，先端に１～３本のつめがある。口には鋏角(きょうかく)というはさみ状の器官が１対あり，これで食物となるものを捕えたりかんだり吸ったりする。触角はない。目をもたないものが多く，ある場合には１～２対の簡単な構造の目が胴部背面に位置する。大きさは最小体長0.2mm，最大は吸血したもので2.5cmに達するものがあるが，多くは0.4～１mmぐらいである。体色は乳白色またはかっ色のものが多いが，赤・黄・緑・黒かっ色などのものもある。胴や脚にはたくさんの毛があり，感覚の役目をしている。卵→幼虫→若虫→成虫の順に発育するが，種類によっては若虫期が１期のものから３期のものまである。卵から成虫になるまでの期間は，２週間から数か月かかるのが普通である。幼虫は脚が６本しかないが，若虫になると８本脚になる。一般には寄生性・吸血性の種類だけがよく知られているが，非寄生性・非吸血性のダニもきわめて多く，その生活はこん虫類に匹敵するほど多様である。名まえのつけられた種類は全世界で15,000種余りになるが，実際にはその何倍の種類がいるものか見当がつかない。日本だけでも少なくとも2,000種はいるであろう。牧場のウシ・ウマにたかるダニは大形の扁平(へんぺい)なダニで，吸血すると数倍にふくれあがり，飼いイヌや野生動物にも寄生し，しばしば山中を歩くヒトをも寄生吸血する。ツツガムシは元来はネズミに多い寄生虫であるがヒトをも襲い，その際地方によってはツツガムシ病を媒介する。ワクモは鶏舎や軒下のハト・ムクドリ・ツバメなどの巣に発生するダニで，鳥の吸血者であるが，これもときにヒトを刺すことがある。ヒトだけに寄生するダニはきわめて少なく，顔面や頭部の毛囊(もうのう)に寄生するニキビダニと，指の股(また)などに潜入して疥癬(かいせん)の原因になるヒゼンダニの２種だけが知られている。人家や倉庫内の貯蔵食品(米・麦・小麦粉・砂糖・みそ・チーズ・ビスケット・煮干しなど)にはコナダニ類がよく発生する。コナダニは新しい畳にも発生するが，古い畳には少ない。農作物・林木には植物寄生性のハダニがつき，大害を与える。一方，これらのハダニを捕えて食うカブリダニ・ナガヒシダニなどがおり，有力な天敵となる。森林のコケのうち，落葉の下，土中にはササラダニなどの自活性のダニが多数生息し，腐りかけの植物質を食って分解し，自然界の物質循環に一役かっている。沼・池・溪流(けいりゅう)の水中にもミズダニ類が生息し，他の小虫を捕食しているが，その幼虫は各種のこん虫に寄生し，陸上生活をするものが多い。〔青木淳一〕

たにうつぎ【谷空木】 双子葉植物・スイカズラ科。山地に分布する落葉低木で，高さ2～3m。葉は卵状楕円(だえん)形または倒卵形で，長さ６～10cm，幅２～５cm。葉裏には毛がある。５～６月，葉腋(ようえき)に淡紅色の花を２～３個つける。花冠は漏斗状で長さ３～3.5cm，筒部は太い。観賞用として庭に植えられる。

ダニエル［John Frederic Daniell］ (1790～1845) イギリスの化学者。ロンドンのキングスカレッジ教授。多数の化学器機を考案したが，中でもダニエル電池*やダニエルの露点湿度計の発明で有名。

ダニエルでんち【ダニエル電池】 陽極に銅，陰極に亜鉛，減極剤に硫酸銅，電解液に硫酸亜鉛溶液を用いた一次電池の一。トレー電池ともいう。起電力は1.1V，内部抵抗はおよそ４Ωである。

たにかぜ【谷風】 斜面が日射で熱せられるために起こる風で，斜面をはい上がるように吹く。斜面と周囲の地形との関係によっていろいろの場合がある。

たにがわことすが【谷川士清】 (1709～1776) 江戸時代の国語学者・国学者・神道家。伊勢(いせ)(三重県)の人。和漢の学に通暁し，《日本書紀通証》と《和訓栞(わくんのしおり)》は代表的な著作である。後者は，古語・雅語・口語を集め，その出典を示したもので，わが国最初の大規模な辞書である。これらにみられる用言活用の研究は，わが国では最初のもので，国語学史上の意義が深い。

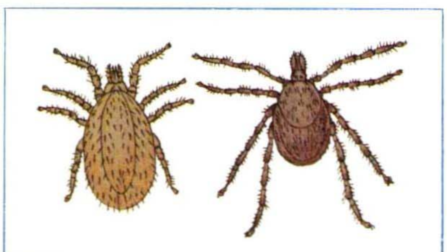
たにがわだけ【谷川岳】 群馬県の北西部，新潟県境へかけて連なる三国山脈の連峰。狭義にはトマの耳(1,963m)とオキの耳(1,960m)の双頭峰をさし，広義には清水(しみず)峠から三国峠へ至る山々の総称で，北に延びる尾根の一ノ倉岳(1,974m)・茂倉岳(1,978m)・武能岳(1,760m)，西に延びる尾根の万太郎山(1,954m)・仙ノ倉(せんのくら)山(2,062m)・平標(たいらっぴょう)山(1,984m)などを含む。壮年期山地の険しい地形で，一ノ倉岳東斜面は，登山者の集まるところでマチガ沢・一ノ倉沢・幽ノ沢などの大岩壁，侵食による断崖(だんがい)がそそり立ち，また裏日本・表日本の境にあたり天候が急変しやすいので，遭難者があとをたたない。一ノ倉沢は本州で最も低い高度に万年雪があるので有名。上信越高原国立公園の区域内にあり，上越線土合駅近くから天神平までロープウエーが通じる。付近に温泉やスキー場があり，湯檜曾(ゆびそ)川をさかのぼるバス道路も建設されて観光開発が進んでいる。

たにくしょくぶつ【多肉植物】 肥厚した葉や茎に多量の水分を含有している植物で，長期間水湿に恵まれない乾燥地や塩分の多い地にみられる。一般に耐乾性が強く，根の発達が悪く吸水力も小さい。乾燥期には気孔を閉じて蒸散を防ぐ。塩分の多いところに生育するものは，必ずしも蒸散量は少なくないが，細胞内に多量の塩分を含んで，浸透圧が高い。サボテン類・リュウゼツラン・ベンケイソウ・アロエ・ツルボ・ハナキリンなどが含まれ，多くは葉が多肉化したり，退化してとげ状になり，茎が肥厚して同化器官となっている。塩分の多いところの多肉植物にはアッケシソウ・ハマサジなどがある。〔横井朝子〕

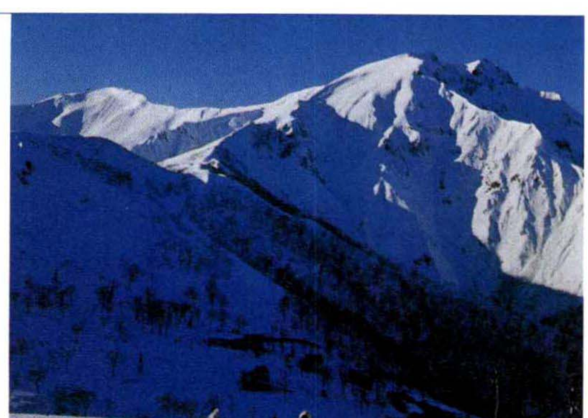
たにぐちぶそん【谷口蕪村】 ⇨蕪村

たにぐみかんのん【谷汲観音】 岐阜県揖斐(いび)郡谷汲村にある寺。華厳(けごん)寺の別称。会津(あいづ)の大口大領が，霊夢によってこの地の岩をうがってそこに十一面観音*を安置し，わいた油を常燈としたと伝わる。平安時代の毘沙門天*(びしゃもんてん)像など多くの文化財を蔵する。

たにざきじゅんいちろう【谷崎潤一郎】 (1886～1965) 小説家。東京の生まれ。東京大学国文科中退。在学中第２次《新思潮*》に参加《刺青*》《麒麟(きりん)》などで永井(ながい)荷風の絶賛を得た。耽美(たんび)主義・享楽主義に立脚し，ワイルド・ポー・ボードレール



ダ　ニ　(左)イエダニ　(右)マダニ



谷川岳　天神平スキー場から望む白雪の双峰谷川岳。東麓の土合から天神平まではロープウエーが通じ，冬場はスキーヤーでにぎわう

らに学んで〈悪魔主義〉を標榜(ひょうぼう)，肉体に潜む生の不安や恐怖を追求し，新しい文学的領域を開いた。この期の代表作に《悪魔》《饒太郎(じょうたろう)》《お艶(つや)殺し》などがある。大正期にはいると作風に現実性と深刻味が加わり，異常な愛欲関係の設定の中にモダニズム文化の爛熟(らんじゅく)を反映。戯曲にも手を染めた。特に《痴人の愛》は，女性への拝跪(はいき)の中に無上の快楽があるとする主人公の思想や時代の先端を行く主人公ナオミの造型により，この期の代表作とされた。関東大震災(1923)以後関西に移住，古い文化伝統に触れて，古典的世界への憧憬(どうけい)をよびさまされ，《蓼(たで)喰(く)ふ虫》《卍(まんじ)》を過渡期の作品として《盲目物語》《春琴抄》など歴史小説の名作を生んだ。この系列は第2次世界大戦後の《少将滋幹(しげもと)の母》まで続く。また，《源氏物語》現代訳の努力は，長編《細雪*(ささめゆき)》における伝統美の再生として結実。以後も《鍵(かぎ)》《瘋癲(ふうてん)老人日記》において老人の性欲を大胆に追求し，終始衰えぬ創作欲を示した。〔小泉浩一郎〕

たにし　【田螺】 軟体動物・腹足類・タニシ科の種類の総称。淡水産で，日本にはオオタニシ・マルタニシ・ヒメタニシ・ナガタニシの4種が産する。殻(から)は薄く，螺塔(らとう)は高まり，螺層はふくらみ，体層は大きい。殻表(かくひょう)は黄緑色の殻皮をかぶるが，老成すると黒みをおびる。殻口は丸い。ふたは卵形の革質で薄く，黄かっ色，核は内側寄りにあり，共心円脈がある。雌雄異体で，雄の右触角は曲がり，陰茎の働きをする。また，胎生であり，雌の子宮内で子貝が成育する。幼貝はソロバン玉形で周縁に角がある。オオタニシは日本のタニシの中で最も大きく，殻高6.5cmに達し，螺塔は円錐(えんすい)形で，螺層のふくらみは著しくない。河川や湖沼にすむ。北日本にすむ個体は親になっても周縁に角があるので，カクタニシという。マルタニシは殻高4cmに達し，螺層は丸くよくふくらむ。水田に多くすみ，冬季は乾田のくぼみで越冬する。ヒメタニシは殻高3.5cmほどになり，卵円錐形で，螺層のふくらみは弱く，池沼にすむ。ナガタニシは殻高6cmに達し，高円錐形で，螺層のふくらみは弱い。胎殻は母貝内に10個以内あり，大きく1cmに達して，平巻き状。琵琶湖(びわこ)の特産。ナガタニシ・マルタニシは採取して肉を食用にするが，ヒメタニシは飼料にされる。オオタニシやマルタニシは北アメリカにも移入され，野生化している。〔波部忠重〕

たにじちゅう　【谷時中】（1598～1649）江戸初期の儒学者。土佐(高知県)の生まれ。名は素有，時中は号。はじめ仏門にはいったが，土佐南学の祖南村梅軒の朱子学を知って儒学に転じ，還俗(げんぞく)して南学の大成・発展に貢献，南学を仏教から独立させた。彼の思想は門人の集録した《素有文集》



谷崎潤一郎



谷文晁
《山水図》1793
東京国立博物館蔵

《素有語録》に詳しい。門下に山崎闇斎*(あんさい)・小倉三省・野中兼山がいる。

ダニージン　［Dunedin］ ニュージーランド南島の東南部にある港市。人口8万4,000(1974)。1848年スコットランドの移民によって建設された都市で，クライストチャーチとともに，南島の政治・経済の中心になっている。オタゴ高原の牧羊畜産が盛んで，織物・皮革・金属などの工業が行なわれ，羊毛・金などを輸出する。1869年創設のオタゴ大学がある。

たにしんざん　【谷秦山】（1663～1718）江戸中期の儒学者・神道(しんとう)学者。名は重遠(しげとお)，秦山は号。土佐(高知県)の生まれ。17歳のとき京都に遊学し，山崎闇斎*(あんさい)・浅見絅斎*(けんさい)に儒学を，渋川春海に神道を学び，のち帰郷して土佐南学の振興に努めた。著書《秦山集》《元亨釈書抄(げんこうしゃくしょしょう)》など。

たにたてき　【谷干城】（1837～1911）軍人・政治家。土佐藩士で谷秦山の子孫。1867年(慶応3)板垣(いたがき)退助とともに薩摩(さつま)の西郷隆盛(たかもり)と討幕の盟約を結ぶ。1868年戊辰(ぼしん)戦争に参加，維新後徴士(議事官)となり藩政改革に参与した。1877年(明治10)西南戦争*に熊本鎮台司令官として活躍した。東部監軍部長・陸軍士官学校長などを歴任し，退役後1881年国憲創立，議会開設を鳥尾小弥太(こやた)・三浦梧楼(ごろう)らと建白し，中正党を結成。1885年第1次伊藤内閣の農商務相に就任したが，1887年井上馨(かおる)外相の条約改正*・欧化主義*に反対して辞任した。1890年貴族院議員。〔安達利夫〕

たにぶんちょう　【谷文晁】（1763～1840）江戸後期の画家。江戸の生まれ。名は正安，通称は文五郎。文晁は字(あざな)で，写山楼・画学斎などと号した。詩人谷麓谷(ろっこく)の子で，父と同じく田安家に仕えた。絵ははじめ狩野派(かのうは)や沈南蘋*(ちんなんぴん)を学んだが，これにあきたらずに土佐派や南画，さらに元・明(みん)・清(しん)の中国画や西洋画までを研究して，それらを総合的に折衷した独特の画風を形成した。その幅広い折衷様式は，沈滞した当時の江戸画壇に新風を吹き込むものとして歓迎され，門下には渡辺崋山*(わたなべかざん)・立原杏所(きょうしょ)・高久靄厓(あいがい)ら多くの俊才が参集した。京都南画とは性格を異にし，江戸南画の始祖として知られる。代表作は《木村蒹葭堂像(けんかどうぞう)》《公余探勝図巻》《鴻台(こうのだい)真景図巻》など。〔小林　忠〕

たにやま　【谷山】 鹿児島県中部，鹿児島市の南部地区。1958年(昭和33)単独で市制を施行したが，1967年鹿児島市に編入された。畑作中心の近郊農業では，サツマイモ・タバコのほか，野菜や果樹の栽培に特色があり，国立タバコ試験場や県立農事試験場がある。最近は鹿児島谷山臨海工業地区の造成により，工場が進出している。谷山港は漁業基地となり，慈眼寺(じげんじ)公園はサクラとツツジの名所である。

ダニューブ(川) ⇨ドナウ川

たにんしほん　【他人資本】 借り入れ資本ともいう。自己資本に対する語で，企業資本のうち，出資者以外のものから調達された資本をさす。金額的には，短期借入金・長期借入金・社債など貸借対照表の負債の部に記載されるものの合計額として把握(はあく)する。

たぬき　【狸】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。体は中くらいで，尾は比較的短い。頭胴長50～68cm，尾長13～20cm。口は短いが鋭くとがり，体には長い毛が密生しているため肥ってみえる。背面は黄かっ色と黒色の毛が混じり，背の正中線と肩には特に黒毛が多いため十字形の斑紋(はんもん)ができる。目のまわり，体の下面および四肢(しし)は黒かっ色。北海道・本州・四国・九州から朝鮮・ウスリー・アムール・中国・トンキンなどに分布する。夜行性で，昼間はササやぶなどの中に寝ているが，岩石の間，大樹の根もとなどに自然にできた穴，あるいは他の動物が捨てた穴などをすみ家としていることが多い。冬は同じ穴に数頭がともにすむことがある。きわめて原始的な形態をもったイヌ類で，イヌ類でありなが

ら木登りがうまい。雑食性で，ノネズミ・ヘビ・カエル・魚・こん虫・ビワ・カキ・イモなどを食べる。巣に近く１か所に糞(ふん)をする習性があり，これがいわゆるタヌキの〈ためぐそ〉である。キツネに比べるとはるかに警戒心が少なく，姿を見ることも多い。田畑に多少の被害を与えるが，ネズミを主食とするため，野ネズミの駆除に有効である。毛皮は防寒具として優良で，上毛は筆毛にする。肉は臭く，食用には向かない。いわゆる〈たぬきじる〉はアナグマ*の肉を用いたものであろう。〔今泉吉典〕

タヌキはよく人を化かし，またみずから化けるわざをもつと考えられ，キツネ(➡狐憑(きつねつ)き)とともに古くから人間生活との関連が深い。狸ばやし，狸の腹鼓，狸の田園といわれるように，笛・太鼓を用いたり木を切る音を発したりして，聴覚に訴える場合が多い。人が頼むと必要なだけ膳椀(ぜんわん)を貸してくれるという椀貸し伝説が各地にあるが，その貸し主をタヌキと伝える土地がある。佐渡島には二つ山の団三郎というタヌキの大家族がいて，金山隆盛のときに落ちこぼれた金を拾い集めて大金持ちとなり，金貸しをしていたという話が伝わっている。四国にはタヌキの話が多く，ことに阿波(あわ)(徳島)のタヌキは有名で，源平合戦のもようを語ったり，大名行列を演じて見せたという話が伝わっている。佐渡島・壱岐(いき)などには，タヌキが人につく話が多く，愛知県南設楽(みなみしたら)郡では狸寄せといって，タヌキに託宣を問う風が盛んであったという。なお，タヌキはキツネと違って，稲荷(いなり)信仰*などのように信仰と結びつくことは少ない。〔直江広治〕

たぬきまめ【狸豆】双子葉植物・マメ科。野原に自生する一年草。茎は直立し，高さ30～50cm。葉は倒披針(とうひしん)形，濃緑色で毛はなく，互生する。花は夏から秋にかけて，枝の頂に淡紫色の蝶(ちょう)形花が密につく。花にはかっ色多毛のがくがある。

たぬきも【狸藻】双子葉植物・タヌキモ科。池や沼に浮かぶ多年草で，食虫植物の一。根はなく，茎がやや太い。葉は互生し，長さ３～６cmで細かく裂け，その一部が捕虫袋となる。７～９月，葉の基部から20～30cmの花茎を出し，直径1.5～２cmの黄色花を４～７個つけ，おしべ２本，めしべ１個。冬に枝先が切れて水底に沈み，泥中(でいちゅう)にうずまって越冬・繁殖する。同属にコタヌキモ・ミミカキグサ，同科にムシトリスミレの仲間がある。

たぬま【田沼(町)】栃木県の南西部，安蘇(あそ)郡の町。人口30,000。足尾山地から南東流する秋山川・野上川・彦間(ひこま)川などのそれぞれの谷が生活の中心で，米・麦・野菜・タバコ・コンニャク・イチゴなどが栽培される。秋山川に沿う中心集落の田沼は，渓口(けいこう)集落として発達し，製材・繊維・粘土瓦(がわら)などの工業があり，



タヌキ



タヌキモ

また藤原秀郷(ふじわらひでさと)の唐沢(からさわ)城跡が知られている。東武鉄道佐野線に沿う。

たぬまおきつぐ【田沼意次】(1719～1788) 江戸中期の政治家。主殿頭(とのものかみ)と称した。父意行(もとゆき)は紀伊(きい)徳川家に仕え，徳川吉宗(よしむね)の８代将軍就任に従って江戸に出て旗本(はたもと)となった。意次は９代将軍家重(いえしげ)の小姓をつとめ，のち10代将軍家治(いえはる)に仕え，寵用(ちょうよう)されて権勢をふるった。小姓組番頭・側衆をつとめ，1758年(宝暦８)大名に列し，1767年(明和４)側用人となり，遠江(とおとうみ)(静岡県)相良(さがら)に築城し城主となった。1769年老中格，1772年(安永１)老中となり，しだいに加増されて，1785年(天明５)五万七千石。商業資本を保護育成し積極的な政治を行なったが，結果はわいろの横行など幕府政治の腐敗を招いた。1784年長男意知(おきとも)が江戸城中で切られてから権勢が衰え，1786年家治の病気とともに老中を退任。同年所領のうち二万石を減封され，翌年残り三万七千石も没収されて，致仕・蟄居(ちっきょ)を命ぜられた。➔田沼時代〔松尾　涼〕

たぬまじだい【田沼時代】江戸中期，10代将軍徳川家治(いえはる)の寵(ちょう)を得た田沼意次*(おきつぐ)が幕政を掌握していた時代。1767年(明和４)意次の側用人就任から1786年(天明６)老中退任までをいう。この時代の幕政の特徴は，幕藩体制*の範囲内で重商的な政策を行ない，幕府が商業資本と結びついて，財政窮乏の打開に積極的に取り組んだことにある。主要政策として人参座(にんじんざ)・鉄座・石灰会所など幕府専売事業の拡大，問屋*・株仲間*の積極的公認と運上*・冥加(みょうが)金*の徴収，長崎貿易の振興，南鐐(なんりょう)二朱判銀の鋳造，印旛沼(いんばぬま)・手賀沼の干拓，蝦夷地(えぞち)開発計画がある。これらの諸政策は，従来の政策に比べて進歩的であったが，その一方わいろが横行し，貨幣経済の進展につれて武士の困窮が進み，また，浅間山噴火，天明の飢饉*(ききん)などの天変地異，各種騒動の続発に対して無策であったため，田沼政治に対する世人の不満・批判が高まった。1784年意次の長子意知(おきとも)が江戸城中で刺殺されてから田沼の権勢が衰え，1786年，意次も家治の病気により失脚して田沼時代は終わった。〔松尾　涼〕

ダヌンチオ［Gabriele D'Annunzio］(1863～1938) イタリアの詩人・小説家。アドリア海沿岸のペスカラに生まれる。14歳で叙情詩《早春》を書き，早熟の才を認められた。カルドゥッチ*の影響のもとに出発し，古典的な傾向からしだいに独自の官能的・耽美(たんび)的な傾向へ移り，いわゆる世紀末デカダンス文学の代表的な存在となる。さらに英雄主義的な作風をおび，ニーチェ*への親近性を示した。小説や劇作も多く，代表的な作品に《快楽》《ジョコンダ》《聖セバスティアンの殉教》などがあるが，中でも《死の勝利*》はその名声を世界的なものにした。第１次世界大戦では参戦を主張，みずから功をたて国民的英雄となったが，晩年はファシズムに近づいた。〔田島　修〕

たね【種】⇨種子

たねがしま【種子島】鹿児島県熊毛(くまげ)郡に属する薩南(さつなん)諸島*中の一島。古くは多褹島・多禰島と書いた。県下の属島のうち，奄美(あまみ)大島・屋久(やく)島に次いで大きく，面積447km²。人口51,000。大隅(おおすみ)半島佐多岬(さたみさき)から大隅海峡を隔てて，南東40kmの地点にあり，南北70km，東西５～10kmの細長い島で，行政上は北から西之表市，熊毛郡の中種子町と南種子町の１市２町に分かれている。低平な丘陵性の地形で，最高点は282mの地点で西之表市と中種子町の境にある。気候は温暖で，年平均気温は19℃，ソテツ・ビンロウ・ガジュマルなどの自生がみられる。耕地の70%以上は畑で，サツマイモ・サトウキビの二大作物のほか，茶・促成カボチャ・オランダエンドウなどをつくり，乳牛・ブタを飼う。沿岸漁業によるトビウオの漁獲が多い。デンプン工場・製糖工場があるほか，手工業品として種子ばさみがある。

種子島は鎌倉時代から西之表にいた種子島氏の支配下にあり，江戸時代になって島津氏が領有し種子島氏は島津氏の一門に準じて明治まで存続した。1543年(天文12)にポルトガル人が漂着して，のちに〈種子島〉とよばれた火縄銃(ひなわじゅう)を伝えたことは有名であり，ときの領主種子島時堯(ときたか)はこれを模倣して，日本最初の国産銃をつ


種子島　島の玄関の西之表市の市街と港。南国の陽光のもとに海は青く，森や畑の緑は濃い

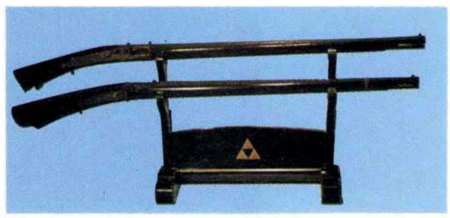
くらせた。南種子町の竹崎に，科学技術庁宇宙センターがある。鹿児島から毎日定期船と定期航空便が通じている。種子島空港は中種子町にある。　〔浅井得一〕

たねがしまじゅう　【種子島銃】　火縄銃(ひなわじゅう)の別称。1543年(天文12)ポルトガル船が種子島*に漂着し，日本にはじめて鉄砲を伝えたことから起こった名称。領主種子島時尭(ときたか)は鉄砲・火薬の製法を研究し，以後多量の鉄砲が堺(さかい)商人により輸入され，国内でも生産されて戦国大名の戦法・築城術に多大の変革をもたらした。

たねさしかいがん　【種差海岸】　青森県東南部，八戸(はちのへ)市の蕪島(かぶじま)から南東へ同市の大久喜までの約8kmに及ぶ太平洋岸の海岸線。背後に低い段丘があり，段丘上はウマの牧場地になっている。北部の鮫(さめ)地区に鮫角(さめかど)燈台がある。白砂の砂浜海岸や岩礁の多い岩石海岸が錯綜(さくそう)して連なり，海食による奇岩怪石も見られる。蕪島はウミネコの繁殖地で知られる。海岸一帯は種差海岸県立自然公園に指定されている。　〔味沢成吉〕

たねつけばな　【種付花】　双子葉植物・アブラナ科。田やみぞなどの湿地に普通にみられる越年草。茎は高さ10～30cm。葉は互生する羽状複葉で，7～11小葉からなり，頂小葉は大形。3～5月，枝先に白色の4弁花を総状につける。花弁の長さ3～4mm。果実は長さ約2cmの角果である。和名は種籾(たねもみ)をまくころに花が咲くことによる。

たねなしかじつ　【種なし果実】　果樹が開花・結実するには，ふつう受粉・受精して種子ができることが必要であるが，果樹の種類や品種によっては種子ができなくても，子房や花托(かたく)が発育して果実を形成するものがあり，この場合果実は種なしとなる。種なし果実のできる性質を単為結果性といい，この性質の強いものは種なし果実がなりやすい。カキ*の平無核(ひらたねなし)は通常種なしで，受粉してもほとんど種子を生じない。ウンシュウミカンは花粉不完全で他のカンキツ類から受粉され受精すれば種子ができるが，単為結果性が強いため，


種子島銃


タネツケバナ

受粉されないものは全部無核であり，ミカンは種なしと思われているほどである。まれに種子があるのはウンシュウミカンの在来種か，夏ミカンなどの花粉を受けたものである。リンゴ・ナシなどの仁果(にんか)類は種なし果実がきわめてまれで，モモ・ウメなどの核果類にも種なしはない。ふつう市販のバナナは単為結果したもので，種子がない。ブドウのデラウェアの種なしはジベレリン*で開花前2週間に処理して種なしとし，満開後10日くらいに再び処理して果粒の発育を促し熟期も早めたものである。元来が種なしブドウのトムソン-シードレス(淡緑黄色の干しブドウにしたものが輸入されている)も開花後ジベレリンで処理すると果粒が大きくなる。　〔岩垣駛夫〕

たねばえ　【種子蝿】　こん虫類・双翅(そうし)目・ハナバエ科。体長5mmほどで，体色は雄では暗黄かっ色ないし暗かっ色，雌では灰色ないし灰黄色。翅(はね)はやや暗色をおび，翅脈は暗かっ色，後脚の脛節(けいせつ)の下面には先端の曲がった細毛の列がある。日本全国のほか旧北区のほとんど全域と北アメリカに広く分布し，幼虫(うじ)が土中でマメ類・ウリ類・ダイコン・キャベツ・イネ科植物など多くの農作物の種子の発芽時に，種子・幼芽・幼根を食害する。〔鈴木邦雄〕

たねまきき　【種播き機】　1台の機械が，まきみぞまたは穴を掘り，施肥し，種を落として土をかぶせるまでを1工程で行なう作業機。種まき様式によりドリル・プランター・ブロードキャスターの3種類に大別される。ドリルは条播機(すじまきき)のことで，1条まきから2条まき，3条まき，多条まきなどいろいろな大きさのものがある。1条まきは人力用で，2～4条まきは歩行トラクター用，多条まきは6条～14条程度で，それ以上のものもあり乗用トラクター用である。プランターは点播機(てんぱき)であり，トウモロコシなど大粒の種子，また，いも類などに使用される。穀類用プランターの構造は種子繰り出し装置を除いてはドリルと大差はない。ブロードキャスターは撒播機(さっぱき)であって，前二者と異なり種子は特定の場所に集中することなく，畑全面にばらまかれる。これは主として牧草用として使用される。　〔田原虎次〕

たねまくひと　【種蒔く人】　文芸雑誌。第1次は1921年(大正10)2～4月。全3冊。秋田県土崎(秋田市)で印刷されたため〈土崎版〉とよぶ。バルビュスのクラルテ運動(→クラルテ)に参加した小牧近江*(おうみ)を中心に，金子洋文*・今野賢三(けんぞう)・山川亮(りょう)らが編集にあたった。反戦と被抑圧階級の解放を標榜(ひょうぼう)し，プロレタリア芸術運動の先駆的役割を果たした。休刊ののち，第2次として，1922年10月～1923年10月，全21冊(ほかに号外・別冊・付録などがある)を刊行。激しい圧迫にあいながらも，平林初之輔*(はつのすけ)・青野季吉*(すえきち)・山田清三郎らの同人が多くの支持者・寄稿家を得て刊行を続け，解放運動と芸術運動の統一に画期的な貢献をしたが，関東大震災後の弾圧のため，1925年1月，別冊《種蒔き雑記》を最後に廃刊した。　〔金子　博〕

たねんせいしょくぶつ　【多年生植物】　植物の生存が2年以上にわたる植物で，一年生植物と対応する。1年じゅう生長を続けることのできる熱帯地方や，生長期間の短い高山や寒帯地方に多くみられる。一年生か多年生かは必ずしも遺伝的に固定した性質ではなく，熱帯地方では多年生のトウゴマ・ニチニチソウ・オジギソウ・オシロイバナ・イネなども温帯地方に移すと一年生となる。

たのかみ　【田の神】　稲作の豊饒(ほうじょう)を祈念する農神。古典には〈倉稲魂(うかのみたま)神・大歳(おおとし)神〉などの名が見える。田の神の祭りは，稲作進行の折りめごとに営まれるが，おもな機会は，〈田の神降り〉〈苗代(なわしろ)祭〉〈初田植え〉〈田植え終り〉〈田の神送り〉の五つである。中でも，春耕に先だつ田の神降りと秋収後の田の神送りが重要な



田能村竹田 《青山白雲図巻》(中央部分) 東京国立博物館蔵

祭りになっている。全国にほぼ共通した伝承として，春には山の神が里に下って田の神となり，秋には再び山に帰って山の神となるとする信仰がある。田の神の祭場には，苗代をあてたり，田に丸石を置いて祭ったりする。南九州では田のあぜに田の神の石像をすえて春秋に祭っている。〔直江広治〕

たのむらちくでん【田能村竹田】 (1777～1835) 江戸後期の南画家。名は孝憲(たかのり)，字(あざな)は君彝(くんい)，竹田・九畳外史などと号した。豊後国(ぶんごのくに)(大分県)の小藩であった岡藩の藩医の家に生まれ，はじめは儒学を志して藩校の総裁にまでなったが，のちに辞職して自由な文人生活にはいった。しばしば郷里と京阪(けいはん)の間を往復し，頼山陽*や篠崎(しのざき)小竹らの文人と親交を結び，岡田米山人・浦上玉堂*・青木木米*ら南画の先輩に感化を受けて，自作の詩をみずからの書で画上に賛する本格的な文人画家として大成した。ことに，旅中に接した実景や触目の花鳥を写す清雅な小品にすぐれていた。代表作に《亦復一楽帖(またまたいちらくじょう)》《船窓小戯帖》《暗香疎影図》があり，著書に日本画論の名著として名高い《山中人饒舌(じょうぜつ)》がある。門下に高橋草坪(そうへい)・帆足杏雨(きょうう)・田能村直入らを出した。〔小林 忠〕

たのもしこう【頼母子講】 憑子講とも書く。講*の一種。庶民の相互的な金融組織。鎌倉時代から始まり，近世には都市・農村を通じて広く行なわれた。発起人の親と講衆(講中)とよばれる仲間とが一定の米・銭を掛け合い，くじ引きや入札などの方法で順番に全品の給付をうける仕組み。無尽*とほとんど区別なく使われた。目的はさまざまであったが，社寺の維持・修繕や社寺参詣などにも利用された。一種の高利貸し*的な金融制度となって，金融業者や寺院がその経営にあたることもあった。種々の弊害から江戸幕府は再三禁止した。しかし，近代的金融制度の確立後も，なお一般庶民の間に存続している。〔高崎徳次〕

ダバオ [Davao] フィリピン共和国，ミンダナオ島南部にあるダバオ州の州都。人口51万6,000(1975)。ダバオ湾奥のダバオ川河口に位置する良港で，貿易・商業の中心になっている。西南にはアポ火山(2,965m)がそびえている。付近は肥沃(ひよく)な火山性土壌(どじょう)が広く分布するため，20世紀初頭から日本人が多数移住してアバカ*栽培を始め，第2次世界大戦前はその一大中心地であったが戦後は衰えた。現在は木材の集散と農産物加工が盛んになっている。〔別技篤彦〕

たばこ【煙草】 ⇨次ページ

たばこが【煙草蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科。タバコの害虫。体長15mm内外，翅(はね)を広げた長さ27～34mm。体・翅とも黄かっ色で，前翅には明らかな横線・腎(じん)状紋・環状紋がある。成虫は8～9月に発生し，夜間タバコ・トマト・トウガラシ・ワタなどに産卵する。終齢幼虫は体長40mm内外となり，葉のみでなく茎の中や実の中にまで食い入り，土中でさなぎとなる。本州・四国・九州・西アフリカ・インド・オーストラリアなどに分布する。近縁のオオタバコガはワタ・タバコの害虫として知られ，熱帯から温帯にかけて世界各地に広く分布する。〔多々内修〕

タバコモザイクウイルス [tobacco mosaic virus] 代表的な植物ウイルスで，略してTMVという。棒状のウイルスで，長さ300mμ，幅15～17mμ。遺伝子としてRNAをもち，RNAの周囲はタンパク質が取り囲み，被膜はもたない。葉の傷から侵入するが，細胞内のどの部分で増殖が起こるのかは，まだ確定した説はない。このウイルスの歴史はウイルスの歴史ともいえ，発見から近年に至るまでウイルス研究の最先端にたってきた。1892年，イワノウスキーがタバコモザイク病は細菌を通さないフィルターを通った濾液(ろえき)によって移されることを報告した。これがウイルスについての最初の報告であるが，病原体の本態についての考察はなされていなかった。1935年スタンリーによって，ウイルスとしては最初に結晶化された。また，1955年フランケル-コンラートおよびウイリアムスはばらばらに分解したタンパク質よりなるTMVの構成成分が，試験管内でTMVのRNAと再結合して感染性ウイルスを形づくることを示した(RNAがなくても，タンパク質の構成単位だけでもウイルス粒子ができる)。さらに1956年，シュラムらはTMV粒子から抽出した核酸だけで感染およびウイルス増殖が起こることを示し，ウイルスの本態が核酸であることを実証した。〔石川 彬〕

タバコ-ロード コールドウェル*の小説(1932)。かつてのタバコ栽培地もやせたアメリカ南部ジョージア州奥地の，プアーホワイト(貧しい白人)とよばれる農夫たちの生活を描いた作品。無知と貧困から動物的な肉欲に走る貧農の悲惨さが特異なユーモアを交えて描かれている。

たはら【田原(町)】 愛知県渥美(あつみ)半島東部に位置し，渥美郡に属する町。人口28,000。江戸時代に田原藩の城下町として発展し，半島東部の経済・交通の中心で豊橋(とよはし)鉄道渥美線の終点である。付近に産出する石灰岩を利用したセメント工場があり，近年は東三河(みかわ)臨海工業地帯の一環として，田原湾の埋め立てが進んでいる。農村部では野菜の生産が盛んである。渡辺崋山(わたなべかざん)の出身地で，その遺跡が多い。

たはらよしずみ【田原良純】 (1855～1935) 明治時代に活躍した化学者。佐賀藩士の家に生まれる。東京大学医学部薬学科を卒業，東京衛生試験所にはいる。1884年(明治17)以来フグ毒の化学的研究を始め，1909年に有効成分の結晶化に成功，テトロドトキシン*と命名した。この業績は，明治時代に，日本人があげた研究成果の中でも，特にすぐれたものである。

タバリー [Jarīr al-Tabarī] (839？～923) アッバス朝*時代の歴史家・神学者・法学者。イラン，カスピ海東南岸のタバリスタン生まれ。有名な著作として《予言者と諸王の歴史》がある。これは太古から915年までの編年史で，イスラム史のみならず，イスラム前史の貴重な文献である。

たばるざか【田原坂】 熊本県の北西部，鹿本(かもと)郡植木町にある坂。北は木葉(このは)山系，南は三ノ岳に連なる丘陵にはさまれた交通の要地で，西南の役*に際して，1877年(明治10)3月3日から17日間にわたって西郷(さいごう)軍と官軍の激戦地となり，合わせて4,000人を越える死者が出た。その記念碑および谷村計介(けいすけ)の墓などがあり，国道208号線が北寄りを走る。この戦闘にちなむ民謡《田原坂》は，豪傑節ともよばれ，〈雨は降る降る陣羽はぬれる，越すに越されぬ田原坂〉の歌詞で名高い。〔浅井得一〕

ターバン [turban] 回教徒および近東諸国での男性のかぶり物。キャップの上に麻・綿・絹などの長い布地を巻きつけたもので，その巻き方や布地の色などで，人種・身分・宗派などを表わす。これを婦人帽子に取り入れたものもターバンという。

ダーバン [Durban] 南アフリカ共和国東部，ナタール州東海岸にある港市。人口72万9,900(1975)。同国最大の穀物輸出港であり，機械・毛織物・皮革などの工業も盛んである。また捕鯨基地としても知られ

→241ページ

煙　草

たばこ(tobacco)とは，たばこ属(ニコチアナ属)の植物またはその葉をいう。またたばこの葉を主原料としてつくられた喫煙用の嗜好品(しこうひん)一般をも意味する。用語例—〈たばこ〉をのむ，〈たばこ〉屋など。たばこの語源は，必ずしも明らかではないが，西インド諸島の原住民が使っていた喫煙具(かぎたばこの道具ともいわれる)のよび名であるといわれている。

【植物体としてのたばこ】〈たばこの原種〉一般にたばこ植物とは植物学上ナス科のニコチアナ属(nicotiana)に含まれるものすべてをいう。現在ニコチアナ属には約60種が発見されており，ふつうこれをルスチカ(rustica)・タバカム(tabacum)・ペチュニオイデス(petunioides)の3亜属に分ける。ルスチカ亜属(ルスチカのほか8種)は，中南アメリカに，タバカム亜属(タバカムのほか5種)は，おもに南アメリカに，ペチュニオイデス亜属(45種)は南北アメリカとオーストラリアにわたって分布している。ニコチアナ属にはこのように多数の種があるが，現在喫煙用となっている種は，タバカムが主体であって，一部ルスチカも栽培されている。タバカムの起源は，ニコチアナ-シルベストリスとニコチアナ-トメントーサまたはトメントシフォルシスの種間雑種の染色体が倍加し，複2倍体となったものとされており，このため発生地は，二つの野生種の分布が近接し重なり合っている，南アメリカのボリビアとアルゼンチンの国境地帯と推定されている。なお，ペチュニオイデスの中には，花が美しいため観賞用として栽培されているものもある。

【たばこ植物の性状】タバカムは一年生草本(熱帯また温室では多年生も可能)で，高さ約60〜250cm。茎は直径3〜4cm程度で表皮・皮層・維管束・髄からなる。葉と茎の表面に腺毛(せんもう)(毛茸(もうじ))があり，樹脂状の粘液を分泌する。葉は茎に互生し，表皮・柵状(さくじょう)組織・海面状組織からなる。葉の数は25〜70枚。その形や大きさは品種や茎への着生位置により異なる。根は好気性で，根群はおもに地表面に近く分布する。ニコチンは主として根で生成され，葉へ移行する。花は筒状で先が五つに分かれ，ふつう淡紅色である。実は蒴果(さくか)(袋状の実)で，一つの蒴の中に約2,000粒の種子がある。種子は〈けし〉粒より小さく，長さ0.7〜0.5mmぐらいの卵円形，1gで12,000〜14,000粒ある。

【たばこの種類】今日の消費の主流は紙巻きたばこ(シガレット)で，特にフィルター付きたばこが圧倒的に多い。一般にシガレットは製造法と味の特徴から，次のように分

たばこの種類

- 喫(の)みたばこ
  - 紙巻きたばこ
    - 口付きたばこ
      - フィルター付き
      - 口付き
    - 両切りたばこ
  - 葉巻きたばこ
    - 葉巻き
    - シガリロ
  - 刻みたばこ
    - パイプ用たばこ
      - スモーキング-ミクスチュア
      - フレーク
    - 手巻き用刻みたばこ
    - 日本細刻み
- 嚙(か)みたばこ
- 嗅(か)ぎたばこ

類されている。①アメリカ巻き：黄色種・バーレー種・オリエント種の葉たばこを配合(ブレンド)してそれらの複合された味をもたせ，さらに香料などの加工による人口の味を加え，軽くてかおり高い味の特色をもたせたもの。アメリカで発達した。ウインストン，ケント，マールボロ，日本の蘭(らん)，チェリーなど。②バージニア巻き：黄色種の葉たばこを主原料とし，その天然の〈コク〉のある味を生かしたもの。イギリスで発達した。ロスマンズ，スリーファイブ，日本の富士，昔のチェリーなど。③トルコ巻き：オリエント種の葉たばこを主原料とし，その固有の香気を特徴とする。ギリシア・トルコ・エジプト・中近東諸国その他で発達した。ゲルベ-ゾルテ，ウエスト-ミンスターなど。各国で製造される紙巻きたばこのタイプは，それぞれの国の原料葉たばこや喫煙風習，嗜好の歴史などにより一様でなく，フランスの黒たばこ，西ドイツ・日本のブレンド-タイプなど独特の発達をみせているが，今日の世界的風潮は，アメリカ巻きのタイプといえる。

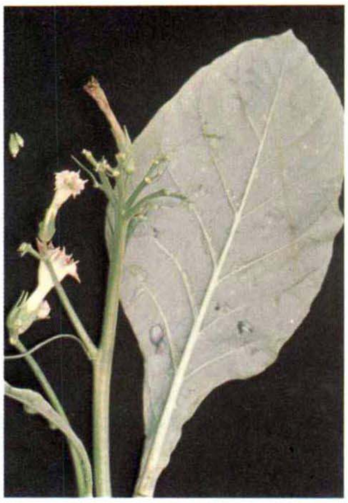
【葉たばこの種類と産地】栽培たばこのうち，ルスチカはタバカムに比べるとニコチン含有量が多く，喫煙用としての品質が劣るので，喫煙用としてはソ連・アジアの一部で栽培されている程度である。喫煙用の主体をなすタバカムは世界各国で広く栽培され，その品種もきわめて多い。原料としての特性から，黄色種・バーレー種・オリエント種・葉巻き種・在来種に分ける。〈黄色種〉は紙巻きたばこの主原料で，かおりと味の本体をなす。現在世界総生産量の30%を占め各地で生産されているが，生育には排水・通気のよい土壌(どじょう)で日照に恵まれ，むらのないある程度の降雨量があり，成熟にはかなりの高温と十分な日照のあることを必要とし，特にアメリカのバージニア州，ノース-カロライナ州などが本場であるため，バージニア葉ともいう。〈バーレー種〉は同じく紙巻きたばこの原料であるが，一部パイプたばこやかみたばこの原料にもなる。栽培には黄色種と同様十分な日照と適度の降雨量が必要であるが，生育や成熟に対する温度はやや低めでもよい。全生産量の約7%を占め，アメリカのケンタッキー・テネシー州などが主産地であるが，日本その他の国でも生産されている。特有のかおりと加工しやすい性質があり，アメリカ巻きタイプの製品には欠くことのできない原料である。〈オリエント種〉はトルコ巻きの主原料で，その香喫味は高温・多照の乾燥地帯で得られ，ギリシア・トルコが本場産地であり，ブルガリアやイランなどでも栽培されている。特有の強い香気があり，ニコチン含有量は少ない。小判程度の小さい葉が高く評価される。〈葉巻き種〉は葉巻きたばこの原料で，ハバナ葉・スマトラ葉・マニラ葉などが有名である。〈在来種〉はそれぞれの国で古くから栽培される土着の種類で，日本では慶長年間から細刻用として栽培され，日本の各地の土質と比較的降雨量の多い気候に合わせて改良され，各種のタイプが生まれてきたが，近年紙巻きたばこの補助原料としての品種改良が進み国内生産の約30%に達している。日本の葉たばこにはこのほか黄色種とバーレー種がある。黄色種は明治末期以来，中国・四国・九州地域を中心に栽培され，国内生産量の65%に達し，バーレー種は昭和にはいってから栽培され，現在東北地方に全国の5%の生産量をもっている。嗜好の変化につれ，全体として緩和な味の葉たばこ(バーレー種と在来種の一部)の生産が重視されている。

【葉たばこの栽培】わが国の葉たばこは2月上旬〜3月，苗床に種子をまき，3月中旬〜5月上旬苗を畑に移植する。移植後の低温による被害を防ぎ，生育を促進するため，ビニールの膜などを使った被覆栽培の技術が普及している。5月下旬〜7月下旬，開花前にしん止めをして，しだいに葉が成熟するにつれ，6月下旬〜8月末，下のほうの葉から順次収穫する。収穫した葉を黄色種は乾燥室で火力で乾燥し黄色に仕上げ，在来種およびバーレー種は火力を使わず，屋外で天日乾燥したのち屋内に取り込みかっ色にまで仕上げる。仕上がった葉たばこは，日本専売公社が一手に買い取る。葉たばこ栽培は，農業労働力の減少という一般の農産物生産と同様の問題をかかえており，機械化・省力化によって労働集約農業から脱皮し，経営の大規模化を進めていく必要がある。

〈シガレットの製造法〉製造工程は，①葉たばこの性質や形を変えて喫煙に適する原料に仕上げるとともに，製品の特性に応じて各種の原料を配合(ブレンド)する〈原料加工〉と，②加工された原料を喫煙に便利な

ように成形し流通用の包装を行なう〈製品工程〉に大別される。葉たばこは製造原料となるまでに約2年貯蔵して熟成させる必要があり，原料の加工はその前後2段階にわたって行なわれる。第1次の加工が行なわれるのは〈原料工場〉で，集荷した葉たばこを葉脈の太い部分と葉肉の細片とに分離し（スレッシング），加熱処理して長期の貯蔵とその間の熟成に必要な水分にそろえるとともに，内容成分を改善し，たるまたはケースに詰めて貯蔵する。シガレットの〈製造工場〉で行なわれる第2次加工は，熟成の進んだ葉たばこを性質や成分の違いに応じ，銘柄ごとに適切な割合でブレンドすること，熱・水・香料などによる加工処理（ケーシング）を施すこと，および成形用に細かく切り刻み，水分を均一に整えること，などがおもな内容である。これらの加工を経てたばこは，喫煙に好ましい性質の原料になり，また製品（シガレット）の味の特徴がつくられる。刻まれた加工ずみの原料は，紙巻き成形の工程に送られて巻き紙（ライスペーパー）で巻かれ，喫煙しやすい長さに切断され，フィルター付きシガレットにはフィルター・チップ（化学繊維などでつくる）が接着される。この際の原料の詰まり具合，シガレットの長さ，太さ，巻き紙，フィルターの性質なども，シガレットの味やかおりに影響する。シガレット製造の各工程は，近年連続化・自動化・高速化が，不良品の自動検出機構とともに著しく進み，生産性と製品品質に大きな向上がみられる。原料加工工程は，遠隔操作による装置工業的発展を遂げつつあり，製品工程も，最も進んだものはシガレットを成形するシガレット-メイキング-マシン1台で1分間4,000本，シガレットを20本ずつ箱に詰めるパッキング-マシンは，同じく600個の製品をつくる能力をもつものが現われている。





（左）花
（右）葉

〈葉巻きたばこの製造法〉 シガレットのそれと基本的には同じであるが，成形工程がやや複雑で，フィラーとよばれる葉巻きのしんとなる部分をバインダー（中巻き）原料で成形し，ラッパー（外巻き）原料で外観や香気をよくするようにしてある。〈パイプ用たばこの製造法〉は，成形工程がなく，特有のかおりと味を与えるため原料の加工処理に重点が置かれ，シガレット用とは異なる特殊な原料を配合し，高度のケーシングを行なうのが特色である。伝統的なパイプたばこの味づくりと，葉巻きの成形法とを近代的に発展させたものが，シガレットであるといえる。

〈たばこ製造業〉 シガレットに代表されるたばこ製造業の特色は企業集中が進んでいることで，たばこを専売（国の独占）としない国々でも，少数の大企業により市場のほとんどが占められ，また国際的には強力なトラスト（イギリス・アメリカが中心）がつくられている。これは，①製品の原価の中に占める原料費の割合が圧倒的に大きい（日本の場合約60%）こと，②葉たばこの熟成のため長期間資金を寝かさなければならないことなどのため，大資本と市場の安定を必要とするからである。わが国は明治中期まで村井商会（国際トラスト系）と岩谷商会（民族資本）の二大製造業者が国内市場を二分し，激しく競争していたが，日清（にっしん）・日露の両戦役を機に専売制が施行され，たばこ製造・販売は国の独占事業となった。たばこの製造業は，長い間農産物加工の域を出なかったが，軽い味のシガレットへ向かう嗜好の趨勢（すうせい）を契機として，最近では原料の加工技術や，シートたばこ・人工たばこなどの新原料の開発が進み，高度の工業的発展が準備されつつあることが注目される。

【商品としてのたばこ】 たばこは消費量の多いことと消費の場の多様な点で嗜好品の王者とされる。

〈たばこの消費〉 世界のたばこ消費量は2兆9,000億本（シガレット換算，1967）と推定される。喫煙人口の大小や1人あたり喫煙量の多寡は，各国の経済・社会・文化の程度特に所得の水準とかなり深い関係があり，この意味でたばこは〈生活水準のバロメーター〉ともいわれる。わが国の1969年（昭和44）のたばこ消費量は約2,120億本（細刻みを含み，パイプ用・葉巻きを除く）で，戦前（1934～1936年平均）の3.6倍。成年人口1人あたりで3,103本（同じく1.9倍），喫煙者男子1人あたり7,483本，同女子5,000本と推定され，アメリカのシガレット消費量（1968年18歳以上男女平均4,195本）には及ばないが，世界的に上位の水準にあるといえる。ただ諸外国では，日本と違い葉巻きやパイプたばこの喫煙者の割合がかなり大きい。喫煙者の数は，わが国成年人口のうちで男子79.1%，女子15.1%（1969），計約3,000万人と推定される。女子の喫煙者は，都会地を中心に漸増の傾向にあるが，欧米諸国に比べると非常に少ない。今世紀にはいってたばこには，その形態と味について，およそ次のような消費の転換があったといえる。

①伝統的な需要の中心であったパイプたばこ・キセルたばこ・葉巻きたばこに代わって，現代の生活様式に適し，消費者の好みに応じたさまざまのタイプの製品を大量生産することができるシガレットが需要の王座を占めたこと，②第2次世界大戦後〈コク〉のある重厚な味（バージニア巻き）やオリエント葉独特の強い香気（トルコ巻き）をもつたばこから，軽い味（アメリカ巻き）のたばこへと世界的な嗜好の変化が起こったこと，③味をいっそう緩和にするフィルター付きシガレットの出現（1952年アメリカで発売）によって，たばこの需要はこれに集中したこと，軽い味への需要の集中は葉巻きやパイプたばこにもみられ，精神生活の複雑化，食生活の高級化などの生活条件の変化の中で，酒などの嗜好品一般にも共通した傾向といえるが，最近の要因としては，喫煙に伴う健康の問題も無視することができない。

〈たばこの価格と税金〉 たばこは，古来各国とも高い税金がかけられ国の重要な財源の一つとして利用されるので，消費者の購入価格は，製品の原価に比べてかなり高い。たばこの価格は，特殊な高級品や下級品を除けばほとんどの製品がほぼ同一の値段で販売されるのが普通で，日本のように製品ごとの値段の差が大きい例は少ない。このため諸外国のたばこの税金は，従量税（1本あたりの税額が一定）または従量・従価（倉出価格または小売り価格に比例する）の組

み合わせとする例が多い。各国のたばこの価格は，原価特に原料費や流通コスト，税率の違いなどのため，かなりの差がある。わが国のたばこの価格は専売による独占価格であるため，法律によって最高限度が定められ，さらに個々の銘柄の価格は最高限度の範囲内で大蔵大臣の認可を受けて決められる。たばこ税は，各国とも消費税である。わが国も，1876年(明治９)消費税として発足したが，1904年たばこを国の専売品とし，独占事業の売り上げ収入から得られる利益金を消費税に代えて国庫に納めることとなった。この制度は，消費者価格を決定することにより，実質的に消費税を課するのと同じ働きをもち財政収入の確保が容易といわれるが，絶対主義時代の財政制度に始まるもので，近代的な課税のあり方やたばこ事業の経営上からは問題が多い。1949年たばこ事業の経営主体は，政府(大蔵省専売局)から独立して新しく設立された日本専売公社に移された。1954年からは売上高に一定割合を乗じた額を公社から消費地の地方公共団体(道府県，市町村および都の特別区)に納める〈たばこ消費税〉が地方税として設けられ，この税を納めたあとの公社の利益金が〈専売納付金〉として国庫にはいることとなった。1968年の実績では，国の財政収入の4.2％，地方公共団体の財政収入の3.2％がたばこからの収入によりまかなわれ両者の合計は4,300億円(売上高の約60％)である。

〈たばこの国際取引〉 たばこの味は，多種類の原料葉たばこをブレンドしてつくられるので，葉たばこは国際的に取引され，その貿易は活発である。世界最大の葉たばこ輸出国はアメリカで，国内生産量の25％(1968)を占め，主としてイギリス・西ドイツ・日本などへ輸出している。最大の輸入国は，葉たばこの国内生産がないイギリスである。わが国の葉たばこは，気候風土による品質上の制約と小規模農業であるためのコスト高とから国際競争力が弱く，貿易上の地位は低い。バーレー種と在来種の一部に品質面で対抗できるものもあるが，生産量が少なく大きな輸出量は期待できない。製品の貿易は，各国とも高率の関税を設けているうえにアメリカおよびイギリスの企業による市場支配が進んでいるため，一般に困難とされ，近年では資本・技術・商標などの形による市場進出が盛んである。専売制度は，国際取引上〈非関税障壁*〉の一つとされるが，EEC(ヨーロッパ経済共同体)では，フランス・イタリア両国の専売制を1976年から廃止しEEC域内のたばこ市場を自由化する方針を決定している。

〔喫煙と文化〕 たばこは，新世界がコロンブスによって発見されてから旧世界に寄与した最初の有用植物とされ，その独特の効用は，人間の生活と，深いかかわりあいをもつものとして，文化史上の意義も大きい。

〈喫煙のはじまり〉 たばこ喫煙風習の古いものは，中央アメリカ・マヤ古帝国(３～９世紀)の太陽崇拝の宗教儀式にみられる。そこでは僧が野生のたばこを火にくべ，煙を特殊な吸煙具で吸いかつ吐いて火の神を礼拝した。煙には火の神の霊が宿ると信じられ，またたばこの煙やエキスは病気の治療にも効能があると考えられていたようである。喫煙ははじめ僧の特権であったが，やがて一般の風習に広まり，マヤ文化衰亡後モンテスマ王のウズテク帝国に受け継がれ，15世紀にはアメリカ大陸の多くの地域にたばこ文化の華(はな)が開いた。当時すでにさまざまの材料によって〈パイプ〉がつくられ，またたばこの粉を鼻孔にぬる〈かぎたばこ〉や乾燥したたばこの葉を巻いて吸う〈葉巻き〉や空腹を満たす丸薬の〈かみたばこ〉などが，原始的な形で使われていた。

〈喫煙の伝播(でんぱ)と生活風習〉 1492年コロンブスの一行が，サンサルバドル島のインディアンにより喫煙の風習を知ってのち，多くの旅行者やカトリック僧によって旧世界に運ばれたたばこは，当初喫煙用としてでなく薬草としての効能が信ぜられ，病気の治療に使われた。また，1560年ごろからかぎたばこの風習がフランス宮廷の流行となったが，この風習を紹介したフランスのポルトガル駐在大使ジャン-ニコの名は，のちにたばこの植物学上の名まえニコチアナとして残されるに至った。ヨーロッパ諸国で喫煙風習をまず広めたのはイギリスで，愛煙家ウォルター-ローリー卿(きょう)(1552～1618)はいまなおたばこの神様とうたわれる。ヨーロッパ大陸への普及には，イギリスからの留学生青年たちの喫煙風習が移ったようである。たばこの喫煙は，新世界を出発点として，ヨーロッパ経由の西回りとフィリピン経由の東回りの二つの経路により，17世紀初めコロンブス以後100年余りで地球上にあまねく広まった。交通不便の当時に，この普及の早さは驚くべきものである。当初一部特権階級の嗜好品だったたばこが庶民の愛用する日用品となるまでには，当時のたばこの高価さ，効用の不可思議さ，火を必要とする特性などのために，どの国でも時の権力者の宗教的・政治的な激しい圧迫が残酷な刑罰を伴って加えられた。しかしそのたびに民衆の反抗が強まり，かえって専制政治に対抗する自由のシンボルとして喫煙の普及を促す結果となったので，為政者たちは，たばこの消費に課税して国の有力な財源とする方向に転ずることにより，国民一般の喫煙を是認するようになった。歴史上たばこぎらいの人物としては，ローマ教王ウルバヌス８世，フランスのルイ14世，イギリスのジェームズ１世らが有名であり，愛煙家としては，ウォルター-ローリーのほかイギリスのジョージ４世，プロシアのフリードリヒ１世・ウィルヘルム１世，ロシアのピョートル大帝，清の康熙帝(こうきてい)らが知られている。18世紀にはたばこは嗜好商品の地位を確立し，コーヒー・紅茶とともに社交やいこいの場に欠かせぬものとなった。当時宮廷などでは婦人も含めてかぎたばこが用いられ，民間ではパイプたばこやかみたばこが好まれたが，ナポレオン戦争を経て葉巻きたばこがかぎたばこに取って代わり，また1832年喫煙につきもののマッチが発明され，次いでクリミア戦争(1853～1856)の兵士により，両切りたばこが普及するに至って，喫煙の大衆化がほぼ完成した。わが国への伝播は早く，16世紀後半にポルトガル人の手からたばこがもたらされてから，喫煙の風習は〈タバコ〉〈キセル〉〈ラオ〉などの外来語とともに自然に受け入れられ，17世紀初めには葉たばこが全国で栽培され，子どもまで喫煙していたという。伝来当初のたばこは簡単な葉巻きの一種であったようで，羅山(らざん)文集(1659)には〈乾燥してその葉を割りて紙に貼(は)り，これを巻きて火を吹きその煙を吸う〉とあり，火のついた方を口へ向けて吹いてから煙を吸うという興味ある喫煙法も紹介されている。これらのたばこは一服で終わるもので薬用として用いられたとみられ，やがて喫煙用としてはキセルを用いる刻みたばこが普及していった。禁煙令は喫煙の広まり始めた文禄(ぶんろく)年間(1592～1595)に早くも出されたともいわれているが，効果のなかったことは，当時の落首に〈きかぬものたばこの法度(はっと)・銭法度・玉のみこしにげんたくの医者〉，とあったのをみてもわかる。江戸時代にはいって，幕府はぜいたくの禁止と火災予防のため，17世紀初め(慶長年間)禁煙令を発したが，時代が下るにつれ禁制は自然に解かれ，ヨーロッパなどにみるような過酷な圧迫の歴史はない。むしろ葉たばこは各藩の特産物として栽培が奨励され，幕府も８代将軍徳川吉宗(よしむね)に至り殖産奨励の見地から振興策をとったので，わが国の葉たばこは，品種も柔らかな味で香気のあるものに改良が進み，国府(鹿児島)・水府(水戸(みと))など往年の名産地が生まれた。わが国独特の〈日本細刻み〉はこのようにして育った〈在来種〉葉たばこを原料として発達し，酒や茶と結びついて庶民の社交風習にとけこみ，〈一服〉〈たばこ〉の語はいこいの代名詞となった。婦人の喫煙も明治年間までごく普通で〈煙草のまぬ女と精進する出家は稀(まれ)〉(江島屋其磧(きせき)《世間娘気質(かたぎ)》)といわれるように日常生活から離すことのできないものであった。

〈喫煙具〉 たばこの喫煙具は，古来趣味的な美術品が多い。ヨーロッパの喫煙具とし

ては，フランス宮廷から各国の上流社会に広まったかぎたばこ入れ〈スナフ-ボックス〉，陶器，海泡(かいほう)石(メアシアウム)，木理の美しいブライア(地中海地方産の白ヒースの根)などでつくられたパイプが代表的である。ペルシアで発明された〈水ぎせる〉は煙を冷水に通して喫味を和らげるもので，中国に伝来してから芸術品の域に達した。わが国の喫煙具は南蛮人がもたらしたといわれる竹製の〈きせる〉(カンボジア語と推定されている)に始まり，金属ぎせるに発展し，刻みたばこの袋ときせる入れをセットにした〈たばこ入れ〉や炭火・灰を納める〈たばこ盆〉が高度の手工芸術を駆使した美術品としてつくりだされた。今日の紙巻きたばこ用には，やに止めに用いる〈シガレット-ホルダー〉があるが，フィルター付きたばこのフィルターも同種の効用をもつ。

《喫煙と人体》 たばこの煙には，ニコチンを主とするアルカロイド類・一酸化炭素・多核炭化水素類・アルデヒド類・有機酸類・フェノール類・水蒸気など多くの成分が含まれる。これらのうちニコチン・有機酸類などからなるタールは，全煙成分重量の数パーセントであるが，その内容成分が非常に複雑であるため，生成機構も十分解明されていない。喫煙の満足感は，薬理的には煙中の微量のニコチン(各国の最も消費量の多い銘柄で1本あたり1.0～2.0mg)が自律神経と中枢神経を刺激し，全身の緊張感あるいは回復感を覚えさせることにより生ずるとされる。しかし，いこい・楽しみ・社交・ストレス緩和など喫煙のもつ多くの効用は，人間生活の心理的・生理的・社会的なさまざまの面とのかかわりあいの中で生ずる複合的なものであって，一義的な要因では理解できない。喫煙の習慣性は，主としてニコチンの薬理作用に伴う快感により形成されると考えられるが，それがニコチンに対する身体的依存の状態――慢性中毒にまでなる危険性はきわめて少なく，また禁断現象*のもつ反社会性のない点で，アルコールや麻薬と区別される。喫煙と健康との関係については，イギリス内科医師会(1962)・アメリカ公衆衛生局(1964)などの報告書があり，肺癌(はいがん)患者の多いアメリカを中心に喫煙と肺癌や呼吸器・循環器系疾患との関連づけを試みる論議や研究例がみられる。しかし，統計・病理・風土・体質などの見地から，これらの主張に対する反対論もある。〔高村健一郎〕

ている。1824年にイギリスによるナタール州の植民根拠地として起こり，植民地総督サー-ベンジャミン-ダーバンの名をとって命名され，1834年イギリスの領有が宣言された。住民にはインド人・マレー人が多く，海岸は保養地として利用されている。〔小栗　宏〕

たばんるい【多板類】 軟体動物・ヒザラガイ類。体は楕円(だえん)形で背面は多少ふくらみ，8枚の殻(から)が前後に並び，これを縁どって肉帯がある。腹面は平らで広い足があり，前方に頭があるが目も触角もなく，口の中には歯舌がある。また足のまわりの外套腔(がいとうこう)内にえらがある。世界に約1,000種，日本に約100種があり，多くは浅海の岩礫(がんれき)底にすみ，海藻(かいそう)などを食べるが原始的なサメハダヒザラガイ類は深海にもすむ。ハバガセは前部の肉帯と触手突起で小形の虫を捕えて食べる。〔波部忠重〕

たび【足袋】 防寒・礼装に用いる和服のはきもの。単皮が語源で，近世の武士や財力ある町人などが旅に出るとき，足首から先の足を包んで保護したもの。古くはシカのなめし皮でつくられ，筒は長く脛(すね)の中央まであり，小ひもをつけてあきを結び止めていた。原形は公家(くげ)の襪(しとうず)で，はじめは指またが分かれていなかったが，のち親指と他の4本の指との2部分に分けるようになった。江戸時代には紫・黄などに染めた皮革や，綿が用いられるようになった。江戸末期からは礼装にはもめんの白たび，労働やふだん用には紺たびと固定し，ひもに代わってこはぜを用いるようになった。

たびの大きさは底の長さでいい，一文銭の直径を一文として文数で表わす。しかし1959年(昭和34)メートル法実施以後はcmで表示される。こはぜは現在2～5枚のものがあり，現今女性には四つこはぜが好まれ，男性は三つこはぜが普通である。底に使う素材は雲斎織という厚地もめんのうね織りで，地方ではあらいうね織りが石底とよばれて長く使われていた。直線で構成される和服の中で，曲線を用いているのが特色である。〔堀越すみ〕

だび【荼毘】 梵語(ぼんご)Jhāpita(ジャーピタ)の音写語で原意は焚焼(ふんしょう)。死体を焼いて骨を収蔵する葬法，すなわち火葬のこと。インドでは古く仏教以前に行なわれ，のち広く仏教徒の間で行なわれるようになったが，仏教の伝播(でんぱ)に従い，中国・日本にもこの葬法が取り入れられ，民間の葬送儀礼と結びついて慣習化した。

ダビ［Eugène Dabit］(1898～1936) フランスの小説家。一般庶民の生活を飾りけのない文体で描いた，いわゆるポピュリスム(民衆主義)の作家。有名な《北ホテル*》のほか，《オアシス荘》《島》《緑の地帯》などの小説，グレコ・ベラスケスらに関する美術論がある。

ダービー［Derby］ イギリスで最も人気を集め，また賞金の高い競馬。1780年に第12代ダービー伯爵らによって創設された。以後毎年，1度の中止もなくロンドン近くのエプサム競馬場で行なわれている。ただし，第1次・第2次世界大戦中は，ニューマーケット競馬場で代行された。4歳馬によって争われるいわゆる〈クラシック競走〉の一つであるが，距離・負担重量などの条件は，これまで数度にわたり改正され，現在は距離1.5マイル(約2,400m)，負担重量(牡(おす)9ストーン＝57.2kg，牝(めす)8ストーン9ポンド＝54.9kg)になっている。たとえば，フランスのジョケ-クリューブ賞や，日本の東京優駿(ゆうしゅん)競走などのように，現在多くの国でイギリスのダービーに範をとった競馬を実施しているが，ダービーと名のりながら出走条件がイギリスの場合とはかなり異なるものもあり(たとえばアメリカのケンタッキー-ダービー)，また，その国における最高のレースとは必ずしもいえないところもある。➔競馬　〔原田俊治〕

ダービー［Derby］ イギリス，イングランド中部の工業都市。人口21万8,000(1974)。ダービー州の主都で，炭田地帯にあり，鉄道車両・自動車・電気器具・陶器，それに1715年にイングランドではじめての工場が建てられた絹織物など，工業が盛んである。工業大学・工芸学校がある。また13世紀建造の礼拝堂や16世紀建造の大寺院など古い建造物が多い。北郊のレンズ製造で有名なリトルチェスターは古代ローマの基地であった。〔梶川勇作〕

ダービー［Darby］ イギリスの製鉄業者一家。

[1] 1世(1677～1717) イギリスの製鉄家ダービー家の祖。製粉工から身を起こし，鋳鉄工場を経営。1708年砂型鋳物製造の特許をとり，コールブルックデルに鋳鉄工場を建設。木炭の不足から石炭使用の鉄鉱石精練を研究し1713年に成功した。

[2] 2世(1711～1763) 19歳で父の事業を継ぐ。石炭製鉄法を研究し，1735年石炭をコークス化して燃料とする製鉄法を発明。この方法は，やがて木炭不足に悩むイギリス製鉄業に爆発的に広まり，産業革命進展のばねとなった。

[3] 3世(1750～1791) 父の事業を18歳で継ぎ，さらに発展させるとともにコールブルックデルのセバーン川に世界最初の鉄橋をかけ，鉄材の新用途を開いた。この鉄橋は今日なお使用されている。〔加藤邦興〕

タピオカ［tapioca］ キャッサバ*の根から製造したデンプン。インドネシア・タイ・ブラジルなどで生産され，安価で比較的良質である。外国では水あめ・ブドウ糖の原料や糊料(こりょう)として使用される。わが国の輸入量はわずかで，おもに合成繊維・毛織物の糊料や化工デンプンの原料となる。

タヒチ(島) [Tahiti] 南太平洋中央部，ソシエテ諸島の中の主島。タヒチヌイ(大タヒチ)と狭いタラバオ地峡で結ばれるタヤラプ(小タヒチ)半島からなる。面積1,854km²。フランス領。火山島で，最高峰オロヘナ山(2,200m)をはじめ高度1,200mをこえる山が六つある。最大の町は，北西岸にあるパペート。原住民はポリネシア人で，ほかにフランス人・中国人なども居住している。植物・鳥・こん虫，浅海の魚など美しい生物と風景で知られ，多くの芸術家の心をひきつけてきた。中でもゴーガン*が画家としての生活の大半をこの島で過ごしたことは有名で，傑作《タヒチの女》などを残した。耕地は海岸の平野部を十分に活用してココヤシ・サトウキビ・バニラなどを栽培している。1606年スペインの航海者クエロが発見し，1769年にはイギリスの航海者ジェームズ-クック*が訪れた。1842年にフランスの保護国，1880年植民地となり，現在は海外県になっている。 〔大崎　晃〕

ダビッド [Jacques Louis David] (1748～1825) フランスの画家。フランス古典主義の創始者であり代表者でもある。ローマ遊学後発表した《ホラティウス兄弟の誓い》は，古典主義の理想を形成・内容ともに完全に表現した最初の大作。フランス革命後ナポレオンの宮廷画家となり，画壇に君臨した。しかし，ナポレオン失脚後はブリュッセルに亡命し，そこで没した。端正で秩序だった構図は，一面，情感に欠ける点もある。代表作には《サビニの女》《マーラーの死》《ナポレオンの戴冠式(たいかんしき)》などがある。門下にはグロ*・アングル*らがいる。 〔島田紀夫〕

ダビデ [David] (?～BC960) イスラエル王国第2代の王。在位BC1010ごろ～BC960年。牧童の出身。初代サウル王の部下としてペリシテ人と戦い功があった。のち王にねたまれて亡命したこともあったが，やがてエルサレムを都としイスラエルを統一した。在位中はダマスクスから紅海まで版図を治め，次のソロモン王とともにヘブライの最盛期を現出した。キリストの母マリアの夫ヨセフの祖先といわれる。また，世界ではじめて人口調査をしたともいわれる。竪琴(たてごと)の名手で詩人でもあり，《旧約聖書》〈詩編〉のある部分の作者ともいわれている。 〔高山高雄〕

たびどり 【旅鳥】 〈りょちょう〉とも読む。ある地域にみられる鳥のうちで，春と秋の渡りの時期にだけその地域に出現し，その地域では繁殖も越冬もしない種類をいう。したがって，問題にする地域の広さによって，同一の種が旅鳥とよばれたりよばれなかったりする。たとえば，キビタキは東京の中心部では旅鳥であるが，東京都全体にとっては夏鳥であり，コムクドリは九州では旅鳥だが，日本全体にとっては夏鳥ということになる。 〔浦本昌紀〕



タヒチ島　タヒチ島の首都パペートは東ポリネシア全域の中心で，フランスの政庁があり，町にはフランスの水兵を多く見かける



タヒバリ

たびねずみ 【旅鼠】 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・キヌゲネズミ科のレミングの別名で，周期的に大増殖し，大群をなして移動する奇習があるのでこの名がある。➔レミング

たひばり 【田鷚・田雲雀】 鳥類・セキレイ科。全体に黄緑かっ色のじみな羽毛の小鳥で，スズメよりも少し大きい。冬鳥として本州以南で越冬し，各地の海岸・川原・畑などの地上で採食し，数羽ないし100羽の群になっている。飛び立つときに鋭い声で〈ピピピ〉と鳴く。春，北方に渡るころには，胸は赤みをおびて美しくなる。

たびらこ 【田平子】 ムラサキ科のキュウリグサ，シソ科のホトケノザ*，キク科のコオニタビラコ*の別名。春の七草のタビラコ(ホトケノザ)とはコオニタビラコをさす。キュウリグサは野原や路傍に多く見られる越年草で，3～5月に長さ15～20cmの花茎を根出葉の間より出し，瑠璃(るり)色の小さな五弁花を総状につける。

ターヒルちょう 【ターヒル朝】 アッバス朝*の部将ターヒル(アラブ系)が，イランのホラーサーン地方の大守に任ぜられてから5代50年間，事実上独立の体制をとった王朝(820～870)。この王朝は短命に終わったが，イランの政治的復興と並んで，近世ペルシア語による民族文学発生の端緒となったという意味で重要である。

タービン [turbine] 蒸気タービン*やガスタービン*において，蒸気あるいはガスを受けて仕事をする構成部品の名称。多数の羽根を植えた円板をもつ回転羽根車と，それを納めるケーシングとからなる。大容量のタービンでは数段の羽根車をもち，これを直列に1本の回転軸で組み合わせている。蒸気またはガスは，タービン入り口のノズルに導かれ，そこで膨張して第1段の羽根車に作用し，次いで再びノズルまたは静翼を通して第2段の羽根車に導かれ，最終段の羽根車を駆動してから外部に排出される。 〔斎藤　孟〕

ダ-ビンチ ⇨レオナルド-ダ-ビンチ

タービンはつでんき 【タービン発電機】 ⇨発電機

タブー [taboo] ポリネシアの土語に由来し，一般に道徳的・儀礼的な規範や非合理的要素に基づく慣行によって禁じられている諸行為をさす。禁じられている対象や行為がある種の超自然的性格を有するという観念と，その禁を犯せば狩猟・漁労の失敗，病気や近親者の死など，なんらかの超自然的な罰が加えられるという観念とを含んでいる。それは二つの相反する性格をもつ。一つは神聖性でポリネシアの王の頭は聖なるものとしてタブーとされるような例であり，他は不浄性で月経中の女性に触れることがタブーとされるような例である。タブーは社会秩序の維持・存続に重要な意味をもっており，秩序を乱すことの危険の認知と強く結びついているとされている。なお，一般には禁忌全体をさすことがある。 〔佐々木宏幹〕

タフタ [taffeta] 薄地で密な平織の絹織物。よこ方向に畝(うね)が現われている。白・無地が多いが，縞(しま)や格子(こうし)もある。また，絹のほかレーヨン・アセテートなどで同様に織ったものもある。ドレス・ブラウス・リボンなどに用いられる。

タフト [William Howard Taft] (1857～1930) アメリカの政治家。第27代大統領。在任1909～1913年。エール大学，シンシナチ法律学校で法律を学び，シンシナチ高等裁判所検事次長・シンシナチ法科大学教授を歴任ののち，1901年セオドア-ルーズベルト*によりフィリピン総督に任命された。さらに陸軍長官を経て，1908年，ルーズベルトの推薦により共和党から大統領に当選。任期中はルーズベルトの進歩的政策を継承し，トラスト解体，鉄道規制に尽力した。しかし，任期後半には共和党保守派に接近し，金融資本と密着してドル外交*を推進した。1912年の選挙にも出馬したが，革新派の分裂により民主党のウィルソン*に敗北した。第1次世界大戦後，最高裁判所長官などをつとめた。 〔折井一彦〕

タフト [Robert Alphonso Taft] (1889～1953) アメリカの政治家。タフト大統領の次男。エール大学・ハーバード法

律学校を卒業。1921年オハイオ州議会議員となり，1939年からは上院議員となった。共和党保守派の代表として，反トラスト法の修正，労働組合の規制などを主唱し，ルーズベルトのニューディール*，トルーマンのフェアディール*を批判した。特に1947年に提案した労使関係法(タフト-ハートレー法*)は有名である。〔折井一彦〕

タフト-ハートレーほう【タフト-ハートレー法】 1947年アメリカで制定された労働組合法。正称は〈労使関係調整法第1〉であるが，提出者のタフト上院議員とハートレー下院議員の名をとってタフト-ハートレー法とよんでいる。

労働者の権利を広範に認めたワグナー法*を修正して労働運動に対する過保護を是正し，労使双方の法律上の責任を平等にすることを目的とした。①クローズドショップ*の禁止，②政府職員のストライキ*の禁止，③国家緊急事態における大規模なストライキを80日間で停止するという差し止め命令，④労働者の不当労働行為*の規定，⑤非共産党宣誓などを定めている。〔黒瀬信子〕

ダフニス ［Daphnis］ ギリシア神話のシチリアの牧童。ヘルメスの子という。一説によれば，あるニンフに思いを寄せられ，その愛に答えなかったので，あるいは愛を誓いながら不実であったので盲にされ，それ以後自分の不運を嘆き，悲しい歌を歌って日を送ったという。これが牧歌のはじまりという。また一説によれば，彼はだれをも愛そうとしなかったので，愛の女神アプロディテ*の怒りに触れ，罰として報われぬ愛に身を焦がして死んだという。なおローマ時代の牧歌的恋物語《ダフニスとクロエ》の主人公は神話中の人物ではなく，舞台もレスボス島になっている。〔左中庸博〕

ダフネ ［Daphne］ ギリシア神話のニンフ*のひとり。川の神ラドン(あるいはペネイオス)の娘。アポロンが彼女を恋し，彼女を追って捕えようとしたとき，その声を聞いた父は彼女をゲッケイジュに変えたという。以来，この木はアポロンの木となった。また一説には，アポロンと人間のレウキッポスが彼女を恋したが，女装して近づいたレウキッポスが彼女に愛されたため，アポロンがねたんで彼に沐浴(もくよく)させ，その正体をあばき，また彼女を捕えようと迫ったが，ゼウスが彼女をゲッケイジュに変身させたともいう。〔松田　治〕

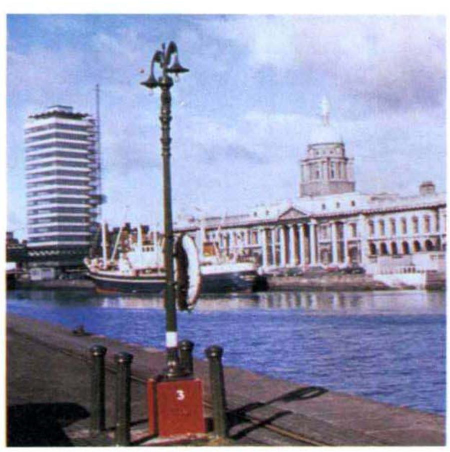
たぶのき 双子葉植物・クスノキ科。イヌグスともいう。暖地性の常緑高木で，高さ12～15mに達する。葉は倒卵形で長さ8～15cm，幅3～7cm，厚い葉の表面には光沢があり，裏面は白っぽい。花は黄緑色の六弁花で，赤色の若葉が出るころ咲きだす。果実は球形で，翌年黒紫色に熟す。樹皮は粘液質を多量に含み，線香をつくる際の結合剤として用いられる。

タブラ-バヤ ［tabla-baya］ 北インドの芸術音楽で使用される膜鳴楽器*。大小二つの椀型(わんがた)太鼓を1人の奏者が指と手のひらで打つ。打法のそれぞれに擬音的名称がつけられ，これらの組み合わせによってリズム理論ターラ*に則したリズム型を演奏する。皮はひもで締めてあり，音高・音色を調節することができる。


ダフネ　アポロンに追われ月桂樹に変身するダフネ　ポライウォロ《ダフネとアポロン》ナショナル-ギャラリー蔵


タブノキ


タブラ-バヤ　武蔵野音楽大学楽器博物館蔵


ダブリン　正面の建物はリフィー川河口の港に面して立つ税関。左端に見える高層ビルは労働組合会館

タブリーズ ［Tabriz］ イラン北西部，首都テヘランの北西530kmにあるイラン第3の都市。人口51万(1973推)。華麗な青のモスクで知られ，古代からの商業の中心地で，イランからトルコ・ソ連方面への交通の要地である。ペンキ・マッチ・せっけんなどの工場がある。また，果実の産でも知られる。

ダブリューエイチオー ［WHO］ ⇨世界保健機関

ダブリューエムオー ［WMO］ ⇨世界気象機関

ダブリン ［Dublin］ アイルランド共和国(エール)の首都。アイルランド島の東部，アイリッシュ海に面する港湾都市。人口57万(1976推)。酪農製品，17世紀の移民者によって発達したポプリン織物，ビール・ウイスキー・菓子などを輸出し，石炭・木材・穀物・機械類を輸入する。政府諸機関や銀行・保険会社のほか，国立図書館・国立博物館・国立美術館・ダブリン大学・アイルランド大学などがある。9世紀にスカンジナビア人が城塞(じょうさい)を建設したのが起源で，12世紀後半にノルマン人に占領された。16～17世紀に市街は拡大され，また港湾が建設されて，18世紀後半にはイギリス帝国第2の都市となった。作家のスイフト・オスカー-ワイルド・ジョイス・バーナード-ショー・イエイツ・ベケットらの生地である。〔梶川勇作〕

ダブルベース ⇨コントラバス

タブレット ［tablet］ 列車運転の際，駅で機関士に渡す通票。単線区間では，列車の衝突を防ぎ安全・確実に運転するために，駅と駅との間に一列車しか走らせない。これを閉塞(へいそく)式運転といい，その一つである通票閉塞式運転にタブレットが用いられる。機関士は必ずタブレットを所持して運転する。タブレットは，直径10cmほどの金属板でまん中にあけられた四角・三角・円・楕円(だえん)の穴で4通りに区分され，それぞれの区間の種類が定められている。〔宍塚正幸〕

タブロー ［tableau］ カンバスや板に描かれ，それ自体が独立に完成されている絵画作品。したがって下絵や習作，壁画や装飾画とは区別される。ラテン語のtabula(板)から出たことばだという。

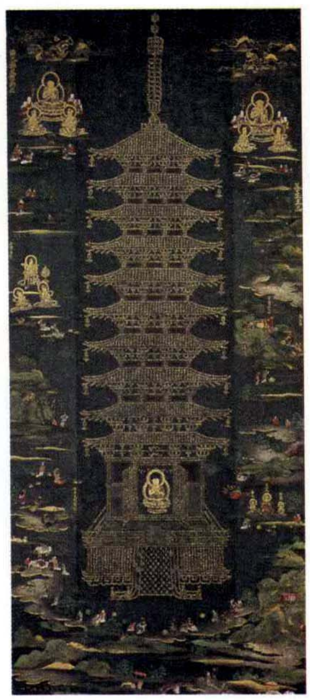
タブロイド-ペーパー ［tabloid paper］ タブロイド判(普通新聞の半ページ大)の日刊新聞で，写真を豊富に入れた紙面を特色とする。《デーリー-ミラー*》(1903年創刊)がそのはじまりで，《デーリー-ニューズ》(1919年創刊)は最も典型的なものである。日本では第2次世界大戦後《サン写真新聞》が特色を発揮したが，永続しなかった。現在は《夕刊フジ》が独特のカラーを打ち出している。

タペストリー ［tapestry］ 主として壁掛けに使用する絵画的な装飾用織物をさし，タピスリーともいう。つくり方には手織と機械織の２種類があり，手織は本格的な綴(つづ)れ手法によって経糸(たていと)に緯糸(ぬきいと)を編み込む工人の手工業であり，機械織の場合はパターンによる平織手法である。わが国の綴織*は手織の種類に属している。手織は，ふつう経糸に太めの麻糸または木綿糸(もめんいと)を用い，それに緯糸として羊毛の色糸を織り込み，絵画的な文様をつくり出す。古くはエジプトのコプト織*やペルー・インカの綴織がある。土地により経糸に相違があるが，絵画を織り出す多彩の緯糸は等しく羊毛が使われている。古代のものはすべてが手織であるが，その装飾文様は比較的に色彩の変化に乏しく，文様の表現が図案的であって生硬な感を免れない。ヨーロッパにおけるタペストリーの起源は東方諸国に比べておそく，ようやく12世紀になってフランスおよびフランドル地方に現われた。特にフランドル地方のアラスはタペストリー製作の最初の地として知られ，そのために広くタペストリーをアラスとよんだ時代がある。現存するヨーロッパの初期の例としては，ドイツのハルベルシュタットの寺院にある《三天使を饗応(きょうおう)するアブラハムの図》およびフランスの織物美術館所蔵のド-バンドールとバタイユのふたりの工匠による《黙示録の中のエリコの陥落図》(1381)などが代表的な作品である。重厚かつ抽象的なゴシック時代の作品を経てルネサンス期に至ると，文様の織り方は著しく写実的になり，色彩もそれにつれて鮮明さ・繊細さを加え美術的な効果が高められるようになった。現在，フランスのクリュニーの美術館にあるユニコルン(一角獣)の一連の作品(1490～1500)は，その最も顕著な例である。17世紀に至ってフランスのゴブランのタペストリーは，国王ルイ14世の支援を得て，当時のヨーロッパにおける業界を風靡(ふうび)した感がある。その優秀な作品の多くはベルサイユ宮に収められている。これらのタペストリーは，美術的には最高水準をいくものであるが，惜しむらくはあまりにも文様の表現と工作技術が写実絵画的になりすぎ，タペストリーというものの本質と，それからにじみ出る織物のよき特異性が多分に失われた感がある。現代においては，手織製品は高価につくためか，一般には量産の可能な機械織が普及し，各国で製作されている。〔市川　清〕

ダベーヌ ［Casimir Joseph Davaine］(1812～1882) フランスの医学者，微生物学者。サンタマンラゾに生まれ，パリに学ぶ。炭疽病(たんそびょう)菌発見の歴史で，コッホ*に先だち重要な役割を演じた。特に実験動物を使い，血液接種，血液の濾過(ろか)分画などきわめて近代的な手法を用いて研究を進めたことが評価されている。



タペストリー 《貴婦人と一角獣》 フランス中世　クリュニー美術館



多宝塔 《最勝王経十界宝塔曼荼羅》 中尊寺蔵



ターボプロップ機 MU-２ 双発の国産多用途機

タホ(川) ［Tajo］ イベリア半島最大の川。全長約1,000km。スペイン東部のウニベルサレス山地に発して西流し，ポルトガルにはいってリスボンで大西洋に注ぐ。従来農業用水と舟運に使われていたが，近年電源開発が始められている。なお，ポルトガルではテジョ川とよぶ。

たぼ 【髱】 日本髪の部分名称。後頭部から耳裏に突き出した髪の部分で，関西では〈つと〉とよぶ。江戸時代前期に始まり，寛文(1661～1672)ごろから元禄(げんろく)を経てその形は多くの変化をみせ，宝暦(1751～1763)ごろに最も発達した。自然のたぼからだんだん技巧が加わり，〈たぼ刺し〉という型を入れてたぼを長く突き出すのが流行した。〈せきれいづと〉〈かもめづと〉などの名称がある。

たほうとう 【多宝塔】 多宝仏*を安置した塔のことで，塔婆の一種。基壇の上に方形と円壔(えんとう)形の２種の屋を構成し，頂に相輪を設けた塔である。《法華経(ほけきょう)》の〈見宝塔品〉によれば，ブッダが〈法華経〉を説くときに，その前に高さ500由旬(ゆじゅん)(古代インドの長さの単位で，１由旬は牛車が１日に進む距離)の七宝塔が出現し，塔中の多宝仏が，釈迦仏(しゃかぶつ)に半座を譲って塔中に座せしめたという説に由来する。中国でも，法華信仰が広まるに従って，釈迦・多宝の二仏並座の相を刻画して塔中に安置する習慣が生じた。日本では一般に覆鉢(ふくばち)形の二重の宝塔をも多宝塔といっている。〔塚本啓祥〕

たほうぶつ 【多宝仏】 梵語(ぼんご) Prabhūtaratna(プラブータラトナ)の訳で，宝勝如来ともいう。《法華経(ほけきょう)》の〈見宝塔品〉によれば，東方宝浄世界の教主で，かつて菩薩(ぼさつ)であったとき，成仏のあとには法華経説法の場に，その真実を証明するために涌出(ゆうしゅつ)するとの本願をなした。そして釈迦仏(しゃかぶつ)が法華経を説くにあたって，多宝仏はそのまえに七宝塔を涌出して，釈迦仏説法の真実を証明し，またその説法を聞くために来たとて，釈迦仏に半座を分かって塔中に座せしめたという。〔塚本啓祥〕

ターボシャフト-エンジン ［turbo shaft engine］ ターボプロップ-エンジンと構造・作動はまったく同様であるが，プロペラを駆動するのでなく，ヘリコプターのローターを駆動するようにつくられた航空原動機の一種。➔ジェット-エンジン

ダボス ［Davos］ スイス東部にある観光・保養地。人口11,400(1965)。標高約1,600ｍのアルプス山中に位置し，空気が澄み，冬も日照が強く，結核療養地，冬季スポーツの中心地として有名。スイス最大のスケート場があり，ホテルや山小屋も多く，訪れる観光客が多い。市公会堂は16世紀に建造されたものである。

だぼはぜ 【だぼ鯊】 ⇨チチブ

ターボプロップき 【ターボプロップ機】 ターボプロップ-エンジンとプロペラとの組み合わせによって推進される飛行機。中形の旅客機として1940年代の後半から開発され，おもに中短距離の旅客および貨物輸送機として使用された。わが国でも日本航空機製造でYS－11が生産されているほか，ビッカース社のバイカウント，フォッカー社

のフレンドシップなどが多く使用された。しかしこの機種は，より高速のターボファン輸送機にとって代わられよう。ターボプロップ機は，より小形のビジネス機およびプロペラ後流を利用して短距離離着陸機として多く使用される見込みであり，わが国でも三菱（みつびし）重工業がMU-2を開発して，海外にも輸出している。　〔中口　博〕

ダホメ（共和国）　⇨ダオメ共和国

たま　【多磨】　北原白秋主宰の短歌結社〈多磨短歌会〉の機関誌。1935年（昭和10）6月創刊。アララギ派の写実主義に対抗して，《新古今和歌集》の美意識，芭蕉（ばしょう）以降の俳諧（はいかい）の直感力，明治末期の浪漫主義など，日本の伝統的象徴詩の系譜の上に新しいものを築こうとした。木俣（きまた）修・中村正爾（しょうじ）らが出たが，1952年解散。

たま　【多摩（市）】　東京都ほぼ中央部の市。人口90,000。もと南多摩郡多摩町が1971年（昭和46）11月，単独で市制を施行。南北を多摩丘陵と多摩川にはさまれた住宅都市で，産業三大別人口比は1：33：66。水田が開け，ナシの栽培が行なわれているが，最近は住宅地化が進み，特に1971年からは多摩ニュータウンが開設して，今後の市勢に大きな変化が予測される。北西端を京王電鉄線が横切り，聖蹟（せいせき）桜ケ丘駅があるが，この付近は明治天皇がその自然を愛してたびたび行幸したところで，聖蹟記念館がある。

たまあじさい　【玉紫陽花】　双子葉植物・ユキノシタ科。山地の日あたりのよい場所にはえる落葉低木で，高さ1～2m。茎を基部から多数出す。枝は太く，斜めに切ると髄が階段状になっている。葉は楕円（だえん）形ないし長楕円形で，長さ10～20cm，幅5～10cm，先がとがり細かい鋸歯（きょし）がある。両面に毛があるのでざらざらする。花は7～9月に枝の先につくが，つぼみの時期に包に包まれて丸くなっているのが特徴である。花序の周辺の修飾花には3～5枚のがく片がある。中央部の両性花は小さく目だたないが，花弁4～5枚，おしべ8～10本，花柱2本がある。

たまいと　【玉糸】　玉繭（2匹のカイコのつくった繭）から製糸した生糸。2本の絹糸がもつれあってつくられた繭であるため，製糸した生糸に節があることが特徴。普通の生糸より繊度も太く光沢も劣るが，これで織ると節のある絹織物ができるため，趣味性が豊かな衣料となる。

たまおしこがね　【玉押黄金】　⇨スカラベ

たまかつま　【玉勝間】　本居宣長（もとおりのりなが）の随筆。15巻。1794～1812年（寛政6～文化9）刊。古書の抜粋，古歌の解説，地誌・方言の聞き書き，古語の考証など広範囲にわたる事項を，平明達意の擬古文で書きつづったもの。宣長の学殖の広さ・深さ，その思想・人生観・学究的態度などをうかがい知ることができる。書名の玉勝間は，美しい籠（かご）の意。


タマアジサイ


多摩川　川崎市登戸（川の左側）付近上空より多摩川の上流を望む。右側は東京都狛江市で，手前に小田急電鉄が和泉多摩川～登戸間を結び，その向こうに多摩水道橋がかかる


タマキビガイ

たまがわ　【多摩川】　山梨県北都留郡大菩薩嶺（だいぼさつれい）北面に源を発し，武蔵野（むさしの）台地と多摩丘陵の間をほぼ南東流して，調布市付近からは東京都と神奈川県の境をなし，東京湾へ注ぐ川。長さ128km。上流部は奥多摩とよばれて，支流の日原（にっぱら）川・秋川・浅川などと渓谷美（けいこくび）で知られる。また，東京都の上水道の水源となる奥多摩湖がある。かつてアユのつり場として知られた清流が，最近は中下流流域に工場地帯が広がり，水質の汚染が著しい。河口付近は六郷川とよばれ，三角州が発達し，埋め立て工事が進められている。河口の北岸は東京国際空港，南岸は川崎市の工業地帯である。　〔長津一郎〕

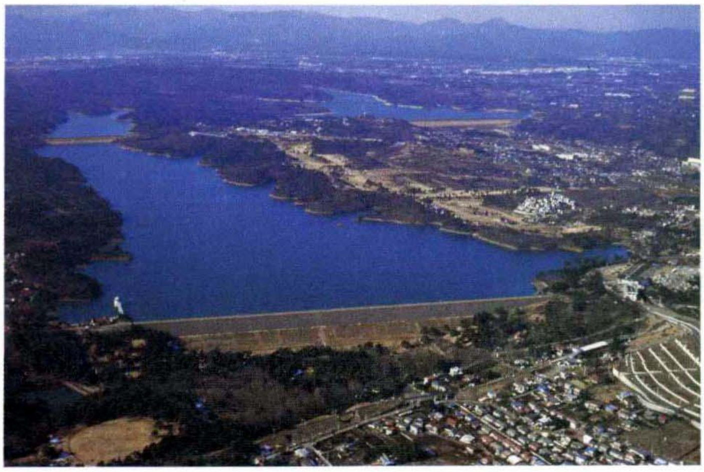
たまがわおんせん　【玉川温泉】　秋田県仙北（せんぼく）郡田沢湖町にある温泉。玉川の上流，八幡平（はちまんたい）の西方に位置し，泉温は42～98℃，泉質は酸性ミョウバン泉で，リウマチ・皮膚病などにきくといわれる。ラジウム放射能を含む北投石（天然記念物）を産出する。花輪線花輪駅，または八幡平駅からバスが通じ，十和田八幡平国立公園の観光基地となる。

たまがわじょうすい　【玉川上水】　江戸時代に多摩川の水を取水して四谷（よつや）（東京都）へ引いた上水路で，神田上水・千川上水とともに江戸三上水に数えられた。取水口は羽村堰（ぜき）（東京都西多摩郡羽村町）で，武蔵野（むさしの）台地を東へ48km導き，四谷大木戸まで通水したもので当時の町奉行（まちぶぎょう）神尾元勝の命により，町人の庄右衛門（しょうえもん）・清右衛門の兄弟が，1654年（承応3），わずか7か月足らずで築造した。総工費は9,000両といわれる。兄弟はその功により玉川の姓を許された。上水は四谷大木戸から四谷見付まで地下樋（とい）で通じ，そこから2分されて江戸城と赤坂・虎ノ門（とらのもん）方面に送られ，その後300年にわたって江戸と東京の上水源として利用された。また，この上水からはその後野火止・千川・品川・烏山（からすやま）・三田・青山などの多くの分水路が縦横に引かれて，水不足に悩んでいた武蔵野台地の新田開発にも大きな役割を果たした。　〔竹内淳彦〕

たまきびがい　【玉黍貝】　軟体動物・腹足類・タマキビガイ科。殻高（かくこう）1.4cm，殻径1.7cmほどの巻き貝。殻表には太い螺肋（らろく）があり，体層を巡る3本が特に明らかで，通常灰黒色に黄白斑（おうはくはん）がある。日本各地の沿岸の潮間帯の岩礫（がんれき）の上に群がってすみ，満潮や干潮時には静止しているが，波しぶきをかぶるときに活動して岩の上の小さい餌（え）をあさる。乾燥に対して強く，45℃の高温に耐える。産卵期は春で，プランクトン性のヘルメット形卵嚢（らんのう）を海中に放出する。卵嚢内には通常1卵を入れる。

暖流域の外洋に面する岩礁にはアラレタマキビガイやイボタマキビガイがすみ，前者は灰青色で多くの顆粒（かりゅう）状の螺肋があり，後者は白色の大きいいぼ列を巡らす。いずれもタマキビガイより高潮帯にすむ。寒流域には，黒色でときに白色帯のあるクロタマキビガイや大形のエゾタマキビガイがすむ。　〔波部忠重〕

たまきゅうりょう　【多摩丘陵】　東京都南部から神奈川県北部へかけて広がる丘陵。北は多摩川の低地，西は境川の流路で境されるほぼ半月形の領域で，南端は三浦半島の丘陵地に接する。関東ローム層におおわ



多摩湖　手前が多摩湖で，遠景右は狭山湖。狭山丘陵の凹凸の複雑なかつての等高線がそのまま湖岸線となっている

れ，小河川によって侵食され，起伏の多い複雑な地形を示す。高度は八王子南方で約200mあり，南東に向かってしだいに低くなり，横浜付近では約40mになる。付近一帯は多摩丘陵都立自然公園に指定され，野猿（やえん）峠・桜ケ丘聖蹟（せいせき）記念館・百草（もぐさ）園・稲荷塚（いなりづか）古墳・高幡（たかはた）不動・多摩動物園など，史跡・観光地に富む。最近は京浜地方の都市化が進むにつれて住宅地化が急速に進み，1971年からは多摩ニュータウンが開設した。〔高野　繁〕

たまぐし　【玉串】　神前に拝礼するときの奉り物。サカキの枝などに木綿（ゆう）または紙垂（しで）をつけたもの。玉串を奉って拝礼する作法は，サカキのもとを神前に向け，紙垂を上にして供え，二拝，二拍手，一拝を行なう。なお，玉串は手向串（たむけぐし）の意，または玉をつけた串，または霊串（たまぐし）の意など，諸説がある。

たまこ　【多摩湖】　東京都の西部，東大和（ひがしやまと）市にある人造湖。狭山（さやま）丘陵を流れる柳瀬川をせき止めてつくったもので，村山貯水池ともよばれる。北にある狭山湖（山口貯水池）とともに，多摩川*上流の羽村町で取水した水を東京都の上水道源に利用するために6か村を水没させて，1916年（大正5）から10年余の工事で完成した。上村山・下村山の2段の貯水池に分かれ，満水時の面積1,314km^2，貯水量1,483万m^3。水は導水管で境浄水場を経て都心部に供水される。付近一帯は東京都の自然公園地域に指定され，ユネスコ村・遊園地・ハイキングコースなどがある。〔長津一郎〕

たまご　【卵】　鶏卵をはじめ，ウズラやアヒルの卵など食用に供される卵。消費量は鶏卵が圧倒的に多く，ふつう卵といえば鶏卵をさす。

親鳥の種類によって卵の大小・形状・殻色（かくしょく）にも違いができるが，形状はだいたいいわゆる卵形と俗称される楕円（だえん）状である。卵殻の色は卵用種では白色，卵肉兼用種ではかっ色を呈することが多い。形の大きいのは，黒色ミノルカ，名古屋種などで，日本産のチャボの卵は小さい。卵の



タマゴバチ　クロタマゴバチ科の一種

全重量は，卵白52％，卵黄32％，卵殻約11％などに分かれる。成分は水分のほかはタンパク質が大部分で，このほかリン・鉄などの無機質，ビタミンA・Dなどを含み，栄養価が高い。卵白はほとんどタンパク質のみで，他の栄養素は卵黄に存在する。

卵の消化は卵黄と卵白とで異なり，卵黄の消化率は加熱してもあまり変化しないが，卵白は，60℃以上に加熱すると著しく消化がよくなる。たとえば生卵のときは消化率は50〜70％であるが，半熟卵になると96％となる。生卵の消化の悪いのは，卵白中に消化酵素トリプシン抑制物質があり，小腸における消化を妨げるからである。なお卵の胃中における滞留時間は，100gについて半熟卵105分，生卵135分，固ゆで卵180分で，この面でも食用には半熟卵が適する。

新鮮な卵は，殻（から）が胡粉（ごふん）を塗ったようにざらざらしており，日光や電燈に透かしてみると内部が半透明で明るいが，古いものは，殻につやがありなめらかで，透かしても不透明で暗い。また新しい卵は水中に入れると沈んで横になるが，古いものは直立する。これは古くなると比重が軽くなるからで，たとえば古い卵は比重1.027の食塩水に浮かぶようになり，これが鮮度の判定法に応用されている。

卵は生で食べ，あるいは半熟卵・固ゆで卵などにするほか，和風の卵料理としては卵焼き・かきたま・茶わん蒸し*・卵豆腐などが代表的なものであり，洋風料理では，ハムエッグ・オムレツ*などにするほかマヨネーズソースなど調味料にも用いられる。また料理以外にも，プディング・カステラ・泡雪羹（あわゆきかん）などのケーキやアイスクリームなどの原料としてきわめて多方面に用いられている。〔佐藤友太郎〕

たまごいろ　【卵色・玉子色】　色名。鶏卵の卵黄のような色。やや赤みをおびた薄い黄色。ときには鶏卵の殻（から）のような色，ごく薄い黄かっ色をさすことがある。また，鶏卵を〈鳥の子〉ともいうことから，卵色を鳥の子色とよぶこともあるが，この場合には卵殻（らんかく）のような色をさす。〈鳥の子紙〉はこの色の紙である。しかし，普通に卵色というときは，卵黄のような黄色をさす。江戸時代に生じた色名である。日本工業規格（JIS）では慣用色名〈卵色〉，色相10.0YR，明度8.0，彩度7.5の色と規定されている。➔色〔武井邦彦〕

たまごてんぐだけ　【卵天狗茸】　担子菌類・テングタケ科。夏・秋の季節林間の地上に発生する猛毒をもつきのこ。かさは直径7〜10cm，はじめ卵形または鐘形で，のち平らに開く。表面は黄色・灰緑色・オリーブ色であり，全体に繊維紋がある。茎は高さ8〜12cmで白色。茎の上の部分に白色のつばがあり，下部はふくらみ，白色のじょうぶなつぼに包まれる。きのこ中毒による死者の過半数を占めるといわれるほど死亡例が多い。➔きのこ

たまごばち　【卵蜂】　こん虫類・膜翅（ま

代表的なタマゴバチとその宿主

科	種　類	宿　主
クロタマゴバチ科	ズイムシクロタマゴバチ マツケムシクロタマゴバチ ミツクリクロタマゴバチ	ニカメイガ・サンカメイガ マツカレハ・ツガカレハ アオクサカメムシ・イネカメムシ
タマゴヤドリコバチ科	ズイムシアカタマゴバチ キイロタマゴバチ セミタマゴバチ トビイロウンカタマゴバチ	ニカメイガ・ウラナミシジミ マツカレハ・チャハマキ・アカイラガ アブラムシ トビイロウンカ・ツマグロヨコバイ
オナガコバチ科	カマキリタマゴバチ	カマキリ類
トビコバチ科	シロオビタマゴバチ ブランコルリタマゴバチ	マツカレハ・クスサン マツカレハ・マイマイガ

(し)目・コバチ上科のハチ類のうち，他のこん虫の卵に寄生する種類の総称。クロタマゴバチ科・タマゴヤドリコバチ科の全部，およびオナガコバチ科・トビコバチ科の一部の種類が含まれる。いずれも他のこん虫の卵殻(らんかく)内に寄生するため微小な種類が多く，0.3mm内外のものから最大のものでも5.0mmをこえる種類はない。全世界にきわめて多数の種類があり，日本にも多数が産すると推定される。害虫の天敵として重要な益虫も多く発見されているが，微小な種類が多いためまだ研究が不十分である。代表的な種類と宿主をあげると表(前ページ)のようである。〔鈴木邦雄〕

たましぎ【玉鷸】 鳥類・タマシギ科。この科は2属2種からなり，ナンベイタマシギは南アメリカ南部に分布する。タマシギは日本から東南アジア・アフリカ・マダガスカル・オーストラリアに分布している。多夫一妻性で，雌は数羽の雄の巣に産卵し，抱卵・育雛(いくすう)は雄のみが行なう。雌は雄よりはでな羽毛で，夏羽は顔から胸にかけて美しい栗(くり)かっ色，下面は白色，上面は緑・紫灰・黄かっ色などからなる細かい紋様をなす。全長22～24cm。雄は全体に雌に似ているがじみな羽毛。繁殖期には，雌は夜間にうなるような声で低く〈フウー，フウー〉という声に続けて，丸い声で〈ホーン，ホーン，ホーン〉と特徴ある鳴きをする。この声を〈コーン，コーン〉と聞いてコンコンドリと俗称する

〔浦本昌紀・安部直哉〕

たましだ【玉羊歯】 シダ植物・ウラボシ科。暖かい地方の海岸・乾燥地に分布する多年生常緑シダ。観葉植物として温室で栽培される。根茎は小さく，30～80cmの葉が束になって出る。葉は1回羽状複葉で，光沢がある。胞子嚢(ほうしのう)群は小形で，羽片の縁近くに並び，苞膜(ほうまく)は腎臓(じんぞう)形。根茎から細いつるが出て，その途中に淡かっ色の小球が付く。

たましま【玉島】 岡山県南部，倉敷市の西部地区。1952年(昭和27)独立して市制施行，1967年児島(こじま)市とともに倉敷市に編入された。もとは地名のとおり島だったが，高梁(たかはし)川の堆積(たいせき)作用で陸化した。江戸時代は西回り海運の要港として栄え，北海道のニシンかすや周辺地方の綿花などの集散地であった。明治初期に近代的な紡績所が開かれ，製材・機械製造などの工業が盛んで，ノリの養殖やブドウ・モモなどの栽培が行なわれる。近年水島工業地帯の発展に伴い，埋め立て地の造成が行なわれ，クラレその他の大工場が立ち並び，臨海工業都市化が進んでいる。山陽本線・伯備線・水島鉄道・国道2号線が通じ，1972年に開通予定の山陽新幹線の停車駅が予定されている。〔浅井得一〕

ダマスカス［Damascus］ シリア-アラブ共和国の首都。人口84万（1976推)。レバノンとの国境のアンチレバノン山脈東方に広がる平野にあって，東流するバラダ川の水を巧みに利用して建てられた砂漠(さばく)の中の都市で，周辺には肥沃(ひよく)な農地が開けて穀物・野菜・果実を産し，家畜も豊富である。現存の都市としては世界最古の起源をもつといわれ，第1次世界大戦後の1920年からフランスの委任統治を経て1941年シリア共和国の独立とともに首都となった。古い城壁の一部を残す旧市街と，新市街に分かれ，旧市街の東門から西門まで一直線の屋根付道路の下はバザールになっている。銘酒・名刀・ダマスク織のほか，独特の金工・木工などの工芸品を産し，近年は紡績・化学などの近代工業も発達している。〔今井留吉〕



タマシギ



ダマスカス　市の背後の丘からながめた市街。中心部は都市の近代化が進んでいるが，裏町は雑然としてまだ古い建物が多い



タマスダレ

ダマスク［damask］ たて繻子(しゅす)地によこ繻子組織で文様を現わした紋織物。シリアのダマスク産のものが有名なのでこの名称がある。絹・麻・レーヨンなどでつくる。白・淡色無地などが多い。テーブルクロスやナプキンをはじめ写真の装飾などに用いられる。

たますだれ【玉簾】 単子葉植物・ヒガンバナ科。南アメリカ原産の常緑の多年草で，日本には明治初年に渡来し，観賞用として花壇や庭園に植えられる。卵円形のラッキョウ状の鱗茎(りんけい)があり，外皮は黒色で径2cm内外。葉は線形で質厚く，群生する。8～9月に30cm内外の花茎を伸ばし，1個の花を上向きにつける。花は白色でときに淡紅色のぼかしがあり，基部に膜質の包がある。日中開花し，夕方に閉じる。果実は扁円(へんえん)形の蒴果(さくか)。分球してよくふえ，実生も3年ほどで開花する。

〔横井朝子〕

タマタブ［Tamatave］ アフリカ南東岸，マダガスカル島東岸のインド洋に面する港市。人口50,000(1967)。首都タナナリブの外港で完備した港湾設備をもち，同国第1の貿易港としてコーヒー・ココア・ニッケ・トウモロコシ・米・砂糖などを輸出する。農産加工工場・船舶修理工場などがある。

たまつくりおんせん【玉造温泉】 島根県北東部，八束(やつか)郡玉湯町にある温泉。地名は《出雲風土記(いずもふどき)》にみられ，古代に玉造部(たまつくりべ)の居住地であったことにちなむ。泉温50～72℃，泉質は含食塩セッコウボウショウ泉で，胃腸病・婦人病・神経痛・リウマチなどにきくといわれる。宍道(しんじ)湖畔の新玉造温泉は玉造温泉から引湯しているもの。山陰本線玉造温泉駅から南方2kmの地点にあり，松江からバスが通じる。〔木村東一郎〕

たまどうぶつこうえん【多摩動物公園】 東京都日野市にある東京都立第二動物園。1958年(昭和33)に開設され，面積約34万m²。多摩丘陵*の斜面と谷間を利用して各種の動物類の自然の生態が見られるようにくふうされた自然放養式。ほかに昆虫館(こんちゅうかん)・水族館・動物病院などの施設がある。新宿から多摩動物公園駅まで京王帝都電鉄が通じる。

たまな【球菜】 ⇨キャベツ

たまな【玉名(市)】 熊本県北西部にある市。人口45,000。古くは高瀬津とよばれ，菊池川流域の肥後米の積み出し河港として栄え，明治以降は玉名地方の行政・文化の中心地となった。1954年(昭和29)市制施行。市域は，菊池川下流に沿う菊池平野の中心部を占める。産業三大別人口比は29：24：47。菊池川の自然堤防上に発達した商業地区(高瀬)と，その北部の岩崎台地上の住宅地区に分かれ，最近は台地上を通る国道208号線沿いに官公庁や事務所が集まり，工場


タマネギ
(左)泉州黄
(右)札幌黄


玉野市　近景のクレーンと船台の並ぶ一画は三井造船所で，遠景の白い船の行きかう左手に国鉄宇高連絡船の埠頭が見える

街が発展している。鹿児島本線によって大牟田(おおむた)(佐賀県)・熊本に結ばれ，両市への通勤者も増加しつつある。凸版(とっぱん)印刷の工場があるほか，食料品・製材・水産加工などの諸工業が行なわれ，有明海沿岸ではノリの養殖が盛んである。市域西部の小岱(しょうたい)山のふもとには玉名温泉(もとの立願寺(りゅうがんじ)温泉)がある。永安寺古墳や大坊古墳の彩色壁画が名高い。

タマニーホール　[Tammany Hall]　ニューヨーク市の民主党委員会のこと。1783年パリ条約*締結直後社交団体として生まれたが，1789年正式に組織された。タマニーとは，自由を愛したデラウェア-インディアンの酋長(しゅうちょう)の名に由来する。貴族主義的政治に反対し，一般大衆の利益に立ち，政党の発生とともにリパブリカンズ(いまの民主党)のジェファソン・ジャクソンを支持した。また，1800年アーロン-バーの指示でニューヨーク市政を掌握し，1805年慈善団体〈タマニー協会〉を付置して移民を世話し，白人参政権の拡大に努めた。しかし，1860年ウィリアム-トウィードが指導者になると，〈ボス政治〉の牙城(がじょう)と化し，買収・不正事件がふえて1898年ごろ一時衰退したが，1910年以降州知事の職を握り，ニューヨークの政界を支配，1928年の大統領選挙には民主党候補に事実上のボス，アル(アルフレッド)-スミスを指名するのに成功した。1931年議会の調査により実態が暴露されて，世論の攻撃を受け，1933年ニューヨーク市長になった革新派のフィオレロ-ラガーディアのもとで衰微した。　〔折井一彦〕

たまねぎ　【玉葱】　単子葉植物・ユリ科の越年草。葉はネギに似て細円錐(さいえんすい)状で中空となり，葉鞘部(ようしょうぶ)は包合して鱗茎(りんけい)を形成する。鱗茎は適当な温度と日長のもとで肥大して5～15cmの扁球(へんきゅう)ないし球になる。鱗茎の外皮は白・黄かっ色・紫色などを呈し，品種により異なる。肥大した鱗茎が越年すると春から初夏にかけてとう立ちして開花する。花茎は60～120cmで中空，中間部は紡錘状に肥大する。花茎の頂部には総包で包まれた球状の多数の小花をもつ花序ができる。花は細長い花梗(かこう)をもち，白色の6枚の小さな花弁と，めしべならびに6本のおしべをもつ。種子は三角錐状に角ばった長さ2～3mmの小粒で，黒色を呈する。

中央アジアの原産で，紀元前にエジプトに伝わり，その後地中海沿岸地方で発達して，盛んに利用されるようになった。アメリカには16世紀にはいり，その後著しく発達した。東洋ではインドで利用が盛んであった。わが国には徳川時代にヨーロッパから導入された形跡はあるが，今日用いられている品種の大部分は明治以後，ヨーロッパやアメリカからはいったものである。

温帯に適した作物で，一般に秋まいて翌春4～6月ごろ収穫するが，北海道のような冷涼地では春まいて8～9月ごろ収穫する。早生の品種として愛知早生という白タマネギが有名で，暖地で早まきして春早く出荷する。中生の泉州黄は6月出荷，晩生の札幌黄(さっぽろき)は北海道で初秋に収穫して，翌春まで貯蔵する。生食・煮食するほか粉末として香辛料にも用いる。〔松本正雄〕

たまねぎばえ　【葱蠅】　こん虫類・双翅(そうし)目・ハナバエ科。体長5～7mm。体色は黄灰色，雄は雌よりも暗色で，胸背中央に痕跡(こんせき)的なかっ色の縦線，腹背には黒かっ色の中央線がある。翅(はね)はやや暗黄色で翅脈は黄色。幼虫(うじ)はタマネギ・ネギ・ニンニク・ラッキョウなどの根茎や根を食害する害虫。北海道・本州・九州のほか，旧北区のほとんど全域と北アメリカに広く分布する。

たまの　【玉野(市)】　岡山県，児島(こじま)半島南東端にある市。人口79,000。1940年(昭和15)，高松(香川県)と結ぶ宇高連絡線の起点宇野町と，古くからの良港日比町とが合併して市制施行。瀬戸内海に臨む山がちの地形で，産業三大別人口比は6：52：42。宇野地区は，1910年(明治43)宇高連絡船の開通以来発展し，日比地区は，1931年三井造船所の開設で〈造船の町〉として急速に発展した。金属・機械・食品・化学・ガラスなどの近代工業も行なわれ，水島臨海工業地帯の一角を占める。半島南岸では真珠貝の養殖，ミカンの栽培が行なわれる。宇野線・国道30号線が通じる。瀬戸内海国立公園に含まれ，児島湖・渋川海水浴場などの観光資源に富む。ゴルフボールと学生服の特産がある。

たまのうら　【玉之浦(町)】　長崎県南松浦郡に属し，五島列島の主島福江島南西端の町。人口3,400。明治期から大正期にかけて，東シナ海海域の漁業基地として繁栄したが，昭和初期に漁船の基地が長崎と福岡に移ってから衰退した。西海国立公園の区域内にあり，キリシタン遺跡のルルド洞窟(どうくつ)，大瀬崎の断崖(だんがい)，荒川温泉などの観光資源に富む。

たまばち　【没食子蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・タマバチ科の総称。体長は1～6mmで，黒色・かっ色・淡色で光沢のある種類が多い。頭部は小さく，触角はむち状で，脚は細長い。雄は有翅であるが，雌は無翅か痕跡(こんせき)的翅をもつ。成虫の外観はスズメバチ状またはアリ状。世代交代を行なう種類が多く，それらの種では秋期に無性生殖世代が出現する。卵は，秋または春に休眠または発育中の植物体に産み込まれ，その結果寄主植物の種々な部分に虫こぶが形成される。ブナ科植物に寄生する種類が最も多く，その他はバラ科・キク科などにも寄生し，これら3科以外の植物に寄生する種類は少ない。幼虫は無脚で淡色，虫こぶ内で発育する。全世界から多数の種類が知られ，北半球の温帯に最も種類が多い。日本にも多くの種類が分布していると思われるが，調査研究が遅れており，特に生活環の明らかにされた種類は数種にすぎない。クリの新芽に虫こぶをつくってしばしば大害を与えるクリタマバチ，クヌギの若枝に虫こぶをつくるクヌギタマバチが日本に産

する最も代表的な種類である。➔クリタマバチ　〔鈴木邦雄〕

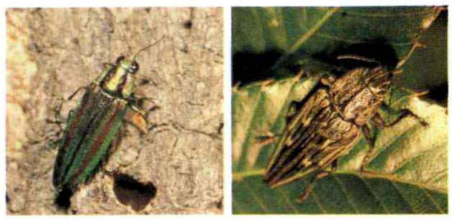
たまみじんこ　【玉微塵粉】　甲殻(こうかく)類・枝角目・ミジンコ科。淡水性プランクトンで，体長は雌0.7～1.7mm，雄1mm以下。甲殻はやや紅色をおび，ほぼ球形にふくれ，頭部には大きい複眼をもつが，単眼はない。触角は葉巻きたばこ状で，雌では短いが雄は非常に長い。季節的に有性生殖と単為生殖をくり返すヘテロゴニー(周期性単性生殖)を示し，単為世代では雄は出現しない。雄が年に数回出現する多輪廻(たりんね)性で，有性生殖を行なう。有性世代の雌は，楕円(だえん)形の掩卵殻(えんらんかく)(卵殻膜)を形成し，つねに2個の耐久卵(冬卵)を納める。水田，浅いたまり水，池などにすむ。世界各地の陸水に広く分布し，わが国にも普通にみられるが，北海道からは知られていない。多数生息するときには，水が赤く見えることもある。　〔向井　宏〕

たまむし　【吉丁虫・玉虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・タマムシ科の総称またはそのうちの一種。ヤマトタマムシともいい，体長30～40mm，体は美しい金緑色で，前胸背板に2本，鞘翅に各1本の銅紫色の縦条が走る。胸部と腹部の下面中央部は赤みをおびる。雄の複眼は雌に比べて大きく，かつ著しく突出する。本州(北部を除く)以南，朝鮮・台湾に分布する。幼虫はサクラ・エノキ・カシ・カキ・ケヤキなどの衰弱木の幹の材部を食害する害虫で，1世代に少なくても3～4年は要すると思われ，成虫は7～8月に多い。本種は日本に産する代表的な美麗こん虫の一種として世界的に知られ，美術工芸品などや装飾品などに利用される(➔玉虫厨子(たまむしずし))。

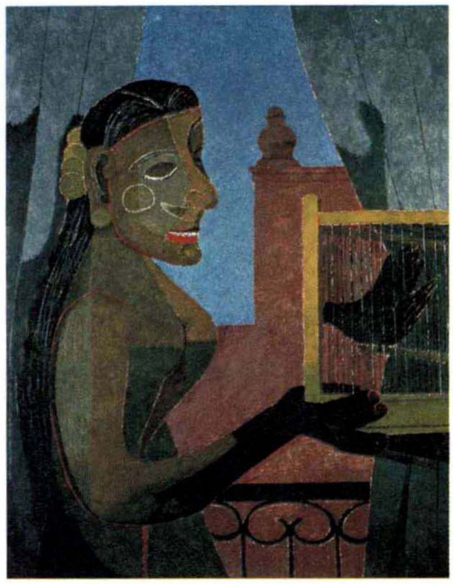
タマムシ科は比較的大きい科で，全世界に約5,000種が知られ，日本にも約150種が分布している。体の大きさは変化に富み，体長2mm内外の微小種から70mmに達する大形種まである。いずれも幼虫は樹木の枝や幹にもぐって材部を食害するが，草木の葉にもぐって葉肉を食う種類も知られる。日本に産する代表的な種類はタマムシのほか，ウバタマムシ・アオタマムシ・クロタマムシ・ムツボシタマムシ・シロオビナカボソタマムシ・ケヤキナガタマムシ・ヒシモンナガタマムシ・クロナガタマムシ・ナミガタチビタマムシなどがある。〔鈴木邦雄〕

たまむしおり　【玉虫織】　⇨甲斐絹(かいき)

たまむしずし　【玉虫厨子】　飛鳥(あすか)時代の製作になり，法隆寺に伝わる厨子。《法隆寺伽藍縁起並流記(がらんえんぎならびにるき)資財帳》にも記載があり，古くは金堂内陣に安置されていたという。錣葺(しころぶき)・入母屋(いりもや)造りの屋蓋(おくがい)に鴟尾(しび)をのせた宮殿部，上・下框(かまち)に蓮弁(れんべん)を彫り出した須弥座(しゅみざ)，香狭間(こうざま)を透かした台座の3部分からなる。忍冬唐草文透彫(からくさもんすかしぼり)の精巧な装飾金具の下に，当



タマムシ　(左)タマムシ　(右)ウバタマムシ



タマヨ《鳥籠を持つ女》

初はタマムシの翅(はね)を伏せていたことから，後世玉虫厨子と称された。宮殿内部はことごとく金銅押し出しの千仏を巡らし，外面は黒漆の地に色漆などを併用して正面扉(とびら)に二天像，左右側面扉には各二菩薩(ぼさつ)，背面には須弥山(しゅみせん)の図を描いている。須弥座も同様の手法で，正面には二羅漢(らかん)，背面には須弥山図，両側面には〈捨身飼虎(しゃしんしこ)〉と〈施身聞偈(せしんもんげ)〉の2図を描くが，いずれも時限をことにした3場面を同一画面に旋回式に描く特異な構図法を用い，当代の絵画資料としても唯一の貴重な遺例である。当初に安置されていたと思われる仏像は失われている。国宝。　〔河田　貞〕

たまや　【玉屋】　日本舞踊・清元節の曲名。本名題《おどけ俄煮玉取(にわかしゃぼんのたまとり)》という四変化の一(➔変化物)。2世瀬川如皐(じょこう)作詞，清元斎兵衛(さいべえ)作曲。1832年(天保3)初演。子ども相手のしゃぼん玉売りが，玉づくし・蝶々(ちょうちょう)売り(チョウの玩具(がんぐ)を売る大道商人)の振りから，廓話(くるわばなし)・おどけ節など，変化に富む踊りを見せる。

たまゆ　【玉湯(町)】　島根県東部，八束(やつか)郡にある町。人口6,100。宍道湖(しんじこ)の北岸，松江市の南にあり，玉造温泉*がある。山陰本線・国道9号線に沿い，松江との間には湖岸沿いに有料道路が通じる。瑪瑙(めのう)や碧玉(へきぎょく)の産があり，上代の玉造部(たまつくりべ)の住居地とされ，遺物が発見されている。

タマヨ　［Rufino Tamayo］　(1899～　)　メキシコの画家。メキシコシチーの美術学校に学ぶ。フランス美術の強い感化を受けながら，故国メキシコの伝統的民衆芸術への造詣(ぞうけい)をも深めた。1933年，メキシコの天文台や音楽学校に壁画を描く。1943年以後ニューヨークに住み，おもにアメリカで活躍。キュービスムふうの洗練された幾何学的構成を示す。作品には，ピカソの影響がうかがわれる。

たまよび　【魂呼び】　臨終または死の直後に，名を呼んで魂を呼び返し，よみがえらせようとする習俗。まくらもとで呼ぶもの，屋根などの高いところへ登って呼ぶもの，山・海・井戸などに向かって呼ぶものなどがあるが，死者に向かって呼ぶか，他の方向に向かって呼ぶかの二つに分けられる。名を呼ぶほか，招き返す動作をしたり，死者の衣服を振ったり，ますの底をたたいて死者を目ざめさせようとするなどの動作が伴う。近親者の行なうところと，近隣・組仲間の者たちが行なうところとある。医学が進歩する以前には，死は息を引き取ったことで判定されるものではなかった。肉体から霊魂が離れ，魂呼びしてももどらず，死霊となったときはじめて人々は死者の死を確認したのである。　〔渡辺欣雄〕

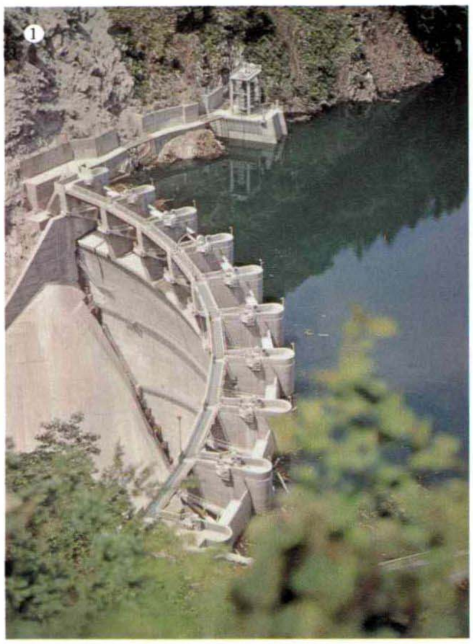
たまよりひめ　【玉依姫】　海神トヨタマヒコノカミの子でトヨタマヒメ*の妹，またワタツミノカミの子でウガヤフキアエズノミコトの妃であり，神武天皇の母，カモノタケツヌミノミコトの子で賀茂別雷(かものわけいかずち)神社(➔賀茂神社)の祭神カモノワケイカズチノミコトの母など，日本神話に登場する神魂の憑依(ひょうい)する聖女の汎称(はんしょう)である。

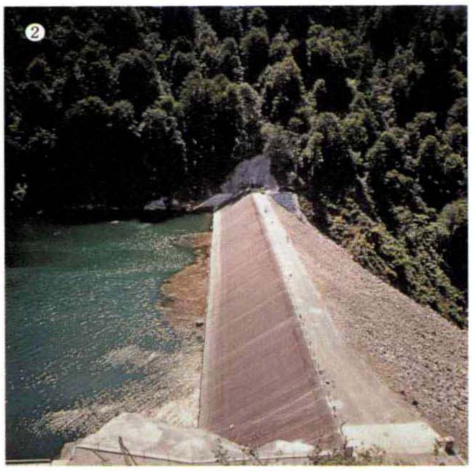
たまり　【溜】　⇨しょうゆ

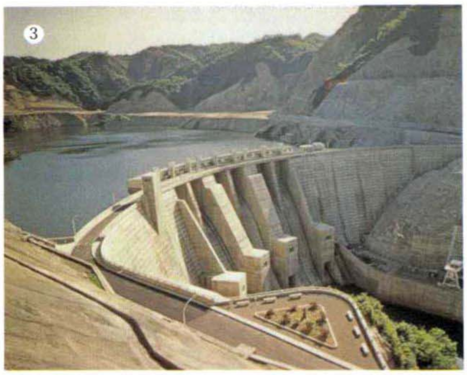
ダミア　［Damia］　(1892～1978)フランスの女性シャンソン歌手。本名マリー-ズ-ダミアン。パリの生まれ。1911年デビューし，1949年ごろまで一世を風靡(ふうび)した。黒い服に身を包んで歌い，フレール・イボンヌ-ジョルジュとともに，戦前の三大シャントゥーズ-レアリスト(現実派女性歌手)のひとりとされる。代表曲《かもめ》《暗い日曜日》。1953年に来日。

だみえ　【濃絵】　金や銀地に極彩色を施した絵。障壁などの大画面の地に金(銀)の箔(はく)をはり，金銀泥(でい)や原色の岩絵の具を濃く塗って，装飾性を強くして描く画。金碧画(きんぺきが)ともよばれ，桃山時代には障壁画*に盛んに用いられた。

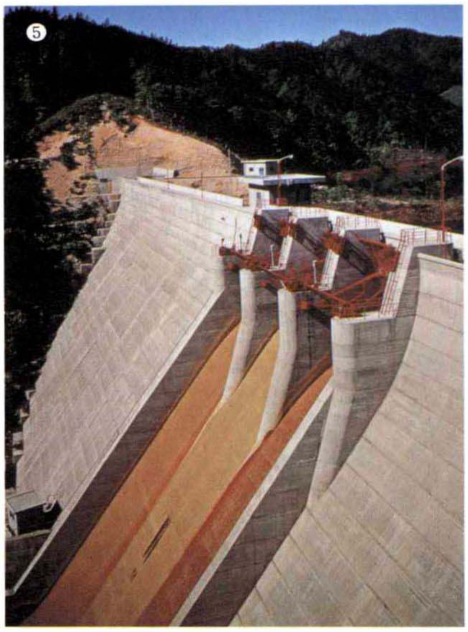
たみやとらひこ　【田宮虎彦】　(1911～　)　小説家。東京の生まれ。東京大学国文科卒。武田麟太郎(たけだりんたろう)・丹羽(にわ)文雄*らと交わり，高見順*らの《日暦》《人民文庫*》に参加，その間の作品に《臙脂(えんじ)》《笹(ささ)りんどう》などがある。第2次世界大戦後，











ダ　ム

①アーチ式(ドーム形)(小見野々ダム) ②ロックフィルダム(表面アスファルト遮水壁形)(大津岐ダム) ③セミ－アーチ式(高山ダム) ④重力式(小森堰堤) ⑤直線重力式(天間ダム)

《霧の中》で文壇の注目をひき,《落城》《異母兄弟》《足摺岬(あしずりみさき)》などをあいついで発表した。なお,胃癌(いがん)で死んだ妻千代との往復書簡集《愛のかたみ》は多くの人人に愛読された。〔瀬良垣宏明〕

タム ⇨チェレンコフ

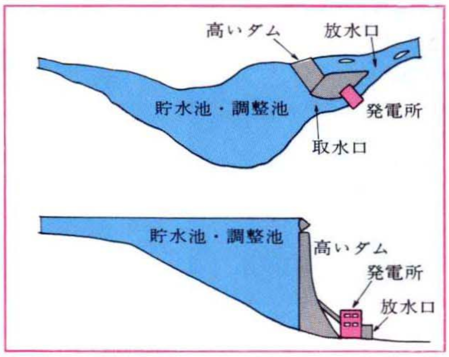
ダム [dam] 貯水池をつくる目的で谷間を横切って築造する大きな堰(せき)。昔から各地の農民は土の堰堤でため池をつくり,夏の灌漑(かんがい)に使っていた。近代になってセメントの堰がこれに代わり,わが国では神戸(こうべ)市の水道局がはじめてコンクリート重力ダム(生田川の五本松ダム)をつくっている。その後水力電気開発のために大きな河川のダム建設が盛んになった。ことに水力発電ではダムで堰上げた高さが,発電エネルギーの有効落差となるので高いダムがつくられた。第2次世界大戦後はまず食糧増産のために多くの農地が新たに開墾され,その灌漑用にダムがいくつかつくられた。その一つにわが国最初のロックフィルダム(北上川の石淵(いしぶち)ダム)がある。また電力がはなはだしく不足してそれに対処する水力発電所の開発が活発となり,世界屈指の大ダムが続々建設された。一方ダム工事の規模増大はダム技術の進歩を促し,アーチダム(耳川の上椎葉(かみしいば)ダム),中空重力ダム(大井川の井川ダム)など新しい形式のダムが誕生している。河川の洪水(こうずい)防御も従来は平野部で両岸に堤防を築いていたが,近年は山間部にダムをつくって洪水の一部を貯留し出水量を調節する方法がとられるようになった。そのときためられた水は渇水期には各種の用水に利用することができる。すなわち一つのダムが洪水調節・発電・農業・上水道・工業水道などいくつかの目的に役だつ。これを多目的ダム*という。以上のほかに砂防を目的とするダムもある。山地の谷川は急流が河床を削って山くずれをひき起こす。その谷にダムを階段状に配置し,流れを穏やかにして崩壊を防止するのである。

〔種類〕 ダムを構成する材料には土・岩塊・コンクリートの3種類があり,それらの材料によってアースダム・ロックフィルダム・コンクリートダムとよばれる。コンクリートダムはさらに構造の上から重力ダム・アーチダム・バットレスダムに分けられる。アースダムは丘の土を谷間に運びそれを台形に積み上げてつくる。漏水を少なくするためによく締め固め,波浪による侵食を防ぐために上流側法面(のりめん)に石を張る。近代式のダムでは漏水防止のために中心に粘土の壁が入れてある。あるいは中央部に細かい土,その外側にあらい土を置いて積み上げる。火薬によってかたい岩山を爆発し,岩塊をつくることが容易になってロックフィルダムが生まれた。岩塊を積み上げ上流面にコンクリートまたはアスファルトを張る。あるいは堤体の内部に粘土の壁をかませる。ロックフィルダムは基礎地盤に不等沈下を生じても,コンクリートダムほどの致命的な打撃を受けないから,断層の多い地点にはこのダムが選ばれている。以上のアースダム・ロックフィルダムは堤体の体積がきわめて大きいので,ダム地点の近くから堤体材料の豊富に得られることが必要条件となる。

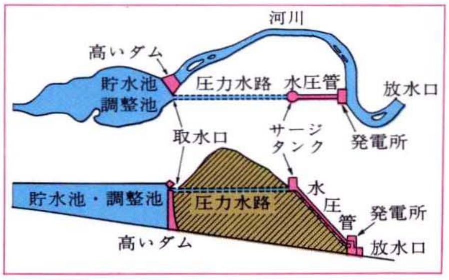
重力ダムは横断面形がほぼ直角三角形で,コンクリートの一つのかたまりからできている。堤体コンクリートの重さで池水の水圧に耐える構造であるから重力(グラビティ)ダムと名づけられた。構造理論が簡明で耐久性も大きいので多く用いられ,現存する数ではコンクリートダムの約9割を占めている。しかし,堤体体積がコンクリートダムの中で最も大きく,それだけ大量のコンクリートを必要とする。またコンクリートは固まる際に熱を発生するが,重力ダムの場合はその熱を除去するために人工冷却(クーリング)を行なわなければならない。

以上二つの理由から重力ダム工事はしだいにその数を減じ，ダム建設の王座はアーチダムに移ってきた。アーチダムは上流側に半円形を張り出したアーチ形のダムである。その水平アーチによって池水の水圧を両岸に伝える構造である。ダム全体はその水平アーチを積み上げた1枚の壁からなっている。基礎および両岸の地山はこの壁をささえるために強固な岩盤を必要とし，最近では岩盤そのものを改良強化する各種の工法が行なわれるようになった。バットレスダムは鉄筋コンクリートの壁を組み合わせてつくったダムである。すなわち谷間と平行な方向にある間隔ごとに三角形の扶壁(バットレス)を立て並べ，その上流側に遮水壁(しゃすいへき)(デッキ)を張った構造である。バットレスダムにはこれらの壁の形の異なるいくつかの形式があり，その一つに中空重力ダムがある。このダムは扶壁の上流および下流に無筋コンクリートの厚い壁をもつ。したがって外見は重力ダムに似ているが，内部が扶壁で仕切られた空洞(くうどう)になっているダムである。重力ダムのような人工冷却の煩わしさがないので，最近はますますその数が多くなった。

【付属設備】ダムは河川を締め切ってつくるので，その河川およびダムの維持管理に必要な付属設備が設けられる。その主たるものは余水吐け・放流管・減勢装置・監査廊・魚道などである。貯水池が満水したあとになお続く河川の出水を下流に放流する設備が余水吐け(洪水(こうずい)吐け)である。重力ダム・アーチダムの場合はダムの頂に水門をつくり余水吐けとする。その他のダムでは近くの地山を切り開いて余水吐けおよび余水路をつくる。放流された水が落下する川底を水叩(みずたたき)というが，自然河床のままでは洗掘されてしまうので，水のエネルギーを殺す減勢装置がいる。普通は，主ダムの下流に副ダムを設け，水をためて水褥池(すいじょくち)とする。あるいはスキーのジャンプ台と同形の余水路をつくり，放流を遠方にはね飛ばす方法もある。洪水調節を目的とするダムでは，出水期にはあらかじめ貯水池の水位を下げておく。この排水のためにダムの中段の高さに放流管を設ける。放流管の減勢装置にはハウエルバンガーバルブを使って放流を下流の空中に噴射し，飛沫(ひまつ)化してエネルギーを殺すものがある(多摩川の小河内(おごうち)ダム)。高いダムではダムの内部を巡視するために監査廊が設けてある。監査廊はまた堤体内に浸透した漏水の排水路となる。あるいはダムの各所に埋め込んだ温度計・ひずみ計などの測定室として利用される。特に高いダムでは高さ30mごとに監査廊を通し，エレベーターで昇降するものもある。ダム地点では魚類の遡上(そじょう)を助けるために魚道がつくられる。魚道は深さ 1mぐらいのコンクリートの箱を1段の高さ10～15cm，勾配



ダム式発電所



ダム水路式発電所



タムラソウ

(こうばい)10：1ぐらいの階段状に並べた水路である。ダム下流の川原から貯水池の水面までゆるい勾配で上るために，ダム取り付け部の地山をいなずま形に上がっていく構造をとる。〔米屋秀三〕

たむけのかみ【手向神】⇨道祖神

たむし【田虫】白癬(はくせん)菌の感染による皮膚病の俗称で，いんきんたむし*・ぜにたむし*などが知られる。➔白癬

ダムしきはつでんしょ【ダム式発電所】ダムを設けて落差を得る水力発電所。河川の下流部は，一般に流量が多く，流れの傾きがゆるやかであるから，水路式では大きな落差は得られない。このような場合に水路を設ける代わりに河川そのものを水路とみなして十分に高いダムを設け，河川を適当な地点で完全にせき止め，その落差を利用して発電する。ダムのみの施設で落差のある大量の水を利用しうる利点がある。➔水路式発電所 ➔次項〔田村康男〕

ダムすいろしきはつでんしょ【ダム水路式発電所】ダムと水路によって水の落差を得る水力発電所。ダム式と水路式との混合形発電所で，ダム式よりやや上流に応用される。取水口をダムの一端に設け，そこよりやや下流に設けられた発電所に水路を通して水を送る方式である。➔水路式発電所

タム-タム［tam-tam］体鳴楽器*の一種で，ゴング類に属する楽器。インドネシアのゴング*，東アジアの銅鑼*(どら)を西洋ふうにつくりかえたもので，中央が凸状(とつじょう)になった大きな金属製の円板をつり下げ，フェルトつきの桴(ばち)で打つ。

ダムダムだん【ダムダム弾】小銃用の弾丸の一種で，命中したとき弾体が裂けて被害を大きくするようにつくられたもの。19世紀末イギリスが内乱鎮圧用にインドのダムダム工場で生産したのに由来する。弾頭部に穴をあけたり頭部を削ったりして鉛の部分を露出してある。このため被弾者の損傷は大きく，その非人道性が問題となり，1907年のハーグ条約で使用が禁止された。アメリカとイギリスはこの条約を批准しなかったが，現在では使われていない。〔藤井冬木〕

たむら【田村】能の曲名。作者不明。二番目物。東国の僧が京都の清水寺にもうでると，ひとりの童子がサクラの花を掃き清めるのに会う。童子はあたりのけしきや，坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)がこの寺を建てたといういわれなどについて述べ，この寺の徳をたたえて消えうせる。やがて坂上田村麻呂の霊が現われ，伊勢(いせ)(三重県)鈴鹿(すずか)の悪魔を千手観音の助力によって平定したいくさのありさまを勇ましく再現して仏力を賛美する。前ジテは童子(老翁として演じることもある)，後ジテは田村麻呂(田村丸という)の霊，僧はワキで，ほかに所の者が間狂言(あいきょうげん)で出る。〔長尾一雄〕

たむらそう 双子葉植物・キク科。山地や野原に自生する多年草。茎の高さは30～140cmで，縦のすじが多数ある。根出葉には長い柄があり，6～7対の羽状に深裂する。葉の両面に細かい白毛があり，下面は淡緑色。8～10月，茎や枝の先端に直径2～3cmでアザミによく似た紅紫色の頭状花をつける。

たむらとしこ【田村俊子】(1884～1945) 小説家。東京の生まれ。本名佐藤とし。日本女子大学国文科を中退して幸田露伴*の門にはいり，1903年(明治36)処女作《露分衣(つゆわけごろも)》を発表。のち，同門の小説家田村松魚と結婚。《大阪朝日新聞》の懸賞に《あきらめ》を投じ，1等に当選した。その後の作品に《木乃伊(ミイラ)の口紅》《炮烙(ほうらく)の刑》などがあり，近代的な男女の相克を官能的に描いている。その晩年は不運で，中国に渡り《女声》の編集にあたったが，その地に没した。〔瀬良垣宏明〕

たむららんすい【田村藍水】(1718～1776) 江戸時代の本草学者。あざなは元台，通称は元雄。江戸に生まれ，阿部(あべ)将翁*

に本草学を学ぶ。幕府の日光薬園において，朝鮮ニンジンの栽培に成功。実学的傾向の本草学の代表者のひとり。

ためいけ　【溜池】　水の不便な所で，灌漑(かんがい)用水を確保し，水稲などの作物を耕作するため，人工的につくられた池。エジプトでは4,000年前からあり，わが国でも2,000年前に奈良・大阪付近に造成されたという。香川県には50,000余の大小のため池があり，水田耕作が維持されている。水源は天水が主である。

ためながしゅんすい　【為永春水】　(1789～1843)　江戸後期の人情本作者。本名佐佐木貞高。通称越前屋(えちぜんや)長次郎。別号，金龍(きんりゅう)山人・狂訓亭(きょうくんてい)・二世南仙笑楚満人(なんせんしょうそまひと)。はじめ貸し本屋を営み，講釈師を志し，他人の作品を改作して出版したりしていたが，1821年(文政4)《明烏(あけがらす)後の正夢(まさゆめ)》の執筆を契機に人情本に専念するようになった。1832年(天保3)にはじめて為永春水の名で刊行した《春色梅児誉美(うめごよみ)》が好評を博し，以後，別伝・拾遺と続編を発表，東都人情本の元祖を自称して江戸の若い男女を魅了した。しかし，天保(てんぽう)の改革に際し，風俗を害するかどをもって手鎖の刑を受け，作品をすべて絶版にされて失意のうちに病没。江戸町人の日常生活，男女の愛欲の世界を描く人情本の形式を完成し，近代小説に大きな影響を与えた〔渡辺守邦〕

ためんたい　【多面体】　四面体・立方体・平行六面体または角柱・角錐(かくすい)など，いくつかの多角形の面で囲まれた立体。多面体の表面になっている各多角形を面，二つの面の交線をその辺，いくつかの辺の交点をその頂点という。また，同じ面上にない二つの頂点を結ぶ線分をその多面体の対角線という。

n 個の面をもつ多面体を n 面体($n \geqq 4$)といい，どの面を延長しても多面体の外部に出るものを凸(とつ)多面体，そうでないものを凹(おう)多面体という。また，連続的に変形して球と一致させることのできる多面体の頂点・辺・面のそれぞれの個数の間にはオイラーの定理がなりたつ。〔菊池兵一〕

たもうさく　【多毛作】　同一耕地に，1年に3回以上作物の作付け収穫をすること。普通作物は一般に生育期間が長いから，多毛作の対象になるのは蔬菜(そさい)が普通である。たとえば，ホウレンソウ→キョウナ→ジャガイモ→ダイコンとつくれば4毛作，キュウリ→カブ→ムギとつくれば3毛作。

たもうしょう　【多毛症】　普通は硬毛の目だたない身体部分に硬毛が多くなっている状態。おもに女子についていわれ，俗に〈毛深い〉という。先天性の場合が多いが，内分泌腺(ないぶんぴせん)の病気や男性ホルモン・たんぱく同化ホルモン・副腎(ふくじん)皮質ホルモン剤の使用によっても起きる。内分泌腺の病気がある場合はその治療をし，ホル


田山花袋

モン剤の使用によるものはそれを中止すればよい。体質性のものに対しては美容上次のような脱毛法を行なう。永久的脱毛法としては，毛孔に細い針を差し込んで直流電気を通し，毛孔頭を破壊する電気分解法がある。一時的脱毛法としては，硫化バリウム・硫化ストロンチウムなどのはいった脱毛クリームを使用する化学脱毛や，毛抜きで抜く，脱毛ワックスを使う，毛をそるなどの機械的脱毛がある。場合によっては，過酸化水素水などの漂白剤で脱色して目だたなくする。　〔田嶋公子〕

たもうるい　【多毛類】　環形動物・多毛綱。ゴカイやイトメなどの類で，多くの体節からなる細長い体をもつ。貧毛類(ミミズなど)・ヒル類・ユムシ類などの他の環形動物と異なり，各体節には疣足(いぼあし)という原始的な歩行器官をもっている。疣足には剛毛があり，多毛類という名の由来となっている。頭部には脳をもち，触手・目などが発達する。血管は完全な閉鎖型である。大部分が海産で，岩礁上・底泥(ていでい)上などのさまざまな場所に豊富にみられ，底生生物食の魚類にとって，最も重要なえさである。終生プランクトン生活をするものもいる。その生活様式から大きく二分され，棲管(せいかん)をつくって定着生活をするものを定在類，棲管をもたず遊泳・匍匐(ほふく)など自由生活をするものを遊在類という。定在類は定着生活のため，多くは疣足が退化の傾向にある。普通は有性生殖を行なうが，出芽を行なうものもあり，体の後半を自切して，容易に再生を行なうものもある。幼生は担輪子(トロコフォラ)とよばれる段階をもつ。トロコフォラ幼生は体節構造をもつ多くの動物群に共通であり，これらの動物は担輪子型動物から進化したものと考えられている。多毛類はほとんど食用にはなっていないが，つり餌(え)としてよく使われている。　〔向井　宏〕

たもくてきダム　【多目的ダム】　一つの高いダムによってできる貯水池を，洪水(こうずい)調節のほかに発電・灌漑(かんがい)などに使うものをいう。貯水池は出水期までにからにしておき，洪水をためてそれを渇水期に各種の用水に使用するもので，水資源を最も有効に利用する方法である。ダムの建設費は，ダムから受ける利益に応じて各事業に案分される。それでも単一目的のダムより経済的に有利となるので，今日建設される高ダムは，その大半が多目的ダムとして計画される。➔ダム　〔米屋秀三〕

ダヤクぞく　【ダヤク族】　ボルネオ島に住む原住民の総称。ダイヤ族ともいう。古マライ系諸族の一。ドサン・海ダヤク(イバン)・陸ダヤク・カヤン・ケンヤ・ピアジュなど多種族に分かれ，総数約130万人。焼き畑による原始農耕を行ない，狩猟・漁労も行なう。十数ないし数十の家族を収容する長大な杭上(こうじょう)家屋に住み，これが集まって小部落を形成する。

たやすむねたけ　【田安宗武】　(1715～1771)　江戸中期の歌人。8代将軍徳川吉宗(よしむね)の子で，松平定信(さだのぶ)の父。田安藩四十万石の藩主。家臣荷田在満(ありまろ)の著した歌学書《国歌八論》をめぐり賀茂真淵(かものまぶち)も交えて論争を展開し，万葉調を尊重すべきこと，文芸は政教のためにあるべきことを主張。論争の結果，在満は辞職し，真淵が登用された。家集《天降言(あもりごと)》にその万葉調をみることができる。

たやまかたい　【田山花袋】　(1871～1930)　小説家。本名録弥(ろくや)。群馬県の生まれ。幼少より上京，書店に奉公して辛酸をなめた。はじめ桂園(けいえん)派の短歌を学び，国木田独歩・松岡(柳田)国男らと交わり，共著詩集《抒情詩(じょじょうし)》《野の花》などを刊行。やがてツルゲーネフ・モーパッサン・ゾラらの影響になる《重右衛門(じゅうえもん)の最後》の習作を経て，1904年(明治37)《露骨なる描写》を発表，排技巧の革新的文学論を唱えた。さらに1907年《蒲団(ふとん)》を発表して，自然主義文学の口火を切り，続いて三部作《生》《妻》《縁》，さらに《田舎(いなか)教師》《一兵卒》などを発表。平面描写論を唱道・実行し，私小説・心境小説の先駆となった。晩年には《源義朝(よしとも)》など歴史小説もある。　〔上田正行〕

たやりきぞう　【田谷力三】　(1899～　)　テノール歌手。東京の生まれ。大正から昭和初期にかけて，大衆的にも最も人気があった。根岸歌劇団・松竹歌劇団ではオペラ，特にオペレッタの歌手として，美声と歌詞のわかりやすさで，いくつかの歌は彼の名と結びついて覚えられた。

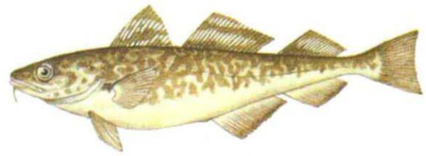
ダヤンかん　【達延汗】　(1469～1519)　モンゴル族の君主。1587年に即位し，イスマイル-タイシら有力な封建領主との長期の抗争に勝利を収めモンゴルをほぼ統一した。中国辺境にもしばしば遠征を試み，当時の中国史料によれば，兵力10万を有していたといわれる。彼自身は外モンゴルのハンガイ山付近に居住したが，各地に諸子を分封して支配にあたらせ，明(みん)・清(しん)代のモンゴル王侯の配置はこのときほぼ定まった。

たゆう　【太夫】　遊芸人の称号ないしは敬称。元来は中国の官制における官位の一種。浄瑠璃(じょうるり)では語り手を太夫とよび，浄瑠璃の系統である常磐津節(ときわずぶし)・

清元節などの語り手も太夫というが，地唄(じうた)・長唄などの歌い手は太夫とはいわない。また，歌舞伎(かぶき)の女方や大道芸人にも太夫と称する者がいた。なお，江戸時代に遊女のうちで高位の者は太夫の称号でよばれ，遊郭*の内外から尊敬された。

たゆうもと【太夫元】 江戸時代の歌舞伎(かぶき)において，劇場の所有者であり，幕府から興行権を許された最高責任者。初期の遊女歌舞伎の時代に，遊女を太夫とよんだので，その元締め，統率者という意味で，〈太夫元〉とよばれたのが，のちの〈座元〉の別称となった。劇壇にあって最も尊敬され世襲制であったので，その子も〈若太夫〉とよばれて特別に扱われた。俳優を兼ねた者もある。

たら【鱈・大口魚】 硬骨魚類・タラ科。体長120cmほどの海産魚。マダラともいう。東京でいうタラは本種をさし，北陸地方ではスケソウダラ*をタラ，本種をマダラという。北太平洋と日本海および黄海に分布しており，わが国の太平洋側では東北地方以北，日本海側では山陰地方以北の水深150mほどの所に多い。背びれが3基あり，下顎(かがく)端にひげがある。北洋漁業の重要魚種の一つで，肉は美味。干だら(棒だら・すきみだら)・塩だらなどにされるほか，肝油はビタミンAの原料となる。なお，たらこは同じ科のスケソウダラの卵巣である。
〔安田富士夫〕



タ　ラ

ターラ［tāla］ インド芸術音楽の音楽理論上の重要な概念の一つで，拍節法とリズム法に関するものである。周期的に反復される一定の拍数のまとまりがターラとよばれ，その拍数は理論上は3～128拍に及ぶ。一つのターラのそのような拍群はさらにグループに分けられ，たとえばアディ-ターラの場合には4＋2＋2というように付加リズムとなっている。それぞれの拍がさらに細分される時間単位をもつこともある。

ダライ-ラマ［Dalai Lama］ ラマ教黄帽派の管長で，チベットの宗教・政治の主権者。モンゴル語で〈海〉〈偉大〉を意味するダライとチベット語で〈師〉を意味するラマの合成語で，偉大な法の指導者を意味する。ダライ-ラマ活仏系譜は黄教*ゲールクパ派の開祖ツォンカパ*の高弟で1429年にシガツェのタシルンポ寺を建立(こんりゅう)したゲドゥントゥパ(1391～1476)に始まり，現在までに14代を数える。歴代ダライのうち，第2代・第3代の時代に黄教はモンゴルにその勢力を伸張し，ついにアルタン汗の曾孫(そうそん)が第3代ダライの転生者として第4代ダライに迎えられるなど，モンゴル勢力との結合を深めた。次いで第5代のとき，ホショット部長グシ汗の援軍を得て西部チベット紅帽派の雄ツァンパ汗を1642年に征討しチベット全土の主権を掌握し，ラサのポタラ宮殿*を本居とした。しかし第7代以降は清朝(しんちょう)，第13代時代には英印政庁の干渉を受け，さらに1950年には中国軍のチベット解放工作が進み，現在の第14代ダライは1959年にインドに亡命した。〔金子良太〕



ダ ラ ス　高層建築の立ち並ぶダラスの中心街。遠景には広大なテキサスの平原が広がる。右の高い建物はシェラトンホテル(下層は銀行)



タ ラ ノ キ

タラカン(島)〔Tarakan〕 インドネシア，ボルネオ島北東岸のセレベス海にある島。面積304km²。良質の石油産地として知られ，住民もそのほとんどが石油関係者である。石油は19世紀末にロイヤル-ダッチ-シェル会社によって開発された。原油は，ボルネオ島のバリクパパンとバンジュルマシンに送られて精製している。

たらぎ【多良木(町)】 熊本県南東部，球磨(くま)郡に属し，人吉(ひとよし)盆地東北部にある町。人口15,000。球磨川上流部の上球磨地方の経済・行政・文化の中心で，林業が盛んであり，近年には酪農も行なわれる。湯前(ゆのまえ)線・国道219号線が通じる。

たらこ【鱈子】 紅葉子(もみじこ)ともいう。おもにスケソウダラ*の卵巣を塩蔵したもの。ときにマダラも用いられる。上質な原料を用い，全然着色しないか，しても薄いほうがよい。そのままで，あるいは焼いて副食や酒のさかなとする。

ダラス［Dallas］ アメリカ合衆国，テキサス州北部の商工業都市。人口82万2,000，大ダラス156万(1975)。トリニチ川に臨んだコットンベルト最大の都市で，広い農業地域を背景にして商業活動が活発であり，南部における金融の中心地となっている。石油精製業のほか，航空機製造・電子工業も盛んである。1963年，遊説旅行中のケネディ大統領が暗殺された地として知られる。

タラスのたたかい【タラスの戦い】 751年に中央アジア，天山山脈の西部にあるタラス河畔で，唐とイスラム帝国との間に行なわれた戦争。高仙芝(こうせんし)に率いられた唐軍が大敗するが，このときの捕虜に紙すき工がいたことから，紙の製法がアラビアに伝えられたことは東亜交渉史上に有名。

たらだけ【多良岳】 九州北西部，大村湾と有明海にはさまれ，長崎・佐賀県境にそびえる円錐(えんすい)形火山。経ケ岳(1,076m)・多良岳(983m)などの主峰が西に開口した火口壁をつくり，ここから郡(こおり)川が大村湾に流れ出る。ふもとは多くの放射状谷で刻まれ，谷底には水田が開ける。長崎・佐賀両県の県立公園に指定され，山頂のシャクナゲの大群落が名高い。

ダラディエ［Edouard Daladier］(1884～1970) フランスの政治家。ミュンヘン会談*当時の首相。急進社会党員で，1919年以後代議士に当選。1936年から党首となり，人民戦線に参加，ブルム人民戦線内閣の国防相兼副首相をつとめた。1938年第3次内閣組閣後は人民戦線政策を放棄，ミュンヘン会談に出席して，宥和(ゆうわ)政策をとった。第2次世界大戦でフランス軍がドイツ軍に大敗し，親独的なビシー政府が成立したため逮捕され，ドイツ国内に監禁された。1945年に釈放され，翌年国民議会議員となった。
〔喜多迅鷹〕

だらに【陀羅尼】 仏教の呪文(じゅもん)。梵語(ぼんご)dhāraṇī(ダーラニー)の音写。ダーラニーは，動詞ドゥリから派生した名詞で，〈保持するもの〉〈とるもの〉〈記憶するもの〉を意味し，この意味から総持・持・能持などの訳語があてられることもある。本来は，仏典の示す法を散乱させず，悪法を生まないように，仏典の記述中の重要部分を簡潔な句にまとめたものをさした。三種陀羅尼とか四種総持とかいうのは，そのことばよりも，法を失わないための知恵・三昧(さんまい)のあり方についていったものである。これに対して密教では，ことばのもつ力に重点が移った。インドでもすでに特別な呪句を用いて，経典の霊力を増す手だてがみられたが，梵語を直接理解しない中国・日本・チベットなどの仏教では，呪句の一字一字に字義以上の霊力が宿るものとして，祈禱(きとう)・儀式で広く行なわれるようになった。長いものを陀羅尼といい，短いものを真言*といって区別するのが一般的である。
〔金岡秀友〕

たらのき【楤木】 双子葉植物・ウコギ

科。山野のひあたりのよい場所に自生する落葉低木。高さ4m前後で，茎・枝・葉などに多数のとげがある。葉は2回羽状複葉で長さ0.5～1mほど，枝の先に集まって互生し，四方に広がる。小葉は卵形～楕円(だえん)形で対生し，細かい鋸歯(きょし)がある。葉の裏は白みがかる。8～9月，枝の先端に白色五弁花が多数集まって，大きな円錐(えんすい)花序をなす。果実は直径3mmの球形で黒熟する。若芽は山菜として用いる。

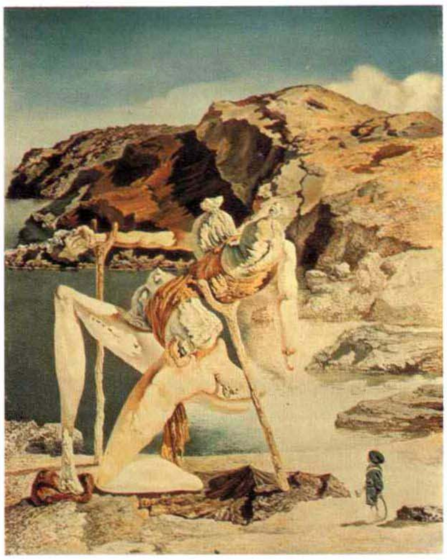
たらばがに　[鱈場蟹]　甲殻(こうかく)類・十脚目・異尾類・タラバガニ科。甲長220mm，甲幅250mmにも達する大形のカニであるが，分類学的にはヤドカリ類に近い。真のカニ類と異なり，脚は外からは4対しか見られず，第5脚は甲の下に隠される。甲は丸形で，額角中央の棘(きょく)は長い。北海道沿岸からオホーツク海・ベーリング海・北極海および北太平洋の大陸棚(たいりくだな)深部に広い範囲で分布し，0℃から7～8℃の冷水塊に好んですむ。10℃以上の水温では，卵の死亡が大きいことが知られており，生息に適さないと思われる。生時，背面は暗紫色を呈し，腹面は黄色。第1脚ははさみ状をなし，右側が大きい。性的成熟に達する大きさは地方によって異なり，カムチャツカ沿岸では雌の甲幅85～90mm以上，根室付近では100～105mm以上である。移動能力は大きく，標識放流で調べた結果では1日平均2.7kmであった。刺し網で漁獲され，脚部の肉を食用とする。北洋カニかんづめの原料となり，美味。漁獲後，蟹工船で直ちにかんづめに加工されることが多い。➔蟹工船　〔向井　宏〕

ダラピッコラ　[Luigi Dallapiccola]　(1904～1975)　イタリアの作曲家。オーストリア領であったイストリア半島で，古典語の教師の家庭に生まれた。第1次世界大戦中にオーストリアのグラーツに強制疎開させられたが，この古い音楽都市でワーグナー*やR.シュトラウス*の作品を聞き，音楽家となることを決心，戦後フィレンツェのケルビーニ音楽院に入学した。音楽院在学中にシェーンベルク*の指揮する《ピエロ-リュネール》を聞いてその新しい現代的な作風に感銘し，新古典主義的な作品からしだいに12音技法に近づき，1937年の《三つのラウデ》で，イタリア人としてはじめて12音技法による作品を発表した。以後，サン-テクジュペリの小説によるオペラ《夜間飛行》，ムッソリーニへのプロテストのカンタータ《囚(とら)われの歌》，オラトリオ《ヨブ》，オペラ《解放の歌》など，12音技法による声楽作品を多数作曲している。彼の作品は，12音技法を用いながらも，イタリアの伝統であるカンタービレふうの旋律をもつ。〔船山　隆〕

ダラムだいせいどう　[ダラム大聖堂]　イギリス，イングランド北部のダラムにあるイギリス-ロマネスクを代表する寺院の一。1093年に着工されてから数度にわたって増改築され，ほぼ14世紀に現在の形をなすに至った。城郭と僧院が一群となって岩山の上にそびえ，側壁は上方にいくほど狭くなっている。13世紀半ばに建てられた九つの祭壇をもつ礼拝堂は，その装飾的な北窓と合わせて，特異な神秘性を漂わせている。



タラバガニ



ダ　リ《セクス-アピールの亡霊》

たらよう　[多羅葉]　双子葉植物・モチノキ科。暖地の山に自生する常緑高木で，庭木に用いられる。高さ15m，直径60cmに達する。葉は長さ2～2.5cmの柄で互生し，長さ10～20cm，幅4～8cmの長楕円(ちょうだえん)形，低い鋸歯(きょし)がある。葉身は厚く，表面につやがある。この葉に傷をつけると黒変するので，葉の表に文字や絵を書くことができる。雌雄異株で，5月ごろ，葉腋(ようえき)に緑黄色の花が多数つく。果実は直径8mmの球形の石果で赤熟し，翌年の春まで落ちないで残る。

タラワ(島)　[Tarawa]　西太平洋，ギルバート諸島中のサンゴ礁島。面積21km²。イギリス領植民地ギルバート-エリス諸島の中心で，住民のほとんどはミクロネシア人。コプラ・真珠貝を産する。1892年イギリス保護領，1915年イギリス領となり，第2次世界大戦中の1941～1943年(昭和16～18)は日本が占領した。

ダーラン　[Dharan]　サウジアラビア東部，ペルシア湾西岸中央に位置する都市。人口10,000(1967)。油田地帯にあり，同国内の独占的石油操業者アラビア-アメリカ石油会社(アラムコ)が建設したもので，同社の操業本部と資材集散地がある。首都リヤドとは鉄道で通じ，国際空港もある。

タラント　[Taranto]　イタリア南東部，タラント湾に臨む港市で海軍基地。人口23万9,900(1975)。ぶどう酒・オリーブ油・果実の産が多く，市東部沿岸の浅瀬ではカキの養殖が盛んである。紀元前8世紀にスパルタによって建設され，のち前2世紀にはローマ領となった。1063年ナポリ王国に併合されて城塞(じょうさい)化し，1861年イタリア建国以後は軍事基地として発展した。第2次世界大戦で，イタリア艦隊の主力は根拠地であるこの港でイギリス軍の空爆を受けて滅び，1943年に連合軍に占領された。11世紀建造のサン-カタルド大聖堂や古代博物館などのある古都で，古くはタレンタムとよばれた。〔梶川勇作〕

ダランベール　[Jean Le Rond d'Alembert]　(1717～1783)　フランスの数学者・物理学者・哲学者。パリに生まれ，パリで没した。タンサン侯夫人の私生児として生まれたが，すぐに捨て子されたという。ガラス職人の妻アランベールに養育された。早くから数学的天才を発揮し，26歳で主著《力学論》を発表した。この中で〈ダランベールの原理*〉が述べられているが，これは彼の解析力学の構想の所産である。29歳で《歳差に関する試論》を出版。これは物体の回転運動に鋭い省察を与えたものである。他に文学的・哲学的小品を多数書いているが，その大部分はむしろ凡庸である。しかし，《百科全書》序論を担当し，そこで科学の分類を試み，科学の起源，その将来の発展を予測している。人間的には小心であったが，清廉潔白の士として知られた。〔石井忠厚〕

ダランベールのげんり　[ダランベールの原理]　1743年，ダランベール*により発表された力学の基本的原理の一。質量 m の質点に力 F が作用して加速度 A を生ずるとき，運動方程式は $F=mA$ である。これを $F+(-mA)=0$ と書き換え，$-mA$ を形式的に力と考えることにすると，この式は F と $-mA$ の二力のつりあいの関係を示す式となる。$-mA$ を慣性抵抗または慣性力という。このことばを使えば，〈質点に働く力と慣性抵抗とはつりあいの関係にある〉といえる。これをダランベールの原理という。一見単なる式の書き換えにすぎないようにみえるが，この原理の意義は動力学の問題を静力学の問題に置き換えた点にあり，つりあいの問題を解く方法を応用することができるようになるため，特に質点系や連続物体の運動を取り扱う場合に問題を処理しやすくする。〔有山正孝〕

ダリ　[Salvador Dali]　(1904～　)

スペイン出身の画家。シュルレアリスム*の代表者のひとり。1921〜1926年マドリードの美術学校に学んだが，放校された。学生時代にキュービスム*の運動に興味を示し，1923年ごろキリコやカッラの形而上(けいじじょう)絵画*から影響を受けた。バルセロナとマドリードで発表された作品は，綿密な素描力で注目された。1928年パリに出てピカソ・ブルトン・ミロ・タンギーらと交わる。その後しだいに幻想的な傾向を強め，非合理的な幻覚を写実的に表現する独自の画風を確立した。1934年アメリカに渡り，1940年からカリフォルニアに定住。舞台装置や商業デザインにもすぐれた成果を収めている。また，ブニュエル*と共同で映画《アンダルシアの犬》《黄金時代》も制作した。〔島田紀夫〕

ダリア ［*Dahlia*］ 双子葉植物・キク科。半耐寒性球根植物で，メキシコ・グアテマラに12〜15種分布するが，現在栽培されている園芸種はいくつかの種が交雑されてできた雑種と考えられている。ダリアの名は，植物分類学者リンネの弟子(でし)のアンドレーダール教授の名を記念して1791年カバニールによって名づけられた。もとメキシカンーアスターとよばれ，1789年メキシコ植物園長カーバンテスから，マドリード植物園長アベーカバニールに種子が送られ，ここからイギリスやドイツなどに送られてヨーロッパに広がった。1814年には八重咲きが現われ，栽培はフランスやイギリスで盛んになった。日本へは1842年(天保13)にオランダ人によってもたらされた。これは緋紅(ひこう)色の一重で，テンジクボタンとよばれたという。その後1887年(明治20)ごろから栽培が盛んになり，1909年にははじめて東京で品評会が開かれた。

イギリスの王立園芸協会はダリアを①シングル，②スター，③アネモネ，④コラレット，⑤ピオニー，⑥デコラティブ，⑦ダブルーショー，⑧ポンポン，⑨カクタス，⑩ドワーフ，その他の11系統に分け，これらに多数の品種がある。

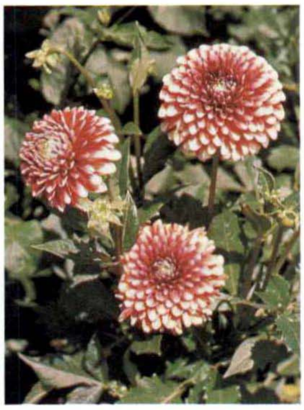
繁殖は一般に分球による。塊根に古い茎の一部をつけて分球しないと芽が出ない。排水・日あたりのよい所に3〜7月に植えつけ，支柱を立てて摘心・摘芽を行なう。寒地では秋霜の降るまえに塊根を掘り上げて5℃ぐらいの所に貯蔵する。〔小杉　清〕

ダリウス ⇨ダレイオス

タリウム ［Thallium］ 周期律表第Ⅲ族に属する元素。記号Tl，原子番号81，原子量204.37。1861年W.クルックスが硫酸工場の鉛室泥中(でいちゅう)から分光分析により発見した。炎色反応はあざやかな緑色。鉛に似た柔らかい金属で，融点302.5℃，比重(20℃)11.85。酸化されやすいので，石油中に貯蔵する。タリウムの可溶性塩は有毒で，殺虫剤などに用いられる。

ダリーオ ［Rubén Darío］ (1867〜1916) ニカラグアの詩人。フランス象徴詩の影響を受けたラテンアメリカの唯美的な文学運動〈近代派〉の中心的存在。1888年発表の詩集《青》により一躍文壇の寵児(ちょうじ)となった。1896年《アメリカ評論》誌を創刊，この間《稀有(けう)な人々》《俗なる続唱》などの作品を次々に発表し，その影響はスペインの若い文学世代にも及んだ。1900年以降はパリでボヘミアンの生活を送り，代表作となった《生命と希望の歌》などを書いた。第1次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)と同時にニューヨークにのがれたが，1916年故国で没した。〔牛島信明〕





ダリア　(左)コラレット　(中)カクタス　(右)ダブルーショー

たりき 【他力】 浄土系思想において重要視される阿弥陀仏*(あみだぶつ)の救済力。自力が仏道修行を自覚的に行なう人の自己の力であるのに対し，他力は凡夫大衆を救済するため，仏のほうから招き寄せる力のことである。浄土三部経とナーガールジュナ(龍樹)・バスバンドゥ(世親)の論書ではこれを〈本願力〉としており，他力の用例はない。自力・他力をはじめて使用したのは曇鸞(どんらん)の《浄土論註》であり，道綽(どうしゃく)の《安楽集》もこれに従っている。善導と源信は〈阿弥陀仏の願力〉と表現し，他力を用いていない。法然*においてはじめて念仏*に自力と他力の別が設けられ，他力の念仏が勧められた。しかし以上のような他力に関する救済理論を徹底化して体系的に論じたのは親鸞*(しんらん)である。彼は他力とは阿弥陀如来の本願力のことであるといっているが，この考えをさらに深めて，凡夫救済のために阿弥陀仏が立てた誓願(第十八願)を深く信ずること，すなわち浄土に救われることを如来の本願力に任せきること，これこそ他力であると説いた。深く信ずることとそのことがすでに他力に包摂されていることであるとするのは，キリスト教の救済論と異なる点である。〔山折哲雄〕

タリム(盆地) ［Tarim］ 中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区の南半を占める盆地。北は天山，南は崑崙(こんろん)両山脈の間に位置し，東西1,400km，南北500kmにわたり，中央にはタクラマカン砂漠(さばく)がある。年降水量は50mm以下で乾燥しているが，夏の高温と灌漑(かんがい)が行き届いていることからオアシスでは米・小麦・トウモロコシ・ワタ・クワ・果実などが栽培されている。オアシスには古くから都市が形成されており，ウイグル族と漢民族が居住している。東西交通路としてのシルクロードが盆地の南北両縁を通じており，古代西域の遺跡が数多く残っていることで知られている。〔千田　稔〕

タリム(川) ［Tarim］ 中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区のタリム盆地*を東流する内陸河川。延長約2,000km。北方の天山山脈から発したアクス川，西方パミール高原からのカシュガル川，南方崑崙(こんろん)山脈からのホータン川などが自治区西部，アクスの南で合流してさらに東流し，盆地東部にあるロプノール湖に注ぐ。水量は季節によって増減がはなはだしく，周囲の山地の融雪期には著しく水量を増す。

たりゅうかけいごうせいゴム 【多硫化系合成ゴム】 準汎用(はんよう)合成ゴムの一。合成ゴムの中では歴史は古く，アメリカではチオコールの商品名で1930年から市販されている。一般式は$[-R-S_x]_n$(Rはアルキル鎖)。原料・製法によって多くの種類があるが，代表的なのは次式の反応でつくられるチオコールAである。

$n\cdot ClCH_2CH_2Cl + n\cdot Na_2S_4$

1,2-二塩化エタン　四硫化ナトリウム

$\rightarrow [-CH_2CH_2-S_4-]_n + 2n\cdot NaCl$

チオコールA

淡黄色の特有のにおいのするゴム状物質で，主として金属酸化物で加硫される。耐油性・耐老化性・耐オゾン性などにすぐれているが，加工性や機械的性質はやや劣る。燃料タンク・耐油性ゴム製品・接着剤などに用いられる。重合度の低い液状のものはロケット用固体燃料の原料になる。➔合成ゴム〔伊藤　卓〕

タリン ［Tallin］ ソ連西端部，エストニア共和国の首都で，フィンランド湾に臨む港市。人口40万8,000(1976)。各種機械・電機・木材・紙・パルプ・楽器・繊維・食品などの工業が盛んである。町かどにはカフェなども見られる西欧的な都市である。13世紀に建造された城壁をはじめとして16世紀ごろまでの建築物・寺院が残っている。

ダーリング(川) [Darling] オーストラリア南東部，ニューサウスウェールズ州を流れる川。大分水嶺(ぶんすいれい)山脈に発するバーウォン川・カルゴア川などを合わせ，ウェントワースでマレー川に注ぐ。全長約990km。灌漑(かんがい)によく利用され,流域一帯は小麦栽培や牧羊が発達している。

タール [tar] 狭義にはコールタールのことをいうが，広義にはいろいろな有機物の熱分解によって生じる黒色ないしかっ色の粘稠(ねんちゅう)性油状物質のことをもいい，これには木タール・石油タール・ケツ岩タールなどが含まれる。おもな成分は芳香族炭化水素で，パラフィン・シクロパラフィン・固形無機物などが少量含まれている。多くは加工・改良し，蒸留して炭化水素を分離して工業原料に使っているが，一部は塗料・燃料・舗装用にも使われる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

タール(火山) [Taal] フィリピン，ルソン島南部のタール湖中にある火山。海抜約300m。タール湖はカルデラ湖で，タール火山はその中央火口丘にあたる。1749年以来しばしば爆発をくり返し，特に1911年の爆発は山体が変形したほど大きなもので，1,335人の死者を出した。最近では1965年に爆発があった。

タール(砂漠) [Thar] インド北西部，西パキスタンとの国境地帯に広がる砂漠(さばく)。インド砂漠ともいう。面積約27万km²。デカン高原・バルチスタン高地に囲まれた乾燥地で,年降水量は250mm以下である。北西部ではインダス川水系を一部含み，住民はオアシス農業と遊牧を営んでいる。オアシス都市にジョドプル・ビカネルなどがある。

たるい 【垂井(町)】 岐阜県西部，関ケ原地峡の東側に位置し，不破(ふわ)郡に属する町。人口26,000。江戸時代に中山道(なかせんどう)の宿場町であった垂井を中心として，1954年(昭和29)に1町6村が合併した。東海道本線が通るが，地形の関係から，駅は上り線の垂井駅と下り線の新垂井駅に分かれている。カキ・クリ・茶などの特産があり，近年繊維・金属・機械などの工場が進出している。

ダルエスサラーム [Dar es Salaam] アフリカ南東部，タンザニア共和国の首都。インド洋に臨む港市で，この国最大の貿易港である。人口51万7,000(1975)。サラセン帝国の繁栄時代にアラビア人は黒人奴隷・象牙(ぞうげ)の積み出し港として利用し，多数のアラビア人が居住していた。ここから内陸高原にあるタンガニーカ湖岸のキゴマと鉄道で結ばれており，サイザル麻・綿花・マホガニーなどを積み出す。政府諸機関が集まり，大学(1963年創立)・博物館もある。〔小栗 宏〕

たるかいせん 【樽回船】 江戸時代の大阪・江戸間の回船。樽船ともいう。菱垣(ひがき)回船*の制度化で打撃を受けた大阪の富田屋・大津屋，摂津伝法村の毛馬屋などの回船問屋は，正保年間(1644～1647)駿河(するが)(静岡県)の回船を雇い入れ，酒・もめんなどを大阪から江戸へ回送した。これが樽回船の起こりであり，西宮(にしのみや)・伊丹(いたみ)の酒造主の援助を得て，酒・雑貨を輸送し菱垣回船と競争した。1730年(享保15)両回船は江戸の十組問屋*から引き受ける積み荷の種類を協定し，樽回船はおもに酒荷を扱うことになった。1773年(安永2)にも協定を結んだが荷はしだいに船足の速い樽回船に集まり，菱垣回船を圧倒した。しかし，幕末には西洋形帆船・蒸気船が出現したため衰微した。〔松尾 涼〕

タールがん 【タール癌】 コールタールの塗布によって発生させた癌*。山極勝三郎と市川厚一が，ウサギの耳の内面にコールタールをくり返して塗布することによって表皮癌を発生させた(1914)。これは世界で最初の人工癌である。この実験は発癌物質の実験的究明の端緒をなした。なお，ハツカネズミの背中にコールタールを塗ると，ウサギよりも容易に癌を発生させることができる。

タルク [talc] カッ石ともいう。マグネシウムの層状含水ケイ酸塩の一。$Mg_3Si_4O_{10}(OH)_2$ 単斜晶系(最近三斜晶系とされる)。比重2.82,硬度1で固体の鉱物中最も柔らかく，つめで傷がつく。このため脂感がある。劈開*(へきかい)は底面に完全。鈍い脂肪光沢または真珠光沢。屈折率1.54～1.60。ふつう淡緑色か白色の塊状，または微粒集合体として産する。低度または中度の変成作用によって生じ，結晶片岩中に産することが多い。熱・電気の不良導体で，滑性・耐火性などがあるので，洋紙・化粧品の滑剤，ゴムや鉛筆の心の添加剤，耐熱磁器の原料，塗料，殺虫剤など工業用に広く用いられる。アッシリア・古代エジプト・古代中国においては石器に用いられた。〔加藤敏郎〕

ダルクローズ [Emile Jacques Dalcroze] (1865～1950) スイスの音楽教育家。リトミックの創始者。ウィーン生まれ。はじめドリーブ，ブルックナーに作曲を学ぶ。のち音楽教育における運動感覚の重要性に着目，1910年ヘレラウにリトミック学校を創立した。この学校は1920年にウィーンに移転，現在ジュネーブにある。その教育法は音楽家だけでなく，ニジンスキー*・ランバート・ビグマン*らの舞踊家，多くの舞台芸術家にも大きな影響を与えた。主要著書《リズムと音楽と教育》《ユーリトミックスと芸術と教育》など。〔高橋孝一〕

タルサ [Tulsa] アメリカ合衆国，オクラホマ州北東部の工業都市。人口33万(1975)。アーカンサス川に臨み，付近は豊富な石油の産出地域で，精油・ガラス・石油採掘装置製造・航空機製造工業が盛んである。

ダルース [Duluth] アメリカ合衆国，ミネソタ州北東部，スペリオル湖西端の港湾・工業都市。人口10万1,000(1970)。ミネソタ岬(みさき)が自然の防波堤となり，合衆国でも良港の一つで，付近のメサビ*鉄山から多量に産出する鉄鉱石の積出港として有名である。製粉・鋳造・鋼製品・製材工業が盛ん。

タルスキー [Alfred Tarski] (1902～) ポーランドの数学者・論理学者・科学哲学者。ワルシャワ大学でルカーシェビッチらに学んだ。1939年にアメリカへ移住し，カリフォルニア大学教授となる。集合論を中心に純粋数学の研究を行ない，バナッハとともに業績をあげた。また数学的論理学の一分野である超数学にも大きな貢献をしている。哲学的には，意味論の分野を開拓し，その真理に関する研究は論理実証主義の代表者であるカルナップ*の哲学に決定的な影響を与えた。主著《論理学・意味論・超数学》。〔寺中平治〕

タルタロス [Tartaros] ギリシア神話の神であるが，本来は冥府(めいふ)の最も奥に位置する地獄。生前に極悪非道の行ないをした者，特に神々に対して反逆・冒瀆(ぼうとく)の行為を直接なした者が，死後におもむく所とされた。ここの住人には，首まで水につかり，豊かに実っている果実を目前にしながら，永遠の飢えとかわきに苦しめられているタンタロスや，苦労して頂上まで押し上げるとまたころがり落ちる巨岩を永久に押し続けているシジュポス*らがいる。

タルチュフ モリエール*の韻文喜劇(1664)。5幕。にせ宗教家タルチュフは元貴族と称してパリの商人オルゴンの家にはいりこみ，財産を手に入れようとオルゴンの妻に言い寄り，逆に正体が暴露されてしまうというもの。当時の宗教的偽善への批判をこめた作品なので，たびたび上演禁止にされた。

タルティーニ [Giuseppe Tartini] (1692～1770) イタリアの作曲家・バイオリン奏者・教育者。法律を学ぶかたわらバイオリン奏法の研究に没頭し，卓越した技巧を身につける。のちにヨーロッパ各地を演奏旅行し名声を博する。他方，バイオリン教育のための学校を創立し，ナルディーニをはじめ数多くのすぐれた弟子(でし)たちを養成した。彼の音楽はコレルリやビバルディの伝統を受け継ぐとともに，それをさらに前進させた前古典派のスタイルを示している。また，バイオリンの演奏技巧を飛躍的に発展させたことも忘れてはならない。作品としては，夢の中で悪魔がひいて聞かせてくれたという逸話によって知られるバイオリン-ソナタ《悪魔のトリル》や《コレルリの主題による変奏曲》などが有名。〔寺田兼文〕

タルト [tarte] 洋菓子の一種，またこ

の菓子を焼くのに用いる型をもいう。パイの生地を型に入れて焼き，チョコレートやフルーツ・木の実などを詰めたもの。元来フランスの菓子で，日本では松山(愛媛県)の名菓で同名のカステラ菓子がある。

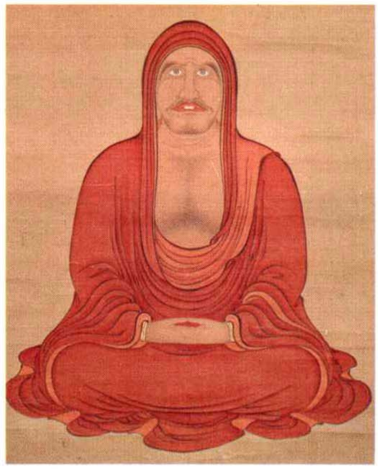
タルド ［Gabriel Tarde］ (1843～1904) フランスの社会学者・犯罪学者。デュルケーム*と並ぶ近代フランス社会学の代表者。ツールーズ法科大学を卒業後，司法官の職につき，《比較犯罪学》《刑事哲学》《世論と群衆》などを著わした。主著《模倣の法則》では，社会を個人相互間に成立する模倣関係としてとらえ，社会現象に心理学的解釈を導入して，社会心理学成立の端緒を開いた。1900年コレージュ-ド-フランスの哲学科教授となった。

タルバガタイ(山脈) ［Tarbagatai］ 中国北西部，新疆(しんきょう)ウイグル自治区のジュンガリア(ジュンガル盆地)北西にある山脈で，ソ連との国境をなす。南麓(なんろく)に交易都市塔城がある。1864年，タルバガタイ条約によってロシアと清(しん)との間で国境線が決定された。

たるひとしんのう 【熾仁親王】 (1835～1895) 有栖川(ありすがわ)宮9世。幟仁(たかひと)親王の第1皇子。母は佐伯(さえき)祐子。幼名歓宮(よしのみや)。1858年(安政5)安政の五か国条約*の締結に反対して攘夷論*(じょういろん)を主張し，国事に奔走した。1864年(元治1)禁門の変*後，国事御用掛の職を解かれていたが，王政復古*とともに新政府の総裁職に就任。戊辰(ぼしん)戦争*には東征大総督として江戸へ進撃した。維新後，兵部卿(ひょうぶきょう)・元老院議官・同院議長・左大臣などを経て，西南戦争*には征討総督となり，戦後は陸軍大将。1885年参謀本部長，1889年には参謀総長(兼任)に進み，日清(にっしん)戦争*中広島大本営で病没。 〔高崎徳次〕

だるま 【達磨】 生没年不詳。中国，南北朝時代の僧。中国禅宗の初祖。インド名はボーディダルマで，菩提達磨と音写される。古文献では達摩と書く。通説によればインドの南天竺国(なんてんじくこく)の第3王子で，般若多羅(はんにゃたら)よりブッダの仏法を継いでのち，師の遺命により中国へ来た。梁(りょう)の武帝と問答をし，縁の熟さないことを知って嵩山の少林寺*でもっぱら坐禅(ざぜん)をした。慧可*(えか)の断臂(だんぴ)による求法に感心し法を伝え，禅の伝燈が確立した。言行録には弟子(でし)の編になる〈二入四行〉説がある。のちに多くの伝説が生まれて絵画の題材となり，また坐禅の伝説から日本では玩具(がんぐ)として達磨が生まれた。 〔石井修道〕

だるま 【達磨】 玩具(がんぐ)の一。足利(あしかが)時代に中国から渡来した不倒翁と称する玩具の製法によって，達磨大師をモデルに起き上がりのおもちゃにつくり，これをだるまとよぶようになったといわれる。土製・木製のものもあるが，ほとんどは紙製の中空の張り子で，胴を赤く塗り，底に重しをつけて横に倒しても起き上がる仕掛けになっている。東日本でつくられるものは主として白目で，願いごとがかなったとき黒目を描き入れる信仰用のもの，西日本のものは玩具用のものが多い。〔牧野玩太郎〕



達　磨　伝周文《達磨図》 達磨寺蔵

だるまいんこ 【達磨鸚哥】 鳥類・オウム科。東南アジアからインドにかけて産するインコ。翼長17cmほど。輸入数は少なく，わが国ではまれな種類。雄は全身緑色，頭部は濃灰色，胸はだるま色を呈する。戸外で楽に越冬するじょうぶな鳥であるが，巣引きはうまくない。木をかじる特性があるので，禽舎(きんしゃ)はブリキ張りにする必要がある。

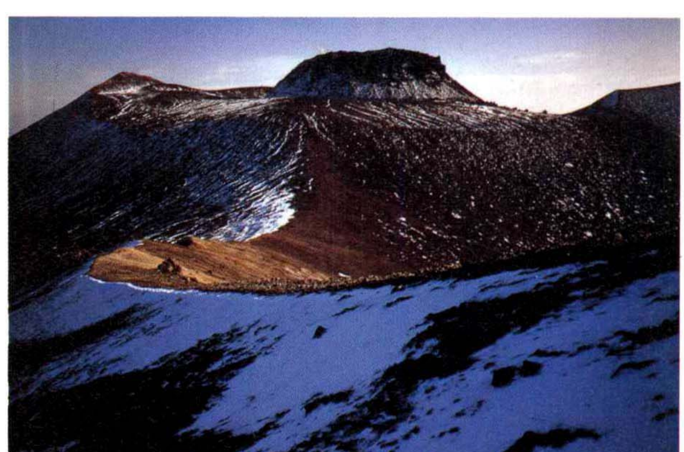
たるまえさん 【樽前山】 北海道南西部，支笏湖(しこつこ)の南側にある成層火山。高さ1,024m。有史以来多くの火山活動の記録をもつ。頂上に直径1.2kmの火口があり，1909年(明治42)の噴火の際生じた火口丘は径450m，比高105mの溶岩円頂丘で，噴煙を吐く。南と東はゆるやかな裾野(すその)を引いて，勇払平野に広がり，高度約600mの森林限界まで広い針葉樹林におおわれている。

だるまおこぜ ⇨オコゼ

だるまがえる 【達磨蛙】 両生類・アカガエル科。本州と四国に分布する。トノサマガエル*に似たカエルであるが，一般に後肢(こうし)が短く，体が丸みをおびていること，



だるま ①松川だるま(仙台) ②目なしだるま(群馬) ③親子だるま(白だるま)(甲府) ④はち巻きだるま(名古屋) ⑤姫だるま(愛媛)



樽前山 11月ごろの樽前山。山頂の中央火口丘内に噴出したドームが見える。ドームの直径は約450m，比高は100mを越える

体背面の暗色斑紋(はんもん)が少なく，かつ連続していないことなどで区別される。特に瀬戸内海東部の岡山ダルマ種族は斑紋が少なく，名古屋ダルマ種族とともに，種の特徴が強い。東日本の個体はトノサマガエルに類似するが，生息場所や繁殖期が異なる。本種は捕えたときに声を出さないのも特徴の一。〔松井孝爾〕

だるまざめ 軟骨魚類・ヨロイザメ科。全長50cmぐらいにしか達しない小形のサメ。雌は40cmぐらいで妊娠する。卵胎生で，胎児数は5～6尾。しりびれがなく。また，両背びれの前に棘(きょく)がない。上顎歯(じょうがくし)は斜位で一尖頭(せんとう)，下顎歯は幅広い尖頭が基底上に直立する。歯は一列が同時に抜け落ちる。太平洋・インド洋・大西洋の熱帯から温帯にかけての深海部に生息するが，夜間に表層部で採集される。日本近海では小笠原(おがさわら)諸島付近まで分布する。プランクトンネットで採集されることが多いので，遊泳力は強くないと考えられる。腹部(黒いバンドを除く)・胸びれ・腹びれ・尾びれは発光するといわれている。ごく普通の種類であるが，まとまって捕われないため，漁業の対象にはならない。〔谷内　透〕

だるません 【達磨船】 西洋形の構造をもつ木製の大きな伝馬船(てんません)の一種。船体は幅が広く，200～300トン積み程度のものが多い。艀(はしけ)として用いられ，櫓(ろ)・櫂(かい)または機関をつけ単独で航行するものもあるが，多くは引き船に引かれる。

ダルマチア [Dalmatia] ユーゴスラビア南西部，アドリア海岸に沿う地方名。1918年までオーストリアの一州であった。ジナル-アルプス山脈が地域の大部分を占め，複雑な海岸線とほぼ平行に列島が走る。内陸は冬季には北方からボラとよばれる寒風が吹き，気候はきびしいが，海岸部は温暖で風景も美しい。シベニク・スプリト・ドブロブニクなどの主要都市が海岸にある。島島では漁業が盛んで，塩の産出も多い。BC33年古代ローマ帝国に支配されてからさまざまな政治支配を受けてきたが，第1次世界大戦後オーストリアの統治を離れ，ユーゴスラビアの一部になった。セルビア人・クロアチア人など多くの民族が住み，特色ある文化をもつ。〔梶川勇作〕

ダルマチアン [Dalmatian] ダルメシアンともいう。ユーゴスラビア産のポインター-タイプの短毛の中形犬。黒またはかっ色の碁石のような美しい斑点(はんてん)が全身に散っている。体高は48.3～58.5cmくらい。

→イヌ

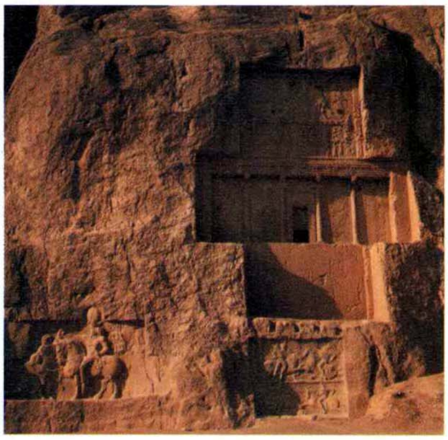
たるまわし 甲殻(こうかく)類・端脚目・クラゲノミ亜目・タルマワシ科の総称。黒潮などの暖海域にすむ外洋性プランクトンで，浮魚の餌料(じりょう)として重要と考えられている。頭部は大きくふくらみ，その大部分は非常に大きな複眼でおおわれる。第5胸



だるま船　タグボートに引かれるだるま船



ダルマチアン



ダレイオス　1世　ペルセポリスに近いナクシェールスタムにあるダレイオス1世の墳墓

肢(きょうし)が錐状(すいじょう)や擬錐状になり，捕捉(ほそく)に適するようになっているのが特徴で，他のクラゲノミ亜目の動物と区別される。体長1cm前後。雌がサルパ類・ウミタル類・ヒカリボヤなどに寄生して幼生を飼育する習性がある。〔向井　宏〕

ダールマン [Friedrich Christoph Dahlmann] (1785～1860) ドイツの歴史家・政治家。プロイセンによるドイツ統一を精神的に助けたひとり。1812年キール大学の教授になり，北ヨーロッパ特にデンマーク史の研究に従事。のちゲッチンゲン大学に移る。1837年ハノーバー国王エルンスト-アウグストが1833年制定の自由主義憲法を廃止した際，ダールマンが中心となってゲッチンゲン大学教授6人とこれに抗議した。ためにゲッチンゲンから追放され(→ゲッチンゲン七教授事件)，のちボン大学教授となった。さらに，フランクフルト国民議会の議員となり憲法の作成にあたった。著作には《デンマーク史》(1840～1843),《フランス革命史》(1845),《ドイツ史資料知識》(1830)などがある。〔兼岩正夫〕

たるみず 【垂水(市)】 鹿児島県，大隅(おおすみ)半島西部にある市。人口25,000。江戸時代には島津氏一族が居城し,1887年(明治20)までは肝属(きもつき)郡役所も置かれた。1958年(昭和33)市制施行。市域は，鹿児島湾中東岸に臨み，鹿児島市と相対して桜島と接する。鹿児島から垂水港へ定期航路が通じ，大隅半島の表玄関にあたる。産業三大別人口比は41：26：33。農業が盛んで，ミカン・ポンカン・ビワなどの果樹や露地促成栽培のエンドウなどの産が多い。沿岸漁業はカタクチイワシの水揚げが多く，桜島口ではタイ・ハマチの養殖も行なわれる。志布志から古江線が通じ,国道220号線を国鉄バス国分線が走る。北部の海潟(かいがた)は漁港で温泉があり，海岸は風光美に恵まれて，今後の観光開発が期待される。

ダルムシュタット [Darmstadt] 西ドイツ中部，フランクフルトの南27kmにある工業都市。人口13万7,000(1975)。機械・鉄製品・化学製品・カーペット・たばこなどの産が多く，1945年まではヘッセン州の州都であった。1836年創立の工科大学がある。第2次世界大戦で市街の75%が破壊された。

ダレイオス [Dareios] アケメネス朝*ペルシアの王。

1 1世(BC550ごろ～BC486) 在位BC522～BC486年。古代オリエント世界の統一を完成した。アケメネス家のヒュスタスペスの子。BC522年，王弟バルディヤがマゴス僧ガウマータの支持を受けて王位を奪ったが，カンビュセス2世の死後，ダレイオスは6人の貴族とともに王宮に侵入してバルディヤとガウマータを倒し，選ばれて王位についた。即位直後，全国的な大反乱が起こったが，1年の間に帝国の主要部を回復した。有名なダレイオス碑文*は，このときに作成された。

帝国再統一の事業と並行して支配体制の諸改革を行ない，そのうちでも税制改革を伴ったサトラップ*制の施行が最も重要な改革である。各州の一定の税額を毎年サトラップを通じて，銀または金で納税させた。ペルシア人は王をそのために〈商売人〉とよんだという。それを監督するための〈王の目，王の耳〉，スーサ～サルディス間の王道の建設と駅伝制，ナイル～紅海間の運河の開通，ダレイコス金貨の発行などの施策は，中央集権的支配を強化する役割を果たした。ペルセポリス*を国都とし，壮大な王宮が建設されたが，行政府はスーサに置かれた。即位がアフラ-マズダ神の意志に基づくことを強調するため神の法を維持し，〈国土を敵兵から，飢餓から，虚偽から守る〉ことを王

の任務とした。帝国再統一の完了後も，国外遠征はくり返された。BC500年のイオニア諸都市の反乱を機会に，ペルシア戦争を開始し，BC490年マラトンの戦いに敗れ，BC486年に没した。

[2] 3世(BC381ごろ～BC330) ペルシア帝国最後の王。在位BC336～BC330年。ダレイオス2世の曽孫(そうそん)。はじめカドゥシア族の反乱を鎮定した功によって，アルメニアのサトラップになった。当時，宮廷においてはアルタクセルクセス3世とアルセスの2代の王を暗殺した宦官(かんがん)バゴアスが権力をふるい，政治は混乱していた。バゴアスによって王に迎えられたが，バゴアスを倒して政治の粛正を図った。しかし，BC334年，マケドニアのアレクサンドロス大王の遠征軍が小アジアに侵入したので，翌年イッソスに戦ったが，敗北した。BC331年，ガウガメラにおいて再度対戦して敗れバクトリアにのがれたが，翌年，同地方のサトラップであったベッソスのために殺された。〔佐藤　進〕

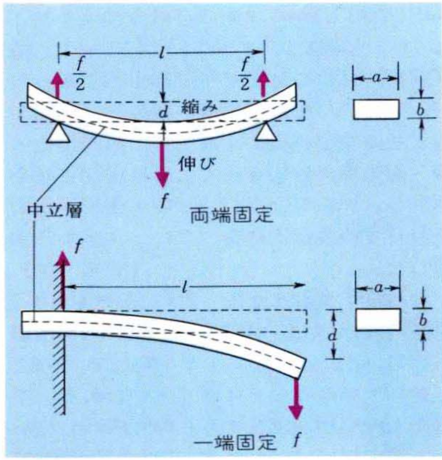
ダレイオスひぶん【ダレイオス碑文】 アケメネス朝ダレイオス1世(BC522～BC486)の碑文。ペルシア帝国の統一を完成した王は，その功績を数々の浮き彫りや碑文に残したが，中でもビヒストゥンの摩崖碑(まがいひ)(イラン，ケルマンシャー東方35km)は長文で有名。ペルシア語・エラム語・バビロニア語の3通りで書かれており，後世，楔形(くさびがた)文字を解読する手がかりになった。

タレガ［Francisco Tárrega］(1854～1909) スペインのギター奏者・作曲家。マドリード音楽院に学び，のちに同音楽院のギター科教授として名声をはせた。近代ギター奏法の創始者といわれ，バッハ・ハイドン・モーツァルト・ベートーベンらの古典の編曲，またスペイン音楽のアルベニスの作品の編曲でギター演奏者の地位を引き上げた。また《アルハンブラの思い出》など作品も多い。セゴビアは直接師事はしていないが後継者である。〔向坂正久〕

ダレサラーム ⇨ダルエスサラーム

タレス［Thales］(BC640ごろ～BC546ごろ) 古代ギリシアの哲学者。小アジアのギリシア植民市ミレトスの生まれ。万物の根源〈アルケー〉を探求した最初の哲学者として自然哲学の祖といわれる。彼はアルケーを〈水〉であると説いた。天文学・幾何学などにもすぐれ，特にBC585年の日食の予言や比例によるピラミッドの高さの測定は有名である。ギリシア七賢人のひとりに数えられるほか，アナクシマンドロス・アナクシメネスらのミレトス派の祖ともされる。星の観測に気をとられてみぞに落ち，下女に笑われたというエピソードは有名。〔本橋正義〕

ダレス［John Foster Dulles］(1888～1959) アメリカの政治家。プリンストン大学卒業後，弁護士を開業。第1次世界大戦後のパリ平和会議にアメリカ代表団顧問となったのをはじめ，各種国際会議に代表として出席した。1944年の大統領選挙で共和党デューイ候補の外交顧問となり，超党派外交を提唱した。国際連合総会のアメリカ代表などを経て，1950年以後は国務長官ディーン-アチソンの特別顧問として，対日講和条約・日米安全保障条約・米比相互安全保障条約・アンザス条約の締結に努力した。1953年，アイゼンハワー大統領の国務長官となり，日本・西ドイツの再軍備，反共国家への軍事援助拡大，東南アジア条約機構(SEATO)・中東条約機構(METO)による集団安全保障体制強化など，共産圏に対する巻き返し政策，国防面でのニュールック戦略を展開し，冷たい戦争を激化させた。〔折井一彦〕



た わ み

タレーラン［Charles Maurice de Talleyrand-Périgord］(1754～1838) フランスの政治家・外交官。宮廷貴族の家に生まれたが，幼時のけがで不具となり，聖職者にされた。1789年司教となり，三部会議員に選出され，教会財産の国有化を提案し教会から破門された。1791年外交官に転向，ナポレオンにも重用され，外務大臣・侍従長となったが，やがてそのもとを離れた。ナポレオン没落後，ルイ18世のもとでウィーン会議の代表として活躍，フランスの正統主義を認めさせた。1815年政府を追われ，シャルル10世とは対立したが，七月革命でルイ-フィリップを支持，駐英大使(1830～1834)となり，1834年イギリス・スペイン・ポルトガルと四国同盟を締結した。その巧妙で機知に富んだ政治的才能と，貪欲(どんよく)と変節のスキャンダルは有名。〔喜多迅鷹〕

ダレル［Lawrence Durrell］(1912～) イギリスの小説家・詩人。アイルランド系植民者の子としてインドに生まれた。勉学のため帰国，ロンドンで放浪生活を送ったのち，下級官吏として外務省に長く勤務，アテネ・カイロなどに駐在した。1938年，ヘンリー-ミラーの影響を受けた長編小説《黒い本》によって批評家の注目を浴び，《ひとりだけの国》などの詩集によって特異な中堅詩人の地位を確立。1957年から1960年にかけて，実験的な構成と詩的な文体を用いた壮大な愛のロマン《アレキサンドリア-カルテット》(四部作)を発表，世界的な評価を得て，一躍，現代イギリス最高の作家のひとりとみなされるようになった。ほかにミラーとの書簡集，長編《タンク》，紀行・詩劇などがある。〔栗原行雄〕

たろいも ⇨サトイモ

たろう【田老(町)】 岩手県東部，宮古市の北に位置し，下閉伊(しもへい)郡に属する町。人口5,900。太平洋に臨む海岸線は屈曲に富み，漁業集落が発達してコンブ・ワカメ・アワビなどを漁獲する。田老湾の奥に発達した中心集落田老は1896年(明治29)の大津波で285戸がすべて流失し，1933年(昭和8)の三陸大津波でも362戸のうち358戸が流失した。1958年，高さ15m，延長1,350mの大防波堤が完成し，1960年のチリ地震津波ではほとんど被害を受けなかった。北西部の田老鉱山では硫化鉄・銅鉱が採掘され，鉱石は鉄索で宮古市に送られる。近年，ウミネコ繁殖地として知られる佐賀部(さかべ)海岸や真崎海岸に国民宿舎やロッジが設けられ，陸中海岸国立公園の観光基地となっている。国道45号線に沿い，宮古市からバスが通じる。

ダロウェーふじん【ダロウェー夫人】 V.ウルフの小説(1925)。国会議員を夫にもつクラリッサ-ダロウェーが夜会のために花を買いに出かけるところから始まり，さまざまな人物の意識の流れを透明な流動的文体で描いて，ひとりの中年女の生涯(しょうがい)を浮き彫りにする。〈意識の流れの文学〉の方法を駆使した作品として著名。

タロス［Talos］ アメリカ海軍の艦載対空ミサイル。ラムジェットを推進装置とする比較的初期のミサイルで，射程は長いが大形なので巡洋艦以上の艦に搭載(とうさい)する。電波で誘導するホーミング式。

たわし【束子】 器物をこすり洗うための道具。一般に使われているのは亀(かめ)の子たわしとよばれ，シュロやヤシ・サイザル(白色でシュロ・ヤシに比べて柔らかい)などの繊維を4cmくらいの長さにしてたばねた小判形のものである。そのほか種類は多く，鉄・アルミニウムの金属たわし，鉄を羊毛のように細かくしたスチールウール，新製品ではサラン・ゴム・スポンジ・モルトプレンスポンジなどの製品，柄つき，柄に洗剤を入れるものなどがある。〔前田一枝〕

たわみ【撓み】 棒や板の両端または一端をささえておいてそれと垂直の方向に力を加えると図のように曲がる。これをたわみあるいは曲げの変形という。棒や板は曲げられた内側の部分では圧縮され，外側の部分では引き伸ばされている。その境界で

伸びも縮みもない部分がある。これを中立層とよぶ。たわみの大きさは材料のヤング率と断面の形によって決まる。たとえば図のように断面が幅a，厚さbの長方形でヤング率Eの物質でつくられた棒を間隔lの2点でささえ，その中央に大きさfの力を加えたとき，力を加えた点の降下距離dは$d=(f/E)\cdot(l^3/4ab^3)$で与えられる。同じ棒を一端を固定してそれからlの距離の点に力fを加えた場合は$d=(f/E)\cdot(4l^3/ab^3)$となる。建物や各種の機械・構造物の各部分に断面がＩ字形やＬ字形の材料が用いられるのは，材料の量を減らして重量を減らし，しかもたわみの変形が大きくないようにするためである。➔弾性〔有山正孝〕

たわみかん【撓み管】 おもに蒸気・水・油などの輸送のために用いる管。自在管ともいう。配管方向をしばしば変える必要がある場合など，継ぎ合わされる二つの管部分を束縛しないために用いるもので，たわみ金属管やゴム-ホースを用いる。たわみ金属管は，鋼・銅・青銅・アルミニウムなどの帯板をＳ字形に曲げ，らせん状に継ぎ合わせたもので，継ぎ目には漏れ防止のためにゴムあるいはアスベストなどが詰められている。

たわらすなお【田原淳】（1873～1952）病理学者。大分県の人。本姓中島氏。1901年(明治34)東京帝国大学医学部を卒業。1903年私費でドイツに留学し，マールブルク大学病理学教室にはいり，アショッフ教授について病理学を専攻した。哺乳(ほにゅう)動物の心臓筋肉について研究し，特殊な筋繊維の網塊(田原結節)を発見。すでに発見されていたプルキニエ繊維およびヒス束と田原結節との関係を明らかにし，1905年房室刺激伝導系と名づけて発表した。1906年帰国，京都帝国大学・福岡医科大学(現九州大学)病理学助教授に任ぜられ，1908年教授となった。1934年(昭和９)に停年退職するまで，九州大学の医学部長・付属病院温泉治療学研究所長などを歴任。1914年(大正３)〈哺乳動物の心臓に於(お)ける刺激伝導筋系統の研究〉により帝国学士院恩賜賞を受けた。〔大島蘭三郎・島田貫太朗〕

たわらとうた【俵藤太】 ⇨藤原秀郷(ひでさと)

たわらもと【田原本(町)】 奈良県，奈良盆地の中央部に位置し，磯城(しき)郡に属する町。人口28,000。中心地区の田原本は古くからの市場町で，江戸時代には平野氏一万石の陣屋が置かれ，大和(やまと)の大阪とよばれて繁栄した。米作と大和スイカをはじめとする園芸作物の栽培が盛んであるが，近畿(きんき)日本鉄道の橿原(かしはら)線・田原本線や国道24号線が通じ，大阪方面への通勤者住宅が増加している。

たわらもの【俵物】 江戸時代，清(しん)国との長崎貿易*で輸出された海産物のうち，海参(いりこ)・干しあわびの２品をいい，1764年(明和１)からフカのひれを加え３品となった。長崎では〈ひょうもつ〉といった。清国貿易ではははじめ銅が主要輸出品であったが，しだいに銅の産出量が減少し，俵物が銅と並ぶ主要輸出品となった。幕府は金・銀・銅の海外流出を防ぐために俵物生産を奨励し，1785年(天明５)長崎に俵物元役所を設けて直接仕入れを行ない，全国から集荷した。〔松尾　涼〕

たわらやまおんせん【俵山温泉】 山口県長門(ながと)市南西部にある温泉。泉温26～42℃，泉質は単純アルカリ性泉で，外傷・皮膚病・神経痛などにきくといわれる。木屋川上流の山間部にあり，町ノ湯・川ノ湯・正ノ湯の三つに分かれる。1954年(昭和29)国民保養温泉に指定され，人造湖の豊田湖(とよたこ)や石柱渓(せきちゅうけい)を含む豊田県立公園の観光基地となる。美禰(みね)線の長門湯本駅からバスが通じる。

たん【痰】 ⇨喀痰(かくたん)

たん【反】

１尺貫法の面積の単位。10畝つまり991.74 m²(ほぼ10アール)にあたる。

２布帛(ふはく)のたけと幅を表わす単位。古くは端・段とも書いた。和裁では成人の和服１着を裁つのに適した長さを１反とするので，１反のたけ・幅は時代や布帛の種類，衣類の大小の変遷によって異なる。たとえば，奈良時代の717年(養老１)には調布の１端は当時の尺で４丈２尺，幅２尺４寸とされ，736年(天平８)ではそれぞれ２丈８尺，１尺９寸であった。明治時代にたけ10.6ｍ，並み幅35cmに統一され，近年はたけ11.4ｍ，並み幅38cmを標準としている。なお，同じ布２反分の単位を匹(疋)という。➔反物〔堀越すみ〕

だん【段】 日本伝統芸能の形式構造を示す用語。能では定型によらず特殊な作曲様式による部分をさす。浄瑠璃(じょうるり)では１曲全体を区分する大きな単位として使われ，古浄瑠璃は６段，時代物は５段，世話物は３段が普通である。地歌・箏曲(そうきょく)では純器楽曲の段物や手事物で段構成が採用された。

ダン［John Donne］（1571？～1631）イギリスの詩人。エセックス伯に従ってスペイン遠征軍に参加，このころから詩作を始めたが，一方，17世紀の大説教者として知られ，後に聖ポール寺院の管長にもなった。その詩編は，皮肉な知性のひらめきや諧謔(かいぎゃく)に満ちたもので，形式的な宮廷文化や新興市民階級の浅薄な文物が横行する当時にあって，複雑な知性の中にみずみずしい感性を秘めたその作品は驚くべきものであり，〈形而上(けいじじょう)派詩人*〉の第一人者とされる。代表作は恋愛詩《唄(うた)》とソネット》など。〔五十嵐一〕

たんい【単位】 量を数値的に表わすために定められた基準。たとえば，長さを測定する場合には１ｍを基準の長さとしてその何倍にあたるかによって表わす。いろいろな量の単位はそれぞれ任意に定めてもよいが，長さの単位を１ｍに定めれば面積の単位は１m²と定めるのが便利であるように，相互に関連のある量の単位はそれぞれその定義あるいはその量の従う物理法則に基づいて，関連をもたせて定めておくのが，数値的な計算をする場合につごうよい。そのため，少数の量の単位を基本に選んで基本単位と名づけ，これから他の量の単位を定める。このようにして導き出された諸量の単位を誘導単位または組み立て単位とよぶ。基本単位の種類・大きさの選び方に応じて誘導単位の種類・大きさも異なるので，ある基本単位の組みから導かれる誘導単位の系列を単位系とよぶ。ＭＫＳ単位系*・ＣＧＳ単位系*などはその例である。基本単位の種類としては，長さ・質量・時間が用いられ，それぞれの単位が厳密に定義されている(➔原器)。しかし，電磁気的諸量の単位を定めるためにはこのほかにもう１種類の基本単位を加えることが必要で，また熱・温度に関する諸量の単位を定めるためには温度の単位を基本単位に加えることが必要である。

単位は理論的には場所・時間・物質の性質などの違いによって変化を受けることのない，絶対不変のものであることが望ましい。この要求を満たすように定めた単位系を絶対単位系とよぶ。ＭＫＳ単位系はその一例である。しかし実際には，絶対単位として定められた単位が日常の用途のためには大き過ぎたり小さ過ぎたりする場合，あるいは実際の測定が困難な場合には，実用上便利なような単位を別に定めて使用することがある。これを実用単位とよぶ。たとえば，基本単位として長さ・重量・時間を用いる重力単位系はその一例である。〔有山正孝〕

たんいせい【単位制】 高等学校・大学などにおいて，一定数の単位を履習・習得すればその教育課程の修了・卒業が認められる制度を，学年制に対して単位制という。単位とは教育制度上で一定の学習量を基準に定めたものである。単位制は科目選択制をとることを建てまえとしているが，適度の基準単位の設定と教育条件の整備が必要とされる。

たんいせいしょく【単為生殖】 処女生殖・単性生殖・単為発生ともいい，未受精卵から新個体ができる現象。出発点が生殖細胞の卵であるため，有性生殖の変形と考えられる。アブラムシ・ミジンコ・ミツバチ・アリなどにみられ，アブラムシのように染色体数が半減しない卵による単為生殖と，ミツバチのように減数分裂によって染色体数が半減した卵によるもの(ミツバチでは単為生殖によって雄のみを生じる)とがある。植物ではドクダミ・ツチトリモチなどにみられる。

カエル・ウニなどの卵では，人工的な刺激を加えることによって受精することなしに発生する現象があり，これを人為単為生殖または人為単為発生とよんでいる。ウニ卵では酪酸と高張海水で処理することによって行なえる。またカエルでは，血液などをつけた針で突くことなどで発生する。

たんいつしょうこうせいげり　【単一症候性下痢】 乳児にみられる下痢で，単に下痢だけが症状でその他の重い症状がなく，全身状態が冒されないものをいう。きげん・食欲も良好で，熱・嘔吐(おうと)などもない。皮膚粘膜の過敏ないわゆる滲出(しんしゅつ)性体質児にみられやすい。便は顆粒(かりゅう)がはいったり，粘液が混じったり，回数もかなり多くなって，消化不良症とまちがわれやすいが，消化不良症の場合は下痢のみでなく，きげんも悪くなったり，嘔吐・食欲不振・不眠・発熱など，種々の下痢以外の症状がみられる。この点から消化不良症を単一症候性下痢症に対して多発症候性下痢ともいう。消化不良症のときには食餌(しょくじ)制限も必要であるが，この場合には食事は普通に与えてさしつかえず，むしろ栄養不足を起こさないように注意すべきである。〔高橋悦二郎〕

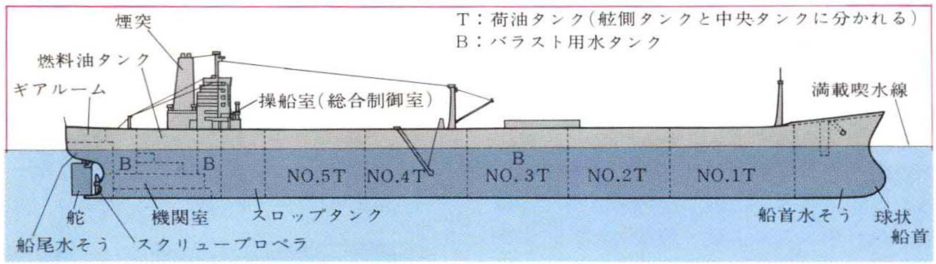
たんえ　【丹絵】 浮世絵版画の一形式。墨摺(すみず)りの上に丹の朱色を主とした数色を大まかに筆彩色した版画をいう。菱川師宣*(ひしかわもろのぶ)の没後に流行した鳥居清信(きよのぶ)・清倍(きよます)父子らが素朴(そぼく)な独特の美感を開発した。

だんえき　【断易】 ⇨易

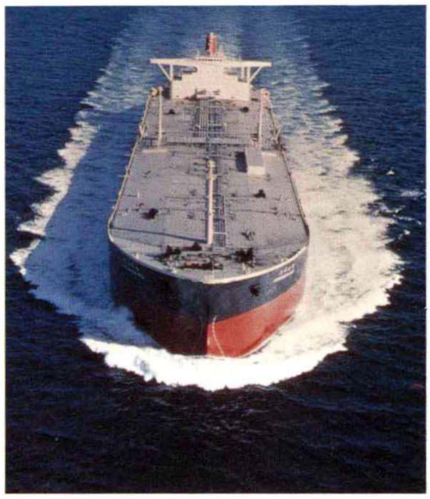
だんおつ　【檀越】 梵語(ぼんご)の(dāna-pati)(ダーナパティ)の音写で，〈施しをする人〉〈慈善家〉，すなわち出家僧に財物を施す在家信者のこと。漢訳では施主，あるいは檀越主・檀那主(だんなしゅ)ともいう。仏典には仏教教団を支援した多くの資産者(大檀越主)が登場し，また施主と受施者の心得や布施の功徳が説かれている。日本では，檀越は中世以降，特定の寺院に所属して布施を行なう信徒をさすようになり，これを檀家・檀徒・門徒といい，所属の寺院を檀那寺といった。また江戸時代に，徳川家康(いえやす)はキリスト教の宣教を禁止するために檀家制度(檀那請合之掟(おきて)十五条)を定めた。なお檀那ということばは，使用人から主人へ，商人から客への呼びかけのことばとしても用いられている。〔大南龍昇〕

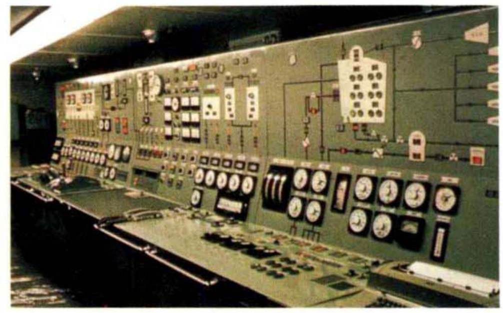
たんか　【短歌】 ⇨和歌

タンカー　［tanker］ 石油系原料を運ぶ専用貨物船。最も代表的なオイルタンカー*はダーティタンカー(原油・重油を積む)・クリーンタンカー(ガソリンなどの精製品を積む)に大別され，単にタンカーといえばオイルタンカーをさすことが多い。ほかにLPGタンカー*・セメントタンカー・糖蜜(とうみつ)タンカーなどがある。船倉内に直接液体を積載するので，ポンプ・パイプ・タンク・隔壁など船体構造・艤装(ぎそう)には特別の設計がなされ，防火・消火設備は特に重視される。外観はマストの数が少なくデリック設備も小形で，甲板は船首から船尾に平らに続いて甲板上に荷油パイプが導かれ，船橋・煙突が船尾近くにあることが特徴である。第2次世界大戦前は10,000重量トン程度が標準であったが，大形船ほどトンあたりの運航費が安くなるため，戦後急速に大形化されてきた。特に外航用オイルタンカーでは1971年(昭和46)現在35万重量トンをこえるものが出現しており，50万重量トン級の建造ドックを保有する造船所もある。しかし，超大形化に伴う航行の安全性や事故による海水油濁の防止などの問題から，大形化の可否や制限があらためて検討されるようになった。〔茂在寅男〕



三峰山丸の一般配置図





タンカー　(左)三峰山丸(224,500重量トン　全長324m　航海速力15.7ノット)　機関・荷役などの部門をコンピューターシステムで制御する超自動化船　(右)船内の総合制御室にある機関部制御台

だんか　【檀家】 ⇨檀越(だんおつ)

だんがいさいばんしょ　【弾劾裁判所】 裁判官訴追委員会(裁判官について罷免の訴追を行なう衆参両議院議員各10名で構成される委員会)から訴追を受けた裁判官を裁判する裁判所。衆参両議院から選ばれた各7名で構成。細目については，国会法・裁判官弾劾法などに定められている。なお，弾劾裁判所は国会から独立した常設機関であるので，国会閉会中でもその職務を行なうことができる。

だんかいはついくろん　【段階発育論】 ソ連の農学者ルイセンコ*の植物の生育に関する考え方。ルイセンコは，種子植物が種子を発芽させて成熟した個体になるまでに，細胞数を増加させる量的な面と，生殖器官を分化させ完成して植物体として成熟していく質的に発展していく面とがあるとして，前者を〈生長〉，後者を〈発育〉と称して区別した。したがって，植物の個体発生の過程には，①早い生長と早い発育，②おそい生長と早い発育，③早い生長とおそい発育，④おそい生長とおそい発育の生育の過程があり，これらは植物の生育条件の作用を受けているとした。特に，植物の発育は質的に違った一定の生活条件を経過することにより，植物自体も次の発育の段階に進むことができることを明らかにした。たとえば，一般に植物は最初に一定期間の温度期間を経過することによって次の発育の段階に進むことができ，さらに一定期間の光の期間を経過することによって次の段階へと発育が進むので，温度段階を十分に終わらない植物では栄養生長(葉・茎のみの生長)はしても，生殖生長が進まないために花をつけず結実もしない。また，この温度段階を終了しない植物体に光をあてても発育は進まず，温度段階と光段階は逆にしても発育は進まないことを実証した。このように植物の個体発育の全過程を量と質とに区別し，発育を固有の外界の生活条件と結合させ，生長点細胞での生理的変化の段階的な順序のある連続的な質的転換とみた。この学説は生物の発育を生長と区別した点で功績が大きいが，すべての生物が温度段階→光段階を経過しなければ発育しないとみるのは正しくない。それは植物の種類によって，その要求度(必要度)には強弱があり，固定的ではないからである。ルイセンコのこの説は，植物の発

育の初期および次の段階への移行期に，新しい生活条件に適応しやすく遺伝性を変えやすいとする生物の変異論と結合していることと，ミチューリン*の考え方を継承している点で特徴的である。わが国では，生物の段階的発育と生活条件との関連を重視するこの説の基本を，種子植物のみでなく哺乳(ほにゅう)類・こん虫類・魚類などの諸生物の研究の方法論や応用技術の実践面にも創造的に発展させるため，ミチューリン生物学の主要課題の一つにしている。
〔柳下　登〕

たんかカルシウム　【炭化カルシウム】⇨カルシウムカーバイド

たんかけいそ　【炭化珪素】⇨カーボランダム

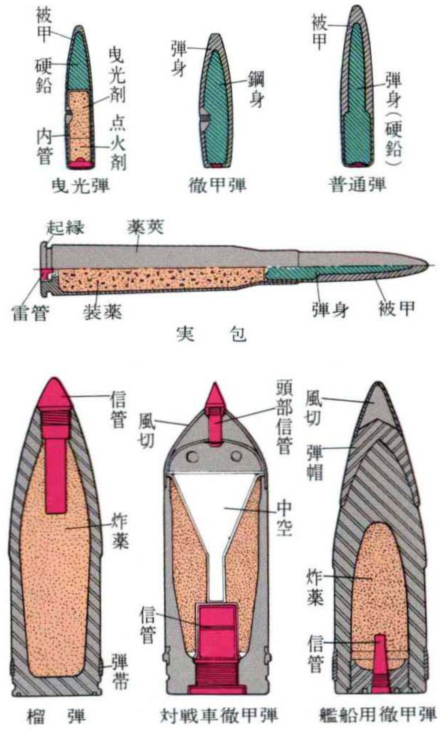
たんかすいそ　【炭化水素】炭素と水素だけからなる化合物の総称。脂肪族炭化水素と芳香族炭化水素の二つに大別される。脂肪族炭化水素はさらに環状炭化水素と鎖状炭化水素に分けられる。また，鎖状炭化水素は飽和炭化水素(メタン系炭化水素*)と不飽和炭化水素(エチレン系炭化水素*・アセチレン系炭化水素*)に分けられる。

芳香族炭化水素は石炭乾留の副産物として得られ，ベンゼン*・キシレン*・トルエン*・ナフタリン*・アントラセン*などがあって，医薬品・染料・爆薬などの製造に用いられる。①メタン系炭化水素(パラフィンともいう)は天然ガス・石油から多量に得られ，また，木材や石炭の乾留によっても得られる。メタン・エタン・プロパン・ブタン・オクタン・デカンなどがあり，安定で反応性に乏しい。②エチレン系炭化水素は一つの二重結合を含む炭化水素で，このため反応性に富み，各種の誘導体が得られる。エチレン・プロピレン・イソブチレンなどがこの系の化合物の例。③アセチレン系炭化水素は一つの三重結合を含む炭化水素で，アセチレン・エチルアセチレン(ブチンともいう)がその例である。非常に反応性に富み，各種の付加反応・重合反応・金属化反応，その他の反応を行ない，種々の化合物を生成する。④脂環式化合物(シクロパラフィンともいう)は環状構造をもった飽和炭化水素で，シクロプロパン・シクロブタン・シクロペンタン・シクロヘキサンなどがその例である。メタン系炭化水素に似て反応性に乏しい。ただ，シクロプロパンはエチレン系炭化水素に似た特殊な反応性を示す。炭素数が5，6のものは石油中に相当量含まれている。

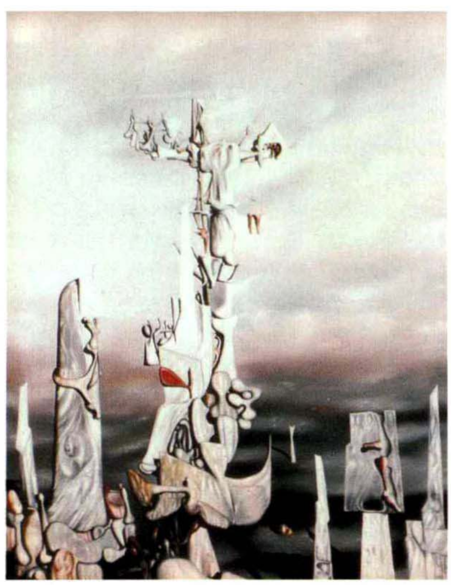
以上が基本的なもので，これらが適当に混じり合ったような炭化水素も多く存在している。〔石戸良治・荒木洋之助〕

タンガニーカ(共和国)　⇨タンザニア連合共和国

タンガニーカ(湖)　［Tanganyika］　アフリカ大陸東部にあり，コンゴ民主共和国・タンザニア・ブルンジ・ザンビアの国境をなす湖。南北に狭長で，その長さは約720km，



弾　丸


タンギー《希望》1949

幅は30〜80km。面積約32,000km²。湖面標高773m，最深点は1,435mで，ソ連のバイカル湖(1,742m)に次いで世界で2番めに深い。水はコンゴ川の一水源となって，大西洋に注ぐ。東岸にキゴマ(タンザニア)，西岸にアルバートビル(コンゴ)の港市があり，これを結ぶ湖上航路は大陸横断の重要ルートになっている。1858年イギリス人バートンとスピークによって発見され，1869年にはアフリカ探検で有名なリビングストンもここに達している。〔長津一郎〕

たんがん　【単眼】節足動物にみられる単純で小形の目。こん虫では1対の複眼*のほかに頭部にふつう3個の単眼がある。クモ類は頭胸部背面にふつう8個，ウミグモではふつう4個の単眼をもつ。甲殻(こうかく)類の幼生のノープリウスの目も一種の単眼である。サソリ・ムカデなどでは，単眼が集まって集眼となっている。➔目

ダンカン　［Isadra Duncan］（1878〜1927）アメリカの女流舞踊家。サンフランシスコ生まれ。バレエテクニックに反対し新舞踊運動を起こし，1899年シカゴでその第1回リサイタルを開いた。しかし，素足でギリシアふうの衣装をまとっただけの新奇な踊りは一般に受け入れられず，ヨーロッパに渡り，1900年のパリ公演，1905年のロシア公演などを通じて各地にこの運動を広めた。明確な方法論はもたなかったが，その理念はラバン*・ビグマン*に受け継がれ，〈モダン-ダンス*〉として開花した。またディアギレフ*のバレエ-リュス*(ロシアバレエ団)のモダンバレエ運動もダンカンに触発されて起こったものである。《わが生涯(しょうがい)》などの著書がある。〔高橋孝一〕

だんがん　【弾丸】銃砲が発射する飛翔体(ひしょうたい)。火薬の燃焼ガスで射出され，みずから推進する能力はない。初期の弾丸は青銅製や鉄製の球形のものであったのでこの名がある。最近のものはいずれも流線形の長弾である。小銃・撃銃・小口径機関銃は，軟鉄・銅・白銅などの弾体に鉛を詰めただけであるが，中・大口径砲は鋼製の弾体に炸薬(さくやく)を詰め，信管・発火薬を装備する。また小口径火器の弾丸は薬莢(やっきょう)と一体になって扱われ，これを実包という。中・大口径砲は重量の増大を防ぎ，かつ射程を調整するために発射薬の量を変えられるように発射薬を分離しているものが多い。種類は，炸裂するもの，燃焼するもの，ただの鉛の3種に大別される。さらに，炸裂弾には，破片を飛ばして兵員や目標物に被害を与える榴霰弾(りゅうさんだん)，建築物・軍艦・戦車などの装甲を打ち抜く徹甲弾などがある。榴霰弾は球形の小弾片を内蔵し，触発または近接信管で爆発させる。対空用の弾丸もこれに含まれる。また徹甲弾は厚い被帽をもち，目標の防御物を貫いて内部で炸裂するように遅発信管が用いられる。燃焼弾のほうは焼夷弾(しょういだん)を除いて特殊なものが多く，照明弾・煙弾・ガス弾や，照準修正用の曳痕弾(えいこんだん)などがある。最近では対戦車用に有翼弾も使われ，また核弾頭をもつ弾丸もある。
〔藤井冬木〕

タンギー　［Yves Tanguy］（1900〜1955）パリ生まれのアメリカの画家。はじめは商船の乗組員であったが，キリコ*の絵に刺激されて画家を志した。1925年以降はシュルレアリスムの画家たちと交わり，1939年に渡米し，1948年に帰化。非現実的な深層潜在意識の世界を描き海を主題にした作品が多い。

たんきかりいれきん 【短期借入金】 決算日から起算して１年以内に返済期限の到来する借入金のこと。借入期間が１年以上にわたる長期借入金に対する語で，流動負債*の１項目である。短期借入金は主として原材料や商品の購入，賃金の支払いなど経常的な経営活動に要する運転資金*を補充するために調達され，その調達は，通常，普通銀行その他の金融機関から借用証書の差し入れ，金融手形の振り出し，当座借越などの方法を通じて行なわれる。

だんきずい 【段祺瑞】 トワンチーロイ (1865〜1936) 中華民国の軍閥，安徽(あんき)派の巨頭。安徽省合肥の人。字(あざな)は芝泉，号は合肥。北洋武備学堂卒業。袁世凱(えんせいがい)の新軍に参加。辛亥(しんがい)革命後，袁の下で陸軍総長を歴任したが，1915年袁の帝政に反対して下野した。袁の死後，北京(ペキン)政権を掌握し，1917年，寺内内閣を通じて西原借款を受けた。イギリス・アメリカに依存する直隷派と対立し，1918年内閣を辞任。1920年安直戦争に敗れ引退。1924年第２次奉直戦争後奉天派に擁立され臨時執政に就任したが，1926年民衆の非難を受けて下野した。 〔大谷敏夫〕

たんきだいがく 【短期大学】 高等学校の教育の基礎の上に，２年または３年の実際的・専門的な大学教育を施す学校。職業または実際生活に必要な能力を育てることを目的としている。旧制専門学校のうち，新制大学の基準に達しないものの暫定措置として1950年(昭和25)に発足したが，社会的要求に照応して急速に発達し，1964年には制度的にも恒久化された。1977年度515校(国立32，公立48，私立435)，学生数は37万4,244名で，私立が多く，現状は女子の高等教育機関の性格が強い。 〔赤司政雄〕

たんきゃくるい 【端脚類】 節足動物・甲殻(こうかく)綱・端脚目。現在地球上に3,000余種が知られるが，そのほとんどが海産種で，湖沼・河川に生息するものは20％程度。そのほか種数は少ないが，地下水中や陸上からも知られている。大きく，ヨコエビ類・ワレカラ類・クラゲノミ類に分けられる。ヨコエビ類・ワレカラ類は，底泥(ていでい)・海藻(かいそう)上や石の下などに生息し，多くは細かくなった有機物残渣(ざんさ)や小動物を食べる。クラゲノミ類はほとんどが外洋性プランクトンとして知られる。どの種類も，非常に重要な魚類のえさである。 〔向井 宏〕

だんぎょくさい 【段玉裁】 (1735〜1815) 清朝(しんちょう)の経学者。江蘇(こうそ)省の人。号は懋堂(ぼうどう)。戴震*(たいしん)の確立した考証学*を古代の文字・音韻研究の領域で発展させた業績は大きい。その成果が《六書(りくしょ)音韻表》《説文解字注》であるが，これは貴州・四川の県知事在任中に成し遂げたものである。

たんきん 【鍛金】 金属加工法の一。金・銀・銅・鉄などの金属を金づちなどを使って打って鍛え，伸展して器具をつくりあげる技法。日本では古く弥生(やよい)式時代からあり，製品としては仏像・仏具・鉢(はち)・皿(さら)・花器などがある。



湛　慶　千体千手観音立像のうちの一体　妙法院蔵

タンク ⇨戦車

タンクー 【塘沽】 中国，河北省東部の港町で，天津(てんしん)市に属している。海河河口北岸にあり，京山鉄道(北京(ペキン)〜山海関)に沿い，南のタークー(大沽)とともに天津の外港をなしている。日中戦争中に日本が築港に着手し，第２次世界大戦後に中国が完成し，大貿易港となった。

タンクーきょうてい 【塘沽協定】 1933年(昭和８)５月31日に中国の塘沽で結ばれた日中両国間の停戦協定。日本側代表は関東軍参謀副長岡村寧次，中国側は軍事委員会北京(ペキン)分会総参謀熊斌(ゆうひん)。その内容は，中国軍を延慶・通州・蘆台(ろだい)を結ぶ線の南側に撤退させることを骨子としたもので，実質的には国民政府が満州事変以来の日本の侵略を容認して，満州(中国東北部)・熱河の放棄を承認した協定である。

タンクげんぞう 【タンク現像】 ⇨現像処理

タングステン [tungsten] 周期律表第Ⅵ族に属する金属元素。記号W，原子番号74，原子量183.85。ウォルフラムともいう。1755年スウェーデンのA.F.クロンステットによってタングステンと命名され一元素として確認された。鉱石はカイジュウ石・テツマンガンジュウ石。製法は選鉱ののち，カイジュウ石を塩酸で処理してタングステン酸とし，これを加熱して酸化タングステンとしてから水素で還元する。テツマンガンジュウ石は，水酸化ナトリウムで処理し，タングステン酸ナトリウムに変えてまえと同様の方法で金属を得る。銀白色で白金に似た金属(粉末は灰白色)。比重19.3，融点3,377℃。αとβの２態があり，α態はかわいた空気中ではきわめて安定であるが，湿気があると酸化する。β態は常温でも発火する。希塩酸・希硫酸に低温では侵されないが，高温では反応して酸化物を生成する。融点がきわめて高いので，フィラメント，X線管の対陰極，溶接用電極，アーク用電極，電気接点などに使用され，合金として高速度鋼や永久磁石に用いられる。また炭化物の硬度がきわめて大なので，焼結炭化物合金として工具(タンガロイ-バイト)に広く使用される。 〔古屋 弘〕

タングステンこう 【タングステン鉱】 主要な鉱物はテツマンガンジュウ石($(Fe, Mn)WO_4$)，カイジュウ石$CaWO_4$ 比重は，前者が7.0〜7.5，後者が6.0で重い。テツマンガンジュウ石は普通セキエイとともに深成鉱脈・高温低圧型鉱脈に産し，カイジュウ石はスカルン鉱物とともに高熱交代鉱床中に産する。ただし，京都府の大谷鉱山のカイジュウ石のように深成鉱脈に産することもある。わが国におけるおもなタングステン鉱山は，明延鉱山(兵庫県)・大谷鉱山・鐘打鉱山(京都府)である。世界的にも，中国・アメリカ・ブラジル・ビルマ・ボリビアなど環太平洋地域に限られる。 〔今井秀喜〕

タングステンこう 【タングステン鋼】 タングステンを含む特殊鋼。一種の合金鋼。主として磁石鋼・工具鋼に利用されるが，強さと靭性(じんせい)があるため構造用鋼として，また，耐摩性にすぐれ，焼食に耐えるため，機関銃・小銃の銃身などにも用いられている。

タングートぞく 【タングート族】 中国，唐代に強大となったチベット系民族で，1038年には同系諸族を集めて，中国西北部甘粛省と内モンゴル西部との間に西夏国を打ち立てた。西夏の国字西夏文字(→西夏語)は，漢字に似せてつくった表意文字で，ネフスキー・西田龍雄(たつお)らの努力によって解読された。宋(そう)・遼(りょう)・金などの勢力抗争の中で独立を維持しつづけたが1227年ジンギス汗の軍に滅ぼされた。その廃都カラ-ホト(黒い都)はロシアのコズロフが1907〜1909年に発掘した。 〔田中克彦〕

だんくん 【檀君】 古朝鮮の建国君長の称号で，伝説上の神人。名は王倹。平壌城(へいじょうじょう)を都とし，国号を朝鮮と定め，1,500年間治世を行なって，中国の伝説上の人物である堯(ぎょう)の即位50年，庚寅(かのえとら)の年に1,908歳で死んだ。1945年以後年号を廃した大韓(だいかん)民国では，檀君紀元を民族の象徴として用いている。なお，1972年は檀紀4305年にあたる。

たんけい 【湛慶】 (1172？〜1256) 鎌倉初期の仏師で，運慶*の長男。父に従って興福寺・東大寺の造像・復興につとめ，教王護国寺・法勝寺・醍醐(だいご)寺・高山寺などの仏像の制作にあたった。父の死後七条仏所を率い，一門の頭師となった。遺作は運慶に比べわずかであるが，彼が晩年に主宰して造立した蓮華王院(れんげおういん)妙法院

(三十三間堂*)の《千体千手観音坐像(ざぞう)》(国宝)の中尊，雪蹊(せっけい)寺*の毘沙門天(びしゃもんてん)・吉祥天・善膩師童子(ぜんにしどうじ)の各像をみると，運慶の写実的な傾向をさらに穏やかにまとめた作風であるといえる。〔永井信一〕

たんけいけん【端溪硯】中国の名硯の一。硯石は広東(カントン)省の中央に位する肇慶(ちょうけい)府高要県斧柯山(ふかざん)のふもとの端溪から産出する。唐代に発見され，宋(そう)代から有名になり，現在まで引き続いて採取されている。石の色は黒に紫青色を含んだもので，水につけるといろいろの文様が浮かび，それぞれ火捺(かなつ)・氷文(ひょうもん)・馬尾文などの名がつけられている。最も美しい文様は〈眼〉という。これは黒いひとみ状のものを黄・緑・紫色などが二重三重に囲んでおり，鳥の目や豆形のものなどがある。石膚はかたすぎも柔らかすぎもせず，墨をするのに最適で，硯石として最もすぐれたものとされる。➔すずり(写真)〔杉村勇造〕

たんげけんぞう【丹下健三】(1913～　)建築家。大阪府の生まれ。東京帝国大学建築学科を卒業後，前川国男の建築設計事務所にはいり，さらに大学院に学んだ。第2次世界大戦後は東京大学工学部で後進を指導，この間広島平和会館原爆記念館など数々の作品，その他都市計画案などを発表し，その活動はきわめて幅広い。近年の作品では東京の国立代々木屋内競技場，大阪での万国博覧会の〈お祭り広場〉大屋根などが知られている。

だんけつけん【団結権】労働基本権*の一。労働者がその労働条件を維持・改善するために団結する権利。労働組合*の結成・運営や，組合加入の権利のほか，広義には団体交渉*権・団体行動権(争議権*も含む)をも含む。労働者が団結して組織的に対応すれば，経営者と対等の交渉ができるということで，国際的にも認められている。日本では，憲法28条(基本的権利)と労働組合法*によって保障されている。なお，公務員・公共企業体職員・警察職員・消防職員などはこの権利を制限されている。〔黒瀬信子〕

ダンケルク［Dunkerque］フランス北部，ベルギーとの国境に近く，ドーバー海峡に臨む港市。人口28,000(1968)。対岸のイギリスのドーバーとはフェリーボートで結ばれている。造船のほか機械・繊維などの工業も盛ん。10世紀に城塞(じょうさい)が築かれて以来，フランス・神聖ローマ帝国・スペイン・イギリス・オランダの間で長く帰属をめぐる争いがくり返され，1662年ルイ14世の時代にフランスに帰した。第1次世界大戦中も重要な軍事基地であったが，第2次世界大戦中の1940年5月26日から6月4日にかけて，イギリス・フランス連合軍50万がドイツ軍の攻撃を受けてここに包囲され，海峡を越えてイギリスへ撤退したダンケルクの戦いは有名である。1944～1945年にも激戦が行なわれて，港や市街のほとんどが戦災を受けたが，その後復旧した。〔梶川勇作〕

たんげん【単元】教材もしくは学習活動のひとまとまりをいう。ヘルバルト派の教育学者チラーが，学習者が一定の思考活動によって認識を発展させたり，概念を獲得したりする教授＝学習過程のひとくぎりを〈方法的単元〉とよんだことに起源がある。その後，この考えはアメリカの教育界で摂取され，問題解決の過程や学習課題に取り組む活動のひとまとまりをさす概念として定着した。

わが国では，明治中期以来にヘルバルト派の教育理論が紹介されながらも，教材編成の仕事が教師にゆだねられなかったためもあって，単元という概念は教科書教材の分節ないしは教授事項の細分化されたもの，というように矮小(わいしょう)化されて理解されてしまった。第2次世界大戦後，教育改革の進展過程でカリキュラムの改造が推進されていた時期に，アメリカの制度の影響を受けて〈作業単元〉〈生活単元〉を構成し実践する試みが各地でなされ，単元学習が新教育の実践的典型とも考えられた。しかし，そうした学習形態と科学的な知識・技能の系統的な教授とをどう統一するかという問題が未解決のままで，カリキュラムに対する統制が強化され，単元学習の実践および研究は著しく困難となってしまった。単元の概念にしても，再び教材，しかも教科書教材の区分であるとする理解が復活している。しかし，単元学習のもつ積極的価値は見失われてはならないし，困難な状況のもとでもその価値の実現が図られなければならない。〔中野　光〕

たんげんき【探玄記】くわしくは《華厳経(けごんきょう)探玄記》という。華厳学の大成者である法蔵*の代表的著書。20巻。師の智儼*(ちごん)の《捜玄記》にならい，東晋(とうしん)のブッダバドラ(仏駄跋陀羅)訳の《六十華厳》に注釈を施したもの。十門に分けて《華厳経》の要文を解釈するとともに，華厳学の中心教義をも解明する。澄観*の《八十華厳》に対する注釈《演義鈔(えんぎしょう)》と並んで華厳経注釈書の双璧(そうへき)である。

たんご【単語】言語単位の一種。文や文節よりも小さな単位。文節を構成する，意味をもった要素。語ともいう。〈花が　咲く〉という文の〈花が〉という文節は，〈花を・花に・花の〉や〈山が・川が・草が〉などとの対比において，〈花〉と〈が〉の二つの単語に分けることができる。〈花〉をこれ以上分解して，〈ハ〉〈ナ〉としたのでは，もはや一定の意味をもつものではなくなる。単語は，その文法的性質のうえから，自立語・付属語*，詞・辞*などに類別される。また，通常，名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞などの品詞*に分けられる。〔市川　孝〕

タンゴ［tango］19世紀後半にアルゼンチンおよびウルグアイのラプラタ川下流地帯に発生した舞踊とその音楽。スペインのアンダルシア地方に発生した舞曲タンゴとその歌謡化したもの，キューバの民俗舞曲ハバネラ*，アルゼンチン草原地方の民俗歌謡ミロンガ*，その他ヨーロッパ伝来の民衆的な舞曲などが混じり合い，アルゼンチンの民族感情によって一体化された。したがって初期のタンゴ音楽には，感性の異なる旋律が雑居しているが，$\frac{2}{4}$拍子の軽快なリズムをもつ点では共通している。

タンゴは最初舞踊として発生し，音楽は単なる伴奏にすぎなかった。都市周辺の下級酒場などで下層階級の人々，船員などが，娼婦(しょうふ)らと抱き合って踊ったもので，演奏者もほとんど音楽の知識がなく即興で単純なメロディーとリズムを奏した。しかし，1890年ごろからラプラタ川上流の娼家の客寄せにも用いられるようになり，音楽の素養のあるピアノ奏者もタンゴを演奏するようになった。さらに1900年代にはいってカフェにタンゴ楽団を出演させることが流行し，演奏の水準も高まった。この時期のタンゴ楽団は，ギター(ときにハープ)・バイオリン・フルート(ときにクラリネット)による3～4人の編成が一般的だった。即興的な単純な演奏の中からも，曲として定着する作品が生まれ，この時期までのタンゴ《ドン-ファン》《エル-エントレリアーノ》《エル-チョクロ》などは今日も演奏されている。やがてピアノとバンドネオン，少し遅れてコントラバスがタンゴ楽団に編入され，ギターと木管楽器は使われなくなった。1910年代後半にタンゴのリズムは，初期よりも落ち着き，$\frac{2}{4}$拍子から$\frac{4}{8}$拍子へと移行した。またリズミックな主題のほかに，感傷的なメロディーも求められるようになり，1917年に《わが悲しみの夜》が，はじめて物語性のあるタンゴとして登場した。エドアルド-アローラス・アグスティン-バルディは，この時代の大作曲家であり，演奏家としてはロベルト-フィルポ・フランシスコ-カナロ*がタンゴ界をリードした。この時期の代表作に《デレーチョ-ビエホ》《夜明け》《ロレンソ》《ラ-クンパルシータ》がある。1920年代後半にタンゴの演奏スタイルは完全にできあがり，バンドネオンとバイオリン各2名，ピアノ，コントラバスによる6重奏が一般的な楽団編成となった。音楽的には，リズムが変化し，メロディーとハーモニーが洗練された。バイオリン奏者フリオ-デカロは楽団を率いて，〈タンゴもまた音楽である〉のモットーのもとに高い芸術性，広い表現力を求めて，この時代のタンゴ界をリードした。作曲家としては，旋律と和声の美を求めたファン-カルロス-コビアン・エンリケ-デルフィーノが登場した。《愛する故郷》《両親の家》《グリセータ》《カミニート》など

が当時の有名な作品である。カルロス-ガルデル*を筆頭とするタンゴ歌手が劇場で活躍し，多くの歌謡タンゴが作曲され，広く大衆に愛され，器楽としても歌謡としても，タンゴのはじめの絶頂期を迎えた。その後はしばらく外国のダンス音楽に圧倒されて新しい発展をはばまれていたが，1930年代の末に再び活況を呈するようになる。フアン-ダリエンソ楽団がダンスとしてのタンゴに新鮮な力強さを与えて注目され，カルロス-ディサルリ楽団がこれに続いた。さらにアニバル-トロイロ・ミゲル-カローなどの楽団が，音楽性豊かな演奏で，知識階級の支持をも獲得，他にオスバルド-プグリエーセ・アルフレド-ゴビなどの個性的なスタイルをもった楽団の出現により，タンゴは質的にも量的にも再び絶頂期を迎えた。楽団編成は，バンドネオン４～５名，バイオリン４～５名(楽団によりビオラ・チェロを加える)，ピアノ，ベース，歌手２名というのが一般の型となり，編曲者にも専門家が必要となった。演奏家の技術水準と表現力も飛躍的に向上し，すべてのタンゴ演奏家は正規の音楽教育と訓練を受けねば活動できないまでになった。作品も器楽曲・歌曲の両面に，高い音楽性と豊かな情感をもったものが多くつくられた。この時期から現在までのタンゴの代表作を厳選すれば，《レスポンソ》《オルランド-ゴニに捧(ささ)ぐ》《ラ-ジュンバ》《友に捧ぐ》《ア-フエゴ-レント》《パラ-ルシールセ》《ラ-ボルドーナ》《ノスタルヒコ》(以上器楽曲)，《さらば草原よ》《最後の酔い》《ペルカール》《いつまでもここに》《灰色の昼下がり》(以上歌曲)などがある。

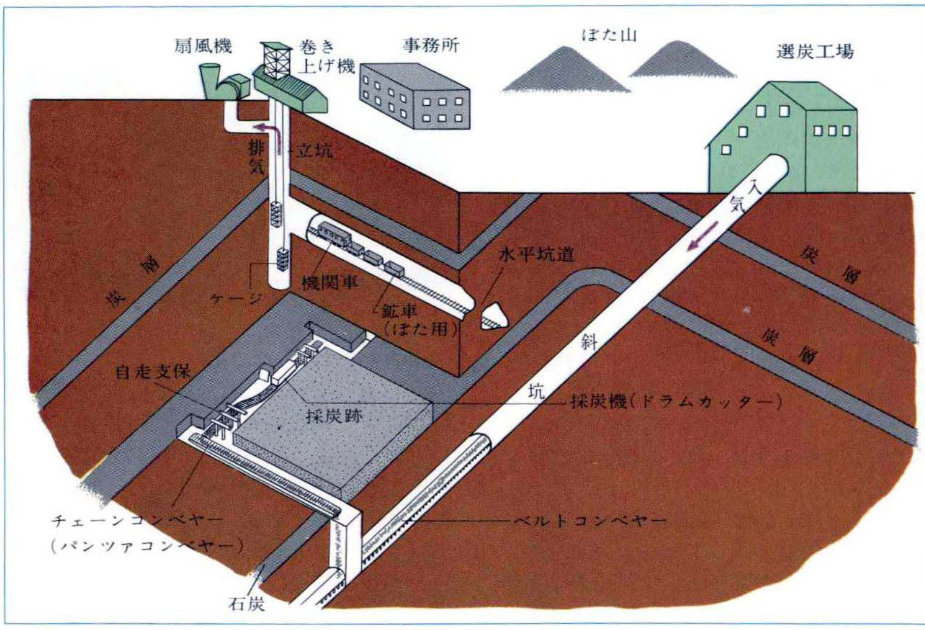
アルゼンチン人の気質と感情を内に潜め，時代の変遷とともにその表現を少しずつ変えてきたタンゴは，世界の最も興味あるポピュラー音楽の一つである。今日のタンゴの様式は多彩であり，他の大衆音楽と同様に，伝統と前衛とが同居している。その中にあって，バンドネオン奏者アストル-ピアソラの創作活動は，新しいタンゴの可能性を如実に示している。〔中西義郎〕

たんご 【丹後(国)】 京都府の北部を占める旧国名。丹州。山陰道に属する。もと丹波*の一部であったが，713年(和銅６)加佐・与謝(よさ)・丹波・竹野(たかの)・熊野(くまの)５郡をさいて丹後国とした。国府・国分寺は与謝郡(いまの宮津市)。鎌倉時代には六波羅(ろくはら)探題*が直轄し，室町時代には山名氏，次いで一色氏が守護*となったが，戦国末期には細川忠興(ただおき)がこれを滅ぼして一国を所有した。関ケ原の役後京極氏がこれに代わり，除封後，これに代わるもの数氏を数えた。のち，宮津・峰山・田辺(たなべ)の３藩に分かれたが，廃藩置県後は豊岡(とよおか)県を経て京都府に編入され，現在に至っている。〔黛　弘道〕

だんご 【団子】 もち菓子の一種。もち米やうるち米の粉を蒸してつき，小さく丸めてあんをかぶせるか，中にあんを入れたもの。奈良・平安時代に唐から伝えられた８種の唐菓子の一つ〈団喜〉の系統を引く。団喜は丸いあん入りだんごで，歓喜団ともいわれ，江戸時代の《嬉遊笑覧(きゆうしょうらん)》には〈俗に団子というものの形にてあんを包めるなり〉と書かれている。本来の製法は米の粉を蒸してだんごとし，薬味を入れたあんを包んでごま油で揚げたもので，京都の月読神社では現在でも祭礼につくる。このほか，アワ・キビ・小麦・トウモロコシの粉を材料とし，ヨモギ・きな粉なども用いる。地方には多くの名物だんごがあり，くしに刺したもの(東京の言問(こととい)だんご)，しょうゆを塗って焼くもの(京都の下鴨(しもがも)神社のみたらしだんご)などがある。〔塩川ふみ〕

たんこう 【短甲】 古代の鎧(よろい)の一種。〈みじかよろい〉ともいう。鉄板をはぎ合わせ，前後から上半身をおおって正面で引き合わせる。はぎ合わせたところは鋲(びょう)で留め，胸部がすっぽり鉄の筒へはいった形となる。その着用の状態は埴輪(はにわ)で明瞭(めいりょう)に知ることができる。短甲は主として徒歩戦に用い，４世紀まで日本の唯一の鎧であった。ところが５世紀へはいると，戦闘方式が騎射戦中心となり，鉄板仕立ての短甲では馬上の活動に不便を感じた。そこで鉄の小札(こざね)を革緒(かわお)で綴(つづ)ってつくられた，上半身の曲伸に便利な挂甲*(けいこう)が使用され，８世紀には実用の中心となった。780年(宝亀11)鉄板の代わりに軽い牛皮を用い，一時復活したこともあったが，ほぼ10世紀までに短甲は挂甲に取って代わられた。➔鎧〔稲垣史生〕

たんこう 【炭鉱】 石炭を採掘する鉱山。わが国の炭鉱は，主として北海道の石狩・空知地区，釧路(くしろ)地区，本州の常磐(じょうばん)地区，九州の筑豊(ちくほう)地区，三池地区，崎戸・高島地区などに存在する。わが国の出炭量は1970年には約4,000万tであった。これは世界の全出炭量の２％にすぎない。



炭　鉱　炭鉱の模式図

炭鉱では，岩盤が軟弱なため坑道や切り羽の支保が重要なこと，石炭は他の鉱物に比べてはるかに安価であるから大量生産を必要とすること，炭鉱爆発*を防ぐために通気に特別な注意が必要なことなどの点で金属鉱山と異なる。炭鉱では地表から立て坑や斜坑を岩盤中に掘進して炭層付近に達し，そこから水平坑道を掘進して炭層に到着する。坑道が炭層に到着すると切り羽をつくる。切り羽では天井の岩盤を鉄柱やカッペでささえ，コンベヤーを設置して採炭を行なう。採取した石炭はベルトコンベヤーや鉱車によって坑外に搬出する。また炭鉱では，炭層から湧出(ゆうしゅつ)して坑内の空気に混入するメタンガスの濃度を薄めて作業環境を安全に保つため，入気坑道と排気坑道とを別に設ける。排気坑道の坑口には大きな扇風機を設置して，坑内のよごれた空気を吸引し，代わりに入気坑口から新鮮な空気が坑内に流入するようにする。〔西松裕一〕

たんこう 【探鉱】 新しい鉱床を捜すため，または既知の鉱床の状態を調査するための一連の作業。露頭を捜し求めることは，今日もなお重要な作業であるが，近年，地質学的知識の進歩により鉱石・石炭・石油の存在状態がしだいに明らかになってきた。すなわち，物理的な測定方法で地下の地質構造，鉱床の存在を知ることが可能となり，また化学分析法の進歩の結果土壌(どじょう)・流水・生物体などの微量な成分を分析して，地下に存在する元素を推定できるようになった。試錐*(しすい)による方法も，機械類が

発達して深部まで到達することが容易になり，直接坑道を掘って地下の状態をみようとする坑道探鉱も，削岩機などの進歩により迅速に行なわれるようになった。➔物理探鉱　➔化学探査　〔今井秀喜〕

たんこう　**【湛江】**　チャンチャン　中国，広東(カントン)省南部の都市。雷州半島北東岸の港市で，広州港に臨む。1899年からフランスの広州湾租借地の中心となったが，第2次世界大戦後中国に返還された。近年，広西チワン族自治区の黎塘(れいとう)に鉄道が通じて後背地が拡大され，港湾も整備されて，東南アジアに最も近い中国の港として交易面などで今後の発展が期待されている。

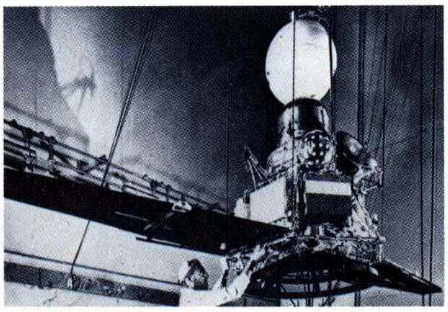
だんこうきょうぎ　**【断郊競技】**　⇨クロスカントリーレース

たんこうばくはつ　**【炭鉱爆発】**　炭鉱の坑内空気中に含まれるメタンガスや炭塵(たんじん)が引火爆発すること。ガス爆発と炭塵爆発とに大別される。ガス爆発は，採炭の進行とともに湧出(ゆうしゅつ)したメタンガスが坑内空気と混合し，濃度5～14%になったとき火源に触れて発生する。炭塵爆発は，炭塵の濃度およそ100～200g/m³(炭塵の大きさ・成分,火源によりかなり異なる)以上の空気が火源に触れて起こる。このほか，ガス爆発により舞い上がる炭塵に引火して起こるガス炭塵爆発もある。〔西松裕一〕

たんこうぶし　**【炭坑節】**　日本民謡。炭坑の肉体労働に付随した歌や炭坑近辺の酒席の歌が含まれる。夕張・常磐(じょうばん)・宇部(うべ)などの炭田で歌われる〈ヤロヤッタナ〉のはやしことばをもつ歌と，筑豊(ちくほう)や三池炭田の《採炭節》《選炭節》に由来する〈サノヨイヨイ〉のはやしことばの歌が有名である。

たんこうるい　**【単孔類】**　原始的な哺乳(ほにゅう)類で，原獣亜綱に属する現生の一目。現生する他のすべての哺乳類は獣亜綱に属する。オーストラリア・ニューギニア・タスマニアに限って産する。卵生で，孵化(ふか)した子は乳を飲んで育つが，乳腺(にゅうせん)には乳頭がなく，腹面にある乳腺区に開口しているため，子は母親の腹面をなめて乳を飲む。体温は他の哺乳類より低く，変温性と恒温性との中間の段階にある。アリ・シロアリを食うハリモグラ(ハリモグラ科)とカモに似たくちばしをもつ，水生のカモノハシ(カモノハシ科)とがある。〔今泉吉典〕

たんごのせっく　**【端午の節供】**　5月5日の行事。五月節供ともいう。端午という呼称は中国伝来のもので，〈端〉はもののはしとかはじめの意で，もとは月のはじめの午(うま)の日の行事ということであったが，〈午〉は〈五〉と音通であり，中国では月と日の数を重ねて祝日とする風が古くからあったところから，5月5日を端午節として祝うようになった。ヨモギやショウブを駆邪のまじないに用いることも中国の風習である。こうしたしきたりは，平安時代の貴族の間に取り入れられ，しだいに民間に普及していった。この日に鯉(こい)のぼり*を立て武者人形(➔五月人形)を飾るならわしは日本独特のものである。この節供につきもののショウブが〈尚武〉と音通であるところから，3月の雛(ひな)祭り*に対応して，5月のほうは男の子の節供とされ，男の子らしい鯉のぼりや勇ましい武者人形に展開していったのである。〔直江広治〕



探査体　月探査体レンジャー3号(アメリカ)

だんごむし　**【団子虫】**　甲殻(こうかく)類・等脚目・ダンゴムシ科。石・朽ち木・落葉などの下に普通にみられる小動物で，体長10～15mm。体節の背面はかたく，半円形。腹側は平坦(へいたん)で，刺激を与えると腹側に強く曲がり，球状になる。灰色を呈し，触角・複眼は小さい。ワラジムシとともに数少ない陸生の等脚類*である。海浜の石の下には，よく似たハマダンゴムシがいる。

だんこんすうはい　**【男根崇拝】**　⇨生殖器崇拝

たんさ　**【探査】**　⇨探鉱

たんさいぼうせいぶつ　**【単細胞生物】**　栄養体が単一の細胞からなる生物。動物では原生動物のすべて，植物では細菌・藻類(そうるい)の多く，菌類の一部にみられる。単細胞体制には細胞群体を含め，また，セネデスムス・ボルボックスのように細胞間に多少の形態的・機能的分化があり，群体にやや個体性のみられるもの(定形群体)も含める。一方，細胞間にほとんど分化がないが，一列に並ぶ細胞の細胞膜が互いに融合している糸状体(ユレモ・アオミドロ)はふつう多細胞体制に含める。単細胞生物は，生物の最も原始的な形態を示すものとみられるが，繊毛虫類などでは単細胞生物一般のレベルをはるかにこえた高度の構造・機能上の分化が細胞内にみられる。このような分化の形式は，多細胞生物のそれとは異なるとして，非細胞生物とよぶことがある。

だんざえもん　**【弾左衛門】**　江戸時代，関八州(相模(さがみ)・武蔵(むさし)・安房(あわ)・上総(かずさ)・下総(しもうさ)・常陸(ひたち)・上野(こうづけ)・下野(しもつけ))その他の穢多*(えた)・非人*の総取締役を世襲した家。江戸浅草に住み，名字は矢野と伝えられる。穢多頭(がしら)(長吏)・非人頭を通してこれらの穢多・非人を支配した。1800年(寛政12)の支配戸数は7,720戸といわれる。同様の家に京都の下村左助などがある。

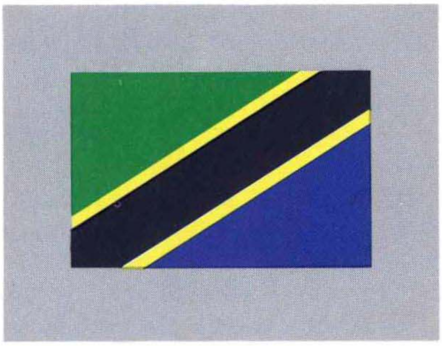
たんさく　**【単作】**　1種類の作物を同一圃場(ほじょう)に毎年作付け・収穫する方式。ふつうは混作に対する語であり，普通作物が通例単作であるのに対し，牧草などマメ科とイネ科が混播(こんぱ)される場合を混作という。狭義には水稲単作などといわれるように，水稲以外の作物が作付けされない耕種様式の意にも用いられ，一毛作と同義に解釈することもある。

たんざく　**【短冊】**　主として和歌を書くのに用いる料紙。俳句・漢字または絵を書くのにも用いる。〈たんじゃく〉ともいう。縦36.4cm，横6.1cm，金・銀の切り箔(はく)・砂子・野毛をまいたり，文様や下絵を描いたりしているものなどがある。古たんざくは大きさが一定しておらず，多くは現在のたんざくより少し小さい。書式は〈三つ折り半字がかり〉といい，上方4分の1に題を書き，上の折り目に半字かかるように歌1首を2行に書き，2行めの下に名を書く。〔春名好重〕

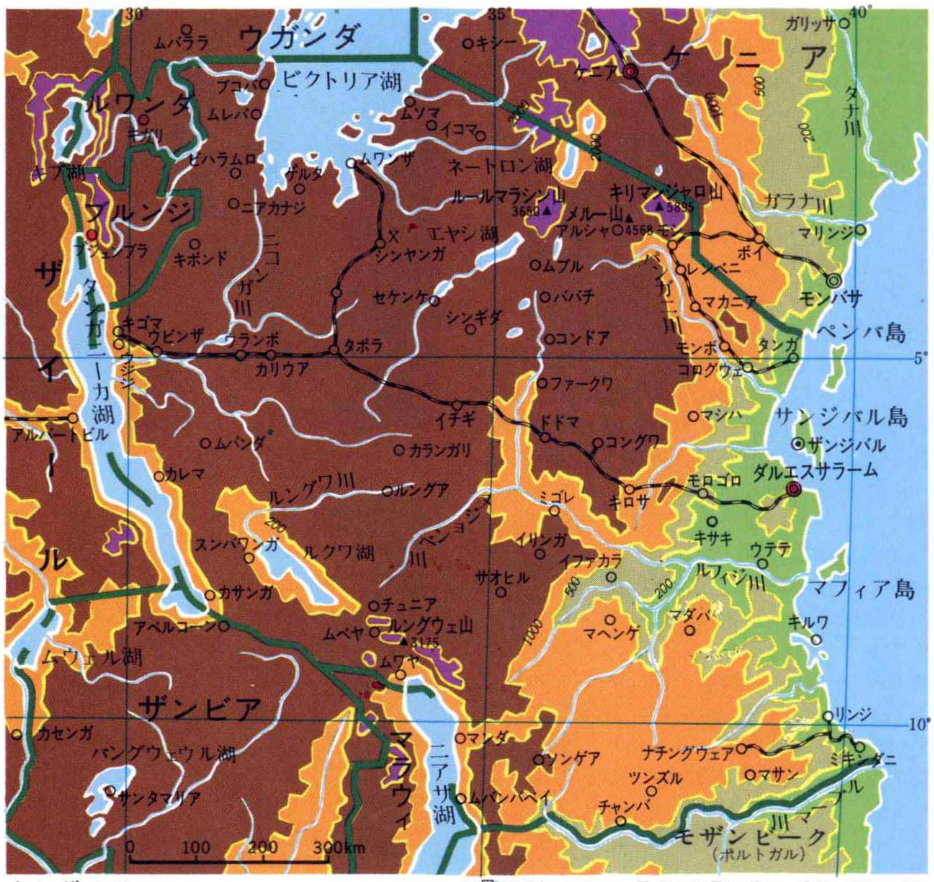
たんさたい　**【探査体】**　測定器機・カメラ・無電機・電源などを積んで宇宙空間を飛び，種々の観測を行なう無人飛行体をいい，人工衛星は除外される。探査機・探測機ともいう。誘導・制御用の小ロケットをもつものもある。探査体打ち上げの初期の試みには，アメリカが月に送ろうとしたパイオニア1号，同3号(いずれも1958年)，ソ連のルーニク1号(1959)などがあるが，いずれも失敗した。しかし，ソ連のルーニク3号(1959)は月の裏側の写真をとり，それを電送することに成功した。以後アメリカでもソ連でもきわめて複雑な機構をもつものが打ち上げられるようになった。おもな探査体にはアメリカのレインジャー・サーベイヤー・ルナオービター，ソ連のルーニク・ルナ・火星・金星などがある。〔原田三夫〕

タンザニア(連合共和国)　[United Republic of Tanzania]　アフリカ中東部，インド洋に臨む共和国。旧イギリス信託統治領のタンガニーカとザンジバルが1964年に連合して結成した連合共和国。面積94万5,087km²，人口1,798万(1979年推)。首都ダルエスサラーム。

【自然・住民】インド洋に面する海岸平野を除く国土の大部分は1,000～1,500mの高原で，ほぼ西端をビクトリア湖からタンガニーカ湖を経てニアサ湖に至る大地溝帯(ちこうたい)が南北に貫いている。北東部にはキリマンジャロ山(5,895m)などの高峰がそびえ，南西部のニアサ湖北部にも標高3,000mをこえる高山がある。ザンジバルはサンゴ石灰岩を基盤とする低平な島で，ザンジバル本島とその北方にあるペンバ島とからなる。気候はインド洋からの北東季節風(11～1月)と南東季節風(3～5月)の影響を



タンザニアの国旗 1964年制定。タンガニーカとザンジバルの旧国旗の色を組み合わせたもので，黒は国民，緑は国土と農産物，黄色は鉱物資源，青はインド洋を表わしている



受け，海岸地帯では年２回の雨季がある。年降水量は地域差が著しく，海岸や高原上では1,000mm程度であるのに対してニアサ湖岸では2,500mmに達する。海岸地域は乾季で月平均23℃，雨季で28℃となる熱帯湿潤の気候である。内陸部では，冬は平均15℃，夏は28℃で，海岸地域よりも較差が大きい。住民は，全体の90％以上をバンツー系黒人のアフリカ人が占め，スクマ族・ニャムウェジ族など120余の部族に分かれている。その他，主として商人である小数のヨーロッパ人・アラビア人・インド人が住んでいる。

〔産業・経済〕主産業は農業で，サイザル麻・コーヒー・茶・ゴム・ワタを産する。このほか自給用にトウモロコシ・米・はちみつなどの産もある。サイザル麻は主として非アフリカ人の農園でつくられ，世界最大のサイザル麻輸出国となっており，綿・コーヒーとともにこの国の三大輸出農産物になっている。また高原では約650万頭の牛および，ほぼ同数のヒツジとヤギを飼育しており，ダルエスサラームには畜産加工業が発達し，食肉・皮革として輸出する。鉱産物の種類は豊富で，ダイヤモンド・金・鉛・スズ・ウンモ・マグネタイト・銅・石炭などを埋蔵しているが，ダイヤモンドと金を除いては開発が進んでいない。

〔歴史・政治〕タンガニーカは19世紀後半にドイツの植民地となったが，第１次世界大戦後イギリスの委任統治領となり，1962年イギリス連邦内の共和国として独立した。ザンジバルは古くからアラビア人が訪れ，18世紀にマスカット-オーマンの支配下にはいったあと，1890年ペンバ島を含めてイギリスの保護領になった。1963年サルタンを元首とする王国として独立したが，1964年１月の革命で人民共和国となったのを機に，同年４月タンガニーカ共和国と連合して今日に至っている。政体は大統領を元首とする連邦制で，副大統領はザンジバルから選出することが定められ，ザンジバルは大幅に内政の自治が認められている。連邦議会は一院制で，大統領はその解散権をもち，議員の任期は５年。外交の基調は非同盟・反植民地主義。〔小栗　宏〕



タンザニア　(左)タンザニアの首都ダルエスサラームの波止場。港は船舶の出入でにぎわい，カーフェリーの到着を待つ人々が並んでいる　(右)スペインふうの教会やイスラムのモスカも見え，古い歴史を物語るザンジバルの町。対岸はるかにアフリカ大陸の山々がかすむ

たんざわおおやまこくていこうえん【丹沢大山国定公園】 神奈川県北西部，丹沢山地主要部一帯を含み，1965年(昭和40)に国定公園に指定された。面積263km²。丹沢山地には1,500m級の峻峰(しゅんぽう)が東西に連なり，南東端に大山(1,246m)がある。標高800m以上の高地にはブナ・ツガ・ハリモミなどの原生林があり，カモシカ・イノシシ・クマ・シカなどの野生動物も生息する。南のふもとに小田急電鉄小田原線・御殿場線・国道246号線が走り，四季を通じて登山客が多い。〔木村東一郎〕

たんざわさんち【丹沢山地】 神奈川県西部から山梨・静岡両県の一部にまたがる山地で，関東山地の南端部を占める。北は相模(さがみ)川の支流道志川の谷で境され，東と南は相模川下流の平野に接する。最高峰の蛭ケ岳(ひるがだけ)(1,673m)のほか，丹沢山(1,567m)，塔ケ岳(1,491m)などが中央部の主峰をなし，西に大室(おおむれ)山(1,588m)の山塊，東にやや離れて大山(1,246m)がある。壮年期山地の地形で谷が深く，尾根沿いの登山のほか沢登りの山として知られる。1965年(昭和40)に丹沢大山国定公園*

に指定された。　〔高野　繁〕

たんさん【炭酸】H_2CO_3　水溶液としてのみ存在する。二酸化炭素を水にとかしてつくる。ほとんどはCO_2に水がゆるやかに結合した水和物の形で存在する。H_2CO_3の形の分子種はわずかであるが，次の平衡がなりたって，溶液は微酸性を示す。

$$H_2CO_3 \rightleftarrows H^+ + HCO_3^- \quad K_1 = 2.6\times10^{-4}$$

多数の酸性塩・塩基性塩が知られている。炭酸水(ソーダ水)は，3～4気圧下で二酸化炭素を水にとかしたものである。

たんさんえん【炭酸塩】一般式$M^1_2CO_3$で示される塩。すなわち炭酸H_2CO_3の水素が金属Mで置換されて生じた塩。金属酸化物や金属水酸化物の固体あるいは水溶液に，CO_2を吸収させると得られる。リチウムを除くアルカリ金属の塩は水によくとけるが，他の金属の塩はあまり水にとけない。二炭酸塩は水にとけ一時的硬水*になるが，熱すると炭酸塩となり水にとけなくなる。やかんやパイプに沈着するのはこれである。固体を強熱すると分解してCO_2が発生する。しかし，アルカリ金属の塩では分解するまえに融解する。水溶液はアルカリ性を示す。固体または水溶液に酸を加えるとCO_2が発生する。これらの塩はセラミック工業や冶金(やきん)工業における原料として非常に重要である。　〔三輪　誠〕

たんさんガス【炭酸ガス】CO_2　気体状の二酸化炭素。無水炭酸ともいう。空気中に容積で0.03%存在する。炭素を含む物質の燃焼，動植物の新陳代謝，発酵，火山の噴火などの際に生成され，一方では植物の炭酸同化作用などで消費される。実験室では石灰岩と塩酸からキップの装置*を用いてつくる。簡単には炭酸水素ナトリウム$NaHCO_3$や炭酸マグネシウム$MgCO_3$を加熱して得られる。工業的には石灰石を強熱して生石灰を製造するときの副産物として得られる。またコークスなどを燃やして発生するガスから精製する。無色無臭の助燃性も可燃性ももたない気体。密度1.976 g/l (0℃，1気圧)。1気圧のときに水1 cm³ にとけこむ量は，0℃で1.713cm³，20℃で0.878 cm³，40℃で0.530cm³，60℃で0.359cm³である。水溶液は微酸性を呈する。臨界圧は72.9気圧，常圧では−78.50℃で昇華する。融点−56.6℃(5.1気圧)。固体の蒸気圧が高いから常圧では気体または固体として存在する。やや不活性であるが，強熱すると分解して一部分は一酸化炭素になる。$CO_2 \rightleftarrows CO + \frac{1}{2}O_2$　マグネシウム・カルシウム・バリウムなどと熱するとその金属を酸化する。$CO_2 + 2M \rightarrow C + 2MO$　また亜鉛や鉄では一酸化炭素を遊離する。$CO_2 + Zn \rightarrow CO + ZnO$　水素とも高温で$CO_2 + H_2 \rightleftarrows CO + H_2O$のように可逆的に反応する。石灰水に通じると炭酸カルシウムの白濁を生じ，さらに長く通じていると透明になることから検出に利用される。清涼飲料用・消火用・化学工業原料として用いられ，固体の二酸化炭素はドライアイス*とよばれて冷却用その他多方面に用いられる。　〔竹下三吉〕



談山神社　拝殿

たんさんカリウム【炭酸カリウム】K_2CO_3　無色，単斜晶系の結晶。比重2.428，融点891℃。水によくとけ100gの水に0℃で105.5g，100℃で156gとけ，水溶液は強いアルカリ性を示す。無水塩は白色粉末で潮解性がある。このほか，1.5水塩，1水塩，2水塩が知られる。製造には苛性(かせい)カリ溶液に炭酸ガスを吹き込んで炭酸カリウム溶液をつくり，これを濃縮して析出する結晶を分離乾燥して得る。硬質ガラス・軟せっけん・医薬品・染料・皮なめし・写真・食品(中華そば用梘水(かんすい))などに用いる。

たんさんカルシウム【炭酸カルシウム】$CaCO_3$　無色，斜方晶系の結晶。比重2.93。100gの水に25℃で0.0015gとける。無色，六方晶系，比重2.711のものもある。前者は天然のアラレ石，後者はホウカイ石である。また熱すると生石灰と炭酸ガスとに分解する。天然の石灰石の主成分は炭酸カルシウムで，これを原料として多くの石灰系製品がつくられている。工業的に炭酸カルシウムを製造するには生石灰に水を加えて石灰乳をつくり，これに炭酸ガスを吹き込むと炭酸カルシウムが沈殿する。これは沈降性炭酸カルシウムといって，純度が高く，見かけの比重の小さい粉末である。製造条件によって種々の性状のものが得られるので，それぞれ目的に適したものをつくって使用する。ゴムの充塡剤(じゅうてんざい)，塗料の顔料，製紙充塡剤などに使われる。　〔鈴木　篁〕

だんざんじんじゃ【談山神社】奈良県桜井市多武峰(とうのみね)山頂にあり，藤原鎌足*(かまたり)を祭る。鎌足ははじめ摂津の阿威(あい)山に葬られたが，その子定慧(じょうえ)が678年(天武6)遺骸(いがい)を多武峰に移して十三重塔を建て，塔の南に妙楽寺を建立(こんりゅう)，のちその東に聖霊院(現在の談山神社)を建てて鎌足の木像を安置した。1849年(嘉永2)の修復にかかる本殿・拝殿や十三重塔などは重要文化財に指定され，その華麗さは日光東照宮と対比される。なお，妙楽寺は明治維新の際の神仏分離で破壊された。例祭は11月17日。　〔佐野文哉〕

たんさんすいそナトリウム【炭酸水素ナトリウム】重炭酸ソーダ。略して重曹(じゅうそう)といわれる。→重曹

たんさんソーダ【炭酸ソーダ】Na_2CO_3　炭酸ナトリウムの俗称。無色の粉末で，比重2.533，融点851℃，100gの水に100℃で45.5gとける。一般に市販されているものには，無水物・水和物があり，水和物には1水塩・10水塩などがある。これらのうち最も多量に使用されるものは無水物で，工業原料としてはソーダ灰とよばれる。ソーダ灰の純分規格は99.0%以上とされている。ソーダ灰を大気中にさらすとしだいに吸湿し，それが進むとさらに大気中のCO_2と反応して，セスキ炭酸ソーダ$Na_2CO_3 \cdot NaHCO_3 \cdot 2H_2O$に変化する。ソーダ灰は天然にも産出するが，古くはルブラン法，続いてソルベー法*，また最近では塩安ソーダ法により大規模に生産されている。苛性(かせい)ソーダ・重曹(じゅうそう)・板ガラスの製造などに用いられるほか，無機薬品・油脂製品・染料などの化学工業用，化学しょうゆ・グルタミン酸ソーダの製造など多くの用途がある。なお近年塩素需要の激増により，苛性ソーダの製造は電解による方法が有利となった。苛性ソーダから炭酸ソーダを得ようとする計画もある。　〔鈴木　篁〕

たんさんだっすいこうそ【炭酸脱水酵素】カルボニックアンヒドラーゼともいう。炭酸から水分子を除去して生じた二酸化炭素をガス状にして放出させる働きをする酵素。亜鉛を含むタンパク質で，特に呼吸に関して重要である。血中に溶存している二酸化炭素は，物理的にとけているばかりでなく，ヘモグロビンにも結合している。これらが肺胞の毛細血管中に運ばれてきたとき，この炭酸を直ちに肺胞中に放出させるのがこの酵素の任務である。この酵素もヘモグロビンと同様赤血球にはいっている。また少量は筋肉・膵臓(すいぞう)にも含まれ，体液のpH調節などの働きをする。　〔井坂三郎〕

たんさんどうか【炭酸同化】炭酸を同化して有機物(主として糖)を合成することで，光のエネルギーを用いる光合成と，化学エネルギーを用いる化学合成とがある。光合成は緑色植物が葉緑体の中で炭酸ガスと水と，太陽の光のエネルギーとによって有機物質を合成する作用であるが，光が直接関係する一種の光化学反応である。炭酸同化でできる産物が糖の場合，式で表わすと次のようになる。

$$6CO_2 + 6H_2O + \text{光のエネルギー} \xrightarrow{\text{緑色植物}} C_6H_{12}O_6 + 6O_2$$

化学合成は，化学合成細菌によって無機物を酸化して得られるエネルギーを用いて炭酸を同化して，糖を生成する。一般に，地

球上での化学合成による炭酸同化は，光合成よりも少ないと考えられている。　〔代谷　康〕

たんさんナトリウム　【炭酸ナトリウム】⇨炭酸ソーダ

たんさんマグネシウム　【炭酸マグネシウム】 $MgCO_3$ 白色の固体で，比重3.037。熱すると酸化マグネシウムと炭酸ガスとに分解する。天然にはマグネサイトの主成分として，またドロマイトの一成分として産出する。塩化マグネシウム溶液に炭酸ナトリウムを加えて放置したのち，生じた沈殿を濾過(ろか)水洗し，これを他の容器へ移して水を加え，蒸気で60℃近くに加熱する。これを濾過して乾燥すれば工業薬品としての炭酸マグネシウム(通常炭マグという)が得られる。用途としてはゴムの充塡剤(じゅうてんざい)・保温剤・医薬用などがある。　〔鈴木　篁〕

たんし　【単糸】 紡績糸の1本の糸。これを2本撚(よ)り合わせたものを双糸または二子糸，3本撚り合わせたものを三子糸という。普通単糸は毛糸などを除いて左撚り(Z撚り)が多く，双糸や三子糸ではこれとは逆に右撚り(S撚り)をかける。このように，上撚り(最終の撚り)は下撚り(はじめの撚り)と反対にするのが原則となっている。

だんし　【檀紙】 コウゾの樹皮を原料にしてすいた紙。陸奥(みちのく)(東北地方)ですいたのは陸奥紙という。また，〈まゆみのかみ〉ともいわれたが，マユミの樹皮を原料としてすいたのではない。厚手で，色は白い。後世の檀紙にはちりめんのようなしわがある。大きさによって大高・中高・小高という。

タンジェント　⇨三角関数

だんじき　【断食】 一定の期間だけ食物の摂取をやめること。医者の指示として行なわれたり，要求や抗議の表明としてなされることもあるが，断食の多くは宗教的理由に基づく。断食の宗教的意味づけはそれぞれの宗教によって異なる。原始宗教にみられるように，特定の食物またはそれに含まれると信じられる霊魂への恐怖から断食が行なわれることもあるし，宗教的鍛練または修行(苦行)の一つとして実行されることもある。インドでも古くから苦行の一つに数えられ，バラモン僧その他の修行者によって実行された。仏教はもともと積極的には断食を勧めなかったが，のちには修行の中に取り入れられ，真言密教の行法には断食がある。断食の一種(特定の食を断つもの)に塩断ち・穀断ち・木食(もくじき)などがある(➝断ち物)。断食はほとんどの宗教で行なわれ，中でもイスラム教における宗教的義務としての断食は有名である。《旧約聖書》には贖罪(しょくざい)のための断食が説かれ，《新約聖書》にもキリストの断食に関する教訓が記されている。　〔岡部和雄〕

たんしきぼき　【単式簿記】 一定の法則もなく，ただ単に経済活動を一面的に把握(はあく)する単純な記帳法。家計簿などに使用される。そこでは現金の収支や債権・債務の増減など，いわゆる財産の記録・計算を行なうため，複式簿記に比べて誤謬(ごびゅう)脱漏の発生する機会が多く，また自動検証能力を保持していない欠点がある。

たんしきんるい　【担子菌類】 真正菌類の一群。ふつう有性生殖は核融合の結果できた接合子が肥大して担子器となり，減数分裂ののち4個の核に分かれる。その後，担子器の上部に小突起ができ，4個の担子胞子をつくる。担子器の形状によって次のように分類される。①半担子菌類(原生担子菌類)：クロボ菌類・サビ菌類など。②原担子菌類(異型担子菌類)：キクラゲ・シロキクラゲなど。③真正担子菌類：ツツジのモチ病菌類やナミダ菌類，マツタケ・サルノコシカケなどの帽菌類，ホコリタケ・キツネノチャブクロなどの腹菌類など。➝きのこ　〔曾根田正己〕

たんじつしょくぶつ　【短日植物】 1日の日照時間が12時間より短いときに，出穂や開花などが行なわれる植物をいう。日本のような温帯地域で，四季の区別が明らかであるところでは，夏の終わりから秋にかけて開花・結実する植物はすべて短日性である。イネ・ダイズ・ソバ・トウモロコシ・タバコ・コスモス・キクなど。

たんじつしょり　【短日処理】 日照時間を人為的に制限して，短日植物の出穂・開花などを促進する手段。日照の制限は黒い寒冷紗(かんれいしゃ)を1～数枚合わせて遮断(しゃだん)する方法か，植木ばちなどの植物を暗室に運び込む方法がとられる。日照時間の制限は暗室のほうが効果的である。

たんしどう　【譚嗣同】 (1865～1898) 清(しん)末の思想家・政治運動家。湖南省の人。字(あざな)は復生。清朝末期の変法自強運動を湖南省で推進した。戊戌(ぼじゅつ)変法の失敗のとき，亡命の勧めを退け，〈変法のため血を流すこと，嗣同より始めん〉といって刑についた。変法思想中の左派に属し，主著《仁学》には急進的ブルジョア民主主義・民族主義がみられるとされている。なお，彼は宇宙・人間の実体を〈以太(エーテル)〉という生気論的物質と考えた。➝康有為

タンジマート　［Tanzimat］ オスマン-トルコ帝国において，スルタン，マフムート2世(在位1808～1839)からアブドュルメジト1世(在位1839～1861)・アブドュルアジズ(在位1861～1876)にかけて行なわれた諸改革をさす。語は〈諸改革〉を意味するアラビア語。17世紀末ごろから内外ともに顕著になった帝国の衰退を救うために西欧に範をとった近代化の政策がとられ，特に，アブドュルメジトの治世にはギュルハーネの詔勅が発せられて改革の意図が明らかにされた。軍制上・行政上，多くの改革の試みがなされたが，保守派官僚の妨害を受けて，結局は形式的な改革にとどまった。そのためヨーロッパでは，〈タンジマートはサブライム-ポルト(オスマン政府)の入り口で止まった〉と評された。　〔斎藤淑子〕

たんしゃしょうけい　【単斜晶系】 晶系の一。三斜晶系に次いで対称の低いもので，1個の対称面または1本の2回対称軸，あるいは両者を同時にもつ。結晶軸は長さ a および c で互いに角度 β で交わる2本の軸と，長さ b で前2軸に直交する軸とである。b軸を2回対称軸の方向，または対称面に垂直な方向にとる習慣がある。セイチョウ石・カクセン石などがその例。

だんしゅ　【断種】 精巣(睾丸(こうがん))・卵巣を切り取らず，精管・卵管を手術して，精子・卵子の通過ができないようにすること。男子では両側輸精管，女子では両側輸卵管の結紮(けっさつ)あるいは切断をする。これには優生保護法が適用されている。➝不妊法　➝去勢

たんじゅう　【胆汁】 脊椎(せきつい)動物の肝臓から分泌される苦味の強い液。胆液ともいう。ヒトの場合，はじめは透明な黄金色であるが，胆嚢(たんのう)にたまっている間に濃縮され，黄かっ色になる。主成分はビリルビン系の胆汁色素，胆汁酸塩，コレステリンである。胆汁はpH7.8～8.6とアルカリ性で，消化酵素は含まないが，十二指腸に分泌されて，胆汁酸塩によって脂肪を乳化して脂肪分解酵素の消化作用を助ける。ビリルビンは胆汁の流れが阻止されると血液中にはいって皮膚を黄色にし，いわゆる黄疸(おうだん)になる。また，コレステリンは胆石のもとになる。1日にふつう500～1,000 *ml*分泌される。　〔平野修助〕

たんじゅんたんぱくしつ　【単純蛋白質】 複合タンパク質の対語。一般にアミノ酸のみを構成要素とするタンパク質の総称。大部分のタンパク質がこれに属する。最近，単純タンパク質とされていたものでも，少量ながら炭水化物などを含むことがわかり，単純タンパク質の定義は必ずしも明確ではない。

たんじゅんへいきんかぶか　【単純平均株価】 上場銘柄の株価合計を，上場銘柄数で割った平均株価。東京証券取引所では，1949年(昭和24)5月，取引所再開以来ダウ平均株価と共通の225銘柄を対象に算出していたが，1969年7月，東証株価指数の採用を機会に，市場全体の株価変動を的確に反映させる目的で，対象を全上場銘柄に拡大して算出している。単純平均株価の特色は市場全体の株価水準を単純に表わしたもので，平均利回り・平均株価収益率などの指標算出の基準にされている。ただし，増資権利落ちの場合は単純平均株価も下がるので株式の実体価値を連続的に把握(はあく)できないという難点もある。
〔日東証券調査部〕

だんしょう　【男娼】　男色を売る美少年。江戸初期には美少年を愛する戦国の余風が，なお強く残っていた。その風潮に乗じて1624年(寛永1)前後，江戸・京都・大阪の三都に若衆歌舞伎(かぶき)が起こった。少年俳優が振りそでを着て舞うだけで，もっぱら容色を見せるものであった。1629年(寛永6)女歌舞伎が淫蕩(いんとう)であるとの理由で禁止されると，若衆歌舞伎は全盛をきわめ，舞台以外の売色に応じるようになった。また女形養成を名目に，舞台へ出ない美少年を集めたが，これを蔭間(かげま)とよび，のちに売色専門の男娼となった。彼らは劇場とは無縁に，子ども屋に置かれて遊客を待った。客はそこから蔭間茶屋へ呼び出して遊んだが，高級な蔭間は手続きや作法のやかましいことでは，太夫(たゆう)格の遊女と変わらなかった。蔭間茶屋は芳町(よしちょう)・木挽町(こびきちょう)・湯島などが有名で，京では宮川町，大阪は道頓堀(どうとんぼり)にそれがあった。なじみを重ねると誓いの指切りや入れ墨をしたり，遊女並みに心中することもあった。また男だけではなく，女客をとることもあった。蔭間は何度も禁圧されながら，封建社会のひずみに巣づくって，1838年(天保9)の全面禁止まで続いた。
〔稲垣史生〕

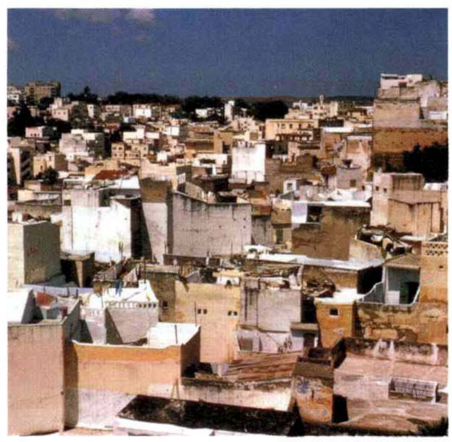
たんじょういわい　【誕生祝】　幼児の誕生を祝う儀礼。西洋では生後1年めの誕生日を盛大に祝うが，日本ではそれほど顕著な祝日とはなっていない。生後満1年めにこれを行なう地方では，〈むかはり月〉〈むかいどき〉などと称して，赤飯をたいたり，地方によって名の違う祝いもちをつくり，親類・知人・助産婦・仮親などを家に集めて祝ったり，近所の人々にもちを配ったりする。また，誕生した翌年の正月に祝う地方も多く，この場合，正月のうちの干支日(えとのひ)(➡十干十二支)に親類や縁者を招いて行なう。地方によっては早く歩き出すと親を見捨てて養わないなどといい，誕生祝以前に歩くのをきらう気持ちがあって，早く歩き出す子に一升もちを背負わせてわざところがす風習がある。また，初誕生日にもちふみといって，足がよく地につくようにともちの上を歩かせるところもあり，筆・そろばん・ものさし・米・銭などを並べて幼児に取らせ，幼児の将来を占うことも広く行なわれている。　〔渡辺欣雄〕

たんじょうじ　【誕生寺】　千葉県安房(あわ)郡天津小湊(あまつこみなと)町にある日蓮宗(にちれんしゅう)の寺。山号は小湊山。日蓮*誕生の旧跡で，日蓮宗霊跡寺院の随一。日蓮の高弟，寂日房日家(にっけ)が佐久間重貞の保護を受けて同寺を創建した。1498年(明応7)，1703年(元禄16)の2度津波のため諸堂を流失したが，その後現在地に再興した。江戸時代には寺領七十石。近くに特別天然記念物の鯛(たい)の浦がある。

たんじょうじ　【誕生寺】　岡山県久米(く



誕　生　寺　(千葉県)本殿



タ ン ジ ー ル　土着のムーア人の住むメディナ地区の市街。雑然と並ぶ白い建物と入り組んだ迷路のような街路がカスバをつくっている

め)郡久米南町にある浄土宗の寺。山号は栃社山(とちこそざん)浄土院。二幡(ふたはた)寺ともいう。1195年(建久6)蓮生坊(れんしょうぼう)熊谷直実(くまがいなおざね)が法然*誕生のこの地に創建したと伝える。1578年(天正6)宇喜多直家が日蓮宗に改宗を命じたが，従わなかったため日蓮宗徒に堂舎を破壊された。のち住持深誉(じんよ)が本山智恩院(ちおんいん)の補助を得て再興したといわれる。江戸時代には寺領五十石を給され，寺運盛んとなり諸堂も整備した。寺宝には法然の直筆6字の名号があり，また境内には産湯(うぶゆ)の井戸がある。　〔杉坂靖子〕

たんしようしょくぶつ　【単子葉植物】　被子植物を二分する大きな一群で，双子葉植物*に対するもの。種子が発芽するときには1枚の子葉が出る。ふつう，花の構成部分は3または3の倍数からなり，葉脈は平行脈，維管束は不規則にちらばって形成層がない。イネ科・ヤシ科・サトイモ科・ツユクサ科・ユリ科・ショウガ科・ラン科などが含まれる。

だんじょうだい　【弾正台】　律令(りつりょう)官制における警察・監察の機関。風俗の粛清・官吏の非違の監察糾弾をつかさどった。太政官(だじょうかん)から独立した官庁で，大臣以下の糾察を任とした。本来は全国の風俗取り締まりをも任としたが，実際にはその活動は京の内に限られたらしい。尹(いん)・弼(ひつ)・忠・疏(そ)の四等官のほか，巡察弾正が置かれて，実務に従った。

たんしょくこう　【単色光】　波長が一定の光。連続スペクトルの一部を取り出したものと線スペクトルの線を取り出したもの，波長を固定したものと任意の波長を選んで取り出せるものとがある。実際には多少の幅をもつが，光学測定の基準や較正用に用いられる。標準波長として用いられるクリプトン ^{86}Krの放電管から発する波長6057.8021Åの光線などはその例である。

だんじょぐんとう　【男女群島】　長崎県，五島列島福江島の南西方65kmの地点にある東シナ海上の無人島で，福江市に属する。男島(おしま)・女島(めしま)のほかいくつかの岩礁があり，面積5 km^2。断崖(だんがい)を巡らし，平地はない。近海はブリの好漁場で，漁師の倉庫や小屋がある。北西方にある無人島の鳥島南岩は，沖縄(おきなわ)を除く日本の極西で，128°6′Eにあたる。

タンジール　［Tangier］　アフリカ大陸北西端，ジブラルタル海峡に臨むモロッコの港市。ヨーロッパ大陸側のジブラルタルに相対する軍事上の要地でもある。人口18万6,000(1973)。古代フェニキアの植民都市として興り，交通・戦略の要地であることから，以後支配者はひんぱんに交替し，7世紀にはアラビアに支配され，15世紀にはポルトガル領となり，のちイギリスの支配を経て，1684年モロッコ領となった。19世紀以後は各国が市内に治外法権をもつようになり，1906年モロッコはスペインとの協定により国際都市とした。この特殊な地位は，1945年のパリ国際会議でも確認され第2次世界大戦後も変わらなかったが，1956年フランスの支配下にあったモロッコが独立するとともに廃止され，同国領となった。なお，1962年市の一部を新たに自由貿易区としている。市街は古い城壁に囲まれ，サルタンの宮殿，砦(とりで)の跡などが残っている。　〔小栗　宏〕

タンジールじけん　【タンジール事件】　⇨モロッコ事件

たんしんどう　【単振動】　一直線上を運動する質点が，その直線上の定点Oからの距離に比例する引力を受けている場合，質点はOからの距離が，

$x=a\sin(\omega t+\alpha)$または$x=a\cos(\omega t+\alpha)$,
(a, ω, αは正の定数)

で表わされる運動をする。これを単振動または一次元調和振動という。単振動は時間が$T=2\pi/\omega$だけ経過するごとにまったく同じ状態をくり返す周期運動で，Tを周期，ωを角振動数(角周波数)という。また1秒間に振動をくり返す回数は$\nu=1/T$で，νを振動数(周波数)という。aは点がOから最も遠ざかるときの距離で，これを振幅と

いう。またαは$t=0$の時刻の位置を定める量で，初期位相とよばれる。単振動は，振幅 aに等しい半径の円周(参考円)の上を角速度ωで等速円運動をする点の，その円の一つの直径上への射影の運動とみなすことができる。この考え方は，同一直線上で二つ以上の単振動を重ね合わせた場合，あるいは互いに直角な方向の単振動を重ね合わせた場合の運動を作図によって求めるのに便利である。単振動をする質点(質量m)の運動方程式は$m\ddot{x}=-cx$(cは正の定数)で，角振動数は$\omega=\sqrt{c/m}$によって定まるが，振幅と初期位相は運動の初期条件から定まる。単振り子*をはじめ種々の振り子の運動は振幅が小さい場合は単振動となる。なお一般にある量 qが時間とともに変化し，$\ddot{q}=-cq$(cは正の定数)の形の微分方程式がなりたつ場合は$q(t)=a\sin(\omega t+\alpha)$の形をもつ。このような場合に，$q$は単振動をするということがある。〔有山正孝〕

たんす【箪笥】引き出し・引き戸・開き戸などをつけた収納家具。出し入れを考慮してたな・間仕切りが合理的になされている。ギリシア時代のふたつきの長方形の箱に始まり，ローマ時代のころからとびらをつけるようになった。日本では従来花嫁道具の主要なものに数えられ，取っ手にさおを通して運んだところから一さお，二さおと数えられるようになった。

〔種類〕〈和だんす〉和服を収納するための浅い引き出しが多く，引き出しを納めたところをさらに観音開きの戸でおおったもの。標準の大きさは幅100～130cm，奥行き45cm。〈洋服だんす〉洋服をハンガーに掛けたまま つって収納できるもの。幅90～120cm，奥行き60cm。〈整理だんす〉大部分が引き出しで構成され下着や簡単な衣服を収納するもの。上部にショーケースを重ねたものもある。幅90cm，奥行き45cm。以上の3点は寸法をそろえてセットとして売られるものもある。〈押入れだんす〉奥行きが90cmあり，そのまま押し入れに納めて，押し入れを立体的に使用できるようにくふうしたもの。そのほか，乳幼児用衣類を収納するためのベビーだんす，化粧道具入れと整理だんすを兼ねた化粧だんす，食器類を収納する茶だんすなどもある。

材質は，収納物の変質を避けることが絶対条件で，ちり・ほこり・湿気を防ぐキリ・カシ・ナラ・チークなどが上質とされる。また押入れだんすにはベニヤ板にビニル繊維を張ったものもある。〔館古都子〕

ダンス［dance］ 語源は古代高地ドイツ語のDanson。本来は単に〈身体を伸ばす〉という意味であったが，のち舞踊一般をさすようになった。〈舞踊〉という語は明治時代にダンスを翻訳したものであるが，〈社交ダンス*〉〈タップダンス*〉の名が示すように，わが国では通常〈ダンス〉といえば娯楽的舞踏・体育的舞踏をさす場合が多い。

たんすい【淡水】タンショイ 台湾北部の港市。人口約70,000。旧名は滬尾(こび)。淡水河河口北岸にあり，港はその西3kmにある。1860年南西岸の安平と同時に開港した。かつて台湾四大港の一つといわれたが，港が浅くなったことと基隆(キールン)の発展によって機能は低下した。全盛期には福建・広東(カントン)方面との連絡港として栄え，また台湾最大の茶の輸出港でもあった。1626年，スペイン人がこの地を占拠して城塞(じょうさい)を築いたことがあり，市街の北2kmにその跡が残っている。

たんすいがい【淡水貝】河川・湖沼など淡水に生息する貝類の総称。軟体動物の腹足類と二枚貝類に属し，日本に約100種を産するが，そのうち約40種を琵琶湖(びわこ)に産する。腹足類では，タニシ・マメタニシ・カタヤマガイ・カワニナ，空気を呼吸するモノアラガイ・ミズヒラマキガイ・カワコザラガイ・サカマキガイなどが，二枚貝類ではカワシンジュガイ・イシガイ・ドブガイ・カラスガイ・シジミ・ドブシジミ・マメシジミがそのおもなる類である。日本は一般に淡水に石灰分が少ないので，殻頂(かくちょう)が白く冒される。タニシ・カワニナ・マシジミ・ドブシジミは胎生で，モノアラガイ・ミズヒラマキガイ・カタヤマガイ・マメタニシは卵を産む。また，カワシンジュガイ・イシガイ・ドブガイ・カラスガイでは子貝を魚のえらなどに付着させ，またタナゴ類は産卵管を挿入(そうにゅう)して前記の種の外套(がいとう)内に産卵する。タニシ・シジミは食用にされ，カワシンジュガイは養殖真珠の母貝となるが，カタヤマガイは日本住血吸虫，マメタニシは肝吸虫，カワニナはウェステルマン肺吸虫，カワザンショウガイは大平肺吸虫，コシタカモノアラガイは肝蛭(かんてつ)など，人間や家畜の寄生虫の中間宿主となる。〔波部忠重〕

たんすいかいめん【淡水海綿】海綿動物・尋常海綿綱・タンスイカイメン科。海綿動物のほとんどは海産であるが，この科のものだけは陸水にすむ。普通は湖沼の岩盤・小石・橋脚などや水草・沈木上などに薄層をなしており，灰白色もしくは緑藻(りょくそう)の共生によってあざやかな緑色を呈する。体内には多数の単軸性でケイ酸質の骨片を有する。生殖は無性・有性生殖を行なう。無性生殖は秋期に多数の芽球を形成し，本体死亡分解後も残存し，翌春に新動物を生ずる。わが国にはカワムラカイメン・ミューラーカイメン・ヌマカイメンなど10数種を産する。〔向井　宏〕

たんすいかぶつ【炭水化物】糖質ともいい，炭素・水素・酸素の元素組成をもつ糖類およびそれに似た性質をもつ物質の総称。上の三元素のほかアミノ糖のように窒素を含む炭水化物も存在する。一般に$C_n(H_2O)_m$の式で表わされ，以前は含水炭素ともよばれた。しかしこの一般式にあてはまらなくとも炭水化物の仲間にはいる化合物も種々発見されており，現在では炭水化物という名称は必ずしも適当ではなくなっている。炭水化物は基本的にはホルムアルデヒドHCHOの重合した物質とみることができ，アルコール基のついた炭素の鎖状骨格の末端にアルデヒド基またはケトン基が存在する。アルデヒド基をもつものをアルドース，ケトン基を有するものをケトースという。また，一般に炭水化物は，単糖類・少糖類(二糖類・三糖類など)・多糖類の3種に大きく区別される。炭水化物は自然界ではまず緑色植物の炭酸固定によってつくられる。これは植物体内でデンプンなどの貯蔵物質としてたくわえられるが，一方では同時に，植物やそれを摂取した動物体内で代謝利用され，生体の組織を形成する物質，エネルギー源，および他の有機物質を合成するための炭素源となる。ただし炭水化物の代謝過程は複雑多岐で，その機作のすべてが解明されているわけではない。〔南川隆雄〕

たんすいぎょ【淡水魚】池・沼・湖・川などの淡水域(塩分濃度0.5%以下の水域)にすむ魚類。一生を淡水中で過ごすコイ・キンギョ・オイカワ・ドジョウなどのほかに，ウナギ・アユなどのように一生のある時期は海で過ごすもの，河口の付近(淡海水域)にすむマハゼなどのように淡水と海水にまたがって生活するものもいる。一般に海産の魚類に比べて小形であり，塩類に対する浸透調節作用が発達している。自然の淡水域は海水域に比べて水温や酸素条件など無機環境の変化が大きく，一般に環境条件は良好とはいえず，また水域も狭いので，種類数は少ない。〔松本忠夫〕

たんすいくらげ【淡水クラゲ】⇨マミズクラゲ

たんすいそうるい【淡水藻類】狭義には淡水の河川・湖沼に生ずる藻類をいうが，広くは陸生藻という意味で，土壌(どじょう)藻類(クロレラ・ユレモ)・気生藻類(ケファレウロス・フィロシフォン)・汽水生のもの(シャジクモ)をも含める。海藻が海産藻類の一部しか示さぬのとは違って，淡水藻は植物プランクトンをはじめ，すべての藻類を含む。海藻は人間生活との関係が深かったため，通俗的認識から発しているが，淡水藻はむしろ学問上の認識から生じたことばである。淡水藻は藻類のすべての群にみられ，シャジク藻類は汽水生も含めて全部，緑藻類・ミドリムシ類・黄色藻類・藍藻(らんそう)類の多くのもの，炎色藻類の一部，少数の褐藻(かっそう)類(エリボディエラ)・紅藻類(カワモズク・チノリモ)でみられる。多くのものは光合成を行ない，淡水域の生物学的生産者の位置を占めるが，湖沼ではプランクトン藻類が，河川では着生藻類が特に重要である。淡水藻の利用は限られているが，スイゼンジノリ・アシツキノリ・

カワノリはわが国で古来から食用とされた。アオミドロはかつて紙にすきこまれた。養魚池ではえさとしての青粉を発生させるため池に施肥をする。土壌中より分離されたクロレラは，その高い増殖率と培養の容易さやすぐれた栄養価などで，最近は注目されているが，このような面での単細胞淡水藻の利用度は今後増すものと思われる。

だんせい　【弾性】　物体に外力（荷重）を加えることによって物体に生じた変化（変形あるいはひずみ）が，外力を取り去ることによりもとの形あるいは大きさにもどろうとする性質。弾性を示す物体を弾性体という。外力を受けている物体の内部には外力に抵抗して，その物体の形や大きさをもとのままに保持しようとする力（応力*あるいは弾力）を生じる。変形は外力につりあう応力を生じるように起こる。応力は，物体内に考えた任意の断面を隔ててその両側の部分が互いに及ぼし合う力と考えることもできる（図-1）。応力の大きさは断面の単位面積あたりに作用する力の大きさで表わす。一般に物体は変形の程度がある限度をこえると，外力を取り去ってももとの形または大きさにもどらない（塑性）。この限度は物質によって異なるが，これを弾性限度という。多くの場合に弾性限度内では外力すなわち応力と変形すなわちひずみの間には比例関係がなりたつことが経験的に知られている。これを〈フックの法則〉という。フックの法則が成立する限度を比例限度という。弾性限度と比例限度とは必ずしも一致しない。

一例として図-2に軟鋼の応力とひずみとの関係（応力ひずみ線図）を示す。O-A間は応力とひずみが比例。A点の応力が比例限度である。A-B間では比例関係はなりたたなくなるが外力を除けばもとにもどる。B点の応力が弾性限度で，B点までを弾性域という。B点をこすと外力を除いてももとにもどらず，O-Dだけの永久ひずみ（永久変形）が残る。Bをこえた範囲を塑性域という。C-E間では応力はほぼ一定でひずみが急速に大きくなる。これを降伏といい，これに相当する応力を降伏点という。F点の応力は引っ張り強さあるいは抗張力とよばれ，この材料が耐え得る最大応力である。G点は破断点とよばれ，この点に達すると材料は切断される。なお弾性限度内でも，精密に測定すると外力を増す場合と減らす場合とでは応力とひずみの関係はわずかながら異なる曲線を描く。この現象を弾性ヒステリシスという。また物質によって差はあるが，外力を取り去ったあともひずみが完全に消滅するまでにある時間がかかる。これを弾性余効という。

【弾性変形の種類】①伸びと縮み：棒の両端を引っ張ったり，押したりするときに現われる変形。②曲げ（たわみ*）：棒を曲げたときの変形で，凸部（とつぶ）の伸びと凹部（おうぶ）の縮みが組み合わさっている。③ずれ：下面を固定し，上面に面に平行な力 Fを加えたときの変形で，形だけが変わる。この場合，Fを面積で割ったものがずれ応力である（図-3）。④ねじれ：ずれの変形の一種で，棒の一端を固定し，他端に偶力を与えてねじったときの変形（図-3）。⑤つるまきばねの伸びと縮み：曲げとねじれが組み合わさった変形。⑥一様な体積変化：形は変わらず，体積だけの変化。

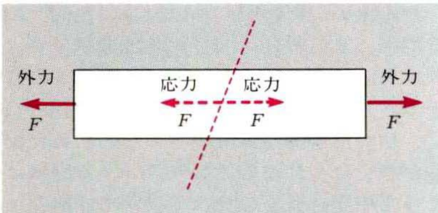


図-1

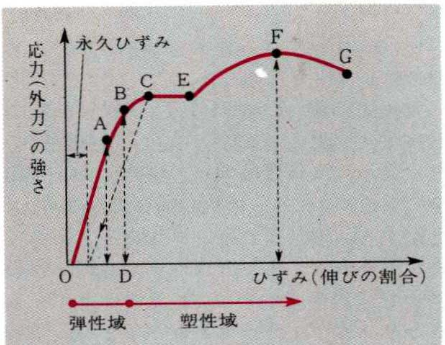


図-2

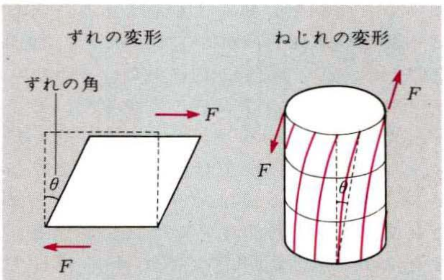


図-3

弾　性

【弾性率】フックの法則がなりたつ範囲では応力はひずみに比例するから，応力／ひずみ＝定数となる。この定数を弾性率といい，物質と変形の種類によって一定値をもつ。よく用いられる弾性率には次の三つがある。①ヤング率（伸びの弾性率）：断面積S，長さl の一様な棒に働く全張力あるいは全圧力をFとし，それによって生じた伸びあるいは縮みをΔlとすれば，棒は長さの方向に強さ F/Sの張力または圧力を受けるから比例限度内では $F/S=E\cdot\Delta l/l$となる。このEをヤング率または伸びの弾性率という。なおこの場合，棒が伸びると横方向には縮み，逆に棒が縮むと横方向には伸びる。横方向と縦方向の伸縮の割合の比をポアソン比という。②ずれの弾性率（剛性率）：物体にずれの変形を与えたとき，ずれの応力Fとずれの角 θとの比 $F/\theta=n$をずれの弾性率または剛性率という。③体積弾性率：体積Vの物体が圧力pを受けて，体積がΔVだけ変化したとする。このときの体積のひずみは $\Delta V/V$で，$p=K\cdot\Delta V/V$がなりたつ。Kを体積弾性率という。また，$1/K$を圧縮率という。

【弾性の原因】弾性は物質の原子的構造から生じるものである。多くの固体ではそれを構成する原子が規則正しく配列して結晶構造をつくっている。原子間には引力が働いているが，互いにある程度以上近づくと斥力が働くようになるので，原子間の距離はある適当な間隔に保たれている。外力を加えて変形を生じるとこの原子相互の位置関係が変化するのでこれに逆らう力が作用し，外力がなくなればもとの位置関係にもどる。このようにして固体の弾性が現われる。気体の場合は事情が異なる。気体分子は一つ一つがほぼ自由に熱運動をしており，これから圧力が生じる。しかし分子の規則的配列がないので，張力やずれ応力は現われない。液体や，ゴムなどの高分子物質の場合はもっと複雑な機構によって弾性が現われる。

【流体の弾性】液体は張力やずれ応力に対しては弾性を示さず，圧力に対してだけ弾性を示す。つまり体積の弾性はあるが，形の弾性はないので一定の形を保たず，自由に形を変える。液体の圧縮率は1気圧につき10^{-5}～10^{-6}ぐらいで，圧縮されにくいことを示している。　〔有山正孝〕

たんせいか　【単性花】　1花中に，めしべあるいはおしべのどちらか一方だけしかもたない花。雌花・雄花とよび，また不完全花・雌雄異花ともいう。雌花・雄花が同一の株にあるとき雌雄同株，別々の個体上にあるとき雌雄異株という。

だんせいげんど　【弾性限度】　物体は荷重を受けると応力を生じ変形を起こすが，その応力がある一定の応力以下であれば荷重を取り除くとその変形は元にもどり完全な弾性を示す。その限界点に対応する応力を弾性限度という。

だんせいは　【弾性波】　⇨波動

だんせいホルモン　【男性ホルモン】　主として精巣から分泌されるホルモン。前立腺（ぜんりつせん）・陰茎など，雄性生殖器を発達させてその機能を営ませるほか，声変わりなどの第2次性徴の発現を促す。男性ホルモンの作用を示す物質は，総称してアンドロゲンとよばれる。このうち，動物の精巣から分離された強力なテストステロンが真のホルモンとされ，尿から得られる他のものはその代謝産物と考えられるようになった。副腎（ふくじん）皮質からも，アドレノステロンその他数種のホルモンが分泌されることが知られる。男性ホルモンは，性ホルモ

ンとしてのほかに，物質交替に関しても強い作用をもつ。老年期になって白髪やしわがふえるのは，これらのホルモンの分泌減衰に基づく老化現象の一つである。このホルモンを注射で補ったり，刺激によって分泌を盛んにすることなどによって，老衰傾向を防ぐことができる。〔平野修助〕

たんせき【胆石】 胆道系（胆管と胆嚢(たんのう)）に発生する結石*。胆石の主成分は欧米ではコレステロール*が多く，わが国ではビリルビン・カルシウムが多い（約50%）といわれている。その他少量の炭酸カルシウム，胆汁(たんじゅう)色素の酸化物，あるいはこれらの混合による結石がある。砂粒大から鶏卵大までいろいろあり，1個から場合によっては数百個存在し，色は白色・灰白色・緑かっ色・黒色までいろいろである。生成の最も大きな原因は胆道の炎症（胆嚢炎*・胆道炎）で，このため胆汁中の胆石を構成する成分が，胆汁中にとけて存在しえないような濃い状態となったときに生成されると考えられている。その存在部位により，総胆管結石・胆嚢胆管結石などとよんでいる。胆石が存在しても全然症状を呈さないものがあるが，胆石によりなんらかの症状を呈したときこれを胆石症*という。〔佐野隆志〕

たんせきしょう【胆石症】 胆石発作ともいう。胆石*が原因で起こる症状。胆石が胆嚢(たんのう)から脱出して胆管中へ移動したり，胆石によって胆嚢・胆道炎が惹起(じゃっき)されたときに起こる。暴飲暴食・脂肪食・過労・怒責・出産などが誘因となって突然吐きけ・悪寒(おかん)を伴い，上腹部に激痛をもって始まる（胆石発作）。痛みは激烈で嘔吐(おうと)を伴うことが多く，疼痛(とうつう)と高熱のためショックに陥ることがあり，発作は一定せずくり返して起こることもある。場合により黄疸*(おうだん)を認める。診断は定型的症状に注目し，レントゲン検査・胆汁(たんじゅう)液検査・血液化学的検査などで確定する。脂肪食を制限し，肝庇護(ひご)をしながら抗生物質・鎮痛解熱剤を投与する。疼痛が激烈であったり発作がくり返したり，黄疸が進行する場合には外科的に胆石を摘出する。〔佐野隆志〕

たんせつ【鍛接】 古くから鉄を接合するために用いられた方法。接合しようとする材料を溶融点付近まで加熱し，これにハンマーなどで圧力を加えて接合する。高温で接合する場合金属の表面に酸化膜があったのでは接合が完全にいかないので，これを取り除くためホウ砂などを用いる。つぎ手には，ふつう，いもつぎ・重ねつぎ・やはずつぎの3形式がある。粘度の高い錬鉄や軟鋼に使用する。

たんせん【段銭】 鎌倉・室町時代における臨時の税。田畑1段につきいくらという割合で課した。はじめは米で徴したので段米といった。本来は朝廷・幕府の重要な行事やできごとに要する経費にあてるものであったが，しだいに種々雑多な名目で段銭を徴収するようになり，室町時代には棟別(むなべつ)銭*とともに幕府の有力な財源となった。政所*(まんどころ)に段銭奉行(ぶぎょう)を置き，さらに諸国に段銭国分(くにわけ)奉行を任命してその徴収にあたらせた。

たんぜん【丹前】 広袖(ひろそで)の綿入れ長着*。着物の上に重ねて着る防寒着で，主として男子が家にいるときに用いるくつろぎ着。表布には青梅縞(おうめじま)・銘仙(めいせん)・八端(はったん)・お召・大島紬(つむぎ)・村山大島などのややはでな縞がらを，裏は通し裏で紺または黒のキャラコ・紬・平絹などを使う。中に入れる綿は青梅綿・真綿・合繊綿などで，特に丹前綿・どてら綿と名づけて少し厚めにつくられたものもある。そで口布と掛けえりに黒八丈を用いるのが特色である。江戸末期，江戸（東京）ではどてらとよんだ。近年は厚地ウールの二重織（表は縞，裏は無地）の丹前地が売り出されて流行している。そで*は普通の角そで*とし，そで口を小さくした仕立てが多い。丹前の名は，江戸初期江戸神田(かんだ)の堀丹後守(ほりたんごのかみ)の邸前に，湯女(ゆな)によって繁盛した丹前ぶろがあり，ここに遊ぶ士民の伊達(だて)な風俗を丹前ふうとよんだのに始まるという。〔堀越すみ〕

たんせんい【短繊維】 ⇨ステープル

たんそ【炭疽】 炭疽菌の感染によって起こる急性伝染病で，脾脱疽(ひだっそ)ともいう。元来は家畜の病気である。主徴は高熱で，突然死亡するものが多く，口鼻・肛門(こうもん)から暗赤色の血液を漏らす。病気が発生すると常在地となり，容易には根絶できない。普通は飼料による消化器感染をする。病死したウシなどの肉を食べることによってヒトも感染し，また家畜・獣毛を扱う者などでは皮膚損傷部から感染することが多い。菌は侵入部に炎症を起こし，重症となれば全身に広がって敗血症を起こして死亡する。治療はペニシリンなどの抗生物質が用いられる。

炭疽菌は幅1 μ，長さ3〜10 μほどのグラム陽性の好気性桿菌(かんきん)で，乾燥や薬剤に強い1 μほどの芽胞をつくる。1876年コッホはこの菌の純粋培養に成功し，これを動物に接種することによって発病させた。これは細菌と伝染病の因果関係を実証した最初の例として有名。さらに，1881年にはパスツールによって減毒生菌ワクチンがつくられ，家畜に用いられた。〔岡田十九郎〕

たんそ【炭素】 周期律表第Ⅳ族に属する元素。記号C，原子番号6，原子量12.011。古くから知られていた元素である。無定形の炭素・セキボク（黒鉛）・ダイヤモンドの3種の同素体がある。炭素は自然界に広くみられ，二酸化炭素として空気や水の中に存在し，生物の重要な構成成分として，さらには炭酸塩の形で岩石の一成分として存在する。原子価が4の非金属元素である炭素は，炭酸塩・シアン化物・有機化合物などきわめて多種類の化合物をつくる。また植物の炭酸同化作用を媒介として自然界を循環している。海陸の植物は葉緑素の力で，大気中の二酸化炭素を同化して植物体とし，その大部分はバクテリアにより分解され，二酸化炭素として大気中に返される。そのほか動植物の呼吸により一部は二酸化炭素として放出される。炭素はきわめて融解しにくく，高温では昇華性がある。同素体の化学的性質はそれぞれ異なるが無定形炭素が最も活性に富み，セキボク・ダイヤモンドの順に活性が小となる。常温ではきわめて安定で酸・アルカリに侵されない。酸素との反応は無定形炭素は暗赤色で反応し，二酸化炭素となるが，セキボク・ダイヤモンドはさらに高温でなければ反応しない。炭素は有機・無機いずれの溶剤にも溶解しないが，高温では鉄・白金族元素にとける。しかし冷却するとセキボクとなって析出する。

物理的性質も同素体により著しく異なる。ダイヤモンドは，宝石としてあまりに有名であるが，これはおもにその光学的性質による。またその硬度が最高であることから，研摩剤・切削用具の刃などに利用される。セキボク（グラファイト）は黒鉛ともよばれ，電導性をもつ。減摩剤・鉛筆の心・電極として用いられる。無定形炭素を高温に熱すると，原子は安定な結晶配列に近づくとともに単結晶がしだいに成長して電気抵抗や硬度の変化がみられる。これが黒鉛化で，セキボクは無定形炭素を高温加熱して得られる。無定形炭素には木炭・石炭・活性炭・獣炭・砂糖炭・カーボンブラック・コークスなどがあり，燃料や冶金(やきん)用に使われる。またその吸着力の非常に大きいことを利用して脱臭・脱色などに用いられ，薬用炭として過酸症・消化管内の異常発酵の薬としても利用される。〔古屋　弘〕

たんそう【単層】 地質系統（地層）区分の最小の基本単位。すなわち，上下の層理面にはさまれた部分であり，単層の集まりが地層である。単層はだいたい厚さが一定し，組成も均一である場合が多い。

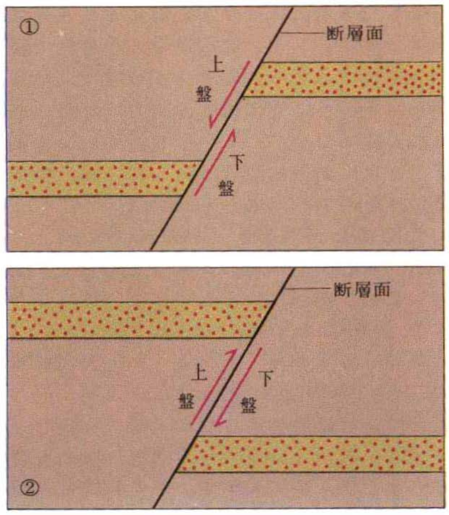
たんそう【炭層】 地層状に層状をなして存在する石炭。炭層は古代の植物が沈積して形成されたもので，根源植物が繁茂していたその場所に炭層を生じたものを現地生成，流木が沈積したものを流木生成という。

たんぞう【鍛造】 金属を加熱して機械的に塑性加工を加えて成形する加工法。鍛造の目的は所要の形を得ることのほかに，鋳造組織の破壊，結晶粒の微細化などの性質の改善も含まれる。鋼の凝固時に生成した粗大な結晶を微細にすることにより，靭性(じんせい)および引っ張り強さを増大させることができる。鍛造に際しては温度が非常に重要であり，再結晶温度以上に加熱して

行なわれる。低温過ぎると内部応力が残留してクラックの原因となり，高温過ぎると組織が粗大化して機械的性質の劣化が起こる。鍛造には大きく分けて自由鍛造・型鍛造・すえ込み鍛造があり，自由鍛造はさらにハンマー鍛造とプレス鍛造に分けられる。ハンマー鍛造は蒸気・圧縮空気の力による鍛造用ハンマーを用い，主として上下の高速度の衝撃圧縮をくり返し加えることにより成形する方法で，中・小形製品の大量生産に適している。一方プレス鍛造は水圧プレスなどを用いて静圧力を与えるもので，これによると，衝撃力では内部まで達しない加圧力を内部まで届かしうるため，大形製品などに用いられる。また型鍛造は，鋼片を金型に挿入(そうにゅう)して上下から圧縮する方法で，応用範囲が広く同一寸法の製品が容易に得られ，切削代も比較的少ないため，現在最も広く用いられている。すえ込み鍛造は型にすえ込み・押し込んで成形する方法で，形状的な制約のため応用範囲は狭いが切削代が少ないなどの利点がある。鍛造される製品には車軸，発電機などの軸，船舶・自動車などのクランク軸などのほか広い範囲に及んでいる。〔草川隆次〕

だんそう【断層】 岩石や地層に割れ目が生じ，それによって断ち切られて両側の岩石・地層が相対的に移動する現象を断層運動といい，その結果生じた構造を断層という。その際両側の岩石に断層面を生じる。断層面は曲面と平面とがあり，その面はずれによってみがかれてなめらかな鏡はだ*を生じたり，またずれの方向をよく示す線状の筋がみられたりする。断層は一つの面で表わされる場合もあるが，いくつかの断層がほぼ平行に生じて，その間がある幅をもつ場合がある。これを断層帯という。断層運動によって両側の岩石・地層は砕かれて粘土(断層粘土)，角礫(かくれき)(断層角礫)を生じることが多い。この角礫は加えられた圧力と生じた熱の作用で再結晶したり固結したりして圧砕岩となることもある。また，断層帯全部がこのような粘土・角礫で埋められている場合も多い。断層は断層面を手がかりに走向・傾斜が判明する場合がある。走向・傾斜は層理面の走向・傾斜と同じくクリノメーターで測定する。断層の落差は断層による垂直方向のずれであるから，ずれ全体の垂直方向の分力として測定する。水平方向でのずれは水平変位という。

断層は両側の岩石のずれ方によって正断層・逆断層・垂直断層・水平断層(横ずれ断層)などに分けられる。断層面が傾斜しているとき，それを境にして上側にある岩石を上盤，下側のものを下盤といい，上盤側が下方に移動した形を示すのが正断層であり，上盤側が上方へ移動した形を示すのが逆断層である。この場合，実際に運動したのが上盤であっても下盤であってもよい。正断層でも下盤が上方へ移動した場合もある。逆断層の中で断層面が水平面に対して急傾斜しているものを突き上げ断層，緩傾斜(ほぼ45°以下)のものを押しかぶせ断層という。また，断層面が垂直なものが垂直断層，水平方向にずれた断層が水平断層(横ずれ断層)である。一続きの断層であっても場所によって落差の違うものがあり，これはちょうつがい断層とよばれる。また，地層の走行方向に平行な断層は走向断層，傾斜の方向に平行なものは傾斜断層，その中間のものは斜交断層といわれ，地震によって生じる断層は地震断層とよばれる。1891年(明治24)の濃尾地震*では根尾谷(岐阜県)に断層を生じ，それによって断層崖(だんそうがい)(落差最大6m)が現われた。



断　層


檀　像《千手観音坐像》峰定寺蔵

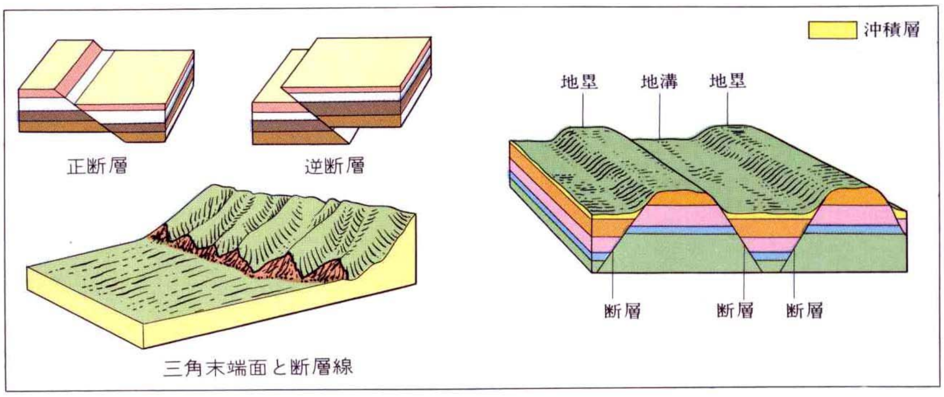
断層の存在する地域にはあとの侵食が加わって特徴のある地形(断層地形)を生じる。ずれた断層面が地表に現われて断層山脈*・傾動地塊*・断層崖などをつくり，断層と水平面との交わりである断層線に沿って，あとの時期に生じるがけは断層線崖である。断層線の上は侵食を受けやすく，谷を生じやすい。この谷を断層谷という。断層は数多くが雁行(がんこう)して雁行断層をなすこともあり，性質の違う断層が平行して生じて階段断層や地塁・地溝(ちこう)をつくることもある。押しかぶせ断層では上盤の地塊が遠くまで移動して押しかぶせ地塊を生じることが多い。このような断層は反転褶曲(しゅうきょく)や横臥(おうが)褶曲に伴って生じる。断層の規模はきわめて小さいものから数百キロメートルに及ぶ長さのものまである。大規模な断層が地質構造の違う2地域を分けているようなものは構造線という。中央構造線*や糸魚川(いといがわ)-静岡構造線*はその例である。このような構造線は1回の運動で生じたものでなく，数多くの運動がほぼ同じ場所に起こったり，近くに平行して起こったりしている場合が多い。断層のできる原因はいろいろあって一括することは困難であるが，地殻(ちかく)の一部が外力・内力によって伸び縮みしたり，水平方向・垂直方向の圧力を受けてそれに対応すべく位置を変えたりする場合に生じやすく，大規模なものは造山運動*に伴うことが多い。〔平山　健〕

だんぞう【檀像】 ビャクダンのような檀木を材料にした仏像彫刻。中国では，後漢代の3世紀半ばに檀像をつくったことが記録されているが，隋(ずい)・唐代になって盛んに行なわれた。わが国にある法隆寺の《木造観音菩薩(かんのんぼさつ)立像(九面観音)》(国宝)は唐からの将来品で，唐代檀像の貴重な遺品である。かおりがよいこと，木質がかたく虫食いを防ぐこと，木目が美しいことなどで，彩色や漆箔(しっぱく)をしない素木(しらき)のまま，細密な彫刻を施すのがその特徴である。なお，檀木の良材は南方産であって，わが国には産しないことから，わが国では古来ヒノキなどの材を用いて素木の像をつくったが，このような像を檀像様彫刻とよぶことがある。〔永井信一〕

だんそうがい【断層崖】 ⇨断層地形

たんそうこうりゅう【単相交流】 電燈用低圧配電に最も普通に用いられる交流送電方式。一つの電源と負荷とがあり，この間を2本の線で結んだ回路である。単相2線式と単相3線式がある。前者は一般家庭への配電方式で，電線数が少なく，工事が簡単で費用が安い。後者は同一配電系統で定格電圧の異なる負荷に供給するのに適する。➔三相交流

だんそうさつえい【断層撮影】 断面撮影ともいう。生体内の任意の一断層面だけを撮影するレントゲンX線検査法*。単純撮影ではよくわからない病巣や組織の構成を立体的にとらえるためにおこなわれる。被写体を固定して上にX線管，下にフィルムを置いて同時に両者を逆方向に移動しながら撮影し，一定の深さの断層面上の部分だけをはっきりと映す方法である。こうして深さの異なる何枚かの断層写真をとることによって，細かい病変を知ることができる。〔白石　透〕



断 層 地 形

だんそうちけい 【断層地形】 地層や地盤に破壊が生じ，垂直方向に食い違ったり水平方向にずれる変位現象を断層運動といい，その結果生ずる地形を断層地形という。地層や地盤に変化を生じた面を断層面とよび，断層面より上位を上盤，下位を下盤とよぶ。上盤が下盤より相対的に低下する変位を正断層，上盤が下盤より相対的に上昇する変位を逆断層といい，正断層は地殼(ちかく)に張力が働くとき生じ，逆断層は圧力が働くときに生ずる。断層面が垂直の場合を垂直断層，変位が水平にずれる場合を水平断層という。

断層面と地表との交線を断層線といい，ふつうほぼ直線状に走っている。断層運動の結果，断層面が地表に露出した部分を断層崖(だんそうがい)とよぶが，断層崖は，そこを垂直に流れる河川によってV字状に侵食されるので，山麓(さんろく)を底辺に山地を頂点とする三角形斜面の三角末端面を形成する。断層地形の特色の一つは，断層線に沿って三角末端面がいくつも並ぶのでその存在が知られる。三角末端面はその後の侵食作用によって，しだいに後退して低平化し，断層線と断層崖は一致しなくなることもある。

断層運動は何回もくり返して生ずることが多く，そのたびに断層面に沿う岩石は破砕されて，破砕帯をなす。このような場合，破砕帯は侵食に対する抵抗が弱いので，河川は破砕帯に沿って直線状に流れることが多く，これを断層線谷という。また，断層運動が河谷を支配する場合を断層谷といい(一般に直線状になる)，これに沿って平行に山地が走る。山地の尾根などを断層が横切るとき，断層の所が早く侵食されてケルンコルとよばれる凹部(おうぶ)を生じ，その前部の山脚はケルンバットとよばれる凸部(とつぶ)を生ずる。

断層運動が地震活動に伴って生ずるときは地震断層といい，1891年(明治24)10月28日の岐阜県の濃尾地震によって生じた根尾谷断層は代表的な例で，延長40km，落差6mに達した。また，火山の頂上付近が陥没してできたカルデラ内壁は陥没断層といい，断層線は弧状になり，摩周湖・箱根火山・阿蘇(あそ)火山はその例である。沖積世(ちゅうせきせい)に生じた断層を活断層というが，断層崖前面の平地に生じた扇状地に変位を与えるような断層は，おおむねこの活断層である。

断層運動によって生じた山地を断層山地というが，特に両側が断層によって落とされた山地を地塁という。鈴鹿(すずか)・養老・六甲の諸山脈および淡路島はこの例である。また，両側が断層によって限られ，落ち込んだ谷を構造谷といい，さらに規模が大きくなったときを地溝(ちこう)とよんでいる。地溝には東アフリカ地溝・紅海地溝・ライン地溝などがある。

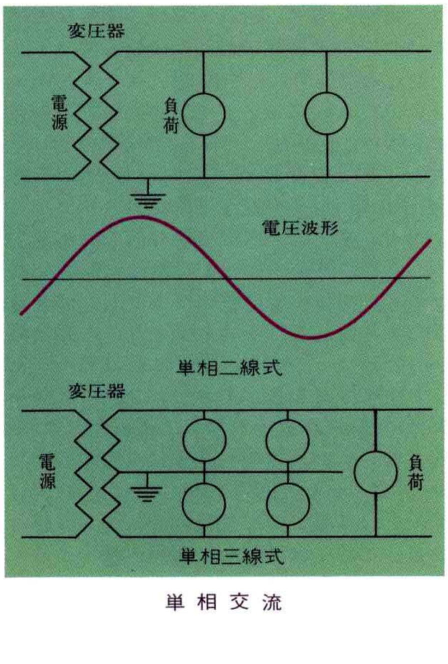
断層運動によって生じた盆地を断層盆地という。この中には一方が断層運動によって地盤が傾いた断層角盆地，両側を断層によって限られる地溝盆地がある。わが国は断層盆地が各地に存在し，特に新潟県糸魚川(いといがわ)市から中央山岳を縦断して富士川に抜ける糸魚川-静岡構造線に沿って，松本・諏訪(すわ)・甲府などの断層盆地が並んでいる。

断層運動によって下降地塊が海面下に没し，断層崖が海面に接するとき，これを断層海岸といい，海岸線は直線状になる。断層山地も長い年月の間には侵食作用によって低平化する。このとき断層の両側の高度が等しくなり，一時は断層の存在がわからなくなるが，断層の両側の地層・岩石の侵食抵抗力が異なるので，その後の侵食は両側で不等に動き，地下の断層が掘り出されて急崖ができたりする。これを複雑層崖とよぶ。 〔桑原正見〕

だんそうぼんち【断層盆地】⇨断層地形

たんそこう 【炭素鋼】 炭素量が0.03%以上，1.7%以下の鉄と炭素の合金。少量のケイ素・マンガンのほか，不純物としてリン・イオウなどを含むのが普通である。おもな炭素鋼の種類と用途は表のとおりである。

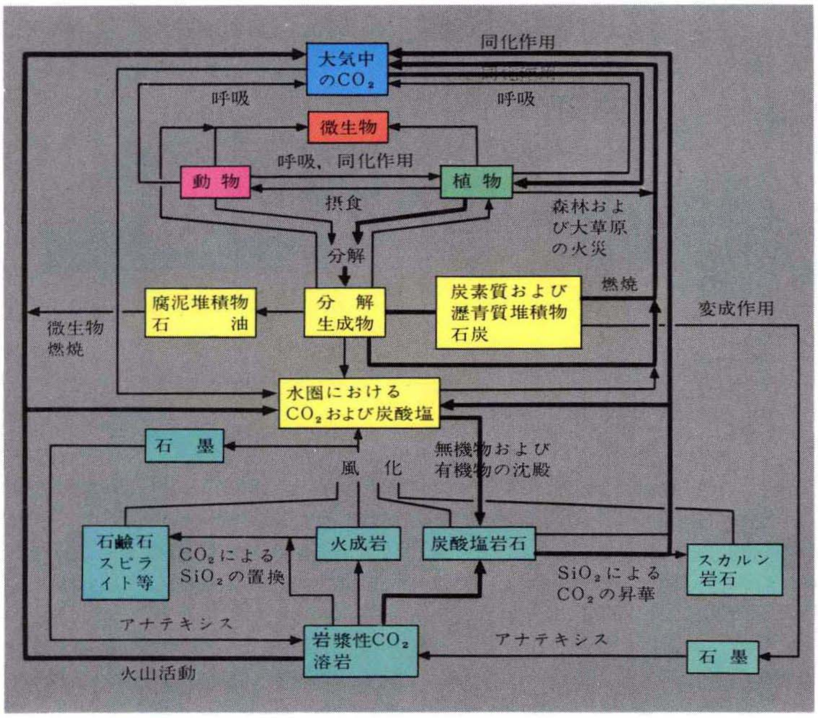
たんそじゅんかん 【炭素循環】 炭素の

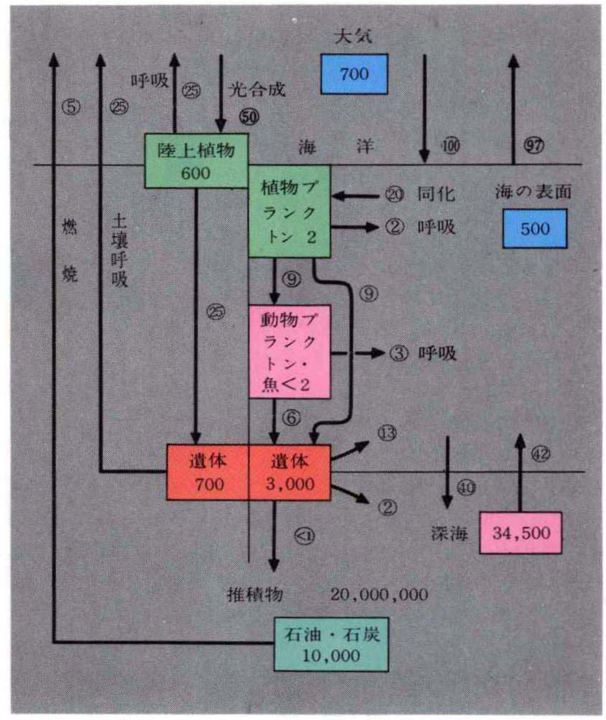


単 相 交 流

炭素鋼の種類と用途

種別	化学成分					用途
	C	Si	Mn	P	S	
特別極軟鋼	<0.08	<0.05	0.20〜0.40	<0.05	<0.05	電信線・薄板
極軟鋼	0.08〜0.12	〃	0.30〜0.50	〃	〃	溶接管・サッシュ・鋲
軟鋼	0.12〜0.20	<0.20	〃	〃	〃	鉄骨・鉄筋・鋲・ボルト・ナット・船舶・車両用板・棒・形鋼
半軟鋼	0.20〜0.30	〃	0.40〜0.60	〃	〃	建造物・船舶・橋梁用材
半硬鋼	0.30〜0.40	0.15〜0.25	〃	〃	〃	シャフト・ボルト・矢板
硬鋼	0.40〜0.50	〃	0.50〜0.70	〃	〃	シリンダー・軌条・機関車外輪
最硬鋼	0.50〜0.60	〃	0.60〜0.80	〃	〃	シャフト・ねじ・軌条・機関車外輪





炭素循環　図-1　自然界における炭素循環(Rankama 1949より小山による作図)

図-2　生物圏における炭素循環(依田1971より)
四角形の中の数値は現存量(×10^9トン)，○の中の数値は循環速度(×10^9トン/年)を表わす

地球化学的循環をいう。自然界に存在する種々な元素と化学物質は，生物的過程または非生物的な過程を経てその存在形態を変えている。あるあり方(存在形態)と他の形態との間の相互変化はいつも動的であり，相互に変化する速度が平衡を保つならば，それぞれの形態の現存量には見かけ上変化がみられない。言い換えれば，見かけ上の増減がないにもかかわらず，ある形態の現存量はいわば他の形態への貯蔵庫をなしており，他の形態への変化の速度(循環速度)と，他の形態から再びもどる循環速度とに依存してなりたっている。

自然界での炭素の循環は，酸素・窒素の循環とともに大気を重要な貯蔵庫としている点に特徴がある。地球全体からみるならば，炭素の現存量の大部分は地表・海底下に埋蔵されているが，これらは石油・石炭の燃焼や火山活動によるほかは自然界の循環経路にはいりこむことの少ない比較的安定した部分をなしている。これに対して大気中の二酸化炭素は容積でわずか0.032%(320 ppm)を占めるにすぎないが，総炭素量として700×10^9tに達し，地球上の植物体を構成する全炭素量600×10^9tにほぼ等しい。大気中の二酸化炭素を光合成によって固定する陸上植物は，年間50×10^9tの炭素を大気中から奪っており，この量は大気中の総炭素量の14分の1に相当する。陸上植物による固定量の大部分(70%)は森林によるものである。一方，海洋で単細胞性藻類(そうるい)を中心に行なわれる炭素の光合成的固定は，陸上植物による総量の40%(20×10^9t)に相当する。自然界で無機態炭素が有機態炭素への変化を遂げるに際し，これら植物の生活活動は，その主要な動因をなしている。

植物体を構成している有機態炭素は植物の呼吸によって無機化される一方，動物の摂食によって動物体を構成しここでも呼吸によって失われながら，最後には遺体のかび・細菌による分解を経て，再び無機態炭素へともどされる。この間森林は火災によって直接無機化される場合もあり，物質循環が種々な経路の循環のからみあった複合系として成立していることを示している。したがってほぼ閉鎖性(物質の動きがほぼ完結しここから出ていく経路は考慮しなくともよい)を有する循環は，地球全体を考えた場合のみと考えられ，これを構成するより小規模な循環はそれに比べ開放的である。しかし，開放的であることが循環系の不安定さを意味するわけではなく，小規模ながら動的平衡を保っている循環系も存在する。このような例の一つが極相群落によって構成される生態系にみられ，地球化学的循環の動的平衡は，この生態系が持続する物質的基盤をなしている。非極相群落によって構成される生態系は不安定で，やがて他の群落に置き換えられるが，物質循環上の動的不均衡ともかかわりをもつことが認められている。

近年地球化学的循環と関連して，人間の活動，特に企業活動が問題にされている。生産・消費によって産み出された物質が自然界にもともと存在しないものである場合，この物質がどのような循環経路をたどるのか，他の循環系にどのような影響を与えるのか，また既知のものが自然の経路に大量に加えられた場合いかなる影響を与えるのか，循環様式の一つである生物濃縮がどのように働くかなど，すでに明らかとなった事実からの指摘が行なわれる一方，数多くの部分が不明の状態にある。〔船越真樹〕

たんそぞくげんそ　【炭素族元素】　周期律表第Ⅳ族に属する元素のうち，炭素・ケイ素・ゲルマニウム・スズ・鉛の5元素の総称。スズ・鉛は特にスズ族元素ともよぶ。この族の元素は最外殻(かく)に2個のS電子と，2個のp電子をもつのが特徴で，原子番号の増加に伴って，密度・原子半径・イオン半径が大きくなり，非金属性が減少して金属性を増す。融点・沸点・硬度などはだいたい原子量増加とともに減少する。

たんそびょう　【炭疽病】　スイカ・キュウリ・モモ・ブドウ・インゲンなどの果実に，暗色，円形で，くぼんだ病斑(びょうはん)を生じ，その表面に鮭肉(さけにく)色の粘質物(胞子の集団)を形成する病気。スイカ・キュウリの葉には円形で暗かっ色の病斑を生じ，のちにその中央が裂けたり穴があいたりする。モモの葉は管のように上方に巻き，枝先から枯れる。モモ・ブドウの果実は暗かっ色となって落ちるか，またはミイラ化して枝に付着する。インゲンの葉では葉柄・葉脈に発病し，葉がちぢれて奇型となり，枯死する。また，さや・種子にもかっ色または黒色の斑点を生じ，腐敗する。病原菌は菌糸または胞子の形で被害部につき，越年する。予防法は発病した果実・枝・つる・葉の除去，無病種子の採取と，種子消毒，輪作を避ける，抵抗性品種の栽培，ダイセ

ン・トリアジン・キャプタン・銅剤などの散布などである。なお，動物の炭疽の病原体は本病と異なり，ヒトでは届け出伝染病*，家畜では法定伝染病に指定されている。➔炭疽　〔渡辺　実〕

タンタ ［Tanta］ エジプト・アラブ共和国北東部，ナイル川の三角州中央部にある都市。人口27万8,000(1974)。カイロの北約80kmに位置し，鉄道交通の要地で綿花取引の中心地でもあり，綿工業が発達している。イスラム教の聖者アフマッド-アル-バダウィの墓のあるモスクが知られる。

たんたい 【単体】 ただ一種の元素からなる物質。ダイヤモンド・石墨・イオウ・鉄・水素ガスなど。純物質を化学的に単体と化合物に分類する場合，２種以上の元素に分解できるものが化合物，分解できないものが単体である。

たんだい 【探題】

1 鎌倉幕府・室町幕府が置いた職名。主として重要な地方政治を管掌した。鎌倉幕府は承久の変後京都に六波羅(ろくはら)探題を，蒙古*(もうこ)襲来に備えて長門(ながと)探題を，蒙古襲来後九州に鎮西探題を置いた。室町幕府も九州探題・奥州探題・羽州探題を設置。

2 仏教界で，論義(仏教教典の要義について学僧の能力を判定する考査)に際して論題を出し，判定する役僧。武家職名の探題はこの仏教語から転用されたといわれる。

だんたい 【暖帯】 暖温帯ともいう。温帯南部に位置するが，林学では狭義の温帯(冷温帯)の南で亜熱帯の北に位置する気候帯をいう。暖かさの指数(➔植物帯)で85～180の位置をさす。わが国では関東地方・中部地方の南部と近畿(きんき)地方以南から屋久島までがこれに属し，照葉樹林がその代表的な植生となっている。中国南部・地中海沿岸・北アメリカ東南部がこの気候帯に属している。

たんたいぎ 【炭太祇】 ⇨太祇

だんたいきょうやく 【団体協約】 経済上の弱者が，その組織力によって経済的地位を向上させるために，交渉した結果を書面で取りかわすこと。団体協約には，①中小企業の団体が取引先の大企業と取りかわす場合と②労働組合が使用者の団体と取りかわす場合とがある。②は，現在では労働協約*とよんでいる。

だんたいこうしょう 【団体交渉】 労働組合が使用者やその団体と賃金・労働条件その他について交渉すること。団体交渉は，組合のためにする場合と，個々の組合員のためにする場合とがある(労働組合法６条)。労使双方は対等の原則と納得の原則に立って，誠意をもって交渉にあたらなければならない。その結果労働協約*を締結できる場合もある。このように労働者が団結して交渉する権利を，団体交渉権とよぶ。これは労働基本権*の一つであり，日本では憲法28条に保障され，労働組合法１条に明記されている。団体交渉権の正当な行使は刑事上・民事上保障されている(労働組合法１・８条)。また，使用者が正当な理由なく団体交渉を拒否すれば不当労働行為*となる。公務員*は，交渉は認められるが，協約締結権はなく(国家公務員法108条の５，地方公務員法55条)，また公共企業体・国営企業および地方公営企業の職員は，交渉事項を制限されている(公共企業体等労働関係法８条但し書，地方公共企業体等労働関係法７条但し書)。団体交渉権は，労使関係における力関係を考慮して，使用者には保障されていないが，アメリカでは労使とも保障されている。団体交渉の方式は，個別交渉(企業内交渉)・統一交渉・対角線交渉・放射線交渉・集団交渉などがあるが，ごく一部を除いて，一般に個別交渉が行なわれている。〔黒瀬信子〕

だんたいとうきせいれい 【団体等規正令】 1949年(昭和24)制定されたポツダム政令の一つ(64号)をいう。アメリカの冷戦政策に対応し，平和主義・民主主義の健全な育成・発達を期するため政党・協会その他の団体の規正を目的としたもの。政治団体の届け出，その内容の公開，および秘密的・軍国主義的・超国家主義的・暴力主義的・反民主主義的団体の活動禁止などを規定している。この団体等規正令は，憲法に保障する結社の自由*および団結権*を制限し規制して，市民活動や労働組合運動の正当な活動を制限し，またはこれに介入するおそれがあるという非難もあった。またこの法令により徳田球一*以下日本共産党幹部が追放され，第２次世界大戦後の日本の占領政策の一大転換となった。団体等規正令は講和後の1952年廃止されたが，その中身は1952年７月成立の破壊活動防止法*に継承されている。〔黒瀬信子〕

だんたいほけん 【団体保険】 団体生命保険のことで，一定の条件を備えた多人数の集団，多くは同一の職場に勤務している従業員を対象として，原則として無診査で，割安な保険料により，一つの契約すなわち１枚の総括的保険証券のもとに，一括して保険する制度。保険料は，事業主が全額負担するか相当部分を負担するのが特徴で，このことを通じて企業内の労使関係の円滑化を図るものである。保険会社としては，ひとりひとりの個人を生命保険に入れるよりは諸経費を節約できるので，現在ではこの保険の発展に力を注いでいる。１年ごとに保険をつけ代えて更新する方式の団体定期保険が最も盛んである。〔庭田範秋〕

だんたいりん 【暖帯林】 暖帯に発達する森林。わが国の暖帯は温潤気候の下にあり，中部山間を除いてシイ・カシ・タブなどの照葉樹林が発達している。しかし，中部地方山間および中国南部・北アメリカ東南部では，冬季の低温の影響によって照葉樹林は発達せず，ナラ・クリ類を中心とする落葉広葉樹林が形成されている。また，夏季に著しい乾燥を迎える海洋性気候の暖帯地域(地中海沿岸部)では，耐乾性に富むオリーブ・コルクガシなどの硬葉樹林が見られる。➔植物帯

だんたくま 【団琢磨】 (1858～1932) 大正から昭和初期にかけての三井財閥*の最高指導者。福岡県出身。福岡藩士の神尾家に生まれ，12歳のとき団家の養子となる。アメリカのマサチューセッツ工科大学で鉱山学を修め，帰国後東京大学の助教授を経て工部省三池鉱山局技師となった。1888年(明治21)同鉱山の三井払い下げとともに三井三池炭鉱事務長となり，やがて三井全体の幹部へと進み，1914年(大正３)三井合名会社理事長に就任した。以来18年の間に三井財閥を全盛期へと導き，その全事業を統率した。さらに日本工業倶楽部*(クラブ)の設立に伴い理事長など，多数の財団に関与して財界の最高首脳として活躍する一方，民間外交家としても精力的に動いたが，1932年(昭和７)３月５日，血盟団員菱沼(ひしぬま)五郎に暗殺された(➔血盟団事件)。〔片岡一郎〕

タンタル ［tantalum］ 周期律表第Ⅴ族に属する元素。記号Ta，原子番号73，原子量180.948。灰黒色の金属で，1802年スウェーデンの化学者A. G. エーケベリが発見した。融点約3,000℃，沸点約4,100℃。比重16.6。水・塩酸・硝酸・硫酸には侵されず，フッ化水素酸・融解アルカリに可溶。展延性をもち，耐力性に富み，線膨張系数が同価である白金の代用としてガラス器具の接合に利用される。化学工業では耐酸材料として，熱交換器・人絹製造用ノズル・加熱器・冷却器などに使用される。〔古屋　弘〕

タンタロス ［Tantalos］ ギリシア神話の神。ゼウスとプルートの子。ペロプス・ニオベ*らの父で，アトレウス・アガメムノン*・オレステス*と続く家系の祖。フリュギアあるいはリュディアのシピュロス山付近の王で，神々に愛されていたが，わが子ペロプスを殺してその肉を神々にささげたため(あるいは，神酒を盗んだためとも，神々の秘密を暴露したためともいう)，地獄に落とされた。彼は水の中に首までつかりながら，水を飲もうとすれば水は退き，頭上の木の実を食べようと手を伸ばせば枝が遠のくという，飢えとかわきに責められる永遠の罰を課されたという。〔松田　治〕

ダンチェンコ ⇨ネミロビチ-ダンチェンコ

ダンチヒ ⇨グダニスク

たんちゃ 【磚茶】 チャ*の葉を蒸し固めて保存し，煎(せん)じて飲むもので，唐代に起こった。原料に緑茶を用いた緑磚茶と紅茶を用いた紅磚茶とがある。現代の製法は，生葉を大きなおけに詰め，下から蒸気を吹き込んで黄変するまで蒸し，日光にさらして乾燥させ，次に５分間くらい蒸したのち

に型わくに詰め，圧力を加えて製造する。

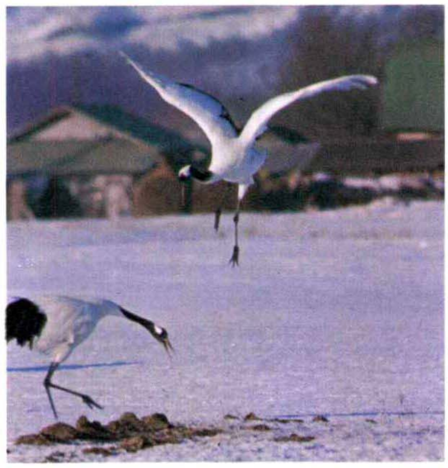
たんちゃめぶし 【谷茶前節】 沖縄本島の民謡の一。古典民謡に属するのではなく，近代に起源を発するいわば流行歌の類で，近隣の地域でも広く歌われている。三線(さんしん)は本調子。ハヤシは〈ナンチャマシマシ，ディアンガソイソイ〉。

たんちょう 【短調】 ⇨調性

たんちょう 【丹頂】 鳥類・ツル科。目先・のど・側頸(そくけい)・脚および次列と三列風切羽が黒色，頭頂は赤色で，他の部分は純白の非常に美しいツル。幼鳥の羽毛は全体にくすんだ淡灰紫色をおびる。シベリア東南部・中国北部と日本で繁殖する。日本では北海道の根釧(こんせん)原野を中心に，現在200羽前後が生息する。一時は乱獲によって日本から絶滅したかと気づかわれていたが，密猟の監視および冬季の給餌(きゅうじ)や保護活動により，現在では人里近くで冬を越して人々に親しまれている。ツル類中でも特にすばらしく，日本が誇りにできる鳥である。特別天然記念物。
〔浦本昌紀・安部直哉〕

だんつう 【緞通】 敷き物用のパイル(添毛)織物*の一種。日本には南北朝時代に中国から渡来した。わが国でつくり始めたのは江戸時代の中ごろからで，鍋島(なべしま)緞通(佐賀県)・赤穂(あこう)緞通(兵庫県)・堺(さかい)緞通(大阪府)などが著名。ふつう竪機(たてばた)を用い，太い綿撚糸(ねんし)のたて糸２本を一組みとして，これに毛糸または綿糸や絹糸を結びからげて一定の高さのパイルとし，よこ１段ごとに地よこ糸を織り込んで織り締める。一般にトルコ・中近東のものはパイル糸が細く短く密で，中国・日本・ヨーロッパのものは太く長く粗(あら)い。染色したパイル糸によって特色ある文様を織り出す。用法・取り扱いはじゅうたん*(カーペット)に準ずる。〔小川安朗〕

ダンテ [Dante Alighieri] (1265～1321) イタリア最大の詩人。フィレンツェに生まれる。フィレンツェの学者ラティーニに古典文学を学び，のちボローニャ大学で修辞学・哲学・法律学などを研究したが，そこで親友カバルカンティを得たことが詩作欲をかきたてた。また〈永遠の女性〉となったベアトリーチェとの出会いは，その文学に大きな影響を与えた。《新生》はダンテのベアトリーチェに対する愛の物語であり，最大の傑作である《神曲*》ではベアトリーチェは浄罪界から天堂界へのダンテの案内役として登場する。詩集《カンツオニエーレ》は清新体ふうの詩で，ほとんど彼女をうたったものである。1290年代の初めのころから都市国家フィレンツェの政治に関与し，ローマ教皇庁に対して市民の自由を守るために活躍した。しかし，そのためにグエルフィン党内の白党と黒党との争いに巻き込まれ，追放される結果となった。1303年以後放浪生活にはいり，フィレンツェにもどることはなかった。その間ベロナでスカラ家の外交使節になり，また皇帝ハインリヒ７世南下の報を聞いてイタリアの国家的統一の好機だと期待し，再び政治活動にはいったりした。しかしその夢は実現されず，《帝政論》を著わしてその理想を発表したりしたが，ほとんどは文学的著述に専念した。前述の代表的な作品と並んで詩と哲学を論じた《饗宴(きょうえん)》，言語の問題を扱った《俗語論》などがある。なお特筆すべきことは，イタリアの方言を練りなおして新しいイタリアの文学語をつくりあげたことであろう。〔田島　修〕



タンチョウ



ダンテ

ダンディ [Vincent d'Indy] (1851～1931) フランスの作曲家・教育者。フランク*の高弟。彼の音楽には，フランスの民謡の編集など，国民主義的な面と，ワーグナーの影響によるドイツ-ロマン主義的な面とがみられる。教育者としてもすぐれ，1894年スコラ-カントルムを創設して後輩の指導にあたった。作品には交響詩《山の夏の日》，交響変奏曲《イスタール》《フランスの山人の歌による交響曲》のほかオペラ・室内楽など多数があり，また講義録《作曲法講義》がある。〔寺田兼文〕

たんていしょうせつ 【探偵小説】 ⇨推理小説

たんでん 【炭田】 質・量ともに経済価値の高い炭層が連続して分布する地域。一般的に一つの炭田は地質時代が同一で盆地状の地域に炭層の堆積(たいせき)したものである。世界の炭田は，大陸別にみると北アメリカが最も広く，アジア・ヨーロッパ・オセアニア・アフリカ・南アメリカの順になる。地質年代別にみると，世界の炭田の総面積の約３分の２は古生代が占め，しかもその大半は北半球に存在する。残りは中生代と新生代。わが国のおもな炭田は大半は第三紀で，石狩・釧路(くしろ)・常磐(じょうばん)・高島・三池・崎戸(さきと)・松島・筑豊(ちくほう)炭田が代表的なものである。〔今井秀喜〕

たんとう 【短刀】 ⇨刀剣

だんどうがく 【弾道学】 放物線運動の理論をもとに，弾丸の描く軌道を科学的に公式化した学問。弾丸が砲身内で運動を起こし，空間を飛行し，目標に命中して運動を停止するまでのコースを弾道というが，18世紀初期からこの研究が盛んになり，20世紀初頭までに砲術面での弾道学はおおむね完成の域に達したが，第２次世界大戦後のロケットの急速な進歩によって，弾道学は新しい時代を迎えている。

たんとうるい 【単糖類】 炭水化物*のうち，加水分解してもそれ以上簡単な糖を生成しないような最小単位の糖類をいう。炭素数によりトリオース(３個)・テトロース(４個)・ペントース(５個)・ヘキソース(６個)・ヘプトース(７個)などに分けられる。この中でヘキソースが生物一般に最も普遍的に見いだされる。また，呼吸などの炭水化物代謝の基質として重要なブドウ糖*や，果実の甘味成分として存在する果糖*が，単糖類の代表的なものである。〔南川隆雄〕

たんどく 【丹毒】 皮膚(まれには粘膜)にみられる急性化膿(かのう)性炎症。おもに連鎖球菌の感染によって起こり，感染経路は創傷感染が最も多い。身体のどこにも発生するが，顔面・頭部はしばしば侵される。粘膜では鼻・咽頭(いんとう)に発生するものが多い。症状は高熱を伴う悪寒戦慄(おかんせんりつ)によって急激に始まり，罹患部(りかんぶ)には発赤と軽度の腫脹(しゅちょう)がみられ，灼熱感(しゃくねつかん)と圧痛がある。ふつう罹患期間は６～10日で，自然に下熱して局所の発赤・浮腫は消失し，かさかさに乾燥した皮膚が自然に脱落してなおるが，ときに感染源が残ってくり返すものがある。サルファ剤や抗生物質の出現によってほとんどがなおるようになり，患者数も以前と比べて激減している。予後は一般に良好であるが，経過が長びくと心臓衰弱などを起こす危険がある。〔三島好雄〕

だんどく 【曇華・檀特】 単子葉植物・カンナ科。インド・マライ諸島原産の大形多年草。根茎は多肉で太く，よく分枝して鞘状(しょうじょう)の葉をつけ，多くのひげ根を出す。茎は高さ1.5～２ｍで群生し，緑色・円柱形。葉は茎にまばらに互生し，卵状長

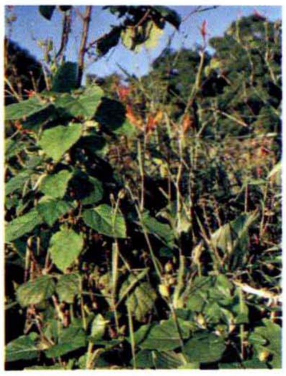
楕円(ちょうだえん)形で長さ30～40cm，茎部は鞘状に茎を包む。夏から秋に，茎頂に総状花序をつける。小花はカンナに似るが小さく，真紅色または黄赤色で花弁の基部は筒状，先は三裂し披針(ひしん)形である。おしべは変形して花弁状になる。果実は球形で，全面に細粒のある小さな蒴果(さくか)で，暗色球形の種子をつける。〔横井朝子〕

たんどくそうぞく【単独相続】ひとりの相続人が単独で相続すること。かつては相続の型態として，身分的地位の承継としての単独相続が行なわれていたが，現在ではこれを廃止してすべて共同相続とした(民法898・899条)。

ダントン［Georges Jacques Danton］(1759～1794) フランス革命時代の政治家。ジャコバン党指導者。パリで弁護士を開業。革命が勃発(ぼっぱつ)すると，マラーらとコルドリエ-クラブを設立，ジャコバン-クラブにも加入し，王制の廃止を主張した。1792年成立の国民公会時代にはロベスピエール・マラーとともにジャコバン党を指導，1793年革命裁判所を設立，公安委員会委員となり，ジロンド党を攻撃し，反革命の抑圧に努めた(→恐怖政治)。しかし1794年ロベスピエールらの最急進派と対立して粛清され，ギロチンにかけられた。〔喜多迅鷹〕

たんなトンネル【丹那トンネル】東海道本線の熱海(あたみ)～函南(かんなみ)間にある複線型鉄道トンネル。長さ7,804m。最初御殿場経由で建設された東海道本線の急勾配(こうばい)の不便を緩和するため，路線を丹那盆地経由に変更し，1918～1934年(大正7～昭和9)にかけて，断層と湧水(ゆうすい)に悩まされた難工事のすえ，16年の歳月と67名の犠牲者を出して完成した。このトンネルによって東海道本線は箱根の南を通過する路線に変わり，在来の路線はローカル線の御殿場線として利用されている。また，これの北に平行して東海道新幹線の新丹那トンネル(長さ7,959m)が1964年に開通した。〔青木栄一〕

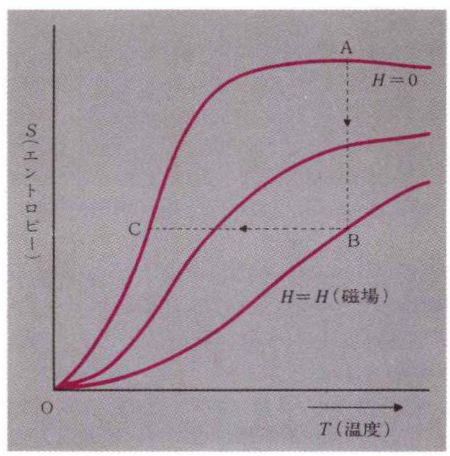
たんにしょう【歎異鈔】親鸞(しんらん)のことばをその常陸(ひたち)(茨城県)の門人唯円が選述した法語集。鎌倉期浄土門のかな法語の白眉(はくび)とされる。親鸞の没後，門流に異端の信仰に走る者が続出したため，その邪をただし真を開顕するために著わされた。全編18章からなり，和文体で書かれている。そのうちはじめの9章は親鸞の法語をあげて信心為本の主旨を簡潔雄渾(ゆうこん)に示し，あとの9章は門流による異端説を各別に掲げてこれを批判し，末尾に，後鳥羽院(ごとばいん)のときの法難に際して処罰された法然以下12人の名が列記されている。15世紀に本願寺の蓮如(れんにょ)はこれをはじめて開板した。蓮如は現存中最古といわれる写本の末尾に〈右斯(うし)の聖教は当流の大事の聖教なり，無宿善の機に於(おい)ては左右なく之(これ)を許すべからざる者なり〉と奥書きし，以後



ダンドク



ダントン



断熱消磁法

明治になってその価値が再発見されるまで，本書は一般の目には触れずに本願寺の内部だけで秘伝されていた。〔山折哲雄〕

タンニン［tannine］マメ科・バラ科・ヒルギ科などの植物成分として広範に見いだされるポリヒドロキシベンゼン誘導体の総称。分子量は600～2,000で，複雑な構造を有する。ピロガロールタンニンとカテコールタンニンの2種に分類されるが，加熱分解すると前者はピロガロールを，後者はピロカテコールを発生するなど性質を異にする。また，その生成過程からみると，前者は多く病的状態で，後者は正常な生理的成分として生成するとみられているが，その生理的な意義については外敵防御の働きをするとか，酸素運搬体であるとか種々いわれて定説がない。希酸を加熱した場合，加水分解されて没食子酸(もっしょくしさん)・エラグ酸などを生じる加水分解性タンニンと，重合して水に不溶性のフロバフェンを生じる縮合性タンニンとに分類される。まれに結晶状態で存在するものもあるが，おおむね無晶形である。塩化第二鉄水溶液を処理すると，緑色・藍色(あいいろ)・藍黒色などタンニンの種類によって種々の呈色反応をする。皮革のなめし剤として用いられ，底皮・ベルト皮・手袋皮の製造工業には欠かせない。収斂(しゅうれん)防腐作用があるため，収斂止血消炎剤として用いられ，また，下痢止め，重金属塩やアルカロイドの解毒剤としても用いられる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

だんねつげんりつ【断熱減率】大気中の空気塊が周囲から熱の出入りなしに上昇するときに，一定の割合で気温が下がるが，その割合を断熱減率という。乾燥空気では100mにつき0.976℃であるが，水蒸気を含んだ空気の場合は，気温の降下に伴い凝結を起こして潜熱を放出するので，気温の下がる率は最も小さくなる。

だんねつしょうじほう【断熱消磁法】常磁性塩を利用して液体ヘリウム温度以下の極低温を得る実験的手段。常磁性塩の電子スピンのエントロピーは外部磁場の大きいほど，温度が低いほど小さく，磁場をパラメーターにしたエントロピー-温度曲線は図のように表わされる。図において等温磁化によってA点の状態はB点に移り，次にB点の状態は断熱消磁によってC点に移る。こうしてA点よりも低いC点に相当する温度が得られるわけである。断熱消磁法で到達できる温度は用いる常磁性塩の種類によって異なり10^{-2}～10^{-4}°Kぐらいである。常磁性を示す物質のうち常磁性塩が用いられるのはそれに含まれる水分子が常磁性イオンのスピン間の磁気的相互作用を弱めることによってより低い温度を受けるためである。普通は，クロムカリウムミョウバン・アルミニウムカリウムミョウバンなど，鉄族イオン，または希土類イオンを含む特殊なものが用いられる。〔中野藤生〕

だんねつへんか【断熱変化】

①物質の状態が，外界と熱のやりとりなしに変化すること。気体の自由膨張はその一例である。実験では，コルク・発泡(はっぽう)スチロールなど熱伝導率(→熱伝導)の小さい材質で周囲をおおいながら，目的の物質の状態を変化させて，断熱変化を実現する。気体の圧力の体積による変化は，気体の温度を一定にしたまま変化させる等温変化と断熱変化を比べてみると，断熱変化のほうが勾配(こうばい)が急である。また，断熱変化によるエントロピーの変化は，その変化が可逆変化であれば0であるが，不可逆変化を含んでいれば正になる。宇宙の膨張は断熱変化と考えられるので，宇宙のエントロピーは刻々増加している。

②力学ではハミルトニアンの中のパラメーターの無限にゆっくりした変化を断熱変

化といい，変化しない量を断熱不変量という。この概念は前期量子論において重要な役割を果たした。〔中野藤生〕

ダンネモラ　[Dannemora]　スウェーデン東部，ウプサラの北方35kmにある鉱山町。人口4,100(1965)。長さ6kmの細長い湖の岸にあり，16世紀以来の鉄鉱石採掘の中心地である。鉄道でウプサラ・ストックホルム・エブレと結ばれている。

たんねん　【湛然】　(711～782)　中国，唐代の僧。中国天台宗第6祖で，荆渓(けいけい)尊者・妙楽大師・円通尊者と敬称され，天台宗中興の祖。江蘇(こうそ)省荆渓の儒家に生まれ，20歳で玄朗に師事して天台の教観を受け，江南地方の各地で*智顗(ちぎ)の著述を注釈・整頓(せいとん)し，法相宗(ほっそうしゅう)・禅宗を排し，華厳宗(けごんしゅう)の*澄観らに対しても天台の玄旨を明らかにし，一家の教権を確立した。著書に《法華玄義釈籤(しゃくせん)》《法華文句記》《摩訶止観輔行伝弘決(まかしかんふぎょうでんぐけつ)》など多数がある。

〔京戸慈光〕

タンネンベルクのたたかい　【タンネンベルクの戦い】　第1次世界大戦初期の1914年，東プロシア南方のタンネンベルクでドイツ軍がロシア軍を破った戦い。大戦開始直後，レンネンカンフ将軍の指揮するロシア軍は東プロシアに侵入，ドイツ第8軍を圧倒した。ドイツは*ヒンデンブルクを司令官，*ルーデンドルフを参謀長に起用，西部方面軍の一部をさき，8月26日からロシア軍をマズール湖沼地帯で包囲・殲滅(せんめつ)し，30日捕虜90,000人を得て攻撃を完了した。包囲殲滅戦の典型として有名だが，ドイツ軍の西部戦力の減少は，西部戦線の戦局に影響を及ぼした。〔折井一彦〕

たんのう　【胆嚢】　肝臓でつくられた*胆汁(たんじゅう)を一時たくわえておく袋状の臓器。肝臓の下面から血管と神経がはいり，胆管と合一して総胆管として十二指腸に開口する。この途中に胆嚢管が開口し，その上端に肝臓が接している。西洋ナシ形で，長さ約8cm，幅約4cm，内容約70mℓ。食物が十二指腸にはいってくると反射的に胆汁が分泌され，胆汁の成分から胆嚢内にしばしば*胆石ができる。動物では鳥類に認められるが，ウマ・シカ・クジラ・イルカなどでは胆嚢はない。➔肝臓(図)

〔高野一雄〕

たんのうえん　【胆嚢炎】　胆汁(たんじゅう)の排泄(はいせつ)障害・鬱滞(うったい)などがきっかけとなって起こる*胆嚢の炎症。大部分の症例で*胆石が認められるが，細菌の侵入・繁殖によって起こる場合もある。原因となる細菌のうち，最も多いものは大腸菌で，ブドウ球菌・連鎖球菌などがこれに次ぐ。炎症状態によって，漿液(しょうえき)性・化膿(かのう)性・壊疽(えそ)性のものがあり，症状もいろいろである。一般には，悪寒(おかん)と発熱を伴い，右上腹部に激痛がある。特に壊疽性のものは穿孔(せんこう)して胆汁性腹膜炎を起こすことがある。治療は抗生物質・鎮痛鎮痙剤(ちんけいざい)の投与，ときには外科的処置を必要とする。〔佐野隆志〕



壇浦兜軍記
〈琴責め〉の段の
阿古屋



壇ノ浦の戦い　《壇浦合戦図》　赤間神宮蔵

だんのうら　【壇ノ浦】　壇之浦・檀ノ浦とも書く。山口県下関(しものせき)市の東方海域，関門海峡の東口，早鞆瀬戸(はやとものせと)の北部一帯をさす。古代に長門(ながと)国府および国土防衛のために設置された豊浦(とよら)軍団などにゆかりがある。源平の古戦場で，1185年(文治1)平家が源義経(よしつね)に攻められて敗北し，安徳天皇が入水(じゅすい)したので知られている。断層性の岩石海岸に沿って山陽電気軌道の電車・バスが通じ，御裳(みもすそ)川には幕末の壇ノ浦砲台跡があり，火ノ山公園へはロープウエーが通じて，近年観光開発が盛んである。

〔浅井得一〕

だんのうら　【檀ノ浦】　壇ノ浦とも書く。香川県高松市の東部，屋島と五剣山に囲まれた屋島湾の南部海域をさす。一の谷の*戦いで敗れた平家が，1185年(文治1)源義経(よしつね)に再び敗退した源平の古戦場で，西岸に安徳天皇の行宮跡，佐藤継信(つぐのぶ)の墓などがあり，また那須(なす)与一の扇の的祈り岩・駒立(こまたて)岩，源義経の弓流し場などの遺跡がある。

だんのうらかぶとぐんき　【壇浦兜軍記】　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物。松田文耕堂・長谷川(はせがわ)千四合作。通称《阿古屋(あこや)琴責め》。1732年(享保17)竹本座初演。平家の仇(あだ)を報ずるため頼朝(よりとも)暗殺をねらう景清(かげきよ)の事績を脚色したもので，近松門左衛門(もんざえもん)の《出*世景清》によるところが多い。全編を義理と人情で貫いた技巧的な作品で，岩永(いわなが)左衛門が景清の愛人阿古屋に景清のゆくえを白状させるため，三味線(しゃみせん)・琴・胡弓(こきゅう)を奏させる〈琴責め〉の3段目のみが今日上演される。歌舞伎(かぶき)化は翌年で，大阪角座(かどざ)初演。〔前田慎一〕

だんのうらのたたかい　【壇ノ浦の戦い】　長門(ながと)(山口県)*壇ノ浦で行なわれた源平最後の海戦。1185年(文治1)2月屋島の*戦いで源義経(よしつね)に破られた*平氏一門は瀬戸内海を西におもむき，長門の彦(ひこ)島によった。一方義経は周防(すおう)(山口県)・伊予(いよ)(愛媛県)などの在地武士の参加を得て海路を追い，背後の九州を源範頼(のりより)の軍におさえられてもはや退くことのできない平氏に，3月24日最後の決戦をいどんだ。戦いは潮流を巧みに利用した義経軍に有利に展開し，安徳天皇は平時子に抱かれて入水(じゅすい)し，平氏一門も平宗盛(むねもり)・清宗・時忠(ときただ)・建礼門院らが捕えられたほかは，ことごとく海中に没した。

〔飯田悠紀子〕

たんば　【丹波(国)】　京都府の中部から兵庫県の東中部を占める旧国名。丹州。山陰道に属する。もと*丹後を含めて一国であったが，713年(和銅6)これを分置し，残る桑田・船井・何鹿(いかるが)・多紀・氷上(ひかみ)・天田(あまだ)の6郡をもって丹波国とした。国府・国分寺は現在の亀岡(かめおか)市に置かれた。京都に近いため，平安時代以降は皇室・摂関家・寺社領が多かった。鎌倉時代には六波羅(ろくはら)*探題，室町時代には仁木(にき)・山名，次いで細川氏が代々*守護となった。戦国末期には波多野氏が興ったが，織田信長(のぶなが)はこれを討って明智光秀(あけちみつひで)を亀山(亀岡)に封じた。光秀滅亡後豊臣(とよとみ)氏の配下となり，近世には亀山・園部(そのべ)・綾部(あやべ)・山家・篠山(ささやま)・柏原(かいばら)・福知山の諸藩が立てられた。廃藩置県により京都府と豊岡(とよおか)県となり，次いでその多くを京都府へ，一部を兵庫県に編入して今日に及んでいる。

〔黛　弘道〕

タンパ　[Tampa]　アメリカ合衆国，フロリダ州のフロリダ半島西岸のタンパ湾奥にある港湾・商業都市。人口28万1,000(1975)。漁業とタバコ・木材・リン酸塩工業が行なわれる。対岸のセントピーターズバーグとは1924年に架設された橋によって結ばれ，両市ともに避寒・休養地として知られる。

たんぱくしつ　【蛋白質】　約20種のアミ

ノ酸からなる生体高分子で，〔$-CO-HCR_1-NH-CO-HCR_2-NH-$〕$_n$の基本構造をもつ。加水分解するとアミノ酸（$H_2N-CH-R-COOH$）が得られるが，これはほとんどL-$\alpha$-アミノ酸である。CとNからなるペプチド結合鎖を主鎖，それぞれのアミノ酸を特徴づけるRを側鎖という。アミノ酸は多くの場合，両性イオンとして$H_3^+N-CH-R-COOH \rightleftarrows H_3^+N-CH-R-COO^- \rightleftarrows N_2N-CH-R-COO^-$のような解離した状態にあり，正と負の電荷を同時にもつ。この解離はpHに依存しており，あるpHでとけているアミノ酸の正と負の電荷量が等しくなる。これを等電点という。タンパク質の場合には多数のアミノ酸が解離するので，等電点はそれぞれのタンパク質によって微妙に異なる。タンパク質はイオン化することによって水に溶解しているので，等電点では沈殿を生じる（等電沈殿）。アミノ酸やタンパク質の溶解度には水溶液のイオン強度も影響を与えている。塩を加えると解離した塩がタンパク質に吸着され，等電点に変化を与える。一般にイオン強度の低いところで溶解度を高める塩溶効果，イオン強度の高いところで溶解度を下げる塩析効果がみられる。水に難溶な芳香族アミノ酸や塩基性アミノ酸，またこれらのアミノ酸を多く含むタンパク質も，高いイオン強度で溶解するようになる。水は溶媒としてタンパク質を溶解し，種々の反応系の場となるだけでなく，構造の維持と機能の発現に重要な役割を果たしている。したがって水にとけているときのタンパク質の性質を知ることは，タンパク質の生理活性を理解する上に重要である。

タンパク質は複雑な高次構造をもち，それが特有の生理活性と強く結びついている。アミノ酸の配列順序をタンパク質の一次構造というが，アミノ酸の組み合わせと配列の長さには無限の可能性がある。現に生物界には分子量10,000前後のものから，ウイルスのコアーのように数千万から億に達する分子量のものまである。また，単一のアミノ酸からなるタンパク質の存在も可能なわけで，コラーゲンのアミノ酸組成は6種にかたよっている。ペプチド鎖はらせん構造をとったり，引き伸びたβ-構造やランダムコイルの状態をとったりして，タンパク質の二次構造を形成している。らせん構造はペプチド結合の規則的なくり返しで，C-N結合が部分的に二重結合の性質をもつためある平面で安定化し，さらにC=OとNHの間にできる水素結合によって補給されている。L-アミノ酸は右巻きのときに最も安定となるので，タンパク質にみられるらせん構造はα-ヘリックスであることが多い。これに対しβ-構造は，ペプチド鎖が可能なかぎりまっすぐ伸びた形をとっているが，実際にはとなりあったペプチド結合がそれぞれ別の平面上にあり，その平面がある角度をもって規則的に交差し，全体として波打った状態をつくっている。最も安定な二次構造はペプチド鎖の各部分が自由に変動するランダムコイルであると考えられるが，自然界には多くの制約があり，この状態はほぼみられない。実際には一つの一次構造の中にこれらの二次構造が同時に現われ，さらに折りたたまれて三次構造を形成している。このとき疎水性の基は内側に，親水基は表面に出て立体的な構造をつくる。それぞれのアミノ酸の間で水素結合をつくり，また静電的結合をして，さらに疎水基どうしで疎水結合をつくって三次構造が安定化される。一次構造では遠く離れていた二つのアミノ酸も，三次構造ではとなりあう位置にくることになる。たとえば-SH基をもったアミノ酸どうしが結合して-S-S-結合をつくり，三次構造を強固なものにする場合もある。さらに分子量20,000前後のタンパク質をサブユニットとして，数個のタンパク質が結合してはじめて生理活性をもつものが発見され，この現象も生物界に一般的であると考えられるようになり，これを四次構造という。最も身近な例ではヘモグロビンが知られるが，これは酸性側で4個のサブユニットに解離する。

一次構造が高次構造の空間的配置をほぼ決定してしまうので，一次構造に影響を与える環境因子は高次構造まで変えてしまう。たとえば周囲のpHの変化がアミノ酸の電気的状態を変え，らせん構造やβ-構造を破壊したり安定化したりする。ヘモグロビンではpHが下がると，サブユニットが解離して四次構造がこわれる。タンパク質は一次構造に規定された範囲でとりうるいくつかの高次構造の間に平衡関係をもち，周囲の状況が変わるとそれに合った高次構造へ平衡を移動させる。このうちの一つがある特別な生理活性を強く示す。つまり酵素の至適pH・至適温度などがこれである。多くの毒素・酵素反応阻害剤・タンパク質の変性などがタンパク質の生理活性を阻害するのは，それに特有の高次構造を破壊するためである。

タンパク質の単離精製はその生理的活性を目じるしとして，おもに他のタンパク質との電気的性質の差を利用して行なう。溶解度の違いから塩溶・塩析・等電点を利用しておおまかな分画ができる。より敏感に電気的性質を利用するものとしてイオン交換樹脂があり，ある条件下でそれぞれのタンパク質の樹脂への吸着度の差によって分画する。さらに電気泳動や分子量で分ける分子篩(ぶんしふるい)を使って分画できる。精製されたタンパク質の純度は，タンパク質分解酵素で処理したときに遊離するアミノ酸の種類・電気泳動パターン・等電点や高次構造に依存した比重および粘性による超遠心パターン・流動複屈折で調べる。

タンパク質の物理化学的性質と生理活性の関係は，最近になってようやく分子内レベルの研究が始まったばかりで，まだよくわかっていない分野であるが，それを示唆するような現象がいくつか見つかってきた。タンパク質の一次構造の変化は，高次構造に影響を及ぼし，ひいてはその生理活性に異常を起こしたり，その機能を失うに至る。鎌(かま)形赤血球貧血症患者のヘモグロビンは，正常のヘモグロビンに比べてβ-鎖の一次構造に差があるだけである。生理活性にあまり影響を与えないような一次構造の変化は，進化を経て保存されているだろうという考えから，有蹄(ゆうてい)類・霊長類のそれぞれの種のヘモグロビンの一次構造を比較して，進化の跡をたどる仕事もされている。タンパク質を抗原として得た抗体は，一次構造のわずかな違いも区別して免疫反応を起こすので，特定のタンパク質の微量検出にも使われる。これは抗体が抗原となるタンパク質を，高次構造の段階で区別しているのではないかと考えられている。

生理活性をもつタンパク質は生合成以外の方法では合成できず（→核酸），その生理的機能から酵素・ホルモン・構造タンパク質・抗体などに分類される。しかしタンパク質の溶解度やアミノ酸以外の構成成分からも次のように分類される。①単純タンパク質：アミノ酸だけからなるタンパク質。㋑アルブミン：水・塩溶液・アルカリに可溶で，血清・乳・卵白・小麦などに含まれる。㋺グロブリン：塩溶液・酸・アルカリに可溶で，純水に不溶，血清・乳・卵白，アサの実などに含まれる。㋩プロラミン：アルコール・希酸・希アルコールに可溶で，水・塩溶液に不溶，小麦・大麦などに含まれる。㊁硬タンパク質：すべての溶媒に不溶で，筋肉・毛・つめ・絹・海綿などに含まれる。㋭ヒストン：水・希酸に可溶で，アンモニアに不溶，胸腺(きょうせん)・核などに含まれる。②複合タンパク質：核酸・糖・脂質などの非タンパク質部分をもつタンパク質。㋑核タンパク質：核酸を含み，胸腺・ウイルス・精子などに分布する。㋺リンタンパク質：リン酸をエステルの形で含み，乳・卵黄などに分布する。㋩リポタンパク質：脂質を含み，血液・卵黄に分布する。㊁色素タンパク質：金属および有機色素を含み，血液・肝臓・筋肉・海藻(かいそう)などに分布する。㋭糖タンパク質：糖を含み，血液・卵白などに含まれる。〔原野友之〕

たんぱくしつぶんかいこうそ　【蛋白質分解酵素】　タンパク質中のペプチド結合を加水分解する酵素の総称。細胞内外にわたって生物界に広く存在する。ペプチダーゼ*と総称されるものと同じである。

たんぱくせき　【蛋白石】　⇒オパール

たんぱくせんい　【蛋白繊維】　タンパク質系再生繊維のこと。牛乳・大豆・トウモロコシ・落花生などの含むタンパク質を弱アルカリでとかし，細孔から酸性凝固液中へ押し出して，繊維化する。羊毛に類似し

た性質をもち，羊毛と混用する。原料タンパク質により，たとえば牛乳中のカゼインならカゼイン繊維などという。

たんぱくにょう　【蛋白尿】　健康人の尿中，タンパク質はきわめて極量しか含まれていないが，このタンパク質が異常に多く含まれている尿をタンパク尿という。通常，血液中の血球やタンパク質は腎臓(じんぞう)の糸球体毛細管より漏過されることはないが，この毛細管が腎疾患などによって病的変化を受け，その透過性が異常に亢進(こうしん)した結果，タンパク質が漏出した場合を真性タンパク尿という。このように血液中のタンパク質が失われ，タンパク尿が長期間排泄(はいせつ)されると，やがて低タンパク血症となる。タンパク尿がみられる疾患としては，腎臓の各種疾患のほかに，熱性伝染病・バセドウ病・脳卒中などがあげられる。しかし健康人でも，起立したとき(起立性タンパク尿)や，激しいスポーツ後にみられる一過性のタンパク尿もある。また仮性タンパク尿といわれるのは，感染などによって，尿管・膀胱(ぼうこう)・尿道より膿(うみ)が排泄されたり，血液・精液が尿に混入した場合をいう。　〔佐藤恒久〕

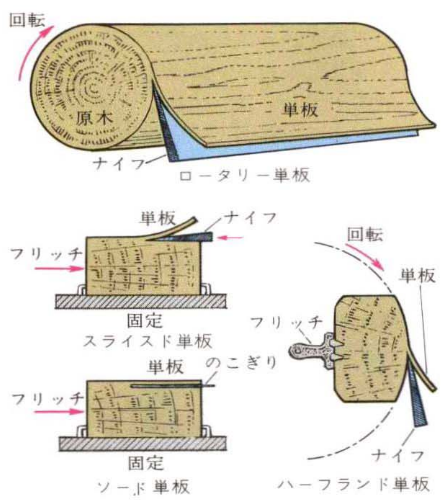
たんばさんち　【丹波山地】　丹波高地または丹波高原ともいう。近畿(きんき)地方の北部を占め，中国山地の東の延長部にあたり，京都府と兵庫県とにまたがる高原状の山地。西は加古川(兵庫県)，福知山・宮津(ともに京都府)の線で画され，東は比良(ひら)山地と接する。平均標高は500～600mで，高い山頂でも1,000mをこえないが，福知山・亀岡(かめおか)・綾部(あやべ)(ともに京都府)・篠山(ささやま)(兵庫県)など多くの断層による盆地があり，地形はかなり複雑である。山地の鞍部(あんぶ)や谷を縫って，山陰本線・福知山線・国道27号線などが通じる。　〔高野　繁〕

だんぱつれい　【断髪令】　正式名称は断髪脱刀勝手令。1871年(明治4)8月布告され，1871年末から1873年にかけて各府県ごとに実施された。ちょんまげに刀という旧習の打破を目的としたもので，明治政府の洋化政策の一つであった。

ダンバートン-オークスかいぎ　【ダンバートン-オークス会議】　1944年，ワシントン郊外のダンバートン-オークスで国際連合創設のために開かれた会議。アメリカ(国務長官エドワード-ステチニアス)・イギリス(外務次官アレキサンダー-カドガン卿(きょう))・ソ連(駐米大使グロムイコ)・中国(特使孔祥熙(こうしょうき))が参加したが，当時対日参戦していなかったソ連は中国との同席を拒否，そのためイギリス・アメリカ・ソ連の会議が8月21日～9月28日，アメリカ・イギリス・中国の会議が9月29日～10月7日開催された。大西洋憲章に示された戦後の国際組織の具体案としての国際連合の憲章草案を協議し，10月9日，4か国の連名



タンバリン



単　板

で〈一般的国際機構の設立に関する提案〉(ダンバートン-オークス提案)を発表した。

たんぱほうそう　【短波放送】　短波帯(3～30メガヘルツ)を使ったラジオ放送。短波は電離層反射の関係で非常な遠隔地まで到達するという長所をもつが，反面デリンジャー現象などの電波障害を受けやすい。おもに遠隔地向けの国内放送や国際放送に使われる。➔放送

タンバリン　[tambourine]　打楽器の一種で，円形のわくに膜を張り，わくにはシンバル状のジングルがついている。科学的分類では膜鳴楽器と体鳴楽器の混合とみなされる。西洋の楽器であるが，類似のものとしてアラビアのドゥフがある。

たんぱん　【単板】　木材をふつう，厚さ0.5～3㎜程度の薄板にしたもの。ベニヤともいう。合板をつくるときの原材料になる。単板は製造方法により次の3種に分けられる。①ロータリーベニヤ：果実の皮をむくように切るので，薄い幅広の板目材を多量に得られ安価である。②スライスドベニヤ：ハムを切るように平行にスライサーを用いて薄板に切る。柾目(まさめ)・木目などの美しい表板を多量に得られる。③ソードベニヤ：のこぎりを用いるので前二者より厚め(6㎜ぐらいまで)の板になり，高級な表板に用いる。　〔難波蓮太郎〕

ダンピア　[William Dampier]　(1652～1715)　イギリスの航海者・海賊。イオビルに貧しい小作農の子として生まれ，若いときから海賊として世界各地に航海した。1697年に《世界周航記》を著わしたが，その第2巻で，台風は東京(トンキン)の海岸に，7～9月ごろしきりに吹く旋回暴風であることを述べた。彼はまたこの暴風圏の中心に静穏域(台風の目に相当する)のあることも認めていた。このように，台風をはじめとする暴風の構造は，航海者によってしだいに明らかにされていった。　〔根本順吉〕

タンピコ　[Tampico]　メキシコ東部，メキシコ湾岸の港市で，パヌコ川の北岸に沿う。人口23万1,000(1976)。メキシコの主要油田地帯の中心地で，石油精製・製粉・化学・鋳造などの工業があるほか，国営の精油所がある。1900年ごろに石油が発見されてから石油開発の基地として急速に発展した。古くは沼に囲まれ原住民の住む不健康なところであったが，現在はメキシコで最も近代的な都市の一つになっている。港からは石油・鉱石・家畜・皮革・バナナなどを積み出し，工業製品を輸入している。近郊には日系移民の農場があり，避寒地としても知られる。　〔小栗　宏〕

たんびしゅぎ　【耽美主義】　⇨唯美主義

ダンピング　[dumping]　同種の商品に異なった市場で，異なった価格をつけること，すなわち，価格差別をいう。一般には外国市場に比べて国内市場の価格が高い場合をダンピングとよび，国内価格よりも海外価格が高い場合を逆ダンピングという。国内市場に独占的要素が存在し，外国需要に比べて非弾力的な場合にダンピングが行なわれる。外国需要が価格に関して非弾力的な場合には逆ダンピングを実施することができる。

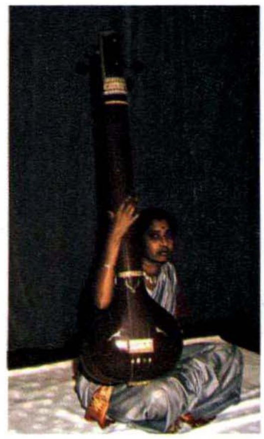
ダンピングの種類はいろいろあるが，代表的なものは次のとおりである。①散発的ダンピング：業者の手もとに，正常な販売経路を通じてさばきうる以上に在庫品が残ったとき，外国市場の価格を引き下げることによって販路を広げ，国内市場の価格はくずさずに損失を防ぐ。②略奪的ダンピング：市場に参入し競争相手を倒すために，平均費用以下で販売するもの。競争に勝ち市場を確保したのちには，価格を通常の水準にもどす。③組織的ダンピング：業者が継続的にある市場で他市場よりも安い価格で売る場合。平均固定費用を国内市場で埋め合わせることができる場合，その商品を限界費用より高い価格で外国市場で販売すれば，企業利潤は増加する。

また，本来のダンピングではないが，疑似ダンピングに国家やカルテルが輸出促進策として実施する輸出補助金・もどし税・差別運賃などがあり，また企業に対し品質・包装・販売費用・支払い条件などについて有利な条件を供与することがあげられる。

また，一国の劣悪な賃金水準または労働条件を基礎にした低価格で，国際市場に進出し，その結果その国の国際競争力が強化される場合，これを社会的ダンピングという。

ダンピングは，輸入国の消費者は利益を受けるが，輸入品と競合する産業の生産者にとっては脅威である。したがってダンピングに対抗して相殺課税を課したり，輸入を制限したりする場合が多く，自由貿易の原則が犯されやすい。 〔唐木圀和〕

タンブーラ ［tanbūra］ インドの弦鳴楽器。北インドではタンプーラともよばれる。木または匏(ふくべ)の胴体と長いネック(棹)をもつ。金属製の4弦をもつ撥弦(はつげん)楽器で，開放弦でのみ奏され，音階の主音と5度の音のみが継続的に鳴らされる。その持続音の効果は合奏形態の中でドローン(主要音持続)として全体のピッチ(音高)をささえる役割をする。通常，立てた状態で構えるが，横にすることもある。


タンブーラ

たんふりこ 【単振り子】 伸び縮みしない軽い糸の上端を固定して下端におもりをつるし，鉛直面内で静かに振動させる装置。おもりは糸の張力と重力との作用により，糸の長さを半径とする円周に沿って，円の最下点を中心として振動する。特に振幅(最大の振れの角)が小さいときは単振動となり，その周期は，糸の長さを l，重力加速度を g とすれば $T=2\pi\sqrt{l/g}$ で，振幅やおもりの質量とは無関係である。これを振り子の等時性という。 〔有山正孝〕

タンブール ［tanbūr］ トルコを中心に中近東・東ヨーロッパの一部で使われる撥弦(はつげん)のリュート系楽器。西洋ナシ形の胴体と30近いフレットのついた長いネック(棹)をもち，弦は金属製で2～10本あるが，2本ずつ同音に調律される。合奏の民俗音楽で旋律を担当する。

たんぶん 【単文】 文を構造上から分類した場合の一種。複文・重文では，主語・述語の関係が2回以上成立するのに対して，単文では，1回しか成立しない。すなわち，単文とは，節を含まぬ文である。〈山田君と小川さんが出席する〉〈この花は白くて大きい〉のような文では，主語または述語が1文中に二つ用いられているが，主語・述語の関係は，いずれも1回ずつしかなりたっていないので，いずれも単文である。

タンペレ ［Tampere］ フィンランド南西部，湖沼地帯の中心にある工業都市。人口16万5,000(1974)。ヘルシンキに次ぐこの国第2の都市。フィンランド湾岸とボスニア湾岸とを結ぶ水陸の交通が便利なうえ，付近の水力発電所からの豊富な電力により，繊維・パルプ・機械などの工業が盛んで，工業大学もある。1779年に興り，1821年アレクサンドル1世によって自由市となった。1918年のフィンランド独立戦争の勝利の地として知られる。 〔梶川勇作〕

たんぽ 【担保】 通常，債務不履行の発生に備え，その債権の弁済を確保するために講ぜられる手段をいう。担保は大別して人的担保と物的担保とに分けられる。人的担保とは，本来の債務者以外の者を債務者の列に加え，その者の一般財産を債務の担保とするもので，その代表的なものに保証債務・連帯債務がある。物的担保とは，債務者またはその他の者の特定財産によって債権を担保とするものであり，人的担保よりはるかに重要な作用をなしている。 〔黒木三郎〕

タンホア ［Thanh Hoa］ ベトナム中部の都市。ソンコイ川三角州の南部に位置し，チュー川に沿う。付近は古くから稲作が行なわれ，フランス植民地時代には近代的灌漑(かんがい)施設の対象地となり，米の二期作が発展したところとして知られる。近年は農業開発とともに工業化が進められている。ベトナム戦争での激戦地の一。

タンホイザー ［Tanhäuser］ ワーグナー作曲のオペラ。3幕よりなる。ワーグナー自身の台本によるロマン的なオペラで，1845年10月にドレスデンで初演され，2年後に一部を改訂(ドレスデン版)した。登場人物は騎士で吟遊詩人のタンホイザー(テナー)，ウォルフラム(バリトン)，領主ヘルマンの姪(めい)エリザベート(ソプラノ)，ビーナス(ソプラノ)などで，タンホイザーをめぐる霊と肉の葛藤(かっとう)を物語の骨子としている。序曲をはじめ名場面(〈入場の行進曲〉〈巡礼の合唱〉〈夕星の歌〉)が単独に演奏されることが多く，また1861年にパリで上演したときのパリ版(第1幕にバレエの場面挿入(そうにゅう))もある。 〔向坂正久〕

だんぼう 【暖房】 冬季に室内を暖めて室温を20℃前後に上げ，住みごこちをよくすること。暖房方法を大別すれば，個別暖房・中央暖房・地域暖房となる。①個別暖房：石炭ストーブ・電気ストーブあるいは火ばちなどを室内に置いて暖房する方法であるが，中央暖房と比較して多くは燃料の取り扱いのめんどうがあるうえに火災を起こしやすい欠点がある。②中央暖房(セントラル-ヒーティング)：蒸気暖房・温水暖房・放射暖房(パネルヒーティング)・温風暖房などのように，機械室にボイラーを設けて，これから各室に配管で熱を供給する方式である。個別暖房に比較して建設費が著しく高いのが欠点であるが，取り扱いが簡単なうえ火災のおそれが少ない。③地域暖房：各建物にボイラー室を設けないで，数棟(むね)あるいはその地区全体の建物に1か所あるいは数か所に設けたボイラー室から給熱する方法である。 〔井上宇市〕

たんぽせきにん 【担保責任】 一般には担保に伴って生ずる責任をいうが，特に契約の当事者が給付した目的物に瑕疵(かし)がある場合に負う責任のことをいう。無償契約においては債務者は原則として担保責任は負わないが，有償契約においては担保責任を負い，特に売り主の責任が重要である。売り主の担保責任が生ずる場合は，第1に，他人の権利を売買の目的物とし，売り主が自己の責任に帰すべき事由によってその権利を取得して買い主に移転できないときで，この場合，買い主は契約を解除し，損害賠償を請求できる(民法561条)。第2は，目的である権利の一部が他人に属するために買い主に移転できないときで，この場合，買い主はその足りない部分の割合に応じて減額を請求し，損害賠償を請求できる。もし，そのために契約の目的を達することができないときは契約を解除し，損害賠償を請求できる(民法563条)。第3は，数量を指示した目的物に一部不足があったり滅失したりしたときで，この場合，買い主は減額を請求し，損害賠償を請求できる。もし，そのため契約の目的を達することができない場合は，契約を解除し，損害賠償を請求できる(民法565条)。以上の買い主の権利行使は，買い主が善意であれば，その事実を知ったときから，または悪意であるときは契約のときから1年以内になさなければならない(564・565条)。第4は，目的物が地上権・永小作権・地役権・留置権または質権の目的となっており，買い主がこれを知らなかったときで，この場合，そのために契約の目的を達することができないときは契約を解除し，損害賠償を請求することができる。その他の場合は損害賠償のみである。売買の目的物である不動産に，ついていないと言った地上権がついていたり，他人の賃借権が登記してあったりしている場合も同様に扱われる(民法566条)。この権利の行使は，買い主がその事実を知ったときから1年以内になさなければならない(民法566条3項)。第5は，売買の目的物である不動産の上に存した先取特権または抵当権の行使により，買い主が所有権を失ったときで，この場合，買い主は契約を解除し，損害賠償を請求できる(民法567条)。買い主が出捐(しゅつえん)して，その所有権を保持したときには出捐の償還請求と損害賠償の請求ができる(民法567条2項)。第6は，強制競売において，



タンポポ
(左)カントウタンポポ　(右)セイヨウタンポポ

競落人の取得した不動産・動産および権利に瑕疵があるときで，この場合，競落人は売買における買い主のようなものであるから，契約を解除し，または減額を請求できる(民法568条1項)。債務者が無資力であるときは，競落人は代金の配当を受けた債権者に対して代金の全部または一部の返還請求ができる(民法568条2項)。債務者が物または権利の瑕疵を知りながら申し出なかったり，債権者がこれを承知のうえで競売を請求したりしたものであれば，競落人はその過失者に損害賠償の請求ができる(民法568条3項)。第7は，売買の目的物に隠れた瑕疵があるときで，そのため契約の目的を達することができないときは契約を解除し，その他の場合は損害賠償の請求のみできる。これらの権利行使は買い主がその事実を知ったときから1年以内になさなければならない(民法570条)。この瑕疵担保責任は，特定物の売買についてのみ適用され，不特定物の売買については債務不履行の問題を生ずるにすぎないとするのが通常の立場であるが，判例は不特定物についても瑕疵担保責任の適用があるとする。なお，担保責任を負わない旨の契約は有効であるが，売り主が瑕疵を知っていて告げなかった場合および第三者のために設定し，またはこれを譲渡した権利については担保責任を免れることができない(民法572条)。〔黒木三郎〕

たんぽぶっけん【担保物権】 債権の担保を目的とする物権をいう。用益物権とともに制限物権の一つとして所有権に対立する。用益物権が物の実質的利用を目的とするのに対し，担保物権は物の交換価値を本体とし，これによって債権の弁済を確保することを目的とする点で両者は相違する。担保物権は契約によって成立させるもの(約定担保物権)と法律によって当然に成立するもの(法定担保物権)とがあり，前者に属するものとしては質権と抵当権が，後者に属するものとして留置権と先取特権の4種が民法に規定されている。しかし，商法ではおのおのについて特別なものがあり，その他特別法で数多く担保物権が認められている(財団抵当・農業動産抵当・自動車抵当など)。担保物権の共通な性格としては通常，不可分性・付従性・随伴性があげられる。不可分性とは債権者が債権の全額を弁済してもらうまで，目的物の全体につき担保権を行使できることをいい，付従性とは担保権がその基礎である債権の消長に従うことをいい，随伴性とは債権が移転すれば担保権もこれに伴って移転することをいう。また，留置権を除いた他の担保物権は，物上代位性を有する。物上代位性とは，担保物権の目的物が滅失毀損(きそん)によって賠償金に変じたり，売却されて代金に変じたり，賃貸されて賃料を生じたりした場合，それらのものに対してもその効力を及ぼすことをいう。なお，担保物権の目的となる財産は，債務者の所有物に限らず，債務者となんらかの関係にある者が債務者のために提供した物でもよい。〔黒木三郎〕

たんぽぽ【蒲公英】 双子葉植物・キク科。野原や山地の日あたりのよい場所にはえる多年草。世界に数百種，日本には変種や品種を含めて33種が知られる。主根はゴボウの根のように深く地中にはいり，茎は非常に短く，葉は根生する。葉はへら形で羽状に切れ込み，傷つけると白い乳液が出る。早春から夏にかけて中空の花茎上に，舌状花よりなる頭状花をつける。日があたっているときにだけ開く。果実は痩果(そうか)で，柄の先に白色の冠毛をつける。冠毛はかわくと開き，風によって種子が飛ばされる。タンポポという場合，狭義には関東山地から北海道に多いエゾタンポポをさすが，関東地方に普通にみられるものはカントウタンポポ，関西地方のものはカンサイタンポポである。白い花のものをシロバナタンポポといい，これは関東より関西地方に多い。高山には濃黄色のミヤマタンポポがみられる。さらに，ヨーロッパから帰化した総包のそり返るセイヨウタンポポは路傍などにみられる。若葉はあえ物・浸し物・サラダなどにして食べられる。タンポポ類の開花期の全草を陽乾したものを苦味健胃薬とすることがある。〔加藤僖重〕

だんボール【段ボール】 波形に成形した中芯(なかしん)紙の片面または両面に段ボールライナーを接着剤(デンプン)ではり合わせたもの。原材料のライナーの品質によって外装用と内装用に区分され，外装用は比較的大きな箱にして商品の保管・輸送に，また内装用は軽量物の包装あるいは個装に使われる。衝撃や積み上げによる圧力から内容物を保護するために使われ，製品も強度を主体に考えられているが，中には耐水化あるいは美粧化した特殊なものもある。**〈原料〉** ライナーはクラフトパルプもしくはクラフトパルプと故紙で，中芯紙はセミケミカルパルプまたは故紙でつくられる。〔角祐一郎〕

だんまり 歌舞伎(かぶき)演出の一。〈暗争〉〈暗闘〉の字をあてることもある。暗やみの中で探り合いながら争うさまを様式的に演ずるもの。登場人物は無言が原則なので，〈黙り〉から転じた語という。大別して2種に分かれ，俳優を紹介する目的で独立した一幕として演じられる〈時代だんまり〉には，《お目見得だんまり》《鞍馬山(くらまやま)》などがあり，世話物の一場面として演じられる〈世話だんまり〉では，《四谷(よつや)怪談》の隠亡堀(おんぼうぼり)などが有名。〔松井俊諭〕

たんみん【蛋民】 中国の閩江(びんこう)や珠江(しゅこう)流域に多く住み，船を家とし，漁業や真珠採集を行なう水上生活者。蛋の名称は，《後漢書》に巫誕(ふたん)とあるのが古い形であるといわれ，王先謙《後漢書集解》には巫蜑(ふたん)，《太平寰宇記(たいへいかんうき)》(楽吏編)にも巫蛋とある。宋(そう)代には蛋戸とよばれ，おもに南中国嶺南地方の特殊風俗である水上生活者に対して付せられた名称となっている。夷蜒(いえん)ともよばれ，龍蛇(りゅうじゃ)への信仰や伝説が存在することから龍戸ともよばれる。宋代以降は嶺南における水上生活者の総称となり，一つの民族をさす用語ではなくなっている。〔竹村卓二〕

たんめいてがた【単名手形】 銀行での手形貸付に際して使われることばで，借り主が借入金の担保として銀行に交付する手形。借り主が振出人の約束手形あるいは自己引受の為替(かわせ)手形で，銀行が受取人であり，他の裏書きのない手形のこと。第三者の振り出した手形に借り主が裏書きをしたものを複名手形という。

たんもの【反物】 元来は1反のたけと幅に仕上げた布帛(ふはく)。一般には着尺・羽尺・長じゅばん地・コート地などの総称。2反続いたものを特に匹物(ひきもの)といい，ほかに4丈物(16m)・8丈物がある。市販の反物には折りたたんだものと丸棒に巻いたものとの2種類がある。奈良時代から江戸時代まで，反物の幅・たけはまちまちで，江戸時代前期・中期はその変遷が激しかった。江戸中期ではたけが呉服尺(1尺=38.5cm)で羽二重が6丈，結城紬(ゆうきつむぎ)が5丈6尺(いずれも1匹)，本八丈は1反で3丈3尺であった。幅には小幅・中幅・大幅があったが，明治時代に並み幅(35cm)に統一され，たけも10.6mになった。しかし近年体格の向上から並み幅が38cm，たけ11.4mになり，女物白生地は12m内外が多くなった。なお，1965年(昭和40)ごろから中羽織の3分の2反の長さが流行し，また長着と

羽織が同布の男物アンサンブル地はたけが20m内外である。なお反物には品質表示(→家庭用品品質表示法)がある。〔堀越すみ〕

だんもの 【段物】 ①調べ物ともよばれる箏曲(そうきょく)のジャンルで，歌詞を伴わない器楽曲である。《六段》《乱れ》が最も古く，ほかに《五段》《七段》《八段》《九段》があるが，年代と作者を決定することは困難である。段物は，内部が表題の段数に分けられて，一種の変奏曲ふうの作品になっており，相互に共通のパターンが用いられており，また段物の各段が同じ拍数という特徴もある。テンポは終わりになるにしたがって速く奏されるのが普通である。また，平調子で作曲された段物に対して，雲井調子による替手がつくられている。②義太夫節(ぎだゆうぶし)のように演劇上の構成から段に分かれているものをさし，また，清元節・常磐津節(ときわずぶし)・長唄(ながうた)などでも，義太夫節の筋を借用したり，それに近い劇的な性格のものを段物とよぶ。〔徳丸吉彦〕

だんやく 【弾薬】 砲の発射と弾丸の炸裂(さくれつ)に必要な火薬類。発射薬，発射薬を燃焼させる発火薬，弾丸の炸薬およびそれを起爆させる点火薬からなる。発射薬は燃焼速度がおそく，照準に障害になる煙を出さない無煙火薬を用いる。炸薬は短時間で燃焼するもの，すなわち爆発力が強いTNTがおもに使われている。またこの両方に点火する起爆剤は，一般に雷汞(らいこう)が用いられる。

たんらく 【短絡】 一般には，電気的に絶縁されるべきものが接続されることを意味し，ショートともいう。このとき，機器および送電線に通常の数倍の電流が通じ，装置を破壊することもある。ヒューズは，このような破壊を防止するために考案されたもので，短絡時に流れる大電流によって発生する熱のために溶解し，電流を遮断(しゃだん)する。ヒューズ以外にも過電流継電器などの保護装置が考案されている。

だんらく 【段落】 文章を構成する一部分として，小主題をもって統一されている文の集まり，または，その切れめ。通常，改行1字下げの体裁で区別される。これを形式段落とよぶことがある。それに対し，いくつかの形式段落を，内容の上から大きくまとめたものを意味段落とよぶ。段落は，1文からなる場合もあるが，多くは，二つ以上の文からなる。一般に，時・所・場面・人物・動作・事がら・見地・段落などの区分に基づいて，いくつかの文が内部的に連合することによって，段落は成立する。ただし，内容の区分には，さまざまな段階があり，段落もそれに応じて，長くもなれば，短くもなる。問題は，内容上のまとまりと改行とが一致しない場合のあることである。1段落の内部が，内容の上で，分裂や矛盾をきたさないようにすることが必要である。〔市川　孝〕

たんりほう 【単利法】 ⇨利子

だんりゅう 【暖流】 寒流に対する相対的な名称。周囲よりも，高温・高塩分の海水を運ぶ海流をいう。熱帯または亜熱帯海域を源としている。太平洋の黒潮，大西洋のメキシコ湾流が有名である。海水は透明で青藍(せいらん)色をしており，プランクトンなどの浮遊物は少ない。赤道海域，亜熱帯海域で200～500mまでの深さをもち，極前線より高緯度の海域には存在しない。暖流の存在が気候の調節作用をなし，温暖な気候をもたらす。〔相原正彦〕

だんりゅうこうぞう 【団粒構造】 土壌(どじょう)の微細な一次粒子が寄り集まってできたものを二次粒子とよぶが，この二次粒子中には当然小さなすきまが生じる。さらにこの二次粒子が寄り集まったかたまりがいわば団粒である。この場合二次粒子間には一次粒子間よりも大きなすきまができる。このようにしてできあがった土壌の構造を団粒構造という。団粒構造をもつ土壌は水もちがよく(一次粒子間のすきまに水がはいる)，同時に水はけや通気性もよい(二次粒子間のより大きなすきまがあるから)。また，粒子と粒子をのりづけしている土壌の有機物(微生物の生産する多糖類など)は植物の養分を保持する力が大きく，植物の生育のために有利な条件をつくる。土壌を団粒構造に富むものにするには，堆肥(たいひ)や石灰の施用，牧草の栽培が効果的である。また，人工的に合成された有機化合物を土壌に混和するのもよい。〔浜田龍之介〕

だんりょく 【弾力】 ⇨弾性

たんりょくぼん 【丹緑本】 江戸初期の刊本の一種。さし絵に赤・緑・黄などの色で彩色した本をいう。これは絵巻物の彩色のなごりであると同時に，浮世絵の初期の形態ともいえる。仮名草子，説経節，古浄瑠璃(こじょうるり)正本，舞の本などに見え，赤と緑の色がおもなのでこの名がある。

だんりん 【檀林】 僧侶(そうりょ)が集まって学問をする場所。古くは談義所・談場・談所などともいい，ゆいしょある寺院に設置したが，近世にはいると檀林という名称に統一され，各宗派に置かれた。檀林は寺院を統制する幕府の宗教政策によって教育機関として置かれたものである。江戸時代の中ごろになると，寺格によって紫衣檀林・香衣檀林などとよぶようになり，また地方のものを田舎檀林とよぶこともある。浄土宗の関東十八檀林は有名。〔玉山成元〕

だんりんとっぴゃくいん 【談林十百韻】 俳諧撰集(はいかいせんしゅう)。2冊。田代(たしろ)松意編。1675年(延宝3)刊。宗因の〈されば爰に談林の木あり梅の花〉の句を巻頭に巻いた在色・松意ら9人の百韻連句10巻を収める。松意ら江戸談林派の成立と，宗因の大阪新風が江戸に波及したことを記念する集で，本集の反響が大きかったので，以後，談林俳諧とよばれ，旧派の貞門俳諧に対する宗因新風の汎称(はんしょう)とされた。

だんりんはいかい 【談林俳諧】 俳諧流派の一。1670年代(延宝年間)に盛行し，貞門俳諧と蕉風(しょうふう)俳諧との中間に位置する。伝統的な約束に縛られた貞門俳諧が行きづまった1660年代の末ごろから，商都大阪を中心とする新興町人層の台頭を背景に俳壇に進出した新人たちが，貞門の圏外で連歌の余技に自由軽妙な俳諧を楽しんでいた宗因を指導者として展開した俳風。貞門の規制に縛られる以前の山崎宗鑑・荒木田守武(もりたけ)時代(16世紀)の自由な笑いの回復を目標として，守武流と称したが，貞門旧派からはオランダ流とののしられた。おもな俳人に大阪の西鶴(さいかく)・惟中(いちゅう)，京の高政(たかまさ)・常矩(つねのり)，江戸の松意らがおり，西鶴は《生玉(いくたま)万句》に新風の誕生を宣言して矢数俳諧に速吟の記録を樹立，惟中は寓言説(ぐうげんせつ)を唱えて俳論で鳴らし，また松意の《談林十百韻》の盛名は〈談林〉の名を宗因新風の汎称(はんしょう)とするに至ったが，いずれも新奇を競って乱脈に流れ，1670年末の新旧入り乱れての論戦を境に退潮した。〔奥野純一・尾形仂〕

たんれんが 【短連歌】 五・七・五の長句と七・七の短句の2句の付合(つけあい)で完結する連歌。一句連歌ともいう。《万葉集》の大伴家持(おおとものやかもち)と尼との唱和を最初として，院政期ごろまで流行した。《拾遺和歌集》《金葉和歌集》をはじめ私家集や歌論書などに収録されている。〈人心うしみつ今は頼まじよ　夢に見ゆとやねぞ過ぎにける〉のように問答の形式をとるものと，2句で和歌1首となるような付合とがある。縁語・秀句・対句などを用いた知的なものが多い。〔奥野純一〕

たんろう 【炭労】 ⇨日本炭鉱労働組合

ダンロップ [John Boyd Dumlop](1840～1921) イギリスの発明家。獣医であったが1887年空気入りゴム-タイヤを発明。翌年に特許を取得し，1890年からベルファスト会社で生産，1899年ダンロップ空気タイヤ会社を設立した。

ち

チアノーゼ　皮膚や粘膜が鬱血*(うっけつ)のため暗紫色ないし暗色を呈する状態をいう。特に口唇(こうしん)や爪床(そうしょう)(つめにおおわれた部分)など，毛細血管の見やすい部位にみえる。酸素不足を伴う病気(血栓(けっせん)・動脈瘤(どうみゃくりゅう)・肺水腫(はいすいしゅ)・肺炎・先天性心臓病など)に多い。原因は酸素が少なく炭酸ガスを多く含んだ血液が，体内を循環するためである。正確には，血液中のヘモグロビン*の3分の1が炭酸ガスと結合している状態のときチアノーゼが現われる。重症患者にチアノーゼが現われたときは，すでに心臓機能が衰えて全身に鬱血をきたすほどの状態に陥っていると考えてよい。なお，健康人でも寒冷にさらされたときに一過性にみられる。〔佐藤恒久〕

チアミナーゼ　[thiaminase]　ビタミンB_1を中央から切断する酵素。動物では淡水魚，二枚貝の内臓中にしばしば見いだされる。ヒトによってはチアミナーゼを含む細菌を腸内に保有している場合がある。このようなときはビタミンB_1の欠乏のため，細菌性のかっけ症状を呈する。最近では経口的にビタミンB_1を摂取してもこの酵素に分解されないようなものが発見され，発売されている。

チアミン　[thiamine]　ビタミンB_1とよばれ，塩酸塩または硝酸塩の形で用いられる。塩酸チアミンは白色の結晶でわずかに特異なにおいがある。チアミンが欠乏すると食欲不振・体重低下・多発性神経炎・かっけなどの症状が起こる。1910年鈴木梅太郎によって発見されたオリザニン*はチアミンを主体とするビタミンB類の複合体である。➔ビタミン

ちあんいじほう　【治安維持法】　国体変革または私有財産制度否認を目的とする各種の行為の処罰を規定した法律。1925年(大正14)5月12日施行された。ロシア革命*の影響下に高まってきた共産主義運動の弾圧をねらうもので，1928年(昭和3)緊急勅令*で処罰範囲を周辺行為に拡大し，また死刑を含む厳刑を取り入れた。1936年には別に思想犯保護観察法を制定して補強した。1941年太平洋戦争突入直前，それまでのものを旧治安維持法，以後を新治安維持法とよぶほどの大改正を施して，捜査機関の権限を強化し，予防拘禁制度の導入などを行なった。この法律が最初に適用されたのは1926年の京大事件*である。1928年にはこれによって三・一五事件*の大量検挙が行なわれた。第2次世界大戦の敗戦とともに1945年10月15日ポツダム勅令で廃止された。

〔応和邦昭〕

ちあんしゅつどう　【治安出動】　自衛隊の行動の一つで，公共の秩序を維持するために特別の必要がある場合に行なわれ，次の二つに分かれる。①命令による治安出動：外国の侵略その他の緊急事態が起きて，一般の警察力だけでは治安を維持することができないと認めた場合に，内閣総理大臣が，自衛隊の全部または一部の出動を命ずることをいう。この場合には，出動を命令してから20日以内に国会の承認を受けることになっている。②要請による治安出動：都道府県知事は，治安維持上重大な事態が起こり，自衛隊の出動が必要であると判断した場合に，都道府県公安委員と協議して内閣総理大臣に自衛隊の出動を要請することができる。治安出動した自衛官は，警職法の規定による武器を使用することは認められている。また，事態に応じ，必要と判断される限度で武器を使用することができるようになっている。➔防衛出動〔森田　哲〕

ちいきかいはつ　【地域開発】　⇨288ページ

ちいききょうりょくかいはつきこう　【地域協力開発機構】　Regional Cooperation for Development　略称RCD。トルコ・イラン・パキスタンの3か国により1964年7月に設立された機構。主要な目的は，相互間の貿易自由化，共同商工会議所の設立，共同開発計画の設定と実施，輸送および通信の共同機構設立など。最高決定機関は3国の閣僚会議であり，地域計画会議がこれを補佐し，さらに各種の委員会が設けられている。〔深海博明〕

ちいきしゃかい　【地域社会】　一定地域に居住する人々の社会構造(生活様式)・意識(共属意識)などが他の地域のものと区別される特徴をもつ社会のこと。狭義には地縁によって結ばれる地縁社会*であるともいえる。地域社会の最も典型的なものは，村落共同体である。農村では生産と生活の場所が一致し，職業の分化がみられず，ある程度自給自足できるという封鎖性をもつため，他の地域にはない社会的特徴をもつ地域社会の存在が確認できる。地域社会は本来，自然的なものを契機とし，自然発生的に成立するものである。都市においては，さまざまな職業があり，また生産と生活の場が分離し，短期間に人口が激しく移動するので，地域的な特徴を示す社会的性格は確認しにくい。しかし，まったくその性格がないのではなく，地域社会そのものの性格が変化しているだけである。〔斎藤昌男〕

ちいきだいひょうせい　【地域代表制】　それぞれの地域の利益を代表する議員を選び出す選挙方法。この制度は，普通平等選挙権の確立をまって全国画一的に選挙区とし，一定の地域ごとに区分けされている。したがって，国民の代表という考え方のように民主主義的な選挙は，国民の利益を代表させるべきで，特定地域の利益を代表すべきでないという意見とは対立する。また個人よりも集団の利害を選挙に反映させるべきだとする職能代表制*とも異なる。わが国の選挙制は，技術的な便宜から地方ごとに選挙区を分けてはいるが，実際は組織集団や階級の利害などが複雑に反映されており，議員が単なる地域代表として選出されるのではないことを総選挙は物語っている。➔選挙

〔溝口　潔〕

ちいきちくせいど　【地域地区制度】　都市の構成を合理的・機能的なものにするため，一定の地域や地区内に建設される建築物を規制する諸制度のこと。大別すると，①開発地域制，②用途地域制，③容積地域制，④防火地域制の四つがある。①開発地域制は，新都市計画法の眼目であって，虫食い的開発を防止するため，積極的に開発すべき市街化区域と開発を抑制すべき市街化調整区域とに分け，集中的計画的開発を誘導しようというもの。②用途地域制は土地利用の合理化と地区ごとの機能純化をは




地衣類
(左)ウチキアワビゴケモドキ　(右)コガネキノリ

かるため，建築物の種別，建蔽率*(けんぺいりつ)などを規制するもので，住居・商業・工業・準工業の4地域に分かれる。住居地域においては，工場(小規模なものを除く)・劇場・映画館・キャバレーなど住居環境にふさわしくないものは禁止される。建蔽率は原則として6割，高さの制限は20mとあまり高密度にならないように配慮されている。商業地域は商業・娯楽用建築物が集中的に建つことを目的に設けられ，工場は禁止されるが用途の制限は少ない。建蔽率は原則として7割，防火地域では10割までよい。高さ制限は31mで高密度な地域になるようあらかじめ配慮されている。準工業・工業地域は工場の積極的建設を期待する地域で，特に工業地域ではどのような工場でも建てられるが，反対に学校・病院・劇場・旅館などは禁止される。なおアメリカの諸都市では用途地域を10数種類にも細分し(ニューヨーク市では15種類)，きめ細かい用途地域制を採用しており，また，北欧諸国でもきびしい規制内容をもった地域制を採用している。③容積地域制は，建築物の高さ・形態・建築容積・建蔽率などを規制するためのものであって，容積地区・特定街区・高度地区・あき地地区などがある。容積地区には第1種容積地区から第10種容積地区まであって，第1種容積地区においては，建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合が100％まで，第2種容積地区においては同じく200％まで……，第10種容積地区では延べ面積の敷地面積に対する割合が1,000％まで許容される。高度地区は地区内の建築物の高さの最高限度または最低限度を定めるものである。特定街区はあき地を確保するなどして良好な環境を保ち，合理的形態を有する建築物を建設することを条件に，容積率・高さの制限を緩和する制度で，あき地地区は郊外住宅地での住居環境を守るため，容積率・建蔽率を制限し，あき地を保持するための制度である。④防火地域制は建築物の密集している地域において，火災の被害を最小限に防ぐため，建築物を耐火または簡易耐火建築にすることを強制する制度である。防火地域と準防火地域の2種類に分かれ，防火地域での規制は準防火地域のそれよりきびしい。〔竹内泰夫〕

ちいるい　**【地衣類】**　真菌類と藻類(そうるい)(緑藻と藍藻(らんそう))とが共生する植物群。ふつう分類学上も一群とするが，厳密な系統分類の立場からみると，真菌類の3群に独立に生じた相近的生活形であるといえる。しかし，その生活形は特殊で，単なる共生体の域をこえているので，合成植物の異名もある。菌類は単一種からなるが，藻類は取り込まれたものとみられ，数種が共存していることもあり，多くは自由生活もする種である。藍藻ではネンジュモ・スキトネマ，緑藻ではトレブクシア・スミレモが共生藻となる。藻類は無性芽では菌糸に包まれて移動する。地衣体内では特別なゴニジア層といわれる構造をつくるもの(異層地衣といい，ウメノキゴケが含まれる)，あるいは体内に散在するもの(同層地衣といい，サルオガセが含まれる)がある。地衣菌は地衣の本体とみなされ，構成上も主体となるが，まれには藻体の表面にわずかに付着したもの(スミレモモドキ)もある。外形的には樹状(ハナゴケ)，葉状(ウメノキゴケ)，固着(モジゴケ)の3形がある。独立栄養の気生藻と耐乾性の菌糸をもつ菌との共生の結果，生態的には極度の乾燥と貧栄養に耐える生活形を得て，乾性一次遷移の先駆植物となり，海岸・高山の岩上に地衣帯を形成する。また空中湿度の高い林内で樹皮上に多くみられる。地衣類の利用はあまり大きくはないが，わが国ではバンダイキノリ・イワタケが，北欧ではエイランタイが食用とされる。また，リトマスゴケ・サルオガセからはリトマス色素をとり，北欧ではクリスマスの装飾として，わが国ではいけ花などに利用される。なお，地衣成分の医薬品としての利用が研究されているが，完成したものはない。地衣の分類は次のようである。①藻菌地衣類：藻菌類と藍藻の共生体で，ゲオシフォン属のみ。②子嚢(しのう)地衣類：子嚢菌と藍藻および緑藻よりなり，地衣のほとんどがこれに属す。③担子地衣類：担子菌と藍藻よりなり，ケットゴケなど4属が含まれる。〔大西一博〕

ちえ　**【智慧】**　仏教の示している世界のあり方や人の心のほんとうの姿を正しく見きわめる心の作用をいう，単に智とも慧とも使われる。六波羅蜜*(ろくはらみつ)の第六でもある。梵語(ぼんご)prajñā(プラジュニャー)，パーリ語paññā(パンニャー)の訳で，般若*(はんにゃ)と音訳される。普通の智(ジュニャーナ)や，分析的認識(ビジュニャーナ)に対して，正しい見きわめが同時に実行される実践的な智で，こまぎれの知識の寄せ集めでなく全体として真実をつかむ智である。

ちえい　**【智永】**　中国，陳・隋(ずい)時代の僧侶(そうりょ)・書家。名は法極。王羲之(おうぎし)7世の孫。浙江(せっこう)省会稽(かいけい)の人。兄の孝資とともに出家し，呉興の永欣(えいきん)寺に住した。家伝の法を受けて書をよくし，かつて《真艸(しんそう)千字文》800本を書写し，浙東の諸寺に各1本を寄進した。書を請う者が多いために家を閉ざして面接しなかったので鉄門限と称せられ，また，禿筆(とくひつ)をうずめて退筆塚(たいひつづか)をつくり銘誌を草したなど多くの逸話で知られる。現在，《真艸千字文》の墨跡が日本に伝わっている。〔中田勇次郎〕

チェカ　⇨ゲー-ペー-ウー

ちえきけん　**【地役権】**　特定の土地の便益のために，他人の土地の一定範囲を利用することのできる権利をいう(民法280条)。たとえば，甲地の便益のために乙地を通行したり，乙地から引水したり，採光や通風のため乙地に高い建物の建築を制限したりするものである。この際利用価値を増進させる土地を要役地といい，便益に供される土地を承役地という。地役権の性質は，第1に，要役地の利用価値を増加させるものでなければならず，採集や狩猟など単に個人的便益のためのものをその内容とすることはできない(民法280条)。第2に，土地の便益の具体的内容はその設定行為によって定まり制限はないが，相隣関係の強行法規に反することはできない(民法280条)。第3に，地役権は従たる権利であって，要役地・承役地を前提として成立するもので，要役地の権利が移転されたり，他の権利の目的とされたときはそれぞれ要役地の利用権の処分に従う(民法281条)。第4に，地役権は不可分の権利であって，共有*の土地を分割したり，譲渡する場合には関係者全体に対して効力を生じ，そのうちのあるもののみに地役権が発生したり，消滅することはない(民法282条)。地役権は契約で設定されるほか，遺言・譲渡・相続・時効*などの一般の権利取得原因によっても取得される。このうち最も多いのが時効取得であるが，時効取得の対象となる地役権は継続しかつ表現されるもの，すなわち地役権の行使が間断なく行なわれ，そのことが外部から認識しうるものでなければならない(民法283条)。〔黒木三郎〕

ちえこしょう　**【智恵子抄】**　高村光太郎*の詩集(1941)。夫人智恵子との愛の生活，夫人の発病から死に至る間の作者の純粋で哀切な心情をうたいあげた29編の詩を中心に，散文〈智恵子の半生〉〈智恵子の切抜絵〉，

→289ページ

地域開発

〔地域経済の変貌(へんぼう)〕地域経済活動の規模と水準を規定するものは，短期においては有効需要の地域配分の態様と産業連関の姿であり，長期においては生産能力の地域配分の態様と，産業および都市機能・人材集積の程度である。これに，各地域の発展の可能性が都市のもつバイタリティーと二重写しの形で問題となる。地域の有効需要は，消費需要・投資需要・財政需要・輸移出需要に大別される。これは，家計・企業・政府・対域外活動に対応する。分業と交換にささえられている現代の経済においては，移出需要の内容が地域の経済活動に決定的な影響を与える。ところで，これら四つの需要は，ともにそれぞれ関連し合いながら，地域の生産活動に影響を与え，都市や集落を形成する。都市は働く場所であり，生活する場所であり，また余暇を使う場所である。職場のないところに人は集まらない。したがって職場のないところに都市は形成されない。

ところで，地域経済の変貌の内容をみると，まず第1に重化学工業化に伴う脱農の進行があげられる。1950(昭和25)～1970年の20年間についてみると，1950年を100として，農家就業人口は58に減少し，農家戸数は88に減少した。しかしながら，農家には専業農家*のほかに兼業農家*があり，全体の84.4％を占める兼業農家はさらに第1種兼業農家(33.7％)と，農業を従とする第2種兼業農家(50.7％)とに分かれる。第2は，農民の減少と農家の減少に続いて，いまや都市の社会淘汰(とうた)が始まっているという事実である。都市人口の増加は世界的な傾向であるが，昭和30年代の動きをみると，都市人口の増加率が都市の人口規模の差異に対応していることがわかる。すなわち，人口30,000以下の都市では絶対的な減少を示し，30,000ないし10万規模では絶対的には増加しているが相対的には減少し，10万以上になってはじめて絶対的にも相対的にも増大を遂げている。

以上の事実は，都市の社会淘汰が始まっていることを示すだけでなく，都市機能や都市的サービスの供給という点からみて，都市にも適正規模があり，一定のスケール以下の都市は，上位の都市にその機能の一部または全部が吸収される傾向があることを示している。昭和30年代に経験した急激な変化が，今日も続くかどうかは必ずしも断定できない。しかしながら，巨大都市そのものの吸収力がしだいに鈍化し，大都市周辺の諸都市がいっそう母都市への依存度を高め，また地方中堅都市が拡大と成長を遂げるものと思われる。つまり三大都市そのものの吸引力は鈍化しても，都市圏の外延的拡大のエネルギーおよび中堅都市の成長の可能性は大きく，しかもそのスピードは所得の上昇率と交通体系の整備の程度に依存するものと思われる。

〔地域格差〕現段階における日本の地域経済問題として，地域格差・都市過密・山村過疎の三つが指摘されている。地域格差をはかる指標としては，経済面における格差としての所得や資本のほかに，貨幣ではかることの困難な社会・生活・教育・人間的諸条件に関する格差についても取り上げる必要がある。すなわち，ストックとしての国富(社会資本・民間資本・生活環境施設)や人材のほかに，フローとしての所得・消費・地方財政収支についても吟味しなければならない。また，人口1人あたりの所得や，労働者1人あたりの生産性のほか，地域全体の成長率そのものについても比較する必要がある。

われわれは地域格差を平均値からの偏差と考える。したがって，統計学的には分散の問題である。1人あたり県民分配所得の平均偏差の時系列から次のことがわかる。第1は，第2次世界大戦前に比べると，戦後の地域格差が著しく縮小している，ということである。たとえば，全国1人あたり分配所得を100とした場合，70％未満の県の数は，1935年の35県から1951年には10県に，1959年には6県に減少し，1964年には2県に減少している。第2は，経済成長率が高い場合には全体としての地域格差が拡大し，経済成長率が低い場合には逆に縮小するという傾向がみられる，ということである。すなわち，地域格差は短期の景気変動に対応して，循環運動を示している。第3は，昭和30年代の前半が技術革新にささえられて，地域格差が持続的に拡大しているが，1961年ごろをピークとして，昭和30年代の後半においては格差が縮小の傾向にある，ということである。これは，昭和30年代の後半において，労働市場が買い手市場から売り手市場に転化し，中小企業の初任給の大幅な引き上げが反映していることを示している。したがって，少なくとも1人あたりの所得格差に関するかぎりでは，一般に騒がれているような格差拡大の傾向はみられない。第4は，一般的にいって，地域格差は先進国が小さく，後進国が大きいという経験的事実がある，ということである。これについてはミュルダールが指摘したことがある。

所得水準の地域格差を生んだ一つの理由として，産業構造の差異と生産性の格差という事実があげられる。また人口構造においても，低所得県ほど被扶養人口の相対的割合が高いという事情がこれに加わる。一般に後進地域の生産性が低いという場合，問題は二つに分かれる。その一つは，その地域のあらゆる産業の生産性がおしなべて低いということであり，いま一つは，その国全体を通じて，どこでも生産性の低い特定産業(たとえば農業)が，その地域において優勢だということである。この二つの要因は，相互に独立しては存在しえない。日本のみならずヨーロッパにおいても，あらゆる低所得地域は農業の優勢な地域であり，また同時に農業も工業も生産性の低い地域である。

1人あたり所得水準でみた全体としての地域格差が，一般に懸念されているほど拡大せず，むしろ縮小の傾向にある理由として，①低所得地域から高所得地域に向かって人口の移動があったこと，②財政政策によって地域格差が平準化したこと，③政策金融としての地域開発金融が特に開発地域の経済活動を高めたこと，④米の支持価格制度が米作県の地位を相対的に高めたこと，などをあげることができる。

〔過密問題〕全国総合開発計画(1962)においては，過密都市問題が本格的に取り上げられている。すなわち，大都市の再開発を実施し，副都心建設による都市機能の適宜分散，職場と住宅の適正配置，公共空地の整備，工業などの新増設の制限，官庁・学校・工場などの移転，旧市街地の土地の高度利用，過大都市周辺部への緑地帯の設置などを掲げている。また，土地利用・都市交通施設・住宅・環境施設などについては広域的都市計画を策定し，土地利用については用途地域制，建物などの容積規則などを提示している。全国総合開発計画に共通する思想は，集中の抑制と拠点都市への分散ということである。

〔過疎問題〕昭和30年代の激しい人口移動が過密問題に拍車をかけたが，それは人口流出地域にも深刻な問題をひき起こした。過疎問題がそれである。一般に過疎問題とは，人口が大幅に減少したために，社会生活を営むことが困難となり，一定の生活水準を維持することができなくなった状態をさす。このように，過疎とか過密とかの概念は，面積に対する人口のバランスの問題をさしており，きわめてフィジカルな概念として理解されている。けれども，大量の人口移動は，経済活動の低いところから，より高いところに向かっての移動である。したがって，きわめて逆説的であるが，いわゆる過疎地域なるものは，これを経済活動の規模と水準に照らして吟味してみると，人口の相対的に多い地域であって，経済学的には過密地域なのである。すなわち，面積に対しては人口が過疎であるが，経済活動に対しては過密なのである。

過疎地域は経済的に問題の多い谷間であるが，それは社会的にも日のあたらない谷

間なのであり，ここに政策的にむずかしいところがある。人口が希薄で放置され，しかも経済的にも社会的にも発展の遅れた地域で，その生活がなりたっていくようにするための条件はなにかが問われなければならない。

過疎対策としてはいろいろの見解がある。①現状維持論：山村に現存する矛盾をそのままにして手を触れずにおき，生活保護その他の社会保障制度によって，矛盾を温存させようとするもの。②積極開発論：山村の開発可能性に期待し，国土の開発ないし国土の改造という見地から，積極的に利用と開発を図ろうとするもの。③拠点形成論：山村にも拠点が必要であり，これまで分散していた集落を固め，その拠点に医療・教育・情報・行政・福祉施設などをつくるとともに，母都市との通信・交通体系を整備すべしとするもの。④集団移転論：山村住民を都市へ集団移転させ，栄光ある撤収作戦を行なうのが適当だとするもの。⑤自由放任論：山村住民の変化に対する今後の適応能力の向上にゆだね，自由に放置しておくべしとするもの，などである。

われわれは③の拠点形成論の立場をとりたい。④の集団移転論は，かりに国民経済的効率の面で望ましいとしても，社会的摩擦が大きすぎるし，⑤の立場は政策不在だからである。③の立場と④の立場は，基本的には同一の視点に立つ。③から⑤までの立場は，一見冷酷のようにみえるかもしれない。けれども長期においては，それが山村住民の利益になることを忘れてはならない。

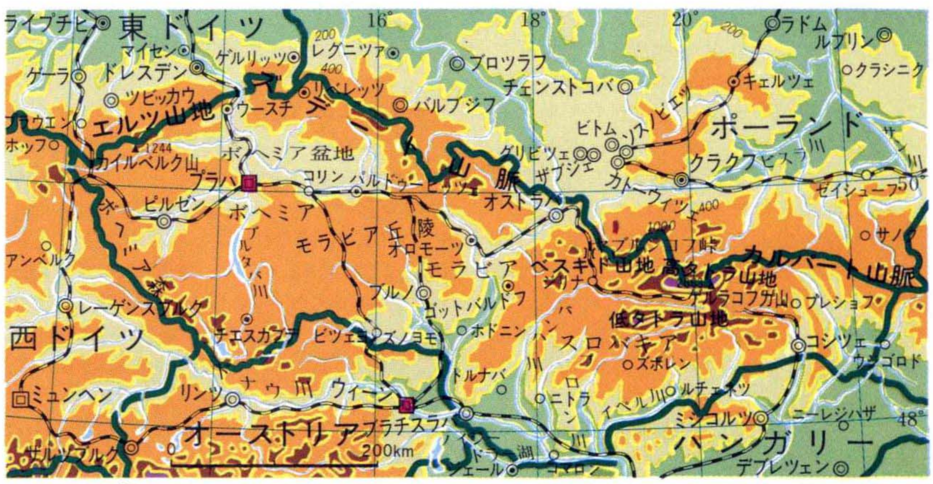
〔地域開発の戦略〕一般に地域開発政策を実現する手段としては，次の四つが考えられている。すなわち公共投資，開発金融，税制上の優遇，立法による規制がそれである。わが国の場合は，一般に道路・港湾・通信などの社会資本の蓄積が不足し，また後進地域の経済力が弱体であったため，これまでは地域開発の政策手段として，もっぱら公共投資のみが重視されてきた。しかし，地域開発が軌道に乗るためには，それに呼応して民間投資が行なわれ，またそこで得た利潤が次々に再投資され，関連産業にプラスの波及効果を及ぼすというプロセスを実現することが必要である。

以上の四つの手段は，現実においては適当に組み合わされている。ここに注意すべきは，同じ政策手段でも，地域の発展段階が違えば，違った効果を生むということである。問題は，以上四つの手段を，各地域の特性に応じて，いかに有効に組み合わせ，経済発展の条件をつくりだすかということである。いかにして経済発展の契機をとらえてこれを育成し，計画的に地域集積の利益を実現するか。特に今後においては，工業化と並んで都市化や情報化・高速化が進展するのであるから，政策金融としての開発金融の対象も，狭い産業金融のわくを越えて拡大されることが必要となる。

〔伊藤善一〕

短歌などを収録。詩には〈樹下の二人〉〈レモン哀歌〉などの傑作を含む。

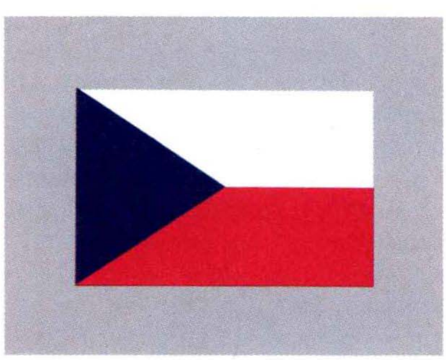
チェコスロバキア（社会主義共和国）［Czechoslovak Socialist Republic, Ceskoslovenská Socialistická Republika］ ヨーロッパ中部にある共和国。面積12万7,869km²で，日本の約3分の1。人口1,525万（1979年推）。首都プラハ。1948年，行政上ボヘミア・モラビアからなるチェコとスロバキアに分けられた。国土は東西に長く，西はエルツ山地とボヘミア－ワルト（ボヘミア森）がドイツとの境をなし，北はズデーテン山地でポーランドに接し，南はドナウ川の本支流がオーストリア・ハンガリーとの国境をなしている。



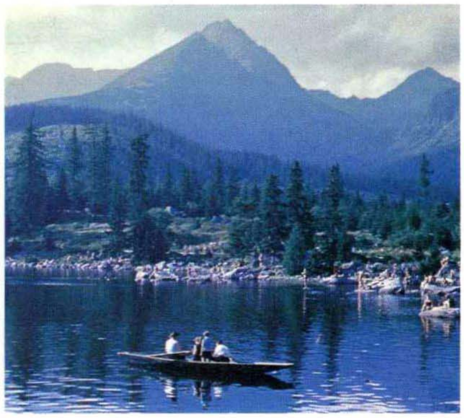
チェコスロバキア

300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田

〔自然〕地形は，ドナウの支流モラバ川に潤される中央のモラビア低地と，東のスロバキア山地，西のボヘミア盆地の三つに区分される。ボヘミア盆地はエルベ川水系に属し，四方を山地に囲まれた海抜500m前後の波状の隆起準平原からなり，地層はきわめて古い。これをエルベ川とその支流がうがち，細長い谷底平野を形成している。広く石灰岩が分布し，平野は肥沃（ひよく）な土壌（どじょう）に恵まれ，首都プラハが盆地中央に位置している。中央低地は東をカルパート山脈の一部である小カルパート・白カルパートの山脈，北をズデーテン山地，西をドナウ川とエルベ川の分水界であるボヘミア－モラビア高地に限られた肥沃な農業地帯で，古くから南北ヨーロッパを結び，交通の要地となっていた。東部はカルパート山脈の支脈からなるカコウ岩・結晶質岩石の1,000～2,000m級の山地で，森林におおわれ開発は遅れている。国土はエルベ・オーデル・ドナウ各河川の上流域にあり，河川交通によって，北海・バルト海・黒海に通じている。ドナウ川とオーデル川はオストラバ近くにある運河によって結ばれている。気候は東西でかなり異なり，東部へいくほど大陸性気候となって気温は低く降水量が少なくなる。西部にある首都プラハは，年平均気温8℃，最寒月（1月）3℃，最暖月（7月）18℃，年降水量510mmであるが，山地では1,000mmを越す降雨をみる。雨は春から夏に多く，冬はきわめて乾燥する。国土の3分の1は森林におおわれ，ヨーロッパでも林産資源に恵まれた国の一つである。


チェコスロバキアの国旗　1920年制定。白・青・赤の3色はオランダ国旗の影響を受けてできたロシア帝国の国旗からとったもので，スラブ民族の国であることを示している。また，三つの地方，ボヘミア（赤）・モラビア（白）・スロバキア（青）の民族色でもある

〔産業〕661万の労働者のうち，農業従事者は130万人（1966）で，農業がこの国の主産業である。国土の45%は耕地で，牧草地を加えると50%を越す。ボヘミア盆地は集約的な農業が行なわれ，スロバキア山地は停滞している。農産物の60%は大麦・小麦・ラ

チェコスロバキア　(左)首都プラハの市内を流れるブルタバ川を隔てて望むフラッチャニ城。ここはプラハの旧王城で，現在は大統領官邸として使用されている　(右)ポーランドとの国境をなすタトラ山地には湖沼も多く，美しい自然に恵まれて保養地として名高い。写真は行楽客でにぎわうシュトルプ湖

イ麦などの穀物であるが，モラビアではテンサイ・ホップなどの産出が多い。第2次世界大戦前に比べて，ジャガイモが減少し，麦類は横ばいであるが，テンサイは2倍にふえた。東ヨーロッパの中でも工業は，豊富な鉱物資源によりよく発達している。炭田はオストラバ・カルビナ地区とボヘミアのピルゼン，モラビアのブルノにあり，鉄鉱はプラハ南西のベローン付近やスロバキア山地に埋蔵されている。エルツ山地中のヤヒモフは古くから銀鉱山として有名であり，陶土に恵まれたカルロビバリ付近では陶磁器生産が盛んである。首都プラハでは自動車・化学など諸種の工業，ブルノは繊維工業，リベレツはリンネル織，オストラバは鉄鋼業，ピルゼンはビール製造が盛んである。またゴットワルドフのくつ生産は世界的に名高く，ドナウの河港であるブラチスラバでは石油精製や造船を行なう。ボヘミア・モラビアに比べて，スロバキアの工業は製材業と醸造業ぐらいであまりふるわない。貿易の70%はソ連・東ドイツ・ポーランド・ハンガリー各国との取引で，工業製品を輸出し，不足する食料(1966年には210万t の穀物を輸入している)，原料類を輸入する。

〔歴史・政治〕 この国はスロバキア地方に多いスロバキア人と，ボヘミア・モラビアに多いチェック人の二主要民族からなる。第1次世界大戦後の1918年にオーストリア-ハンガリー帝国の支配から独立し，チェコスロバキア共和国が生まれた。初代大統領には，独立解放の指導者マサリック博士が選ばれて，1920年には共和国憲法を制定した。しかし，1938年にナチスドイツはドイツ人住民の多いズデーテンを割譲させ，翌39年チェコを占領した。第2次世界大戦終了とともに共和国は再建されたが，スロバキアのルテニア地方をソ連に割譲した。1948年共産党の独裁が完成し反共勢力が一掃され，1960年新憲法を採用してチェコスロバキア社会主義共和国と国名を改称した。1967年から始まった改革政策に対し，翌1968年8月ソ連の軍事介入があり政権が交代させられた。政体はチェコとスロバキアからなる民族国家の連邦(1969年成立)で，人民議会と民族議会の2院がある。政党は共産党を中心に国民戦線を結成している。
〔梶川勇作〕

チェコスロバキアぶんがく 【チェコスロバキア文学】　チェコの文学は9世紀のころ古代チェック語*の出現とともに始まるが，最初の盛期を迎えるのは14世紀末からで，15世紀には宗教改革家フス*を中心とする革命的な作品が輩出した。その後の数世紀は特に注目すべきものはなかったが，19世紀になって国民の民族意識の目ざめに伴って，文芸復興の名のもとに文学活動が活発となった。特にマーハ*の長詩《五月》はチェコ文学の傑作の一つである。続いて19世紀中ごろには女流作家ニェムツォバー*の《おばあさん》，エルベンの詩集《花束》が出た。一方，スロバキアではこの時期にようやくスロバキア文語が確立された。19世紀の後半はチェコ文学の発展の時期で，ネルダ*を中心に，ハーレック・スビェトラー・チェフ・スラーデク・ブルフリッキーら多くの詩人，小説家が輩出した。この時代の傾向を歴史小説で表現したのが，多くの長編で知られるイラーセック*である。1918年の独立後のチェコは文学活動が特に活発となり，さまざまな傾向の詩人・作家が数多く登場した。ボルケル・ノイマン・ホラ・サイフェルト・ネズバルらの詩人，オルブラハト*・マイェロバー・ハシェク*・バンチュラ・チャペック*らの作家たちである。中でも，チャペックの諸作品，ハシェクの《兵士シュベィクの冒険》などは広く世界じゅうで愛読され，〈言葉の魔術師〉といわれるバンチュラはチェコで特に愛好されている。第2次世界大戦後は社会主義リアリズムの文学，建設期の文学が強調されて，文学活動は停帯したが，その中にあって，詩の分野ではフルビーン・ホテン・サイフェルトらの詩人が高い水準を保ち続けた。1960年代の中ごろから，チェコスロバキアの民主化につれて，文学にも新しい時代が到来し，戦後最大の傑作《鍵の所有者》を書いたクンデラ*をはじめ，クリーマ・シュクボレッキー，問題作《斧》を書いたバッリークらが活躍している。しかし1968年，ソビエトなどの軍隊がこの国に介入してからのちの文学の方向については明らかではない。

スロバキアにおいては19世紀前半から民族意識の高揚とともに文学活動も活発になり，コラールの《スラブの娘》が出版され，この世紀の末にはすぐれた詩人フビェズドスラフが出た。今世紀にはいり第1次世界大戦後の作家で注目されるのはイレムニッキーだけであるが，第2次世界大戦後の現代作家にはすぐれた文学者が多く，タタルカ・ヨハニデス・ブラシュコバーと多彩である。また《遅れたレポート》などの作品によって日本でも特異な作家として知られるムニャチコ*がいる。
〔千野栄一〕

チェサピーク(湾)　［Chesapeake］　アメリカ合衆国，大西洋岸中部のメリーランド州とバージニア州に囲まれた入り江で，沈水によって生じた南北に細長い溺(おぼ)れ谷*。長さ約320km。湾頭にボルチモアがあり，ポトマック川が西岸に注ぐ。湾内はカキの養殖地として知られ，風光にすぐれ周辺には休養地も多い。

チェザルピノ　［Andrea Cesalpino］(1519～1603)　ルネサンス期イタリアの生物学者・医学者。トスカナに生まれ，ピサ大学で医学を学ぶ。果実と種子の数・形状を基準として，実用上の目的から離れた客観的な植物分類法を提出した。また，血液循環の発想の先駆者としても知られている。

チェス　［chess］　2人で行なう室内遊技(ゲーム)。西洋将棋ともいわれ，将棋*と同じように古代インドに発生したチャトランギが起源である。15世紀に現行の国際ルールが定められ，ストックホルムに本部を置く国際チェス連盟(FIDE)には約70か国が加盟し，3年に一度の世界選手権など多数の国際試合が行なわれている。

〔用具と競技方法〕 縦・横8列濃淡64枡(ます)の市松格子(こうし)正方形のチェスボード(盤)と6種の立体の人形像の白・黒の駒(こま)各16個を用いる。盤は白枡が対局者の右下隅(すみ)にくるように置き，駒を並べ(図-1)，白が先手で一手ずつ駒を動かして戦い，先に相手のキングをチェックメイト(詰み)したほうが勝ちである。駒の種類と名称は表-1のとおりである。

駒の動かし方・取り方は以下のとおり。キングはその周囲8か所へ一歩ずつ動く(図-2a)。クイーンは縦横斜め(図-2b)，ルークは縦横(図-2c)，ビショップは斜めに(図-2d)いくつでも動けるが，いずれも

他の駒を飛び越えてはならない。ナイトは，単一の動きは将棋の桂のようであるが，駒を飛び越して八方に動く(図-2e)。ポーンは一歩ずつ動くが，当初並べられた位置から出るときにかぎり二歩進む(図-2f)。また，ポーンだけは相手陣の1段目に達するとキング以外の駒になることができ，これをプロモーションという。なお，ポーン以外の駒は，その動ける範囲(きき筋)にある相手の駒を取ることができるが，取った駒はポーンのなったときの代替駒として以外は再度の使用はできない。ポーンは，駒の取り方については動き方とは違ったふうに，斜め前に一歩進んで取る(図-3)。つまり，ポーンの前がふさがっていると，斜め前に相手の駒があって，しかもそれを取らないかぎり動けない。

ゲームは白の先手で開始される。一度手をふれた駒は必ず動かさなくてはならない。キングに取りをかけたときは必ず〈チェック〉と声をかける。攻撃を受けたキングは，移動してチェックを避けるかチェックをかけた相手の駒を取るか，相手の駒のきき筋を自駒でさえぎらなくてはならない。このような防御ができない場合は，チェックメイト(図-5)となり，自軍のキングを倒して負けの意志を表わす。また，次の場合はドロー(引き分け)の0.5勝となる。①パペチュアル(千日手)：同じ局面を3度くり返したとき。②互いに相手のキングをチェックメイトするに足る駒がなくなったとき。③ステールメイト(図-6)：キングがチェックになっていないで，しかも自分が駒を動かす場面であるのに，どの駒をも動かすことのできないとき，キングはみずからチェックにかかることはできない。

特殊ルールとして次のものがある。①アンパッサン(通過取り)：図-7のように，相手のポーンが所定の位置から一度に二歩進んだとき，一歩進んだときと同じように，斜め前に進んで相手のポーンを取ることができる。取る取らぬは任意であるが，すぐ次の手で取らねば権利を失う。②キャッスリング：キングとルークの間に駒がない場合，一手でキングを二歩ルーク側に寄せ，キングを飛び越して隣へルークを置くルールで，〈キャッスリング〉と声をかけて行なう。この手は，キングがチェック(王手)をかけられていず，キングもルークも一度も動いたことがなく，キングの動く筋に相手の駒がきいていないことなどが条件である。

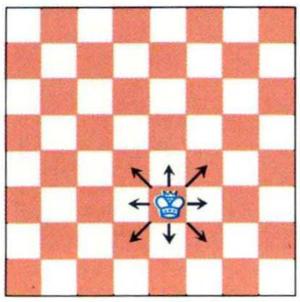
〔坂口允彦〕

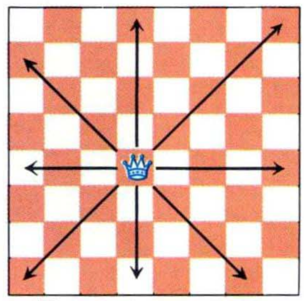
チェスタートン [Gilbert Kelth Chesterton] (1874～1936) イギリスの小説家・批評家。鋭い警句と逆説に満ちた批評家として，美術・文学など広い分野で活躍。また，固定観念にとらわれない自由な精神の持ち主の神父を主人公に，《ブラウン神父の無知》など一連の推理小説を書いた。評論には《ディケンズ論》《ビクトリア朝文学

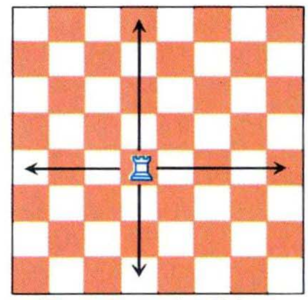

図－1 駒の並べ方

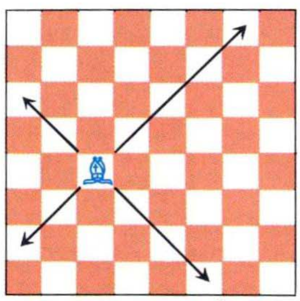
駒名	英語	シンボル	呼称	数
キング	King	♔	王	各1
クイーン	Queen	♕	女王	各1
ルーク	Rook	♖	城	各2
ビショップ	Bishop	♗	僧正	各2
ナイト	Knight	♘	騎士	各2
ポーン	Pawn	♙	兵士	各8

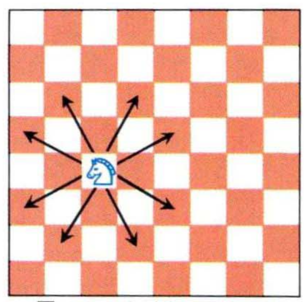
表－1 駒の種類と名称

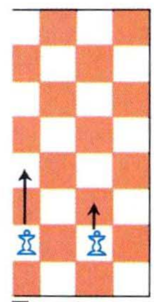

図－2a キングの動き

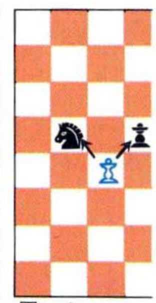

図－2b クイーンの動き

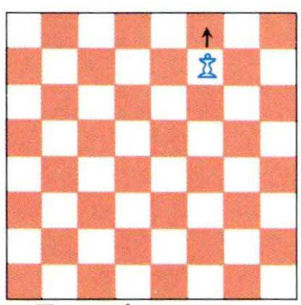

図－2c ルークの動き

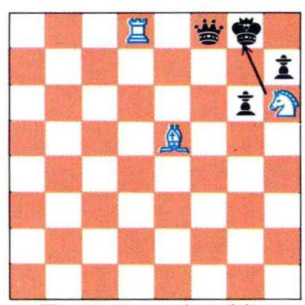

図－2d ビショップの動き


図－2e ナイトの動き


図－2f ポーンの進み方

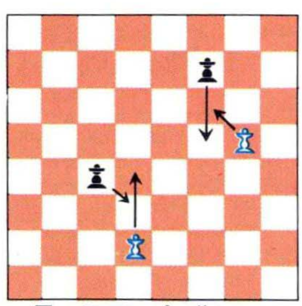

図－3 ポーンの取り方

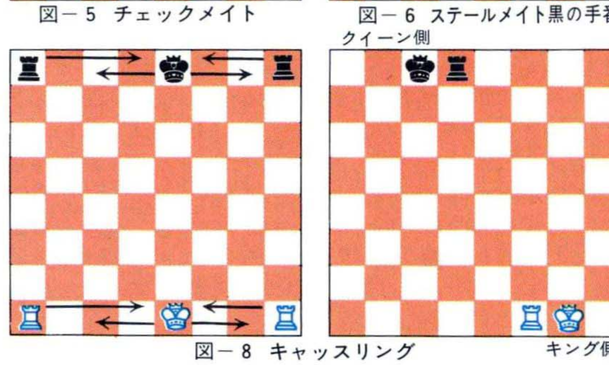

図－4 プロモーション


図－5 チェックメイト



図－6 ステールメイト黒の手番


図－7 アンパッサン



図－8 キャッスリング

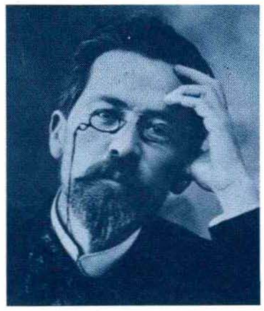
チェス

論》などがある。

チェース-マンハッタンぎんこう 【チェース-マンハッタン銀行】 アメリカの大手商業銀行の一。預金額はアメリカ銀行・ファースト-ナショナル銀行に次いで世界第3位(1969)。1955年にチェース-ナショナル銀行(1877年創立)がマンハッタン銀行(1799年創立)を合併して成立。ロックフェラー財閥*の中心的金融機関として石油産業をはじめとする諸企業を支配し，アメリカ経済界に大きな影響力を有する。国内支店は161，海外支店は70で日本には東京・大阪に支店をもつ(1970年末現在)。本社ニューヨーク。1969年末預金額190億ドル，従業員数19,000。

チェチェノイングーシ(自治共和国) [Checheno-Ingushskaya A.S.S.R.] ソ連，ロシア共和国内の北カフカス東部，テレク川流域にある自治共和国。面積19,300km^2，人口105万3,000(1968)。首都グロズヌイ。住民はチェチェン人が55%を占めて最も多く，ほかはイングーシ人(10%)，ロシア人などである。南半はカフカス山脈，北半はステップないし半砂漠(はんさばく)の平野である。石油・天然ガス・水力・森林などの資源が豊富で，ソ連の主要産油地の一つになっており，化学・建築資材・機械・かんづめなどの工業が盛んである。農業も灌漑(かんがい)によって広く行なわれ，冬小麦・トウモロコシ・テンサイ・ヒマワリ・果樹・ブドウなどを栽培し，ウシ・ブタ・ヒツジの飼育頭数も多い。チェチェン人とイングーシ人は，古くから北カフカス山中に住んでいたが，19世紀にロシア領に編入された。ロシア革命後，1922年にチェチェン自治州，1924年にイングーシ自治州がそれぞれ成立し，1934年に両者は合併して自治州となり，1936年自治共和国になった。第2次世界大戦中は1944年グロズヌイ州，ダゲスタン共和国に編入されたが，1957年に再建された。〔斎藤晨二〕

チェッカー [checkers] イギリスではドラーフツともいい，2人で行なう室内遊技の一種。縦・横8列濃淡64枡(ます)の市松格子(こうし)正方形の盤と，平たい円筒形の白・黒の駒(こま)各12個を用いる。白枡が右下隅(すみ)にくるように盤を置き，それぞれ3段目までの黒枡に駒を置く。黒が先手で，2人が交互に一手ずつ駒を動かす。駒は斜め前に1枡ずつ進み，相手の駒がその動ける範囲(きき筋)にあるときは，これを飛び越えて取る。その際，さらにそのきき筋に相手駒があれば何個でも連続して取れるが，一度に二つ飛び越えることはできない。また，取れる駒は必ず取らねばならず，取る手が二つ以上あれば数多いほうを選ばねばならない。相手の陣の1段目にはいるとキングとなって駒を2個重ねて表示し，斜め後ろにも進むことができる。キングになると，後退してもきき筋にある駒を取ることはできるが，相手が一手行なうまで待たなければならない。相手の駒を全部取るか，動けなくしてしまったほうが勝ちである。〔坂口允彦〕



チェーホフ



チェリーニ《フランソワ1世の塩入れ》

チェック [check] 洋服地の格子(こうし)がらの総称。プレードともいう。古くは特定の素材・組織を用いた生地の名称であったが，今日では外観上の色やがらでよぶことが多い。代表的な種類として次のものがある。①ウインドーペーン：窓わく型の格子。②ガンクラブ-チェック。③シェパード-チェック：ともに千鳥格子に似た格子がら。④グレン-チェック：細かい格子がらを市松風に配列したもの。⑤タッターソルス-チェック：細い二重格子のがら。⑥ブロック-チェック：碁盤縞(ごばんじま)または市松模様の形のがら。⑦ハウンドツース-チェック：ドッグツース-チェックともいわれ，イヌの牙(きば)の形の格子がら。⑧ピン-チェック：きわめて細かい格子，微塵(みじん)格子の一種。⑨バスケット-チェック：籠目(かごめ)の形のがら，網代(あじろ)格子のこと。⑩オーバー-チェック：小さい格子がらの上に大きい格子がらを別の色で織り込んだもの。⑪スター-チェック：星形の並んだ格子がら。⑫タータン*。⑬クロス-チェック：小さい2色の格子がら。〔小川安朗〕

チェックご 【チェック語】 スラブ語派*に属する言語の一。現在チェコスロバキアのボヘミア・モラビア・シレジアの住民約900万人とアメリカその他の外国在住チェコ人が使用している。その文章語は，すでに9～11世紀の教会スラブ語の文献にみられる。13世紀にはラテン文字による文章語が成立し，14世紀以後は数々のすぐれた詩や散文がつくられるようになった。語形変化に富み，長短両母音をもち，アクセントは語の第1音節に落ちるなどの特徴がある。〔小野　堅〕

ちえねつ 【知恵熱】 生後6～7か月の乳児がはっきりした病名のつく症状を伴わずに急に高熱を出すことがあり，これを俗に知恵熱という。乳児がこの月齢になると知恵がつきはじめ，これに発熱が伴うといわれたが，医学的には精神発達に発熱を伴うということは考えられず，なんらかの発熱性疾患が考えられる。乳児は生後半年間は先天性免疫があるので，インフルエンザその他の疾患に感染することが少ない。しかし，先天性免疫はその後急に消失するので，発熱性疾患にかかりやすくなる。すなわち医師が診察し，いろいろ検査すれば，それぞれの診断がつくので，知恵熱というのは学問的なものではないと考えられる。〔宇留野勝正〕

チェーホフ [Anton Pavlovich Chekhov] (1860～1904) ロシアの小説家・劇作家。南ロシアの港町タガンローグの商家に生まれ，モスクワ大学医学部を卒業。在学中から小説を書き始め，当時はアントーシャ-チェホンテという筆名でユーモアと風刺を基調とする300以上の短編を発表した。1880年代の半ばごろ，グリゴロービチ*の忠告もあったが，自分でも，作品の数を減らして質を高めることの必要を自覚し，ロシア社会をまじめに凝視した作品を書くようになった。その後の傑作には《わびしい話》《草原》《6号室》《決闘》《中二階のある家》《百姓》《谷間》《すぐり》《イオーヌイチ》《犬を連れた奥さん》などがある。当時の作品は，人物があらゆる階層にわたり，描写が的確で表現が簡潔なのが特色である。1890年代には病身をおしてシベリアを横断し，サハリン(樺太(からふと))に渡って，島民や囚人の生活を視察し，また大飢饉(ききん)に際しては救済運動に挺身(ていしん)し，コレラが流行したときは医師として防疫事業に活動した。劇作は1880年代末から始め，1890年代後半に《かもめ*》《叔父(おじ)ワーニャ》《三人姉妹*》《桜の園*》などの傑作が生まれた。これらは本来の作劇法を一擲(いってき)して新生面を開いたもので，〈気分劇〉とか〈静劇〉とかいわれている。〔北垣信行〕

チェラプンジ [Cherrapunji] インド共和国東部，アッサム州の都市。シロン丘陵の南斜面に位置し，世界で最も雨量の多いところとして著名である。モンスーンが地形的条件と関連してここに集中豪雨を降らすためで，年平均雨量は10,000mmを越える。1861年には26,461mmを記録した。

チェリーニ [Benvenuto Cellini] (1500～1571) イタリアの彫刻家ではあるが，むしろ彫金師として最もすぐれていた。フィレンツェを中心にイタリア各地で制作し

たが，フランスにも再度出かけ，フランソワ１世のためにつくった華麗な彫金作品を残している。代表作は《ペルセウスの青銅像》など。また，著述家としてもすぐれ，とくにその自叙伝には当時の世相が巧みに描かれている。

チェリャビンスク［Chelyabinsk］ソ連，ウラル山脈南東麓(ろく)にあるロシア共和国のチェリャビンスク州の州都。人口91万(1972)。ウラル工業地帯の主要工業都市で，埋蔵10数億トンといわれている大炭田が近郊にあり，鉄鋼・冶金(やきん)・農業機械・建設資材・航空機などの重工業が盛んである。1658年にロシアの要塞(ようさい)として建設され，農産加工やシベリアとの交易などで発展した。1892年のシベリア鉄道開通後工業化が進み，特に第２次世界大戦中から重工業都市として重要視されるようになった。鉄道の重要分岐点で，シベリア鉄道は，ここを起点としウラジオストクに至る。〔斎藤晨二〕

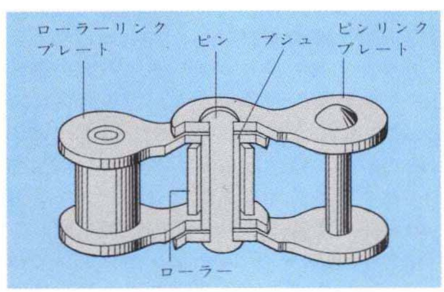
チェルニー［Karl Czerny］（1791～1857）オーストリアのピアニスト・教育者・作曲家。ウィーンの生まれ。父親にピアノの手ほどきを受け，早くから才能を示す。1800～1803年ベートーベンに師事，またフンメル・クレメンティらの知遇を受ける。彼は演奏活動よりも，教育・作曲に専念し，門下からリスト・タールベルクら多くの大家が輩出した。約1,000曲の作品が残されており，中でも数多くのピアノの練習曲集は，現在でも教材として広く使用されている。〔寺田兼文〕

チェルヌイシェフスキー［Nikolai Gavrilovich Chernyshevskii］（1828～1889）ロシアの思想家・文学者。1861年の農奴解放令に始まる1860年代，ロシア国内に改革の気運が高まった時期に，政治・経済・社会学・哲学・文学の領域で革命的民主主義に立つすぐれた業績を残し，のちにレーニンからも高く評価された。哲学の分野ではフォイエルバッハ*の唯物論哲学の後継者であり，経済学者としてはミル*を批判してブルジョワ経済学に対抗，文学では社会小説《何をなすべきか》を書いた。さらに学位論文《芸術と現実との美学的関係》は従来のブルジョワ美学の根本命題を批判したもので，これによって彼はプレハーノフら後のマルクス主義芸術理論の先駆者となった。〔藤家壮一〕

チェレスタ［celesta］〈天上的な〉を意味するイタリア語で，小形リード-オルガンの形をした鍵盤(けんばん)楽器。鍵盤を押すと，ハンマーが動いて内部の鉄板をたたくしくみになっている。音域は高いため，楽譜には１オクターブ低く記される。音量は大きくはないがよく通るため，管弦楽の中で用いられる。1886年パリでミュステルによってつくられて以来，チャイコフスキー・プッチーニ・マーラー・リヒャルト-シュトラウス・バルトークらが使っている。〔徳丸吉彦〕


チェレスタ


チェロ　演奏者はヤーノシュ-シュタルケル



チェーン　ローラーチェンの構造

チェレンコフ［Pavel Alekseevich Cherenkov］（1904～　）ソ連の物理学者。ボロネジに生まれ，同地の大学を卒業後，モスクワのレベデフ研究所にはいった。1934年荷電子の発光現象であるチェレンコフ効果*を発見。これにより開発されたチェレンコフ検出器は核物理学・宇宙線など高速粒子の研究に重要な装置となった。1958年にフランク・タムとともにノーベル物理学賞を受賞。

チェレンコフこうか【チェレンコフ効果】チェレンコフ放射ともいう。荷電粒子が誘電物質中をその物質における光速度c/n(c：真空中の光速度，n：物質の屈折率)より大きい速度で運動するとき，誘電物質が光を出す現象。1934年，P.A.チェレンコフが高速度の電子でこの現象を観測したのでこの名がある。これは高速荷電粒子の通過によって誘電物質が分極し，通過後この分極が光を放射してもとにもどるために起きる。〔中野藤生〕

チェロ［cello］〈ビオロンチェロ〉の略称。弦楽器の一。おそくとも1560～1570年ごろにつくられており，その後のバロック時代には通奏低音*の楽器として最も一般的な楽器となった。４本の弦をもち，音域はビオラより１オクターブ広く，下からハ・ト・ニ・イと５度間隔に調弦される。音量に幅があり，また使いこなせる音域が非常に広く，音色も低音から高音まで変化が豊かであるため，18世紀中ごろのボッケリーニやJ.L.デュポールらによる奏法の革新に伴って，協奏曲やソナタが多くつくられた。また，古典派以降の弦楽四重奏・五重奏・六重奏やピアノ三重奏にはチェロの技巧を前提にしたものも多い。〔徳丸吉彦〕

チェーン［chain］鎖。一般には金属製の環を多数つないだもの。運搬や牽引(けんいん)用は，いずれもスプロケット*の歯とかみ合わせて使用される。それで，ベルトによる伝動に比べてすべりを生ずることもなく確実に大きな力を伝えることができる。チェーンの代表的な種類には，構造により，ローラーチェーン・サイレントチェーン・デタッチアブルチェーン・コイルチェーン・ブロックチェーンなどがある。このうち動力用として最も普及しているのはローラーチェーンである。その構造は，リンクプレート・ピン・ブシュ・ローラーからなっているスチール製のチェーンで，ピンはブシュの中で自由に回転ができ，ローラーはブシュの外側にはめこまれ自転できるようになっている。サイレントチェーンは，スチール製の動力伝達用で，凹状(おうじょう)のリンクプレートを用い，伝動時に速度むらがなく，チェーンの振動がわずかであるため，広範囲の高速伝動に使用される。ブロックチェーンは，リンクプレートとピンとによって構成され，鍛造製あるいは厚鋼板を成形したもので，重量物の運搬や牽引に使用される。〔船越　泉〕

ちえんしゃかい【地縁社会】人間は封鎖された地域で，その気候風土に即した生活を永続的に営むと，この土地に対する郷土愛に似た深い愛着が芽ばえる。これを地縁といい，地縁によって結ばれる社会を地縁社会という。したがって地縁社会は自己の意志にかかわりなく，運命的に形成される。しかし，現代では機械文明の発達と社会の拡大に伴って，地縁社会はその意義を失い，徐々に消滅の方向へと進んでいる。

チェーンストア［chain store］連鎖店ともいう。同一資本のもとに所有され，中央集権的経営管理のもとに統轄される２店舗以上の同一種類の小売り店舗の集団をいう。その特質としては，次の点があげられる。①資本的統一制：２店舗以上の小売り店舗が，１個の企業として資本面で結合している。②営業的共通性：それらの多

数の小売り店舗は，同一もしくは類似の営業形態をとっている。③管理的統一制：これらの多数の小売り店舗は，本社の統一的な管理と統制のもとに運営されている。チェーンストアは，アメリカでは，1920年代から1930年代にかけて技術革新による標準化商品の大量生産，消費者の大衆的平等主義，経済的合理主義を背景として種々の業種に普及発展した。わが国でも近年，スーパーマーケット*を中心にチェーンストア経営が普及し，有力専門店・百貨店などがチェーンストア化によって急速に成長してきている。なお，広義では，チェーンストアという用語は，前述の会社チェーン(正規連鎖店)のほか，ボランタリー-チェーン*(ボランタリー-グループ，任意連鎖店)なども含む。〔清水　晶〕

チェーン-ストークスがたこきゅう【チェーン-ストークス型呼吸】異常呼吸の一。スコットランドの医師チェーン(1777～1836)とアイルランドの医師ストークス(1804～1878)によって報告されたのでこの名がある。無呼吸の状態が10秒ぐらい続き，次いで浅い呼吸が始まり，しだいに深くなって過呼吸の状態となり，再びしだいに浅くなって無呼吸となる周期的呼吸運動で，脳出血・心不全・尿毒症，各種の中毒など重篤な疾患で，呼吸中枢の興奮性が低下した状態のときみられる。〔佐藤恒久〕

チェンストホバ［Częstochowa］ポーランド南部，バルタ川に沿う工業都市。人口20万1,000(1976)。鉄鉱石産地を控え，繊維・製紙・鉄鋼・皮革などの工業が盛んである。ポーランドでも古くから栄えた都市の一つで，有名な聖母マリアのヤスナーグーラ修道院があり，毎年全国から20万以上の巡礼者が訪れる。

チェンニーニ［Cennino di Drea Cennini］(1370？～1440？)　イタリアの画家。ジョット派のA.ガッディ(1333？～1396)の弟子(でし)とされるが，伝記も作品も明らかではない。その著書《絵画論》は当時の画法を知る上で貴重である。

チェンバレン［Joseph Chamberlain］(1836～1914)　イギリスの政治家。J.A.チェンバレン・N.チェンバレンの父。ロンドンの製靴(せいか)業者の家に生まれる。バーミンガムで事業家として成功し，1873年同市市長に選ばれて市民生活の向上をはかる諸改革で人気を得る。1876年バーミンガムを中心とする重工業の発達を背景に自由党から下院議員に当選し，しだいに同党急進派の指導者となる。グラッドストン内閣の商務院総裁，さらに地方自治相を歴任したが，アイルランド自治法案をめぐってグラッドストンと対立し辞職，新たに自由統一党を組織し，保守党に接近した。1895年ソルズベリ内閣の植民相となり，帝国の団結強化をはかるとともに，帝国特恵関税に基づく保護関税政策を主張した。また，南アフリカへの進出を積極的に推し進め，その結果，ボーア戦争が起こった。〔松下京子〕

チェンバレン［Basil Hall Chamberlain］(1850～1935)　号は王堂。イギリスの日本語学者。1873年(明治6)来日し，1911年スイスに隠棲(いんせい)するまで，海軍兵学寮・東京大学で英語・言語学を講じ，のちの国語学者，上田万年*(かずとし)・芳賀(はが)矢一らを育てた。その一方，日本語文語・口語文典の著作，琉球(りゅうきゅう)語・アイヌ語の研究，《古事記》の英訳など，多くの業績を残した。

チェンバレン［Sir Joseph Austen Chamberlain］(1863～1937)　イギリスの政治家。ジョゼフ-チェンバレンの長男。1892年自由統一党員として下院にはいり，郵政長官・蔵相などを歴任。ボールドウィン内閣の外相としてイギリス外交を指導した。1925年ロカルノ条約締結に成功，ノーベル平和賞を受けた。国際連盟を強力に支持して軍縮に尽力。1931年マクドナルドの挙国一致内閣の海相となったが，まもなく辞職した。〔松下京子〕

チェンバレン［Arthur Neville Chamberlain］(1869～1940)　イギリスの政治家。ジョゼフ-チェンバレンの次子。バーミンガムで実業家として成功し，1915年同市市長となる。1918年下院議員となる。保守党内閣の閣僚を歴任し，1931年以後マクドナルド・ボールドウィン連立内閣の蔵相として保護貿易政策をとり，世界恐慌に対処した。第2次世界大戦のいわば前夜にあたる1937年，首相となる。スペイン内乱やイタリアのエチオピア併合など，ファシズムの台頭によるヨーロッパの緊張に対して宥和(ゆうわ)政策をとり，ミュンヘン会談*ではヒトラーの要求を認めた。これらの妥協的な対外政策はファシズムを助長し，ついに1939年9月ドイツと開戦し，第2次世界大戦となる。しかし，自由党・労働党に協力を拒否され，1940年首相の地位をチャーチル*に譲った。〔松下京子〕

チェンバロ　⇨ハープシコード

チェンマイ［Chiang Mai］タイ北西部の都市。人口66,000(1960)。ピン川の上流に位置し，ビルマとの国境に近い。13世紀にタイの統一的な民族王国が形成された古都として名高い。第2次世界大戦時の1942～1945年には日本軍が占領した。伝統的な絹織物・木彫・漆器の生産があるほか，付近の山地から産するチーク材の集散地でもある。首都バンコクとは鉄道と空路で結ばれており，北部タイの中心である。タイ国第2の都市。〔別技篤彦〕

チオクトさん【チオクト酸】⇨リポ酸

チオコール　⇨多硫化合成ゴム

チオシアンかカリウム【チオシアン化カリウム】KSCN　比重1.886，融点172.3℃。無色の単斜または斜方晶系の結晶で水によくとける。シアン化カリウムとイオウとを結合させるか，黄血塩を硫化カリウムとともに加熱するかして得られる。チオシアン酸の第二鉄塩は著しい赤色を示すので，チオシアン酸(ロダン)・鉄・青酸の鋭敏な検出にはチオシアン酸カリなどこの塩類がよく利用される。

ちおや【乳親】⇨乳母

チオりゅうさんナトリウム【チオ硫酸ナトリウム】$Na_2S_2O_3 \cdot 5H_2O$　チオ硫酸ソーダともいい，俗にハイポといわれる。硫化ナトリウムを酸化するか，亜硫酸ナトリウムにイオウを加えてつくる。水にとけ，ハロゲン，たとえばヨウ素と反応させると次のようになる。

$$2Na_2S_2O_3+I_2=2NaI+Na_2S_4O_6$$

または，$2S_2O_3^{2-}+I_2=S_4O_6^{2-}+2I^-$

この反応はヨウ素の容量分析に用いられる。また，水溶液はハロゲン化銀を溶解するので，写真現像の定着剤や脱塩素材などにも用いられる。このほか，医薬品として，皮膚炎の治療や鉛・水銀など重金属中毒の解毒薬に使われる。〔鈴木　篁〕

ちおんいん【知恩院】京都市東山区新橋通大和(やまと)大路東入ルにある浄土宗総本山。この地は古く吉水とよばれ，青蓮院(しょうれんいん)に属し，天台の慈円僧正が吉水房を営んでいた。承安年間(1171～1174)慈円と親交のあった法然上人(しょうにん)源空が，土地の一部を譲り受け，ここに吉水禅房を築いたのが興りである。当時の寺は現在地より少し山の手の方にあった。1212年(建暦2)法然が示寂するとこの地に葬られ，その弟子(でし)源智(げんち)が伽藍(がらん)の経営にあたり，その後寺地もしだいに広まり，1633年(寛永10)火災で炎上したが，徳川家の援助で現在のような大伽藍が建てられた。三門は全国最大のもので，経蔵と同じく1619年(元和5)に建造，本堂は1639年に建てられ，法然上人の御影を安置する。山寄りの台地にある勢至堂は1530年(享禄3)の建立(こんりゅう)で，もとの本堂にあたる。寺宝には《法然上人絵伝》(国宝，四十八巻本)をはじめ，絵画・書跡に国宝・重要文化財のものが多い。〔永井信一〕

ちおんじ【知恩寺】⇨百万遍

チオンピのらん【チオンピの乱】1378年フィレンツェに起こった下層労働者の反乱で，チオンピと蔑称された梳毛工(そもうこう)たちが中心になったのでこの名がある。反乱者たちは，市庁舎を占拠して，彼らの組合結成を承認させたが，大市民の反撃にあって崩壊した。一方，これを利用したメディチ家は反乱をひそかに支持して人気を得，のちの興隆の基礎をつくった。

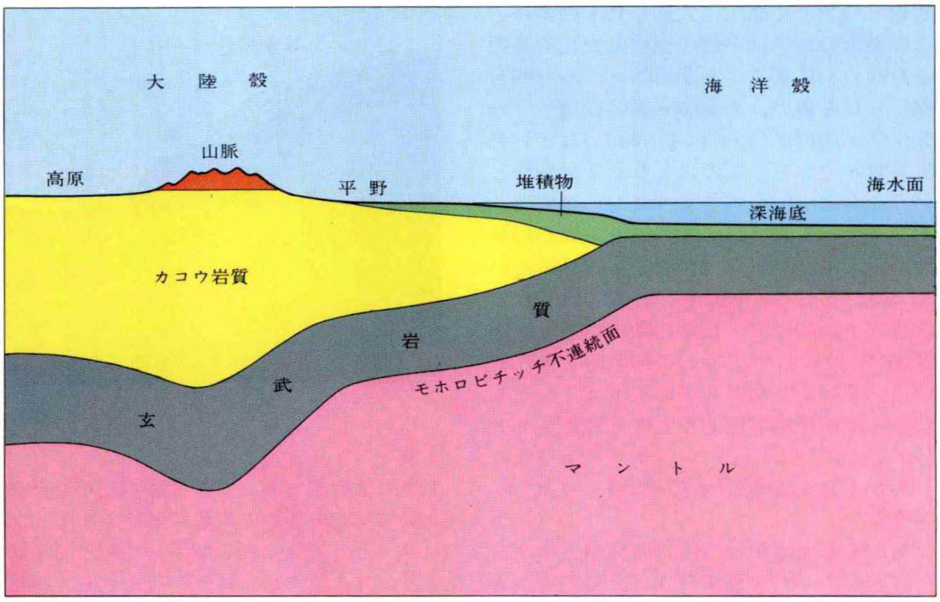
ちか【地価】一般的には土地の売買価格をいい，特別なものとしては課税の基準となる土地の価格で公簿に登録されたものをいう。1873年(明治6)〈地租改正〉による地租課税基準としての地価，1950年(昭和25)創設の固定資産税課税基準としての地

価などは後者の事例である。しかし，一般に土地の売買価格は地代の資本還元額として成立するのであって，土地それ自体に価値があるわけではない。土地そのものは人間労働の生産物ではなく，労働の凝結物ではないからである。しかし，年々一定の地代収入をもたらす土地を所有していることは，ちょうど年々一定の利子収入をもたらす一定額の資本をもっているのと同じこととして，本来の価値物でもなく資本でもない土地が資本に擬せられて価格を付与されるのである。ここに地価が擬制資本*といわれる理由がある。地価形成の基本公式は地代÷利子率であるから，地価は地代が高ければ高く，利子率が高まれば低下する。〔常盤政治〕

ちかいえか【地下家蚊】アカイエカ*の一系統で，浄化槽(じょうかそう)や汚水槽など人工的な地下汚水槽から，主として秋冬季に発生する。吸血しないでも産卵できるという特徴がある。駆除には殺虫乳剤の希釈液を散布するか，槽内にDDVP蒸散剤をつるす。

ちがいだな【違い棚】床の間の横につくりつけるたな。座敷飾り(→書院造り)の一要素であるたなの中で，最も代表的な形式。上下２枚のたな板が，左右段違いに組み合わされているもの。上下のたな板の間に〈えび束(つか)〉または〈ひな束〉とよばれる束が立ち，上だなの端には〈筆返し〉とよばれる凸起(とっき)がつく。寝殿造り*において，身のまわりの家具として座所の周辺に備えたもののうちで，二階だなや厨子(ずし)だななどの家具が，中世にはいって建物につくりつけになったもの。〔渡辺保忠〕

ちがいほうけん【治外法権】国際法上，外国人が現に滞在している国の法の下に置かれず，あたかもその国の領土の外にいるような地位をもつこと。一般に外国人は滞在する国家の法に服することになっているが，一定の外国人については，その国の権力作用，特に裁判権に服さない地位が認められている。元来は外交使節(→外交官)がその駐在する国の裁判権および行政権の行使から免れる特権を指すために用いられたものである。現在においては，まず，元首*と外交使節の治外法権が広く認められている。原則として刑事・民事の裁判管轄権から除外され，行政権による強制処分からの免除や所得税その他の税の免除，居住や文書の不可侵権などである。領事*も狭い範囲でこれを享有する。外国にある軍隊，軍艦についても認められるが，軍隊構成員や乗組員が個人として行動する場合には認められない。このほか，最近では国際連合*の事務総長や専門機関の事務局の首脳者，国際司法裁判所の裁判官などについても一定の範囲で認められる。なお，領事裁判制の行なわれていた，かつての中国や日本などの東洋諸国では，一般の外国人にも一種の治外法権が認められたが，現在では廃止されている。→租界〔広部和也〕



地　殻　地殻の構造の模式図

ちかかくじっけん【地下核実験】地下で行なわれる核爆発実験。放射能による汚染被害が少ないため，1963年に結ばれた部分的核実験禁止条約においても禁止されず，唯一の合法的核実験となった。地下核実験には核兵器のための実験と平和利用のための実験とがあり，軍事面では戦術用の比較的小規模な核実験，非軍事面ではアイソトープ量産や核反応の技術的実験などが行なわれる。

ちかく【知覚】現実に環境内に展開している事物・事態を認知すること。知覚は現実に働く刺激によって生ずるが，その刺激は感覚器官によって受け取られた環境内の物理的・化学的エネルギーの変化である。しかし，知覚される事物や事態は客観的な物理的・化学的エネルギーの変化，すなわち刺激そのままではなく，刺激がどのような状況のもとに置かれていたかによって影響を受ける。外的条件としては，刺激の布置，内的条件としては，受容器官である生活体の神経系統に特有な性質，生理的状態，要求や情緒的状態，与えられた刺激に対する態度，先行経験の効果などによって影響を受ける。一つの知覚世界は，これらの条件が総合されてつくられ，それゆえ同一刺激でも，受容する生活体の条件の相違により違ってくる。

知覚を感覚内容に基づいて分類すると，視知覚，聴知覚，触知覚，味・臭・温度などの知覚，自己の身体の運動や部位の知覚，身体内の諸器官の状態の知覚などになる。このほかに知覚対象の特質から分離した空間知覚*・時間知覚*・運動知覚*などがあげられる。〔吉田俊郎〕

ちかく【地殻】地球の表層部分，すなわちモホロビチッチ不連続面*(モホ面)よりも浅い部分。かつて，地球の表面近くにはあまり厚くない固体の層があり，その下部にはとけた岩石があると想像され，固体の部分を地殻といっていた。しかし，19世紀後半以後に，地下の非常に深い所まで固体であることがわかり，さらに20世紀の初め，地震波の伝播(でんぱ)速度の違いから地下数十キロメートルの部分に地球を構成する物質の性質が急に変化するモホ面の存在が明らかになった。地球全体からみると，地殻の部分はきわめて小さく，体積では地球全体の1.5%にすぎないが，人間の生活に非常に深い関係をもつ。地殻の表面に近い部分は地表の地質調査や火山の噴出物，油井から採集される岩石などを利用して調査研究され，深い部分は地球物理学の観測を通して研究される。これらの研究によれば大陸地域の地殻は堆積(たいせき)岩・カコウ岩質の岩石，変成岩・玄武岩質の岩石などからなり，厚さも30～50kmであるが，大洋地域では海底堆積物の下は直接玄武岩質岩石からなり，厚さは約５～10kmと考えられている。地殻の化学組成はクラーク数*などで示されているが，地殻を構成する元素の数はきわめて少数に限られ，酸素・ケイ素・アルミニウム・鉄・カルシウム・ナトリウム・カリウム・マグネシウムが全体の98%を占めており，さらに，水素・チタン・塩素を加えれば，この11元素の占める量は99.5%になる。この値は全地球の組成に比べるとマグネシウム・ニッケル・鉄などが少なく，ケイ素・アルミニウム・ナトリウム・カリウムが多い。ときに特殊な元素が集まってその鉱床をつくることもあるが，全体としての含有量はきわめて少ないということができる。→地球〔平山　健〕

ちがく【地学】自然科学を物理・化学・

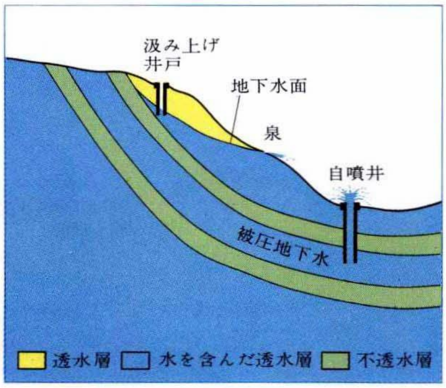
生物・地学の４部門に大別したものの一。この場合の地学は宇宙の現状と進化の過程とを明らかにすることを目的とする部門を総括したもので，天文学・地球物理学・地球化学・地質学（いずれも広義の）などの分野を含んでいる。このような意味で地学ということばが使われるようになったのは，第２次世界大戦後のことである。明治の初期から，第２次世界大戦までは，地学といえば地球を対象とした学問一般というほどの意味で，測地学・地球物理・地質学・地理学（人文も含めて）などの諸分野を含んでいた。そのような意味での地学は，現在も，たとえば東京地学協会などの名称として残っている。〔片山信夫〕

ちかくきんこう【地殻均衡】⇨アイソスタシー

ちかくしょうがい【知覚障害】中枢または末梢(まっしょう)神経の障害によって起こる知覚鈍麻や知覚異常。触覚・温痛覚での表在知覚・深部知覚の障害とに分けられる。多くの場合はすべての知覚が一様に冒されるが，ときに温痛覚のみが冒され，触覚や深部知覚が正常のことがある。これは解離性知覚障害とよび，脊髄空洞(せきずいくうどう)症の一つである。

ちかくしんけい【知覚神経】⇨神経

ちかくへんどう【地殻変動】地球内部に原因のある地質作用によって地殻(ちかく)に起こる変形運動。地殻は長い目でみると不安定であって，地質時代以来長期にわたっていろいろな形の変動を受けてそのようすを変えている。高い山頂に見いだされる海の貝の化石は，過去にその山頂の地域が海底にあって，土地の隆起によって現状を呈するようになったこと（造山運動のあったこと）を示し，褶曲(しゅうきょく)した地層や断層によって断ち切られた石炭層は，水平に堆積(たいせき)した地層がのちの時代の褶曲作用で曲げられたり，一続きの石炭層が断層作用を受けたことを示している。さらに，検潮器による平均海水面の変動の観測や水準点の変位の観測でも，陸地がゆるやかな上昇・沈降を行なうこと（造陸運動があったこと）が知られる。また，地震に伴って起こる断層は，地殻の一部が地塊に分かれて別々の運動（地塊運動）を行なうことを示している。このように，地殻の運動（変動）はある特定の長大な地域に急激に大きな変位量をもって起こる変動，すなわち造山運動と，広大な地域に，きわめて長い期間にわたってわずかな変位量をもって起こる造陸運動と，多くの地塊が別々に動く地塊運動の３種に大別することができる。このような３種の運動は，長い地質時代に起こったものであるが，現在でもこのような運動は続いていて決して終わったものではない。ただ，有史以来の期間が地質時代に比べてあまりにも短いために，大変動を直接経験することが少ないのである。地殻変動の起こる原因は複雑であって，地球内部から地殻上層部までの各部の運動に関係して起こるもの，その一部にのみ関係して起こるものなどがある。また，地質時代を通じて地球上に地殻変動が激しく起こった時期にはほぼ同時にいくつかの地域に地殻変動が起こっており，これは地殻変動の同時性といわれている。〔平山　健〕



地　下　水

ちかけい【地下茎】地中にある茎の変化したもので，葉は退化しており，根のように見えるが，葉や芽が出ることや維管束の構造・配列から，茎とみなされるものである。ハスのように地下茎しかないものもあるが，多くの植物では地下茎と地上茎の両方がある。デンプン・糖類・イヌリン・マンナンなどを大量にたくわえており，貯蔵器官となっていると同時に，栄養生殖器官でもある。冬は地上部が枯れて越冬休眠するのにも役だつ。地下茎には，茎がふくれて肉質塊状となり多数の芽がある塊茎（ジャガイモ），茎を取り巻いて多肉の葉がある鱗茎(りんけい)（ユリ），地中を横走してところどころから地上茎や根を出す根茎（タケ）などがある。

ちかごろかわらのたてひき【近頃河原達引】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。３段の世話物。通称《堀川(ほりかわ)》。一説に為川宗輔(そうすけ)・筒川半二・奈河(なかわ)七五三助らの合作，1785年（天明５）江戸肥前座初演とされているが，作者・成立年代・初演の詳細は不明。元禄(げんろく)年間に起こったお俊・伝兵衛(でんべえ)の心中事件を脚色したもので，下の巻の〈堀川〉の段は特に名高く，上演回数も多い。1807年（文化４）に歌舞伎(かぶき)化された。〔前田慎一〕

ちがさき【茅ヶ崎（市）】神奈川県中南部の市。人口16万9,000。江戸時代に東海道の間(あい)の宿であった十間坂・茶屋町と，明治以後の東海道本線の開通で開けた新町が合併し，1947年（昭和22）市制施行。市域は相模(さがみ)川河口東岸に近く，相模湾に面する湘南(しょうなん)砂丘から相模原台地末端にかけて広がる。産業三大別人口比は３:42:55。温和な気候に恵まれ，松林のある砂丘地帯は明治中期以降保養地・別荘地として開発が進み，最近は京浜地区への通勤者の住宅地区となっている。京浜工業地帯の延長線上にあり，鉄道沿線の北側には電気機器・陶器などの工場があり，相模川沿岸に工業団地の造成が進んでいる。周辺部は，園芸作物などの近郊農業が盛んである。東海道本線から相模線を分岐し，茅ヶ崎駅北方を国道１号線，海岸沿いを134号線が走る。東西に延びる約６kmの砂浜には遠浅の茅ヶ崎海水浴場があり，海上に烏帽子(えぼし)岩や平島が浮かぶ。江戸時代は大岡越前守(おおおかえちぜんのかみ)の所領で，その墓があり，また，明治の作家国木田独歩はここで死んだ。

ちかしげん【地下資源】地中に存在する有用物質の総称。これに含まれるものは広い意味の鉱物・岩石である。地下資源はその利用目的によって次の五つに大別される。①動力源となるもの：石炭・石油・ウラニウムなど。②金属材料となるもの：鉄・銅など。③工業原料となるもの：石灰岩（セメント原料）・ケイ石（セキエイ）（ガラス原料）。④土木・建築材料となるもの：岩石類。⑤工芸原料となるもの：ダイヤモンドその他宝石類。〔今井秀喜〕

ちかすい【地下水】地表面下の土壌(どじょう)・地層・岩石などの空隙(くうげき)を満たしている水をいうが，一般に地表下にある重力水を意味することが多い。これは，人が利用しうる地下水はこの重力水にほとんど限られ，他は量的にも少なく，利用の対象にならないためである。重力水は地中にしみこんだ水が下降して水を通しにくい岩盤に達したとき，それ以下の岩石にはほとんどしみこまず，重力によって岩石の面の低い方へ流れる水（地下流水，水脈）であり，井戸や泉にみられる水である。重力水以外で地中にある水には，土壌の分子に吸着されている吸着水，吸着水の上にさらに皮膜状に付着する付着水があり，また重力水の上縁の地層や岩石中の細かい空隙を満たす毛管水がある。これらは重力水に比べてきわめて少量で，流れることはなく，つねにほぼ一定の量で地中に保有されている。

地下水は雨雪がその源であるから降水量の多少で量が変化し，これに伴って地下水位は上下する。この表面を地下水面という。地下水面は井戸を掘れば現われるが，地中では毛管水があるため不明瞭(ふめいりょう)であることが多い。このように，重力水が上部に不透水層をもたず，昇降の自由な水面をもつとき，自由地下水・不圧地下水などとよばれる。重力水の流れは地下の表層をつくっている泥(どろ)・砂・礫(れき)などの空隙を流れるので，地表の河川とは違って，表層の性質によって流量・流速に変化があり，地下水として利用しうる量も限られている。自由地下水の水位はほぼ地表の高低に沿っており，地下水位が地表に近づけば湿地となり，地表に現われれば湖沼・河川となる。水位は，渇水期には著しく下降するが，海

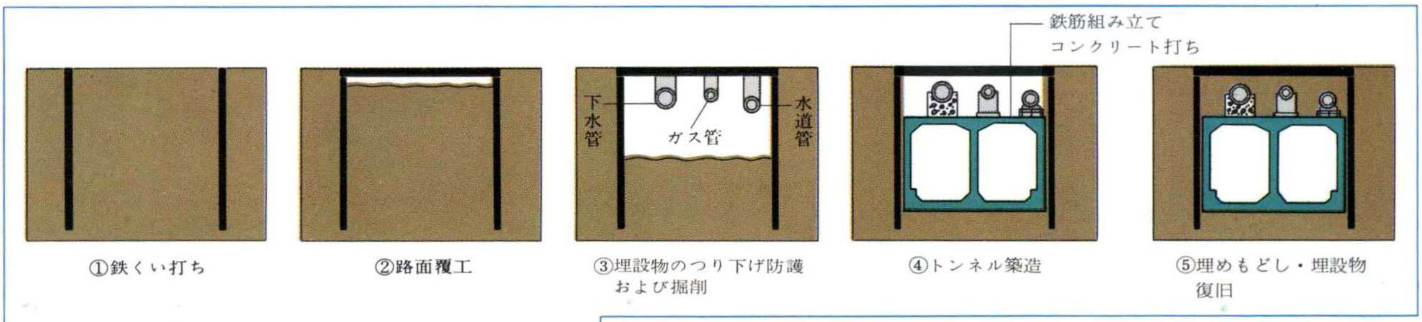
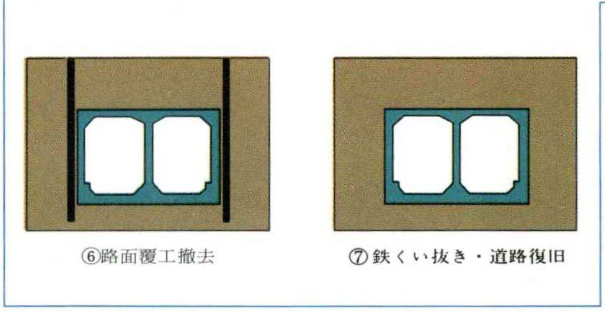



図-1　開削工法の順序

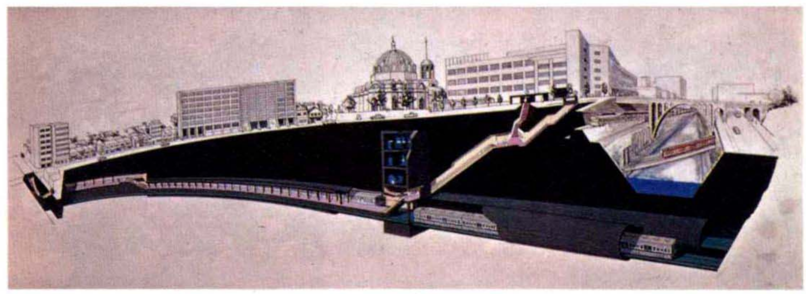


図-2　千代田線新御茶ノ水駅

地下鉄道

水面に近い地域では地表下2～3mであり，高地に向かうにつれて地下深くなるのが普通である。水温は地下水位が違えばそれにつれて異なり，地下5m以下では地温と同様に季節による変化が少なく，夏冬の差は2～5℃である。

粘土層のような2枚の不透水層の間に砂層のような透水層がはさまれていて，これが傾斜している場合には，透水層に含まれた水(水で飽和した透水層を帯水層という)は，それぞれの部分で上に重なる地層の重さや水そのものの重さで圧力を受けており，被圧地下水といわれる。被圧地下水は帯水層の最高部では地下水面をもっているが，他の部分ではもたず，上の不透水層を貫いて帯水層にはいる井戸(掘り抜き井戸)を掘れば，被圧された水が湧出(ゆうしゅつ)する。井戸によらず，自然に地表に湧出しているときは自噴井という。数多くの帯水層が不透水層と互層して帯水層群をつくる場合もある。地下水は連続して，ある範囲に分布する帯水層の中に含まれるのが普通であるが，自由地下水・被圧地下水の場合ともに，主体の帯水層と離れて局部的に凹(おう)レンズ状に水の飽和部が存在することがある。これを宙水という。

地下水の利用は，大部分が被圧地下水をくみあげて行なわれ，ことに大規模なものは深井戸によって深層の被圧地下水まで利用する。地下水の水質は，地下の濾過(ろか)作用・浄化作用で非常に清浄にされている。化学的には通過する岩層をとかして石灰分・鉄分などを含むこともあり，海岸近くでは塩分を含むこともある。地下水は人間の生活に重要な関係をもち，その取り扱いは種種の問題を含むので，民法によって保護規定されている。〔平山　健〕

ちかすいめん【地下水面】⇨地下水

ちかぞうおんりつ【地下増温率】季節によって温度が変化するのは，地下せいぜい10～30mまでで，それより深い所では，年じゅう一定の温度である。しかも，深さが増すにつれて温度はしだいに高くなる。その割合を地下増温率，または地下温度勾配(こうばい)，略して地温勾配などという。地下10kmぐらいまでの範囲では，平均して1kmにつき30℃くらいであるが，それより深くなると地下増温率はしだいに減少すると推定される。また，地域による差もかなりあって，たとえば東京付近では1kmにつき22℃ぐらいであるが，新潟県の西山油田などでは1kmにつき40～50℃に達する。また，地*熱地帯や温泉地帯では，地下増温率が異常を呈する。〔片山信夫〕

ちかてつどう【地下鉄道】都市およびその周辺で，地下トンネルを主体として営業する都市高速鉄道。

【特徴】長所としては，①路面交通を阻害せずに安全・正確・迅速に運転できる，②郊外から都心へ，または都市内で大量輸送できる，③都市美をそこなわず，沿道への騒音も少ない，などの点がある。短所としては，①建設費が高く，工事規模・工期が大である，②他の鉄道に比べて景観・音響・温湿度などの面で乗りごこちが劣る，③行き先や駅出入り口などで方向を錯覚しやすい，などの点がある。

【沿革】世界最初の地下鉄は1863年にロンドン市の中心部に誕生した。すでに高架鉄道があったが，市の中心部は道路事情が悪いために高架鉄道の新設が困難で，チューブとよばれる6kmの地下鉄が建設された。開通当時は蒸気運転であったが，1890年電気運転に変わった。その後ウィーン(1898)・パリ(1900)・ベルリン(1902)・ニューヨー

世界の地下鉄道

都　　市	開通年次	路線延長	車両数	運賃制度	1日平均輸送人員
ニューヨーク(アメリカ)	1904年	407.4km	7,822	均　一	3,689千人
ロンドン(イギリス)	1863	382	4,496	区間制	1,844
パ　リ(フランス)	1900	231.9	3,585	均一(一部区間制)	3,350
シカゴ(アメリカ)	1892	142	1,290	均　一	411
モスクワ(ソビエト)	1935	140.2	1,700	均　一	4,115
東　京(日本)	1927	136.2	1,550	区間制	4,018
サンフランシスコ(アメリカ)	(1971)	121	450	区間制	—
ベルリン(東西ドイツ)	1902	104.6	1,084	均　一	852
ハンブルグ(西ドイツ)	1912	88.5	819	区間制	517
大　阪(日本)	1933	64.2	629	区間制	1,814
名古屋(日本)	1957	27.8	231	区間制	472
札　幌(日本)	1971	12	52	区間制	—
神　戸(日本)	1968	7.6	—	区間制	222

注）日本を除いて延長70km以上，地上・地下部分の合計　《1971年版U.I.T.P.より，日本は一部修正》



地下鉄道 ①運輸指令所にある列車運行状況表示装置 ②丸の内線(第3軌条を使用) ③札幌のゴムタイヤ電車 ④モスクワの電車(地上部分)







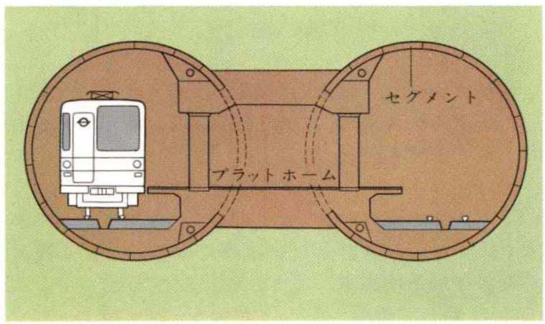


図-3 めがね形シールド駅の断面



近松門左衛門

ク(1904)と大都市に次々につくられ，現在では約50に近い都市に地下鉄がある。

日本では東京の上野～浅草間2.2 kmが1927年(昭和2)に開通したのが最初で，次いで1933年大阪で梅田～心斎橋間3.2kmが開通した。その後1957年に名古屋(名古屋駅前～栄町間2.4km)，1968年神戸(こうべ)，1971年に札幌(さっぽろ)で誕生し，横浜でも近く開通する予定である。このほか，郊外鉄道が都市内で地下鉄形式をとって都心へ乗り入れるものがあり，新京阪(けいはん)・京阪・名鉄・近鉄・京成・京浜・京王などの各電鉄にその例がみられるが，1972年開通の国鉄新総武線両国～東京間と工事中の新東海道線東京～品川間もこの例である。

【建設工法】トンネルの工法としては，地上から掘り割り式に掘り下げてつくる開削工法(図-1)と地中を横穴式に掘り進むシールド工法*に二大別できる。開削工法は浅型トンネルに適し，ふつうトンネル形状を箱型にして，工事と内空利用断面の上で最も経済的に行なう。この工法に属する特殊工法にケーソン工法*・トレンチ工法(壁を先行して最後に床をつなぐ)・逆巻き工法(天井を先につくって掘り下がり，床をあとでつくる)などがある。シールド工法は深型トンネルに最適で，最近では新お茶の水駅(図-2)のように，二つの円形トンネルを互いにつなぎ合わせて駅部をもこの工法で築造する技術も開発されつつある。開削工法でもシールド工法でも，軟弱な悪地質とか地下水が激しくわき出る箇所が多いため，掘削には各種の補助工法が用いられる。その代表的なものに①地下水位低下工法，②薬液注入による地盤改良または止水，③生石灰くいによる軟弱地盤の改良，④地盤凍結工法などがある。

【設備と車両】①集電方式：従来はトンネル断面を縮小するために，第三軌条*方式が多かった。しかし郊外電車との直通運転が増すにつれて，架線からパンタグラフで集電する架空線式が多くなり，断線事故防止に帝都高速度交通営団では剛体架線を使っている。②信号保安：運転の安全を期するため，列車自動停止装置(ATS*)から列車自動制御装置(ATC*)になり，さらに列車自動運転装置*(ATO)に向かいつつある。③換気装置：従来はトンネルに70～100 m間隔で設けた通風口により，列車走行のピストン作用を利用した自然換気方式が多かったが，走行電車の増加による高温・高湿対策として，機械による強制換気方式が急増し，冷房化も進みつつある。④車両：特に火災防止に重点をおき，おもに不燃性の構体でつくられる。また最近開通した千代田線(東京)の6,000系電車はアルミ合金製で，直流1,500Vの回生ブレーキ付きサイリスター*・チョッパ制御装置(サイリスターを用い，主回路を断続することで電圧を変化させ，速度制御を行なう)を採用し，世界の注目を浴びている。これは発車・加速・減速時などにもほとんどショックがなく，回生ブレーキとの併用で電圧が大幅に節減され，きわめて経済的であるだけでなく，駅構内の温度上昇防止にも役だつ。また1971年に開通した札幌の地下鉄車両は，ゴムタイヤ車を採用している。〔渡辺　健〕

ちかまつしゅうこう【近松秋江】(1876～1944) 小説家。本名徳田浩司。岡山県生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。《読売新聞》の日曜付録に掲載した《文壇無駄話(むだばなし)》で批評家として認められたのち，《別れた妻に送る手紙》によって私小説*作家として出発。真情と情痴の世界を追求して独自の風格を成した。ほかに《黒髪》《子の愛のために》《二人の独(ひと)り者》などの作品がある。

ちかまつはんじ【近松半二】(1725～1783) 浄瑠璃(じょうるり)作者。大阪の儒者穂積以貫(これつら)の子。父の縁故で竹本座の竹田出雲*(いずも)の門にはいり，《役行者(えんのぎょうじゃ)大峯桜》(1751)以来竹本三郎兵衛(さぶろべえ)・三好松洛(みよししょうらく)らと約20編を合作，1762年の《奥州安達原*(あだちがはら)》で認められ立作者となり，30編余をつくった。合作による《本朝廿四孝*》《近江源氏先陣館(おうみげんじせんじんやかた)》《妹背山婦女庭訓*(いもせやまおんなていきん)》など，単独の《新版歌祭文》《伊賀越道中双六(いがごえどうちゅうすごろく)》などが代表作。構想の雄大，趣向の複雑，人物の性格や場面の対照的な均齊(きんせい)のとれた美しさなどが作品の特性である。〔前田慎一〕

ちかまつもんざえもん【近松門左衛門】(1653～1724) 浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)脚本作者。本名杉森信盛(すぎもりのぶもり)。平安堂・巣林子・不移山人などの別号がある。出生地には諸説があって明らかでないが，越前(えちぜん)藩士の次男に生まれた説が有力である。少年期に京都の公卿(くぎょう)一条恵観に仕えたが，恵観死後近江(おうみ)(滋賀県)の近松寺(ごんしょうじ)に学んだといわれる。1675年(延宝3)以後宇治加賀掾(うじかがのじょう)の

もとで浄瑠璃作者となって《世継曾我(よつぎそが)》などを書き，1686年(貞享3)に初世竹本義太夫*(ぎだゆう)のために《出世景清*(かげきよ)》を書いて，浄瑠璃界に新風を送った。一方，そのころから都万太夫座の道具方などをしつつ歌舞伎作者としての修業に励み，坂田藤十郎*のために《傾城(けいせい)仏の原》をはじめとする多くの作品を書きおろしたが，元禄(げんろく)の初め再び浄瑠璃に転じ，《曾根崎(そねざき)心中*》《用明天皇職人鑑(しょくにんかがみ)》などを発表，竹本座*の座付作者となり《冥途(めいど)の飛脚*》《国性爺合戦*(こくせんやかっせん)》《心中天網島*(てんのあみじま)》などの傑作を次々と執筆したが，《関八州繋馬(かんはっしゅうつなぎうま)》を絶筆として没した。〈作者の氏神〉〈人中の龍(じんちゅうのりゅう)〉とあがめられ義理と人情との葛藤(かっとう)から〈愁(うれ)い〉のにじみ出る名作を残した大作者で，近松半二の父である友人の儒者穂積以貫(これつら)の《難波土産(なにわみやげ)》には，彼の名高い芸術観〈虚実皮膜論〉がしるされている。〔前田慎一〕

ちかめきんとき【近眼金時】 硬骨魚類・キントキダイ科。全長30cm以上に達する海産魚。南アフリカからオーストラリア，太平洋の熱帯部，日本，朝鮮南部に広く分布する。わが国では太平洋沿岸は駿河(するが)湾，日本海沿岸は新潟まで知られている。体は楕円(だえん)形で側扁(そくへん)し，赤茶色。腹びれは黒色。口裂は垂直に近く，大きく，目も大きい。わが国では産額が少ないので食用価値は低いが，肉は美味で惣菜(そうざい)用に向く。〔安田富士郎〕

ちがや【千茅】 単子葉植物・イネ科。東アジア温帯地方に広く分布する多年草で，原野や川岸に群生する。根茎は白色で，長く地をはう。葉は根生し，長さ20〜50cmほどの線形で，硬質である。春，葉に先だって花茎を出し，30〜80cmに伸びる。花穂(ツバナといわれる)は10cm内外の円柱状で，総包と二つの包穎(ほうえい)上に白色の長い絹毛があり，芒(のげ)はない。長白毛の間にかっ色の葯(やく)と黒紫色の柱頭が混在して目だつ。成葉は刈り取って，むしろ，なわにされる。根茎は茅根(ぼうこん)といい，利尿・止血の効があり，漢方生薬や家庭薬原料などに用いられる。ツバナはわずかに甘味があり，子どもたちがしゃぶったりする。花穂の長白毛は集めて詰め物にし，古くは火口(ほくち)にした。なお，チガヤには茎の節に白毛があるが，白毛のないものはケナシチガヤといわれる。〔横井朝子〕

ちから【力】 物体に加速度*を与えたり変形を起こさせたりする原因となるもの。経験によると力は一種のベクトル*量で，その効果は大きさだけでなく作用する方向・向きによって異なり，またあとに述べる平行四辺形の法則によって合成・分解することができる。力を表示するには，その力の大きさに比例する長さをもち，その力と同じ方向と向きをもつ矢印を用いる。文章や式の中では一般にベクトルを表示する方法にしたがう習慣である。また適当に座標を選んで，力を表わす矢印の座標軸上への射影を考え，これらを力の成分という。成分によって力を表示するのが便利な場合もある。

一つの質点*に二つの力 F_1，F_2 が作用する場合の力の効果は，図-1に示すように F_1，F_2 を現わす矢印 $\overrightarrow{OA}$，$\overrightarrow{OB}$ を相となる2辺とする平行四辺形OACBの対角線にあたる矢印 $\overrightarrow{OC}$ で現わされる一つの力 F の効果と等しい。これを力の合成に関する平行四辺形の法則という。また F を F_1 と F_2 の合力という。二つ以上の力が作用する場合にも，この法則をくり返し適用することによって全部の力を合成して一つの合力にまとめることができる。一つの質点に作用している二つ以上の力の合力が0となる場合，これらの力はつり合っているという。また平行四辺形の法則を用いて一つの力を二つあるいはそれ以上の力に分解することができる。たとえば図-1で F は F_1 と F_2 とに分解される。F_1，F_2 を F の分力という。なお分解のしかたはひとともりとはかぎらない。力の効果に関しては経験的に次の法則が知られている。力と物体の運動との間には，〈ニュートンの運動の法則〉がなりたつ(→運動)。また弾性による物体の変形に関しては，〈フックの法則〉が知られている(→弾性)。この法則は力の大きさを測定する手段として利用されている。

力の大きさの絶対単位としてはニュートン(N)またはダイン(dyn)が用いられる。質量1kgの物体に1m/秒・秒の加速度を生ぜしめる力の大きさを1Nと定義し，また質量1gの物体に1cm/秒・秒の加速度を生ぜしめる力を1dynと定義する。このほか質量1kgあるいは1gの物体に作用する重力*の大きさを1kg重あるいは1g重とよんで力の大きさの単位とし，これを重力単位という。ただし重力加速度*が場所によって変化するから，これは絶対単位ではない。

大きさのある物体に力が作用すると，一般に並進運動と回転*が起こるが，回転のようすは力が物体上のどの点に作用するかによって異なるので(図-2)，力が物体に作用する点を示す必要がある。この点を力の作用点といい，作用点を通って力と同じ方向をもつ直線を力の作用線という。作用線の上では作用点を移しても力の効果は変わらない。また任意に選んだ1点Oに対する作用点の位置を示す位置ベクトル r と力 F とのベクトル積 r × F を点Oに関する力 F のモーメント*とよぶ。物体の回転運動は力のモーメントによって支配される。

自然界にはいろいろな力が存在する。たとえば質量をもつ物体の間に作用する万有引力*，静電荷をおびた物体の間に作用するクーロン力*，電磁場の中を運動する電子に作用するローレンツ力などがある。また原子*や分子*の間に働く力，原子核*を形成する陽子*や中性子*の間に働く核力，その他素粒子*の間に作用する力のように量子力学に基づいて説明されるようなものもある。重力*は万有引力の現われであり，電動機，蒸気機関，内燃機関，生物の筋肉の働きなどによって作用する力も結局は上記の各種の力によって生じるものである。なお加速度をもって運動している系で物体の運動を取り扱う場合には慣性力*が現われるが，これは系の加速度によって変化する見かけの力である。〔有山正孝〕

ちからいし【力石】 昔，若者組のものたちが，神社の境内や辻(つじ)においてあ

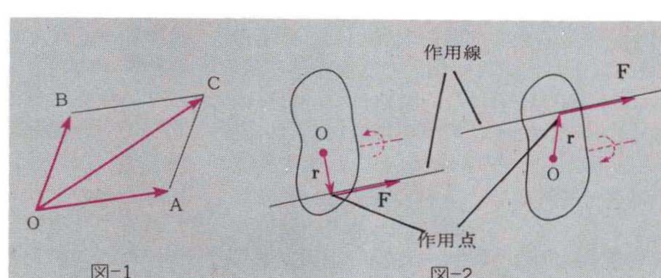


チカメキントキ



チガヤ

力



る自然石を持ち上げて，その力をためしたり，力くらべをしたりした石。その石に腰をおろして力を得たといわれるいわくつきの石もあり，大きな力石になると，それを持ち上げたものの名を刻んだものもある。力石は単に力くらべのみならず，病人の回復を占う石占いなどにも使われた。また，弁慶・為朝(ためとも)・清正(きよまさ)など英雄の伝説と結びついているものもある。〔渡辺欣雄〕

ちからしば【力芝】 単子葉植物・イネ科。日あたりのよい原野や土手に自生する多年草で，日本・中国に分布する。ひげ根が発達して抜けにくいのでこの名がある。茎は多数群生し，長さ50～70cmの円柱状。葉は線形で硬質。8～9月ごろ，30～70cmのかたい花茎を伸ばし，先に長さ10～15cmの円柱状で黒紫色の花穂を直立させる。小穂は多数密生し，長さ2～3cmの帯紫色の長剛毛がある。熱帯にはトウジンビエ・エレファントグラスなど多くの近似種がある。〔横井朝子〕



チカラシバ

チカロフ ⇨オレンブルク

ちかん【置換】 n個のものの順列を，他の順列に置き換えること。3個の文字a, b, cの並べ方abc, bca, acbなどを，この3文字の順列というが，これははじめにabcと並んでいたのを，aのところになに，bのところになにというように置き換えたものとみられる。たとえば，$a \to b$, $b \to c$, $c \to a$を，ふつう$\begin{pmatrix} abc \\ bca \end{pmatrix}$のように表わす。このように，集合$M$の上で定義された$M$の上への1対1の対応を，$M$の上の置換という。特別な場合として，どの要素も自分自身に対応させると要素はまったく動かないが，これも置換であって，恒等置換とよばれる。置換の組み合わせも置換となるが，これを置換の合成という。一つの集合Mの上の置換の全体は，その合成によって群となる。これをMの上の置換群といい，群の代表的な例とされる(→群)。〔小西勇雄〕

ちかん【置換】 一般にはある物質の存在すべき位置にほかの物質を置き換えることを意味し，有機化学では，有機化合物中にある原子または原子団を他の原子または原子団で置き換えることをいう。脂肪族化合物における求核置換反応(S_N)と芳香族化合物における求電子置換(S_E)がよく知られている。S_Nは試薬が分子の陽性部分に攻撃していって置換反応を起こす場合で，S_Eは試薬が分子の陰性部分を攻撃していく場合である。またラジカルによる置換反応(S_0)もある。S_N反応の場合，脱離していく基(置換基)と導入される基が協調的に同時に脱離し，導入される場合(S_{N2})と，まず脱離が起こってから導入される場合(S_{N1})とがある。〔石渡良治・荒木洋之助〕

ちぎ【智顗】(538～597) 中国，南北朝時代から隋(ずい)代初期の僧。天台宗の開祖であるが，慧文*(えもん)・慧思*の相承からは第3祖とされる。荊州(けいしゅう)華容県(湖南省岳州府)の人。字(あざな)は徳安，俗姓は陳氏。天台大師・智者大師とよばれ，〈中国の釈迦(しゃか)〉ともいわれた。18歳で出家し，560年光州大蘇山におもむき慧思について禅観を修し，《法華経*(ほけきょう)》の真髄を受けた。のち金陵(南京(ナンキン))の瓦官寺(がかんじ)で教化活動にはいり盛名をはせたが，みずから深く思うところあって天台山に隠棲(いんせい)した。のち金陵や荊州玉泉寺で，隋の文帝やその子晋王広(しんおうこう)(のちの煬帝(ようだい))に戒を授け，講義をし，天台山にて没した。彼の思想は当時重要視されていた《法華経》を中心とし，五時八教*(ごじはっきょう)では《法華経》の最高なることを示し，一念三千*の教理によって止観*を基礎づけ，四種三昧(ざんまい)によって実践門を示し，理論と実践を教観二門にまとめた。その講義は灌頂*(かんじょう)によって筆録され，《法華玄義(ほっけげんぎ)》《法華文句》《摩訶止観(まかしかん)》その他多くの著書として残る。〔京戸慈光〕



智　顗　《絹本著色聖徳太子及天台高僧画像》(10幅)より　平安後期　国宝　一乗寺蔵

ちきゅう【地球】 ⇨302ページ

ちきゅうかがく【地球化学】 広義には，化学的な立場で地球を研究する学問をさし，鉱物学・岩石学・鉱床学などもこれに含まれる。最も広義の場合には，宇宙化学も含む。中心の課題は，地球の構成物の化学組成を明らかにし，元素または同位体の分布状態とその挙動を究明することである。したがって比較対照のために，太陽や隕石(いんせき)などの研究が必要になる。狭義には，特に微量元素の分布や挙動を中心課題として地球を研究する分野をさす。日本では従来狭義のものをさしていたが，最近では必ずしもそうでなくなった。

今世紀前半の地球化学は，地球の化学組成を明らかにするための資料の蓄積や分析技術の開拓が主流であり，F.W.クラーク*やV.M.ゴールドシュミットらによりその総括が行なわれた。その後，質量分析計の発達に伴って同位体地球化学が発達し，また有機物の微量分析法の発達に伴って有機地球化学の分野も発展した。〔片山信夫〕

ちきゅうがたわくせい【地球型惑星】 地球に似た性質をもつ惑星で，水星・金星・地球・火星の総称。地球以外の3惑星は質量・半径は地球より小さく，平均密度は4～5g/cm³で地球と同じ程度。自転周期は1日以上で比較的ゆっくりしている。したがって，扁平率(へんぺいりつ)が小さく，形は球に近い。表面重力が小さいので，木星型惑星*に比べると大気が少なく，そのおもな成分は酸素・炭酸ガス・窒素・水蒸気などである。地球型惑星の組成は，太陽や宇宙における元素の存在比と非常に異なっているが，これは太陽までの距離が近く表面温度が高いこと，表面重力が小さいため脱出速度も小さく，原始惑星から軽い元素が逃げ去ったためと考えられている。木星型惑星に比べると衛星の数が少なく，地球が1個，火星が2個もっているだけである。〔磯部琇三〕

ちきゅうぎ【地球儀】 球体をなす地球表面の状態をそのまま縮小して球面に表わしたもの。地図*は球面を平面に投影したものであるから，どんな投影法でもゆがみができるが，地球儀は地球表面の位置・距離・形・面積などにまったくひずみがなく，これらの諸関係を正しく示している。地球儀には，水平環と子午環とよばれる球体の回りを囲んだ輪が二つとりつけてあり，二つの輪は自由に位置できるように動かすことができるので，2点間の距離や方角が計測できる。また地球儀によって，太陽の高度や昼夜の長さなども測定することができる。〔小栗　宏〕

ちきゅうざ【地球座】

1 1599年バーベージ兄弟によってロンドン郊外に建てられた劇場。1576年に父ジェームス-バーベージが建設したロンドン最古の劇場〈シアター座〉を移したもの。地球座開場後に書かれたシェークスピア*の作品は，ほとんどここで初演された。

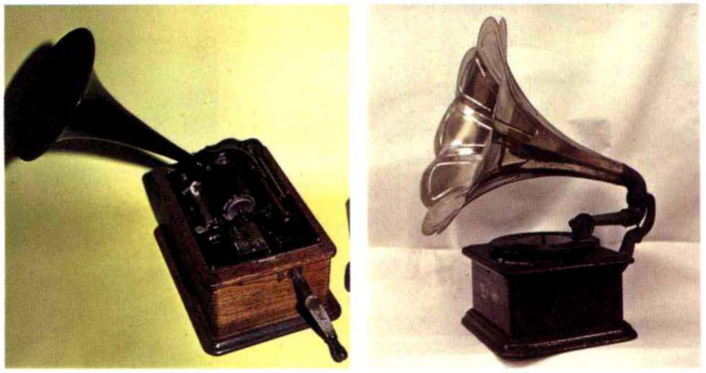
2 1927年(昭和2)加藤長治を中心に，早稲田大学関係の人々により結成された劇団。主として《十二夜*》《じゃじゃ馬馴(な)らし》などシェークスピアの作品とイギリスの近代劇を上演，俳優には高須(たかす)健児(のちの三津田健)らがいたが，短期間の活動で終わった。〔西尾邦夫〕

ちきゅうたいきかいはつけいかく【地球大気開発計画】 Global Atmospheric

Research Programme　略称GARP。1961～1962年の第16回・第17回の国連総会は，WMO(世界気象機関)に対して天気予報改善の方策を研究するよう要請し，またICSU(国際学術連合)に属する各連合，各国のアカデミーを通してWMOを支援する研究計画を推進するよう呼びかけた。一方ICSUは1964年にIUGG(国際測地学地球物理学連合)内にCAS(大気科学委員会)を発足させ，大気科学の研究計画に着手した。このCASが中心になってまとめたのが地球大気開発計画であり，1967年WMO第5回総会で承認され，その結果，WMOとICSUとが連合して，GARP組織委員会(JOC)が作られ，この計画が推進されている。

地球大気開発計画は広く大気科学の発展を目指すものであるが，直接的には大気大循環の機構を明らかにして，数値予報法による長期天気予報の発展をめざすものである。したがって，数値予報精度を改善するための理論的問題を，必要な観測実験を行なうことによって解決し，現在の全地球的な観測網を補強し，改善して，長期天気予報法を確立する研究を進めるものである。具体的には1975年ごろに第1次GARP全地球観測年を設定し，地上・上層観測網・人工衛星による観測や，特殊な衛星・気球による観測を行なおうとしている。これに先だって大気大循環に重要な役割を果たす熱帯擾乱(じょうらん)の観測計画が，大西洋の熱帯域で国際的な協同のもとに実施されようとしている。また，わが国でも地球大気開発計画の一環として，各大学・研究所が協同し，南西諸島海域で大陸東方洋上での気団変質の観測実験を行なおうとしている。地球大気開発計画は今後，長年にわたって実施され，天気予報の改善に寄与しようとするものである。〔曲田光夫〕

ちきゅうだえんたい【地球楕円体】　世界各地の子午線測量の結果に，なるべくよく合うように定められた楕円体。17世紀に三角測量*の方法が開発されて以来，地球上のいろいろな地点間の長さが正確にはかれるようになった。その結果，赤道に沿って経線が1°離れた2地点間の距離は，どこでもほとんど同じであるが，同じ経線上で緯度が1°離れた2地点間の距離は，赤道から極に近づくにつれて長くなることがわかってきた。すなわち，地球は扁平(へんぺい)な楕円体の形をしている。しかし，地球の形について詳しい議論を進めるようになると，陸と海，山のでこぼこまで問題にしていたのでは不便である。そこで，地球の形の第一近似として，実測に基づいてきめた地球の大きさや形に最も近い回転楕円体を考えるようになった。現在一般に採用されている値は，赤道半径6,378.388km，極半径6,356.912km，扁平度1/297である。最近の人工衛星の軌道の研究によると，地球の真の形は地球楕円体に比べて北極で10m程度とがり，南極で10mほどへこんでいて，扁平率は1/298.3である。〔堀福太郎〕



蓄音機　①ろう管式蓄音機　②ニッチク(日本蓄音器)製グラフォフォン

ちきゅうぶつりがく【地球物理学】　地球およびその周辺で起こる物理現象や，地球の形・構造などを研究する分野。広義には，海洋物理学・気象学・超高層大気物理学など，いわゆる柔らかい部分，すなわち水圏*や気圏*を対象とする分野をも含める。さらに最も広義では，惑星物理学・太陽物理学などまでも含めることがある。狭義には，いわゆるかたい部分，すなわち地球の本体を対象とする分野に限っている。この中には，測地学・地球力学・地震学などが含まれ，また地球電磁気学・火山学・地球年代学なども部分的に含まれる。地球物理学の歴史は古いが，多くのデータの蓄積を必要とするので，今後に残された発展の余地は大きい。いくつかのモデルを想定して，それに基づいて複雑な計算をした結果と，実際の観察結果とを照合する作業がおもなので，コンピューターの発達が大きく貢献している。〔片山信夫〕

ちきゅうロケット【地球ロケット】　1962年3月，当時のソ連首相フルシチョフが発表した対ミサイル-ミサイルでは撃墜不可能といわれるロケット兵器。目標や針路を変更することが可能である。人工衛星と同じ軌道で地球を回り，所定の目標に命中させることができるといわれているが，まだ確認されていない。

ちきょう【地峡】　大陸と大陸，および大陸と半島をつなぐくびれた狭い陸地。世界の主要地峡には北アメリカ大陸と南アメリカ大陸をつなぐパナマ地峡，ユーラシア大陸とアフリカ大陸をつなぐスエズ地峡，ギリシア主要部とペロポネソス半島をつなぐコリント地峡，インドシナ半島とマライ半島をつなぐクラ地峡などがあり，軍事上・交通上の重要な地点となっている。

地球楕円体

地球楕円体名	赤道半径 (a) (km)	極半径 (b) (km)	扁平率($\frac{a-b}{b}$)
ベッセルの楕円体 (1841)	6 377.397	6 356.079	1/299.15
ヘイフォードの楕円体 (1924)	6 378.388	6 356.909	1/296.96
国際地球楕円体 (1964)	6 378.160	6 356.775	1/298.25

ちぎょうこく【知行国】　律令(りつりょう)制における国司*(地方官)制度の一形態。起源は10世紀末ごろ上皇・女院に与えられた院宮分国制にあるといわれている。一国の知行権を個人・寺社に与える制度で，知行権を与えられたものを知行国主あるいは知行主といい，その国を知行国という。またそのうちで寺社に与えられたものは特に造寺国ともいう。知行主は少なくとも国守と同等の収益権をもち，みずからの近親・近臣のうちから国守を任じ，目代*を派遣してみずから国務を執行した。知行主に収益権・国務執行権があるところに知行国の重要な経済的・政治的意義が認められる。室町末期に消滅した。〔飯田悠紀子〕

チーク［teak］　双子葉植物・クマツヅラ科。インド・マレーシアなどに分布する落葉高木で，高さ30m，直径3mに達する。葉は大形の倒卵形で長さ60cm内外，全縁で裏面に白毛が密生する。花は小さな白色の筒状花で，枝の先に多数集まって穂状をなし，一種の芳香がある。材は完全にかわかないかぎり，水に沈んでしまうほど重い。また非常にかたく，耐久力があるので，船材・建材・家具材として用いられている。

ちくおんき【蓄音機】　音声・音楽その他の音波を記録した物体から音を再生する装置。音の再生法には，音に対応する横ぶれをもつみぞにあてた針の振動を振動板に伝える方法と，針の振動を電磁石または結晶片などに伝えて電気的な形に変え，増幅器を経て音を再生する方法(電気蓄音機)とがある。

蓄音機は，1877年にエジソンが発明したものであるが，その方式は現今のものとは異なり，音圧を開口面積が大きく断面積が漸次小さくなるホーン(ラッパ)で集めて振動板を振動させ，振動板に固定した針の先端で振動板の運動を回転する銅製の円筒に巻いたスズ箔(はく)の表面に深さの変化として刻み込むものであった。これを再生する

→305ページ

地　　球

〔惑星としての地球〕 地球は太陽系に属する惑星の一つで，太陽に近いほうから数えて3番めの惑星である。

〈地球の公転と自転〉 地球も他の惑星と同じように，自転しながら太陽の回りを公転している。自転の周期は1恒星日すなわち23時56分4秒で，公転の周期は1恒星年すなわち365.256360日である。地球の自転軸は公転軌道面に垂直な方向から約23.5°傾いている。そして，地球が近日点の付近を通るとき，北極が太陽と反対の方向に傾いている(図-1)。この傾きがあるために，地球には1年を周期とする春夏秋冬の季節の変化がある。現在では，ちょうど冬至に近いころに地球は近日点を通過している。地球上に立っているわれわれには，地球の自転のために，天球が自転とは逆の方向に日周運動をしているように見える。また，公転のために，太陽の天球上の位置が黄道に沿って西から東へ1年がかりで1周するように見える。

〈地球の形と大きさ〉 月に飛んだ宇宙飛行士が撮影してきた写真でもわかるように，地球は球に近いまるい形をしている。しかし，現実の地表面は山あり谷ありで複雑なので，精密に地球の形を論じることは容易でない。海洋の部分は，平均海水面をとればなめらかな形になるので，陸地の内部まで平均海水面の延長を考え，それで地球全体を包んだものをジオイドとよび，これを地球の形を論じる基本形としている。ジオイドは球に近い楕円体(だえんたい)とみなすことができる。ジオイドに最も近い楕円体を地球楕円体とよんでいるが，その赤道断面はほとんど円に近く，子午面での断面は南北にやや扁平(へんぺい)な楕円である。地表での三角測量から地球楕円体の赤道や子午線に沿う周の長さを求め，それから半径を計算した結果は，赤道半径6,378.388km，極半径6,356.912kmである。これは1924年の万国測地学協議会の決議に基づく値であるが，細かい数値については問題が残されている。

〈地球の質量と平均密度〉 地球上の物体は，すべて鉛直線に沿う方向の力で地球に引きつけられている。この力が重力である。重力によって生じる加速度 g の値は，それぞれの場所によって少しずつ異なるが，振り子の周期を測定することによって求められる。地球の自転に必要なその場所での求心力と重力とを合成したものは，地球との間の万有引力になるはずで(図-2)，単位質量の物体についての地球の万有引力の値はどこで求めても一定になるはずである。単位質量の物体との間の万有引力は，ニュートンの法則によって GM/r^2 で表わされる。



アポロ8号が撮影した地球の姿。左下方にアンデス山脈が，右上方にアフリカ大陸西岸が見える

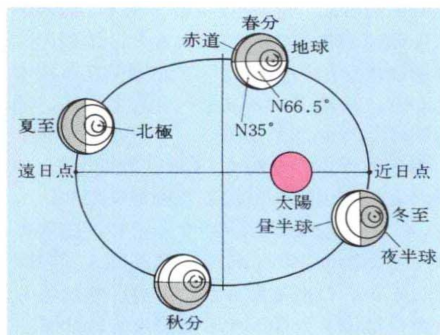


図-1　地球の公転と自転

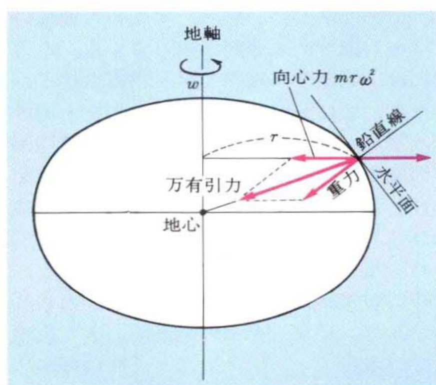


図-2　地球の重力　地球楕円体の扁平度を誇張して描いてある

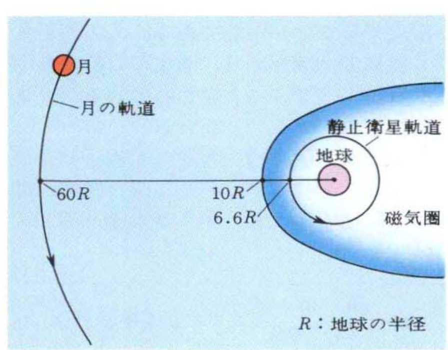


図-3　人工衛星の軌道と磁気圏

G は万有引力の定数，r は地球のその場所での半径で，ともに既知であるから，M すなわち地球の質量が求められる。その値は 5.975×10^{27} g である。地球の形と大きさから容積を求めると，1.083×10^{27} cm³ となり，したがって平均密度は5.52g/cm³ となる。これは惑星の中で最も大きな値である。

〈地球の衛星〉 地球の衛星はただ一つ月があるだけである。他の惑星とその衛星の質量の比に比べると，月の質量は地球の約$\frac{1}{80}$で異常に大きいため，地球に対する月の影響を無視することはできない。地球と月の重心の位置は，地球の中心からその半径の約$\frac{3}{4}$だけずれている。したがって，他の惑星から地球と月をながめると，この重心の回りを地球も月の動きに伴って回っているはずで，ちょうど連星のように見えるであろう。最近では，月のほかにたくさんの人工衛星が地球の回りを回っている。これらの衛星は，みな地球の万有引力を向心力として公転運動を行なっているのであるから，月を含めて，これらの衛星が飛び回っている範囲は，地球の万有引力の勢力圏ということができる。この勢力圏の中でも，公転速度が脱出速度に達するものがあると，その軌道は放物線となり，越えるものは双曲線となって，ともに無限の遠方，すなわち地球の勢力圏外に逃げ去ってしまう。地球の表面での脱出速度は11.2km/秒であるが，距離が大きくなるにつれて小さくなり，月の軌道のあたりで月の公転速度1.02km/秒よりわずかに大きいだけである。

〈地球の磁気圏〉 地磁気の影響力がはっきり認められる範囲すなわち地球の磁気圏は，万有引力の場合よりもかなり小さいが，それでもその外縁は昼の側で地球の半径の約10倍の上空にまで達している。そして，夜の側ではそれよりずっと遠くまで尾を引いている(図-3)。太陽からはつねに陽子と電子を主とするプラズマが吹き出され，地球軌道のあたりで秒速300～1,000kmに達している。これを太陽風とよんでいる。太陽風の粒子は高速であるため地球の万有引力の影響はほとんど受けないが，荷電粒子であるため地磁気と相互作用を起こし，磁気圏の外縁付近で非常に乱れた運動になる。そして，その一部は地磁気のとりこになって，地球の回りをぐるぐる回るようになる。このような運動をしている陽子や電子の密度が特に高い部分がバン-アレン帯である。バン-アレン帯は，低緯度地方の上空2,000～20,000kmのところを，ドーナツ状に取り巻いている。

〔地球の表層〕 地球の表層を構成している物質や，そこで起こっている現象を他の惑星と比較してみると，地球がきわめて特殊な惑星であることが明らかである。

〈気圏・水圏および生物圏〉 地球の外側は

大気でおおわれており，その部分を気圏*という。気圏のうち高さ約100kmよりも上空にある上層大気は，太陽風などで送り込まれる陽子の一部が速度を失って中性の水素となったものなどと，空気がかなり電離したものと混じり合った中間帯である。高さ約50kmから下の成層圏*と対流圏*とは，空気*で構成されている。空気中の遊離酸素が容積比で21％にも達することは地球大気の最大の特徴で，他の惑星では存在したとしてもきわめて微量でしかない。これは地球に生物圏が存在すること，特に植物の光合成*に基づく特徴である。水圏*の主体は海洋で代表される。実際の海洋は地球の全面をおおっていないが，地表面と海底とのでこぼこを全部平らにならしてしまうと，深さ2,440ｍの海洋で全地球がおおわれることになる。このような水圏の存在は，また地球の大きな特徴の一つであって，他の惑星には見られないものである。生物圏は，気圏や水圏のように連続的なものではないから，これを同等な区分単位として扱うことには問題がある。しかし，生物の存在が地球にとっての大きな特徴であることに変わりはない。しかも生物を仲介として，気圏や水圏ではきわめて活発な物質の移動が行なわれている。たとえば，気圏中に存在する炭酸ガスの約$\frac{1}{10}$は1年間のうちに光合成によって同化されてしまうが，それに見合う量の炭酸ガスは同じ時間中に生物の呼吸作用や腐敗作用によって大気中に放出されている。

〈大気と海水の大循環〉地球の大気の上部には，太陽定数*に相当する太陽エネルギーが常時入射している。しかし，それが大気中を通過する間に，雲の表面からの反射，微粒子による散乱，紫外線や赤外線の吸収などが行なわれるために，地表にまで到達するのは平均してその約47％くらいである。海面を含めた地表面全体の平均値で表わすと，1日あたり330cal/cm^2となる。しかし，実際には時と所とにより太陽の高度が異なるから，地球上での太陽エネルギーの受け取り方は均一ではない。1年を通じると，中緯度地方ではだいたい太陽エネルギーの受け取り高と赤外線として地球から放射されるエネルギーとがつり合っているが，赤道地方では年じゅう受け取り超過であり，極地方ではその反対である。したがって，赤道地方の大気はつねに地表から暖められ，極地方では冷やされている。そのために熱対流が生じるが，地球の自転の影響すなわち転向力*のため，図-4に示したような大気の大循環が行なわれている。この大気の大循環が行なわれている部分が，対流圏である。海水は大陸に隔てられているため，大循環が各大洋ごとに行なわれているが，だいたいの傾向は大気の場合に似ている。

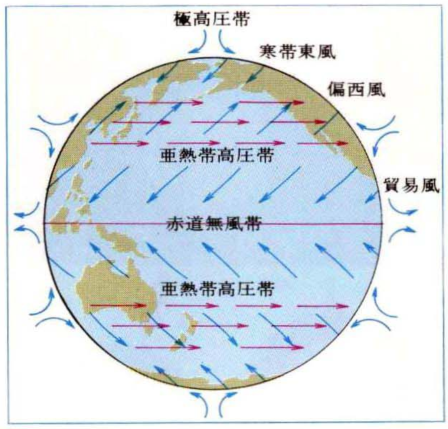


図-4　大気の大循環

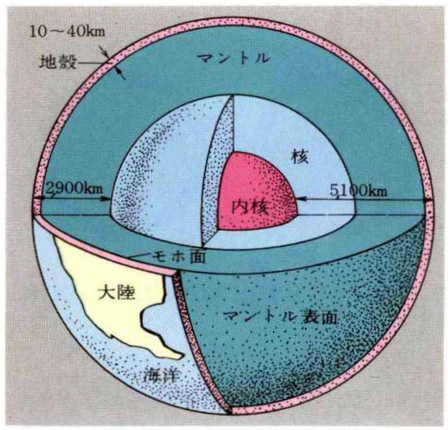


図-5　地球の内部構造の模式図

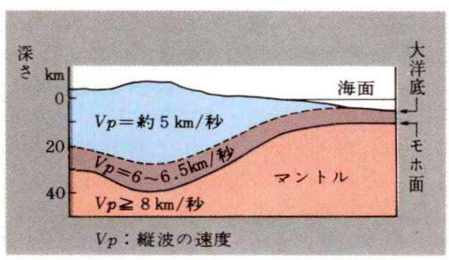


図-6　地殻とマントルの関係

大気と海水の大循環によって，赤道地方の過剰エネルギーが高緯度地方に配分され，地球全体としてエネルギーの収支に大きな不均衡が生じないようになっている。

〈風化・侵食・運搬・堆積(たいせき)作用〉温度変化に基づく機械的風化作用は，他の惑星や月の表面などでも当然行なわれているであろうが，水や酸素が存在するために起こる化学的風化作用は，地球に特有のものであるはずである。したがって，その産物である土壌(どじょう)も地球の特産であり，土壌の上に植物が繁茂している景観も他の惑星では見られないであろう。地表面に入射した太陽エネルギーは，一方では風を起こし，他方では水を蒸発させ上昇させる。風は海面でそのエネルギーの一部を風波に変え，風波はやがてうねりとなって海岸に砕ける。上昇した水蒸気が雲粒となり，やがて雨滴となって山地に降れば，海面との間の高さに相当する位置のエネルギーを残していて，流水となる。風・砕け波・流水などは，いずれも地表に露出している岩石や土壌を侵食して礫(れき)や土砂として運搬し，一部は化学的に溶解して水溶液の形で運搬する。そして運搬力の尽きたところで，礫や土砂はそのまま堆積して堆積岩*をつくる。溶液中の成分は，生物の働きや化学的条件の変化に伴って，石灰岩*などとなって沈殿・堆積する。このようにして堆積岩をつくる一連の作用のうち，水が関係するものは，もちろん地球に特有のものである。

〔地球の内部〕岩石は不透明なので，光によって地球の内部を観察することはできない。光に代わる最大の武器は地震*の波である。

〈地球の内部構造〉地震波は物質を媒体とする波動であって，その速度は物質の弾性定数と密度とによって決まる。地震波の速度が異なる2種の物質の境界面では，光の場合と同じように反射したり屈折したりする。この性質を利用し，一つの地震について多数の地点で地震波の到着時刻を精密に記録すると，地球の内部での弾性定数や密度の分布をある程度推定することができる。その推定の結果をまとめてみると，図-5に示すような同心構造になる。その中で，マントル*は容積で82％，質量で68％を占め，地殻*(ちかく)はわずかに容積で1.6％，質量で0.8％を占めるにすぎない。

〈地殻と地殻変動〉われわれが現在直接観察し得るのは地殻の部分に限られている。地殻とマントルとの境界面はモホロビチッチ不連続面*といわれるが，この面を境にして地震波の速度は不連続的に変わり，地殻の底では縦波で6〜7km/秒であるのが，マントルの上端では8km/秒になる。また，推定密度は地殻の底で2.8g/cm^3，マントル上端で3g/cm^3である。このように密度が比較的小さい地殻は，図-6に示すように，マントルの上に浮かんだような関係になっている。すなわち，高い山地ほど地殻の根が深くマントルの中におりている。このような関係をアイソスタシー*とよんでいる。アイソスタシーは地球上のどこでも完全に保たれているわけではなくて，最近地震や火山活動が活発に行なわれている地域では特に乱れている。このような地域は，また最近の地質時代を通じて地殻変動*が盛んなところで，日本を含む環太平洋造山帯*はその代表的な例である。

〈マントルと大陸移動〉現在の海陸分布と過去の分布とはかなり違っていると推定される証拠がいくつかある。たとえば，化石から過去の気候帯を推定すると，赤道の位

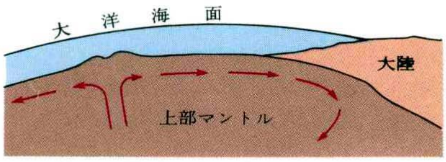


図-7　マントル上部の対流の考え

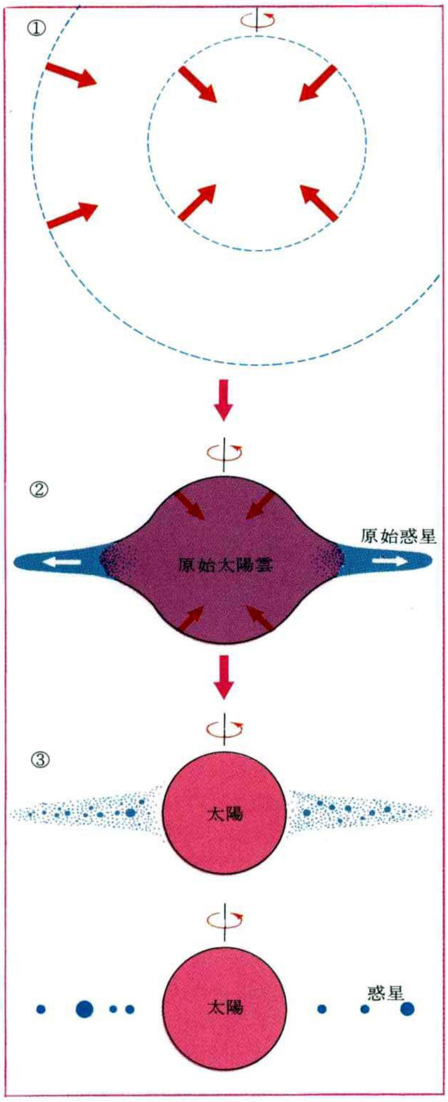


図-8　太陽系の誕生の説明図　尺度の関係は，実際とは違えてある

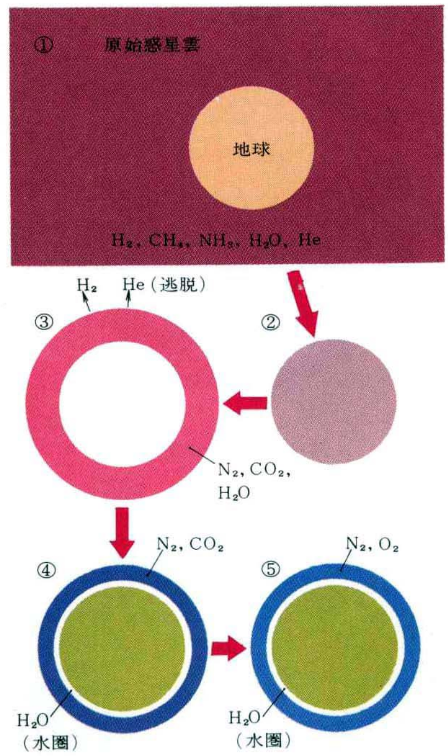


図-9　地球大気と水圏の進化の説明図。尺度は実際と違えてある

置が現在とはかなり違ってくる。地球の自転軸は，力学の原則からしてそんなに大きく移動できないので，これは地殻の一部が動いたためと考えられる。さらに，岩石の中に残されている岩石生成当時の地磁気の方向を調べた結果，各大陸ごとにそれぞれ異なる動き方をしたことがわかってきた。その原動力はマントル上部の対流であると考えられる。マントルは地震のような衝撃に対しては弾性体として反応するが，長い年月にわたる連続的な力に対しては非常に粘性の高い流体として反応するので，地質時代を単位とするような熱対流が存在することは可能である。実際，大西洋の中央を通る海嶺(かいれい)などでは，最近の地質時代を通じてマントル上部からマグマ*の上昇噴出が続いていて，噴出した溶岩はしだいに海嶺から遠ざかる運動を続けているようである。このほかに，地震の震源も浅いものを除けばマントルの上部に多いし，マグマの源も大部分はマントルの上部に求められる。このように，マントルの上部は地殻の中および地表に起こるいろいろな地質現象に大きな影響力をもっている。しかし，いちばん深い震源でも700kmの深さであるし，約1,000kmより深い部分の下部マントルは静かな状態にあるらしい。1,000kmから核との境の2,900kmまでの間では，地震波の速度や密度にも，圧力の増大による徐々な変化以外には認められない。

〈核と地磁気〉 深さ2,900kmのところで地震波の伝わり方に急激な変化が起こり，それより深い部分では縦波が伝わらない。これはその部分が流体であることを示している。この核の密度が平均で10.7g/cm³に達することと隕鉄(いんてつ)からの連想とから，この部分は鉄を主体としたものと考えられている。また一部の学者は，マントルとあまり変わらない組成のものが高圧のために金属状態になっていると考えている。いずれにせよ，金属状態の流体がかたいマントルの中に閉じ込められて，定常的な運動をしているため，発電機と似た原理で磁場が生まれる。それが地球の磁場の主体である。核の中でも中心に近い部分は，圧力が高くなるため，再び固体の状態になっているのではないかと推定されている。この部分を内核という(図-5)。そして地球の中心の部分の密度は約15g/cm³,そこでの圧力は3.89×10⁶バールに達していると推定されている。

〔地球の進化〕 現在の地球ができあがるまでには，人類の歴史とは比較にならないほどの長い時間がかかっている。

〈太陽系と地球の誕生〉 鉛の同位体比を使って，地球が独立の天体になってから今日までの時間を計算する方法がある。それによれば，地球の年齢は約45.5億年であって，隕石*や月の表面物質の年齢も，これとほぼ一致するものが大部分である。おそらく，地球をはじめとする惑星やその他の太陽系の天体は，いまから約45億年前に相前後して生まれたものと考えられる。一方，太陽が生まれてからの年数は，地球や隕石のようにはっきりとはわからないが，約50億年と推定される。したがって，太陽や惑星の誕生とはまったくかけ離れた事件ではなく，太陽系の誕生という一連の過程の中でのできごととみられる。現在一般に認められている学説にしたがえば，太陽は低温で希薄な星雲物質が集まって，ある程度以上の質量と密度に達すると，急激に自身の重力のために収縮しはじめることによって誕生したと考えられる。収縮が進むと自転速度が速くなり，やがて赤道面の付近では向心力と重力のつり合いから円盤状に飛び出した部分が生じ，これが原始惑星雲(図-8②)になった。一方，中心部の原始太陽雲は，急激な収縮から生じたエネルギーのために一時急に高温となり，爆発的に多量の物質を吹き飛ばす時期があったと考えられている。このために，太陽の自転速度は現在のように遅くなり，一方原始惑星雲の中で太陽に近い部分では，揮発性の成分が大部分吹き飛ばされてしまったらしい。地球型の惑星はこの部分に誕生した。原始惑星雲は星雲物質で構成されていたはずであるから，水素が主体である。常温に近いかそれより低温ならば，水素は水素分子 H_2 として存在し，また化合しやすい物質があれば種々の水素化合物をつくる。メタン CH_4，アンモニア NH_3，水 H_2O がそのおもなものである。また，水素が多い環境では，鉄は酸化物やケイ酸塩にはならず，金属鉄として存在するはずである。しかし，たとえばマグネシウムなどはケイ酸塩になり，カンラン石*をつくるであろう。これらの微粒子がしだいに集合し，また衝突したりしながら，いくつかの大きな塊ができていったであろう。そして径数キロメートルくらいにまで

成長したものは，万有引力によって近づいてくる小粒子を吸い取りながら大きくなり，月や惑星にまでなったものと思われる。その中で，木星は質量が十分大きくなったので，水素ガスも逃脱することなく，ほぼ原始惑星雲の組成のままでいるものと推定される。地球型の惑星では，太陽に近かったため，揮発性のものは一度大部分が吹き飛ばされて，現在の月や水星のように裸にされたと考えられる(図-9②)。したがって，現在の大気は，その後に新たに内部から供給された揮発成分から生じたものである。

〈大気と海洋の進化〉 一度裸にされたのち，地球の内部に閉じ込められていた揮発成分が，少しずつ地表に出てきたであろうが，水素やヘリウムは地球から逃脱していってしまうので，しだいに水素の少ない環境に変わっていった。そうすると，炭素はメタンの形よりも二酸化炭素 CO_2 のほうが安定になり，窒素はアンモニアでなくて窒素分子 N_2 となり，これと水とが主な大気成分になるであろう(図-9③)。ただ地球の場合は，温度がちょうど水が液体であるような範囲なので，水の大部分が大気から分離して水圏をつくった。そして水にとけやすいハロゲン類などは水圏にはいって海水をつくった(図-9④)。ただし，次節で述べるように，地球の表面温度がかなり高温になった時期があるので，水圏が生まれたのは，その時期を過ぎて地表温度が常温に近くなってからのことである。一方において，生物の発生が大気の組成に大きな影響を与えた。生物発生の初期の状態はまだ明らかでないが，少なくとも先カンブリア時代*の中ごろ，いまから20億年くらい前のころまでには，かなり進化した生物が現われて，光合成も営まれるようになったらしい。光合成が盛んになると，炭酸ガスはしだいに酸素で置き換えられるようになった。

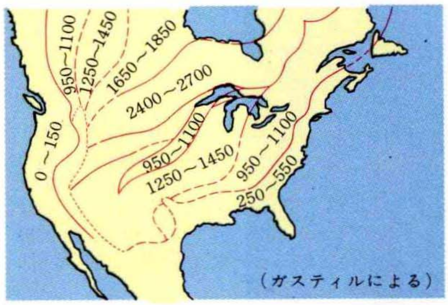


図-10 北アメリカ大陸の成長 数字はその地帯の火成岩および変成岩のできた年代を示す(単位10^6年前)

〈地球本体の進化〉 地球がまだ大きく成長しつつある時代には，濃密な原始惑星雲の中にあったと推定されるので，水素が多く，鉄は主として金属状態であったと考えられる。金属鉄は，一般の酸化物やケイ酸塩鉱物に比べると著しく比重が大きいので，しだいに深く沈下するであろう。その間に失った位置のエネルギーは熱エネルギーに転換され，内部の温度を上昇させた。そして，大部分の金属鉄が核として中心に集まったころには，鉄がとけて流体となる程度に達した。この核の部分とその外側の下部マントルとは，この時代以後ほとんど冷却しなかったことが，種々の角度からの検討でわかっている。一方，ケイ酸塩の中でとけやすい組成の部分は，この熱のためにとけたが，比重がその他の部分より小さいので，鉄とは逆に上昇して，地表に集中した。これがのちに冷却固化したのが地殻である。現在までに測定された岩石の年齢の中でいちばん古いものは約35億年であって，それより古い岩石のあることも確かである。したがって，いまから少なくとも35億年前には，固い地殻ができあがっていたわけで，上述のような事件は地球の誕生から数億年以内に起こったことである。固い地殻ができてからも，上部マントルの中では，ゆっくりとした対流が発生消滅をくり返し，大陸の周辺ではそのために地殻変動が発生して，いく度か造山帯*をつくった。その結果，図-10に示すように，大陸は外へ外へと成長してきた。しかし，一方では対流に引きずられて，大陸にひびがはいり，いくつかに分裂して，別々に動き出したこともあり，いわゆる大陸移動説*が述べるような結果を生じた。これらの大きな地殻変動に伴って地震や火山活動が起こり，堆積岩は褶曲*(しゅうきょく)して山脈をつくった。現在の地球の表面の状態は，約40億年にわたるこれらの作用と，主として水圏ができてからのちの侵食・運搬・堆積作用，および生物が発生してからの生物の作用とがもたらした結果である。〔片山信夫〕

には，同器により録音時の逆の操作を行なうことによって，ホーンより音として取り出される。

その後，スズ箔の代わりにワックス(ミツロウ)で包んだ円筒形の厚紙(ろう管)がレコードとして用いられたが，複製は不可能であった。1887年ベーリナーが，振動板の運動を回転円板上を水平方向に振動する針先の運動に変換し，音圧波形を円板上の横方向の波として刻み込む方式を考案した。その結果，プレス作業によって複製ができるようになり，工業化が可能となった。この方式の再生は，サウンドボックスとホーンよりなる蓄音機によって行なわれた。

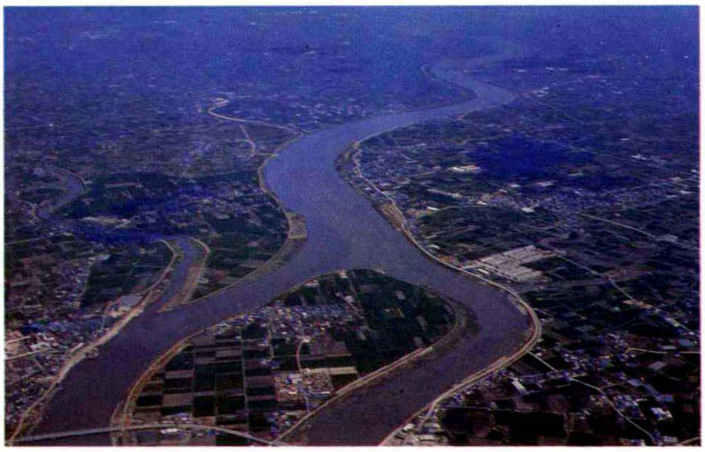
1924年ごろになると，真空管増幅器が発明され，マイクロホン・真空管増幅器および電磁形カッターを用いて音溝(おんこう)を刻む，いわゆる電気吹き込みが開発され，さらに電磁形ピックアップ・真空管増幅器およびスピーカーを用いて再生する電気蓄音機が出現した。このことにより，円板録音および再生の性能が著しく向上した。この当時のレコードは，シェラックなどの樹脂を主体としたレコード材をプレスして製造されるもので，回転数は毎分78回転，音溝密度は40～47本/cm，音溝幅は0.114mm，再生針の針先径は0.0635mmで，円板の直径は30cm板で約4.5分間の録音が行なわれた。

1948年になると，アメリカCBS色彩テレビ研究所のゴールドマークによって微小溝幅の長時間レコード(いわゆるLPレコード)が実用化され，レコードもビニル重合体が使用され，回転数は毎分33⅓回転，音溝密度は90～120本/cm，音溝幅は0.0585mm，再生針の針先径は0.0508mmで，30cm板で20～30分の録音が可能となった。これを再生するには，軽針圧で追跡性のよいピックアップが要求され，増幅器も雑音レベルが低く，ひずみの少ない高性能のものが要求されるようになり，いわゆるハイファイ(Hi-Fi)電蓄が出現した。

その後さらに，音溝を形成するV字形の音溝壁面を互いに直交するように保ち，これらの両壁面にそれぞれ垂直に音溝を刻み込むことによって，二つの信号を1本の音溝に録音する，いわゆる45°-45°ステレオカッターが開発された。この方式では，音溝の内側壁面には左信号，外側壁面には右信号を壁面に垂直な深さ方向の変化として刻み込まれる。これがステレオレコードである。これを再生するために，再生針の針先半径約7～18μ，針圧0.5～2g程度のステレオ用ピックアップが開発され，円板録音の性能は非常に向上した。このほか，まだ研究の余地は残されているが4チャネル方式のものも実用化されつつある。

なお，蓄音機は明治の末期の輸入当初は写声器・蓄語器・蘇音器(そおんき)などとよばれ，現在は蓄音機と書くが，その後発展してステレオとなり，蓄音機ということばはほとんど使用されていない。〔伊藤　毅〕

ちくご【筑後(国)】 福岡県南部の旧国名。筑前(ちくぜん)と合わせて筑州という。西海道に属する。もと筑紫(つくし)といったのを筑前*・筑後と分割したのに始まる。三潴(みぬま)・御井(みい)・御原・山本・竹野(たかの)・生葉(いくは)・上妻・下妻・山門(やまと)・三毛の10郡であったが，現在は久留米(くるめ)・柳川(やながわ)など6市と三潴(みずま)・三井・浮羽・八女(やめ)・山門・三毛の6郡。国府・国分寺は現在の久留米市。鎌倉時代には大友・北条(ほうじょう)・武藤・宇都宮(うつのみや)の諸氏が守護となり，室町時代には宇都宮・一色・大友・島津の諸氏，とりわけ大友氏が長く守護をつとめた。九州探題今川氏・渋川氏の



筑後川 筑紫平野を蛇行する筑後川の下流部。右下手は大川市で，中洲(大中島)を通る国道208号線(佐賀～熊本)の鉄橋が見える

勢力が衰えるとともに国内の諸豪族は，あるいは大友氏に，あるいは島津・龍造寺(りゅうぞうじ)などの諸氏に属して大いに混乱したが，戦国末期には島津氏が大勢を制した。次いで豊臣秀吉(とよとみひでよし)は九州征伐以後，配下の諸将を国内に分封した。関ケ原の役後久留米・柳川・三池などの諸藩が立てられたが，明治以降これらを県とし，次いで三瀦県に統合，1876年(明治9)福岡県に編入され，現在に至っている。〔黛　弘道〕

ちくご【筑後(市)】 福岡県南部の市。人口42,000。中心地区羽犬塚(はいぬづか)はもと宿場町で，明治以降は鹿児島本線から矢部線を分岐するなど，交通の要地として発展した。1954年(昭和29)周辺町村を合併して市制施行。市域は筑紫(つくし)平野南部の低い洪積(こうせき)台地と矢部川中流部の扇状地がその大半を占め，西端は低湿なクリーク地帯である。産業三大別人口比は21：33：46。農村部の米・ムギ・野菜を集散し，果樹栽培も行なわれる。北西部の西牟田(にしむた)はイグサの栽培と加工とが盛んで，久留米絣(くるめがすり)の工場も多い。農林省九州農事試験場がある。国道209号線に沿い，東郊を九州縦貫道路が走る予定である。南部には天然記念物ゲンジボタルや大クスで名高い船小屋温泉がある。

ちくごがわ【筑後川】 九州第1の長流で流程140km，〈筑紫(つくし)次郎〉とよばれる。九重山飯田高原に発する玖珠(くす)川と阿蘇(あそ)外輪山北面に発する大山川とが日田盆地で合流し，西流して筑紫平野に出て有明海に注ぐ。有明海は筑後川の運搬物によって広い州がつくられ，古くから干拓が行なわれた。水量豊かで舟運の便があるが，またしばしば氾濫(はんらん)して水害を起こしてきた。江戸時代には佐賀・久留米(くるめ)(福岡県)両藩の境界で，治水をめぐる争いが絶えなかったが，今日では河道の改修と堤防の構築によって水害は減少した。〔長津一郎〕

ちくさ【千種(区)】 名古屋市東部の区。人口16万8,000。区域の大半は洪積(こうせき)台地で，東山丘陵と自然公園の多い緑地地域からなり，住宅地区として発展し，最近は千種台団地をはじめとして星ケ丘・虹(にじ)ケ丘など約7,000戸の団地が造成されている。市営地下鉄東山線が通じ，名古屋大学・愛知学院大学・愛知工業大学などの教育施設も多く文教地区を形成する。動植物園・遊園地などの行楽施設をもつ東山総合公園，巨大な墓苑(ぼえん)をもつ平和公園，舎利*を納めた覚王山日泰寺とその寺領であった〈文教の森〉などの名所・史跡がある。〔浅井得一〕

ちくさい【竹斎】 仮名草子*。2巻。磯田道冶(いそだどうや)作。1623年(元和9)ごろ成立。京都のやぶ医者竹斎が，都の生活に敗れて諸国行脚(あんぎゃ)を思い立ち，下男のにらみの介(すけ)と京都の名所をめぐった後，東海道を下って名古屋に滞在，さらに江戸に出るというもの。狂歌的発想によるこっけいを主眼としているが，名所記的要素も強く，当時の世態風俗もうかがわれる。

ちくさん【畜産】 家畜を飼育して，乳・肉・卵などの消費財や農耕馬などの生産財を生産し，それを販売して利益をあげる産業を畜産業といい，農業の一形態であるが，ふつう畜産という場合には，このほかにうまや肥や畜力などの利用も含める。現在の畜産では，世界的にみて，酪農・肉牛飼育・養豚・牧羊・養鶏の五つが重要なものとなっている。現在世界の農業において畜産の占める割合はきわめて大きいが，水田稲作を中心として発達してきた日本では米と嗜好(しこう)の合う野菜・魚がおもな副食品となったことや仏教の影響もあって，明治時代まで乳・肉を食用とする習慣がなく，家畜としては役畜が主であり，畜産は発達しなかった。日本で畜産が盛んとなり始めたのは，第2次世界大戦以後であり，とりわけ1960年(昭和35)ごろからは，一般の経済成長に対応して，従前のような少頭羽数を飼育する副業的な畜産ではなく，多頭羽飼育をする企業的な畜産経営がふえ始めた。農産物総生産額中に占める畜産物生産額の割合も1937年の6.4%が，1966年には19.9%と3倍以上にも伸びた。しかし，その割合は諸外国に比べればいまだにきわめて小さく，世界全体でウシは人口3人に1頭，ブタは6人に1頭であるのに比べて，日本ではいずれも人口30人に約1頭である。ヨーロッパで畜産が盛んとなったのは，めん羊では11世紀中期以降，ウシ・ブタでは18世紀末に畑で飼料作物が輪作に組み入れられるようになってからであるが，今日ではアメリカ合衆国の五大湖，デンマーク・スイスを中心とする酪農地帯，オーストラリア・ニュージーランドの酪農地帯と肉牛・めん羊の牧場地帯，アメリカ合衆国西部・アルゼンチンなどの肉牛の牧場地帯などが確立して，世界の畜産物貿易に活躍している。これらの地帯では広い草地に家畜を放牧しており，いわゆる牧畜ということばがふさわしいが，日本では，草地を含めた農用地が国土の50%を越える諸外国に比べてわずか19%であり，ウシ・めん羊でもおもに畜舎内で集約的に飼われる(舎飼い)ので，牧畜ということばはふつう用いていない。〔森田琢磨〕

ちくさんしけんじょう【畜産試験場】 家畜・家禽(かきん)の育種・飼料・飼養管理および生産物の処理，加工などに関する試験研究機関。千葉市にある国立の畜産試験場では，育種・繁殖・生理・栄養・加工・飼養技術の各部に分かれて研究が行なわれている。なお，家畜衛生と草地・飼料作物については別に家畜衛生試験場と草地試験場がある。各都道府県もそれぞれ畜産に関する試験研究機関をもつが，組織・名称などは必ずしも一定でない。〔阿部猛夫〕

ちくさんしんこうじぎょうだん【畜産振興事業団】 畜産物価格安定法に基づいて，1961年(昭和36)12月に設置された特殊法人。主要な畜産物の価格を安定させ，乳業者・生乳生産者の団体の経営に要する資金調達を円滑にし，さらに畜産の振興に資するための事業に必要な業務を行なうことを目的とする。おもな業務は，農林省令で定めた食肉・乳製品などが過剰になって，政令に定める安定価格を下回ったときにこれを買い入れ，保管し，安定価格を上回ったときに売り渡すもので，これによって畜産物の価格を安定させようとするものである。しかし，畜産物の価格は事業団による買い入れ・売り渡しのみでは容易に安定しないのが実情である。〔高山隆三〕

ちくしの【筑紫野(市)】 福岡県中央部の市で，福岡市南東方の衛星都市。人口56,000。1955年(昭和30)二日市(ふつかいち)を中心に1町4村が合併して新発足，1972年(昭和47)市制施行。鹿児島本線・西日本鉄道大牟田(おおむた)線・国道3号線が通り，筑豊本線が分岐する交通の要地である。大宰府(だざいふ)の入り口にあたり，また福岡市郊外の工場・住宅地として急速に人口が増加している。果樹・チャの栽培，野菜園芸も行なわれる。産業三大別人口比は10：23：67。

ちぐしんらいさん【痴愚神礼讃】 エラ

スムス*の著書。1509年，イタリア旅行の帰途にイギリスのモア*邸で書かれた。モアに献じられ，翌年パリで出版された。痴愚女神モリアはモアの語呂(ごろ)合わせ。内容は痴愚女神の独白という形式を通して，痴愚・狂気に振り回される人間性を風刺したもので，とりわけ当時の聖俗の支配階層の腐敗と硬直に風刺と批判を浴びせた。そのため1542年にパリ大学神学部，1554年には教皇により禁書とされた。〔石井忠厚〕

ちくぜん 【筑前(国)】 福岡県の北西部を占める旧国名。筑後*と合わせて筑州という。西海道に属する。もと筑紫(つくし)といったのを筑前・筑後と分割したのに始まる。筑後とともに古く筑紫国造(くにのみやつこ)の治下にあって，527年には国造磐井(いわい)が新羅(しらぎ)と組んで大規模な反乱を起こし(→磐井の乱)，また娜津(なのつ)(博多(はかた))が朝鮮進出の拠点として重視され，屯倉*(みやけ)が設置されるなど，内外両面にわたり重要な地とされた。遠の朝廷(とおのみかど)とよばれた大宰府*(だざいふ)の起源はここにあった。斉明(さいめい)天皇・中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)(→天智(てんぢ)天皇)はこの地で百済(くだら)救援軍を指揮し，敗戦後は大宰府を現在地(福岡県筑紫郡太宰府町)に移し水城*を築いて外敵に備えた。律令(りつりょう)制*時代には大宰府が直接この国を統治した。もと志摩・怡土(いと)・早良(さわら)・那珂(なか)・席田(むしろた)・御笠(みかさ)・糟屋(かすや)・夜須(やす)・上座(かみつくら)・下座(しもつあさくら)・穂浪(ほなみ)・嘉麻(かま)・宗像(むなかた)・鞍手(くらて)・遠賀(おか)の15郡であったが，現在は福岡・北九州など7市と9郡。国府・国分寺は現在の太宰府町。鎌倉時代には天野氏，次いで武藤氏が鎮西奉行(ぶぎょう)をもって守護*を兼ねた。室町時代には武藤氏の後裔(こうえい)である少弐氏，さらに大内氏が守護となったが，一方，九州探題が置かれて，有力守護と協議のうえ九州の統治にあたったため九州の混乱は激しかった。その後大友氏，次いで島津氏が制したが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の九州討伐後，全国を小早川氏に賜わった。関ヶ原の役後徳川家康(いえやす)は黒田氏にこれを代えた。廃藩置県で黒田県・秋月県，次いで，福岡県となり，現在に至っている。〔黛 弘道〕

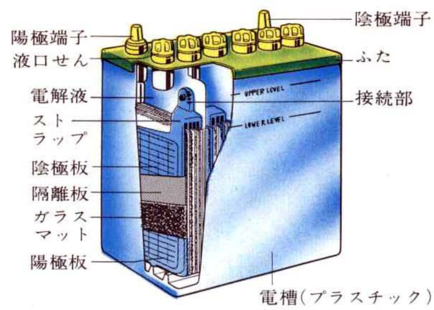
ちくせんじょいれい 【蓄銭叙位令】 奈良時代の銭貨流通政策の一。和同開珎*(わどうかいほう)鋳造後3年を経た711年(和銅4)，政府は人々がまだ銭貨の便利なことを理解せず，十分普及しないのを遺憾として，普及を促すために銭をたくわえる者に位を与えることとした。従六位以下の者で蓄銭10貫以上には位1階，20貫以上は位2階を進めて叙し，初位以下は5貫ごとに1階を進めた。なお正六位の者については，本人を昇叙せず，近親者に位を賜わった。これは本人が五位すなわち貴族になることを防止するためであった。しかし，これによっても銭貨の流通は思うにまかせず，政府はこのため，さらに調庸の銭納を強制したが，結局経済の発達に伴う普及を待つよりほかはなかった。奈良末期には銭をたくわえる者も多く，その額も膨大となり，ために鋳造がまにあわず，桓武(かんむ)天皇の代に蓄銭叙位令は廃棄された。〔黛 弘道〕

ちくぜんびわ 【筑前琵琶】 日本伝統音楽の曲種および楽器の名。9世紀ごろから行なわれていた筑前(福岡県)の盲僧琵琶の系統をひいて，明治中期に芸術音楽としてつくられた。近世琵琶楽では先輩格の薩摩(さつま)琵琶*や，三味線(しゃみせん)音楽の影響が強い。ただし，薩摩琵琶と比べると，声楽的にも器楽的にも旋律の美しさが追求されて女性的であるといわれる。楽器は薩摩琵琶よりも小さく，撥(ばち)も小さい。純粋の弦の音が使われて，打楽器的効果は好まれない。〔山口 修〕

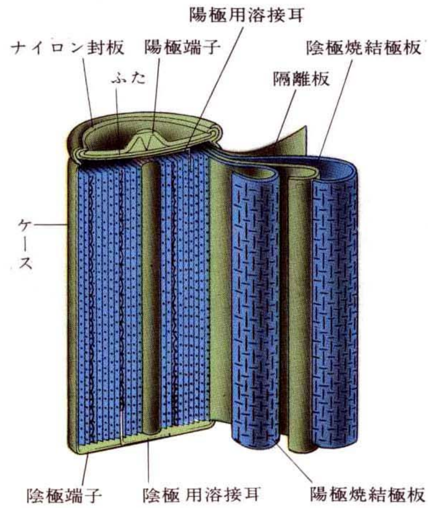
ちくでんき 【蓄電器】 ⇨コンデンサー

ちくでんち 【蓄電池】 外部から充電することのできる電池。二次電池ともいう。陽極・陰極の二つの極板と電解液とからなる。充電とは，使用時と逆の向きに外から電流を流すことによって電池内に化学反応を起こさせ，供給された電気的エネルギーを化学エネルギーとしてたくわえることである。蓄電池には鉛蓄電池とアルカリ蓄電池の2種がある。①鉛蓄電池：陽極の活性部(化学反応を起こす部分)には二酸化鉛を，陰極の活性部には海綿状鉛を，電解液には硫酸を，それぞれ用いる。これらがガラスまたは合成樹脂製の容器に収められている。多くの電流を取り出しても電圧があまり変化しないのが利点である。放置すると自己放電してしまうため，充放電をくり返さなければ寿命が短くなる。放電したまま放置すると極板が白色に変化し(サルフェーション)使えなくなる。1個の起電力は2Vで，ガソリン機関の点火用電源など，直流電源に広く用いられている。②アルカリ蓄電池：電解液として，アルカリ性の水酸化カリ溶液を使用する。陽極の活性部はニッケルの酸化物，陰極の活性部には鉄を用い

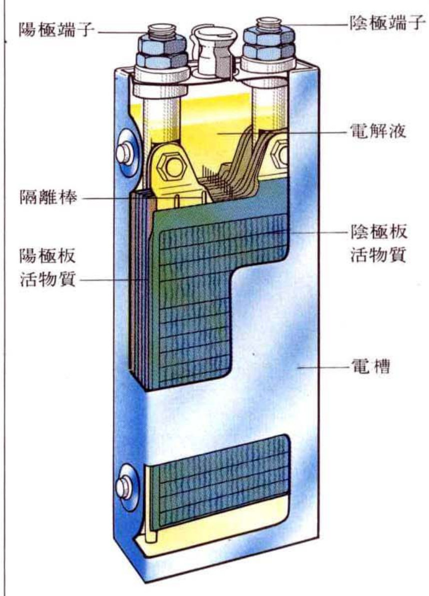
蓄 電 池



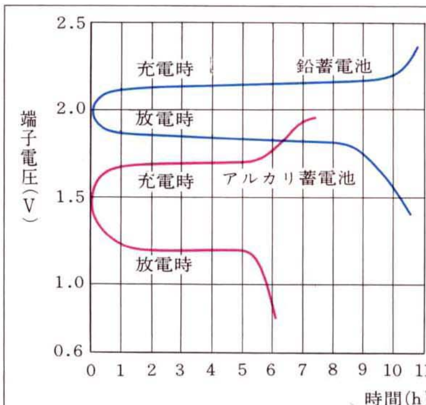
鉛蓄電池



アルカリ蓄電池(密閉型)



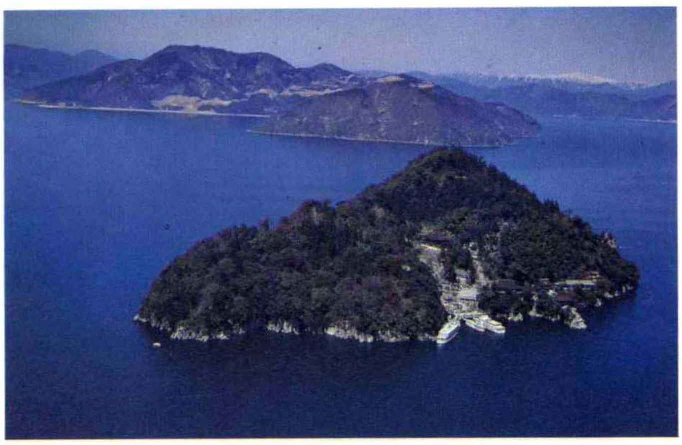
アルカリ蓄電池(開放型)



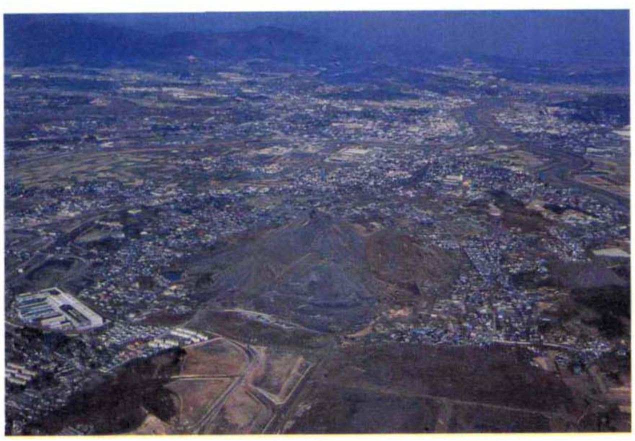
蓄電池の充放電特性



竹生島　後ジテが社殿の作り物の中から出て，神の威力を示すところ。赤頭をつけ，龍神の性格を表わしている。シテは田中幾之助



竹生島　南から見た竹生島。南面して中央に都久夫須麻神社がある。背後に迫るのは葛籠尾崎で，遠く福井県境の伊吹山地の山々が見える



筑豊炭田　飯塚市の炭坑とぼた山。大小のぼた山にはさまれて炭坑住宅が広がる。ぼた山はくずされて宅地造成の進んでいるところもある

たものが最も多い。内部の化学反応は次のように行なわれる。

$$Fe + Ni_2O_3 + 3H_2O \underset{充電}{\overset{放電}{\rightleftarrows}} Fe(OH)_2 + Ni(OH)_2$$

大電流を取り出したとき，鉛蓄電池よりも電圧の低下が大きいのが欠点であるが，鉛蓄電池では大電流を取り出すと容量が減るのに対して，アルカリ蓄電池は電流の多少に関係なく容量が一定である。また，寿命が長く，取り扱いが容易で，振動にも強い。ニッケルカドミウム電池*もその一つである。
〔堀内和夫〕

ちくのうしょう　【蓄膿症】　⇨副鼻腔炎

ちくはくかい　【竹柏会】　短歌結社。1891年(明治24)，佐佐木信綱*(のぶつな)によって結成された。会名は，信綱の父弘綱(ひろつな)が竹柏樹(ナギ)を愛したことにちなむ。和歌革新の気運に乗って，新詩社*・根岸短歌会*と並び清新穏健の流風をもって活動し，機関誌《いささ川》，次いで1898年《心の花*》を刊行して現在に至る。〈おのがじしに〉の標語によって個性を尊重し，木下利玄*・川田順*・柳原白蓮*(びゃくれん)らの歌人を育てた。

ちくひせん　【筑肥線】　九州の鹿児島本線博多(はかた)から東唐津(ひがしからつ)を経て松浦線伊万里(いまり)に至る国鉄路線で営業キロ数85.4。1923年(大正12)博多～東唐津間が開通し，1935年(昭和10)に全通した。風光明媚(めいび)な博多湾・唐津湾の沿岸を走る。

ちくぶしま　【竹生島】　能の曲名。作者不明。脇能(わきのう)物。延喜の帝(みかど)(醍醐(だいご)天皇)の臣下が，琵琶湖(びわこ)の竹生島にある弁才天に参拝しようと，老翁と若い女が乗るつり舟に乗せてもらう。竹生島に着くと，女人禁制の島なのに女が陸に上がるので尋ねると，〈いやこれは女神の島だから女人が参るのだ〉と言って女は神殿に，老人は水中に消えうせる。やがて女は神殿から弁才天の姿で現われて舞い，老人も水中から龍神(りゅうじん)の姿で現われて舞働(まいばたらき)を演じ，国土守護の神徳を表現する。前ジテは老人，後ジテは龍神。ツレは前が若い女で後が弁才天。帝の臣下がワキで，間狂言(あいきょうげん)に末社(この神社の下級の神)が出る。　〔長尾一雄〕

ちくぶしま　【竹生島】　琵琶湖(びわこ)の北岸近くにあるカコウ岩の小島で，滋賀県東浅井郡びわ村に属する。周囲約2km，面積0.14km²。鬱蒼(うっそう)とした樹木におおわれ，周辺に絶壁を巡らした美しい風光と，竹生島明神の所在地として古くから知られる。日本三弁天の一つの都久夫須麻(つくぶすま)神社があり，その本殿と唐門(からもん)は，豊臣秀頼(とよとみひでより)が伏見城から移築した桃山建築で，国宝に指定されている。また，竹生島観音とよばれる西国三十番めの札所宝厳寺があり，ともに参拝客が多く春から秋にかけて大津と彦根(ひこね)から観光船が出る。能の《竹生島*》の舞台である。〔浅井得一〕

ちくほうたんでん　【筑豊炭田】　福岡県の北部，遠賀(おんが)川流域の飯塚(いいづか)・田川・中間・山田・直方(のうがた)の各市と四つの郡にまたがる東西20km，南北50km，面積約800km²の大炭田。可採埋蔵量は約25億t，炭質は弱粘結性の瀝青炭(れきせいたん)が主である。開発は15世紀の末にさかのぼるが江戸時代までの出炭量は微々たるものであった。明治以降近代産業の発展とともに開発が進み，特に中央大資本の進出によって出炭量が増大し，明治末期には全国の50％を出炭するに至った。以後つねに年間1,000万t以上の生産をあげ，わが国第1位の座を保ってきた。しかし，近年の石炭生産合理化政策の結果衰微し，出炭量では石狩炭田を下回るようになった。かつて300の炭鉱と10万人の労働者を擁したが，1966年(昭和41)には68炭鉱が稼働(かどう)し，出炭量793万t，従業員数も18,000と減り，さらに1970年では25炭鉱，出炭量397万t，従業員数4,800と減少の一途をたどり，昭和51年(1976年)8月閉山した。　〔竹内淳彦〕

ちくほうほんせん　【筑豊本線】　北九州市の若松から飯塚(いいづか)を経て鹿児島本線原田(はるだ)に至る国鉄路線で営業キロ数66.1。ほかに貨物支線9.2kmがある。1891年(明治24)若松～直方(のうがた)間，1929年(昭和4)に全線開業。遠賀(おんが)川の流域に広がる筑豊炭田*を貫く幹線鉄道で，炭鉱に連なる多数の鉄道を分岐する。起点の若松は石炭の

積み出し港として知られ，沿線には直方・飯塚などの炭鉱都市がある。

ちくまがわ【千曲川】信濃(しなの)川の上流で長野県を流れる部分をいう。水源は関東山地の甲武信ケ岳(こぶしがだけ)・国師ケ岳・金峰(きんぷ)山などの北面に発し，佐久盆地・上田盆地を過ぎて長野盆地にはいり犀(さい)川を合わせ，新潟県にはいって信濃川となる。千曲川部分の流程は210km。佐久盆地は養鯉(ようり)が盛んであり，長野盆地の犀川合流点付近は川中島の古戦場である。


千曲川 川中島付近の千曲川。左上方の茶かっ色の流れが犀川，曲流してこれに合流するのが千曲川。遠景右岸は須坂市にあたる

ちくまさんち【筑摩山地】長野県中央部，千曲(ちくま)川*を東の境とし，松本盆地・諏訪(すわ)盆地との間にほぼ南北に広がる山地。南は蓼科(たてしな)山・八ケ岳の火山群に接し，北は犀(さい)川の横谷を越えて戸隠・妙高の火山群に続く。比高はあまり大きくなく中山道(なかせんどう)や篠ノ井(しののい)線がここを横断している。

ちくら【千倉(町)】千葉県房総半島の南端に近く，太平洋に面し，安房(あわ)郡に属する町。人口16,000。温暖な気候を利用して，キンセンカ・コギク・フリージア・ストックなどの花卉(かき)や，ビワを栽培し，南にマグロ漁業の根拠地白間津，北にサバ・サンマ漁業の根拠地千倉の漁港があり，千倉には県内や県外からも漁船が集まる。房総西線・南房州道路(有料道路)に沿い，塩類泉の千倉温泉がある。

チーグラー［Karl Ziegler］(1898～1973) ドイツの有機化学者。マックスプランク石炭研究所長。1930年代より金属有機化合物，特にアルミニウムを用いてラジカル反応・重合反応の研究を続け，ポリエチレン*をつくる際のエチレン重合法(チーグラー法)など合成化学に新しい道を開いた。1963年ナッタとともにノーベル化学賞を受けた。1956年(昭和31)に来日，〈エチレンの重合〉について講演した。

チクラヨ［Chiclayo］ペルー共和国北西部，太平洋岸近くにある都市。人口18万8,000(1972)。周辺の海岸平野はペルー最大の米の産地で，サトウキビもこの国第2位の産地である。また小麦・ワタの生産も多い。市内には食品加工業のほか，機械工業・製材業がある。

チグリス(川) ⇨チグリス-ユーフラテス川

チグリス-ユーフラテス(川)［Tigris Euphrates］西アジアのメソポタミア地方を流れる二つの大河。チグリス川はトルコ東部のクルジスタン山地に発し，イラク領内を南東流して，クルナでユーフラテス川に合流し，シャットーアル-アラブ川(アラブの河の意)となってペルシア湾に注ぐ。全長1,840km。ユーフラテス川もトルコ東部のアラト山の近くに発し，上流はムラト川(670km)，ヘラト川(440km)の2本の川からなり，アルメニア高原で合流，シリア砂漠(さばく)を横断してイラク領内に入り，チグリス川に


チグリス-ユーフラテス川 モスルの町を流れるチグリス川。イラク北部では灌漑用水に引かれているが，季節による水量の増減が大きい

合する。全長2,800km。両河川が接近するバビロニア平原は古代には，灌漑(かんがい)が発達して肥沃(ひよく)な土地をなし，シュメール*・バビロニア*の両古代文明の発祥をみた。沿岸にはニネベ*・アッシュール*・クテシフォン*などの遺跡が多い。〔大石堪山〕

ちくりんじ【竹林寺】中国山西省五台山にある。インドの王舎城の竹林精舎にならって創建されたといわれる。律院・庫院(くいん)・華厳院(けごんいん)・法華院(ほっけいん)・閣院・仏殿院があり，各40人ほどの僧が住していたといわれる。律院には〈国家功徳七十二賢聖諸尊曼荼羅(まんだら)〉があり，戒壇があった。華厳院には，般舟(はんじゅ)道場があり，法照が念仏三昧(ざんまい)を修した堂である。わが国の円仁*(えんにん)が入唐した際，ここに参詣(さんけい)し，その引声念仏をわが国にもたらし，比叡山(ひえいざん)に常行三昧堂を建てて普及をはかった。今日京都の真如堂に伝えられる声明*(しょうみょう)は，直接この系統を引くものといわれている。現在は荒廃し，仏殿と明(みん)代の五層八角の塔が残る。〔京戸慈光〕

ちくりんしょう【竹林抄】連歌撰集。宗祇*(そうぎ)が先輩師友にあたる宗砌*(そうぜい)(355句)・賢盛(234句)・心敬*(402句)・行助(157句)・専順(325句)・智蘊(ちうん)(190句)・能阿(のうあ)(171句)らの句を集め，一条兼良(かねら)の序を付して，1476年(文明8)にまとめた。連歌隆盛期の代表作者の姿をよく伝え，連歌の正風体を示すものとして尊重された。

ちくりんのしちけん【竹林の七賢】中国，魏(ぎ)・晋(しん)の時代，おおよそ3世紀中ごろ，竹林に遊び，琴と酒を楽しみ，清談*にふけったという7人の賢者，すなわち，阮籍*(げんせき)(210～263)・嵇康*(けいこう)(223～263)・山濤(さんとう)(205～283)・向秀・劉伶(りゅうれい)・阮咸(げんかん)(阮籍の甥(おい))・王戎(おうじゅう)(234～305)をいう。当時，政権は司馬氏が握り，王朝が魏から晋へ交替する時代で，礼教が為政者によって利用されていたが，彼らは礼法を否定し，儒家のすべてを無視する言行をして，消極的に抵抗した。〔今村与志雄〕

ちくわ【竹輪】水産練り製品の一種。魚のすり身を竹や鉄・真鍮(しんちゅう)の棒などに塗りつけて焼いたもの。かまぼこ*の原型と考えられる。すなわち，現在ちくわといわれているものは，室町時代の中期にその形がガマの穂に似ているところからかまぼことよばれていた。それがいつからか板につけたものをかまぼことよぶようになり，もとのかまぼこは切り口が竹の輪に似ていることから竹輪とよばれるようになったといわれる。ちくわの製法は焼きかまぼことほとんど同じである。しかしちくわには値段の安いものもあって，現在ではかまぼこの下位に置かれるようになった。〔佐藤友太郎〕

ちけい【地形】地表の形態をいい，平野・台地・高原・丘陵・山地・河谷および火山などがある。地形は一定不変のものではなくたえず変化している。地球内部の原因で地表面に変化を起こす場合を内作用あるいは内的営力といい，その代表的なものの一つに火山活動がある。火山活動の結果として生ずる地形を火山地形とよび，マグマ*の性質，噴出量の多少，噴火の様式(爆発的か溢出(いっしゅつ)的か)などによって，楯状(たてじょう)火山・ドーム・成層火山・カルデラなどの火山地形が形成される(→火山)。内的営力には地球内部のエネルギーによって



地殻(ちかく)を変位させる地殻運動も重要で，地盤運動を起こす。地盤運動は作用の方向によって垂直的運動と水平的運動に分けられるが，多くの場合，両者が相伴って起こる。地殻運動には山地をつくる造山運動や，広い範囲にわたってゆっくり運動する造陸運動があり，前者には地層が激しく湾曲する褶曲(しゅうきょく)，地盤に食い違いを生ずる断層，地盤が傾く地塊運動などがある。海岸地方では，地盤が沈降すると出入の多い海岸線のリアス式海岸になり，隆起すると海岸線は単純になり，また海岸段丘をつくる。これが内陸の場合には河岸段丘をつくる。このように形成された地形は，河川の流水・風・氷河・波浪などのような地球外部にエネルギー源をもつ作用によっても破壊され，この作用を外作用あるいは外的営力という。外的営力は地表面にたえず働いて地表の凹凸(おうとつ)を平坦(へいたん)化していく働きで，基本的なものに風化・侵食・運搬・堆積(たいせき)がある。風化は地表の岩石を破壊して破片となし，分解変質していく作用である。侵食は地表を削り刻む作用であるが，場所と気候によって異なる。温帯・熱帯の降雨の十分にあるところでは河食とよばれる河流の侵食が最も大きく，河谷や険しい山地をつくる。河食は侵食作用の中で最も一般的なもので，正規侵食ともいう。高山や高緯度で氷雪におおわれたところでは氷河が侵食を営み，カール*やU字谷をつくる。これが氷食である。砂漠(さばく)のような乾燥地域では風が侵食を営み，風食という。風食は一定方向の風の強い海岸などでも小規模にみられる。海岸では波浪や沿岸流および潮流が海岸を侵食する海食が働く。海岸の急崖(きゅうがい)(海食崖)・ほら穴(海食洞(かいしょくどう))・海面付近の平坦な岩石面(波食台)・海岸段丘などは海食の結果である。また，石灰岩地方では水によって石灰岩を溶解する溶食があり，カルスト*という特殊な地形を形成する。侵食作用は最終的には海面まで営まれるので，海面を侵食基準面という。風化や侵食された岩削は流水・風・氷河・海流・波などによって別の場所に運ばれ，これを運搬作用という。運搬物質は運搬力の衰えた所に落ち着き，これを堆積という。河食の場合には山麓(さんろく)に扇状地を，河口に三角州とよばれる堆積地形をつくる。砂州などは海食した物質の堆積の結果生じたものであり，氷河末端の氷堆石は氷河の堆積地形である。

このように地形は内的・外的営力によってたえず複雑に変化しているが，この変化を体系づけたのがデービス*で，この体系を侵食輪廻(りんね)(→侵食作用)とよんだ。しかし，この考え方にはドイツの地理学者ペンクをはじめ，多くの学者の批判も多い。現実の地形は内的営力と外的営力の総称であるということができ，地形特性の地域的共通性に基づいて区画した地域を地形区とよび，個々の地域の地形を詳しく記載したものが地形誌である。またある地域の地形がどのような過程を経て今日の形態になったかを時間的系列の変化を追って説明するものを地形発達史といい，その解明には地形図に基づいて諸種の地形要素を数量的に測定する地形計測などの作業が行なわれる。さらに海面下に存在する海低谷・海谷・浅堆・大陸棚(たいりくだな)・海山などの地形は海底地形とよばれ，これも地表形態の主要な部分であるが，この方面の研究は近年ようやく盛んになったところである。〔桑原正見〕

ちけいず【地形図】 地表の起伏・河川・湖沼・海岸・道路・集落・建築物・鉄道・土地利用などを一定の約束と記号をもって表現した地図。地形図で表現する内容は縮尺によって決まり，大縮尺の場合には多くのものが表現されるが，小縮尺の場合には表現される内容が少なくなるのが一般である。わが国では，建設省国土地理院*が統一した図式で発行している地形図のうちで，10,000分の1，25,000分の1，50,000分の1のものを地形図，20万分の1を地勢図，50万分の1を地方図，100万分の1を国際図とよび分け，さらにこれらを総称して基本図とよんでいる。10,000分の1地形図は大都市およびその周辺地域，25,000分の1地形図は北海道の大半とその他の地域の平野部が完成している。50,000分の1地形図は1890年(明治23)から測量が始められ，今日では日本の全域にわたって完成し，各種の地図の基本となっている。地形図の作成は古くは平板測量によって行なわれたが，最近は写真測量*(航空写真測量)によるものが多い。20万分の1地勢図は比較的広い地域を観察するためのもので，50,000分の1地形図を

基にして編集した地図である。このほかに，1960年から国土の開発や保全のために都市とその周辺地域は2,500分の1，その他の地域は5,000分の1で国土基本図の整備が進められている。

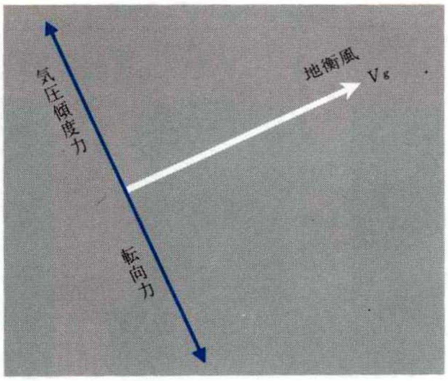
地形図を利用するには地形図の構成・記号・注記などについて理解することが必要である。地図は地球の一部あるいは全部を平面の上に投影したものであるが，大縮尺の地形図は地球のきわめて小範囲を投影するものであるから，地図のひずみはきわめて小さく，利用の際には無視してよい。国土地理院発行の地形図では以前は多面体投影法を，現在ではユニバーサル横メルカトル図法を用いている(→地図)。地形図では土地の高さは等高線によって示され，その種類は4とおりである。道路・鉄道・家屋・境界などの地物，高さや位置を示す三角点・水準点(基準点記号)および煙突・墓碑(目標物記号)，建物の形だけではわからない市役所・寺院・学校・工場(建物記号)，重要な城跡・温泉・飛行場・牧場(場地記号)，樹林や田畑など地表をおおう植生の状態(地類記号)などは記号で示してあり，これを図式という。図式は地形図の外わくに示されているが，たびたび変更されるので地形図を使用するときには注意を要する。最も新しい図式は昭和40年式のものである。〔桑原正見〕

縮尺 / 等高線区分	$\frac{1}{50,000}$	$\frac{1}{25,000}$
計曲線━━	100mごと	50mごと
首曲線──	20m	10m
間曲線─ ─	10m	5m
助曲線……	5m	2.5m

ちけいそくりょう 【地形測量】 地形図*を作成するための測量をいい，山や川あるいは平野など地表面の自然状態のみでなく，道路・鉄道・集落なども含まれる。その方法には平板測量と写真測量*(航空写真測量)がある。前者は平板とアリダード(指方規)・三脚という簡単な測量器具を用い，精度の高い測量で得られた三角点・水準点をもとにして測量域内に基準点を増設し(図根点測量という)，さらに山・川・道路・鉄道・建築物などの目標物の細部を測量していき，最後に地名調書に基づいて地名・注記を記入して測量原図を作成する。〔桑原正見〕

ちけいのりんね 【地形の輪廻】 ⇨侵食作用

ちけん 【地券】 明治政府が発行した土地私有権確認のための権利証。1871年(明治4)12月の太政官(だじょうかん)布告に基づいて，1872年まず東京府，次いで地方都市の市街地に発行された。同年の土地永代売買禁止の解除に応じてその範囲を拡大し，これらは壬申(じんしん)地券とよばれたが，1873年の地租改正*条例以後，順次新しい地券に置き換えられた。1884年に地租関係の帳簿様式が定められ，1886年に登記法が制定されるに至って，地券は意味を失い，1889年3月廃止された。〔応和邦昭〕



地衡風 模式図

ちご 【稚児】 祭礼における神霊の憑依者(ひょういしゃ)。あるいは奉仕者に選ばれた児童，または公家(くげ)・武家・寺院などで雑用に仕える児童。祭礼の稚児は，〈ひとつもの〉とよばれ，四手をたれた菅笠(すげがさ)をかぶり，着飾って馬に乗る。笠には〈しでだら〉とよぶ山鳥の尾を1本つける。〈ひとつもの〉という呼び名は，いちばんたいせつなものという意味で，稚児が祭儀の中心と考えられたことを示している。神霊が幼童の口を借りて託宣を述べたことは古い記録にも多く出てくるが，しだいに憑坐(よりまし)の観念が衰えた結果，稚児は単に神前で献饌(けんせん)や舞踊を行なう祭りの奉仕者と考えられてきた。公家・武家・寺院の稚児は，古くは僧侶(そうりょ)に関係のある児童や公家の子が寺院に仕えて修行したものにはじまり，法会にも参加した。なお，中世に一部の寺院や武家社会で男色が盛んであったとき，その対象となった少年も稚児といった。〔宮本袈裟雄〕

ちこう 【地溝】 断層によって地殻(ちかく)の一部がずり下がり，くぼ地をつくっている地域。裂谷ともいう。両側がほぼ平行な2本の断層でつくられている場合や，平行な数多くの断層でつくられて複雑な構造を示す場合などがある。わが国では秩父(ちちぶ)地方の山中地溝帯，フォッサ-マグナ*がよく知られ，ヨーロッパのライン地溝帯，アフリカ地溝帯*が有名である。これらは，いずれも地殻が両側から引っ張られたり，押されたりする作用によって，間が陥没した形を呈するようになったものである。〔平山　健〕

ちこうしゃ 【地向斜】 地殻(ちかく)表面の，地質時代に相当長期にわたって大規模な沈降を続けた地帯で，厚い地層が堆積(たいせき)した地域。安定した剛塊の周辺部にでき，やがて造山帯の時期を経て褶曲(しゅうきょく)山脈をつくり，固化して剛塊の一部となる。その後，さらにその外側に新たな地向斜が生じる。このようにして剛塊は外側に向かって広がると考えられる。このような理論は19世紀にアメリカのJ.ハールがアパラチア山脈を調査し，その古生層が数千メートルの厚さにもかかわらず，浅海性の岩層であることから，岩層全体がいつも浅海に堆積し，基盤が徐々に沈降してつくると考えた。このことがその後，J.D.デーナ，その他の人々によってまとめられた。しかし，地向斜が生じる原因は十分解明されてはいない。かつては地球の収縮に伴って地殻がくぼむのであると考えられたが，やがて地殻の下のマグマが対流を起こして地殻の一部を引き込むと考えられるようになった。さらに，放射能によって地球内部に熱が蓄積され，それによって地殻の一部がとけて上方へ貫入し，その結果地向斜から造山帯への発展が行なわれるなどの考えも生まれている。地向斜が長さ数千キロメートル，幅数百キロメートルに及ぶことは，ヒマラヤ・アルプスなどの一つの褶曲山脈が一つの地向斜によって生じたと考えられることでもわかる。地向斜ではこのような広い海域にわたり，数千万年にわたって厚い地層が堆積する。その地層はケツ岩・石灰岩・チャートなどのほか，海底火山の噴出物に由来する凝灰岩や溶岩流などで構成されている。地向斜時代の末期には，かつて沖合いの海底であった部分が一部隆起して陸上の山脈となり，そのとき急に侵食作用が進んで，未風化の岩石の破片を多量に流し出し，それらが海岸近くの海底に堆積して砂岩やレキ岩の厚い層を形成する。このような堆積層をフリッシュ層という。これに対し造山運動の最後の隆起により，カコウ岩体まで地表で侵食作用を受けるようになったとき堆積した，砂岩層を主とする地層をモラッセとよんでいる。モラッセではすでに陸上に堆積した部分が多い。〔平山　健〕

ちこうふう 【地衡風】 気圧傾度*に比例し，等圧線に沿って吹く風。気圧傾度力と地球回転の転向力のつりあいによって起こり，$V_g=\frac{1}{\rho f}\cdot\frac{\partial p}{\partial n}$の式で表わされる。ここで$p$は気圧，$\rho$は密度，$f$は地球回転のコリオリ因子(→コリオリの力)，$n$は等圧線に垂直方向の座標である。地衡風は大気中で一般に最もよく観測されるが，地衡風からのずれが実際の天気には重要な影響をもたらす。

ちこうりゅう 【地衡流】 ⇨海流

ちこうろうほう 【地公労法】 ⇨地方公営企業労働関係法

ちこつ 【恥骨】 腸骨・坐骨(ざこつ)とともに寛骨*を形成する骨。

チコ-ブラーエ ［Tycho Brahe］(1546～1601) デンマークの天文学者。はじめ法律を学び，その後天文学をドイツ諸大学に学ぶ。みずから諸種の天文器械を発明し，

望遠鏡発明以前にあっては最高の天体観測を行なった。中でも1572年カシオペア座に超新星を発見し，詳しい観察記録を残した。1576年デンマーク王の援助でフブエン島に，当時としては世界最大のウラニボルグ天文台を建設して火星などの観測をし，その記録はケプラー*に受け継がれ，のちに〈ケプラーの法則*〉として確立された。それはさらにニュートンの〈万有引力の法則〉に導かれている。ブラーエは当時，コペルニクスの地動説が納得できず，独自の地球中心説を唱えたが，この説は17世紀の終わりごろまで行なわれた。〔根本順吉〕

チコリ ［chicory］ フランスではシコレという。地中海地方原産のキク科の洋野菜で，サラダやスープの実に用いる。欧米にはいろいろの種類があるが，日本に多いのはアメリカ種である。葉がちりめん状にちぢれた赤緑色のものがすぐれている。10月末から3月ごろまで一度霜にあたって柔らかみの出たものが市場に出回っている。ビタミンA・B_1・Cおよびカリウムを含み，多く生食するのでそこなわれない。なお，同属にエンダイブ*(キクジシャ)があり，同様に洋野菜として用いられる。〔泉　敬子〕

ちごん 【智儼】 (602～668) 中国，唐代の僧。華厳宗(けごんしゅう)の第2祖。天水(甘粛省)の人で，杜順*(とじゅん)について出家。法常に《摂大乗論(しょうだいじょうろん)》，智正に《華厳経》を聞き，のちに《華厳経》の注釈書《捜玄記》を著わす。他に《五十要問答》《孔目章(くもくしょう)》などの著作があるが，玄奘(げんじょう)によって新たにもたらされた唯識仏教を批判し，華厳学の教理体系を基礎づけした点が注目される。弟子(でし)に新羅(しらぎ)の義湘*(ぎしょう)や法蔵*があり，特に後者は智儼の教学を土台にして華厳学を大成した。

〔吉津宜英〕

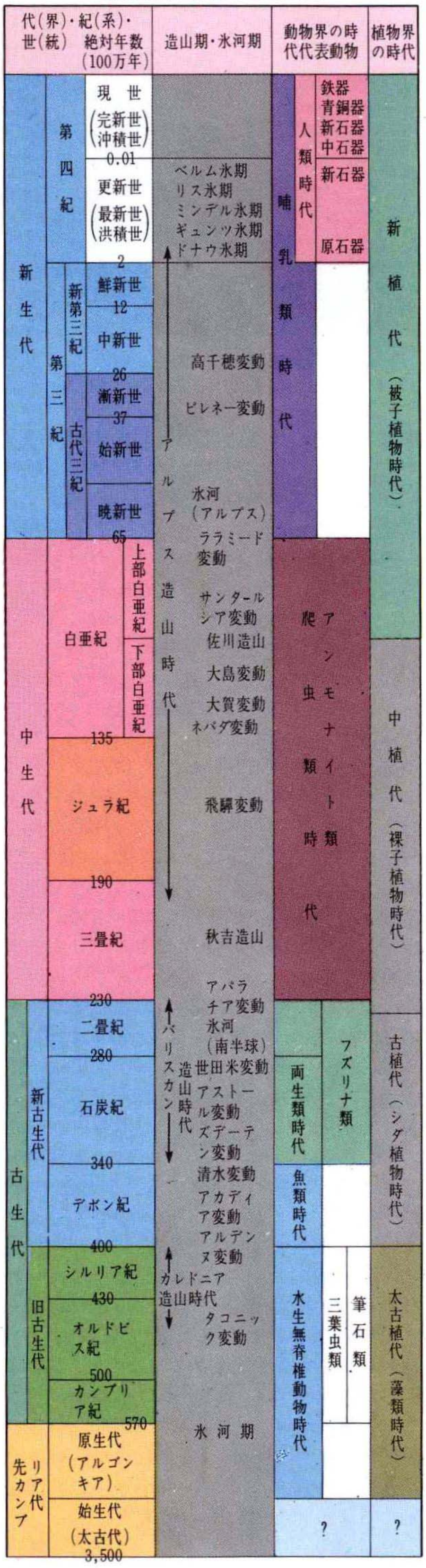
ちさん・ちすい 【治山・治水】 わが国は急峻(きゅうしゅん)な山岳地が多く，しかも山地の多くは火山や断層により破砕されて侵食されやすい状態にある。加えて多雨のために河水による侵食が著しい。このような激しい山地の侵食土砂によってつくられた沖積(ちゅうせき)平野上に，多くの人々が河水を利用する米作中心の農業生活を営んできた。このようなことから，わが国の治水においては山地から生産される土砂を無視することができず，山地荒廃の防止(治山)が治水と不離一体となってきた。〈治水は治山にあり〉という考え方は古く歴史をさかのぼることができるが，この思想を広く世に広めたのは江戸時代の熊沢蕃山*(くまざわばんざん)・河村瑞軒(かわむらずいけん)であるとされている。蕃山は思想的に治山の必要性を説き，瑞軒は技術的にそれを実行した。もちろん，それ以前にも武田(たけだ)信玄の信玄堤，加藤清正(きよまさ)の乗越堤などの治水工法が考案されたり，水源地帯の森林の禁伐・伐採制限などが治山の方法として行なわれてきたりしている。治水のための築堤・護岸・水制などの工事と，治山のための山腹工事・災害防止保安林は長い歴史の間に完成されてきた。明治以降オランダの治水・治山技術の導入，治水三法(河川法・森林法・砂防法)の制定，第1期・第2期治水事業など，また第2次世界大戦後の治山治水緊急措置法などによって，治山治水事業は着々と行なわれてきた。現在の治山(砂防)事業は，災害防止保安林の制定，荒廃山地の復旧，山くずれ・土石流災害の防止，下流への土砂流出防止などを，治水事業は大ダムによる洪水(こうずい)のコントロールを中心としながら，河川改修・河川整備・河口整備を行なっている。〔塚本良則〕

ちし 【智歯】 ⇨親知らず

ちし 【地子】 〈じし〉とも読む。歴史上の地代の一形態。律令(りつりょう)制下，公田*を農民に小作させてこれを賃租とよび，その賃租料を地子と称した。地子は収穫の5分の1で，太政官(だじょうかん)に送られ，中央の雑用にあてられた。延喜式(→延喜格式)で地子の制は整備をみたが，荘園*(しょうえん)の発達に伴ってくずれた。荘園では，荘園領主の直属田を小作する作人が領主に地子を納めた。それに対して在地の私領主がその耕作民から徴収する地子を加地子*・片子と称した。中世から近世初期にかけては，地子は畑および屋敷地に課せられる税となり，近世ではもっぱら市街地の地税をさすようになって銀・銭納が一般化した。これを地子銭といったが，地方によっては，小作料を地子とよぶところもあった。〔高崎徳次〕

ちし 【地史】 地球形成以来の歴史の経過のこと。その主要部は堆積岩(たいせきがん)の層序，古生物の進化過程であり，地質構造*の発展や火成活動・変成作用などの歴史が加わり，さらに地質時代における水陸の分布(古地理)や気候の変遷(古気候)なども地史の一部に含まれる。それらを研究する学問を地史学という。

地質時代の区分および地史



地　史

【日本の地史】日本列島は，地質学的に大きくみて，西南日本・東北日本(両者は本州区に一括される)・北海道主部(日高区)・北海道東部(千島区)の地質区に区分される。各地質区は地質時代を通じて独自の地史を経過し，地質系統の分布も地質区によってかなり異なっている。西南日本と東北日本の境界は糸魚川(いといがわ)-静岡構造線*である。西南日本は中央構造線*によって内帯と外帯に分けられる。内帯では古生界・変成岩(三郡変成岩など)や白亜紀のカコウ岩類・火山岩類が広く分布しているが，中生界もかなり広く露出し，日本海側には新第三系が，九州北部には炭田を形成する古第三系が発達する。内帯南部(領家帯)は，特に変成岩(領家変成岩)とカコウ岩類で特徴づけられる。外帯は，北から南へ結晶片岩からなる三波川帯，古生界・中生界からなる秩父(ちちぶ)帯，上部中生界・下部第三系を主とする四万十(しまんと)帯の東西に延びた3地帯に区分されるが，このような帯状配列は西端の九州ではいくぶん乱れる。東北日本(北海道西南部を含む)では，北上・阿武隈(あぶくま)両

山地や関東周辺の山地に古生界(中生界を伴う)が，さらに前二者には白亜紀カコウ岩類も広く発達し，日本海側には新第三系が広範な面積を占めて油田地帯を形成する。関東にも新第三系と第四系が広く分布する。北海道主部には，東から西へ先白亜紀の古期岩層・変成岩(日高-神居古潭(かむいこたん)変成岩類)・白亜系・第三系が南北方向に帯状をなして分布する。北海道東部では主として新生界が発達し，白亜系も露出する。日本列島では，化石によって確認される最古の地層は中部シルリア系で，これは北上山地・西南日本外帯に露出する。また，放射性同位体法による年代測定では4.2億年前後の年数(シルリア紀)を示す岩石も知られている。なお，日本に大陸性の先カンブリア界があるとみなす見解もあるが，もしあったとしても局地的な分布に限られるであろう。日本の地史は確実なところシルリア紀中ごろから始まるが，それ以前の状態は不明である。

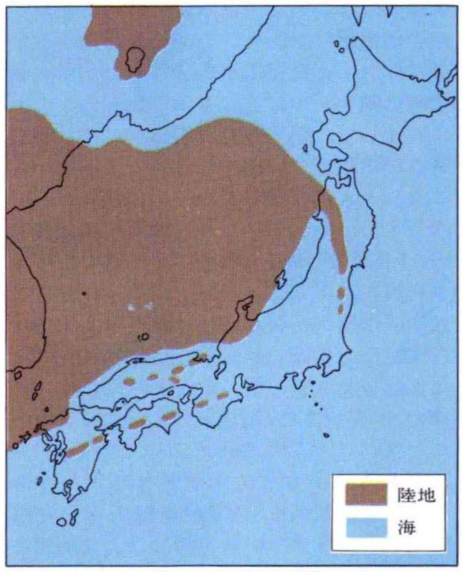


図-1　二畳紀後期

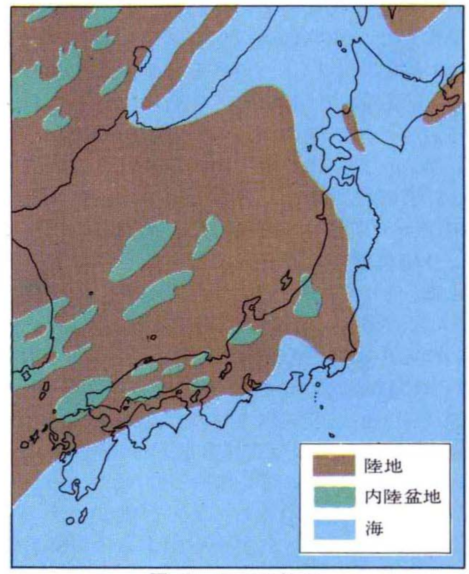


図-2　白亜紀前期

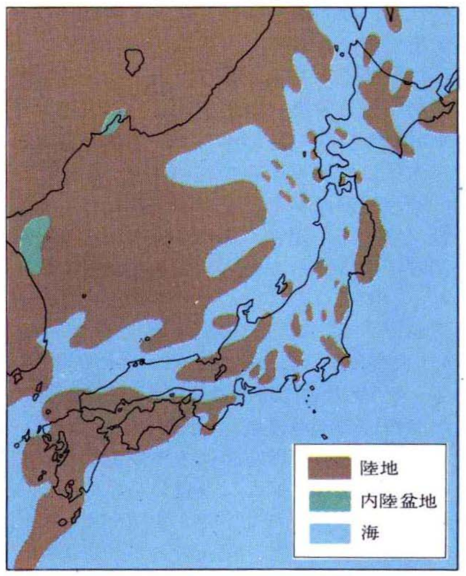


図-3　新第三紀中新世中期

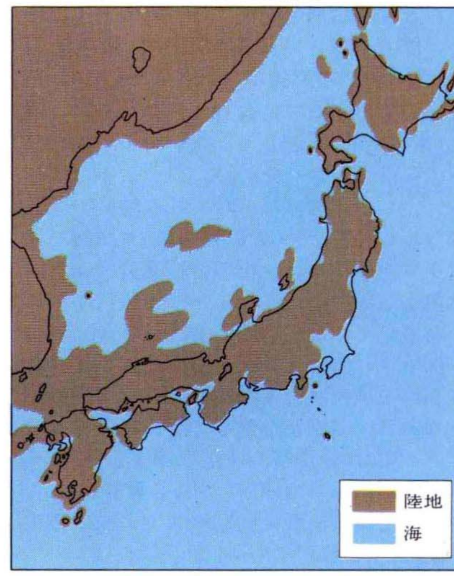


図-4　第四紀更新世前期

地　史　古地理の変遷(湊正雄らによる，1965年，一部簡略化)

【古生代】シルリア紀からデボン紀にかけて，日本列島のほとんどが酸性～中性火山活動の活発な海底下にあって，おもに石灰岩・火山砕屑岩(さいせつがん)が堆積した。デボン紀の地層は，北上山地・阿武隈山地や飛驒(ひだ)地方・四国に知られている。その後，石炭・二畳両紀を通じて，日本の大部分の地域は海底塩基性火山活動を伴う地向斜*(秩父地向斜)をなしていた。この地向斜に堆積した上部古生界は，従来秩父古生層*とよばれ，そのかなりの部分は二畳系である。石炭紀前期には火山活動が激しく，おもに火山砕屑岩が堆積したが，中ごろに地殻(ちかく)変動(清水(しず)変動)が起こった。この変動に伴って，一部に動力変成作用やカコウ岩の貫入もあったとされている。それ以後は火山活動が弱まり，造礁性サンゴ類や大形の有孔虫に富む石灰岩(たとえば秋吉(あきよし)・帝釈(たいしゃく)・青海(おうみ)などの大石灰岩)の堆積が支配的であった。石炭紀末にも地殻変動(世田米(せたまい)変動)があった。二畳紀前期にはいると海進があり，それ以降地向斜には粘板岩・チャート・石灰岩・火山砕屑岩などが堆積した。しかし，二畳紀後期に向かって地向斜内の起伏はしだいに複雑になり，後期には薄衣(うすぎぬ)レキ岩(南部北上山地に発達し，カコウ岩の巨円礫(れき)を含み，石灰質基質をもつ)や類似の異常堆積レキ岩が随所に堆積した。日本列島の大部分を占めていた秩父地向斜は，古生代末ないし中生代初期の変動(広義の秋吉造山*，または本州変動)によって消滅した。内帯では古生代後期から中生代初期にかけて広域変成作用やカコウ岩類の貫入が行なわれ，三郡変成岩類や飛驒片麻岩類とそれに伴うカコウ岩類が形成された。

【中生代】中生代の三畳紀になると，海域はかなり分化した。二畳紀後期にかなり沈降した南部北上山地や舞鶴(まいづる)帯は引き続き三畳紀前期にも比較的著しく沈降した。この時期の地層は南部北上山地では稲井層群とよばれる。内帯では古生代末～中生代初期の造山運動の結果，三畳紀後期には山間盆地が諸所に出現し，粗粒砕屑物に富む造山期～後造山期のモラッセ相の厚層(美禰(みね)層群など，山口県大嶺(おおみね)炭田における日本最古の稼行炭層を伴う)が堆積した。一方，秩父帯の北部・中部は三畳紀の間浅海におおわれ，前期に主として石灰岩が堆積した。三畳紀後期になると，エントモノチス(→モノチス)が多く生息した海が日本列島を広くおおった。南部北上山地の皿貝(さらがい)層群，四国の川内谷層群がこの時期の代表的地層である。秩父帯南部は，二畳紀から三畳紀にかけて海底塩基性火山活動を伴う地向斜の状態にあり，三宝山層群が堆積したが，この地向斜は前の時代よりも南側へずれて発達した。造山運動で内帯に生じた山系は，ジュラ紀特に中ごろ以降になると日本列島の長軸にほぼ平行に走る顕著な山系となり，ジュラ紀の海域を内側(日本海側)と外側(太平洋側)に分け隔てた。内側の寒流系の海は内帯に発達した山間盆地に侵入して，ここに内湾性堆積物(手取層群下部)が形成され，外側では暖流系公海性浅海が広がり，秩父帯に礁性石灰岩を含む地層(鳥巣層群)が堆積した。さらに，南側には三畳紀に引き続いて地向斜海域があった。北海道にもジュラ紀以前にさかのぼって地向斜が存続した。

白亜紀は地殻変動・火成活動のきわめて活発な時代であった。この時代になると，西南日本の内側と外側の差異はいっそう著しくなった。内帯は白亜紀を通じて陸上火山活動(前期ではおもに中性，後期ではおもに酸性)が盛んな内陸盆地の状態にあり，非海成～陸成層(関門層群・手取層群上部)が堆積し，後期になると古第三紀初期にかけて大規模なカコウ岩底盤貫入があった。他

方，秩父帯は浅海におおわれ，この地帯に堆積した白亜系は植物化石に富む領石層群(おもに非海成)，三角貝を多産する物部(もののべ)川層群，外和泉(そといずみ)層群で代表される。さらに外側の四万十帯は，白亜紀から新第三紀初期にかけて海底塩基性火山活動を伴う地向斜をなし，ここにフリッシュ相の四万十累層群が堆積した。地殻変動はジュラ紀後期から白亜紀前期を通じて段階的に進行し，中でも内帯の白亜紀初期の変動(大賀時階)，外帯の白亜紀中ごろの変動(いわゆる佐川造山)が比較的著しかった。西南日本の構造的中軸をなす三波川変成帯*(低温高圧型広域変成岩で特徴づけられる)と領家変成帯(高温型広域変成岩とその中に貫入したカコウ岩類で特徴づけられる)の完成時期は白亜紀中ごろである。両変成帯の境界，すなわち内・外両帯を境する中央構造線の出現も白亜紀中であろう。中央構造線に沿う地帯は白亜紀中ごろ以降大きく沈降し，膨大な厚さの海成砕屑岩層(和泉層群など)が急速に堆積した。東北日本では，白亜紀前期の中ごろに顕著な褶曲(しゅうきょく)運動(大島時階)が起こり，次いでカコウ岩類が広く貫入した。その後，東北日本は比較的安定した状態になった。この時期の代表層はオルビトリナ(大形有孔虫)や厚歯二枚貝を産するウルゴン相の宮古層群である。北海道主部では，少なくとも中生代中のある時期から地向斜(日高-蝦夷(えぞ)地向斜)が形成され，ジュラ紀～白亜紀初期には空知層群で代表される海底塩基性火山活動が行なわれ，白亜紀を通じてアンモナイトやイノセラムスの化石が豊富な砕屑岩層(蝦夷層群・函淵(はこぶち)層群)が厚く堆積した。この地域では，白亜紀前期にすでに変成作用(神居古潭変成岩の形成)も行なわれていた。白亜紀後期になると北海道東部にも別の海底塩基性火山活動を伴う地向斜が出現した。白亜紀末には日本列島は四万十帯を除いて全般的に隆起した。

【新生代】古第三紀では，北海道主部と四万十帯を除く日本列島の大部分は陸化していた。北海道・常磐・北九州などの重要炭田の石炭層はこの時代に形成されたものである。中央構造線は，白亜紀直後から古第三紀前期にかけて活動した。日本を特徴づける弧状列島は，新第三紀に始まった一連の地殻変動の産物である。東北日本・西南日本を境する糸魚川-静岡構造線の出現は新第三紀初頭であったと考えられている。また，新第三紀は火山活動の旺盛(おうせい)な時代であった。新第三紀にはいると，日本列島(特に東北日本)の日本海側や本州を中断するフォッサ-マグナ*地帯などにかけて緑色凝灰岩(グリーン-タフ)で表わされる激しい火山活動に始まる新しい沈降帯が誕生し，以後新第三紀を通じて海成層が厚く堆積し，ときにカコウ岩類の貫入もあった。東北日本の日本海側の地層は石油を埋蔵し，特に男鹿(おが)半島周辺では本邦における新第三系の標準層序を示す。上記の地帯の火成活動に伴って金属鉱床が形成された。中央構造線は第三紀中ごろにも再活動した。これに関連して，瀬戸内海周辺地域に中新世以降盆地状陥没と特徴的な陸上火山活動が起こり，ときに海水がこの地帯に侵入した。四万十帯は第三紀中ごろに顕著な地殻変動(高千穂時階)をこうむり，引き続いてカコウ岩貫入があった。四万十帯にも低温型広域変成作用が行なわれた。北海道主部では白亜紀地向斜は白亜紀末ないし第三紀初暁に地殻変動を受けて，変成帯(日高-神居古潭帯)が完成され，超塩基性岩の貫入があった。次いで，古代三紀夾炭層(石狩層群)や海成新第三系(中でも川端層は膨大な厚さと特異な堆積相を示す)が堆積の中心を順次西へ移動させながら堆積した。北海道主部は白亜紀以降何回かの変動(日高造山)を受けて，褶曲構造は第三紀末に完成された。新第三紀は日本列島に著しい海進が行なわれた時期であるが，第三紀末から第四紀初期にかけて急激に海退が起こり，堆積盆地が著しく分化し，縮小した。この時期には日本列島の形が現在のものに近づいた。

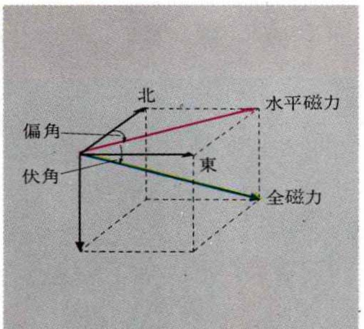
第四紀には新第三紀に引き続いて火山活動が盛んで，現在みられる火山の大部分は第四紀にはいってから活動を始めたものである。関東ロームはこの時期の火山活動の産物である。第三紀末から第四紀にかけての地殻変動では，東北日本の日本海側やフォッサ-マグナ地帯の褶曲・断層運動，瀬戸内海周辺の地塊運動などが目だっており，中央構造線は第四紀中にも再活動した。日本海溝が著しく深くなりはじめたのも第四紀初期と考えられている。氷河作用は高山の一部に限られた。現在の日本列島の地形や海岸線の輪郭は第四紀後期にほぼできあがった。〔田中啓策〕

ちじ 【知事】 都道府県の長。第2次世界大戦前は政府が任命する国の官吏であったが，戦後は地方自治*の原則が確立して公選制に改められ，中央政府に対して独立する存在となってその権限も大幅に拡大した。地方公共団体*である都道府県を代表し，議決機関たる議会に対する執行機関として次の権限を有する。①当該都道府県の事務の管理および執行，都道府県議会への議案の提出，予算の調整・執行，地方税・分担金などの賦課・徴収，会計の監督，財産の取得・管理・処分。②下級行政庁(支庁・地方事務所)の設置および指揮・監督，その地域内の公共的諸団体の活動の総合調整，補助機関たる職員の指揮監督。③機関委任事務(国または他の地方公共団体の行政事務のうち知事に委任されているもの)の管理・執行，道路・河川の維持・管理，戸籍事務の取り扱いなど。これらの処理については委任者(国または他の地方公共団体)の指揮・監督に従う。また議会との関係では，その招集・解散・再議権を有し，専決処分をすることができる。任期は4年，被選挙権には30歳以上などの資格制限がある。➔地方議会 〔寺尾方孝〕

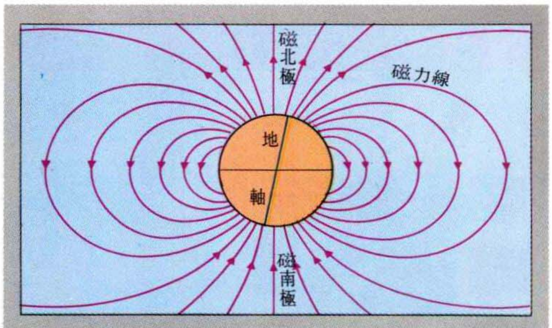
ちしいでんし 【致死遺伝子】 それをもった接合体を致死させる突然変異遺伝子をいい，その作用は発生のいろいろな時期に現われる。二倍体の生物で，1個もつだけで致死させるものを優性致死遺伝子，ホモ接合ではじめて致死作用を現わす場合を劣性致死遺伝子という。自然状態では一定の率で致死突然変異を起こしているが，同様の突然変異は放射線照射によって誘発される。誘発致死突然変異率は照射線量が増すにしたがって増加する。有性生殖をする生物集団には，自然に生じたたくさんの劣性致死遺伝子がヘテロ接合の状態で含まれている。たとえば，日本産キイロショウジョウバエのどの集団も，第2染色体の約15%は劣性致死遺伝子をもっている。これら致死遺伝子の多くは完全劣性ではなく，ヘテロ接合の状態でも数パーセント生存力を低下させるといわれている。〔北川 修〕

ちじき 【地磁気】 磁石の針の重心をささえて，地面に置くと一定の位置で静止し，その南極は地球の北側に引かれ，北極は地球の南側に引かれる。このような現象を起こす地球の性質を地磁気という。この地球磁場の分布が球形磁石の磁場の分布に似ていることを発見したのは，イギリスのギルバートである。地磁気はベクトル*であり，磁針の示す偏角・伏角・水平分力(地磁気の三要素)で表わされる。①偏角：ある場所に置かれた磁針はほぼ南北をさすが，地理学上の南北子午線とわずかの差がある。そこで真北と磁石の北とのなす角を偏角といい，東寄りの偏角は＋，西寄りの偏角は－をつけて表わす。日本付近を例にとれば，札幌(さっぽろ)で－8°，東京で－5°である。②伏角：磁石の針の重心をささえて，自由に動くようにすると，針は水平面とある傾きをもって止まる。北半球では北を向く側が下に傾き，南半球では針の南端が下に傾く。この水平面と磁針との成す角を伏角という。北側が下がるとき(＋)，南側が下がるとき(－)の符号をつけて区別する。東京では約＋47°である。③水平分力：水平面内での地磁気の強さを水平分力といい，ふつうガウス*(記号G)という単位で表わす。磁石の示す南北は，地理学上の南北と一致しない。磁石のさす極を磁北極，磁南極といって，伏角が90°になる場所である。磁北極は78.6° N，69.8° Wでグリーンランドに，また，磁南極は78.6° S，110.2° Eあたりで南極大陸にある(1965)。地磁気の測定は，まだ十分に行なわれてはいない。しかし最近，航空機や磁気に影響を及ぼさない特別の観測船などを使って，しだいに精密な磁気図がつくられるようになってきた。地球磁場の原因についてのいちばん簡単なものは，永久磁石

説である。これは地球内部に鉄・ニッケルのように磁化されやすい物質があって磁石をつくるとするものであるが，磁性物質はある温度以上に熱すると磁性を失うので，地球内部の温度はこの温度以上であるためこの説は矛盾する。現在，最も受け入れられている考えは，ダイナモ理論である。地球内部は流体状であって，しかも電気の伝導度のよい物質からなっている。したがって地球内部に適当な機構によって電流がいつも流れていれば，そのつくる磁場が地表面で地磁気として測定されるわけである。この理論は，地磁気の示すいくつかの性質を説明し，また実験的にも裏づけられている。地磁気は観測によって，変化することが知られている。そのうち，10年，100年などの長年月の間に起こる変化を，永年変化という。これに対して1日のうちに起こる変化もある。たとえば，偏角はその場所での正午前後の変化が最も大きく，これは地球上でほぼ共通している。緯度により多少の差があり，北半球では午前中は東に片寄り，午後は西に片寄る。南半球では逆になる。季節的には夏に大きく，冬には小さい。日変化の主な原因は，太陽の強い紫外線や荷電粒子が大気上層の電離層に刺激を与え，そこに電流を発生させ，それに伴う磁場による影響にある。このようにほぼ規則的な日変化のほかに，一時的に磁場が著しく乱れる磁気嵐*などがある。　〔相原正彦〕



地磁気の三要素



地球を取り巻く磁力線

地磁気

ちしつがく　【地質学】　地球が形成されてから今日までの歴史的経過や法則性などを岩石や地質時代*の古生物・古地理・古気候・地殻(ちかく)変動・火成活動を通じて研究する自然科学の一分野。地質学をさらに専門的に分ければ，岩石学・鉱床学・層序学(地史学)・構造地質学・堆積(たいせき)学などに分けられ，天文学・地球物理学・鉱物学・地球化学・地形学・海洋学・古気候学・古生物学などと深い関連性をもつ。地質学は17世紀後半から発達し，19世紀前半イギリスの地質学者ライエルの著わした《地質学原理》によって基礎が確立された。わが国では明治初期(1870年ごろ)から当時外国から招かれて来日した外人たちや日本人の先達によって開拓された。　〔平山　健〕

ちしつけいとう　【地質系統】　⇨地質時代

ちしつじだい　【地質時代】　地球の表面に岩石からなる地殻(ちかく)が形成されて以後の地球の歴史(地史*)の時代。現在の知識では少なくとも約35億年前に始まる。地質時代での時間の新旧・同時性は古くから層序学(地層の産状・分布・順序・相互関係・含有化石などを総合的に研究し，地層を区分し対比する地質学の分野)的方法および二つ以上の岩体(たとえば堆積岩(たいせきがん)と火成岩)間の接触関係によって判定された。時間の新旧・同時性の表示は年代尺度に基づく。生物の進化を反映した化石群の変遷が年代尺度の最も代表的な基準となる。年代尺度区分の単位は大きいほうから代・紀・世・期に分けられ，それぞれの単位に対応する地質系統を界・系・統・階とよぶ。化石上の記録のきわめて乏しい先カンブリア代*に対しては上記のような年代尺度区分の適用は不可能である。一方，最も新しい時代(第四紀*)については氷河の消長，地形面，人類文化史などが年代尺度の基準となる。地質時代は先カンブリア代・古生代*・中生代*・新生代*に大別され，おのおのが順次細分される。以上は，地質時代での相対的な時間を示すものにすぎない。他方，絶対年数(年齢)の決定は岩石中に含まれる鉱物中の放射性同位体を利用して求められる。しかし，第四紀の場合では，火山噴出物中の木炭や人類遺跡から得られる木炭について放射性炭素^{14}Cが有効で，この方法によると過去30,000年前後の年数を決定することができる。　〔田中啓策〕

ちしつず　【地質図】　ある地域の地質の状態を示す図面。その地域を構成するいろいろな岩石(堆積岩(たいせきがん)・火成岩・変成岩)を時代別に分け，その分布・配列やそれらの岩石の相互関係・構造を図面に表わしたものである。地形図を基礎に使い，岩石の分布は色彩・模様・記号によって示し，堆積岩・変成岩などのつくる走向・傾斜・褶曲(しゅうきょく)・断層，化石の産地・種類などもそれぞれ記号によって示す。地質図は通常地表の表土を取り去った基盤についてつくるが，特に表土層を示すために表層地質図をつくることもある。表土層の下の基盤についてつくる場合，直接観察できない部分は地質図学の力を借りて推定・解釈を行ない，また必要に応じてはボーリングなどによって地表下の様相を確認することもある。地質図は地質調査に基づいて精粗いろいろな精度につくられるが，適当な線に沿った地質断面図とその地域の地質について記載した報文をつけるのが普通である。この報文は，地質図に表現できない事項を記述したり，表現の不足を補ったりするものである。また，必要によっては地質柱状図・ブロックダイヤグラム・パネルダイヤグラムなども表現の補助手段として使われる。地質柱状図は，地質図に表わされた地域の地質の状態をまとめて柱状の断面図として描いたもので，地質の解釈の補助に使う。
→次ページ(図)　〔平山　健〕

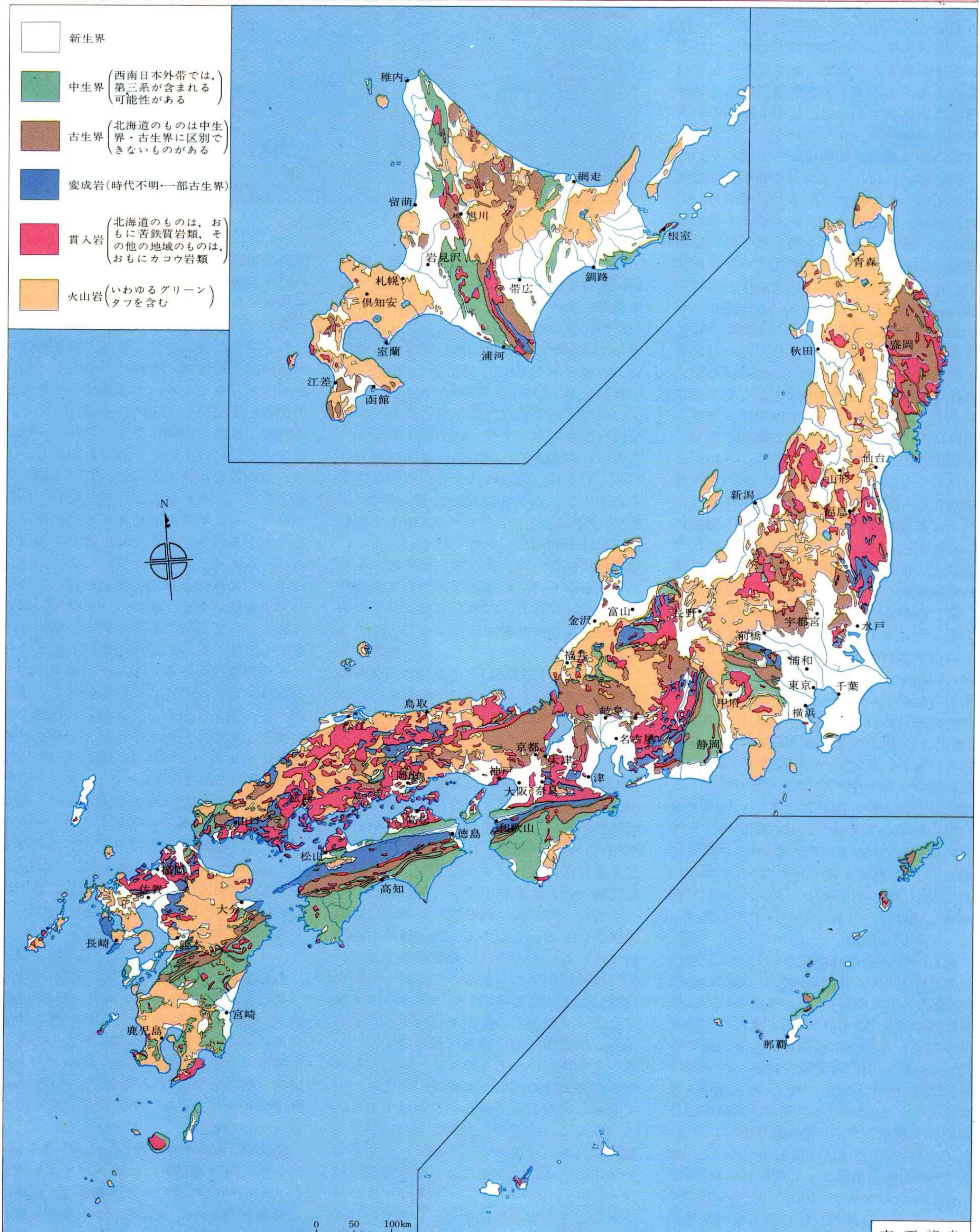
ちしつちょうさ　【地質調査】　地殻(ちかく)の上層部の岩石の分布状態・相互関係・地質構造・地史などを調べて地質図*・地質断面図などをつくり，その地域の地質の歴史的過程を追究して法則性を研究したり，また地下資源の開発に役だてたりする作業。調査の方法には次のようなものがある。①地表の地質を調査する方法。野外で岩石の露頭を調べ，それを総合的に判断して地質図をつくる。精度を高めるために必要に応じて表土をはぎ，岩石を露出させて調査することもある。②ボーリングによる方法。その地点の地殻上層部の断面を知り，地下の地質を確認する。③いろいろな物理探査*技術を使って地殻上層部の岩石の様相を推定する方法。重力・磁気・電気・地震*などによる探査法がある。④地球化学を応用する方法。地表に分布する特定の元素の量を調べて，地下における元素の分布状態を推定する。おもに目的とする鉱床の分布状態を推定するのに使われる。⑤海底の地質調査方法では，海底の岩石・泥土(でいど)を採集して行なう。⑥航空写真による方法。航空写真を解読して地質を推定するのであるが，これには地表地質調査の併用が必要である。わが国のような森林におおわれた山地では実施がやや困難であるが，乾燥した露出の多い山地(中近東・アメリカ大陸の一部など)では非常に有効に使われている。　〔平山　健〕

ちしまかいりゅう　【千島海流】　⇨親潮

ちしまかざんたい　【千島火山帯】　北海道中央部から阿寒(あかん)・知床半島を経て北東に延び，千島列島北部に至る火山帯。大雪山・十勝岳・雄阿寒岳・雌阿寒岳・斜里岳・羅臼岳(らうすだけ)などの活火山が多く，摩周カルデラがある。千島列島にも火山やカルデラが多い。

ちしま-カムチャツカかいこう　【千島-カムチャツカ海溝】　カムチャツカ半島東方から千島列島*の東沿いに走る海溝。最深点は千島列島ウルップ島沖のタスカロラ海淵(かいえん)で，深度10,542m。カムチャツカ半島
→317ページ

地　質　図



新生界
中生界（西南日本外帯では，第三系が含まれる可能性がある）
古生界（北海道のものは中生界・古生界に区別できないものがある）
変成岩（時代不明・一部古生界）
貫入岩（北海道のものは，おもに苦鉄質岩類，その他の地域のものは，おもにカコウ岩類）
火山岩（いわゆるグリーンタフを含む）
N
稚内
網走
留萌
旭川
根室
岩見沢
札幌
帯広
倶知安
釧路
室蘭
浦河
江差
函館
青森
秋田
盛岡
仙台
山形
新潟
福島
長野
金沢
富山
宇都宮
水戸
前橋
福井
浦和
東京
千葉
甲府
横浜
鳥取
岐阜
名古屋
静岡
京都
大津
神戸
津
大阪
奈良
和歌山
徳島
松山
高知
福岡
佐賀
大分
長崎
熊本
宮崎
鹿児島
那覇
0　50　100km
南西諸島

東方から日本列島南方にかけて延びる日本海溝の北部にあたる。

ちしまぎきょう　【千島桔梗】　双子葉植物・キキョウ科。本州中部以北の高山の砂地や北海道・サハリン(樺太(からふと))・千島などにはえる多年草。根茎は太く，地上茎は高さ5～15cm。葉は卵状披針(ひしん)形で厚ぼったく，表面は濃緑色で光沢があり，互生する。縁には細かい鋸歯(きょし)がある。7～8月，茎の先端に青紫色で長さ3～4cmの鐘形の花をつける。イワギキョウに似るが，花弁の縁や内面に白い長軟毛がある点で異なる。

ちしまざくら　【千島桜】　⇨サクラ

ちしまれっとう　【千島列島】　北太平洋，カムチャツカ半島南端から北海道北東端まで延長約1,200kmの飛び石状に連なる火山列島で，総面積14,706km²。外国ではクリル列島とよばれるが，これはロシア語の〈煙〉の意で火山の噴煙に由来する。おもな島には北から，シュムシュ(占守)・パラムシル(幌筵)・オンネコタン(温禰古丹)・カアレンコタン(加亜連古丹)・シャシコタン(捨子古丹)，マツワ(松輪)・ラショワ(羅処和)・ケトイ(計吐夷)・シンシル(新知)・ウルップ(得撫)・択捉(えとろふ)・国後(くなしり)の諸島で，約30の火山島と多数の岩礁よりなる。

16の活火山があり，最高峰はアライト島の標高2,339mである。北太平洋とオホーツク海を分け，太平洋岸を寒流の千島海流が南流しており，冬はベーリング海から流氷を運び，夏は付近でしばしば海霧が発生する。亜寒帯気候で北千島にはツンドラがみられる。産業はタラ・ニシンの漁業があり，かつてはアザラシ・ラッコなどの海獣猟も行なわれていた。ほかに毛皮・鉄鉱石・泥炭(でいたん)を産する。原住民は，アリューシャン列島から渡来したアリュート族と，北海道から移住したアイヌ人が主である。

最西端の国後島には，活火山のラウスノボリ・ポンノボリ・チャチャノボリがあり，温泉の多いことで知られ，その東方にある色丹(しこたん)島はシコタン竹を産し，国後水道を隔てた択捉島は良港が多く，森林におおわれ，川にはサケが上ってくる。

ヨーロッパ人の最初の渡来は1634年のオランダ人航海者M.ブリーで，以来，北千島にはロシア人が多く渡来し，1795年にウルップ島にロシア-アメリカ会社をつくって日本・中国との貿易を始めた。1805年ロシアの航海者ゴロブニンは，千島沿岸を探検して地図をつくった。これより早く択捉・国後・色丹の南千島三島には，1643年から日本人とアイヌ人が移住していた。日本とロシアの境界は，1854年択捉海峡に引かれたが，1875年の千島樺太(からふと)交換条約*により，列島はすべて日本領になった。第2次世界大戦後は1945年のヤルタ会談*の決定に基づいて，ソ連が全列島を占領し，1947年からは樺太の一部として統治を続けている。1956年の日ソ共同宣言に際して，ソ連は将来平和条約が締結されたときに歯舞(はぼまい)諸島と色丹島を返還すると宣言したが，南千島については態度を濁した。日本政府は，南千島は日本古来の領土であるとしてその返還を要求しているが，〈北方領土〉問題は未解決になっている。　〔大崎　晃〕

ちしゃ　⇨レタス

ちじゃくいん　【智積院】　京都市東山区塩小路通大和大路東入ルにある新義真言宗智山派の総本山。当寺は，もと紀伊(きい)(和歌山県)根来(ねごろ)の大伝法院の一坊で，1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)により焼き払われたが，秀吉の死後，秀吉が棄丸(すてまる)のために建てた祥雲寺の地に1601年(慶長6)に再興された。現在，智積院の襖絵(ふすまえ)として名高い一連の障壁画は，もとその祥雲寺のものであった。《紙本金地著色桜楓(おうふう)図》《紙本金地著色松に草花図》(いずれも国宝)は桃山時代絵画を代表する逸品で，長谷川等伯*とその一門の手になるものといわれる。庭園は中国廬山(ろざん)の景を写したものと伝えられる。　〔永井信一〕

ちじゅんほう　【置閏法】　暦の1年の平均の長さを1太陽年*または1太陰年*の長さにできるだけ近づけるために，普通の暦日または暦月のほかに特別の日または月を配置する方法。この特別の日または月を閏日*(うるうび)または閏月*とよび，これらの置かれる年を閏年*という。太陰暦*では30年間に11閏日，太陰太陽暦*では19年間に7閏月または8年間に3閏月，太陽暦*では4年間に1閏日を置く方法をとっている。



チシマギキョウ

ちじょうけい　【地上茎】　いわゆる茎のこと。高等植物の栄養器官で，葉や花をつけ，水分や養分の通り道となっている。幼芽が発達してでき，先端部は成長点で，分裂細胞群があり分裂して伸長し，芽を生じて葉や枝となる。

ちじょうけん　【地上権】　工作物または竹木を所有するために他人の土地を使用する物権*をいう(民法265条)。地上権は設定契約によって取得することが多いが，時効*によっても取得し，さらには抵当権*の実行の際に法律の規定によって取得される場合がある。これを法定地上権という(民法388条)。地上権の存続期間は契約によって定められるが，契約がなければ慣習により，慣習がなければ当事者の一方の申し立てにより，裁判所が20年以上50年以内の範囲で定める(民法268条)。しかし，借地法*では，建物所有を目的とする地上権および賃借権*を総称して借地権とし，その存続期間については契約がある場合は，堅固な建物については30年，その他の建物については20年と定めて，これに満たない期間の契約は無効であるとし，期間の契約がない場合には堅固な建物については60年，その他の建物については30年の存続期間を認めている。さらに更新についても強い制限が土地所有者に加えられて，借地人の保護が図られている。(借地法2・5～8条)。地上権の使用目的は，必ず工作物の所有または竹木の植栽に限られ，これら設定行為に定めた目的に違反して土地を使用した場合には，地上権の消滅を宣告されることがある。地代を2年以上滞納した場合も同様である(民法266条)。けれども，地上権は物権であるから，これをみずから使用するだけでなく，地主の同意を得ないで，賃貸することも譲渡することもできる。地上権が消滅したときには，地上権者は土地を原状に復し，その工作物および竹木を収去することができるが，土地所有者が時価を提供してこれを買取する旨を通知したときは，地上権者は正当の理由なくしてこれを拒否することができない(民法269条)。借地法では，この地主的規定と

智積院　国宝の紙本金地著色壁貼付の《桜楓図》　11面のうちの2面。

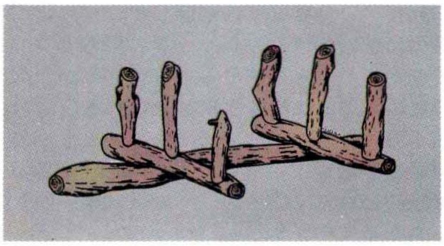


は反対に，借地人の側に建物買取請求権を認め，土地所有者に買い取る義務を課している（借地法４・10条）。なお，高架式の鉄道や道路，地下鉄，地下駐車場など，土地の上下に及ぶ高度利用の増大に伴い，それらの部分についてのみ地上権を認めることを目的とした民法改正が1966年（昭和41）に行なわれ，地下権および空中権が設定できるようになった（民法269条２項）。なお，地上権は物権であるから，これを登記しなければ第三者に対抗できない（民法177条）。
〔黒木三郎〕

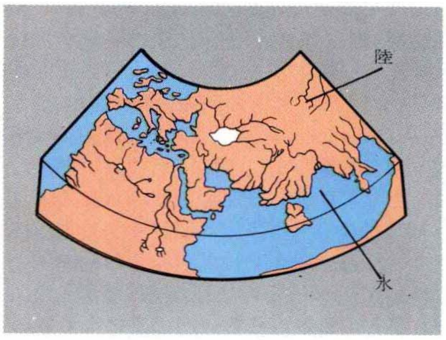
ちじょうゆうどうちゃくりくそうち
【地上誘導着陸装置】 悪天候で視界の悪いときや夜間などに，地上からの無線誘導によって飛行機を安全に着陸させる装置。レーダーによって飛行機の位置を探り，誘導電波を出して滑走路に導く。飛行機にはこの電波を受けて正しい方向や姿勢を投影するオシロスコープがあり，パイロットはこの電波に沿って機を操縦する。➔計器着陸装置

ちず 【地図】 地球表面の一部あるいは全部を，縮小して平面上に描画再現したものをいう。

〈歴史〉 地図は文化の総合的産物といわれ，地球に関する知識の拡大と科学技術の発達に伴って発達した。地図のはじまりは，どこになにがあるか，そこへ行く経路はどうかといったことを視覚に訴えたもので，人間生活の必要性から生まれたものである。したがって，マーシャル諸島原住民の海図やタヒチ島原住民の地図のように，文字をもたない未開民族でも地図をもっている。世界最古の地図は，古代エジプトのラムーゼ１世の作成によるヌビア金山を描いたもので，パピルスに描かれている。ギリシア時代にはいると科学特に天文学・数学の発達が地図作成に大きい影響を及ぼし，エラトステネスやトレミーは経緯度を測定して世界図を作成した。しかし，それは今日の世界図とは異なり，ギリシアを中心とした当時の世界についての知識の範囲内のもので，地中海沿岸とアラビア半島を中心に描いたものであった。中世にはいるとキリスト教の影響によって科学性を失い，科学的な地図の伝統は回教徒であるアラビア人によって引き継がれた。ルネサンス以後，未知の世界の探検，商業活動の活発化などによって地球に関する知識が急速に増大し，加えて印刷技術の発達，科学の進歩に伴う測量法や器械類の発達によって地球の形状が明らかになり，地図の精度が著しく向上した。特にメルカトル父子の各種の地図，ユワン-プラトリアスの平板測量の発明は幾多の貢献を残した。17世紀後半には中世の絵画的方法による表現から，ケバ・ボカシ・等高線などによる表現法が発達し，18世紀には，従来の学者の個人的研究から軍事用・徴税用として地図作成は国家的事業



タヒチ島原住民の地図



トレミーの世界地図

地　図

に発展した。さらに20世紀には写真測量の実用化，製図の機械化などで精度は著しく向上し，その使用も一般大衆の中に定着していった。一方わが国でも地図の歴史は古く，最古のものは奈良時代に行基が描いたといわれる《行基図》である。この図はその後，平安・鎌倉・室町の各時代を経て江戸時代初期まで地図作成の基本となった。1778年（安永７）水戸（みと）藩の地理学者長久保赤水はわが国ではじめての経緯線のはいった《大日輿地（よち）路程全図》を作成し，その後1800年（寛政12）から地図作成にとりかかった伊能忠敬（いのうただたか）は《大日本沿海輿地全図》を実測によって完成した。この地図は通常〈伊能図〉とよばれ，細部の表現もきわめて詳細なものである。さらに1877年（明治10）から全国の地籍調査が行なわれて今日の地籍図が作成され，1880年からは近代的な地形図の測量が進められた。第２次世界大戦後には写真測量が実用化し，今日の地形図の多くは写真測量を基本にしている。

〈地図の種類〉 地図は統治・政策の立案・施行・軍事・生産活動および国民生活と直接結びついて，あらゆるところで要求され利用されている。これらの要求に応じて，地図には精密な地形図から簡単な案内図まで，また，縮尺の大きい地図から，縮尺の小さい世界地図まで種々ある。地図は描かれる水陸によって陸図と海図に大きく分けられる。海図は航海の安全・港湾の構築・漁業・海底資源の開発のために，海上保安庁水路部で作成されている。陸図はおもに建設省国土地理院で作成されているが，第２次世界大戦前は陸軍省参謀本部の手で作成されてきた。

①作成方法からみた種類：ⓐ50,000分の１地形図のように，三角測量・水準測量を基にして地形測量により細部を測図したもの。すなわち広義の測量の直接の結果による実測図。ⓑ地形図から編集してつくる編集図，たとえば20万分の１地勢図，50万分の１地方図，100万分の１万国図など。ⓒ切図の基本地図を適当に貼接（てんせつ）集成して特定の地域図として複製した集成図あるいは複製図。たとえば分県図・管内部（都府県・市郡・町村・省庁など）・写真地図など。

②利用形態からみた種類：ⓐ１枚１枚が経線や緯線などによって区切ってある枚葉図，ⓑ掛地図，ⓒ地図帳，ⓓ立体図。

③描かれている地域からみた種類：ⓐ世界図，ⓑ大州図，ⓒ地域図，ⓓ地方図，ⓔ分県図，ⓕ管内部。

④縮尺からみた種類：地図は一般には何分の１かに縮めて描いているが，縮尺の大小は分母数の小さいもの，すなわち分数値の大きいものを大縮尺といい，逆に分母数の大きいものを小縮尺という。ⓐ10万分の１より大きい縮尺の地図を大縮尺図，ⓑ10万分の１より100万分の１までの縮尺に属する地図を中縮尺図，ⓒ100万分の１より小さい縮尺の地図を小縮尺図という。大縮尺図の場合には地図上の長さと，その地図の縮尺の逆数との積は現地の長さに等しく再現されるが，小縮尺の地図の場合は地図をその縮尺の相当分拡大しても，その地図に対応する地域そのままの関係に再現されるというわけにはいかない。

⑤地図投影からみた種類：地図は球面である地表を平面に描くが，その方法には各種あり，これを地図投影法とよぶ。投影面を平面であるか，円錐（えんすい）であるか，円筒であるかによって，それぞれⓐ方位図法，ⓑ円錐図法，ⓒ円筒図法の三つに分けることができ，これが地図投影の基本である。これらの図法に数学的な方法を取り入れたものとして，ⓓ擬方位図法，ⓔ擬円錐図法，ⓕ擬円筒図法，ⓖ多円錐図法，およびⓗこれに変更を加えた図法がある。

⑥地図の性質からみた種類：一般に地図をつくる際に要求される基礎的条件として，ⓐ距離関係が正しく表わされること，ⓑ面積関係が正しく表わされること，ⓒ角または方位関係が正しく表わされること，ⓓ各部における形状の関係が正しく表わされること，などがあげられる。どんな投影法を用いても地図に要求されているこれらの条件を満足させることは不可能である。そこで各投影図法によって描かれた地図はなにが正しく表わされているかという地図の性質によって，ⓐ距離関係が正しく表わされる図法を正距図法，ⓑ面積関係が正しく表わされる図法を正積図法，ⓒ角あるいは方位関係が正しく表わされる図法を正角図法という。また，それぞれの図法の欠点を緩和するような中間的なⓓ折衷図法があり，これ以外に上記の条件とは別の条件を目的

とするⓔ特殊図法がある。

⑦目的からみた種類：ⓐ一般図と，特定の目的にのみ利用されるⓑ特殊図がある。一般図には10,000分の1，25,000分の1，50,000分の1，などあらゆる地図の基本になるものと，20万分の1地勢図，50万分の1地方図，100万分の1国際図，200万分の1日本全図，2,200万分の1世界地図のような編集図がある。特殊図には，地籍図・土木事業図・都市計画図・海図・航空図・地質図・土地利用図・人口密度図，および各種の分布図・統計図などがある。このほかに白地図や観光案内図もこの部類にはいる。

〈地図投影法〉 地図投影法とは，地球上の緯線・経線の平面上への引き方である。投影にあたって地球に対する視点を定め，そこから地球上の緯線・経線を被投影面に投影してその射影を求めることをいう。また，この投影を基本にして数学的方法によって緯線・経線を作図したり，あるいは地図投影法と数学的方法を組み合わせて経緯線を作図することもある。また，各投影法によって描かれた地図も投影される面が地球と接する位置によって，正軸投影・斜軸投影・横軸投影に分けることができる。

〈方位図法〉 1点を視点として各緯線・経線を一平面上に表わす方法で，一般に透視図法ともよんでいる。この場合，視点の位置によっていくつかの種類に分けられるが，実際地図に利用されているものには心射図法・平射図法・正射図法，その他の図法がある。これら三つの投影法によって描かれた地図は投影される平面が地球と接する位置(この点が地図の中心になる)によって，それぞれ3種類に分けられる。①投影面が極(北極・南極)に接する場合を正軸投影という。正軸投影によって描かれた各緯線は極を中心とする同心円になり，緯線は極を中心とする等角度の放射する直線になる。②投影面が赤道上の任意の一点に接する場合を横軸投影といい，③他の場合を斜軸投影という。

①心射図法：視点を地球の中心に置いて地球に接する平面に投影する方法。この図法で描かれた地図は地図の基礎的条件とする距離・角・面積関係のいずれも不正確になり，特に距離関係は地図の中心から離れるにつれて急速に増大し，90°の点は無限に遠方に行ってしまい図上に描くことはできない。視点が地球の中心にあるから，地球上の任意のすべての大円はつねに直線に投影される。したがってこの図法で描かれた地図上の任意の2点を直線で結べば，それが2地点の最短距離の経路を示すことになり，今日では航路図などでしばしばこの図法が用いられている。

②平射図法：視点を球面に置き，反対側に接する平面に投影する方法である。正軸投影の経線を除いて，各経線・緯線は一般に円または円の一部として表わされる。この図法は正角図法で，地球上の角がつねに正しく投影されているから，地図上の2線のなす角はつねに正しい。しかしこの図法においても地図の中心から離れるにつれて，距離・面積関係はしだいにゆがんでくるが，他の方位図法の中では比較的ゆがみが小さいので，航空地図，あるいは一般図用として利用価値が比較的大きい。

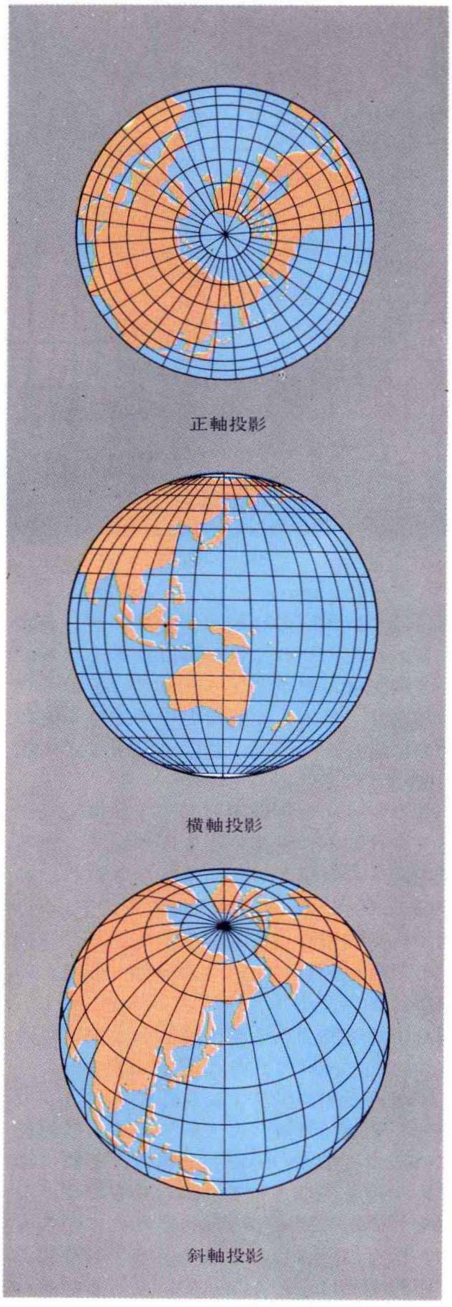
③正射図法：視点を無限の遠方において地球の反対側で接する平面に投影する方法である。この図法で描かれた地図は，地図の中心から離れるにつれて形が中心の方向に著しく縮まり，それだけ面積も小さくなって地図としての役割を果たさなくなるが，中心付近では距離・形・面積関係が比較的正しく表わされる。この図法は視点を無限に遠方に置いたのであるから，その投影図は地球を遠く離れてみたありさまを表わすことになり，天体としての地球の説明図などにしばしば使われる。

④正距方位図法：投影面が地球と接する地図の中心から任意の点までの距離が，地球上の距離と等しくなるようにしたものである。したがって正軸投影の場合には同心円をなす各緯線間の間隔が等しくなるようにしてある。この図法では地図の中心から離れるにつれて緯線方向に長さが伸びるため，面積は増大し，形は扁平(へんぺい)になる。国際連合の旗は，北極を中心として60°Nまでの範囲をこの図法で描き，これを多少図案化したものである。

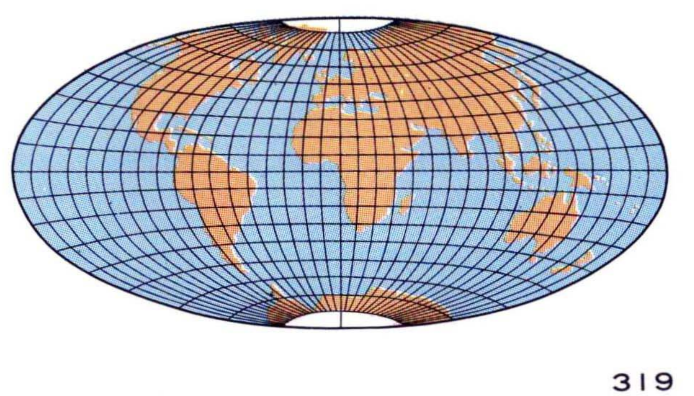
⑤正積方位図法：方位図法の正軸投影は極から離れるにつれて各経線の間隔が大きくなるので，各緯線の間隔を小さくして，面積が正しくなるようにした図法である。したがって地図の中心から離れるにつれて緯線方向に縮まるから形は正距方位図法によりいっそう扁平になる。

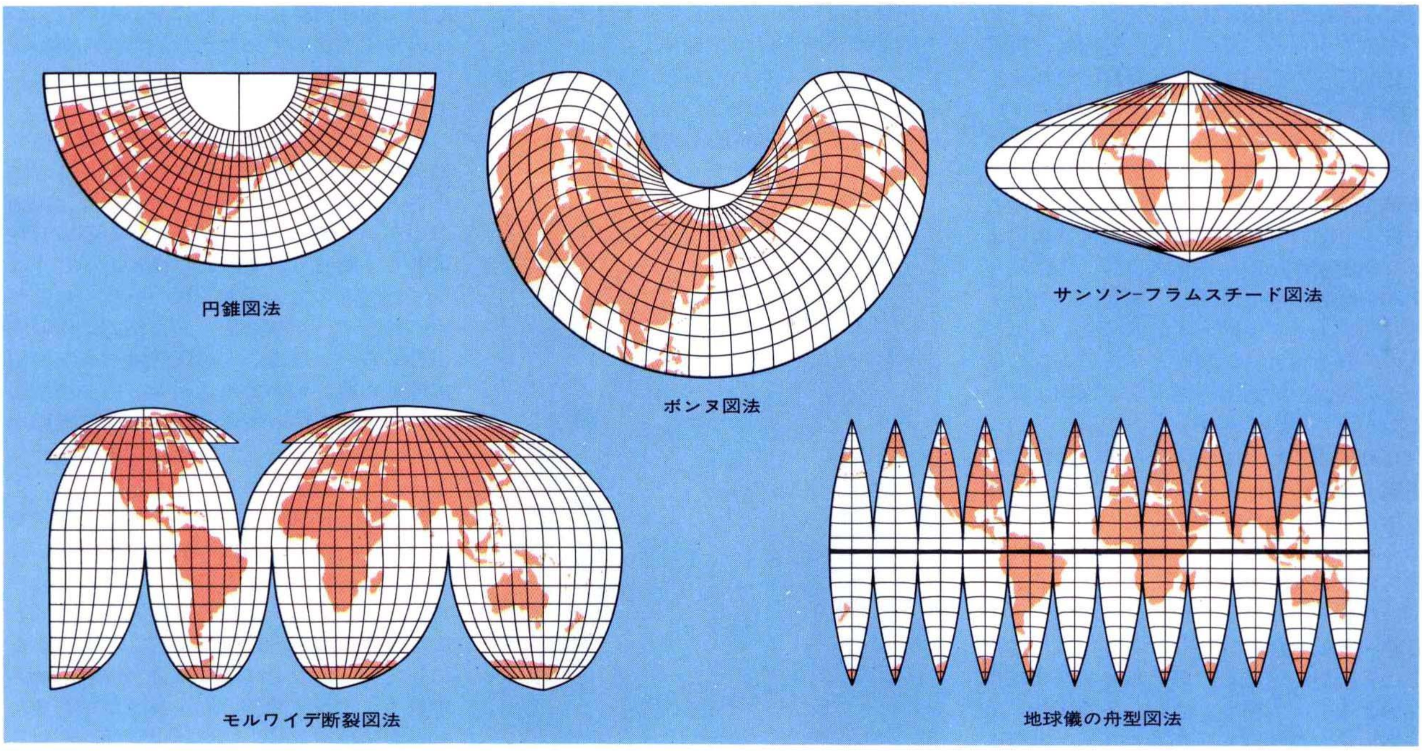
⑥エイトフ図法：ロシア人エイトフが1891年に発表した等距離方位図法である。経緯線をそらせて形のゆがみを小さくしたもので，全地球を描いたときの外周は，長軸と短軸の比が2：1となる。擬方位図法に属する。

〈円錐図法〉 地球に円錐をかぶせ，円錐の内側を投影面として，そこに各経緯線を投影する方法であり，さらに母直線に沿って切り開いたものである。このとき①円錐面と地球が離れている，②円錐が地球と外接している，③円錐面が地球と交わる，などの場合が考えられる。②の場合，円錐面と地球が外接しているところは円になる。③



地　図　正射図法


エイトフ図法



地　図

の場合，円錐面と地球との二つの交わりは二つの同心円になる。これらの円を円錐図法の基準線(標準線)という。円錐軸と地球との関係によって，地軸が円錐軸と一致する場合を正軸円錐図法，円錐軸が赤道面に含まれる場合を横軸円錐図法，他の場合を斜軸円錐図法という。正軸円錐図法の場合，各経線は等角度の放射線に，各緯線は同心円になる。したがって基準線は緯線に一致する(標準緯線)。方位図法では地図の中心付近が正しく表わされるのみであるが，円錐図法・円筒図法では基準線に沿うその付近が正しく表わされるので，方位図法よりすぐれているといわれる。

①単円錐図法：トレミー図法ともよばれ，1,800余年前，トレミーによって考案された図法である。この図法は基準緯線を定め，これを基準にして等間隔に各緯線を同心円状に描き，地図に表わそうとする地域の経線を中心にして等角度に分割したものである。この図法は正積でも正角でもないが，基準緯線よりあまり遠く離れないかぎり，面積・角および距離関係のゆがみは比較的小さい。この図法は中緯度で東西方向に延びる地域を描くのに適するが，南北方向に延びる地域を描くのには適しない。

②ボンヌ図法：18世紀中ごろにフランス人ボンヌによって案出された正積図法である。円錐図法で経緯度を適当な曲線に書き替えたものを擬円錐図法というが，ボンヌ図法はその代表である。単円錐図法を正積になるように各経線の間隔を改変したものである。そのため各経線は曲線になっている。この図法では基準緯線および中央経線付近では地図のゆがみが少ないが，両者から離れるにつれてゆがみは大きくなる。この図法は，アジア・ヨーロッパといった大地域から日本・朝鮮など中小地域を表わすのに適し，一般図・普通地図帳などに広く使用されている。

③ランベルト相似円錐図法：18世紀末ごろランベルトの考案による正角図法である。航空図・一般図として広く利用される。わが国の25万分の1《日本とその周辺》はこの図法を斜軸投影したものである。基準緯線上の距離は正しいが，他の緯線・経線上の距離は多少歪曲(わいきょく)している。しかし，同じ正角図法である平射図法およびメルカトル図法に比べて，その歪曲は少ない。

④普通多円錐図法：1850年ごろアメリカ海岸測量局で考案したものである。各緯線に外接する多くの円錐面を考え，それに地球の中心を視点として投影したものを，それぞれの基準緯線帯の部分を互いに隣のものと次々に接合したものである。各緯線上の距離関係は正しくなっている。しかし，経線に沿った距離関係は中央経線上では正しいが，これから離れるにつれてしだいに増大している。ふつう多円錐図法は南北に長く，東西方向に狭い地域の投影に適している。わが国では国土地理院発行の200万分の1日本全図および50万分の1地方図はこの図法によるものである。

⑤多面体図法：面積が十分小さい各緯線・経線で区切られた地域の中心に平面を外接させ，それを被投影面として，地球の中心に視点を置いて投影する方法である。このような方法で地球全体の地図をつくり，これらすべてを継ぎ合わせると多面体になる。それぞれの1枚1枚については一種の方位図法であるが，多円錐図法としての説明も成立するのでこの分類の中に入れておくこともある。大縮尺の広い地域の地図をつくる場合に適する図法で，従来，わが国の10,000分の1，25,000分の1，50,000分の1地形図および20万分の1地勢図は一般にこの方法によっていた。

〈円筒図法〉 地球に外接するような円筒を考え，円筒の内側を投影面として各経線・緯線を投影する方法で，これを母直線に沿って展開したものである。①円筒が赤道に外接する場合を正軸円筒図法，②円筒が任意の経線に外接する場合を横軸円筒図法，③その他の場合を斜軸円筒図法という。正軸円筒図法についてみると，各経線は互いに平行な赤道に直交する直線で，その間隔は赤道上における経線間隔に等しく，緯線は経線に直交する平行直線である。

①ランベルト正積円筒図法：各経線は等間隔の平行線であるから緯線を正積になるようにして投影した図法である。したがって，高緯度ほど線間隔は狭くなり，面積は正しく表わされるが，距離および角関係のゆがみは大きくなる。植物分布・気象図にしばしば使われる。

②メルカトル円筒図法：16世紀中ごろメルカトルによって考案された正角の円筒図法である。この図法は正角であるから小さい部分の形は正しく表わされるが，距離・面積関係は赤道から離れるにつれて大きくゆがんでくる。この図法で描いた地図上の2点間を直線で結び，この方向に船もしく

は飛行機の進路を定めれば，そのままで目的地に達する。特に航海者にとってつごうのよい特長で，等角航路とよんでいる。海図にはこの図法が使われているので，海図図法の別名もある。

③ユニバーサル横メルカトル図法：地球を回転楕円(だえん)体として扱い，地球面を0°の経線から経度差6°ごとの60帯に分割し，各帯の中央経線に対し，各帯ごとに横メルカトル図法を適用した図法。適用範囲は緯度0°～80°の間に限定，それより極のほうは平射図法を用いる。この図法は一般にＵＴＭ図法ともよばれ，近年大縮尺・中縮尺の地図用に世界的に用いられるようになった。擬円筒図法は，地球上では経線間の間隔は高緯度ほど狭くなるが，円筒図法では経線はすべて平行であるから高緯度ほど形・面積のゆがみは大きくなる。そこで高緯度へ行くにつれて経線間隔を狭くなるように改変したものである。また，最近の国土地理院発行の50,000分の１や25,000分の１の地形図もこの図法が用いられている。

④サンソン図法：1650年サンソンと1729年フラムスチードが用いた正積図法であり，サンソン-フラムスチード図法ともいう。この図法は，赤道に平行な各緯線の間隔は等間隔(正距離)にとり，次に中央経線を基準にして，各緯線を地球におけると同じように分割(すなわち各緯線の経線間隔)し，それぞれ対応する経度を平滑な曲線で結んだもので，赤道と中央経線に沿った狭い地域では比較的ゆがみは小さいが，東西に隔たるにつれ形のゆがみは大きくなる。この図法はアフリカ大陸・南北アメリカのように赤道の両側に広がる地域を描くのに摘する。

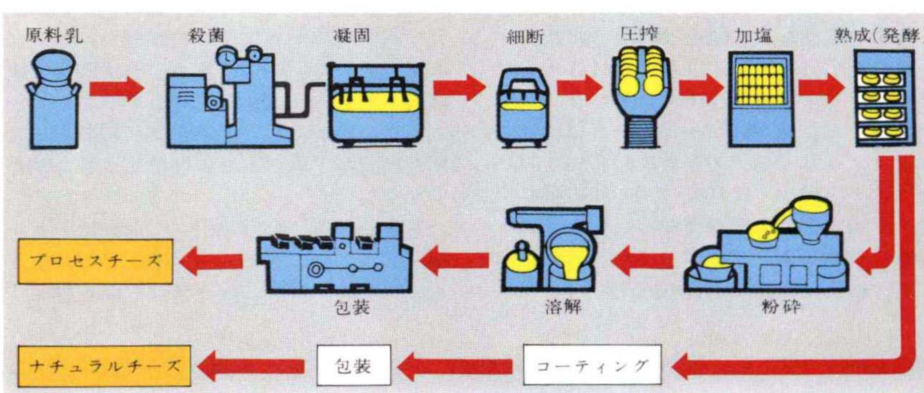
⑤モルワイデ図法：1805年モルワイデが発表した図法で，長軸と短軸の比を２：１にとった図法。中央線と赤道とは直交する直線で，緯度は赤道に平行な直線である。経線は一般に楕円であるが，中央から90°の経度差のものは円になる。各緯線の長さは地球上と等しく表わされるが，緯線の間隔，面積を等しくするため極に近いほど等しくなる。サンソン図法では形が悪いうえに中緯度の左右端で形がはなはだしくゆがむので実用に適しない。この点に着目してサンソン図法を改良したものである。しかし，低緯度の形のゆがみは大きい。

《断裂図》サンソンあるいはモルワイデ図法では左右の外縁部は形が著しくゆがむので，ある経線のところで図の半分を切り，数個の中央経線を基準として図をつくると，形のゆがみを緩和することができる。これを断裂図という。断裂サンソン図・断裂モルワイデ図がある。グード図は南北緯度40°44′を境にして低緯度部をサンソン図法で，高緯度部を同縮尺のモルワイデ図法で描き，両者の比較的よいところをつなぎ合わせたものである。この図法の断裂図もある。

《その他の図法》地球表面の状態を個々にそれぞれ正しく平面に投影すれば面積・方位・距離・形の関係が正しく表わされるので中央経線・緯線の長さを地球面上と同じようにした多円錐図法を，12ないし18等分した経度帯ごとに投影した地球儀の舟形図法とよばれる方法がある。〔桑原正見〕

チーズ [cheese] 乳製品の一。動物の乳汁(にゅうじゅう)を，レンネット(凝乳剤)やスターター(乳酸菌を牛乳に培養したもの)で凝固させ，加塩して発酵させたもの。日本ではナチュラルチーズを混合・加熱処理したプロセスチーズが一般的である。乳汁中のタンパク質・脂肪・ミネラル・ビタミンなどが豊富に含まれ，きわめて栄養価の高い食品である。チーズの発生は古く，すでにBC3000年ごろのスイスやクレタ島の文化にチーズ製造用木器が出土している。なお，聖書にもチーズの記載がみられる。また伝説によれば，古代アラビア人が砂漠(さばく)の長旅にやぎ乳をヒツジの胃袋に保存して，偶然にできたのがチーズのはじまりであるという。ギリシアではチーズを〈神から人間に授けられた食物〉と信じており，ローマの帝政時代には重要な生産物となり，そこからヨーロッパ全土に広まった。

【種類】800以上あるといわれ，その多くは製造される地名でよばれる。したがって異なる地名のチーズが同一系統に属することもあり，逆に異なる種類のものが同じ地方名で知られることもある。かたさによって，図(次ページ)のように大別できる。これらはすべてナチュラルチーズである。**《硬質チーズ》**バクテリアによって熟成するもので，目(熟成中ガス発生のため生ずるガス孔)のあるものもある。①パルメザン：もとパルマ市産。刃物で切らずに砕いて用いるほうが風味がよい。②ロマノ：イタリアチーズで最も大衆的なもの。③チェダー：最も著名なチーズの一。もとイギリスのチェダー村の産。④エダム：オランダの地名による名で，３～４ポンドぐらいの球形で外側を赤色に塗ってある。おろし金でおろして使う。⑤ゴーダ：オランダの地名による名。エダムと同じく球形で外側を黄色に塗ってある。⑥エメンタール：スイスの地名による名で，俗にスイスチーズともいわれる。直径１ｍ，重さ90kgの丸い形で，世界最大。プロセスチーズの原料となる。⑦グリュイエール：スイスの地名による名で，エメンタールとほとんど同じである。**《半硬質チーズ》**



製造工程



①凝固　②加塩　③熟成　④溶解

チーズ 製造工程

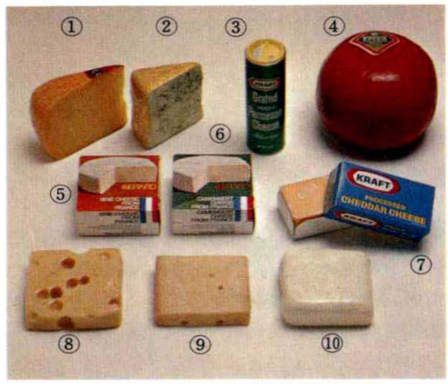
①ブリー：フランス国内各所で産する。②リンブルガー：ベルギーの地名による名。特殊な臭気がある。③ロックフォール：フランスの有名なチーズ。羊乳を原料とし，内部に青緑色の模様がある。④ブルー：牛乳からつくるロックフォール-チーズ。⑤ゴルゴンゾラ：イタリアのミラノ近辺の町の名による。緑色のかびが静脈状に通っている。〈軟質チーズ〉①カマンベール：世界的な古典チーズの一。ナポレオンの命名といわれる。②ヌーシャテール。③カッテージ：代表的な生チーズで爽快(そうかい)な風味をもつ。

なお，以上のいわゆるナチュラルチーズを加熱処理して密封包装した製品がプロセスチーズである。わが国のチーズの消費は，近年食生活の洋風化に伴って著しく増大したが，欧米に比べると30分の1以下であり，しかもその95%以上はプロセスチーズである。〔佐藤友太郎〕

代表的なチーズ(かたさによる分類)

硬質チーズ	非常にかたい		①パルメザン
			②ロマノ
	かたい	目がない	③チェダー
			④エダム
			⑤ゴーダ
		目がある	⑥エメンタール
			⑦グリュイエール
半硬質チーズ	バクテリアで熟成		①ブリー
	バクテリア・表面微生物で熟成		②リンブルガー
	青かびで熟成		③ロックフォール
			④ブルー
			⑤ゴルゴンゾラ
軟質チーズ	熟成させる		①カマンベール
			②ヌーシャテール
	熟成させない		③カッテージ

ちすいこうもり　【血吸蝙蝠】　哺乳(ほにゅう)類・翼手目・チスイコウモリ科。キュウケツコウモリ・バンパイアともいう。頭胴長6.5～9cm，前腕長5～6.3cm，尾はない。中央アメリカ・南アメリカに分布し，洞窟(どうくつ)・樹洞などに100～2,000頭の群れで生活する。夕刻より飛び出し，生きている動物にかみつき，流れ出た血をなめる。血を吸うのではない。狂犬病を伝播(でんぱ)する

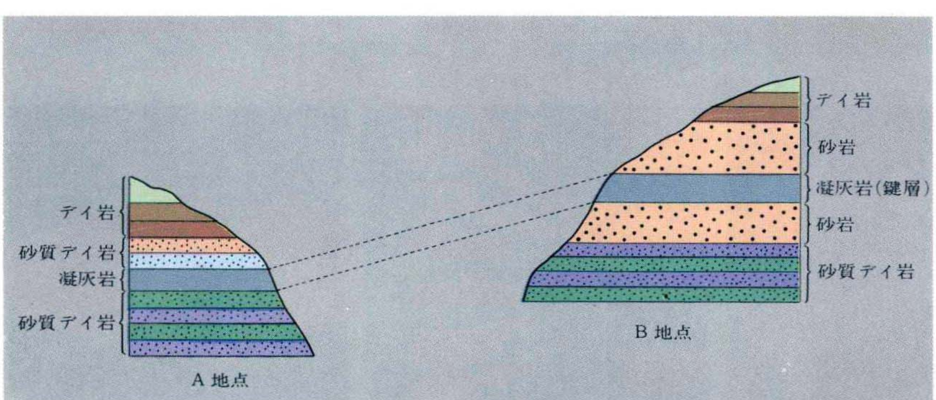


チーズ　種類　①ゴーダ(オランダ)　②ブルー(デンマーク)　③パルメザン(アメリカ)　④エダム(オランダ)　⑤ブリー(フランス)　⑥カマンベール(フランス)　⑦チェダー(アメリカ)　⑧エメンタール(スイス)　⑨グリュイエール(スイス)　⑩クリーム(デンマーク)

ことがあり，恐れられている。

ちすいでんせつ　【治水伝説】　中国古代の治水事業に関する伝説。世界の各民族には，大昔，洪水(こうずい)のために人類をはじめすべての生物が滅亡に瀕(ひん)したという洪水伝説が広く残っている。漢民族の洪水伝説は，治水事業の説話がこれに結びついている。洪水のため天地が部分的に破壊されたとき，女神の女媧(じょか)は，アシの葉を焼き，その灰を積み重ねて洪水を止めたという。また，堯(ぎょう)の治世のころの大洪水に，禹(う)は，その父の鯀(こん)の失敗したあとを継いで，水勢を防ぎ止める代わりに，土地を切り開いて水路を設け，水勢をそらす方法をとったという。神話では，禹は，父の鯀の死体から生まれた虯龍(きゅうりょう)だと伝えている。中国は古来，治水事業が政治的・社会的に大きな意味をもっていたから，このほかにも，治水事業に功のあった地方官吏が土地の人々に神格化された例が少なくない。〔今村与志雄〕

ちすいびる　【血吸蛭】　環形動物・ヒル綱・ヒルド科。水田・沼・池などの淡水止水域にすみ，哺乳(ほにゅう)類などから吸血するので知られる。吸盤は体の前部と後部にあり，前部の吸盤内には口が開き，3個の半円形の顎(あご)があり多数の歯を有し，相手を傷つけて吸血する。体長3～4cm。背面は緑灰色，腹面は暗灰色を呈する。雌雄同体で，雄の生殖口は第11体節に，雌の生殖口は第12体節に開いている。わが国に広く分布する。ヒル類はヨーロッパ・アメリカなどでは，古くからその吸血性を利用して医療に用いられてきたが，今日では東洋の一部を除いて，ほとんど用いられていない。〔向井　宏〕



地　層　凝灰岩のように，広い地域に同時に堆積する層を鍵層として，離れた場所にある地層を対比することができる

ちせい　【知性】　広義には，人間の精神的能力を知・情・意の三つに分けたとき，感情*・意志*に対して知的作用の側面をさし，これには感覚*・直観*・悟性*などが含まれる。狭義には，対象との直接的な接触によって与えられる感覚とは区別して，思考*を形成していく悟性・理性*の概念的・推理的能力をいう。なお，一般に意志に対して知性を重んじる立場に主知主義*がある。

ちそう　【地層】　一般に，堆積岩(たいせきがん)がある広がりと厚さをもって集まった層状岩体。岩石が風化・破砕されて生じた砕屑岩(さいせつがん)が主体となることが多いが，変成岩・火山噴出物・石炭・石灰岩・氷河堆積物なども地層の一部として取り扱われる。元来は堆積作用によって大小のくぼみに水平に生じたものであるが，沈積して変質を受けて固化し，地殻(ちかく)変動*によって褶曲(しゅうきょく)したり，断層によって切断されたり，いろいろに変形して複雑な構造を示すようになり，さまざまな走向・傾斜をもつ地層となる。したがって，ある厚さの地層の中では，地層累重の法則*によって下部の地層がその上部の地層よりも古いのが原則であるが，横臥褶曲(おうがしゅうきょく)・反転構造などによってこの原則が乱されている場合もある。〔平山　健〕

ちそかいせい　【地租改正】　明治政府が実施した，土地課税の根本的な改革。旧幕藩体制下のばらばらな現物納貢租を廃止して，全国統一的な定率金納地租を実現したもので，他にめぼしい財源をもたない政府の財政基盤を固めることが直接のねらいであった。同時に，1871年(明治4)田畑勝手作，1872年土地永代売買の解禁にみられる土地に対する封建的諸拘束を否定する政策の延長線上で，土地私有の法的確認の徹底を図る意味をもつ大改革でもあった。神田孝平・松方正義(まさよし)・陸奥宗光(むつむねみつ)らの建議を経て，1873年7月地租改正条例が公布され，地租改正規則・地方官心得に示された具体的方法に基づいて実施された。地価を法定し，毎年その100分の3を，豊凶にかかわらず定額で，金納地租として徴収することを定め，前提として全国的な土地調査，地価・地租額の確定を行なった。1881年に完了。地方官心得によると，収穫物を地租・村入費34%，地主34%，小作人

17%，種籾(たねもみ)肥料代15%の割合で分配する計算が立てられており，直接生産に関係する者への分配は著しく小さくおさえられていた。また基準収量の評価もきびしく，しばしば一方的に押しつけられた。そうしたことから，1875～1876年にかけて各地で反対の騒動が起こり，西南戦争を控えて1877年1月政府は地租を地価の100分の2.5に引き下げている。量的にみて旧貢租をそのまま継承したに等しい地租の負担は，自作農経営の発展の道をふさぎ，他方小作料物納・地租金納のシステムは地主への小作の従属を強め，また米価変動による中小地主の没落を促した。結局地租改正は，明治政府に物的基礎を与えると同時に，また寄生地主制に大きく道を開いたのであった。

〔応和邦昭〕

ちた 【知多(市)】 愛知県知多半島西岸にある市。人口65,000。中央部の岡田地区は天明年間(1781～1788)から知多もめんの特産で知られ，最近は北隣の東海市と並ぶ臨海工業地帯として発展している。1970年(昭和45) 9月市制施行。産業三大別人口比は10：50：40。岡田地区を中心に紡織工場が多く，おもに輸出向きの広幅織物がつくられる。伊勢(いせ)湾沿岸では，最近埋め立てによる工場用地の造成が行なわれ，ノリの養殖や沿岸漁業は衰退し，石油化学コンビナートの関連工場群が進出している。名古屋鉄道常滑(とこなめ)線・国道155号線・247号線が通じ，名古屋への通勤者も増加して，東部の丘陵部は宅地化が進んでいる。海水浴場の新舞子や水族館がある。

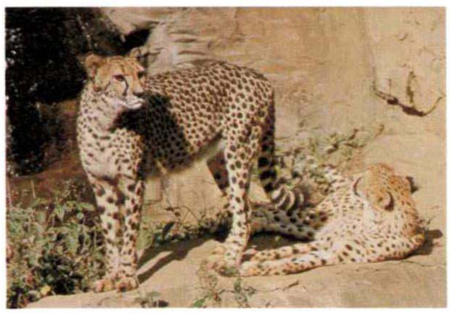
チタ [Chita] ソ連，東シベリアのバイカル湖東方にあるチタ州の州都。人口29万(1976)。ヤブロノイ山脈のふもとにあり，コピ・チェルノフスキエ炭鉱などのある石炭産地である。シベリア鉄道に沿い工作機械・車両・木材・食品などの工業がある。1653年にコサックの要塞(ようさい)としてつくられ，19世紀には流刑地となり，流刑者を使役して，銀・金・鉛の鉱山を開発し，ロシア帝国の東方進出の拠点となった。近年，東シベリアの産業開発の一環として，工業化が進められている。〔斎藤晨二〕

チター [zither] 南ドイツとオーストリアの民俗楽器。同時に，類似した構造をもつ楽器の代表として分類名としても使われている。平らな箱の上に張った4～5本の旋律弦と37本に及ぶ伴奏弦とをそれぞれ左手と右手の指ではじいて鳴らす。分類名としてのチター系楽器は，胴体(棒状・管状・板状)の両端に弦を固定して，その弦長をさらに間に立てる柱(ブリッジ)で決定するものもあるし，単に弦の張力の調節だけで音高を決めることもある楽器の総称である。奏法は，撥弦(はつげん)(ハープシコード・箏(そう))，打弦(ダルシマー・ピアノ・サントゥール・洋琴)が主である。〔山口　修〕

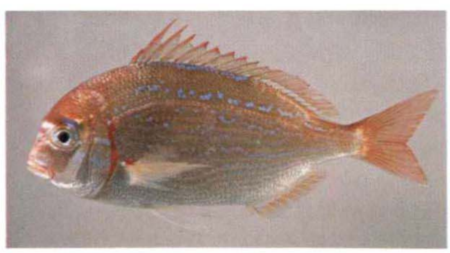
チーター [cheetah] 哺乳(ほにゅう)類・



チ タ ー　演奏者はアントン-カラス



チ ー タ ー



チ ダ イ

食肉目・ネコ科。肩高75cm，体重45～90kgほど。サハラ以南のアフリカ・アラビアからインド北部に分布し，1～数頭で生活する。体は走るのに適し，手足は長く頭は小さい。陸生哺乳類中で短距離を最も速く走ることができ，最高速度は時速110km以上に達する。小形のレイヨウやシカ類などにそっと近づき，それから全速力で獲物を追って倒す。インドの王侯は本種を飼いならし，レイヨウ狩りに用いた。そのためリョウヒョウ(猟豹)ともいう。

ちだい 【血鯛】 硬骨魚類・タイ科の海産魚。東京では体重150～200gのものをマダイと混称してカスゴというが，両種を区別するときにはハナダイ・ハナッコとよんでいる。あまり大形にならず，体長は40cmほどである。老成魚では頭部が突出してくる。北海道以南，朝鮮南部・台湾・フィリピンに分布する。尾びれの後縁が黒くないのでマダイと区別できるが，用途はマダイとほとんど同じで，初夏には特に美味とされている。

ちだい 【地代】 一般的には，土地を借りている者が地主(その土地の所有者)に支払う借地料のことをいう。経済学的には〈土地用役の価格〉とみる見解もあるが，マルクスは地代を〈土地所有がもってみずからを実現するところの経済的形態〉と規定している。こうした観点からみると，地代は封建地代*と資本制地代という二つの範疇(はんちゅう)に大別される。封建地代とは，直接生産者たる農民の剰余労働または剰余生産物のすべてを吸い上げるほどの高額地代であることを特徴とし，経済外強制をもって収取される。その形態としては労働地代・生産物地代がその主要なもので，のちに貨幣形態をとることもあるが，貨幣地代の展開は封建地代の崩壊を意味する。封建地代の本質は，地代が剰余労働または剰余生産物の唯一の支配的で正常な形態として現われているところにある。したがって，直接生産者たる農民の手もとに剰余が残り〈萌芽(ほうが)的利潤〉として蓄積されるかどうかは地代の高さいかんにかかわる。これに対し資本制地代は，一般的には差額地代*と絶対地代*の範疇からなるが，いずれも平均利潤以上の超過分である点で共通しており，〈利潤〉が地代によって規定されるのではなく，逆に地代が利潤(平均利潤)によって規定される点で封建地代と決定的に異なる。資本制地代としては，差額地代・絶対地代のほかに独占地代があげられるが，これは土地所有の力によってつくりだされる地代ではなく，なんらかの独占的条件による独占的超過利潤の成立を前提とするものであるから，土地の経営独占によって成立する差額地代，土地所有の力によって成立する絶対地代のように，土地の優劣または土地所有の力が超過利潤そのものの形成に参加していない点でこれら二範疇と異なっている。これが独占地代が資本制地代の正常的範疇とされないゆえんである。〔常盤政治〕

ちたいくうミサイル 【地対空ミサイル】 ⇨ミサイル

ちだいやちんとうせいれい 【地代家賃統制令】 借地権者が地主に支払う地代*，および建物賃貸借における家賃の統制を目的としたもの。1939年(昭和14)に物価統制の一環として制定された。第2次世界大戦後の1946年に国家総動員法*とともに廃止されたが，経済混乱に対処する必要から，同年ポツダム勅令*によって再び制定された。その要旨は，1946年9月30日を指定期日とし，その日の地代・家賃を停止統制額としてくぎづけすることにあった。戦後の混乱期に物価全般の統制の一環として行なわれたものであるが，その後の物価安定に伴ってしだいに改正された。1950年7月改正の際には，商業用・事業用の建物・敷地を統制外とした。1952年4月対日講和条約発効に伴い，ポツダム勅令による地代家賃統制令は，以後法律として存続することとなった。なお，1952年に物価庁・経済安定本部が廃止

され，その統制業務は建設省に移管された。なお1955年4月の改正によると，延べ面積が99m² 以上の建物およびその敷地が統制外とされ，また大修繕の場合には増額が認められることとなった。敷金は，地代および家賃の3か月以下と定められている。
〔応和邦昭〕

ちだけさし【乳蕈刺】双子葉植物・ユキノシタ科。山野の湿った陽地に自生する多年草。茎の高さ30～90cm。葉は2～4回3出複葉で，頂小葉の先が尾状にとがらないのが特色。葉の質は厚く，両面に毛がある。7月ごろ高さ30～80cmで毛のある花茎を出し，先端に桃白色の5弁の小花を穂状につける。花は，花弁の長さ3～5mm，幅0.5～1mmで，おしべ10本，めしべ1本がある。食用きのこのチダケを採集した際，この草にさして運ぶところからこの名を得た。

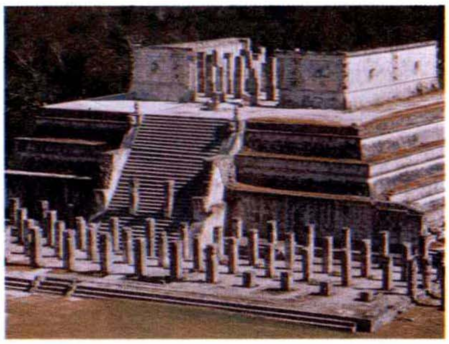
チタニウム ⇨チタン

ちたはんとう【知多半島】愛知県南西部の半島。牛角状をなして南方へ突出し，西の伊勢(いせ)湾と東の三河(みかわ)湾を分ける。長さ約40km，幅約14km。第三紀に木曽(きそ)山脈の山麓(さんろく)に続いて形成された三角州が隆起したのち，侵食によって丘陵性山地が形成されたもので，南部は高さ約100mの丘陵であるが，北部へいくにしたがって低くなり，濃尾平野へとつながる。南端の羽豆岬(みさき)から富具崎までの西海岸南部は断層海岸をなし，地層は北東に傾斜し，礫岩(つぶていわ)は地質学上名高い。古くから知多もめんの特産があり，また，常滑(とこなめ)焼の陶器類が生産される。愛知用水が平野部から南端まで通じており，沖合いの日間賀(ひまか)島・篠(しの)島へは飲料水が海底パイプで供給されている。北部には名古屋鉄道河和線・同常滑線が東西両岸を走り，中京工業地帯の延長として工業化が進み，また，名古屋の衛星住宅都市化も進んでいる。南部は三河湾国定公園の区域内に含まれ，有料道路が半島中央部を走り，南東端の師崎(もろざき)は対岸の渥美(あつみ)半島伊良湖(いらご)岬とフェリーボートで結ばれる。
〔味沢成吉〕

チタン［Titan］周期律表第Ⅳ族に属する金属元素。チタニウムともいう。記号Ti，原子番号22，原子量47.90。1789年W.グレガーはイギリスのコーンウォール地方の砂鉄から新金属を見いだした。その後1795年M.H.クラプロスがルチル中より新金属を発見しチタンと命名，これがグレガーの発見した金属と同一のものであることを明らかにした。たいていの岩石・土壌(どじょう)中に酸化チタンとして含有されている。チタン鉱物としてルチル(金紅石)・チタン鉄鉱($FeTiO_3$)などがあり，砂鉄はつねにチタン鉄鉱を含有する。チタン金属の製法にはクロール法とヨウ素法がある。これはチタンの塩化物またはヨウ化物をつくり，金属マグネシウムを用いてこれを還元して金属を得る方法である。チタンは銀白色の軽い金属で，α型は六方晶系，β型は等軸晶系，転移温度882℃，融点1,800℃，沸点3,000℃，比重4.50(20℃)，無定形のものは暗灰色粉末で，還元鉄にきわめてよく似ている。常磁性体で硬度が高く，その強靱(きょうじん)性は鉄に類する。冷時にはもろくて粉末にすることもできるが，高温では伸線することも可能。化学的に安定で，金属の表面に酸化被膜を形成するので耐食性が強く，海水に対する抵抗性も高く，白金に次ぐといわれる。また酸素中で610℃まで加熱すると炎を上げて燃焼して酸化チタンを生成する。窒素とは800℃で反応して窒化物(TiN)を生成する。銅・スズ・鉄・アルミニウム・クロム・コバルト・モリブデン・タングステンなどの金属と合金をつくる。チタン金属は高温で酸化されやすい欠点があるが，強度・耐食性にすぐれ，比重も小さいため工業材料として非常に有用である。チタン鋼はジェット機の部品，戦車の装甲板などに使用される。そのほか製鋼方面で脱酸剤・脱窒剤として添加され，アルミ合金では結晶の微細化のために使用される。酸化チタンはチタン白とよばれ，白色顔料に使われる。またメタチタン酸バリウム($BaTiO_3$)は強誘電体の一種で，チタンコンデンサーの材料となる。塩化チタンは湿気によって塩酸とチタン酸の微粒子になるので，発煙剤に利用される。
〔古屋　弘〕



チダケサシ



チチェン-イッツア　戦士の神殿

チタンしろ【チタン白】⇨酸化チタン

チタンてっこう【チタン鉄鉱】チタンの原料鉱物の一種。$FeTiO_3$ 三方晶系，硬度5～6，比重4.4～5.0。通常鉄黒色の塊状・粒状をなし，金属ないし亜金属光沢を有する。いわゆる砂鉄の主成分である。

チチェン-イッツア［Chichén-Itzá］11～16世紀初めに，メキシコのユカタン半島に栄えたマヤ帝国の都市の一。ウシュマル・マヤパンの2都市とマヤパン同盟を結び，マヤ文明のルネサンス期を実現したが，都市国家間の争いから崩壊した。トルテカ文化の影響も強く受け，〈羽毛をもつヘビの神(ケツアルコアトル)〉を主神とし，人身御供も行なわれた。また，抽象的芸術にすぐれ幾何学模様が多い。有名な遺跡に〈戦士の神殿〉〈ジャガーの神殿〉がある。
〔松下　洋〕

ちちかえる【父帰る】菊池寛*の戯曲。1幕。1917年(大正6)《新思潮*》に発表。妻子を捨てて女と出奔しながら，20年ぶりに家に帰ってきた父を，母や弟妹たちは迎え入れようとするが，長男はこれを拒む。しかし，最後には肉親の情に負けて翻意し，去った父を捜しに行くという筋。個人主義と肉親の情との相克を描いたもので，感動的幕切れが喜ばれ，しばしば上演された。

チチカカ(湖)［Titicaca］南アメリカ大陸，ペルーとボリビアの国境をなすアンデス山脈中の湖。南アメリカ最大の淡水湖で，湖面は世界で最も高く海抜3,800m。面積6,900km²。チュクイト・ウィナマルカの二つの湖からなり，チキナ水道で通じている。チチカカは〈太陽の島〉の意で，湖中の島に同名の太陽を祭る神殿があったといわれる。島や湖の周辺にはインカ帝国時代の遺跡が多く，その中でもティアファナコの〈太陽の門〉は有名である。ペルーのプノとボリビアのグアキの間を国際汽船が航行しており，両国をつなぐ重要な輸送ルートになっている。➔次ページ(写真)
〔長津一郎〕

ちちじま【父島】⇨小笠原(おがさわら)諸島

ちちとこ【父と子】ツルゲーネフ*の長編小説(1861)。ロシアの因襲的な生活に浸って雄大な理想をもたない父の世代と，西欧文化の洗礼を受けてロシアの生活に根本的な疑問をいだく子の世代との対立という，19世紀ロシア文学の共通テーマを根底にすえた作品。また，青年期を過ぎると父の生活をそのまま受け継ぐと思われるようなアルカージーに対し，過去や伝統に妥協せず科学を万能視する唯物論者でニヒリストの主人公バザーロフという新しい型の人物を描いて大きな反響を呼んだ。この強者バザーロフも恋に悩み急性伝染病で死ぬという結末は，若い世代の非難も受けたが，時代の問題をいちはやくとらえた意識の鋭さにおいても，芸術的完成度という点でもこの作者の代表作とされる。〔藤家壮一〕

チチハル【斉斉哈爾】中国，黒龍江(こくりゅうこう)省西部の商業都市。人口66万8,000

(1957年推)。清朝(しんちょう)初期，ロシアに対する防御地として設けられ，1905年には黒水庁，1909年には龍江府が置かれた。浜州鉄道・平斉鉄道・斉北鉄道などの交点にあたり，水運に恵まれた嫩江(のんこう)流域平野の中心地として，付近の農産物や木材を集散している。また，工作機械・鉄鋼・車両・木材加工・製糖・食品などの諸工業も盛んで，西方には新しい工業都市フラルキ(富拉爾基)が建設された。〔木村辰男〕

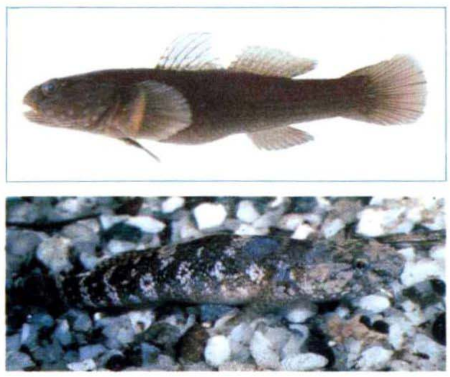
ちちぶ【秩父】硬骨魚類・クモハゼ科。体長13cmに達する淡水および汽水魚。東京・浜名湖などではダボハゼとよんでいる。北海道南部から沖縄諸島および朝鮮に分布する。体は暗かっ色で，腹びれは吸盤となっている。産卵期は5〜6月ごろ。なおダボハゼの呼称は，沿岸の岩礁域や潮だまりに生息する，体長8〜10cmのハゼの仲間であるドロメ・アゴハゼにも使われる。

ちちぶ【秩父(市)】埼玉県南西部の市。人口62,000。秩父地方の中心都市で，古くは中村郷とよばれ，江戸時代には秩父神社の門前町として大宮郷，あるいは秩父大宮とよばれた。周辺部では養蚕が盛んで，秩父銘仙(めいせん)の産地として知られた。1884年(明治17)には自由民権運動の流れをくむ秩父事件が起こった。1899年大宮町となり，1916年(大正5)秩父町と改称，1940年(昭和15)市制を施行した。市域は秩父盆地の南東部，荒川上流の河岸段丘上に位置し，南には武甲山(1,336m)などの秩父山地の山々が連なって，東京都と境を接する。産業三大別人口比は10：45：45。約350の織物工場があり，主製品の夜具や丹前地は全国に出荷され，年産額は40億円に達する。大正末期以後は武甲山の石灰岩を原料とするセメント工業が発達し，秩父セメントの2工場のほか，昭和電工・日窒鉱業などの工場がある。熊谷(くまがや)から秩父鉄道・国道140号線が通じ，1969年末に西武鉄道秩父線が開通して，東京〜秩父間を約1時間半で直結している。秩父多摩国立公園の観光基地で，長瀞(ながとろ)・三峰神社・正丸峠などの景勝地が近い。秩父神社の例大祭(12月2〜3日)は秩父の夜祭として知られ，京都の祇園(ぎおん)祭，飛驒(ひだ)の高山祭と並んで三大曳山(えいざん)祭に数えられる。また，このとき奉納される神楽(かぐら)は日本三大神楽の一つとされ，屋台ばやしは無形文化財に指定されている。〔浅井得一〕

ちちぶおんど【秩父音頭】埼玉県秩父地方の民謡。別名《秩父豊年踊》。《八木節》が流行するまえに埼玉県一帯で広く歌われた。《相馬盆唄(そうまぼんうた)》の系列にはいる甚句型の旋律をもち，現在は卑俗な歌詞を懸賞入選作に改めて使っている。

ちちぶこうざん【秩父鉱山】埼玉県秩父郡大滝村北部にある金属鉱山。石英センリョク岩と秩父古生層との接触鉱床で，16世紀の末に発見されたが，1937年(昭和12)以来日窒鉱業の経営により鉛・亜鉛を主に金・銀・銅・硫化鉄・鉄鉱・マンガンなどを産し，鉱石は日立などに送られて製練される。戸数400の鉱山町が形成されている。


チチカカ湖　北西岸のプーノ市の船着き場。ここは鉄道と連絡する湖上交通の中心で，人や物資の輸送が多い


チ チ ブ　(上)チチブ　(下)ドロメ

ちちぶこうもり【秩父蝙蝠】哺乳(ほにゅう)類・翼手目・ヒナコウモリ科。前腕長3.9cm，頭胴長5.5cmほど。体は黒かっ色で霜降りがある。中央アジアからインド北部・インドシナ・中国西部に分布し，日本では北海道・本州に分布，森林で生活する。夕刻から飛び出し，ガなどのこん虫を食べる。珍獣である。

ちちぶこせいそう【秩父古生層】秩父地方に発達する古生層に対して名づけられた名称。現在では，九州・四国・本州・北海道の各地に分布する日本の古生層全体の総称として使われ，秩父系ともいう。時代はゴトランド紀から二畳紀に及んでいるが，大部分は二畳紀のものである。全体が一つの地向斜(秩父地向斜)に堆積(たいせき)した海成層で，おもな岩石の種類は砂岩・泥岩(でいがん)で，部分的には塩基性の海底火山噴出物・石灰岩・チャートなどを相当に含んでいる。厚さは数千メートル以上である。阿武隈(あぶくま)地方，西南日本の一部，中国地方の西部から北部九州にかけては広域変成作用を受け，千枚岩・結晶片岩または片麻岩になっており，造山運動を受けて褶曲(しゅうきょく)し，断層も多く，構造はきわめて複雑である。石灰岩中にはフズリナ・サンゴの化石を豊富に産出する。〔平山　健〕

ちちぶさんち【秩父山地】関東山地の南部を占め，長野・山梨・埼玉・東京の都県にまたがり，金峰(きんぷ)山(2,595m)・甲武信岳(こぶしがだけ)(2,483m)・雲取山(2,018m)などがある。地形は壮年期で険しく，荒川・多摩川・相模(さがみ)川・富士川・千曲(ちくま)川などの源流が深い谷を刻んでいる。古生層の堆積(たいせき)岩が多く，秩父古生層の名はこの山地に由来する。奥秩父・奥多摩・大菩薩(だいぼさつ)峠・昇仙峡(しょうせんきょう)など，森林・溪谷美(けいこくび)にすぐれ，東京に近いため登山者が多い。秩父多摩国立公園に属する。〔高野　繁〕

ちちぶじけん【秩父事件】1884年(明治17)埼玉県秩父地方の農民が，自由党員の指導下に郡役所・警察署・高利貸しを襲撃した事件。このころわが国経済界は不況のどん底にあり，養蚕・製糸業などを副業とするこの地方の農民は没落の危機にさらされ，自由民権運動の激化とあいまって自由党入党者が続出した。1884年夏，自由党幹部大井憲太郎の遊説を機に貧農を中心とする困民党が組織され，高利貸しに対する返済延期，学費節減のための小学校の休校，税の減免などの要求を掲げて請願運動を行なった。しかしこれが不成功に終わったため，10月下旬から北信・群馬の自由党員と連絡しつつ蜂起(ほうき)の計画を立て，11月1日に事を起こしたが，同4日鎮台兵の出動によって鎮圧された。参加者は10,000人をこえたといわれ，指導者4人は死刑，ほかに多数の処刑者を出した。自由民権運動の激化を示す事件の一つであった。〔応和邦昭〕

ちちぶじんじゃ【秩父神社】埼玉県秩父市大宮にある。祭神は八意思金命(やごころおもいかねのみこと)とその10世の孫知々夫彦命(ちちぶひこのみこと)の2柱に，国常立命(くにとこたちのみこと)を合祭する。秩父の国造(くにのみやつこ)に任ぜられたチチブヒコノミコトがその遠祖であるヤゴコロオモイカネノミコトをこの地に祭ったのに始まるという。後世，妙見菩薩(ぼさつ)を合祭してのちは，〈秩父妙見〉として崇敬された。本殿は丹塗り極彩色の権現造り。秩父の夜祭として有名な12月3日の例祭には，豪華な山車(だし)が練り歩く。➔次ページ(写真)〔佐野文哉〕

ちちぶたまこくりつこうえん【秩父多摩国立公園】東京・埼玉・山梨・長野の都県にまたがり，秩父山地のほぼ全域を占める，面積1,216km²の地域で，1950年(昭和25)に指定された。金峰(きんぷ)山(2,595m)・国師岳(2,592m)・甲武信岳(こぶしがだけ)(2,483m)・大菩薩嶺(だいぼさつれい)(2,057m)・白石山(2,036m)・雲取山(2,018m)などの峻峰(しゅんぽう)がそびえ，眺望(ちょうぼう)雄大である。大菩薩峠(1,897m)をはじめ，登山コースの多いことで知られる。三峰山(1,921m)や御

岳(みたけ)山(1,070m)は古くから山岳信仰の霊場で知られ，春から秋にかけては信仰者や行楽者の登山でにぎわい，ブッポーソー(コノハズク*)の鳴き声は登山者に親しまれている。千丈ヶ原は白樺(しらかば)と草花の風景が美しい。東京都の水源になっている奥多摩湖や，秩父湖は人造湖であるが景勝の地でもある。溪谷美(けいこくび)では秩父・奥多摩・秋川溪谷や，昇仙峡(しょうせんきょう)が名高い。鉱物や化石の種類も多く，自然科学の研究地としても有名である。鷹巣(たかのす)山(1,737m)は全山が石灰岩で，日原(にっぱら)をはじめ各地に鍾乳洞(しょうにゅうどう)がみられる。増富温泉は，日本第1のラジウム・ラドンを含有する放射能泉で有名。山地は南北系植物が合流する位置にあり，1,000種以上の植物が数えられる。〔木村東一郎〕

ちちぶてつどう　【秩父鉄道】　埼玉県の羽生(はにゅう)～三峰口間および影森～武甲間(貨物線)の地方鉄道と，その沿線のバス路線を経営する交通企業。1899年(明治32)に上武鉄道として創立され，1915年(大正4)に現在の社名に改められた。鉄道は営業キロ数73.1，軌間1,067㎜の電気鉄道(直流)で，1901年(明治34)に最初の路線が開通し，1928年(昭和3)に全線が開業した。セメントと石灰石の輸送に特色がある。

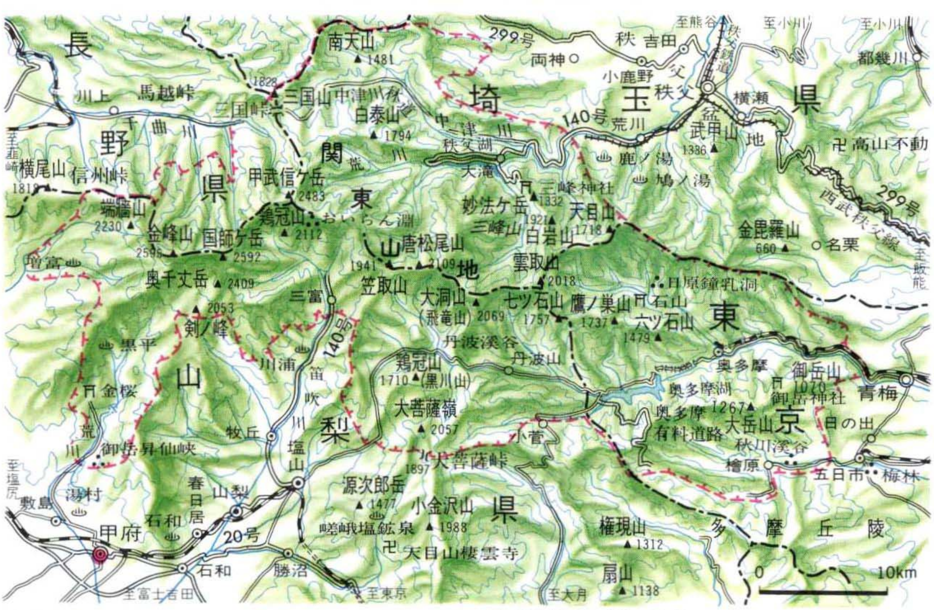
ちちぶのみややすひとしんのう　【秩父宮雍仁親王】　(1902～1953)　皇族。大正天皇の第2皇子。1922年(大正11)秩父宮家を創立。1928年(昭和3)松平勢津子(せつこ)と結婚。1936年弘前(ひろさき)歩兵第31連隊大隊長のとき二・二六事件が勃発(ぼっぱつ)し，クーデター将校との関連で微妙な立場に立った。



秩父神社　12月3日の例祭には御輿・山車・屋台が市内を練り渡り，秩父夜祭として有名



秩父多摩国立公園　手前の山は三峰山で，頂上へ一直線に登るロープウエーが見える。右手は二瀬ダムのある秩父湖，その奥は甲武信岳



秩父多摩国立公園

1937年イギリス皇帝ジョージ6世の戴冠(たいかん)式に天皇の名代として参列。帰国後病を得，療養もむなしく50歳で死去した。

ちちぶぼんち　【秩父盆地】　埼玉県西部，荒川の上流部にある盆地。秩父山地*の山々と断層によって画され，基盤は第三紀層からなり，その大半が海成層で多くの貝化石が含まれる。周囲の長瀞(ながとろ)系結晶片岩・秩父古生層・中生層とは断層によって明瞭(めいりょう)に区別される。荒川や赤平川などの侵食を受けて数段の河岸段丘*が発達し，段丘面は集落や耕地などに開かれている。中心都市は秩父市で，近くに産出する石灰岩を利用してセメント工業が盛んである。秩父鉄道がほぼ南北に走り，東京から西武秩父線が通じる。〔味沢成吉〕

ちぢみ　【縮】　広義には緯糸(ぬきいと)だけに，または経(たて)・緯ともに強撚糸(きょうねんし)を使って製織し，織り上げ後に糊(のり)抜き・精練をして糸のよりをもどし，布面に皺(しぼ)を現わした織物の総称。しかし，一般的には，緯に強撚糸を用いた麻・綿の平組織になる織物をいっている。絹糸による絹縮，絹・麻の交織になる明石縮*(あかしちぢみ)などもかつては織られていたが，現在はまったく生産されていない。現在，着尺地として生産され，世間によく知られている縮は，新潟県小千谷(おぢや)・六日町・塩沢を中心にその周辺で織られている越後縮*(えちごちぢみ)(小千谷縮)とよばれている麻縮である。また，綿縮としては銚子縮(ちょうしちぢみ)がある。このほか，今日の生活の中で最も身近なものとしては，夏のはだ着や婦人子ども服地に使用されている綿クレープや綿ボイルなどがある。〔北村哲郎〕

ちぢみやしんすけ　【縮屋新助】　⇨八幡祭小望月賑(はちまんまつりよみやのにぎわい)

ちちゅうかい　【地中海】　北はヨーロッパ，東はアジア，南はアフリカの各大陸に囲まれた内海。面積280万km²，平均深度約1,400m。西端のジブラルタル海峡で大西洋に通じ，東南端のスエズ運河で紅海・インド洋と結んでいる。また東部のダーダネルズ海峡・マルマラ海・ボスポラス海峡を経て黒海とも通ずる。ヨーロッパ大陸から突出するイタリア半島で東西に分け，東地中海・西地中海ともよぶ。ヨーロッパ大陸の海岸線は複雑で，西からリヨン湾・リグリア海・チレニア海・タラント湾・イオニア海・アドリア海と入り組み，ギリシア半島の東にはエーゲ海がある。またバレアル諸島・コルシカ島・サルジニア島・リパリ諸島・シチリア島・マルタ島，ギリシア半島周辺にはクレタ島・キクラデス諸島その他多数の島々が散在し，東端にキプロス島がある。アフリカ大陸の海岸はシドラ海とガベス湾が入り込んでいるが，島も少なく海岸線も単調である。エブロ(スペイン)・ローヌ(フランス)・ポー(イタリア)・ナイル(アラブ連合)などの河川が注ぎ，それぞ

れの流域や河口には肥沃(ひよく)な平野が広がり，豊かな農業地帯となっている。

エーゲ文明の源流をなすクレタ文明がクレタ島を中心に展開され，次いでフェニキア人が沿岸各地で商業活動を展開した。さらにギリシア人は各地に植民地を建設してこの海を制し，その行動は紀元前5世紀ごろには黒海沿岸にまで及んだ。紀元前3世紀以後，ローマ帝国が発展して東西両地中海の制海権を得，7世紀からはサラセン人がこれに代わった。1869年にスエズ運河が開削され，インドおよび東洋への航路が地中海を通るようになると，制海権をめぐるヨーロッパ諸国の争いが続き，その中でイギリスはジブラルタル・マルタ島・キプロス島とスエズ運河を制圧し，優位を占めたが，1956年スエズ運河からの撤退によってイギリスの時代は終了した。〔長津一郎〕

ちちゅうかいじんしゅ　【地中海人種】　メディテラーネの訳で，コーカソイド*に属する人種。地中海周辺地帯に広く分布。スペイン・ポルトガル・南フランス・イタリア・北アフリカなどの大部分の住民。長頭，中身長(163～166cm)で，皮膚・毛髪・虹彩(こうさい)の色はヨーロッパ人としては濃い。鼻はまっすぐか凹(おう)形。婦人の臀部(でんぶ)は発達し，乳房(ちぶさ)も半円形によく発達している。鼻がまっすぐで高い長頭の地中海人種の亜形が北アフリカ・小アジア・アラビア・バルカンに居住している。

〔牛島　巌〕

ちちゅうかいせいきこう　【地中海性気候】　亜熱帯気候と亜寒帯気候の中間にあたる季節的変化の明瞭(めいりょう)な温帯気候のうち，夏よりも冬に降雨の多い気候型を，ケッペン*は地中海性気候とよんだ。この気候は冬に温暖で雨が集中し，夏は高温で著しく乾燥する。このため，植生は乾季に耐えられる常緑の広葉樹の低木が主となっている。また山地や丘陵にはオリーブ・レモン・オレンジ・イチジクなどの柑橘(かんきつ)類やブドウなどの果実が集約的に栽培されている。この気候が最も広くみられるのは地中海沿岸であるが，ほかにアメリカ合衆国のカリフォルニア州，チリーの中部，南アフリカ共和国南西部，オーストラリア南西部海岸にもみられ，いずれも大陸西側の中緯度高圧帯と偏西風帯の境界にあたる。

〔桑原正見〕

ちぢわわん　【千々石湾】　長崎県島原半島西側と長崎(野母(のも))半島とに画される水域で，三味線(しゃみせん)島(三弦島)とその南東方の国崎とを結ぶ線以東の湾入にあたる。水深36m前後，湾奥に小浜温泉がある。日露戦争の際の旅順港閉塞(へいそく)の功労者である橘(たちばな)中佐が千々石村の出身であるところからその名をとり，1919年(大正8)この湾は橘湾と命名され，以後地図・海図上では橘湾が正式名称となっている。しかし四国徳島県の橘湾と同名で紛らわしいので，千々石湾と称する向きが多い。

〔山口恵一郎〕

ちつ　【膣】　女性生殖器の一部で，子宮*の下方に続く長さ7～8cmの前後に扁平(へんぺい)な管状の器官。膀胱(ぼうこう)および尿道の後方，直腸の前方にある。小陰唇(しょういんしん)に囲まれた膣前庭に膣口が開口し，膣口には性交を経験しない大半の女性に処女膜が認められる。処女膜は半月状で小孔を有し，破れたときに処女膜痕(しょじょまくこん)として残る。粘膜には横に走るひだが多く，上皮は重層扁平で，その下層は弾性繊維に富み，分娩(ぶんべん)時の産道，交接器となる。膣前庭には粘液腺(ねんえきせん)がある。➔生殖器官(図)

鳥類と魚類の間の動物では，排泄(はいせつ)系と生殖系の二つの系がいっしょになって総排泄腔として開口し，また哺乳(ほにゅう)類のうち単孔類と有袋類では左右のミュレル管が完全に分離しているため，二つの膣が泌尿生殖道に開口している。このほか胎盤類では管の下端で合一して，膣は単一となるものがある。〔高野一雄〕

ちっか　【窒化】　窒素化合物をつくること。表面処理における窒化は，アルミニウム・クロム・モリブデンを含有する窒化用の特殊鋼を，アンモニアガスのふんい気中約500℃で24～100時間加熱保持すると，ビッカースかたさ(➔硬度計)で約1,000というきわめてかたい耐摩耗性のある表面硬化層が得られる。普通鋼を窒化してもこれほどにはかたくならない。加熱保持時間が長いのが欠点。シアン化物による塩浴窒化法も行なわれている。〔上田重朋〕

ちっかぶつ　【窒化物】　窒素と他の元素との化合物。共有結合性・イオン性・侵入型化合物の3種に分類される。水素・炭素・酸素・フッ素・塩素の窒化物は共有結合性化合物で，揮発性である。アルカリ金属はM_3N型，アルカリ土類金属はM_3N_2型の窒化物をつくり，これらの化合物はイオン性結晶で，融点は高く，水と反応してアンモニアと水酸化物を生じやすい。侵入型化合物は加水分解せず，融点の高いかたい金属状の固体で電導性があり，窒素原子は金属原子の間隙(かんげき)を埋めている。チタン・ジルコニウム・バナジウム・クロムなどの窒化物がこれに属する。窒化物は，いずれも元素間の直接反応により生成し，金属ハロゲン化物とアンモニアの反応からも生成される。〔竹下三吉〕

チッキ　[check]　旅行に必要な携帯品は，旅客の依頼で，旅客列車に連結された荷物車などで託送される。これを一般にチッキというが正式には手荷物。乗車券1枚につき1個の重量が30kgまでのもの2個以内，危険品・動物は送れないなどの制限がある。託送区間は原則として乗車券面表示の区間。運賃は総重量と距離によって決められる。

チック　コスメチックの略。男性用整髪料の一種。動物性・植物性・鉱物性の油を主成分とし，蜜蠟(みつろう)・牛脂などを加えて練り固め，棒状にしたもの。かたい毛髪や癖のある毛髪の整髪・癖なおしに用いられる。

チック　[tic]　一定の筋肉群に突然現われ，迅速かつ頻繁(ひんぱん)にくり返される不随意運動。頭を振る，まばたきをする，足やひざをぴくぴくさせる，飛び上がる，鼻を鳴らすなどのほか，卑わいなことばを口にするなどの症状を呈し，学童期の8～12歳ごろに多く出現する。原因は，主として心理的なものが多く，両親の干渉や厳格さに対する情緒的な興奮によって起こり，蓄積された感情的ストレスが，不随意的反復運動を行なうことで解放されるものとみなされている。〔内藤春雄〕

チックテスター　⇨雌雄鑑別

ちっそ　【窒素】　周期律表第Ⅴ族に属する非金属元素。記号N，原子番号7，原子量14.0067。18世紀後半，酸素の発見とともに燃焼に関与しない気体として発見され，硝酸をつくる元素として命名された。大気中に最も多量に存在し，重量比で75.5%，容量で約78%を占める。また化合物として，アンモニウム塩・硝酸塩の形で，動植物界にタンパク質・アルカロイドなどの形で存在する。クラーク数*0.03(第16位)。工業的には空気中の酸素を除いてつくるのが普通で，熱した銅上に空気を通じて酸素を酸化銅として除く方法や，液体空気を分留して酸素を分離してつくる。これらの方法によって得られる窒素は，希ガス類元素のアルゴンなどを含有しており，純粋ではない。実験室では亜硝酸アンモニウムや重クロム酸アンモニウムの溶液を加熱する方法や，アンモニアガスを熱した酸化銅上に通じて酸化するか過剰のアンモニア水溶液中に塩素を通じて得られる。常温・常圧では気体で無色・無臭・無味，液体窒素は透明，固体は雪状である。融点−209.86℃，沸点−195.8℃，密度1.2507g/l(0℃，1気圧)，常温では化学的に不活性で，自燃性も助燃性もないが，高温では各種の元素と直接化合する。たとえば水素と化合してアンモニアを，酸素と化合して酸化窒素を生ずる。リチウム・マグネシウム・アルミニウムなどの金属とは熱時反応して金属窒化物をつくり，これに水を作用させるとアンモニアを発生する。炭化カルシウム(カーバイド)に約1,000℃で窒素を作用すると，いわゆる石灰窒素($CaCN_2$)を生成する。このように空気中の窒素を工業的に利用することを空中窒素固定という。なお窒素は根粒バクテリアを媒体にタンパク質として空気中より直接植物体にはいり，また水溶性アンモニウム塩・硝酸塩などの形で根から吸収される。動物はこれを摂取してタンパク源とし，腐敗バクテリアにより窒素に還元されて大

気中にかえる。このように窒素は動植鉱物界を循環している。窒素の用途は主としてアンモニア・石灰窒素・硝酸などの製造原料であり，また化学的不活性の性質を利用して食品の貯蔵，消火，電球内充塡(じゅうてん)ガス・冶金(やきん)などに用いられる。　〔古屋　弘〕

ちっそく　**【窒息】**　生命維持に必要な酸素の供給が絶たれた状態。すなわち肺呼吸の障害をいう。内因性のもの(内窒息)と外因性のもの(外窒息)がある。内因性のものは，肥大胸腺(ひだいきょうせん)・腫瘍(しゅよう)などによる圧迫，ジフテリア・喉頭(こうとう)水腫などによる気道閉鎖，破傷風・気胸・膿胸(のうきょう)・血胸などによる胸壁運動障害，心疾患などによる循環障害，肺水腫・肺気腫・肺炎・肺栓塞(はいせんそく)・気管支喘息(ぜんそく)などの肺機能障害が原因となっていることが多い。外因性のものは，鼻口部閉塞，頸部(けいぶ)圧迫・異物嵌入(かんにゅう)による気道閉塞，胸郭圧迫による胸壁運動障害，呼吸気中酸素不足・一酸化炭素中毒・炭酸ガス中毒などの吸気の不適当が原因となっていることが多い。第１期(前駆期)にはなんらの症状はないが，第２期(呼吸促進・痙攣(けいれん)期)に吸気性呼吸促迫から呼気性呼吸促迫を経て呼気性痙攣を起こし，意識消失，チアノーゼ，血圧亢進(こうしん)，瞳孔(どうこう)散大，眼球突出，頻脈(ひんみゃく)から遅脈をきたし，第３期(終末期呼吸休止期)に至って痙攣が止まり，一時的に呼吸・心臓搏動(はくどう)が停止し，第４期(終末呼吸期)に吸気性呼吸を数回行なって呼吸が完全に停止するが，心臓搏動はその後しばらく続いている。絞扼死(こうやくし)では，顔面は暗赤紫色を呈してはれ，眼球・眼瞼(がんけん)結膜下に溢血(いっけつ)があるが，縊死(いし)その他では蒼白(そうはく)で溢血はない。心臓血は暗赤色流動性で，脳・肺・肝・腎(じん)・脾(ひ)などの諸臓器に静脈性鬱血(うっけつ)がみられ，心外膜下・肺肋膜(はいろくまく)下・腎盂(じんう)粘膜下・胃腸粘膜下に溢血がみられる。ときには膵臓(すいぞう)や肝臓の被膜下に出血がみられることもある。多くの場合舌尖(ぜっせん)は歯列の前方に突出しているか，歯列の間にある。縊死や絞死では頸部に索溝(さくこう)がみられ，扼殺では爪痕(そうこん)がみられることが多い。治療としては，発見しだい原因を取り除き，酸素吸入・人工呼吸・心臓マッサージを行ない，さらに強心剤などの注射を行なう。　〔青木利彦〕

ちっそじゅんかん　**【窒素循環】**　窒素の地球化学的循環をいう。窒素は土壌(どじょう)中でおもに硝酸塩やアンモニウム塩とし存在しており，水にとけて植物に吸収され，無機態窒素はタンパク態などの有機態窒素に合成・転化される。その一部は動物に食われ動物体を構成し，やがて植物遺体とともに微生物によって分解されてアンモニアとなり，硝化作用によって再び硝酸を形成して植物の吸収に出会う。陸上にみられるこの主要循環経路と同様に，海洋でみられるおもな循環も水溶性の無機態窒素を経由する環流をなしており，炭素の循環とは異なって，大気中の窒素をめぐる量はそれらに比べ少ないと考えられている。したがって森林や湖沼では上述のような窒素の循環が，炭素の場合よりもずっと閉鎖性の強い経路をもっていることになる。

陸上でも海洋でも大気中窒素を固定する植物の例はかなり多く知られている。マメ科植物の生育地では土壌中の窒素の増加した事実が確かめられ，大気中の窒素は大量に土壌中へ持ち込まれたことを跡づけている。たとえば根粒菌の共生したムラサキウマゴヤシの畑では，１年で１ヘクタールあたり200～280kgの窒素が，クローバー類やダイズでは，この半分くらいの窒素が固定されるという。海洋では一部の藍藻(らんそう)に大気中の窒素固定能が認められ，全体としてかなりの量に達すると考えられる。また大気中の窒素は雷などの空中放電や光化学反応によって三酸化窒素に酸化され，降雨などで地表に供給されるので，直接的な生物的固定と間接的なものを含め，大気との間に副次的であるとはいえ重要な循環経路をもっていることになる。この点で窒素循環は，土壌・堆積物(たいせきぶつ)中に含まれているものをほぼ唯一の貯蔵庫とする金属元素の循環ともいくぶん異なっている。なお，生物の窒素固定は年に1.4×10^7 t と推定されている。　〔船越真樹〕

ちっそぞくげんそ　**【窒素族元素】**　周期律表第Ｖ族の窒素・リン・ヒ素・アンチモン・ビスマスの総称。この族の元素は最外殻(かく)に２個のｓ電子と，３個のｐ電子をもっているのが特徴であって，原子番号の増加に伴って非金属から金属への移行が明確であり，また密度・沸点・硬度の増大がみられる。

ちっそたいしゃ　**【窒素代謝】**　窒素化合物を生体から取り入れて異化・排出する反応を総称していう。窒素源として，植物では一般に根からアンモニウム塩または硝酸塩の形で吸収する。硝酸塩の形で吸収したときは亜硫酸塩ヒドロキシアミンを経てアンモニアに還元してから利用する。そのおもな経路は，炭酸同化の結果生じたα-ケトグルタール酸とアンモニアから，還元的にアミノ化してグルタミン酸に合成されるものである。このようにしてつくられたグルタミン酸と，ケト酸との間のアミノ基転移により他のアミノ酸が合成される。こうしてできたアミノ酸は，さらにタンパク質に合成されると考えられている。生体内では，合成されたアミノ酸・タンパク質は加水分解，酸化的脱アミノ反応を受けて分解される。分解されてできたアンモニアは植物体ではグルタミンやアスパラギンの形になったり，有機酸のアンモニウム塩の形で液胞中にたくわえられるが，動物ではアンモニアの形または尿酸や尿素の形になって排出される。　〔代谷　康〕

ちっそどうかさよう　**【窒素同化作用】**　窒素ガス・アンモニア・亜硝酸・硝酸などの無機窒素化合物を取り入れ，有機化合物に合成する作用。空気中の窒素と同化する窒素固定の働きをもつものは，細菌・菌類・藍藻(らんそう)に限られている。緑色植物は無機窒素化合物を取り入れ，体内でアンモニアにまで還元したあとにグルタミン酸・アスパラギン酸を合成する。動物は無機窒素化合物を同化する能力がないので，有機窒素化合物，すなわちアミノ酸・タンパク質の形で取り入れ，各個体に適したアミノ酸・タンパク質につくり変える。〔代谷　康〕

ちっそひりょう　**【窒素肥料】**　窒素を比較的多く含む肥料。窒素は植物体のタンパク質などの構成成分として重要であり，また多量に要するため，肥料として与えることが必要である。窒素肥料の形態は硫安・塩安などのアンモニア態，硝酸石灰・チリ硝酸のような硝酸態，有機質肥料の有機態その他多くの形態があるが，作物に吸収されるときの形はほとんどアンモニア態と硝酸態の２種である。窒素肥料生産の主力はアンモニア合成とそれに伴う尿素合成であって，その原料である水素を石油・天然ガスからとるようになってから，製造設備の大形化が急速に進んだ。1967年のわが国の生産量は窒素成分として203万tで，国内消費量と輸出量がそれぞれ半量である。生産規模の増大は世界的な傾向で，1965～1966年にかけて1,930万ｔに達している。しかし，世界の耕地１ヘクタールあたりの平均窒素消費量は7.8kgで，わが国の124.0kgと比較して著しく低い。　〔早瀬達郎〕

チッタゴン　［Chittagong］　バングラデシュ東部の港市。人口89万(1974)。カルナプリ川河口に近くベンガル湾に臨み，東パキスタン最大の開港場である。地理的条件で古くからアラブ・ポルトガルの商人が来航して交易を行なった。茶・ジュートを輸出し，綿織物・綿糸その他を輸入する。

ちっちぜみ　**【ちっち蟬】**　こん虫類・半翅(はんし)目・セミ科。体長20mm，翅端までの長さ30mmほど。体は黒色，中胸背に顕著な２個の三角形の暗黄色紋がある。翅(はね)は透明で，翅脈はかっ色ないし黒かっ色。沖縄を除く日本に産するセミ類中の最小種。本州・四国に分布し，成虫は低山地に７月下旬ごろから出現して８～９月に最も多く，11月までみられる。低木林中で，〈チチチチ……〉と鳴くのでこの名がある。サハリン(樺太(からふと))と北海道には，近縁でやや大形のエゾチッチゼミが山地に普通にみられ，飛翔(ひしょう)しながら鳴き続ける。北海道にはさらに近縁のコウノチッチゼミが知られている。➔セミ

チッテル　［Karl Alfred Ritter von

Zittel〕(1839～1904) ドイツの古生物学者。古生物分類学の祖といわれる。フライブルクの牧師の家に生まれ，高校生のころから化石を愛好。はじめウィーンの地質調査所にはいり，のちレンベルク大学・バーデン州理工科大学各教授を経て，1866年ミュンヘン大学の地質学・古生物学の教授。オーストリアのニュージーランド調査団が採集した化石の研究のほか，みずからもオーストリア各地や南アルプス地方へ化石採集に歩き回り，古生物学研究に没頭した。後年進化論を受け入れ，特にアンモナイトの研究に進化論を導入した。古生物学に関する多くの労作を残し,《地史学に関する普及書》《古生物学教程》《古生物学基礎》《19世紀末までの地質学・古生物学の歴史》などのすぐれた著書がある。特に《古生物学基礎》は広く各国語に翻訳され，今日でも古生物分類学の貴重な文献となっている。 〔大森昌衛〕

ちつろくこうさい 【秩禄公債】 ⇨次項

ちつろくしょぶん 【秩禄処分】 明治初期，政府が旧大名・公家(くげ)・武士などの受けていた給禄を整理，あるいは停止したこと。厳密には1875年(明治8) 9月の太政官(だじょうかん)布告によって，従来の家禄・賞典禄を金禄に改正したことをさす。当時政府支出の約3割が家禄支給にあてられていたので，政府はその改革を急ぎ，1869年の版籍奉還*以後，身分制を変更するとともに一連の禄制を金禄にした。

ちでんりゅう 【地電流】 地中をたえず流れている微弱な電流。主として，地磁気*の変化による誘導電流であるが，落雷・雷雲の誘導による地面の電荷の移動や，地下の物質の不均質による起電力などでも生ずる。ふつう，数百～数千メートル隔てた2点間の電位差と，その間の地面の電気抵抗とから測定される。強さが地下構造によっても異なるので，地質構造の探査に利用される。また，磁気嵐*(じきあらし)のような1～2日にわたる変化に対応する地電流は，地下1,500kmあたりまではいりこむので，マントル内の物理的性質を探るのにも用いられる。 〔堀福太郎〕

チトー 〔Tito〕(1892～1980) ユーゴスラビアの政治家。本名Josip Brozで，チトーは変名。クロアチアに貧農の子として生まれ，第1次世界大戦に参戦してロシア軍の捕虜となり，十月革命*に参加した。1920年帰国して共産党員となり，いくたびも投獄を経験して1935年モスクワに亡命，コミンテルン書記局で活動。スペイン内乱のときにはユーゴ人義勇兵を組織し，第2次世界大戦中は，ドイツ・イタリアに対する人民解放軍を結成して，1944年赤軍の手で祖国が解放されたあと臨時政府の主席となった。1945年ユーゴスラビア連邦人民共和国の成立とともに首相となり，1953年の憲法改正後初代大統領となった。1948年スターリンと対立しコミンフォルムから追放されたのを機に独自の民族的社会主義の路線を進んだ。スターリンの死後はソ連および東欧諸国との友好回復に努め，一方では非同盟国として独自の外交を推進した。1966年からはユーゴ共産主義者同盟議長の職もつとめた。 〔山県弘志〕

ちどうせつ 【地動説】 地球をはじめ惑星は太陽を巡る軌道上を公転し，天球の日周運動*は地球が自転しているために起こるとする考え方。すでにギリシア時代にも太陽中心の地動説を唱えた学者が何人かいたが，キリスト教の地球中心的な思想によって中世紀の間は完全に無視されてきた。しかし，天動説によっては惑星の運動をどうしてもうまく説明することができなくなり，1543年コペルニクス*によって改めて地動説が提唱された。コペルニクスの考えは当時の天動説を支持する人たちから激しい非難を受けたが，その後チコ-ブラーエ*の精密な惑星観測をもとにして，ケプラー*が惑星運動に関するケプラーの法則を導き，これがニュートン*の万有引力の法則によって理論的に裏づけられるに及んで，地動説は確固たる事実となった。 〔磯部琇三〕

チトーグラード 〔Titograd〕 ユーゴスラビア南部，モンテネグロ共和国の首都。旧名ポドゴリカ。人口31,000(1961)。アルバニアとの国境をなすスクタリ湖北方の平野部にあり，たばこ工業・家具製造などが盛んである。中世にはモンテネグロの中心都市であったが，15世紀から19世紀にわたるトルコ領時代には衰えた。第2次世界大戦で大被害を受けたが再建され，1948年に現在の地名に改めた。

チトクローム 〔cytochrome〕 細胞内の呼吸は酸化反応を通じてエネルギーを生じるが，その反応はおもに炭水化物の分解，炭素・水素の炭酸ガス・水の酸化である。このうち炭水化物の分解は解糖系(発酵，エムデン-マイヤーホフ系)で，炭素の酸化はTCA回路(クエン酸回路)で行なわれる。これに対して水素の酸化はチトクローム系で行なわれる。TCA回路とチトクローム系は高等な生物では細胞質内の小体であるミトコンドリアに含まれているが，酸素呼吸を行なうある種のバクテリアでは原形質膜に組み込まれている。最近，チトクローム系は核内にも発見されている。チトクローム b→c_1→c→($a+a_3$)($a+a_3$でチトクロームオキシダーゼの働きを示す)の順で酸化還元電位は高くなっていくので，水素のもつ電子はこの順でそれぞれのチトクロームを移動して最後に分子状酸素を還元する。この酸化還元反応にはリン酸化反応が共役して，1個の電子がチトクローム系を渡ると3個のATP*を生じる。他の脱水素酵素による酸化還元反応が水素転移であるのに対し，チトクローム系は水素の電子の移動によるところに特徴がある。

チトクロームはみなポルフィリン核に金属を含むタンパク質である。チトクローム b・c_1・cはそれぞれ鉄イオンをもち，チトクローム a・a_3はそれぞれ銅を含む。チトクローム cのヘム*はヘモグロビン*によく似ている。これらの金属イオンが直接電子を受け取っている。チトクローム cだけがミトコンドリアのDNAによって遺伝され，他のチトクロームは核のDNAによって遺伝される。酸化的リン酸化反応と共役するこれらのチトクロームのほかに，その役割がまだ不明となっているチトクロームb_5や，薬物・ステロイドの水酸化反応を触媒するp_{450}もミクロソームで発見されている。 〔原野友之〕

チトクロームさんかこうそ 【チトクローム酸化酵素】 チトクロームオキシダーゼともいう。チトクローム系による水素酸化の最終段階。還元型チトクローム cを再酸化して，みずからは還元を受け，分子状酸素を還元する。チトクローム酸化酵素の名称はこれに由来する。チトクローム系は水素の電子を転移し，酸素を還元してプロトンと反応させて水をつくる。電子の転移によってチトクローム系は3個のATP*を生じるが，そのうちの一つはこの反応で生じる。酸素呼吸をする多くの生物ではこの酸化酵素はチトクローム aとa_3という2種のリポタンパク質からなるが，ばらばらにすると活性を失う。この酵素が別々の酵素であるのか，または双頭の酵素であるのかは不明であるが，a・a_3とも銅ヘムをもつタンパク質である。このうちシアン・一酸化炭素によって酸素との反応を阻害されるのも，また酸素と直接反応するのもチトクロームa_3であると考えられている。分子量は約15万～20万。これに類するチトクロームとして，バクテリアなどでは a・a_2・d・oなどが見いだされ，その組み合わせはまちまちである。またチトクロームa_1およびdが硝酸還元酵素として働いている例も見いだされて，チトクローム系の進化を考えるうえにおもしろい。 〔原野友之〕

ちとせ 【千歳(市)】 北海道の南西部，勇払平野北部の市。人口66,000。元アイヌ語でシコツ(大きな窪地(くぼち)の意)といったが，死骨に通じるというので，1819年(文政2)に，ツルの生息が多いところから現地名に改称した。1925年(大正14)に飛行場がつくられ，1939年(昭和14)に海軍航空隊が置かれ，第2次世界大戦後には在日アメリカ軍航空基地となった。1951年に民間航空路が開かれた。1958年市制施行。市域は千歳川に沿う東西に長い低地と周辺の火山灰台地を含む。産業三大別人口比は6：17：77。低地では水田耕作が行なわれ，台地は酪農やウマの飼育に利用され，また，千歳川にサケ・マスの孵化(ふか)場がある。道央新産業都市の区域内に含まれ，市営工業団地にはサントリーの工場が進出した。陸上自衛隊第

７師団と航空自衛隊第２航空団があり，全国最大の自衛隊基地である。千歳線*・国道36号線(弾丸道路)が通じ，千歳空港*から札幌(さっぽろ)へ向かう千歳国道(有料道路)も建設されている。支笏洞爺(しこつとうや)国立公園の観光基地となる。

ちとせくうこう　【千歳空港】　北海道千歳市にある軍民共用の飛行場で，千歳航空基地として航空自衛隊の管理下にある。長さ2,740ｍ・2,700ｍの滑走路各１本がある。北海道の空の玄関にあたり，東京との間に幹線航空路が開かれている。また，わが国最北の航空基地として，航空自衛隊第２航空団(戦闘機隊)が配備されている。なお，近くの札幌(さっぽろ)市丘珠(おかだま)に軍民共用の陸上自衛隊の管理に属する丘珠飛行場がある。長さ1,000ｍの滑走路１本だけで，東京・函館(はこだて)・帯広などへのローカル空路の定期便が就航している。陸上自衛隊北部方面航空隊，第７・第11飛行隊が配属されている。　〔青木栄一〕

ちとせせん　【千歳線】　北海道の函館(はこだて)本線苗穂から千歳を経て室蘭(むろらん)本線沼ノ端(ぬまのはた)に至る国鉄路線で営業キロ数62.6。1926年(昭和１)開業。当初は私鉄の北海道鉄道を国有化したローカル線であったが，従来函館本線を経由していた特急・急行の多くが同線の長万部(おしゃまんべ)～小樽(おたる)間の急勾配(きゅうこうばい)区間を避けて，室蘭本線・千歳線経由となったため，現在では幹線鉄道なみの重要性をもつに至った。沿線には千歳空港のある千歳市がある。　〔青木栄一〕

チトニア　［*Tithonia rotundifolia*］　双子葉植物・キク科。メキシコ・中央アメリカ・キューバなどに分布する一年草。高さ1.5～３ｍに達し，基部は木化する。葉は互生し，有柄で広卵形，全縁または浅裂する。７～８月，直径５～８㎝の黄色ないし赤色の頭状花をつける。日本には1930年(昭和５)ごろにはいったといわれる。矮性(わいせい)で早咲きのトーチという品種が，よく栽培される。



チトニア

ちどめぐさ　【血止草】　双子葉植物・セリ科。道路や林などの日陰にはえる常緑多年草。細い茎が地面をはい，節から根を出す。葉は長さ１～３㎝の柄があり，径１～３㎝の円形で縁に浅い切れ込みがある。葉の表面には光沢があり，裏面にわずかに毛がある。葉や茎をもむと独特のにおいがする。６～９月，葉柄とほぼ同じ長さの花茎の先に３～15個の白色の小さな花がかたまって咲く。果実は径１㎜ほどの円形の分裂果で，縦に10本の脈がある。小さな傷口からの出血には葉をもんではると血が止まるといわれる。近縁のヒメチドメは葉の幅が６㎜以下で，花序に３～４花しかつけない。ノチドメは大形で，葉の幅２～３㎝，花序は葉柄より短い。ヤマチドメはノチドメに似るが茎の先が立ち上がって10㎝前後になり，花序は葉柄より長い。　〔加藤僖重〕



チドメグサ

ちどり　【千鳥】　鳥類・チドリ科の総称。この科はチドリ亜科とケリ亜科に分けられ，最近再検討されて前者は26種，後者は24種に分類された。チドリ亜科の鳥は広く全世界に分布し，北極圏近くで繁殖して長距離の渡りをするものもあれば，温・熱帯に生息する留鳥性のものもある。シギ*類同様に内陸の草原や川・湿地・湖沼地帯・海岸などの水辺に生息する小形ないし中形の鳥で，シギ類に比べ全般に体は丸っこく，くちばしは頭と同じかやや短い。繁殖期以外は大群になるものが多い。波にチドリの図案があるように，古くから日本人にも親しまれている。ケリ亜科は一般にチドリ亜科より大形で，干潟(ひがた)や海岸には生息せず，より内陸性である。北アメリカ大陸を除く全世界に分布し，その中心はアフリカである。わが国には，チドリ亜科10種，ケリ亜科２種が分布している。　〔安部直哉〕

ちどりそう　【千鳥草】　単子葉植物・ラン科。本州中部以北の高山の草地に自生する多年草。根は白色多肉で掌状をなし，多数のひげ根を出す。茎は直立して高さ30～50㎝，５～６枚の葉をつける。葉は広線形で基部は茎を抱く。７～８月ごろ，淡紅紫色の花を穂状の総状花序につける。外花被は長楕円(ちょうだえん)形で開出する。唇弁(しんべん)は広倒卵形で，３中裂する。距は細長く湾曲して下垂する。

ちどりのき　【千鳥木】　双子葉植物・カエデ科。山地の谷間に自生する落葉高木で，高さ10ｍに達する。葉はサワシバに似た倒卵形で対生し，長さ８～12㎝，幅４～６㎝，側脈は多数あり，主脈には毛がはえ，縁に重鋸歯(きょし)がある。カエデの仲間であるが紅葉しない。雌雄異株で，４～５月に１年めの枝の先に５～６個の淡緑色の花を穂状につける。

ちどりのきょく　【千鳥の曲】　箏曲(そうきょく)の曲名。江戸末期に名古屋の吉沢検校(けんぎょう)(1801～1872)が作曲した復古主義的な古今組*５曲のうちの１曲。他の４曲と違って，歌詞を《古今和歌集》だけでなく《金葉集》からもとっており，規模の大きな手事*がつけられている。歌の旋律は地歌*的ではなく，古風な箏組唄(くみうた)的であるといわれる。箏の手法も楽箏(雅楽の箏)のものを取り入れている。元来，生田流のものであるが，山田流でも演奏される。〔山口　修〕

ちな　【知名(町)】　鹿児島県大島郡に属し，薩南(さつなん)諸島沖永良部(おきのえらぶ)島南西部の町。人口8,600。島は隆起サンゴ礁であるため，台地性で水田に乏しく，サトウキビ・花・パイナップルなどを産し，ユリの球根を輸出する。港湾には恵まれなかったが，近年，鹿児島からの空路が開かれた。水蓮洞(すいれんどう)などの大規模な鍾乳洞(しょうにゅうどう)が数多くあり，観光客が多い。

ちねつ　【地熱】　地殻(ちかく)の深部から高温の熱水*によって地表付近にもたらされる熱。そのような高温熱水が多量に供給される地域は，地下温度が一般の地域よりもはるかに高く，地熱地帯を形成する。地熱地帯の地表にまで通じた割れ目からは，高温の水蒸気や温泉が湧出(ゆうしゅつ)し，噴気孔や〈地獄〉などもできる。また地下に適当な不透水層があると，上昇してくる熱水の大部分はその不透水層にさえぎられてその直下にたまり，この部分に高温・高圧の熱水または水蒸気が貯留されて，地熱鉱床を形成する。地表からボーリングして不透水層を突き破ると，高温・高圧の水蒸気が噴出する。その水蒸気の圧力が約５kg/cm²以上で温度が約150℃以上あれば，それで発電用タービンを動かし，地熱エネルギーを電気エネルギーとして利用することができる。→次項　〔片山信夫〕

ちねつはつでん　【地熱発電】　火山温泉地帯で噴出する天然蒸気を利用してタービン発電機を運転する発電方式。一般に，噴気井戸から取り出される天然蒸気は低圧・低温で，ときには熱水の場合もある。地熱発電の方式はその噴出蒸気の性質によって定まる。蒸気が過熱または湿り度１～３％の場合には，直接蒸気タービンを運転する直接式が採用される。熱水の場合には，タービン内部の圧力を大気圧以下として熱水を蒸発させ，その蒸気でタービンを回転させる方式と，熱水を熱源として熱交換器により水を蒸発させてタービンを運転する間接方式とがある。地熱発電の成否は，第一に豊富な地熱の存在と，これを安定した状態で大量に採取する削井技術とによって決まる。さらに地上に取り出した天然蒸気が

不純物を含んでいる場合には，適当な対策を講じなければならない。また，利用しうる蒸気の初温・初圧が低い場合に利用熱落差を増すため，大きな復水器と多量の冷却水を必要とする。イタリア・ニュージーランド・アメリカ合衆国・ソ連などで実用化されている。〔田村康男〕

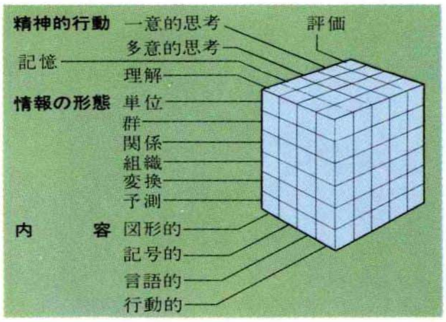
ちの【茅野(市)】長野県中東部の市。人口44,000。1958年(昭和33)市制を施行。市域は諏訪(すわ)盆地の南東，八ケ岳(やつがたけ)南麓(なんろく)の海抜800m前後の高冷地に位置し，中央を宮川が流れる。産業三大別人口比は26：38：36。冬の厳寒期を利用してつくられる寒天の特産があり，高冷地野菜や切り花の出荷も多い。中央線・国道20号線(甲州街道)に沿い，バス交通の基地となる。市域内の蓼科(たてしな)温泉郷や白樺(しらかば)湖に有料道路が通じて観光客を運ぶ。豊平(とよひら)地区の尖石(とがりいし)遺跡は特別史跡に指定されている。

ちのう【知能】困難にうちかつ，複雑な問題を解決する，抽象的あるいは独創的思考を進める，仕事を計画し迅速に処理する，社会的に価値のある行動を選択する，などをすることができる多方面の能力を含んだ概念。したがって，知能は，多くの側面から評価されるものである。現実には，知能検査の結果によって評価されるので，この意味で知能は知能検査結果であるともいわれる。イギリスのスピアマン*は，すべての知的活動はそれぞれの活動に関係する特殊因子と，すべての活動に共通するただ一つの一般因子に基づくとする2因子説を主張した(1927)。これは知能にただ一つの方向を認める思想である。これに対しアメリカのサーストン*は因子分析*によって，知能は多数の因子で構成されることを認め，たとえば第1次知能因子として空間，数，言語，語の流暢(りゅうちょう)さ，記憶，帰納，知覚の7因子を考えた(1938)。研究が進むにつれてますます多数の因子を認めるようになり，ギルフォードは図のような知能の構造体と120の因子を予想した(1959)。

知能評価は，精神(知能)年齢(MA)・知能指数*・知能偏差値などによってなされる。精神年齢は，各年齢の児童の平均水準に相当する困難度の問題として，あらかじめ設定された標準検査問題に通過することで評価される。7歳の問題を通過したときMAは7歳，さらに8歳の問題の一部を通過したときMAは7歳2か月，7歳4か月というように評価される。知能偏差値は標本集団の知能検査成績が正規分布を示すという統計的概念に基づく評価法で，平均知能水準を50とし，60は100人中16位の水準，70は100人中3位の水準を意味する。

〔金子秀彬〕

ちのうけんさ【知能検査】人間の心的機能のうち，特に知的側面を数量的に測定・評価するための検査。広義の心理検査あるいは人格検査のうちに含まれる。19世紀後半から能力の個人差が注目されはじめたが，20世紀初頭，フランスの心理学者ビネーが，学童の知能遅滞児を選別する目的でシモンと協力して開発したのが本格的知能検査のはじまりで，ビネー式検査とよばれる。その後多くの知能検査法がつくられたが，いずれの検査法もビネー検査に基準を置いている。知能検査法は，素材として文字・言語を使用するものをA式，これを使用しないものをB式，言語性能力の検査を主内容とするものをL式，動作性能力の検査を主内容とするものをM式とよぶ。ビネー検査はA式・L式を主とし，B式・M式を少数ながら含める。他に広く使用されている検査法にはウェクスラーを中心に開発され，改訂されたものがある。



知　能　ギルフォード知能構造モデル　精神的行動。情報の形態・内容の3次元の構造体で，120の細胞は知能の予想される因子。現在80まで確かめられている

【ビネー法】1905年から1911年にわたって作成された児童中心の検査法で，ビネー-シモン法ともいう。1916年アメリカのターマン*らがこれに改訂を加え，広く普及させたのがスタンフォード-ビネー法で今日最も用いられ著名である。問題数は90，年齢別に知能の段階が算出され，さらに知能指数も算出される。わが国では1930年(昭和5)鈴木治太郎によって標準化された鈴木-ビネー式，1940年田中寛一によって標準化された田中-ビネー式が広く用いられている。

【ウェクスラー法】1939年アメリカのウェクスラーが成人を対象に作成した検査法でウェクスラー-ベルビュー法ともいう。言語性検査・動作性検査，および総合的評価の3側面から指数が算出され，知能以外の人格診断をも意図しているのが特色。1940年に改訂され，成人用(ウェイスWAIS)と児童用(ウィスクWISC)に分かれた。わが国では1950年ウェクスラー-ベルビュー法が，1953年ウィスク法が，1959年ウェイス法がそれぞれ標準化されている。

〔金子秀彬・馬場礼子〕

ちのうしすう【知能指数】知能検査*による知能評価の数値。IQともよばれ，精神(知能)年齢／生活(暦)年齢×100の式で表わされ，知能発達の進み遅れを示す。生活年齢10歳の児童が精神年齢12歳のときIQは120，知能の発達が年齢とつりあっているときIQは100となる。ただし，IQの算出では，年齢15歳以上はすべて15歳として計算される。IQ80以下の場合知能発達に欠陥の疑いがあり，50以下では日常生活の処理が困難になる。一般人口中，IQ120以上は約7%，140以上は0.25%。最高はほぼ200といってよく，ゲーテ・パスカル・ライプニッツはIQ180あるいはそれ以上と推定されている。しかし，知能指数は限られた検査問題の解答によるものなので絶対的とはいえず，違う検査方法ごとにある程度評価の違いが生じ，また，数年後にはかなり変動もする。知能を固定的に考えることは不適切であり危険といえる。〔金子秀彬〕

ちのうはん【知能犯】犯罪のうちで，犯人の行為が知能的であり，冷静なる判断をもって犯した罪の総称。詐欺・横領・偽造・背任・贈賄・収賄の罪が代表的である。これに対し，実力による殺人・傷害・強盗・強姦(ごうかん)などの罪を実力犯・強力(ごうりき)犯・暴力犯などとよぶが，これらの罪も場合によっては知能犯に含まれる。

ちのかて【地の糧】ジイド*の散文詩的作品(1897)。1893年のアフリカ旅行でそれまでの禁欲主義的姿勢を打破した作者の，生命への熱狂的な礼賛の書。大地をはだしで歩くことの快楽と，すべて生あるものへの熱烈な欲望をうたいあげ，当時の文学青年に驚嘆をもって受け入れられた。

ちのにちようび【血の日曜日】1905年1月9日，ペテルブルグの冬宮広場で起こった虐殺事件。〈1月9日事件〉ともいう。ロシアの勤労者の生活は，1900～1903年の産業危機のため圧迫されていたが，1904～1905年の日露戦争によってさらに苦しさを増し，労働運動は待遇改善だけでなく戦争反対，立憲政治の要求をも掲げるようになった。1905年1月ペテルブルグの一工場で始まったストライキは，15万人に上る政治ストライキに発展した。そのためツァーリ政府はその弾圧を決意した。一方，これを平和的に収拾しようとしたガポン神父はツァーリに対する請願行動を計画した。ガポンらが自由主義ブルジョアジーの協力を得て作成した請願文は，ペテルブルグの労働者集会で圧倒的に支持され，1月9日の日曜日に政府へ提出されることになった。しかし政府は，40,000人の軍隊・警官をペテルブルグに配備して，冬宮広場に向かって行進を開始した約14万人の労働者・婦人・子ども・老人に対して一斉(いっせい)射撃を加え，多数の死傷者を出した。この苛酷(かこく)な弾圧によってツァーリへの非難が高まり，モスクワ・バクー・チフリス・リガなど44万人の労働者がストライキを起こし，これが第一革命の発端となった。〔山県弘志〕

ちのわ【茅の輪】⇨蘇民(そみん)将来



千葉県

ちば 【千葉(県)】 関東地方南東部の県。東と南は太平洋，西は東京湾に面し，北は利根(とね)川を隔てて茨城県，北西は江戸川を隔てて東京都・埼玉県と接する。安房(あわ)・上総(かずさ)の全域と下総(しもうさ)の大半を占める。面積5,121.21km^2，人口467.2万。1km^2あたりの人口密度は912人。1970～1975年(昭和45～50)の人口増加率は23.2％で，埼玉県に次いで全国第2位。県花はナノハナ，県木はイヌマキ，県鳥はホオジロ。県庁のある千葉以下26市と10郡(47町7村)に分かれる。

〔自然〕本州中央部の東端，太平洋に突出する房総半島の全域を占め，地形は北部から中部にかけての平地および台地から南部の丘陵へと階段状に高くなる。おもな平地は，関東平野の南東端にあたる利根川・江戸川両河川の沿岸平野と，下総台地，太平洋岸の九十九里浜平野，東京湾岸の小平野で，利根川・江戸川の流域には霞ケ浦(かすみがうら)南部の十六島や印旛沼(いんばぬま)・手賀沼などの低湿地や池・沼が多い。十六島付近は水郷の中心部で，水郷筑波(つくば)国定公園*に編入されている。九十九里浜平野は地盤の隆起と流砂の堆積(たいせき)によって形成された低平な海岸平野で，沼地が多い。下総台地は関東ローム層におおわれた洪積(こうせき)台地で，国府台(こうのだい)・習志野・下志津・八街(やちまた)・三里塚(さんりづか)などの各地に広い平坦(へいたん)部が開ける。高度は南部で約90m，東端の犬吠埼(いぬぼうさき)で65mあり，利根川・江戸川などの支流によって樹枝状の谷に侵食され，北西方へゆるやかに傾く。南部はおもに第三紀層からなる高さ200～300mの房総丘陵で，鋸(のこぎり)山(329m)・清澄山(383m)を結ぶ東西の線が分水界となる。分水界の北はゆるやかに傾斜する上総丘陵，南は加茂川地溝(ちこう)・嶺岡(みねおか)地塁・館山(たてやま)地溝などが寄せ木細工状に集まる安房丘陵である。小糸川・小櫃(おびつ)川・養老川などの河川は房総丘陵を侵食し，東京湾へ注ぐ下流部に小平野をつくる。海岸線は東部の太平洋岸と西部の東京湾岸に分かれ，半島北西端の洲崎(すのさき)を中心に清澄山地の末端のおせんころがしの断層崖(だんそうがい)までを外房，浦賀水道に面した明鐘崎(みょうしょうざき)までを内房とよぶ。太平洋岸の北東部には単調な砂浜海岸の九十九里浜が延びており，南部は小さな屈曲の多い岩石海岸で，南端の野島崎周辺には海岸段丘が発達する。東京湾岸は入り江と岬(みさき)とが多く，一般に遠浅で，浦安から富津洲(ふっつのす)にかけては埋め立てによる土地造成が進み，1985年までにはすべて人工的な海岸線に変わる予定である。富津洲から洲崎・野島崎を経て太平洋岸の太東崎(たいとうざき)にわたる約190kmの海岸線は風光がすぐれ，内陸部の鹿野(かのう)山・清澄山・鋸山を含めて南房総国定公園に指定されている。気候は一般に温暖多雨で，特に南部は黒潮の影響を受けて冬も暖かく，1月の平均気温が6℃前後である。冬霜の降りない地域も多く，海岸にはソテツ・ハマユウなどの亜熱帯植物が育つ。山地には暖帯林が茂るが，下総台地の内陸部は冬の季節風が強い。年降水量は県域の大半が1,500～2,000mmであるが，外房地区は3,000mmに達する多雨地域である。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は11：33：56で，県民1人あたりの分配所得は128万0,000円，全国第13位を占める(1975)。数年前までは東京への食料供給地として第1次産業の就業人口が約60％に及んだが，最近は京葉工業地帯の発展と東京への通勤住宅区域の拡大によって，第2次・第3次産業の比重が著しく増加した。〈農林水産業〉耕地はおもに中・北部に発達して，県域の約30％を占め，水田率は57.6％，利根川流域と九十九里浜平野に水田が多く分布する。農家の経営規模は平均0.9ヘクタール，米の平年収量は45万tで，京浜の消費地へ移出する。かつては用水不足や排水不良のために一毛作田が大半を占めたが，第2次世界大戦後大利根用水や両総用水がつくられて二毛作田が多くなった。下総台地は畑作地帯で，西部ではカブ・パセリなどの近郊野菜がつくられ，東京への野菜出荷量は近県中最高である。特産のラッカセイは印旛郡八街周辺を主産地として年産57,000t，全国産額の45％に達し，スイカは成田市周辺を主産地として年産11万4,000t，全国産額の11％を占める(いずれも全国第1位)。そのほかサツマイモ・トマト・キャベツ・ハクサイなども全国有数の産地である。外房地区では温暖な気候を利用してビワ・ナツミカンなどの果樹が栽培され，最近は江見海岸を中心に草花づくりが盛んである。畜産業では下総台地北部のサツマイモ地域にブタ，房総丘陵に乳用牛が飼育され，ブタは36万8,000頭，乳用牛は85,000頭を数える(いずれも全国第2位)。牛乳の生産高は年間22万8,000tに達し(北海道に次ぎ全国2位)，市乳として東京へ移出されるほか原料乳として地方の酪農工場へ移出される。林野面積は18万5,000ヘクタールで，県域の約3分の1を占めるが，森林の大半は細分化

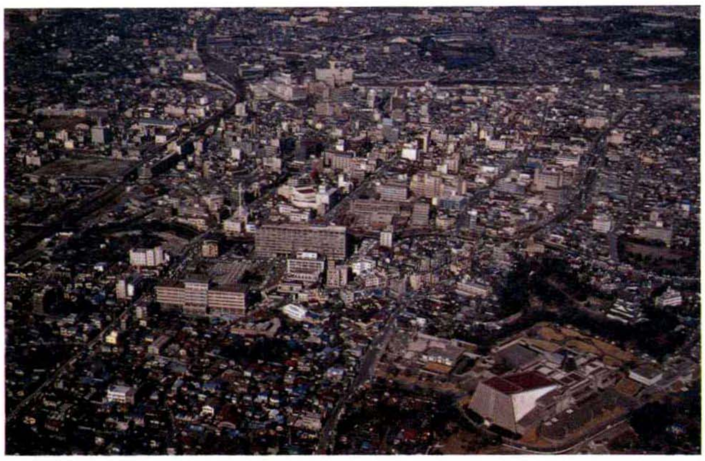
された民有林で，素材生産量は35万4,000m³にすぎない。山武郡山武町は古来サンブスギの産地として知られ，年間10万本の苗木を輸出する。水産業はきわめて盛んで，漁獲総量は年間30万ｔに達する（北海道・長崎県に次ぎ全国第３位）。寒暖両流の交わる東部海域では，サンマ・サバ・アジなどの水揚げが多いが，明治以降全盛を誇った九十九里浜のイワシ漁業はここ20年ほど不漁である。東京湾沿岸の干がたではノリをはじめハマグリ・アサリなどの養殖が行なわれ，外房ではアワビ・サザエ・テングサの産が多い。ノリは数年前まで全国産額の約40％を占めていたが，最近は海岸部の埋め立てによって養殖面積が狭くなり，工場廃液による被害も受けて生産高が著しく減少した。おもな漁港は銚子（ちょうし）をはじめ，大原・勝浦・館山・天津小湊（あまつこみなと）・船形・千倉などである。銚子港は大形漁船の水揚げ港として港湾施設が整備されている。

〈鉱工業〉地下資源としては天然ガス・砂鉄・鹹水（かんすい）ヨード（海成層*の堆積時に，地層中に含み込まれた海水中に含まれているヨード）を豊富に産出するが，その他の鉱産には乏しい。天然ガスは，県の中南部一帯に2,000億m³が埋蔵され，茂原市や大多喜町を中心に年間生産量は全国の16.3％を占める（全国第２位）。砂鉄は九十九里浜が主産地で，年産約20万ｔを採取する。天然ガスとともに産出される鹹水ヨードは大半がアメリカ合衆国に輸出される。工業面では京葉工業地帯の発展によって工業製品の年間出荷総額が１兆3,732億円（1968）に達し，全国第９位を占める。京葉工業地帯では，1951年以来，東京湾沿いに北は浦安町（市川市）から南は富津洲まで延長76kmに及ぶ海面を14,414ヘクタール埋め立てて，工場用地化する計画が進められ，1985年に完成の予定である。北から軽工業中心の葛南（かつなん）地区，重化学工業中心の千葉地区，重化学・鉄鋼業中心の木更津地区の３ブロックがあり，すでに造成が完了した埋め立て地には鉄鋼・石油精製・石油化学などの巨大企業が集まって，コンビナートを形成している。千葉地区には，貨物取扱量が全国第６位を占める特定重要港湾千葉港があり，葛南地区では30,000トンの巨船が接岸できる京葉港の建設が進んでいる。また，最近では内陸部にも工業地帯の造成計画が進んでおり，茂原・大多喜地区では電気機器・ヨード工業が興っている。北東部の銚子地区や北西部の野田地区では300年以上の伝統をもつしょうゆ醸造が行なわれ，銚子・ヤマサ・キッコーマンの三大会社の年間生産高は240億円をこえて全国一の生産を誇り，東南アジア・ハワイ・アメリカ合衆国などへの輸出も多い。

〔交通・都市〕東京都とのつながりが深く，特に北西地区は近年東京と一体化するほど都市化と交通の便が進んでいる。陸上交通では新宿と銚子を線ぶ総武本線をはじめ，房総半島を一周する房総東線・同西線，利根川沿いに北部を走る成田線などが主要幹線で，総武線・常磐（じょうばん）線の国電が東京と千葉市・松戸市を密接に結んでいる。私鉄では京成電鉄・東武鉄道が北西地区に密度の高い交通網をつくり，1968年には帝都高速度交通営団の地下鉄東西線が東京の都心部から西船橋まで通じて，増大する通勤者の足となっている。そのほか，成田線からは新興の鹿島（かしま）工業地帯（茨城県）へ至る鹿島線が延びており，房総東線から木原線，房総西線から久留里線・小湊鉄道が分岐して，山がちの内陸部の交通の便に役だっている。海上交通では東京湾高速船が東京の竹芝桟橋（さんばし）と金谷（かなや）・館山・木更津を，京浜汽船が横浜（神奈川県）と富津を定期航路で結び，横浜・川崎（神奈川県）と木更津，久里浜（神奈川県）と金谷の間にはフェリーボートが就航している。道路交通は，北西部の千葉市に京葉有料道路をはじめ，国道14号線・16号線・51号線・124号線・126号線が集まり，西岸には16号線とその延長の127号線，東岸には126号線の延長の128号線が通じている。千葉市から北東方へ走る国道51号線は京葉工業地帯と鹿島工業地帯を結ぶ産業道路として重視され，その整備が進められている。太平洋岸沿いを走る国道126号線と124号線の接点である銚子市には，1962年以来，利根川対岸の波崎（はさき）町（茨城県）との間に銚子大橋（有料道路）が開通した。そのほか，南房州第１道路・同第２道路・鴨川（かもがわ）道路などの有料道路が南房総国定公園の観光開発に役だっている。定期航空路はまだ開けていないが，成田市東郊の三里塚に新東京国際空港の設置が決定し，いま建設工事が進められている。しかし地元の反対で土地買収が難航し，1971年4月に予定されていた開港は大幅に遅れることになった。空港と東京との間には電車や高速道路の新設計画があり，空港が完成したときには県下の交通事情が大きく変化することが予想される。起源の古い都市には中世の城下町で，近世は港町・宿場町となった千葉市や，近世の城下町佐倉市，成田山新勝寺の門前町成田市，港町の銚子市・木更津市，醸造業の盛んな野田市などがある。最近は東京の隣接地区や東京湾沿岸地区に著しい都市化現象がみられ，東葛地区の市川・船橋・松戸・習志野・柏（かしわ）の各市には住宅地の開発と住宅団地の建設が進み，また，工場も進出している。一方，東京湾岸には京葉工業地帯の造成によって千葉・市原・木更津などの各市が工業都市として発展している。県下26市のうち，成田・佐倉・東金・旭（あさひ）・八日市場・習志野・柏・勝浦・市原・流山・八千代の11市は1953年の町村合併促進法施行後の新市で，我孫子（あびこ）・鴨川・君津・富津・鎌ケ谷（かまがや）などの都市は1970年の特例による３万人市である。

〔歴史〕江戸川流域の台地に堀之内（ほりのうち）・姥山（うばやま）・加曾利（かそり）などの貝塚が多くみられ，菅生（すごう）・田子台には竪穴（たてあな）住居の遺跡などもあって，原始時代から台地上に多くの先住民が生活していたことが推定される。伝説によれば，天富命（あめのとみのみこと）が四国の阿波（あわ）の忌部（いんべ）氏をこの地に移住させて，アサを栽培させたといい，古い国名の総国（ふさのくに）はアサ（〈ふさ〉ともいう）の茂る国の意に由来するといわれる。のち安房を分かち，さらに大化年間（646〜649）ごろに上総・下総に分かれた。平安末期からは荘園（しょうえん）が発達して，鎌倉時代には下総に千葉常胤*（つねたね），上総に平広常の一族がそれぞれ広大な荘園を領していた。また，鎌倉初期には日蓮（にちれん）が天津小湊に生まれた。室町時代から戦国時代へかけては，千葉氏は上総にも勢力を伸ばし，上杉（うえすぎ）・足利（あしかが）氏などと共存共栄したが，1590年（天正18）の小田原落城によって没落した。江戸時代にはいると，幕府は江戸に隣接する藩屏（はんぺい）の地としてこの地方を重視し，譜代大名の堀田（ほった）氏を佐倉に配したほか，各地を多くの小藩・天領・旗本（はたもと）知行地などに分割して統治した。幕府や佐倉藩は新田・塩田・水田などの開発に努め，江戸初期には九十九里浜平野北部の潟湖（せきこ）椿海（つばきのうみ）が干拓されて新田となりのち干潟（ひがた）八万石とよばれた。なお，当時幕府の牧場として開かれた佐倉七牧・小金五牧などは，明治初期に東京からの移住民によって畑作地として開墾された。江戸中期には，佐倉藩主の暴政に悩んだ200余村の領民の窮状を救うために佐倉惣五郎*（そうごろう）が将軍に直訴した事件も起こった。後期には浮世絵師の菱川師宣（ひしかわもろのぶ）やはじめて科学的な日本地図をつくった伊能忠敬（いのうただたか）らが出ている。1871年（明治４）の廃藩置県に際して８県が設置され，1875年に現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

ちば　【千葉（市）】 千葉県北西部の市。人口73.2万。中世には330年間千葉氏13代にわたっての城下町で，兵火のため一時衰微したが，江戸時代には佐倉藩の年貢（ねんぐ）米積み出し港となり，また，千葉街道その他の諸街道が集まる宿場町として栄えた。1871年（明治４）県庁が置かれ，その後鉄道・電車の開通や陸軍の各種学校の設置などによって，政治・軍事都市として発展した。1921年（大正10）市制施行。1937年（昭和12）に検見川（けみがわ）町ほか１町２村，1954年に幕張町ほか１村，1955年に生浜（おいはま）町ほか２村，1969年に土気（とけ）町などを編入して，市域を拡張した。市域は，下総（しもうさ）台地の末端部から東京湾に臨む海岸低地にかけて広がり，都川沿いに官庁街と商業地区がある。産業三大別人口比は４：32：64。第２次世界大戦まではノリ，貝類のつくだ



千葉市　南側上空から見た市の中心部。中央手前の大きい建物が県庁で，その北側は官庁・金融街。右下は亥鼻公園で図書館・文化会館が見える

煮，デンプン・アルコールなどの小規模な食品工業が行なわれていたが，1951年以来東京湾の埋め立て地に川崎製鉄所や東京電力の火力発電所が建設されて，重工業を主とする京葉工業地帯の中心地となった。特定重要港湾に指定された千葉港の整備拡張，南部に接する市原市五井地区の埋め立て地の工業化によって，将来の発展がさらに期待されている。総武本線・房総東線・同西線・成田線・京成電鉄の集まる交通の要地で，京葉有料道路や国道14号線(千葉街道)・16号線(東京環状線)・51号線(佐倉街道)・124号線・126号線(東金街道)が放射状に走る。1935年，総武線の東京～千葉間が電化して以来，西千葉・稲毛・幕張・検見川の各台地が宅地化され，最近は大規模な住宅団地が各地に建設されて，東京の衛星住宅都市的性格を深めている。千葉大学・千葉敬愛経済大学・淑徳(しゅくとく)大学・科学技術庁放射線医学総合研究所などの文教施設があり，千葉城跡には文化の森が建設され，東部には世界最大といわれる馬蹄(ばてい)形の加曽利(かそり)貝塚(かいづか)がある。浄土宗大巌寺境内の鵜(う)ノ森はサギやウの生息地で，天然記念物に指定されている。〔浅井得一〕

ちばし　【千葉氏】 古代末期から中世における下総(しもうさ)(千葉県)の豪族。桓武(かんむ)平氏良文(よしぶみ)が下総・武蔵*(むさし)などを開発し，以後代々下総介(すけ)となり千葉氏を称した。孫忠常(ただつね)は乱を起こし追討されたが，常胤(つねたね)のとき源頼朝(よりとも)に従って鎌倉幕府の創設に功があり，下総守護となった。南北朝時代，貞胤(さだたね)が足利(あしかが)氏に属し，室町時代には侍所所司家となって下総守護を保った。1454年(享徳3)享徳の乱に一族は2分して対立し以後衰えた。16世紀，後北条(ごほうじょう)氏に従い，1590年(天正18)後北条氏とともに滅亡した。一族に相馬(そうま)・武石(たけいし)・大須賀(おおすが)・国分・東氏らがある。

〔鹿野賀代子〕

ちばしゅうさく　【千葉周作】 (1794～1855)　江戸末期の剣術家。北辰(ほくしん)一刀流の祖。陸前(岩手県)栗原(くりはら)郡荒沢村の郷士の二男に生まれた。父は北辰無想流の剣客であった。16歳で江戸に出て，浅利又七郎・中西忠兵衛(ちゅうべえ)に剣を学んだ。また，27歳で剣術修行の旅に出，一流を創始して北辰一刀流と名づけた。神田お玉ケ池に道場(玄武館)を開き，その合理的な指導によって多くの門人を集め，養成した者の数は3,600にも上った。門人には海保帆平・清川八郎・有村治左衛門らがいる。なお，玄武館は斎藤弥九郎(やくろう)の練兵館，桃井春造(四代)の士学館とともに，江戸の三大道場の一つに数えられた。〔稲垣史生〕

ちばしょうぞう　【千葉省三】 (1892～1975)　児童文学作家。栃木県生まれ。宇都宮中学を卒業。コドモ社で《童話》誌の編集を担当，《赤い鳥*》批判の意をこめて郷土性のある童話の掲載を試みるかたわら，同誌上に出世作《虎(とら)ちゃんの日記》をはじめとする作品を発表した。コドモ社退社後，《童話文学》を興し同人雑誌運動の口火となる。作品は時代の風潮を反映して少年時代の郷愁と童心賛美を基調とするが，子どもの心理や生活の特性をつかみ生気ある児童像を描いた点で，リアリズム童話の先駆とされる。〔向川幹雄〕

ちばだいがく　【千葉大学】 国立大学。1949年(昭和24)，国立学校設置法により千葉医科大学・同付属薬学部・同医学専門部と千葉師範学校・千葉青年師範学校・東京工芸専門学校・千葉農業専門学校・東京医科歯科大学予科の各校が合併し，新制大学として発足した。現在，人文・理・教育・医・薬・工・園芸の7学部と教養部・大学院・付属病院・腐敗研究所・養護教諭養成所などの施設をもつ。本部は千葉市弥生(やよい)町1番地。

ちばつねたね　【千葉常胤】 (1118～1201)　鎌倉初期の武将。常重(つねしげ)の子。下総(しもうさ)(千葉県)の権介(ごんのすけ)として国府にいたが，源頼朝(よりとも)が挙兵したとき，下総の目代を攻め滅ぼして頼朝に属した。鎌倉を本拠とすること，東国経営に専心すべきことを頼朝に説き，その深い信頼を得た。のち下総守護となった。

ちはやじょう　【千早城】 楠木正成*(くすのきまさしげ)が，1331年(元弘1)金剛山(大阪府南河内(みなみかわち)郡)の西腹に築いた山城。赤坂城の落城後正成はここにこもり，わずか2,000の兵をもって鎌倉幕府の大軍と戦った。その模様は《太平記*》に描かれている。ことにわら人形や見せかけのへい，大石落としなどは，のちの戦国時代の戦法に大きな影響を与えた。南北朝の動乱期にも楠木氏の根拠地であったが，1390年(元中7・明徳1)正勝のとき，畠山基国(はたけやまもとくに)のため落城。現在は本丸・出丸跡が残るのみ。〔西ケ谷恭弘〕

ちばりゅうぼく　【千葉龍卜】 (生没年不詳)　江戸時代中期の生け花作家。赤穂(あこう)(兵庫県)の人で，名は胤綱(たねつな)，松翁斎と号した。1757年(宝暦7)に源氏流を創始し，生け花成立の道を開く。はじめ大阪で生け花の教授をしたが，1762年江戸に出て浅草並木の茶屋扇屋で花展を催し，一般向きの床飾りとして源氏活花(いけばな)の宣伝に努め，これが江戸における生け花流行の端緒となった。《源氏挿花(そうか)碑銘抄》(1787)によれば，高貴の人々や婦人の花名(門人)を除いて門人1,301名を数えうるほどの隆盛をみた。《源氏活花記》(1765)，《活花百瓶図(いけばなひゃくへいず)》(1767)などの著書がある。
➔　生け花　〔大井ミノブ〕

ちはんじ　【知藩事】 1869年(明治2)の版籍奉還*によって新たに設けられた地方長官の職名。旧藩主がそのままあてられたのでこの名がある。行政一般および藩兵の掌握を職務とした。1871年の廃藩置県の際廃止。以後地方長官は県令とよばれ，さらに1886年知事と改称された。

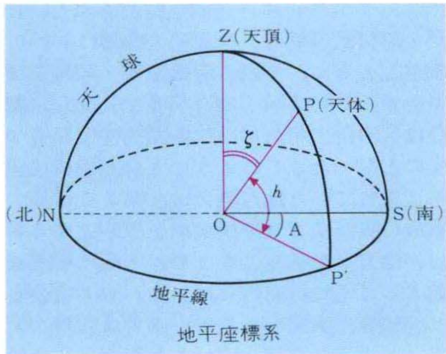
チフアナ　［Tijuana］ メキシコの北西端，アメリカ合衆国との国境沿いにある都市。人口41万2,000(1976)。カリフォルニア州に接していることから，メキシコ情緒を求めて訪れる観光客が多く，観光都市として発展している。観光客向けのバー・ナイトクラブやドッグレース・闘牛などの施設が多く，アメリカ人観光客は年間1,200万に達するといわれる。

チフス　［typhus］ この疾患には，腸チフス・パラチフス・発疹(はっしん)チフスがあるが，わが国でふつうチフスといえば腸チフス・パラチフスをさす。①腸チフス：病原菌は腸チフス菌*で，消化管から侵入し，さらに腸壁リンパ装置から血中にはいって菌血症を呈する。潜伏期は7～14日。発病第1週は増進期とよばれ，熱は階段的に上昇し，3～7日で最高に達する。高熱のわりには，脈数は少なく(徐脈)，皮膚に〈ばら疹〉という直径2～4㎜ぐらいの淡紅色の発疹が現われる。血液中の白血球数の減少は，この病気の特徴的なことであり，またこのころに血液中から腸チフス菌を検出することができる。発病第2週は極期とよばれ，体温は39～40℃となり，患者の状態は

きわめて悪くなる。脾臓腫大(ひぞうしゅだい)や脳症状として譫語(せんご)(うわごと)の認められることもある。このころから血清中に腸チフス菌の抗体を認めることができるようになり(ウィダール反応)，診断に役だつ。発病第3週は下熱期といわれ，熱は階段的に下降してくる。このころ腸穿孔(せんこう)を起こしたり，気管支炎・肺炎などの合併症を伴いやすい。つづいて回復期にはいり，すべての症状は消褪(しょうたい)する。死亡率はこれまで10～20%であったが，抗生物質特にクロラムフェニコールの出現後は1～2%に減少した。②パラチフス：パラチフス菌A，-B，-C，によって起こり，腸チフス菌と同様に消化管から侵入する。潜伏期は3～6日。症状は腸チフスとほとんど同じであるが，一般に腸チフスより軽い。診断は腸チフス同様に，血液・尿・便からの菌の検出と，血清のウィダール反応による。治療はクロラムフェニコールが有効である。③発疹チフス：リケッチア-プロワゼッキという病原体によって起こる。この病原体をもったシラミの刺傷によって人体に侵入する。戦争・飢餓・貧困・不衛生などに伴って流行しやすい。潜伏期は平均12日。急激に悪寒戦慄(おかんせんりつ)を伴って39～40℃の高熱を発する。頭痛・四肢痛(ししつう)・腰痛・筋肉痛があり，全身皮膚に小さな発疹が現われ，のちにこれは出血斑(しゅっけつはん)に変わる。重篤な場合は意識が混濁して，譫語・興奮・幻覚をきたす。血清反応として，ワイル-フェリックス反応が用いられる。治療には，クロラムフェニコール・テトラサイクリンなどが用いられ，予防としてはシラミの駆除がたいせつである。なお，腸チフス・パラチフス・発疹チフスは，いずれも法定伝染病(➡伝染病)に指定されている。患者発生の際は，診断した医師は保健所に届け出て患者を隔離し，消毒施行することが義務づけられている。〔橋本信也〕

チブチャぞく　**【チブチャ族】**　南アメリカのコロンビア中部のボゴタ高地に住んでいたインディアン人種の一種族。農耕民でトウモロコシ・ジャガイモなどを栽培し，綿織物・金属装飾品を製した。多くの都市国家に分かれて互いに戦い合ったが，16世紀初頭には強力な封建国家を築いた。王位は母系により相続され，王は神格化された。宗教は自然崇拝を主とし，太陽が最重要視され，人身供犠が行なわれた。1536～1541年の間にスペイン人に征服されて，国家組織は崩壊した。18世紀にチブチャ語は消滅するに至ったが，チブチャ族の子孫は現在100万人以上を数え，現在地一帯の基礎人口を構成している。〔佐々木宏幹〕

ちへいざひょう　**【地平座標】**　天体の位置を表現する天球座標の一。基準面として地平面，基準方向として観測地点の南の方向を選ぶ。天頂Zと天球上の一点Pを通る大円が地平線と交わる点をP′とする。∠SOP′を方位角A，∠P′OPを高度h，高度hの余角である∠POZを天頂角ζといい，A，hまたはA，ζで天球上の一点を表わす。天球座標の中で最も直観的表現法であって観測には便利であるが，観測地点によってA，h，ζは違い，日周運動によってもA，h，ζは刻々変化するので理論的取り扱いには不向きである。➜赤道座標　➜黄道座標〔木下　宙〕



地平座標



チベット自治区　主都ラサ市の郊外にあるポタラ宮殿。チベット高原の中で栄えた古都のおもかげをよく伝えている

チベットおんがく　**【チベット音楽】**　民謡と宗教音楽の2種類に大別される。民謡には，太鼓の伴奏によるグループ歌唱，鈴を振りながら歌う巫女(みこ)のシャーマニズム音楽，ダムニャン(琵琶(びわ))による芸妓(げいぎ)の音楽などがある。宗教音楽は10世紀以後のラマ教音楽として豊富な伝統をもっている。低い男声によるうなるような響きの典礼歌は，複雑な装飾も一目でわかるように図式的に示されたネウマ譜によって記譜されている。伴奏や間奏的器楽のための楽器は，鈴・シンバル・らっぱ(ジャンドゥン)・銅鑼(どら)・大太鼓・振鼓(ダマル)・オーボエ(スルナ・ハリブ・リャグリン)などである。〔山口　修〕

チベットご　**【チベット語】**　シナ-チベット語族チベット-ビルマ語群に属する言語。ただし，比較言語学上の証明はまだ不十分。狭義にはラサ方言を中心としたチベット民族の共通語をさし，使用者は約600万人。文字はインド系文字を模してつくられた音節文字で，その文献は7世紀からあり，特に〈チベット大蔵経〉は有名。古典語と同じ文字が現代でも用いられるが，正書法と発音との不一致が著しい。広義にはヒマラヤ諸方言をも含む。〔崎山　理〕

チベットじちく　**【チベット自治区】**　中国南西部，チベット族を中心とする省級民族自治区。面積122万km²。推定人口150万。行政の中心地はラサ(拉薩)。1自治区轄市(ラサ)・5専区に分かれ，70県を統括する。南はインド・ネパール・ブータンと境を接し，西はパミール高原へ続く。3,000～4,000mのチベット高原上に位置し，空気の希薄な寒気のきびしい地域である。住民の大半がチベット族で，ほかに漢・モンゴル・インド・ネパール人などがわずかに居住する。河谷では大麦・小麦の耕作を行ない，高原ではヒツジ・ヤク・ウシ・ウマの遊牧を行なっている。金・岩塩・硼砂(ほうしゃ)・麝香(じゃこう)・大黄・毛製品も産する。住民はかつて仏教の一派ラマ教を信じ，その教主ダライラマが住民を統治し，民族の自治は認められてはいたが，その社会体制は遅れたものであった。19世紀以後インドからイギリス勢力が侵入してきて，第2次世界大戦まで特殊権益を主張していた。1951年，中共政府はチベットに進駐し〈チベットの和平解放に関する協定〉を結んだが，1959年に反中共暴動が起こり，それが失敗するやダライラマはインドに亡命した。このため中共政府はチベット政府を解散させ，ラマ教の一派黄帽派の教主パンチェン-ラマを擁して事態の収拾を図り，さらに懸案の社会改革を推し進め，1965年にはチベットを省級の民族自治区とし，昌都(しょうと)地区もこれに編入した。交通は従来，もっぱらヤクを利用していたが，西康チベット公路(雅安～ラサ)，青海チベット公路(西寧～ラサ)，さらに近年はカシミール国境付近まで自動車道路が通じている。インドとの国境では，アッサム・カシミールなど係争中の部分がある。〔船越昭生〕

チベットじん　**【チベット人】**　チベット高原を中心に農耕とヒツジ・ヤクの牧畜を行なっているモンゴロイド系民族。その言語はいわゆるシナ-チベット語族に属する。7世紀の初めにインド文字を土台にチベット文字をつくり，〈大蔵経〉をはじめ多数の仏典を翻訳し，高い文化を誇っていた。土着のボン教の影響のもとに，ラマ教という独特の仏教をつくりあげた。

チベットだいぞうきょう　**【チベット大蔵経】**　7世紀以降，仏教のチベット流入に伴って逐次チベット語訳された仏教の経典を集めて，その内容により分類し再編集したチベット語訳仏教経典の集大成。現存している仏典編集事業の最古の目録は9世紀初期のものであるが，大蔵経として木版印刷

で出版されたのは14世紀以降である。内容は版によって多少異同があるが，一般に仏説部経典カンジュールと論部経典テンジュールからなっている。大蔵経編集開板事業は有力大寺院で行なわれ，底本の系統により各版に特色がある。

現存するおもなものは，ナルタン版・北京(ペキン)版・チョーネ版・デルゲ版などであるが，校訂が最も厳密で信頼できるものはデルゲ版といわれる。また北京版はその子音表記が最も古いチベット語の形態をとどめているといわれる。仏典研究のうえで中国語訳仏典とともに貴重な資料である。〔金子良太〕

ちほう【痴呆】 正常に発達した知能が，後天的な脳の障害によって進行性に低下した場合をいう。同じ知能の低下でも，生来性の知能の発育停止あるいは遅滞である精神薄弱*とは異なる。はじめは元気がなくなり，仕事の能率が落ちてくる。高等な判断力が衰えるために粗野・粗暴となり，反社会的行為もしばしばみられる。さらに進行すると，行動が鈍重となり自発性が失われ，特に記銘力の低下が著しく，住所や生年月日すら忘れてしまう。末期になると，寝たり食べたりの本能的行為しかできなくなり，幼児・重症白痴の精神状態にまで退化する。

痴呆の典型的なものは脳の損傷による器質的痴呆であるが，ほかに老人性痴呆，梅毒による進行麻痺(まひ)，アルコール精神病，てんかん*による痴呆などがある。各原因によってその病像にいくつかの特徴がみられるが，終末状態ではほとんど差がみられない。〔矢沢庸代〕

ちほうぎかい【地方議会】 地方公共団体の審議議決機関。原則として住民の直接選挙で選ばれる議員によって構成される。

〈世界各国の地方議会〉 大別して議会が議決機関であると同時にその執行の責任をも負う議会至上主議と，議会(議決機関)とは別に執行機関をもつ首長主義との二つに類型化できる。前者は地方分権の強いイギリスなどにみられ，後者はフランス・ドイツなど大陸系の中央集権型国家の地方行政制度に即応している。イギリスの場合，地方行政区画(県・市・町・村など)のそれぞれに地方議会が置かれているが，いずれも議決機関であると同時に執行機関である。アメリカの地方議会は州から村に至るまで各地で種々な形態がとられている。少数の議員による委員会制や市支配人制が〈市会―市長型〉とともに多く採用されていることに特色がある。フランス・ドイツの場合は，地方議会の権限は弱く，執行機関が優位を占めているが，中にはフランスの県や郡のように，官選の長をいただき中央政府の統制を強く受けるのもある。

〈日本の地方議会〉 明治初年，各地に豪農層が指導する地方民会が発生し，明治政府によってしだいに官選制に改められた。市制・町村制(1888)，府県制・郡制(1890)の制定とともに，官選の府県知事・郡長を頂点とする中央集権的地方制度が完成し，議会は自治権*の希薄な行政機関的性質をもつものとなった。このように天皇制*機構に組み込まれていた地方議会は，第2次世界大戦後の改革により住民自治*を原則とする新しい地方自治制度のもとで，大幅に権限を拡大して生まれ変わった。ここでも議会とは別に執行機関があるが，両者は対等な関係にある。地方議会のおもな権限は，条例*の制定・改廃，予算・決算の議決を中心に，議長・副議長・各種行政委員会委員(選挙管理委員など)の選挙権，地方公共団体の長が任命する副知事・助役・公安委員・人事委員などの同意権，行政事務の監査権・調査権などをもつ。議会は普通地方公共団体たる都道府県*・市町村*，特別地方公共団体たる特別区*・組合・財産区のそれぞれに設けられる。議員の定数は条例で定められるが，道府県議会で40～120人，市・特別区議会で30～100人，町村議会で12～30人程度とされている。議員は住民の直接選挙で選ばれ，任期は4年。➔地方公共団体　➔地方自治〔寺尾方孝〕

ちほうぎんこう【地方銀行】 普通銀行*のうち都市銀行・信託銀行を除いた銀行で，本店が主として地方都市にあり，支店もほぼその地方に集中しているものをいう。都市銀行が大規模なのに対して，地方銀行は中小規模のものが多い。財政の地方散超(➔揚げ超)，商工業の都市集中による資金需要の都市集中によって，地方銀行は預金吸収機関のような性格をもち，コール資金その他の形で都市銀行へ資金を融通している。1936年(昭和11)以来，1県1行主義によって地方銀行の整理が行なわれた。1979年12月現在全国で61行ある。➔都市銀行〔速水　保〕

ちほうこうえいきぎょうろうどうかんけいほう【地方公営企業労働関係法】 略称地公労法。地方公共団体*の経営する地方鉄道・軌道・自動車・運送・電気・ガス・水道・工業用水道の事業などに勤務する職員の労働関係について定めた法律(昭和27年法律289号)。17条からなる。その目的は，地方公共団体の経営する企業の正常な運営を最大限に確保し，住民の福祉の増進に資するため，地方公共団体の経営する企業とこれに従事する職員との間の平和的な労働関係の確立を図ることにある。

不当労働行為*の救済および労働争議の調整は，公共企業体等労働関係法*における公労委のような特別な機関は設けず，一般労働委員会が行なう。争議行為の禁止，団体交渉*の制限は公労法の扱いと同じである。〔黒瀬信子〕

ちほうこうきょうだんたい【地方公共団体】 都道府県・市町村などをその存立基礎にその区域内に居住する住民を構成員として国から与えられた公権力を行使し，その地域の行政を行なう団体。公法上の法人*である。その種類・権限の範囲はその国の歴史・政治体制によって異なるが，地方公共団体をなりたたせる基本的要素として，住民・公権力・区域の三つが不可欠と考えられる。第1に，地方公共団体の区域内に住所を有する者を〈住民〉といい，住民自治の原則から選挙・直接請求などに参与することを通して地方公共団体の意思決定に参加し，それが提供する種々のサービスを受ける権利と，同時にその負担を分かつ義務を負っている。第2に地方公共団体の有する公権力(自治権ともよばれる)は地方公共団体固有のものではなく，国家に究極的源泉をもつものと考えられるが，地方自治の本旨に基づき国家権力もこれをみだりに奪うことはできない。その自治権は国に対する独立性を示すとともに，区域全域にわたる，国法の範囲内での支配権を意味し，住民が参加して行なわれるその行政は強制力を有する。第3に国の法律その他によって定められた地域が行政の対象とされ，住民ばかりでなく滞在者や物にも公権力の範囲は及び，構成員に対してのみ支配力をもち，地域性をもたない他の法人と区別される。この意味で国とともに地方公共団体は〈地域団体〉とよばれる。名称・権限などで多様な形態をとる各国の地方公共団体は，イギリス・アメリカなど分権主義を伝統的にとっている国では権限が強く，逆にフランス・ドイツなど中央集権主義的な大陸諸国では権限が弱い。わが国でも第2次世界大戦前の自治団体は公権力(自治権)を認められず，中央集権的国家機構の下部機関と実質的に変わりがなかったが，戦後の地方自治制度の根本的改革により都道府県・市町村ともに自治権を有する統治団体としての性格を獲得した。日本国憲法は〈地方公共団体は，その財産を管理し，事務を処理し，および行政を執行する権限を有し，法律の範囲内で条例を制定することができる〉(94条)と直接に規定するとともに，その組織・運営に関して〈地方自治の本旨に基づいて，法律で定める〉(92条)とした。これを受けて地方自治法*が制定され，団体自治と住民自治に基づく現行の自治制度の基本が確立した。地方公共団体という呼称もこのとき以来用いられるようになった。普通地方公共団体(都道府県・市町村)と特別地方公共団体(特別区・財産区など)がある。➔地方自治　➔地方議会　➔地方行政　➔広域行政〔寺尾方孝〕

ちほうこうせいじ【地方恒星時】 地方時*の一種。ある地点の子午線をもとにして決めた恒星時*のこと。

ちほうこうふぜい【地方交付税】 地方財政の財源を調整・補完するために設けられた国の地方公共団体への交付金。地方公

共団体からすれば，間接課徴形態をとった地方公共団体の税ということになる。この制度は，1950年(昭和25)シャウプ勧告により地方財政平衡交付金として導入されたものであるが，1954年より現在の地方交付税に改められた。地方交付税の総額は，毎年度の所得税・法人税・酒税の一定割合(現行では100分の32)と定められており，地方公共団体に対する財源調整は，そのわく内において行なわれる。この財源調整に際しては，各地方公共団体の財源の不足状況のみが考慮される。地方交付税の種類には，普通交付税と特別交付税とがある。毎年度交付される交付税総額の100分の94に相当する額が普通交付税に，残り100分の6に相当する額が，特別交付税にあてられる。普通交付税は，毎年度基準財政需要額が基準財政収入額を越える地方公共団体に対して交付されるので，それぞれの地方公共団体においては，財源の不足額がその交付税額となる。しかし，これら財源不足額の合計が普通交付税総額を越える場合にはそれに対し圧縮計算が行なわれ，反対に普通交付税総額がこの財源不足額合計を越える場合には，その超過額は特別交付税総額に加算されるようになっている。特別交付税は，算定方法の画一性のため，または，算定期日後に生じた災害，その他特別の事情のため，普通交付税の額が財政需要に比して過少であると認められる地方公共団体に対して交付される。

地方交付税は，各地方公共団体が自由に使用できる財源であり，国は地方交付税の交付にあたって，条件をつけたり，その使途を制限したりしてはならないことになっている。しかし，地方交付税となる財源総額が，所得税・法人税・酒税の一定割合となっており，そのわく内で調整が行なわれなければならないこと，地方交付税の配分にあたって，国の重点政策に沿うものを優遇するような傾向が強くなっていることなど，この地方交付税は地方財政の基本的あり方に問題を投げかけている。➔地方財政

〔西野義彦〕

ちほうこうむいん 【地方公務員】 ⇨公務員

ちほうこうむいんほう 【地方公務員法】 地方公共団体の公務を担当する一般職の職員に関する基本法をいう。地方公共団体の民主化，その執務の能率化をはかるため，地方公務員の任用，職階制，勤務時間その他勤務の条件・分野および懲戒，服務研修などに関する根本基準を定めている。労働法上の権利については，一般の労働関係法令の適用が排除または制限されている(58条)。一般職の職員は，単位職員団体を結成する権利(団結権)を有し(52・53条)，登録を受けた職員団体は，職員の給与・勤務時間その他の勤務条件に関し，およびこれに付帯して，社交的または厚生的活動を含む適法な目的のため当該地方公共団体の当局と交渉することができる(団体交渉権)。ただしこれらの交渉は，団体協約を締結する権利を含まない。職員団体は法令，条例，地方公共団体の規則およびこれに属する機関の定める規程に抵触しないかぎり，当該地方公共団体の当局と書面による協定を結ぶことができ，双方誠意をもって履行すべきものとする(55条)。また，職員の争議行為はいっさい禁止されている(37・61条)。政治的行為については，国家公務員の政治的行為の制限に準ずるが次のように若干の差異がある。①政治的行為の制限の具体的内容を明確に定めている(36条)，②当該職員の属する地方公共団体の区域外においては，ある種の政治的行為をすることが許される(36条2項但(ただ)し書き)，③政治的行為の制限に対して違反したときも刑罰を科せられず，懲戒罰の範囲にとどまる，以上3点である。

〔黒瀬信子〕

ちほうさい 【地方債】 地方公共団体が歳入調達の手段として発行する債券で，都道府県債と市町村債とがある。いずれも公債の一種であり，地方公共団体が次年度以降の収入によって順次償還することを条件とする債務である。地方債の発行は，毎年度地方債計画として一括して計画され，自治大臣または都道府県知事の許可を必要とする。地方財政法では，地方債を財源にしうる経費を次の五つに限定している。①交通・ガス・水道事業など公営企業の経費，②出資金・貸付金，③地方債借り換えに要する経費，④災害応急事業費・災害復旧事業費・災害救助事業費・戦災復旧事業費，⑤文教・厚生・消防・道路・河川・港湾などの建設事業費。地方債の資金を融通するのは，資金運用部・簡易生命保険積立金・公営企業金融公庫・銀行などである。

〔西野義彦〕

ちほうざいせい 【地方財政】 地方公共団体の財政をいい，国の財政と対比して用いられている。地方財政は，通常会計制度の面から，普通会計・公営企業会計・準公営企業会計・収益事業会計に区分される。普通会計は，ほぼ国の一般会計に相当するもので，地方公共団体の一般行政活動に伴う収支を取り扱うものである。その他の会計は，国における各種特別会計や政府関係機関の会計に相当するもので，たとえば，公営企業会計では交通・水道・電気・ガスなど，準公営企業会計では簡易水道・病院など，収益事業会計では競輪・競馬・宝くじなどを取り扱っている。

〈国家財政と地方財政〉国家財政と地方財政とは密接な関連をもっている。国の一般会計と地方の普通会計との間では，国から補助金・交付金が支出され，逆に地方から国の直轄事業に対する分担金などが支出されている。また国の特別会計から地方の普通会計・事業会計に出資・融資がなされている。元来，国と地方公共団体との間には，社会全体にわたる基本的な行政サービスの給付は国家が分担し，地域的でかつ住民の生活に直接結びついた行政サービスの給付は地方公共団体が分担するという関係がある。

〈歳入構造〉普通会計について歳入構造をみると，そのウエートは地方税・地方交付税・地方債の順になっており，これらの合計は，歳入全体の8割を占めている。その他歳入項目としては，地方譲与税・財産収入・分担金・負担金・使用料・手数料などである。主要な自主財源である地方税収入は，歳入全体の3割強程度であり，国の一般会計における国税収入が収入全体の9割以上を占めているのと比べると，きわめて対照的である。一方，国から地方公共団体に与えられる地方交付税・国庫支出金・地方譲与税は，合計で全体の4割を占め，歳入構造からみて地方財政の国庫への依存度が強く，自主性の乏しいものであることがわかる。国からの賦与財源といっても，使途が限定されている国庫支出金と限定されていない地方交付税とではかなり性格が異なる。地方税・地方交付税・地方譲与税を，使途の自由な収入であるという意味で，一般財源とよんでいる。

〈歳出構造〉地方財政における歳出構造の一般的特徴は，地域住民の生活に関連をもつ民生的サービス行政が中心になっているという点である。そのおもなものは，教育費・土木費・民生費・農林水産業などで，これらの合計は，全体の3分の2を占めている。教育費のうち圧倒的な部分を占めているのは，義務教育費である。土木費はおもに，道路の整備などにあてられる。そこには地方公共団体が地域の要請にこたえてみずからの判断と独力で執行する単独の事業もあるが，大部分は国の直轄事業ないし補助事業という形をとり，資金的にも国の援助に依存している。民生費には生活保護・社会福祉・失業対策・住宅対策・国民健康保険・病院・保健・環境衛生・公害対策などの費用が含まれる。

〈財源調整問題〉地方財政の運営にとって重要なことは財源調整の問題である。これに関する問題点の一つは，国と地方の財源配分であり，もう一つは，地域経済の不均等発展に伴う地域間の財政力格差である。現行制度のもとでは，調整財源総額を所得税・法人税・酒税の一定割合と決め，そのわく内で調整を行なっている。また地方公共団体間に配分する際に，不足財源状況のみが考慮されているにすぎない。➔財政 ➔地方税

〔西野義彦〕

ちほうさいばんしょ 【地方裁判所】 下級裁判所の一。各都府県に1，北海道に4，全国で合計49か所設けられている。原則的に第1審裁判所であるが，民事訴訟に関しては簡易裁判所を第1審とする事件の控訴

裁判所となる(裁判所法24条)。裁判は，合議体で取り扱う重要な事件(裁判所法26条2・3項)を除いては，通常1人の裁判官で行なわれる。合議体の場合は3人。なお，各地方裁判所は相応な員数の判事および判事補で構成されている。➔裁判所 ➔三審制度

ちほうし【地方史】史学研究において，局地的に限定された一地域の歴史をいう。従来の歴史がともすると中央先進社会を中心とする歴史であったことの反省から，近時地方史の分野が開拓された。地方史は，地域社会の特殊な環境や諸条件に対応した民衆の生活や活動の歴史を発展史的にとらえ，しかも全国的な歴史との関連において研究することをその内容とする。第2次世界大戦後，地方大学の増加に伴い，各地で研究の成果をあげつつある。〔高崎徳次〕

ちほうじ【地方時】ある地点を通る子午線をもとにして決まる時を，その地点の地方時という。子午線を通過する基準となる天体が春分点の場合には地方恒星時，真太陽の場合には地方真太陽時，平均太陽の場合には地方平均太陽時という。時をはかる地点をはっきりさせる必要があるときには地名をつけ，たとえば東京地方平均太陽時などという。この場合の東京とは，東京地方一帯をさすのではなく，日本の時刻原点である東京天文台(三鷹(みたか)市)の写真天頂筒の中心をさす。〔木下 宙〕

ちほうじち【地方自治】⇨340ページ

ちほうじちほう【地方自治法】地方自治行政に関する基本法。憲法8章の地方自治の基本原則に関する諸規定を受けて，1947年(昭和22)制定された。全3編，319条および付則からなり，その後いくたびか改正された。地方公共団体の区分・組織・運営，および地方公共団体と国との関係，民主的にして能率的な行政の確保などをめざしている。➔地方自治 ➔地方公共団体

ちほうじょうよぜい【地方譲与税】現在，譲与税として地方道路譲与税・特別とん譲与税・石油ガス譲与税の3種があるが，これらを総称して地方譲与税とよぶ。これらの譲与税は，国が国税として徴収した地方道路税・特別とん税・石油ガス税を，それぞれ一定の配分基準に基づいて地方公共団体に譲与するもので，税という名称になっているが，地方交付税と同じように地方税の範疇(はんちゅう)には含まれない。地方公共団体は，譲与を受けた地方道路譲与税の総額と石油ガス譲与税の半額を道路に関する費用にあてなければならないことになっている。〔西野義彦〕

ちほうしんたいようじ【地方真太陽時】地方時の一種で，ある地点の子午線をもとにして決まる真太陽時のこと。地方視太陽時ともいう。日時計が示す時に相当する。

ちほうぜい【地方税】地方公共団体が賦課徴収する租税。国税に対比する語である。地方税の体系と制度は，都道府県と市町村とで若干異なっている。都道府県では，事業税と道府県民税とが中心になっているが，市町村では，固定資産税と市町村民税とが主軸となっている。これらを合計すると，地方税全体のおよそ3分の2を占めている。このほか，道府県税としては，軽油引取税・自動車税・料理飲食等消費税・道府県たばこ消費税・不動産取得税・娯楽施設利用税・鉱区税などがあり，市町村税としては，市町村たばこ消費税・電気ガス税・都市計画税・軽自動車税・鉱産税・入湯税・木材引取税などがある。地方公共団体の行なう公共サービスは，国の場合と異なり，その地域の住民に直接便益が帰属することが多いとみられるので，地方税のたてまえとしては，一般に応益原則が採用されている。この点応能原則をたてまえとしている国税の場合とはかなり対照的である。また，地方財政に占める地方税収入のウエートをみると，普通会計歳入において，都道府県で全体の3割，市町村で4割となっており，国の一般会計歳入において，国税が全体の9割以上を占めているのと比べると，そのウエートのきわめて小さいのが特徴である。〔西野義彦〕

ちほうぶんけん【地方分権】国の行政権を地方公共団体に分散させ，その機関により地域の行政を行なうこと。中央集権に対する。広義には国がその行政権を行使するにあたって，中央行政機関の地方出先機関に一定の権限を与え，それを通して行政を行なうことも含めていうが，固有の意味では住民自治と団体自治(地方公共団体に独自の法人格と自治権を与え，その意思に基づいて一定地域の行政を行なうこと)とからなる地方自治を制度的に保障した政治制度の原理をさす。日本国憲法は地方自治の原則を掲げており，一定範囲内で地方分権を認めている。これは第2次世界大戦前の中央集権型の機構が，ファシズムを招いたことへの反省から生じたものである。〔寺尾方孝〕

ちほうへいきんたいようじ【地方平均太陽時】地方時の一種で地方平均時ともいう。ある地点の子午線をもとにして決まる平均太陽時のこと。

ちほうろうどういいんかい【地方労働委員会】労働委員会の一。略称地労委。都道府県知事の所轄に属し，都道府県の機関とされている。各都道府県ごとに1か所設置され，名称には，たとえば東京地方労働委員会というように，その都道府県名を付ける。委員は，使用者委員・労働者委員・公益委員のおのおの5名からなる三者構成であり，それぞれの所属団体が推薦し，都道府県知事が任命する。なお，特例として，北海道・東京都・大阪府・福岡県・神奈川県・愛知県・兵庫県の7都道府県では，公・労・使の各委員を7名とし，計21名で構成される。その任務は1都道府県内に発生した労働関係事件に対して，斡旋(あっせん)・調停・仲裁を行ない，また不当労働行為を審査することにある。➔中央労働委員会〔黒瀬信子〕

チボーけのひとびと【チボー家の人々】マルタン-デュ-ガールの大河小説(1922～1940)。全8部からなる。前半は，カトリックのチボー家に生まれたジャックとプロテスタントのフォンタナン家に生まれたダニエルの2青年を中心に，後半は，チボー家の兄弟アントワーヌとジャックを対比させて叙述し，20世紀初頭から第1次世界大戦に至る混迷と動乱の時期を背景に，苦悩する新旧世代の人間像をくまなく浮き彫りにした作品。特に，その第7部《1914年の夏》は，現代の精神史ともいうべきもので，1937年にノーベル文学賞を受賞した。〔池田公麿〕

チボーデ［Albert Thibaudet］(1874～1936) フランスの批評家。ジュネーブ大学などで教鞭(きょうべん)をとり，《NRF》誌に長く寄稿，サント-ブーブ以後の20世紀最大の批評家といわれた。ベルグソン哲学のいわゆる直観を批評に取り入れ，鋭い感受性をもって作品に対した。主著は《マラルメの詩》《フローベール論》《批評の生理学》《フランス生命の三十年》《フランス文学史》など。

ちまき【粽】もち米やうるち米粉のだんごをササの葉で三角形に包み，煮たり蒸したりしたもの。昔は茅巻とも書いた。古く中国から伝わり，平安時代初期にすでに5月5日の節句に用いられていた。この風習は中国の詩人屈原が投身自殺したのを人人が哀れんで，毎年この日に五色の糸でちまきを結び，川に投じたのがはじまりとされ，のちに家庭でもつくって食べ，贈り物にもしたようである。また日本古来のものという説もある。それによれば，粢(しとぎ)・もちなどを起源として発達したもので，大昔の人が米・飯・もちにも魂があると信じて，魂が抜けないようにササ・木の葉に包んで神に供えたという。このほか葛粉(くずこ)に砂糖を加える葛ちまき，もちをイネの葉で包み，せいろうで蒸熟させたあめちまき，灰汁(あく)を利用してもち米を蒸す朝日奈(あさひな)ちまきなどの種類があり，葛ちまきと同系のものにようかんちまき・ういろうちまきなどがある。〔塩川ふみ〕

チマーゼ［zymase］酵母のアルコール発酵に関係する酵素群の古称。酵母の圧搾じるに適当な糖類を加えると発酵が起こるが，透析するとその能力は失われる。ところが，透析外液と非透析部分を混ぜると再び発酵能力が回復する。そこで発酵には少なくとも2種の物質がはたらくと考えられ，非透析性の分子量の大きいものをチマーゼ，透析性の分子量の小さいほうをコチマーゼ，また両者を合したものをアポチマーゼと称

した。研究の進展につれ，チマーゼは10種以上の酵素群であり，コチマーゼはATP*・NAD*・マグネシウムイオンなどからなることが明らかにされた。〔秋野美樹〕

チマブエ［Giovanni Cimabue］（1240？～1303？）イタリアの画家。ジョット*の師で，近世絵画の改革者として知られる。その大胆な改革によって，絵画は自然へ近づき，温和な人間的情感，科学的明暗法を獲得し，ビザンチン様式の隷属から自由になった。ウフィツィ美術館の《聖母子図》は現存する代表作である。

チマローザ［Domenico Cimarosa］（1749～1801）イタリアの作曲家。ナポリ近郊の生まれ。ナポリのサンタ-マリア-ディ-ロレト音楽院でサッキーニ・ピッチーニらに学ぶ。22歳のとき最初のオペラをナポリで上演，新進作曲家として注目を集め，しだいにパイジェルロの好敵手と目されるようになる。のちにペテルブルグに宮廷作曲家として招かれ，またウィーンでサリエリの後継者として宮廷楽長に就任して，広くヨーロッパ各地で名声を博した。1792年には，彼の代表的オペラ《秘密の結婚》がウィーンで上演され，大成功を収めた。作品には約70曲のオペラ・オラトリオ・カンタータなどがあるが，特にオペラ-ブッファにすぐれた才能を示しており，彼はこのジャンルでパイジェルロの伝統を受け継ぎ，それをロッシーニ・モーツァルトに伝えている。〔寺田兼文〕

チミシュワラ［Timişoara］ルーマニア西部，ユーゴスラビアとの国境近くにある商工業都市。人口21万1,000(1974)。鉄道結節点であるとともに，ベガ運河によってドナウ川に通じている。周囲は鉄鉱資源に恵まれ，19世紀半ばから，繊維・電気機械・たばこ・皮革など各種の工業が発達している。古代ローマ時代から知られた都市で，旧市街を囲んでいた城壁跡は並木道になり，その外側に新市街が形成されている。第1次世界大戦後オーストリア領からルーマニアに編入された。北郊に空港があり，大学は1945年に設立された。住民はハンガリー人とドイツ人が多い。〔梶川勇作〕

チミン［Thymin］2,6-ジハイドロオキシ-5-メチルピリミジン，5メチルウラシルなどともいう。DNA*を構成するピリミジン塩基の一つで，DNA中では通常アデニンと対をなしている。RNA*の中には含まれない。

チムール［Timūr］（1336～1405）チムール帝国の建設者。中央アジアのサマルカンドの南方ケシユの生まれ。ジンギス汗の子孫と自称し，モンゴル帝国の再建を夢みて，チャガタイ汗国の混乱に乗じ勢力を伸ばした。1369年に即位し，翌年サマルカンドに都した。最盛時の領域は，中央アジアのほとんど全域をおおい，アンカラの戦い(1402)では，オスマン-トルコ帝国の皇帝



チマブエ《聖母子》ウフィツィ美術館蔵

を捕虜とした。インドのムガール朝はその子孫である。〔若松　寛〕

チムールちょう【チムール朝】チムール*が中央アジアに建てた王朝(1370～1500)。首都サマルカンド。チムールの死後，政権の争奪が激しかったが，チムールの子シャールフ*，孫ウルグ-ベグ*は名君として知られた。チムール朝では文化が保護されたので，サマルカンドはペルシアのイスラム文化の中心として栄えた。1449年にウルグ-ベグが殺されてから混乱に陥り，1500年ウズベグ族のシェイバニー朝の侵略を受けて崩壊した。〔若松　寛〕

ちめいりつ【致命率】致死率ともいう。ある疾患の発病中，何人がその疾病(しっぺい)のために死亡するかを示す率。疾患の経過が長い場合は，他の原因による死亡の可能性もはいってくることもあるため，致命率の記述の際は，観察の期間と死亡数を明記することが必要である。

ちめどり【知目鳥】鳥類・ヒタキ科・チメドリ亜科あるいは旧チメドリ科の総称およびそのうちの一種をいう。旧チメドリ科は，旧世界産のスズメ亜目の鳥(いわゆる鳴禽(めいきん)類)のうち類縁関係が不明確で，どの科とするべきかわからぬものをまとめておく便利な雑物入れなどといわれた。分類学の研究が進むにしたがい，最近ではヒタキ科にまとめられるようになった。ゴウシュウチメドリ・チメドリ・ダルマエナガの3亜科が以前のチメドリ科の鳥である。いずれも旧世界産で，東洋区*に多い。チメドリ亜科は約250種を含み，大きさはミソサザイ大の小さなものからカケス大まで，羽色は全般にじみだが全体としていい感じの鳥である。特異な形態のものは少なく，森林内の下樹層やよく茂った灌木帯(かんぼくたい)の内の地上近くに住むものが多く，こん虫類や果実を食う，大部分のものがカップ型の巣をつくるなど，あまり特徴のないことが特徴ともいえるグループである。なお，唯一種の新世界産でアメリカに分布するミソサザイモドキも，学者によっては旧チメドリ科に入れられていた。本種も現在はヒタキ科にまとめられている。そのほか，飼い鳥として知られているソウシチョウなどを含む。チメドリはチメドリ類の一種で，台湾産のじみな鳥である。〔安部直哉〕

ちもく【地目】土地の形状・性質・使用目的によって，その態様を表わした名称。不動産登記法施行令(1960)3条によれば，地目は土地のおもな用途により，田・畑・宅地・塩田・鉱泉地・池沼・山林・牧場・原野・墓地・境内地・運河用地・水道用地・用悪水路・ため池・堤・井溝(せいこう)・保安林・公衆用道路・公園および雑種地などに区分して定めることになっている。

チモシー ⇨オオアワガエリ

チモール(島)［Timor］マライ諸島，小スンダ列島の最大の島。島の東半分と西チモールの北岸はポルトガル領で，ほかはインドネシア領。面積33,783km²。首都はインドネシア領がクパン，ポルトガル領がジリ。火山島だが，現在は活火山はなく，最高峰はポルトガル領にあるラメラウ山(2,950 m)。5～11月は南東季節風が吹き雨がなく，1～3月は北西季節風が吹き豪雨が降る。河川は短く灌漑(かんがい)には困難が多いが，土壌(どじょう)の豊かな場所では，トウモロコシ・イネ・コーヒー・茶・サトウキビ・綿・果実がつくられる。森林は少ないが，ユーカリ・ビャクダン・チーク・タケを産する。住民は，パプア人・マライ人・ポリネシア人の混血種で，ほかに中国人・アラブ人・ヨーロッパ人がいる。

ヨーロッパ人として最初に渡来したのは16世紀におけるポルトガル人で，オランダ人は1613年に渡来し，クパンからポルトガル人を追い出した。オランダとポルトガルは，1859年・1893年・1898年・1914年の条約で，境界をたびたび変更した。第2次世界大戦では日本軍が占領したが，1949年オランダ領の部分はインドネシア共和国領に編入された。〔大崎　晃〕

チモール(海)［Timor］マライ諸島，小スンダ列島東方の海域。チモール島とオーストラリア大陸北西部にはさまれ，オーストラリア大陸棚(たいりくだな)上にあるが，チモール島の南岸に沿って最大深度約3,300 mのチモール海溝(かいこう)がある。

ちもんこうほう【地文航法】天体にたよらず地物および地球に関する諸元を用いて行なう航海法。地文航法は大別して沿岸航法と推測航法とからなる。前者は陸上可視物標によって航位を定め，針路を決めるものであり，後者は最新の既知位置を基準として，その後の針路および航程から任意時の航位を推算したり，あるいは出発地と目的地の経緯度を知って，船のとるべき針路，航程を求めたりする船位計算法である。か

➔342ページ

地方自治

広義では，一定地域を基礎にした団体の管理を，その団体を構成する住民が自主的に行なうことをいう。その意味では，ギリシアの都市国家*や，中世封建時代における都市*の政治なども含まれる。しかし，現在いわれているのは，近代国家における地方自治のことである。それは，国内を多数の地方団体に分け，その地方団体に一定の自治権*を与え，住民に自主的に管理させている政治形態のことをさしている。

〔近代的地方自治の性格〕近代国家が統一的な中央集権*国家であるにもかかわらず，成立当初から地方自治を認めてきているのは，中央政府が全国を直接に統治することは実際には不可能に近いこと，また地方の特殊性を考えて地方の自治に任せたほうが，むしろ統治は安定する，といった事情による。一般的にいって，近代国家というのは，中世の自治権をもった都市・ギルド*・封建諸侯などの特権的諸勢力が分立していた状態を打破し，全国の土地・人民に対する支配権を絶対君主の手に一元化したものである。

絶対君主は旧勢力の保有していた支配権を奪ったが，しかし旧勢力を完全に統制できるほどに強力なものではなかった。そこで，君主の権力を強める措置を行なうと同時に，国家統治の一部分に転化した地方団体の管理を旧勢力に任せることによって，旧勢力の君主に対する潜在的な抵抗を弱めようとした。そうした政治的な事情によって，中央政府が全国各地を直接に統治しないで，地方の問題は地方ごとに独自に管理する自治の形態をとるようになった。しかし，自治といっても，それは，近代以前の旧特権勢力が保有していたような絶対的なものではなく，どこまでも国家の統一を侵さない範囲の相対的なものである。また，それは旧勢力による自治で市民の手によるものではなかった。それが，市民の自治になったのは，市民階級の運動による。統一国家の形成によって，市民階級の活動を拘束してきた封建的な地域割拠の状態は打破された。しかし，封建的な基盤に立脚している絶対君主や地方の管理にあたる旧勢力の恣意的な公権力の行使は，市民階級の要求している私的権利を不当に侵害することになった。そこで，経済・社会の進展に対応して，市民階級はそれぞれの地方において旧来の拘束を打破し，地方団体を市民の代表で構成する機関で運営する方向へと運動を進めた。こうした市民階級の運動が，国全体の近代化を推進し，絶対主義国家から議会制国家へ転換する起動力となった。その意味において，近代的な議会制の形成に地方自治は大きな役割を果たしており，また近代的な地方自治は，議会制によって保障されているともいえる。地方自治が議会制民主主義の基礎といわれ，また地方自治が民主主義の小学校といわれるのは，そうした市民階級の長期にわたる政治的経験の役割に着目してのことである。近代的な地方自治は，だいたいにおいて19世紀，特にその後半期に制度化された。しかし，統一国家の形成，それの議会制の転換における歴史的・社会的・政治的な諸条件は，国によって違うので，地方自治の制度や内容は一様でない。大別すると，ほぼ二つの型に分類することができる。一つは，社会の近代化が議会制の形成と有機的に結びついてきたイギリスやアメリカのように，地方の問題はできるだけ地方住民の自治によって処理しようとする分権型である。もう一つは，市民階級の成長が遅れ，旧来の封建的な勢力を払拭(ふっしょく)できなかったドイツや日本のように，地方自治は制度化されているが，実際には地方団体に対する中央政府の行政的な監督または統制がきびしい集権型である。

〔近代的地方自治の変貌〕分権型と集権型の両者に共通していることは，一応議会制を前提とした地方自治といっても，全住民が参加できるものではなかった。選挙権の制限にみられるように，実際には有産階級による自治であった。また，地方団体が処理していた仕事の範囲は，きわめて限られたものであり，地方団体の制度も，現在ほどには整備されていなかった。しかし，その後の社会経済的な変化，特に工業化の進行は，種々の社会問題を表面化させ，それに対応して労働運動や大衆運動を激化させることになった。こうした事態に直面して，それを打開し国家体制を保持していくために，従来は私人ないしは社会的な次元で処理されてきた経済活動や生活の領域に，中央・地方の政府が積極的に介入して，民間の勝手な活動を規制したり，各種のサービス機能を行なうようになった。また，選挙権の制限をはずし，無産階級も政治に参加できるようになった。こうした政治的な変化は，それまでの地方自治の制度や内容の変革を迫ると同時に，地方自治に対して新しい問題を提示することとなったのである。変革と課題の第1は，地方自治に対する中央統制の強化である。近代的な地方自治の特色は，地方の問題はその特殊性を考慮して，地方団体が自主的に処理することにあった。しかし，地方団体の仕事の増大は，教育や福祉に典型的にみられるように，その行政内容が地方ごとに違うことは許されなくなり，全国的に一定水準以上の行政を行なうことが要請され，地方が独自に処理できる余地がせばめられるようになってきた。しかも仕事の増大に比例して，地方団体の財源はそれほど増加しない。また，地方団体間における財政力の格差も大きくなってきた。そこで，地方団体は国からの財政援助を期待し，逆にその財政援助が地方団体の活動を左右するようになってきた。こうして，仕事の内容と財政の面から，地方団体は自主性を弱め，中央政府の行政的統制が強くなって，地方自治の危機が叫ばれるようになった。

第2は，地方団体における行政機能の増大は，その処理に専門能力を必要とするようになった。そこで，市民の代表で，公務にはしろうとの議員やその他公職者では処理できなくなり，公務を職業とする職員の果たす役割が大きくなってきた。住民代表の公職者は，選挙やリコール*を通じて住民統制の洗礼を受ける。しかし，実質的に地方団体の施策内容を作成したり，その執行にあたる職員の集合体である執行部門は，制度上は住民からの批判や統制を受けないので，住民の意向を無視して行政を行なうことも可能となる。この執行機関に対する住民の民主的コントロールをどのようにして具体化するか，ということが重要な課題となってきた。

第3は，地方団体に対する住民の政治参加の問題である。地方団体の行政機能が増大したことは，住民の生活が行政に大きく依存するようになったことを意味する。現在では，政府活動を抜きにして住民生活はできなくなってきている。しかし，行政内容が専門化して分りにくくなったこと，地方団体の役所機構が膨張し，行政の手続きや運営が複雑になるにしたがって，住民はしだいに地方団体と疎遠になるようになった。特に，工業化・都市化の進展によって，住民の移動が激しくなり，職場と住居との地理的距離が遠くなり，また住民の利害も多様化してきたため，以前のような住民の間のまとまりも弱まってきた。その結果，地方団体と住民の間のコミュニケーションがうまく行なわれなくなり，自治が形式化し，住民が行政の対象としてしか扱われないといった傾向が強まってきた。住民不在の行政が行なわれやすくなってきたのに対し，住民が自主的に地方団体の行政を批判し，改善していくにはどうしたらよいか，という新たな問題が切実な課題となってきているのである。

以上のような地方自治の課題に直面して，いずれの国も地方制度の根本的な再編成を迫られている。そのための試みが部分的に行なわれているけれども，まだ全面的な再編成の段階には達せず，個々の国にふさわしい改革方向を模索しているのが現状である。

〔日本の地方自治〕《明治地方制度の特

色〉わが国の近代国家における地方制度は，山県有朋*(やまがたありとも)の意図に従って制定された1888年(明治21)の市制・町村制，1890年の府県制・郡制によって，はじめて基礎が置かれた。この地方制度は，明治政府が富国強兵*政策を強力に推進するための地方統治機構の確立と，自由民権運動*に対抗し，それを実質的に骨抜きにするために，国会開設前に制度化したものである。したがって，府県・市町村の地方団体に課せられた任務は，国から委任された事務を国家官僚の監督のもとに執行することで，地域住民に必要な仕事の処理は第2次的なものでしかなかった。自治の形態をとっているが，自治に参加できるのは有産階級の地主に限定され，特に等級選挙制度にみられるように，大地主の利益を優先する方向で自治が行なわれた。このように明治中期にできたわが国の地方制度は，地方団体の自主制が弱く，中央官僚の監督のきびしい中央集権的なもので，地方団体は自治団体であるが，実際は国の下部機関に近い性格のものであった。その後，地方団体に対する国の監督がいくぶん緩和され，等級選挙の廃止や普通選挙の実施によって住民の政治参加が拡大されたが，しかし制度の基本的性格は，第2次世界大戦直後までほとんど変わらなかった。むしろ，その後の行政機能の拡大に対応して，仕事の内容や財政の面で中央統制はより強化され，特にそれが第2次世界大戦中は徹底した。

〈戦後の地方自治〉 第2次世界大戦の敗北後，従来の集権的な制度は，分権的な方向に改革された。戦前と比較して戦後の地方制度にみられる根本的な違いは，憲法で地方自治が保障され，地方自治が戦後の議会制の重要な一部門を構成することになったことである。それに応じて，1947年(昭和22)に地方自治の基本法である地方自治法*が制定され，従来は上下の監督関係にあった国と府県と市町村が，制度上は対等・同格となり，教育や警察の地方分権が行なわれた。地方団体の議決機関である議会と執行機関の知事・市町村長はともに選挙民の選挙で選ばれることになり，教育委員会*・公安委員会*などの行政委員会も設置された。こうした地方団体の自立性・自主制の強化に対応して，住民の自治参加の途が拡大され，選挙権の拡張や公選による公職者の範囲の拡大と並んで，直接請求*などの直接民主主義の方式も制度化された。以上のように，大戦直後の大改革によってわが国の地方自治は，やっと近代的な形態を有するようになった。しかし，それは占領下に行なわれた改革で，改革が実現したのは国民の自主的な運動や努力によるというよりも，むしろ占領軍の力によるところが大きかった。その結果，改革は不徹底なものに終わった。改革されたのは，地方自治の〈いれもの〉である形式的な機構面が主であった。地方団体の自主的な活動に不可欠な権限や財政については，根本的な改革が行なわれなかった。1949年のシャウプ勧告*に基づいて，国・府県・市町村を通ずる行政事務の再配分が企図されたが，中央各省の反対によって実現できなかった。結局，個々の仕事や財政を通ずる中央統制や，中央に依存しがちな地方団体の体質は改善されずに終わったのである。

占領が終わって独立すると，大戦直後に改革された制度は，日本の実情に適合しないという理由で，その手直しが進められた。1952年の東京都の特別区*長の公選制の廃止，1953年から強行された全国的な町村合併，1954年の自治体警察の廃止，1955年末から推進された地方財政の赤字解消，1956年の教育委員の公選制廃止，地方議会の自主的活動の制限など，一連の逆コース立法によって，占領中に民主化された地方自治の〈いれもの〉自体が骨抜きにされ，地方団体に対する中央統制は一段と強化されることになった。

〈経済成長と地方自治の再編成〉 昭和30年代にはいると，産業発展の隘路(あいろ)になっている道路・港湾・用水などの産業基盤整備のための公共投資政策や，既成工業地帯以外の地域に工場を分散・新増設するための産業立地政策が，政府によって強力に推進されるようになった。こうした国・企業の動向を背景にして，むしろそれに対応して，地方団体は地域経済の体質改善，地方団体の財源増加をはかるため，積極的に工場誘致に乗り出した。特に，1960年の所得倍増計画，1962年の新産業都市建設法などの制定が，そうした地方団体の機運を高め，全国の地方団体の間に工場誘致ブームを巻き起こした。しかし，実際に工場が進出した地域は，太平洋や瀬戸内海の沿岸地帯が主で，後進地域にはあまり進出しなかった。地域間の格差は縮小するどころか，逆に拡大した。また，工場誘致に成功した地方団体は，誘致に伴う関連施策の実施や，新しい財政需要の発生によって，かえって財政的に苦しい状態に追い込まれている例が多い。その意味において，工場誘致を中軸とした地域開発は，地方団体の意図したとおりには進まなかった。そればかりか，昭和30年代における経済の高度成長・地域開発政策の推進は，わが国の経済・社会の構造を根底から一変するほどの変化をもたらした。人口・産業が集中した大都市やその周辺地域では，公害や交通災害の激化，自然の破壊・住宅難や交通難が増大している。また，人口を大都市へ送りだしている農山村地方では，経済生産の低下だけでなく，住民の生活をなりたたせてきた社会的基盤すら崩壊しようとしている。こうした深刻な過密・過疎の事態をどのようにして打開していくかが，昭和40年代後半における地方自治の最大の課題となっている。しかし，それは個々の地方団体の力だけではかたづかない問題である。特に権限や財政力の弱体な地方団体がその課題に取り組むためには，国の施策や財政措置に左右されるところが多いし，具体的な処理にあっては隣接の関係する地方団体の協力が必要になってきているからである。そうしたことから，広域行政という観点にたって，現在の地方制度を全面的に再編成することが重要な政治問題になってきている。広域行政の課題は，弱小町村の解消という目標のもとに明治以降くり返し町村合併が行なわれてきた。昭和30年代以降は，広範囲にわたった人や物の移動，大規模な事業の実施という要請を背景にして，都市を中心にした合併や広域処理の方式，あるいは市町村から府県へ，府県から国へ権限を引き上げる措置が行なわれてきた。特に最近は過密・過疎の対策を進める前提として，生活圏を単位にして公共施設を広域にわたって配置・整備するための方式として，広域市町村圏の構想が打ち出され，1969年度から一部の地域で実施されるようになった。それと関連して大都市地域の地方団体の再編成，さらに府県段階の改革が問題となっており，府県を廃止して，全国を7～9の単位に統合する道州制の構想が，特に財界側より強力に提唱されている。しかし，そうした広域行政の方向は，どうしても住民との距離を遠くし，住民の政治参加を困難にし，逆に中央統制を強める可能性が強いとして，地方自治にとって好ましくないという反対の声も強い。他方，いままでは国や地方団体が手を出さないで放っておいても，住民が現状に我慢したり，住民の力でなんとかかたづけてきたために，問題にならなかった分野が少なくなかった。しかし，高度成長はそうした社会的条件を掘りくずしだしたので，公害対策のように，政府や地方団体としても放置できなくなってきた。しかも，現実の施策の貧困やそれの官僚的な処理に対する住民の潜在的な不満がしだいに表面化し，それが各地で生じている住民の自治体運動や，革新系の知事・市町村長を出現させる基盤にもなっている。それだけに，まず地方団体の自主的な活動を困難にしている権限や財政面の制約を除去する改革が先決である。そうした地方自治の強化と並んで，広域行政の要請には地方団体相互の自主的な協力によって対処すべきだという意向も強い。そうした意味においても，地方自治は現在重大な転換期に直面しており，地方制度の調和的な再編成が民主政治にとって重要な問題となってきている。

〔高木証作〕

つては電波航法も地文航法の範疇(はんちゅう)に入れていたが，現在ではこれを独立させるのが普通である。これらに対し天体を利用するのが天文航法である。〔飯島幸人〕

ちゃ【茶】 双子葉植物・ツバキ科。常緑植物で，東アジアでインドから中国の雲南省にわたる山系が原産地の一つとされるが，熱帯から温帯にかけて広く生育している。カフェインを含む嗜好(しこう)飲料の原料として，インド・ソ連・中国・台湾・日本などにおいて広く栽培される。北限は北緯42°(ソ連カフカズ)から南限は南緯30°(北部アルゼンチンあるいはアフリカのナタール)まで広い地域に及ぶ。チャはアッサム種とシナ種の二つの変種に分類され，アッサム種はインド・セイロンなどの紅茶地帯に多く栽培され，シナ種は中国・日本・台湾などの緑茶地帯に多い。なお，日本には山地に野生するものがある。日本の栽培の北限は秋田県の能代(のしろ)であるが，経済的適地としては茨城・新潟を結ぶ線が限界とみられる。年平均気温は12℃以上，年雨量1,400mm以上，あるいは植物期間(1年のうちで1日の平均気温が5℃以上の期間)210日以上とされている。一般に気候温暖で雨量が多く，排水のよい台地や傾斜地が生育に適し，土壌(どじょう)反応はpH5.0～5.5を最適とする。河川の流域の山沿い地帯や，やや冷涼な高地に優品を産する。

シナ種は高さ3～4mの低木であるが，アッサム種は10m以上の高木となる。しかし，いずれも栽培上60～90cmの高さに仕立てる。葉はシナ種は小葉，アッサム種は大葉で先端がとがる。花は夏季葉腋(ようえき)につぼみをつけ，9月から11月にかけて白色の花を開く。元来は集散花序であるが，花柄の上に一つしか開かぬものが多い。果実は冬を過ぎてから成長し，翌年10月に成熟する。根はかなり深く2～3mに達する。日照がさえぎられると葉の品質がよくなるので，玉露*や碾茶*(てんちゃ)は摘採期にこも・わら・かんれいしゃなどで日おおいをしてつくる。**《栽培と摘採》** 繁殖には実生繁殖と栄養繁殖とあるが，近年はさし木苗などによる栄養繁殖が普通になってきている。日本では6月に二葉ざしをして苗をつくり，1～2年で定植する。10アールあたり約2,000本植えつけ，土壌を肥培し，摘採しやすいように仕立てながら5～6年で成園にする。なお，5～10年に1度剪枝(せんし)し，樹高を低めて更新する。葉は手摘み・はさみ摘み・機械摘みなどで1年に1～4回摘採する。その能率は手摘み15kg，はさみ摘み100kg，小形機械摘みで300～450kgである。



チャ　(上)茶畑(奈良県宇陀郡榛原町笠間)　(中)茶摘み(手摘み)　(下)花

《製茶と喫茶》 製茶の分類と緑茶の成分を表に示した。茶の品質のうち，香気は約40種の成分が発見されており，味はアミノ酸類とタンニンとの調和からなり，きわめて複雑微妙である。保健成分として，ビタミンC・B_1・B_2，ルチン，灰分などを含有する。茶の利用はおそらく中国の先住民である苗族が最初であり，それが漢民族に伝えられたものであろう。中国では前漢の末期(BC59)蜀(しょく)の〈僮約(どうやく)〉と称する文章中に〈茶を烹(に)る〉という語がみえる。日本では815年(弘仁6)嵯峨(さが)天皇が梵釈(ぼんしゃく)寺で喫茶したとの記事が《類聚(るいじゅう)国史》にあるが，それ以前の奈良時代から茶は用いられていたと考えられる。15～16世紀に茶道*が盛んとなり，抹茶*(まっちゃ)がつくられ，その後玉露が考案された。さらに煎茶*(せんちゃ)が広く飲まれるようになり，江戸時代末期からは輸出も始まり，明治以後は紅茶もつくられるようになった。現在は煎茶の需要が伸びつつある。〔大石貞男〕

製茶の分類

- 茶
  - 不発酵茶（緑茶）
    - 蒸製（日本式）
      - 煎茶
      - 玉露
      - かぶせ茶
      - 碾茶（抹茶）
      - 玉緑茶
      - 番茶（ほうじ茶も含む）
    - かまいり製（中国式）
      - 玉緑茶
      - 嬉野茶
      - 青柳茶
      - その他のかまいり茶
      - 緑磚茶
  - 半発酵茶（ウーロン茶）
    - 色種茶
    - 烏龍茶（ウーロン茶）
  - 発酵茶
    - 紅茶
    - 紅磚茶

緑茶の成分　(100gあたり)

	カフェイン	タンニン	水分	タンパク質	脂質	糖質	繊維	灰分	ビタミンA(IU)	ビタミンB_1	ビタミンB_2	ニコチン酸	ビタミンC
煎茶	2.84g	12.64g	6.0g	31.62g	4.56g	39.0g	10.6g	5.4g	9000IU	0.35mg	1.40mg	4mg	280mg
玉露	3.73	11.24	6.0	34.65	4.28	31.6	14.0	6.8	6600	0.6	1.38	4	49
抹茶	4.62	10.03	6.0	35.75	5.1	32.4	9.7	6.7	6600	0.6	1.35	4	100



チャイコフスキー

チャイコフスキー［Pyotr Il'ich Chaikovskii］(1840～1893)　ロシアの作曲家。父は鉱山技師でボトキンスクの工場長，母は音楽好きであった。家庭教師の指導で7歳からピアノを始めたが，父の意向で法律学校にはいり，1859年には法務省の官吏となった。1861年にロシア音楽協会の音楽教室(1862年ペテルブルグ音楽院に改称)にはいり，校長アントン-ルビンシュテインの指導を受けた。1863年に法務省を辞して音楽に専心し，1865年にペテルブルグ音楽院を卒業。1866年モスクワ音楽院の教師となり，《第1交響曲》を発表した。この作品をきっかけに〈5人組〉とも交わり，バラキレフの勧めで幻想序曲《ロメオとジュリエット》(1870)を書いた。1872年からは新聞批評にも健筆をふるったが，《ピアノ協奏曲第1番》(1875)やオペラ《かじ屋のワクーラ》(1876)などを発表。しかし期待したオペラの評判が悪く，西ヨーロッパに旅行した。1877年にはフォン-メック夫人から経済的な援助を受け，また結婚をしたが妻の低俗な性格と合わず，ある夜モスクワ川に入水(じゅすい)自殺を図ったりして不幸なものであった。この年《第4交響曲》やバレエ《白鳥

の湖》などを初演し，以後《バイオリン協奏曲》(1878)，歌劇《エフゲニー-オネーギン》(1878)などを作曲，その創造力と技法の充実をみせた。1887年からは指揮者としても活躍を始め，演奏旅行が多くなり，1891年にはアメリカまで足を伸ばしている。作曲活動も《第5交響曲》(1888)，歌劇《スペードの女王》，バレエ《眠れる森の美女》(ともに1890)などと大曲を発表。しかし1893年に《悲愴(ひそう)交響曲》を初演した直後，飲んだ生水からコレラにかかり死んだ。その作風はロシアにおける西欧派と目されながら，重厚な表現力でロシアそのものを表現しており，現代でも高い評価を受け，彼の名を冠した国際コンクールもある。〔向坂正久〕

チャイトヤ ［caitya］ 仏教の建造物の一。支提(しだい)または制多と音訳され，塔廟(とうびょう)または廟と意訳される。広義には礼拝の対象一般をさし，舎利*を内包するストゥーパ*(塔)をも含む。《摩訶僧祇律(まかそうぎりつ)》は，舎利のあるものをストゥーパといい，舎利のないものをチャイトヤというと定義するが，後世では混同して用いられた。たとえば，西インドなどの窟院(くついん)では，ストゥーパを本尊として祭る支提堂を，南インドではストゥーパと同じものを，いずれもチャイトヤとよんでいる。〔塚本啓祥〕

チャイナ-ロビー ［China Lobby］ アメリカ議会内のロビー(面会室)で議員に働きかけ，国民政府に有利な立法・政策をつくるように工作する圧力集団。日中戦争時に中国援助の目的で生まれたものだが，戦後は中華人民共和国に敗れた国民政府を援け，反共運動をもりたてて蔣介石*(しょうかいせき)政権と結ぶグループとして活動した。なお，ロビーを根城に議員に働きかけ，有利な法案の成立に影響を与える目的で圧力をかける院外団*をロビーイストという。

チャイム ［chime］ 筒型ベルを音階にしたがって並べてつるした楽器。オーケストラや信号・合い図用に使われる。東アジアの磬*(けい)もチャイムの一種とみなすことができる。

チャイルド ［Vere Gordon Childe］ (1892～1957) イギリスの考古学者。オーストラリアのシドニーで生まれ，シドニー大学・オックスフォード大学に学ぶ。1927年にエジンバラ大学，1940年にロンドン大学の考古学教授となったが，1957年シドニーの山中で事故死した。彼はスコットランドやアイルランドの遺跡を発掘し，太古の人類史を総合し，それを人々に理解させる啓蒙家(けいもうか)として第一人者であった。著作に《ヨーロッパ文明のあけぼの》(1925)，《青銅時代》(1930)，《人間は自分を作る》(1936)，《歴史のできごと》(1942)，《進歩と考古学》(1944)などがある。〔兼岩正夫〕

ちゃいろ 【茶色】 色名。暗い灰黄赤色。多くは黄赤系統の暗い色を総称する。お茶の色からの名称とはいえ，必ずしもその色



チャイム



チャウ-チャウ

調にこだわらなくともよい。〈茶色〉は日本工業規格(JIS)に定められた基本色名ではないが，非常に多用されるところから，基本色名および色相に関する修飾語に準じて使用してよいとされている。この色は，鼠色(ねずみいろ)・藍色(あいいろ)とともに日本人の好みに合った色とされ，特に江戸時代後期には〈いき〉な色として人々にもてはやされた。そのためか種類も多く，この色相によった色には，赤茶・黄茶・青茶・白茶・黒茶などがあり，この色を備えた動植物から名づけられた鶯茶(うぐいすちゃ)・鶸茶(ひわちゃ)・鳶茶(とびちゃ)・海松茶(みるちゃ)・栗皮茶(くりかわちゃ)など，さらにこの色を特に好んだ人々の名によった芝翫茶(しかんちゃ)・璃寛茶(りかんちゃ)・市紅茶・路考茶・梅幸茶などがある。茶色が〈いき〉な色であるのは，色相がはなやかな反面，彩度が低いことからきたのであろう。日本工業規格(JIS)慣用色名〈茶色〉は，色相5.0YR，明度3.5，彩度4.0の色と規定されている。〔武井邦彦〕

チャウシェスク ［Nicolae Chausesk］ (1918～　) 現代ルーマニアの政治家。貧農の子に生まれ，くつ屋となる。1933年共産青年同盟員。1936年ルーマニア共産党に入党。扇動のかどで投獄された際，ドフタナ監獄でゲオルギュ-デジと知り合う。出獄後1944年に共産青年同盟の書記。1948年農業次官となる一方，1950年陸軍少将となり，1954年まで国防次官をつとめた。その後党中央委員会書記，同政治局員を経て，1965年党第一書記となり，1967年からは国家評議会議長をも兼ねる。外交的にはソ連の大国主義的指導を拒否して中立を貫き，中ソの対立に関しても中立の立場をとっている。〔山県弘志〕

チャウダー ［chowder］ スープの一種。フランス語でかま・なべを意味するショーディエールからなまったものといわれる。元来アメリカのニューイングランド，カナダのニューファンドランド地方の料理で，鳥肉や魚貝肉を主材料とし，塩ぶた，バターいためした玉ねぎ，つぶした馬鈴薯(ばれいしょ)に，香辛料・薬味・調味料・ぶどう酒・ケチャップなどを加えて弱火で煮込む。主材料にハマグリを使ったものをクラムチャウダー*，トウモロコシを使ったものをコーンチャウダーという。なおニューイングランド地方のチャウダーはケチャップの代わりに牛乳を用いる。わが国ではニューイングランド式のものが多い。〔泉　敬子〕

チャウ-チャウ ［chow chow］ 中国産のイヌの一品種で，被毛がクマのように厚い。表情は独特の苦い顔をしていて，口腔(こうこう)と舌はブルーブラックである点が他の犬と異なる。昔は食用犬であったという。体は黒・赤・青・黄かっ色・クリームなどの単色で，体高は72cmぐらい。➔イヌ

ちゃおんど 【茶音頭】 地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。《茶の湯音頭》の略称。19世紀前半，菊岡検校*(けんぎょう)が三味線(しゃみせん)用に作曲，さらに八重崎検校*が箏曲に編曲した。歌詞は，〈茶の湯〉にちなんだことばを掛詞(かけことば)として随所に折り込んで恋愛を歌っている。手事物の変形による楽式をもち，前弾～前唄(まえうた)～手事～後唄(あとうた)で，手事の部分はさらに手事～中散らし～本散らしという三部構成になっている。三味線の調弦は六下がり(4度・2度)である。〔山口　修〕

チャガタイかんこく 【チャガタイ汗国】 1224年，ジンギス汗の第2子チャガタイ汗(?～1242)がジンギス汗から分封されて，中央アジアにできた国。14世紀初めドワ汗のときオゴタイ汗国*を併合して東西トルキスタンを統治するに至った。首都はイリ川河畔のアルマリック。しかしまもなく，国内が分裂して東トルキスタンは東チャガタイ汗国，西トルキスタンは西チャガタイ汗国となって互いに抗争した。1369年西チャガタイ汗国はチムール*に滅ぼされ，やがて東チャガタイ汗国も服属して，国内は多くの地方政権に分裂した。〔若松　寛〕

ちゃがま 【茶釜】 茶の湯に使う釜。鎌倉初期に宋(そう)から帰朝して抹茶(まっちゃ)を伝えた栄西禅師が筑前(ちくぜん)(福岡県)芦屋(あしや)の工人に命じてつくらせたことに始まる。本格的な茶釜ができたのは室町中期の東山時代で，利休以前の芦屋釜*を古芦屋という。その後，筑前博多(はかた)・越前(えちぜん)(福井県)・紀伊(きい)(和歌山県)・伊勢(いせ)(三重県)でも製作された。西国地方の芦屋釜に対して，東国では下野(しもつけ)(栃木県)佐野の天明(てんみょう)釜が世に知られた。芦屋

が地文の美しさを誇るのに対して，天明は無文の素朴(そぼく)さをたたえられた。また，京都の三条の釜座でつくったのを京釜という。京釜の釜師には，名越弥七郎(やしちろう)・西村道仁・辻(つじ)与次郎・名越浄味・大西浄村などの名人が現われた。茶会において招客が茶席にはいり，床の掛け物と茶花(ちゃばな)の次に拝見するのは，風炉(ふろ)や囲炉裏(いろり)にかかった茶釜である。その形態も多種多様で，俗に茶釜百態といっている。典型的なのを真形(しんなり)釜といい，そのほかに，丸釜・阿弥陀堂(あみだどう)釜・尻張(しりばり)釜・四方(よほう)釜・筒釜・鶴首(つるくび)釜・霰(あられ)釜・姥口(うばぐち)釜・乙御前(おとごぜ)釜・笠(かさ)釜・平釜・上張(じょうばり)釜・手取釜などがある。　〔桑田忠親〕

ちゃくしゅつし【嫡出子】 法律上の婚姻関係にある男女から生まれる子をいう。民法は，妻が婚姻中に懐胎した子ならびに婚姻成立の日から200日後または婚姻の解消もしくは取り消しの日から300日以内に生まれた子を嫡出子と推定する(民法772条)。しかし，この規定に固執すると，結婚式をあげてから婚姻の届け出をするまでの期間に相当のずれがある場合が多いのがわが国の婚姻慣行であるため，婚姻の成立の日から200日以内に生まれ，嫡出子としての推定を受けない子が相当多いことになる。そこで判例・学説は，この不合理をなくするために，婚姻前に内縁関係が先行する場合は，婚姻成立後200日以内に生まれた子も夫が否認しないかぎりは嫡出子とすることを認めた。嫡出でない子も父がこれを認知し，父母が婚姻することによって嫡出子となる(民法789条)。これを準正という。嫡出の推定は，夫が子の出生を知ったときから1年内に，子または母に対して訴えを提起するのでなければ否認することができない(民法774・775・777条)。母子関係は出産の事実によって証明されるため，嫡出否認権は夫にしか認められていないが，うがった見方をすれば，夫の名誉を重んじ，他の者に妻の姦通(かんつう)の主張をさせない趣旨でもある。いずれにせよ，否認権が夫のみにあるため，夫がこれを行使しない以上，夫の子でない子も夫の子として取り扱われることになる。夫が外国に滞在していたとか，刑務所へはいっていて妻の生んだ子が明らかに夫の子でない客観的事情があれば，嫡出推定そのものを受けないと解され，したがってこの場合は，嫡出否認の訴えではなく，親子関係不存在確認の訴えが提起されることになる。嫡出子は父母の氏を称し，父母が子の出生前に離婚したときには離婚の際における父母の氏を称する(民法790条)。相続においては嫡出でない子の2倍の相続分が認められている(民法900条)。
〔黒木三郎〕

ちゃくしゅつでないこ【嫡出でない子】 法律上の婚姻関係にない男女から生まれた子をいい，非嫡出子とも婚外子ともいわれる。旧民法においては嫡出でない子は私生子と庶子に区別されていたが，1942年(昭和17)に私生子という語を廃止し，現行民法によって庶子も廃止し，一様に〈嫡出でない子〉という語が用いられるようになった。棄児などの場合は別だが，一般に母子関係は出産という事実によって証明されるため，嫡出でない子は父子関係とその子の保護が問題となる。父子関係は認知によって生ずる(民法779条)。かつては任意認知がたてまえであり，認知は父の意思のみに任せられていたが，今日では子から認知を強制することも認められている(民法787条)。認知されると父または母との間に親子関係を生じ，その効力は出生の時にさかのぼる(民法784条)。嫡出でない子は母の親権に属し(民法819条)，母の氏を称する(民法790条)。認知後には父を親権者とすることもできるし，父の氏に変えることもできる(民法791条)。相続においては嫡出でない子は嫡出子の2分の1の相続権しか認められていない(民法900条)。旧民法においては私生子を父が認知すれば母および父の妻の意思に関係なく父の家にはいり，同時に父の妻との間に嫡母庶子関係という擬制的親子関係が生ずることを法定していたが，現行法ではかかる擬制的親子関係は認められない。なお，社会主義諸国においては法律上嫡出子と非嫡出子とは平等に取り扱われ，なんらの差別も設けていない。　〔黒木三郎〕

ちゃくせいしょくぶつ【着生植物】 生きている植物の葉や幹の上を生活の場所として，独自栄養生活を営んでいる植物で，場所を提供している植物を支持植物という。支持植物は体内から栄養分や水を奪われることはなく，寄主と寄生植物の関係とは異なる。着生植物には，地衣類・コケ類・シダ類などのほか，ラン科植物などの高等植物も見られる。それらは，樹種(支持植物)の相違，1株の樹木に見られる微細な生活条件の差などを適宜選択し，樹冠の葉上から株もとまでに垂直的な分布を示す。同一種の植物が，ある地域では地上に生育し，特定の地域や条件下では着生植物となっている場合(タマシダなど)があり，このような着生植物を任意着生植物とよんでいる。着生植物には，サルオガセ・アオバゴケなどの地衣類，キダチヒラゴケ・ヒムロゴケなどのコケ類，ノキシノブ・ウチワゴケなどのシダ類，フウラン・シシランなどのラン科植物がある。

ちゃくひょう【着氷】 0℃以下の過冷却の水滴が雲・霧・雨の状態で存在する大気中を飛行機が飛ぶとき，機体に氷が付着する現象。なお，機体が0°C以下に冷やされているときに水蒸気を含んだ大気中を飛行する際にも昇華によって着氷を起こす場合がある。昇華によるものを樹霜型，過冷却の霧粒が機体にぶつかってできるものを樹氷型，過冷却の雨粒によるものを雨氷型という。着氷がひどいときには飛行機の性能が阻害されて航行不能となり，そのため最近では着氷予報の改善と防氷装置の開発で，最悪の事態は避けられるようになった。ジェット機の場合には巡航高度が着氷区域外にあるので安全である。　〔曲田光夫〕

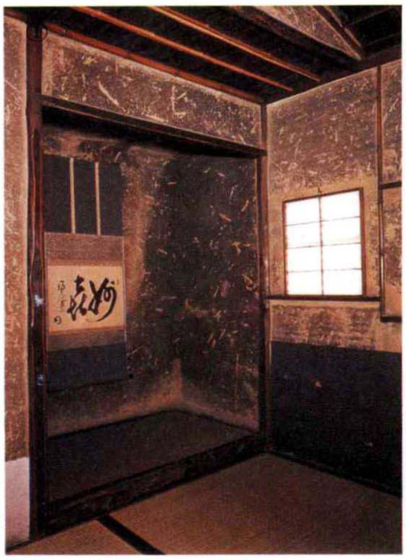
チャコ ⇨グランチャコ

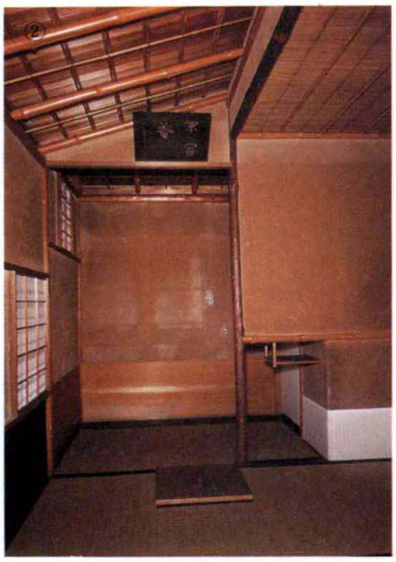
チャゴス(諸島) ［Chagos, Oil］ 別名オイル諸島といい，インド洋，モルジブ諸島の南方にあるイギリス領。五つのさんご礁からなり，ココア・コプラを産し，漁業を行なっている。輸出品にグアノがある。かつてインド洋航路の補給地であった。

チャコせんそう【チャコ戦争】 1932～1935年にかけてパラグアイ・ボリビア間で行なわれたチャコ地方をめぐる国境紛争。チャコは19世紀から両国間でその帰属が争われていたが，1920年代に係争地域で油田が発見され緊張はとみに高まった。1928年ついに小規模な戦争を開始し，1932年本格的な戦争に突入した。国際石油資本も，ロイヤル-ダッチ-シェルがパラグアイ，スタンダード-オイルがボリビアをそれぞれ支持，チャコの帰趨(きすう)に重大な関心を示した。戦争の拡大を憂慮した汎アメリカ諸国は，アメリカ・アルゼンチンを中心に，紛争の収拾に努めた。アメリカによる調停が失敗に終わったあと，アルゼンチン外相サーベドラ-ラマスは，ブラジル・チリ・ペルーを誘って停戦交渉を進め，1935年6月休戦が実現した。その結果1938年の平和協定では，係争地区の約7割がパラグァイに帰属した。戦後ボリビアには，敗戦を契機とする改革の機運が高まり，これがボリビア革命(1952)の遠因となった。　〔松下　洋〕

チャシ 山城・土塁を意味するアイヌ語。遺構は広く北海道に分布し，これと同系統とみられる遺構が東北地方に多く，サハリン(樺太(からふと))南部にも散在する。構造上から，環濠(かんごう)集落的なもの，郭をもつ大規模なもの，その両者を併置するものとに大別される。東北地方では古くから館(たて)とよばれ，その内部から土師器(はじき)・須恵器(すえき)などが発見された。この発掘調査から，その歴史は，奈良時代を遠くさかのぼることなく，また平安・鎌倉時代まで下降するとされている。チャシの分布は蝦夷(えぞ)の勢力地とほぼ一致しているので，蝦夷史研究の遺跡として注目されている。
〔高崎徳次〕

ちゃしつ【茶室】 茶事を行なうための室，またはその付属建築を含めていう。室町時代から江戸初期にかけては，単に数寄屋(すきや)・囲(かこい)・小座敷ともいわれ，一般には，母屋(おもや)から離れて建てられた茶室を数寄屋，母屋の中に建てられている茶室を囲と使い分けたが，現在は，そのような特別な区分はない。ほかに茶席ということばもある。茶室は，禅寺の方丈から着想

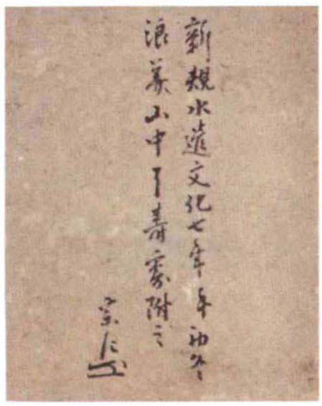


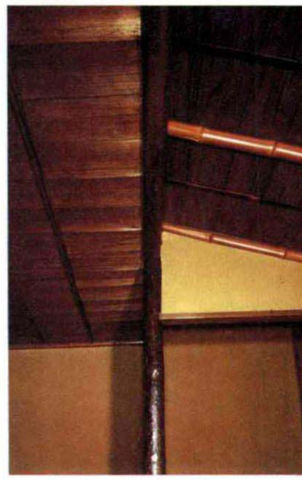




茶　　室

①妙喜庵床の間
②床の間を背にして見た表千家不審庵
③大徳寺聚光院閑隠席躙口　水屋襖裏の修理銘(下段左),天井(中),炉と中柱(右)







されたものとの説もあり，それで四畳半を正式のものとして，それより広いものを広間，狭いものを小間とよぶ。もともと茶の湯そのものは，桃山時代に千利休*によって大成されたが，そのころは戦国時代の影響で，武将たちは明日(あす)をも知らぬみずからの運命に対して，限りなく豪華な生活を求め，建築・庭園・工芸・絵画などにおいても意匠や装飾を雄渾(ゆうこん)で贅美(ぜいび)なものにつくったが，その反面，人間の倫理やいわゆる内に秘めた美しさにも心を奪われるということもあった。それが茶の湯の美学となった〈欠けたものの美しさ〉として表現され，侘(わび)の美となった。そのため，茶室は書院から小間へと変わってゆく間に，侘の極限美を求めて，四畳半という正方形のものから，長四畳・三畳半・三畳台目・三畳・二畳台目・二畳・一畳半というように，〈不足の美学〉の主張となっていった。台目とは，広間から小間に変化した際に，台子が不用になったので，台子の幅だけ切り落とした畳である。書院では襖(ふすま)や障子(しょうじ)を用いるが，茶室では白い鳥子紙を張った太鼓張(たいこばり)を用いたり，下地窓や連子窓を用いる。茶室で障子を用いるのは貴人口のみであるが，これらのくふうは格式のない簡素な美の表現といえる。構造そのものも農家ふうの丸太普請で，生地や皮つきのものを使用するのも，質素・単純が侘の美に通ずるからである。茶室には定型がなく，すべて亭主(ていしゅ)の好みや個性を出すべきで，単に世俗的な風流事ではなく，茶を通して生活の中に美を追求する建物と解すべきである。　〔重森完途〕

ちゃじょうれい　【茶条例】 1773年制定されたイギリスの北アメリカ植民地に対する立法。1767年のタウンゼント諸法*が植民地の猛反対を受け，1770年に撤回されたとき，本国政府の課税権確認のため茶税だけは残されていた。イギリスは，東インド会社が，茶の在庫を大量にもって財政難に瀕(ひん)していたのを救うため，また植民地人による茶の密輸を取り締まるため，東インド会社に対して植民地での茶の独占販売権を与える茶条例を定めた。これに対して，茶の貿易による利益が失われ独占化が他産業へも及ぶことを恐れた植民地人は猛烈に反対した。こうして1773年末ボストン茶会事件*が勃発(ぼっぱつ)し，イギリスが強硬策で応じたことから，植民地では独立への機運が高まった。　〔折井一彦〕

チャーター　⇨用船

チャーダエフ ［Petr Yakovlevich Chaadaev］ (1794～1856)　ロシアの社会思想家。貴族の出身。ナポレオン戦争に従軍し，のちにデカブリスト*の組織に参加。1821年，ヨーロッパ旅行に出，帰国後はモスクワに住み，やがて農奴制とツァーリズムとギリシア正教に対する批判を行ない，西欧文化のロシアへの導入を提唱した。彼の思想は当時のロシアの知識人に大きな影響を与え，思想界のザパドニキ(西欧派)の契機となった。主著《哲学書簡》。　〔仲村計美〕

ちゃたてむし　【茶柱虫】 こん虫類・嚙虫(ごうちゅう)目(チャタテムシ目)の総称。全体に軟弱で，一般に膜質の弱々しい翅(はね)があるが，無翅の種類や痕跡(こんせき)的な翅をもつ種類も多い。頭部は比較的大きく，口器は咀嚼(そしゃく)型，触角は線状で長く，複眼はよく発達していて大きい。脚は細長く，走るのに適している。不完全変態を行ない，幼虫は6回ほど脱皮して成虫となる。幼虫は脱皮後に脱皮した殻(から)を食べる習性がある。一般には有性生殖を行なうが，単性生殖を行なう種類や胎生の種類もある。主として昼間行動性で，群生する種類も多い。雑食性で，菌類・地衣類や葉肉部，表皮，枯れ葉，花粉，雑穀粉，こん虫類の死体などを好む。したがって，野外・家屋内のあらゆる場所に生活し，鳥類やネズミ類の巣中にも見いだされる。天敵には，アリ類・クサカゲロウ類・アシナガキンバエ・サシガメ類などがあり，卵に寄生する微小なハチも知られている。発音する種類が多く，

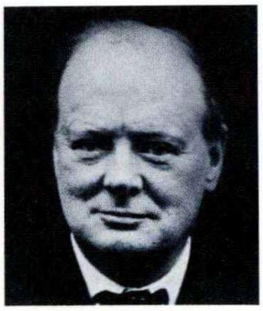
発音には腹端部を他の物の表面に打ちつけるものと，後脚基節の内側にある鱗状(りんじょう)の発音器によるものとがある。全世界から約1,000種類が知られ，2亜目13科に分類されている。日本にはこのうち，コナチャタテムシ科・ケチャタテムシ科・ホソチャタテムシ科・マドチャタテムシ科・マルチャタテムシ科・チャタテムシ科・ホシチャタテムシ科・コクチャタテムシ科などを産する。これらのうち，人生と関係をもつのは，食料品・書籍・動物標本などにつく害虫であるコナチャタテムシ科・コクチャタテムシ科に属する種類のみである。
〔鈴木邦雄〕

チャタレイふじんのこいびと　【チャタレイ夫人の恋人】 D.H.ロレンスの長編小説(1928)。正しい性関係こそ金銭と機械の支配する無自覚な世界に対する挑戦(ちょうせん)であると考えるロレンスは，この小説の中で，性行為を単に行為ではなく，人間存在の意識の現われとして描いている。大戦で半身不随となったクリフォードの妻コンスタンは，不具の夫との生活に満足できず，はじめ劇作家のマイクリスと交渉をもつが，彼のエゴイズムに反発し，猟場の番人メラーズとの肉体的結合ではじめて自然な性の喜びを知るというもの。発表当時，好色本の非難を受け，作者は弁明書《チャタレイ夫人について》を書き，また日本でも伊藤(いとう)整による訳書(1950)がわいせつ文書の疑いを受け，〈チャタレイ裁判〉に発展した。
〔橋本槙矩〕

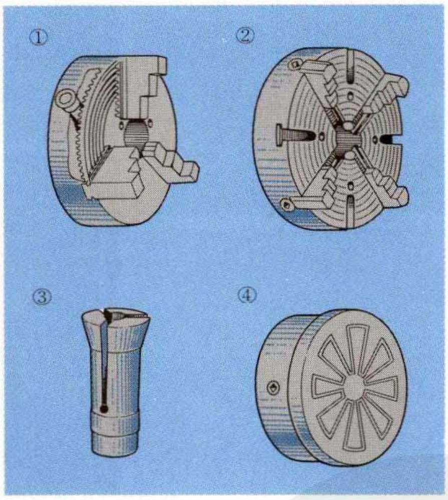
ちゃだんす　【茶箪笥】 食器戸だなの一種。おもに茶の間に置かれ，茶器・菓子器・食器などを収納し，また引き出しの多いものは，家庭生活上の書類・紙片を収納するのに用いられる。形は装飾用から実用的なものまでいろいろあるが，下から順に引き出し・地袋・違いだな・天袋などを組み合せたものが多い。大きさはほぼ幅72～105cm，高さ63cm，または90～106cm，奥行27～46cm程度である。

はじめ茶道具を収める茶だなから発達したもので，材料にキリ・クワ・ケヤキ・ジンダイスギなどの白木を用いた繊細な感じのものから，シタン・コクタン・クロガキを用いて，たな板・とびら・柱に蒔絵(まきえ)などを施した荘重なものまである。一般には，茶の間・ちゃぶ台・長火ばちなどとともに，古くから日本の庶民生活の集まりべやを構成する道具の一つとして親しまれてきている。
〔館古都子〕

チャーチストうんどう　【チャーチスト運動】 1830～1840年代のイギリス労働者階級の政治的運動。1832年の選挙法改正でも政権参与を認められぬ労働者階級はこれを不満として1834年労働運動は選挙権を求めて高まり経済闘争から政治運動へと転換した。ラベット・プレース・オブライエンらが指導者となって，まず議会の改革を図



チャーチル



チャック　①三つづめチャック　②四つづめチャック　③コレットチャック　④電磁チャック

り，広範な労働戦線を組み，普通選挙に立脚した議会民主主義の要求を掲げ，1838年6か条からなる人民憲章を起草配布した。これをもとに1838年から1848年にかけてロンドン・バーミンガムを中心に全国的運動を展開，数百万の署名を得て議会に請願した。しかし指導者間の分裂，思想の不一致，政府の弾圧などのため消滅した。→オコンナー
〔松下京子〕

チャチャチャ　[cha cha cha] キューバで1940年代末に生まれたダンス音楽。バイオリン奏者エンリケ-ホリンが創始したとされる。テンポはゆっくりした2拍子で，打楽器グィロによるアクセントに特徴がある。コーラスなど歌がつくのが本来のスタイルであるが，世界的にダンス-リズムとして流行し，外国では歌なしで演奏するようになった。ホリンが最初にこのスタイルでつくった曲は《ラ-エンガニャドーラ》だが，のちに《チャチャチャはすばらしい》がヒットした。他に《リコ-バシロン》が有名。
〔中西義郎〕

チャーチル　[Winston Leonard Spencer Churchill] (1874～1965) イギリスの政治家。マールバラ公爵家の生まれ。父ランドルフ-チャーチルは保守党指導者。陸軍士官学校卒業後新聞記者としてボーア戦争に従軍，1900年保守党議員となる。1904年チェンバレンと対立して自由党に転じた。1908年アスキス内閣の商務院総裁，1910年同じく内相を歴任。第1次世界大戦には，主戦論を指導，海相・軍需相・陸相をつとめ，ロシア内乱への干渉で非難を浴びた。1921年植民相としてアイルランド自由国成立の交渉を担当。1922年総選挙に破れて引退。その後保守党に帰り，1924年ボールドウィン内閣の蔵相となり，翌年金本位制を復活，1929年辞職。以後10年間野にあって批判活動を続け，ナチス台頭の危険を警告して，A.N.チェンバレンの宥和政策を攻撃した。第2次世界大戦には挙国一致内閣を組織して首相となり，連合軍の勝利に貢献した。1945年総選挙に敗れ下野し，1951年再び首相。1955年党首をイーデンに譲り引退。《第二次世界大戦回顧録》でノーベル文学賞を受賞。
〔松下京子〕

ちゃっきりぶし　【ちゃっきり節】 静岡県の民謡とされているが，元来は昭和初期に作詞北原白秋，作曲町田嘉章(かしょう)によって《狐(きつね)音頭》《新駿河節(しんするがぶし)》とともにつくられたいわゆる新民謡で，3曲の中でも特に全国的に知られたものである。

チャック　[chuck] 工作をするときに，工作物または工具をつかむための道具。ドリルをつかむためのドリルチャックとか，旋盤作業に用いる三つづめチャック・四つづめチャック・コレットチャックなどいろいろのものがある。また，鉄鋼類を磁力で吸いつけるようにした電磁チャック・永久磁石チャックもあり，非鉄金属や非金属材料に対しては静電チャックが用いられる。

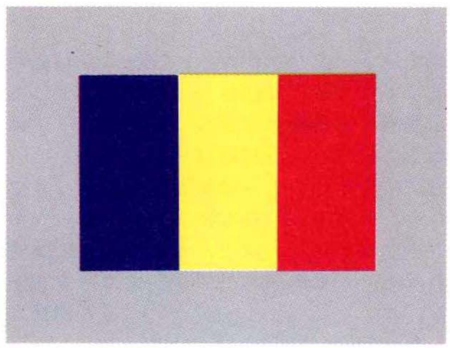
ちゃづけ　【茶漬け】 熱い茶を掛けて食べる飯。平安時代の水飯(夏に水を掛けて食べた)や鎌倉時代の湯づけの習慣が，室町時代以後茶道の普及とともに変化して，茶を用いるようになったもの。江戸時代前期まで庶民の間では番茶を煮出して冷や飯に掛ける質素なものであった。やがて好みの魚菜などを添えるようになり，種類も多くなった。今日ではタイ・マグロ・干しかます・干だら・塩ざけ・のり・つくだ煮などの茶づけがあり，茶の代わりに薄味のしるを掛けるものもある。代表的なタイ茶づけは，さしみ状に切ったタイをしょうゆ・みりん・かつおぶし・白ごまを加えた掛けじるにつけ，たきたての飯に焼きのりとともに盛り，おろしわさびをのせて熱い茶を掛けてつくる。
〔塩川ふみ〕

チャップマン　[Sydney Chapman] (1888～　) イギリスの物理学者。マンチェスター・ケンブリッジ両大学に学び，はじめグリニッジ観測所に勤務。次いでマンチェスター大学・インペリアル-カレッジ・オックスフォード大学の各教授を経て，1951年以後アラスカ大学地球物理学教授。発散級数など数学の研究から物理学に転じ，気体の運動学的理論や地磁気・電離層・気象学・気象光学などの分野を研究，数学的理論を応用したすぐれた業績を残した。

チャップリン [Charles Spencer Chaplin] (1889～1977) イギリス出身の映画俳優・脚本家・監督。ロンドンに寄席(よせ)芸人の子として生まれ，幼少から舞台に立った。早くに両親をなくし，極貧の少年時代の中で喜劇俳優として成長。21歳のとき喜劇の一座に加わって渡米，アメリカの喜劇映画製作者マック-セネットに見いだされ，映画界にはいった。デビュー作は1914年の《成功争い》で，やがて有名な山高帽にちょびひげ，だぶだぶズボンのスタイルなどで，喜劇俳優として人気を博し，その後みずから脚本を書き監督するようになった。それらはいずれも，貧しい人々の生活に対する深い愛情に満ちるとともに，権力者や有産階級に対する痛烈な風刺が込められていて，世界の映画ファンから熱烈に歓迎された。しばしばアクロバットに近い喜劇的演技は至芸の域にあり，その表現には笑いとペーソスが豊かに盛り込まれていた。初期の無声映画*時代の代表作に，《キッド》《巴里(パリ)の女性》《黄金狂時代》などがある。トーキー*になってからは寡作になったが，1940年の《チャップリンの独裁者》では，当時興隆したナチスの指導者ヒットラーを痛烈にこっけい化し弾劾した。また第2次世界大戦後の《チャップリンの殺人狂時代》では，少数を殺せば殺人罪で死刑になり，大量殺人は戦争の英雄とされるという社会の矛盾をつき，笑えない深刻な喜劇をつくり出した。その後スイスに渡り，イギリスその他の国で作品を発表している。以上のほか，有名な作品に《モダン-タイムズ》《ライムライト》《ニューヨークの王様》などがある。またその自伝はすぐれたものとして高く評価されている。〔佐藤忠男〕



チャップリン 《チャップリンの独裁者》から



チャドの国旗 1959年制定。青は空と希望，黄色は太陽，赤は炎と国家の統一を表わしている。なお，フランス植民地から独立したアフリカ諸国はフランスにならって国旗を憲法の冒頭で規定している

チャート [chert] 堆積岩*(たいせきがん)の一種。ほとんど大部分が，微晶質か非晶質のセキエイ*または玉髄からなる岩石で，90%以上が二酸化ケイ素SiO_2である。土砂の供給の少ない海底に海水中のSiO_2が沈殿堆積してできたもので，しばしば放散虫などの化石を含んでいる。日本の古生層の中に多い。風化して砕けやすくなったものは軟ケイ石とよばれ，セメントの原料になる。また角レキ化して再結晶した種類は耐火原料としても利用されている。〔片山信夫〕

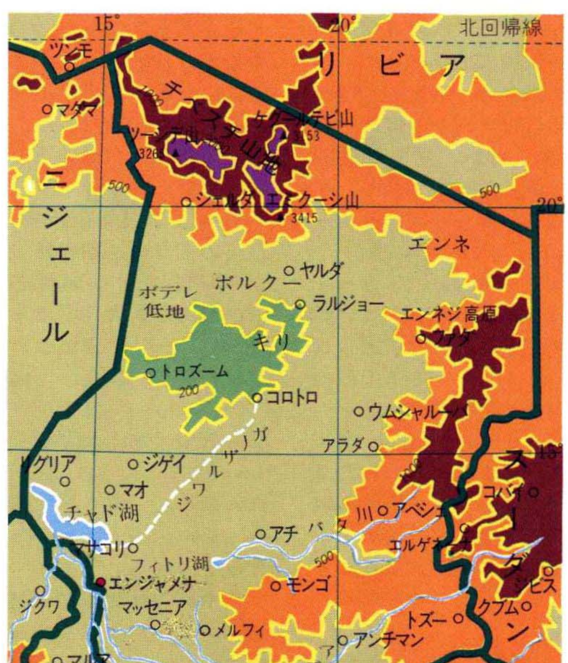
チャド(共和国) [République du Tchad] アフリカ大陸中北部にある共和国。西はニジェール，北はリビア，東はスーダン，南は中央アフリカに接する内陸国で，国土の西端にナイジェリア・カメルーンとの境をなすアフリカ中央部最大の湖チャドがあり，国名はこれにちなんで命名された。面積128万4,000km²。人口452万(1978年推)。首都はチャド湖*畔にあるエンジャメナ(旧称フォールラミー)。

〔自然・住民〕 国土面積は，日本の約4倍あるが，その大部分は砂漠(さばく)で，北部には高度3,000mのチベスチ山地がそびえている。この山地以外は全般に高原状で，チャド湖周辺とその北東方のボデレ低地がやや低い。チャド湖は内陸湖で，面積は25,760km²もあるが，以前はもっと大きかったと推定され，現在もこの湖に流入する河川の運搬物による堆積(たいせき)と多量の蒸発などによって，湖面はますます小さくなっている。南部はサバナで，初夏に多少の降雨がある。

住民はスーダン系の黒人で，一部アラビア人の混血もみられる。住民は砂漠の民でオアシスに居住し，人口密度は1km²あたり3人にすぎない。

〔産業・経済〕 牧畜と農業が主産業で，牧畜はヒツジの遊牧，農業はオアシスで営まれる。首都フォールラミーはチャド湖に臨む大きなオアシス集落で，オアシス農業の中心となっている。周辺のサバナではワタの栽培が行なわれている。

〔歴史・政治〕 17世紀以来イスラム教を信奉する黒人の土侯が存在したが，1900年フランスがチャド湖周辺に進出し，土侯はその保護下に置かれた。フランスはその後北進を続け，1914年チャドの大部分はフランスの植民地となった。しかし北部の部族はリビアの王朝の保護下にあってフランスの支配に抵抗したため，現在の領域全土がフランスの植民地となったのは1920年であった。以来チャドはフランス領赤道アフリカの一部として管理されたが，1958年フランス共同体内の自治共和国となり，1960年独



チャド

□300万人以上の都市 □100～300万人の都市 ◎50～100万人の都市 ◎10～50万人の都市 ◉5～10万人の都市 ○5万人未満の都市 ●首府 #油田

立を宣言した。一院制の議会をもち大統領による統治が行なわれているが，北部のイスラム系部族と南部の非イスラム系部族との対立が激しく，政情は安定していない。

チャド(湖)　[Tchad]　アフリカ大陸中部の内陸にある湖。チャド・ニジェール・ナイジェリア・カメルーンの国境をなしている。湖面は標高295 m，最大深度 7 m，面積25,760km^2だが，乾雨季によって大きさが変化するため湖岸周辺は湿地である。流入する河川は多いが，多くはワジ(涸(か)れ川)である。

ちゃどう　【茶道】　⇨350ページ

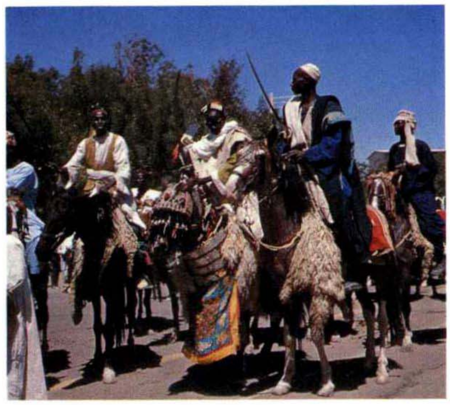
チャドウィック　[James Chadwick]　(1891～1974)　イギリスの物理学者。マンチェスターに生まれ同地の大学に学ぶ。卒業後ケンブリッジ大学のキャベンディッシュ研究所でラザフォードとともに放射線物理学を研究。1932年中性子を発見し，原子核物理学・素粒子論の開幕のきっかけをつくった。1936年リバプール大学教授，1948年ケンブリッジのゴンビル-アンド-ケーズ-カレッジ学長。第2次世界大戦中はロスマラモスの原爆研究所で原子力兵器の研究に参加した。1935年ノーベル物理学賞を受賞。

チャドウィック　[Lynn Chadwick]　(1914～　)　イギリスの彫刻家。はじめ，建築を学んだが，1945年から彫刻を始め，甲殻(こうかく)類を思わせるような特異なイメージの人物や動物像をつくり，1956年ベネチア-ビエンナーレで受賞した。その後も多くの国際展で活躍している。

チャネル　[channel]　一つの通信を伝送できる通信路。多重通信*では個々の一つ一つをさす。無線の場合は，電波の到達距離(波長で異なる)の間は，同一の媒体中を電波が伝播(でんぱ)しているが，使用周波数を変えれば別の通信路とみなせるので，その通信に割り当てられた周波数範囲をチャネルとよぶ。たとえば，VHF(超短波)テレビジョン放送用には90～96MHz(メガヘルツ)の第1チャネルから216～222MHzの第12までの12チャネルとが電波法で定められている。また，コンピューター*やその他の情報処理装置で，内部の各箇所の情報をやりとりする装置もチャネルとよばれ，磁気テープ・磁気ディスクのようなものを結ぶ数100kbit/秒の高速チャネルと，行印刷機やカード読み取り装置用などの低速チャネルがあり，後者は時分割多重方式になっていることが多い。　〔小原啓義〕

ちゃのき　⇨チャ

ちゃのはまき　【茶葉捲蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・ハマキガ科。翅(はね)を広げた長さは雄で約25mm，雌で約30mm。体と翅は黄かっ色。前翅は前縁部が内側に曲がり，長方形に近い形をしている。雄の前翅には前縁にかっ色の紋があり，中央から先端にかけて赤かっ色に縁取られる。後翅は淡かっ色で，後縁部にかけては灰色をおびる。



チャド　それぞれ盛装して首都フォールラミーの町に集まった各部族の首長たち。ウマも美しく飾られている

成虫は5～9月に出現し，翅をつりがね状にして止まる。幼虫はチャをはじめとして，広葉樹・針葉樹の区別なく食害する。日本全土に分布し，近縁種はインド・セイロン・台湾に分布し，チャの重要な害虫となっている。日本では同様な害虫としてコカクモンハマキがあり，ほとんどすべての広葉樹のほか，一部の草木や針葉樹までも食害する。　〔多々内修〕

ちゃのゆ　【茶の湯】　⇨茶道

ちゃのゆがま　【茶の湯釜】　⇨茶釜

ちゃばおり　【茶羽織】　主として女性の日常着の羽織。身たけが短く70cm内外でまちがつかず，並幅半反で表布が裁てる経済的なもの。第2次世界大戦後，極度の衣料不足から1950年(昭和25)ごろに着られはじめたが，1960年ごろからの経済成長に伴ってすたれた。本来は中世の末から近世初期に茶道*が繁栄したころ，亭主(ていしゅ)が客を迎えるまえに露地*のそうじなどをする際，ちりよけとして着た羽織である。

ちゃばこ　【茶箱】　旅行または野点*(のだて)などのときに，茶道具を入れていく箱。昔から形態は多い。利休形は桐木地(きりきじ)で，大小がある。大きいほうは，長さ約19.5cm，幅約12.5cm，掛合がついている。小さいほうは，長さ約16.5cm，幅約11cm。朱塗りの一閑張(いっかんばり)は宋旦(そうたん)好み，玄々斎好みは桐木地に菊置き上げ，桑木地に蒔絵(まきえ)を施したものなどがある。茶箱の内には，茶わん・薄茶器・茶杓(ちゃしゃく)・茶筅筒(ちゃせんづつ)・茶巾筒(ちゃきんづつ)・振出し・香合などを入れる。　〔桑田忠親〕

ちゃばねせせり　【茶翅挵蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・セセリチョウ科。翅(はね)の表面は黒かっ色で，前翅に8個の小白斑(はくはん)がある。裏面は緑をおびた黄かっ色で，前後翅ともに白斑がある。翅を広げた長さ30～40mm。飛び方は敏速で，花によく集まる。幼虫はイネ・ススキ・ササなどを食う。関東南部以南の日本，台湾・朝鮮などに分布。

チャハル　[chakhar]　察哈爾とも書く。内モンゴルの部名。15世紀末～16世紀初めごろ，ダヤン汗*が内モンゴルを統一して左右両翼60,000戸(10,000戸が1部)に分けた際，左翼30,000戸の一つとして成立。リンダン汗(在位1603～1632)ののち，1635年清(しん)に滅ぼされた。

チャーハン　【炒飯】　正しくは〈チャオファン〉。中国のいため御飯。本来は食事の時間に遅れた人のために，冷や飯にネギやその他の具を入れ，油で短時間強火でいためる簡便なもの。飯に混ぜ込む材料によって，蛋炒飯(タンチャオファン)(卵入り)・蝦仁炒飯(シャーレンチャオファン)(シバエビ入り)・肉丁炒飯(ロウチンチャオファン)(さいの目切りの肉入り)などがある。中国では塩だけで調味するが，コショウ・しょうゆを加えてもよい。

ちゃぶだい　【卓袱台】　すわって食事をするのに用いる4脚の台。室内の家具は最小限にとどめて必要に応じて卓子や座ぶとんを出すという日本の一般的な住まい方から生まれた家具で，不用のときにはかたづけるように足は折りたたむことができる。丸形と角形が多く，中央に七輪が入るようにつくられたものもある。日本の町家では，従来，茶の間で食事をし，だんらんをすることが多かったので，長火ばちとともに，茶の間の家具を代表するものの一つであった。　〔館古都子〕

チャペック　[Karel Čapek]　(1890～1938)　チェコスロバキアの作家。小説・戯曲・エッセイなどの作品を書く一方，ジャーナリストとしても活躍した。第1次世界大戦前から作家活動にはいり，人間，近代の科学・技術・芸術・文化などに深い関心を寄せ，それらから広くテーマをとらえている。相対主義とプラグマチズムの哲学に近い初期の作品，《道端(みちばた)の十字架》《頭のいたくなる話》に続いてSFふうの小説《絶対子製造工場》《クラカチト》，SFふうの風刺劇《人造人間(ロボット)》，寓話(ぐうわ)《虫の生活》(兄のヨゼフと共著)を発表。芸術的に円熟味を示した三部作《ホルドゥバル》《流星》《平凡な一生》では問題の哲学的解決をめざし，最高の傑作といわれる長編小説《山椒魚(さんしょううお)戦争*》や戯曲《白い疫病》では台頭するファシズムへの警告を発している。彼の全体主義との戦いは，戯曲《母》で典型的に示された。その他，探偵(たんてい)小説風の《ポケットから出た話》，独特な伝記《T.G.マサリックとの対話》，童話《九つの物語》，数多くの旅行記など，多方面にわたって成功を収め，今日もなおチェコで最も愛読され，外国に最も広く紹介されている作家である。　〔千野栄一〕

チャボ　【矮鶏】　ベトナム地方原産の愛玩(あいがん)用小形鶏。羽色などの違いから，白・桂(かつら)・黒・猩々(しょうじょう)・赤笹(あかざさ)・さか毛・蓑引(みのひき)・ウズラ尾など15～16の内種に分けられる。謡羽(うたいばね)は直立し，翼は傾斜して地面に接し，頸(けい)は短くてよく湾曲し，脚は太くて短い。体重

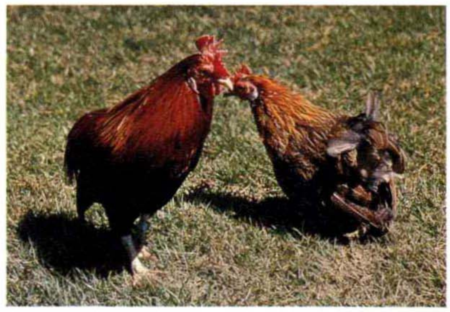
は雄700g,雌600g。産卵数は少ないが就巣性が強いため，仮母として他の品種の育成に利用されている。ウズラチャボは尾椎骨(びついこつ)がほとんど退化して尾羽がなく，碁石チャボの雄は尾が雌型なのを特徴とする。この品種に近縁なものとして，小軍鶏(こしゃも)・コーチンバンタム・ゲームバンタム・セブライトバンタムなど，いずれも小形に属する鶏種がある。〔一戸健司〕

チャムス【佳木斯】 中国東北地方黒龍江(こくりゅうこう)省中東部にある新興都市。人口約30万。満州国時代に三江省と樺川(かせん)県の公署が置かれてから発展した。松花江の右岸にある河港で夏季には下流・上流いずれの方面にも水運の便がよく，付近の豊かな農産物を移出する。綏佳(すいか)・佳双・佳鶴(かかく)各線の鉄道が集まり，付近に炭田を控えて製紙・製糖などの工業が盛んである。

チャムぞく【チャム族】 ベトナム中・南部の海岸平野，カンボジア国境のチョードック地方，カンボジアのトンレ-サップ地域などに居住する民族。言語はマライ-ポリネシア語族に属する。人口は約10万。２世紀末にはインド文化の影響を強く受けて，チャンパ(占城)王国を建てた。６～13世紀には，ヒンズー教や仏教を中心とした神殿・寺院が多く建造され，チャム芸術は高度に発達した。やがて，南進してくるベトナム人の侵略を受け，15世紀にはその都ビジャヤが陥落し，17世紀にはいって滅亡した。現在の住民の多くはイスラム教徒である。杭上(こうじょう)家屋に住み，水稲やトウモロコシなどを栽培し，水牛・ヤギ・ニワトリなどを飼育する。カンボジアに居住する者は，多くトンレ-サップやメコン川で漁業に従事している。〔近森　正〕

ちゃめし【茶飯】 本来は茶汁(ちゃじる)でたいた塩味の飯。その後，これ以外にしょうゆ・酒を加えてたくようになり，今日ではしょうゆで味つけした飯をいう。関東では〈桜飯〉という。新茶の芽を御飯のたきたてにまぶして使うこともある。コンブ・煮出しじるにしょうゆで味をつけてたいたものを〈黄枯(きがら)茶飯〉ともいう。また，奈良の東大寺・興福寺の僧房でつくっていたという〈奈良茶飯〉は《本朝食鑑》に〈二番煎(せん)じの濃いのをとり，塩少し加えて炊(た)く。この時炒(い)りダイズ・赤アズキ・焼きグリなどを混ぜてもよい。飯が出来たら最初煎じた濃い方に浸して食す〉と書かれてある。〔塩川ふみ〕

チャモロ［chamoro］ マリアナ諸島の原住民。スペイン語で〈頭を刈った人〉の意。1668年，スペイン占領当時は40,000～50,000人の人口があったが，１世紀後には1,800人に減少したという。すべて白人との混血で，純粋なものは存在しない。農業を主とし，すぐれた巨石構築を残している。古くは貴族・平民・賤民(せんみん)に分かれ，母系氏族であった。頭骨崇拝・精霊崇拝す



チャボ　ウズラチャボ



チャールズ　１世　バン-ダイク《チャールズ１世の肖像》 1635　ルーブル美術館蔵

なわちアニト崇拝をもっていたが，今日はキリスト教徒が多い。〔牛島　巌〕

ちゃや【茶屋】 客に茶を出して休息させる店。さらにそれから発展した遊興機関をもいう。江戸初期，街道筋の立場(たてば)にできた掛(かけ)茶屋では，文字どおり茶を出すにすぎなかった。やがて寺社の門前などの盛り場にできた茶屋では，煮物や酒を出すようになり，料理屋からさらに待合的性格をおびるようになった。変遷の順序に従って茶屋の種類をあげれば，葦簀(よしず)張りの〈出茶屋〉，お茶自慢の〈水茶屋〉，酒肴(しゅこう)を出す〈料理茶屋〉，貸し席を主にした〈寄合茶屋〉，男女の密会場所をもくろんだ〈出合茶屋〉，遊廓関係では編笠(あみがさ)を売る〈編笠茶屋〉，遊女を呼んで遊興する〈引手茶屋〉がある。その他，興行場で観客の座席や酒食の世話をする〈芝居茶屋〉〈相撲(すもう)茶屋〉や動物園・植物園を兼ねた〈花鳥茶屋〉〈孔雀(くじゃく)茶屋〉もあった。〔稲垣史生〕

ちゃや【茶屋】 岡山県南部児島(こじま)湾の古い干拓地にあった旧町名。1972年(昭和47)倉敷市編入。明治期には花莚(はなむしろ)・畳表などの農村工業が発達し，大正期にはもめん織物工業が，昭和初期には農業機械工業が発達している。宇野線と下津井鉄道の分岐点で，児島半島南部の諸港湾都市を結ぶ要地である。イグサの作付率が高く，その加工が盛ん。

ちゃやしろうじろう【茶屋四郎次郎】 江戸時代，京都の特権的豪商である茶屋家歴代の通称。徳川将軍家の呉服師で，朱印船*貿易家・糸割符*(いとわっぷ)商人。本姓は中島。朱印船貿易と糸割符の特権で巨富を得た。初代清延は徳川家康(いえやす)に仕え，本能寺の変後，堺(さかい)にいた家康を先導して無事岡崎に帰還させた。その功で徳川氏の呉服用達(ようたし)をつとめ，さらに豊臣秀吉(とよとみひでよし)の朱印状を受けアンナン貿易に従事した。２代清忠(きよただ)も家康に近侍し，上方町人を統制。３代清次は朱印船貿易に従事するとともに，糸割符の特権を獲得した。４代直澄・５代延宗(のぶむね)も朱印船貿易に従事したが，鎖国以後は代々将軍家呉服師と白糸販売を業とした。江戸中期以降はしだいに衰微した。〔松尾　涼〕

ちゃやぞめ【茶屋染】 一般的には，白晒麻(しろさらしあさ)に藍(あい)の濃淡を主体にして細かい通常御所解(ごしょどき)といわれる山水・風景・文様を主として染め出したものをいう。この手の帷子(かたびら)は茶屋辻(ちゃやつじ)あるいは本辻とよばれ，江戸時代おもに大名以上の武家の婦女子の夏季の礼装あるいは御殿勤めの公服として着用されてきた。遺品についてみると，藍の濃淡だけのものもあるが，一部に薄黄色を配したもの，若干の繡(ぬい)を交えたものもあり，文様も山水に限らず，草花・文字入りなどもある。その名称の由来は，江戸時代初期の寛永(1624～1643)ごろ茶屋宗理が染めはじめたことによるといい，また徳川開幕以来，大奥の衣料を取り扱ってきた呉服商茶屋四郎次郎がそれを納めてきたことに基づくともいわれている。〔北村哲郎〕

ちゃり 人形浄瑠璃*(じょうるり)・歌舞伎*(かぶき)の用語で，こっけいな演技・演出をいう。元来義太夫節(ぎだゆうぶし)で観客を笑わせるようにつくられた場面を〈ちゃり場〉とよんだのがはじまりで，《一谷嫩軍記*(いちのたにふたばぐんき)》の〈宝引(ほうびき)〉の段はその好例。〈ちゃり敵(がたき)〉は歌舞伎でこっけいな敵役。

チャールズ［Charles］

1 １世(1600～1649) イギリス国王。在位1625～1649年。父王ジェームズ１世と同じく王権神授説を信奉し，イギリス国教会を強化してピューリタンを抑圧，重税を賦課しようとしたため，1628年の議会で権利請願を承認させられた。翌年トン税・ポンド税問題で議会を解散，以後11年間議会を召集せず，ロードとストラッフォードを用いて専制政治を強化した。国教の強制に反対して起こったスコットランドの反乱を鎮圧する費用を調達する目的で召集した短期議会を直ちに解散(1640)，引き続き召集した長期議会とも対立して1642年ピューリタン革命*が勃発(ぼっぱつ)した。ネーズビーの戦いに敗れ，1648年再度議会軍と開戦したが失敗。ついに反逆者，国家の敵としてクロムウェルらによって処刑された。

2 ２世(1630～1685) イギリス国王。在位1660～1685年。チャールズ１世の子。ピュ

→355ページ

茶　道

茶の湯の道の略称。古くは数寄道（すきどう）ともいった。〈さどう〉とも読むが，茶事を専掌する役職である茶頭（さどう）と混同しないように〈ちゃどう〉と読むほうがよい。茶を飲むことを中心とする遊芸を茶の湯といい，この茶の湯に道があるのは，次の理由からである。元来，仏寺においては仏前に供えた茶の余抹（よまつ）を来客に勧め，次に仏事の主催者が相伴して飲んだが，この仏法の行事を俗人がまねたものだからである。謙譲で風雅な遊芸であり，通俗化した宗教芸術ともいえる。

〔茶の伝来〕茶は奈良時代に遣唐使によって中国からはじめてもたらされたが，当時の茶は，唐代に行なわれた団茶法によっていた。これは，茶の葉を搗（つ）き固めて保存したものを適時に煎（せん）じ，味つけをして飲むものである。しかしこれは，遣唐使の廃止(894)とともにすたれた。その後，平安時代の末期に栄西*が中国から帰朝して，臨済宗とともに宋（そう）代に流行した抹茶法を伝えた。これは，葉茶を茶臼（ちゃうす）で挽（ひ）いて粉末とし，それを茶碗（ちゃわん）に入れて湯を注ぎ，茶筅（ちゃせん）でかきまわして点（た）てるもので，現今の濃茶（こいちゃ）にあたる。栄西はその著《喫茶養生記*》で茶の栽培法，抹茶の製法などを説明し，喫茶が延命長寿の法であることを説いて，これを広めることに貢献した。また，中国の茶種を肥前（佐賀県）霊仙（りょうせん）寺や筑前（ちくぜん）（福岡県）博多（はかた）の聖福（しょうふく）寺に栽培させ，また，弟子（でし）の明恵にも茶種を贈った。明恵は，それを京都栂尾（とがのお）の深瀬に植えた。これが繁殖したのが栂尾の茶（栂茶）であり，まもなく，この茶が本来（本場の茶）といわれるに至った。

〔闘茶から茶の湯へ〕鎌倉時代末期に中国から渡来した闘茶は，宋代に流行した一種のかけ事で，抹茶の産地・品質，点茶に使った湯水の良否などを味別して勝負を競い，景品を取り合う遊芸であった。闘茶は特に公家（くげ）・武家の上流社会に流行し，その会場には2階建ての喫茶の亭（きっさのてい）があてられた。この中国ふうの茶室が，わが国における最古の茶室といってよい。室町時代になると，闘茶の会場は歌合わせや連歌会を催す会所に移ったが，闘茶の趣向は歌道の影響を受けてしだいに和様化し，風流で優雅な飲茶遊芸へと発展した。これを茶の湯といった。

〔茶儀の制定〕茶道への第一歩は茶儀の制定である。闘茶の会にもある程度の方式はあったが，それが日本化したのは室町時代初期における武家礼法成立の影響である。そのころ，小笠原（おがさわら）流*の武家礼法の書物が著わされ，武家社会で来客を送迎する際や貴人に物を運ぶときの動作までが詳しく規定された。このような環境の中で，禅林の茶儀とはかなり違った武家の茶礼が考案されたらしい。やがて室町時代中期になると，足利（あしかが）将軍家の同朋衆*（どうぼうしゅう）に能阿弥*（のうあみ）という万能の芸術家が出現した。能阿弥は，そのころすでに形成されていた上流武家の居間としての書院の広間に茶道具を飾ることをくふうしたといわれる。これが書院飾りである。書院飾りのもとは，闘茶の会合所である喫茶の亭や会所の飾り方にあり，また南北朝時代に近江（おうみ）（滋賀県）の守護大名佐々木導誉も書院七所飾りを始めたといわれるが，能阿弥はそれらを参考とし，しかも独自の考案によって書院広間の床の間や違いだなを飾りつけた。なお，書院の茶事では台子を用いて，三種極真の台子飾りを制定した。さらに能阿弥は，足利義政*（よしまさ）の命によって，将軍家に伝来した唐物（からもの）の美術品の中から上々の品を選び，東山御物を制定している。なお，茶器の扱い方，置き合わせの寸法なども自然と規定された。点茶の所作，特に道具を運ぶ際の歩き方などは，能の仕舞の形を取り入れている。また，点茶の際の服装も，闘茶会における主客の高僧じみた姿とは違って著しく和様化され，たとえけいこの際でも俗人は裃（かみしも），僧体の者は袈裟十徳（けさじっとく），貴人は素袍*（すおう）という定めであった。

〔茶道の成立〕東山時代には，まだ闘茶も行なわれていたが，それ以後ほどなく衰えた。酒宴やばくちなど，すべて猥雑（わいざつ）なものは一掃され，茶室は書院広間を中心として閑雅な美の殿堂と化した。これは，形からはじめて心にはいろうとしたものである。そして，茶の礼法を徹底的に心の問題として取り上げ，茶の湯の道の存在を提唱したのが同時代の珠光（しゅこう）であった。それゆえ，珠光は茶の湯の開山とよばれる。珠光は奈良の庶民階級の出身者で，一時僧侶（そうりょ）となったが，のち茶事の改革に専念した。彼は能阿弥に師事して立花*と唐物目ききの法を学ぶ一方，大徳寺の一休*に参禅し，印可の証として宋代の名僧圜悟（えんご）禅師の墨跡を授けられ，これを表装して自庵（じあん）の四畳半座敷の床に掛けて茶の湯を楽しみ，〈仏法も茶の湯の中にあり〉と悟った。能阿弥も珠光について茶の道を学び，義政も珠光の指南を受けたという。珠光は，茶事の方式よりもそれを行なう主客の心の問題に重きをおき，我執を戒めて，わが心を師とせず，わが心の師たれと教えた。また，初心者が巧者をねたんだり，巧者が初心者を見下すことを戒めている。そして，そのようにへりくだった茶人の心が，茶事を催す場合に，さまざまな茶会の趣向や茶の湯の風体となって自然に表現されることを求めたのである。彼は，〈藁屋（わらや）に名馬つなぎたるがよし〉などという名言を用いて，草庵の座敷において名物道具を扱うのを寂（さび）たる趣向とみなし，冷え枯れるとか，冷えやせるとかいった連歌の句を姿のたとえに使って侘（わ）びの風体を説明した。そして，その風体を正しく表現するのは茶人の心の動きであり，単に備前焼*や信楽焼*（しがらきやき）の茶器を用いたからといって成功するものではない，侘びも寂も外観ではなく，客に対する亭主の心づくしの現われだ，とした。珠光は，このような信念と見識のもとに，あらゆる作意を凝らして茶室や茶道具を和式に改革し，すぐれた創造を試みたので，茶の湯文化の様相はここに一変した。書院の広間に代わって，草庵の四畳半が真の座敷といわれ，これを数寄屋という。また，書院飾りに対して数寄屋飾りが考案された。床の掛け物は名禅僧の墨跡を第1等品として華麗な唐絵はじみに表装された。墨塗りの台子に対しては白木に竹軸の竹の台子が創作された。唐物茶器よりは，たとえ下手物であっても，侘びの風体に富む人形手の青磁や，抛頭巾肩衝（なげずきんかたつき）などが愛好されている。茶室の床にいける花も，〈よい座敷ほど軽々といけよ〉といって，茶花の風姿を創案した。こうした珠光の見識と発明によって，茶の道が成立するとともに，唐様の茶趣味も著しく和様化され，貴族本位の茶の好みも一般向きなものとなった。そして，〈茶の湯をせざる者は人にあらず〉とさえいわれるに至ったのである。

〔茶道の大成〕珠光の弟子は，京都・奈良・堺（さかい）などに多かった。堺の鳥居引拙は珠光に次ぐ茶の湯の名人といわれたが，珠光の高弟藤田宗理に師事した武野紹鷗*（たけのじょうおう）が引拙に次いで頭角を現わし，そのまた弟子の千利休*とともに日本の茶道文化を大成したのであった。引拙までは珠光流からそれほど傑出しなかったが，紹鷗に至って茶の湯の風体が一変したといわれる。紹鷗は堺の富商の家に生まれ，その財力に任せて唐物の名器を60種も秘蔵していたが，それらはすべて茶人としての紹鷗のすぐれた目ききによって選定されたものであり，珠光名物・引拙名物と並んで紹鷗名物とよばれている。その目ききの標準になったのは，侘び・寂の風体である。その一方，彼の作意によって，四畳半の行の座敷，袋だな，棗形茶入（なつめがたちゃいれ），土風炉（どぶろ），木地の曲げ物などが，新たな茶席・茶道具として創造された。また，侘びの風体をさらに理論づけて，正直で慎み深くおごらぬさまを侘びとなし，これを初冬10月の季節にたとえた。しかしまた，枯れかじけた連歌の句の姿こそ侘びの極致であるとし，

生涯(しょうがい)茶の道に精進して名人の境地に達したならば，道具一種を所持して侘び茶に徹するのがたいせつだと説明している。紹鷗の高弟に今井宗久・津田宗及・千利休らがいるが，いずれも当代の権力者である織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)らに仕えて御茶頭(おさどう)となった。

千利休は，紹鷗の仕事の跡を継ぎ，次代の名人といわれた。彼は紹鷗に師事して，珠光流茶道の奥義を究め，さらに新時代に即応して茶事の趣向を改良し，かつ茶道の理論をも大成している。草庵の四畳半座敷を完成し，また一畳半の極小座敷における茶事を侘びの至境とし，2重，3重の露地をくふうして茶庭を大成した。なお，草庵の茶席を飾るにふさわしい茶道具を見たて，それらを使用して行なう侘茶(わびちゃ)の方式を編みだし，これを真の茶法と唱えている。また，茶席の床を飾る花には季節の草花を用い，名も知らぬ花を軽々といけることによって茶花の方式を定め，会席の料理も禅院の懐石をもととして侘び仕立てにくふうし,一汁(じゅう)二菜を常法とした。また，亭主と招客の心づかいが一体となって一座の茶事が建立されるのを，茶道の根本精神とみなした。茶の湯は，元来仏に奉仕する僧侶の業を俗人が学ぶものであるから，亭主は誠心誠意招客をもてなすし，招客もまた亭主の心づくしを受けて立ち，万事につつましく控えめに所作するべきであるが，この心づかいの姿こそが侘びである。また，仏の恵みは万人の心を平等に潤すから，茶の道に富貴卑賤(ひせん)の差別はない。人は，この道を学んで侘びの心境に徹することにより，人間生活の真価を感得して和楽の妙味を享受することができるとした。これが，利休の確立・大成させた茶道の理論である。

【茶道の流派】茶道を大成した利休には，その子の道安(→千道安)・少庵(→千少庵)をはじめとして，大名や町人に門弟が多かった。利休を切腹させた豊臣秀吉も，まもなくこれを後悔し，千家の再興を許可している。道安は細川忠興(ただおき)(三斎)の御茶頭となったが，次男の少庵は千家の茶室不審庵を継ぎ，少庵の子宗旦(そうたん)(→千宗旦)は今日庵を建てて裏千家の基を開いた。宗旦の三男宗左(→千宗左)は不審庵を継いで表千家1世を唱え，四男の宗室(→千宗室)は今日庵を相続して裏千家1世を称した。宗旦の次男宗守(→千宗守)は讃岐(さぬき)(香川県)高松の松平家の御茶頭をつとめていたが，晩年は辞して京都の武者小路に官休庵を建て，これによって武者小路千家1世を唱えた。表千家・裏千家・武者小路千家を合わせて三千家とよぶ。三千家の子孫は，それぞれ，宗左(表千家)・宗室(裏千家)・宗守(武者小路千家)の茶名を世襲し，



秀吉が催した北野の大茶会(1587)《北野大茶湯図》北野天満宮蔵

大藩の御茶頭となって俸禄(ほうろく)を食(は)み，名人千利休直系の家元として栄えた。一方，宗旦は生涯仕官せずに茶禅一味の信念を貫いたが，この門弟には山田宗徧(そうへん)・藤村庸軒・杉木(すぎき)普斎・松尾宗二らの逸材が輩出した。そうして，侘び茶を主旨としたその流儀は，しだいに民間に普及した。これらの千家を上流(かみりゅう)とよぶのに対して，下流(しもりゅう)といわれたのは藪内(やぶのうち)流である。藪内は千家に劣らぬ古い茶家で，利休時代に堺で藪内宗和・道和らが茶事を催していたが，宗巴(そうは)のときに京都に移ったらしい。宗巴の子と思われる紹智(じょうち)が利休に師事したので，藪内家の系図では紹智をもって1世とみなす。

このほか，利休の弟子久田宗栄の流儀を久田流といい，表千家とも深い関係をもった。また，久田流とともに表千家から分かれた茶家に堀内(ほりのうち)流がある。利休の直弟子には堺や博多の町人茶人が多かったが，その子孫は茶家を成すに至らず，今井宗久や津田宗及の子孫も衰えた。利休の門弟の中で異彩を放ったのが古田織部(おりべ)である。織部は，山城(京都府)西岡三万五千石の大名だが，利休の死後に名人と称せられ，徳川秀忠に茶の指南をした。彼は，利休が中世ふうの茶事を大成したのに比べて，近世ふうの茶趣味を確立したといってよい。織部の茶の作意は著しく武人向きであり，かつ桃山時代美術を象徴したものともいえる。織部好みの茶室・茶道具・会席器具などは，そのことを忠実に物語っている。織部の門弟で傑出したのが小堀遠州と本阿弥光悦である。遠州は，徳川幕府の普請奉行(ぶぎょう)として，備中(びっちゅう)(岡山県)松山で一万二千余石を知行した。茶室の建築や作庭にくふうを凝らし，茶道具の好みにも王朝趣味のみやびを加え，中興名物を選定し，茶器の歌銘を確立している。陶芸の方面でも，遠州七窯(ななかま)は世に知られた。彼が徳川家光(いえみつ)を指南した関係から，遠州流は将軍家にも各藩にも著しい勢力をもつことになった。なお，遠州門下では松花堂昭乗と沢庵禅師が名高い。特に，松花堂は作庭に造詣(ぞうけい)が深く，茶道具では八幡(はちまん)名物を制定した。光悦は，楽焼の一種の光悦茶碗で名高く，また，書画の意匠のみやびやかさでも世に知られた。織部門下とも千道安門下ともいわれる金森宗和も，異色ある茶人である。後半生を宮廷に出入りして堂上公家と接した関係から，その好みはみやびやかで，侘びに徹した乞食(こじき)宗旦に対して姫宗和の異称さえあったが，その反面には竹具を自作したりして利休の教えを実行に移している。彼の茶系を宗和流という。また，紹鷗の高弟辻玄哉(つじげんさい)の流れをくむ松尾流は3代めの甚助(じんすけ)が姓を松尾と改めたもので，千宗旦に学んだところから宗旦流の一派ではあるが，家系が古いので別に松尾流を唱えている。

千道安の弟子桑山宗仙に師事した片桐(かたぎり)石州は，大和(やまと)(奈良県)小泉一万六千余石の大名だが，幕府の普請奉行をつとめた関係で，京都にあっては宗和・松花堂・遠州らと交わり，それらの影響を受けながらも石州流と称する一流派を開いた。石州は，徳川家綱の所望によって，船越永景とともに，江戸城で点茶の式を行ない，柳営御物を鑑定し，石州流三百ヶ条を上進し，将軍家茶道の規格を定めた。それ以来，石州流は将軍家の表向きの流儀となり，各藩の大名もまた遠州に次いで石州流を重んずるに至った。しかし，石州は，その反面に，利休のいにしえに復(かえ)ることを理想とし，晩年には侘び・寂の境地の開明に努めている。彼の子孫は代々，柳営茶道の指南役として重きをなしたが，いつしか千家の勢力に圧迫されてやや下火となったのを，8世片桐貞信が千家ふうを加味して新石州を唱えた。石州の門下には逸材が多く，片桐家の家老藤林宗源は石州流宗源派を唱え，江戸品川東海寺高源院の開山怡渓(いけ

い)宗悦は石州流怡溪派を称した。怡溪派で江戸の町に広まったものを江戸怡溪派といい，怡溪に学んだ越後(えちご)(新潟県)新発田(しばた)４代の藩主溝口悠山(みぞぐちゆうざん)が新発田を中心とする越後一帯に広めたものを越後怡溪派という。また，怡溪の高弟伊佐幸琢(いさこうたく)から怡溪派の極意を受けた新発田藩の御茶頭渋谷意斎から会津若松藩松平家の御茶頭江戸幸運を通して森川善兵衛(ぜんべえ)に伝えられたものを会津怡溪派とよんでいる。怡溪の高弟伊佐幸琢は徳川幕府に招かれて数寄屋頭をつとめ，さらに一派を開いたが，これを石州流伊佐派と称する。また，片桐家の家老藤林宗源に学んで石州流の奥義を究めた肥前(長崎県)平戸の藩主松浦鎮信が開いた別派を石州流鎮信派という。なお石州の直弟子で大阪に出て石州流を広めた茶人に大西閑斎があり，彼の流派を石州流大西派とよび，閑斎の門下で出藍(しゅつらん)の誉れのあった大口樵翁(しょうおう)の一派を石州流大口派といい，樵翁に学んで一家をなした仙台藩伊達(だて)家の御茶頭清水道竿(しみずどうかん)(その祖父道閑は古田織部の高弟として知られる)の一派を石州流清水派と称している。また，松浦鎮信について石州流鎮信派の茶道を学び，さらに一派を開いて江戸の町民に茶を教えた野田酔翁の流派を石州流野田派という。なお，石州門下の野村休盛は将軍家の茶の湯指南をつとめ，その流派を石州流野村派というが，同派はその後秋田藩にも伝えられた。さらに，伊佐幸琢の門流から出て石州流不昧(ふまい)派を唱えたのが有名な出雲(いずも)(島根県)松江藩主松平不昧*である。不昧は，茶道評論家として，またその目録《雲州蔵帳》で知られる名物茶器の収集家としても知られた。なお，片桐石州の長男信隆の流れをくんだ石州流茶人井伊宗観直弼(なおすけ)は幕末の大老として名高いが，《茶湯一会集》の名著をもって知られている。また，表千家７世の如心斎宗左の高弟川上不白*が江戸の町に広めたのを江戸千家といい，江戸千家の別派を表千家不白流*という。以上，茶道の各流派は，ほとんど江戸時代に形成され，それぞれ，茶道の発展に貢献した。

【煎茶趣味】抹茶法による茶の湯は，その隆盛発展の反面，茶事の作法や点茶技術などが煩雑化・形式化して，格式の高さを誇示するきらいがあった。そこで，そのような堅苦しさからのがれて，自由な方法で喫茶を楽しもうとする要望が起きた。このような要望を満足させたのが，明(みん)代の文人が愛好した煎茶法である。これは抹茶法とは違って，乾蒸した茶葉を熱湯に入れて煎じ，その出しじるを飲むもので，製法も点茶の手数もすこぶる簡単である。こうした喫茶法は，民間では早くから行なわれていたと思われる。特に，〈山茶の百沸〉など





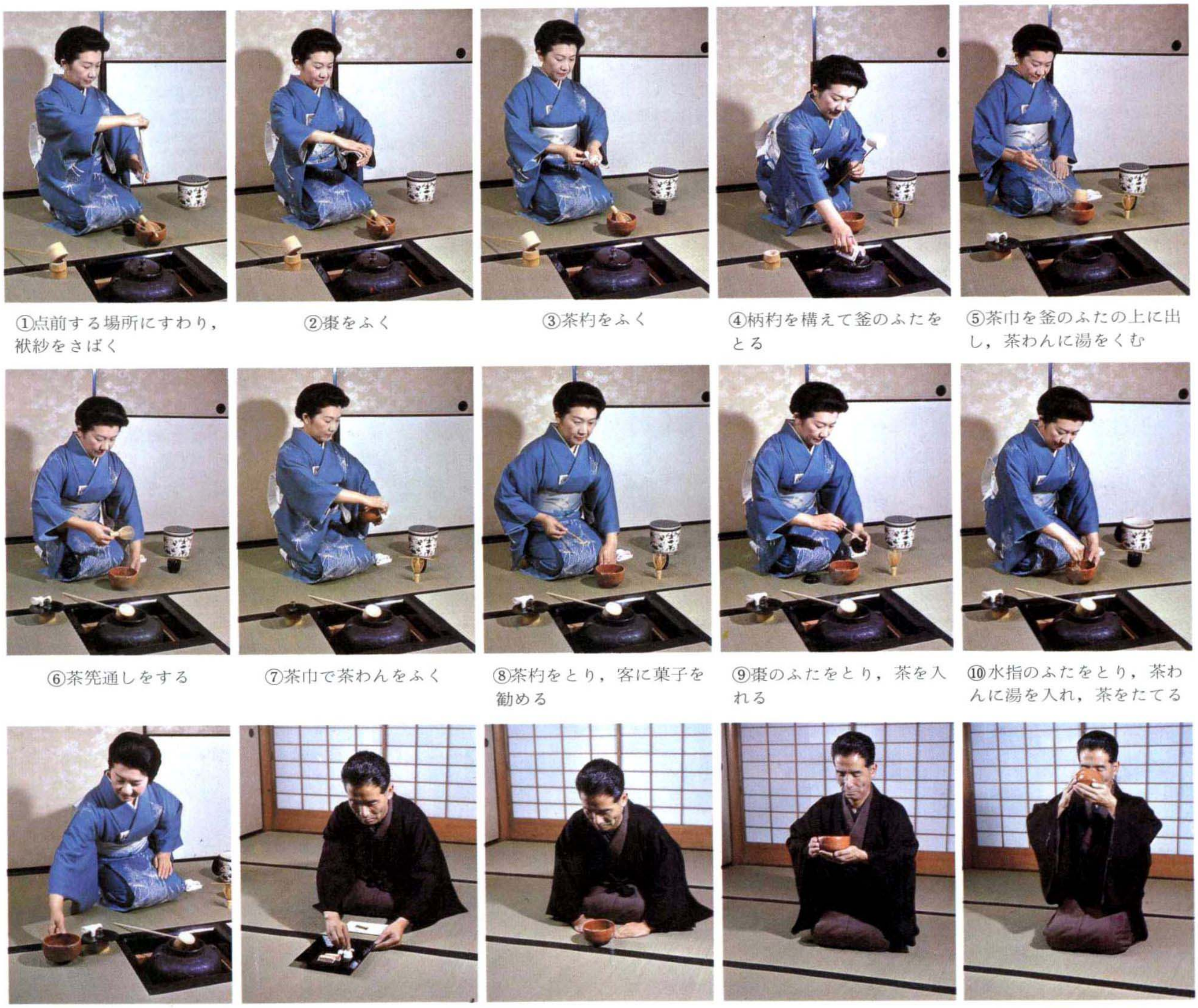
点前用具　①黒茶わん　②色絵茶わん　③茶入れ　④茶入れ仕服　⑤黒棗　⑥茶杓　⑦水指(塗りぶた)　⑧水指(共ぶた)　⑨建水(唐銅)　⑩竹ふた置き(炉用)　⑪茶筅　⑫ふた置き(三つ人形)　⑬柄杓(炉用)

は，これに似た簡便な喫茶法といえよう。

しかし，文人の風流趣味として特に意識的に煎茶法を始めたのは，江戸時代初期の文人石川丈山*であるといわれる。丈山は，比叡山麓(ひえいさんろく)の一乗寺村に詩仙堂を営み，詩友を集めて煎茶を楽しんだというが，その間に明の禅僧隠元*が来朝し，煎茶器をもたらしたので，それを動機として煎茶法が禅院や文人の間に流行した。丈山は，また，東本願寺の枳殻(きこく)邸内に茶席を設けて丸炉の煎茶を行なったといわれるが，まもなくこれを改造して三店(酒店・飯店・茶店)を建て，客を招いて煎茶法による闘茶を催した。その後，平岩仙桂(せんけい)・舫屋(ふなや)一夢・小川信庵らが出て，いずれも三店の茶事を催したが，特に信庵は小川流煎茶式を制定した。次いで，京都東山のあたりに隠逸の半生を送った禅僧元昭*が売茶翁(ばいさおう)１世を称し，〈茶銭は黄金百鎰より半文銭，または呉(く)れずして唯々(ただただ)飲むも勝手，唯よりは負け申さず〉と唱え，売茶の方法によって煎茶を広めた。これは，その昔通円という法師が山城の宇治川のほとりに茶屋を構え，往来の人々に茶を施して結縁(けちえん)したのにまねたものという。売茶翁２世八橋に至って制定された煎茶法式は，上田秋成*・村瀬栲亭らによって大成されたという。煎茶法にはさまざまな趣向が凝らされたが，要は格式にこだわらない自由な気分で主客が一席に会合し，書画を鑑賞し，花をめで，茶味を評し，詩を賦し，茶器や文具を愛し，静かな茶境を楽しむものとされた。煎茶趣味が一般に広まると，特に，淹茶(えんちゃ)法(急須(きゅうす)に入れた葉茶に熱湯を注いでそのしるを飲む方法)が，最も簡便な飲茶法として，日常生活に採用された。その後，格式張った抹茶法は，茶の湯の会合のときだけに限られ，また熱湯の中に葉茶を入れて飲む煎茶法も，改まった煎茶の会合のときだけに用いられることになり，今日に至っている。

【現代の茶道】明治維新の政治が行なわれると，地方諸藩・大名・藩士もなくなり，代わりに華族と士族という無力な身分制だけが残存された。そのため，幕藩に仕えてわずかな知行や俸禄米をもらっていた御茶頭方とか，数寄屋坊主などとかいった茶人が失業してしまった。そこで，彼らはその茶技を活用して，町方の茶匠となって暮らしを立てざるを得なくなり，茶人たちも，従来の格式を捨てて，実力で門弟を集めるほか，手がなくなった。また，明治初年から欧化主義時代にかけては，古来の日本的芸能が軽視され，茶の湯も非常に衰えた。しかし，文明開化が主張されると，茶道の合理主義がある程度認められるようになった。

明治時代に男女同権が大いに主張され，それに伴って，女子が茶の社会に進出してきた。元来，茶道は男性の芸術であり，亭主も正客も男性に限られ，女子は水屋*働きがやっとのことであった。それが今日のように，女性人口がその大部分を占めるようになったのは，やはり明治中期以後のことといってよい。つまり，２度の大戦争のために未亡人がふえたため，彼女らの趣味と教養，または生活手段として，茶の湯を習う人々が多くなってきたのである。また，明治中期から大正時代にかけて，資本主義経済の勃興(ぼっこう)につれて，有力な資本家が多く出現した。彼らは，安土桃山・江戸時代の豪商が，茶の湯をたしなみ，数寄者を気どり，名物道具を収集したのと同じ道を踏んだ。たとえば，朝吹柴庵(さいあん)・平瀬露香・馬越化生・藤田香雪・益田(ますだ)鈍翁・根津青山，昭和になってからは藤原暁雲・小林逸翁・五島慶太・松永(まつなが)耳庵・畠山(はたけやま)一清らが，名器持ちの数寄者として知られている。しかし，以上のような財閥や実業家の財力寄与によって，名物茶器の整備，茶室の設置，茶会の興行などが盛況におもむいたのは事実である。彼らを中心とする茶会には，関西の光悦会，関東の大師会が，世に知られている。なお，明治以降の近代社会にあって，茶道各流派の家元の権威と財政を維持していくために



①点前する場所にすわり，袱紗をさばく　②棗をふく　③茶杓をふく　④柄杓を構えて釜のふたをとる　⑤茶巾を釜のふたの上に出し，茶わんに湯をくむ
⑥茶筅通しをする　⑦茶巾で茶わんをふく　⑧茶杓をとり，客に菓子を勧める　⑨棗のふたをとり，茶を入れる　⑩水指のふたをとり，茶わんに湯を入れ，茶をたてる
⑪茶わんを回して出す　⑫菓子をとる　⑬亭主に一礼する　⑭茶に対して一礼する　⑮茶わんを回して飲む

裏千家の炉・薄茶点前(①〜⑪亭主，⑫〜⑮客)

は，その組織を強化することと，宣伝を巧妙に行ない，多くの門弟を獲得することが，なによりも必要であった。そこで各流の家元は，競って，家元を中心とする同門会・同好会・修練所・研究会などを組織し，その組織力を全国的に拡張することに意を用いた。その会の本部を家元の所在地に置き，地方各都府県に支部を設けた。アメリカ・ハワイなどの海外に支部をつくった家元さえある。また茶会・講習会・講演会などを定期的に開催し，各流家元はそれぞれ機関誌を発行している。これは最もいい意味の宣伝である。これらの機関誌によって，各流家元は，家元を中心とする茶会の情況，修練の模様，点茶の方式，研究の成果などを誌面に写真入りで発表し，家元宣伝の効果を十二分にあげようと努力している。それはさらに，茶の湯入門書や茶書の出版にも及んだ。

なお，第2次世界大戦後の茶道界の現状として注目したいのは，各流派の家元が，戦前のように，女子大学の家政科や女学校だけでなく，戦後に激増した男女共学の各総合大学に進出したことであろう。学生のクラブ活動としての茶道部は，どこの大学にもみられ，そこには必ず，点茶の指導者として，各流の家元から派遣された茶人がいる。また，デパートの茶室や，会館の諸芸けいこ場も，家元の宣伝に役だつどころか，十二分に利用され，効果をあげている。しかし，茶道界に新儀の作意と批判精神が乏しくなったことも事実である。新儀の作意については，1872年(明治5)に京都で万国博覧会が開催されたとき，裏千家8世の家元玄々斎宗室が，外人客の多数来会することを予想し，椅子点前(いすてまえ)を考案し，これを実施したことなど，その好例であろう。また，1898年には，田中仙樵(せんしょう)が裏千家流から独立し，茶道の流派を廃止し，大日本茶道学会を創立している。一方，現今では，茶道界は批判の外に置かれ，家元の御用学者さえ出現し，無批判を当然のこととする傾向が著しい。したがって，無批判状態に安住する茶道界は，その内容において無進歩状態にとどまっているといえなくもない。要するに，現今，茶事・茶会は大盛況を呈しているが，形式化・興行化され，マンネリズムに陥って，茶事の作意に個性と改新性が乏しい。

〈茶事〉 茶の湯を催すこと。茶会の一種。主催者である亭主が招客をもてなす点に変わりはないが，草庵の数寄屋の小座敷で行

なうものを，主として茶事という。大寄せの会などは，茶会とはいえても，茶事とはいえない。茶事には七式あり，暁の茶事，朝の茶事，正午の茶事，夜咄(よばなし)の茶事，不時の茶事，飯後の茶事，跡見の茶事の七つを，茶事七式といっている。暁の茶事は冬の晩のころに催すもので，前日の夕刻に露地に水を打ち，燈籠(とうろう)の用意をし，暁にあらためて火を点ずる。残燈の趣を楽しむところから，残燈の茶事ともいう。朝の茶事は，夏の早朝のすがすがしさを楽しむもの。打ち水を十分にしたり，料理にガラス器を用いたりして，涼感を盛る。正午の茶事は，会席・濃茶・薄茶などを一通り出す昼会。最も多く催される典型的な茶事である。夜咄の茶事は，冬の夜長を楽しむ夜会で，手燭(てしょく)の燭台が席入りや道具拝見にも用意される。不時の茶事は，時刻を定めずに臨時に来訪する客を饗応(きょうおう)するための茶事で，臨事の茶事ともいう。前礼もなく，時分どきならば会席を出す。その場合，席入りののち炭をなおし，菓子を出して中立ちし，濃茶が終わってから会席をし，炭をなおして薄茶に移る。飯後の茶事は，会席を省き，菓子だけで略式に行なう茶事で，菓子の茶事ともいう。今井宗久の作意によるといわれる。跡見の茶事は，朝・正午の茶事のあとで，それに参会できなかった客の希望者に，その趣向，道具の取り合わせなどを見せるため，引き続いて行行なう茶事で，単に跡見ともいう。ただし，夜咄の茶事には跡見を行なわないのを常則とする。跡見の趣旨は，客が遠方へ旅立つ日限が迫っているか，または，用事が繁多で，半日の暇を得られない場合に，茶事に参加できないことを残念に思い，客のほうから跡見を請うのであるから，わずかな時間で茶味を楽しむところに秘訣(ひけつ)がある。主客ともに，その点に注意すべきである。

〈四季の茶事〉茶事に欠くことのできないのは季節の感覚である。四季おりおりの風情(ふぜい)を，床の掛け物や茶花・茶道具・会席料理などに盛り込むことがたいせつであって，それぞれくふうを凝らした茶事が，春夏秋冬を通じて行なわれる。まず，正月は，大福(おおふく)の茶事，初釜(はつがま)の茶事が，若水をくんで催される。7日の正午には七草の茶事が行なわれるが，15日以後に催されるのは春茶事という。正月の床の飾りは，結び柳を用いる。春の茶事には，降雪の正午に行なう雪見の茶事がある。これは，雪の白さを賞美するのを目的とするため，白い茶花や白布類を避けるのを常則とする。梅見の茶事は，梅花をめでる。3月は雛(ひな)祭りの茶事があるし，末日には利休忌の茶事がある。これは，新暦になおしたのである。4月は花見の茶事で，野点*(のだて)で行なうことが多い。夏にはいると，5月には炉を閉じ，風炉を出し，初風炉の茶事を催す。しかし，暑さが加わるにつれて，簀戸(すど)に替えたり，水指(みずさし)を口広のものにしたりくふうする。時刻も暑さを避けて，朝茶事や夕ざりが主となってくる。そのほか，五月雨(さみだれ)の茶事，七夕(たなばた)の茶事，納涼の茶事などが催される。秋風がたつと，旧暦8月十五夜の月見の茶事，秋が深まると，名残(なご)りの茶事がある。名残りは，鉄の破れ風炉を織部焼の敷きがわらに載せ，残花を投げ入れるなどして，侘びしさを味わわせる。11月の亥(い)の日には，開炉といって，炉を開き，口切(くちきり)の茶事が行なわれる。これは，その年の5月に摘んだ新茶の葉を1片ずつ袋に入れ，茶壺(ちゃつぼ)に保管したものの口の封を切り，はじめて葉茶を茶壺から出し，茶臼で挽いて抹茶として使用する茶事である。茶事の正月ともいえる重大な行事であるから，雑煮を出したり，畳を新しくしたりする。年の暮れには，12月1日に北野大献茶祭，大晦日(おおみそか)は除夜釜をかけ，年越しの用意を終えて，静かに新年を待つ歳暮の茶事がある。

【闘茶】4種の抹茶を10服ずつ飲み，茶の本非を判別する遊芸で，亭主がその当否を審判し，勝負を決定する。その方式は次のとおりである。まず，4種の茶にイ・ロ・ハ，および，客の符号をつけ，はじめに，客にイの茶を飲ませ，次に，ロの茶を飲ませ，その次にハの茶を飲ませる。飲んだ客は，このイ・ロ・ハの3種の茶それぞれのかおり・味わい・癖などを，よく覚え込み，これがイ，これがロ，これがハであるということを，明確に表示しておく。次に，亭主はあらためて3服の抹茶を点てて出す。こんどは，イ・ロ・ハのうちで，どの茶が，どういう順序で出てくるかわからない。あるいは，ロが最初に出て，次にハが出て，その次にイが出てくるかもしれない。もしも，ロ・イ・ハが出てくれば，その順序を札に書いて入れておく。次に，またあらためて3服茶が出る。それもまた，どういう順序で出てくるかわからない。それをいちばんはじめに飲んで記憶したイ・ロ・ハの茶の味わいによって判断し，また，札を入れておく。ところが，もう1服，客茶というのが残っていて，これはまだ飲んだことがないので，覚えがない。それが，いままでのロ・ハ・イの中に出てきたり，ハ・ロ・イの中に交じって出される。こうして，都合10服の抹茶を飲む。結局，イ・ロ・ハ・客と，4種の茶を味別し，入札する。亭主は，客が全部を飲み終わり，入札をすませてから，最後に客たちの記名した札を開き，茶の入れ物と照合してその当否を点できめ，比較的多くあたった者を勝ちとする。この闘茶の方式は，利休のときに改革され，茶かぶきといわれたが，また，三重五服の茶合(ちゃあわせ)と称して今日に伝えられ，千家七事式の一つに数えられている。

〈茶道具〉大まかに分類すると，茶席に飾る道具と，点茶に使う道具との二つに分けられる。茶席用具には，掛け物・花入・香炉*・棚物(たなもの)・屏風(びょうぶ)などがある。掛け物は，茶席の床に掛ける軸で，書・画を表装したものである。書には墨跡(禅僧の書)・古筆切(こひつぎれ)(能筆家の書いた和歌の断簡)・画賛物(えさんもの)(絵に漢詩や和歌の賛をつけたもの)・消息(禅僧や茶人の手紙)などがある。絵画には，中国や日本の画家の描いた仏画・山水花鳥・人物画が用いられる。花入は，茶花をいける小形の茶器で，置き花入・掛け花入・つり花入などがある。その材質は金属(古銅)・陶磁器(青磁・伊賀・備前・信楽など)・竹(尺八・一重切・二重切など)がある。花入を置く板を薄板といい，籠(かご)以外の花入に用いる。香炉は香をたく器物で，青磁・染付(そめつけ)などが多い。床の掛け物が仏画や人物などの場合に，花を避けて香合を床に飾ることがある。棚物は点茶道具を飾る台やたなのことである。台子を用いた点前を考案したのは能阿弥で，それをくずして竹の台子を使ったのが，茶道の開祖珠光だったといわれている。その後は，それぞれの茶匠好みの台子・たな・長板・卓(じょく)などが考案された。黒塗りの台子を真の台子といい，竹の四本柱のを竹の台子といい，唐物で二本柱のを及台子という。そのほか，クワや老松(おいまつ)の台子も考案された。台子は，上のたなに茶入と茶碗，下のたなに風炉・釜・水指・柄杓立(ひしゃくたて)などを飾る。台子をくずしたものを，水指だな・卓という。棚物は小間の茶席に使わないのが原則である。屏風は風炉先屏風のことで，風炉の外側を囲うように2枚に折れている。

点茶用の道具には，茶入・薄茶器・茶碗・茶杓・茶筅(ちゃせん)・茶巾・水指・柄杓・蓋置(ふたおき)・建水・盆・鉄瓶(てつびん)・瓶掛(びんかけ)・茶釜・風炉・炉などがある。このうち，茶入は，濃茶を入れる容器で，陶磁器である。象牙(ぞうげ)の蓋をし，名物裂(めいぶつぎれ)の茶入袋(仕服)に入れて飾る。形状には肩衝(かたつき)・文琳(ぶんりん)・茄子(なすび)・大海などがある。薄茶器は，薄茶を入れる容器で，竹・木漆器を主とする。形によって，棗(なつめ)・中次(なかつぎ)・吹雪(ふぶき)寸切(ずんぎり)・薬器・茶桶(さつう)・老松などに分かれる。代表的なのは棗で，これは，ナツメの実の形に似ているからである。黒塗・溜塗(ためぬり)・蒔絵(まきえ)を施したもの，乾漆や紙のものもある。袋(仕服)には入れず，裸で用いるが，濃茶入をもたない侘び茶人が，棗に濃茶を入れて茶事をする場合には，大津袋に入れる。大津袋は利休の後妻宗恩の作意

ちゃどう

によると伝えられる。茶碗は，茶を点てて客にすすめる容器である。抹茶茶碗には，唐物・高麗物・和物・南蛮物がある。唐物には，中国から伝わった天目・青磁・赤絵・染付などがあり，高麗物は朝鮮渡来で，井戸・刷毛目(はけめ)・三島などが知られている。和物は，日本産で，瀬戸焼が最も古い。利休が長次郎にさしずして焼かせた今焼(新焼)茶碗は，2代目の常慶から楽焼茶碗といわれたが，わが国ではじめて茶の湯茶碗として創造されたものである。常慶以後も，道入・了入ら代々の人々，または本阿弥光悦の手作りの光悦茶碗などが世に知られている。和物は，のちに国焼といわれたが，瀬戸のほかに，志野・織部・伊賀・備前・信楽・京焼・萩(はぎ)・唐津・薩摩(さつま)などがある。茶碗の形状は碗形(わんなり)のほかに，筒・半筒・端反(はぞり)・馬だらい・編笠(あみがさ)などである。口造り・高台・見込みに，窯や作者の特徴が表われている。茶杓は，抹茶をすくうさじで，茶匙(さひ)ともいう。茶入と並んで格の高い茶道具である。唐木・銀・象牙・水牛・べっこうなどでつくられたが，茶事の和様化が徹し，草庵の茶の湯が一般化すると，竹の茶杓が普及した。茶人の手作りも多い。茶筅は，茶碗に入れた抹茶をかき回す道具で，竹製に限られる。表千家は煤竹(すすだけ)，裏千家は白竹を使う。茶巾は茶碗をぬぐう布で，点茶の際には，茶碗の中にたたんで入れ，茶筅とともに仕込む。麻の布，奈良ざらしを用いる。水指は，点茶のときに茶釜に水を足したり，茶碗や茶筅を洗ったり，すすいだりするための清水を入れておく容器で，金属・陶磁・木製のがある。利休好みの釣瓶(つるべ)水指は名高い。柄杓は，点茶のとき湯水をくむもの。竹製で，さし通しと月形のとがある。蓋置は，釜の蓋を載せる小器具で，金属・陶磁・木製のもあるが，草庵の茶事には竹の引切(ひききり)を用いる。建水は，湯水を捨てこぼす容器で，水こぼしともいう。金属・陶磁・曲げ物の3種がある。盆は，薄茶を簡単に点てる盆略点前のとき，仕込み茶碗を載せる丸盆である。鉄瓶も，盆略点前で，湯水を入れる小形の鉄瓶。瓶掛は，小形の鉄瓶をかける鉄火ばちのこと。茶釜*は，茶の湯に用いる釜。形態は多様で，真形釜(しんなりがま)を標準とし，ほかに丸釜・四方釜(よほうがま)・筒釜・姥口(うばぐち)・乙御前(おとごぜ)などがある。風炉は，炭火を入れて茶釜をかけておく炉。夏秋の季節に使用する。唐銅・鉄・土などがある。炉は湯を沸かす釜をかける炉で，冬春の季節に使用する。民家で使った大炉から考案したらしい。鉄炉・石炉などがあり，炉縁も，木地・塗り物，蒔絵を施したものなどがある。そのほか，炭道具があり，これには，炭斗(すみとり)・羽箒(はぼうき)・火箸(ひばし)・香合(練り香を入れる容器)，灰器・鐶(かん)・釜敷などが含まれる。なお，水屋道具には，茶巾だらい・水壺・手ぬぐい・雑巾・布巾・箱炭斗・茶通箱などがあり，水屋だなに整頓(せいとん)して置かれている。〔桑田忠親〕

ーリタン革命*当時議会派と戦ったが，国王派の敗北によりフランスにのがれ，クラレンドンに養育された。父の処刑後はチャールズ2世を称し，1651年スコットランドに上陸，国王として迎えられたが，クロムウェル*に敗れ，再びフランスに亡命。プロテクトレート崩壊後，1660年ブレダ宣言を発して帰国し，王政復古を実現した。即位後は国教を再建するなどブレダ宣言に違背し，カトリシズムを奉じて，フランスのルイ14世と屈辱的なドーバーの密約を締結，軍事費を得て新教国オランダとの戦争を約し，2度にわたって戦った。その旧教的専制政治が議会の怒りを招き，議会も審査律・人身保護律によって対抗し，両者の対立は深まって名誉革命の因となった。〔松下京子〕

チャールズたいてい　【チャールズ大帝】
⇨カール1世

チャールストン　［Charleston］　社交ダンスの一。発祥地はアメリカのサウスカロライナ州チャールストン*とされ，1923年に上演された黒人によるレビュー《ランニング-ワイルド》中の曲〈チャールストン〉の歌と踊りで広く知られるようになり，1927年ごろ最も流行した。両ひざを合わせたまま足を左右に交互にはね上げ，シンコペーション*のきいた軽快なテンポに合わせて踊る。

チャールストン　［Charleston］　アメリカ合衆国，サウスカロライナ州，大西洋岸の港湾都市。人口66,900(1970)。1680年創設の都市で，かつては綿花の積み出し港として有名であった。南北戦争の勃発地(ほっぱつち)で，戦争以後はさほど発達していない。石炭・リン鉱石・綿花・タバコ・米などを輸出する。植民時代の建築が残っており，美しい庭園のある場所として知られる。合衆国海軍の基地がある。熱狂的なダンスとして一時流行したチャールストン*は，この町が発祥地とされる。〔相村大彬〕

チャルダシュ　［csárdás］　ハンガリーの舞曲。ゆっくりした導入的部分(ラッス)と速い2拍子または4拍子の主部チャルダシュ(フリスカ)からなる。起源は古い民俗的な舞曲に由来するが，1845～1880年の間社交界で盛んに行なわれたため，リストがピアノ曲をつくるほか，ウィーン-オペレッタの好素材になった。

チャルメラ　オーボエのようなダブル-リードの小形の管楽器。ポルトガル語のチャラメラがなまったものといわれる。日本には中国から伝わり，現在でも中華そば屋が歩きながら吹くほか，歌舞伎(かぶき)の下座音楽で中国ふうの場面や幕末・維新の感じを出すために使われる。

ちゃるめるそう　双子葉植物・ユキノシタ科。山地の湿った水辺やがけなどに自生する多年草。葉はユキノシタに似た楕円(だえん)形で，先端はとがり，縁に鋸歯(きょし)があり，葉や茎に毛がある。5～7月，長さ5～15cmの花茎を伸ばし，暗赤色の五弁花を8～10個穂状につける。果実は蒴果(さくか)で，ほぼ鏡形に裂開し，そのさまを楽器のチャルメラになぞらえた和名である。

チャレンジャー(海淵)　［Challenger］　太平洋西部にあるマリアナ海溝*(かいこう)南西の海淵(かいえん)で，最深10,863m。西に位置するビチアス海淵(11,034m)に次いで，世界で2番めに深い。

チャレンジャーごう　【チャレンジャー号】　イギリスの海洋調査船。ワイビル-タムソンの指揮のもと1872～1876年に世界の海を一周し，海洋における物理学・生物学の調査を行ない，汽船としてはじめて南極海にはいった。2,308トンの木造船である。

ちゃわん　【茶碗】　喫茶のための器。古くは茶垸・茶椀などとも書いた。陶磁器のほか金属器・漆器などがあってその材質は多様であり，それぞれ用いる人々の風俗・習慣によって用に供される様相も異なる。美術品として見るべきものは中国と日本の茶碗であろう。喫茶の伝統の最も古い東洋，とりわけ最も高い文化を誇った中国では，金属器，中でも金器・銀器などが貴紳高官のために供され，陶磁器や漆器は一般衆庶の間に用いられていた。

とりわけ，宋(そう)代には抹茶(まっちゃ)法が大いに隆盛し，それに伴って陶磁器焼製の技術も高揚期を迎えていた時期だけに各種の名碗が生まれたが，建盞*(けんさん)吉州天目(きっしゅうてんもく)に代表される天目*が最も有名である。むろん，白磁・青磁茶碗なども主要な製品であったことは当然である。

ところで，わが国では鎌倉時代に茶の栽培が始まり，喫茶の風習はまず数奇者(すきしゃ)の間に〈闘茶〉という遊戯の形で広まった。この初期の喫茶の風習は中国の流儀にならったものだけに，茶碗はいわゆる唐物(からもの)で占められ，中でも天目・青磁茶碗などが好んで愛玩(あいがん)され，室町時代には瀬戸焼*でも盛んに天目を模倣している。そのためか，以後わが国では茶碗としてはほとんど焼き物が用いられ，桃山期に茶の湯が確立すると，数奇に風流する人々が求めた茶碗は土物であった。当時，朝鮮半島から舶載された高麗(こうらい)茶碗，千利休*が長次郎*を指導して焼かせた楽焼*・美濃(みの)焼*の志野茶碗や瀬戸茶碗，唐津焼の奥高麗茶碗

などに侘(わび)の究極の美が見いだされた。一方，江戸時代に知識人の間で漢学への素養が高められると，文人たちは煎茶(せんちゃ)を好み，その風は江戸後期の文化・文政期(1804～1829)には頂点に達した。そのために特別に煎茶碗とよばれる小形の器が盛んにつくられた。〔矢部良明〕

ちゃわんたけ【茶碗茸】子嚢菌(しのうきん)類・チャワンタケ科・チャワンタケ属の総称。広く各地に発生するきのこで，子実体が成熟時にさら状または茶わん状になるのでこの名がある。子実体は多様性があり，大きさおよび色彩についていろいろあるだけでなく，柄があるものやないもの，外面が平滑であるものや多毛となるものなど，いろいろな種類がある。

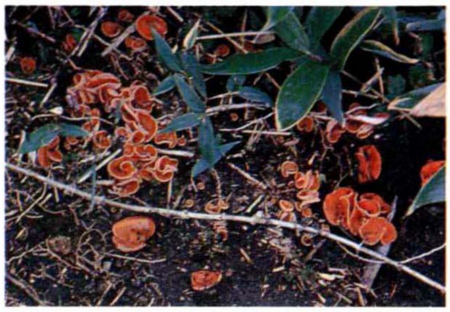
ちゃわんむし【茶碗蒸し】淡泊でうまみの多い材料を茶わんに入れ，卵じるを加えて中火で蒸した料理。蒸しもの料理の代表的な一種。具の材料は鶏肉(しょうゆ洗いする)，白身の魚やエビ(塩を少々する)，ハモ・アナゴ(照り焼きにする)，ユリ根・クリ・ギンナン(ゆでる)・はんぺん・かまぼこなどを使い，青みとしてミツバ・シュンギク・ホウレンソウ・サヤエンドウ・生しいたけなどを用いる。吸い口にはユズの皮や木の芽を添え，紙を敷いた木ざらに載せて熱いのを供する。〔塩川ふみ〕

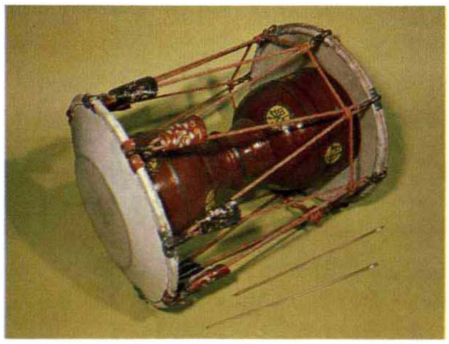
チャング【杖鼓】朝鮮半島全域で広く使われる民俗楽器。砂時計形の胴体の両面に皮を張った膜鳴楽器で，日本の三鼓*(さんのつづみ)とよく似ている。皮の張力はひもで調節することができるようになっている。2面の皮のうち，厚くて大きいほうは奏者から見て左側にあり，左手の手のひらあるいは桴(ばち)で打ち，薄く小さいほうはしなやかな竹の桴ではずみをつけて高らかに奏する。宮廷音楽でも使われるが，最も活用されているのは散調*(さんじょう)や農楽・民謡においてであり，朝鮮音楽に特有の3拍子系のリズムに則したいくつかのリズム型の演奏に不可欠の楽器である。〔山口　修〕

ちゃんこりょうり【ちゃんこ料理】相撲(すもう)社会で行なわれる手料理。〈ちゃんこ〉の名は中国ふうのなべ料理がなまったものといわれ，鏟鍋とも書く。魚肉・鳥獣肉・野菜などを大切りにして大なべで煮たて，酢・しょうゆに薬味を入れたつけづゆで食べる。ちりなべ*と同様のなべ料理で，料理は大ざっぱであるが，材料の自然の味を生かし，栄養的にもすぐれており，一般にも食される。相撲社会では修業中の力士がこの料理当番となる。〔塩川ふみ〕

ちゃんちゃんこ　幼児の着るそでなし綿入れ羽織の異名。ちゃんちゃんともいい，関西ではおでんちという。女児用には，えり肩あきの間に，幅二つ折りした細い布を折りひだをとって縫いつけるなど，洋風を取り入れた点がある。

チャンドラグプタ［Chandragupta］インド，マウリア王朝の創始者(在位BC317?～BC293?)。当時マガダ地方を支配していたナンダ朝の第9代王のダナナンダを殺して，みずからマガダ国王となり，近隣諸国を征服してインド最初の統一国家をつくった。BC305年にセレウコス朝シリアのニカトールがインダス川を渡って攻め入ったが，これを撃退し，かえって有利な条件で講和を取り決め，現在のアフガニスタンの地域をマウリアの領土に加えた。〔小谷仲男〕


チャワンタケ　ベニチャワンタケ


チャング　武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

チャンドラグプタ［Chandragupta］

1（1世）インド，グプタ朝の創始者(在位320～335ごろ)。祖父の代からマガダ地方の小君主であったが，バイシャリの名家から王妃を迎えて勢力を強固にするとともに，領土を拡張し，パータリプトラを首都として，〈諸王中の大王〉を称した。グプタ紀元はその即位年(320)に始まる。

2（2世）インド，グプタ朝の第3代の王(在位375～414)。ビクラマーディティヤ(超日王)の称号をもつ。父サムドラグプタが北インドやデカン高原を征服したのを継いで，西インドの征服を企て，西方との海上貿易で繁栄していたクシャトラパ(シャカ王国)を支配下におさめ，グプタ朝の最盛期を現出した。文化もおおいに栄え，当時の盛況は法顕(ほっけん)の旅行記の中にも描かれている。〔小谷仲男〕

チャンパ［Champā］瞻波・占婆とも書く。インドシナ半島，ベトナム中南部にあったチャム人の国。インドの移住民によって建てられ，文化もヒンズー文化の強い影響下にあった。紀元前2世紀以降，中国の漢に支配されていたが，192年ごろ林邑国を建てて独立した。以後，中国では環王(8世紀中ごろ～9世紀後半)とか，また占城(9世紀後半以後)とよばれたが，現地ではつねにチャンパとよばれていた。この間政治の中心はカン－ナムから南方のパンドゥーランガに移り，その後ドーン-ヨン(唐末～宋(そう)初)に，さらにビジャヤ(宋初～明(みん)中期)に移動した。カンボジアやモンゴルの侵入を撃退しえたチャンパも，ベトナムの執拗(しつよう)な南下に抗しきれず，15世紀後半にビジャヤは陥落して南辺のビン－チュアンに退き，さらに17世紀末，ベトナムに滅ぼされた。

インド文化を基調とし，碑文は多くサンスクリットで記され，チャム語も用いられた。また，紀年はシャカ暦により，ヒンズー諸神，ことにシバ・ビシュヌの信仰や観音(かんのん)・阿弥陀(あみだ)など大乗仏教が盛んで，義浄の記するところでは小乗仏教も行なわれていたらしい。〔船越昭生〕

チャンポン　長崎チャンポンともいう。長崎の名物料理で，九州北部でつくられる。魚介類・水産加工品・豚肉・鶏肉などをいためてスープを加え，チャンポン玉を入れて煮込んだもの。中国の湯麵*(タンミェン)に似る。チャンポン玉は中華そば*を打ってうどんのように太く切り，ゆでてつくる。中国と日本の料理の折衷的なもので，スープは中華だしで調味する。

チューインガム［chewing gum］かみ菓子の一種。6世紀ごろマヤ文明を興したマヤ族は，サポジラ樹に傷をつけてとった乳状樹脂をかむ習慣をもっていたといわれるが，15～16世紀ごろヨーロッパからアメリカに渡った移民がインディアンからこの習慣を受け継ぎ，19世紀末アメリカで企業化されるようになった。その後ヨーロッパ・アジアに広まり，わが国にも大正年間に輸入され，昭和初期には国産品も製造されたが，あまり普及しなかった。しかし第2次世界大戦後，アメリカ人の影響を受けて急速に普及し消費が増大した。製品はチクル(サポジラ*の樹液)または酢酸ビニルなどの合成樹脂を主体とし，これに糖分・ハッカ・香料などを加えて風味をつけたものである。大別すると，板ガム・風船ガム・糖衣ガム・薬用ガムの4種に分けられ，いずれも添加物として着色料・粉末香料・果汁(かじゅう)・酸味料を用い，種々の製品がつくられている。〔泉　敬子〕

ちゅう【柱】弦鳴楽器*の部分名称。チター類では各弦の固定音を決めるために弦の両端をささえている両駒(こま)の間に立てて弦長を規定するためのブリッジで，さらに固定してあって動かせない柱と，箏(そう)の柱(じ)のように曲・演奏者に応じて動かすことのできるものの2種がある。リュート類では，ネックのところで左手の指で弦長を決めるためのフレットに相当する。薩摩琵琶*(さつまびわ)の柱は幅があるためさわり*の効果も出すことができる。

ちゅうあいてんのう 【仲哀天皇】 生没年不詳。日本武尊(やまとたけるのみこと)の皇子。伝によれば，熊襲*(くまそ)征討のため，神功(じんぐう)皇后*とともに筑紫(つくし)(福岡県)に行幸した際，熊襲よりも財宝の豊かな新羅*(しらぎ)を討つべしとの神の託宣にそむいたため，急死したという。陵墓は大阪府藤井寺市の恵我長野(えがのながね)西陵。

ちゅういどこうあつたい 【中緯度高圧帯】 地球上で，緯度30°付近を中心軸にして東西に細長く延び，帯状に地球を取り巻いている高気圧。海上で特に顕著である。この種の高気圧は力学的効果によってできるもので，高さが高い。夏季わが国の天気に影響の大きい小笠原(おがさわら)高気圧はその一部である。

ちゅういん 【中陰】 中有・忌中ともいい，死者の霊魂*が他界入りするまでの喪*の期間をいう。通常49日で，人の死後，7日ごとに供養し，49日を満中陰(中陰明け)というが，35日・50日のところもある。仏教の通俗的学説によれば，生ける者が死の瞬間(死有)から次の世に生をうける瞬間(生有)までの中間の時期(一種の霊魂身)をいう。中陰の期間は日常生活の俗事を慎み，忌みの生活にはいるが，いっさいの労働を禁じたのでは生活にさしつかえがあるので，忌みの観念の薄れるにしたがって慎む期間や慎み方に差が生じた。この期間には地方によっては一般的法要のほかに，葬式を出した夜，講中組内(→講)の者が悔み念仏・釘(くぎ)念仏(→念仏)をしたり，願もどし*のための水かけ着物を北向きに陰干しにしたりする。また，巫女(みこ)に死者の口寄せ*を頼んで肉体と霊魂とを完全に分離させる仏おろしの風習もある。 〔渡辺欣雄〕

ちゅういんこっきょうふんそう 【中印国境紛争】 中国・インド間の国境をめぐる紛争。中国とインドとの間には，伝統的・慣習的な境界線はあったが，正確な国境線はまだ正式に確定されていない。インドはイギリス統治時代のマクマホン-ライン(1914年イギリス・中国・チベットの3代表により画定されたヒマラヤ沿いの国境線)を国境線として継承した旨を主張しているのに対し，中国はこの線を人為線として認めず，歴史的な慣習線の踏襲を主張して対立している。最初の紛争はチベット暴動の数か月後，すなわち1959年10月西部国境における両国軍の衝突である。これに対して，同年11月中国は両国首脳会談を提唱して，1960年4月ニューデリー会談が実現したが，紛争打開の道は開けなかった。以後小康を保ったが，1962年10月インド軍は東部および西部の両地区間で大規模な軍事行動を開始し，中国国境守備隊の反撃にあって大敗した。同年12月中国は圧倒的優位に立ったところで一方的に停戦し，兵力を後退させた。そして，平和会談は開かれなかったものの，事実上の休戦状態が続いた。1967年9月シッキム国境での大規模な武力衝突，また1968年6月の武力衝突を経て現在に至っているが，いまなお緊張関係は続いている。なお，1959年末の武力衝突の際に，ソ連は公然と中国の武力行使を非難してインドを支持したため，中国・ソ連の関係はイデオロギー問題から国家関係にまで広げられ，またインドの背後にはイギリス・アメリカなどが関係し，あるいはネルー*外交の自己矛盾とアジア・アフリカ諸国との関係など，この紛争のひき起こした波紋は小さくない。 〔広部和也〕

ちゅうえい 【虫癭】 虫こぶともいう。植物にこん虫が寄生産卵して，その刺激によって植物のその部分が異常発育をしたもの。アブラムシ・ハチ類などのこん虫が，植物の地上部に寄生して虫癭をつくらせる場合が多く，その刺激によって植物のその部分の細胞分裂を促進し，増殖と分化の異常を起こさせるものと考えられている。虫癭組織にはタンニンを多量に含み，五倍子・没食子(もっしょくし)としてタンニンの製造に利用されている。

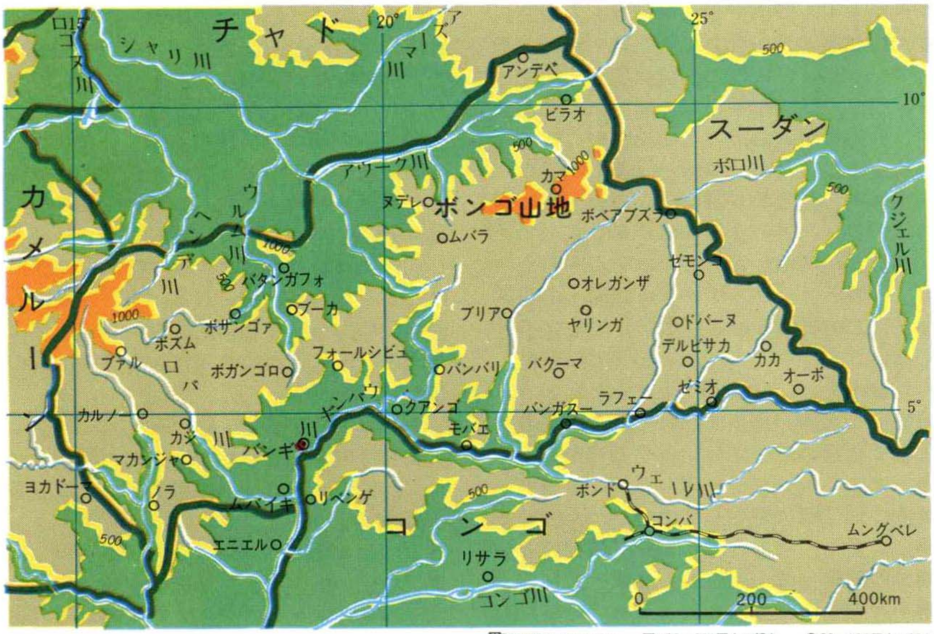
ちゅうおう 【中央(区)】 東京都23特別区の一。東京湾に臨み，北から東へかけては千代田区・墨田区・江東区，南西は港区と接する。1947年(昭和22)日本橋・京橋両区が合併して成立。面積は10.05km²で，23区のうち，台東区に次いで小さく，人口は9万1,000，これも千代田区に次いで少ない。区域は隅田(すみだ)川下流の沖積地(ちゅうせきち)を占め，月島・晴海(はるみ)の埋め立て地によって隅田川の河口を2分している。銀座から京橋と日本橋へかけては，都内随一の商業地帯で，デパートや老舗(しにせ)の専門店が集まって高級商店街を形成している。日本橋の北部には繊維品・紙類などの問屋街が発達している。室町から兜(かぶと)町へかけては日本銀行や東京証券取引所など，日本の金融と株式取引の中枢があり，築地(つきじ)には西本願寺別院・国立がんセンターのほか，中央卸売市場があって，付近に海産物問屋が集まる。歌舞伎座(かぶきざ)・新橋演舞場・明治座などの劇場も多い。月島・佃(つくだ)島は工場・商店・住宅の密集混在地区で，埠頭(ふとう)のある晴海地区には国際貿易センターがある。かつては運河が区域内を縦横に通じていたが，第2次世界大戦後は埋め立てによって，その大半が高速道路・一般道路・地下商店街・ビル用地などに転用された。帝都高速度交通営団および都営の地下鉄が南北方向に平行して数列に走り，営団地下鉄東西線がこれらの路線と日本橋付近で交差する。隅田川の両国・浜町付近の川岸は，〈大川端(おおかわばた)〉とよばれ，江戸以来の情緒がいまも残っており，両国橋・清洲(きよす)橋・永代橋・佃大橋・勝鬨(かちどき)橋など，都民に親しみ深い多くの橋がある。南端の河口付近には旧浜離宮恩賜庭園や水天宮がある。 〔浅井得一〕

ちゅうおう 【紂王】 中国，殷(いん)王朝最後の君主。帝辛。名は受。体力と知力はすぐれていたが，美女の妲己(だっき)を寵愛(ちょうあい)し，酒池肉林の遊びにふけり，炮烙(ほうらく)の刑などで民衆を苦しめたため，夏の桀王(けつおう)と並んで悪王の代表とされる。甲骨資料によれば，帝辛の時期に殷の祖先祭祀(さいし)の制度は最も完備し，必ずしも古典にしるされたような悪行ばかりではなかったことが知られる。東方の異民族の征伐に力を注ぐ間に，西方から攻め込んだ周の武王の軍に敗れ死に，殷王朝は滅亡した。

ちゅうおうアジア 【中央アジア】 アジア大陸の内陸部をさすが，広義には西はカスピ海沿岸から東は中国東北区の大興安嶺*(だいこうあんれい)山脈までをいい，トルキスタン*とよばれる地域とモンゴル人民共和国，および中国のチベット自治区を含み，狭義にはトルキスタンだけをさす。広義のそれは北にアルタイ山脈，南にヒマラヤ山脈があり，内部にはモンゴル高原・天山山脈・タリム盆地・崑崙(こんろん)山脈・チベット高原・パミール高原などがあって錯雑した地形を示し，気候的にはゴビ・タクラマカンなどの砂漠(さばく)のある乾燥地帯である。ここは，古くから遊牧民の活躍舞台で，またシルクロード*をはじめ，東西交通の要路にもあたり，歴史的には西域*に相当する。サマルカンド・カシュガル・ホータンなどの歴史的なこの地域の中心都市は，すべてオアシスに根拠を置いている。 〔浅井得一〕

ちゅうおうアジアおんがく 【中央アジア音楽】 中央アジアは多様な民族音楽を保持するが，現在ほとんどがソ連領内にあり，社会主義的統一の動きに沿って音楽もまた画一化されつつある。一般にアラブ音楽(特にペルシア音楽)の影響が濃く，そのために微小音が特に好まれるが，それも十二平均律*のわくに押し込まれている。アラブ系の音楽の影響は楽器によく表われている。縦笛(ナイ)・オーボエ(ズルナ)・タンブリン(ドイラ)・太鼓(ナゴラ)・撥弦(はつげん)リュート系楽器(ドタール・コムーズ・ドンブラ)などである。レパートリーには，短い民謡や舞踊音楽のほかに，長大な叙事詩による語り物音楽が含まれる。音楽理論はペルシア音楽の影響で比較的まとまった面もあるし，歴史的に記譜された音楽もある。
➔アラビア音楽 〔山口 修〕

ちゅうおうアフリカ 【中央アフリカ(共和国)】［Central Afrіcan Republic, République Centrafricaine］ アフリカ大陸中部，コンゴ盆地の北方にある共和国。フランスの植民地から1960年に独立した。ウバンギシャリという植民地時代の名でよばれることもある。面積62万2,984km²，人口261万(1974年推)。首都バンギ。
【自然・住民】地形は，標高1,000m前後の低い高原で，北方のチャド，南方のコンゴ

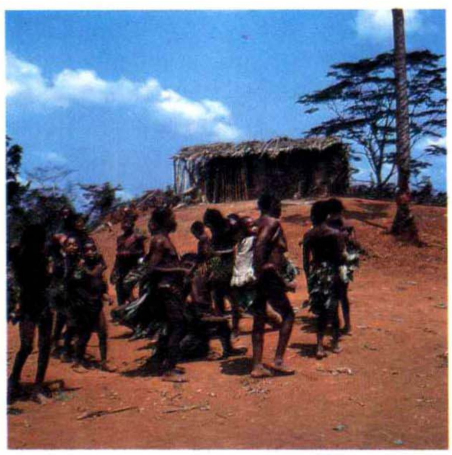


中央アフリカ

300万人以上の都市　回 100～300万人の都市　◎ 50～100万人の都市　◎ 10～50万人の都市　◉ 5～10万人の都市　○ 5万人未満の都市　● 首府　井 油田



中央アフリカの国旗　1958年制定。星は黒人アフリカの社会革命，赤は第２次世界大戦で流された血を表わす。その他の４色は，現在のチャド(白)・ガボン(緑)・コンゴ人民共和国(青)・中央アフリカ(黄)が，かつてフランス領赤道アフリカとして一つであったことから，それらの統一を願う気持ちを表わしている



中央アフリカ　太鼓に合わせて踊る村人たち(ピグミーダンス)。背後に草ぶきの簡素な家屋が見える。南西部のムバイキ地方の村

盆地にそれぞれ下がっており，ウバンギ川とシャリ川の分水界をなしている。北方は乾燥気候で，高原中部はサバナをなし，雨量は南部を除いてあまり多くない。古来この地域は民族移動の通路にあたり，住民はスーダン系ニグロをはじめ多様である。住民の60％近くは原始宗教を信じ，キリスト教徒は35％，ほかに回教徒(５％)がいる。公用語はフランス語。

【産業・経済】主産業は農業で，綿・ラッカセイ・コーヒーの産があり，輸出している。このほか，イネ・サイザルアサ・ゴムノキなども栽培している。鉱産では，金とダイヤモンドが開発され，このうちダイヤモンドは輸出されているが，その産出も1955年前後から減少している。国土の全体的な開発はまだ途上にあり，経済的にも苦しく，フランスの援助にたよっている。鉄道は一本もないが，道路はよく整備されており，特に西部で発達している。

【歴史・政治】19世紀末にフランスが進出してフランス領となり，1910年，チャド地方・ガボン・コンゴ(現コンゴ人民共和国)とともにフランス領赤道アフリカに編入された。第２次世界大戦後独立運動が活発化し，1958年フランス共同体内の自治共和国となり，1960年８月13日に独立，国連にも加盟した。独立後の政策もフランスと協調路線をとっている。政体は大統領制で任期は５年。定員50人の一院制立法議会によって国政を運営している。政府は隣接の旧フランス領から独立した諸国と密接な経済的連携を進め，関税協定を結んでいる。なお1970年，ソ連との経済・技術協定に調印している。〔小栗　宏〕

ちゅうおうアメリカ　【中央アメリカ】北アメリカの南部，グアテマラからパナマまでの狭長な部分をいう。グアテマラ・エルサルバドル・ホンジュラス・ニカラグア・コスタリカ・パナマの６国と，イギリス領ホンジュラスを含む。

古くはアステカ・マヤ文明の支配下にあったが，コロンブスの第４回航海(1502～1504)で発見されてから，約300年にわたってスペインの植民地となっていた。1823年にパナマを除く５州が中央アメリカ連邦を成立させたが，1838年にホンジュラスなどが離脱したため解体し，それぞれ独立共和国となった。しかし，政治・経済ともに安定しておらず，各国ともアメリカ経済に依存する度合いが強い。〔浅井得一〕

ちゅうおうおろしうりしじょう　【中央卸売市場】1923年(大正12)制定の中央卸売市場法に基づき設置された魚類・肉類・野菜・果実など生鮮食料品の中枢的配給機関。開設地は人口15万人以上の都市およびその隣接地で，設立者は地方公共団体に限られ，個人あるいは営利を目的とする法人はその資格がない。中央卸売市場は，卸売人・仲買人・買い出し人の３者で構成されている。卸売人は，出荷者の委託商品をせり売りなどの方法で仲買人に販売する。仲買人は，卸売人から買い取った商品を買い出し人に再販売するために市場内で展示する。買い出し人は小売業者のほかに，料理店・施設・病院などの大口需要者からなる。中央卸売市場設置のねらいは，取扱商品が腐敗しやすいという性質に由来して売買取引の迅速化，価格公定機関の設置による価格変動の抑制，衛生的商品の取り扱いなどにある。〔清水　晶〕

ちゅうおうきょういくしんぎかい　【中央教育審議会】略称は中教審。文部大臣の諮問に応じて教育・学術・文化に関する基本的な重要施策を調査審議し，答申する機関。1952年(昭和27)に設置された。この審議会の設置を建議した教育刷新委員会(教育刷新審議会)が，単に総理大臣へ答申するだけでなく自主的に重要問題を審議し建議したのに比べて，受け身の答申機関であるところに両者の質的な差異がある。委員は内閣の承認を得て文相が任命，臨時委員・専門委員を置くことができる。〔赤司政雄〕

ちゅうおうぎんこう　【中央銀行】一国の金融機関のうち中心的な位置にある金融機関。これにはイギリスのイングランド銀行*，フランスのフランス銀行，西ドイツのドイツ連邦銀行，アメリカの連邦準備銀行(FRB)，わが国の日本銀行などがある。そのおもな機能としては次の四つに分かれる。①発券銀行としての機能：かつては多くの民間の銀行が銀行券を発行していたが，しだいに銀行券発行の集中が行なわれ，中央銀行が発行権を独占するようになった。銀行制度の発達とともに通貨のうち，預金通貨(当座預金)の創設は民間の商業銀行が行なうようになったが，中央銀行はなお現金通貨(銀行券および鋳貨)を発行することに

よって，金融全体を統制する機能をもつ。この点での中央銀行の役割は通貨の供給と通貨の調節にあるといえる。②銀行の銀行としての機能：中央銀行は市中銀行に対して手形の再割引などの貸し付けによって市中銀行の資金の過不足を調整し，また市中銀行の支払い準備金の受け入れや，手形交換じりの振替決済を行なうことによって市中銀行と密接な関係をもっている。③政府の銀行としての機能：国庫金の収納・支出・保管を行ない，また公債の発行，償還事務を代行することによって政府と密接な関係をもつ。初期の中央銀行の多くは政府の財政をまかなうことによって，発券銀行としての独占的な地位を与えられたのであった。④その他の業務についての機能：外国為替(かわせ)の集中決済と管理，外国との金融協定，金融政策による統制などである。中央銀行は一国の金融政策の中心的立場に立ち，公共性を守る必要から国立になっているものもあるが，金融政策は財政政策と異なる任務をもつために，その独自性を守る必要もあり，国立でない中央銀行も数多く存在する。➔金融　➔日本銀行　〔速水　保〕

ちゅうおうこうぞうせん　【中央構造線】 西南日本を縦断して走る大断層。中央線・中央変位線・大中央裂線などともいう。西南日本は，これによって内帯(北側)と外帯(南側)とに分けられている。糸魚川(いといがわ)-静岡構造線の西側，諏訪湖(すわこ)(長野県)の東側に発し，高遠(長野県)・和田(長野県)を経て天龍(てんりゅう)川を横切り，豊川の溪谷(けいこく)に沿って伊勢(いせ)湾を横切り，紀伊半島・四国を縦断して佐賀関半島に及び，八代(やつしろ)(熊本県)方向に向かっている。生成時期については関係のある多くの地質現象を通じて数多くの研究がなされている。初期の断層は中生代初期から白亜紀後半までの間に生じたと考えられているが，以後洪積(こうせき)世に至る間にくり返して規模の違う運動が初期のものとほぼ平行して，近い地域に起こったことが確認されている。➔構造線(図)　〔平山　健〕

ちゅうおうこうち　【中央高地】 本州中央部の飛騨(ひだ)山脈・木曾(きそ)山脈・赤石山脈・関東山地・飛騨山地などの山地群を含む地域の総称。〈日本の屋根〉を形成する壮年期の険しい山地で占められ，地体構造上でもフォッサマグナが中央部を縦断し，中央構造線もここから南西に延びている。山地の間には標高の高い多くの盆地群をはさみ，また富士・乗鞍(のりくら)・白山の諸火山帯の火山が噴出し，わが国最高峰の富士山を始め，非火山性の山も含めて，3,000mをこえる高峰はすべてここに集中している。白山・中部山岳・南アルプス・富士箱根伊豆(いず)・上信越高原・秩父(ちちぶ)多摩など多くの国立公園がある。　〔高野　繁〕

ちゅうおうこうろん　【中央公論】 中央公論社発行の月刊総合雑誌。1887年(明治20)8月，京都西本願寺の有志がキリスト教に反発して起こした仏教運動の機関誌《反省会雑誌》が前身。1897年その発行所を東京に移転し，1899年1月より《中央公論》と誌名を変更。東京進出後しだいに宗教色を脱皮し，政治・経済・社会にわたる総合雑誌として成長し，大正デモクラシー期には滝田樗陰(ちょいん)編集長のもとに吉野(よしの)作造の民本主義を鼓吹した。第2次世界大戦中の一時期，軍部の弾圧によって廃刊となったが，1946年(昭和21)復活し，今日に至っている。　〔前納弘武〕

ちゅうおうじどうしゃどう　【中央自動車道】 国土開発縦貫自動車道の一部で，東京から甲府・飯田(いいだ)・小牧・米原・京都を通って吹田に至る高速自動車国道。この路線中吹田と小牧間はふつう名神高速道路とよばれている。また，東京と富士吉田(ふじよしだ)間は，中央高速道路という。この自動車道の八王子と小牧間は特に地形が急峻(きゅうしゅん)で，気象条件もきびしく，高速道路の設計・施工上の問題のある箇所が多い。

ちゅうおうしゅうけん　【中央集権】 国家権力を中央に集中させる組織原理。地方分権に対立する。政治のほかの諸分野でも，社会生活上の諸関係における権力が一点に集中しているとき，しばしば中央集権の語が用いられる。実現された中央集権を維持する体制として，統治者を頂点とするヒエラルキーを築き上げ，整然たる官制・全国行政組織が編成される。わが国の政治史では，古代の律令(りつりょう)制国家，明治時代の絶対主義的国家体制などのようにつねに天皇制とともに顕現される。すべての行政権が天皇の大権に属し，天皇が統治権の総攬(そうらん)者として地方行政はすべて国家事務としてかたづけられた。日本国憲法ではこのような弊害を除去し，地方分権をたてまえとしている。　〔原田政洸〕

ちゅうおうじょうやくきこう　【中央条約機構】 Central Treaty Organization の訳。略称セントー(CENTO)。イギリス・トルコ・イラン・パキスタンの4か国で結成されている軍事同盟条約。1955年2月のトルコ・イラク相互防衛条約と，1954年4月のトルコ・パキスタン協定を中核とし，これにイギリス・イランが加わって構成されるバグダット条約機構が前身。1958年7月イラクに革命が起こって1959年3月脱退したため，本部をバグダットからアンカラに移し，1959年8月現名称に改めた。中央の名称は，NATOとSEATOの中央に位するところからとられた。正式加盟国は上記4か国であるが，アメリカは政治を除く3委員会に参加し，理事会にもオブザーバーを送って積極的な役割を果たしている。最高機関は加盟国閣僚で構成される理事会，その下に政治・経済・軍事・破壊活動防止対策の4委員会がある。　〔広部和也〕

ちゅうおうだいがく　【中央大学】 私立大学。1885年(明治18)設立の英吉利(イギリス)法律学校が1889年東京法学院となり，次いで1903年大学部・予科・専門部を設置した東京法学院大学となる。さらに1905年経済学部を設置し，中央大学と改称。1920年(大正9)大学令による大学となり大学院を設けた。1949年(昭和24)学制改革により新制大学となる。現在，法・経済・商・理工・文学の各学部があり，大学院・通信教育部・専攻科もある。実証的な学風で知られ，法曹界(ほうそうかい)に多くの人材を送り出した。本部は東京都千代田区神田駿河台(するがだい)。

ちゅうおうち　【中央値】 ⇨代表値

ちゅうおうとう　【中央党】 1870年，西南ドイツのカトリック勢力を背景に結成されたドイツの政党。反プロイセン的立場に立ち，ビスマルクの文化闘争に対して強く抵抗したが，のちビスマルクと妥協し，保守的な中間政党となった。ワイマール共和国の時代にはワイマール連合派に属し，1933年にナチス政権の弾圧を受けて解散させられた。現在のキリスト教民主同盟は同党右派の流れをくんでいる。

ちゅうおうほんせん　【中央本線】 東京～塩尻(しおじり)～名古屋間の国鉄路線で，営業キロ数412.9，ほかに支線12.7kmがある。1889年(明治22)に新宿～八王子間が開通し，1919年(大正8)に全線開業。中央日本を横断する幹線鉄道で，沿線には八王子・甲府・上諏訪(かみすわ)・木曾(きそ)・福島・多治見などの都市がある。塩尻を境として列車運転が分割され，篠ノ井(しののい)線経由で長野・松本方面行きが東は新宿，西は名古屋から運転されていて，塩尻以東を中央東線，以西を中央西線と通称している。東京～塩尻間および名古屋～中津川間が電化(直流)されている。　〔青木栄一〕

ちゅうおうろうどういいんかい　【中央労働委員会】 労働関係をめぐる紛争処理を担当する労働委員会の一。略称中労委。労働大臣の所轄に属し労働省の外局。東京に置かれている。委員はすべて国家公務員で，使用者委員・労働者委員・公益委員各7名計21名で組織される。労・使各委員は，それぞれの所属団体の推薦により，また公益委員は労使委員の同意を経て労働大臣が任命する。会長は公益委員の中から選出される。公益委員は，そのうちの3人以上を同一の政党に属する者から任命することはできない。任期は1年，ただし再任することができる。全国的な事件および二つ以上の都道府県にまたがる事件の斡旋(あっせん)・調停・仲裁について管轄権をもち，労働関係事件の裁決については地方労働委員会(地労委)に対して上級審査機関の立場にある。　〔黒瀬信子〕

ちゅうかい　【仲介】 国際法上，国際紛争の平和的処理方法の一。周旋より一歩進み，第三国が国際紛争解決のため，その内

容に立ち入って当事国の主張の調整を図り，また場合によってはみずから紛争解決案を提示するなどして和解を促進することで，居中調停ともいわれる。

ちゅうがいしんぶん【中外新聞】 1868年(慶応4)2月24日江戸で会訳社の指導者柳河春三(やながわしゅんぞう)によって創刊された佐幕派の新聞。半紙二つ折り5～6枚の小冊子で，木活字で印刷され，外字新聞からの抄訳と国内記事を掲載していたが，官軍の江戸入城とともに同年6月第45号で発行禁止となった。1869年(明治2)3月明治政府の許可を受けて復刊したが，柳河が病死したため翌年2月第41号で廃刊となった。

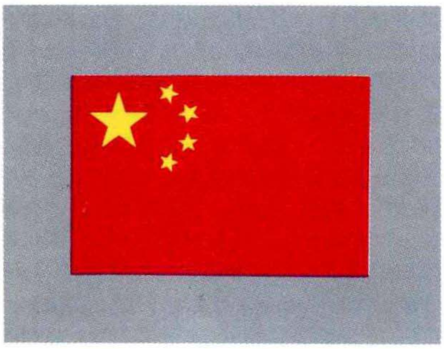
ちゅうかいぼうえき【仲介貿易】 ⇨仲継ぎ貿易

ちゅうかじんみんきょうわこく【中華人民共和国】 1949年，中国共産党*の指導のもとに建国された国家。面積959万6,961km^2，人口9億8,255万(1980)。首都は北京(ペキン)。労働者階級の指導する労農同盟を基礎としたいわゆる〈新民主主義国家〉の段階を経て，最近では〈プロレタリア階級が独裁する社会主義国家〉と規定されている。

【建国後の経過】1945年8月の抗日戦争勝利ののち，国民政府*との同盟が決裂して内戦にはいると，土地改革を積極的に推進し，3年半に及ぶ内戦のすえ，国民政府を大陸から追い出した。1949年10月1日，毛沢東*を主席とする中華人民共和国政府の成立が宣言された。民主諸党派や団体とともに人民政治協商会議という統一戦線が全国組織として存在し，1953年には第1次5か年計画を発表した。以後多くの私営商工業は公私合営となり，広範な土地改革によって農村の90%以上が農業合作社に参加した。さらに1950年夏ごろから農村の行政・経済・軍事・文化を一体化した人民公社*の建設へと進み，この組織は農村だけでなく，都市や商工業分野にまで急速に広がった。

【第2次五か年計画と中ソ対立】1958年に始まる第2次五か年計画の結果，工業生産が3年間に40%も増加するといういわゆる大躍進を遂げた。しかし，この工業の発展は工業部門の平衡的発展に大きなひずみをひき起こし，また生産品の品質にも問題が生じた。しかも，1959～1961年には連続して自然災害に見舞われ，食糧・工業原料が不足してきたため，人民公社に対して懐疑的態度をとる者も現われた。このころソ連共産党指導部は全面的にスターリン主義を否定したが，中国は，1958年5月に〈社会主義建設の総路線〉を打ち出して，ソ連に対する具体的批判を示しはじめた。1959年に米ソが接近しはじめると，〈ソ連修正主義〉という批判を展開し，また1960年7月には自然災害に悩む中国からソ連技術専門家が引き揚げるなど，中ソの対立はエスカレートした。

【文化大革命】1961年から，中国は大躍進



中華人民共和国　1949年制定。五星紅旗とよばれ，大きな星は新憲法を採択した人民政治協商会議の共同綱領，四つの小さな星は社会主義国家の建設に必要な労働者・農民・知識階級・愛国的資本家を表わすと説明されている

の失敗，農業災害，ソ連の援助停止などによる危機から脱出することに努力を傾け，また1963年ごろには〈自力更生〉の努力とあいまって経済情勢は一時好転した。しかし，1966年からの第3次五か年計画の開始にあたって，国内の政治的対立が表面化し，いわゆる文化大革命が起こった。その結果，劉少奇*(りゅうしょうき)国家主席らが〈実権派〉として粛清された。1969年ごろには，毛沢東主席の指導権が再確立され，国家の規定も〈プロレタリア階級の独裁する社会主義国家〉となった。しかし，今後も指導権や統治機構は流動的な様相をおびている。

【国際関係】対外関係では，①社会主義国家間の団結・協力，②平和五原則に基づく社会制度の異なる国との平和共存，③被圧迫人民・民族の革命闘争の支持を基本方針とする。さらに，アメリカ帝国主義・ソ連修正主義の粉砕をも基本路線に組み入れ，1969年3～4月にはついにソ連と国境線で軍事衝突を惹起(じゃっき)している。インドシナにおける反米民族解放闘争は一貫して強く支援しており，日本における軍国主義復活も強く警戒している。なお，日本共産党とも激しく対立している。このような中で，1970年秋にカナダ・イタリアが中国を承認したのに続いて，中国と友好関係を結ぶ国が激増した。中国の国連加盟については，早くから，ソ連・インド・カナダなどが尽力していたが，1963年以降はイデオロギー的立場を同じくするアルバニアによって〈中国招請，国民政府追放〉の提案がなされてきた。これに対して，アメリカ・日本などは，いわゆる重要事項指定方式によって，実質的に中国の国連加盟をはばんできた。しかしついに，1971年秋，中国の国連加盟，中華民国の国連追放が実現し，中国はいまや国連安全保障理事会に拒否権をもつ常任理事国として，重大な責任を負うに至った。➔中国　〔船越昭生〕

ちゅうかぜんこくそうこうかい【中華全国総工会】 中華人民共和国の，労働組合の全国組織。教育工会すなわち教職員組合を含む27の産業別・単位組合がすべて総工会に組織され，総工会の指導を受ける。社会主義国家の労働組合は，基本的に労・資の対立抗争はないわけであるから，その全国組織である総工会は，第1に組合員の福祉向上を図り，第2に共産主義思想の学習の指導機関であることをたてまえとしてきた。文化大革命の中で，総工会は劉少奇(りゅうしょうき)の階級闘争否定論の拠点となった，と批判され，現在，総工会の徹底的な再編成，もしくは総工会に代わる新しい形態が検討されている。　〔斎藤秋男〕

ちゅうかそば【中華そば】 日本そばの形につくった中国麺(めん)。本来は点心*の一種であるが，日本人の軽食として愛好される。麺は，強力粉*または中力粉に水または卵を加え，塩と梘水(かんすい)(炭酸カリ・炭酸ソーダ・リン酸ソーダ・リン酸カリなどを含む水)を加えてよくこね，粘弾性と伸展性の生ずるのを待ってから薄く伸ばして，そば状につくる。調理法によって，湯麺(タンミェン)，油でいためて野菜・肉を載せる炒麺(チャオミェン)，冷やして酢油で味つけする涼拌麺(リャンパンミェン)がある。また，使用材料・調味料の変化によって，炸醬麺(チャーチャンミェン)・叉焼麺(チャーシャオミェン)・伊府麺(イーフーミェン)・什景(シーチン)炒麺など多くの種類がある。

わが国でいうラーメンは中国麺の種類にはなく，中国麺を日本人好みの味につくり変えたもので，語源は拉麵・柳麺・老麺などとされるが，定かではない。なおインスタント(即席)ラーメンも日本でつくられたもので，蒸した中華そばを油で揚げて密包してつくる。調味は揚げるまえにそばに吹きつけたものと，別に粉末にしたものとがある。長期保存すると油が分解するので，注意が必要である。　〔曾根喜和子〕

ちゅうがた【中形】 現在，一般的には，単衣(ひとえ)または浴衣(ゆかた)に用いられる染生地(そめきじ)の総称。本来は大紋とか小紋に対して，中柄の文様の意味で，型紙の大きさに基づいた呼称であった。したがって，それは浴衣の専用ではなく，江戸時代には使用人の木綿(もめん)のお仕着せなどにも使われていた。つまり中形は柄も比較的大きく，しかも量産のできる型染*であるという点で，大量的な染め物として庶民に親しまれていたのであって，浴衣もその一部であった。この浴衣の中形は，1反の木綿生地を約4.2mの長いまっすぐな板の両面にぴったりと張りつけ，それに型紙を使って糊(のり)置きをするところから長板中形とよばれてきた。この長板中形が小紋など他の型染と異なるのは型付けを片面だけでなく，糊がかわいたのち，生地を裏返しにして再び板に張り，表の文様にきっちり合わせて型付けをする両面糊置きであるという点である。これは，表裏両面に糊を置くことによって，文様や地の白場をまっ白に上げるためであり，表裏いずれの面も使えるという理由で

あった。また，染に藍(あい)が主体となったのは，藍が天然染料の中では最も堅牢(けんろう)であり，浴後の汗取りという目的で出発した浴衣には最も条件にかなっていたからである。さらに，白と藍という配色の清涼感も夏の衣料にははなはだふさわしいものであった。中形が後世浴衣の代名詞のようになったのは，以上のような点で，それが浴衣染の主流をなしてきたからであり，中形の技術的な特色は両面糊置きによる本藍染ということができる。長板中形は1894年(明治27)ごろから合成染料の普及によって，防染した布帛(ふはく)に合成染料のインディゴを注ぎかけて染める注染(つぎぞめ)または注込染の方法がくふうされた結果，しだいに衰微し，現在では無形文化財に指定され技術保存の処置がとられている。しかし，注染による浴衣も，手ぬぐいの長さの型紙を使って染めるために手拭(てぬぐい)中形(手中)，あるいは生地を折りたたみながら型付けをするところから折付中形(折中)などともよばれ，中形の名をとどめてきた。

〔北村哲郎〕

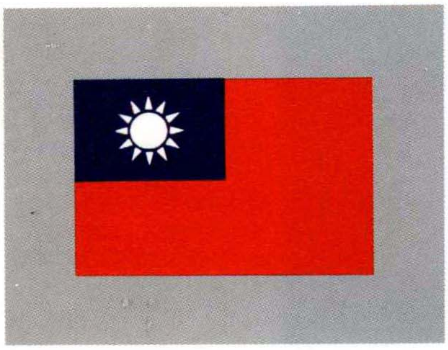
ちゅうがっこう【中学校】 6年制の小学校に接続する3年制の義務就学，男女共学の学校。1947年(昭和22)公布の学校教育法に基づき，6・3・3・4制(→六三制)の学校体系の一環として設置された。わが国では，第2次世界大戦前にも，中学校(義務教育修了者中のおよそ15%程度が進学)の名称を冠する学校が存在した。これは，戦後の新制中学校に対して旧制中学校とよばれている。1899年(明治32)公布の中学校令は，従来の尋常中学校制を改正し，中学校の設置を定めた。この中学校は，業年限5年であり，高等普通教育を施すことを目的としていた。以後40数年間，中学校は，おおむね旧制の高等学校・専門学校など上級学校進学への一段階として，エリート養成という役割を果たしてきた。戦後，この旧制中学校に代わって発展した新制中学校は，〈小学校における教育の基礎の上に，心身の発達に応じて，中等普通教育を施す〉(学校教育法第35条)ことに目的を置き，すべての国民の子弟に等しく開放されるに至った。中学校は市町村によって設置され，校長・教諭・助教諭・養護教諭および事務職員を配する。教員の給与は都道府県が負担し，半額は国庫でまかなうことになっている。現行の教育課程は教科(必修教科・選択教科)・道徳・特別活動によって編成される。必修教科は国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭の8教科であり，選択教科は外国語・農業・工業，商業・水産・家庭その他などからなっている。特別活動は生徒活動(生徒会・クラブ・学級会)，学級指導，学校行事を含む。

中学校発足後25年余にして，依然中等教育の非一貫性，不足がちな校舎や貧弱な設備，学校間の格差，差別教育の実施，非行生徒の増大など問題が山積している。なお，1977年には，中学校卒業者の高校進学率は，93%に達した。また，現在，中学校不就学者・義務教育未修了者などのために，全国で約20校の夜間中学校が開設されている。

〔佐藤豊子〕

ちゅうかまんじゅう【中華饅頭】 ⇨包子(パオツ)

ちゅうかみんこく【中華民国】 清朝(しんちょう)滅亡(1911)後，中国に成立した共和国。第2次世界大戦後は，中国共産党との国内戦争に敗れ，現在台湾と付近の諸島を支配している。政体は行政・司法・立法・監察の四権分立で，その上に総統の蔣経国(しょうけいこく)をいただく共和政体である。面積3万5,961km²，人口1,754万。首都は台北。



中華民国の国旗 1917年制定。青天白日満地紅旗または青天白日旗とよばれる。孫文の考案により，青は正義と民権主義，白は兄弟愛・正直と民主主義，赤は自由・犠牲と民族主義を表わす。太陽の周囲に12の光角が出ているのは，十二支・十二か月・十二宮などを表わすとともに，たゆみなく発展する精神の象徴でもある

【建国初期】辛亥(しんがい)革命による清朝の倒壊した1912年に成立したが，北洋軍閥の袁世凱(えんせいがい)は辛亥革命の中心となった孫文の南方革命派をおさえて初代大総統に就任し，帝制を復活しようと企てて，成功をみずに世を去った(1916)。その後，軍閥間の主導権争いが絶えず，革命派も南方の軍隊にたよって北方軍閥と対抗した。1924年孫文に率いられた中国国民党は政策の転換を図り，連ソ容共政策をとって反帝国主義・反封建主義を明確にし，1921年に創設された中国共産党と合作して，1926年7月から国民革命軍による北伐を始めた。しかし，1927年の上海(シャンハイ)クーデターによって，蔣介石を中心とする国民政府が南京(ナンキン)に樹立された。その後，イギリス・アメリカの支援のもとに治安回復・経済建設を行なうとともに，中国共産党軍(紅軍)との間に内戦を展開したが，1936年の西安事件によって再び第2次国共合作が実現，抗日統一戦線が結成されるに至った。

【日中戦争以後】盧溝橋(ろこうきょう)事件(1937年7月)による日中両軍の衝突以後，国共両軍は日本軍と戦った。しかし，日本と妥協して中共軍との内戦政策に復帰しようとする傾向のあった国民政府軍は，1939年から中共支配地区を攻撃するなど，国共両軍の衝突はしばしば起こった。1945年に日本が降伏すると，アメリカは国共両党の紛争解決にのり出し，1946年1月，いったん妥結の道が開かれたようにみえたが，同年7月になると国民党はアメリカの援助のもとに中共軍の解放区の攻撃を始めた。こうして，中国は再び内乱となったが，人心はすでに国民党を離れており，中共軍は1949年7月の東北地方総攻撃に成功して，急速に全土において勝利を得た。このため，国民政府は広州に移り，さらに重慶に転じ，同年5月本土を離れて台湾に渡った。

【第2次世界大戦後の国際的地位】第2次世界大戦終結前から，戦後の国際機構設立には一貫して結成準備に参加した(1943年のモスクワ会議，1945年のヤルタ会談)。そして，1945年10月の国連の成立以来，その最も重要な機構である安全保障理事会の常任理事国として重要な役割を演じてきた。しかし，1949年に中華人民共和国(中国)が成立すると，社会主義国やアジア・アフリカの非同盟諸国などを中心に，中国を承認する国がふえ，ついに1971年秋には国際連合から追放されて，中華人民共和国が中国を代表する国として認められるに至った。

〔船越昭生〕

ちゅうかりょうり【中華料理】 ⇨中国料理

ちゅうかんけん【中間圏】 成層圏と温度圏(熱圏)の間の，高度約50〜80kmの範囲の大気の層。この部分の温度は，成層圏や温度圏とは違って高度にしたがって低下し，下部で約0℃，上部で約−90℃，ときには−130℃に達する。高緯度地域では，温度は季節的に変化し，夏より冬のほうが高い。

ちゅうかんざっしゅ【中間雑種】 優性遺伝子の形質表現度が弱く不完全なために，雑種第1代(F_1)では両親の中間形質を示すものをいう。たとえば，オシロイバナの紅色のものと白色のものとを交雑すると，F_1では中間の淡紅色の花が生じる。さらにその雑種第2代では紅1：淡紅2：白1の比に分離する。➔遺伝

ちゅうかんし【中間子】 素粒子の中で，質量が電子と核子(陽子，中性子)の間にあるものの総称。メソン・メソトロンともいう。1935年(昭和10)湯川秀樹(ひでき)は，原子核内の陽子，中性子を強く結合させる役割をになう粒子が存在せねばならないと考え，これを中間子とよんだ。その質量は電子の約200倍と予想され，これは当時すでに素粒子として知られていた電子と核子の質量の中間に位するためにこの名が生まれた。電子の約200倍の質量をもつ粒子は1937年に宇宙線の中に発見されたが，これは最初湯川の予想した中間子(のちにπ中間子と名づけられた)そのものではなく，実はπ中間子の崩壊によって生成された別の粒子，μ



中京工業地帯　名古屋港の入り口に位置する東海市の臨海製鉄所。中京の南部臨海工業地帯で，遠景は名古屋市の南区・港区の工業地域に続く

中間子*であることが，1947年パウエルとラッテスの実験により立証された。２種類の中間子が存在するであろうことはすでに1942年の坂田昌一(しょういち)らの二中間子論で予想されていたことである。π中間子はμ中間子と異なって強い相互作用を行なう素粒子であるが，第２次世界大戦後実験技術の急速な進展に伴って，次々と新しい素粒子が存在することが明らかにされ，その中には，中間子族とよばれるπ中間子と似た性質をもつ一群の素粒子があることがわかってきた。これらはπ中間子と同様すべて強い相互作用を行ないスピン*は整数値をとる。μ中間子は強い相互作用をもたずしかもスピンは½であってこれらとはまったく異なった性質の素粒子であるので，現在ではμ中間子を中間子の仲間とは考えず，単にμ粒子とよぶこともある。π中間子は中間子族では最も質量の軽いものであって，これ以外に質量の小さい順に並べたときK中間子*，η中間子，ρ中間子，ω中間子，K 中間子，φ中間子，f中間子，A_1中間子，A_2中間子，……など，非常に多種類の中間子が存在することがわかっている。φ，f，A_1，A_2中間子などは核子よりもその質量は大きく，中間子という名称は必ずしもふさわしくないが，伝統的に中間子とよぶことになっている。➔素粒子　〔大貫義郎〕

ちゅうかんしゅくしゅ　【中間宿主】　寄生動物で幼生期の宿主と成体期の宿主が異なる場合，幼生期の宿主をいう。たとえば，カンゾウジストマはマメタニシの体内で幼生期を過ごし，さらにモロコ・タナゴなどの淡水魚の筋肉や皮下で後期幼生期を経て，その魚を食した哺乳(ほにゅう)類に移って成体になり，肝臓にすみつく。この場合マメタニシは第一中間宿主，モロコは第二中間宿主，哺乳類は終結宿主といわれる。

ちゅうかんそう　【中間層】　⇨ミドル-クラス

ちゅうかんどうぶつ　【中間動物】　⇨中生動物

ちゅうき　【中気】　⇨脳卒中

ちゅうきょうこうぎょうちたい　【中京工業地帯】　名古屋市を中核として，北は一宮(いちのみや)・尾西・岐阜・大垣(おおがき)，東は瀬戸・多治見・刈谷(かりや)・岡崎・豊田(とよた)，西は桑名・四日市の諸都市を含む愛知・岐阜・三重３県にまたがる工業地帯。京浜・阪神(はんしん)のほぼ中間に位置し，わが国幹線交通の要衝にあたる。江戸時代から綿工業を中心とする繊維工業が盛んで，現在も四大工業地帯の中で繊維工業部門が最も高い比率を占める。第２次世界大戦後は，特に機械・金属・化学の重化学部門の伸び率が著しい。一宮の毛織，瀬戸の陶磁器，名古屋の時計，豊田の自動車，四日市の石油化学など，全国的に著名な工業都市を擁しており，最近はさらに鈴鹿(すずか)・津・豊橋・豊川など，外延部への発展も著しい。また名神・東名の高速道路の完成により，京浜・阪神から中京工業地帯への工業進出がふえてきている。　〔高野　繁〕

ちゅうきょうてんのう　【仲恭天皇】（1218～1234）　名は懐成(かねひら)，順徳天皇の第４皇子。母は東一条院藤原立子(良経(よしつね)の娘)。父順徳天皇から1221年(承久３)位を譲られたが，承久(じょうきゅう)の乱*における京方の敗北のため在位70余日で廃された。このため，当時は九条廃帝または半帝とよばれた。陵墓は京都市伏見区の九条陵。

ちゅうきょりだんどうだん　【中距離弾道弾】　⇨IRBM

ちゅうきん　【鋳金】　鋳型に融解した金属を注ぎ込み，器物を成形する技法。鋳造・鋳物・鎔鋳(ようちゅう)などともいう。鋳金は，古くエジプトの古王朝時代に行なわれていたといわれるが，東洋では中国河南省安陽県の小屯(しょうとん)を中心とする殷墟*(いんきょ)から多数の青銅器が発掘され，殷王朝の後期には，青銅器鋳造法がすでに最盛期にあったことをうかがわせる。一説には，古代中国の伝説的帝王である堯(ぎょう)・舜(しゅん)・禹(う)なども銅器を鋳造し，夏王朝もこの技法を用いていたというが明確でない。わが国では，弥生(やよい)式文化の遺物である銅鐸(どうたく)・銅鉾(どうほこ)・銅剣などが古い例で，福岡県の弥生遺跡から銅戈(どうほこ)・銅釧(どうくしろ)・銅剣などの砂岩製鎔笵(ようはん)(鋳型)が出土し，この時代の鋳造技法を知ることができる。鋳型は土砂でつくられるのが通例であるが，石・金属などを器物の形にくりこんで鋳型とすることもある。古来行なわれている鋳造法は，①惣型(そうがた)，②蠟型(ろうがた)，③砂型，④込型(こめがた)の４種に大別される。①は，粘土を水にとかした埴汁(はじる)に砂を混ぜ合わせたものを鋳型材としたもの。梵鐘(ぼんしょう)など大形の器物を製作するのに適している。②は，ミツバチの巣を加熱してつくった蜜蠟(みつろう)に松脂(まつやに)を混ぜた材料で原型をつくり，これを鋳型土を泥状(どろじょう)にして塗りかけ，乾燥させた後焼成して外型をつくる。焼成の段階で蠟はとけて除かれるが，蜜蠟は可塑性に富んでいるため，細部にわたり精巧な原型をつくることができる。飛鳥(あすか)時代から白鳳(はくほう)時代にかけて盛行した精巧な小金銅仏や，卓抜な鋳金法を示している興福寺の《華原磬(かげんけい)》(国宝)はこの技法によるものといわれる。①②いずれの場合も，鋳造品の内部を空洞(くうどう)にする場合は外型となる雌型の内部に型持を用いて中型(なかご)を固定し，外型と中型のすきまに融解した金属を流して成形する。器物の厚みは中型の大小で加減できる。器物の外面に文様を鋳出する場合は，外型の内面に凹凸(おうとつ)を考えて文様を彫り込んでおく。③は，砂を固めただけの鋳型を用いた鋳造法で，焼成しないため中型を必要とする器物には不向きである。型づくりが簡便なため，大量生産向きで，銭貨などの鋳造に多く利用された。④は，原型に紙つたなどと混ぜた鋳型土を塗り，乾燥させたのち土型を裂いて内部の原型を取り除き，裂いた土型を再び当初の状態に復原して，内部に溶金属を注いで鋳造する技法。③と同じく，一つの原型から多くの複製をつくれるのが特徴である。　〔河田　貞〕

ちゅうきんとう　【中近東】　中東*と近東*を合わせた地域をさし，日本の外務省で公式に用いられている名称。東はアフガニスタンから西はモロッコ，北はトルコから南はアラビア半島南西端の南イエメン，アフリカのスーダンまでを含む。イギリス政府が用いている中東とアメリカ合衆国国務省が決めている近東を合わせた上に，それより，ずっと範囲の広いものとなっている。

ちゅうぐう　【中宮】　令(りょう)制で皇后・皇太后・太皇太后の総称。729年(天平１)光明皇后の冊立(さくりつ)に伴って皇太子夫人宮子を中宮と称してから，皇后と区別されるようになった。平安時代には皇后と中宮はほとんど同じ意味に用いられたが，一条天皇のとき，藤原道長は中宮藤原定子を皇后とし，娘彰子(しょうし)を中宮として，皇后・中宮併立の例を開いた。この後しばらく中宮は皇后の次位にあったが，のち中宮のみのこともあり，皇后との差はなくなった。

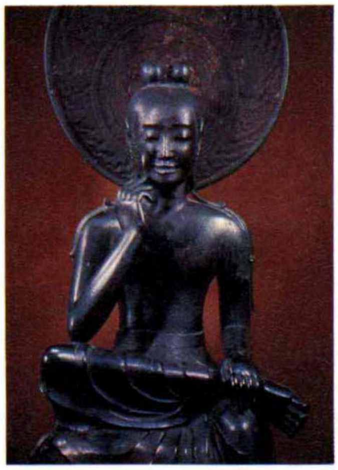
ちゅうぐうじ　【中宮寺】　奈良県生駒(いこま)郡斑鳩(いかるが)町にある聖徳宗の寺。聖徳

(しょうとく)太子の母穴穂部間人(あなほべのはしひと)の菩提(ぼだい)を弔うため，その邸宅を寺とし，斑鳩尼寺と称した。間人女王を中宮ともよんだので，その名をとり中宮寺ともいう。一説には聖徳太子追慕のため，妃の橘大郎女(たちばなのおおいらつめ)が建てたとも伝える。近年完成をみた吉田五十八(よしだいそはち)設計の新仏殿に，《木造菩薩半跏(ぼさつはんか)像》(国宝，伝如意輪観音)が本尊として安置されている。この像はクスの一木造りの像で，つややかな黒漆の光沢に覆われて，静かな微笑をたたえており，飛鳥(あすか)時代末期の作と考えられている。また，《天寿国繡帳残闕(ざんけつ)》(国宝)は天寿国曼荼羅(まんだら)ともよばれ，622年(推古30)聖徳太子の没後に，妃の橘大郎女が太子の冥福(めいふく)を祈って画師に下絵をかかせ，釆女(うねめ)らにししゅうさせたもので，飛鳥(あすか)時代の染織技術を伝える貴重な遺品である。〔永井信一〕

ちゅうくうじゅうりょくダム【中空重力ダム】 重力ダム*がコンクリートの一つの塊であるのに対して，内部が細胞組織のように壁で仕切られ空洞(くうどう)になっているダムをいう。このダムは，浸透水がすみやかに排水されるからダムに働く浮力が減じ，またセメントの硬化熱が自然に放散されるので人工冷却を省くことができる。ダムの横断面は上・下の流面がともに0.5：1ぐらいに傾斜した二等辺三角形に近い形をしている。このダムはイタリアで開発されたが，高いダムはむしろわが国で多くつくられ，最高は大井川の草薙(くさなぎ)ダム(高さ125 m)である。〔米屋秀三〕

ちゅうげん【中元】 正月15日の上元，10月15日の下元に対して，陰暦7月15日を中元という。中国の道教*の三宮信仰に基づき，善悪を分別し人間を愛して罪を許す神(地官)の誕生日である中元の日を盛大に祝う行事が仏教の盂蘭盆会*(うらぼんえ)と結びついて祖先崇拝行事となった。中元は，元来この祭日のことであったが，いまではその際の贈答の意味に使われるようになった。日本では，中元を中心とする盆行事は，一族が供食して祖霊を迎え供物を参会者が相共にいただく趣旨であったのが，供物の品を届けるようになり，それが中元の贈答のはじまりとなった。中元の贈答品としては魚を用いるのが古風な形であったと思われるが，麦の収穫がすんだあとの祖霊祭という点から，そうめん・うどんなど小麦の加工品が用いられ，さらに米・菓子・果実の類から衣料やはきものなどと範囲を広げてきた。なお，新盆(にいぼん)の家にはちょうちんやとうろうが贈られる。〔直江広治〕

ちゅうげん【中原】 漢民族古来の生活領域をいい，現在の河南省を中心とする黄河の中下流域一帯，華北平原中南部および渭水(いすい)流域がこれにあたる。これは現在の陝西(せんせい)省の西安，河南省の洛陽(らくよう)を中心に発展した古代周王朝



中 宮 寺　本堂安置の《木造菩薩半跏像》，その像容は弥勒菩薩であるのか，聖徳太子の思惟の姿であるのか，いずれとも決しがたい

の勢力範囲にほぼあたり，周の王権をシカにたとえ，その争奪を〈中原逐鹿(ちゅうげんちくろく)〉と称した。その後，漢民族の生活範囲は大きく四方に広がったため，中原の語は旧来の意味からやや離れ，一般に河南省を中心とする華北平原中南部をさすようになった。〔船越昭生〕

ちゅうこう【中耕】 作物作付け後，その条間を軽く耕して土中に透水・通気を図るとともに，土壌(どじょう)の物理性のうち，特に団粒化構造を促進する作業をいう。中耕作業により地温が上がり，根の吸収作用・呼吸作用は活発となり，また多少断根されることから細根の発生を促進して根の物理的機能を向上させる効果が認められるほか，除草作業にも通ずるので，中耕・除草は同時に管理作業ということができる。中耕作業にあたって注意せねばならぬことは，中耕の時期と回数，並びに程度である。生育の初期は軽い程度に，やや作物の条列に近く行なうが，後期では根を切ってしまうおそれがあるから中耕を避ける。〔金木良三〕

ちゅうこう【鋳鋼】 鋳造した鋼。鋳鉄と比べ強度と靭性(じんせい)が大きいので造船・車両，産業・建設機械の大形部品，バルブ・フランジなどの機器として形状複雑なものなどに広く利用され，またステンレス鋼・耐熱鋼の鋳鋼品の応用も少なくない。

ちゅうこうしょう【虫咬症】 虫にさされることによって起こる症状。吸血の際のかゆみや赤疹(せきしん)を生じるのは，こん虫の唾液(だえき)がはいり込むためであるが，その原因物質は不明。アリは刺咬に際してギ酸をはじめ数種の毒物を出し，疼痛(とうつう)を与える。ハチ類は尾端の針から毒液を出し，刺されると激痛・発赤・はれを生じる。この毒液は，ヒスチジンなど10数種の毒物質を含む。サソリなどのように強毒の場合には，全身症状を起こし，ときには死ぬこともある。強毒の場合の応急手当てとしては，患部を軽く傷つけて瀉血(しゃけつ)し，冷やしてからすぐに医師の手当てを受けるようにする。〔鈴木　猛〕

ちゅうこうしょうめい【昼光照明】 側窓(片側窓および両側窓)および天窓を通して，室内に昼光を取り入れ，心理的な開放感をも与えるための照明手段。昼光による野外照度は，おもに太陽高度と天候状態によって決まり，快晴の日の正午で10万lx(ルクス)，全天曇天の場合は10,000lx程度である。昼光照明設計は野外照度の低いときをめやすとし，国際的には野外水平面照度として5,000lxを使うのが普通である。設計の指標としては次式で定義する昼光率を用いる。

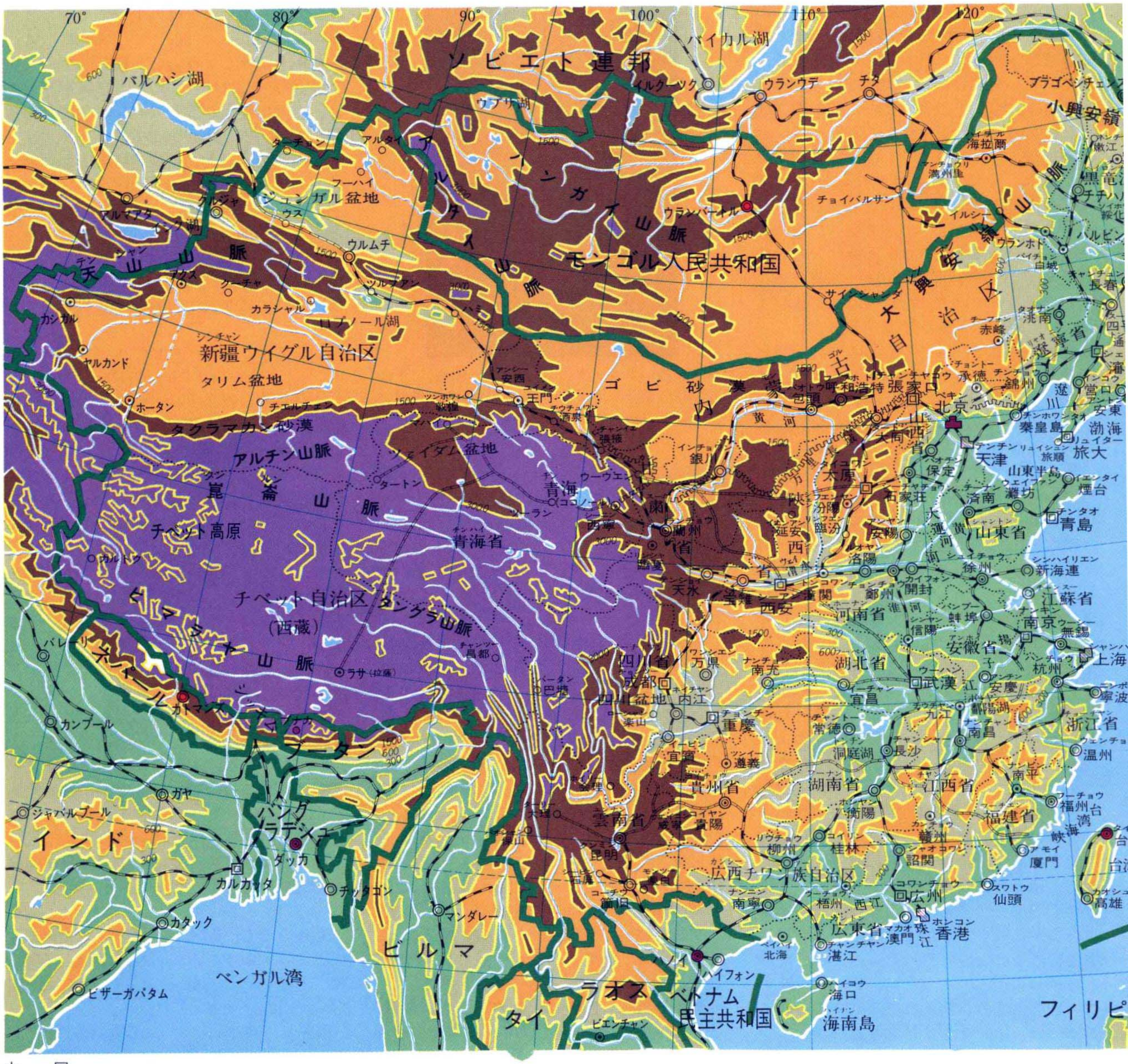
$$\text{昼光率}=\frac{\text{ある点の照度}}{\text{そのときの全天空照度}}\times 100\ (\%)$$

すなわち，昼光率は室内のある点の照度の，その点を取り囲む建物や障害物をすべて取り去ったときの全天空(直射日光を除く)による水平面照度に対する比である。野外照度の資料が用意されれば，昼光率によって，そのときどきの室内照度が容易に求められるが，室内照度の基準としては，おおむね粗作業で150lx，普通作業で300lx，精密作業で700lxをめやすとする。側窓は最も多くみられ，構造が容易で雨仕舞い・開放感・通風・遮熱(しゃねつ)に有利である反面，採光的には特に片側窓で室奥部の照度が不足がちで，近隣建物の影響を受けやすい。天窓の利害は側窓と相反し，採光的には照度を高くかつ照度分布を均一にできる。

いずれにしろ，太陽直射光が直接，作業箇所にあたるのは避けるべきで，昼光照明下ではよりいっそう明るい人工照明を点燈することが必要で，これを補助的人工照明という。なお，窓面積の最小限は建築基準法・同施行令によって決められている。〔伊東　孝〕

ちゅうごく【中国】 アジア大陸東部に位置する大国で，正式名称は中華人民共和国。面積959万6,961km^2，人口8億5,213万(1976年推)。首都北京(ペキン)。

国土は，東は135°3′Eから西は75°21′Eまでの東西5,000km，北は53°52′N，南は4°Nの南北5,500kmに及び，東から南東にかけて約11,000kmの海岸線を有し，3,400以上の島嶼(とうしょ)を含む。朝鮮・ソ連・モンゴル・アフガニスタン・インド・ブータン・ビルマ・ラオス・北ベトナムの諸国と境を接し，国境線の延長は15,000kmに及んでいる。行政区画は，北京・上海(シャンハイ)・天津(てんしん)の3直轄市，河北・河南・山東・山西・遼寧(りょうねい)・吉林・黒龍江(こくりゅうこう)・陝西(せんせい)・甘粛・青海・江蘇(こうそ)・浙江(せっこう)・安徽(あんき)・湖北・湖南・江西・福建・広東(カントン)・貴州・四川・雲南の21省，内モンゴル・新疆(しんきょう)ウイグル・寧夏回族・広西チワン族・チベットの5自治区からなり，このほか未解放地として台湾がある。中国という名称は漢民族が自己の国土

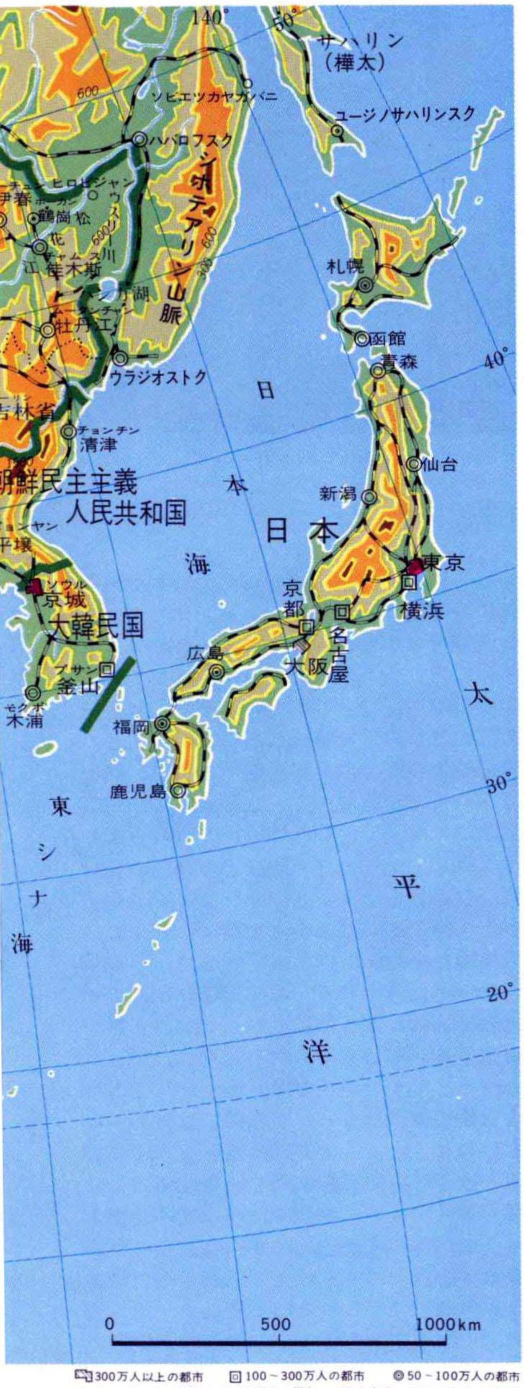


中　国

に対して用いた自称に由来し，中華・中夏と同様に世界の中心を意味する。ほかに秦(しん)に由来するシナ，唐に由来するタウガス，契丹(きったん)に由来するカタイまたはキタイ，中国特産の絹に由来するセリカまたはセレスの呼称もある。わが国では古く漢土・唐土・もろこしなどの名称が用いられ，第2次世界大戦まではシナ(支那)が使用されてきたが戦後は中国を用いている。英語名はChina。

【自然】〈地形〉大別してヒマラヤ山脈の北に広がるチベット高原，これを巡り北に新疆とモンゴル高原，東に黄土高原と雲貴高原，その間に四川盆地がはさまり，さらにその東に中国平原が広がるという西高東低の階段状をなしている。

チベット高原は平均高度4,000mに及ぶ広大な高原であるが，黄河・揚子江・メコン・ブラマプトラ・サルウィン・インダスなど諸河川の源流地域で，西部から北部にかけては盆地が多くそれぞれ内陸流域を形成している。ツァイダム盆地をはじめ盆地内部は雨量が少なく多くは砂漠(さばく)となり，内陸湖は青海のように塩湖となっている。しかし高原は雨量も多く，中には年降水量7,000mmをこえる山地もあり，雪線*はおおむね5,000mをやや下ったところに現われ，高原内部および縁辺には氷河の存在が知られている。新疆高原は，東西に走る天山山脈によって北のジュンガル盆地(→ジュンガリア)と南のタリム盆地に分けられる。モンゴルとの境にあるアルタイ山脈と天山山脈にはさまれるジュンガル盆地は中国唯一の西へ開いた地域で，ソ連領トルキスタン(→トルキスタン)に通じている。チベット高原の北縁をなす崑崙(こんろん)山脈と天山山脈にはさまれるタリム盆地は，両山脈が7,000m級の山地であるのに対して盆地床は1,000m前後である。タクラマカン砂漠を流れるタリム川は東端の内陸湖ロブノール湖に流入している。天山山脈の東部には標高海面下200mのトルファン盆地がある。アルタイ・

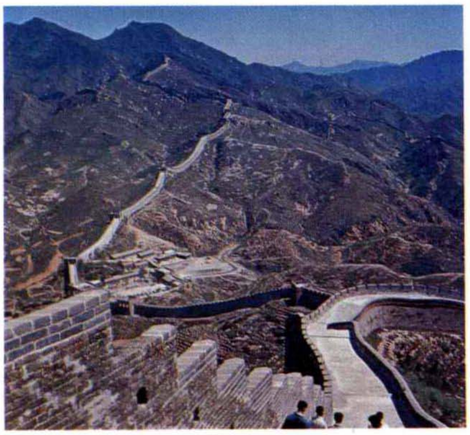


ジュンガル・タリム・トルファン盆地の成因は断層によるものと考えられている。モンゴル高原の南東部にあたる北部高原は西へ延びて新疆高原に続き，南はチベット高原北東端の祁連(きれん)山脈に接する。北部高原の東端は大興安嶺(だいこうあんれい)・燕山(えんざん)山地となって東北平原・華北平原に臨んでいる。北部高原の南には黄土によっておおわれた黄土高原があり，その西部は1,000m程度の波浪状台地の陝西高原が連なり，東端の中国平原に臨む所には東西が断層崖(だんそうがい)になっている太行山脈がある。四川盆地は揚子江中流域の大盆地であるが，必ずしも一様な平地ではなく低い山地や高原が連なり，大きな沖積地(ちゅうせきち)は成都付近の岷江(みんこう)の扇状地のみである。北辺の山地から南流する渠江(きょこう)・岷江・沱江(たこう)・嘉陵江(かりょうこう)は，盆地南縁で北東流する揚子江に合流する。盆地は，赤色砂岩の発達が著しいので赤色盆地の称がある。雲南・貴州両省に広がる雲貴高原の南西部は，インドシナに流下する河川が通り，4,000m 級の高峻(こうしゅん)な山地となっている。揚子江上流の金沙江(きんさこう)はかつてベトナムへ流れていたと考えられるが，流路の争奪によって現況となったもので，このほかにも雲貴高原にはこの種の河川争奪は少なからずみられる。この高原には残丘状の山地も多く，一部にカルスト地形*も認められる。

中国平原には北から東北平原・華北平原・揚子江平原・華南平原が連なる。東北平原は松花江・遼河流域を分ける松遼分水嶺により二つの部分に分けられるが，この分水嶺は海抜わずか200mで，ここを通過してもその存在に気づかぬくらい低い。東北平原の北と南には小興安嶺と燕山山地がある。小興安嶺は東北平原の北にある1,000mに満たない山地で，傾斜もゆるやかである。燕山山地はモンゴル高原から東へ降りる漸移的な地形で，多くの断層からなると考えられている。華北平原は，中国文化発生以来，歴史の主要な舞台となった場所で，黄河および淮河(わいが)流域の二つの部分に分けられるが，淮河もあるときには黄河河道の一部であった。華北平原は黄河の形成する扇状地であるとみることもできるが，扇頂の高度は80mにすぎず，傾斜は著しくゆるやかである。華北平原の東部には，黄海と渤海(ぼっかい)との間に突出する山東半島があり，遼東半島とともに渤海をいだいている。山東半島は老年期山地からなり，ところどころに高い残丘がみられ，遼東半島の地形と類似する。半島から西方に延びる山東丘陵の西端には，最高峰の泰山(1,532m)がある。揚子江流域の湖北・湖南の盆地と揚子江三角州を総括して長江平原という。揚子江流域には湖南の洞庭湖(どうていこ)，江西の鄱陽湖(はんようこ)などの大きな湖があり，揚子江の水量調節の役割を果たしている。揚子江河口の三角州は，発達速度が40年について1kmと計算され，河口の崇明(すうめい)島も沖積作用によって形成されたものである。長江平原と華南平原の間の丘陵群を嶺南丘陵といい，浙閩(せつびん)丘陵・江南丘陵・両広丘陵に分けられる。浙閩丘陵は舟山群島から華南に向かう北東～南西方向の山系で，南東部は，山地が海に迫った湾入の多い沈水海岸と多島海が特徴である。江南丘陵は，浙閩丘陵と雲貴高原との間に東西に延びる山地で，揚子江水系と珠江水系との分水嶺をなし，谷が山地の奥まで開け，峠は比較的低く，南北の交通は容易である。珠江三角州を中心とする華南平原は，沈水海岸と多島海からなっている。雷州半島は低平な地形で，地質も新しく隆起した海岸平野と考えられる。この半島の南部や北部には玄武岩の溶岩台地が広がっている。雷州半島と幅30kmの海峡によって隔てられる海南島は老年期地形からなり，北部は雷州半島と同じく低平で，南部は最高点1,900mの山地である。台湾は，福建省の対岸にあって環太平洋造山帯*の一環をなし，78の付属島を有している。台湾山脈を脊梁(せきりょう)とし，最高峰は玉山(新高(にいたか)山，3,950m)である。西側にゆるく傾斜して西海岸には平野が開けるが，東海岸では山地が海に迫っている。

〈気候〉 気候区の上で重要なのは，国土を東西方向に横切る秦嶺・大巴(たいは)・大別の山脈線で，これは冬季には北方のシベリア気団を，夏季には南方の季節風をはばんで，南北の気候を分ける境界となっている。中国の気候区は大きく8区に分けられる。東北区は，冬季がきわめて寒冷で耕作期間は5～6か月間に限られる。北部のアムール川は6か月間，松花江は5か月間，南部の遼河は4か月間結氷する。年降水量は400～600mm，その半分は7～8月の両月に降る。春まき小麦やダイズを主要農産物としている。華北区は，気温の年較差が大きい。1年じゅうで最も雨の多いのは7月で，冬季は非常に乾燥する。また雨量の年変化が大きく，このためしばしば飢饉(ききん)に襲われる。この気候区には山東・河南・江蘇・安徽の各省北部および陝西・山西・河北3省の南部地方が含まれ，小麦・ヒエが主要作物となっている。華中区は，気温の年較差はやや大きく，降水量は750mm程度，冬季および春季には温帯低気圧がしばしば通過するので冬でも比較的雨がある。中国で産する茶の大部分はここで産出する。華南区は温暖で，年降水量1,500mm以上，広東・広西・福建・浙江の各省，および雲南省の南部が含まれる。バナナ・パイナップルなどの果実を特産し，米は1年に3回収穫されるところもある。雲貴高原区は低緯度に位置するが，海抜高度が1,000～3,000mなので温和な気候を示し，年降水量は750mm程度である。チベット区は高度4,000m以上の高原地域で，きわめて寒冷である。草原区は中国本土の北西隅(ぐう)，東北地方西部などを含み，年降水量200～400mmで多くはステップになっている。砂漠区は新疆および内モンゴル・オルドス*にあたり，年降水量は200mm以下である。

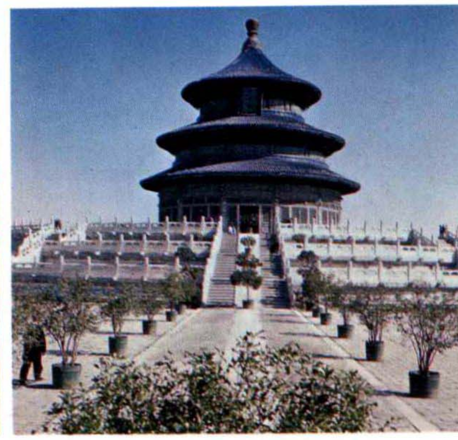
【住民】 人口密度は1km²あたり86人であるが，人口分布は不均等で，東部諸省ではいずれも1km²あたり100人をこえ，中には400人をこえる省もある。民族は漢民族が94%を占め，非漢民族は約3,400万で少数民族として局地的に居住している。非漢民族の内訳と居住地は，回族393万(寧夏回族自治区)，チベット族277万(チベット自治区)，満州族



中　国　万里の長城　華北と内モンゴル自治区との境界線にほぼ沿って延びる城壁遺跡で，全長約2,400km，高さ6〜9mに及ぶ



中国人民体育大会　毎年10月北京の工人体育場で行なわれる。毛沢東の肖像を映し，花をもった少女たちのマスゲームが美しい



天壇　北京の外城(正陽門外)にあり，古くから皇帝が天を祭るときに用いた祭壇。円錐形3層の白大理石の壇の中心に祈年殿がある

243万(東北地方)，モンゴル族164万(内モンゴル自治区)，チワン族778万(広西チワン族自治区)，イ族326万(広西チワン族自治区，雲南省東部，広東省南西部)，ミャオ族268万(貴州省南東部，雲南省西部，湖南)，プイ族131万(貴州省南西,雲南省西部)，トウン族82万(貴州省,湖南，広西チワン族自治区)，ヤオ族74万(湖南，広東省，雲南省，広西チワン族自治区)，パイ族68万(雲南省など)，ハニ族54万(雲南省南東部)，タイ族50万(雲南省西部)，リ族39万(海南島,広東省)，リス族31万(雲南省北西部)，朝鮮125万(東北地方)，ウイグル族390万(新疆ウイグル自治区)，カザフ族53万(新疆ウイグル自治区,甘粛省,青海省)，キルギス族70,000(新疆ウイグル自治区)，チウ族60,000(甘粛省，青海省)などである。

【経済】人民共和国成立後の経済の歩みは，おおむね次の4期に分けることができる。①1949〜1952年の経済回復期では，1952年に第2次世界大戦前の最高生産額に到達した。②1953〜1957年の第1次5か年計画期では，ソ連の援助によって重工業部門の拡大が行なわれた。しかし，この時期の終期に工業重視と農業軽視，重工業偏重と軽工業軽視，大規模化・機械化の目標が高きにすぎたため資本の浪費や技術水準の不適合が目だつなどの矛盾が露呈した。③1958〜1960年では，1958年に始まる第2次5か年計画は第1次計画の残した諸問題を解決するために農業と工業，軽工業と重工業，中央工業と地方工業，大形工場と小形企業の調和をめざし，この3年間に工業生産増加率は40%にのぼった。しかし，この発展はきわめて不健全で，生産品の品質が劣ったため使用価値に乏しく，原料・労働力・燃料の消耗が多く，技術問題がゆるがせにされたため事故も多く，工業部門の平衡的発展がなされなかった。このいわゆる大躍進期に引き続いて自然災害に見舞われ，人民公社*に対する評価は懐疑的となり，農業生産は大幅に衰え，食料・工業原料は不足し，工農の不調和が深刻となった。加えて，1960年7月，中ソの対立によってソ連の工業専門家が引き揚げ，ソ連からの資材の供与は停止され，きびしい経済危機に直面した。④1961年以後の経済調整期では，農業災害，大躍進の失敗，ソ連援助停止による危機からの脱出に努め，工業生産は大幅に縮小した。1963年から農業生産はしだいに回復し，経済情勢は好転した。この間，政府は〈自力更生〉の精神を強調して，新製品の研究と製品の種類の増加および質の向上をはかり，1965年にはいちおうの成果を収めた。しかし，1966年は第3次5か年計画開始の年にあたっていたが，経済政策の方針をめぐる党・政府内の意見の対立があり，これが政治的対立となって表面化し文化大革命となった。1968年以降は，劉少奇(りゅうしょうき)派の全面的な失脚と毛沢東派による収束によって新しい経済政策が進められている段階にある。

〈農牧業〉中国ではすでに殷(いん)代から農耕は始められていたが，土地利用や農業経営の方法は地域の自然環境や歴史に応じて著しい差異を現わしている。1937年に南京(ナンキン)金陵大学のロッシングーバック教授は中国の農業地域区分を行ない，ほぼ淮河から秦嶺に至る線で南部の水稲地域と北部の小麦地域に二大別して，さらにそれらを細分した。農業の主要舞台は華北平原・淮河平野・揚子江平原・四川盆地・広東デルタなどで，全面積の60%以上が耕作されている。最も土地利用度の高いのは上海〜武漢の間および広東付近で，耕地の大半で二毛作が行なわれ，一部では三毛作も行なわれる。西南水稲区や四川水稲区では二毛作率は平均50〜60%となり，華北の冬小麦コウリャン区では40%内外，山西省山地では20%以下，春小麦区以北では一毛作しか行なわれない。従来の中国の農家は，おもに自給用の穀物・豆類を生産し，その余力を商品作物の生産にあててきた。水稲は気温が高く，降水量の多い南部諸地域で栽培され，中でも広東・福建両省の沿岸では1年に早・晩2回の収穫がある。また揚子江の流域では水稲の収穫後に麦・ナタネなどをつくることもある。なお水稲は東北地方の南部や東部でも栽培されるが，これを始めたのはこの地に植民した日本人である。米の総生産額は世界第1位であるが，輸出はきわめて少量である。水稲地域の住民の主食は米が主で，畑作地域にみられるようにコウリャン・アワ・麦などの雑穀の混食はしない。またダイズやサツマイモの産も多く，揚子江下流域から武漢にかけての一帯は綿花が商品作物として重要で，一部では養蚕も行なわれる。なお揚子江南部の山地の斜面には茶が栽培され，アブラギリが自生する。茶は中国人のみでなく，磚茶(たんちゃ)としてモンゴル方面へ輸出されてきた。現在輸出量は減少したが産額では世界第1といわれている。小麦は華北平原および淮河・揚子江流域平野に多く，東北地方の北部も産額が多い。陝西・山西両省の北部から燕山山地の北西では，寒冷な気候のため春まき小麦がつくられるが，その南では冬まき小麦がつくられる。小麦はアメリカ合衆国に次ぐ産額を示すが，ほとんど国内で消費され，麵(めん)・まんじゅう・包子(パオツ)などの原料となる。大麦は小麦よりは広い範囲に分布し，特に江蘇・安徽・湖北・浙江の各省で多くつくられ，食用および飼料用にあてられている。冬小麦地区では小麦のほかに，夏作としてコウリャン・キビ・アワを輪作する。サツマイモは山東・河北および河南各省の平野で栽培され，アワ・コウリャンはともに東北地方北部から華北平原・四川盆地に多い。トウモロコシは遼東半島，黄河以北の華北平野，山西省各地の南部から陝西省南部，四川省にかけて多く，直接食料とされるとともに家畜の飼料としても有用であり，その産額はアメリカ合衆国に次ぐ。ダイズは東北平原・山東半島などに多く，特に東北地方では商品作物として栽培され，搾油され，また豆かすは

肥料として使用される。これも産額はアメリカ合衆国に次ぐ。綿花は遼河下流の平野から湖南・四川・貴州各省にわたって分布し，その中心は河北省の平野部，山西・陝西両省の南部，河南・江蘇・安徽・湖北の各省である。産額はアメリカ合衆国・ソ連・インドに次ぐが輸出は少ない。その他，春小麦区の北では筱麦(ゆうばく)がつくられ，産量は必ずしも多くはないがこの地方における重要な飼料となっている。また台湾・海南島・華南の海岸一帯ではサトウキビが栽培され，ミカン・レイシ・バナナなどの果実が生産される。家畜はブタ・ニワトリ・アヒルなどが飼育されているほか，労力・廐肥(うまごやし)源としてロバ・ラバ(畑作地域)，ウシ・スイギュウ(水田地域)，ウマ(草原地域)などが多く，またヒツジは毛・肉用として華北・東北から辺境諸地域に多く分布する。最近の農業経営の方法は，1952年に行なわれた土地改革により農業の協同化が進められ，人民公社の建設が進められて，公社(管理委員会)・生産大隊・生産小隊(20～30戸)の3段階に区分され，農村では公社総面積の5％が自留地として各農家の自営が認められている。

《鉱工業》 エネルギー資源としての石炭・石油・水力発電所の分布は著しく偏在している。炭田は東北・華北地区に，油田は甘粛省・新疆ウイグル自治区などの西北地区にあり，また水力発電所は秦嶺山脈と淮河を結ぶ線の南に中心があって，この地方の石炭・石油の産出の不足を補っている。1962年の推定産額では，石炭は約3億3,000万t，発電量585億kWh，石油生産量1,400万tといわれている。石炭は開灤(かいらん)・撫順(ぶじゅん)・阜新(ふしん)・淮南・大同の5炭田が中心で，特に東北の撫順・阜新，華北の開灤・大同は各地区工業の需要に応ずるだけでなく他の地域に移出されており，また淮南炭田は揚子江下流地区工業地帯への供給で重要な意味をもつ。近年，陝西省銅州・甘粛省山円の炭田が，蘭新(らんしん)鉄道の機関車用の石炭産地として重要視されている。石油では，現在最大のものは玉門油田で，烏蘇(うそ)(新疆ウイグル自治区)の独生子油田がこれに次ぐ。原油の精製は玉門・烏蘇・蘭州のほか，かつて外国産原油の精製を目的としていた上海・旅大があり，現在は玉門から運ばれる原油を精製している。また人造石油は油母ケツ岩を原料として行なわれ，撫順が最大の人造石油製造の中心となっている。電力面では，これまでの大形発電所の大部分は，沿海の工業地域に火力発電所が存在していたが，近年は沿海や内陸にも火力と水力の発電所が新たに建設されている。豊満江水力発電所の拡張や，新安江水力発電所の建設が大きい。このほかに，吉林・太原・洛陽(らくよう)・鄭州(ていしゅう)・蘭州・重慶・成都などの火力発電所や，三門峡・劉家峡(りゅうかきょう)などにつくられた水力発電所が重要である。鉄鉱石では，鞍山(あんざん)・大冶(だいや)・宣化・海南島などの鉱山が，近年詳細な調査が行なわれた結果，大量の埋蔵量が知られている。また四川省塩辺県・甘粛省鏡鉄山・湖北省朝陽などにも鉄鉱が発見され，銅鉱は雲南・甘粛・湖北・安徽・河北の各省に分布し，鉛・亜鉛は湖南省が最大の埋蔵地であるが，多くの場合銅と共存する。アンチモニーは湖南省，スズは雲南省，水銀は江西・湖南両省に分布する。従来，中国の冶金工業は非常に遅れており，1949年までの鉄鋼の年産量は100万tに満たず，ほかの冶金工場も非常に少なかった。このため毎年大量の鉱石を輸出し，同時に大量の金属材料を輸入していた。しかし近年は鉄鋼の生産量は1,100万tをこえ，各種の金属産量とともに中国の歴史上かつてない生産量をあげている。遼寧省は冶金工業の最も発達した地域で，日本の満州支配時代に建設された鞍山の製鉄所は，第2次世界大戦後大きな被害をこうむったが，その後復興していまでは中国第1の鉄鋼生産地となり，年間の鋼生産額は300万tをこえている。そのほかでは，かつて河北・山西・四川・湖北の各省にも鉄鋼工場があったが，いずれも小規模だったので，近年，武漢と包頭(パオトウ)に新しい鋼製鉄所がつくられた。一方，工業面では鉱山・冶金機械が太原・瀋陽(しんよう)・チチハルに，発電機械は上海とハルビン，石油精製用設備は蘭州，織物機械は上海・青島(チンタオ)，運輸機器と造船は旅大と上海，自動車トラクター工業は長春・洛陽，精密機械は上海とハルビンなどがそれぞれに著名である。化学工業ではかつて消費的なものが中心で，酸・ソーダ・化学肥料など基本的な化学工業は非常に遅れていたが，近年これらの基礎部門も着々と充実し，ソーダ・化学肥料・人造ゴムなどの工場が旅大・上海・南京・天津・青島に発達している。軽工業では，綿工業が従来の中国の工業の中では最も発達した部門で，1860年の上海織布局の事業開始から始まった。当時，中国の紡績は外国資本のものを含めても400余万錘にすぎず，中国では一つの紡錘をも製造することができなかった。しかし最近の数年間ですでに750万余の紡錘をもち，全紡織機を製造しうるようになっている。過去の綿紡績工業にはもう一つの特徴があり，上海・無錫(むしゃく)・南通など揚子江下流の三角州内に紡錘数で全国のほぼ半ばが集中し，その他では天津・青島などの沿海部にあるだけで内陸部にはほとんど工場がみられなかった。しかし，近年建設された紡織工場は，華北の石家荘・邯鄲(かんたん)・鄭州，渭水(いすい)盆地の西安・咸陽(かんよう)，揚子江中流域の武漢，新疆のウルムチなど内陸部が中心となっている。食品加工業もかつては沿海部に集中していたが，近年サトウキビ・テンサイの生産地には製糖工場が，牧畜地域に近いハイラル(海拉爾)などに乳類加工工場が，ブタの集散地である成都・武漢に肉類加工工場がつくられた。

《交通》 かつては鉄道・道路網の分布はきわめてかたよっていて，ほとんど北京・武漢・広州を結ぶ線の東に集中していた。たとえば東北3省と華北4省は面積では国土の15％を占めるだけであるが，鉄道の総延長は60％を占め，一方チベット自治区・新疆ウイグル自治区・青海省は面積では国土の40％を占めながら鉄道がまったく存在しなかった。しかし，第2次世界大戦で破壊された線路を修復し，1956年までに5,600kmを新たに建設して，全国鉄道通車距離は28,000km(台湾を除く)に達している。これら新建設の鉄道は大部分西北地区にあり，かつての分布の偏在がしだいに改善されつつある。鉄道は現在全輸送量の85％に及んでいる。中国の鉄道路線は60余を数えるが，そのうちの最も主要なものには次のものがある。京山線は北京から山海関に至り，瀋山線は山海関から瀋陽に至る。この両線の沿線は現在中国第1の重工業地帯で，中国の中心部と東北地方とを連絡する唯一の幹線である。東北地方の鋼鉄・機器・木材と中心部の有色金属・米・布類などは，おもにこの線によって運ばれる。京包線は北京から包頭に至り，途中，集寧でモンゴル人民共和国を経由して，ソ連へ連絡する集二線に接続し，包頭では包蘭線に連絡する。京包線によって，内モンゴル自治区の畜産品を華北へ運び，そこに必要な機械・石炭，その他の工業製品を運輸する。京広線は北京から武漢経由で広州に至り，海河・黄河・揚子江・珠江を縦貫する中国南北交通の大動脈で，これによって華中・華南は東北・華北の機械・器具・石炭などを得ることができ，東北・華北は華中・華南の米・有色金属および熱帯や亜熱帯の農作物を得ることができる。津浦線は天津から浦口に至り，滬寧(こねい)線は南京から上海に通じる。この両線は，1968年の南京大橋の完成によって南京で接続することになった。またこの両線は，南北交通における別の重要幹線で，華東の中国最大の軽工業産地と華北地方とを結ぶ動脈となっている。隴海(ろうかい)線は連雲港から蘭州に至り，蘭州で新疆ウイグル自治区のトルファンに至る蘭新線と接続する。また隴海線の宝鶏は宝成鉄道の起点となり，成都と連絡している。この線は開発の遅れた西北地方と開発の進んだ東部地区とを結ぶもので，西北地区の発展に寄与するものとして期待されている。浙贛(せっかん)線は杭州(こうしゅう)から粤漢(えっかん)線の株州(しゅしゅう)に至り，湘桂(しょうけい)線は粤漢線の衡陽からベトナム国境の友誼関(ゆうぎかん)に至る。この二つの鉄道は中国の南東部を斜めに貫通する重要なもので，華東・華中・華南を連絡する幹線である。さらに浙贛線の鷹潭(ようたん)では新しく

建設された鷹厦(ようか)線によって厦門(アモイ)に通じ，湘桂線の黎塘(れいとう)からは新建設の黎湛(れいたん)線によって湛江に連絡し，南東沿海と中央地域との経済交流を深め，同時にこの方面の国防にとっても重要な役を果たしている。一方，道路交通では，1953年の全国通車可能道路の総延長は18万3,000kmで，特に新しく建設された康蔵・青蔵などの道路は大きな障害を乗り越えて行なわれたものであり，道路網の様相を大きく変えた。河川交通では，現在利用されている河川は約1,200か所，航路は12万kmといわれ，そのうち汽船の運航可能なものは約30,000kmといわれる。この中で最も重要なのは揚子江・珠江・松花江である。揚子江水系の通航距離は支流を含めて全国内陸水路の約40%を占める。揚子江本流の水路は河口の呉淞(ウースン)から宜賓まで2,800km余で，すべて汽船による航行が可能であり，武漢までは5,000トン以下，宜昌(ぎしょう)までは3,000トン以下，重慶までは1,000トン以下で，宜賓までは浅水汽船の通行が可能であり，また水量の豊富な時期には10,000トン級の汽船が武漢に達することができる。この航路は四川・湖北・湖南・江西・安徽・江蘇の6省を横断し，中国最大の水上運輸の大動脈となっている。上流方面へ運ばれる貨物のおもなものは，機器・化学肥料・日用品などの工業製品で，下流方面へ運ばれる貨物は糧食・桐油(とうゆ)・綿花などの農産品である。また，揚子江の支流は非常に多く，大部分が汽船または帆船で通行が可能である。珠江水系は揚子江に次ぐ第2の内陸水路で，本流は百色まですべて汽船がさかのぼれる。珠江も支流が非常に多く，大部分は汽船と帆船で通航可能である。松花水系はアムール川水系最大の支流で，東北平原北部を流れ，冬季は結氷するがその期間は短く，航運の価値は大きい。汽船航行の中心はハルビンで，水量の豊富な時期には吉林付近まで汽船が到達する。このほか中国の南北を通じる水路として大運河があり，近年は改修工事が行なわれて大部分の汽船の航行が可能になった。航空路は北京を中心にモスクワ・平壌(へいじょう)・ハノイ・ラングーン・ウランバートルなどへ定期航空路があり，ヨーロッパ・アジアの航空路とも連絡している。また国内の主要都市との定期空路も開かれており，領土の広大な中国では持に重大な意味をもっている。

〈貿易〉外国貿易は国家が管理し，国営企業の手で運営されている。輸出入に対しては許可制度がとられ，価格・品質・外国為替(かわせ)取引は国家の管理にゆだねられている。輸入は工業建設と国民の需要を満たすために行なわれ，国内で生産することが不可能な商品か，生産量が不足していてしかもそれが絶対に必要である商品に限られる。また輸出は，国家にとって不可欠な商品の輸入を確保するためか，国内における生産の発展を刺激するために行なわれている。貿易額は，1969年で輸出が20億6,000万ドル，輸入は18億3,000万ドルで，2億ドル以上の出超となっている。輸出入総額における共産主義国と非共産主義国との割合は1：3で，非共産圏との関係が深い。国別では輸入は日本・西ドイツ・イギリス・カナダ・オーストラリア・シンガポール・イタリアの順，輸出は香港(ホンコン)・日本・シンガポール・イギリス・西ドイツ・フランス・イタリアの順である。非共産圏貿易は，原料・生産財・プラント・特殊機械などの輸入で，特にソ連の技術援助が得られなくなってからは技術導入の面でも重要である。西ヨーロッパ諸国・日本との貿易は，プラント・機械設備・鉄鋼・非鉄金属などで，かつてソ連に依存していた部門，および化学肥料・農薬などの中国における最重要産業である農業部門の需要物資，それとプラスチック・化学繊維などである。カナダ・オーストラリア・アルゼンチン・フランスなどとは1950年代末期の経済困難期から毎年400〜600万t程度の小麦の輸入が続いている。発展途上国との貿易は，かつてソ連へ輸出していた繊維製品・肉製品などの軽工業品や食料品で，輸出先として新しく開拓された市場である。これらの市場は大別すると香港・マレーシア・シンガポールなど華僑(かきょう)が多数居住している所で，これらは大幅な出超を生む最も重要な市場である。中国が原料を輸入している市場ではアラブ連合(綿)・パキスタン(綿)・シンガポール(ゴム)・マレーシア(ゴム)・セイロン(ゴム)などがあり，これらはいずれも中国が経済援助を行なっている国で，ほかにタンザニア・マリなどがある。対ソ貿易は1959年の最盛時には中国貿易の2分の1を占めていたが，1960年代末にはほとんど消滅した。1958年の最盛時には中国貿易の5分の1を占めた対東ヨーロッパ貿易も，中ソ貿易と同じ道をたどったが，1963年を底辺としてその後は回復しつつある。しかし，かつて大きな比重を占めた東ドイツ・チェコスロバキアに代わってアルバニア・ルーマニアとの貿易が増加した。東ヨーロッパからは工業設備・輸送機械・農業機械・通信機械・鉄鋼を輸入し，東ヨーロッパへは茶・肉製品などの食料品，タングステンなどの非鉄金属を輸出する。このほかでは北ベトナムに対して大規模な援助を行ない，キューバとは1966年以来，政治関係の冷却化のため貿易は縮小した。輸出入品の全体構成は，中国の自給自足と経済発展の政策により原則として消費財は輸入されず，資本財と工業原料を輸入している。1966年の輸入商品は機械類21.0%，穀物20.6%，鉄鋼12.3%，化学肥料8.3%，繊維原料7.1%，生ゴム6.3%，非鉄金属3.4%である。1966年の輸出商品は織物11.4%，果実野菜6.2%，米6.1%，植物油5.2%，繊維原料4.6%，衣類4.6%，肉類4.4%，魚類3.1%などとなっている。

【社会】〈社会生活〉身分差がなく，職業の貴賤(きせん)がなく，いまは残っている三大差(都市と農村，労働者と農民，頭脳労働者と肉体労働者)の解消に向かいつつある。婦人の地位もきわめて高く，責任あるポストに婦人の大量の進出がみられる。職業も婦人が区別されるものはまったくなく，看護婦でさえも男性看護人と共存している。人民共和国婚姻法では蓄妾(ちくしょう)・幼児婚・人身売買・売春が禁じられている。平均的結婚年齢は男30歳，女25歳とかなり高いにもかかわらず，人口の自然増加率は1,000分の20と高い。託児所の施設が整い，母親は日に数回の授乳時間が与えられている。労働人口の配置は，中・高等教育を受けた者を除き，農村で生まれた者は農村に，都市で生まれた者は都市に，それぞれ就職する。中・高等教育を受けた者は国家が統一的に配慮するので，人口の激しい都市集中は起こらない。公的機関を除いては自動車を所有しないので，昼間はバス，夜間はトラックが走るだけで，大気汚染や騒音・交通事故などの問題はほとんど起こらない。工場では多く寄宿舎を構内にもっているので，通勤地獄も少ない。都市労働者の平均給与は年収840元で，格差はほとんどない。熟練労働者は高給を得ることがないかわりに精神的栄誉と大衆からの尊敬を受ける。生活必需品は配給により安価に確実に支給され，また労働者の給与所得には課税されない。農村では人民公社の社員となり，生産隊(30〜50戸)，生産大隊(200〜300戸)に属して公社の計画によって共同で労働し，収入は収穫物の売り上げから税金，再生産のための積立金・公益金を差し引いた残りを労働点数によって分配される。労働点数制は，文化革命以後は7〜8割を社員に均分した残りの配分についてのみ適用するようになった。この中には，小学校教員のような公社員であるが非農民である社員も含まれている。老年になると，男60歳，女55歳で年金(退職時給与の70%)がつくので退職するが，農村ではその後も労働に従い，労働点数を得る場合もある。都市の住宅は〈新村〉とよばれるアパート団地が多く，3室と台所があるものが標準である。都市ガスと水洗便所はまだ一般には普及していないが，家賃は電燈・水道代ともに2〜5元ときわめて安い。たいていの家庭にはラジオ・ミシン・自転車・魔法びんがあり，自家用車はだれも所有していない。衣服はふだんは青いもめん服を着，外国では人民服として知られている。これを買うには切符がいる。はなやかな服装を着るのは祭りのときに限られ，婦人の髪も編むか断髪でパーマネントウエーブはほとんどない。休日は工場によって異なり，2交代・3交代制をとっているため，いつも公園は

にぎわっている。小・中学校も校舎不足のため二部授業のところが多い。娯楽は各地に子どものための文化宮殿や成人のための文化クラブがあり，これらの施設には各種の講習会，図書室，遊戯施設がある。簡単なレクリエーションとして老人は太極拳や気功などの体操，労働者は早操というラジオ体操をする。映画館や芝居は前売券制で，内容は革命的な題材の現代化京劇・バレエ・新劇などである。

《教育》➔学校制度〔中国〕

《宗教》中華人民共和国になってからキリスト教は急速に衰え，仏教も後継者難でやがて衰えるものとみられている。道教は文化大革命以後一掃され，イスラム教は西北の少数民族の中にかなりの信仰を保っている。

〔歴史〕中国における人類の居住は，更新世のいわゆる北京原人*(シナントロプス-ペキネンシス)から始まる。北京原人の人骨は，北京西南約50kmの周口店*付近の山地の石灰洞(せっかいどう)から発見された。北京原人の発見後，山西省襄汾(じょうふん)県丁村遺跡からほぼ同時代のものと推定される人骨が発見されている。また，北京原人にやや遅れる時代のものとして，内モンゴル自治区オルドス地方で発見された更新世王朝の人骨(歯牙(しが)・肢骨(しこつ)のみ)や，四川省資陽・周口店山頂洞などで発見された旧石器時代人骨や遺物が知られている。現世人類の文化としてはじめて確認しうるものは，中国新石器時代最初の文化，仰韶(ぎょうしょう)文化(➔仰韶遺跡)で紅陶を中心とする彩陶土器，石斧(せきふ)・石刀などの存在をその特徴とする。その文化に属する代表的なものは第2次世界大戦後発見された西安(陝西省)郊外半坡(はんぱ)村の遺跡で，多数の竪穴(たてあな)住居よりなる集落をなし，すでに農耕を行ない，家畜の飼養が行なわれていた。仰韶文化の分布は，北は内モンゴル・遼寧省，西は甘粛省，南は江蘇省・福建省から台湾にまで及んでいる。仰韶文化を継承するものに龍山文化(➔龍山遺跡)がある。これは黒陶土器を特色とし，住居は床壁に石灰を塗り，ろくろの利用など仰韶文化に比べて進歩した生活様式を有していた。分布は，ほぼ仰韶文化の分布と一致するが，多くの遺跡が四川省で発見されるのが注目される。

　中国の歴史時代は殷から始まる。国号を商といい，黄河の中流域，河南省安陽付近に本拠を置いた。利器としては青銅器を用い，その社会の状況は殷墟*(いんきょ)出土の亀卜(きぼく)や獣骨によって知ることができる。すなわち，政治・宗教上の絶対的権威者としての王のもとに，氏族制の支配階級，庶民があり，さらに被征服民を中心とする奴隷が存在して生産に従事した。首都商邑(しょうゆう)の周辺には，邑とよばれる農村共同体があり，その外辺には方(邦)とよばれる部族国家が存在した。

　殷がこれらの周辺部族国家の征伐に悩んでいたころ，渭水流域に拠(よ)った周が強大となり，BC1100年ごろついに殷を滅ぼして鎬京(こうけい)に都し，次いで東方の領土の経営のため東都洛邑(らくゆう)を営んだ。周は同族や輩下の貴族に土地を与え，また殷以来の一部の豪族をも諸侯として封建し，その支配体制を強固にした。周の政治・社会の安定のうえにやがて文化的な優越がもたらされ，これを基礎として漢民族を中心とする中華思想が生まれた。しかし，その実質的な支配領域はまだ渭水盆地・河南省を中心とする華北一帯に限られていたのである。周はのちに諸侯の統制が困難となり，加うるに遊牧民族の侵入のために，紀元前8世紀の前半，都を東都洛邑に移した。以後を東周といい，以前を西周という。

　周の弱体化は，春秋(BC770―BC403)・戦国(BC403―BC221)の諸侯争覇(そうは)の時代を現出した。春秋時代は中原諸侯相互間の争いもさることながら，概して中原諸侯と南方楚(そ)との対立抗争が主軸となったが，戦国時代には弱小諸侯は併呑(へいどん)されて，燕・斉(せい)・韓(かん)・魏(ぎ)・趙(ちょう)・秦(しん)・楚のいわゆる戦国七雄の対立となった。春秋中期には鉄製農具の出現とともに生産力が著しく拡大し，諸国は富国強兵を図りながら旧来の世襲制を破って人材の登用を志向した。こうして，さまざまな思想に基づく活発な論議が起こり，いわゆる諸子百家の時代が花咲いた。渭水盆地にあって，法家の説を基軸に社会改革に成功した秦は，楚との決戦ののち，BC221年ついに中原に覇を唱えた。秦は封建制度を廃して中央集権となし，郡県制をしいて官僚制を整え，北方に対しては万里の長城*を築いて遊牧民族の南下を防いだ。しかし，その厳格な法家中心の社会体制は反発を招き，反乱が続出してBC207年にはついに滅亡した。その後，貴族出身の劉邦*(りゅうほう)と農民出身の項羽*とが争覇して劉邦の勝利となり，BC202年，国を建てて漢と称し，長安に都して大統一国家をつくりあげた。その社会体制は，豪族の発展が著しく，広大な土地所有を基礎としていた。漢代の文化は，従来の中国文化の独自性を拡大強化したもので，西方ローマとの文化交流を行なうとともに東アジア諸民族に大きな影響を及ぼした。前漢を簒奪(さんだつ)し，国を建てて新と称した王莽*(おうもう)は土地の国有化ならびに所有の制限，奴婢(ぬひ)の売買禁止などを打ち出したが，のち漢の後裔(こうえい)と称する劉秀が現われて，豪族の勢力を背景にこれを滅ぼし，漢を再興して後漢といった。後漢は豪族の連合政権であったが，他方に豪族の兼併によって土地を失った困窮農民も少なくなく，政治的混乱に加うるに水害など自然災害にも悩まされ，184年，黄巾(こうきん)の乱*が起こって各地に群雄が割拠した。中でも華北に拠った曹操*(そうそう)は強盛で，その子曹丕*(そうひ)はついに後漢を滅ぼして洛陽に即位，国号を魏と称し，また漢のあとを称する劉備は漢(蜀漢)(しょくかん)を建てて成都に拠り，孫権*は呉を建てて建業(いまの南京)に拠った。三国時代である。やがて魏は蜀漢を併合したが，しばらくして司馬氏に簒奪され，晋(しん)を称したのち呉を倒した。その後，五胡(ごこ)(匈奴(きょうど)・羯(けつ)・鮮卑・氐(てい)・羌(きょう))の中原への侵入があり，4世紀初期には長安をおとしいれたので，南に移って建康に都した。以後を西晋，以前を東晋という。東晋ののち，宋(そう)・斉・梁(りょう)・陳が続いて立ち，呉を含めてこれら南朝諸朝を六朝(りくちょう)という。その社会体制は，門閥貴族を中心とし，江南を背景とする豊かな風土・生活から生まれた文学や芸術はきわめて特色あるものとされている。

　一方，江北においては五胡十六国の戦乱時代を経て拓跋(たくばつ)部が強大となり，386年，魏(北魏)と称し，南北朝対立の情勢を現出した。北魏は強力な貴族制度のもとに均田制*を実施し，これらの制度は，北魏から東魏・西魏・北斉・北周など北朝歴代を通じて行なわれた。そして，周辺から侵入した異民族はしだいに漢民族文化に同化され，漢民族は外来民族の刺激によって新しい活力を与えられることとなった。

　南北分裂の形勢に統一をもたらしたのは隋(ずい)であった。しかし，あまりにも性急に統一を急ぎすぎた隋は，わずか30年にして滅亡して唐と交替した。唐は隋の制度を継ぎ，均田制・租庸調制・府兵制度*などをとって国庫や軍備の充実を図り，強大な統一国家を完成し，東西交通の発展や周辺諸地域との交渉に伴って著しく国際性をおびた文化が形成され，その影響は周辺諸国にあまねく及んだ。しかし，8世紀の安史の乱*以後，唐の国力は急速に衰え，節度使や地方軍閥の勢力が強くなって勢威が衰え，ついに黄巣の乱*によって滅亡した。

　唐が滅んだのち五代十国が興亡し，560年，宋がこの混乱を収拾して中国を統一した。宋は君主独裁制のもと，新興地主層を主要な基礎とする官僚群や都市の大商人にささえられた国家体制であった。しかし，その文治主義はやがて外患を招き，遼(りょう)・西夏に譲歩し，金に屈して，首都汴京(べんけい)を奪われるに至り，ついに1127年，臨安(いまの杭州)に南遷をよぎなくされた。以前を北宋，以後を南宋とよぶ。しかし宋は従来，十分開発されていなかった江南や華南の開発に努め，その結果は経済力において華北を凌駕(りょうが)するに至った。宋の文化は国粋的・内省的といわれ，宋学*や絵画・工芸など独自の境地を創出したものが少なくない。

　宋・金が対峙(たいじ)していたころ，北方ではモンゴルが興起してユーラシア大陸を席

捲(せっけん)し，13世紀には中国に侵入して元王朝を建てた。元代には周辺諸国への遠征が行なわれ，東西の交通が盛んで，中国にもイスラム文化や科学の発達がみられたが，そのモンゴル中心主義はやがて漢民族の反発をかうに至った。その圧政に抗して立ち上がったのが朱元璋(しゅげんしょう)である。1368年，モンゴル族の勢力を駆逐し，明王朝を開いて，はじめ南京，のち北京を首都として中央集権的専制国家をつくりあげ，中国文明を復興して国力の充実を図った。16世紀末にはポルトガル・スペインをはじめとする西力東漸の波が中国にも押し寄せ，イエズス会士をおもな媒介者として新しい文化要素を加えることになった。明朝における内政の腐敗は嘉靖(かせい)・万暦のころから急速に進み，北方に興った満州族の侵入によって1644年ついに滅亡した。満州族は清朝(しんちょう)を建てて漢民族*に君臨し，17世紀から18世紀にかけては康熙(こうき)・乾隆(けんりゅう)などのすぐれた皇帝が現われて，その勢威が大いにあがった。しかし，その後，産業革命を終えたヨーロッパ列強の帝国主義的侵略が始まり，19世紀になると北部・西部国境におけるロシアとの紛争，阿片(あへん)戦争*・アロー号事件*・清仏(しんふつ)戦争*など，さらには新興の日本との戦争によって半植民地的地位に転落し，以後100年間列強の圧迫に苦しむこととなった。なお，阿片戦争における失態は清朝の威信を著しく失墜し，清末最初の民族運動である太平天国の乱が起こったが，1864年内紛のために鎮定された。日清戦争*後に起こった義和団の乱*も民族主義的・排外的な運動であったが，列強の軍事介入によって鎮圧された。このような情勢下に滅満興漢を旗じるしとする民族革命の空気が瀰漫(びまん)し，1912年孫文*の指導下に清朝を倒し，中華民国を成立させた。その後袁世凱*(えんせいがい)政権時代に国民党が組織され，第2・第3革命，北伐*，中国共産党*との第1次国共合作*時代を経て，1928年南京に国民政府*を樹立して全土を支配した。その後，日本による満州事変*・日中戦争*など一連の対華侵略に対し，国民政府は第2次国共合作を行なって民族統一戦線を結成し，アメリカ・ソ連などの援助を背景に，以後全世界的規模に拡大した第2次世界大戦下の抗日戦を戦い抜いた。抗日戦争の後期，国民政府は重慶，中国共産党は延安を根拠地としていたが，1945年日本の降伏とともに起こった国共内戦は中国共産党の勝利に帰し，国民政府は台湾に走った。1949年，中国共産党を中心とする民主連合政権は中華人民共和国を成立させ，北京を首都として今日に至っている。➔中華人民共和国　➔中華民国　➔台湾

〔船越昭生〕

ちゅうごくえんげき【中国演劇】 中国の演劇は〈歌〉〈セリフ〉〈しぐさ〉〈立ち回り〉を総合した芸術形式であり，古来，日本の能や歌舞伎(かぶき)に及ぼした影響も少なくない。特に俳優の〈歌〉が重視され，〈劇を聴(き)く〉という言い方がある。史伝や民話を基礎に，すぐれた叙事的な表現様式が形づくられてきた。

〔沿革〕 源流は紀元前10世紀(西周)ごろの巫覡(ふげき)の歌舞に求められるが，紀元前7世紀ごろに俳優の出現をみた。宮廷で諷喩諫言(ふうゆかんげん)に演技らしいことをした楚(そ)の孟(もう)，秦(しん)の旃(せん)が俳優の祖とされている。漢代にはいって2世紀ごろには，西域諸国との交通を背景に，歌舞・滑稽(こっけい)・曲芸・幻術・力技などが流行して〈百戯〉または〈散楽*〉とよばれた。漢の武帝，隋(ずい)の煬帝(ようだい)はその熱心な保護者だった。唐代(7～10世紀)には〈参軍戯〉という滑稽劇に発展する。2人の俳優が狂言の大名と太郎冠者(かじゃ)に似た役割をする掛け合い劇である。玄宗皇帝は梨園(りえん)で俳優を養成したという。11世紀前後，北宋(ほくそう)時代には5人演技の笑劇〈雑劇〉となり，勾欄(こうらん)とよぶ劇場もできた。金・南宋の併立時代(12～13世紀)には北方(金)の〈院本〉と南宋の〈雑劇〉があり，戯曲文学が生まれる。13世紀元代になると，北宋雑劇，院本に語り物形式が加わって4幕構成の〈元雑劇〉すなわち〈元曲*〉へと発展する。関漢卿(かんかんけい)の《感天動地》，王実甫(おうじっぽ)の《西廂記*(せいそうき)》など北曲が生まれ，役がらも末(立役)・旦(女形)・浄(かたき役)・丑(ちゅう)(道化)・雑(端役(はやく))など20種以上に分化してきた。14世紀には元曲が衰え，南宋雑劇が民間楽曲と結びついた数十場から成る〈南戯〉(南曲)が盛行し，《琵琶記*(びわき)》《荊釵記(けいさいき)》《白兎記*(はくとき)》《拝月亭*(はいげつてい)》《殺狗記(さっくき)》など傑作戯曲が出た。明(みん)代(14～17世紀)には南戯の形式がさらに発展し，〈伝奇*〉とよばれる多幕戯曲が多く生まれ，元雑劇以来の黄金時代を迎える。上演形式は魏良輔(ぎりょうほ)の創始による風雅・華美な舞踊と繊細な歌調の〈崑曲*(こんきょく)〉である。ここで演劇は再び高官・貴顕の手にもどされたが，舞台技術の飛躍的な進歩とあいまって，ここで中国演劇の様式はほとんど定着した。清(しん)代にはいって，《長生殿*》《桃花扇*》など伝奇の大作が生まれた。18世紀には崑曲も衰退し，代わってより民衆的な京劇が王座につく。難解・冗長で優雅な崑曲に対して京劇は平易・明朗な短編を主とする。1960年代になって，これも大きな革命期にはいった。

〔地方劇〕 明から清にかけて流行した多種の曲調が，その地方ごとに相応した表現様式を生み出し，多様の地方劇として成長してきた。京劇も，もとは北京(ペキン)地方の地方劇だといえる。1959年の統計で，中国には469種の演劇が存在するが，そのうち368種以上が歌劇形式の伝統的な地方劇である。大別して昆山腔(こんざんこう)・弋陽腔(よくようこう)・梆子腔(ほうしこう)・皮黄調などの系統があり，京劇をはじめ南昆・秦腔(しんこう)・越劇・予劇・評劇など，全国的にひろく行なわれている。

〔新劇〕 20世紀にはいってからヨーロッパの近代劇・歌劇・舞踊の影響を受けて新しい劇種が生まれた。近代的な対話劇は，20世紀初頭に主として日本を通じて移入され，〈話劇*〉とよばれるようになった。現在では各省市に話劇団が置かれている。ヨーロッパのオペレッタ形式を生かした歌劇は，1940年代に《白毛女*》をもって始まる。これは中国農民の田植え歌芝居から発展してきた劇種である。バレエでは1960年代にはじめて創作された《紅色娘子軍(じょうしぐん)》と《白毛女》があり，これも舞踊というよりむしろ舞劇である。ほかに，新しい歌舞劇ともいうべき大作《東方紅》などもある。➔京劇

〔内山　鶉〕

ちゅうごくおんがく【中国音楽】 中国音楽の世界に誇る長い歴史は，その根底に流れる儒教的礼楽思想との関連において三つの大きな時代様式に区分される。第1は先史時代から殷(いん)を経て周代に至る礼楽思想の勃興(ぼっこう)の時期であり，主要楽器として磬(けい)・琴(チン)・瑟(ひつ)が早くから使用されていた。ほかにも鐘・笙(しょう)・簫(しょう)・篪(ち)・塤(けん)(土笛)・柷(しゅく)・敔(ぎょ)も記録されている。特に鐘は音律の基準として重要視され，五声*や十二律*を三分損益法で定めるようにもなった。第2の時代様式は，礼楽からかなり離れた音楽実践に基づくものであり，秦(しん)・漢・南北朝・隋(ずい)・唐と時代が進むにつれて他民族の影響が加わって多様に国際化していった時期である。4世紀までは中国本来の雅楽や俗楽が中心であったが，5～8世紀の間にインド音楽などが西域を媒介として導入され，とりわけ唐の宮廷音楽として大規模に結実した。これが朝鮮・日本に伝わって雅楽*となったのであるが，古代中国の儒教と密着した本来の雅楽ではなく，むしろ胡楽(こがく)(異文化の音楽)・俗楽とよばれていたものに相当する。第3の時代様式は，再び自国の民族性にもどろうとする，いわば文芸復興のような動きが音楽にみられる時期である。五代・宋(そう)・元・明(みん)・清(しん)，さらに現代を含めることもできよう。民族音楽確立の中心となったのは，純音楽ではなく，演劇と結びついた音楽であった。すなわち，宋の雑劇*，元の元曲*，明の崑曲*(こんきょく)，清以後の京劇*であり，これらは大衆の中から生まれ大衆に支持されてきたという点で，他の時代様式の音楽と大きく異なる。現代の中国は，西洋音楽を大幅に取り入れると同時に，それまでの民族音楽との融合をはかり，さまざまな試みがなされている。楽器の分類は伝統的には材料によって八音(パーイン)の8種類に分けることによっている。しかし実際には種目別・

中国革命

【歴史的意義】世界史上，1775年のアメリカ独立戦争，1789年のフランス革命は，ヨーロッパ・アメリカの近代市民社会成立の契機であり，1917年のロシア十月革命は，地球上にはじめて社会主義国を出現させた事件としてそれぞれその歴史的意義が認められている。中国革命は，1949年の中華人民共和国の成立でその巨大な影をアジアをはじめ世界に投じ，経済発展上遅れているアジア・アフリカ・ラテン-アメリカの半封建・半植民地諸民族の自由・独立に一つの型をさし示したものと認められ，20世紀後半に，むしろ21世紀に大きな意義があるとみられている。

【革命の語義】中国では，〈革命〉にあたる語としては〈光復〉〈起義〉〈造反〉が昔から一般に用いられ，〈革命〉は古義では《易経*》の〈天地革(あらた)まりて四時成り，湯武革命，天に順(したが)いて人に応ず〉という意味，すなわち王者が姓を易(か)えることをいった。明治時代，日本人は，この古代漢語の〈革命〉で英語のレボリューションを意訳した。中国は，これを再輸入して常用語にしたのである。中国では〈革命〉はレボリューションの訳語として定着したが，〈大義名分〉のニュアンスをおびた用語になった。たとえば，中国国民党*も中国共産党*も，それぞれ自分らが革命の本流だと強調し，相手を〈反革命〉と規定して攻撃する。官憲は，不穏文書を〈反革命〉〈反動〉として取り締まるのである。日本語の語感・用法とは大きな相違がある。

【中国革命の起点】中国では，現在，一般に，毛沢東*の発表した《新民主主義論》(1940年1月)の意見にしたがい，1840年の阿片(あへん)戦争*勃発(ぼっぱつ)を中国革命の起点とし，同時に中国における近代の起点とすることが学界の定説である。1919年の五・四運動*をくぎりにして，それ以前を旧民主主義革命といい，以後を新民主主義革命という。中国では，自国の近代化の出発点を阿片戦争という反帝国主義の民族運動に認めているわけである。

【沿革】中国革命の沿革を〈清朝(しんちょう)末期〉〈民国時代〉〈人民共和国時代〉の3期に分けることができる。

①清朝末期：中国社会が阿片戦争をきっかけに封建社会から半封建・半植民地社会に転化する過程であり，同時に，反封建・反帝国主義闘争を通じて民族主義運動が高まる過程だといってよい。中でも，日清戦争(1894～1895)は，それまで自然発生的であった革命運動を組織的・自覚的政治活動に転化させ，清朝の上からの富国強兵運動の無効を痛感させ，明治維新に範をとった体制変革運動を出発させる契機になった。1905年孫文*を盟主とする中国同盟会*が日本の東京で結成されて三民主義*がはじめて提唱されたことは，革命勢力の大同団結とともに，中国革命に明確な指針を与えたという意味がある。それ以後，辛亥(しんがい)革命*を経て五・四運動に至る中国革命は，中国同盟会およびその後身の中華革命党が中軸になった。その間，思想的には，フランス革命を生んだ啓蒙(けいもう)思想と十月革命前夜のロシア革命運動とから影響を受けていることも見のがせない。

辛亥革命によって清王朝は倒れ，中華民国が成立したが，そこでは社会革命は行なわれず，名ばかりの民国で，軍閥の支配が続いた。

②民国：孫文らの革命運動は続くが，1919年山東問題がきっかけとなって五・四運動が起こった。これは中国最初の大衆運動で，政治的ばかりでなく文化的にも与えた影響は大きい。そののち1921年，中国共産党が創立され，同じ年に国民党も再興した。これ以後，列強の援助をバックとする軍閥政権に対する国共両党の革命運動が始まり，1924年第1回中国国民党全国代表大会で国共合作*が成立した。毛沢東は，大会宣言で示された国民党の主義を孫文の三民主義の真の解釈と規定し，彼の新民主主義をその三民主義の系譜を継ぐものとした。こうして国民革命軍による北伐*が行なわれるが，1927年国共は分裂し，同年7月国民党政権が南京(ナンキン)に成立する。その後は国民党の独裁が続き，中国共産党は地方にソビエト政権を樹立して対抗するが，1935年長征して延安を根拠地とする。1930年代，中国国内は相対的安定状態を保つが，日本の満州(中国東北部)侵略，次には1937年(昭和12)の日中間の本格的戦争の開始は，中国革命に新しい局面をもたらした。すなわち第2次国共合作と人民抵抗戦争の展開である。戦火の拡大は農民の移動と土地革命をもたらし，日本軍はどろ沼にはいりこみ，国民党政権は政権の基盤を漸次喪失した。1945年の日中間の戦闘状態の停止は第2次国共内戦をひき起こした。第2次世界大戦中の連合国たるアメリカは国民党政権を積極的に援助して内戦に介入したが，そのアメリカ自身認めるように，当時の国民党政権の腐敗は民心を去らしめた。こうして1949年10月，中華人民共和国が成立した。

③中華人民共和国：国民党政権は台湾においてその政権を維持し，現在に至る。中華人民共和国は，そのいわゆる解放戦争時代からのたびたびの土地改革や三反五反運動*など一連の大衆運動で社会革命を着々と実現して政権の基盤を固めたが，《新民主主義論》でも触れているとおり，文化革命を重視する。これは1965年以来のプロレタリア文化大革命に現われている。しかもその革命は永続的だという。孫文がかつて言ったように，革命はまだ終わらないのである。

➜文化大革命　〔今村与志雄〕

用途別の分類によることが多く，雅楽器，宮廷楽器(横笛・篳篥(ひちりき)・琵琶(びわ)・阮咸(げんかん)・箜篌(くご)・箏(そう)・方響・羯鼓(かっこ)・太鼓など)，民間楽器(琵琶・三弦・胡琴・洋琴・月琴)があげられる。

中国音楽はその歴史において，他文化の音楽を吸収して豊かになってきたとはいえ，時代から時代への音楽遺産の受け渡しは必ずしもスムーズではなく，むしろ古いものを否定して新しい伝統をうちたてようとする傾向のほうが顕著である。そして興味深いことは，否定された古いものが自国でよりも隣接の国々の中によく保存されていることすらある点である。朝鮮・日本の雅楽はその一例である。朝鮮半島・日本本土・沖縄諸島，さらにベトナムなどインドシナ半島の音楽文化に及ぼした中国音楽の影響は大きく，楽器などの物質文化ばかりでなく音楽理論・演奏慣習などにも痕跡(こんせき)がみられる。　〔山口　修〕

ちゅうごくかがくいん　【中国科学院】国民政府時代の中央研究院および北平(ペイピン)研究院のもとにあった研究所を引き継いで，1949年11月，北京(ペキン)に成立した。数学・物理学・化学部，生物学部，地学部，技術科学部および哲学・社会科学部の5学部が，それぞれ専門の研究所を指導する体制をとってきたが，1966年以来の文化大革命の中で，ソビエトの科学アカデミーを手本とした科学研究機構のあり方や，各研究所の指導的な科学者の研究姿勢が批判の対象となった。〈アカデミア-シニカ〉の名で国際的に知られた中国科学院の再編成が，近く検討されるであろう。院長は，成立以来，郭沫若*(かくまつじゃく)。　〔斎藤秋男〕

ちゅうごくかくめい　【中国革命】⇨上欄

ちゅうごくきょうさんとう　【中国共産党】中国のマルクス-レーニン主義，毛沢東*思想を指導思想とするプロレタリア政党。五・四運動*のあとマルクス主義の研究者の間で共産主義青年団*がつくられたが，それら各地のグループ50余名を代表する12人が1921年7月1日上海(シャンハイ)で大会を開き，中国共産党を結成した。毛沢東も湖南代表として創立に参加し，陳独秀*が指導者に選ばれた。第2回大会(上海)では反帝・反軍閥の民主主義革命の綱領を確立し，第3回大会(広州)では国共合作*の方針が出され，毛沢東が中央委員に選ばれた。国民革命の高揚で共産党の力もしだいに伸びたが，19

27年の四・一二反共クーデターにより国共合作は破れ，八・七中央緊急会議(九江)で陳独秀の国民党との協調を第1とする右翼日和見(ひよりみ)主義路線が否定され，武装闘争・土地改革の方針が打ち出された。ついで党中央は瞿秋白*(くしゅうはく)から李立三*(りりつさん)そして王明へと極左日和見主義者に握られたが，毛沢東は1927年10月井岡山(せいこうざん)にはいり，新しい型の人民の軍隊を組織し，農村革命根拠地を建設した。1931年11月には瑞金(ずいきん)に中央労農民主政府(主席毛沢東)が成立し，1934年には赤軍30万，党員30万を擁するに至ったが，王明が指導権を奪ってこの根拠地を崩壊させた。そこで同年10月に有名な長征*を開始し，1935年1月政治局拡大会議(遵義)で毛沢東の指導権が確立された。1935年12月の中央政治局会議(瓦窰堡(がようほ))では民族統一戦線政策が打ち出され，蘆溝橋(ろこうきょう)事件*後，正式に第2次国共合作が成立した。抗日戦争を指導する中で，1940年には党員90万，赤軍50万，解放区・遊撃区の人口1億を数えるに至ったが，1941年1月の新四軍*事件に象徴されるような蔣介石*(しょうかいせき)の反共攻撃のまえに大打撃を受け，翌年には勢力は半減した。その危機を中共は整風運動*によって切り抜け，国民政府軍のサボタージュの中で日本軍の大半および傀儡(かいらい)政府軍の9割を相手に持久戦を戦った。1945年4月の第7回大会(延安)では，毛沢東思想を党の指導思想とした。抗日戦勝利後，劉少奇*(りゅうしょうき)が武器引き渡し論を唱えたが，毛沢東はこれを拒否し，その後の国共内戦4年間で敵軍807万人を殲滅(せんめつ)し，1949年10月1日中華人民共和国を成立させた。共和国成立後，最初の3年間は経済回復期，ついで第1次5か年計画期に農業・工業・手工業の社会主義改造を行なったが，この間にも毛沢東路線に反対する高崗(こうこう)・饒漱石(じょうそうせき)反党同盟とのきびしい階級闘争が党内でも展開された。1956年9月には第8回大会(北京)が行なわれ，階級闘争消滅論が力を得てきたが，それは第8回大会第2次会議(1958年5月)で打ち出された総路線・大躍進・人民公社*の三面紅旗政策に反対する動きとなって現われ(彭徳懐(ほうとくかい))，さらに1962年には劉少奇の右翼偏向として現われた。毛沢東は1962年9月〈絶対に階級闘争を忘れるな〉と呼びかけ，社会主義教育運動を興して，資本主義の道を歩む実権派をたたこうとしたが，ついで1965年11月に始まる文化大革命*によって，党のプロレタリア的再編成を成功裏にかち取った。そして，1969年4月第9回大会(北京)が開かれ，新党規約を採択して林彪*(りんぴょう)を毛沢東の後継者に定めたが，のち失脚した。　〔狭間直樹〕

ちゅうごくご【中国語】 中国の人口(8億5,213万。1976年推)の約94%を占める漢民族*の共通語*であり，漢民族以外の50いくつかの少数民族間の交際のための言語。言語学的にはシナ-チベット語族に属する。

一般に中国語は世界最古の，すぐれた言語の一つといわれる。それは次の理由による。①中国語は3,000年の歴史をもっているにもかかわらず，多くの言語に分化しなかった。これに反して，ラテン語はフランス語・イタリア語・スペイン語・ルーマニア語などのロマン諸語に分化した。②漢民族は，世界の他の民族と比較すると，その社会・文化は古来比較的に高い一致性と安定性を保持してきた。もちろん，幾度かは異民族によって統治されたことがあるが，異民族の文化が影響を与えることはなかった。したがって，中国語もまた比較的に高い一致性と安定性を保持してきた。③中国語を記録する文字——漢字*の起源はエジプト文字についで古く，現在でもなお中国語を記録するために用いられている。そのため，たとえば《孟子*(もうし)》の文体は，現代中国語の書きことばとかなり接近しているといわれている。

〔方言〕中国語の方言分類には種々の方法があるが，最も一般的な分類を示せば，次のように分けられる(使用人口数は1955年出版資料による)。①北方方言(官話方言ともいう。3億8,700万)，②江浙(こうせつ)方言(呉方言ともいう。4,600万)，③湖南方言(湘(しょう)方言ともいう。2,600万)，④江西方言(贛(かん)方言ともいう。1,300万)，⑤客家(はっか)方言(2,000万)，⑥閩北(びんほく)方言(700万)，⑦閩南方言(1,500万)，⑧広東(カントン)方言(粤(えつ)方言ともいう。2,700万)(→広東語)。北方方言という名称は広義に使用したもので，この場合にはいわゆる下江官話(漢口から南京(ナンキン)に至る地方，武漢はこの中に含まない)，西南官話(主として四川・雲南・貴州の諸省に分布し，武漢はこの中に含まれる)。狭義の北方方言とは黄河流域および東北地方に分布し，いわゆる北京(ペキン)方言は，北方方言に含まれる小方言である。ハルビン・ウルムチ(新疆(しんきょう)省)・重慶または桂林(けいりん)・南京の4地点に囲まれた地域が官話方言の行なわれている地域であり，中国語を使用する人口の約7割以上が官話方言を用いる。

〔特性〕中国語は，①比較的に孤立語性に富んでおり，②単音節語が優勢を占め，③音声組織が簡素であり，④音節ごとに声調*または四声とよばれる高低アクセントがあり，⑤簡潔にして具象的表現を好んで用い，⑥いきいきとした成語・熟語・ことわざを大量に常用する傾向がある。①についていえば，英語には呼応法(主語がIであれば述語はgoであり，主語がHeであれば述語はgoesであること)があり，また単語には屈折(goという動詞は〈goes→went→gone〉と変化すること)がある。しかし，中国語にはこういう現象はなく，主語のいかんにかかわらず，〈行く〉という動詞は〈去(チュイ)〉であり，またテンスに伴う屈折はみられない。中国語における文法的意味は，若干の機能語あるいは虚辞を用いる以外は，主として文中における語の位置によって表わされる。たとえば，〈他帮助我(ターバンチューオー)〉は〈彼がわたしを助ける〉の意味であり，〈我帮助他〉は〈わたしが彼を助ける〉という意味になる。中国語におけるこのような単語の順序はきわめて硬直的であるといってよい。②についていえば，中国語の単語には，㋑〈枇杷(ピーパー)〉(びわ)のように一つの形態素が2音節で表わされる少数の外来語，㋺〈朋友(ポンユー)〉(友だち)のように〈朋-〉〈-友〉という二つの形態素からなるが，そのそれぞれは文中において単独に使用できぬ複合語，㋩〈电车(テンチョー)〉のように〈电〉〈车〉は他の文脈ではそれぞれ〈電気〉〈くるま〉として単独に単語として用いられるものが，臨時的にその独立性を失って一つの合成語となったもの，㊁語または造語成分に接辞がついてできた語，たとえば〈椅子(イーツ)〉(いす)，〈木头(ムーシー)〉(木)，〈花儿(ホワル)〉(花)，〈吃了(チーラ)〉(食べた)，〈吃着(チージョ)〉(食べている)，〈吃过(チークオ)〉(食べたことがある)。以上のような単語は，すべて複音節である。しかし，このようなものを除けば，一つの単語は一つの音節，一つの形態素，一つの漢字からなるのが普通であって，このような単語は中国語の中で大量に使用されている。③についていえば，中国語の単語は幾十万あったとしても，それらの音声は結局約400ばかりの音節*の組み合わせに帰する。また，400ばかりの音節それ自身もその構造はきわめて簡明であって，21の音節頭音(すべて子音*)と36の音節尾音(主として母音*)からなる。それぞれの音節は，北京方言においては四つのタイプからなる高さアクセント，つまり声調(四声)をもち，きわめて音楽的である。

〔中国語の共通語〕周・秦(しん)・漢から12～13世紀ごろまでの間，〈文言〉という書きことばが半ば共通の言語として支配者階級の間で用いられてきた。もちろん，文言は何らかの共通の話しことばを基礎にしていたことは想像できるが，時代が下るにしたがって話しことばとの隔たりは大きなものになった。12～13世紀ごろになって，〈白話*〉という新しい書きことばが生まれたが，これは北方方言という話しことばを基礎にしてつくられた書きことばである。同時に，北方方言はしだいに各方言区域間の共通の言語として用いられ，清朝(しんちょう)末期に至るまでの間，当時の政治・経済的条件の許す範囲内において，民族共通語としての基礎を固めつつあった。20世紀初頭に至って，民族共通語の形成は加速度的に進み，とりわけ中華人民共和国成立以来，中国はこれまでになく統一され，北方方言は民族共通語としてその使用範囲が拡大・深化した。しかし，なお全国のすべての人民にとって

広く普及し，よく統一された言語となるにはなお距離があった。1955年に至って，教育部と中国文字改革委員会との共同主催のもとで，全国文字改革会議が開かれた。その会議において，〈北方方言を基礎方言とし，北京方言を標準音とし，典範的現代白話による作品を文法的規範とした〉言語が漢民族共通語であると認められ，これに〈普通話(プートンホワ)〉という正式な名称を与えた。こうして，明白な規範をもった民族共通語をどのように普及するかが重大な意味をもつに至った。現在，この言語は全国の人民にとって共通した言語となりつつある。

中国語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。 《イソップ物語》から

ツォンチエン　ユーイーホイ　ペイフォン　ケン
从前　有一回　北风　跟
むかし　あるとき　北風　と

タイヤン　リヤンコーレン　ツァイナール
太阳　两个人　在那儿
太陽(の)　ふたり(が)　ちょうど

チョンロン　タオティーシー　ショイトー
争论　到底是　谁的
言い争っていた　けっきょく　だれの

ペンシー　ター
本事　大。
腕まえ(が)　すぐれている(かを)

〔伊地智善継〕

ちゅうごくこうじゅうじかい【中国紅十字会】 中華人民共和国の赤十字社。本社(総会という)は北京(ペキン)。会則には，救護活動の訓練，防疫，医療事業，災害救助，国際的な救済活動などをあげている。中国紅十字会の援助で1953年3月から10月まで，前後7回にわたり，26,026名の日本人居留民の帰国が実現した。

ちゅうごくこくみんとう【中国国民党】 辛亥(しんがい)革命ののち，孫文が三民主義を指導理論として結成した政党。はじめ，中国同盟会を中心として国民党をつくったが，その後議会主義に転換し，袁世凱(えんせいがい)の弾圧を受けて解散。東京で中華革命党を組織し，袁失脚後の1919年公開政党として中国国民党と改称した。次いでロシア革命を契機に〈連ソ・容共・扶助工農〉を打ち出し，党の根本的改組に着手。1924年第1回全国代表大会において共産党員の入党を認める国共合作や国民革命軍の創設などを決め，反帝・反封建の民族統一戦線を結成した。孫文の死後，蔣介石(しょうかいせき)指揮下に北伐を開始して軍閥の打倒を図るが，その間国共の対立が激化。1927年上海(シャンハイ)における蔣の反共クーデターののち，国民党は浙江(せっこう)財閥と結び，列強と妥協する買弁，地主階級の党に変質した。蔣の独裁体制のもとに，満州(中国東北部)・華北に進出した日本軍と妥協して全力を共産軍討伐に注いだ。しかし，1935年の共産党の八・一宣言，翌年の西安事件を経て蔣は政策を転換，1937年第2次国共合作がなり，アメリカ・イギリスの援助を得て抗日運動を展開した。1945年日本が敗北すると翌年蔣は政治協商会議を重慶で開催，統一政府の樹立，国民大会の開催などを可決した。やがて内戦が勃発(ぼっぱつ)するが，共産党に圧倒された国民党は1949年台湾に移り，アメリカの軍事援助下に蔣介石独裁体制を維持している。〔大谷敏夫〕

ちゅうごくさよくさっかれんめい【中国左翼作家連盟】 中国現代の文学団体。1930年3月，上海(シャンハイ)に成立，魯迅(ろじん)をはじめ，茅盾(ぼうじゅん)・郁達夫(いくたっぷ)・田漢・銭杏邨(せんきょうそん)ら代表的文学者が多数参加。左翼といっても，実体は文学者による，市民的な，自由の防衛のための広範な組織であった。綱領はプロレタリア文学の路線を掲げ，《世界文化》《文学導報》《拓荒者》《北斗》などの文学雑誌をその機関誌として発行，国際的なプロレタリア文学運動とも連絡があった。中国現代文学はこの連盟の活動時期に世界文学における同時代性を獲得したといってよい。国民党政権の民族主義文学派をはじめ，極右・極左の文学団体とたたかったが，弾圧の強化につれて転向者が続出，魯迅を中心とするグループを除いては崩壊し，1936年日本との戦争の危機が近づくと解散した。〔今村与志雄〕

ちゅうごくさんち【中国山地】 中国地方内陸部を東西に延びる山地で，中国地方の脊梁(せきりょう)山地を形成する。高原状で高度は一般に低いが，大山(だいせん)(1,731m)・三瓶(さんべ)山(1,126m)などの高峰もある。分水界が北に偏するため，河川は山陰側に短く，山陽側に長いが，中国地方最長の江(ごう)川は脊梁山地に横谷をつくって日本海へ出ている。山陽側には吉備(きび)高原などの準平原地形が広い面積を占め，津山・勝山・三次(みよし)などの盆地をはさむ。高原はウシの牧地に利用されているところが多い。

ちゅうごくしこくちほう【中国四国地方】 日本はふつう九州・中国・四国・近畿(きんき)・中部・関東・東北・北海道の8地方に分けるが，中国地方と四国地方を〈瀬戸内海をはさむ地方〉として，一つにまとめることが多い。これは山陽と北四国が，ともに瀬戸内海に面していて，気候や産業などの上で共通点が多く，特に工業の面で新しく瀬戸内工業地域を形成しつつあることにもよる。面積は50,461km²で，人口は1,115万，1km²あたりの人口密度は220.8人である。
➔385ページ(地図) 〔浅井得一〕

ちゅうごくしそう【中国思想】 ⇨中国哲学

ちゅうごくしゅ【中国酒】 米・麦・コウリャン(高粱)などを原料として中国でつくられる酒。広大な土地の風土や気候により，その種類はきわめて多い。北方ではコウリャン・トウモロコシなどを用いた強烈な酒が多く，代表的なものにコウリャン酒があり，南方では米を主原料とするものが多く，紹興酒で代表される。
【醸造酒】①紹興酒：もち米を原料とし，本来は浙江(せっこう)省の紹興・嘉興(かこう)が本場である。甘味の強い善醸酒・攤飯酒(たんはんしゅ)，甘味が少なく氷砂糖などを加えて飲む淋飯酒(りんはんしゅ)などの種類がある。黄色または黄かっ色でアルコール分は13度以上，貯蔵年数の多いほど尊ばれ，好みの温度に暖めて飲む。わが国では老酒(ラオチュウ)とよぶが，中国で老酒とは紹興酒と限らず，すべての酒の年代を経たものを尊重してよぶ名である。②黄酒(ホワンチュウ)：アワ・キビを原料として北方でつくられ，黄かっ色なのでこの名がある。アルコール分は11度内外で甘味が強い。保存性は低い。③奶酒(ナイチュウ)：モンゴル地方で，牛乳からつくられる。無色で乳のかおりがあり，アルコール分は10度内外。同名でこれを蒸留したものもある。
【蒸留酒】コウリャン酒：コウリャンを原料とし，独特のかおりがある。無色なので白酒(パイチュウ)ともいい，アルコール度の特に強い高級品は白乾児(パイカル)とよばれる。ほかに山西省に産する汾酒(フェンチュウ)，貴州省・雲南省に産する茅台酒(マオタイチュウ)，南方で米を原料とする米酒(ミーチュウ)などが有名である。
【薬酒(混成酒)】①五加皮酒(ウーチャピーチュウ)：蒸留酒に砂糖を加え，ウコギの皮をおもな薬味とする強壮酒。②玫瑰露酒(メイコワイルーチュウ)：ハマナスの花を入れ，砂糖を加えたもので，幽雅なかおりがある。③虎骨酒(フークーチュウ)：本来はトラの骨を煮出し，種々の薬品を加えてつくる。特に強精・強壮の効があるといわれる。〔住江金之〕

ちゅうごくしんぶん【中国新聞】 広島市で発行されている地方新聞。1892年(明治25)5月5日創刊。当時《中国》といったが，1908年6月21日現紙名に改題。第2次世界大戦時の新聞統合により，1941年(昭和16)9月《呉(くれ)新聞》《芸備日日新聞》を併合して広島県の代表的日刊紙となった。1945年原子爆弾の被災によって社屋は破壊されたが，同年10月印刷を再開し現在に至っている。発行部数は朝刊約55万5,000(1980)。

ちゅうごくせいばつ【中国征伐】 1577年(天正5)以降，織田信長(のぶなが)が豊臣秀吉(とよとみひでよし)らに命じて毛利・宇喜多両氏の勢力圏である中国地方へ進攻させた戦い。秀吉は播磨(はりま)(兵庫県)の三木氏を討滅し，備前(岡山県)の宇喜多秀家を降伏させ，1581年鳥取城を兵糧(ひょうろう)攻めでおとしいれた。明智光秀(あけちみつひで)は丹波・丹後(ともに京都府)を征服した。1582年秀吉は毛利氏の部将清水宗治(しみずむねはる)を備中(びっちゅう)(岡山県)高松城に水攻めにし毛利軍と対陣したが，本能寺の変が起こったため毛利氏と講和し撤兵した。以後毛利氏は秀吉に従属した。〔松尾　涼〕

ちゅうごくちほう【中国地方】 日本を分ける8地方の一つで，北は日本海に面し，西は関門海峡を隔てて九州地方に，南は瀬

戸内海をはさんで四国地方に，東は兵庫・島根県境にある氷ノ山（ひょうのせん）（1,510m）・三室（みむろ）山（1,358m）などの1,300〜1,500m級の山々を境にして近畿（きんき）地方と接する。日本海に面する鳥取・島根，瀬戸内海に面する岡山・広島，日本海と瀬戸内海に面する山口の5県を含み，面積31,696km²で全国の8.6%，人口は729万8,000で，全国の6.7%を占める。

【地形】山口県から兵庫県北西部へかけて高さ1,000m内外の幅の広い高原状の中国山地*が東西に延び，分水嶺（ぶんすいれい）が北に偏しているので，山陰地方*とよばれる鳥取・島根両県は南北の幅が狭く東西に細長くなっており，山陽地方*とよばれる岡山・広島の2県はやはり東西に長いが南北の幅もあり，面積も大きい。山口県は北部は山陰，南部は山陽に属している。中国山地は老年期の地形で，カコウ岩が基盤をなし，よく侵食されていていくつもの盆地や高原がある。狭い意味での中国山地は，山陰・山陽両地方の分水嶺となっているいわゆる中国脊梁（せきりょう）山地をさすが，一般に岡山県から広島県にまたがる吉備（きび）高原と島根県の石見（いわみ）高原を加えて，広く中国山地とよんでいる。中国山地中の盆地には，おもなものに西から山口・三次（みよし）・新見（にいみ）・勝山・津山などがある。これらはみな山陽側に属し，山陰側の盆地の規模は小さい。また山地中には，広島県の帝釈（たいしゃく）台，山口県の秋吉（あきよし）台*のようなカルスト地形*が目だっており，ともに国定公園に指定されている。中国山地の北側には，白山火山帯に属する三瓶（さんべ）山（1,126m）・大山（1,731m）・氷ノ山などの火山が並び，大山は中国地方第1の高峰で，コニーデ型の美しい形をしており〈伯耆（ほうき）富士〉ともよばれている。山陰地方には温泉も多く，中でも鳥取県の三朝（みささ）・皆生（かいけ），島根県の玉造などは有名である。中国山地から流れ出す川は，山陰側では短く急流で，山陽側は長い。ただし山陰側でも江（ごう）川だけは長さが206kmもあって中国地方第1の長流をなすが，その下流にほとんど平野をつくらない無能川である。山陰地方の平野としては，神戸川と斐伊（ひい）川下流の出雲（いずも）平野，日野川下流の米子（よなご）平野，天神川下流の倉吉平野，千代川下流の鳥取平野などがあるが，いずれも小さい。山陽側には太田川下流の広島平野，高梁（たかはし）・旭（あさひ）・吉井の3川下流の岡山平野があり，岡山平野は中国地方最大の平野である。山陰側の海岸は，島根半島と夜見ケ浜の砂嘴*（さし）およびその間の中海（なかうみ・なかのうみ）を除けば，大きな出入はない。しかし山地が海に迫っている岩石海岸と，平野部の砂浜海岸とが交互に連続しており，砂浜海岸には砂丘が多く，その内側には鳥取県の湖山砂丘の湖山池をはじめとして，潟湖（せきこ）が多い。湖山砂丘や浜坂砂丘などをも含めた鳥取砂丘は，わが国でも最大の砂丘の一つで，山陰海岸国立公園*の一部をなしている。日本海上には隠岐（おき）諸島を除けば大きな島はなく，隠岐諸島は大山と合わせて，大山隠岐国立公園*に指定されている。山陽側の海岸線は，沈水海岸の特色を示し，出入が多く複雑で，湾入としては広島湾が最も大きい。児（こ）島半島が抱いていた児島湾は，干拓によって大部分が陸化し，さらに締め切りによる児島湖の出現によって，細い岡山水道を残すのみとなった。瀬戸内海はかつては陸地であったが，氷河時代が終わって海面が上昇したことや，地盤沈降および断層作用なども加わって，今日のような海が形成され，かつての山間地域が多くの島として残ったもので，岩礁まで入れると大小3,000にも及ぶ島があり，人の住んでいる島だけでも約300を数える。これらの島々は，淡路島（兵庫県）に次いで大きい小豆（しょうど）島をはじめとして，四国地方の香川・愛媛両県に属するものが多く，中には香川県の直島や愛媛県の大三島のように，山陽側の海岸に間近いものまである。山陽側の島としては，広島県や山口県に属するものに大きなものが目だち，広島県には因島（いんのしま）や広島湾内の江田島・能美（のうみ）島（陸続きで1島をなしている），倉橋島・厳（いつく）島，山口県では大島（周防（すおう）大島または屋代（やしろ）島ともいう）などがある。

【気候と生物】気候は中国山地によってはっきりと2分される。山陰地方は冬に降水量の多い裏日本式の気候の特色を示し，山陽地方は降水量が全般的に少ないが，その少ない雨が夏に降る瀬戸内式気候となっている。いま山陰側の代表として境（境港市），山陽側の代表として広島をとって比較してみると，年平均気温は境が14.5℃，広島が14.8℃，月平均気温の最低は境が3.9℃（1月），広島が4.1℃（1月），同じく最高は境が26.6℃（8月），広島が26.9℃（8月）で，広島のほうが夏冬を通じて気温がわずかに高いことがわかる。また年降水量は境が2,082mm，広島が1,644mmで境のほうが多く，月降水量の最大は境は9月の257mm，広島は6月の262mm，同じく最小は境は4月の124mm，広島は12月の45mmである。しかし，境では9月に次いで雨の多いのが1月の211mmで，12〜2月の冬期3カ月間に563mmという年間の27%にあたる降水量があり，雪も少なくなく，降雪日数の平均は48日に達し，広島の10日に比べてはるかに多く，50cm以上の積雪も年に平均1日はある。なお広島では6〜8月の夏期3か月間に650mmの降水量があり，これは年間の40%にあたる。山陽側では広島は雨の多いほうであり，東部の岡山の年降水量は1,218mmしかない。山陰と山陽の中間にあたる中国山地地方は，高度の関係もあって気温が低く，冬の1月には0〜2℃内外となり，夏の7月も24℃内外である。冬の降水量も多く，ことに海岸寄りの山地に著しく，大山付近は1月に300mm以上もあって中国地方の最多雪地域となり，積雪はふつう1m内外，ときには2mを越えることもあって，この地方唯一の好スキー場となっている。また広島県の三次盆地では，春秋の昼夜の気温の較差の大きいときに濃霧が発生し，〈霧の海〉とよばれる光景を現出する。風は，全地域を通じて夏は南または南東，冬は北または北西の季節風が目だち，これは日本の他の多くの地方と変わらない。瀬戸内海沿岸では，盛夏の海風と陸風の交替期に〈朝なぎ〉〈夕なぎ〉の現象が著しく，無風のためにしのぎがたい暑さとなることが多い。植物の分布では，中国地方の平地は暖帯林に属し，もとはカシ・シイなどの常緑広葉樹が多かったが，人口の増加に伴って林相が変化し，現在ではまばらになっている。中国山地にはブナ・ナラなどの落葉広葉樹が多いが，古くから開発されているために蓄積量が減っている。高度が低いため高山植物らしいものはあまり見られないが，大山の山腹にはブナの自然林が見られ，頂上付近にあるイチイ科のダイセンキャラボクの純林は特別天然記念物に指定されている。また暖流の対馬（つしま）海流が流れる隠岐諸島の西ノ島と中ノ島の間の海には，緑藻（りょくそう）類に属するクロキヅタがはえており，これはもともと紅海あたりに産する熱帯産のもので，日本ではきわめて珍しく，天然記念物に指定されている。哺乳（ほにゅう）動物は，ウサギ・タヌキ・キツネ・イタチなどが多く，ツキノワグマ・サル・シカ・イノシシは少ない。山口県防府（ほうふ）市向島のマミダヌキは天然記念物に指定されている。鳥類としては，シギ・ウズラ・ツグミ・カモ・バンが多く，岡山県の美作（みまさか）地方では，キジ・ヤマドリが目だつ。島根半島の日御崎（ひのみさき）にはウミネコの繁殖地があり，山口県熊毛（くまげ）郡熊毛町八代（やしろ）には，秋から冬にかけて朝鮮からのナベヅルの渡来があり，特別天然記念物となっている。岡山県の旭川上流地方には，両生類としては世界最大のオオサンショウウオがすみ，中国地方では鳥取・島根・山口の各県，その他では愛知・三重・大分の各県でも見られるが，地域を定めず指定された特別天然記念物である。岡山県笠岡（かさおか）市の金浦湾には生きた化石として知られるカブトガニがおり，山口県岩国市のシロヘビ（白化系アオダイショウ）も珍しい存在である。

【第1次産業】低地はもとより，山間の狭い谷間や島々の山頂までもよく耕され，水田率も72%に達している。しかし山地が広い部分を占めているために耕地率は低く，全国平均の16%に達しているのは岡山県だけで，鳥取県（15%）がこれに次ぎ，島根県のように10%のところもある。したがって，1戸あたりの耕地面積も0.74ヘクタールと

狭く，兼業農家が80％を占める。例外として，岡山県の児島湾周辺の干拓地には経営規模の大きい農家があり，児島郡藤田村では１戸あたり平均1.36ヘクタールに達する。山陽は二毛作が主で，山陰でも気候上の不利や湿田が多いという悪条件を克服して，50％を越える二毛作が行なわれていたが，いまは労力不足や麦作の収支が償わないことなどもあって冬の裏作は減少しており，鳥取県では43％と低下している。裏作には裸麦が多かったが，最近は大麦や小麦とともに，麦類の作付は目だって減少している。一方，くだものと工芸作物の種類および収穫量の多いことは，この地方の特色である。広島・山口両県のミカン・ナツミカン，岡山県のブドウ(全国３位)・モモ，鳥取県の日本ナシ(二十世紀ナシ，全国１位)などは代表的なもので，ブドウのうちで岡山県のマスカットは全国の90％以上という独占的地位を占めている。工芸作物には岡山県のタバコ，岡山・広島両県のジョチュウギク(全国２，３位)，岡山・広島両県のイグサなどがあり，岡山県のイグサはかつては全国一の収穫量を誇っていたが，現在は熊本県に抜かれて２位に落ちている。山陰の山間部では，コウゾやミツマタなどの和紙の原料がつくられており，またクワ畑も比較的多く，島根県は西日本では有数の養蚕県である。中国山地の高原地帯では，古くから牧牛が盛んで，出雲牛(島根県)・因伯(いんぱく)牛(鳥取県)・神石牛(広島県)・千屋牛(岡山県)などの全国的に知られた役肉牛を出していたが，最近では減少している。乳用牛は岡山県に比較的多い。中国地方は林野面積は広いが，林業はあまりふるわない。それは，もともとカコウ岩の山地には木が育ちにくい上に，〈たたら〉とよばれる木炭を用いた砂鉄の精練と海岸地方の製塩のために，これまで多くの木を切ったこともあって，森林の蓄積量が少なくなったためである。しかし，アカマツなどのマツ類の生産量は比較的多く，また島根県は竹材の生産では全国一で，年々少なくはなっているが木炭の生産も行なわれており全国で７位を占めている。また広島・山口両県のクリ(全国３，４位)，岡山・広島両県のマツタケ(全国１，２位)のほか，シイタケ・ワサビなどの特殊林産物も多い。漁業は日本海に面する山陰側のほうが盛んで，山口・島根両県の漁獲量は日本でも有数であり，イワシ・アジ・イカ・サバ・カレイ・タラ・カニなどを主とし，山口県の下関(しものせき)は日本でも最大の漁業基地の一つで遠洋漁業も盛大である。瀬戸内海に面する山陽側は，工場の排水などによる漁場の汚染のために年々漁獲が減少している。広島湾のカキの養殖もその被害を受けているが，その収穫量(むきみ)は全国の70％を占めて圧倒的である。またハマチの養殖が，日本海岸でも瀬戸内海岸でも行なわれているが，同じ瀬戸内海の北四国側に比べると，その収穫量ははるかに少ない。山口県の瀬戸内海岸では，クルマエビの養殖が盛んで，その収穫量は全国の36％を占め，第１位にある。ノリの養殖は，日本海側は山口県，瀬戸内海側は山口・広島・岡山の３県で行なわれている。なお，山口県の防府市の三田尻(みたじり)をはじめとして，瀬戸内海沿岸に広く分布していた塩田は，イオン交換膜製塩や海水直煮製塩の普及のためにほとんど消滅し，その跡は工場用地などに変わっている。

〔第２次産業〕中国山地では古くから砂鉄を原料とする製鉄が行なわれ，また銅や銀も産し，島根県の大森銀山などは有名であったが，現在ではほとんど見られなくなった。鉱産物として見るべきものは岡山県の柵原(やなはら)鉱山の硫化鉄鉱があるだけで，かつては全国の10％を産した山口県の石炭も，宇部(うべ)の有煙炭田は1967年(昭和42)に，大嶺(おおみね)の無煙炭田は1970年にともに閉鎖して，現在は１ｔの石炭も出していない。新しいものとしては岡山・鳥取県境の人形峠のウラン鉱があり，1956年から原子燃料公社によって採掘され，粗鉱として製錬した上で茨城県東海村へ送られている。また石灰岩やカコウ岩などの資源は各地に豊富である。工業面では，東は阪神(はんしん)，西は北九州の二大工業地帯の中間にあって，第１次世界大戦を契機として繊維工業，第２次世界大戦を契機として重化学工業の発達をみ，北四国地域とともに，散在的ではあるが〈瀬戸内工業地域〉を形成している。おもな工業としては，山口県の小野田・宇部のセメント・ソーダ，山口県の徳山・下松・岩国，岡山県倉敷市水島の石油精製と石油化学，山口県光と広島県福山の鉄鋼，山口県防府・岩国や広島県三原や岡山県岡山・倉敷の化学繊維，広島の自動車，広島県呉(くれ)・因島と岡山県玉野の造船などがあり，岡山県南新産業都市の一部である水島工業地区をはじめとして，各地に海岸の埋め立てによる工業地域の造成が進んでいる。山陰では，松江・米子・倉吉・鳥取に伝統的な製糸業が行なわれ，また米子や島根県の江津にはパルプ工場がある。島根県から鳥取県にかけては中海地区新産業都市が指定され将来が期待されているが，一般に山陽に比べて近代工業の発達は遅れている。

〔交通・都市〕瀬戸内海は古くから近畿地方と九州地方を結ぶ水路として，陸上の山陽道とともに，交通上重要な役割を果たしてきた。山口県の光市内の室積，長島の上関(かみのせき)，広島県の倉橋島の鹿老渡(かろうど)，下蒲刈(しもかまがり)島の三之瀬，福山市内の鞆(とも)，岡山県倉敷市内の下津井，玉野市内の日比，牛窓などは古い港町として栄えたところである。これらの港は帆船の衰退や鉄道の発達によって昔の機能を失ったが，瀬戸内海は現在も神戸(こうべ)をめざす外洋航路や，観光を主とする別府航路(大阪～神戸～松山～別府)などの東西のルート，宇高(宇野～高松)・仁堀(にほり)(仁方～堀江)の鉄道連絡船をはじめとする南北のルートでにぎわい，フェリーボートや水中翼船の往来も激しい。また，明石(あかし)・鳴門(なると)架橋，瀬戸大橋(児島～坂出(さかいで))，瀬戸内海大橋(尾道(おのみち)～今治(いまばり))の本州四国連絡橋の計画も具体化しつつある。陸上では，山陽本線と山陰本線の東西を結ぶ鉄道が早くからでき，南北を結ぶ鉄道は中国山地を横断しなければならないために遅れたが，現在は山口・芸備・木次(きすき)・伯備・因美・姫新(きしん)・津山の各線がその役を果たしている。また松江～広島間をはじめとして，国鉄や民営の長距離バスもよく発達している。山陽新幹線は，1972年３月に岡山まで開通，1976年には下関を経て博多(はかた)まで全通の予定である。東海道新幹線と山陽新幹線によれば，東京～岡山間は超特急〈ひかり〉号で４時間10分で結ばれる。また関門海峡には山陽本線および国道２号線の二つのトンネルがあるが，すでにその輸送力は飽和状態にある。現在，山陽新幹線の新関門トンネル(1970年着工)のほか，国道には関門大橋が架橋工事中で，後者は1968年に着工し，1973年度中には完成の予定である。空港は，岡山・広島・宇部・米子・鳥取・出雲・隠岐にあり，全日空と東亜国内航空の定期便が，それぞれ相互の空港間のほか，東京や大阪・福岡と連絡している。1979年現在，人口で第１の都市は広島(86万)で，中国地方の行政・経済・文化の中心であり，岡山(54万)・倉敷(40万)がこれに続く。広島・岡山のほか，鳥取(13万)・松江(13万)・山口(11万)と，県庁所在地はすべて旧城下町で，このほか人口20万を越える都市に福山(34万)・下関(26万)・呉(24万)がある。〔浅井得一〕

ちゅうごくてつがく【中国哲学】⇨次ページ

ちゅうごくでんりょく【中国電力(株)】中国地方５県と愛媛・香川・兵庫県の一部を供給地域とし，1951年(昭和26)日本発送電(株)の全国九分割の一つとして発足。発電量は９電力のうち６位。火力の比重が高いのが特徴。島根原子力発電所，岩国の火力発電所を建増設中のほか，水力発電所98，火力発電所11を保有している。関係会社には福山共同火力・水島共同火力・中国電気工事などがある。本社広島市。資本金1,327億9,300万円，1979年度営業収入4,783億円，従業員数11,529(1980年９月)。

ちゅうごくどうめいかい【中国同盟会】辛亥(しんがい)革命*を指導した中国の政治結社。1905年８月20日，興中会*・華興会*・光復会*などが連合して成立した。孫文*を総理に選び，〈韃虜(だつりょ)駆除・中華回復・合衆政府設立〉を綱領に掲げ(→三民主義)，機関誌《民報*》によって革命の宣伝を行なうと同時に，数度の武装蜂起(ほうき)を敢行した。武昌

中国哲学

中国哲学とは，中国の歴史社会に生きた人間の意識・関心・志向などの総称で，それは宗教・道徳・文学・科学・思想などの全領域にわたり，個人や集団の行動・運動の基礎をなすものである。その思想内容は多様であるが，基本的には歴史の変遷と社会的立場の違いに対応しており，歴史的展開に基づいて理解するのが妥当である。かりにその一般的特徴を一つだけあげるならば，実践的であることだといえる。すなわち，題目が直接に政治的・道徳的問題にかかわっているだけでなく，その形が思想それ自体としての完結性をもたず，むしろ実践を指向し，実践において完結するという傾向をもち，したがってしばしば教示・指示の形をもっていることである。

中国哲学は，中国の歴史社会の発展にしたがって，封建制から郡県制への過渡期にあたる〈諸子百家*の時代〉，郡県制帝国下の〈儒教正統の時代〉，および西欧近代文明の侵入に対応した〈新中国への模索の時代〉とに大別できる。

①諸子百家の時代：周の封建的氏族制が崩壊し，秦(しん)・漢の統一王朝に再編成されるまでの春秋戦国時代に，新旧階級やその他の諸階層が比較的自由にその利害を主張した。いわゆる〈百家争鳴〉である。その主題は，政治や国家また人間性のことを家または血縁的集団との関連で考えることにあり，天*・性*など，次の時代でも重要となった諸概念が提示され，知識論や世界構成論までが論議された。

②儒教正統の時代：秦・漢帝国の成立のとき，権力支配秩序の貫徹を主張する法家*，ついで超越的権力を教説する道家*の黄老思想が支配したが，武帝のBC136年にさきの両者によって血縁的な家の秩序を拡大し強化した儒教が国家支配の正統教学に指定され，官僚にとって必須(ひっす)の基本教学となった。以後，この家父長制支配のイデオロギーが，王朝中国の思想史の主軸となって展開された。その展開は，時代とともに増大した社会の民主的・合理的要求に対応して，王朝の家父長制権力が自己を合理化し改良していった過程の思想的表現の歴史にほかならない。

㋑前漢には陰陽五行説によって天子の支配を基礎づける董仲舒*(とうちゅうじょ)の公羊学(くようがく)が行なわれ，権力の弱体化した後漢には権力を神秘化する迷信的な讖緯説(しんいせつ)が生まれた。これに対して，知識人には王充*の非儒教的な合理的思考の試みや鄭玄*(じょうげん)の訓詁学(くんこがく)的経学が起こり，そして末期には民衆による反体制暴動にまで発展した五斗米道*や太平道が起こり，人の生存と平等を要求した。

㋺三国・南北朝の豪族分争期を経て隋(ずい)・唐の均田制国家に至る時期。三国・南北朝の統一秩序の弛緩(しかん)を反映して儒教が衰え，代わってまず老荘思想*が起こり，清談*が語られた。それは，一方では秩序から分散して不安になった個人を心情の自由によってささえようとする竹林の七賢*らの高踏論であり，他方ではこれらの分散的個体に君臨する抽象的権力を教説する何晏*(かあん)らの玄学であった。外来の仏教が中国に定着したのも同じこの二つの動機によった。一つは主として南朝における道安や慧遠(えおん)による般若*(はんにゃ)の空の哲学，一つは主として北朝における仏教国家の思想で，仏教の呪術(じゅじゅつ)的・神学的性格が利用された。やがて，インド仏教の人間観・社会観の中国伝統思想との相違が意識され，両者の論争と融和が行なわれた。たとえば，《弘明集(ぐみょうしゅう)》がそれである。その後隋から唐初にかけて生まれた貴族的で壮大煩瑣(はんさ)な華厳(けごん)・天台の中国仏教哲学は，まさに隋・唐の国家哲学であった。こ

(ぶしょう)蜂起後，立憲派と協同して各省の軍政府また南京(ナンキン)臨時政府の権力を握ったが，民衆に十分に依拠できなかったため，革命を徹底させえず，のち袁世凱*(えんせいがい)に権力を奪われた。同盟会は1912年8月に国民党となった。〔狭間直樹〕

ちゅうごくはくしょ　【中国白書】⇨対華白書

ちゅうごくふく　【中国服】中国の服飾の総称。標準的な構成は，上衣は袷(あわせ)または綿入れの袍(パオ)と襖(アオ)，ひとえ仕立ての衫(シャン)と長衫(チャンシャン)を基本とする。袍は盤領(まるえり)のすその長い前合わせ表着で，襖は袍と同形式で上半身だけの短いもの，衫は袍と同型の短いもの，長衫はすそ長のもので，ともに夏用。下衣としてはひとえ・袷・綿入れの褲子(クーツ)(ズボン)をはく。婦人用としては，背心(ベイシン)を袍または長衫の上に着用する。若い女性では女衫(ニュイシャン)と公式用には裙子(チュンズ)をはく。辛亥(しんがい)革命以来，中華民国では洋式の詰めえりとズボンを組み合わせた中山服を制定し，また中華人民共和国では同様の形式の工人服に人民帽をかぶる服装を設定し，在来の伝統的な中国服は家庭着・社交服などに用いられるようになった。近来は都市では純洋装も流行している。

ちゅうごくぶっきょう　【中国仏教】中国において展開した仏教。インド仏教を受け継ぎ，朝鮮や日本の仏教の母胎となった



中国服　中華人民共和国以前の晴れ着と家庭着

仏教であり，中国人の民族的思惟(しい)方法や伝統思想との接触によって消化され変容された仏教である。

【特色】中国人は漢訳大蔵経として提供された膨大な仏教文献を通じて仏教を知り，思索を凝らし，みずからの体験や修道に導かれながら，独自の仏教をつくりあげた。インド人とは民族的資質や伝統思想をことにする彼らにとって，仏教は必ずしも容易に受け入れられるものではなかった。たとえば中国人が仏教の輪廻(りんね)思想を正しく理解しうるまでにはかなりの曲折があった。また神滅を主張する儒家と神不滅を主張する仏教者との間に激しい論争が交わされたのも，思想的伝統をことにする両者の避けがたい運命であった。僧侶(そうりょ)の剃髪(ていはつ)は，身体髪膚(はっぷ)を傷つけてはならないとする儒家の考え方と衝突したし，孝倫理の立場からすれば，家族を捨てて出家することを勧める仏教はなんとしても容認できなかった。中国の仏教者たちはこうした困難な問題に答えを用意しつつ，みずから中国人として仏教的思索と体験を深め，ついに天台・華厳(けごん)・禅・浄土という中国的仏教を創造した。

【歴史】インドで生まれた仏教は，紀元前後のころに西域を経て中国に伝えられた。東晋(しん)末までの約400年を翻訳時代とよぶ。最初の訳経は安世高と支婁迦讖(しるかせん)によってなされ，その後も多数の訳経僧が渡来して新経論を紹介した。中でも呉の支謙，西晋の竺法護(じくほうご)などの功績は大きい。みずから西域におもむいた朱士行のような中国人求法(ぐほう)僧もあった。こうして徐々に仏教が理解されるようになったが，西晋時代になると儒教や老荘思想を媒介にして仏教思想を解釈する格義仏教が起こった。しかし道安*や慧遠(えおん)などの努力によってこの誤りも改められた。鳩摩羅什(くまらじゅう)の訳経は中国仏教に一時期を画し，南北朝の仏教研究時代を準備した。彼は《般若経(はんにゃぎょう)》《維摩経(ゆいまぎょう)》《法華経(ほけきょう)》などの大乗経をはじめ，ナーガールジュナ(龍樹)の哲学的著作などを翻

の仏教に刺激されて陶弘景(とうこうけい)らにより教団道教が形成され，仏・道の2教が対立した。さらに，隋・唐帝国は儒教を《*五経正義》と*科挙制度によって復活したので，ここに儒・仏・道の3教の国家的正統の争奪が始まった。

㋩唐の中期以後の中国社会再編成期には，個人の心性の根源を問う*禅が知識人の心をとらえ，儒教はこの心性の要求を満足させる礼教国家のあり方を模索した。こうして，地主官僚制の集権国家の宋(そう)が成立したのち，個人の道徳的規範意識に基づく大義名分秩序の国家哲学が形成された。この新儒教が*宋学または*朱子学で，以後の中国王朝の正統教学となる。しかしすでに，国家秩序に社会分子が顕在化していて，独自の思想を形成した。庶民化した知識人の宗教としての*全真教が現われ，また土地の均分所有を要求した結社宗教(→道教)も多く起こった。したがって，明(みん)になると，朱子学が客観的なものとして説いた国家秩序をもっぱら主観的に絶対化することによって守ろうとする*王陽明が現われ，またその反面に人間主観的要求を直接に主張する*李卓吾(りたくご)を生んだ。

㋥清朝(しんちょう)の初め，*王船山らは支配者である満州族に対する漢民の自主の要求を，社会・政治の儒教主義的再建の主張に結合した。この志向によって起こった明末清初の学は清朝によって弾圧され，ただその実証的な学問の方法が*考証学として展開された。19世紀になって清朝権力の弱体化に対し，儒教はその国家教学としての機能を回復すべく，新しい公羊学の道を開いたのである。

③新中国への模索の時代：西欧の資本主義文明の経済力と軍事力が侵入した*阿片(あへん)戦争と，人民が権利の平等を戦闘的に要求した*太平天国運動とによって，儒教を中心とした伝統思想が，王朝的政治社会体制とともに，その存続の権利を問われた。

㋑儒教的体制は自己を存続させるために，その本質は温存しつつ西欧の技術文明を採用するという〈中体西用論〉をこしらえた(→*張之洞(ちょうしどう))。この開明的大地主官僚の思想に次いで，地主ブルジョアジーの思想として，儒教的権威主義のもとに政治・道徳・学術に及ぶ全面的近代化を試みる*康有為の〈*変法自強運動〉が説かれた。これらはいずれも儒教の王朝的性格に手をつけず，その内容だけを近代化して情勢に対処しようとするものであるから，西欧近代文明そのものの力に対抗できなかった。20世紀にはいると，民族ブルジョアジーの要求する革命思想が登場する。これは，漢民族が外国の侵略および異民族の支配から脱却することと，近代的民主共和制を樹立することとを同時に主張する国民国家革命の思想である(→章炳麟(しょうへいりん)　→孫文)。その結果，*辛亥(しんがい)革命によって中華民国となるが，外国の帝国主義侵略と，国内でこれに呼応する封建的地主・軍閥・買弁の支配が続いた。

㋺20世紀の10年代，儒教を主とする封建文化を否定し，民主主義と科学の近代文化による文化革命を意図する*陳独秀や*胡適(こてき)の啓蒙(けいもう)主義的な新文化運動が起こったが，これが反帝国主義の潮流と合流して大衆的な*五・四運動となった。その結果，あらためて革命の主体，新文化のにない手の階級性が問題となり，軍閥・買弁勢力を温存したまま近代化を進めようという近代化主義と，マルクス主義の立場に立つ*李大釗(りたいしょう)らの思想と運動とが分化し，対立してくる。このマルクス主義運動は，さらにプチブル的観念性を批判して*毛沢東の反帝国主義・反封建主義の革命理論を形成し，抗日革命闘争の中で〈新民主主義論〉へと発展して，1947年，中国の全国的解放に結実した。➔中国革命　➔中国文学

〔西　順蔵〕

訳紹介した。《涅槃経(ねはんぎょう)》や《華厳経》が伝訳されたのもこの時代である。南北朝の仏教は隋(ずい)・唐仏教の準備期にあたり，経論の翻訳および教理的研究が盛んであった。南北朝の仏教はそれぞれ特色があり，南朝の仏教は貴族的・高踏的・学解的であるのに対し，北朝の仏教は国家的・呪術(じゅじゅつ)的・実践的であった。きびしい破仏の断行，雲崗(うんこう)や龍門(りゅうもん)の大石窟(せっくつ)の建造は北朝仏教の性格を示している。*菩提流支(ぼだいるし)による《十地経論》や《浄土論》の翻訳，真諦(しんだい)による《摂大乗論(しょうだいじょうろん)》《倶舎論(くしゃろん)》《大乗起信論》の紹介が与えた影響は大きい。経論の研究に基づいて毘曇(びどん)・成実・涅槃・地論・摂論などの学派が成立した。*達磨(だるま)の渡来や*曇鸞(どんらん)の活躍もこの時代である。仏教と儒教・道教の関係は複雑で，南朝では活発な論争を展開したが，北朝では三教の抗争が破仏を誘発する原因をつくった。

隋唐時代は中国仏教が最も隆盛をきわめた時代である。南北の分裂を統一した隋，およびそのあとを受けた唐は，世界史的にも空前の繁栄を誇ったが，こうした統一国家の時代がそれにふさわしい新しい仏教を要求した。こうして特定の経論をよりどころとする宗派が形成され，中国人自身による仏教の体系化が進められた。毘曇などの学派もかつて宗名をもってよばれていたが，厳密には隋唐時代にはじめて宗派ができたのである。学派から宗派への発展を促したモメントは寺院経済の独立および教判の確立である。*吉蔵による三論宗はまだ学派的色彩が濃く，インド仏教の継承に苦心の跡がみられたが，*智顗(ちぎ)は《法華経》を至上とする独自の教判(→五時八教)をたて，天台宗を開いた。また*法蔵は《華厳経》を中心に仏教の体系化を試み，*五教十宗の教判によって華厳宗をつくった。この二宗は隋唐仏教教学の双璧(そうへき)といわれる。*道宣の開いた律宗，*玄奘(げんじょう)・窺基(きき)による法相宗，*不空の伝えた密教もこの時代に栄えた。禅宗は弘忍(こうにん)・*慧能のころから著しく発展した。慧能の系統は南宗，*神秀の系統は北宗とよばれたが，北宗はやがて衰えた。民衆的仏教としては浄土教と三階教がある。ともに末法思想にたつ仏教で，浄土教は専修念仏を，三階教は普敬普行を勧めた。*三階教は邪教として禁圧されたが，浄土教は*道綽(どうしゃく)・*善導らの努力で広まった。禅宗と浄土教は最も中国的な仏教として隋唐以後も仏教の主流を形成した。

宋(そう)代以後になると仏教は守勢に立ち，隋唐仏教の遺産を維持継承するばかりで，新しい展開はみられず，全般的に沈滞ぎみであった。仏教と儒教・道教の関係はこれまでのような対立抗争ではなく，相互に影響を与え融合し合うという方向に変わった。たとえば，宋学(朱子学)・全真教・陽明学などの成立はいずれも仏教思想の強い影響を抜きにしては考えられない。仏教内でも諸宗融合の傾向が一般的となり，教禅一致説が提唱され，禅浄双修に基づく念仏禅が隆盛した。また庶民の間に広く行なわれた信仰としては，弥勒(みろく)信仰・観音信仰・地蔵信仰などがあり，また*盂蘭盆会(うらぼんえ)なども年中行事化していた。元・明(みん)・清(しん)代の仏教の著しい特色は居士(こじ)仏教が盛んになったことである。特に清末にはすぐれた居士の仏教者が現われ，仏教復興運動の一翼をになった。革命以後の中国では新しい仏教運動はみられないが，仏教寺院や遺跡・文化財は国家的な保護を受け，僧侶は政府の政策に反しないかぎり，布教の自由があるといわれる。〔岡部和雄〕

ちゅうごくぶんがく　【中国文学】 ⇨次ページ

ちゅうごくりょうり　【中国料理】 中華料理ともいう。中国大陸に発達した料理で，現在では世界各国で愛好され，次のような特徴がある。①油脂を巧みに使い，油っこさを感じさせない。②材料の種類は世界一に多いといわれ，しかも調理においてほとんど廃棄分を出さない。③無味または臭気の強い食品を調味料・香辛料の巧みな使用で美味にする。④デンプンの水どきによってしるをむだなくからませ，材料の自然の味と栄養分の流失を防ぎ，舌ざわりをなめらかにする。⑤調理器具・食器・食べ方が

中国文学

中国文学は，古来，その文字である漢字*とともに東アジアの各民族に受容され，多大の影響を与えてきた。日本文学に例をとれば，奈良時代以来，漢詩*・漢文*の鑑賞と創作は長く日本文学の一部分となり，日本独自の民族文学の発展に欠くことのできない栄養となってきたし，民衆の言語生活にまで寄与するところが多かった。

〔起源〕中国文学の起源は，中国文明の発生とともに古い。殷(いん)王朝の遺跡から発掘された甲骨文字*で記された占卜(せんぼく)の文章にすでに韻文体の作品があるし，古い文献に断片的に伝わる神話・伝説も，中国西南地方に住む少数民族の洪水(こうずい)伝説*などの口誦(こうしょう)文学の型との類似から推量して，悠久(ゆうきゅう)なる過去に起源があるとみていい。しかし，中国最古の詩集は《詩経*》である。日本の《万葉集》に相当するこの選集は，ＢＣ600年ごろに成立し，周代，黄河流域に成立した諸国の宮廷人や民衆の生活感情をしのばせる叙情詩が少なくない。日本の《古事記》に相当する《書経*》は，荘重典雅な文体で，後世の正統派文章の規範の一つになった。

〔先秦(せんしん)時代〕周代中期，春秋および戦国の各時代には，孔子*をはじめとして孟子*(もうし)・荀子*(じゅんし)・荘子*・韓非子(かんぴし)らの思想家が輩出し，孔子の言行を記した《論語*》をはじめ《孟子》《荀子》《荘子》《韓非子》などの著作は文学的にも価値が高い。歴史書の《春秋左氏伝*》や《戦国策*》も記録文学としてすぐれている。先秦時代の末期，楚(そ)の国に出現した屈原*は古代最高の叙情詩人で，彼の作品や楚の国の韻文作品を集めた《楚辞*》は，漢代に栄えた賦*の源流であるばかりか，神話・伝説の宝庫である。

〔漢・魏(ぎ)・六朝(りくちょう)時代〕漢代は，宮廷文学として賦が栄え，司馬相如*らの作者が出たが，司馬遷*の《史記*》と班固*の《漢書*》は伝記文学の代表作である。また後漢初期の王充*の《論衡》は合理主義的評論の書で，一種の文体改革さえ試みている。しかし，漢代の民衆の声を伝えるのは，古詩・楽府*(がふ)などの一連の叙情詩であろう。漢末の《孔雀(くじゃく)東南飛*》は古今まれにみる長編で，すぐれた物語詩である。魏・晋(しん)から六朝にかけては，漢代楽府の系列に属する叙情詩が盛んにつくられたが，特に民歌に佳品が少なくない。この時代の代表的詩人としては，曹植*(そうしょく)・陶淵明(とうえんめい)・鮑照(ほうしょう)・庾信*(ゆしん)らがあげられる。魏・晋の名士の逸話集《世説新語*》と文学評論の《文心雕龍*(ぶんしんちょうりゅう)》，さらに詩文選集《文選*》は，当時の貴族社会の文学的関心の所在を知るうえで絶好の著作である。また，酈道元(れきどうげん)の《水経注*》と楊衒之(ようげんし)の《洛陽伽藍記(らくようがらんき)》もすぐれた写景の散文作品である。顔之推の《顔氏家訓*》も，日本の《徒然草(つれづれぐさ)》に相当するすぐれた随筆とみることができる。

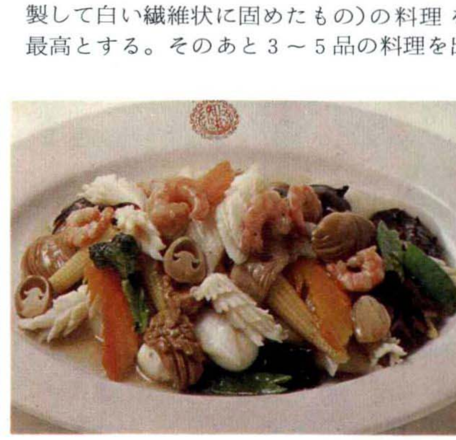
〔唐代〕唐代にはいって，六朝時代から発展してきた詩が形式的に完成し，黄金時代を迎える。官吏登用試験で詩を課したこと，西域から種々の音楽が伝わって中国の音楽が発達したこと，前代の門閥制度の打破で自由競争の風が士大夫層に生じたことなどが詩の隆昌(りゅうしょう)の原因にあげられる。詩人の数は多いが，ここでは王維*・李白*(りはく)・杜甫*(とほ)・韓愈*(かんゆ)・白居易*・李賀*・李商隠*らの名をあげておく。また散文では，韓愈らによる古文運動が起こり，後世の散文に深い影響を与えた。短編小説(文語体)もつくられて，後世の小説・戯曲に題材を提供している。仏教経典の漢訳は前代から行なわれ，中国文学の辞藻(じそう)を豊かにしていたが，唐代にはいってもすぐれた漢訳仏典が出ている。仏教教義普及のための通俗文学も現われた。後世の白話*(口語)文学の先声である。

〔宋(そう)・元代〕唐代には，また〈詞*〉とい

簡単で合理的である。

〔地域系統と特色〕国土が広大な中国では，地方により気候・産物・習慣その他が著しく異なるため，地域的に特色ある料理が発達した。次の4系統に大別できる。①北部系(河北・山東・河南省など)：北京(ペキン)料理で代表される。清(しん)代に発達した格式高い宮廷料理と，各地の郷土料理が加わって一体となった。寒冷地のため，揚げ物・いため物など濃厚で高カロリーの料理を特色とし，鳥獣肉類・川魚の料理も盛んである。小麦粉の産地なので，包子*(パオツ)類・めん類などを常食とする。代表的料理は烤鴨子(カオヤーツ)(アヒルの丸焼き)・烤羊肉(カオヤンロウ)(ジンギスカン料理)など。②中部系(上海(シャンハイ)・杭州(こうしゅう)・蘇州(そしゅう)・南京(ナンキン)など)：多彩な材料を用い，特に川魚料理が発達し，カニ・エビの生食が有名。味は一般に淡泊で，蒸し物や長時間煮込むものが多い。なお，上海料理は西洋料理*の影響も多く，砂糖を使って濃厚な味つけをし，外観の美しさも特色とする。代表料理は糖醋排骨(タンツーパイクー)(骨つき豚肉の甘酢あんかけ)・紅焼圏子(ホンシャオチュアンツ)(豚の腸の煮込み)など。③西部系(四川・雲南・貴州など)：海産物などの材料に恵まれないので，香辛料・調味料の使用法と貯蔵食品が発達した。岩塩を使うのでつけ物が美味とされる。四川料理の香酥鴨(シャンスーヤー)(カモのかおり揚げ)・乾焼明蝦(カンシャオミンシャ)(エビのとうがらしいため)や雲南省の納豆料理・豆腐・ゆばなどが有名。④南部系(広東(カントン)・福建など)：産物に恵まれ，料理の種類も多い。薄味に仕上げるのが特徴である。広東料理は魚翅(ユイチー)(フカのひれ)の料理や脆皮鶏(コイピーチー)(鶏のから揚げ)などが有名で，洋風の調味料・材料を用いたものが多い。福建料理はスッポンや海産物を多く用い，スープ・なべ物に特色がある。日本料理に最も近いといわれる。

〔献立〕日常料理では，南方系は飯・かゆ，北方系では粉食を主にして，数種の料理を自由に取り合わせる。酒席・宴会は筵席(イエンシー)といい，一定の方式で次のようにつくる。なお，料理の品数や材料は，縁起がよいとして偶数(特に4)にする風習がある。なお，献立表を菜単(ツァイタン)といい，ふつう飯・かゆ・果実はのせない。また，酒のつまみや料理が運ばれる前に供する小食品を京果(チンクオ)という。①葷菜(フンツァイ)(前菜)：冷葷(ロンフン)と熱盆(ロウペン)とがある。酒のさかなでもあり，冷葷が一般向きで，皮蛋*(ピータン)・クラゲ・アワビ・焼き豚・キュウリなど，外観や調理法に変化のある料理を2～6品偶数で出す。熱盆はいため物・揚げ物などしるの少ないものを冷葷のあとに供する。②大件(ターチエン)(本菜)：主要料理で，その宴席で最も代表的な材料の料理を最初に供し，燕窩(イエンウオ)(海ツバメの巣を精製して白い繊維状に固めたもの)の料理を最高とする。そのあと3～5品の料理を出

中国料理　什錦併盤(盛り合わせ前菜)　　八宝菜(五目うま煮)

う一種の叙情詩が生まれた。五代にはいって南唐の李煜(りいく)という古今独歩といわれる詞の名手が出たが，宋代にはいって全盛期を迎える。そして，唐詩とは趣の違う理知的傾向の目だつ詩風が生まれた。古文運動も盛んで，いわゆる唐宋八大家の文が散文の世界で主流を占めた。宋代の文学者としては欧陽脩(おうようしゅう)・蘇軾(そしょく)・陸游(りくゆう)・辛棄疾らが知られる。市民の経済生活が発展し，町人を対象とする講釈が行なわれてその台本(話本)が発生し，明(みん)・清(しん)の俗文学の先駆となった。元代はモンゴル族による征服王朝の時代で，漢民族の文人はその圧制の下で俗文学の創作に心を慰めた。《元曲》がそれである。代表的作者は関漢卿(かんかんけい)である。

〔明・清代〕明代は，モンゴル族から政権を奪い返した漢民族の旺盛(おうせい)な生命力が発揮されたといってよく，《三国志演義》《水滸伝(すいこでん)》《西遊記》《金瓶梅(きんぺいばい)》などの長編の通俗白話小説が続々と出現した。また，短編の白話小説も流行し，〈三言二拍〉とよばれる選集が出版された。戯曲では〈伝奇〉が全盛をきわめ，中でも湯顕祖の《牡丹亭(ぼたんてい)還魂記》は名高い。詩や古文にもすぐれた作家が出たが，明末，陽明学と禅宗との影響を受けて，袁宏道(えんこうどう)らの公安派，鍾惺(しょうせい)らの竟陵(きょうりょう)派の小品文が出，近代的個我といってよい個性至上主義的文学観を唱えた。張岱(ちょうたい)はこれらの最後を飾る文人である。清代は，満州人という異民族による中国支配の征服王朝であるが，文物の栄えた時代で，学術の発達したことはまえにその比をみない。しかし，文学的には創造的というより，前代の遺産を継承し，大成したといってよい。長編小説の分野では《儒林外史》と《紅楼夢》とがあげられ，後者は貴族の家庭生活を活写してその盛衰を絵巻物のように展開してみせた大作である。前者は清代士大夫の生態を風刺的に描いた小説で，その手法は清末に輩出したいわゆる譴責(けんせき)小説(暴露物)の手本になった。戯曲としては《桃花扇》と《長生殿》が有名である。また，文語体短編小説集として《聊斎志異(りょうさいしい)》と《閲微草堂筆記》の2著があり，どちらも広く愛読された。清末，特に1840年の阿片(あへん)戦争以降，欧米列強，ついでは日本の圧迫を受けて，西欧文明との交流が始まった。民族的危機感の深化とともに，社会文化のあらゆる面での変革運動が起こり，文章語改革の気運も生じ，西欧や日本の文学の影響を受けて，それまでの正統派の文学観への反省と批判が生じ，近代文学形成の素地が生じた。その先駆者は王国維であり，相前後して魯迅(ろじん)も近代文学の確立を身をもって求めたひとりであった。

〔近代から現代へ〕魯迅らの活動ははじめ孤立無援のようすを呈していたが，清国が倒れて中華民国が成立すると，1917年前後に胡適(こてき)や陳独秀らの始めた文学革命に反響を得，文学革命は五・四運動によって民族的基盤に定着し，文体改革運動は近代文学の成立として結実した。魯迅は実作面でこれに貢献した。1920年にはいって文壇が形成され，1930年代にはプロレタリア文学運動が盛んになって世界文学での市民権 - 同時代性を獲得した。代表的文学者として郭沫若(かくまつじゃく)と茅盾(ぼうじゅん)のふたりをあげておく。国民党政権に対して中国共産党政権の支配するいわゆる解放区は，日中戦争をきっかけに拡大し，新しい人民文学が生まれたが，1949年中華人民共和国成立後はそれまでの近代文学を継承しつつ，新しい人民文学の発展が叫ばれ，文学教育が普及して，最近のプロレタリア文化大革命(→文化大革命)を通じてますます文学の底辺を拡大しつつある。人民文学の代表者としては趙樹理(ちょうじゅり)がいる。なお従来，漢民族の文化的支配のもとにあった少数民族にもそれぞれ固有の民族文学が生まれつつあることをつけ加えておく。

〔今村与志雄〕

す。調理法からは，炒(チャオ)(いため物)・炸(チャー)(揚げもの)・蒸(チョン)(蒸し物)・溜(リウ)(あんかけ)・焼(シャオ)(煮込み)・烤(カオ)(じか火焼き)・湯(タン)(スープ)の7種の菜が基本となる。③点心(デンシン)：口なおしやデザートとしての役割をもつ。鹹味(かんみ)と甘味のものに大別できる。前者はめん類・ギョーザ・まんじゅうなど，後者は八宝飯(パーパオファン)(もち米の飾り飯)・抜糸地瓜(パースーティーコワ)(サツマイモのあめ煮)などがあり，1～2品を出す。

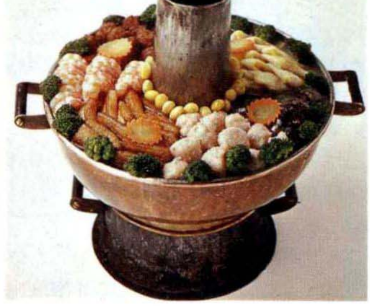
〔料理名〕一般に，材料とその基本的な調理法(切り方・調味料を含む)を組み合わせて表わすことが多く，次のような種類がある。

①調理法・材料名・切り方の組み合わせ：炸肉丸子(チャーロウワンツ)(肉だんごの揚げ物)など。②2種の材料の組み合わせ：青豆蝦仁(チントウシャーレン)(青豆とエビのいため物)など。③調味料・香辛料を入れた名称：蠔油牛乳(ハオユーニウロウ)(カキ油入り牛肉のいため物)など。④形・色・数を入れた名称：白片肉(パイペンロウ)(豚肉を白く煮て薄切りにしたもの)など。⑤物を形容した名称：芙蓉蟹(フーロンハイ)(フヨウの花のような卵とカニのいため物)など。

〔調味料・香辛料〕北部系は濃厚で辛味が強く，南部系は淡泊な傾向をもつ。一般に使われるのは，塩・砂糖・酢・醤(チャン)(中国みそ)・中国しょうゆ・酒など日本料理と同系統のもののほか，独特の嗜好(しこう)調味料がある。おもな調味料は，ごま油・ラード・辣油(ラーユー)(とうがらし油)・ごまみそ・辣醤(ラーチャン)(数種の香料を混ぜた辛いみそ)・腐乳(フールー)(中国ふうチーズ)・かき油・蝦油(シャーユー)(塩づけした小エビでつくる)などがある。香辛料はすべて漢方薬で，サンショウ・ういきょうの実や五香粉(ウーシャンフェン)(5種の植物の皮の粉末を混ぜる)・杏仁(シンレン)(アンズの種子でつくる)やトウガラシ・ショウガ・ニンニクなどがある。

〔特殊材料〕使う材料は600種にも及ぶといわれ，乾燥食品が多いことが特徴で，日本料理にない珍しいものが多くある。次のものが比較的多く使われる。①燕窩：スープなどに用いる，②魚翅：スープの実やくず煮にする，③海参(ハイシェン)(干しナマコ)，④魚肚(ユイツー)(イシモチの浮き袋を乾燥したもの)：スープの実や煮物にする，⑤海蜇皮(ハイチョーピー)(塩クラゲ)，⑥皮蛋，⑦蹄筋(ティーチン)(乾燥したブタの足の筋)：スープに使う，⑧干鮑(カンパオ)(干しアワビ)，⑨干貝(カンペイ)(ホタテガイ・タイラガイの貝柱を乾燥したもの)，⑩蝦米(シャーミー)(干した小エビ)，⑪木茸(ムーアル)(きくらげ)，⑫乾筍(カンシュン)(シナちく)，⑬髪菜(ファーツァイ)(海草の一種を乾燥したもの)，⑭香菜(シャンツァイ)(ミツバに似た野菜)，⑮搾菜(チャーツァイ)，⑯豆腐皮(トウフーピー)(ゆばの生干し)，⑰粉条(フェンテャオ)(緑豆でつくるはるさめ)など。


糖醋鯉魚(コイの丸揚げ甘酢あんかけ)


火鍋子(寄せなべ)

【醃菜(イェンツァイ)(つけ物)】地方によって特色がある。おもなものに,①醬菜(チャンツァイ)(みそづけ),②鹹菜(シェンツァイ)(塩づけ),③糖醋漬菜(タンツーツーツァイ)(塩づけしてから酢づけにして,砂糖をしみ込ませる),④半干性醃菜(イエンツァイ)(野菜を干して水分を少なくしてから香辛料を入れてつける):搾菜が代表的,⑤酸菜(ソワンツァイ)(濃い塩水につけ,発酵酸化させる):泡菜(パオツァイ)(四川ふう風味づけ)が有名。

【食卓作法】①食卓のつくり方:1卓8人用の角卓が正式であるが,現在は人数を加減できる円卓が多く使われる。卓上にあらかじめ食器を並べておくが,配置には特にきまりはない。冷葷は客が着席するまえに出しておく。②席次の決め方:入り口に対し,最奥の席が主賓で,左が次席,右が三席になる。③食事の勧め方:主人が勧めたらまず主賓が料理にはしをつけ,順次一回りする。

【日本における中国料理】古く仏教の伝来とともに僧侶(そうりょ)の伝えた中国料理は普茶料理としていまに残り,江戸時代長崎に伝わったものはしっぽく料理を生んだ。一般に愛好されたのは明治時代後期からで,神戸(こうべ)や横浜に来た中国人や日清・日露戦争に行った兵士がもたらしたものが,シナ料理の名でしだいに浸透したと思われる。第2次世界大戦後は,すべてに合理的で能率的なことから家庭・宴会の料理として急速に普及した。ギョーザや鶏のから揚げなど,ほとんど日本の日常化したものもあり,中国料理は今後さらに日本の食生活に取り入れられるであろう。〔曽根喜和子〕

ちゅうごくれき 【中国暦】 太陰太陽暦の一種。紀元前27世紀の三帝時代以来暦があったと伝えられているが,史書にはっきり記載されだしたのは漢の時代からである。漢の武帝の太初元年(BC104)に制定された三統暦は19年に7回閏月(うるうづき)を置く太陰太陽暦であった。漢代から清(しん)代に至る約2,000年の間に約46種の暦法が採用されたが,閏月をいかに配置して暦と季節がずれないようにするかに主力が注がれている。

ちゅうさい 【仲裁】 一般的には,紛争当事者の合意により選ばれた私人である第三者が当事者双方の主張を聞いて紛争を解決する一定の強制力をもった手続きをいう。

【労働法上の仲裁】次の二つの場合がある。①争議行為解決の方法としての仲裁:労働関係の当事者の申請に基づいて,労働委員会が争議解決の条件を定めた裁定を与えて争議を解決する場合である。労働関係調整法(略称労調法)上の仲裁は,当事者の合意によってはじめて開始され(同法30条,任意仲裁),関係当事者に対して下された仲裁裁定は,労働協約と同一の効力を有し(同法34条),労働争議は最終的に解決される。公共企業体等労働関係法(略称公労法)・地方公営企業労働関係法(略称地公労法)上の仲裁は,労調法の任意仲裁のほかに強制仲裁が認められている(公労法33条・地公労法14条)。②業務上の障害保障についての紛争解決の仲裁:労働基準法上の仲裁で,業務上の負傷・疾病(しっぺい)または死亡の認定,療養の方法,補償金額の決定その他補償の実施などに関して異議のある者は,労働基準監督署長(行政官庁)に対して,審査または事件の仲裁を申し立てることができ,また労働基準監督署長が必要と認める場合には職権で審査または事件の仲裁を行なうことができる(労基法85条)。〔黒瀬信子〕

【民事訴訟法上の仲裁】民事上の紛争当事者双方が,その解決について第三者たる仲裁人の判断に従う旨の合意(仲裁契約という)をし,仲裁人が仲裁判断をして紛争を解決する手続きをいう(民事訴訟法786条以下)。仲裁人の仲裁判断には拘束力があり,不服な当事者もこれに従わなければならず,この点で調停と区別される。仲裁人の仲裁判断には確定判決と同一の効力がある。〔内田剛弘〕

ちゅうさいさいばん 【仲裁裁判】 国際裁判の一種。紛争の発生ごとに,紛争当事国の合意によって選ばれた裁判官によって行なわれる裁判。歴史的には,国際法の下で最初に現われた裁判の形態は仲裁裁判であり,1921年常設国際司法裁判所が設置されるまでは,国際裁判といえば仲裁裁判のことであった。19世紀以後よく利用されるようになり,最も代表的な例は,イギリス・アメリカの間で生じた,1872年のアラバマ号事件である。最初は任意的仲裁裁判で,裁判の付託,裁判所の構成や裁判基準,裁判手続きなど,紛争のたびごとに当事国の合意を必要とするため不便であったが,しだいに裁判付託をあらかじめ条約で約束しておく義務的裁判の形態が現われ,1899年国際紛争平和処理条約で常設仲裁裁判所が設置された。しかし,これもほんとうの意味の常設裁判所ではない。仲裁裁判で適用される裁判の基準は,当事国の合意によって定められる。多くは国際法によって裁判が行なわれるが,ときとして衡平と善によっても行なわれ,司法的解決に比して,より柔軟性に富む方法である。いずれにせよ,判決は法的拘束力を有する。〔広部和也〕

ちゅうさぎ 【中鷺】 鳥類・サギ科。全長70cm前後のシラサギの一種。アフリカ・南アジア・オーストラリアに分布し,日本には夏鳥として多数渡来し,他のシラサギ類と同様に林で集団繁殖し,少数は越冬している。

ちゅうざんおう 【中山王】 日本中世・近世期における琉球(りゅうきゅう)(沖縄)の王。琉球には舜天(しゅんてん)王統(1187～1259)・英祖王統(1260～1349)があったが,14世紀中ごろ南山・中山・北山に山南王・中山王・山北王が分立した。中山には察度(さっと)王統(1350～1422)が勢力をふるった。1406年佐敷の按司(あじ)(領主)尚巴志(しょうはし)は中山王武寧を滅ぼし,次いで山北王・山南王を攻略して琉球を統一して尚巴志王統(1422～1469)を立てた。巴志の死後は王位継承争いや反乱で混乱し,1470年伊平屋(いへや)島から出た尚円が中山王になり,のち琉球が日本に帰属するまで尚円王統(1470～1872第二尚氏)が琉球王として中山王を称した。〔松尾　涼〕

ちゅうさんかいきゅう 【中産階級】 ⇨ミドル-クラス

ちゅうざんかんじけん 【中山艦事件】 1926年3月,当時中国国民党中央執行委員・北伐国民革命軍総司令官であった蔣介石(しょうかいせき)指導のもとに国民党右派が起こした反共クーデター。軍艦中山艦(艦長は共産党員の李之龍(りしりゅう))が広東(カントン)市外黄埔(こうほ)に入港したとき,共産党に政府転覆の陰謀があるとのうわさが流れた。蔣はこれを利用して軍と政府内の共産党員を逮捕・追放し,右派の勢力を強めた。蔣が公然と反共の動きを示した最初の事件。〔応和邦昭〕

ちゅうざんりょう 【中山陵】 中国,孫文の陵墓。中山は孫文の号。南京(ナンキン)市東部中山門外の紫金山の南麓(なんろく)にある。孫文は1925年3月25日北京(ペキン)で死去したが,1926～1928年の北伐後,1929年5月29日から6月1日に蔣介石(しょうかいせき)によって国葬が営まれ,ここに葬られた。

ちゅうじ 【中耳】 耳の一部で,中耳腔(ちゅうじこう)と耳管からなり,ともに内壁は粘膜でおおわれている。中耳は外耳と接し,鼓膜をもって境し,その中に鼓室がある。外耳にくる音は,中耳で適当な強さに変えられて内耳に伝えられる。鼓室の前内方には咽頭(いんとう)と連絡する耳管が開口し,内耳と中耳との間には,前庭窓・蝸牛(かぎゅう)窓とよばれる二つの孔が存在する。また,鼓室には,耳小骨とよばれる3個の小さい骨(槌骨(つちこつ)・砧骨(きぬたこつ)・鐙骨(あぶみこつ))がある。これらの骨は一体となって,鼓膜から前庭窓にまで,てこ状に存在する。〔高野一雄〕

ちゅうじえん 【中耳炎】 中耳腔(ちゅうじこう)の粘膜・骨膜の炎症の総称。

急性中耳炎:溶連菌・肺炎双球菌などの化膿菌が,耳管を経て,鼻咽頭(いんとう)から中耳腔に侵入して炎症を起こしたもので,必ず現われる症状は,耳痛(幼児では不機嫌(ふきげん),不眠,泣き叫びなど)・難聴などで,耳鳴り・発熱などもある。中耳腔に炎症性分泌物がたまり,鼓膜に穴があいたり,切開したりすると耳だれ(耳漏)として外耳道に沿って出てくる。中耳炎がひどくなると頭蓋(とうがい)内に種々の合併症を起こし重篤な状態に陥ることもあり,また内耳に炎症が進むと,めまいや高度の難聴となり,顔面神経に影響を及ぼすと顔が曲がったりもする。治療は,まず抗生物質を局所と全体に

用いる。中耳腔に分泌物のたまったものには，鼓膜切開または鼓膜穿刺を行ない，その分泌物を除き，ひどいときは，積極的に骨を削って排膿させねばならない。

慢性中耳炎：急性炎症が長引いて，鼓膜に孔があいたり，感冒などで一時止まっていた耳だれが，再び始まったりした状態をいい，症状は，難聴・耳だれが特徴で，鼓膜を見ると穿孔があり，疼痛(とうつう)・めまい・顔面神経麻痺(まひ)などが起こってくる。化膿性の中耳炎と真珠腫(しんじゅしゅ)性の中耳炎とに分けられる。後者は，刺激性のある悪臭を伴った耳だれがあり，上鼓室などに真珠腫という豆腐のかすのようなものができて合併症が起こりやすい。治療は，中耳根治手術・鼓室形成術などの手術的療法と，補聴器・人工鼓膜などの使用によって，聴力の回復を図る。〔清水淑郎〕

ちゅうじつしょくぶつ【中日植物】中性植物ともいう。一日の日照時間に関係なく花芽形成の行なわれる植物。ハコベ・カタバミ・キュウリなどがこれに属する。これに対し暗期が一定時間以上与えられないと花芽の形成が行なわれない植物を短日植物，1日の日照時間が一定時間以上ないと花芽の形成がみられない植物を長日植物という。

ちゅうしはん【中止犯】中止未遂・任意未遂ともいい，犯罪実行に着手した行為者が，自分の意思によってその犯罪目的を達成しなかった場合をいう。自分の意思によるという点で未遂犯と区別される。犯罪が進行中であれば，その実行行為をやめるだけでよいが，実行行為が終わっている場合には，その結果が発生しないように努力し，しかも現実に結果の発生を防ぐことが必要である。中止犯は刑が減軽または免除される(刑法43条)。〔井上公耳〕

ちゅうしゃ【注射】注射器(ガラス製の円筒状ピストンに注射針を装置した器具)を用いて身体の皮膚内・皮下組織・筋肉組織および血管内・腹腔(ふくこう)内・髄腔内などに薬物を注入すること。皮下注射*・筋肉注射*・静脈注射*，その他皮内注射(ツベルクリン反応など)，動脈内注射などがある。投与される薬物(注射剤)は拡散浸透作用によって毛細血管より吸収されて血中へはいり，あるいは直接血流中にはいるため，内服剤に比べて効果の発現が速いこと，体内変化，特に肝臓による抱合解毒作用を受けるのが少ないこと，少量で十分な効果を期待できること，患者が内服できない状態の場合でも投与できることなどの利点をもつが，その反面，内服剤に比べて薬物の排泄(はいせつ)作用が速いこと，作用の持続時間が短いこと，作用が急速なので場合により危険を伴うこと，薬物の無菌操作を必要とすること，患者に苦痛を与えることなどの欠点がある。〔佐野隆志〕

ちゅうしゃくしぎ【中杓鷸】鳥類・シギ科。ダイシャクシギ*を小形にした形態で，くちばしは上方に凸形(とつがた)に湾曲している。全長40～45cm，くちばしは8～9cm。一般に腰は白色で他の部分は黄かっ色。アラスカ・シベリア東北部・ヨーロッパ北部で繁殖し，日本では春秋に干潟(ひがた)・川原などに普通に見られる。〈ピピピピピピ〉とよく通る声で鳴く。

ちゅうしゃざい【注射剤】医薬品を溶剤にとかすか，懸濁するかした無菌の製剤。溶剤には水性溶剤と非水溶性溶剤とがある。注射器を用いて皮下・皮内・皮肉・静脈・動脈・脊髄(せきずい)などに直接注入できるように製してある。医薬品の中にはあらかじめ液にしておくと変化するため，注射時に液状にするものもある。注射剤はもっぱら医師が使用するもので，製造にあたっては，詳細な規制がなされている。

ちゅうしゅう【忠州】チュンチュ 南朝鮮中部，忠清北道の都市。人口78,000(1965)。古くは高句麗(こうくり)の国原城，新羅(しらぎ)の中原京が置かれ，高麗(こうらい)時代には中州と称し，李朝(りちょう)時代には忠清北道の主都であった。1909年，道庁が西南の清州に移されてから，市の発展は停滞したが，その後，漢江舟運の発達に加えて忠北線が開通し，再び交通の要地となった。付近には水銀・ホタル石・金の鉱山があり，朝鮮一といわれる良質なたばこ・紙などを産する。最近は水力発電所が建設されて工業化が進み，化学肥料工場などもできた。弾琴台・古塔・南山城址(し)などの名所・旧跡がある。加藤清正(きよまさ)の古戦場の一つでもある。〔矢守一彦〕

ちゅうしゅつ【抽出】液体または固体中からその中に含まれる目的物質を溶剤を用いて取り出すこと。液体の場合は，これととけ合わない溶剤とその液体を分液漏斗に入れてよく振ったのち静置し，2層に分離したとき一方の液を取り出す。溶剤には目的物質に応じ，水，酸，アルカリのほか各種有機溶剤が用いられる。固体からの抽出にはソックスレー抽出器という装置を使用する。抽出は一般の有機化学実験にしばしば用いられる分離操作の一つであるが，植物体から特殊成分(アルカロイド・色素・香料など)を採取するのにも用いられる。〔志田正二〕

ちゅうしょう【抽象】いくつかの異なった対象からその共通要素(性質など)を抜き出し把握(はあく)する作用。この作用によって物事を一般的・概括的にとらえることができ，その結果は概念*として表わされる。たとえば植物と動物について，そこに共通な〈生物〉という特性をとらえるのがこれである。その際植物または動物だけに特有な性質は捨てられるが，これを捨象という。抽象も捨象も英語では同じ〈アブストラクション〉で，一般には抽象というとき捨象の意味も含めて使われる。〔寺中平治〕

ちゅうしょうきぎょう【中小企業】⇨次ページ

ちゅうしょうきぎょうきほんほう【中小企業基本法】中小企業*政策の基本と中小企業者の努力目標を示した法律。1962年(昭和37)制定，翌年施行。7章33条からなり，そのおもな内容は，設備の近代化，技術の向上，経営管理の合理化，事業の共同化などによる構造の高度化，下請の適正化，重要事項を審議するための中小企業政策審議会の設置などである。具体的な内容は，中小企業近代化促進法・中小企業指導法・中小企業近代化資金等助成法などに守られている。➔中小企業〔黒瀬信子〕

ちゅうしょうきぎょうきんゆうこうこ【中小企業金融公庫】一般金融機関からは融資を受けることが困難な中小企業に対して，設備資金および長期運転資金を貸し付けることを目的として1958年(昭和33)に設立された政府金融機関。直接貸し付けと民間金融機関を通ずる代理貸し付けがあり，融資の対象は近代化促進と国際競争力の強化に重点が置かれている。貸付利率は年8.2％であり，資金は政府出資の資本金，政府からの借入金，中小企業債券の発行などによってまかなわれている。国民金融公庫*よりは貸付額の高いものを対象とする。〔速水　保〕

ちゅうしょうきぎょうしんようほけんこうこ【中小企業信用保険公庫】中小企業の債務の保証を行なう信用保証協会に対して保険と融資を行なう政府金融機関。1958年(昭和33)設立。信用保証協会の保証に対する保険は，協会が中小企業貸し付けの代位弁済を行なった場合，その弁済額の70％を協会に給付するというしくみになっている。

ちゅうしょうきぎょうたいしょくきんきょうさいほう【中小企業退職金共済法】中小企業労働者の退職に際し，退職金が支払われる制度に関して定めた法律。1959年(昭和34)に制定され，その後数回改正された。中小企業に働く者が定着するように，中小企業事業主が相互扶助による共済方式と国の補助金とによって従業員に退職金を支払うことを定めたものである。この対象となる中小企業者とは，金融業・保険業・不動産業・卸売業もしくは小売業またはサービス業を主たる事業とする事業主については，常時雇用する従業員の数が50人を越えない者，その他の事業主については同じく300人を越えない者をいう(中企退職法2条1項・同法施行規則1条)。中小企業者は，中小企業退職金共済事業団と退職金共済契約を締結し，従業員1名ごとに月額200円以上2,000円以下の掛け金を掛け(中企退職法4条・9条)，その納付が12か月以上になった場合には，上記事業団は従業員が退職したとき，その者(退職が死亡によるものであるときは，その遺族)に退職金を支払うものとしている(同法10～12条)。〔黒瀬信子〕

中小企業

経営規模が大企業に比して中小の企業をいう。わが国の現行の量的規定によれば，鉱工業・運送業その他については，資本の額または出資の総額が5,000万円以下，ならびに常時使用する従業員の数が300人以下の企業，商業・サービス業については，同様に1,000万円以下，ならびに50人以下の企業とされている(中小企業基本法)。

【わが国の現状】この量的規定でとらえると，わが国の事業所数の99％以上が中小企業に属し，従業員でも約80％，製造業の生産額の約50％，卸売販売額の40％以上，小売販売額の約80％を中小企業が占めている。一口に中小企業といっても，その規模は多岐にわたっており，その分野・業種も多様である。まず，中小企業の規模別構成をみれば，中小企業全体のうち，常用雇用者20人以下の企業が95％を占め，しかも零細企業といわれる4人以下の企業はその80％を越えている。また中小企業の属する分野をみれば，中小企業の約50％にあたる228万の中小企業が商業分野，次いでサービス業21％，製造業16％，建設業7％であり，中小企業従業者数では，製造業33％，商業32％，サービス業14％，建設業10.8％などである。

これをさらに細かい業種でみると，企業数ではいずれの業種においても中小企業の比重は高いが，製造業平均を上回る比重を示している業種は，食料品，繊維，衣服，その他の繊維，木材・木製品，家具・装備品，出版・印刷・同関連，皮革，金属製品，その他製造業の9業種で，そのうち特に中小企業の比重の高いのは木材・木製品および家具・装備品の2業種である(1969年総理府《事業所統計》)。このように，国民経済および諸産業に占める中小企業の比重はきわめて高く，最近10年間においてもこの状態は大きな変化をみせていない。

【わが国中小企業の特徴】中小企業の経営は，一般に，その規模が小さいことによって不安定性を免れない。しかし，必ずしも大企業に比して不利とはいえない面もある。特に大企業との競合のない特殊な専門分野をもった中小企業では，その利潤率をみると景気に大きく感応するという不安定はあるが，総資本利潤率・自己資本利潤率は，中小企業が大企業より高い傾向が昭和30年代から40年代にかけてみられる。

しかし，中小企業一般についてこれを詳しくみると，大企業分野に比べて，利潤率の間に大きなばらつきがみられ，中小企業の倒産は圧倒的に多い。さらに二重構造の象徴といわれる規模別賃金格差は，昭和30年代を通じて大企業を上回る賃金上昇率を実現した結果，長期的には縮小傾向を示してはいるものの，依然として格差が存在しており，国際的にも規模別賃金格差の数値はきわめて大きいものである。そして，中小企業における相対的な低賃金は，その相対的な低生産性と対応していることもまた明白である。さらに，中小企業には生業・家業といわれる家族労働中心の零細企業，企業主個人の資金調達・経営技術能力に大きく依存する個人企業的色彩の濃い会社形態がきわめて多く存立し，しかも中小企業相互で激しい競争を展開していること，そのかなりの部分が事実上独立性を失って問屋制，大企業の下請け制や系列化の下に従属していることなどがきわだった特徴といえる。

表-1　産業別規模別従業者数(民営)

産業	年	中小事業所 従業者数	構成比	大事業所 従業者数	構成比	合計 従業者数	構成比
鉱業	1960	176 265	34.8	329 948	65.2	506 213	100.0
	1963	160 031	43.5	207 826	56.5	367 857	100.0
	1966	157 456	49.5	160 829	50.5	318 285	100.0
	1969	138 341	53.6	119 980	46.4	258 321	100.0
建設業	1960	1 423 231	83.6	278 800	16.4	1 702 031	100.0
	1963	1 885 732	86.4	297 922	13.6	2 183 654	100.0
	1966	2 512 083	89.5	294 720	10.5	2 806 803	100.0
	1969	2 930 826	89.3	350 700	10.7	3 281 526	100.0
製造業	1960	6 263 800	70.0	2 641 818	30.0	8 905 618	100.0
	1963	7 246 880	69.6	3 168 298	30.4	10 415 178	100.0.
	1966	7 956 258	70.5	3 332 859	29.5	11 289 144	100.0
	1969	8 679 937	69.0	3 907 390	31.0	12 587 327	100.0
卸・小売業	1960	6 014 097	88.6	776 024	11.4	6 790 121	100.0
	1963	6 798 692	85.1	1 186 666	14.9	7 984 758	100.0
	1966	7 700 521	84.6	1 398 986	15.4	9 099 507	100.0
	1969	8 622 783	83.2	1 742 180	16.8	10 364 963	100.0
金融・保険業	1960	649 442	85.2	113 163	14.8	762 605	100.0
	1963	795 699	84.8	142 558	15.2	938 257	100.0
	1966	958 322	83.4	190 143	16.6	1 148 465	100.0
	1969	1 025 523	83.4	204 342	16.6	1 229 865	100.0
不動産業	1960	89 173	95.6	4 102	4.4	93 275	100.0
	1963	175 199	96.9	5 663	3.1	180 862	100.0
	1966	240 798	96.7	8 169	3.3	248 967	100.0
	1969	293 680	95.7	13 044	4.3	306 724	100.0
運輸・通信業	1960	944 492	76.1	297 432	23.9	1 241 924	100 0
	1963	1 184 171	79.8	300 143	20.2	1 484 314	100.0
	1966	1 407 085	82.6	297 161	17.4	1 704 246	100.0
	1969	1 549 082	81.9	342 242	18.1	1 891 324	100.0
電気・ガス・水道業	1960	116 013	69.9	50 001	30.1	166 014	100.0
	1963	117 733	68.3	54 689	31.7	172 422	100.0
	1966	118 125	66.1	60 530	33.9	178 655	100.0
	1969	121 773	65.4	64 429	34.6	186 202	100.0
サービス業	1960	2 553 359	85.4	436 459	14.6	2 989 818	100.0
	1963	2 861 079	81.4	653 084	18.6	3 514 163	100.0
	1966	3 329 256	77.8	952 616	22.2	4 281 872	100.0
	1969	3 664 393	74.5	1 256 602	25.5	4 920 995	100.0
非一次産業計	1960	18 229 872	78.7	4 927 747	21.3	23 157 619	100.0
	1963	21 225 216	77.9	6 016 249	22.1	27 241 465	100.0
	1966	24 379 931	78.5	6 696 013	21.5	31 075 944	100.0
	1969	27 026 338	77.2	8 000 909	22.8	35 027 247	100.0

総理府《事業所統計》

注）従業者300人未満(卸・小売業，サービス業については50人未満)の事業所を中小事業所とした

【問題点と対策】これらの特徴のうち，経営基盤の脆弱(ぜいじゃく)性・依然として存在する相対的な低賃金と低生産性，親企業・大企業との間の非対等的な支配・従属関係(たとえば，支払い条件の圧迫)などが，わが国の中小企業問題をいっそう深刻にしている。その上に，昭和30年代から40年代にかけての高度成長に伴う経済構造の変化と労働力の不足傾向，国際化と産業再編成，物価・公害問題の発生などによって，従来の中小企業の存立基盤や経営環境は大きく変化しつつあり，この変化に適応しうるか否かに中小企業の存立がかかってきている。

すなわち，まず第1に，消費パターンの

表-2　産業別規模別事業所数(民営)

産業 ＼ 項目・年 ＼ 規模		中小事業所		大事業所		合計	
産業	年	事業所	構成比	事業所	構成比	事業所	構成比
鉱業	1960	9 553	96.7	321	3.3	9 874	100.0
	1963	10 051	97.8	221	2.2	10 272	100.0
	1966	9 913	98.4	157	1.6	10 070	100.0
	1969	9 239	98.	116	1.2	9 355	100.0
建設業	1960	195 220	99.8	441	0.8	195 661	100.0
	1963	240 082	99.8	517	0.8	240 599	100.0
	1966	291 119	99.8	533	0.2	291 652	100.0
	1969	345 205	99.8	623	0.2	345 828	100.0
製造業	1960	549 778	99.4	3 067	0.6	552 845	100.0
	1963	615 779	99.4	3 624	0.6	619 403	100.0
	1966	664 338	99.4	3 888	0.6	668 226	100.0
	1969	733 337	99.4	4 504	0.6	737 841	100.0
卸・小売業	1960	1 842 463	99.6	6 688	0.4	1 849 151	100.0
	1963	1 951 498	99.5	10 187	0.5	1 961 685	100.0
	1966	2 072 953	99.4	12 247	0.6	2 085 200	100.0
	1969	2 281 175	99.3	14 925	0.7	2 296 100	100.0
金融・保険業	1960	51 119	99.6	182	0.4	51 301	100.0
	1963	54 560	99.6	228	0.4	54 788	100.0
	1966	57 256	99.5	309	0.5	57 565	100.0
	1969	58 027	99.4	328	0.6	58 355	100.0
不動産業	1960	38 472	100.0	9	0.0	38 481	100.0
	1963	80 200	99.9	15	0.1	80 215	100.0
	1966	108 032	100.0	19	0.0	108 051	100.0
	1969	127 298	100.0	31	0.0	127 329	100.0
運輸・通信業	1960	66 101	99.3	489	0.7	66 590	100.0
	1963	75 705	99.3	526	0.7	76 231	100.0
	1966	83 209	99.3	572	0.7	83 781	100.0
	1969	83 593	99.3	628	0.7	84 221	100.0
電気・ガス・水道業	1960	7 563	98.8	95	1.2	7 658	100.0
	1963	8 082	98.8	100	1.2	8 182	100.0
	1966	8 151	98.7	109	1.3	8 260	100.0
	1969	7 686	98.6	113	1.4	7 799	100.0
サービス業	1960	786 230	99.5	3 904	0.5	790 134	100.0
	1963	843 121	99.3	5 682	0.7	848 803	100.0
	1966	909 488	99.1	8 445	0.9	917 933	100.0
	1969	973 064	98.9	10 603	1.1	983 667	100.0
非一次産業計	1960	3 546 499	99.6	15 196	0.4	3 561 695	100.0
	1963	3 881 803	99.5	21 100	0.5	3 900 178	100.0
	1966	4 204 459	99.4	26 279	0.6	4 230 738	100.0
	1969	4 618 624	99.3	31 871	0.7	4 650 495	100.0

総理府《事業所統計》

注）従業者300人未満(卸・小売業，サービス業については50人未満)の事業所を中小事業所とした

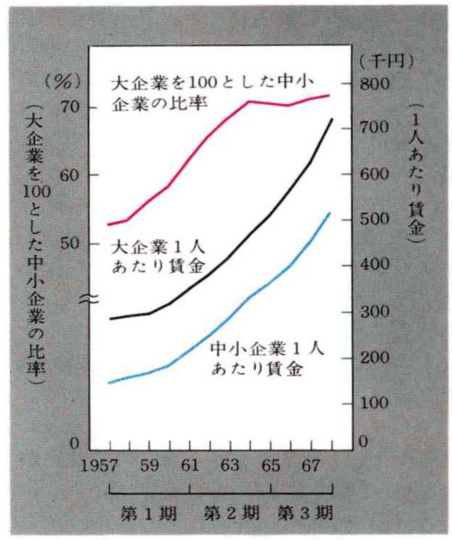


図-1　規模別賃金の推移(10人以上)　通商産業省《工業統計表》

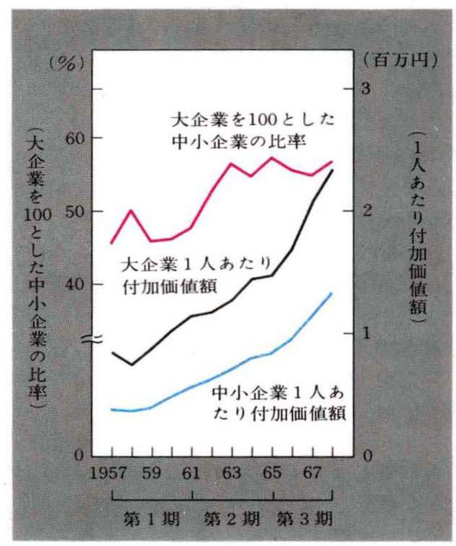


図-2　規模別付加価値生産性の推移(10人以上)　通商産業省《工業統計表》

変化，生産技術の革新による新製品の出現，在来的市場の縮小といった構造変化に対しては，中小企業に残された分野において独自の技術を生かすか，積極的に技術革新を行なって新しい製品・市場分野に進出するというくふうや新しい適応が必要となる。第2に，進行する労働力不足のもとにあって過去の低賃金労働力に依存してきたあり方はもはや期待できないから，機械化・省力装置の導入，労働力の効率的な活用に大きな努力が要請されよう。第3に，国際化の進展は，かつての中小企業の輸出市場，国内市場の双方に変化をもたらしている。先進国の輸入制限，先進国からの輸入増大，発展途上国の輸出市場への参入などによって輸出関連部門の中小企業は大きな打撃を受けている。第4に，物価上昇に果たす中小企業分野の役割が大きいことが指摘され，流通機構の整備，競争条件の整備が強く要請されており，従来のような安易な価格引き上げや経営態度はもはや許されなくなっている。これは公害問題に関しても同様であり，今後は企業みずから公害除去・発生阻止の方途を講じていかざるをえなくなるであろう。第5に，過去長い間の病弊とみなされてきた経営基盤の脆弱性・低生産性，支配・従属関係などの諸問題点についても，政府の政策的措置による弊害の除去と並んで，中小企業自体における抜本的な体質改善が不可欠となっている。

以上の問題点について，政府の政策としては，1963年(昭和38)，中小企業近代化の方向づけを明確にした中小企業基本法*が制定されるとともに，中小企業近代化促進法・中小企業指導法・中小企業投資育成株式会社法などが実現した。さらに，1967年には中小企業振興事業団・特定繊維工業構造改善臨時措置法，1969年には中小企業近代化促進法の一部改正が実施されている。これらの政策の主な柱は，中小企業の共同化・協業化・構造改善と技術水準の向上，事業転換・金融措置などである。〔原　豊〕

ちゅうしょうきぎょうちょう 【中小企業庁】 通商産業省の外局に属する行政機関。1948年(昭和23)設置。中小企業を育成・発展させ，その経営を向上させるのに必要な諸条件を確立することを目的とする。その所掌事務は，中小企業振興の基本政策の立案，経営方法や技術の指導・援助，事業資金のあっせん，経営の調査・診断などが主で，そのほか中小企業等協同組合法(昭和24年法律第181号，中小企業が共同組合を結成し共同事業をするための法律)・中小企業団体組織法(昭和32年法律第185号，中小企業の共同事業組織の健全な発展を資する法律)等を施行し，また中小企業保険事務を扱い，中小企業金融公庫を監督する。
〔寺尾方孝〕

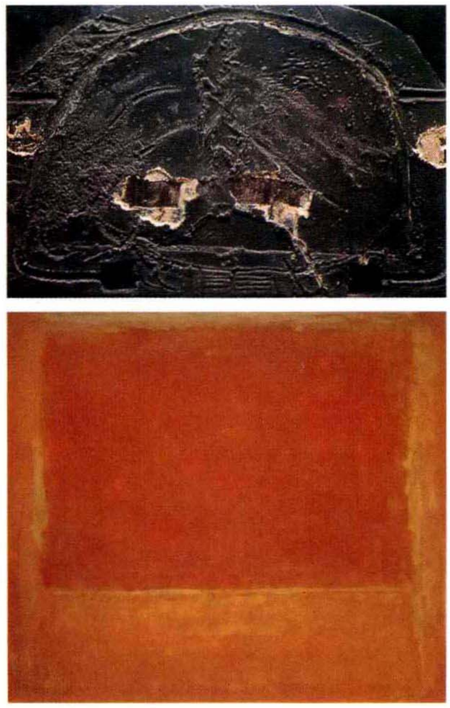
ちゅうしょうきぎょうとうしいくせいがいしゃ 【中小企業投資育成会社】 中小企業の自己資金の充実を目的とし，中小企業の発行する新株および転換社債を引き受け，その株式を保有する機関。1963年(昭和38)に成立した中小企業投資育成株式会社法に基づいて東京・大阪・名古屋に設立された。資本金の一部には政府資金が出資されている。

ちゅうしょうだいすうがく 【抽象代数学】 代数学は，方程式を解くことから始まったが，19世紀中ごろに群が発見されてのちに大きく変わった。今日では，数のもつ具体的な意味を捨て，その演算の関係だけに着目して抽象し，要素の間に加法や乗法あるいはその一方にあたる演算が定められている抽象的な集合を代数系という。そして，代数系の構造を調べることが代数学の研究対象になってきている。たとえば，群や環や体などは最も基本的な代数系である。これらについて研究する部門を，旧来の代数学に対して抽象代数学という。➔群
〔小西勇雄〕

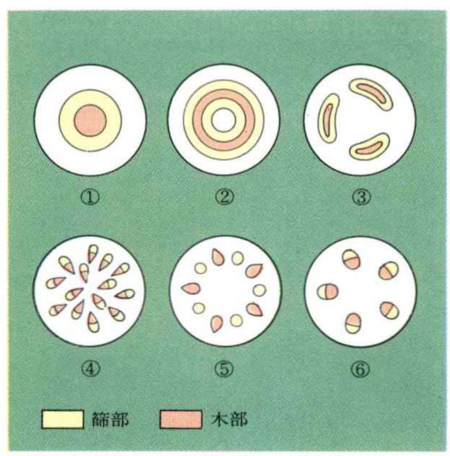
ちゅうしょうひょうげんしゅぎ 【抽象表現主義】 第2次世界大戦後に現われ，およそ10年を経て終息したところの，純粋抽象・幾何学的抽象(➔アブストラクト-アート)の冷たい抽象に対する絵画傾向(熱い抽象)の総称。淵源(えんげん)はニューヨークのアクション-ペインティングにあるといわれるが，1950年代には世界的にその絵画傾向を支配した。この表現の特徴はマチエール(質感)と身振り(ジェスト)があげられ，画家の現実的な身体的動作がマチエールによって物質的に現実化されるという，表現概念の位相転換の契機を内在させている。代表的な画家としては，ポロック・マチュー・ロスコ・フランツ・クライン・デ-クーニングらがあり，先駆としてはカンジンスキーがある。
〔吉田玲子〕

ちゅうしんぐら 【忠臣蔵】 ⇨元禄(げんろく)忠臣蔵 ⇨仮名手本忠臣蔵

ちゅうしんせい 【中新世】 地質時代*のうちの新生代*第三紀を5分した第4番めの時代。漸新世のあと，鮮新世のまえ。約2,600万年前から約1,200万年前までの約1,400万年の期間をいう。貝化石群の現生種は乏しい。中新世の地層の標準地域はフランス，スイス，イタリア北部，オーストリアである。



抽象表現主義 (上)タピエス《作品，ブルーグレー-マーチ》(下)ロスコ《作品》



中心柱 ①原生中心柱 ②管状中心柱 ③網状中心柱 ④不整中心柱 ⑤放射中心柱 ⑥真正中心柱

ちゅうしんたい 【中心体】 細胞分裂が始まるときにその中心となるもので，静止期では核に接近してあり，2個の中心粒が見られる。核分裂が始まると，分裂して2個となり，1個ずつ核の両極に移動し，この2個の中心体の間に紡錘糸ができて分裂が進む。電子顕微鏡による微細構造は，9本の棒状のものが円筒形に並び，2個が直角に配列しているのが見られる。動物細胞には普通にみられるが，植物ではシダ類などにみられる。
〔高島文三〕

ちゅうしんちゅう 【中心柱】 根や茎の皮層の内部，つまり中心にある維管束からなる組織を総称していう。皮層の最も内側は内皮で，これがあるものと見られないものとがある。中心柱は維管束の構造と配列によって，いくつかの型に分けられる。①原生中心柱：内皮に包まれ，中心に木部があり，外部が篩部(しぶ)で囲まれているもの。ウラジロや化石シダ類など。②管状中心柱：中央の髄は中空の管状で，木部の内側と外側に篩部があるもの。ハコネシダなどのシダ類。③網状中心柱：中央に髄，その回りに，外篩包囲維管束が環状に配列して，各維管束はそれぞれ内皮に包まれているもの。シダ類に多い。④不整中心柱：多数の並立維管束が中心柱内に散在しているもの。単子葉類に見られる。⑤放射中心柱：内皮があり，内鞘(ないしょう)に包まれ，篩部と木部が交互に放射状に配列しているもの。根の中心柱に普通に見られる。⑥真正中心柱：並立維管束が環状に並んでいるもの。裸子植物と被子植物双子葉類に見られる。
〔高島文三〕

ちゅうすい 【宙水】 ⇨地下水

ちゅうすい 【虫垂】 虫様突起とも，虫様垂ともいう。腸の一部で，盲腸*の下部から先端部が萎縮(いしゅく)して後方に出ている長さ約6cmの細い突起状の管。盲腸の先端部が退化したものと考えられ，特別な機能はない。ヒトおよび類人猿(るいじんえん)のゴリラ・チンパンジー・テナガザルなどのみに認められ，普通のサルには存在しない。

ちゅうすいえん 【虫垂炎】 虫垂*の炎症性疾患。以前は盲腸炎という名称が一般に用いられたが，その後虫様突起炎と唱えられ，今日では虫垂炎と名称が統一されている。原因については，食餌(しょくじ)性酵素説，血行感染説，アレルギー説，局所の循環障害説など諸説があるが，まだ決定的なものはない。文明国に多く見られ，年齢的には青年期に最も多い。また暴飲暴食後に発生しやすいともいわれる。自発性腹痛・右下腹部圧痛・腹壁緊張・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・発熱などの症状がみられ，白血球増多を伴う。これらの症状が定型的に発現した場合，診断は容易であるが，実際には非定型的な場合が多い。治療は早期診断・早期手術がよく，その経過・予後も良好である。しかし，膿瘍(のうよう)を形成した虫垂炎には，切開排膿によって炎症の消退後に手術を行なうのが原則とされている。なお，軽い虫垂炎症状が長く持続するものに対しては，慢性虫垂炎と診断を下しているが，虫垂切除によって症状の消失するものは約60％といわれている。
〔三島好雄〕

ちゅうすうしんけいけい 【中枢神経系】 神経系*の中心部で，末梢(まっしょう)神経系*の対語。受容器から刺激を受け，それを筋肉などの実行器へ，連絡する働きをする。脊

➔389ページ

中国・四国地方



134°
135°
本
海
至敦賀
隠岐
若狭湾
若狭湾国定公園
冠島
経ヶ岬
丹後半島
山陰海岸国立公園
鳥取
倉吉
米子
大山
1713
鳥取
岡山
兵庫
京都
大阪
奈良
和歌山
香川
徳島
高知
福井
姫路
神戸
岡山
倉敷
津山
福知山
豊岡
舞鶴
宮津
京都
大津
琵琶湖
宇治
尼崎
西宮
堺
岸和田
和歌山
徳島
高松
坂出
丸亀
高知
室戸
室戸岬
田辺
新宮
串本
潮岬
大島
紀伊水道
播磨灘
大阪湾
明石海峡
鳴門海峡
淡路島
小豆島
家島諸島
瀬戸内海国立公園
燧灘
備讃瀬戸
土佐湾
太
平
洋
足摺岬
剣山
1955
石鎚山
伊予三島
新居浜
西条
吉野川
紀ノ川
熊野川
高野山
大台ヶ原山
亜熱帯性樹林と海岸植物群落
至東京
至那覇
200
1000
2000
33°
34°
陸高と
水深（m）
1500以上
1000
500
200
100
0
100
200
1000
2000以下
1：1,500,000
0
10
20
30
40
50
60
70
80km



100万人以上の市
30～100万人の市
10～30万人の市
5万～10万人の市
5万人未満の市
町村名・字名
地方庁所在地
油田
商港
漁港
隠岐諸島
島後
大満寺山
国分寺跡
西郷
松島
西ノ島
島前
中ノ島
知夫里島
三度岬
黒木御所跡
日本海
大山隠岐国立公園
島根半島
松江
境港
美保関
地蔵崎
夜見ヶ浜
美保湾
中海
宍道湖
米子
安来
出雲
平田
日御碕
大社
鳥取
島根
日本
高島
見島
カメ生息地
北長門海岸国定公園
相島
大島
萩
青海島
仙崎
角島
川尻岬
長門
秋吉台国定公園
秋吉台
秋芳洞
西鳳翩山
山口
防府
徳山
下松
光
柳井
岩国
宇部
小野田
下関
六連島
関門海峡
北九州
響灘
蓋井島
周防灘
姫島
祝島
長島
平郡島
屋代島
伊予灘
青島
八島
笠戸島
浜田
益田
江津
大田
三瓶山
大江高山
西中国山地国定公園
恐羅漢山
寂地山
冠山
冠山山地
三次
広島
呉
竹原
江田島
能美島
倉橋島
上蒲刈島
大崎下島
大崎上島
安芸灘
高縄半島
松山
伊予
八幡浜
佐田岬半島
豊予海峡
宇和島
日振島
戸島
豊後水道
鶴見崎
大島
鹿島
鵜来島
沖ノ島
姫島
宿毛
宿毛湾
中村
土佐清水
足摺
四国
愛媛
石鎚山
中津
豊前
行橋
宇佐
国東半島
両子山
杵築
別府
別府湾
大分
臼杵
佐賀関
佐伯
津久見
由布岳
鶴見岳
九重山
久住山
阿蘇山
阿蘇国立公園
祖母傾国定公園
祖母山
傾山
大崩山
竹田
日田
久留米
鳥栖
福岡
飯塚
直方
田川
熊本
宇土半島
高千穂
大分
熊本
英彦山
釈迦ヶ岳
酒呑童子山
八方ヶ岳
菊池

椎(せきつい)動物では脳*と脊髄*からなる。

ちゅうせい【中世】⇨時代区分

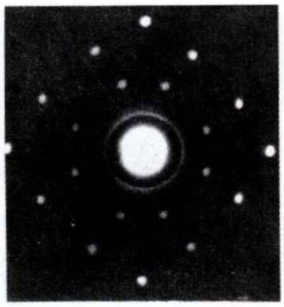
ちゅうせい【中性】二つの相反する性質のどちらにも属さない中間的性質。化学では物質が酸性もアルカリ性も示さないときをいい，溶液ではpH=7.0のときをいう。また電気的には電荷をおびていない粒子などに用い，中性子・中性原子などとよぶ。

ちゅうせいえん【中性塩】⇨塩

ちゅうせいがん【中性岩】シリカSiO_2の含有率が56〜66%の火成岩*のこと。火山岩*では安山岩*，深成岩*ではセンリョク岩*がその代表である。

ちゅうせいし【中性子】ニュートロン。素粒子の一種。陽子*とともに原子核*を構成している粒子で，この二つをまとめて核子*とよぶ。中性子は電気をおびていない。重さ(質量)は陽子より約電子*2.5個分重く1.674516×10^{-24}g，1.0086658原子質量単位，1,838.7me(meは電子の質量)，939.550MeV(メガエレクトロンボルト，1MeV=10^6eV)などと種々の単位で表わされる。スピン*は陽子と同じで$\frac{1}{2}$(単位は$\hbar=h/2\pi$，hはプランク定数*)，磁気モーメント*は陽子とは符号が異なり−1.913148±0.000066核磁子(核磁子=$eh/4\pi Mc$，eは電気素量，Mは陽子の質量，cは真空中の光速度)，そしてフェルミ統計(→量子統計)に従う。自由状態では約15分(932秒)で陽子・電子と中性微子(ニュートリノ*)に崩壊する。$n\rightarrow p+e^-+\nu$ 原子核内では安定となったり，より不安定になったりする。また陽子と同じようにπ中間子を放出して陽子に変換する。$n\rightarrow\pi^-+p$

〔中性子の発見〕中性子の存在は電気をおびていないため約30年前までわからなかった。1930年にボーテとベッカーは，ポロニウムから出るα線*をベリリウムやホウ素にあてると非常に透過力のある放射線が出ることを見つけた。ジョリオ-キュリー夫妻はこの放射線を水素を含んだ物質にあてると陽子が飛び出てくることを知った。彼らはいずれもこの放射線はγ線*だと考えた。しかし1932年にチャドウィックは，この放射線をγ線とすれば陽子が飛び出す頻度(ひんど)は理論値よりはるかに大きく，陽子のエネルギーから逆算してγ線のエネルギーも当時として考えにくいほど大きいものとなるので，彼はなにか陽子程度の重さの粒子ではないかと考えた。そして実験的にその荷電と質量を調べた結果，この放射線には荷電がなく，質量は陽子に近い粒子であると結論し，この現象が$Be^9+\alpha\rightarrow C^{12}+n$ $B^{11}+\alpha\rightarrow N^{14}+n$(Be:ベリリウム，C:炭素，B:ホウ素，N:窒素)という反応で，この中性の粒子が水素の原子核(陽子)と衝突をして陽子をはじき飛ばしたのだとした。これが中性子の発見であった。チャドウィックはこの業績により1935年にノーベル物理学賞を受けた。中性子を導入することによって原子核の構成が，より真実に近いものが考えられて基本的粒子として重要な存在となった。



中性子
食塩の結晶による中性子回折写真

〔中性子の発生と利用〕中性子による原子核の実験では，最近は中性子源として原子炉(パイル)がおもである。この場合，中性子のエネルギーは最高3MeV程度であるが，それ以下のエネルギーも混じっているためエネルギー選別を行なう。あるいは特殊な核反応から発生する中性子は，単一エネルギーなのでそれを利用することもある。高エネルギーの中性子源は，高エネルギー核反応より発生するものである。

中性子が物質中を通るとき，あるエネルギーのものは原子核によって，特に鋭く吸収されることがあり，この現象を共鳴吸収という。共鳴吸収エネルギーは，原子核の種類(核種)により異なるが，だいたい0.05〜1,000eVの範囲にある。ウラニウム核などは熱中性子(0.025〜0.05eV)により核分裂を起こす。この分裂を連鎖的に適当な速さで起こるようにしたものが原子炉であり，瞬間的に分裂を起こさせると原子爆発となる。中性子が磁化した強磁性体中を通ると，磁気散乱によりかたよった中性子(スピンの方向が同一方向を向いた中性子)が得られ，強磁性体の性質を調べることができる。また中性子の物質波は，特に高いエネルギーでなければX線の波長程度となるので，回折・屈折などを起こす。中性子は物質による吸収がX線より小さいので，中性子回折を利用して結晶格子(こうし)内の原子の位置などの決定をする。〔福井崇時〕

ちゅうせいしせい【中性子星】ほとんど中性子*でできている星。密度は1cm³あたり10^{14}〜10^{16}gで，ごま粒の粒子が実に10万〜1,000万tに相当する。白色矮星*(わいせい)よりも数十万〜100万倍も密度が高い。星として存在しているとすれば，質量は太陽の0.2〜2倍で，半径は約10kmという小さなものであろうと推定されている。超新星*として爆発した星は，外側が飛散して，あとには極度に圧縮された中心部が残る。これが中性子星になると考えられている。パルサーとして観測されている電波源は，中性子星の自転によるものと推察されている。〔日江井栄二郎〕

ちゅうせいしばくだん【中性子爆弾】中性子*を放出して人畜に被害を与える核爆弾。一時ソ連がこの種のものを開発中とうわさされたが，最近ではあまり話題に取り上げられていない。爆発に際して爆風や熱線，死の灰などの放射性物質を伴わないものといわれている。

ちゅうせいせんざい【中性洗剤】⇨合成洗剤

ちゅうせいだい【中生代】地質時代のうちで古生代*のあと，新生代*のまえの時代。約2億3,000万年前から約6,500万年前までの約1億6,500万年の期間をいう。中生代は，古いほうから三畳紀*・ジュラ紀*・白亜紀*に3分される。アンモナイトが大発展した時期で，三畳紀ではセタイト亜目が，ジュラ紀〜白亜紀ではアンモナイト亜目が特徴的であるが，中生代末にはまったく絶滅した。同じく頭足類の箭石(やいし)類も繁栄したが，末期には著しく衰退した。二枚貝では三角貝・イノセラムス・ダオネラが特徴的である。また，古生代の四射サンゴ類に代わって六射サンゴ類が出現した。爬虫(はちゅう)類，特に恐龍(きょうりゅう)類が大発展し，中生代は爬虫類時代ともよばれる。ただし，恐龍類は中生代末に急激に衰亡し，鳥類・原始哺乳(ほにゅう)類や硬骨魚類が出現した。植物界では裸子植物やシダ類が繁茂し，中生代は裸子植物時代(中植代)ともいわれるが，白亜紀中ごろに大変革があって，被子植物が優勢になりはじめた。中生代は地球が比較的静穏な時代であったが，後期になるとアルプス造山運動*の時代にはいった。〔田中啓策〕

ちゅうせいどうぶつ【中生動物】動物分類学上の一門。この動物門に属するものは，すべて海産動物の内部寄生者として知られている。体は数ミリ以下の小形で，多細胞からなるが，細胞の数はきわめて少ない。体細胞は，外部をおおい，繊毛や棘毛(きょくもう)をもって運動などに用いられる細胞と，体の内部を満たし，生殖に関与する細胞とに分化するが，後生動物*のような器官の形成はみられない。生殖は一般に無性配偶子によるが，有性生殖を行なって世代交代*がみられる種類もある。普通は菱形(りょうけい)類と直游(ちょくゆう)類に分けられる。前者は二胚虫(にはいちゅう)類ともいわれ，軟体動物頭足類の腎嚢(じんのう)中に普通にみられる。マダコの腎嚢に寄生するニハイチュウはよく知られており，ほとんどすべてのマダコからみられる。後者は扁形(へんけい)・紐形(ひもがた)・環形・軟体・棘皮動物などの内腔(ないこう)や組織内から知られているが，わが国からはまだ報告されていない。中生動物は，細胞の分化度がきわめて低いことや，体制が非常に単純であることなどの理由で，古くから原生動物と後生動物の中間的なものと考えられてきたが，最近では，扁形動物などが寄生によって退化したものであるという考え方も多くなった。しかし，決定的な証拠はなく，現在でも，その系統上の位置は

不明な点が多い。　〔向井　宏〕

ちゅうせいとし　【中世都市】　西洋で中世に繁栄した都市。古代や近代の都市に比べ独自の特色をもっている。その前身は旧ローマ帝国時代の都市の跡，司教の所在地，城塞（じょうさい），交通の要衝などで，11〜12世紀ごろ商業の発達に伴って出現し，13世紀末まで繁栄した。商人が団結して領主の支配から脱し，都市自治体をつくって，封建社会の中に独立の権力をもつ都市を形成したことによる。中世都市のほとんどは城壁によって周囲の農村から区別されているのが特徴である。住民は商工業者を主とし，独自の法（市法）をもち固有の行政機関を備え，みずからの軍隊をもっていた。土地に束縛されて移動の自由をもたない荘園（しょうえん）の農奴も，荘園を脱して１年以上都市内に居住すれば自由の身分になれたので，〈都市の空気は自由にする〉ということわざが生まれた。中世都市を中心地として周囲の農村とともに経済上の単位を形成した。しかしそればかりでなく遠距離貿易に従事する国際的な都市もあり，特にイタリア都市やハンザ都市では国際性が著しい。ふつう１都市の人口は3,000人ぐらいである。中世都市はヨーロッパの近代化に大きな役割を果たし，特にその自由な空気はヨーロッパの近代政治意識の基礎となった。中世の文化のにない手としても意義は大きい。〔兼岩正夫〕

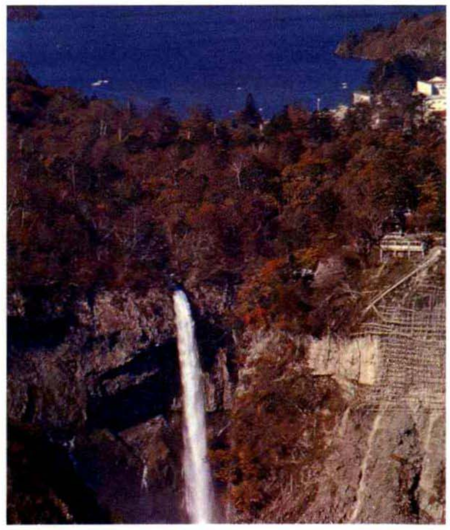
ちゅうせいびし　【中性微子】　⇨ニュートリノ

ちゅうせいひりょう　【中性肥料】　酸性肥料*やアルカリ性肥料*と同じように，中性肥料にも中性の化学的中性肥料と，有効成分が吸収されたあとが酸性にもアルカリ性にも傾かない生理的中性肥料とがある。ただし肥料は化学薬品のように純粋でなく，夾雑物（きょうざつぶつ）が必ず存在するため，厳重な意味で化学的に中性であることはほとんどないが，尿素・硫酸カリ・焼リン・リン酸二アンモニウムなどはだいたい化学的中性肥料といえる。生理的中性肥料には硝安・尿素・リン安・重炭酸カリなどがある。➔酸性肥料　➔アルカリ性肥料〔早瀬達郎〕

ちゅうせきせい　【沖積世】　地質時代*のうちの新生代四紀を２分したあとの時代。現世ともいう。人類文化の発達段階における中石器時代以降はこの時代に相当する。➔第四紀

ちゅうせきへいや　【沖積平野】　⇨平野

ちゅうせっきじだい　【中石器時代】　旧石器時代*から新石器時代*への過渡期の文化階級で，地質学上の洪積世（こうせきせい）末期から沖積世（ちゅうせきせい）初期（BC5000〜BC1200）に位置する。19世紀の前半イギリスのラボック*が石器時代を旧石器時代と新石器時代とに区分したが，まもなく旧・新石器時代のいずれにも属さない別の文化が発見されるようになった。1895年フランスのピエトによるマスダジル洞窟（どうくつ）遺跡の研究報告は，中石器時代の存在を公認させた。この時代はヨーロッパでは氷河期の末にあたり，気候は温暖化しはじめ，人間は洞窟を出て戸外に住むようになり，やがて竪穴（たてあな）住居*も営まれるようになった。人々は，狩猟のほかに漁労を開始し，骨銛（もり）がつくられ，のちには貝塚*（かいづか）をみるに至った。狩猟には，石鏃（せきぞく）の出現が示すように弓矢が用いられるようになり，一般の石器としては細石器*が多い。土器の発生も一部ではこの時代からみられる。家畜としてイヌが飼われるようになったが，まだ植物栽培についてはその痕跡（こんせき）を認めることはできない。近時その最も早い時期の遺物が氷河期末の旧石器と併行する地層から発見され，中石器文化の始源を明らかにする手がかりができた。なお，中石器時代は前・中・後期に編年されている。〔高崎徳次〕



中禅寺湖　紅葉にいろどられる中禅寺湖と華厳滝。湖と滝は日光国立公園のシンボルとなっている

ちゅうせんし　【鋳銭司】　律令（りつりょう）時代に貨幣鋳造をつかさどった令外官*（りょうげのかん）。〈じゅぜんのつかさ〉とも読む。《日本書紀》によれば，694年（持統８）役人を任命したのがはじめである。708年（和銅１）和銅開珎*（わどうかいほう）の鋳造が始まると，各地に設置されるようになった。山城（京都府）・河内（かわち）（大阪府）・近江（おうみ）（滋賀県）・播磨（はりま）（兵庫県）・周防（すおう）・長門（ながと）（ともに山口県）・太宰府（だざいふ）（福岡県）などが文献上知られており，遺物として和銅銭の銭范（せんぱん）（鋳型），鞴（ふいご）の口，坩堝（るつぼ），銅滓（どうさい）などが発見されている。〔黛　弘道〕

ちゅうぜんじおんせん　【中禅寺温泉】　栃木県日光市中宮祠（ちゅうぐうし）にある温泉。泉温45℃，泉質はイオウ泉で，神経病・リウマチにきくといわれる。中禅寺湖の東岸に位置し，日光湯本から引き湯している。日光国立公園内にあり，中禅寺湖畔の観光の中心地でもあるので団体行楽客でにぎわう。付近には中禅寺湖*，大谷川にかかる華厳滝*（けごんのたき），立木観音・中宮祠などの名所がある。交通は日光線および東武鉄道の日光駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

ちゅうぜんじこ　【中禅寺湖】　栃木県日光市の男体山南麓（なんろく）にあり，〈幸ノ湖（さちのうみ）〉ともよばれる。面積11.6 km²，水面標高1,271 m，最大水深161.5 m。成因は男体山の噴出物である華厳（けごん）溶岩流による堰止湖（せきとめこ）といわれていたが，華厳滝*約97 mのうちせき止めた部分の溶岸の厚みは50m ほどなので，陥没性の湖水が流出口をせき止められて湖面が広がったものと今日ではいわれている。奥日光山地の水が注ぎ，東端から大谷川が流出している。冬季でも湖岸以外の湖面はほとんど結氷しない。〔長津一郎〕

ちゅうぞう　【鋳造】　溶融金属を鋳型に流し込み，固めて鋳物をつくること。鋳造によれば複雑な形状や大形の素材が容易にできるので，機械部品の中に鋳物の占める割合は大きい。

鋳造の工程は模型製作，鋳型製作，金属の溶解および注入，後処理などに分けられる。模型には，マツ・スギ・ヒノキなどの木材でつくった木型*と，アルミニウム・鋳鉄などでつくった金型*とがある。これらの模型をもとにして，鋳物砂を用いて鋳型をつくる。鋳物の中空部分を形成するには，別に中子をつくっておいて，これを鋳型の中にはめ込む。鋳型製作にあたっては，巣のない健全な鋳物をつくるために，溶金を流し込むための通路や，これに圧力をかけるための押湯（おしゆ）や，鋳型内の空気および発生ガスを逃がすためのガス抜きなどに慎重な考慮が必要である。モールディングマシンやサンドスリンガーなどの造型機械を使って，造型作業の一部または全部を機械化している工場もある。金属製の鋳型を用いれば，１個の鋳型をくり返し使用して多数の鋳物をつくるが，鋳型をつくるのが砂型よりはるかに困難である。金属を溶解する炉は金属の種類によって異なり，鋳鉄にはキュポラ，鋳鋼には直接アーク式電気炉，非鉄金属にはるつぼ炉が多く使われる。そのほか，高周波および低周波電気炉・反射炉なども使われる。金属を溶解する際は，巣の原因となるガスの発生・混入を避けるように努め，さらに注入直前に脱酸処理・真空処理などを行なって脱ガスする。金属が凝固・冷却したのち鋳型から取り出し，付着した砂や注入口に固まった金属を除き，必要の場合は機械加工をして鋳物部品が完成する。鋳物の清浄作業にはサンドブラスト・ショットブラストなどの機械が使われる。

最近は，製品の精密化・材質改善，および生産のスピードアップ・コストダウン・自動化などの目的で，遠心鋳造法・ダイカ

スト・シェルモールド法・インベストメント鋳造法・ショープロセス・フルモールド法などの特殊鋳造法が盛んに利用されている。〔加山延太郎〕

ちゅうそううん【中層雲】 高度約2kmから5～7kmぐらいのところにある雲。高積雲・高層雲・乱層雲などがこれにあたる。厳密には，高層雲は上層にまで広がることがあり，乱層雲は下層に広がっていることが多い。➔雲

ちゅうソゆうこうどうめいそうごえんじょじょうやく【中ソ友好同盟相互援助条約】 正式には〈ソビエト社会主義共和国連邦と中華人民共和国との間の友好・同盟および相互援助に関する条約〉という。1950年2月14日調印，同年4月11日発効。1945年8月国民政府とソ連との間に中ソ友好同盟条約が結ばれ，ソ連の参戦，旅順港・大連港の取り扱い，中国のモンゴル独立承認，長春鉄道運営に対するソ連の参加，満州（東北）・新疆（しんきょう）に対する中国の宗主権（➔宗主国）などについて定めた。1949年10月1日北京（ペキン）に中華人民共和国が成立すると，前記の中ソ友好同盟条約を根本的に改訂して，新たに友好同盟，および相互援助条約が結ばれたのが本条約である。本条約の成立によって，歴史上中国とロシアとの間にあった満州問題をめぐる紛争に終止符が打たれ，共産主義の二大国であるソ連と中国との提携が決定して，国際政治に大きな影響力を与えた。条約は前文と6か条からなり，〈日本帝国主義の復活および日本国の侵略または侵略行為についてなんらかの形で日本国と連合する他の国の侵略のくり返し〉を共同で防止することを目的とし，国際連合*の目的と原則を守って全世界の平和と安全を希望して相互利益，国家の主権領土に対する尊重，国内事項不干渉の原則に従い，両国が平和と安定を図るために，共同利益に関するいっさいの重要な国際問題について協議し，両国の経済的・文化的連携を発展させ，相互に経済的援助と協力をなすことを約束した。しかし，この条約も中ソ対立の激化に伴い，ソ連が同条約破棄を示唆する覚え書きを出すなど，その存在は名目化し，機能は失われている。〔広部和也〕

ちゅうソろんそう【中ソ論争】 国際共産主義運動*をめぐるソ連共産党と中国共産党との間の理論的対立。1956年ソ連共産党第20回大会でフルシチョフ*がスターリン*批判を行なったことに端を発して論争は始まった。中国共産党はこれをマルクス-レーニン主義*の〈修正〉だと批判して同調することを拒否したため，1957年11月中国・ソ連を含む12か国の共産党はモスクワでモスクワ宣言*を採択し，意見の調整を図った。さらに1961年第22回党大会で，ソ連共産党がアルバニア共産党を批判したため，中国共産党はこれを国際共産主義運動の団結を破壊するものであると批判し，また帝国主義との平和共存はありえないと言明した。これを契機に，この論争は公然化され，国際共産主義運動全体を巻き込んだ。なお，日本・朝鮮民主主義人民共和国・アルバニア・インドネシア・ニュージーランドなどの共産党は中国を支持し，東欧・西欧・ラテンアメリカなど多くの共産党はソ連共産党を支持している。〔原田政洸〕

ちゅうそんじ【中尊寺】 岩手県西磐井（にしいわい）郡平泉町にある天台宗の寺。奥州藤原氏の初代藤原清衡（きよひら）の創建で，造営は1105年（長治2）に始められ，1126年（大治1）に落慶供養が営まれた。金色堂（国宝）は2年前に完成。1128年清衡が死ぬと，遺体が金色堂中央壇の下に葬られ，壇上に阿弥陀（あみだ）如来・六地蔵・二天像が安置された。2代基衡，3代秀衡（ひでひら）も金色堂の左右の壇にそれぞれ葬られた。堂内は藤原時代の工芸の粋を集めてつくられ，いわゆる平泉文化の繁栄をいまに伝えている。1189年（文治5）4代泰衡（やすひら）のときに，金色堂を除く建物は，源頼朝（よりとも）によって焼き払われたが，山内には往時のおもかげをとどめる仏堂の跡があり，1949年（昭和24）遺体の学術調査の際に棺から出た副葬品をはじめ，仏画・仏像・工芸品の類が讃衡館（さんこうかん）に展示されている。特に秀衡の念持仏と伝える一字金輪仏は〈人はだの大日〉と通称され，他に類をみない仏像である。〔永井信一〕

ちゅうだい【抽薹】 とう立ちともいう。節間生長がほとんど行なわれないで，主として節の数の増加によって徐々に伸長していた（ロゼット生長）茎が，温度や日長などの刺激で花芽を分化するとともに，茎が急激に伸長して草たけの高くなること。この場合は主として節間生長によって伸長が行なわれる。ハクサイ・キャベツなどの葉菜類や，ニンジン・ダイコンなどの根菜類の種子を採取する場合には生育期間の終わりに抽薹させて結実させるが，食用価値はなくなる。〔吉田精一〕

ちゅうたいせいようろん【中体西用論】 日清（にっしん）戦争から日露戦争の時期にかけて，中国の知識人・官僚の間に，西欧文化の流入に対抗して伝統文化をいかに擁護するかという議論が展開された。その代表的なものが中体西用論である。中国の学問を〈体〉とし，西欧の学問を〈用〉とする，という考えは，張之洞（ちょうしどう）という高級官僚の書いた《勧学編》（1898年に全国の地方行政官に頒布した）に典型的に表現されている。〈体〉〈用〉とは，本質とその反映，あるいは基本と補助という意味である。体制の危機をのり越えようとする支配階級の，折衷的文化観といえよう。わが国の幕末・維新期に提唱された〈和魂洋才〉と比較される。〔斎藤秋男〕

ちゅうちょうせん【中腸腺】 節足動物と軟体動物の中腸に開口する腺で，複管状や複胞状をしている。消化酵素を分泌して胃に送っており，脊椎（せきつい）動物の肝臓と膵臓（すいぞう）の働きをもっているという意味で，肝膵臓とよばれることもある。動物の種類によって違うが，アミラーゼ・セルラーゼ・リパーゼ・マルターゼ・スクラーゼなどの酵素が分泌される。

ちゅうてつ【鋳鉄】 鋼（➔はがね）より多量の炭素（炭素量1.7～4.5％）を含む鉄・炭素合金の一種で，このほかケイ素・マンガンや不純物元素（リン・イオウなど）もかなり多量に含まれている。したがって鍛練は不可能であり，一般に延性は非常に低いが，鋳造性はきわめてよい。原料は銑鉄やスクラップで，これをキュポラや電気炉で溶解して得られる。鋳鉄を大別するとねずみ鋳鉄・チル鋳鉄・合金鋳鉄・球状黒鉛鋳鉄・可鍛鋳鉄などに分類される。なお強靭（きょうじん）鋳鉄ともいわれる高級鋳鉄は，特殊の溶解法を用いて引っ張り強さ30kg/mm²以上をもたせたもので，その顕微鏡組成は片状黒鉛鋳鉄である。延性はないが普通の鋳鉄に比較して抗折試験におけるたわみ量が多く，いくぶん粘り強い性質をもっている。これの標準成分は炭素2.9～3.1％，ケイ素1.4～1.8％である。➔鋳物 ➔鋳造〔長谷川正義〕

ちゅうとう【柱頭】 ⇨キャピタル

ちゅうとう【中東】 英語のMiddle Eastの訳で，近東*と極東*の間の地域をさすが，その範囲ははっきりしない。近東や極東よりも比較的新しい用語で，第2次世界大戦中に連合軍が作戦上の必要から使いはじめたもので，本来はイラク・イラン・アフガニスタンのあたりをさしたが，現在では西はアラブ連合，東はインド・ビルマあたりまでも含めることがあって，この場合はビルマで直接極東と接している。1967年以来イスラエルとアラブ諸国との間に起こって現在まで長期化している中東戦争*は，この地域の本質をよく現わしてつけられた名称であり，またいわゆる中東油田というのは，イランからイラク，アラビア半島のサウジアラビア・クウェートなどの油田の総称として用いられている。➔中近東〔浅井得一〕

ちゅうどう【中道】 梵語（ぼんご）madhyamā-pratipad（マドヤマー-プラティパッド）の訳。かたよりのない不偏中正の道をいう。快楽派が世間の欲楽に執着して清浄の志なく，苦行派がいたずらに肉体を苦しめる修行法を解脱の道としたのに対し，この両極端を離れて八正道（➔四諦（したい）八正道）を修して涅槃（ねはん）に到達すべきことを説いた心身鍛練・精神安立の道である。のちナーガールジュナ*（龍樹）は苦楽・有無はもとより，一異・断常・生滅・去来など対立する観念を否定・超越することによって真実・絶対が開顕されるという哲理に基

づいて実践道を体系化し，さらに後世，三論の吉蔵*，天台の智顗(ちぎ)・華厳(けごん)の澄観*によりいっそう思弁化された。〔北条賢三〕

ちゅうとうせんそう　【中東戦争】　1967年6月アラブ連合*・シリア・ヨルダンなどとイスラエル*の間に起こった戦争。イスラエルとアラブ諸国は，イスラエル共和国*の誕生以来敵対関係にあり，中東戦争もこのような歴史的対立関係を遠因とし，直接にはアラブ連合のアカバ湾封鎖による。ほかに米ソ関係，石油問題，アラブおよびイスラエル諸国の内部事情などきわめて複雑な背景によるものである。戦争は，同年6月5日両国の国境衝突で開始され，イスラエルは空軍を主力とした電撃的攻撃で軍事的勝利を収め，同月11日いちおう停戦した。しかし，戦後処理の問題で停滞し，その後事態の打開を図るため，1969年4月から中東問題四大国会議(英・米・仏・ソ)やリング国連特使の活動，ロジャーズアメリカ国務長官の仲介活動などがあったが解決していない。〔広部和也〕

ちゅうどく　【中毒】　化学的物質によってひき起こされた生体の健康や生命の障害を中毒といい，その物質を毒物，ときには薬物とよぶ。同じ毒物でも条件(純・不純，溶解性，貯蔵状態，投与方法など)によって毒物作用の発現状態は異なり，また投与を受ける個人の条件によっても変わってくる。中毒死が起こった場合，その原因を周囲の状況や臨床所見によって検査するが，なお判明しない場合は解剖に付したり，体内の毒物を化学的に検査して決定する。法医学上では毒物を腐食毒・金属毒・実質毒・血液毒・麻酔毒・アルカロイド・痙攣(けいれん)毒・有毒食物などに分類している。〔青木利彦〕

ちゅうなごん　【中納言】　〈すけのものもうすつかさ〉ともいう。唐名は黄門・龍作(りゅうさく)・納言。701年(大宝1)大宝令(たいほうりょう)(→大宝律令)でいったん廃止されたが，705年(慶雲2)再置された令外官*(りょうげのかん)。大納言*の定員4名を半減し，中納言3名を置いた。職掌は大納言に同じく，奏上・宣下のことをつかさどり，重要国務の審議にあずかったが，大臣の代行ができない点で大納言と異なる。のち権中納言が置かれ，定員は漸次増加し，8～10名を数えるに至った。〔黛　弘道〕



チ ュ ウ ヒ

ちゅうなんべい　【中南米】　⇨ラテンアメリカ

ちゅうにちしんぶん　【中日新聞】　中部地方の代表的ブロック紙。1942年(昭和17)9月，新愛知新聞社と名古屋新聞社が合併して発足した中部日本新聞社より発行。1965年現紙名となる。本社は名古屋。発行部数約269万。同時に《中日スポーツ》(発行部数約51万)を発行している。なお，中部日本新聞社はそのほか《北陸中日新聞》(本社金沢，発行部数約9万)，《東京新聞》(発行部数約82万)，《東京中日スポーツ》(発行部数約28万)を発行している。いずれも本社は東京，発行部数は1980年10月現在。〔須藤泰秀〕

ちゅうのう　【中脳】　⇨脳

ちゅうは　【中波】　⇨電磁波

ちゅうばいか　【虫媒花】　こん虫によって花粉が柱頭に運ばれ，受粉される花，花も花粉もそのためにつごうよくできており，蜜腺(みっせん)が発達しているとか，色のきれいな花びらをもつとか，においが強いとかして，虫を誘い，また，花粉は突起があったり，粘液に包まれていたりして虫の体について運ばれる。サクラ・アブラナ・バラの花などがある。

ちゅうはいよう　【中胚葉】　発生の初期に外胚葉と内胚葉の間にできる胚葉で，後生動物の大部分にみられる。原中層細胞とよばれる大形な細胞が分泌増殖してできる動物群と，原腸の側壁がふくれて中胚葉となる動物群があるが，いずれも体腔壁(たいこうへき)をつくり，または間充織となって胚葉間を埋めたり，筋肉・骨格・結合組織・循環系・排出系・生殖系などをつくるおもな材料となる。

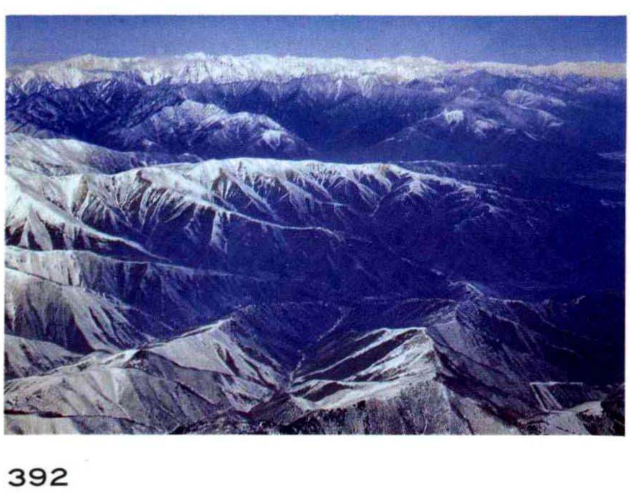
ちゅうひ　【沢鵟】　鳥類・ワシタカ科・チュウヒ亜科の鳥の総称およびそのうちの1種をいう。世界に17種があり，いずれも葦原(あしはら)・農耕地・湿草原など開けたところに生息し，その上を低く飛んでおもに地上の小獣類を捕える。顔はフクロウ類のように前方に面し，脚も長めであるが，これは前記の習性に適応した形態である。また，営巣も大部分のものは地上性である。

チュウヒ亜科のうちの1種であるチュウヒは全長50～60cm，トビ*よりやや小形で，おもに海岸付近の葦原に生息し，その上をゆっくりした羽ばたきと，滑翔(かっしょう)を交えて，わりにゆっくりと飛ぶ。わが国にみられるものは雌と幼鳥が多く，全体にかっ色に富む。雄の成鳥は初列風切は黒色，次列風切と初列雨覆は灰色，尾も灰色で上尾筒は三日月形に白色で美しい。北海道のオホーツク沿岸で少数は繁殖する。近似種のハイイロチュウヒは雄の成鳥は初列風切が黒色，他の部分が灰色，腰が白色のさらに美しい鳥で，やはり幼鳥と雌がみられることが多い。➔風切羽〔安部直哉〕

ちゅうふう　【中風】　⇨脳卒中

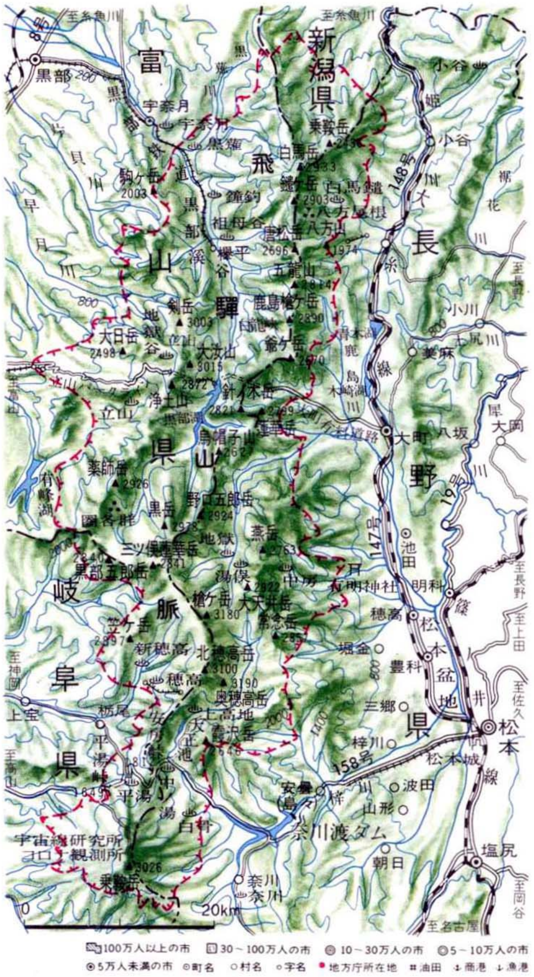
ちゅうぶけん　【中部圏】　中部地方の新潟・山梨両県を除いた7県に，近畿(きんき)地方の三重・滋賀両県を加えた9県の地域をいい，1966年(昭和41)に制定された中部圏開発整備法により，その開発と整備が計画されている。首都圏*と近畿圏*の中間に位置しているために，両地域相互間の経済的交流が，中部圏を通じて行なわれており，道路・鉄道・港湾などの整備が，これと関係して進められているところに特色がある。特に北陸地域の位置が重視され，北回り新幹線の建設や，伏木富山港・敦賀(つるが)港などの施設整備が計画されている。計画は，名古屋を中心とする都市整備区域，それぞれの中心的な都市を含む都市開発区域，観光資源の開発または保全を目的とする保全地域の三つに分けて進行しつつある。その面積は49,500km² で全国の13.3%，人口は852万で8.6%，工業出荷額は6兆円で20%にあたるが，三重・滋賀両県は近畿圏にもはいっていて，重複している。中部圏の構想は，1964年に来日したE.ワイズマンを団長とする国連地域開発調査団の勧告がきっかけとなったもので，日本列島の地域開発政策のモデル的性格を備えている。中部圏開発整備本部は東京にあって，建設大臣がその長官を兼ねている。〔浅井得一〕

ちゅうぶさんがくこくりつこうえん　【中部山岳国立公園】　新潟・富山・長野・岐阜の4県にまたがり，北は飛騨(ひだ)山脈の白



中部山岳国立公園　長野県塩尻市付近の上空から望んだ北アルプスの山々。3月上旬では，標高の低い山々もまだ雪が多い

馬岳(2,933m)から，南は乗鞍岳(のりくらだけ)(3,026m)まで，西は黒部(くろべ)峡谷と立山(3,015m)を含む，面積1,697km² の地域で，1934年(昭和9)に指定された。最高峰の穂高岳(3,190m)をはじめ，3,000m以上の高峻(こうしゅん)な山々がそびえ，〈日本アルプス*〉の名で世界に知られる。古生層の山地に火山が噴出したため，古生層の岩石のほかカコウ岩・安山岩・ヒン岩・セキエイ粗面岩などにより形成されている。高山の頂上付近には氷河時代の痕跡(こんせき)がみられ，大多和峠・薬師岳などのカール*群や，立山の山崎カールは名高い。高原川・梓(あずさ)川・黒部川の上流は深い溪谷美(けいこくび)をみせ，十字峡・黒部峡はその代表的名勝地である。山麓(さんろく)には平湯をはじめ多くの温泉がある。2,400m以上の山中にすむライチョウ・カモシカなど天然記念物に指定されている動物も多い。高山には特有の植物帯もみられ，頂上の近くは一面がハイマツで，その間に美しいお花畑が見られる。〔木村東一郎〕



中部山岳国立公園

ちゅうぶちほう【中部地方】 日本を分ける8地方の一つで，西は近畿(きんき)地方，東は東北地方と関東地方に接し，北は日本海，南は太平洋に面し，本州のほぼ中央部にある。本州で最も幅が広く，また高い地方で，わが国最高の富士山(3,776m)をはじめとして，標高3,000mを越える山があるのはこの地方だけである。南から北へ東海地方・中央高地・北陸地方の三つに分けることができるが，いずれも古くから関東と関西を結ぶ交通路として重要であった。特に現在は，太平洋に沿う東海地方が，東海道本線・東海道新幹線・国道1号線・東名高速道路などによって日本のメーン-ストリートとなり，日本でも最も交通量の多い地帯となっている。新潟・富山・石川・福井・山梨・長野・岐阜・静岡・愛知の9県を含み，その面積は66,686km²，人口は1,993万で，全国の約18%を占め，1km² あたりの人口密度は299人で，全国平均の306人よりもやや低い。

〔地形〕 東部には越後(えちご)山脈・三国山脈・関東山地がほぼ南北に連なって関東地方との境をなし，東から那須(なす)火山帯が延びてきて長野・群馬県境に白根山(草津白根山)(2,162m)・浅間山(2,542m)などの火山がそびえている。この関東地方との境をなす山地の西には妙高山(2,446m)・八ケ岳(2,899m)・富士山・天城(あまぎ)山(1,407m)などの富士火山帯に属する火山が南北に並ぶ。これらの諸火山は，フォッサ-マグナ*に沿って噴出したものである。この地溝帯(ちこうたい)の東縁はやや不明瞭(ふめいりょう)ではあるが，ほぼ千曲(ちくま)川から甲府盆地に延びる線にあたり，西縁はいわゆる糸魚川(いといがわ)-静岡構造線*である。地溝帯の西には赤石・木曾(きそ)・飛驒(ひだ)の3山脈が南北に走り，それぞれ南・中央・北アルプスとよばれている。赤石山脈には富士山に次ぐわが国第2の高峰である白根山の北岳(3,192m)，飛驒山脈には，穂高岳(3,190m)や槍ケ岳(やりがたけ)(3,180m)のほか，乗鞍(のりくら)火山帯が重なっているので，乗鞍岳(3,026m)や御嶽(おんたけ)山(3,063m)などの火山がそびえている。飛驒山脈の西縁は，しだいに高度を減じて，海抜1,000m内外の飛驒山地となり，その西には白山火山帯の東端にあたる火山の白山(2,702m)を主峰とする両白山地がある。近畿地方との境をなすのは，伊吹(いぶき)山(1,377m)を主峰とする伊吹山地と，最高が906mの養老山地である。これらの中央高地の山々は，険しい峰や深い峡谷，なだらかな高原など，それぞれ変化に富む美しさを見せ，富士箱根伊豆・上信越高原・中部山岳・白山・南アルプスなどの国立公園にそれぞれ指定されている。中央高地から流れ出る川は，わが国最長の信濃(しなの)川(367km)をはじめ，日本海へ流れ出るものに阿賀野(あがの)川・黒部(くろべ)川・神通(じんつう)川・九頭龍(くずりゅう)川などがあり，太平洋へ流れ出るものには富士川・大井川・天龍川・木曾川などがある。信濃川は千曲川と犀(さい)川，富士川は釜無(かまなし)川と笛吹川，木曾川は木曾・長良(ながら)・揖斐(いび)3川の合流したものである。これらの川は，水量が豊かで発電に好適なものが多く，中央高地はわが国で最も重要な電源地帯となっている。またその下流には，日本海側の北陸地方に新潟・富山・金沢・福井，太平洋側の東海地方に静岡・濃尾の諸平野があり，中央高地中の長野・佐久・松本・諏訪(すわ)・伊那・甲府・高山の諸盆地とともに，中部地方の人口密集地帯を形成している。なお，中部地方の地形を複雑にしているものに，西南日本を縦断する大断層線である中央構造線*がある。海岸線を見ると，日本海岸は，能登(のと)半島とそれにいだかれる富山湾，典型的なリアス式海岸の若狭(わかさ)湾を除いては比較的単調で，海岸には砂丘の発達が著しい。日本海上には，沖縄島を別にすれば，日本の属島としては最大の佐渡島(さどがしま)(857km²)がある。太平洋岸は，伊豆半島と駿河(するが)湾，伊勢(いせ)湾とその東の知多半島・三河(みかわ)湾(渥美(あつみ)湾)・渥美半島というように大きな出入があるが，駿河湾をいだく御前(おまえ)崎から渥美半島西端の伊良湖岬(いらごみさき)に至る遠州灘(えんしゅうなだ)の

海岸は,出入の乏しい砂浜で,浜松以東には大規模な砂丘が発達している。この単調な海岸線に変化を与えているのが潟湖(せきこ)の浜名湖で，中部地方の湖としては最大であり，これに次ぐものとしては石川県の河北潟(かほくがた)がある。中央高地には諏訪湖のほか，富士山の北のふもとに山中湖以下のいわゆる〈富士五湖〉や，長野県の青木湖以下のいわゆる〈仁科(にしな)三湖〉・野尻湖(のじりこ)などがあって，いずれも観光的な価値が大きい。

〔気候と生物〕気候は，東海・中央高地・北陸の3地方によって，はっきり異なっている。東海地方は温暖な表日本式気候で，降水量は夏に多い。中央高地の盆地は夏と冬の気温の較差が大きい内陸性気候で，降水量は少ないが，山地では反対に降水量が多い。北陸地方は，冬に降水量の多い裏日本式気候で，その多くは雪となり，世界的な多雪地帯となっている。北陸地方でも雪の多いので知られる新潟県の高田(上越市)の年降水量は3,038mmに達し,そのうち12～2月の冬の3か月間が1,310mmで43%を占め,年に平均して積雪の深さ1m以上の日が39日もある。新潟県南端の長野県境に近い魚沼地方では，積雪量は平年でも3m，多い年は5～7mにも及び，根雪期間も4～6か月になる。いま東海地方で浜松，中央高地で松本，北陸地方で高田を選んで比較してみると，年平均気温は15.5℃，11.0℃，13.0℃,平均気温の最高の月は26.3℃(8月)，24.1℃(8月)，25.9℃(8月)，平均気温の最低の月は5.1℃(1月)，−1.2℃(1月)，1.7℃(2月)，年平均降水量は1,905mm，1,058mm，3,038mm，降水量の最大の月は291mm(6月)，164mm(6月)，514mm(12月)，降水量の最小の月は61mm(1月)，33mm(12月)，103mm(5月)というように，それぞれ表日本式・内陸性・裏日本式の3気候の特色を，記録の上でもよく示している。中部地方は，日本の森林帯の分布からいって，北の温帯林と南の暖帯林との漸移地帯にあること，また海抜3,000m以上の地点があるために植物の垂直分布状態が明瞭な点など，他の地方とは異なる特色がある。温帯林が見られるのは，平地では新潟県の北部あたりまでで,石川県になると約300m以上の高さとなり，中央高地の山梨・長野両県では1,500m以上,東海地方の静岡県では1,700m以上の地点でないと見られない。ブナを主として，ほかにオオナラ・ミズナラなどの落葉広葉樹があるが，針葉樹にはモミ・ツガが多い。暖帯林は新潟県南部および能登半島以西の海岸平野,東海地方に分布し,かつてはカシ・シイなどの常緑広葉樹が多かったが，人口の増加につれて林相がしだいに変化し，いまでは栽培されたクヌギ・コナラなどの落葉広葉樹の間に点在するにすぎなくなった。海岸にはクロマツ，内陸にはアカマツが多く，スギ・ヒノキ・ケヤキ・サワラなどの人工林も多い。中央高地では寒帯林が見られ，富士山や御嶽山では1,800～2,600mの間を占め，シラベ・ダケモミ・トウヒ・トドマツなどが混在し,木曾駒ヶ岳(こまがたけ)や飛驒山脈ではそれ以上の高さになるとハイマツがところどころにはえている。また2,600m以上の地点には高山植物のお花畑が見られ，特に北岳・八ヶ岳・白馬岳・立山のお花畑は有名で，それぞれに特徴がある。中でも白馬岳を中心とした白馬連山高山植物帯は，長野・富山・新潟の3県にわたって特別天然記念物に指定されており，高山植物の女王といわれるコマクサや，本州では白馬岳のほかは八ヶ岳にしか見られないウルップソウ，白馬岳に多いためにその名をつけられたシロウマアサツキなどが咲き乱れている。哺乳(ほにゅう)動物としてはサル・イノシシ・ツキノワグマ・シカ・キツネなどが普通で，特別天然記念物に指定されているカモシカは,だいたい海抜1,500m以上の山地にすむ。しかし，福井県の敦賀(つるが)半島では最高点でも760mぐらいであるが約200頭のカモシカがいて,よく保護されている。両生類では，岐阜県がオオサンショウウオ(特別天然記念物)の北限であり，鳥類では国際保護鳥のトキが佐渡島にわずかに10羽ほど残っている。ブッポウソウは，夏にアジア大陸の東部から岐阜・愛知・山梨・長野など各県の人里離れた社寺の森などに渡来して営巣し，冬にはシベリアからオオハクチョウが新潟県の瓢湖(ひょうこ)に渡ってくる。日本アルプスのハイマツのはえている地帯に多いライチョウは，氷河時代の遺存動物として特別天然記念物に指定されている。こん虫では，わが国特産の美しいアゲハチョウであるギフチョウが岐阜県下で発見され，この地にちなんで名づけられた。水産動物としては，富山湾内におけるホタルイカの生殖群遊が世界的に珍しく，これも特別天然記念物に指定されている。

〔第1次産業〕県別の耕地率をみると，愛知県の25%が最高で，富山県(20%)，新潟県(19%)がこれに次ぎ，残りは全国平均の16%を割り，静岡・石川両県が15%，最低は岐阜県の8%となっている。1戸あたりの耕地面積は新潟県が1.22ヘクタールと全国平均の1.09ヘクタールを越え，富山県も1.06ヘクタールと全国平均にわずかに及ばないだけであるが，注目したいことは，いずれも裏作の困難な一毛作田が多いということである。1戸あたりの耕地面積の最低は山梨県の0.64ヘクタールであるが，反面,専業農家率では18.9%と最高なのは，ブドウやモモ・オウトウなどの果樹栽培によって経営を維持しているためである。専業農家率の2位は静岡県の16.0%，3位は長野県の13.8%で，これもミカン・茶・リンゴなどの栽培が関係しているからである。北陸地方の米の単作地域では，新潟県(7.7%)・富山県(4.1%)・福井県(5.1%)といずれも専業農家率が低く，大規模なあるいは多角的な農業経営の行なわれている愛知県は11.4%,耕地率の最も低い岐阜県は6.2%となっている。東海地方は濃尾平野をはじめとして，農業に適する平野や台地に恵まれ，気候条件もよいが，濃尾平野の西部には水が多すぎるという悩みがあり，反対にその東部から岡崎平野，知多・渥美両半島にかけては，台地状の地形のために水が不足する悩みがある。木曾・長良・揖斐3川の下流にあたる濃尾平野の西部では，古くから水害を防ぐために輪中*(わじゅう)とよばれる堤防で囲まれた集落をつくり，主として米作にしたがっていたが，現在では河川の改修や土地改良によって野菜などの商品作物を栽培するようになり，米の単一耕作から脱しつつある。また濃尾東部の台地状の地域と岡崎平野では，畑が多く，名古屋の近郊農業地帯となっているが，水の不足しているこの地域の開発には，1880年(明治13)に完成した明治用水や,第2次世界大戦後に完成した愛知用水や豊川(とよかわ)用水が役だっている。農業経営は多角型で，安城付近では米・麦のほかスイカ・ナシをつくり,ウシ・ブタ・ニワトリを飼って〈日本のデンマーク〉として有名であるが,最近は工場の農村への進出が目だち，兼業農家がふえてきている。渥美半島では温室による野菜・草花・メロンなどの栽培が盛んで，特に電燈照明を利用して秋に咲くキクの開花を抑制，正月から早春に開花させて出荷する電照ギクが有名である。遠州灘から駿河湾の沿岸にかけての三方原・磐田原(いわたはら)・牧ノ原などの台地や丘陵は，わが国における茶とミカンの主産地の一つで，静岡県は全国の茶の55%内外を産し，ミカンではこれまで首位を保ってきたが，最近は愛媛県に抜かれて2位となっている。久能山の石がきイチゴも名高く，伊豆半島では温暖な気候を利用して草花を栽培している。中央高地の盆地は，よく開かれて水田となり，低温という不利な条件にもかかわらず，単位面積あたりの収穫が多い。またいたるところに階段状の水田が見られ，中でも長野県の姨捨(おばすて)の〈田毎(たごと)の月〉とよばれる棚田(たなだ)は名高い。高原では，夏の冷涼な気候を利用してキャベツ・ハクサイ・レタス・セロリなどの野菜をつくり，長野盆地ではリンゴ，甲府盆地ではブドウ・モモ・オウトウなどのくだものをおもに栽培し，ビールの醸造に使うホップも長野・山梨両県でつくっている。中央高地はまた日本でも有数の養蚕地帯で，繭の産額は長野県が全国で第2位，山梨県が第4位を占めている。北陸地方は，新潟平野をはじめとして水田がよく開け，新潟・富山・石川・福井の北陸4県の水田率はそれぞれ80%以上で，4県合わせて全国の米の12～13%を産し，移出も多い。水田の裏作は，根雪の期間が長いのと湿田が多いために，ほとんど行な

われていないが，新潟県や富山県では砂丘や水田を利用して，冬に輸出用のチューリップの球根を栽培している。長野県は酪農がきわめて盛んで，乳用牛の頭数は全国第6位であり，肉用牛も多い。養豚は静岡・新潟両県が盛んであり，ヤギの飼育は全国的に年々衰えてきているが，それでも長野県は42,000頭を飼って全国の25％を占め第1位にある。ニワトリの飼養羽数では養鶏王国といわれる愛知県が全国の約10％を占めて第1位であり，静岡県が第2位を占め，ブロイラー用のニワトリの羽数も両県に多い。中部地方は林業も盛んで，特に中央高地の木材の蓄積量が多く，用材の生産では長野・岐阜両県が日本の10位以内にはいっており，静岡県にも多い。日本の三大美林の一つである木曾のヒノキ，大井川・天龍川流域や伊豆半島の天城山のスギが著名である。水産面では，太平洋岸で沖合い・遠洋漁業が，焼津(やいづ)(静岡県)をおもな基地として行なわれ，カツオ・マグロの水揚げが多く，かつお節やかんづめなどの水産加工業も行なわれる。伊豆半島の沿岸でも漁業が盛んで，下田市内の白浜はカツギ漁とよばれるテングサの潜水採集で知られている。また浜名湖や大井川の下流付近ではおもにウナギ，渥美湾ではノリを養殖しており，愛知県のノリの収穫量は全国一である。日本海岸では沿岸漁業を主とし，ブリ・サバ・イワシ・アジ・タイなどをおもにとっている。能登半島沖合いの舳倉(へぐら)島は，輪島から夏に海女(あま)が一時的に移住してアワビやテングサをとるので有名であったが，いまでは越冬して一般漁業を行なう者も多くなった。福井県から石川県にかけてはズワイガニの特産があり，エチゼンガニともよばれている。新潟県小千谷(おじや)を中心とするニシキゴイの養殖は全国一である。

〔第2次産業〕地下資源としては佐渡や伊豆の金が，江戸時代から盛んに採掘されてきた。佐渡の相川金山は一時休山していたが，最近新しい鉱脈が発見されて，復活しようとしている。伊豆では持越金山が，現在全国で第5位の産出高を示している。中部地方で最も重要な地下資源としては，岐阜県神岡鉱山の亜鉛(全国第1位)・鉛(第3位)・銀(第2位)であるが，カドミウムを含んだ廃液が下流の神通川流域の農地に流れ込んで，それによるイタイイタイ病の発生が大きな公害問題となっている。このほか福井県には亜鉛の中龍(なかたつ)鉱山(全国第4位)があり，新潟県では石油・天然ガスを産し，また赤谷鉄山(全国第3位)がある。中部地方の工業の中核をなすのは名古屋を中心とする中京工業地帯で，愛知・岐阜2県および近畿地方の三重県四日市(よっかいち)付近にまで延びている。もとは毛織物・綿織物などの繊維工業が主であったが，第2次世界大戦後は重化学工業の比率が高まり，繊維その他の軽工業と重化学工業の比率は4対6となっている。名古屋の北西にあたる愛知県一宮(いちのみや)・尾西・津島，岐阜県大垣(おおがき)の一帯は，日本最大の毛織物業地帯である。またよい陶土に恵まれる愛知県の瀬戸や岐阜県の多治見付近は，平安初期以来の伝統をもつ窯業地で，ほとんどが中小企業であるが，西の有田焼と並ぶ瀬戸焼の産地である。また名古屋市西区則武(のりたけ)新町には，いわゆる〈ノリタケチャイナ〉の名で外国にも知られている日本陶器の大工場がある。このほか名古屋市内には時計・航空機・自動車などの工場があり，南隣の東海市には臨海工業地帯が造成されて鉄鋼・石油のコンビナートが出現しつつあり，新日本製鉄東海製鉄所がある。豊田はわが国の代表的な自動車工業都市であり，繊維・機械工業を中心とする豊橋付近は工業整備特別区域に指定されている。中京工業地帯の延長としては，東海工業地域があり，静岡県浜松とその付近には繊維・染色・楽器・自動車などの工業が発達し，駿河湾岸の蒲原(かんばら)と清水(しみず)には日本軽金属のアルミニウム精錬工場があり，富士山のふもとの工業用水に恵まれた富士付近には大小のパルプ・製紙工場が集まり，工業整備特別地域に指定されている。この海岸には，田子ノ浦港が建設されたが，工場排水に含まれるヘドロが大きな公害問題を呼び，またその堆積(たいせき)によって大形船の航行が不能になるなどの問題も起きている。中央高地の工業としては，養蚕に伴う製糸業が主で，長野県諏訪盆地の岡谷は日本最大の製糸都市であったが，化学繊維の普及によって生糸の需要が減ったために，第2次世界大戦後は時計やカメラ・オルゴールなどの精密機械工業が岡谷や諏訪に興っており，松本諏訪新産業都市の一部となっている。長野県各地のみそ，諏訪の寒天，山梨県甲府盆地のぶどう酒なども，中央高地の特産である。また甲斐絹(かいき)とよばれる伝統的な絹織物を出していた山梨県東部の郡内機業は，いまでは化学繊維が主となっている。北陸地方では，新潟県の燕(つばめ)の洋食器，三条の金物，十日町(とおかまち)の絹織物，富山県の富山の製薬，高田の銅器，石川県の輪島や金沢の漆器，金沢の金属箔(きんぞくはく)，能美(のみ)郡寺井町を中心とする九谷焼，福井県の鯖江(さばえ)の眼鏡枠(めがねわく)，今立郡今立町の和紙，小浜の漆器などの特産や在来工業が目だつが，石川県と福井県では輸出向けの化学繊維工業，新産業都市に指定されている富山県の富山・高岡では豊富な電力を利用した金属・化学・製紙パルプ・機械・紡績の近代工業が興っている。最近，富山の神通川河口の左岸に日本石油の石油化学工場も設立された。新潟県は日本最大の石油産地であり，天然ガスも豊富で，新潟・直江津(上越市)ではこれらを原料とする化学工業のほか，機械・アルミニウム工業などが興っており，新潟は新産業都市に指定されている。

〔交通と都市〕東海地方は古くから東西交通の要地として大きな役割を果たし，特に江戸時代にはいって東海道の宿駅その他がよく整備された。これに次いで，中央高地を横切る中山道(なかせんどう)，日本海岸を通る北陸道，中山道と北陸道を結ぶ北国街道が重要であった。現在では東海道に代わる国道1号線をはじめ，そのすべてが国道に代わり，また東海道本線・中央本線・信越本線・北陸本線の列車が，ほぼかつての街道に沿って走っている。このほか上越線が新潟県東部と東京との連絡に利用され，また南北を結ぶ鉄道としては富山～岐阜の高山本線のほか，ローカル線として小海線・大糸線・身延線・飯田(いいだ)線があり，篠ノ井(しののい)線は信越本線と中央本線を結ぶ役目を果たしている。なお，福井県と岐阜県を結ぶ越美線は南・北に分かれたままで，県境の部分が未完成である。1964年(昭和39)開通の東海道新幹線のほか，上越新幹線も1971年に着工し1977年には開通の予定である。道路面では，東名・名神高速道路のほか，すでに富士吉田(よしだ)線が開通している中央高速道路があり，1975年度には甲府～小牧(愛知県)間が全通の予定である。太平洋岸の重要な港には，名古屋のほかに清水があり，日本海岸では新潟・伏木・富山・敦賀がある。貿易額では名古屋は横浜・神戸(こうべ)・東京に次ぎ第4位，清水は四日市に次いで第11位を占めている。敦賀は第2次世界大戦前にはウラジオストクに通ずる週1回の定期航路をもち，欧亜国際路の一要地であったが，現在は北洋材を積んだソ連船が入港している。太平洋岸では，伊勢湾および三河湾，伊豆半島西岸，日本海岸では能登半島東岸に定期航路があり，日本海上の佐渡島へは新潟と直江津，粟(あわ)島へは岩船(村上市内)，舳倉島へは輪島から定期航路が通じているが，その多くは観光用の色彩が強い。空港は名古屋(小牧)・新潟・富山・金沢(小松)・福井にあり，全日空および東亜国内航空の定期便がこれらの都市間と東京や大阪に通じている。松本にも空港があるが，定期便はない。また横浜航空が新潟～佐渡(両津)の定期便を開いている。都市では1979年現在，名古屋が人口208万を擁して中部地方の行政・経済・文化の中心となり，人口面では浜松(49万)・静岡(45万)・新潟(44万)・岐阜(41万)がこれに続く。県庁所在地では金沢(40万)・長野(32万)・富山(30万)・福井(24万)・甲府(20万)の順となり，ほかに人口20万を越える都市に豊橋(30万)・岡崎(25万)・一宮(25万)・清水(24万)・春日井(24万)・富士(21万)・沼津(21万)がある。→405ページ(地図)

ちゅうぶでんりょく【中部電力(株)】 中部経済圏(愛知・長野・静岡・岐阜・三重の各県)の電力エネルギー供給センター。1951年(昭和26)電気事業再編成令により，

中部配電(株)と日本発送電(株)が出資・譲渡して設立。中部工業地帯のめざましい発展に伴い，わが国第3位の電力会社に成長。1965年の販売電力量は500万kWと発足当時の5.8倍となり，全国一の成長力を誇っている。新鋭大形火力と貯水式・揚水式の水力を合わせた発電方式を早期に確立し，現在180の発電所をもつ。水力と火力の構成比もバランスがとれているのが特色である。静岡県浜岡に原子力発電所を建設中で，三重県芦浜(あしはま)にも建設を予定し，水力発電所ではその無人化率を1968年度の38％から1969年度末には45％にし，また，1973年までにコンピューターによる総合システムを確立する方針を立てている。本社名古屋。資本金2,937億6,000万円，年間営業収入9,965億4,000万円，従業員数19,148(1980年9月)。

ちゅうぶにほんほうそう　**【中部日本放送】**　日本における最初の民間放送局。略称CBC。1950年(昭和25)創立。1951年9月ラジオ放送，1956年12月テレビ放送を開始。本社は名古屋。

ちゅうべいきょうどうしじょう　**【中米共同市場】**　Central American Common Market　略称CACM。エルサルバドル・グアテマラ・コスタリカ・ニカラグア・ホンジュラスの中央アメリカ5か国で結成されている共同市場。1960年12月コスタリカを除く4か国で調印された〈中米経済統合に関する一般条約〉などを基礎にして，1961年6月，ホンジュラスを除く3か国で発足し，その後1962年3月ホンジュラスが，1963年9月コスタリカが加わり，5か国となった。これら5か国はかつては一国であり，人口規模も小さく(5か国合計で650万弱)，経済の発展段階も類似しているなど経済統合の必然性と基礎条件が備わっていた。そのため，域内貿易の自由化，対外共通関税の設定などについては大きな成果をあげ，さらに産業の統合，統合産業の域内配分・設立などをも進めている。また域内の金融・決済のために中米経済統合銀行と中米経済機構が1961年に設立された。〔深海博明〕

ちゅうもん　**【中門】**　敷地の外周を取り巻く塀(へい)・垣(かき)などに設けられる正門や大門に対し，その敷地の内部をさらに区画している垣・回廊などに設けられる門。①古代の仏教寺院で，金堂を取り囲む回廊にあけられた門，②寝殿造り*の中門廊にあけられた門，③茶室の内露地と外露地との境に設けられた門などがある。

ちゅうもんづくり　**【中門造り】**　新潟県から福島県・山形県・秋田県にかけて分布する突出部をもった住家の形式で，越後(えちご)中門造り・庄内(しょうない)中門造り・秋田中門造りなどの地方様式があり，それぞれ特徴がある。越後中門造りでは突出部が前にあって入り口を表中門，またこの部分が廐(うまや)に使用されるので廐中門ともいい，背後に突出したものを裏中門あるいは座敷中門という。秋田中門造りではL字形のものを片中門，コの字形のものを両中門といい，それぞれ家格を表わす。庄内中門造りと秋田中門造りは屋根の切り方に特色があり両者は似た点が多い。中門造りは深雪地域の便利な住家形態であるが，屋根の接合部が腐りやすく氷結による漏水が起きやすいのでしだいに減少しつつある。なお，中門造りとよばれる突出部をもった住家の形式は山口県・島根県などにもある。

〔佐藤甚次郎〕

ちゅうゆ　**【中油】**　コールタールの168～223℃留分。これはさらに168～200℃留分の石炭酸油と202～223℃留分のナフタリン油とに細分することがある。石炭酸油をアルカリで処理すると，キシレノール・ナフトール類などがフェノラートとして回収されるので，二酸化炭素または硫酸で処理してこれらのフェノール類を遊離させる。これらは医薬品・染料などの原料に使われる。またナフタリン油からはナフタリンなどが回収され，防虫剤・染料中間体・無水フタル酸の製造原料などに利用される。

〔寺沢誠司〕

ちゅうゆうき　**【中右記】**　《宗忠(むねただ)公記》《愚林》とも，《愚林》は原名と思われる。藤原(中御門)宗忠の日記。1087年(寛治1)1月より1138年(保延4)2月までの記録。《長秋記》とともに有職故実(ゆうそくこじつ)，あるいは白河(しらかわ)・鳥羽(とば)院政の研究に重要な史料。書名は宗忠の家名を中御門といい，右大臣の官にあったことによる。

ちゅうよう　**【中庸】**　儒教の経典，四書*の一。子思*の著作といわれる書で，もと《礼記(らいき)》中の1編であった。宋(そう)代特に注目されたのは子思以後の付加部分で，そこには，人の道徳は人が天から与えられた本性に従うことである，という天人合一の説が提示され，さらに，天人の合一点は〈誠〉であり，人は誠であることによって天に合一して人として完成する。その方法が智(ち)・仁・勇であり，五倫*の道であると説かれている。このような〈誠〉の形而上学(けいじじょうがく)的位置づけが宋の朱子学*派によって注目され，四書の一つに加えられたものである。

〔西　順蔵〕

ちゅうようとっき　**【虫様突起】**　⇨中垂

ちゅうりつ　**【中立】**　国際法上，戦争の場合に，戦争に参加しない国家の交戦国に対する地位。局外中立ともいう。中立国は，交戦国双方に対して公平な態度をとり，戦争を回避する態度をとらなければならず，平時においては負わないような特殊な義務を交戦国に対して負うのであり，この義務を定めたものが国際法における中立法規である。中立国の義務は次の三つに分類される。①防止義務または阻止義務：中立国はその領域を交戦国に軍事的に利用させない義務を負う。交戦国の軍隊が領土を通過するのを禁止しなければならない。②回避義務または自制義務：中立国は交戦国に対して，軍隊の提供，武器・軍艦などの軍需品や公債などの軍資金の供給など，戦争に役だつような供給をしてはならない。ただし，中立国国民が私人として，交戦国の軍隊に投入し，軍需品や軍資金を供給するのを禁止する義務を負わない。③黙認義務または寛容義務：中立国国民は交戦国と自由に通商できるが，戦時禁制品については，他方の交戦国は海上で捕獲することができるし，また，交戦国が敵国海岸に封鎖線を設定して，これを侵犯した中立国船舶を没収することができる。中立国は，このような交戦国の行為が戦時国際法規にしたがってなされるかぎり，これを黙認しなければならない。この三つの義務のうち，最も複雑なのは③であり，中立法規の中心的要素を占めている。

しかし，このような中立の制度も20世紀になって，国際社会が発達して，諸国間の関係が密接になり，戦争も非常に大規模なものとなるにしたがって，中立をとることが実際上しだいに不可能となっている。また，国際連盟*や不戦条約，そして現在の国際連合*で戦争違法化の制度が確立されるにしたがって，中立の余地がなくなっている。なお，条約によって戦時・平時を問わず永久に他の諸国家間の戦争に関係しない義務を負った国を永世中立国という(→永世中立国)。

以上のような，国際法上の戦時の地位とは別に，平時において，特に第2次世界大戦後，対立する2国家群(具体的にはアメリカ・ソ連の二大勢力)のどちらにも属さず，どちらにも友好的な関係を保つ地位を中立という。これは外交政策上の問題であり，中立主義とか非同盟主義といわれ，かつて，インドのネール*首相がその最も代表的な立場をとっていた。アジア・アフリカ諸国のうちに，これを掲げる国が多い。ネールは，1947年のインド独立以来この方針をとり，世界から平和外交と高く評価され，国際関係の緊急緩和，平和の維持に資するところが大きく，世界から平和外交として高く評価された。

〔広部和也〕

ちゅうりつさんど　**【中立三度】**　アラブ系芸術音楽で重要視される音程で，西洋の平均律に換算すれば短3度と長3度のほぼ中間の音程である。9～10世紀ごろ，宮廷音楽の中で使われはじめ，旋法に関するマカーム理論の中に組み込まれていった。

ちゅうりつそう　**【中立層】**　⇨撓(たわ)み

ちゅうりつほう　**【中立法】**　一般に中立*に関する国際法規(条約・宣言・協定)の総称。中立法(規)は，ほとんどの場合，武装中立・永世中立などのさまざまな中立形態をとる中立国が，戦時において参戦国に対し，維持すべき中立の諸義務を中心にしてなりたっている。1856年クリミヤ戦争後のパリ宣言*，1907年のハーグ平和会議*での中

立法規，第２次世界大戦後のオーストリアの永世中立(1955)に関する法規，ラオス中立宣言(1962)などは著名な例である。〔影山日出哉〕

ちゅうりつろうどうくみあいれんらくかいぎ【中立労働組合連絡会議】略称中立労連。総評・同盟・新産別に加盟していない全国単産の連絡会議として，1956年(昭和31)９月結成された。加盟組合は，電機労連・全建総連など10単産で，組合員総数約133万(1977)。

ちゅうりゅうぐん【駐留軍】受け入れ国の同意のもとに，一時的に外国に在留する軍隊。国際法によって裁判権・警察権など一定の特権が認められている。在日アメリカ軍については日米安全保障条約・日米行政協定が規定している。

ちゅうれんじばち【鐫花娘子蜂】こん虫類・膜翅(まくし)目・ミフシハバチ科。体長８㎜内外の小形のハチ。頭部および胸部は黒色で光沢がある。腹部は黄かっ色で，第１腹節の背面はいくぶん暗色をおびる。触角および脚は黒色。翅(はね)は半透明で暗色，広げた長さは20㎜内外。日本全国に分布し，バラの害虫として知られる。卵は淡橙黄(とうおう)色の楕円(だえん)形で長径１㎜内外，５月ごろ新条の組織内に産下される。幼虫ははじめは群生して，バラの葉を裏面から不規則に食害するが，成長するにしたがってしだいに分散する。さなぎは乳白色で，灰黄色の繭に包まれる。本種の加害を受けるとバラの発育が阻害され，特に新条は産卵跡が縦に割れて発育が妨げられる。

ちゅうろうい【中労委】⇨中央労働委員会

ちゅうろん【中論】インドの仏教思想家ナーガールジュナ(龍樹(りゅうじゅ))の著書。約500の詩頌(しじょう)が28章からなる。《般若経(はんにゃぎょう)》などに説かれた大乗仏教の空の思想に論理的基準を与えた最初期のもの。存在の縁起性とそれに対する認識のあり方を説き，中道を宣揚している。小乗諸派や他宗教への批判もみられ，その論法や主張はのちの中観学派に大きな影響を与え，中国では三論宗がこれによって成立した。青目(しょうもく)・青弁・月称らによる注釈書がある。〔小沢憲珠〕

ちゅうわ【中和】中性に向かう過程をいう。すなわち正電荷と負電荷が打ち消し合って荷電が消滅すること，または酸と塩基が反応して中性になること。中和反応の速度はきわめて速い。中和反応の結果，塩と水とができるというアレニウスの定義がよく用いられている。たとえば塩酸と水酸化ナトリウムとの反応では生成塩がほとんど完全に電離するため，結局，水の生成反応となり，当量点でのH^+濃度は純水のH^+濃度と等しく$pH=7$となる。すなわち中和の結果中性になる。$H^+ + Cl^+ + Na^+ + OH^- \rightleftarrows Cl^- + Na^+ + H_2O$

このような強酸と強塩基の中和反応では，酸と塩基とは同等量必要である。しかし，強酸と弱塩基との反応などでは，同等量必要ではない，したがって，〈中和すること〉と〈同等量を混ぜる〉こととは意味が異なる。➔中和滴定〔三輪誠・清水正幸〕

ちゅうわてきてい【中和滴定】酸塩基滴定ともいう。中和反応を利用する滴定のこと。酸の標準溶液を用いて塩基を，または塩基の標準溶液を用いて酸を滴定する。中和反応は非常にすみやかに進行し，かつまた中和点(当量点)は，それに関与する酸または塩基のそれぞれの強さの相対的関係により決まるから，適当な指示薬を用いて容易に知ることができる。強酸と強塩基の反応の中和点は中性点($pH=7$)と一致するから指示薬にフェノールフタレインなどが用いられ，強酸と弱塩基との反応の中和点は酸性領域にあるのでメチルレッド，弱酸と強塩基との反応の中和点はアルカリ性領域にあるためフェノールフタレインが用いられる。しかし弱酸と弱塩基の反応ではその中和点を明瞭(めいりょう)に示す指示薬がないので他の物理化学的(電気的)方法によらねばならない。一般に酸の標準溶液には塩酸，ときには硫酸が，塩基の標準溶液には水酸化ナトリウム，ときには水酸化バリウム溶液が用いられる。〔三輪誠・野宮健司〕

ちゅうわねつ【中和熱】酸と塩基を１グラム当量ずつ中和させるとき発生する熱量。反応熱の一種。強酸と強塩基との希薄水溶液における中和熱は，酸や塩基の種類によらず一定であり，25℃では13.8kcalである。これは水溶液中における，$H^+ + OH^- \rightarrow H_2O$の反応に基づくもので共存する他のイオンに影響されない。

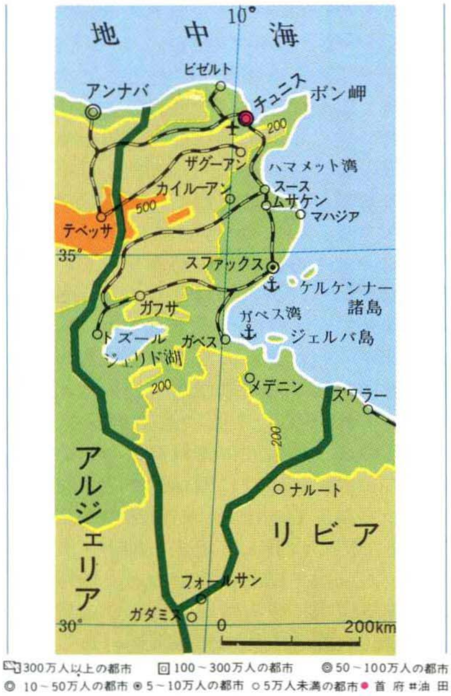
チュクチぞく【チュクチ族】古アジア諸族中最大の民族で，人口約12,000(1959)。アジア大陸最東北端のチュコト半島に住む。トナカイ牧畜を営む本来のチュクチ70%に対し，ベーリング海岸に沿って海獣猟に従事するアンカリーンは30%を占める。アザラシ・オットセイ・クジラ・セイウチなどが狩猟の対象とする。1931年にチュクチ語の正書法が確立され，新聞・雑誌が発行されるようになった。

ちゅけいるい【蛛形類】節足動物の一綱で，クモ形類ともいわれる。４対の歩脚をもち，ほとんどが陸上生活をする。ダニのように微小なものから，クモのように中形のもの，サソリのように大形のものが含まれる。分類上はサソリ目・ヒヨケムシ目・コヨリムシ目・サソリモドキ目・ヤイトムシ目・カニムシモドキ目・真正クモ目・ザトウムシ目・ダニ目・カニムシ目・クツコムシ目の11目からなり，このうちサソリ・サソリモドキ・ヤイトムシ・真正クモ・ザトウムシ・ダニ・カニムシの７目だけが日本に生息する。頭・胸が融合し，腹部は分離して細く短い腹柄によって頭胸部と連結しているもの(クモ・サソリモドキなど)と頭・胸・腹が一体となって融合しているもの(ダニ・ザトウムシなど)とがある。この点で頭・胸・腹が明確に区分されるこん虫類と基本的に異なる。触角はない。目はあっても複眼のような高級なものではなく，幾対かの単眼が体の前縁近く，あるいは胴背に存在する。口には鋏角(きょうかく)とよばれる１対のはさみ状の器官があり，これで食物を捕えたり，かみ砕いたりする。触肢(しょくし)はサソリ・サソリモドキ・カニムシなどではカニのはさみのような形に変形発達し，獲物を捕えるのに役だつ。口器に毒腺(どくせん)・毒牙(どくが)をもつものが多く，またサソリのように尾端に毒針をもつものもある。こん虫類のように翅(はね)で空中を飛ぶことのできるものはないが，その生活圏はきわめて広く，樹上・地表・地中・洞穴(どうけつ)・人家内・湖沼・海岸など，地球上のあらゆる環境にすみついている。全体からみれば，人間の生活に直接害益のあるものは少ないが，サソリ・クモの一部のものはその毒によって危害を加え，ダニの一部のものは人畜に寄生吸血したり，農作物に加害したりする。一方，クモの多くは害虫を捕食するし，ダニの中にも害虫の天敵となるものがある。〔青木淳一〕

チュコト(半島)［Chukot］別名チュクチ半島。ユーラシア大陸の北東端を形成する半島で，ソ連領。最東端のデジネフ岬(みさき)は北緯66°05′，西経169°40′にあたる。幅60㎞のベーリング海峡を隔ててアラスカに対し，南のベーリング海と北の北極海を分けている。チュクチ民族が住み，民族管区を形成する。スズ・金・石炭などを産する。

チューダー［Tudor］イギリスにおける16世紀の時代と建築様式の両方をさす。この時代の前半は，イギリスの発達した垂直式ゴシックの時期で，その後半はエリザベス女王(１世)治下の時期にあたり，イタリアからのルネサンス様式の影響が始まったときである。上流住宅の建築と学校建築とにめざましい発展がみられ，ゴシックからルネサンスへの過渡期の様式としてのチューダーが，学校建築の伝統的な意匠様式として尊ばれる基となった。〔渡辺保忠〕

チューダーちょう【チューダー朝】絶対主義時代のイギリスの王朝(1485～1603)。ランカスター系のヘンリー＝チューダーがヨーク系のリチャード３世を破って即位し，みずからヘンリー７世と称したのに始まる。以後ヘンリー８世・エドワード６世・メアリ１世を経てエリザベス１世が出る。この時代は絶対主義の成立期から極盛期までで，強力な王権のもとに国内治安はほぼ確立され，経済も発展した。宗教の面で，イギリスがローマ教会の支配から離れてイギリス国教会の確立に成功。中世以来の封建貴族は一般に没落し，ジェントリーが社会の主勢力となり，ヨーマンの広範な成立がみら



チュニジア

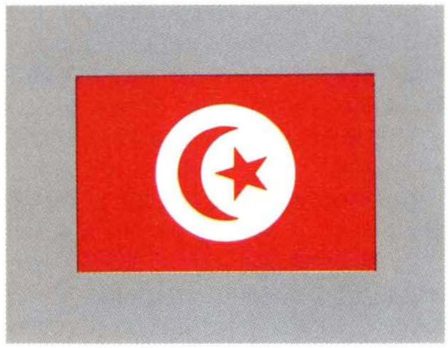
れる。一方，西北・東北航路の探検が行なわれ，また先進国スペインの海上支配に挑戦(ちょうせん)して，1588年には無敵艦隊を破って大海軍国への第一歩を印した。文化面ではイギリスのルネサンス期にあたりシェークスピア*が出現している。〔松下京子〕

チュッチェフ［Fyodor Ivanovich Tyutchev］(1803～1873) ロシアの詩人。モスクワ大学を卒業後，外交官となり，22年間を外国で過ごした。そのかたわら詩作に励み，ネクラーソフ*とツルゲーネフ*の尽力によって，1850年代に広く知られ，プーシキン*・レールモントフ*に次ぐ大叙情詩人とされる。ロシア擬古典派とドイツロマン派とを融合させた思索的で香気あるその叙情詩は，のちの象徴詩派に強い影響を与えた。代表作は《春雷》《最後の夢》など。〔川端香男里〕

チュートンじん【チュートン人】⇨ゲルマン人

チュニジア(共和国)［Republic of Tunisia, République Tunisienne］アフリカ大陸北岸のほぼ中央部にある共和国。西はアルジェリアと境し，東はリビアと接する。古代からヨーロッパとの交通上重要な位置を占める国である。面積16万3,610km²。人口636万(1978年推)。首都チュニス。

【自然・住民】国土は北岸諸国のうち最も小さいが地形は変化に富み，三つの地域に分かれる。アトラス山脈の東端を形成している北部高地は，高度1,500mで，山間に広い谷をいくつもはさんでいる。サハラ高原との間にある低地は中央にジェリド湖がある。サハラ高原は高度300mの高原である。気候は地中海岸が地中海性気候を示すが，



チュニジアの国旗　1956年制定。三日月と星はスンニー派のイスラム教諸国に共通の象徴であり，白は9世紀のアグラブ朝の旗の色，赤は10～12世紀のセリデス朝の旗の色である。16世紀以来この地方がトルコの支配下にあったため，トルコの国旗の影響を受けている



チュニジア　首都チュニスの町の中心街。道路は車と人で雑踏している。赤地に月と星の国旗が建物を飾って美しい



チューバ

内陸ではステップから砂漠(さばく)に移行している。住民の大部分はアラブ系の民族で，アフリカ北西部のマグレブ(アラビア語で〈西〉の意)に属する。ほかに約25万5,000のフランスおよびイタリア系ヨーロッパ人，約60,000のユダヤ人がおり，多くは都市に居住し，豊かな階層を形成している。人口密度は1km²あたり35人で，マグレブ諸国中最も稠密(ちゅうみつ)な国となっている。

【産業・経済】比較的開発の進んでいるのは農業であるが，生産量は国内需要の60～70%しかない。農地は国土の12%にすぎず，全耕地の約18%はヨーロッパ系住民が所有している。農耕地はアトラス山中の谷，海岸平野のほかオアシスにあり，主産物は小麦・大麦・オリーブである。農業に比べると鉱産物はきわめて将来性に富み，輸出総額の35%を占める。中でもリン鉱は重要な資源で，アトラス山地南麓(なんろく)に大きな鉱床がある。ほかにアトラス山地から鉄・鉛の良質鉱を生産している。

【歴史・政治】古代からエジプトと並ぶアフリカの門戸であり，首都チュニスの近郊にはフェニキア人による植民都市カルタゴの遺跡がある。位置上からもイタリアとフランスの影響を多く受け，1881年からフランスの保護領となっていたが，第2次世界大戦後民族運動の指導者ブールギバの率いるデストール党の独立闘争により，1956年独立を達成した。ブールギバは初代大統領となり，外国人の所有する土地の政府買い上げ，政教分離・婦人解放などの新政策を実行した。〔小栗　宏〕

チュニス［Tunis］アフリカ大陸北岸，チュニジア共和国の首都。国土の北東端チュニス湾に連なるチュニス湖に臨む都市で，地中海南岸の主要港である。古代フェニキアの植民都市カルタゴの遺跡が北方約20kmにある。人口79万(1976)。住民はベルベル族を中心とするイスラム教徒と，フランス人を中心とするヨーロッパ人で，イスラム教徒は主としてカスバ(旧城内)を中心とする旧市街に住み，ヨーロッパ人はチュニス湖畔の新市街に居住している。旧市街はイスラム寺院や，じゅうたんの製造，商品取引の中心であり，新市街には外国公館などがある。鉄道の起点で，国際空港がある。第2次世界大戦の初期にドイツ軍に占領された。〔小栗　宏〕

チュニック［tunic］語源は下着を意味するラテン語のチュニカ。古代ローマのチュニカはゆったりとしたひざたけの下着・胴着で，ときには表着として着られることもあった。これに似た衣服を総称して英語でチュニックといい，時代によって形を変えてきている。また僧服・軍服などにもこの名がある。現在の婦人服としてのチュニックドレスは，ゆるやかに胴部に沿い，腰下をオーバースカート状におおう7～8分たけのほっそりしたブラウス・ジャケット・コートなどで，細いスカートの上に着られるものをいう。〔小池千枝〕

チューネン［Johann Heinrich von Thünen］(1783～1850) ドイツの農業経済学者。ゲッチンゲン大学中退後，科学的農法を取り入れた農業経営に従事し，1826年この経験に基づく著書《孤立国》を発表。これは孤立国という抽象地域を想定し，そこにみられる生産組織の合理的な選択理論を解明しようというもので，経済分析のためのモデル設定の先駆をなすものとして評価されている。

チューバ［tuba］古代ローマではまっすぐなトランペットをさしたが，今日では管弦楽や吹奏楽で用いられる低音の金管楽

器で，トロンボーンの形でないものを総称する。歌口(マウスピース)をもち，朝顔が上方を向き，バルブも3～6本備えている。普通の管弦楽では，テノール-チューバ(バリトン)・バス-チューバ・コントラバス-チューバの三つの音域のものがよく使われる。

チュバシ(自治共和国)［Chuvashskaya A. S. S. R.］ソ連，ロシア連邦共和国内のボルガ川中流右岸にある自治共和国。面積18,300km²。人口126万4,000(1975)。首都チェボクサリ。住民は，アゼルバイジャン語に近い言語を用いるフィン系のチュバシ人が4分の3を占め，ほかにロシア人・モルドバ人・タタール人などがいる。低い丘陵の多い地形で，森林(タイガ)ないしは森林ステップ帯にあたり，全体の3分の1の面積を森林が占めている。建築用石材・リン鉱・泥炭(でいたん)・トリポリ(研摩剤)などを埋蔵している。産業は林業が中心であるが，電機・機械・化学・製材・綿紡績などの工業も盛んで，これらはボルガ川のチェボクサリ水力発電所の動力に負うところが大きい。この地方は牛乳と肉の重要な産地でもあり，農作物ではライ麦・小麦・アサ・マホールカ(かぎたばこ)・ジャガイモなどを産する。鉄道・道路の交通網もよく発達している。チュバシ人は古くからこの地方に居住していたが，1551年ロシアの支配下にはいり，プガチョフ・ステンカ-ラージンらの率いる農民反乱には，チュバシ人農民も加わっている。1920年，チュバシ自治州となり，1925年から自治共和国となった。
〔斎藤晨二〕

チュービンゲン［Tübingen］西ドイツ南部，シュツットガルトの南方約27kmにあり，ネッカー川に沿う都市。人口約40,000。印刷出版業でよく知られ，また医学機器・電動機・家具の生産も盛ん。13世紀から市制を施行しており，後期ゴシック様式の聖ジョージ教会や城塞(じょうさい)・公会堂など，15～16世紀の建造物が多く，中世のなごりをとどめている。1477年創立の大学は名門として知られ，特に神学部は教会史研究の中心になっている。〔梶川勇作〕

チュベローズ［tuberose］単子葉植物・ヒガンバナ科。ゲッカコウ・イエライシャンともいう。メキシコ原産。1629年にヨーロッパに紹介され，日本には1800年(寛政12)以前にはいってきたといわれている。切り花用として栽培されるが，香水原料にもされる。塊状の球根で，根出葉は6～9枚，草たけは50～100cm。7～8月に強い芳香のある白色の小花を穂状に着ける。花には一重と八重とがある。球根養成は暖地でないと困難であり，現在は八丈島で行なわれている。春植え付けて秋に掘り上げる。分球によって繁殖する。

チューリップ［tulip］単子葉植物・ユリ科・チューリッパ属には約100種ばかりあり，おもに地中海沿岸地方に分布している。







チューリップ ①一重早生(カイザースクルーン) ②八重早生(ボナンザ) ③ユリ咲き ④フォステリアナ ⑤グレイギー

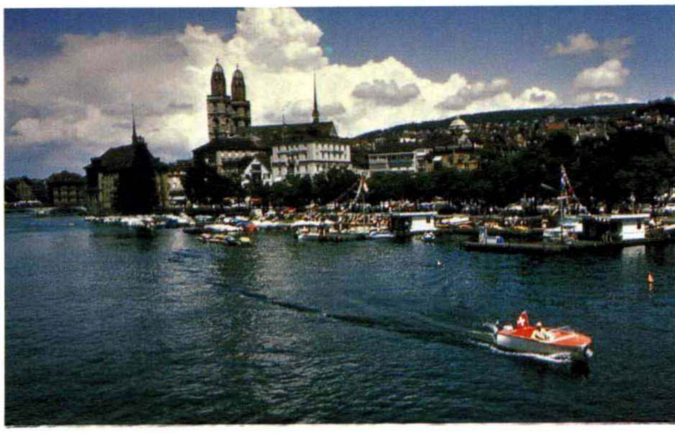
園芸上最も多く栽培されている種類はチューリッパ-ゲスネリアナという学名がつけられているが，最初から雑種であったらしく，原産地は明らかでない。耐寒性の球根植物である。繁殖は分球による。植え付け適期は10月。床植は深さ30cmばかり土を掘り，元肥を入れて土と混ぜ，さらに土を入れて15cm間隔に植え付け，10cmばかり覆土する。6月に葉が3分の1黄変したときに球根を掘り上げる。

ローマ帝国の大使ブスベックは，1554年にトルコに派遣され，コンスタンチノープル付近でこの植物を発見した。そこで土地の人に名まえを尋ねたところ，誤ってターバンと答えたことから，チューリッパという属名がつけられたという。この球根と種子はウィーンに送られ，さらにアウグスブルクに伝わり，植物学者ゲスネルによって記載された。その後ウィーンの植物学者クルシウスは八重のチューリップを記録し，1593年オランダのライデン大学植物学教授になったときチューリップを持って赴任し，これがオランダのチューリップ球根栽培のもとになったという。17世紀にはチューリップの栽培が盛んになり，品種数も増加した。日本にチューリップがはいったのは，文久年間(1861～1863)といわれているが，本格的な球根栽培が行なわれるようになったのは1923年(大正12)以後で，まず新潟県から始められ，富山・京都に及び，第2次世界大戦後は兵庫・島根・鳥取・山形の各県や北海道に広がった。

〔系統〕1948年にイギリスの王立園芸協会とオランダの球根組合が共同で，次の系統分類を行なった。①早咲きチューリップ，㋑ダック-ファン-トール：極早生わい性一重。㋺一重早生：4月上・中旬開花の早生。㋩八重早生：前種と同じころ開花。㊁メンデル：ダーウィンとダック-ファン-トールとの雑種で，形質は両者の中間。1921年に紹介された。㋭トライアンフ：一重咲きとダーウィン，あるいは一重咲きとダッチ-ブリーダー，コッテージ，ダーウィンとの雑種ともいわれる。早生一重で1923年出現。②おそ咲きチューリップ，㋑コッテージ：4月下旬～5月中旬に開花し，一般に弁端がとがり，外側に反転する。ユリ咲きを別系統とすることもある。㋺ブリーダー：花色は中間色やブロンズなどの渋い色彩をもつ。㋩ダーウィン：花茎は長くて強く，花はカップ状。4月下旬～5月上旬に開花。1889年に出現。最も重要視されている系統である。㊁パーロット：花弁の縁に不規則な深い切れ込みがはいるのが特徴。㋭晩生八重：早生八重に似るがおそ咲き。㋬レンブラント：ダーウィンと同型で斑(ふ)入りのもの。㋣枝咲きチューリップ：コッテージから改良されたもの。花梗(かこう)が分岐して4～7花をつける。このほかダーウィンにフォステリアナを交配した雑種(ダーウィン-ハイブリッド)やフォステリアナ・クレイギー・カウフマニアなどの原種と栽培種との雑種が重要視されている。〔小杉 清〕

チューリップツリー ⇨ユリノキ

チューリヒ［Zürich］スイス北部，チューリヒ湖*の北岸にある商工都市。人口39万(1976)。スイス最大の都市で，1848年までこの国の首都であった。絹綿織物・製紙・機械などの工業が盛んで，印刷出版業・金融業の中心をなしている。美しい湖畔を訪れる観光客が多く，国際的文化都市として知られている。スイスの美術工芸品の多くを集めている国立博物館は名高く，新石器時代はじめの湖上住居跡も残っている。BC58年にローマの軍事基地が築かれて，ヨーロッパの交通路の交点として



チューリヒ　市街の中央を流れるリマート川はボート遊びや散策の市民でにぎわっている。正面の塔のある建物はグロース－ミュンスター(大寺院)

重視された。9世紀前半カール大帝時代に商業・宗教・文化の中心をなし，1218年自由都市となり，1351年スイス連邦に加入した。16世紀にはツビングリを指導者とするスイスの宗教改革の中心となった。11世紀末のロマネスク建築グロスミュンスター寺院など古い美しい建造物が多い。1832年創立のチューリヒ大学がある。ペスタロッチ・ケラーらが出ている。　〔梶川勇作〕

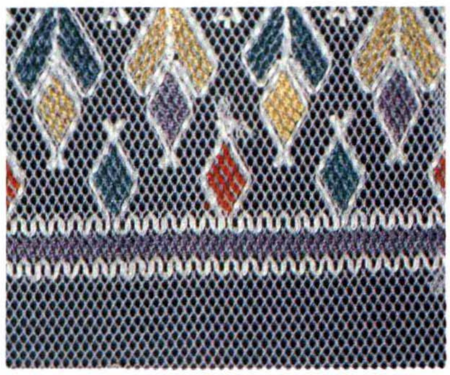
チューリヒ(湖)　[Zürich]　スイス東北部，グラルスアルプス山脈の北麓(ほくろく)にある湖。湖畔から見るアルプス山脈の美しいことで有名。湖水はライン川に注ぐ。北西の湖畔に商工業都市チューリヒがあり，絹織物・綿織物の生産で名高い。

チューリンゲン　[Thüringen]　東ドイツ南西部の地方名。かつてはワイマールを首都とする一州であったが，1952年にエルフルト・ゲーラ・ズールの3県に分かれた。面積15,000km²，人口254万1,000(1966)。東はザーレ川，西にウェラ川の流れる丘陵状の農業地帯で，テンサイ・果実の産出が多い。工業ではイエナに光学機械，エルフルトの鉄道車両，ゲーラでは紡績が盛んである。またこの地方のおもちゃ・ガラス器は世界的に有名。南西のチューリンガー－ワルト(チューリンゲン森)はヒノキ・モミの巨木が茂り，夏の保養地となっている。古くはゲルマン系のチューリンゲン族が住み，のち各国の支配下に置かれ，1485～1918年まではザクセン公国の支配を受けた。1920年にワイマール共和国の自由州，1949年に東ドイツの一州になった。〔梶川勇作〕

チュール　[tulle]　細かい六角形の網目の機械製ネット地。本来は手製で綿糸・絹糸が用いられたが，現在は化学繊維系でつくることが多い。かために仕上げてベール・ヘアネット，その他装飾用とする。

チュルクごぐん　**【チュルク語群】**　⇨アルタイ系諸族

チュルクぞく　**【チュルク族】**　6～8世紀にモンゴルを中心に，中央アジアを制覇(せいは)したトルコ系の遊牧民族。6世紀に突厥(とっくつ)を建てて，一部は西進して西トルキスタンを支配し，進んで東ローマ帝国



チュール　ししゅうを施したチュール

と同盟を結んでササン朝ペルシアに侵入，両国の歴史に影響を与えた。これが西突厥である。セム語系のアラム字母に由来する突厥文字が用いられた。

チュルゴー　[Anne Robert Jacques Turgot]　(1727～1781)　フランスの政治家・重農主義者。ノルマンジーの旧貴族の出身。ソルボンヌ大学に神学を学んだ。ルイ16世のもとで危機に瀕(ひん)したフランス王政を救うために，重農主義の方針に沿って一連の改革を行なうことになり，穀物取引の自由化，賦役の廃止，貴族階級への課税などを断行した。しかし，取引自由化による穀物の買い占めや穀価の騰貴が民衆の暴動を招き，また，賦役廃止・課税が領主や聖職貴族の反感を買い，十分な成果をあげることなく1776年に失脚した。彼の基本的な考え方は，自然の支配を信奉するケネー*の思想を継承し，それに立脚するものであった。主著《富の形成と分配についての省察》(1766)。　〔林　達〕

チューレーニー(島)　[Tureniya]　日本名では海豹(かいひょう)島。サハリン(樺太(からふと))の東海岸，チューレーニー岬(みさき)の南方15kmにある岩礁で，樹木のはえない無人の小島である。アザラシ・ラッコなどの海獣の保護地として知られる。

チュンビきょうこく　**【チュンビ峡谷】**　中国，チベット自治区とシッキム・ブータンの国境地帯にある，ガンジス川の支流ブラマプトラ川(ツァーンポー川)水系の峡谷。チベット随一の肥沃(ひよく)な土地で，19世紀末以来，チベットとヒンドスタン平原との重要な交易ルートとなってきた。峡谷にはヤートン(亜東)・パーリ(帕里)・チュンビなどの町がある。

チョイバルサン　[Choibalsan]　モンゴル人民共和国東部の都市。ケルレン川の流域にあり，旧名はバヤン－トゥメン。独立運動の指導者チョイバルサンを記念して改名された。付近にはいくつかの炭田があり，採掘が始められている。乳製品の工場もあって，この国第3の工業の盛んな都市である。シベリア鉄道とは支線を通じて結ばれる。

ちょう　**【調】**　⇨租・庸・調

ちょう　**【調】**　⇨調性

ちょう　**【町】**　①尺貫法の距離の単位。60間つまり360尺に相当し，109.1mにあたる。②尺貫法の面積の単位。10反つまり3,000歩に相当し，9,917.4m²(ほぼ1ヘクタール)にあたる。

ちょう　**【蝶】**　こん虫類・鱗翅(りんし)目。ガとともに翅(はね)が鱗粉でおおわれているこん虫で，世界で約15,000種が知られている。一般にチョウとガの区別は，チョウは昼間飛びガは夜飛ぶ，チョウは止まるとき翅を立て両方の翅を合わせるがガは水平に開いて止まる，チョウの触角は棍棒(こんぼう)状だがガは羽毛状をはじめ多くの形をしている，チョウの体はほっそりとしているがガは太い，などがあげられる。しかし，これらにはいずれも例外があり，はっきりとは区別できない。分類学上では前翅と後翅の翅脈が異なる異脈亜目に属し，大部分のガと同じ群にはいる。口器は吸収口で，普通はぜんまい状に巻かれており，蜜(みつ)や水を吸うときに伸ばされる。複眼は大形で，翅はよく発達し，アゲハチョウ類やシジミチョウ類では長い尾状突起をもつものが多い。翅膜上には無数の鱗粉が屋根がわらのように並び，それぞれ特徴のある模様をつくっている。南アメリカのモルフォチョウや日本にもいるコムラサキなどは，鱗粉のひだや隆起によって光が分解され，見る方向によって青や紫に輝く。触角は臭覚と触覚の感覚器官で，脚の先端にある跗節(ふせつ)には味覚器官がある。大きさは，トリバネチョウのように翅を広げた長さが230～240mmに達する巨大なものから，ある種のシジミチョウのように15mm内外のものまでさまざまである。発生は完全変態。幼虫はうじ型で毛をもつものともたないものとがあり，普通は3対の胸脚と2～4対の腹脚がある。大部分のものは食植性であるが，ゴイシシジミのようにアブラムシのみを食べて成育する肉食性の種類もある。さなぎは幼虫のはいた絹糸で他物に付着する帯蛹(たいよう)と，尾端で付着してぶらさがる垂蛹とがある。成虫は通常1～2か月生きるが，成虫で越冬する種ではテングチョウのよう

に10か月も生きるものがある。栄養源として花の蜜を吸収するものが多く，そのほかに樹液，腐った果実，獣糞(じゅうふん)などにも集まる。大部分は定住性で生まれた所からあまり遠くへは行かないが，中には大西洋を横断して北アメリカからアフリカ・ヨーロッパにまで渡りをするオオカバマダラのようなものもあり，日本にいるイチモンジセセリも群をなして移動することが知られている。幼虫がキャベツを食べるモンシロチョウ，イネを食べるイチモンジセセリなどの重要害虫が含まれるが，多くは経済的には無害で，その美しさから装飾に用いられるものも多い。天敵には寄生性のものとしてヒメバチ・コマユバチなどの寄生バチがあり，捕食性のものとしてスズメバチ・アシナガバチなどのハチ類のほか鳥類やトカゲなどにも食べられる。マダラチョウやドクチョウの類は味が悪く悪臭をもっているために，これらの天敵から避けられるが，これらと外形や色彩の非常によく似たチョウがまったく異なった他の科に含まれており，擬態といわれている。熱帯地方には美麗種が多く，南アメリカのモルフォチョウ・アグリアスタテハ，ニューギニアのトリバネチョウはその代表的なものである。日本には国蝶とされているオオムラサキをはじめ，アゲハチョウ・シロチョウ・ジャノメチョウ・タテハチョウ・テングチョウ・マダラチョウ・シジミチョウ・セセリチョウの8科約200種が知られている。〔多々内修〕

ちょう 【魚蝨】 節足動物・甲殻(こうかく)類・チョウ科。ウオジラミともいい，コイ・キンギョなどの淡水魚に寄生する。体長5mm前後。背腹に扁平(へんぺい)で，楕円(だえん)形ないし円形。体色は淡緑色をおび，透明。腹面に1対の吸盤をもち，魚体表面に吸着するが，魚体を離れて遊泳することもできる。また，鰓腔(さいこう)内に寄生していることもある。口器の刺針で魚体表面を刺し，毒物を出して吸血する。チョウの吸血したあとは血がにじんで斑点(はんてん)となる。4〜10月にかけて産卵し，2か月で成体となる。防除には，従来BHC水和剤が使われてきたが，ネグボンによっても可能である。ニジマスなどの体表には，同じ科のチョウモドキが寄生し，フグなどの海産魚にはウミチョウなどが知られている。〔向井　宏〕

ちょう 【腸】 胃の下部に連なる長さ4〜7mの管状の屈曲した臓器で，腹腔(ふくこう)の大部分を占めている。4分の3にあたる小腸，4分の1の大腸からなる。消化器である腸は，食物から栄養分を得る作用を行なっており，腸の食物が触れる内腔は粘膜でつくられ，粘液でおおわれたようになっている。ヒトなどの高等なものの腸はその内面にひだをつくり，さらに絨毛の発達が認められ，消化能力を増大させている。小腸は，十二指腸・空腸・回腸の3部に分けられるが，魚類では十二指腸を欠いたものがあり，カエルなどで認められるようになる。十二指腸には空腸が続き，次に大腸に接続する回腸がある。空腸と回腸の境界は明瞭(めいりょう)でない。大腸は小腸に続くもので，盲腸・結腸・直腸の3部に分けられる。カエルでは盲腸を欠いており，爬虫(はちゅう)類で出現し分類できるようになる。〔高野一雄〕

ちょう 【疔】 医学的には癤(せつ)とよばれ，いわゆるおできのこと。顔面にできたものを特に面疔という。

ちょう 【趙】

1 中国，戦国時代の諸侯国(BC403〜BC222)。戦国七雄の一。晋(しん)の六卿(りくけい)の一つであった趙氏は，BC453年韓(かん)・魏(ぎ)とともに晋を3分して独立し，山西省北部から河北省を領有した。BC403年，周王に諸侯として認められた。はじめ晋陽に都し，のちに中牟(ちゅうぼう)，さらに邯鄲(かんたん)に遷都した。胡服(こふく)騎射を採用した武霊王(在位BC329〜BC299年)のときに最も国力をふるったが，BC228年，秦に都を奪われ，BC222年に滅ぼされた。

2(五胡十六国) ➔前趙 ➔後趙

3 趙王。元末の群雄韓法師は，1337年南宋(なんそう)朝の趙氏を継ぎ，元朝に対抗することを大義名分として趙王と称した。彼の支配地は，四川省合州大足県を中心とする。

ちょうあん 【長安】 中国，漢から唐にかけての大統一時代(後漢を除く)の国都。現在の西安市付近にあたる。漢の武帝のころ(BC141〜BC88)にほぼ完成した。北斗七星状の北壁と，中央の突出する南壁にちなんで，俗に〈斗城〉とよばれた。隋(ずい)の文帝のときに造営が始まり，最も繁栄したのは唐代で，この市街の形式が当時唐代文化の強い影響下にあったわが国の平城京・平安京や，渤海(ぼっかい)上京の原型となっている。市街は南北14，東西11のブロックに区画され，皇城正面から南北に通じる朱雀門(すざくもん)大街によって左右に分割され，それぞれ万年・長安の2県の管轄とされていた。唐の長安の最盛時，8世紀中ごろの人口は約100万人といわれ，東は渤海・新羅(しらぎ)・日本，西はペルシア・アラビア，南はインド・セイロン，北はトルコ系遊牧民などが集まり，ことに西方の人々は胡人(こじん)といわれ，数代にわたって定住するなど，世界的な国際都市となっていた。〔船越昭生〕

ちょういん 【調印】 条約締結にあたって，条約当事国の代表が合意を遂げた証拠として条約文書に自己の名まえを書きしるすことで，署名ともいう。条約の内容は調印によって確立し，以後修正できない。条約には，調印だけで発効するものもあるが，批准をまって発効するのが通例である。正式の調印のほか，仮調印と政府の承認を条件として行なう調印がある。これらは，大綱では合意に達していて細部に交渉の余地のあるとき，しかも調印を急いでいる場合，あるいは，条約内容が代表の権限を越えたものであるときなどに行なわれ，いずれものちの当事国の合意により，あるいは政府の追認を得れば，正式の調印と同じ効力をもつ。〔広部和也〕

ちょうウランげんそ 【超ウラン元素】 周期律表上でウランより原子番号の大きい元素の総称。現在知られているものは93番のネプツニウムから103番のローレンシウムまでの11元素で，すべて人工的放射性元素である。ネプツニウムは1940年に最初に発見された超ウラン元素で，それから，次次に新しい元素がつくりだされた。超ウラン元素はアクチニド元素に属し，その化学的性質は類似している。

ちょうえき 【腸液】 小腸・大腸で分泌される消化液。普通は，小腸(十二指腸も含む)から分泌されるものをいう。十二指腸液は，無色で粘性があり，アルカリ性で，ペプシン様のタンパク質分解酵素を含むほか，脂肪やデンプンの分解にも働き，機械的刺激や腸内の脂肪などによって分泌が促進される。小腸液は黄色透明で，pH7.7のアルカリ性。塩化ナトリウム・炭酸ナトリウム，さらにリンタンパク質性の粘液を含む。消化酵素として，アミノペプチダーゼ・ラクターゼ・マルターゼなど重要なものを含み，腸粘膜の機械的刺激や化学的刺激などによって分泌が起こる。大腸液は無臭の粘性のある液で，ほぼ中性。機械的刺激によって分泌され，内容物の移動や大便の形成に役だつ。消化酵素としては，微量のジペプチダーゼ・アミラーゼなどを含む。なお，広い意味の腸液には，膵液(すいえき)・胆汁(たんじゅう)も含まれる。〔平野修助〕

ちょうえき 【懲役】 刑罰の一種。監獄に拘置して定役(義務的な刑務作業)に服させること。自由刑のうち最も重要なもので，有期と無期に分けられる。有期は1年以上15年以下で，加重(20年まで)，軽減もできる(刑法12・14条)。定役を科する点で禁錮(きんこ)と区別される。最近では短期の懲役に代わって，執行猶予・宣言猶予などが考案されている。

ちょうえき 【張掖】 チャンイエ　中国，甘粛省北西の都市。旧名甘州。漢代以来の古い都市で，甘粛回廊のオアシスの一。甘新・甘西の二つの自動車道路の交点にあたり，東南にある武威と並び称せられる交易の中心地である。

ちょうえつすう 【超越数】 全部は0ではない有理数を係数とする代数方程式 $a_nx^n+a_{n-1}x^{n-1}+\cdots\cdots+a_1x+a_0=0$ (a_iは有理数，全部は0でない)の根とはならない複素数をさす。上のような方程式の根となる数が代数的数である。したがって，複素数は代数的数と超越数とに分けられる。一つの特定な数が超越数か否かを判別することは，一般に困難であるが，円周率πや

自然対数の底eは超越数であることが証明されている。〔杉岡司馬〕

ちょうえん【長円】⇨楕円(だえん)

ちょうえん【腸炎】腸カタルともいう。腸粘膜が細菌の感染を受けたり，化学物質や機械的な刺激，あるいはビタミンの欠乏，機能失調，アレルギーなどによって起こる腸の炎症の総称。おもなものに次のようなものがある。

①急性腸炎(急性小腸大腸炎・腸カタル)：日常しばしばみられる疾患で，小児に多く，ふつう腸内に存在している大腸菌(常在菌)の異常発育や，腸内異常分布によって発症する。その他，コレラ・赤痢・チフス・パラチフスなどの特殊な伝染病菌によって起こる細菌性大腸炎，ウイルスによって起こる伝染性下痢症などがある。また，重金属・石炭酸・アルコールによる腸粘膜の腐食，食事の不摂生，食中毒などの化学的刺激，誤飲した異物，胆石，硬固な糞塊(ふんかい)，寄生虫などの機械的刺激による場合や，重篤な感染症や肝硬変症・心不全などによる鬱血(うっけつ)によるもの，尿毒症による尿毒症性大腸炎などがある。腹部の重圧感，疝痛(せんつう)様の腹痛，腹鳴をもって発病し，ときには悪寒(おかん)・発熱をきたす。下痢は必発症状で，原因により水様便になったり粘液・血液が混じることもある。特に大腸下部が侵されると頻回(ひんかい)の下痢(裏急後重)となる。治療は，食事特に脂肪性の食品や，消化の悪いもの，峻烈(しゅんれつ)な香辛料を避け，腸内殺菌剤として，抗生物質・サルファ剤・整腸剤・平滑筋弛緩(しかん)剤(痛みのある場合)などを投与し，脱水のおそれあるときは補液を行なう。なお急性腸炎の特殊な型として，急性虫垂炎がある。

②慢性腸炎：急性腸炎の遷延，あるいは寄生虫，他の臓器(心臓・肝蔵・腎臓(じんぞう)・膵臓(すいぞう)など)の炎症や貧血・糖尿病などに続発して起こり，慢性の経過をとるものである。症状は急性腸炎と類似しているが，症状が反復して出現し，増悪・緩快をくり返す。患者の多くは神経過敏となり，また小児および高齢者では栄養状態が低下して衰弱に陥ることもある。経過はすこぶる長く，治癒(ちゆ)しがたい。治療は消化のよい栄養に富む食品を与え，日常生活を規則正しくし，整腸剤を継続的に投与する。〔佐野隆志〕

ちょうえん【張炎】(1248？～1320？)中国，南宋(なんそう)の詩人。中年までは貴公子の生活をしていたが，40歳前後から家運傾き，四方を流浪，役人を志したり，易者や食客となったりしたが落魄(らくはく)した。詞にすぐれ，沈痛な感情をこの詩形式に吐露した。《山中白雲詞》8巻があり，詞約300首が現存するほか，詞の韻律や修辞，詞の作者の優劣を論じた《詞源》の著があり，宋詞を集大成したといってよい。

ちょうえんきせいがん【超塩基性岩】シリカSiO_2の含有率が45％以下の火成岩のこと。代表はカンラン岩とジャモン岩とである。火山岩には超塩基性岩に相当するものがない。



超音速機　コンコルド

ちょうえんきん【腸炎菌】ゲルトネル菌ともいい，腸内細菌のサルモネラの代表的な菌で，食中毒の病原菌。0.6×2～3μのグラム陰性桿菌(かんきん)で，菌体の周囲にあるべん毛で運動する。

ちょうおうきょ【張横渠】(1020～1077) 中国，北宋(ほくそう)の儒教哲学者。陝西(せんせい)省の人。名は載，横渠は号。朱子学の基礎をつくった学者のひとり。その著《正蒙(せいもう)》は仏教・道教を批判し，儒教の人間観を哲学的に深めたもので，〈人は客観的な秩序である礼を実践することによってその真実を実現する〉と主張した。また，その気の哲学は王船山らに影響を与えている。彼は晩年に官を辞し，郷里で古代礼制による民生の安定を実験しようとした。➔道学〔西　順蔵〕

ちょうおん【長音】長母音を含む音節。〈おかあさん〉のカー，〈にいさん〉のニーなど。ひらがなで表わすときは，五十音図のア段・イ段・ウ段の長音は〈おかあさん・にいさん・くうき〉などのようにそれぞれ〈あ・い・う〉を添えて表わすが，エ段・オ段の場合は〈へいわ・こうば〉のようにそれぞれ〈い・う〉を添えるのが原則である。〈ねえさん・おおきい〉などは例外的な表記。かたかなで外来語などを表わす場合は〈レール〉などのように〈－〉(長音符号)を添えて表わす。なお，エ段の長音は方言で，あるいは文字を意識して読む場合，たとえば〈ヘーワ〉でなく〈ヘイワ〉のように二重母音で発音されることがある。〔上村幸雄〕

ちょうおんそくき【超音速機】音の速度よりも速く飛行できる飛行機。音の速度は大気温度によって決まり，海面上の標準大気状態(15℃)で340m/秒＝1,224km/時，高度11km以上で295.2m/秒＝1,062km/時である。超音速飛行は1947年アメリカが開発したロケット推進の実験機X-1によってはじめて実現した。1950年代の初頭から軍用機は超音速時代にはいり，わが国でもF-104Jが製造権を導入して生産され，1967年からは独自の技術によって試作が始まっている。一方，民間用の超音速輸送機(SST, supersonic transportの略)の研究も1950年代の後半から始められたが，膨大な費用を必要とするので国の大幅な財政的援助や場合によっては国際協力が必要である。イギリス・フランス両国は共同でコンコルド(全備重量約170t，主翼面積360m^2，推力約17t，ターボジェット-エンジン4基装備，巡航速度マッハ2.2，航続距離6,800km，座席数最大144名)を開発し，1968年12月初飛行に成功した。ソ連では大きさも形もコンコルドによく似たTu-144を開発し，超音速の試験飛行に成功している。これらの機種は1970年代の初期から就航をめざしている。一方，アメリカでは，ボーイング社がコンコルドなどより大きく，より高速のボーイング2707(巡航速度マッハ2.7)を開発していたが，費用・騒音公害などの事情から1971年に中止した。

飛行機が超音速で飛行すると，衝撃波が生じて，超音速爆発音(ソニック-ブーム)を地上に伝える。これによる被害を避けるために，人口密集地帯上空の飛行を避けるとか，超高空を飛ぶとか，種々の制限が必要となる。超音速機が亜音速ジェット旅客機のように，広く利用されるには，経済性・騒音処理その他の面でなお多くの改良が必要である。〔中口　博〕

ちょうおんぱ【超音波】可聴周波数(20～20,000Hz)よりも高い周波数の音波。したがって約20,000Hz以上の音波をさすが，その利用面からは15,000Hz以上，場合によっては10,000Hzくらいより高い周波数の音を超音波の範囲に入れることもある。第1次世界大戦の前後から，反響を利用した氷山の発見や潜水艦の探知という目的で研究と実用化が始められ，さらにエレクトロニクス技術ならびにその利用技術の発達とあいまってその利用技術が急速に進歩した。

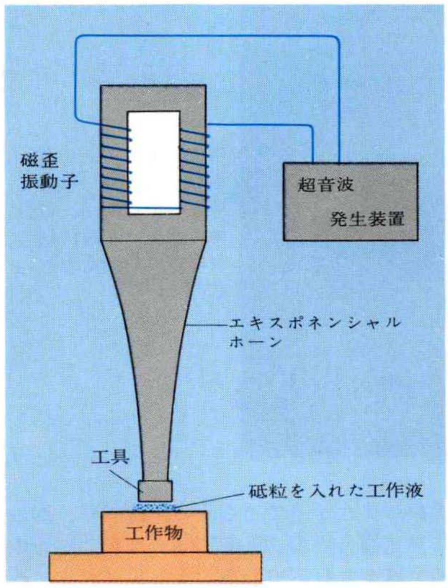
超音波の性質も本質的には可聴周波数の音波と同じであるが，その周波数が高いこと，したがって波長が短いことによっていろいろと特異な性質を現わす。特に液体や固体の中では光・電磁波などよりもよく伝わる場合が多く，波長が短いため指向性を鋭くすることができてエネルギーの集中に有利なことが多い。また音響インピーダンスが高くなるので，機械・音響変換能率がよくなる。したがって強力な音場をつくることができ，その波動としての性質を利用するほか，強力超音波のエネルギーを利用することもできる。強力な超音波の音場では，ふつうの可聴音波音場ではみられないいくつかの特異な性質が現われる。空洞(くうどう)現象はその一つであって，液体中で強力な超音波を発生させると音圧の瞬時値の負の最大値付近で液体中に真空部分(空洞)ができ，その瞬間に液体中に含まれている気体が気泡(きほう)になる。しかし，次の音圧が正のサイクルでは音圧の瞬間値が非常に大きくなるから，この圧力のために

いまできた気泡は周囲から強く圧縮されてつぶされ，この瞬間大きな衝撃力が生ずる。またこの場合著しい音圧波形のひずみも生じ，これによる液体の定常的な流れが発生する。水中ではこのような空洞現象による衝撃力や気泡の発生によって発生機の酸素を生じ，これが異常な酸化作用を起こす。液体中の細菌類はこれによってその細胞膜が破壊され，殺菌が行なわれる。また固体粒子や異種の液体粒子は，破壊されてさらに細かい粒子になり分散・乳化現象を起こす。一般に媒質の粒子の加速度は周波数の2乗に比例するから，周波数が高くなると粒子の加速度はきわめて大きくなり，このために攪拌(かくはん)作用を生じて媒質中の固体表面に付着した微粒子が固体表面からはがし取られたり(洗浄作用)，あるいはこれによって化学変化が促進されたりする(→超音波洗浄)。

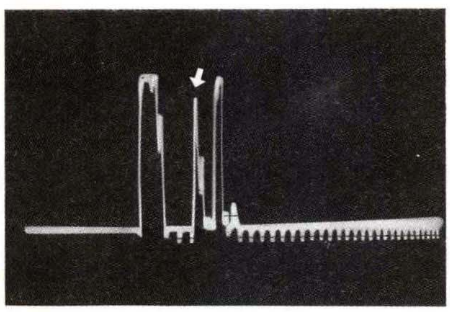
気体または液体媒質中にいろいろの大きさの気体・液体・固体粒子が分散しているときには，これに適当な周波数の超音波をかけると大きな粒子はほとんど動かず，小さい粒子だけがよく動くようにすることができる。これにより大きさの違う粒子間で衝突が起こり，衝突して一つに合体するような粒子であればこれはだんだん大きな粒子となり，大きくなった粒子は比重によって沈殿したりあるいは浮上したりするからこれらを集合・分離させることができる。強力な超音波の音場では，そのエネルギーの大部分は熱になって失われ熱量も多い。すなわちこれが発熱作用である。こうして生じた発生熱を利用することもできる。

超音波の発生や検出には超音波振動子を用いる。これはニッケル・パーマロイ・AF合金・フェライトなどの磁気ひずみ効果を利用した振動子，あるいは圧電効果を呈する水晶・ADP(第二リン酸アンモニウム)などの結晶振動子，チタン酸バリウム磁器のような電気ひずみ効果を利用した振動子が普通である。特に強力な超音波を発生するときには，内部損失による発熱作用に注意しなければならない。空気中において強力な超音波を発生させるためにはこのほかサイレン・ガルトン笛・ハルトマン笛などが用いられる。

超音波の波動としての性質を利用したものには，超音波の透過によって材料の欠陥を調べる超音波欠陥検査機，超音波の減衰から材料の材質を判定する方法，超音波の位相から流速や流量を測定する方法，ドップラー効果による火炎警報装置，共振を利用した粘度計や濃度計などのほか，超音波の反射を利用した超音波探傷*装置，測深機・ソーナーなどがある。また，強力超音波の応用としては穴あけ・ねじ切り・彫刻などの超音波加工，クリーム・パルプ・香水などの製造に攪拌作用を利用したもの，超音波洗浄機・ワクチン製造における超音波殺菌・溶融金属やガラスの脱気・脱泡などのほか，医学的応用も行なわれている。〔池谷和夫〕



超音波加工 原理図


超音波探傷 モリブデン板のクラック探傷図形 図の矢印部分が欠陥を示す

ちょうおんぱかこう 【超音波加工】 超音波を用いて金属その他を加工すること。図のような装置で高周波電流によって工具を振動させると，工具と工作物との間に入れた砥粒(とりゅう)が工作物の表面に激しく衝突して，その表面を加工する。特に高硬度の金属材料とか，ガラス・陶器・宝石などの加工に用いられる。

ちょうおんぱせんじょう 【超音波洗浄】 超音波*を使用して洗浄すること。強力な超音波を液体中において発生させると空洞(くうどう)現象が現われ，その結果大きな衝撃力と攪拌(かくはん)作用が生ずる。これによって液体中に置かれた固体表面に付着している油脂類・塵埃(じんあい)・酸化皮膜などを剝離(はくり)させて液体中に分散させることができる。このような洗浄作用は洗浄剤だけでは十分な洗浄効果が得られないときや，一度に多量のものを洗浄したい場合などに，軽油・トリクロールエチレン・ベンジンなどの洗浄剤と併用すると効果がある。酸化皮膜の除去には硫酸その他の酸も用いる。使用する超音波の周波数は洗浄される物体の大きさによって異なるが，普通は20kHz以上，時計部品のような小物類で100～500kHzが用いられる。周波数があまり高いと物体の影の部分ができたり音場の弱い部分の洗浄効果が不十分であったりするため，実際上はそれぞれの被洗浄物に対する経験的知識も重要である。超音波洗浄用の振動子は金属振動子やフェライト振動子，あるいはチタン酸バリウム系の磁器振動子が用いられる。ベアリング・光学機器部品・時計部品・ミシン部品・電子部品などの洗浄に賞用されている。〔池谷和夫〕

ちょうおんぱそくしん 【超音波測深】
⇨音響測深

ちょうおんぱたんしょう 【超音波探傷】 金属などの内部にある目に見えない傷の有無や場所などを超音波*を利用して調べること。非破壊検査法の一種。水晶あるいはチタン酸バリウム系磁器の振動子を金属表面に接触させて超音波インパルスを発生させると，その波は金属の内部を伝わって反対側に達し，そこで反射されてもどってくる。金属の内部に傷があればそこからも超音波インパルスの波が反射される。このときインパルスが発生されると同時にブラウン管上で水平方向に掃引して反射波を受け，これを電気インパルスに変換してブラウン管面の縦軸に加えるようにする。これによってブラウン管面上で反射インパルスの現われる横座標と掃引速度から，振動子より反射点までの距離を知ることができる。この超音波振動子を探触子ともいい，これを金属材料表面で移動させれば傷の位置や状態を知ることができる。

超音波探傷における超音波の周波数は500kHz～10MHzくらいが普通であるが，あまり低いと小さな傷を検知できず，またあまり高いと材料内における超音波インパルスの減衰が大きくなり，十分な測定ができなくなる。インパルスのくり返しは被検査物の厚さやその内部での音波の伝播(でんぱ)速度などによって異なり，普通は50Hzから5kHzくらいの範囲である程度変えられるようになっている。

鋼材内部の傷の有無，溶接部分の検査のほか，非鉄金属材料はもちろん非金属材料に対しても，超音波インパルスの減衰が特に大きいものを除けば容易に超音波探傷が利用できる。これらのほか医学的診断用として，胆石や癌(がん)の検出にも応用できるなどその利用面は非常に広い。〔池谷和夫〕

ちょうおんぱりょうほう 【超音波療法】 超音波を利用した物理療法。超音波には機械的振動作用・化学作用・温熱作用があるが，生物学的に適当な強度の照射を行なうと，興奮的に作用し，機能および代謝を促進する。しかし，照射が強大であると逆の作用を示し，細胞を破壊するに至る。比較的弱いエネルギーを利用した超音波治療器は，マッサージと温熱効果に用いられ，強



鳥 海 山　頂上の白くなりはじめた秋10月ごろの鳥海山。背後には，はるかに秋田平野の砂浜海岸が延びている

力なエネルギーを利用した超音波メスでは脳腫瘍(しゅよう)などの無血手術に利用される。

ちょうか　**【長歌】**　短歌に対する和歌の一形式。記紀歌謡*ではまだ形式が一定していないが，《万葉集*》に至って五音と七音の句を交互に連ね，最後に七音の1句を加えたものとなり，〈反歌〉も伴うようになった。この形式の全盛期は《万葉集》のころで，そこでは内容・素材も多種多彩であったが，平安期以後は衰退して，特に改まったときとか，強く感情を訴えたいときとかに歌われるのみとなった。

ちょうかい　**【潮解】**　固体が空気中の水蒸気を吸着して，その水によってとける現象。食塩が湿るのは，不純物として潮解性の塩化マグネシウムや塩化カルシウムを含むためである。これと反対に，空気中で結晶水を放出して粉末になる現象を風解という。結晶硫酸ナトリウム($Na_2SO_4 \cdot 10H_2O$)はその性質が著しい。これらは固体の結晶水の水蒸気圧が，空気中の水蒸気の圧力より高いか低いかによって決まり，高い場合には，風解，低い場合には潮解が起こる。

ちょうかいかざんたい　**【鳥海火山帯】**　那須(なす)火山帯に並行して日本海側に延びる火山帯。北海道渡島(おしま)半島西方の大島から，岩木山(青森県)・寒風山(秋田県)・鳥海山(秋田県・山形県)・月山(山形県)・守門岳(すもんだけ)(新潟県)・苗場山(新潟県・長野県)などの著名な火山を含み，南部は那須火山帯と合している。

ちょうかいこくていこうえん　**【鳥海国定公園】**　秋田・山形両県にまたがる鳥海山*を中心とする一帯と，南山麓(さんろく)から酒田市に至る日本海沿岸を含む，面積285km²の地域で，1963年(昭和38)に指定された。鳥海山(2,230m)は東北最高の円錐(えんすい)火山で，出羽富士とよばれる美しい山である。山麓の奈曾(なそ)ノ白滝は名勝地で知られる。吹浦(ふくら)は鳥海山の溶岩が流出してできた岬(みさき)で，近くに湯ノ田温泉がある。その南に長さ30kmに及ぶ庄内(しょうない)砂丘が展開する。　〔木村東一郎〕

ちょうかいさん　**【鳥海山】**　秋田・山形両県にまたがってそびえる円錐(えんすい)形の二重式複合火山。標高2,230mで東北地方の最高峰をなし，出羽富士ともよばれる。西側の旧山体と東側の新山体の複合体で，笙ケ岳(しょうがだけ)(1,600m)や荒神岳(2,064m)などの外輪山がそびえ，北・西・東の3方に長い裾野(すその)を引き，西斜面は日本海岸に達する。信仰の山としても知られ，山頂には大物忌(おおものいみ)神社がある。高山植物が豊富で，山麓(さんろく)にはブナの樹林が広がり，春の山スキーに訪れる人も多く，鳥海国定公園*に指定されている。〔高野　繁〕

ちょうかいしょぶん　**【懲戒処分】**　私法・公法上の特別な関係の内部における秩序維持のため，その内部に属する者に対して一定の制裁を科すること。国の一般統治権に基づいて科せられる刑罰*と区別される。私企業における懲戒は，使用者が，職場の秩序維持や企業の生産性向上，その他信義則に違反した者に対する制裁として労働者に一定の不利益を課し，兼ねて他戒の目的を遂げるためのものである。この場合，原則として懲戒事由を就業規則*に掲げなければならない。一般職の国家公務員・地方公務員が，その服務上の義務に違反した場合には免職・停職・減給・戒告の懲戒処分がある。懲戒処分は，任命権者の判断により一定の手続きを経て行なわれる。公共企業体の職員についても懲戒の制度がある。以上いずれの場合にも懲戒処分を具体的に適用したときは，客観的基準に従い，その妥当性が評価され，これを欠くときはその処分は無効とされる。　〔黒瀬信子〕

ちょうかいせいじ　**【鳥海青児】**　(1902～1972)　洋画家。神奈川県の生まれ。関西大学卒業。在学中から春陽会に出品，1930(昭和5)～1933年滞仏，帰国後春陽会会員となったが，1943年独立美術協会会員に移った。中国・インド・エジプト・中南米と画材を求めて旅をし，暗い調子と絵の具を盛り上げる独特の手法でわびた詩情の芸境を生む。

ちょうかきんむてあて　**【超過勤務手当】**　⇨時間外労働

ちょうかく　**【聴覚】**　音波の刺激に対する感覚。こん虫類や脊椎(せきつい)動物に発達する重要な感覚である。哺乳(ほにゅう)類では外耳からはいった音波が鼓膜を振動させ，中耳の耳小骨によって内耳に伝えられ，リンパからさらに基底膜を介してコルチ器官の有毛細胞という受容細胞を刺激する。この刺激が蝸牛(かぎゅう)神経を通じて脳に伝えられて音の感覚が起きる。こん虫類では，鼓膜器官*や弦音器官などによって知覚される。➔聴力

ちょうかく　**【張角】**　(？～184)　中国，後漢末の農民反乱の中心人物。道教教団の最も古いものに属する太平道を主唱し，みずからは大賢良師と称し，呪術(じゅじゅつ)的な病気治療を行なって多くの信者を得た。そして，河北一帯に三十六方とよばれる軍事的な教会組織をつくりあげ，184年には漢王朝の打倒を叫んで黄巾(こうきん)の乱*を起こした。結局皇甫嵩(こうほすう)や曹操*(そうそう)らによって鎮圧されたが，後漢王朝の崩壊はこの乱によって決定的となった。

ちょうがくりょう　**【張学良】**　チャンシュエリャン　(1898～　)　満州(中国東北部)の軍閥。張作霖*(ちょうさくりん)の長男。1928年の作霖の爆死後，東北の実権を掌握し，全東北を国民政府のもとに統一した。日本の侵略に際し，蔣介石*(しょうかいせき)の対日妥協を不満として内戦停止・一致抗日を要求したがいれられず，1936年12月西安事件*を起こして第2次国共合作への道を開いた。のち，蔣に捕えられて監禁され，台湾に移された。

ちょうかこう　**【張家口】**　チャンチャコウ　中国，河北省西北部の都市。人口約50万。万里の長城に沿い，中国内地と内モンゴルを結ぶ要地である。15世紀にモンゴル族防御のため城堡(じょうほ)が築かれたのが市の起源で，明(みん)・清(しん)時代を通じて対モンゴル貿易の拠点となった。西洋人はカルガンといい，蒙古語の〈門戸〉を意味する。京包鉄道(北京(ペキン)～包頭(パオトウ))沿線の地方的商業都市であったが，近年，大規模な機械製造工場などが設けられ，工業地として面目を一新した。　〔日比野丈夫〕

ちょうカタル　**【腸カタル】**　⇨腸炎

ちょうかん　**【澄観】**　(738～839)　中国，唐代の僧。華厳宗(けごんしゅう)第4祖。清涼(しょうりょう)大師・華厳菩薩(ぼさつ)といわれる。越州の人。律・華厳・三輪・天台・禅をきわめ，外典にも通じ，特に法蔵*の正統華厳教学を重んじて，これを復興した。五台山の華厳寺*で華厳を講じ，《四十華厳》の翻訳に従い，またその注釈書を著わした。おもな著は《華厳経疏(しょ)》《随疏演義鈔(しょう)》などがあり，華厳を中心に天台・禅の説を取り入れ，諸教融合の説を立てた。弟子(でし)に宗密*がある。　〔石井修道〕

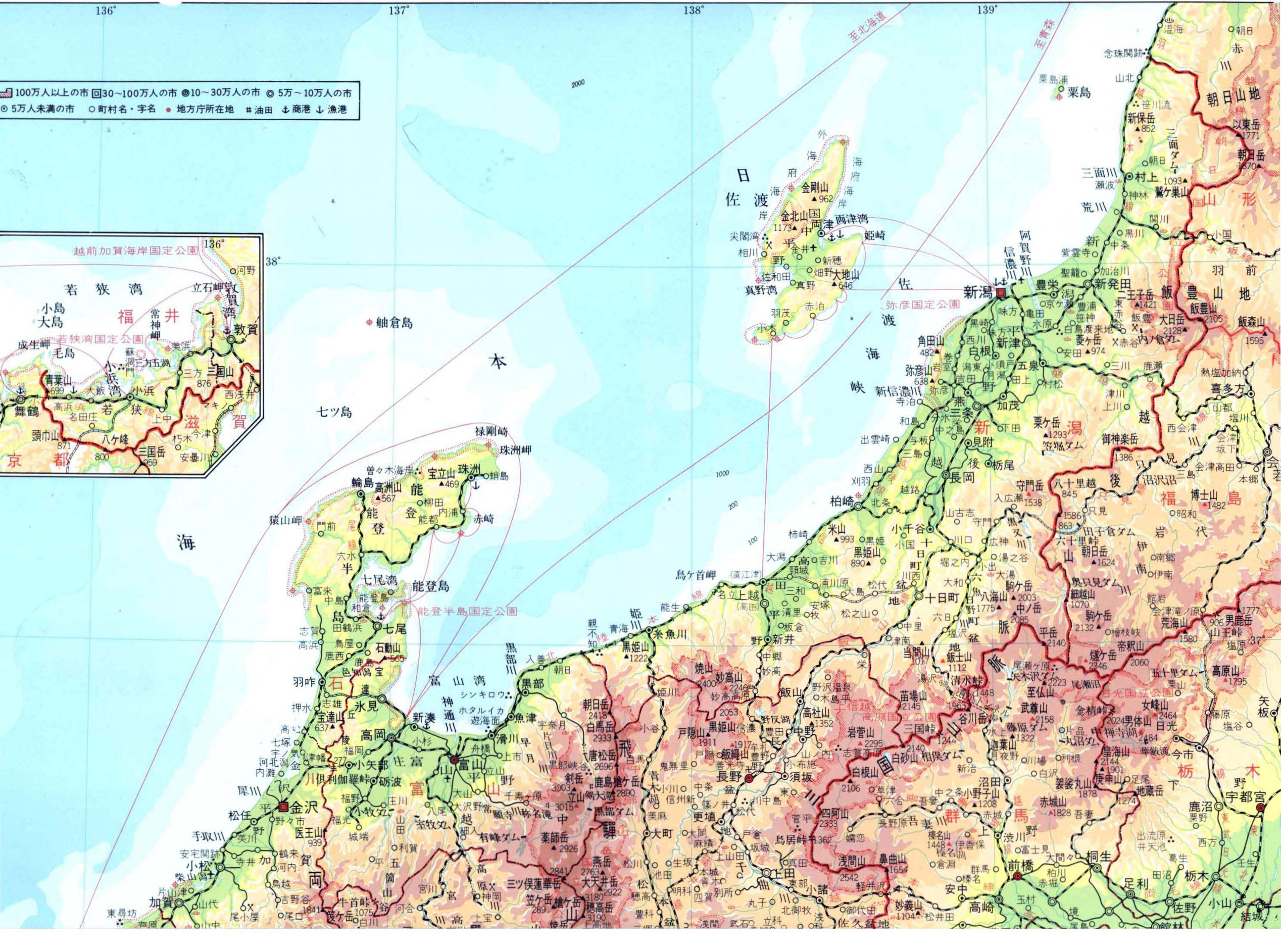
ちょうかんたいせいぶつ　**【潮間帯生物】**　海岸の潮の干満(潮汐(ちょうせき))で空気中に露出したり海水につかったりする場所を潮

➔409ページ

中部地方



太平洋
遠州灘
熊野灘
駿河湾
相模灘
伊勢湾
三河湾
伊豆諸島
伊豆半島
大島
利島
鵜渡根島
新島
式根島
神津島
三宅島
大野原島
御蔵島
神子元島
石廊崎
富士山
赤石山脈
名古屋
静岡
浜松
豊橋
岐阜
津
甲府
横浜
陸高と
水深(m)
2000m以上
1500
1000
500
200
100
0
100
200
1000
000m以中
1:1,500,000
0
20
40
60
80
100km
137°
138°
139°



100万人以上の市 30～100万人の市 10～30万人の市 5万～10万人の市
5万人未満の市 町村名・字名 地方庁所在地 油田 商港 漁港
日本海
佐渡海峡
佐渡
両津
金北山
富山湾
能登半島国定公園
弥彦国定公園
越前加賀海岸国定公園
若狭湾国定公園
若狭湾
新潟
長岡
柏崎
上越
糸魚川
富山
高岡
金沢
小松
七尾
輪島
珠洲
長野
上田
前橋
高崎
宇都宮
福井
敦賀
小浜
舞鶴
七ツ島
舳倉島
粟島
朝日山地
飯豊山地
越後山脈
飛驒山脈
日光国立公園
上信越高原国立公園
至北海道
至青森

間帯といい，そこに生活する生物を潮間帯生物という。潮間帯は乾燥・温度・塩分濃度・光・波浪などの変化が大きく，また陸上からたえず多くの栄養分が補給されるため，多数の動植物が特異な形で適応して生活している。動物では一般にカキ・フジツボ・イソギンチャクなど波浪に対して抵抗できるように岩にくっついていたり，イソガニ・ムラサキウニのように穴の中に隠れたりしている。亜熱帯から熱帯にかけてはサンゴ礁が発達し，そこでは独自の生物相をもっている。〔松本忠夫〕

ちょうかんまく【腸間膜】 腸と腹腔(ふくこう)後壁との間に張られている扁平(へんぺい)で透明に近い膜。2重の腹膜からなり，腸管に分布する多数の血管や神経などが走っている。腸の一部を固定しているが，腸間膜を欠く部位もある。すなわち，腸間膜が後腹壁に付着しているところを腸間膜根という。これは直線に近く，第2腰椎(ようつい)の左側から始まって，右下方に延びて右の腸骨窩(ちょうこつか)に達している。

ちょうぎ【張儀】 (？～BC309) 中国，戦国時代の遊説家。蘇秦(そしん)とともに縦横家の鬼谷先生に学んだが，蘇秦の合縦策(がっしょうさく)に対して，東方の六国(りっこく)をそれぞれ秦に結びつける連衡策を主張した。秦の恵王のもとで宰相となり，六国を説いて合縦策を破ることに成功した。しかし，のちに六国が連衡策にそむき，秦からも追われて，魏(ぎ)の宰相として死んだ。

ちょうきぎかい【長期議会】 イギリス国王チャールズ1世が短期議会解散後1640年11月に召集した議会。この議会で議会派が優勢を保ち，絶対王政を打破するための法律を次々に制定した。王は議会の指導者を反逆罪で逮捕しようと議会に軍隊を入れたが失敗した。これを機にイギリスはピューリタン革命に突入し，議会から脱落した王党派は第2次内乱を起こしたが，議会派によって鎮圧され，革命は成功した。それとともに長老派と独立派の対立，独立派と平等派の対立が決定的となるが，独立派はプライドを追放して独立派のみの議会(残部議会)を開催，その一方平等派の弾圧を強行した。〔松下京子〕

ちょうきしんようぎんこう【長期信用銀行】 長期設備資金および長期運転資金の供給を専門とする金融機関。1952年(昭和27)制定の長期信用銀行法に基づき設立された金融機関で，戦前の特殊銀行に類似するが民営である。現在，日本興業銀行・日本長期信用銀行・日本債券信用銀行の3行があり，資本金および準備金の合計額の20倍まで債券の発行が認められている。この債券は金融債の一種で利付き債(満期5年)と割引債(満期1年)の2種類がある。〔速水　保〕

ちょうきゅうれい【張九齢】 (673～740) 中国，唐の玄宗朝の宰相。広東(カントン)省曲江県の人。科挙官僚体制を擁護して，門閥貴族出身の宰相李林甫(りりんぽ)と対立，失脚した。文学者としても名高く，《曲江集》20巻などの文集がある。



丁　銀　元禄丁銀
1696年発行

ちょうきょういん【趙匡胤】 (927～976) 中国，宋(そう)の初代皇帝で，宋以後清(しん)末に及ぶ独裁君主体制の基礎を固めた。太祖。五代後周の世宗の部将。960年，世宗が死ぬと，配下の将兵に推されて即位し，国号を宋と改め，国都を開封に置いた。複数の宰相を置き，禁軍(近衛(このえ)軍団)を3部隊に編成して，中央権力の分散をはかり，地方にあっても，節度使の軍事・財政権を奪い，州県の長官には文官を派遣し，また科挙の制を改めて天子が試験官となる殿試を加え，茶塩などを専売にするなど，徹底した中央集権策を進める一方，北漢・呉越を除く五代の諸国を平定したが，天下統一の直前に没した。〔勝村哲也〕

ちょうきょせい【超巨星】 ヘルツスプルング-ラッセル図上で，巨星列よりもさらに明るいところにのる恒星。半径は太陽の数十倍から1,000倍。質量の大きい主系列の星が進化したものと考えられている。アンタレスはこの例で，半径が太陽の500倍，太陽の位置に置くと火星の軌道をも含んでしまうほどである。

ちょうきょせい【張居正】 (1525～1582) 中国，明(みん)代の政治家。1547年の進士。1572年，万暦帝の即位とともに首席大学士として宰相の位につき，以後10年間政治を独裁した。満州(中国東北部)・モンゴルをおさえ，内政面では行政整理，冗費節減，宦官(かんがん)勢力の抑制に加えて，財政安定と負担均衡を意図した戸口調査・検地を断行し，〈張居正の条量〉とその評価が高いが，改革途上で没した。彼の厳格な革新政治は，王安石の新法同様，地主階級からの批判もまた多かった。〔藤島建樹〕

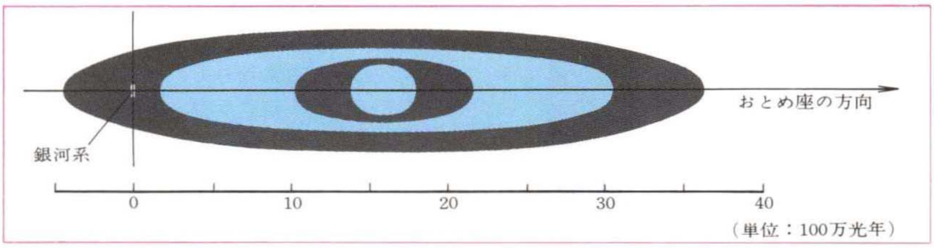
ちょうぎょたいぜん【釣魚大全】 イギリス17世紀の随筆家・伝記作家アイザック-ウォールトンの著書(1653)。つりの話と銘うってはいるが，むしろ本書の魅力は詩句を交えた文人ふうの文体と，牧歌的自然に親しむ著者の素朴(そぼく)な人がらにある。

ちょうきよほう【長期予報】 1～2日さきの天気予報を短期予報というのに対して，さらにさきの天気を予報すること。その中でも，5日までのものを半旬予報，10日までのものを旬日予報，1か月さきまでのものを1か月予報などという。また，一定の季節の予報は季節予報という。なお，短期予報の延長と考えられる数日さきまでの予報は延長予報というよび名もある。延長予報は天気を支配する高低気圧・前線・トラフなどの動きを過去の位置から追跡し，将来に延長してみて予報を行なうのであるが，最近では，大気の運動方程式系をコンピューターを用いて数値的に解明する数値予報法が発達しており，この方法による長期予報の開発も世界的に研究されている。しかし，1か月予報・季節予報などは，過去の統計的知識に基づく以外にいまのところ方法がない。一般的にいって，長期予報では，大気大循環論の法則，極気団の動向，海洋や成層圏の影響など天気の変化に関与すると思われる因子を探究して，予報精度を改善する方法がとられているが，現在なお不十分な状態にある。〔曲田光夫〕

ちょうきん【彫金】 鏨(たがね)で金属面に文様などを線刻または彫出する技法。鏨の用法によって，毛彫(けぼり)・透彫(すかしぼり)・片切彫・高肉彫・肉合彫(ししあいぼり)のように，鏨を金属に彫り込んで文様などを表現する場合と，鏨を金属面に打ち込んで文様を施すななめくり彫・魚々子(ななこ)などがある。鏨で彫り込んだり打ち込んだりした部分に異種の材質を埋め込む象嵌(ぞうがん)法なども，広い意味の彫金にはいる。彫金技法の歴史は古く，中国では周代の金工遺品に彫金技法を用いたものが散見されるが，わが国では古墳時代にはいってはじめて武器・武具・馬具などに彫金の作例が現われる。この時代に特に盛行した彫金法は透彫で，鞍(くら)・杏葉(ぎょうよう)などの馬具に遺品が多い。応神天皇陵から発掘されたと伝えられる，誉田八幡宮(こんだはちまんぐう)の《金銅透彫鞍金具》(国宝，二具分)はこの種遺品中の代表作である。〔河田　貞〕

ちょうぎん【丁銀】 江戸時代の銀貨の一。室町後期から銀塊に極印を打ち通貨として流通し，江戸時代には銀座がそれを鋳造・発行を独占した。形は細長い楕円(だえん)で不整いであり，なまこ形をしていることから俗に〈なまこ〉と称された。目方は約43匁(151.25 g)で一定しない。常是・大黒天像・宝などの極印があった。慶長銀から政字銀(安政銀)まで11種あって，材料は銀と銅を用いた。その比分は慶長銀・享保銀の銀80・銅20を最良とし，政字銀の銀13・銅87が最悪とされた。秤量貨幣(ひょうりょうかへい)として通用したが，普通は本両替屋で紙包みにして封印を施し，目方を表示したものが取引された。〔松尾　涼〕

ちょうぎんがけい【超銀河系】 無数の恒星が銀河系をつくっているように，銀河



超 銀 河 系 体系の空間分布図

*系を含む数多くの銀河系外星*雲が，直径5,000万光年，厚さ数百万光年の円板状に集まっている集団をいう。その中心はおとめ座星雲団の方向にあり，銀河系は中心から約2,000万光年離れ，秒速1,000 km の速度で中心のまわりに回転していると推定されている。

ちょうくん 【張勲】 チャンチュン（1854～1923） 中国，北洋派の軍人，君主主義者。字（あざな）は少軒，江西省奉新県の人。辛亥（しんがい）革*命のとき，南京（ナンキン）の防衛を担当したが革命軍に敗れ，第二革命では袁世*凱（えんせいがい）の配下にあって南京攻略を果たした。1917年大総統黎元洪（れいげんこう）が総理段琪瑞（だんきずい）を免職した機に乗じて北京（ペキン）に侵入し，同7月1日廃帝溥*儀（ふぎ）を擁立して清朝（しんちょう）の再興を図った。これは10日余りで失敗し，以後政治舞台から退き，天津（てんしん）で没した。〔狭間直樹〕

ちょうけいかいどう 【長形会堂】 長堂式教会堂ともいう。ローマ時代のバジリ*カを祖形とし，会堂の主要部分が東西に長く軸をとる平面形式のものをさし，集中式教会堂（円・正多角形のような点対称型の平面形式）と対比される形式。ふつう3列から5列の柱廊からなり，中央の身廊を明るくするため，身廊の天井を側廊よりも高くし，高窓から採光する。身廊には信徒の席が設けられ，側廊は身廊での礼拝儀式を妨げずに通行できる通路とされる。西ヨーロッパでは会堂の長軸が東西にとられ，西を入り口とし，東端に内陣・祭壇が設けられ，信徒が祭壇に向かうとき，おのずから東方のエレサレムに向かって礼拝できるように計画された。初期の長形会堂は，単純な長方形平面で，西端の祭壇部に半円形に張り出したアプ*スとよばれる後陣がつくだけであったが，教会儀式の荘厳化が進むにしたがって内陣部が拡大され，身廊と直角に交差するトランセプトとよばれる袖廊（そでろう）（または交差廊）がつき，ラテン十字形平面をとるのが普通になった。〔渡辺保忠〕

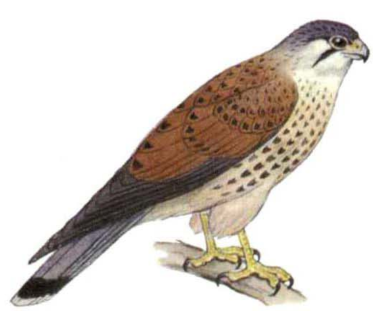
ちょうけいてんのう 【長慶天皇】（1343～1394） 在位1368～1383年。南*朝第3代の天皇。名は寛成。後村上天皇の第1皇子。母は嘉喜門院（かきもんいん）。吉野（よしの）の行宮で出生したが，その後父帝に従って各地の行宮を転々とし，1368年（正平23・応安1）父帝のあとを受けて摂津（大阪府）住吉の行宮で即位した。在位中は楠木正*儀（くすのきまさのり）の



長 形 会 堂 サン・ミニアト教会堂（イタリア，フィレンツェ） 長形会堂に特有な正面の形。中央の身廊部が左右の側廊部より高い



長　絹



チョウゲンボウ

離反など南朝方不振の中を，吉野・金剛寺・栄山寺の諸行宮に移り，1383年（弘和3・永徳3）後亀山（ごかめやま）天*皇に譲位，落飾した。好学の念が深く，戦乱中《仙源抄（せんげんしょう）》などの著述がある。天皇の即位は長い間認められなかったが，新史料の発見により，1926年（大正15）詔によって皇統*譜に加えられた。崩御地・陵墓も明らかでない。〔高崎徳次〕

ちょうけっかく 【腸結核】 結核*菌の感染による腸の炎症。肺に空洞（くうどう）をもった肺結*核患者に起こることが最も多く，肺結核で死亡した者のうち50～90%は腸も侵されていることが明らかにされている。肺結核時に結核菌を含む痰（たん）を飲み込むことによって起こるものが大部分で，そのほか血液中に運ばれてきた結核菌がリンパ組織の多い腸の部分で増殖する場合が考えられている。消化管における結核の病変は，回腸の末端，盲腸および上行結腸が最も多く，他の部分を侵すことは比較的少ない。病理学的には，潰瘍（かいよう）を形成する型と増殖を主とする型に分けられるが，大部分は前者である。症状は腹部の不快感，嘔気（おうき），食物の逆流で発症する。病変が広がり大腸に達すると下痢を頻発（ひんぱつ）し，しばしば発熱・腹痛を伴う。結核患者にこのような症状を認めたときは腸の感染を疑うことが肝要である。治療には抗結核剤を用いるが，適当な治療により予後は一般に良好である。必要により外科的に切除する場合もある。〔佐野隆志〕

ちょうけん 【長絹】 ①室町時代から武家の少年が公服として着用した水*干形式の衣服。鞍馬（くらま）寺に蔵する牛若丸像の姿が当代の服である。②公家（くげ）の白色の狩衣（かりぎぬ）。③公家の少年が平時に小袖（こそで）に着用する袴（はかま）。白袴に黒の菊綴（きくとじ）が加わっている。

ちょうけん 【張騫】（？～BC114） 中国，前漢の西域探検家。武*帝は匈奴（きょうど）を攻撃するため，イリ川流域の強国月氏との同盟策をたて，BC139年，張騫を使者として派遣した。そのころ月氏はオグズ川北に移動して大月*氏国を建てており，129年に彼が同国に至ったときには，匈奴を撃つ意志はなかった。こうして同盟策は失敗したが，彼は西域諸国の知識をはじめて中国にもたらし，武帝の大規模な西域経営を誘発させた。

ちょうげん 【重源】（1121～1206） 鎌倉初期の浄土宗の僧。俊乗坊という。醍醐（だいご）寺で密教を学んだのち，法*然に師事して浄土教を学ぶ。1167～1176年（仁安2～安元2）の間に3度入宋（にっそう）し，天台山をはじめ諸寺を尋ね，土木建築の技術を習得。1181年（養和1）東大寺勧進職に補せられ，周防（すおう）（山口県）の国司となった。諸国勧進のかたわら，民衆を教化し，社会事業を推進。東大寺の完成，荘園（しょうえん）の獲得をはじめ，鎌倉初期の美術の発展，南都仏教の復興に貢献した。〔玉山成元〕

ちょうげんぼう 【長元坊】 鳥類・ハヤブサ科。全長33～38cm，尾長15～18cmで，

尾は長い。雄成鳥は頭上・尾が灰色，尾の先に黒帯があり，他の部分がかっ色で美しい。雌と幼鳥は全体にかっ色に富む。農耕地や傾斜のゆるい山地などでおもに小獣類やこん虫類を捕えて食べる。冬季は農耕地での探索飛行をよく見かける。獲物を見つけると，尾羽を広げて飛び，垂直に舞い降りて捕える。川べのがけの穴で営巣することが多く，長野県中野市の十三崖(じゅうさんがけ)は集団営巣地として天然記念物に指定されているが，その数は減っている。

ちょうこう　【長江】 ⇨揚子江

ちょうこう　【超高】 中国，秦(しん)の始皇帝*に仕えた宦官*(かんがん)。始皇帝が没したとき，偽詔をつくって2世皇帝に末子の胡亥(こがい)をたて，のち李斯*(りし)・蒙恬*(もうてん)ら功臣を殺し，〈馬をさして鹿(しか)となす〉などと愚弄(ぐろう)して，2世皇帝を殺害したが，次に擁立した子嬰(しえい)に殺された。

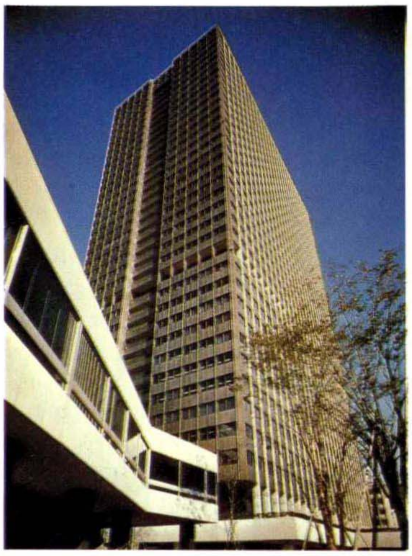
ちょうごう　【調号】 ⇨調性

ちょうこうごうきん　【超硬合金】 一般にタングステンカーバイドにコバルトを加えて焼結した合金をいい，粉末冶金(やきん)法によって製造される。ほかにチタンカーバイド・タンタルカーバイドを主体とするものもある。これらの炭化物は高温かたさがきわめて高いがもろい欠点があるので，結合金属としてコバルトなどを加えて焼結させることにより靭性(じんせい)を保持させる。超硬合金はおもに工具として使用され，鋳鉄・鋳鋼製品・特殊鋼などの切削工具に用いられ，切削能率の向上に役だっている。ほかに金属引き抜き加工用ダイス，耐熱材・耐摩材として広く利用されている。〔草川隆次〕

ちょうこうそうけんちく　【超高層建築】 一般的には，地上100m(約30階建て)以上の建築物。地震国のわが国では明治以来建築基準法*による高さの制限(地上100尺＝約31m)があったために，超高層ビルの出現は1965年(昭和40)の東京霞が関(かすみがせき)の官公庁街につくられた霞が関ビルディングにその暁をみるまで，すべての建物は31m以下であった。欧米諸国，特にアメリカ合衆国では，資本主義の伸長とともに1880年代には北部の諸都市(ニューヨーク・シカゴ・バッファロー)を中心として，いわゆるスカイスクレーパー(摩天楼)時代を迎え，その極はエンパイア-ステート-ビル*に代表されるように，諸都市のスカイラインを変貌(へんぼう)させていった。

超高層ビルの出現の意義を探ってみると，都市計画に関連して土地・空間の有効的な利用と，構造・施行・防災などの技術面の向上の2点に絞られてくる。特にわが国のような地震国においては，技術の歴史はそのまま耐震構造の歴史と考えてもよかろう。19世紀末，資本主義の発展によってアメリカ合衆国の諸都市では急激な人口膨張が続き，都心部においては土地・建物が有利な投資の対称となり，建築物の高層化が追求された。それまでの石造またはれんが造に代わって，新しく鉄骨造が登場し，サリバン*を中心としたシカゴ派の建築家らがシカゴ・ニューヨーク・バッファロー・ペンシルベニアなどで，次々と新しいスカイスクレーパーを競った。おもなものを列記すれば次のとおりである。1907年シンガー-ビル(ニューヨーク，48階，186m)，1913年ウールウォース-ビル(ニューヨーク，55階，231m)，1925年シカゴ-トリビューン-タワー(シカゴ，33階)，1930年マンハッタン-カンパニー-ビル(ニューヨーク，71階，278m)，1931年エンパイア-ステート-ビル(ニューヨーク，102階，381m)。1932年R.C.A.ビル-ロックフェラーセンター(ニューヨーク，70階，259m)。これらは，初期の超高層ビルの代表的なものであるが，1930年代の世界経済の大恐慌と第2次世界大戦勃発(ぼっぱつ)により超高層ブームも終わりを告げ，その後20年の空白時代を経て，新しい超高層ビル建設のラッシュは1950年代に現われる。すなわち，これまでに開発された技術の上にカーテンウォール構造*・H形鋼*・プレハブ建築*などの技術の飛躍的な進歩により，そのデザインを一新した超高層ビルがニューヨークをはじめとした中心地区，あるいは都市機能を再開発する地区などに次々と建設された。そのおもなものは次のとおりである。1950年国際連合ビル(ニューヨーク，39階，152m)，1951年アルコア-ビル(ピッツバーグ，30階，125m)，1951年レイク-ショア-ドライブ-アパート(シカゴ，26階，70m)，1972年ワールド-トレード-センター-ビル(ニューヨーク，110階，412m，日系2世ミノル-ヤマザキ設計)。これら新しい時代の超高層ビルは土地の有効利用の方法として建物を高層化することによる建物の容積を変えずに，都市環境を広場・グリーン-スペースなど公共空間に提供することによって，よりよい都市生活の場をつくろうとするものである。ヨーロッパでも，第2次世界大戦後，その経済力復興とともに西ドイツ・イタリア・北欧諸国・ソ連などに超高層建築が生まれ，メキシコ・南アメリカ・オーストラリアなどにもこの波が押し寄せていった。

わが国において，長い間超高層建築に踏み切れなかった最大の原因は，耐震構造の考え方にあった。つまり，いままでの剛構造は地震に対しては仁王(におう)立ちとなって，あくまでがんばる考え方であった。それに対してその後開発された柔構造は柳に風と受け流す方式で，最近では建築に関する諸問題のかなりの部分がコンピューターによって解析されるようになったため，わが国でも超高層建築が可能になった。また，都市計画的には，東京を中心として都市に人口と産業の中枢が集中し，都市機能を再構成する必要に追い込まれている。都市再開発の手段として，1964年(昭和39)建築基準法が改正されたが，その最も重要な点は建物の大きさを従来の高さの制限によらずに容積地区(敷地面積に対する建物の延べ床面積の割合)制度にすることにあった。すなわち，超高層ビル建設の意義は良好な環境と健全な形態を有する建築物を建設し，あわせて有効な空地を確保することによって市街地の整備を図ろうとするものである。これらの意図に沿って，東京に建設される超高層建築もおいおい増加していくものと思われるが，すでに建設されたものと計画決定のものをあげると次のとおりである。1968年霞が関ビル(虎ノ門(とらのもん)，36階，147m)，1970年貿易センター(浜松町，40階，152m)，1971年京王プラザホテル(新宿，47階，169m)，国際通信センター(計画決定，新宿，32階，170m)，住友ビル(計画決定，新宿，52階，215m)，東邦ビル(計画決定，渋谷(しぶや)，32階，136m)，ホテルニューオータニ(計画決定，四谷，36階，135m)などで，わが国の超高層建築の暁として種種の面で注目を集めている。〔内藤浩市〕



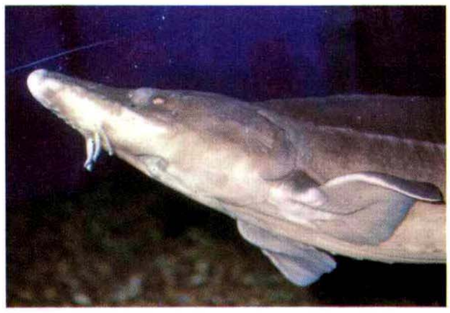


超高層建築
(左)霞が関ビルディング(東京都) わが国の超高層建築のさきがけとなった　(右)京王プラザホテル(東京都)　副都心新宿にそそり立つ

ちょうごうペイント　【調合ペイント】　ボイル油・顔料・希釈剤および乾燥剤からなり，そのままはけで塗装できるように調整された塗料。目的や用途によって異なったボイル油が使用され，建物の内外部の上塗り，つや消し，木部の下塗りなどの用途に大別される。この塗料は作業性がよく，塗膜が厚くつく利点があるので建築物・橋梁(きょうりょう)・車両・船舶上部構造物の塗装などに広く用いられる。しかし，乾燥時間が長く，はけ目が多い，チョーキングも比較的速くアルカリに弱いなどの欠点があるため，合成樹脂の発達した現在では，長油性フタル酸樹脂ワニスと少量のボイル油を配合した合成樹脂調合ペイントを用いてその欠点を補っている。　〔鈴木荘司〕

ちょうこく　【彫刻】　かたい材料(石・木など)を彫り刻んで,像を三次元的に表現する美術，またはその作品。展性のある金属の打出彫もある。広義では，粘土・ろうなど，柔らかい材料でかたどった塑像も含むから，彫塑ともいう。塑像は，長もちするように鋳型にとられ，青銅などの鋳像となり,テラコッタ*のように焼いてかたくされる場合もある。見上げるような巨像から，小さいものはタナグラ人形*，それにメダル・カメオ*などの工芸の分野に及ぶものもある。古い例は，旧石器時代の野牛像，ビレンドルフの，いわゆるビーナスなどがある。彫刻は大別すると丸彫と浮彫*になるが，浮彫には平面に像の肉を盛り上げたように彫ったもの(陽刻)，肉の盛り上がりの高(厚)いもの,低(薄)いもの,彫りくぼめたもの,沈み彫(陰刻)などがある。浮彫は肉が高くなるにつれて丸彫に近づく。

彫刻の特質は，彫像の生み出すイメージと，材料の性質，どっしりした量感，ときには光の変化に伴う明暗の効果や輝き，空間の広がりなどがとけあうところから生まれる。彫刻に自律的原理を求めることはむずかしい。彫像を力学的に組み上げる構築的要素は，純粋抽象の構成主義*などばかりでなく，写実的人体像の場合でも重要で，比例・バランスなどの基礎となっている。一方，肖像彫刻は，多色彩色などによって再現性が強まり，浮彫は肉を極端に薄くすることによって二次元的になり，遠近法的空間をも表現して，絵画に近づくこともある。彫刻は，記念建造物において建築と融合する。インドの寺院などにその例が求められる。柱頭なども含め，部分として奉仕する建築彫刻(中世の教会堂のものなど)，破風(はふ)彫刻(パルテノンのものなど)，礼拝の対象としての単一の神像や聖者像，皇帝や偉人・先祖などを記念した騎馬像や肖像・墓碑など，いずれもある観念・思想のもとに長く世に伝えられるようにとの願いをこめてつくられ，理想的・象徴的価値が与えられている。主題は，圧倒的に人体が多い。彫刻を置く場所も，小彫刻の場合などは別として,綿密に計画される。さらに台座や壁龕(へきがん)なども，彫刻家によってあらかじめ考慮されるのが普通。〔宍戸　直〕



チョウザメ

ちょうこつ　【腸骨】　⇨寛骨

ちょうこっかしゅぎ　【超国家主義】　⇨ナショナリズム

ちょうこほうじけん　【張鼓峰事件】　第2次世界大戦直前に起こった日ソ間の軍事衝突事件の一。1938年(昭和13)7月，ソ満国境の張鼓峰でソ連軍が陣地構築を行なったのに対して日本軍が攻撃をかけ，ソ連軍の反撃にあって1個師団がほとんど全滅の危機にさらされた。8月11日に至り,モスクワにおいて重光葵(しげみつまもる)大使とリトビノフ外務人民委員との間で停戦協定が締結され，いちおう危機は回避された。

ちょうごんか　【長恨歌】　中国，唐代の詩人白居易*の長編古詩。806年の作。時代を漢代として歌っているが，実は唐代，玄宗と楊貴妃(ようきひ)の史実を題材としたもの。玄宗が楊貴妃を寵愛(ちょうあい)した結果，失政多く，安禄山*(あんろくざん)の乱が起こり，玄宗は蜀(しょく)に亡命，途中，馬嵬(ばかい)で群臣に迫られて楊貴妃を絞殺させた。その後,玄宗は楊貴妃をしのび，楊貴妃は蓬莱(ほうらい)宮で玄宗を思い，長き恨みを続けたという。当時，人々に愛唱され，《長恨歌》が歌える歌妓(かぎ)は，報酬を余分に得たという逸話がある。白居易の友人の陳鴻(ちんこう)がこの物語《長恨歌伝》を書いている。日本にも伝えられ，《源氏物語》をはじめ日本文学に与えた影響は大きい。なお，玄宗と楊貴妃の恋愛の話は後世，戯曲・小説のよい題材となった。　〔今村与志雄〕

ちょうさい　【張載】　⇨張横渠(ちょうおうきょ)

ちょうさいるい　【腸鰓類】　原索動物・擬索綱・腸鰓目。ギボシムシなどの数少ない種類を有する動物群。体は数十cm。細長い円筒形で，左右相称。吻(ふん)・襟(えり)・胴の3部に区分され，胴の前部には鰓域があり，鰓孔が2縦列をなしている。鰓孔は外部と腸管とにつながるため，腸鰓類の名がある。胴部にはほかに生殖域・肝域・肛尾域(こうびいき)などが区別される。吻・襟には内腔(ないこう)があり，外と小孔でつながっている。雌雄異体で，発生過程でトルナリア幼生とよばれる段階を経る。吻・襟の内腔やトルナリア幼生の形態が棘皮(きょくひ)動物の水腔や幼生に類似するので，棘皮動物に近いと考えられているが，鰓孔の存在や脊索(せきさく)状盲管を有することなどから脊椎動物との中間である原索動物に含められている。すべて海産で，沿岸浅海域の泥底(でいてい)に多くみられ，U字形のトンネルを掘ってすむ。干潮時には糞塊(ふんかい)の堆積(たいせき)をみることができるが，体が切れやすいので完全な標本を得ることはむずかしい。　〔向井　宏〕

ちょうさくりん　【張作霖】　(1875～1928)　中国，奉天派軍閥の頭目。字(あざな)は雨亭(うてい)，遼寧(りょうねい)(奉天)省海城県の人。貧困のうちから身を起こし，馬賊に投じて日露戦争ごろから頭角を現わした。1917年には奉天省をおさえ，次いで吉林(きつりん)・黒龍江(こくりゅうこう)・熱河省を手中にした。第2次奉直戦争で呉佩孚(ごはいふ)を破って華北・華東・上海(シャンハイ)にも勢力を伸ばしたが，また力を失った。のち1926年安国軍総司令となって北京(ペキン)政府を支配し，翌年には軍政府を組織したが，蔣介石*(しょうかいせき)の第2次北伐*に対抗しえず，奉天へ帰還の途上，1928年(昭和3)6月4日，関東軍により列車を爆破されて死亡した(→南満州鉄道爆破事件)。死後，東三省の地盤は子の張学良*に引き継がれた。　〔狭間直樹〕

ちょうざめ　【鱘鮫・蝶鮫】　チョウザメ目・チョウザメ科。軟骨魚と硬骨魚の中間に位置する硬鱗(こうりん)魚類で，体の表面には5縦列のかたくて大きなうろこが並ぶ。骨格はほとんど軟骨性。吻部(ふんぶ)には2対のひげがある。口は下位で，歯はない。鼻孔は両側に2個ある。大きさは1.5mぐらいになる。近縁種は世界の温帯から寒帯にかけて生息しているが，チョウザメは本州北部からサハリン(樺太(からふと))にかけて分布する。通常は海で生活しているが，春の産卵期には北海道の河川に遡河(そか)し，水草などに粘着卵を産みつける。1尾の産卵数は80～240万粒で，卵は1週間ぐらいで孵化(ふか)し，稚魚は秋まで河川に滞留する。チョウザメの肉も美味であるが，卵巣を塩蔵にしたキャビアは高価な食品として珍重されている。　〔谷内　透〕

ちょうさん　【逃散】　農民が，苛酷(かこく)な課税負担に耐えきれない場合や，領主への要求が受け入れられない場合，その居住地・耕作地を捨てて，他所に逃亡すること。古代班田農民の場合は，逃亡・浮浪などといわれたが，平安末期より逃散と称するようになった。南北朝時代以後激増し，しばしば強訴*と結びついて，その方法も集団化した。江戸時代にもあとを絶たなかった。

ちょうさんしゅう　【長三洲】　(1833～1895)　江戸末期から明治にかけての儒学者。本姓は長谷(はせ)氏，名は炗(こう)，字(あざな)は世章(せいしょう)。豊後(ぶんご)(大分県)の生まれ。広瀬淡窓の門に学び，のちに萩(はぎ)の明倫館講師に就任。1864年(元治1)，奇兵隊に

はいって外国船の襲撃を迎え撃ち，のちには正義党にくみした。さらに西郷隆盛*(たかもり)と会見し，萩藩と薩摩(さつま)藩との和平・協調に尽力するなど国事に奔走した。1868年(明治１)，討幕軍に加わり，奥羽に進撃し，維新政府の要職についた。特に木戸孝允(たかよし)に用いられ，孝允作成の公文書には三洲の手になるものが多いという。孝允なきあと役職を退き，悠々(ゆうゆう)自適の生活にはいった。漢詩や南画に親しみ，特に書法にすぐれて一家をなした。著書《三洲居士集》など。〔田上光治〕

ちょうざんれっとう【長山列島】 チャンシャン列島 中国，山東省旅大市に属し，遼東(りょうとう)半島東側の黄海上に点在する15の島嶼(とうしょ)からなる列島。別名を廟島(びょうとう)半島という。渤海(ぼっかい)の入り口北側にあり，付近の海域は漁場となっている。

ちょうし【調子】 音楽用語。①洋楽では調(→調性)のこと。②邦楽では，音高をさす。邦楽では，楽器の調弦法としてよく使われる。三味線(しゃみせん)の本調子，箏(そう)の平調子などがその例であるが，これらが①の場合に必ずしも一致しないのは，調弦法が音組織に便利になっているだけで，細部まで一致してはいないからである。また，一時的には，奏しにくくても，調弦をせずにすましてしまうことも多い。

ちょうし【銚子】 酒を入れて，杯につぐのに用いる儀式用の酒器。容器は金・銀のめっきを施した銅製のもの，または朱塗りの木製のもので，それに長い柄をつける。つぎ口が一つのものを片口，二つのものを両口(もろくち)という。《貞丈雑記》(1843年)には両口の銚子は略式で，古く宮中においては片口が用いられたと記されている。蝶(ちょう)形に折った紙で口を包むのがしきたりで，祝儀には山松・山橘(やまたちばな)を添える。銚子の一種に提子(ひさげ)があり，これは長柄の代わりにつる(さげ手)を付けた片口の鉄びん形のものをさす。現在では，燗(かん)徳利のことも銚子という。〔船石清香〕

ちょうし【銚子(市)】 千葉県北東端の市。人口93,000。港町として古い歴史をもち，江戸時代には漁業としょうゆ醸造が盛んで，東回り海運の開通後は北陸・東北・北海道と江戸を結ぶ物資の中継港となった。1933年(昭和８)市制施行。市域は太平洋に注ぐ利根(とね)川河口南岸から銚子半島にまたがる台地上に広がり，北は茨城県波崎町と相対し，南に九十九里浜を擁する。産業三大別人口比は17：31：52。市街中心部の飯沼(いいぬま)に築港された銚子港は沖合い漁業や遠洋漁業の基地となり，サンマ・カツオ・マグロの水揚げが多い。水産加工も盛んで，魚類かんづめ・かつおぶしなどの特産物がある。しょうゆの醸造は年産36,000〜54,000klで，野田市に次ぐわが国第２の大産地である。総武本線・成田線が通じ，銚子駅から半島南東端の外川(とがわ)まで銚子電鉄が走る。1962年に波崎町との間に銚子大橋(1,450m)(有料道路)が架橋されて，国道124号線と126号線とが結ばれた。太平洋に面して犬吠崎(いぬぼうざき)・屛風ケ浦(びょうぶがうら)などの景勝地があり，犬吠埼燈台・地球展望台・千葉大学臨海実験所・夫婦鼻(みょうとばな)無線信号局送信所などの施設がある。〔浅井得一〕



銚　子　菊桐蒔絵銚子　高台寺蔵

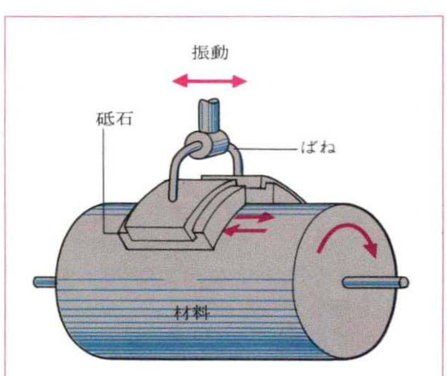


銚子市　利根川河口にある銚子漁港。遠景の橋は銚子大橋で，対岸の波崎町(茨城県)とを結ぶ。漁港では最近改修工事が進められている





チョウジ　右は香料にされる丁字



超仕上げ盤　砥石自身左右に振動しながら，さらに全体が材料上を往復運動する

ちょうし【張芝】 生没年不詳。中国，漢代の書家。字(あざな)は伯英。敦煌(とんこう)酒泉(甘粛省)の人。のち弘農(こうのう)(河南省)に移る。名門の出身であったが，終身出仕しなかった。平生，書を好み，池に臨んで池水ことごとく黒しという学書ぶりであった。杜度(とど)・崔瑗(さいえん)の章草のふうを受けて，草書において新書ふうを創始し，門人の韋誕(いたん)が彼を草聖と称したといわれる。また，一筆飛白書をよくしたともいう。今日，《淳化閣帖(じゅんかかくじょう)》に草書３帖，章草１帖が収められているが，確かな筆跡かどうか疑わしい。〔中田勇次郎〕

ちょうじ【丁子】 双子葉植物・テンニンカ科。モルッカ諸島原産の常緑高木。高さ10mに達する。葉は草質で光沢があり，長さ６〜10cmの披針(ひしん)形で，油点が散在する。花は白または淡紅色の４弁花。果実は長さ２cmの楕円(だえん)状の核果で，中に１個の種子を入れる。つぼみを干したものは丁子(丁香)・クローブといい，古くから利用された有名な香料で，菓子・料理・酒・化粧品などに用いられる。また，食欲増進薬・健胃薬・かぜ薬などに配合される。丁子からとれる丁子油は，上の用途のほか刀剣類のさび止めにも用いられる。

ちょうしあげばん【超仕上げ盤】 円筒状の工作物を回転させ，その表面に粒度が細かく，結合度の比較的小さい砥石を低い圧力で押しつけて，振動させながら送りを与えて表面を仕上げる工作機械。砥石が多方向運動をするため，きわめて短時間で作業が完了でき，また低圧・低速度で多量の切削剤を使用するので熱の発生が少なく，耐摩耗性・耐食性に富んだよい仕上げ面が得られる。

ちょうじが【超自我】 フロイトによって発明された精神分析上の用語。イド*，自我*と並んで精神を構成する一要素で，精神発達の過程でしつけや教育を介して個体に内在され，非人格化される社会的価値規範，善悪の評価規準をさす。〈良心〉の意味に近い。超自我は罪悪感の形で経験され，自我はこの超自我不安(罪悪感)に基づいて，本能的欲求・衝動の源泉であるイドを抑圧すると考えられる。ただし，あまりにも超自我が厳格すぎると，道徳的マゾヒズムとよばれる特異な人格像を呈する。〔北田穣之介〕

ちょうしけん【趙之謙】 (1829〜1884) 中国，清(しん)代の文人。字(あざな)は撝叔(きしゅく)。号は悔庵(かいあん)・悲庵，晩年に無悶(むもん)といった。浙江(せっこう)省紹興の人。官は

江西南城知県。書画・篆刻(てんこく)をよくした。書は顔真卿(がんしんけい)からはいり，北碑を学んで逆入平出の法により碑学派に新風を開き，画は花卉(かき)を得意として逸脱の気にすぐれ，篆刻は金石の妙を取り入れ清新な境地を開いて清の末期に重きをなした。著述に《六朝(りくちょう)別字記》《補寰宇訪碑録(ほかんうほうひろく)》《悲庵居士(こじ)文存》《悲庵居士詩賸(しょう)》《趙撝叔印譜》《二金蝶堂(にきんちょうどう)印譜》などがあり，また《仰視千七百二十九鶴叢書(かくそうしょ)》を集刻した。
〔中田勇次郎〕

ちょうしこじ【趙氏孤児】 中国，元代の戯曲。作者は紀君祥(きくんしょう)。《史記》や《説苑*(ぜいえん)》の故事を脚色したもの。春秋時代，晋(しん)国で，趙朔(ちょうさく)とその一族300人を殺した屠岸賈(とがんこ)は，趙朔の忘れ形見を捜索するため，晋国内の半歳以下，1か月以上の幼児すべてを殺そうとした。趙朔の恩を受けた程嬰(ていえい)は，自分の子をその身代わりに立てて，趙氏の孤児を守り，かたきを討たせるため苦心を重ねるというもの。程嬰がわが子を身代わりとするところは，日本の《菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかがみ)》の寺子屋の場面を想起させる。フランスの宣教師プレマール(1666～1736)によってフランス語に訳され，それに基づいてボルテールの戯曲《シナの孤児》が生まれた。〔今村与志雄〕

ちょうじそう【丁字草】 双子葉植物・キョウチクトウ科。草原の湿った場所にはえる多年草で，切り花に用いられる。根茎は長く伸びる。茎は直立して高さ40～80cm，上方に少し枝がある。葉は披針(ひしん)形で互生し，長さ6～10cm，幅1～2cm。5～6月，枝の先端に紺色の花を10～20個集散状につける。花冠の下部は筒状で，上部は5裂して平らに開く。果実は長さ5～6cmの細長い袋果である。

ちょうじつしょくぶつ【長日植物】 1日の日照時間が12時間より長いときに出穂開花の行なわれる植物。日本では四季の区別が明らかなので，春から夏にかけて出穂開花するものは長日植物といってよい。ムギ類・ダイコン・ニンジン・ホウレンソウ・トマト・バレイショなどがある。

ちょうじつしょり【長日処理】 長日植物に対して電球などで日照時間を延長し，自然条件よりも開花を促進する方法。タングステン電球・水銀燈・螢光燈(けいこうとう)が光源として用いられる。また，植物育成用ランプや陽光ランプなど特殊なものもある。

ちょうしどう【張之洞】(1837～1909) 中国，清(しん)末の政治家。河北省の人。中年から山西巡撫(じゅんぶ)，両広総督に任ぜられ，特に湖広(湖北・湖南)総督は18年間つとめた。フランス・日本の侵略に際して主戦論を唱え，国内的には西洋技術の導入による富強策を進めて，その功績により政界の重鎮となった。この開明的な富強策は清朝権力を擁護するための策で，当時の洋務運動*にほかならない。彼は《勧学編》で〈中学(中国の学問)を体とし，西学を用とする〉といって，中体西用論*を述べている。
〔西　順蔵〕

ちょうじゃたん【長者譚】 ある長者の栄華と没落を説く話。伝説・昔話として日本のすみずみにまで分布している。その種類には，長者の栄華の伝説を伴った〈長者屋敷〉，貧しい炭焼きが妻の福分にあやかって長者になる〈炭焼長者*〉，千町の大田植えを1日ですまそうと，西にはいる陽を金扇で招き返した罪によって，田が陥没して湖になる〈湖山長者の物語〉，長者が末期に近づいて金銀財宝を埋蔵し，〈朝日さし夕日かがやく樹のもとに黄金千両湊万杯〉といった歌を伴った〈朝日夕日伝説〉などがある。長者譚を通じてみられることは，人にはすべて定まった福分があるということ，ただの人が一朝にして長者になりまた没落するのも，すべてこの前世からの約束に基づくという考え方であろう。〔直江広治〕

ちょうじゆ【丁字油】 丁油・クローブ油・丁香油ともいう。テンニンカ科に属するチョウジの花蕾(からい)を乾燥し，水蒸気蒸留して得られる。オイゲノールを主成分とし，そのほかにテルペン類・バニリン・エステル類を含む。モルッカ諸島を原産地とし，ザンジバル・マダガスカル・ペナンなどで栽培される。その香味は香辛料の代表的なもので香気が強く永続性がある。食料品に香味を与えるのに使用され，歯みがき，含嗽(がんそう)剤などの香料となり，また防腐性・殺菌性があるので多くの医薬品にも応用される。〔岡部平八郎〕

ちょうじゅうぎが【鳥獣戯画】 正しくは《鳥獣人物戯画巻》といい，高山寺に伝わる4巻の絵巻物。鳥羽僧正覚猷(かくゆう)が描いたとされるが確証はなく，また4巻は同じ筆ではない。甲巻が最もすぐれ，擬人化された動物たちの遊ぶ姿を巧みに描き，これに次ぐ乙巻とともに平安時代末の作と考えられる。他の2巻は描筆がやや劣り，鎌倉期の制作とされている。全巻とも詞書(ことばがき)をもたず，絵は墨一色で墨線を主体とした白描画であるが，暢達(ちょうたつ)な墨線を存分に駆使した描法はこの種の絵画の最高傑作とされる。〔村重　寧〕

ちょうしゅうせいばつ【長州征伐】 幕末，江戸幕府が行なった長州藩*への2度の征討。**〈第1次〉**1864年(元治1)禁門の変*後，幕府は反幕勢力の中心であった長州藩を武力討伐するため，諸藩に出兵を命じた。これに対して四国艦隊の下関事件*後，長州藩内の主導権を握った保守派は，禁門の変の責任者福原越後(えちご)・国司信濃(くにししなの)ら3家老と4参謀を斬(き)って幕府に恭順の意を表し，幕府はこれを受け入れて撤兵した。**〈第2次〉**1865年(慶応1)1月，馬関*に挙兵した高杉晋作*(たかすぎしんさく)ら長州藩の急進派は藩の主導権を掌握し，藩論を討幕に統一した。幕府は再征の勅許を得，諸藩に出兵を命じたが，薩摩(さつま)藩*は坂本龍馬*(りょうま)らの仲介で，翌年1月薩長攻守同盟を結び出兵を拒否した。1866年6月幕府軍は攻撃を開始したが各所で長州藩に敗退し，7月に大阪城で14代将軍徳川家茂(いえもち)が病死したのを機に，8月休戦した。この再征の失敗により幕府の権威は完全に失墜した。
〔松尾　涼〕

ちょうじゅうせき【腸重積】 腸管の一部が隣接する腸管の内腔(ないこう)内にはまり込んだ状態。通常は腸管が二重になるが，まれに三重となることもある。乳幼児に多く，腸管の通過障害とともに循環障害を伴うので重篤であるが，成人にみられるものは一般に緩慢な経過をとる。乳幼児のものは大多数が急性に回盲部(回腸と大腸の接続部)に発生し，腹痛・嘔吐(おうと)・腹部腫瘤(しゅりゅう)・血便を主症状とする。腸管が壊死*(えし)に陥ったものでは予後が不良なので，早期診断が重要である。自然に治癒(ちゆ)することもあるが，多くは人工的に整復することが必要で，高圧注射・手術を行なう。
〔三島好雄〕

ちょうしゅうはん【長州藩】 江戸時代に周防(すおう)・長門(ながと)(ともに山口県)地方を領有した藩。萩(はぎ)藩・山口藩・毛利藩ともいう。藩主は毛利氏*で，長門国阿武(あぶ)郡萩にあった。外様(とざま)大名*。毛利氏ははじめ中国地方10か国を領有したが，元就(もとなり)の孫輝元(てるもと)が，関ケ原の役で豊臣(とよとみ)方に加わったため，戦後は周防・長門2国三十六万石に減封され，萩城を築いて山口から移った。藩はこの減封のため江戸初期から財政窮乏に苦しみ，検地*を重ね，石高の増加を図ったり，新田開発，紙・塩・ロウなどの特産物の専売を行なったが，窮乏はしだいに深刻となり，たびたびの倹約令の発令，藩士の知行の減知を行なった。7世重就(しげつぐ)はいわゆる宝暦の検地を行ない，その増三万石を財源として撫育方(ぶいくかた)を設け，新田開発・専売制度の推進にあたった。しかし下級武士や生産者の窮乏はやまず，百姓一揆*(いっき)が各地に起こり，ついに1831年(天保2)瀬戸内沿岸を中心とした専売反対の大一揆が爆発した。これを機に13代敬親(たかちか)は村田清風・周布政之輔(まさのすけ)らを登用して藩政改革につとめ，富国強兵・重商主義的政策をとり，やがてその実力を背景とした長州藩は尊王攘夷(じょうい)運動*の中心となった。四国艦隊の下関(しものせき)事件*，禁門の変，第1次長州征伐(→長州征伐)には敗れたが，薩摩(さつま)藩*と連合して第2次長州征伐に勝ち，討幕の中心勢力となって明治政府の樹立に力を尽くした。1863年(文久3)敬親は居城を山口に移し山口藩と改称。維新後は新政府の中心となって実権を掌握し，木戸孝允*(たかよし)・伊藤博文*(いとうひろぶみ)らを輩出させ，その後も官僚・

軍に長州閥を形成して政界に支配的役割を果たした。〔岡山泰四〕

ちょうじゅうほごく【鳥獣保護区】 野生鳥獣の保護繁殖を図るために，農林大臣または都道府県知事が設定した区域。存続期間は20年以内で，広さは個々で違うがふつう5,000ヘクタール程度。区域内では鳥獣の捕獲が禁止され，設定者はその区域内に，鳥獣のための給水や給餌(きゅうじ)の施設を設けることになっている。土地や立木の所有権者は，その施設を拒むことができないが，損失の補償がなされる。保護区は標識と制札で示される。〔白井邦彦〕

ちょうジュラルミン【超ジュラルミン】 加工用高力アルミニウム合金。アルミニウムに銅4.5%，マグネシウム1.5%，マンガン0.6%が含まれている。500℃に加熱して水焼き入れをしたものの，常温時効後の抗張力は50kg/mm² 以上を示し，代表的高力アルミニウム合金である。ジュラルミン以上の強さがあるのでこの名がある。アメリカ合衆国アルミニウム協会の規格2024合金はこの代表的な例。用途は航空機用・強力材料など。〔岡村志郎〕

ちょうじゅり【趙樹理】 チャオシューリー (1905～1968) 中国現代の作家。山西省出身。貧農出身で師範学校に学び，五・四運動以後の近代文学に親しんだ。卒業後は農業に従事，また小学校の教師もつとめた。1940年以後，太行山区にあった中国共産党の文化機関に所属し，1943年5月,《小二黒の結婚》を発表して注目を浴び，同年《李有才(リーユーツァイ)の板話(バンホワ)》を書いた。これは毛沢東の《文芸講話》を最初に具体化した作品といわれる。1945年,中編《李家荘の変遷》を発表,山西の一農村が日中戦争を通じて変わっていくさまを叙事詩的に描き出し,好評を博した。中華人民共和国成立後は北京(ペキン)に出て雑誌の編集や後進の指導にあたった。1955年の長編《三里湾》では農業生産合作社の発展に伴う農村の人間関係の変化を多角的に扱っている。文化大革命の過程では批判を受けたとも伝えられる。〔今村与志雄〕

ちょうしゅん【長春】 チャンチュン 中国，吉林省中西部，松花江支流伊通河沿いにある省都。人口130万(1972年推)。1799年に長春庁が置かれ，漢人の移住が許されて東北地方北部の農業開発が始められた。その後ロシア帝国の勢力が南下して，1901年東清(とうしん)鉄道が全線開通したが，日露戦争の結果日本はこの鉄道の長春以南を南満州鉄道として経営した。1932年3月満州国が成立するとその首都となり，同年11月に新京と改めて，壮大な都市計画を施した。第2次世界大戦後，国共両軍の争奪の地となったが，1948年9月中共軍が占領した。中華人民共和国になって，南西郊の孟家屯(もうかとん)に大自動車工場が新設され，またトラクター・車両・紡績などの工場も建設された。長大・長浜・長図・長白などの鉄道



長次郎《黒楽茶碗　銘俊寛》

各線が集まり，また文教の中心地で東北師範大学などがある。〔木村辰男〕

ちょうしょ【調書】 広義では一般の調査結果を記した文書をさすが，狭義では犯罪の捜査過程もしくは裁判上の進行過程において，裁判所書記官・執行官などが作成する調査事項を記した公文書をいう。民事訴訟法上では口頭弁論調書・証拠調べ調書・和解調書・差押え調書などがあり，刑事訴訟法上では証人・鑑定人・通訳人の尋問調書，検証・押収調書，差押え状・捜索状の執行調書などがある。

ちょうしるい【長翅類】 ⇨シリアゲムシ

ちょうじろう【長次郎】 (1516～1592) 桃山時代の京都の陶工で，楽焼の祖。その生涯(しょうがい)は判然としないが，《獅子(しし)》に〈天正二春，依命長次郎造之〉とあり，長次郎陶の唯一の年紀のある作例である。この黄土色の釉(うわぐすり)のかかった楽焼質の獅子像は，屋根の留蓋瓦(とめぶたがわら)の模型と推定されるので，長次郎ははじめは瓦焼き師であったといわれる。しかし，1579～1580年(天正7～8)ごろに，茶匠千利休の指導を得て，楽焼茶碗(ちゃわん)を始めたらしい。1586年ごろには利休好みの宗易形の茶碗を完成し，赤楽茶碗・黒楽茶碗を焼いている。このほか飲食器も焼いたが,その釉技(ゆうぎ)は中国方面から輸入された交趾釉(こうちゅう)陶の影響を受けたともいわれる。今日長次郎作とよばれる茶碗は，長次郎ひとりの手になるものではなく，楽家所蔵の文書によると姻戚(いんせき)関係にある5人の陶工によって聚楽焼(じゅらくやき)工房でつくられたものらしいが，各人の作品が判明していない現在，長次郎焼は常慶以前の楽焼の総称となっている。〔矢部良明〕

ちょうじん【超人】 ニーチェが《ツァラトゥストラかく語りき》で語った〈未来の理想的人間〉をさす。ニーチェは人間をやがて越えられるべきもの(中間的存在)とし，その超克の結果到達すべきものを超人とした。それはまた〈神の死〉以後，神に代わる〈人神〉であり，〈末人(自己を超克する意志も創造的な生命力ももたない平均的人間)〉と対立するものであった。

ちょうしんき【聴診器】 体内に生ずる音を体表面より聴取して，病気の診断・治療に役だてるようくふうされた診療器具。1816年フランスのラエネクが胸の聴診を行なったのがはじまりで，以後くふう・改良されて今日に至っている。管状になった聴診器と両方の耳で聞く双耳聴診器とがあるが，今日は産科の一部を除きもっぱら後者が用いられている。通常のものは先端が呼鈴の形をしたもの，あるいは薄い金属膜か合成樹脂の膜でできており，これを体表面に密着させて細い管で両耳へ音を伝える。肺の呼吸音，心臓の音，血管中を流れる血流の音(血管音)，腸内に発生する音(腸雑音)などを聴取して診断に役だてる。〔佐野隆志〕

ちょうしんせい【超新星】 新星に似ているが，それよりも数千倍の明るさをもつ星。放出されるエネルギーから推定して，星の進化の終末的な現象で，星全体が爆発したものと考えられる。藤原定家の日記《明月記》にしるされた1054年(天喜2)の超新星は，現在かに星雲として観測されている。

ちょうしんりがく【超心理学】 通常の知覚能力や認識能力を媒介としない超常的心理現象を研究する科学の一領域。19世紀後半，心霊研究とよばれて登場し，霊媒の起こす現象や偶発的な心霊現象の研究を始めた。当時の課題は心霊現象の信憑(しんぴょう)性と，それらの現象が心霊主義者の主張するように霊魂の存在を仮定しなければならないかどうかにあったが，確実な結論には到達できなかった。1930年代，アメリカのJ.B.ラインは，それまで雑多な内容を含んでいた心霊現象を整理してESPとPK(念力)に分類し，前者についてはカード-テスト法，後者についてはさいころ法を用い，従来霊媒を研究対象としていたのを改め，通常人を被験者として，厳密な実験条件のもとに組織的な研究を行ない，統計的評価法を導入し，これらの現象の事実を実証した。このように生物と環境との間に，通常の感覚―運動系を越えて存在すると考えられる相互作用を，〈psi(サイ)過程〉とよぶが,超心理学はこのpsi現象の性質，生起の機構，コントロールの方法などの解明をその課題としている。現在psiの事実を認める科学者の数は増加し，超心理学の研究者も世界の国国に広く分布している。〔大谷宗司〕

ちょうすごう【趙子昂】 ⇨趙孟頫(ちょうもうふ)

ちょうせい【長征】 1934年10月からほぼ1年間かけて，中央労農赤軍が毛沢東の指導のもとに江西省瑞金(ずいきん)などから陝西(せんせい)省延安近辺へ大移動したことをいう。全長12,500kmを蔣介石(しょうかいせき)軍の空陸からの追撃を振り払いつつ，大河・高山・大湿原など想像を絶するような難所を徒歩で踏破したもので，20世紀最大の奇跡といわれる。最初30万の隊列で出発したが，途中で補充がなされたにもかかわらず，到着時は30,000人に減っていたことからも，その消耗の激しさをうかがうことができる

が，まさに〈宣言書・宣伝隊・種まき機〉としての役割を果たし，その間，遵義会議で毛沢東の指導権が確立したこととあいまって，のちの抗日戦争の勝利と中国人民の解放の記念碑となった壮挙。〔狭間直樹〕

ちょうせい【調性】 トナリティーの訳語で，広くは音楽の中で用いられる音の高さが一つの中心的な音によって組織づけられた現象をいう。したがって，12音技法のように相互の音程関係で組織づけられている場合は，いくらその組織づけが強固であっても，中心的な音を欠くために，調性はないと考えられる。狭義には，ヨーロッパ18世紀以降の長調・短調による音楽に対して用いられる。それは教会旋法*でもなく，通奏低音*も捨てて，和声を優位においた音楽である。そこでの和声は，和音一つ一つの独立した響きによって判断されるのではなく，和音相互の関係，すなわち和音が全体の中で果たしうる機能によって判断される。この場合，調性とは機能和声*性と同じになり，T(トニック)→S(サブドミナント)→D(ドミナント)→Tという和声進行の存在が前提となる。たとえ単旋律の音楽でも，その動き方がこの進行に一致したり，この進行を想起させたりすれば，それは調性をもつと判断される。このような和声進行を前提としない音楽(グレゴリオ聖歌や日本の音楽)も，広義には調性をもつとよばれうる。しかし最近では，グレゴリオ聖歌はもとより，ルネサンスの多声音楽に対しても，それらが和声的な思考の産物ではない点と，それらの中に無理に調性を見いださないためにも旋法性(モダリティー)という用語をあてはめて区別することが多くなっている。〔徳丸吉彦〕

ちょうせいち【調整池】 水力発電所において，負荷の変動に応じて出力を調整できるように，河川からの水をたくわえた池。電気の需要量は昼間に多く夜間に少ない。しかし，電気を供給する水力発電所が河川から取水する量は1日じゅうほぼ一定である。そこで，需要の少ないときの余った水を水路の途中に設けた池にたくわえ，需要の多いときそれを引き出して，需要の変化に即応した供給を行なっている。また近年急速に伸びてきた揚水式発電は，需要の少ないときの火力発電を使って調整池にポンプ揚水するもので，調整池の能力を人為的に増大させる方法である。〔米屋秀三〕

ちょうせいでん【長生殿】 中国，清(しん)代の戯曲。作者は洪昇*(こうしょう)。1688年完成。唐の玄宗と楊貴妃(ようきひ)の恋愛物語に取材し，白居易の《長恨歌*(ちょうごんか)》と白樸*(はくぼく)の《唐明皇秋夜梧桐雨(ごとうう)》とを継承して生死にかかわらぬ不変の愛情を主題としている。題名は，玄宗と楊貴妃が恋を語った宮殿の名。この戯曲は孔尚任(こうしょうじん)の《桃花扇*》と並び称せられた。

ちょうせいねんきん【調整年金】 社会保障制度の一環である厚生年金保険*の一部を企業年金*によって代替させ，両者の調整を図ろうとする制度。厚生年金保険法により1966年(昭和41)10月より実施。これによって企業年金は，単に，従業員の老後の経済生活の保障という私的な機能を果たすだけでなく，社会保障制度の一翼を担う制度となった。わが国の厚生年金制度は，保険料の払い込みの多寡にかかわりなく支給される定額給付部分と，報酬すなわち給与の多寡に応じて定められた保険料の払い込みの額に比例して支給される報酬比例給付部分とからなっているが，このうちの報酬比例給付部分が企業年金制度によって代替されるというのが調整年金制度である。生命保険会社や信託銀行が調整年金制度を引き受けるために設定した特別法人を厚生年金基金という。〔庭田範秋〕

ちょうせいらん【調整卵】 多細胞動物の発生に際し，卵割の初期の割球(卵分割した個々の卵細胞)では，正常に発生を続けたときは将来からだを構成するどの部分になるかという運動が決まっていて，その予定にしたがっている。しかし，実験的にある割球を取り除いたとき，その割球のもつ運命にしたがって，からだの一部が欠けた動物ができるとはかぎらず，残された他の部分がこれを補って正常な形態をもつようになる卵があり，このような調整能力をもつ卵を調整卵または調節卵という。腔腸(こうちょう)動物。紐虫(ひもむし)類・棘皮(きょくひ)動物，原索動物の蠕態(じゅたい)類と羽鰓(うさい)類，脊椎(せきつい)動物などが調整卵に属している。調整卵といってもすべての細胞質が同じように調整能力をもっていることではなく，部域によっても差があるし，また発生初期には調整能をもっているものでも発生が進むにつれて調整能は弱くなる。調整卵に対して，発生初期のころから調整能力のないような卵がモザイク卵である。〔蒲原春一〕

ちょうせき【長石】 地殻(ちかく)の中に，最も多量に存在する重要な造岩鉱物*。化学組成の一般式はWZ_4O_8で，このうちWはNa, K, CaなどでZはSi, Alである。色は無色または淡灰色・淡紅色などで，硬度約6，比重は2.55～2.76，劈開*(へきかい)は2方向に完全，化学組成の相違によりカリチョウ石類とシャチョウ石類の二つに大別される。
【カリチョウ石類】$KAlSi_3O_8$ 屈折率1.519～1.524，融点1,170℃，結晶構造はSiO_4四面体とAlO_4四面体とが網状に連なり，カリウム原子が空間を埋めてできている。この構造中において，アルミニウム原子が特定の位置を占めているものは，秩序型で三斜晶系に属し，ビシャカリチョウ石といわれる。白色半透明で顕微鏡の観察によると格子(こうし)じまのように交わる2方向の集片双晶をしている。ペグマタイト*やカコウ岩などの深成岩に普通に産出する。アルミニウム原子が特定の位置を占めていないものは無秩序型で単斜晶系に属し，ハリチョウ石といわれ，ガラス光沢を呈し，チョウ石中，最も透明度が高い。火山岩の斑晶*(はんしょう)として産し，高温で結晶したものである。構造的にビシャカリチョウ石とハリチョウ石の中間の秩序度をもったものはセイチョウ石といわれ，最も普通のチョウ石で白色透明，カールスバード双晶が特徴的である。カコウ岩などに広く分布する。
【シャチョウ石類】アルバイト(ソウチョウ石)($NaAlSi_3O_8$ 屈折率1.527～1.537，融点1,122℃)とアノーサイト(カイチョウ石)($CaAl_2Si_2O_8$ 屈折率1.577～1.590，融点1,550℃)を端成分とし，これらが任意の割合で混じり合っている固溶体*の系列を総称してシャチョウ石という。比重・屈折率・融点，その他いろいろの性質が化学組成の変化に応じて連続的に変化する。アルバイト双晶とよばれるくり返し双晶が特徴的である。アルバイトは結晶片岩*やペグマタイト中に産し，アノーサイトは塩基性の火成岩や変成岩に産する。カリチョウ石の場合と同じようにアルミニウム原子の位置が無秩序な高温型シャチョウ石と秩序的な低温型シャチョウ石とがあり，前者は火山岩中に後者は深成岩や変成岩の中に産する。東京都三宅島(みやけじま)に産するアノーサイトの結晶は4～5cmにも及び，世界的に有名。
【チョウ石の利用】ペグマタイト中に多量に産するビシャカリチョウ石やセイチョウ石は陶磁器やガラスの原料として重要である。特殊なチョウ石として美しい緑色のカリビシャチョウ石はアマゾンストーンとよばれ，飾り石に用いられる。シャチョウ石のうちアノーサイトに少しナトリウムのはいったラブラドライトの中には，見る方向により，閃光(せんこう)が現われるものがあり，これを含む火成岩は建築の装飾石材として用いられる。〔加藤敏郎〕

ちょうせき【潮汐】 太陽や月の引力の影響を受けて，地球上の海面の水位が，1日にほぼ2回，周期的な昇降をする現象。満潮から満潮，干潮から干潮に至る時間は，場所によって異なるが平均すると12時間25分である。ある日の満干潮は前日の満干潮より約50分ずつ遅れる。満潮時と干潮時との海面の高さの差は，毎日変化するが，満月または新月のとき，潮差が最大となるのを大潮*という。上弦・下弦のころには，地球・太陽・月は直角に並んで引力が妨げ合う結果となり，潮差は小さくなる。特に，1年のうち春，秋の彼岸ごろには干満が昼夜とも最も大きく，大潮時には潮差が最も大きくて，彼岸潮とよばれる。潮汐を起こす原因は，太陽と月との引力が最も大きく，他の天体の引力の効果は小さくて無視できる。また，太陽は月に比べて地球から遠いので及ぼす引力は小さく，太陽潮は大陰潮の約半分である。潮汐は太陽潮・大陰半日潮と1日潮が重なっていて複雑である。お

もな起潮力は半日周期であり，だいたい1日に2回，潮の干満を示すが，これに1日潮が重なるために干満の高さや時間間隔もかなり変動があることが観測される。これを日潮不等という。日潮不等は春秋の上弦・下弦のころ，夏冬の朔望月*(さくぼうげつ)のころに最も大きい。起潮力は，海水のほかに大気や地殻(ちかく)にも作用して潮汐現象を起こす。地球上の潮汐の説明としては，ニュートンの平衡潮汐理論，ラプラスの力学的潮汐理論などの多くの説があって，後者は，のちに多くの人により研究・発展されて実際の海洋に応用され，潮汐現象をかなりよく説明している。〔相原正彦〕

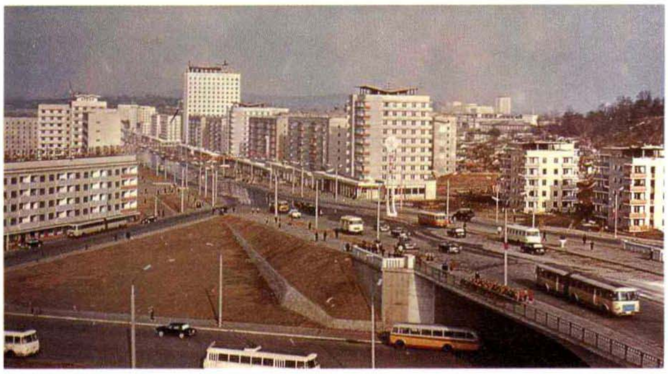
ちょうせきひょう【潮汐表】 毎日の潮汐について，おもな港湾における時刻と潮位を計算した表。潮汐運動は複雑で完全な周期性をもっていないが，これは完全に周期性をもつ潮汐運動の成分，すなわち，分潮の集まりとみなすことができる。潮汐観測記録に基づいて，各分潮を決定し，これを組み合わせて未来の潮汐を知ることができる。わが国では，海上保安庁および気象庁において毎年翌年の分が発行されている。この潮汐表は，航海者・港湾工業者らにとって重要である。〔相原正彦〕

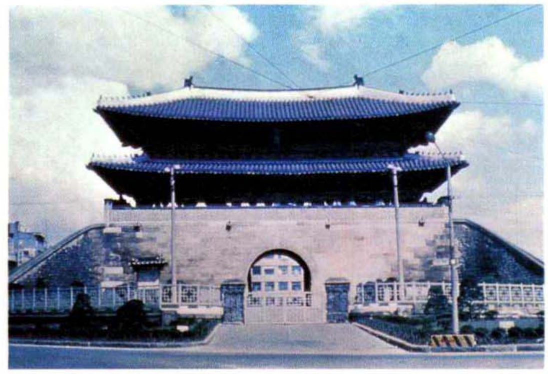
ちょうせん【朝鮮】 アジア大陸北東部，約1,000kmにわたって北西から南東方向に延びる半島とその属島3,000余をいう。面積21万9,000km²。人口約4,890万(1974年推)。朝鮮の呼称はきわめて古く，中国の古典《史記》や《山海経(せんがいきょう)》などにもみえており，歴史上朝鮮を国号としたものにも檀君朝鮮，箕子(きし)朝鮮や衛氏朝鮮などがある。元来，この名は〈黎明(れいめい)のあざやかさ〉を意味するもので，国土に対する美称として生まれた。なお，ヨーロッパ語の呼称〈コレア〉は高句麗(こうくり)・高麗(こうらい)の国号に由来する。第2次世界大戦の終結時に北緯38度線によって南北に分断され，北にソ連影響下の朝鮮民主主義人民共和国，南にアメリカ合衆国影響下の大韓民国(だいかんみんこく)が成立し，1950(昭和25)～1953年の朝鮮戦争*のあとも軍事境界線による分断の状態は継続されている。

【自然】全体に山がちで，山地の面積は全土の約75%を占めていて，大部分は侵食が進み，しかも新生代以後たいして地殻(ちかく)運動を受けておらず，急峻(きゅうしゅん)な山が少なく一般に老年期の地形を示している。山脈は中国東北地方との国境付近を，北東から南西に走る長白山脈と，その中央部の白頭山付近から南に延びる狼林(ろうりん)山脈，東海岸を南に走る太白山脈を主軸とする。長白・狼林両山脈にはさまれるケーマ(蓋馬)高原は約2,000mの高山が密集している。太白山脈には若干の支脈が派出しており，中央部では南西に向かって車嶺(しゃれい)山脈，その南ではほぼ平行して小白山脈があり，いずれも南西に向かってしだいに低くなっている。これらの山脈から発しその間を流れる河川は，国境を流れる鴨緑江(おうりょっこう)をはじめ，大同江・漢江・錦江(きんこう)など多くは南西に向かって流れ，流域に平野を形成して黄海に注ぐ。一方，東流するものでは，北の国境を流れる豆満江(とまんこう)と太白・小白両山脈から発して朝鮮海峡に注ぐ洛東江(らくとうこう)以外には大きな河川がない。平野は西岸で北から楽浪平野・金浦(きんぽ)平野・全北平野などがあり，東岸では山地が海に迫るため，わずかに咸興(かんこう)平野をみるにすぎない。海岸は西部と南部は複雑なリアス式海岸をなし，海上には3,000を越える島嶼(とうしょ)が散在し，特に釜山(ふざん)から木浦(もっぽ)に至る海上一帯は多島海とよばれている。また，西南岸は潮汐(ちょうせき)の干満差が大きく，なかでも仁川ではその差8mにも達する。一般に遠浅で，良港



朝　鮮





朝　鮮（左）平壌の中心街チョンリマ（千里馬）通り。中・高層住宅の建設が進み，町の景観は急速に変わりつつある（右）ソウル（京城）の南大門。南大門から延びる南大門路はソウル第1の繁華街で銀行・デパートなどが立ち並ぶ

に恵まれないが，広大な干潟（ひがた）は塩田や干拓に利用され，沿岸一帯では魚貝の産も多い。東海岸は北部の咸興平野を除いてほとんど絶壁をなし，鬱陵（うつりょう）島のほかはほとんど大きな島がない。

気候は比較的温暖で年平均気温は仁川で11.1℃，日本に比べて大陸的な気候で，冬の寒さと夏の暑さがきびしい。また冬季は大陸高気圧の消長にしたがって，3～4日ごとに寒い日と暖かい日の交替する〈三寒四温〉の現象が現われる。南北の隔たりが大きいため，年平均気温は南と北では5～15℃と異なり，年降水量も500～1,500mmと差が大きい。なお，降水は夏季2か月に集中し，冬季の降雪は少なく乾燥する。

〔産業〕最も重要とされる地下資源は北部に豊富で，石炭・鉄鉱石をはじめ，マグネサイト・タングステン・モリブデン・キン・ウンモ・ケイ石などの鉱脈が開発されており，鉄の茂山鉱山，石炭の平壌（へいじょう）・阿吾地（あごち）両炭田は著名である。

農業は南朝鮮では水稲，北朝鮮では畑作が中心であるが，灌漑（かんがい）・農業技術などで改善すべき問題が少なくない。名産の朝鮮ニンジンは伝統的に貴重な産物とされている。林業では，北部山岳の針葉樹の貯木量がきわめて大きい。水産業では黄海のエビ・貝類，日本海のメンタイ・サバ・タコ・タラなどのほか，南部ではノリの養殖が盛んで，また西岸では天日製塩が行なわれる。南朝鮮の漁船の装備が劣っていることから，漁民保護のためにいわゆる李（り）ライン問題を起こしたが，1965年日韓漁業協定が結ばれ専管水域を設けることによって一応の解決をみた。

工業では北朝鮮が重化学工業中心の性格を示し，鉄鋼（黄海・降仙（こうせん）など）・化学肥料（興南・順川）・セメント（勝湖里）をはじめ，自動車・機械・電機などの工場が建設され，機械はほぼ自給可能となっているが，消費財生産には遅れが認められる。南朝鮮は北朝鮮と異なり，むしろ消費財生産が盛んで，繊維・食品などを中心とし，近年，化学・セメント・弱電などの部門の成長が著しいが，全体的には生産財生産の比率はなお30％程度で，金属・機械など基幹工業でのたちおくれが認められる。

〔交通・都市〕鉄道では，京釜本線（ソウル～釜山）・京義本線（開城～新義州）・元羅（げんら）本線（元山～羅津）・中央線（ソウル～栄州～釜山）・湖南線（太田～木浦）などが運行されており，総延長7,100km余に及んでいる。近年，高速自動車道路として京仁高速道路（ソウル～仁川）・京釜高速道路（ソウル～釜山）の2本のハイウエーが建設されている。主要都市は，ソウル（約554万）・平壌（約150万）の南北両朝鮮の首都をはじめ，北朝鮮では鉱工業都市清津（約40万）・咸興（約60万）・新義州（約20万），港湾都市元山（約60万）があり，南朝鮮では港湾・工業都市釜山（約150万）・仁川（約60万）・群山（約15万），軽工業都市大邱（たいきゅう）（約90万）・大田（約35万），農業地帯の中心地光州（約45万），新羅（しらぎ）以来の王都慶州（約10万）などがある。

〔歴史〕漢民族はここに紀元前3世紀に箕氏朝鮮を，紀元前2世紀には衛氏朝鮮を建国し，土着の諸族を征服した。漢の武帝は中原を征圧すると朝鮮に兵を送って衛氏朝鮮を滅ぼし（BC109～BC108），楽浪・真番（しんばん）・玄菟（げんと）・臨屯（りんとん）の4郡を設けている。これらはのちに改廃され，北西部の楽浪郡だけは残されたが，3世紀には楽浪郡の南部をさいて帯方郡が置かれた。当時，朝鮮半島南部では，馬韓・弁韓・辰韓（しんかん）のいわゆる三韓の部族国家が鼎立（ていりつ）していた。

4世紀初頭から，北方諸民族の中国への侵入が活発化し，鮮卑族の前燕（ぜんえん）が華北の一部と満州を支配し，中国と朝鮮との連絡を絶った。北西部では高句麗（こうくり）が台頭して遼東（りょうとう）を攻め，313年に楽浪郡を滅ぼした。南方の三韓でも馬韓の地に百済（くだら）が起こって帯方郡を侵し，辰韓の地に起こった新羅が弁韓の地を領した任那（みまな）（加羅）を滅ぼして（562），3国が鼎立（ていりつ）した。一方，大陸では隋（ずい）・唐の大統一国家が形成され，それらの王朝はともに朝鮮に兵を進めた。隋は失敗したが，唐は660年に百済を，668年には高句麗を滅ぼした。しかし，新羅だけは約6年にわたって根強く抵抗し，675年ついに唐を破って朝鮮半島の統一をなし遂げた。

高句麗は，満州族の分派である扶余（ふよ）が，鴨緑江流域に建国したもので，早くから漢の郡県を侵していた。のち魏（ぎ）によって国都（いまの輯安（しゅうあん））は攻略されたが，15代美川王のころには朝鮮北西部の大部分を占有していた。しかし，前燕の攻撃によって国都は陥落し，以後，〈北守南進〉を重ねて版図を広げ，19代広開土王とその子長寿王（427年平壌遷都）のときにその勢力は絶頂に達した。また，百済は4世紀中ごろ馬韓の伯済（はくせい）が帯方郡の地によったもので，慰礼城，次いで漢山山麓（さんろく）に都した。しかし5世紀後半漢城を失い，660年唐に滅ぼされた。なお任那は百済建国後，加羅諸国が連合して建国したもので，4世紀後半，日本はこれに出兵して半島への足がかりとしたが，5世紀はじめ高句麗・新羅に，また6世紀には百済に圧迫されて，562年新羅に滅ぼされた。一方新羅は，百済建国と同じころ斯盧（しろ）が辰韓の地を統一して建国したもので，国都は広州に置き，初期には北方に発展して南下する高句麗と対立した。北は高句麗にはばまれ，南方は任那諸国による日本の勢力におさえられていたが，6世紀には洛東江流域の任那を合わせ，続いて高句麗・百済の疲弊に乗じてその版図を拡大した。7世紀には百済・高句麗を滅ぼし，大同江以南を支配下に入れ，8世紀には渤海（ぼっかい）と国境を接した。

8世紀以後，新羅では王位継承をめぐる争いが都で続き，地方では土豪が蜂起（ほうき）した。これらの中で甄萱（けんけん）は後百済を号し，弓裔（きゅうえい）は高句麗を称した。やがて，弓裔の部下王建は弓裔に代わって自立し，国を高麗と号し，開城に都を置いた（918）。彼は各地の土豪を制圧し，新羅を合わせ（935），後百済を加え（936）て，再び朝鮮全土を統一し，唐の律令（りつりょう）制度を取り入れ，仏教を国教とした。高麗はこの後，1392年に李成桂（りせいけい）に滅ぼされるまで5世紀の間続き，北辺の開拓にみるべき治績を残した。すなわち，渤海の滅亡と契丹（きったん）の中国進出を好機に清川江まで版図を広げ，8世紀顕宗（在位1009～1031）の代には鴨緑江にまで進出した。しかし，一方ではしばしば遼の入寇（にゅうこう）を受け，東北境では16代睿宗（えいそう）（在位1105～1121）のとき，女真を伐って失敗し，咸興平野を保つにとどまった。高麗は遼の支配を受け

たのをはじめとして，中国歴代王朝の圧力に苦しみ，ことに元からは約30年にわたる侵入を受け，その日本遠征(文永・弘安(こうあん)の役)に際しては膨大な負担を負わされた。しかし，末期には元の衰退に乗じ，最後の恭譲王(きょうじょうおう)のときには咸鏡南道の大半と平安北道の一部を占領した。高麗が元の日本遠征の負担に疲れ，また倭寇(わこう)の大侵入に困惑し，一方国内では大荘園(だいしょうえん)の発達と土地のない農民の増大という難問題の山積していたとき，親明(しんみん)反元を旗幟(きし)に李朝の太祖李成桂がクーデターに成功した。彼は1370年の田制改革に成功し，1392年都を漢陽(現在のソウル)に移した。1401年太宗が明から朝鮮国王の封冊を受けたのちは朝鮮を国号とした。李朝もまた，高麗の北辺開拓政策を踏襲し，東北辺境では図們江(ともんこう)の線まで，鴨緑江方面では城原・日郡まで進出したが，やがて女真の侵入がくり返されたためにこれを廃した。1592～1598年には豊臣秀吉(とよとみひでよし)の軍10数万が侵入し，明の援軍によって国土は荒廃した。さらに後金の侵入を受けたが，鴨緑・図們の両江一帯にあった女真族もまた清朝に攻撃されて後退を余儀なくされ，朝鮮はここにはじめてこの二江を境界とするようになった。なお地方制度は太宗のときに，全国を8道に分かち，道の下に府郡県を設けたものが，以後ほぼ5世紀にわたって変わらなかった。その後，李太王のとき，8道の制は改められ，若干の曲折を経て現在の13道に至っている。

日清(にっしん)・日露両戦役後，日本は朝鮮における優越権を国際的に認められるようになり，1906年統監府を設けて朝鮮を事実上支配した。1910年には弱体化した李朝を併合し(日韓併合)，総督府を置いて統治し，1945年第2次世界大戦で日本が敗れるまでこの状態が続いた。戦後は独立を回復したが，米ソ対立のあおりを受けて北緯38度線を境に南北に分かれ，現在もなお，朝鮮戦争後に再画定された軍事境界線によって分割されたままであり，統一への道は険しい。
➔朝鮮民主主義人民共和国　➔大韓民国(だいかんみんこく)
〔船越昭生〕

ちょうせんあさがお　【朝鮮朝顔】　双子葉植物・ナス科。キチガイナスビ・マンダラゲともいう。熱帯アジア原産の一年草。茎は直立して高さ1m前後に達し，多く枝分かれする。葉は卵形で縁に欠刻があり，互生する。7～9月，葉腋(ようえき)にアサガオに似た白色の漏斗状花をつける。花冠は5裂する。めしべ1本，おしべ5本。果実は球形の蒴果(さくか)で表面に多数のとげがあり，種子は白色。全草にアルカロイドを含み，葉と種子を喘息(ぜんそく)などに用いることがあるが，猛毒があり，中毒すると狂乱状態となるので，キチガイナスビの名がある。これによく似たヨウシュチョウセンアサガオは熱帯アメリカ原産の一年草で，





チョウセンアサガオ　(上)チョウセンアサガオ　(下)ヨウシュチョウセンアサガオ

花は淡紫色，蒴果は卵状で熟すと4裂し，黒色の種子がはいっている。全草にアルカロイドを含み，葉と種子はチョウセンアサガオと同様に喘息に用いられるが，やはり猛毒である。
〔加藤僖重〕

ちょうせんあざみ　【朝鮮薊】　⇨アーティチョーク

ちょうせんおおかみ　【朝鮮狼】　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。頭胴長1.3m，尾長35cm，肩高64cmほど。オオカミ*の一亜種で，中国北部・朝鮮北部などに分布し，習性などはオオカミと等しい。本種と，別属のアカオオカミとを混称してヌクテーという。

ちょうせんおんがく　【朝鮮音楽】　朝鮮半島で行なわれている音楽。中国音楽を日本へ伝える橋渡しをする一方，中国的要素をよく朝鮮民族ふうに消化吸収して，独特の豊かな音楽文化を築きあげた。古代から現代に至るまで各地で行なわれているのはシャーマニズムの歌舞と民謡である。民謡は3拍子系のリズムにささえられ，悲哀をこめた発声で歌われる。様式的には比較的固定した南部や，即興性の強い中部・北部の三つの地域に分けられ，《アリラン》《トラジ》などの有名な曲をはじめ広いレパートリーの曲が，同じ曲と思えないほどに変容されて歌われている。

三国時代(4～7世紀)以後行なわれるようになった種々の音楽は，雅楽と俗楽に二大分類される。広義の雅楽(アーアク)に含まれるのは孔子廟(びょう)の礼楽である狭義の雅楽，宮廷の宴楽である唐楽(タンアク)と郷楽(ヒャンアク)，さらに軍楽が含まれる。これらの雅楽は新羅(しらぎ)に統一された8～9世紀ごろから盛んになったものである。その一部が日本に伝わったのが高麗楽(こまがく)(狛楽)とよばれている日本の雅楽のレパートリーの一部である。俗楽にはいるものはもっと早く三国時代にすでにカヤグム*やコムンゴ*・テーグム*などによる音楽があったと記録されている。14世紀以後の李朝(りちょう)では，《楽学規範*》という理論書が書かれたり，俗楽の種々の形式がつくられたりした。声楽曲では歌曲(カゴ)・歌詞(カサ)・時調(シジョウ)などの詩歌につけた音楽と唱劇(パンソリ)という浪曲風の語り物音楽とがある。器楽としては農楽・散調*(さんじょう)が代表的な種目である。おもな楽器は前記のものの他に，チャング*・篳篥(ピリ)・琵琶(ピパ)・方響(ピェンチュン)・箏(チェン)・胡琴(ヘクム)・洋琴(ヤンクム)・短簫(タンソー)・笙(セン)があげられる。音楽理論は中国の十二律*を基礎とし，独自の名称を使っている。〔山口　修〕

ちょうせんかいきょう　【朝鮮海峡】　九州の対馬(つしま)と朝鮮との間の海峡で，教科書をはじめ一般に用いられている名称であるが，海図上では使用されず，正式には対馬海峡西水道という。幅約200km，最も狭いところで約50km，最深部は約210m。日本海と東シナ海を結び，対馬海流および朝鮮南岸を洗うリマン海流のためしばしば濃霧が発生する。対馬の北西沖に細長い海釜(かいふ)がある。地質時代にここは陸地で，九州は大陸とつながっていた。底質は対馬側は砂で，朝鮮側は泥質(でいしつ)堆積物(たいせきぶつ)である。
〔山口恵一郎〕

ちょうせんぎんこう　【朝鮮銀行】　1911年(明治44)3月公布された朝鮮銀行法に基づく朝鮮の中央発券銀行。日韓併合*前の1909年10月韓国の中央銀行として設立された韓国銀行を受け継ぎ，日本の朝鮮植民地支配，満蒙(まんもう)・華北・華中の侵略に重要な役割を演じた。1945年(昭和20)9月占領軍により閉鎖機関に指定され解体。

ちょうせんご　【朝鮮語】　朝鮮民族約4,000万により，朝鮮民主主義人民共和国・大韓(だいかん)民国で使用されている言語。アルタイ語族に含まれ，また日本語と深い親縁関係にあるといわれるが，言語学的には証明されていない。

【構造】母音・子音はともに日本語より多い。濁音は，音声としては存在するが，音素としては存在しない。母音調和は，15世紀ごろまではかなり明確にあり，その一部は現存している。アクセントは，一部の地方を除いて音素としては存在しない。通例，r音は語頭にこない。また，母音の連続を避ける傾向にある。語順は，日本語とほとんど同じで，〈てにをは〉にあたる助詞があり，細かい機能まで似ている。敬語には尊敬語・謙譲語・丁寧語がある。語尾の使い分けによって相手への丁寧さの度合いを表わし，これには数階称の区分がある。また，日本語と同様に，語幹に種々の形態素を続けていく膠着語(こうちゃくご)であるが，膠着の度合いは日本語よりやや簡潔である。動詞

の能動・受動の表現は限られており，それを補うのに助詞などを用いることもある。指示代名詞は，日本語の〈こそあど〉体系に似たものをもつ。ヨーロッパ諸語にみられる文法的性・数・格，関係代名詞はない。**【語彙(ごい)】** 語彙の大部分は，純朝鮮語と，中国語からはいった漢字語からなる。さらに，近代になってかなりの日本語が加わった。純朝鮮語と漢字語の一部は併用され，ほぼ同義語として使用されている。朝鮮語の語彙は，擬態語・擬声語・色彩語に特色がみられ，日本語に比べて記述が細かい。たとえば，〈赤い〉にあたる朝鮮語は数十あり，赤さの濃淡，明暗，対象物の大小，分布状態，話者の感情などの相違により微妙に使い分けて表現される。〈顔が赤い〉の場合も，酒を飲んだときと恥ずかしさのときでは異なる語を用いる。日本語からの借用語には二つのタイプがある。一つは〈スシ〉〈ハチマキ〉〈クドゥ(くつ)〉などのように，日本語がそのまま発音されるものであり，もう一つは，〈キチャ(汽車)〉〈ソポー(小包)〉などのように漢字語を朝鮮式に読みおろしたものである。江戸時代末期から明治にかけての蘭学(らんがく)・英学の発展とともに，学術文化を中心とする多くの単語が日本でつくられたが，その大部分が取り入れられた。福沢諭吉の造語といわれる〈義務(ウィム)〉，中江兆民の〈民主主義(ミンジュジュイ)〉《解体新書》の著者たちの造語〈盲腸(メンジャン)〉などがそれである。この傾向は現在もなお続き，〈斜陽族(サャンジョク)〉〈低姿勢(チョチャセ)〉〈恐妻家(コンチョガ)〉など枚挙にいとまがない。そのほか，日朝両語の複合語もある。〈テラ(寺)〉〈チョンガ〉のように，日本語にはいったものもある。このほかに，イギリス・アメリカ・ソ連・その他からはいった外来語がある。また，〈畓(タップ)〉のような水田を表わす朝鮮の国字がある。数詞には，〈하나(ハナ)，둘(トゥル)，셋(セッ)〉(ひ・ふ・み)のような朝鮮語固有のものと，〈일(イル)・이(イ)・삼(サム)〉(いち・に・さん)のような中国語系統の2系列があり，併用される。朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国の朝鮮語は，発音・語彙・綴字(てつじ)法などに若干の相違が生じているが，基本的には変わらない。共和国では，すでに漢字はまったく使用されず，韓国でも徐々に廃止へ向かっている。➔ハングル　〔塚本勲・北嶋静江〕

ちょうせんじん　【朝鮮人】 形質的には黄色人種に属する。黄色い皮膚，黒かっ色の直毛と紅彩，少ない体毛，扁平(へんぺい)な顔に高い頬骨(きょうこつ)と低い鼻，蒙古皺襞(もうこすうへき)のためにつり上がった目を有し，頭形は短頭，頭高は非常に高く後頭部の扁平な者が多い。身長は北部で高く南部で低い。血液型および指紋調査の結果は日本人と満州人・モンゴル人との中間を示している。言語は韓(かん)族のことばが基礎となり，朝鮮半島の他の民族の言語を吸収して今日の



チョウセンハマグリ



朝鮮服　(男)ツルマキ(下はパチ，帽子はカッ)　(女)チョゴリとチマの礼装

朝鮮語*を形成するに至った(→ハングル)。朝鮮半島の民族について，文献的にたどれるのは紀元前後の状況で，《魏志(ぎし)》によると当時半島北部には狩猟・漁労を主とし農業を従とする南ツングース系の濊貊(わいはく)とよばれる民族がいた。また，南部には馬韓・辰韓(しんかん)・弁辰の3支族からなる韓族がもっぱら農耕に従事し，水稲耕作を営んでいた。韓族の所属はまだ明らかでないが，その習俗は倭人(わじん)に近く，言語の比較研究から南北両系の混血といわれている。このように朝鮮民族の構成は単一ではなく，かなり異質の諸民族の混成が基底にあったが，生産力の高い農耕民である韓族が優位にたち，特に7世紀後半の新羅(しらぎ)の政治的半島統一によって韓族のもつ言語，農耕に基づく生活形態・習俗が全域に普及し，ここに朝鮮人として民族的統合が成立した。〔依田千百子〕

ちょうせんせんそう　【朝鮮戦争】 1950年6月25日に始まり，1953年7月27日まで朝鮮半島で行なわれた戦争。朝鮮動乱，六・二五動乱ともいわれる。第2次世界大戦終了後，朝鮮独立の方針が示されたものの，北緯38度線以北はソ連軍，以南はアメリカ軍の管轄下に置かれていた。1948年朝鮮民主主義人民共和国*が北に，大韓民国*(だいかんみんこく)が南に成立した。1949年米ソ両軍が撤退し，38度線は占領管理の意味を失い，朝鮮を二つの政権に分割する境界線となった。両政権とも朝鮮全土に対する主権を主張し，北では人民民主主義革命が行なわれ，土地改革や重要産業国有化が進められた。これに対し南では政治的・経済的な混乱が続く中で，1950年アメリカとの軍事協定が結ばれ，アメリカの軍事顧問団が韓国軍の育成にあたり，経済もまたアメリカの援助によって維持された。こうした情勢のうちに38度線付近で紛争事件が続発し，1950年6月25日共和国軍は韓国軍の38度以北への侵入のまえに同線全般にわたって南への侵攻を開始した。いずれの政権が挑発したかは双方の主張が対立しているが，この攻撃により韓国軍は敗北した。これに対しアメリカは日本駐留の軍隊を送るとともに，国際連合*安全保障理事会に事件を提訴し，ソ連欠席のまま共和国軍を侵略者とする決議を成立させ，7月にアメリカ軍を中心とする16か国の国連軍*を組織，この戦争への介入を開始した。戦闘は，はじめ共和国軍が優勢で，一時釜山(ふざん)ほか一部を除く全南鮮を制圧したが，9月15日国連軍が仁川に上陸して，背後をつく作戦に出て以後，形勢は逆転した。国連軍は急速に南朝鮮全域を回復するとともに38度線を突破して北上，10月26日には鴨緑江(おうりょっこう)岸に到達し，中国国境を脅かした。中華人民共和国は大量の義勇軍を送り，その支援のもとに共和国軍は勢力を回復して南下を再開した。しかし1951年春ごろから戦況は38度線付近でしだいに膠着状態に陥った。この間アジア・アラブ諸国などの停戦を求める動きが活発となり，また1951年4月，南満州爆撃による戦線拡大を唱えていたマッカーサー国連軍総司令官が解任されて，休戦への気運が高まった。1951年7月10日，開城で休戦会談が開かれたが，行きづまり，10月25日板門店で再度会談が開始されたが結論をみるに至らず，再び38度線での戦闘が始められた。しかし，1953年7月軍事境界線の設定で両者の折り合いがついたため，休戦協定調印の運びとなった。この戦争で日本は国連軍の兵站(へいたん)基地となり，その特需は以後の日本経済の急激な発展に大きな役割を演じた。朝鮮戦争自体は終結をみたものの，なお朝鮮人民の南北統一の悲願は実現されていない。〔応和邦昭〕

ちょうせんそうとくふ　【朝鮮総督府】 1910年(明治43)8月の日韓(にっかん)併合*に伴い設けられた日本の朝鮮統治の最高機関。1906年以降の統監府を発展させたものである。初代総督は寺内正毅*(まさたけ)。総督は天皇直属で陸海軍大将が任命され，行政の全権と同時に，総督府令の制定権限をもち，軍の統率権も握っていた。第1次世界大戦後の1919年(大正8)三・一独立運動*を機に軍統率権を廃止し，文化的懐柔政策の方向で若干の制度変更が行なわれた。日本の第2次世界大戦敗戦により廃止された。〔応和邦昭〕

ちょうせんにんじん　【朝鮮人参】 ⇨オタネニンジン

ちょうせんはまぐり　【朝鮮蛤】 軟体動

物・二枚貝類・マルスダレガイ科。殻長(かくちょう)10cm，殻高7cm，殻幅4cmほどで，殻(から)は丸みのある三角形状を呈し，ふくらみは多少弱く，腹縁の湾曲も弱い。殻表は平滑で光沢があり，白・黄灰紫かっ色など個体により変異があるが，斑紋(はんもん)は弱く目だたないことが多い。内面は白色で，外套線(がいとうせん)の湾入は小さく浅い。鹿島灘(かしまなだ)以南の外洋に面した浅海の砂底にすむ。肉は食用にし，殻は厚いので宮崎県などで碁の白石をつくる。そのためゴイシハマグリともいわれる。　〔波部忠重〕

ちょうせんふく　【朝鮮服】　朝鮮半島の民族服。基本形式は北方系寒帯系の構成で，筒袖(つつそで)の上衣とズボン状の下衣との組み合わせを原則として伝承してきている。服色に白地を用いることが大きな特色で，白衣民族ともいわれる。婦人・子どもは装飾的に青・緑・黄・紅などのあざやかな色彩のものを用いることがある。

男子は一般に上衣にチョゴリ(襦)，下衣にパチ(袴)の組み合わせ着装である。チョゴリは垂衿(たれえり)で胸を平ひもで結び，パチは太くゆるやかですそを結び閉じる。材料は綿または麻で，ふつう白色である。この上に礼装用・防寒用にツルマキ(周衣)を着る。ツルマキはたけの長いワンピース形で，胸の結びひもを長くたらしたもので，絹・麻などを用いる。チョゴリの上に防寒用・装飾用として，チョゴリと同形式のマゴチャ(麻古子)を用いることもある。婦人服装は上衣にチョゴリ，下衣にチマ(裳)を組み合わせる。チョゴリは男子と同形式であるが短く，幅の狭いかけ衿をつけ，結びひもを長くたらす。多くは白地であるが，多彩な縞柄(しまがら)を用いることもある。チマはスカート形式で幅広く，上部でひだをとる。チマの下にパチをはく。男子用と同形であるが，太くつくられ，すそを閉じない。ソクチマ(内裳)はチマの下にはく白地のアンダースカート形式のものである。ツルマキは男子と同形である。そのほか男子はかぶりものとして馬尾・竹繊維などで編み，黒漆で塗り固めたつばのあるカッ(笠)をかぶる。はきものとしてはわら・麻・樹皮などでつくった舟底形のチップセキ(草鞋)をはく。➔前ページ(図)　〔小川安朗〕

ちょうせんまつ　【朝鮮松】　裸子植物・マツ科。朝鮮および本州・四国の海抜1,000～2,000mに分布する常緑高木。樹皮は灰かっ色で表面が薄くはがれる。葉は5本束生し，樹脂道は3本ある。雌雄同株で，春先に黄赤色の雄花と紫色の雌花をつける。球果は大形で長さ15cmあり，種子は長さ15～20mmでハイマツと同じく翼がない。種子は海松子といわれ，油脂・タンパク質を多く含み，食用にされる。

ちょうせんみんしゅしゅぎじんみんきょうわこく　【朝鮮民主主義人民共和国】　朝鮮半島北部にある人民共和国。通称は北朝



朝鮮民主主義人民共和国の国旗　1945年制定。青と赤は古くからの民族色で，青は平和，赤は国家建設，白は光明を表わすとされている。星はこの民族が共産主義社会建設を指向していることを表わしている

鮮。面積12万0,538km²。人口1,749万(1979年推)。首都は，憲法ではソウルとしているが，事実上は平壌(へいじょう)。単一の朝鮮族よりなり，朝鮮語を使用する。

1945年8月，日本統治時代に地下運動を行なっていた民族主義者たちは，朝鮮建国準備委員会を結成し，9月ソウルにおいて人民代表大会を開き，南北を一丸とした朝鮮人民共和国の樹立を決定した。南朝鮮にあったアメリカ合衆国軍政部はこれを否認したが，北朝鮮ではあくまでこれを朝鮮の正統政府とする立場をとり，北朝鮮にはいったソ連軍も，行政権を建国委員会や人民委員会に移して指導する態勢をとった。10月にはソ連軍とともに帰国した金日成を中心として朝鮮共産党中央局が平壌に設立され，12月には朝鮮独立同盟が延安から平壌に帰ってこれに協力を表明した。一方，アメリカ合衆国・イギリス・ソ連の外相会談がモスクワで開かれ，アメリカ合衆国・ソ連の共同委員会が設けられ，朝鮮臨時政府について協議を進めることとなった。南朝鮮ではいちはやく民主議院がアメリカ合衆国軍政部によって設けられ，これに対応して北朝鮮でも1946年2月に北朝鮮臨時人民委員会の設置を決定し，委員長に金日成を選出した。同年末までに土地改革・男女平等・重要産業の国有化などの法令を発布し，1947年2月には北朝鮮道市郡人民委員会大会の議決によって，行政機関として北朝鮮人民委員会をつくった。その後，アメリカ合衆国・ソ連共同委員会の審議が難航を重ね，南朝鮮単独政府樹立の気運が濃くなるとともに，1948年4月に全朝鮮の政党・団体の指導者会議が開かれ，単独政府樹立反対と朝鮮最高人民会議代議員選挙の決議が採択された。北朝鮮では1948年8月に選挙を行ない代議員212名が選出され，南朝鮮では代議員360名が選出された。同年9月平壌で第1次最高人民会議を開き，憲法を採択して朝鮮民主主義人民共和国を樹立し，首相に金日成を選出したが，行政がようやく軌道に乗りはじめた1950年6月，朝鮮戦争*が勃発(ぼっぱつ)し，重要産業の60～90%は破壊され，国土は荒廃した。1953年の休戦協定成立以後は国土の復興が進み，5か年計画(1957～1961年)を期間内に達成，次いで7か年計画にはいった。しかし，1961年に韓国(かんこく)に起こったクーデター以後は国防建設を重視し，中国・ソ連両国と軍事条約を結ぶとともに，経済と国防を平行して進める方針をとって，7か年計画の3か年延長を決定した。さらに同盟国である中国とソ連の対立の間にあって，自主独立の路線をゆくことになり，1967年の最高人民会議で発表された綱領にも，国家活動のあらゆる領域で自主・自立・自衛の革命精神を高揚すべきことが示されている。➔朝鮮　〔船越昭生〕

ちょうせんらいへいし　【朝鮮来聘使】　朝鮮信使・朝鮮聘使ともいう。江戸時代，原則として将軍の代替わりごとに来日した朝鮮王の江戸幕府への使節。1607年(慶長12)から1811年(文化8)まで12回来日し，正使以下約430名ほどの使節団が江戸で将軍に謁見した。幕府は将軍継嗣の儀礼，幕府の権威，国威の高揚ということから盛大な応接を行なった。6代将軍徳川家宣(いえのぶ)のとき新井白石が接待を縮小したが，8代将軍吉宗(よしむね)が旧に復した。幕府財政が窮乏したため，1811年の使節は対馬(つしま)(長崎県)で応接された。　〔松尾　涼〕

ちょうせんりょうり　【朝鮮料理】　韓国(かんこく)料理ともいう。朝鮮半島で行なわれる料理の総称。朝鮮では封建的社会制度と儒教に基づく家族制度が長く続いたため，食生活にもその影響が強く，内容に貧富の差が大きい。昔から食堂・料亭(りょうてい)で食事することを好まず，来客接待・宴会・結婚披露宴(ひろうえん)もすべて家庭で行なわれた。その結果家庭料理が発達し，その種類と風味で家の格づけが決められるほどである。朝に十分腹ごしらえをして仕事にかかる習慣があるので，食事は朝・夕とも本格的な料理が供され，昼食は簡単にすませる(点心という)。一般に調味料・香辛料を豊富に使って，複雑なうまみを出すのが特徴。調味料のみそ・しょうゆなどは自家製が多く，ごま油・酢・すりごま・トウガラシ・ニンニク・ネギ・ショウガ・コショウ・カラシ・砂糖などが大きな役割を果たす。

【主食・一般料理】主食には穀類の飯・かゆ・めん・もちなどを用いる。飯に麦・アズキ・ダイズなどを混ぜてたくことが多いが，めでたい日には必ず白飯にする。昼食には，ふつうめん類や牛肉・白身魚・貝類・野菜などの材料でつくったかゆ類を食べる。一般料理では特に野菜料理が発達し，野草などを効果的に用いる。献立は3～9の奇数または12の料理数で供され，家庭ではふつう3～7である。肉は牛肉が多く使われる。高級料理ほど材料のもち味や姿を自然


キムチ


神仙炉


九節板

朝鮮料理

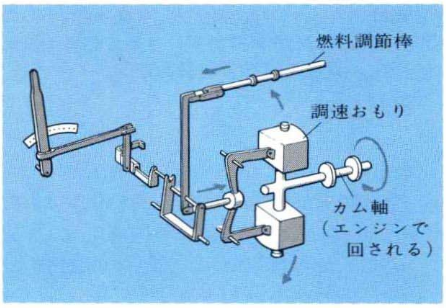
のまま供さず，必ず調味し，細かく切った野菜などを上にのせて飾って供される。

【代表的な料理】①キムチ：ハクサイの塩づけ。家庭では四季を問わず酒席や3度の食ぜんに必ず2～3種のキムチを出すので，種類もきわめて多く，基本惣菜(そうざい)の一。②ビビンパ：各種の具を飯の上に盛り，混ぜながら食べる。材料は牛肉・ゼンマイ・キュウリ・大豆もやしを調味していためたもの。③九節板(クジョルパン)：小麦粉を卵と水でといて薄く焼いたものを中が九つにくぎられた食器(九節板)の中央に盛り，これに8種類の材料(千切りにしていためたもの)を包んで，カラシを塗って食べる豪華な料理。材料は牛肉・アワビ・キュウリ・タケノコ・ニンジン・きのこ・卵など。④神仙炉(シンソンロ)：客の接待用の高級料理。神仙炉というなべに切った材料を色どりよく盛り合わせ，牛肉スープを注いで煮ながら食べる。材料は牛肉・レバー・白身魚・野菜類・ギンナンなど。⑤薬食(ヤケシク)：もち米をせいろうでふかし，砂糖・はちみつ・しょうゆ・クリ・ごま油・にっけい粉などを混ぜてもう一度ふかした菓子。おめでたい日につくる。⑥焼き肉(プルコギ)：牛・豚・鶏の肉を調味液で味つけし，金網で焼くもの。調味液にはしょうゆ・砂糖・ニンニク・ごま油など。

【酒】梅花酒・菊花酒・野ばら酒・山ぶどう酒・山にんじん酒のほか，桂当(けいとう)酒(ニッケイと多年草類)・桂糖酒(ニッケイとはちみつ)・当帰酒(多年草類)・甘香酒(はちみつと香料の実)・ヤマツツジ酒・甘紅露酒(しょうちゅうとニッケイ・薬草類)・清酒(せいちゅう)などがある。〔趙　重玉〕

ちょうそ【鼂錯】(？～BC154) 中国，前漢の文帝・景帝に仕えた政治家。しばしば匈奴(きょうど)に対する防備策を上言し，兵糧(ひょうろう)の蓄積や屯田(とんでん)制の実施を建議した。皇帝権を強化して諸侯王を抑制したので，呉楚(ごそ)七国の乱をひき起こし，刑死した。

ちょうそうよう【張僧繇】 中国六朝(りくちょう)時代梁(りょう)の画家。天監年中(502～519)武陵王国侍郎となり，のち右将軍をつとめ，呉興太守に至った。梁の武帝が仏教信仰を奨励したため，当時盛んであった仏寺の装飾画の制作に携わった。規模宏大(こうだい)な仏画・道釈人物画などがそれで，六法



調速機　自動車用ディーゼル機関の遠心式調速機の例。回転が上がると，各部は矢印のように動き燃料が減る

がよく備わった画人として顧愷之(こがいし)・陸探微と並称される。彼はまた，西域から伝来した陰影法を取り入れて，凹凸(おうとつ)花という色面による立体表現を行なった。唐代人物画に及ぼした影響は大きい。〔中島純司〕

ちょうそかべもとちか【長宗我部元親】(1539？～1599) 戦国末期の武将。国親の子。1560年(永禄3)父の跡を継ぎ，土佐(高知県)の諸豪族を討って，1571年(元亀2)土佐を統一した。さらに阿波(あわ)(徳島県)・讃岐(さぬき)(香川県)・伊予(いよ)(愛媛県)に進出し，1585年四国全土を平定したが，同年豊臣秀吉(とよとみひでよし)の四国征伐に会い，降伏して土佐1国を安堵(あんど)された。のち秀吉に属して九州征伐，小田原征伐，文禄(ぶんろく)・慶長の役に従軍した。1597年(慶長2)子の盛親とともに《長宗我部元親百箇条》を制定した。〔松尾　涼〕

ちょうそかべもとちかひゃっかじょう【長宗我部元親百箇条】 土佐(高知県)の戦国大名長宗我部氏の分国法。1597年(慶長2)元親・盛親父子の連名によって制定された。家臣団の統制よりも領国全般にわたる禁制に重点が置かれている。《中世法制史料集》所収。

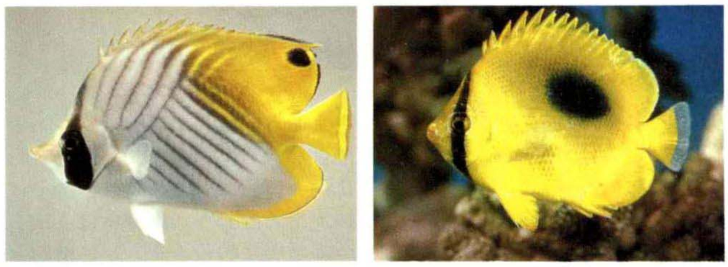
ちょうそくき【調速機】 熱機関において，その回転速度を一定に保つための付属装置。遠心調速機は原動機の軸に2個のおもりを取り付け，回転速度が上昇するとき生ずる遠心力を利用して，原動機にはいるエネルギーを減少させ，速度の上昇をおさえるもの。これによって蒸気原動機では蒸気の量を，内燃機関では供給燃料の量を加減する。大形の機関では，燃料あるいは蒸気の調節棒を動かすのに，遠心力だけでは力不足なので，油圧で力を増大する。これを油圧調速機という。なお，内燃機関では吸気負圧が回転速度によって変わるのを利用し，調節棒を負圧(大気圧以下絶対圧力0までの圧力)で動かす空気調速機も用いられる。また回転速度を発電機の電圧で検出する電気式調速機もある。〔斎藤　孟〕

ちょうた【趙佗】(？～BC137) 中国古代の南越最初の王。真定郡(いまの河北省正定県一帯)に生まれ，秦(しん)末の混乱の際は南海郡尉であった。秦の滅亡後自立し，隣接の桂林(けいりん)・象郡を勢力下におさめ，武王と称して都を番禺(ばんぐう)(いまの広州市)に置いた。漢の高祖はこれを討伐する余力がなく，南越王に封じて物資の交易を行なうなど和親を図った。呂后(りょこう)のときそむいて長沙(ちょうさ)の南境を侵し，閩越(びんえつ)・西甌駱(せいおうらく)を支配下に入れ，華南に威を振るった。文帝の時代再び漢と和して臣事し，漢に対しては王と称する一方，みずからの支配領域では皇帝と称していた。〔船越昭生〕

ちょうたじかんりろん【超多時間理論】 相対性理論を完全に満たす場の量子論。1932年ディラックは電磁場と相互作用する多くの電子の系の量子力学を相対性理論のわく内で記述するために，多数の電子がそれぞれに固有の時間をもつという形式の理論を提唱した。通常のただ一つの時間変数で記述される理論と対比してこれを多時間理論という。朝永(ともなが)振一郎は1943年，ディラックの多時間理論を場の量子論を用いて一般化することに成功しこれを超多時間理論とよんだ。シュウィンガーも独立に同一の内容の理論を発表したので〈朝永-シュウィンガーの理論〉ともいわれる。場の量子論では，古典的な場を量子化することによって素粒子およびそれの生成と消滅を記述することができる。しかし光速度またはそれに近い速度で運動する素粒子をも記述するためには相対性理論を満足するような場の量子論を必要とし，これは1929年ハイゼンベルクとパウリによって完成されたが，この理論は相対性理論を満足することが一見して明らかであるような形式をとっていなかった。このような形式上の不備を一掃するために朝永はディラックの着想から出発して時間変数 t の代わりにミンコフスキー空間内に三次元超曲面 σ を導入し，ハイゼンベルク-パウリの理論の再定式化を行なった。このような超曲面 σ は時間に相当する無限個の変数によって指定される。これが超多時間理論とよばれるゆえんである。この理論は形式は異なるもののハイゼンベルク-パウリの理論と同一内容のものであるが，量子電気力学に応用されて，大きな成功を収めることになった。〔大貫義郎〕

ちょうたんぱ【超短波】 ⇨電磁波


チョウチョウウオの体色変化　(左)幼魚　(中)若魚　(右)成魚


チョウチョウウオ　(下左)トゲチョウチョウウオ　(下右)トノサマダイ

ちょうたんぱりょうほう　【超短波療法】 温熱療法に用いられる，高周波療法の一種。高周波回路中の電界に，被熱される部分をおくと，電界の変化に伴い，生体を構成する物質分子は双極子回転を起こし，その運動エネルギーが熱に変化する。蓄電器の電界内に人体をおく方法と，電極を治療部位に巻きつける巻き線電界法とがある。他の温熱療法に比べ，加熱の深達性・均一性の点ですぐれている。血管拡張と鎮痛の作用があり，リウマチ性疾患・神経痛・慢性付属器炎などの治療に利用される。〔増田武弘〕

ちょうチフス　【腸チフス】 ⇨チフス

ちょうちゅうけい　【張仲景】 中国，後漢時代の医学者。140年ごろの生まれという。献帝の建安年間に長沙(ちょうさ)太守(地方長官)となった。早くから医術を学んでいたが，一族の多くが傷寒(急性熱性伝染病)で死亡したため,広く古事をあさって《傷寒雑病論》16巻を著わした。これが《傷寒論》と，急性熱病以外の病気について論じた《金匱(きんき)要略》との2部に分かれて今日に伝わっており，中国医学の代表的著書とされる。

ちょうちょう　【長調】 ⇨調性

ちょうちょううお　【蝶々魚】 硬骨魚類・チョウチョウウオ科の海産魚。英名はバタフライフィッシュ。狭い意味ではチョウチョウウオをさすが，広い意味ではチョウチョウウオ科の魚の総称に用いられる。この科の魚は，幼魚に頭がカブト状の骨板でおおわれるトリクチス期を経て，変態して成魚になるのが著しい特徴である。チョウチョウウオはわが国の中部以南の磯(いそ)や潮だまりに広く生息し，全長15cmに達する。幼魚では背びれの軟条部に眼径大の黒斑(こくはん)があるが，成長するにつれ消失する。このほか，日本沿岸で普通に見られるチョウチョウウオには，フウライチョウチョウウオ・アケボノチョウチョウウオ・トゲチョウチョウウオ・チョウハンなどがある。観賞価値が高く，水族館などで珍重されるが，南方諸地域では食用にする。沖縄ではカマボコの好材料としている。〔安田富士郎〕

ちょうちょうふじん　【蝶々夫人】 プッチーニ作曲のオペラ。2幕。ベラスコの戯曲をもとにイリーカとジャコーザが台本をつくり，1904年2月17日にミラノで初演された。登場人物は蝶々夫人(ソプラノ)・スズキ(女中，メゾソプラノ)・ピンカートン(士官，テノール)・シャープレス(領事，バリトン)などで,日本の長崎を舞台にした悲恋ものである。国際舞台で日本の歌手が最も多く主役を務められる作品で,《ある晴れた日に》をはじめ佳曲が多い。〔向坂正久〕

ちょうちん　【提燈】 燈火具の一。〈ちょうちん〉は宋(そう)音で，室町時代に禅家により普及した。つり燈籠(とうろう)から取手をつけた携行用のかごちょうちんとなり，やがて割り竹を巻いて骨とし，紙をはってつくった折りたたみ式のちょうちんに変化した。



ちょうちん　①弓張りちょうちん　②岐阜ちょうちん　③小田原ぢょうちん　④ぶらちょうちん

外出用の折りたたみ式のちょうちんが普及したのは文禄(ぶんろく)年間(1592～1595)であり，これもおそらく中国からの伝来と思われる。江戸時代にはいるとちょうちんは携行用燈火具として，在来の行燈(あんどん)に代わっておおいに流行し，各種のちょうちんが創出された。用途によって弓張りちょうちん・馬ぢょうちん・御用ぢょうちん・ふところぢょうちん・ぶらぢょうちん・忍びぢょうちんなどがある。地方名産のちょうちんとして，小田原ぢょうちん・岐阜ぢょうちんなどが有名である。明治以後，洋式燈火具の普及により，現在では祭りぢょうちんや盆ぢょうちんなどにおもかげをとどめるにすぎない。〔渡辺欣雄〕

ちょうちんあんこう　【提燈鮟鱇】 硬骨魚類・チョウチンアンコウ科。全長60cmほどの海産魚。太平洋と大西洋の深海に広く分布しているが，わが国ではまれで，相模(さがみ)湾と下田沖が知られているにすぎない。アンコウの仲間には雄が雌に寄生するものがあるが，本種の雄は自在生活を営む。老・幼・雌・雄によって体形は著しく変化する。第一背びれの第一棘(きょく)は餌(じ)生物の誘引器官で，その先端はふくらみ，発光する。目ははなはだ小さい。

ちょうちんごけ　【提燈苔】 コケ植物・蘚類(せんるい)・チョウチンゴケ科・チョウチンゴケ属の総称。陰湿地に群生し，茎は直立するが走枝を出すものもある。胞子囊(ほうしのう)は水平かまたはたれ下がって生ずる。オオバチョウチンゴケ・ツルチョウチンゴケなど，五倍子*をつくるヌルデノミミフシ*の中間宿主となる種類がある。

ちょうてい　【調停】 民事上の紛争を訴訟によらず，第三者を当事者間に仲介させて和解示談に努めさせ，それによって解決を図ろうとすることをいう。宅地・建物，農事，商事，鉱害についての調停は民事調停法により，家庭事件については家事審判法によって処理される。労働争議の調停は，労働関係調整法により，労働委員会の手で行なわれる。調停は調停主任たる判事のほか，調停委員2名以上で構成される調停委員会によって行なわれる。調停制度の目的は，当事者に紛争上の問題について勝ち負けの決着をつけるのではなく，当事者の互譲を中心にして，条理にかない実情に沿った方法で円満な解決を図るにある。調停は訴訟費用がかからず，時間的にも早く解決される利点があるため，よく利用されて紛争解決に貢献しているが，事と次第によっては，調停委員の裁量や判断に引きずられてかたよった調停がなされる危険性がないわけではない。調停委員の選任は裁判所が毎年これを指定するが，地方の名士や高齢者に依頼することが多かったため近時若返りが主張されている。調停により，当事者間に合意が成立し，これを調書に記載したときは調停が成立したものとし，その記載は裁判の判決と同一の効力を認めている(民事調停法16条・家事審判法21条)。調停が成

立する見込みがない場合，一定の要件のもとに調停に代わる決定または審判をなすことも認められる(民事調停法17条・家事審判法24条)。この場合,異議の申し立てはもちろん認められるが，異議がなければ確定判決と同一の効力を有する(民事調停法18条・家事審判法25条)。また調停も成立せず,決定審判もなされないときは調停は不成立となる。また調停申立者が申し立てを取り下げれば進行中の調停は中止される。〔黒木三郎〕

ちょうでんどう　【超伝導】　ある種の金属の電気抵抗が，超低温においてほとんど0になる現象。この現象は，1911年に水銀についてはじめて発見された。一般に，金属の電気抵抗と温度との関係は常温付近で直線的であり，温度が下がれば抵抗は減じる。しかし，この関係は極低温においては通用せず，温度の降下に対し抵抗の減少はしだいに鈍くなる。ところがある種の金属においては，ある転移温度T_c以下で，電気抵抗が急激に低下して0に近くなる。このT_c以下の状態が超伝導状態とよばれ，電気の伝導が極度に大きいので，多くの応用が期待されている。〔堀内和夫〕

ちょうてんよく　【張天翼】　チャンテンイー(1906～　)　中国現代の作家。湖南の人。1930年代に盛んな創作活動をして，文壇に注目された。第2次世界大戦中は，重慶・成都にいたが，中華人民共和国成立後は，評論を書き，また,児童向けの作品《宝のひょうたん》を発表している。代表作は《華威先生》《清明時節》など。

ちょうとんぼ　【蝶蜻蛉】　こん虫類・トンボ目・トンボ科。中形のトンボで，腹部長21～24mm，後翅(こうし)の長さ38mm内外。体は青銅色で頭部および胸部には金属光沢がある。腹部は細く短い。脚は黒色で短い。翅(はね)は，雄では表面が紫黒色で，成熟するにつれ紫色光沢が強くなり，雌ではむしろ金緑色の光沢が強い。前翅の先端部約3分の1と後翅の先端部のみ透明で，また後翅の基部が著しく幅広い。飛翔(ひしょう)は緩慢で，中空をチョウのように舞う。本州・四国・九州・種子島(たねがしま)のほか,朝鮮や中国の中北部一帯に広く分布する。平地の池沼に生育し，成虫は6～9月に出現する。〔鈴木邦雄〕

ちょうないさいきん　【腸内細菌】　腸内細菌科の総称。グラム陰性(→グラム染色法)桿菌(かんきん)で，胞子をつくらず，ブドウ糖から酸あるいは酸とガスを産生する。大腸菌やチフス菌のように周囲性べん毛をもつものが多いが，赤痢菌のようにべん毛のないものもある。動物の腸管内などに多くみられ，腸管系伝染疾患の病原菌となるものや植物に寄生して腐敗を起こしたり害を与えるものもある。腸内細菌にはサルモネラ菌・赤痢菌・大腸菌・プロテウス菌などが含まれる。



チョウノスケソウ

ちょうにちおう　【超日王】　⇨チャンドラグプタ2世

ちょうにん　【町人】　江戸時代，都市に居住した商工業者をいう。厳密には土地・屋敷をもつ都市居住者のみをさし，借家・借地をしている者を店借(たながり)・地借といって区別した。町人は近世の身分制度で士農工商の下位に位置づけられたが,城下町・港町・門前町など全国各地の都市で流通経済のにない手となり，近世中期には著しい台頭をみせた。ことに武士の集住した城下町では，武士たちの生活に必要な物資を供給するため商工業者が誘致された。18世紀初頭,江戸の人口は100万前後に達したと推定され，その半ばは町人人口とみられている。〈天下の台所〉といわれた大阪は，当時人口35万を数えたが，その大部分は町人であった。これら町人は町奉行(ぶぎょう)に支配され，名主(関西では庄屋(しょうや))の下に地主・家持ちたちが町政・公事(くじ)に参与し，各町内の自治が行なわれた。

町人はおもに商人と職人とに分かれた。商人は主人・番頭・手代・丁稚(でっち),職人は親方・職人・徒弟のきびしい身分制とそれをささえる封建道徳に規制されていたが，商人には勤勉・節約・信用，職人には名人気質(かたぎ)に徹した町人精神が発揮された。町人は農民の本年貢にあたる税は課せられなかったが，運上・冥加(みょうが)金・御用金などを負担した。蔵元・掛屋(かけや)として諸藩の御用達(ごようたし)をつとめる商人は，領主経済の重要な業務を担当し，のちには諸大名に対して有力な融資者となった。さらに全国的な商品流通の機構は株仲間・問屋・組を通じて江戸・京都・大阪の三都市の商人に支配され，彼らは優越した経済力を蓄積した。〔高崎徳次〕

ちょうにんこうけんろく　【町人考見録】　町人の訓戒書。3巻。追加1巻。三井高房(たかふさ)著。1728年(享保13)成立。元禄(げんろく)・宝永(1688～1710)ごろの京都の商人が，大名貸などによって没落した例をあげて子孫に訓戒を与えたものである。高房が父高平の述べるところを筆記したもので，三井家の家憲を注釈したものであり心学的傾向がみられる。

ちょうねんてん　【腸捻転】　腸軸捻ともいう。腸管が腸間膜または腸管自体の長軸を軸としてねじれる状態の総称。腸間膜が長くて狭い部位に起こりやすく，腸管の通過障害とともに循環障害を伴う。便秘がちな中年以後の婦人に多く，S状結腸(→結腸)，次いで小腸に起こる。開腹して原因を明らかにし，絞扼(こうやく)部を除去する必要がある。予後は手術の時期に関係があり，腸管が壊死(えし)に陥ったものでは手術死亡率が著しく高い。〔三島好雄〕

ちょうのうりょく　【超能力】　ESP能力やPK(念力)など常識を越えた能力をさす通俗語。ESPやPKは現在きわめて微弱な効果しか認められていず，またこれらをコントロールする方法も未知であるが，SFや漫画では誇大に表現されている。

ちょうのすけそう　【長之助草】　双子葉植物・バラ科。本州中部の高山やサハリン・カムチャツカなどの岩場に多い常緑小低木。茎は多数分枝し，地面をはう。葉は互生し，広楕円(こうだえん)形で鈍鋸歯(どんきょし)があり，長さ2～3cm，幅0.5～1.5cmで厚く，表面の脈がへこんでいる。裏面には白毛が密生する。葉は枯れても落ちずに残っている。6～8月，長い花柄の先に直径2cmあまりの白色ないし淡黄色の花を1個つける。花後も花柱は残ってオキナグサのような白毛を生ずる。9～10月，果実は黒熟する。和名は本種を最初に発見した江戸末期の採集家須川(すがわ)長之助にちなむ。〔加藤僖重〕

ちょうのみちゆき　【蝶の道行】　日本舞踊・義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。本名題《二世の縁花の台(にせのえんはなのうてな)》1818年(文政1)初演。歌舞伎(かぶき)狂言《傾城倭荘子(けいせいやまとそうし)》中の景事をあやつり芝居に改訂したもの。上記の狂言で身代わりになって死ぬ若い男女の魂が，男蝶・女蝶となって踊る道行きから最後地獄の責めに苦しむまでを描く。

ちょうは　【長波】　⇨電磁波

ちょうば　【跳馬】　⇨体操競技

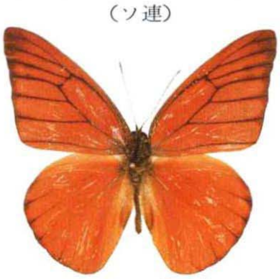
ちょうばえ　【蝶蠅】　こん虫類・双翅(そうし)目・チョウバエ科の総称。微小で，全体に長短の毛や鱗毛(りんもう)を密生している。双翅目のうちでは比較的原始的な特徴を多くもち，一見微小なガに似る。翅(はね)は大きく，楕円(だえん)形で，しばしば先端部はとがっており，静止時には背面に屋根形にたたまれる。成虫は湿気の多い場所に生活し，活発に動きまわる。幼虫は大部分の種は汚物食性で，陸生のものと水生のものとがあり,前者は腐敗植物質や腐敗木・きのこ類・獣糞(じゅうふん)などに生活し,後者には静水中に生活するものから渓流(けいりゅう)などに生活するものまで種類によって変化がみられる。全世界に少なくても300種類以上が知られ，日本にもかなりの種類が分布していると考えられるが，まだ詳しく調べられていない。日本に産する種類には，ホシチョウバエ・オオチョウバエ・ニッポンサシチョウバエなどがある。〔鈴木邦雄〕

（外国産Ⅱ）


キオビベニモンドクチョウ
（ブラジル）


ホソオチョウ（韓国）

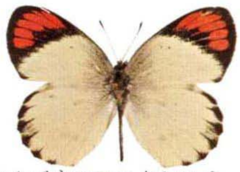

クロボシウスバシロチョウ
（ソ連）


ベニシロチョウ
（マレーシア）


ベニモンオオキチョウ
（メキシコ）


シロオビコバネジャノメ
（ブラジル）

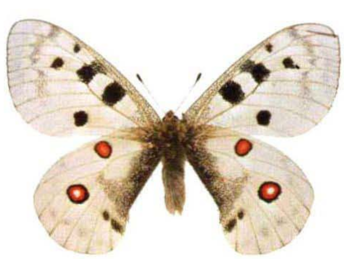

ムラサキスカシジャノメ
（ブラジル）


マルバネツマアカシロチョウ
（中央アフリカ）


オオルリフタオシジミ
（ブラジル）


コベニモンキチョウ
（フランス）


ドゥルセイマエモンジャコウ
（ボリビア）

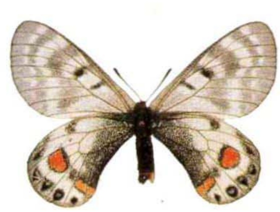

アポロウスバシロチョウ
（チェコスロバキア）


シロモンルリマダラ
（マレーシア）


アナキシビアモルフォ
（ブラジル）

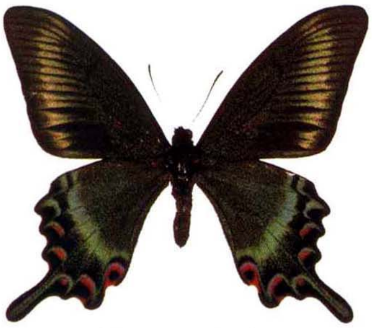

ホソバジャコウアゲハ
（マレーシア）


オオルリアゲハ
（ニューギニア）


タカネウスバシロチョウ
（インド）


アオフタオチョウ
（コンゴ）

(外国産Ⅰ)



ミヤマカラスアゲハ



オオヒカゲ



ギフチョウ



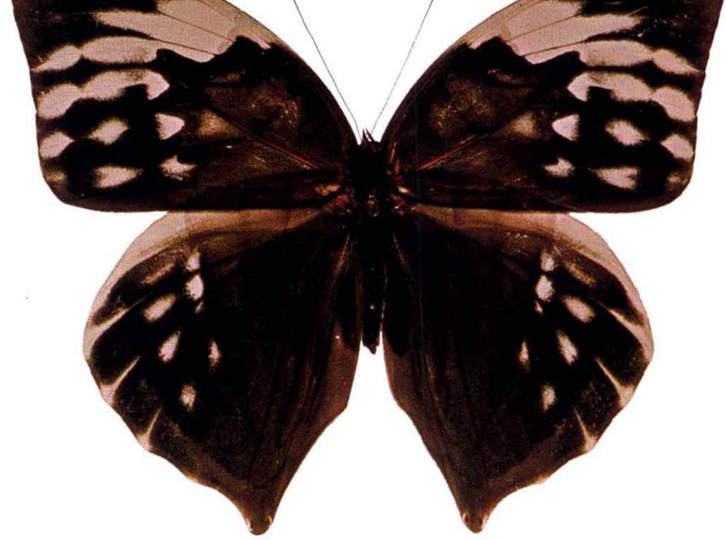
ヤマキチョウ



イシガケチョウ



ホシミスジ



アサギトガリバワモン(雌)
(マレーシア)



アサギトガリバワモン
(雄)
(マレーシア)



ヒイロタテハ
(中央アフリカ)



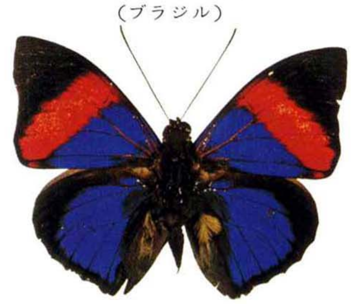
クラウディアアグリアス
(ブラジル)



エガーモルフォ(雌)
(ブラジル)



カスリタテハ(ペルー)



ナルキスアグリアス
(ブラジル)

チョウ（日本産）


（裏）
キマダラルリツバメ


ツマグロキチョウ


サカハチチョウ

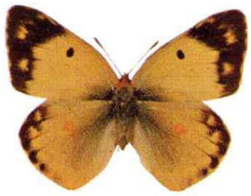

チョウセンアカシジミ


アサヒヒョウモン


ミヤマセセリ


ミドリシジミ

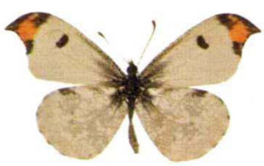

ウラゴマダラシジミ


モンキチョウ


アサマイチモンジ

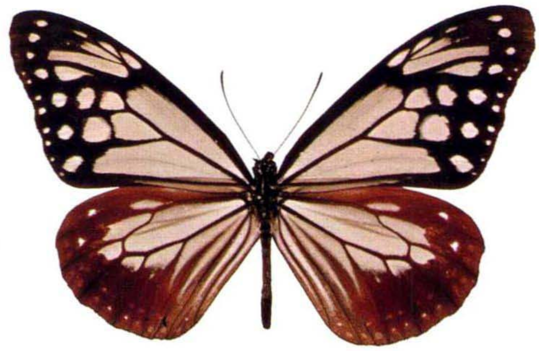

コミスジ


ゴマシジミ


ツマキチョウ


ハヤシミドリシジミ


アカシジミ


アサギマダラ


オオムラサキ


ナミアゲハ


オナガアゲハ


シータテハ


スミナガシ


ギンボシヒョウモン

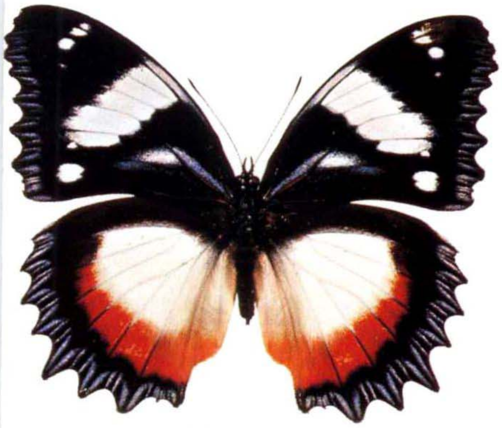

ヒオドシチョウ


コムラサキ


アカタテハ


クジャクチョウ


コヒオドシ

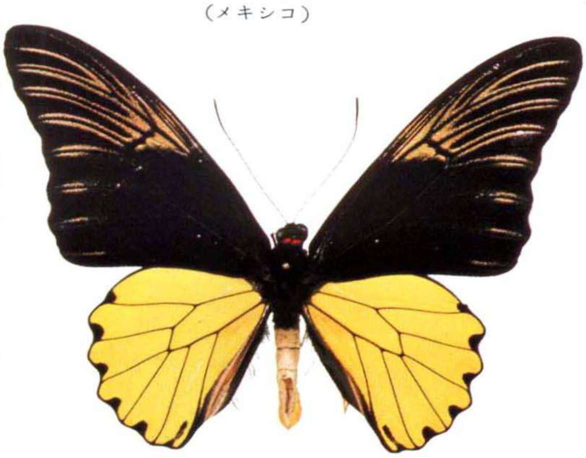

ハガタムラサキ
（マダガスカル）

アレキサンドラアゲハ(雌)
（ニューギニア）



オオトラフアゲハ
（メキシコ）

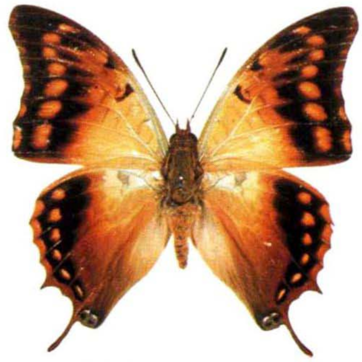
アレキサンドラアゲハ(雄)
（ニューギニア）

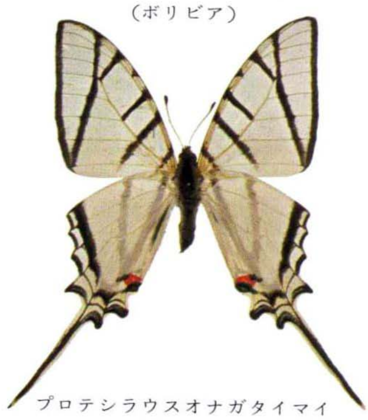


アンフリサスキシタアゲハ
（マレーシア）


スカシタイスアゲハ
（スペイン）


コベニモンウズマキタテハ
（ボリビア）


オビクジャクアゲハ
（マレーシア）


オナガフタオチョウ
（中央アフリカ）


プロテシラウスオナガタイマイ
（ブラジル）

ちょうはくさんみゃく　【長白山脈】　チャンペク山脈　中国の東北地区と朝鮮との国境地帯を北東～南西に延びる山脈。主峰の長白山(2,744 m)は火山で，朝鮮では白頭山とよばれ，頂上にある周囲11kmの火口湖天池は，松花江の水源をなす。清朝(しんちょう)の皇帝愛新覚羅*(あいしんかくら)の始祖はここから発したとされる。一帯は原生林におおわれ，近年その豊富な森林資源が開発されはじめた。山脈は先古生代の片麻岩を主とし，この間にカコウ岩・石英斑岩(はんがん)・玄武岩などが貫入し，長白山付近には，石英粗面岩が露出する。なお中国と朝鮮の間で国境画定をめぐって清朝・李朝(りちょう)時代から紛争が絶えない。　〔船越昭生〕

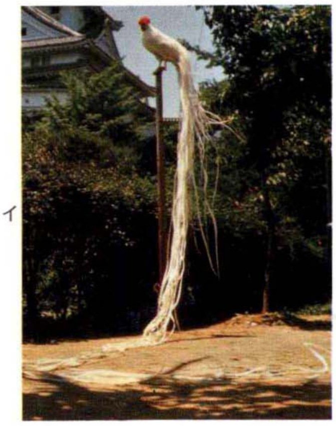
ちょうはつぞく　【長髪賊】　⇨太平天国

ちょうひ　【張飛】　(166？～221)　中国，三国の蜀*(しょく)の武将。字(あざな)は益徳。関羽*とともに劉備*(りゅうび)起兵当時からの側近。中国の豪傑の代表的存在で，劉備が曹操*(そうそう)に破れ，妻子を捨ててのがれたとき，長板橋上で〈われこそ張益徳なるぞ〉と大声をあげ，魏(ぎ)軍を退けたことは有名。しかし，部下に対しての温情を欠き，暗殺された。

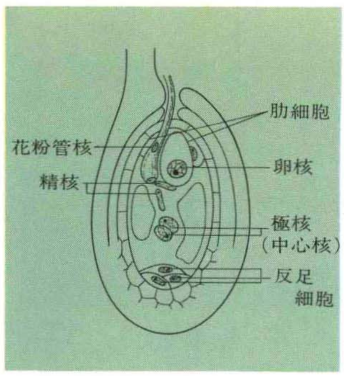
ちょうびけい　【長尾鶏】　オナガドリともいう。高知県でつくりだされた愛玩(あいがん)用のニワトリで，小国から改良された。白色と白藤などの内種があり，雄の尾羽は換羽せずに1年に約1ｍの割合で伸長を続け，中には8ｍにも達するものもある。したがって，その飼育に際しては，〈とめ箱〉という細長い箱を2～3ｍの高さに固定して雄を飼育し，尾羽が地面に接してすり切れるのを防ぐ。ただし，これは観賞用ので，繁殖用のものは別の方法で飼育する。体重は雄1.9kg，雌1.1kg，雌の尾羽は他の品種に比べいくぶん長い程度である。特別天然記念物。　〔一戸健司〕

ちょうびるい　【長鼻類】　長鼻目に属する哺乳(ほにゅう)動物の総称で，現生するものはゾウ類だけである。大昔には非常に栄え，マストドンなど多くの種類があったが，しだいに絶滅し，いまではアフリカに2種とアジアに1種残るのみである。➔ゾウ

ちょうふ　【調布(市)】　東京都中南部の市。人口17万4,000。江戸時代は布田五宿とよばれる甲州街道の宿場町であった。1955年(昭和30)市制施行。古代に朝鮮からの帰化人が織布などの技術を伝えた土地で，地名は律令(りつりょう)制*で調として朝廷にその布を貢納したことにちなむ。市域は武蔵野(むさしの)台地上にあって古い街村のおもかげを残し，南は多摩川をはさんで川崎市と接する。産業三大別人口比は1：32：67。第2次世界大戦後，東京の衛星住宅都市として急速に発展した。京王帝都電鉄京王線・中央高速道路が通じ，神代植物公園や深大(じんだい)寺があり，深大寺所蔵の釈迦(しゃか)如来倚像(いぞう)は，関東唯一の白鳳仏(はくほうぶつ)



チョウビケイ



重複受精

として知られる。

ちょうふく　【朝服】　律令(りつりょう)に定められた服制の一。親王以下有位の官人が朝廷に出仕する際着用した通常服。文官は頭巾(ずきん)・衣(きぬ)・袴(はかま)・腰帯・襪(しとうず)・履(くつ)・笏(しゃく)・位袋，武官は頭巾に緌(おいかけ)をつけ，衣の代わりに襖(あお)を着用し横刀(たち)を佩(は)き，他は文官に準じた。衣・襖・袋などは位階によって色や形が異なり，一見して身分がわかるしくみであった。

ちょうぶく　【調伏】　〈じょうぶく〉ともいう。仏道修行者がさまざまな障害を調整し排除することで，修行を乱す自己の悪心や誘惑を除き，また敵対者を降伏させ，積極的に教化していくことをさす。真言宗などの密教では不動明王などを本尊とする調伏法がある。また教団の規律や僧侶(そうりょ)の生活規範を定めた戒律の経典を〈調伏蔵〉という。

ちょうふくじゅせい　【重複受精】　〈じゅうふくじゅせい〉とも読む。被子植物にみられる受精。めしべの柱頭についた花粉から花粉管が伸びて胚嚢(はいのう)に達すると，花粉管の先端が破れて，花粉管の中の2個の精核のうち1個は胚嚢の中の卵核と合一し，胚となって新個体に発達する。精核の他の1個は胚嚢中央にある極核(中心核)と合一し，盛んに分裂して胚乳を形成する。これは胚の栄養となる。

ちょうへいせいど　【徴兵制度】　⇨兵役制度　⇨徴兵令

ちょうへいそく　【腸閉塞】　なんらかの原因で腸管の通過が高度に妨げられた状態。イレウス・腸不通症などともいう。腸内容の一部が通過しうる状態を腸狭窄(ちょうきょうさく)，まったく通過しなくなった状態を腸閉塞というが，広義には両者を一括して腸閉塞とよぶ。また，腸管内腔(ないこう)が器質的病変によって閉塞したものを機械的腸閉塞，腸管麻痺(まひ)による通過障害を機能的腸閉塞といい，後者を腸麻痺とよぶことが多い。機械的腸閉塞はしばしば腹膜*の癒着(ゆちゃく)による腸管の屈曲が原因で起こる。以前に腹腔内の手術を受けたり，腹膜炎に罹患(りかん)した者で，腹部に激痛を訴える場合にはまず本症が疑われる。閉塞部の上位腸管は著しく拡張して内圧が高まるため，循環障害を起こして出血・壊死(えし)に至り，激しい嘔吐(おうと)のためにきわめて多量の水分が失われて脱水状態となる。閉塞部が上位にあればあるほど急速に全身状態が悪化し，多くは放置すれば死の転帰をとる。腹部膨満・腹痛・嘔吐，便通およびガス排出停止などの症状を現わし，全身状態は急速に悪化して患者の生命を脅かすようになる。機械的腸閉塞は原則として手術で閉塞を除去するが，機能的腸閉塞は手術の対象になることはまれで，大量の輸血・輸液などにより全身状態の改善を図る。　〔三島好雄〕

ちょうへいれい　【徴兵令】　国民皆兵思想に基づいて軍隊に兵士を徴集するため1873年(明治6)1月10日に公布された制度。武士階級による職業的軍隊を廃し兵役義務制による国民軍の編成をねらいとしたもの。満20歳に達した男子はすべて徴兵検査を受けるが，徴兵を免ぜられる広範な規定があり，また国家財政上からも，実際に徴集されるのはごく一部の青年であった。この免役の特典はしだいに削減され，1927年(昭和2)4月徴兵令は廃止され，〈兵役法〉が制定された。　〔森田　哲〕

ちょうほうけい　【長方形】　⇨四角形

ちょうほうじ　【頂法寺】　京都市中京区堂前町にある天台宗の寺。俗称六角堂(本堂の構造が六角)で知られる。聖徳太子(しょうとくたいし)が四天王寺建立(こんりゅう)の用材を求めたとき，現地に小堂を建て観音像を祭ったのに始まるという。822年(弘仁13)嵯峨(さが)天皇の勅願寺，998年(長徳4)西国第十八番札所となる。1193年(建久4)以来再三兵火にかかり，現在の建物は1877年(明治10)再建されたものである。本尊は如意輪観音像。当寺門内に京都の中心を示す臍石(せいせき)がある。　〔杉坂靖子〕

ちょうみりょう　【調味料】　人の嗜好(しこう)に適した味を食品につけ，食品本来の味をいっそうよくするもの。調味食品ともいう。料理に際して用いるほか，食卓で食品に直接振りかけて使用することもある。ふつう〈味〉には，甘・鹹(かん)・酸・辛・苦の五味があるとされていたが，最近ではこれに渋味を加えて六味とし，これらの組み合

わせが調和したものを美味とする。

調味料には非常に多くの種類があるが，代表として，食塩(鹹味)・食酢(酸味)・砂糖(甘味)・グルタミン酸ソーダ・リボタイド類(旨味(うまみ))，からし・ワサビなど(辛味)があげられる。これらはいずれも単独で用いられ，基本的な調味料である。また食酢・しょうゆ・みそのように醸造されるものや，ソース・トマトケチャップ・マヨネーズのようにいろいろな原料を配合してつくられるものもある。なお辛味料は，香辛料あるいは薬味料として別に分類され，普通は調味料に含まれない。しかし複雑な配合調味料の中には必ず含まれている。調味料の中には，天然のものと人工(あるいは化学)のものとがある。たとえば砂糖は天然甘味料で，これに対してサッカリンは人工甘味料，かつお節やコンブの煮じるは旨味の天然調味料で，グルタミン酸ソーダやリボタイドは，人工あるいは化学調味料とよばれる。調味料はそれ自身栄養のないものが多いが，これによって食品の味をよくし，食欲を増すので，食生活にはきわめて重要な存在である。〔佐藤友太郎〕

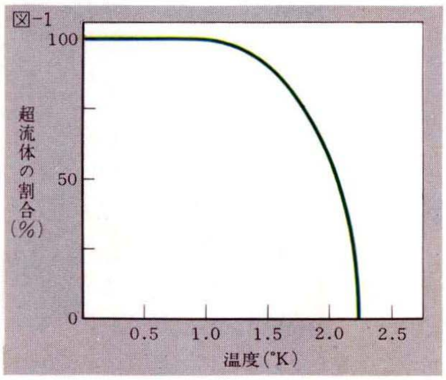
ちょうもうふ 【趙孟頫】 (1254〜1322) 中国，元代の文人。字(あざな)は子昂(すごう)。号は松雪道人。宋(そう)の宗室の出身。浙江(せっこう)湖州の人。宋の滅亡ののち，元朝に仕え，仁宗のとき翰林(かんりん)学士承旨となり優遇された。没後，魏国公(ぎこくこう)を贈られ，文敏とおくり名されている。学識にすぐれ，詩文をよくし，仏老の学にも通じた。書画いずれも一家をなし，特に書においては二王(王羲之*(おうぎし)とその子王献之*)の典型を受けて，精妙の極致に至り，その書風は元朝を風靡(ふうび)した。《松雪斎集》がある。〔中田勇次郎〕

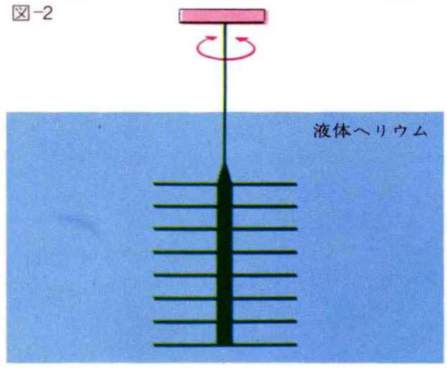
ちょうもんかい 【聴聞会】 ⇨公聴会

ちょうもんきょう 【長門峡】 山口県中央部，阿武(あぶ)川が高原状の阿武山地を侵食してつくる峡谷。延長12km。石英斑岩(はんがん)の奇岩怪石や多くの滝・淵(ふち)・瀬などが組み合わされてすぐれた景観を呈する。上流部を東長門峡，下流部を西長門峡とよび，西長門峡には湯ノ瀬温泉や発電所がある。周辺部一帯は長門峡県立公園に指定されている。

ちょうやくきょうぎ 【跳躍競技】 ⇨陸上競技

ちょうやくじょうこく 【跳躍上告】 地方裁判所・家庭裁判所・簡易裁判所の第一審判決を不服とする者が，高等裁判所へ控訴せず，直接最高裁判所に対して上告*することをいう。飛躍上告・飛越上告などともいう。跳躍上告は，検察官と被告人の双方ができる場合と，検察官のみに許される場合とがある。前者は第一審の判決において，法律・命令・規則もしくは処分が憲法に違反するものと判断されたとき，または地方公共団体の条例や規則が法律に違反すると





超　流　動

判断された場合であり，後者は，地方公共団体の条例や規則が憲法または法律に適合するという判断に不服な場合である。つまり法律や規則が憲法に違反するか否かなど，最高裁判所の判断によるのが適当と思われる場合にのみ許される上告である。この審判は，普通の上告のときと同一であるが，控訴の申し立てがあると，その効力を失う。砂川事件*における東京地方裁判所の無罪判決に対して，検察官が跳躍上告をしたのが知られる。➔三審制度〔井上公耳〕

ちょうやくるい 【跳躍類】 ⇨直翅(ちょくし)類

ちょうやしんぶん 【朝野新聞】 明治前期の政論新聞。1872年(明治5)11月創刊の《公文通誌》を，1874年9月に改題したもので，当時の社主乙部鼎(おとべかなえ)は成島柳北*を社長に迎えた。柳北の入社後は民権派の新聞として親しまれ，特に柳北の雑録と柳北が迎えた末広鉄腸*の社説が人気を集めた。1884年柳北の死後，1886年立憲改進党の犬養毅(いぬかいつよし)・尾崎行雄らが入社したため，立憲改進党の機関紙的存在となった。1890年渡辺(わたなべ)治が社長に就任すると，彼らがいっせいに退社したため社運は衰微し，1893年国民協会の機関紙となった。まもなく廃刊。〔須藤泰秀〕

ちょうよう 【朝陽】 チャオヤン　中国，遼寧(りょうねい)省西部の都市で，県政府の所在地。旧名塔子溝(とうしこう)。大凌河(だいりょうが)北岸に臨み，河川航運の終点をなす。また錦承(きんしょう)鉄道(錦州〜承徳)に沿う水陸交通の要地で，付近で産するアワ・コウリャン・ダイズ・綿花などのほか，羊毛など畜産品を集散する。また10〜13世紀の北方民族国家である遼(りょう)・金時代の遺跡が残っている。

ちょうよく 【趙翼】 (1727〜1812) 清朝(しんちょう)の文人，考証学者。字(あざな)は耘松(うんしょう)，号は甌北(おうほく)。1754年軍機処に入り，1761年進士に及第したが，官界ではあまり成功せず，郷里に隠棲(いんせい)して安定書院の主講をつとめるかたわら，詩作や著述活動に専心した。《甌北詩話》《簷曝(えんばく)雑記》などの作品も有名であるが，《陔余叢考(がいよそうこう)》，さらに歴史の正史22編から中国史の重要問題500項目を選んで解説を加えた《二十二史劄記(さっき)》は，清朝考証史学の一大金字塔であり，わが国の東洋史学に多大の影響を与えた。〔藤善真澄〕

ちょうりつ 【調律】 楽器の音高を，絶対的な規準や相対的な関係で整えること。弦楽器の場合は調弦ともいわれ，演奏家が開放弦を合わせることで行なうが，オルガンやピアノの場合は，専門の技術者が行なう。ピアノの場合は調律師の資格をもった者が，必要に応じて音高をなおす。オルガンの場合はさらに複雑で，高度な技術が必要とされる。なお，今日のピアノでは平均律によって調律が行なわれるが，古い時代には他の調律法も使われていた。〔徳丸吉彦〕

ちょうりゅう 【潮流】 潮汐*(ちょうせき)に伴って起こる海水の水平な流れ。ふつう，1日2回の満潮・干潮に伴う海面の昇降となって現われる。干潮から満潮に移るときには沖合いから海岸に向かい，満潮から干潮に移るときには海岸から沖合いのほうへと海水が移動する。潮流は場所により異なり，海岸や海底の地形により大きな影響を受ける。外洋では流速は比較的弱いが，陸地に囲まれた内海と外洋で潮汐の起こる時間がずれていると，その境の海峡や水道では激しい潮流が起こる。鳴門(なると)海峡・明石(あかし)海峡・関門海峡などでは，両端の水面差が大きく，ときには10ノットにも達する潮流が起こり，大きなうずまきを伴う。水道や海峡では，潮流はある方向に流れ，やがて速度を減じて停止し，次に流れの方向を逆にして速度を増す。途中の流れが停止している前後を憩流時，または潮だるみという。〔相原正彦〕

ちょうりゅうどう 【超流動】 液体ヘリウム*Ⅱが示す特異な性質で，非常に狭いすきまでも流れ通り，また器壁をはい上がるなど，粘性*がないかのような性質。しかし実験によっては粘性があるようにもふるまうので，単純に粘性のない流体とはいえない。これらの特異な性質は二流体模型という考え方で説明できる。これは，流体は超流体と常流体という二つの成分からなりたっており，超流体は粘性もなく，エントロピー*ももたない特異なものであり，常流体は流体のエントロピーのすべてをになってお

り，あたりまえの粘性をもつものだとする考え方である。超流体の割合は，0°Kでは100％で，温度が上がるにつれて減少し，転移点2.19°K以上では0％になる(図-1)。このことを調べるには，いく枚もの薄い円板をわずかな間隔をおいて積み重ね，まん中を1本の軸で突き通したものを液体ヘリウムの中に浸し，中心軸のまわりにねじり振動させてその周期をはかる(図-2)。常流体のみが，円板にくっついて動き，この周期に及ぼす影響から，その割合を知ることができる。液体ヘリウムIIの中では，全体が一様に振動する第一音波(普通の流体にみられるもので，密度の波)のほかに，全体としては振動せず，常流体と超流体とが相対的に振動する第二音波(温度の波)が観測される。超流動の現象は基本的にはHe^4原子のボース統計性(→量子統計)に基因するものと考えられている。実際，統計性と質量数を除いては違いがないと考えられるHe^3(フェルミ統計に従う)の液体には超流動は観測されていない。

ちょうりょう　【張良】（？～BC168）中国，漢王朝の創業の功臣。字(あざな)は子房。韓(かん)の貴族の出身。高祖の軍師として*項羽の軍に対抗し，漢の天下統一後も国家の経営に功があり，留侯に封ぜられた。下邳(かひ)で黄石老人から太公兵法を授かったといわれるなど，その伝記には伝説的な要素が多い。

ちょうりょう　【張陵】　生没年不詳。中国，後漢時代末の宗教家，*五斗米道の創始者。張道陵ともいう。四川省の鶴鳴山(かくめいざん)で神仙道(しんせんどう)を修行し，祈禱(きとう)による病気治療で中国の西南地方に多くの信者を得た。その教えは子の張衡，孫の張魯(ちょうろ)に引き継がれて道教教団として整えられた。子孫は代々張天師と称し，六朝(りくちょう)時代には天師道として貴族にも信仰され，道教の一派の正一教として現在に伝わっている。〔小南一郎〕

ちょうりょく　【聴力】　音波を感じ取り，それを識別する力。*聴覚閾値(いきち)によって表わす。ヒトの可聴周波数は，16～20,000ヘルツであるが，横軸に周波数を，縦軸に一定の周波数についての最小可聴閾(やっと聞こえる程度)および最大可聴閾(音覚が痛覚に移る限度)を図示すると，その者の可聴範囲を知ることができる。聴力が低下して，日常生活に支障が生じるようになった状態が*難聴で，まったく聞こえないものが聾(ろう)である。また，ある狭い範囲の音に対してだけ聴力が減少または欠けている音隙(おんげき)や，逆にある狭い範囲の音だけ聞こえる音島をもつものもある。50歳代になると聴力の減退を自覚する人がふえるが，実際には，20歳ごろを頂点として徐々に低下を始めている。

聴力検査法には純音聴力検査法と語音聴力検査法があるが，いずれも静かなへやで左右の耳を別々に検査する。前者は*オージオメーターとよばれる電気装置から7種類ほどの周波数の純音を出し，振幅を自由に調節してこれを被検者に聞かせて測定する。後者は人声を用いるもので，被検者から6m離れた位置で声帯の振動を伴わない口唇(こうしん)の発声音だけでささやき，これを復唱させる方法である。〔平野修助〕

ちょうりょく　【張力】　糸や棒などの両端に互いに反対向きの力を加えて引っ張るとき，その任意の断面を考えると，断面の両側の部分は互いに引っ張り合っている。この力を張力という。張力は*応力の一種で，その大きさは外部からの力の大きさに応じて変わる。またその大きさは断面の単位面積あたりに作用する力の大きさで表わす。

ちょうるい　【鳥類】　脊椎(せきつい)動物のうちの一綱。非常によくまとまった動物群で，現在地球上で最も繁栄している動物群の一。その特徴は，〈*羽毛をもち，体温が一定で，空を飛ぶ四足性脊椎動物〉という語で表わされる。鳥類をほかの動物群から区別している最もはっきりした特徴は羽毛をもっていることである。羽毛をもたない鳥類は1種もなく，また鳥類以外で羽毛をもつ動物は1種もない。しかし，羽毛の本来の役割は体表から熱が逃げ去るのを防いで体温を一定に保つことにあり，また羽毛は風切り羽として*翼の主要な部分を占めているから，その意味で鳥類の特色は体温が一定であって空を飛ぶということにあり，羽毛をその手段としてもっている動物であるといえる。実際，鳥類のさまざまな特徴は，すべて体温が一定なことと空を飛ぶこととに関係している。体温を一定に保つようになった動物群は全動物界の中で，鳥類と哺乳(ほにゅう)類だけで，*中生代の*爬虫(はちゅう)類を祖先としており，爬虫類の身体を改造することによってしか体温を一定に保つようにすることができなかったために，身体の構造にはいろいろ似たところがある。たとえば，体温を一定に保つためには体内の発熱量が多くなければならないが，そのためには多量の酸素を含んだ血液を体各部へ供給する必要がある。爬虫類では心臓の心室が一つで動脈血と静脈血が混じるが，鳥類と哺乳類では心室が二つに分かれ，肺からきた酸素の多い血液が体各部へそのまま出ていくように改造されている。また，肺でのガス交換の能率をよくするために，鳥類と哺乳類では肺の内部の表面積が多くなり，血液と空気が接触する面積を増すように，爬虫類よりも複雑な構造をもっている。このような共通した特徴は，*物質交代に関係した諸器官に数多くみられる。

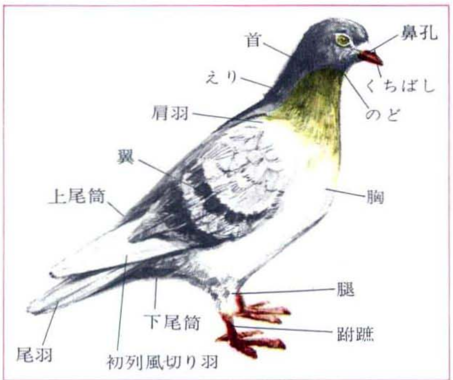
しかし，鳥類には鳥類独自の特徴もある。たとえば，体内で発生した熱が体表から逃げるのを防ぐための構造として，哺乳類では*毛をもつのに対して，鳥類では羽毛をもっている。肺の内部は，哺乳類では樹枝状に複雑になっているが，鳥類では網状に複雑になっている。また，体温が上がり過ぎた場合にそれを下げる装置として，多くの哺乳類は*汗腺(かんせん)から出される汗の蒸発時の潜熱を利用するが，鳥類には汗腺はなく，主として呼吸を早めて肺からの水分蒸発によって体温を下げる(一部の哺乳類でも同様である)。さらに，肺から派生している*気嚢(きのう)の一部が，翼を動かすための胸筋の間にはいっており，飛翔(ひしょう)運動によって生じた熱を気嚢からの水分蒸発によって直接に奪うという特別な装置もある。

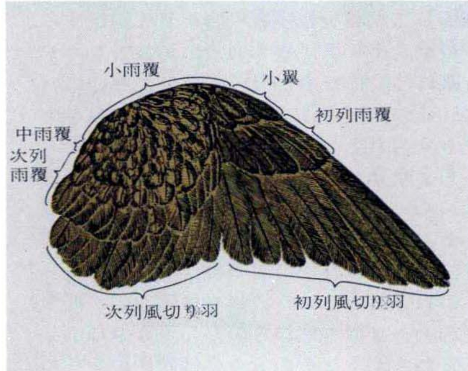
鳥類の身体や生活を最も大きく特徴づけているのは，空を飛ぶことに関係している点である。空を飛ぶこと自体は，こん虫・コウモリ・化石爬虫類にもみられるが，鳥類では爬虫類の四本足のうち前の2本を改造し，そこの羽毛も変形させて翼とし，それによって空を飛ぶようになっているところに特徴がある。前肢(ぜんし)の指骨は減少して実質上1本になってしまい，腕骨から1列に並ぶようになっている。そして前肢の後縁にある1列の羽毛は大きくなって風切り羽となり，翼面積を大きくしている。この翼を動かして空を飛ぶので，前肢の支点である肩帯は非常にじょうぶになり，またそれに伴って胸椎はすべて融合して一つになって，肋骨(ろっこつ)は胸骨に融着し，これらすべてで非常にしっかりしたかごのような形の胸郭を形成している。胸骨は非常に大きく，しかも翼を動かす筋肉がここに付着点をもつために，龍骨(りゅうこつ)突起という特別な突起を体軸に沿って腹面に発達させ，そこに胸筋を付着させている。

空を飛ぶには身体が軽いほどよいわけだが，それに見合うように，主要な骨の内部には気嚢がはいり込んでいて骨は中空になっており，また，胸腔(きょうこう)や腹腔は気嚢で占められている。頭部では顎骨(がくこつ)がくちばしとなって軽量化し，歯も失っている。尾骨はほとんどなくなり，その働きは軽い尾羽によってとって代わられている。こうして前肢が翼になってしまうと，地上では後肢のみによって体重をささえねばならない。そこで後肢の支点である腰骨は互いにしっかり融合し，さらに腰椎とも融合して強固な支点を形成している。鳥類の骨格の基本構造はこのようにほとんどが前肢で空を飛ぶことと関連している。

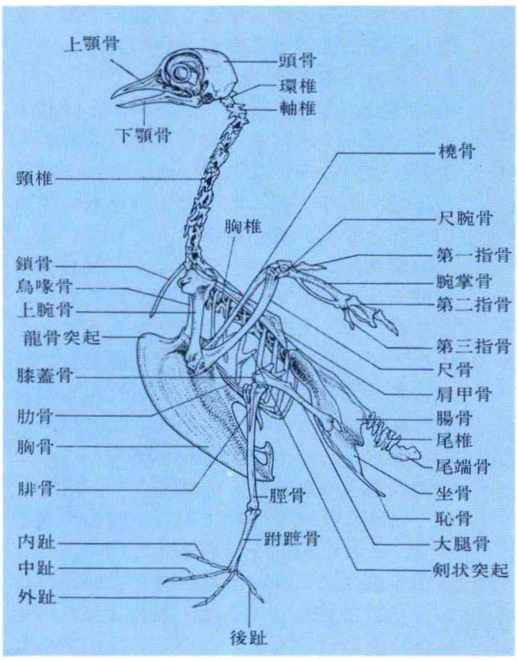
また，身体を軽くするために，腸は短くて食物をなるべく早く消化して体外に出してしまうが，空を飛ぶという生活はいつ糞(ふん)を出しても敵に発見される心配がないということを保証しているので，このことが可能になっている。そして，腸が短いため消化のよい食物しかとることができないという制約が生じ，主として動物食であり，植物性の食物は果実や種子などに限られて，哺乳類のように葉食性のものはほとんどない。そして空を飛ぶという利点を生かして，

鳥　　類

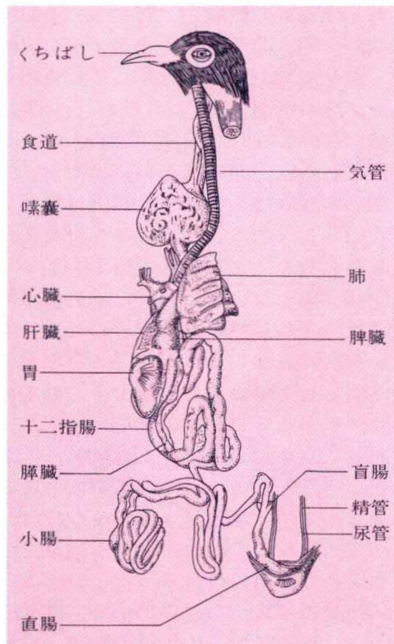




翼の構造



骨　格



消化管

細い枝先からそうした食物を集めたり，広い範囲を動いて食物を捜したりする生活を送っている。また，前肢が翼になったために，その働きの一部分はくちばしが引き受けるようになった。たとえば羽づくろいはくちばしで行なうが，そのためくちばしが身体の各部分に届くようなくびをもっていなければならない。

一方，空を飛ぶには，身体内に子どもをもっているわけにいかないので，哺乳類のように胎生になることができず，卵生である。卵も1度にいくつも体内にもったのでは重いし，飛翔中のバランスが保てない。そこで1日1個かそれ以上の間隔で産むことになる。そのうえ，孵化(ふか)したときからひとり立ちできるような雛(ひな)を生ずるほど，十分な養分をもった大きな卵を産むこともむずかしい。このため，卵を次々に産んで置いておく場所が必要である。それは敵に卵を取られないような安全な場所でなければならず，巣をつくることになる。そしてそこで卵の上にすわって孵化するまで見守ると，体温が一定であるために孵化までの時間は早まる。空を飛ぶことで安全な動物としては，卵の時期および親もそこにいる時期は短いほどよい。現在では抱卵され暖められなければ卵の発生が進まないまでになっている。孵化した雛はひとり立ちできるほど大きくないから，親鳥がなんらかのめんどうを見てやらねばならず，給餌(きゅうじ)までする場合も多い。このように，造巣・抱卵・育雛(いくすう)という繁殖生活も，空を飛ぶことと結びついたものである。

鳥類は基本的にはいままで述べたような身体の構造と生活をもっているが，その制限内では非常にさまざまな種に分かれていて，現在生存する鳥類は約8,600種という。その中には上記のような基本型からはみ出しているものもある。たとえば，まったく飛べない地上性のもの，卵と雛のとき以外は水生のもの，他鳥の巣に卵を産んで育てさせるものなどである。しかし，そのような鳥でも，身体の構造や生活のどこかに基本型のなごりを残しており，これらの例外は二次的に生じたものであることが明らかである。

8,600種の鳥は，およそ150のそれぞれかなりはっきりした特徴をもつグループ(科)に分けられ，さらにおよそ28のより大きなグループ(目)にまとめられている。そうしたグループはほとんどのものがそれぞれ一定の生息環境，食性，食物のとり方をもっている。しかし，これらのグループの間の類縁関係はまだ十分には明らかでなく，鳥類がどのような道を通って現在のようなものに進化してきたのかはよくわからない。彼らは現在次のように分けられている。翼まで失った地上性のもの(走鳥類*,これは解剖上の特徴から4目に分けられている)，それに近いと思われているシギダチョウ目，魚食性潜水鳥(ペンギン・アビ・カイツブリの3目があり，互いに類縁関係はない)，飛翔性海鳥(ミズナギドリ目とペリカン目)，草原・湿地性のコウノトリ目，遊泳性のガンカモ目，捕食性のワシタカ目，地上性雑食のキジ目，沼沢地性雑食のツル目(これはおそらく雑多なものの寄せ集めである)，チドリ目(カモメとウミスズメも含む)，樹上性果実食のハト目とオウム目，こん虫食のホトトギス目，夜行性肉食のフクロウ目，夜行性こん虫食のヨタカ目，飛翔性こん虫食のアマツバメ目，花蜜食(かみつしょく)のハチドリ目，樹上性果実食のキヌバネドリ目，アフリカ特産の奇妙なネズミドリ目，小鳥によく似たブッポウソウ目とキツツキ目，そして5,000種以上に分化して現在最も繁栄しているスズメ目の小鳥である。

鳥類はおそらく被子植物とこん虫類の進化に伴って，それらの新しい食物を利用する動物という方向に進化を進めてきたものと思われる。空を飛ぶという性質がその場合に非常に有効に働いて，現在のように繁栄することになったのであろう。

〔浦本昌紀〕

ちょうれんが　**【長連歌】**　五・七・五の長句を発句(ほっく)とし，以下，短句(七・七)と長句とを交互に付け進める連歌。短連歌*が鎖連歌*とよばれた3句以上の連歌に発達した例は，すでに1120年代にみられ，長連歌の基本形式である百韻連歌の例も，12世紀中ごろ藤原定家*らの連歌会にみられる。また，鎌倉期の初頭には，百韻を10巻重ねた千句連歌やさらには万句連歌も行なわれるようになった。

ちょうろうは　**【長老派】**　ツウィングリ*・カルバン*によって唱えられた長老主義を信奉するプロテスタントの一派。長老主義とは，監督を置かず，礼拝の会衆によって選ばれる聖俗の長老が信者を監督・指導する組織の上に立つものである。イギリスではピューリタン革命*中にウェストミンスター宗教会議で教会組織として公認された。革

命においては反絶対主義と議会制確立を主張して革命側につき，初期には議会の多数派として諸改革を遂行した。しかし，進歩的地主貴族や大商人の利害を代表する彼らは，革命の進展に恐れをなし，国王と妥協しようとして，議会から追放され，その政治的優勢は終わりを告げた。➔独立派
〔松下京子〕

ちょうわすうれつ【調和数列】 等差数列の各項の逆数を項とする数列。たとえば，等差数列1，2，3，……，n，……の各項の逆数をとって得られる数列1，$\frac{1}{2}$，$\frac{1}{3}$，……，$\frac{1}{n}$，……は調和数列である。調和数列は，一般に次のように表わされる。

$$\frac{1}{a},\ \frac{1}{a+d},\ \frac{1}{a+2d},\ \ldots\ldots,\ \frac{1}{a+(n-1)d},\ \ldots\ldots$$

調和数列の連続した3項をx，y，zとすれば，逆数が等差数列になることから

$$\frac{2}{y}=\frac{1}{x}+\frac{1}{z} \quad \text{すなわち} \quad y=\frac{2xz}{x+z}$$

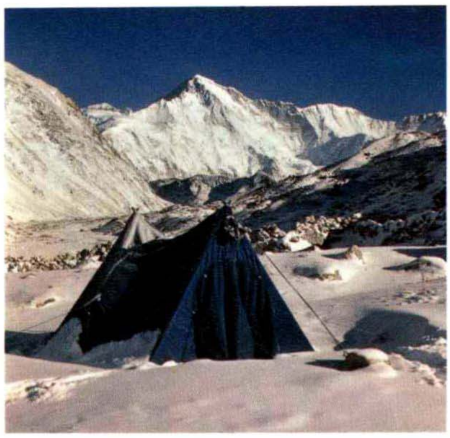
という関係がなりたつ。このように，調和数列の性質は，逆数をとることによって等差数列の性質を用いて明らかにされる。また，調和数列の各項を順次加えたもの，たとえば，$1+\frac{1}{2}+\frac{1}{3}+\cdots\cdots+\frac{1}{n}+\cdots\cdots$を調和級数という。調和級数の場合には，初項から第$n$項までの和を求める簡単な公式はない。
〔菊池兵一〕

ちょうわてんれつ【調和点列】 一直線上に4点A，B，C，Dがこの順序で並び，B，Dが線分ACを同じ比にそれぞれ内分・外分しているとき，すなわち，BA：BC＝DA：DCのとき，A，B，C，Dは調和点列をなすという。

ちょうわへいきん【調和平均】 各数の逆数の平均の逆数。すなわち，n個の数x_1，x_2，……，x_nの調和平均は$n\div\left(\frac{1}{x_1}+\frac{1}{x_2}+\cdots\cdots+\frac{1}{x_n}\right)$で求められる。正の数の組について，その算術平均$M$，幾何平均$G$，調和平均$H$の間には$H\leqq G\leqq M$という関係がある。

チョーオユー(山)［Cho Oyu］ 中国チベット自治区とネパールの国境に位置するネパール-ヒマラヤの高峰で，標高8,153m。東に無名の3峰を経て，ギャチュンカン山・エベレスト山に続き，南西にはガウリサンカル山があり，北にパルン氷河，南にはルゴジュンバ氷河がある。1954年10月19日にオーストリアのハーバート-ティッチー隊が初登頂した。8,000m級の初の秋季登頂などでヒマラヤ登山史上ユニークなものである。
〔大石堪山〕

ちょきぶね【猪牙船】 細長い小形の和船で，川船の一種。船足が速く，江戸時代に茶や荷物・客などを運んだ。江戸では吉原(よしわら)通いにも利用されて山谷舟(さんやぶね)ともよばれた。名称の起こりは，江戸時代に船頭の長吉という人がこの形の船をつくらせたので長吉船が〈ちょきぶね〉になったとする説や，形がイノシシの牙(きば)に似ているからという説などがある。現在は発動機や簡単な日おおいをつけて遊船に用いる。



チョーオユー山 南東面から望んだチョーオユー山。1954年秋のオーストリア隊の初登頂は，この反対側から試みられた

チョーク ⇨白墨

チョーク［chalk］ 白墨のようにまっ白な石灰岩で，ヨーロッパの白亜紀層の中に厚い層となって産する。ドーバー海峡に臨む海岸に絶壁をなして露出し，たくさんの化石を産するので名高く，白亜紀の古生物進化の研究試料として重要である。

ちょくがんじ【勅願寺】 天皇の御願により建立(こんりゅう)または指定された寺院。御願寺ともいう。奈良の大安寺がそのはじめとされる。この寺は聖徳(しょうとく)太子の熊凝精舎(くまごりしょうじゃ)に起源をもち，舒明(じょめい)天皇が百済(くだら)川のほとりに移して百済大寺，天武天皇が飛鳥(あすか)に移建して高市(たけち)大寺，さらに大官大寺と称し，平城遷都とともに奈良に移されて大安寺とよばれた。その他，東大寺・国分二寺(聖武天皇)・法華(ほっけ)寺(光明皇后)・東寺・西寺・延暦(えんりゃく)寺(桓武(かんむ)天皇)・大覚寺(嵯峨(さが)天皇)・仁和(にんな)寺(光孝天皇)・醍醐(だいご)寺(醍醐天皇)・南禅寺(亀山(かめやま)天皇)なども勅願寺の例である。
〔黛　弘道〕

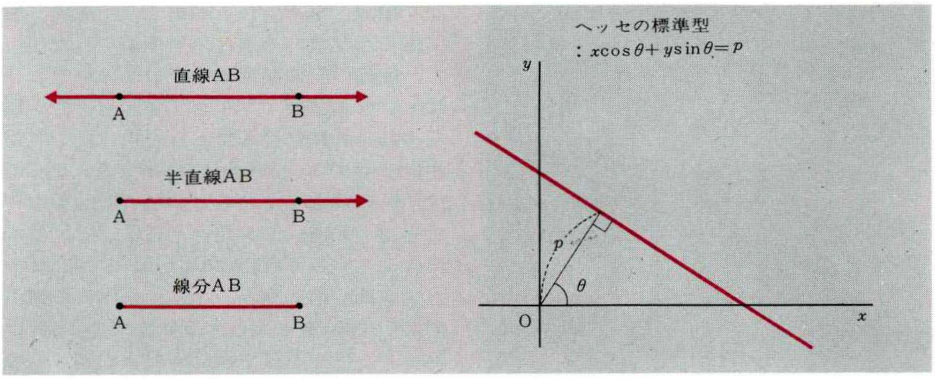
ちょくしでん【勅旨田】 天皇の命令によって開墾された田地。皇室領として班田農民の雑徭(ぞうよう)や浮浪人などの使役によって開発した不輸租田である。平安初期以降，畿内(きない)・辺境を問わず，全国各地に開かれたが，902年(延喜2)の荘園(しょうえん)整理令で897年(寛平9)以降の勅旨田は禁止された。しかし，その後院政時代にまた増加して，皇室の荘園領主化が促進された。後三条天皇の勅旨田はことに有名である。

ちょくしょ【勅書】 ⇨詔勅

ちょくしるい【直翅類】 直翅目に属するこん虫の総称。非常に大きな群で，狭義にはバッタ類・コオロギ類・キリギリス類・ケラ類などを含むが，広義にはさらにガロアムシ類・ナナフシ類・カマキリ類・ゴキブリ類などをも含む。本書では，従来一般に広く行なわれてきた分類体系にしたがって，狭義の直翅類を跳躍亜目，ガロアムシ類・カマキリ類・ゴキブリ類・ナナフシ類をそれぞれ独立の亜目として扱った。跳躍亜目には約12の科が含まれ(研究者によっては7科に統合している)，全世界から少なくとも12,000種以上が発見されている。日本にはこのうち8科約150種が分布する。体の大きさは変化に富み，体長5mm内外の微小種から100mmをこえる大形種まである。体は細長く，やや革質で網目状の脈がある前翅と，その下にたたまれる薄い膜質で大きい後翅とをもつ。一般に後脚の腿節(たいせつ)が著しく肥大して跳躍に適している。ただし，ケラ類のように前脚が肥大し，地面に穴を掘るのに適しているものもある。一般に複眼はよく発達し，数個の単眼をもつが，単眼を欠く種類もある。口器はよく発達した咀嚼(そしゃく)口。食植物性で，草木の葉や果実などを食べる種類が多く，そのため害虫が多いが，ヤブキリ(キリギリス科)やコオロギ類のように，雑食性で植物質だけでなく他のこん虫などを食べるものもある。また，アリツカコオロギ(コオロギ科)のように，一生をアリ類の巣中で生活する肉食の種類もある。日本に産する科と代表的な種類は次のようである。①バッタ科：ミヤマフキバッタ・オンブバッタ・カワラバッタ・クルマバッタ・トノサマバッタ・ツチバッタ・キチキチバッタ・ショウリョウバッタ・コバネイナゴ・ナキイナゴ，②ヒシバッタ科：ヒシバッタ・ハネナガヒシバッタ，③キリギリス科：セスジツユムシ・ツユムシ・カヤキリ・クサキリ・ウマオイムシ・クツワムシ・ササキリ・ヤブキリ・キリギリス，④コロギス科：コロギス，⑤カマドウマ科：カマドウマ・マダラカマドウマ，⑥ノミバッタ科：ノミバッタ，⑦ケラ科：ケラ，⑧コオロギ科：エンマコオロギ・ツヅレサセコオロギ・ミツカドコオロギ・マツムシ・クサヒバリ・スズムシ・カンタン・カネタタキ・アリツカコオロギ。
〔鈴木邦雄〕

ちょくせつきょうせい【直接強制】 強制執行の一方法。債務者の意思にかかわらず，執行機関が債務者の財産に直接権力を加えて給付請求権の内容を実現するもの(民法414条，民事訴訟法564条以下)。たとえば金銭債権の執行について，債務者の財産を差し押えて競売し，その代金を債権者に与えたり，あるいは物の引き渡し，また明け渡し請求の執行で，債務者の占有をといて債権者の占有に移す場合などである。

ちょくせつげんかけいさん【直接原価計算】 製造原価のうち，直接材料費・直接労務費・変動製造間接費など，生産活動の増減に伴って変動し，生産が行なわれなければ発生しない性格の原価だけを製品の原価に配賦する原価計算をいう。製造原価であっても固定製造間接費のように定額的に発



直　線

生する原価は，販売費・一般管理費などとともに，それが発生した期間の費用として処理される。直接原価計算は，変動原価計算・限界原価計算の名でよばれることもある。➔原価計算　〔山桝忠恕〕

ちょくせつぜい　【直接税】　税金を納める者(納税者)と，税金を負担する者(担税者)とが同一である税をいう。現行税制で直接税といわれるものは，国税における所得税*・法人税*・相続税*・贈与税*，地方税*における道府県民税*・事業税*・自動車税*・鉱区税・市町村民税*・固定資産税*・軽自動車税・鉱産税・都市計画税*などである。わが国の租税体系は，間接税より直接税のほうにウエートが高く，国税・地方税の合計でみると，直接税が租税収入全体のおよそ3分の2を占めているのである。➔間接税　〔西野義彦〕

ちょくせつせいきゅう　【直接請求】　地方公共団体の住民がその政治に直接参与する直接民主制*の方法の一。間接民主制*が民意からそれるのを是正する趣旨で設けられ，現在，地方自治法*によって次の4種が認められている。①条例の制定・改廃の請求権，②事務の監査請求権，③議会解散請求権，④地方公共団体の長・役職員・議員の解職要求。請求手続きは当該地方公共団体の有権者の，①②の場合は50分の1，③④の場合は3分の1の署名を集め，選挙管理委員会(①③④)，監査委員(②)に提出する。これを受けた側は規定に従って処理しなければならない。➔住民投票　〔寺尾方孝〕

ちょくせつせいてつほう　【直接製鉄法】　鉄鉱石から直接に鉄または鋼を製造する方法。溶鉱炉を用いて鉱石を還元して銑鉄とし，これを原料として鋼を製造する間接製鉄法に対して，生産コストの面でたちうちできないため本格的な生産方式とはなっていないが，燃料として天然ガス・石油・非粘結炭などの使用が可能であること，鉱炉建設費が著しく小さいこと，粉鉱石を利用できることなどの利点に加えて，低品位鉱の選鉱技術の進歩，良質スクラップの涸渇(こかつ)などの情勢から良質鋼の原料供給手段として利用されている。おもな製法としては，①1911年以来スウェーデンにおいて操業され，高級海綿鉄を製造しているヘガネス法，②不均一加熱・粘着・機械的故障がなく，熱効率の高いウィーベルグ-ゼーダーホルス法，③回転炉(ロータリーキルン)を用いルッペを得るクルップ-レン法，④水素ガスによって直接還元鉄をつくるH-Iron法，⑤天然ガスと水蒸気でつくったH_2とCOにより還元するNu-Iron法，⑥塊鉱石を装入してバッチレトルト方式を用いたマダラス法，⑦ガス体中に微粉砕した鉄鉱石を吹き込むサイクロスチール法などがある。なお，日本古来の製鉄法であるたたら製鉄法も直接製鉄法の一種である。　〔草川隆次〕

ちょくせつせんりょう　【直接染料】　もめん・レーヨンなどのセルロース繊維に直接染着する水溶性染料。直接もめん染料ともいう。化学構造的にはスルホン酸基をもったジスアゾ・トリスアゾなどポリアゾ染料(→アゾ染料)がほとんどである。古くからもめんには媒染染料*・建染め染料*・塩基性染料*が用いられていたが，これらは直接もめんに染着せず染色法が複雑である。しかしコンゴーレッド(ジスアゾ染料，1884年)以来直接染料が続々と現われ，その簡便な染色性のため現在では建染め染料・反応染料と並んでもめん用染料の三大部門を形成している。しかし本質的には水溶性染料であるため洗たく堅牢度(けんろうど)が低く，また一般には日光堅牢度もよくない。色調も鮮明なものが少ない。直接染料をあらかじめ金属塩で処理したり(→金属錯塩染料)，あるいは染色物をいろいろの方法で後処理して洗たくや日光に対する堅牢性を高めるようくふうがなされているがそれぞれ一長一短があり，しだいに反応染料にその座を譲りつつある。　〔稲田正作〕

ちょくせつはつでん　【直接発電】　熱・光・化学反応などのエネルギーを，直接電気エネルギーに変換する発電方式。機械エネルギー(タービンの回転など)を経ないで発電するので，水力・火力・原子力発電などの間接発電方式と比べて効率が高く，一般に設備が小さくてすむ。直接発電方式は次のように大別される。①電磁作用を用いるもの：電磁流体発電*(MHD発電)。②熱を用いるもの：熱電子発電*。熱電対*を用いる熱電(気)発電である。③光を用いるもの：太陽光をシリコン半導体などにあてて電子を出し，発電する太陽電池*。④化学反応を用いるもの：燃料電池*。燃料電池で酸素や水素を供給する働きを微生物の細胞中の酵素によって行なう生物電池。⑤放射性同位体を用いるもの：放射性同位元素*の核分裂に伴う熱を熱電対に受けて発電する方式(熱電〔気〕発電の一)，およびβ線をシリコン半導体などにあてて電子を出し発電する方式の原子力電池。　〔田村康男〕

ちょくせつみんしゅせい　【直接民主制】　国民みずからが国の意思・政策の決定および執行に直接参加する制度。間接民主制*に対する語。民主主義*は国民が国家の主権者であり，したがって国民のすべてが国政に参加することを理念としているが，国土が広く人口が多く国政が複雑になると，国民のすべてが直接国政に参加する形態をとることは事実上困難となる。このため民主主義の政治制度は代表制民主主義の形をとるが，この場合その欠陥を補うために，国民が政治に直接参加するいくつかの形態が採用されるようになった。代表的なものに，①議会の決定をさらに国民の投票にかける国民投票*(レファレンダム)，②法令その他一定の案を国民が発案するイニシアティブ(直接発案)，③不適格な公務員を住民の投票によって解職にするリコール*，の3形態がある。わが国の憲法では，憲法改正についての国民投票，最高裁裁判官の国民審査，一定の地方公共団体にのみ適用される特別法に対する住民投票*などが規定されている。また地方自治法*においても，地方公共団体における住民の直接請求*権をいくつか認めている。　〔寺尾方孝〕

ちょくせん　【直線】　まっすぐな線のこと。ギリシア時代にユークリッド*は，直線を〈その上の点に対して一様に横たわる線である〉と定義したが，今日の幾何学基礎論(→ヒルベルト)では，直線を無定義術語として，その内容を公理*によって次のように規定している。

【結合公理】①A，Bが2点ならば，A，Bともその上にあるような直線aが存在する。②A，Bが相異なる2点ならば，A，Bを通る直線aはただ一つしかない。(以下略)

【順序公理】一直線上の3点A，B，Cについて，BがA，Cの間にあれば，BはC，Aの間にもある。(以下略)

直線をその上の一点によって2個の部分に分けたとき，そのおのおのを半直線といい，直線上の2点を両端とする直線の一部分を線分という。

平面上での直線の方程式は，その直線の決定のしかたによって，次のようになる。

①傾きがmで，y切片がbのとき，

$$y=mx+b$$

②1点$(x_0,\ y_0)$を通り，傾きがmのとき，

$$y-y_0=m(x-x_0)$$

③2点(x_1, y_1)，(x_2, y_2)を通るとき，

$$\frac{y-y_1}{y_2-y_1}=\frac{x-x_1}{x_2-x_1}$$

④x切片がaで，y切片がbのとき，

$$\frac{x}{a}+\frac{y}{b}=1$$

⑤原点からおろした垂線の長さがpでその垂線がx軸の正の向きとなす角がθのとき，

$$x\cos\theta+y\sin\theta=p$$

この方程式をヘッセの標準型という。

空間における直線の方程式は，次のようになる。

①2点(x_1, y_1, z_1)，(x_2, y_2, z_2)を通るとき，

$$\frac{x-x_1}{x_2-x_1}=\frac{y-y_1}{y_2-y_1}=\frac{z-z_1}{z_2-z_1}$$

②1点(x_0, y_0, z_0)を通り，x, y, zの各座標軸となす角の余弦が，それぞれl, m, nで表わされるとき，

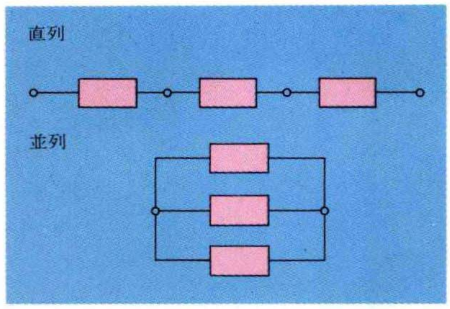
$$\frac{x-x_0}{l}=\frac{y-y_0}{m}=\frac{z-z_0}{n}$$

〔菊池兵一〕

ちょくせんわかしゅう【勅撰和歌集】 宣旨または院宣によって選ばれた和歌集。〈勅撰集〉ともいい，すべてで21の歌集があることから〈二十一代集*〉ともいう。なお，《万葉集*》は，現在では私撰集と考えられているし，藤原清輔*(きよすけ)の選んだ《続(しょく)詞花和歌集》も，勅撰集として作業は進められたが，撰進終了前に天皇が死んだため勅撰集とはしない。また，〈二十一代集〉は分けられて〈三代集*〉〈八代集*〉〈十三代集*〉の称がある。

ちょくちょう【直腸】 結腸*に続く大腸の最終部。消化能力はほとんどないと考えられているが，粘液を多量に分泌して糞便(ふんべん)の通過を容易にしている。すなわちこの部位では，食物の残渣(ざんさ)で水分を失ったかすがたまっている。ヒトの直腸は仙骨*(せんこつ)の前面の中央部を前方に下り，さらにその下方では尾骨の前面から尾骨尖(びこつせん)を越えて後下方に強く曲がって肛門*(こうもん)に向かっている。長さは約20cmで，男性では膀胱(ぼうこう)の後ろ，女性では子宮および膣(ちつ)の後ろに位置する。直腸の下部では，上皮は皮膚と同じ構造を示すようになり，粘膜ではなくなっている。糞塊は直腸壁の蠕動(ぜんどう)と腹圧の増加によって排出される。直腸の上部の粘膜の外側には内括約筋・外括約筋があるが，このうち内括約筋は意志によらないが，外括約筋は随意的に支配できる筋である。この筋の緊張またはゆるみによって排便は制御されている。〔高野一雄〕

ちょくばん【勅版】 勅命によって印行された書物。中国では康熙(こうき)・乾隆帝(けんりゅうてい)の《古今図書集成》《永楽大典》《四庫全書》など，わが国では後陽成(ごようぜい)天皇・後水尾(ごみずのお)天皇の勅命による文禄(ぶんろく)・慶長・元和(げんな)の勅版があり，《古文



直列・並列

孝経》(1593)，《日本書紀 神代巻》(1599)，《皇宋事宝類苑(こうそうじほうるいえん)》(1621)などが知られている。印刷部数はいずれも200部前後だったので現存するものはきわめて少なく，《古文孝経》のように1部も現存しないものもある。〔庄司浅水〕

ちょくはんさいばい【直播栽培】 栽培の一形式。じかまきともいう。移植栽培に対し，直接圃場(ほじょう)に種子をまくもので，苗床で苗を育成する手間と移植の手間が省けることを特徴とする。生理的には断根されないので，本圃期間が延長される。一方，間引き・補植や，除草の手間が多くなるので，移植と比べ一長一短である。わが国の水稲はほとんど移植栽培の形式がとられている。これは斉一(せいいつ)な苗を移植して，斉一な生育を求めるための手段であり，特に除草剤の発達していなかった時代は，300万ヘクタール以上の水田に，時期を失せず水稲を栽培しようとするときは，このほうが有利であったからである。水稲の直播栽培には，寒地で多く行なわれる湛水(たんすい)直播と暖地に多い乾田直播の2形式がある。水稲の直播栽培では間引きはほとんど行なわない。水稲の直播栽培では浅植えとほとんど同じような状態となるので過繁茂となりやすく，また基部からの倒伏が多くなるので，施肥量・培土などの管理や品種の倒伏性の程度などに注意する必要がある。〔金木良三〕

ちょくゆ【直喩】 ⇨比喩

ちょくりつえんじん【直立猿人】 ⇨ピテカントロプス

ちょくりゅう【直流】 狭義には電流の向きおよび大きさが時間によって変化しないような電流・電圧を，また広義には電流の向きが変化しないような電流・電圧をいう。直流は，電流の向きが一定であることを要求されるような現象，たとえば電子管*・半導体*を用いた電子回路や電気めっきなどに利用される。交流*を直流にするものとして，整流器*がある。電池・蓄電池から得られるものは直流である。

ちょくりゅうガソリン【直留ガソリン】 原油*の常圧蒸留で得られるナフサ*を精製したガソリン。1950年ごろまでは，ナフサの全留分(約30～200℃)が直留ガソリン原料として用いられたが，オクタン価*が低いため，現在では比較的オクタン価の高い軽質直留ガソリン(沸点約30～100℃)が改質ガソリン*などに配合され，自動車用ガソリンの一部に用いられる。精製法としてはおもにスイートニング(メルカプタン類の除去)のような簡単な操作が適用される。この軽質直留ガソリンでも，なお自動車用燃料としてはオクタン価が低く，単独では使用できない。➔ガソリン〔原 伸宜〕

ちょくりゅうそうでん【直流送電】 直流による送電方式。交流に比べて，線路の電圧降下が少なく，絶縁を著しく低くでき，同一電力を送るのに7割の電圧ですむなどの利点がある。しかし，発電は交流で行ない，これを整流して直流にする。この方式は，1880年代に用いられ，その後は交流送電が主役になったが，最近，電力系統が拡大され，長距離・超高圧の送電が必要となったため再び注目されている。現在，わが国にはないが，外国ではスウェーデンの本土とゴトランド島間(ケーブル)，ソ連のボルゴグラードとドンバス間(架空線)などで実用されている。〔田村康男〕

ちょくりゅうでんききかんしゃ【直流電気機関車】 電気機関車のうち直流電気の供給を受けて走る機関車をいう。架線から集電装置(パンタグラフ)により取り入れた直流で主電動機を回転させ，動輪を駆動する。国鉄の直流電化の場合，架線電圧は1,500Vである。直流電気機関車の主電動機としては，始動時および上り勾配(こうばい)などで大きなトルク(回転力)を発揮し，電力消費が経済的で速度制御が広い範囲でしかも簡単にでき，電源電圧の急激な変化に対して負荷変動が小さく安定である，などの理由で直流直巻き電動機が採用されている。わが国での最初の直流電気機関車は，1912年(大正1)信越線の碓氷(うすい)峠のアプト式鉄道*用としてドイツから輸入されたものである。1931年(昭和6)にははじめて国産の大形電気機関車EF52が製作された。現在日本国有鉄道には31種類，1,087両の直流電気機関車がある(1969年7月末)。➔電気機関車〔三宅 良〕

ちょくれい【勅令】 旧憲法(大日本帝国憲法*)下，帝国議会*の審議を経ずに天皇*によって制定された命令の総称。天皇は統治権の総攬者(そうらんしゃ)で行政権を行使する地位にあったため，現在も行政機関に認められている執行命令(法律の規定を実施するための細目を定める命令)・委任命令(法律の委任に基づいて制定される命令)のほか，行政権によって法律とは独立して定められる独立命令，および緊急勅令*を発することが認められていた。内閣総理大臣が主任の国務大臣とともに副署し成立した。➔政令〔原田政洸〕

ちょくれつ・へいれつ【直列・並列】 主として電気機器の接続法。2端子をもつ装置二つを接続するとき，一つの端子のみ

他の装置の端子に接続するのが直列。両端子を他の装置の両端子に接続するのが並列である。二つ以上の装置に対しても同様である。n個の乾電池を直列に接続したときに得られる電圧は$n\times 1.5$Vであり，このときの容量は1個のときと同じである。並列に接続したとき得られる電圧は1.5Vであるが，容量は1個のときのn倍になる。また，インピーダンス*$Z(\Omega)$の装置n個を直列に接続したときの全体のインピーダンスは，$n\cdot Z(\Omega)$。並列に接続したときの全体のインピーダンスは$Z/n(\Omega)$である。〔堀内和夫〕

チョゴリ 【襦】 ⇨朝鮮服

チョゴリザ(山) ［Chogolisa］ インド，カシミール地方のカラコラム山脈中央部にある高峰で，インダス川の源流をなす。標高7,654m。1909年にイタリア隊，1957年にオーストリア隊が登頂を試みたがいずれも失敗し，1958年8月4日京都大学山岳会(隊長桑原武夫)が初登頂に成功した。日本ではナンダコット山・マナスル山に次いでヒマラヤでの3番めの登頂になる。別名をブライドピーク(花嫁の峰の意)ともいう。

チョコレート ［chocolate］ カカオ*豆をいって粉末にしたものを原料とし，これにカカオバター・砂糖・ミルク・香料などを加えて練り固めた洋菓子またはそれからつくる嗜好(しこう)飲料をいう。メキシコ原住民はカカオの実を砕いてどろどろの飲料にしたものをチョコラトルと称して珍重し，これがチョコレートの語源になったといわれる。

〔歴史〕1449年，カカオ豆はコロンブスによってスペインに伝えられ，当時はあまり利用されなかったが，1520年ごろから再びスペインに珍しい飲み物として紹介されて広まった。その後1615年フランスに伝わり，続いてヨーロッパ各国にも広まって，1657年にはロンドンにチョコレートハウスが開かれた。ここで売られたのは飲み物としてのチョコレートである。しかしチョコレートは脂肪分が多く水や牛乳にとけにくいため，1828年ごろオランダのバン-ホーテンがアルカリ処理でカカオ豆の脂肪分を減らして水や牛乳にとけやすくする方法を発明し，以後イギリスではこれをココア*とよぶようになった。

チョコレートの菓子がはじめてつくられたのは1700年前後といわれるが，これは練り物で，板チョコレートは1876年スイスではじめて考案された。わが国でチョコレートの練り物をつくったのは1875年(明治8)東京京橋の米津(よねづ)風月堂で，その後森永(もりなが)太一郎が外国で製法を学び，1918年(大正7)，板チョコレートが創製された。

〔製法と種類〕いったカカオ豆の果肉からカカオペースト(プレーンチョコレート)をつくり冷却して固まらせ，それにカカオバター・粉砂糖などを混合して約3昼夜練り，



チョゴリザ バルトロ氷河側から見た頂上。ここから望む氷雪の山ひだが，あたかも婚礼衣装のように美しいことから花嫁の峰の名がついた

はだをなめらかにし特有の香気をもたせたものがスイートチョコレートである。またこれにミルクや香料を加えてミルクチョコレート・バニラチョコレートなどにもする。一方プレーンチョコレートを微粉末にして飲用のチョコレートをつくる。

〔栄養〕ミルクチョコレートは炭水化物約60%・脂肪30%・タンパク質7%で，100gあたり512Calの栄養価があり，またカルシウム・リン・鉄なども含み，菓子の中では栄養価が高い。また，アルカロイドの一種であるテオブロミンを含み，興奮剤・利尿剤としての効果もある。カフェインも少量含むが，コーヒーや紅茶に比べればはるかに弱い。〔泉　敬子〕

チョーサー ［Geoffrey Chaucer］(1340?～1400) イギリスの詩人。ロンドンのぶどう酒商人のむすことして生まれ，少年時代から宮廷に出仕し，外交官としてヨーロッパ大陸にたびたび派遣され，その後ロンドンの税関官吏をもつとめた。若いころから詩作や翻訳に親しみ，フランス・イタリアの詩風や古典期のラテン文化をイギリスに伝えた功績は大きい。その最高最大の作品は，一生の経験をもとにしながら死ぬまで書き続けた未完の大作《カンタベリー物語*》で，この作品によって，ドライデン*から〈英詩の父〉と名づけられた。ほかに《百鳥のつどい》《トロイラスとクリシーダ》など，ダンテやボッカッチョふうの詩や，ボエティウスの翻訳もある。〔五十嵐一〕

ちょさくけん 【著作権】 文芸・学術・音楽・絵画などの範囲に属する人間の精神的創作物(著作物)について法律が認めた権利。著作権は，著作者が自分の著作物に関して，その複製・翻訳・映画化・放送・上演・演奏などを行なう場合，経済上排他的に使用するという所有権に似た著作者の基本権であり，著作財産権ともいわれる。この著作財産権とともに，著作者は，作物の公表決定権，著作者に無断で著作者の氏名変更，題号変更あるいはその内容を改変されないという著作人格権をもつ。広義には以上の著作財産権と著作人格権とをあわせて著作権という。著作権の本質については法理論的に幾多の学説があるが，人類文化の自由な発展を目的として，国際的・国内的に法規制が行なわれている。1899年(明治32)わが国はベルン条約*に加盟し，それに準じて著作権法(明治32年法律第39号)を制定，その後条約の修正に応じて人格権の保護や侵害に対する保護の強化など，10数回の国内法の改正を行なってきた。一方，アメリカ合衆国その他のアメリカ大陸の諸国は，ベルヌ条約とは別に方式主義を適用したパン-アメリカン条約(1946)を制定してきたが，1952年に至って，万国著作権条約*が結ばれた。現在日本もこの条約に加入している。

現在の日本の著作権法は，1970年(昭和45)5月大幅に改正された(1971年1月施行)。一般著作物についての最大の改正点は，著作者の生存中およびその死後35年の保護期間が50年間に延長され，また無名・変名・団体名義の著作物ならびに映画・写真についても，公表後50年間保護されるようになったことである。一方，新たに著作隣接権制度を取り入れ，芸術家・芸能人の実演，レコード製作者・映画製作者・放送事業者などの製作品に対する権利も明確化されるようになった。〔前納弘武〕

ちよじょ 【千代女】 (1703～1775) 江戸中期の女流俳人。加賀(石川県)の表具屋の娘。通説には18歳のころ加賀藩の足軽に嫁し，25歳のとき夫と子どもに死別したとされるが，その確証はない。51歳ごろ髪をおろして素園と号した。幼少から俳諧(はいかい)をよくし，多くの俳人が彼女を訪れて有名となり，逸話や伝説も多い。作風は女性らしい風雅なものであるが通俗的でもあった。

ちょすいち 【貯水池】 年間を通じて河川の水の需要と供給とを調整するための大きな池。日本の河川は冬は渇水し，春は雪どけ水で増水し，夏はひでりで枯れ，秋は台風によって洪水(こうずい)となる。その反面，河川の利用事業のうち水力発電・上水道は年間を通じて使用水量が変わらないし，さらに農業は夏の渇水期に大量の灌漑(かんがい)用水を必要とする。貯水池は，このような需要と供給の不均衡を調整する役割を果たす。近年河川の治水事業は貯水池によって洪水を防止することが多くなった。また，洪水時の貯水は当然渇水期の利水事業に使用できるので多目的ダムの構想が生まれた。その場合は，一つの貯水池の空間を分割して，各事業が使用する容量および期間を協定する。つまり，貯水池の使い方を決めるもので，これを操作基準という。〔米屋秀三〕

ちょすいりょう 【褚遂良】 (596～658) 中国，唐代の書家。字(あざな)は登善。学問と書で太宗に仕えた亮(りょう)の子。浙江銭塘(せっこうせんとう)の人。太宗に仕えて，河南郡公に

封ぜられ，尚書右僕射(しょうしょぼくや)の官に至った。それで褚河南とよばれる。書は王羲之(おうぎし)の体を得て，唐楷(とうかい)の中に華麗な新風を創始した。《伊闕仏龕碑(いけつぶつがんひ)》《孟法師碑(もうほうしひ)》《房玄齢碑》《雁塔聖教序碑(がんとうしょうぎょうじょひ)》《枯樹賦》《文皇哀冊》などの作がある。

ちょぞうこん【貯蔵根】根の基本組織の柔細胞が肥大して多肉となり，多量の同化物質をたくわえるようになったもの。紡錘形・円錐(えんすい)形・塊形などを呈する。貯蔵物質は新芽の発育のための養分などに用いられる。サツマイモ・ニンジン・ダリアなどにみられる。

ちょぞうぶっしつ【貯蔵物質】生物体内にエネルギー源としてたくわえられる物質。植物体内ではおもにデンプン・脂肪・タンパク質などで，種子の中に主としてみられる。デンプンはジャガイモの塊茎，サツマイモの塊根，脂肪はトウゴマ・アマ・ナタネ・ヒマワリの種子，タンパク質はイネ科種子のアリューロン層*などにみられる。動物ではグリコゲンとして肝臓にたくわえられる。これらの貯蔵物質は高分子で，コロイド状で存在し，高い準位のエネルギーをもっている。〔代谷　康〕

ちよだ【千代田(区)】東京都23特別区の一。北から東へかけては，文京区・台東区・墨田区，南は港区・中央区，西は新宿区などと接する。1947年(昭和22)麴町(こうじまち)・神田の両区が合併して成立。面積11.5km^2，人口は61,000で23区中で最小である。西半部は武蔵野(むさしの)台地の末端にあたる山手(やまのて)台地の東端を占め，東半部は隅田(すみだ)川の沖積(ちゅうせき)低地上に位置する。皇居を中心に，その外堀(そとぼり)にほぼ囲まれており，江戸時代には，江戸城周辺は武家屋敷によって占められていた。皇居東方の東京駅から新橋駅に至る周辺は，大手町・丸ノ内・有楽町・内幸町などのビジネス-センター，国会議事堂・最高裁判所ならびに外務・通産・大蔵などの立法・司法・行政の中央官庁がある霞ケ関(かすみがせき)・永田(ながた)町とともに，日本の政治・経済の中枢部をなしている。北部の神田・九段・麴町は文京区に連なる文教地区で，多くの学校が集まり，神田神保(じんぼう)町周辺は古書店街として知られる。神田地区の東半部は，岩本町の既製服問屋街，秋葉原の青果市場と電気機器関係の問屋街がある。南部には，皇居の内堀に接して日比谷(ひびや)公園があり，皇居前広場・北の丸公園・皇居東御苑(ひがしぎょえん)とともに，都民のいこいの場所となっている。千鳥ケ淵(ちどりがふち)公園には無名戦士の墓があり，靖国(やすくに)神社も近い。帝国ホテルなどの日本の代表的なホテルが集中し，イギリス大使館など外国公館が港区に次いで多い。また，江戸以前からの古い歴史をもつ日枝(ひえ)神社と神田明神は〈江戸の氏神〉となり，山王(さんのう)祭・神田祭は深川祭とともに江戸・東京の三大祭とされる。駿河台(するがだい)の台地上にはニコライ堂があり，その鐘の音は東京名物の一つであった。他地区からの通勤・通学者が多く，昼間人口は夜間人口の数倍となる。東海道本線・同新幹線・中央本線・東北本線が東京駅に集まり，多くの地下鉄路線がこの地区に通ずる。〔浅井得一〕

ちよだじょう【千代田城】⇨江戸城

ちょちく【貯蓄】所得のうち消費されない部分をいう。貯蓄の大きさを決定する要因としては，所得・物価水準・利子率・流動資産などの経済的要因と，将来の不慮のできごとや老後の収入の減少に備えるため，また生活の改善，社会的地位の向上のためなど，人々の主観的要因とがある。このうち，所得が特に重要な決定要因となる。所得の増加につれて貯蓄の絶対額は増大し，平均貯蓄性向や限界貯蓄性向も所得の増加とともに増加するのが通常である。貯蓄には，個人貯蓄・法人貯蓄・政府貯蓄の三つがある。個人貯蓄は個人所得のうち消費されなかった部分であり，法人貯蓄は個人に分配されずに企業の自己資金の増加のため企業内に留保される準備金であり，政府貯蓄は政府の経常収入から経常支出を差し引いたものであり，政府経常余剰とよばれる。また，貯蓄は資本蓄積の重要な可能的源泉である。〔富田重夫〕

ちょちくせいこう【貯蓄性向】通常，人々は所得 Y の増大につれて貯蓄 S を増加させていく。この関係を貯蓄性向という。これには平均貯蓄性向と限界貯蓄性向の二つの概念がある。前者は所得全体に対して貯蓄される部分の割合で，S/Y で表わされ，後者は所得の増加分に占める貯蓄の増加分の割合で $\triangle S/\triangle Y$ で表わされ，正にして1より小なる値をとる。貯蓄の定義により，これら二つの値は1から，それぞれ平均消費性向・限界消費性向を差し引いた値に等しい。➔消費性向　〔富田重夫〕

ちょっかん【直観】一般に対象を直接にとらえること。哲学的には二つの用法がある。①事物それ自体，事物全体を見ることで，直覚と同義。②事物がわれわれに現われる現われ方。直観によって事物が現にあることが知られる。ライプニッツ*は事物を直接に見る直観(直覚的認識)と間接的(象徴的)認識としての直観とを分け，後者により事物の形式上の構造や合成された内容が認識されるとした。カント*では人間の直観は感性的であり，空間(外官の形式)と時間(内官の形式)に分かれる。空間・時間は直観の形式であり，純粋直観である。純粋直観が基礎にあって経験的直観がなりたつ。科学的な真理の世界は，空間・時間でとらえられた内容を悟性*の形式で総合した現象の世界である。ニコラウス-クサーヌスがはじめて用い，神の知を意味した〈知的直観〉を，カントは非感性的直観であるとし，端的にわれわれの認識能力をこえており，知的直観が可能である理由を洞察(どうさつ)できないとした。しかし知的直観は，フィヒテ*・シェリング*・ヘーゲル*の中心をなす考えとなり，ヘルダーリンでは各部分を統一的に感受する詩人の能力となる。〔中川　誠〕

チョッキ　⇨ベスト

ちょっきりぞうむし【短截象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オトシブミ科のチョッキリゾウムシ亜科の総称。小形の種類が多く，口吻(こうふん)を加えて体長が10mmをこえる種類は少ない。口吻は長く突出し，下方に湾曲する。色彩は著しく変化に富む。大部分は樹木の新条や草の茎に産卵してこれを切断するため，農林業上の害虫が多い。また，多く葉を巻いて揺籃(ようらん)をつくるが，中にはヤドカリチョッキリのように他種の揺籃中に産卵する寄生性の種類もある。全世界にきわめて多数の種類が分布し，日本にも多数が知られる。害虫として重要な種類とその寄生植物は次のようである。モモチョッキリ(モモ・ナシ・リンゴ・ビワなど)，イタヤハマキチョッキリ(リンゴ・ブドウ・モミジなど)，ウメチョッキリ(ウメ)，ブドウハマキチョッキリ(ブドウ)，ハイイロチョッキリ(ナラ類)。〔鈴木邦雄〕

ちょっけいそしき【直系組織】管理者と作業者間との関係が直結しており，直接の上司に対してのみ責任をもつ部門管理組織をいう。この組織は，管理者の指揮命令の一貫性を確保することによって，経営管理の実施が迅速かつ確実になされるが，反面，管理者が，すべての事項にわたって，その管理機能を統轄しているために，分業による管理活動の専門化ができない欠点がある。

ちょっけい・ぼうけい【直系・傍系】直系とは男系・女系を問わず，父祖から子孫へ直通する関係をいい，傍系とは共同祖から分かれた者の関係をいう。親と子，祖父母と孫などの関係が前者であり，兄弟姉妹・伯叔(はくしゅく)父母・甥姪(おいめい)・従兄弟(いとこ)・従姉妹(いとこ)などの関係が後者である。➔親族

チョボ　歌舞伎(かぶき)で使われる義太夫節(ぎだゆうぶし)の音楽と演奏家のこと。文楽の場合は，人形と義太夫節が対等の関係であるばかりか，すべてのことばを太夫が受け持つのに対して，チョボでは，重要なことばを役者が受け持つという違いがある。

ちょぼくじょう【貯木場】木材の商取引や木材加工事業などに便利なように木材を集積しておく場所。貯木場には水中に貯材する水中貯木場と陸上貯木場とがある。水中に貯材すると虫害・菌害の防除や乾枯をよくして品質の向上に役だつとされる。

ちょま【苧麻】双子葉植物・イラクサ科のカラムシ*の別名。中国に多産したのでチャイナグラスとも称する。繊維は発酵ま

たは砕茎してその靭皮(じんぴ)から採取する。亜麻に次いで有用な麻繊維で，強く吸水性があり，夏の衣料，ハンカチ，食卓布などに用いられる。ラミーも用途上は同じに取り扱う。

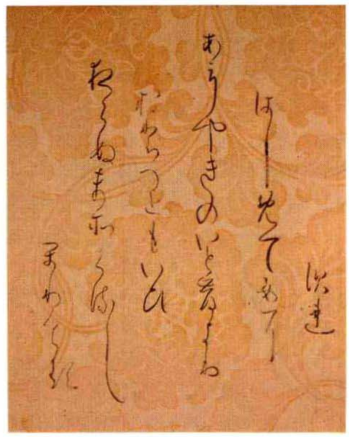
チョムスキー ［Noam Chomsky］（1928～　）ユダヤ系のアメリカの言語学者。1955年ペンシルベニア大学で哲学博士号を取得。マサチューセッツ工科大学教授。1957年に発表した《文法の構造》により，変換(生成)文法理論という新理論の発案者として有名になった。1966年8～9月には講演のため来日した。著作は《文法理論の諸相》(1965)，《デカルト派言語学》(1966)，《言葉と心》(1968)など。その論は，デカルトの合理主義思想に基づき，人間に普遍的な言語能力を認め，そこから個々の言語形式が発現するとし，また一方で，フンボルトを引用して，人間にはそのような言語形式を創造していく面があるとする。したがって，構造主義言語学では等しいとされる形式と意味(彼の用語では,表層構造と深層構造)とは,深層構造を潜在的な抽象構造と考えるため，必ずしも一致しないことになる。近代の構造主義言語学に対する反論としてのこの新理論は，賛否こもごもの反応をひき起こした。また，反戦運動家としても活躍し，《知識人の責任》(1969)と題する論集もある。〔崎山　理〕

ちょら 【樗良】(1729～1780) 江戸中期の俳人。三浦氏。伊勢(いせ)(三重県)の人。別号は無為庵(むいあん)・榎本庵(えのもとあん)など。各地を放浪して，《白頭鴉(しらがからす)》《我庵集(いおしゅう)》《菊の香》など数多くの俳諧書(はいかいしょ)を編み，蕪村*(ぶそん)・暁台*(ぎょうたい)・闌更*(らんこう)らとも交渉があって，天明期の中興俳家の一人に数えられる(→天明調)。伊勢の雑俳*の点者としても著名。

ちょろぎ 【石草蚕・長老喜】双子葉植物・シソ科。中国原産の多年草で，日本へは江戸時代に渡来したと思われる。茎は高さ50cmに達し，方形で下向きのとげがある。葉は長卵形で細鋸歯(さいきょし)があり,表面にはしわがあって短い柄で対生する。8～9月,茎の先端に紅紫色の唇形花(しんけいか)を輪状につける。秋に地下茎の先に塊茎をつけ，これを梅酢につけたり，塩づけにして食用にする。なお，近縁種のイヌゴマ(チョロギダマシ)は本種に似るが，塊茎をつくらない。

ちょんまげ 【丁髷】江戸時代，おもに老人の男子が用いたまげ。髪の毛が少なく，結ったまげが小さいため,ちょん(小さいという意味)まげという。のちには江戸時代の男子のまげを総称していうようになり，現在では，時代にかかわらず男子のまげの代名詞となっている。

チョンリマ 【千里馬】1日に1,000里を走るといわれる朝鮮の古くからの伝説上の駿馬(しゅんめ)。この意味が転じて，動作のすばやい人，機敏な人をさしてチョンリマのような人という表現が使われた。1950年代から，朝鮮民主主義人民共和国の金日成*首相が，社会主義建設をさすスローガンとしてこのことばを採用し，〈チョンリマ運動〉とよぶようになった。



散らし書き 伝藤原忠家筆《道済集切》 薄茶色の大花唐草の文様のある蠟箋に歌を散らし書きにしている。前田育徳会蔵



チラナ チラナの官庁街。左は文化宮殿，右は政府関係の建物で，壁面にレーニン・マルクスらの大きな肖像が掲げられている

ちらし 【散らし】日本の伝統音楽・舞踊で使われる用語で，形式上の経過的な部分をさしていう。舞踊では段切(だんぎれ)の直前であるが，地歌・箏曲(そうきょく)では手事*の部分の終わりのところにあたり，次に続く歌のテンポを導く働きをもっている。普通は短いが，長いものでは2段構成になっていて，その場合にはそれぞれ〈中チラシ〉〈本チラシ〉とよばれる。

ちらしがき 【散らし書き】かな書きの書法の一。行の高さ・長さおよび行間の幅をいろいろに変えて書くもので，和歌や手紙などを書く場合に用いる。古代および現代の散らし書きは自由で，変化に富むが，中世や近世のものは型にはまっていて，変化に乏しい。

チラナ ［Tirana］アルバニアの首都。人口25万(1976推)。同国中央部の豊かな平野部にあり，アドリア海沿岸にある外港ドゥルレスと鉄道で結び，繊維・農産加工・化学工業などが盛ん。16世紀までは一小村であったが，17世紀以後トルコの支配の下で発展し，1920年アルバニアの首都となった。住民の多くは回教徒で，古い回教寺院が残っている。

ちらん 【知覧(町)】鹿児島県川辺(かわなべ)郡に属し，薩摩(さつま)半島中南部にある町。人口15,000。付近は茶の栽培が盛んで，農林省や県の茶業試験場があり，製茶工場も多く，最近は紅茶の生産が盛ん。第2次世界大戦中の1942年(昭和17)に陸軍の飛行場が設置されて特攻隊の出撃基地となった。交通は1965年鹿児島鉄道知覧線が廃止され，バスによっている。

チランケビッチ ［Jozef Cyrankiewicz］(1911～　) 現代ポーランドの政治家。クラカウで高等教育を受けたが，早くから労働運動に加わり，1935年ポーランド社会党クラカウ地区の書記となる。1939年ナチス*のポーランド侵入とともに捕虜となったが，逃亡してクラカウで反ナチス抵抗運動を指導し，再び逮捕されて1941年から祖国の解放まで強制収容所で過ごした。1945年ポーランド社会党書記長となり，共産党との合同に努め，1948年ポーランド統一労働者党結成とともに中央委員会書記兼政治局員となった。1947～1952年首相，1952～1954年ビエルート政府の副首相となり，1954年3月再び首相となった。〔山県弘志〕

チリ(共和国)［República de Chile, Republic of Chile］南アメリカ西部，アンデス山脈南部太平洋斜面を占める国で面積75万6,945km²，人口1,092万(1979推)。首都サンチアゴ。国土は南北に4,200km,東西に幅は最も広い部分で約400kmと細長い。南北の連絡には，陸路よりも海路のほうが重要で昔から海運業が発達した。アルゼンチン・ブラジルと並び,〈南アメリカのABC〉三国とよばれ，有力国の一つとなっている。

〔自然・住民〕 細長い国土の北部はペルーおよびボリビアと接し，東方のアルゼンチンとの国境にはアンデス山脈の主峰が走る。南端は海に没し，マゼラン海峡を隔ててフエゴ島に至る。海岸沿いには海岸山脈がアンデス山脈と並行して走り，二つの山脈間には縦谷や高原が続いている。アルゼンチンとの国境付近には，主峰をアルゼンチン国境内にもつアコンカグア(7,021m)をはじめ，メルセダリオ・リュリアイラコなど6,000mをこえる山々があり,高峻(こうしゅん)な火山も各所にみられる。国土が南北に長いため,気候の変化に富み，北部は熱帯気候を示すが南部は冷温帯の気候に変わる。北部のアタカマ砂漠(さばく)は沿岸を北流する寒流のペルー(フンボルト)海流による高気圧の乾燥気候で形成されたものである。中部の海岸地方は地中海性気候を，南部は温潤な西岸海洋性気候を示す。

全人口の約5分の1がスペイン系ヨーロ

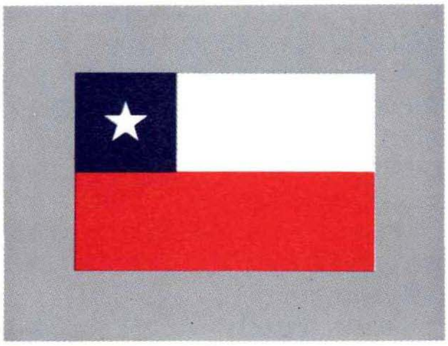
ッパ人で，他は混血種のメスチソであり，これらの人々の約半分は都市に居住している。インディアンは約20万でその大半は山地に居住している。国語はスペイン語。

〔産業・経済〕これまで鉱産国として開発が進められてきたため，農業面では遅れが目だち，有業人口の約30％が農業に従事しながら，国民の食料需要の約30％を満たすのみである。一方，有業人口のわずか4.7％が従事するにすぎない鉱業は国家の輸出総額の84％(1965)をまかなう。最大の鉱産物は銅で年間約60万tを産出しているが，大手の鉱山会社はいずれもアメリカ合衆国系の資本およびその系列会社である。そのほかにはモリブデン・チリ硝石・鉄鉱石を産する。このうち銅・鉄鉱石・硝石の原鉱はわが国でも輸入しており，わが国からは機械類・鉄鋼・繊維を輸出している。これまでチリは南アメリカ諸国の中で大地主制が最も強く残っていたが，工業の発展によって商業資本家たちの農場の分割購入が進み，今日ではそれも解体の傾向にある。スペイン系の移民の多い中部地方では，小麦・大麦・アルファルファ・ブドウ・柑橘(かんきつ)類・オリーブ・イチジクなどがつくられ，灌漑(かんがい)施設もかなり整備されている。南部では，ジャガイモ・エンバク・リンゴなどがつくられ酪農も行なわれており，北西ヨーロッパ様式の農業がみられる。ここにはドイツ系の移民が居住して開拓の主力となっている。鉄道は国営を主とし総延長は10,000kmをこえ，航空路の発達もめざましい。

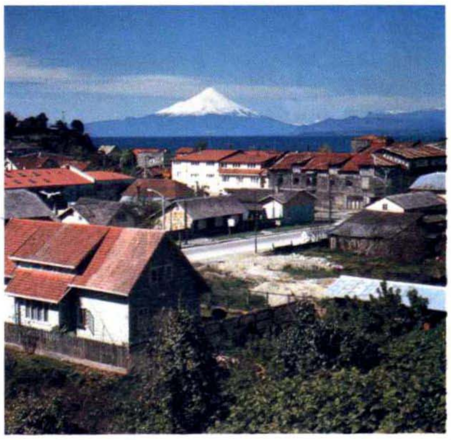
〔歴史・政治〕ここにはかつてインカ帝国の子孫であるインディオが居住していたが，1530年にピサロ，1541年にバルディビアの侵入を受け，以来スペイン植民地となり300年間スペイン人の移住と開発が続いた。1810年独立を宣言し，1844年にはスペインもこれを承認した。現在は1925年に制定された憲法に基づき，任期6年の大統領のもとに内閣と二院制の議会が置かれている。近年経済的に不況が続き，政情もあまり安定していない。〔小栗　宏〕

ちりがく【地理学】 地球表面の諸現象を空間的観点から研究する科学。地理学は古代ギリシア時代には土地の記載という知識の寄せ集めであったが，中世・近世には貿易・商業・鉱山開発のための新しい技術の要請や観測器の発達などによって，しだいに科学としての下地がつくられていった。20世紀にはいると，人間生活と土地(自然環境)との関係を総合的に究明しようという古来からの説明科学的立場もある一方，応用科学としての発達もめざましく，総合開発や地域計画，環境保全への応用でも成果をあげている。〔大石堪山〕

ちりから 歌舞伎囃子(かぶきばやし)の重要な種類の一。能の囃子から多くを受け継いでいるが，一方室町以降の民間芸能を出発点として歌舞伎独特の囃子を形成し，これを



チリの国旗 1817年制定。星は名誉と発展の道案内の星，赤は独立の英雄たちの血，白はアンデスの山々の雪，青は空を表わしている



チ　リ チリ富士とよばれる美しい円錐形火山オソルノとヤンキウエ湖。湖畔のプエルトバラスの町から望んだもの

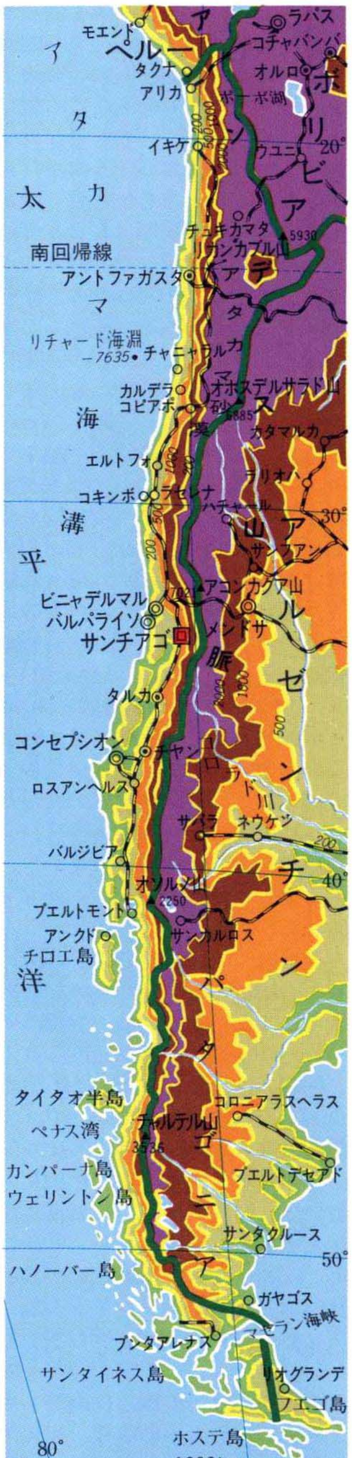
ちりから拍子と総称する。そのパターンの多くは江戸中期に成立したものといわれる。なお，狭義には速いテンポで，大鼓と小鼓を打ち合わせていくはなやかで細かい手をさす。

チリしょうせき【チリ硝石】 硝酸ナトリウム$NaNO_3$の組成を有する鉱物。硝酸の原料鉱石で，菱面体(りょうめんたい)晶系，硬度1.5～2，比重2.2～2.3，白色ないし赤かっ色で透明。チリに産する。

ちりじょうのはっけん【地理上の発見】⇨大航海時代

ちりなべ【ちり鍋】 なべ料理の一種。白身の魚やカキと野菜・豆腐などをなべ仕立てにして，ポン酢じょうゆにつけて食べるもの。魚肉をさしみ状に切って熱湯に入れると，ちりちりと縮むのでこの名がある。淡泊な味であるが，冬向きの料理である。土なべにコンブを敷き，魚はタイ・タラ・フグ・コチ・アイナメなど，野菜はダイコン・ミツバ・ホウレンソウ・ハクサイ・シュンギクなどを用いて煮る。なお，器に白身の魚と豆腐・ネギなどを添え，塩・酢を振りかけて蒸した料理を〈ちり蒸し〉という。〔塩川ふみ〕

ちりめん【縮緬】 本来は経(たて)に無撚(むよ)りの生糸，緯に強い撚りをかけた生糸



300万人以上の都市　回100～300万人の都市　◎50～100万人の都市
◎10～50万人の都市　⊙5～10万人の都市　○5万人未満の都市　●首府　#油田

を用い，製織後に精練することによって，皺(しぼ)を表わした白生地の絹織物をさすが，現在は合成繊維によって，類似の外観を呈しているものも縮緬と称している。本縮緬の緯(ぬき)に使われる強撚糸(きょうねんし)は普通縮緬緯とよばれ，通常3,000～4,000回の右または左の撚りがかけられている。製織後に精練すると，生糸の膠質(にかわしつ)(セリシ

ン)が溶解して,撚りがもとにもどろうとして,布面に縮皺(ちぢみじわ)が生ずる。縮緬の特徴はこの皺にある。縮緬が和装の染め生地として重用されているのも,この皺によって染色に深みが出るし,皺が目だたずまた弾力性にも富み,平絹のような冷たさやかたさがなく,暖かく柔らかな感じがするからである。基本的な縮緬は右と左の縮緬緯を二越(ふたこし)ずつ交互に織り込んで平組織としたものであるが,経緯糸の種類や扱い方によって風合(ふうあい)をことにしたさまざまな種類があり,また産地によって特色もある。そのうち最も代表的なものは一越縮緬である。一般には単に一越といわれているが,これは左右の縮緬緯を一越ずつ交互に織り込み,皺が細かい点に特色がある。この皺を細い糸を使ってさらに細かくしたのが錦紗(きんしゃ)縮緬(→錦紗)である。その反対に,縮緬緯を四越とか六越・八越というように越数を多く織り込んだものは,皺があらく大きくなり,それを鶉(うずら)縮緬とか鬼縮緬とよんでいる。その他山繭糸(→ヤマユガ)を交織した山繭縮緬とか,壁糸*を使った壁縮緬,絽(ろ)の組織にした絽縮緬,文様を織り出した紋縮緬などがある。また,洋装生地として広く利用されているクレープデシン*は平縮緬の一種であり,ジョーゼット*は経緯糸ともに強撚糸を用いて,密度をあらく織った薄地の織物で,ジョーゼット縮緬ともいわれている。

わが国では,天正年間(1573～1591)に中国明(みん)の技法にならって製織を始めたといわれているが,縮緬類似の生地はすでに飛鳥(あすか)・奈良時代の遺品にみられる。しかし,縮緬の需要が高まり,その生産が盛んになったのは江戸時代のことで,まず京都西陣で製織された。その技術は享保年間(1716～1735)丹後峰山・加悦に伝えられ,次いで岐阜・長浜・桐生(きりゅう)にも伝わって,各地で盛んに生産されるようになった。明治になって,洋式撚糸機が輸入され,福井・石川地方で輸出用クレープが織られるようになり,多くの品種を生む基となった。

〔北村哲郎〕

ちりも【塵藻】 広義には緑藻・接合藻類中の単細胞性のものの総称。狭義にはチリモ科,まれにはそのうちのチリモ属の総称。チリモ科はすべて淡水産であり,好酸性で泥炭地(でいたんち)などに多い。プランクトンまたは他物の上をはう生活をし,二放射相称形で多くは単独性であるが,糸状群体をなすもの(チリモ)もある。無性生殖は二分裂,有性生殖は接合を行ない,接合子は母細胞外または両母細胞より共通に形成された構造物に生ずる。ミカヅキモ・ツヅミモなどが含まれる。

ちりゅう【知立(市)】 愛知県南西部の市。人口49,000。江戸時代は池鯉鮒と書き,〈ちりふ〉ともよばれた東海道の宿場町であった。碧海(へきかい)郡知立町が1970年(昭和45)12月市制を施行。市域は濃尾平野の南東部に位置し,豊田(とよた)・安城・刈谷(かりや)の3市に周辺を囲まれる。産業三大別人口比は4:49:47。紡績・ミシン製造などの近代工業が盛んで,興和紡績をはじめ,100余の大小工場が集まる。名古屋鉄道本線から三河(みかわ)線を分岐し,国道1号線・155号線が交差する交通の要地で,名古屋方面への通勤者が急増し,住宅公団の集団住宅が造成されている。

ちりょく【地力】 一定の光・温度条件下で土壌(どじょう)に植物が生育するとき,その植物に適した固有な養分の必要量をバランスをもって保持・供給する能力。これは土壌の物理的・化学的・微生物学的な諸性質が総合的に関連し合って発現するものである。場合によっては土そのものの総合的諸性質について地力と称し,植物を生育させる能力を肥沃度(ひよくど)と称することもあるが,一般には肥沃度と地力は同義語とされている。世界的にも地力の定義は多種多様で,人手の加わらない土壌に限定しての地力を問題にする場合(アメリカ・ソ連など)と,施肥・土壌改良など人手を加えた土壌に重点を置く場合(西欧諸国・日本など)がある。地力増強のためには,物理的性質の改良,水分のコントロール,有害物質の除去,合理的な施肥を行なうべきである。

〔浜田龍之介〕

チリンス [Tiryns] ギリシア,ペロポネソス半島のアルゴス地方にあるミケーネ文明の遺跡。1884年シュリーマンが発掘。古くから丘を中心に人が住んでいたが,BC1500年前後が繁栄期であった。巨石で築かれた城壁・前門,メガロン式の宮殿はそのなごりである。壁画・陶器などもあり,のちのギリシアへの影響がうかがわれる。ドーリア人の侵入で宮殿も文化も荒廃し,さらにヘレニズム時代以降は廃墟(はいきょ)となった。

ちるい【地塁】 断層運動により相対的に落差を生じた地塊を断層地塊とよぶが,このうち,周囲を断層によって限られた山脈状の地形を地塁という。わが国のように地殻(ちかく)運動の活発なところでは地塁が多く,六甲・鈴鹿(すずか)・生駒(いこま)などの山脈,外国では天山(テンシャン)山脈・アルタイ山脈などがあげられる。

チルデン [William Tatem Tilden] (1893～1953) アメリカのテニス選手。1920年から1926年までアメリカにデビスカップをもたらし,ウィンブルドンの全英テニス選手権大会では1920～1921年,全米選手権大会では1920～1926年連続優勝した。長身を利してのキャノン-サービスはほかにまねのできない威力があり,世界最高のテニス選手といわれている。1930年にプロに転向した。

チルドいもの【チルド鋳物】 表面部を特に硬化させるために,鋳造時に金型を用い,表面の冷却速度を早めるようにして鋳造された鋳物。チル鋳物ともいう。表面のかたさは著しく高く,耐摩耗性が大きく,かつ内部は強靭(きょうじん)なために鉄道車輪・圧延機用仕上げロールなどに利用される。

チルブルク [Tilburg] オランダ南部の工業都市。人口15万2,000(1975)。毛織物・染色・機械・皮革などの工業が盛ん。19世紀にそれまでの小寒村から急速に発達した。鉄道の交点であり,またウィルヘルミナ運河を経て外洋に通じ,ムーズ川流域の炭田地帯・工業地帯やロッテルダムにも水運が通じている。

チレニア(海) [Tyrrhenian] 地中海中央部,イタリア半島とシチリア島・サルジニア島・コルシカ島に囲まれる海域。ベスビオ・ストロンボリ・ブルカノ・エトナの諸火山や海岸の美しい景観で知られている。

チレボン [Tjirebon] チェリボンともいう。インドネシア,ジャワ島西北岸の港市。人口17万9,000(1971)。背後にチラメ火山(3,078m)を負い,西ジャワの穀倉であるインドラマユ平野を控え,地方的商港として繁栄している。オランダの植民地になるまえはスルタンの居住地であり,回教徒の巡礼地でもあった。市内には華僑(かきょう)も多い。西南にリンガジャテーの休養地がある。

ちろうい【地労委】 ⇨地方労働委員会

チロキシン [thyroxine] サイロキシンともいう。甲状腺(こうじょうせん)から分泌されるホルモンの一種。脊椎(せきつい)動物に広くみられ,甲状腺中にチログロブリンというヨウ素を含むタンパク質の形で存在する。チログロブリンは分解してチロキシンとなり,血液にはいって血漿(けっしょう)中で他のタンパク質と結合し,ホルモンとしての働きをする。チロキシンの作用はきわめて多方面にわたるが,おもに物質交代を促進し,両生類では変態を促進する。チロキシンを投与すると,肝臓からグリコゲンが減少し,チロキシンが不足するとクレチン病・粘液水腫(すいしゅ)などの障害をひき起こす。

〔平野修助〕

チロシン [tyrosine] $HOC_6H_4CH_2CH(NH_2)COOH$ 芳香族アミノ酸の一。動物体内ではフェニルアラニンの水酸化によって生成される。L-型は多くタンパク質の構成アミノ酸として存在し,特に絹糸やカゼインに多く含まれる。また遊離の形でも広く分布している。L-チロシンは生体内ではさらに代謝されてメラニン色素やアドレナリンを生成する。一方では酸化的に分解されてフマル酸とアセト酢酸に代謝される。先天性代謝異常の一つであるアルカプトン尿症は,チロシンを代謝する際の中間産物と考えられているホモゲンチジン酸が尿中に出る疾患で,不完全分解に起因する。

〔南川隆雄〕

ちろり【地炉裏】 銚釐とも書く。酒を暖める器。銀・スズ・銅・黄銅などでつく

られ，中でもスズ製が多い。中国の酒器にちろりに似たものがあり江戸時代に伝来した。筒形で下方がややすぼまり，上部に注口と取っ手をつける。容積は180cc内外。

チロル　［Tirol］　オーストリア西部からイタリア北部にわたるアルプスの地方名。オーストリアのチロル州全域(主都インスブルック)とイタリアのトレンチノ・アルト・アジジェ各州に広がり，中央には東アルプスの3,000m級の山々が連なって頂上付近は夏でも氷雪をいだき，峡谷・渓谷(けいこく)に富む。冬のスキーを中心として，避暑や登山などの観光客が多い。北部の北チロルは東西に走るイン川の谷で，インスブルックを中心に果樹・牧畜を主とする農業が行なわれ，水力発電量が多くセメント工業や紡績業が盛んである。南部のイタリア側(南チロル)はアジジェ川の流域で，1919年にオーストリアから割譲された地方であり，ぶどう酒醸造で有名なボルツァーノが中心である。南・北チロルともに古くから芸術・文学など独特の文化や風俗を有し，インスブルックとボルツァーノを結ぶブレンナー峠(1,370 m)は，アルプス越えの峠では最低所を通り，古くから重要な交通路である。
〔大石堪山〕



チロル　スキーで世界的に知られるザンクト-アントン付近のゲレンデ。白壁の美しいロッジやホテルが並び，チロルの山山が輝く

チワワ　［Chihuahua］　メキシコ産の愛玩犬(あいがんけん)。世界の犬種の中で最も小さく，人の手のひらに載るような小形が出現したが，体重1～1.8kgくらいが喜ばれる。頭部は丸く，目は大きく，耳を外側へ約45°の角度で上げる。短毛と長毛の2種があるが，前者が一般に普及している。➜イヌ

チワワ　［Chihuahua］　メキシコ北部，メキシコ高原の標高約1,500 mに位置する都市で，チワワ州の州都。人口36万6,000(1976)。銀を主とする鉱産地域の中心都市として発展した。その後この地方の広い谷に牧牛が導入されると，ウシ取引の中心となり，今日に至っている。熱帯に位置するが，高原上にあるため暑さはきびしくない。メキシコ産の愛玩犬(あいがんけん)チワワ*種はこの地の原産といわれる。

チワンぞく　［チワン族］　中国の広西チワン族自治区や雲南省・広東(カントン)省に分布している民族。人口は約780万(1967)で，中国の少数民族の中では最大である。人種区分はモンゴロイド*で，言語的にはタイ語族に属する。水稲栽培が行なわれている。

ちん　［陳］

1 中国，周代の諸侯国。周の武王が殷(いん)を滅ぼしたあと，夏王朝の子孫を捜し，胡公満(ここうまん)(嬀満(ぎまん))を得て，河南省の宛丘(えんきゅう)(河南省淮陽(わいよう)県南)に封じて国を立てさせた。中原の諸国と南方の楚(そ)との間にあってさまざまな圧迫を受け，BC478年楚のために滅ぼされた。のち子孫は，田氏の陳を建てた。

2 中国，南朝最後の王朝(557～589)。梁(りょう)の部将，陳覇先(ちんはせん)が敬帝の禅譲*を受けて建国。領域は南朝のうちで最小。梁末の動乱で門閥貴族が没落したため，寒門(下級貴族)が皇帝の側近政治を行なった。

ちん　［狆］　日本産の愛玩犬(あいがんけん)。祖先は中国のペキニーズと同じく南ヨーロッパのイヌで，聖武(しょうむ)天皇の732年(天平4)朝鮮の新羅(しらぎ)からみつぎ物として献上されたのが，わが国への渡来の最初とされている。形態は頭蓋(とうがい)が丸く，目が大きく，吻(ふん)が非常に短い。胴は方形体で飾毛が豊かで尾を負っている。体高は25cmくらい。➜イヌ

チン　［琴］　チター系弦鳴楽器に分類される中国の楽器。古代に始まり，儒教と結びついて現代に至るまでかろうじて存続している。東アジアにさまざまな形態で散在する琴箏(きんそう)類の中でも最も古いとされている。5弦であったとする説もあるが，現在使われているのは7弦で，1m弱の長さのキリの胴体に弦(絹)を張り，左手の指で弦を押えて弦長を決定しながら右手ではじいて鳴らす。したがって音量はきわめて小さく，実際に聞こえる音よりもむしろ，どのような音を出そうとしたかという意図そのもののほうが重要視され，これが孔子の礼楽思想の中に組み入れられた理由とみられる。明(みん)時代に栄え，日本にも一部伝えられた。
〔山口　修〕

ちんかい　［鎮海］　チンヘ　南朝鮮慶尚(けいしょう)南道南端，鎮海湾の西端に臨む軍港。人口約7,000。南の巨済島などの島や固城半島によって外海と隔てられた良港で，日露戦争当時は日本海軍の集結地とされ，1945年第2次世界大戦の終結まで日本海軍の要港であった。現在は韓国(かんこく)海軍司令部と海軍兵学校がある。市街は放射状に形づくられ，サクラ並み木が多く，風光明媚(めいび)で気候温和な港町である。

ちんかい　［鎮海］　チェンハイ　中国，浙江(せっこう)省北東端，寧波(ニンポー)北東16kmの甬江(ようこう)河口にある漁港。寧波の外港として知られる。14～16世紀には付近を劫掠(ごうりゃく)した倭寇(わこう)の上陸地であった。

ちんがいやく　［鎮咳薬］　せきを止めるために用いられる薬。多くの呼吸中枢を抑制する薬は，呼吸中枢の一部であるせきの中枢に対しても鎮咳作用がある。通常コデインがよく用いられる。セネガ根などの去痰(きょたん)薬を用いると分泌がふえ，炎症面が分泌液でおおわれて痰を排出させて間接的にせきが止まるので，鎮咳薬と併用される場合が多い。

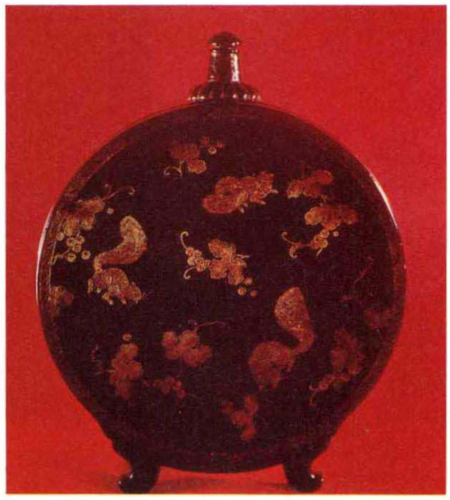
ちんかさい　［鎮花祭］　〈花しずめまつり〉〈やすらいまつり〉ともいう。古くから疫病は悪霊のなすわざと信じられ，春の花の散るころは疫病も分散して人々を悩ますものと考えられていた。この疫神を鎮(しず)めるために行なったのが鎮花祭の起源とされる。毎年4月10日に行なわれる京都市上京区の今宮神社のやすらい祭りは有名で，1000年(長保2)5月に今宮を設けて疫神の御霊会(ごりょうえ)(➜御霊信仰)を催すとあるのが記録の初見である。やすらい祭りは練り衆が踊り歌の一連の末に必ず〈やすらえ花〉という囃子詞(はやしことば)がつく，やすらい祭りとはここから出た呼び名である。やすらい祭りの踊り歌は，田遊び*・田楽*・念仏踊りなどの影響が認められる。　〔直江広治〕

ちんき　［陳毅］　チェンイー　(1905～1971)　中国の政治家・軍人。四川省出身。フランスに留学，帰国して中国共産党*に入党。江西省の党根拠地にはいり，長征*のとき後方守備隊の残留，1938年には新四軍第1支隊司令となった。1941年，国民党軍のため新四軍が攻撃され，軍長が捕えられて以後，軍長代理として新四軍を再建した。日中戦争に続く解放戦争で野戦軍司令を歴任，1949年5月，上海(シャンハイ)解放後，上海市長をつとめ，1958年2月には周恩来に代わって外交部長に就任した。また，囲碁の愛好者としても知られ，1962年11月，中国囲碁協会名誉主席となった。　〔斎藤秋男〕

チンキざい　［チンキ剤］　生薬*をエタノールまたはエタノールと水との混液に浸して，その有効成分を浸出させた液剤。古い形態の製剤で，代表的なものに苦味チンキがある。ふつう生薬を切断または砕粉し，これに常温でエタノールなどの浸出剤を加えて数日間放置したのち，上澄み液をとるか，または濾過(ろか)して製する。チンキ剤

と同じようなものに酒精剤がある。酒精剤は生薬の代わりに揮発性医薬品(サリチル酸など)を用いて，これをエタノールにとかした液剤である。ヨードチンキは酒精剤に属するが，名称が慣用されているので例外としてヨード精とはいわない。チンキ剤・酒精剤ともに外用のものと内用のものとがある。〔江本龍雄〕

ちんきん【沈金】 漆芸技法の一。漆面に文様を針彫(はりぼり)し，その部分に漆をすりこみ，さらに金箔(きんぱく)を真綿で押しつけて密着せしめたもの。細い金線で表わされた文様が漆絵とは違った緻密(ちみつ)な感覚を形成する。中国では戧金(そうきん)と称し，宋(そう)・元代に盛行したが，わが国では室町期ごろから遺品をとどめている。現在は，石川県輪島市が主産地で，沈金鏨(たがね)の形は異なるが，秋田県・沖縄などにも産出する。なお，金箔の代わりに銀箔を使用することもある。〔河田　貞〕


沈　金《沈金太鼓樽》サントリー美術館蔵

ちんぎん【賃金】 ⇨444ページ

チンクゆ【チンク油】 酸化亜鉛を植物油に懸濁して製した白色泥(はくしょくでい)状の外用製剤。長く保存しておくと成分の一部が分離してくるから，使用時にはよく練り混ぜて使用する。皮膚を保護し収斂(しゅうれん)・防腐の作用があり，ただれなどの軽い皮膚病に用いられる。かつてはやけどの初期に用いられたが，現在は用いられない。

ちんぐるま 双子葉植物・バラ科。北海道・本州中部の高山に自生する落葉小低木。高さ10cm前後で，茎は地面をはい，枝を多数出す。葉は3～5小葉の羽状複葉で，茎の先端に集まって互生につく。小葉は無柄で，長さ5～15mm，幅3～8mmで光沢がある。6～8月に直径2～3cmで白色の五弁花を長い柄の先につける。花後，花柱が伸びて薄茶色の羽毛状となる。



チングルマ
(上) 花
(下) 果実

ちんけいやく【鎮痙薬】 平滑筋のけいれんをおさえる薬。古くは骨格筋の中枢性けいれんをおさえる抗てんかん薬，脊髄(せきずい)性のけいれんをおさえる脊髄性筋弛緩(しかん)薬，および抗パーキンソン氏薬をも含めて鎮痙薬とよんだ。平滑筋のけいれんをおさえるものにはアトロピンと同じく抗アセチルコリン性のものが多いが，抗ヒスタミン作用をもつものもときに奏功する。またパパベリン・ニトログリセリンのように直接平滑筋に作用するものもある。下熱鎮痛薬アミノピリンにもこの弱い作用がある。なお，平滑筋臓器に属する消化器・胆管・生殖器・泌尿器(ひにょうき)に起きるけいれんには鎮痙薬を用い，気管支にはアドレナリン作用をもつ薬が用いられる。〔伊藤隆太〕

ちんこう【鎮江】 チェンチャン 中国江蘇(こうそ)省南部の都市。人口約30万。旧名は京口。揚子江下流と大運河の交点に臨み，古くから南北交通の要地とされ，第2次世界大戦前にはイギリス租界が設けられていたこともある。江北の小麦・大豆油などの農産物と江南で産する工業生産物との交易地として発展した。

ちんこうかいがん【沈降海岸】 ⇨沈水海岸

チンコム ⇨ココム

ちんこんきょく【鎮魂曲】 ⇨レクイエム

ちんしゃくけん【賃借権】 賃貸借契約に基づき，賃借人が目的物を使用・収益しうる権利をいう(民法601条)。賃借権は目的物を現実に直接的に支配しうるが，債権であるため他の用益物権(地上権・永小作権・地役権・入会権など)に比較して賃借人の地位がきわめて弱い。賃借権も登記することによって第三者に対抗しうるが(民法605条)，賃貸人に登記に応ずる義務がないため，事実上対抗力を具備しえない。そこで建物保護法は，建物を登記すればその土地の賃借権に対抗力を生ずることとし(建物保護ニ関スル法律1)，借家法は建物の引き渡しをもって賃借権の対抗力を認めた(借家法1条)。また，農地法も農地の引き渡しによって賃借権に対抗力を生ずるものとしている(農地法18条)。民法は賃借権の存続期間について20年しか認めていないが(民法604条)，借地法・借家法はこの期間を延長させ，解約についてはきびしい制限を加え，更新の権利を強化している。民法はまた，賃借権は賃貸人の同意がなければこれを譲渡または転貸できないものとしている(民法612条)。しかし，借地法は第三者が賃借権を取得または転借しても賃貸人に不利益を生ずるおそれがないにもかかわらず，賃貸人が賃借権の譲渡または転貸を認めないときは，裁判所は借地権者の申し立てにより，賃貸人の同意に代わる許可を与えることができることにしている(借地法912条)。また，借地法・借家法は，賃借権者にそれぞれ建物買い取り請求権・造作買い取り請求権を認め，解約の際，賃貸人にそれを買い取る義務を課している(借地法4・10条，借家法5条)。このように不動産に関する賃借権の保護については，近年かなり強化されている。これを賃借権の物権化と称する。〔黒木三郎〕

ちんしゅう【沈周】 (1427～1509) 中国，明(みん)の文人画家。号は石田。江南の文人で，董源(とうげん)・巨然・李成(りせい)らのほか黄公望をよく学び，晩年には呉鎮に心酔した。南北を融合した水墨淡彩の荘重な構成と風韻ある筆致に特徴がある。同郷の文徴明らがその影響下にあり，これらを浙派(せっぱ)に対して呉派とよぶ。詩書にも通じ学識者だったので石田先生とよばれた。呉派文人画家は多く沈周の影響を受けている。代表作に《山水図巻》などがある。〔中島純司〕

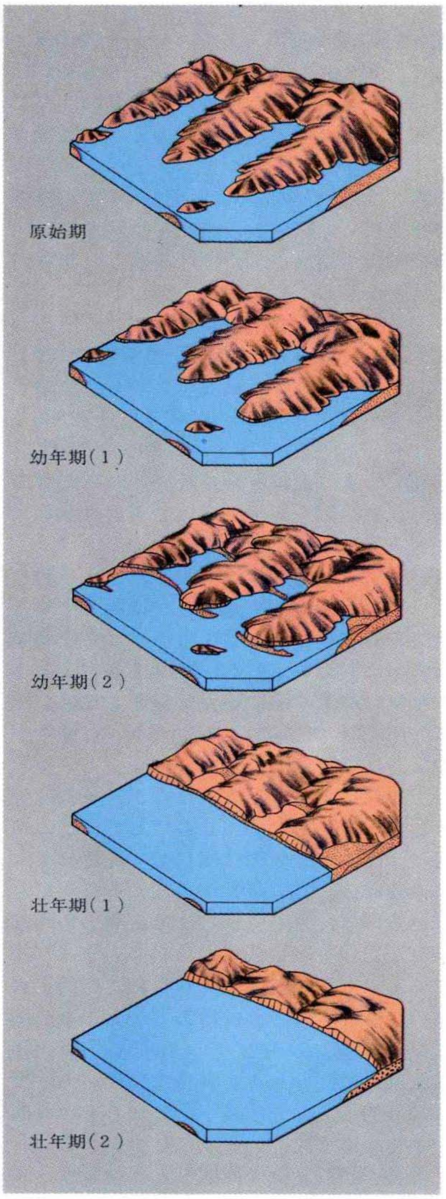
ちんじゅがみ【鎮守神】 一定の地域や殿堂を鎮(しず)め守るために祭られた神。鎮守という語は，元来は兵をとどめ，その地を鎮め守る義であるとされるが，奈良時代から平安時代にかけての神仏交渉の歴史においては，寺院の鎮守神として現われ，東大寺八幡宮(はちまんぐう)(現在の手向山(たむけやま)八幡宮)や東寺八幡宮などがその例である。また各地の荘園(しょうえん)にも鎮守神が勧請(かんじょう)されたが，それは領主の氏神をあてた場合が多い。中世以降，鎮守神は地縁協同体・隣人的集団の奉祀(ほうし)する神としての傾向を強めていった。今日でも鎮守といえば，産土(うぶすな)・氏神と並んで，地縁集団の守護神という概念が一般に通用している。また，宅地の一隅(いちぐう)に小祠(しょうし)を構えて祭る屋敷神のことを鎮守とよぶ地方もある。これらの場合，鎮守という呼称は通称であって，その内容は，稲荷(いなり)・神明・熊野(くまの)といった具体的な神名があげられるのが通例である。〔直江広治〕

ちんじゅふ【鎮守府】 古代において，東北地方の蝦夷(えぞ)征討のために設置された軍政府。奈良時代の初めは鎮所といったが，まもなく陸奥(むつ)(宮城県)に多賀城が築かれ，鎮守府と称せられた。802年(延暦21)坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)は胆沢城(いざわじょう)を築いて鎮守府を北進させた。職員

として将軍・副将軍・軍監・軍曹(ぐんそう)を置き，鎮兵・兵士を統率させた。平安中期以降しだいに衰え，のちもっぱら武士を任じたが，それもやがて有名無実となった。建武中興にあたって復活されたものの，たちまちにして消滅した。〔黛　弘道〕

ちんしょう【沈床】 堤防護岸の根固めをし，河海の洗掘されるおそれのある場所などで洗掘を防止するために沈設する粗朶(そだ)製の合成材。上面におもりとして割り石や玉石を捨て込む。構造は，径12～15cmの粗朶の束を縦方向につなぎ合わせて連柴(れんさい)をつくり，これを井桁(いげた)に組む。これを柴格(さいかく)という。柴格の上に1層が15cmぐらいの敷き粗朶3層を互いに直角に敷き並べ，計40～50cmの厚さにする。それの上に下に組んだのと同じ柴格を置き，上下柴格を鉄線などで緊結して中間に敷いた粗朶を締めつける。上柴格を省略したのを単床，粗朶連柴の代わりに丸太を使ったのを木工沈床という。沈床は急流部ではあまり効果がない。〔米元卓介〕

ちんすいかいがん【沈水海岸】 山地が海に迫るところで，陸地が沈降したり，あるいは海面が上昇すると，海水は陸地内に浸入してもとの谷を溺(おぼ)れ谷に変え，きわめて出入りに富んだ海岸線を形成する。これを沈水海岸線という。スペイン北西岸にはこの種の海岸が発達し，入り江をリアとよぶところからリアス式海岸ともよばれている。また，土地の沈降が主原因の沈水海岸を沈降海岸とよぶこともある。沈水海岸の地形は陸地のもとの地形，地盤運動の量，性質および地質などにより多種多様である。壮年山地が沈降したときには山地の急斜面が海に迫り，入り江は深いが，老年山地のように傾斜のゆるやかな土地が沈降したときは，わずかの沈水によっても入り江は深く陸地内に入り込み，海岸線は複雑になり，深度の浅い入り江とともに離れ島や水道などが交錯し多島海になる。沈水海岸は陸地の沈降によって生ずることが多いので，陸地(山脚)の海へ張り出している部分は海食作用を強く受けて海食崖(かいしょくがい)や海食洞(かいしょくどう)および海食棚(かいしょくだな)が形成され，海岸線はしだいに後退する。一方入り江の部分は三角州などによってしだいに埋められて前進していき，はじめは出入に富んでいた海岸線もしだいに平滑になっていく。洪積世(こうせきせい)の氷河時代に谷氷河が海面下まで発達していた地域の沿岸では，フィヨルドが発達している。〔桑原正見〕



沈水海岸　沈水海岸線の発達

ちんすごう【陳子昂】(661～703) 中国，唐代の詩人。字(あざな)は伯玉。唐王朝の勃興(ぼっこう)期に自己の抱負を政治的に実現しようと思いながら挫折(ざせつ)し，誣告(ぶこく)されて非命の最期を遂げた。詩の上では六朝(りくちょう)ふうの修辞美を事とする当時の詩風を打破して，より古い，建安時代のような充実した思想内容をもつ詩風を創造しようとし，《感遇》詩38首や《薊州(けいしゅう)覧古》7首，および〈前に古人を見ず，後ろに来者を見ず〉の名句で知られる《幽州台に登る歌》などの名作を残した。〔今村与志雄〕

ちんぜいぶぎょう【鎮西奉行】 鎌倉幕府が九州の御家人・地頭を統制するために置いた職名。鎮西守護ともいい，大宰府(だざいふ)を管下に置いた。1185年(文治1)源頼朝(よりとも)が天野遠景(あまのとおかげ)を任命したのがはじめで，のち武藤資頼(すけより)がこれに代わり，以後武藤氏が世襲した。文永の役(→文永・弘安(こうあん)の役)ののち，幕府は蒙古(もうこ)軍の再襲に備えるため，一族の北条実政(ほうじょうさねまさ)を大宰府に駐在させ，防衛体制を強化し，弘安の役ではよく外敵の襲来を退けた。これを機会に執権北条氏の支配は九州地方に及ぶようになった。九州の行政・裁判権も現地機関に委任され，1293年(永仁1)北条兼時が派遣された際職名を鎮西探題(→探題)と改称した。〔高崎徳次〕

ちんせいやく【鎮静薬】 中枢神経の異常興奮をおさえて平静に復させる薬物。古くから用いられているものにブロム剤や吉草精がある。これらは不眠・不安・苦悶(くもん)・痛み・けいれん・反射亢進などを除去する反面，運動機能・精神活動などに副作用がみられる。こうした副作用なしに不眠・不安・苦悶などを除く新しい型のものにトランキライザーがあるが，これは中枢抑制薬の弱いものである。静脈麻酔薬・催眠薬・下熱薬などにも鎮静作用をもつものが多い。

ちんせつゆみはりづき【椿説弓張月】 滝沢馬琴作の読本。さし絵は葛飾(かつしか)北斎。前篇(ぜんぺん)・後篇・続篇・拾遺・残篇計28巻からなる。1807(文化4)～1811年の刊。史書や伝説に材をとり，中国の《水滸(すいこ)後伝》の構想にヒントを得て創作された源為朝(ためとも)一代の外伝。源為朝は九州攻略後，保元(ほうげん)の乱で敗れて伊豆(いず)大島へ流されたが，九州へのがれ，再度挙兵して東上中台風にあい琉球(りゅうきゅう)に漂着，そこで悪臣どもを平定し，昇天するといった筋で，スケールの大きさ，物語の構成力からいって，馬琴史伝物の中の傑作といえる。〔田島　修〕

ちんそ【賃租】 養老令(ようろうりょう)(→養老律令)に規定された土地経営法の一。土地を一定の期限つきで貸して賃料をとるもの。春耕以前に賃料を支払うのを賃，秋収後に支払うものを租といった。公田・位田・職田(しきでん)などの賃租は1年を期限としたが，園地・宅地のそれには期限がなかった。大宝令(→大宝律令)ではこれを売買とよぶが，大宝(701～703)以前も同様であったらしい。賃料は収穫の2割を標準とし，口分田耕作だけでは不足な者，なんらかの理由で土地を失った者などが，土地を賃租した。〔黛　弘道〕

ちんぞう【頂相】 禅僧の肖像画をいう。高僧が弟子(でし)に印可(悟道が熟達し，人の師となる資格をもつことの証明)の形成として法語とともに与えるもの。曲彔(きょくろく)に倚(よ)る全身像と半身像があって，いずれも師の自賛を上部に書き入れる。多くは濃淡を用いて描く。北宋(ほくそう)時代から始まり，日本へは鎌倉時代に伝わって禅宗の発展とともに多作された。面貌(めんぼう)描写が写実的なので，肖像画のうちでは最も写実的な分野として多くの傑作を生んでいる。代表的な遺品に《大燈国師像》《蘭渓(らんけい)道隆像》《夢窓国師像》などがある。→宗峰妙超(図)〔中島純司〕

チンぞく【チン族】 ビルマ西部の山岳地帯に居住する民族。チベット-ビルマ語族に属する。ビルマ人がビルマに移住した際にチンドウィン川に沿って西部に下った一分派と考えられ，ビルマ人とは人種的・言語的に近似している。人口は約34万(19

→446ページ

賃　金

【賃金制度】現代社会では，生産手段をもたない労働者は，生産手段をもつ資本家に雇われて，一定の労働を行ない，その報酬として一定額の現金を受け取る。この労働の代償として，半月ごとまたは1か月ごとに支払われる報酬を賃金という。賃金という概念は，一定の社会制度のもとに現われる歴史的現象で，資本主義制度に特有のものである。社会主義制度のもとでも，賃金という名称は使われているが，資本主義制度下の賃金とは異質のものである。人間の生活は，労働(生産)によって衣食住の生活資料を得ることに始まるが，人間がそのもとで生活する社会制度の発展段階によって，生活の手段も異なる。すなわち，古代の奴隷制や，中世の封建制度の時代では，奴隷や農奴は，その時代の権力者によって労働を強制された。奴隷は，その所有者に人格ごと売買された財産にすぎず，農耕または商品生産のために，所有者の意志のまま強制労働に服した。しかし，奴隷はその所有者にとっては，一つの財産であるから，その生命を維持し，労働に耐えられるだけの生活資料は与えられ，飢えるようなことはなかった。また，封建制度下の農奴は，身分的には領主に従属し，土地に束縛され，他所に移動する自由も，耕作を放棄することも，また職業を変えることも認められなかったが，一定の土地および家畜などをもつことは許されたから，農奴は自分の土地を耕作し，家族のための生活資料を得ることができた。反面，収穫の中から，一定の年貢(ねんぐ)を領主に納め，また，領主のために強制的な耕作や労働にも服さなければならなかった。近代資本主義以前の労働は，このように権力によって強制的に支配されていた。私有財産制と社会的分業を前提とする資本主義制度のもとでは，人間はまったく自由・平等で，なんらの支配も拘束も受けないが，私有財産や生産手段をもたない労働者は，そのままでは生活資料を得ることができず，餓死する自由しかない。結局，強制的ではないが，生産手段をもつ資本家に〈労働力〉〈労働の能力〉を売り，それによって生活資料を得なければならない。商品生産が支配的な力をもつ資本主義社会では，人間が本来もっている労働力をも商品として売買することになる。このような制度を賃金制度という。

資本主義制度のもとでは，移動の自由，職業選択の自由など，なにによって生活資料を得ようともそれは自由であるから，土地・機械・材料などの生産手段をもつ資本家も，権力で他人を強制的に労働させることはできない。資本家は労働者から一定時間〈労働力〉を提供してもらい，その代償として一定の報酬を支払うという売買契約を結ぶ。資本家はこの契約に定めた時間だけ，労働者を支配し，指揮命令のもとに労働させることができる。つまり，他の生産手段を購入するのと同様に〈労働力〉をも市場価格を支払って購入し，商品を生産する。生産物の販売価格から，生産に要した諸費用と賃金を差し引いて利潤を得る。ここに資本家階級と労働者階級という二つの階級が誕生し，両者が対等の立場で〈労働力〉商品の売買取引を行なう制度が出現し，賃金というカテゴリー(範疇(はんちゅう))が発生する。したがって，賃金制度というのは，〈労働力〉が商品つまり価値として販売される制度であり，奴隷制や封建制度の労働にはない，資本主義社会に特有のものである。

【社会主義における賃金制度】社会主義社会は生産手段の社会的所有を特徴とする社会である。したがって生産手段は労働者階級の手に握られており，資本主義生産のような利潤追求や搾取関係は存在しない。国家的生産計画に基づいて生産された総生産物は，社会主義的分配原理によって，個々の労働者に貨幣で支払われるが，その部分を賃金とよんでいる。したがって，資本主義社会の賃金と名称は同じでも性格はまったく異なる。この賃金が貨幣の形態をとっているのは，商品生産と価値法則とのつながりが社会主義社会でもなお存在するためである。生産の利潤は，現在および将来の生活水準をどのように高めるかという，国家経済計画によって，個人的消費と社会主義的蓄積に配分され，賃金水準が，労働者の社会的・文化的生活を保障するという観点から決定されている点に特徴がある。

【賃金学説】賃金の性格をどう規定するかという点に関しては，下記の諸説がある。①生存費説：労働者は賃金によって，労働者自身およびその家族を生存させるために必要な最低生活資料を獲得するものであるから，賃金は逆に労働の生産費，つまり最低生活費によって決定されるという説である。この学説は，古くは重農学派*によっても述べられているが，主としてイギリスの古典学派*のアダム-スミス(→スミス)やリカード*が，経済学説の一構成部分として賃金を取り上げた際に提唱したものである。リカードはスミスの学説を発展させ，〈労働〉は一般商品と同じく一個の商品としてとらえている。したがって〈労働〉も商品と同じく自然価格と市場価格をもっている。〈労働〉の自然価格は，労働者が衣食しかつ増減なくその子孫を存続させるのに必要な価格であるから，慣習上労働者にとって必要不可欠な食物，その他の生活資料の価格によって決定される。したがって自然価格はこれらの生活資料の価格の騰貴とともに上昇し，価格の下落とともに下がる。また〈労働〉の市場価格，つまり賃金は，〈労働〉の需要と供給によって決定されるから，〈労働〉はその希少なときに高く，その豊富なときに低廉である。したがって市場価格は自然価格と異なり，しばしば変動する。市場価格が高ければ，労働者の生活は豊かになるが，それはまた労働人口増加を招き，市場価格は再び自然価格まで下がるか，ときにはそれ以下に下がることもある。しかし，自然価格以下になれば，生活の貧困から，労働人口は減少し，労働の供給不足をきたして，市場価格は自然価格まで上昇する。つまり賃金は，〈労働〉の自然価格を中心に上下し，一時的にはこれから離れることがあっても，結局は他の諸物価と同じく自然価格に一致しようとする傾向がある。このリカードの賃金論はマルサス*の人口論に立脚しているので，社会の進歩とともに〈労働〉の自然価格はしだいに騰貴することとなる。なぜならば，生活必需品の中で大きな比重を占める穀物の収穫は逓減し，その価格が騰貴するからである。また賃金が需要供給の法則によって支配されるかぎり，それは下降する傾向にある。労働者の供給は同一率で増加するのに対し，需要(資本の増加)は緩慢な率でしか増加しないからである。こうして，リカードは労働者にとって，窮乏からの脱出は幻想にすぎないと説いた。のちにドイツのラサール*が，この学説を〈賃金鉄則〉と名づけ，革命理論の根拠としたことは有名である。マルクス*の賃金学説も広い意味では生存費説にはいるが，マルクスは生存費を〈労働力〉の再生産費として，剰余価値説の理論的根拠とした。マルクスは〈労働〉と〈労働力〉を分離し，〈労働力〉を一つの商品と考え，その価値も他の商品の価値が，その生産に必要な労働時間数によって決定されるのと同様に，その生産に必要な労働時間数に支配されていると説いた。つまり〈労働力〉の価格(賃金)は労働者が自己の〈労働力〉を再生産するために必要な生活必需品の生産に要する労働時間数から長期にわたって離れることはできないのである。それと同時に労働力を再生産する費用は，さらに失業の圧力によっていっそう実質価値以下に切り下げられようとする。したがって，労働運動はその切り下げを防止する役割をもになっていると説いた。

②賃金基金説：一定の時期，ある一定の社会において労働者に支払われる賃金は，労働力人口の多少と労働者に支払われるべき総基金の大きさとによって決定される。個々の労働者が受け取る賃金は，この基金総額を全労働者数で除した商である，という説である。賃金基金説によれば，賃金の決定は，労働人口と賃金基金の関係によっ

て決まるが，賃金基金は一定であるから，労働組合が賃金闘争をして，一部の労働者群が値上げを獲得しても，それは他の労働者の分けまえをそれだけ削ることになる。したがって，労働組合運動は労働者階級全体の利害からみれば，結局徒労に終わらざるをえないという結論になる。労働者の賃金を上げるには，労働者に支払われるべき総基金を増加させるか，労働者数を減少させる以外にない。J.S.ミルによれば，この賃金基金は勤勉と貯蓄によって増加するが，ある社会の一定の時期をとればそれは一定である。ゆえに，賃金を永久的に持続的に騰貴させるためには，労働者数を減少させるよりほかはない。この学説はマルサスの人口論と結びついて，賃金基金という不変の大きさのものが存在するという誤った前提に立って主張されたところに特徴があり，労働者階級の窮乏を合理化し，労働運動の役割をも否定した。この学説は，ジェームス-ミル(1773～1836)やマルサスも論じているが，これを完成したのは，J.S.ミル*である。ただし，J.S.ミルも多くの批判から，のちにはみずからこの説を放棄するに至った。

③生産力説・限界生産力説：労働者に支払われる賃金の額は，〈労働〉の生産力によって決定されるという学説である。賃金基金説を批判する理論として論じられたもので，労働の生産力が高まれば，賃金も上昇するという考え方である。生産力説によれば，地主の提供する土地用役，資本家の提供する資本用役，労働者の提供する労働用役の三者を結合して生産を行ない，生産物を販売するとともに，それぞれの生産力に応じて一方では地主には地代が，資本家には利子が，労働者には賃金が，それぞれ支払われる。この生産力説はアメリカのウォーカー(1799～1875)によって定式化され，のちさらに，J.B.クラーク*がこれに〈限界効用逓減〉(→限界効用)の法則と，〈収穫逓減の法則〉とを結合し，〈経済的結果漸変の法則〉として限界生産力説*を定式化した。この説によると一定の賃金水準で雇用される労働量には限界があり，労働組合が限界以上の賃金水準を要求すれば，雇用は減少する。この限界生産力説は，もともと近代経済学の賃金論として展開され，オーストリア学派*の限界効用理論に発してメンガー*・ボエーム-バベルク*によって説かれ，クラークに継承されたものである。マーシャル*・ピグー*・ヒックス*・ケインズ*らはこの見解に対し批判的である。

【賃金形態】労働者に賃金を支払う場合における〈労働〉の量，または質の算定方法，賃金の計算基準，支払い方法を賃金形態，または賃金支払い形態という。その基本形態は，時間賃金と個数賃金の二つである。複雑多様にみえる賃金形態も，そのほとんどは，この二つをいろいろに組み合わせたものである。時間賃金とは，〈労働〉の成果に関係なく，労働時間に応じてあらかじめ定められた一定の額を支払うもので，時間給・日給・週給・月給・年俸(ねんぽう)がこれに含まれる。個数賃金は，労働の成果を単位基準として算定する方法で，そのときどきの生産物の量に応じて増減する。出来高払い*・能率給*・請負給*・割増し給制度などがこれに属する。資本主義の初期段階では，労働者の熟練度に依存する度合いが高く，また労働能率も自然条件に左右されたので，日を単位とする日給制が多く取り入れられた。機械化が進展し，標準労働日が設けられる時代になると，日給を労働時間で割った時間賃金が採用されるようになり，これは労働強化によって利益を増大させることができたので広く取り入れられた。また個数賃金は，機械生産方式が確立し，労働者の標準能率の測定が容易に行なわれ，単価の計算ができるようになってしだいに普及したもので，時間賃金の転化した形態である。つまり，1日8時間働く労働者の賃金を800円とすれば，1時間あたりの賃金は100円である。また，8時間で労働者は平均10個の製品をつくるということが明らかであれば，製品1個あたりの単価は80円となる。資本主義の発展過程と生産の具体的条件に応じて，この二つを中心に，さまざまな算定方法がくふうされてきた。さらに独占資本主義*の段階になると，労働の効果を最大限に高めるために，複雑な賃金形態が次々と考案された。利潤分配制や奨励加給制などがそれである。第2次世界大戦後は，時間賃金の近代化された形態として職務給が普及する傾向にある。賃金は〈労働力〉の価値および価格(価値の貨幣的表現)であるが，労働者に支払われる賃金は，多く〈労働〉の価格として表わされる。それは，〈労働力〉よりも〈労働〉に対する賃金形態のほうが，労働者の支出した労働が，完全に支払われたかのようにみえるためである。賃金の支払形態は，労働意欲を刺激し，労働能率を最大に発揮させ，しかも賃金を〈労働力〉の価値以下に切り下げることができるので，労務管理の中でも最も重要視され，またさまざまな形態が考案されてきた。

【賃金の保護】労働者は，〈労働力〉を売る以外に生活手段をもたないので，賃金は唯一の生活源であり，またその生活水準をも規定する。資本主義社会では，使用者は労働契約どおりの賃金を支払わなければならないが，〈労働力〉は日々売らなければ生存できないので，労働者はほかに雇われるところがなければ，使用者の一方的な条件で契約せざるをえない。資本主義の初期においては，前近代的な労務管理のもとに，極端な低賃金が行なわれたり，不合理な賃金の支払いが行なわれたりした。特に家計補助的な婦人労働者・年少労働者*の多い産業では，組織的な抵抗も少なかったので，前借金による人身売買的な契約や，詐欺に近い罰金制度が行なわれたり，現金の代わりに金券とか山札と称する購買の自由がない切符を渡されたり，また売れ残りの製品を現物給与(トラック-システム)の形で支給されたりした。ときには満足に賃金が支払われないことさえあった。このような実情に対し，各国とも賃金についてなんらかの保護を加える必要を認め，各国とも労働者保護法とともに賃金保護の規定をつくるようになった。賃金保護とは，国家が労働者の賃金を保護する制度をいう。賃金について第1に重要なのは，最低賃金制度である。賃金で最低生活も営めないようでは，労働力の再生産は行なえないからである。第2に，賃金の支払い方法においても前近代的な慣習を排除し，賃金が確実に労働者に支払われるための保護も必要とされる。これについては各国の実情と歴史に応じて，その弊害を防止するための立法が行なわれている。

日本では，民法・商法・民事訴訟法にも賃金保護に関する若干の規定がある。たとえば，賃金の先取り特権*に関する規定，賃金の差し押え*，相殺*の禁止に関する規定がそれである。しかし，民事法のみでは，労働者の賃金を十分保護することはできないので，労働基準法*にも次のような保護規定を設け，違反についての罰則も規定した。①均等待遇：男女同一労働，同一賃金。②労働契約：前借金と賃金とを相殺することの禁止。強制貯金の禁止，損害賠償予定の禁止。③賃金の支払い方法に関する規制。④賃金の非常時払い，休業手当。⑤出来高払い制の保障給。⑥割増し賃金の保障。⑦女子および未成年の労働者の賃金受け取りの保護と法定代理人の賃金受領の禁止など。

【賃金格差】賃金の上端と下端の開きを賃金格差という。現実の賃金には各種各様の賃金格差が存在する。たとえば，企業内部においては，熟練工と不熟練工，男子労働者と女子労働者，常用工と臨時工，職員と工員，直接工と間接工などの間に格差があり，その他年齢別・職種別によっても格差がある。また企業間には産業別の格差，大企業と中小企業との間の格差があり，地域別の格差，国際間の格差も存在する。これら種々存在する賃金格差を総合的に分析する理論を，賃金格差論または賃金構造論という。賃金構造という概念はアメリカ労働経済学ではじめて使用されたもので，賃金格差の構造という意味であるが，広くは賃金形態・賃金構成を含めて用いる。企業内における賃金格差は，具体的には賃金支払

い形態や賃金体系によって規制されている。賃金格差はその原因が，熟練工と不熟練工の場合のように，価値法則に基づくものもあるから，すべての格差を否定することはできない。しかし企業内の賃金格差は，労働者相互間に反目を起こさせ，同時に使用者側が賃金総額をも節約し，労働密度を高める手段ともなるので，格差の是正は労働組合の賃金闘争の重要な課題の一つになっている。企業間・産業間・地域間の賃金格差は，その国における産業構造や経済政策に規制されている。日本の場合その経済の二重構造によって，企業間特に企業規模別の賃金格差が大きいことが特徴である。産業間の格差は原則的には，労働力の価値が異なることによって生ずるものでやむをえないが，同質の労働に対する賃金が，企業によって異なる点に問題がある。賃金格差は欧米諸国にもあるが，いずれも格差が縮小する傾向にある。わが国の場合，国際的にみて賃金水準が低いにもかかわらず，その格差は逆に大きい。格差の生じる原因はさまざまであるが，一般的には労働運動の発展と最低賃金制の確立とによって格差を縮小することができる。わが国の場合は，企業別組合*であり，最低賃金制も確立されていないので，格差を縮めるのは容易でない。

【わが国の賃金制度】その水準がきわめて低いことに大きな特徴がある。特に第2次世界大戦前，わが国の労働者の賃金は極端に低く，劣悪な労働条件とともに，国際的には植民地以下の水準といわれ，ソーシャルーダンピング(→ダンピング)の原因として諸外国の非難を浴びた。この低賃金は，わが国の資本主義の機構から生まれ，その存立基盤となっていた。かつてわが国の産業を代表した繊維産業は，その労働力を農村からの出かせぎ*に求め，女子労働者が大きな比重を占めていたので，その賃金は生活水準の低い貧農の家計を維持するための口減らしや家計補助の段階にとどめられ，男子労働者の賃金までもこの水準に合わせて決められた。それに加えて相対的過剰人口の圧力，労働運動の弾圧，労働者保護の不十分さなどが，この低賃金を固定化したのである。また半封建的な前借金・強制貯金・罰金制度なども劣悪な賃金制度を端的に示している。第2次世界大戦後も賃金は依然として低い。戦前からみればかなり向上したとはいえ，国際水準と比較すれば，為替(かわせ)レート・実質賃金・労働分配率など，いずれの資料も賃金水準の低さを示している。各自賃金が，かろうじてイタリア並みになった程度である。近年の高度経済成長政策の結果，わが国の経済は異常な成長を遂げ，労働生産性は先進諸国とあまり変わらなくなったが，労務コストは依然として低く，これが製品価格を引き下げ，それがさらに低価格の輸出に結びついて再びダンピングの非難を受けるに至っている。この低賃金は，わが国の経済の構造的特質と独占資本保護の政策によってもたらされたものである。現在の問題点は①労働力の給源である農村が，農地改革*の不徹底とあいまって，多くの零細農をかかえており，労働者の中にも半農民的性格の者が多いこと，②労働三法(労働組合法・労働関係調整法・労働基準法)の制定により労働運動は発展したが，なお未組織労働者が6割以上を占めていること。③婦人・年少者の賃金が低く，これが全体の賃金水準を引き下げていること。④賃金水準が低いにもかかわらず大きな格差が存在していること。⑤最低賃金制が定められていないこと。⑥わが国経済がアメリカに政治的・経済的に従属していることが低賃金に作用していることなどである。〔田辺照子〕

31)。アワや陸稲などの焼き畑耕作に従事し，丘陵か山腹に杭上(こうじょう)家屋を建てて住む。階級分化は全体に少ないが，中には土司制度をもち，貴族や農奴などの階層がみられるところもある。〔山路勝彦〕

ちんだい【鎮台】 明治初期の軍事官庁。陸軍の最高編成単位を意味する。1871年(明治4)4月，東山(石巻(いしのまき)〔宮城県〕)・西海(小倉〔福岡県〕)に設置され，同年8月東京・大阪・鎮西(熊本県)・東北(仙台(せんだい)〔宮城県〕)の4鎮台に改められた。さらに1873年1月の徴兵令*発布の際，名古屋・広島を加えて6鎮台となった。当初は内乱鎮圧が主任務であったが，やがて対外戦争を目的とした軍隊の近代化が問題となり，1885年鎮台条例の改正により内部の旅団編成が行なわれ，さらに1888年5月鎮台が廃止されて，天皇に直属する師団*が設置された。〔応和邦昭〕

ちんたいしゃく【賃貸借】 当事者の一方(賃貸人)が，他方(賃借人)に，ある物の使用および収益をさせ，他方が，これにその賃料を支払うことを約する契約をいう(民法601条)。賃貸借は借りた物自体を返還しなければならず，したがって，所有権*の移転がない点では使用貸借*と類似するが，賃料の授受が行なわれる点で使用貸借とは区別される。賃貸借の目的となりうるものは物に限られ，物であればなんの上にも成立するが，そのうち重要なのは宅地・建物・農地を目的とする賃貸借である。民法上，宅地・建物・農地を利用する制度は，賃貸借のほか，使用賃借によるもの，および地上権*や永小作権*によるものがあるが，事実上これらの制度が利用されることは少なく，そのほとんどが賃貸借である。しかし，賃貸借契約に基づく賃借権*は債権として構成されているために，賃借人の地位ははなはだ弱い。そこで，宅地・建物・農地を目的とする賃貸借については，それぞれ借地法*・借家法*・農地法*が制定され，民法上の賃貸借，おもに対抗力，存続期間，更新，投下資本の回収，契約の解除，賃料の支払いなどの点で修正され，賃借人の保護が強化されることになった。賃貸借においては，賃貸人は目的物を賃借人の使用・収益に適した状態に置く積極的義務，すなわち，目的物の現実の引き渡し，目的物の修繕(民法606条)，第三者からの目的物に対する妨害の除去，賃借人が目的物について費やした費用の返還(民法608条)などの義務を負う。これに対し，賃借人は善良なる管理者の注意をもって，契約または借用物の性質によって定まった用法に従って目的物を使用・収益しなければならない義務を負う(民法400条)。また，賃借人は賃貸人の同意を得なければ目的物を譲渡したり転貸することはできない(民法612条)。賃借人がこれらの義務に違反したときは賃貸借の終了原因となる。なお，不動産の賃貸借は，登記*することによって第三者に対抗することができるが(民法605条)，賃貸人はこれに応ずる義務はないため事実上賃借権の登記されることは少ない。〔黒木三郎〕

チンタオ【青島】 中国，山東省山東半島南端の膠州(こうしゅう)湾口の都市。人口147万(1972年推)。青島の名は1898年に清(しん)からこの地を租借したドイツが新市街を建設した際に，湾内の小島の名をとって名づけたものである。第1次世界大戦後日本はドイツから権益を受け継ぎ，第2次世界大戦末まで経済的特権を保持していた。膠済鉄道の起点で，冬も結氷せず自然条件に恵まれ，埠頭(ふとう)施設の整った港で，海軍の軍港でもある。紡績工業のほか，機関車・搾油・ビール・染料などの工業が発達し，気候温暖で風光明媚(めいび)な観光地・療養地としても知られる。〔木村辰一〕

チンダルげんしょう【チンダル現象】 暗いへやの中で，目に見えないような微粒子や水滴が浮遊している空気に光をあてると，光の通路が光って，横のほうからはっきり認められる。これは光の波長程度またはそれ以下の大きさの微粒子によって光が散乱*されて横方向に進む光を生じるためで，この現象を最初に研究したイギリスの物理学者チンダルの名をとってチンダル現象とよぶ。青空の光，コロイド*溶液中の散乱光などはこの現象である。なお，限外顕微鏡*はこの現象を利用して普通の顕微鏡では見られない微粒子を見えるようにしたものである。〔有山正孝〕

ちんちゅうき【枕中記】 中国，唐代の

伝奇小説。8世紀後半ごろの文人，沈既済(しんきせい)の作。719年，呂翁(りょおう)という道士が邯鄲(かんたん)へ行く道中，旅舎に宿泊した。同宿の少年盧生(ろせい)が不遇を嘆いていたので，袋から枕(まくら)を出して貸してやる。盧生はその枕をして眠ると，名家の女と結婚し，官界で栄達し，栄華をきわめて薨去(こうきょ)する――と目がさめると，身は旅舎に宿泊しており，呂翁はそのそばにいて，盧生が寝るまえに宿屋の主人が蒸していたコウリャンはまだできていなかったという。道教思想が濃く現われている。のち，湯顕祖*はこの話を脚色して戯曲《邯鄲記》をつくった。〔今村与志雄〕

チンチラ［chinchilla］ 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・チンチラ科。ケイトネズミともいう。外形はリスに似て，頭胴長25～26cm，尾長15～16cmほど。体上面は青みをおびた霜降り状の灰色で，下面は黄白色。チリ南部からボリビア北方のアンデスの山岳地帯に分布し，群れで生活する。食物はほとんど植物質である。穴にすむが，日中もしばしば地上に現われる。毛皮は最高品で，19世紀の初めから毛皮用として乱獲され，絶滅しかけたが，近年アメリカで繁殖に成功したため絶滅を免れた。

チンチラうさぎ【チンチラ兎】 哺乳(ほにゅう)類・ウサギ科。カイウサギの一品種で，フランスで改良されたもの。毛色が南アメリカに産する山岳動物チンチラ*によく似ているところからこの名がある。体毛は2.5cm以上になり，毛皮用のウサギとしてよく知られている。➔ウサギ

ちんつうやく【鎮痛薬】 痛覚をおさえることによって，痛みを和らげるか取り除くかする薬。中枢性に作用する麻薬性鎮痛薬にはモルヒネ(天然物)やメザトン・ドランチン(合成薬)などがあり，いずれも中枢の広い範囲にわたって作用する。アミノピリンのような解熱鎮痛薬は，麻薬性のものより中枢における作用部位は少なく作用も弱いが，催眠薬を併用すると作用部位を補い合って作用が強まる。この両者の分子化合物がピラビタールである。解熱鎮痛薬のうちアスピリンは中枢作用のほかに，末梢(まっしょう)において発痛物質ブラデイキニンの作用をおさえて痛みを止める。体の表面から近い場合の痛みの部位では，局所麻酔薬(コカイン・プロカインなど)を直接用いたり，むし歯には，石炭酸でむし歯の局所麻酔をしてまわりの組織に壊死(えし)を起こさせて痛みを止めたりする。〔伊藤隆太〕

ちんでん【沈殿】 ①液体中にすでに存在していた浮遊固体微粒子が沈積すること，あるいは沈積したものをいう。②液体中での化学反応によって生じた不溶性物質，あるいは液体中にすでに溶存していた溶質がなんらかの原因(たとえば冷却)により溶解度を減じて析出したものが器底に沈積すること，あるいは沈積したものをいう。沈殿



チンチラ



チンパンジー　物覚えがよく，動物園の人気者

は，固体の細粒であることが多いが，ゲル状*になることもある。沈殿を母液から分離するには濾紙(ろし)あるいはガラスフィルターを用いて濾過するか，容器を傾斜して母液の大部分を流し出したのち適当な液体で洗浄する，などの方法が用いられる。化学実験，特に無機化合物の分析や合成にしばしば使われる操作である。〔志田正二〕

ちんどくしゅう【陳独秀】 チェンツーシウ (1880～1942) 中国現代の思想家。字(あざな)は仲甫(ちゅうほ)・安徽(あんき)省の人。清(しん)末の革命運動に参加，1915年，雑誌《新青年*》を創刊，1916年，蔡元培*(さいげんばい)のもとで北京(ペキン)大学文科科長に就任，胡適(こてき)・銭玄同・周作人らの協力を得て文学革命運動を推進，同誌と北京大学とを五・四運動の時期の思想・文化の中心とした。1919年，保守派に追われて辞任，1920年春，一時逮捕されて下獄，まもなく釈放されて，同年秋，李大釗*(りたいしょう)らとともに中国共産党*の結成に努力，1921年中国共産党の成立とともに初代の中央委員長となった。以後，中国共産党の最高指導者として党の全権を掌握したが，1927年国共分裂後は日和見(ひよりみ)主義者として排斥され，1929年トロツキー派として党から除名された。1931年逮捕・下獄し，日中戦争が勃発(ぼっぱつ)すると釈放されたが，まもなく病死した。著書に《独秀文存》がある。〔今村与志雄〕

ちんどんや【ちんどん屋】 街頭宣伝広告業の一種。以前はひろめ屋ともいい，ひとりで広告旗を持ち，拍子木を打って口上を述べた八人芸の系統を引くといえる。1885年(明治18)正月，東京京橋南伝馬町の高坂金次郎が，失業者100人に旗を持たせて街路を行進させたのがはじめといわれ，鳴り物入りの本格的なちんどん屋の出現は明治の末期になってからである。楽器は三味線(しゃみせん)・笛・鉦(かね)・太鼓などで，合奏音から自然に〈ちんどん屋〉とよばれるようになった。昭和にはクラリネットが加わり，道化た扮装(ふんそう)や身ぶりを入れた。現在はすたれる傾向にある。〔稲垣史生〕

チンパンジー［chimpanzee］ 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オランウータン科。類人猿の一種。西アフリカのシェラレオーネからカメルーン，タンザニア湖畔に至る森林にすみ，3亜種に分類される。体重40～60kg，全身黒毛におおわれる。ゴリラが保守的なのに比して適応性が高く，サバナ*にまで進出している。食物は果実が主であるが，サバナにすむものはマメ科やイネ科のかたい種子，ときにはカモシカや他のサルを食べる。夜は巣をつくって寝る。巣は木の枝を折って4～5分でつくる。40～60頭の集団をつくるが，ニホンザル*にみられるような集合した群れではなく，個体中心の複雑な社会関係で結ばれた高次の社会をつくっている。あいさつ行動が発達しており，握手・キス・抱き合いなどによってお互いの社会関係を調整している。食物を他に分けてやる行動もみられている。知能は高く道具を使うことができる。野生のチンパンジーでは，シロアリをつる行動が有名。7～8歳で青年期にはいり，40～50歳まで生きる。交尾期はない。〔河合雅雄〕

チンボラソ(山)［Chimborazo］ エクアドル中央部，アンデス山脈中にある高峰で，標高6,272m。首都キトの南南西約150kmにあり，赤道付近に位置するが山頂部は氷河におおわれている。1880年，イギリスの登山家エドワード-ウィンパーが初登頂した。五つの峰からなる火山で，18世紀までは，世界最高の山と考えられていた。

ちんまいこうほう【沈埋工法】 河川や湾・海峡を横断して地下鉄道や地下道路をつくる場合に用いるトンネル工法*の一種。トンネルとなる構造物は適当な長さに分割してドック内でつくられる。それは鋼製または鉄筋コンクリート製の管状で，両端は仮壁で密閉して順次沈埋すべき場所に船で曳航(えいこう)される。沈埋すべき場所はあらかじめ平らにならして基礎をつくってあり，その上に，管内に注水しながら沈埋設置する。沈めたあとは隣どうしの管を結合して管の二重壁内または管上にコンクリートを打ち，浮き上がりを防いだのち注水した水を除き，仮壁をとりこわして順次トンネルを完成していく。首都高速1号線の海老取(えびとり)川のトンネルおよび京葉線の多摩川河口の水底トンネルは沈埋工法で施工された例である。〔村上博智〕

つ

つ【津(市)】 三重県の中東部の市。人口14万3,000。古くは安濃津(あのつ)とよばれ，日本三津(さんしん)の一つに数えられる要港で，中世以後は参宮街道(伊勢(いせ)街道)と伊勢別街道・伊賀街道の交点にあたる宿場町であった。江戸時代には藤堂氏三十二万三千石の城下町で，〈伊勢もめん〉の産地としても知られ，〈伊勢は津でもつ〉と《伊勢音頭(おんど)》にうたわれた。明治以後は県庁が置かれ，1889年(明治22)市制施行。第2次世界大戦中，戦災によって市域の大半を焼失したが，戦後復興した。市域は，伊勢平野の中央部，伊勢湾に注ぐ安濃川・岩田川両川の河口付近の沖積地(ちゅうせきち)に位置し，西に第三紀層・洪積(こうせき)層の丘陵台地がある。中心市街は安濃川・岩田川にはさまれた地区で，県庁をはじめ，中央官庁の出先機関や国立・公立の三重大学などが集まり，公務員と学生の町の色彩が強い。大門町には，国道23号線が南北に縦貫し，沿道に近代的な商店街が立ち並ぶ。産業三大別人口比は7：31：62。繊維工業が発達し，〈おぼろタオル〉の特産があり，東洋紡績などの大工場があるが，最近日本鋼管の50万tドックをもつ造船所が建設された。紀勢本線，近畿(きんき)日本鉄道名古屋線が通じ，国道23号線・165号線が集まる。1954年(昭和29)市域に編入された北部の一身田(いしんでん)町は，真宗高田派総本山専修寺の寺内町に起源をもち，最近は住宅地区として発展し，その東方の白塚(しらつか)町は全国に販路をもつ白塚煮干の産地である。藤堂氏の山荘であった偕楽(かいらく)公園，病身の母親のため密漁して処刑された漁夫平治の哀話が残る阿漕浦(あこぎうら)などの名所史跡がある。 〔浅井得一〕



津　市 南側上空から見た津市。手前は岩田川，向こうは安濃川で，その間の地域が市の中心部。広い道路(国道23号線)の左の緑地は津城址

ツァー ⇨ツァーリ

ツァイス [Carl Zeiss] (1816～1888) ドイツの光学器械技術者。ワイマールに生まれ，機械工場などで働いた。1846年イエナに精密機械工場を設立し，大学専用の工場とした。その後しだいに光学器械に接近し，イエナ大学教授アッベ*と共同して数学的基礎の上に設計原理を確立し，主として顕微鏡の製作に尽力した。彼の死後1889年カール-ツァイス会社が設立され，1927年合併してツァイス-イコン会社となった。

ツァイダム(盆地) [Tsaidam] 柴達木。中国，青海省北西部にある盆地。北東部を祁連(きれん)，北西部をアルチン，南を崑崙(こんろん)の各山脈に囲まれる。東西800km，南北350km，標高約2,500m。盆地内の河川はすべて盆地外への排出路をもたず，年降水量も100mm前後で，北東部には砂漠(さばく)がある。地名はモンゴル語の塩湖の意で，いたるところに塩湖がある。かつては未開発で不毛の地であったが，中華人民共和国の成立後に石油などの有用資源が発見され，また青蔵公路など自動車道路の開発も進んでいる。 〔大石堪山〕

ツァウン [tsauń] ハープ系の弦鳴楽器。別名サウン-ガウ。共鳴胴と曲り柄との間に13～14本の弦が張ってある。インドネシアのペロッグ音階に近い調弦である。タイ音楽の影響を受けた声楽曲の伴奏楽器として使われる。いっしょに伴奏するのは鈴と拍子木である。紀元前インドにあったものが，仏教の伝来とともに伝えられたといわれるが明らかでない。いまではビルマにしかみられず，〈ビルマの竪琴(たてごと)〉として知られる。 〔山口　修〕

ツアモツ(諸島) [Tuamotu] ポーモツ諸島あるいはロー諸島ともいう。南太平洋ポリネシアのソシエテ諸島東方にあって約80のサンゴ礁からなり，ピトカーン島とジウシー島はイギリス領で，あとはフランス領になっている。総面積943km²。主都アパタキ。コプラ・真珠貝・リン鉱石を産する。1606年にスペイン人キロスが発見したが，1881年から大半の島々はフランス領となる。

ツァラ [Tristan Tzara] (1896～1963) ルーマニア生まれの詩人。ダダ*の創立者のひとり。伝統芸術の価値をすべて否定し，芸術上のアナーキズムにダダの名称を与えたグループを結成，その機関誌《ダダ》の主筆となった。主著に《ダダの七つの宣言》《近似的人間》などがある。

ツァラトゥストラかくかたりき【ツァラトゥストラかく語りき】 ニーチェ*の主著。1883～1885年。序説と4部からなり，ニーチェの後期の思想を叙事詩的に表現したものである。序説では〈超人〉，1部では〈神の死〉，2部では〈権力への意志〉，3部では〈永劫(えいごう)回帰〉について，主人公ツァラトゥストラの遍歴と体験と説教の形で述べられている。全体を通じての根本構想はニヒリズムの極限形式としての永劫回帰*の思想をばねとし，権力への意志によるニヒリズムの超克である。〈万人のための，そしてだれのためのものでもない〉と副題され，難解な書であるが当時の思想家・詩人に大きな影響を与えた。 〔豊福英利〕

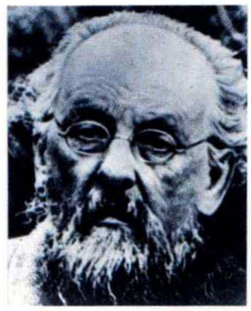
ツァーリ [Tsar] 〈帝王〉を意味するロシア語で，語源はラテン語のカエサル。歴史的にはロシアとブルガリアの専制君主の

正式な呼称。ロシアでは，15世紀末のイワン３世がはじめて用い，1547年イワン４世がこれを正式称号とした。1721年ピョートル１世によって〈インペラトル〉が正式な呼称とされたが，一般には二月革命まで〈ツァーリ〉が多く用いられた。ブルガリアでは19世紀末から君主が〈ツァーリ〉と称し，1946年の人民民主主義革命まで続いた。　〔山県弘志〕

ツァーリズム　［Tsarizm］　16世紀以後の帝政ロシアの専制的支配体制で，階級的には農奴所有者・地主・貴族による政治支配の形態である。農奴制・封建制・ギリシア正教会を基盤とし，強大な軍事力・警察力を有するツァーリズムのもとで，帝政ロシアは人民および帝国内の他民族を抑圧し対外侵略政策を遂行した。15世紀末にはじめて〈ツァーリ〉を自称したイワン３世，次のイワン４世はドゥボリャンストボに依拠して大貴族階級の勢力を抑制し，権力を中央に集中し，絶対主義を確立することとなった。17世紀中ごろまでは身分制議会が存在したが，同世紀末のアレクセイ皇帝以後はそれも廃止され，いわゆる絶対主義の段階にはいった。18世紀前半ピョートル１世の改革でツァーリ権力は強化され，18世紀末のエカテリナ２世から19世紀前半ニコライ１世まで，極端な専制・警察国家の体制と厳格な官僚統制を敷いて国内の革命運動・民族運動を弾圧し，東ヨーロッパその他の自由主義運動や革命運動を弾圧したため，〈ヨーロッパの憲兵〉とよばれた。その後，資本主義の発展によってロシアが直面した危機は1861年の農奴解放令，1906年の農業改革など〈上から〉の改革によって，乗り切ったが，西欧的なブルジョア王政への転換はきわめて緩慢，中途はんぱであり，1906年に設置されたドゥーマも実質的にはなんの権限ももたなかった。ツァーリズムは1917年の二月革命によって廃絶されたが，憲法制定議会・農業改革など一部のブルジョア民主主義的課題の解決は，十月革命まで持ち越された。　〔山県弘志〕

ツァルリーノ　［Gioseffo Zarlino］（1517～1590）　イタリアの作曲家・音楽理論家。ベネチアでウィラールトに学び，1565年から同地の聖マルコ教会の楽長をつとめた。作品の多くは失われたが，和声に関する著作は広く読まれ，のちに大きな影響を与えた。また，これらの著作で過去の対位法的な技法を整理するとともに，長三和音と短三和音を基礎とする和声の見方を提供したため，近代音楽理論の父とよばれる。

ツィオルコフスキー　［Konstantin Eduardovich Tsiolkovskii］（1857～1935）　ロシアのロケット研究者。少年のときつんぼになったが，学校教師をしながらはじめてロケットの問題を科学的に研究し，宇宙飛行の基礎理論を樹立して宇宙工学の先駆者となった。すでに1903年の論文でロケット燃料には固体より液体がすぐれていることを述べ，液体燃料エンジンを設計し，またロケットエンジンの推力を決定する式を導いて宇宙船の設計図を作製している。約20年の埋没ののちこの着想は発掘され，ソ連におけるロケット研究に強い刺激を与えた。1929年の論文では宇宙ロケットに多段式が不可欠であることも指摘している。　〔藤村　淳〕



ツィオルコフスキー

ついかよさん　【追加予算】　当初予算が決定されたのちに，経済情勢の変化や災害など予期できなかったさまざまな事情のため，経費を増加しなければならないことがある。こうした経費増加をまかなうために追加して作成される予算をいう。1962年(昭和37)の財政法改正で，この追加予算は修正予算とともに，補正予算とよばれるようになった。➔補正予算

ついかんばん　【椎間板】　椎間円板・椎間軟骨板ともいう。脊椎(せきつい)の椎体の間をつなぐ繊維軟骨。第２頸椎(けいつい)から仙骨底(せんこつてい)の間までに，通常成人で23個あり，円板のような形をして，その中心部に髄核という生ゴムのようなものがある。年齢とともに硬化するので，しだいに脊柱は曲がったままとなる。また病的に椎間板が脊椎のところでずれを生じると腰痛を起こす。➔椎間板ヘルニア

ついかんばんヘルニア　【椎間板ヘルニア】　椎間板が脊椎管腔(せきついかんこう)のほうに突出して神経症状を呈する疾患。俗に〈ぎっくり腰〉といわれる。好発部位は第４，第５腰椎間，次いで第５腰椎と仙椎(せんつい)の間，まれに頸椎(けいつい)下部にも起こる。重い物を持ち上げたり移動するとき起きやすい。安静が第一で，それでもなおらない場合は骨盤牽引(けんいん)療法を行ない，軟性コルセットを装置する。知覚鈍麻，アキレス腱(けん)反射の消失，患肢(かんし)の筋萎縮(いしゅく)などが残るときは手術的に髄核を摘出する場合もある。　〔山中英夫〕

ついく　【対句】　修辞法の一種。対偶法ともいう。詩や散文で構造や意味などの相対した二つもしくはそれ以上の語句を対称的に並べるもの。〈月に叢雲，花に風〉の類。内容を整え，リズム感を出す効果があるので，古来東西の文学に用いられたが，特に中国ではその方法が13種にも及び，日本でもその影響下に発達して，鎌倉時代の和漢混交文で流行の頂点に達した。

ついごう　【対合】　減数分裂の前期から中期にかけて相同染色体が接合し，二価染色体を形成する現象で，減数分裂の特徴をなすものである。➔減数分裂　➔細胞分裂

ついこつ　【椎骨】　脊椎(せきつい)を構成する骨。➔脊椎

ついしたぎ　【対下着】　袷(あわせ)・綿入れの長着の二枚重ねで，表着と同じ表布とすそ回しを使った下着。変わり下着に対していう語。江戸時代末期から昭和初期には，変わり色(現今の色留袖(いろとめそで))の江戸褄(えどづま)模様の二枚重ねは，対下着無垢(むく)であった。男物では大島紬(つむぎ)・薩摩絣(さつまがすり)などに多かったが，1945年(昭和20)以後は二枚重ねがすたれ，対下着もなくなった。通し下着(一種の表布)と胴抜き仕立て(表布が胴だけ別布のもの。変わりずそと回り無垢とがある)があり，比翼仕立てもある。現今の花嫁衣装の掛け下は，白無垢の対下着二枚重ねで，比翼仕立てが多い。　〔堀越すみ〕

ついしゅ　【堆朱】　彫漆法の一。中国では剔紅(てきこう)または雕紅漆(ちょうこうしつ)と称された。唐代に始まると伝えられるが，宋(そう)・元時代に最も発達し，優品を多く残している。器体に布着せを行ない，漆下地を数回施したのち，朱漆を幾重にも塗り重ねて層をつくり，彫刀で表面に文様を彫出する。したがって彫刻の肉厚や精粗に応じて朱漆の厚みに差がある。朱漆の代わりに黒漆・黄漆・緑漆を用いたものをそれぞれ剔黒(堆黒)・剔黄・剔緑という。紅花緑葉や屈輪彫(ぐりぼり)などの漆芸品も塗り重ねる色漆の数に差があるが，手法は同じである。堆朱を主調とする堆漆類は鎌倉時代から室町時代にかけて盛んに請来され，以後外面のみを似せた擬堆朱が各地で製作されるようになった。　〔河田　貞〕

ついしゅようぜい　【堆朱楊成】　室町期以降，代々堆朱を伝えた家系。一説に，足利(あしかが)家の臣で，わが国にはじめて堆朱を伝えたといい，楊成の号は中国堆朱の名工，張成・楊茂の１字ずつをとったともいう。子孫は代々襲名したが，８代からははじめて江戸に住んだ。初代長充は，将軍義満(よしみつ)のおりに堆朱・堆烏(ついう)(堆黒)の香合を朝廷に献じた。２代は1394～1444年ごろの人。３代長貞は将軍義政(よしまさ)に重用され，多くの茶器をつくった。江戸期の《蒔絵師(まきえし)伝》によれば，８代は平十郎といい，慶長年間(1596～1615)に在世し，盛んに製作を続けた。また堆朱家系譜には，10代長是(？～1719)は1683年(天和３)に幕府の用命を受けて以来，その子孫代々徳川家に仕えたとある。

ついぜん　【追善】　死者の冥福(めいふく)を祈って善根福徳を修し，その功徳をたむけること。本来は追薦と書き，追善は俗字。また追福ともいい，追善供養と熟して用い

る。四十九日(七七日)の法要を営み，月忌・年忌に法会を行なったり，仏像や堂宇をつくったりする。浄土宗では念仏を追善の方法とし，浄土真宗では年忌法要を報恩謝徳のためであるとして追善とはいわない。

ついたけ　【対丈】 ⇨着たけ

ついたて　【衝立】 おもに目隠しに用いる移動性間仕切り。木製・布製・スチール製・合成繊維製などがある。材質・構造の点からみて遮断(しゃだん)性・分離性は弱いが，視線の遮断には有効であり，居間のコーナーや玄関・ホールなどに利用して，室内装飾の役も兼ねる。起源は，単一空間であった平安時代の住居において，就寝・更衣の場所を他から分離したことにある。

ツィード　［tweed］ 紡毛織物の一。スコッチあるいはスコッチツィードともよばれる。本来はスコットランド地方で手紡ぎや手織りにしたあや織り(斜文織り)の野趣に富んだ服地であるが，現在はこれに模して工業的に各種の紡毛織物が生産されている。ややあらく織り上げ，わずかに縮充(フェルト)して剪毛(せんもう)し，組織がはっきりと見えるように仕上げる。毛製品のほかに化学繊維製品・混紡製品もある。背広・外套(がいとう)・ドレス・ズボン・スカート・スポーツ服などに広く使われる。〔小川安朗〕

ついな　【追儺】 疫鬼を追い払うための行事。〈鬼やらい〉ともいう。古く中国で行なわれ，わが国には陰陽道(おんみょうどう)の行事として取り入れられ，古代宮廷では毎年12月みそかの夜に，疫鬼を追い払って清め払う行事をした。〈延喜式〉(→延喜格式)には舎人(とねり)が勤める鬼を，黄金四目の仮面をつけ，玄衣朱裳を着，戈(ほこ)と楯(たて)を持った方相氏の合い図によって，群臣はモモの弓，アシの矢，モモのつえで鬼を追い払うとしるされている。宮廷で江戸時代初期にこの行事はすたれたが，諸社の神事として継承され，現在でも民間の節分行事と古式の追儺行事とが習合して行なわれている。〔渡辺欣雄〕

ついにん　【追認】 民法上，法律行為の欠点をのちに補充し，確定的に有効にする一方的意思表示のこと。取り消しうべき行為(民法122条)，無権代理行為(民法113条)，無効行為(民法119条)の三つの場合について認められている。取り消しうべき行為の追認とは，取り消すことのできる行為を取り消さないとすることであって，理論上は取り消し権の放棄である。これによって，取り消されるおそれのある不安定な法律効果を完全に有効なものとすることができる。追認をすることができる者は，無能力者，瑕疵(かし)ある意思表示をした者およびそれらの代理人または承継人である。追認の効果については，民法は法律行為のはじめにさかのぼって効力を生ずるが，それがため第三者の権利を害することはできないと規定しているが(民法122条)，これは正確さ


ツウィングリ

を欠いた無用な規定である。また，取り消し可能の行為については，一般に追認の必要が認められるような事由が生じたときには，取り消し権者の意思のいかんを問わず追認があったものとしている(民法125条)。これを法定追認という。たとえば，未成年の子のなした売買について，親権者が相手方に代金を請求したり，あるいは物の引き渡しをした場合などである。無権代理行為の追認とは，代理権のない者がなした行為について，新たに正当な代理行為としての効果を生じさせることである。追認は相手方または無権代理人のいずれに対してもなしうるが，この場合は，相手方も取り消し権を留保しているため，追認権者はその効果を相手方に主張することはできない(民法113条)。追認によって，無権代理行為ははじめから正当な代理行為であったと同様の効力を生ずるが，取り消しうべき行為の追認と異なり，もともと効力のない行為に効力を生じさせるものであるから，この場合の遡及(そきゅう)効は，第三者の権利を害することはできないと規定するのは正当である(民法116条)。無効行為の追認とは，無権代理の追認と同じく，無効な行為について新たに有効な行為としての効力を生じさせることである。民法は，無効な行為は追認によっても効力を生じないと規定しているが(民法119条)，それは，第三者との関係においては最初から当然に有効なものとすることができないという意味であり，当事者間では最初から有効である。もっとも，強行法規に反する行為や公序良俗に反する行為は最初から無効であり，追認しても有効とはならない。〔黒木三郎〕

ついひ　【追肥】 〈おいごえ〉ともいう。作物の生育途中に肥料を施用すること。永年生作物についてはこの語を用いず，施用時期を表わす語(夏肥・秋肥など)を用いる。追肥の要否は肥料成分の天然供給量や土壌(どじょう)に対する吸着・固定などの性質，作物の要求時期，作物体内における移動性の難易などで決まる。わが国の水稲では窒素-カリのみの追肥の必要性が大きく，リン酸は通常必要としない。しかし他の畑作物では必ずしもそうではない。また土壌を用いない砂耕や礫耕(れきこう)栽培の場合は，その時期の養分吸収量に応じ，培養液を調節するため，追肥とはいわない。→基肥〔早瀬達郎〕

ついぶし　【追捕使】 平安時代，盗賊や暴徒を逮捕または討伐するために置かれた職名。932年(承平２)に追捕海賊使が任命されたのが最初で，次いで承平・天慶(てんぎょう)の乱では平将門(まさかど)・藤原純友(すみとも)追討のため東海・東山・山陽・南海の諸道に追捕使が派遣された。はじめは臨時官であったが，その乱後常置されるようになった。畿内(きない)・近江(おうみ)(滋賀県)は勅宣で任じ，他の諸国は国司が推挙した在地豪族を太政官(だじょうかん)が任命した。平安末期には荘園(しょうえん)・神社にも置かれた。1185年(文治１)源頼朝(よりとも)は勅許を得て諸国に総追捕使を置いたが，これが守護である。〔高崎徳次〕

ツィンク　［zink］ 中世からバロック時代にかけて使われた管楽器。カップ形の歌口(マウスピース)をもつ点はトランペットなど，今日の金管楽器と同じであるが，木や角をくり抜いた管を用い，それに指穴をあける点は，木管楽器の構造に似ており，管の部分はまっすぐなものと，少し曲がったものがある。音色は柔らかで，弦楽器とも人声ともよくとけ合う。音域により大きさが違い，低音域のものには，Sの字形の管のものもある。〔徳丸吉彦〕

ツウィングリ　［Ulrich Zwingli］(1484～1531) スイスの宗教改革者。ビルトハウスに生まれ，バーゼル大学に学ぶ。エラスムスを知り，人文主義者と交わり，ギリシア語による聖書研究を経て聖書中心の思想に向かう。1519年チューリヒ大聖堂牧師となる。ペストにかかったが，快癒(かいゆ)したのを転機として改革への使命感を強め，傭兵(ようへい)制・免罪符・十分の一献金に反対を表明。1523年チューリヒ討論会を開き，《67か条》を書いて福音主義を宣言。チューリヒ市会をローマ教会から離脱せしめ，さらにベルン・バーゼルを含むスイス諸州のプロテスタント同盟を図る。1529年ルターとの調停を求めてマールブルクにおもむいたが，提携に失敗。カトリック５州の経済封鎖にあって，これと戦い，カッペルで戦死。その思想は，ルターに比してはるかに合理的・人文主義的であり，現実の政治・社会の改革については実践的であった。救いに対する神の予定説をその神学の中心としている点で，カルバンの先駆者たる意義をもつ。〔堀越知巳〕

つうか　【通貨】 商品の価値の尺度として機能し，商品交換手段・支払い手段として社会に流通するもの。法律上定められている貨幣を意味する。→貨幣　→為替(かわせ)平価

つうか　【通化】 トンホワ　中国吉林省南

部の都市。人口約17万。鴨緑江(おうりょっこう)支流の渾河(こんが)上流に位置し，北朝鮮との交通上の要地であり，梅輯(ばいしゅう)線(梅河口～輯安)に沿う。東北地方南部の鉱工業地帯と鉄道で連絡している。農産物を集散し，鉄・石炭を産し，鉄工業も行なわれる新興工業都市である。

つうかぎぞうざい 【通貨偽造罪】 行使の目的をもって，強制通用力のある貨幣・紙幣・銀行券を偽造または変造することによって成立する罪。刑は無期または3年以上の懲役(刑法148条以下)。未遂も罰せられる。偽造とは通貨発行権者(政府・日本銀行)でない者が真貨に模して通貨を製造することで，変造とは既存の通貨を加工してその価値を変更することである。外国通貨の偽造・行使，偽造通貨の収得，偽造通貨と知っての行使・交付，偽造通貨の予備の場合も罰せられる。〔井上公耳〕

つうかぎれい 【通過儀礼】 個人はその生涯(しょうがい)において出生・成年・結婚・厄年(やくどし)・死などの局面を迎え，その状態を無事通過するために種々の儀礼を行なうが，その儀礼のことをいう。フランスの民族学者バン-ジュネップが提唱した。それを行なう者は個人であっても，出生・結婚・死などは共同社会全体にわたっての関心事であるので，この儀礼は社会性を持ち合わせることになる。儀礼の手順をみると，多くは分離・過渡・統合の3段階を経ている。たとえば，成年式をみると，ある期間集団から隔離され，次の段階では新しい環境に順応するためのさまざまな教育・訓練などが施され，最後に新たな段階に加入する，というふうに。〔山路勝彦〕

つうかく 【痛覚】 ⇨痛み

つうかぼうえき 【通過貿易】 国際間を移動する物品が，その生産国・供給国から需要国・消費国に送られる途中で，第三国を通るとき，それを通過国からみた貿易形態。それは中継ぎ貿易*の結果としても起こるが，商取引と関係なく，単に地理的事情や交通関係からも起こる。物資が，ヨーロッパ以外の国から中央ヨーロッパにはいる場合，その多くはオランダを通過するのは後者の適例で，同国のロッテルダム港がユーロポートとよばれ，世界一の貿易港に発展したのもこの地理的環境による。東洋では，香港(ホンコン)が中国と中国外との通過貿易に大きな経済効果をあげている。〔上坂酉三〕

つうかん 【通関】 税関通過の略称。税関*が，国境を通過する輸出貨物や輸入貨物に，正規の手続きを経てそこを通過させること。現在どこの国でも国境を通る貨物には，法規どおりの通関手続きが強制され，これに，輸出手続きによる輸出通関と，輸入手続きによる輸入通関とがある。しかし輸入貨物に対しては，関税を賦課し徴収する必要があるため，特に輸入通関が厳重に取り締まられている。内国貨物は輸出通関を経た以後は外国貨物として取り扱われ，外国貨物は輸入通関を経た以後は内国貨物扱いとなる。それゆえ輸入手続きのすまないものは，輸入手続き未済貨物として，国内での自由処分は許されない。〔上坂酉三〕

つうきんしんかんせん 【通勤新幹線】 ⇨新幹線

つうげんそうまがき 【通言総籬】 山東京伝*自作自画の洒落本*(しゃれぼん)。1787年(天明7)刊。《江戸生艶気樺焼*(えどうまれうわきのかばやき)》の続編の形をとり，登場人物3人もそのままで，彼らが吉原(よしわら)の総籬(大店)の松田屋で遊ぶ情景を巧妙な会話の運びにのせて精緻(せいち)に描き，当時の風俗や言語を浮き彫りにした。洒落本の生命ともいえる通の理念を表現した江戸中期の代表的作品である。

つうこうぜい 【通行税】 汽車・電車・乗合自動車・汽船・航空機などの乗客に対して課される国税*。通行税の課税標準は，一定等級以上の汽車・電車・乗合自動車・汽船・航空機の旅客運賃および特別急行料金・急行料金・準急行料金・寝台料金で，その運賃または料金の10％が通行税として課される。しかし，通行税の徴収義務者はそれらの運輸業者であり，運輸業者は運賃または料金とともに税金相当額を徴収し，翌月末までにそれを納付することになっている。〔西野義彦〕

つうこんけん 【通婚圏】 配偶者を選択する範囲。特定範囲内での通婚を禁止する外婚と，ある範囲内での通婚を優先的に認める内婚とがある。オーストラリアのアランタ族のように半族の外婚規制をもつところや，インドのトダ族のように半族が内婚規制となっているところもある。通婚圏は元来族内婚・族外婚などの形で婚姻を規制する範囲であるが，イスラム教やユダヤ教などでは宗教による内婚的限定もあり，中国の同姓不婚もその一例とみられる。日本においては族外婚や同姓不婚の拘束はないが，かつては一般村民は村内婚を行なうべきとされ，有力な大百姓や豪族は村外婚を行なうのが普通とされる程度の拘束はあった。〔大岩　碩〕

つうし 【通志】 中国の歴史を，王朝中心に記述することを排し，通史的に著わした書。宋(そう)の鄭樵(ていしょう)が1161年に完成した。全200巻。事項別に歴史事象の展開をまとめた二十略は《通志略》として特に有名で，その史論は清(しん)の章学誠に影響を与えた。《通典*(つてん)》《文献通考*》とともに〈三通〉と称される。

つうじ 【通詞】 通事とも書く。江戸時代の長崎貿易の通訳兼商務官。オランダ通詞約20家と唐通詞約70家があり，代々世襲された。大通詞・小通詞・稽古(けいこ)通詞・内通詞などの階級がある。長崎の出島や唐人屋敷の会所で執務し外国貿易の通訳にあたった。江戸時代を通じて海外文化の紹介に貢献した者が多い。

つうしゅうじけん 【通州事件】

[1]中国，北京(ペキン)の東約25kmの河北省通州で起こった反日暴動。1935年通州に成立した冀東(きとう)防共政府に対して，1937年7月の日中戦争の直後，同月29日午前4時，同保安隊に属する約1,500名の中国人兵士が反乱を起こし，政府要人および日本人顧問を虐殺し，日本人・朝鮮人の居留民多数を殺害した事件。

[2]1860年に開かれた，イギリス・フランス連合軍と清(しん)国との通州和議会談の決裂によって連合軍から受けた総攻撃。

つうしょうかくだいほう 【通商拡大法】 1934年に制定された互恵通商協定法に代わって，1962年10月に制定されたアメリカの法律。EEC*の発展とそれに伴うアメリカの国際収支の悪化などの世界貿易構造の変化に対応し，さらに世界の貿易自由化をめざして，ケネディ*大統領が，1962年1月に法案を議会に提出した。本法により大統領は5か年間に関税率を50％引き下げる権限，EEC諸国・イギリス・アイルランド・デンマーク・ノルウェー・ギリシアとで，世界貿易額の80％以上を占める商品(自動車・航空機・石炭・鉄鋼など)については，関税を全廃する権限を得た。➔ケネディ-ラウンド〔広部和也〕

つうしょうこうかいじょうやく 【通商航海条約】 国家間の通商，その他の経済関係において，種々の条件を有利にするために結ぶ条約*の一種。貨物や船舶の来往などの通商・航海に関する事項のほか，当事国国民の入国，滞在，居住，営業，財産の取得などの事項，領事*の交換およびその職権と特権免除の事項まで広い範囲の事項について規定している。通商条約と略称されることもある。最恵国待遇*とか内国民待遇*といわれるものは，通商航海条約の中で規定される条件である。〔広部和也〕

つうじょうこっかい 【通常国会】 毎年定例として召集される国会*の会期をいう。国会の常会は毎年1回召集され(憲法52条)，毎年12月中に召集するのを例とする(国会法2条)。また，常会の会期は，明治憲法では3か月(旧憲法42条)，日本国憲法には明文の規定はなく，国会法で〈常会の会期は150日とする。ただし，会期中に議員の任期が満限に達する場合には，その満限の日をもって会期を終了するものとする〉(国会法10条)としている。なお，地方公共団体の議会では常会にあたるものは定例会とよばれる(地方自治法102条)。〔吉田善明〕

つうしょうさんぎょうしょう 【通商産業省】 商工業行政を扱う行政機関。略称通産省。通商産業大臣を長とする。おもな任務は通商の振興調整，外国為替(かわせ)の管理，鉱工業生産の増進，電気ガス事業の管理運営，中小企業の振興・指導などである。内

部部局として大臣官房のほか，通商・貿易振興・企業・重工業・化学工業・繊維雑貨・鉱山・石炭・鉱山保安・公益事業の10局，外局として特許庁*と中小企業庁*，付属機関として工業技術院・臨時石炭対策本部・工業品検査所などがあり，地方支分部局として通商産業局(札幌(さっぽろ)・仙台(せんだい)・東京・名古屋・大阪・広島・高松・福岡)をはじめ札幌と福岡に鉱山保安監督局，全国6か所に鉱山保安監督部がある。〔寺尾方孝〕

つうしんえいせい【通信衛星】 電信・電話・テレビを中継する人工衛星。地上で超短波を遠地に送るには多くの中継所が必要であるが，人工衛星で中継すればそれから見通せる地球表面内は1個で足りる。通信衛星には電波を反射するだけの受動中継衛星と電波を増幅強化して送り返す能動中継衛星とあるが，普通は後者が用いられる。赤道上空の一点に固定している静止衛星で中継すれば，その直下点を中心にした地球全面の約3分の1の地域内は常時通信ができ，120°の間隔で静止衛星を3個配置すれば両極に近い地域のほかは全世界で通信が可能になり，ラジオ・テレビの放送も同時に聴視することができる。アメリカは1958年，大陸間弾道弾アトラスにテープレコーダーを積んで人工衛星スコアを打ち上げ，録音されたアイゼンハワー大統領のメッセージを送り返す実験を行なった。スコアは最初の通信衛星とみることもできるが，正式のものは1960年にアメリカが打ち上げた気球衛星エコー1号(受動)とクーリエ1B(能動)である。これらは電話だけを中継したが，アメリカは1962年の夏にテレビを中継するテルスター1号を，同年の暮にはそれより軌道が高く中継範囲の広いリレー1号を，1963年には不完全な静止衛星シンコム2号を，1964年には完全なシンコム3号を打ち上げた。

短波や海底電線による大洋を隔てての電話は，近年通信量が激増して回線が不足していたが，静止衛星の出現によって著しく緩和された。静止衛星の寿命は約3年で海底電線の7分の1であるが，打ち上げる費用は10分の1であり回線数は新型のインテルサット3号では海底電線の3倍に近いから，結局経済的である。通信衛星を使い商業ベースで国際的な宇宙通信をしようというのがインテルサットで，大西洋上・太平洋上・インド洋上などに，インテルサット所属の静止衛星が打ち上げられている。〔原田三夫〕

つうしんえいせいきょうてい【通信衛星協定】 インテルサット*の暫定的制度に関する協定。正式名称を〈世界商業通信衛星組織に関する暫定的制度を設立する協定〉という。アメリカの唱道で，1964年(昭和39)日本を含む11か国が締結した。アメリカが前年に設立した通信衛星会社は，この協定によってインテルサットの管理者となった。

つうしんえいせいこうしゃ【通信衛星公社】 アメリカの通信衛星協定に基づき設立された公社。略称コムサット。私企業であるが政府の規制・監督を受け，商業衛星通信を業務とする。

つうしんきかいせいぞうぎょう【通信機械製造業】 電気機械工業の一分野で，通信機器を製造する工業。通信機械製造業は，有線通信機械製造業と無線通信機械製造業に分かれる。有線通信機械製造業は，電話機・交換機・モールス電信装置・印刷電信装置・写真電送装置などを製造する。無線通信機械製造業は，ラジオ放送機・ラジオ受信機・テレビ受像機・超短波無線機・マイクロウエーブ通信機などを製造する。両者とも，大規模な電気機械メーカーで製造されることが多いが，それら大企業の下請けや，独自の技術を生かした小量の注文生産を行なう中小企業なども数多く存在する。この業界は，政府の通信行政や日本電信電話公社のあり方によって，市場需要が大きく左右されるという問題点をもっている。しかし，知識・情報産業が急速に発展していくためには，通信機械の発達は必須(ひっす)の条件であり，CATV(共同アンテナ-テレビ)・電話機によるデーター通信の普及，テレビ電話機の実用化などをはじめとして，通信機械製造業の市場は今後ますます成長していくであろう。〔原　豊〕

つうしんきょういく【通信教育】 学校教育を直接に受けられない人々に対して，郵便・ラジオ・テレビなどの通信手段を利用して行なう教育活動およびその組織。現在，通信教育を行なっている領域は，①学校教育法に基づくものに，大学の通信教育部，高等学校の通信制課程があり，②社会教育法によるものに，職業再教育，趣味・教養のための講座などがある。また，③職員研修のためには，省庁・公社・民間企業が職員・従業員の研修手段として行なうものがあって，最近は盛んに行なわれる。また，すでにその機能を失っているが，かつて重要な役割を果たしたものに，④教育職員免許法に基づいて，教員の再教育のために日本教育大学協会通信教材部・国立大学通信教育部が行なった通信教育がある。

教育の方法は，テキスト・学習指導書および参考資料など，郵送された教材による受講者の独習を出発点とし，次いで学習課題についての報告(レポート)の提出と添削指導，学習内容に対する質疑応答が，通信教育担当教員と受講生との間で通信手段を媒介として行なわれる。特に，資格取得が可能な課程の場合には，これらの間接的な指導と並行して，一定期間のスクーリングを課するのが普通である。これは，指導教員が受講生を直接指導するもので，通信教育課程をおいている学校の施設を用いて実施される。

この通信教育制度は，ソビエト・中国・カナダ・オーストラリアなど，国土が広大で，学校特に各種の高等教育機関を全国に平均して設置できない国々では，重要な教育手段となっている。〔山崎昌甫〕

つうしんじぎょう【通信事業】 意思や情報の伝達を目的とする事業で，郵便・電信・電話の3事業をいう。これらの事業は巨大な組織や設備を必要とするので本質的に独占化傾向をもっているとともに，その提供するサービスが社会公衆にとって不可欠なものであるところから，政府がみずから事業を行なうか，公企業ないしそれに準ずるものとして料金の決定，サービス実施計画，サービス基準の設定などについて政府の統制の下に置かれることが多い。わが国では，郵便事業は郵政省によって行なわれている。サービス向上と経営の効率化を促進するために，郵便事業の公社化案が提示されているが，まだ実現の運びに至っていない。また，国内の電信・電話事業は，日本国有鉄道・日本専売公社と並んで三公社の一つである日本電信電話公社*(略称，電電公社)の手によって独占的に経営されている。電電公社は，電話サービス・電報・アレックス(加入電信)・データー通信などの電信サービスを，直営の電報局・電話局と郵便局への業務委託を通じて販売している。設立は，1952年(昭和27)8月1日である。国際的な通信事業は，営利会社である国際電信電話*(株)によって行なわれており，インテルサット*(通信衛星)を用いて世界各国と通信網を形成している。経済が発展するにつれて，知識・情報産業の比重は急速に増大していく。通信事業は，この知識・情報の生産，流通にとって不可欠のものであるから，今後の日本経済に占める通信事業の役割は増大の一途をたどることになろう。➔通信〔原　豊〕

つうしんしゃ【通信社】 みずから取材したニュースを共通の記事として，新聞社・放送局などに提供する機構。19世紀の中ごろ情報収集の共同機関として創設されたのがはじまり。AP*・UPI*(以上アメリカ)・ロイター*(イギリス)・AFP*(フランス)・タス*(ソ連)・共同通信社*(日本)などが著名。

つうしんのひみつ【通信の秘密】 信書の秘密ともいう。通信の秘密を侵されない自由のこと。人間の内心の自由が尊重されることが社会生活において最も基本的で重要だとすれば，その表現としての信書ないし通信の秘密は当然に守られねばならない。したがって，それは近代各国の憲法で保障される伝統的な自由の一つとされ，政治的には，思想の自由と深く関連する。日本国憲法では〈通信の秘密はこれを侵してはならない〉(21条2項)と規定しており，刑法においても信書開披(かいひ)罪*が規定されている。〔永井憲一〕

つうしんはんばい【通信販売】 取扱商品のカタログ・価格表などを消費者に郵送

したり，また，新聞・テレビ・雑誌などによって，広く消費者に広告したりして，その注文を受け，商品を郵送販売する販売方式をいう。通信販売の取扱商品は，おもに買い回り品・専門品であり，その顧客は都市から隔たった地域に生活する人々によって占められている。アメリカのように，広大な国土を有し，しかも，農村と都市の隔離の大きな国においては，通信販売の発達を期待できたが，わが国では，そのような諸条件を満たしていないため，あまり期待できないと考えられている。〔清水　晶〕

つうそうていおん【通奏低音】 主としてバロック時代にハープシコード(チェンバロ)やオルガンのパートで,低音だけを表示したもの。奏されるべき和音を指示するために数字のつけられたものを，特に数字つき低音とよぶことがある。初期の簡単な和声進行だけのものから，対位法的な動きを含んだ後期のものまで，時代的にかなりの違いがある。この技法はルネサンスのモテットにはじまるといわれるが，与えられた低音や数字の指示によりつつも，ある程度，演奏者の自由な解釈にゆだねられていた。演奏の伝統が失われてしまったため，現代ではアガッツァリやテレマンの理論書や残された楽譜などを手がかりに再現しなければならない。この時代の音楽を演奏する上で，装飾音と並んで最も大きな課題である。〔吉田泰輔〕

つうたつ【通達】 ある意思または事項を相手方に知らせる行為。公法上の事項に関して用いられることが多い。国家行政組織法でこの語が用いられているが，第2次世界大戦前は達・達示ともいわれた。訓令・告示とともに行政規則の一形式で，一般に訓令に関する細目事項や法令の解釈・運用に関する示達事項など，法律で規定できない細かい事項を内容とする。行政が複雑化している今日，通達の占める比重は大きい。

つうちよきん【通知預金】 商店や会社などが一時的に余裕のできた資金を預け入れる預金。7日間のすえ置き期間が定められ，引き出しのためにはその2日まえに金融機関に予告しなければならない。銀行間の申し合わせにより，最低預入額は50,000円，付利単位は10,000円と定められている。利率は年利1.25％(1978年4月現在)。

つうてん【痛点】 ⇨痛み

つうふう【痛風】 プリン体の代謝異常のため血液中の尿酸が増加し，このため関節やその周囲に尿酸が蓄積して関節の変形や結節を生じる病気。30～40歳代の男性に多くみられ，肉食家・飲酒家に多く，日本ではまれであるといわれていたが近年増加の傾向にある。夜半，足の親指の関節に発作性の激痛，発熱を生じ，赤くはれあがるのが特徴的な症状で，これを痛風発作という。このような痛風発作をくり返すうちに，しだいに多くの関節も侵されて慢性型となる。さらに痛風腎(つうふうじん)といわれる腎臓障害を起こして尿毒症に至ることもあり，また心臓血管系が障害されることもある。治療としては肉類・豆類・きのこなどプリン体の豊富な食物を制限して飲酒を禁じ，尿酸排泄(はいせつ)剤・尿酸合成抑制剤・消炎剤などが用いられる。〔安沢龍徳〕

つうぶん【通分】 分母が異なる二つ以上の分数があるとき，各分数の大きさを変えないで，同じ分母の分数になおすこと。たとえば，$\frac{3}{4}$と$\frac{5}{6}$を通分すると，次のようになる。

$$\frac{3}{4}=\frac{3\times3}{4\times3}=\frac{9}{12},\quad \frac{5}{6}=\frac{5\times2}{6\times2}=\frac{10}{12}$$

通分するには，分母の最小公倍数を共通の分母(公分母ともいう)にする。通分は，二つ以上の分数の大小比較や加法・減法などのとき必要になる。分母の異なる分数式の場合にも，上とまったく同様に通分が考えられる。〔杉岡司馬〕

つえ【杖】 もと行旅具の一つとして用いられた補助用具。じょうぶな木や竹を適宜な長さに切り，病弱者・老人・盲人などが歩行の助けとしたのが本来の用途である。つえの歴史は人類のそれとともに古いことが各種の口碑伝説によって知られる。また，古代においてつえが呪力(じゅりょく)をもつものとされていたことは，西洋のおとぎ話の魔女のつえ,日本古代の英雄・高僧のつえ突き伝説などによってうかがわれる。さらに，山伏の金剛づえ，僧の錫杖(しゃくじょう)，神官の白杖，かごかきの息づえ，武士の鉄杖などのように，つえが武器ないし職業上の身分を示すものとして用いられたこともあり，杖罪の罪人を打つ刑具として用いられたこともある。近世以降，つえはしだいに実用を離れて装身具の一種となった。特に1887年(明治20)以後，洋風のステッキが日本に流行するに及んでその傾向を強め，スネークウッド・籐(とう)・根竹などの材に象牙(ぞうげ)，スイギュウの角，貴金属の柄をすげて，軽快優美なものとなった。今日，実用としてなお用いられているのは，白塗りの盲人用安全づえで，これは世界各国に共通するものである。

つえたておんせん【杖立温泉】 熊本県小国町の北部，大分県との境近くにあり，阿蘇(あそ)火山の外輪山の北斜面から発する筑後(ちくご)川支流の杖立川の両岸に，約30軒の温泉旅館が並ぶ。弱食塩泉で，泉温98℃。リウマチ・神経痛・切り傷などにきくといわれる。熊本駅からバスの便があり，北九州・中九州からの客が多い。杖立の名は弘法大師(こうぼうだいし)が，竹のつえを立てたところ根がついて茂ったという伝説による。

ツェツェばえ【ツェツェ蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・イエバエ科。熱帯アフリカ地方で人畜の睡眠病を媒介する吸血性のハエで,約20種類が知られる。罹患(りかん)している動物を吸血する際に，保菌動物中のトリパノソーマという鞭毛虫(べんもうちゅう)をいっしょに吸い込み，体内で繁殖させ，次に吸血する人畜の血液中に移し込ませて伝染させる。水辺の藪(やぶ)や森林中に生活する。胎生で，雌成虫は吸血後，老熟した幼虫を産下し，これが直ちに湿った陽のあたらない土中に潜入してさなぎとなる。

ツェッペリン［Graf Ferdinand von Zeppelin］(1838～1917) ドイツの飛行船創始者。バーデン州コンスタンツに生まれ，チュービンゲン大学卒業後陸軍に入隊。陸軍軍人としてヨーロッパ各国やアメリカを旅行し，1863年南北戦争にも参加，この間軍用気球の浮揚を試みた。1891年退役して硬式飛行船の製造に没頭，1900年最初のツェッペリン飛行船の浮揚に成功した。ツェッペリン飛行船は第1次世界大戦に使用され，その後もしばらく建造されたが，1940年以降飛行機の高速化につれて衰微した。

ツェルマット［Zermatt］ スイス南西部，シオンの南東38kmにある山村。海抜1,600mの谷にあり，観光・保養地として知られる。南西にマッターホーン，南東にモンテローザの偉容を望むことができ，アルピニストの登山基地となっている。ホテルや山岳博物館，登山家の墓地などがある。

ツォンカパ［Tsoṅ-kha-pa］(1357～1419) チベット仏教ゲールクパ派(→黄教)の開祖。ココノール地方ツォンカ村(青海省西寧県)の生まれ。7歳のとき出家し，僧名はロサンタクパ。17歳のとき中央チベットに出て，諸学堂に顕密二教を学んだ。アティーシャ教学の伝統を継承し，顕教学修を第一義とし，その基礎に立って密教の履修を説き，厳格な戒律の実践を主張した。36歳のころ従来の紅帽派に対立して一派を樹立した。1409年にガンデン寺を建立(こんりゅう)し僧団の根本道場とした。ゲールクパ派(徳行派の意)とは，この僧団の清潔な宗風を示すとともに，ガンデン寺派が転訛(てんか)して生じた名称である。彼の著作は160部に及ぶが,《菩提道(ぼだいどう)次第論》と《秘密道次第論》が主著である。没後,彼の二大弟子(でし)ゲーツァブとケートゥブが順次ガンデン寺座主職を踏襲し,彼らからダライ-ラマとパンチェン-ラマの二大活仏系譜が生まれ，17世紀後半以降チベットの主権を掌握した。〔金子良太〕

つか【塚】 人工的に土や石を盛ってつくったもの。天然の岩石をさす場合もある。貝塚をはじめ，種類は多様で，王塚・車塚・ひさご塚などの墳墓としての塚，狐塚(きつねづか)・八幡塚(はちまんづか)・庚申塚(こうしんづか)などの祭壇としての塚，里程や境界を標示するための一里塚・境塚，経文を埋めた経塚，子どもを葬った児塚(こづか)・稚児塚などは代表的である。多くは伝説を伴い，中でも将軍や小野小町を埋めたという将軍塚・小町塚,それだけの人数を埋めたという七人塚・

十三塚・千人塚など類例が多い。

つが　【栂】　裸子植物・マツ科。山地性の常緑高木で，高さ30m，太さ１mに達する。樹皮は赤かっ色で，縦に割れ目ができ，はげ落ちる。枝は無毛で葉を密につける。葉は長さ８～20㎜，幅２～３㎜で，葉の先が少しへこむ。葉の裏に白色の気孔線が２本ある。雌雄同株で，雌花も雄花も小枝の先につく。コメツガ*に似るが球果は下を向く。材は建材・パルプに用いられる。

つがざくら　【栂桜】　双子葉植物・ツツジ科。本州中部の高山に自生する常緑小低木。高さ15㎝前後で枝を多数出し，小形で線形の葉を密に互生する。この姿が針葉樹のツガ*に似るのでこの名がある。６～７月，枝先から長い花柄を出し，淡紅色または白色の小さな鐘形花をつける。近縁種にエゾノツガザクラ・アオノツガザクラがある。

つかつくり　【塚造】　鳥類・ツカツクリ科の鳥の総称。北はフィリピンから南はオーストラリア，西はニコバール諸島から東はサモア諸島にかけての熱帯の島々に10種が分布する。この科はキジ目に属し，体はキジバト大から大形のニワトリぐらいまでで，脚は特に太くがっちりしている。多くは深い森林に生息するが，開けた灌木林(かんぼくりん)にすむものもあり，いずれも地上で生活している。親鳥は産んだ卵をまったく抱卵しないという爬虫(はちゅう)類のような特殊な習性をもつ。ある種では，簡単なくぼみを掘って産卵し，日光にさらしたまま孵化(ふか)は自然に任せる。また，ユーカリツカツクリは，雄が植物質と土砂を集めて大きな塚をつくり，数羽の雌がその塚の内に産卵する。卵数は５～35卵と変異が大きい。植物質の発酵熱と太陽の熱によって卵は暖められる。雄は毎日くちばしを塚に差し込んで温度をはかり，適温になるように土砂を除いたり積み重ねたりする。８～９週後に孵化し，ひなは自力で塚からはい出してきて，その日のうちに森陰に移動し，まったく親鳥の世話を受けずに独立生活を始めるという特殊な習性をもっている。
〔浦本昌紀・安部直哉〕

つかはらぼくでん　【塚原卜伝】　室町時代後期の剣客。名は高幹(たかもと)，土佐守(とさのかみ)と称す。常陸(ひたち)(茨城県)塚原に生まれ，飯篠(いいざさ)長威斎*について天真正伝神道流の剣を学び，また上泉伊勢守*(かみいずみいせのかみ)に師事して刀槍(とうそう)の奥義をきわめた。一流を立てて卜伝流という。武者修行のため諸国を遍歴中，京都で足利義輝(あしかがよしてる)に謁見，刀槍の術を教えた。そのころから剣名高く，多くの大名や武将が弟子(でし)入りした。中でも伊勢(三重県)の国司北畠具教(きたばたけとものり)が傑出していたので，これに秘術〈一の太刀〉を伝授した。遍歴の道中には門弟80人ほども引き連れ，腕に大タカをすえイヌを引き，大名並みの堂々たる行列を組んで進んだという。のち下総(しもふさ)(千葉県)香取で門弟に教えたが，80余歳でその地に死んだ。　〔稲垣史生〕



ツガザクラ　アオノツガザクラ

つがる　【津軽】　青森県の西半分をいい，現在の青森・弘前(ひろさき)・黒石・五所川原の４市と，東・西・南・北・中の津軽５郡の地域をさし，江戸時代には弘前に城を構えた津軽氏十万石の領地であった。東半分の南部*とは住民の気質も違う。米とリンゴを主としてつくり，この点でも畑作の南部とは異なる。

つがるかいきょう　【津軽海峡】　北海道と本州との間にあり，両者を連絡する交通路，ならびに日本列島北域において日本海と太平洋とを結ぶ交通路として重要な海峡。東西の長さ130㎞，西部は津軽半島北端龍飛崎(たっぴざき)と，渡島(おしま)半島南西の支半島である松前半島の南端白神岬(みさき)との間の20㎞，東部は下北半島北端大間崎と渡島半島南東の支半島である恵山(えさん)(亀田(かめだ))半島南端の汐首(しおくび)岬との間の18㎞が，それぞれ最狭幅部である。中央部には北海道側に松前・恵山両半島に囲まれた開湾と，その奥に函館(はこだて)湾，本州青森側に平館(たいらだて)海峡とそれから通ずる陸奥(むつ)湾がある。水深は中央部が200ｍ前後で，この程度の深さの所がほぼ東西に連なり，その中央に最深449ｍ，東西両側にも同程度の深さの地点がある。龍飛崎・白神岬の線には水深131ｍの海澎(かいほう)があり，海底トンネルの掘削地となっている。対馬(つしま)暖流が日本海から太平洋へ流速２～４ノットで流れ，下北半島北東端の尻屋崎(しりやざき)東方で千島寒流(親潮)と会合し，夏には濃霧ややませ(偏東風)が生じ，冬には北西季節風が荒れて，船舶の運航をしばしば妨げる。
〔山口恵一郎〕

つがるじょんがらぶし　【津軽じょんがら節】　青森県津軽地方の民謡。津軽くどきともいう。歌詞は最初七七三調であったが，しだいに口説(くどき)ふうの長いものに変わったといわれる。旋律も幕末から現在まで旧節・中節・新節とよばれる３段階の変化過程がある。《八木節*》と同系統である。

つがるせん　【津軽線】　青森と津軽半島北端の三廐(みんまや)を結ぶ国鉄路線で営業キロ数55.8。1951年(昭和26)に青森から蟹田(かにた)まで，1958年に三廐まで開通した。津軽半島東海岸を走る鉄道で，青函(せいかん)トンネル*完成の暁には，本州と北海道を結ぶ幹線となることが予測される。

つがるぬり　【津軽塗】　青森県弘前(ひろさき)市を主産地とする漆器。津軽半島に多いヒバ(ヒノキアスナロ)を素材とし，まず堅牢(けんろう)な漆下地をつくり，仕掛けと称する中塗研(と)ぎの面に，色漆に卵白を混合した紋漆で斑文(はんもん)をつけ，その上に色漆を塗り重ねてかわかしたあと，津軽砥(と)で荒研ぎし，最後に炭で研ぎ上げたもの。種々の色漆でおりなされた斑文が独特の味であり，津軽の馬鹿(ばか)塗りといわれるほどその塗りは堅牢である。寛文年間(1661～1672)，津軽藩にかかえられた漆工池田源兵衛(げんべえ)の創案になるものと伝えられる。

つがるはん　【津軽藩】　江戸時代に陸奥(むつ)(青森県)津軽地方を領有した藩。弘前(ひろさき)藩ともいう。藩主津軽氏*。外様(とざま)大名*。もと南部氏に従属していた大浦為信(ためのぶ)は，大浦城によって南部氏の衰えに乗じて津軽地方を征服し，天正(1573～1591)のころにこれを統一した。次いで豊臣秀吉(とよとみひでよし)の小田原征伐に参陣して，その功によって征服地を本領として安堵(あんど)され，以後津軽氏を称した。関ケ原の役には徳川氏に属して四万七千石となり，1656年(明暦２)黒石に支藩を分け，寧親(やすちか)のとき蝦夷*(えぞ)の地に出兵警固にあたり，その功によって七万石となり，さらに十万石に加増され廃藩置県*に至った。為信の子信枚(のぶひら)のとき高岡の地に弘前城*を築いた。信寧の代には勘定奉行(ぶぎょう)乳井貢(みつぎ)により藩政改革が行なわれ，幕末，承昭(つぐあきら)は初め奥羽越列藩同盟*に加わったが，やがて脱退して勤王党となり，王政復活の業に力を尽くした。廃藩置県で弘前県となり，のち青森県となった。　〔岡山泰四〕

つがるはんとう　【津軽半島】　青森県の北西部に突出する半島。北は津軽海峡*を隔てて北海道に，東は陸奥(むつ)湾と平館(たいらだて)海峡を隔てて下北半島と相対し，西は日本海に面する。北部から南部にかけて，おもに第三紀の砂岩・凝灰岩・ケツ岩からなる津軽山地が走り，半島の脊梁(せきりょう)をなしている。北部と東部はこの山地が海に迫って岩石海岸を形成し，北端の龍飛崎(たっぴざき)付近は高さ100ｍにも及ぶ海食崖(かいしょくがい)をなしている。西部は龍飛岬から小泊岬(みさき)までは山地が海に臨んで断層海岸をなすが，その南には十三湖があり，岩木川のつくる津軽平野*の北半が開ける。平野の西方には屏風(びょうぶ)山砂丘が連なり，海岸線は七里長浜とよばれている。半島は津軽平野のほかは平地に乏しく，山地にはヒバの美林があり，林業が盛んである。半島北岸の三廐(みんまや)湾付近はコンブ・アワビなどの漁場で，いま，津軽線*(青森～三廐)の北端の龍飛崎からは北海道を結ぶ青函(せいかん)トンネル*が建設中である。〔味沢成吉〕

つがるへいや【津軽平野】青森県西部にある沖積(ちゅうせき)平野。北から東へかけては津軽山地や奥羽山脈の山々に，南から西にかけては岩木山やこれに続く山々に囲まれ，西は日本海に面する。東西約40km，南北約60km，面積約1,000km^2を占める。岩木川が支流の浅瀬石川・平川を集めて南から北へ貫流し，潟湖(せきこ)の十三湖を経て，日本海へ注ぐ。南部は扇状地性の砂質土壌(どじょう)で，水田とリンゴ畑が開ける。北部は低湿な泥土(でいど)質の土壌で，江戸時代から干拓が進められ，排水路がよく整備された水田単作地帯となっている。日本海沿岸には北の十三湖から南の鰺ケ沢(あじがさわ)へかけて直線状に伸びる七里長浜があり，海岸沿いに幅3～5kmの屏風(びょうぶ)山砂丘が形成されている。砂丘は30～50mの高さで波状に連なるが，最高所は75mにも及び，強い季節風の影響を受けて，海岸線に対して直角に発達した縦列砂丘もみられる。砂丘には藩政時代から防風・防砂のためにマツの植林が行なわれ，津軽平野の開田に大きな役割を果たしてきた。北の小泊岬(みさき)(権現崎)から十三湖・七里長浜へかけての地域は〈屏風山権現崎県立公園〉に指定されている。県下最大の穀倉地帯，また，青森リンゴの主産地として知られ，中心都市には，南部に弘前(ひろさき)市，ほぼ中央部に五所川原(ごしょがわら)市がある。奥羽本線・国道7号線が平野南部を走り，五能線が奥羽本線川部駅から平野中心部を貫通し，五所川原からは津軽鉄道がさらに北へ延びている。〔味沢成吉〕

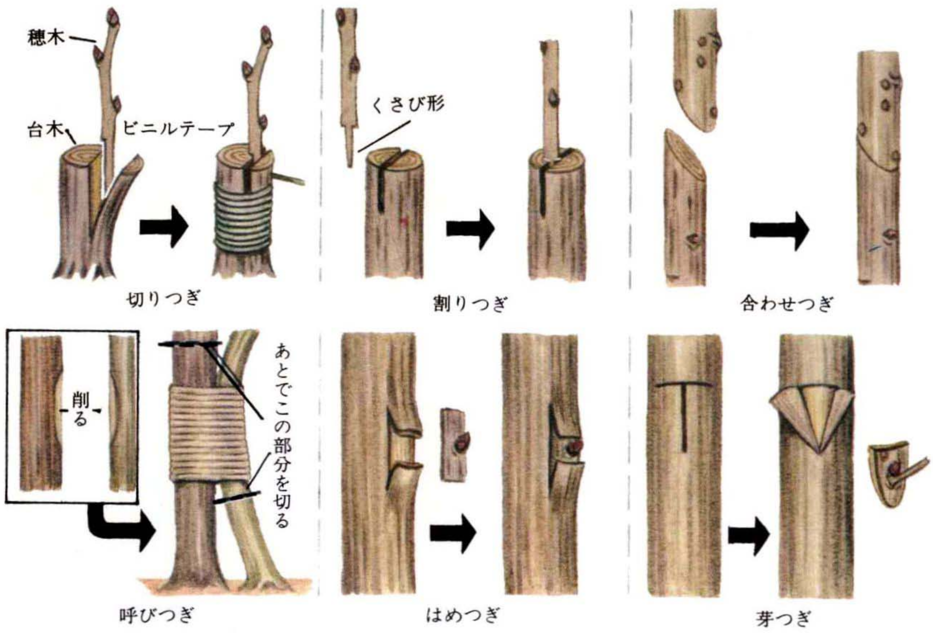
つがるやまうた【津軽山唄】青森県津軽地方の民謡。東通りと西通りの2種類があり，おもに西通りの節が歌われる。元来は山仕事をするときの歌であったが，現在では座敷唄となっている。昔は南部地方でも歌われたらしい。尺八伴奏がつき，メリスマ*が多く使われていて，自由リズムのこともある。

つかれしけん【疲れ試験】⇨材料試験

つき【月】⇨457ページ

つきがせ【月ケ瀬】奈良県北東端，木津川の支流名張(なばり)川が大和(やまと)高原につくる五月(さつき)川峡谷付近の地域で，添上(そえかみ)郡月ケ瀬村に属する。鎌倉時代以降，ウメを植林して，その実から烏梅(うばい)という京紅の染料をとるようになり，桃香野から尾山まで東西4kmにわたって一時は数万本のウメを数え，その景観は江戸末期に斎藤拙堂・頼山陽らによって世に広められた。現在6,000本余の古木があり，3月中・下旬の開花期には，10万人もの観光客が集まる。最近下流の京都府下に高山ダムが築かれ，一部は水没した。南方を国道25号線(名阪国道)が通じ，関西本線月ケ瀬口駅や奈良市からバスの便がある。〔浅井得一〕

つぎき【接木】植物体の一部を別の植物体に接着させ新しい個体をつくる繁殖法。



つ ぎ 木

つけるほうを穂木または接ぎ穂，台となるほうを台木という。さし木や株分けの困難な植物に多く行なわれる。**〈つぎ木の種類と方法〉** つぎ木をする部分によって枝つぎ・芽つぎ・根つぎに分け，台木を掘り起こすか否かによって揚げつぎ・居つぎに分ける。またつぐ方法によって切りつぎ・割りつぎ・合わせつぎ・呼びつぎ・はめつぎなどに分ける。①切りつぎ：台木の地上部を適宜の長さに切りつめ，つごうと思う側面の上部を斜めに軽く削り，そこから下方に2～3cm切り下げる。穂木は2～3芽で切り，台木に接着させようと思う側面の裏側下端を斜めに切り，次に表を3.5cmばかり，軽く削る。穂木を台木の切り口に挿入(そうにゅう)して両者の形成層を合わせ，ビニルテープなどで縛る。②割りつぎ：台木をまん中から割って，くさび形に削った穂木をこれに挿入する。③合わせつぎ：穂木と台木の太さが同じものを選び，両者を舌状に切って合わせる。④呼びつぎ：ふやそうとする木のそばに台木を植え込むか，はち植えにしておき，両者の接着面を2～3cm削り，形成層を合わせて縛る。活着したら穂木になるほうの下部と台木になるほうの上部を切り離す。⑤はめつぎ：V字形の特殊ナイフで台木につぎ溝(みぞ)をつくり，穂木をこれにはめこむ。⑥芽つぎ：特殊ナイフで台木の側面にHまたはT形に切り込みを入れ，樹皮をはがして開く。これに楯(たて)形に削った芽を葉柄(ようへい)をつけたまま挿入する。つぎ木の適期は一般には早春，芽の活動の始まるまえ。芽つぎは生育期間中。つぎ木した後は適温に保ち，接着部分をかわかさないように留意する。〔小杉　清〕

つぎきざっしゅ【接木雑種】異なった特徴・性質をもった植物体をつぎ木*すると，有性的な交配なしに，台木と穂木の物質の影響によって，穂木または台木の性質に遺伝的な変化が起こる。この変化が多くの場合雑種的性質をもち，遺伝するため，つぎ木雑種または栄養雑種といわれる。つぎ木によって，雑種植物が得られるのは，台木または穂木の生理的影響が生殖細胞内に作用し，遺伝情報が変化するためとみられるので，つぎ木雑種は〈獲得形質の遺伝〉の問題であって，古くかつ新しい生物学上の問題として有名である。現代の正統遺伝学では，つぎ木雑種を含む獲得形質の遺伝は否定されているが，過去においてはダーウィン*・バーバンク*・ミチューリン*らがその可能性を認めた。近年ではソ連のルイセンコがミチューリンや自分の研究の例をあげて，その可能性の論を再度提起し，〈ルイセンコ論争〉の一つの重要な論拠とした。わが国でも，トウガラシ・トマト・ナスなどで実証され，近代の生物学者にも，それを認める人々が出てきている。しかし，その理論的解明はまだなされていない。今後の生物学上の重要な課題の一つとして近代生物学の諸成果をあげて解明する必要がある。〔柳下　登〕

つきさむ【月寒】北海道札幌(さっぽろ)市の南東地区。もと豊平町の中心市街地であったが，1961年(昭和36)札幌市に編入され，旧名の〈つきさっぷ〉はアイヌ語の〈チーサキープ〉(われわれが火を切るところ)に由来する。1906年(明治39)以来月寒種羊場が設立され，周辺に多数の住宅団地が建設されている。中心部の羊ケ丘(ひつじがおか)にはいまも種羊場があり，ヒツジのほか，ウシ・ウマ・ヤギ・ウサギなどが飼育される。千歳線の駅名は〈つきさっぷ〉。

つきじ【築地】東京都中央区の南部，

隅田(すみだ)川西岸に沿う地区。北は日本橋，西は銀座，東は隅田川を隔てて月島と接する。江戸初期には浅海であったが，1657年(明暦3)の大火後埋め立てが行なわれて，築地とよばれるようになった。1867年(慶応3)，外国人居留地に指定され，1899年(明治32)の条約改正時まで外来文化の導入に大きな役割を果たした。この期間に，明石(あかし)町にわが国最初の洋風ホテル，築地ホテル館が建てられたのをはじめ，海軍大学校・地質調査所・慶応義塾(ぎじゅく)大学・立教大学などがこの地で発足した。関東大震災後は日本橋にあった魚市場が移転して，東京中央卸売市場となり，1924年(大正13)には日本最初の新劇専門劇場〈築地小劇場*〉が開かれた。中央区役所・聖路加国際病院・国立がんセンター・西本願寺(築地別院)・東京劇場など各種の施設に富み，南端には東京都の有料公園となったもと浜離宮庭園がある。中央部をほぼ南北に帝都高速度交通営団の地下鉄日比谷(ひびや)線と新大橋通りとが走り，月島とは勝鬨橋(かちどきばし)・佃(つくだ)大橋などで結ばれる。〔浅井得一〕

つぎしきし【継ぎ色紙】 もとは方形の冊子本で，2ページに歌1首を散らし書きにしているので継ぎ色紙という。料紙は色紙，書風は古雅で，用筆に変化が多い。散らし書き*は巧妙である。小野道風*(とうふう)筆と伝えられており，書写年代は11世紀の末ごろである。伝紀貫之(きのつらゆき)筆《寸松庵(すんしょうあん)色紙*》，伝藤原行成筆《升(ます)色紙》とともに三色紙といわれている。

つきじしょうげきじょう【築地小劇場】 新劇の劇場・劇団・演劇運動。1924年(大正13)小山内薫*(おさないかおる)・土方与志*(ひじかたよし)を中心に東京築地に創設されたわが国最初の本格的ヨーロッパ式劇場・劇団で，新劇史上画期的な意義をもつ。関東大震災後に土方は私財を投じ，師の小山内はじめ和田精・汐見(しおみ)洋ら6人の同人制のもとに実験劇場を発足させた。小山内は翻訳戯曲中心を宣言し，開場にはゲーリングの《海戦》，チェーホフの《白鳥の歌》，マゾーの《休みの日》の3本が上演されたが，以後もリアリズムによる小山内，ドイツ表現派およびメイエルホリド*の方法による土方，その中間をいく青山杉作*(すぎさく)という3人の演出家によって，次々と海外戯曲を上演していった。その後小山内の〈新しい国劇の樹立〉の提唱の下に近松門左衛門(もんざえもん)の新脚色や坪内逍遙*(しょうよう)の《役(えん)の行者》などが上演されたが，アカデミズムをめざす小山内と政治路線をめざす土方の対立や，小山内の死により1929年(昭和4)3月，劇団築地小劇場と新築地劇団に分裂した。4年間の上演戯曲は112本。久保栄*らの劇作家はじめ，丸山定夫・友田恭助*・田村秋子・山本安英*・滝沢修*・千田是也*(これや)らの俳優を育てた。➔新劇 〔大島 勉〕

ツキジデス [Thukydides] (BC455ごろ～BC400ごろ) 古代ギリシアの歴史家。《戦史》8巻の著者。アテナイの名門の生まれ。ペロポネソス戦争に指揮官として出陣し，アンピポリス市争奪戦に参加したが，敵将ブラシダスに一歩先んじられて敗北。この責任で20年間追放された。この追放はむしろ彼の資料集めにとって好つごうだったようで，敵味方の軍の動き，戦争の大勢をとらえることができた。彼ははじめて客観的・科学的な歴史叙述の方法を確立し，驚くべき正確さ・冷静さで，戦争の重圧下での個々の人間の動き，国家や社会の営みを記述し，さらにペロポネソス戦争の原因を追求している。彼はギリシア全土を席巻(せっけん)したペロポネソス戦争を史上最大のできごとと考え，将来人間が似た歴史過程をたどると予測し，そこに歴史書の価値を置いて《戦史》を書いた。〔久保正彰〕

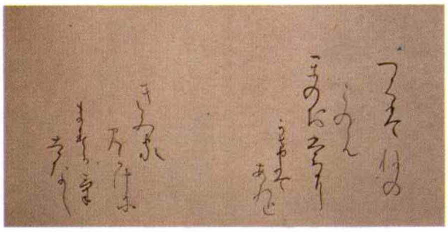
つきじほんがんじ【築地本願寺】 東京都中央区築地にある真宗本願寺派の寺で，京都西本願寺の別院。1621年(元和7)本願寺12世准如が日本橋浜町に建立(こんりゅう)した江戸海辺御坊(のちの浜町御坊)がはじまり。1657年(明暦3)明暦の大火*で焼失。1674年(延宝2)寂如が現在地に紫宸殿(ししんでん)形式の本堂を建立し，以来築地御坊と称した。寛永寺・増上寺・浅草別院とともに両山両寺とよばれ，幕府の保護を受けて栄えた。たびたび罹災(りさい)したが，そのつど再建され，現在の本堂は1934年(昭和9)再建されたもので，インドの建築様式を大胆に取り入れている。

つきしま【月島】 東京都中央区の南東部，隅田(すみだ)川河口にある人工島。江戸初期，幕府が東方の佃(つくだ)島地区を埋め立てて，寛永年間(1624～1643)に摂津の西成郡佃村(現大阪市)の漁民30余人を移住させ，江戸市民の食料源確保のために東京湾の沿岸漁業に従事させてから開けた。西方の石川島も人足寄せ場として開かれたが，1854年(安政1)水戸(みと)藩の造船所が設けられ，その後身は官営の石川島造船所を経て，いまの石川島播磨(はりま)重工業の造船所となった。両島ははじめ分離していたがのち地続きとなり，昭和以後築造された南東部の晴海(はるみ)地区(月島4号地)を合わせて，地域が拡張した。月島1～4丁目，佃1～3丁目，晴海1～5丁目などの町名がある。佃島は佃煮の発祥地として知られる。江戸時代に開かれた渡船場〈佃の渡し〉は都民にも親しまれてきたが，1964年(昭和39)の佃大橋の開通に伴って廃止された。

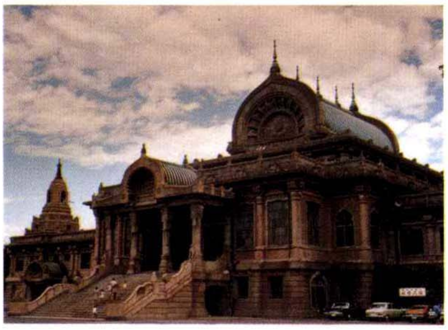
〔浅井得一〕

つぎて【継ぎ手】 木材・鋼材などの部材を長手方向につなぐための接合をいう。接合金物を用いない方法と用いる方法とあり，前者には二対を欠き合わせて継ぐ方法(安全のために込め栓(せん)打ち・ボルト締めの補強をする)，構造上軽微な箇所に用いられる段継ぎ，土台・大引きなどに用いられる腰掛け蟻(あり)継ぎ・鎌(かま)継ぎ，最も強固な継ぎ手として金輪継ぎがあり，その他，追い掛け大栓継ぎ，台持ち継ぎなど

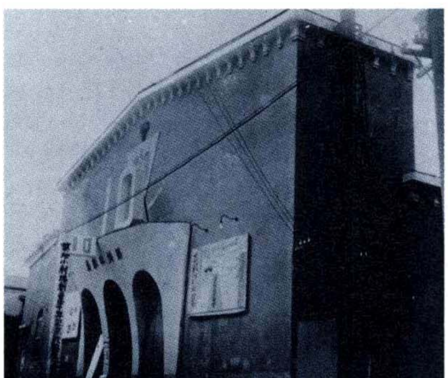
➔460ページ



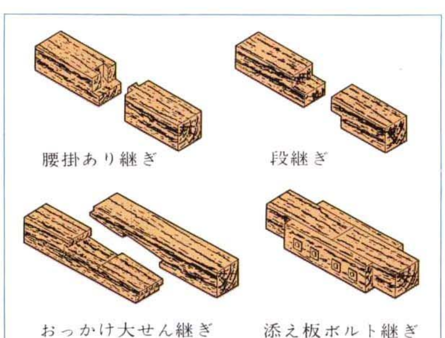
継ぎ色紙 伝小野道風筆 青色の色紙に《古今集》巻20の東歌のうちの常陸歌の〈つくばねのこのもかのおもにかげはあれどきみがみかげにますかげはなく〉を散らし書きにしている



築地本願寺 本堂



築地小劇場 1928年，前の建物から左方15間の場所に，外装はそのまま移転改築した築地小劇場



継 ぎ 手

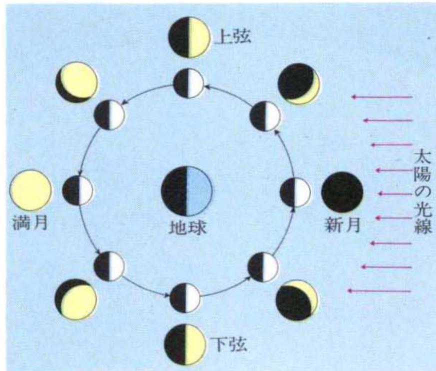
月

地球のまわりを巡る衛星。空間に漂う微小な固体物質(流星塵(りゅうせいじん))を除けば，地球に最も近い天体である。

【公転】月と地球の平均距離は38万4,000kmで，地球の赤道半径の60.3倍にあたる。月は，地球が太陽のまわりを巡るのと同じ向きに，地球のまわりを平均約1km/秒の速度で公転している。このため地球から見ると，月は天球上の恒星の間を1日ほぼ13°の割合で東に移動し，月の出，月の入りの時刻は前日に比べて平均約50分ずつ遅れていく。月がある恒星の方向に見えてから，天球を1周して再び同じ恒星の方向に見えるまで，つまり地球を一巡りする周期は27.3217日で，これを恒星月*という。また月がある黄経から出発して同じ黄経にもどる周期を回帰月(あるいは分点月)というが，黄経を測る原点(春分点)が歳差*のため1年に約50″ずつ西へ移動するので，回帰月は恒星月よりやや短く27.3216日である。

月は太陽および地球に対する位置関係によって満ち欠けを生ずる。その周期(朔望月*(さくぼうげつ))は29.5306日で，恒星月に比べ約2日長い。これは，月が地球を一巡りする間に，地球も太陽のまわりを同じ向きに約1/13.5周するため，新月から次の新月に至るまでには月は地球を1周以上巡らねばならないからである。

月の軌道面(白道)は地球の軌道面(黄道)に対して平均5°8′(最大で5°18′，最小で4°59′)傾いていて，軌道は離心率0.055の楕円(だえん)に近い。したがって，遠地点は近地点に比べて約40,000km遠い。月は地球の引力のほかに，太陽や惑星による摂動*や月の潮汐力(ちょうせきりょく)による地球の変形の月への反作用などの影響を受けて，〈ケプラーの法則*〉に従う運動に比べてはるかに複雑な運動を示す。たとえば，楕円(だえん)軌道の長軸は，空間に固定されていないでその方向が変化し，近地点は8.85年の周期で月の運動と同向きに地球を1周する。また，黄道と白道の交点も月の動きと逆の方向に移動し，18.6年かかって黄道上を1周する。



月　月の満ち欠け

その結果，近点月*は，27.5546日，交点月*は27.2122日と，いずれも恒星月の値と異なってくる。

【自転】月は公転周期と同じ27.3217日で1回自転する。このため，月はいつも同じ側の半面だけを地球に向けていることになり，いわゆる月の裏側は地球上にいるかぎり見ることはできない。しかし，完全に全表面の50%しか見えないのではなく，次に述べる秤動(ひょうどう)という現象によって，時間さえかければ月面の59%まで地上で見ることができる。われわれは地球の中心にいるのではなく，地球の表面から月を見ている。月は比較的地球に近く視差*が約1°あるから，月が東に上ってくるとき，天頂に望むとき，西に沈むときとでは，わずかながら月面の違った部分を見ることになる。これを日周秤動という。また月の公転軌道はほぼ楕円で，遠地点付近では公転の角速度*が小さく，近地点の近所では大きくなって，自転速度とほんのわずか食い違い，東西方向にそれぞれ約7°見える範囲が広がる経度秤動が起こる。さらに，月の赤道面と軌道面が6°41′傾いているため，1恒星月の間に，月の北極が地球のほうに傾いて北極付近が多く見えたり，逆に南極付近が多く見えたりする。これが緯度秤動である。月の形は完全な球ではなく，地球の方向の赤道半径が最も大きい。上述のような秤動によって最も長い赤道半径の向きが変えられるが，これを安定な元の状態にもどそうとして振動が起こる。これを物理秤動というが，その量は前記の三者に比べてはるかに小さい。　〔磯部琇三〕

【月の満ち欠け】月が太陽と同じ方向にきて合*になると，月は太陽に照らされていない部分を地球に向けわれわれからは見えない。このような月を新月とよぶ。新月は昼の12時ごろに南中*し，また日食は新月のときに起こる。月が合の位置から90°公転すると，右半分が光っている月が日没時に南中する。これが上弦の月である。さらに90°公転すると月は太陽と反対方向に位置し(このときを衝*という)，月は太陽に照らされた部分を全部地球に向ける。これが満月であって，満月は夜中の12時ごろ南中し，月食は満月のときに起こる。さらに90°公転すると，左半分が光っている月が日出時に南中する。これが下弦の月である。月の満ち欠けの周期(朔望月*)は太陰暦*においては重要な周期である。　〔木下　宙〕

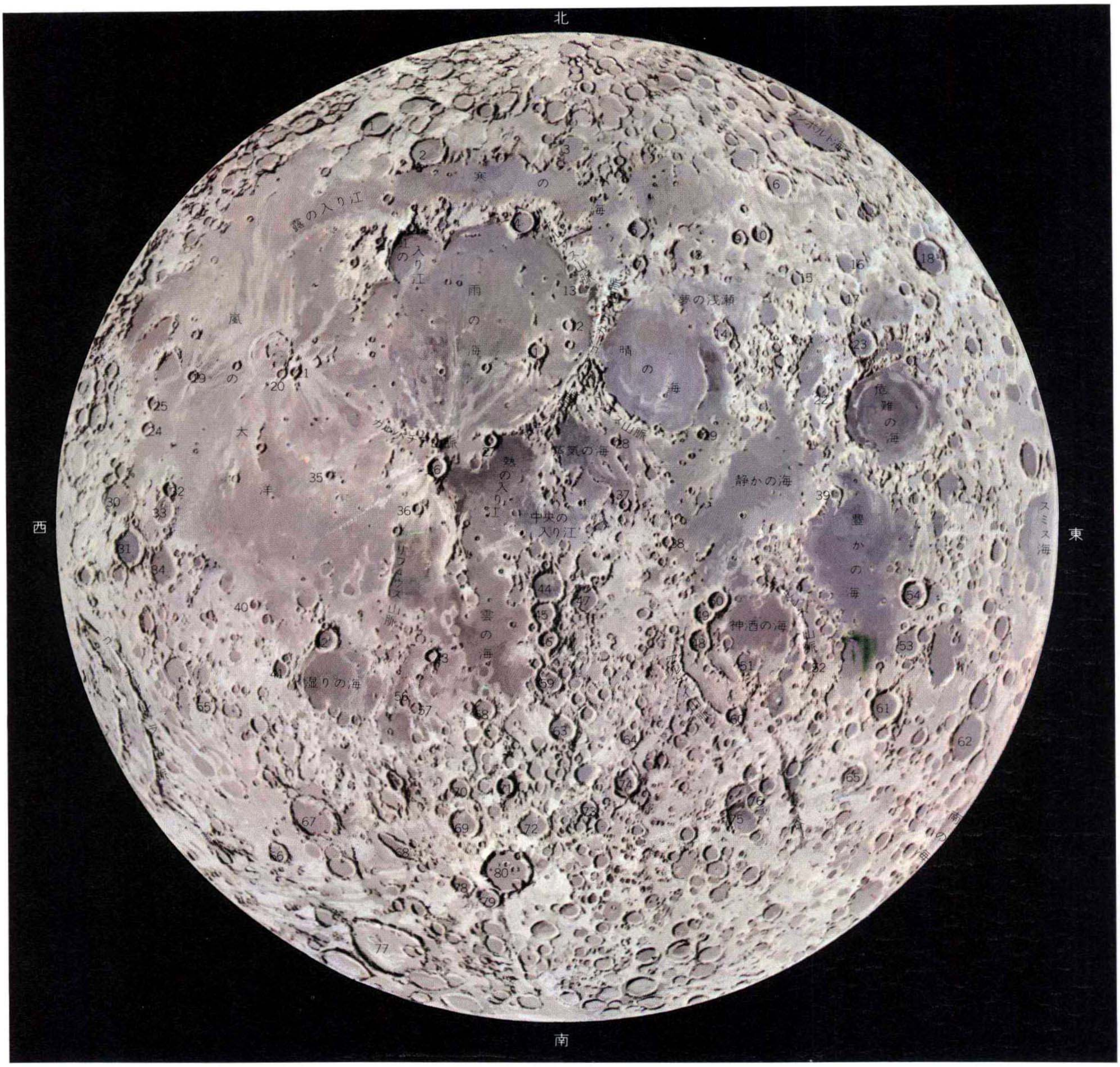
【明るさと表面の温度】月の明るさは満月のときで−12.5等，太陽の明るさの47万分の1にすぎない。全天に満月を敷きつめても，空の明るさは太陽の輝いている昼間の約1/6くらいである。月の満ち欠けによる明るさの変化は，太陽光を受けて輝いている部分の面積に比例せず，満月時の明るさは半月時の明るさの10倍以上で，満月の前後で急激に暗くなっている。また満月のときには月面の中央部でも縁でも明るさはあまり変わらない。満月の明るさや月食時の月の明るさ(月が地球の影にはいりこむ月食のときにも，月は完全に暗くはならず，鈍い光を放っている)は一定不変ではなく，およそ11年の周期で10%くらい変動しているといわれている。これは，太陽活動の周期に対応しているが，太陽の可視光線の強さは長期間にわたってほとんど変化を示さない。したがって，月面の明るさに関係しているのは，太陽活動に伴って放出されるX線や高エネルギーの荷電粒子の作用であろうと想像されている。

月の反射能*は約7%で極端に悪く，太陽光の大部分は表面を暖めるのに使われている。月面の温度は赤外線の観測によると，太陽が天頂にある地点で110℃に達し，真夜中では−160℃に下がる。月面の昼と



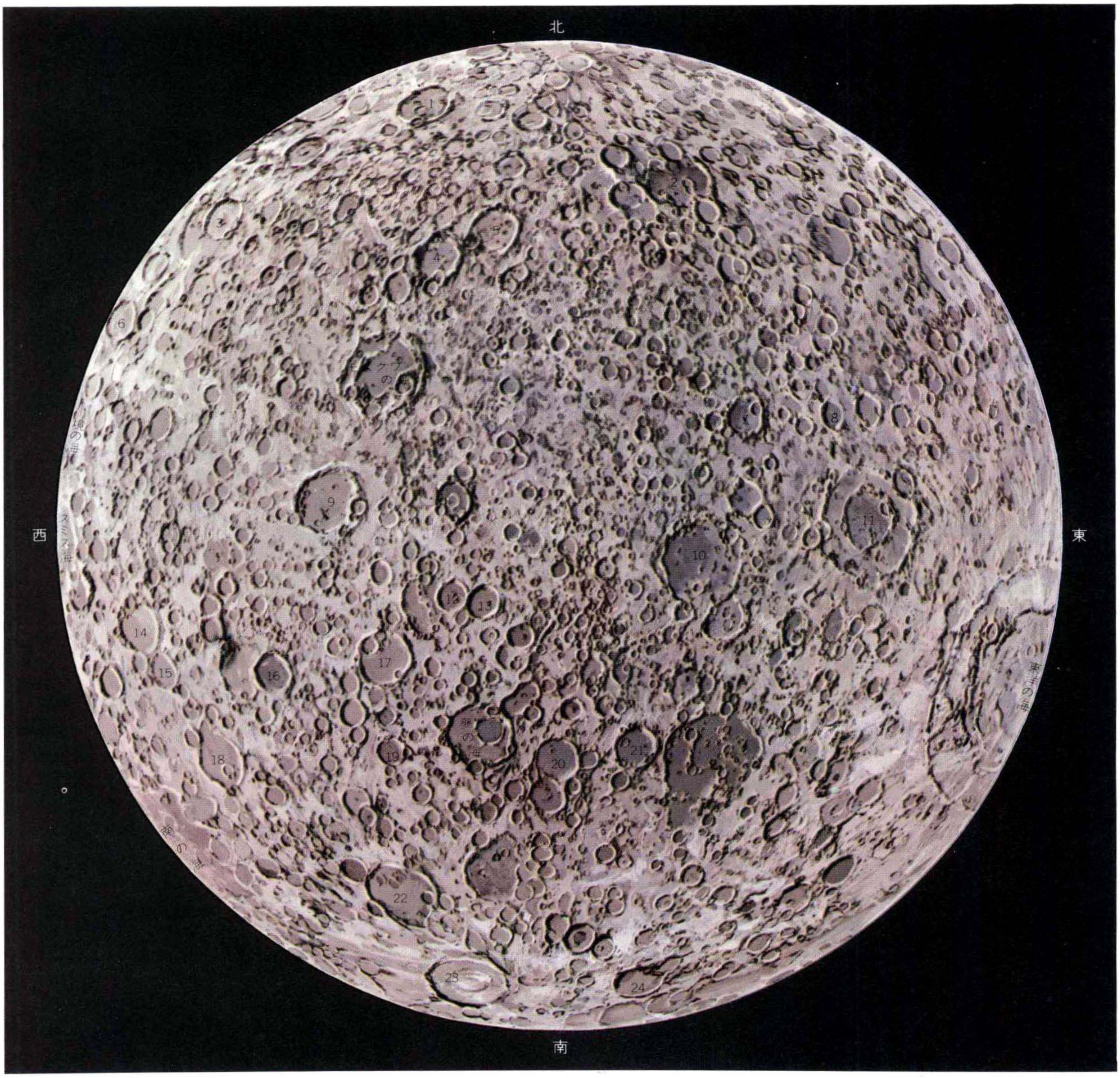
27日　25日　下弦　18日　満月　11日　上弦　5日　三日月

月の満ち欠けのようす



月面図(表)

1．ピタゴラス
2．J．ハーシェル
3．W．ボンド
4．プラトー
5．アリストテレス
6．エンディミオン
7．エウドクソス
8．ビュルグ
9．ヘルクレス
10．アトラス
11．アルキメデス
12．アリスチリス
13．カッシニ
14．ポシドニウス
15．フランクリン
16．メッセラ
17．ゲミヌス
18．ガウス
19．セレウクス
20．ヘロドトス
21．アリスタルコス
22．マクロビウス
23．クレオメデス
24．カルダヌス
25．クラフト
26．コペルニクス
27．エラトステネス
28．マニリウス
29．プリニウス
30．ヘデイン
31．リチオリ
32．カバレリウス
33．ヘベリウス
34．グリマルディ
35．ケプラー
36．ラインホルト
37．アグリッパ
38．ドランブル
39．タルンチウス
40．ハンステーン
41．メルセニウス
42．ガッサンデイ
43．ブリアルドス
44．プトレマイオス
45．アルフォンスス
46．アルザッケル
47．アルバテグニウス
48．カタリナ
49．キリルス
50．テオフィルス
51．フラカストリウス
52．ザントベック
53．ベンデリヌス
54．ラングレヌス
55．ビルギウス
56．カンパヌス
57．メルカトール
58．ピタトス
59．プルバッハ
60．ピッコロミニ
61．ペタビウス
62．フンボルト
63．ワルター
64．ゲンマフリシウス
65．フルネリウス
66．インギラミ
67．シッカルド
68．シラー
69．ロンゴモンタヌス
70．ウィルヘルム
71．チコ
72．マギヌス
73．リケトス
74．マクロリクス
75．ジャンセン
76．ファブリチウス
77．ベイリー
78．シャイナー
79．ブランカヌス
80．クラビウス



月面図(裏)

1．シュベルツシルド
2．バーコフ
3．ファブリ
4．キャンベル
5．ダランベール
6．ジョリオキュリー
7．マッハ
8．ポインティング
9．メンデレーエフ
10．コロレフ
11．ヘルツスプルング
12．キーラー
13．ヘビサイド
14．パスツール
15．ヒルベルト
16．ツィオルコフスキー
17．ガガーリン
18．ミルン
19．ジュールベルヌ
20．ライプニッツ
21．オッペンハイマー
22．プランク
23．シュレーディンガー
24．ゼーマン

夜の境では1時間に約7℃，また月食時には1時間に180℃という大きな温度変化が観測されている。

一方電波領域で測定すると，温度変化の範囲がずっと狭くなる。赤外線では月の表面の温度を測っているのに対し，電波では月面下のある深さの温度を観測しているからである。これらの事実から，月面の物質は極端に熱を伝えにくい性質をもっていることが想像される。

【大きさ・質量など】月の直径は3,477kmで，地球の半径の0.273倍，また質量は地球の1/83.4である。この値は，太陽系内の衛星としては大きいほうに属し，特に母惑星に対する割合では桁(けた)違いに大きい。平均の密度は3.34g/cm³，表面重力は地球に比べて1/6で，脱出速度は2.4km/秒である。月には大気はなく，もしあったとしても1,000億分の1気圧以下にすぎない。遠い昔に濃い大気が存在していたとしても，脱出速度が小さいため気体の熱運動の速度で大部分が惑星間空間に飛び散ってしまう。また，月の表面には液体の水は存在しないが，結晶水として地下の深い所に存在する可能性は残されている。〔磯部琇三〕

【月の表面】月は他の天体に比べれば地球に近く，また大気がないので，その表面の状態を地球上からかなり詳しく調べることができる。特に地球のほうに向いた半面については，写真測量の技術を適用して，地球上の未開地よりも詳細な地形図がつくられている。また裏側については，月の周囲を回る孫衛星からの写真を用いて，表側ほど精密ではないが，だいたいの地形図ができ上がっている。

月の表面の地形でいちばん目をひく特徴は，クレーター(火口)とよばれる大小無数の丸いくぼみが不規則に分布していることである。大形のものでは径100kmをこえ，周囲は底から数千メートルも盛り上がっているものがある。また，中央火口丘状の盛り上がりがしばしば見られる。径数十メートル以下のものでは周囲の盛り上がりはほとんど認められず，中央火口丘状の盛り上がりもない。大形火口が密集した部分は，明るく見え，大陸とよばれている。それより少し暗く見える部分は比較的なめらかな表面で，海とよばれている。しかし，水があるというわけではない。水による侵食運搬堆積(たいせき)作用の形跡は，まったく認められない。

月の表面は土とよばれる物質でおおわれている。土とはいうものの，風化作用の産物である地球上の土壌(どじょう)とはまったく別のものである。主として径数ミリメートル以下のガラス球と岩石の破片からなり，少量の隕鉄(いんてつ)も含んでいる。ガラス球は，月の表面に隕石が落下したときの衝撃で，月の表面にあった岩石および隕石自身がとけて，飛び散ったものである。また，ガラス球の表面をよく調べてみると，顕微鏡でやっとわかるような小さな穴がたくさんあって，その一部はかなりの大きさになっており，局部的にとけたり，飛び散ったりした形跡も残っている。これらは太陽風や宇宙線にたたかれて生じたものである。地球では地磁気の影響で太陽風*の進路が曲げられるためと，厚い大気の存在のために，地表でそのような現象はほとんど認められない。

アポロ11号が月の土や岩石の試料を採取してくる以前から，月の表面物質については次のような二つの有力な根拠から，多孔質で細かい穴の多い物質であろうと予想されていたが，実際にそのとおりであったわけである。根拠の一つは，満月の前後の明るさの問題(前述)で，他の一つは，電波から推定される温度変化の幅が小さくて，表面物質が非常に断熱性の高いものであると推定されたことである。

月の表面物質に共通した特徴の一つとして，水をまったく含まないことが注目される。地球の岩石では，たとえば玄武岩のように一見水を含まないようなものでも，精密な化学分析をすると少量の水が検出されるのと対照的である。アポロ11号が着陸した〈静かの海〉の岩石は，確かに玄武岩に似ているが，水のない点と，チタンを多量に含む点で大きく違っている。しかし，これが月の岩石の代表的試料であるとは考えにくい点が多いので，今後異なる地点からの岩石試料の採取が待たれている。

〔片山信夫〕

【地球と月】地球と月の力学的な関係を調べると，月は地球の自転速度をおそくするとともに，その反作用で徐々に地球から遠ざかっていくことがわかる。計算によると，いまから80億年後には，地球の自転周期(1日)と月の公転周期(1恒星月)とがほぼ等しく，約1,000時間になるはずである。こうなったら地球の半分の地方では月を望むことができない。逆に月の軌道を過去にさかのぼって調べると，30億年前には地球から18,000kmの近い距離にいたことになる。そのころの1日は約5時間，1恒星月は約30時間であった。30億年という値は地球の年齢45億年より短い。30億年よりさらに以前まで逆算を続けると，月はそれ以上地球に近づかないで軌道が大きく変動しながら地球より遠ざかっていく。つまり月はそのころ，太陽系内のどこからか飛んできて，たまたま地球に近づいたためそれに捕えられ，地球を巡る衛星になったものと推測されている。〔守山史生〕

もある。後者はボルト・くぎなどにより，添え板をして二対を突き付け，重ね，重複させて継いでいく。〔神山幸弘〕

つきとろくペンス【月と6ペンス】モーム*の小説(1919)。画家ゴーギャン*の生涯(しょうがい)にヒントを得て書かれたもの。中年の平凡な株屋が突然家庭を捨て画家となり，タヒチ島で，全身をらい病に冒されながら，大作の完成に全精神を傾けて死ぬという物語で，芸術のデーモンにつかれた人間の悽愴(せいそう)な姿が，迫真力をもって描き出されている。

つきなみえ【月次絵】月々の行事や景物を描いた絵。平安時代に栄えた屛風絵(びょうぶえ)の一つで，四季絵・名所絵などとともに当代大和絵(やまとえ)の発展に尽くした。当時の風俗を詳しく描いたものと思われるが，遺品は見られない。室町時代末になるとこの伝統を継いで，風俗的要素を強く盛った《月次風俗図屛風》などがつくられた。

つきなみのまつり【月次祭】国家の安寧を祈念する儀式。元来は名の示すように毎月行なわれたものであろうが，大宝令(たいほうりょう)(→大宝律令)ではすでに毎年6月と12月の年2回となった。〈延喜式〉には月次の幣帛(へいはく)にあずかる神社304座を指定している。中世までは宮廷の年中行事として続けられたが，応仁(おうにん)の乱後まったく廃絶。明治に至って再興された。

つきにほえる【月に吠える】萩原朔太郎*(はぎわらさくたろう)の処女詩集(1917)。55編の叙情詩と2編の長編詩を収録。〈竹〉や浄罪詩編とよばれる〈天上縊死(いし)〉などの作品に特異な詩境がうかがわれる。病的に鋭敏繊細な神経によって，戦慄(せんりつ)的なイメージのもとにつかみ出された生存の恐怖が，自在なことばのリズムで表白され，きわめて斬新(ざんしん)で個性的な詩風を実現し，近代詩の歴史に一つの新次元を開いた。

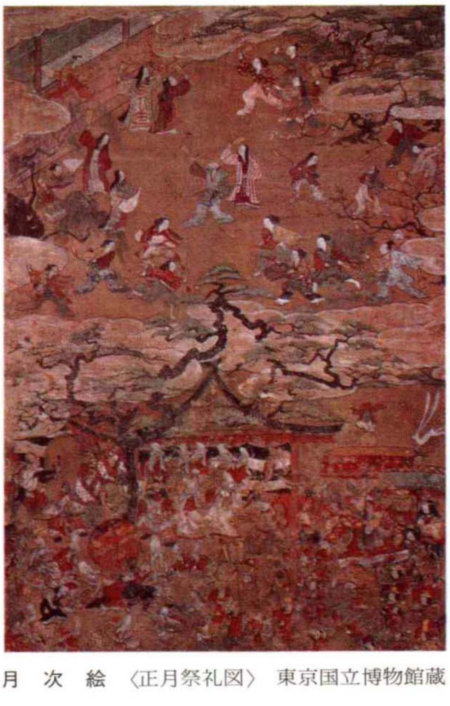
つきのわぐま【月輪熊】哺乳(ほにゅう)類・食肉目・クマ科。中形・黒色でクロクマともいい，前胸部にV字形または三日月形の白色斑(はくしょくはん)，いわゆる月の輪がある。頭胴長1.2～1.9m，尾長8cmほど。パキスタン・インドから中国・台湾・朝鮮・アムールなどに分布し，日本には本州・四国・九州に一亜種ニホンツキノワグマを産する。低山から2,000mぐらいまでの山林にすみ，おもに夜行性である。主として果実・草根・クリなどの植物質を食べるが，こん虫・カニ・魚なども食べ，特にはちみつは好物である。晩秋のころ，木の根もとの洞(ほら)などにはいって冬眠する。この穴の中で雌はふつう2子を産む。胆囊(たんのう)は熊胆(ゆうたん)または熊の胆(い)と称し，健胃剤として珍重され，毛皮は敷き物に，肉は食用にされる。➔クマ〔今泉吉典〕

つぎば 【継ぎ歯】 ⇨継続歯

つぎびきゃく 【継ぎ飛脚】 ⇨飛脚

つきまち 【月待ち】 講員(→講)が特定の月齢の夜に集まって月の出を待つ行事。十五夜・十七夜・十九夜・二十三夜などがある。そのうち二十三夜は最も盛んで，三夜待ち・三夜講などともいい，ふつう組や部落を単位とし，特定の範囲の人々が1月・5月・9月・11月または1月・6月・9月または1月・11月の23日の夜に集まって飲食をする。長野県木曽(きそ)郡南木曽(なぎそ)町地方の三夜待ちは夜中すわらず立ったまま月の出を待つという。一方，三夜様にみごもると片輪の子ができるという俗信があり，この行事はかつてはきびしい物忌みを伴っていたと考えられる。

つきみ 【月見】 旧暦の8月15夜と9月13夜の行事をいう。前者は十五夜・名月ともよばれ，月見団子をつくり，すすきを供える風習が一般的である。中国では唐代から中秋節といって，旧暦8月15日の満月の夜，月を祭ることが行なわれていたが，その風習が日本の貴族社会に取り入れられ，しだいに民間に模倣されたものと考えられる。仲秋(陰暦の8月)の名月は稲の祭儀と結びつくところが多いが，地方によっては里芋の祭儀とも結びついてこの夜は〈芋名月〉とよぶ。なお，十五夜の行事には，子どもが供物を盗むことが半ば公認されていること，綱引きや八月踊り・十五夜遊びなどといった諸要素が結びついている。9月13夜のほうは，豆名月・栗名月・あとの名月などともよばれ，片見月はするものではないといって，十五夜に月見をしたら十三夜にも必ず月見をするものだとされている。〔直江広治〕



月次絵〈正月祭礼図〉東京国立博物館蔵



ツクシガモ

つきみざとう 【月見座頭】 狂言の曲名。座頭狂言。下京の辺に住む座頭(シテ)が，人々の楽しむ仲秋の名月の夜を，せめて虫の音を聞きながら心を慰めようと野に出かける。ひとり野辺で虫の音をめでるうちに，名月を賞していた上京辺の男に話しかけられ，ともに古歌などを詠じ，酒宴を催す。ふたりはさらに謡をうたい，舞を披露(ひろう)し合って十分に楽しみ，なごりを惜しんで別れる。しかし，いったん別れた上京の男は，いままで一緒に楽しんでいた座頭に，それと知れないようにけんかをしかけ，引き回し突き倒してしまう。座頭は帰る道の方角さえもわからなくなり，世の人の有情・非情を思い知り，盲目の身の不幸を嘆く。

盲目の座頭の月見というだけですでにおかしみを誘うが，名月の夜，虫の音に耳を傾ける孤独な座頭の姿には，一抹(いちまつ)の哀感が漂い，余情深いものがある。下京の男には，人間の中にある相反する両面がみられるとされ，狂言の最高傑作の一つといわれる。この狂言は大蔵流にのみ伝えられてきたが，最近では和泉(いずみ)流でも何回か演じられている。〔片桐　登〕

つきみそう 【月見草】 双子葉植物・アカバナ科。北アメリカ原産の越年草。高さ40～70cmで，まばらに分枝する。夏，葉腋(ようえき)に直径2～4cmの白色4弁花をつけ，夕方に咲いて翌朝にしぼむ。一般にツキミソウとよばれているのはマツヨイグサの類で，現在本種は日本ではほとんどみられない。➔マツヨイグサ

つきもの 【憑き物】 ある種の霊力をもつ存在が人間に憑依(ひょうい)する現象またはそのものをいう。神霊あるいは人間の生霊・死霊が憑く場合と動物霊が憑く場合とに分けられるが，特に後者をさしていう場合が多い。動物霊の憑物で最も広く分布しているのは狐(きつね)(→狐憑き)で，これにはいずな・おさきぎつね・くだぎつね・にんこ・やこなど地域によって異称している。西日本には犬の霊が憑く犬神*や蛇(じゃ)の霊が憑く〈とうびょう〉もある。そのほか猫(ねこ)・狸(たぬき)・河童(かっぱ)などの霊が憑くとする地方もある。これらの憑物に憑かれると，特別な症状を示し，祈祷者(きとうしゃ)や巫女(みこ)の祈祷によって落としてもらうほかないと信じられていた。また，憑物をもつとされた家筋を憑物筋・持筋とよび，通婚をきらう風もある。現在の憑物は社会緊張をひき起こす迷信に堕したものが多いが，元来は家の守護霊の信仰に発したものと考えられる。〔直江広治〕

つきゆび 【突き指】 スポーツ特に球技などで，主として先端方向からの外力によって受ける指の傷害。捻挫*(ねんざ)，関節面の小骨折を伴う場合があるのでレントゲン検査を行なう必要がある。指の関節面がはれて痛み，変形や軽度の機能障害を残す。副子*による安静固定がたいせつである。

つきよたけ 【月夜茸】 担子菌類・シメジ科。夏・秋季ブナの枯幹に多数発生する発光性のきのこ。かさは半円形・腎臓(じんぞう)形で，長径10～27cmくらい。表面は幼時は淡黄かっ色，のち紫かっ色となる。肉は白色で無味。基部を裂くと中心部に暗紫色の大きな斑点(はんてん)があり，これは他のきのこと区別のできる特徴である。毒性が強く，外観の似ているシイタケ・ムキタケと誤食することによる中毒例が多い。

つきよみのみこと 【月読命】 日本神話の神。イザナギノミコト*の子で，アマテラスオオミカミ*の弟。《日本書紀》ではアマテラスオオミカミは穀神のウケモチノカミをツキヨミノミコトに尋ねさせたが，口から種々の食物を出してもてなしたウケモチノカミをツキヨミノミコトが切り殺した。アマテラスオオミカミはこれを知り，〈相見じ〉と宣して1日1夜隔て離れて住むこととしたと記されている。月神とされ，ツキヨミの〈ヨミ〉は〈暦〉の〈ヨミ〉にあたり，時の神として浮かび上がった神格と思われる。また，穀物は1年を単位として生と死をもつところから，これがツキヨミノミコトがウケモチノカミなる穀神を切り殺したとする理由である。〔宮井義雄〕

つきんぼうぎょぎょう 【突棒漁業】 遊泳中のカジキやマグロなどを，手投げ銛(もり)によって漁獲する漁業。突棒漁船には船首が高く突き出た突棒台があるのが特徴で，漁夫はここで魚見をしたり銛を投げたりする。大形遊泳魚を発見すると全速力でこれを追尾し，柄のついた銛を投げ魚体に突き刺し，銛についたロープで船上に引き上げる。大分県や千葉県外房地方で盛んである。アメリカ式捕鯨業も，この漁法の発達したものである。〔石野　誠〕

つくし 【土筆】 シダ植物・トクサ科のスギナの胞子茎。野原・川原・土手などに群生する。茎は茶色で栄養茎に比べて太く，節部より出るはかま状の葉は栄養茎のそれに比して大きく，また枝をもたない。茎の頂部に多数の六角形の胞子葉が集まって胞子嚢(ほうしのう)穂をつくる。若い時期のつくしは食用にされる。➔スギナ

つくしがも 【筑紫鴨】 鳥類・ガンカモ科。顔・頸部(けいぶ)は黒色，下面は白色の地

に胸にはくり色の太い横帯があり，胸腹部中央を縦走する幅広い黒色帯とT字形をなす。全体に美しい羽毛の大形カモである。有明海に多数渡来するので筑紫鴨とよぶ。

つくしさんち　【筑紫山地】〈ちくしさんち〉ともいう。中国山地の延長にあたり，九州北部をほぼ北東～南西に走り福岡・佐賀・長崎の3県にまたがる。遠賀(おんが)川・福岡平野・松浦川・大村湾などによって分断されたいくつかの地塊状の山地からなり，侵食が進んで一般に低く，最高峰でも中央部の背振山の1,055mにすぎない。山地の第三紀層中には各所に大炭層があり，筑豊・粕屋(かすや)・唐津(からつ)・佐世保の諸炭田が分布する。〔高野　繁〕

つくしへいや　【筑紫平野】〈ちくしへいや〉ともいう。福岡・佐賀両県の南部，筑後川中・下流に広がる九州最大の平野で，面積約1,200km²。北から北東へかけては背振(せぶり)山地・三郡山地，東から南へかけては水縄(みのう)山地・筑肥山地に囲まれ，西は有明海に面する。かつては有明海の海域であったが，隆起作用と河川の堆積(たいせき)作用，さらに一部は近世以降の干拓によって陸地化された。筑後川を境として，東半部は福岡県域の筑後平野，西半部は佐賀県域の佐賀平野に2分される。筑後平野は水縄山地によってさらに北の北野平野(甘木平野)と南の南筑平野(柳川(やながわ)平野)に分けられる。北野平野は三郡山地の断層崖(だんそうがい)下に複合扇状地を形成し，これに沿って南側を流れる筑後川が氾濫原(はんらんげん)を形成する。南筑平野の西半部は筑後川・矢部川がつくる低湿な複合三角州地帯で，用排水路が縦横に発達し，特に近世以降干拓の進んだ有明海沿岸は水田の反収が高く，〈三潴(みずま)農業〉の名が高い。西半部の佐賀平野には筑後川・嘉瀬(かせ)川・六角川が貫流し，周辺山地と断層崖で接する山麓(さんろく)部には扇状地が開け，下流部には三角州が形成されている。有明海沿岸は用排水路が発達して反収の高い集約的米作が行なわれ，第2次世界大戦前は〈佐賀段階〉の名で全国に知られた。現在は〈新佐賀段階〉とよばれる米づくり運動を展開している。福岡県側の中心都市はもと有馬氏の城下町で商工業が盛んな久留米(くるめ)で，ほかに立花氏の城下町であった柳川，田園都市的な大川・筑後・八女(やめ)などの都市がある。また南西端には三池炭田をもつ鉱工業都市の大牟田(おおむた)市があり，熊本県にまたがる地域は有明・不知火(しらぬい)・大牟田新産業都市に指定されている。佐賀県側では，もと鍋島(なべしま)氏の城下町で，県庁所在地の佐賀が中心都市となり，そのほか，北部には工業都市の鳥栖(とす)，西部には温泉地の武雄(たけお)，田園都市的な鹿島(かしま)・多久(たく)などの都市がある。〔味沢成吉〕

つくだじま　【佃島】 ⇨月島

つくだに　【佃煮】 魚貝類，海草などをしょうゆにみりんまたは砂糖を加えた調味液で煮つめたもの。保存食品の調理法の一。17世紀に江戸の佃島に移住した摂津(大阪府)佃村の漁民が，隅田(すみだ)川の淡水魚漁獲権を握り，小さな雑魚(ざこ)を煮つめて食用にしたのがはじまりで，それが佃煮といわれるようになったという。材料には，魚でワカサギ・ハゼ・シラス・アミ・小エビ・フナ・マグロ・カツオ，貝類でハマグリ・アサリ，海草でコンブ・ノリなどが多く用いられ，ほかに野菜・肉なども用いられる。ふつう新鮮な材料を沸騰した調味液に入れてとろ火でゆっくりと煮てつくり，ざるに上げて冷やすと光沢が出る。材料によって調味液は多少異なり，おもなものにたまりじょうゆで煮る時雨(しぐれ)煮，水飴(みずあめ)・砂糖を多く用いる甘露煮や飴煮などがある。小魚は骨ごと食べられるので，貝類・海草とともにカルシウム・リンなどの栄養素に富む。〔塩川ふみ〕



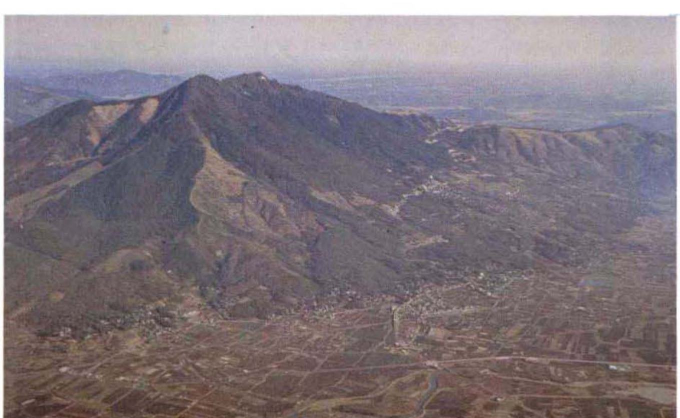
蹲　踞　曼殊院の〈ふくろうの手水鉢〉

つくつくぼうし　【つくつく法師】 こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・セミ科。体長30mm，同翅端までの長さ45mmほど。体は暗黄緑色の地に黒色の斑紋(はんもん)があり，金色の微毛が多い。前胸背の側縁に歯状突起がある。体下面はおもに淡かっ色であるが，全面白色粉を装うことが多い。雌の産卵管は長く，雄の腹弁は大きい。翅(はね)は透明で，前翅の先端はやや暗色をおびる。日本全国のほか，朝鮮・中国に分布し，台湾にも別亜種が分布している。平地や低山帯の林中に普通にみられ，成虫は7月中旬ごろから出現し，10月初旬まで鳴き声が聞かれる。雄の鳴き声は独特で，〈シージュクジュクジュク・オーシーツクツク・オーシーツクツク・……・ツクツクオーシ・ツクツクオーシ・ケ・ケ・ケ・ケ〉に近い。➔セミ

つくばい　【蹲踞】 茶事専用の手水鉢(ちょうずばち)の一種。つくばって洗う，低いものの意で，その初めは，山寺の岩間の流れで手を洗い口をすすいだのを茶事の趣向に取り入れたものといわれる。古くは，手水鉢に，貴人用と下人用とがあり，貴人は立ったまま，下人は身をかがめて，蹲踞で手を洗った。ところが，千利休がわび茶事を完成すると，茶道*の謙虚におごらぬ精神に基づき，貴人でも，茶室*の躙口(にじりぐち)からはいり，蹲踞でうずくまって手水を使う定めとなった。蹲踞も，初めは，手水鉢に前石と別に控え石1個ぐらいを置く程度の簡単なものだったが，露地*の発達につれて，蹲踞の構えも整ってきた。内露地の茶室の入り口に近く設けるのが常法である。茶席にすわって筧(かけい)の水の音を静かに聞き，また，入り口や窓からわずかに蹲踞のたたずまいを見るのは快く，趣きの深いものとされる。〔桑田忠親〕

つくばけんきゅうがくえんとし　【筑波研究学園都市】 茨城県の筑波山*の南のふもとに広がる丘陵地に建設中のニュータウン。1966年(昭和41)，筑波郡筑波町・大穂町・豊里(とよさと)町・谷田部(やたべ)町と新治(にいはり)郡桜村，稲敷郡茎崎村の4町2村にまたがる面積3,300万m²の現在主として畑(53%)や山林・原野(37%)となっている地域が筑波地区都市開発区域に指定された。日本住宅公団が1967年から都市建設に移り，1975年に完成の予定である。中心部に住宅・商店のセンター，北部に総合大学などの学園群，南部には各種の研究機関を置く予定で，完成後は人口が約16万人に達する見込みである。東京と結ぶ約50kmの高速自動車専用道路，通勤用高速鉄道の建設も予定されている。〔浅井得一〕

つくばさん　【筑波山】 関東平野の東部，茨城県中央部にそびえ，山頂は西側の男体



筑　波　山　頂上を2峰に分けて美しい山容を見せる筑波山。山麓の筑波町筑波から山頂へ向かうドライブウエーも見える。西方上空から望む

(870ｍ)，東側の女体(876ｍ)の２峰に分かれる。山地は主としてカコウ岩からなるが，山頂部はハンレイ岩である。平野に孤立しているので古くから関東の名山として知られ，歌にもよくよまれている。登山でも親しまれ，ケーブルカーや有料道路筑波スカイラインも通じている。南麓(なんろく)には筑波神社があり門前町が発達している。男体山の山頂には気象観測所がある。水郷筑波国定公園に含まれる。〔高野　繁〕

つくばしゅう【菟玖波集】連歌准勅撰集(ちょくせんしゅう)。1357年(正平12・延文２)になる。二条良基*(よしもと)が救済*(ぐさい)の協力を得て編纂(へんさん)した。四季・神祇(じんぎ)・釈教・恋・雑(ぞう)・羇旅(きりょ)・賀・雑体・発句の部立てで20巻，2,190句を収める。広く連歌の歴史が展望できるように各時代の句を集めており，救済ら約460人の作者が知られる。准勅撰集として連歌の文芸的地位を高め，和歌に比肩する地位につけた意義は大きい。

つくばね【衝羽根】双子葉植物・ビャクダン科。落葉低木で，高さ１～３ｍ。山地の岩場に多い半寄生植物で，根を他の樹木の根に寄生させる。枝も葉も対生する。葉は長楕円(ちょうだえん)形で長さ４～８cm，幅1.5～３cm，先端はとがり，鋸歯(きょし)はない。葉の両面には細かい毛がある。雌雄異株で，６月ごろ，枝先や枝の上部の葉腋(ようえき)に淡緑色の４がくよりなる花をつける。雄花は３～７個散房状につき，雌花は枝先に１個がつく。果実は成長すると，長さ８～10cmの羽根つきの羽根に似るのでこの名がある。若葉はひたしものなどにして食べられる。

つくばねあさがお【衝羽根朝顔】⇨ペチュニア

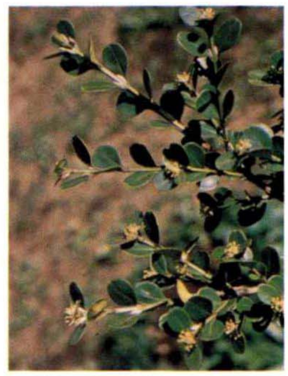
つくばねうつぎ【衝羽根空木】双子葉植物・スイカズラ科。山地に自生する落葉低木で，高さ１～２ｍ。若枝は赤かっ色で，古い枝は灰色である。葉は対生し，広卵形で長さ2.5～６cm，幅1.5～３cm，上半分に鋸歯(きょし)がある。５月，枝先に１～３個の黄白色の筒状花をつける。花冠の先は５裂する。がく片は５枚で果実になっても残っており，その姿がツクバネに似ているのでこの名がある。

つくばねがし【衝羽根樫】双子葉植物・ブナ科。本州南部・四国・九州などの山地に自生する常緑高木で，高さ20ｍに達する。葉は互生し，倒卵形ないし広卵形で先はとがり，ほとんど鋸歯(きょし)がない。雌雄同株で，雄花はことしの枝の下部からたれ下がり，雌花は上部の葉腋(ようえき)につく果実は楕円(だえん)形で，長さ1.5cmほど。材は建材・薪炭材に利用される。

つくばもんどう【筑波問答】二条良基*(よしもと)の連歌論書。1357年(正平12・延文２)から1372年(文中１・応安５)の間になる。ある人物が庭園に現われた老翁に聴問する



ツクバネウツギ



ツ　ゲ

という形で，連歌の普遍性，歴史，政治や宗教との関係，けいこ・興行の心得，発句(ほっく)などの詠法，真実の風体，式目などを説いている。連歌の基礎的理論を明らかにして，連歌の権威を高めようとしたもの。

つくみ【津久見(市)】大分県南東部の市。人口32,000。大正期以降周辺山地から産出する石灰岩を原料としてセメント工業が興り，1951年(昭和26)市制施行。市域は豊後(ぶんご)水道のリアス式海岸に臨み，中心市街は津久見湾頭の小平地に発達する。産業三大別人口比は22：35：43。小野田セメントが経営する二つの工場はわが国最大の規模をもち，セメントの月産は18万tに達する。山地斜面には明治後期からミカン園が開発され，良質の〈津久見ミカン〉を豊富に産し，市域内には県立柑橘(かんきつ)試験所やかんづめ工場がある。津久見港は1949年(昭和24)に開港場に指定され，セメントやミカンのかんづめの輸移出が多く，東九州唯一の貿易港となる。日豊(にっぽう)本線・国道217号線が通ずる。樹齢800年と推定される〈尾崎小ミカン先祖木〉は，津久見ミカンの原木といわれて天然記念物に指定され，史跡にキリシタン大名大友宗麟(そうりん)の墓地がある。

つぐみ【鶫】①鳥類・ヒタキ科。全長22～25cm，上面はかっ色，のどは膚色，胸腹部は地色が白色で黒色の横帯と斑点(はんてん)がある。秋にシベリア方面から大群で渡来し，多数が越冬する。ハチジョウツグミはツグミの一亜種(学者によっては別種とする)で，ツグミに似るが特に尾羽と胸腹部の赤みが濃いのが違いの一つであり，少数が冬鳥として渡来する。ツグミは秋に渡来したころは，おもに山地に残っている各種の樹果を食うが，冬を迎えて山地の食物が減少し，かつ寒冷になると，平地の田畑に降りてきて，おもに地上で採食する。かつては，毎年数百ないし数千万羽ものツグミがかすみ網で捕えられ，減少の一途をたどった。②ヒタキ科のうちツグミ亜科の総称。特にその中でも全長20cmを越えるものをさすことが多い。ツグミ類は全世界に約300種が分布し，一般に地上採餌(さいじ)性でこん虫やミミズを主食とし，ツグミに代表される大形のものとコマドリに代表される小形のものに分けられる。〔浦本昌紀・安部直哉〕

つくもじま【九十九島】長崎県の東端島原市の東方海上に浮かぶ島嶼(とうしょ)群。鳶(とび)島・繁(しげ)島・平(ひら)島・亀(かめ)島・兎(うさぎ)島・竜宮(りゅうぐう)島などがあるが，すべて小さな無人島である。島原の市街の背後にある眉山(まゆやま・びざん)(819ｍ)が1792年(寛政４)に爆発して海中に放出(ほうしゅつ)した火山砕屑(さいせつ)物の堆積(たいせき)によってできたもので，波食のために消失寸前のものもある。それぞれ趣きのある形をした島島にはマツが茂り，風光が美しく，〈島原松島〉と呼ばれている。島原市の秩父ケ浦(ちちぶがうら)海岸からの眺めがよい。なお，長崎県佐世保市の沖合にある九十九島*(くじゅうくしま)とは別。〔浅井得一〕

つぐら　⇨いずめ

つくりえ【作絵】大和絵(やまとえ)画法の一。墨の下描きの上に，金銀泥(きんぎんでい)や濃彩な岩絵具などの顔料を厚く塗り重ねて，色彩効果を上げる方法，またはそれによってつくられた絵。白描画*に対するもので，きわめて装飾的要素が強い。平安時代に栄えた。《源氏物語絵巻*》《平家納経*》《扇面写経下絵》などがその例である。

つくりたけ　⇨マッシュルーム

つくりもの【作り物】必要最小限に簡素化された能の舞台装置。演能のたびにつくられ，後見*によって出し入れされる。竹を主材とし，〈ぼうじ〉とよばれる白い細布を巻いてつくるのが普通。牛車(ぎっしゃ)・船・宮殿・庵(いおり)・立ち木・山(塚(つか)・朽ち木・洞窟(どうくつ)も同形)・鐘楼(しょうろう)・井筒・輿(こし)・砧(きぬた)など。人物を静止の状態で登場させる場合，演技にぜひ必要な場合，境界を明示する場合などに限って用いられる。《船弁慶》の船は間狂言(あいきょうげん)の船頭によって持ち出されて前場と後場をあざやかに変え，《道成寺》の実物大の鐘は，舞い狂ったシテがその下に飛び込むのと同時に舞台に落下するなど，ダイナミックな用法もある。シテが作り物の中で扮装(ふんそう)を変え，後ジテとして再登場する例も多い。なお，狂言では作り物を用いることが少ない。〔増田正造〕

つげ【黄楊】双子葉植物・ツゲ科。暖地の山地，特に石灰岩地や蛇紋(じゃもん)岩地に自生する常緑小低木であるが，庭木・生垣

(いけがき)などにも用いられる。高さ1～3mに達し，多数の枝を出す。小枝は四角形，葉は倒卵形から長楕円(ちょうだえん)形で，長さ1.5～2.5cm，幅0.7～1.3cm，表面に光沢があり，厚い。3～4月，枝先および葉腋(ようえき)に淡黄色の花が集まって咲く。中央に1個の雌花，周囲に多数の雄花がある。果実は10月ごろ，かっ色に熟して3片に裂け，各片には2個の黒色の種子がある。材は黄色でかたく緻密(ちみつ)であり，くし・彫刻材・印鑑材などに用いられる。〔加藤僖重〕

つげ【柘植】 三重県北西部，伊賀(いが)盆地の北東部にあり，阿山(あやま)郡伊賀町に属する地区。柘は山桑を意味し，《天武紀》に積殖(つみえ)，《和名抄》に柘植郷とある古い集落で，また，松尾芭蕉(ばしょう)の生地といわれる。1890年(明治23)四日市(よっかいち)から関西鉄道(いまの関西本線)が通じ，その終着駅として駅前町が発展し，その後，関西本線から草津線が分岐して交通の要地となった。1942年(昭和17)町制施行，1959年春日(かすが)村と合併して伊賀町となった。塗料・工芸ガラスなどの大工場が建ち，国道25号線(名阪国道)のインターチェンジがある。

つけあい【付合】 連歌・俳諧(はいかい)の用語。相互に独立した5・7・5の長句と7・7の短句とを交互につけ連ねること。先の句を前句，これにつける句を付句といい，つけ方は縁語による詞付(ことばづけ)，意味による心付，情趣による匂付(においづけ)の3種に大別される。狭義には，〈梅一鶯(うぐいす)〉など詞付における縁語関係をいうこともある。

つけさげ【付け下げ】 付け下げ小紋の略で，女性の長着の模様の一種。仕立て上がったとき，肩山・そで山を中心にして前後の模様が逆にならず，すべて正しい向きになるように型染めしたもの。絵羽模様の訪問着より略装で，絵羽とは違い，背縫い・わき縫い・おくみつけなどで模様が絵画のように続いていない。なお近年は紋織りにも付け下げ模様がある。また，付け下げ絵羽といって，縫い目で模様が続くものもある。〔堀越すみ〕

つけな【漬菜】 アブラナ科の菜類のうち，キャベツ類・カラシナ類・結球ハクサイを除いたものの総称。もともと地中海沿岸地方に分布していたものが多いが，ヨーロッパではキャベツ類が発達して利用が盛んになり，つけ菜類はむしろアジア地域，特に中国で発達した。わが国にも非常に古くから導入されている。つけ菜類は染色体が同じで，互いに交雑するため，多種多様な種類が成立し，長い間に各地にそれぞれ特徴のあるつけ菜が土着するようになった。葉の形は多種多様であるが，一般に味はカラシナ類のような辛味はなく，淡泊なものが多く，冷涼な気候を好み，春に抽薹(ちゅうだい)開花するという性質は共通である。関東のコマツナ，葉のきわめて細長い京都のキョウナ・ミブナ，関西のシャクシナ，長崎の



付け下げ　付け下げ絵羽

長崎ハクサイ，大阪のシロナ，広島のヒロシマナ，山形のユキナなどはいずれもつけ菜の代表的な品種である。このほか各地に土着の品種が多く長野のノザワナなどが有名である。つけ物に利用することが多い。〔松本正雄〕

つけもの【漬け物】 おもに野菜類を食塩・みそ・しょうゆ・酒粕(さけかす)・酢などでつけたもの。野菜貯蔵法の一。多くの種類があるが，大部分は食塩を用いる。つけものの名は奈良時代からみられ，奈良・平安時代には酢づけ・塩づけ・醬(ひしお)づけ(みそづけ)・粕づけの4種類があり，材料はウリ・ナス・ダイコンのほか野山に自生する植物が用いられた。室町時代には茶の湯の流行とともに懐石に取り入れられた。その後，材料・つけ方とも種類を増し，現在では塩・粕・糠(ぬか)・みそ・麴(こうじ)・辛子(からし)・酢・もろみ・みりん・砂糖などのつけものがあり，材料には従来の野菜以外に魚・肉・卵・豆腐やカリフラワー・アスパラガスなどの西洋野菜も用いられる。つけものの効用には，味覚を刺激して食欲を増進させ，繊維質は便秘を防ぎ，酵素によって消化を助け，ミネラルを多く含むので，血液のアルカリ性を保持するのに役だつことなどがある。

各地特産のつけものには，会津若松(福島県)の三五八(さごはち)づけ(みがきにしんや野菜のこうじづけ)，東京のべったらづけ(浅づけ)，京都の千枚づけ・すぐきづけ・しばづけ，奈良の奈良づけ，鹿児島の高菜づけなど，多くの種類があり，たくあんづけのように全国でつくられるものもある。また外国ではヨーロッパふうのピクルス，朝鮮のキムチ，中国の搾菜(チャーツァイ)・皮蛋(ピータン)・糟肉(ツァオロウ)(豚肉の粕づけ)などが日本でも知られている。なおつけものを〈香のもの・香々〉などとよぶのは，室町時代に香を聞くときに用いたことや，みその別名を香といい，みそづけを香のものとよんだことなどによるものといわれる。〔塩川ふみ〕

つじうら【辻占】 道辻や道祖神の祭場などにたたずみ，通行人のことばを神意と解する占いをいう。辻占の名は《古事記》《日本書紀》をはじめ，記録類に鹿占(しかうら)・亀占(かめうら)・夕占(ゆうけ)・琴占・歌占・水占・鳥占・石占・橋占などと並んでみられる。辻占ということから行路の神の道祖神と結びつき，つげ(《嬉遊笑覧(きゆうしょうらん)》には告げに通ずると記されている。)のくしを持って通行人のことばで占うという方式も生まれた。近世では，紙に吉凶の文句を書いたものを売り歩く辻占売りも現われた。〔直江広治〕

つじじゅん【辻潤】 (1884～1944) 評論家。東京都出身。国民英学会，アテネ-フランセなどで語学を修め，上野高等女学校で教鞭(きょうべん)をとったが，教え子の伊藤野枝(いとうのえ)と恋愛事件を起こして退職。1914年(大正3)ロンブローゾの《天才論》を翻訳刊行し，引き続き文筆生活にはいった。高橋新吉を知ってからダダイスム(→ダダ)に没入し，東洋的なニヒリズムにも接近した。1928年(昭和3)読売新聞社の特派員として渡仏したが，帰朝後一時発狂した。野枝が大杉(おおすぎ)栄のもとに走ってからは尺八を携えて放浪生活を続け，第2次世界大戦中に窮死した。著書に《浮浪漫語》《ですぺら》《痴人の独語》などがある。〔高崎徳次〕

つじばん【辻番】 江戸時代，江戸市中の武家屋敷の辻々に大名・旗本(はたもと)が自警のために設けて維持した番所。町方で維持したものは自身番という。辻斬(ぎ)りの流行により，1629年(寛永6)その防止のために設けたのが初め。幕府の維持によるものを公儀辻番といい，初期には87か所あり，享保(きょうほう)年間(1716～1735)以後は町人請負で10か所あった。大名一家だけで維持するものを一手持辻番といい，後期には229か所あり，きわめて厳格に職務が履行され，町人請負は禁止された。大名や旗本が維持するものは組合辻番または寄合辻番といい，609か所あり，町人の請負が許された。辻番には昼夜4・5名の番人が詰めて，変死・捨て子・けんかなどの変事に備えた。〔岡山泰四〕

つしま【対馬(国)】 長崎県の北方海上にある島嶼(とうしょ)の旧国名。対州。西海道に属する。九州と朝鮮の間にあり，海上交通の要地として早く《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》にもその名が見える。天智(てんち)朝には防人(さきもり)と烽(とぶひ)(外寇(がいこう)などの場合，昼は煙，夜は火を上げて急を告げる施設)を置き，次いで金田城を築いて九州防衛の第一線とした。律令(りつりょう)時代には上県(かみあがた)・下(しも)県の2郡を置いたが，現在も同じ。国府・国分寺はともに下県郡厳原(いずはら)町。11世紀には刀伊(とい)，13世紀には蒙古(もうこ)，15世紀には李(り)氏朝鮮などの侵入を受けた。鎌倉時代には大宰少弐(だざいのしょうに)武藤氏，室町時代には宗氏が守護を世襲

した。宗氏は対朝鮮貿易を独占し，江戸時代になってもその特権を保持し，参勤交代は3年に一度とされた。明治以後厳原県より伊万里(いまり)県・佐賀県・三潴(みずま)県を経て，1876年(明治9)長崎県に編入されて今日に至る。〔鴜　弘道〕

つしま　【津島(市)】 愛知県西部，三重県境に近い市。人口60,000。尾張(おわり)三大社の一つ津島神社の鳥居前町として栄え，江戸時代は東海道の脇(わき)往還佐屋路に沿う宿場町であった。市域は濃尾(のうび)平野の西部，木曾(きそ)川の三角州東岸に位置し，産業三大別人口比は7：42：51。明治末期以来繊維工業が興って，尾西(びさい)機業地帯の一翼をなす〈毛織物の町〉として発展した。約500の工場があり，カシミヤ・ギャバジン・サージなどの生産が多い。レンコンをはじめ近郊野菜の栽培も盛んである。名古屋(なごや)との間に名古屋鉄道津島線が通じ，一宮市とは同尾西線・国道155号線などで結ばれる。

つしま　【津島(町)】 愛媛県北宇和郡の町。人口17,000。県の南西部，宇和海の湾頭にある。1955年(昭和30)岩松を中心に5村が合併して発足。沿岸部は真珠養殖を主とする漁業があり，内陸部は林業が盛んである。国道56号線が通ずる。

つしま　【対馬】 長崎県に属し，対馬下島と対馬上島およびその属島からなる島嶼(とうしょ)群。面積709km²。北にある下島(435km²)と南にある上島(247km²)は，浅茅(あそう)湾によって隔てられ，東部の万関瀬戸に万関橋がかけられている。行政上，下島は上県(かみあがた)郡で，上県・上対馬・峰の3町，上島は下県郡で，厳原(いずはら)・美津島(みつしま)・豊玉(とよたま)の3町に分かれ，6町合わせた人口は51,000である。厳原に対馬支庁がある。

対馬は朝鮮半島の釜山(ふざん)まで，朝鮮海峡を隔てて50kmの位置にあるため，壱岐(いき)(長崎県)とともに，昔から大陸との交渉が深かった。鎌倉時代以来宗氏が全島を支配して朝鮮貿易を独占し，江戸時代には幕府から朝鮮との外交・貿易の全権を与えられ十万石の大名の格式を許された。

地形は南北に長く，下島北端から上島の神崎まで73km，東西は最も幅の広い浅茅湾付近で18kmである。壮年期の山地が大部分を占め，山頂部は比較的平らであるが，山腹は険しい。最高点は上島の矢立山(649m)であるが，下島から上島にかけては分水嶺(ぶんすいれい)が東にかたより，河川は西流して，流域に耕地が開ける。海岸は典型的なリアス式海岸で，浅茅湾には溺れ谷が発達している。厳原町の年平均気温は15.1℃，年降水量2,128mmで，対馬海流の影響を受けて温暖である。山がちの地形のうえに，元寇(げんこう)以後対外防備のためにわざと道路をつけなかったこと，明治になって全島が要塞(ようさい)地帯にはいったことなどのために開

対　馬　空から見た厳原の市街と港。上島の東岸にあって，本土からの定期船が通う対馬の玄関口である。古い史跡も多い



発が遅れ，交通と運輸は小形の対州馬にたよってきたが，最近は縦貫道路や林道の建設が進んでいる。麦・サツマイモ・ジャガイモなどの畑作が主で，アワ・ソバ・ダイズなどの焼畑耕作も行なわれる。林業は薪炭の供給が主であるが，最近は植林に力を注いでいる。付近は好漁場であるが，島外資本が進出しており，島民はイカ漁業などを主とし，最近は養殖真珠も行なわれている。厳原町にある対州鉱山は鉛・亜鉛・銀の日本有数の産地で，東邦亜鉛が経営し，鉱石の一部は群馬県安中へ送られる。

壱岐対馬国定公園の一部で，リアス式海岸と山間峡谷の風光がすぐれ，雑木林の紅葉も美しい。旧城下町厳原をはじめ歴史的な遺跡も多く，俵物小屋とよばれる農家の高床式倉庫も珍しい。ツシマヤマネコは対馬から朝鮮・中国東北部へかけてすむベンガルヤマネコの一亜種で，国内ではここにだけ少数がみられる。また，キタタキ(大形のキツツキ)は特別天然記念物に指定されているが，最近はその絶滅が危惧されている。このほかツシマテン・コウライキジも生息する。

行政上は長崎県に属しているが，壱岐とともに福岡県の経済圏に含まれ，交通も主として福岡県との間に行なわれている。厳原〜博多(はかた)，比田勝〜下関(しものせき)の定期航路があり，また厳原に空港があるが，定期航空路は開かれていない。厳原を通じて韓国(かんこく)との貿易も行なわれている。〔浅井得一〕

つしまかいきょう　【対馬海峡】 九州と朝鮮半島との間の水域で，日本海と東シナ海とを結ぶ。中央の対馬で二分され，対馬と壱岐(いき)島との間を東水道，対馬と朝鮮南岸との間を西水道といい，前者を狭義の対馬海峡，後者を一般に朝鮮海峡という。東水道は対馬上島南端の神崎(こうざき)と壱岐島北端の辰(たつ)ノ島との間48kmを最狭とし，最深131m，西水道は対馬下島と朝鮮半島南東の釜山(ふざん)との間およそ50km，最深は対馬北端の沖合で228m。九州西岸を北上する対馬海流は済州島南東方あたりから対馬南端に至り，主力は西水道を1〜1.5ノット，夏の最大流速3ノットで日本海に出るが，分流は東水道を0.5〜1ノットで玄界灘(げんかいなだ)へ抜け，冬には東流がきわめて微弱となる。〔山口恵一郎〕

つしまかいりゅう　【対馬海流】 黒潮(日本海流)の分流。暖流。沖縄島北部で本流と分かれ，東北に進んで五島列島から対馬海峡を通り，日本海にはいる。日本海中央部に向かう流れもあるが，主流は日本列島北西岸沿いに北上し，サハリン(樺太(からふと))西岸に至る。小分流が津軽海峡から太平洋へ，また宗谷海峡からオホーツク海へ出る。沿岸の気候や水産業に影響の大きい海流で，日本近海では好漁場が多く，サハリン西岸は不凍港になっている。〔長津一郎〕

つしまじけん　【対馬事件】 1861年(文久1)3月，ロシアの軍艦ポサドニック号が対馬の芋崎浦(いもざきうら)に来航し，長期間停泊して施設を設営した事件。対馬は黄海・日本海を制圧する戦略上の要地であるため，ロシア・イギリス・フランスが占拠をねらっていた。対馬藩はロシアの芋崎永久租借の要求を拒絶しつづけ，下層藩士・島民はゲリラ的抵抗で施設の設営を妨害した。イギリスもロシアの行動に抗議し，東インド艦隊を派遣して退去を要求したため，8月ポサドニック号はついに退去した。〔松尾　涼〕

つしまはん　【対馬藩】 江戸時代に対馬(長崎県)を領有した藩。府中藩ともいう。藩主宗氏。外様(とざま)大名。宗氏は鎌倉時代から島主として土着し，義成の代には文禄(ぶんろく)・慶長の役による朝鮮との国交断絶を修復した。しかし朝鮮外交の立役者であった家臣柳川(やながわ)調興と義成との対立は〈柳川一件〉となったが，調興の失脚により宗氏の勢力は安定した。幕府から対朝鮮外交貿易の全権を与えられ，格式は十万石を許されたが，実質は二〜三万石程度で幕府の援助を受けていたこともあった。藩士は馬回り・大小姓・徒士(かち)の3身分に分かれ，全島は府中と八つの郷に分かれた。また他藩にみられない兵農一致や奴婢(ぬひ)制な

どの古制を残していた。廃藩置県前に厳原(いずはら)藩と改称し，次いで厳原県・伊万里(いまり)県・佐賀県を経て，三瀦(みずま)県に合併，次いで長崎県に属した。〔岡山泰四〕

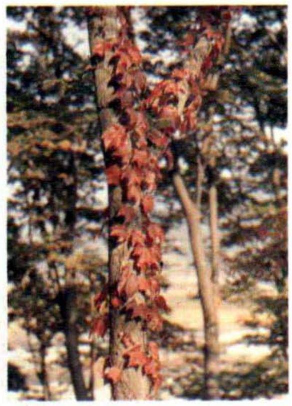
つじよじろう【辻与次郎】生没年未詳。桃山期の釜師(かまし)。名は実久，法名一旦(いったん)。近江(おうみ)(滋賀県)栗多(くりた)郡高野庄(しょう)辻村に生まれ，京都に出て三条の釜師西村道仁*の弟子(でし)となり，千利休の釜形をはじめて鋳た人とも伝える。利休好みで文様のない《阿弥陀堂(あみだどう)釜》《雲龍(うんりゅう)釜》《四方釜》の3種を多くつくっているが，銘をとどめるものはほとんどなく，与次郎の手になったとする確証はない。むしろ燈籠(とうろう)・梵鐘(ぼんしょう)・鰐口(わにぐち)などに銘を残し，作域の広かったことをうかがわせる。

ツーソン［Tucson］アメリカ合衆国アリゾナ州南部の都市で人口29万6,000(1975)。サンタクルーズ川に臨み，同州ではフェニックスに次いで大きい。1822年以来メキシコの砦(とりで)であったが，1853年，J. ガドゥデンが買収して合衆国領となった。ウシとワタの集散，および航空機工業・銅鉱業が行なわれている。けしきの美しい避寒地で，州立大学もある。

つた【蔦】双子葉植物・ブドウ科。ナツヅタともいう。山野の日あたりのよいところに自生する落葉性のつる植物で，気根や吸盤で他の樹木や岩の上などにはりつく。葉は掌状に3裂するか深裂して3出複葉となり，長い柄で互生する。葉と吸盤をもつ巻きひげが対生している。秋，紅葉する。6～7月，淡緑色の小さな5弁花を穂状に短枝の先につける。果実は紫黒色のブドウに似た漿果(しょうか)で，直径5～7mm。はち植え・盆栽に利用され，また家の外壁や塀(へい)などにはわせて観賞される。

つだうめこ【津田梅子】(1864～1929)津田塾(つだじゅく)大学*の創立者で，女子教育の開拓者。洋学界の先覚者津田仙(せん)(1837～1908)の次女として江戸に生まれ，1871年(明治4)8歳で北海道開拓使留学生として渡米。1882年帰国後は華族女学校(女子学習院の前身)の英語教師となり，1889～1892年再度渡米して教育学・生物学などを学び，1898年女子高等師範学校(お茶の水女子大学の前身)教授を兼務。これらの経験を生かし，英語によって国際的知見を広め，かつ英語教師の養成を目的とした女子英学塾(→津田塾大学)を創立した。〔河口道朗〕

つたうるし【蔦漆】双子葉植物・ウルシ科。山地に自生する落葉つる性の木本植物。茎から付着気根を出して他の樹木や岩上をはい上がる。葉は3小葉からなる複葉で，各小葉は卵形で長さ5～15cm，幅3～8cm，葉柄(ようへい)は長さ3～6cm，鋸歯(きょし)は普通ないが，若葉にはあらい鋸歯がある。秋に紅葉する。雌雄異株で，5～6月葉腋(ようえき)から短い円錐(えんすい)花序を出し



ツタ 紅葉



ツタンカーメン〈王家の谷〉から発掘された黄金のマスク カイロ美術館蔵

て小さな淡緑色の5弁花をつける。果実は淡黄色，球形の石果で長さ5～6mmある。枝や葉を傷つけると樹液を分泌し，これに触れるとウルシと同様にかぶれる。

つたおんせん【蔦温泉】青森県上北郡十和田(とわだ)町にあり，泉温48～55℃，泉質は単純泉で，皮膚病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。赤倉岳の東麓(とうろく)標高480mの地点にあり，ブナの樹林に囲まれた閑静な山の温泉で，十和田八幡平(はちまんたい)国立公園に含まれている。明治の文学者大町桂月(けいげつ)が好んだ所で，近くにその墓がある。付近の林の中に蔦沼・長沼・重沼などの美しい小沼がある。交通は青森駅から国鉄バスの便がある。〔木村東一郎〕

つだじゅくだいがく【津田塾大学】私立女子大学。1900年(明治33)，津田梅子*によって設立された女子英学塾に始まる。1904年専門学校に昇格，1933年(昭和8)津田英学塾となり，1943年理科を加えて津田塾専門学校となる。1949年新制大学として発足。現在，学芸学部に英文・数学科が設けられ，大学院(文学・理学の研究科)がある。学風はキリスト教の主旨によって創設された伝統を守り，堅実で自主的なことで知られる。本部は東京都小平市津田町1491番地。

つだそうきち【津田左右吉】(1873～1961)歴史学者。岐阜県出身。1891年(明治24)東京専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)卒業後，東洋協会学術調査部の研究部員として歴史・地理研究のため満州・朝鮮に渡った。1919年(大正8)早大教授。1913年《神代史の新しい研究》を発表し，続いて《文学に現はれたる我が国民思想の研究》《古事記及(および)日本書紀の研究》《日本上代史研究》を公刊したが，1939年(昭和14)右翼はこれらの古代史研究書を不敬であると攻撃したため，翌年4著書は発禁となり，1942年皇室の尊厳を傷つけたかどで起訴され，有罪となった。当時，天皇制*のもとでの科学的歴史研究は困難であったが，彼はその冷徹な史料批判と鋭利な思想史分析法をもって，天皇制思想の中核をなす神代神話の政治性を立証したのである。なお，中国史関係の著書には《道家の思想と其(そ)の展開》(1927)《左伝の思想史的研究》(1935)などがある。〔安達利夫〕

つだそうぎゅう【津田宗及】(？～1591)近世初期における堺(さかい)の豪商・茶人。幼名助五郎。代々その屋号を天王寺屋と称した。父の宗達も茶人として有名。早くから参禅して天信の道号を受け，また幽更斎と号した。織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え，茶の湯では千利休*・今井宗久と並び称された。1587年(天正15)北野大茶湯*では利休・宗久とともに茶事を主管した。《津田宗及茶湯日記》は茶道史上重要な記録となっている。〔高崎徳次〕

つだぬま【津田沼】千葉県北西部，習志野(ならしの)市の中心地区。江戸時代は市場町，明治中期以後は総武線や京成電鉄・新京成電鉄などが集まる交通の要地として発展した。1967年(昭和42)は約4,000世帯を収容する大規模な団地がつくられた。行楽客を集める谷津(やつ)遊園がある。

つたもみじうつのやとうげ【蔦紅葉宇都谷峠】歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《文弥(ぶんや)殺し》《宇都谷峠》。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)作。1856年(安政3)市村座初演。作者が名優4世市川小団次*と提携した最初の世話物として有名。主家に尽くすため宇都谷峠で座頭の文弥を殺して金を奪った伊丹屋重兵衛(いたみやじゅうべえ)が，悪党提婆(だいば)の仁三(にさ)にゆすられ，文弥の亡霊にも悩まされるという筋。

つたやじゅうざぶろう【蔦屋重三郎】(1748～1797)江戸後期の書籍出版商・狂歌師・黄表紙*作者。江戸吉原(よしわら)で書店を始め，吉原細見・黄表紙・洒落本*(しゃれぼん)を出版，のち日本橋に店を移して有数の地本*問屋となった。よく戯作者(げさくしゃ)・文人のめんどうを見，十返舎一九*・滝沢馬琴*らもその食客だったことがある。狂歌・黄表紙は他人の代作で見るべきものはないが，多くの戯作者と意を通じ，江戸後期文芸の隆盛に寄与した功績は大きい。

ツタンカーメン［Tutankhamen］(BC1356ごろ～BC1338ごろ)古代エジプト第18王朝末の王。トゥトアンクアメンともいう。在位BC1347ごろ～BC1338年ごろ。アモン*信仰の復興者。宗教改革者イクナートン*の跡を継いで9歳で即位，18歳で早逝(そうせい)するまで国政の実権は〈神父〉アイと将

軍ホルエムヘブの手中にあった。治世の初めはアトン信仰を保持したが，のちアモン信仰に復帰し，王名をツタンカーテン(トゥトアンクアテン)からツタンカーメンに改め，都をアマルナからメンフィスに移し，イクナートン時代の内政の乱れの克服に努めた。しかしアジアの植民地の大部分はヒッタイト王シュピルリウマシュの進出の前に失われたままであった。西テーベの〈王家の谷*〉に葬られた王墓は1922年カーター*らによって発見され，盗掘の被害をほとんどこうむらなかった唯一の王墓として，その豪華な副葬品とともに世界的な注目を浴びた。〔屋形禎亮〕

つち【土】長塚節*(ながつかたかし)の長編小説。1910年(明治43)6月から12月まで《東京朝日新聞》に連載。作者の故郷である鬼怒(きぬ)川沿岸の農村の自然や年中行事を背景に，貧農一家の生活を克明に描いたもの。〈迷信が強くて，無邪気で，狡猾(こうかつ)〉(夏目漱石*(そうせき))な農民の，自然の力に忍従する陰鬱(いんうつ)な生活を，重厚精緻(せいち)な写生文に写して，農民文学*の典型とされる。

つちいっき【土一揆】〈どいっき〉ともいう。土民の団結という意味で，室町中期に盛行した農民の一揆*。土民とは上層階級が卑しんで用いた呼称で，下級武士を含めた民衆を意味した。大名*領国制と荘園*(しょうえん)制の二重支配や，酒屋*・土倉*などの高利貸的収奪に反抗する未曾有(みぞう)の農民闘争となった。地域的には貨幣経済の進展する畿内(きない)先進地域とその周辺に多くみられた。この地域では，小農層の成長に伴って各村落とも惣*(そう)の結合が進み，在地土豪を中核とする自治的な組織を形成していた。土一揆はこれら土豪に指導され，荘園制のわくを越えた多数の村落が連合して，目的貫徹のため，集団化した農民のエネルギーを爆発させた。最初の大規模な土一揆は，1428年(正長1)近江(おうみ)(滋賀県)坂本の馬借によって起こされ(→馬借一揆)，それに京都近郊の農民も加わって徳政*令を要求し，京都の酒屋・土倉・社寺を襲う徳政一揆が起こった。応仁(おうにん)の乱*に至るまではしばしば土一揆の蜂起(ほうき)をみたが，幕府が無力であったため，酒屋・土倉は傭兵(ようへい)をもって自衛しなければならなかった。これら一揆を指導した土豪の中には，守護大名*に従って在地の荘官・代官*になっていた者も多く，やがて彼らは一揆を利用して，守護*の支配を排除しようとするようになった。土豪は国人・国衆*などとよばれていたので，このような土一揆を国一揆*といった。国一揆は内部に土豪層と一般農民の分裂，土豪間の抗争を抱きながらも，果敢に大名勢力に挑戦した。しかし本願寺の一向一揆*を最後にして，織田信長*(のぶなが)ら近世封建覇者(はしゃ)の前に屈服した。〔高崎徳次〕

つちいれ【土入れ】オオムギ栽培で，



ツチガエル



土蜘蛛　後ジテが作り物に張りめぐらされた巣を破って糸を投げかける型を演じたもの。シテは梅若万紀夫

節間伸長時期(秋まきで2月末から3月下旬)ごろに，2～3回条間の土を細かくして株間に入れ，茎間を広げて通風・採光を図る作業。

つちうら【土浦(市)】茨城県南部の市。人口11万0,000。中世に平将門(まさかど)が築城後城下町として発展し，江戸時代には土屋氏が九万五千石を領し，陸前浜街道と霞ケ浦(かすみがうら)に沿う水陸交通の要地として栄えた。1896年(明治29)常磐(じょうばん)線が通じて市街地は東へ延び，1920年(大正9)隣接の阿見町に海軍航空隊が設置されてから軍都として発展し，予科練(海軍飛行予科練習生)の発祥地として知られる。1940年(昭和15)新治(にいはり)郡土浦町と真鍋町が合併して，市制施行。市域は霞ケ浦の西岸，桜川河口に沿い，産業三大別人口比は10：30：60。周辺の農産物や水産物を集散し，水郷情緒豊かな帆引き網ワカサギ漁がよく知られる。食品・紡績などの工場のほか，最近は日立製作所などの大工場ができ県下では日立・勝田に次ぐ工業都市となっている。常磐線が電化して都心へ90分で通じ，国道6号線も走って，東京の衛星住宅都市の性格を強めている。関東鉄道筑波(つくば)線や国鉄の電車・バス・水郷汽船なども発着して，水郷筑波国定公園の観光基地となり，桜川堤のサクラの花見，秋の全国花火競技大会などの行事も知られる。

つちがえる【土蛙】両生類・ツチガエル科。本州・四国・九州・朝鮮に分布し，平地の池や小川などにすみ，岸辺の土のくぼみなどに多くみられる。体は暗かっ色で，多数のいぼ状の隆起がある。産卵は5～8月ごろで，水田や水たまりの水草に30～60個の卵からなる卵塊を産みつける。幼生はあまり成育しないまま越冬し，翌年の夏に変態を終える。雄にも鳴嚢(めいのう)がない。

つちかめむし【土亀虫】こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・ツチカメムシ科の一種あるいはツチカメムシ科の総称。体長10mm内外。体は楕円(だえん)形で，光沢のある真黒色またはややかっ色をおびる。前翅の膜質部は淡黄色で透明。本州・四国・九州に分布する普通種で土中に生活する。

ツチカメムシ科は世界に広く分布する一群で，特に熱帯地方に多産する。体の大きさは2～18mm。土中や植物の根ぎわなどに生活する種類が多く，黒色ないしかっ色の種類が多い。日本にも約15種類が知られ，ツチカメムシのほか，ヨコヅナツチカメムシ・マルツチカメムシ・ヒメツチカメムシ・チビツチカメムシなどが代表的な種類である。

つちくじら【槌鯨】哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・アカボウクジラ科。体長12.8mほど，全身黒色で，青みをおびるものもある。北太平洋に分布するハクジラ類の一種で，おもにイカ類や底生魚類を食べる。深く潜水し，1時間ほどもぐりつづけることも珍しくない。➔クジラ

つちぐも【土蜘蛛】古代において大和(やまと)朝廷から異民族とみられた集団に対する蔑称。穴居生活者の称と思われ，山佐伯(やまのさえき)・野佐伯・国栖(くず)・八束脛(やつかはぎ)なども同様の集団であろう。その系統については諸説があって，要は大和朝廷に抵抗した不服従集団で，特定の人種ではないと考えられる。《日本書紀》および《風土記(ふどき)》にみえるが，やがて朝廷に服従して各地に定住し農耕民となったらしく，しだいに史上から姿を消した。〔黛　弘道〕

つちぐも【土蜘・土蜘蛛】

1能の曲名。作者不明。五番目物。源頼光*(よりみつ)が病気になり，典薬寮(医薬をつかさどる官庁)の胡蝶(こちょう)という女に介抱される。胡蝶が去ってのち，不思議な僧が現われて頼光に近づき，いきなりくもの巣を振りかけるので，頼光はまくらもとの刀で切りつける。物音にかけつけた家臣独武者(ひとりむしゃ)が，怪物の残した血の跡をたどっていくと，土の塚(つか)の中から大きな土ぐもの精が現われて多くの糸を投げかけるが，ついに退治して帰る。前ジテは怪僧，後ジテは土ぐもの精。ワキは独武者。ほかに頼光とその太刀持(たちもち)および胡蝶をシテツレが，独武者の従者たちをワキツレがつとめ，間狂言(あいきょうげん)は独武者の家の

者の役。〔長尾一雄〕

2長唄(ながうた)の曲名。長唄では《土蜘》と書く。能の《土蜘蛛》を舞踊化したもの(1881年，3世杵屋(きねや)正次郎作曲)と，常磐津(ときわず)《蜘蛛の糸》を改作したもの(明治維新前後，3世杵屋勘五郎作曲)の2種類がある。筋はいずれも土蜘蛛が，病床にある源頼光を襲おうとして，家臣に退治されるというもの。〔山口　修〕

つちぐり　**【土栗】**　担子菌類・ツチグリ科。ツチガキともいい，山野・路傍などに多く見られるきのこ。若いときには球形でかたい殻(から)に包まれるが，熟すと殻が星形に裂けて丸い袋を露出し，上端の小孔から胞子を出す。星形の殻は湿気を含むと開き，かわくと上向きに巻き込む。

つちこつ　**【槌骨】**　中耳の鼓室腔内(こうない)にある耳小骨の一。➔中耳

つちざき　**【土崎】**　秋田市の北西部，日本海に臨む地区。旧雄物川の河口にある港町で，いまの秋田港にあたる。中世は安東(あんどう)氏(秋田氏)が居城し，北海路上の七湊(みなと)の一つに数えられ,江戸時代は東西回船の寄港地となり，佐竹藩領の米の移出，衣料や雑貨の移入などで栄えた。明治以降は土崎湊町となり，1941年(昭和16)秋田市に編入された。秋田湾新産業都市の中核として港の整備拡張計画が進められ，1971年15,000t岸壁が完成した。付近には日本石油の秋田製油所をはじめ，石油化学・金属・肥料などの大工場が集まり，硫酸・肥料などを輸出し，機械・木材・原油などを輸入する。奥羽本線・国道7号線が通じる。〔浅井得一〕

つちすがり　**【土棲蜂】**　こん虫類・膜翅(まくし)目・ジガバチ科に属する狩人蜂(かりゅうどばち)の一種。体長7～14mm。体は黒色で，腹部第3節背板の後縁に沿って中央部が凹入(おうにゅう)する顕著な黄色の横斑(おうはん)がある。翅(はね)は透明で，先端部は多少黒色をおび，翅脈は黒色。北海道・本州・九州のほか朝鮮・中国北部・西部アジア・ヨーロッパに広く分布する普通種で，成虫は6～7月ごろ出現して各種の花を訪れる。雌は土中に30cm内外の坑道を掘り，これから分岐する数室をつくり，その中にコハナバチ類を狩って集め，幼虫の食物とする。ツチスガリ類は，ユーラシア大陸に多くの種類が分布し，いずれも他のハチ類や甲虫類などを狩って幼虫の食物とする。日本には本種のほか，ヒメツチスガリ・マルモンツチスガリ・キスジツチスガリ・アカアシツチスガリなど数種が分布している。〔鈴木邦雄〕

つちだきょうそん　**【土田杏村】**　(1891～1934)　哲学者・評論家。新潟県佐渡島の生まれ。画家，麦僊の弟。東京高等師範学校博物学科に学び，さらに1915年(大正4)京都大学哲学科に入り，西田幾多郎*に学ぶ。学生時代に《文明思潮と新哲学》《生物哲学》を出版し，卒業後は個人雑誌《文化》を編集。



ツチグリ



ツチバチ
ハラナガツチバチ



ツチハンミョウ
マルクビツチハンミョウ

哲学・経済学・社会問題・国文学・文学論・日本美術史・日本精神史などにわたって評論活動を続け，西田哲学にも批判的な姿勢を示した。著書《文化主義原論》《新社会学》《日本支那(しな)現代思想研究》《思想問題》《マルクシズム批判》など多数。《社会哲学原論》(1928)は発禁となった。〔中川　誠〕

つちだばくせん　**【土田麦僊】**　(1887～1936)　日本画家。新潟県佐渡の生まれ。本名金一。鈴木松年・竹内栖鳳*(せいほう)に学び，京都市立絵画専門学校を卒業。初期文展に力作を発表して画名をあげ，1918年(大正7)村上華岳・榊原(さかきばら)紫峯らと国画創作協会を創立して活躍した。1921～1923年欧州に留学。1934年帝国美術院会員。画風は初期の写実的なものから装飾的なものへ進み，清新典雅な新画風を開拓した。代表作は《島の女》《湯女》《舞妓林泉(ぶぎりんせん)》など。〔匠　秀夫〕

つちとりもち　**【土鳥黐】**　双子葉植物・ツチトリモチ科。ハイノキ科のシロバイの根に寄生する肉質で葉緑素をもたない多年草。暖地に広く分布する。雌雄異株であるが，雄株は発見されていない。根茎は嚢状(のうじょう)で，高さ7～10cmの花茎を伸ばし，橙赤(とうせき)色の鱗片葉(りんぺんよう)が重なり，先端に赤色で卵状楕円(だえん)形の肉穂花序をつける。根茎をすりつぶして鳥黐をつくるので，この名がある。近縁種のミヤマツチトリモチは，全体がほっそりして赤黄色の花穂をつけ，中部以北の山地に自生する。

つちばち　**【土蜂】**　こん虫類・膜翅(まくし)目・ツチバチ科の総称。比較的大形の種類が多く，大部分の種は全身に金色や黒色の剛毛を密生し，黒色の地に白・黄・橙黄(とうおう)・赤色などの斑紋(はんもん)や帯状紋がある。複眼は大形，触角は短い。脚は短く強く，脛節(けいせつ)は一般に扁平(へんぺい)で長い棘毛(きょくもう)をもつ。翅(はね)は一般に発達しているが，翅脈はいくぶん縮小して外縁まで達しない。成虫はいわゆる狩人(かりゅうど)蜂*で，主としてコガネムシ類の幼虫を探して土中に潜入し，一時的に麻痺(まひ)させたのち，その体表面に産卵する。孵化(ふか)した幼虫はそれを食べて成長し，地中に繭をつくってさなぎとなる。ツチバチ類は全世界から1,000種以上が知られ，特に熱帯地方に多くの種が産する。日本には約10種類が分布し，ハラナガツチバチ・オオハラナガツチバチ・ヒメハラナガツチバチ・キオビツチバチ・オオモンツチバチなどが代表的な種類である。多くの種類がコガネムシ類の天敵で，ヒメハラナガツチバチがマメコガネの天敵として輸出されたことは有名。〔鈴木邦雄〕

つちはんみょう　**【地膽】**　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ツチハンミョウ科・ツチハンミョウ属の総称。全体柔らかく，鞘翅は短く背面で重ね合わされ，後翅は退化していて飛ぶことができない。腹部は非常に大きく，後半部はつねに露出している。体の色彩は青藍(せいらん)色ないし紫藍色のものが多いが，緑色や黒色をおびる種類もある。いわゆる過変態を行なうこん虫として有名である。卵は微小で土中に多数卵塊として産下される。孵化(ふか)した第1齢幼虫は三爪(さんそう)幼虫とよばれ，オサムシ類の幼虫に似て，よく発達した脚と触角と尾毛がある。非常に活発に活動し，野草の花上に群集して土中に造巣するハナバチ類が訪れるのを待ち，ハナバチの体に付着して巣に運ばれ，貯蔵した蜜(みつ)や花粉のほか卵や幼虫などを食べる。短時日で脱皮してコガネムシ型の第2齢幼虫となり，老熟すると巣を脱出して地表近くに土室をつくり，その中で第3期幼虫(擬蛹(ぎよう))・第4期幼虫(ゾウムシ型)・さなぎとなり，晩秋に羽化して脱出するか，あるいはそのまま冬を越して翌春地上に脱出する。成虫はいずれも生植物を食し，しばしば農作物の大害虫となる。また，成虫は捕えられると脚の関節からカンタリジンを含んだ悪臭のある黄色の毒液を出す。ユーラシア大陸および北アメリカに多くの種類が分布し，日本にはマルクビツチハンミョウ・ヒメツチハンミョウ・オオツチハンミョウなど7種が産する。なお，ツチハンミョウ科にはツチハンミョウ類のほか，マメハンミョウ類・ゲンセイ類など

があるが，いずれも過変態を行ないハナバチ類のほか，クマバチ類や各種バッタ類などに寄生する。〔鈴木邦雄〕

つちぶた【土豚】哺乳(ほにゅう)類・管歯目・ツチブタ科。外形はブタに似るが，尾が太く長く，鼻先には毛がはえている。耳は大きい。頭胴長90～120cm，尾長30～50cm，体は灰かっ色ないし暗かっ色。アフリカに分布し，夜行性でシロアリを食べる。

つちふまず【土ふまず】足の裏のくぼんだところ。足の骨の並び方およびそれらの骨の付近の靭帯*(じんたい)によって足の裏にくぼみができている。足の靭帯は，足が全身の重量をうけるに適するように，アーチを形成して重量を分散させているが，靭帯が弱いときはアーチの部分が沈下する。このような場合には，足の裏は平面となって扁平足*(へんぺいそく)とよばれる。アーチをつくる骨は距骨・舟状骨・楔状骨(せつじょうこつ)および中足骨である。〔高野一雄〕

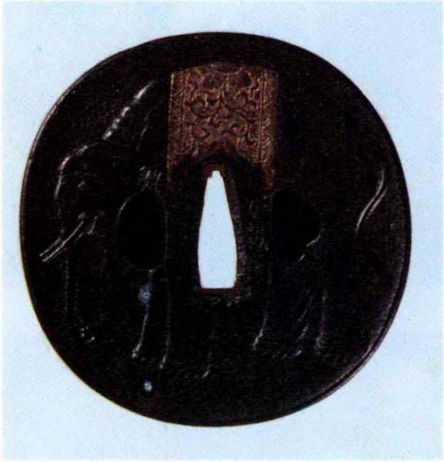
つちみかどけ【土御門家】平安中期以来，天文・陰陽(おんみょう)の両道をもって朝廷に仕えた家柄。本姓は安倍(あべ)。大化の左大臣阿倍倉梯麻呂*(くらはしまろ)10世の孫と称する晴明に始まり，代々天文博士・陰陽頭(おんようのかみ)となり，戦国時代以後はさらに暦術博士を兼ねることとなった。

つちみかどてんのう【土御門天皇】(1195～1231) 在位1198～1210。名は為仁(ためひと)。後鳥羽(ごとば)天皇の第1皇子。母は承明門院源在子。在位中は後鳥羽上皇の院政が行なわれ，16歳のとき上皇の寵愛(ちょうあい)深かった弟の順徳天皇に譲位させられた。承久(じょうきゅう)の乱*に際しては，後鳥羽上皇の討幕計画と無関係のため処分は免れたが，父・弟の配流に伴い，みずから望んで土佐(高知県)に流された。のち阿波(あわ)(徳島県)に移り，配所で没した。陵墓は京都府の金原の陵。〔鹿野賀代子〕

つちやぶんめい【土屋文明】(1890～) 歌人。群馬県の生まれ。中学卒業後上京，伊藤左千夫*(いとうさちお)をたよって，《アララギ*》の同人になる。のち，東京大学哲学科を卒業。はじめ万葉調のリアリズムにあきたらず，清新な叙情性をたたえた歌をよんだが，のちにはきびしいリアリズムに帰り，アララギ派の指導者として活躍する。歌集《ふゆくさ》《往還集》《小安集》などのほか《万葉集私注》全20巻の著がある。

つちややすちか【土屋安親】(1670～1744) 初代鐔工(たんこう)。杉浦(すぎうら)乗意*らと並ぶいわゆる奈良三作のひとり。羽前(山形県)庄内(しょうない)に生まれて正阿弥(しょうあみ)珍久の門にはいり，江戸に出て奈良辰政(たつまさ)に師事した。一時は守山(もりやま)藩に仕えたと伝わる。雅趣に富む鉄鐔が多く，作風は技術精妙と評された。

つちゆおんせん【土湯温泉】福島県福島市にあり，泉温39～99℃，泉質は単純泉・含食塩重曹(じゅうそう)泉で，皮膚病・婦人病・



土屋安親《象図鐔》

リウマチなどにきくといわれる。吾妻(あずま)小富士の東南に位置し，磐梯(ばんだい)朝日国立公園内に含まれる。荒川の渓流(けいりゅう)に沿って旅館が並び，付近には男沼・女沼・思ノ滝などの名所がある。冬もスキーやスケートの客でにぎわう。交通は東北本線福島駅からバスの便がある。

つちよせ【土寄せ】条間の土を作物の根際に寄せかける作業。タバコの栽培，アブラナやムギ類の栽培で出穂開花のまえに行なう。これにより作物の茎の地際の動きを防いで，同時に倒伏を防ぐ。冬作のムギなどで，北風の強いところでは，寒風や強風を防ぐ意味もあり，北側に土寄せを行なう場合がある。軟化栽培*でも行なわれることがある。

つついじゅんけい【筒井順慶】(1549～1584) 安土桃山時代の武将。興福寺一乗院衆徒で大和(やまと)(奈良県)の豪族。幼名は藤勝・藤政(ふじまさ)。1559年(永禄2)松永久秀(まつながひさひで)に敗れ筒井城を追われた。のち織田信長(のぶなが)に属し，1580年(天正8)久秀滅亡ののちには大和を与えられて郡山(こおりやま)城を構築し，明智光秀(あけちみつひで)の与力*となった。1582年山崎の戦い*では光秀にそむき，豊臣秀吉(とよとみひでよし)に属した。〈洞ケ峠(ほらがとうげ)の順慶〉とよばれ，裏切り者の代名詞のようにされているのは，光秀が同所の順慶の陣に行き，その去就を問うたという誤伝から生じたものである。〔松尾　涼〕

ツツイラ(島) ⇨サモア諸島

つつがむし【恙虫】蛛形(ちゅけい)類・ダニ目・ツツガムシ科の総称。幼虫がヒトをはじめおもに脊椎(せきつい)動物に寄生する。世界的に広く分布し，日本には約60種が知られる。幼虫は卵円形で，体長0.2～0.5mm，宿主のリンパ液を吸って満腹すると地上に落ち，脱皮して若虫となる。若虫や成虫は寄生せず，草地や山林内の土中で，こん虫の卵などを食べて生活する。つつがむし病は，幼虫が宿主を刺したときに媒介するリケッチアによって起こる発熱性疾患で，日本をはじめ東南アジア・南西太平洋諸島などで知られる。日本では，古くから秋田・山形・新潟・福島県で知られ，感染後1週間ぐらいすると，刺されたあとがアズキ大の潰瘍(かいよう)になるとともに高熱を発し，全身に赤い発疹(はっしん)ができ，致命率が高いことから恐れられていた。現在では，抗生物質により死者はほとんどない。最近，各地に散在する発熱性疾患のうち，異なったタイプのつつがむし病とされたものがいくつかある。伊豆(いず)七島でみられる七島熱もこの一種で，タテツツガムシが媒介するが，死亡することはない。ツツガムシの駆除には，宿主であるノネズミの駆除，発生地へのクロルデンなどの殺虫剤の散布などを行ない，個人的な刺咬(しこう)防止には，皮膚に忌避剤*を塗る。〔鈴木　猛〕

つつがむしびょう【恙虫病】⇨ツツガムシ

ツックマイヤー［Carl Zuckmayer］(1896～1977) ドイツの劇作家。表現主義*の影響下に演劇活動にはいり，反ファシズムの立場から一時アメリカに亡命，帰国後は主としてスイスに住み文筆活動を続けている。代表作《ケペニック大尉》は軍国主義・官僚制を風刺した戯曲で好評を博した。ほかに喜劇《楽しいぶどう山》など多くの劇作があり，小説にも堅実な才能を示している。

つつじ【躑躅】双子葉植物・ツツジ科の総称。ツツジ類は世界各地に分布するが，東アジア，特に日本に自生が多い。低木で，落葉のものと常緑のものとがある。葉は通常は有毛。花は春から夏に前年枝の先につき，花冠は漏斗状で5裂する。おしべは5～10本で，葯(やく)の先端の小孔が開いて花粉を出す。ツツジの種類は非常に多く，次のように分類される。

〈ツツジ亜属〉①レンゲツツジ節。㋑シベナガツツジ：北アメリカ東部原産の落葉低木。花色は白ないし淡紅で，花期6～7月。㋺レンゲツツジ：本州と四国の一部および九州北部に自生する落葉低木。花は樺色(かばいろ)。花期5月。㋩キバナツツジ：カフカス山脈・シリア・東ヨーロッパ原産の落葉低木。花は黄色で，花期5月。㊁シナレンゲツツジ：中国浙江(せっこう)省の山地原産の落葉低木で，前種に似る。②オンツツジ節。㋑ミツバツツジ：本州中部および関東地方の比較的低い山地原産の落葉低木。花は紅紫色で，花期4月。㋺コバノミツバツツジ：本州中部以西，四国・九州・対馬(つしま)に自生する落葉低木。花は紅紫色で，花期3月下旬から4月上旬。㋩クロフネツツジ：朝鮮・中国原産の落葉低木。花は淡紅色で，花期5月上旬。㊁トウゴクミツバツツジ：北海道日高および本州中北部の高位の山地に自生する落葉低木。花は紅紫色で，花期4月上中旬。㋭オンツツジ：四国・紀伊(きい)半島に自生する落葉低木。花は緋紅(ひこう)色で，花期4月中旬。㋬ツクシアカツツジ：


レンゲツツジ


ミツバツツジ


モチツツジ

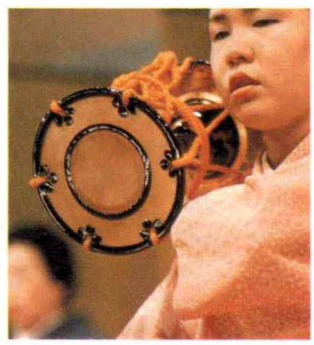

シロバナウンゼンツツジ


ヒカゲツツジ


ゲンカイツツジ

ツ ツ ジ

紀伊半島・四国・九州に自生する落葉低木。花は朱紅色で，花期は4月下旬から5月上旬。③ヤマツツジ節。㋑マルバサツキ：九州西南部・屋久島・沖縄・台湾に自生する常緑低木。花は淡紅ないし淡紫色で，花期6月。㋺ヤマツツジ：北海道中部以南の各地に自生する落葉ないし半常緑低木。花は赤色で，花期5月。㋩ミヤマキリシマ：霧島山・雲仙(うんぜん)岳・阿蘇(あそ)山・久住山など九州の高山に自生する落葉低木で高さ1m以下。花は紅紫色で，花期4月下旬から5月中旬。㋥サツキ：関東以西の川岸などに自生する常緑低木。花は紅色で，花期5～6月。多くの品種がある。㋭モチツツジ：本州中部および四国に自生する落葉低木。花は淡紅紫色で，花期5月。㋬リュウキュウツツジ：常緑低木。花は純白色で，花期5月。㋣キリシマ：ミヤマキリシマとヤマツツジから園芸的に発展した1群と考えられている。葉も花も小さくて，枝端に1～3花をつける。花期4～5月。多数の園芸品種がある。㋠オオムラサキ：園芸上できた1品種で，原種不明。江戸時代から栽培されている。花は大輪で紫紅色ないし白色。花期5月。㋷キシツツジ：中国・四国・九州の山間河岸に自生する常緑低木。花は紅紫色で，花期5月。㋦ケラマツツジ：沖縄原産の常緑低木。花は緋朱色で，花期5月。㋸ウンゼンツツジ：本州中部以西の山地に自生する落葉ないし半常緑低木。花は淡紅紫色で，花期4月中旬。㋾タイワンツツジ：中国・台湾原産の常緑ないし半常緑低木。花は桃色ないし濃紅色で，花期5～6月。㋻フジツツジ：中国地方・紀伊半島・四国・九州の暖地に自生する落葉低木。花は紫紅色で，花期4月。㋕オオヤマツツジ：本州各地に自生し，ヤマツツジに似る。


鼓 小鼓


ツヅミモ

花期5月。㋵ヨドガワツツジ：朝鮮原産の落葉低木。花は紫紅色で，花期5月。**〈シャクナゲ亜属〉** ①ヒカゲツツジ節。㋑ヒカゲツツジ：本州中部以西に自生する常緑低木。花は淡黄色で，花期4月下旬ないし5月下旬。②ゲンカイツツジ節。㋑ゲンカイツツジ：対島・朝鮮・中国原産の落葉低木。花は桜色で，花期3月中旬。

ツツジの栽培には排水がよくて保水力のある土がよい。腐植の多い肥沃(ひよく)な壌土(じょうど)がよく，粘重土や砂土は思わしくない。多少日陰になる所がよい。繁殖は梅雨ごろに新梢(しんしょう)をさし木する。さし床は日よけを行ない，活着したら日よけを取って肥培し，3年めに移植する。〔小杉　清〕

つつしんくい　【筒心食虫・筒蠹虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ツツシンクイ科の総称。体は細長く，円筒形で柔らかい。触角は比較的短く鋸歯(きょし)状。前胸背板は小さい。後翅には放射状の翅脈があり，縦にたたまれ，けっして横にたたまれることがない。幼虫は樹木の材部に穿孔(せんこう)する害虫である。甲虫類の中で最も原始的な構造をもつ1群と考えられている。全世界から約50種が発見されているにすぎず，日本にはムネアカホソツツシンクイ・ツマグロツツシンクイ・クシヒゲツツシンクイ・カバネツツシンクイの4種類が分布している。

つつそで　【筒袖】　⇨袖

つつどり　【筒鳥】　鳥類・ホトトギス科。全長30～35cm，尾長15～17cm，上面は暗灰色，下面は頸胸(けいきょう)部は灰色，腹部は灰白色の地に黒色の横斑(おうはん)があり，カッコウに似ているが，横斑はカッコウよりやや大きく荒い。竹筒の口を手で打ったときのような特徴のある声で〈ポポ，ポポ〉と2声ずつ鳴いたり，また〈ポポポ……〉と鳴きつづけたりする。カッコウのように，開けた灌木(かんぼく)のある草原に出ることは少なく，森林内にいることが多い。おもにセンダイムシクイに託卵する。

つづみ　【鼓】　日本の膜鳴楽器の一種。2枚の革(かわ)を木製の胴にあてて，2枚の革を調緒(しらべお)とよばれるひもで胴にしめつけたもの。古くは，《日本書紀》に記述がみえるが，雅楽で一般化した。平安末期から，雅楽のように桴(ばち)で打たずに，手で片面を打つことが始まり，これが能の大鼓*・小鼓*，さらに長唄囃子(ながうたばやし)へと伝えられている。手の場合は，調緒の張力の変化も行なえるため，細かいニュアンスを出すことが盛んになった。〔徳丸吉彦〕

つつみちゅうなごんものがたり　【堤中納言物語】　平安後期の物語。短編物語10編と数行の断片一つからなる。中で，《逢坂(おうさか)越えぬ権中納言》は《類聚歌合*(るいじゅううたあわせ)》の記事によって，1055年(天喜3)5月3日の斎院禖子(ばいし)内親王家の〈物語合〉のために，小式部という女房がつくったことが判明している。他は作者不明であるがこれに前後して成立したらしい。《堤中納言物語》という総題名の由来や，命名の時期についても不明。10編の内容は，歌物語的な性格をもつ《はいずみ》《このついで》，いかにも実在の人物のありげにみえる《はなだの女御》，特異な姫君を主人公とした《虫めづる姫君》，消息文を模している《よしなしごと》など，かなりの趣向を凝らしている。《伊勢物語*》《源氏物語*》などの影響も強く指摘できるが，なお独自の表現方法や内容をもつ物語として注目され，わが国最初の短編小説集として名高い。〔桑原博史〕

つづみも　【鼓藻】　接合藻(せつごうそう)類・チリモ科(またはツヅミモ科)・ツヅミモ属

の総称。淡水産の単細胞藻で，湿原・水田などに多い。平たいまくら形で中央部がくびれ，二放射相称形。くびれの部分で２分裂する無性生殖のほか，有性生殖ではくびれの部分から出たアメーバ状の配偶子が母細胞外で接合し，厚膜の接合子を形成する。

つつみやすじろう　【堤康次郎】（1889～1964）西武コンツェルンの創始者，政治家。滋賀県出身。早稲田（わせだ）大学卒業後，種々の企業に投資したが失敗，その後軽井沢の開拓を試み，これが成功の基となった。さらに箱根を一大観光地とする総合開発に乗り出し，東急の五島慶太*と対立した。その後鉄道経営に着手，西武・駿豆（すんず）・近江（おうみ）の諸鉄道を傘下（さんか）に収め，沿線の土地開発・田園都市建設，百貨店・ホテルの経営などを統合して，西武コンツェルンを形成した。のち政界に出て，衆議院議長をつとめた。〔片岡一郎〕

つづら　【葛籠】 フジづるやタケ・ヒノキを削って編んだかご状の収納用具。衣籠・葛羅とも書く。形の多くは横長の直方体で，ふたがあり，衣類を入れた。近世にはこれに紙をはって渋や漆を塗ったものもつくられ，蒔絵（まきえ）などを施した高級品もあった。明治時代ごろまで一般家庭で用いられたが，現在はほとんどすたれてしまった。

つづらふじ　【葛藤】 双子葉植物・ツヅラフジ科。暖地の山林に自生する落葉つる性の木本植物。オオツヅラフジ・アオツヅラともいう。茎は緑色の円柱形で左に巻く。葉は互生し，長さ・幅とも６～15cm，円ないし卵円形で浅く５～７裂する掌状葉。表面は無毛であるが裏面は白っぽく，若葉には毛がある。雌雄異株。花は黄緑色の６弁花で，７月ごろ葉腋（ようえき）に複総状花序をつける。果実は球形の石果で，10～11月に黒熟する。根・茎幹を乾燥したものを防已（ぼうい）といい，アルカロイドを含み，鎮痛・利尿薬にされる。

つづれおり　【綴織】 一般には綴錦（にしき）をさし，単に綴ともいう。各種の彩糸（いろいと）を用いて文様を織り出した優美な高級織物。その意味で錦の一種であるが，通常の錦と著しく異なる点は①文様の部分の緯糸（ぬきいと）が織幅いっぱいに貫通していないこと，②したがって，色を異にする文様の境目に〈はつりの孔（め）〉とよばれる空隙（くうげき）があることである。実物大の下絵を経糸（たていと）の下に置いて，絵のとおり色緯を小さな杼（ひ）で縫い取るように部分部分に織り嵌（は）めていくので，緯糸の打ち込みには筬（おさ）を使わず，爪先（つめさき）や櫛（くし）状の道具でしっかりと搔（か）き寄せる。こうした織法から組織はもっぱら平織である。紋織物の中で最も歴史は古く，また世界各地で織られてきた。エジプトのコプト織*，インカの綴織，中国の緙糸（かくし）（刻糸），フランスのゴブラン織*などはその代表的なものである。わが国には，奈良時代に唐か





綴　織　(上)《松島図綴錦胴掛》1831　織工紋屋治郎兵衛，下絵奥川米叢　(下)《蘭亭曲水図綴錦吹散》1855　双岡亭忠元作

らその技術を伝えられたと考えられ，正倉院などに若干の遺品があるが，その後はあまり発達をみぬままに中絶したらしい。綴錦が日本で盛んに織成されるようになったのは明和(1764～1771)以後のことである。京都今宮祭の沢瀉鉾（おもだかぼこ）の長大な吹散（ふきちり）や祇園（ぎおん）祭の引山の一つ，占手山の日本三景図胴掛の大作などはその代表的な遺品である。そうした伝統をふまえて，ゴブラン織に大きな刺激を受けた２世川島甚兵衛（じんべえ）は1890年(明治23)ごろから，ゴブラン織に匹敵する綴錦の製作に努め，多くの大作・名品を内外の博覧会に出品，わが国の綴錦の卓越した技術を世界に示した。こうして迎えた綴織の隆昌（りゅうしょう）はその後応用面を帯や袋物にも広げ，わが国の誇りうる織物の一つとして，現在に至っている。〔北村哲郎〕

つてん　【通典】 中国，上古から唐の天宝年間に至る諸制度を通観した書。唐の杜佑*（とゆう）が約30年かかって801年に完成した。全200巻。食貨(経済)・選挙(官吏登用法)・職官・礼・楽・兵*・刑・州郡・辺防の９部に分かれ，正史*の志の部分を通史的に編纂*（へんさん）した一種の類書(百科事典)。《通志*》《文献通考*》とともに〈三通〉と称され，後世これらにならい〈九通〉〈十通〉がつくられた。

つとが　【苞蛾】 こん虫類・鱗翅（りんし）目・メイガ科・ツトガ亜科の総称またはそのうちの一種をいう。ツトガは翅（はね）を広げた長さ24～38㎜。前翅は灰色をおびたかっ色で，各翅脈上に小さな黒点列があり，その間に黒色の線が走る。後翅は白色で，雌は非常に大きい。平地・山地に普通で燈火によく集まり，日中は植物の茎などに翅を尾根上にして静止している。幼虫は土中に糞（ふん）や枯れ葉の屑を糸で紡いで〈つと〉をつくり，その中にすんで食害する。若齢幼虫で越冬し，成虫は６月下旬より９月にかけて現われる。庭園の芝生（しばふ）に大発生することがあり，北海道を除く日本全土，台湾・朝鮮・インドなどに分布する。ツトガ亜科はやや大きな類で，含まれる種の数は多い。前翅は比較的細く後翅は幅が広い。口吻（こうふん）はよく発達するかまたは小さく，下唇鬚（かしんしゅ）は長く前方に突出する。幼虫はイネ科植物を食害し，まれにコケを食べる。このうちニカメイガ*はイネの害虫として知られる。〔多々内修〕

つな　【津名(町)】 兵庫県津名郡の町。人口18,000。淡路島の北東部にあり，志筑（しづき）を中心に付近の６町村が1955年(昭和30)に合併して発足。大阪湾に臨む温暖な土地で，阪神（はんしん）の市場にも近いため果樹・草花の栽培が盛んで，温室栽培のスイトピーは全国的に名高い。近年は乳牛の飼育もふえている。

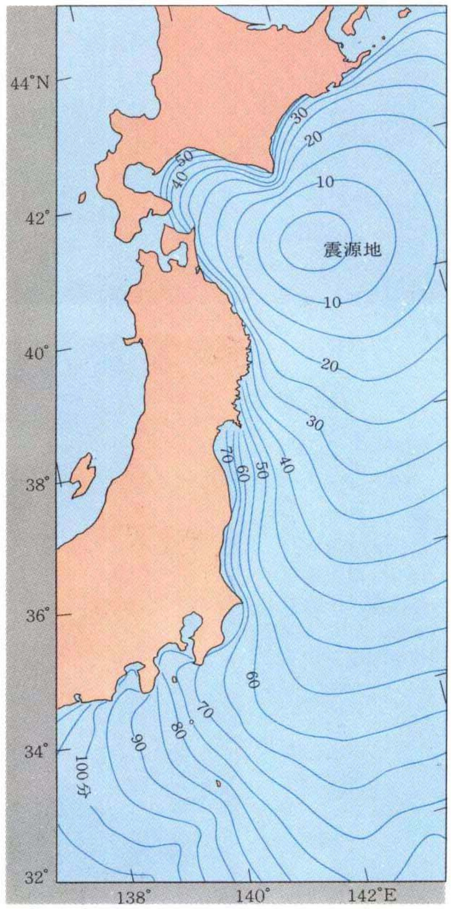
つなしまりょうせん　【綱島梁川】（1873～1907）哲学者・評論家。岡山県の生まれ。本名栄一郎。東京専門学校(早稲田（わせだ）大学の前身)文科卒業。坪内逍遙*（しょうよう）の指導を得て，《早稲田文学*》編集に従事。死ぬまで結核で苦しみ，キリスト教に接近して，神秘的な宗教思想に満ちた評論を書き，そのロマンチシズムは当時の青年に大きな影響を与えた。《梁川文集》《西洋倫理学史》《病閒録（びょうかんろく）》などの著作がある。

つなそ　【綱麻】 双子葉植物・シナノキ科。コウマ・ジュート・インドアサなどともいわれる。インド原産の一年生草本で，繊維をとるために栽培される。高さ１～2.5mで，茎にはほとんど毛はなく，なめらかである。葉は卵状披針（ひしん）形で長さ５～10cm，２～５cmの柄で互生する。葉に鋸歯（きょし）があり，通常，基部に細長い１対の裂片がある。６～８月，葉腋（ようえき）に１～10個の黄色５弁花をつける。蒴果（さくか）は球形で，縦に10本の条があり５裂する。茎からとれる繊維はジュートとよばれ，穀物用の袋などをつくる。

つなみ　【津波】 地震や海底火山の噴火などによって，海底の地形が急激に変化するために発生する長い波。津波は波長が数百キロメートルにも達する大きなもので，また，深さ4,000～5,000ｍもある外洋でも海面から海底まで水柱状をなして，ほぼ一様に伝わる性質をもっている。その移動速度vは，海の深さをH，重力の加速度をgとすると，$V=\sqrt{gH}$で表わされる。たとえば水深を4,000ｍとすると，移動速度は200

m/秒にも達する。津波の波高は外洋では，せいぜい数10cmから数メートル程度であるが，海岸に近づくにつれて海が浅くなって，伝播(でんぱ)速度はおそくなり，また，波長も短くなるので，波高は急速に高くなる。波高は海岸地形・海底地形によって大きく影響を受ける。津波は第1波から数十分ごとに何回かくり返して襲来し，沿岸地域に出水をもたらし，建造物の破壊や流失など，大きな被害を与える。津波の速度は，海の深さのみに関係するので，津波の進路は浅いほうに向かって屈折する。また，浅い海を通過する場合には，海底の摩擦により勢力が弱められる。こうして，海底地形により津波の勢力の集中する所，分散する所ができる。津波が集中するような海底地形で，奥にはいるほど狭くなっているような湾に，津波が正面から襲ってくると湾奥での津波の高さは著しく高くなる。したがって，日本の東北地方の三陸海岸のようにリアス式の海岸では，しばしば津波の襲来で大きな被害を受ける。1896年(明治29)，および，1933年(昭和8)の三陸大津波の被害は大きかった。特に，1933年の場合，岩手県気仙(けせん)郡綾里(あやさと)湾では，湾口付近で7～8mの波高が，湾奥では20～25mの高さにも達した。津波はふつう，浅い震源をもつ地震に伴って発生する。1960年5月23日のチリ地震では，地震波は20分後に東京に達したが，津波はハワイに達するまでに約12時間，日本までは約24時間を要している。このように海底地震が起きてから，津波が押し寄せるまでには，十分な時間があるので警報を出すことができる。〔相原正彦〕

つの【角】 頭部にある骨質または角質の突起で，反芻(はんすう)類の多くの動物にみられる。強力な防御と攻撃用の道具となり，サイのように中央にあるものも知られるが，多くは左右1対となっている。また，シカの角はふつう雄だけに発達しており，一種の第2次性徴でもある。構造の点から次の3型に分けられる。第1はシカの角で，これは毎年脱落してはえ代わる。成長に伴って大きくなり枝の数も増すが，はえはじめは袋角とよばれるように皮膚で包まれて，柔らかいこぶのようなものであるが，しだいに中心に骨質の角心が成長してかたくなり，大きくなる。やがて皮膚は乾燥して落ち，角心は露出し，頭骨と連絡するようになる。第2はウシ・ヒツジ・ヤギ・カモシカなどにみられるもので，脱落せず，雌雄ともにもち，枝分かれはしない。角心は前額骨の突起したもので，これを角質の角鞘(かくしょう)という角質化した表皮で包んでいる。第3はサイの角で，角心がなく表皮が角質化したものだけからなり，体の正中線上に1本または2本並ぶ。これらの角は，人間にとっても装飾品として，またはいろいろに加工されて，実用品となるものも少なくない。〔蒲原春一〕



津　波　1968年十勝沖地震(5月16日午前9時49分，マグニチュード7.9)における津波の伝搬



ツノガイ　右からツノガイ・ミズイロツノガイ・マルツノガイ・ニシキツノガイ



ツノガエル

つのがい【角貝】 軟体動物・掘足類の総称およびそのうちの一種。殻(から)は管状で，前方へ太く後方へ細くなり，背方へ弓状にそる。その形が獣類の角に似るのでこの名がある。通常白色であるが，黄・青緑・赤色の種もある。殻表(かくひょう)は平滑または縦肋(じゅうろく)があり，殻の断面は円形のほか三角形から多角形まである。殻頂は開口し，切れ込みを生じるものもある。軟体は頭部には目や触角を欠き，吻状(ふんじょう)に突出して，その先端に口がある。また，吻上の1対の褶状(しゅうじょう)部から，多数の先端がふくらんだ吸盤状の頭糸を出す。これは感覚をつかさどり，食物を捕えるのに用いられる。足は楔形(くさびがた)に端へとがり，伸縮できる。外套(がいとう)の腹側に繊毛を生じ，呼吸の作用をする水肺となる。口には5列の歯舌があり，砂泥(さでい)中の有孔虫などを食う。肛門(こうもん)は後端に開く。雌雄異体。デボン紀*に出現し，現種は浅海から深海まですむが，暖海に多く，約500種が知られ，日本産60種。貝細工の材料とするが，アメリカ-インディアンはこれを貨幣に用いた。マルツノガイは殻長15cm，殻径1.3cmに達する大形種で，多くの縦肋がある。ヤカドツノガイは殻長6cmを越え白色で，殻表に6～8の縦肋があり，断面は6～8角。ツノガイは殻長10cmほどで，橙色(とうしょく)，殻口はまるい。〔波部忠重〕

つのがえる【角蛙】 両生類・レプトダクチルス科。南アメリカの北部から中部に分布。体長18cmに達する大形で，体は太く，目の上に角状突起がある。体は黄かっ色またはオリーブがかったかっ色で，日中は土にもぐり顔だけ出している。あごの力が強く，陸貝や他のカエルをはじめ，小形のネズミ類をも捕食する。幼生も肉食で，他のカエルの幼生を捕食する。

つのかくし【角隠し】 結婚式で，花嫁が文金高島田につけるかぶり物。元来は江戸時代後期に，女髷(おんなまげ)のちりよけとして用いられたもので，旅や行楽の場合に庶民の女たちの間で流行した。このちりよけが，明治以降花嫁の正装に用いられるようになったのである。角隠しの語源は，女性が嫉妬(しっと)するのを角を出すということから，嫁に行くにあたり，この嫉妬心をみずからおさえる意味であるという。

つのかめむし【角亀虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・ツノカメムシ科の総称。研究者によってはカメムシ科の一亜科として扱うことがある。前胸背の側角が角状に突出し，中胸板の正中線上に顕著な龍骨(りゅうこつ)状突起をもち，腹部第3節(見かけ上の第1節)には前方に向かう大きな棘状(きょくじょう)突起がある。また，腹部下面の正中線も隆起する。全世界から多くの種類が知られ，日本にも20種内外の種が分布する。ハサミツノカメムシ・モンキツノカメムシ・オオツノカメムシ・ベニモンカメム

シ・トゲツノカメムシなどが代表的な種類である。

つのごけ【角苔】コケ植物・苔類(たいるい)・ツノゴケ科。北半球に広く分布し，湿土上に群生するコケ。葉状体は二叉(にさ)分枝するが，中央脈はない。雌雄同株で，造精器は葉状体表面に散在する。胞子嚢(ほうしのう)は葉状体から直立して，細長く3～4cmに達し，上端より2裂して胞子を出す。

つのごま【角胡麻】双子葉植物・ツノゴマ科。北アメリカ原産の一年草。高さ30～100cm。葉は大形で，粘毛におおわれ，べとつく。花は白色または淡紅色の大形唇形花(しんけいか)。果実は蒴果(さくか)で，上部が2裂して角のようになるためこの名がある。わが国へは明治時代に渡来したといわれ，観賞用に温室に植えられる。

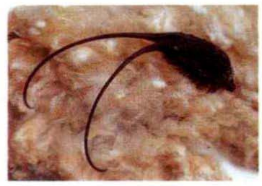
つのざめ【角鮫】軟骨魚類・ツノザメ科。全長1mぐらいにしかならない比較的小形なサメ。しりびれを欠いているが，両背びれの前端には側溝(そっこう)のない強大なとげがあり，胸びれの内角は突き出ていない，尾びれの先端近くの下面には欠刻がないなどがこの属の特徴である。同属種のアブラツノザメ*やツマリツノザメとは吻(ふん)が著しく長いこと，および鼻孔が吻端と口の中間に位置することによって区別される。歯は両顎歯(りょうがくし)ともに小さく，著しく外方に傾いている。ツノザメ属の中では最も普通の種類で，同種と思われるものが全世界の熱帯から温帯にかけての海域から報告されている。日本近海には三陸沖から沖縄まで分布する。底引き網で漁獲され，おもに練製品の原料となる。〔谷内 透〕

つのぜみ【角蟬】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・ツノゼミ科の総称またはそのうちの一種。翅端までの体長7mmほどで，体形はセミに似ており，前胸背に三稜(さんりょう)形のまっすぐ後方に向かう後突起がある。また，前胸背の側部にも扁平(へんぺい)で上側方に突出する先端の鋭い側突起がある。後突起は長いが，腹端には達せず，先端は鋭くやや下方に向いている。日本全土の山地に普通に産する。

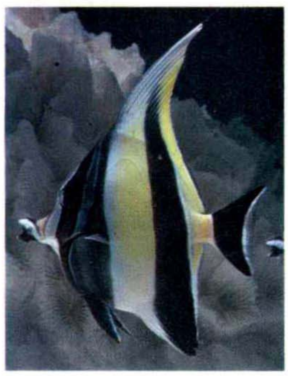
ツノゼミ科は全世界からきわめて多数の種類が知られ，特に熱帯地方に多産する。いずれも頭部は垂直に位置し，前胸背板が著しく特殊化し，後方の小楯(しょうじゅん)板上にまた腹部の背面上に延び，棘状(きょくじょう)や鉤状(こうじょう)・瘤状(りゅうじょう)など種々の形状の突起を装う。色彩は黄色・緑・かっ色などの種類が多い。主として樹木に生活するが，各種草本にもみられる。日本にも多くの種が知られているが，研究はまだ十分になされていない。日本に産する代表的な種類は，ツノゼミのほか，マルツノゼミ・トビイロツノゼミ・モジツノゼミなどがある。〔鈴木邦雄〕

つのだし【角出】硬骨魚類・ツノダシ科。体長15cmに達する海産魚。体は円形で，

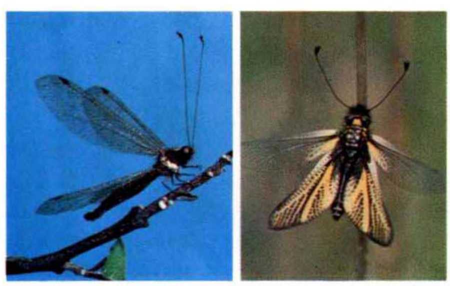




ツノゴマ (上)花 (下)種子



ツノダシ



ツノトンボ (左)ツノトンボ (右)キバネツノトンボ

著しく側扁(そくへん)し，吻(ふん)は突出する。成魚は体側に太い黒色帯があり，背びれの第3棘(きょく)が糸状に延長する。幼魚は銀白色の体色をしている。南日本・沖縄を経てハワイ・ポリネシア・メキシコ・アフリカ東海岸などの沿岸の岩礁地帯やサンゴ礁域に広く分布する。盛夏には中部日本の磯(いそ)にも現われる。数尾で背びれをたなびかせて泳ぐさまは非常に美しく，観賞価値は高い。〔安田富士郎〕

つのとかげ【角蜥蜴】爬虫(はちゅう)類・タテガミトカゲ科。北アメリカのカンサス州からアリゾナ州，メキシコ北部の半砂漠(はんさばく)地帯に分布し，15種ほどが知られている。高温を好み，日照下では外に出，涼しくなると砂中にもぐる。体は扁平(へんぺい)で，頭部の大きな角状突起をはじめ，背中や尾部にとげ状のうろこが多数ある。性質はきわめておとなしく，もっぱらアリを捕食する。6月ごろ産卵し，卵は数時間で孵化(ふか)する。唯一の防御法は，興奮すると目から血液を噴出させること。ペットとして飼育される。➔トカゲ

つのとんぼ【角蜻蛉】こん虫類・脈翅(みゃくし)目・ツノトンボ科の総称またはそのうちの一種。体長30mmほどで，翅(はね)を広げた長さ60～80mm。頭部は黄かっ色ないし赤かっ色で，これと同色の長毛を密生する。体は黒かっ色，胸部および腹部の背面中央部は幅広く黄かっ色。本州以南，台湾・朝鮮・中国に分布する普通種。成虫は5月中旬ごろから9月に日あたりのよい草原に多く見られる。

ツノトンボ類は一見トンボ類に似るが，ウスバカゲロウ類に最も近縁で，完全変態を行なう。触角が著しく長く，先端がチョウのように肥大しており，飛び方はゆるやか。静止するときは翅を後方に屋根形にたたむ。乾燥した草原を好む種類が多い。卵は植物の茎などに列状に産下される。幼虫はアリジゴク(ウスバカゲロウ類の幼虫)に似た形で，強大な大顎(おおあご)をもち，植物体上や石・汚物の下などに生活し，各種こん虫を捕食する。老熟すると繭をつくってその中でさなぎとなる。熱帯地方に種類が多く，全世界から200種以上が知られる。日本にはツノトンボのほか，オオツノトンボとキバネツノトンボの2種が分布し，3種とも北海道には産しない。〔鈴木邦雄〕

つのひらむし【角平虫】扁形(へんけい)動物・渦虫(うずむし)類・ツノヒラムシ科。体は楕円(だえん)形葉状で，長さ2～3cm，幅1cm前後，黄かっ色ないし黒かっ色を呈す。触角は1対。目は触角基部などに多数散在する。発生の過程で，殻内(かくない)ミューラー幼生の段階を経る。日本各地沿岸の潮間帯の石の下などに普通にみられる。外観がまったく同じものにオオツノヒラムシがあるが，触角が2対以上あるので容易に区別できる。

つのぶえ【角笛】動物の角でつくった管楽器の総称で，今日の金管楽器の原型とみなされる。ヨーロッパ中世の象牙(ぞうげ)製のもの(オリファント)が有名であるが，日本の法螺貝(ほらがい)も同じ原理である。単音や，ごく限られた倍音しか出せず，主として信号のために用いられる。

つのまた【角又】紅藻(こうそう)植物・スギノリ科。わが国各地の潮間帯上部の波のあたる岩上に群生する海藻。高さはふつう15cmほどで，へら状から二叉(にさ)分枝して広がるものなど，形の変異が大きい。古くから漆喰*(しっくい)の糊料(こりょう)として利用されている。近似種のコトジツノマタは千葉県銚子(ちょうし)などでは，海草こんにゃくとして食用にする。



鐔　(左)林又七《鶴丸文透鐔》(右)信家　《吉利支丹文透鐔》東京国立博物館蔵



ツ　パ　イ

つのも【角藻】渦鞭毛藻(うずべんもうそう)類・ツノモ科・ツノモ属の総称。ツノウズオビムシともいう。淡水産のものは少なく(イケツノモ)，多くは海産のプランクトンである。体の上方には1本，下方には2～3本の突起があり，下方のものは普通はいかり形に上方に曲がる。2本のべん毛でらせん状に泳ぐ。斜縦裂して無性生殖を行ない，有性生殖は接合による。➔渦鞭毛藻類

つのろうかいがらむし【角蠟介殻虫】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・カタカイガラムシ科。雌成虫は翅(はね)がなく，腹面が著しく隆起し，暗赤かっ色ないし紫かっ色で，体表面は白色のロウ物質におおわれ，直径6～9mm，背面に大きい角状突起がある。雄成虫は体長約1mm，翅を広げた長さ2mmほど，赤かっ色で翅は透明。ミカン類・カキ・チャ・ツバキ・ナシ・リンゴなどきわめて多様の植物に寄生する害虫。年1回の発生で，受胎した雌で越冬し，翌年5～7月上旬ごろに母虫の体の下に産卵する。卵は長径0.3mm内外，楕円(だえん)形，赤かっ色。孵化(ふか)した幼虫ははじめは楕円形，成長するにしたがってロウ物質を分泌して体表をおおい，しだいに球形となる。幼虫は若齢のときは歩行移動するが，やがて寄主植物の枝や葉に定着して吸汁(きゅうじゅう)する。9～10月ごろに成熟し，交尾をなって雌はそのまま越冬する。本州以南，台湾・インド・セイロンなどに広く分布する。本種の加害を受けると，樹勢が衰え，さらにこの虫の分泌液にすす病菌が繁殖して，枝葉はまっ黒になり，木の発育がいっそう妨げられる。比較的有力な天敵としてツノロウアカヤドリトリコバチが知られている。〔鈴木邦雄〕

つば【鐔】刀剣装具の一部品。根本的には自分の拳(こぶし)を守るためのものであり，刀身と柄(つか)との平均をとる役割をもつ。上古時代の直刀につけられた鐔は，いわゆる倒卵形の金銅製あるいは鉄製で，梯形(ていけい)の小透(こずかし)のあるものが一般的であった。これには鍍金(ときん)・鍍銀を施し，中には象嵌(ぞうがん)をしたものなどもある。また蕨手横刀(わらびてたち)や金銀平脱横刀には小さな鉄製板金鐔がかけられている。聖武(しょうむ)天皇御料と伝える金銀鈿荘唐太刀(でんそうからたち)などには，後世粢(しとぎ)鐔と称するものの原形とみられるものがついている。粢鐔は平安時代以降，主として公卿(くげ)が佩用(はいよう)した儀式用太刀である餝剣(かざりたち)につけられたが，江戸時代には大名などが衣冠束帯の際に使用した衛府(えふ)太刀(真太刀(しんのたち))に用いられた。平安後期から武官佩用太刀には，葵(あおい)鐔と称せられる木瓜(もっこ)形に似て四方が花形にとがった鐔がついたが，中世にはほとんどない。鎌倉期の兵庫鎖太刀には金銅製木瓜形鐔が多く，縁(土手耳)を高くして，四方に猪(い)の目を透し，耳には牡丹(ぼたん)文その他を高彫し，同文を透彫にした大切羽をつけている。これを太刀鐔と俗称している。同じ太刀鐔でも鉄の板金を銀や山金で包んだもの，鉄板を中にして革(かわ)で包んで総体に黒漆を塗ったもの，あるいは何枚かの革を張り合わせて黒漆をかけたものなどがあり，ほとんど黒漆太刀とよばれる戦陣太刀につけられている。今日，一般に鐔として鑑賞されているものは，室町時代以降の鉄・山金・真鍮(しんちゅう)・素銅・赤銅・朧銀(ろうぎん)などを素材とした打刀(うちがたな)につけられた鐔が主体である。その初期のものは刀匠・甲冑(かっちゅう)師と呼称され，薄い板鉄に素朴(そぼく)な透彫を加えたもので，刀匠や甲冑師が余技的に製作したとみられる。やがて，室町末期に至ると専門の鐔工(たんこう)が現われ，高彫や象嵌を施した作品が現われた。京都伏見の金家・尾張の信家などが有名である。桃山時代には文様的な技法がさらに進歩し，埋忠(うめただ)明寿*が出現して色金を自由に用い，卓抜の技を示している。同時代には平田道仁・林又七の名工が輩出し，金工の宗家的存在である後藤家の五代徳乗も消極的ながら鐔を製作している。江戸期の泰平の世にあっては，鐔もますます華麗さを加え，拵(こしらえ)の一部としてではなく，独立の観賞対象として製作される傾向へと進んでいった。透鐔(すかしつば)には尾張・京・赤坂・萩(はぎ)など，無銘のために，その製作地で呼称されている。金工の鐔には，横谷宗珉*(そうみん)をはじめ，その流れをくむ柳川直政(なおまさ)・菊岡光行・大森英秀，奈良三作の奈良利寿(としなが)・杉浦(すぎうら)乗意*・土屋安親(やすちか)らがある。これらの図柄は故事や風物・風景などを選び，当時の世相を反映したものが多い。幕末には後藤一乗と加納夏雄が現われ，斬新(ざんしん)な写実的な絵画彫刻を行なっている。しかし，明治の廃刀令以後は，鐔の需要が失われたためその製作はほとんどみられなくなった。〔小笠原信夫〕

ツパイ［Tupaia］哺乳(ほにゅう)類・霊長目・ツパイ科。霊長目の動物で最も下等なもの。キネズミ・リスモドキともいう。東南アジア・インドにすむ。リスに似た姿をし，体色は灰黄ないし灰かっ色。頭胴長・尾長は15～20cm。種類は多い。雑食で，こん虫やトカゲを好む。昼行性で，夜は巣をつくって寝る。行動は活発であり，性質は荒い。

つばき【椿】双子葉植物・ツバキ科・ツバキ属の総称。アジアの東部に分布し，82種ばかりが知られる。そのうち園芸種として扱われているのはツバキ・トウツバキ・サザンカの3種であるが，ほかの種類のものも観賞用として庭園に植えられ，あるいは種子から油をとるために栽培される。ツバキは常緑の低木ないし高木で，暖地に普通にみられる。葉は楕円(だえん)形で光沢をもち，厚くてかたく，低い鋸歯(きょし)があり，小さい柄で互生する。11月から4月に枝先に白・赤・桃色などの花が一つずつ咲く。花は直径5cm前後のラッパ状で，花弁は5枚(ただし八重咲きのものもある)。花弁の基部は癒合(ゆごう)して短い筒状をなす。おしべは多数あって下半は癒合して花筒につく。中央に1本のめしべがあり，花柱の先は3裂する。果実は直径3～5cmの球形の朔果(さくか)で，厚い木化した皮はのちに割れて，中から淡かっ色の種子が1～3個出る。〔加藤僖重〕

ツバキという名は，厚葉木(あつばのき)から出たともいわれ，また一説には津波幾で，ツバは光沢を意味し，葉や果実が光っていることから出たともいわれ，次のような種類がある。①アブラツバキ：原産は中国南部・海南島など。サザンカに近く，新梢(しんしょう)に毛があり，芽には蜜腺毛(みっせんもう)がある。花期11月。種子から油をとり，観賞用にもなる。②カシツバキ：原産は中国。高さ1～1.5mの低木。花は桃色。冬季開花するの

でこの名がある。観賞用。③タイワンヤマツバキ：原産は台湾。常緑の小高木で，幹は多少ねじれる。枝および小枝は灰色。花は淡桃色。花期4月。④トウツバキ：原産は中国広東(カントン)省・香港(ホンコン)。常緑高木で高さ15m。花は桃色。花期は春。半八重・八重咲きがある。ツバキによく似るが，葉面の支脈が明瞭(めいりょう)で光沢がない。変種に㋑ワビスケ(枝は細く，花は杯状で平開しない。花は白色。11月から開花する。茶花に用いられる)，㋺ベニワビスケ(前種に似て花が紅紫色)，㋩コチョウワビスケ(花は小輪，紅紫色で上部が白色)，㊁ハツカリ(花は杯形，紅紫色)，㊄スキヤ(花は淡紅色で子房に絹毛を密生する)などがある。⑤ヤブツバキ：ツバキの野生種で，原産は日本・朝鮮・中国山東省。日本では青森から九州まで分布し，暖地の海岸に近い丘に多く自生する。高さ15mに達する常緑高木。枝は平滑灰白色。花は枝端に単生する。花色は鮮朱紅色，まれに白色。花期は春。数種の変種がある。⑥ユキツバキ：原産は日本海沿岸の東北および北陸地方。高さ1～2mの小低木。積雪のために幹の下部は倒伏していることが多い。ツバキとの相違点は，若い葉の葉柄に毛があることと，おしべの花糸が下のほうまで離れ，濃黄色であることなどである。一般にツバキという場合は，園芸品を総括した名とされ，多数の園芸品種が作出されているが，その中でハイヨウ・ホソバヒイラギツバキ・ユリツバキ・チリツバキ・オトメツバキ・ギンヨウツバキには学名が与えられている。

ツバキが観賞用に供されたのはかなり古く，《万葉集》や《新撰字鏡(しんせんじきょう)》にも記されている。園芸的に発達したのは室町時代ころかららしく，江戸時代になっておおいに流行した。釈作伝著《百椿集(ひゃくちんしゅう)》(1630)にはじめて品種名が記され，水野勝之著《花壇綱目》(1664)には66品種が掲げられている。さらに江戸花戸三之丞(はなやさんのじょう)著《増補地錦抄(じきんしょう)》(1710)には213種が記されている。しかしその後はたいした発展もないままに第2次世界大戦を迎え，ほとんど壊滅状態になった。戦後は欧米の大流行に刺激されて復興し，各地で特徴あるツバキ協会が設立された。一方，イギリスには1792年に中国からもたらされ，1797年にはアメリカにも紹介された。その後欧米各地に広がって大流行している。

〔小杉　清〕

つばきあぶら　【椿油】 ツバキの種子(含油率30～40%)から圧搾法によって採取した不乾性油。主産地は伊豆(いず)諸島および九州で，古来良質の髪油として知られる。また，精製したものは，味が淡泊で美味なので，高級てんぷら油として珍重されている。

つばきおんせん　【椿温泉】 和歌山県西牟婁(にしむろ)郡白浜町にあり，泉温35℃，泉質は硫化水素泉で，神経病・皮膚病・リウ





ツ　バ　キ　①ヤブツバキ　②オトメツバキ　③緋の司(カンツバキ)　④麗峰(ユキツバキ)　⑤太郎冠者(ヤブツバキ)　⑥孔雀(ヤブツバキ)　⑦黒侘助



ツバクロエイ

マチにきくといわれる。白浜半島の海岸に位置する静かな温泉で，古くから湯治客が多い。気候温暖で12月にウメや菜の花が咲き，夏には海水浴客でにぎわう。交通は紀勢本線椿駅からバスの便がある。

つばきちんざん　【椿椿山】（1801～1854）江戸後期の文人画家。名は弼(ひつ)。字(あざな)は篤甫(とくほ)。椿山のほか休庵(きゅうあん)・琢華堂(たくかどう)などの号がある。幕府の槍組(やりぐみ)同心で，絵ははじめ金子金陵に学び，金陵の没後は渡辺崋山*(わたなべかざん)に師事した。中国，明(みん)末・清(しん)初の文人画家惲南田(うんなんでん)ふうの花鳥画を得意とし，また写実的な肖像画にもすぐれた。崋山が蛮社の獄*で逮捕された際には救援運動に尽力，その篤実な人がらは穏和な画風によく反映している。代表作に《果蔬(かそ)図》《高久靄厓(あいがい)像》などがある。〔小林　忠〕

つばきひめ　【椿姫】

1 デュマ*(フィス)の小説(1848)。のち劇化された(1852)。ブルジョワ青年アルマンと，椿姫といわれた娼婦(しょうふ)マルグリットとの純愛物語で，同時代人の共感を博し，作者を一躍有名にした作品。

2 ベルディ*作曲の歌劇。デュマ(フィス)の戯曲をピアーベが台本にまとめベルディが作曲し，1853年3月にベニスで初演。登場人物の名まえはマルグリットがビオレッタ(ソプラノ)，アルマンがアルフレッド(テノール)と変わっていて，ほかに父ジェルモン(バリトン)など。第1幕の〈乾杯の歌〉〈ああそはかの人か〉などをはじめ，名高いアリアや重唱が多い。

つばくろえい　【燕鱝】 軟骨魚類・アカエイ科。全長1mぐらいになる中形のエイ。体盤が著しく幅広いのが特徴で，長さの2倍ほどもあり，黒かっ色ないし暗緑かっ色。尾部はむち状で体盤長よりは短く，尾部背面に小さくて弱いとげがある。目は小さく，わずかに突き出ている。口は波形をし，口の幅は口から吻端(ふんたん)までの長さに等しい。近縁種のオナガツバクロは体盤長と体幅長が同長であり，メガネツバクロとは背面の色や斑紋(はんもん)の有無などで区別される。本州中部以南，朝鮮・中国・アフリカにまで分布する。夏に美味だが，漁獲量は多くない。〔谷内　透〕

つばくろだけ 【燕岳】 長野県西部，北アルプスのほぼ中部東側にそびえ，標高2,763m。北アルプスの主脈の東にある常念山脈の北端に位置し，西側は高瀬川の深い谷に臨み，東側は松本盆地に続く。カコウ岩からなり，山容は急峻(きゅうしゅん)ではない。東麓(とうろく)の中房(なかぶさ)温泉から燕岳・大天井岳・槍ケ岳(やりがたけ)・上高地に至る縦走路は多くの登山者でにぎわい，アルプス銀座といわれる。

つばさ 【翼】 鳥類の飛行器官。前肢*(ぜんし)が変形したもので，後縁にはえる1列の羽毛が風切り羽となって翼面積の大部分を構成する。その基部に上面下面から雨覆(あまおおい)という羽毛がかぶさる。風切り羽は先端のものが下になるように互いに重なり合い，翼を下に打ちおろすときにはつながって1枚のようになるが，振り上げるときにはそれぞれが離れてその間を空気が抜けるようになっている。手首にあたる部分から先のものを初列風切り羽，手首からひじまでのものを次列風切り羽という。

鳥類の羽毛はどんな鳥でも年に1回は換羽し，換羽期にはいることを〈とやにつく〉という。換羽は繁殖終了後(日本では7～9月)に行なわれるのが普通で，このときには全身の羽毛が抜け換わる。このほかに，春の繁殖前に体の一部分の羽毛が抜け換わって美しい繁殖羽になる鳥もある。➔鳥類(図) 〔浦本昌紀〕

つばた 【津幡(町)】 石川県河北郡に属し，河北潟(かほくがた)北岸にある町。人口24,000。1954年(昭和29)に1町5村が合併して発足し，その後倶利伽羅(くりから)村を編入した。北陸街道と能登(のと)街道の分岐点で，北陸本線と七尾線の分岐にあたる交通の要地。古くは宿場町として栄えたが，最近は繊維・機械・木工などの工場があり，金沢市郊外のため住宅も急増している。

つばめ 【燕】 鳥類・スズメ目・ツバメ科の総称で，またそのうちの一種の和名。ツバメ類は，ニュージーランドといくつかの島々を除き，広く全世界に分布し，約80種からなる。たえず飛び回って空中でおもにこん虫類を捕食する。その習性に適応して，くびは短く胴部につき，くちばしは短く基部は扁平(へんぺい)で，口は大きい。翼は細長く，尾は一般に中央部がくぼみ，外側の尾羽がいわゆる燕尾(えんび)形に長く伸びているものも多い。分類学的にはツバメ科の鳥は，他のスズメ目の鳥とは鳴管の構造が著しく異なるのが特徴である。繁殖は多少とも集団性である。営巣方法は，たとえば天然樹洞(じゅどう)に営巣する北アメリカのキツバメや人工の集団巣箱に営巣するムラサキツバメのように樹洞・がけ・建物などの穴やくぼみにどろを使わずに営巣するもの，ショウドウツバメのように砂分の多いがけに自分で穴を掘るもの，ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメのように洞穴・がけ・



ツ バ メ



ツバメウオ



ツバメオモト

建物などの壁面にどろと唾液(だえき)を混ぜて巣をつくるものなどがある。さらに，特殊なものとして，コンゴ産のアフリカカワラツバメは乾期に水の引いた川の砂州上に穴を掘って集団営巣し，鳴管も他のツバメ類と異なる。

ツバメは旧北区*・新北区*に広く夏鳥として繁殖分布し，アフリカ・アジア南部・アルゼンチン北部などで越冬している。世界各国で民家に営巣して親しまれている鳥である。わが国では，春の訪れに伴って南方から順次北上し北海道まで全国的に渡来する。ふつう1繁殖期に2腹のひなを育てる。巣づくりは雌雄協力して行ない，1腹卵数は春先のものは4～6卵のものが多く，2回めのものや繁殖期が進むにつれて卵数は減少する。抱卵はおもに雌があたる。夜間雌が抱卵・抱雛(ほうすう)中，その雄は自分の巣のわきに留まって眠る。育雛は雌雄で行なう。繁殖を終わり，南方へ渡るまえには川原の葦原(あしはら)に大群でねぐらをとる。日中，空中のこん虫類を捕えながら渡っていく。静岡県浜名湖付近には古くから数百羽のツバメが越冬することが知られているが，このほか本州中部以南の地で，冬季も気候が温暖で川や湖から多数の水生こん虫類が羽化するところでは，少数のツバメが越冬している。 〔安部直哉〕

つばめ 【燕(市)】 新潟県中西部の市。人口45,000。江戸初期に村上藩領の飛び地として奉行所(ぶぎょうしょ)が置かれ，中期以降は金物の家内工業が興り，やすり・きせる・銅器などの特産で知られた。1954年(昭和29)市制施行。市域は信濃(しなの)川三角州の頂部を占め，本流から分かれる中之口川の北岸に沿う。産業三大別人口比は10：61：29。伝統の金物工業は第1次世界大戦後は洋食器の製造に代わり，第2次世界大戦後には主としてアメリカ合衆国への輸出向け製品が増大して，全国生産の95％を占め，そのうち83％を輸出するという独占的生産地となり，日本輸出金属洋食器工業組合がある。中小企業が多く，工場数は2,000余を数える。最近はミシン部品・ゴルフクラブ・高級銅器などの新しい軽金属工業分野の開拓に力が注がれており，洋食器工業は1971年のドルと金の交換停止によって輸出が行きづまり，大きな打撃を受けた。弥彦(やひこ)線・新潟交通の電車が通じ，東郊を国道8号線，西郊を116線がほぼ南北に縦断する。

つばめうお 【燕魚】 硬骨魚類・ツバメウオ科。体長30cmを越す海産魚。本州中部以南，中国・フィリピン・東インド諸島・インド・メラネシア・南アフリカに広く分布し，枯れ葉状擬態をするので有名。日本からは，従来本種のほかにミナミハタタテダイが知られており，沖縄方面からは体が黒色で輪郭が赤色のツバメウオの一種が知られている。老幼により体色・斑紋(はんもん)が著しく異なるため，現在種の決定には種種の問題がある一群である。〔安田富士郎〕

つばめおもと 【燕万年青】 単子葉植物・ユリ科。中部地方以北の高山の樹陰にはえる多年草。葉は短い根茎から2～5枚が出て，大形の長楕円(ちょうだえん)形で質は柔らかい。初夏に葉中から20～70cmの花茎を伸ばし，6枚の花被片からなる白色花を数個つける。

つばめおんせん 【燕温泉】 新潟県中頸城(なかくびき)郡妙高村にあり，泉温55～62℃泉質は含土類石膏(せっこう)泉で，痔病(じびょう)・皮膚病・リウマチにきくといわれる。標高1,000mで妙高山の登山口の大田切川渓谷(けいこく)に位置し，上信越高原国立公園内に含まれる。深雪地 夏だけ行ける温泉ということからこの名がつけられたといわれるが，現在は冬季のスキー客も多い。交通は信越本線妙高高原駅からバスの便がある。

つばめが 【燕蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ツバメガ科の総称。世界で約100種が知られ，多くは熱帯地方に産し，日本からはギンツバメ・ヤクシマツバメの2種が知られる。翅(はね)の面積は広く，体は細長い。翅縁に凹凸(おうとつ)が多く，尾状突起をもつものも少なくない。大部分はコガタツバメ

ガ類に属し，日本にいる２種も小形である。成虫は夜行性のものと昼行性のものとがあり，昼行性の中にはウラニア類のようにきわめて美しいものがある。この類は翅形がアゲハチョウに似ており，マダガスカルにいるニシキアゲハモドキは翅を広げた長さ85mmで，翅は黒く，前後翅とも中央部に緑色の帯が走り，後翅の後縁部に赤色紋がある。これらの斑紋(はんもん)はいずれも金属光沢があり，ガの中では最も美しい種類である。ギンツバメは翅を広げた長さ25～29mm，白色の翅に灰かっ色の数本の帯模様がある。成虫は５～７月に１回発生し，日本全土のほか，朝鮮・中国・ビルマ・インドなどに分布する。屋久島にはヤクシマギンツバメを産する。〔多々内修〕

つばめこのしろ 硬骨魚類・ツバメコノシロ科。体長30cmに達する海産魚。本州中部以南，中国・インド・マダガスカル・オーストラリアまで分布する。胸びれの鰭条(きじょう)の一部が遊離しているのと下顎(かがく)が著しく短いため，顎(あご)がないように見えるのが特徴。沿岸の砂地を好み，砂浜からの投げづりの好対象となっている。

つばめしじみ 【燕小灰蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ25mm。雌雄で表面の色彩をことにし，雄は瑠璃(るり)色で，外縁部は前翅では黒く縁どられ，後翅では黒点列となる。雌は暗かっ色で後翅の後縁部に数個の橙色(とうしょく)紋がある。裏面は灰白色で，後翅には尾状突起をもつ。シジミチョウ科ではヤマトシジミ・ルリシジミとともに最も普通の種類で，日あたりのよい草地に多く，各種の花に集まる。母チョウは食草のつぼみ・新芽などに１個ずつ産卵する。幼虫はクズ・ハギ・エンドウ・シロツメクサなどのマメ科植物を食べ，終齢幼虫は落葉の間で越冬する。早春から晩秋まで年４～５回の発生をし，春と秋に多い。日本全土に分布し，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・ヨーロッパ・北アメリカなどにも広く知られている。

つばめちどり 【燕千鳥】 鳥類・ツバメチドリ科の鳥の総称，またはそのうちの一種をいう。ツバメチドリ亜科７種とスナバシリ亜科９種に分類され，ユーラシア大陸中南部からアフリカ・オーストラリアにかけて分布する。ツバメチドリ類は一般にじみな羽色で，ムクドリと同大か，それより小形。翼は細長く尾も長めで，燕尾(えんび)型。脚は短くチドリ類のような体つきである。野原や川原などにすみ，軽快に飛びまわって空中でこん虫類を捕えるので，くちばしは短く口は大きい。スナバシリ類は体つきはチドリ類に似るが，翼・尾はツバメチドリ類のように長くなく，大きさはツバメチドリ類と同大で脚は長い。一般に草原や砂漠(さばく)にすみ，地上を走る習性が強い。ツバメチドリ類の一種であるツバメチドリは，翼長17～19cm，尾は燕尾型，背・翼上面は灰かっ色，腰は白色，のどは白く，胸腹にかけて紫かっ色，腋羽(えきう)は赤かっ色。東アジア大陸産で，日本には春秋に少数が川原やかわいた干拓地などに渡来する。


ツバメコノシロ

ツバル 南太平洋に浮かぶサンゴ礁の島。エリス諸島の名称でギルバート諸島(現キリバス)とともにイギリスの保護領であったが，1978年ツバルとして独立した。面積26km²，人口１万。首都フナフティ。

ツーピース ［two-piece］ 正しくはツーピース-ドレスという。ブラウスとスカート，ジャケットとスカートのように上下に分かれ，共布でできている服の１組みのこと。上下別布の場合はセパレーツという。日常着からフォーマルドレスに至るまで広い範囲に用いられる。なお，スーツもツーピースの一種で，本来ツーピースはスーツよりくだけた柔らかい感じのものをいうが，現在その区別はつけにくい。

ツービム ［Julian Tuwim］ (1894～1953) ポーランドの詩人。第１次世界大戦後の著名な詩の結社《スカマンデル》派の巨匠。急進的な自由主義者として現実と詩とのつながりを重視，鋭い風刺詩や清新自由な叙情詩をつくった。代表作は叙事詩《ポーランドの花》。

ツブアイ(諸島) ［Tubuai］ オーストラル諸島ともいう。南太平洋ポリネシアのソシエテ諸島南方にあるサンゴ礁で，フランス領。リマルタラ・ルルツ・ライババ・ツブアイの各島と多数の無人島からなる。原住民はポリネシア人で，タバコ・コプラを産する。1769年イギリスの航海者J.クックが発見し，1880年からフランス領となる。

つぶらじい 双子葉植物・ブナ科。千葉県以西の本州・四国・九州に分布する常緑高木。高さ20m，直径1.5ｍに達する。スダジイによく似るが，幹はなめらかである。葉は卵円形ないし披針(ひしん)形で，長さ４～10cm，裏面は灰かっ色。スダジイの果実は円錐(えんすい)形で先がとがるが，本種の果実は球形である。スダジイとともにシイとよばれる。➔シイ

ツベルクリンはんのう 【ツベルクリン反応】 ツベルクリンに対する皮膚反応で，結核感染の有無やBCG接種の効果を知るための重要な検査法である。結核菌に感染すると，生体は感作されて過敏性になるため，結核菌抗原の注射に対して陽性の皮膚反応を示すが，非感染動物はこのような反応を示さない。抗原としては従来結核菌の液体培養濾液(ろえき)を希釈したもの(2,000倍，旧ツベルクリン)を用いていたが，1968年(昭和43)以降精製ツベルクリン(PPDs)を使用することになった。旧ツベルクリンは，1890年コッホが結核の予防・治療のためにつくったもので，のちにピルケーによって結核感染動物に過敏性反応を起こすことが見いだされたものである。PPDsはサイバートの方法により旧ツベルクリンを精製し夾雑物(きょうざつぶつ)を除いたもので，旧ツベルクリンに比べ非特異反応が少なく，反応が鮮明で判定が容易である。実際には，凍結乾燥したPPDsをとかし，通常0.05μgのPPDsを含む溶液0.1mlを前腕屈側の皮内に注射する。注射後およそ48時間後に判定するが，まず発赤の長短径をはかり，次いで硬結の大きさをはかるが，二重発赤・水泡(すいほう)・壊死(えし)の有無にも注意する。$\frac{5\times 3}{10\times 8}$のように記載するが，分子は硬結，分母は発赤の長短径(単位mm)を表わし，二重発赤の径はかっこでくくって，水泡などと同様分数ののちに付記する。発赤４mm以下は陰性(－)，５～９mmは疑陽性，発赤10mm以上で硬結を触れない場合弱陽性(＋)，硬結を触れる場合は中等度陽性(++)，硬結のほか二重発赤・水泡・壊死などを伴うときは強陽性(+++)とする。ツベルクリン反応は結核診断の重要な指標となり，自然陽転(結核感染)とBCG接種による陽転とを判別し，前者に対しては適切な注意を払い，発病を未然に防ぐことがたいせつである。BCG接種後１～２年の間は，大部分が陽性反応を示し，硬結を触れることもまれではないが，中等度ないし強陽性を示すことはまずないと考えてよい。このようなときに結核感染が疑われる。

つぼ 【坪】 ⇨歩

つぼいさかえ 【壺井栄】 (1900～1967) 小説家，児童文学作家。香川県小豆(しょうど)島生まれ。1925年(大正14)上京，壺井繁治と結婚し，夫のプロレタリア文学運動をささえた。雑誌に投稿を重ねるうち佐多稲子に勧められて小説《大根の葉》を書き《文芸》に発表，以後《暦》《裲襠(うちかけ)》などの小説が好評を博した。児童文学には《柿(かき)の木のある家》《二十四の瞳(ひとみ)》《坂道》などがあり，賞を受けた作品が多い。作品は鋭い批評精神と，小豆島の生活・風土に根ざした庶民性，そして独特の語りの文体をもつ。

つぼうちしょうよう 【坪内逍遙】 (1859～1935) 小説家・劇作家・評論家・英文学者。本名雄蔵。別号〈春のやおぼろ〉。美濃(みの)(岐阜県)太田(おおた)村に生まれ，少年時代名古屋に移住，芝居見物を好み，草双紙類を読みふけった。東京大学政治経済学科在学中からイギリス小説の翻訳や政治評論などを発表。卒業後，東京専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)の教師となり，シェークスピアの《ジュリアス-シーザー》を政治小説ふうに翻訳して《自由太刀余波鋭鋒(じゆうのたちなごりのきれあじ)》などを刊行したが，1885年(明治

18)から翌年にかけて《小説神髄》を刊行，勧善懲悪の戯作(げさく)文学を排し，西洋近代小説を範として小説を改良し，写実を主張するとともに，その実践作《当世書生気質(かたぎ)》を書き，近代小説確立の基礎を築いた。1891年《早稲田文学》を創刊，森鷗外(おうがい)と文芸批評の基準をめぐって没理想論争を展開した。その後演劇改良運動に着手し，史劇《桐(きり)一葉》などを発表し，《新楽劇論》によって新しい舞踊劇の創造を唱え，《新曲浦島》を実作した。その後島村抱月らの文芸協会に協力して，演劇研究所を設置するなど，新劇運動を指導し，《役(えん)の行者》などの戯曲を書いた。晩年はシェークスピア全集の翻訳に専念し，40巻の全訳を完成。生涯(しょうがい)を通じて，日本の近代文学や演劇の改良・発展のために尽くした。〔木村幸雄〕

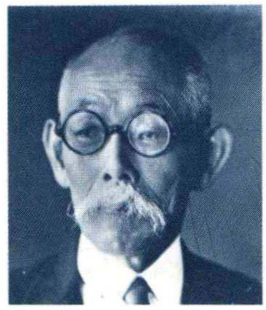
つぼがり【坪刈り】収穫高を推定するための比較的精密な方法の一。1坪(3.3m²)の株を刈りその収量を測定し，作付面積の全収量を計算で求める。また同一作は面積中で数か所坪刈りを行ない，その平均を求めてから算出する。

つぼさかでら【壺坂寺】奈良県高市(たけち)郡高取町壺坂にある真言宗の寺。西国三十三所の第六番札所。通称は南法華(みなみほっけ)寺。奈良時代の創建で，善心・弁基の703年(大宝3)開創説がある。847年(承和14)定額寺となり，中世には興福寺末寺となった。16世紀末，豊臣秀長(とよとみひでなが)らの保護で独立し，江戸時代には寺領六十四石を給された。本尊の千手観音像は壺坂観音の名で著名である。境内には重要文化財に指定されている三重塔，一字金輪曼荼羅(いちじこんりんまんだら)などがあり，また山中に奥院石仏群がある。《壺坂霊験記(れいげんき)》で知られる。〔杉坂靖子〕

つぼさかれいげんき【壺坂霊験記】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。1段の世話物。原作者不詳。2世豊沢(とよさわ)団平・加古千賀夫妻の改作。1879年(明治12)大阪大江橋席初演。現行の曲は1887年大阪彦六座(ひころくざ)で団平の新作として上演され，好評を博した。物語は盲目の座頭沢市と美しい女房お里の夫婦愛に壺坂観音の霊験をからませたもの。歌舞伎(かぶき)化は翌1888年。

つぼしょうぞく【壺装束】〈つぼそうぞく〉ともいう。主として平安・鎌倉時代の中流以上の女子の外出または旅姿。外出などの私的な服装のため，決まりはなかったが，主として袿(うちき)(衣)・単(ひとえ)・小袖(こそで)などを身丈(みたけ)につけ，裾(すそ)をたくしあげ，腰帯で腰のあたりを結び，余りを腰に折り下げて，市女笠(いちめがさ)をかぶった。壺装束の名は，裾がつぼんでいるから，あるいはその姿全体がつぼの形に似るからだともいう。

つぼすみれ【壺菫】双子葉植物・スミレ科。ニョイスミレともいう。原野の比較



坪内逍遙



壺装束　明治時代の壺装束　鏑木清方画　聖徳記念絵画館蔵



ツボスミレ

的湿った所に自生する多年草で，高さ10〜20cmの茎を出す。根出葉と茎葉の形はほぼ同じで，長さ1.5〜3cm，幅2〜3.5cmの腎臓(じんぞう)形で，鈍鋸歯(どんきょし)がある。托葉(たくよう)は披針(ひしん)形で全縁。4〜5月，白色五弁花をつけ，唇弁(しんべん)には濃紫色の筋があり，距は短く長さ2〜5mmしかない。

つぼだい　硬骨魚類・ツボダイ科。体長40cmに達する海産魚。本州中部以南の太平洋に分布し，沿岸の岩礁帯近くにすむ。幼魚には暗色の不規則な斑紋(はんもん)がある。ときおり漁獲されるのみで，美味ではあるが食用魚としての価値はない。近年，ソ連のトロール船が中部太平洋で大量に漁獲した近縁種のクサカリツボダイは日本でも販売されており，美味で食用としての価値も高い。

つぼたじょうじ【坪田譲治】(1890〜　)　小説家，児童文学作家。岡山県生まれ。早稲田(わせだ)大学卒業。1918年(大正7)小川未明を中心にした〈青鳥会〉に参加，翌年同人雑誌《地上の子》を創刊，《正太の馬》などを発表した。1927年(昭和2)には《赤い鳥》にはじめての童話《河童(かっぱ)》を発表，鈴木三重吉に認められ同誌に《魔法》など多くの童話作品を発表するようになる。この間，生活に窮し帰郷して家業につくなど，1933年文筆生活に専念するまで長い苦闘が続いた。出世作に，1935年《改造》に発表した小説《お化けの世界》で，以後《風の中の子供》《子供の四季》が好評を得，文壇的地位を確立した。作品は，童心に対する鋭い観察にささえられ，躍動する子ども像をリアルに描いたものが多い。戦後も童話雑誌《びわの実学校》を創刊するなど，児童文学の発展に尽力している。〔向川幹雄〕

つぼね【局】殿舎の内部を几帳(きちょう)・屏風(びょうぶ)などで小さく仕切った一画。官庁の場合は音読して〈少納言局〉(しょうなごんきょく)などといったが，後宮においてはこれを〈つぼね〉と訓読し，転じてそこに起居する女官をもさすようになり，さらにこれから女房(にょうぼう)の名も生じた。後宮に局を構える女官は，地名・官名などを冠して丹後の局，左衛門(さえもん)の局などとよばれた。これを局名といい，後継者に伝えられた。特に掌侍の筆頭である勾当内侍(こうとうのないし)は長橋の局とよばれている。江戸幕府も大奥においてこの制度を用いた。春日局(かすがのつぼね)などはその例である。〔黛　弘道〕

つまきちょう【褄黄蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科。翅(はね)を広げた長さ48mm。体は黒色，翅は白色で，前翅は細く先端はかぎ状に突出している。雄ではこの部分に黒色紋に囲まれた美しい橙色(とうしょく)紋をもつ。後翅裏面には暗緑色の網目模様がある。成虫は年1回早春に出現し，平地から高山にまでみられる。北方寒地のものは小形で，暖地になるにしたがい大形となる。飛び方は一定の高さをかなり速く飛び，レンゲ・ダイコン・アブラナなどの花を訪れる。幼虫は緑色で，ハタザオ・タネツケバナ・イヌガラシなどの実を食べ，葉を食べることはほとんどない。さなぎはかっ色で，頭のとがった〈く〉の字形をしており，10か月をさなぎで過ごす。日本全土，中国・朝鮮などに分布する。〔多々内修〕

つまぐろよこばい【褄黒横這】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・ヨコバイ科。体長は雄4.5mm，雌6mm内外で，体形はセミに似る。体は鮮緑色，頭部は黄緑色ないし黄色，光沢が強く，両複眼を結ぶ顕著な黒色の横帯がある。翅(はね)は鮮緑色で，雄は先端部約3分の1が黒色，雌では翅端部は淡かっ色。ただし色彩は個体によってかなり変化し，翅端部が淡かっ色の雌型の雄もまれにみられる。本州以南，朝鮮・台湾にきわめて普通にみられるイネの害虫で，茎葉から吸汁(きゅうじゅう)し，萎縮病(いしゅくびょう)・萎黄病を媒介する。年に5回ほど発生をくり返す。卵はバナナ状で長さ1mmほど。幼虫は灰色ないし淡黒かっ色で細長く，腹端は特に細い。冬は雑草中で主として幼

虫態で越し，翌春3月ごろ成虫となる。➔ウンカ　〔鈴木邦雄〕

つまとりそう【妻取草】双子葉植物・サクラソウ科。高山や高原の半陰地にはえる多年草。茎は細長い根茎から直立し，高さ10cmほど。葉は互生するが，上部では大形の葉が輪生状となる。夏，上部の葉腋(ようえき)から花茎を出し，直径1.5cmほどの花冠が7深裂した白花を1個つける。

つまべにちょう【褄紅蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科。翅(はね)を広げた長さ95～110mm。日本産のシロチョウのうちの最大種。翅は白色で，前翅の先端には黒かっ色に囲まれた大きな三角形の橙色(とうしょく)紋があり，後翅には外縁に数個の黒かっ色紋をもつ。雌は雄に比べて著しく暗色をおびる。成虫は年4～5回連続的に発生し，飛び方は敏速で，ブッソウゲ・スイカズラ・アザミなどの花を訪れる。変異性が強く，日本では北方のものほど小形となる。幼虫はギョボクの葉を食べ，刺激を受けると体の前半部を少し持ち上げて揺する習性がある。さなぎは緑色で，食樹の葉裏または枝上にみられ，腹面の中央部が強くふくらんだはとむね型。幼虫またはさなぎで越冬する。インド・マライ・ジャワ・ボルネオ・中国・台湾などに広く分布する熱帯系のチョウで，日本では九州南端の薩摩(さつま)・大隅(おおすみ)半島が北限である。〔多々内修〕

つみ【雀鷹】鳥類・ワシタカ科。日本産ワシタカ科のうち最も小形で，全長30cm前後とハトよりわずかに小さい。上面は灰紺色，下面はかっ色。成鳥は非常に上品で美しい。東アジア産で，日本では北海道・本州・四国の低山帯の森林に繁殖する夏鳥。樹間，林の中の路上，林縁部などをすばやく飛び抜けるときに目に止まるが，生息数が少ないのでなかなか見られないタカである。雌をエッサイということがある。

つみたてよきん【積立預金】定期預金*の一種で，最初の預け入れ日から一定の期間，あるいは一定の金額に達するまで預金を積み重ねていき，その期間が終了するとさらに一定期間すえ置く預金のこと。従来の普通預金では定期預金に比べて利率が低く不利なので考え出されたものである。現在のところ利用度は必ずしも高くはないが，住宅建設資金を目的にした積立預金(住宅預金などとよばれる)と，消費者ローンとセットするなど多角的な利用法が目だってきている。　〔池内得二〕

つみとばつ【罪と罰】ドストエフスキー*の長編小説(1866)。孤独と赤貧の中で，大きな善の実現のためには小さな悪は許されるという観念につかれた青年ラスコーリニコフは，金貸しの老婆を殺害してその観念を実行するが，そのときから他者との絶対的な断絶感が深まる。しかし，貧困の中にも心の美しさを失わない娼婦(しょうふ)ソーニャや酔漢・子どもたちの従順さが，彼の



ツマトリソウ



ツマベニチョウ



ツ　ミ

魂に触れ，その心に葛藤(かっとう)を生み，ついに彼は自首を決意するという筋。主人公の心の遍歴が精確に描かれ，構成・テーマなども，作者の作品中，最もまとまっており，人間回復への願いが鋭く表現されている。　〔中村健之介〕

つみにほけん【積荷保険】⇨貨物保険

つむ【錘】⇨紡錘

つむぎ【紬】絹織物の一。本来は，紬糸によって織られた紬織物をさしている。紬糸は真綿から手で紡いだ糸(引き虫紬)または出殻繭(でがらまゆ)や玉繭のような屑繭(くずまゆ)から紡いだ糸をいう。したがって紬糸は繊度もまちまちであり，節もあったりするから，織り上がった布面は平滑でなく，光沢にも欠け，一見粗野な感じであるが，反面軽くて暖かくじょうぶであり，独特の風合いをもっている。紬はもともと屑繭利用から出発したものと考えられ，その歴史は古い。《東大寺縁起并(ならびに)流記資財》帳や〈延喜式〉などにその名がみえ，鎌倉時代には質実を旨とした武士の衣料にふさわしかったせいか，常陸(ひたち)紬や石見(いわみ)紬の名が諸国の名産の一つとされている。江戸時代になると，その生産はいっそう盛んになり，郡内紬とか八丈島紬・結城(ゆうき)紬・上田紬・飛騨(ひだ)紬・仙台(せんだい)紬・丹後紬などというように，全国各地で紬が織られるようになった。それは1628年(寛永5)の法度(はっと)にもあるように，絹織物衣服の着用を全面的に禁じられた百姓でも，名主と百姓の女房には紬が許されていたからであり，また紬織が農村婦女子の副業として大きな現金収入源となったからである。紬の生産が主として養蚕地帯の農山村で発展したのはそうした理由からである。また，都市においてもそれが絹織物着用の制限を受けた町人階級に特に好まれたのは，その外見がもめんのように見えながら，軽く，暖かく，じょうぶでしかも価格も安いという実用性に富んでいたからである。こうした伝統は今日にも受け継がれ，紬のよさは張りのあるしっかりした地質でありながら，何回も洗い張りをして水をくぐっているうちに，しだいに柔らかくはだになじんでくる着ごこちにあるといえる。廃物利用の自家用品から発展した紬も，今日では手仕事ゆえに逆に高級品となったが，その風合いのよさは変わらず愛好されている。したがって，現在では紬糸の使用の有無より，交織を含めて織り上がった布の風合いが本来の紬に似た感じをもったものを一般に紬と総称している。しかし，大島紬*のように，現在では紬の風合いをもたなくなったものも，かつての名称をそのまま踏襲している場合もある。現在，一般に知られている紬は，茨城県結城市を中心とした結城紬・石下(いしげ)紬，長野県上田地方の上田紬，山形県米沢(よねざわ)地方の長井紬・紅花紬，新潟県蒲原(かんばら)郡・魚沼郡地方の栃尾(とちお)紬・小千谷(おじや)紬，沖縄の久米島(くめじま)紬，岐阜県郡上八幡(ぐじょうはちまん)の郡上紬などである。　〔北村哲郎〕

つむじ　頭頂毛渦(もうか)の俗称。旋毛ともよばれ，異なった方向の毛流が一点に会したものである。霊長類では，一般に2個の頭頂毛渦をもっているが，ヒトでは，存在部位・方向および数に個人差が強く現われる。大部分の日本人のつむじは1個であるが，2個または3～4個有する者もいる。また右巻きの者も，左巻きの者もおり，頭頂の右・左側のいずれにもある。頭部には頭頂のほか，額のはえぎわ近く，耳の前部，後頭のうなじ(首筋)近くに認められることもある。　〔高野一雄〕

つめ【爪】弦楽器を奏する際に，指にはめたり，指で持ったりしてはじく道具。代表的なものは，指先にはめる箏(そう)の爪であるが，月琴やマンドリンのように指でつまんでひくものもあり，西洋にもその例は多い。

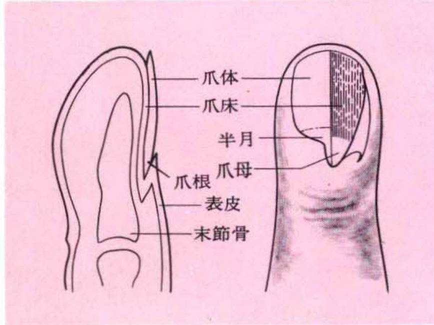
つめ【爪】高等動物の爪は皮層をつくっている表皮が変形したもので，強く角化

して扁平(へんぺい)な上皮細胞が重なり合い密になっている。皮層の中に隠れている爪の部分を爪根(そうこん)，外に現われている部分を爪体という。これらは爪の下にある真皮層と密着しており，この部分を爪床という。爪根の部分は角化が不十分で白色であるが，一部は皮層の外に出ている(半月状に白いので爪半月とよばれる)。爪の新生は爪根で行なわれ，年齢その他の条件で一定していないが，伸びる速さは１日に0.1mmくらいの割合である。爪は指先の保護とともに，押す力，つかむ力を強くするのに役だっている。また，動物の種類によっては，敵に対する攻撃などに用いる武器となっている。

モグラやホリネズミなどは，大部分の生活を土の中で過ごすため，前肢(ぜんし)とその先の爪は地面を掘るのにつごうよくできている。ナマケモノはかぎのように曲がった爪を有し，木の枝に爪をひっかけてさかさまにぶらさがって体重をささえたり，移動したりする。ラクダの蹄(ひずめ)は，非常に幅が広くしかも底が厚いので，砂地を歩くのに適している。アメリカトナカイの蹄の縁は鋭く，大きく丸い形をしているので，すべりやすい氷上や雪の上の歩行に好つごうである。センザンコウの子どもは，母親の尾にまたがり，自分の爪を母親のウロコの間に差し込んで移動する。ネコ・トラ・ライオンなどの爪は，指の中の腱(けん)の作用で爪を動かすことができ，指の間に入れておくことができる。しかしチーターは爪を隠すことができないので，いつもすり減っており，木に登ることがへたである。爪の種類は以上のようにさまざまであるが，基本的構造は同じで，哺乳(ほにゅう)動物では形状により扁爪(ひらづめ)・鉤爪(かぎづめ)・蹄の３種に区別する。扁爪は霊長類，鉤爪は大部分の哺乳類のほか，鳥類や爬虫(はちゅう)類のカメ・トカゲにもみられる。蹄は有蹄(ゆうてい)類にみられる。　〔高野一雄〕

つめくさ　【爪草】　双子葉植物・ナデシコ科。道ばたや庭などに自生する一年草。枝の下部で多数枝分かれし，高さ３～10cm，全体が緑色でつやがある。葉は対生し，長さ７～15mm，幅１mmの線形で，基部で癒合(ゆごう)してさや状となっている。４～７月，茎の上方の葉腋(ようえき)に長い柄のある直径２mmの白色五弁花をつける。果実は蒴果(さくか)で，５裂して黒色でとげにおおわれた種子を出す。葉の形が鳥のつめに似るのでこの名がある。同じナデシコ科にタカネツメクサがあるが，これは本州中部の高山帯の岩石地にはえる多年草で，高さ１～５cm，密に分枝して，先に白色小花をつける。

つめたいせんそう　【冷たい戦争】　第２次世界大戦後の，アメリカとソ連を中心とする〈二つの世界〉の対立をさしていう。国際連合原子力委員会のアメリカ代表バーナード-バルークがはじめて使用し，評論家ウォルター-リップマンの論文の題名で有名に



つ　め　ヒトの指端の構造


ツメクサ　(上)ツメクサ　(下)タカネツメクサ


ツメタガイ

なった。リップマンの定義では，武力を行使する〈熱い戦争〉に対して，〈宣伝と浸透，間接的な経済的・軍事的圧迫手段による戦争〉をいう。第２次世界大戦中からアメリカとソ連は微妙に対立していたが，終戦直後，対イタリア講和，ドイツ分割占領，朝鮮分割，国際連合の原子力管理などでその対立は表面化した。1947年３月トルーマン-ドクトリンの発表によってアメリカの反共的態度が明確化し，６月マーシャル-プラン発表。1948年３月西ヨーロッパ五国同盟の結成へと進展したのに対し，ソ連側も1947年10月コミュンフォルムを結成するなど，両陣営ともに相互援助条約・集団防衛体制を確立して，〈冷戦〉は本格的段階にはいった。1948年６月アメリカ・イギリス・フランスのドイツ占領地帯統合と通貨改革に対して，ソ連はベルリンの経済封鎖で対抗，冷戦は熱戦になるかにみえたが，1949年５月封鎖の解除でその危険は去った。その後，同年10月の中華人民共和国の成立，ヨーロッパ諸国の植民地のあいつぐ独立などで社会主義陣営が強化されると，アメリカは1949年４月にNATO(北大西洋条約機構*)を，1954年にはSEATO(東南アジア条約機構*)を形成して，ソ連・中華人民共和国に対峙(たいじ)した。1950年６月起こった朝鮮戦争*は部分的〈熱戦〉の情況を呈したが，1953年３月ソ連首相スターリンの死後，フルシチョフが〈平和的共存〉を提唱してアメリカに接近し，四大国巨頭会談，1959年キャンプ-デービッド会談などがあって，国際情況は〈雪解け〉を迎えた。1960年Ｕ２事件，1961年ベルリンの危機，1962年キューバの危機など，米ソは数度にわたり熱戦発生の危機を迎えたが，1960年代初期のケネディの時代にアメリカ・ソ連の協調は大きく前進し，1961年ウィーン会談(いわゆる〈KK会談〉)，1963年部分的核実験停止条約，1967年ジョンソン大統領・コスイギン首相のグラスボロ会談などにより，〈冷たい戦争〉はようやく解消したといえる。近年はかえって，中華人民共和国とソ連との関係の悪化が目だつ。　〔折井一彦〕

つめたがい　【研螺貝・津免多貝】　軟体動物・腹足類・タマガイ科。殻高(かくこう)７cm，殻径8.5cmぐらいになる巻き貝。殻(から)は球状で，やや厚くかたい。螺塔(らとう)は低く螺層は５階。体層は著しく大きく丸い。殻表は平滑で，紫かっ色であるが，殻底は白い。殻口は大きく半円形。蓋(ふた)はかっ色半透明の革質で半円形。軟体は足部が大きく，頭部は楯状(たてじょう)になり，側足・後足が発達して，殻を後方からおおう。砂中にもぐり，アサリやハマグリなどの貝類を襲い，足で包んで，歯舌と唾液腺(だえきせん)から出る酸で穴をあけて肉を食い，養殖貝の害敵となる。また，ヒトデに襲われると足で殻を包んでのがれる。卵嚢(らんのう)は砂泥(さでい)を固めて茶わんを伏せたような形をするのでスナジャワンという。肉は食用とするが不味。殻は貝細工の材料にする。　〔波部忠重〕

つめびき【爪弾】　三味線(しゃみせん)で撥(ばち)を使わずに，右手の人さし指の爪でひくこと。大きな音をたてたくないためであるが，小唄(こうた)では一般に実際には爪よりも肉の部分で奏する。

つや　【通夜】　神仏に参籠(さんろう)して，死者の棺を守り徹夜して夜を明かすこと。ヨトギ・ホトケマブリ・ソイネ・メザマシなどともよばれる。現在通夜とは，死者の死亡に際し，葬送するまでの一晩近親者たちが遺体の前に集まることのように考えられているが，元来はごく近い親類縁者たちが火を別にした食事をとり，一定期間死体とともに生活をする喪屋生活の意味であっ

た。したがって今日異様にも思える死者と同じ床に寝る風習も，実は通夜が死者と生者との共同生活であることを伝えるものである。今日都会では，忌み*がかりの人々の範囲が一定せず，また忌火の観念や通夜の期間も簡略化され，通夜の本来の習俗は姿を消しつつある。〔渡辺欣雄〕

つやざき【津屋崎(町)】福岡県宗像(むなかた)郡にあり，県の北部，玄界灘(げんかいなだ)に面する港町。人口12,000。古くは大陸交通の基地として栄えたが，現在は漁港のほか玄海国定公園の海岸美を背景にした観光・保養地となっている。福岡から西日本鉄道宮地岳線が通じる。タマネギを産する。

つやま【津山(市)】岡山県北東部の市。人口81,000。大化改新後，美作(みまさか)の国府所在地として作州の政治・行政の中心地となり，中国山地の砂鉄を採取して古くから津山鎌(かま)などの金属加工が行なわれた。1603年(慶長8)に森忠政(ただまさ)が鶴山(かくざん)城を築城後，森氏十八万六千五百石の城下町として栄え，江戸中期以後は，松平氏五万石の所領となった。宇田川玄随・箕作阮甫(みつくりげんぽ)らの蘭学者(らんがくしゃ)を出している。1929年(昭和4)市制施行。市域は津山盆地*の中央部，吉井(よしい)川上流の北岸に位置し，直角に屈曲した江戸時代そのままの街路と美しい山や川，なだらかな丘陵などの配置によって〈西の京都〉とよばれる。産業三大別人口比は16：28：56。周辺部は米と麦の二毛作を中心とする農業地帯で，古くから牧牛が発達し，最近は酪農が興っている。伝統的な金属工業のほか，紡績・製材・木製品・製紙などの諸工業が行なわれるが，近代工業はあまりふるわない。姫新(きしん)線・因美線・津山線の交点にあたる交通の要地で，国道53号線・179号線・181号線が集まり，将来は中国縦貫道路が貫通する予定である。鶴山城跡，院ノ庄館(いんのしょうやかた)，弥生(やよい)式住居跡などの史跡に富む。特産は，作州絣(かすり)・和紙・つりざお・竹細工など。〔浅井得一〕

つやません【津山線】山陽本線岡山と姫新(きしん)線津山の間を結ぶ国鉄路線。営業キロ数58.7。1898年(明治31)に開業。郡家(こおげ)で因美線と結ばれ，山陰本線と山陽本線を結ぶ陰陽連絡鉄道の一。

つやまぼんち【津山盆地】岡山県東部，中国山地と吉備(きび)高原にはさまれた東西に長い小盆地。吉井(よしい)川・加茂川などが流れる沖積地(ちゅうせきち)と中国山地から続く第三紀層で形成された低い丘陵からなる。丘陵面は古くから開発された地域で，弥生(やよい)時代の住居跡や古墳群もみられる。沖積地には水田が開け，丘陵面には畑・果樹園・林地が広がる。中心都市の津山市は山陽地方と山陰地方を結ぶ交通の要地である。

つゆ【梅雨】⇨ばいう

つゆ【露】植物をはじめ大気中に露出している諸物体を包む空気の薄層の水蒸気が凝結して，その物体の表面に付着する多数の水滴のこと。物体自身の放射によってその物体を包む空気の薄層の温度が冷却し，露点以下に降下すると，水蒸気が凝結して露を結ぶ。あるいは薄層の空気に補給された水蒸気が飽和に達して露を結ぶ。植物の葉などに露が結びやすいのはその表面から水蒸気が蒸発し，温度冷却の作用も加わるからである。露は薄層のできにくい強風とか，空気が乾燥しているような状態ではできにくい。〔小沢　正〕


ツユクサ


ツユムシ　脱皮直後のセスジツユムシ

つゆくさ【露草】単子葉植物・ツユクサ科。日本全土の荒地・路傍に普通に自生する一年草。アオバナ・ボウシバナともいう。茎は15～30cmで，下方は横走し，多く分枝してひげ根を出す。葉はまばらに互生し，卵状披針(ひしん)形で，基部はさや状になる。6～9月ごろに折りたたまれた包のある花を総状につける。外花被3枚は小さく無色膜質，内花被の上方の2枚は扁円(へんえん)形で青紫色，下方の1枚は白色で小形。おしべ6本のうち4本は変形して黄色の仮雄蕊(かゆうずい)となる。花は一日花で，早朝咲いて夕方にはしぼむ。果実は楕円(だえん)形の蒴果(さくか)で，あとにかわいて3裂する。園芸品種にオオボウシバナがあり，全体に大形で，70～80cmにも達する。かつては花の絞りじるで青花紙をつくる目的で栽培され，いまでも滋賀県の一部に残っている。また，観賞用としても栽培される。〔横井朝子〕

つゆこそでむかしはちじょう【梅雨小袖昔八丈】歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称〈髪結新三(かみゆいしんざ)〉。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)作。1873年(明治6)中村座初演。人情噺(にんじょうばなし)の《白子屋政談》を脚色。小悪党の髪結新三は材木商白子屋の娘お熊(くま)を誘拐(ゆうかい)し，談判に来た弥太五郎(やたごろう)源七を追い帰すが，家主長兵衛(ちょうべえ)の強引な掛け合いに負けてお熊を返し，最後には源七に殺される。梅雨どきの江戸情緒に満ちた生世話物(きぜわもの)で，今日も人気のある作品。〔松井俊諭〕

つゆむし【露虫】こん虫類・直翅(ちょくし)目・キリギリス科。翅端までの体長29～37mm。体は細長く，濃緑色で，背面に暗かっ色の細い縦条がある。触角は糸状で著しく長い。日本全土を含む旧北区および台湾に分布する。平地の草むらに8～9月に出現する普通種で，昼間は草むらに潜み，夕刻に活動し，〈チ・チ・チ……チキチ・チキチ〉と鳴く。燈火にもよく飛来する。近似の種にアシグロツユムシ・セスジツユムシ・エゾツユムシなどがある。

ツーラ［Tula］ソ連，モスクワ南方約170kmにあるツーラ州の州都。人口50万6,000(1976)。中央ロシア高地北部の工業都市で，モスクワ炭田の中心であり，交通の要衝をなす。ソ連で最も古い冶金(やきん)業・金属加工業の中心地で，紡績・機械・食品加工などの工業も盛んである。市の南郊にかつてトルストイが住んだ邸宅があり，いまでも記念館として保存されている。第2次世界大戦中はモスクワ攻防戦の戦線となり，ドイツ軍の包囲を受けた。〔斎藤晨二〕

つらながこびとざめ 軟骨魚類・ヨロイザメ科。雄はわずか全長15cmで成熟しており，また25cm以上のものはとれないので，たぶん現存するサメ類中で最も小さな種類といえよう。しりびれはなく，第2背びれの基底長は第1背びれの2倍。尾びれは短く，かつ上葉・下葉の長さがほぼ等しい。また尾びれ先端の下面に欠刻がない。第1背びれ前縁には皮膚に隠れるかわずかに露出した棘(きょく)が先行するが，第2背びれ前縁にはない点がこの種類の著しい特徴である。太平洋産はフィリピンから日本の駿河(するが)湾までの深海部に分布するが，大西洋産と同種か別種かははっきりしない。採捕記録も少ない種類なので，現在はまだ利用されていない。

つらね ことばや歌を長々と雄弁に朗唱する，日本芸能独特の技法で，〈連〉〈連事(詞)〉などの字をあてる。鎌倉時代，猿楽(さるがく)や延年の一様式として発達し，近世では歌舞伎(かぶき)に取り入れられた。ふつう荒事*の主役が花道で述べる，掛けことばの多い長せりふをさし，《暫(しばらく)*》などは代表的な例。近年は世話物*にも美文調の長い名乗りがあり，これも一般に〈つらね〉とよんでいる。➔せりふ

つらら【氷柱】水道管や軒などから下がる柱状の氷。空気中の温度が氷点以下の場合，水が軒などから落ちるとき，その端の部分から凍結が始まり，この氷に沿ってさらに水が落ちるために，しだいに下方に伸

びるとともに，太さも増してできる。

つり 【釣り】 ⇨484ページ

つりあい 【釣り合い】 ⇨平衡

つりあぶ 【吊虻・長吻虻】 こん虫類・双翅(そうし)目・ツリアブ科の総称。小形で体は太く，一見ハチに似た形態で，クロバネツリアブ類はハナバチ類に，ビロードツリアブ類はマルハナバチ類やヒゲナガバチ類に，ハラボソツリアブ類はヒメバチ類に似る。飛び方は敏速であるが，静止飛翔(ひしょう)も行なう。成虫は花に好んで集まる種類が多いが，湿地や水辺近くの地上や岩石上に止まっているものもよく観察される。卵はハチ類やハンミョウ類などの巣の近くに産下され，孵化(ふか)した幼虫は巣中に侵入してそれらの幼虫に外部寄生する。過変態を行なう。全世界から2,000種以上が発見され，約20の亜科に分類される比較的大きい群である。日本にも20種ほどが分布するが，まだ研究が十分になされていない。日本に産するおもなものは，クロバネツリアブ・ビロードツリアブ*・トラツリアブ・スキバツリアブ・ホシツリアブ・コウヤツリアブ・ニトベハラボソツリアブなどである。〔鈴木邦雄〕

ツリウム [thulium] 周期律表第Ⅳ族希土類元素の一。記号Tm，原子番号69，原子量168.934。クラーク数 2×10^{-5}(第66位)で存在はきわめて少ない。無水塩化物をアルゴン中かまたは高真空下に液状アルカリ金属と溶融してつくられる。融点1,600±50℃，比重約9.3。1879年スウェーデンのクレーベによって発見された。

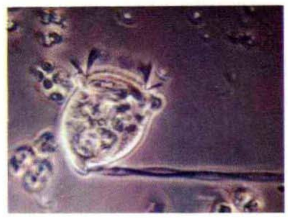
つりおんな 【釣女】 日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。本名題《戎詣恋釣針(えびすもうでこいのつりばり)》。1901年(明治34)初演。能狂言《釣針》による松羽目物*で，もと河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)作詞，5世岸沢式佐作曲の演奏曲を改訂したもの。独身の大名・太郎冠者(かじゃ)が，西宮の戎神社で美女と醜女をつるこっけいな内容。

つりがねにんじん 【釣鐘人参】 双子葉植物・キキョウ科。山野の日あたりのよい所に普通にみられる多年草。高さ40～100cmで，全草に短い毛があり，植物体を傷つけると白いしるが出る。葉は長さ4～8cm，幅5～40mmで，3～6枚が輪生する。7～10月，茎の上部に円穂花序をつけ，長さ1.3～2.2cmの白色ないし紫色の鐘状花を下向きにつける。根は太く，乾燥したものを沙参(しゃじん)といい，去痰(きょたん)薬として用いる。また，若苗はゆでて食用にされる。

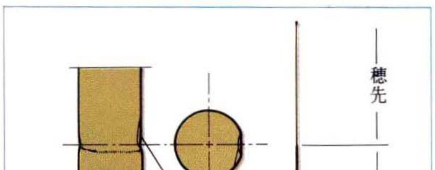
つりがねむし 【釣鐘虫】 原生動物・繊毛虫類・ツリガネムシ科。他物に固着する長い柄の先端に，つりがねをさかさにした形の本体がつく。周縁の内側には3列の繊毛が並び，口部に導かれる。体長は柄部を含めて約0.5mm程度。柄部の中には高等動物の筋肉に相当するような繊維があって，収縮する。池・沼・みぞなどに普通にみられる繊毛虫で，水中の他物の表面などに群体をつくって生息する。海洋にすむ種類も知られる。



ツリガネニンジン



ツリガネムシ



つりざお

つりぎつね 【釣狐】 狂言の題名。一族を残らず捕えられ，いままたわが身をねらわれている古ギツネ(シテ)が，猟師の伯父(おじ)で僧の伯蔵主(はくぞうす)に化け，キツネつりを思い止まらせようと，那須野(なすの)の殺生石(せっしょうせき)の由来を引いてキツネの執心の恐ろしさを説いて，早速わなを捨てさせることに成功する。喜んで，小歌をうたっての帰途，捨てたわなについているえさは大好物の若ネズミの油揚げ。つえでつつき，何度か飛びかかろうとするが，やっと誘惑に打ち勝ち，もとの姿になってから食べようと幕にはいる。一方，伯父のようすに不審をいだいた猟師は，わなの荒され方を見てその正体に気づき，捕えんものとわなをかけなおして待つ。そこへ正体を現わしたキツネが近づき，用心深くえさをせせるうち，ついにわなにかかるが，必死にはずして逃げるというもの。

雑狂言の一。《花子》に次ぐ秘曲とされ，これを演ずると一人まえの狂言師と認められる。特に前ジテはキツネのもつ無気味さを表現するために無理な姿勢やせりふが要求され，肉体的には最も苦痛を伴う狂言だという。〔片桐　登〕

つりぎょぎょう 【釣り漁業】 針とつり糸が主要な漁法。つり漁業は一本づりと延縄(はえなわ)に分類できるが，一本づりではさおも用いられる場合がある。さおづりあるいはさおを用いない手づりの場合でも，用いられる針の数が1本の場合もあれば，数本ないしそれ以上の針が，1本の幹糸につけられる場合もある。延縄漁法は1本の長い幹糸に数多くの針を付して，これをくり延べて用いるのでこの名称がある。マグロ延縄やアナゴ延縄などこれである。表層付近で用いられるもの，海底付近で用いられるものにより，浮き延縄・底延縄の区別もある。これを縦の方向に用いる場合は立て延縄という。またてんびんを用いるてんびんつり漁法もある。船を走らせながらつり糸を引き回して漁獲する方法が引き縄づりで，ブリやカツオを対象とする。つり餌(え)にはおおむね生き餌や生餌が用いられるが，カツオづり，引縄づりやイカつりでは，極彩色の糸，ビニル，鳥の羽毛などでつくった擬似餌が用いられて効果をあげている。〔石野　誠〕

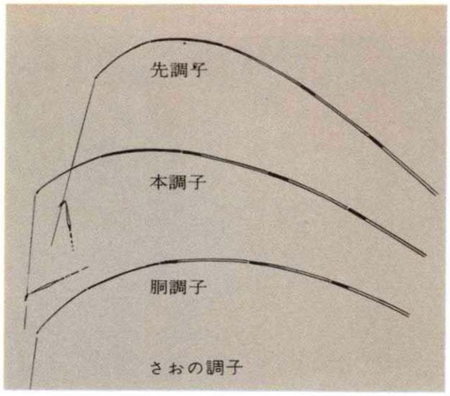
つりざお 【釣り竿】 つり漁に使用するさお。古くから最も多く用いられてきたのは竹製のものである。特に日本産の竹は伝統的に良質なつりざおとして愛好されてきた。日本国内でも地方によって竹の性質が違い，できあがったさおの調子もさまざまであるが，代表的な竹材には，クロチク・マダケ・ヤダケ・メダケ・コウヤチク・マルブシなどがある。なお，竹製・木製のほかに，近年ではスチール製・グラスファイバー製(グラスロッド)などが普及してきた。中でも強靭(きょうじん)で弾力に富み，加工しやすいグラスロッドが断然他を圧している。つりざおはその構造によって，延べざお(1本ざお)・継ぎざお・振り出しざお・中通しざお・外通しざおなどに分類される。このうち，中通しざおはリールから引き出されたつり糸がさおの内部を通ってさお先に出るもの，外通しざおは同じくつり糸が外

側のガイドを通ってさお先に達するものである。また，つりざおは調子によっても分けられる。全体が平均してしなうものを本調子，胴の部分がよくしなうものを胴調子，さお先が柔らかくしなうものを先調子といい，対象魚の性質によって使い分ける。〔清水游谷〕

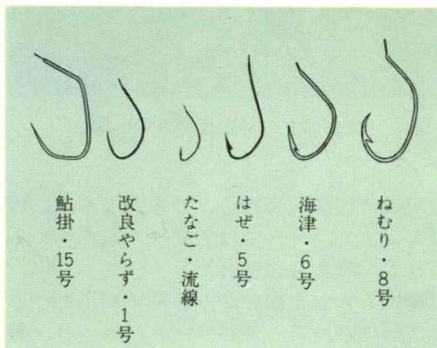
つりだいこ【釣り太鼓】打楽器の一。雅楽の太鼓の中で最もよく使われ，円形のわくの中に太鼓をつるしているため，この名があるが，一般には楽太鼓をさし，広義には舞楽団の大形の大太鼓(だだいこ)をもさす。2本の桴(ばち)で奏するが，左手で軽く打つ音と右手で強く打つ音の2種が組み合わされる。これら2種の音は弱拍と強拍のような機能をもって，合奏中では羯鼓(かっこ)がつくるリズム-パターンに，より大きなくぎりをつける役割を果たす。〔徳丸吉彦〕

つりばし【吊り橋】適当なたるみをもたせて張り渡したケーブルを本体として構成された橋。一般にケーブル端を空中高く支持するための支塔や，ケーブルに作用する引張力に抵抗して，それを大地に固定するためのアンカーを必要とする。このケーブルからハンガーによって橋床をつり下げる。自動車が渡るような本格的なつり橋では，これだけでは橋の変形が大きすぎて実用上支障をきたすので，補剛構造を設けるのが普通である。最も一般的な補剛構造はプレートガーダー*やトラスを用いるもので，これらをハンガーでつりそれに橋床を取り付ける。つり橋のケーブルはピアノ線のような非常に強い鋼線をたばねてつくられるので強さのわりに重量は軽くてすむ。そのため長径間を渡るのに有利であるから，現在世界最長のニューヨークのフェラザノナローズ橋(中央径間1,298m)をはじめ径間1,000m以上の橋はすべてつり橋の形式である。東京隅田(すみだ)川の清洲(きよす)橋はケーブルの代わりに細長い鋼板をピンで連結した鎖を用い，その端部を補剛プレートガーダーに連結して外部にアンカーを設けていない自定式つり橋とよばれる形式である。〔堀井健一郎〕

つりばな【吊花】双子葉植物・ニシキギ科。平地から低山に自生する落葉低木ないし小高木で，高さ3mに達する。枝は細く，小枝の先端にとがった頂芽をつける。葉には細かい鋸歯(きょし)があり，長さ5～10cm，幅2～5cmの楕円(だえん)形で，先端はとがり，3～6mmの柄で対生する。5～6月，葉腋(ようえき)に葉よりも長い花序を出し，直径7～10mmの緑白色の五弁花が10個前後つく。果実は直径1～1.5cmの球形の蒴果(さくか)で，5片に裂け，朱色の仮種皮をかぶった種子をぶらさげる。庭木として植えられる。オオツリバナは亜高山帯に分布し，葉が大きく，果実に5枚の狭い翼がある。ヒロハツリバナは四弁花で，長さ1cmの翼が4枚果実にある。〔加藤僖重〕



つりざお



つり針





ツリフネソウ
(上)ツリフネソウ
(下)キツリフネ

つりばり【釣り針】魚をつるのに用いる湾曲した針。その歴史は人類の歴史とともに古く，太古には，石製のもの，獣の角や骨でつくったもの，木や貝がら製のものなどが用いられていた。わが国でも，新石器時代のものと推定される石のつり針や縄文(じょうもん)文化期の骨製・角製のつり針が出土している。その後，銅製・青銅製のものを経て鉄製のものに至った。現在は鋼の発達によって，きわめて精巧なものが多くつくられている。特に四面を海に囲まれ，かつ内陸にも河川の多いわが国では，諸外国に比して非常に多くの種類のつり針がある。これは魚の習性やつり漁の能率などを考えて改良くふうされた結果にほかならない。現在使用されているものは，普通の針と擬餌(ぎじ)針との2種類に大別される。①普通のつり針：から針で使うこともあるが，多くは餌(え)をつけてつる。形の上から丸形・角形・そで形・きつね形などに分けられ，さらにそれぞれをもとにした変形が多い。また，大きさによって1号・2号……と分類されるが，寸法は全国的に統一されておらず，各メーカーによって差がある。なお，かかった魚がはずれにくいように逆針のついているものが多いが，中には〈あごなし〉とよばれて，逆針のない針もある。②擬餌針：鳥の羽毛などを餌に似せてつくり，針と組み合わせたもので，したがって餌はつけずに使用する。代表的なものは毛針で，魚の好むこん虫などに擬してつくり，おもに渓流(けいりゅう)などで使う。アユ用のものだけでも1,000種類をこすといわれ，形や色彩も変化に富む。これらを魚種や晴れや曇りのとき，水流や水温などに応じて使い分けるのである。一方，海や湖沼のつりに使う擬餌針には，小魚に擬した木片・獣骨・鉛や，フグ・カワハギなどのじょうぶな魚皮，ビニル・ポリエチレンの細片など，さまざまな材料を用いたものがある。〔清水游谷〕

つりふねそう【釣船草】双子葉植物・ツリフネソウ科。山野の湿った陽地に自生する一年草で，群生する。茎は高さ0.5～1mで多汁(たじゅう)質，赤色で節がふくらむ。葉は長さ1～4cmの柄で互生し，ひし状卵形で長さ5～12cm，幅2～5cm，細かい鋸歯(きょし)がある。7～9月，茎の上部の葉腋(ようえき)から紅紫色の腺毛(せんもう)のある花茎を伸ばし，紅紫色の美花をつける。3枚のがく片と花弁があるが，特に大きい1枚のがく片が袋状となって，先がうずまき形の距となる。果実は長さ2cmの紡錘形の蒴果(さくか)で5片に裂け，3～4個の茶かっ色の種子を飛ばす。近縁種にキツリフネがあり，花色が黄色で距はうずまき形にならない。

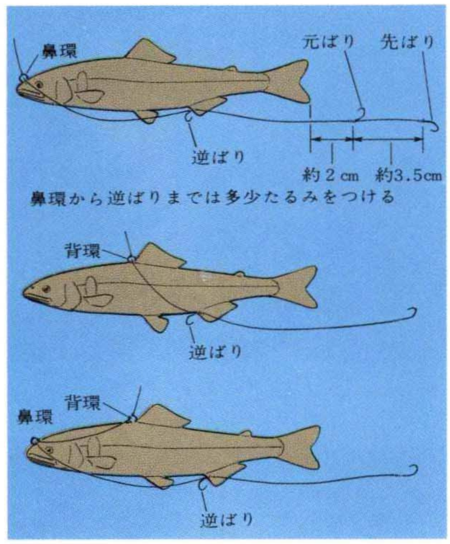
つりぼり【釣り堀】平地または河川・湖沼・海岸・プールなどに人工の池をつくって魚を放流し，価格を定めて遊漁者につりを楽しませる場所。放流する魚には天然のものと養殖したものとがあるが，いずれにしても魚種は限定され，淡水魚でフナ・コイ・カワマス・ナマズ・ウナギ・キンギョなど，海水魚でアジ・サバ・タイ類・イナダなどがおもなものである。また，つり堀にはそれぞれ規定があって，使用するさおや仕掛け，つり餌(え)の種類などに制約が設けられていることが多い。さらに料金には，時間づりと目方づりとがあって，前者

つ　り

釣　り

つり糸とつり針*とを用いて魚などを捕えること。必要に応じて，糸や針のほかにつりざお*・おもり*・浮き*(標木)・餌(え)などを用いるので，これらを合わせてつりの六物という。

〔歴史〕 太古においても人類の食糧獲得の手段として，農耕・狩猟とともにつりは重要な地位を占めていた。旧石器時代の遺跡から発見される石製のつり針，縄文(じょうもん)・弥生(やよい)期の獣骨のつり針などがそれを物語っている。文献に現われたものでは，《旧約聖書》につりのことがみえ，ローマ帝国のころには遊びとしてのつりのあったことが知られる。日本でも《古事記》の〈海彦山彦(うみひこやまひこ)〉の伝説は古代にもすでにつりを専門とする者の存在したことを物語り，オオクニヌシノミコトのタイづり，神功(じんぐう)皇后の肥前松浦の玉島川におけるアユつりなども知られている。また，《万葉集》にアユをよみこんだ歌もある。平安時代の寝殿造りには釣殿が設けられて，遊びのつりの存在をうかがわせ，814(弘仁5)には，すでに乱獲を禁ずる旨の勅命が発せられている。中世には職漁者以外につりはあまり行なわれなかったようであるが，江戸時代には遊びのつりが急激に発達し，寛文年間(1661～1672)には江戸を中心につり術の流派も生まれ，趣味としての遊漁が盛期を迎えている。当時は河川のつりが主で，海づりは深川の木場や品川沖のハゼ・キスを対象とする程度であった。しかし，道具に贅(ぜい)を尽くしたことは驚くほどで，大名や富豪はさおに金銀の箔(はく)を押したり，遊女の毛髪をつり糸にしたりして華美を競った。明治以降



アユの友づりの仕掛けの一例

は用具や技術も発達し，対象となる魚の種類もふえて，今日では外洋に大魚を求めるつりも出現するに至った。

〔種類〕 大きく海のつりと河川湖沼のつりとに分けられる。前者はさらに船づり・磯(いそ)づり・陸(おか)づりなどに分け，後者は渓流(けいりゅう)のつり，中下流のつり，湖沼のつりなどに分けるのが普通。①船づり：多く船頭のあやつる船上からのつりで，職漁者のつりと遊漁者のつりとがある。遠洋のカツオの一本づり，トローリングのカジキづりなどから内湾のハゼづりに至るまでさまざまであるが，遊びのつりとして一般的なのは近海のタイ・スズキ・カンパチなどのつり，アジ・サバ・ハゼ・キス・フッコ(スズキの幼魚)・イナダ(ブリの幼魚)・カレイ・カワハギなどを対象とする沿岸や内湾のつりである。さおを使った脈づり(さおに伝わる魚の反応を利用するもの)が多いが，対象魚により，浮子づり，さおを使わない手づりなどもある。なお，船を集団で借り切るものを仕立て，個別の客を収容する船を乗り合いとよぶ。②磯づり：岩礁や堤防の根もとは魚類の多く集まる場所である。さおを使った脈づり，浮子づり，またはフカシづりなどでこれらをねらうのが磯づりで，イシダイ・モロコ・クロダイ・アイナメ・カサゴ・メバル・ウミタナゴなどがおもな対象となる。外洋に面した岩礁の上からワイヤのハリスを使ってのイシダイづりなどは最も豪快なつりである。③陸づり：砂浜や防波堤からのつりで，代表的なのはキス・カレイ・イシモチなどの底魚を対象とする投げづりである。リールを使って餌を50～130mの沖合いに投げ込む。スポーツの要素も強く，近年急速に普及した。その他，さおづりで川口近くのボラ・セイゴ(スズキの幼魚)・ハゼなどをねらうのも陸づりの一種である。④渓流づり：イクラ・ブドウムシ・カワムシなどを使ってイワナ・ヤマメ・マスなどをつるもの。地形の険しい場所が多く，かつ音や人影に敏感な魚が多いので，技術的にはかなりむずかしい。⑤川づり：河川の中・下流でのつりで，対象となるのはアユ・フナ・コイ・オイカワ・ハヤ・タナゴなど。魚種も多くつり方・技術もさまざまである。アユづりのように高度の技術を要するものもあるが，概して初心者向きのものが多く，最も大衆的なつりといえよう。餌もミミズ・カワムシ・サシなどの生餌が適するものと，コイ・ヘラブナのように練り餌を主体にするものとがある。⑤湖沼のつり：ヘラブナ・ワカサギ・ヒメマスなどがおもな対象魚で，湖心にボートを浮

はつる時間を基準として料金を支払うもの，後者は獲物の数量に応じて料金を支払うものである。　〔清水游谷〕

つりわ　【吊り輪】　⇨体操競技

つる　【蔓】　茎全体や巻きひげなどで他物に付着して生長する植物の茎をいい，このような茎をもつ植物をつる植物という。つるは機械組織の発達が悪く，直立できないため，他物に巻きついたり付着して群落の上層の明るいところへ伸びる。つるには，フジ・ヤマノイモ・ヒルガオ・クズなどのように茎全体で巻きつくもの，ウリ類・マメ類・ブドウ・サルトリイバラ・ヤブガラシのようにいろいろの器官が巻きひげになったもの，キヅタ・ツタ・イワガラミのように不定根を生ずるもの，カナムグラのように体表上にかたい逆毛のあるものなどがある。つるが時計の針と同じ方向に巻くものを右巻き(カナムグラなど)，反対の方向に巻くものを左巻き(アサガオ)といっている。　〔横井朝子〕

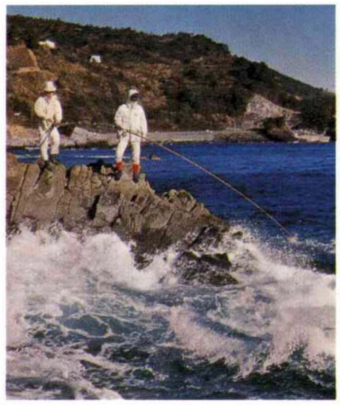
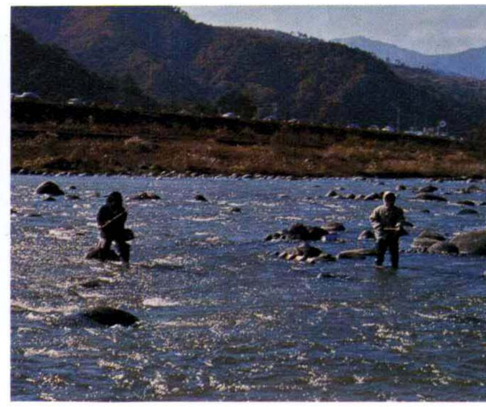


ツ　ル　(左)アネハヅル　(右)クロヅル

つる　【鶴】　鳥類・ツル科の総称。南アメリカ大陸・マライ半島・ポリネシア・ニュージランドを除き，全世界に14種が生息する。いずれもくびと脚が長い大形の鳥である。体羽は白・灰・黒色など。翼の一部(次列風切羽)は，たたむと腰の後半部にたれさがるように房状をなすものが多い。幼鳥の羽毛はすすけたような色で，満3年以後に成鳥羽になる。ツル類の特徴の一つとして，気管がうずまき状になっていて，鳴き声は非常によく響き，〈鶴の一声〉といわれるようにその鳴き声は数キロメートル先に届くこともある。また，特殊なダンスをすることも有名で，2羽が向かい合って，小走りに駆け寄ったり向かい合って，真上

つ　り

(左)船づり　東京湾(千葉県浦安沖)でのハゼつり乗り合い船
(中)磯づり　伊豆半島東海岸の赤沢付近の磯でのブダイづり
(右)渓流づり　伊豆半島大仁町付近の狩野川でのハヤ・ヤマベづり

かべ，あるいは氷に穴をあけてつる(冬のワカサギづり)。淡水魚のつりとして最も醍醐味(だいごみ)のあるものとされ，初心者から熟練者までそれぞれに楽しめる。近年，擬似餌(ルアー)を用いたトローリング漁法のマスづりも盛んになった。

〔つり餌〕目的によって，つり餌と撒(ま)き餌とに分けられる。前者は針につけて魚に食いつかせるためのものであり，後者は水中にまき散らして魚を目的の場所に集めるためのもので，寄せ餌・呼び餌・コマセなどともよばれる。撒き餌は海水の場合はアミエビや魚肉を刻んだものを用い，淡水の場合は米ぬか・さなぎ粉などを用いる。つり餌はさらに生き餌・生餌・貯蔵餌・練り餌・擬似餌と分類される。①生き餌：エビ・イワシ・アジなどを生きたまま針づけして使うもの。②生餌：サザエ・アオヤギなどの貝肉やゴカイ・イソメ・ミミズ・カワムシ・サシなどの小動物を生のまま使用するもの。③貯蔵餌：保存餌ともいい，生き餌や生餌を冷凍にしたり，干したり，塩づけ・油づけにしたりして使うもの。④練り餌：小麦粉・米飯・サツマイモ・さなぎ粉など，魚の好む植物性・動物性の餌料を練り固めたもので，淡水のコイ・ヘラブナなどに有効である。⑤擬似餌：擬餌針とほぼ同義で，羽毛などで生き餌や生餌に模してつくったものである(→つり針)。

〔つり舟〕つり漁を目的とする船。職漁の場合と遊漁の場合とがある。遊漁の場合は貸し賃を定めて遊漁者に貸す貸し舟と，船頭が船を操作して客を漁場に運ぶ乗り合いまたは仕立てとがある。河川湖沼の場合は前者が多く，近海・内湾のつりには後者が多い。後者の場合は，船頭の手間賃や餌代などを含めて料金を定める。海には潮流があるので，船頭は三角帆を張り，また櫓(ろ)を練って，おもりや餌が適当な位置に沈むよう，ゆるやかに船をあやつるのが普通である。近年は遊漁用具の発達に伴ってトローリングが流行し，高速のつり舟も登場するようになった。なお，夜のつり舟は多く集魚燈を用いるので，火影(ほかげ)が暗い海上に点々と連なって美しい。これを漁火(いさりび)といい，古来詩歌の題材にもなっている。

つりの用語

あたり　魚が餌に食いついたときの感じ。〈魚信〉と書く。
あわせ　あたりを感じたあと，魚が餌を口にしたころあいをみて引っかけること。
お祭り　隣人の糸や仕掛けとからむこと。
型　魚の大きさ。〈型を見たか〉とは〈つれたか〉の意。
きじ　餌に用いる小さいミミズ。ミミズの語を避けていう。大きいのをトバミミズまたは〈どば〉という。
外道　目的とする魚以外につれた魚。
さし　餌に用いるハエの幼虫。サバの虫。紅色に染めたものを紅さしという。
たち　水深のこと。
たな　水中の魚の遊泳層。
でき　〈でき魚〉の略。当歳の魚のこと。〈ひね〉に対していう。
のっこみ　産卵のために魚が深場から浅場(産床)に来ること。
ひね　2歳以上の魚のこと。〈でき〉に対していう。
ふかしづり　軽いおもりをつけるか，または，おもりを用いずに餌を水の中層に流してつること。ふかせづりともいう。

〔清水游谷〕

に数メートルもはね上がったりする。この動作はつがい形成や，すでにつがいになったものの結びつきを強めたりする働きがあると考えられ，繁殖期前や，種によっては1年じゅう行なう。一般に植物性食であるが，種々の小形動物・魚類・カエル・ヘビなどをも食う。広大な草原や湿地の地上で繁殖し，非繁殖期には群で生活する。飛行中はくびを前方にまっすぐ伸ばし，長距離の渡りの際にはV字形や1列の編隊を組んで，鳴きかわしながら数キロメートル上空を飛行する。わが国にはクロヅル・タンチョウ・ナベヅル・マナヅル・ソデグロヅル・アネハヅル・カナダヅルの7種が記録されている。鹿児島県阿久根(あくね)市には，毎年マナヅル・ナベヅルを主体に，数千羽のツルが渡来越冬し，山口県熊毛(くまげ)町にも数百羽のツルが例年渡来している。また，タンチョウは特別天然記念物に指定され，日本では根釧(こんせん)原野を中心に繁殖している。　〔浦本昌紀・安部直哉〕

つる　**【都留(市)】**　山梨県南東部の市。人口32,000。戦国時代末期浅野氏が勝山城を築城後その城下町となり，江戸時代にも代官所が置かれて，郡内地方*の政治・文化の中心地であった。中心地区の谷村(やむら)は絹織物の甲斐絹(かいき)の産地である。1954年(昭和29)，都留郡谷村町が周辺4村を合併して市制施行。市域の大半は山地で，西の御坂(みさか)山地，東の道志山地の水を集めた桂(かつら)川が中央部を北東流し，その沿岸に狭長な段丘面や谷底平野が開ける。産業三大別人口比は8：47：45。八端の夜具地をはじめ，座ぶとん・服裏地などをつくる機業地であるが，中小企業が多く，約900を数える工場の機械の平均台数は3台に満たない。市立都留文科大学があり，新しい文教都市建設をめざしている。富士急行電鉄・国道139号線に沿い，中央高速道路が西部を走る。西郊に富士山の眺望(ちょうぼう)にすぐれた三ツ峠山(1,786m)のハイキングコースがある。

ツール　［Tours］　フランス中西部，ロアール川中流，シェル川との合流点にある都市。人口12万8,000(1968)。アンドル-エ-ロアール県の行政中心地で，穀物・ぶどう酒・ブランデーなどを集散する。絹織物・毛織物業が古くから盛んで，ロアール河谷に多い古城の観光の中心でもある。12世紀に建てられた高さ約60mの塔のあるゴシック様式のサン-ガチアン大寺院は有名である。ローマ帝国時代に起源をもつ都市で，6世紀にフランク王国領となり，文化の一中心であったが，1598年のナントの勅令以降は衰退した。19世紀に鉄道が通じてから，交通の要衝として商工業が発達した。作家バルザックはここで生まれる。　〔梶川勇作〕

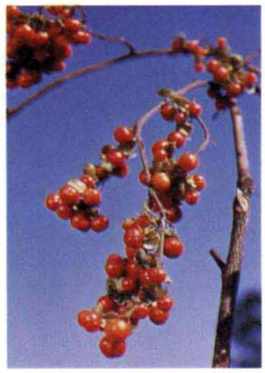
つるあじさい　**【蔓紫陽花】**　⇨ツルデマリ

つるあずき　**【蔓小豆】**　双子葉植物・マメ科。種子を食用とする一年生草本で，イ

ンド・マライ原産と考えられている。葉は三小葉よりなる羽状複葉で，各小葉は長卵形で先端がとがり，全縁である。アズキに似ているが，花序が総状で花は黄色，種子はいくらか細くて米粒状となるなどの点で区別される。

つるありどおし 双子葉植物・アカネ科。山地の林の下草としてみられる常緑多年草。茎は地面をはって各節から根を出す。葉は長さ1～1.5cm，幅7～12mmの卵形で先がとがり対生する。花は2個ずつ枝の先につき，長さ約1.5cm，淡紅色の漏斗状で3～6裂する。筒部の長さは裂片の1～1.5倍ある。おしべは4本，子房は2個合着しており，柱頭は4裂する。液果は直径8mmの球形で赤熟する。

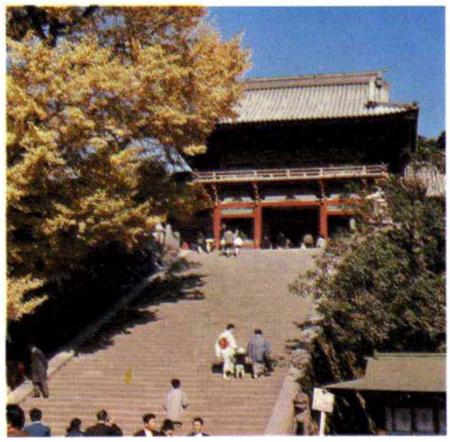
つるうめもどき【蔓梅擬】 双子葉植物・ニシキギ科。山野に自生する落葉つる性低木。茎はかっ色で左に巻き，中に白い髄がある。葉は長さ5～10cm，幅3～7cmの円形ないし倒卵形で，小さな鋸歯(きょし)があり，互生する。葉の両面ともなめらかであるが，裏面で主脈がざらつく。雌雄異株。5～6月，葉腋(ようえき)に黄緑色の小さな五弁花が1～10個ほど集まってつく。蒴果(さくか)は黄緑色の球形で，10～11月に熟し，3裂する。中に赤色の仮種皮に包まれた3個の種子がある。



ツルウメモドキ
露出した種子

つるおか【鶴岡(市)】 山形県北東部の市。人口101,000。古くは大泉郷といい，鎌倉時代には地頭武藤氏の大宝寺城があった。17世紀初頭，山形の領主最上義光(もがみよしみつ)が庄内(しょうない)地方を攻略して城を修築し，地名を鶴ヶ岡と改め，武士や町人を移住させて市街地を整備した。江戸時代は酒井氏十四万石の城下町となり，北の酒田(さかた)とともに最上川水運の中心として，庄内地方の米その他の物資を集散した。1924年(大正13)市制施行，1955年(昭和30)周辺の加茂町ほか9村，1963年に大山町を編入して市域を拡張した。市域は庄内平野の南部，最上川の支流赤川の扇状地上にあり，西は日本海に臨む。中心市街にはいまも城下町特有のT字路が残されている。産業三大別人口比は17：28：55。主産業は農業と繊維工業で，良質の庄内米を集散しておもに東京方面へ出荷するほか，大山地区では古い伝統をもつ酒造業が盛んである。繊維工業は羽二重と絹繻子(しゅす)のほか，化繊織物もつくり，その大半を輸出する。農機具工場や，ブナを材料とするバドミントン-ラケット・鉛筆などの工場があり，ベニヤ板もつくられる。市域内に山形大学農学部や酒井藩の藩校跡である致道博物館，庄内温泉郷とよばれる湯田川・湯野浜の2温泉があり，湯野浜は海水浴場としても名高い。近郊には羽黒山・月山・湯殿山のいわゆる出羽三山がそびえる。羽越本線・国道7号線・112号線が通じ，鶴岡駅から庄内交通の電車・バスが庄内温泉郷や出羽三山方面へ通ずる。年中行事には太宰府(だざいふ)神社の〈化け物祭〉(5月5日)とよばれる奇祭がある。特産は竹塗りや花ろうそくなどの民芸品や民田ナス・庄内ガキなど。

〔浅井得一〕



鶴岡八幡宮　楼門

つるおかはん【鶴岡藩】 ⇨庄内(しょうない)藩

つるが【敦賀(市)】 福井県南部の市。人口62,000。古くは気比・角鹿(つぬが)などとよばれた日本海の要港で，大陸各地と交渉があった。中世から近世へかけては琵琶湖(びわこ)水運を利用して東北・北陸方面から京阪(けいはん)地方へ運ばれる商品の中継ぎ港として重視され，江戸時代は酒井氏の支藩一万石の城下町であった。1899年(明治32)に敦賀港が開港場に指定されてからは満州・シベリアとの交通や貿易の基地となった。1937年(昭和12)市制施行。第2次世界大戦後は，大陸貿易が閉鎖されて一時さびれたが，最近は横浜～ナホトカ定期航路の寄港地となり，木材を運ぶ貨物船の入港が多い。市域は，敦賀湾奥に面し，笙(しょう)ノ川・黒河(くろこ)川・井ノ口川などのつくる扇状地の敦賀平野一帯に広がる。周辺山地との間は断層崖(だんそうがい)をなし，北東郊には木ノ芽峠・栃ノ木(とちのき)峠などの険路がある。産業三大別人口比は11：38：51。繊維工業が発達し，人絹糸・ナイロン糸などを生産する東洋紡績の大工場がある。また，周辺山地の石灰岩を採取して，セメント工業も盛んである。背後の平野部はほとんど水田化しており，北西の敦賀半島東岸は漁村が多いが，先端の浦底・立石地区には日本原子力発電会社敦賀発電所があり，1970年から操業している。北陸本線が北東郊の北陸トンネルを経てほぼ南へ走り，敦賀駅からは支線の小浜線が西へ分岐するほか，国道8号線・27号線・161号線が集まる。気比神宮・気比ノ松原・金ヶ崎宮跡・愛発関(あらちのせき)跡などの名所・史跡に富み，敦賀半島には半島一周の遊歩道や野生のカモシカが生息する山岳部の縦走コースも開発されている。かまぼこの特産のほか，松前貿易の伝統によるコンブ加工のおぼろこんぶが知られる。

〔浅井得一〕

つるがおかはちまんぐう【鶴岡八幡宮】 神奈川県鎌倉市雪ノ下に鎮座。応神天皇・比売神(ひめがみ)・神功(じんぐう)皇后を祭る。1063年(康平6)源頼義*(よりよし)が石清水(いわしみず)八幡宮*(京都)を鎌倉由比(ゆい)郷鶴岡に勧請(かんじょう)したのに始まる。その子義家が社殿を改修，1180年(治承4)鎌倉にはいった頼朝(よりとも)が小林郷北山(現在地)に移して鶴岡若宮と称した。1191年(建久2)大火で炎上したため，頼朝はあらためて石清水八幡宮より神体を勧請した。これが上宮(本宮)で，現在の鶴岡八幡宮の基礎となった。なお下宮はいまの若宮に再建した。以後，源氏*の守護神として鎌倉幕府の厚い尊崇を受けた。鎌倉・室町両幕府は八幡宮を公事(くじ)の場とし，江戸幕府もこれに保護を与えた。この間にも兵火を受け，現在の社殿は1828年(文政11)に再建されたものである。正恒(まさつね)銘太刀(たち)・籬菊螺鈿蒔絵硯箱(まがきぎくらでんまきえすずりばこ)などの国宝と，弁財天座像(重文)などを蔵する。なお，源実朝*(さねとも)はここで公暁に殺された。例祭9月15日。9月16日の流鏑馬*(やぶさめ)は有名。

〔西ケ谷恭弘〕

つるかめ【鶴亀】

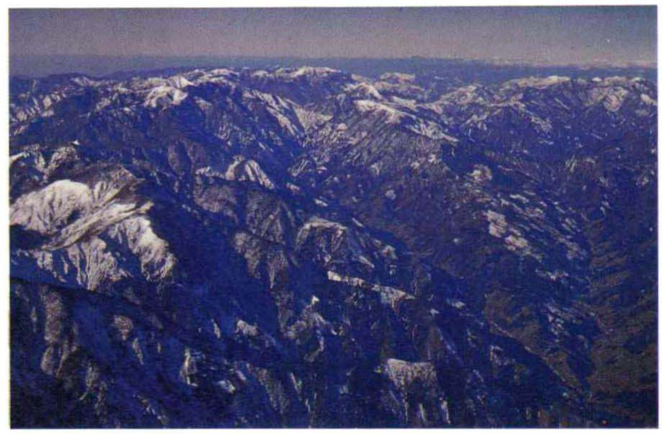
1 能の曲名。喜多流では《月宮殿》という。作者不明。脇能物(わきのうもの)。舞台は中国で，新春に皇帝が大ぜいの臣下の礼を受け，池のほとりでツルとカメとを舞わせ，自分も楽を舞って，月の宮殿の舞のような荘厳な舞の姿を見せるもの。シテは皇帝，ワキは臣下，ツルとカメはツレだが，子方が勤めることもある。曲のはじめに皇帝の登場の先触れを狂言方が勤める。この詞章はほとんどそのまま長唄(ながうた)にも使われている。

2 長唄の曲名。1851年(嘉永4)だいたい能の詞に基づいて10世杵屋六左衛門(きねやろくざえもん)が作曲。二上がりの〈千代のためし〉のくだり，〈楽の合方〉以下が特に名高い。常磐津節(ときわずぶし)《細石巌鶴亀(さざれいしいわおのつるかめ)》の略称としても用いられる。

つるぎさんこくていこうえん【剣山国定公園】 徳島・高知の2県にまたがり，剣山地*と祖谷(いや)地方を含む面積$21km^2$の地域で，1964年(昭和39)指定された。剣山(1,955m)・三嶺(みうね)(1,893m)・石立山(1,708m)が連なり，剣山の頂上近くには石室不動

などの石灰洞(せっかいどう)があり，剣山信仰の修行場として知られる。祖谷川の上流には祖谷渓(いやけい)の名で知られる景勝地があり，西方の大歩危(おおぼけ)・小歩危も渓谷美で有名である。〔木村東一郎〕

つるぎさんち【剣山地】 四国山地の東部，徳島県中央部から高知県北東部にわたる山地。東側は那賀(なか)川・勝浦川，西側は吉野(よしの)川の支流祖谷(いや)川・物部(ものべ)川などの上流の谷が深い渓谷(けいこく)をうがち，中央部に最高峰の剣山(1,955m)がそびえる。わが国有数の奥深い山岳地域で，西部の祖谷地方は秘境として知られる。多い降水量と温暖な気候により豊かな森林資源をもっている。

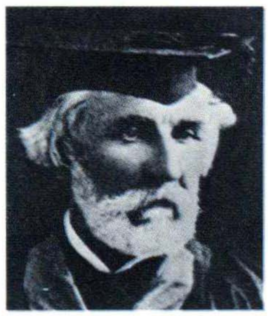


剣山地 徳島県西部から高知県にかけて連なり，山頂からは遠く足摺崎や淡路島まで望まれる

つるぎだけ【剣岳】 富山県東部，北アルプス北部の立山連峰の北にそびえ，標高3,003m。東側は黒部(くろべ)川の支谷剣沢に臨み，西側は早月川の源流立山川の谷でえぐられている。かたい片麻岩質のセンリョク岩からなる岩ははだは峻嶮(しゅんけん)な山容を示し，登山者にとって北アルプスの南の穂高岳とともに岩場の殿堂といわれている。剣岳は日本アルプスの山々が登頂されていった際に最後まで残った高峰で，1907年(明治40)にはじめて頂上がきわめられた。〔高野　繁〕

ツルク ［Turku］ フィンランド南西部，ボスニア湾の入り口にある都市で人口16万2,000(1974)。タンペレと並んでヘルシンキに次ぐ文化・商工業の一中心であり，港は不凍港で，ストックホルムとの間に定期航路が通じ，造船も盛んである。11世紀に起源をもつこの国最古の都市で，1812年までは首都であった。市街は13世紀に建造された城を中心に広がり，史跡が多く残っている。17世紀に大学が置かれたが，1827年の大火によってヘルシンキに移された。〔梶川勇作〕

つるぐみ【蔓茱萸】 双子葉植物・グミ科。関東以西の林に自生する常緑つる性低木。高さ2～3m。茎は長く伸びるが物には巻きつかない。枝には赤かっ色の鱗片(りんぺん)が密生している。葉はシイの葉に似ており，長さ4～8cm，幅2.5～3.5cm，表面は暗緑色，裏面は赤かっ色の鱗片が密生している。花は乳白色で，がく筒の長さ4～5cm，先が4裂し，10～11月，葉腋(ようえき)から2～3個ずつ下がって咲く。果実は長楕円(ちょうだえん)形で長さ1～2cm，4～6月に赤熟する。



ツルゲーネフ

ツルゲーネフ ［Ivan Sergeevich Turgenev］ (1818～1883) ロシアの小説家。富裕な士族地主の家に生まれ，モスクワ大学・ペテルブルグ大学に学んだのちベルリン大学でもっぱらヘーゲルの哲学を研究。1841年にいったん帰国。1855年再び西欧に行き1881年のプーシキン祭に帰国するまで30年間各地の有名な政治家・芸術家・文学者と親交を結んだ。1883年3月パリ郊外で永眠。1847年《現代人》誌に発表した短編《ホーリとカリーヌイチ》で文学活動を開始。続いて農奴制下のロシアの農民や地主と，それを取り巻く自然を，天性の調和の感覚をもって描いた一種の農村スケッチが，1852年に《猟人日記》としてまとめられた。以後，西欧にありながら活発な創作活動を続け，《ルージン*》《アーシャ》《貴族の巣》《その前夜》《父と子*》《煙》《処女地》などの傑作を次々と発表。それらに描かれたのは，西欧的教養を身につけ祖国ロシアの後進性を自覚しながら，巨大な壁の前で挫折(ざせつ)していく1840年代の知識人の理想主義，農奴解放前夜の知識人のいらだちと未来の革命家像，自然科学的合理主義に立って観念的なものや社会の通念・伝統のいっさいを否定する1860年代のニヒリストの群れなどである。外国に住みながら，祖国ロシアの最も現代的なものを鋭敏な感覚で洞察(どうさつ)し，芸術化したその作品は，そのまま当時のロシアの精神史であり，流動するロシアの生活史である。彼の作品は発表と同時につねに新旧両世代の間に賛否両論の一大センセーションを巻き起こしたが，1881年のプーシキン祭に帰国したときは，ロシアの生んだ偉大な作家として青年たちから熱狂的に歓迎された。〔藤家壮一〕



鶴　亀 中国ふうの服装をした帝王(シテ)の前でツル(右)とカメ(左)が舞うところ。シテは梅若六郎

つるさき【鶴崎】 大分県中央部，大分市の東部地区。別府(べっぷ)湾南岸に注ぐ大野川下流三角州上にある港町で，江戸時代は肥後の細川藩の所領で，参勤交代の出港地，物資の集散地として栄えた。大正末期以来豊かな水運と広い用地を利用して，化学・パルプ・製紙などの近代工業が発達し，1954年(昭和29)単独で市制を施行したが，1963年に大分市と合併した。別府湾沿岸を埋め立てて臨海工業地帯が形成され，昭和電工グループの石油コンビナートをはじめ，九州石油の製油工場，九州電力の重油発電所などが建設され，1964年に指定された大分新産業都市の中核となっている。日豊本線・国道197号線に沿う。〔浅井得一〕

ツールーズ ［Toulouse］ フランス南部，オート-ガロンヌ県の行政中心地で人口37万1,000(1968)。この国第4位の都市で，ガロンヌ・ミジ両運河によってビスケー湾，地中海両方に通じ，小麦生産の盛んなアキテーヌ盆地の商業・文化の中心地である。古代にはトローサとよばれ，BC106年にロー

マ帝国の植民地が築かれた。その後，西ゴート王国の首都となり，フランク王国・サラセンなどの支配に属し，中世には宗教裁判所が置かれて，政治の中心として栄えた。11世紀に建てられたフランス最大のロマネスク建築聖セルナン教会堂，13世紀の建造になるゴシック様式のヤコブ教会など古い建造物の多い美しい町である。1230年に創立された古い大学がある。〔梶川勇作〕

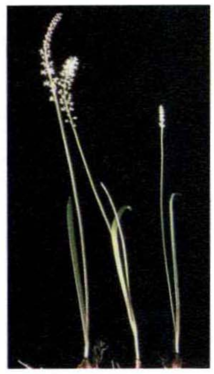
つるたよしゆき【鶴田義行】（1903～　）日本で最初のオリンピック連続優勝を遂げた水泳選手。鹿児島県出身。明治大学卒業。第9回オリンピック-アムステルダム大会(1928)で200m平泳ぎに優勝。次いで第10回オリンピック-ロサンゼルス大会(1932)で同種目に連続優勝した。報知新聞社を経て愛媛新聞社在勤。

つるでまり【蔓手毬】双子葉植物・ユキノシタ科。ツルアジサイ・ゴトウヅルともいう。日本各地の山地に自生する落葉つる性木本。茎から気根を出し，岩上や他の樹木の幹をよじ上って高さ10m以上に達する。葉は広卵形で先端がとがり，基部は心形，大きな鋸歯(きょし)がある。6～7月，枝の先に集散花序をつける。花序の周囲の花には白色の大きながく片と退化したおしべ・めしべがあるが，結実しない。中央部の花は小さな五弁花で多数のおしべ，1本のめしべがある。

つるどくだみ【何首烏】双子葉植物・タデ科。つる性多年草で，1720年(享保5)に中国から薬草として渡来したといわれるが，現在は日あたりのよい所に野生化している。全草無毛で，茎は太さ1cmになり，つるは長く伸びて茂る。葉はドクダミの葉に似て，長さ3～7cmの卵状心形で長い柄で，互生する。9～10月，葉腋(ようえき)および柄の先に総状花序をつけ，多数の白色小花をつける。がくは5深裂し，無花弁で，めしべ1，おしべ8からなる。果実は痩果(そうか)で，3個の翼がある。葉をあえ物・浸し物とする。根茎は大きな塊状で，陰干ししたものを何首烏(かしゅう)といい，強壮薬とされる。

つるな【蔓菜】双子葉植物・ザクロソウ科。海岸の砂浜に自生する多年草。茎の下部は地をはい，肉質で折れやすく粒状突起が密生している。葉は1～2cmの柄で互生し，長さ4～7cm，幅3～5cmの卵状三角形で，質は厚くて柔らかい。4～11月，葉腋(ようえき)にほとんど無柄の淡緑黄色花をつける。がく筒が長さ3～4mmで，内面が黄色。花弁はない。果実は長さ6～7mmで，ヒシの実のような突起が4～5個ある。かたいので，熟しても割れない。新芽や若葉は食用にされ，ときに栽培もされる。

つるにょうぼう【鶴女房】昔話の一。動物が報恩のために嫁にきて男を助けるが，正体を見破られて帰るという報恩譚(ほうおんたん)を伴う異類との婚姻を物語るもので，全



ツ ル ボ



ツルマサキ



ツ ル マ メ　果実

国的に広く分布している。標準形では，①若者が傷つきまたは殺されようとしているツルを助ける，②美しい女が訪ねてきて嫁になる，②嫁はのぞいてはならぬといって機屋に入り機を織る，④布が高価に買われて男は裕福になる。⑤男が機屋をのぞくとツルが自分の羽毛を抜いて機を織っている，⑥正体を見られたために鶴女房は去る，という筋である。木下順二*の民話劇《夕鶴》は，この伝統的な鶴女房譚を題材にしている。〔直江広治〕

つるのすごもり【鶴の巣籠】尺八・胡弓(こきゅう)の曲名。尺八曲は古典本曲であるが，普化宗経典曲ではなく，外典曲である。琴古流では正式には《巣鶴鈴慕(そうかくれいぼ)》とよばれる。タバ音・コロ音などの特殊奏法が使われていることが特色。内容は雛(ひな)の誕生から成長して巣立つまでの親子の愛情を表わしたものと解釈することもできるし，一種の絶対音楽とも考えられている。胡弓のものは藤植流本曲。鶴や松などのめでたい歌詞による唄(うた)の部分と，ツルの声を擬音的に模した手事の部分とからなる。〔山口　修〕

つるぼ【蔓穂】単子葉植物・ユリ科。スルボ・サンダイガサともいう。原野に自生する多年草。地中に卵形で2～3cmの鱗茎(りんけい)があり，外皮は黒かっ色。ふつう2枚の葉が根生し，長さ15～25cmの広線形で，紫緑色。春の葉は夏には枯れて，秋にまた葉を出す。8～9月ごろ20～40cmの花茎を伸ばし，茎頂に5～10cmの総状花序をつける。小花は淡紅紫色で，6枚の花被は平開する。果実は約5mmの蒴果(さくか)で，黒色の細かい種子がある。

ツール-ポアチエのたたかい【ツール-ポアチエの戦い】732年，フランク王国の宮宰カール-マルテルがイスラム教徒の侵入を阻止した戦い。イベリア半島を征服したウマイヤ朝のアラブ人は，軽騎兵を主体としてヨーロッパ中央部への侵入を図った。迎え撃ったマルテルは南フランスのロアール川流域，ツールとポアチエの間の平原でこれを打ち破り，西欧のキリスト教圏を異教徒の侵略から守った。このときマルテルの養成した重装騎兵がはじめて登場し，これがのちの騎士制の典型になったという。〔高山高雄〕

つるまさき【蔓正木・扶芳藤】双子葉植物・ニシキギ科。山地に自生するつる性の常緑低木。茎は緑色で細く，気根を出して他の樹木や岩の上をはい上る。葉は楕円(だえん)形ないし倒卵形で，長さ1～4cm，細かい鋸歯(きょし)があり，対生する。6～7月，若い枝の節や葉腋(ようえき)に黄緑色の小さな四弁花が密集して咲く。果実は球形で直径6～8cm，10～11月，熟して裂け，黄赤色の皮に包まれた種子を現わす。

つるまめ【蔓豆】双子葉植物・マメ科。原野に自生するつる性の一年草。全体に薄茶色の毛がはえており，茎は左巻き。葉は三出複葉で，各小葉は長さ3～8cm，幅1～3cmの卵状披針(ひしん)形。8～9月，葉腋(ようえき)に葉柄より短い花柄を出し，長さ5～10mmの深紫色の花を2～5個つける。豆果は長さ2～3cm，幅4～5mmで毛におおわれ，中に2～3個の種子を入れる。ダイズの原種と考えられている。

つるみ【鶴見】横浜市の北東部の一区。人口は22万8,000で，横浜市14区中3番目。区内を南流する鶴見川河口付近は，大正初期に浅野総一郎*が臨海工業地帯を造成してから，京浜工業地帯の中心となり，日東化学の化学肥料・合成繊維の工場や日本鋼管の造船所などをはじめ，金属・機械・石油などの工場群が集まる。生麦事件で知られる生麦は，鶴見川西岸の一地区で，もとは東海道の立場(たてば)(宿場間の休息場)でまた漁村であったが，現在はここも工場地帯となっている。また鶴見川河口東岸の末広町地先から，川崎市の多摩川河口南岸の浮島町地先にかけて約8kmの京浜運河

があり，船舶の交通量は全国有数である。中心市街地は，1872年(明治5)に開設された東海道線鶴見駅(現在の国電京浜東北線鶴見駅)周辺に発達し，京浜急行電鉄・国道1号線・15号線・産業道路が密集地域を縦断する。駅西方の多摩丘陵末端の鶴見台には1909年石川県から移された曹洞宗(そうとうしゅう)総本山総持寺がある。〔浅井得一〕

つるみだけ【鶴見岳】 大分県別府市の西部にそびえ，標高1,375m。いくつかの鐘状型火山の複合体で，東麓(とうろく)の別府湾側には火山泥流(でいりゅう)で形成された石垣原(いしがきはら)扇状地が広がり，その南および北に別府・観海寺・浜脇(はまわき)・明礬(みょうばん)・鉄輪(かんなわ)など，〈別府八湯〉の温泉群が分布する。別府を起点として阿蘇(あそ)へ向かう九州横断道路は鶴見岳の南麓の鞍部(あんぶ)，鳥井峠を通る。

つるむらさき【落葵】 双子葉植物・ツルムラサキ科。熱帯アジア原産のつる性一年草。全草柔らかく，多肉質。茎は長さ1m以上になり，鋸歯(きょし)のない葉が互生する。7～9月，葉腋(ようえき)から長い花柄を出し，穂状に白色小花をつける。花色はのちに紅色に変化する。観賞用として庭などに栽培される。

つるやなんぼく【鶴屋南北】 歌舞伎(かぶき)俳優および歌舞伎作者。初世から3世までは俳優であったが，さほど有名ではない。

[1] 4世(1755～1829) 文化文政期の江戸歌舞伎界をリードした作家。1804年(文化1)初世尾上松助*(おのえまつのすけ)のためにつくった《天竺徳兵衛韓噺*(てんじくとくべえいこくばなし)》が出世作となり，生涯(しょうがい)におよそ120編の作品を書いた。大道具のしかけや奇抜な早替わりなどの趣向を駆使し，夢幻的な構想の中に，部分的には徹底した写実の手法を用い，ほかに類を見ない独自の演劇構造を形成した。特に〈生世話*〉とよばれる市井写生劇では，社会の最下層の庶民を登場させ，残忍・卑猥(ひわい)・滑稽(こっけい)の要素を織り混ぜている。怪談物に傑作が多く，代表作は《心謎解色糸(こころのなぞとけたいろいと)》《謎帯一寸徳兵衛(なぞのおびちょっとくべえ)》《絵本合法衢(えほんがっぽうがつじ)》《東海道四谷(よつや)怪談*》など。尾上松助のほかに，5世岩井半四郎*や3世尾上菊五郎*のために多く筆をとった。

[2] 5世(1795～1852) 孫太郎南北とよばれ，幕末ごろの作者。作品に有名なものはないが，門下に3代瀬川如皐*(じょこう)・河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)を出している。
〔服部幸雄〕

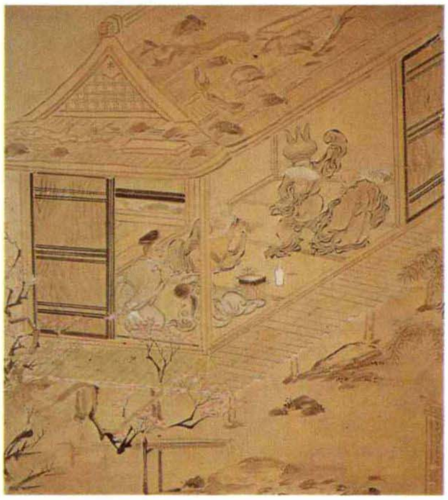
つるりんどう【蔓龍胆】 双子葉植物・リンドウ科。山地の林の多少湿った所にはえる多年草。茎はつる性で，地面をはうか他の草木にからみつく。葉は5～15mmの葉柄で対生し，長さ4～8cm，幅1～4cmの卵状楕円(だえん)形で先がとがり，3本の脈が目だつ。葉裏は紫色。8～10月，葉腋(ようえき)に長さ3～5cmの淡紫色花をつける。花



ツルムラサキ



ツルレイシ



徒然草 (第五二段)屏風絵 鍬形蕙斎筆
金沢文庫蔵

後，直径6～8cmの長卵形の赤色液果をつける。

つるれいし【蔓茘枝】 双子葉植物・ウリ科。ニガウリともいう。熱帯アジア原産の一年草で，各地で栽培されている。茎はつる性で細く，巻きひげで他物にからみつく。葉は5～7深裂する掌状葉で，長い柄で互生する。雌雄異花で，7～9月葉腋(ようえき)に黄色五弁花をつける。果実は表面に多数こぶ状突起のある長楕円(ちょうだえん)形で，黄赤色に熟す。種子の周囲の赤紅色の部分は甘いが，果皮は苦い。

つるわれびょう【蔓割れ病】 ウリ類の重要病害で，萎凋(いちょう)病ともいう。病原菌はフザリウムという不完全菌類(かび)で，土壌(どじょう)で越年した病原菌が根から侵入する。導管に菌糸・胞子が充満するので，茎の地ぎわがかっ色になり，つるに縦の割れ目を生じ，やがて全株がしおれて枯死する。

つれ【連】 能における助演的な役の名称。《蟬丸(せみまる)》《千手(せんじゅ)》などのようにシテに準ずる重要な役のこともあるが，シテまたはワキの単なる従者である場合が多い。シテに属するものをシテヅレ(または単にツレ)，ワキに属するものをワキヅレという。

つれづれぐさ【徒然草】 吉田(よしだ)兼好*の随筆。13世紀初頭の成立とみられる。書名は巻頭起筆の〈つれづれなるままに日ぐらし硯(すずり)にむかひて……〉による。内容は，上下243段に分かれて，見聞した事件や逸話の報告をはじめ，自己の経験談・人生論・追憶など多岐にわたっている。その文章も擬古文体と当時の新文体とに分かれ，多様な内容も，古代憧憬(どうけい)の懐古趣味のもの，同時代的関心と積極的精神にあふれたものの二面がある。前者は平安期の優雅な風俗を叙述した諸段に顕著で，四季の評や花月の鑑賞も作者の主観が著しく働いてはいるが，古典趣味がその基調になっている。これに対し，簡素・閑寂の境地を説き，つねに人生の無常迅速を忘れるなと戒めている諸段には，実践道徳を根底にした人生思索の深さがあふれている。後者こそ，そのころの他の文学に欠けていた貴重な要素であるが，そのため，本書は近世以後には教訓の書とも受け取られて，広い読者を獲得してきた。〔桑原博史〕

ツーロン ［Toulon］ フランス南東部，地中海に面する軍港都市。人口17万5,000(1968)。天然の良港で，背後のファロン山頂には要塞(ようさい)がある。化学・精油・食料品・繊維・造船などの工業があるほか，海軍造兵廠(ぞうへいしょう)・海軍兵学校もあり，軍事関係の工場が多い。軍港は17世紀の後半，ルイ14世の時代にボーバンによって築かれたもので，第2次世界大戦中の1942年11月，ドイツ軍に攻められて，多くのフランス軍艦がこの港で自沈した。12世紀建築のロマネスク様式の大寺院などがあり，冬季には保養客も多い。〔梶川勇作〕

ツワ(自治共和国) ［Tuvinskaya A.S.S.R.］ ソ連，ロシア連邦共和国内の自治共和国。シベリア南部，エニセイ川の上流域にあり，モンゴル人民共和国に接する。面積17万500km^2，人口22万2,000(1968)。首都キジル。住民は，トルコ系のツワ人が75%を占め，ほかにロシア人などがいる。サヤン山脈とタンヌオラ山脈の山中にあり，大陸性気候で西部はステップ，東部は森林帯である。鉄・銅・コバルト・水銀・岩塩・石綿・石炭など地下資源は豊富だが，開発は進んでいない。発電所は47か所にあり，工業は木材・建築資材・皮革・食品加工などが盛んである。ツワ人はもと遊牧民であったが，コルホーズ化が進められて定着し

た。恵まれた牧草地を利用して牧畜を営んでおり，ヒツジの飼育のほかにウシ・ウマ・ラクダ・ヤクなども飼っている。近年は穀物栽培を主とした農業も始められた。今世紀の初めまでこの地方は中国領であったが，1912年からロシア帝国の保護領となり，1921年にタンヌ-ツワ人民共和国(のち，ツワ人民共和国)として独立した。1944年，ソ連邦に加わり自治州を経て，自治共和国になった。〔斎藤晨二〕

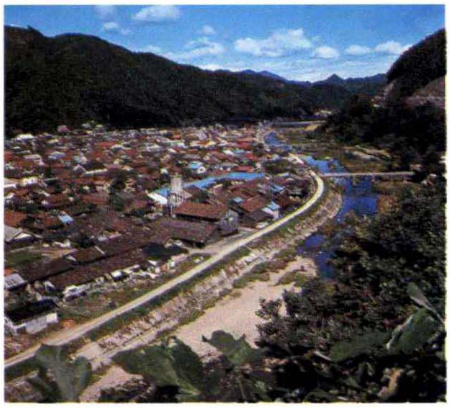
ツワイク［Stefan Zweig］（1881～1942） オーストリアの伝記作家。ウィーンの富裕なユダヤ人の家に生まれ，大学卒業後文筆生活にはいる。詩・小説・評論・戯曲などあらゆるジャンルにまたがる広範な活動を営んだが，とりわけ伝記作家としてすぐれ，《ジョゼフ-フーシェ》《マリー-アントワネット》など心理分析を駆使した伝記を書いた。ほかに多くのエッセイ・演説もある。第2次世界大戦の激化と同時にイギリスを経てブラジルへ亡命，ヨーロッパにヒューマニズムが失われたのを嘆き，妻とともに自殺を遂げた。〔吾妻雄次郎〕

ツワイク［Arnold Zweig］（1887～1968） ドイツのユダヤ系の小説家。第1次世界大戦に従軍，ナチスの時代はパレスチナに亡命，戦後東独に帰った。第1次世界大戦の時代相全体を描く長編群《白色人種の大戦争》を書き，その一編にあたる反戦小説《グリーシャ軍曹(ぐんそう)をめぐる争い》は各国語に翻訳されて有名となった。東ドイツにおける社会主義作家の長老的存在であった。小説のほか戯曲・評論も数多い。

つわの【津和野(町)】島根県鹿足(かのあし)郡の町。人口7,900。県南西部，山口県との境に位置する。江戸時代は亀井(かめい)氏四万三千石の城下町で，周辺山村の木材や和紙(石見(いわみ)半紙)を集散する。高津川の支流津和野川の流れる細長い盆地にあり，西部に青野川を控える山紫水明の地で，今日も旧城下町のおもかげをよく残している。代々の藩主は殖産興業に意を用い，その奨励によって石見半紙の特産が生まれたが，さらに学問・教育を重んじたために西周(あまね)・森鷗外(おうがい)らの人材が輩出した。津和野城跡・森鷗外旧宅は史跡に指定されている。

つわぶき【槖吾】双子葉植物・キク科。暖地の海岸のがけ地付近にはえる常緑の多年草。根茎は太く，長い柄のある葉を根生する。葉は長さ4～15cm，幅6～30cmの円形ないし腎臓(じんぞう)形で，フキの葉に似るが，質は厚く光沢があり，裏面は薄茶色の毛におおわれる。10～12月，高さ30～80cmの花茎を出し，黄色の頭状花を散房状につける。頭状花は直径3～5cmほどで美しく，観賞用に庭に植えられる。


ツワブキ


津和野町 津和野川の谷に沿って開ける津和野町。民家の赤い石州がわらが，陽光にはえて美しい。川の下手に山口線の鉄橋が見える

つわり 妊娠によって起こる食欲不振，悪心(おしん)，嘔吐(おうと)，嗜好(しこう)の変化，胸やけ，唾液(だえき)分泌過多，便秘など，消化器系の症状。嘔吐は妊婦の約半数にみられ，多くは胃のからのときに起こり，ねばねばした液体を吐くのみで，栄養障害を伴わない。嗜好の変化もしばしばみられ，一般に酸味のものを好むようになる。つわりは妊娠2～3か月ごろから起こりはじめ，ふつう妊娠4か月になると自然に消失する。原因はよくわかっていないが，胎盤から出る一種の毒素のようなものから起こるともいわれている。つわりが悪化し，全身の栄養障害を伴うに至ったものを悪阻(おそ)というが，両者には本質的な差はなく，程度による違いであり，その間に明瞭(めいりょう)な境界もないと考えられる。精神的影響も大きいといわれるから，ストレスを除くように努め，食事の摂取に注意し，重症のときは医師の治療を受ける。ときには入院が必要となることもある。〔木川源則〕

ツングースご【ツングース語】ツングース族*の言語で，アルタイ語系に属し，広義には満州語*を含む。狭義ではエベンキ，あるいはそれにネギダル・ラムート・エベンなどの諸方言を含めたものをいう。東はカムチャツカから西はエニセイ川流域に及び，中国東北・新疆(しんきょう)にも分布する。満州語を除くツングース諸語の話し手は30万に満たないと推定される。他のアルタイ諸言語と同様，膠着語(こうちゃくご)であり，母音調和を行なうという音韻特徴をもつ。金朝(1115～1234)を満州に建てた女真族の言語(女真語)もツングース語に属する。女真語・満州語以外のツングース諸語には従来文字がなかったため，古い文献はほとんどないといってよい。➔アルタイ系諸族〔荒井伸一〕

ツングースごぐん【ツングース語群】⇨アルタイ系諸族

ツングースぞく【ツングース族】狭義では，アムール川・レナ川流域からエニセイ川にかけて分布するエベンキ族の別称。広義ではエベン(ラムート)・ネギダル・オロチ・ウデヘ・オロッコ・ウルチ・ナナイ・オロチョン*など，シベリア・中国東北・モンゴル北部に住む各族の総称。清朝(しんちょう)を建てた満州族もこの仲間で，今日でも中国新疆(しんきょう)省には約20,000の言語人口がある。総計50,000で，アルタイ系諸族*の一分枝。〔田中邦彦〕

ツンドラ［tundra］亜寒帯*の北方に広がる凍結した大平原。ここでは，気候が寒冷なため樹木は成長せず，土層は1年じゅう凍結した凍土帯で，わずかに夏季に凍土の表面がとけて湿潤となり，蘚苔(せんたい)類や地衣類が生育し，ときに顕花植物がみられることもある。ヨーロッパ-ロシア北部・シベリア北部・アラスカ・カナダ北部・グリーンランドなどに分布する。また，ツンドラを生じるような気候をツンドラ気候という。ケッペン*の気候区分では寒帯気候に属してET記号で表わされる。長い冬と短い夏が特徴で，最温月の平均気温は0～10℃である。ここでは農業は困難で，狩猟・漁労が中心である。夏季にはエスキモー・ラップ・サモエード族がタイガ*地帯からやってくる。〔桑原正見〕

ツンフト ⇨ギルド

ツンベルグ［Carl Peter Thunberg］（1743～1828） スウェーデンの博物学者。1761年ウプサラ大学でリンネ*に師事して医学・博物学を学んだ。ヨーロッパを遊学後，オランダの東インド会社の船医となり，1771年アフリカ・インドネシアに渡り，1775年(安永4)には日本に立ち寄った。約半年間の滞在中，日本各地で多数の動植物の採集を行ない，この成果を記載して《日本植物誌》(1784)を公刊。帰国後ウプラサ大学教授，のち総長。彼に師事した蘭学者(らんがくしゃ)桂川甫周(かつらがわほしゅう)らを通じて日本の自然科学・医学に与えた影響は大きい。〔中村禎里〕

つんぼ【聾】日常生活に支障をきたすような重症な難聴の俗称。➔難聴

て

て 【手】 脊椎(せきつい)動物の場合，手とは手首から指の先端までをいう。手の骨は，手根骨・中手骨・指骨からなる。手根骨は手首をつくる8個の骨，中手骨は内側の手掌(てのひら)と外側の手背(手の甲)をつくる5個の骨，指骨は母指では2個，他の指では3個ずつの骨で構成される。指は5本で，その先端には爪*(つめ)がある。手掌は色素に乏しく毛を欠き，汗腺(かんせん)に富むが皮脂腺を欠き，皮膚の小稜(しょうりょう)と小溝(しょうこう)が顕著で掌紋*をつくる。指には指紋*がある。

木に登ったり，物をつかむ習性のある動物では，特に手が発達している。霊長類の母指は，他の指と向かい合わせにできるので，木などにつかまることに適している。テナガザル・クモザルなどでは，手の骨が湾曲していることと指を曲げる筋肉が短いために手は内側に曲がったままで，地上にいるときは手の甲を地面につけていることがある。手の指のうち，母指は非常に短い。これは，木の枝にぶらさがり，次の枝に飛び移る場合に非常に有効に用いられ，母指がじゃまにならないためである。また，手掌も広くできているので，手と木との接触面積を大にしている。コウモリなどでは指と指の間に皮膜が発達し，爪のついた母指だけは膜に包まれていない。クジラなどでは退化して鰭(ひれ)のようになっており，カモノハシでは蹼(みずかき)がつくられて指の爪の外側まで広がっている。霊長類のうち最も下位にあるツパイでは，5本の指があるが，母指は他の指と向かい合うことができないので，ものをつかむ作用は限定されている。サルが子どもを運ぶとき，子どもは手を使って母親の腹の下につかまっている。母親は片方の手で子どもをかかえる動作を示す。リス・ネズミ・ヤマアラシなどの齧歯(げっし)類の前肢(ぜんし)の先は，かたい果実や種子を割ったり，穴を掘って埋めることができる。〔高野一雄〕

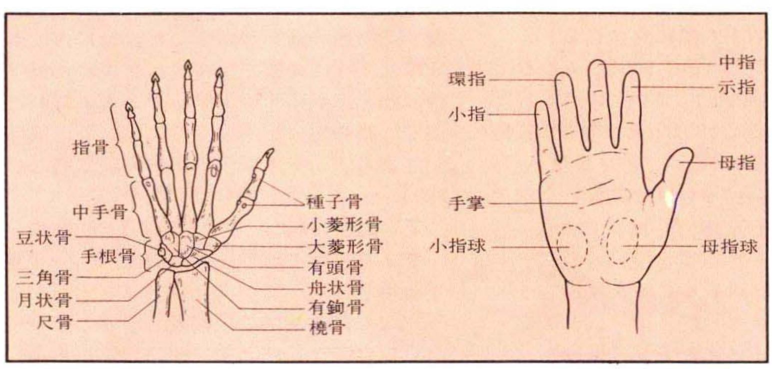
て 【手】 日本伝統音楽の用語。①楽器の声部を意味し，この部分の作曲を〈手付け〉とよんで歌の〈節付け〉と区別する。また，楽器の声部間でも，本手と替手との区別もある。②楽器の旋律型やリズム型のうち，特色のあるパターンのこと。三味線(しゃみせん)音楽では，大薩摩節*(おおざつまぶし)で使われた(四十八手として整理されている)のがその代表で，長唄(ながうた)をはじめ多くのジャンルで使用されている。この意味の手の存在は，パターンの組み合わせとしての性格を日本音楽に与えるとともに，ある手が生まれた曲種をこえて借用されるため，曲種間のつながりも生んでいる。〔徳丸吉彦〕

テーア ［Albrecht Thaer］（1752～1828） ドイツの農学者。宮廷侍医の子に生まれ，ゲッチンゲン大学で医学を修めて開業医となる。若いときから園芸に関心をもち，みずから農場を経営していた。当時はシュタイン・ハルデンベルクらの政治社会制度の改革が進行し，ユンカーによる大農場経営が生まれた時代であったので，テーアはこれに即応する農学の体系化を志し，《合理的農業の原理》全4巻(1809～1812)を著わした。彼はこれによって近代農学の祖とよばれるに至った。〔山崎俊雄〕

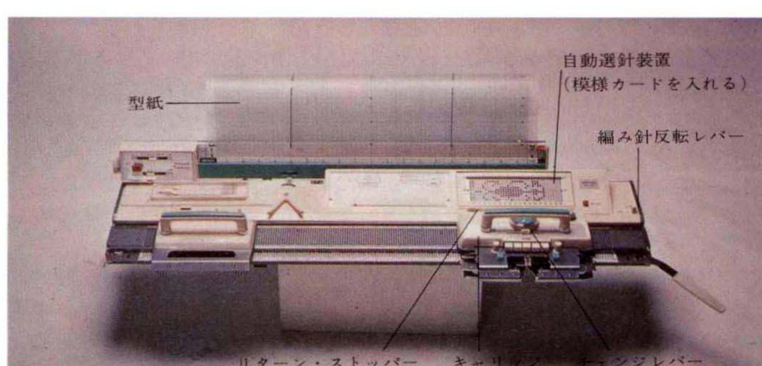
てあみき 【手編み機】 手動の家庭用編み機をいう。メリヤス編み地を基本とするが，部品の操作によっていろいろの編み地もくふうでき，簡単な操作で均斉(きんせい)な編み地を速くつくることができる。しかし，編み目が均斉すぎて風合いは手編みに劣るきらいがある。手編み機の発明はヨーロッパが先んじていたが，日本での発明(1923)発展は独自のものであり，普及度も最も高く，機械もすぐれている。

現在市販されているのは，メリヤス針が前後に動いて編み目をつくる動針型で，引き上げ・すべり目・編み込みの模様やスレッド編みなどが，ダイヤル・レバーなどの操作で自動的にできる。〔山村あい子〕

デ-アミーチス ［Edmondo De Amicis］



手
ヒトの右手の
手掌面



手編み機

(1846～1908) イタリアの小説家。軍人としてイタリア統一戦争に参加したが，短期間で退役，文学生活に入り，感傷的・教訓的・愛国的な作品を書いた。軍隊生活の回想記，数多くの旅行記，小説《洋上にて》などがあるが，特に児童文学作品《クオレ》で世界的名声を得た。晩年には社会主義に共鳴した作品《皆の電車》，言語学の著書《やさしい言葉》などがある。〔小瀬村幸子〕

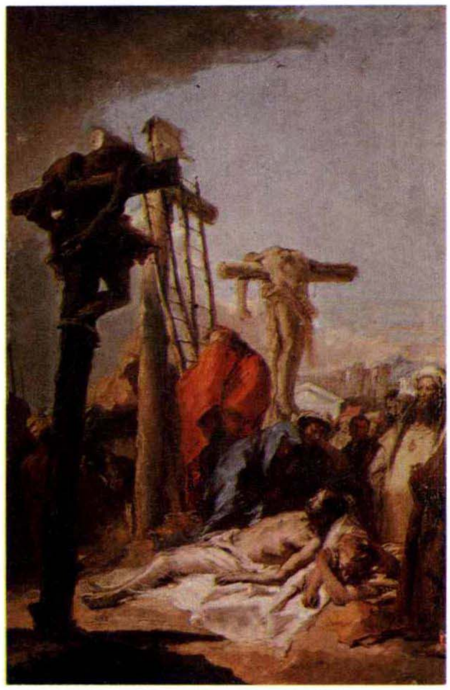
てい 【帝】 中国古代の最高神。殷(いん)時代の甲骨文では，風や雨や実りや戦争などをつかさどる神が天帝であり，また天帝を祭る祭祀(さいし)も帝とよばれる。《詩経》には，多く上帝の名でみえ，地上の人間たちを見守り，有徳者には地上の支配者となるよう天命を授けたという。春秋戦国時代になると上古の伝説的な支配者が帝とよばれ，三皇五帝の系譜が形成されていく。さらに，その後中国を統一した秦(しん)王の政が，三皇五帝を兼ねるという意味からみずからを始皇帝とよんで以後，現世の支配者も帝とよばれるようになった。〔小南一郎〕

てい 【鄭】 中国，春秋時代の姫(き)姓の諸侯国。西周の末，宣王の弟の桓公友(かんこうゆう)が鄭(陝西(せんしい)省華県)に封ぜられて建国。周の東遷に際して功があり，荘公の時代に特に勢力を伸ばしたが，斉(せい)や晋(しん)が勃興(ぼっこう)するとともに弱小国に転落した。春秋時代の末，子産が相となって一時国力を回復した。BC375年に韓(かん)に滅ぼされた。

てい 【氐】 2～6世紀に中国西北部で活躍したチベット系の種族。五胡(ごこ)の一。苻健(ふけん)が建て，苻堅のとき全盛となった前秦(ぜんしん)や李特(りとく)の成漢，呂光(りょこう)の後涼はいずれも氐の一部族が建てた国家として，五胡十六国に含まれる。

ディアギレフ ［Sergei Pavlovich Diaghilev］(1872～1929) ロシアのバレエ団主宰者。1899年から1904年まで雑誌《芸術世界》を刊行。1906年〈ロシア絵画展〉，1907年〈ロシア音楽会〉をパリで開催，ロシア芸術をヨーロッパに紹介した。1909年〈バレエ-リュス(ロシアバレエ団)〉を結成，パリで旗上げ公演，ストラビンスキー・ラベル・プロコフィエフやブノワ・バクスト・ピカソ・マチスら一流音楽家・画家をバレエ界に参加させて，バレエを一大総合芸術の域に高め，モダン-バレエの推進者としても後世に大きな影響を与えた。〔高橋孝一〕

ディアス ［Bartholomeu Dias］(1455ごろ～1500) ポルトガルの航海者。1487年ジョアン2世の命によりアフリカ西岸の探検航海に出発した。途中あらしにあって漂流し，アフリカ南端を越えたが，その帰途喜望峰を発見し，1488年帰国した。彼はこの岬(みさき)を〈あらしの岬〉と名づけたが，王によって喜望峰と命名され，アフリカ迂回(うかい)の可能性に確信が与えられた。1500年カブラルのインド航海に参加し，途中難破して没した。〔大野慎一郎〕



ティエポロ 《キリストの降下》 ロンドン-ナショナル-ギャラリー蔵

ディアスポラ ［Diaspora］ ギリシア語で〈散在〉の意。バビロン捕囚を契機として，パレスチナを去り各地に分散したユダヤ人の称。彼らは地中海沿岸諸国に移住し，固有のユダヤ教を信じて，その伝統・習慣を守り続け，原始キリスト教を伝播(でんぱ)した。

ていあつたい 【低圧帯】 地上の天気図上で二つの高気圧または高気圧帯の間に位置する気圧の低い地域のこと。特に古くから南北両半球の貿易風帯にはさまれた低圧帯は赤道無風帯・熱帯低圧帯ともよばれ，貿易風帯の風の定常性なのに比べて，風向が定まらず，その域内では熱帯収斂域(しゅうれんいき)という天気の悪い地域がある。

ていあつひねつ 【定圧比熱】 ⇨比熱

ディアドコイ ［Diadochoi］ ギリシア語で後継者の意。アレクサンドロス大王の急死により，大帝国の後継者をめざして争った武将たちを特にさす。BC323年から争いが起こり，BC301年イプソスの戦いでアンチゴノスがディアドコイ連合軍に敗れて大勢が決した。マケドニアのカサンドロス，シリアのセレウコス，エジプトのプトレマイオス，トラキアと小アジアのリシマコスの4王国が並立した。BC281年にセレウコスがリシマコスを敗死させたのでヘレニズム3王国に分立し，ヨーロッパまでその勢力を伸ばした。〔高山高雄〕

ていあんせいど 【提案制度】 企業の発展に役だつアイデアを従業員から募集し，選ばれたアイデアの提案者に報酬を与える制度。従業員と経営者との意思の交流，モラールの向上などを意図する労務管理の一つで，企業内の人間関係にとり有益な役割を演じる。

ていい 【程頤】 ⇨程伊川(ていいせん)

ティーイーイー ［TEE］ ⇨ヨーロッパ国際特急列車

ていいせん 【程伊川】 (1033～1107) 中国，北宋(ほくそう)の儒教哲学者。程明道の弟。名は頤(い)，伊川は号。彼の理気説は朱子学の直接の基礎となっている。天理によって人欲を規正すべしという〈厳粛主義〉，まず理を知ってのちに実践できるという〈先知後行説〉，理を知るとは事物の理を知っていくうちに自分の本性の理を知ることであるという〈格物致知の説〉などが，彼の所説の主要なものである。

ディーエーシー ［DAC］ ⇨開発援助委員会

ティーエスず 【T-S図】 海水の性質は温度(T)と塩分(S)とで示される。そこで温度を縦軸，塩分を横軸とした図をつくると優利である。この図をT-S図という。広い範囲にわたって一様な性質をもつ水塊では，温度と塩分の間に一定の関係がある。そこで，任意の地点での温度と塩分の測定値をT-S図上に投影すると，個々の水塊ごとに一つのなめらかな曲線上にのる。したがって，T-S図は各水塊の特性や水塊どうしが混じり合うようすを調べるのに用いられる。また，観測点での測定の誤差の有無を検討するのにも役だつ。〔堀福太郎〕

ティーエーティーテスト ［TATテスト］ 1935年，H.A.マレーらによって発表された投影法に属する人格診断検査法(⇀パーソナリティ検査)の一種。表情・動作・相互関係などが比較的あいまいに描いてある人物の絵を見せて自由に空想物語をつくらせ，その分析と解釈を通じて人格診断をする。分析は①物語全体の特徴，②主人公に外からどんな圧力がかかっているか，③主人公の欲求，④主人公の課題解決行動様式・情緒状態などの観察から行なわれ，被験者の心の内部の願望や葛藤(かっとう)を明らかにする。日本の社会や文化的な特性に合わせて種々の日本版もつくられており，ロールシャッハテストとともに最も広く臨床診断に用いられている。

児童用として考案されたのがCATで，児童の空想を刺激し物語をつくりやすくさせるために絵の登場者は，すべて動物になっている。〔深津千賀子〕

ディーエヌエー ［DNA］ 核酸の一種で，デオキシリボ核酸 deoxyribonucleic acid の略。➔デオキシリボ核酸

ティーエヌティー ［TNT］ ⇨トリニトロトルエン

ティエポロ ［Giovanni Battista Tiepolo］(1696～1770) イタリア，18世紀ベネチア派の画家。ルネサンス末期のベロネーゼとフラマン派の影響下にあってバロッ

➔497ページ



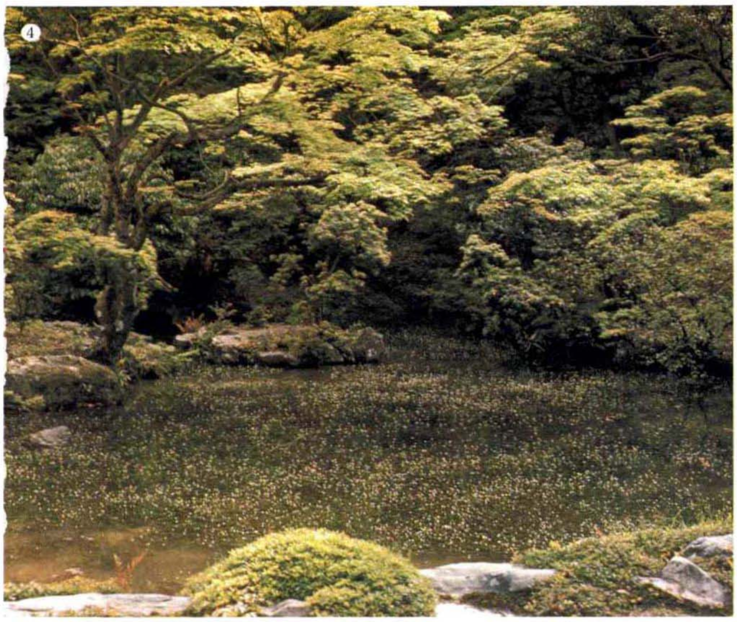


庭　園

⑩三宝院　豊臣秀吉が自分で縄張りをし，賢庭らに作庭させた。秀吉は復古調に意を注いだが，やはり桃山の美が充溢した作品　⑪表千家　不審庵露地　侘草庵の美のきわめつけともいえる躙口付近　⑫表千家　不審庵中くぐり付近　広間の残月亭があるため，ここでにじらせるのである　⑬裏千家　侘に徹した露地　⑭金地院　典型的な鶴亀石組をもつ蓬萊枯山水様式。小堀遠州の作庭　⑮修学院離宮　上のお茶屋隣雲亭から池泉を見る。北山の連峰が借景となっている　⑯後楽園（岡山）　江戸初期の大名庭園は公園の前駆的性格をもっており，必ず蓬萊様式であった　⑰六義園　柳沢吉保の文学的発想で作庭したが生かしきれなかった。しかし，明と暗の光の交差する美しい庭園　⑱水前寺公園　縮景様式の代表的庭園で，中央の築山は富士を模したもの　⑲重森三玲邸　現代の造形手法による抽象の住宅庭園






4

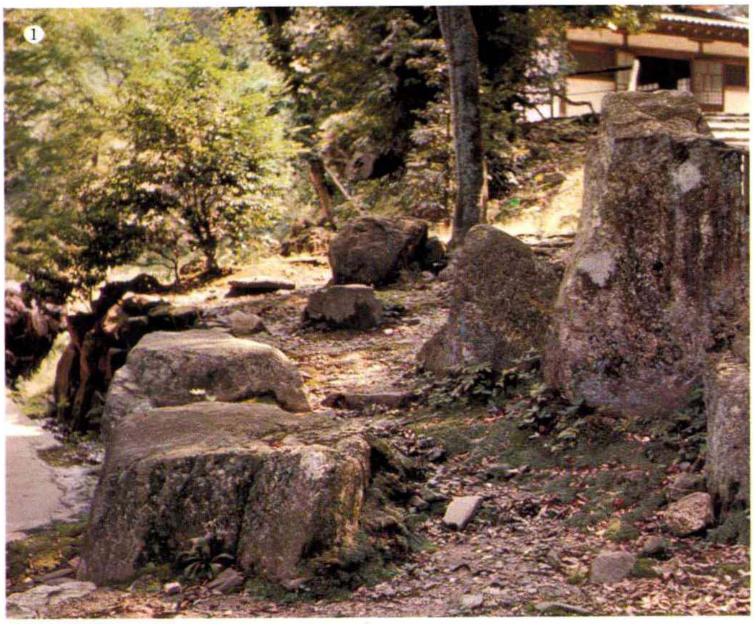

5

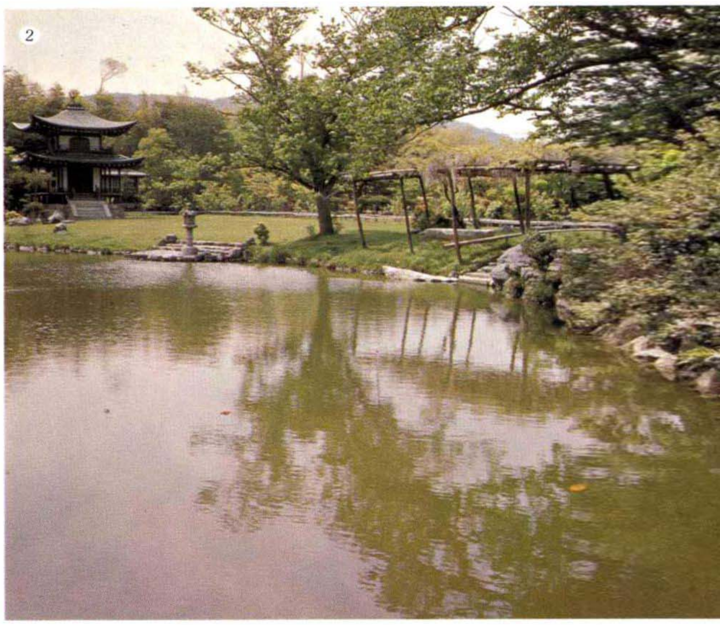

6


7


8


9

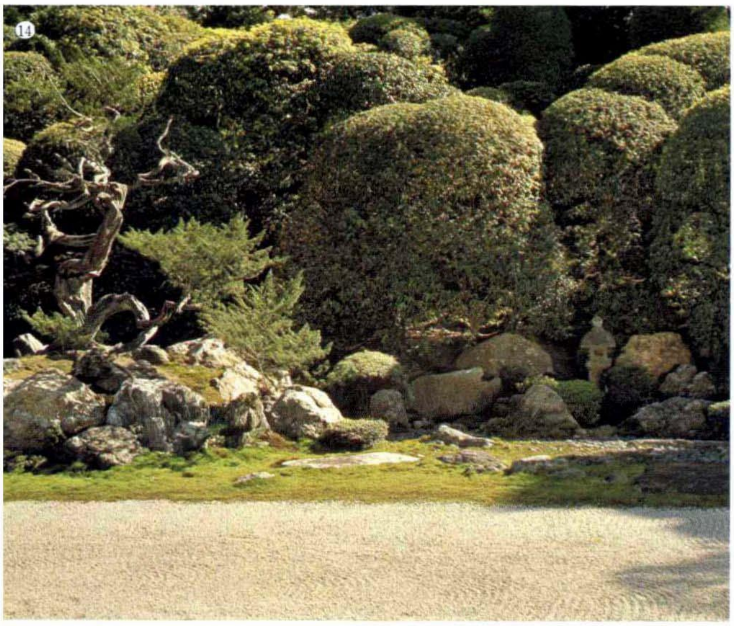




庭　園

①**園城寺金堂西側**　須弥山様式・蓬萊様式が混同されていた奈良時代の庭園で，三尊手法による石組もあった園池の一部　②**勧修寺**　大池泉舟遊様式が多かった平安時代の庭園。池泉に四島の中島があり，多島形式を示す　③**天龍寺曹源池**　鎌倉時代蘭渓道隆の作庭と考えられる。北宋画風の庭といわれ，右方が岩島(鶴島)，左方の橋の左が滝口　④**南禅院曹源池**　亀山上皇愛好の庭園で，竺仙がその意匠の構成に参加した　⑤**常栄寺**　雪舟が自己の画業を庭園として意匠したもので，大内教弘の別業の地であった　⑥**龍安寺石庭**　白砂と東から5，2，3，2，3の5組み15個の石のみが使われ，静寂な空間を形象する。室町時代の作庭で唐物飾り付けの影響がみられる　⑦**妙心寺退蔵院**　方丈西部書院から見おろす位置にあり，室町末期の北宋枯山水　⑧**慈照寺**　東山殿の庭，銀閣寺の庭の称がある。足利義政の没後に完成した　⑨**桂離宮**　御輿寄前庭の真の飛び石といわれている敷き石

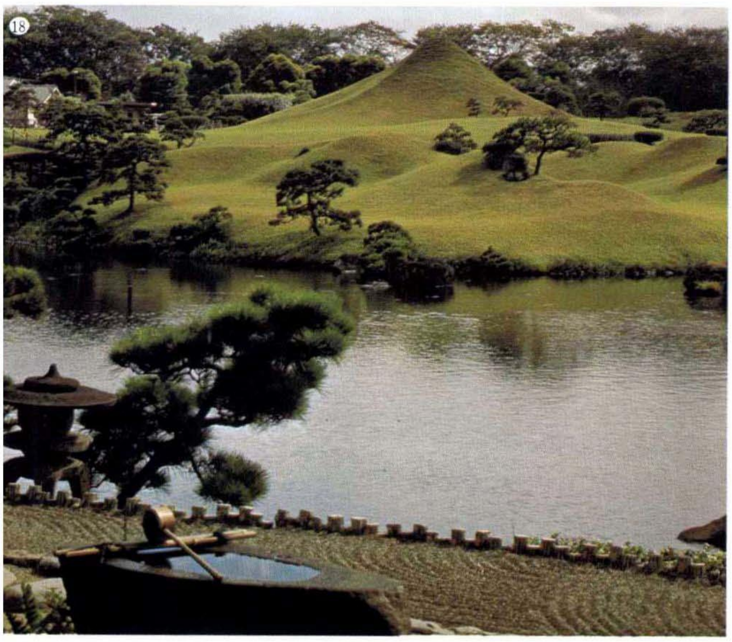



14


15


16


17


18


19

ク時代を代表する巨匠。その人物像は空の輝きのもとに色彩の歓楽を十分に表現しえたと評せられる。彼はまた，壮麗豪華な壁画を描いたが中でもベネチア，ラビア宮の《アントニウスとクレオパトラ》は代表作である。1762年にはスペイン王室に招かれ，マドリッドの王宮を装飾した。

ティエール　［Louis Adolphe Thiers］（1797～1877）　フランスの政治家・歴史家。第三共和政の初代大統領。はじめ法律を学び，歴史を研究，大著《フランス革命史》（1823～1827）を著わした。1830年《ナショナル》紙を創刊して王政復古のブルボン政治を攻撃，七月革命*後首相を歴任（1836～1840）した。ナポレオン３世の第二帝政期には政界を引退していたが，1870年の対プロシア開戦に反対して復帰，1871年ボルドー議会で行政長官に選出されて政権をとると対ドイツ講和条約を結び，パリ-コンミューンを徹底的に弾圧した。〔喜多迅鷹〕

ていえん　【庭園】　⇨次ページ

ディエンビエンフー　［Dien Bien Phu］ベトナム北西部，ラオス国境に近い1,000～1,500mの山地にある盆地の町。1954年，ベトナム再支配をめざすフランス軍が，ここによってホーチミンを首班とするベトナム民主共和国軍と戦ったが，大敗して降伏した。これによりジュネーブ協定が成立し，北ベトナムの独立が確保された。

ていおうせっかい　【帝王切開】　妊婦の腹壁および子宮壁を切開して，胎児を娩出(べんしゅつ)させる方法。子宮体部に縦切開を加えるのを定型的切開，子宮下部に横切開を加えるのを低位切開，腹膜を切開せずに腹膜外から子宮を切開するものを腹膜外帝王切開といい，現在は低位切開が広く行なわれている。以前は帝王切開は母子ともに死亡率が高かったためにあまり施行されなかったが，近年は抗生物質の進歩，輸液法・輸血法の改善，麻酔法の改良に伴って増加の傾向を示している。わが国の全国統計によると全分娩中に帝王切開の占める比率は1948（昭和23）～1957年が2.53％，1961～1965年が4.82％となっている。

適応は児頭骨盤不適合・前置胎盤・常位胎盤早期剝離(はくり)・高年初産婦・骨盤位・妊娠中毒症などがおもなものである。以前に帝王切開を受けた妊婦が次回の分娩で再び帝王切開を必要とする率は40～50％である。現在もなお後遺症，切開部の破裂などの問題があるので，医学的適応症のない初産婦が苦痛からのがれるための帝王切開は避けるべきである。〔木川源則〕

ディオクレチアヌス　［Gaius Aurelius Valerius Diocletianus］（230ごろ～313）ローマ帝国皇帝。在位284～305年。イリュリア（ダルマチア）の出身で卑賤(ひせん)の生まれ。軍隊に入り皇帝親衛隊長となる。軍隊におされて即位し，軍人皇帝時代の混乱を静め，オリエントふうの専制政治（ドミナトゥス）



ディオニュソス　ディオニュソス秘儀　紀元前１世紀　ポンペイ　カーサ-デイ-ミステーリのフレスコ（部分）

を樹立して，兵制・税制を改革。286年，帝国を二分して２人の正帝で統治することとし，みずから東の正帝となった。292年には副帝を置き帝国を四分して統治した。このため動乱はなくなったが，四つの宮廷の維持費はばくだいとなり，人民は重税にあえいだ。303年からはキリスト教徒の大弾圧を行なったが失敗し退位した。〔高山高雄〕

ディオゲネス　［Diogenes］（BC400ごろ～BC325ごろ）　古代ギリシアの哲学者。小アジア黒海沿岸のシノペの生まれ。キュニコス派*の代表者。幸福は人間の本性的な欲求を最も合理的なしかたで満足させることによって獲得されるとして，禁欲に基づく自足〈アウタルケイア〉と，世間的習俗を無視する無恥〈アナイデイア〉とが最もたいせつであると説いた。このような生活を実践するため，１枚の衣と物入れ袋だけを持ち，たるを住居として各地を流浪したので，〈たるの中の哲人〉ともいわれる。また，その生活態度から〈犬（キュオン）〉とあだ名され，〈キュニコス派〉の名のもととなった。アレクサンドロス大王にいちばんの望みはなにかと聞かれて，〈前に立って日をさえぎらないでほしい〉と答えたという逸話は有名である。〔本橋正義〕

ディオスクロイ　［Dioskuroi］　ギリシア神話で〈ゼウスのむすこたち〉を意味し，カストルとポリュデウケス兄弟をさす語。武勇にすぐれ，ふたりの姉（あるいは妹）ヘレネがテセウス*にさらわれたとき，彼女を取り返し，またアルゴ船の遠征に参加した。いとこらとの争いでカストルが死ぬと，ゼウスはふたりを天上へ導いた。のちの伝承ではふたりはふたご座にされたという。叙事詩では人間として扱われるが，神（特に船乗りたちの守護神）として崇拝の対象でもあった。〔松田　治〕

ディオスコリデス　［Pedanios Dioscorides］　生没年不詳。ローマ時代の医師・植物学者。60年ごろに活躍した。小アジアのキリキアに生まれ，軍医として各地を旅行し，多くの薬用植物を記載した。彼が著わした《薬物学》（77年ごろ）は，薬物学・植物学の書として，中世を通じて最良のものであり，広く普及した。

ディオニュソス　［Dionysos］　ギリシア神話の神。別名バッコス。ローマ神話ではバックス，英語でバッカスという。ゼウスとセレネの子。単なる酒神ではない。本来はトラキア地方の神で，ホメロスではまだ重要な地位を占めていない。やがて死後再生する植物の神，特にブドウとぶどう酒の神，転じて心労を解き音楽と詩の霊感を与える神として現われる。かくてディテュランボス詩（この神への合唱歌）・悲劇・喜劇との関係が生じた。この神とともにギリシア本土に神秘主義と宗教的喜悦とが導入された。バッコイ（男）・バッカイ（女）とよばれる信者たちは，家を捨て，ものの怪(け)につかれたように山野を駆け巡り，踊り狂ったという。こうした神秘主義はその伝播(でんぱ)の急速さとあいまって，初期には迫害を生んだ。またエウリピデスの悲劇《バッカイ》のように，文学作品に多くの題材を提供している。〔左中庸博〕

ディオメデス　［Diomedes］

①ギリシア英雄伝説上のトラキアの王。アレス*の子。４頭の人食いウマをもっていたが，エウリュステウスの命を受けたヘラクレス*に殺され，人食いウマを奪われた。

②ギリシア英雄伝説上の勇士。ホメロスの《イリアス》ではアキレウス*に次ぐ勇者で多くのてがらをあげるが，中でもアレス*・アプロディテ*の両神と戦って傷を負わせた武勇談が有名である。

ディオール　［Christian Dior］（1905～1957）　フランスの服飾デザイナー。第２次世界大戦後のファッション界に大きな足跡を残した。はじめ建築家や作曲家を志したが，両親の希望により断念。そのおりの勉強や交友関係の影響が，後年のデザイナーとしての基礎づくりになったといわれる。デザイナーとして1947年に最初のコレクションを発表した。それはニュールックといわれ，ロングスカートと細いウエストのシルエットで，一躍彼の名を有名にした。代表的なものにチューリップ-ライン・Hライン・Aライン・自由のラインなどがある。最後の作品となったものはスピンドル-ラインである。〔小池千枝〕

ていおんさっきん　【低温殺菌】　高温によって変化しやすい物質中の細菌を殺すために行なわれる方法で，おもに牛乳の消毒に行なわれる。62～63℃で30分間加熱し，これによって牛乳中の病原菌は死滅するが，すべての微生物が完全に殺されることはない。日本酒やしょうゆの火入れもこれである。胞子をつくる菌もその生活環の一部で温度に感じやすいことがあり，これを利用

→502ページ

庭　　園

〔日本庭園〕〈上古〉日本庭園は，現代庭園を除いては，宗教的影響を強く受けているか，あるいは宗教そのものではなくても，それに類した思想的影響を受けていた。この思想的ということばは，現代における心理的・政治的・芸術的，あるいは生理的なものの含まれた思想とは相当に異なっていると考えてもよい。ただ，上古庭園は，その造形的意識が実に近代の人間生活に強く訴えるものをもっていることに注目しなければならない。ということは，人間の生活意識の基盤の上に立った造形であるという意味で，現代のわれわれに訴えるものがあるということである。上古庭園はほとんど池庭といってよい。現存している上古庭園や，〈記紀〉にある都の形態や，そこにあった皇居などが池を中心に構成されていたことが記録に残されている。現存している上古庭園は，宇佐神宮園池(大分県)・宮崎神宮園池(宮崎県)・気比神宮園池(福井県)・吉備津(きびつ)神社園池(岡山県)・吉備津彦(きびつひこ)神社園池(岡山県)・吉備津神社園池(広島県)・安食(あじき)神社園池(滋賀県)・阿知(あち)神社石組(いわぐみ)(岡山県)などで，これらは出雲(いずも)系・神武系・吉備津系・生島足島(いくしまたるしま)系・宇佐系・安食系・阿知系などの各部族の生んだ作品である。このうち安食・阿知などは帰化民族であったから，彼らは当時としては最新の技術をもっていて，その技術を導入したと考えられる。

都と皇居が池庭であったことは，たとえば懿徳(いとく)天皇*は都を大和(やまと)(奈良県)の軽に移されたが，皇居は曲峡(まがりお)宮と称された。これは曲線のある大池泉の表現である。また，孝昭天皇*の皇居は掖上池心(わきのかみのいけごころ)宮といって，大きい池の中心に中島(なかのしま)があったことがわかる。孝安天皇*の皇居は室秋津島(むろのあきつしま)宮で，これも池心と同じ形態のもので，景観の表現と考えられる。あるいは崇神(すじん)天皇*の皇居は磯城瑞籬(しきのみずがき)宮であったし，さらに天皇は62年の冬10月に依網(よさみ)池，11月に苅坂(かりさか)池・反折(さかおり)池などもつくられた。なお，垂仁(すいにん)天皇*の90年に田道間守(たじまもり)が常世国につかわされたが，蓬萊(ほうらい)山*に〈とこよのくに〉の傍訓があることから，これはこのころに蓬萊思想がはいり，中国庭園の影響があったと考えられる。

このように，園池と上古庭園の形態は密接な関係があるが，これは平安時代ごろまで大きい影響を与えた。園池の中島には神を祭り，ここに建築をして神人同座としていたが，これは防火・防衛という機能のためもあった。しかし，崇神天皇ごろから神人別座となり，神は中島に住居は池畔へと移った。上古の陵墓制も，これらの思想が尾を引いたものと考えられる。

〈飛鳥(あすか)・奈良時代〉この時代になると，仏教文化がおおいに花開いて，作庭に大きな変化がみられる。これは，庭園がいわゆる庭園らしい形態を整えてきたということである。仏教文化の入来によって，寺院が多く建立(こんりゅう)され，寺院庭園が生まれたのは見のがせない。当時の庭園様式としては，須弥山(しゅみせん)様式が流行するわけであるが，中国にはすでに蓬萊思想があり，日本での常世思想となっていたから，蓬萊も須弥山*も，帰するところは一種の理想郷追求の思想である。そのためか，この両者の思想は対立することはなく，須弥山といっても蓬萊的であったり，蓬萊山が須弥山的であったりしたのは当然である。中国では，隋(ずい)の煬帝(ようだい)の作庭した西苑(せいえん)が蓬萊・方丈・瀛洲(えいしゅう)の3神仙(しんせん)島のある庭園として有名であったから，これが日本庭園の上に大きい影響を与えたことが考えられる。また，聖徳太子*(しょうとくたいし)建立の定林寺庭園は蓬萊様式で，亀(かめ)島がつくられていたという。つまり，本来の日本庭園らしい造形の芽が生まれてきたわけである。607年(推古15)には法隆寺が創建され，613年には帰化人の路子工(みちこのたくみ)が日本ではじめての須弥山様式の庭をつくり，同時に南庭(おおにわ)に呉橋(くれのはし)をかけたことが《日本書紀》にある。623年には蘇我馬子*(そがのうまこ)の邸に池泉庭園ができ，中島に亀島をつくった。臣下の邸に庭園ができたのははじめてであったから，人々は彼を島大臣と称したほどであった。つまり，庭園は最初に皇居につくられ，やがて寺院につくられ，そしてさらに群臣の邸につくられるまでに発展したと考えられる。馬子の庭は，太子の定林寺と同じく亀島があったから蓬萊様式である。須弥山様式の庭は，657年(斉明3)，659年，660年と次々につくられた。当時の庭の主流はもちろん池庭であった。現存している当時の庭は園城(おんじょう)寺金堂西側の庭園であるが，この最古の石組が飛鳥時代の仏像と同じ北側にあるのも注目すべきである。臣下のものでは710年(和銅3)に橘諸兄(たちばなのもろえ)が，720年(養老4)には藤原不比等(ふびと)の庭ができた。

〈平安時代〉平安時代になると，庭園はますます洗練されてきて，後世の庭園の源流とさえいえるものが生まれてきた。平安遷都とともにできたのが有名な神泉苑である。また，810年(弘仁1)には南池院庭園ができ，この庭は江戸時代まで保存されていた。この庭の前栽(せんざい)にキクが植えられていたことも興味がある。ということは，このころあたりから盛んに前栽もつくられていたわけである。814年には嵯峨(さが)大沢の池庭がつくられた。この時代の池の中島は直線や斜線で構成され，いわゆる多島形式が生まれてきている。滝の石組*は三尊石組(3個の石を組み合わせた石組，中心に中心石，脇侍(わきじ)石が2個)の連続変化の造形で，力強い構成である。建築における寝殿造*りなども，池泉構成に対する当時の考え方からの配置があったと考えられる。寝殿の正面が池泉のほうに出張り，左右の泉殿や釣殿(つりどの)の下へ池泉がはいりこんでくるから，池泉の形は必然的に凹字(おうじ)形になり，寝殿の前は儀式を行なうための砂場が芝草の広場であったから，寝殿が池泉のほうに出張るといっても，そこには相当な空間があり，左右の池泉のみ建築のほうにはいりこんできていた。池泉は大池泉舟遊様式であるから，中央の島は最大で蓬萊島であり，あと二島・三島・四島・五島の多島形式であった。二島形式のものは大沢池庭・毛越寺*(もうつじ)池庭，平等院古図に表現されている鳳凰堂(ほうおうどう)池庭などで，三島形式のものは渉成園・大乗院池庭，四島式のものは勧修寺*・大珠院池庭などがある。植栽なども，当時は花木が盛んで藤原良房(よしふさ)の庭は染殿の庭と称されてサクラが多く，藤原良相(よしすけ)は百花亭(ひゃっかてい)の庭をつくった。菅原道真(すがわらみちざね)の山陰亭の庭は特に紅梅が多かった。現存しているものでは左大臣源融(とおる)の河原院(かわらいん)の庭が有名で，塩釜(しおがま)(宮城県)の景を写して難波(なにわ)(大阪府)から塩水を運び，塩を焼く煙をながめたという豪華なものであった。この時代の庭は，曲水・前栽・大池泉舟遊の形態をもった庭が植栽の花木とともに花を開いたといってよい。滝をつくったり，遣水(やりみず)をこしらえたり，三尊石組は巨石を立石で構成したり，汀(なぎさ)の形は州浜の抽象形を取り入れ，鶴亀(つるかめ)石組・夜泊(よとまり)石組(蓬萊様式に含まれ，神仙島への往復のための船が港に停泊している景から構成した)・蓬萊石組・滝石組などすべてが力強く表現されていた。

〈鎌倉時代〉1141年(永治1)から1240年(仁治1)の100年間は，庭園史の上では平安末期から鎌倉初期にあたる。この間は，その作品も過渡期としての変化のみられる興味深いものが多い。平安時代の王朝ふうのものから，鎌倉に幕府が置かれたことからの武家ふうのものが少しずつ影響をみせはじめた。過渡期の形態として，王朝文化や密教的文化，さらに宋朝(そうちょう)文化を背景にもつ禅宗の文化が，最初の間は混合的な形態でうずまいていたが，中期から末期にかけて，ようやく禅宗的色彩が強まり，建築も寝殿造りから書院造りへと移り，同時に庭園も坐禅(ざぜん)形式に適合した回遊様式が生まれてくる。池泉回遊という様式は，

池泉舟遊から創案されて，庭園を余すところなく楽しみ，そこから坐臥（ざが）常住の仏の教義を見いだすといういかにも僧侶（そうりょ）や武家の生活によく似合った形式といえる。しかし，池泉回遊も，いきなりそれだけ独立して生まれたものではなく，最初は王朝の舟遊形式と当代の回遊形式を兼ねて表現されていた。西芳寺*庭園や鹿苑（ろくおん）寺*庭園などは，そのよい例である。西芳寺庭園などは，中島の構成などは平安朝ふうに横の広がりを強調し，池も舟遊の形態をとりながら，同時に回遊の方式も取り入れている。特に，貴族や上流の武家が作庭家として活躍したのも注目しなければならない。後京極良経（よしつね）の中御門殿（なかみかどどの）の庭，藤原定家の小倉山荘の庭などは有名である。定家の歌人としての詩の表現が，作庭にも大きく発展したとも考えられよう。武家では源実朝（さねとも）が大倉御堂の庭をつくっている。また，西園寺公経（きんつね）の北山山荘などは今日の鹿苑寺の庭のほぼ原形といってよい。石組なども，平安時代は横幅のある石を立石で構成していたが，当代は縦の長い石を用いたから，剛健であるとともに，非常な迫力を示している。そのため，平安時代の優美なうちに秘められた迫力とは質的に異なっている。特に池泉の護岸の石組にそれがみられる。滝石組は主殿近くの正面に，三尊石組か須弥山石組で構成され，鶴石組は羽石を両翼に立石で組み，亀石組も集団石組で，鶴に比べてやや写実的であるが，全体からみると抽象構成である。石橋には，まだ橋石組は行なわれておらず，植栽は諸国の名木・名草を移植するのが流行した。たとえば，龍田（たつた）のカエデ，吉野（よしの）のサクラ，難波のアシなどを使用した。しかし，北宋絵画の影響が中期・末期に現われたので，庭園は山水であるという意識が強くなり，そのため山畔・築山（つきやま）利用の池泉が多くなった。

《室町時代》 政治・経済的には暗黒時代であったにもかかわらず，絵画や工芸，庭園などにきわめて質の高い作品が数多く生まれた。当代は，実に，日本の文化史上の特異な時代ということができよう。為政者としての足利（あしかが）氏，特に義政（よしまさ）は芸術の愛好者・保護者であり，鑑賞眼もあったから質的に高い文化が生まれたといえる。そして，義政の下には庭は善阿弥（ぜんあみ），いけ花は立阿弥，道具は調阿弥，茶は千阿弥，絵画は相阿弥・芸阿弥，能は観阿弥，というふうに阿弥衆がいた。寛正から文明（1460～1486）にかけては，ことに中国から請来（しょうらい）された名画などの鑑定を行なったので，義政はますます芸術の真髄に触れることができた。絵師としては如雪周文・雪舟*がいて活躍し，しかも雪舟は東福寺・常栄寺・万福寺などの諸庭園を彼の絵画的才能を生かして作庭し，これらは現存の庭園中でも傑作とされている。また，一休禅師が酬恩庵（しゅうおんあん）の庭園をこしらえたり，義政は西芳寺の再現として高倉御所の庭を母のために，銀閣寺の庭を自身のためにこしらえた。また，僧侶では，雪舟が九州で亀石坊など，蓮如上人（れんにょしょうにん）が自邸の庭，東渓（とうけい）宗牧和尚（おしょう）が龍源院の庭，古岳宗亘が大仙院の庭をつくり，武家では細川高国・勝元・政元らが作庭した。この時代の庭園の大きい特徴は，なんといっても枯山水*庭園の出現と，特に応仁の乱後の急速な発展とその完成である。枯山水そのものは，別に室町時代の創案になるものではなく，平安時代や鎌倉時代にもすでにこしらえられていた。しかし，それは庭園全体からいえば，その庭園の敷地の一部分に構成され，室町時代の庭園全体が枯山水であるのと比べると，きわだった特徴といえる。もっとも，枯山水は京都を中心としていて，地方に行けばまだまだ池泉庭園が多く，やはりこのような流行は都を中心として発展した。枯山水が出現した理由は種々あるが，そのおもな原因は二つ考えられている。①社会全体の経済的窮乏から多額の工事費のかかる大池泉庭園ができなくなり，工事費の安価な枯山水を全体に構成しなければならなくなった。②①の理由から敷地が狭少化して，ここに内容の豊富な庭園をつくらねばならなくなり，省略的な抽象構成の行ないやすい枯山水造形に向かわざるをえなくなった。いままで，庭園といえば水が必須（ひっす）の条件であったが，水がなくてもりっぱな庭ができたことに対して，当時の人々はおそらく予想外の効果に驚いたことであろう。

庭園の作風も，建築物から俯瞰（ふかん）する方法，上下２段の構成，銀閣寺・大仙院・龍安寺のように陰陽思想を表現したもの，植栽刈込の初期的形態や，珍草・珍花を花壇で楽しむなどというように，かつてなかった創作もみられる。石は敷地が狭くなったためか，鎌倉時代のように巨石は扱わなかったが，石橋に橋添石という石組がはじめて表わされ，その全体の設計や局部の構成に，多種多様な創作がみられる。

《桃山時代》 戦国時代を経て当代にはいったためか，神仏に対する信仰は衰え，豊臣秀吉（とよとみひでよし）らはおおいに仏教の再興を図ったが，戦国の不信の時代を生き延びてきた者は，武家や民衆にかぎらず，たよれるものは自己の力と才能だけという風潮が強かったために，庭園においても伝統を否定した。たとえば，鶴亀島や蓬萊島は神仙島であるから，それまでは夜泊石組などして，舟でゆくような構成であったにもかかわらず，直接土足で渡れるように橋をかけたのは，なんといっても人間の生命力謳歌（おうか）以外のなにものでもない。この力強い生命力に対する自己賛美は，蓬萊石組や須弥山石組に巨石を用いたり，三尊石組を構成する際はその形を極端に変形させたりもした。また，石橋も自然石であったのが，切石橋として人工のものにしたりして，そこに人間のなまなましい情感を見せたりした。石橋はたいてい３橋かけ，そのうち２橋は直線状に，１橋は曲げて構成しているのが特徴ある手法である。植栽手法も大刈込がはじめて現われ，石や樹木においても，桃山の障壁画を見るようなはでな絢爛（けんらん）の芸術であった。

しかし，それとは対照的に〈欠けたものの中から足るを知る〉いわゆる〈佗（わび）〉の美学が生まれ，これが千利休によって大成した茶道に取り入れられ，茶室*や露地*（茶室に至るまでの道すがらの道）ができた。露地の創案は日本庭園史上まことに画期的であり，茶事のためという機能を優先させた庭ははじめてであった。露地は以後の日本庭園にも大きい影響を与え，燈籠（とうろう）・蹲踞*（つくばい）・飛石など現代にも使用される設備を庭に取り入れ，庭に景観美のほかに機能美のあることを示した。このような点から考えると，当代の庭園は建築や工芸や絵画などに見られる豪華でたくましい美しさを見せたとともに，茶の〈佗〉の美も取り入れられ，人間の美的生活の振幅を大きくしたともいえる。しかし，露地だけは，人間生活に根源的な〈あはれ〉・質素・簡潔と，禅の無我寂静の中から生まれた美的生活に没入していった。贅（ぜい）に対する無，無に対する贅の二律背反の庭園の時代といえる。

《江戸時代》 当代は300年にわたる時代であるが，作品的には中期までであり，末期にはまことに愚作が多い。しかも，この時代は京都・江戸に文化が分かれ，それに加えて各地のローカルな文化が固有に発展した。そして，それらの固有の各地の文化が，京都・江戸でそれぞれ交流していったわけであるが，このことは政治の安定や大名の参勤交代*，通信制度の発達，交通の発展などが原因となっている。京都はいうまでもなく貴族中心の文化であり，江戸は武家と庶民の文化である。京都の寺院庭園などは，各地の大名が施主となっていながら，江戸や武家の作風は継承せず，あくまで王城の文化としての庭園をつくり続けたことは注目に価する。そのように，江戸時代の庭園は各地によっておのおのその特徴を表わしているが，時代全体の特徴としてみると，女性的表現であり，細やかな手法を示し，特に中期からは小味なものになり，それをさらに洗練していったから，いわゆる迫力のある造形は少なくなってしまった。江戸時代というと大名庭園が連想されるが，これは蓬萊様式とはいいながら，各種の手法の交わった，いわば総合的形態を示し，し

かも後世の公園的性格すらもっていた。初期では，まだ桃山の作風が強く影響していたから，大刈込や力強い石組もみられた。茶席や露地もこの初期に多くつくられた。また，茶道が当代になって，佗茶と書院茶に二分されたことも見のがせない。すなわち，利休直系の千宗左・宗旦・宗守らの草庵茶と，藪内紹智(やぶのうちじょうち)・古田織部(おりべ)らの書院茶が対立した。江戸時代は，鎖国による退嬰(たいえい)的風潮があったから，庭園も過去の様式の集大成であった。ここに，江戸時代の庭園様式を池泉・枯山水・露地の三様に分けて，それぞれの様式の内容をみると，池泉では大池泉舟遊回遊様式・大池泉接続式回遊様式・小池泉接続回遊観賞様式・小池泉観賞式・大池泉縮景式・大池泉借景式・大池泉蓬萊式・大池泉唐様式・大池泉書院式露地・小池泉蓬萊式・大池泉築山式・小池泉築山式などのものがあり，枯山水では禅院式・蓬萊式・築山式・平庭式・七五三式・十六羅漢(らかん)式・大刈込式となり，露地様式では草庵式・書院式・折衷式となる。

〈明治時代以降〉江戸末期からの定型への盲従という風潮は，当然明治になっても改まることはなく，これが大正・昭和初期へと引き続いた。その原因は種々考えられるが，一つには前述のように定型への無批判的追随がある。当時は，江戸中期の《築山庭遺伝》や《石組園生八重垣(やえがき)伝》といった書物が唯一無二のように取り扱われ，それから一歩も外へ出ようとはしなかった。もちろん《作庭記*》などのすぐれた古典書の研究などはだれも行なわず，庭師はまた施主の言うとおりに動くだけで，創作の意欲は皆無であった。1873年(明治６)に公園設置布告が出て，欧米文化導入の口火を切ったが，多くの旧庭が公園に指定されたり，旧名園が公開され，その後明治・大正を通じて指定や公開が行なわれた。しかしながら，欧米文化に心酔のあまり，在来の日本庭園が数多く破壊され，洋風化してしまった。洋風公園にすることが，最も新しい作風と思われていた時代である。新しくこしらえる庭園も，洋風の園路・噴水までつくり，まったくアンバランスな作品も多かった。日本庭園に対する考え方も，景観本位の自然主義的作風であった。それは今日にも及んでいるところであるが，この自然主義作風と洋風の混合したものがよくみられ，造形や美術としての庭園という意識がなかった。明治・大正・昭和初期にかけては，富豪や華族らが施主で，大庭園を数多くつくったが，彼らしろうとの意匠したものを庭師がつくるといったぐあいで，いたずらに工費のみがかかった。素材に対する本末や，意匠に対する確たる理念がないから，愚作ばかり多いのも当然である。大正期も明治の影響を受けていた。この時代は流れを庭の中につくるのが流行し，また借景もおおいに利用された。庭師も，明治ごろより多少創作に対する意欲もわいてきた。大正の傾向は別荘庭園と植栽本位の庭が多く，石組で造形することはなかった。これは，昭和の初期中期へと続くが，昭和も中ごろになると，本格的な研究書や研究団体も生まれて，江戸中期以降から明治・大正への無批判な創作のない庭園に対して反省が起こった。しかしながら，日中戦争から太平洋戦争が起こり，作庭活動は止まり，戦争が終わった1945年(昭和20)から1950年ごろまでは，ほとんど作庭活動はなかった。その後ようやく人心が安定しだしてから，再び作庭活動は徐々に動きだしたが，一部ではまだ明治や江戸末期の秘伝や口伝があるかのごとき風潮と，自然主義が最上のものと思われてきた。1955年ごろからの著しい特徴は公共建築に対する庭園である。それまでも，そのようなものは少しはあったが，いずれも庭師任せで，新しい建築に合致した造形を主張したものはなかった。しかし，島根・大分・鳥取の各県庁やその他の公共建築に対する新しい庭園設計は，時代の傾向を示していた。建築の形態が多岐にわたる現代では，それに合った人間生活に密着した庭園が必要であるが，住宅においても，古典の造形精神を現代にいかに生かすかが問題であろう。古典をコピーするのではなく，古典の作家たちのきびしい創作への道が，ともすれば忘れられがちである。現代から将来にかけても，ただ創作のみが必要とされる。

〔中国庭園〕有史以前の中国は，エジプト・ギリシアとともに世界の文化の三大中心地であって，その文化の影響は遠くギリシアにまで及んでいた。また，回教芸術やギリシア・アッシリア・インドなどの文化がいかなる経路を経て，どのように形態を変えて中国にはいってきたかなどは，中国の研究が進んできた現在，ようやく光明があてられつつあるといえる。中国では，すでにBC2600年ごろに貨幣をつくり，養蚕を教え，天文・算数が定まり，国家の形態があったと伝えられている。以下，時代勢力の消長につれての，中国における庭園の概要を述べよう。

殷(いん)代，いわゆる中国の原始時代で，国初までの600年間であるが，このころにはすでに銅器がつくられていたという。都市は土壁で周辺を囲んでいた。周代，各地の豪族はその建築に高台をこしらえて眺望(ちょうぼう)をよくし，おそらくは庭園も上からの眺望にこたえるように作庭していたと推される。すでに，狩猟地や果樹園ができていて，都市の形態も整っていた。秦(しん)代，始皇帝が万里の長城*や阿房宮を建築しているが，当時，すでにそれだけの高度の土木技術があったことが証明されるわけで，単に人間の数の多きによってできあがるものではない。漢代，長安の都に豪壮な宮殿・離宮がつくられたが，それとともに広大な庭園がつくられ，貴族だけではなく一般の官吏・富豪らも作庭するようになった。六朝(りくちょう)代，書に王羲之(おうぎし)，詩に陶淵明(とうえんめい)らが出て，絵画や文学も盛んであったから，庭園もおおいに興隆した。大きい池泉の周辺に建築物を並べ，帝王の住居は東西２里，西南15里の広大な敷地で，その間に川や林，曲水のような池泉，樹林，桃李(とうり)の園，竹柏(ちくはく)の園などが点在していた。隋・唐代，金銀の装飾美術などが数多くつくられるようになったが，一方，土木技術もおおいに発達した。そのため土木の事業も盛んで，運河建設によって華南と華北が通じた。驪山(れいざん)に温泉宮がつくられ，庭園も数多くつくられた。また，長安に大雁塔(たいがんとう)がつくられた。宋代，この時代の庭園は当代の絵画から見てとれる。当代の中国庭園の様式は，池泉は海洋の表現であり，中島は仙島であった。仙島は不老長寿の祈念である。水の利用は景致的意味だけではなく，灌水(かんすい)・宴遊・防備・軍事演習にと，種々に利用された。その規模の大きさがわかるであろう。石組は絵画の山水と同じく，奇岩・怪石を重畳とさせていて，洞窟(どうくつ)や石峰を模した。宋末1200年ごろの金代には首都を北京(ペキン)とし，そこに宮殿を造営し，庭園をつくったが，のち元・明(みん)・清(しん)代の王朝の宮殿となり，営々として庭園がつくられた。元代には，民間にあっても楊柳(ようりゅう)を植えて庭園がつくられたが，特に北京の南郊は水が美しかったので，その近辺には庭園が盛んにつくられた。このような伝統は，明代から清代へと受け継がれ，清代には北京の宮殿をはじめ，離宮や庭園が各地につくられた。

〔欧米庭園〕欧米の庭園は，それぞれ各国の作風や主義・主張があり，とりまとめては扱えない。すでに一部は記したが，いわゆる西洋庭園も，古代においてはバビロン・エジプト・ギリシアと当時の文化の中心地から興隆してきた。ギリシアを経てローマにはいった庭園文化は，ポンペイの廃墟(はいきょ)の中から発掘されている。それらは四角な池を中心として，その周囲を花樹で飾ったもので，やはり即物的な美観に訴えた構成である。中世の回教文化は，中国の文化とも交流したが，スペインにそれが渡ったとき，スペイン独自のパテオ(中庭)とよばれる様式が起こった。このパテオは，周囲に壁や柱や廊下を設け，その壁や柱にアラブ固有の文様を表現し，中央に噴水や池泉，カナール(流れ)を構成した。水は廊下や室内にも導かれ，やはり噴水やカナールとなった。床は美しく舗装され，植栽はイ

トスギが喜ばれた。その他生垣(いけがき)・はち植えなどが用いられたが，大邸宅では，このようなパテオが二つ以上つくられ，その間にはスペイン特有の鉄細工の門扉(もんぴ)を設けて，見通しをよくしている。このスペインの様式は回教を通してインドにも伝わり，現在でもこの様式の庭がかなり残されている。イタリアでは，山の中腹に作庭することが多かったが，そのためかいわゆる借景のように，周辺の森や眺望を生かした設計である。この国は，テラスを設けた庭が多いが，これは古代ローマの一種の復興である。都市では中庭を生かしテラス*を使ったやや建築的庭園が多いが，田園地帯では傾斜地に作庭することを好み，ここでもテラスは生かされている。庭園は住居を出発点として，それを主軸に前庭・主庭・奥庭と分かれるが，このような軸線の交差点や各ポイントには，池泉・水浴プール・滝・庭門・園舎・温室・花壇・彫刻などを配し，植栽は常緑樹の刈込，イトスギ・傘松(かさまつ)などがよく用いられる。フランスの庭園は，16～17世紀ごろからイタリア様式が新しい形態をもってはいり，フランス独自のものとなった。最初は，イタリアの傾斜地におけるテラスを伴った庭園を平坦地(へいたんち)に作庭した。これがいわゆる幾何学的文様の庭園となるのであるが，しかもそれにバロックの美学が伴うのである。特にベルサイユ宮殿*の庭園はこの種のものでは名高い。フランス庭園の特徴は，建築からの大軸線に従って，大並み木や大カナールをつくり，その間に庭園はいくつかの部分に区画され，それぞれが独立した庭園になっている。しかも，それらはときにはししゅうのような文様すらもち，池や森林ともなったりする。植栽はナラ・ブナ・トチ・ポプラなどを用いている。イギリスの庭園は，フランスのあまりに人工的な，そして左右対称的なものから大きく脱出して，自然ふうで写実的になった。これは，18世紀になって，文学・絵画などで自然を愛好する傾向が生じた風潮とともに生まれたものである。自然風景を尊んだといっても，東洋の，特に日本庭園から比べると著しく写実的である。たとえば，牧草でおおわれた丘陵地帯に樹木を配し，低い部分には水をためて流し，橋をかけ，住居近くには，バラ園・運動場などが目だたぬようにつくられている。ここでは貴族の庭園が主流を占めた。今日，いわゆるイギリスふうな庭は，オーストラリアやニュージーランドに伝えられている。この傾向の庭園がドイツにはいると，非常に科学的・写実的傾向を強め，特に植物生態学の影響で，実用的で美しい庭園となり，風景の一部をそのまま切り取ったような庭園すらあった。アメリカの庭園は，いわゆる実用的とも機能的ともいわれるもので，美術的傾向を示す庭園はない。1920年ごろから戸外室(アウト-ドア-リビング-ルーム)ということを盛んにいわれだされた。これは，庭園の空間を屋根のない屋外のへやと考える方式で，機能優先主義である。整地の広いところは，人間の活動の動線を重視し，アプローチ・主庭・サービス-エリアなどを設けた。各部はフェンスや生垣でくぎられ，園路で連絡する手法である。たまには風景的な設計もなされたが，芝生と樹木を周辺に配しただけの，いわゆる意匠は見られない。庭園内にも装飾物などは少なく，単純素朴(そぼく)である。しかし，近年になって，スペインのパテオ様式の庭や日本庭園の長所を部分部分に生かすような庭園が生まれてきた。アメリカ庭園が造形的・美術的に発展するのは今後であろう。アメリカの文化は，今後どのように動いていくか，庭園もその国の文化の水準を示す美術として注目されるべきである。

【現代庭園】現代庭園の著しい特徴は，美術的・造形的庭園の中に人間生活を密着させようとする作庭運動と，機能・実用優先の庭園を作庭することによって，そこに人間生活の根源を求めようとする作庭運動の二つがあることである。古典庭園では，作庭を行なう場所も限定されていたが，現代では建築形態も多様にわたっている。古典庭では宮殿・社寺・住宅・茶席ぐらいであったが，現代ではそのほかに劇場・空港・ホテル・旅館・料亭・公園・遊園地・会社事務所・諸官庁・工場・美術館・学校・共同住宅などがあり，これらにそれぞれ適合した作庭をしなければならない。しかも，空港庭園一つをとってみても，その空港のある場所や性格によって，それぞれ庭園のもっている風土性や素材性・機能性・思想性・技術性などが異なってくるのは当然で，このようなものの比重の案分をどのようにし，総合的にすぐれた庭園にするかという考え方になってきているのが現代庭園である。現代では，古典庭園のように，庭園に対して山水の意識はきわめて薄くなってきている。ということは，大きくみると，庭園も建築もそれぞれ一つの素材と考えると，その二つの素材の積か和が総合的な美術表現であり，造形であって，片方だけの単独の表現というものはありえなくなってきているといえる。人間の生活や職業が，現代ほど分業化されている時代はかつてはなかったから，庭園の存在そのものもその複雑な人間生活に十分対応できるものでなくてはならない。これが前述の各特性の比例の案分となって，一つの庭園のあり方を決定していく。庭園を造形美術として扱ったり，あるいは建築の中に庭園を数多く取り入れてきたのは，関西地域である。このような傾向は，特に第2次世界大戦後にはなはだしくなってきたが，最近の郊外の集団住宅や中小の住宅においても，ますますこの傾向は強まっている。これは，おそらく，関西地域においては，やはり伝統庭園の各種各様の存在が，日常生活の中に普通のこととしてはいりこんでおり，庭園のない住宅というものは考えられないと思うほど，生活の中に根強く生きてきているからであろう。そして，伝統庭園とは当然異なった形態を主張した住宅庭園が多いのは，地域独自の生活美学が豊かであるとも考えられる。

戦後，特に多くなったかに見える庁舎の庭園も，関西・中国・九州地方に多いのも，そのような地域独自の生活美学のためと考えてよいのではなかろうか。そのうちでも，山陰地方は，長い文化の伝統と，生活の一部の中に日常化された唯美的な儀式・祭り・起居動作がある。そのようなことが，公共建築の庭園を形成してきたといえよう。たとえば，鳥取県では，共済組合の宿泊施設である久松閣庭園，鳥取県庁庭園，鳥取県中部総合庁舎庭園，鳥取県西部総合庁舎庭園があり，島根県では島根県庁庭園や出雲市にある島根県立中央病院庭園などがある。島根県立中央病院庭園は，公共病院の庭園として患者のリハビリテーション*まで考慮に入れた設計で，しかも美術的性格の強い庭園である。このような公共病院の庭園は，全国ではまだ例がない。中国地方は，住宅に新しい形態の，やはり美術的性格の強い庭園が多数作庭されてきた。山口県の石丸邸庭園をはじめ，広島県の前垣邸庭園・岡本邸庭園・出原邸庭園など枚挙にいとまがない。岡山県でも，四国の愛媛県でも，香川県でも，このような観点からながめれば，関東地方の経済的な高度の文明生活とは別に，これらの地方の生活は，文化の高度な次元での生活を楽しんでいるといえよう。戦後の住宅政策を最も如実に表現しているのは団地や公共の集団住宅の庭園である。ここには，いわゆる庭園が計画されず，あき地にクローバーや苗木のような小さい樹木があるのみである。現代庭園は，種々な要素がからみあう。これは他のジャンルの芸術と同様で，伝統庭園のめざしていた建築との調和や宗教的意義・絵画的発想などのほかに，心理や色彩計画・健康管理・休息，他の現代芸術との調和などの上に立って成立するものである。現代庭園も，ヨーロッパの庭園などは，建築家によって，たとえば構成主義とか機能主義などの生活科学から計画されてきたが，心理的にも生活の発想の面からもそれをことにするわれわれに，それを直接あてはめることはできない。やはり，日本の日本人のための現代庭園が，逆に欧米庭園のあり方を指導するように計画し作庭していかねばならない。

➔493ページ(写真)〔重森完途〕

して適当な時間をおいて低温殺菌を３回くり返す方法を間欠滅菌という。〔和気　朗〕

ていおんどうぶつ　【定温動物】　⇨恒温動物

ていおんぶつりがく　【低温物理学】　絶対温度で0℃から100℃前後までのきわめて低い温度領域での物理的諸現象や物質の性質を研究対象とする物理学の一分野。このような低い温度では超電導・超流動など常温では想像もできなかった特異な現象が起こる。これらは理論的にきわめて興味のある問題として盛んに研究され，解明されつつある。近年は超電導マグネット・低雑音増幅器，超電導性を利用した計算素子など技術的な応用の面の開発も進んできている。➜極低温　〔有山正孝〕

ていかいはつこく　【低開発国】　後進国ともいわれていたが，1960年代にはいり，国際的・外交的には開発途上国ないし発展途上国の語が用いられるようになった。どの国々を低開発国と定義するかについては種々の見解があるが，一般には１人あたり実質所得の低い国ないし産業構造が農林漁業などの第１次産業中心の国をいい，アジア・アフリカ・ラテンアメリカのほとんどの国々が含まれる。国際連合などでは，社会主義諸国と資本主義先進諸国（ヨーロッパ・北アメリカ諸国・日本・オーストラリア・ニュージーランド・南アフリカ共和国）を除く国々としているように，種々雑多な国々の集合体であり，積極的・明確な規定は困難である。➜南北問題　〔深海博明〕

ていかかずら　【白花藤】　双子葉植物・キョウチクトウ科。山地に自生する常緑のつる性木本。他の植物に気根を出しながらからみつき，高さ10m以上に達する。葉は対生し，楕円(だえん)形ないし卵状披針(ひしん)形で長さ３～６cm，幅1.5～３cm，表面にはつやがある。初夏，葉腋(ようえき)や枝端に集散花序をつけ，２～５個の白ないし黄色の芳香のある花をつける。花冠は５裂し，おしべ５・めしべ１がある。果実は円筒状で長さ15～18cm，ササゲに似ており，10～11月かっ色に熟す。種子に銀白色の毛がある。

ていかりゅう　【定家流】　藤原定家の書風。定家は歌人として尊重されたので，その書は巧妙ではないが，古雅にして独特の風格があるから，茶人には特別に愛好された。茶人の小堀(こぼり)遠州や松平不昧(ふまい)公（治郷）らは定家流を書いた。また，定家の子孫の冷泉(れいぜい)家にも定家流を書いた人が少なくない。

ていかん　【定款】　会社など社団法人の組織・活動，社員の地位などについての根本規則（実質的意義），またはこれを記載した書面（形式的意義）のこと。社団法人の設立者（会社の場合発起人）が上記の根本規則を定め，書面に記載することにより作成される。株式会社にあっては，さらに公証人の認証を受けなければ効力を生じないことになっている（商法167条）。定款には，法人の目的・名称・事務所など法律に定められた組織に関する絶対的記載事項を記載しなければならず，これらの一つでも欠いたものは無効である（民法37条，商法63・148・166条，有限会社法６条）。また株式会社・有限会社などでは，法定の重要事項は，定款に記載されたときにのみ効力を生じる（相対的記載事項－商法168条，有限会社法7条）。またその他任意の事項も，強行規定・公序良俗・社団法人の本質に反しないかぎり記載することができるが，その変更には定款変更の手続きを必要とする。〔松本治雄〕



テイカカズラ

でいがん　【泥岩】　砂粒をあまり含まないで，主としてシルトおよび粘土分からなる砕屑岩(さいせつがん)のこと。このうち堆積(たいせき)面に沿って薄くはげやすい種類のものを，特にケツ岩とよんでいる。

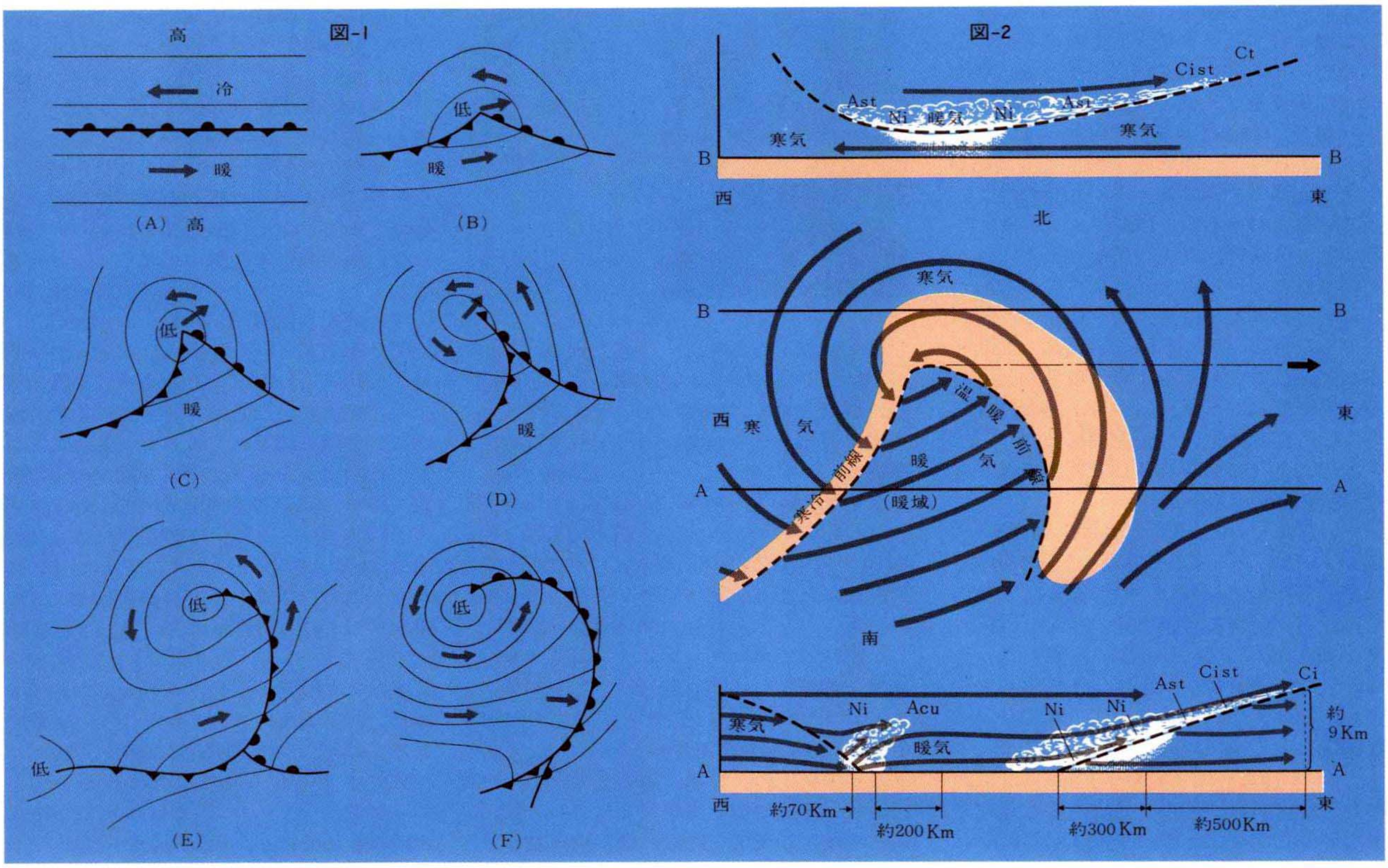
ていき　【帝紀】　〈帝皇日継(ていおうひつぎ)〉ともいう。古代の皇位継承を中心とした簡単な記録と考えられる。原本は伝わらないが，〈記紀〉は帝紀を主要な資料の一つとしており，これまでの研究によれば，原形は歴代天皇の父母・后妃・子女・皇居・治世年数・崩年・山陵などに関する記録を集成したもので，成立は６世紀初めと考えられる。

ていぎ　【定義】　語あるいは概念の意味を明瞭(めいりょう)にし，その用法や適用範囲を確定すること。学問研究における基礎的な手続きである。いくつかの型がある。①指示的定義：定義される語や概念（被定義項）が適用される個々の人や事物（外延）を直接指さして示す方法。これに準ずるもので，絵で示したり名を列挙したりする方法があるが，これらは総じて外延的定義とよばれる。②実質的定義：被定義項の外延に含まれる対象を分析し，これらを他のものから区別する特質（内包）を求める方法。これはアリストテレスが事物の本質を言い表わす唯一の定義としたもので，彼によれば，たとえば〈人間〉はこの被定義項の属す最も近い類〈動物〉と，この項を同じ項の他のものから区別する種差〈理性的〉とをあげることによって定義される。内包的定義とも論理的定義ともいう。③唯名的定義：語の解釈であって，新しい語や概念を導入する場合に，これを別のことばと置き換えることによりその用法や機能を規定するもの。たとえば，〈加速度とは速度の変化の割合である〉。④発生的定義：被定義項の示す事物が成立する条件や過程を述べるもの。おもに生物科学や社会科学において採用される。⑤操作的定義：被定義項の特質を取り出すための実験的操作の手続きと結果を述べるもの。たとえば〈かたい〉という性質は〈物体Ａが物体Ｂよりかたいとは，ＡをＢでひっかいても傷がつかないことである〉と定義される。〔石倉恒之〕

ていきあつ　【低気圧】　気圧が周囲より低く，閉じた曲線となった等圧線で囲まれる地域全体。低気圧は，温帯低気圧・熱帯低気圧に大別されるが，通常低気圧といえば前者をさす。地上付近の低気圧の生涯(しょうがい)は，図-1に示すように寒気塊と暖気塊との境界線（面）の両側の気塊の風速差により，境界面が波動擾乱(じょうらん)をなす。波動擾乱の頂点が低気圧の中心となり，中心から南東に延びる寒気と暖気の境界線（面）を温暖前線（面），同じく中心から南西に延びる暖気と寒気の境界線（面）を寒冷前線（面）という。通常低気圧は，その発生期から最盛期までの間にこれら二つの前線を伴う。この二つの前線にはさまれる地域が低気圧の暖域である。低気圧が最盛期を過ぎ消滅期に近づくにつれて暖域は狭くなり，ついには寒冷前線と温暖前線とが重合し，地上では暖域がなくなる。このような前線を閉塞(へいそく)前線とよび，その低気圧を閉塞した低気圧という。典型的な低気圧の東西断面図は図-2のような現象を伴う構造になる。低気圧は，日本付近では通常平均時速40～60kmで北東ないしは東に進む。俗に月がかさをかぶるようになると天気が悪くなるというのは，まず温暖前線（面）の絹層雲が低気圧の前面に現われるからである。また，低気圧付近の上層の，気圧の谷が地上の低気圧の中心よりやや西にある場合には，悪天候や降雨の原因となる大規模な上昇気流が低気圧の付近に発生する。低気圧の暖域は，温暖湿潤であるため比較的大気の安定度が悪く，したがって天候が悪い。また，寒冷前線付近では後面の寒気が暖域の軽い暖気のもとに突入するため積乱雲・降雨が発生する。

低気圧の成因は，寒気・暖気の境界面での波動現象でいちおう説明されるが，そのような波動を生じ，また発達させる条件は，大規模な風（一般流）の強さの垂直的な違いにある。すなわちふつう対流圏では大気の上層になるほど風速は強くなるが，上層・下層の風速差がある限界をこえると水平の波動の振幅が大きくなって低気圧が発生し，発達するとされている。〔小沢　正〕

ディキシーランド-ジャズ　［dixieland jazz］　アメリカ南部のニューオーリンズで興ったジャズ-スタイル。かつて南部がフランス領だったころ，ニューオーリンズの中央銀行で発行した10ドル紙幣に大きく



低 気 圧

DIX(フランス語で〈10〉の意)と印刷されていたことから，北部では南部を〈ランド-オブ-ディキシー〉とよび，のち〈ディキシーランド〉とよぶようになったことに由来する。はじめは〈ミュージック-フロム-ディキシー〉とよばれたが，1920年ごろからジャズとよばれるようになった。〈ディキシーランド-ジャズ〉というよび方は，1930年代以降，〈スイング〉〈モダン〉などスタイルの違うジャズが現われてから用いられるようになったものである。

拍子は行進曲とか同じ4分の2拍子を基調としているが，最大の特徴は管楽器のアンサンブルにある。現在広く行なわれている編成では，トランペット・トロンボーン・クラリネットの3本が用いられるが，1本の楽器(多くの場合トランペット)がテーマ-メロディを奏する間，他の2本はその上下の音域で自由なアドリブを行ない，もつれあうようなアンサンブルをつくりだしていく。発生当初はアンサンブルだけで通すような演奏が普通だったが，今日ではテーマを提示する最初と最後の部分でこの特徴的なアンサンブルを行ない，中間部は各楽器のソロでつなぐやり方が行なわれている。

フランス領のころから，ニューオーリンズではブラスバンドが盛んだった。最初は白人バンドしかなかったが，やがて南北戦争で敗れた南軍軍楽隊の古楽器が安く手にはいったため，黒人たちも余暇にブラスバンドをつくってかせぐようになった。音楽的素養がなく，自己流で音を出す黒人のアンサンブルは音が合わなかったが，その合わないところから〈ディキシー-アンサンブル〉が生まれたようである。また，黒人のもつ独得のリズム感が演奏をスイングさせた。町を練るブラスバンドのころは，ピアノも弦バス(コントラバス)も，編成の中にはなかったが，まもなくダンスホールに雇われて同じやり方でダンス音楽を演奏するようになってから，これらの楽器も編成に加えられた。1940年代にはいって，ビッグバンドによるスイング-ジャズが下火となる一方，ビー-バップ*という新しいジャズが興るに及んで，創生期のジャズを聞きなおそうとする動きが活発となり，熱心な研究家たちはニューオーリンズにおもむいて，昔のジャズメンの再発見に努めた。バンク-ジョンソン・ジョージ-ルイスらが再登場したのはこのときである。すでに演奏活動をやめていた者も，またアルバイトで演奏を続けていた者も，〈伝説の再発見〉として注目され，その後幾多のレコードを残すこととなった。ジャズのスタイルはその後幾度となく変わったが，ディキシーランド-ジャズはいまでも世界各地で盛んに演奏され，愛好家を喜ばせている。しかし最先端をいくジャズ-スタイルではないので，ミュージシャンもプロよりは熱心なアマチュアのほうが多くなりつつある。➔ジャズ

〔油井正一〕

ていきほけん 【定期保険】 被保険者すなわち保険の対象となる者が，あらかじめ定められた期間内に死亡したときに保険金が支払われ，その期間が満了したときまで生存した場合にはなにも支払われない保険。この保険は死亡保険*の一種で，ある一定期間に特に経済的な保障を必要とする場合に効果的である。近年では土地や住宅または耐久消費財の割賦販売制の普及に伴い，その補助的役割として，代金未払い部分の保証に多く利用されるようになってきた。

〔庭田範秋〕

ていきゅう 【庭球】 ⇨テニス

ていきよきん 【定期預金】 利殖中心の貯蓄を目的にし，一定期間払いもどしされない契約の預金のこと。〈貯蓄預金〉の性格が強く，銀行にとっては最も安定した預金であり，一定期間中は支払い資金を準備する必要がないことから利率はいちばん高い。臨時金利調整法に基づく大蔵省告示は，3か月もの年利2.5%，6か月もの年利3.75%，1か年もの年利4.5%，2か年もの年利4.75%と定めている(1978年4月現在)。預け入れ最低限度ならびに付利単位はともに100円である。なお，近年定期預金は多様化をみせてきており，①印鑑のみを届けて

おく無記名定期預金，②一定の期間，または金額に達するまで積み立てる積み立て定期預金，③支払い期日が到来すれば自動的に元利金を預け入れて継続する自動継続式定期預金，④交通事故傷害保険とセットし，預金額の10～20倍を保険金額とする交通安全定期，などの種類がある。〔池内得二〕

ていきんおうらい　【庭訓往来】　室町時代初期の往来物。玄恵の著作と伝えられるが確証はない。進状・返状を月ごとに配列し，閏(うるう)8月の進状1通を加えて25通からなる。当時の訴訟手続き・武具・詞歌・衣類・調度などの用語を関係項目ごとに1通の手紙形式でまとめ，手習い用教科書として長く使われた。往来物編纂(へんさん)方法の上に大きな影響を及ぼして著名である。《続群書類従》に収録。

ていぎんじけん　【帝銀事件】　1948年(昭和23)1月26日，東京都豊島(としま)区長崎町の帝国銀行椎名(しいな)町支店で起こった行員毒殺および現金奪取事件。15人の行員に，厚生省の技官を装った男が赤痢予防のためとして青酸カリを飲ませ，うち12人を殺害し，現金・小切手を奪った。同年8月に容疑者として平沢貞通が逮捕されたが，アリバイや自白の真偽をめぐって紛糾し，67回の審理ののち，1950年7月東京地方裁判所で死刑の判決が下った。平沢は直ちに控訴したが，翌年東京高等裁判所で同判決，さらに1955年4月，最高裁判所で上告棄却の判決が下り死刑が確定した。しかし1979年現在刑は執行されていない。〔応和邦昭〕

ディキンソン　［Emily Dickinson］　(1830～1886)　アメリカの詩人。自然・愛・文学・生・死・神に関するイマジズムふうの叙情詩で有名。透察力の豊かな新鮮な心象を短詩形で描き，比類ない形而上詩(けいじじょうし)を生んだ。しかし1,700余編の作品は生前に7編，他はすべて死後に発表された。1920年代以降のアメリカの新しい詩の運動に大きな影響を及ぼした。

ティーク　［Ludwig Tieck］　(1773～1853)　ドイツの小説家・批評家。学友の作家バッケンローダーによって中世への関心をよびさまされ，中世以来の民話に取材した童話を多数書いた。この夭折(ようせつ)した友を記念した長編《フランツ-シュテルンバルトの放浪》がある。童話的戯曲《長靴(ながぐつ)をはいた牡猫(おすねこ)》は，当時の観客や劇壇に対する風刺と封建的絶対主義への批判がこめられた代表作。

テイク-オフ　［take off］　経済成長の過程において，経済進歩に対する古い妨害物が克服され，〈経済成長が社会の正常な状態となる〉こと，またはその時期。離陸と訳されている。アメリカの経済学者ロストウの〈経済成長の諸段階〉における五つの成長段階区分のうちの第3期を表わすものとして用いられた。その特徴としては，工業化が達成し，投資率が国民所得の5～10％ま



ディケンズ

たはそれ以上となり，一つまたはそれ以上の製造工業部門が高い成長率をもって発展し，成長のための制度的わく組みができることなどがあげられている。➔経済発展段階説〔加藤　寛〕

ティグラト-ピレセル　［Tiglat-pileser］　(?～BC727)　アッシリア新帝国の王。在位BC746～BC727年。アッシリア帝国の基礎を確立した。バビロニア・ウラルトゥを征討後，シリア・パレスチナ経営に乗りだし，BC732年にはダマスカスを陥落させて住民を捕虜として連れ帰った。この結果，アッシリアの版図は〈肥沃(ひよく)な三日月地帯〉のほとんど全体をおおうに至った。この大帝国の統治のために，領内を大小の州に区分し，移民政策や民族・文化の融合策によって地方の反抗を防ぎ，軍制を改革するなど，中央集権の実をあげた。〔屋形禎亮〕

ていけい　【梯形】　⇨四角形

ていけつあつ　【低血圧】　血圧が正常より低いもの。血圧の正常値は年齢によって異なり，絶対的には定めがたいが，一般に若年者ではつねに収縮期血圧(最高血圧)が100mmHg以下の場合，高年者では110mmHg以下の場合を低血圧とよぶことが多い。血圧を規定するものは，心拍出(はくしゅつ)量・末梢(まっしょう)抵抗・循環血漿(けっしょう)量・血液粘稠度(ねんちゅうど)などであり，これらに変化を与えるものは，神経系機能とホルモン性因子で，そのいずれかの異常によって低血圧をきたす。ホルモン性因子として知られているものには，ノルアドレナリン・コーチゾール・抗利尿ホルモン・レニン・アンジオテンシン・アルドステロン・ヒスタミン・チロキシンなど多くのものがある。

低血圧を起こす疾患には心・血管系の疾患(心嚢炎(しんのうえん)・肺性心・弁狭窄(べんきょうさく)など)・肺疾患・内分泌疾患(アジソン病・粘液水腫(すいしゅ)など)があり，このほか原因不明のもので徐脈・胃腸障害・便秘などを伴いやすい体質的なものがある。一方，起立時のみ低血圧となり，めまい(立ちくらみ)・視力障害などの症状を訴える症例があり，これを起立性低血圧とよぶ。これは，臥位(がい)から立位になると，血液が下半身へ欝滞(うったい)をきたし，静脈血還流が少なくなるためであるが，正常では交感神経系の働きによって調節される。しかし自律神経失調症では，この調節作用がみられず，臥位より立位への体位変換の際にも，正常人にみられるカテコールアミンの分泌増加がない。また，同様にレニン-アンジオテンシン系の活性(機能が活発になること)もみられない。自律神経失調症と同じように，血管の緊張性が神経性および体液性に調節異常をきたした状態が起立性低血圧の病態である。以上の低血圧のほかに，急激な低血圧をきたす状態としてショックがある。〔佐藤恒久〕

ていげん　【鄭玄】　⇨じょうげん

ディケンズ　［Charles Dickens］　(1812～1870)　イギリスの小説家。下級官吏の家に生まれ，12歳のころから工場勤めを始め，数種の職を転々とした。21歳のときから新聞に市井風俗に関する随筆を連続発表，その成果は1836年の処女出版《ボズのスケッチ帳》となり，文筆生活にはいった。出世作《ピックウィック遺文集》は，そこつで好人物の狩猟家クラブ会長を中心とする機知にあふれた連作もので，さらに初期の代表作《オリバー-ツイスト》では構成の妙と社会悪批判を示し，人気作家の地位を確立。雑誌編集やアメリカ・イタリア旅行などを行ないつつ，精力的に執筆した。《ニコラス-ニクルビー》《骨董屋(こっとうや)》《ドンビー父子》《クリスマス-カロル》などが，この期の作品である。代表作《デービッド-コッパフィールド》の完成は38歳のときで，以後の作風は，《寂しい家》《大いなる遺産》が示すように，人生に対する幻滅感が濃厚となる。その原因としては，離婚やある女優との恋愛，雑誌経営や自作朗読公演などによる過労，あるいは素質の暗い一面などがあげられよう。しかし傑作《二都物語》では自己犠牲のヒロイズムを強調するなど，作風は揺れ動いている。生前から大衆的な人気をもつ作家であったが，ことに1940年代以降，ディケンズ再評価の傾向が高まり，後期作品の象徴技法や映画的な視覚効果の検討，陰鬱(いんうつ)な暗さと喜劇性との組み合わせの分析が試みられ，人情家でユーモアと感傷の物語作家という通説は修正されつつある。〔長崎勇一〕

でいこ　【梯姑】　双子葉植物・マメ科。インド原産の落葉高木で，高さ15mに達する。葉は3出複葉で，膜質で葉面はなめらか。頂小葉はひし状卵形で大きく，側小葉は三角状卵形で小さい。夏に紅紫色の蝶形(ちょうけい)花を総状花序につけ，花序に軟毛がある。がく片は下唇(かしん)だけで，旗弁が直立するのが特徴。よく似たものにアメリカデイコがあり，原産地のブラジルでは高さ15mになる落葉高木であるが，日本では2mほどにしかならない。枝は葉柄下面に少し曲がった小刺がある。葉はやや革質。花は紅色で，旗弁は直立して幅広く，がくは切形で五歯がある。両種とも観賞用に庭などに栽植される。

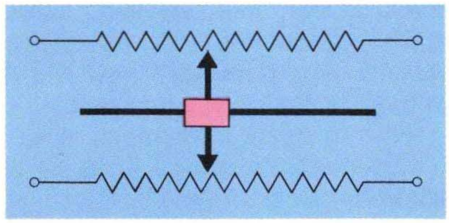
ていこう　【程顥】　⇨程明道

ていこうおんどけい 【抵抗温度計】 ⇨ 高温計

ていこうき 【抵抗器】 電気回路に電気抵抗を与える部品。一定の電気抵抗だけを与えるものと，異なった値の電気抵抗を与えることができるものとがある。前者は一般に小形で抵抗素子ともよばれ，後者は一般に大形で可変抵抗器とよばれる。

可変形の抵抗器には，構造上大別して，摺動(しゅうどう)抵抗器などの滑動式のものと，ダイヤル形や栓(せん)形抵抗器などのように，一定の値をもった抵抗素子を適当に並べて，その組み合わせにより求める抵抗値を得る方式とがある。また，このほかに特別なものとしては，他の電気抵抗を比較測定する際の基準とするため国際的に取り決められた精密な標準抵抗器がある。〔堀内和夫〕

ていこうけん 【抵抗権】 政府の専横に対して抵抗する人民の権利。歴史的には17～18世紀のブルジョア革命期にブルジョアジーの革命理論として形成され，ロックの革命権の理論に代表される。ブルジョア革命はその思想的背景に自然法理論と社会契約説とがあり，これらによって抵抗権は正当化された。すなわち人々は〈生命，自由，および財産〉の保持のために政府をつくることを契約するのであるから，政府の専制化によって〈生命，自由，および財産〉の保持が脅かされるときには，そのような政府に抵抗することは人民の自然権であると主張した。このような抵抗権は，1776年のアメリカの独立宣言に明確に表現されており，1789年のフランスの人権宣言にも〈自由，所有権，安全，および圧制への抵抗は人民の消滅することのない自然の権利〉であるとして宣言され，抵抗権は人民の基本的権利の一つとして認められている。今日ではそのような抵抗権が憲法上の人民の権利として認められているところはないが，それは抵抗権がつねに専制政治に対する下からの人民の団結原理として働くものだからである。普通選挙制の確立と政党政治の発達に伴って，抵抗権は合法的にはわずかに選挙権として保障されているにすぎない。しかし抵抗権は実定法上において認められていると否とにかかわらず，つねに人民の権利として留保されている。〔西尾孝司〕



抵抗器 可変抵抗器(双心型すべり抵抗器)

ていこうしょ 【鄭孝胥】 (1859～1938) 中国，清(しん)末から満州国にかけての政治家・文人。福建省閩侯(びんこう)県の人。字(あざな)は蘇龕(そがん)，海蔵と号した。清朝の進士。日清戦争前に神戸(こうべ)・大阪総領事となり，清末には予備立憲公会幹事として活躍。民国以後は遺臣として廃帝溥儀(ふぎ)の教育係になるなど，清朝復興に努め，満州国の国務総理になった。著作に《海蔵楼詩集》など。

ていこうしんかせつ 【定向進化説】 古生物学の化石に関する研究から，過去のある種の生物では，ほぼ一定の方向に向かって進化してきたとする説。ウマの祖先は約5,000年前第三紀の始新世に小さな動物として現われ，口に小さな歯が多くはえ，前足の指が4本，あと足が3本であった。これが時代の経過とともに，体は大きくなり，指のうち中指だけが発達を続けて，反対にほかの指は退化していった。このようにウマでは，体は大きくなる方向に，指は少なくなる方向に進化したと考えられる。このほか，オオツノシカの角は左右の幅が4mにも達したし，マンモスの長く曲がったきば，剣歯虎(けんしこ)の巨大なきばなどがある。定向進化説は，個体間の小さな変異が，長い間の自然選択の結果大きな違いを生じて進化が起きるという自然選択説では説明しにくい疑問をうまく解釈できる。しかし，近代遺伝学でも定向進化の機構はわかっていない。

ていこくぎかい 【帝国議会】 1889年(明治22)制定された大日本帝国憲法に基づいて設けられた立法機関。翌1890年11月第1議会から，1947年(昭和22)3月第92議会の解散まで続いた。貴族院と衆議院の二院制からなり，貴族院は皇族・華族・勅選議員・多額納税者によって構成され，世襲・終身のものを含みきわめて特権的であった。衆議院は公選であったが，はじめは選挙・被選挙の資格がいずれも一定額の国税を納める男子に制限されていた。その後若干緩和され，1925年(大正14)には25歳以上の男子に普通選挙制が採用された。一方，内閣・枢密院・軍などが独自の権限をもち，議会の立法機能は著しく制限されていた。帝国議会の成立は，藩閥政治の自由民権運動に対する妥協の所産であり，この事情は帝国議会の歴史に長く尾を引いている。また帝国議会はあくまでも天皇制の一機構であり，天皇統治の補助機関にとどまるものであった。新憲法発布とともに，帝国議会は廃止され，国会がこれに代わった。〔応和邦昭〕

ていこくげきじょう 【帝国劇場】 東京都千代田区にある劇場。通称帝劇。1911年(明治44)に建てられた日本最初の鉄骨鉄筋の劇場で，欧米流の新しい劇場機構を採用し人々を珍しがらせた。歌舞伎(かぶき)・新劇，専属女優による女優劇やオペラなどを上演，活況を呈したが，1923年(大正12)関東大震災で外郭を残して焼け落ち，復興後はふるわず，第2次世界大戦後はミュージカル・現代劇などを上演，その後シネラマ上映劇場になった。1964年(昭和39)いったん閉鎖，1966年改築して再発足。〔工藤　隆〕

ていこくしゅぎ 【帝国主義】 インペリアリズムの訳語。ローマ皇帝国家の支配領域を表わすインペリウムに発し，19世紀初頭ナポレオンが対外侵略によって皇帝国家を実現しようとしたことからフランスで用いられるようになったが，一般に使われるようになったのは自由主義の終わった19世紀末以降のイギリスにおいてである。自由主義全盛期のイギリスでは，植民地は〈首にかけられた石うす〉とまでいわれてじゃまもの扱いされたが，自由主義時代が終わるとともにイギリス-ブルジョアジーの政治的イデオロギーは一大転換を遂げ，1887年首相ディスレーリは，イギリス植民地帝国の拡張のために武力を使っても強硬政策をとることを明らかにした。こうして，新しい侵略的膨張主義を意味する政治的用語として帝国主義ということばが当時の流行語となった。1884年以後列強間でのアフリカ分割が進み，特にアメリカ-スペイン戦争(1898)・ボーア戦争(1899～1902)などが勃発(ぼっぱつ)するにつれて，こうした新たな膨張主義による列強間の軍事的・経済的対立，闘争を意味するものとして帝国主義ということばが広く列強間で使われるようになった。

これに照応して，こうした列強に共通した新たな膨張主義をその根底から究明しようとする研究が行なわれ，その経済的・政治的本質が明らかにされることによって帝国主義の概念が確立されるに至ったのである。そのような著作として，ホブソン《帝国主義論》(1902)，ヒルファーディング《金融資本論》(1910)，レーニン《帝国主義論》(1917)があげられるが，帝国主義概念の最終的確立はレーニンによってなされたとされている。レーニンは〈帝国主義とは20世紀初頭



デ イ コ (上)デイコ (下)アメリカデイコ

に資本主義が到達したところの資本主義の最高の発展段階であり，独占資本主義*，死滅しつつある資本主義として特徴づけられる資本主義の特殊な段階である〉と規定し，①生産と資本との集積が経済生活で決定的な役割を果たす独占をつくりだすほど高い発展段階に達したこと，②銀行資本と産業資本とが融合し，この金融資本を基礎として金融寡頭制がつくりだされたこと，③商品輸出と区別される資本輸出が特に重要な意義を獲得していること，④資本家の国際的な独占団体が形成されて世界を分割していること，⑤資本主義的最強国による地球の領土的分割が完了していること，という五つの基本的指標をあげ，〈帝国主義とは，独占と金融資本との支配が成立し，資本の輸出が顕著な意義を獲得し，国際トラストによる世界の分割が始まり，最強の資本主義諸国による地球の全領土の分割が完了した，というような発展段階にある資本主義である〉と定義している。このように，帝国主義はその本質を資本主義の最高の発展段階としての独占資本主義の中にもっており，その必然的な発現として侵略的膨張主義となって現われるのであるから，武力を伴った経済的膨張主義としてだけでなく，政治的には国内の資本主義打倒をめざす革命運動や，後進国・植民地・従属国などにおける民族解放・独立運動を抑圧する体制として現われる。

古代ローマ帝国やナポレオンの侵略的膨張主義に源を発し，19世紀末イギリス帝国の新しい膨張主義が独占資本という経済的土台の上に成立して以来列強間に展開された帝国主義は，第1次・第2次世界大戦という帝国主義戦争をひき起こしたが，第2次世界大戦後は，アジア・アフリカ諸国の独立を妨げるような政治的抑圧政策として現われてきている。ベトナム戦争がアメリカ帝国主義といわれるゆえんもそこにある。こうした第2次世界大戦までの帝国主義と戦後の今日の帝国主義との違いは，むろん歴史的諸条件の差異に基づく。

第2次世界大戦までといっても，第1次世界大戦前の〈古典的帝国主義〉時代とその後の〈全般的危機*〉の時代とではもちろんその具体的条件が異なる。しかし，それでも両大戦とも，帝国主義列強の不均等発展に基づく植民地・世界市場の再分割闘争としての帝国主義戦争であったという点において共通している。第2次世界大戦までは，帝国主義における三大矛盾である，①ブルジョアジーとプロレタリアートとの階級的矛盾，②帝国主義国と植民地・従属国との矛盾，③帝国主義諸国間の矛盾のうち，資本主義諸国間の不均等発展の法則の結果としての③が最も著しく現われたのである。1917年のロシア革命に集中的に現われた①も，③の帰結としての帝国主義戦争を媒介としてのものであった。その意味で第2次世界大戦までは，帝国主義は資本主義諸国間の不均等発展の帰結としての帝国主義諸国の矛盾・対立(植民地・世界市場の再分割要求)として顕著に現われたのである。

ところが，第2次世界大戦後は，東ヨーロッパ・中国などの革命によって社会主義陣営が成立して資本主義陣営に対立し，その中で従来の植民地・従属国が続々と民族解放・独立の運動を展開したので，アメリカを中心とする帝国主義諸国は，相互の矛盾・対立を内包しながらも，みずからの防衛のために資本主義擁護を標榜(ひょうぼう)して協調し同盟する側面を強化しなければならなくなった。第2次世界大戦によって戦敗国といわず戦勝国といわず絶大な国力の消耗をこうむった中で，ひとり戦災を受けることのまったくなかったアメリカが，その有利な地位によって資本主義陣営の盟主として決定的優位を確保してきたことが，帝国主義諸国の〈協調・同盟〉の傾向を保障したのである。アメリカを中心とした国際的諸機関(IMF*・国際復興開発銀行*・国際開発協会*など)はその組織的表現にほかならない。

第2次世界大戦後の帝国主義の特徴は，戦前の植民地主義と異なって，植民地領土の獲得としてでなく形式上の政治的〈独立〉国家を前提としているので，経済的援助・技術的文化的援助の外形をとりつつ低開発国内部における階級的・階層的矛盾を利用しながら〈新植民地〉の収奪を行なっているところにある。セイロン・ガーナなどで自由主義的政権が擁立され，ガンジー政権の経済計画的目標が放棄されるとIMFは信用が回復されたとして貸付を行なう，といった事態はその一例である。アジア・アフリカ・ラテンアメリカなどの低開発国における政権の交替が激しいのは，こうした〈新植民地〉における内部矛盾の激化を反映しているが，このことはまた，第2次世界大戦後に澎湃(ほうはい)として起こった反帝国主義・民族解放独立運動の激化を前提としている。今日における帝国主義諸国間の協調的同盟的側面は，こうした第2次世界大戦後の特徴としての反帝・民族解放独立運動に対する帝国主義諸国の対応にほかならない。第2次世界大戦までの帝国主義が三大矛盾のうちの③に集中的に現われ，資本主義諸国間の不均等発展が帝国主義戦争に帰結したことを特徴としていたとすれば，今日における帝国主義は，社会主義陣営の成立という新たな歴史的条件の中で，①と②の矛盾が強力に前面に出てきたことをもって特徴とすることができる。①の矛盾は戦前には，特にイギリスにおいてみられたように，植民地からの収奪利潤などの労働者上層部への再分配を通じて労働貴族を養成することによって緩和できたが，戦後は植民地の喪失によって先進帝国主義国内でも階級対立が激化し，プロレタリアートの勢力が拡大・強化された。このような条件もまた帝国主義国間の協調的側面を強める要因となっている。➔ナショナリズム

アメリカ帝国主義を中心とする資本主義陣営の社会主義に対する対抗は政治・経済・外交・軍事・技術・文化などあらゆる側面において現われざるをえない。宇宙開発にみられる米ソの競争もこれによってアメリカのあらゆる科学・技術の優位性を世界に誇示し(これは同時に軍事力・経済力の誇示でもある)，資本主義陣営の支柱たらしめようとするものである。こうした社会主義陣営に対する帝国主義的進出は，社会主義陣営にとって帝国主義は〈敵〉であるとの観念をいっそう浸透させ，社会主義陣営内部における対立・紛争においても，〈社会帝国主義〉といった言辞を用いさせるようになった。ずっと以前からあった反共主義者による〈赤色帝国主義〉は別として，社会主義陣営内での中ソ対立が表面化し，1968年8月のチェコ事件以後，中国は明白な形で公式にソ連を〈社会帝国主義〉と非難するようになっている。これが帝国主義を大国の小国抑圧政策の意にまで広げて，単なる〈敵〉ないしせいぜい〈膨張主義〉一般の意味でいわれているのか，ソ連を本質的に資本主義へ転落したものと認定したうえでいわれているのかによって論議の焦点は異なってくるが，いずれにせよ，今日における帝国主義が世界史的発展段階としての独占資本主義に根ざしていることは争えない。帝国主義なることばが単なる〈敵〉ないしは〈膨張主義〉として用いられるようになってきているとしても，それは前述のような資本主義陣営対社会主義陣営との対立・矛盾という今日の世界体制の基本的関係の反映にほかならないからである。また，中国のいわゆる〈ソ連社会帝国主義〉が，そこに社会主義国相互間の不平等関係や国境紛争にみられる侵略的性格を含んでいるとしても，要するに，ソ連の〈アメリカ帝国主義に対する社会主義陣営擁護〉論をめぐっての中ソ間の見解の相違に根ざすものにほかならないからである。

〔常盤政治〕

ていこくぶんがく　【帝国文学】 学術・文芸雑誌。1895年(明治28)1月～1917年(大正6)2月刊行。1917年10月復刊され，1920年1月で廃刊した。全296冊。編集は東京帝国大学(現東京大学)文科の関係者の集まりである帝国文学会で，井上哲次郎*らの教授や学生が参加し，学術論文，西欧文学の翻訳，高山樗牛*(ちょぎゅう)・上田敏*の評論などを掲載し，多彩な活躍を示した。

ていさつき　【偵察機】 敵国または仮想敵国などの軍事上情報や交通・産業などのようすを空から探るのを主要な任務とする航空機。偵察の方法としては，第1次世界大戦のころは視認によっていたが，まもなく写真が用いられ，最近ではレーダーおよび赤外線探知などの手段が使われている。

種類としては，平時から仮想敵国のようすを探る高高度隠密(おんみつ)偵察機・電子偵察機のような戦略偵察機と，一つの作戦に際して戦線やその付近を偵察する戦術偵察機に大別できる。〔藤井冬木〕

ていざんたい【低山帯】植物群落の垂直的分布の一つで，亜高山帯と亜山地帯の間をいい，山地帯ともいう。本州中部では500～1,700ｍほどで，クリ・ナラ・ブナなどの夏緑樹林が発達する地帯。気候帯としては冷温帯に相当する。

ていざんぼり【貞山堀】宮城県，阿武隈(あぶくま)川河口の荒浜から松島湾の塩釜(しおがま)まで通ずる幅約25ｍ，全長約26kmの運河。1661年(寛文１)以降阿武隈川の舟運によって，米や木材の集散地となった荒浜港と仙台(せんだい)を結ぶために海岸の湿地を掘削したもので，伊達政宗(だてまさむね)が掘らせたといわれる。明治の初期に改修され，北上運河とともに利用されたが，現在は使用されていない。

ティーシーエーかいろ【TCA回路】⇨トリカルボン酸回路

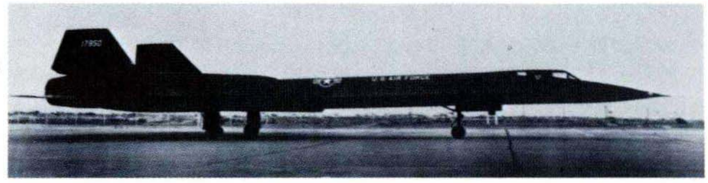
ていじせい【定時制】わが国において，高等学校の教育課程に1948年(昭和23)以降に認められているところの，夜間その他特別の時間または時期に授業を行なう課程。通常課程いわゆる全日制に対するが，近時では定時制課程の発足当初に比べて生徒数の減少の傾向が著しい。➔高等学校

ディジタルけいさんき【ディジタル計算機】⇨コンピューター

ていしつ【底質】海底の様相を示すことば。深海底や海嶺(かいれい)・海山など基盤の露出する一部を除けば，海底は普通礫(れき)・砂・泥(どろ)および動植物の遺骸(いがい)などの堆積物(たいせきぶつ)でおおわれている。したがって，底質は堆積物と基盤の２種よりなる。底質は大陸棚(だな)の資源開発などの見地からも重要であり，また深海底の底質は地質学的にも重要視される。底質を調べるには船上から直接底質物質を採集して行なうのが普通であるが，水中カメラなどで観察する場合もある。海底の堆積物には沿海性(砂・礫・岩塊など)，浅海性(砂・泥・石灰泥など)などがあるが，大陸斜面にも陸成の泥質物(でいしつぶつ)が堆積する。この堆積物は硫化鉄・炭酸石灰・セキエイなどの微粒が多く青泥といわれる。酸化鉄を含むものは赤色を呈し赤泥，海緑石を含むものは緑泥という。水深2,000ｍ以上の深海底は深海性の堆積物でおおわれており，この堆積物はプランクトンの死骸などでできた軟泥である。〔平山　健〕

ていしゃじょう【停車場】駅・操車場・信号場の三つの総称。すなわち停車場は，列車を発着させて旅客の乗降，貨物の積み降ろしを取り扱う〈駅〉，列車の編成や車両の入れ換え作業を行なう〈操車場〉，列車の行き違いや待ち合わせなどのための〈信号場〉の三つに分類される。さらに駅は，旅客駅と貨物駅に，操車場は客車操車場と貨車操車場に分かれる。

偵察機　長距離戦略偵察機　ロッキードSR-71(アメリカ)



ていしゅう【鄭州】チョンチョウ　中国，河南省北部の省都で，人口70万(1972年推)。黄河南岸に位置し，京広・隴海(ろうかい)両鉄道の交点にあたる交通の要地である。付近一帯は，小麦・ワタ・タバコなどの中国第１の生産地であり，これらの大集散地として発展した。近年は，これらを主要原料とする綿紡織・製粉・油脂・タバコなどの軽工業が盛ん。市の周辺から，殷(いん)代の遺跡が多数発見されている。

ていしゅうは【低周波】低い周波数のことをいうが，その範囲は定まったものがない。しかし多くは可聴周波(16～20,000ヘルツ)をさす。特に受信機の場合は復調後の信号波を低周波とよぶ。

ていしゅがく【程朱学】儒学の一学派。北宋(ほくそう)の程伊川(ていいせん)と南宋の朱子の学を合わせたものの意であるが，朱子の学は，その基調を程伊川の学に置いているから，程朱学とは朱子学にほかならない。

ていじょうは【定常波】⇨波動

ていじょうりゅう【定常流】流体内の各点の速度が時間がたっても変わらないような流体の運動。定常流では，流体の速度・密度・圧力などは位置のみの関数で表わされ，時間にはよらない。定常流における流線は実質部分の流跡と一致し，ベルヌーイの定理がなりたつ。

ていじょしょう【丁汝昌】(？～1895)中国，清(しん)末の軍人。安徽(あんき)省盧江(ろこう)県の人。字(あざな)は禹廷(うてい)。1875年，ヨーロッパに軍事視察におもむき，1888年に清国海軍を組織した際，海軍提督に任ぜられた。日清戦争のとき，威海衛の海戦に敗れて降伏し，服毒自殺した。

ディジョン［Dijon］フランス東部，ブルゴーニュのコートドール丘陵北端にある商工業都市。人口14万5,000(1968)。農産加工のほか，金属・機械・印刷・皮革などの工業が盛んで，ブルガンジーぶどう酒とからしの産地として有名である。1007～1477年の間ブルゴーニュ大公領となり，15世紀には特に繁栄した。12世紀の大公の宮殿は現在博物館になっている。1722年創立の大学がある。

ていじん【帝人(株)】合成繊維業界の大手会社。1918年(大正７)資本金100万円で帝国人造絹絲(けんし)(株)を設立。1962年(昭和37)社名を帝人と改称。第２次世界大戦前のレーヨン生産量は世界最大であったが，戦後テトロンの導入により事業内容は人絹から合成繊維に比重が移っている。現在，テトロン52％，ナイロン14％，化成品22％，アセテート・アクリル・プラント輸出など12％。テトロンは1958年イギリスのICI社との技術提携により企業化，ナイロンは1963年アメリカのアライド-ケミカル社との技術提携によって企業化した。最近は繊維からプラスチック部門・石油化学部門へと経営の多角化を図っており，世界的水準の総合化学会社をめざしている。本社大阪。工場は岩国(山口県)・三原(広島県)・名古屋(愛知県)・徳山(山口県)など。資本金359億2,400万円，年間売上高4,033億4,700万円，従業員数7,320(1980年９月)。

ていじんじけん【帝人事件】1934年(昭和９)４月，帝国人造絹絲(けんし)(株)の株式処分をめぐって起こった贈収賄(ぞうしゅうわい)事件。1927年の金融恐慌ののち，倒産した鈴木商店の担保として台湾銀行が保持していた帝人の株式22万株のうち，番町会が買い受けた10万株をめぐって贈収賄の疑いがもたれた。斎藤実(まこと)内閣に資金援助を行なっていた番町会関係者をはじめ，台湾銀行頭取・帝人社長・大蔵次官らがあいついで検挙された。《時事新報》紙上に武藤(むとう)山治がこの経緯を暴露したことに端を発し，時の商相中島久万吉(くまきち)，文相鳩山一郎らが辞職し，同年７月斎藤内閣は総辞職した。裁判は1937年10月，全員無罪で終結した。事件の背後には平沼騏一郎(きいちろう)枢密院副議長らの暗躍があったといわれる。

ていしんしょう【逓信省】1885年(明治18)創設された通信行政の中央官庁。駅逓(郵便・為替(かわせ)・貯金)・電信・燈台・管船の事務を行ない，1891年電話・電気事業，1892年鉄道事務を加えたが，1908年内閣鉄道院の新設で鉄道事務を分離した。1909年水力発電，1923年(大正12)航空事業を加えるなどの変遷を経て，1943年(昭和18)新設の運輸通信省に統合されたが，1945年内閣逓信院に引き継がれ，1946年逓信省復活をみたが，郵政省と電気通信省の分離で1949年廃止された。〔安達淑子〕

ていしんそうごうはくぶつかん【逓信総合博物館】電信電話・郵便・放送など通信の現状を中心にその発達過程と将来の姿を一般に知ってもらう目的で展示・実演を行なう博物館。日本電信電話公社・郵政省・NHK・国際電信電話の４機関の協定によって，1964年(昭和39)12月開館。東京大手町にある。電信電話のしくみ，各種通信機器，ケーブル，切手数万点，無人テレビスタジオ，宇宙通信

技術などが展示され，来館者による実験もできる設備もある。前身は1902年(明治35)開設された郵便博物館で，現在は歴史紹介的役割よりむしろ科学館的性格が強い。〔滝　誠〕

ていしんたく【鄭振鐸】チョンチェントー(1897～1958)　中国現代の文学者。筆名は西諦(せいてい)。中国近代文学の草創期から文学研究会の幹部として活躍して，《小説月報》誌を主宰，その後も《文学》《文学季期》などの文学雑誌を編集して多くの作家を文壇に送り出した。第2次世界大戦の戦中・戦後を通じ，上海(シャンハイ)にとどまって，ジャーナリストとして活動を続け，新中国成立後は，文化行政面の要職にあった。文学史研究に尽力，彼自身，《文学大綱》《挿図本(そうずぼん)中国文学史》《中国文学論集》《中国俗文学史》などの著書がある。また，随筆・翻訳の仕事も多い。〔今村与志雄〕

ていすう【定数】変数がいろいろな値をとりうるのに対し，値が変わらないとみられる数値。またはそれを示す文字。たとえば，$2x+3$において，xが変数であり，2や3のように値の定まった数が定数である。これを一般的に表わした式$ax+b$においても，aやbを定数という。すなわち，定数aやbはその問題の中でとる値が一つである変数ともみることができる(→関数)。また，変数に対する定数のほかに，数学や理科で，しばしば用いられる特別の数を定数とよぶことがある。たとえば，

自然対数の底$e=2.718281828\cdots\cdots$

円周率$\pi=3.141592653589\cdots\cdots$

1ラジアン$=57.^{\circ}2957795130\cdots\cdots$

など。〔青柳雅計〕

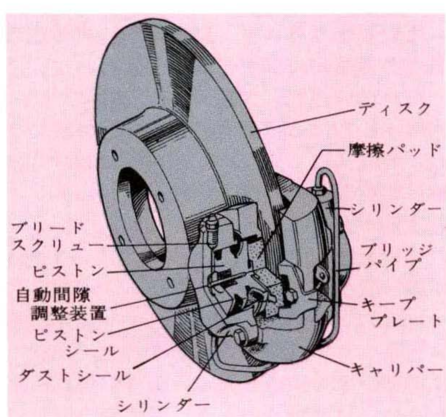
ディスカウントストア［discount store］合理的な仕入れと消費者へのサービスを最少限度にすることによって，定価が明白な商品を一般より低価格で販売する小売店をいう。主として，耐久消費財(電気製品・家具・貴金属など)を取り扱い，豊富な品ぞろえと安売りを特長として，他の小売店と競争していく。

ディスカス［discus］硬骨魚類・シクリッド科。体長15cmほどの淡水魚で，ポンパドール-フィッシュともいう。原産地はアマゾン川で，支流のヤプラ川の分岐点から河口にかけて分布する。第2次世界大戦後，淡水産熱帯魚として日本に輸入され，1952年(昭和27)ごろに一つがい100万円もしたほど高価な魚であったが，その後日本でも産卵するようになった。産卵は1回に100～300粒。産卵後は雌雄で卵上に胸びれで水を動かし，不純物のつくのを防ぐ。25～26℃で3～4日で孵化(ふか)する。近年，ブルー-ディスカスなど体色の変わったものも輸入されている。〔安田富士郎〕

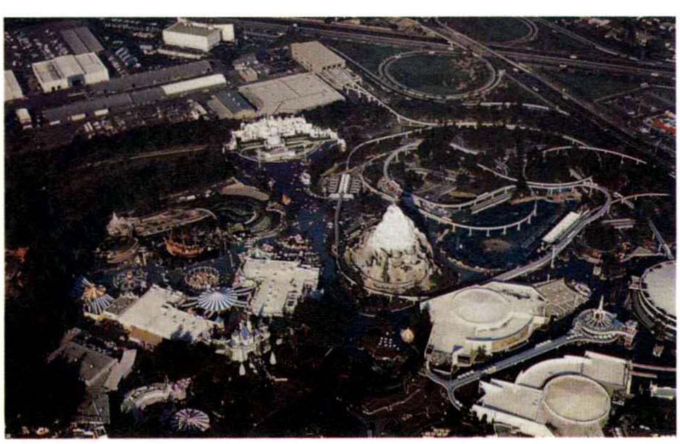
ディスカッション［discussion］討論・討議などと訳す。ある問題に関する見方，考え方，解決のしかたなどをまとめるための話し合い。形式によって，パネルディスカッション・円卓討議・会議・ティーチイン・シンポジウム・フォーラムディスカッションなどに分かれる。

ディスカバラーえいせい【ディスカバラー衛星】アメリカの軍事衛星。すべて極軌道を回る。1959年に完成，打ち上げられ，偵察(ていさつ)写真の回収を目的とし，1962年までに38個打ち上げられている。

ディスクジョッキー［disk jockey］ディスクはレコード，ジョッキーは競馬の騎手の意味。ラジオ放送でレコード音楽の間に音楽の解説・広告・軽い話題などをはさんで聞かせるアナウンサーあるいはその種の番組。ディスクジョッキーの個性・人気は番組の聴取率を大きく左右し，またその解説・話題はレコードの売れ行きにも大きく影響する。



ディスクブレーキ



ディズニーランド　空から見たディズニーランドの一部。広い園内の緑の木立の中に，おとぎの国の白いお城や大きな海賊船が見える

ディスクたいしょう【ディスク大賞】ディスクはフランス語でレコードの意。過去1年間にフランスで発売されたレコードの中から，部門別に最優秀のものを選んで表彰する制度で，ACC(アカデミー-シャルル-クロ)とADF(アカデミー-デュ-ディスク-フランセーズ)が有名。前者は蓄音器の考案者であるフランスの詩人シャルル-クロを記念して設けられ，1931年5月21日に第1回(1930年度)ディスク大賞を発表した。第2次世界大戦中は中絶したが，1947年から再開されて今日に及んでいる。後者のディスク大賞は1952年から始められ，現在に至る。〔永田文夫〕

ディスクブレーキ［disk brake］回転するブレーキ円板(ディスク)をブレーキパッドではさみ，回転を止める形式のブレーキ。1920年ランチェスターが特許をとった。特徴は，①放熱効果がよいのでドラムブレーキのようにききが悪くならない，②ドラムブレーキにみられる自己倍力作用がないため，左右のブレーキライニングの摩擦係数の差異による片きき現象がない，③ディスクが水にぬれても遠心力で水が飛ばされ，ブレーキのききが早い，などの点である。乗用車の前後輪のブレーキ力配分は6：4程度なので前輪にのみ採用する場合が多い。スポーツカーでは前後にディスクブレーキを使用したものもある。〔成田武男〕

ディズニー［Walt Disney］(1901～1966)　アメリカの映画製作者。美術学校で商業美術と写真術を学び，第1次世界大戦後ハリウッドへ出る。1923年兄のロイとともにプロダクションを設立し，《漫画の国のアリス》《オスワルド》などのシリーズを発表。トーキー*時代になって《ミッキー-マウス》《シリー-シンフォニー》が人気をよび，1937年の最初の長編《白雪姫》で漫画アニメーションに独自の地位を確立した。その柔らかい線，はなやかな色彩と音楽，なめらかな動きが人気をよび，アカデミー賞を数多く獲得した。中でも《ピノキオ》《ファンタジア》《バンビ》《ピーター-パン》などは傑作。ほかに《砂漠(さばく)は生きている》などの記録映画，《フラバア》《メリーポピンズ》などの劇映画もある。1955年に完成した大遊園地〈ディズニーランド〉も有名。〔高沢瑛一〕

ディズニーランド［Disneyland］アメリカ合衆国カリフォルニア州，ロサンゼルス東部郊外のアナハイムにある大遊園地。映画製作者W.ディズニーが60億円をかけて1955年7月に開園した。その後の施設拡充で敷地は66万m^2(1966)となり投資総額は330億円を越えるといわれる。園内は冒険の国・開拓の国・おとぎの国・未来の国・ニ

ューオーリンズスクエア，本通りに分かれている。

ディスプレー ［display］

① 一般には展示のためのデザインをいうが，正確にはあるテーマの伝達のために，三次元の空間において行なわれる構成を意味する。ディスプレー-デザインは，これまで，装飾および陳列という概念でとらえられてきたが，近年ようやく，テーマやイメージを明確に伝達するための空間構成として認識されるに至った。ディスプレー-デザインには，ウィンドウ-ディスプレー，カウンター-ディスプレーなど直接的な販売のためのディスプレーのほか，エキジビション-ディスプレー，フェア-ディスプレー，公共環境ディスプレーなどがある。かつては，おもに消費者を対象とした販売戦略として考えられたディスプレー-デザインは，いまやコマーシャリズムを乗り越え，新しい社会生活空間の創造をめざしている。その表現方法も，従来の，色・形・材質などの視覚的造形中心のものから，触覚・聴覚・臭覚などすべての知覚に訴える新しい創造活動となりつつある。そして，今後，グラフィック-デザイン*・都市計画*・建築・インテリア-デザイン*・インダストリアル-デザイン*などと緊密に協力して，さらにすぐれた新しい表現方法を見いだすであろう。〔武井邦彦〕

② 動物の行動のうち，その動物に日常的に見られるのとは異なった姿勢や動作をいう。ふつう同種の動物の他個体に対して向けられ，特殊な効果を及ぼす。その効果によって，おどし・なだめ・求愛・誘いやその他のさまざまな機能をもつこととなり，コミュニケーションの一手段として働く。

ディスポーザー ［disposer］ 下水の完備したところで厨芥(ちゅうかい)を粉砕処理する食品くず処理機。ホッパー内の水に噴流を起こさせ，そこに投入した厨芥を噴流で回転させ，フライホイール(刃)で切断粉砕し排水とともに下水に排出する強力ミキサーである。

ディズレーリ ［Benjamin Disraeli］（1804～1881） イギリスの政治家。1837年保守党選出下院議員。地主の立場をとって1846年穀物法*廃止に反対，ピール首相と対立し，ピールの失脚後，下院における保守党指導者となり，1852～1868年蔵相，同年保守党党首となって組閣した。1874年第2次組閣を行ない，1880年に引退するまでビクトリア女王の信任を受け，帝国主義的対外政策を推進。1875年スエズ運河株買収により，エジプトにイギリス勢力を確立し，1877年女王にインド女帝の称号を贈っている。ロシア・トルコ戦争の際はトルコを支持，ロシアの南下を阻止した。〔松下京子〕

ていせいこう 【鄭成功】（1624～1662） 中国，明(みん)の遺臣。父は鄭芝龍(しりゅう)，母は日本人で，長崎の平戸に生まれた。幼名は福松，のち南明の唐王から明朝の朱姓を賜わったので国姓爺(こくせんや)といわれる。明が滅び，父が清(しん)に下ったのちも，南明の永明王を奉じ，アモイを根拠として清と戦った。1661年台湾のオランダ人を駆逐してここを占領。翌年病死。台湾での鄭氏政権は，孫のとき清に下って，3代22年で終わった(1683)。〔若松 寛〕

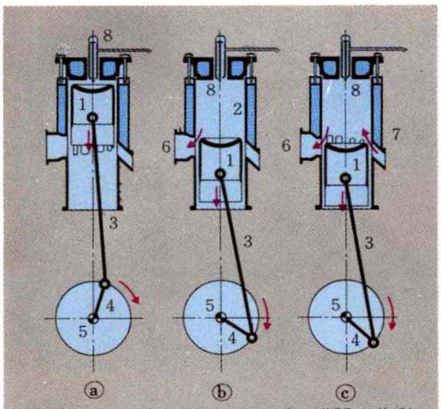


図-1 2サイクル-ディーゼル機関の作動

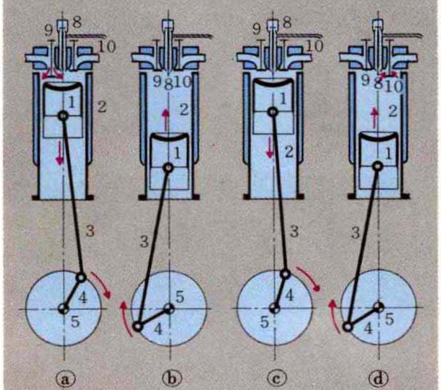


図-2 4サイクル-ディーゼル機関の作動

ディーゼル機関 2サイクル-ディーゼル機関(Ⓐ燃焼から膨張へ，Ⓑ膨張から排気の始まり，Ⓒ掃排気過程)と4サイクル-ディーゼル機関(Ⓐ吸気行程，Ⓑ圧縮行程，Ⓒ燃焼・膨張行程，Ⓓ排気行程)の作動原理図。1.ピストン，2.シリンダー，3.連接棒，4.5.クランク軸，6.排気口，7.掃気口，8.噴射ノズル，9.吸気弁，10.排気弁

ていせいぶんせき 【定性分析】 物質がどのような化学種からなっているかを決定する分析法。つねに定量分析*に先だって行なわれる。一般に溶媒を使用しないで高温にまで熱し，そのときに起こる化学変化，物質の性質の変化などをみる乾式分析と，溶媒(おもに水)を用い0℃から100℃付近の間に行なわれる化学変化による湿式分析とに分けられる。前者には炎色試験・溶球試験などの予備試験として重要なものが含まれる。また後者では沈殿生成，色の変化，気体の発生など主として視覚で検知できる変化を用い，これらを組み合わせて溶液中に存在する各イオンを一つ一つ系統的に分離し検出確認していく系統的分析法が考えられているが，これとは別に各イオンの特異反応を利用して試料から直接検出確認していく方法も行なわれている。なお，いままでの化学的方法以外にクロマトグラフ分析法・交換吸着分析法・分光分析法・X線分析法・電気分析法・質量分析法・放射能分析法などの物理的方法も利用されている。〔三輪誠・野宮健司〕

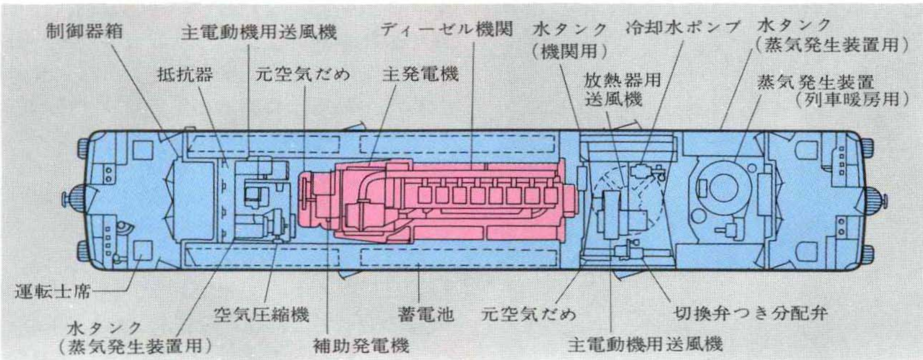
ていせきひねつ 【定積比熱】 ⇨比熱

ていせきぶん 【定積分】 ⇨積分

ディーゼル ［Rudolf Diesel］（1858～1913） ドイツの機械技術者，ディーゼル機関の発明者。パリに生まれ，プロイセン・フランス戦争*のとき両親に連れられてロンドンに移住。のちに叔父(おじ)をたよって渡ったドイツで，アウグスブルクの工業学校を卒業し，1875年ミュンヘンの工科大学に入学。ここでリンデ教授の熱力学に魅せられ，卒業後パリでリンデの会社にはいり，冷凍機の製作に従事した。1890年ごろから新しい内燃機関を研究し，1892年に特許を得，その成果を《合理的な熱機関の理論と設計》(1893)に発表した。この理論はアウグスブルクの機械工場とエッセンのF.クルップに認められ，1897年最初の実用的なディーゼル機関が製作された。その製品は1898年のミュンヘン博覧会に出品され，全世界の注目を集めた。しかしディーゼル自身は病気と経営の煩わしさに悩まされ，1913年55歳のとき，事業のことでイギリスへ向かう途中英仏海峡で投身自殺。〔山崎俊雄〕

ディーゼルきかん 【ディーゼル機関】 空気の圧縮熱により燃料がみずから着火する内燃機関。シリンダー内に吸入した空気を，圧縮比13～22で圧縮すると空気の圧力は30～40kg/cm²に，温度は400～600℃に上昇する。この中に，シリンダーヘッドに設けられた燃料噴射弁から軽油または重油などの燃料を微細な霧にして吹き込むと，燃料は自己着火して燃焼する。この高温・高圧のガスが膨張してピストンに対して仕事をし，これをクランク機構によってクランク軸を回転する。ガソリン機関における点火装置や気化器を必要としない代わり，燃料を高圧(100～400kg/cm²)に圧縮し，適時必要量を正確に送るための燃料噴射ポンプと噴射弁を必要とする。1897年ドイツのディーゼル*が発明した。

ガソリン機関*に比べて，圧縮比が高いので熱効率がよく(30～40%)，さらに使用する燃料の価格が安いので，同じ出力の機関では燃料費が約 $\frac{1}{2}$～$\frac{1}{3}$ 節約される。その反面，燃焼最高圧力が50～100kg/cm²と非常に高いので，機関全体の重量が大きく，振動・騒音も多い。また，ガソリン機関ほど高速にできないので，同じ出力で比べると機関の大きさが大きくなる。シリンダー容積あたりの出力を増大するためには過給を行ない，特に排気タービン過給機を使用すると同じ機関で出力は50～100%増大できる(→過給機)。比較的大形の機関に多く使用され，燃料の取り扱いの危険性が少ないところか



DF50形機関車の機器配置



DD51形(日本国有鉄道，本線用)液体式



DF50形(日本国有鉄道，本線用)電気式



6900号(アメリカのユニオンパシフィック鉄道)電気式，出力6,600馬力



スピリット－オブ－プログレス(オーストラリア国有鉄道，客貨用)

ディーゼル機関車





ディーゼル動車　(左)日本国有鉄道キハ181系(特急用)最高時速120km　機関出力500馬力　(右)イギリス国有鉄道(特急用)最高時速140km

ら，船用機関，発電用機関，大形の車両用機関(鉄道・バス・トラック・建設機械など)，小形農工用機関などその用途は非常に広い。2サイクル機関でもガソリン機関と違って燃料消費率が少ないので，大形低速機関は2サイクルが多い。〔斎藤　孟〕

ディーゼルきかんしゃ　【ディーゼル機関車】　ディーゼル機関*を原動機とした機関車*。1930～1940年ごろアメリカで特に発達し，その後各国で運転・取り扱いの簡易化と経営の合理化を目的として広く普及した。ガソリン機関車と比較すると熱効率が高く，引火の危険もなく，取り扱いやすいなどの利点がある。ガスタービン機関車と比べても，現在のところ熱効率がよく，部分負荷の燃料消費がきわめて少ない。ディーゼル機関の回転は直接車軸に伝えられないので，動力伝達装置が必要であり，ディーゼル機関車では現在電気式・液体式が用いられる。電気式は効率が高いが，機構が複雑で重量が大きくなり，アメリカなどで用いられる。日本では第2次世界大戦後DD50が試作され，やがてDF50が製作されて実用化が始まった。この両方とも電気式で，それ以降はすべて液体式(一種の油圧機構で回転力を伝える装置)が製作された。国鉄では1971年(昭和46)3月末で1,447両を保有している。用途別に分類すると，本線を走る本線用と操作場*などで使用する入れ換え用とに大別でき，形式記号は動軸数によってD(4軸)・E(5軸)・F(6軸)のものがあり，形式番号では10～40代は最高時速85km以下の低速用，50～80代は最高時速85km以上の高速用に区別されて表わされる。〔三宅　良〕

ディーゼルじどうしゃ　【ディーゼル自動車】　⇨自動車

ディーゼルどうしゃ　【ディーゼル動車】　ディーゼル機関*と動力伝達装置を取り付け，荷物・旅客を積載して自走できる鉄道車両。ディーゼルカー・気動車ともいう。国鉄では〈キ〉の記号で表わす。機関と動力伝達装置はディーゼル機関車*と同様な構造で，車体は客車*の構造とほぼ同じである。現在の動力伝達装置は，日本では大部分が液体変速機を使う液体式で，電車*のように総括制御法ができる。国鉄では1929年(昭和4)から使用され，第2次世界大戦以前はガソリンカーがほとんどであったが，戦後それらを改造して,1968年には5,000両を突破して世界一となった。運転が容易で，電化・非電化のいずれの区間でも走行でき，車両の増結・分離なども容易であるなど，また無煙化・高速化に役だち，各種の列車に編成されている。用途別の分類では，一般形・通勤近郊形・急行形・特急形がある。〔宍塚正幸〕

ディーゼルはつでんき　【ディーゼル発電機】　⇨発電機

ていせんりつ　【定旋律】　おもにルネサンス以前の多声音楽で，作曲の基本的な主題となる既存の旋律をさす。定旋律には，だいたい次の4種類がある。①グレゴリオ聖歌*：ルネサンスのミサ曲・モテットなどは，ほとんどこれを定旋律としている。②コラール*：バロック時代，ブクステフーデやバッハのオルガンのためのコラール前奏曲などに使われた。③世俗の旋律：ミサ曲によく使用された民謡《武装した人》などに代表される。④既存の旋律によらないもので，ヘクサコルド(中世の6音音階)に基づく抽象的な音型や新たにつくられた旋律に基づいているもの。〔吉田泰輔〕

ディーそう　【D層】　⇨電離層

ていそうたい　【貞操帯】　女性の陰部を

おおって性行為を不可能にする道具。夫が妻女に貞操を守らせるために施した。錠前つきの鉄製が多い。十字軍に出征する騎士が用い始めたと伝えられる。11世紀末からヨーロッパで使用され，スペインでは19世紀まで使っていたという。

ていそしき【定礎式】 建設工事の発注者などが，その工事の着工年月日，規模などを石材に刻み込み，完成後にその建造物の一部にはめこんで長く保存する習慣が西洋にある。そこで工事着工にあたってその石材を敷地内にすえ工事開始を記念する儀式を定礎式という。

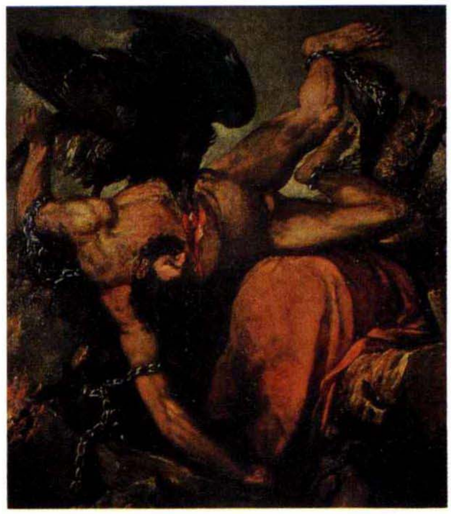
ていたいおんますい【低体温麻酔】 患者の体温を下げて行なう麻酔方法。低体温とは正常体温の患者の体温を35℃以下にすることをさすが，臨床に用いられる低体温麻酔では30℃以下にすることが多い。体温の下降に伴って代謝が減少し，各組織の活動のための酸化過程が緩徐化して，低酸素状態における生命の耐性を増すことが目的で，その結果常温では患者が耐えられない低酸素血症を伴う手術や治療が可能な状態になる。この手術や治療で，最も重要な点は冷却あるいは加温が患者に障害を残さぬことであるが，麻酔を施すことによって冷却による障害から患者を保護することができる。心臓・脳・大動脈・腎(じん)動脈などの手術に用いられる。〔三島好雄〕

ていたいぜんせん【停滞前線】 前線の一種で，ほとんど動かないで同じ場所に留まっているもの。低気圧に伴う温暖前線・寒冷前線は低気圧とともに平均時速数十キロメートルの速度で移動するが，梅雨前線のように移動の少ない寒暖両高気圧の間に形成される前線は移動しない。これを定常前線ともいう。

ディダケー［Didache］〈新約〉の聖書外典の一。〈十二使徒の教え〉といわれる。紀元1世紀末ごろ，シリアあるいはパレスチナで書かれたらしい。信者に対する教訓のほか礼拝規定などが記され，原始キリスト教の貴重な資料でもある。

ティタン［Titan］ ギリシア神話でウラノスとガイアの間に生まれた12神。オケアノス・コイオス・クレイオス・ヒュペリオン・イアペトス・クロノス(以上男神)，テイア・レア・テミス・ムネモシュネ・ポイベ・テテュス(以上女神)。ゼウスの率いるオリンポスの神々よりさらに古い原始的な神々で，クロノスは父ウラノスの支配権を奪ったが，やがてわが子ゼウスにその王座を追われる。

でいたん【泥炭】 湿地・沼沢地・潟(かた)・湖または浅海底などにおいて，水生植物や蘚苔(せんたい)類その他の木質植物の遺骸(いがい)が嫌気(けんき)性の環境のもとに堆積(たいせき)し，ある程度の生化学的分解作用を受け，その変化の度合い(石炭化度)が，木材とかっ炭との中間に位するもので，石炭生



ティツィアーノ《鎖に結ばれたプロメテウス》

成の第1段階といえる。新鮮な泥炭は水分75%以上を含むが，天日乾燥したものは燃料に使える。わが国では北海道や裏日本の各地に分布する。

ていちあみ【定置網】 一定水域に，竹や木の杭(くい)，いかりや土俵などで固定して用いる網具。多くは，魚群の通路を遮断(しゃだん)して，それらを囲いの中に誘導し漁獲する。したがって，遮断の目的のためのかき網，魚群をおとしいれる袋網とから構成されている。かき網は一般には目のあらい網地で，1枚の長い帯状になっている。袋網はちょうどかやを逆さにつったような感じの網で，前記の竹や木などで固定し，さらにいかりや土俵に結びつけられたロープで張り合わせ，網型を保持する。定置網の種類によっては，かき網と袋網の中間に囲い網をもつものもある。また袋網にいったんはいった魚が逃げないように，〈返し〉や〈昇り網〉を装着することもある。台網・落とし網・枡網(ますあみ)・張り網・出し網・魞網(えりあみ)などに大別される。〔石野 誠〕

ティチェナー［Edward Bradford Titchener］(1867～1927) アメリカの心理学者。ブントに学び，ブントの内省法による直接経験の分析をいっそう徹底した構成心理学の代表者。極度にアカデミックな研究方法によってアメリカでは異質の存在であったが，アメリカ心理学には最も大きな影響を残した。

ていちぎょぎょうけん【定置漁業権】 漁具を一定の水面に敷設または建設して漁業を営むことのできる権利であるが，漁業法の規定では，袋網の設置される水深が27m以上の定置網のみが適用を受けることになっている。したがって，数多い定置網の中でも，大形定置網だけがこの漁業権のもとで営まれる。権利を得るには都道府県知事に申請して，免許を受けなければならない。1962年漁業法の改正があり，北海道のニシン・イワシ・マスを主対象とする定置漁業および陸奥(むつ)湾における落とし網漁業とます網漁業(北海道と青森で600件以上)が適用されなくなったため，現在ではほぼ1,000件程度である。〔石野 誠〕

ていちゃく【定着】 ⇨現像処理

ティツィアーノ［Vecellio Tiziano］(1477？～1576) イタリア，ベネチア派最大の画家。ベネチアでジョバンニ-ベルリーニの門にはいり，兄弟弟子(でし)であったジョルジョーネから強い影響を受けた。初期の作品は，その影響を色濃く反映し，静穏でやや生硬な画風を示している。やがて大構図を扱うようになり，《聖母昇天》などに見られるような壮麗で力感あふれる画面を形づくった。1530年から1550年にかけては《法皇パウルス3世》のように鋭い人格描写を示す肖像画を数多く制作。1533年にはカール5世によって宮廷画家に任ぜられ，その名声は確固たるものとなった。後期には大構図をさらに発展させ，光と影の対比によって劇的効果を獲得し，晩年に至るとあらゆるものが豊麗で精妙な色彩のうちに表現されるようになり，精神的な深味が感じられる。〔松本芳夫〕

ティッセン-コンツェルン［Thyssen Konzern］ 鉄鋼業を中心とする西ドイツ最大の重工業財閥。1871年創始者のアウグスト-ティッセン(1842～1926)はルールのミュールハイムにパドル錬鉄・圧延工場を設立，これをもとに各種の機械製造工場を増設，買収した。さらにドイッチャー-カイザー鉱業を経営して，ルール地方の広大な鉱区を支配し，同時に当時ドイツ最高能力の高炉トーマス炉を併合，今世紀初頭にはその事業を一大企業連合に育て上げた。その子フリッツ(1873～1951)は総理事A.フェグラの助けもあって，父の事業を拡大，ルール地方の鉄鋼事業の大合同を行なって合同製鋼会社を設立し，ついには全ドイツ鉄鋼生産量の50%を占めるに至った。第2次世界大戦後，その事業は占領軍に没収されたが，のち合同製鋼に対するティッセンのもち分が返還されると，これをもとに各種企業への資本参加・集中・合同を通じてコンツェルン再建を図った。現在ドイツをはじめヨーロッパ各国で鉄鋼・石炭・機械・電力・造船・鉄道など多くの企業を支配している。その中心であるアウグスト-ティッセン製鉄会社はヨーロッパ最大，世界有数の鉄鋼会社である。〔片岡一郎〕

ディーディー［D-D］ dichloropropen-dichloropropan mixtureの略。アメリカのシェル会社が創製した土壌(どじょう)害虫の薫蒸剤。1943年ハワイでパイナップルの線虫防除に顕著な効果をあげた。わが国にも戦後いちはやく本格的殺線虫剤として輸入された。主成分は1，2-ジクロルプロパンと1，3-ジクロルプロペンで，原体は黒かっ色粘稠(ねんちゅう)な液体である。

ティーティーエル［TTL］ ⇨露出計

ディーディーティー ［ＤＤＴ］ 殺虫剤の一。1874年ドイツのツァイドラーによってはじめて合成されたが，彼はこの化合物に強い殺虫力のあることを知らなかった。ところが，1939年にスイスのガイギー社のミューラー・ロイガーらによりそのすぐれた殺虫力が認められ，それ以後，殺虫剤の王座を占めるに至った。わが国には1948年(昭和23)ごろアメリカ軍によって導入され，ハエ・カ・シラミなどの衛生こん虫をはじめ農作害虫の防除にも広く使用されるようになった。DDTはその化学名dichloro-diphenyl-trichloroethaneの頭文字をとったもので，原体は無色針状の結晶である。最近ではＤＤＴの残留毒や抵抗性害虫の出現が問題になってきており，日本では1971年５月31日全面製造禁止，粉剤・乳剤・油剤は地方公共団体が必要と認めたとき以外は使用も禁止された。 〔深谷昌次〕

ティーディービー ［ＴＤＢ］ ⇒国連貿易開発会議理事会

ディーディーブイピー ［ＤＤＶＰ］ 有機リン剤の一種で，ディプテレックス*の不純物として存在する揮発性の強い化合物に由来する殺虫剤。原体は液体で水には約１％とけ，かなり早い速度で加水分解する。ゴキブリ・イエバエ・カ・コクヌストモドキなどの衛生こん虫ばかりでなく，ウンカ・ヨコバイの類，アオムシ・カブラハバチ・キンモンホソガなどにもよくきく。人畜毒性はパラチオン*の約10分の１といわれる。

ていてつ 【蹄鉄】 おもにウマの蹄(ひずめ)の底に着装して，蹄の摩滅やすべりを防ぐ鉄具。長円形で後方が欠け，蹄の底の形に合う。蹄鉄の種類には〈尋常蹄鉄〉，氷雪上のスリップや雪塊の付着を防ぐのに使う〈氷上蹄鉄〉，特殊の目的で使う〈変形蹄鉄〉などがあり，いずれも大きさによって１号～６号の規格がある。古くはわらや皮で編んだ馬沓(うまぐつ)を使ったが，明治維新後に西洋式の蹄が輸入され，あらゆるウマに普及した。なお，競馬用の蹄鉄は軽合金でつくられた特殊なものである。 〔稲垣史生〕

ていてんかんそく 【定点観測】 気象観測船を海洋上の一定の場所に固定し，海上観測をはじめ，ラジオゾンデによる高層観測をも実施する海洋上の観測のこと。陸上での気象観測所に比較し，海洋上の観測はきわめて少ない。そこで国際的規定によって海洋上を航行する船舶は定時に観測を実施し通報することになっているが，なお不十分なため現在，世界各国が分担して大西洋・太平洋上の17か所で定点観測を実施している。日本では台風期の６月から９月まで四国南方沖東経135°，北緯29°の洋上で観測をする。 〔小沢　正〕

ていとうけん 【抵当権】 債権者が債務者または第三者(物上保証人)の提供する物の引き渡しを受けずにそのままその者の手もとに置き，債務の弁済がない場合にその



ディートリヒ

目的物から優先的に弁済を受ける約定の担保物権*をいう(民法369条)。質権*とともに約定担保物権といわれ，ともに物的担保の授受によって債権の弁済を確保する経済的効果を有するものであるが，抵当権は，目的物を権利者の手もとに移すことによる留置的作用に訴えず，設定者にそのまま使用・収益させながら担保化するところに質権との本質的な差異がある。すなわち，所有者が，その財貨の交換価値と使用価値との両面において活用できる担保物権が抵当権である。

抵当権の目的物は，占有*を権利者に移転させないことからして，登記*ないし登録の認められているものに限られる。したがって民法は，不動産*・地上権*・永小作権*しか認めていないが(民法369条)，特別法によって立木・船舶・自動車・各種財団・農業用動産なども認められている。同一目的物の上に二つ以上の抵当権を設定することは可能であるが，その順位は登記または登録の先後によって決まる。したがって，まず一番抵当権者から執行して競売した代金から債権の金額の弁済を受け，残金があれば二番抵当権者，三番抵当権者が同様に債権の弁済を受けることになる。抵当権の効力の及ぶ範囲は本来の目的物のほか，不動産においてはその従物も含まれる(民法370条)。また，抵当権は物上代位性を有し，目的物が売却・賃貸・滅失または毀損(きそん)によって債務者が受けることになる，金銭その他の物についてもその効力を及ぼす(民法372条)。抵当不動産の代価をもってしても債権の完済が得られない場合には，その額に応じて債務者の一般財産からも弁済を受けることもできる(民法394条)。

抵当権の実行は，必ず競売法によらなければならないが，流抵当契約(抵当直流ともいわれ，債務不履行の場合，抵当権者がその目的物を取得し，またはそれを任意に売却して優先弁済にあてることができるとする契約)は禁止されていない。抵当権の設定後に，設定者がその目的物を第三者に譲渡し，または用益権を創設することは自由であるが，抵当権の実行によって，これらの権利は競落人に対抗できなくなる。そこで，これら第三取得者の不安定な地位を保護するため，代価弁済(民法377条)，滌除*(てきじょ)(民法378条)，短期賃貸借の保護(民法395条)の制度が設けられている。抵当権者は抵当権の譲渡，転抵当その他の処分を行なうことができる(民法375条)。 〔黒木三郎〕

ていどかせいひりょう 【低度化成肥料】 窒素・リン酸・カリなど肥料の三要素のうち２成分以上を含み，その合計量が30％以下の化成肥料。原料は窒素源として硫安・塩安・石灰窒素，リン酸源として過リン酸石灰，カリ源として塩化カリ・硫化カリを主として用いる。わが国では1927年(昭和２)ごろから用いられており，1967年では消費量は150万ｔ。あらゆる作物に用いられる。

ていとく 【貞徳】 (1571～1653) 江戸初期の歌人・歌学者・俳人。本名松永勝熊，別号を逍遊軒(しょうゆうけん)・長頭丸・明心・花咲翁などという。連歌師永種の子。京都に生まれ，九条稙通(たねみち)・細川幽斎*らに古典・歌学を，里村紹巴*(じょうは)・谷宗養に連歌を学び，遠戚(えんせき)の藤原惺窩*(せいか)や林羅山*(らざん)らの儒者，木下長嘯子*(ちょうしょうし)・大村由己(ゆうこ)らの歌人，文人との交遊も広く，当代有数の教養人であった。関ケ原の役*後，私塾(しじゅく)を開いて古典・和歌・俳諧(はいかい)などを教授し，在野文化人として近世初期の庶民教化に貢献した。歌学者・古典研究家として《歌林樸樕(ぼくそく)》《和句解》《徒然草(つれづれぐさ)長頭丸抄》などを著わし，一方，貞門俳諧*の流祖として，松江重頼(しげより)・野々口立圃*(りゅうほ)・山本西武・安原貞室*・北村季吟*らを指導，《犬子集*(えのこしゅう)》《天水抄》《御傘(ごさん)》《紅梅千句》などの選集・式目書・作品類を残している。 〔奥野純一〕

ていとこうそくどこうつうえいだん 【帝都高速度交通営団】 1941年(昭和16)，東京の地下鉄建設ならびに経営を目的として設立された帝都高速度交通営団法に基づく特殊法人の公共企業体で，日本国有鉄道と東京都が出資している。銀座線(渋谷～浅草間，1927～1938年開業)，日比谷線(北千住～中目黒間，1961～1964年開業)，丸ノ内・荻窪(おぎくぼ)線(池袋～荻窪間および中野坂上～方南町間，1954～1962年開業)，東西線(中野～西船橋間，1964～1969年開業)，千代田線(綾瀬(あやせ)～霞ケ関(かすみがせき)間，1969～1970年開業)の計107.5kmを営業しているが，さらに千代田線の残り区間と第８号線の建設工事が進められている。 〔青木栄一〕

ディートリヒ ［Marlene Dietrich］ (1904～　) ドイツの映画女優。トーキー時代のドイツ映画に出演，その美しい肢体(したい)で大評判となった。スタンバーグ*監督の《嘆きの天使》が著名。のちアメリカに渡り，1930年の《モロッコ》では世界的名声を博し，ガルボ*と並んでハリウッドの代表的スターとなった。

ディドロ ［Denis Diderot］ (1713～1784) フランスの思想家・作家。パリで学業を終えたのち，定職につかず，しばしば貧困に苦しみながら気ままな文筆生活を送

った。1749年，唯物論的な立場を明らかにした《盲人書簡》の出版によって，約半年投獄され，以後，迫害や弾圧に抗しつつほとんど全生涯(しょうがい)を《百科全書*》の編集に従事。一方，文学・哲学・美術批評など多方面に活躍，当時の社会や思想を鋭く批判した。その作品の多くは対話形式を用い，一種の科学的唯物論ともいうべき思想を潑剌(はつらつ)と表現している。哲学的著作に《哲学断想》《自然の解釈に関する断想》《ダランベールの夢》，小説には《修道女》《ラモーの甥(おい)》《運命論者ジャック》などがある。演劇の分野でも，市民劇の創造を主張した《演劇論》や《逆説俳優について》などの評論のほか劇作がある。〔森英樹・石井忠厚〕

ディナー ［dinner］ 西洋料理*の正餐(せいさん)または晩餐をいう。本来は一日のうちで最も主要な食事をさし，昼に食べる場合もあるが，現在多くは夕食とする。正式のフルコースはスープ・魚料理・肉料理・蒸し焼き料理・野菜料理・甘味・干菓子・くだもの・飲み物の順である。獣鳥肉料理の多いときは肉料理と蒸し焼き料理の間にソルベ*(氷酒)などを勧めて蒸し焼き料理の味を引き立たせる。前菜はふつう供さないが，特別の場合は別室で食前に勧める。しかしわが国では食卓でスープのまえに供する習慣がある。コースが多いので献立を通じて淡泊なものを主として供する。酒は食前にカクテル・ベルモット，前菜には白ぶどう酒，スープにはシェリー酒，魚料理には白ぶどう酒，肉料理には赤ぶどう酒，蒸し焼き料理にはシャンパン酒を用い，生菓子のコースにはマデール酒(またはよく冷やしたシャンパン酒)，食後のコーヒーにはリキュール酒を用いるのが普通である。

なお，クリスマスその他の行事の場合のディナーには，それぞれにふさわしい料理を取り入れた献立とする。また今日では，正式なフルコースばかりでなく，略式の夕食もディナーと称している。〔泉　敬子〕

ていねんせい 【停年制】 被雇用者が一定の年齢に達したときに雇用関係を終了させる制度。ほとんどの大企業で実施されており，中小企業においても近年この傾向がみられる。ふつう停年年齢は55歳であるが，近年は労働者の平均寿命が延びたこと，また，労働力の不足にともなって，高齢労働者を有効に活用する社会的要請があること，さらに，厚生年金支給年齢が60歳であることなどの理由から，停年延長の動きがあり，現にこの方向をとっている企業もみられる。一般企業において，男女によって停年の年齢に差を設け，かなり多くの会社が女子の若年停年制を採用している。働く婦人にとって，こうした停年制とそれに合わせて結婚退職制の問題が生じてくる。女子の若年停年制についての行政解釈は，労働基準法*上これを無効とする根拠はないとし，また，憲法14条は国の行為を規律するものであるから，同条違反の問題も生じない，との見解をとっている。しかし，多くの学説は，若干のニュアンスの差はあるが，労働条件の性別による差別待遇を民法上無効と解している。

判例も，正当な事由がないのに女子にのみ停年を30歳とする協約は公序良俗に反して無効である，としている。なお，公務員には，停年制がないが，高年齢者には退職を勧告することによって事実上停年制度と類似の運営をしている。ただし，裁判官，検察官，会計検査院検査官，公正取引委員会の委員などについては，一定の年齢制限がある。〔黒瀬信子〕

ティーピーエヌ ［TPN］ ⇨NADP

ディーピーエヌ ［DPN］ ⇨NADP

ていひれいのほうそく 【定比例の法則】 〈一つの化合物を構成している元素*の質量比は一定である〉という法則。プルースト*によって発見された。すなわち，原子が結合して分子や結晶をつくるとき，一定の組成をもって結合し，化合物の製法によって変化しないというもの。しかし，合成法の違いによって組成が変化する物質も存在する。前者をドルトナイトとよび一般の化合物をほとんど含む。後者をベルトライトとよび，たとえばα-PbO_xでは$1.5<x<1.67$，β-PbO_xでは$1.47<x<1.51$のように，いわゆる非化学量論的化合物がこれに含まれる。〔三輪誠・海津洋行〕

ティーブイエー ［TVA］ Tennessee Valley Authority(テネシー溪谷(けいこく)開発公社)の略称。ニュー-ディール政策の一環として1933年に設置されたアメリカ政府の機関。テネシー川流域の開発については19世紀末以来水力発電・水運整備が論じられ，第1次世界大戦後にはマッスル-ショールスの発電所・窒素肥料工場の政府経営をめぐる議論があった。ルーズベルト*大統領は，1933年4月10日TVA設立を議会に要請し，1920年代からマッスル-ショールス施設の政府経営を要求していた，ノリス上院議員(TVAの父とよばれる)の提案になる〈TVA法〉が同年5月18日に成立した。こうして，政府経営の基盤に民間企業のもつ弾力性と創造性を備え，3人の理事で運営されるTVAが7月水力発電・河川航行改善・洪水(こうずい)防止・農工業振興・植林・土地保全・肥料製造などの多目的総合開発を実施して大きな成果をあげた。また，大恐慌対策として未利用資源の開発，雇用の増大にも貢献している。民間企業の手に負えない総合開発事業を政府が行なった成功例として，TVAがもつ意義は大きい。〔折井一彦〕

ディプテレックス ［dipterex］ 一般にDEP剤とよばれる低毒性の有機リン殺虫剤で，バイエル社の商品名。原体は白色の結晶で水にもかなりよくとける。本剤はアルカリに合うと分解してDDVP*となり強い殺虫力を発揮するが，やがて分解してしまう。ニカメイチュウ・サンカメイチュウ・クロカメムシ・アオムシ・ヨトウムシ・テントウムシダマシ・アブラムシなどに適用できるが不安定な化合物なので残効性は期待できない。人畜に対する毒性はパラチオンの100分の1程度と低い。〔深谷昌次〕

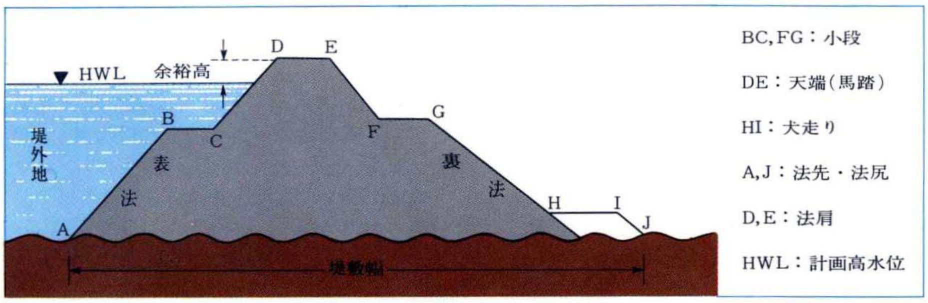
ティベリウス ［Tiberius Julius Caesar Augustus］ (BC42～AD37) ローマ帝国の皇帝。在位AD14～AD37年。アウグストゥス*帝の皇后リウィアの連れ子で，のちアウグストゥスの養子となる。将軍としては有能で，ゲルマニアやパンノニア(いまのハンガリー北方)と戦い国境線を固めた。皇帝として属州統治に功があったが，疑い深い性質のため善良な部下・市民を多く殺した。キリストが十字架にかけられたのは彼の時代である。

ディベルティメント ［divertimento］ 18世紀に盛んに行なわれた器楽曲の一。〈楽しませる〉を意味するイタリア語に由来する語で，一般に気楽な集まりや結婚式などで演奏される室内楽である。楽器は3～8が多く，ふつう3～10の楽章に分かれており，行進曲やメヌエットがよく含まれる。代表的な作品はウィーン古典派，特にハイドン・モーツァルトにみられるが，セレナーデ*・ノットゥルノ(夜曲)との区別ははっきりしない。

ティボー ［Jacques Thibaud］ (1880～1953) フランスのバイオリン奏者。ボルドーの生まれ。パリ音楽院でマルシックに学び，卒業後生活のためにカフェ-ルージュで演奏していたところを指揮者コロンヌに発見されて，コロンヌ管弦楽団の独奏者となり注目された。1903年から欧米各地に演奏旅行をした。コルトー*・カザルス*と組んだ三重奏団は有名である。また，ピアノ奏者マルグリット-ロンとともにロン-ティボー国際音楽コンクールを設けるなど，演奏活動以外の功績も大きい。1928年(昭和3)と1936年に来日し，さらに1953年に来日の途中，飛行機事故によってアルプス山中で没した。〔向坂正久〕

ていぼう 【堤防】 河海あるいは湖沼の水がある線を越えて浸入してこないような水利工作物で，多くの場合その主体は土堤である。人工を施さない自然河川では低水路に沿って高水敷き(氾濫(はんらん)平原)との境に土砂礫(どしゃれき)が堆積(たいせき)して堤防状を呈するもので，これを自然堤防という。川は平素は谷のいちばん低い筋を流れているが，降雨量が多いとかなりの幅にわたって水が流れ，谷の平地に住む人間生活にさしつかえるので，水幅をある程度に制限しようということで堤防を築く。

【堤防の設計】①堤防高さ：その地点で洪水(こうずい)時の水面高さ(計画高水位)を決め，それに0.5～2.0mの余裕を加えて天端(てんば)の高さとする。この余裕高は，㋑計画以上



堤　防　標準形の堤防の各部名称

の洪水が出た場合(たとえば20％増し)，㊁堤防前面河床に土砂が堆積して流水断面に不足を生じた場合，㊂堤防基盤が沈下した場合，㊃流路が曲線形のため遠心力が働いて水面が上昇する場合，㊄波浪を生ずる場合，などに備えるものである。②天端幅：2ｍ以上とする。普通４～５ｍ。道路として使用するときは道路の規定に従い，かつ路肩(ろかた)をつける。③法勾配(のりこうばい)：土質によって最適勾配を定めるべきであるが，わが国では20％か30％の勾配(１：２～１：３)が多い。④小段(こだん)：堤防の安定のために，高さ４～５ｍを越した場合に設ける。小段面には排水のため外側下りのわずかな片勾配をつける。裏小段は水防作業の通路として役にたつ。⑤犬走り：裏法先に高さ１ｍぐらい，幅２ｍぐらいの段を設けることがある。法先保護，堤防敷き境界確定の役をする。⑥余盛り：築堤後しばらくの間堤土の圧密沈下があるので，余裕高とは別に，天端上に余盛りを置く。

【堤防の種類】①本堤：本来の目的の堤防で洪水幅を限定する。②副堤：本堤にほぼ平行に内側か外側に本堤より小形の堤防があることがある。河川改修にあたり，昔の堤防を残して副堤としていることが多く，わざわざつくるのは広い高水敷きを耕作その他に利用している場合，低水路寄りに副堤を設けて少々の出水なら副堤でさえぎって高水敷きに水がこないようにするためである。畑囲い堤という。川の外側(堤内地)にある副堤は氾濫時の第２防御線となるもので，控え堤といわれる。③霞堤(かすみてい)：川沿いに適地が得られれば，堤防を切って無堤の部分をつくり，洪水を堤内地へ導き一時貯留して洪水量調節に役だてる。この切り口に面する堤防を霞堤といい，両面に水を受けるから法面を十分に保護する。④瀬割り堤：本支川の合流点では水流が互いにぶつかって土砂の堆積を起こしたりするので，両川をなめらかに合流させるため，合流点から下流に向かってしばらくの間，堤防状の構造物を川の中に築く。これを瀬割り堤といい，合流点を下流に移し，本川の高水の影響が支川へ及ぶのを防ぐ役めもする。⑤輪中堤(わじゅうてい)：一つの家屋敷・工場，あるいは広く部落・町村などを取り巻いて堤防を巡らし，洪水から守るのを輪中堤といい，中の村落を輪中という。⑥越流堤：堤防をある距離にわたり標準より低くしておき，洪水時に水位がその低い天端以上になればそこから河水があふれ出て堤内地にはいるようにするもの。下流の洪水を緩和するために設ける。土堤は越流により簡単に破壊するから，この場合，法面や天端は十分に石畳などで保護する。⑦特殊堤防：一般の堤防は前述のように土堤であるが，堤敷きを広くとれないときや，かさ上げ，腹付けが思うようにできない場所では，コンクリート壁・石垣(いしがき)などを組み合わせて敷き幅をせまく，法面を急勾配に仕上げることがある。

【堤防の保守】堤防を流水による洗掘から守るには護岸工・水制工を念入りにする。また洪水時には応急処置としての水防作業がきわめてたいせつである。平素は堤体の圧密沈下，交通による損傷，人畜特にネズミ・ヘビの穴などによる損傷，地震による沈下などに対し，つねに注意すべきである。

河川堤防のほかに海岸堤防・干拓堤防・高潮堤などがある。いずれも海その他外水からの波力に抵抗するため護岸工を強力なものとする。天端法肩に波返しを設けることもあり，根固め工には各種ブロックを捨て込み，裏法も多量の飛沫(ひまつ)を浴びるので十分に舗装し，裏法尻には排水溝(はいすいこう)を設ける。　〔米元卓介〕

ていぼく　【低木】　灌木(かんぼく)と同義。木本植物のうち樹高が比較的低く，幹が叢立(そうりつ)・分岐して樹冠部分との区別の明らかでないものをさす。同一樹種でも，高木状になったり低木状になったりするものがある。森林の樹冠下や荒れた環境下に多くみられる。庭園樹になっているものも多い。

ティーマン　［Johann Karl Ferdinand Tiemann］(1848～1899)　ドイツの有機化学者。ベルリン大学教授(1882)。ライマーとともにフェノール・アルデヒドの生成反応を研究中，グアヤコールからバニリン*を合成，さらにイオノンの合成にも成功した。このほかニトリル・テルペン・カンフォールなどの研究も行ない，ドイツ化学工業の発展に寄与した。

ディミトロフ　［Georgii Mikhailovich Dimitrov］(1882～1949)　ブルガリアの政治家。ソフィアに出て印刷工となり18歳で印刷労働者組合の書記となった。1902年ブルガリア社会民主労働党に入党し，1913年には国会議員となった。第１次世界大戦中反戦運動によって一時逮捕されたが，1921年ソ連に渡ってコミンテルン執行委員となる。1935年にはコミンテルン執行委員会書記長となり，同年のコミンテルン第７回大会で反ファシズム統一戦線について報告。第２次世界大戦中各国で反ファシズム民族解放運動を指導した。1945年帰国し，ブルガリア共産党と祖国戦線を指導してブルガリア人民民主主義の建設に尽くし，統一戦線路線の確立と発展に貢献した。1946～1949年，首相。　〔山県弘志〕

ていめいこうごう　【貞明皇后】(1884～1951)　大正天皇*の皇后。公爵九条道孝の第４女。名は節子(さだこ)。1900年(明治33)５月皇太子明宮嘉仁(はるのみやよしひと)親王(大正天皇)と結婚。今上天皇をはじめ秩父宮雍仁(ちちぶのみややすひと)・高松宮宣仁(のぶひと)・三笠宮崇仁(みかさのみやたかひと)，各親王の生母。大正天皇の死去により皇太后*となり，1930年(昭和５)以降長く大宮御所(赤坂離宮御園内)にあった。死後貞明皇后と諡号(しごう)。陵墓は東京都浅川の多摩東陵。〔高崎徳次〕

ていめいどう　【程明道】　(1032～1085)　中国，北宋(ほくそう)の儒教哲学者。河南省の人。名は顥(こう)，明道は号。弟の程伊川*(いせん)と合わせて二程子とよばれ，《二程全書》がある。兄弟とも朱子学*の理論形成の基礎をつくった思想家で，また王安石*の新法に反対して官をやめた。明道は地方官として治績をあげたのち中央にはいり，時の天子の神宗に至誠・仁愛の君道を説いた。彼は《識仁編》などにおいて，天下の万物は一つの気*の所産で〈一体の仁〉の中にあり，人の性*は善で，悪も気の混濁から起こるかたよりにすぎない，と説いた。　〔西　順蔵〕

ディメンション　⇒次元

ていもんはいかい　【貞門俳諧】　俳諧流派の一。1620年代(寛永)から1660年代(寛文)末まで約50年間にわたって盛行。談林俳諧*・蕉風(しょうふう)俳諧*に対して古風ともいう。松永(まつなが)貞徳*を流祖とするのでこの称がある。俳諧は早くから連歌*の席の余興として行なわれ，16世紀の山崎宗鑑*・荒木田守武*(もりたけ)のころから滑稽詩(こっけいし)として独立する機運があったが，貞徳はこれを俳言(俗語・漢語など)をよみこんだ連歌と規定し，連歌の式目(規則)をゆるめて俳諧の式目を立て，和歌・連歌の入門課程として指導した。貞門としての正式な俳諧の初会は1629年(寛永６)，最初の選集は1633年の《犬子集*(えのこしゅう)》だが，その手軽な文芸形式が文化的伝統をもたない近世初期の武士や上流町人の間に歓迎され，急速な勢いで全国に普及，以後の俳諧発展の素地を開いた。おもな作者に松江重頼(しげより)・野々口立圃*(りゅうほ)・安原貞室*・北村季吟*らが

おり，《鷹筑波集(たかつくばしゅう)》《玉海集》などの大選集が編まれたが，やがてその式目の拘束性と滑稽の微温性が人々にきらわれ，談林と交替する。〔尾形　仂〕

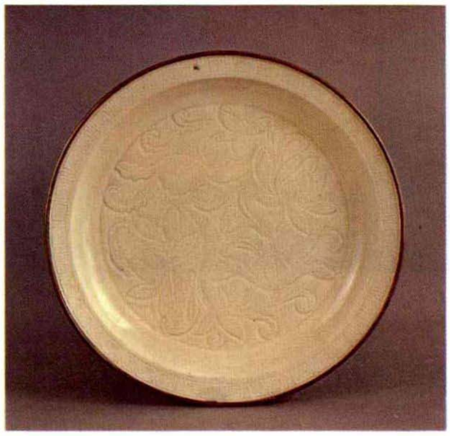
ティーユーシー［TUC］Trade Union Congressの略称。イギリス労働組合会議。1864年成立。1868年マンチェスター労働評議会が，労働組合代表者会議を開催したのをその起源とする。イギリスの労働組合員の大半を網羅(もうら)し，組織労働者の85%を有する唯一の中央団体で，イギリスの労働運動を代表する。TUCは労働組合の共通の利益が犯されたときこれを調整する機関であるべきだとされる。組合員数は，1920年に650万余，1930年代には300万ないし400万に低迷したが，第2次世界大戦後再び回復し，1968年には加盟組合数175，組合員数約890万に達した。TUCの執行機関である総評議会は，イギリス労働組合運動の全国的政策，方針を，大会の決定やその年に起きたできごとを考慮しながら指示することを任務としている。労働党と表裏一体の関係にあり，国際的には国際自由労働組合連盟*(ICFTU)に加盟している。〔黒瀬信子〕

ていよう【定窯】中国宋(そう)代，河北省曲陽県澗磁(かんじ)村で隆盛した窯芸。起源は不明であるが，北宋時代には宮廷の御器を焼成し，汝窯*(じょよう)とともに双璧(そうへき)をなす名窯にあげられている。わずかに黄みをおびた象牙(ぞうげ)色の白磁に特色があり，素地は緻密(ちみつ)でかたく，軽快な彫り文様や型押し文様が施されている。遺品は圧倒的に白磁が多いが，黒釉(こくゆう)・柿釉(かきゆう)のものもあり，ほかに文献には紫定・紅定とよばれる紫釉・紅釉の作品も伝えている。定窯の作例の中にはまれに金彩を施したいわゆる金花の定碗(ていわん)があり，金色の文様は多く薄れているが，端正な器形に浮かぶ文様は高雅で，格調が高い。〔矢部良明〕

ていようひねつ【定容比熱】⇒比熱

ディラック［Paul Adrien Maurice Dirac］(1902～　)イギリスの理論物理学者。ブリストルに生まれ，はじめ電気工学を学んだがやがてケンブリッジで統計力学*を研究，続いて量子力学の建設に参加，コペンハーゲンに行き，放射場の量子論を発表した。さらに相対論的量子力学を展開し(ディラック方程式)，また場の量子論の体系化に貢献した。フェルミ-ディラック統計の業績もある。量子力学建設者のひとりとして独創的な研究で著名。ケンブリッジ大学教授。1933年シュレーディンガー*とともにノーベル物理学賞受賞。〔藤村　淳〕

ティラピア［tilapia］硬骨魚類・カワスズメ科。体長25cmに達する淡水魚で，カワスズメともいう。原産地はアフリカの東部・南部からナタールまで。日本へは1954年(昭和29)タイ・台湾などから輸入された。



定　窯《白磁草花刻文鉢》東京国立博物館蔵



ティラピア

現在では各地の水産試験場や温泉地のため池などで飼育され，伊豆(いず)や北海道の温泉池の一部では野生化している。雌は卵を口内で保護するいわゆるマウスブリーダーである。アフリカ・東南アジアの諸地域では盛んに養殖が行なわれ，重要魚となっており，飼育も簡単なので，日本人の味覚にあった調理法を考案すれば食用としての価値も倍増しよう。〔安田富士郎〕

ディーラー-ヘルプス［dealer helps］販売店援助。一般的には製造業者・卸し売り業者が，ディーラーの経営のレベルアップ，売上高の増大を図るために，直接・間接に行なう指導・援助・サービスの提供をいう。しかもそれは長期的な相互信頼関係の基盤の上に展開される活動を意味する。製造業者・卸し売り業者にとっては商品の販売網の確立，売上高の増大を図るために行なわれる販売促進活動(セールス-プロモーション)の一つである。なお，同じような意味合いをもって，ディーラー-エイズ・ディーラー-プロモーションなどのことばが使われることもある。ディーラー-ヘルプ活動を展開する主体としては，製造業者・卸し売り業者のほかに同業種企業の水平的協同によるものや異なった段階の同業種企業の垂直的協同によるものがある。また，その対象には，卸し売り業者・小売り店があげられる。その内容および方法は，次のように分類できる。①援助内容からする分類：㋑経営問題の援助，㋺販売問題の援助，㋩技術問題の援助。②援助を行なう方法からする分類：㋑助言もしくは指導の提供による援助，㋺資料もしくは情報の提供による援助，㋩材料・設備もしくは資金の提供による援助，㊁労働力もしくはサービスの提供による援助。以上のような援助をさまざまに組み合わせて有効な多種類のディーラー-ヘルプの諸形態が生まれる。〔清水　晶〕

ディラン［Bob Dylan］(1941～　)アメリカのフォーク歌手・作曲家。ミネソタ州の生まれ。ミネソタ大学を中退して放浪生活にはいり，はじめプロテスト-ソングを発表。最近はフォーク-ロックで活躍する一方，ポピュラー音楽界の精神的なリーダーとしても有名。代表作《風に吹かれて》。

ていり【定理】真であることが数学的に証明された命題*のうち，重要なものをいう。〈ピタゴラスの定理〉，代数学の基本定理などはその例である。なお，定理から簡単に導かれる命題を系という。定理の意味は，さらに広く解釈することもある。数学の理論は，そのもとになる命題すなわち公理*を考え，いくつかの公理の集まり(公理系)から出発する。そして，これらの公理系から証明という手順で導かれた命題を定理ということもある。この証明の中では，同じ公理系からすでに証明された定理を用いてもよい。どんな定理も，はじめに決めた公理系だけから導かれ，また公理系が違えば違った定理が導かれることがあるのも当然である。〔杉岡司馬〕

ディリクレ［Peter Gustav Lejeune Dirichlet］(1805～1859)ドイツの数学者。デューレンのフランス系の家に生まれた。パリに出て数学を学び数学者フーリエ*と親しかった。その後ブレスロー・ベルリン各大学教授を経て，1855年ガウス*の後任としてゲッチンゲン大学教授。ディリクレ級数を提出して整数論に応用したほか，数論を改良するなど解析学の基礎を築き，またポテンシャル論などにも貢献した。特に三角級数の収束に関するディリクレの条件(積分)は有名。講義にも長じ，のちのドイツ諸大学における講義形式の基礎をなした。〔下平和夫〕

ティリッヒ［Paul Tillich］(1886～1965)ドイツ生まれのアメリカのプロテスタント神学者。シュタールツェデルの生まれ。ベルリン・チュービンゲン・ハレの各大学で哲学・神学を学び，第1次世界大戦の従軍牧師を経たのち，マールブルク・ドレスデン・ライプチヒの各大学の教授を歴任。その間，キリスト教社会主義の理論的指導者として運動を推進する。1933年ナチス政権に追われてアメリカに亡命，ユニオン神学校，ハーバード大学で教え，1960年に来日した。その思想は実存主義的色彩が濃く，独特な存在論的神学を展開する。神学と哲学(存在論)とを問いと答えの関係

としてとらえ，状況の中での問いを存在論的に分析し，その答えをキリスト教の諸シンボルに見いだそうとする。主著《組織神学》。〔堀越知巳〕

ていりょうきふほう【定量記譜法】 13世紀中ごろから15世紀末までヨーロッパで使われた代表的な記譜法。今日の記譜法の先駆をなす。これはグレゴリオ聖歌の記譜法と異なり，個々の音符の長さを相対的に規定できるのが特徴で，ルネサンスの複雑な多声音楽もこの方法によってはじめて可能になったといえる。しかし，今日の記譜法と異なり，ある音符(たとえばロンガとよばれる長い音価)は二つの小さな音符(ブレビス)にも，三つの音符にも分けられるという組織であった。また，音符の長さの関係を示すだけで，そのあとの小節単位による強拍・弱拍の関係は示していない。〔徳丸吉彦〕

ていりょうぶんせき【定量分析】 物質の化学成分間の数量的関係を明らかにする目的で行なわれる分析法。一般に定性分析*によりあらかじめその成分を明らかにしてから行なわれる。物質中の一成分または数種の成分だけについて行なわれる場合には部分分析，全成分について行なわれる場合には全分析とよばれる。定量分析は，方法操作により重量分析と容量分析に大別される。このほかガス分析・物理化学的分析(比色分析・比濁分析・分光分析・螢光(けいこう)分析・X線分析，反応熱や熱伝導度などの熱を利用する方法，電気・放射能を利用する方法)などがある。〔三輪誠・野宮健司〕

ティル-オイレンシュピーゲル ハウプトマン*の叙事詩(1928)などで知られるいたずら者の主人公で，中世のドイツに実在した。同名の民話本(1515)があり，ティルがドイツの諸都市から遠くプラハ・ローマなどまでいたずらをして回る物語を集める。別にフランドル地方にも同名のいたずら者の伝承があって，前者の父と推定され，これを主人公にベルギーのシャルル-ド-コステルが同名の小説(1868)を書いている。

ティルジットじょうやく【ティルジット条約】 1807年ナポレオン1世のフランスとプロイセン-ロシアの間に結ばれた平和条約。1806年プロイセンは第4次対フランス大同盟*のもとにナポレオン1世に挑戦(ちょうせん)したが，イエナの戦いに敗れ，ベルリンも陥落し，さらにロシアの救援もむなしく大敗してティルジット条約を受諾した。その結果，ダンチヒの自由市化，ワルシャワ大公国設立のほか，プロイセンはエルベ左岸を奪われ，償金支払いと軍事占領を課せられた。この屈辱的条約がシュタイン・ハルデンベルクの改革(→プロイセン改革)をよび起こし解放戦争への決起につながった。〔大野慎一郎〕

ディルタイ［Wilhelm Dilthey］(1833～1911) ドイツの哲学者。ヘッセン近郊の生まれ。ランケ・フィッシャーらに学び，特にシュライエルマッハーを研究した。ヘーゲルの主知主義に反対し，形而上学(けいじじょうがく)に対して〈生〉の内面的な直接体験を基礎とする〈生の哲学*〉を主張。生の客観化としての歴史を重視し，あらゆる文化を生の表現として，体験・表現・理解の連関から歴史的世界を把握(はあく)する解釈学を基礎づけ，文芸学を確立した。主著《哲学の本質》《世界観の研究》《歴史的理性批判》。〔豊福英利〕



T－1

ディルドリン［dieldrin］ 有機塩素殺虫剤の一つで，エンドリンの立体異性体である。原体は淡黄色の固体で，水にはほとんどとけない。イネハモグリバエ・イネカラバエ・ウリバエ・サルハムシ・コガネムシ幼虫・キリウジ・ケラ・タネバエ・ハリガネムシなどに適用される。遅効性で残効があり分解しにくい殺虫剤だが，特に魚毒性が強いので知事の指定する場合以外は使用できない。

ティルピッツ［Alfred von Tirpitz］(1849～1930) ドイツの軍人・政治家。1897年，海相に就任し，数次にわたる大建艦計画を実施してドイツを世界第2の海軍国にし，イギリス海軍に脅威を与えた。第1次世界大戦中，無制限潜水艦作戦の早期実施を主張したが認められず，1916年に海相を辞任して政界にはいった。戦後，一時亡命したが，帰国後ドイツ国家国民党の国会議員となって活躍した。

ていれい【丁玲】 チンリン (1907～) 中国現代の女流作家。本名は蔣冰之(しょうひょうし)という。湖南省の出身。1923年，北京(ペキン)に出て北京大学に学び，文学少女の生活を送った。のちに夫となった胡也頻(こやひん)(1905～1931)と同棲(どうせい)したのもそのころである。また，作家の沈従文*とも知り合い，上海(シャンハイ)で雑誌《紅黒月刊》を創刊して，《暗黒の中で》《ソフィ女史の日記》などの短編小説を発表，小ブルジョア階級の青年の病的な心理を描いた。1930年，中国左翼作家連盟*に加入，翌年夫の胡也頻の刑死後は，急進的な思想をもつようになり，雑誌《北斗》を主宰，水害に悩む中国農民の姿を力強く描いた《水》を発表して左翼文壇のホープとなった。1933年逮捕，一時刑死を伝えられたが，脱出，中国共産党地区にはいり，日中戦争中は兵士と民衆の間にはいって文化活動に従事した。小説集《霞村(かそん)にいた時》はその産物である。戦後は，華北農村の変革過程を扱った《太陽は桑乾河に輝く》を出し，中華人民共和国の成立後は評論を書いて文学教育にあたっている。1959年，反党分子として批判を受け，その後公的活動はしていないらしい。〔今村与志雄〕

テイレシアス［Teiresias］ ギリシア神話で盲目のテーバイ(テーベ)の予言者。一説では，彼はアテナ女神の水浴姿を見たため盲にされ，代わりに予言の力を得たという。また一説では，ヘビの交尾を見てつえで打ったために女となり，のちに同じようにして男にもどった。それでゼウスとその妃ヘラが男女両性のどちらがより性的快楽を得るかと口論したとき，尋ねられて女だと答えたので，ヘラに盲にされ，ゼウスには予言の能力を与えられたといわれる。オイディプス*を中心とするテーバイ伝説や《オデュッセイア*》で活躍する。〔左中庸博〕

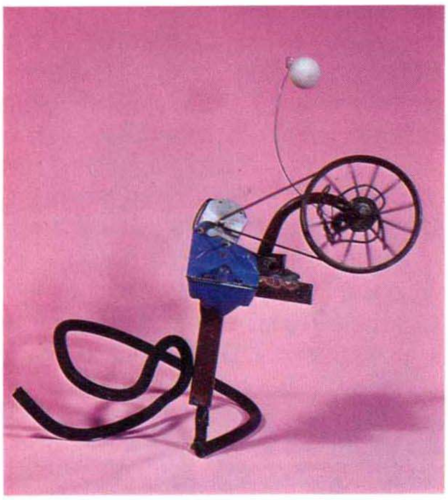
ていわ【鄭和】 (1371～1434) 中国，明(みん)代の武将で，南海経略の指導者。宦官*(かんがん)。イスラム教*徒の彼は永楽帝*の命を受け，1405～1433年の間，7回にわたって南海遠征を行なった。その航跡は東南アジアからセイロン・インド，さらにペルシア湾沿岸からアフリカ東岸の30数か国に及んだ。彼の遠征により，朝貢貿易は拡大し，随行者が著わした《瀛涯勝覧(えいがいしょうらん)》などの書によって中国の東南アジア理解は深まり，華僑*(かきょう)増大の道を開いた。

ティー-ワン［T-1］ ジェット練習機の一。富士重工業(株)が航空自衛隊用に開発したもので，日本の航空工業にとっては第2次世界大戦後はじめての本格的な試作開発となった。エンジンはT-1Aではブリュトル・シドレ(イギリス)のオルフュース(1,814kg)，1Bでは国内で開発されたJ3-IHI-3(1,200kg)をそれぞれ1基ずつ装備している。1958年(昭和33)初飛行。

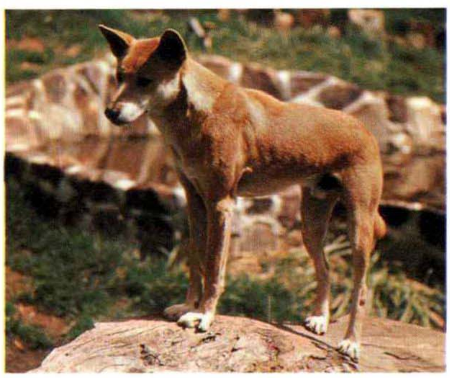
要　目	性　能
座席数	2
翼幅	10.50 m
全長	12.12 m
主翼面積	22.22 m²
自重	2,781 kg
全備重量	4,150 kg
最大速度	925 km／時
巡航速度	620 km／時
最小速度	95 km／時
航続距離	1,296 km

ディンギー［dinghy］ ①インド沿岸の平水で貨客を運送する，長さ7～9mくらいの小形の有甲板船。②一般には最も小形の無甲板艇で，海軍で小形駆逐艦以下の艦艇の雑用艇として用いられるもの。③小形の一枚縦帆無甲板ヨット。→ヨット

ティンゲリー［Jean Tinguely］(19



ティンゲリー《欲求不満の機械化》1960年代



ディンゴ

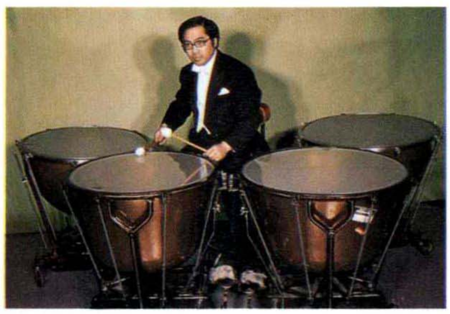
25～) スイスの彫刻家。バーゼルのアートスクールで学び，ここでシュビッタース・クレーらに啓発された。1940年代にモーターを用いて針金の彫刻を動かすという着想の作品を発表した。それ以来，きわめて複雑かつ繊細な機械，すなわち独自の彫刻をつくりだしている。

ディンゴ ［dingo］ 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。ジンゴともいう。オーストラリアに分布する野生犬。この地には他の胎盤哺乳動物がいないので，古代にアジア大陸からマレー群島を経て，移住民が連れてきたものが，野生化したと考えられる。ヒツジを襲って牧畜に大損害を与えたことがある。体高は48～57cmくらい。

ティントレット ［Il Tintoretto］(1518～1594) イタリア-ルネサンス期ベネチア派の画家。本名はヤコポ-ロブスティ，染物屋(ティントレ)のむすこであった。はじめティツィアーノの工房にはいり，のちミケランジェロの作風に共鳴，遠近法や解剖学を学んで雄大な画風をめざした。ベネチアのスクォーラ-サン-ロッコに描いた聖書物語の雄大な壁画，ロンドン-ナショナルギャラリーの《聖ジョルジョ》，ベネチア-アカデミア美術館の《アダムとエバ》などの代表作に見られるように，ベネチア市民の豪華な趣味生活を描き，大胆な明暗法・短縮法を

ティントレット
《ガレリアの海のキリスト》





ティンパニ

好んで使用した。特に画面に現われたムーブマンはマニエリスモの先駆としてエル-グレコとともにバロック芸術以後の近代絵画に大きな影響を与えた。〔井関正昭〕

ティンバーゲン ［Jan Tinbergen］(1903～) オランダの経済学者。ライデン大学で物理学を修めたが，1929年から1945年までオランダ政府の中央統計局に勤務し，計量経済学の研究に従事した。この間，1933年からロッテルダム経済大学で経済学を講義。第2次世界大戦後オランダ中央統計局長官となり，1955年オランダ経済大学経済研究所長，ロッテルダム大学教授。主著《経済政策の理論》(1952)，《世界経済の形成》(1962)，《中央計画》(1969年邦訳名《経済計画》)。ミュルダールとともに北欧福祉国家派を代表する社会民主主義者で，政策的には資本主義と社会主義の最も能率的な混合体制，すなわち，最適経済体制を志向している。1969年第1回ノーベル経済学賞を受賞。〔林　達〕

ティンパニ ［timpani］ 定まった音高をもつ太鼓の一種で，管弦楽の打楽器の中心をなす。銅や真鍮(しんちゅう)の半球の上に皮またはプラスチックの膜を張り，その張り具合を機械的な装置で調節し固定して音高を決める。17世紀以来二つを組みにして使い，調の主音と属音に調節されることが多かったが，19世紀以来三つ以上使うようになった。19世紀後半にペダルで音高を変える装置が発明され，今日ではこれが一般化しており，ペダルによってのみ可能となるグリッサンドも，現代音楽で広く使われている。

〔徳丸吉彦〕

デ-ウィット ［Jan de Witt］(1625～1672) オランダの政治家。反オレンジ家の指導者であったため一時投獄されたが，のち釈放されてホラント州議会議長となり(1653)，国政を掌握した。第1次イギリス-オランダ戦争(1652～1654)を終結させて国家の再建と東インドの商権拡張に努め，第2次イギリス-オランダ戦争(1665～1667)では海将デ-ロイテルらとともに有利に戦争を終わらせた。しかしフランスのルイ14世のオランダ侵入に際してオレンジ家など反対派の攻撃を受けて失脚し，まもなく同派の刺客によって殺された。〔松　俊夫〕

デウカリオン ［Deukalion］ ギリシア神話の神。父はプロメテウス。妻はプロメテウスの弟エピメテウスとパンドラとの娘ピュラ。ゼウスが青銅時代に至って堕落した人類を滅ぼそうと大洪水(こうずい)を起こしたとき，プロメテウスに忠告されて，箱船をつくって妻とともに乗り込み，全人類のうちでただふたりだけが生き残った。9日9夜ののち洪水が引くと，母の骨を肩越しに投げよとの神託を受け，母なる大地の骨，つまり石を投げると，デウカリオンの石からは男が，ピュラの石からは女が生じたという。〔黒田杏子〕

てうりとう 【天売島】 北海道の日本海上にある島。焼尻(やぎしり)島とともに，留萌(るもい)支庁羽幌(はぼろ)町に属し，羽幌から約30km西の地点にあたり，羽幌～焼尻～天売の定期航路がある。面積5.5km²，最高点は185m。人口1,300。漁業を主とし，かつてはニシン漁でにぎわった。北西岸の安山岩の断崖(だんがい)は，ウミガラス(オロロンチョウ)の繁殖地として知られ，天然記念物に指定されている。最近は観光客が多い。

デオキシリボかくさん 【デオキシリボ核酸】 DNA(deoxyribo nucleic acid の略)ともいう。核酸のうち，その構成糖がデオキシリボースであるもの。塩基成分としては，アデニン・シトシン・グアニン・チミンが主で，リン酸を介してポリヌクレオチドを形成している。二重らせん構造をもち，このことはX線回折などによって証

明された。タンパク質と結合したDNAタンパク質は核中に存在し，遺伝形質の伝達やタンパク質合成の情報提供などを行なっていると考えられる。→核酸〔福島 健〕

テオグニス［Theognis］生没年不詳。古代ギリシアの叙情詩人。紀元前6世紀後半に活躍した。メガラの生まれ。1,389行の詩が彼の名のもとに伝わっているが，〈若き貴公子キュルノスよ〉との呼びかけで始まる一連の詩だけが彼の真作と認められている。貴族階級に生まれ，民主主義運動の台頭とその荒波にもまれて，古きよき時代が没落していくのを痛憤した。政情への不満と新興民主派に対する激しい怒りとをこめ，伝統的な貴族の教養と生活の原則を若い後輩に伝えようとして詩を書いた。友愛の偉大さ，貴族の自尊心と自負心を大胆でいきいきとした比喩(ひゆ)を用いてうたっているが，ときにはあまりに自分の感情をむきだしにし，世をすねた者のもつ偏見とひがみがみられる。〔久保正彰〕

テオクリトス［Theokritos］(BC310ごろ～BC250ごろ) ヘレニズム時代のギリシアの詩人。シチリア島の生まれ。BC276～BC275年ごろシラクサに滞在し，ヒエロン王に献詩している。コス島に逗留(とうりゅう)し，詩人フィレタス，医師ニキアスと親交を結んだ。のちアレキサンドリア市を訪れ，プトレマイオス王朝に仕えて詩名を上げた。コス島を第2の故郷とし晩年を過ごしたらしい。彼には《牧歌詩》の名のもとに31編の詩が残っている。初期の作品は叙事詩的主題を六脚韻でうたった詩が多いが，全体としては叙情的色彩が強い。コス島訪問でフィレタス派の影響を受けて田園的牧歌的傾向の強い詩を書いた。アレキサンドリア滞在時代には，当時流行の帝王賛歌を手がけ，《ベレニケの髪》など美しい作品を残した。牧歌詩はその後もいっそう豊潤化し新しい息吹きを取り入れ，高い芸術的水準に達した。彼は主題に応じて韻律を巧みに変え，随所に文学的・神話的引喩(いんゆ)をちりばめ，写実的世界と浪漫的世界を融合して独特の魅力をつくりだした。〔久保正彰〕

テオティワカン［Teotihuacán］3～7世紀，メキシコ高原に最も栄えた文明。テオティワカンは最高司祭ケツアルコアトル(羽毛をもつヘビの神)が政治の実権を握る神権政治的な都市国家であった。この神は以後アステカなどメキシコ中央高原の諸文明に受け継がれ，伝説化された。現在残っている太陽と月のピラミッドや雨の神トラロックの神殿などの石造建築は壮大で，彫刻・壁画もすぐれている。灌漑(かんがい)による農業が行なわれ，専門の手工業者もおり，商業活動も盛んだった。〔松下 洋〕

テオドシウス(1世)［Theodosius］(346～395) ローマ皇帝。在位379～395年。スペイン出身。東の正帝としてゴート人を撃ち，392年にキリスト教を国教として異教を禁止し，394年には分国統治を廃して帝国を再統一した。この年オリンピア競技を禁止。司教に住民殺害の懺悔(ざんげ)を要求された彼はそれに従ったといわれるほどの信仰ぶりだった。死の直前，帝国を東西に二分し，長子アルカディウスに東帝国，次子ホノリウスに西帝国を与えた。以降ローマ帝国は完全に分裂した。〔高山高雄〕

テオドシウス(2世)［Theodosius］(401～450) 東ローマ皇帝。在位408～450年。アルカディウス帝の子で7歳で帝位についたが，幼少のためはじめ総督アンテミウスと姉プルケリアが代わって統治した。アンテミウスの死(414)にともなって彼とプルケリアが共同統治者となり，結婚後は妃エウドキアが勢力をふるった。その治世の間にペルシアと2度戦い，バンダル族・フン族とも戦った。フン族のアッチラをバルカンから退けるためには多額の賠償金を支払っている。彼の業績として最も重要なものは〈テオドシウス法典〉(16巻)の発布で，のちの〈ローマ法大全〉の先駆をなすとともに，東西ローマ帝国で施行されてヨーロッパの法律にも少なからぬ影響を与えた。〔兼岩正夫〕

テオドラ［Theodora］(500ごろ～548) 東ローマ帝国のユスチニアヌス1世の妃。卑賤(ひせん)の出で女優をしていたが政治的才能があった。皇帝と女優との結婚は許されないので，元老院は特に法律を変えて皇后としたという。527年，女帝となってのち皇帝の統治に多くの影響を与え，ニカの反乱(532)では皇帝を励ましてこれを鎮圧した。なお貧困者のための病院を建てたことも有名である。

テオドリック［Theodoric］(456ごろ～526) 東ゴートの国王で大王とよばれる。在位471～526年。パンノニア地方にいた東ゴート族のアマール王国に生まれ，幼時は東ローマ帝国の人質としてコンスタンチノープルに過ごした。長じて東ゴート族の王となり，488年にイタリアに侵入し，オドアケルを倒してイタリアに東ゴート王国をたてた(493～554)。彼は東ローマ皇帝からパトリキウス(→パトリキ)の称号をうけ，イタリアを支配したが，ローマ人を尊重し国の重要な官職にボエチウス・カッシオドルスらのローマ貴族を登用した。こうして，彼のもとに最後のローマ文化が栄えた。彼は寛大な支配者であったが，ゴート族のアリウス派とローマ人のカトリック派との宗教的対立が政治とからんだため，晩年には苛酷(かこく)になり，ボエチウスを処刑するに至った。中世中期のドイツ民族の叙事詩《ニーベルンゲンの歌》にベルンのディートリヒとして登場する。〔兼岩正夫〕

テオフラストス［Theophrastos］(BC372ごろ～BC288ごろ) 古代ギリシアの哲学者。レスボス島の生まれ。はじめプラトンに学び，のちアリストテレスの弟子(でし)となった。師の没後，リュケイオンの2代め学頭となった。師の学説を組織完成するため多くの著作を残したが，現在はその一部が残っているにすぎない。《植物誌》《植物原因論》などを著わし，植物学の祖といわれる。鉱物・気象・生理などの自然科学に関する小著作のほか，代表的な性格類型30を論じた《性格論》が知られる。〔本橋正義〕

テオリア［theoria］本来〈見ること〉〈ながめること〉を意味するギリシア語で，事物の真理や本質，普遍的原理をみること，あるいは認識すること，という意味から〈観照〉〈観想〉と訳される。アリストテレスは，理性的認識としてのテオリアを，実践的活動としてのプラクシスと区別し，学問についても，倫理学や政治学をプラクシスの学とよび，自然学や数学，形而上学(けいじじょうがく)をテオリアの学とよんだ。さらに，人間の生活を〈テオリア的な生活〉と〈プラクシス的な生活〉に分け，最高の幸福な生活は〈テオリア的な生活〉にあると説いた。この考え方は中世スコラ哲学に受け継がれ，トマス＝アクィナスは，キリスト教の神はテオリアの最高の対象であるとして，〈テオリア的な生活〉を〈プラクシス的な生活〉の上に置いた。〔本橋正義〕

テオルボ［theorbo］通奏低音用の楽器としてつくられたリュートの変種の一。低音用の弦をもう一組みもっているため，合計16または14弦である。同じ目的のために使われたキタローネよりはたけが短い。

てかがみ【手鑑】古筆切を一定の順序に押した折り帖(じょう)。古筆の愛好者は鑑賞の対象とし，古筆見は古筆鑑定の標準とした。また，公卿(くげ)や大名は子女の嫁入り道具として尊重した。手鑑の表には聖武(しょうむ)天皇・光明皇后などの古筆切を押し，裏には聖徳太子・藤原鎌足(かまたり)らの古筆切を押す。《翰墨城(かんぼくじょう)》《藻塩草(もしおぐさ)》《見ぬ世の友》などは優秀な古筆切の多い手鑑として有名である。

デ＝ガスペリ［Alcide de Gasperi］(1881～1954) 現代イタリアの政治家。〈未回収のイタリア〉に含まれるトレント出身で第1次世界大戦までイタリア帰属運動に活躍した。戦後イタリア人民党に参加。ファシスト政権に反対して投獄され，1931年バチカン市国に亡命した。第2次世界大戦中キリスト教民主党を結成して，反ファシズム地下運動に参加。戦後1944年の臨時政府に連なり，1945～1953年連続8度の内閣を組織し，共和国の樹立，パリ平和条約の締結に活躍，また反共親米外交路線を確立した。〔大野慎一郎〕

でかせぎ【出稼ぎ】一定期間，生活の本拠地を離れて他所で労働を行なうこと，またその人(たち)。農林省の規定によれば〈農家世帯員が1～6か月の予定で家族から離れてよそで働くこと〉であり，6か月以上の場合は就職転出者となる。第2次世界

大戦前のわが国では地もとでの労働市場の未発達と零細な過小農経営を背景に，農業の過剰人口が不熟練な労働市場の中で顕在化し，副業的な季節的出かせぎ人として存在していた。1922年(大正11)の農商務省の調査では1917～1919年の季節出かせぎ農民は22～25万人となっている。また第２次世界大戦前の出かせぎは，業種としては農林漁業・製糸・紡績・酒造り・行商などの伝統的産業が多く，その主体も未婚の女性や傍系家族が多かったといわれている。これに対して戦後の出かせぎは，後述するように業種にも変化がみられ，働き手も男性が圧倒的で90％以上を占め，年齢も35歳以上の壮年層が約半数を占めるようになった。また1955年ごろまでは二・三男の出かせぎが多かったが，最近では余剰労働力である次・三男は，すでに転出している場合が多く，営農の主力である経営主や跡取りの出かせぎが多くなっている。出かせぎを送り出す農家の階層も上層農をも含めた広範なものになっているのが現状である。このような変化の要因として，一つには農業の機械化や，農薬・完全配合飼料などの普及によって労働力の節約が急速に進んだことがあげられる。また流通革命・消費革命の波及によって都市と農村の消費水準が接近したことによる耐久消費財の余儀ない購入，分家できない二・三男のための教育投資の準備，拡大する経営資金の獲得など生活上の必要から生じている場合も多い。さらに木炭やワラ加工品などの農閑期の副業が成り立たなくなってきたことや，貿易の自由化によって農産物市場が不安定になったことなども要因としてあげられる。こうした出かせぎ農民を受け入れる産業は土木・建築などの建設業が過半数を占め，次いで食品その他の製造業，農林漁業の順になっている。多くの場合労働条件は悪いが，そのおもな原因は，職業安定所を通して就労するものがわずか２割前後で，大部分が縁故や私設周旋人に依存していることにある。また求人側は，労務費の固定化を防止する目的で直雇い制度を抑制し，下請け業者による前近代的労働組合を利用するため，そこに低賃金や賃金不払いの危険性が生じている。るす家族は半母子家族になる場合が多く，夫からの送金の途絶やゆくえ不明，妻の家出，離婚，問題児の発生など，家族解体現象の発生する可能性も高いといわれている。〔松島　浄〕

てがた　**【手形】**　一定金額の支払いを目的とする有価証券*。約束手形*と為替(かわせ)手形*の２形式があり，支払いの繰り延べや送金などについては前者が，支払い命令や代金取り立てなどについては後者が使用される。手形の特質は，①一定の要件を備えなければ原則として無効であり，②手形授受の原因関係は問われず，③裏書き*によって手形を譲渡された者は実質的権利所有の証明を必要とせずに，記載された文言にしたがって権利を行使できるなどである。利用される目的や業種によって商業手形*・貿易手形*・金融手形(融通手形*)・農業手形などに分けられ，また手形面の債務者の数によって単名手形*と複名手形に分けられる。さらに手形を呈示した日が支払日となる一覧払い手形*と，一定の支払日が定まっている定期払い手形，また担保の有無によって担保付き手形と信用手形などにも分けられる。支払日として指定された日を満期といい，満期になったにもかかわらず支払いが拒絶された手形を不渡り手形*という。なお，小切手*も手形の一種である。〔松本治雄〕

てがたこうかんじょ　**【手形交換所】**　同一地域内の銀行が，互いに取り立てるべき手形*・小切手*などを特定時間に持ち寄り，相殺・交換し，その差額(交換尻(じり))だけで決済する場所。差額を生じたときは，各銀行が日本銀行にもっている当座勘定の振替によって決済される。1879年(明治12)大阪に設置されたのをはじめとし，現在113か所(1970)のほか，未指定のものも多数ある。なお，手形交換所は法務大臣によって指定される(手形法83条)。

でがたり　**【出語】**　日本伝統音楽の中で特に芝居と結びついた浄瑠璃(じょうるり)などで，演奏者が舞台に出て演奏する演奏慣習。河東節(かとうぶし)・一中節は出語をしないが，常磐津節(ときわずぶし)・富本節(とみもとぶし)・清元節は出語が普通である。義太夫節(ぎだゆうぶし)では重要な切(きり)の段にだけ出る。

てがたわりびき　**【手形割引】**　満期のきていない手形*を割引人(銀行その他の金融業者)に裏書き交付し，手形金額から割引料(満期までの利息その他の費用)を控除した残額を受領すること。当事者間の実質関係は，手形の売買だけで，手形関係以外には債権債務関係は存在しないものと考えるのが通説である。この点で，手形を担保として金銭を貸付ける手形貸付と異なる。なお手形貸付では，手形関係のほかに金銭貸借の関係も併存する。〔松本治雄〕

デカダンス　［décadence］　一般的には，文化領域における退廃状態を表現する用語であるが，限定的には，文学史の領域において，19世紀末フランスで興り，その後ヨーロッパに広まった一つの文学思潮をいう場合も多い。すなわち，ベルレーヌ*・ランボー*・ラフォルグ*・ワイルド*らの反日常的・耽美(たんび)的な文学傾向がそれである。また，シュペングラー*やトインビー*の形態学的な歴史観からすれば，文明の興亡史における衰亡期がデカダンスの時代として特徴づけられることになる。ただ，注意しなければならないことは，先のデカダンス派の文学がそうであったように，デカダンスはそれが既存の価値体系にとっての退廃であり，その意味で反社会的・文化批判的意味をも体現しており，新しい文化の可能性をも内含しているということである。〔小林宏一〕

デカトロン　［dekatron］　パルスの十進計数を行なうと同時に，表示を行なわせることができる一種の放電管。円板状の陽極のまわりに，１個の陰極と２個あるいは３個の放電転移電極を１組みとした10組みの棒状電極群を配列し，ネオンを主体とする混合ガスを封入したものである。デカトロンの転位電極にパルス状の電圧を加えると，陰極上のグロー放電がパルスの数だけ移動し，計数値は陰極上の放電の位置により表示される。毎秒20,000パルス程度までの計数が可能である。〔伊藤糾次〕

てがぬま　**【手賀沼】**　千葉県西北部にある湖で，面積10km²，水面高度３m，最大水深2.9m。成因は侵食谷が利根(とね)川運搬物の堆積(たいせき)作用でふさがれたもので東端から利根川へ流れる木下(きおろし)川で排水している。かつて利根川の増水で水が逆流して沿岸の水田に被害を与えたので水門をつくって防いでいる。ウナギ・フナなどの淡水魚の豊富なつり場であり，また沿岸の干拓も進んでいる。

デカブリスト　［Dekabrist］　1825年12月ロシアでツァーリズム*と農奴制に対して反乱を起こした貴族革命家たちの総称。ロシア語デカブリ(12月)に由来する。南方結社と北方結社の二つがある。ほとんどが中流以上の貴族・地主からなり，高い教養を身につけた青年将校であった。デカブリストの蜂起(ほうき)は，1825年11月アレクサンドル１世*急死後の空位状態と，政府が結社の弾圧を意図しているという情報とによって決意された。12月14日北方結社はペテルブルクの元老院広場に部隊を集め，武装示威によって所期の憲法をかちとろうとしたが，これを包囲した政府軍に対する反感が民衆の間に広がり，これを恐れたニコライ１世*は反乱軍を強圧的に鎮圧した。一方，これに呼応して南方結社も12月29日，S.I.ムラビヨフ-アポストルの指揮下にキエフに進撃したが，翌年１月３日政府軍の反撃で壊滅した。彼らは民衆から遠かったために歴史を変えることはできなかったが，革命的インテリゲンチャの先駆として，組織的に公然とツァーリズムに立ち向かい，のちのロシア革命に思想的，戦術的教訓を残したといえる。

てがみ　**【手紙】**　人に会って直接話すかわりに，文章によって，事実や感情・意思などを伝えるもの。古くは，書簡(書翰)・書信・尺牘(せきとく)・寸楮(すんちょ)・消息・往来・玉梓(たまずさ)(玉章)・文(ふみ)などともよばれたが，江戸時代から一般に手紙というようになった。

手紙をその内容・用途などによって類別すると，次のようになる。

①内容別：日常用いられる普通の書簡文，商取引に用いられる商業文，官公庁・公共団体の通達文書に用いられる公用文。

②用途別：社交の手紙と実用の手紙とになる。前者には，年賀状・祝い状・あいさ

つ状・見舞い状・贈答状・案内状・通知状・招待状・披露(ひろう)状・悔み状などのほか，旅のたより，愛の手紙(恋文)など，後者には，依頼状・紹介状・照会状・通知状・貸借状・注文状・催促状・謝絶状などがある。

また，散文で書かれた手紙のほかに，詩歌・絵などを用いたものもあり，文体によって口語文・文語文・候文(そうろうぶん)，古くは尺牘体・往来体(いずれも漢文体)，などと区別することもある。いわゆる手紙は封書ともいわれ，巻き紙，または用箋(ようせん)に書いて封筒に入れて封をしたものであるが，はがきや布などに書いたものも含めて手紙ということもある。なお，はがきは封書と比べると略式で，他人に見られてもいい内容の場合に用いるものとされている。

手紙は相手に内容を正しく気持ちよく伝えることが第一であるが，長年の慣習や経験からいちおうの基本型ができている。それはふつう，本文とあとづけからなり，それぞれ次のような内容を含む。

本文
- 前文　書き出し(頭語，起筆)・あいさつ
- 主文
- 末文　結び(結語)

あとづけ
- 日付
- 署名(差出人の氏名)
- あて名(受取人の氏名)・敬称
- わきづけ

ときには主文に書き漏らしたことを追加する副文(追って書き)が添えられることもある。〔石黒　修〕

デカメロン　ボッカッチョ*の小説。1348～1353年に書かれたイタリア文学史上における記念碑的作品である。ペストの災厄(さいやく)を避けてフィレンツェ郊外の教会に集まった7人の若い婦人と3人の青年によって，1日に各一つずつ語られた100の物語からなる。《デカメロン》とは《10日物語》の意味である。作品の特色は，物語の素材の豊富さ，人物の多様さなどにみられるが，それらは民話や口承などに多くよっている。またそれぞれの物語・人物に適応した文体の駆使は多岐にわたっており，〈イタリア散文の父〉と称されるゆえんもそこにある。近代市民社会への胎動が，悲喜劇・風刺・好色にいろどられた人間模様としてリアリスティックに描き出され，後世に多大の影響を与えた。〔田島　修〕

てがら　【手絡】　女髷(おんなまげ)に装飾として掛ける布。鹿(か)の子絞りの羽二重が多く，色は年齢によって紅・桃色・水色・紫などを用いる。江戸時代から使用され，現代では結綿・桃割*・丸髷などにみられる。

デカルコマニー　[décalcomanie]　転写の意味であるが，特に画用紙に適当に何色かの絵の具を塗ったりたらしたりしてから，二つ折りにして押え，それを開いてできあがる奇妙な模様をいう。その模様は山に見えたり，人や木に見えたり，あるいは火や谷に見えたりして，偶然による幻想の不思議な世界を見せる。これはシュルレアリスム*の画家によって未知なるものへの探求として始められた手法である。方法としては，一枚の紙を二つ折りにするだけでなく，二枚の紙で試みてもよい。ロールシャッハ*の性格診断テストでは，この種の模様を見せてなにに見えるかを答えさせ，形象把握(はあく)の傾向から個人の内面を判断しようとする。〔萩原卓也〕



デカルト

デカルト　[René Descartes]　(1596～1650)　フランスの哲学者・数学者。近世哲学の祖といわれる。ツーレーヌの法服貴族(フランス絶対王制下の官僚貴族)の生まれ。1606年，イエズス会の経営するラ-フレーシュの学校に入学，スコラ哲学を学んだが満足できず，数学にのみ多少の期待を見いだす。1616年ポァチエ大学法学士，1617年より志願して軍務につき，オランダ・ドイツに出征。1619年11月ウルム近郊で夢を見，自己の使命を啓示されたと信ずる。除隊後，大陸各地を訪れた。1629年思索と研究に専念するためオランダにおもむく。以来ほぼ20年間同地にとどまり，重要な著作のほとんどを書いた。1649年9月スウェーデン女王クリスチナに招かれてストックホルムに渡り，翌年2月肺炎のため同地で没。

彼は新しい学の体系を構想し，その確実・堅固な基礎を求めていっさいを方法的に疑い，〈コギト-エルゴ-スム(われ思う，ゆえにわれ在(あ)り)〉の真理性に到達。次いで〈われ〉の不完全性から神の実在を，神の誠実性から外界の存在を証明，同時に真理の基準が直観的明証性と演繹(えんえき)的確実性にあると確信した。彼はこれらの観点から自然(物質)を純粋なメカニズムとして把握(はあく)する視点を開き，動物まで自動機械とみなした。他方自我の自由，主体性の確立をめざし，その理念は〈高邁(こうまい)な人間〉のイメージに結晶される。しかし精神と物質の区分を極端に推し進めたため具体的人間における心身関係の問題に難点を生じ，以後の哲学の重要な課題となった。数学者としては解析幾何学の創始者として有名。主著《精神指導規則》《方法叙説*》《省察録》《哲学の原理》ほか。〔石井忠厚〕

デカルボキシラーゼ　⇨脱炭酸酵素

デカン(高原)　[Deccan]　インド半島のほぼ全域を占める広大な台地。西縁は西ゴーツ山脈で，1,000mの落差をもってアラビア海に面する。東方にゆるく傾斜し，東縁は断続した高度500m前後の東ゴーツ山脈となっている。高原は母岩の玄武岩が風化した黒色土からなり，肥沃(ひよく)な綿花生産地帯として有名である。南西季節風が西ゴーツ山脈でさえぎられるため，一般に降水量は少ない。石炭・マンガン・鉄鉱などの鉱産資源に恵まれている。〔大石堪山〕

てきおう　【適応】　生物のもつ形態的・生理的性質が，その生物の生活条件に適合していく過程，すなわち適したものへの変化をいい，遺伝的に伝えられるものをさす。一個体が変質した生活条件にこたえる変化で，非遺伝的なものは順化*といって区別している。適応は進化の重要な要因とみなされている。たとえばウマでは5本指の祖先型から3本指を経て1本指の現生ウマが出現した。この形態変化は疾走・跳躍という機能の発展と結びついている。➔次項

てきおうほうさん　【適応放散】　ある種族の生物が一定の進化の段階に達したとき，多くの異なった自然環境の中で生活するのに適した形態的および生理的な分化を比較的急激に起こし，時代の経過とともに著しく変化にとんだ系統群を生ずること。アメリカの古生物学者オズボーン*が，雷獣類*や長鼻類*の研究に基づいて提唱(1917)した進化論上の概念。化石を対象とする広範な研究から推定される現象で，進化史上種々の動物群に数多く起こったことが認められている。たとえば，長鼻類は新生代の間にゾウ類を含めて約30の主系統に分かれ，ほとんど全世界の陸地に分布した(洪積世(こうせきせい)までにその大半が絶滅)。またオーストラリアの有袋類は，形態・生理・生息場所・食性のいずれの面でもきわめて多彩な系統群を生じており，適応放散の好例とされる。これらにかぎらず，一般に，類縁の近い多数の種族からなる動物群は，程度の差はあれ，適応放散の結果現われたものとみることができる。〔田隅本生〕

テキサコ　[Texaco, Inc.]　アメリカ第3位の大手石油メーカー。1902年にテキサス州の油田開発のため設立され，現在は石油化学の方面にも進出している。油田は特にテキサス・ラーに根拠を置き，全生産の34％を占める。このほか，中東のサウジアラビア・バーレーンなどでも50％を生産している。石油精製も各地ごとに行ない，水素添加装置や関連処理装置など工場の近代化を進め，高オクタンガソリンや高価な製品を製造している。石油化学分野ではベンゼン・トルエンなどをつくり，特にノルマルパラフィンは1工場の年産が2億ポンドにも達し，世界第1位である。千葉県市原に三井石油化学との合弁会社三井テキサコケミカルがある。そのほか合弁会社として日本石油精製(当社とスタンダード-オイルとの合弁会社カルテックスが日本石油と合

弁で設立)や興亜石油があり，他に多くの会社が技術導入を行なっている。本社ニューヨーク。年間売上高63億5,000万ドル，従業員数73,000(1970)。　〔氏家　尚〕

テキサス(州)　[Texas]　アメリカ合衆国南部，メキシコと境を接する州。面積68万1,000km²。人口1,119万7,000(1970)。州都オースチン。古くはメキシコ領であったが，1836年メキシコから独立してテキサス共和国をつくった。1845年合衆国に加盟したが，1861年に脱退して南部連盟に加入し，1865年に奴隷を解放して1870年3月に合衆国28番めの州となった。州名はカドー族などのインディアンのことばで〈友人〉の意。石油・天然ガス・ウシ・ヒツジ・綿花・米の生産高は全国第1位。全米の原油埋蔵量の半分を有し，約19万本といわれる掘削井戸で産する石油は，全国の35%に達している(1967)。またマグネシウム・アンチモン・イオウ・銅・鉛・スズなどの鉱物資源も多い。その他では輸送機関製造工業が盛ん。主要都市，ヒューストン・ダラス・サンアントニオ・フォートワース・エルパソ・オースチンなど。　〔相村大彬〕

テキサス-インスツルメンツ　[Texas Instruments, Inc.]　アメリカの電子機器製造メーカー。集積回路や半導体などの電子部品をつくるほか，被覆金属・レーダー・制御機器を製造する。また，設立当初の探鉱サービス業でも活躍している。つねに研究を重ね，ソリドステートマイクロウェーブ部品を空軍のMERA計画に取り入れたり，ガス体から直接にシリコンの単一結晶ロッドを取り出すなど電子機器の利用範囲を広げている。また，イギリス・西ドイツ・フランス・日本など海外10余か国に半導体製造工場を経営するなど海外進出に意欲的で，売り上げの20%を海外市場で占める。わが国ではソニーと集積回路の合弁会社を設立している。本社テキサス州ダラス。年間売上高8億3,000万ドル，従業員数59,000(1969)。　〔氏家　尚〕

できし　【溺死】　水死ともいう。水その他の液体(溺水)により気道の空気の流通が妨げられて窒息すること。日本では諸外国に比べて幼児の溺死が多い。幼児や泥酔者(でいすいしゃ)では，バケツや洗面器などのわずかの水量にも，顔面をつけることで溺死することがある。溺死の経過は窒息の経過とほぼ同様で，まず意識的に呼吸を止めるが，30～60秒後に呼吸停止に耐えられず，けいれん性の呼気運動を，次いで呼気性・吸気性の全身のけいれんを起こし意識が消失する。この間に肺内に水を吸引して，1～2分で終末期に移行し，全経過4～5分で死亡する。溺死時(水中死体)の死体所見としては，死体の冷却していること，水中で体位が安定しない場合には死斑(しはん)が明らかでないこと，死斑は鮮紅色で，鳥はだだち，手・足部が白くふやけること(漂母皮化)，口・鼻より細泡沫(さいほうまつ)が洩出(えいしゅつ)することなどがみられ，時日が経過して腐敗が進行するとふくれあがりいわゆる土左衛門(どざえもん)とよばれる状態になる。肺は水の吸引により著明に膨満状となり，肺胞まで溺水を充満し，割面からは多量の水と細気泡が洩出してくる。ときとして気道内に水中異物(どろ，砂，細かい浮遊物片，プランクトンなど)を認めることもあり，消化管に多量の水を飲み込んでいることもある。　〔朝倉　了〕

てきしゃせいぞん　【適者生存】　ダーウィンの自然選択説の基本をなすもの。一般に生物は親の数よりも多くの子を生じるが，そのすべてが次の代の親になるわけではなく，平均すれば親と同じくらいの数しか子は育たない。生長の途中で，環境により適した個体が生き残る可能性の高いことを，適者生存という。ダーウィンは，進化の面からみた有利さの程度を生殖年齢に達する子の数で表わしたので，適者生存の意味は，生長してより多くの子を残すことをさしている。　〔北川　修〕

てきじょ　【滌除】　抵当不動産について所有権・地上権または永小作権を取得した第三者が，抵当権者の承諾を得たうえで，その不動産の評価額に相当する金銭を支払い，または供託して抵当権を消滅させることをいう(民法378条)。すなわち，抵当不動産の第三取得者は，自分が相当と考える不動産の評価額を抵当権者に提示して，抵当権の消滅を申し出る(民法383条)。抵当権者がこの申し出を，承諾するしないは自由であるが，承諾すれば，第三取得者は，その金銭を支払い，または供託して抵当権を消滅させることができる。承諾しない場合には，抵当権者は増加競売を1か月以内に請求しなければならず，その期間内に請求しないときは，第三取得者からの送達を承諾したものとみなされる(民法384条)。増加競売とは，第三取得者の提示した金額の1割増しで買取る旨を付言し，かつその代金および費用について担保を供することを内容として，抵当権者が申請する競売のことである(民法384条)。この滌除の制度は，抵当不動産の権利を取得した者を保護することにその目的があるが，抵当権者にとっては手続が複雑であるだけでなく，抵当権それ自体の価値権が侵害されるという弊害もある。農業動産信用法で，農業用動産の抵当権について滌除を排斥しているのはそのためである。　〔黒木三郎〕

デキストリン　[dextrine]　デンプンを薄い酸・熱などで部分的に加水分解して得られる生成物を総称し，ブドウ糖の結合数はマルトースより大きい。ブドウ糖残基の数によりアミロデキストリン(30～50個)，エリトロデキストリン(8～12個)，アクロデキストリン(4～6個)などに分けられる。水にとかしてのりとして利用されることが多い。アクロデキストリンはヨウ素反応を示さないが，アミロデキストリンでは青色，エリトロデキストリンでは赤かっ色を呈する。　〔南川隆雄〕

てきせいけんさ　【適性検査】　適性を判定・評価・測定するために行なわれる検査の総称。適性検査は，適性の有無やその程度を判定することで，課されている状況や場面環境への適応の可能性を予測するものであるから，その意味で予診的検査であり，すでに学習された結果を測定する学力検査とは区別される。現在行なわれている適性検査は，大別すると，職業適性検査，進学適性検査，音楽・美術適性検査，レディネス-テスト(学習を効果的に行ないうるレディネス〔準備〕が整っているか否かを判定する)などがある。これらは，①体格や生理的機能の面，②運動・感覚機能の面，③一般的知能，④特殊な能力，⑤人格傾向などの側面から測定され，その結果は各個人の性格特性や能力に適した進路を見つけ出すための基礎資料とするほかに，職場において，人材を適所に配置し仕事の能率をあげ生産を高めるための指針としても利用されている。　〔馬場礼子〕

できだかばらい　【出来高払い】　賃金を，労働者の生産量と関連させ，仕事の出来高に応じて支払うこと。能率給の一種。運送会社が荷物扱いの数量に応じて労働者に賃金を支払うのがその例である。労働基準法は，出来高払い制その他の請負制で使用する労働者については，使用者は，労働時間に応じ一定額の賃金の保障をしなければならないとしている(同法27条)。これは労働者の責任によらない事由によって，実収賃金が低下することを防ぐ趣旨のもので，労働者がつねに通常の実収賃金とあまり隔たらない程度の収入を保障されるように保障給の額を定めることとしている。ただし，その保障給の支払いを請求するためには，一定額の賃金の支払いを受ける旨の契約を使用者との間に締結していることが必要である。　〔黒瀬信子〕

てきだんとう　【擲弾筒】　手榴弾(てりゅうだん)を数百メートルの遠方にまで投擲する火器。小形筒状で，歩兵が携帯する。取り扱いが簡便なわりに威力が大きく，小形迫撃砲の性格をもつ。

てきてい　【滴定】　容量分析の際反応の終点を求めるために行なう一連の操作。一定体積の試料溶液に存在する物質と反応する濃度既知の試薬(標準溶液)を，その物質の全量が定量的に反応してしまうのに必要な量だけ加え，その量から化学量論的な計算により物質を定量する。滴定終点を知るには，試料溶液と標準溶液との間の色の変化を利用する場合，指示薬の変色を利用する場合や物理化学的方法を利用する場合がある。終点検知に用いる方法により，電位差滴定・伝導率滴定・電流滴定・高周波滴

定・光度滴定などに分類され，また滴定反応の型により中和滴定・酸化還元滴定・錯滴定・沈殿滴定などに分類される。また標準溶液の種類により過マンガン酸塩滴定・重クロム酸塩滴定・ヨウ素滴定などともよばれる。〔三輪誠・野宮健司〕

てきや　**【的屋】**　⇨香具師(やし)

テキラ　[tequila]　メキシコの蒸留酒。リュウゼツランの一種の液を発酵させたメッカルという醸造酒(アルコール度が低く保存性がない)を蒸留したもの。アルコール分は40～50度で，現地では塩をなめ，レモンの薄切りをかみながら飲む。

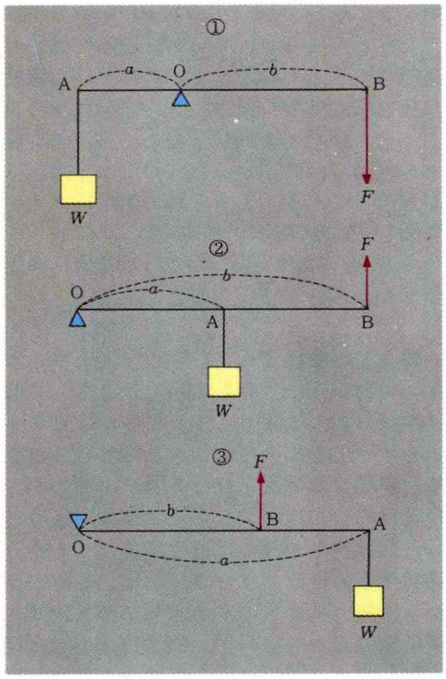
テグシガルパ　[Tegucigalpa]　中央アメリカ，ホンジュラス共和国の首都。人口27万5,000(1973)。中南部山地に位置する鉱山都市で，周辺には金・銀の鉱山がある。1578年に鉱山開発の基地として建設されたが，1890年以後産出が減少している。建設以来，大火や地震を一度も受けず，昔ながらのおもかげが残っている。

てぐす　**【天蚕糸】**　つりに用いる白色透明な糸。本てぐすは，ヤママユガ科のテグスサンの幼虫の体内から絹糸腺をとって酸で処理したもの。伸びが少なく水切れのよい性質がつり糸に適するが，現在は人造てぐす・合成てぐすが発達して，ほとんど用いられなくなった。ナイロン製などのものは強度・防湿性・防腐性などにすぐれているが，すべりやすいので，結ぶときは，二重結びなど特殊な方法を必要とする。なお，ウマの尾毛を用いた馬素(ばす)は毛づりに使用される。〔清水游谷〕

テクスチュアードヤーン　[textured yarn]　かさ高加工糸の一。合成繊維の熱可塑性を利用して，繊維にらせん状・波状などの加工を施し，伸縮性・保温性などを与えたもの。このうち特に伸縮性の大きいものをストレッチヤーンという。

テクタイト　[tektite]　天然ガラスの一種。黒色または暗緑色，透明で，球状・水滴状などを呈する。コクヨウ石に似ているが，火山とは無関係に産する。大きなものでも重さ1kgぐらいで，普通は数十グラム程度である。おもな産地と年代は，チェコスロバキアのモルダウ川流域(約1,500万年前)，フィリピン・インドシナ半島・インドネシア地域(約70万年前)，オーストラリア地域(約70万年前)，アメリカ合衆国のテキサス州地方(約3,400万年前)などである。テクタイトの成因については諸説があったが，最近では，隕石(いんせき)が地表に衝突したときの高熱で地表付近および隕石自体がとけて飛び散ったものと考えられるようになった。月の表面をおおっている物質の中には，テクタイトと似たガラス球が多いが，化学組成は月の岩石に近く，テクタイトとは違っている。〔片山信夫〕

でぐちおにさぶろう　**【出口王仁三郎】**　(1871～1948)　新興宗教大本(おおもと)教の教主。本名は上田喜三郎。京都府下の貧農の長男に生まれた。長じて近くの高熊山に登り，霊的修行をしたが，1898年(明治31)当時赤貧洗うがごとき状態にあって神がかりになり，信者を獲得していた出口ナオを訪問して回心した。翌年ナオの五女スミと結婚し，まもなくその小宗団の実権を握った。彼は，ナオが神がかり状態で書いた〈お筆先〉に解釈を加えて〈神諭〉とし，〈鎮魂帰神法〉と称する催眠術の一種をとり入れて，信者と教団の増大を図った。しかし1921年(大正10)幹部の第1回大検挙にあい，教団は壊滅状態に陥った。のち大本教の満州・蒙古(もうこ)への進出を画策し，エスペラント運動を起こしたりして勢力を挽回(ばんかい)したが，1935年(昭和10)第2回めの大弾圧をうけた。王仁三郎は旅先で検挙され，治安維持法・不敬罪で起訴された。1942年の保釈後は，楽焼きなどをして暮らし，78歳で没。〔山折哲雄〕



て　こ

デ-クーニング　[Willem de Kooning]　(1904～　)　オランダ生まれのアメリカの画家。ロッテルダムの美術学校で学んだのち1926年に渡米。レジェ・ゴーキーらと交わったが，1940年代半ばから頭角を現わし，1948年の最初の個展で国際的に評価された。〈女〉を主題とした作品群にみられるような力強いタッチ，華麗な色彩の抽象表現主義的作品やコラージュなどによって，現代絵画を代表するひとりと目されている。

テクネチウム　[technetium]　周期律表第Ⅶ族に属する人工放射性元素。記号Tc，原子番号43。1937年にセグレとペリエはモリブデン-ターゲットに重陽子および二次的に生成した中性子を衝突させて10^{-10}gの43番元素をつくった。人工的に得られた元素であるので，ギリシア語の人工という意のテクニコスにちなんで命名された。製法は，中性子照射したウランを塩酸に溶解し，臭素水で酸化して塩化ウラニルとし，テクネチウムを硫化物として沈殿させ，分離精製ののち水素気流と加熱して金属を得る。銀灰色で，融点2,140±20℃。〔古屋　弘〕

テグネール　[Esaias Tegnér]　(1782～1846)　スウェーデンの詩人。牧師の子に生まれ，早く父を失い，貧苦の中で働きながら勉学を続け，ルンド大学に入学，のち同校ギリシア語教授となった。独自な詩によって愛国詩人とされ，古代アイスランドの〈サガ〉に取材した物語詩《フリチョフ物語》は世界的に著名。晩年は生来の憂鬱症(ゆううつしょう)がこうじ，精神病院で死んだ。

テーグム　**【大笒】**　朝鮮半島の伝統的な横笛の中で最長のもの。吹口・指穴(6個)のほかにその中間に竹の薄い裏皮を張った穴があり，音楽的に重要な箇所でアクセントをつけたり，また音色を変えたりするとき，強く吹いて通常の音以外に薄い膜の振動する騒音を加える。雅楽(アアク)などの合奏では音律の標準楽器である。器楽曲の散調(さんじょう)や声楽曲の時調でも使われる。

てぐりあみ　**【手繰り網】**　引き網の一種で，地引き網が陸岸を拠点にして行なわれるのに対し，手繰り網は船によって行なう引き寄せ網漁業である。操業方法はロープの一端に浮子(あば)をつけて海中に投じ，船を移動させながら網地(袋網と両そで網)を繰り延べていき，他のそで網に連なるロープを海中に投じ終わったとき，最初に海中に投じておいたロープを拾い上げられる位置にもってくる。引き回したのちたぐり寄せて引き上げる。手繰り網の中ではパッチ網が最も盛んで，カタクチイワシやイカナゴが主対象となっている。各種の船引き網がこの漁法から発展したために，打た瀬網や機船底引き網も手繰りと呼称されることが多い。〔石野　誠〕

てこ　**【梃子】**　棒を一点の回りに自由に回転できるようにささえ，力の大きさを変えるために用いる単一機械の一種。てこを利用すると小さい力で大きい力とつり合わせたり，小さな力を加えて大きな力を作用させることができる。天秤(てんびん)・竿秤(さおばかり)・くぎ抜き・かん切り・はさみなどはてこの応用である。図に三つ応用例を示す。Oは棒をささえる支点，Aは物体に力が働く作用点あるいは重点，Bは力を加える力点。いずれの場合も力のつり合いの条件から$aW=bF$がなりたつ。a/bの値を小さくすれば，小さい力で重い物体をささえることができる。なお外からてこに加える仕事は，てこが外部に対してする仕事に等しい。〔有山正孝〕

てごと　**【手事】**　地歌と箏曲(そうきょく)で楽器だけによる間奏のうち比較的独立性の

強い部分をさす。したがって，歌詞としてのまとまりのある前唄(まえうた)や中唄のあとに置かれる。手事は器楽的な演奏技法をきかせるところであるが，歌詞の内容から描写的な性格を与えられる場合もある。特に虫や鳥の声，布ざらしの音などがよく扱われ，またそうしたパターンは他の曲に引用されることもある。また，手事を中心にした地歌・箏曲を手事物という。寛政年間(1789～1800)以降この傾向が盛んになり，また，地歌の手事物に，のちに八重崎検校(けんぎょう)が箏の替え手をつけたため(たとえば《四季の眺(なが)め》)，箏曲のレパートリーとしても定着している。手事の演奏に際しては，二つの旋律(同じ手事の異なる部分や他の曲の旋律)を同時にひくことも行なわれるが，多くはわずかの装飾的な差異をもった声部の重なりや，同じリズム形による呼応関係がみられる。〔徳丸吉彦〕

てごともの【手事物】⇨前項

てこまい【手古舞】江戸の祭礼で，山車(だし)や神輿(みこし)の前を露払いとして木遣(きや)り歌を歌いながら歩く人。江戸時代には鳶職(とびしょく)の男性などもこの役をしたこともあるが，現在手古舞をするのは男装をした女性である。男髷(おとこまげ)を結い，片肌(かたはだ)を脱ぎ，一種の山袴(やまばかま)である〈たっつけ〉をはき，手甲をつけ，紺の足袋(たび)にわらじをはき，背には花笠(はながさ)を負い，首には手ぬぐいを軽く結び，〈火の用心〉と記した紙製のたばこ入れを腰に下げ，左手に鉄棒，右手にボタンの花をかいた扇を持って歩く。〔佐藤 薫〕

デザイン ⇨次ページ

でさきぼうえき【出先貿易】外国に営業の根拠をもつ貿易業者が，その駐留する外国と他の外国との間の貿易に従事すること。たとえば，シンガポールに定住する日本商社またはその在外支店が，カルカッタから仕入れた麻布を広東(カントン)に転売し，ジャカルタで買い付けた砂糖を香港(ホンコン)に売るなどは，その適例といえる。この種の貿易では，その取り扱い商品が営業者本国の国境を通らないので，自国の貿易統計には現われないが，有形・無形の利益で本国を潤すものである。〔上坂酉三〕

デザート［dessert］西洋料理で料理がひととおりすんでから出される食物の総称。甘味料理(フランスではアントルメという)・チーズ・くだもの・飲み物などがある。甘味料理には甘い生菓子が使われ，アイスクリームなどもよく用いられる。飲み物は濃いコーヒーをデミタス(食後コーヒー用の小さなカップ)に入れて出す。クリームを入れないブラックコーヒーがよく用いられるが，好みによってクリーム・砂糖を用いてもよい。昔はコーヒーを食卓でなく別室で供したが，現在は食卓で引き続き出すことが多い。ときにはブランデー・リキュールなどを供してもよい。デザートは20世紀初めまでは，テーブルクロスなども変えて豪華なふんい気で食後のだんらんを楽しんだものであるが，現在はこのときにテーブルスピーチが行なわれるなど，簡略化された形式のものが多い。〔泉 敬子〕



デージー

デージー［daisy］双子葉植物・キク科。ヒナギク・エンメイギクともいう。ヨーロッパ原産の多年草であるが，夏の暑さと乾燥に弱いのでふつう毎年種子をまく。葉はすべて根生葉で，長さ２～４cm，幅３～８mmのへら状卵形。タンポポのように高さ６～９cmの花茎を出し，直径３～５cmの頭状花を１個つける。管状花は黄色，舌状花は白・紅・紅紫色などで，八重咲き品種もある。春の花壇に欠かせぬ花で，縁どりなどによく用いられる。

てしおがわ【天塩川】北海道北西部，天塩岳に源を発し，名寄(なよろ)盆地を通って北上し，天塩平野に出て日本海に注ぐ。流程270kmで北海道では石狩川に次ぐ第２の長流である。下流のサロベツ原野には未開墾の広い農業適地があり，開拓が進められている。

てしおさんち【天塩山地】北海道の脊梁(せきりょう)山脈のうち，北半の西部を占める山地で最高峰はピッシリ山(1,032ｍ)。平均500～600ｍの丘陵性の山地で，北は宗谷岬(そうやみさき)から南は神居古潭(かむいこたん)の谷に至る。北端では，宗谷丘陵との間に天塩川が横谷をつくって流れ，東側は北見山地との間に名寄(なよろ)盆地をはさむ。

デ-シーカ［Vittorio De Sica］(1902～1974) イタリアの映画監督。舞台俳優から身を起こし映画俳優となり，1939年の《真紅のバラ》で監督となる。第２次世界大戦後は《靴(くつ)みがき》《自転車泥棒(どろぼう)》などヒューマニスティックな立場で戦争直後の社会を描き，ロッセリーニとともにネオレアリスモの代表的存在として世界的に注目されるようになった。その後は《ミラノの奇蹟(きせき)》《昨日(きのう)・今日(きょう)・明日(あした)》など，風刺的な喜劇をつくっている。

てしかが【弟子屈(町)】北海道，釧路(くしろ)支庁の北端，川上郡にある町。人口12,000。1947年(昭和22)町制施行。ジャガイモ・テンサイ・アマを産し，酪農が行なわれ，木材・木炭などの林産物も多い。釧網(せんもう)本線・国道241号線(横断国道)・243号線(黒百合(くろゆり)国道)が通じ，町域の大半は阿寒(あかん)国立公園の区域内にあって，摩周湖(ましゅうこ)・屈斜路湖(くっしゃろこ)などの景勝地に富む。中心集落の弟子屈は阿寒川上流に沿う温泉地で，北部のアトサヌプリ山(硫黄(いおう)山，336m)の北のふもとの川湯温泉とともに観光基地である。弟子屈空港があり，摩周湖周遊観光道路が北東へ延びる。

デジネフ(岬)［Dezhnev］ソ連，シベリア東端のチェコト半島東端にあり，ユーラシア大陸の東端にあたるので東岬ともよばれる。アメリカ合衆国のアラスカとは，最狭部でわずか60kmのベーリング海峡を隔てて相対している。

デシベル［deci Bel］電圧や電力などの減衰や利得を，あるいは音の強さを標準音との比較で表わすのに用いる単位。記号dB。電力P_1とP_2の比を表わすのにその常用対数(単位ベル)をとるが，実用上はその10分の１の単位$10\ \log_{10}(P_1/P_2)$をとり，これをデシベルとする。もともとは有線通信工学で，入力端と出力端の電力比の対数をとったものであるが，これをさらに拡張して電圧比・電流比にも同じ表示を用いている。ただしこの場合には，電力が電圧または電流の２乗に対応するから，デシベル値は電圧比または電流比の常用対数値を20倍したものとする。基準の電圧あるいは電流に対する電圧値・電流値の表示にデシベルを用いることもある。たとえば，600Ωの抵抗に対して１mWの電力を供給する電圧E_0を基準にして$20\ \log_{10}(E/E_0)$の値によって電圧Eのデシベル値表示とする。また音響学においても，音圧をpマイクロバールと表わすかわりに，0.0002マイクロバールを基準として$20\ \log_{10}(p/0.0002)$デシベルをもって表わす。ここで基準音圧0.0002マイクロバールすなわち０dBは，1,000ヘルツにおける人間聴覚の最小可聴値である。このように対数をとることは，非常に広い範囲に変化する物理量をあまり変わらない少ない桁(けた)数の数値で表わすことができるほか，刺激によって生ずる人間の感覚量が刺激の対数に比例するというウェーバー-フェヒナーの法則が示すところにより便利なことが多い。〔池谷和夫〕

でじま【出島】長崎市の南部，長崎湾に面する地区。鎖国時代における日本唯一の貿易地として知られる。江戸幕府が最初の鎖国令を出してから，当時市中に雑居していたポルトガル人を隔離するため長崎の豪商たちに命じてつくらせた埋め立て地で，1636年(寛永13)に完成した。中島川河口付近の扇形の砂州上にあり，面積は約13,100m²。幕府が1639年にポルトガル船の来航を禁止し，1641年に平戸のオランダ商館をここに移して以来，幕末まで200余年間，オランダ人居留地として外来文化流入の窓口となった。当時は石橋によって市街地と通じ，

➔526ページ

デザイン
［design］

デザインということばは〈指示する〉という意味のラテン語designareに由来する。一般にデザインには，指示する，計画をたてる，下絵を描くというような意味内容があてられるが，基本的な概念は計画ないし設計に尽きるであろう。したがって，広義に解釈すれば，個人・家計・企業から始まって都市から国家に至るまで，また政治・経済・芸術など，すべての人間活動の領域にもデザインの存在がある。しかし，限定された意味では，芸術における計画ないし設計をさす。この場合デザインは，芸術作品を構成すべき種々の構成要素を一定の意図に基づいて構想し，一つの作品に組織化することを意味する。さらに，現代において限定されようとしている意味では，プロダクト-デザインおよびコミュニケーション-デザインに関して，美と有用性を目標に行なわれる造形活動の計画ないし設計をいう。

デザインは，一定の用途をもつものをつくろうとする活動であるから，明らかに目的・意識的な活動ということができよう。デザイン活動における目標は，簡単にいえば，美と機能の秩序ある統一ということである。デザインとは，美や用というようないくつかの価値をある用途にかなうように相互に関連づけて，一つのまとまった全体を生み出そうとする活動である。

デザインの構成契機として，美的契機・機能的契機のほかに考えられなければならないものに，構造的契機・材料的契機・形式的契機・技術的契機・経済的契機・環境的契機などがある。機能が有効に発揮されるためには，当然それに相応する構造が要求されるし，その目的にかなった材料を選ぶことが要求される。そして，材料のうちに機能を形態化するために，機能的契機と材料的契機を媒介するのが形式であり，この美的で機能的な形態をつくる手段が技術である。その際，よい製品を安価につくるという意味で，経済的契機が問題とされよう。そして，それらの契機を顧慮しながら，用いられる環境との関連を考え，目標に向けて相互に検討し，総合して一つのまとまった全体へと組織化する。このように，造形的形態化をなすことにより，はじめて，デザインは成立する。

【デザインの分野】デザインの分野は類型的に二つに大別される。一つは伝達を目的とするコミュニケーション-デザインであり，視覚的表現により情報を効果的かつ美的に造形するものである。印刷という複製手段*を通して行なわれるグラフィック-デザイン*や，商業活動を助けるためのコマーシャル-デザインや，公共的な宣伝や広報に役だつデザインなどが含まれる。これらは，いずれも視覚によって情報が伝達されるので，ビジュアル-デザインともいわれる。もう一つは，用という狭義の機能を目的とするプロダクト-デザインであり，実用的製品を合目的的かつ美的に造形するものである。これは，狭い意味でのインダストリアル-デザイン*といえよう。

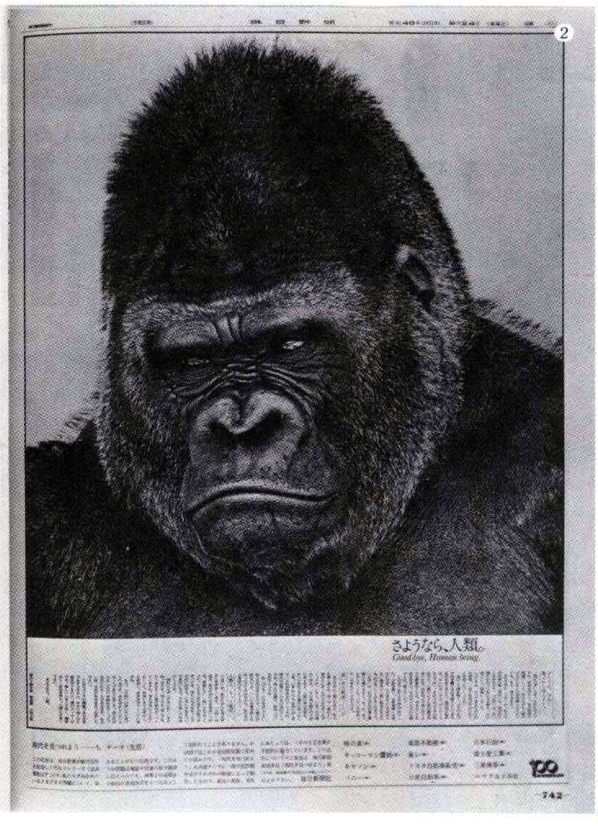
しかし，以上のような分け方においても明確な境界線があるわけではなく，プロダクト-デザインにもコミュニケーション-デザインの面はあり，コミュニケーション-デザインにもプロダクト-デザイン的な要素はある。そして，両方の側面をもつ中間的なものが存在することはいうまでもない。また，環境全体の造形を目的とするエンバイランメンタル-デザインという分野も考えられつつあり，今後の展開が注目されている。なお，デザイン実務の上から便宜的に用いられているものに，マーク-デザイン・エディトリアル-デザイン・新聞雑誌広告デザイン・POPデザイン・ディスプレー-デザインなどがあり，ほかに立体と平面のデザインに二大別されることもあるが，デザインの本質とはかかわりのない分類法である。

【近代デザインの歴史】近代デザインの歴史は，19世紀後半のモリス*の美術工芸運動（アーツ-アンド-クラフト）によって始まる。モリスは，芸術と工芸の結合一致をめざし，すべての工人は芸術家にならなければならないと主張した。そして，デザインは特権階級のために存在するのではなく，民衆のためのものであるとの考えから，人類全体の美的生活の確立を願った。彼は，その理想をゴシック美術*の理念に求め，人間の手による工芸の美を主張し，機械による大量生産を排撃した。民衆の日常生活の向上を考えるにもかかわらず，手仕事尊重からくる極端なまでの機械嫌悪(けんお)により，機械を排撃したことは，明らかに歴史に逆行するものであり反近代的であった。しかし，人人に手仕事の美しさを認識させ，民衆の日常生活に役だつ良質なデザインを求めようとした彼の運動が，その理念において近代デザイン運動の発端となったことは，疑いのない事実である。

20世紀にはいると，それまでの美術工芸運動やアール-ヌーボー*のようなデザインの流れを総合する動きが出てくる。それは，ムテジウス*を中心として，1907年に設立されたドイツ工作連盟による運動である。彼

1





①ユニバーサル-タイプ，ボールド-フエース（バウハウス文字） 1925
②プレス-キャンペーン，現代を見つめよう――テーマ〈生活〉 制作=細谷巌，朝倉勇，小林正昭 《さようなら，人類 *Good-bye, Human being*》《毎日新聞》昭和46年9月24日付に掲載

らの主張は，工業文明を肯定したうえで，すべての力を結集し，良質生産をめざすということであった。このドイツ工作連盟の理念はグロピウスによってさらに展開された。

グロピウスは，芸術と技術の統合という彼の理想の具体化として，1919年，ワイマールに国立のバウハウス*を創立した。バウハウスは，建築において総合される生活空間の造形的研究およびその教育機関であった。ここにおいて，グロピウスは，オーケストラのように緊密で対等に結ばれた協力と総合をめざし，理論と実践の両面から活動を続けた。それは，近代の技術文明がもたらした分業と専門化，および人間の自己疎外に抗するためのものであった。バウハウスは，1933年，ナチス政権の台頭によって閉鎖されたが，その教育精神を受け継いだのがモホリ-ナギ*であった。

モホリ-ナギは，ケペシュとともに，1937年シカゴにニュー-バウハウスを設立した。彼らは，現代の人間を統合者として教育することをめざし，バウハウスの教育理念をさらに展開させた。また，ケペシュの視覚コミュニケーションに関する広範な研究とその成果は，今日の芸術とデザインに非常に大きな影響を与えている。

以上のようなデザイン運動の流れとは別に，アメリカにおいて発達したインダストリアル-デザインの流れがある。19世紀後半から20世紀前半にかけて，文化と造形の伝統をもたなかった新興国アメリカは，新しい機械技術を駆使して，実用性の高い製品を大量につくり出した。すなわち，生活の実際的要求に応じることだけを目的とし，機能のみを果たす製品を安価につくることに努力が向けられたのである。しかし，その後，1920年代に始まる経済恐慌に直面したアメリカ産業界は，消費者の欲求をかきたてて恐慌を乗り切るべく，消費者の要求と企業の利潤追求，あるいはアメリカ式マス-プロ-システムとヨーロッパ式モダニズムを結びつける努力を始めた。そして，かつてのように，機能のみに重点を置いた大量生産第一主義から，美や嗜好(しこう)性にもウエートを置いた新しいインダストリアル-デザインを生み出すに至った。

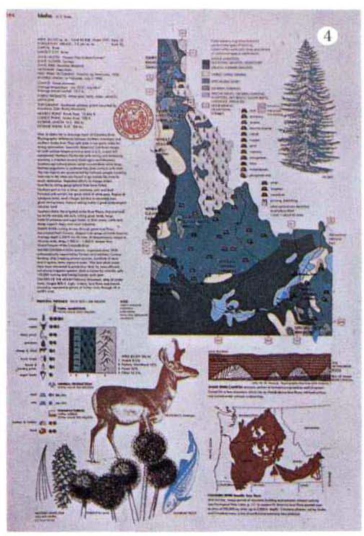
ここにおいて，美・機能・経済性・市場性・構造・材料・技術・形式・環境などの条件を相互に調整し，総合する人間が要請された。このような要請に応じて，その総合調整者として発生したのが，アメリカのインダストリアル-デザイナーであった。1927年，はじめてインダストリアル-デザイン事務所を開いたゲデス*は，このような意味におけるインダストリアル-デザイナーの第1号である。アメリカのこのようなデザインは，第2次世界大戦下において，有効な軍事的手段として活用されることになり，よりいっそう研究され，開発されるに至った。そして，エルゴノミクス（人間工学*）などの新しい科学分野を開拓した工業大国アメリカは，戦後のインダストリアル-デザインにおいても非常な速度で発展を続け，海外市場を席捲(せっけん)するのであった。今日のわが国のデザインには，よい意味でも悪い意味でも，このアメリカ的デザインの影響が非常に色濃く感じられる。

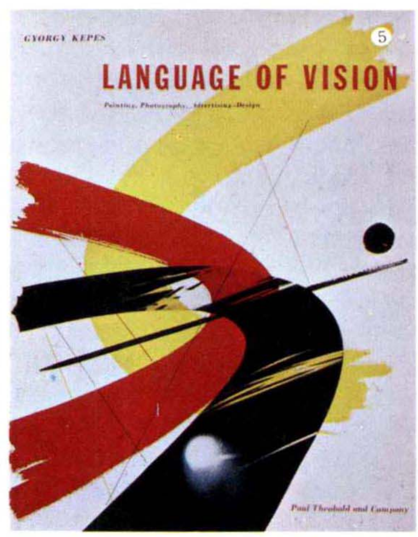
〔デザインと批評〕現代デザインは非常な混迷のさなかにある。わが国のデザインの現況を見渡すとき，最も問題と思われるのは，デザインにおける批評精神の欠如であろう。人はみな，毎日，自分の生活を取り囲むデザインについて，無意識のうちに，それがよいか悪いか，好きかきらいかというような判断を下して生活している。しかし，デザインを真に批評するには，その主観的印象の根拠をそのデザインの中を通して追求し，正当性を確かめ，是正し，この印象を客観化・普遍化する必要がある。そして，そのデザインにおいてつくられねばならなかった〈もの〉に，評者自身の追求によって到達することにより，そのデザインの長所・短所，改良の方向，意義などが明らかとなり，ここにおいてはじめて真のデザイン批評となる。

〔デザインの今後〕生産から販売へという資本主義経済の大転換は，デザインを産業に強く結びつけた。狭義のインダストリアル-デザインそのものは当然として，その販売の主要戦略となる広告の分野においても，コミュニケーション-デザインの重要性が飛躍的に増大した。さらには，欠乏から豊饒(ほうじょう)へと向かう現代社会において，物質に物としての意味ではなく，記号としての意味を求めるようになってきている。希少性なき経済へと向かう豊かな社会では，人は物の物質的効用のためにのみ物を求めるのではなく，物の情報的効用によって物を求めるようになる。経済が豊かになるにつれ，大衆の美的情報への要求は，さらに強くなろうし，美的情報の大衆消費がなされる情報社会が現出されるであろう。そして，そのとき，民衆の要求にこたえるべく民衆との間につねに有効な情報回路を確保した〈デザイン〉が要請されるであろう。

現在，工業社会から情報社会への急速な転換が進みつつある。このような社会的過渡期の中に置かれた現代デザインは，非常な混迷のさなかにあるものといえよう。いま，工業社会の造形論理であった古い意味での機能主義は効力を失い，情報の意味的機能を解明するところの，情報社会の造形論理の確立がまたれる。現代デザインは，過渡的状況からくる種々の混乱を克服し，真に新しい造形論理を確立したとき，はじめて〈新しいデザイン〉として生まれ変わることができる。その〈デザイン〉は，民衆の要求にこたえる，民衆と結びついた〈生新な文化〉であらねばならない。〔武井邦彦〕







③見せ物ビラ〈ヘラヘラ坊万橘〉月岡芳年　1881
④《世界地理学的地図書》バイヤー　1953
⑤ケペシュ《視覚言語》の表紙カバーデザイン

オランダ人は江戸参府など特殊の場合のほかは島外へ出歩くことを許されず，日本人も役人・通商・遊女以外は立ち入りを禁じられて，橋ぎわの番所で通行がきびしく取り締まられた。明治以後は回りが埋め立てられて昔のおもかげを失い，1948年(昭和23)には出島岸壁がつくられて外国貨客船が出入りし，多くの商館が立ち並ぶ。中島川に沿う石がきのゆるいカーブは扇形のなごりで，1957年には当時の倉庫が復原された。国指定の史跡となっている。〔浅井得一〕

てじまとあん　【手島堵庵】(1718～1786)　江戸中期の心学者。名は信(まこと)・喬房(たかふさ)，字(あざな)は応元，通称は嘉左衛門。堵庵はその号。京都の人。18歳で石田梅岩*の門に入り心学*を学んだ。師の没後その後を継ぎ，広く師の説を伝播(でんぱ)して，心学の基礎を固めた。著書に《坐談随筆》《知心弁疑》《会友大旨》《明徳和賛》《新実語教》《為学玉箒(いがくたまぼうき)》など。門弟に中沢道二・布施松翁・脇坂義堂らがいる。

てじょう　【手錠】　犯罪者の手にはめて自由を束縛するための戒具の一種。警察官および特別司法警察職員(→司法警察)は常時手錠を携行し，被疑者の逮捕・連行の際またはその抵抗，暴行，逃走や自殺のおそれのある場合にこれを使用する。苛酷(かこく)にならず，衆目にふれないようにすることなどが国家公安委員会(→公安委員会)規則によって定められており，その製式は法務省令で定められ，片手錠・両手錠・皮革手錠がある。〔井上公耳〕

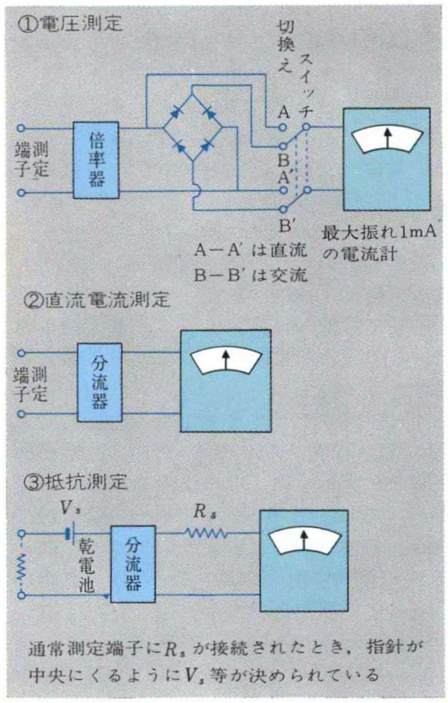
デシン　⇨クレープデシン

テス　ハーディ*の長編小説(1891)。貧しい行商人の娘テスは，金持ちの家に奉公中に，放蕩(ほうとう)むすこアレックに犯されて私生児を生み，やがて理想主義的な学生と結ばれるが，新婚の夜に，彼女の告白を聞いた夫は海外へ去る。テスは農場で働くうちに，再びアレックに会い，同棲(どうせい)を承知したとき，夫が帰国したので，激情にかられてアレックを刺し，処刑される，というもの。〈純潔な女〉と副題が付いているように，不貞な人殺しと見えるテスを犠牲者として描いたものである。そのためこの作品は，旧道徳の立場から非難を浴び，発禁処分にした地方もあった。〔井内雄四郎〕

ですいり　【手数入り】　⇨横綱

テスター　[tester]　電気回路の測定もしくは試験を行なう携帯用の万能型計測器。回路計・回路試験器ともいわれる。試験の対象になるものは，数オーム～数メガオームの抵抗と，家庭用周波(50～60ヘルツ)の交流電圧(0～500Vぐらい)，直流電流(0～1mA)など。内蔵される計測器としては可動コイル型の直流電流計が1個あるだけで，これを抵抗計・電圧計・電流計として使うために，乾電池・倍率器・整流器・分流器などが組み込まれている。〔堀内和夫〕

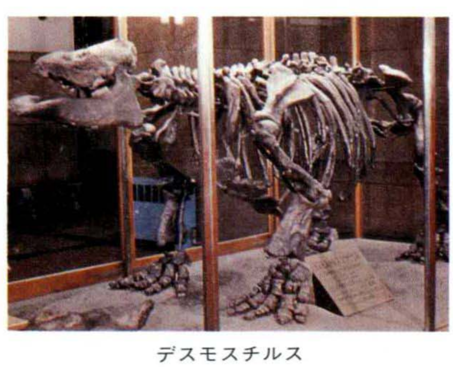
デ-スティール　[De Stijl]　オランダの純粋美術運動。1917年発行の同名の雑誌《様式》によって広められた，画家・彫刻家・建築家・デザイナーを含む新しい造形芸術の運動。芸術が個人の限界をこえ，一般的な美的原理に発展するために，芸術家は社会的活動を強めるべきだと主張した。そのメンバーは，雑誌の編集責任者を兼ねたドースブルグ*を中心にモンドリアン*・バルト-ファン-デル-レック・セベリーニ*らで，ほかに数名の建築家・彫刻家を含む。この運動は，基本的には美学的運動であるが，近代的な技術社会に適合し，バウハウス*およびダダイスト*に大きな影響を与えた。〔井関正昭〕



テスター　テスターの回路構成図



デスピオ《エイシア》 1938 ニューヨーク近代美術館蔵



デスモスチルス

テストステロン　⇨男性ホルモン

テストパイロット　[test pilot]　試作された航空機の操縦士。試作機を実用に供するまでに，特に安定性や操縦性の面における不良箇所の改良に重要な役割を果たす。操縦士として優秀な技量をもつばかりでなく，航空工学に関する十分な知識をもち，かつ試作機に起こりやすい突発的な事態にも直ちに対応できるように沈着でなくてはならない。アメリカなどでは特別な教育コースが設けられている。

テストパターン　⇨テレビジョン

デスピオ　[Charles Despiau]　(1874～1946)　フランスの彫刻家。1891年にパリに出て装飾美術学校などに学ぶ。1902年ごろからサロン*に出品し始めたところ，ロダンの目に止まり，1907年から1914年まで彼のアトリエで働くこととなった。ロダンの影響を強く受けながらも，むしろ古典的ともいえる穏やかな形体を追究し，繊細で感受性豊かな女性の肖像彫刻に傑作を残した。

デスモスチルス　[*Desmostylus*]　哺乳(ほにゅう)類・束柱目・デスモスチルス科の一属。日本から北アメリカ西岸にかけての太平洋岸などの，新生代中新世の地層にのみ産出する化石哺乳類で，中新世の標準化石*である。従来，この動物は体長約2mで，海牛に近く，海生で貝類などを食べていたと考えられていた。しかし，この動物の歯の構造を組織学的に調べた結果，バクに近縁の草食動物であることが判明した。日本では，岐阜県をはじめとして，北海道・岩手県・島根県などの各地から発見されている。特に岐阜県で発見された標本は動物体がほぼ完全で，サハリン(樺太(からふと))で発見されたものとともに世界でも珍しい完全な標本である。〔神戸信和〕

テスラ　[Nikola Tesra]　(1857～1943)　アメリカの電気工学者。ユーゴスラビアのクロアチア地方の生まれ。オーストリアのグラーツ工業学校およびチェコスロバキアのプラーグ(プラハ)大学で学び，パリで電気技師となり，27歳で渡米。エジソンの下で職を得，のちテスラ電気会社を起こした。交流電動機・テスラ変圧器，新しい型の発電機・誘導電動機など，すぐれた発明と技術開発で知られている。

てずるもずる　棘皮(きょくひ)動物・蛇尾(だび)綱・テズルモズル科。クモヒトデの類であるが，5本の腕は基部から10回程度分岐

をくり返し，先端部は細く，植物のつるのように見える。中央の盤は3～5cm程度，腕を伸ばすと直径30cm以上にもなる。日本付近の浅海から深海底にみられるが，個体数はあまり多くない。底引き漁などで採集されることが多い。ほかにオキノテズルモズル・サメハダテズルモズルなどが含まれる。➔クモヒトデ

テーゼ ［These］ 定立・措定などと訳される。①語源のテシスはアリストテレスの用語で，公理と並んで論証的知識の出発点となる立言を意味する。これには定義*と仮定とがある。②カントの批判哲学において，単なる理念である〈世界〉を認識の対象として取り扱うところから生じるとされる命題。その反対命題もまた同等の必然的な根拠をもつ。③ヘーゲルの弁証法における発展の第1段階。対立する反定立を生み出し，さらに総合へと展開する。

テセウス ［Theseus］ ギリシア神話に現われるアテナイの英雄。アテナイの伝説的な王アイゲウス(または海神ポセイドン)とトロイゼンの王女アイトラとの子で，ヘラクレスと並ぶ英雄。クレタ島のラビュリントス(迷宮)に住む怪物ミノタウロスを殺し，父の死後アッチカ全土の王となり，アマゾン族と戦い，誤解からわが子ヒッポリュトスを殺したりした。地獄で捕われ，ヘラクレスに救出されたともいう。

てそう ［手相］ ⇨観相術

でぞめしき ［出初め式］ 消防団が新年に行なう総合演習式。起源は江戸時代に出初めと称された町火消しの初出の行事である。東京では1907年(明治40)から毎年1月6日(江戸時代は旧暦1月2日)皇居前広場に参集して行なわれたが，現在では東京消防庁の主催で晴海(はるみ)において，消防新鋭機具のパレード，演習などが行なわれ，同時に行なわれるショーは江戸町火消しのはなやかな伝統をいまに伝え，勇壮に行なわれる木やり，梯子(はしご)乗りなどの妙技が，意地と侠気(きょうき)を誇る〈鳶(とび)の者〉によって演じられ，現在では東京風物詩の一つとなっている。 〔山路勝彦〕

てだい ［手代］ ⇨番頭

データつうしん ［データ通信］ ⇨次ページ

テタニー ［tetany］ 全身の筋肉が痙攣*(けいれん)を起こす状態。血中のカルシウム濃度が異常に低下した場合，血液が正常よりアルカリ性になった場合，血中のマグネシウム濃度が低下した場合などに起こる。それらの原因はさまざまであるが，甲状腺(こうじょうせん)手術時の上皮小体*損傷のために起こる低カルシウム性テタニーが最も多いといわれる。治療はそれぞれの原因に応じて行なわれる。

テチスかい ［テチス海］ 北半球のアンガラ大陸*と南半球のゴンドワナ大陸*を隔てて存在していた海。位置はおよそ20～40°N.



出 初 め 式 古式豊かなはしご乗りの曲芸 東京晴海

古地中海ともいう。テチス海は地向斜*として存在していたが，第三紀に造山運動*が起こって陸化し，アルプス・ヒマラヤなどの山脈をつくった。現在の地中海はテチス海のなごりと考えられている。

てつ ［鉄］ 周期律表第Ⅷ族に属し，鉄族元素の一。記号Fe，原子番号26，原子量55.847。地球上に広く存在しその量はアルミニウムに次いで第4位である。硫化物としての黄鉄鉱のほか，おもな鉱石は酸化物である。砂鉄は主として粒子状磁鉄鉱よりなる。鉄の製練は，鉱石を石灰石・コークスとともに高炉に入れ，下から熱風を吹き込み反応させると，還元されて鉄が得られる。これは多量の炭素や他の不純物を含む銑鉄で鋼鉄や練鉄の原料となる。鉄は銀白色，光沢ある金属で，展延性に富み，強磁性を有す。温度によりα-，β-，γ-，δ-鉄に変化する。融点1,536℃，沸点2,872℃，比重7.86，酸素に対する親和力が強く，湿った空気中ではいわゆる〈さび〉という酸化物を生成する。金属材料・合金など広い分野に使用されている。 〔古屋　弘〕

でづかい ［出遣い］ 人形浄瑠璃*(じょうるり)の用語。〈陰遣い〉に対する語で，人形遣いが裃(かみしも)・袴(はかま)などの盛装で舞台に登場し人形をあやつる形式をいう。3人で人形をあやつる〈三人遣い〉ではともに黒い衣装と頭巾(ずきん)をかぶるのが原則であったが，現在は主(おも)遣いは出遣い形式で演ずるのが普通になっている。

てつがく ［哲学］ 哲学ということばはもとギリシア語のフィロソフィアから出，それの訳語として日本では明治初年に西周(あまね)が用い，以来使われるに至った。西もはじめは原語を直訳して〈希哲学(哲知を希求する学問)〉としたように，哲学の意味は愛(フィロ)知(ソフィア)すなわち知を愛することである。最も知(知恵や知識)を愛するといっても今日では学問一般にあてはまることであって，哲学に特有なものとはいえない。それだけでは哲学と科学を区別するのに十分ではないであろう。事実，古代ギリシアにおいて哲学が発生した当初は，その区別はなかった。むしろ愛知という共通の精神のもとに自然が観照され解明されようとしており，やがて分化発展して個々の専門学科，たとえば，医学とか天文学・地理学・幾何学などに独立するに至ったのである。他方，愛知活動もしだいに自己反省を行なって感覚的個別的な知と一般的理性的な知の区別に立って事物や知識そのものの不変的な根本原理の把握(はあく)に進み，デモクリトスのアトム論やプラトンのイデア論やアリストテレスの原因論ないし才一哲学として結実し，そこに今日哲学といわれるもの，哲学の精神そのものを浮き上がらせてきたのである。したがって哲学すること，つまり知を愛するということは，単になにかを知るということではなくて，不変的なものを原理的に根本的にあるいは全体的一般的に知ることであり，同時にそうした性質の知識をとりわけ愛求することである。

【哲学すること，哲学と哲学史】知るということはだれかがなにかを知ることであるから，知ることのうちにはだれか(これを哲学用語で主観*とか主体*とよぶ)となにか(これを哲学用語で客観*とか客体とか対象*とよぶ)が含まれているが，さらに知ることそのことが両者(主観と客観)の関係においてなりたつかぎり関係そのものも含まれている。そこで，知ることを徹底的根本的に行なおうとすれば，この三者がいったいなんであるか，いかようにしてあるかを解明しなくてはならない。この解明はふつうわれわれがわかっていると思われるほど容易なことではない。忍耐強く懸命な努力が不断に要求されるであろう。ここに哲学の知に対する粘り強い愛求心が必要なのである。つまり主観とはなにか，客観とはなにか，主観と客観とは知ることにおいていかに関係するか，これらのことを徹底的にはっきりさせようとするのが哲学すなわち愛知だということになる。ところで知ることを求める以上，このことがさしあたってある程度わかっていなければならない。まったくわかっていなければ，それ以上わかろうとするきっかけもないからである。また，まったくわかっているならば，求める必要もないであろう。このまったくわかっていないのでも，まったくわかっているのでもない，なにか矛盾した状況〈これをアポリア(難問)とよぶ〉の中にいることに気づくところに，知ることを愛求する努力が生まれるわけである。ヘーゲルが〈通常人々の知っていると考えていることを吟味するのが哲学の特性である〉と言ったのはこの意味であろう。こうしたアポリアにあって哲学が本来行なわれるとすれば，それはわかっているが，さらにわからせようとしてたえず努力するのであるから，哲学の活動はそのかぎり完了しているのでなく，たえず求める過程のう

➔530ページ

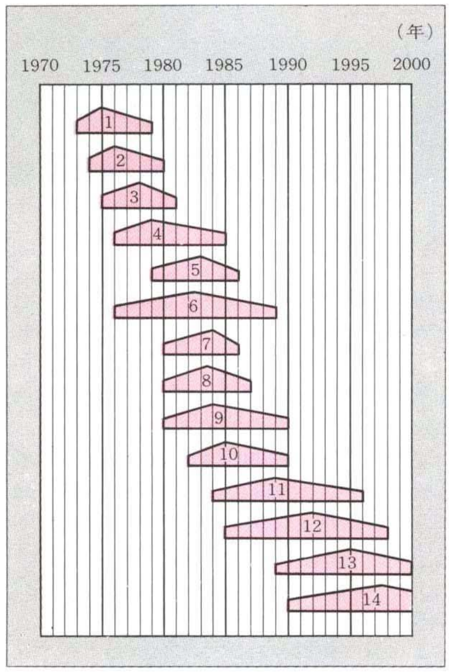
データ通信

電信電話に次ぐ第三の通信といわれ，コンピューターシステムと通信システムが有機的に結合したものをいう。データとはコンピューターで使用している２進数のことで，すべての情報は２進数で表現されている。

〔歴史〕データ通信システムはそのデータの流れによって，中央のデータ処理装置（大形コンピューター）と特定の回線を通して限定された端末装置（タイプライターやキーボードプリンターのように人間がデータを入れたり出したりする装置）との間でのみデータの授受を行なうシステムと，異なるコンピューターシステム相互間を交換機を含む通信回線で結び，コンピューターが使用する情報に対し電話交換法と同じようにメッセージ交換を伴うシステムとがある。前者の例は，1952年アメリカ合衆国で稼動(かどう)を始めたスピード-ターリー（speed tally）という販売在庫管理システムや，1959年に稼動した国鉄の座席予約システムMARSIもその一例である。

これらはいずれも特定の業務に限定されたシステムである。1958年マッカーシーがタイムシェアリング技術によるコンピューターの共同利用を提唱してから汎用(はんよう)のシステムが急速に広がった。1961年にはマサチューセッツ工科大学のCTTSが公開され，1963年からはMACシステムが研究用として稼動を始めた。商用共同システムは1965年にはKEYDATA，IBMなど70社が営業を行なうようになった。わが国では，電電公社が加入データ通信サービスとして1970年にサービスを開始した。

一方，メッセージ交換システムとしては，1962年にITT，およびウェスチングハウス-エレクトリック社それぞれの在庫管理用システム，わが国では1965年の日興証券の株式販売用システムが最初であるが，1968年に稼動した地方銀行協会の為替(かわせ)交換システムが本格的データ通信システムである。さらに，1965年にウエスタンユニオンが提唱したInfo-MACサービスは，不特定多数の顧客に対しサービスを行なう最初のものである。電電公社が行なっている加入データ通信は，電電公社がデータ通信システムを用意し，サービスを受けることを希望する者を加入者とし，端末機を加入者に用意すればセンターの大形計算機を不特定多数の人が同時に利用できる。さらに，電電公社が単に伝送路を提供するだけにとどめ，伝送路の両端は利用者が独自の端末機および情報処理装置をつける形式がある。伝送路を特定のシステムに限って提供される専用回線方式のものと，電話機と同じ信号条件でディジタル情報を表現し，または伝送される信号を検出する端末機および情報処理装置を電話機と同じ回線に接続し，電話回線網とデータ通信の伝送路が共存するシステムとが考えられるが，電話回線に接続する装置の電気的な接続規準や，信号の品質規準を定めなければ，多くの人の共通に関係する交換機に障害を与えるおそれがある。このような規準や条件を定めて，一般の人が自由に電話機以外の機械を電話回線に接続できるようにすることを通信回線の解放という。わが国の通信回線の本格的な解放は，1974年ごろからになる。



データ通信の適応領域の未来予測　①コンピューターによる大都市の交通管制　②コンピューターによる病院の患者管理　③コンピューターを活用した教育の普及　④民間航空の離着陸コンピューター制御　⑤科学技術情報のデータバンクの定着　⑥コンピューターによる信頼性の高い診断　⑦レーダー検知とコンピューターによる違反の登録による車両管理　⑧医師の大部分がコンサルタント用の端末機器をもつ　⑨コンピューターによる自動化により大工場の労働力半減　⑩各事業所における多くの従業員の収入の記憶と，これを自動的に税務署に通知すること　⑪コンピューターによる家庭内での教育　⑫一般的な情報源としての今日的図書館の衰退　⑬自動車の自動操縦の普及　⑭電話やテレビジョンと同様なコンピューターの家庭への普及

〔加入データ通信〕専用データ通信に対応して，いわばレディーメードのデータ通信といえる。電電公社は1971年から，次の３種の加入データ通信サービスを開始した。①科学技術計算サービス（略称DEMOS）：このサービスは本格的なタイムシェアリング-サービスであり，加入者側で中央のコンピューターと会話形式でデータ・プログラムの投入はもちろんプログラムの不良箇所の修正も可能である。②販売在庫管理サービス（略称DRESS）：これはリアルタイム-サービスであり，端末からはデータの投入だけが可能であり，プログラムはコンピューター側で用意している。販売在庫管理業務は，各利用者ごとに多少異なる点がある。このため標準のプログラムからの追加・修正が必要であるが，これは利用者と電電公社が共同で行なっている。したがって，システムとしてはきめ細かいサービスをすることができる。③電話計算サービス（略称DIALS）：プッシュホーンと音声応答装置による簡易計算サービスである。電子式卓上計算機の機能に加えて高等関数などの計算ができ，答えは電話機により音声の形で返事される。

〔専用データ通信〕コンピューター・データ通信網，端末を含むシステムの利用者が希望する処理業務が円滑かつ経済的に行なえるように，システムごとにサービス内容を検討し，システム設計を行なうもので，いわばオーダーメイドのデータ通信である。次にその実例を示す。①金融関係：銀行窓口における顧客に対する迅速なサービスの提供と，業務コストの低減と企業競争の激化に対する経営管理資料の整備を目的とする。第１段階として適用された銀行の作業業務のうち，典型的なものは為替業務およ

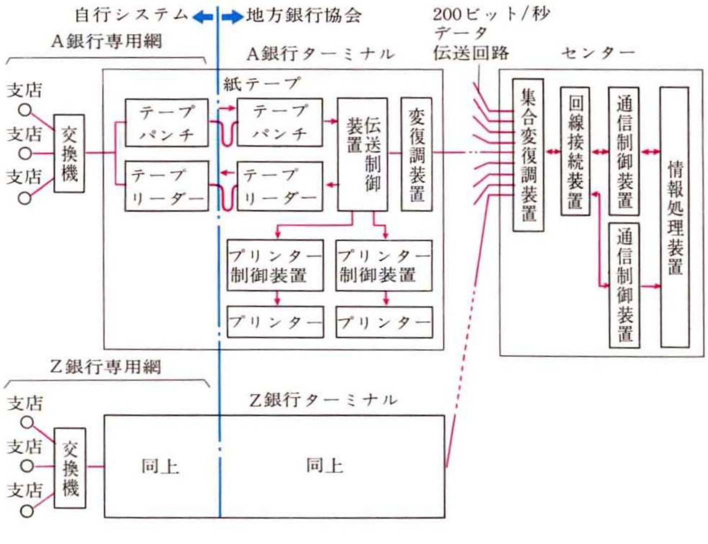


電話計算システム（DIALS）
（電電公社東京データ通信局）

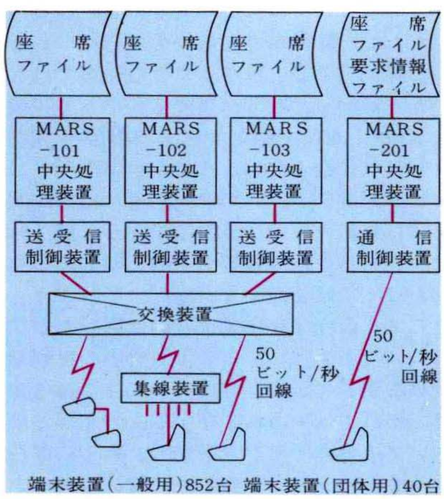
び預金業務である。従来人手による帳簿や伝票作成業務を，端末装置を用いて情報を通信回線を通してコンピューターに入れ，即時に行なうことをオンラインという。銀行業務のオンライン化は，都市銀行が次々と東京・大阪地区で行ない，地方銀行および相互銀行が追随してオンライン網を拡大した。為替業務の実施例のうち1968年7月から実施した全国地方銀行協会用データ通信システムが，また預金業務としては東京都信用金庫協会傘下(さんか)61信用金庫のおよそ500店舗を対象とした信用金庫共同事務システム(SINKS)が有名である。②サービス関係：座席予約システムは，軍事や宇宙開発における用途を除くと，最も早くオンライン-リアルタイム処理を行なったものである。大手の航空会社や国鉄のみどりの窓口は代表的なものである。さらに，近畿(きんき)日本ツーリストや日本交通公社の旅行案内，輸送計画として国鉄の地域間急行貨物システム，日本郵船のコンテナー-コンピューターシステム，データの集配信を中心とした日本通運の輸送情報ネットワークなどが，1970年代に次々に実用化された。

電力の自動給電システム，周波数自動制御，経済負荷配分制御，事故時自動操作および電力系統の自動復旧などの制御を，中央のコンピューターと通信回線を介して行なうオンライン自動制御システムがある。

NHKの番組技術システム(NHK TOPICS)は，放送番組の編成－制作－送出－評価といった番組制作活動の全機能を一つにまとめた総合システムとして有名である。これは実時間的制御システムの典型であるが，経営計画・管理に必要な情報を作成する能力をもち，ディスプレー装置(コンピューターによってつくられ編成された情報を，文字や図形で表示する装置で，おもにブラウン管が利用されるが，プラズマを利用したディスプレー装置などの研究開発が盛んである)の活用とともに，データ通信システムを企業がじょうずに使いこなしたシステムとして高く評価されている。③官公庁におけるデータ通信：運輸省の自動車検査登録業務システムは，全国の陸運事務所とセンターの間を通信回線で結び，陸運事務所で行なう自動車の検査，登録業務の大半をセンターの情報処理設備で一括して管理するもので，年々増加する自動車台数に対応する陸運事務所業務の合理化の一部として機械化したものである。労働省には各地の公共職業安定所とオンラインで結び，広域職業紹介，失業保険関係業務の処理を迅速化するシステムがある。警察庁では，各都道府県警察本部と警察庁に設置したコンピューターの間を専用回線で結合した集中情報処理システムを1966年に完成し，運転免許関係資料の集中処理，犯罪手口照合，銃砲



図－1　全国地方銀行協会用データ通信システム



図－2　国鉄の座席予約システム構成図

の登録照合統計集計および資料解析などを行なっている。その他，1970年ごろから地方自治体における住民登録および各種証明書の発行，税務業務をはじめとし，官公庁における書類の管理・照合・調査などの業務が急速に発展した。④大学・教育関係のデータ通信：アメリカ合衆国ノースカロライナ州にある3大学では，1台の大形コンピューターを共同利用するために，各大学に置かれた中形コンピューターと通信回線で結んだTUCCが大学の研究用データ通信システムを採用し，わが国では大阪大学内の各キャンパス間でデータ通信を行なっている。また，コンピューターを利用した教育システムCAIでは，コンピューターの端末装置が教師の役割をし，生徒の個人能力差に応じて変化の多い教育・訓練を行なうことができる。

〔オンラインシステムとオフラインシステム〕 端末装置またはコンピューターからのデータが，通信回線とコンピューターとの結合部分で，一度紙テープなどの記録媒体に変換したのちに，あらためて入力したり，手で一度整理・編集したデータを端末装置にあらためて送るシステムをオフラインシステムという。なお，入出力データが通信回線を介さずに郵送処理されるものも含まれる。これに対して，データの発生箇所から直接コンピューターにデータが伝送され処理するシステム，または出力データを必要とする場所に直接伝送するシステムをオンラインシステムといい，端末装置が通信回線を通して直接結合されている。

〔データ通信の社会における位置づけと将来〕 経済社会活動の拡大は，必要とする情報を，いつでもどこでも希望する形で，経済的にかつ迅速に入手することを要求する。このことは，伝送・交換，情報処理技術の進展，便利な端末機器の開発を促し，データ通信システムは，これらの技術を総合した形としてますますその規模を増大する。そこで，すべての通信手段を有機的に結合した総合通信網の検討が，1969年ごろよりわが国とアメリカ合衆国で盛んになった。すなわち，将来のデータ通信統合網は，端末・伝送・交換・中央処理装置の技術を統合してデータ通信サービスを全国的規模で提供するもので，情報の蓄積伝達の理想形態として，〈話す〉〈見る〉〈書く〉のサービスを，〈人対人〉〈人対機械〉〈機械対機械〉の間で円滑に伝えるシステムの洗練化が，1980年代まで行なわれるであろう。データ通信における対人間に対する出力は，文字・図形・音声であるから，画像伝送の通信網もデータ通信統合網に組み入れられる。

また，海底同軸ケーブル・衛星通信の発達で，全世界ダイヤル即時通話，テレビジョンの世界中継が可能になり，情報を世界的規模で収集・分散するようになった。たとえば，航空会社における全世界を対象とした座席予約および案内システムがそれである。➔コンピューター　〔富永英義〕

ちにあるといわなければならない。こうした愛知のもつアポリアに捕えられ，それから脱却し解決の道(エウポリア)を歩もうとするのが哲学だとすれば，それを実行するものはほかならぬ自分自身でなければならないから，個人がすでにわかったこと，つまり他人の思索の結果をそのまま完結した知識として受けとり，そこに哲学があると満足するわけにはいかない。あくまでみずからの陥ったアポリアからの脱却を自力で直接に行なわなくてはならない。〈完了していない〉哲学することにおいて，哲学はつねにそれを行なう人から始まるわけである。もちろん〈歴史的〉にみれば，前述のように，ある特定の時期に，つまり古代ギリシアではある時期にタレスという人が哲学することを始め，それが先行の哲学的思索となって次々に後代の哲学的思索に受けつがれ，かくて哲学的なもろもろのアポリアの解決の努力が現在まで続いてきたことは認めなければならない。それにもかかわらず哲学活動は，〈原歴史的〉にみれば，人間の現実活動がいまここに根源的に生起しているという意味では，哲学することはいまここに始まっているといわねばならない。人間の精神活動はこうした二重性をもつが，とりわけ究極的根源的なものを求める哲学活動においてはこの二重性が顕著である。他のある人の始めたはじまりと現在の自分の始めるはじまり，この二重のはじまりも哲学そのもの，否哲学する自分が解くべきアポリアにほかならない。こうしたアポリアの中で気づくのは，すでにそこに道案内者がいるということである。この道案内に従って歩いてみること，それが哲学を学ぶことである。そして，それは自分より以前に哲学することを行なった人たちのことばや行動を顧みて，そこから哲学することの示唆を得ようとすることである。これに対して哲学を説く人も，カントの言うように〈哲学〉ではなく〈哲学する〉ことを教えようとする。ここに哲学研究が直接的に師や友とともにであれ，間接的に書物などを通してであれ，対話的に行なわれる所以(ゆえん)がある。対話を通して哲学する人たちは真理を追究し，お互いに哲学とはなにかを確認しようとする。この対話的な哲学する姿勢を原型的に示したのがソクラテスであり，それをあざやかに描いて見せてくれたのがプラトンであった。

以上のような意味において，哲学者たちは歴史の時代時代に即応して哲学し，それが次々に受け継がれ，その方法や成果や見通しに批判検討が加えられながら，自然と人間と神についての問題解決に携わってきたところに哲学の歴史がある。哲学するものにとってそれを知ること，つまり哲学史の研究(哲学が歴史的に展開するさまについての考察)も必要であって，これはいわば縦の対話といえよう。これに対してわれわれの現実社会の直面した根本問題や解決のしかたについて，現在哲学するもの同志の間でいわば横の対話をすることも必要である。これがいわゆる体系的研究である。この両者が上述のように哲学することのはじまりの二重性に根ざし相補い合うのである。哲学の歴史も，社会の歴史的発展段階にしたがって古代・中世・近世・現代と分けられているが，さらに哲学する主体を民族や国家や社会集団において，たとえばギリシア的・ギリシア-ローマ的・教父的・アラビア的・スコラ的・人文主義的・近代的などと細分されたりする。

〔認識論と存在論と論理学〕知ることを愛求する哲学において，知られるもの(客観)も知るもの(主観)も知る働きもそれぞれ一側面にすぎない。しかし，この三者の関係はときに対立し，ときに矛盾さえ示す。客観(たとえば物)の真相を主観(たとえば心)は知りえないのではないかとか，主観(たとえば私)は主観を知りえないのではないかとか，結局知ることはなりたたないのではないかとかいった疑問が生ずる。そこで主観と客観(ときに主観を含めて)の関係を究明しなければならない。これが哲学部門としては認識論*(あるいは知識論)または方法論とよばれ，カント以後哲学の中心に置かれた。しかしやはり客観や主観そのものの究明がなくては認識論も宙に浮いてしまう。そこでこの面は存在論*あるいは形而上学*(けいじじょうがく)とよばれて古来より幾多の批判を受けながらも重視されている。存在論は客体であれ主体であれ存在するものすべてについてそのあり方を考察する。さらに存在するもののうちで究極的・絶対的なあるいは根源的な存在(善のイデア・理性・神・実存など)を問題にしたり，存在そのものや無について考究するときは，形而上学とよばれる。哲学が体験し経験する存在と認識の世界のほか，哲学するにあたって不可欠な要素は言語や記号である。これにかかわるのが論理学*であって，哲学の形式面または予備学とされる。論理学は知ることの内容には触れないで，むしろ知ることが正しく行なわれるしかた，つまり対象を正しく捕え伝えるための原則や型を研究するわけである。事物を指示する言語や記号の組み合わせでできた諸命題の包含関係や推論について妥当な型を研究する論理学は，真理獲得のためには科学方法論ともなり，哲学と科学のつながりにとっては重要である。記号論理学*はその例である。こうした形式的に一般化された論理学に対しては，たえず哲学(認識論や存在論)の立場から裏づけが行なわれ，哲学的論理学を生んでいる。カントの先験的論理学とかヘーゲルの弁証法的論理学とかフッサールの現象学的論理学などがその例である。ヤスパースの実存哲学でも，哲学的論理学は実存を基底としながら，他方では各種の包括者の領域を分けたり結んだりする紐帯(ちゅうたい)の役目をする理性を必要不可欠とする。理性こそあらゆる存在様態を明白化するための可能的な思惟(しい)形式だからである。実存と理性の緊張関係の中で哲学が行なわれるかぎり実存開明がなくては哲学的論理学は目標を失い，逆に後者がなくては前者は保証を失うといわれる。

〔哲学的人間学〕哲学は知ることを通して行なわれるが，それが徹底するにつれ，存在の領域に深く立ち入り，知の領域を越えてゆかざるを得ない。こうした知を越えた側から哲学の意味も理解されてくるであろう。つまり道徳や宗教や芸術または文学などの人間的な営みは，哲学する主体を問おうとするとき，おのずと相連関してくる。カントは哲学には四つの問い，すなわち私はなにを①知りうるか，②なしうるか，③期待しうるか(創造しうるか)，④人間とはなにか，があり①には形而上学が，②には道徳が，③には宗教(あるいは芸術)が，④には人間学が答えるべきであるとし，前三者は人間学に属すると言った。このように人間学があらゆる学問の基礎にすえられたとき，現代の哲学的人間学の道は開かれたわけである。シェーラーは，人間の知の働き(認識)の段階に応じて衝動的生命的人間と理性的人間と宗教的人間を類型的に区別するとともに，理性から神に至る途上に純粋先験的な人格をすえ，これを中枢として存在諸領域が錯綜(さくそう)し展開する哲学的人間学を説いた。これに対してA. ゲーレンは従来の対象形而上学を作用形而上学に転換させたこの人間学にもまだ二元論が残り，生命を基盤とした人間世界に否を言う精神の超脱性が目だつと批判し，経験と行為の見地から全体的統一的に捕える経験科学として人間学を説いている。自然に発したプラグマチックな人間観と無に直面した実存的人間観の交差する地点に，今日，哲学はあらためて人間とはなにかを問いかけられている。〔村治能就〕

てっきじだい【鉄器時代】 考古学上の時代区分の一つで，石器時代*・青銅器時代*に継ぐ最後の段階。人類が利器・器具の材料に，精練された鉄材を利用するようになった時代である。人類が最初に鉄を利器の材料に使用したのは，隕鉄*(いんてつ)などの自然鉄であったが，BC3000年ごろ，西南アジアにはじめて鉄鉱を精練して利器を製作する技術が生まれた。その後BC1500年ごろ，アルメニア地方で鉄冶金(やきん)技術が新段階を迎え，鉱滓(こうさい)の完全な除去などの製鋼技術が発達して真の鉄器時代が出現した。以後世界各地に鉄器が普及して，耕作・開墾・灌漑(かんがい)など生産手段に一大変革をもたらし，また武器が改良されて戦闘力が増大するようになった。〔河原純之〕

てっきん【鉄琴】 体鳴楽器*に分類される金属製の旋律打楽器。音高の異なる金属

片(板)やベルを音階にしたがって演奏しやすいように配列してあり，インドネシアのガンサ系楽器(サロン*・スレンテム*・グンデール*)のように1列のものと，グロッケンシュピールやチェレスタ*のように2列のものがある。

てっきんコンクリートこうぞう　【鉄筋コンクリート構造】　建築物の柱・梁(はり)・床・壁などで，主として引張力の作用する部分に鉄筋を配して，コンクリートを補強した構造。コンクリートの引張力に弱い欠点を補う目的で開発された。コンクリートの中に配置された鉄筋を補強力の分担に応じて，主筋・副筋・あばら筋・帯筋などという。引張力に弱いコンクリートにあらかじめ圧縮力を加え，引張力の生じないようにくふうされたプレストレストコンクリート構造は，鉄筋コンクリートの欠点をさらに改良した構法である。また，コンクリートを一定のブロックにつくり，現場において鉄筋で補強しながらブロックを積み上げ固めるブロック構造もある。なお，コンクリート型わくをスライドさせて，コンクリートを打設する工法をスライディングフォーム工法といって，鉄筋コンクリート造サイロなどの工法に利用されている。また，最近では鉄筋コンクリートプレハブ構造も共同住宅などに利用されている。　〔谷　資信〕

テックス　[tex]　単繊維・糸・ロープなどの太さを表示する単位。日本工業規格(JIS*)によって，1kmあたりのグラム数で表示し，補助単位にミリテックス(1/1,000tex)・キロテックス(1,000tex)を用いることが規定されている。デニール*との換算式はtex=0.1111×デニール。

てつけ　【手付け】　契約*を締結する際に，当事者間で授受される金銭その他の有価物。手金とも内金ともいわれる。手付けを交付する理由はいろいろある。すなわち，契約の成立を証明するための証約手付け，契約不履行の場合の違約罰とする違約手付け，契約の解除権の留保の対価とする解約手付けなどに分かれる。したがって，手付けの性質およびその目的は，それぞれの場合によって具体的に決定されなければならないが，民法は，売買契約において手付けが交付されたときには，これを解約手付けと推定している。そして，手付けを交付した者はその手付けを放棄することによって，また手付けを受けた者は手付けの倍額を返還することによって契約を解除できるものとする(民法557条1項)。ただし，当事者の一方が契約の履行に着手したのちには解除することができず，手付けは代金の一部に充当されることになる。手付けが交付されているときには，契約の解除による損害賠償の問題は生じない(民法557条2項)。なお，手付けは売買のほか，賃貸借*や請負*などでも広く行なわれている。　〔黒木三郎〕

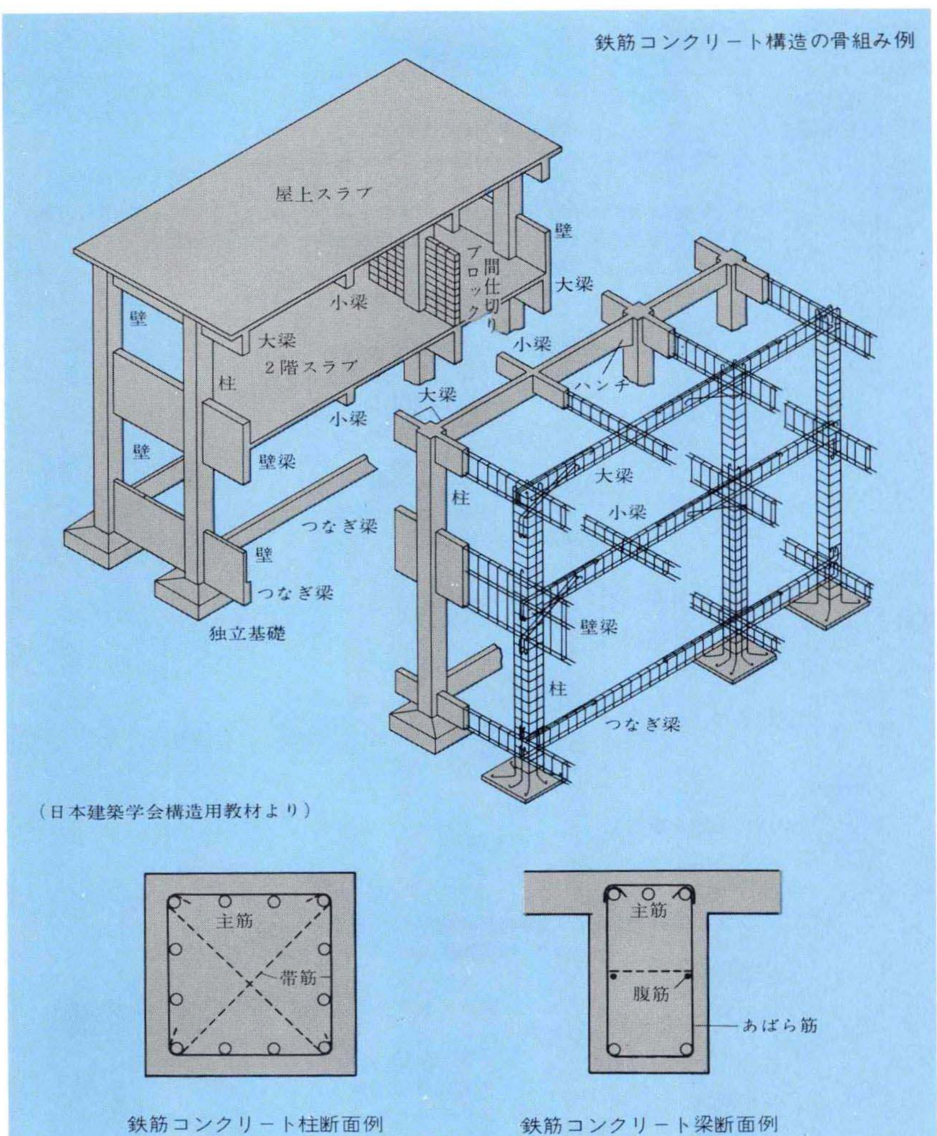
テッケイ　【竹鶏】　鳥類・キジ科。コジュケイ*と同種の台湾特産の亜種。コジュケイの同大。コジュケイはほお・くびはくり色であるが，テッケイは顔・くび・胸部にかけて灰色である。戦前日本に移入されたが土着せず，現在まったくみられない。鳴き声はコジュケイに似ている。

てつげんどうこう　【鉄眼道光】　(1630～1682)　江戸前期の黄檗宗(おうばくしゅう)の僧。肥後(熊本県)の人。俗姓は佐伯(さえき)氏，諡(おくりな)は宝蔵国師。13歳で出家し，明(みん)から長崎に来た隠元*に師事し，その高弟木庵性瑫(もくあんしょうとう)の弟子(でし)となった。《大蔵経》の翻刻を企て，宇治(京都府)万福寺*の宝蔵院を本拠として諸国を巡遊し，喜捨を受けたが，2度の飢饉(ききん)にその蓄財を投じて，3度めの募金で完成した。これが《黄檗版(鉄眼版)大蔵経》である。　〔田中良昭〕



鉄　琴　グロッケンシュピール

てっこう　【手甲】　手の甲および腕の一部をおおい包む布。地方によって〈てっこ・こて・ており〉などとよばれる。屋外で労働する時，外傷や寒暑から手を保護するために用いられ，また古くは行商や旅をする人も広く用いた。材料は一般的にかすりやしまの紺もめんなどが用いられ，ししゅうしたものもある。形態は一定でないが手の甲にだけかぶせるもの，半手袋のようになっ



鉄筋コンクリート構造

たものなどいろいろあり，手首の部分には左右からつけられたひもを結んだり，あるいはひもの代わりにこはぜで留めて着装する。なお，山村の猟師はカモシカ・ウサギ・キツネなど動物の毛皮あるいは革を手甲に用いている。〔直江広治〕

てっこう【鉄鉱】 銑鉄の原料となる鉱石。鉱物としてはジテツ鉱Fe_3O_4，セキテツ鉱Fe_2O_3，カッテツ鉱$Fe_2O_3 \cdot H_2O$，リョウテツ鉱$FeCO_3$ 世界の産額の大部分は原生代の変成岩中に層状に存在するセキテツ鉱・ジテツ鉱である。アメリカのミネソタ州，ブラジル，オーストラリア，インドなどの鉄鉱床はその例で，堆積成(たいせきせい)鉱床の変成したものといわれる。ヨーロッパ大陸中部には中生代ジュラ紀に属する堆積成のカッテツ鉱，イギリスには堆積成のリョウテツ鉱が存在する。日本における鉄鉱石の主要鉱山は岩手県釜石(かまいし)鉱山で高熱交代鉱床に属するジテツ鉱を採掘している。オウテツ鉱FeS_2・ジリュウテツ鉱FeSはこれまで鉄の鉱石とならなかったが，第2次世界大戦後日本においてはこれを焼き，イオウを回収したのちの焼きかすを鉄鉱石として用いている。なおタコナイトはアメリカのミネソタ州においてセキエイを多く含有した低品位のジテツ鉱をいい，現在主要な鉄鉱石である。〔今井秀喜〕

てっこう【鉄鋼】 純鉄・銑鉄・鋼(炭素鋼および合金鋼)・鋳鉄，およびフェロアロイ*(合金鉄)などを総称して鉄鋼という。

【歴史】 鉄器の歴史は古く，紀元前3,000年ごろ，すでにエジプト人がピラミッド建造の際，砕岩用具として使用しているし，また紀元前1,000年ごろには，ギリシア人が武器や生活の器具に鉄器を使用しており，このことは紀元前8～7世紀ごろのギリシアの詩人ホメロス*の詩にも述べられている。日本でも鉄器は神話時代にすでに使用されていたといわれている。古代，中世において，鉄鋼は，鉄鉱石の種類が異なっていたこともあって，各地方で独特な作業法により生産されていた。日本では砂鉄を原料とするたたら炉による生産が有名である。15世紀(14世紀ともいわれる)に至り，ドイツのジーゲルランドで高炉*が発明され，これがヨーロッパ全土に普及した。紡績機械や蒸気機関の発明に代表される18世紀の第1次産業革命において，鉄鋼の需要増加に対応できたのは，この高炉による鉄鋼の大量生産技術があったからである。その後，軍事的要請も加わり，機械文明の進歩とともに，鉄鋼生産技術も進歩を遂げ(ベッセマー法・トーマス法など数多くの発明がある)，鉄鋼は近代文明をささえるのに不可欠な構造材料となった。

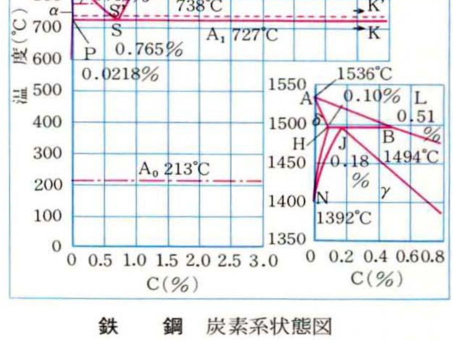
【生産】 鉄鋼は，鉄鉱石・コークス・くず鉄・マンガン鉱・石灰石などを原料として製造される。世界の鉄鉱石の埋蔵量は，現在なお次々と新しい鉱床が発見され開発されているため，あまり確実な数字をあげがたいが，経済的に稼行(かこう)しうる30～70%の鉄を含む鉄鉱石は約850億tと推定されている。鉄鉱石は酸化鉄(III)Fe_2O_3，四三酸化鉄Fe_3O_4などの酸化鉄を含有しており，この鉄鉱石を溶鉱炉(特殊な場合には，電炉その他の還元炉を用いる)で還元し，浸炭*してまず銑鉄とする。すなわち，溶鉱炉内では，コークスの燃焼によって生じた二酸化炭素CO_2が灼熱(しゃくねつ)コークスと反応して一酸化炭素COとなり，このCOが下式の反応により，鉄鉱石の間接還元が行なわれる。

$$3Fe_2O_3 + CO = 2Fe_3O_4 + CO_2$$
$$Fe_3O_4 + CO = 3FeO + CO_2$$
$$FeO + CO = Fe + CO_2$$

このようにして還元された溶鉄は，炭素C，ケイ素Si，マンガンMnなどを吸収し，脱硫されて溶銑となる。この高炉銑は，一般に3.5～4.4%C，0.5～2.5%Si，0.3～2.0%Mn，0.1～0.7%P，0.05%以下のSを含有している。銑鉄あるいは鋼くずから鋼をつくることを製鋼という。製鋼炉には，平炉*・転炉*・電気炉*がある。一般に平

鉄鋼の分類

- 鉄鋼
  - 純　鉄
  - 合金鉄
  - 鋳　鋼
    - 普　通　鋳　鋼
      - 低炭素鋼鋳鋼(炭素<0.2%)
      - 中炭素鋼鋳鋼(0.20%<炭素<0.50%)
      - 高炭素鋼鋳鋼(炭素>0.5%)
    - 低合金鋳鋼(合金成分の合計が5%以下の合金鋼，主として構造用合金鋼)
    - 高合金鋳鋼(ステンレス鋼鋳鋼・耐熱鋼鋳鋼・高マンガン鋳鋼)
    - その他の鋳鋼(礎石鋼・工具鋼その他)
  - 鋼
    - 成分による分類
      - 炭素鋼
        - 極軟鋼炭素(0.15%以下)
        - 軟　鋼(0.15～0.28)
        - 半硬鋼(0.29～0.35)
        - 硬　鋼(0.36～0.50)
        - 最高鋼(0.51～0.70)
      - 合金鋼
        - ニッケル鋼
        - クロム鋼
        - マンガン鋼
        - タングステン鋼
        - その他
    - 用途による分類
      - 構造用鋼
      - 工具鋼
      - ステンレス鋼
      - 耐熱鋼
      - その他
    - 製造法による分類
      - 平炉鋼
      - 転炉鋼
      - 電気炉鋼
      - るつぼ鋼
    - 鋼塊による分類
      - リムド鋼
      - キルド鋼
      - セミキルド鋼
      - キャップド鋼
  - 鋳　鉄
    - ネズミ鋳鉄(片状黒鉛鋳鉄)
      - ネズミ鋳鉄(普通鋳鉄) {炭　素2.5～3.5%，ケイ素1.5～2.5%}
      - 合金鋳鉄(特殊鋳鉄)ニッケル・クロムなどを含む
    - 球状黒鉛鋳鉄(ノジュラー鋳鉄・ダクタイル鋳鉄・延性鋳鉄) {炭　素3.0～3.5%，ケイ素2.0～3.5%}
    - 白鋳鉄(白銑)
      - 可鍛鋳鉄 {炭　素2.0～2.5%，ケイ素1.2～1.6%}
      - 白鋳鉄 {炭　素3.0～3.5%，ケイ素1.0～1.3%}
    - 斑鋳鉄



鉄　鋼　炭素系状態図

鉄　鋼



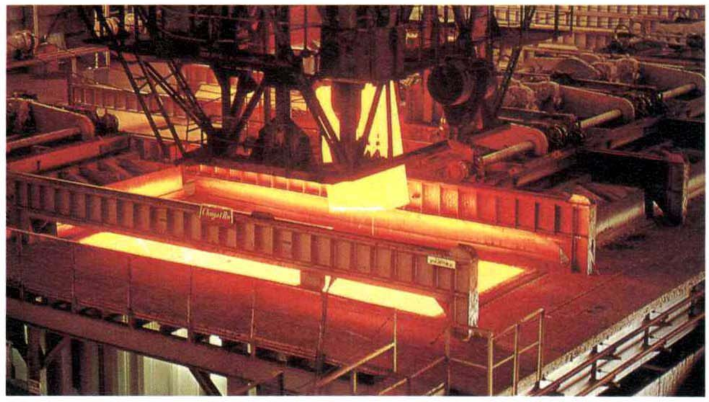
①高炉



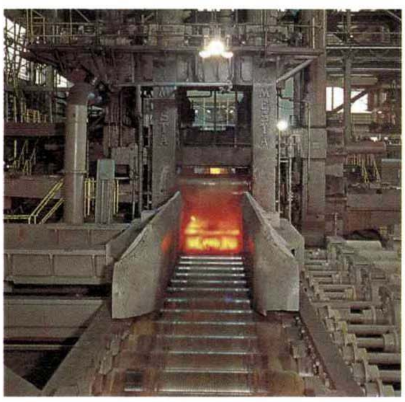
②出銑



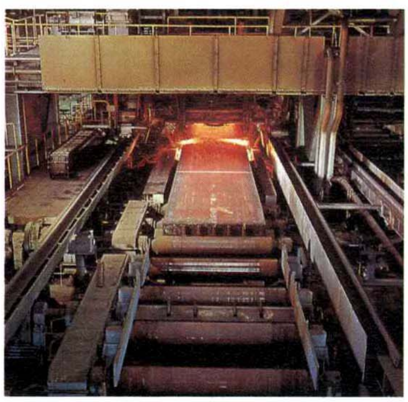
③転炉



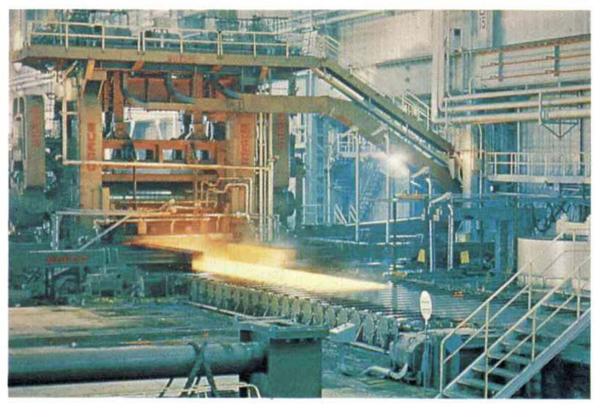
④均熱炉



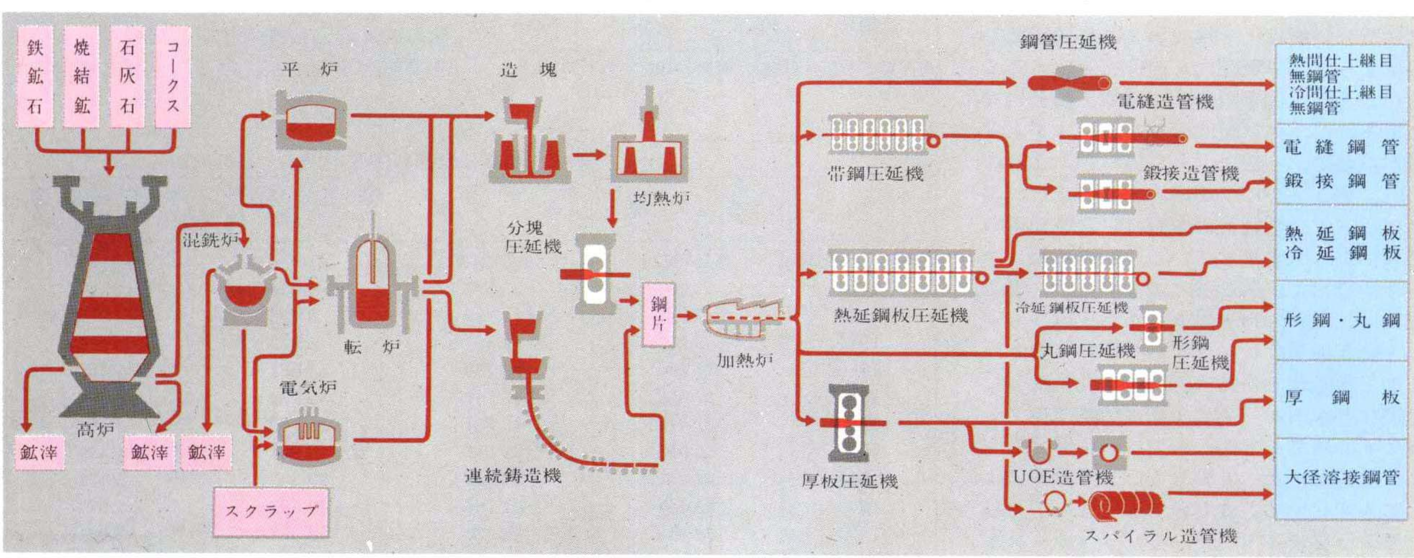
⑤分解圧延



⑥連続鋳造



⑦厚板圧延



製造工程

炉では，銑鉄に鋼くずを配合して製鋼し，転炉は主として溶銑を，電気炉は主として鋼くずを原料とする。

平炉製鋼法はふつう，塩基性操業によって行なわれる。すなわち塩基性の耐火物で炉体をつくり，CaO-SiO_2-FeO-MnO系の塩基性スラグによって作業する。この製鋼法は，銑鉄と鋼くずの配合比に制限がないこと，多量に装入できる(100～200t)ことなどから，近年まで製鋼法の主流を占めた。転炉製鋼法は，ナシ形の傾動できる50t前後の容量をもつ炉を用いて，空気・水蒸気・CO_2・O_2などの酸化性ガスを溶鉄に吹き込むことにより酸化製練する方法である。転炉製鋼法には古くからベッセマー法*(酸性底吹き)・トーマス法(塩基性底吹き)などが行なわれていたが，最近はLD法(純酸素上吹き転炉)が鉄鋼一貫工場で盛んに使用されはじめ，酸素ガスを用いて短時間に製練でき，鋼質もすぐれた製鋼法であることから，急速に平炉製鋼法に取って代わりつつある。

電気炉製鋼法は，電弧炉(アーク炉)あるいは高周波炉などを用いる方法で，鋼くずを主原料とし，特殊鋼・高級鋼の製造に適した方法である。電弧炉の容量も近年は50t以上に大形化しつつある。これらの製鋼法によって不純物を除去し，炭素を所定量まで下げ，脱酸したのち大気中または真空中で鋳型に注入し，鋼塊*(インゴット)を作る。溶鋼は酸化精練の結果として多量の酸素を酸化鉄FeOの形で含んでいるので，これを除去するために，フェロマンガンのほか，フェロシリコンやアルミニウムが添加される。この脱酸の程度によって，鋼塊はキルド鋼・セミキルド鋼・リムド鋼などに分けられる。鋼塊は熱間で圧延してまずスラグをつくる。さらにこれを熱間・冷間で圧延したり，押し出したりして棒鋼・形鋼・鋼管・線材とする。これらを総称して鋼材という。鉄鋼の溶製法としては，以上のほかに，鋳鉄の場合には，主としてキュポラ*により溶解される。

【性質】鉄鋼は化学組成および金属組織の差によって広い範囲にその性質を変えることができる。化学組成は，製銑・製鋼過程で定まるが，化学組成のうちではまず炭素量が重要で，一般に含有炭素量がふえるにつれ，強さ・かたさが増大する。また，鉄鋼に及ぼす合金元素の影響は，合金元素の種類によって異なっている。金属組織は含有元素量および熱処理により異なる。熱処理には，焼き入れ・焼きならし・焼きもどし・焼き鈍(なま)しのほか，特殊なものとして加工熱処理・時効・鋭敏化処理・溶体化処理などがある。金属組織は純鉄ではフェライト*のみであるが，鋼では図に示すように，炭素量によって異なり，また温度によっても変化する。また熱処理によっても異なり，フェライト・パーライト・オーステナイト・マルテンサイトなどを呈する。鋼を焼き入れして得られるマルテンサイトは，きわめてかたいが，フェライトは柔らかくて強いなど，その変化は複雑である。

〔長谷川正義〕

てっこうぎょう　【鉄鋼業】　鉄鋼は一国経済の基本材料であり，その生産には，鉄鉱石・石炭・重油・電気・水など大量の原料と高い技術水準を必要とする。このため，鉄鋼業は，国の基幹産業*となっており，その発達は一国経済の発展を示すバロメーターとされている。鉄鋼業は，19世紀後半に近代的製鋼法が発明されてから急速に発展したが，その工程は製銑・製鋼・圧延・仕上げ加工，つまり銑鉄からブリキなどの二次製品に至るまで多数の工程からなりたっており，鉄鋼業は，この工程を1社がほぼ一貫して行なう巨大な一貫メーカー*，製鋼以降の工程のみを行なう平炉メーカー，二次製品の加工メーカーなどによって構成されている。したがって，各国の鉄鋼業の企業構成は，寡占的な一貫メーカーを頂点とし，そのもとに中堅的な若干の平炉メーカー，さらに底辺には多数の二次加工メーカーが存在するというピラミッド形をなす。わが国の鉄鋼業においても，鉄鋼一貫生産の新日本製鉄・日本鋼管・川崎製鉄・住友金属工業・神戸製鋼の大手が銑鉄・粗鋼・鋼材の生産量の圧倒的割合を占め，これらから原材料の供給を受ける多数の傘下(さんか)企業をその系列下に収めるという企業構成になっている。そのうち，1970年(昭和45)に八幡(やはた)製鉄と富士製鉄の合併によって成立した新日本製鉄は，鉄鋼生産量において世界最大となり国内粗鋼生産の35%を占めている。

表-1　鉄鋼一貫6社の生産シェア(1969)

銑　鉄(高炉)		粗　　鋼	
	%		%
新日本製鉄	43.7	新日本製鉄	35.4
日本鋼管	16.4	日本鋼管	13.6
川崎製鉄	14.3	川崎製鉄	12.2
住友金属工業	13.1	住友金属工業	12.0
神戸製鋼所	6.6	神戸製鋼所	5.1
日新製鋼	2.9	日新製鋼	2.8
全国計	100.0	全国計	100.0

東洋経済新報社《統計月報》(1970年6月号)による

わが国の鉄鋼業は，1874年(明治7)釜石(かまいし)(岩手県)の官営製鉄所に近代的製鋼法を導入することによって近代化の口火を切ったが，本格的な鉄鋼業の発達は，1896年，官営八幡製鉄所の設立をみてからである。八幡製鉄所設立後，わが国の産業発展と軍需の増大とに刺激されて，鉄鋼業は急速に発展した。その後，第2次世界大戦により一時的な停滞をみたが，戦後の日本経済の高度成長に伴って鉄鋼生産は飛躍的に増大し，現在ではアメリカ・ソ連に次ぐ世界第3位の生産高と第1位の輸出額を誇り，1970年の年産規模は，9,300万tを越すまでに成長した。このようなわが国鉄鋼業の飛躍的な発展は，建設・機械における需要の拡大のみならず，鉄鋼の輸出，電気機械・自動車など新しい鉄鋼市場の出現と，これに対応する供給条件の整備，すなわち，1951年の第1次合理化計画の着手から，1956年の第2次合理化計画，1961年からの第3次合理化計画を経て現在に至るまでの高炉大形化・ストリップミル・LD転炉の採用などの設備拡大と技術革新によって生み出されたものである。現在の一貫メーカーの工場規模は，世界の最先端にあり，粗鋼年産規模で9,300万tを越しているが，さらに新日本製鉄の君津(千葉県)，日本鋼管の福山(広島県)，川崎製鉄の水島(岡山県)，住友金属工業の鹿島(かしま)(茨城県)などトップクラスのメーカーの建設中の設備完成時(1972～1973)には年産1億tを越える能力が見込まれている。

このような設備投資の増大は，国内における激しい企業間競争によって促された。鉄鋼業は，前述したように寡占的な巨大一貫メーカーを頂点としたピラミッド形をなすという産業特性により，一貫メーカーの独占的支配力が強大化し，市場競争が減退する傾向をもつが，第2次世界大戦後のわ

表-2　鉄鋼生産高の推移　(単位　1,000t)

	銑　　鉄	粗　　鋼	普通鋼熱間圧延鋼材	特殊鋼熱間圧延鋼材
戦前最高記録	4 256(1942)	7 650(1943)	……	637(1944)
1946	203	557	359	67
1950	2 233	4 839	3 486	80
1955	5 217	9 408	6 672	319
1960	11 896	22 138	16 051	1 169
1965	27 502	41 161	30 972	2 412
1966	32 018	47 784	35 760	3 196
1967	40 095	62 517	45 934	4 426
1968	46 397	66 890	50 509	5 178
1969	58 147	82 166	60 483	6 577
1970	68 048	93 322	68 552	7 381

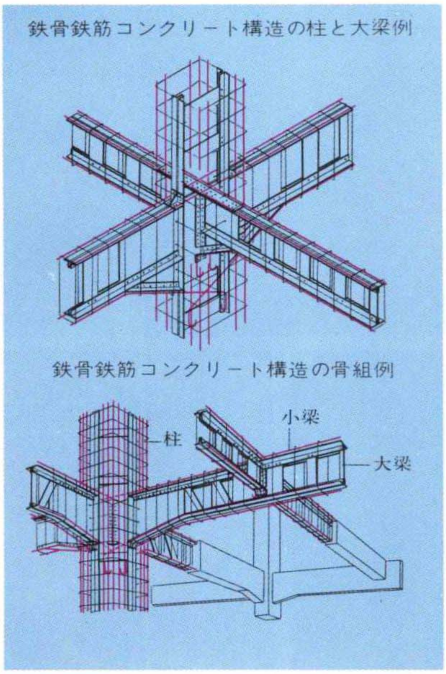
《鉄鋼統計要覧》(1971)

が国においては，一貫メーカーとその傘下企業との間の縦の系列関係が緊密となり，一貫メーカー相互間の競争は逆にアメリカやイギリスの鉄鋼業と異なり，かなり激しいものがあったことは注目すべき点である。とはいえ，激しい投資競争は，技術革新と合理化の推進によって国際競争力を強化したが，反面おもに借入金に依存する設備資金の調達，再三の市況停滞に基づく設備稼働率の低下と収益率の低下によって，わが国大手鉄鋼企業の財務内容は必ずしも良好ではなく，将来激しい国際競争のもとに設備の大形化を実現していくにはかなりの困難が予想される。大型合併による新日本製鉄の誕生は，このような困難に対処するためであるとみられる。これを契機に今後一貫メーカー・平炉メーカー・単圧メーカー(圧延のみを行なう)，さらに特殊鋼メーカーを含め，鉄鋼業の再編成が進められる可能性が大きくなり，かかる再編成を通じてわが国鉄鋼業の競争体制がくずれ，寡占的協調体制へと転換するおそれが増大しつつある。〔原　豊〕

てっこうくみあい【鉄工組合】1897年(明治30)に結成されたわが国最初の本格的労働組合。1900年には，東京とその近郊に42の支部，5,400余人に発展した。鉄道工場・造船所・砲兵工廠(こうしょう)などに勢力をもち，1898年には首切り反対闘争の勝利を期して日本鉄道会社に400人による日本鉄道矯正会(きょうせいかい)を組織している。高野房太郎・片山潜らの労働組合期成会*の影響が強く，機関紙《労働世界*》を中心に宣伝活動を展開したが，1901年以降急速に衰退した。〔広和邦昭〕

てっこつこうぞう【鉄骨構造】建築・土木の建造物で，主要な骨組みに各種の形鋼・鋼板を用いた構造。鉄骨骨組みを鉄筋コンクリートでおおった構造は，鉄骨鉄筋コンクリート構造といい，鉄骨造と区別される。鉄骨構造は使用する鋼材によって二つの種類に分けられる。その一つは熱間圧延した形鋼・鋼板を使用した鋼構造と，鋼板を加熱しないで冷間加工によってつくった軽量鉄骨を使用した薄板鋼構造とである。後者は，住宅などの軽微な構造に用いられる。

鉄骨構造は軽量で強度も大きく，かなり変形したのちでも余力が残されているので，力学的には望ましい構造である。しかし，腐食しやすい点と，不燃材料ではあるが加熱されると軟化して強度などが落ちること，耐火性がないことが最大の欠点である。従来は工場建築などに主として用いられてきたが，最近では，力学的にすぐれているので，耐火被覆して超高層建築*の構造に採用されている。鉄骨構造は部材を組み立ててつくるので，接合法は種々開発されてリベット・ボルト・高力ボルト・アーク溶接などが用いられている。〔桜井譲爾〕



鉄骨鉄筋コンクリート構造



テッセン

てっこつてっきんコンクリートこうぞう【鉄骨鉄筋コンクリート構造】鉄骨の柱，梁(はり)などを鉄筋コンクリート*によって補強し，鉄骨と鉄筋コンクリートとを一体とした建築・土木の構造方法。1920年代に内藤多仲によって，地震国日本に適した耐震的な骨組みとして，提唱され実施された。はじめ，この構造をコンポジットストラクチャー，あるいは鋼コンクリート構造などと名づけていた。この構造の断面計算方法には，鉄筋を鉄骨とみなしてコンクリートを無視する〈鉄骨方式〉，鉄骨を鉄筋に置き換える〈鉄筋コンクリート方式〉，および鉄骨と鉄筋コンクリートとのそれぞれの強さの和として計算する〈累加強さ方式〉などがある。耐震的であるとともに耐火的でもあるので，わが国の高層建築にはこの構造方式を採用するものが多い。〔谷　資信〕

てつさいきん【鉄細菌】二価の鉄イオン(Fe^{++})あるいはマンガンイオン(Mn^{++})を空気酸化してその時発生するエネルギーを用いて炭酸同化作用を営む化学合成細菌。鉄の酸化によって獲得されるエネルギーは少ないので，菌体が増殖するためには菌体量の数百倍の水酸化鉄が生成されることになり，このために菌体を鉄さび中に発見することは困難である。鉄細菌は固体の鉄を侵すのではなく，溶解した鉄イオンを酸化するのであるから腐蝕細菌ではない。〔吉田精一〕

テッサロニキ［Thessaloniki］ギリシア北部，マケドニア地方の都市。サロニカともいう。カルキジキ半島の西側，テルメ湾奥にあるギリシア第2の都市である。人口34万6,000(1971)。バルカン半島の重要港で，クロム・マンガン・皮革・たばこなどを積み出し，内陸各地へ向かう鉄道の起点でもある。BC315年に起こり，ローマと東方を結ぶ要地とされた。904年サラセンの支配下にはいり，中世にはベネチア領，1430年から5世紀にわたってはトルコ帝国の支配下にあったが，第1次世界大戦後ギリシア領となった。〔梶川勇作〕

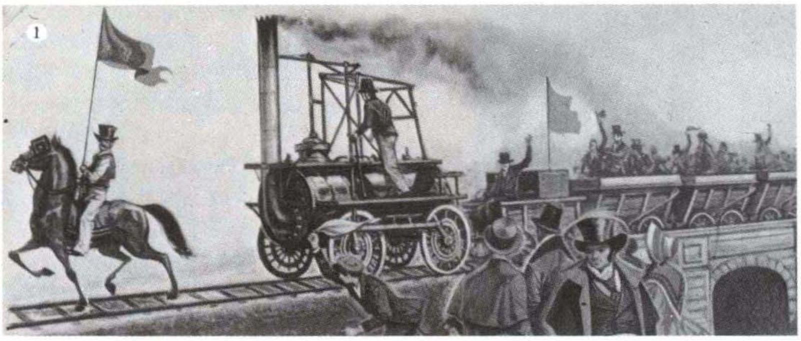
デッサン［dessin］素描。絵画において鉛筆・木炭・コンテ・ペンなどを用い形象や明暗を単色で描くことをいう。しかし，油絵においては対象の把握(はあく)のしかたや構成・色彩などについてもこの語が用いられることがある。

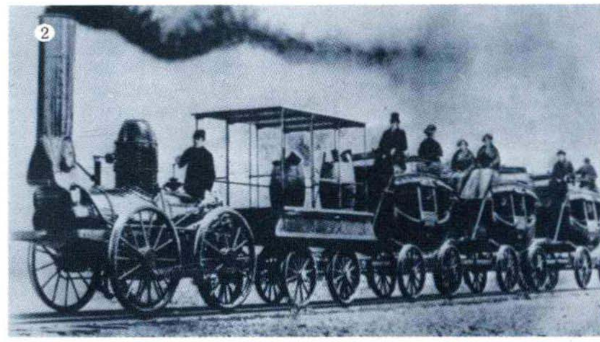
てっせん【鉄線】双子葉植物・キンポウゲ科。中国原産の落葉つる性木本。クレマチス属の代表的なものの一種で，観賞用に庭などに植えられる。茎は長さ4m前後になる。葉は対生，ふつう2回3出複葉で，各小葉は長さ2～4cm，幅1～2cmの卵形または卵状披針(ひしん)形で全縁，裏面に少し毛がある。葉柄や小葉の柄で他物に巻きつく。5～6月，葉腋(ようえき)から長さ6～12cmの柄を出し，先端に直径5～8cmの6弁花をつける。柄の途中に1対の包葉がある。花弁はなく，花弁状のがく片は白色で，おしべは弁化している。紫色花や八重咲きもある。これに似たカザグルマ*は，花が大きく，がく片はふつう8枚である。〔加藤僖重〕

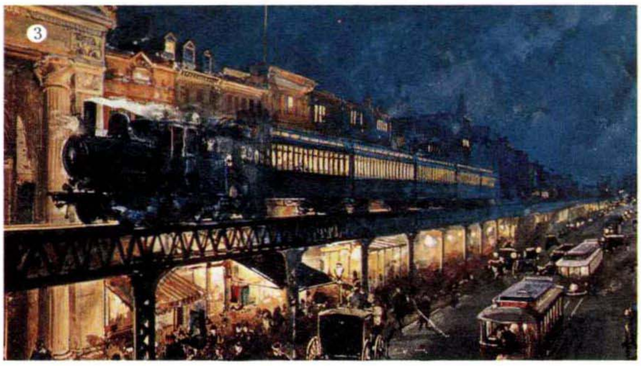
てっせんびょう【鉄線描】東洋画の線描法の一。線に肥痩(ひそう)なく，速度よりは連続する硬質の強靭(きょうじん)さをその特徴とする。主として仏画・人物画などの衣文描写に用いられる。古今十八描法(中国において形式化された描線に関する18種の毛筆技法)の一。

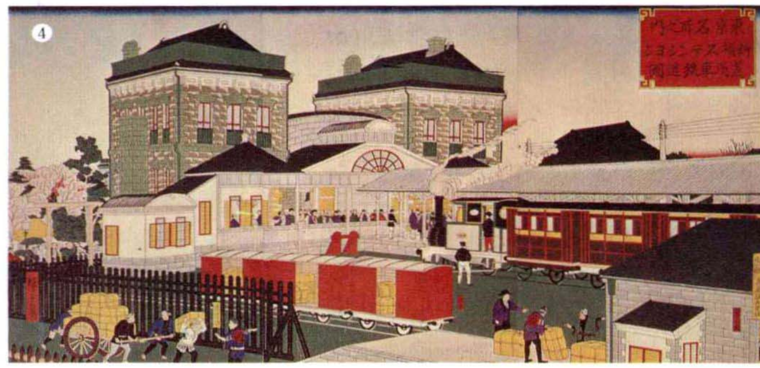
てつぞくげんそ【鉄族元素】周期律表第Ⅷ族に属する元素のうち，鉄・コバルト・ニッケルの3元素をいう。強磁性で化学的性質も類似している。これは価電子配置が3dに6,7,8と1個ずつ増加しているのみの差異によるためである。中程度の還元性をもち，その力は原子番号の順に弱くなる。また酸に対する反応性も鉄がいちばんとけやすくてFe^{2+}になりやすく，コバルト・ニッケルは抵抗性が強く，徐々に溶解するのみである。ともに錯塩をつくりやすい。〔古屋　弘〕

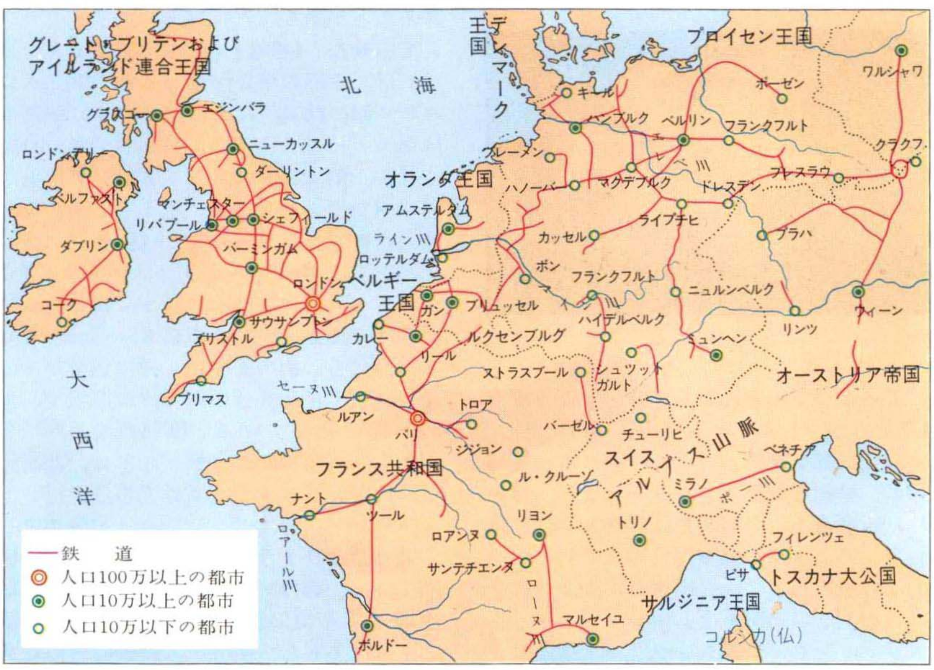
でっち【丁稚】⇨番頭



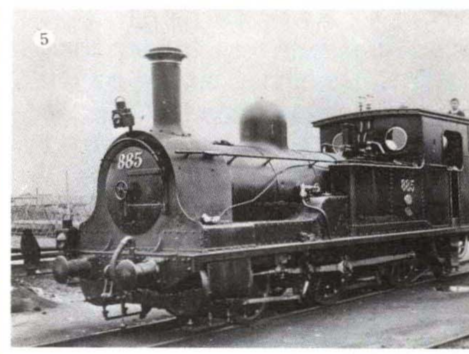








1850年ごろのヨーロッパの鉄道



鉄　道

①世界最初の鉄道開通(イギリス)　1825
②ニューヨーク州の鉄道開通当時のデウィット-クリントン号　1831　③活況を呈するアメリカの鉄道《夜のバワリー街》　1895
④開業当時の新橋駅　⑤国産第1号機関車(860形)　1893
①④⑤交通博物館蔵，③ニューヨーク市立博物館蔵

てっつうぎかい　【徹通義介】　(1219～1309)　鎌倉時代の曹洞宗(そうとうしゅう)の僧。越前(えちぜん)(福井県)の人。俗姓は藤原氏。13歳で出家し，比叡(ひえい)山に学んだのち，1241年(仁治2)興聖寺の道元に参じ，随侍して越前の永平寺に移り，道元没後はその弟子(でし)孤雲懐奘(こうんえじょう)に師事した。1259年(正元1)宋(そう)に渡り，天童山などを歴遊し，伽藍(がらん)・法具を図録して4年後に帰朝した。のち永平寺第3世となり，さらに加賀(石川県)大乗寺の開山となった。〔田中良昭〕

てつどう　【鉄道】　軌道によって走行進路が誘導され，多数の輸送体が連結されてなりたつ陸上の輸送手段。従来の概念では，車体はレール上を車輪でささえ，車輪の回転によって前進する，ということが鉄道の本質的な特徴であった。しかし近い将来超高速鉄道が実用化されると考えられる現在では，鉄道の概念を広く改める必要が生じてきた。他の輸送機関と比べて，次のような特長がある。①陸上の輸送機関であること。当然であるが，エンジンなどの故障が起こると航空機は墜落するが，鉄道は停止するだけである(フェイル-セーフという)，②陸上のガイドレールに沿って走る(一次元の運動)ので，容易に自動制御に適し，コストの面でも合理化の可能性を多く含む，③ふつう多数の車両を連結し，大量輸送ができることなどである。

〔鉄道の種類〕いろいろな分類法がある。軌条の数からはモノレール*(単軌鉄道)と双軌鉄道(平行した2本のレールをもつ)があり，後者が一般的である。運転動力の点からは，蒸気鉄道・電気鉄道・内燃機鉄道などがある。法制上からは日本国有鉄道法に基づく日本国有鉄道*(国鉄)，地方鉄道法によって規制される地方鉄道，軌道法により規制される軌道がある。軌間により，広軌(数種ある)，標準軌(1.435m)，狭軌(1.067m)がある。アメリカ・イギリス・ドイツ・フランスなどは標準軌で，インド・ポルト

ガル・スペインは広軌である。日本では新幹線*が標準軌(通常広軌新幹線とよぶ)であり，在来線は狭軌である。

【歴史】18世紀後半に始まったイギリスの産業革命*が，工業生産を飛躍的に増大させ，これに伴って生ずる膨大な輸送需要を従来の馬車や帆船ではさばけなくなった。こうした状況の中で，まず蒸気機関車*が実用化され，1825年，イギリスのストックトン～ダーリントン間に鉄道が開通した。これがのちに自動車・航空機が現われるまでの長年にわたる鉄道黄金時代のスタートであった。アメリカでは1827年にボルチモア-オハイオ鉄道会社が設立され，1830年に鉄道営業が開始された。それ以後産業発展のにない手として，また未開地の開拓に大きな役割を果たすものとして，加速度的に鉄道網が張り巡らされた。フランスでは1832年南フランスのリヨン～サンテチエンヌ間が最初であり，ドイツは1835年であった。1840年代はイギリスでは鉄道狂時代とまでいわれ，次から次へと鉄道会社が誕生し，1870年に25,000km,1890年に30,000kmを越え，ほぼ現在に近い鉄道網が完成した。アメリカでは新大陸のパイオニア時代であっただけに鉄道熱はさらに強かった。鉄道がはじめて開通して10年後に4,500km,1900年には実に30万kmに達し,大陸横断鉄道の完成(1869)は開通後わずか40年足らずという躍進ぶりであった。こうして1900年ごろには欧米先進資本主義国では，鉄道は陸上輸送の王座たる地位を占めた。わが国の鉄道は，1872年(明治５)新橋～横浜間29.1kmの開通が最初である。その後1874年に大阪～神戸(こうべ)間，1877年に京都～神戸間，1889年に東海道本線全線が開通した。そして1906年に公布された鉄道国有法によって，主要鉄道のほとんどが国有化され，今日の国鉄の原型ができた。

ところが第１次世界大戦前後から欧米では自動車が第２の陸上機関として発達し，鉄道と激しく競争するようになった。第２次世界大戦後はモータリゼーション*はさらに進み，加えて航空機も急速に伸びたため，近・中距離は自動車に，長距離は航空機に奪われ，各国の鉄道はだんだんと経営難になり，やがて鉄道斜陽論がさけばれるようになった。こうした風潮を打ち破ったのがわが国の東海道新幹線の大成功である。これを契機として世界各国で高速鉄道を見なおす機運が高まりつつあり，アメリカにおいても，ワシントン～ニューヨーク間におけるメトロライナーの運行開始をはじめ，ドイツ・フランス・イギリスにおいても数数の高速鉄道の実現が具体化しつつあるのが現状である。

【外国の鉄道】ドイツとアメリカが中心である。①西ドイツ：国有のドイツ連邦鉄道と公営または民営の鉄道とがあるが，輸送量・重要性において，ドイツ国鉄のほうが国の動脈をなす基幹的な輸送機関である。客・貨別では，むしろ貨物輸送の比重が高い。ドイツ国鉄の営業キロは1955年には31,000kmであったが,1965年までに660kmの営業を廃止した。経営の点では，1948年以来連続的に赤字となったため抜本的な再建策として,〈レーバー-プラン〉がつくられ，一部実施された。その中でトラックの長距離輸送(50km以上)を禁じた点が特に注目される。②アメリカ：発足以来，戦時中を除いて民営を原則とし，1965年現在鉄道会社(１級鉄道)の数は76社，営業キロは総延長で約56万kmに及ぶ。諸外国に比べて特に道路・航空機が飛躍的に発達したため，鉄道経営は非常に苦しくなり，民営鉄道は営業キロを縮小しつつあり，特に旅客輸送においてその傾向が著しい。客・貨の比でみると，収入面で１対９と量・質において貨物輸送の役割が圧倒的である。しかし鉄道全般からみれば，経営は各社とも依然として深刻化していたので，その対策として1962年にケネディ運輸教書が議会に提出された。これは,各交通機関を平等な基盤(イコール-フッティング)において，自由な競争をさせ，それぞれの輸送分野で各輸送機関の特徴を発揮させることをねらいとするものである。この考え方は今日，世界各国における鉄道に対する運輸政策上の重要問題としてクローズ-アップされ,ドイツ・フランスにおいても，各輸送機関の競争条件の平等化が大なり小なり実現されつつある。近年，ボストン～ワシントン間の東北メガロポリスやカリフォルニア州において，わが国の新幹線の実績に刺激され，高速鉄道が営団または公社によって建設されつつあるが，これは従来の自己負担(受益者負担)でない点で画期的なものである。

【日本の現況】わが国の鉄道は大別して国有鉄道と民営鉄道とがあり，前者の営業キロは約20,000km,後者がその総計で約6,000kmである。両者を比較した場合，質においても量においても国鉄が日本の大動脈としての役割を果たしている。①日本国有鉄道:年間65億人の旅客と２億tの貨物を運んでいるが，1964年以降赤字が続いている。この原因は人件費をはじめ経費が大幅に増加したことにもよるが，根本的には最近の輸送構造の急速な変化に基づくものと思われる。国鉄財政再建推進会議の意見書によれば，将来とも国鉄が担当すべき輸送分野は，都市間の高速旅客輸送，中・長距離貨物の大量輸送，大都市の通勤・通学輸送であると書かれている。②民営鉄道：地方鉄道と軌道法による軌道とがあり，国鉄に対して私鉄と総称する場合が多い。大手私鉄は他の関連事業を営んでいるので，経営は必ずしも悪くはないが，地方の中小私鉄の経営は苦しく，縮小の傾向にあるものが多い。

【将来の展望 - 超高速鉄道】東海道新幹線の成功を機に，高速鉄道の実績と意義が高く評価されて，わが国では全国新幹線鉄道整備法が成立した。新幹線といえども，レールと車輪による粘着方式で出せる最高速度は,事実上時速約330kmである。しかしこの程度の速度では将来の需要を満たすことが困難であると予想され,現在時速500km前後の超高速鉄道が開発されつつある。イギリスで開発途上にあるものとしてホバー-トレインがある。これは上部から取り入れた空気をファンによって底面に吹きつけて浮上させ，プロペラまたはリニア-モーター(→リニア-モーターカー)によって推進させるもので,時速500kmをめざしている。フランスではアエロ-トラン社が政府の援助のもとに,時速400kmを目標に開発してきたエア-クッション列車も実現が進んでいる。しかしこれらは空気浮上方式で，騒音などの点で問題が多く，日本・アメリカでは磁気浮上方式をとり，推進にはリニア-モーターを使うものが研究されている。この方式が実用化されれば，近い将来東京～大阪間をわずか１時間余りで結ぶことになる。

〔米本亮一〕

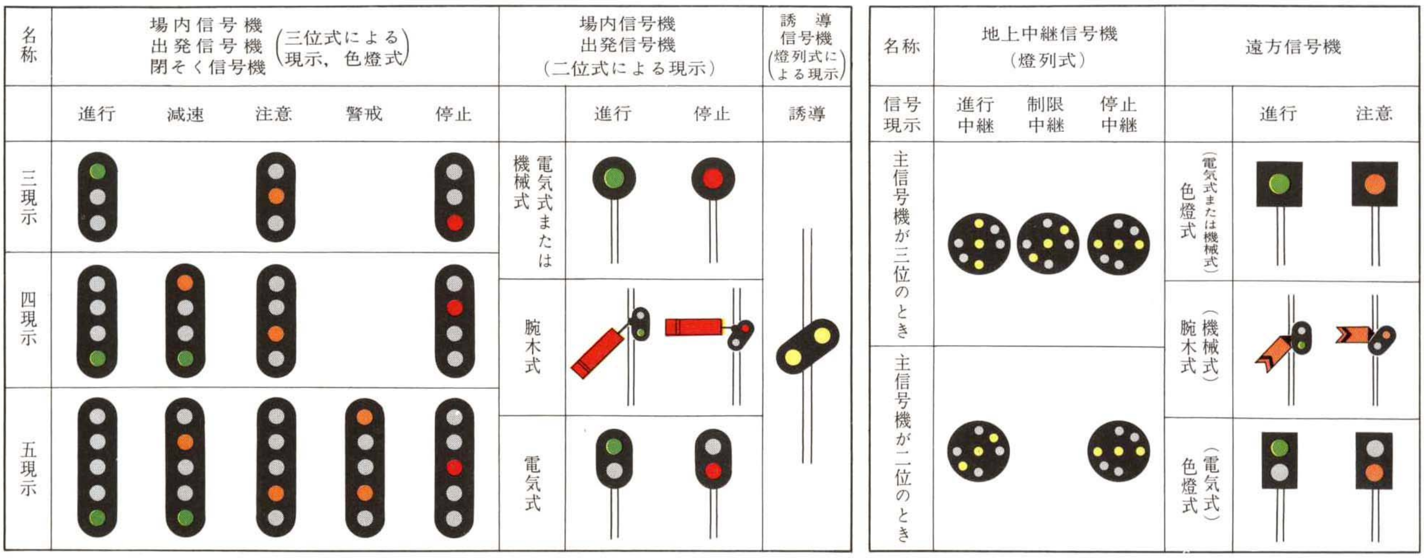
てっとうぎこう【徹翁義亨】（1295～1369）室町時代の臨済宗の僧。出雲(いずも)(島根県)の人。俗姓は頗(は)氏。諡(おくりな)は大祖正眼禅師・天応大現国師。京都建仁(けんにん)寺の鏡堂覚円に得度し，のち南禅寺の通翁鏡円，雲居(うんご)寺の宗峰妙超*らに参じて宗峰の大徳寺を開くのにしたがい，1337年(延元２・建武４)師の遺命により大徳寺第２世となった。晩年は大徳寺前に徳禅寺を開いて住した。著書《語録》２巻。

てつどうきょう【鉄道橋】 鉄道線路構造物のうちの橋梁(きょうりょう)をさし，一般に河川にかかるものが鉄橋とよばれている。いろいろの形状や大きさがあるが，鉄道橋の約50％は鋼鉄製の細長い箱状のプレートガーダー橋で，けたの長さが40m以上になると，多くは鉄骨を縦・横・斜めに組み立てたトラス橋である。特殊なものにアーチ橋*とかラーメン橋があるが，近年はコンクリート橋がかなり採用されている。日本でいちばん長い鉄道橋は,新富士川橋梁(東海道新幹線熱海～静岡間)の1,373mであり，高さでは，42mの最高橋脚をもつ余部(あまるべ)橋梁(山陰本線)，水面から橋げたまで60mの第１白川橋梁(只見(ただみ)線)が知られている。

〔宍塚正幸〕

てつどうこうあんかん【鉄道公安官】 正しくは鉄道公安職員という。日本国有鉄道*の職員で，旅客公衆の秩序の維持と犯罪の防止,鉄道設備の警備や荷物事故の防止・調査をおもな業務とするもの。法令により，司法警察員または司法巡査に指定されているので，司法警察職員としての職務を行なうことができる。

てつどうこうさいかい【鉄道弘済会】 日本国有鉄道の構内営業者のうち最大の団体。職員数約２万6,000人。全国2,000余り



鉄道信号　信号現示の例　(左)主信号機(右)従属信号機

の駅売店，ホーム立ち売り，列車内および連絡船内でおもに旅行用雑貨を販売している。1932年(昭和7)に設立された財団法人で，日本国有鉄道関係者の福祉をはかるだけでなく，その収益をもって広く社会福祉事業を行なっている。

てつどうしょう　【鉄道省】　鉄道行政をつかさどる中央官庁。1920年(大正9)創設。1908年(明治41)創設の内閣鉄道院を拡充し，国有鉄道の事業とその付帯業務の管理，地方鉄道および軌道の監督，南満州鉄道*(株)の鉄道および航路に関する業務の監督を任務とした。1943年(昭和18)運輸通信省に併合され，さらに1945年機構を大幅に改変して運輸省と改称された。

てつどうしょうか　【鉄道唱歌】　1900年(明治33)大和田建樹*(たてき)の詞に，宮内庁楽部出身の多梅稚(おおのうめわか)(1869～1920)が作曲した唱歌。2拍子，付点音符の偏用，第4音と第7音を使わない長調という，歌いやすく，当時の常套(じょうとう)的な旋律と，新橋から神戸(こうべ)までの土地や歴史を折り込んだ66番に及ぶ歌詞によって非常に愛唱された。のちに東海道線以外のものもつくられた。

てつどうしんごう　【鉄道信号】　鉄道において使用する信号・合い図・標識の総称。信号とは形・色・音などにより列車または車両に対して一定の区域内を運転するときの条件を指示するものをいう。合い図とは形・色・音などにより従業員相互間でその相手に対し，合い図の意思を表示するものをいう。標識とは形・色などにより物の位置・方向・条件などを表示するものをいう。鉄道信号の目的は列車または車両を防護し，安全に運転し，さらに積極的に輸送能率を向上することにある。

信号を大別すると常置信号機(地上また



鉄道馬車　《鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図》　交通博物館蔵



鉄道連絡船　津軽丸　速力18.2ノット

は車内に常置して現示する)，臨時信号機(線路工事などの際その箇所に臨時に現示する)，手信号(信号機が使用できないとき，または設けていないとき旗または燈により現示する)，特殊信号(予期しない箇所で，音または火炎により停止を現示する)に分かれる。

常置信号機は構造上から，腕木式と色燈式とに分かれ，色燈式はさらに多燈式・単燈式に分かれる。また操作上からは手動・自動・半自動に分かれる。手動は人間の操作で任意の信号現示を出す信号機で，自動は連続軌道回路(2条のレールにより電気回路を構成したもの)を使用して，列車の有無により自動的に信号の現示を制御する信号機である。半自動は自動信号機と同じく，自動的に信号現示を制御するとともに，信号扱者も操作することができる信号機である。自動信号区間の閉塞(へいそく)信号機が自動信号機で，自動信号区間の場内，出発信号機などが半自動信号機に属する。常置信号機はこれを設ける場所および使用目的によって主信号機(場内・出発・閉塞・誘導)・従属信号機(遠方・中継)に区別できる。また，合い図には出発合い図器・入れ換え合い図器などが，標識には速度制限標識・列車停止標識などがある。鉄道信号の取り扱い方，建植のしかたなどは規程できびしく定められており，列車・車両が安全にかつ能率よく運転されるようになっている。

〔三宅　良〕

てつどうばしゃ　【鉄道馬車】　馬車鉄道ともいわれ，道路に敷設された軌道上を馬が車両を引くもの。わが国では，1882年(明治15)東京の上野～新橋間で営業されたのが最初で，1台に20～30名の客を乗せ，2頭立てのウマで引いた。その後，明治30年代に電力による市街鉄道の計画が進められるようになって廃止された。

てつどうれんらくせん　【鉄道連絡船】　海によって断ち切られた鉄道網を連絡し，旅客・貨物・自動車・列車を輸送する日本国有鉄道*所管の船舶。現在青函(せいかん)連絡航路*・宇高連絡航路*の二大航路のほか，仁堀(にほり)(広島県仁方(にがた)～愛媛県堀江間70km)・大島(山口県大畠～小松港間3km)・宮島(広島県宮島口～宮島間1km)の計5航路がある。これに配属されている連絡船は24隻(約7万総トン)で，11隻の補助汽船もあり，年間利用客約1,483万人(宇高657万，青函470万，宮島187万)輸送貨物は1,222万t

(青函847万，宇高375万)(1969)で，わが国の内航海運界のトップにある。各航路には，安全性が高く最も自動化された津軽丸(5,319総トン)形(青函)・伊予(いよ)丸(3,083総トン)形(宇高)などの近代化された船舶が就航している。〔宍塚正幸〕

てつのカーテン【鉄のカーテン】1946年3月5日，イギリス首相チャーチル*がアメリカのミズーリ州フルトン市で行なった演説で，〈今日バルト海のシュテッチンからアドリア海のトリエステまで，大陸を横切って鉄のカーテンがおりている〉といったことから生まれたことば。以後，アメリカとソ連との対立が顕著となるにつれて，ソ連とその衛星国家群の閉鎖性，西ヨーロッパ世界に対する政治的・文化的障壁を意味する用語として資本主義陣営で広く使用された。なお，その後成立した中華人民共和国に対しては，東洋的風土を反映して〈竹のカーテン〉なる用語が使われた。〔折井一彦〕

てつのはい【鉄の肺】⇨ポリオ

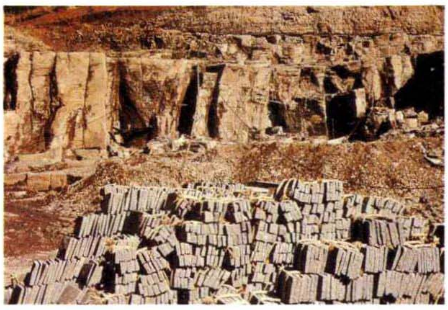
てつびん【鉄瓶】つぎ口とつるがついた鋳鉄製の湯沸かし器。ふたは鋳鉄製と唐銅(からかね)製が多い。室町時代末期のつぎ口とつるのある手取釜(てとりがま)という茶釜*が原形になったといわれる。《茶道筌蹄》(ちゃどうせんてい)に表千家*9世了々斎宗佐(1775〜1825)好みの宝珠形の鉄びんを釜師がつくったとしるされていることなどから，明和・安永年間(1764〜1780)にはすでに茶の湯に使用されていたと考えられる。鉄びんの名称は，江戸時代末期ごろから普及した。産地は京都・大阪・岩手などで，京都の龍文堂(りゅうぶんどう)，盛岡の南部鉄びんが名高い。形はいろいろあるが，丸形・筒形・平丸形などが普通で，鋳出意匠は茶釜よりも凝ったものが多い。内部の底に2〜3個の鉄片を漆で張り(口元という)，湯が沸くと音を発するようにしたものが多く，湯の味も他の製品にまさる。〔船石清香〕

テップ［TEPP］tetraethyl pyrophosphateの略。人畜毒性のきわめて高い有機リン殺虫剤で，特定毒物に指定されているが，化学的に不安定で加水分解しやすいうえ，悪臭もないので，クワ・チャなどのアカダニ・アブラムシ・スリップス，温室のアカダニなどの駆除に使用される。他の有機リン剤同様にコリンエステラーゼの阻害剤で接触剤・薫蒸剤として殺虫効力があり，速効性である。

てっぺいせき【鉄平石】長野県の諏訪(すわ)地方を主産地とする板状節理の発達した安山岩*。節理*によって厚さ数センチメートルの板にはがすことができる。最近ではコンクリートの面に張りつけて使用することが多い。強度も強く，特に耐火性はカコウ岩よりもすぐれている。

てつぼう【鉄棒】⇨体操競技

てっぽううお【鉄砲魚】硬骨魚類・テ



鉄平石 鉄平石の石切り場(長野県諏訪市福田山)



テッポウウオ



テッポウユリ

ッポウウオ科。全長10cm，天然では30cmを越すといわれる淡水魚。汽水域から河口部の海水域にも分布する。産地は東南アジア方面で，オーストラリアのクインズランドにも分布している。英名をアーチャーフィッシュといい，熱帯魚愛好家に広く親しまれている。テッポウウオの名の由来は，口蓋(こうがい)部の正中線に細長いみぞがあり，舌を利用して水を射出し，水辺の草や木に止まっているこん虫などを落として食べるためである。天然の大きい魚になると，3mも離れたところのこん虫を落とすといわれている。〔安田富士郎〕

てっぽうえび【鉄砲蝦】甲殻(こうかく)類テッポウエビ科。この科のエビは，甲殻背面の額角が小さく，ときには欠けることもある。複眼は甲殻の前縁で，半ばもしくは全部おおわれている。第一胸脚ははさみ状を呈するが，左右は非対称で，一方は可動指が短く，全体に強大である。強大なはさみの可動指を不動指にうちつけて鋭い音を発するのでこの名があり，英名をピストルシュリンプという。体長は5cmほどで，体色は緑かっ色であるが，体長・体色とも個体変異が大きい。日本各地で普通に見られ，一般に沿岸の潮間帯以下の浅海の砂泥底(さでいてい)に大きい穴を掘ってすむ。〔向井　宏〕

てっぽうむし【鉄砲虫】⇨カミキリムシ

てっぽうゆり【鉄砲百合】単子葉植物・ユリ科。九州・沖縄に自生する多年草で，イースターリリーともいわれ，切り花やはち植えとして広く栽培される。地中に扁球(へんきゅう)形で径3〜6cmの鱗茎(りんけい)があり，鱗片は淡黄色。茎は直立して高さ30〜100cm。葉は無柄で互生し，長さ10〜18cm，幅5〜15mmの披針(ひしん)形でつやがある。5〜6月，茎頂に芳香のある白色の美花を1〜4個横向きにつける。花被片は倒披針形で6枚あり，長さ13〜18cm，外側の主脈が強く隆起し，先が少しそり返る。秋に植えて6月ごろに開花するが園芸品種が多く，イースター*用に促成栽培もされる。〔横井朝子〕

てつマンガンじゅうせき【鉄マンガン重石】タングステンの鉱石の一種。(Fe, Mn)WO_4　単斜晶系，劈開*(へきかい)は(010)に完全。硬度5〜5.5，比重6.1〜7.5。亜金属光沢を有し，暗かっ色ないし黒色である。

デデキント［Julius Wilhelm Richard Dedekind］(1831〜1916) ドイツの数学者。ゲッチンゲン大学でガウス*に師事した。チューリヒ高等工業学校教授などを経て，1863年生地のブラウンシュバイク大学教授。代数的数論の開拓者のひとりで，解析学*・確率論・整数論に貢献。代数的数体のζ(ツェーター)関数や実数*論に関するデデキントの切断は有名で，これにより連続性および無理数の概念を明確化した。このほかイデアル論とよばれる集合の素分解の研究を行ない，またカントールの集合論の早くからの支持者でもあった。〔下平和夫〕

デーテルラインかんきん【デーテルライン桿菌】健康な婦人の膣内(ちつない)に生存するグラム陽性桿菌。芽胞およびべん毛をもたず，短い連鎖状をなす場合が多い。乳酸菌の仲間で，この菌によって産生される酸によって有害細菌の発育が抑制され，膣の清浄作用に役だつという。

テート-ギャラリー［Tate Gallery］ロンドンにある近代美術を収蔵陳列している国立美術館。実業家H-テート(1819〜1899)所蔵の近代絵画を基に1897年に開設された。所蔵作品にはターナーの諸傑作をはじめ，ブレーク*・ワッツ*やラファエル前派の作品を含む4,000点に及ぶイギリス絵画のほか，フランス印象派，後期印象派の秀作が含まれている。

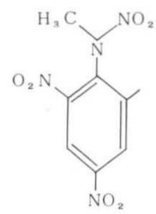
テトラサイクリン［tetracycline］1953年アメリカのコノーバーらがクロルテトラサイクリン*のクロル基をはずしてつく

った抗生物質。その後培養による生産にも成功した。抗菌作用は共通の構造をもつクロルテトラサイクリンやオキシテトラサイクリンとほとんど同じで，グラム陽性菌および陰性菌のほか，リケッチア*やクラミディア*の一部にも有効である。クロルテトラサイクリンより安定で，溶解性が大きく，副作用も少ない。アクロマイシン・テトラシンなどの商品名で知られる。〔川村次良〕

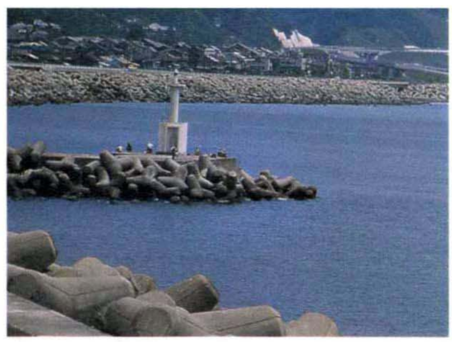
テトラポッド ［tetrapod］ 正四面体の頂点を先端とした四つ足のコンクリート塊。防波堤*の捨て石の代わりに用いる。波の作用でからみ合いますます散らばりにくくなる。外海に面した護岸や海岸堤防などの前面に積んで本体を保護したり，河床の洗掘を防ぐ場合などにも用いられる。多数積んだ場合に空隙(くうげき)が大きいから材料が少なくてすみ，反面，波や流れのエネルギーを吸収・減殺する効果が大きい。この種のコンクリート塊では最初のもので，比較的簡単につくられ，現在も離れ島の防波堤などには最適である。1個の大きさは0.5～50tぐらい。登録商標。〔佐島秀夫〕

てどりがわ 【手取川】 石川県の大河で白山に源を発する。山間部は峡谷をなして流れ，手取峡谷をはじめ奇勝が多く，金沢平野に出ると鶴来(つるぎ)を扇頂にみごとな扇状地を展開し日本海に注ぐ。流程73kmで，かつてはしばしば洪水(こうずい)を起こしたがいまはその恐れもなく，上流には多くのダムや発電所がつくられている。

テトリル ［tetryl］ 2，4，6-トリニトロフェニルメチルニトロアミンの別名。N，N-ジメチルアニリンを濃硫酸にとかし混酸を加えて反応させると得られる。淡黄色の結晶，融点129.45℃。爆薬として使われ，特に起爆薬，雷管の添装薬として重要。酸・塩基の指示薬としても使われる。



デトロイト ［Detroit］ アメリカ合衆国，ミシガン州南東部の港湾工業都市。人口133万5,000，大デトロイト420万(1975)。合衆国第5の都市で，ヒューロン湖とエリー湖を結ぶデトロイト川の水路に沿った港市として発達した。1701年フランス人によって建設され，1763年イギリスに移譲されたが，1796年アメリカ合衆国に譲渡された。1899年にR. E. オールドスとH. フォードがそれぞれアメリカ合衆国で最初の自動車工場をつくった所で，現在もフォードをはじめ主要自動車会社の所在地として世界屈指の自動車生産額を維持し，〈自動車市〉といわれるほどである。自動車工業の原料である鋼鉄はゲーリ・クリーブランド・バッファローなどから水運で輸送されており，専用の埠頭(ふとう)と製鉄工場をもつフォード工場は，南西郊外のデアーボーンにある。また航空機・機械・化学などの工業も行なわれ，対岸のカナダの自動車工業都市ウィンザーとはトンネルと橋で結ばれている。〔相村大彬〕



テトラポッド



デトロイト ヒューロン湖からエリー湖に通ずるデトロイト川に臨むデトロイトの中心部。右側対岸はカナダのウィンザー市

テトロドトキシン ［tetrodotoxin］ フグ毒の本体。化学的には窒素を含む有機化合物で，$C_{11}H_{17}O_8N_3$の組成をもつ。田原良純*によって発見，命名された。クサフグ・ヒガンフグなどに多く含まれ，フグ以外にある種のイモリにも見いだされる。動物の種類によって異なるが，卵巣・肝臓に多く含まれる。猛毒で，中枢神経・運動神経などに作用し，全身を麻痺(まひ)させ，呼吸困難を起こし死に至らしめる。致死量はネズミに対し，体重10gあたり0.09μgである。

てながえび 【手長蝦】 甲殻(こうかく)類・テナガエビ科。淡水産のエビで，北海道を除く日本全域と，中国・朝鮮などの平地の湖沼や流れの比較的ゆるやかな川などに生息する。体長は雄で9cm，雌で8cm程度になる。第2胸脚は長く，特に雄では著しくて体長の2倍近くに達することもある。1～2年の寿命をもつと考えられている。春から秋の長期間にわたって抱卵がみられるが，盛期は7～8月である。稚エビの時期には水草などの間に遊泳するものが多い。霞ケ浦(かすみがうら)が主産地で，つくだ煮などにして食用にされる。〔向井　宏〕

てながざる 【手長猿】 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オランウータン科。類人猿*(るいじんえん)の一。東南アジアの各地にすむ。7種が含まれ，タイ・マライ半島のシロテテナガザルが有名。これは頭胴長50cm，5～6kg，体色は白・かっ色・黒色と変化に富む。雑食で小鳥や卵なども食べる。長い手を使って巧みに枝渡りし，敏捷(びんしょう)に森の中を移動する。1夫1妻の小さな群れをつくる。群れはなわばりをもち，その境界線では群れどうし戦う。大きな声で鳴くが，これはなわばり宣言の歌である。幼時は人によくなれてかわいいが大きくなると危険。〔河合雅雄〕



テナガザル
①左はシロマユテナガザル，右はシロテテナガザル
②ギンイロテナガザル

テニエス ［Ferdinand Tönnies］ (1855～1936) ドイツの社会学者。キール大学教授・ドイツ社会学会会長を歴任。社会

の型を人間の本質意思に基づくゲマインシャフト*と選択意思に基づくゲゼルシャフト*に分類し，それを社会の歴史的発展の説明に適用しようと試みた。この学説は社会学のみならず精神科学にも大きな影響を与えた。主著に《ゲマインシャフトとゲゼルシャフト》《社会学的研究と批判》がある。

デニキン［Anton Ivanovich Denikin］（1872～1947） 帝政ロシアの軍人。農民の出身。第1次世界大戦中に軍団長となり，二月革命*後参謀総長，西部・西南部の戦線司令官となった。1917年8月，コルニーロフ*反乱に荷担して逮捕されたが，十月革命*後逃亡し，1917年末，アレクセーエフ・コルニーロフとともにドン川地方で白衛軍を組織した。1918年3月，コルニーロフの死後この軍を指揮し，コサック上層部とイギリス・アメリカ・フランスの支持を得て，1918年北カフカズ，1919年春ウクライナを占領しモスクワに迫ったが，赤衛軍*に敗れ，1920年ウランゲリ将軍にあとを譲って亡命。コンスタンチノープルを経て1926年フランスに移り，同地で没した。〔山県弘志〕

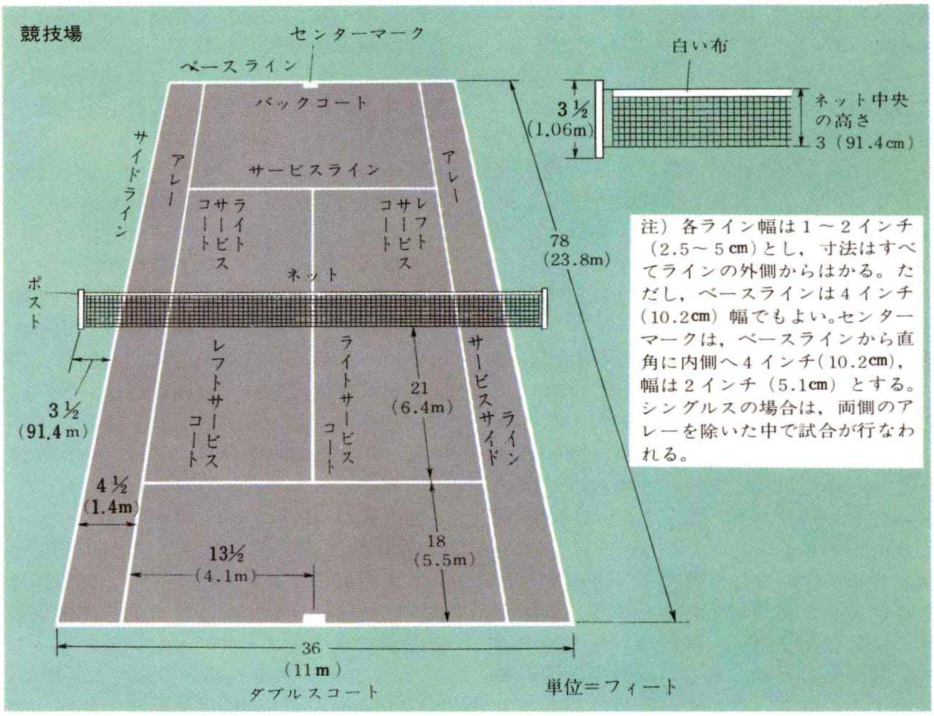
テニス［tennis］ 正式にはローンテニスといい，わが国では庭球ともいう。一定の区画線で囲まれた長方形のコートの両側にネットを境にして相対した競技者が互いにボールを打ち合う屋外競技。フランス語のトゥネが語源といわれる。

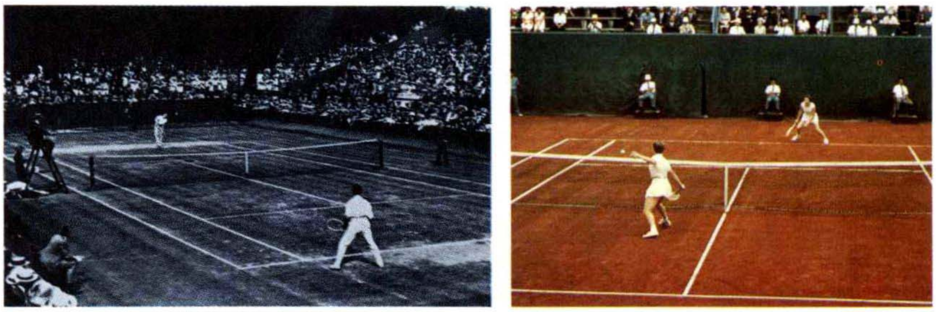
〈歴史〉 テニスの発生は明確でないが，すでに11世紀ごろからフランス・イタリアなどでおもに僧院の人たちの間で行なわれていたボールゲームの一種で，ロイヤルテニスとよばれ，競技法も現在のテニスとはだいぶ異なっていた。16世紀ごろフランスではジュー-ド-ポームとよばれて流行し，それまで素手でボールを打っていたが，しだいにラケットを使用するようになった。その後イギリスに輸入され，1877年ロンドン郊外のウィンブルドンのオール-イングランド-クロッケー-エンド-ローンテニスクラブの人々と英国庭球協会が新しくルールをつくって第1回全英選手権大会（ウィンブルドン大会）を開催し，ここに近代テニスが生まれた。1880年代アメリカへ輸入され，英米両国の対抗試合となった。1900年アメリカのデビスがこの対抗試合に優勝カップを寄贈したことからデビスカップ*争奪試合（デ杯試）と称され，急速に用具が発達して，各国でもこの競技を採用するに至った。1922年，各国庭球協会の協力によって国際庭球連盟（ILTF）が結成され，デ杯試合をこの主催管理によって国際ローンテニス選手権試合と呼称して毎年開催されることになった。今日ではその加盟諸国は95か国の多数に及んでいる。競技技術もボールの製造技術の発達とともに非常に進歩し，老幼男女だれにでもやれる競技として世界的に普及した。

わが国にはじめてテニスが紹介されたのは明治の初めごろで，外人の宣教師や外交官あるいは外国へ遊学した日本の若い人たちによってローンテニスが輸入された。これを正式にスポーツとして採用したのは東京高等師範学校（現在の教育大学）といわれている。そのころ世界的には硬球を用いていたが，日本に硬球を輸入することが困難であったため玩具（がんぐ）用のボールによって始められ，その後1890年（明治23）東京の三田土ゴム会社が玩具用のゴムボールを改良して軟式テニスボールを製造し，簡易なスポーツとして一般に歓迎された。これが現在日本・朝鮮・台湾で行なわれている軟式テニスである。1921年（大正10）日本の熊谷一弥*（くまがいいちや）・柏尾（かしお）誠一郎・清水（しみず）善造の3選手がはじめてデ杯試合に参加し，デ杯をかけた最終決勝に進出したことから世界の庭球愛好者を驚倒させ，国内でもこれが大きな契機となって同年秋，各地の大学庭球部はいっせいに硬式テニスを採用した。さらに1922年日本庭球協会が創設され，翌年デ杯に参加したが，現在では，多くの国際試合に日本選手の活躍がみられる。また国内的にも，国産用具の品質向上とともに各都道府県において国民体育大会の各地開催を契機に各別の協会組織も漸次整備確立され，テニスの国内普及とその発展の成果を期待しうる時代を迎えた。

〈競技の方法〉 競技の種類にはシングルスコートで相手と2名で試合するシングルス，ダブルスコートで2名を一組みとして4名で試合するダブルス，ダブルスコートで男女一組みの4名で試合する混合ダブルスの3種がある。

〈勝敗の決定〉 試合は，トス（地上または空中にラケットを回し，ラケット面のあらかじめ決めた面が出たとき，その面を指定した選手がサーブ権をとる）で開始される。各ゲームの最初のサービスは必ずバックライン外の右側から相手の右側のサービスコートにボールを入れる。サービス権はゲームごとに移動し，コートは奇数のゲームが終わるごとに交替する。レシーバー（受け手）はどこに位置してもよいが，サービスに対しては，一度地面にバウンドさせてから打たなくてはならない。以後の打ち合いでは，ボールが二度地面にふれるまえならいつでも打つことができ，飛んでくるボールを直





テ ニ ス （左）イギリス対アメリカで行なわれた1913年度のデ杯戦 （右）女子シングルス戦

接打ってもよい。国際試合では男子は5セットマッチ，女子は3セットマッチとする。いったん試合が始まったら終了まで，試合は事故のないかぎり中断できない。ただし男子は3セット，女子は1セットオールの終了後10分以内の休憩は許される。男子は3セット，女子は2セット先取りで試合を決定する。1セットは6ゲーム先取りしたほうが勝ちとする。ただし5－5となったら2ゲームを連続先取りしなければ勝敗の決定とならない。1ゲームは4ポイント先取りしたら勝ちとし，3－3となればジュースで2ポイント連続先取りしなければならない。ジュース後1ポイント取ったときはアドバンテージということばを取ったほうにつける(たとえばサーブ側が取ればアドバンテージサーバー)。ジュースは何回くり返してもよい。

《試合の判定》試合の判定を公平にするためレフェリー・審判を必要とする。レフェリーは審判を任命し，試合運営を円滑に進め，判定上の不審，あるいは選手の提訴を裁定する。ただしこの裁定は最終のものである。審判にはコールジャッジ(正審)・ラインメン(線審)，必要のときはフットフォールトジャッジ・ネットジャッジを置くことがある。

《設備と用具》コート面はローン-コート芝生(しばふ)が発祥であるが，最近ではクレー・アンツーカー・アスファルト系物質などによってつくられたものが一般的に多い。ボールは厚いゴムの上にナイロン・テトロンなどと羊毛との特殊な織り方をしたラシャの外皮をかぶせ，直径は約6.35～6.68cmで，重さは56.7～58.47g。なお，軟式テニスのボールはゴムまりである。ラケットは木片を合板したものを外わくとして，ラケット面の大きさ・長さには規格はなく，最近ではアルミパイプ製のものが見られる。張ってあるガットは経済的には現在ナイロン製のものが普及しているが，動物繊維(羊腸・牛腸)がよい。〔久保圭之助〕

テニスコートのちかい【テニスコートの誓い】1789年6月20日，フランス革命の前奏曲となった事件。同年5月に三部会*が召集されると，第三身分*代表は議決の方法をめぐって第一身分(僧侶(そうりょ))，第二身分(貴族)と対立したのち，独立して国民議会を形成した。ルイ16世*はこれに干渉して議場を閉鎖した。そのため第三身分の議員はベルサイユ宮殿のそばにある屋内球戯場(テニスコート)に集まり，ミラボー*・シエイエス*・バイイの指導のもとに，憲法が制定されるまでは解散せず，事情に応じていかなる場所にでも集合することを宣誓した。〔喜多迅鷹〕

テニソン［Alfred Tennyson］(1809～1892) イギリスの詩人。宗教的な家庭に育ちながら科学思想にも興味をもっていたので，その叙情詩や牧歌の中には，神の存在や霊魂の不滅，人類の進歩などの主張とともに懐疑思想も表明されている。華麗な詩美の技巧にすぐれ，ビクトリア朝詩人の代表的存在であり，桂冠(けいかん)詩人*ともなった。代表作は，友の死を瞑想(めいそう)した叙情詩集《イン-メモリアム》，〈アーサー王伝説〉に取材した《国王牧歌》，物語詩《イーノック-アーデン》など。〔星野恒彦〕

デニム［denim］たて糸に藍(あい)または他の染め糸を，よこ糸に白糸を用いて織った厚地のあや織り(斜文織り)物。綿糸のほかレーヨン糸・合繊糸も用いられる。表面に色が多く現われ，裏面は白地が多い点に特徴がある。生地がじょうぶで，スポーツ服・作業服などのほか，スポーティな装飾用衣料としても用いられる。

てにもつ【手荷物】⇨チッキ

テニヤン(島)［Tinian］西太平洋，マリアナ諸島のグアム島とサイパン島の間にあり，面積101km²。アメリカ合衆国の信託統治領で原住民はミクロネシア系のチャモロ人。マリアナ諸島のほかの島々と同様に，スペイン・ドイツの植民地を経て，1919年(大正8)以降は日本の委任統治地となり太平洋戦争では日本とアメリカとの激戦地となった。1944年アメリカ軍の占領後はアメリカ軍の日本本土空襲の空軍基地となり，広島へ原子爆弾を投下した爆撃機は，ここの基地から飛び立った。〔大崎　晃〕

デニール［denier］フィラメント・単繊維の太さを表示する単位。記号dまたはD。標準長450m，標準重量0.05gのものを1デニールと定め，標準長450mを一定にして，その重さが標準重量0.05gの何倍あるかの数字をもってデニール数とする。デニール数の大きいものほど，太さは大である。普通の生糸は約2.5～3デニール，綿繊維は約1.5デニールくらいである。➜テックス

てにをは ⇨助詞

テーヌ［Hippolyte Adolphe Taine］(1828～1893) フランスの哲学者・文学史家。地方の高等中学の教師などをしたのちパリにもどって文芸批評の筆をとり，ラ-フォンテーヌ論で学位を得た。その後，美術学校の教授としてながく美術史を担当。主著は《イギリス文学史》《知性論》など。彼の方法は，複雑な世界から単純な要素の世界へ移行する分析的方法であり，あらゆる認識を経験から派生させる実証主義の原理に従うものである。彼はその方法を文芸批評・美術・歴史などに適用した。〔飯塚勝久〕

てぬぐい【手拭い】

1 顔・手，その他身体各部をぬぐうために用いられる布片。てぬぐいと名称されるようになったのは中世末期からで，古くは〈帍・手巾〉などの漢字を書いて〈たなこひ・てのごひ〉とよんだ。布地は，古くは奈良晒(さらし)・近江(おうみ)晒などの麻布が用いられたが，近世以降は木綿(もめん)が多く使われた。手ぬぐいの長さは奈良・平安時代には一定せず，それぞれ用途によって適宜の長さに切って用いたが，江戸末期に至ってほぼ鯨尺(くじらじゃく)2尺5寸(約95cm)に定まった。最初は染色せず白地が用いられてきたが，江戸時代になると染色加工された赤てぬぐい・渋てぬぐい・染てぬぐいなどがあり，江戸末期には芥子玉(けしだま)絞り・半染・紅染など種々の染色模様や絞りのてぬぐいも現われた。なお，近世以降町家では年賀用，商店では広告用など贈答品として用いられている。〔山路勝彦〕

2 日本舞踊では重要な小道具の一つで，一曲のうち口説(くどき)のくだりに多く用いられ，踊りを美しく表現するための技法として使用する。木綿製のほか縮緬(ちりめん)製のものがあり，役柄に応じて使い分ける。

テネシー(州)［Tennessee］アメリカ合衆国中南部，テネシー川*流域を占める州。面積10万8,000km²。人口392万4,000(1970)。州都ナッシュビル。1796年に連邦政府に加盟したが，1861年に脱退し，南北戦争の戦場となる。1866年に連邦政府に再加盟して合衆国16番めの州となった。テネシーの名は，チェロキーインディアン語で，〈曲流〉の意。東部はテネシー川上流のけわしい山地をなし，中部は台地で，西部にミシシッピ低地がある。東・中部はタバコ，西部はワタの産地で，林業も盛んである。テネシー川流域の総合開発計画で開発された水力発電が豊富で，これによってそれまでの農業州から工業を第一の産業とする州に変わった。オークリッジには政府の原子力工場があり，さらにアルミニウム製錬所・フィルム工場などが集中している。主要都市，メンフィス・ナッシュビル・ノックスビル・オークリッジなど。〔椙村大彬〕

テネシー(川)［Tennessee］アメリカ合衆国南東部の川で，ミシシッピ川の支流の一。アパラチア山脈に発するハルストン・フレンチボード両川を源流とし，テネシー州東部・アラバマ州北部・テネシー州西部・ケンタッキー州南西部とそれぞれ向きを変えて大きく弧状に貫流し，パダカ付近でミシシッピ川の一支流オハイオ川に合流する。全長約1,050km。1933年から数年間を費やしたTVA*の総合開発で世界的に有名となったが，その結果支流も含めて24のダム，七つの大発電所が建設され，供給される1,200万kWの電力は大小のアルミニウム・肥料・原子力工場などに送られている。また航行可能水路も1,000km以上に及んでいる。〔大石堪山〕

デネブ［Deneb］恒星*の名。はくちょう座α星。ベガ*(こと座α星)・アルタイル*(わし座α星)とともに，銀河をはさんで直角三角形をつくっている。白鳥の尾に位置していて，1,500光年の距離にあるA型超巨星。実視等級1.2等。夏～初冬にみられる。

テノチティトラン［Tenochtitlan］古代アステカ*帝国の首都。現在のメキシコシ

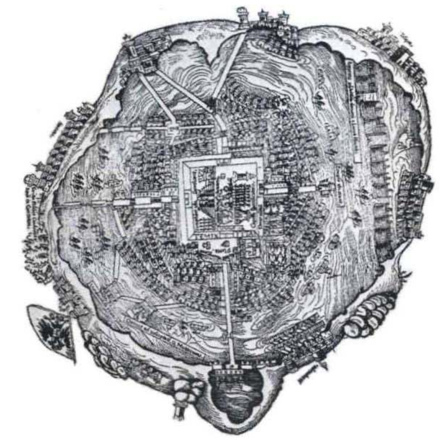
チー。1325年(一説には1370年)テスココ湖上の小島に建設され，湖岸とは３本の堤道で結ばれていた。16世紀初頭には，人口は20万～30万にも達した。ピラミッド・宮殿・市場などを配した壮麗な都市で，商業活動も盛んだった。1521年，コルテス*の率いるスペイン軍により完全に破壊されたが，征服後その土台の上に，スペインふうのメキシコシチーが建設された。〔松下　洋〕

デノミネーション［denomination］本来は貨幣単位の呼称のことであるが，わが国では貨幣単位の呼称の変更の意味に用いられる。たとえば1923年にドイツが１兆紙幣マルクを１レンテンマルクとしたように貨幣単位を切り下げたり，1948年に中国が旧300万元を１金平としたように，まったく新しい通貨呼称を採用したりすることである。これはインフレーションで金額の表示が大きくなり，日常生活が不便になったのを整理するために行なわれる場合が多い。したがって貨幣の価値(外国為替(かわせ)相場で表わされる)を切り下げるデバリュエーション(平価切下げ*)とは異なるわけであるが，実際には両者が同時に実施される場合が多い。デノミネーションが実施されれば，旧貨幣単位で表示されていたいっさいの金額，すなわち預貯金・金銭債権・公社債・株式などの額面価格，商品価格・賃金・俸給(ほうきゅう)・地代・家賃，証券の市場価格・為替相場などはすべて新単位で表わされることになる。〔速水　保〕

テノール［tenor］テナーともいう。男声の最も高い音域。ふつう中央ハから１点イまでとされる。中世からルネサンスにかけてのポリフォニー*では，定旋律*をになう声部がテノールとよばれた。また声域から転じて楽器の音域を区別するのにも用いられる。

デバイ［Peter Joseph Wilhelm Debye］(1884～1966) アメリカ(オランダ系ドイツ人)の物理学者。ユトレヒト・ゲッチンゲン・チューリヒ・ライプチヒなどの諸大学教授を経てカイザー-ウィルヘルム研究所教授。のち渡米(1940)してコーネル大学教授となり帰化。固体の比熱に関する研究(デバイの比熱式)やX線回折におけるデバイ-シェラー法で著名で，X線散乱の理論，有極分子の理論，強電解質溶液の理論なども知られている。1936年，ノーベル化学賞を受賞。〔藤村　淳〕

てばた【手機】手または手と足の操作によって織る織機の総称。動力によって織る力織機*に対応する。織機の発達の過程に



テノチティトラン　1524年にコルテスがスペイン国王に送った報告書につけた地図



手旗信号　海上自衛隊の手旗訓練

従って，原始機・地機・高機・空引き機などの種別がある。原始機は最も簡単な機構で，棒とへらと綜絖(そうこう)などで構成されている。地機はいざり機・下機・神代機(じんだいばた)などと称せられ，手と足を使ってたて糸開口・よこ糸通しを行なう。高機は機台が高く腰を掛けて操作し，手足を使って織るやや複雑な織機。空引き機は錦機(にしきばた)・綾機(あやばた)ともいわれていたもので，現代のジャカード織機のような模様織りの装置を機台の上部に取り付け，人手によってつるした糸を引き上げてたて糸を開口して紋織りを織る織機。〔小川安朗〕

てばたしんごう【手旗信号】赤と白との小旗を両手にもち，規定に従いこれを振り動かして通信する信号。通信器材のない場合，あるいはその補助として用いる簡単な信号法である。日本船舶手旗信号法による和文手旗信号と，国際通信書信号編規定による欧文手旗信号の２種類がある。前者は手旗と身体でかたかなの裏字を書くように身振りを示す。送信速度の標準は１分間に55字。後者はアルファベットを符号化したもので，文字の形とは直接関係がなく表示が容易である。〔森田　哲〕

デーバダッタ【提婆達多】生没年不詳。古代インドの人。仏教の開祖ブッダ*のいとこといわれ，出家以前のブッダと妃を争うなど，青年時代から競争者であったらしい。のちにブッダにしたがって出家し，多くの弟子(でし)を有したが，仏教教団の中にあって異義・異説を唱え，一般に許されていた塩を用いるなど五つの行ないを禁じ，厳格な規律を守る極端な禁欲主義を主張し，しばしばブッダと対抗した。この一派はかなり後代まで存在したらしい。〔佐藤良純〕

デパート　⇨百貨店

デーバ-ナーガリ　インドの代表的な文字(子音字34，母音字14)。梵字(ぼんじ)のうち北方系の７～８世紀からの書体ナーガリから10世紀ごろ転化したもので，北インドの基準書体となった。やし葉に書かれた多くの文献を残し，古典語・サンスクリットの文字として継承された。今日，西ヒンディー語，特にヒンドゥスタン語に用いられている。これに対して，ナンディ-ナーガリは南方の書体として，８世紀ごろ始まって11世紀に完成して現代に至っている。➔梵字〔日下部文夫〕

テバルディ［Renata Tebaldi］(1922～　) イタリアのソプラノ歌手。ペサロの生まれ。はじめペサロ音楽院でピアノを学んだが，17歳から声楽に転じ，パルマ音楽院に移って本格的な勉強を始めた。1944年にデビューし，トスカニーニ*によってその才能を発掘され，1946年にスカラ座に出演した。以後は着実にプリマ-ドンナの道を歩み，1955年にはメトロポリタン歌劇場に出場した。日本には1961年イタリア歌劇団のメンバーとして来日した。〔向坂正久〕

デ-バレラ［Eamon de Valera］(1882～1975) アイルランドの政治家。1913年シン-フェーン党*を中心とするアイルランド義勇軍に参加。1916年の復活祭蜂起(ほうき)を指導し捕えられたが処刑は免れ，以後もシン-フェーン党の指導者として独立運動を指導。1922年イギリス政府の提案によりアルスターを分離してアイルランド自由国が成立したが，彼は反対して脱党。1927年議員に当選，1932年自由国首相となり，反英抗争を指導，1937年アイレ共和国の独立を宣言し，その首相となる。第２次世界大戦中は中立政策をとった。1959年大統領に選出された。〔松下京子〕

{
  "before_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTcuemlw",
    "filename_decoded": "40439097.zip",
    "filesize": 347820247,
    "md5": "41ee39f334c405b20b688073184cd1a5",
    "header_md5": "76a2dd76850da44f101e7e7ce8e7f4ae",
    "sha1": "7b3dcec1bd76778496c8663e11de2565e55ae44a",
    "sha256": "3265ea29ab83b28f03c17c0ee2e86d1fb3a3ac0c8031515065cadd713ee09c03",
    "crc32": 2125373896,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 353768230,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 2863605472
  },
  "after_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTcuemlw",
    "filename_decoded": "40439097.zip",
    "filesize": 347811949,
    "md5": "46c67254b291db570eed3ae4d26531f7",
    "header_md5": "119081a4d33dd2c0119dfa0e8092c26f",
    "sha1": "cb0859e9f3d06b2163915cd2199fac6df60482bd",
    "sha256": "c1d12d07c2ccb83b0a0d67c076ddbf7fd7dc03daf330cba6e2790ca3a4141a26",
    "crc32": 1197761592,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 353757946,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 3576145448
  },
  "pdf_generation_missing_pages": false
}